2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ〈＊A〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　安達　太郎

テーマ

日本語を掘り下げる

授業の到達目標

1）日本語を学ぶことの意味を理解し，分析する方法を修得する。2）データ収集，データ分析，レジュメの作成，口頭発表という一連の作業をとおして，「勉強」とは違う「研究」のあり方を理解する。3）他の受講生の発表に対して積極的に質問を行うことによって，ゼミに対する能動的な関わり方を身につける。

授業の概要

日本語はもっとも身近な言語だが，そこには私たちが知らない〈謎〉がひそんでいる。動詞の意味分析を通して，その〈謎〉を発見し，自らの力で解明する方法をマスターする。

準備学習（予習・復習）

図書館で『月刊言語』や『日本語学』といった雑誌のバックナンバーを手に取ってみてください。今まで知らなかった日本語の姿が立ち上がってきます。

内　容

第1回　導入：日本語をなぜ考えるのか？
第2回　チームによる日本語分析（1）
第3回　チームによる日本語分析（2）
第4回　分担の決定＋データ収集の方法
第5回　データについての報告
第6回　担当項目のチーム内検討（1）
第7回　担当項目のチーム内検討（2）
第8回　担当項目のチーム内検討（3）
第9回　受講生による報告（1）
第10回　受講生による報告（2）
第11回　受講生による報告（3）
第12回　受講生による報告（4）
第13回　受講生による報告（5）
第14回　受講生による報告（6）
第15回　レポートの書き方

履修上の注意点

グループでの活動を重視します。発表があたっていないときでも，さまざまな役割を果たすことを求めます。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ＜＊B＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　　重松　恵美

テーマ

近現代日本語小説研究

授業の到達目標

1．小説作品および参考文献の読解。2．調査研究、資料収集。3．収集資料と考察の整理。発表資料の作成。4．意見発表と意見交換。

授業の概要

近現代小説についての研究発表と質疑応答を行なう授業。発表担当者は、テキストを読解し、参考資料を収集し、問題点を整理して、発表資料を作成し、口頭発表する。発表後は全員で作品および発表内容について討論する。

準備学習（予習・復習）

テキストを熟読すること。その際必ず国語辞典等を参照すること。レジュメ等の配布資料をファイリングし、参考資料として活用すること。

内　　容

第1回　導入1（自己紹介、発表作品と日程の決定）
第2回　導入2（作品読解と調査研究の方法）
第3回　導入3（レジュメの作り方、発表準備）
第4回　発表1（テキスト第1章）
第5回　発表2（テキスト第2章）
第6回　発表3（テキスト第3章）
第7回　発表4（テキスト第4章）
第8回　発表5（テキスト第5章）
第9回　発表6（テキスト第6章、第7章）
第10回　発表7（テキスト第8章、第9章）
第11回　発表8（テキスト第10章、第11章）
第12回　発表9（テキスト第12章、第13章）
第13回　発表10（テキスト第14章、第15章）
第14回　発表11（テキスト第16章、第17章）
第15回　発表12（テキスト第18章、第19章）

履修上の注意点

テキストを持参しない場合、意見交換に参加しない場合は、欠席とみなす。やむを得ない事情で発表を欠席する場合は事前連絡し、日を改めて発表すること。

教科書

家守綺譚
著者：　梨木香歩
出版社：新潮文庫
出版年：2004　　ISBN：　4101253374

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 30% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ＜＊C＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　福嶋　昭治

テーマ

源氏物語のことばと心

授業の到達目標

古典文学をきちんと読むことで味わうことのできる楽しさと意義を実感することを目的とする。古典を読むことが、現代人にとっても、人生を考えるきっかけとなるものであることを授業を通じて確認してもらいたい。

授業の概要

前半は、源氏物語を読むための必要な知識や方法の確認を行いつつ作品を鑑賞し、後半は、演習形式で読みの実践を重ねていく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　前半の授業展開のねらいと進め方のガイダンス
第2回　源氏物語という作品について
第3回　源氏物語が描く人生
第4回　源氏物語を読む方法
第5回　源氏物語を読む　その1（光源氏の恋　理想と現実）
第6回　源氏物語を読む　その2（光源氏の人生　栄耀も苦悩も豊かな人生）
第7回　源氏物語を読む　その3（源氏物語の女君　その賢明さ）
第8回　後半の演習形式の授業についてのガイダンス
第9回　源氏物語に関わる課題の個人発表　その1
第10回　源氏物語に関わる課題の個人発表　その2
第11回　源氏物語に関わる課題の個人発表　その3
第12回　源氏物語に関わる課題の個人発表　その4
第13回　源氏物語に関わる課題の個人発表　その5
第14回　源氏物語に関わる課題の個人発表　その6
第15回　授業のまとめ　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を実施する。

履修上の注意点

教科書

プリントを用意する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

源氏物語評釈　全14冊
著者:　玉上琢弥
出版社:　角川書店
出版年:　1964～1969　　ISBN:

源氏物語大成　普及版　全14冊
著者:　池田亀鑑
出版社:　中央公論社
出版年:　1984～1985　　ISBN:

その他各種源氏物語注釈書
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

a10201a113

源氏物語ｶﾙﾁｬｰ講座

著者:　福嶋昭治

出版社: 扶桑社

出版年: 2008　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ＜＊D＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　尾西　正成

テーマ

書の基本の総合的学習

授業の到達目標

書を理解し、書を学んでいくためのさまざまな方法や問題など、基本的な知識、技法の修得をめざす。

授業の概要

書の基本に関する講義と実習。

準備学習（予習・復習）

多くの書に接し鑑賞する機会を持つこと。特に古典の臨書をしっかりすること、書の参考書を多く読むこと。

内　容

第7回　墨の魅力。墨色について
第8回　姿勢、執筆の研究。
第9回　用筆、運筆の研究。
第10回　筆について。
第11回　表具について。
第12回　臨書と鑑賞。
第13回　臨書と創作。
第14回　書の創作とは。
第15回　まとめ。※なお、この授業では必要に応じて学外授業および外部講師による講演会を行うことがあります。
第1回　ミーティングと基本的知識調査。
第2回　基本的知識調査内容の解説。書学習のための心構え。
第3回　書とは何か。書の性格。
第4回　書とは何か。書の特徴。
第5回　書の今日的意味。これからの書。
第6回　書の線、造形について

履修上の注意点

教科書

書の古典と理論
著者:　全国大学書道学会
出版社:　光村図書
出版年:　　ISBN:

参考書

授業で紹介
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 60 ）　　授業中発表等　（ 10 ）
参加度　（ 30 ）
レポート、授業での取り組み、出席率など総合的に判断して評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ ＜＊A＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　　重松　恵美

テーマ

近現代日本語小説研究

授業の到達目標

1．小説作品および参考文献の読解。2．調査研究、資料収集。3．収集資料と考察の整理。発表資料の作成。4．意見発表と意見交換。

授業の概要

近現代小説についての研究発表と質疑応答を行なう授業。発表担当者は、テキストを読解し、参考資料を収集し、問題点を整理して、発表資料を作成し、口頭発表する。発表後は全員で作品および発表内容について討論する。

準備学習（予習・復習）

テキストを熟読すること。その際必ず国語辞典等を参照すること。レジュメ等の配布資料をファイリングし、参考資料として活用すること。

内　　容

第1回　導入1（自己紹介、発表作品と日程の決定）
第2回　導入2（作品読解と調査研究の方法）
第3回　導入3（レジュメの作り方、発表準備）
第4回　発表1（テキスト第1章）
第5回　発表2（テキスト第2章）
第6回　発表3（テキスト第3章）
第7回　発表4（テキスト第4章）
第8回　発表5（テキスト第5章）
第9回　発表6（テキスト第6章、第7章）
第10回　発表7（テキスト第8章、第9章）
第11回　発表8（テキスト第10章、第11章）
第12回　発表9（テキスト第12章、第13章）
第13回　発表10（テキスト第14章、第15章）
第14回　発表11（テキスト第16章、第17章）
第15回　発表12（テキスト第18章、第19章）

履修上の注意点

テキストを持参しない場合、意見交換に参加しない場合は、欠席とみなす。やむを得ない事情で発表を欠席する場合は事前連絡し、日を改めて発表すること。

教科書

家守綺譚
著者：　梨木香歩
出版社：新潮文庫
出版年：2004　　ISBN：　4101253374

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 30% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ ＜＊B＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　福嶋 昭治

テーマ

源氏物語のことばと心

授業の到達目標

古典文学をきちんと読むことで味わうことのできる楽しさと意義を実感することを目的とする。古典を読むことが、現代人にとっても、人生を考えるきっかけとなるものであることを授業を通じて確認してもらいたい。

授業の概要

前半は、源氏物語を読むための必要な知識や方法の確認を行いつつ作品を鑑賞し、後半は、演習形式で読みの実践を重ねていく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　前半の授業展開のねらいと進め方のガイダンス
第2回　源氏物語という作品について
第3回　源氏物語が描く人生
第4回　源氏物語を読む方法
第5回　源氏物語を読む　その1（光源氏の恋　理想と現実）
第6回　源氏物語を読む　その2（光源氏の人生　栄耀も苦悩も豊かな人生）
第7回　源氏物語を読む　その3（源氏物語の女君　その賢明さ）
第8回　後半の演習形式の授業についてのガイダンス
第9回　源氏物語に関わる課題の個人発表　その1
第10回　源氏物語に関わる課題の個人発表　その2
第11回　源氏物語に関わる課題の個人発表　その3
第12回　源氏物語に関わる課題の個人発表　その4
第13回　源氏物語に関わる課題の個人発表　その5
第14回　源氏物語に関わる課題の個人発表　その6
第15回　授業のまとめ　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を実施する。

履修上の注意点

教科書

プリントを用意する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

源氏物語評釈　全14冊
著者:　玉上琢弥
出版社:　角川書店
出版年:　1964～1969　　ISBN:

源氏物語大成　普及版　全14冊
著者:　池田亀鑑
出版社:　中央公論社
出版年:　1984～1985　　ISBN:

その他各種源氏物語注釈書
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

a10201a252

源氏物語ｶﾙﾁｬｰ講座

著者:　福嶋昭治

出版社: 扶桑社

出版年: 2008　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ ＜＊C＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　安達　太郎

テーマ

日本語を掘り下げる

授業の到達目標

1）日本語を学ぶことの意味を理解し，分析する方法を修得する。2）データ収集，データ分析，レジュメの作成，口頭発表という一連の作業をとおして，「勉強」とは違う「研究」のあり方を理解する。3）他の受講生の発表に対して積極的に質問を行うことによって，ゼミに対する能動的な関わり方を身につける。

授業の概要

日本語はもっとも身近な言語だが，そこには私たちが知らない〈謎〉がひそんでいる。動詞の意味分析を通して，その〈謎〉を発見し，自らの力で解明する方法をマスターする。

準備学習（予習・復習）

図書館で『月刊言語』や『日本語学』といった雑誌のバックナンバーを手に取ってみてください。今まで知らなかった日本語の姿が立ち上がってきます。

内　容

第1回　導入：日本語をなぜ考えるのか？
第2回　チームによる日本語分析（1）
第3回　チームによる日本語分析（2）
第4回　分担の決定＋データ収集の方法
第5回　データについての報告
第6回　担当項目のチーム内検討（1）
第7回　担当項目のチーム内検討（2）
第8回　担当項目のチーム内検討（3）
第9回　受講生による報告（1）
第10回　受講生による報告（2）
第11回　受講生による報告（3）
第12回　受講生による報告（4）
第13回　受講生による報告（5）
第14回　受講生による報告（6）
第15回　レポートの書き方

履修上の注意点

グループでの活動を重視します。発表があたっていないときでも，さまざまな役割を果たすことを求めます。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ ＜＊D＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員　20

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　尾西　正成

テーマ

書の基本の総合的学習

授業の到達目標

書を理解し、書を学んでいくためのさまざまな方法や問題など、基本的な知識と技法の修得をめざす。

授業の概要

書の基本に関する講義と実習。特に王羲之を中心に据えて、これから学ぶための基礎的な用法を習得する

準備学習（予習・復習）

多くの書に接する機会を持つこと。臨書をしっかりすること。また書に関する参考書を多く読み、書への理解を深めること。

内　容

第1回　書体と書風
第2回　篆書の鑑賞と表現。
第3回　隷書の鑑賞と表現。
第4回　王羲之の書　姨母帖と初月帖
第5回　王羲之の書　喪乱帖
第6回　王羲之の書　孔侍中帖
第7回　王羲之の書　蘭亭序
第8回　王羲之の書　集王聖教序
第9回　王羲之の書　興福寺断碑
第10回　王羲之の書　十七帖
第11回　王羲之の書　淳化閣帖
第12回　王羲之の書　楽毅論
第13回　王羲之を学んだ歴代の書人（1）
第14回　王羲之を学んだ歴代の書人（2）
第15回　まとめ。 ※なお、この授業では必要に応じて外部講師による特別講演会を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

書聖　王羲之の書
著者:　吉川蕉仙
出版社:　二玄社
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

授業で紹介
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 60 ）　　授業中発表等　（ 10 ）
参加度　（ 30 ）
レポート、授業での取り組み、出席率など総合的に判断して評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅰ〈＊a〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員　20

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　尾西　正成

テーマ

楷書の書法を理解し、表現力を身につける

授業の到達目標

初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。中国初唐の時代に、欧陽詢・虞世南・※遂良の三大家によって、美しく整った所の楷書が完成する。三大家の書はそれぞれが、個性豊かなものである。―書は人なり―と云う言葉があるが、書人とその書かれた文字に触れながら、書の美、書の奥深さ、書の個性を味わいながら進めて行きたい。

授業の概要

楷書法の基本用筆と様々な個性的な楷書古典の魅力を探る

準備学習（予習・復習）

条幅形式での臨書や倣書作品の課題を設ける。また美術館などで開催される書展を鑑賞，又そのレポート提出。夏期休暇時には課題あり

内　　容

第1回　ガイダンス・文房四宝〔筆・墨・硯・紙〕
第2回　楷書の成立と変遷
第3回　孔子廟堂碑の基本点画
第4回　孔子廟堂碑の基本点画①
第5回　孔子廟堂碑　半紙臨書②
第6回　孔子廟堂碑　半紙臨書③
第7回　孔子廟堂碑　半切臨書①
第8回　孔子廟堂碑　半切臨書②*条幅臨書作品の互評会を行う
第9回　関中本千字文　基本点画
第10回　関中本千字文　半紙臨書①
第11回　関中本千字文　半紙臨書②
第12回　関中本千字文　半紙臨書③
第13回　関中本千字文　半切臨書①
第14回　関中本千字文　半切臨書②*条幅臨書作品の互評会を行う
第15回　倣書作品の制作*条幅臨書作品の互評会を行う

履修上の注意点

教科書

中国法書選32孔子廟堂碑
著者:
出版社:　二玄社
出版年:　1990　　ISBN:
中国法書選28関中本千字文
著者:
出版社:　二玄社
出版年:　1990　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 80 ）　　授業中発表等　（ 0 ）
参加度　（ 20 ）
授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい

2016 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅰ〈＊b〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員　20

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　尾西　正成

テーマ

楷書の書法を理解し、表現力を身につける

授業の到達目標

初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。中国初唐の時代に、欧陽詢・虞世南・※遂良の三大家によって、美しく整った所の楷書が完成する。三大家の書はそれぞれが、個性豊かなものである。―書は人なり―と云う言葉があるが、書人とその書かれた文字に触れながら、書の美、書の奥深さ、書の個性を味わいながら進めて行きたい。

授業の概要

楷書法の基本用筆と様々な個性的な楷書古典の魅力を探る

準備学習（予習・復習）

条幅形式での臨書や倣書作品の課題を設ける。また美術館などで開催される書展を鑑賞，又そのレポート提出。夏期休暇時には課題あり

内　　容

第1回　ガイダンス・文房四宝〔筆・墨・硯・紙〕
第2回　楷書の成立と変遷
第3回　孔子廟堂碑の基本点画
第4回　孔子廟堂碑の基本点画①
第5回　孔子廟堂碑　半紙臨書②
第6回　孔子廟堂碑　半紙臨書③
第7回　孔子廟堂碑　半切臨書①
第8回　孔子廟堂碑　半切臨書②*条幅臨書作品の互評会を行う
第9回　関中本千字文　基本点画
第10回　関中本千字文　半紙臨書①
第11回　関中本千字文　半紙臨書②
第12回　関中本千字文　半紙臨書③
第13回　関中本千字文　半切臨書①
第14回　関中本千字文　半切臨書②*条幅臨書作品の互評会を行う
第15回　倣書作品の制作*条幅臨書作品の互評会を行う

履修上の注意点

教科書

中国法書選32孔子廟堂碑
著者:
出版社:　二玄社
出版年:　1990　　ISBN:
中国法書選28関中本千字文
著者:
出版社:　二玄社
出版年:　1990　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 80 ）　　授業中発表等　（ 0 ）
参加度　（ 20 ）
授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい

2016 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅱ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　20
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　尾西　正成	

テーマ

楷書の書法を理解し、表現力を身につける。

授業の到達目標

初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。初唐の三大家の個性豊かな書美、書の奥深さを味わいながら進めていく。北魏『張猛龍碑』と褚遂良『雁塔聖教序』を、半紙・半切に臨書する。

授業の概要

楷書法の多様な展開を学び、個性的な楷書古典の魅力を探る

準備学習（予習・復習）

展覧会などの鑑賞、又そのレポート提出。

内　　容

第1回　北魏の書について
第2回　張猛龍碑について
第3回　張猛龍碑の基本点画
第4回　張猛龍碑　半紙臨書①
第5回　張猛龍碑　半紙臨書②
第6回　張猛龍碑　半切臨書①
第7回　張猛龍碑　半切臨書②*条幅臨書作品の互評会を行う
第8回　※遂良の楷書について
第9回　雁塔聖教序の基本点画
第10回　雁塔聖教序　半紙臨書①
第11回　雁塔聖教序　半紙臨書②
第12回　雁塔聖教序　半切臨書①
第13回　雁塔聖教序　半切臨書②*条幅臨書作品の互評会を行う
第14回　第14回　魏晋小楷・王羲之
第15回　第15回　顔真卿の楷書*条幅臨書作品の互評会を行う

履修上の注意点

教科書

中国法書選２３張猛龍碑
著者:
出版社:　二玄社
出版年:　1990　　ISBN:
中国法書選34雁塔聖教序
著者:
出版社:　二玄社
出版年:　1990　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 80 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 20 ）
授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい

2016 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅱ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　20
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　尾西　正成	

テーマ

楷書の書法を理解し、表現力を身につける。

授業の到達目標

初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。初唐の三大家の個性豊かな書美、書の奥深さを味わいながら進めていく。北魏『張猛龍碑』と褚遂良『雁塔聖教序』を、半紙・半切に臨書する。

授業の概要

楷書法の多様な展開を学び、個性的な楷書古典の魅力を探る

準備学習（予習・復習）

展覧会などの鑑賞、又そのレポート提出。

内　　容

第1回　北魏の書について
第2回　張猛龍碑について
第3回　張猛龍碑の基本点画
第4回　張猛龍碑　半紙臨書①
第5回　張猛龍碑　半紙臨書②
第6回　張猛龍碑　半切臨書①
第7回　張猛龍碑　半切臨書②*条幅臨書作品の互評会を行う
第8回　※遂良の楷書について
第9回　雁塔聖教序の基本点画
第10回　雁塔聖教序　半紙臨書①
第11回　雁塔聖教序　半紙臨書②
第12回　雁塔聖教序　半切臨書①
第13回　雁塔聖教序　半切臨書②*条幅臨書作品の互評会を行う
第14回　第14回　魏晋小楷・王羲之
第15回　第15回　顔真卿の楷書*条幅臨書作品の互評会を行う

履修上の注意点

教科書

中国法書選２３張猛龍碑
著者:
出版社:　二玄社
出版年:　1990　　ISBN:
中国法書選34雁塔聖教序
著者:
出版社:　二玄社
出版年:　1990　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 80 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 20 ）
授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい

2016 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅲ <＊a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　20
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　橋本 二三	

テーマ

臨書を中心とした基本的なかな書法の研究。

授業の到達目標

基本的なかな書法の修得。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

豊かな表現力の養成には徹底した習熟が大切。自宅で必ず復習と予習を重ねること。

内　容

第1回　高野切について
第2回　高野切第三種の書について
第3回　高野切第三種の臨書①<用字・造形・連綿法等>
第4回　高野切第三種の臨書②<用字・造形・連綿法等>
第5回　高野切第三種の臨書③<用字・造形・連綿法等>
第6回　高野切第三種の臨書①<線運動・墨法・構成等>
第7回　高野切第三種の臨書②<線運動・墨法・構成等>
第8回　高野切第三種の臨書③<線運動・墨法・構成等>
第9回　高野切第三種の背臨
第10回　高野切第三種の集字
第11回　高野切第三種の倣書
第12回　高野切第一種の書について
第13回　高野切第一種の臨書①<用字・造形・連綿法等>
第14回　高野切第一種の臨書②<用字・造形・連綿法等>
第15回　高野切第一種の臨書③<用字・造形・連綿法等>

履修上の注意点

教科書

日本名筆選「高野切第三種」
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:
日本名筆選「高野切第一種」
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 80 ）　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 20 ）
授業中課題には提出物とレポートを含む授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

2016 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅲ <＊b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　20
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　橋本　二三	

テーマ

臨書を中心とした基本的なかな書法の研究。

授業の到達目標

基本的なかな書法の修得。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

豊かな表現力に養成には徹底した習熟が大切。自宅で必ず復習と予習を重ねること。

内　　容

第1回　高野切について
第2回　高野切第三種の書について
第3回　高野切第三種の臨書①<用字・造形・連綿法等>
第4回　高野切第三種の臨書②<用字・造形・連綿法等>
第5回　高野切第三種の臨書③<用字・造形・連綿法等>
第6回　高野切第三種の臨書①<線運動・墨法・構成等>
第7回　高野切第三種の臨書②<線運動・墨法・構成等>
第8回　高野切第三種の臨書③<線運動・墨法・構成等>
第9回　高野切第三種の背臨
第10回　高野切第三種の集字
第11回　高野切第三種の倣書
第12回　高野切第一種の書について
第13回　高野切第一種の臨書①<用字・造形・連綿法等>
第14回　高野切第一種の臨書②<用字・造形・連綿法等>
第15回　高野切第一種の臨書③<用字・造形・連綿法等>

履修上の注意点

教科書

日本名筆選「高野切第三種」
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:
日本名筆選「高野切第一種」
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 80 ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 20 ）
授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

2016 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅳ <＊a>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員　20

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　橋本 二三

テーマ

臨書を中心とした基本的な書法の研究。

授業の到達目標

基本的なかな書法の修得。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

豊かな表現力の養成には徹底した習熟が大切。自宅で必ず復習と予習を重ねること。

内　容

第1回　高野切第一種の臨書①<線運動・墨法・構成等>
第2回　高野切第一種の臨書②<線運動・墨法・構成等>
第3回　高野切第一種の臨書③<線運動・墨法・構成等>
第4回　高野切第一種の背臨
第5回　高野切第一種の集字
第6回　高野切第一種の倣書
第7回　寸松庵色紙について
第8回　寸松庵色紙の臨書①<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
第9回　寸松庵色紙の臨書②<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
第10回　寸松庵色紙の臨書③<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
第11回　寸松庵色紙の臨書④<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
第12回　寸松庵色紙の集字
第13回　寸松庵色紙の倣書
第14回　寸松庵色紙の倣書
第15回　寸松庵色紙の倣書

履修上の注意点

教科書

日本名筆選「高野切第一種」
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:
日本名筆選「寸松庵色紙」
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 80 ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 20 ）
授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

2016 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅳ ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　20
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　橋本　二三	

テーマ

臨書を中心とした基本的なかな書法の研究。

授業の到達目標

基本的なかな書法の修得。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

豊かな表現力の養成には徹底した習熟が大切。自宅で必ず復習と予習を重ねること。

内　　容

第1回　高野切第一種の臨書①<線運動・墨法・構成等>
第2回　高野切第一種の臨書②<線運動・墨法・構成等>
第3回　高野切第一種の臨書③<線運動・墨法・構成等>
第4回　高野切第一種の背臨
第5回　高野切第一種の集字
第6回　高野切第一種の倣書
第7回　寸松庵色紙について
第8回　寸松庵色紙の臨書①<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
第9回　寸松庵色紙の臨書②<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
第10回　寸松庵色紙の臨書③<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
第11回　寸松庵色紙の臨書④<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
第12回　寸松庵色紙の集字
第13回　寸松庵色紙の倣書
第14回　寸松庵色紙の倣書
第15回　寸松庵色紙の倣書

履修上の注意点

教科書

日本名筆選「高野切第一種」
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:
日本名筆選「寸松庵色紙」
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 80 ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 20 ）
授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語学概説Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鳥谷　善史	

テーマ

日本語研究の研究分野と研究成果について概説する。

授業の到達目標

日本語学の基本的な概念や用語について理解する。特に、「音声・音韻」・「文字・表記」について、それぞれの研究内容や研究方法及び用語について理解し、今後、日本語研究を進めるための基礎的・基本的知識を習得する。

授業の概要

日本語学の研究分野である「音声・音韻」・「文字・表記」について講義をおこなう。

準備学習（予習・復習）

予習：受講前にテキストを読み、理解できない専門用語等を確認してから、授業に臨むこと。復習：それぞれの内容や用語が説明できるか各自で確認すること。

内　　容

第1回　ガイダンス　日本語と日本語学言語研究とその分野1
第2回　言語研究とその分野2日本語の系統
第3回　音声・音韻1
第4回　音声・音韻2
第5回　音声・音韻3
第6回　音声・音韻4
第7回　音声・音韻5
第8回　音声・音韻6
第9回　音声・音韻7　まとめと小テスト
第10回　文字・表記1
第11回　文字・表記2
第12回　文字・表記3
第13回　文字・表記4
第14回　文字・表記5
第15回　文字・表記6　まとめと小テスト

履修上の注意点

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。（遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内）　受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。特に、小テストの日程。

教科書

図解日本語
著者：　沖森卓也他著
出版社：三省堂
出版年：2006　　ISBN：　9784385362427

参考書

日本語概説
著者：　沖森卓也編
出版社：朝倉書店
出版年：2010　　ISBN：　9784254515237

日本語学のしくみ
著者：　町田健編
出版社：研究社
出版年：2001　　ISBN：　432738304X

改訂版日本語要説
著者：　工藤浩他著
出版社：ひつじ書房
出版年：2009　　ISBN：　9784894764682

a10201d110

日本語概説
著者: 渡辺実著
出版社: 岩波書店
出版年: 1996　ISBN: 4000260022

ベーシック現代の日本語学
著者: 日野資成
出版社: ひつじ書房
出版年: 2009　ISBN: 9784894764385

朝倉日本語講座全10巻
著者: 北原保雄監修
出版社: 朝倉書店
出版年: 2002-5　ISBN: 9784254515114

概説日本語学 改訂版
著者: 飯田晴巳他編
出版社: 明治書院
出版年: 2007　ISBN: 9784625704017

成績評価

試験 (0)　小テスト (50)
授業中課題 (10)　授業中発表等 (10)
参加度 (30)
参加度は、積極的な受講に対してのみ評価するものである。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語学概説Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鳥谷　善史	

テーマ

日本語研究の研究分野と研究成果について概説する

授業の到達目標

日本語学の基本的な概念や用語について理解する。特に、「語彙」・「文法」・「現代生活と日本語（待遇表現、位相語、文章と文体、他）」について、その研究内容や研究方法及び用語について理解し、今後、日本語研究を進めるための基礎的・基本的知識を習得する。

授業の概要

日本語学の研究分野である、「語彙」・「文法」・「現代生活と日本語（待遇表現、位相語、文章と文体、他）」について講義を行う。

準備学習（予習・復習）

予習：受講前にテキストを読み、理解できない専門用語等を確認してから、授業に臨むこと。復習：それぞれの内容や用語が説明できるか各自で確認すること。

内　　容

第1回　ガイダンス　語彙1
第2回　語彙2
第3回　語彙3
第4回　語彙4
第5回　語彙5
第6回　語彙6
第7回　語彙7　まとめと小テスト
第8回　文法1
第9回　文法2
第10回　文法3
第11回　文法4
第12回　文法5
第13回　文法6
第14回　現代生活と日本語1（待遇表現）
第15回　まとめと小テスト

履修上の注意点

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。（遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内）　受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。特に、小テストの日程。

教科書

図解日本語
著者：　沖森卓也他著
出版社：　三省堂
出版年：　2006　　ISBN：　9784385362427

参考書

日本語概説
著者：　沖森卓也編
出版社：　朝倉書店
出版年：　2010　　ISBN：　9784254515237

日本語学のしくみ
著者：　町田健編
出版社：　研究社
出版年：　2001　　ISBN：　432738304X

a10201d250

改訂版日本語要説
著者:　工藤浩他著
出版社: ひつじ書房
出版年: 2009　ISBN:　978489476468-2

日本語概説
著者:　渡辺実著
出版社: 岩波書店
出版年: 1996　ISBN:　4000260022

ベーシック現代の日本語学
著者:　日野資成
出版社: ひつじ書房
出版年: 2009　ISBN:　9784894764385

朝倉日本語講座全10巻
著者:　北原保雄監修
出版社: 朝倉書店
出版年: 2002-5　ISBN:　9784254515114

概説日本語学　改訂版
著者:　飯田晴巳他編
出版社: 明治書院
出版年: 2007　ISBN:　9784625704017

成績評価

試験 （ 0 ）　小テスト （ 50 ）
授業中課題 （ 10 ）　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 30 ）
参加度は、積極的な受講に対してのみ評価するものである。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本文学史Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　林 久美子	

テーマ

日本の古典文学と芸能について学ぶ

授業の到達目標

日本語による文化の豊かさを享受できるように、古典文学に対する幅広い教養を身につける。

授業の概要

記紀から読本まで、日本文学の歴史と特質をおおむね時間軸に沿って学ぶ。（具体的な内容は、変更の可能性があります）

準備学習（予習・復習）

事前に解説に目を通し、授業後は用意されてた課題に取り組む。

内　容

第1回　授業の進め方について
第2回　上代文学1『古事記』
第3回　上代文学2『万葉集』
第4回　中古文学1『竹取物語』
第5回　中世文学1『新古今和歌集』
第6回　中世文学2『平家物語』①
第7回　〃　②
第8回　中世文学3『方丈記』と『徒然草』
第9回　中世文学4　能と狂言
第10回　近世文学1 松尾芭蕉と井原西鶴
第11回　近世文学2 近松門左衛門
第12回　近世文学3 上田秋成
第13回　写本と版本
第14回　芸能
第15回　観光と文学

履修上の注意点

課題は必ず提出すること。

教科書

新編これからの日本文学
著者:　丸山顕徳、西端幸雄ほか
出版社:　金壽堂出版
出版年:　2007　ISBN:　978-4-903762

参考書

岩波講座日本文学史
著者:　久保田淳、藤井貞和ほか
出版社:　岩波書店
出版年:　1995～1997　ISBN:

日本文芸史
著者:　古橋信孝、藤井貞和ほか
出版社:　河出書房新社
出版年:　1986～2005　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 70 ）　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 30 ）
「授業中課題」とは、各回に出された設問に対する解答や提出物です。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本文学史Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　辻本　千鶴

テーマ

日本近代文学史

授業の到達目標

①近代文学について、主要作家・作品についての知識を得て、おおよその流れを理解する。②近代文学を研究する際の問題意識を養う。③小説作品を分析的・批評的に読む読解力を養う。④作品についての自分の感想や意見を発表する発信力を養う。

授業の概要

明治時代に書かれた日本近代文学について、知識と理解を深めること、合わせて主な作品を読み味わうことを目標に授業を行う。また、近代文学の影響下に成立した現代小説についても、解説的に言及する。主として講義形式で進めるが、随時、グループでの意見交換とその発表の機会を設ける。

準備学習（予習・復習）

授業で扱う作品については通読すること。その作家の他作品、同時代の他の作家、時代背景などについても、積極的に学習すること。（予習・復習の成果を小レポートで報告することも課題とする。）

内　容

第1回　ガイダンス及び概説
第2回　近代文学の曙　坪内逍遥と二葉亭四迷
第3回　森鴎外『舞姫』
第4回　森鴎外『舞姫』
第5回　樋口一葉『たけくらべ』
第6回　樋口一葉『たけくらべ』
第7回　泉鏡花『高野聖』
第8回　泉鏡花『高野聖』
第9回　夏目漱石『三四郎』
第10回　夏目漱石『三四郎』
第11回　夏目漱石『三四郎』
第12回　谷崎潤一郎『刺青』
第13回　谷崎潤一郎『刺青』
第14回　大正文学への潮流
第15回　まとめ

履修上の注意点

板書や配布資料に頼りすぎずに、講義内容をノートに控えること。要点を聞き取ろうと努め、自分の文章でまとめることが理解を助けます。

教科書

明治文藝名作散歩
著者:　みぎわ書房　編
出版社:　白地社
出版年:　　ISBN:　４－89359－237－8

参考書

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 20% ）　　授業中発表等　（ 20% ）
参加度　（ 10% ）
期末試験はレポート形式とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**中学書写Ⅰ〈a〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員　40

履修条件　　クラス指定

担 当 者　尾西　正成

テーマ

中学校学習指導要領における「書写」の学習。

授業の到達目標

漢字の楷書や行書と、それらに調和した仮名の書き方を理解し、実技の習得を目的とする。特に中学校の教科書「中学書写」を用いることにより楷書・行書・仮名の基本と応用を学習する。文部科学省による中学校指導要領の目的に沿って、書写の基本から応用まで実技練習を通して学び、中学校教員免許（国語）に役立てる。

授業の概要

中学書写で必要な知識とともに、書の能力を高めるための硬筆毛筆の実習を行う。

準備学習（予習・復習）

書の実技に関してはそれまでの経験などによって各自さまざまであることが予想される。各授業に対しての予習や復習に努めてほしい

内　容

第1回　書写と書道について
第2回　小中学校教育においての現状を知る
第3回　平仮名の学習
第4回　片仮名の学習
第5回　仮名と漢字との調和について
第6回　楷書の学習（中学書写1年テキストを使って）①
第7回　楷書の学習（中学書写1年テキストを使って）②
第8回　楷書の学習（中学書写1年テキストを使って）③
第9回　行書の学習（中学書写2.3年テキストを使って）①
第10回　行書の学習（中学書写2.3年テキストを使って）②
第11回　行書の学習（中学書写2.3年テキストを使って）③
第12回　中学教育における古典の位置と意義
第13回　用具用材の工夫による学習①
第14回　用具用材の工夫による学習②
第15回　書写と書道の関わりと問題点について

履修上の注意点

書の実習に伴う書道用具を持参のこと

教科書

中学書写一年
著者：　井上輝夫他
出版社：光村図書
出版年：　　ISBN：
中学書写二三年
著者：　井上輝夫他
出版社：光村図書
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 60 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 20 ）
課題への積極的な学習、授業での意欲的な姿勢、出席率を総合的に判断し、評価する

2016 Syllabus

科 目 名　**中学書写Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　書道コース生のみ
担 当 者　吉見　靖子	

テーマ

中学校学習指導要領における「書写」の学習

授業の到達目標

漢字と仮名の調和した書き方を理解し、その実技の習得を目的とする。授業研究によって現場における効果的な指導法を模索する。文部科学省による中学校指導要領の目的に沿って、書写の基本から応用まで実技練習を通して学び、中学校教員免許（国語）に役立てる。中学校の教科書「中学書写」を用いて、楷書・行書・仮名の基本と応用を学習する。

授業の概要

授業は実習を伴い、実際に書ける力を養う。

準備学習（予習・復習）

書の実技に関しては、それまでの経験などによって各自さまざまであることが予想される。各授業に対しての予習や復習に努めてほしい。

内　容

第1回　漢字と仮名の調和とは
第2回　半紙による楷書と仮名の調和（1）
第3回　半紙による行書と仮名の調和（2）
第4回　仮名の美について（1）
第5回　仮名の美について（2）
第6回　細字による仮名の学習～平安古筆をヒントとして～（1）
第7回　細字による楷書の学習～平安古筆をヒントとして～（2）
第8回　細字による行書の学習～平安古筆をヒントとして～（3）
第9回　半紙による漢字仮名交じりの書（1）
第10回　条幅による漢字仮名交じりの書（2）
第11回　実用に即した書（1）
第12回　実用に即した書（2）
第13回　実用に即した書（3）
第14回　生活の中に生きる芸術書
第15回　現代における書の必要性とこれから

履修上の注意点

書の実習に伴う書道用具を持参のこと

教科書

中学書写一年
著者:　井上輝夫他
出版社:　光村図書
出版年:　　ISBN:
中学書写二三年
著者:　井上輝夫他
出版社:　光村図書
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 60 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 20 ）
課題への積極的な学習、授業での意欲的な姿勢、出席率を総合的に判断し、評価する

2016 Syllabus

科 目 名　**中学書写Ⅱ〈a〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員　40

履修条件　　クラス指定　日文コース生のみ

担 当 者　吉見 靖子

テーマ

中学校学習指導要領における「書写」の学習

授業の到達目標

漢字と仮名の調和した書き方を理解し、その実技の習得を目的とする。授業研究によって現場における効果的な指導法を模索する。文部科学省による中学校指導要領の目的に沿って、書写の基本から応用まで実技練習を通して学び、中学校教員免許（国語）に役立てる。中学校の教科書「中学書写」を用いて、楷書・行書・仮名の基本と応用を学習する。

授業の概要

授業は実習を伴い、実際に書ける力を養う。

準備学習（予習・復習）

書の実技に関しては、それまでの経験などによって各自さまざまであることが予想される。各授業に対しての予習や復習に努めてほしい。

内　容

第1回　漢字と仮名の調和とは
第2回　半紙による楷書と仮名の調和（1）
第3回　半紙による行書と仮名の調和（2）
第4回　仮名の美について（1）
第5回　仮名の美について（2）
第6回　細字による仮名の学習～平安古筆をヒントとして～（1）
第7回　細字による楷書の学習～平安古筆をヒントとして～（2）
第8回　細字による行書の学習～平安古筆をヒントとして～（3）
第9回　半紙による漢字仮名交じりの書（1）
第10回　条幅による漢字仮名交じりの書（2）
第11回　実用に即した書（1）
第12回　実用に即した書（2）
第13回　実用に即した書（3）
第14回　生活の中に生きる芸術書
第15回　現代における書の必要性とこれから

履修上の注意点

書の実習に伴う書道用具を持参のこと

教科書

中学書写一年
著者：　井上輝夫他
出版社：光村図書
出版年：　　ISBN：
中学書写二三年
著者：　井上輝夫他
出版社：光村図書
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 20 ）
課題への積極的な学習、授業での意欲的な姿勢、出席率を総合的に判断し、評価する

2016 Syllabus

科 目 名　**中学書写Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　尾西　正成	

テーマ

中学校学習指導要領における「書写」の学習。

授業の到達目標

漢字の楷書や行書と、それらに調和した仮名の書き方を理解し、実技の習得を目的とする。特に中学校の教科書「中学書写」を用いることにより楷書・行書・仮名の基本と応用を学習する。文部科学省による中学校指導要領の目的に沿って、書写の基本から応用まで実技練習を通して学び、中学校教員免許（国語）に役立てる。

授業の概要

中学書写で必要な知識とともに、書の能力を高めるための硬筆毛筆の実習を行う。

準備学習（予習・復習）

書の実技に関してはそれまでの経験などによって各自さまざまであることが予想される。各授業に対しての予習や復習に努めてほしい

内　容

第1回　書写と書道について
第2回　小中学校教育においての現状を知る
第3回　平仮名の学習
第4回　片仮名の学習
第5回　仮名と漢字との調和について
第6回　楷書の学習（中学書写1年テキストを使って）①
第7回　楷書の学習（中学書写1年テキストを使って）②
第8回　楷書の学習（中学書写1年テキストを使って）③
第9回　行書の学習（中学書写2.3年テキストを使って）①
第10回　行書の学習（中学書写2.3年テキストを使って）②
第11回　行書の学習（中学書写2.3年テキストを使って）③
第12回　中学教育における古典の位置と意義
第13回　用具用材の工夫による学習①
第14回　用具用材の工夫による学習②
第15回　書写と書道の関わりと問題点について

履修上の注意点

書の実習に伴う書道用具を持参のこと。また、中学書写Ⅰ履修者で書道書道実技の経験が豊富な学生が望ましい。

教科書

中学書写一年
著者:　井上輝夫他
出版社:　光村図書
出版年:　　ISBN:
中学書写二三年
著者:　井上輝夫他
出版社:　光村図書
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 60 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 20 ）
課題への積極的な学習、授業での意欲的な姿勢、出席率を総合的に判断し、評価する

2016 Syllabus

科 目 名　**漢文学Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　蒲 豊彦

テーマ

漢文学概説

授業の到達目標

中国古典文学史の基本事項を、自分で整理できること。授業は毎回テーマが決まっており、1回ごとに完結する。したがって毎回の授業の内容はスムーズにはつながらない。しかし、1年を通して中国古典文学についてのおおまかなイメージを得られるようにしたい。

授業の概要

「漢文学」を概説しつつ、一方で、通常の漢文学では扱わない劇や通俗小説（西遊記のようなもの）も取り上げる。具体的には、漢文学ⅠとⅡで古代から近代初頭までの中国古典文学のおもなジャンルと作品を、時代を追って網羅的に紹介する。そのほか、朝鮮半島、ベトナム、日本の漢文学も扱う予定。

準備学習（予習・復習）

授業で取り上げる文学作品はいずれも、その翻訳が本学図書館に入っているので、たとえ1ページでもよいので、見ておいてほしい。　参考文献と詳しい授業内容については、　http://yuri.kt.tachibana-u.ac.jp/~kaba/を見ること。

内　容

第1回　授業の内容紹介
第2回　神話と画像解読
第3回　中国最古の詩集
第4回　宗教と歌謡
第5回　歴史書の成立
第6回　日本の神話、詩集、歴史書
第7回　漢字とその意味
第8回　儒教と経学
第9回　ベトナムの漢文学
第10回　五言詩の発生
第11回　詩の発達と詩人
第12回　隠逸思想の系譜
第13回　日本の古典文学と中国Ⅰ
第14回　日本の古典文学と中国Ⅱ
第15回　まとめ

履修上の注意点

授業にかんする重要な連絡は、ネット上の「漢文学のページ」で行う。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 80 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**漢文学Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　蒲 豊彦

テーマ

漢文学概説

授業の到達目標

漢文学Ⅰを継続する。中国古典文学史の基本事項を、自分で整理できること。授業は毎回テーマが決まっており、1回ごとに完結する。したがって毎回の授業の内容はスムーズにはつながらない。しかし、1年を通して中国古典文学についてのおおまかなイメージを得られるようにしたい。

授業の概要

「漢文学」を概説しつつ、一方で、通常の漢文学では扱わない劇や通俗小説（西遊記のようなもの）も取り上げる。具体的には、漢文学ⅠとⅡで古代から近代初頭までの中国古典文学のおもなジャンルと作品を、時代を追って網羅的に紹介する。そのほか、朝鮮半島、ベトナム、日本の漢文学も扱う予定。

準備学習（予習・復習）

授業で取り上げる文学作品はいずれも、その翻訳が本学図書館に入っているので、たとえ1ページでもよいので、見ておいてほしい。　参考文献と詳しい授業内容については、　http://yuri.kt.tachibana-u.ac.jp/~kaba/を見ること。

内　容

第1回　後期授業の内容紹介
第2回　朝鮮半島の漢文学
第3回　小説の発生
第4回　日本の小説
第5回　長安と詩人Ⅰ
第6回　長安と詩人Ⅱ
第7回　日本の古典小説と中国
第8回　中国の音楽と詞
第9回　印刷術の発展
第10回　中国のオペラ
第11回　都市の繁栄と通俗小説
第12回　読書の歴史
第13回　水滸伝と民衆反乱
第14回　文学革命
第15回　まとめ

履修上の注意点

授業にかんする重要な連絡は、ネット上の「漢文学のページ」で行う。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 80 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**篆刻Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員　40

履修条件　　クラス指定

担 当 者　小早川　修治

テーマ

篆刻の歴史と印式・印例の理解

授業の到達目標

篆刻理論の修得

授業の概要

篆刻の歴史を通覧し、その後、印の種類・印式などを順を追って解説、篆刻に対する理解を深めるとともに、印のあり方を実作を通して習得する。

準備学習（予習・復習）

篆刻は当然のことながら、篆書の理解が前提にある。日頃から展覧会、博物館等に出向き鑑賞眼を高め、篆書を書くことが篆刻の上達に資することは言を待たない。

内　容

第1回　篆刻の歴史の解説
第2回　篆刻の種類と解説
第3回　篆刻の種類と解説
第4回　印式の解説
第5回　篆刻の手順の解説、印材の調整
第6回　白文＝字印の布字
第7回　〃　刻と鈐印
第8回　朱文＝字印の布字
第9回　〃　刻と鈐印
第10回　白文＝字印の布字
第11回　〃　刻と鈐印
第12回　朱文＝字印の布字
第13回　〃　刻と鈐印
第14回　白文＝字印の布字
第15回　〃　刻と鈐印

履修上の注意点

教科書

書道テキスト　第10巻　篆刻
著者:
出版社:　二玄社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 80 ）　　授業中発表等　（ 10 ）
参加度　（ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**篆刻Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　小早川　修治	

テーマ

刻印の技術の習得

授業の到達目標

篆刻技術の習得

授業の概要

「篆刻Ⅰ」で習得した印の理解の上に立ち、それらを実際に制作し、その技術の習得を目的とする。篆刻は当然のことながら、篆書の理解が前提にある。それ故、普段から篆書に慣れ親しんでおくことが、技術習得の上で重要になってくる。「篆刻Ⅰ」を履修していることが望ましい。

準備学習（予習・復習）

篆刻は当然のことながら、篆書の理解が前提にある。日頃から展覧会、博物館等に出向き鑑賞眼を高め、篆書を書くことが篆刻の上達に資することは言を待たない。

内　容

第1回　側款の文章表現（漢文）、誰が、いつ刻したか
第2回　〃　どこで、誰の為に刻したか
第3回　側款の刻し方
第4回　白文四字印の布字
第5回　〃　刻と鈐印
第6回　朱文四字印の布字
第7回　〃　刻と鈐印
第8回　白文四字印の布字
第9回　〃　刻と鈐印
第10回　朱文四字印の布字
第11回　〃　刻と鈐印
第12回　白文四字印の布字
第13回　〃　刻と鈐印
第14回　朱文四字印の布字
第15回　〃　刻と鈐印

履修上の注意点

教科書

書道テキスト　第10巻　篆刻
著者:
出版社:　二玄社
出版年:　ISBN:　7984544141108

参考書

成績評価

試験　（　）　小テスト（　）
授業中課題　（ 80 ）　授業中発表等　（ 10 ）
参加度　（ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅰ〈a〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期前半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　野村　幸一郎

テーマ

日中言語比較

授業の到達目標

（1）外国語と比較して日本語の特徴を理解する（2）英語以外の外国語に触れる（3）海外の社会や文化に興味を持つ

授業の概要

グループワークを通じて外国語と比較したときに浮かび上がる日本語の特徴をまなぶ

準備学習（予習・復習）

はじめて中国語に触れる学生がほとんどだと予想されるので、とくに復習をちゃんとやっておくこと

内　容

第7回　日中言語比較　名詞（1）
第8回　課題への取り組みと小テスト
第9回　日中言語比較　名詞（1）
第10回　課題への取り組みと小テスト
第11回　日中言語比較　名詞（1）
第12回　課題への取り組みと小テスト
第13回　日中言語比較　名詞（1）
第14回　課題への取り組みと小テスト
第15回　まとめ
第1回　日中言語比較　名詞（1）
第2回　課題への取り組みと小テスト
第3回　日中言語比較　名詞（1）
第4回　課題への取り組みと小テスト
第5回　日中言語比較　名詞（1）
第6回　課題への取り組みと小テスト

履修上の注意点

NHKの語学教材でいいので、授業を並行して中国語の学習をすることが望ましい（「テレビで中国語」がおすすめ）

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト　（ 60 ）

授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（　）

参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅰ〈b〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期前半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　安達　太郎

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1）生き生きとしたプレゼンテーションができる。2）相互批評性を身につける。3）グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であるのと同時に，文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習（予習・復習）

授業中の指示に従って，タスクの準備をすること。

内　容

第1回　言語文化総合演習への導入～声の復権の意味～
第2回　生き生きとしたプレゼンテーションとは
第3回　タスク1　ビブリオバトル（1）導入
第4回　タスク1　ビブリオバトル（2）グループワーク
第5回　タスク1　ビブリオバトル（3）本戦1
第6回　タスク1　ビブリオバトル（4）本戦2
第7回　タスク1　ビブリオバトル（5）本戦4
第8回　タスク1　ビブリオバトル（6）本戦5とビブリオバトルの振り返り
第9回　タスク2　歌合（1）導入
第10回　タスク2　歌合（2）グループワーク
第11回　タスク2　歌合（3）歌合本戦1
第12回　タスク2　歌合（4）歌合本戦2
第13回　タスク2　歌合（5）歌合本戦3
第14回　タスク2　歌合（6）歌合本戦4
第15回　タスク2　歌合（7）歌合本戦5と歌合の振り返り

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので，注意すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

短歌パラダイス
著者:　小林恭二
出版社:　岩波書店
出版年:　1997　　ISBN:　4-00-430498-9

ビブリオバトル
著者:　谷口忠大
出版社:　文藝春秋
出版年:　2013　　ISBN:　4-16-660901-7

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 20% ）　　授業中発表等　（ 50% ）
参加度　（ 30% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅰ〈c〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期前半　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　林 久美子

テーマ

日本伝統文化をへの理解を深める

授業の到達目標

日本の伝統文化への理解を深める

授業の概要

1限目に茶道、華道、書道、弓道、箏曲について学び、2限目はサークルの協力を得て体験します。なお、順序と一部の内容が変更する可能性があります。

準備学習（予習・復習）

グループごとに文献で調べた知識を発表し、授業と体験後は、振り返り学習を行う。

内　容

第1回　授業の進め方について
第2回　伝統文化についての概説
第3回　弓道について
第4回　弓道体験
第5回　箏曲について
第6回　箏曲体験
第7回　華道について
第8回　華道体験
第9回　御蔭祭の見学（または葵祭についての学内授業）
第10回　〃
第11回　書道について
第12回　書道体験
第13回　茶道について
第14回　茶道体験
第15回　後半の進め方について　※なお、この授業では必要に応じて、学外授業およびゲストスピーカーによる特別講演を行うことがある。

履修上の注意点

体験学習は入門する心構えで参加すること。また、靴下を履く（素足で来ない）こと。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）

参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅰ <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　重松　恵美	

テーマ

10代20代向けの小説

授業の到達目標

1．読解力　作品をていねいに読み、理解する。2．思考力　作品について、受講生一人一人が考える。3．文章力　作品について考えたことを、レポートにまとめる。4．対話力　作品についての意見発表と意見交換を行う。

授業の概要

10代20代を読者対象とする小説を考察の対象とします。現代の若者に向けて書かれた小説は、どのような特徴を持っているのでしょうか。作品読解を授業の基本作業としつつ、ライトノベルやヤングアダルトといったジャンルの問題についても考えてみたいと思います。教員による作品解説ののち、受講生によるグループディスカッションを行ないます。

準備学習（予習・復習）

授業の予習復習として、授業時間以外にも読書の時間を確保すること。目安は1日15分（週に2時間程度）とする。学期末までにテキストを読了すること。

内　　容

第1回　ライトノベルとは何か
第2回　文庫化、漫画化による変化
第3回　香月日輪「妖怪アパートの幽雅な日常」
第4回　荻原規子「RDG（レッドデータガール）」
第5回　あさのあつこ「NO．6（ナンバーシックス）」
第6回　桜庭一樹「GOSICK（ゴシック）」
第7回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第1章
第8回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第2章
第9回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第3章
第10回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第4章
第11回　坂木司「和菓子のアン」第1章
第12回　坂木司「和菓子のアン」第2章
第13回　坂木司「和菓子のアン」第3章
第14回　坂木司「和菓子のアン」第4章
第15回　まとめ

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので，注意すること。

教科書

和菓子のアン
著者：　坂木司
出版社：光文社文庫
出版年：　　ISBN：
神去なあなあ日常
著者：　三浦しをん
出版社：徳間文庫
出版年：　　ISBN：

参考書

NO．6
著者：　あさのあつこ
出版社：講談社文庫
出版年：　　ISBN：

a10201e114

妖怪アパートの幽雅な日常
著者:　香月日輪
出版社: 講談社文庫
出版年:　　ISBN:

RDG
著者:　荻原規子
出版社: 角川文庫
出版年:　　ISBN:

GOSICK
著者:　桜庭一樹
出版社: 角川文庫
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 60% ）　　授業中発表等 （ 40% ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅱ〈a〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期後半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　野村　幸一郎

テーマ

司馬遼太郎と歩く幕末維新の京都

授業の到達目標

司馬遼太郎の作品を考えることで、日本の近代化についての理解を深める

授業の概要

幕末維新を題材にした司馬遼太郎の作品について読解を進めると同時に、合わせて、臨地研修、グループワークを行う

準備学習（予習・復習）

授業で取り扱う作品は必ず読んでくること

内　容

第1回　司馬遼太郎の紹介
第2回　『竜馬がゆく』読解（1）
第3回　『竜馬がゆく』読解（2）
第4回　臨地研修　円山公園　坂本竜馬・中岡慎太郎像と霊山博物館（1）
第5回　臨地研修　円山公園　坂本竜馬・中岡慎太郎像と霊山博物館（2）
第6回　『竜馬がゆく』第1回　グループワーク
第7回　『竜馬がゆく』読解（3）
第8回　『竜馬がゆく』読解（4）
第9回　『竜馬がゆく』読解（5）
第10回　臨地研修　伏見寺田屋（1）
第11回　臨地研修　伏見寺田屋（2）
第12回　『竜馬がゆく』第2回グループワーク
第13回　『坂の上の雲』読解（1）
第14回　『坂の上の雲』読解（2）
第15回　『坂の上の雲』読解（3）
第16回　テスト　『坂の上の雲』と日本の近代化

履修上の注意点

グループワークには積極的に参加する

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（　）　　授業中発表等　（ 60 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅱ〈b〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期後半　　定　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　安達 太郎

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1）文学や歴史，地理を総合的に理解することができる。2）テキストのフレージングを意識化することができる。3）グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であるのと同時に，文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習（予習・復習）

授業中の指示に従って，タスクの準備をすること。

内　容

第1回　タスク3　説話と現地踏査（1）導入
第2回　タスク3　説話と現地踏査（2）説話講読
第3回　タスク3　説話と現地踏査（3）プレゼンテーション準備
第4回　タスク3　説話と現地踏査（4）プレゼンテーション
第5回　タスク3　説話と現地踏査（5）学外授業
第6回　タスク3　説話と現地踏査（6）学外授業
第7回　タスク3　説話と現地踏査（7）プレゼンテーション準備
第8回　タスク3　説話と現地踏査（8）プレゼンテーションと振り返り
第9回　タスク4　群読（1）導入
第10回　タスク4　群読（2）万葉集の群読
第11回　タスク4　群読（3）近代詩の群読1
第12回　タスク4　群読（4）近代詩の群読2
第13回　タスク4　群読（5）近代詩の群読3
第14回　タスク4　群読（6）近代詩の群読4
第15回　タスク4　群読（7）現代詩の群読と振り返り

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので，注意すること。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 20% ）　　授業中発表等　（ 50% ）

参加度　（ 30% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅱ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　林　久美子	

テーマ

京都を舞台にした小説を読む

授業の到達目標

京都の歴史と文化について学ぶたくさん読書をする読解力を付けるプレゼンテーション力を向上させる

授業の概要

グループで担当作品を選び、発表する。なお、行事等の都合で、順序と内容が一部変更する可能性があります。

準備学習（予習・復習）

しっかり読み、グループで話し合ってレジュメを作る

内　　容

第1回　洛中洛外図の京都
第2回　　〃
第3回　京都を舞台にした小説についての発表①
第4回　　〃
第5回　京都を舞台にした小説についての発表②
第6回　　〃
第7回　京都を舞台にした小説についての発表③
第8回　　〃
第9回　京都を舞台にした小説についての発表④
第10回　〃
第11回　屏風祭見学
第12回　〃
第13回　京都を舞台にした小説についての発表⑤
第14回　〃
第15回　振り返り

履修上の注意点

発表しない回にも作品を読んでくること

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅱ <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　重松　恵美	

テーマ

現代小説における古典芸能

授業の到達目標

1. 読解力　作品をていねいに読み、理解する。2. 思考力　作品について、受講生一人一人が考える。3. 文章力　作品について考えたことを、レポートにまとめる。4. 対話力　作品についての意見発表と意見交換を行なう。

授業の概要

現代日本を舞台とし、古典芸能に取り組む若者を主人公とする小説をテキストとして読み、現代文学の動向について考える。教員による解説ののち、受講生によるグループディスカッションを行なう。

準備学習（予習・復習）

テキストを学期末までに読了すること。授業時間以外にも、作品を読む時間を確保すること。読書時間の目安は毎日15分（週あたり2時間）とする。

内　　容

第1回　古典芸能入門
第2回　歌舞伎、文楽、組踊
第3回　落語、浪曲、講談
第4回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」序幕、二幕目
第5回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」三幕目
第6回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」四幕目
第7回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」五幕目
第8回　田中啓文「ハナシがちがう！」第一話前半
第9回　田中啓文「ハナシがちがう！」第一話後半
第10回　三浦しをん「仏果を得ず」第一章前半
第11回　三浦しをん「仏果を得ず」第一章後半
第12回　池上永一「テンペスト」（参考作品）第二章
第13回　池上永一「テンペスト」（参考作品）第八章
第14回　池上永一「竹富島」前半
第15回　池上永一「竹富島」後半

履修上の注意点

教科書

カブキブ！　1
著者：　榎田ユウリ
出版社：　角川文庫
出版年：　2013　　ISBN：　978-4-04-100956

参考書

ハナシがちがう（笑酔亭梅寿謎解噺1）
著者：　田中啓文
出版社：　集英社文庫
出版年：　　ISBN：

仏果を得ず
著者：　三浦しをん
出版社：　双葉文庫
出版年：　　ISBN：

統ばる島（すばるしま）
著者：　池上永一
出版社：　角川文庫
出版年：　　ISBN：

a10201e214

テンペスト　1
著者:　池上永一
出版社: 角川文庫
出版年:　　ISBN:

テンペスト　2
著者:　池上永一
出版社: 角川文庫
出版年:　　ISBN:

テンペスト　3
著者:　池上永一
出版社: 角川文庫
出版年:　　ISBN:

テンペスト　4
著者:　池上永一
出版社: 角川文庫
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 60% ）　　授業中発表等 （ 40% ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　言語文化総合演習Ⅲ <a>

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期前半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　安達　太郎

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1）生き生きとしたプレゼンテーションができる。2）相互批評性を身につける。3）グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であるのと同時に，文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習（予習・復習）

授業中の指示に従って，タスクの準備をすること。

内　容

第1回　言語文化総合演習への導入～声の復権の意味～
第2回　生き生きとしたプレゼンテーションとは
第3回　タスク1　ビブリオバトル（1）導入
第4回　タスク1　ビブリオバトル（2）グループワーク
第5回　タスク1　ビブリオバトル（3）本戦1
第6回　タスク1　ビブリオバトル（4）本戦2
第7回　タスク1　ビブリオバトル（5）本戦4
第8回　タスク1　ビブリオバトル（6）本戦5とビブリオバトルの振り返り
第9回　タスク2　歌合（1）導入
第10回　タスク2　歌合（2）グループワーク
第11回　タスク2　歌合（3）歌合本戦1
第12回　タスク2　歌合（4）歌合本戦2
第13回　タスク2　歌合（5）歌合本戦3
第14回　タスク2　歌合（6）歌合本戦4
第15回　タスク2　歌合（7）歌合本戦5と歌合の振り返り

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので，注意すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

短歌パラダイス
著者:　小林恭二
出版社:　岩波書店
出版年:　1997　　ISBN:　4-00-430498-9

ビブリオバトル
著者:　谷口忠大
出版社:　文藝春秋
出版年:　2013　　ISBN:　4-16-660901-7

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 20% ）　　授業中発表等　（ 50% ）
参加度　（ 30% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅲ <b>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期前半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　林 久美子

テーマ

日本伝統文化をへの理解を深める

授業の到達目標

日本の伝統文化への理解を深める

授業の概要

1限目に茶道、華道、書道、弓道、箏曲について学び、2限目はサークルの協力を得て体験します。なお、順序と一部の内容が変更する可能性があります。

準備学習（予習・復習）

グループごとに文献で調べた知識を発表し、授業と体験後は、振り返り学習を行う。

内　容

第1回　授業の進め方について
第2回　伝統文化についての概説
第3回　書道について
第4回　書道体験
第5回　箏曲について
第6回　箏曲体験
第7回　弓道について
第8回　弓道体験
第9回　時代祭の見学（または京都三大祭についての授業）
第10回　〃
第11回　華道について
第12回　華道体験
第13回　茶道について
第14回　茶道体験
第15回　後半の進め方について

履修上の注意点

体験学習は入門する心構えで参加すること。また、靴下を履く（素足で来ない）こと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ 50 ）
参加度には受講態度が含まれます

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅲ <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　重松　恵美	

テーマ

10代20代向けの小説

授業の到達目標

1．読解力　作品をていねいに読み、理解する。2．思考力　作品について、受講生一人一人が考える。3．文章力　作品について考えたことを、レポートにまとめる。4．対話力　作品についての意見発表と意見交換を行う。

授業の概要

10代20代を読者対象とする小説を考察の対象とします。現代の若者に向けて書かれた小説は、どのような特徴を持っているのでしょうか。作品読解を授業の基本作業としつつ、ライトノベルやヤングアダルトといったジャンルの問題についても考えてみたいと思います。教員による作品解説ののち、受講生によるグループディスカッションを行ないます。

準備学習（予習・復習）

授業の予習復習として、授業時間以外にも読書の時間を確保すること。目安は1日15分（週に2時間程度）とする。学期末までにテキストを読了すること。

内　　容

第1回　ライトノベルとは何か
第2回　文庫化、漫画化による変化
第3回　香月日輪「妖怪アパートの幽雅な日常」
第4回　荻原規子「RDG（レッドデータガール）」
第5回　あさのあつこ「NO．6（ナンバーシックス）」
第6回　桜庭一樹「GOSICK（ゴシック）」
第7回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第1章
第8回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第2章
第9回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第3章
第10回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第4章
第11回　坂木司「和菓子のアン」第1章
第12回　坂木司「和菓子のアン」第2章
第13回　坂木司「和菓子のアン」第3章
第14回　坂木司「和菓子のアン」第4章
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

和菓子のアン
著者：　坂木司
出版社：光文社文庫
出版年：　　ISBN：

神去なあなあ日常
著者：　三浦しをん
出版社：徳間文庫
出版年：　　ISBN：

参考書

NO．6
著者：　あさのあつこ
出版社：講談社文庫
出版年：　　ISBN：

妖怪アパートの幽雅な日常
著者：　香月日輪
出版社：講談社文庫
出版年：　　ISBN：

a10201e353

RDG

著者:　荻原規子

出版社: 角川文庫

出版年:　　ISBN:

GOSICK

著者:　桜庭一樹

出版社: 角川文庫

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 60% ）　　授業中発表等 （ 40% ）

参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅲ <d>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期前半　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　野村 幸一郎

テーマ

日中言語比較

授業の到達目標

（1）外国語と比較したときに浮かび上がる日本語の特徴を理解する（2）英語以外の言語に触れる（3）海外の文化や国際情勢に興味を持つ

授業の概要

グループワークを通じて外国語と比べたときに浮かび上がる日本語の特徴を学んでいく

準備学習（予習・復習）

初めて中国語に触れる受講生がほとんどだと思われるので、復習をちゃんとすること

内　容

第1回　日中言語比較　名詞（1）
第2回　課題への取り組みと小テスト
第3回　日中言語比較　名詞（2）
第4回　課題への取り組みと小テスト
第5回　日中言語比較　動詞（1）
第6回　課題への取り組みと小テスト
第7回　日中言語比較　動詞（2）
第8回　課題への取り組みと小テスト
第9回　日中言語比較　疑問文
第10回　課題への取り組みと小テスト
第11回　日中言語比較　打消し
第12回　課題への取り組みと小テスト
第13回　日中言語比較　形容詞
第14回　課題への取り組みと小テスト
第15回　まとめ

履修上の注意点

NHKの語学テキストでいいので、授業と並行して中国語の学習を進めてほしい（「テレビで中国語」」がおすすめ）

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ 60 ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）
参加度には受講態度が含まれます

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅲ <e>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期前半　　定　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　名和 久仁子

テーマ

室町物語を題材にして古典文学研究の糸口をつかむ

授業の到達目標

古典文学への興味・知的関心を深め、研究にあたって必要となる基礎的な知識と方法の習得をめざす。グループワークによる課題解決を通してコミュニケーション能力を身につける。プレゼンテーションの方法を身につける。

授業の概要

室町物語のテキストを翻字しながら読み進める。演習形式のグループワークを通じて数多くの作品にふれ、研究の糸口をつかむ。演習Ⅳと合同。

準備学習（予習・復習）

予習：授業で取りあげるテキストをあらかじめ読んでおくこと。復習：授業で研究した内容の要点を整理する。

内　容

第1回　授業の進め方についてのガイダンス
第2回　テキストを読むにあたっての方法と実践
第3回　テキストを読む①
第4回　グループによる発表(1)
第5回　テキストを読む②
第6回　グループによる発表(2)
第7回　テキストを読む③
第8回　グループによる発表(3)
第9回　テキストを読む④
第10回　グループによる発表(4)
第11回　テキストを読む⑤
第12回　グループによる発表(5)
第13回　まとめ
第14回　学外授業・事前学習
第15回　学外授業
第16回　学外授業

履修上の注意点

原則として3分の2以上の出席がない場合は単位を認めない。遅刻と途中退出をしないように。

教科書

未定
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

お伽草子事典
著者：　徳田和夫
出版社：　東京堂出版
出版年：　2002　　ISBN：

御伽草子集
著者：　大島建彦校注・訳
出版社：　小学館
出版年：　1974　　ISBN：

a10201e355

室町物語草子集

著者:　大島建彦・渡浩一校注・訳

出版社: 小学館

出版年: 2002　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト（ 10 ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 40 ）

参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅳ <a>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期後半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　安達　太郎

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1）文学や歴史，地理を総合的に理解することができる。2）テキストのフレージングを意識化することができる。3）グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であるのと同時に，文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習（予習・復習）

授業中の指示に従って，タスクの準備をすること。

内　容

第1回　タスク3　説話と現地踏査（1）導入
第2回　タスク3　説話と現地踏査（2）説話講読
第3回　タスク3　説話と現地踏査（3）プレゼンテーション準備
第4回　タスク3　説話と現地踏査（4）プレゼンテーション
第5回　タスク3　説話と現地踏査（5）学外授業
第6回　タスク3　説話と現地踏査（6）学外授業
第7回　タスク3　説話と現地踏査（7）プレゼンテーション準備
第8回　タスク3　説話と現地踏査（8）プレゼンテーションと振り返り
第9回　タスク4　群読（1）導入
第10回　タスク4　群読（2）万葉集の群読
第11回　タスク4　群読（3）近代詩の群読1
第12回　タスク4　群読（4）近代詩の群読2
第13回　タスク4　群読（5）近代詩の群読3
第14回　タスク4　群読（6）近代詩の群読4
第15回　タスク4　群読（7）現代詩の群読と振り返り

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので，注意すること。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 20% ）　　授業中発表等　（ 50% ）

参加度　（ 30% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅳ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　林　久美子	

テーマ

京都を舞台にした小説を読む

授業の到達目標

京都の歴史と文化について学ぶたくさん読書をする読解力を付けるプレゼンテーション力を向上させる

授業の概要

グループで担当作品を選び、発表する。なお、行事等の都合で、順序と内容が一部変更する可能性があります。

準備学習（予習・復習）

しっかり読み、グループで話し合ってレジュメを作る

内　　容

第1回　洛中洛外図の京都
第2回　　〃
第3回　京都を舞台にした小説についての発表①
第4回　　〃
第5回　京都を舞台にした小説についての発表②
第6回　　〃
第7回　京都を舞台にした小説についての発表③
第8回　　〃
第9回　京都を舞台にした小説についての発表④
第10回　〃
第11回　屏風祭見学
第12回　〃
第13回　京都を舞台にした小説についての発表⑤
第14回　〃
第15回　振り返り

履修上の注意点

発表しない回にも作品を読んでくること

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）	

参加度には受講態度（質疑応答など）も含む

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅳ <c>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期後半　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　　重松　恵美

テーマ

現代小説における古典芸能

授業の到達目標

1. 読解力　作品をていねいに読み、理解する。2. 思考力　作品について、受講生一人一人が考える。3. 文章力　作品について考えたことを、レポートにまとめる。4. 対話力　作品についての意見発表と意見交換を行なう。

授業の概要

現代日本を舞台とし、古典芸能に取り組む若者を主人公とする小説をテキストとして読み、現代文学の動向について考える。教員による解説ののち、受講生によるグループディスカッションを行なう。

準備学習（予習・復習）

テキストを学期末までに読了すること。授業時間以外にも、作品を読む時間を確保すること。読書時間の目安は毎日15分（週あたり2時間）とする。

内　　容

第1回　古典芸能入門
第2回　歌舞伎、文楽、組踊
第3回　落語、浪曲、講談
第4回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」序幕、二幕目
第5回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」三幕目
第6回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」四幕目
第7回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」五幕目
第8回　田中啓文「ハナシがちがう！」第一話前半
第9回　田中啓文「ハナシがちがう！」第一話後半
第10回　三浦しをん「仏果を得ず」第一章前半
第11回　三浦しをん「仏果を得ず」第一章後半
第12回　池上永一「テンペスト」（参考作品）第二章
第13回　池上永一「テンペスト」（参考作品）第八章
第14回　池上永一「竹富島」前半
第15回　池上永一「竹富島」後半

履修上の注意点

教科書

カブキブ！　1
著者：　榎田ユウリ
出版社：　角川文庫
出版年：　2013　　ISBN：　978-4-04-100956

参考書

ハナシがちがう（笑酔亭梅寿謎解噺1）
著者：　田中啓文
出版社：　集英社文庫
出版年：　　ISBN：

仏果を得ず
著者：　三浦しをん
出版社：　双葉文庫
出版年：　　ISBN：

統ばる島（すばるしま）
著者：　池上永一
出版社：　角川文庫
出版年：　　ISBN：

a10201e453

テンペスト　1
著者:　池上永一
出版社: 角川文庫
出版年:　　ISBN:

テンペスト　2
著者:　池上永一
出版社: 角川文庫
出版年:　　ISBN:

テンペスト　3
著者:　池上永一
出版社: 角川文庫
出版年:　　ISBN:

テンペスト　4
著者:　池上永一
出版社: 角川文庫
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 60% ）　　授業中発表等 （ 40% ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅳ <d>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期後半　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　野村　幸一郎

テーマ

司馬遼太郎と歩く幕末維新の京都

授業の到達目標

司馬遼太郎の作品を考えることで、日本の近代化についての理解を深める

授業の概要

幕末維新を題材にした司馬遼太郎の作品について読解を進めると同時に、合わせて、臨地研修、グループワークを行う

準備学習（予習・復習）

授業で取り扱う作品は必ず読んでくること

内　容

第1回　司馬遼太郎の紹介
第2回　『竜馬がゆく』読解（1）
第3回　『竜馬がゆく』読解（2）
第4回　臨地研修　円山公園　坂本竜馬・中岡慎太郎像と霊山博物館（1）
第5回　臨地研修　円山公園　坂本竜馬・中岡慎太郎像と霊山博物館（2）
第6回　『竜馬がゆく』第1回　グループワーク
第7回　『竜馬がゆく』読解（3）
第8回　『竜馬がゆく』読解（4）
第9回　『竜馬がゆく』読解（5）
第10回　臨地研修　伏見寺田屋（1）
第11回　臨地研修　伏見寺田屋（2）
第12回　『竜馬がゆく』第2回グループワーク
第13回　『坂の上の雲』読解（1）
第14回　『坂の上の雲』読解（2）
第15回　『坂の上の雲』読解（3）
第16回　テスト　『坂の上の雲』と日本の近代化

履修上の注意点

グループワークには積極的に参加する

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅳ <e>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期後半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　名和 久仁子

テーマ

室町物語を題材にして古典文学研究の糸口をつかむ

授業の到達目標

古典文学への興味・知的関心を深め、研究にあたって必要となる基礎的な知識と方法の習得をめざす。グループワークによる課題解決を通してコミュニケーション能力を身につける。プレゼンテーションの方法を身につける。

授業の概要

室町物語のテキストを翻字しながら読み進める。演習形式のグループワークを通じて数多くの作品にふれ、研究の糸口をつかむ。演習Ⅲと合同。

準備学習（予習・復習）

予習：授業で取りあげるテキストをあらかじめ読んでおくこと。復習：授業で研究した内容の要点を整理する。

内　容

第1回　授業の進め方についてのガイダンス
第2回　作品の選択と梗概の作成
第3回　テキストを読む①
第4回　受講者による発表と質疑応答(1)
第5回　テキストを読む②
第6回　受講者による発表と質疑応答(2)
第7回　テキストを読む③
第8回　受講者による発表と質疑応答(3)
第9回　テキストを読む④
第10回　受講者による発表と質疑応答(4)
第11回　テキストを読む⑤
第12回　受講者による発表と質疑応答(5)
第13回　問題点の整理
第14回　まとめ

履修上の注意点

原則として3分の2以上の出席がない場合は単位を認めない。遅刻と途中退出をしないように。

教科書

未定
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

お伽草子事典
著者：　徳田和夫
出版社：東京堂出版
出版年：2002　　ISBN：

御伽草子集
著者：　大島建彦校注・訳
出版社：小学館
出版年：1974　　ISBN：

室町物語草子集
著者：　大島建彦・渡浩一校注・訳
出版社：小学館
出版年：2002　　ISBN：

成績評価

a10201e455

試験 （ 0 ）　小テスト（ 10 ）
授業中課題 （ 30 ）　授業中発表等（ 40 ）
参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　林　久美子	

テーマ

古典文学（中・近世）へのアプローチ

授業の到達目標

代表的な作品を通して日本文化について考える。古典文学の幅広さと魅力を知る。自分で作品を読む態度を養う。プレゼンテーションの方法を身につける。

授業の概要

前半は、様々なジャンルの古典作品またはその影響を受けた近現代の文学作品ひとつを取り上げてその魅力を解説します。
後半は、時代による文学の変化を課題に沿って考察し、発表します。

準備学習（予習・復習）

本文をきちんと読み、時間をかけてレジュメを作成する。

内　　容

第1回　授業のねらいと前半の進め方について
第2回　御伽草子のおもしろさ1
第3回　　〃　　2
第4回　『平家物語』の死生観
第5回　経済小説としての『世間胸算用』
第6回　家庭問題劇化としての『女殺油地獄』
第7回　怪談劇の代表としての『東海道四谷怪談』
第8回　後半の進め方について
第9回　御伽草子をもとにした近現代の昔話や絵本1
第10回　　〃　　2
第11回　現代の戦記物における死生観
第12回　現代作家の大阪商人
第13回　現代の家庭小説
第14回　現代の怪談
第15回　まとめ

履修上の注意点

まずは、作品をよく読むこと。わからない言葉は、こまめに辞書を引くこと。レジュメ作成には時間をかけること。なお、取り上げる作品は上記から変更することもあります。

教科書

参考書

角川ソフィア文庫（各作品）
著者：
出版社：角川書店
出版年：　　ISBN：

（新）日本古典文学大系（各作品）
著者：
出版社：岩波書店
出版年：　　ISBN：

（新編）日本古典文学全集（各作品）
著者：
出版社：小学館
出版年：　　ISBN：

a10202a110

新潮日本古典集成(各作品)

著者:

出版社: 新潮社

出版年: ISBN:

成績評価

試験 (0) 小テスト (0)

授業中課題 (0) 授業中発表等 (60)

参加度 (40)

参加度には出席だけでなく、受講態度も含まれます

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ〈＊B〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　安達　太郎	

テーマ

日本語を掘り下げる

授業の到達目標

1）日本語を学ぶことの意味を理解し，分析する方法を修得する。2）データ収集，データ分析，レジュメの作成，口頭発表という一連の作業をとおして，「勉強」とは違う「研究」のあり方を理解する。3）他の受講生の発表に対して積極的に質問を行うことによって，ゼミに対する能動的な関わり方を身につける。

授業の概要

日本語はもっとも身近な言語だが，そこには私たちが知らない〈謎〉がひそんでいる。動詞の意味分析を通して，その〈謎〉を発見し，自らの力で解明する方法をマスターする。

準備学習（予習・復習）

図書館で『月刊言語』や『日本語学』といった雑誌のバックナンバーを手に取ってみてください。今まで知らなかった日本語の姿が立ち上がってきます。

内　　容

第1回　導入：日本語をなぜ考えるのか？
第2回　チームによる日本語分析（1）
第3回　チームによる日本語分析（2）
第4回　分担の決定＋データ収集の方法
第5回　データについての報告
第6回　担当項目のチーム内検討（1）
第7回　担当項目のチーム内検討（2）
第8回　担当項目のチーム内検討（3）
第9回　受講生による報告（1）
第10回　受講生による報告（2）
第11回　受講生による報告（3）
第12回　受講生による報告（4）
第13回　受講生による報告（5）
第14回　受講生による報告（6）
第15回　レポートの書き方

履修上の注意点

グループでの活動を重視します。発表があたっていないときでも，さまざまな役割を果たすことを求めます。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ＜＊C＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　　重松　恵美

テーマ

近現代日本語小説研究

授業の到達目標

1．小説作品および参考文献の読解。2．調査研究、資料収集。3．収集資料と考察の整理。発表資料の作成。4．意見発表と意見交換。

授業の概要

近現代小説についての研究発表と質疑応答を行なう授業。発表担当者は、テキストを読解し、参考資料を収集し、問題点を整理して、発表資料を作成し、口頭発表する。発表後は全員で作品および発表内容について討論する。

準備学習（予習・復習）

テキストを熟読すること。その際必ず国語辞典等を参照すること。レジュメ等の配布資料をファイリングし、参考資料として活用すること。

内　　容

第1回　導入1（自己紹介、発表作品と日程の決定）
第2回　導入2（作品読解と調査研究の方法）
第3回　導入3（レジュメの作り方、発表準備）
第4回　発表1（テキスト第1章）
第5回　発表2（テキスト第2章）
第6回　発表3（テキスト第3章）
第7回　発表4（テキスト第4章）
第8回　発表5（テキスト第5章）
第9回　発表6（テキスト第6章、第7章）
第10回　発表7（テキスト第8章、第9章）
第11回　発表8（テキスト第10章、第11章）
第12回　発表9（テキスト第12章、第13章）
第13回　発表10（テキスト第14章、第15章）
第14回　発表11（テキスト第16章、第17章）
第15回　発表12（テキスト第18章、第19章）

履修上の注意点

テキストを持参しない場合、意見交換に参加しない場合は、欠席とみなす。やむを得ない事情で発表を欠席する場合は事前連絡し、日を改めて発表すること。

教科書

家守綺譚
著者：　梨木香歩
出版社：新潮文庫
出版年：2004　　ISBN：　4101253374

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 30% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ〈＊A〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　安達　太郎

テーマ

〈表現〉を分析する

授業の到達目標

1）表現を学ぶことの意味を理解し，分析する方法を修得する。2）テキスト分析，レジュメの作成，口頭発表という一連の作業をとおして，「勉強」とは違う「研究」のあり方を理解する。3）他の受講生の発表に対して積極的に質問を行うことによって，ゼミに対する能動的な関わり方を身につける。

授業の概要

日常生活から文学や芸術の分野まで，私たちはさまざまなレベルで〈表現〉に触れている。ここでは翻訳という行為を対象として，あるテキストがどのように〈解釈〉され，どのように別のテキストとして〈表現〉されていくのかを考える。

準備学習（予習・復習）

参考書としてあげた『翻訳夜話』に目を通してください。翻訳に対する村上春樹の姿勢を知ることができます。

内　容

第1回　導入：〈表現〉を分析する
第2回　表現の分析（1）
第3回　表現の分析（2）
第4回　発表の準備
第5回　チーム内検討（1）
第6回　チーム内検討（2）
第7回　チーム内検討（3）
第8回　受講生による報告（1）
第9回　受講生による報告（2）
第10回　受講生による報告（3）
第11回　受講生による報告（4）
第12回　受講生による報告（5）
第13回　受講生による報告（6）
第14回　受講生による報告（7）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

翻訳夜話
著者：　村上春樹・柴田元幸
出版社：文芸春秋
出版年：2000年　　ISBN：　978-4166601295

翻訳夜話2　サリンジャー戦記
著者：　村上春樹・柴田元幸
出版社：文芸春秋
出版年：2003年　　ISBN：　978-4166603305

翻訳教室
著者：　柴田元幸
出版社：新書館
出版年：2006年　　ISBN：　978-4403210884

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　重松　恵美	

テーマ

近代日本文学を読む

授業の到達目標

文学作品の研究を通じて、読解力、思考力、文章力、対話力を身につける。1．読解力　文学作品をていねいに読み、理解する力。2．思考力　作品およびその背景について、深く考える力。3．文章力　考えたことを、分かりやすく文章化する力。4．対話力　作品解釈について意見交換し、他者を尊重しつつ自己主張する力。

授業の概要

明治期から昭和期にかけて活躍した、様々な作家の作品を取り扱う。小説、詩、エッセイなど、様々な形態の作品を読解し、作品の主題や文体、時代背景、作中の人物像などについて考える。学生による研究発表が授業の中心であり、情報収集の方法から発表資料の作成、口頭発表、質疑応答と司会進行の方法などを学ぶ。

準備学習（予習・復習）

テキストを熟読すること。その際、国語辞典等を参照すること。作家、作品の時代背景、作中の食べ物について、興味関心を広げること。

内　　容

第1回　導入1（自己紹介、発表作品と日程の決定）
第2回　導入2（図書館等での情報収集、発表準備）
第3回　導入3（レジュメの作り方）高村光太郎「こごみの味」
第4回　発表1　種田山頭火「漬物の味」
第5回　発表2　萩原朔太郎「閑雅な食慾」
第6回　発表3　内田百閒「食而」
第7回　発表4　芥川龍之介「食物として」
第8回　発表5　森鴎外「牛鍋」
第9回　発表6　正岡子規「闇汁図解」
第10回　発表7　斎藤茂吉「茂吉小話　食」
第11回　発表8　川端康成「わかめ」
第12回　発表9　林芙美子「魚」
第13回　発表10　坂口安吾「わが工夫せるオジヤ」
第14回　発表予備日　檀一雄「廃絶させるには惜しい夏の味二つ」
第15回　小テストとディスカッション

履修上の注意点

やむを得ない事情で発表を欠席する場合は事前連絡し、日を改めて発表すること。テキストを持参しない場合、意見交換に参加しない場合は、欠席とみなす。

教科書

文人御馳走帖
著者：　嵐山光三郎（編）
出版社：新潮文庫
出版年：2014　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 20% ）
授業中課題（ 20% ）	授業中発表等（ 30% ）
参加度（ 30% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ＜＊C＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　林 久美子

テーマ

文学研究の方法を学ぶ

授業の到達目標

多くの作品に触れることで、文学の幅広さを知る。きちんと本文を読む態度を養う。プレゼンテーションの方法を身につける。論文の書き方を学ぶ。

授業の概要

前半は古典文学またはその影響を受けた作品についての読みを披露し、後半には、その作品について取り上げた論文を紹介、評価する。

準備学習（予習・復習）

本文をよく読む。図書館やインターネットを活用して文献を探す。時間をかけてレジュメを作成する。

内　容

第1回　授業のねらいと進め方についての説明
第2回　中・近世の作品、あるいはそれに関わりのある近現代の文学から自分に合ったものを選ぶ
第3回　各自の選んだ作品について、研究概要をまとめ、問題点を探る
第4回　作品について語る（プレゼンテーション）①
第5回　同上②
第6回　同上③
第7回　同上④
第8回　論文を検索し、収集する
第9回　論文の組み立て方、論述の仕方について学ぶ
第10回　前半の発表に関連する論文を紹介し、どこが良く、どこに疑問が残ったかを述べる①
第11回　同上②
第12回　同上③
第13回　同上④
第14回　同上⑤
第15回　特別講義（時期は未定）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）
参加度には出席だけでなく、受講態度も含まれます

2016 Syllabus

科 目 名　**漢字古典研究Ⅰ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　20
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　中村　史朗	

テーマ

王羲之書法の生成とその伝承

授業の到達目標

著名な中国・日本の漢字古典の実習と鑑賞を通じて、基本的な知識を習得するとともに多様な技法に習熟する。書体の変遷等、史的な推移を重視し、単に個別の古典の技法的特色を知るだけではなく、歴史の流れの中で名作相互がどのように関連しあっているかを十分理解したい。いわば臨書という行為を通じて古典を鑑賞することが主眼となるが、すすんで履修者個々が自身の作品表現に生かせる古典を見出し、制作の背景を固めることもねらいとしている。また代表的な古典とあわせて同時代の新出資料も取り上げ、名筆を生み出す時代状況も考察する。

授業の概要

歴代の漢字古典の臨書を中心とする。あわせて作品と作者、時代状況等に関して講述する。時代の区切りで課題提出をもとめ臨書を日常化するようつとめる。また古典の鑑賞文や臨書に対するコメントなどを課し記述する習慣をつける。

準備学習（予習・復習）

一回の実習で学習できることは限られているので、それぞれの古典について各自で繰り返し臨書をこころみること。

内　　容

第8回　唐　太宗　温泉銘
第9回　孫過庭　書譜
第10回　顔真卿　争座位文稿
第11回　懐素　自叙帖
第12回　北宋の書(1)　蘇軾　黄州寒食詩巻
第13回　北宋の書(2)　黄庭堅　李太白憶旧遊詩巻
第14回　北宋の書(3)　米フツ　蜀素帖
第15回　まとめ　臨書ファイル提出
第1回　ガイダンス中国書道史概観(1)
第2回　王羲之前夜　李柏尺牘文書を中心に
第3回　蘭亭序(1)
第4回　蘭亭序(2)
第5回　集王碑　集王聖教序と興福寺断碑の比較を中心に
第6回　王羲之の尺牘(1)　墨跡本を中心に
第7回　王羲之の尺牘(2)　刻帖を中心に

履修上の注意点

実習を中心とするので、各回毎に指示する用具・用材を忘れず準備すること。大幅な遅刻は欠席として処理する。各回のテーマに沿って自主的に作品制作に取り組むなど、積極的に授業に取り組んでほしい。

教科書

書道テキスト　第5巻　篆書
著者：　大東文化大学書道研究所編
出版社：二玄社
出版年：　　ISBN：

書道テキスト　第6巻　隷書
著者：　大東文化大学書道研究所編
出版社：二玄社
出版年：　　ISBN：

書道テキスト　第7巻　楷書
著者：　大東文化大学書道研究所編
出版社：二玄社
出版年：　　ISBN：

a10202a310

書道テキスト　第8巻　行草書
著者:　大東文化大学書道研究所編
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:

参考書

書の文化史　上・中・下
著者:　西林昭一
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:

書道全集
著者:
出版社: 平凡社
出版年:　　ISBN:

書道藝術
著者:
出版社: 中央公論社
出版年:　　ISBN:

中国法書ガイド　1-60
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:

中国書道史年表
著者:　玉村霽山
出版社: 二玄社
出版年: 1998　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 60 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 20 ）
授業中の取り組み、最終提出物等を総合して評価します。

2016 Syllabus

科 目 名　**漢字古典研究Ⅰ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　20
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　池田　利広	

テーマ

中国の殷から漢代までの漢字を通観し、それらに含まれる美をいかに表現するかを書技法面から探究する。

授業の到達目標

漢字の成り立ちと漢代までの書体・書風の変遷、または各時代の書体・書風の書技法の習得をめざす。

授業の概要

理論と実践を通して書の美に迫る。

準備学習（予習・復習）

講義内容・実技課題は授業に必ず復習すること。実技課題は清書作品を最後の授業に提出。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　漢字の成り立ち 『説文解字』より
第3回　殷代の書　甲骨文字　骨に刻まれた文字の表現を考える
第4回　秦代の書（1）　小篆　泰山刻石から小篆の書法について考える
第5回　秦代の書（2）　小篆　泰山刻石から小篆の書法について考える
第6回　周代の書（1）　金文　金属に鋳刻された文字の表現を考える
第7回　周代の書（2）　金文　金属に鋳刻された文字の表現を考える
第8回　周代の書（3）　竹簡　当時の篆書書写体を考える
第9回　中間チェック　毎時間の課題の習得度を確認する。
第10回　漢代の書（1）　金文　度量衡・漢印をもとに
第11回　漢代の書（2）　帛書　馬王堆帛書をもとに
第12回　漢代の書（3）　隷書　漢碑をもとに
第13回　漢代の書（4）　隷書　漢碑をもとに
第14回　漢代の書（5）　隷書　漢碑をもとに
第15回　漢代の書（6）　行・草書　木簡をもとに

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退出をしない。

教科書

書道テキスト第5巻
著者:　大東文化大学書道研究所編
出版社:
出版年:　　ISBN:
書道テキスト第6巻　隷書
著者:　大東文化大学書道研究所編
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30% ）
期末提出課題 70%

2016 Syllabus

科 目 名　**漢字古典研究Ⅱ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　20
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　池田　利広	

テーマ

中国の殷から漢代までの漢字を通観し、それらに含まれる美をいかに表現するかを書技法面から探究する。

授業の到達目標

漢字の成り立ちと漢代までの書体・書風の変遷、または各時代の書体・書風の書技法の習得をめざす。

授業の概要

理論と実践を通して書の美に迫る。

準備学習（予習・復習）

講義内容・実技課題は授業に必ず復習すること。実技課題は清書作品を最後の授業に提出。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　漢字の成り立ち 『説文解字』より
第3回　殷代の書　甲骨文字　骨に刻まれた文字の表現を考える
第4回　秦代の書（1）　小篆　泰山刻石から小篆の書法について考える
第5回　秦代の書（2）　小篆　泰山刻石から小篆の書法について考える
第6回　周代の書（1）　金文　金属に鋳刻された文字の表現を考える
第7回　周代の書（2）　金文　金属に鋳刻された文字の表現を考える
第8回　周代の書（3）　竹簡　当時の篆書書写体を考える
第9回　中間チェック　毎時間の課題の習得度を確認する。
第10回　漢代の書（1）　金文　度量衡・漢印をもとに
第11回　漢代の書（2）　帛書　馬王堆帛書をもとに
第12回　漢代の書（3）　隷書　漢碑をもとに
第13回　漢代の書（4）　隷書　漢碑をもとに
第14回　漢代の書（5）　隷書　漢碑をもとに
第15回　漢代の書（6）　行・草書　木簡をもとに

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退出をしない。

教科書

書道テキスト第5巻
著者:　大東文化大学書道研究所編
出版社:
出版年:　　ISBN:
書道テキスト第6巻　隷書
著者:　大東文化大学書道研究所編
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30% ）
期末提出課題 70%

2016 Syllabus

科 目 名　**漢字古典研究Ⅱ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　20
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　中村　史朗	

テーマ

王羲之書法の生成とその伝承

授業の到達目標

著名な中国・日本の漢字古典の実習と鑑賞を通じて、基本的な知識を習得するとともに多様な技法に習熟する。書体の変遷等、史的な推移を重視し、単に個別の古典の技法的特色を知るだけではなく、歴史の流れの中で名作相互がどのように関連しあっているかを十分理解したい。いわば臨書という行為を通じて古典を鑑賞することが主眼となるが、すすんで履修者個々が自身の作品表現に生かせる古典を見出し、制作の背景を固めることもねらいとしている。また代表的な古典とあわせて同時代の新出資料も取り上げ、名筆を生み出す時代状況も考察する。

授業の概要

歴代の漢字古典の臨書を中心とする。あわせて作品と作者、時代状況等に関して講述する。時代の区切りで課題提出をもとめ臨書を日常化するようつとめる。また古典の鑑賞文や臨書に対するコメントなどを課し記述する習慣をつける。

準備学習（予習・復習）

一回の実習で学習できることは限られているので、それぞれの古典について各自で繰り返し臨書をこころみること。

内　　容

第1回　ガイダンス中国書道史概観(1)
第2回　王羲之前夜　李柏尺牘文書を中心に
第3回　蘭亭序(1)
第4回　蘭亭序(2)
第5回　集王碑　集王聖教序と興福寺断碑の比較を中心に
第6回　王羲之の尺牘(1)　墨跡本を中心に
第7回　王羲之の尺牘(2)　刻帖を中心に
第8回　唐　太宗　温泉銘
第9回　孫過庭　書譜
第10回　顔真卿　争座位文稿
第11回　懐素　自叙帖
第12回　北宋の書(1)　蘇軾　黄州寒食詩巻
第13回　北宋の書(2)　黄庭堅　李太白憶旧遊詩巻
第14回　北宋の書(3)　米フツ　蜀素帖
第15回　まとめ　臨書ファイル提出

履修上の注意点

実習を中心とするので、各回毎に指示する用具・用材を忘れず準備すること。大幅な遅刻は欠席として処理する。各回のテーマに沿って自主的に作品制作に取り組むなど、積極的に授業に取り組んでほしい。

教科書

書道テキスト　第5巻　篆書
著者:　大東文化大学書道研究所編
出版社:　二玄社
出版年:　　ISBN:

書道テキスト第6巻　隷書
著者:　大東文化大学書道研究所編
出版社:　二玄社
出版年:　　ISBN:

書道テキスト第7巻　楷書
著者:　大東文化大学書道研究所編
出版社:　二玄社
出版年:　　ISBN:

a10202a452

書道テキスト第8巻　行草書
著者:　大東文化大学書道研究所編
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:

参考書

書の文化史　上・中・下
著者:　西林昭一
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:

書道全集
著者:
出版社: 平凡社
出版年:　　ISBN:

書道藝術
著者:
出版社: 中央公論社
出版年:　　ISBN:

中国法書ガイド　1～60
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:

中国書道史年表
著者:　玉村霽山
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 60 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 20 ）
授業中の取り組み、最終提出物等を総合して評価します。

2016 Syllabus

科 目 名　**かな古典研究Ⅰ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　20
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　橋本　二三	

テーマ

奈良時代から女手が完成する時代までの書美について理解を深める。

授業の到達目標

多様なかな書美の理解と書法の修得。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

授業中では学習時間が足りないので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

内　　容

第1回　万葉仮名の作品について①
第2回　万葉仮名の作品について②
第3回　万葉仮名の作品について③
第4回　万葉仮名の作品について④
第5回　草仮名の作品について
第6回　草仮名の典型「秋萩帖」
第7回　草仮名の作品について
第8回　女手の完成期の作品「高野切」①
第9回　女手の完成期の作品「高野切」②
第10回　高野切系統の作品について①
第11回　高野切系統の作品について②
第12回　高野切系統の作品について③
第13回　平安三色紙の作品「継色紙」
第14回　平安三色紙の作品「寸松庵色紙」
第15回　平安三色紙の作品「升色紙」

履修上の注意点

教科書

「和様の書美」
著者:　横山煌平　編
出版社:　二玄社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 80 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 20 ）
授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

2016 Syllabus

科 目 名　かな古典研究Ⅰ〈＊b〉

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　　員　20

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　橋本 二三

テーマ

奈良時代から女手が完成する時代までの書美について理解を深める。

授業の到達目標

多様なかな書美の理解と書法の修得。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

授業中では学習時間が足りないので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

内　容

第1回　万葉仮名の作品について①
第2回　万葉仮名の作品について②
第3回　万葉仮名の作品について③
第4回　万葉仮名の作品について④
第5回　草仮名の作品について
第6回　草仮名の典型「秋萩帖」
第7回　草仮名の作品について
第8回　女手の完成期の作品「高野切」①
第9回　女手の完成期の作品「高野切」②
第10回　高野切系統の作品について①
第11回　高野切系統の作品について②
第12回　高野切系統の作品について③
第13回　平安三色紙の作品「継色紙」
第14回　平安三色紙の作品「寸松庵色紙」
第15回　平安三色紙の作品「升色紙」

履修上の注意点

教科書

「和様の書美」
著者:　横山煌平　編
出版社:　二玄社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 80 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 20 ）
授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

2016 Syllabus

科 目 名　**かな古典研究Ⅱ〈＊a〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員　20

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　　橋本　二三

テーマ

多様な書美を競った院政時代から江戸時代までの書美について理解。

授業の到達目標

多様なかな書美の理解と書法の修得。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

授業中では学習時間が足りないので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

内　　容

第1回　院政時代の作品「曼殊院本古今集」
第2回　院政時代の代表的作品「関戸本古今集」
第3回　院政時代の作品「本阿弥切古今集」
第4回　院政時代の作品「小島切斎宮女御集」
第5回　世尊寺家の書流について①
第6回　世尊寺家の書流について②
第7回　世尊寺家の書流について③
第8回　世尊寺家の書流について④
第9回　平安時代末期の作品「針切」
第10回　平安時代末期の作品「香紙切」
第11回　平安時代末期の作品「和泉式部続集切」
第12回　鎌倉時代の作品(西行)
第13回　鎌倉時代の作品(西行)
第14回　鎌倉時代の作品(定家)
第15回　江戸時代の書について(良寛)

履修上の注意点

教科書

「和様の書美」
著者:　横山煌平　編
出版社:　二玄社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 80 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 20 ）
授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

2016 Syllabus

科 目 名　**かな古典研究Ⅱ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　20
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　橋本　二三	

テーマ

多様な書美を競った院政時代から江戸時代までの書美について理解。

授業の到達目標

多様なかな書美の理解と書法の修得。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

授業中では学習時間が足りないので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

内　　容

第1回　院政時代の作品「曼殊院本古今集」
第2回　院政時代の代表的作品「関戸本古今集」
第3回　院政時代の作品「本阿弥切古今集」
第4回　院政時代の作品「小島切斎宮女御集」
第5回　世尊寺家の書流について①
第6回　世尊寺家の書流について②
第7回　世尊寺家の書流について③
第8回　世尊寺家の書流について④
第9回　平安時代末期の作品「針切」
第10回　平安時代末期の作品「香紙切」
第11回　平安時代末期の作品「和泉式部続集切」
第12回　鎌倉時代の作品(西行)
第13回　鎌倉時代の作品(西行)
第14回　鎌倉時代の作品(定家)
第15回　江戸時代の書について(良寛)

履修上の注意点

教科書

「和様の書美」
著者:　横山煌平　編
出版社:　二玄社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 80 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 20 ）
授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学講読a（日本語文法研究Ｉ）<Z>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　中俣　尚己

テーマ

日本語の隠れた法則に気づく

授業の到達目標

普段無意識に使っている日本語にも様々な規則があることに目を向ける。その過程を通じて論理的な物事の見方を養う。

授業の概要

日本語の様々なルールについて概説し、日本語学という学問で考察の対象となっているトピックについて考えます。色々問題を出すので、授業中に参加者で相談しながら日本語の法則性を考えたり、例文を作ったりします。

準備学習（予習・復習）

授業で配布する資料をよく読み、復習をしっかりして下さい。また、宿題をきちんと行うこと。

内　容

第1回　品詞:「問題の日本語」と「問題な日本語」
第2回　活用:「来られる」と「来れる」
第3回　文の組み立て:「私が好き」と「私が好き」
第4回　格助詞:「ここに泊まる」と「ここで泊まる」
第5回　副助詞:「私は中俣です」と「私が中俣です」？
第6回　接続助詞:「太郎が入ってから次郎が出た」と「太郎が入ったから次郎が出た」
第7回　連用修飾と連体修飾:「携帯電話を落とした学生」と「携帯電話を落とした中俣」
第8回　受け身と使役:「中俣に壊される」と「中俣に来られる」
第9回　文と時間の関係:「動いている」と「止まっている」
第10回　認識:「おいしそうだ」と「おいしいそうだ」
第11回　文の種類:「やってもいいです」と「やってもいいですか」
第12回　補助動詞:「先生が来てくれる」と「先生に来てもらう」
第13回　敬語:「お読みになる」と「お読みする」
第14回　文と文の繋がり:「明日はテストだ。だから～」と「明日はテストだ。そこで～」
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

国語教師が知っておきたい日本語文法
著者:　山田敏弘
出版社:　くろしお出版
出版年:　2004　　ISBN:　978-4874243107

成績評価

試験　（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学講読b（日本語文法研究Ⅱ）<Z>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員　50

履修条件　　クラス指定

担 当 者　中俣　尚己

テーマ

現実の日本語を知る

授業の到達目標

コンピュータを活用し日本語の使用実態を調査する方法と他人を説得するプレゼンテーション・スキルを身につける。

授業の概要

「本当の日本語の姿」を知るためには、コーパスと呼ばれる電子的な言語資料を用いて、数的調査を行うという方法が考えられる。この授業ではコーパスを用いて、表記・語形・コロケーション・よく使われる形などについて研究を行い、それを発表する。

準備学習（予習・復習）

前半はパソコンの操作を学びます。一度で覚えることはできないので、必ず宿題を行い、操作に習熟すること。後半は発表です。入念に準備を行うこと。自分の思い込みを語るのではなく、どういう証拠を見せれば、他人は納得するかを考えてください。テーマの相談はメールなどでも受け付けます。

内　容

第1回　ガイダンス、Googleの賢い使い方
第2回　コーパスとは何か、「少納言」の体験、正規表現
第3回　コロケーションとは何か、「NINJAL-LWP」の体験
第4回　統計の基礎、カイ自乗検定
第5回　テーマ選定のための作業
第6回　参加者による発表
第7回　参加者による発表
第8回　参加者による発表
第9回　参加者による発表
第10回　参加者による発表
第11回　参加者による発表
第12回　参加者による発表
第13回　参加者による発表
第14回　参加者による発表
第15回　参加者による発表

履修上の注意点

演習では、他の人の発表に対し、積極的に質問、コメントを行うこと。

教科書

参考書

ウェブ検索による日本語研究
著者:　荻野綱雄
出版社:　朝倉書店
出版年:　2014　　ISBN:　978-4254510447

成績評価

試験　（　）　　小テスト　（ 10 ）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 30 ）
発表し、それをレポートにまとめてもらいます。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学講読c（社会言語学Ｉ）<Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鳥谷　善史	

テーマ

ことばの変化と社会の相関（日本の諸方言を中心に）

授業の到達目標

ことばが変化する要因としては、ことばそのものに内在する法則とことば以外の刺激によるものがある。社会言語学は、ことばの変化といった側面において、両者の要因を総合的に考察しつつも、特に後者のことば以外の社会的要因との相関を調査をとおして実証的に研究する分野である。その実例として「ら抜き言葉」を事例に研究内容を紹介する。 また、、日本の社会言語学は、「方言学」との関係が密である。そこで、「標準語と共通語」・「方言と言語」の違いなどについて、言語学の立場から考察したい。その後、日本各地の諸方言について概観したうえで、その分布形成の要因を「方言周圏論」他から確認してみたい。

授業の概要

日本語の変化の中でもとりわけ、文法の変化について詳細に確認する。また、日本各地の諸方言の実態や分布要因についても確認する。

準備学習（予習・復習）

授業中に紹介した参考文献やシラバスの参考書を読み、より考察を深めレポートを作成すること。最後に、基本用語の関する小テストがあるので、ノートや参考文献を確認し、小テストに臨むこと。

内　　容

第1回　社会言語学とは
第2回　日本の社会言語学とその研究分野
第3回　文法の変化（ら抜き言葉を中心に）１（現象の分析）
第4回　文法の変化（ら抜き言葉を中心に）２（通時的側面）
第5回　文法の変化（ら抜き言葉を中心に）３（共時的側面）
第6回　文法の変化（ら抜き言葉を中心に）４（方言からみる変化の実態）
第7回　文法の変化（ら抜き言葉を中心に）５（属性からみる変化の実態）
第8回　ら抜き言葉のまとめ（小テスト：レポート）
第9回　方言と言語の違いについて・「共通語」「標準語」と「方言」
第10回　方言の分布について１（周圏分布１）
第11回　方言の分布について１（周圏分布２）
第12回　方言の分布について１（周圏分布３）
第13回　日本語諸方言の実態１（方言区画論）
第14回　日本語諸方言の実態２（具体的音声から）
第15回　社会言語学のまとめと小テスト

履修上の注意点

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。（遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内） 受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。特に、小テストの日程。

教科書

適宜プリントを配付
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

関西方言の社会言語学
著者：　徳川宗賢・真田信治編
出版社：　世界思想社
出版年：　1995　　ISBN：　4790705501

全国アホ・バカ分布考
著者：　松本　修
出版社：　新潮文庫
出版年：　1996　　ISBN：　4101441214

a10202d310

日本語ウォッチング
著者:　井上史雄
出版社: 岩波新書
出版年: 1998　ISBN:　4004305403

方言学
著者:　真田信治編著
出版社: 朝倉書店
出版年: 2011　ISBN:　9784254515244

社会言語学の展望
著者:　真田信治編
出版社: くろしお出版
出版年: 2006　ISBN:　4874243452

大阪のことば地図
著者:　岸江信介他編著
出版社: 和泉書院
出版年: 2009　ISBN:　9784757605268

日本語アクセント入門
著者:　松森晶子他編著
出版社: 三省堂
出版年: 2012　ISBN:　9784385365312

都市と周縁のことば
著者:　岸江信介他編著
出版社: 和泉書院
出版年: 2013　ISBN:　9784757606661

方言学入門
著者:　木部暢子他編著
出版社: 三省堂
出版年: 2013　ISBN:　9784385363936

柳田方言学の現代的意義
著者:　小林隆編
出版社: ひつじ書房
出版年: 2014　ISBN:　4894767198

成績評価

試験 （ 0 ）　小テスト （ 50 ）
授業中課題 （ 0 ）　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 40 ）
参加度は、積極的な受講に対してのみ評価するものである。

Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学講読d（社会言語学Ⅱ）<Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学講読e（平安文学研究Ⅰ）〈Z〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　福嶋　昭治	

テーマ

源氏物語を読む―光源氏の栄華―

授業の到達目標

平安時代文学の代表作品であり、日本の古典文学の最高峰の一つとされている源氏物語を読む。源氏物語は、書かれてから千年以上経過した現代でも、多くの読者を獲得している。千年に渡って読み続けられてきた源氏物語の、時代を超える魅力を探り、古典に親しむことの楽しさと豊かさを実感したい。同時に、実人生の中で、文学に親しむことの意味についても確認できるようにしたい。

授業の概要

源氏物語の第一部の前半部を中心に物語展開の流れを追いつつ、各所を取り上げ、原文を丁寧に読み解くことを通じて、そこに込められた登場人物や作者の思いを探る。必要に応じて学外授業を実施する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　源氏物語という作品
第2回　光源氏の恋―桐壺の巻―
第3回　雨夜の品定め―帚木・空蝉の巻―
第4回　夕顔物語―夕顔の巻―
第5回　若紫との出会い・藤壺との密通―若紫の巻―
第6回　青海波の舞―紅葉賀の巻―
第7回　朧月夜の恋―花宴の巻―
第8回　車の所争い―葵の巻―(現地学習を別に設定する)
第9回　六条御息所との別れ―賢木の巻―(現地学習を別に設定する)
第10回　橘の花散る里―花散里の巻―
第11回　須磨の秋―須磨の巻―
第12回　明石の君との出会い―明石の巻―
第13回　復活する光源氏―澪標の巻―
第14回　明石の君の嵯峨野―松風の巻―
第15回　光源氏の青春の終焉―薄雲の巻―　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがあります。

履修上の注意点

教科書

プリントを用意する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

源氏物語評釈　全12冊
著者:　玉上琢弥
出版社:　角川書店
出版年:　1964～1969　　ISBN:

源氏物語大成　普及版　全14冊
著者:　池田亀鑑
出版社:　中央公論社
出版年:　1984～1985　　ISBN:

その他源氏物語注釈書
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

a10202d510

源氏物語ｶﾙﾁｬｰ講座

著者:　福嶋昭治

出版社: 扶桑社

出版年: 2008　　ISBN:

成績評価

試験 （ 50 ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 30 ）

試験はレポート試験とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学講読f（平安文学研究Ⅱ）<Z>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　福嶋 昭治

テーマ

源氏物語を読む―光源氏の人生のかげり・紫の上の苦悩の深まり―

授業の到達目標

源氏物語の時代を超える魅力を探り、古典に親しむことの楽しさと豊かさを実感したい。同時に、実人生の中で、文学に親しむことの意味についても確認できるようにしたい。

授業の概要

源氏物語第一部の「少女」の巻以後、光源氏が人生の頂点を極めるまでの部分と、第二部の、かげりを帯びてくる光源氏の人生の後半部分を読む。同時に、第二部の重要なテーマである紫の上の苦悩の深まりという点についても注目する。必要に応じて学外授業を実施する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　夕霧の元服と六条院の造成―少女―
第2回　玉鬘物語―玉鬘十帖の巻々―
第3回　光源氏の人生の頂点―藤裏葉―(現地学習を別に設定する)
第4回　女三の宮の降嫁―若菜上①―
第5回　明石の入道の思い―若菜上②―
第6回　六条院の蹴鞠―若菜上③―
第7回　二度目の住吉詣で―若菜下①―
第8回　紫の上の孤独―若菜下②―
第9回　柏木と女三の宮の密通―若菜下③―
第10回　柏木の死と薫の誕生―柏木―
第11回　形見の笛―横笛―
第12回　出家した女三の宮―鈴虫―
第13回　夕霧の恋―夕霧―
第14回　紫の上との別れ―御法―
第15回　哀悼の一年―幻―

履修上の注意点

教科書

プリントを配布する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

源氏物語評釈　全12冊
著者:　玉上琢弥
出版社:　角川書店
出版年:　1964～1969　　ISBN:

源氏物語大成　普及版　全14冊
著者:　池田亀鑑
出版社:　中央公論社
出版年:　1984～1985　　ISBN:

その他源氏物語各種注釈書
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

a10202d650

源氏物語ｶﾙﾁｬｰ講座

著者:　福嶋昭治

出版社: 扶桑社

出版年: 2008　　ISBN:

成績評価

試験 （ 50 ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学講読g（古典文学研究Ｉ）<Z>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　林 久美子

テーマ

物語草子の異界

授業の到達目標

日本の代表的な異界をめぐる物語をたどることで、日本人の精神生活について考える機会をもつ

授業の概要

テキストを読み、各章ごとに適宜考察を加える。

準備学習（予習・復習）

テキストに目を通し、取り上げられている作品内容について調べておく。いずれかの章についての考察を行い、発表する。

内　容

第1回　授業の進め方について
第2回　序章
第3回　第一章
第4回　第二章
第5回　第三章
第6回　第四章
第7回　第五章
第8回　第六章
第9回　第七章
第10回　第八章
第11回　第九章
第12回　第一〇章
第13回　第一一章
第14回　終章
第15回　まとめ

履修上の注意点

必ずテキストを持参すること

教科書

異界と日本人
著者:　小松和彦
出版社:　角川学芸出版
出版年:　2003　　ISBN:　4-04-703356

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 70 ）
参加度　（ 30 ）
最終授業時に発表内容をレポートにして提出していただきます

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学講読h（古典文学研究Ⅱ）〈Z〉**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　林 久美子

テーマ

『南総里見八犬伝』を読む

授業の到達目標

江戸時代の大ベストセラーであった馬琴読本の面白さを知る。

授業の概要

少しずつ読み進めながら、受講者に「私の読み方＝発見（八犬）伝」を披露していただきます。

準備学習（予習・復習）

教科書は全巻が収載されているわけではないので、興味をもった所は現代語訳の本文を読んでください。ネットサイトも充実しています。（下記参照）

内　容

第14回　国府台、洲崎の戦い
第15回　大団円
第1回　八犬伝の享受について
第2回　八房と伏姫
第3回　信乃と額蔵
第4回　芳流閣
第5回　犬士見八と小文吾
第6回　玉の由来
第7回　五犬士集結
第8回　一角と妖怪
第9回　荘介、小文吾
第10回　毛野の仇討ち
第11回　犬江親兵衛の活躍
第12回　八犬士集結
第13回　連合軍結成

履修上の注意点

教科書

ビギナーズ・クラシックス『南総里見八犬伝

著者：　石川博編

出版社：角川学芸出版

出版年：2007　　ISBN：　978404357422

参考書

岩波文庫『南総里見八犬伝』1～10

著者：　小池藤五郎校訂

出版社：岩波書店

出版年：1990　　ISBN：

新潮日本古典集成別巻『南総里見八犬伝』1～12

著者：　濱田啓介校訂

出版社：新潮社

出版年：2003-2004　　ISBN：

ちくま学芸文庫『完本　八犬伝の世界

著者：　高田　衛

出版社：筑摩書房

出版年：2005　　ISBN：　448008940

a10202d850

復興する八犬伝

著者:　諏訪春雄、高田　衛

出版社: 勉誠出版

出版年: 2008　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 60 ）

参加度 （ 40 ）

受講者数によっては、発表に代わってレポートの提出を求める場合があります。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学講読i（近代文学研究Ｉ）<Z>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　重松　恵美

テーマ

村上春樹を読む

授業の到達目標

村上春樹の初期作品について読解を試みる

授業の概要

受講生による発表が中心になる

準備学習（予習・復習）

授業で取り上げる作品はかならず読んでくること

内　容

第1回　はじめに
第2回　「風の歌を聴け」（1）
第3回　「風の歌を聴け」（2）
第4回　「風の歌を聴け」（3）
第5回　「1973年のピンボール」
第6回　「羊をめぐる冒険」（1）
第7回　「羊をめぐる冒険」（2）
第8回　「羊をめぐる冒険」（3）
第9回　「世界の終りのハードボイルドワンダーランド」（1）
第10回「世界の終りとハードボイルドワンダーランド」（2）
第11回「世界の終りとハードボイルドワンダーランド」（3）
第12回「ノルウェイの森」（1）
第13回「ノルウェイの森」（2）
第14回「ノルウェイの森」（3）
第15回　まとめ

履修上の注意点

発表はかなず行う

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題（　）　　授業中発表等（60）
参加度　（40）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学講読j（近代文学研究Ⅱ）<Z>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　その他　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　（閉講：開⇒閉）

テーマ

村上春樹を読む

授業の到達目標

村上春樹の初期作品について読解を試みる

授業の概要

受講生による発表が中心になる

準備学習（予習・復習）

授業で取り上げる作品はかならず読んでくること

内　容

第1回　はじめに
第2回　「風の歌を聴け」（1）
第3回　「風の歌を聴け」（2）
第4回　「風の歌を聴け」（3）
第5回　「1973年のピンボール」
第6回　「羊をめぐる冒険」（1）
第7回　「羊をめぐる冒険」（2）
第8回　「羊をめぐる冒険」（3）
第9回　「世界の終りのハードボイルドワンダーランド」（1）
第10回「世界の終りとハードボイルドワンダーランド」（2）
第11回「世界の終りとハードボイルドワンダーランド」（3）
第12回「ノルウェイの森」（1）
第13回「ノルウェイの森」（2）
第14回「ノルウェイの森」（3）
第15回　まとめ

履修上の注意点

発表はかなず行う

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学講読k（現代文学研究Ｉ）〈Z〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　　重松　恵美

テーマ

村上春樹を読む

授業の到達目標

村上春樹の初期作品について読解を試みる

授業の概要

受講生による発表が中心になる

準備学習（予習・復習）

授業で取り上げる作品はかならず読んでくること

内　　容

第1回　はじめに
第2回　「風の歌を聴け」（1）
第3回　「風の歌を聴け」（2）
第4回　「風の歌を聴け」（3）
第5回　「1973年のピンボール」
第6回　「羊をめぐる冒険」（1）
第7回　「羊をめぐる冒険」（2）
第8回　「羊をめぐる冒険」（3）
第9回　「世界の終りのハードボイルドワンダーランド」（1）
第10回「世界の終りとハードボイルドワンダーランド」（2）
第11回「世界の終りとハードボイルドワンダーランド」（3）
第12回「ノルウェイの森」（1）
第13回「ノルウェイの森」（2）
第14回「ノルウェイの森」（3）
第15回　まとめ

履修上の注意点

発表はかなず行う

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題（　）　　授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学講読I（現代文学研究Ⅱ）<Z>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　重松　恵美

テーマ

村上春樹を読む

授業の到達目標

村上春樹の初期作品について読解を試みる

授業の概要

受講生による発表が中心になる

準備学習（予習・復習）

授業で取り上げる作品はかならず読んでくること

内　容

第1回　はじめに
第2回　「風の歌を聴け」（1）
第3回　「風の歌を聴け」（2）
第4回　「風の歌を聴け」（3）
第5回　「1973年のピンボール」
第6回　「羊をめぐる冒険」（1）
第7回　「羊をめぐる冒険」（2）
第8回　「羊をめぐる冒険」（3）
第9回　「世界の終りのハードボイルドワンダーランド」（1）
第10回「世界の終りとハードボイルドワンダーランド」（2）
第11回「世界の終りとハードボイルドワンダーランド」（3）
第12回「ノルウェイの森」（1）
第13回「ノルウェイの森」（2）
第14回「ノルウェイの森」（3）
第15回　まとめ

履修上の注意点

発表はかなず行う

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題（　）　　授業中発表等（60）
参加度　（40）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学講読m（メディア・表現研究Ｉ）〈Z〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　禧美　智章	

テーマ

アニメーションの読解

授業の到達目標

基本的な映像リテラシーを修得し、アニメーションの分析方法を身に付ける。

授業の概要

アニメーション作品を鑑賞した上で、講義、グループワーク（プレゼンテーション・ディスカッション）を通して、映像表現・アニメーションの読解法を学ぶ。なお、授業内容は受講生数、進行等で変更することがある。

準備学習（予習・復習）

指定されたテクスト、事前配布されたプリントを熟読したうえで、授業に臨むこと。普段から映画、アニメーションを批評的に鑑賞する態度を身につけてほしい。また、積極的に映画館に通ってほしい。

内　　容

第1回　ガイダンス、グループ決め
第2回　映像リテラシーの基礎〈1〉
第3回　映像リテラシーの基礎〈2〉
第4回　杉井ギサブロー『銀河鉄道の夜』
第5回　杉井ギサブロー『銀河鉄道の夜』
第6回　今敏『パプリカ』
第7回　今敏『パプリカ』
第8回　原恵一『カラフル』
第9回　原恵一『カラフル』
第10回　山田尚子『映画けいおん！』『たまこラブストーリー』
第11回　山田尚子『映画けいおん！』『たまこラブストーリー』
第12回　山田尚子『映画けいおん！』『たまこラブストーリー』
第13回　高畑勲『かぐや姫の物語』
第14回　高畑勲『かぐや姫の物語』
第15回　まとめ

履修上の注意点

講義中の私語やスマホの使用は禁止。大学生として相応しい態度で授業に臨むこと。グループワーク時の欠席は他のメンバーに迷惑をかけるので、授業にはきちんと出席すること。

教科書

パプリカ
著者：　筒井康隆
出版社：新潮社
出版年：2002　　ISBN：　978-4101171401

カラフル
著者：　森絵都
出版社：文藝春秋
出版年：2007　　ISBN：　978-4167741013

参考書

たまこラブストーリー ノベライズ
著者：　一之瀬六樹
出版社：京都アニメーション
出版年：2014　　ISBN：　978-4907064228

アニメーションの想像力:文字テクスト/映像テクストの想像力の往還
著者：　禧美智章
出版社：風間書房
出版年：2015　　ISBN：　978-4759920895

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題 （ 80 ）　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ ）
各作品ごとに、課題シートの提出を求める(80%)。担当作品に関する意見発表(あるいは小レポート)を求める(20%)。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学講読n（メディア・表現研究Ⅱ）〈Z〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　（閉講：開⇒閉）

テーマ

アニメーションの読解

授業の到達目標

基本的な映像リテラシーを修得し、アニメーションの分析方法を身に付ける。

授業の概要

アニメーション作品を鑑賞した上で、講義、グループワーク（プレゼンテーション・ディスカッション）を通して、映像表現・アニメーションの読解法を学ぶ。なお、授業内容は受講生数、進行等で変更することがある。

準備学習（予習・復習）

指定されたテクスト、事前配布されたプリントを熟読したうえで、授業に臨むこと。普段から映画、アニメーションを批評的に鑑賞する態度を身につけてほしい。また、積極的に映画館に通ってほしい。

内　　容

第1回　ガイダンス、グループ決め
第2回　映像リテラシーの基礎〈1〉
第3回　映像リテラシーの基礎〈2〉
第4回　杉井ギサブロー『銀河鉄道の夜』
第5回　杉井ギサブロー『銀河鉄道の夜』
第6回　今敏『パプリカ』
第7回　今敏『パプリカ』
第8回　原恵一『カラフル』
第9回　原恵一『カラフル』
第10回　山田尚子『映画けいおん！』『たまこラブストーリー』
第11回　山田尚子『映画けいおん！』『たまこラブストーリー』
第12回　山田尚子『映画けいおん！』『たまこラブストーリー』
第13回　高畑勲『かぐや姫の物語』
第14回　高畑勲『かぐや姫の物語』
第15回　まとめ

履修上の注意点

講義中の私語やスマホの使用は禁止。大学生として相応しい態度で授業に臨むこと。グループワーク時の欠席は他のメンバーに迷惑をかけるので、授業にはきちんと出席すること。

教科書

パプリカ
著者：　筒井康隆
出版社：新潮社
出版年：2002　　ISBN：　978-4101171401

カラフル
著者：　森絵都
出版社：文藝春秋
出版年：2007　　ISBN：　978-4167741013

参考書

たまこラブストーリー ノベライズ
著者：　一之瀬六樹
出版社：京都アニメーション
出版年：2014　　ISBN：　978-4907064228

アニメーションの想像力:文字テクスト/映像テクストの想像力の往還
著者：　禧美智章
出版社：風間書房
出版年：2015　　ISBN：　978-4759920895

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 80 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ ）
各作品ごとに、課題シートの提出を求める（80%）。担当作品に関する意見発表（あるいは小レポート）を求める（20%）。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学講読o（映像表現研究）<Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　禧美　智章	

テーマ

アニメーションの読解

授業の到達目標

基本的な映像リテラシーを修得し、アニメーションの分析方法を身に付ける。

授業の概要

アニメーション作品を鑑賞した上で、講義、グループワーク（プレゼンテーション・ディスカッション）を通して、映像表現・アニメーションの読解法を学ぶ。なお、授業内容は受講生数、進行等で変更することがある。

準備学習（予習・復習）

指定されたテクスト、事前配布されたプリントを熟読したうえで、授業に臨むこと。普段から映画、アニメーションを批評的に鑑賞する態度を身につけてほしい。また、積極的に映画館に通ってほしい。

内　　容

第1回　ガイダンス、グループ決め
第2回　映像リテラシーの基礎〈1〉
第3回　映像リテラシーの基礎〈2〉
第4回　杉井ギサブロー『銀河鉄道の夜』
第5回　杉井ギサブロー『銀河鉄道の夜』
第6回　今敏『パプリカ』
第7回　今敏『パプリカ』
第8回　原恵一『カラフル』
第9回　原恵一『カラフル』
第10回　山田尚子『映画けいおん！』『たまこラブストーリー』
第11回　山田尚子『映画けいおん！』『たまこラブストーリー』
第12回　山田尚子『映画けいおん！』『たまこラブストーリー』
第13回　高畑勲『かぐや姫の物語』
第14回　高畑勲『かぐや姫の物語』
第15回　まとめ

履修上の注意点

講義中の私語やスマホの使用は禁止。大学生として相応しい態度で授業に臨むこと。グループワーク時の欠席は他のメンバーに迷惑をかけるので、授業にはきちんと出席すること。

教科書

カラフル
著者：　森絵都
出版社：文藝春秋
出版年：2007　　ISBN：　978-4167741013

パプリカ
著者：　筒井康隆
出版社：新潮社
出版年：2002　　ISBN：　978-4101171401

参考書

たまこラブストーリー ノベライズ
著者：　一之瀬六樹
出版社：京都アニメーション
出版年：2014　　ISBN：　978-4907064228

アニメーションの想像力:文字テクスト/映像テクストの想像力の往還
著者：　禧美智章
出版社：風間書房
出版年：2015　　ISBN：　978-4759920895

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 80 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ ）
各作品ごとに、課題シートの提出を求める（80%）。担当作品に関する意見発表（あるいは小レポート）を求める（20%）。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学講読p（文芸創作実習）<Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻本　千鶴.野村　幸一郎	

テーマ

夏目漱石に学ぶ小説作法

授業の到達目標

小説作品への批評眼・鑑賞眼を養成する。合わせて自ら創作する文章力・創造力を培うことも目標とする。

授業の概要

夏目漱石の小説作品を鑑賞し、その小説作法に学びつつ、創作実習を行う。グループでの実習作品批評とその発表も取り入れる。

準備学習（予習・復習）

授業で扱う漱石作品を通読すること。予習・復習として作品通読の努力を怠っていないか、随時発言や小レポートを求めていく。

内　　容

第1回　概説 （担当：辻本）
第2回　『坊っちゃん』作品鑑賞 （担当：辻本）
第3回　創作実習 『坊っちゃん』の書き出しに学んで主人公を造形する。（担当：辻本）
第4回　実習作品の相互批評 （担当：辻本）
第5回　『吾輩は猫である』作品鑑賞 （担当：辻本）
第6回　創作実習 『吾輩は猫である』の書き出しに学んで人間以外の語り手を設定する。（担当：辻本）
第7回　実習作品の相互批評 （担当：辻本）
第8回　『夢十夜』作品鑑賞 （担当：辻本）
第9回　創作実習 『夢十夜』に学んで「夢」を素材に書く。（担当：辻本）
第10回　実習作品の相互批評 （担当：辻本）
第11回　『こころ』作品鑑賞 （担当：辻本）
第12回　創作実習 『こころ』のパロディーを書く。（担当：辻本）
第13回　実習作品の相互批評／まとめ （担当：辻本）
第14回　角野栄子先生による特別講義 （担当：野村）＊日程は未定です。
第15回　黛まどか先生による特別講義 （担当：野村）＊日程は未定です。

履修上の注意点

①創作実習の時間には、各自で原稿用紙を持参すること。②実習作品の完成のために、時間外の取り組みが必要になる場合もある。③特別講義（日程未定）の前後に俳句の創作やレポートを課す場合もある。

教科書

使用しない。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

坊っちゃん
著者：　夏目漱石
出版社：
出版年：　　ISBN：

吾輩は猫である
著者：　夏目漱石
出版社：
出版年：　　ISBN：

夢十夜
著者：　夏目漱石
出版社：
出版年：　　ISBN：

a10202e650

こころ

著者:　夏目漱石

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 60% ）　　授業中発表等（ 20% ）

参加度 （ 20% ）

実習作品への取り組みを重視する。

2016 Syllabus

科 目 名　**書論・鑑賞Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　谷川 雅夫

テーマ

書道を学ぶ上で重要な作品の内容を理解し、作品についての書論を読みながら鑑賞を一層深いものにする。

授業の到達目標

①中国書道の代表的な作品の文章内容を理解する。②中国書道の様式と文章内容の関係を理解する。

授業の概要

取り上げた作品の内容を訓読し、それに関して論じられている書論を読み、作品を鑑賞する。

準備学習（予習・復習）

取り上げた作品を必ず臨書しておく。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　龍門造像記「一弗造像記」等を読む。
第3回　龍門造像記「牛ケツ(木偏に厥)造像記」等を読む。
第4回　龍門造像記に関する書論を読む。
第5回　龍門造像記の様々な拓本を鑑賞する。
第6回　蘭亭序「永和九年～信可楽也」を読む。
第7回　蘭亭序「夫人之相與～有感於斯文」を読む。
第8回　蘭亭序に関する書論を読む。
第9回　蘭亭序の様々な法帖を鑑賞する。
第10回　祭姪文稿「維乾元元年～亦在平原」を読む。
第11回　祭姪文稿「仁兄愛我～尚饗」を読む。
第12回　祭伯文稿「祭伯父～身陥賊庭」を読む
第13回　祭伯文稿「聖朝哀栄～尚饗」を読む
第14回　祭姪・祭伯文稿に関する書論を読む。
第15回　祭姪・祭伯文稿の様々な法帖を鑑賞する。 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

積極的に参加することを望む。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 10% ）　　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 20% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**書論・鑑賞Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　谷川　雅夫

テーマ

書道を学ぶ上で重要な作品の内容を理解し、作品についての書論も読み、草書や篆書を読めるようにし、鑑賞をより一層深いものにする。

授業の到達目標

①中国・日本書道の代表的な作品の文章内容を理解する。②中国・日本書道の様式と文章内容の関係を理解する。③中国・日本書道の作品に使われる草書や篆書を読めるようにする。

授業の概要

取り上げた作品の内容を訓読し、それに関する書論を読み、作品を鑑賞する。

準備学習（予習・復習）

取り上げた作品を必ず臨書しておく。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　十七帖「逸民帖」等を読む。
第3回　十七帖「遊目帖」等を読む。
第4回　十七帖に関する書論を読む。
第5回　十七帖の様々な法帖を鑑賞する。
第6回　蘭亭十三跋「一跋～六跋」を読む。
第7回　蘭亭十三跋「七跋～十三跋」を読む。
第8回　真草千字文を読む①
第9回　真草千字文を読む②
第10回　甲骨文を読む①
第11回　甲骨文を読む②
第12回　金文を読む①
第13回　金文を読む②
第14回　石鼓文を読む①
第15回　石鼓文を読む②　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

積極的に参加することを望む。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 10% ）　　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 20% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**中国書道史**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　池田　利広	

テーマ

中国書道史：漢字の生成から民国までの文字や書法の歴史について通観する。

授業の到達目標

中国における書体の生成を視覚的に確認し、その動的なありようを理解する。また各時代の代表的名品や能書に関する基本的知識を身につけるとともに、それらの表現上の特色を知る。さらに唐代から民国にいたる王羲之書法受容や書風編成の実態を考察する。

授業の概要

中国における漢字各書体の生成を概観した後、王羲之とその時代、書法の特質、後代への影響について検討する。続いて隋唐における楷書の典型の確立や代表的能書から、民国期までの能書や作品について考察する。講義を中心に進めるが、個人発表、グループ討議、鑑賞メモなどを通じて主体的な参加をうながす。

準備学習（予習・復習）

中国書道史に関する資料をよく参照し、代表的能書や作品に関する知識を積極的に身につけてほしい。また図版資料によって古典の書風や書法を視覚的に分析・理解できるよう努めること。

内　容

第1回　オリエンテーション漢字の成り立ちについて（『説文解字』から）
第2回　殷・周・春秋戦国の文字について
第3回　秦・漢の文字について（肉筆資料を中心に）
第4回　秦・漢の文字について（金石資料を中心に）
第5回　三国・晋・東晋の書について
第6回　王羲之の書について
第7回　南北朝の書について
第8回　隋・唐・五代の書について（楷書を中心に）
第9回　隋・唐・五代の書について（行草書を中心に）
第10回　宋・金・元の書について（宋の三大家を中心に）
第11回　宋・金・元の書について（趙孟フを中心に）
第12回　明の書について
第13回　明末清初の書について
第14回　清の書について
第15回　中華民国の書について（まとめ）

履修上の注意点

教科書

中国書道史
著者：　角井　博
出版社：芸術新聞社
出版年：　　ISBN：　9784875861652

参考書

書の文化史　上・中・下
著者：　西林昭一
出版社：二玄社
出版年：　　ISBN：

書道全集
著者：
出版社：平凡社
出版年：　　ISBN：

a10202e910

書道藝術

著者:

出版社: 中央公論社

出版年: ISBN:

中国書法ガイド 1-60

著者:

出版社: 二玄社

出版年: ISBN:

成績評価

試験 (50) 小テスト ( )

授業中課題 ( ) 授業中発表等 (20)

参加度 (30)

レポート試験、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断し評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本書道史**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　史朗	

テーマ

日本書道史-仮名(上代様)の成立を中心に-

授業の到達目標

漢字渡来から仮名の成立までのながれを視覚的に確認する。特に女手の成立までの過程を正確に把握する。また上代様の基本的な知識を修得し、技法上の特色を相互に比較しながら理解する。さらに本阿弥光悦ら江戸時代初期の代表的能書が上代様をどのように吸収し、新表現につなげたかを理解する。

授業の概要

漢字渡来から、日本人が中国書法を自身のものとする流れを確認するとともに、日本語の表記が成熟する過程、いわゆる上代様の仮名(女手)の成立について考察する。さらに寛永の三筆や唐様の書を例に取り、近世の京都における独自の書的展開にも言及する。

準備学習（予習・復習）

授業で取り上げた古典作品は、図録などで全体像を確認したうえで、部分からでも作者や作品名が言い当てられるよう努めること。

内　　容

第1回　古代日本の文字資料
第2回　飛鳥・白鳳時代の書
第3回　奈良時代の書①
第4回　奈良時代の書②
第5回　平安時代の漢字書①　弘仁・貞観期の文化、三筆の書(1)
第6回　平安時代の漢字書②　三筆の書(2)
第7回　平安時代の漢字書③　国風文化の発達、三跡の書(1)
第8回　平安時代の漢字書④　三跡の書(2)
第9回　平安時代の漢字書④　三跡の書(2)
第10回　仮名の生成と発展②
第11回　上代様の名品とその書法①
第12回　上代様の名品とその書法②
第13回　寛永の三筆①　王朝美の再現
第14回　寛永の三筆②　本阿弥光悦の人と書
第15回　寛永の三筆③　近衛信尹と松花堂昭乗の人と書、まとめ

履修上の注意点

日本書道史に関する資料をよく参照し、代表的能書や名品に関する知識を主体的に身につける。また図版資料によって、古筆の書風や書法を視覚的に分析・理解するよう努めること。

教科書

日本書道史年表
著者:　名児耶明
出版社:　二玄社
出版年:　1999　　ISBN:　4-544-01242-2

和様の書美
著者:　横山煌平
出版社:　二玄社
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

展望日本書道史
著者:　小松茂美
出版社:　中央公論社
出版年:　　ISBN:

a10202f050

古筆
著者:　小松茂美
出版社: 講談社
出版年:　　ISBN:

決定版日本書道史
著者:　名児耶明
出版社: 芸術新聞社
出版年:　　ISBN:

書道全集
著者:
出版社: 平凡社
出版年:　　ISBN:

書道藝術
著者:
出版社: 中央公論社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 25 ）　　小テスト （ 25 ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 20 ）
レポート試験、授業での取り組み、出席率など総合的に判断して評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅴ〈a〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期前半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　野村　幸一郎

テーマ

日中言語比較

授業の到達目標

（1）外国語と比較して日本語の特徴を理解する（2）英語以外の外国語に触れる（3）海外の社会や文化に興味を持つ

授業の概要

グループワークを通じて外国語と比較したときに浮かび上がる日本語の特徴をまなぶ

準備学習（予習・復習）

はじめて中国語に触れる学生がほとんどだと予想されるので、とくに復習をちゃんとやっておくこと

内　容

第1回　日中言語比較　名詞（1）
第2回　課題への取り組みと小テスト
第3回　日中言語比較　名詞（1）
第4回　課題への取り組みと小テスト
第5回　日中言語比較　名詞（1）
第6回　課題への取り組みと小テスト
第7回　日中言語比較　名詞（1）
第8回　課題への取り組みと小テスト
第9回　日中言語比較　名詞（1）
第10回　課題への取り組みと小テスト
第11回　日中言語比較　名詞（1）
第12回　課題への取り組みと小テスト
第13回　日中言語比較　名詞（1）
第14回　課題への取り組みと小テスト
第15回　まとめ

履修上の注意点

NHKの語学教材でいいので、授業を並行して中国語の学習をすることが望ましい（「テレビで中国語」がおすすめ）

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 60 ）

授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（　）

参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　言語文化総合演習Ⅴ <b>

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期前半　　定　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　安達 太郎

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1）生き生きとしたプレゼンテーションができる。2）相互批評性を身につける。3）グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であるのと同時に，文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習（予習・復習）

授業中の指示に従って，タスクの準備をすること。

内　容

第1回　言語文化総合演習への導入～声の復権の意味～
第2回　生き生きとしたプレゼンテーションとは
第3回　タスク1　ビブリオバトル（1）導入
第4回　タスク1　ビブリオバトル（2）グループワーク
第5回　タスク1　ビブリオバトル（3）本戦1
第6回　タスク1　ビブリオバトル（4）本戦2
第7回　タスク1　ビブリオバトル（5）本戦4
第8回　タスク1　ビブリオバトル（6）本戦5とビブリオバトルの振り返り
第9回　タスク2　歌合（1）導入
第10回　タスク2　歌合（2）グループワーク
第11回　タスク2　歌合（3）歌合本戦1
第12回　タスク2　歌合（4）歌合本戦2
第13回　タスク2　歌合（5）歌合本戦3
第14回　タスク2　歌合（6）歌合本戦4
第15回　タスク2　歌合（7）歌合本戦5と歌合の振り返り

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので，注意すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

短歌パラダイス
著者:　小林恭二
出版社:　岩波書店
出版年:　1997　　ISBN:　4-00-430498-9

ビブリオバトル
著者:　谷口忠大
出版社:　文藝春秋
出版年:　2013　　ISBN:　4-16-660901-7

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 20% ）　　授業中発表等　（ 50% ）
参加度　（ 30% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅴ〈c〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期前半　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　林 久美子

テーマ

日本伝統文化をへの理解を深める

授業の到達目標

日本の伝統文化への理解を深める

授業の概要

1限目に茶道、華道、書道、弓道、箏曲について学び、2限目はサークルの協力を得て体験します。なお、順序と一部の内容が変更する可能性があります。

準備学習（予習・復習）

グループごとに文献で調べた知識を発表し、授業と体験後は、振り返り学習を行う。

内　容

第1回　授業の進め方について
第2回　伝統文化についての概説
第3回　弓道について
第4回　弓道体験
第5回　箏曲について
第6回　箏曲体験
第7回　華道について
第8回　華道体験
第9回　御蔭祭の見学（または葵祭についての学内授業）
第10回　〃
第11回　書道について
第12回　書道体験
第13回　茶道について
第14回　茶道体験
第15回　後半の進め方について　※なお、この授業では必要に応じて、学外授業およびゲストスピーカーによる特別講演を行うことがある。

履修上の注意点

体験学習は入門する心構えで参加すること。また、靴下を履く（素足で来ない）こと。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）

参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅴ <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　重松　恵美	

テーマ

10代20代向けの小説

授業の到達目標

1．読解力　作品をていねいに読み、理解する。2．思考力　作品について、受講生一人一人が考える。3．文章力　作品について考えたことを、レポートにまとめる。4．対話力　作品についての意見発表と意見交換を行う。

授業の概要

10代20代を読者対象とする小説を考察の対象とします。現代の若者に向けて書かれた小説は、どのような特徴を持っているのでしょうか。作品読解を授業の基本作業としつつ、ライトノベルやヤングアダルトといったジャンルの問題についても考えてみたいと思います。教員による作品解説ののち、受講生によるグループディスカッションを行ないます。

準備学習（予習・復習）

授業の予習復習として、授業時間以外にも読書の時間を確保すること。目安は1日15分（週に2時間程度）とする。学期末までにテキストを読了すること。

内　　容

第1回　ライトノベルとは何か
第2回　文庫化、漫画化による変化
第3回　香月日輪「妖怪アパートの幽雅な日常」
第4回　荻原規子「RDG（レッドデータガール）」
第5回　あさのあつこ「NO．6（ナンバーシックス）」
第6回　桜庭一樹「GOSICK（ゴシック）」
第7回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第1章
第8回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第2章
第9回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第3章
第10回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第4章
第11回　坂木司「和菓子のアン」第1章
第12回　坂木司「和菓子のアン」第2章
第13回　坂木司「和菓子のアン」第3章
第14回　坂木司「和菓子のアン」第4章
第15回　まとめ

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので，注意すること。

教科書

和菓子のアン
著者：　坂木司
出版社：光文社文庫
出版年：　　ISBN：
神去なあなあ日常
著者：　三浦しをん
出版社：徳間文庫
出版年：　　ISBN：

参考書

NO．6
著者：　あさのあつこ
出版社：講談社文庫
出版年：　　ISBN：

妖怪アパートの幽雅な日常
著者:　香月日輪
出版社: 講談社文庫
出版年:　　ISBN:

RDG
著者:　荻原規子
出版社: 角川文庫
出版年:　　ISBN:

GOSICK
著者:　桜庭一樹
出版社: 角川文庫
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 60% ）　　授業中発表等 （ 40% ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅵ <a>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期後半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　野村　幸一郎

テーマ

司馬遼太郎と歩く幕末維新の京都

授業の到達目標

司馬遼太郎の作品を考えることで、日本の近代化についての理解を深める

授業の概要

幕末維新を題材にした司馬遼太郎の作品について読解を進めると同時に、合わせて、臨地研修、グループワークを行う

準備学習（予習・復習）

授業で取り扱う作品は必ず読んでくること

内　容

第1回　司馬遼太郎の紹介
第2回　『竜馬がゆく』読解（1）
第3回　『竜馬がゆく』読解（2）
第4回　臨地研修　円山公園　坂本竜馬・中岡慎太郎像と霊山博物館（1）
第5回　臨地研修　円山公園　坂本竜馬・中岡慎太郎像と霊山博物館（2）
第6回　『竜馬がゆく』第１回　グループワーク
第7回　『竜馬がゆく』読解（3）
第8回　『竜馬がゆく』読解（4）
第9回　『竜馬がゆく』読解（5）
第10回　臨地研修　伏見寺田屋（1）
第11回　臨地研修　伏見寺田屋（2）
第12回　『竜馬がゆく』第2回グループワーク
第13回　『坂の上の雲』読解（1）
第14回　『坂の上の雲』読解（2）
第15回　『坂の上の雲』読解（3）
第16回　テスト　『坂の上の雲』と日本の近代化

履修上の注意点

グループワークには積極的に参加する

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（　）　　授業中発表等　（ 60 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　言語文化総合演習Ⅵ <b>

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期後半　　定　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　安達 太郎

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1）文学や歴史，地理を総合的に理解することができる。2）テキストのフレージングを意識化することができる。3）グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であるのと同時に，文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習（予習・復習）

授業中の指示に従って，タスクの準備をすること。

内　容

第1回　タスク3　説話と現地踏査（1）導入
第2回　タスク3　説話と現地踏査（2）説話講読
第3回　タスク3　説話と現地踏査（3）プレゼンテーション準備
第4回　タスク3　説話と現地踏査（4）プレゼンテーション
第5回　タスク3　説話と現地踏査（5）学外授業
第6回　タスク3　説話と現地踏査（6）学外授業
第7回　タスク3　説話と現地踏査（7）プレゼンテーション準備
第8回　タスク3　説話と現地踏査（8）プレゼンテーションと振り返り
第9回　タスク4　群読（1）導入
第10回　タスク4　群読（2）万葉集の群読
第11回　タスク4　群読（3）近代詩の群読1
第12回　タスク4　群読（4）近代詩の群読2
第13回　タスク4　群読（5）近代詩の群読3
第14回　タスク4　群読（6）近代詩の群読4
第15回　タスク4　群読（7）現代詩の群読と振り返り

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので，注意すること。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 20% ）　　授業中発表等　（ 50% ）

参加度　（ 30% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅵ <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　林　久美子	

テーマ

京都を舞台にした小説を読む

授業の到達目標

京都の歴史と文化について学ぶたくさん読書をする読解力を付けるプレゼンテーション力を向上させる

授業の概要

グループで担当作品を選び、発表する。なお、行事等の都合で、順序と内容が一部変更する可能性があります。

準備学習（予習・復習）

しっかり読み、グループで話し合ってレジュメを作る

内　　容

第1回　洛中洛外図の京都
第2回　　〃
第3回　京都を舞台にした小説についての発表①
第4回　　〃
第5回　京都を舞台にした小説についての発表②
第6回　　〃
第7回　京都を舞台にした小説についての発表③
第8回　　〃
第9回　京都を舞台にした小説についての発表④
第10回　〃
第11回　屏風祭見学
第12回　〃
第13回　京都を舞台にした小説についての発表⑤
第14回　〃
第15回　振り返り

履修上の注意点

発表しない回にも作品を読んでくること

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　言語文化総合演習Ⅵ <d>

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期後半　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　重松 恵美

テーマ

現代小説における古典芸能

授業の到達目標

1. 読解力　作品をていねいに読み、理解する。2. 思考力　作品について、受講生一人一人が考える。3. 文章力　作品について考えたことを、レポートにまとめる。4. 対話力　作品についての意見発表と意見交換を行なう。

授業の概要

現代日本を舞台とし、古典芸能に取り組む若者を主人公とする小説をテキストとして読み、現代文学の動向について考える。教員による解説ののち、受講生によるグループディスカッションを行なう。

準備学習（予習・復習）

テキストを学期末までに読了すること。授業時間以外にも、作品を読む時間を確保すること。読書時間の目安は毎日15分（週あたり2時間）とする。

内　容

第1回　古典芸能入門
第2回　歌舞伎、文楽、組踊
第3回　落語、浪曲、講談
第4回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」序幕、二幕目
第5回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」三幕目
第6回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」四幕目
第7回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」五幕目
第8回　田中啓文「ハナシがちがう！」第一話前半
第9回　田中啓文「ハナシがちがう！」第一話後半
第10回　三浦しをん「仏果を得ず」第一章前半
第11回　三浦しをん「仏果を得ず」第一章後半
第12回　池上永一「テンペスト」（参考作品）第二章
第13回　池上永一「テンペスト」（参考作品）第八章
第14回　池上永一「竹富島」前半
第15回　池上永一「竹富島」後半

履修上の注意点

教科書

カブキブ！　1
著者：　榎田ユウリ
出版社：　角川文庫
出版年：　2013　　ISBN：　978-4-04-100956

参考書

ハナシがちがう（笑酔亭梅寿謎解噺1）
著者：　田中啓文
出版社：　集英社文庫
出版年：　　ISBN：

仏果を得ず
著者：　三浦しをん
出版社：　双葉文庫
出版年：　　ISBN：

統ばる島（すばるしま）
著者：　池上永一
出版社：　角川文庫
出版年：　　ISBN：

a10202f214

テンペスト　1
著者:　池上永一
出版社: 角川文庫
出版年:　　ISBN:

テンペスト　2
著者:　池上永一
出版社: 角川文庫
出版年:　　ISBN:

テンペスト　3
著者:　池上永一
出版社: 角川文庫
出版年:　　ISBN:

テンペスト　4
著者:　池上永一
出版社: 角川文庫
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 60% ）　　授業中発表等 （ 40% ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　言語文化総合演習Ⅶ <a>

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期前半　　定　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　安達 太郎

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1）生き生きとしたプレゼンテーションができる。2）相互批評性を身につける。3）グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であるのと同時に，文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習（予習・復習）

授業中の指示に従って，タスクの準備をすること。

内　容

第1回　言語文化総合演習への導入～声の復権の意味～
第2回　生き生きとしたプレゼンテーションとは
第3回　タスク1　ビブリオバトル（1）導入
第4回　タスク1　ビブリオバトル（2）グループワーク
第5回　タスク1　ビブリオバトル（3）本戦1
第6回　タスク1　ビブリオバトル（4）本戦2
第7回　タスク1　ビブリオバトル（5）本戦4
第8回　タスク1　ビブリオバトル（6）本戦5とビブリオバトルの振り返り
第9回　タスク2　歌合（1）導入
第10回　タスク2　歌合（2）グループワーク
第11回　タスク2　歌合（3）歌合本戦1
第12回　タスク2　歌合（4）歌合本戦2
第13回　タスク2　歌合（5）歌合本戦3
第14回　タスク2　歌合（6）歌合本戦4
第15回　タスク2　歌合（7）歌合本戦5と歌合の振り返り

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので，注意すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

短歌パラダイス
著者:　小林恭二
出版社:　岩波書店
出版年:　1997　　ISBN:　4-00-430498-9

ビブリオバトル
著者:　谷口忠大
出版社:　文藝春秋
出版年:　2013　　ISBN:　4-16-660901-7

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 20% ）　　授業中発表等　（ 50% ）
参加度　（ 30% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅶ <b>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期前半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　林 久美子

テーマ

日本伝統文化をへの理解を深める

授業の到達目標

日本の伝統文化への理解を深める

授業の概要

1限目に茶道、華道、書道、弓道、箏曲について学び、2限目はサークルの協力を得て体験します。なお、順序と一部の内容が変更する可能性があります。

準備学習（予習・復習）

グループごとに文献で調べた知識を発表し、授業と体験後は、振り返り学習を行う。

内　容

第1回　授業の進め方について
第2回　伝統文化についての概説
第3回　書道について
第4回　書道体験
第5回　箏曲について
第6回　箏曲体験
第7回　弓道について
第8回　弓道体験
第9回　時代祭の見学（または京都三大祭についての授業）
第10回　〃
第11回　華道について
第12回　華道体験
第13回　茶道について
第14回　茶道体験
第15回　後半の進め方について

履修上の注意点

体験学習は入門する心構えで参加すること。また、靴下を履く（素足で来ない）こと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ 50 ）
参加度には受講態度が含まれます

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅶ <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　重松　恵美	

テーマ

10代20代向けの小説

授業の到達目標

1．読解力　作品をていねいに読み、理解する。2．思考力　作品について、受講生一人一人が考える。3．文章力　作品について考えたことを、レポートにまとめる。4．対話力　作品についての意見発表と意見交換を行う。

授業の概要

10代20代を読者対象とする小説を考察の対象とします。現代の若者に向けて書かれた小説は、どのような特徴を持っているのでしょうか。作品読解を授業の基本作業としつつ、ライトノベルやヤングアダルトといったジャンルの問題についても考えてみたいと思います。教員による作品解説ののち、受講生によるグループディスカッションを行ないます。

準備学習（予習・復習）

授業の予習復習として、授業時間以外にも読書の時間を確保すること。目安は1日15分（週に2時間程度）とする。学期末までにテキストを読了すること。

内　　容

第1回　ライトノベルとは何か
第2回　文庫化、漫画化による変化
第3回　香月日輪「妖怪アパートの幽雅な日常」
第4回　荻原規子「RDG（レッドデータガール）」
第5回　あさのあつこ「NO．6（ナンバーシックス）」
第6回　桜庭一樹「GOSICK（ゴシック）」
第7回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第1章
第8回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第2章
第9回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第3章
第10回　三浦しをん「神去なあなあ日常」第4章
第11回　坂木司「和菓子のアン」第1章
第12回　坂木司「和菓子のアン」第2章
第13回　坂木司「和菓子のアン」第3章
第14回　坂木司「和菓子のアン」第4章
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

和菓子のアン
著者：　坂木司
出版社：光文社文庫
出版年：　　ISBN：

神去なあなあ日常
著者：　三浦しをん
出版社：徳間文庫
出版年：　　ISBN：

参考書

NO．6
著者：　あさのあつこ
出版社：講談社文庫
出版年：　　ISBN：

妖怪アパートの幽雅な日常
著者：　香月日輪
出版社：講談社文庫
出版年：　　ISBN：

a10202f353

RDG

著者:　荻原規子

出版社: 角川文庫

出版年:　　ISBN:

GOSICK

著者:　桜庭一樹

出版社: 角川文庫

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 60% ）　　授業中発表等 （ 40% ）

参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅶ <d>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期前半　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　野村 幸一郎

テーマ

日中言語比較

授業の到達目標

（1）外国語と比較したときに浮かび上がる日本語の特徴を理解する（2）英語以外の言語に触れる（3）海外の文化や国際情勢に興味を持つ

授業の概要

グループワークを通じて外国語と比べたときに浮かび上がる日本語の特徴を学んでいく

準備学習（予習・復習）

初めて中国語に触れる受講生がほとんどだと思われるので、復習をちゃんとすること

内　容

第1回　日中言語比較　名詞（1）
第2回　課題への取り組みと小テスト
第3回　日中言語比較　名詞（2）
第4回　課題への取り組みと小テスト
第5回　日中言語比較　動詞（1）
第6回　課題への取り組みと小テスト
第7回　日中言語比較　動詞（2）
第8回　課題への取り組みと小テスト
第9回　日中言語比較　疑問文
第10回　課題への取り組みと小テスト
第11回　日中言語比較　打消し
第12回　課題への取り組みと小テスト
第13回　日中言語比較　形容詞
第14回　課題への取り組みと小テスト
第15回　まとめ

履修上の注意点

NHKの語学テキストでいいので、授業と並行して中国語の学習を進めてほしい（「テレビで中国語」」がおすすめ）

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
参加度には受講態度が含まれます

2016 Syllabus

科 目 名　言語文化総合演習Ⅷ <a>

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期後半　　定　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　安達 太郎

テーマ

声の復権を目指す

授業の到達目標

1）文学や歴史，地理を総合的に理解することができる。2）テキストのフレージングを意識化することができる。3）グループで協調してタスクに取り組むことができる。

授業の概要

自らの意志でしっかりと声を出すことはコミュニケーションの基本であるのと同時に，文学の受容にとっても大きな意味をもつ。さまざまなタスクをとおして身体性の重要性について学ぶ。

準備学習（予習・復習）

授業中の指示に従って，タスクの準備をすること。

内　容

第1回　タスク3　説話と現地踏査（1）導入
第2回　タスク3　説話と現地踏査（2）説話講読
第3回　タスク3　説話と現地踏査（3）プレゼンテーション準備
第4回　タスク3　説話と現地踏査（4）プレゼンテーション
第5回　タスク3　説話と現地踏査（5）学外授業
第6回　タスク3　説話と現地踏査（6）学外授業
第7回　タスク3　説話と現地踏査（7）プレゼンテーション準備
第8回　タスク3　説話と現地踏査（8）プレゼンテーションと振り返り
第9回　タスク4　群読（1）導入
第10回　タスク4　群読（2）万葉集の群読
第11回　タスク4　群読（3）近代詩の群読1
第12回　タスク4　群読（4）近代詩の群読2
第13回　タスク4　群読（5）近代詩の群読3
第14回　タスク4　群読（6）近代詩の群読4
第15回　タスク4　群読（7）現代詩の群読と振り返り

履修上の注意点

この授業においてはさまざまなグループワークに能動的に取り組むことが求められる。欠席や遅刻はグループのメンバーに対して多大な迷惑をかけることになるので，注意すること。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 20% ）　　授業中発表等　（ 50% ）

参加度　（ 30% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅷ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　林　久美子	

テーマ

京都を舞台にした小説を読む

授業の到達目標

京都の歴史と文化について学ぶたくさん読書をする読解力を付けるプレゼンテーション力を向上させる

授業の概要

グループで担当作品を選び、発表する。なお、行事等の都合で、順序と内容が一部変更する可能性があります。

準備学習（予習・復習）

しっかり読み、グループで話し合ってレジュメを作る

内　　容

第1回　洛中洛外図の京都
第2回　　〃
第3回　京都を舞台にした小説についての発表①
第4回　　〃
第5回　京都を舞台にした小説についての発表②
第6回　　〃
第7回　京都を舞台にした小説についての発表③
第8回　　〃
第9回　京都を舞台にした小説についての発表④
第10回　〃
第11回　屏風祭見学
第12回　〃
第13回　京都を舞台にした小説についての発表⑤
第14回　〃
第15回　振り返り

履修上の注意点

発表しない回にも作品を読んでくること

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）	

参加度には受講態度（質疑応答など）も含む

2016 Syllabus

科 目 名　言語文化総合演習Ⅷ <c>

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　重松　恵美	

テーマ

現代小説における古典芸能

授業の到達目標

1. 読解力　作品をていねいに読み、理解する。2. 思考力　作品について、受講生一人一人が考える。3. 文章力　作品について考えたことを、レポートにまとめる。4. 対話力　作品についての意見発表と意見交換を行なう。

授業の概要

現代日本を舞台とし、古典芸能に取り組む若者を主人公とする小説をテキストとして読み、現代文学の動向について考える。教員による解説ののち、受講生によるグループディスカッションを行なう。

準備学習（予習・復習）

テキストを学期末までに読了すること。授業時間以外にも、作品を読む時間を確保すること。読書時間の目安は毎日15分（週あたり2時間）とする。

内　容

第1回　古典芸能入門
第2回　歌舞伎、文楽、組踊
第3回　落語、浪曲、講談
第4回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」序幕、二幕目
第5回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」三幕目
第6回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」四幕目
第7回　榎田ユウリ「カブキブ！　1」五幕目
第8回　田中啓文「ハナシがちがう！」第一話前半
第9回　田中啓文「ハナシがちがう！」第一話後半
第10回　三浦しをん「仏果を得ず」第一章前半
第11回　三浦しをん「仏果を得ず」第一章後半
第12回　池上永一「テンペスト」（参考作品）第二章
第13回　池上永一「テンペスト」（参考作品）第八章
第14回　池上永一「竹富島」前半
第15回　池上永一「竹富島」後半

履修上の注意点

教科書

カブキブ！　1
著者：　榎田ユウリ
出版社：　角川文庫
出版年：　2013　　ISBN：　978-4-04-100956

参考書

ハナシがちがう（笑酔亭梅寿謎解噺1）
著者：　田中啓文
出版社：　集英社文庫
出版年：　　ISBN：

仏果を得ず
著者：　三浦しをん
出版社：　双葉文庫
出版年：　　ISBN：

統ばる島（すばるしま）
著者：　池上永一
出版社：　角川文庫
出版年：　　ISBN：

a10202f453

テンペスト　1
著者:　池上永一
出版社: 角川文庫
出版年:　　ISBN:

テンペスト　2
著者:　池上永一
出版社: 角川文庫
出版年:　　ISBN:

テンペスト　3
著者:　池上永一
出版社: 角川文庫
出版年:　　ISBN:

テンペスト　4
著者:　池上永一
出版社: 角川文庫
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 60% ）　　授業中発表等 （ 40% ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**言語文化総合演習Ⅷ <d>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期後半　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　野村　幸一郎

テーマ

司馬遼太郎と歩く幕末維新の京都

授業の到達目標

司馬遼太郎の作品を考えることで、日本の近代化についての理解を深める

授業の概要

幕末維新を題材にした司馬遼太郎の作品について読解を進めると同時に、合わせて、臨地研修、グループワークを行う

準備学習（予習・復習）

授業で取り扱う作品は必ず読んでくること

内　容

第1回　司馬遼太郎の紹介
第2回　『竜馬がゆく』読解（1）
第3回　『竜馬がゆく』読解（2）
第4回　臨地研修　円山公園　坂本竜馬・中岡慎太郎像と霊山博物館（1）
第5回　臨地研修　円山公園　坂本竜馬・中岡慎太郎像と霊山博物館（2）
第6回　『竜馬がゆく』第１回　グループワーク
第7回　『竜馬がゆく』読解（3）
第8回　『竜馬がゆく』読解（4）
第9回　『竜馬がゆく』読解（5）
第10回　臨地研修　伏見寺田屋（1）
第11回　臨地研修　伏見寺田屋（2）
第12回　『竜馬がゆく』第2回グループワーク
第13回　『坂の上の雲』読解（1）
第14回　『坂の上の雲』読解（2）
第15回　『坂の上の雲』読解（3）
第16回　テスト　『坂の上の雲』と日本の近代化

履修上の注意点

グループワークには積極的に参加する

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（　）　　授業中発表等　（ 60 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語学講義Ⅰ（日本語文法）**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　中俣 尚己

テーマ

日本語の隠れた法則に気づく

授業の到達目標

普段無意識に使っている日本語にも様々な規則があることに目を向ける。その過程を通じて論理的な物事の見方を養う。

授業の概要

日本語の様々なルールについて概説し、日本語学という学問で考察の対象となっているトピックについて考えます。色々問題を出すので、授業中に参加者で相談しながら日本語の法則性を考えたり、例文を作ったりします。

準備学習（予習・復習）

授業で配布する資料をよく読み、復習をしっかりして下さい。また、宿題をきちんと行うこと。

内　容

第1回　品詞:「問題の日本語」と「問題な日本語」
第2回　活用:「来られる」と「来れる」
第3回　文の組み立て:「私が好き」と「私が好き」
第4回　格助詞:「ここに泊まる」と「ここで泊まる」
第5回　副助詞:「私は中俣です」と「私が中俣です」？
第6回　接続助詞:「太郎が入ってから次郎が出た」と「太郎が入ったから次郎が出た」
第7回　連用修飾と連体修飾:「携帯電話を落とした学生」と「携帯電話を落とした中俣」
第8回　受け身と使役:「中俣に壊される」と「中俣に来られる」
第9回　文と時間の関係:「動いている」と「止まっている」
第10回　認識:「おいしそうだ」と「おいしいそうだ」
第11回　文の種類:「やってもいいです」と「やってもいいですか」
第12回　補助動詞:「先生が来てくれる」と「先生に来てもらう」
第13回　敬語:「お読みになる」と「お読みする」
第14回　文と文の繋がり:「明日はテストだ。だから～」と「明日はテストだ。そこで～」
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

国語教師が知っておきたい日本語文法
著者:　山田敏弘
出版社:　くろしお出版
出版年:　2004　　ISBN:　978-4874243107

成績評価

試験　（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語学講義Ⅱ（日本語文法）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中俣　尚己	

テーマ

現実の日本語を知る

授業の到達目標

コンピュータを活用し日本語の使用実態を調査する方法と他人を説得するプレゼンテーション・スキルを身につける。

授業の概要

「本当の日本語の姿」を知るためには、コーパスと呼ばれる電子的な言語資料を用いて、数的調査を行うという方法が考えられる。この授業ではコーパスを用いて、表記・語形・コロケーション・よく使われる形などについて研究を行い、それを発表する。

準備学習（予習・復習）

前半はパソコンの操作を学びます。一度で覚えることはできないので、必ず宿題を行い、操作に習熟すること。後半は発表です。入念に準備を行うこと。自分の思い込みを語るのではなく、どういう証拠を見せれば、他人は納得するかを考えてください。テーマの相談はメールなどでも受け付けます。

内　　容

第1回　ガイダンス、Googleの賢い使い方
第2回　コーパスとは何か、「少納言」の体験、正規表現
第3回　コロケーションとは何か、「NINJAL-LWP」の体験
第4回　統計の基礎、カイ自乗検定
第5回　テーマ選定のための作業
第6回　参加者による発表
第7回　参加者による発表
第8回　参加者による発表
第9回　参加者による発表
第10回　参加者による発表
第11回　参加者による発表
第12回　参加者による発表
第13回　参加者による発表
第14回　参加者による発表
第15回　参加者による発表

履修上の注意点

演習では、他の人の発表に対し、積極的に質問、コメントを行うこと。

教科書

参考書

ウェブ検索による日本語研究
著者:　荻野綱雄
出版社:　朝倉書店
出版年:　2014　　ISBN:　978-4254510447

成績評価

試験　（　）　　小テスト　（ 10 ）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 30 ）
発表し、それをレポートにまとめてもらいます。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語学講義Ⅲ（社会言語学）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鳥谷　善史	

テーマ

ことばの変化と社会の相関（日本の諸方言を中心に）

授業の到達目標

ことばが変化する要因としては、ことばそのものに内在する法則とことば以外の刺激によるものがある。社会言語学は、ことばの変化といった側面において、両者の要因を総合的に考察しつつも、特に後者のことば以外の社会的要因との相関を調査をとおして実証的に研究する分野である。その実例として「ら抜き言葉」を事例に研究内容を紹介する。 また、、日本の社会言語学は、「方言学」との関係が密である。そこで、「標準語と共通語」・「方言と言語」の違いなどについて、言語学の立場から考察したい。その後、日本各地の諸方言について概観したうえで、その分布形成の要因を「方言周圏論」他から確認してみたい。

授業の概要

日本語の変化の中でもとりわけ、文法の変化について詳細に確認する。また、日本各地の諸方言の実態や分布要因についても確認する。

準備学習（予習・復習）

授業中に紹介した参考文献やシラバスの参考書を読み、より考察を深めレポートを作成すること。最後に、基本用語の関する小テストがあるので、ノートや参考文献を確認し、小テストに臨むこと。

内　　容

第1回　社会言語学とは
第2回　日本の社会言語学とその研究分野
第3回　文法の変化（ら抜き言葉を中心に）１（現象の分析）
第4回　文法の変化（ら抜き言葉を中心に）２（通時的側面）
第5回　文法の変化（ら抜き言葉を中心に）３（共時的側面）
第6回　文法の変化（ら抜き言葉を中心に）４（方言からみる変化の実態）
第7回　文法の変化（ら抜き言葉を中心に）５（属性からみる変化の実態）
第8回　ら抜き言葉のまとめ（小テスト：レポート）
第9回　方言と言語の違いについて・「共通語」「標準語」と「方言」
第10回　方言の分布について１（周圏分布１）
第11回　方言の分布について１（周圏分布２）
第12回　方言の分布について１（周圏分布３）
第13回　日本語諸方言の実態１（方言区画論）
第14回　日本語諸方言の実態２（具体的音声から）
第15回　社会言語学のまとめと小テスト

履修上の注意点

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。（遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内） 受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。特に、小テストの日程。

教科書

適宜プリントを配付
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

関西方言の社会言語学
著者：　徳川宗賢・真田信治編
出版社：　世界思想社
出版年：　1995　　ISBN：　4790705501

全国アホ・バカ分布考
著者：　松本　修
出版社：　新潮文庫
出版年：　1996　　ISBN：　4101441214

a10202f710

日本語ウォッチング
著者: 井上史雄
出版社: 岩波新書
出版年: 1998　ISBN: 4004305403

方言学
著者: 真田信治編著
出版社: 朝倉書店
出版年: 2011　ISBN: 9784254515244

社会言語学の展望
著者: 真田信治編
出版社: くろしお出版
出版年: 2006　ISBN: 4874243452

大阪のことば地図
著者: 岸江信介他編著
出版社: 和泉書院
出版年: 2009　ISBN: 9784757605268

日本語アクセント入門
著者: 松森晶子他編著
出版社: 三省堂
出版年: 2012　ISBN: 9784385365312

都市と周縁のことば
著者: 岸江信介他編著
出版社: 和泉書院
出版年: 2013　ISBN: 9784757606661

方言学入門
著者: 木部暢子他編著
出版社: 三省堂
出版年: 2013　ISBN: 9784385363936

柳田方言学の現代的意義
著者: 小林隆編
出版社: ひつじ書房
出版年: 2014　ISBN: 4894767198

成績評価

試験 （ 0 ）　小テスト （ 50 ）
授業中課題 （ 0 ）　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 40 ）
参加度は、積極的な受講に対してのみ評価するものである。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語学講義Ⅳ（日本語史）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鳥谷　善史	

テーマ

日本語の通時的変化や変異を概観する。

授業の到達目標

日本語がどのような変化や変異を遂げてきたかを歴史的に概観したい。とりわけ、古代語に区分される、上代・中古及び中世前半（鎌倉時代・南北朝時代）の状況について確認したい。それぞれの時代の文献や基本的な学説を理解し、どのような手順で、国語の歴史を構築し論考しているかといった方法論を学びたい。

授業の概要

日本語史の総説と音韻史及び文字史、文法史について概説する。 極めて専門性の高い内容であるため、日本語学の基本的な知識がない場合や、予習復習を行わないと、単位修得につながりにくい。

準備学習（予習・復習）

予習：受講前にテキストを読み、理解できない専門用語等を確認してから、授業に臨むこと。復習：参考文献を各自で調べそれぞれの内容や用語が説明できるか各自で確認し，授業で述べた内容をより深く考察すること。

内　　容

第1回　日本語史について（ガイダンス）総説1（日本語の範囲・記述対象）
第2回　総説2（時代区分・資料・言語変化のメカニズム）
第3回　音韻史1（上代を中心に1）
第4回　音韻史2（上代を中心に2）
第5回　音韻史3（上代以降の状況）
第6回　音韻史4（上代以降の状況）
第7回　文字史1（漢字の伝来）
第8回　文字史2（万葉仮名）
第9回　文字史3（平仮名の成立とその広がり）
第10回　文字史4（片仮名の成立とその使用）まとめと小テスト
第11回　語彙史1（和語を中心に）
第12回　語彙史2（漢語と外来語）
第13回　文法史1（所謂学校文法の確認と上代の活用について）
第14回　文法史2（中世から現代の変化　活用形の変化を中心に）
第15回　文法史3　まとめと小テスト

履修上の注意点

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。（遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内）　受講生の多寡により授業計画の一部を変更することがある。特に、小テストの日程。

教科書

日本語史概説
著者：　沖森卓也
出版社：朝倉書店
出版年：2010　　ISBN：　425451522-0

参考書

概説日本語の歴史
著者：　佐藤武義
出版社：朝倉書店
出版年：1995　　ISBN：　4254510195

日本語史要説
著者：　渡辺実
出版社：岩波書店
出版年：1997　　ISBN：　4000260111

a10202f850

日本語の歴史
著者: 山口明穂他
出版社: 東京大学出版会
出版年: 1997　ISBN: 4130820042

はじめて読む日本語の歴史
著者: 沖森卓也
出版社: ベレ出版
出版年: 2010　ISBN: 4860642556

日本語の歴史全8巻
著者: 亀井孝他編
出版社: 平凡社
出版年: 1963-66　ISBN: 4582765955

いろはうた
著者: 小松英雄
出版社: 講談社学術文庫
出版年: 2009　ISBN: 9784062919418

五十音図の話
著者: 馬渕和夫
出版社: 大修館書店
出版年: 1993　ISBN: 9784469220933

国語音韻論
著者: 馬渕和夫
出版社: 笠間書院
出版年: 1971　ISBN: 4305000180

国語学史
著者: 馬渕和夫・出雲朝子
出版社: 笠間書院
出版年: 2010　ISBN: 9784305603029

日本語書記史言論
著者: 小松英雄
出版社: 笠間書院
出版年: 2006　ISBN: 4305703238

成績評価

試験 （ 0 ）　小テスト （ 50 ）
授業中課題 （ 0 ）　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 40 ）
参加度は、積極的な受講に対してのみ評価するものである。

2016 Syllabus

科 目 名　**古典文学講義Ⅰ(平安)**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　福嶋 昭治

テーマ

源氏物語の舞台としての京都の各所について、物語の原文の鑑賞と各地の景観の確認をを通じて、その風土的意義を考察する。

授業の到達目標

京都は、平安時代文学の多くが作り出された場所であり、その風土は、多大の影響を作品に与えている。具体的な場所のそれぞれが、どのように作品と関わり合っているか、そして、その関わりが、以後の歴史で、いかに伝統的な風土観となって継承されているかを探りたい。さらに、京都の今と将来を考える見識を得ることも授業の目標とする

授業の概要

平安時代文学の代表作品である源氏物語を取り上げ、原文を丁寧に読み解きながら、舞台となった各所の意味を考える。京都にある大学の授業として、現地見学の案内もきめ細かく行いたい。必要に応じて学外授業を実施する。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　平安京という都
第2回　大内裏と内裏
第3回　源氏物語と内裏
第4回　光源氏の邸宅～二条の院と六条院
第5回　嵯峨野
第6回　比叡山
第7回　宇治
第8回　大原野
第9回　西山
第10回　小野
第11回　北山
第12回　逢坂の関と伊勢路
第13回　須磨・明石
第14回　紫式部の越前行
第15回　紫式部ゆかりの地

履修上の注意点

教科書

ﾌﾟﾘﾝﾄを用意する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

源氏物語の舞台を訪ねて
著者:　加納重文
出版社:　宮帯出版
出版年:　2011　　ISBN:

源氏物語の平安京
著者:　加納重文
出版社:　青簡舎
出版年:　2011　　ISBN:

成績評価

試験　(70)　　小テスト ( )
授業中課題 ( )　　授業中発表等 ( )
参加度　(30)
試験はレポート試験とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**古典文学講義Ⅱ（平安）**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　福嶋 昭治

テーマ

女性と文学

授業の到達目標

女性が担い手となった古典を取り上げ、その原文を味読しつつ、それぞれの作品に込められた登場人物と作者の「思い」を探る。さらに、「文学とは何か」という問いについての答の一つを確認し合い、その担い手となってきた女性のおかれた歴史的立場についても見識を深める。さらに、現代の共生の問題についての一定の知見を得ることも目標とする。

授業の概要

平安時代の古典を中心に取り上げ、それぞれの必要な場所を十分読み解きながら、「文学とは何か」「女性の関わり」という問題を考えて行く。必要に応じて学外授業を実施する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　「文学について考える」ということ
第2回　蜻蛉日記の作者
第3回　蜻蛉日記「三十日三十夜は我がもとに」
第4回　枕草子が生まれた歴史的背景
第5回　枕草子の文章
第6回　源氏物語の文学論～螢の巻～
第7回　源氏物語の「わたくしの別れ」～賢木の巻～
第8回　源氏物語の空蝉の思い～帚木・空蝉の巻～
第9回　源氏物語の髭黒北の方～真木柱の巻～
第10回　和泉式部という人
第11回　和泉式部日記
第12回　更級日記の作者
第13回　更級日記
第14回　摂州合邦辻～武士の妻～
第15回　与謝野晶子～君死にたまふことなかれ～

履修上の注意点

教科書

ﾌﾟﾘﾝﾄを用意する。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 70 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度　（ 30 ）

試験はレポート試験とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**古典文学講義Ⅲ（中近世）**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　林 久美子

テーマ

安倍晴明の説話を読む

授業の到達目標

説話がどのように作られ、流布して行くのかを知る。京都の地名や寺院に親しむ。読解力を身に付ける。

授業の概要

中世以降の晴明伝承の中核にある『ホキ抄』に基づいた『安倍晴明物語』と、晴明伝説のバリエーションを読み、伝説の流布と人気の秘密について考える。時間が合えば、授業の一回分をゆかりの地で行う。

準備学習（予習・復習）

割り当てられた担当作品をきちんと読み、レジュメを作成する。

内　容

第1回　安倍晴明伝説の概要と授業の進め方
第2回　京都の安倍晴明伝説
第3回　『泣不動縁起』を読む①
第4回　〃　②
第5回　『安倍晴明物語』を読む①
第6回　〃　②
第7回　〃　③
第8回　〃　④
第9回　〃　⑤
第10回　『信太妻』を読む①
第11回　『信太妻』を読む②
第12回　夢枕獏と岡野玲子の『陰陽師』①
第13回　〃　②
第14回　〃　③
第15回　学外授業またはまとめ

履修上の注意点

教科書

陰陽師安倍晴明
著者：　志村有弘
出版社：角川ソフィア文庫
出版年：1999　　ISBN：　4-04-349001

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）
発表では作品を読み、分析する力を求めます。最終授業時に、発表内容を補足したレポートを提出してもらいます。

2016 Syllabus

科 目 名　**古典文学講義Ⅳ（中近世）**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　林 久美子

テーマ

浄瑠璃と歌舞伎について学ぶ

授業の到達目標

浄瑠璃と歌舞伎の特色を知り、日本を代表する伝統芸能について語れるようになる。

授業の概要

以下を予定していますが、内容を変更する場合があります。また、都合が合えば、授業の1回を劇場での見学・鑑賞に振り替えます。

準備学習（予習・復習）

下記URLなどを活用して下さい。また、メディアセンター所蔵のDVDやビデオなどで作品を鑑賞してください。参考書の他、活字になっている脚本も図書館に多数ありますので、読んでみて下さい。

内　容

第1回　浄瑠璃と歌舞伎の関係
第2回　出雲の阿国と南座のこと
第3回　女形の魅力
第4回　市川団十郎と江戸歌舞伎
第5回　歌舞伎十八番
第6回　人形浄瑠璃の歴史
第7回　坂田藤十郎と近松門左衛門
第8回　近松の世話物浄瑠璃①
第9回　近松の世話物浄瑠璃②
第10回　三大名作①
第11回　三大名作②
第12回　三大名作③
第13回　任侠劇『夏祭浪花鑑』
第14回　鶴屋南北の怪談劇
第15回　学外授業、またはまとめ

履修上の注意点

就活理由の欠席に関して特別な配慮はしません。（実習を除く）

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 60 ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 40 ）
授業中課題には、レポートと提出物が含まれます。

2016 Syllabus

科 目 名　**近現代文学講義Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　野村　幸一郎

テーマ

近現代のハイクとタンカ

授業の到達目標

明治以降の代表的な短歌と俳句を鑑賞する

授業の概要

恋、人生、家族など、テーマを設定し、明治以降の代表的な短歌・俳句を鑑賞していく

準備学習（予習・復習）

毎回・俳句の実作を宿題に出す予定出るので、しっかり作ってくること

内　容

第1回　概要の説明
第2回　「恋」を主題にしたタンカ
第3回　寺山修司の世界
第4回　「人生」を主題にしたハイクとタンカ
第5回　石川啄木のタンカ（1）
第6回　石川啄木のタンカ（2）
第7回　「日常」を主題にしたハイク
第8回　「日常」を主題にしたタンカ
第9回　「自然」を主題にしたハイク・タンカ
第10回　本学客員教授黛まどか先生による特別講義（日程変更の可能性あり）
第11回　「心象風景」を主題にしたハイク・タンカ
第12回　「老病死」を主題にしたハイク・タンカ
第13回　正岡子規のハイク
第14回　「家族」を主題にしたタンカ
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 60 ）　　授業中発表等　（　）

参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**近現代文学講義Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　野村 幸一郎

テーマ

宮沢賢治の文学

授業の到達目標

宮沢賢治の文学を文明批判の書としてとらえ、読解を進めていく

授業の概要

宮沢賢治の童話は、現代に生きる私たちにも多くの問題を投げかけている。賢治童話の読解を通じて、彼が現代文明のどこに矛盾を感じていたか確認するとともに、賢治とともに、その矛盾を解決していく方法を考えていきたい。

準備学習（予習・復習）

授業で取り上げる作品はあらかじめ読んでくること。

内　容

第1回　宮沢賢治の生涯と文学
第2回　『グスコーブドリの伝記』を読む（1）
第3回　『グスコーブドリの伝記』を読む（2）
第4回　『グスコーブドリの伝記』を読む（3）
第5回　『オツベルと象』を読む（1）
第6回　『オツベルと象』を読む（2）
第7回　『オツベルと象』を読む（3）
第8回　本学客員教授、角野栄子先生による特別講義（日程変更の可能性あり）
第9回　『なめとこ山の熊』を読む（1）
第10回　『なめとこ山の熊』を読む（2）
第11回　『なめとこ山の熊』を読む（3）
第12回　『銀河鉄道の夜』を読む（1）
第13回　『銀河鉄道の夜』を読む（2）
第14回　『銀河鉄道の夜』を読む（3）
第15回　まとめ

履修上の注意点

グループワークには積極的に参加すること

教科書

作品で読む宮沢賢治
著者:
出版社: 白地社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 60 ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**近現代文学講義Ⅲ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻本　千鶴	

テーマ

芥川龍之介と太宰治　――近代文学の自意識――

授業の到達目標

①小説を分析的に鑑賞・読解するための鑑賞眼や問題意識を養う。②他者の鑑賞や読解を柔軟に受け入れる理解力を養う。③作品に基づいて、論理的で説得性のある論を組み立てる力を養う。④自分の意見や疑問点などを他者に発信する能力を養う。

授業の概要

前半は芥川龍之介、後半は太宰治の短編小説を読む。グループでのワークショップや発表を随時取り入れる。

準備学習（予習・復習）

授業で扱う作品は通読すること。授業で扱う作品以外にも両作家の作品を読み、授業に対して独自の問題意識を養うこと。

内　　容

第1回　概説　――近代文学の自意識――
第2回　芥川龍之介を読む 『藪の中』
第3回　芥川龍之介を読む 『開化の殺人』・『秋』
第4回　芥川龍之介を読む 『開化の殺人』・『秋』
第5回　芥川龍之介を読む 『海のほとり』・『蜃気楼』
第6回　芥川龍之介を読む 『海のほとり』・『蜃気楼』
第7回　芥川龍之介を読む 『玄鶴山房』
第8回　太宰治を読む 『千代女』・『水仙』
第9回　太宰治を読む 『駈込み訴え』
第10回　太宰治を読む 『おさん』・『ヴィヨンの妻』
第11回　太宰治を読む 『おさん』・『ヴィヨンの妻』
第12回　太宰治を読む 『男女同権』・『トカトントン』
第13回　太宰治を読む 『男女同権』・『トカトントン』
第14回　『或阿呆の一生』（芥川龍之介）と『人間失格』（太宰治）
第15回　まとめ

履修上の注意点

研究入門（基礎演習）で扱った以下の作品については、既読を前提に講義を進めます。内容把握が曖昧な人は時間外学習として読んでおいて下さい。芥川龍之介『地獄変』・『舞踏会』、太宰治『斜陽』・『人間失格』

教科書

使用しない。（プリント配布）
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

芥川龍之介全集
著者：　芥川龍之介
出版社：岩波書店
出版年：　　ISBN：

太宰治全集
著者：　太宰治
出版社：筑摩書房
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 20% ）　　授業中発表等　（ 20% ）
参加度　（　）
試験は期末レポートとする。

2016 Syllabus

科 目 名　**近現代文学講義Ⅳ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　辻本　千鶴

テーマ

小説のなかの「アメリカ」

授業の到達目標

①小説を分析的に読解・鑑賞するための鑑賞眼や問題意識を養う。②他者の鑑賞や読解を柔軟に受け入れる理解力を養う。③作品に基づいて、論理的で説得性のある論を組み立てる力を養う。④自分の意見や疑問点などを他者に発信する能力を養う。

授業の概要

近現代の文学作品のなかから、「アメリカ」に関わりのある作品を取り上げ、読解と鑑賞を試みる。その作業を通じて、明治以降、殊に第二次世界大戦後の日本と日本人について考える。主として講義形式で進めるが、随時、グループ活動や個人での発表を導入していく。

準備学習（予習・復習）

授業で扱う作品は積極的に通読すること。

内　容

第1回　概説　――小説のなかの「アメリカ」――
第2回　安岡章太郎『ガラスの靴』
第3回　安岡章太郎『ガラスの靴』
第4回　小島信夫『アメリカン・スクール』
第5回　小島信夫『アメリカン・スクール』
第6回　野坂昭如『アメリカひじき』
第7回　野坂昭如『アメリカひじき』
第8回　村上龍『限りなく透明に近いブルー』
第9回　村上春樹『風の歌を聴け』
第10回　村上春樹『風の歌を聴け』
第11回　南木佳士『ダイヤモンドダスト』
第12回　南木佳士『ダイヤモンドダスト』
第13回　安部和重『アメリカの夜』
第14回　安部和重『ニッポニアニッポン』
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない。（プリント配布）

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 20% ）　　授業中発表等　（ 20% ）

参加度　（　）

試験は期末レポートの形式とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**映像文化演習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　禧美　智章	

テーマ

アニメーションの読解

授業の到達目標

基本的な映像リテラシーを修得し、アニメーションの分析方法を身に付ける。

授業の概要

アニメーション作品を鑑賞した上で、講義、グループワーク（プレゼンテーション・ディスカッション）を通して、映像表現・アニメーションの読解法を学ぶ。なお、授業内容は受講生数、進行等で変更することがある。

準備学習（予習・復習）

指定されたテクスト、事前配布されたプリントを熟読したうえで、授業に臨むこと。普段から映画、アニメーションを批評的に鑑賞する態度を身につけてほしい。また、積極的に映画館に通ってほしい。

内　　容

第1回　ガイダンス、グループ決め
第2回　映像リテラシーの基礎〈1〉
第3回　映像リテラシーの基礎〈2〉
第4回　杉井ギサブロー『銀河鉄道の夜』
第5回　杉井ギサブロー『銀河鉄道の夜』
第6回　今敏『パプリカ』
第7回　今敏『パプリカ』
第8回　原恵一『カラフル』
第9回　原恵一『カラフル』
第10回　山田尚子『映画けいおん！』『たまこラブストーリー』
第11回　山田尚子『映画けいおん！』『たまこラブストーリー』
第12回　山田尚子『映画けいおん！』『たまこラブストーリー』
第13回　高畑勲『かぐや姫の物語』
第14回　高畑勲『かぐや姫の物語』
第15回　まとめ

履修上の注意点

講義中の私語やスマホの使用は禁止。大学生として相応しい態度で授業に臨むこと。グループワーク時の欠席は他のメンバーに迷惑をかけるので、授業にはきちんと出席すること。

教科書

パプリカ
著者：　筒井康隆
出版社：新潮社
出版年：2002　　ISBN：　978-4101171401

カラフル
著者：　森絵都
出版社：文藝春秋
出版年：2007　　ISBN：　978-4167741013

参考書

たまこラブストーリー ノベライズ
著者：　一之瀬六樹
出版社：京都アニメーション
出版年：2014　　ISBN：　978-4907064228

アニメーションの想像力:文字テクスト/映像テクストの想像力の往還
著者：　禧美智章
出版社：風間書房
出版年：2015　　ISBN：　978-4759920895

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 80 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ ）
各作品ごとに、課題シートの提出を求める(80%)。担当作品に関する意見発表(あるいは小レポート)を求める(20%)。

2016 Syllabus

科 目 名　**文芸創作演習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻本　千鶴.野村　幸一郎	

テーマ

夏目漱石に学ぶ小説作法

授業の到達目標

小説作品への批評眼・鑑賞眼を養成する。合わせて自ら創作する文章力・創造力を培うことも目標とする。

授業の概要

夏目漱石の小説作品を鑑賞し、その小説作法に学びつつ、創作実習を行う。グループでの実習作品批評とその発表も取り入れる。

準備学習（予習・復習）

授業で扱う漱石作品を通読すること。予習・復習として作品通読の努力を怠っていないか、随時発言や小レポートを求めていく。

内　　容

第1回　概説 （担当：辻本）
第2回　『坊っちゃん』作品鑑賞 （担当：辻本）
第3回　創作実習 『坊っちゃん』の書き出しに学んで主人公を造形する。（担当：辻本）
第4回　実習作品の相互批評 （担当：辻本）
第5回　『吾輩は猫である』作品鑑賞 （担当：辻本）
第6回　創作実習 『吾輩は猫である』の書き出しに学んで人間以外の語り手を設定する。（担当：辻本）
第7回　実習作品の相互批評 （担当：辻本）
第8回　『夢十夜』作品鑑賞 （担当：辻本）
第9回　創作実習 『夢十夜』に学んで「夢」を素材に書く。（担当：辻本）
第10回　実習作品の相互批評 （担当：辻本）
第11回　『こころ』作品鑑賞 （担当：辻本）
第12回　創作実習 『こころ』のパロディーを書く。（担当：辻本）
第13回　実習作品の相互批評／まとめ （担当：辻本）
第14回　角野栄子先生による特別講義 （担当：野村）＊日程は未定です。
第15回　黛まどか先生による特別講義 （担当：野村）＊日程は未定です。

履修上の注意点

①創作実習の時間には、各自で原稿用紙を持参すること。②実習作品の完成のために、時間外の取り組みが必要になる場合もある。③特別講義（日程未定）の前後に俳句の創作やレポートを課す場合もある。

教科書

使用しない。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

坊っちゃん
著者：　夏目漱石
出版社：
出版年：　　ISBN：

吾輩は猫である
著者：　夏目漱石
出版社：
出版年：　　ISBN：

夢十夜
著者：　夏目漱石
出版社：
出版年：　　ISBN：

a10202g850

こころ

著者:　夏目漱石

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 60% ）　　授業中発表等（ 20% ）

参加度 （ 20% ）

実習作品への取り組みを重視する。

2016 Syllabus

科 目 名　**アナウンス技術演習Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　荒尾　千春	

テーマ

聴き手の心を掴む表現を学ぶ～印象、聴き方、話し方を向上させてプレゼンやコミュニケーション上手になる～

授業の到達目標

社会で求められる表現力やコミュニケーション力を学ぶ。また、考える、書く、ディスカッション、発表を繰り返し行うので、表現することに慣れる。アナウンス技術（（プレゼン力）の向上はもちろんのこと、就職活動の際にも意識すべき点がわかるようになる。印象・聴き方・話し方などの基礎を体得することを目的としている。

授業の概要

アナウンス技術の基礎が身に着くように、毎回、発声や発音のトレーニングを行う。また、大勢の前でも1対1の際にも求められる「わかりやすい話の構成の仕方、要素」などを体得できるようにワークやディスカッション、発表の機会も多く取り入れる。「聴く、書く、話す」を積極的に行うよう心がけて受講して欲しい。

準備学習（予習・復習）

ニュースを見る、あるいは、新聞を読むなどして、世の中の流れを知り、情報を入手するよう努力をすること。授業で学んだことは日常で実践してみる。

内　容

第1回　オリエンテーション　講義の目的、講義の進め方
第2回　表現力を向上させるために必要な事とは　～アナウンススキル＋振る舞い、姿勢、戦略的な演出～
第3回　発声・発音のトレーニング～①声の力を生かす　②発声のメカニズム　③メリハリの効いた発音～
第4回　表現豊かな声のトレーニング　～①驚き・哀しみ、怒り、楽しみの表現　②相手に伝わる話し方「物語を読む」～
第5回　聴くスキル～会話（コミュニケーション）上手は聞き上手～
第6回　話の組み立て方～わかりやすい話の構成をフレームワークに入れて体得～
第7回　わかりやすい話に必要な言葉の表現や例え話とは～3＋1の要素～
第8回　言葉の表現力を向上させるトレーニング～マンダラートに書き出し、事例集に～
第9回　聴き手を惹きつける話の導入とクロージング
第10回　効果的な自己紹介～ライフラインチャートで表現～
第11回　自分の思いが伝わるように「話にタイトル」をつける～端的に思いを伝える～
第12回　緊張緩和の方法パワーポイントの効果的な使い方
第13回　プレゼン大会①
第14回　プレゼン大会②
第15回　講義のまとめ

履修上の注意点

講義は、「聴く、話す」などのグループワークを中心に進めるため、積極的な参加姿勢・態度が求められる。理論はもちろんアナウンス技術の体得を目的とした演習が多いので、続けての受講が望ましい。毎回、授業の最後に、学んだことの小レポートの提出も求める。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（ 25 ）
参加度　（ 25 ）
講義の気づきレポート・期末レポート　50%、プレゼン発表25%、参加度25%

2016 Syllabus

科 目 名　**アナウンス技術演習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　荒尾　千春	

テーマ

言葉の表現力を向上させて思いが伝わる話し方を体得する～様々なトレーニングや視点を基に表現する力を磨く～

授業の到達目標

伝えるではなく、伝わる話にするために必要な要素を学ぶと共に、自分の意見を効果的に伝えることの重要性を体感する。また、他者の発表をフィードバックすることで、プレゼンに必要なポイントを客観的に学ぶことができる。さらに、語彙や表現力を豊かにするための様々なトレーニング方法を学ぶなど、アナウンス力（プレゼン力）を総合的に向上させる事を目的とする。

授業の概要

アナウンス技術演習Ⅰを発展させた内容である。語彙力を高めるための様々なトレーニングを行う。またワークを取り入れながら、自分の意見が言えるようにトレーニングをする。アナウンス技術が定着するよう、毎回発声や発音も行う。

準備学習（予習・復習）

ニュースを見る、あるいは、新聞を読むなどして、世の中の流れを知り、情報を入手するよう努力をすること。授業で学んだことは日常で実践してみる。

内　容

第1回　オリエンテーション　講義の目的、講義の進め方
第2回　表現力を向上させるために必要な事（アナウンス演習Ⅰの復習）～振る舞い、姿勢、戦略的な演出、聴き取りやすい発声・発音、わかりやすい話に必要な要素～
第3回　言葉の表現力を向上するトレーニング～ゲーム感覚で頭を柔軟にし、言葉の表現力や瞬発力を高める～
第4回　語彙を広げ、共感が得られる表現とは～共通点を表現するトレーニング～
第5回　テレビ・ラジオのアナウンサーの実況トレーニングで表現を磨く～観察力を高める必要性を知る～
第6回　自分の意見を伝える～常に問題意識をもつ～
第7回　ニュースを評論する～ニュース素材を使用し、自分の意見を表す～
第8回　自分史をつくって、表現する～自分年表を作成し、振り返る～
第9回　自分の価値観を表現する～年表から見えてきたことを分かりやすく伝える～
第10回　プレゼンに必要な要素～ノンバーバルの意識を高める、緊張緩和の方法～
第11回　思いを伝える効果的な道具
第12回　プレゼン大会①＋フィードバック
第13回　プレゼン大会②＋フィードバック
第14回　プレゼン大会③＋フィードバック
第15回　褒めるトレーニング講義のまとめ

履修上の注意点

講義は、「聴く、話す」などのグループワークを中心に進めるため、積極的な参加姿勢・態度が求められる。理論はもちろんアナウンス技術の体得を目的とした演習が多いので、続けての受講が望ましい。毎回、授業の最後に、学んだことの小レポートの提出も求める。アナウンス技術演習Ⅰを発展させた内容のため、できればアナウンス技術演習Ⅰを受講後に参加した方が好ましい。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（ 25 ）
参加度　（ 25 ）
講義の気づきレポート・期末レポート　50%、プレゼン発表25%、参加度25%

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅰ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定　希望制
担 当 者　福嶋　昭治	

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

平安時代を中心とした古典文学の卒業論文作成の完成ために、必要な文献検索・論文読解などや、各自の卒業論文の構造の具体的な検討などを通じて、卒業論文を完成する。

授業の概要

3回生と合同で授業を進める。3回生は、4回生の発表・授業参加姿勢などから卒業論文作成のイメージを固め、4回生は、3回生での学修を振り返りつつ具体的な論文作成を進め完成させる。3・4回生の相互の関わりが4回生における論文作成と完成に資するように授業を展開する。必要に応じて、学外授業も実施する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　卒業論文の進捗状況の報告
第2回　中間発表について
第3回　中間発表要旨の作成
第4回　同上
第5回　中間発表
第6回　卒業論文作成の課題確認と作成方針の確立
第7回　同上
第8回　同上
第9回　同上
第10回　同上
第11回　同上
第12回　卒業論文の構造確認と要旨作成
第13回　同上
第14回　同上
第15回　全体総括

履修上の注意点

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業ごと、学生各自のテーマごとに必要なものを示す。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 70 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅰ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定　希望制
担 当 者　林　久美子	

テーマ

古典文学研究（中・近世）

授業の到達目標

古典文学の研究方法を学び、自分に合った作品とテーマを選ぶ

授業の概要

卒論作成に向けて進める。演習Ⅰと合同。

準備学習（予習・復習）

1，作品を熟読する。2，問題意識を持つ。3，図書館に足しげく通う。4，表現力を磨く。

内　　容

第1回　授業の進め方について
第2回　卒論で取り上げたい作品について発表する
第3回　同上
第4回　同上
第5回　同上
第6回　同上
第7回　文献を収集し、論文を読む
第8回　同上
第9回　同上
第10回　作品の構造や成立、テーマに迫るための発表
第11回　同上
第12回　同上
第13回　同上
第14回　同上
第15回　前期の総括と夏休みの課題について

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）
参加度については、授業の到達目標に貢献する姿勢も含む

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅰ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定　希望制
担 当 者　重松　恵美	

テーマ

近現代日本文学研究

授業の到達目標

文学作品の研究を通じて、読解力、思考力、文章力、対話力を身につける。1. 読解力　文学作品をていねいに読み、理解する力。2. 思考力　作品およびその背景について、深く考える力。3. 文章力　考えたことを、分かりやすく文章化する力。4. 対話力　作品解釈について意見交換し、他者を尊重しつつ自己主張する力。

授業の概要

昭和前半期の短編小説を主なテキストとし、作品の主題や文体、時代背景、作中の人物像などについて考える。学生による研究発表が授業の中心であり、発表資料の作成、口頭発表、論文の作成などを学ぶ。

準備学習（予習・復習）

予習（全員）対象作品を毎週、事前に熟読すること。予習（発表者）発表資料の作成など、発表準備。復習（発表者）発表後の作品について、論文の作成。

内　　容

第1回　導入1　発表作品と日程の決定、討論：太宰治「待つ」
第2回　導入2　図書館等での情報収集、発表準備
第3回　導入3　レジュメの作り方、先行研究の用い方
第4回　発表1　平林たい子、佐多稲子、小林多喜二
第5回　発表2　堀辰雄、横光利一、梶井基次郎
第6回　発表3　井伏鱒二、伊藤整、室生犀星
第7回　発表4　牧野信一、高見順、中島敦
第8回　発表5　北条民雄、宮本百合子、岡本かの子
第9回　まとめ1　論文の書き方、論文の構成立案
第10回　発表6　新感覚派、新戯作派、戦後派など
第11回　発表7　新感覚派、新戯作派、戦後派など
第12回　発表8　新感覚派、新戯作派、戦後派など
第13回　発表9　新感覚派、新戯作派、戦後派など
第14回　発表10　新感覚派、新戯作派、戦後派など
第15回　まとめ2　ディスカッション

履修上の注意点

やむを得ない事情で発表を欠席する場合は事前連絡し、日を改めて発表すること。テキストを持参しない場合、意見交換に参加しない場合は、欠席とみなす。

教科書

日本近代短篇小説選　昭和篇1
著者：　紅野敏郎ほか（編）
出版社：岩波文庫
出版年：2012　　ISBN：　9784003119143

参考書

日本近代短篇小説選　昭和篇2
著者：　紅野敏郎ほか（編）
出版社：岩波文庫
出版年：2012　　ISBN：　9784003119150

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）
発表資料の作成、口頭発表、論文作成、および毎週の質疑応答への参加の4点を、成績評価の主な対象とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅰ＜＊d＞**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること　　クラス指定　希望制

担 当 者　野村 幸一郎

テーマ

戦後の代表的な文学作品を読む

授業の到達目標

日本近代文学の代表作品を読む

授業の概要

グループワークを通じて、人物像・ストーリー・結末の分析方法を習得するとともに、現代文学の特徴を理解する

準備学習（予習・復習）

じゅぎょうで取り扱う作品はかならず読んでくること

内　容

第1回　概要悦明、担当作品の確定
第2回　レジュメの作り方
第3回　受講生による発表　樋口一葉『たけくらべ』
第4回　受講生による発表　島崎藤村『破戒』
第5回　受講生による発表　夏目漱石『それから』
第6回　受講生による発表　森鴎外『高瀬舟』
第7回　受講生による発表　武者小路実篤『友情』
第8回　受講生による発表　志賀直哉『暗夜行路』
第9回　受講生による発表　谷崎潤一郎『春琴抄』
第10回　受講生による発表　芥川龍之介『藪の中』
第11回　受講生による発表　川端康成『伊豆の踊子』
第12回　受講生による発表　江戸川乱歩『屋根裏の散歩者』
第13回　受講生による発表　太宰治『人間失格』
第14回　受講生による発表　坂口安吾『夜長姫と耳男』
第15回　まとめ

履修上の注意点

グループワークには積極的に参加すること

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等 （ 60 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅰ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定　希望制
担 当 者　安達　太郎	

テーマ

卒業論文に向けてのテーマの探求

授業の到達目標

1）興味・関心をしっかり吟味することによってみずからの力でテーマを設定する。2）先行研究を読みこむことによって，論文を書くという作業の持つ意味を理解する。3）自分の思いや考えを他の人に伝えるために必要な事項を修得する。

授業の概要

受講生が持つさまざまなことばに関する「引っかかり」を，卒業論文に向けての「テーマ」として確定していく。

準備学習（予習・復習）

直接関係がある，ないにかかわらず，学術論文をたくさん読んでください。最初はまったく理解できないかもしれませんが，気にしないで。論文を読む目的は内容を理解するだけではありません。書き方などについてもイメージが明確になってきます。

内　容

第1回　導入：卒論に向けての第一歩
第2回　論文とは何か？
第3回　テーマの候補についての報告（1）
第4回　テーマの候補についての報告（2）
第5回　テーマの候補についての報告（3）
第6回　テーマの候補についての報告（4）
第7回　仮テーマの決定と参考文献探索（1）
第8回　仮テーマの決定と参考文献探索（2）
第9回　仮テーマの決定と参考文献探索（3）
第10回　仮テーマの決定と参考文献探索（4）
第11回　先行研究紹介（1）
第12回　先行研究紹介（2）
第13回　先行研究紹介（3）
第14回　先行研究紹介（4）
第15回　まとめ

履修上の注意点

他のゼミ生のテーマにも関心を持って，積極的に質疑応答に関わってください。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅱ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定　希望制
担 当 者　福嶋　昭治	

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

平安時代を中心とした古典文学の卒業論文作成の完成ために、必要な文献検索・論文読解などや、各自の卒業論文の構造の具体的な検討などを通じて、卒業論文を完成する。

授業の概要

3回生と合同で授業を進める。3回生は、4回生の発表・授業参加姿勢などから卒業論文作成のイメージを固め、4回生は、3回生での学修を振り返りつつ具体的な論文作成を進め完成させる。3・4回生の相互の関わりが4回生における論文作成と完成に資するように授業を展開する。必要に応じて学外授業を実施する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　卒業論文の進捗状況の報告
第2回　中間発表について
第3回　中間発表要旨の作成
第4回　同上
第5回　中間発表
第6回　卒業論文作成の課題確認と作成方針の確立
第7回　同上
第8回　同上
第9回　同上
第10回　同上
第11回　同上
第12回　卒業論文の構造確認と要旨作成
第13回　同上
第14回　同上
第15回　全体総括

履修上の注意点

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業ごと、学生各自のテーマごとに必要なものを示す。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 70 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅱ＜＊b＞**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること　　クラス指定　希望制

担 当 者　林 久美子

テーマ

古典文学研究（中・近世）

授業の到達目標

卒業論文作成

授業の概要

卒論を完成させる。演習Ⅱと同時開講なので、間に3回生の発表も行う。なお、1回分を特別授業や学外研修に振り振り替える場合がある。

準備学習（予習・復習）

1，作品の読みを深め、問題意識を育てる　2，説得力を高めるために資料を収集する　3，十分な考察を行う　4，執筆に時間と労力を注ぐ

内　容

第1回　進捗状況の報告
第2回　中間発表の骨格を考える
第3回　中間発表の要旨作成
第4回　同上
第5回　中間発表（時期は未確定）
第6回　中間発表を受けて、今後の進め方を詰める
第7回　執筆を進め、互に批評を行う
第8回　同上
第9回　同上
第10回　同上
第11回　同上
第12回　同上
第13回　『国文橘』の要旨を作成・修正する
第14回　同上
第15回　一年間の取り組みの総括

履修上の注意点

就活は

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）
参加度には、ゼミの活性化や3回生の指導など、授業への貢献を含みます

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅱ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定　希望制
担 当 者　重松　恵美	

テーマ

近現代日本文学研究

授業の到達目標

文学作品の研究を通じて、読解力、思考力、文章力、対話力を身につける。1. 読解力　文学作品をていねいに読み、理解する力。2. 思考力　作品およびその背景について、深く考える力。3. 文章力　考えたことを、分かりやすく文章化する力。4. 対話力　作品解釈について意見交換し、他者を尊重しつつ自己主張する力。

授業の概要

任意の作品について、作品の主題や文体、時代背景、作中の人物像などについて考える。学生による研究発表が授業の中心であり、発表資料の作成、口頭発表、論文の作成などを学ぶ。卒業論文の準備段階として、対象作品と研究テーマを各自が見出すことが重要である。

準備学習（予習・復習）

予習（全員）対象作品を毎週、事前に熟読すること。予習（発表者）発表資料の作成など、発表準備。復習（発表者）発表後の作品について、論文の作成。

内　　容

第1回　導入　発表作品と日程の決定、ディスカッション
第2回　発表1
第3回　発表2
第4回　発表3
第5回　発表4
第6回　発表5
第7回　発表6
第8回　発表7
第9回　発表8
第10回　発表9
第11回　発表10
第12回　発表11
第13回　発表12
第14回　発表13
第15回　まとめ

履修上の注意点

やむを得ない事情で発表を欠席する場合は事前連絡し、日を改めて発表すること。テキストを持参しない場合、意見交換に参加しない場合は、欠席とみなす。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等　（ 30% ）

参加度　（ 30% ）

発表資料の作成、口頭発表、論文作成、および毎週の質疑応答への参加の4点を、成績評価の主な対象とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅱ＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定　希望制
担 当 者　野村　幸一郎	

テーマ

日本近現代文学の研究

授業の到達目標

戦後から現代までの代表的な文学作品を読解する

授業の概要

これまでの発表を参考にして最終的には卒業論文のテーマを確定することになる

準備学習（予習・復習）

与えられた課題はかならず行うこと

内　容

第1回　発表担当の確定
第2回　卒業論文の書き方
第3回　受講生による発表　三島由紀夫『憂国』
第4回　受講生による発表　遠藤周作『沈黙』
第5回　外部講師による講演会（日程変更の可能性あり）
第6回　受講生による発表　村上春樹『ノルウェイの森』
第7回　受講生による発表　吉本ばなな『キッチン』
第8回　受講生による発表　あさのあつこ『バッテリー』
第9回　受講生による発表　京極夏彦『嗤う伊右衛門』
第10回　受講生による発表　梨木香歩『西の魔女が死んだ』
第11回　受講生による発表　森絵都『カラフル』
第12回　受講生による発表　伊坂幸太郎『魔王』
第13回　受講生による発表　谷川流『涼宮ハルヒの憂鬱』
第14回　受講生による発表　百田直樹『永遠の0』
第15回　まとめ

履修上の注意点

発表を行わなかった場合は単位を不認定にする

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅱ＜＊e＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定　希望制
担 当 者　安達　太郎	

テーマ

卒業論文に向けての方法の模索

授業の到達目標

1）卒業論文のテーマを確定する。2）みずからの設定したテーマにふさわしい方法論を探求する。

授業の概要

テーマが具体的にイメージできるようになったら，そのテーマにふさわしい方法論を模索する段階にはいる。既存の方法を使いこなすことができるようにし，新しい工夫を盛り込む余地を探る。

準備学習（予習・復習）

直接関係がある，ないにかかわらず，学術論文をたくさん読んでください。最初はまったく理解できないかもしれませんが，気にしないで。論文を読む目的は内容を理解するだけではありません。書き方などについてもイメージが明確になってきます。

内　容

第1回　導入
第2回　テーマの確認と目標の設定（1）
第3回　テーマの確認と目標の設定（2）
第4回　テーマの確認と目標の設定（3）
第5回　テーマの確認と目標の設定（4）
第6回　第１次経過報告（1）
第7回　第１次経過報告（2）
第8回　第１次経過報告（3）
第9回　第１次経過報告（4）
第10回　日本語分析の方法
第11回　第２次経過報告（1）
第12回　第２次経過報告（2）
第13回　第２次経過報告（3）
第14回　第２次経過報告（4）
第15回　まとめ

履修上の注意点

他のゼミ生のテーマにも関心を持って積極的に質疑応答に関わってください。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅴ〈＊a〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　　員　20

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　尾西　正成

テーマ

行・草書の書法の研究

授業の到達目標

行・草書の基本と応用を古典から学び、自在で幅広い表現力の修得をめざす。特に王羲之は行草書における美の典型として後の書家たちに多大な影響を与えた。よってその書法を基礎として深め、王羲之書法解析を目指す。また、王羲之の影響下で花咲いた多くの大家を研究していく。

授業の概要

実技を中心として、それにまつわる資料の鑑賞、解説。

準備学習（予習・復習）

家庭での十分な書き込みと、授業で学習する古典以外の古典の練習をしっかりすること。

内　容

第1回　行草書の表現
第2回　王羲之とその書法
第3回　集字聖教序の書法
第4回　集字聖教序の臨書（半紙）
第5回　集字聖教序の臨書（半紙）
第6回　集字聖教序の臨書（半切）
第7回　集字聖教序の臨書（半切）
第8回　臨書作品の相互批評・まとめ
第9回　米?の書法
第10回　蜀素帖の書法
第11回　蜀素帖の臨書（半紙）
第12回　蜀素帖の臨書（半切）
第13回　？渓詩巻他の臨書（半紙）
第14回　？渓詩巻他の臨書（半切）
第15回　米?臨書作品の互評　まとめ※尚、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

中国法書選16集字聖教序
著者:
出版社: 二玄社
出版年: 1990　　ISBN:
中国法書選48米？集
著者:
出版社: 二玄社
出版年: 1990　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 70 ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅴ ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　20
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　尾西　正成	

テーマ

行・草書の書法の研究

授業の到達目標

行・草書の基本と応用を古典から学び、自在で幅広い表現力の修得をめざす。特に王羲之は行草書における美の典型として後の書家たちに多大な影響を与えた。よってその書法を基礎として深め、王羲之書法解析を目指す。また、王羲之の影響下で花咲いた多くの大家を研究していく。

授業の概要

実技を中心として、それにまつわる資料の鑑賞、解説。

準備学習（予習・復習）

家庭での十分な書き込みと、授業で学習する古典以外の古典の練習をしっかりすること。

内　　容

第1回　行草書の表現
第2回　王羲之とその書法
第3回　集字聖教序の書法
第4回　集字聖教序の臨書（半紙）
第5回　集字聖教序の臨書（半紙）
第6回　集字聖教序の臨書（半切）
第7回　集字聖教序の臨書（半切）
第8回　臨書作品の相互批評・まとめ
第9回　米?の書法
第10回　蜀素帖の書法
第11回　蜀素帖の臨書（半紙）
第12回　蜀素帖の臨書（半切）
第13回　？渓詩巻他の臨書（半紙）
第14回　？渓詩巻他の臨書（半切）
第15回　米?臨書作品の互評　まとめ※尚、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

中国法書選16集字聖教序
著者:
出版社:　二玄社
出版年:　1990　　ISBN:
中国法書選48米？集
著者:
出版社:　二玄社
出版年:　1990　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ 0 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅵ＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　20
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　尾西　正成	

テーマ

行草書の書法の研究

授業の到達目標

自在で幅広い表現技術の修得。特に王羲之は行草書における美の典型として後の書家たちに多大な影響を与えた。よってその書法を基礎として深め、王羲之書法解析を目指す。また、王羲之の影響下で花咲いた多くの大家を研究していく。

授業の概要

実技を中心として、それにまつわる資料の鑑賞、解説。様々な形式の制作も行う。

準備学習（予習・復習）

家庭で十分な練習をすること。授業で扱う古典以外の古典の臨書もしっかりすること。書展などを積極的に鑑賞すること。

内　容

第1回　王羲之・十七帖の書法
第2回　十七帖の臨書（半紙）
第3回　十七帖の臨書（半紙）
第4回　十七帖の臨書（半切）
第5回　十七帖の臨書（半切）互評会
第6回　十七帖の倣書（半切）
第7回　十七帖の倣書（半切）互評会
第8回　中国歴代の行・草書古典の臨書（王鐸）
第9回　中国歴代の行・草書古典の臨書（傅山）
第10回　中国歴代の行・草書古典の臨書（鄭板橋・何紹基ほか）
第11回　中国歴代の行・草書古典の臨書（張之謙ほか）
第12回　中国歴代の行・草書古典の臨書（呉昌碩ほか）
第13回　中国歴代の行草書古典の倣書
第14回　中国歴代の行草書古典の倣書（様々な形式）
第15回　倣書作品の互評会・まとめ

履修上の注意点

教科書

中国法書選14十七帖
著者：
出版社：二玄社
出版年：1990　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅵ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　20
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　尾西　正成	

テーマ

行草書の書法の研究

授業の到達目標

自在で幅広い表現技術の修得。特に王羲之は行草書における美の典型として後の書家たちに多大な影響を与えた。よってその書法を基礎として深め、王羲之書法解析を目指す。また、王羲之の影響下で花咲いた多くの大家を研究していく。

授業の概要

実技を中心として、それにまつわる資料の鑑賞、解説。様々な形式の制作も行う。

準備学習（予習・復習）

家庭で十分な練習をすること。授業で扱う古典以外の古典の臨書もしっかりすること。書展などを積極的に鑑賞すること。

内　容

第1回　王羲之・十七帖の書法
第2回　十七帖の臨書（半紙）
第3回　十七帖の臨書（半紙）
第4回　十七帖の臨書（半切）
第5回　十七帖の臨書（半切）互評会
第6回　十七帖の倣書（半切）
第7回　十七帖の倣書（半切）互評会
第8回　中国歴代の行・草書古典の臨書（王鐸）
第9回　中国歴代の行・草書古典の臨書（傅山）
第10回　中国歴代の行・草書古典の臨書（鄭板橋・何紹基ほか）
第11回　中国歴代の行・草書古典の臨書（張之謙ほか）
第12回　中国歴代の行・草書古典の臨書（呉昌碩ほか）
第13回　中国歴代の行草書古典の倣書
第14回　中国歴代の行草書古典の倣書（様々な形式）
第15回　倣書作品の互評会・まとめ

履修上の注意点

教科書

中国法書選14十七帖
著者：
出版社：二玄社
出版年：1990　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅶ＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　20
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　橋本 二三	

テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

授業の到達目標

多様なかな書法の修得。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

内　容

第1回　関戸本古今和歌集について
第2回　関戸本古今和歌集の技法について
第3回　関戸本古今和歌集の臨書①(用字・造形・連綿手法等)
第4回　関戸本古今和歌集の臨書②(用字・造形・連綿手法等)
第5回　関戸本古今和歌集の臨書③(用字・造形・連綿手法等)
第6回　関戸本古今和歌集の臨書④(用字・造形・連綿手法等)
第7回　関戸本古今和歌集の臨書①(さまざまな線運動と墨法)
第8回　関戸本古今和歌集の臨書②(さまざまな線運動と墨法)
第9回　関戸本古今和歌集の臨書③(さまざまな線運動と墨法)
第10回　関戸本古今和歌集の倣書①
第11回　関戸本古今和歌集の倣書②
第12回　関戸本古今和歌集の倣書③
第13回　創作への展開①
第14回　創作への展開②
第15回　創作への展開③

履修上の注意点

教科書

日本名筆選19「関戸本古今和歌集」
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　ISBN:
日本名筆選13「継色紙」
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 80 ）	授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 20 ）	

授業中課題には提出物とレポートを含む。

2016 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅶ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　20
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　橋本　二三	

テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

授業の到達目標

多様なかな書法の修得。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

内　　容

第1回　関戸本古今和歌集について
第2回　関戸本古今和歌集の技法について
第3回　関戸本古今和歌集の臨書①(用字・造形・連綿手法等)
第4回　関戸本古今和歌集の臨書②(用字・造形・連綿手法等)
第5回　関戸本古今和歌集の臨書③(用字・造形・連綿手法等)
第6回　関戸本古今和歌集の臨書④(用字・造形・連綿手法等)
第7回　関戸本古今和歌集の臨書①(さまざまな線運動と墨法)
第8回　関戸本古今和歌集の臨書②(さまざまな線運動と墨法)
第9回　関戸本古今和歌集の臨書③(さまざまな線運動と墨法)
第10回　関戸本古今和歌集の倣書①
第11回　関戸本古今和歌集の倣書②
第12回　関戸本古今和歌集の倣書③
第13回　創作への展開①
第14回　創作への展開②
第15回　創作への展開③

履修上の注意点

教科書

日本名筆選19「関戸本古今和歌集」
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:
日本名筆選13「継色紙」
著者:
出版社: 二玄社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 80 ）	授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 20 ）	

授業中課題には提出物とレポートを含む。

2016 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅷ＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　20
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　橋本　二三	

テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

授業の到達目標

多様なかな書法の修得。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

内　　容

第1回　継色紙について
第2回　継色紙の技法について
第3回　継色紙の臨書①(用字・造形・構成法)
第4回　継色紙の臨書②(用字・造形・構成法)
第5回　継色紙の臨書③(用字・造形・構成法)
第6回　継色紙の臨書④(用字・造形・構成法)
第7回　継色紙の臨書①(線表現と墨法)
第8回　継色紙の臨書②(線表現と墨法)
第9回　継色紙の臨書③(線表現と墨法)
第10回　継色紙の倣書①
第11回　継色紙の倣書②
第12回　継色紙の倣書③
第13回　創作に向けて(散らし書きについて)
第14回　創作に向けて(帖・巻子について)
第15回　創作への展開

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 80 ）	授業中発表等　（ 0 ）
参加度　（ 20 ）	

授業中課題には提出物とレポートを含む。

2016 Syllabus

科 目 名　**書法Ⅷ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　20
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　橋本　二三	

テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

授業の到達目標

多様なかな書法の修得。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

内　　容

第8回　継色紙の臨書②(線表現と墨法)
第9回　継色紙の臨書③(線表現と墨法)
第10回　継色紙の倣書①
第11回　継色紙の倣書②
第12回　継色紙の倣書③
第13回　創作に向けて(散らし書きについて)
第14回　創作に向けて(帖・巻子について)
第15回　創作への展開
第1回　継色紙について
第2回　継色紙の技法について
第3回　継色紙の臨書①(用字・造形・構成法)
第4回　継色紙の臨書②(用字・造形・構成法)
第5回　継色紙の臨書③(用字・造形・構成法)
第6回　継色紙の臨書④(用字・造形・構成法)
第7回　継色紙の臨書①(線表現と墨法)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）
小テスト（ 0 ）
授業中課題 （ 80 ）
授業中発表等 （ 0 ）
参加度　（ 20 ）
授業中課題には提出物とレポートを含む。

Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学特講a（日本語史Ｉ）<Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学特講b（日本語史Ⅱ）<Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鳥谷　善史	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学特講c(現代日本語研究Ⅰ)<Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学特講d（現代日本語研究Ⅱ）〈Z〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学特講e（京都と文学）<Z>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　福嶋 昭治

テーマ

源氏物語の舞台としての京都の各所について、物語の原文の鑑賞と各地の景観の確認をを通じて、その風土的意義を考察する。

授業の到達目標

京都は、平安時代文学の多くが作り出された場所であり、その風土は、多大の影響を作品に与えている。具体的な場所のそれぞれが、どのように作品と関わり合っているか、そして、その関わりが、以後の歴史で、いかに伝統的な風土観となって継承されているかを探りたい。さらに、京都の今と将来を考える見識を得ることも授業の目標とする

授業の概要

平安時代文学の代表作品である源氏物語を取り上げ、原文を丁寧に読み解きながら、舞台となった各所の意味を考える。京都にある大学の授業として、現地見学の案内もきめ細かく行いたい。必要に応じて学外授業を実施する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　平安京という都
第2回　大内裏と内裏
第3回　源氏物語と内裏
第4回　光源氏の邸宅～二条の院と六条院
第5回　嵯峨野
第6回　比叡山
第7回　宇治
第8回　大原野
第9回　西山
第10回　小野
第11回　北山
第12回　逢坂の関と伊勢路
第13回　須磨・明石
第14回　紫式部の越前行
第15回　紫式部ゆかりの地

履修上の注意点

教科書

ﾌﾟﾘﾝﾄを用意する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

源氏物語の舞台を訪ねて
著者:　加納重文
出版社:　宮帯出版
出版年:　2011　　ISBN:

源氏物語の平安京
著者:　加納重文
出版社:　青簡舎
出版年:　2011　　ISBN:

成績評価

試験　（ 70 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）
試験はレポート試験とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学特講f(女性文学研究) <Z>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　福嶋 昭治

テーマ

女性と文学

授業の到達目標

女性が担い手となった古典を取り上げ、その原文を味読しつつ、それぞれの作品に込められた登場人物と作者の「思い」を探る。さらに、「文学とは何か」という問いについての答の一つを確認し合い、その担い手となってきた女性のおかれた歴史的立場についても見識を深める。さらに、現代の共生の問題についての一定の知見を得ることも目標とする。

授業の概要

平安時代の古典を中心に取り上げ、それぞれの必要な場所を十分読み解きながら、「文学とは何か」「女性の関わり」という問題を考えて行く。必要に応じて学外授業を実施する。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　「文学について考える」ということ
第2回　蜻蛉日記の作者
第3回　蜻蛉日記「三十日三十夜は我がもとに」
第4回　枕草子が生まれた歴史的背景
第5回　枕草子の文章
第6回　源氏物語の文学論～螢の巻～
第7回　源氏物語の「わたくしの別れ」～賢木の巻～
第8回　源氏物語の空蝉の思い～帚木・空蝉の巻～
第9回　源氏物語の髭黒北の方～真木柱の巻～
第10回　和泉式部という人
第11回　和泉式部日記
第12回　更級日記の作者
第13回　更級日記
第14回　摂州合邦辻～武士の妻～
第15回　与謝野晶子～君死にたまふことなかれ～

履修上の注意点

教科書

ﾌﾟﾘﾝﾄを用意する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70)　　小テスト ( )

授業中課題 ( )　　授業中発表等 ( )

参加度 (30)

試験はレポート試験とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学特講g（歌舞伎・浄瑠璃研究Ｉ）<Z>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　林 久美子

テーマ

安倍晴明の説話を読む

授業の到達目標

説話がどのように作られ、流布して行くのかを知る。京都の地名や寺院に親しむ。読解力を身に付ける。

授業の概要

中世以降の晴明伝承の中核にある『ホキ抄』に基づいた『安倍晴明物語』と、晴明伝説のバリエーションを読み、伝説の流布と人気の秘密について考える。時間が合えば、授業の一回分をゆかりの地で行う。

準備学習（予習・復習）

割り当てられた担当作品をきちんと読み、レジュメを作成する。

内　容

第1回　安倍晴明伝説の概要と授業の進め方
第2回　京都の安倍晴明伝説
第3回　『泣不動縁起』を読む①
第4回　〃　②
第5回　『安倍晴明物語』を読む①
第6回　〃　②
第7回　〃　③
第8回　〃　④
第9回　〃　⑤
第10回　『信太妻』を読む①
第11回　『信太妻』を読む②
第12回　夢枕獏と岡野玲子の『陰陽師』①
第13回　〃　②
第14回　〃　③
第15回　学外授業またはまとめ

履修上の注意点

教科書

陰陽師安倍晴明
著者：　志村有弘
出版社：角川ソフィア文庫
出版年：1999　　ISBN：　4-04-349001

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度　（ 30 ）
発表では作品を読み、分析する力を求めます。最終授業時に、発表内容を補足したレポートを提出してもらいます。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学特講h（歌舞伎・浄瑠璃研究Ⅱ）<Z>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　林 久美子

テーマ

浄瑠璃と歌舞伎について学ぶ

授業の到達目標

浄瑠璃と歌舞伎の特色を知り、日本を代表する伝統芸能について語れるようになる。

授業の概要

以下を予定していますが、内容を変更する場合があります。また、都合が合えば、授業の1回を劇場での見学・鑑賞に振り替えます。

準備学習（予習・復習）

下記URLなどを活用して下さい。また、メディアセンター所蔵のDVDやビデオなどで作品を鑑賞してください。参考書の他、活字になっている脚本も図書館に多数ありますので、読んでみて下さい。

内　容

第1回　浄瑠璃と歌舞伎の関係
第2回　出雲の阿国と南座のこと
第3回　女形の魅力
第4回　市川団十郎と江戸歌舞伎
第5回　歌舞伎十八番
第6回　人形浄瑠璃の歴史
第7回　坂田藤十郎と近松門左衛門
第8回　近松の世話物浄瑠璃①
第9回　近松の世話物浄瑠璃②
第10回　三大名作①
第11回　三大名作②
第12回　三大名作③
第13回　任侠劇『夏祭浪花鑑』
第14回　鶴屋南北の怪談劇
第15回　学外授業、またはまとめ

履修上の注意点

就活理由の欠席に関して特別な配慮はしません。（実習を除く）

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 60 ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 40 ）
授業中課題には、レポートと提出物が含まれます。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学特講i（近代文学研究Ⅲ）<Z>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　野村　幸一郎

テーマ

近現代のハイクとタンカ

授業の到達目標

明治以降の代表的な短歌と俳句を鑑賞する

授業の概要

恋、人生、家族など、テーマを設定し、明治以降の代表的な短歌・俳句を鑑賞していく

準備学習（予習・復習）

毎回・俳句の実作を宿題に出す予定出るので、しっかり作ってくること

内　容

第1回　概要の説明
第2回　「恋」を主題にしたタンカ
第3回　寺山修司の世界
第4回　「人生」を主題にしたハイクとタンカ
第5回　石川啄木のタンカ（1）
第6回　石川啄木のタンカ（2）
第7回　「日常」を主題にしたハイク
第8回　「日常」を主題にしたタンカ
第9回　「自然」を主題にしたハイク・タンカ
第10回　本学客員教授黛まどか先生による特別講義（日程変更の可能性あり）
第11回　「心象風景」を主題にしたハイク・タンカ
第12回　「老病死」を主題にしたハイク・タンカ
第13回　正岡子規のハイク
第14回　「家族」を主題にしたタンカ
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 60 ）　　授業中発表等　（　）

参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学特講j（近代文学研究Ⅳ）<Z>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　野村　幸一郎

テーマ

宮沢賢治の文学

授業の到達目標

宮沢賢治の文学を文明批判の書としてとらえ、読解を進めていく

授業の概要

宮沢賢治の童話は、現代に生きる私たちにも多くの問題を投げかけている。賢治童話の読解を通じて、彼が現代文明のどこに矛盾を感じていたか確認するとともに、賢治とともに、その矛盾を解決していく方法を考えていきたい。

準備学習（予習・復習）

授業で取り上げる作品はあらかじめ読んでくること。

内　容

第1回　宮沢賢治の生涯と文学
第2回　『グスコーブドリの伝記』を読む（1）
第3回　『グスコーブドリの伝記』を読む（2）
第4回　『グスコーブドリの伝記』を読む（3）
第5回　『オツベルと象』を読む（1）
第6回　『オツベルと象』を読む（2）
第7回　『オツベルと象』を読む（3）
第8回　本学客員教授、角野栄子先生による特別講義（日程変更の可能性あり）
第9回　『なめとこ山の熊』を読む（1）
第10回　『なめとこ山の熊』を読む（2）
第11回　『なめとこ山の熊』を読む（3）
第12回　『銀河鉄道の夜』を読む（1）
第13回　『銀河鉄道の夜』を読む（2）
第14回　『銀河鉄道の夜』を読む（3）
第15回　まとめ

履修上の注意点

グループワークには積極的に参加すること

教科書

作品で読む宮沢賢治
著者:
出版社: 白地社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学特講k（現代文学研究Ⅲ）〈Z〉**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　辻本　千鶴

テーマ

芥川龍之介と太宰治　――近代文学の自意識――

授業の到達目標

①小説を分析的に鑑賞・読解するための鑑賞眼や問題意識を養う。②他者の鑑賞や読解を柔軟に受け入れる理解力を養う。③作品に基づいて、論理的で説得性のある論を組み立てる力を養う。④自分の意見や疑問点などを他者に発信する能力を養う。

授業の概要

前半は芥川龍之介、後半は太宰治の短編小説を読む。グループでのワークショップや発表を随時取り入れる。

準備学習（予習・復習）

授業で扱う作品は通読すること。授業で扱う作品以外にも両作家の作品を読み、授業に対して独自の問題意識を養うこと。

内　容

第1回　概説　――近代文学の自意識――
第2回　芥川龍之介を読む 『藪の中』
第3回　芥川龍之介を読む 『開化の殺人』・『秋』
第4回　芥川龍之介を読む 『開化の殺人』・『秋』
第5回　芥川龍之介を読む 『海のほとり』・『蜃気楼』
第6回　芥川龍之介を読む 『海のほとり』・『蜃気楼』
第7回　芥川龍之介を読む 『玄鶴山房』
第8回　太宰治を読む 『千代女』・『水仙』
第9回　太宰治を読む 『駈込み訴え』
第10回　太宰治を読む 『おさん』・『ヴィヨンの妻』
第11回　太宰治を読む 『おさん』・『ヴィヨンの妻』
第12回　太宰治を読む 『男女同権』・『トカトントン』
第13回　太宰治を読む 『男女同権』・『トカトントン』
第14回　『或阿呆の一生』（芥川龍之介）と『人間失格』（太宰治）
第15回　まとめ

履修上の注意点

研究入門（基礎演習）で扱った以下の作品については、既読を前提に講義を進めます。内容把握が曖昧な人は時間外学習として読んでおいて下さい。芥川龍之介『地獄変』・『舞踏会』、太宰治『斜陽』・『人間失格』

教科書

使用しない。（プリント配布）
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

芥川龍之介全集
著者：　芥川龍之介
出版社：岩波書店
出版年：　　ISBN：

太宰治全集
著者：　太宰治
出版社：筑摩書房
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 20% ）　　授業中発表等　（ 20% ）
参加度　（ ）
試験は期末レポートとする。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学特講I（現代文学研究Ⅳ）<Z>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　辻本　千鶴

テーマ

小説のなかの「アメリカ」

授業の到達目標

①小説を分析的に読解・鑑賞するための鑑賞眼や問題意識を養う。②他者の鑑賞や読解を柔軟に受け入れる理解力を養う。③作品に基づいて、論理的で説得性のある論を組み立てる力を養う。④自分の意見や疑問点などを他者に発信する能力を養う。

授業の概要

近現代の文学作品のなかから、「アメリカ」に関わりのある作品を取り上げ、読解と鑑賞を試みる。その作業を通じて、明治以降、殊に第二次世界大戦後の日本と日本人について考える。主として講義形式で進めるが、随時、グループ活動や個人での発表を導入していく。

準備学習（予習・復習）

授業で扱う作品は積極的に通読すること。

内　容

第1回　概説　――小説のなかの「アメリカ」――
第2回　安岡章太郎『ガラスの靴』
第3回　安岡章太郎『ガラスの靴』
第4回　小島信夫『アメリカン・スクール』
第5回　小島信夫『アメリカン・スクール』
第6回　野坂昭如『アメリカひじき』
第7回　野坂昭如『アメリカひじき』
第8回　村上龍『限りなく透明に近いブルー』
第9回　村上春樹『風の歌を聴け』
第10回　村上春樹『風の歌を聴け』
第11回　南木佳士『ダイヤモンドダスト』
第12回　南木佳士『ダイヤモンドダスト』
第13回　安部和重『アメリカの夜』
第14回　安部和重『ニッポニアニッポン』
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない。（プリント配布）

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 20% ）　　授業中発表等　（ 20% ）

参加度　（　）

試験は期末レポートの形式とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学特講m（メディア・表現研究Ⅲ）〈Z〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　禧美　智章	

テーマ

アニメーションの読解

授業の到達目標

基本的な映像リテラシーを修得し、アニメーションの分析方法を身に付ける。

授業の概要

アニメーション作品を鑑賞した上で、講義、グループワーク（プレゼンテーション・ディスカッション）を通して、映像表現・アニメーションの読解法を学ぶ。なお、授業内容は受講生数、進行等で変更することがある。

準備学習（予習・復習）

指定されたテクスト、事前配布されたプリントを熟読したうえで、授業に臨むこと。普段から映画、アニメーションを批評的に鑑賞する態度を身につけてほしい。また、積極的に映画館に通ってほしい。

内　　容

第1回　ガイダンス、グループ決め
第2回　映像リテラシーの基礎〈1〉
第3回　映像リテラシーの基礎〈2〉
第4回　杉井ギサブロー『銀河鉄道の夜』
第5回　杉井ギサブロー『銀河鉄道の夜』
第6回　今敏『パプリカ』
第7回　今敏『パプリカ』
第8回　原恵一『カラフル』
第9回　原恵一『カラフル』
第10回　山田尚子『映画けいおん！』『たまこラブストーリー』
第11回　山田尚子『映画けいおん！』『たまこラブストーリー』
第12回　山田尚子『映画けいおん！』『たまこラブストーリー』
第13回　高畑勲『かぐや姫の物語』
第14回　高畑勲『かぐや姫の物語』
第15回　まとめ

履修上の注意点

講義中の私語やスマホの使用は禁止。大学生として相応しい態度で授業に臨むこと。グループワーク時の欠席は他のメンバーに迷惑をかけるので、授業にはきちんと出席すること。

教科書

パプリカ
著者：　筒井康隆
出版社：新潮社
出版年：2002　　ISBN：　978-4101171401

カラフル
著者：　森絵都
出版社：文藝春秋
出版年：2007　　ISBN：　978-4167741013

参考書

たまこラブストーリー ノベライズ
著者：　一之瀬六樹
出版社：京都アニメーション
出版年：2014　　ISBN：　978-4907064228

アニメーションの想像力:文字テクスト/映像テクストの想像力の往還
著者：　禧美智章
出版社：風間書房
出版年：2015　　ISBN：　978-4759920895

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 80 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ ）
各作品ごとに、課題シートの提出を求める（80%）。担当作品に関する意見発表（あるいは小レポート）を求める（20%）。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学特講n（メディア・表現研究Ⅳ）〈Z〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

アニメーションの読解

授業の到達目標

基本的な映像リテラシーを修得し、アニメーションの分析方法を身に付ける。

授業の概要

アニメーション作品を鑑賞した上で、講義、グループワーク（プレゼンテーション・ディスカッション）を通して、映像表現・アニメーションの読解法を学ぶ。なお、授業内容は受講生数、進行等で変更することがある。

準備学習（予習・復習）

指定されたテクスト、事前配布されたプリントを熟読したうえで、授業に臨むこと。普段から映画、アニメーションを批評的に鑑賞する態度を身につけてほしい。また、積極的に映画館に通ってほしい。

内　　容

第1回　ガイダンス、グループ決め
第2回　映像リテラシーの基礎〈1〉
第3回　映像リテラシーの基礎〈2〉
第4回　杉井ギサブロー『銀河鉄道の夜』
第5回　杉井ギサブロー『銀河鉄道の夜』
第6回　今敏『パプリカ』
第7回　今敏『パプリカ』
第8回　原恵一『カラフル』
第9回　原恵一『カラフル』
第10回　山田尚子『映画けいおん！』『たまこラブストーリー』
第11回　山田尚子『映画けいおん！』『たまこラブストーリー』
第12回　山田尚子『映画けいおん！』『たまこラブストーリー』
第13回　高畑勲『かぐや姫の物語』
第14回　高畑勲『かぐや姫の物語』
第15回　まとめ

履修上の注意点

講義中の私語やスマホの使用は禁止。大学生として相応しい態度で授業に臨むこと。グループワーク時の欠席は他のメンバーに迷惑をかけるので、授業にはきちんと出席すること。

教科書

パプリカ
著者：　筒井康隆
出版社：新潮社
出版年：2002　　ISBN：　978-4101171401

カラフル
著者：　森絵都
出版社：文藝春秋
出版年：2007　　ISBN：　978-4167741013

参考書

たまこラブストーリー ノベライズ
著者：　一之瀬六樹
出版社：京都アニメーション
出版年：2014　　ISBN：　978-4907064228

アニメーションの想像力:文字テクスト/映像テクストの想像力の往還
著者：　禧美智章
出版社：風間書房
出版年：2015　　ISBN：　978-4759920895

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 80 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ ）
各作品ごとに、課題シートの提出を求める（80%）。担当作品に関する意見発表（あるいは小レポート）を求める（20%）。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学特講o（アナウンス技術研究Ｉ）<Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　荒尾　千春	

テーマ

聴き手の心を掴む表現を学ぶ～印象、聴き方、話し方を向上させてプレゼンやコミュニケーション上手になる～

授業の到達目標

社会で求められる表現力やコミュニケーション力を学ぶ。また、考える、書く、ディスカッション、発表を繰り返し行うので、表現することに慣れる。アナウンス技術（（プレゼン力）の向上はもちろんのこと、就職活動の際にも意識すべき点がわかるようになる。印象・聴き方・話し方などの基礎を体得することを目的としている。

授業の概要

アナウンス技術の基礎が身に着くように、毎回、発声や発音のトレーニングを行う。また、大勢の前でも1対1の際にも求められる「わかりやすい話の構成の仕方、要素」などを体得できるようにワークやディスカッション、発表の機会も多く取り入れる。「聴く、書く、話す」を積極的に行うよう心がけて受講して欲しい。

準備学習（予習・復習）

ニュースを見る、あるいは、新聞を読むなどして、世の中の流れを知り、情報を入手するよう努力をすること。授業で学んだことは日常で実践してみる。

内　容

第1回　オリエンテーション　講義の目的、講義の進め方
第2回　表現力を向上させるために必要な事とは　～アナウンススキル＋振る舞い、姿勢、戦略的な演出～
第3回　発声・発音のトレーニング～①声の力を生かす　②発声のメカニズム　③メリハリの効いた発音～
第4回　表現豊かな声のトレーニング　～①驚き・哀しみ、怒り、楽しみの表現　②相手に伝わる話し方「物語を読む」～
第5回　聴くスキル～会話（コミュニケーション）上手は聞き上手～
第6回　話の組み立て方～わかりやすい話の構成をフレームワークに入れて体得～
第7回　わかりやすい話に必要な言葉の表現や例え話とは～3＋1の要素～
第8回　言葉の表現力を向上させるトレーニング～マンダラートに書き出し、事例集に～
第9回　聴き手を惹きつける話の導入とクロージング
第10回　効果的な自己紹介～ライフラインチャートで表現～
第11回　自分の思いが伝わるように「話にタイトル」をつける～端的に思いを伝える～
第12回　緊張緩和の方法パワーポイントの効果的な使い方
第13回　プレゼン大会①
第14回　プレゼン大会②
第15回　講義のまとめ

履修上の注意点

講義は、「聴く、話す」などのグループワークを中心に進めるため、積極的な参加姿勢・態度が求められる。理論はもちろんアナウンス技術の体得を目的とした演習が多いので、続けての受講が望ましい。毎回、授業の最後に、学んだことの小レポートの提出も求める。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 25 ）
参加度　（ 25 ）	

講義の気づきレポート・期末レポート　50%、プレゼン発表25%、参加度25%

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学特講p（アナウンス技術研究Ⅱ）<Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　荒尾　千春	

テーマ

言葉の表現力を向上させて思いが伝わる話し方を体得する～様々なトレーニングや視点を基に表現する力を磨く～

授業の到達目標

伝えるではなく、伝わる話にするために必要な要素を学ぶと共に、自分の意見を効果的に伝えることの重要性を体感する。また、他者の発表をフィードバックすることで、プレゼンに必要なポイントを客観的に学ぶことができる。さらに、語彙や表現力を豊かにするための様々なトレーニング方法を学ぶなど、アナウンス力（プレゼン力）を総合的に向上させる事を目的とする。

授業の概要

アナウンス技術演習Ⅰを発展させた内容である。語彙力を高めるための様々なトレーニングを行う。またワークを取り入れながら、自分の意見が言えるようにトレーニングをする。アナウンス技術が定着するよう、毎回発声や発音も行う。

準備学習（予習・復習）

ニュースを見る、あるいは、新聞を読むなどして、世の中の流れを知り、情報を入手するよう努力をすること。授業で学んだことは日常で実践してみる。

内　容

第1回　オリエンテーション　講義の目的、講義の進め方
第2回　表現力を向上させるために必要な事（アナウンス演習Ⅰの復習）～振る舞い、姿勢、戦略的な演出、聴き取りやすい発声・発音、わかりやすい話に必要な要素～
第3回　言葉の表現力を向上するトレーニング～ゲーム感覚で頭を柔軟にし、言葉の表現力や瞬発力を高める～
第4回　語彙を広げ、共感が得られる表現とは～共通点を表現するトレーニング～
第5回　テレビ・ラジオのアナウンサーの実況トレーニングで表現を磨く～観察力を高める必要性を知る～
第6回　自分の意見を伝える～常に問題意識をもつ～
第7回　ニュースを評論する～ニュース素材を使用し、自分の意見を表す～
第8回　自分史をつくって、表現する～自分年表を作成し、振り返る～
第9回　自分の価値観を表現する～年表から見えてきたことを分かりやすく伝える～
第10回　プレゼンに必要な要素～ノンバーバルの意識を高める、緊張緩和の方法～
第11回　思いを伝える効果的な道具
第12回　プレゼン大会①＋フィードバック
第13回　プレゼン大会②＋フィードバック
第14回　プレゼン大会③＋フィードバック
第15回　褒めるトレーニング講義のまとめ

履修上の注意点

講義は、「聴く、話す」などのグループワークを中心に進めるため、積極的な参加姿勢・態度が求められる。理論はもちろんアナウンス技術の体得を目的とした演習が多いので、続けての受講が望ましい。毎回、授業の最後に、学んだことの小レポートの提出も求める。アナウンス技術演習Ⅰを発展させた内容のため、できればアナウンス技術演習Ⅰを受講後に参加した方が好ましい。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（ 25 ）
参加度　（ 25 ）
講義の気づきレポート・期末レポート　50%、プレゼン発表25%、参加度25%

2016 Syllabus

科 目 名　**書論特講a**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　谷川 雅夫

テーマ

様々な書道理論を幅広く学ぶことにより、自らの書道に対する考えを確立する。

授業の到達目標

日本の近代における重要な書論の内容を理解する。

授業の概要

取り上げた作者の文章を読み、その作品等関連資料を紹介する。

準備学習（予習・復習）

授業内容を復習する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　西川寧の書論を読む①
第3回　西川寧の書論を読む②
第4回　吉田苞竹の書論を読む①
第5回　吉田苞竹の書論を読む②
第6回　吉川幸次郎の書論を読む①
第7回　吉川幸次郎の書論を読む②
第8回　内藤湖南の書論を読む①
第9回　内藤湖南の書論を読む②
第10回　山本發次郎の書論を読む①
第11回　山本發次郎の書論を読む②
第12回　會津八一の書論を読む①
第13回　會津八一の書論を読む②
第14回　中林梧竹の書論を読む①
第15回　中林梧竹の書論を読む②

履修上の注意点

積極的な参加を望む。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 10% ）　　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 20% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**書論特講b**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　谷川 雅夫

テーマ

様々な書道理論を幅広く学ぶことにより、自らの書道に対する考えを確立する。

授業の到達目標

中国・日本の代表的な書論の読解を通して、書道に対する分析を深め、鑑賞能力を高める。

授業の概要

取り上げた作者の文章を読み、その作品等関連資料を紹介する。

準備学習（予習・復習）

授業内容を復習する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　書譜を読む①
第3回　書譜を読む②
第4回　書譜を読む③
第5回　書譜を読む④
第6回　書譜を読む⑤
第7回　書譜を読む⑥
第8回　才葉抄を読む①
第9回　才葉抄を読む②
第10回　才葉抄を読む③
第11回　才葉抄を読む④
第12回　蘇軾「東坡題跋」を読む①
第13回　蘇軾「東坡題跋」を読む②
第14回　黄庭堅「山谷題跋」を読む①
第15回　黄庭堅「山谷題跋」を読む②　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

積極的な参加を望む。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 10% ）　　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 20% ）

Syllabus

科 目 名　**書論特講c**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**書論特講d**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**現代書研究Ⅰ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　中村　史朗	

テーマ

今日における書のあり方を総合的に考察する。現代社会において、個の表現としての書は、どのような方向を求めているのか、また書が仮に社会性を持つとはどのようなことなのか、実作、鑑賞の両面から検討したい。

授業の到達目標

近百年の日本において、「漢字仮名交じりの書」「少字数書」「前衛書」など、従来にない新傾向の書が生まれた。これらが運動のかたちをとって大きな広がりを見せたのはどのような背景があったのかを知り、合わせて各々の基礎的な表現技法を実作によって習得する。また作品を制作する上で重要な、「主題の設定」とはどのようなことなのか、各回の授業を通じて履修者個々が自身の制作において明確にできるようにする。

授業の概要

近百年の日本の書を概観し、新傾向の書の成立の背景・根拠を探る。また「漢字仮名交じりの書」「少字数書」などの基礎的技法に習熟する。実習に講義、発表、討論をまじえ、履修者の積極的な授業参加をうながす。

準備学習（予習・復習）

作品制作を中心とするが、書き上げたものを相互に批評したり、指導の場における評価のあり方を検討する場を設ける。授業意外に積極的に習作にはげみ、自他の作品の批評・評価に取り組むこと。

内　容

第1回　現代書の諸相(1)　近百年の日本の書。書が会場で鑑賞されるということについて。
第2回　現代書の諸相(2)　戦後の新傾向の書を中心に。
第3回　現代の書と古典　古典の技法はどのようにして現代の書に生かされるのか。
第4回　現代書の制作　意図と技法、用具・用材。
第5回　漢字仮名交じりの書(1)　概観。漢字仮名交じりの書の成果と課題。
第6回　漢字仮名交じりの書(2)　言文一致表記の日本語をどのように書くのか。
第7回　漢字仮名交じりの書(3)　古典の技法を生かして①。
第8回　漢字仮名交じりの書(4)　古典の技法を生かして②。
第9回　漢字仮名交じりの書(5)　素材と技法の関係を考える①。
第10回　漢字仮名交じりの書(6)　素材と技法の関係を考える②。
第11回　少字数の書(1)　少字数の書が重視される背景。
第12回　少字数の書(2)　大字表現のねらい。
第13回　少字数の書(3)　特有の技法を学ぶ。用具・用材を工夫する。
第14回　現代の書ー多様な表現ー　さまざまな素材を用いて。
第15回　現代の書ー多様な表現ー　新しい発表のかたち。

履修上の注意点

実習を中心とするので、各回毎に指示する用具・用材を忘れず準備すること。大幅な遅刻は欠席として処理する。各回のテーマに沿って自主的に作品制作に取り組むなど、積極的に授業に取り組んでほしい。

教科書

参考書

詩文の象
著者:　小倉釣雲　他
出版社:　二玄社
出版年:　　ISBN:

詩人の書
著者:　疋田寛吉
出版社:　二玄社
出版年:　　ISBN:

a10203f110

文士の筆跡(1)〜(5)

著者:　瀬沼茂樹　他

出版社: 二玄社

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 30 ）

「授業中課題」には、授業中のテーマに沿って指示する宿題の制作物も含んでいる。

2016 Syllabus

科 目 名　**現代書研究Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　池田 利広

テーマ

書作品の鑑賞・分析を通して、それをいかに創作につなげるか考慮・実践する。

授業の到達目標

書技法の習得と創作への手順を知り、独自の作品作りをめざす。

授業の概要

調和体と漢字の書を取りあげ、鑑賞・分析・実技を通して作品制作を行う。

準備学習（予習・復習）

復習は毎時間十分に行い、特に新しい内容に関しては習熟度を高める。各作品の制作についてレポートするため、各授業で研究した内容を整理する。

内　容

第1回　オリエンテーション（レポートの内容などについての説明）
第2回　漢字作品の鑑賞と分析①
第3回　漢字作品の鑑賞と分析②
第4回　技法の習得・臨書①
第5回　技法の習得・臨書②
第6回　草稿作り
第7回　作品制作①
第8回　作品制作②
第9回　批評会
第10回　調和体作品の鑑賞と分析
第11回　技法の習得・臨書
第12回　草稿作り
第13回　作品制作
第14回　作品制作
第15回　批評会

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と中途退出をしないように。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30% ）
課題提出 40%、レポート 30%

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅲ＜＊a＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　福嶋　昭治

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

平安時代を中心とした古典文学の卒業論文作成の完成ために、必要な文献検索・論文読解などや、各自の卒業論文の構造の具体的な検討などを通じて、卒業論文を完成する。

授業の概要

3回生と合同で授業を進める。3回生は、4回生の発表・授業参加姿勢などから卒業論文作成のイメージを固め、4回生は、3回生での学修を振り返りつつ具体的な論文作成を進め完成させる。3・4回生の相互の関わりが4回生における論文作成と完成に資するように授業を展開する。必要に応じて、学外授業も実施する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　卒業論文の進捗状況の報告
第2回　中間発表について
第3回　中間発表要旨の作成
第4回　同上
第5回　中間発表
第6回　卒業論文作成の課題確認と作成方針の確立
第7回　同上
第8回　同上
第9回　同上
第10回　同上
第11回　同上
第12回　卒業論文の構造確認と要旨作成
第13回　同上
第14回　同上
第15回　全体総括

履修上の注意点

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業ごと、学生各自のテーマごとに必要なものを示す。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 70 ）

参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅲ＜＊b＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　林　久美子

テーマ

古典文学研究（中・近世）

授業の到達目標

古典文学の研究方法を学び、自分に合った作品とテーマを選ぶ

授業の概要

卒論作成に向けて進める。演習Ｉと合同。

準備学習（予習・復習）

１，作品を熟読する。２，問題意識を持つ。３，図書館に足しげく通う。４，表現力を磨く。

内　　容

第1回　授業の進め方について
第2回　卒論で取り上げたい作品について発表する
第3回　同上
第4回　同上
第5回　同上
第6回　同上
第7回　文献を収集し、論文を読む
第8回　同上
第9回　同上
第10回　作品の構造や成立、テーマに迫るための発表
第11回　同上
第12回　同上
第13回　同上
第14回　同上
第15回　前期の総括と夏休みの課題について

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）
参加度については、授業の到達目標に貢献する姿勢も含む

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅲ＜＊c＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　　辻本　千鶴

テーマ

卒業論文作成

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて議論を積み重ね、着実に成果を上げていくことを目標とする。

授業の概要

演習形式。受講生が選んだ作家・作品についての研究発表を中心に進める。

準備学習（予習・復習）

自分の担当でなくとも、発表作品を通読してから出席すること。

内　　容

第1回　講義　卒業論文作成に向けて
第2回　受講生による発表（1）
第3回　受講生による発表（2）
第4回　受講生による発表（3）
第5回　受講生による発表（4）
第6回　受講生による発表（5）
第7回　受講生による発表（6）
第8回　受講生による発表（7）
第9回　受講生による発表（8）
第10回　受講生による発表（9）
第11回　受講生による発表（10）
第12回　発表予備日
第13回　ワーク・ショップ
第14回　ワーク・ショップ
第15回　まとめ

履修上の注意点

研究発表の取り組みを重視します。積極的に自分のテーマを探し、見つけて下さい。

教科書

（使用しない。）

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 40% ）

参加度　（ 20% ）

試験はレポート形式。発表の内容を論文にして、最終授業日に提出して下さい。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅲ＜＊d＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　野村　幸一郎

テーマ

日本近現代文学の研究

授業の到達目標

卒業研究についてストーリーの分析までの完成を目指す

授業の概要

卒業研究の進捗状況を、受講生に報告してもらう予定である

準備学習（予習・復習）

卒業研究をちゃんと進めていくこと

内　容

第1回　概要説明
第2回　卒業論文作成に向けての注意
第3回　受講生による発表
第4回　受講生による発表
第5回　受講生による発表
第6回　受講生による発表
第7回　受講生による発表
第8回　受講生による発表
第9回　受講生による発表
第10回　受講生による発表
第11回　受講生による発表
第12回　受講生による発表
第13回　受講生による発表
第14回　受講生による発表
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題（　）　　授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅲ＜＊e＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　安達　太郎	

テーマ

卒業論文作成

授業の到達目標

1）議論をとおして自らの考えを磨き上げていく。2）自分のテーマだけでなく，他の学生のテーマについても強い関心を持って議論に参加する。

授業の概要

卒業論文作成に向けて報告と議論を繰り返して，着実に成果を上げていく。

準備学習（予習・復習）

直接関係がある，ないにかかわらず，学術論文をたくさん読んでください。最初はまったく理解できないかもしれませんが，気にしないで。論文を読む目的は内容を理解するだけではありません。書き方などについてもイメージが明確になってきます。

内　　容

第1回　導入
第2回　受講生による第１回報告（1）
第3回　受講生による第１回報告（2）
第4回　受講生による第１回報告（3）
第5回　受講生による第１回報告（4）
第6回　受講生による第２回報告（1）
第7回　受講生による第２回報告（2）
第8回　受講生による第２回報告（3）
第9回　受講生による第２回報告（4）
第10回　受講生による第３回報告（1）
第11回　受講生による第３回報告（2）
第12回　受講生による第３回報告（3）
第13回　受講生による第３回報告（4）
第14回　まとめ1
第15回　まとめ2

履修上の注意点

他のゼミ生のテーマにも関心を持って，積極的に質疑応答に関わってください。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅳ＜＊a＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　福嶋 昭治

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

平安時代を中心とした古典文学の卒業論文作成の完成ために、必要な文献検索・論文読解などや、各自の卒業論文の構造の具体的な検討などを通じて、卒業論文を完成する。

授業の概要

3回生と合同で授業を進める。3回生は、4回生の発表・授業参加姿勢などから卒業論文作成のイメージを固め、4回生は、3回生での学修を振り返りつつ具体的な論文作成を進め完成させる。3・4回生の相互の関わりが4回生における論文作成と完成に資するように授業を展開する。必要に応じて学外授業を実施する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　卒業論文の進捗状況の報告
第2回　中間発表について
第3回　中間発表要旨の作成
第4回　同上
第5回　中間発表
第6回　卒業論文作成の課題確認と作成方針の確立
第7回　同上
第8回　同上
第9回　同上
第10回　同上
第11回　同上
第12回　卒業論文の構造確認と要旨作成
第13回　同上
第14回　同上
第15回　全体総括

履修上の注意点

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業ごと、学生各自のテーマごとに必要なものを示す。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ 70 ）

参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅳ＜＊b＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　林 久美子

テーマ

古典文学研究（中・近世）

授業の到達目標

卒業論文作成

授業の概要

卒論を完成させる。演習Ⅱと同時開講なので、間に3回生の発表も行う。なお、1回分を特別授業や学外研修に振り振り替える場合がある。

準備学習（予習・復習）

1，作品の読みを深め、問題意識を育てる　2，説得力を高めるために資料を収集する　3，十分な考察を行う　4，執筆に時間と労力を注ぐ

内　　容

第1回　進捗状況の報告
第2回　中間発表の骨格を考える
第3回　中間発表の要旨作成
第4回　同上
第5回　中間発表（時期は未確定）
第6回　中間発表を受けて、今後の進め方を詰める
第7回　執筆を進め、互に批評を行う
第8回　同上
第9回　同上
第10回　同上
第11回　同上
第12回　同上
第13回　『国文橘』の要旨を作成・修正する
第14回　同上
第15回　一年間の取り組みの総括

履修上の注意点

就活は

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）
参加度には、ゼミの活性化や3回生の指導など、授業への貢献を含みます

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅳ＜＊c＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　　辻本　千鶴

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

報告，議論，修正というサイクルをくりかえしながら、卒業論文を完成させることを目標とする。

授業の概要

演習形式。受講生が選んだ作家・作品についての研究発表を中心とする。

準備学習（予習・復習）

自分の担当でなくとも、発表作品を通読してから出席すること。

内　　容

第1回　講義　卒業論文の完成にむけて
第2回　講義　卒業論文の完成にむけて
第3回　卒業論文中間発表会（日程未定）
第4回　受講生による発表（1）
第5回　受講生による発表（2）
第6回　受講生による発表（3）
第7回　受講生による発表（4）
第8回　受講生による発表（5）
第9回　受講生による発表（6）
第10回　受講生による発表（7）
第11回　受講生による発表（8）
第12回　受講生による発表（9）
第13回　講義　論文執筆についての注意事項
第14回　講義　卒業生の卒論を教材に
第15回　『国文橘』掲載用原稿執筆

履修上の注意点

教科書

（使用しない。）

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 70% ）

参加度　（ 30% ）

ゼミでの発表や参加度は演習Ⅳの評価とする。卒業論文の成果は単独の別枠で評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅳ＜＊d＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　野村　幸一郎

テーマ

日本近現代文学の研究

授業の到達目標

卒業研究の完成

授業の概要

１２月の卒業論文提出に向けての最後の学期になる。論文の結論部分を受講生全員に方向し、質疑応答を通じて、より水準の高い論文の作成を目指す

準備学習（予習・復習）

発表の準備はかならずきちんと行うこと

内　容

第1回　受講生による発表
第2回　受講生による発表
第3回　受講生による発表
第4回　受講生による発表
第5回　受講生による発表
第6回　受講生による発表
第7回　受講生による発表
第8回　受講生による発表
第9回　受講生による発表
第10回　受講生による発表
第11回　受講生による発表
第12回　卒業研究提出に向けての指導
第13回　「国文橘」掲載原稿の作成
第14回　卒業に向けての諸連絡と口頭試問の日程連絡
第15回　最終講義

履修上の注意点

発表をしなかった場合は単位を認定しない

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ６０ ）

参加度　（ ４０ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語日本文学演習Ⅳ＜＊e＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　　安達　太郎

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

1）卒業論文の作成をとおして，自らの力でテーマを発見し，そのテーマにふさわしい方法論を確定し，成果を上げるという活動の持つ意味を理解する。2）他の受講生のテーマについても，自らのテーマに対するのと同様の関心を持ち，能動的に関わっていく。

3）資料を的確に用いて，自らの考察を論文というかたちで文章化する。

授業の概要

報告，議論，修正というサイクルをくりかえしながら，卒業論文を完成させる。

準備学習（予習・復習）

直接関係がある，ないにかかわらず，学術論文をたくさん読んでください。最初はまったく理解できないかもしれませんが，気にしないで。論文を読む目的は内容を理解するだけではありません。書き方などについてもイメージが明確になってきます。

内　　容

第1回　導入
第2回　受講生による第１回報告（1）
第3回　受講生による第１回報告（2）
第4回　受講生による第１回報告（3）
第5回　受講生による第１回報告（4）
第6回　受講生による第２回報告（1）
第7回　受講生による第２回報告（2）
第8回　受講生による第２回報告（3）
第9回　受講生による第２回報告（4）
第10回　受講生による第３回報告（1）
第11回　受講生による第３回報告（2）
第12回　受講生による第３回報告（3）
第13回　受講生による第３回報告（4）
第14回　まとめ1
第15回　めとめ2

履修上の注意点

他のゼミ生のテーマにも関心を持って，積極的に質疑応答に関わってください。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <a>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　福嶋 昭治

テーマ

卒業論文の作成指導。

授業の到達目標

卒業論文の完成。

授業の概要

卒業論文作成の実際的指導を行う。授業の時間割を決めることなく、個人指導を原則として、適宜必要に応じた指導を行う。

準備学習（予習・復習）

履修学生自身が積極的に課題を見つけ解決していこうとする意欲と、その成果を論文にまとめる粘り強い意志が求められる。

内　容

第1回　具体的な授業計画を前もって決めることはなく、必要に応じて、個人指導を原則として、適宜の指導を卒業論文完成まで継続する。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　林　久美子	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <c>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　辻本　千鶴	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <d>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　野村　幸一郎

テーマ

卒業論文の作成

授業の到達目標

日本近現代文学および諸メディアの中から研究対象を選び、卒業研究を完成させる

授業の概要

ゼミでも発表を行うがそれと並行して個人指導を行っていく

準備学習（予習・復習）

指導の過程で課題を指示する

内　容

第1回　状況に応じて随時、指導を行っていく

履修上の注意点

与えられた課題は確実にこなしていくこと

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 100 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <e>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　安達　太郎	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　尾西　正成	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**作品研究Ⅰ〈＊a〉**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　尾西　正成

テーマ

漢字作品の創作研究

授業の到達目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。

授業の概要

臨書作品、倣書作品の制作から、古典をもとにしての創作作品の制作。各自の持ちよった作品の互評を中心に展開する。

準備学習（予習・復習）

作品は授業時外に十分書き込み授業に持ち寄ること、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

内　容

第1回　古典臨書作品の制作（半切）
第2回　古典臨書作品の制作（半切）
第3回　古典臨書作品の制作（連落）
第4回　古典臨書作品の制作（連落）
第5回　古典臨書作品の制作（２尺×８尺）
第6回　古典臨書作品の制作（２尺×６尺×２幅）
第7回　古典臨書作品の制作（２尺×６尺×４福）
第8回　倣書作品制作の準備（詩文の決定）
第9回　倣書作品制作の準備（形式、用具・用材の工夫）
第10回　倣書作品制作の準備（集字など）
第11回　屏風作品の研究
第12回　巻子・帖作品の研究
第13回　倣書作品の相互鑑賞
第14回　倣書作品の準備（６曲屏風）
第15回　倣書作品の制作（卒業制作に向けて）

履修上の注意点

教科書

参考書

各自の取り組む古典の法帖、字書など。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（ 20 ）

参加度　（ 30 ）

作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**作品研究Ⅰ〈＊b〉**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　尾西　正成

テーマ

漢字作品の創作研究

授業の到達目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。

授業の概要

臨書作品、倣書作品の制作から、古典をもとにしての創作作品の制作。各自の持ちよった作品の互評を中心に展開する。

準備学習（予習・復習）

作品は授業時外に十分書き込み授業に持ち寄ること、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

内　容

第1回　古典臨書作品の制作（半切）
第2回　古典臨書作品の制作（半切）
第3回　古典臨書作品の制作（連落）
第4回　古典臨書作品の制作（連落）
第5回　古典臨書作品の制作（２尺×８尺）
第6回　古典臨書作品の制作（２尺×６尺×２幅）
第7回　古典臨書作品の制作（２尺×６尺×４福）
第8回　倣書作品制作の準備（詩文の決定）
第9回　倣書作品制作の準備（形式、用具・用材の工夫）
第10回　倣書作品制作の準備（集字など）
第11回　屏風作品の研究
第12回　巻子・帖作品の研究
第13回　倣書作品の相互鑑賞
第14回　倣書作品の準備（６曲屏風）
第15回　倣書作品の制作（卒業制作に向けて）

履修上の注意点

教科書

参考書

各自の取り組む古典の法帖、字書など。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（ 20 ）

参加度　（ 30 ）

作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**作品研究Ⅱ〈＊a〉**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　尾西　正成

テーマ

漢字作品の創作研究

授業の到達目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。創作活動を通して創る喜びを感得する。

授業の概要

卒業制作の作品制作。各自の持ち寄った作品の互評を中心に展開する。

準備学習（予習・復習）

授業時間外で十分書き込み、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

内　容

第1回　卒業制作の準備、内容決定。
第2回　卒業制作のテーマについて
第3回　屏風、巻子、帖などでの創作方法
第4回　屏風、巻子、帖などでの創作研究1
第5回　屏風、巻子、帖などでの創作研究2
第6回　屏風、巻子、帖などでの創作研究3
第7回　卒業制作の草稿制作
第8回　卒業制作作品の構想発表
第9回　卒業制作作品の制作1
第10回　卒業制作作品の制作2
第11回　卒業制作作品の制作3
第12回　卒業制作の完成。
第13回　互評、反省会。
第14回　自由制作。
第15回　自由制作　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

各自が取り込む古典の法帖、字書など

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（ 20 ）

参加度　（ 30 ）

作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**作品研究Ⅱ〈＊b〉**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　尾西　正成

テーマ

漢字作品の創作研究

授業の到達目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。創作活動を通して創る喜びを感得する。

授業の概要

卒業制作の作品制作。各自の持ち寄った作品の互評を中心に展開する。

準備学習（予習・復習）

授業時間外で十分書き込み、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

内　容

第1回　卒業制作の準備、内容決定。
第2回　卒業制作のテーマについて
第3回　屏風、巻子、帖などでの創作方法
第4回　屏風、巻子、帖などでの創作研究1
第5回　屏風、巻子、帖などでの創作研究2
第6回　屏風、巻子、帖などでの創作研究3
第7回　卒業制作の草稿制作
第8回　卒業制作作品の構想発表
第9回　卒業制作作品の制作1
第10回　卒業制作作品の制作2
第11回　卒業制作作品の制作3
第12回　卒業制作の完成。
第13回　互評、反省会。
第14回　自由制作。
第15回　自由制作　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

各自が取り込む古典の法帖、字書など

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（ 20 ）

参加度　（ 30 ）

作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**作品研究Ⅲ＜＊a＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　橋本 二三

テーマ

古典に基づく創作

授業の到達目標

基礎からの展開。自らの創作力の養成。

授業の概要

各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

準備学習（予習・復習）

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

内　容

第1回　倣書の方法について
第2回　各自選択の古筆による集字ノートの点検
第3回　小字作品の制作と鑑賞　（1）1首
第4回　小字作品の制作と鑑賞　（2）2首
第5回　小字作品の制作と鑑賞　（3）4首
第6回　小字作品の制作と鑑賞　（4）8首
第7回　小字の額型式作品の制作と鑑賞(1)
第8回　小字の額型式作品の制作と鑑賞(2)
第9回　小字の額型式作品の制作と鑑賞(3)
第10回　小字の額型式作品の制作と鑑賞(4)
第11回　中・大字作品の制作と鑑賞　（1）
第12回　中・大字作品の制作と鑑賞　（2）
第13回　各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(1)
第14回　各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(2)
第15回　各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(3)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題 （ 70 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**作品研究Ⅲ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　橋本　二三	

テーマ

古典に基づく創作

授業の到達目標

基礎からの展開。自らの創作力の養成。

授業の概要

各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

準備学習（予習・復習）

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

内　　容

第1回　倣書の方法について
第2回　各自選択の古筆による集字ノートの点検
第3回　小字作品の制作と鑑賞　（1）1首
第4回　小字作品の制作と鑑賞　（2）2首
第5回　小字作品の制作と鑑賞　（3）4首
第6回　小字作品の制作と鑑賞　（4）8首
第7回　小字の額型式作品の制作と鑑賞(1)
第8回　小字の額型式作品の制作と鑑賞(2)
第9回　小字の額型式作品の制作と鑑賞(3)
第10回　小字の額型式作品の制作と鑑賞(4)
第11回　中・大字作品の制作と鑑賞　（1）
第12回　中・大字作品の制作と鑑賞　（2）
第13回　各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(1)
第14回　各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(2)
第15回　各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(3)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 10 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**作品研究Ⅳ＜＊a＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　橋本 二三

テーマ

古典に基づく創作

授業の到達目標

基礎からの展開。自らの創作力の養成。

授業の概要

各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

準備学習（予習・復習）

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

内　容

第1回　主体的作品制作と鑑賞　（1） 配字と構成
第2回　主体的作品制作と鑑賞　（2） 配字と構成
第3回　主体的作品制作と鑑賞　（3） 配字と構成
第4回　主体的作品制作と鑑賞　（4） 運筆のリズムと線質
第5回　主体的作品制作と鑑賞　（5） 運筆のリズムと線質
第6回　主体的作品制作と鑑賞　（6） 運筆のリズムと線質
第7回　主体的作品の習熟　（1） 古筆の再確認
第8回　主体的作品の習熟　（2） 変化と統一
第9回　主体的作品の習熟　（3） 墨法効果
第10回　制作作品の相互研究　≪中間発表≫
第11回　作品の完成に向けて　（1） 全体構成の研究
第12回　作品の完成に向けて　（2） 線質の確認と墨法効果
第13回　作品の完成に向けて　（3） 作品の選別
第14回　いろいろな形式の作品づくり（自作の資料を基にして）（1）
第15回　いろいろな形式の作品づくり（自作の資料を基にして）（2）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題 （ 70 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**作品研究Ⅳ ＜＊b＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　　橋本　二三

テーマ

古典に基づく創作

授業の到達目標

基礎からの展開。自らの創作力の養成。

授業の概要

各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

準備学習（予習・復習）

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

内　　容

第1回　主体的作品制作と鑑賞　（1） 配字と構成
第2回　主体的作品制作と鑑賞　（2） 配字と構成
第3回　主体的作品制作と鑑賞　（3） 配字と構成
第4回　主体的作品制作と鑑賞　（4） 運筆のリズムと線質
第5回　主体的作品制作と鑑賞　（5） 運筆のリズムと線質
第6回　主体的作品制作と鑑賞　（6） 運筆のリズムと線質
第7回　主体的作品の習熟　（1） 古筆の再確認
第8回　主体的作品の習熟　（2） 変化と統一
第9回　主体的作品の習熟　（3） 墨法効果
第10回　制作作品の相互研究　≪中間発表≫
第11回　作品の完成に向けて　（1） 全体構成の研究
第12回　作品の完成に向けて　（2） 線質の確認と墨法効果
第13回　作品の完成に向けて　（3） 作品の選別
第14回　いろいろな形式の作品づくり（自作の資料を基にして）（1）
第15回　いろいろな形式の作品づくり（自作の資料を基にして）（2）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題 （ 70 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　増渕　徹	

テーマ

京都の歴史を材料に、歴史の学び方を身につける

授業の到達目標

素材としての史料を読むことにはじまり、レポートの作成・報告・修正・完成に至るまでの一連の作業手順を理解し、それを自力で展開できる基礎能力をつけることが第一の目標である。レポートの作成に際しては担当部分の現地の見学・図化・観察を必須の条件としており、空間の歴史性への関心をもつことと、それを観察する力の向上が第二の目標になる。

授業の概要

1780（安永9）年刊の『都名所図会』から材料を各参加者に割り当て、そこに描写された名所について調べ、その結果を報告し、質疑応答を行う形式で進行させる。また、早い段階に実際の調べ方を学ぶために学外授業を行う。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

準備学習（予習・復習）

積極的に京都内外の歴史遺産を見学すること。活字を通して知識を豊富にする訓練をすること。

内　　容

第1回　テキストの解説、授業展開の説明とレポート作成手順の解説
第2回　図書館の実際的利用方法の解説、史料の読みと理解の実際（1）
第3回　史料の読みと理解の実際（2）
第4回　現地観察の方法（学外授業）
第5回　個別発表と質疑（1）
第6回　個別発表と質疑（2）
第7回　個別発表と質疑（3）
第8回　個別発表と質疑（4）
第9回　個別発表と質疑（5）
第10回　個別発表と質疑（6）
第11回　個別発表と質疑（7）
第12回　個別発表と質疑（8）
第13回　個別発表と質疑（9）
第14回　個別発表と質疑（10）
第15回　完成レポート作成の指導

履修上の注意点

事前にレポートの形式を指定するとともに、対象物件の現地調査に基づくレポートの作成を指示する。不十分なレポートは途中で報告停止とする。また、毎回、報告に対する評価レポートを参加者全員に提出させる。

教科書

都名所図会（該当部分コピー配布）
著者：
出版社：京都叢書・版本
出版年：　　ISBN：

参考書

京の鴨川と橋
著者：　門脇禎二・朝尾直弘編
出版社：思文閣出版
出版年：　　ISBN：

京都の歴史
著者：
出版社：学芸書林
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（０）　　小テスト　（０）

a10301a110

授業中課題 （ 60 ）　　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

完成レポートの未提出者には単位修得を認めない。

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ ＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　高久　嶺之介	

テーマ

自分が関心のある日本史上の事項（事件）、人物、あるいは自分が生まれた地域の歴史を調べ、それを報告する。

授業の到達目標

このテーマを調べるにあたっては、まず文献をどのようにして集めるかがポイントとなる。辞典、関係文献、自治体史などできるだけ多くの文献をを調べる方法を身につけるとともに、、それをレジュメ化することによって、レジュメの作り方を学ぶ。さらにレジュメにもとずいて報告することによって、報告方法も学ぶ。

授業の概要

ゼミ生各自が、歴史学研究の第一歩として、自分でテーマを見つけ、自分で必要な文献を集めることが第一歩である。集めた文献を読み、それをレジュメにし（A4で3枚以上）、他のゼミ生の前で報告し、さらに質疑応答を行う。教員はそのつどゼミ生の報告について、文献の調べ方、内容についてコメントをする。

準備学習（予習・復習）

京都や滋賀についてみるべきところなどを授業中に紹介するので、できる限り歩いてみてほしい。また、できる限り必要な文献を読むこと。

内　　容

第1回　歴史学科全体で入門ゼミについての説明会。
第2回　ゼミの進め方についてガイダンス。
第3回　文献の調べ方について図書館等でガイダンス
第4回　京都および山科の歴史について教員の講義。
第5回　NHK「ブラタモリ　京都編」の鑑賞（琵琶湖疏水、御土居など）
第6回　ゼミ生の報告と討論。
第7回　ゼミ生の報告と討論。
第8回　ゼミ生の報告と討論。
第9回　ゼミ生の報告と討論。
第10回　ゼミ生の報告と討論。
第11回　ゼミ生の報告と討論。
第12回　ゼミ生の報告と討論。
第13回　ゼミ生の報告と討論。
第14回　日本史を研究するうえで必要な史料について学ぶ。
第15回　前期のまとめ。再度文献検索の方法などを学ぶ。

履修上の注意点

報告をインターネットで作ってはいけない。インターネットのウキペディアを参考にするのは構わない。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ ＜＊C＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　尾下 成敏

テーマ

歴史学の基礎を学ぶ

授業の到達目標

歴史学の学び方について理解を深めてもらう。

授業の概要

歴史学を学ぶ上で必要不可欠な事典（辞典）をもとに、歴史上の有名な出来事を調べ報告してもらう。また自身が興味をもつ遺跡・遺物などに関しても報告してもらうことにする。なお、この授業では学外の資料館・博物館を見学することがある。

準備学習（予習・復習）

概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、歴史学に関する知識を増やすこと。

内　容

第1回　ガイダンス、その1
第2回　ガイダンス、その2
第3回　歴史学の学び方、その1
第4回　歴史学の学び方、その2
第5回　受講生の報告、その1
第6回　受講生の報告、その2
第7回　受講生の報告、その3
第8回　受講生の報告、その4
第9回　受講生の報告、その5
第10回　受講生の報告、その6
第11回　受講生の報告、その7
第12回　受講生の報告、その8
第13回　受講生の報告、その9
第14回　受講生の報告、その10
第15回　まとめ

履修上の注意点

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本史の森をゆく
著者:　東京大学史料編纂所編
出版社:　中央公論新社
出版年:　2014年　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 35 ）　　授業中発表等 （ 35 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　小野 浩	

テーマ

世界史の文献史料の調査と発表

授業の到達目標

歴史研究における一次史料（根本史料）とは何なのかを、理解してもらうことが目標である。

授業の概要

歴史を研究するにあたってまず何よりも大切なのは史料である。史料に根拠を置かない議論は無意味だとさえ言えるかも知れない。概説書や研究論文を読むことはもちろん大切であるが、それだけでは本当の意味で歴史を勉強したことにはならない。この授業では一次史料とそれ以外のものとの違いを知ってもらうため、出席者各人に世界史のある時代ある地域を研究する際に不可欠な史料を1つ採り上げ報告させる。またその報告にもとづいた質疑応答も行う。 発表者は必ずレジュメを用意し全員に配布する。時間は質疑応答を含め1人30分程度とし、1回の授業で2～3人が報告する。自分がどこに関心をもったのか、どの点に疑問を感じたのか、といった発表者自身の考えが前面に出た発表が望まれる。ただ単に事典、本の関係部分を抜き書きしたような報告は避けること。またいたずらに詳しいだけの報告は、その分野の知識をあまり持たない出席者にとりわかりにくいものとなるので、この点にも留意が必要である。毎回各発表に対する意見、感想を提出させる。最終回までに全員が発表を担当するよう、担当順番を設定して授業を進める。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　導論　一次史料とは何か？その1　歴史研究における史料の意味
第2回　導論　一次史料とは何か?　その2　文献史料についての説明
第3回　過去の発表レジュメの具体的紹介
第4回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その1
第5回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その2
第6回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その3
第7回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その4
第8回　担当者によつ発表と出席者との質疑応答　その5
第9回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その6
第10回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その7
第11回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その8
第12回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その9
第13回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その10
第14回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その11
第15回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その12なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ ＜＊E＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　松浦　京子	

テーマ

世界史上の人物についての研究

授業の到達目標

歴史学科学生として、学習研究していくうえで必須のスキルとメソッドの獲得をめざす

授業の概要

ゼミ生各自が、歴史学研究の第一歩として、「自ら人物を選び、調べ、その上でその人物についてどのような視点(関心)から報告するかを考え、内容を整理し、発表する」練習を行なう。また、ゼミ生は、報告担当以外の場合、積極的に質疑に参加する訓練を行う。これらをゼミ生が実践できるようになるために、最初の5回を使って、教員がそのためのスキルとメソッドについて講義を行う。また、学生の発表報告に際しては、1週前の時点でレジュメの概要をもとに個別指導を行なう。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

準備学習（予習・復習）

2回目の授業までに複数の世界史上の人物を選び、簡単な事績を調べておくこと。他の学生の発表に対しても、選ばれた人物について簡単な事績を調べておくこと。個人面談までに、テーマとした人物に関する問題設定、生涯に関する略年譜は作成できていること。発表に向けて文献収集、文献精読のうえでの報告内容の決定、レジュメならびに読み上げ原稿の作成。

内　　容

第1回　本演習のねらいについての解説：卒論研究・執筆ための第一歩であり、今後の演習に必須のスキルとメソッドの習得
第2回　テーマ設定と問題提起についての説明：どのような歴史上の人物を選ぶべきか、人物をとおしてどのような歴史的問いかけができるのか
第3回　文献検索、収集のやり方についての解説：　図書館の検索システムを利用して実際に検索してみる（2、3回目は順不同）
第4回　問題設定に対する回答を得るための分析・整理：第2回の課題を用いて、また模擬報告用レジュメを用いて、回答を得るための内容整理について考察検討し、レジュメ作成上の留意点を解説する
第5回　読み上げ原稿について、と模擬報告：　読み上げ原稿（400字詰め原稿用紙7～8枚程度）についての説明とレジュメを用いての模擬報告もしくは、京都山科地区の歴史について講義
第6回　これより、学生番号順に学生の発表報告①（報告時間は20分程度を目安とする）と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第7回　学生番号順に学生の発表報告②と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第8回　学生番号順に学生の発表報告③と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第9回　学生番号順に学生の発表報告④と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第10回　学生番号順に学生の発表報告⑤と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第11回　学生番号順に学生の発表報告⑥と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第12回　学生番号順に学生の発表報告⑦と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第13回　学生番号順に学生の発表報告⑧と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第14回　学生番号順に学生の発表報告⑨と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第15回　学生の発表報告⑩と発表後の質疑応答、教員からのコメント 、本演習の総括

履修上の注意点

演習は出席することに大きな意義があると考える。全員が完全出席を目指すように。しかし、やむなく欠席せざるをえないときには、前もって担当教員の大学アドレスに連絡すること。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30% ）	授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 40% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ ＜＊F＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　　王　衛明

テーマ

日本における中国史理解の基礎力を養成する。

授業の到達目標

東アジア史の枠組みにおいて、とりわけ中国の歴史を研究するために、邦語を中心とする基礎文献の紹介を中心に、その歴史の意味や史料の読み方から、学界の研究状況まで研究を助ける様々な知識を身につけることを到達の目標とする。

授業の概要

受講生が各自で選択したテーマに基づき、その論点や論拠、結論を伝える基本を知るため、発表の形式で行う。

準備学習（予習・復習）

発表内容を集約するレジュメを作るために、日常的に研究データや史料、論文を積極的に読むことを心がける。

内　　容

第1回　総解説—中国史研究の問題点、研究の特徴、入門書、問題発見、調査への水先案内。
第2回　図書館蔵書の中で、東洋史蔵書について現地案内。閲覧、利用の仕方に関する解説。
第3回　藤井有鄰館の中国古代歴史、文物蔵品見学。
第4回　研究発表の形式及び注意事項について解説。研究課題（中国歴史研究における文献、遺物、遺跡）を決める。
第5回　中国史文献の調べ方と読み方。
第6回　研究課題（1）　研究発表
第7回　研究課題（2）　研究発表
第8回　研究課題（3）　研究発表
第9回　研究課題（4）　研究発表
第10回　学外見学予定。中国歴史と関連する寺社や国立博物館蔵品見学、また講演会への参加。
第11回　研究課題（5）　研究発表
第12回　研究課題（6）　研究発表
第13回　研究課題（7）　研究発表
第14回　研究課題（8）　研究発表
第15回　受講者の研究発表の問題点について講評。

履修上の注意点

中国文明を生活レベルで理解することは難しいので、実際の史料や実物に接することが大切。

教科書

参考書

中国歴史研究入門
著者：　砺波護
出版社：名古屋大学出版社
出版年：2006　　ISBN：

アジアの歴史と文化（1～4）
著者：　竺沙雅章監修
出版社：同朋社出版
出版年：1994　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ ＜＊A＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　小野 浩	

テーマ

世界史の文献史料の調査と発表

授業の到達目標

歴史研究における一次史料（根本史料）とは何なのかを、理解してもらうことが目標である。

授業の概要

歴史を研究するにあたってまず何よりも大切なのは史料である。史料に根拠を置かない議論は無意味だとさえ言えるかも知れない。概説書や研究論文を読むことはもちろん大切であるが、それだけでは本当の意味で歴史を勉強したことにはならない。この授業では一次史料とそれ以外のものとの違いを知ってもらうため、出席者各人に世界史のある時代ある地域を研究する際に不可欠な史料を1つ採り上げ報告させる。またその報告にもとづいた質疑応答も行う。 発表者は必ずレジュメを用意し全員に配布する。時間は質疑応答を含め1人30分程度とし、1回の授業で2～3人が報告する。自分がどこに関心をもったのか、どの点に疑問を感じたのか、といった発表者自身の考えが前面に出た発表が望まれる。ただ単に事典、本の関係部分を抜き書きしたような報告は避けること。またいたずらに詳しいだけの報告は、その分野の知識をあまり持たない出席者にとりわかりにくいものとなるので、この点にも留意が必要である。毎回各発表に対する意見、感想を提出させる。最終回までに全員が発表を担当するよう、担当順番を設定して授業を進める。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　導論　一次史料とは何か？その1　歴史研究における史料の意味
第2回　導論　一次史料とは何か?　その2　文献史料についての説明
第3回　過去の発表レジュメの具体的紹介
第4回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その1
第5回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その2
第6回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その3
第7回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その4
第8回　担当者によつ発表と出席者との質疑応答　その5
第9回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その6
第10回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その7
第11回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その8
第12回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その9
第13回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その10
第14回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その11
第15回　担当者による発表と出席者との質疑応答　その12なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 60 ）
参加度 （ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ ＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　松浦　京子	

テーマ

世界史上の人物についての研究

授業の到達目標

歴史学科学生として、学習研究していくうえで必須のスキルとメソッドの獲得をめざす

授業の概要

ゼミ生各自が、歴史学研究の第一歩として、「自ら人物を選び、調べ、その上でその人物についてどのような視点(関心)から報告するかを考え、内容を整理し、発表する」練習を行なう。また、ゼミ生は、報告担当以外の場合、積極的に質疑に参加する訓練を行う。これらをゼミ生が実践できるようになるために、最初の5回を使って、教員がそのためのスキルとメソッドについて講義を行う。また、学生の発表報告に際しては、1週前の時点でレジュメの概要をもとに個別指導を行なう。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

準備学習（予習・復習）

2回目の授業までに複数の世界史上の人物を選び、簡単な事績を調べておくこと。他の学生の発表に対しても、選ばれた人物について簡単な事績を調べておくこと。個人面談までに、テーマの人物についての問題設定とその生涯の略年譜を作成すること。発表に向けて文献収集、文献精読のうえでの報告内容の決定、レジュメならびに読み上げ原稿の作成。

内　　容

第1回　本演習のねらいについての解説：卒論研究・執筆ための第一歩であり、今後の演習に必須のスキルとメソッドの習得
第2回　テーマ設定と問題提起についての説明：どのような歴史上の人物を選ぶべきか、人物をとおしてどのような歴史的問いかけができるのか
第3回　文献検索、収集のやり方についての解説：　図書館の検索システムを利用して実際に検索してみる（2、3回目は順不同）
第4回　問題設定に対する回答を得るための分析・整理：第2回の課題を用いて、また模擬報告用レジュメを用いて、回答を得るための内容整理について考察検討し、レジュメ作成上の留意点を解説する
第5回　読み上げ原稿について、と模擬報告：　読み上げ原稿（４００字詰め原稿用紙7～8枚程度）についての説明とレジュメを用いての模擬報告
第6回　これより、学生番号順に学生の発表報告①（報告時間は20分程度を目安とする）と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第7回　学生番号順に学生の発表報告②と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第8回　学生番号順に学生の発表報告③と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第9回　学生番号順に学生の発表報告④と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第10回　学生番号順に学生の発表報告⑤と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第11回　学生番号順に学生の発表報告⑥と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第12回　学生番号順に学生の発表報告⑦と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第13回　学生番号順に学生の発表報告⑧と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第14回　学生番号順に学生の発表報告⑨と発表後の質疑応答、教員からのコメント
第15回　学生の発表報告⑩と発表後の質疑応答、教員からのコメント、本演習の総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30% ）	授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 40% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ ＜＊C＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　　王　衛明

テーマ

日本における中国史理解の基礎力を養成する。

授業の到達目標

東アジア史の枠組みにおいて、とりわけ中国の歴史を研究するために、邦語を中心とする基礎文献の紹介を中心に、その歴史の意味や史料の読み方から、学界の研究状況まで研究を助ける様々な知識を身につけることを到達の目標とする。

授業の概要

受講生が各自で選択したテーマに基づき、その論点や論拠、結論を伝える基本を知るため、発表の形式で行う。

準備学習（予習・復習）

発表内容を集約するレジュメを作るために、日常的に研究データや史料、論文を積極的に読むことを心がける。

内　　容

第1回　総解説―中国史研究の問題点、研究の特徴、入門書、問題発見、調査への水先案内。
第2回　図書館蔵書の中で、東洋史蔵書について現地案内。閲覧、利用の仕方に関する解説。
第3回　藤井有鄰館の中国古代歴史、文物蔵品見学。
第4回　研究発表の形式及び注意事項について解説。研究課題（中国歴史研究における文献、遺物、遺跡）を決める。
第5回　中国史文献の調べ方と読み方。
第6回　研究課題（1）　研究発表
第7回　研究課題（2）　研究発表
第8回　研究課題（3）　研究発表
第9回　研究課題（4）　研究発表
第10回　学外見学予定。中国歴史と関連する寺社や国立博物館蔵品見学、また講演会への参加。
第11回　研究課題（5）　研究発表
第12回　研究課題（6）　研究発表
第13回　研究課題（7）　研究発表
第14回　研究課題（8）　研究発表
第15回　受講者の研究発表の問題点について講評。

履修上の注意点

中国文明を生活レベルで理解することは難しいので、実際の史料や実物に接することが大切。

教科書

参考書

中国歴史研究入門
著者：　砺波護
出版社：名古屋大学出版社
出版年：2006　　ISBN：

アジアの歴史と文化（1～4）
著者：　竺沙雅章監修
出版社：同朋社出版
出版年：1994　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ ＜＊D＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　増渕　徹

テーマ

京都の歴史を材料に、歴史の学び方を身につける

授業の到達目標

素材としての史料を読むことにはじまり、レポートの作成・報告・修正・完成に至るまでの一連の作業手順を理解し、それを自力で展開できる基礎能力をつけることが第一の目標である。レポートの作成に際しては担当部分の現地の見学・図化・観察を必須の条件としており、空間の歴史性への関心をもつことと、それを観察する力の向上が第二の目標になる。

授業の概要

1780（安永9）年刊の『都名所図会』から材料を各参加者に割り当て、そこに描写された名所について調べ、その結果を報告し、質疑応答を行う形式で進行させる。また、早い段階に実際の調べ方を学ぶために学外授業を行う。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

準備学習（予習・復習）

積極的に京都内外の歴史遺産を見学すること。活字を通して知識を豊富にする訓練をすること。

内　容

第1回　テキストの解説、授業展開の説明とレポート作成手順の解説
第2回　図書館の実際的利用方法の解説、史料の読みと理解の実際（1）
第3回　史料の読みと理解の実際（2）
第4回　現地観察の方法（学外授業）
第5回　個別発表と質疑（1）
第6回　個別発表と質疑（2）
第7回　個別発表と質疑（3）
第8回　個別発表と質疑（4）
第9回　個別発表と質疑（5）
第10回　個別発表と質疑（6）
第11回　個別発表と質疑（7）
第12回　個別発表と質疑（8）
第13回　個別発表と質疑（9）
第14回　個別発表と質疑（10）
第15回　完成レポート作成の指導

履修上の注意点

事前にレポートの形式を指定するとともに、対象物件の現地調査に基づくレポートの作成を指示する。不十分なレポートは途中で報告停止とする。また、毎回、報告に対する評価レポートを参加者全員に提出させる。

教科書

都名所図会（該当部分コピー配布）
著者：
出版社：京都叢書・版本
出版年：　　ISBN：

参考書

京都の歴史
著者：
出版社：学芸書林
出版年：　　ISBN：

京の鴨川と橋
著者：門脇禎二・朝尾直弘編
出版社：思文閣出版
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験（0）　　小テスト（0）

a10301a254

授業中課題 （ 60 ）　　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

完成レポートの未提出者には単位修得を認めない。

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ ＜＊E＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　高久　嶺之介	

テーマ

自分が関心のある日本史上の事項（事件）、人物、あるいは自分が生まれた地域の歴史を調べ、それを報告する。

授業の到達目標

このテーマを調べるにあたっては、まず文献をどのようにして集めるかがポイントとなる。辞典、関係文献、自治体史などできるだけ多くの文献をを調べる方法を身につけるとともに、、それをレジュメ化することによって、レジュメの作り方を学ぶ。さらにレジュメにもとずいて報告することによって、報告方法も学ぶ。

授業の概要

ゼミ生各自が、歴史学研究の第一歩として、自分でテーマを見つけ、自分で必要な文献を集めることが第一歩である。集めた文献を読み、それをレジュメにし（A4で3枚以上）、他のゼミ生の前で報告し、さらに質疑応答を行う。教員はそのつどゼミ生の報告について、文献の調べ方、内容についてコメントをする。

準備学習（予習・復習）

京都や滋賀についてみるべきところなどを授業中に紹介するので、できる限り歩いてみてほしい。また、できる限り必要な文献を読むこと。

内　　容

第1回　ゼミの進め方についてガイダンス。
第2回　京都および山科の歴史について教員の講義（1）
第3回　京都および山科の歴史について教員の講義（2）
第4回　日本史の史料の扱い方について講義。
第5回　近代の地域の変遷についてビデオ鑑賞。
第6回　ゼミ生の報告と討論。
第7回　ゼミ生の報告と討論。
第8回　ゼミ生の報告と討論。
第9回　ゼミ生の報告と討論。
第10回　ゼミ生の報告と討論。
第11回　ゼミ生の報告と討論。
第12回　ゼミ生の報告と討論。
第13回　ゼミ生の報告と討論。
第14回　日本近代史の重要事項について講義もしくはビデオ鑑賞。
第15回　後期のまとめ。再度文献検索の方法などを学ぶ。

履修上の注意点

報告をインターネットで作ってはいけない。インターネットのウキペディアを参考にするのは構わない。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ ＜＊F＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　尾下　成敏

テーマ

歴史学の基礎を学ぶ

授業の到達目標

歴史学の学び方について理解を深めてもらう。

授業の概要

歴史学を学ぶ上で必要不可欠な事典（辞典）をもとに、歴史上の有名な出来事を調べ報告してもらう。また自身が興味をもつ遺跡・遺物などに関しても報告してもらうことにする。なお、この授業では学外の資料館・博物館を見学することがある。

準備学習（予習・復習）

概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、歴史学に関する知識を増やすこと。

内　容

第1回　ガイダンス、その1
第2回　ガイダンス、その2
第3回　歴史学の学び方、その1
第4回　歴史学の学び方、その2
第5回　受講生の報告、その1
第6回　受講生の報告、その2
第7回　受講生の報告、その3
第8回　受講生の報告、その4
第9回　受講生の報告、その5
第10回　受講生の報告、その6
第11回　受講生の報告、その7
第12回　受講生の報告、その8
第13回　受講生の報告、その9
第14回　受講生の報告、その10
第15回　まとめ

履修上の注意点

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本史の森をゆく
著者:　東京大学史料編纂所編
出版社:　中央公論新社
出版年:　2014年　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 35 ）　　授業中発表等　（ 35 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史学入門講義**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　増渕　徹.松浦　京子	

テーマ

歴史学の方法と対象分野

授業の到達目標

歴史学の学問としての方法論を知り、その考え方の特徴を理解する

授業の概要

前半は日本史分野の教員、後半は西洋史分野の教員が担当し、史料の持つ意味やその扱い方などの研究スキルと、多様な研究ジャンルの視点とメソッドを紹介することを通して、史学史を概説する

準備学習（予習・復習）

参考文献は適宜紹介するので、それの精読を期待する

内　　容

第1回　歴史学とは何か
第2回　歴史研究の素材と手順
第3回　真正な史料は真実を伝えるか
第4回　史料を論理的に読む
第5回　伝達されるものと伝達されないもの
第6回　事実の追求と歴史事象の評価
第7回　さまざまな資料の情報化
第8回　史学史を語る～歴史叙述の始まり　ー歴史の父（西洋世界における）ヘロドトス
第9回　批判的歴史叙述の追求　ートゥキディデス
第10回　古代から中性にかけての歴史叙述　ーポリュビオス（歴史理論の始まり）
第11回　キリスト教史観　ー聖書とアウグスティヌス『神国論』（ヨーロッパ文化の源泉の一つ）
第12回　西洋史歴史叙述の流れ　ーフライジング、マキヤベッリ、マビヨン、ヴォルテール
第13回　近代の歴史叙述　ーランケ（近代歴史学の祖）
第14回　現代の歴史叙述　ーアナール学派、女性史
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（　）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史概説Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　渕原　智幸	

テーマ

日本の古代・中世史

授業の到達目標

高校レベルの日本史知識を復習しつつ、さらに掘り下げた内容を学んでいくことで、中世以前の日本史について、より深く、かつ多面的な理解を獲得する。

授業の概要

原始時代から戦国時代まで、日本史の流れを概観しつつ、各時代ごとに政治・社会・文化など様々な分野のトピックを取り上げていく。また、近年の研究動向についても、できるだけ言及し、高校レベルの（ないしは通俗的な）歴史イメージを相対化する視点を提供していく。

準備学習（予習・復習）

・第2回以降は、前の週の授業内容について小テストを行うので、各自復習を忘れぬこと。・期末試験は、授業で述べた内容をさらに深く調査・考察させる問題を出す。そのため、自分が興味のある時代についてだけでも、下記の参考書を早めに読んでおくことが望ましい。

内　　容

第1回　日本史のはじまり
第2回　邪馬台国から倭王権へ
第3回　古墳時代の政治・外交・文化
第4回　聖徳太子、大化の改新、壬申の乱
第5回　律令体制の成立と平城遷都
第6回　奈良時代の政変と平安遷都
第7回　摂関政治と承平・天慶の乱
第8回　平安中後期の地方支配と武士
第9回　院政と平氏政権
第10回　鎌倉幕府の成立と承久の乱
第11回　執権政治と蒙古襲来
第12回　鎌倉幕府の滅亡と建武の新政
第13回　南北朝動乱と足利義満の政治
第14回　室町中期の政治と応仁の乱
第15回　戦国時代

履修上の注意点

教科書

特になし（毎回プリントを配布する）
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

日本の時代史』シリーズ
著者：
出版社：　吉川弘文館
出版年：　　ISBN：

日本の歴史』シリーズ
著者：
出版社：　講談社（学術文庫）
出版年：　　ISBN：

a10301d110

シリーズ日本古代史

著者:

出版社: 岩波書店(岩波新書)

出版年: ISBN:

成績評価

試験 (50) 小テスト (50)

授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( )

参加度 ( )

受講態度の極めて悪い者については、試験・小テストの結果に関係なく不合格とする場合がある。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史概説Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　久保田 裕次

テーマ

東アジアのなかの近現代日本

授業の到達目標

日本近世・近現代史の整理。歴史学は決して単なる暗記科目ではありません。しかし、一方で歴史学的思考には、基礎事項を知っておく必要があります。この授業では、近世から現在までの日本史を概観します。

授業の概要

政治・経済・文化など、通史的内容を講義します。高校のときに使用していた日本史の教科書がある人は、関係する部分を読んでおいてください。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　江戸時代は「理想郷」？
第2回　江戸時代の世界観
第3回　開国と幕府滅亡
第4回　明治維新と初期外交
第5回　大日本帝国憲法制定
第6回　日清日露戦争
第7回　産業革命と明治文化
第8回　政党政治の展開と第一次世界大戦
第9回　大正デモクラシー期の社会
第10回　昭和の恐慌と政党内閣期の政策
第11回　満州事変から日中戦争へ
第12回　アジア太平洋戦争
第13回　占領から独立へ
第14回　55年体制と高度経済成長
第15回　現代日本の諸課題

履修上の注意点

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

ハンドブック　近代日本外交史
著者:　簑原俊洋、奈良岡聰智
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2016　　ISBN:　9784623074204

成績評価

試験　（ 60 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**東洋史概説Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　米田 健志

テーマ

中国を中心としたアジアの歴史

授業の到達目標

殷周時代から明清時代までの中国の歴史における、政治・社会・法制・人物、および周辺地域との関係について、基礎的知識の習得をめざす。

授業の概要

毎回、プリントを配布したうえで講義を行う。授業期間中に小レポートを2回提出。また期末試験を実施する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　先秦～後漢（1）統一帝国への道
第3回　先秦～後漢（2）秦漢時代の政治と制度
第4回　先秦～後漢（3）前漢・後漢の社会と文化
第5回　三国～隋（1）分裂の時代：魏晋南北朝時代の政治と制度
第6回　三国～隋（2）魏晋南北朝時代の社会と文化
第7回　唐～北宋（1）唐代の政治と制度
第8回　唐～北宋（2）唐宋変革：唐宋時代の社会と文化
第9回　唐～北宋（3）北宋時代の政治と制度
第10回　南宋～遼・金・元（1）南宋と征服王朝
第11回　南宋～遼・金・元（2）宋代の社会と文化
第12回　南宋～遼・金・元（3）モンゴル帝国とユーラシア
第13回　明～清（1）明清時代の政治
第14回　明～清（2）明清時代の社会と制度
第15回　明～清（3）西欧との衝突：アヘン戦争
第16回　期末試験

履修上の注意点

中国史・アジア史に関する様々な文献を図書館で探して読むことをおすすめする。

教科書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験 （ 55 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 15 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**東洋史概説Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　塩野﨑　信也

テーマ

中央・西アジア史概説

授業の到達目標

中央アジアと西アジアの現在の状況を把握した上で、そこに到るおおまかな歴史の流れの理解を目指す。

授業の概要

現代から徐々に時代を遡りつつ、中央・西アジアの歴史を概説する。最終的には古代オリエント文明までを通観することで、この地域の底流をなす社会のあり様・ものの見方を考える。「イスラーム教」「アラブ人、ペルシア人、トルコ（テュルク）人」「遊牧民と定住民」などが本講義のキーワードとなる。講義に際しては、毎回プリントを配布する。学期末に試験を実施する。

準備学習（予習・復習）

中央・西アジアのニュースに関心を持ち、事件の歴史的な背景などに特に注目しながら、自分なりの見解をまとめること。講義中に示した参考文献の中から、興味のあるものに目を通すこと。

内　容

第1回　導入（中央・西アジア史概観）
第2回　現代の中央・西アジア
第3回　中央・西アジア史の見方――アラブ、ペルシア、トルコ（テュルク）
第4回　帝国主義の時代
第5回　オスマン帝国の興隆
第6回　オスマン帝国の衰退
第7回　黒羊朝・白羊朝とサファヴィー教団
第8回　サファヴィー朝
第9回　テュルク人の活躍
第10回　モンゴル帝国と「チンギス・ハーンの血統」
第11回　預言者ムハンマドの登場
第12回　初期イスラーム史とシーア派の誕生
第13回　アッバース朝と『アラビアン・ナイト』
第14回　古代オリエントと諸宗教の系譜
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 70 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
授業中課題としては、疑問点や意見などを記す小レポートを計5回課す。

2016 Syllabus

科 目 名　**西洋史概説Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　佐藤　専次	

テーマ

ヨーロッパ世界の形成と発展

授業の到達目標

現在、EUの発展が大きな話題になっている。そのような統一したヨーロッパ世界がどのように形成されたかを理解する。

授業の概要

古代ローマ時代から14、15世紀のヨーロッパ中世までについて、主要なテーマをあげて概観する。

準備学習（予習・復習）

下記のテキストを事前に読むのが望ましい。

内　容

第1回　ヨーロッパの地理・言語・宗教
第2回　地中海世界とローマ
第3回　ローマ帝国の崩壊とキリスト教の発展
第4回　ゲルマン人の民族移動と部族王国
第5回　東ローマ帝国の変容と東方正教世界
第6回　フランク王国の成立とメロヴィング朝
第7回　カール大帝とカロリング朝
第8回　ノルマン人とイングランド王国の成立
第9回　農村社会の変動と人口の増大
第10回　修道院改革と民衆の宗教的覚醒
第11回　グレゴリウス改革と叙任権闘争
第12回　十字軍とヨーロッパの膨張
第13回　中世都市の発達
第14回　黒死病と「危機」の時代
第15回　イタリア戦争と主権国家の形成

履修上の注意点

講義では、高校の世界史の教科書程度の知識は必要になる。

教科書

教養のための西洋史入門
著者:　中井義明/他
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2007　　ISBN:

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**西洋史概説Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　南 直人	

テーマ

近現代の西洋の歴史の基礎的理解をはかる

授業の到達目標

16世紀以降のヨーロッパの歴史についての基礎的理解をはかると同時に、新しい歴史学の視点を紹介し、西洋世界をより深く理解することにつなげる。

授業の概要

近代世界システム論の視角から近現代のヨーロッパ史（西洋史）を考察する。最初に近代世界システム論を紹介し、その後16世紀から20世紀にいたるヨーロッパ史（西洋史）の流れをたどっていく。

準備学習（予習・復習）

授業で紹介した本や近現代ヨーロッパ史のさまざまな文献を読むこと

内　容

第1回　世界史の新しい見方－世界システム
第2回　近代世界システムの形成
第3回　16世紀ポルトガルのアジア進出
第4回　16世紀スペインの新大陸支配
第5回　17世紀の危機とオランダのヘゲモニー
第6回　17・18世紀イギリスの商業革命と大西洋貿易
第7回　18世紀英仏のヘゲモニー争いと植民地戦争
第8回　産業革命とフランス革命の新解釈
第9回　19世紀大英帝国のヘゲモニー
第10回　19世紀ヨーロッパ社会
第11回　19世紀ヨーロッパ文化
第12回　20世紀のヨーロッパ（1）
第13回　20世紀のヨーロッパ（2）
第14回　20世紀のヨーロッパ（3）
第15回　現代世界　全体のまとめ

履修上の注意点

小テストが頻繁にあります。欠席しても一切救済しません。

教科書

参考書

世界システム論講義
著者：　川北稔
出版社：ちくま文芸文庫
出版年：2016　　ISBN：

大学で学ぶ西洋史［近現代］
著者：　小山哲、他
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2011　　ISBN：

ヨーロッパと近代世界
著者：　川北稔
出版社：放送大学教育振興会
出版年：2001　　ISBN：

a10301d650

20世紀の歴史

著者:　木畑洋一

出版社: 岩波新書

出版年: 2014　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト（ 70 ）

授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）

参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**考古学概説Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　五十川　伸矢	

テーマ

考古学研究が明らかにした時代観・技術史

授業の到達目標

あな(遺構)・もの(遺物)で構成されている遺跡を、どのように解釈するかという方法と考古学研究が明らかにしてきた過去の社会像、土器・金属器・瓦などの出土遺物の精緻な研究成果を理解する。

授業の概要

時代順に、考古学的な成果によって推定される時代変遷を解説するとともに、研究の進んでいる土器・金属・瓦の研究成果を説明する。

準備学習(予習・復習)

各地の博物館・資料館を訪ね、展示されている資料を観察して歴史的な意義について学習すること。

内　容

第1回　考古学研究の方法とその特徴――発掘調査の方法
第2回　狩猟採集の社会――縄文時代
第3回　狩猟採集から農耕へ――弥生時代
第4回　金属生産の開始――銅鐸の変遷と祭祀
第5回　大墓の時代――古墳時代
第6回　学外授業　向日市物集女車塚古墳見学(予定)
第7回　歴史時代の考古学
第8回　土器の語る世界①――古代・中世の土器概説
第9回　土器の語る世界②――輸入陶磁器
第10回　古代都城の遺跡――平城京・平安京
第11回　学外授業　考古学関連博物館展観の参観
第12回　金属生産の歴史①――青銅鋳物
第13回　金属生産の歴史②――鋳鉄鋳物
第14回　古代瓦の美――飛鳥・白鳳・天平の甍
第15回　古代の平瓦作り――失われた伝統技術

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　(60)	小テスト　( )
授業中課題　(40)	授業中発表等　( )
参加度　( )	

2016 Syllabus

科 目 名　**考古学概説Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　五十川　伸矢

テーマ

考古学からみた地域と文化

授業の到達目標

日本各地の地域性を示す遺跡において解明されている個性豊かな地域の考古学的知見から、特色をもった地域文化が、どのように成立したかを理解する。

授業の概要

日本列島の西から東へと地域をめぐり、先史から歴史へと時代をたどりながら、重要な遺跡を説明する。

準備学習（予習・復習）

各地の博物館・資料館を訪ね、展示されている資料を観察して歴史的な意義について学習すること。

内　容

第1回　日本文化の地域性
第2回　弥生時代の北九州
第3回　瀬戸内の土器製塩
第4回　中国山地のたたら製鉄
第5回　陶邑の須恵器生産
第6回　土師器「かわらけ」の世界
第7回　学外授業　正倉院展（奈良国博）見学
第8回　正倉院展見学の復習
第9回　東海地方の焼物――猿投・瀬戸・常滑
第10回　平安京・中世京都の墓の考古学
第11回　学外授業　博物館見学
第12回　鎌倉の考古学
第13回　戦国城下町一乗谷遺跡
第14回　江戸の考古学
第15回　日本領の異国琉球の歴史考古と文化

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**古文書学AⅠ（中世）<Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**古文書学AⅡ（中世）<Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

古文書の様式を学ぶ

授業の到達目標

前期の授業を受けて、後期は武家文書を中心に、その様式について学習する。さらには東寺百合文書などの寺家文書も取り上げ、古文書を使って歴史研究をするための基礎的な知識と方法を習得する。なお、講義の内容上、前期と連続して受講することが望ましい。

授業の概要

最初は前期の復習を兼ねた概説の講義を行い、その後、各時代および各様式の古文書を受講者に割り当て読んでもらう。

準備学習（予習・復習）

前期の復習、特に公家様文書の特徴を確認した上で、後期の授業に臨んでほしい。

内　　容

第1回	概説①	前期の復習
第2回	概説②	花押の世界
第3回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書（1）
第4回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書（2）
第5回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書（3）
第6回	武家文書	鎌倉幕府の文書（4）
第7回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書（1）
第8回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書（2）
第9回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書（3）
第10回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書（4）
第11回	武家文書Ⅲ	戦国武将の文書（1）
第12回	武家文書Ⅲ	戦国武将の文書（2）
第13回	その他の文書	寺家文書（1）
第14回	その他の文書	寺家文書（2）
第15回	まとめ（予備）	

履修上の注意点

前期同様、授業以外でも、各自古文書に触れる機会を作る。機会があれば、実物の古文書に触れることを目的とした博物館学習などの課外授業も行う予定である。

教科書

参考書

新版古文書学入門
著者:　佐藤進一
出版社:　法政大学出版
出版年:　1997年　　ISBN:

概説古文書学ー古代・中世編
著者:　日本歴史学会
出版社:　吉川弘文館
出版年:　1983年　　ISBN:

演習古文書選様式編
著者:　日本歴史学会
出版社:　吉川弘文館
出版年:　1976年　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 70 ）

a103023450

授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ 10 ）

参加度 （ 10 ）

単元ごとの確認テストを行うとともに、宿題や授業中の課題および参加度を評価

a103023452

Syllabus

科 目 名　**古文書学AⅡ（中世）〈Zb〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史基礎ゼミⅠ〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　増渕　徹	

テーマ

古代の法から社会像を考える

授業の到達目標

『類聚三代格』をテキストに、太政官符などの古代史の史料の基本的な読み方を修得するとともに、史料からどのように情報を引き出し、発想を展開し、どのように調べて当時の社会像を復元していくかの基本的方法論の修得を第一の目標とする。

授業の概要

参加者各自に官符などを割り当て、その読み下し、訳、考察等をレポートとして提出し、それを教員が補足・解説する形式で進める。授業に際しては、漢文を読む力、語彙力、公式様文書に関する古文書学の知識は必須の要件であり、参加者は各自でその能力の向上に努めねばならない。この点を補完する手段として、史料訓読の課題を課す。なお、学外授業のほか、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

準備学習（予習・復習）

漢字そのものや漢語・熟語に関する知識を豊富にすること。そのために硬い文章をたくさん読むこと。漢和辞典を頻繁に利用すること。なお、毎回、史料の読み方下しに関する課題を出す。

内　　容

第1回　授業解説、テキストの解説（1）
第2回　テキストの解説（2）、図書館の活用方法やレポートの作成方法の解説
第3回　史料の読み方と理解の実際（1）
第4回　史料の読み方と理解の実際（2）
第5回　歴史遺産の見学（学外授業）
第6回　個別発表（1）
第7回　個別発表（2）
第8回　個別発表（3）
第9回　個別発表（4）
第10回　個別発表（5）
第11回　個別発表（6）
第12回　個別発表（7）
第13回　個別発表（8）
第14回　個別発表（9）
第15回　歴史研究の方法論と史料分析（まとめ）

履修上の注意点

詔勅・太政官符の読み方など古文書学の基礎知識が必要である。なお、高校における漢文学習の経験の有無について、特に配慮はしない。読み下しの基本ルールは自主的学習によって確認することを求める。

教科書

類聚三代格（該当部分コピー配布）
著者：　黒板勝美編（国史大系）
出版社：吉川弘文館
出版年：　　ISBN：

参考書

『律令国家と天平文化』（日本の時代史4）
著者：　佐藤　信　編
出版社：吉川弘文館
出版年：　　ISBN：

『平安京』（日本の時代史5）
著者：　吉川真司　編
出版社：吉川弘文館
出版年：　　ISBN：

a10302a110

『摂関政治と王朝文化』(日本の時代史6)
著者:　加藤友康　編
出版社: 吉川弘文館
出版年:　　ISBN:

日本歴史大系2　律令国家の展開
著者:
出版社: 山川出版社
出版年:　　ISBN:

日本歴史大系3　貴族政治と武士
著者:
出版社: 山川出版社
出版年:　　ISBN:

『平安京の時代』(日本古代の歴史)
著者:　佐々木恵介
出版社: 吉川弘文館
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題 （ 80 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史基礎ゼミⅠ〈＊B〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　佐伯　智広	

テーマ

百練抄を読む

授業の到達目標

日本の中世記録史料を読解する能力を養うことを目指します。

授業の概要

テキストは、朝廷の記録である百練抄を使用します。最初の数回は、和様漢文の読み方の解説と、百練抄を用いた読解練習を行います。その後、源平合戦に関する記事を、分担して講読していきます。

準備学習（予習・復習）

テキストは事前に配布しますので、次回の講読部分に必ず目を通し、自分で読んでおきましょう。目安は約1時間程度です。また、内容に関連する書籍が多数出版されているので、それらを読むことにより、より深く内容を理解することができます。

内　　容

第1回　授業の進行についてのガイダンス
第2回　百練抄の講読（1）
第3回　百練抄の講読（2）
第4回　百練抄の講読（3）
第5回　百練抄の講読（4）
第6回　百練抄の講読（5）
第7回　百練抄の講読（6）
第8回　百練抄の講読（7）
第9回　百練抄の講読（8）
第10回　百練抄の講読（9）
第11回　百練抄の講読（10）
第12回　百練抄の講読（11）
第13回　百練抄の講読（12）
第14回　百練抄の講読（13）・問題演習
第15回　小テスト・解説

履修上の注意点

発表担当があらかじめ決まっている回に無断欠席した場合は、単位を認めません。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法
著者:　苅米一志
出版社:　吉川弘文館
出版年:　2015　　ISBN:

鎌倉幕府
著者:　石井進
出版社:　中央公論社
出版年:　2004（初出1966）　　ISBN:

源平合戦の虚像を剥ぐ
著者:　川合康
出版社:　講談社
出版年:　1996　　ISBN:

a10302a112

日本の時代史7　院政の展開と内乱

著者:　元木泰雄編

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2002　　ISBN:

平清盛と後白河院

著者:　元木泰雄

出版社: 角川学芸出版

出版年: 2012　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト（ 70 ）

授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度 （ 0 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史基礎ゼミⅠ＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　尾下　成敏	

テーマ

徳川政権期の文献史料を読む

授業の到達目標

近世の漢文史料に慣れ、この時代について理解を深める。

授業の概要

徳川政権期の文献史料（譜代大名松平忠利の日記など）を読む。受講生の義務は以下の通り、①史料の読み下し、②担当した史料の逐語訳の作成と報告。そして授業の最後には原稿用紙8枚程度のレポートを作成してもらう。なお、学外の資料館・博物館を見学することがある。

準備学習（予習・復習）

配布する漢文史料の予習・復習を怠らないこと。また博物館・美術館などへ足を運んで、古文書や絵画史料等に慣れ親しみ、概説書・伝記・選書・新書などを１冊でも多く読んで、歴史学に関する知識を増やすこと。

内　　容

第1回　ガイダンス・テキストに関する概説
第2回　テキストに関する概説
第3回　松平忠利の日記の講読、その１（時間があまれば他の史料を読む）
第4回　松平忠利の日記の講読、その２（時間があまれば他の史料を読む）
第5回　松平忠利の日記の講読、その３（時間があまれば他の史料を読む）
第6回　松平忠利の日記の講読、その４（時間があまれば他の史料を読む）
第7回　松平忠利の日記の講読、その５（時間があまれば他の史料を読む）
第8回　松平忠利の日記の講読、その６（時間があまれば他の史料を読む）
第9回　松平忠利の日記の講読、その７（時間があまれば他の史料を読む）
第10回　松平忠利の日記の講読、その８（時間があまれば他の史料を読む）
第11回　松平忠利の日記の講読、その９（時間があまれば他の史料を読む）
第12回　松平忠利の日記の講読、その１０（時間があまれば他の史料を読む）
第13回　松平忠利の日記の講読、その１１（時間があまれば他の史料を読む）
第14回　松平忠利の日記の講読、その１２（時間があまれば他の史料を読む）
第15回　まとめ

履修上の注意点

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本の歴史　鎖国
著者:　朝尾直弘
出版社:　小学館
出版年:　1975年　　ISBN:

日本の歴史　江戸開幕
著者:　藤井譲治
出版社:　集英社
出版年:　1992年　　ISBN:

日本の歴史　天下泰平
著者:　横田冬彦
出版社:　講談社
出版年:　2002年　　ISBN:

a10302a113

全集日本の歴史　徳川の国家デザイン

著者:　水本邦彦

出版社: 小学館

出版年: 2008年　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ 20 ）

授業中課題（ 35 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度 （ 15 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史基礎ゼミⅠ〈＊D〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　高久　嶺之介	

テーマ

幕末・明治の史料を読む

授業の到達目標

日本近代史の史料を確実に読める能力を養う

授業の概要

下記のテーマに関する史料を通読し、幕末・明治の時代状況もあわせて知るようにする。なお、必要に応じて学外授業を実施することがある。

準備学習（予習・復習）

京都には幕末・明治の史跡が数多くある。京都を散策してほしい。

内　　容

第1回　史料購読の方法
第2回　幕末という時代についての説明
第3回　京都の幕末・維新についての説明
第4回　（史料）「池田屋事件」
第5回　（史料）「禁門の変」
第6回　（史料）「安政の大獄」
第7回　（史料）「薩長盟約」
第8回　（史料）「大政奉還」
第9回　（史料）「王政復古の大号令」
第10回（史料）「鳥羽・伏見の戦い」
第11回 大政奉還から鳥羽・伏見の戦いまでの説明
第12回（史料）「大坂遷都の建白」
第13回（史料）「琵琶湖疏水」（1）
第14回（史料）「琵琶湖疏水」（2）
第15回 明治の京都についてのまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 60 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 10 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史基礎ゼミⅡ〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　増渕　徹	

テーマ

古代の法から社会像を考える

授業の到達目標

『類聚三代格』をテキストに、太政官符などの古代史の史料の基本的な読み方を修得するとともに、史料からどのように情報を引き出し、発想を展開し、どのように調べて当時の社会像を復元していくかの基本的方法論の修得を第一の目標とする。

授業の概要

参加者各自に官符などを割り当て、その読み下し、訳、考察等をレポートとして提出し、それを教員が補足・解説する形式で進める。授業に際しては、漢文を読む力、語彙力、公式様文書に関する古文書学の知識は必須の要件であり、参加者は各自でその能力の向上に努めねばならない。この点を補完する手段として、史料訓読の課題を課す。なお、学外授業のほか、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

準備学習（予習・復習）

漢字そのものや漢語・熟語に関する知識を豊富にすること。そのために硬い文章をたくさん読むこと。漢和辞典を頻繁に利用すること。なお、毎回、史料の読み方下しに関する課題を出す。

内　　容

第1回　授業解説、テキストの解説（1）
第2回　テキストの解説（2）、図書館の活用方法やレポートの作成方法の解説
第3回　史料の読み方と理解の実際（1）
第4回　史料の読み方と理解の実際（2）
第5回　歴史遺産の見学（学外授業）
第6回　個別発表（1）
第7回　個別発表（2）
第8回　個別発表（3）
第9回　個別発表（4）
第10回　個別発表（5）
第11回　個別発表（6）
第12回　個別発表（7）
第13回　個別発表（8）
第14回　個別発表（9）
第15回　歴史研究の方法論と史料分析（まとめ）

履修上の注意点

詔勅・太政官符の読み方など古文書学の基礎知識が必要である。なお、高校における漢文学習の経験の有無について、特に配慮はしない。読み下しの基本ルールは自主的学習によって確認することを求める。

教科書

類聚三代格（該当部分コピー配布）
著者：　黒板勝美編（国史大系）
出版社：吉川弘文館
出版年：　　ISBN：

参考書

『律令国家と天平文化』（日本の時代史4）
著者：　佐藤　信　編
出版社：吉川弘文館
出版年：　　ISBN：

『平安京』（日本の時代史5）
著者：　吉川真司　編
出版社：吉川弘文館
出版年：　　ISBN：

a10302a250

『摂関政治と王朝文化』(日本の時代史6)
著者:　加藤友康　編
出版社: 吉川弘文館
出版年:　　ISBN:

日本歴史大系2　律令国家の展開
著者:
出版社: 山川出版社
出版年:　　ISBN:

日本歴史大系3　貴族政治と武士
著者:
出版社: 山川出版社
出版年:　　ISBN:

『平安京の時代』(日本古代の歴史)
著者:　佐々木恵介
出版社: 吉川弘文館
出版年:　　ISBN:

摂関政治と地方社会』(日本古代の歴史5)
著者:　坂上康俊
出版社: 吉川弘文館
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 (0)　　小テスト (0)
授業中課題 (80)　　授業中発表等 (　)
参加度 (20)

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史基礎ゼミⅡ ＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　佐伯　智広	

テーマ

百練抄を読む

授業の到達目標

日本の中世記録史料を読解する能力を養うことを目指します。

授業の概要

テキストは、朝廷の記録である百練抄を使用します。最初の数回は、和様漢文の読み方の解説と、百練抄を用いた読解練習を行います。その後、源平合戦に関する記事を、分担して講読していきます。

準備学習（予習・復習）

テキストは事前に配布しますので、次回の講読部分に必ず目を通し、自分で読んでおきましょう。目安は約1時間程度です。また、内容に関連する書籍が多数出版されているので、それらを読むことにより、より深く内容を理解することができます。

内　　容

第1回　授業の進行についてのガイダンス
第2回　百練抄の講読（1）
第3回　百練抄の講読（2）
第4回　百練抄の講読（3）
第5回　百練抄の講読（4）
第6回　百練抄の講読（5）
第7回　百練抄の講読（6）
第8回　百練抄の講読（7）
第9回　百練抄の講読（8）
第10回　百練抄の講読（9）
第11回　百練抄の講読（10）
第12回　百練抄の講読（11）
第13回　百練抄の講読（12）
第14回　百練抄の講読（13）・問題演習
第15回　小テスト・解説

履修上の注意点

発表担当があらかじめ決まっている回に無断欠席した場合は、単位を認めません。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法
著者:　苅米一志
出版社:　吉川弘文館
出版年:　2015　　ISBN:

鎌倉幕府
著者:　石井進
出版社:　中央公論社
出版年:　2004（初出1966）　　ISBN:

源平合戦の虚像を剥ぐ
著者:　川合康
出版社:　講談社
出版年:　1996　　ISBN:

a10302a252

日本の時代史7　院政の展開と内乱

著者:　元木泰雄編

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2002　　ISBN:

平清盛と後白河院

著者:　元木泰雄

出版社: 角川学芸出版

出版年: 2012　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト（ 70 ）

授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度 （ 0 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史基礎ゼミⅡ ＜＊C＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　尾下　成敏

テーマ

徳川政権期の文献史料を読む

授業の到達目標

近世の漢文史料に慣れ、この時代について理解を深める。

授業の概要

徳川政権期の文献史料（譜代大名松平忠利の日記など）を読む。受講生の義務は以下の通り、①史料の読み下し、②担当した史料の逐語訳の作成と報告。そして授業の最後には原稿用紙8枚程度のレポートを作成してもらう。なお、学外の資料館・博物館を見学することがある。

準備学習（予習・復習）

配布する漢文史料の予習・復習を怠らないこと。また博物館・美術館などへ足を運んで、古文書や絵画史料等に慣れ親しみ、概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読んで、歴史学に関する知識を増やすこと。

内　容

第1回　ガイダンス・テキストに関する概説
第2回　テキストに関する概説
第3回　松平忠利の日記の講読、その1（時間があまれば他の史料を読む）
第4回　松平忠利の日記の講読、その2（時間があまれば他の史料を読む）
第5回　松平忠利の日記の講読、その3（時間があまれば他の史料を読む）
第6回　松平忠利の日記の講読、その4（時間があまれば他の史料を読む）
第7回　松平忠利の日記の講読、その5（時間があまれば他の史料を読む）
第8回　松平忠利の日記の講読、その6（時間があまれば他の史料を読む）
第9回　松平忠利の日記の講読、その7（時間があまれば他の史料を読む）
第10回　松平忠利の日記の講読、その8（時間があまれば他の史料を読む）
第11回　松平忠利の日記の講読、その9（時間があまれば他の史料を読む）
第12回　松平忠利の日記の講読、その10（時間があまれば他の史料を読む）
第13回　松平忠利の日記の講読、その11（時間があまれば他の史料を読む）
第14回　松平忠利の日記の講読、その12（時間があまれば他の史料を読む）
第15回　まとめ

履修上の注意点

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本の歴史　鎖国
著者:　朝尾直弘
出版社:　小学館
出版年:　1975年　　ISBN:

日本の歴史　江戸開幕
著者:　藤井譲治
出版社:　集英社
出版年:　1992年　　ISBN:

日本の歴史　天下泰平
著者:　横田冬彦
出版社:　講談社
出版年:　2002年　　ISBN:

a10302a253

全集日本の歴史　徳川の国家デザイン

著者:　水本邦彦

出版社: 小学館

出版年: 2008年　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ 20 ）

授業中課題（ 35 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度 （ 15 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史基礎ゼミⅡ＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　高久　嶺之介	

テーマ

幕末・明治の史料を読む

授業の到達目標

日本近代史の史料を確実に読める能力を養う

授業の概要

下記のテーマに関する史料を通読し、幕末・明治の時代状況もあわせて知るようにする。なお、必要に応じて学外授業を実施することがある。

準備学習（予習・復習）

京都には幕末・明治の史跡が数多くある。京都を散策してほしい。

内　　容

第1回　史料購読の方法
第2回　幕末という時代についての説明
第3回　京都の幕末・維新についての説明
第4回　（史料）「池田屋事件」
第5回　（史料）「禁門の変」
第6回　（史料）「安政の大獄」
第7回　（史料）「薩長盟約」
第8回　（史料）「大政奉還」
第9回　（史料）「王政復古の大号令」
第10回（史料）「鳥羽・伏見の戦い」
第11回 大政奉還から鳥羽・伏見の戦いまでの説明
第12回（史料）「大坂遷都の建白」
第13回（史料）「琵琶湖疏水」（1）
第14回（史料）「「琵琶湖疏水」（2）
第15回 明治の京都についてのまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 60 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 10 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史基礎ゼミⅠ〈＊A〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　松浦　京子

テーマ

英文史料ならびに重要論文の精読1

授業の到達目標

西洋史研究を進めるうえで必要なスキルとメソッドを理解し、それを身に着けることをめざす。

授業の概要

西洋史上の重要な史料（英文）を精読することで、その内容から何が読み取れるかを考える。史料は、Weidenfeld and Nicolson社刊のIllustrated History of Europeに掲載されている抜粋史料から選択し、各史料の翻訳とその意味内容の解説と関連する歴史事象についての報告を受講生各自が分担し行なう。翻訳に関しては、発表報告の最低でも2週間前には全訳文を教員に提出し添削をうけなければならない。

準備学習（予習・復習）

テキストの精読、翻訳、ならびに、関連文献を検索し精読すること。

内　容

第1回　授業の進め方について（テキストの紹介、受講生各自の関心領域の確認）
第2回　史料から何を読み取るか、についての教員講義
第3回　英文史料について、教員講義
第4回　最新の西洋史論文における研究視点と手法について、教員講義（2～4回の講義の順は入れ替わる可能性がある）
第5回　ゼミ生報告―①　質疑応答
第6回　ゼミ生報告―②　質疑応答
第7回　ゼミ生報告―③　質疑応答
第8回　ゼミ生報告―④　質疑応答
第9回　ゼミ生報告―⑤　質疑応答
第10回　ゼミ生報告―⑥　質疑応答
第11回　ゼミ生報告―⑦　質疑応答
第12回　ゼミ生報告―⑧　質疑応答
第13回　ゼミ生報告―⑨　質疑応答
第14回　ゼミ生報告―⑩　質疑応答
第15回　本演習の総括　学外学習を行う場合もある

履修上の注意点

全員が完全出席をめざすこと。やむを得ず欠席するときには、前もって教員の大学アドレス宛に連絡すること。

教科書

こちらで用意する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

特に指定はしないが、西洋史の論文、研究書
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 40% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史基礎ゼミⅠ〈＊B〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　小野 浩	

テーマ

中央アジア・西アジアの歴史文献の輪読とそれにもとづく発表

授業の到達目標

中央アジア史・西アジア史に関する文献を選読して当該地域の歴史の知見を深め、さらには自らの関心にもとづいた研究発表を行なうことで、初歩的な研究態度を習得する。

授業の概要

扱う地域・時代ともにきわめて広範に亙り、また出席者各人の関心もさまざまであることが予想されるので、それにこたえるようなテキストは見出しがたい。それゆえこちらでいくつかの文献を候補として用意し（下記参考書参照）、受講者はその中から一部を選んで要約と発表を行なうという形式をとる。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。また学外授業を行うこともある。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　出席者各人に自分の興味と関心のあるテーマを自己紹介させる。テキストの紹介。分担の決定。
第2回　担当者による内容要約とそれに付随した研究発表。（その際必ずレジュメを用意すること。）教員のコメントおよび出席者による質疑①。
第3回　報告②と質疑
第4回　報告③と質疑
第5回　報告④と質疑
第6回　報告⑤と質疑
第7回　報告⑥と質疑
第8回　報告⑦と質疑
第9回　報告⑧と質疑
第10回　報告⑨と質疑
第11回　報告⑩と質疑
第12回　報告⑪と質疑
第13回　報告⑫と質疑
第14回　報告⑬と質疑
第15回　まとめ　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

メソポタミア文明入門
著者:　中田一郎
出版社:　岩波書店
出版年:　2007　ISBN:

アジアの歴史と文化　西アジア史
著者:　間野英二　編
出版社:　同朋舎
出版年:　2000　ISBN:

アジアの歴史と文化　中央アジア史
著者:　間野英二　編
出版社:　同朋舎
出版年:　1999　ISBN:

a10302a312

新書東洋史8　中央アジアの歴史

著者:　間野英二

出版社: 講談社

出版年: 1977　　ISBN:

イスラム世界の発展(ビジュアル版世界の歴史)

著者:　本田実信

出版社: 講談社

出版年: 1985　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）

参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史基礎ゼミⅠ〈＊C〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　王　衛明	

テーマ

中国古代史に関する基本研究法の実践

授業の到達目標

中国史を研究するために、その前提となる漢文史料の読解や研究論文の読み込みの技術及び文献の調査方法を身につける。

授業の概要

Ⅰ中国史の基本知識をもつため、基本的な論文・資料を読む。Ⅱ古代中国の政治、思想、文化、文物制度の基本知識を身につける。Ⅲそれぞれが関心を持つテーマについてどのような文献探索が必要なのか、を指導する。

準備学習（予習・復習）

授業中に指示した参考書、学術論文をしっかりと読むこと。

内　　容

第1回　中国史研究の基本史料となる『二十四史』使用の意味Ⅰ
第2回　中国史研究の基本史料となる『二十四史』使用の意味Ⅱ
第3回　中国史研究の基本史料となる『二十四史』使用の意味Ⅲ
第4回　中国史研究の基本論文・資料を読むⅠ—資料から何を読みとるかを考える
第5回　中国史研究の基本論文・資料を読むⅡ—資料から何を読みとるかを考える
第6回　中国史研究の基本論文・資料を読むⅢ—資料から何を読みとるかを考える
第7回　必要に応じて、史料に出ている京都・奈良の文化史蹟を見学する
第8回　それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文史料を講読する
第9回　それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文史料を講読する
第10回　それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文史料を講読する
第11回　必要に応じて、史料に出ている京都・奈良の文化史蹟を見学する
第12回　それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文史料を講読する
第13回　それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文史料を講読する
第14回　それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文史料を講読する
第15回　総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。授業中に中国関係の遺物または博物館所蔵品を三回見学する予定。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史基礎ゼミⅡ＜＊A＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　松浦　京子

テーマ

史料ならびに重要論文の精読

授業の到達目標

西洋史研究を進めるうえで必要なスキルとメソッドを理解し、それを身に着けることをめざす。

授業の概要

西洋史上の重要な史料を精読することで、その内容から何が読み取れるかを考える。史料の意味内容の解説と関連する歴史事象についての報告を受講生各自が分担し行なう。または、最近の重要論文を各自の関心領域に即して選び、その論文について全員がしっかり精読し、感想とコメントを用意し、それに基づいてディベートを行う。感想とコメントについては授業時にレポートとして提出する。

準備学習（予習・復習）

史料または論文の精読、ならびに、関連文献を検索し精読すること。

内　　容

第1回　史料に関して、教員からの講義①
第2回　史料に関して、教員からの講義②
第3回　最新研究論文についての紹介①
第4回　最新研究論文についての紹介②
第5回　ゼミ生報告―①　質疑応答
第6回　ゼミ生報告―②　質疑応答
第7回　ゼミ生報告―③　質疑応答
第8回　ゼミ生報告―④　質疑応答
第9回　ゼミ生報告―⑤　質疑応答
第10回　ゼミ生報告―⑥　質疑応答
第11回　ゼミ生報告―⑦　質疑応答
第12回　ゼミ生報告―⑧　質疑応答
第13回　ゼミ生報告―⑨　質疑応答
第14回　ゼミ生報告―⑩　質疑応答
第15回　本演習の総括

履修上の注意点

全員が完全出席をめざすこと。やむを得ず欠席するときには、前もって教員の大学アドレス宛に連絡すること。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

特に指定はしないが、西洋史の論文、研究書
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 40% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史基礎ゼミⅡ ＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　小野 浩	

テーマ

中央アジア・西アジアの歴史文献の輪読とそれにもとづく発表

授業の到達目標

中央アジア史・西アジア史に関する文献を選読して当該地域の歴史の知見を深め、さらには自らの関心にもとづいた研究発表を行なうことで、初歩的な研究態度を習得する。

授業の概要

扱う地域・時代ともにきわめて広範に亙り、また出席者各人の関心もさまざまであることが予想されるので、それにこたえるようなテキストは見出しがたい。それゆえこちらでいくつかの文献を候補として用意し（下記参考書参照）、受講者はその中から一部を選んで要約と発表を行なうという形式をとる。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。また学外授業を行うこともある。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　出席者各人に自分の興味と関心のあるテーマを自己紹介させる。テキストの紹介。分担の決定。
第2回　担当者による内容要約とそれに付随した研究発表。（その際必ずレジュメを用意すること。）教員のコメントおよび出席者による質疑①。
第3回　報告②と質疑
第4回　報告③と質疑
第5回　報告④と質疑
第6回　報告⑤と質疑
第7回　報告⑥と質疑
第8回　報告⑦と質疑
第9回　報告⑧と質疑
第10回　報告⑨と質疑
第11回　報告⑩と質疑
第12回　報告⑪と質疑
第13回　報告⑫と質疑
第14回　報告⑬と質疑
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

メソポタミア文明入門
著者:　中田一郎
出版社:　岩波書店
出版年:　2007　　ISBN:

アジアの歴史と文化　西アジア史
著者:　間野英二　編
出版社:　同朋舎
出版年:　2000　　ISBN:

アジアの歴史と文化　中央アジア史
著者:　間野英二　編
出版社:　同朋舎
出版年:　1999　　ISBN:

a10302a452

新書東洋史8　中央アジアの歴史

著者:　間野英二

出版社: 講談社

出版年: 1977　　ISBN:

イスラム世界の発展(ビジュアル版世界の歴史)

著者:　本田実信

出版社: 講談社

出版年: 1985　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）

参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史基礎ゼミⅡ＜＊C＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　　王　衛明

テーマ

中国古代史に関する基本研究法の実践

授業の到達目標

中国史を研究するために、その前提となる漢文史料の読解や研究論文の読み込みの技術及び文献の調査方法を身につける。

授業の概要

Ⅰ中国史の基本知識をもつため、基本的な論文・資料を読む。Ⅱ古代中国の政治、思想、文化、文物制度の基本知識を身につける。Ⅲそれぞれが関心を持つテーマについてどのような文献探索が必要なのか、を指導する。

準備学習（予習・復習）

事前に指示した参考書、学術論文をしっかり読むこと。

内　　容

第1回　中国史研究の基本史料及び受講者が関心を持つ史料、遺物、遺跡について説明する。
第2回　中国史研究の基本史料及び受講者が関心を持つ史料、遺物、遺跡について説明する。
第3回　中国史研究の基本史料及び受講者が関心を持つ史料、遺物、遺跡について説明する。
第4回　中国歴史に関する発表の形式について説明する。
第5回　これまでの教員の説明内容に基づいて発表する。
第6回　これまでの教員の説明内容に基づいて発表する。
第7回　必要に応じて、史料に出ている京都・奈良の文化史蹟を見学する。
第8回　それぞれが関心を持つテーマについて報告する。
第9回　それぞれが関心を持つテーマについて報告する。
第10回　それぞれが関心を持つテーマについて報告する。
第11回　必要に応じて、史料に出ている京都・奈良の文化史蹟を見学する。
第12回　それぞれが関心を持つテーマについて報告する。
第13回　それぞれが関心を持つテーマについて報告する。
第14回　それぞれが関心を持つテーマについて報告する。
第15回　総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。

教科書

参考書

中国歴史研究入門
著者:　砺波護ほか編
出版社:　名古屋大学出版会
出版年:　2006　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**現代史基礎ゼミⅠ〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　南 直人	

テーマ

現代史（ヨーロッパ･アメリカ）の専門研究への入門

授業の到達目標

専門的な現代史（ヨーロッパ･アメリカ）研究のために必要な基礎的知識・技法の修得をめざす。

授業の概要

西洋史学（近現代）の概説的／専門的知識、専門研究のスタイル、近年における種々の専門的研究テーマについて学習する。そのために、概説書から適宜テーマを選定し、各人がそれぞれ指定されたテーマについて発表する。なお、必要に応じて学外授業、学外講師の講演会をそれぞれ1回程度おこなうこともある。

準備学習（予習・復習）

テキストや参考書以外の現代史関係の書物をできるだけ読むこと

内　容

第1回　歴史学の意義について考える、進路／就職についても考える
第2回　現代史（西洋史）研究へのイントロダクション
第3回　現代の世界（1）
第4回　現代の世界（2）
第5回　現代の世界（3）
第6回　西洋近代史概説（1）
第7回　西洋近代史概説（2）
第8回　西洋近代史概説（3）
第9回　西洋近代史概説（4）
第10回　西洋現代史概説（1）
第11回　西洋現代史概説（1）
第12回　西洋現代史概説（2）
第13回　西洋現代史概説（3）
第14回　西洋現代史概説（4）
第15回　まとめ・発表

履修上の注意点

積極的な質問・発言が重要

教科書

大学で学ぶ西洋史［近現代］
著者：　小山哲他
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2011年　　ISBN：

参考書

ヨーロッパと近代世界
著者：　川北稔
出版社：放送大学教育振興会
出版年：2001年　　ISBN：

世界システム論講義
著者：　川北稔
出版社：ちくま文芸文庫
出版年：2016年　　ISBN：

20世紀の歴史
著者：　木畑洋一
出版社：岩波新書
出版年：2014年　　ISBN：

a10302a510

成績評価

試験 （ 0 ）
小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 10 ）
授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 40 ）

Syllabus

科 目 名　**現代史基礎ゼミⅠ〈＊B〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**現代史基礎ゼミⅡ＜＊A＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　永井　和	

テーマ

日本近現代史研究入門

授業の到達目標

専門的な日本近現代史（20世紀日本史）研究のために必要な基礎的知識の修得をめざす。

授業の概要

岩波新書のシリーズ日本近現代史のうち、1960年代までの20世紀をカバーする5冊を輪読する。それによってこの時期の日本近現代史について基礎的な知識を獲得する。参加者は与えられた分担箇所について、テキストに基づいて、日本近代史概説の模擬授業形式の発表をおこなう。

準備学習（予習・復習）

テキストの割り当てられた箇所について模擬授業ができるように、事前の準備をすること。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　日本近代史概説報告①
第3回　日本近代史概説報告②
第4回　日本近代史概説報告③
第5回　日本近代史概説報告④
第6回　日本近代史概説報告⑤
第7回　日本近代史概説報告⑥
第8回　日本近代史概説報告⑦
第9回　日本近代史概説報告⑧
第10回　日本近代史概説報告⑨
第11回　日本近代史概説報告⑩
第12回　日本近代史概説報告⑪
第13回　日本近代史概説報告⑫
第14回　日本近代史概説報告⑬
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

岩波新書・大正デモクラシー
著者：　成田龍一
出版社：岩波書店
出版年：2007　　ISBN：9784004310457

岩波新書・満洲事変から日中戦争へ
著者：　加藤陽子
出版社：岩波書店
出版年：2007　　ISBN：9784004310464

岩波新書・アジア・太平洋戦争
著者：　吉田裕
出版社：岩波書店
出版年：2007　　ISBN：9784004310471

岩波新書・占領と改革
著者：　雨宮昭一
出版社：岩波書店
出版年：2008　　ISBN：9784004310488

a10302a650

岩波新書・高度経済成長

著者:　武田晴人

出版社: 岩波書店

出版年: 2008　　ISBN:　9784004310495

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 60 ）

参加度 （ 40 ）

Syllabus

科 目 名　**現代史基礎ゼミⅡ＜＊B＞**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**古文書学AⅠ（古代･中世）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　米澤　洋子	

テーマ

古文書の様式を学ぶ

授業の到達目標

古代中世の古文書の様式について理解し、古文書を使って歴史研究をするための基礎的な知識と方法を習得する。

授業の概要

最初は講義形式で古文書学の概要を説明し、続いて各様式の古文書を受講者に割り当て読んでもらう。機会があれば、古文書の実物に触れることを目的とした博物館見学などの課外学習を実施する予定である。なお、この講義はくずし字の解読が主ではないので注意。

準備学習（予習・復習）

講義の限られた時間内で扱える古文書は少ないので、各自古文書に触れる機会を作る。具体的には参考書にあげた書籍を読んだり、図録に掲載された古文書の写真などを見る。

内　　容

第1回	概説①	古文書とは？　古文書学とは？
第2回	概説②	古文書の伝来
第3回	概説③	古文書学用語の基礎知識
第4回	概説④	古文書の分類
第5回	古文書の様式Ⅰ	公式様文書（1）
第6回	古文書の様式Ⅰ	公式様文書（2）
第7回	古文書の様式Ⅱ	公家様文書（1）
第8回	古文書の様式Ⅱ	公家様文書（2）
第9回	古文書の様式Ⅱ	公家様文書（3）
第10回	古文書の様式Ⅱ	公家様文書（4）
第11回	古文書の様式Ⅱ	公家様文書（5）
第12回	古文書の様式Ⅱ	公家様文書（6）
第13回	古文書の様式Ⅲ	その他の文書・荘園編
第14回	古文書の様式Ⅲ	その他の文書・荘園編
第15回	まとめ（予備）	

履修上の注意点

古文書の解読については、予習・復習を前提とする。なお、本科目では、史料読解に不可欠な漢文の基礎学力の向上も目指しているので、各回とも出席が望ましい。

教科書

参考書

新版古文書学入門
著者：　佐藤進一
出版社：法政大学出版
出版年：1997年　　ISBN：

概説古文書学ー古代・中世編
著者：　日本歴史学会
出版社：吉川弘文館
出版年：1983年　　ISBN：

演習古文書選様式編
著者：　日本歴史学会
出版社：吉川弘文館
出版年：1976年　　ISBN：

成績評価

a10302d110

試験 （ ）　小テスト （ 70 ）
授業中課題 （ 10 ）　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 10 ）
単元ごとに確認テストを行うとともに、宿題や授業中の課題および参加度を評価

Syllabus

科 目 名　**古文書学AⅠ（古代･中世）<b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習･復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**古文書学AⅡ（古代･中世）**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　米澤　洋子

テーマ

古文書の様式を学ぶ

授業の到達目標

前期の授業を受けて、後期は武家文書を中心に、その様式について学習する。さらには東寺百合文書などの寺家文書も取り上げ、古文書を使って歴史研究をするための基礎的な知識と方法を習得する。なお、講義の内容上、前期と連続して受講することが望ましい。

授業の概要

最初は前期の復習を兼ねた概説の講義を行い、その後、各時代および各様式の古文書を受講者に割り当て読んでもらう。

準備学習（予習･復習）

前期の復習、特に公家様文書の特徴を確認した上で、後期の授業に臨んでほしい。

内　容

第1回	概説①	前期の復習
第2回	概説②	花押の世界
第3回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書（1）
第4回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書（2）
第5回	武家文書Ⅰ	鎌倉幕府の文書（3）
第6回	武家文書	鎌倉幕府の文書（4）
第7回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書（1）
第8回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書（2）
第9回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書（3）
第10回	武家文書Ⅱ	室町幕府の文書（4）
第11回	武家文書Ⅲ	戦国武将の文書（1）
第12回	武家文書Ⅲ	戦国武将の文書（2）
第13回	その他の文書	寺家文書（1）
第14回	その他の文書	寺家文書（2）
第15回	まとめ（予備）	

履修上の注意点

前期同様、授業以外でも、各自古文書に触れる機会を作る。機会があれば、実物の古文書に触れることを目的とした博物館学習などの課外授業も行う予定である。

教科書

参考書

新版古文書学入門
著者:　佐藤進一
出版社:　法政大学出版
出版年:　1997年　　ISBN:

概説古文書学ー古代･中世編
著者:　日本歴史学会
出版社:　吉川弘文館
出版年:　1983年　　ISBN:

演習古文書選様式編
著者:　日本歴史学会
出版社:　吉川弘文館
出版年:　1976年　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 70 ）

a10302d250

授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ 10 ）

参加度 （ 10 ）

単元ごとの確認テストを行うとともに、宿題や授業中の課題および参加度を評価

Syllabus

科 目 名　**古文書学AⅡ（古代･中世）<b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習･復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**古文書学BⅠ（近世）<a>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　山田 淳平

テーマ

日本近世の古文書

授業の到達目標

日本近世（安土桃山時代～江戸時代）の古文書を解読し、内容を理解する能力を身につけることを目標とする。

授業の概要

授業は配布テキストによっておこなう。日本近世の古文書・くずし字についての基礎知識を習得した上で、古文書で使用される字体や文章について学習をすすめる。また、色々なタイプの古文書の解読を通して、近世社会についての理解を深める。

準備学習（予習・復習）

古文書の読解能力を身に付けるためには、繰り返し古文書に触れ親しむことが大事である。よって、配布テキストについて予習・復習をおこなうことが望ましい。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　日本近世の古文書・くずし字について
第3回　古文書で使用される言葉（1）
第4回　古文書で使用される言葉（2）
第5回　古文書で使用される字体
第6回　武家の古文書を読む（1）
第7回　武家の古文書を読む（2）
第8回　武家の古文書を読む（3）
第9回　町の古文書を読む（1）
第10回　町の古文書を読む（2）
第11回　町の古文書を読む（3）
第12回　村の古文書を読む（1）
第13回　村の古文書を読む（2）
第14回　村の古文書を読む（3）
第15回　まとめ

履修上の注意点

欠席・遅刻が多いと成績評価に影響する。この点留意されたい。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40 ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**古文書学BⅠ（近世）<b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　水沼　尚子	

テーマ

初級の古文書解読

授業の到達目標

日本近世の古文書の字体・文体などに馴れ、その内容を把握することを目的とする。

授業の概要

日本近世のくずし字に関する基本的な知識を得るとともに、様々なタイプの古文書をとりあげ、その字体や文体について学習する。また、内容を把握していきながら、日本の近世社会に関する理解を深める。

準備学習（予習・復習）

くずし字や文体に馴れるためには、復習をおこなうことが大切である。授業中に配布したテキストを繰り返し翻刻・音読・現代語訳して確実に習得してほしい。また、日常で接する文字・言葉・映像に対しても近世史の視点から興味や疑問を持ち、多方面から考察できるちからを養うこと。

内　容

第1回　くずし字と辞典(1)
第2回　くずし字と辞典(2)
第3回　古文書の解読(1)
第4回　古文書の解読(2)
第5回　古文書の解読(3)
第6回　古文書の解読(4)
第7回　古文書の解読(5)
第8回　古文書の解読(6)
第9回　古文書の解読(7)
第10回　古文書の解読(8)
第11回　古文書の解読(9)
第12回　古文書の解読(10)
第13回　古文書の解読(11)
第14回　古文書の解読(12)
第15回　古文書の解読(13)

履修上の注意点

順番に板書(翻刻)・音読をしてもらうので、質問を含め積極的に参加していただきたい。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

くずし字用例辞典
著者:　児玉幸多編
出版社:　東京堂出版
出版年:　1993　ISBN:

くずし字解読辞典
著者:　児玉幸多編
出版社:　東京堂出版
出版年:　1993　ISBN:

新編・古文書解読字典
著者:　林英夫
出版社:　柏書房
出版年:　1993　ISBN:

成績評価

試験 （ 40 ）
小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**古文書学BⅡ（近世）<a>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　山田 淳平

テーマ

日本近世の古文書

授業の到達目標

日本近世（安土桃山時代～江戸時代）の古文書を解読し、内容を理解する能力を身につけることを目標とする。

授業の概要

授業は配布テキストによっておこなう。日本近世の古文書・くずし字についての基礎知識を習得した上で、古文書で使用される字体や文章について学習をすすめる。また、色々なタイプの古文書の解読を通して、近世社会についての理解を深める。

準備学習（予習・復習）

古文書の読解能力を身に付けるためには、繰り返し古文書に触れ親しむことが大事である。よって、配布テキストについて予習・復習をおこなうことが望ましい。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　公家の古文書を読む（1）
第3回　公家の古文書を読む（2）
第4回　公家の古文書を読む（3）
第5回　寺社の古文書を読む（1）
第6回　寺社の古文書を読む（2）
第7回　寺社の古文書を読む（3）
第8回　京都（洛中）の古文書を読む（1）
第9回　京都（洛中）の古文書を読む（2）
第10回　京都（洛中）の古文書を読む（3）
第11回　京都（洛外）の古文書を読む（1）
第12回　京都（洛外）の古文書を読む（2）
第13回　京都（洛外）の古文書を読む（3）
第14回　京都（洛外）の古文書を読む（4）
第15回　まとめ

履修上の注意点

欠席・遅刻が多いと成績評価に影響する。この点留意されたい。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業中に紹介する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**古文書学BⅡ（近世）<b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　水沼　尚子	

テーマ

初級の古文書解読

授業の到達目標

日本近世の古文書の字体・文体などに馴れ、その内容を把握することを目的とする。

授業の概要

日本近世のくずし字に関する基本的な知識を得るとともに、様々なタイプの古文書をとりあげ、その字体や文体について学習する。また、内容を把握していきながら、日本の近世社会に関する理解を深める。

準備学習（予習・復習）

くずし字や文体に馴れるためには、復習をおこなうことが大切である。授業中に配布したテキストを繰り返し翻刻・音読・現代語訳して確実に習得してほしい。また、日常で接する文字・言葉・映像に対しても近世史の視点から興味や疑問を持ち、多方面から考察できるちからを養うこと。

内　容

第1回　くずし字と辞典(1)
第2回　くずし字と辞典(2)
第3回　古文書の解読(1)
第4回　古文書の解読(2)
第5回　古文書の解読(3)
第6回　古文書の解読(4)
第7回　古文書の解読(5)
第8回　古文書の解読(6)
第9回　古文書の解読(7)
第10回　古文書の解読(8)
第11回　古文書の解読(9)
第12回　古文書の解読(10)
第13回　古文書の解読(11)
第14回　古文書の解読(12)
第15回　古文書の解読(13)

履修上の注意点

順番に板書(翻刻)・音読をしてもらうので、質問を含め積極的に参加していただきたい。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

くずし字用例辞典
著者:　児玉幸多編
出版社:　東京堂出版
出版年:　1993　ISBN:

くずし字解読辞典
著者:　児玉幸多編
出版社:　東京堂出版
出版年:　1993　ISBN:

新編・古文書解読字典
著者:　林英夫
出版社:　柏書房
出版年:　1993　ISBN:

成績評価

試験 （ 40 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）	

Syllabus

科 目 名　**出土文字資料論Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**出土文字資料論Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件　要開講(2014年度休講)	クラス指定
担 当 者　渡辺　晃宏	

テーマ

木簡を中心とする出土文字資料の特質と遺跡との関わり、そしてそれらが語る新しい歴史像

授業の到達目標

歴史を考える上で欠くことのできない重要な位置を占めるようになった木簡をはじめとする出土文字資料の特質を理解した上で、実際に木簡を読み解きながら、資料としての木簡の役割について理解を深め、新しい日本史像を探求する。

授業の概要

具体的な木簡に即して、日本古代を中心とするの木簡の概説、各論を講義する。なお、木簡研究の最先端にふれてもらうため、最新の木簡をはじめとする出土文字資料や発掘調査の情報などを適宜取り上げながら授業を進めていきたいと考えるので、取り上げる木簡やその順序に変更や偏りが生じる場合がある。また、平城宮跡における現地講義に振り替える場合があ

準備学習(予習・復習)

木簡をはじめとする出土文字資料や最新の発掘調査の情報に注目し、現地説明会などにも積極的に参加してほしい。特に、授業の主要な対象となる木簡が出土した平城宮跡を実際に訪れ、遺跡としての広がりを体験しておくことが望ましい。また、正倉院展(奈良国立博物館)や地下の正倉院展(奈文研平城宮跡資料館での木簡の展示)などの実物資料を見られる機会や、奈文研の木簡に関するデータベースなどを活用し、日頃から積極的に資料に親しむように努めてほしい。

内　容

第1回　木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について概観する。
第2回　木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について概観する。
第3回　代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料の役割について考える。
第4回　代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料の役割について考える。
第5回　代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料の役割について考える。
第6回　長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
第7回　長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
第8回　長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
第9回　735、6年頃を中心とする二条大路木簡(光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
第10回　735、6年頃を中心とする二条大路木簡(光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
第11回　735、6年頃を中心とする二条大路木簡(光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
第12回　西大寺旧境内出土木簡など、平城京跡出土のその他の代表的な木簡について検討する。
第13回　国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。
第14回　国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。
第15回　中世や近世の木簡について検討し、木簡の時間的な広がりについて理解を深める。最後に授業全体のまとめを行う。

履修上の注意点

教科書

特に使用しない。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

適宜プリントなどを配布する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

a10302d650

参考書

木簡から古代がみえる(岩波新書)新赤版1256
著者:　木簡学会
出版社: 岩波書店
出版年: 2010　ISBN:　978-4004312567

木簡が語る日本の古代(岩波新書)黄版231
著者:　東野治之
出版社: 岩波書店
出版年: 1983　ISBN:　978-4004202318

平城京と木簡の世紀(講談社学術文庫)
著者:　渡辺晃宏
出版社: 講談社
出版年: 2009　ISBN:　978-4062919043

平城京1300年全検証―奈良の都を木簡から読み解く
著者:　渡辺晃宏
出版社: 柏書房
出版年: 2010　ISBN:　978-4760137404

日本古代木簡選
著者:　木簡学会
出版社: 岩波書店
出版年: 1990　ISBN:　978-4000016803

日本古代木簡集成
著者:　木簡学会
出版社: 東京大学出版会
出版年: 2003　ISBN:　978-4130201360

〈歴史の証人〉木簡を究める
著者:　奈良文化財研究所
出版社: クバプロ
出版年: 2014　ISBN:　978-4878051340

成績評価

試験 (80)　小テスト ( )
授業中課題 ( )　授業中発表等 ( )
参加度 (20)
試験はレポートによる場合もある。

2016 Syllabus

科 目 名　**古文書学ＣＩ（近世）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　古文書学ＢＩ(近世)またはＢⅡ(近世)を修得済みであること、または同等以上の者	クラス指定
担 当 者　尾下　成敏	

テーマ

上級・中級の古文書（1）

授業の到達目標

くずし字を読み解く能力を高める。

授業の概要

この科目は、学部2回生・3回生・4回生のうち、大学院進学を考えている学生やくずし字を学ぶことが好きな学生のために、開講されている科目であり、古文書学ＡＩ・ＡⅡ・ＢＩ・ＢⅡのうち2科目を履修しないと、履修することができない科目である。テキストに用いるのは、くずし字で書かれた近世・近代の古文書・編纂物の写真などである。なお、夏季休暇中に、自由参加という形で、本学所蔵文書の整理や写真撮影を行うことがある。また、できれば『くずし字用例辞典』（東京堂出版）を購入して欲しい。

準備学習（予習・復習）

古文書のくずし字や文体に慣れるためには、予習・復習を行うことが大切である。とくに声を出しながら何度も読むこと、読めない字を何度も書くことは大事であろう。また活字化された多くの文献史料にできるだけ目を通すことも大事と考える。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　古文書の解読、その1
第3回　古文書の解読、その2
第4回　古文書の解読、その3
第5回　編纂物の解読、その1
第6回　編纂物の解読、その2
第7回　編纂物の解読、その3
第8回　編纂物の解読、その4
第9回　編纂物の解読、その5
第10回　編纂物の解読、その6
第11回　編纂物の解読、その7
第12回　編纂物の解読、その8
第13回　編纂物の解読、その9
第14回　本学所蔵文書の熟覧
第15回　まとめ（学外の資料館・博物館見学を行う場合がある）

履修上の注意点

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

江戸時代の古文書を読む（全10冊）
著者:　徳川林政史研究所監修
出版社:　東京堂出版
出版年:　2002年～2012年　　ISBN:

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**古文書学CⅡ（近世）**

クラス		配当回生	学部2回生
講義期間	後期	定　　員	30
履修条件	古文書学CⅠ（近世）を修得済み、または同等以上の者	クラス指定	
担 当 者	永井　和		

テーマ

太政官文書・内閣文書を読む

授業の到達目標

近代日本の公文書である太政官文書・内閣文書について、その文書群の種類と構造を理解するとともに、典型的な文書についてその様式を学び、読解できる力を養う。また、デジタル化された文書画像を処理するICTツール、SMART-GSの使用方法を身につける。

授業の概要

国立公文書館のアジア歴史資料センターには、日本の近現代史に関する公文書史料（太政官と内閣、枢密院、外務省、陸軍・海軍など）をデジタル画像化し、オンラインで閲覧可能にした世界でも有数のデジタル・アーカイブスである。この授業では公開されているアジア歴史資料センターのデジタル史料のうち太政官文書・内閣文書を読む。１．アジア歴史資料センターに収録されている太政官・内閣文書の構造とその保存状態を知り、近現代史の公文書資料についての理解を深める。２．参加者の関心にしたがって、いくつかの史料を選択し、その読解、史料分析をおこない、近現代史における史料操作の方法を体験する。３．文献資料解析ツールであるSMART-GSを使用し、歴史資料がデジタル画像化されてオンラインで流通する、デジタル化時代における史料操作の方法を実地に体験する。

準備学習（予習・復習）

授業では、分担を決めて史料を読解する。報告にあたっては必ず予習しておくこと。また授業では、SMART-GSのシステムやデータを格納するUSBメモリを使用するので、各自用意すること。

内　　容

第1回　アジア歴史資料センターにアクセスする。
第2回　アジア歴史資料センターにはどのような史料があるのか。
第3回　太政官文書と内閣文書—種類と構成
第4回　太政官文書と内閣文書を読む　その1
第5回　太政官文書と内閣文書を読む　その2
第6回　SMART-GSのセットアップ
第7回　SMAART-GSの使用法を学ぶ　その1
第8回　SMART-GSの使用法を学ぶ　その2
第9回　SMART-GSの使用法を学ぶ　その3
第10回　SMART-GSを使って史料を解読・分析する。　その1
第11回　SMART-GSを使って史料を解読・分析する。　その2
第12回　SMART-GSを使って史料を解読・分析する。　その3
第13回　解読・分析の結果を報告する。　その1
第14回　解読・分析の結果を報告する。　その2
第15回　解読・分析の結果を報告する。　その3

履修上の注意点

科目名は「古文書学CⅡ（近世）」となっているが、授業で扱うのは「近代文書」それも公文書にかぎられる。この授業は、講義よりも実習が主となる。学生の主体的な参加が要請される。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

近代史料学の射程
著者:　中野目徹
出版社:　弘文堂
出版年:　2000　　ISBN:　978-4335352058

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

a10302d850

授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 10 ）

参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史特講a（古代史）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　北 啓太	

テーマ

日本律令制の世界

授業の到達目標

史料に基づいた形で律令制についての各種知識を修得する。また古代史研究の水準を知り、日本古代国家について理解を深める。

授業の概要

律令制は日本古代国家の歴史上画期的な意味をもち、日本古代史の研究分野として大きな位置を占めている。律令制を構成する諸制度について主要な事柄を順次とりあげ、史料に基づきながら基本的事項や実例に触れて、その特質について考えていく。

準備学習（予習・復習）

資料を配布するので、自身のノートと共によく復習すること。なお講義内容を理解するためには漢文読解についての基礎的能力が必要であり、各自よく修得につとめること。

内　容

第1回　はじめに
第2回　律令制の成立
第3回　官制と官人（1）
第4回　官制と官人（2）
第5回　官制と官人（3）
第6回　公文書制度（1）
第7回　公文書制度（2）
第8回　天皇と太政官
第9回　皇親・后妃
第10回　民衆支配と税（1）
第11回　民衆支配と税（2）
第12回　律令財政
第13回　軍制（1）
第14回　軍制（2）
第15回　おわりに

履修上の注意点

教科書

使用しない。
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

（日本思想大系）律令
著者：
出版社：岩波書店
出版年：　ISBN：

（新訂増補国史大系）令義解
著者：
出版社：吉川弘文館
出版年：　ISBN：

（新訂増補国史大系）令集解
著者：
出版社：吉川弘文館
出版年：　ISBN：

a10302d910

律令制研究入門
著者:　大津透編
出版社: 名著刊行会
出版年: 2011年　ISBN:

(日本史リブレット)律令制とはなにか
著者:　大津透著
出版社: 山川出版社
出版年: 2013年　ISBN:

その他、講義中に随時提示する。
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験 ( )　小テスト (20)
授業中課題 (50)　授業中発表等 ( )
参加度 (30)

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史特講b（古代史）**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　北 啓太

テーマ

古代の乱と政治社会

授業の到達目標

日本古代の主要な乱についての知識を増やすことを通じて、古代国家の成立から変貌に至る歴史についての理解を深める。また日本古代の歴史過程を史料に立脚して理解する能力を高める。

授業の概要

乱＝大規模な軍事的衝突は政治・社会の矛盾が大きくなったところに起こり、政治・社会が大きく動く場面となる。7世紀から10世紀の間に起きた乱をとりあげ、それぞれについて史料を読みながら、そこに至る前史・乱の過程・乱の結果等を学び、その乱の政治・社会的な意義を考察する。

準備学習（予習・復習）

資料を配布するので、自身のノートと共によく復習すること。なお講義内容を理解するためには漢文読解についての基礎的能力が必要であり、各自よく修得につとめること。

内　容

第1回　はじめに
第2回　壬申の乱（1）
第3回　壬申の乱（2）
第4回　藤原広嗣の乱（1）
第5回　藤原広嗣の乱（2）
第6回　藤原広嗣の乱（3）
第7回　恵美押勝の乱（1）
第8回　恵美押勝の乱（2）
第9回　東北戦争（1）
第10回　東北戦争（2）
第11回　東北戦争（3）
第12回　承平天慶の乱（1）
第13回　承平天慶の乱（2）
第14回　承平天慶の乱（3）
第15回　おわりに

履修上の注意点

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

講義中に随時提示する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ ）

授業中課題 （ 70 ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史特講c（中世史）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野口　実	

テーマ

日本中世の諸問題

授業の到達目標

歴史は「未来に資するための、過去と現在の対話」といわれます。過去は現在の土台であるとともに、人間の社会のあり方を考えるためのフィールドでもあります。この講義では日本の社会が自らの力で大きな変革を遂げた中世前期の時代（平安後期～鎌倉時代）を照射して、現代社会の抱える諸問題を解決するための糸口を見いだすことを試みたいと思います。今の社会に対する何らかの「問題意識」を踏まえて受講して下さい。

授業の概要

講義は毎回、下記のようなテーマで進めたいと思います。なお、教室での講義は「生（なま）もの」ですから、各テーマについては適宜変更したり、順序を入れ替える場合のある事をお断りしておきます。『吾妻鏡』などの中世史の基本資料の読解や、『平家物語』などの軍記、法社会史・建築史・服飾史・教育史・社会福祉史などに関連した内容を取り入れて講義を進める予定です・

準備学習（予習・復習）

各出版社から刊行されている日本歴史のシリーズの中の中世の巻を読んでおいて下さい。

内　　容

第1回　中世史研究の課題
第2回　東国と西国－日本文化の多元性－
第3回　中世の刑罰
第4回　中世の女性（1）
第5回　中世の女性（2）
第6回　髪－中世の身分標識－
第7回　中世の老人（1）
第8回　中世の老人（2）
第9回　中世の子ども
第10回　武士とはどんな存在だったのか？
第11回　京都と鎌倉－武士の空間－
第12回　京都「七条町」の発掘
第13回　中世前期の醍醐・日野
第14回　琉球王国－中世の沖縄－
第15回　まとめ

履修上の注意点

講義内容に関係する史跡や博物館見学を勧めます。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

東国武士と京都
著者:　野口実
出版社:　同成社
出版年:　2016　　ISBN:

武門源氏の血脈
著者:　野口実
出版社:　中央公論新社
出版年:　2012　　ISBN:

a10302e110

源義家
著者:　野口実
出版社: 山川出版社
出版年: 2012　　ISBN:

中世の人物　全3巻
著者:　元木泰雄ほか
出版社: 清文堂出版
出版年: 2014　　ISBN:

「鎌倉」の時代
著者:　福田豊彦ほか
出版社: 山川出版社
出版年: 2015　　ISBN:

東と西の語る日本の歴史
著者:　網野善彦
出版社: 講談社
出版年: 1998　　ISBN:

中世の罪と罰
著者:　石井進ほか
出版社: 東大出版会
出版年: 1983　　ISBN:

成績評価

試験 （ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）
試験はレポートに切り替える可能性もある。いかなる形であれ、授業テーマに関する積極的な姿勢がみられれば評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史特講d（中世史）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　野口 実	

テーマ

河内源氏を通して武士政権の成立を考える

授業の到達目標

日本人の歴史認識を形づくる大きな要素として「武士」の存在が指摘できる。 この授業では、河内源氏の動向を通して、その成立から鎌倉時代に至る中世前期の武士の実像をとらえ、武士とその政権である幕府が、その後の日本の社会や文化にどのような影響を与えることになったのかを考える。

授業の概要

河内源氏の成立と展開について時系列的に述べ、あわせて当該時代の政治・社会について関説する。授業は講義の形式をとる。

準備学習（予習・復習）

事前にテキストを必ず読み、調べることが可能な不明な点は各自で明らかにしておくこと。

内　容

第1回　「武家の棟梁」の条件
第2回　源頼朝、鎌倉に入る
第3回　源氏の坂東進出
第4回　源頼信と平忠常の乱
第5回　前九年・後三年合戦と源頼義・義家
第6回　源氏庶流の坂東進出
第7回　源為義の闘い
第8回　「武家の棟梁」の成立
第9回　平家政権下の坂東武士団
第10回　「一所傍輩」のネットワークー地方武士の在京活動ー
第11回　源頼朝の挙兵
第12回　頼朝政権の実態
第13回　源頼朝の六波羅御所
第14回　源氏将軍の武家政権
第15回　まとめ

履修上の注意点

教室での講義は「生（なま）もの」ですから、各テーマについては適宜変更したり、順序を入れ替える場合のあることをお断りしておきます。

教科書

源氏と坂東武士
著者：　野口実
出版社：吉川弘文館
出版年：2007　　ISBN：　978-4-642-05634

参考書

河内源氏
著者：　元木泰雄
出版社：中央公論新社
出版年：2011　　ISBN：

武門源氏の血脈
著者：　野口実
出版社：中央公論新社
出版年：2012　　ISBN：

a10302e250

源義家
著者:　野口実
出版社: 山川出版社
出版年: 2012　ISBN:

東国武士と京都
著者:　野口実
出版社: 同成社
出版年: 2015　ISBN:

武家の棟梁の条件
著者:　野口実
出版社: 中央公論社
出版年: 1994　ISBN:

武家の棟梁源氏はなぜ滅んだのか
著者:　野口実
出版社: 新人物往来社
出版年: 1998　ISBN:

坂東武士団と鎌倉
著者:　野口実
出版社: 戎光祥出版
出版年: 2013　ISBN:

坂東武士団の成立と発展
著者:　野口実
出版社: 戎光祥出版
出版年: 2013　ISBN:

成績評価

試験 （ 80 ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）
試験はレポートに切り替える可能性もある。授業に対する主体的な取り組みの姿勢を加えて総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史特講e（近世史）**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　牧 知宏

テーマ

江戸時代の京都の歴史を考える

授業の到達目標

史料に基づいて歴史を明らかにする歴史学の方法を学ぶ。現代とのつながりを意識しながら歴史の流れを理解する歴史学的な考え方を養う。

授業の概要

江戸時代（近世）の京都に関する様々な問題を取り上げる。具体的な史料を読みながら、私たち自らの問題として江戸時代の京都の歴史について歴史学的な方法で考えられるようにする。（以下の講義計画はあくまで予定ですので、扱う対象や回数に変更が生じることもあります。）

準備学習（予習・復習）

授業で扱うテーマは相互に関連しますので、授業で十分に理解できなかったところは復習しておくことが重要です。できるだけ博物館や史跡へ足を運ぶなど、毎日の生活の中でも歴史を意識するようにして下さい。

内　容

第1回　ガイダンス―江戸時代の京都イメージ
第2回　江戸時代の京都のかたち
第3回　江戸時代の京都の住人１　町人・商人
第4回　江戸時代の京都の住人２　武士
第5回　江戸時代の京都の住人３　天皇・公家
第6回　江戸時代の京都の支配・行政
第7回　江戸時代の京都の自治
第8回　江戸時代の京都の古文書
第9回　江戸時代の京都の災害１　火事
第10回　江戸時代の京都の災害２　洪水
第11回　江戸時代の京都の災害３　飢饉
第12回　江戸時代の京都の道・物流
第13回　江戸時代の京都の寺社・祭礼
第14回　江戸時代の京都の学問
第15回　まとめ

履修上の注意点

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなるのはもちろん、成績評価にも結びつきます。この点をよく心得ておいてください。

教科書

使用しない。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

逐次紹介します。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史特講f(近世史)**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾下　成敏	

テーマ

16・17世紀研究入門

授業の到達目標

16・17世紀(織豊政権期・徳川政権期)の研究を行うための基礎的能力を身につける。

授業の概要

16・17世紀の文献史料のうち、活字化された史料などをもとに講義を進める。なお、1、漢文史料が読めないとついていけない講義であること、2、以下に示す講義計画はあくまで予定であり、扱う対象や回数に変更が生じる場合があること、3、授業の最後には原稿用紙8枚程度のレポート作成を課題として課すこと、を予め付記しておく。

準備学習(予習・復習)

1、配布する文献史料の復習を怠らないこと。2、博物館・美術館などへ足を運び、くずし字で書かれた史料や絵画資料などに慣れ親しむこと。3、概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、歴史学に関する知識を増やすこと。

内　　容

第1回　ガイダンス・日本史学とはどういう学問か？
第2回　古文書の熟読1
第3回　古文書の熟読2
第4回　編纂物の熟読1
第5回　編纂物の熟読2
第6回　日記の熟読1
第7回　日記の熟読2
第8回　地図を使って歴史を調べる1
第9回　地図を使って歴史を調べる2
第10回　名字・姓・通称・実名1
第11回　名字・姓・通称・実名2
第12回　名字・姓・通称・実名3
第13回　実地踏査の方法1
第14回　実地踏査の方法2
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

太閤の手紙
著者:　桑田忠親
出版社:　講談社学術文庫
出版年:　2006年　　ISBN:

武田信玄と勝頼
著者:　鴨川達夫
出版社:　岩波新書
出版年:　2007年　　ISBN:

戦国のコミュニケーション
著者:　山田邦明
出版社:　吉川弘文館
出版年:　2011年　　ISBN:

a10302e450

織豊期主要人物居所集成

著者:　藤井譲治編

出版社: 思文閣出版

出版年: 2011年　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 70 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本女性史特講Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田端　泰子	

テーマ

日本の女性のあゆみ～原始から現代まで

授業の到達目標

日本の女性が歩んできた歴史を、人、時代背景、政治形態、などの面から会得する。

授業の概要

日本の歴史上のすべての時代を対象として、特に中世についてはより詳しく、社会と人とのつながりについて考察する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　原始・古代の女性労働
第2回　都城の変遷と女性の生活
第3回　律令制下の女性の地位
第4回　平安京の成立
第5回　女房としての紫式部
第6回　平安女性の財産相続権
第7回　平氏政権下の女性
第8回　院政期の女院と女房
第9回　武士の登場・武士の女性
第10回　鎌倉幕府法にみる娘、妻、母、後家
第11回　平安時代の出産、鎌倉時代の出産
第12回　北条政子の生涯とその役割
第13回　南北朝期の女性の地位変化
第14回　日野重子と日野富子
第15回　古代・中世の女性の地位をめぐって（前期のまとめ）

履修上の注意点

女性史の通史や人物研究に目を通しておくのがよい。

教科書

参考書

日本女性史
著者：　脇田・林・永原編
出版社：吉川弘文館
出版年：1987　　ISBN：

乳母の力
著者：　田端泰子著
出版社：吉川弘文館
出版年：2005　　ISBN：

日本中世女性史論
著者：　田端泰子著
出版社：塙書房
出版年：1994　　ISBN：

北政所おね
著者：　田端泰子著
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2007　　ISBN：

a10302e510

細川ガラシャ

著者:　田端泰子著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2010　　ISBN:

日本中世の村落・女性・社会

著者:　田端泰子著

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2011　　ISBN:

成績評価

試験 （ 80 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本女性史特講Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田端　泰子	

テーマ

日本女性のあゆみ～原始から現代まで

授業の到達目標

日本女性が歩んできた歴史を、人、時代背景、政治形態などの面から会得する。

授業の概要

日本の歴史上のすべての時代を対象とし、特に中世についてはより詳しく、社会と人とのつながりについて考察する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　戦国～織豊期の女性①北政所おね
第2回　戦国～織豊期の女性②細川ガラシャ
第3回　戦国～織豊期の女性③淀殿
第4回　戦国～織豊期の女性④利家正室まつ
第5回　大坂落城に遭遇した二人のおきく
第6回　江戸幕府の成立と女性
第7回　春日局の一生とその役割
第8回　江戸時代の農村女性の生活
第9回　江戸時代の商家の女性
第10回　明治維新とは
第11回　大正デモクラシーと女性
第12回　戦時中の生活変化と女性の役割
第13回　戦後改革と女性の地位変化
第14回　現代社会の女性の地位
第15回　統一政権から現代に至る日本女性のあゆみ（後期のまとめ）

履修上の注意点

女性史の通史や人物研究に目を通しておくのがよい。

教科書

参考書

日本女性史
著者：　脇田・林・永原編
出版社：吉川弘文館
出版年：1987　　ISBN：

乳母の力
著者：　田端泰子著
出版社：吉川弘文館
出版年：2005　　ISBN：

日本中世女性史論
著者：　田端泰子著
出版社：塙書房
出版年：1994　　ISBN：

北政所おね
著者：　田端泰子著
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2007　　ISBN：

a10302e650

細川ガラシャ

著者:　田端泰子著

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2010　　ISBN:

日本中世の村落・女性・社会

著者:　田端泰子著

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2011　　ISBN:

成績評価

試験 （ 80 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**近現代史特講a（日本）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　永井　和	

テーマ

日本近現代史概説Ⅰ

授業の到達目標

この科目を受講し，学修目的を達成したとしても，とくに観察可能な具体的能力が身につくわけではない。ただ，現在の人類社会や日本社会が，どのような時間的な変遷をへて今にいたっているのか，巨視的な視点で眺めることができる，あるいはそのような視点が存在しうることを知るだけでも，大きな意義がある。　さらにいえば，現代世界は多様であり，多元的であるが，同時に強い相互依存関係におかれており，同じひとつの世界を共有し，それゆえ同じひとつの歴史を共有する存在でもある。そのことが認識できれば，さいわいである。

授業の概要

「現代史は世界史である」との学問的理念のもとに，日本の近現代（19世紀後半から20世紀）の歴史を「世界史としての日本近現代史」という観点から概観する。「現代史は世界史である」との学問的理念の意味と「世界史としての日本近現代史」という観点がどのような歴史観・世界史観に依拠しているかを説明したあと，19世紀に東アジアが近代世界システムに包摂され，近世的なシステムが解体することによって，グローバルな近代世界が成立する過程を概観し，その中に日本の近代を位置づける。

準備学習（予習・復習）

予習の必要はないが、授業の後に、ノートを整理しておくことが望ましい。

内　容

第1回　日本の近代はいつからはじまるのか
第2回　近代化論パラダイムと世界システム論パラダイム
第3回　多世界論と世界構造転換論
第4回　世界構造転換の力としての近代世界システム
第5回　世界史における「近世」と「近代」
第6回　近代以前の東アジア—中華帝国体制とその構造
第7回　狭義の中華帝国体制，広義の中華帝国体制
第8回　ローカルシステムとしての鎖国体制①
第9回　ローカルシステムとしての鎖国体制②
第10回　中華帝国体制の解体と東アジアの近代—不平等条約体制の成立
第11回　中華帝国体制の解体：第一段階
第12回　中華帝国体制の解体：第二段階
第13回　明治政府による対外関係の「書き換え」①
第14回　明治政府による対外関係の「書き換え」②
第15回　東アジアにおける近代帝国主義体制の成立
第16回　試験

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 75 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 25 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**近現代史特講b（日本）**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　永井 和

テーマ

日本近現代史概説Ⅱ

授業の到達目標

この科目を受講し，学修目的を達成したとしても，とくに観察可能な具体的能力が身につくわけではない。ただ，現在の人類社会や日本社会が，どのような時間的な変遷をへて今にいたっているのか，巨視的な視点で眺めることができる，あるいはそのような視点が存在しうることを知るだけでも，大きな意義があると考える。 さらにいえば，現代世界は多様であり，多元的であるが，同時に強い相互依存関係におかれており，同じひとつの世界を共有し，それゆえ同じひとつの歴史を共有する存在でもあることを認識できれば，さいわいである。

授業の概要

「現代史は世界史である」との学問的理念のもとに，日本の近現代の歴史を「世界史としての日本近現代史」という観点から概観する。この授業では，第1次世界大戦から1990年の冷戦体制の終焉までの20世紀の日本の歩みを東アジアの国際関係の変容との相関関係の中であとづける。

準備学習（予習・復習）

予習の必要はありません。授業後にノートを整理しておくことが望ましい。

内　容

第1回　基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいによって，順序や回数を変えることがある。
第一次世界大戦と日本
第2回　戦後の4つの反作用とワシントン体制
第3回　二つの対外路線 ：アジア・モンロー主義と対英米協調主義
第4回　満洲事変
第5回　華北分離工作
第6回　日中全面戦争
第7回　日中戦争から世界戦争へ①
第8回　日中戦争から世界戦争へ②
第9回　アジア太平洋戦争①
第10回　アジア太平洋戦争②
第11回　ポツダム宣言の受諾と敗戦
第12回　占領と独立—対英米協調派の復活
第13回　戦前の政治空間と戦後の政治空間
第14回　東アジア史の20世紀
第15回　東アジアと日本の現代
第16回　試験

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 75 ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ 25 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**近現代史特講c（世界）**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　南 直人

テーマ

ヨーロッパの近現代史をより深く考察する

授業の到達目標

ヨーロッパの近現代の歴史を食生活・食文化にかかわるさまざまなテーマから検討し、ヨーロッパ近現代史についての理解を深める。

授業の概要

食の歴史の意義についての一般的な考察から具体的な内容へと展開していく。16世紀以降のヨーロッパの食の歴史をグローバルに見ていく。

準備学習（予習・復習）

授業で紹介した文献に広く目を通しておくこと

内　容

第1回　食の歴史の意義
第2回　ヨーロッパの食文化の特質
第3回　香辛料の世界史的役割
第4回　「コロンブスの交換」（1）
第5回　「コロンブスの交換」（2）
第6回　「コロンブスの交換」（3）
第7回　ジャガイモとトウモロコシ
第8回　コーヒー・茶・砂糖と植民地支配（1）
第9回　コーヒー・茶・砂糖と植民地支配（2）
第10回　ドイツにおけるコーヒー
第11回　工業化による食の変化（1）
第12回　工業化による食の変化（2）
第13回　ヨーロッパ的食生活の成立（1）
第14回　ヨーロッパ的食生活の成立（2）
第15回　まとめ・総括

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

＜食＞から読み解くドイツ近代史
著者:　南直人
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2015　　ISBN:

世界の食文化（シリーズ）
著者:　石毛直道監修
出版社:　農文協
出版年:　2003～2008　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 70 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 30 ）
小テストを頻繁に行います。不受験への救済措置はありません。

2016 Syllabus

科 目 名　**近現代史特講d（世界）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　南　直人	

テーマ

食という視点からヨーロッパ近現代の歴史を考察する

授業の到達目標

ヨーロッパの近現代の歴史を食生活・食文化にかかわるさまざまなテーマから検討し、ヨーロッパ近現代史についての理解を深める。

授業の概要

ヨーロッパの近代社会の形成と食生活との関わりについて考察する。およびベルリンの歴史遺産を探索することを通じてドイツ近現代史を考察する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　食の歴史の意義
第2回　食の産業化（1）
第3回　食の産業化（2）
第4回　食の産業化（3）
第5回　都市化と食の変化（1）
第6回　都市化と食の変化（2）
第7回　都市化と食の変化（3）
第8回　食品偽装問題と食品監視システムの形成（1）
第9回　食品偽装問題と食品監視システムの形成（2）
第10回　食品偽装問題と食品監視システムの形成（3）
第11回　外食の発達（1）
第12回　外食の発達（2）
第13回　ベルリンの歴史を歩く（1）
第14回　ベルリンの歴史を歩く（2）
第15回　ベルリンの歴史を歩く（3）

履修上の注意点

教科書

参考書

〈食〉から読み解くドイツ近代史
著者：　南　直人
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2015年　　ISBN：

世界の食文化⑱ドイツ
著者：　南　直人
出版社：農文協
出版年：2003年　　ISBN：　978-4540032202

ヨーロッパの食文化
著者：　マッシモ・モンタナーリ
出版社：平凡社
出版年：1999年　　ISBN：　978-4582476354

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 70 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 30 ）

小テストを頻繁に行います。不受験への救済措置はありません。

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史特講a（東アジア史Ｉ）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　米田　健志	

テーマ

中国古代・中世の政治制度

授業の到達目標

過去にいくつもの王朝が興亡を繰り返してきた中国だが、どの王朝にもその統治を支える精密な政治制度が存在しており、しかもそれが二千年以上にわたって発展し、歴代の王朝に代々継承されてきたことは、世界史上の驚異と言っても良いだろう。さらにその政治制度は、単に政治上においてのみ重要なのではなく、過去の中国の社会・文化・思想と相互に影響を与えあってきたのである。たとえば有名な文学者・思想家たちでさえ、その大多数は一方で官僚としての肩書きを有して、政治の現場に身を置いていたのである。つまり中国の歴史を深く理解するために、政治制度に関する基礎知識が必要不可欠なのであり、この授業ではその習得を目的とする。

授業の概要

配布プリントを用いて授業を進める。

準備学習（予習・復習）

授業で紹介された史料については、ぜひ図書館で現物を探して、手にとってみて欲しい。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　春秋戦国時代
第3回　統一秦
第4回　漢代：中央政府
第5回　漢代：官僚採用制度
第6回　漢代：皇帝と官僚
第7回　漢代：地域社会との関係
第8回　魏晋南北朝：九品官人法と貴族制
第9回　魏晋南北朝：政治制度と律令
第10回　魏晋南北朝：貴族制の周辺
第11回　隋唐：再統一と政治制度
第12回　隋唐：科挙
第13回　唐代：戦乱と政治制度の新展開
第14回　日本への影響
第15回　授業のまとめ
第16回　期末試験

履修上の注意点

配布したプリント等は過去分も含めて全て授業に持参すること。

教科書

使用しない。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業中に随時紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 70% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 30% ）	

Syllabus

科 目 名　**世界史特講b（東アジア史Ⅱ）**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史特講c（東アジア史Ⅲ）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　王　衛明	

テーマ

中国古代史の基本問題として、その成立と展開の特質を探る。

授業の到達目標

この授業では、中国における都市文明の起源から唐代までの歴史と、文化の形成から展開の諸問題を取り扱い、中国文明の原像を把握する。

授業の概要

中国文明の成立は、中国周辺の異民族にも大きな影響を与えた。古代中国の高度にすぐれた文化がこれらの地域に広く浸透し、文化的政治的な成長と中国化を促した。やがて中国を中心にして漢字文化を共有し、相互に密接な関係を有する東アジア世界が形成される。その文明の形成に大きな役割を果たした幾つかの事例を素材に、文献史学、更に近年新出の資料を美術史、考古学の立場から、中国古代史構造の基本問題とその考え方を探る。

準備学習（予習・復習）

場合によって授業内容にかかわる寺社や特別展の見学を実施する。

内　　容

第1回　中国文明を理解するためのキーワード総解説
第2回　夏文明の問題—考古と文献実証の間
第3回　夏文明と殷商文明—青銅器の発展の諸問題
第4回　春秋戦国時代の出土文献と文字出土資料
第5回　秦代中国統一の諸問題Ⅰ—万里長城の建設の意義
第6回　秦代中国統一の諸問題Ⅱ—皇帝陵墓の出現と陪葬俑
第7回　漢代の儒家思想とその文化Ⅰ
第8回　漢代の文物制度Ⅱ—蔵書と目録学の出現
第9回　漢代の思想と文化Ⅲ—考古資料からみる漢代の信仰
第10回　魏晋南北朝時代の諸問題Ⅰ—仏教の伝来と発展
第11回　魏晋南北朝時代の諸問題Ⅱ—漢訳仏教経典と寺院の成立及び伽藍配置の問題
第12回　魏晋南北朝時代の諸問題Ⅲ—漢字発展の諸問題
第13回　隋唐時期の文化Ⅰ—初唐・盛唐期の仏教文化
第14回　隋唐時期の文化Ⅱ—考古学資料からみる唐代の国際関係
第15回　内容総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻や途中退席をしないこと。場合によって、中国関係の遺物、博物館の所蔵品を見学する予定。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 50 ）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（　）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史特講d（東アジア史Ⅳ）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　王　衛明	

テーマ

東洋美術史上の仏教美術品諸問題

授業の到達目標

美術作品を実際に見ることによって、東洋では普遍的な意味を持つ仏教美術史の流れを把握する。

授業の概要

仏教美術史を研究するために、その前提となる素材と史料について、その見方や調査方法を身につける。

準備学習（予習・復習）

授業時に指定する参考書をよく読むことと日本・中国の仏教美術に関する特別展や寺院・仏像の見学を実施する予定。

内　　容

第1回　ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
第2回　ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
第3回　ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
第4回　仏典の漢訳と仏像の制作
第5回　仏典の漢訳と仏像の制作
第6回　漢代における仏教美術の成立（文献と実物の両面から）
第7回　漢代における仏教美術の成立（文献と実物の両面から）
第8回　南北朝時代以前の仏教造像の成立
第9回　南北朝時代以前の仏教造像の成立
第10回　南北朝時代以前の仏教造像の成立
第11回　中国石窟寺院の総解説―仏教造像の考古学・様式学的考察（キジル石窟、敦煌石窟）
第12回　敦煌莫高窟からみる仏教美術の諸問題
第13回　河西地域からみる漢民族化仏教芸術の諸問題
第14回　雲岡石窟・龍門石窟からみる仏教造像の様式
第15回　内容総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないように。参考書は授業中に適時指示する。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史特講e（中央・西アジア史Ⅰ）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小野 浩	

テーマ

ユーラシアにおけるテュルク・モンゴルの歴史

授業の到達目標

ユーラシア大陸に興起したテュルク・モンゴル系遊牧民国家の足跡を紹介し、彼らの世界史上に果たした役割を考察する。

授業の概要

遊牧民は、定住民が主役の座を占める現代世界においては社会の隅に追いやられたような扱いを受け、高校の教科書などでもごく軽く扱われるにとどまり、その歴史的役割に対して正当な位置づけがなされていない。だが、大陸東方からざっと見渡しても、匈奴・鮮卑・柔然・突厥・ウイグル・契丹・カルルク・ハザル・ガズナ朝・カラハン朝・セルジュク朝・大モンゴル帝国とその後継勢力・ティムール朝・ムガル朝・サファヴィー朝・オスマン朝といった具合にテュルク・モンゴル系の人びとが築いた国家の版図はユーラシアの大部分を占めている。この授業ではかれらの歴史を通史的ではなくトピックごとにとりあげ、ときには関連論文の紹介もしつつ、世界市場に果たしたテュルク・モンゴル国家の役割を考察する。各回の予定は以下の通りだが、必ずこの通りに講義が進むとは限らない。

準備学習（予習・復習）

関連図書は授業中に適宜指示する。

内　容

第1回　ユーラシアの歴史とは----ヨーロッパ中心史観からの脱皮　その1
第2回　ユーラシアの歴史とは----ヨーロッパ中心史観からの脱皮　その2
第3回　テュルク・モンゴル諸族の分布
第4回　匈奴の国家組織
第5回　突厥-----世界史上初めて自らの記録を残した遊牧民　その1
第6回　突厥-----世界史上初めて自らの記録を残した遊牧民　その2
第7回　突厥-----世界史上初めて自らの記録を残した遊牧民　その4
第8回　ウイグルと唐
第9回　ウイグルとソグド人
第10回　西ウイグル王国と仏教
第11回　モンゴルの興起-----チンギス・カンの征服活動
第12回　大モンゴル帝国-----モンゴルが東西を結ぶ　その1
第13回　大モンゴル帝国-----モンゴルが東西を結ぶ　その2
第14回　ティムールとティムール朝の文化
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）	小テスト （ 50 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史特講f(中央・西アジア史Ⅱ)**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小野 浩	

テーマ

中央ユーラシアの諸宗教

授業の到達目標

中央ユーラシアの歴史に多大な影響を与えた宗教をとり上げて、各宗教の成立と伝播およびその教義について考える。

授業の概要

以下にあげる各回の内容はあくまで目安・予定であり、毎回このとおりに進むとは限らない。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　インド・イランの宗教とゾロアスター教—その1
第2回　インド・イランの宗教とゾロアスター教—その2
第3回　ゾロアスター教とユダヤ教
第4回　インドを出た仏教—ガンダーラとクシャーナ朝
第5回　インドを出た仏教—中央アジア(その1)
第6回　インドを出た仏教—中央アジア(その2)
第7回　キリスト教東方教会(ネストリウス派)—イランとソグド
第8回　キリスト教東方教会(ネストリウス派)—テュルクと中国
第9回　マニ教の成立と伝播
第10回　マニ教とテュルク人
第11回　テュルク人のイスラム化—その1
第12回　テュルク人のイスラム化—その2
第13回　モンゴル人の宗教—シャマニズム
第14回　モンゴル帝国とキリスト教・仏教・イスラム—その1
第15回　モンゴル帝国とキリスト教・仏教・イスラム—その2

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 (50%)	小テスト ( )
授業中課題 ( )	授業中発表等 ( )
参加度 (50%)	

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史特講g（中央・西アジア史Ⅲ）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮本　純二	

テーマ

古代エジプト王朝史Ⅰ

授業の到達目標

エジプト古代王朝史の前半の流れを知り、古い異文化に対する理解を深める

授業の概要

古代エジプト文明の特色は、約三千年の長きにわたりオリエント世界で重要な役割を担った点に最もよく見出せる。授業では、その文明を生み出す土台となった風土をはじめとし、国家統一へと向かう先王朝時代、国家の基礎が形成される初期王朝時代、壮大なピラミッドの造営事業を成し遂げた古王国時代、そして、文化の爛熟期である中王国時代にいたる王朝史を辿る（それに続く王朝史後半は後期の世界史特講hで扱う）。またそれと並行して、古代エジプト史を理解する上で必要となる基礎事項を随時、解説する。なお、古代エジプト史に関しては、文字史料と共に、考古遺物や遺跡が重要な意味を持つため、できる限り映像教材を用いて具体例を示しつつ授業を進める予定である。

準備学習（予習・復習）

古代エジプト人たちの残した遺跡や遺物、また記録が王朝史を解明する原点であることは言うまでもない。最近では、それらの文化遺産の多くが書物だけにとどまらず、様々な形で紹介されているので、それらも積極的に利用することが望ましい。『古代エジプト文明と遺跡（全17巻）』：早稲田大学・古代エジプト調査室製作のビデオ（本学AVセンター収蔵）など。

内　　容

第1回　講座解説（映像資料観賞を含む）
第2回　自然環境と地理的背景：ナイルの恵み
第3回　先王朝時代：農耕の始まり
第4回　原王朝時代：農耕社会の成長
第5回　国家統一へ：ナルメル王のパレットを読む
第6回　初期王朝時代：国家基盤の形成
第7回　古王国時代：ピラミッドの出現／王権の確立
第8回　古王国時代：国家の発展
第9回　古王国時代：ギザの三大ピラミッド
第10回　古王国時代：ピラミッド建造の背景
第11回　古王国時代：繁栄の終焉
第12回　第一中間期：統一の崩壊／社会の変革
第13回　中王国時代：文化の熟成／古典の形成
第14回　総括（映像資料観賞）
第15回　総括（映像資料観賞／レポート提出を含む）

履修上の注意点

教科書

随時、コピーで配布する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

世界の歴史1・人類の起源と古代オリエント
著者：　尾形禎亮他
出版社：　中央公論社
出版年：　1998　　ISBN：

エジプト王国三千年
著者：　吉成薫
出版社：　講談社選書メチエ
出版年：　2000　　ISBN：

a10302f710

ファラオ歴代誌
著者:　ピーター・クレイトン
出版社: 創元社
出版年: 1999　　ISBN:

古代オリエント辞典
著者:　日本オリエント学会編
出版社: 岩波書店
出版年: 2004　　ISBN:

古代エジプト入門
著者:　内田杉彦
出版社: 岩波書店
出版年: 2007　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 85 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 15 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史特講h（中央・西アジア史Ⅳ）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　宮本　純二

テーマ

古代エジプト王朝史Ⅱ

授業の到達目標

エジプト古代王朝史の後半の流れを知り、古い異文化に対する理解を深める

授業の概要

前期の世界史特講gに引き続き、国家の統一が再び崩壊する第二中間期を契機として、輝かしい繁栄が再来する新王国時代、さらには衰退へと向かう末期王朝時代までの古代エジプト王朝史の後半を辿る。さらに、アレクサンダー大王によるエジプト征服や女王クレオパトラ（7世）に代表されるプトレマイオス王朝を概観する。なお、トトメス一族やハトシェプスウト女王、異端王アクエンアテン、ツタンカーメン王ならびにラメセス大王（2世）が生きた時代として知られる新王国時代が講義の中心となる（授業の進め方は世界史特講gに同じ）。

準備学習（予習・復習）

古代オリエント史に関連する研究成果を掲載している雑誌や論集に目を通すことも大切である。主なものとしては尾形禎亮他／岩波講座・世界歴史2『オリエント世界』、日本オリエント学会・編集発行の研究雑誌『オリエント』、早稲田大学エジプト学会・編集発行の『エジプト学研究』など。

内　容

第1回　講座解説（映像資料観賞を含む）
第2回　王朝史前半を振り返る／大民族移動の嵐
第3回　第二中間期：異民族ヒクソスの支配
第4回　第二中間期：エジプト解放戦争
第5回　第二中間期：再統一と武力外交
第6回　新王国時代：ハトシェプスウト女王１
第7回　新王国時代：ハトシェプスウト女王２
第8回　新王国時代：トトメス３世の侵略戦争
第9回　新王国時代：アメンヘテプ３世と帝国の栄華
第10回　新王国時代：アマルナ宗教改革の断行
第11回　新王国時代：ツタンカーメン王の生涯
第12回　新王国時代：ラメセス２世の奮闘・栄光の終焉
第13回　末期王朝～ギリシア・ローマ時代：新時代の幕開け・アレクサンダー大王の到来
第14回　総括（映像資料観賞）
第15回　総括（映像資料観賞・レポート提出を含む）

履修上の注意点

教科書

随時、コピーで配布する
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

岩波講座・世界歴史２
著者：　尾形禎亮他
出版社：　岩波書店
出版年：　1998　ISBN：

古代オリント辞典
著者：　日本オリエント学会編
出版社：　岩波書店
出版年：　2004　ISBN：

a10302f850

大英博物館・古代エジプト百科事典

著者:　イアン・ショー他

出版社: 原書房

出版年: 1997　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 85 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 15 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史特講i(ヨーロッパ・アメリカ史Ⅰ)**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習(予習・復習)	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史特講j（ヨーロッパ・アメリカ史Ⅱ）**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**世界女性史特講Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松浦　京子	

テーマ

19世紀のイギリス女性の活動Ⅰ　中流階級女性の社会運動

授業の到達目標

19世紀イギリスの中流階級女性による社会運動の全体像の把握と、その背景にあるものを考察することを通して、言説の女性像と実像の女性の比較検証をめざす。

授業の概要

「領域の区分」「性別役割分担」の規範が貫徹し、中流階級女性の社会活動が厳しく制限されていた19世紀のイギリスにおいて、フェミニズムが誕生し、また慈善博愛活動分野においては女性の活躍はめざましかった。この事実に着目し、この二つの女性運動が持つ時代性や特質を考察することで、19世紀イギリスの中流階級女性の実態にせまる。

準備学習（予習・復習）

19世紀イギリスに関する研究書および論文を幅広く読むことで予習する。各授業ごとに配布する「コメント・シート」を用いて復習する。

内　　容

第1回　19世紀イギリス社会と中流階級女性（類型的女性像）
第2回　二人の女性思想家　ハナ・モアとM・ウルストンクラフト1
第3回　二人の女性思想家　ハナ・モアとM・ウルストンクラフト2
第4回　婚姻関係諸法の改善1　無権利状態からの脱却をめざして
第5回　婚姻関係諸法の改善2　組織的フェミニズムの形成
第6回　雇用と教育機会を求める動き1　中流女性と雇用の実情
第7回　雇用と教育機会を求める動き2　「女性雇用推進協会」
第8回　雇用と教育機会を求める動き3　ランガム・プレイスの女性たち
第9回　女子中等教育改革運動1　「おざなりの」女性教育
第10回　女子中等教育改革運動2　学術重視型女学校の誕生
第11回　女子中等教育改革運動3　地方試験と学校教育委員会報告
第12回　大学教育獲得運動1　女子学寮の誕生
第13回　大学教育獲得運動2　専門職・公職への進出
第14回　社会運動としての慈善活動1　ヴィジティング・ソサェティの諸相
第15回　社会運動としての慈善活動2　ヴォランティアから専門職へ

履修上の注意点

予習復習に掲げたことを励行し、19世紀イギリス社会について広く情報を収集すること

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 70% ）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（　）
参加度　（ 30% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**世界女性史特講Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松浦　京子	

テーマ

19世紀イギリスの女性の活動Ⅱ　労働者階級女性の労働と運動

授業の到達目標

19世紀イギリスにおける労働者階級女性が担った労働の実態の把握と、彼女たちが参加した社会運動の実態把握をとおして、労働女性の実像ならびに中流階級女性との交流について考察することをめざす

授業の概要

明確な階級制度を発達させた19世紀イギリスにおいて、労働者階級女性は中流階級とは異なる社会的期待（規範や役割）を担わされていた。このことに着目し、まずは、労働実態の把握に努め、そのうえでそうした実態への労働女性の反応ともいえる労働運動への参加、独自の社会運動の展開を検証することで、労働者階級女性の実像や中流階級女性との関係にせまる。

準備学習（予習・復習）

19世紀イギリスに関する研究書ならびに論文を幅広く読み予習する。各授業ごとに配布する「コメント・シート」を用いて復習する。

内　　容

第1回　19世紀イギリスにおける二類型の女性
第2回　19世紀の女性労働構造の静態的考察1　産業革命のインパクト
第3回　19世紀の女性労働構造の静態的考察2　労働者家族と既婚女性労働
第4回　19世紀の女性労働構造の動態的考察1　ホワイトブラウス職の出現
第5回　19世紀の女性労働構造の動態的考察2　キャリア形成と社会的流動性
第6回　労働組合と女性1　既存組合からの排除
第7回　労働組合と女性2　女性労働組合運動の展開
第8回　女性労働運動としてのsocial feminism1 中流階級女性との交差
第9回　女性労働運動としてのsocial feminism2　女性労働組織の諸相
第10回　苦汗労働と反苦汗労働運動1　家内労働の実態
第11回　苦汗労働と反苦汗労働運動2　保護なのか、排除なのか
第12回　女性協同組合ギルド1　協同組合主義と女性
第13回　女性協同組合ギルド2　労働者階級女性の社会化
第14回　女性協同組合ギルド3　女性ならではの問題への取り組み
第15回　労働者階級女性の実像

履修上の注意点

予習・復習に掲げたことをしっかり励行し、19世紀イギリス社会について広く情報を収集すること

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 70% ）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（　）
参加度　（ 30% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**文化史・文化交流史Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　永井　和	

テーマ

日本登山史

授業の到達目標

登山という文化が、時間とともにどのような変遷をたどったかを理解する。とくに前近代と近代との間にみられる連続性と断絶性について、登山という具体例に即して理解を深める。

授業の概要

２０１６年から８月１１日が「山の日」として祝日となった。これを機に、登山という文化的行為が、日本においてどのような展開をとげたのかを概説する。信仰の対象であった山岳に修行の場を求めて、修行僧が全国の高山・深山にわけいった古代・中世からはじめ、信仰登山が大衆化した近世、登山と信仰が分離し、アルピニズムの思想が定着する近代、そして多様化と大衆化が進む現代にいたる歴史的変遷を、前衛化と大衆化の二つの軸をたてて、概観する。 希望者がおれば、授業外の行事として、京都の山巡り（音羽山、京都東山トレール（伏見稲荷から比叡山）、愛宕山）を実施する。

準備学習（予習・復習）

とくになし。

内　容

第1回　なぜ登山史なのか。
第2回　山岳信仰と信仰登山
第3回　近世の登山―多様化と大衆化①
第4回　近世の登山―多様化と大衆化②
第5回　近代登山のはじまり①
第6回　近代登山のはじまり②
第7回　近代登山のはじまり③
第8回　日本アルプスの探検登山①
第9回　日本アルプスの探検登山②
第10回　学校登山・山岳部・山岳会
第11回　アルピニズムの勃興
第12回　大正期の登山ブーム
第13回　戦時下の登山
第14回　ヒマラヤへの挑戦・海外登山
第15回　登山の現在

履修上の注意点

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

日本登山史
著者:　山崎安治
出版社:　白水社
出版年:　1969　ISBN:　1025461736911

増補近代日本登山史
著者:　安川茂雄
出版社:　四季書館
出版年:　1976　ISBN:

a10302g310

目で見る日本登山史
著者:　布川欣一編
出版社: 山と渓谷社
出版年: 2005　　ISBN:　9784635178143

明解日本登山史
著者:　布川欣一
出版社: 山と渓谷社
出版年: 2015　　ISBN:　9784635510257

成績評価

試験 （ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 40 ）
授業外行事として「京都の山巡り」を実施する場合、参加の有無は成績評価に関係しません。

2016 Syllabus

科 目 名　**文化史・文化交流史Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　鷲田 睦朗

テーマ

ワインを通じて見るヨーロッパ文化史

授業の到達目標

ワインを通じて、それが深く結びついている文化についての知見を、ヨーロッパ文化を中心に深めることを目標とする。具体的なモノから見ることで、異文化社会を理解するためのハードルが下がることを期待している。また、考古学、社会学などの関連諸学からの知見の取り入れなどについても理解を深めることが期待される

授業の概要

毎回、プリントを配布して、それに即して講義を実施します

準備学習（予習・復習）

配布プリントの確認

内　容

第1回　ワインを歴史学的に扱う意義
第2回　ワインの誕生と地中海世界への伝播
第3回　ラティフンディウム再考
第4回　イタリア半島におけるワインの受容
第5回　イタリア産地ワインの誕生
第6回　ワインに酔いしれるローマ
第7回　ローマ帝国を超えるワイン
第8回　ローマとオスティア
第9回　中世フランスにおけるワイン
第10回　中世におけるワイン――イスラム世界、ドイツ、イングランド――
第11回　「科学の世紀」におけるワインの変革
第12回　「新世界」のワイン
第13回　グローバル社会におけるワイン
第14回　総括、理解度の確認
第15回　講評

履修上の注意点

毎回配布するプリントについては、原則的に再配布を行わないので、何らかの都合で欠席する場合には、各自で確保しておくこと。

教科書

最新世界史図説タペストリー十四訂版
著者：　川北稔・桃木至朗編
出版社：帝国書院
出版年：2016　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 70 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**自然地理学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　太	

テーマ

自然環境と人間との関係を考える。

授業の到達目標

自然地理学の立場から、気圏、地圏、水圏の環境に関する基本的な知識の習得し、それらと人間活動との関係を理解すること。

授業の概要

授業では、自然環境の地理的な相違を気候、水文、地形の側面からとらえ、それらと人間活動とのかかわりを、種々の自然災害や環境問題を交え講義する。前半で気候学、後半で地形学を中心に扱う。適宜プリントを配布し、それに沿って講義を進める。進捗状況により、講義内容を変更することがある。

準備学習（予習・復習）

講義内容の理解を深めるために、配布したプリントなどを参考に復習すること。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　大気圏の区分と構造
第3回　地球の熱収支と気候のなりたち
第4回　大気現象①（風、雲、雨の成因）
第5回　大気現象②（低気圧、前線、気団の成因）
第6回　世界の気候と人間生活
第7回　日本の気候と人間生活
第8回　異常気象と地球温暖化
第9回　地球の歴史
第10回　プレートテクトニクス理論
第11回　大地形の形成（大陸、海洋など）
第12回　火山とマグマ
第13回　小地形の形成（河川、海岸など）
第14回　地形と人間生活
第15回　まとめ

履修上の注意点

授業中の私語、携帯電話は厳禁、授業態度の悪い学生は受講を中止させることがある。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 70% ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 20% ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 10% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**地誌**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　中西　和子

テーマ

『地誌』を読もう。書かれた地域と筆者の地域について知ろう。“地誌”って実は二度オイシイ！！

授業の到達目標

日本を含め世界の古典的な「地誌(書)」を取り上げ、「人類はなぜ地誌を書くのか」・「地域を描写する」ということの基本について考える。後半は、さまざまな“地域”に注目した地誌を中心に取り上げ、あわせて身近な地域の文化・社会を読み取る力をつけることを目標とする。

授業の概要

基本的に配布プリントを資料にして授業を進めるが、一部パワーポイントも使用。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　イントロダクション：“地誌書”が世界を変える？“ジパング”良いトコ、一度はおいで！？『東方見聞録』と“ワークワーク”
第2回　自国地誌と外国地誌　—『魏志倭人伝』と『風土記』、さて、どっちが正しい日本の姿？
第3回　外国人からみた日本：イザベラ・バードの見た日本
第4回　日本人のみた外国1：河口慧海とチベット社会と日本の社会
第5回　地誌が書かれるのはどんな時？—『風土記』から『日本地誌提要』と『皇国地誌』まで
第6回　地誌が読まれるのはどんな時？—明治人がハマった『輿地誌略』
第7回　日本人のみた外国2：小田 実『何でも見てやろう』と沢木耕太郎『深夜特急』
第8回　ガイドブックと戦争—ミシュランは地誌？
第9回　あなたの一番読みたい「地誌」は？
第10回　『おくのほそ道』：日本の“奥”ってドコ？
第11回　都市の機能と地誌書にみる地域のイメージ
第12回　農林漁業集落・都市近郊・中山間地域の地誌
第13回　過疎地の地誌：過疎地＝イナカと思っていませんか？
第14回　京都の地誌：京都ってどんなところ？
第15回　山科の地誌：山科ってどんなところ？

履修上の注意点

授業中に紹介する本を読み、事前に次回テーマに関して下調べをしておくこと。また、山科という地域について意識を向ける習慣をつけるように希望します。

教科書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 10 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）
授業中の質疑応答に積極的に答えて下さい。また、試験に関しては、従来説など既往の研究をまとめるだけではなく、自分の意見を明確にして論じて下さい。

2016 Syllabus

科 目 名　**人文地理学**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　谷口 知司

テーマ

人文地理学とはどんな学問なのか。何に関心をもち、どのような方法でアプローチするのか。

授業の到達目標

地域、空間、地図といった地理学のキーコンセプトを具体的な素材をとおして学び、地理学を学ぶと何がわかるのか、どんなことの役に立つのかということを知る。

授業の概要

教科書を中心として授業を進めるが、適宜資料等を配布する。

準備学習（予習・復習）

復習を中心に教科書、配布プリントなどを参考に積極的に取り組んでください。

内　容

第1回　地域への地理学のまなざし①
第2回　地域への地理学のまなざし②
第3回　地域への地理学のまなざし③
第4回　地域への地理学のまなざし④
第5回　経済活動を空間的に読み解く①
第6回　経済活動を空間的に読み解く②
第7回　経済活動を空間的に読み解く③
第8回　経済活動を空間的に読み解く④
第9回　地理学が映し出す想像力の世界①
第10回　地理学が映し出す想像力の世界②
第11回　地理学が映し出す想像力の世界③
第12回　地理学が映し出す想像力の世界④
第13回　過去と現在を繋ぐ地図①
第14回　過去と現在を繋ぐ地図②
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

人文地理学への招待
著者:　竹中克行他
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2015　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 30 ）　　小テスト （ 30 ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 10 ）
小テストならびに課題提出は随時行うが、そのすべてが評価の対象となる。

2016 Syllabus

科 目 名　**外書研究a**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　井上　徳子	

テーマ

古代から中世にかけての中国の歴史を扱った中国語テキストの講読

授業の到達目標

中国語の辞書を自由にひくことができる。中国史に関連する中国語テキストを正しく読むことができる。中国語テキストを読むさいに必要な歴史的知識を自分で調べることができる。中国語テキストで読んでいる時代について正しく理解できる。

授業の概要

初回は井上が講義を行うが、第2回目以降は、テキスト本文を受講者が順番に日本語訳し、井上が必要に応じて訂正・補足を行う。原則として毎回全員が訳読を分担する。その際、中国音による発音は課さない。これは、決して発音を軽視するわけではなく、限られた時間を最大限、この授業の主眼である読解力の養成や内容の理解に充当するためである。また、テキストを読み進めるなかで、当該時期における中国の政治・制度、周辺地域の動向などを調べる課題が課される。正確な中国文の翻訳を土台として、歴史・歴史学についての知識、認識を深めるためである。

準備学習（予習・復習）

まず受講者は、テキストについて必ず予習をする。授業後は、次回進む内容が理解しやすくなるよう、今回進んだ内容に目を通す。また、授業で扱われている時代や人物などに関する文章を積極的に読み、常日頃から知識の習得に心がける。

内　　容

第1回　授業の進め方、予習の仕方などについてのガイダンス
第2回　中国語テキストの講読・内容理解
第3回　中国語テキストの講読・内容理解
第4回　中国語テキストの講読・内容理解
第5回　中国語テキストの講読・内容理解
第6回　中国語テキストの講読・内容理解
第7回　中国語テキストの講読・内容理解
第8回　中国語テキストの講読・内容理解
第9回　中国語テキストの講読・内容理解
第10回　中国語テキストの講読・内容理解
第11回　中国語テキストの講読・内容理解
第12回　中国語テキストの講読・内容理解
第13回　中国語テキストの講読・内容理解
第14回　中国語テキストの講読・内容理解
第15回　中国語テキストの講読・内容理解

履修上の注意点

携帯・スマホの電源を切る。授業中に辞書が引けるよう、図書館の辞書の一時貸し出しでもよいので、辞書を用意する。

教科書

プリントして配布する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業にて随時紹介する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 50 ）	

Syllabus

科 目 名　**外書研究b**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**外書研究c**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　小野 浩

テーマ

基礎的文法の解説および英語文献選読

授業の到達目標

まず英語そのものに慣れてもらうためにいくつかの英語文を文法に則して正確に直訳し、その後意味をとって自然な日本語にする練習を行なう。次いでアジア史に関する英語文献をテキストにして、常に文法に留意しつつ精読する姿勢を習得する。単語を辞書で引いてそれを適当に組み合わせて意味の通るように日本語化する、といった態度を排し、まずなによりも文法的に読解することを目指す。したがってスピードにはこだわらず、まずはやさしい英文をゆっくりと読み進めることから始める。読む分量は少しずつであっても、毎週読み進めて行けば少なくとも《英語アレルギー》の度合いはいくぶんなりとも減少して行くはずである。

授業の概要

テキストは、適宜コピーして配布する。最初はゆっくり読んでいき、なぜこう訳せるのか確認しつつ授業を進める。歴史文献ではテキストごとに書誌的知識と歴史背景を解説する。出席者全員で輪読していくので、毎回充分な予習が必須となる。なお、テキストとして下記テキスト欄に挙げたものはあくまで一例である。

準備学習（予習・復習）

授業までに必ず文献の予習をしておくこと。

内　容

第1回　この授業の方針説明
第2回　テキストの解説
第3回　全員による輪読および内容の解説　その1
第4回　全員による輪読および内容の解説　その2
第5回　全員による輪読および内容の解説　その3
第6回　全員による輪読および内容の解説　その4
第7回　全員による輪読および内容の解説　その5
第8回　全員による輪読および内容の解説　その6
第9回　全員による輪読および内容の解説　その7
第10回　全員による輪読および内容の解説　その8
第11回　全員による輪読および内容の解説　その9
第12回　全員による輪読および内容の解説　その10
第13回　全員による輪読および内容の解説　その11
第14回　全員による輪読および内容の解説　その12
第15回　全員による輪読および内容の解説　その13

履修上の注意点

教科書

参考書

Islamic Central Asia—An Anthology of Historical Sources
著者：　Scott C. Levy & Ron　Cela (eds.)
出版社：Indiana University Press
出版年：2010　　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**外書研究d**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　森本 慶太

テーマ

歴史学に関する英語文献の講読

授業の到達目標

英語文献の講読を通じて、書かれている内容を正確に理解し、歴史学、とくに近現代史についての基礎的知識の習得をめざす。

授業の概要

A Very Short Introduction (Oxford University Press)シリーズなどの歴史学の入門書のなかから、近現代史に関する英語文献を選び講読する。テキストは事前にコピーを配付する。授業では、受講生全員が予習していることを前提に、担当者を無作為に指名する。指名された受講生は一定量の英文を訳し、それを受けて教員が訳の問題点と内容を解説する。

準備学習（予習・復習）

毎回、次回の授業で読み進める範囲を指定するので、予習として必ず日本語訳を作成してくること。正確な訳文作成のためには、前の授業の内容を復習することが不可欠となる。

内　容

第1回　イントロダクション：授業の進め方の説明とテキスト配付、テキストの内容に関する解説
第2回　テキストの講読①
第3回　テキストの講読②
第4回　テキストの講読③
第5回　テキストの講読④
第6回　テキストの講読⑤
第7回　テキストの講読⑥
第8回　小テストとこれまでの内容についての復習
第9回　テキストの講読⑦
第10回　テキストの講読⑧
第11回　テキストの講読⑨
第12回　テキストの講読⑩
第13回　テキストの講読⑪
第14回　テキストの講読⑫
第15回　小テストとこれまでの内容についての復習

履修上の注意点

この授業では3分の2以上の出席が原則である。なお、授業時の読解では毎回担当者を無作為に指名するが、予習が不十分である場合は欠席扱いとするので注意すること。授業時の携帯電話の使用や無断での途中退室に対しては厳格に対処する。

教科書

授業時に配布する

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

人文学への接近法—西洋史を学ぶ—

著者：　服部良久他編

出版社：　京都大学学術出版会

出版年：　2010　　ISBN：　9784876989485

成績評価

試験　（　）　　小テスト　（ 40 ）

授業中課題　（　）　　授業中発表等　（ 40 ）

参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**外書研究e**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　藤井 翔太

テーマ

英語で書かれた歴史学の専門文献の読解力を身につける

授業の到達目標

英語で書かれた歴史学（西洋史）関連の入門的な文献を読解し、その内容を正確に理解する力を身につける。同時に、文献の読解を通じて近代ヨーロッパ史に関する基礎的な知識を身につける。

授業の概要

主に史学史に関して英語で書かれた文献を読み進めていく。講義では逐語訳を基本として、英語で書かれた研究書の構造を把握出来る様になることを目指す。

準備学習（予習・復習）

予習として次回の授業で進む分のテキストの日本語訳を作成してください。また、復習としては授業の内容を振り返り、理解できなかったがあればまとめて授業時に質問できるようにしておいてください。

内　容

第1回　イントロダクション：授業の進め方、文献について解説
第2回　19世紀史学史に関する入門書を読む（1）
第3回　19世紀史学史に関する入門書を読む（2）
第4回　19世紀史学史に関する入門書を読む（3）
第5回　19世紀史学史に関する入門書を読む（4）
第6回　19世紀史学史に関する入門書を読む（5）
第7回　19世紀史学史に関する入門書を読む（6）
第8回　19世紀史学史に関する入門書を読む（7）　小テスト予定
第9回　19世紀史学史に関する入門書を読む（8）
第10回　19世紀史学史に関する入門書を読む（9）
第11回　19世紀史学史に関する入門書を読む（10）
第12回　19世紀史学史に関する入門書を読む（11）
第13回　19世紀史学史に関する入門書を読む（12）
第14回　19世紀史学史に関する入門書を読む（13）　小テスト予定
第15回　講義まとめ

履修上の注意点

逐語訳を基本とした文献読解が授業の中心となるの必ず日本語訳を作ってきてください。テキストは初回の授業寿に配布します。また、講義中では日本語の参考文献を適宜紹介していきます。

教科書

授業中に指示します
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

人文学への接近法―西洋史を学ぶ―
著者：　服部良久他
出版社：　京都大学出版会
出版年：　2010　　ISBN：　9784876989485

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 20 ）
基本的には授業への出席と発表（逐次訳）40%、2回行う理解度に関する小テスト40%、学期末のレポート（20%）によって成績評価を行います。

2016 Syllabus

科 目 名　**外書研究f**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　佐藤　専次	

テーマ

ヨーロッパ中世史に関する英語文献の講読

授業の到達目標

西洋中世史に関する英語文献を講読して，西洋史の英文を正確に理解して的確に翻訳し，かつ西洋中世史について理解を深める。

授業の概要

ヨーロッパ中世に関する英語文献を講読する。本年は，図版を豊富に使用してヨーロッパ中世をわかりやすく概観し平易な英語で書かれている,George Holmes,The Oxford Illustrated History of Medieval Europeをテキストに使用する。授業では，英文を読み進めながら内容について解説していく。

準備学習（予習・復習）

毎回全員に訳させる予定でいるので，確実な予習が必要である。

内　　容

第1回　ガイダンスとヨーロッパ中世の概観
第2回　英文講読
第3回　英文講読
第4回　英文講読
第5回　英文講読
第6回　英文講読
第7回　英文講読
第8回　英文講読
第9回　英文講読
第10回　英文講読
第11回　英文講読
第12回　英文講読
第13回　英文講読
第14回　英文講読
第15回　試験

履修上の注意点

出席を重視する。公欠のときは必ず申し出ること。テキストは配布するプリント。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（ 40% ）
参加度　（ 30% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅰ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　増渕　徹	

テーマ

日本古代史研究Ⅰ

授業の到達目標

古代史を研究する上で基本的な史料の読解や研究方法を修得し、次年度の卒業研究に必要な能力の向上を目的とする。講読（古代史）とは異なる史料（主に『日本紀略』）を扱い、徹底的に史料を読むなかで、史料から課題を析出し時代像を構成していくための基礎的な力量の向上を図ることに主眼を置く。

授業の概要

参加者各自に史料を割り当て、その読解レポートの報告を軸に授業を進める。参考文献はその中で適宜紹介する。なお、古代の遺跡や研究機関への見学（1回）、歴史学に関する講演会等（1回）を行う。夏休みには遺跡見学旅行を実施する。

準備学習（予習・復習）

古代史に関する知識の量的拡充が何より重要であり、そのために可能な限りの多読を勧める。活字に親しもうとする意欲に欠くところのある学生は望まない。

内　容

第1回　授業の進め方の解説。テキストの解説
第2回　図書館の活用及び論文検索の方法の解説。レポートの作成方法の解説。
第3回　史料の読解演習
第4回　文化遺産見学（学外授業）
第5回　個別発表（1）
第6回　個別発表（2）
第7回　個別発表（3）
第8回　個別発表（4）
第9回　個別発表（5）
第10回　個別発表（6）
第11回　個別発表（7）
第12回　個別発表（8）
第13回　個別発表（9）
第14回　個別発表（10）
第15回　後期演習への取り組みに関する指導※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

史料は漢文体であるので、自主的な学習会によって読解練習をしなければ追いつけない。

教科書

国史大系『日本紀略』（該当部分）
著者：
出版社：吉川弘文館
出版年：　　ISBN：

参考書

『平安京の時代』（日本古代の歴史）
著者：佐々木恵介
出版社：吉川弘文館
出版年：2013　　ISBN：

『摂関政治』（岩波新書）
著者：古瀬奈津子
出版社：岩波書店
出版年：2011　　ISBN：

a10303a110

『摂関政治と王朝文化』(日本の時代史)

著者: 加藤友康(編)

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2002　　ISBN:

摂関政治と地方社会』(日本古代の歴史5)

著者: 坂上康俊

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2015　　ISBN:

成績評価

試験 (0)　　小テスト (0)

授業中課題 (70)　　授業中発表等 (0)

参加度 (30)

充実したレポートの作成と報告ができるかどうかに最重点をおいて評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅰ〈＊b〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること　　クラス指定　希望制

担 当 者　細川　涼一

テーマ

日本中世史の史料・論文を読む

授業の到達目標

中世史研究の状況を知るとともに、史料・論文読解の方法を身につけ、自分自身の研究作成にむけた目標を設定していくことにしたい。

授業の概要

日本中世史関係の史料を読むと同時に、関連論文の講読を行っていく。前期は『吾妻鏡』から主に源義経関係の記事を読んでいくことにしたい。なお歴史学に関する講演会等を1回行う。

準備学習（予習・復習）

事前に配られた史料・論文を授業当該回までに予習しておくこと。

内　容

第1回　『吾妻鏡』を読む（1）
第2回　『吾妻鏡』を読む（2）
第3回　『吾妻鏡』を読む（3）
第4回　『吾妻鏡』を読む（4）
第5回　『吾妻鏡』を読む（5）
第6回　『吾妻鏡』を読む（6）
第7回　『吾妻鏡』を読む（7）
第8回　『吾妻鏡』を読む（8）
第9回　『吾妻鏡』を読む（9）
第10回　『吾妻鏡』を読む（10）
第11回　『吾妻鏡』を読む（11）
第12回　『吾妻鏡』を読む（12）
第13回　『吾妻鏡』を読む（13）
第14回　『吾妻鏡』を読む（14）
第15回　『吾妻鏡』を読む（15）
第16回　試験

履修上の注意点

教科書

プリントで配布する

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 35% ）　　小テスト（　）
授業中課題（　）　　授業中発表等（ 35% ）
参加度　（ 30% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅰ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　尾下　成敏	

テーマ

日本近世史研究の諸問題

授業の到達目標

研究するさいの基本的な技術や姿勢について理解を深める。

授業の概要

おもに近世の文献史料(「当代記」「藤岡屋日記」など)を読み、和様漢文で書かれた史料の読み方・調べ方を習得してもらうことにする。そのさい、受講生には担当した史料に訓点を付し逐語訳を作成し報告してもらう。また夏休みには、卒論作成と関わりそうな研究書・論文を熟読し、400字詰原稿用紙で19枚程度のレポートを作成してもらうことにする。なお、この授業では、学外の資料館・博物館を見学することがある。

準備学習(予習・復習)

概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、歴史学に関する知識を増やすこと。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　ガイダンス
第3回　近世前期の文献史料を読む
第4回　近世前期の文献史料を読む
第5回　近世前期の文献史料を読む
第6回　近世前期の文献史料を読む
第7回　近世前期の文献史料を読む
第8回　近世前期の文献史料を読む
第9回　近世後期の文献史料を読む
第10回　近世後期の文献史料を読む
第11回　近世後期の文献史料を読む
第12回　近世後期の文献史料を読む
第13回　近世後期の文献史料を読む
第14回　近世後期の文献史料を読む
第15回　まとめ、レポート作成に関するアドバイス

履修上の注意点

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

日本の歴史　鎖国
著者:　朝尾直弘
出版社:　小学館
出版年:　1975年　ISBN:

日本の歴史　江戸開幕
著者:　藤井譲治
出版社:　集英社
出版年:　1992年　ISBN:

a10303a113

日本の時代史　江戸幕府と東アジア
著者:　荒野泰典編
出版社: 吉川弘文館
出版年: 2003年　ISBN:

全集日本の歴史　徳川の国家デザイン
著者:　水本　邦彦
出版社: 小学館
出版年: 2008年　ISBN:

日本の歴史　開国と幕末改革
著者:　井上勝生
出版社: 講談社
出版年: 2002年　ISBN:

日本の時代史　近代の胎動
著者:　藤田　覚編
出版社: 吉川弘文館
出版年: 2003年　ISBN:

全集日本の歴史　開国への道
著者:　平川　新
出版社: 小学館
出版年: 2008年　ISBN:

シリーズ日本近世史　幕末から維新へ
著者:　藤田　覚
出版社: 岩波書店
出版年: 2015年　ISBN:

成績評価

試験 （ ）
小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 35 ）
授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 15 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅰ〈＊d〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　高久　嶺之介	

テーマ

日本近代史の諸問題

授業の到達目標

研究論文を読みこなし課題を発見するなど日本近代史を学ぶための必要な知識の習得。

授業の概要

各自が各自のテーマにもとずく著書・研究論文の内容を批判を交えながら報告し、全員で討論を行う。なお、必要に応じて学外授業を実施することがある。

準備学習（予習・復習）

事前に配布された文献を読んでくること。

内　　容

第1回　ゼミの運営方法と卒論テーマを決めていく際の心得
第2回　日本近代史に関する文献・史料の検索の仕方
第3回　日本近代史に関する著書・研究論文の選択方法と読み方
第4回　ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント（1）
第5回　ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント（2）
第6回　ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント（3）
第7回　ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント（4）
第8回　ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント（5）
第9回　ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント（6）
第10回　ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント（7）
第11回　ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント（8）
第12回　ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント（9）
第13回　ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント（10）
第14回　全体のまとめと今後の方向性指導（1）
第15回　全体のまとめと今後の方向性指導（2）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅱ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　増渕　徹	

テーマ

日本古代史研究Ⅱ

授業の到達目標

演習Ⅰに続き、日本古代史を研究する上での史料読解・研究方法の習得と、そのための力量向上を目指す。演習Ⅰでの到達度をみながらではあるが、まずは平安期の日記史料の読解に進み、広く時代を研究するために多様な史料に対応できる能力の獲得を目指す。

授業の概要

前期に続き、参加者各人に課題を割り当て、それに関する報告レポートを軸に授業を進行させる。なお、歴史学に関する講演（1回）、文化遺産あるいは研究施設の見学（1回）を予定している。

準備学習（予習・復習）

自分の興味のある分野に関連する論文や著作を多数読むこと。

内　容

第1回　テキストの配布と授業進行方法の説明
第2回　後期における史料とレポート作成
第3回　文化遺産見学（学外授業）
第4回　個別発表（1）
第5回　個別発表（2）
第6回　個別発表（3）
第7回　個別発表（4）
第8回　個別発表（5）
第9回　個別発表（6）
第10回　個別発表（7）
第11回　個別発表（8）
第12回　個別発表（9）
第13回　個別発表（10）
第14回　個別発表（11）
第15回　卒業研究に向けての指導（まとめ）

履修上の注意点

テキストは基本的に漢文体であるので、自主的に学習会などを開いて読解練習をすることを勧める。

教科書

参考書

日本史演習Ⅰに同じ
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 70 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 30 ）
充実したレポートの作成方法が身についているかに最重点をおいて評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅱ＜＊b＞**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること　　クラス指定　希望制

担 当 者　細川　涼一

テーマ

中世史をめぐって各自が研究したテーマを発表する

授業の到達目標

中世史研究の状況を知るとともに、史料・論文読解の方法を身につけ、自分自身の研究作成にむけた目標を設定していくことにしたい。

授業の概要

日本中世史関係の論文から、ゼミ参加者の興味のある史料・論文を読むとともに、適宜ゼミ参加者の研究発表を行っていく。後期には、ゼミ参加者各自が自分の興味ある分野について調べた内容を発表し、皆で討論を行う。なお歴史学に関する講演会等を1回行う。

準備学習（予習・復習）

研究発表に向けて関係する研究書・論文をよく読んで調べること。

内　容

第1回　発表と討論（1）
第2回　発表と討論（2）
第3回　発表と討論（3）
第4回　発表と討論（4）
第5回　発表と討論（5）
第6回　発表と討論（6）
第7回　発表と討論（7）
第8回　発表と討論（8）
第9回　発表と討論（9）
第10回　発表と討論（10）
第11回　発表と討論（11）
第12回　発表と討論（12）
第13回　発表と討論（13）
第14回　発表と討論（14）
第15回　発表と討論（15）

履修上の注意点

教科書

必要に応じてプリントで配布する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 35% ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 35% ）

参加度　（ 30% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅱ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　尾下　成敏	

テーマ

日本近世史研究の諸問題

授業の到達目標

研究するさいの基本的な技術や姿勢について理解を深めるとともに、各自の卒業論文テーマの内容を深める。

授業の概要

まずは各自が各自の卒論構想を発表し、それをもとに討論を行う。そして、そこから自分なりの課題を引き出し、それを卒業論文の作成につなげて欲しいと思う(その際、1000字程度のレポートを作成すること)。つぎに論文を輪読し、論文の読み方や批判の仕方、史料の分析の仕方を会得して欲しいと思う。後期の最後には卒論に関わる史料(資料)を集めたデータベースを作成してもらう。なお、この授業では、学外の資料館・博物館を見学することがある。

準備学習(予習・復習)

概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読み、歴史学に関する知識を増やすこと。多くの史料(資料)を丁寧に読むこと。

内　容

第1回　ガイダンスなど
第2回　卒論構想の報告、その1
第3回　4回生の卒業論文中間発表会への参加
第4回　卒論構想の報告、その2
第5回　卒論構想の報告、その3
第6回　卒論構想の報告、その4
第7回　論文の輪読、その1
第8回　論文の輪読、その2
第9回　論文の輪読、その3
第10回　論文の輪読、その4
第11回　論文の輪読、その5
第12回　論文の輪読、その6
第13回　史料の分析の仕方、その1
第14回　史料の分析の仕方、その2
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験　(　)　小テスト　(　)
授業中課題　(55)　授業中発表等　(30)
参加度　(15)

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅱ〈＊d〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　高久　嶺之介	

テーマ

日本近代史の諸問題

授業の到達目標

基礎的作業を継続するとともに、各自の卒業論文テーマの内容を深める。

授業の概要

各自が各自のテーマにもとずく報告を行い、討論を行う。なお、必要に応じて学外授業を実施することがある。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　3回生後期のゼミ運営方法討議
第2回　文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告（1）
第3回　文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告（2）
第4回　文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告（3）
第5回　文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告（4）
第6回　文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告（5）
第7回　文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告（6）
第8回　文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告（7）
第9回　文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告（8）
第10回　文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告（9）
第11回　文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告（10）
第12回　文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告（11）
第13回　文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告（12）
第14回　3回生後期のまとめ（1）
第15回　3回生後期のまとめ（2）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史講読Ⅰ〈a〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　渕原　智幸

テーマ

『続日本紀』を読む

授業の到達目標

奈良時代史の基本史料である『続日本紀』を丁寧に読み込む。これにより古代史の基礎知識を修得するとともに、自ら問題を発見し・調べ・考え・発表する能力、つまりは研究能力の基礎を身につける。

授業の概要

各自の担当範囲について、漢和辞典や歴史事典類はもちろん、関連史料や先行研究などまで調べた上で、レジメにまとめて報告してもらう。 なお毎回、史料の読み下しを報告者以外の人に行ってもらう。この読み下しも成績評価に大きく反映される。

準備学習（予習・復習）

自分の担当回か否かを問わず、毎回あらかじめ史料を読んでおくこと。読み下し方を考えるのはもちろん、できるだけ内容についても調べておいてほしい。

内　容

第1回　ガイダンス、分担の決定、報告例の提示と解説（1）
第2回　報告例の提示と解説（2）、関連史料・関連論文の調べ方
第3回　個別報告
第4回　個別報告
第5回　個別報告
第6回　個別報告
第7回　個別報告
第8回　個別報告
第9回　個別報告
第10回　個別報告
第11回　個別報告
第12回　個別報告
第13回　個別報告
第14回　個別報告
第15回　学外授業（前倒しして行う場合あり）

履修上の注意点

・レジメ作成にあたっては、必ず下記の参考書（新日本古典文学大系）を参照すること。 ただし、単なる丸写しはせず、他の文献により内容の修正・追加を行った上で、できるだけ独自の考察を加えること。・15回中1回を学外授業にあてる予定。詳しい日時や内容は追って指示する。

教科書

第1回の授業でコピーを配布する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

新日本古典文学大系『続日本紀』

著者:　青木和夫ほか編

出版社:　岩波書店

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 50 ）

参加度　（ 50 ）

「参加度」には出席率だけでなく、担当範囲以外の読み下しや質問・意見発表といった平常点が含まれる。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史講読Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　佐伯　智広	

テーマ

山槐記を読む

授業の到達目標

日本の中世記録史料を読解する能力と、そこから読み取れる日本の中世貴族社会のあり方を理解する能力を養うことを目指します。

授業の概要

テキストは、中山忠親の日記である山槐記を使用します。最初の数回は、山槐記を用いた和様漢文の読解練習を行います。その後、源平合戦に関する記事を、分担して講読していきます。

準備学習（予習・復習）

テキストは事前に配布しますので、次回の講読部分に必ず目を通し、自分で読んでおきましょう。目安は約1時間程度です。また、内容に関連する書籍が多数出版されているので、それらを読むことにより、より深く内容を理解することができます。

内　　容

第1回　授業の進行についてのガイダンス
第2回　山槐記の講読（1）
第3回　山槐記の講読（2）
第4回　山槐記の講読（3）
第5回　山槐記の講読（4）
第6回　山槐記の講読（5）
第7回　山槐記の講読（6）
第8回　山槐記の講読（7）
第9回　山槐記の講読（8）
第10回　山槐記の講読（9）
第11回　山槐記の講読（10）
第12回　山槐記の講読（11）
第13回　山槐記の講読（12）
第14回　山槐記の講読（13）・問題演習
第15回　小テスト・解説

履修上の注意点

発表担当があらかじめ決まっている回に無断欠席した場合は、単位を認めません。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法
著者:　苅米一志
出版社:　吉川弘文館
出版年:　2015　　ISBN:

鎌倉幕府
著者:　石井進
出版社:　中央公論社
出版年:　2004（初出1966）　　ISBN:

源平合戦の虚像を剥ぐ
著者:　川合康
出版社:　講談社
出版年:　1996　　ISBN:

a10303a312

日本の時代史7　院政の展開と内乱

著者:　元木泰雄編

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2002　　ISBN:

平清盛と後白河院

著者:　元木泰雄

出版社: 角川学芸出版

出版年: 2012　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト（ 70 ）

授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度 （ 0 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史講読Ⅰ〈c〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　尾下　成敏

テーマ

近世の和様漢文に馴れる

授業の到達目標

江戸時代後期の和様漢文に馴れ、この時代について理解を深める。

授業の概要

江戸時代後期の文献史料、なかでも和様漢文で記された文献史料（若狭小浜の町人の日記など）を読み進めることにする。受講生の義務は以下の通り、①史料の読み下し、②担当した逐語訳・事項解説の作成と報告。

準備学習（予習・復習）

配布する漢文史料の予習・復習を怠らないこと。また博物館・美術館などへ足を運び、古文書や絵画史料などに慣れ親しんで欲しい。

内　容

第1回　ガイダンス・テキストに関する概説
第2回　テキストに関する概説
第3回　史料の講読
第4回　史料の講読
第5回　史料の講読
第6回　史料の講読
第7回　史料の講読
第8回　史料の講読
第9回　史料の講読
第10回　史料の講読
第11回　史料の講読
第12回　史料の講読
第13回　史料の講読
第14回　史料の講読
第15回　まとめ　※　なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

適宜プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 20 ）

授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）

参加度　（ 30 ）

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史講読Ⅰ〈d〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　高久　嶺之介

テーマ

幕末から明治期にかけての史料を読む。

授業の到達目標

幕末から明治期にかけてのあらゆる種類の史料をスムーズに読み、内容を把握できる能力を養う。

授業の概要

幕末の庶民の日記、政治家の手紙、明治期の政治家の日記（京都府知事北垣国道の日記等）などを読んでいく。授業は受講者が用意したレジュメをもとに進められる。受講生は割り当てられた史料について、音読ができるようにした上、語句の意味、人名や事件名、歴史的背景を調べ、論点をレジュメ化して提示し、発表することが求められる。史料は配布する。なお、必要に応じて学外授業を実施することがある。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　授業の進め方、史料についてのガイダンス
第2回　史料についてのガイダンス
第3回　受講生による発表、質疑応答、教師からの補足説明
第4回　同上
第5回　同上
第6回　同上
第7回　同上
第8回　同上
第9回　同上
第10回　同上
第11回　同上
第12回　同上
第13回　同上
第14回　同上
第15回　前期のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史講読Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　渕原　智幸	

テーマ

『日本書紀』を読む

授業の到達目標

7世紀以前の日本を考える上で最も基本的な文献史料『日本書紀』を丁寧に読み込む。これにより古代史の基礎知識を修得するとともに、自ら問題を発見し・調べ・考え・発表する能力、つまりは研究能力の基礎を身につける。

授業の概要

各自の担当範囲について、漢和辞典や歴史事典類はもちろん、関連史（資）料や先行研究などまで調べた上で、レジメにまとめて報告してもらう。 なお毎回、史料の読み下しを報告者以外の人に行ってもらう。この読み下しも成績評価に大きく反映される。

準備学習（予習・復習）

自分の担当回か否かを問わず、毎回あらかじめ史料を読んでおくこと。読み下し方を確認するのはもちろん、できるだけ内容についても調べておいてほしい。

内　　容

第1回　ガイダンス、分担の決定
第2回　個別報告
第3回　個別報告
第4回　個別報告
第5回　個別報告
第6回　個別報告
第7回　個別報告
第8回　個別報告
第9回　個別報告
第10回　個別報告
第11回　個別報告
第12回　個別報告
第13回　個別報告
第14回　個別報告
第15回　学外授業（前倒しして行う場合あり）

履修上の注意点

・『日本書紀』〈5〉（下記テキスト欄を参照）の注や補注にある内容は、改めてレジメに書かなくともよい。 ただし『日本書紀』〈1～4〉（下記の参考書欄を参照）の注や補注をみる必要がある場合は、必ずレジメに写してくること。・もちろん、その上で他の文献も参照し、内容の修正や追加を行うこと。さらに、できるだけ独自の考察も付け加えること。・15回中１回を学外授業にあてる予定。詳しい日時や内容は追って指示する。

教科書

『日本書紀』〈5〉
著者:　坂本太郎他校注
出版社:　岩波文庫
出版年:　　ISBN:

参考書

『日本書紀』〈1～4〉
著者:　坂本太郎他校注
出版社:　岩波文庫
出版年:　　ISBN:

新編日本古典文学全集『日本書紀』
著者:　小島憲之他校注
出版社:　小学館
出版年:　　ISBN:

成績評価

a10303a450

試験 （ 0 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 50 ）

参加度 （ 50 ）

「参加度」には出席率だけでなく、担当範囲以外の読み下しや質問・意見発表といった平常点が含まれる。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史講読Ⅱ〈b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　佐伯　智広	

テーマ

吉記を読む

授業の到達目標

日本の中世記録史料を読解する能力と、そこから読み取れる日本の中世貴族社会のあり方を理解する能力を養うことを目指します。

授業の概要

テキストは、吉田経房の日記である吉記を使用します。最初の数回は、山槐記を用いた和様漢文の読解練習を行います。その後、源平合戦に関する記事を、分担して講読していきます。

準備学習（予習・復習）

テキストは事前に配布しますので、次回の講読部分に必ず目を通し、自分で読んでおきましょう。目安は約1時間程度です。また、内容に関連する書籍が多数出版されているので、それらを読むことにより、より深く内容を理解することができます。

内　　容

第1回　授業の進行についてのガイダンス
第2回　吉記の講読（1）
第3回　吉記の講読（2）
第4回　吉記の講読（3）
第5回　吉記の講読（4）
第6回　吉記の講読（5）
第7回　吉記の講読（6）
第8回　吉記の講読（7）
第9回　吉記の講読（8）
第10回　吉記の講読（9）
第11回　吉記の講読（10）
第12回　吉記の講読（11）
第13回　吉記の講読（12）
第14回　吉記の講読（13）・問題演習
第15回　小テスト・解説

履修上の注意点

発表担当があらかじめ決まっている回に無断欠席した場合は、単位を認めません。

教科書

参考書

日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法
著者：　苅米一志
出版社：吉川弘文館
出版年：2015　　ISBN：

鎌倉幕府
著者：　石井進
出版社：中央公論社
出版年：2004（初出1966）　　ISBN：

源平合戦の虚像を剥ぐ源平合戦の虚像を剥
著者：　川合康
出版社：講談社
出版年：1996　　ISBN：

a10303a452

日本の時代史7　院政の展開と内乱

著者:　元木泰雄編

出版社: 吉川弘文館

出版年: 2002　　ISBN:

平清盛と後白河院

著者:　元木泰雄

出版社: 角川学芸出版

出版年: 2012　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト（ 70 ）

授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度 （ 0 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史講読Ⅱ〈c〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　尾下　成敏

テーマ

近世の和様漢文に馴れる

授業の到達目標

江戸時代前期の和様漢文に馴れ、この時代について理解を深める。

授業の概要

江戸時代前期の文献史料、なかでも和様漢文で記された文献史料(「讃岐・伊予・土佐・阿波探索書」「慶長見聞録案紙」など)を読み進めることにする。受講生の義務は以下の通り、①史料の読み下し、②担当した逐語訳・事項解説の作成と報告。

準備学習(予習・復習)

配布する漢文史料の予習・復習を怠らないこと。また博物館・美術館などへ足を運び、古文書や絵画史料などに慣れ親しんで欲しい。

内　容

第1回　ガイダンス・テキストに関する概説
第2回　テキストに関する概説
第3回　史料の講読
第4回　史料の講読
第5回　史料の講読
第6回　史料の講読
第7回　史料の講読
第8回　史料の講読
第9回　史料の講読
第10回　史料の講読
第11回　史料の講読
第12回　史料の講読
第13回　史料の講読
第14回　史料の講読
第15回　まとめ　※　なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

適宜プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　(　)　　小テスト　(20)

授業中課題　(25)　　授業中発表等　(25)

参加度　(30)

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史講読Ⅱ <d>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　高久　嶺之介

テーマ

明治期から昭和期までの史料を読む。

授業の到達目標

明治期から昭和期までのあらゆる種類の史料をスムーズに読み、内容を把握できる能力を養う。

授業の概要

明治期を中心に書簡や日記、「朝日新聞」などの新聞記事、地域（京都、滋賀）などの史料を読んでいく。授業は受講生が用意したレジュメをもとに進められる。受講生は割り当てられた史料について、音読ができるようにした上で、語句の意味、人名や事件名。歴史的背景、論点を明示したレジュメを作成し、発表することが求められる。史料は配布する。なお、必要に応じて学外授業を実施することがある。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　授業の進め方、史料についてのガイダンス
第2回　史料についてのガイダンス
第3回　受講生による発表、質疑応答、教師からの補足説明
第4回　同上
第5回　同上
第6回　同上
第7回　同上
第8回　同上
第9回　同上
第10回　同上
第11回　同上
第12回　同上
第13回　同上
第14回　同上
第15回　後期のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅰ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　王　衛明	

テーマ

中国史研究の最も基本となる文献の理解を軸に、歴史の意味や史料のあり方について議論する。

授業の到達目標

東アジア史、とりわけ古代中国史発展の基本構造を理解する。

授業の概要

この授業では、基本的な文献資料やその資料探索の方法について具体的に指導する。また読み方、内容理解の仕方を各個人が関心を抱くテーマの報告、討論することを通して、問題意識を深めることを目的とする。また教員から史料提供することによって、様々な文献調査法、解釈、分析法を実践する。

準備学習（予習・復習）

事前に指示した参考書を基に調べておく。

内　　容

第1回　発表の主旨を説明する
第2回　研究の時代・地域を設定する
第3回　各自の研究テーマを設定する
第4回　各自の研究テーマと併せて、文献史料・研究論文の調査法を説明する
第5回　各自の研究テーマと併せて、文献史料・研究論文の調査法を説明する
第6回　学外授業（中国関連の寺社見学）
第7回　発表及び講評・議論
第8回　発表及び講評・議論
第9回　発表及び講評・議論
第10回　発表及び講評・議論
第11回　学外授業（中国関連の常設展、或いは特別展見学）
第12回　発表及び講評・議論
第13回　改めて各自の研究テーマ設定の妥当性を考える
第14回　改めて各自の研究テーマ設定の妥当性を考える
第15回　総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないように。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅰ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　小野　浩	

テーマ

中央アジア・西アジア史の諸問題

授業の到達目標

専門論文の読み方を会得することを目標とする。また文献探索・収集の仕方も習得する。

授業の概要

前期は初めの3～4回分を使って中央アジア・西アジアの歴史に関する学術論文を選読し、歴史の専門論文とはいかなるものかを習得させる。専門論文を読む場合、内容全体はもとより一文一文をおろそかにせず徹底して精読する姿勢が要求される点で、通常の読書とは異なる。たとえ日本語の論文であろうと、その内容がほぼ理解できるとは限らないのである。読んでみても解らないとき、著者の論旨が把握し難いのか、それとも自分自身の知識不足ゆえに理解が及ばないからか、つまりどの点がどう解らないのかを明確に見定めることが肝要である。こうした点に留意しながら論文と言うものに慣れてもらう。論文内容に関しては担当者を決めてその担当者が用意したレジュメにもとづき、出席者で疑問点を出し合い討議する。それ以降、最終の15回までは出席者各自の研究発表ないしみずから選んだ論文の紹介を行なう。ただし、学外者を招いて講演会を開くこともあり、また学外授業を行うこともある。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　基本的工具類の紹介説明----目録・入門書・地図等
第2回　文献を探す----具体的に文献の所蔵確認およびその検索方法につき説明する
第3回　選定した学術論文の内容解説
第4回　担当者による内容報告（レジュメ配布）と質疑応答　その1
第5回　担当者による内容報告（レジュメ配布）と質疑応答　その2
第6回　担当者による内容報告（レジュメ配布）と質疑応答　その3
第7回　出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答　その1
第8回　出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答　その2
第9回　出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答　その3
第10回　出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答　その4
第11回　出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答　その5
第12回　出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答　その6
第13回　出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答　その7
第14回　出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答　その8
第15回　出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答　その9　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 0 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅰ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　松浦　京子	

テーマ

西洋史に関する研究文献に基づく研究・報告

授業の到達目標

卒業論文執筆に向けて、各自が卒業研究のテーマを発見し、歴史に対する独自の視点を養い、また、文献検索の手法を習得することをめざす。

授業の概要

卒論作成に向けて必須のスキルとメソッドの獲得、テーマの設定、研究視点の多様性の認識を身につけるべく、2回の解説講義の後、指定論文の精読・分析を通じてテーマ・問題設定、内容展開について考える。以降は、各自が関心を持っている地域、時代（大まかな区分でかまわない）に関して、どのような歴史上の課題が設定できるかを念頭におきつつ、各自の関心に関わる研究論文をできるだけ広く収集し、精読し、4本の簡単な内容紹介と1本については詳細な内容紹介を行う。これらの学習を通じて、卒論のテーマのしぼり込みを行う。 ゼミ生各自の一回目の報告が終了した時点で、おおよそのテーマ（関心対象となる事件、事象、もしくは地域、時代が）絞られてきていることが求められる。それに基づき、以降は、各自がテーマに沿った文献リストを作成し、簡単な研究動向を報告する。なお、西洋史研究に関する多様な視点を養うために、博物館・美術館の特別展の鑑賞に出向く可能性もある。また、期間中に歴史学に関する講演会（1回）を行う可能性がある。

準備学習（予習・復習）

参考文献をできるだけ広く収集し、明確な問題関心を持ってそれを精読することを心がける。そして、内容を関心にそって分析・整理する。

内　　容

第1回　歴史研究とは何かについて。本ゼミの目的についての講義
第2回　図書館ガイダンスに基づく、専門文献の検索の手法ならびに入手法についての説明
第3回　学術論文について考察する。松浦論文を用いて、文献の精読（批判的精読）、研究の視点、分析手法、論文構成について学ぶ。
第4回　松浦論文の全員による内容紹介を行い、相互比較を行う①
第5回　松浦論文の全員による内容紹介を行い、相互比較を行う②
第6回　ゼミ生報告１－①と質疑応答
第7回　ゼミ生報告１－②と質疑応答
第8回　ゼミ生報告１－③と質疑応答
第9回　ゼミ生報告１－④と質疑応答
第10回　ゼミ生報告１－⑤と質疑応答
第11回　ゼミ生報告１－⑥と質疑応答
第12回　ゼミ生報告２－①とリストのチェック
第13回　ゼミ生報告２－②とリストのチェック
第14回　ゼミ生報告２－③とリストのチェック
第15回　夏休み中の研究の進め方、課題設定について

履修上の注意点

ゼミ授業は出席することに意義があると考える。したがって、ゼミ生全員が完全出席を目指してほしい。しかし、やむなく欠席せざるを得ないときには、前もって教員の大学アドレス宛にその旨連絡すること。

教科書

特になし

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

特に指定はしないが、西洋史の論文、研究書

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題（30%）　授業中発表等（30%）
参加度（40%）

Syllabus

科 目 名	世界史演習Ⅰ＜＊Zb＞		
クラス		配当回生	
講義期間	その他	定　　員	
履修条件	『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定	希望制
担 当 者	（休講）		
テーマ			
授業の到達目標			
授業の概要			
準備学習（予習・復習）			
内　　容			
履修上の注意点			
教科書			
参考書			

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅱ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　王　衛明	

テーマ

東アジア史の研究と発表

授業の到達目標

主として東アジアの歴史を研究するために必要な知識の習得をめざす。具体的には次のことがらである。①テーマの設定と関心の深め方。②関連文献の収集と整理。②根本史料の収集と読解。③研究結果の発表。

授業の概要

東アジアという地域は広く、その歴史は長く多様である。受講生諸君も一人一人が異なる興味・関心をもっていることだろう。したがって、この授業では、まず各人がそれぞれの興味・関心に沿ったテーマを決める。ついで、そのテーマに関する文献を調べてレジュメを作成、授業においてその発表を行い、それにもとづいて他の受講生との討論をする、という手順で授業を進めてゆきたい。なお、レジュメの作成にあたっては、複数の文献を利用するように努めてもらいたい。なお、必要に応じて学外授業を実施することがある。

準備学習（予習・復習）

積極的に図書館を利用して、文献・情報を集めるよう心がけて欲しい。

内　　容

第1回　ガイダンス、発表順の決定
第2回　東アジア研究に関する文献紹介：史料
第3回　東アジア研究に関する文献紹介：工具書
第4回　発表と講評
第5回　発表と講評
第6回　発表と講評
第7回　発表と講評
第8回　発表と講評
第9回　発表と講評
第10回　発表と講評
第11回　発表と講評
第12回　発表と講評
第13回　発表と講評
第14回　発表と講評
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

３分の２以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないように。

教科書

参考書

中国歴史研究入門
著者：　礪波護ほか編
出版社：名古屋大学出版会
出版年：2006年　　ISBN：　481580527X

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅱ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　小野　浩	

テーマ

中央アジア・西アジア史の諸問題

授業の到達目標

各人の卒論へ向けたテーマの模索と成果発表

授業の概要

各人の問題関心に沿った発表とそれに対する討論をおこない、卒論のテーマを考えていく。前期と同様に史料収集、目録からの論文探索、主要学術誌の紹介等は授業中に適宜行う。なお、学外授業を行うこともある。また学外者を招いての講演会1回を予定している。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　卒論の書き方、ルールを説明する。
第2回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その1
第3回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その2
第4回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その3
第5回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その4
第6回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その5
第7回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その6
第8回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その7
第9回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その8
第10回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その9
第11回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その10
第12回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その11
第13回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その12
第14回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その13
第15回　卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスを行う。その14

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅱ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　松浦　京子	

テーマ

西洋史に関する文献にもとづく研究・報告

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて確定した卒業研究テーマに見合う基礎知識の獲得をめざす。

授業の概要

講義の後、前期に引き続いて、受講者が順番に発表し、質疑応答･討論の形式をとる。前期の作業の成果を受けて、受講者は、卒業論文のテーマを確定する。そのうえで各自のテーマに沿って、そのテーマから論文課題を抽出するために当該時期･領域に関する概説書、古典的地位を得ている研究書を広く収集し、精読し基本的知識の獲得と理解に努めなければならない。後期のゼミでは、各自が進めている研究成果を発表と言う形でゼミ生仲間に披露し、質疑応答や担当教員からの指導を通して、意義あるかたちに整え、論文の問題関心をしぼっていかなければならない。なお、12月には、他のゼミと合同で卒論セミナーを開く予定である。

準備学習（予習・復習）

参考文献をできるだけ広く収集し、明確な問題関心を持ってそれを精読することを心がける。そして、内容を関心にそって分析･整理する。

内　　容

第1回　（講義）研究テーマから問題提起へ①　－研究動向整理と研究課題の発見
第2回　（講義）研究テーマから問題提起へ②　－課題考察のための知識・情報の獲得
第3回　4回生ゼミと合同の卒論中間発表会
第4回　ゼミ生報告と質疑応答１－①（基本的知識の収集成果に基づく報告）
第5回　ゼミ生報告と質疑応答１－②（基本的知識の収集成果に基づく報告）
第6回　ゼミ生報告と質疑応答１－③（基本的知識の収集成果に基づく報告）
第7回　ゼミ生報告と質疑応答１－④（基本的知識の収集成果に基づく報告）
第8回　ゼミ生報告と質疑応答２－①（問題関心の明示、それに対応した報告）
第9回　ゼミ生報告と質疑応答２－②（問題関心の明示、それに対応した報告）
第10回　ゼミ生報告と質疑応答２－③（問題関心の明示、それに対応した報告）
第11回　ゼミ生報告と質疑応答２－④（問題関心の明示、それに対応した報告）
第12回　ゼミ生報告と質疑応答２－⑤（問題関心の明示、それに対応した報告）
第13回　ゼミ生報告と質疑応答２－⑥（問題関心の明示、それに対応した報告）
第14回　卒論セミナー
第15回　三回生ゼミ総括、春休みに為すべきことの確認

履修上の注意点

ゼミ授業は出席することに意義があると考える。したがって、ゼミ生全員が完全出席を目指してほしい。しかし、やむなく欠席せざるを得ないときには、前もって教員の大学アドレス宛にその旨連絡すること。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

特に指定はしないが、西洋史の論文、研究書
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 30% ）	授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 40% ）	

Syllabus

科 目 名	世界史演習Ⅱ ＜＊Zb＞		
クラス		配当回生	
講義期間	その他	定　　員	
履修条件	『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定	希望制
担 当 者	（休講）		
テーマ			
授業の到達目標			
授業の概要			
準備学習（予習・復習）			
内　　容			
履修上の注意点			
教科書			
参考書			

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史講読Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　小野 浩	

テーマ

中央アジア・西アジアの歴史文献の輪読とそれにもとづく発表

授業の到達目標

中央アジア史・西アジア史に関する文献を選読して当該地域の歴史の知見を深め、さらには自らの関心にもとづいた研究発表を行なうことで、初歩的な研究態度を習得する。

授業の概要

扱う地域・時代ともにきわめて広範に亙り、また出席者各人の関心もさまざまであることが予想されるので、それにこたえるようなテキストは見出しがたい。それゆえこちらでいくつかの文献を候補として用意し（下記参考書参照）、受講者はその中から一部を選んで要約と発表を行なうという形式をとる。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。また学外授業を行うこともある。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　出席者各人に自分の興味と関心のあるテーマを自己紹介させる。テキストの紹介。分担の決定。
第2回　担当者による内容要約とそれに付随した研究発表。（その際必ずレジュメを用意すること。）教員のコメントおよび出席者による質疑①。
第3回　報告②と質疑
第4回　報告③と質疑
第5回　報告④と質疑
第6回　報告⑤と質疑
第7回　報告⑥と質疑
第8回　報告⑦と質疑
第9回　報告⑧と質疑
第10回　報告⑨と質疑
第11回　報告⑩と質疑
第12回　報告⑪と質疑
第13回　報告⑫と質疑
第14回　報告⑬と質疑
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

メソポタミア文明入門
著者:　中田一郎
出版社:　岩波書店
出版年:　2007　　ISBN:

アジアの歴史と文化　西アジア史
著者:　間野英二　編
出版社:　同朋舎
出版年:　2000　　ISBN:

アジアの歴史と文化　中央アジア史
著者:　間野英二　編
出版社:　同朋舎
出版年:　1999　　ISBN:

a10303a710

新書東洋史8　中央アジアの歴史

著者:　間野英二

出版社: 講談社

出版年: 1977　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）

参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史講読Ⅰ <b>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　松浦 京子

テーマ

英語文献の精読と内容理解

授業の到達目標

英語文献史料の正確な翻訳力と、それを史料として用いる力を身につけることをめざす

授業の概要

西洋史研究において必携である英語文献の読解能力を身につけ向上させるために、比較的平易な英語研究書をゼミ生で輪読し、内容についての質疑応答を行う。テキストは、19世紀イギリスで横行し後に社会問題となった児童労働の実態と、それの解消のために尽力した人物ならびに運動を概観したElizabeth Longmate, Children at Work 1830-1885, (Then and There Series), U.K., 1981である。平易な叙述で本文全体83頁と短いながら、同時代史料と図版が多用されているので、初めて本格的英語研究文献に触れる者にも、取組みやすいテキストと言えよう。ゼミ生で各章ごとに分担して全文和訳を行う。担当者は、報告に際して、全訳文を載せたレジュメを用意し、なおかつ、邦語文献にあたることで史料内容の背景や関連事象の理解に努め、その成果を報告すること。また、報告後に講読箇所の内容について質疑応答を行う。

準備学習（予習・復習）

担当部分の報告のために文献を収集し精読し、史料内容の背景や関連事象の理解に努めること。各報告後の質疑応答のために、担当者以外のゼミ生もテキストの熟読に努めること。なお、全訳担当者は、報告より前に翻訳文を担当教員に提出し、チェックを受けること。

内　容

第1回　テキストの紹介、担当箇所の決定
第2回　各自の担当部分から引き出される課題（史実の把握）の設定冒頭数ページの全訳
第3回　冒頭数ページから引き出される課題＝奴隷制廃止運動の実態について
第4回　学生報告①と質疑応答、教員解説
第5回　学生報告②と質疑応答、教員解説
第6回　学生報告③と質疑応答、教員解説
第7回　学生報告④と質疑応答、教員解説
第8回　学生報告⑤と質疑応答、教員解説
第9回　学生報告⑥と質疑応答、教員解説
第10回　学生報告⑦と質疑応答、教員解説
第11回　学生報告⑧と質疑応答、教員解説
第12回　学生報告⑨と質疑応答、教員解説
第13回　学生報告⑩と質疑応答、教員解説
第14回　学生報告⑪と質疑応答、教員解説
第15回　全体総括、内容（引き出された史実）についての確認

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻、途中退場をしないこと。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

子どもたちと産業革命
著者:　クラーク・ナーディネリ
出版社:　平凡社
出版年:　1998年　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 35% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 35% ）
参加度　（ 30% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史講読Ⅱ〈a〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　王 衛明

テーマ

中国古代史　史料読解

授業の到達目標

中国では各種の学問の中で、史学がもっとも発達し、2千年にわたって歴代王朝の歴史が書き続けられた。これらの文献を読み、歴史叙述の持続及び用語、構文を理解する。

授業の概要

古代人物・仏教・儒教思想、文物典章制度に関する基礎文献をプリントにして配布し、毎回全員で輪読し、内容から問題展を読み取る。なお、必要に応じて学外授業を実施することがある。

準備学習（予習・復習）

事前に指示した参考書を基に調べておく。

内　容

第1回　授業の目的と進め方の説明
第2回　テキストの著者および内容概略の紹介
第3回　輪読とコメント・質問　その1
第4回　輪読とコメント・質問　その2
第5回　輪読とコメント・質問　その3
第6回　輪読とコメント・質問　その4
第7回　輪読とコメント・質問　その5
第8回　輪読とコメント・質問　その6
第9回　輪読とコメント・質問　その7
第10回　輪読とコメント・質問　その8
第11回　輪読とコメント・質問　その9
第12回　輪読とコメント・質問　その10
第13回　輪読とコメント・質問　その11
第14回　輪読とコメント・質問　その12
第15回　総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないように。

教科書

参考書

角川新字源
著者:　小川環樹他
出版社:　角川書店
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史講読Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　鷲田　睦朗	

テーマ

世界史文献の批判的講読及び書評の作成

授業の到達目標

卒業論文を作成するために必要となる世界史文献を批判的に読む方法を実践的に身につけることを目標とする

授業の概要

前半：世界史文献を読んだ上でのプレゼンテーションの実践後半：書評の読解・執筆方法論の指導と実践

準備学習（予習・復習）

（山川出版社の「世界史リブレット」シリーズ等の）本を読んでのプレゼン資料作成、書評作成。詳しくは講義で説明する

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　講師によるプレゼンテーション実演
第3回　学生によるプレゼンテーション(1)
第4回　学生によるプレゼンテーション(2)
第5回　学生によるプレゼンテーション(3)
第6回　学生によるプレゼンテーション(4)
第7回　学生によるプレゼンテーション(5)
第8回　学生によるプレゼンテーション(6)
第9回　学生によるプレゼンテーション(7)
第10回　学生によるプレゼンテーション(8)
第11回　学生によるプレゼンテーション(9)
第12回　学生によるプレゼンテーション(10)
第13回　書評とは何か、書評の使い方
第14回　書評を書いてみよう
第15回　総括

履修上の注意点

参加人数により、3回目以降の構成が変更される可能性が有ります

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 10 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）
①プレゼンテーション、②他の人のプレゼンテーション時の質問等、③書評を総合的に判断して成績を評価する

2016 Syllabus

科 目 名　**現代史演習Ⅰ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　永井　和	

テーマ

日本近現代史に関する論文講読

授業の到達目標

卒業論文の執筆を視野にいれて、その準備の一段階として、専門の学術論文を読み、学術論文とはどのようなものかを知る。また、最近の研究動向および研究成果がどのようなものであるかを、その一端を知る。

授業の概要

最近刊行された岩波講座日本歴史の近現代編に収録されている諸論文を輪読する。分担を決め、課題論文について報告を行い、それを踏まえて、テキストや報告内容について質疑応答および討論をおこなう。

準備学習（予習・復習）

課題テキストは全員が事前に読んでおくこと。報告する場合は、割り当てられた分担論文について内容紹介と評価をおこなう。事前に用語等を調べ、疑問点を洗い出しておくこと。報告はレジュメを作成しておこなう。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　報告①
第3回　報告①
第4回　報告②
第5回　報告③
第6回　報告④
第7回　報告⑤
第8回　報告⑥
第9回　報告⑦
第10回　報告⑧
第11回　報告⑨
第12回　報告⑩
第13回　報告⑪
第14回　報告⑫
第15回　報告⑬

履修上の注意点

この授業は、発表を中心とする演習なので、主体的な参加が求められる。

教科書

参考書

岩波講座日本歴史第17巻　近現代3
著者:
出版社: 岩波書店
出版年: 2014　　ISBN: 9784000113373

成績評価

試験 （ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 60 ）
参加度 （ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**現代史演習Ⅰ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　南　直人	

テーマ

現代史研究の諸問題

授業の到達目標

卒業論文の作成を視野に入れて、各自がテーマを探し出し、研究文献と史料の調査・収集の仕方を学びさらに研究発表及び質疑応答・議論の基本的な作法を身につける。

授業の概要

まず最初に全体的なガイダンスをおこない、テーマを選ぶ際の注意、学術論文の探し方を学んだあと、各自で研究発表をする。それぞれのテーマについて、文献・史料を探し、その内容を理解して、まとめ、発表する。なお、必要に応じて学外授業、学外者の講演会などをそれぞれ1回程度おこなうことがある。

準備学習（予習・復習）

自分のテーマを見つけだすために、自分が関心を持つ分野の概説書や専門書を読みすすめること。

内　容

第1回　卒論の書き方、テーマ、卒業後の進路
第2回　専門書・論文の探索方法、図書館利用方法
第3回　卒業研究に関する基礎知識、これまでの卒業論文の内容の学習
第4回　個別発表1回目（1）
第5回　個別発表1回目（2）
第6回　個別発表1回目（3）
第7回　個別発表1回目（4）
第8回　個別発表1回目（5）
第9回　個別発表1回目（6）
第10回　個別発表2回目（1）
第11回　個別発表2回目（2）
第12回　個別発表2回目（3）
第13回　個別発表2回目（4）
第14回　個別発表2回目（5）
第15回　全体的講評＊必要に応じて学外授業等を行うことがある。また適宜就職・進路関係の内容が入ることもある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**現代史演習Ⅱ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　永井　和	

テーマ

日本近現代史に関する論文講読

授業の到達目標

卒業論文の執筆を視野にいれて、その準備の一段階として、専門の学術論文を読み、学術論文とはどのようなものかを知る。また、最近の研究動向および研究成果がどのようなものであるかを、その一端を知る。

授業の概要

最近刊行された岩波講座日本歴史の近現代編に収録されている諸論文を輪読する。分担を決め、課題論文について報告を行い、それを踏まえて、テキストや報告内容について質疑応答および討論をおこなう。

準備学習（予習・復習）

課題テキストは全員が事前に読んでおくこと。報告する場合は、割り当てられた分担論文について内容紹介と評価をおこなう。事前に用語等を調べ、疑問点を洗い出しておくこと。報告はレジュメを作成しておこなう。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　報告①
第3回　報告②
第4回　報告③
第5回　報告④
第6回　報告⑤
第7回　報告⑥
第8回　報告⑦
第9回　報告⑧
第10回　報告⑨
第11回　報告⑩
第12回　報告⑪
第13回　報告⑫
第14回　報告⑬
第15回　報告⑭

履修上の注意点

この授業は、発表を中心とする演習なので、主体的な参加が求められる。

教科書

参考書

岩波講座日本歴史第１８巻 近現代４
著者:
出版社: 岩波書店
出版年: 2015　　ISBN: 9784000113380

成績評価

試験 （ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 60 ）
参加度 （ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**現代史演習Ⅱ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　南　直人	

テーマ

現代史研究の諸問題

授業の到達目標

卒業論文の作成を視野に入れて、各自がテーマを探し出し、研究文献と史料の調査・収集の仕方を学びさらに研究発表及び質疑応答・議論の基本的な作法を身につける。

授業の概要

前期の学修内容を踏まえて、各自で研究発表をする。それぞれのテーマについて、文献・史料を探し、その内容を理解して、まとめ、発表する。なお、必要に応じて学外授業、学外者の講演会などをそれぞれ1回程度おこなうことがある。

準備学習（予習・復習）

自分のテーマを見つけだすために、自分が関心を持つ分野の概説書や専門書を読みすすめること。

内　容

第1回　卒論のテーマの絞り込み、卒業後の進路（就活に備えて）
第2回　これまでの卒業研究の内容の復習
第3回　個別発表1回目（1）
第4回　個別発表1回目（2）
第5回　個別発表1回目（3）
第6回　個別発表1回目（4）
第7回　個別発表1回目（5）
第8回　個別発表1回目（6）
第9回　個別発表2回目（1）
第10回　個別発表2回目（2）
第11回　個別発表2回目（3）
第12回　個別発表2回目（4）
第13回　個別発表2回目（5）
第14回　個別発表2回目（6）
第15回　まとめ、卒論への展望＊必要に応じて学外授業等を行うことがある。また適宜就職・進路関係の内容が入ることもある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**現代史講読Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　永井 和

テーマ

倉富勇三郎日記を読む

授業の到達目標

歴史研究において必須となる史料の基礎的読解力と知識の習得を目指す。

授業の概要

翻刻された倉富勇三郎日記の1920年前半の日記を読む。分担を決めてテキストを輪読し、史料解釈の方法を学ぶ。日記には、この時期の宮中(皇室、宮内省)の動向が詳細に記されているが、同時に当時の上流階級の日常生活を知るうえでも、他に例をみない。日記を通じて、時代の状況をつかみたい。

準備学習(予習・復習)

参加者の報告を主に授業を進めていくので、事前の報告準備は不可欠である。

内　容

第1回　ガイダンス(授業の進め方、倉富勇三郎および倉富勇三郎日記についての説明)
第2回　倉富勇三郎日記をまず読んでみる。
第3回　日記の読解ど報告①
第4回　日記の読解ど報告②
第5回　日記の読解ど報告③
第6回　日記の読解ど報告④
第7回　日記の読解ど報告⑤
第8回　日記の読解ど報告⑥
第9回　日記の読解ど報告⑦
第10回　日記の読解ど報告⑧
第11回　日記の読解ど報告⑨
第12回　日記の読解ど報告⑩
第13回　日記の読解ど報告⑪
第14回　日記の読解ど報告⑫
第15回　日記の読解ど報告⑬およびまとめ

履修上の注意点

日記の輪読と報告を主に授業を進めるので、自分の担当の回の欠席はもちろんだが、他の回の授業にも欠かさず出席すること。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

倉富勇三郎日記　第1巻
著者:　倉富勇三郎日記研究会
出版社:　国書刊行会
出版年:　2010　　ISBN:　4336053014

成績評価

試験　(　)　　小テスト(　)
授業中課題　(　)　　授業中発表等　(70)
参加度　(30)

2016 Syllabus

科 目 名　**現代史講読Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　南 直人	

テーマ

西洋史分野の近現代史関連文献を読む

授業の到達目標

西洋史分野の近現代史についてのさまざまなテーマに関する専門的学術論文を読解し、西洋近現代史における基本的な論点や問題関心についての理解を深める。

授業の概要

西洋史分野の近現代史についてのさまざまなテーマに関する専門的学術論文を自分で探し出し、それを読解し、他者にわかるような適切な方法でその内容をレジュメにまとめ、口頭で発表する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　19世紀前半西洋の専門論文内容紹介（1）
第3回　19世紀前半西洋の専門論文内容紹介（2）
第4回　19世紀前半西洋の専門論文内容紹介（3）
第5回　19世紀後半西洋の専門論文内容紹介（4）
第6回　19世紀後半西洋の専門論文内容紹介（4）
第7回　19世紀後半西洋の専門論文内容紹介（5）
第8回　20世紀前半西洋の専門論文内容紹介（1）
第9回　20世紀前半西洋の専門論文内容紹介（2）
第10回　20世紀前半西洋の専門論文内容紹介（3）
第11回　20世紀前半西洋の専門論文内容紹介（4）
第12回　20世紀後半西洋の専門論文内容紹介（1）
第13回　20世紀後半西洋の専門論文内容紹介（2）
第14回　20世紀後半西洋の専門論文内容紹介（3）
第15回　まとめ・発表内容のプレゼンテーション

履修上の注意点

教科書

参考書

西洋近現代史研究入門
著者：　望田幸男他（編）
出版社：名古屋大学出版会
出版年：2001年　　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 70 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅲ〈＊a〉**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　増渕　徹

テーマ

卒業研究の展開に向けて

授業の到達目標

自分の関心を明確化するとともに、その分野に関わる卒業論文作成を目指した個人研究を進展させる。同時に、テーマの絞り方や研究史の整理・評価、史料の読解やそこからの問題点の引き出し方など、随時授業における各人の報告をもとに討論を行い、より広い視点と客観性の維持に配慮できるようにする。

授業の概要

先ずは研究論文を追跡し、研究の思考方法、論文の作成方法を学ぶ。その後、参加者各人が関心あるテーマに沿った史料を提出し、その史料の理解に関する研究史や問題点を報告することを通じて、自身の関心の方向性を凝縮させていく。なお、古代史関係の遺産を見学する学外学習や、必要に応じて、卒業研究の参考になるように、学外授業や学外講師を招いての講演を行うことがある。

準備学習（予習・復習）

図書館や様々な情報媒体を通して、論文と史料の博捜に努めること

内　容

第1回　個人研究の進め方に関する概括的指導
第2回　研究論文演習（1）
第3回　研究論文演習（2）
第4回　歴史遺産見学（学外授業）
第5回　研究論文演習（3）
第6回　研究論文演習（4）
第7回　研究論文演習（5）
第8回　個別発表（1）
第9回　個別発表（2）
第10回　個別発表（3）
第11回　個別発表（4）
第12回　個別発表（5）
第13回　個別発表（6）
第14回　個別発表（7）
第15回　後期に向けての卒業研究に関する概括的指導（まとめ）

履修上の注意点

各個人の個別研究の対象を明確化すること、その対象に関する先行研究を調べ、読むことに努めてほしい。

教科書

参考書

個別に指導する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 70 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 30 ）
研究対象の明確化、先行研究の博捜の点に重点を置いて評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅲ＜＊b＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　田端　泰子

テーマ

中世史の諸問題

授業の到達目標

各自の卒業論文の完成にむけて、発表と討論を行ない、また先行研究のまとめ、資料解釈の研究等執筆への導入教育を行う

授業の概要

卒業論文の構成と内容の発表、報告が中心となる。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　毎回3人ずつ発表を義務付ける
第2回　〃
第3回　〃
第4回　〃
第5回　〃
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　〃
第10回　〃
第11回　〃
第12回　〃
第13回　〃
第14回　〃
第15回　〃

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 80% ）
参加度　（ 20% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅲ＜＊c＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　尾下　成敏

テーマ

日本近世史研究の諸問題

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて自己のテーマに基づく研究を深める。

授業の概要

各自が各自の研究テーマにもとづく報告を行い、それをもとに討論を行う。そして、そこから自分なりの研究課題を引き出し、それを卒業論文の作成につなげて欲しいと思う。前期の最後には原稿用紙換算で20枚以上のレポートと、卒論に関わる史料（資料）を集めたデータベースを作成してもらう。また9月には合宿を行い、そこで卒論の構想を発表してもらう。

準備学習（予習・復習）

多くの史料（資料）をなるべく丁寧に読むこと。

内　容

第1回　ガイダンスなど
第2回　歴史研究とは何か？
第3回　個別報告（時間があまれば、史料を読む）
第4回　個別報告（時間があまれば、史料を読む）
第5回　個別報告（時間があまれば、史料を読む）
第6回　個別報告（時間があまれば、史料を読む）
第7回　個別報告（時間があまれば、史料を読む）
第8回　個別報告（時間があまれば、史料を読む）
第9回　個別報告（時間があまれば、史料を読む）
第10回　個別報告（時間があまれば、史料を読む）
第11回　個別報告（時間があまれば、史料を読む）
第12回　個別報告（時間があまれば、史料を読む）
第13回　個別報告（時間があまれば、史料を読む）
第14回　個別報告（時間があまれば、史料を読む）
第15回　まとめ、レポート作成に関するアドバイス　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 35 ）　　授業中発表等　（ 35 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅲ＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　高久　嶺之介	

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて自己のテーマにもとずく研究を深化させる。

授業の概要

各自のテーマにもとずく個別報告を行い、討論を行う。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　4回生前期のゼミ運営方法討議
第2回　昨年度卒業論文の紹介
第3回　卒業論文の内容にかかわる個別報告（1）
第4回　卒業論文の内容にかかわる個別報告（2）
第5回　卒業論文の内容にかかわる個別報告（3）
第6回　卒業論文の内容にかかわる個別報告（4）
第7回　卒業論文の内容にかかわる個別報告（5）
第8回　卒業論文の内容にかかわる個別報告（6）
第9回　卒業論文の内容にかかわる個別報告（7）
第10回　卒業論文の内容にかかわる個別報告（8）
第11回　卒業論文の内容にかかわる個別報告（9）
第12回　卒業論文の内容にかかわる個別報告（10）
第13回　卒業論文の内容にかかわる個別報告（11）
第14回　卒業論文の内容にかかわる個別報告（12）
第15回　4回生前期のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅳ＜＊a＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　増渕 徹

テーマ

卒業研究の完成

授業の到達目標

卒業研究をさらに進め、卒業論文として集成させることを目的とする。後半は個別指導を重点に置く。

授業の概要

参加者各人の研究テーマの特定断面を報告し、それに関する議論を行う形で授業を展開させる。 なお、古代史関係の遺産の見学（1回）や、必要に応じて、卒業研究の参考となるように、学外学習や学外講師を招いての講演会を行うことがある。

準備学習（予習・復習）

資料・論文の蒐集に努めること。

内　容

第1回　研究の進行状況のチェックと指導
第2回　中間報告に向けての指導
第3回　中間報告での指摘事項及び構想再検討への指導
第4回　歴史遺産見学（学外授業）
第5回　個別報告と質疑（1）
第6回　個別報告と質疑（2）
第7回　個別報告と質疑（3）
第8回　個別発表と質疑（4）
第9回　個別発表と質疑（5）
第10回　個別発表と質疑（6）
第11回　個別発表と質疑（7）
第12回　個別発表と質疑（8）
第13回　卒業研究の整理と評価（1）
第14回　卒業研究の整理と評価（2）
第15回　卒業研究の整理と評価（3）

履修上の注意点

参加者の個別の関心に基づく研究内容に対する指導を主とする。参加者の週ごとの個別研究の深化を求める。

教科書

参考書

個別に指導する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 70 ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 30 ）
卒業論文の作成につながる適切な研究手順の執行と、それを継続する努力の如何に重点を置いて評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅳ＜＊b＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　田端　泰子

テーマ

中世史の諸問題

授業の到達目標

各自の卒業論文の完成を目標に、後期には下書きの準備と討論、書き直しに重点を置いて進める。

授業の概要

卒業論文の執筆と完成を目指す。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　随時研究室へ下書きを提出すること。
第2回　〃
第3回　〃
第4回　〃
第5回　〃
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　〃
第10回　〃
第11回　〃
第12回　〃
第13回　〃
第14回　〃
第15回　〃※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 100% ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅳ＜＊c＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　尾下　成敏

テーマ

卒業研究の完成に向けて

授業の到達目標

各自の研究テーマを深め、卒業論文を執筆し完成させる。

授業の概要

まずは各自が各自の研究テーマにもとづく報告を行い、それをもとに討論を行う。そして、そこから自分なりの研究課題を引き出し、それを卒業論文の作成につなげて欲しいと思う。報告終了後は卒業論文の下書きを書き進める。

準備学習（予習・復習）

多くの史料をなるべく丁寧に読み、文章をわかりやすく書くこと。

内　容

第1回　卒業論文中間発表会に向けた報告準備
第2回　卒業論文中間発表会に向けた報告準備
第3回　卒業論文中間発表会
第4回　卒業論文の形式と書き方
第5回　下書きの検討
第6回　下書きの検討
第7回　下書きの検討
第8回　下書きの検討
第9回　下書きの検討
第10回　下書きの検討
第11回　下書きの検討
第12回　卒業論文の最終調整
第13回　卒業論文の最終調整
第14回　反省会
第15回　歴史学とは何か？　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）　　授業中発表等（ 15 ）
参加度　（ 15 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本史演習Ⅳ＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　高久　嶺之介	

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文の作成

授業の概要

各自のテーマにもとずく個別報告を行い、さらに深めた討議を行う。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　卒業論文作成のための指導（1）
第2回　卒業論文作成のための指導（2）
第3回　卒業論文中間報告
第4回　卒業論文の内容にかかわる個別報告（1）
第5回　卒業論文の内容にかかわる個別報告（2）
第6回　卒業論文の内容にかかわる個別報告（3）
第7回　卒業論文の内容にかかわる個別報告（4）
第8回　卒業論文の内容にかかわる個別報告（5）
第9回　卒業論文の内容にかかわる個別報告（6）
第10回　卒業論文の内容にかかわる個別報告（7）
第11回　卒業論文作成の注意事項指導（1）
第12回　卒業論文作成の注意事項指導（2）
第13回　卒業論文作成後の反省会（1）
第14回　卒業論文作成後の反省会（2）
第15回　卒業論文作成後の反省会（3）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 30 ）	

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <日A>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　増渕　徹	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <日B>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　田端　泰子	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <日C>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　尾下　成敏	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <日D>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　高久　嶺之介	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <世A>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　王　衛明	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <世B>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　小野 浩	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <世C>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　松浦　京子	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <現A>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　永井　和	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <現B>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　南　直人	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅲ＜＊a＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　　王　衛明

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文を完成に向けて、確実な研究能力を向上させる。

授業の概要

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。
〇テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する　〇中間発表に向けての指導（レジュメ、発表原稿等）　〇中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する　〇個々の問題についての個別指導

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　全体的指導（卒業後の進路の指導も含む）
第2回　個別発表（1）
第3回　個別発表（2）
第4回　個別発表（3）
第5回　個別発表（4）
第6回　個別発表（5）
第7回　個別発表（6）
第8回　個別発表（7）
第9回　個別発表（8）
第10回　個別発表（9）
第11回　個別発表（10）
第12回　個別発表（11）
第13回　個別発表（12）
第14回　個別発表（13）
第15回　個別発表（14）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅲ＜＊b＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　小野 浩

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文を完成させる

授業の概要

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。〇テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する　〇中間発表に向けての指導（レジュメ、発表原稿等）　〇中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する　〇個々の問題についての個別指導なお、学外授業を行うこともある。また学外講演者を招いて講演会を行なう予定である。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　全体的指導（卒業後の進路の指導も含む）
第2回　個別発表（1）
第3回　個別発表（2）
第4回　個別発表（3）
第5回　個別発表（4）
第6回　個別発表（5）
第7回　個別発表（6）
第8回　個別発表（7）
第9回　個別発表（8）
第10回　個別発表（9）
第11回　個別発表（10）
第12回　個別発表（11）
第13回　個別発表（12）
第14回　個別発表（13）
第15回　個別発表（14）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 60 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅲ＜＊c＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　松浦　京子

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文執筆のために必要な史料文献の収集の完了と問題考察の進展をめざす。

授業の概要

これまでの学習の集大成としての卒業論文執筆に向けて、そのための研究発表・討論・指導などを行う。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行なう。 〇テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する。また、歴史学に関する講演会を1回行うことがある。

準備学習（予習・復習）

参考文献の収集と精読、情報整理

内　容

第1回　歴史研究を進めるにあたっての留意点（史料、文献の扱い方）、問題設定にあたっての注意点（研究動向整理）、研究成果の公表としての卒業論文の構成について
第2回　全体指導と個別面談①
第3回　全体指導と個別面談②
第4回　全体指導と個別面談③
第5回　全体指導と個別面談④
第6回　全体指導（卒業論文執筆上の注意）
第7回　学生報告①と討論・講評
第8回　学生報告②と討論・講評
第9回　学生報告③と討論・講評
第10回　学生報告④と討論・講評
第11回　学生報告⑤と討論・講評
第12回　学生報告⑥と討論・講評
第13回　学生報告⑦と討論・講評
第14回　学生報告⑧と討論・講評
第15回　夏休みに向けての心構え

履修上の注意点

ゼミは参加すること自体に大きな意義があると考える。全員が完全出席を目指してほしい。どうしてもやむを得ない場合は、教員の大学アドレスに前もって連絡すること。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ 60% ）
参加度 （ 40% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅳ＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　王　衛明	

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。

授業の概要

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。 〇テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する 〇中間発表に向けての指導（レジュメ、発表原稿等） 〇中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する 〇個々の問題についての個別指導（なお必要に応じて卒論作成の参考になるように学外講師を招いての講演等を行うことがある）なお、期間中、歴史学に関する講演会を行うことがある。

準備学習（予習・復習）

事前に指示した参考書を基に調べておく。

内　　容

第1回　個別発表（1）
第2回　個別発表（2）
第3回　個別発表（3）
第4回　個別発表（4）
第5回　個別発表（5）
第6回　個別発表（6）
第7回　個別発表（7）
第8回　個別発表（8）
第9回　個別発表（9）
第10回　個別発表（10）
第11回　個別発表（11）
第12回　個別発表（12）
第13回　個別発表（13）
第14回　個別発表（14）
第15回　個別発表（15）

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 0 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅳ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　小野　浩	

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。

授業の概要

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。 〇テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する 〇中間発表に向けての指導（レジュメ、発表原稿等） 〇中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する 〇個々の問題についての個別指導 なお必要に応じて卒論作成の参考になるように学外講師を招いての講演等を行うことがある。また期間中、学外授業を行うこともある。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　個別発表（1）
第2回　個別発表（2）
第3回　個別発表（3）
第4回　個別発表（4）
第5回　個別発表（5）
第6回　個別発表（6）
第7回　個別発表（7）
第8回　個別発表（8）
第9回　個別発表（9）
第10回　個別発表（10）
第11回　個別発表（11）
第12回　個別発表（12）
第13回　個別発表（13）
第14回　個別発表（14）
第15回　個別発表（15）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 60 ）
参加度 （ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**世界史演習Ⅳ＜＊c＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　松浦　京子

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業研究に真摯に取り組み、卒業論文の完成をめざす

授業の概要

これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆する。そのための個別指導などを行なう。授業内容は、次のことに留意しつつすすめる。 〇中間発表に向けての指導（レジュメ、発表原稿等） ゼミ生各自が事前に発表を行い、全員での討論を経て指導などを行う。 〇中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する 〇個々の問題についての個別指導なお、中間発表に備えて、９月の休暇期間に集中ゼミを行なう。なお、期間中、歴史学に関する講演会を1回行うことがある。

準備学習（予習・復習）

自らの卒業研究における課題に真摯に取り組み、文献の収集、精読、情報整理、分析し、それらの成果をゼミおよび面談において披露できるようにする。

内　容

第1回　中間発表に向けての論文タイトル決定、レジュメの作成
第2回　レジュメのチェック
第3回　卒論中間発表会
第4回　卒業論文の執筆要領についての解説
第5回　卒業論文執筆に向けて個別指導①
第6回　卒業論文執筆に向けて個別指導②
第7回　卒業論文執筆に向けて個別指導③
第8回　卒業論文執筆に向けて個別指導④
第9回　卒業論文執筆に向けて個別指導⑤
第10回　卒業論文執筆に向けて個別指導⑥
第11回　卒業論文執筆に向けて個別指導⑦
第12回　卒業論文執筆に向けて個別指導⑧
第13回　個別指導
第14回　卒論総括
第15回　卒論諮問に向けて諸注意、卒業後について懇談
第16回　＊学外にて集中ゼミ合宿を行う予定である

履修上の注意点

ゼミは参加すること自体に大きな意義があると考える。全員が完全出席を目指してほしい。どうしてもやむを得ない場合は、教員の大学アドレスに前もって連絡すること。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ 50% ）
参加度 （ 50% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**現代史演習Ⅲ＜＊a＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　永井 和

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

現代史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習である。卒業論文は、大学でのこれまでの学習の集大成である。自分の個性を活かした、よい卒業論文を執筆することが目標であるが、そのためには、段階的に研究を進めていかなければならない。この授業では、卒業論文の作成に向けて、教員の指導の下、各自が研究発表をおこない、相互に討論しつつともに学んでいきたい。

授業の概要

卒業論文の作成にむけて、各自が中間発表を行う。求められる報告の内容は以下のとおりだが、そのすべてを満たす必要はない。1、卒業論文のテーマとその概要（何を研究するのか）2. 研究の動機（なぜそのテーマで研究するのか、その研究の意義は何か）3. 研究することで明らかにしたいこと（研究の目的、到達目標）4. 先行研究（自分のテーマに関連する先行研究のリストをつくる、できるかぎり網羅的に。さらにいくつかの先行研究を読み、その内容を紹介し、問題点を考察する）、5. 関連資料（先行研究を調べるなかで、自分の研究テーマについて収集し、読解すべき史料が何であるのかを調査し、その史料のリストを作成し、史料へのアクセス方法を調べる。可能ならば史料を集める）

準備学習（予習・復習）

報告にあたっては事前準備を周到にしておかねばならない。より重要なのは、報告後の検討作業である。中間発表に対して出された意見やアイデアを取り入れて、それまでの研究をよりよいものにするための反省と修正、さらに今後の展開のための戦略をねる作業が不可欠となる。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　個別発表①
第3回　個別発表②
第4回　個別発表③
第5回　個別発表④
第6回　個別発表⑤
第7回　個別発表⑥
第8回　個別発表⑦
第9回　個別発表⑧
第10回　個別発表⑨
第11回　個別発表⑩
第12回　個別発表⑪
第13回　個別発表⑫
第14回　個別発表⑬
第15回　個別発表⑭

履修上の注意点

卒業論文は学生生活の集大成。その準備のための演習Ⅲ、Ⅳは4回生時の学習の中心となる授業なので、主体的な参加が求められる。発表は必ず行うこと。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等 （ 60 ）

参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**現代史演習Ⅲ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　南　直人	

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

現代史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習である。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆するが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行う。

授業の概要

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていく。 〇テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する 〇中間発表に向けての指導（レジュメ、発表原稿等） 〇中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する 〇個々の問題についての個別指導なお必要に応じて卒論作成の参考になるように学外授業・学外講師を招いての講演等を行うことがある。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　全体的指導（卒業後の進路の指導も含む）
第2回　個別発表（1）
第3回　個別発表（2）
第4回　個別発表（3）
第5回　個別発表（4）
第6回　個別発表（5）
第7回　個別発表（6）
第8回　個別発表（7）
第9回　個別発表（8）
第10回　個別発表（9）
第11回　個別発表（10）
第12回　個別発表（11）
第13回　個別発表（12）
第14回　個別発表（13）
第15回　全体的講評　※なお、必要に応じて学外授業等を行うことがある。また適宜就職・進路関係の内容が入ることもある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**現代史演習Ⅳ＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　永井 和	

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

現代史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習である。卒業論文は、大学でのこれまでの学習の集大成である。自分の個性を活かした、よい卒業論文を執筆することが目標であるが、そのためには、段階的に研究を進めていかなければならない。この授業は、卒業論文の作成に向けて、最後の準備となる。教員の指導の下、各自が研究発表をおこない、相互に討論しつつともに学んでいきたい。

授業の概要

演習Ⅲでの発表と指導をもとに、卒業論文の作成にむけて、各自が最後の中間発表を行う。以下の項目にそって報告する。

1、卒業論文のテーマと論文の問題設定2. 先行研究の整理3. 論文において明らかにすべき問題の明確化4. 関連資料5.

準備学習（予習・復習）

報告にあたっては事前準備を周到にしておかねばならない。より重要なのは、報告後の検討作業である。中間発表に対して出された意見やアイデアを取り入れて、よりよい論文を完成することが大事である。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　個別発表①
第3回　個別発表②
第4回　個別発表③
第5回　個別発表④
第6回　個別発表⑤
第7回　個別発表⑥
第8回　個別発表⑦
第9回　個別発表⑧
第10回　個別発表⑨
第11回　個別発表⑩
第12回　個別発表⑪
第13回　個別発表⑫
第14回　個別発表⑬
第15回　個別発表⑭

履修上の注意点

卒業論文は学生生活の集大成。その準備のための演習Ⅲ、Ⅳは4回生時の学習の中心となる授業なので、主体的な参加が求められる。発表は必ず行うこと。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 60 ）
参加度 （ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**現代史演習Ⅳ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　南　直人	

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

現代史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習である。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆するが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行う。

授業の概要

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていく。 〇テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する 〇中間発表に向けての指導（レジュメ、発表原稿等） 〇中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する 〇個々の問題についての個別指導なお必要に応じて学外授業、学外講師を招いての講演等をそれぞれ1回程度行うことがある。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　個別発表（1）
第2回　個別発表（2）
第3回　個別発表（3）
第4回　個別発表（4）
第5回　個別発表（5）
第6回　個別発表（6）
第7回　個別発表（7）
第8回　個別発表（8）
第9回　個別発表（9）
第10回　個別発表（10）
第11回　個別発表（11）
第12回　個別発表（12）
第13回　個別発表（13）
第14回　個別発表（14）
第15回　全体的講評＊なお必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**京都の歴史と文化遺産**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　秋期集中　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　増渕 徹

テーマ

京都市の歴史遺産とその保護・活用について学ぶ

授業の到達目標

京都市内に残る遺跡・建造物・庭園・美術工芸品・民俗文化財などの多様な文化遺産に対する知識を深め、現代における遺産の調査・保護・活用について問題意識をもつ。

授業の概要

京都市文化市民局文化財保護課の技師の方々を講師に、市内の各種の文化遺産とその特徴、及び調査や保護上の課題を解説する形式で進める（集中講義）。講義中に2～3回の現地見学を行う（見学料等が必要になる場合がある）。なお、以下の予定は過年度に実施した内容に準拠したもので、実際の講義内容や見学対象は講師の関係で変更する場合がある（その際にはあらためて通知する）。

準備学習（予習・復習）

日常的にたくさんの文化遺産を見学し、自身で問題意識をもってほしい。なお、2講時分程度を1単位としてミニレポートを課す。

内　容

第1回　京都の歴史と文化遺産の特徴（総説）
第2回　京都市の文化遺産とその保護体制
第3回　京都市の史跡と世界遺産
第4回　庭園の保存　－以上、第１日－
第5回　京都市の民俗文化財（祭礼・行事）
第6回　障壁画の保存
第7回　歴史遺産見学
第8回　歴史遺産見学　－以上、第２日－
第9回　文化的景観の問題
第10回　京都市の歴史遺産建造物
第11回　歴史遺産見学
第12回　歴史遺産遺産見学　－以上、第３日－
第13回　京都市の遺跡
第14回　京都市の民俗文化財と世界無形遺産
第15回　まとめ－文化遺産の保護とその課題－　－以上、第４日－

履修上の注意点

歴史遺産について関心をもち、自ら質問する積極性を求める。

教科書

レジュメを配布する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

各回のレジュメで周知する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ 50 ）

「授業中課題」として、毎日の小レポートと、全体をまとめるレポートを課す。なお、全日程終了後、最終レポートの提出を求める。

Syllabus

科 目 名　**考古学概説 <Za>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

a104010450

Syllabus

科 目 名　**美術工芸史概説 <Za>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**文化財特講Ⅱ（中近世文化史）<Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**文化財特講Ⅲ（建築）<Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

a104024210

Syllabus

科 目 名　**文化財特講Ⅳ（染織）<Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**文化財学演習Ⅱ〈ZA〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定　希望制
担 当 者　（休講）	

テーマ

研究テーマに沿って学習を深め、卒論作成に繋げる。

授業の到達目標

先行研究成果を批判的に読み問題点を整理する。研究テーマに則した考古資料の収集。

授業の概要

司会者を決め、討議型式で授業を進め最後に教師が総括し問題点を指摘し、課題を与える。

準備学習（予習・復習）

必ず発表前に分からない用語・言葉を調べること。図・写真を用意して発表すること。

内　　容

第1回　夏休み中の課題発表。
第2回　ゼミ発表、討議。
第3回　ゼミ発表、討議。
第4回　ゼミ発表、討議。
第5回　ゼミ発表、討議。
第6回　ゼミ発表、討議。
第7回　ゼミ発表、討議。
第8回　ゼミ発表、討議。
第9回　ゼミ発表、討議。
第10回　ゼミ発表、討議。
第11回　ゼミ発表、討議。
第12回　ゼミ発表、討議。
第13回　ゼミ発表、討議。
第14回　論文目次の策定。
第15回　論文目次の策定。

履修上の注意点

発表中は私語を慎み討議に積極的に加わること。発表者は図面・写真などの視覚資料を用いて分かり易く説明すること。

教科書

参考書

成績評価

試験（　0 ）　　小テスト（　0 ）
授業中課題（　10 ）　　授業中発表等（　60 ）
参加度（　30 ）

発表レジュメの内容、発表の仕方、司会の進行のあり方、討議への参加度を総合的に勘案して評価する。

Syllabus

科 目 名　**文化財学演習Ⅲ <ZA>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

Syllabus

科 目 名　**文化財学演習Ⅳ <ZA>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ〈＊A〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　有坂　道子.小林　裕子

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

授業の到達目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の概要

学外見学を核に、事前学習及び事後学習をとおして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

準備学習（予習・復習）

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　ゼミ　発表事前指導
第3回　発表①
第4回　発表②
第5回　発表③
第6回　発表④
第7回　発表⑤
第8回　総括
第9回　ゼミ　発表事前指導
第10回　発表①
第11回　発表②
第12回　発表③
第13回　発表④
第14回　発表⑤
第15回　総括※なお、この授業では必要に応じて学外授業及び、ゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ＜＊B＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　一瀬 和夫.小林 裕子

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

授業の到達目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の概要

学外見学を核に、事前学習及び事後学習をとおして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

準備学習（予習・復習）

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　ゼミ　発表事前指導
第3回　発表①
第4回　発表②
第5回　発表③
第6回　発表④
第7回　発表⑤
第8回　総括
第9回　ゼミ　発表事前指導
第10回　発表①
第11回　発表②
第12回　発表③
第13回　発表④
第14回　発表⑤
第15回　総括　※なお、この授業では必要に応じて学外授業及び、ゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

歴史学入門
著者:　福井憲彦
出版社:　岩波書店
出版年:　2006年　　ISBN:

歴史とは何か
著者:　E.H.カー
出版社:　岩波書店
出版年:　1962　　ISBN:　4-00-41001-8

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ ＜＊C＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　一瀬 和夫.登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

授業の到達目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の概要

学外見学を核に、事前学習及び事後学習をとおして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

準備学習（予習・復習）

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　ゼミ　発表事前指導
第3回　発表①
第4回　発表②
第5回　発表③
第6回　発表④
第7回　発表⑤
第8回　総括
第9回　ゼミ　発表事前指導
第10回　発表①
第11回　発表②
第12回　発表③
第13回　発表④
第14回　発表⑤
第15回　総括　※なお、この授業では必要に応じて学外授業及び、ゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

歴史学入門
著者:　福井憲彦
出版社:　岩波書店
出版年:　2006年　　ISBN:

歴史とは何か
著者:　E.H.カー
出版社:　岩波書店
出版年:　1962　　ISBN:　4-00-41001-8

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ ＜＊A＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　一瀬 和夫.登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

授業の到達目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の概要

学外見学を核に、事前学習及び事後学習をとおして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

準備学習（予習・復習）

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　ゼミ　発表事前指導
第3回　発表①
第4回　発表②
第5回　発表③
第6回　発表④
第7回　発表⑤
第8回　総括
第9回　ゼミ　発表事前指導
第10回　発表①
第11回　発表②
第12回　発表③
第13回　発表④
第14回　発表⑤
第15回　総括　※なお、この授業では必要に応じて学外授業及び外部講師による特別講演会を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

歴史学入門
著者:　福井憲彦
出版社:　岩波書店
出版年:　2006年　　ISBN:

歴史とは何か
著者:　E.H.カー
出版社:　岩波書店
出版年:　1962　　ISBN:　4-00-41001-8

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　研究入門ゼミⅡ ＜＊B＞

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　有坂　道子.登谷　伸宏	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ ＜＊C＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　有坂　道子.小林　裕子

テーマ

歴史遺産学とはいかなる学問か

授業の到達目標

歴史遺産学とは、何を対象にし、いかに研究を進める学問なのかについて理解を深める。

授業の概要

学外見学を核に、事前学習及び事後学習をとおして「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」といった多角的な実習をおこなう。

準備学習（予習・復習）

見学で実見した文化財に関わる文献を読み、さらなる理解を深める。歴史遺産に関する古今東西の書物を積極的に読み、自分なりの基礎研究を進める。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　ゼミ　発表事前指導
第3回　発表①
第4回　発表②
第5回　発表③
第6回　発表④
第7回　発表⑤
第8回　総括
第9回　ゼミ　発表事前指導
第10回　発表①
第11回　発表②
第12回　発表③
第13回　発表④
第14回　発表⑤
第15回　総括※なお、この授業では必要に応じて学外授業及び、ゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）

Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学概説Ⅰ〈Z〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学概説Ⅱ <Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　一瀬 和夫.登谷 伸宏	

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する

授業の到達目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、実習をとおして学びとる。

授業の概要

多様な実習により、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。

準備学習（予習・復習）

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　演習事前指導
第3回　歴史遺産学演習①
第4回　歴史遺産学演習②
第5回　歴史遺産学演習③
第6回　歴史遺産学演習④
第7回　演習事後学習
第8回　総括
第9回　歴史遺産学演習①
第10回　歴史遺産学演習②
第11回　歴史遺産学演習③
第12回　歴史遺産学演習④
第13回　歴史遺産学演習⑤
第14回　歴史遺産学演習⑥
第15回　総括※なお、この授業では必要に応じて学外授業及びゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本美術史Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　小林　裕子

テーマ

古代から中世にいたるまでの日本美術の諸作例を通覧し、日本人の美に対する概念がいかなる歴史的背景によって培われてきたのかを考える。

授業の到達目標

本講義は、縄文時代から鎌倉時代までの絵画・彫刻・工芸・建築の作例から、古来日本人が中国や朝鮮半島から受容した技術や表現技法をいかに吸収し、自国の文化として昇華させていったのかについて理解を深めることを到達目標とする。

授業の概要

祖先から継承してきたわが国の特筆すべき作品の制作された時代背景や宗教観を理解しつつ、作品が我々に語りかけるものを感じてとってもらうべく、文献、映像、画像を多用した講義を展開する。学外授業実施の可能性もある。なお、日本美術史講義は前期開講の日本美術史Ⅰと後期開講の日本美術史Ⅱを合わせて履修することで通史の理解修得を実現できるように構成しているが、どちらか片方のみの履修でも差し支えない。

準備学習（予習・復習）

実際に博物館や美術館、寺社に足を運び、作品に直接向き合ってもらいたい。

内　容

第1回　ガイダンスー美術史学における年代観
第2回　縄文・弥生時代の美術ー土と金属の美
第3回　古墳時代の美術ー壁画古墳と副葬品
第4回　飛鳥時代の美術１ー仏教伝来と飛鳥寺
第5回　飛鳥時代の美術２ー法隆寺の金石文
第6回　白鳳時代の美術ー写実の萌芽と山田寺仏頭
第7回　奈良時代の美術１ー平城遷都と興福寺
第8回　奈良時代の美術２ー大仏造立
第9回　奈良時代の美術３ー鑑真渡日と木彫
第10回　平安時代前期の美術ー密教美術とは
第11回　平安時代後期の美術１ー院政期の絵画
第12回　平安時代後期の美術２ー浄土教の世界
第13回　鎌倉時代の美術１ー治承の兵火
第14回　鎌倉時代の美術２ー南都復興と慶派仏師
第15回　学外見学
第16回　試験

履修上の注意点

教科書

使用しない（資料配付）
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本美術史Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　村田 隆志

テーマ

中世から近現代にいたるまでの日本美術の諸作例を通覧し、日本人の美に対する概念がいかなる歴史的背景によって培われてきたのかを考える。

授業の到達目標

室町時代から現代までの美術に関する諸分野の作例から、日本人がどのような文化を形成してきたのかについて理解を深めることを到達目標とする。

授業の概要

祖先から継承してきたわが国の特筆すべき作品の制作された時代背景や宗教観を理解しつつ、作品が我々に語りかけるものを感じてとってもらうべく、文献、映像、画像を多用した講義を展開する。学外授業実施の可能性もある。なお、日本美術史講義は前期開講の日本美術史Ⅰと後期開講の日本美術史Ⅱを合わせて履修することで通史の理解修得を実現できるように構成しているが、どちらか片方のみの履修でも差し支えない。

準備学習（予習・復習）

実際に博物館や美術館、寺社に足を運び、作品に直接向き合ってもらいたい。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　室町時代の美術1—唐物の尊重
第3回　室町時代の美術2—禅余画と初期狩野派
第4回　戦国・安土桃山時代の美術1—狩野派と長谷川派
第5回　戦国・安土桃山時代の美術2—侘び茶と工芸
第6回　江戸時代の美術1—狩野探幽と周辺の作家たち
第7回　江戸時代の美術2—琳派と円山四条派
第8回　江戸時代の美術3—南画の受容と発展
第9回　江戸時代の美術4—浮世絵
第10回　学外見学会
第11回　明治時代の美術1—洋画・写真・輸出工芸
第12回　明治時代の美術2—日本画の摸索
第13回　大正・昭和戦前の美術—モダニズムと美術
第14回　昭和戦後の美術—新たな時代に
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 25 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 15 ）
授業中の質問に対し、回答した場合には加点するので、積極的に回答することが望ましい。

2016 Syllabus

科 目 名　**東洋美術史Ⅰ〈Z〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　王　衛明	

テーマ

東洋美術史の全体像を体系的に解説する

授業の到達目標

美術、考古資料を概観することによって、東アジアにおける美術造形発展の流れを把握する。

授業の概要

オリエント（東洋）という芸術史上の概念は、インド以東の中国、朝鮮、日本及び東南アジア諸国の造形美術を指す。この授業では、美術史通史の性格を持ち、中国古代文明を中心に、歴代王朝に生み出された代表的な絵画、彫刻、工芸、建築等を直接的考察対象にし、美術史学の学問体系から、これらの様々な様式特徴、表現主題、重要作家の事跡と歴史地位等をイメージ資料で通覧し、また中国において近年最新の考古発掘資料とその研究現状の紹介を加えながら、複雑で多様な美的歴史展開の輪郭を講じていきたい。

準備学習（予習・復習）

場合によって授業内容にかかわる寺社や特別展の見学を実施する。事前に指示した参考書を基に調べておく。

内　　容

第1回　概説・中国美術史発展の特徴と研究方法
第2回　史前・原始社会の美術ー文明の形態
第3回　夏文明に関する諸説の検討
第4回　二里頭遺跡の発掘及び青銅文明の出現
第5回　商周の美術ー青銅器の出現と文飾の意味
第6回　春秋・戦国時期の美術ー帛画・青銅工芸品、漆器（美術副葬品の出現）
第7回　秦代の美術ー始皇帝陵と兵馬俑
第8回　秦代美術の問題点ーその源流を考える
第9回　漢代の美術ー死後世界の憧憬とその表現
第10回　墓室壁画及び画像石、画像磚に見られる美術資料
第11回　東アジア地域における秦漢美術の意義
第12回　魏晋南北朝時代ー職業仏教画家と士大夫画家及び墓室壁画の諸問題。
第13回　中国古代の絵画史論ー謝赫の「六法」から張彦遠の『歴代名画記』まで
第14回　魏晋南北朝時代の代表画家とその史料上の問題
第15回　内容総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻や途中退席をしないように。参考書は授業中に適時指示する。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 50 ）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（　）
参加度　（ 50 ）	

Syllabus

科 目 名　**東洋美術史Ⅱ <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**西洋美術史Ⅰ〈Z〉**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　河上 眞理

テーマ

西洋美術史の軸（古代から19世紀まで）

授業の到達目標

西洋の各時代、各様式の基礎的な特徴を把握し、その造形理念を理解する。また西洋美術史の軸となってきた代表的な作品に親しむとともに、こうした作品の現代における意味も考察する。欧米諸国への旅行に際してのヒントを得る。

授業の概要

毎回プリント（授業のレジュメ）を配布し、1回毎に完結するように進めていく。

準備学習（予習・復習）

予習：教科書の指定箇所の通読復習：授業内容の整理ノートの作成

内　容

第1回　ギリシア美術
第2回　ローマ美術
第3回　初期キリスト教美術
第4回　ビザンティン美術
第5回　ロマネスク美術
第6回　ゴシック美術
第7回　ルネサンス美術Ⅰ
第8回　ルネサンス美術Ⅱ
第9回　北方ルネサンス美術
第10回　バロック美術
第11回　新古典主義と美術アカデミー
第12回　ロマン主義
第13回　写実主義
第14回　印象主義
第15回　後期印象主義※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

通史の授業なので全回出席することが望ましい。

教科書

増補新装　カラー版西洋美術史
著者：　高階秀爾
出版社：　美術出版社
出版年：　2002年　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題　（ 70% ）　　授業中発表等（ 0% ）
参加度　（ 30% ）

Syllabus

科 目 名　**西洋美術史Ⅱ <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**民俗学Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　橋本 章彦

テーマ

宗教民俗学入門

授業の到達目標

現代を生きる我々の問題として「民俗」を考えてみたい。その為に講義では、我々にとってできる限り身近な民俗的事象を取り上げる。中には、一見して民俗と何の関わりもないような話題についても考察を加えることになるであろう。皆さんは、それらの検討を通じて、現代生活と民俗の深い関わりを認識し、自分自身を民俗の視点から、今一度見つめ直す機会として欲しい。

授業の概要

以下の予定にしたがって講義を展開する。

準備学習（予習・復習）

民俗学の入門書を一冊くらいは読むのが望ましい。また宗教学の講義を受けたり、もしくは概説書を読んで宗教について理解を深めておくことも重要である。

内　容

第1回　柳田国男の人と学問―導入的観点から
第2回　民俗と民俗学そして宗教民俗学について（目的、方法、対象など）
第3回　「傘」の宗教民俗学―なぜ人は相合い傘を画くのか―
第4回　ご先祖様が帰ってくる―盆行事の現代的意義を考える（1）―
第5回　ご先祖様が帰ってくる―盆行事の現代的意義を考える（2）―
第6回　ご先祖様が帰ってくる―盆行事の現代的意義を考える（3）―
第7回　怪獣民俗論―『ゴジラ』（1954）の鑑賞
第8回　怪獣民俗論―ゴジラの出現を民俗的世界観から考える―
第9回　怪獣民俗論―怪獣についての現代的イメージの源をさぐる―
第10回　怪獣民俗論―アメリカゴジラと日本ゴジラの比較民俗―
第11回　戦争と民俗―戦時下にはどのような民俗が生まれたか―
第12回　都市伝説の民俗学―戦時下世間話の中の神々（1）ー
第13回　都市伝説の民俗学ー戦時下世間話の中の神々（2）
第14回　民俗的境界論―境界は如何なる方法で造られたかー
第15回　まとめにかえてーフィールドワーク方法論

履修上の注意点

教科書

プリント配布
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

民俗学概論
著者：　福田アジオ・宮田登編
出版社：吉川弘文館
出版年：　　ISBN：

現代民俗学入門
著者：　佐野賢治編
出版社：吉川弘文館
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）
・参加度とは出席率を意味する。3分の2以上の出席者を採点対象として点数化する。

2016 Syllabus

科 目 名　**民俗学Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　橋本 章彦

テーマ

宗教民俗学入門

授業の到達目標

現代を生きる我々の問題として「民俗」を考えてみたい。その為に講義では、我々にとってできる限り身近な民俗的事象を取り上げる。中には、一見して民俗と何の関わりもないような話題についても考察を加えることになるであろう。皆さんは、それらの検討を通じて、現代生活と民俗の深い関わりを認識し、自分自身を民俗の視点から、今一度見つめ直す機会として欲しい。

授業の概要

以下の予定にしたがって講義を展開する。

準備学習（予習・復習）

民俗学の入門書を一冊くらいは読むのが望ましい。また宗教学の講義を受けたり、もしくは概説書を読んで宗教について理解を深めておくことも重要である。

内　容

第1回　江戸・民衆のあの世観―熊野観心十界図―
第2回　日本のお正月行事―正月はなぜあるのか（1）―
第3回　日本のお正月行事―正月はなぜあるのか（2）―
第4回　日本のお正月行事―正月はなぜあるのか（3）―
第5回　京都市域の民俗（1）―町屋の暮らし―
第6回　京都市域の民俗（2）―年中行事と食べ物―
第7回　京都市域の民俗（3）―社寺へバーチャル参詣・「参詣曼荼羅」の世界へ―
第8回　祓いの構造と現代文化―「鬼で鬼を払う」（1）―
第9回　祓いの構造と現代文化―「鬼で鬼を払う」（2）―
第10回　笑いの民俗―漫才の近代史・言祝ぎから娯楽へ（1）―
第11回　笑いの民俗―漫才の近代史・言祝ぎから娯楽へ（2）―
第12回　裸祭りの諸相―人はなぜ裸になるのか―
第13回　『大魔神』にまなぶ日本の民俗（1）
第14回　『大魔神』にまなぶ日本の民俗（2）
第15回　まとめにかえて―再び民俗とは何かについて考える

履修上の注意点

教科書

プリント配布
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

民俗学概論
著者:　福田アジオ・宮田登編
出版社:　吉川弘文館
出版年:　　ISBN:

現代民俗学入門
著者:　佐野賢治編
出版社:　吉川弘文館
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）
参加度とは出席率を意味する。3分の2以上の出席者を採点対象として点数化する。

2016 Syllabus

科 目 名　**世界遺産論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　池島 憲一	

テーマ

ユネスコ世界遺産の学習を通して、宗教、文化の多様性、各地域の課題、環境問題、芸術・建築など幅広くまなぶ。

授業の到達目標

160の国と地域にまたがる世界の有名な世界遺産100件、日本の世界遺産19件、および世界遺産の基礎知識を理解するとともに、世界遺産検定3級の合格をめざす。観光・旅行・海外での就職・文化財保護・自然保護に関心のある学生には有用と思う。

授業の概要

テキストとスライド画像で世界旅行気分もだして楽しくすすめたい。55か国の私の旅の話も織り込んでいきます。

準備学習（予習・復習）

テキストのページをしめすので、講義の前後に通読すること。

内　容

第1回　オリエンテーション、世界遺産検定3級とは、世界遺産学習の意味。
第2回　世界遺産の基礎知識1　ユネスコと世界遺産条約、世界遺産誕生のきっかけ
第3回　世界遺産の基礎知識2　登録までの流れ、世界遺産の種類と数、危機遺産と負の遺産
第4回　日本の世界遺産1　知床、白神山地、平泉、日光～京都、奈良
第5回　日本の世界遺産2　法隆寺、紀伊山地、姫路城～富岡、日本の産業革命
第6回　基礎知識と日本の世界遺産の復習
第7回　世界の文化遺産1　人類誕生とヨーロッパ古代文明、アジア世界の形成と宗教
第8回　世界の文化遺産2　ヨーロッパ中世、アメリカ、アフリカ、オセアニア
第9回　世界の文化遺産3　近代国家の成立と世界の近代化、
第10回　世界の文化遺産4　危機遺産、時事問題
第11回　世界の自然遺産
第12回　検定直前確認テスト
第13回　検定直前過去問題の分析
第14回　検定の自己採点、解答・解説
第15回　今後の世界遺産学習の方向、学生の意見発表

履修上の注意点

講義後の個人質問も歓迎する。7月8日に学内で実施される第24回世界遺産検定の受検を推奨。（団体受検料：3級3,900円）

教科書

はじめて学ぶ世界遺産100
著者：　世界遺産アカデミー
出版社：マイナビ
出版年：2013　　ISBN：　9784839949891

参考書

すべてがわかる世界遺産大事典(上)
著者：　世界遺産アカデミー
出版社：マイナビ出版
出版年：2016　　ISBN：　9784839958114

すべてがわかる世界遺産大事典(下)
著者：　世界遺産アカデミー
出版社：マイナビ出版
出版年：2016　　ISBN：　9784839958121

世界遺産年報2016
著者：　日本ユネスコ協会連盟
出版社：講談社
出版年：2015　　ISBN：

成績評価

a10411d910

試験 （ 50% ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 25% ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 25% ）

試験（世界遺産検定3級）の点数を評価。理由があっての未受検はレポートでおぎなえる。授業中課題とは、毎回、何人かに質問・意見などを書いて提出してもらうこと。

2016 Syllabus

科 目 名　**文化財行政論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　山口　博	

テーマ

文化財保護の歴史と現状から、社会とこれからの文化財保護のあり方や文化財とは何かを考える。

授業の到達目標

文化財保護の歴史から、社会情勢とともに変化する文化財やその保護のあり方を学び、その変化を導いてきた社会と文化財保護行政のあり方について考え、広く文化財とその保護の枠組みを理解する。

授業の概要

配布する資料、プリントに基づき講義を進め、必要に応じて画像等を使用する。 なお、各回の内容は変更することがあり、人数等の条件が整えば1～2回の学外授業を行う。

準備学習（予習・復習）

周辺にある指定登録やその他未指定等を含む様々な文化財にふれ、文化財について考える。

内　容

第1回　文化財保護の歴史と沿革（プロローグ）
第2回　文化財保護の萌芽（有形文化財の保護）
第3回　文化財保護範囲の拡大（記念物の保護）
第4回　新たな有形文化財の保護（重要美術品等）
第5回　第2次世界大戦前後の文化財保護
第6回　法隆寺の火災と文化財保護法
第7回　文化財保護法（新たな文化財の出現）
第8回　金閣寺炎上と文化財の防災
第9回　文化財の保存と修理の制度
第10回　伝統的建造物の保護と埋蔵文化財保護の拡充
第11回　埋蔵文化財等の保存と整備活用
第12回　文化財の保存修理と整備活用の実際
第13回　世界遺産と文化財保護法
第14回　文化的景観と近代化遺産（近代の遺産）
第15回　文化財保護の歴史と今後の文化財保護について考える

履修上の注意点

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

文化財保護関係法令集　第3次改訂版
著者:　文化財保護法研究会
出版社:　ぎょうせい
出版年:　2009　ISBN:

遺跡保護の制度と行政
著者:　和田勝彦
出版社:　同成社
出版年:　2015　ISBN:

成績評価

試験　（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産総合演習Ⅰ〈a〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　有坂　道子.小林　裕子

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する

授業の到達目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、実習をとおして学びとる。

授業の概要

多様な実習により、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。

準備学習（予習・復習）

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　演習事前指導
第3回　歴史遺産学演習①
第4回　歴史遺産学演習②
第5回　歴史遺産学演習③
第6回　歴史遺産学演習④
第7回　演習事後学習
第8回　総括
第9回　歴史遺産学演習①
第10回　歴史遺産学演習②
第11回　歴史遺産学演習③
第12回　歴史遺産学演習④
第13回　歴史遺産学演習⑤
第14回　歴史遺産学演習⑥
第15回　総括※なお、この授業では必要に応じて学外授業及びゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産総合演習Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　一瀬　和夫.小林　裕子	

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する

授業の到達目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、実習をとおして学びとる。

授業の概要

多様な実習により、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。

準備学習（予習・復習）

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　演習事前指導
第3回　歴史遺産学演習①
第4回　歴史遺産学演習②
第5回　歴史遺産学演習③
第6回　歴史遺産学演習④
第7回　演習事後学習
第8回　総括
第9回　歴史遺産学演習①
第10回　歴史遺産学演習②
第11回　歴史遺産学演習③
第12回　歴史遺産学演習④
第13回　歴史遺産学演習⑤
第14回　歴史遺産学演習⑥
第15回　総括※なお、この授業では必要に応じて学外授業及びゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産総合演習Ⅰ〈c〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　一瀬 和夫.登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する

授業の到達目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、実習をとおして学びとる。

授業の概要

多様な実習により、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。

準備学習（予習・復習）

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　演習事前指導
第3回　歴史遺産学演習①
第4回　歴史遺産学演習②
第5回　歴史遺産学演習③
第6回　歴史遺産学演習④
第7回　演習事後学習
第8回　総括
第9回　歴史遺産学演習①
第10回　歴史遺産学演習②
第11回　歴史遺産学演習③
第12回　歴史遺産学演習④
第13回　歴史遺産学演習⑤
第14回　歴史遺産学演習⑥
第15回　総括※なお、この授業では必要に応じて学外授業及びゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産総合演習Ⅱ〈a〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　一瀬 和夫.登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する

授業の到達目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、実習をとおして学びとる。

授業の概要

多様な実習により、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。

準備学習（予習・復習）

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　演習事前指導
第3回　歴史遺産学演習①
第4回　歴史遺産学演習②
第5回　歴史遺産学演習③
第6回　歴史遺産学演習④
第7回　演習事後学習
第8回　総括
第9回　歴史遺産学演習①
第10回　歴史遺産学演習②
第11回　歴史遺産学演習③
第12回　歴史遺産学演習④
第13回　歴史遺産学演習⑤
第14回　歴史遺産学演習⑥
第15回　総括※なお、この授業では必要に応じて学外授業及びゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産総合演習Ⅱ <b>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　有坂　道子.登谷　伸宏

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する

授業の到達目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、実習をとおして学びとる。

授業の概要

多様な実習により、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。

準備学習（予習・復習）

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　演習事前指導
第3回　歴史遺産学演習①
第4回　歴史遺産学演習②
第5回　歴史遺産学演習③
第6回　歴史遺産学演習④
第7回　演習事後学習
第8回　総括
第9回　歴史遺産学演習①
第10回　歴史遺産学演習②
第11回　歴史遺産学演習③
第12回　歴史遺産学演習④
第13回　歴史遺産学演習⑤
第14回　歴史遺産学演習⑥
第15回　総括※なお、この授業では必要に応じて学外授業及びゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産総合演習Ⅱ〈c〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　有坂　道子.小林　裕子

テーマ

歴史遺産学各分野の研究を体験する

授業の到達目標

歴史遺産学各分野にかかわる実物資史料がいかに形成され、保存されてきたのかについて、実習をとおして学びとる。

授業の概要

多様な実習により、文化遺産に対すべき姿勢を習得する。

準備学習（予習・復習）

演習にかかわる文献を積極的に読み、知識の定着をはかる。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　演習事前指導
第3回　歴史遺産学演習①
第4回　歴史遺産学演習②
第5回　歴史遺産学演習③
第6回　歴史遺産学演習④
第7回　演習事後学習
第8回　総括
第9回　歴史遺産学演習①
第10回　歴史遺産学演習②
第11回　歴史遺産学演習③
第12回　歴史遺産学演習④
第13回　歴史遺産学演習⑤
第14回　歴史遺産学演習⑥
第15回　総括※なお、この授業では必要に応じて学外授業及びゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**東洋美術史**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　王　衛明	

テーマ

東洋美術史の全体像を体系的に解説する

授業の到達目標

美術、考古資料を概観することによって、東アジアにおける美術造形発展の流れを把握する。

授業の概要

オリエント（東洋）という芸術史上の概念は、インド以東の中国、朝鮮、日本及び東南アジア諸国の造形美術を指す。この授業では、美術史通史の性格を持ち、中国古代文明を中心に、歴代王朝に生み出された代表的な絵画、彫刻、工芸、建築等を直接的考察対象にし、美術史学の学問体系から、これらの様々な様式特徴、表現主題、重要作家の事跡と歴史地位等をイメージ資料で通覧し、また中国において近年最新の考古発掘資料とその研究現状の紹介を加えながら、複雑で多様な美的歴史展開の輪郭を講じていきたい。

準備学習（予習・復習）

場合によって授業内容にかかわる寺社や特別展の見学を実施する。事前に指示した参考書を基に調べておく。

内　　容

第1回　概説・中国美術史発展の特徴と研究方法
第2回　史前・原始社会の美術ー文明の形態
第3回　夏文明に関する諸説の検討
第4回　二里頭遺跡の発掘及び青銅文明の出現
第5回　商周の美術ー青銅器の出現と文飾の意味
第6回　春秋・戦国時期の美術ー帛画・青銅工芸品、漆器（美術副葬品の出現）
第7回　秦代の美術ー始皇帝陵と兵馬俑
第8回　秦代美術の問題点ーその源流を考える
第9回　漢代の美術ー死後世界の憧憬とその表現
第10回　墓室壁画及び画像石、画像磚に見られる美術資料
第11回　東アジア地域における秦漢美術の意義
第12回　魏晋南北朝時代ー職業仏教画家と士大夫画家及び墓室壁画の諸問題。
第13回　中国古代の絵画史論ー謝赫の「六法」から張彦遠の『歴代名画記』まで
第14回　魏晋南北朝時代の代表画家とその史料上の問題
第15回　内容総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻や途中退席をしないように。参考書は授業中に適時指示する。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 50 ）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（　）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**西洋美術史**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　河上 眞理

テーマ

西洋美術史の軸（古代から19世紀まで）

授業の到達目標

西洋の各時代、各様式の基礎的な特徴を把握し、その造形理念を理解する。また西洋美術史の軸となってきた代表的な作品に親しむとともに、こうした作品の現代における意味も考察する。欧米諸国への旅行に際してのヒントを得る。

授業の概要

毎回プリント（授業のレジュメ）を配布し、1回毎に完結するように進めていく。

準備学習（予習・復習）

予習：教科書の指定箇所の通読復習：授業内容の整理ノートの作成

内　容

第1回　ギリシア美術
第2回　ローマ美術
第3回　初期キリスト教美術
第4回　ビザンティン美術
第5回　ロマネスク美術
第6回　ゴシック美術
第7回　ルネサンス美術Ⅰ
第8回　ルネサンス美術Ⅱ
第9回　北方ルネサンス美術
第10回　バロック美術
第11回　新古典主義と美術アカデミー
第12回　ロマン主義
第13回　写実主義
第14回　印象主義
第15回　後期印象主義※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

通史の授業なので全回出席することが望ましい。

教科書

増補新装　カラー版西洋美術史
著者：　高階秀爾
出版社：　美術出版社
出版年：　2002年　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題　（ 70% ）　　授業中発表等（ 0% ）
参加度　（ 30% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学基礎ゼミⅠ〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　一瀬 和夫	

テーマ

考古遺産や史跡の観察、記録、解釈の流れをつかむ。

授業の到達目標

I hear and I forget. I see and I remember. I do and I understand. をもとに、自己の研究課題の設定方法を修得する。

授業の概要

野外や教室での発表、ワークショップを行う。

準備学習（予習・復習）

気に入ったものをつねに探す。史跡・博物館・ショッピング街などにあるものと展示を意識的に見学する。

内　容

第1回　考古遺産がもつ機能的な仮説と観念的な領域を考える
第2回　史跡の見学発表の検討
第3回　史跡での見学発表（学外授業）
第4回　「状況」コンテキストと発掘調査報告の整理方法
第5回　オブジェクト・ワークショップ（はさみ、のり・テープ・ホッチキス使用）
第6回　オブジェクト・レポート発表（複数目的の想定から種類認識のための分類、機能仮説と意味仮説へ）①
第7回　オブジェクト・レポート発表（複数目的の想定から種類認識のための分類、機能仮説と意味仮説へ）②
第8回　「もの」がもつ観念構成的な領域と機能
第9回　「もの」からくるライフサイクルを考えるためのテーマの設定
第10回「もの」からくるシーファーのライフサイクルのレポート発表と議論①
第11回「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論②
第12回「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論③
第13回「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論④
第14回　考古学的コンテキストを検討する
第15回　さらなるレポートの課題の報告と研究の見通し

履修上の注意点

ものの意味について考えること。

教科書

考古学の研究法
著者：　一瀬和夫
出版社：学生社
出版年：2013　　ISBN：　9784311300868

参考書

古墳の研究　調べ学習日本の歴史2
著者：　一瀬和夫監修
出版社：ポプラ社
出版年：2000　　ISBN：　9784591063774

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学基礎ゼミⅠ＜＊B＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　有坂 道子

テーマ

近世の文献史料を読む

授業の到達目標

江戸時代の文献史料の読み方や解釈を学ぶとともに、くずし字の基礎的知識を身につける。

授業の概要

文献史料（翻刻史料）を用いた読解練習と、くずし字の読み方を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習（予習・復習）

博物館や美術館の展示を積極的に見学すること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　文献史料を読む（1）
第3回　文献史料を読む（2）
第4回　文献史料を読む（3）
第5回　文献史料を読む（4）
第6回　文献史料を読む（5）
第7回　文献史料を読む（6）
第8回　文献史料を読む（7）
第9回　学外授業
第10回　くずし字を読む（1）
第11回　くずし字を読む（2）
第12回　くずし字を読む（3）
第13回　くずし字を読む（4）
第14回　くずし字を読む（5）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ 50 ）

参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学基礎ゼミⅠ＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小林　裕子	

テーマ

美術史研究の入門編として、その方法論を知り、体験する。

授業の到達目標

本講義では美術工芸品の研究史、関連作例、時代背景といった情報収集、及び美術工芸品の客観的な分析をおこなう能力を養うことを目標とする。なお、必要に応じて学外見学、外部講師招聘を実施する。

授業の概要

観察、ディスクリプション執筆、論文の分析評価をおこなう。

準備学習（予習・復習）

近畿圏の寺院、博物館や美術館で積極的に実物に接することをのぞむ。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　図書館ガイダンス
第3回　ディスクリプション執筆絵画編①
第4回　ディスクリプション執筆絵画編②
第5回　ディスクリプション執筆彫刻編①
第6回　ディスクリプション執筆彫刻編②
第7回　学外見学
第8回　テーマ論文講読と討論～絵画史の論文分析①
第9回　テーマ論文講読と討論～絵画史の論文分析②
第10回　テーマ論文講読と討論～絵画史の論文分析③
第11回　外部講師による特別講義
第12回　テーマ論文講読と討論～彫刻史の論文分析①
第13回　テーマ論文講読と討論～彫刻史の論文分析②
第14回　テーマ論文講読と討論～彫刻史の論文分析③
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学基礎ゼミⅡ＜＊A＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　巽 淳一郎

テーマ

考古学関連の論文を読み解き、考古学用語を学び・実物資料に当たって資料を作成し発表する。

授業の到達目標

かつて定説になっていた研究論文が今ではどのように評価されているのかを理解すること。論文内容を妄信せず批判的読み解く術を学ぶ。

授業の概要

論文講読、課題の発表。司会者を決め、発表内容を討議する。

準備学習（予習・復習）

分からない用語・言葉は必ず発表前に辞書で調べること。図面・写真等の視覚資料を用いて発表すること。

内　容

第1回　自己紹介。授業内容の説明。授業計画の策定。
第2回　学外授業の振り替え休講。
第3回　論文講読。討議。
第4回　論文講読。討議。
第5回　論文講読。討議。
第6回　論文講読。討議。
第7回　論文講読。討議。
第8回　課題発表。討議。
第9回　課題発表。討議。
第10回　課題発表。討議。
第11回　課題発表。討議。
第12回　課題発表。討議。
第13回　課題発表。討議。
第14回　課題発表。討議。
第15回　総括。

履修上の注意点

私語を慎み討議に参加。図面・写真等の視覚資料を用いて発表すること。

教科書

参考書

成績評価

試験（　0）　　小テスト（0）
授業中課題（　10）　　授業中発表等（　60）
参加度（　30）
発表レジュメの内容、発表の仕方、司会進行、討議への参加度を総合的に勘案して評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学基礎ゼミⅡ ＜＊B＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　有坂 道子

テーマ

近世の文献史料を読む

授業の到達目標

江戸時代の文献史料の読み方や解釈を学ぶとともに、くずし字の基礎的知識を身につける。

授業の概要

文献史料（翻刻史料）を用いた読解練習と、くずし字の読み方を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習（予習・復習）

博物館・美術館の展示を積極的に見学すること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　文献史料を読む（1）
第3回　文献史料を読む（2）
第4回　文献史料を読む（3）
第5回　文献史料を読む（4）
第6回　文献史料を読む（5）
第7回　文献史料を読む（6）
第8回　文献史料を読む（7）
第9回　学外授業
第10回　くずし字を読む（1）
第11回　くずし字を読む（2）
第12回　くずし字を読む（3）
第13回　くずし字を読む（4）
第14回　くずし字を読む（5）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ 50 ）

参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学基礎ゼミⅡ＜＊C＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　登谷 伸宏

テーマ

『義演准后日記』を読む

授業の到達目標

文献史料の読解能力を養うことは、歴史遺産学研究を進めるための土台となる。本講義では古記録・古文書を解読するための基礎的な能力の獲得を目指す。さらに、論文を執筆する上で必要となる史料批判の方法についてもその基礎を学ぶ。

授業の概要

『義演准后日記』のうち、醍醐寺復興に関する記事を解読するとともに、それに関連する論文を講読する。なお、記事の内容に対する理解を深めるため、醍醐寺、伏見城下町、方広寺などの見学を行う。

準備学習（予習・復習）

各回とも発表者は発表の準備をしてくること。

内　容

第1回　ガイダンス 『義演准后日記』とは
第2回　文献史料を読むための準備①　論文講読
第3回　文献史料を読むための準備②　文献史料に触れる
第4回　文献史料を読むための準備③　簡単な文献史料を読む
第5回　文献史料を読むための準備④　簡単な文献史料を読む
第6回　『義演准后日記』を読む①
第7回　『義演准后日記』を読む②
第8回　『義演准后日記』を読む③
第9回　『義演准后日記』を読む④
第10回 『義演准后日記』を読む⑤
第11回 学外授業
第12回 『義演准后日記』を読む⑥
第13回 『義演准后日記』を読む⑦
第14回 『義演准后日記』を読む⑧
第15回 『義演准后日記』を読む⑨

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

おさらい古文書の基礎
著者:　林英夫監修
出版社:　柏書房
出版年:　2002年　　ISBN:

成績評価

試験 （ 30 ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**考古学研究Ⅱ（古代Ⅱ）**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　一瀬 和夫	

テーマ

考古学コンテキストの過去を読み取り、活用する。

授業の到達目標

社会と考古学との関わりあいの中で根本的な考古学の方法論を探り、その一般法則性と概念的変化を理解するとともに、先学の過去の解釈と現代社会と考古学の関わりも考える。そして、考古学を自己の創造的な活動へと応用するために備える。

授業の概要

考古学のもつ多様性をまず理解し、多角的な方法論と理論展開を知る。そして、具体例をゲストをまじえ検討しつつ、フィールドに出向き今後の考古学のあり方を考える。

準備学習（予習・復習）

発掘調査記事の新聞切抜きと発掘調査（現地説明会等）・史跡整備地の見学

内　容

第1回　考古学の文化解釈法（1）遺跡の分布
第2回　考古学の文化解釈法（2）集落形態と遺構の分布
第3回　考古学の文化解釈法（3）古墳時代の機能的集落の空間構成
第4回　考古学の文化解釈法（4）遺物の形態と機能の分析
第5回　歴史解釈法（1）自然のしわざ、偶然か必然か、二粒の籾：歴史はだれのものか（過去と現代）
第6回　歴史解釈法（2）考古学データの間を読む、経済史的な歴史の諸段階
第7回　過去の文化的意味（1）「もの」のもつ意味とコンテキスト
第8回　過去の文化的意味（2）『達成された』と『選択する』
第9回　過去の文化的意味（3）非連続の歴史
第10回　考古学と現代社会（1）考古学と社会との関わりあい、土地に刻まれたパブリック・アーケオロジー
第11回　考古学と現代社会（2）在野の考古学
第12回　考古学と現代社会（3）遺跡の価値観、五色塚古墳の整備
第13回　考古学と現代社会（4）考古資料の公開・展示、考古学のハンズ･オンとワークショップに向けて
第14回　考古学と現代社会（5）考古学への一般評価に向けて
第15回　これからの考古学

履修上の注意点

教科書

考古学の研究法
著者：　一瀬和夫
出版社：学生社
出版年：2013　　ISBN：　9784311300868

参考書

考古学研究入門
著者：　H・J・エガース著、田中琢・佐原真訳
出版社：岩波書店
出版年：1981　　ISBN：

考古学への招待
著者：　ジェイムズ・ディーツ著、関俊彦訳
出版社：雄山閣出版
出版年：1988　　ISBN：　4639007124

過去を読む
著者：　イアン・ホッダー著、深澤百合子訳
出版社：フジインターナショナルプレス
出版年：1997　　ISBN：

a10412d250

考古学－理論・方法・実践－

著者:　コリン・レンフルー、ポール・バーン

出版社:　東洋書林

出版年:　2007　　ISBN:　9784887217157

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 10 ）

授業中課題（ 45 ）　　授業中発表等（ 10 ）

参加度　（ 35 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**文献史料学Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　巽 淳一郎

テーマ

歴史考古学研究成果と文献史料学研究成果の相互検証

授業の到達目標

歴史時代の考古学研究法を学び、その成果の検証法を理解する。歴史時代の考古資料(遺構・遺物)に関する用語理解する。

授業の概要

毎回違うテーマで歴史考古研究成果を用意したプリントを使って紹介し、文献史料学成果と対比・検証し歴史的意義について考える。

準備学習（予習・復習）

配布したプリントで意味が分からない用語を考古学辞典、歴史考古学辞典で調べること。

内　容

第1回　西大寺伽藍の発掘成果と『西大寺資財流記帳』
第2回　富本銭と皇朝十二銭
第3回　古代の呪い　1
第4回　古代の呪い　2
第5回　古代の呪い　3
第6回　鎮壇と地鎮
第7回　大嘗祭
第8回　墨書土器の歴史的意義
第9回　律令国家の宮廷官衙における食器用器の特質と様式変化
第10回　古代の仏教　1　飛鳥白鳳時代
第11回　古代の仏教　2　国家仏教の始まり
第12回　古代の焼物の器名考証
第13回　我国における喫茶の始まり
第14回　木製百万塔
第15回　官衙官人関連遺物　帯金具
第16回　試験

履修上の注意点

授業中私語は慎むこと。止むをえない事情がある場合を除き5回以上欠席すると単位取得は難しくなる。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験（　60）　　小テスト（　0）
授業中課題（　10）　　授業中発表等（　0）
参加度（　30）

試験のできばえ、参加度・課題の達成度等を総合的に勘案して評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**文献史料学Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　有坂 道子

テーマ

文献史料を読む

授業の到達目標

史料を読み解く力を身につける

授業の概要

江戸時代の古文書の翻刻史料を用いて、古文書に関する基礎的な知識を身につけ、古文書の読み方・解釈の仕方を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

必ず復習をし、できるだけ予習をすること。また、博物館・美術館の展示を積極的に見学すること。

内　容

第1回　江戸時代の文献史料
第2回　史料を読むために
第3回　古文書の基礎知識（1）
第4回　古文書の基礎知識（2）
第5回　文献史料の読み方・調べ方（1）
第6回　文献史料の読み方・調べ方（2）
第7回　古文書を読むー文書から知る江戸時代（1）
第8回　古文書を読むー文書から知る江戸時代（2）
第9回　古文書を読むー文書から知る江戸時代（3）
第10回　古文書を読むー文書から知る江戸時代（4）
第11回　古文書を読むー文書から知る江戸時代（5）
第12回　古文書を読むー文書から知る江戸時代（6）
第13回　古文書を読むー文書から知る江戸時代（7）
第14回　古文書を読むー文書から知る江戸時代（8）
第15回　まとめと総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ 50 ）

授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**美術工芸史研究Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　小林　裕子

テーマ

京都彫刻史論

授業の到達目標

京都の寺院に安置されている仏像を通じて、そのかたちの理解はもとより従来の研究方法や研究史を知ることにより、歴史遺産を観察する客観的な視点を養うことを目標とする。

授業の概要

本講義では、わが国の至宝たる京都の仏像の制作背景や宗教観を画像や文献から理解しつつ、作品が我々に語りかけるものを感じてとってもらいたい。なお、学外見学を実施する。

準備学習（予習・復習）

実際に寺院に足を運び、信仰対象としての作品の姿を実感する。

内　容

第1回　日本彫刻史入門①
第2回　日本彫刻史入門②
第3回　東寺兜跋毘沙門天像
第4回　広隆寺講堂諸像
第5回　宝菩提院菩薩半跏像
第6回　神護寺薬師如来像
第7回　笠置の弥勒と大野の弥勒
第8回　清涼寺釈迦如来像
第9回　六波羅蜜寺の仏像
第10回　学外見学
第11回　蓮華王院千手観音像
第12回　平等院鳳凰堂阿弥陀如来像
第13回　浄瑠璃寺厨子入吉祥天像
第14回　永観堂見返り阿弥陀
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

参考書

カラー版日本彫刻史
著者:　水野敬三郎
出版社:　美術出版社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 20 ）
漢和辞典（電子辞書可）を持参するとよい。

2016 Syllabus

科 目 名　**美術工芸史研究Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小林　裕子.篠　雅廣.福士　雄也	

テーマ

日本絵画史特殊講義

授業の到達目標

古代における絵画表現は自らの美意識を満足させるための造形活動ではなく、意識的に外来の文化を摂取しようとしていた為政者の要求によるものであった。つくり手たちはその要求に応えるべく模倣を出発点として、思想、技術、表現を取得していく。こうした時代を経た後、わが国の自然や民族性を織り込み、絵画を独自の精神文化として昇華させていくのである。本講義では、祖先から継承してきたわが国の特筆すべき作品の制作された時代背景や宗教観を理解しつつ、作品が我々に語りかけるものを各自感じとることを目標とする。

授業の概要

本講義では日本絵画史を古代中世、近世、近代に分け、各時代の作品についてテーマ性をもって史料、映像、画像を使用しながら読み解いていく。なお、必要に応じて学外見学を実施する。

準備学習（予習・復習）

予習としては通史の把握、復習としては各地の寺社や博物館に足を運んで作品に対峙することをのぞむ。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　古代の絵画①　法隆寺金堂壁画
第3回　古代の絵画②　法隆寺金堂壁画
第4回　中世の絵画①　来迎図
第5回　中世の絵画②　来迎図
第6回　近世の絵画①　近世絵画の特質
第7回　近世の絵画②
第8回　近世の絵画③
第9回　近世の絵画④
第10回　近世の絵画⑤　まとめ
第11回　近代の絵画①　近代絵画の特質
第12回　近代の絵画②
第13回　近代の絵画③
第14回　近代の絵画④
第15回　近代の絵画⑤　まとめ

履修上の注意点

教科書

授業時にプリント配布。
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

授業時に提示。
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験　（ 60 ）　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度　（ 20 ）
試験をレポートで代替する可能性がある。

Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅰ〈Za〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅰ〈Z〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　有坂　道子.小林　裕子.巽　淳一郎.登谷　伸宏	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅰ〈Zc〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅱ〈Za〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産調査実習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　一瀬 和夫	

テーマ

考古学の基本となる測量・実測調査や発掘調査の一連の手続きにふれる

授業の到達目標

いろいろな役割を測量や発掘調査が含むことを体で感じ、その中でまず自身が進んで行動できるもの見つけ、そこから発掘技術の修得へと向かう。

授業の概要

本学などで8月を中心にして実施する測量・実測調査、発掘調査の中で6日以上を選択して参加する。事前に測量学習と調査の打ち合わせを行う。山科（大塚・小山）石切丁場、醍醐寺付近で調査する予定である。

準備学習（予習・復習）

発掘調査や遺跡調査の現地説明会などに参加してみる。

内　容

第1回　平板・水準測量などの学習
第2回　平板・水準測量などの学習
第3回　遺跡発掘の見学
第4回　遺跡発掘の見学
第5回　ガイダンス
第6回　打合せ
第7回　打合せ
第8回　調査（測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など）
第9回　調査（測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など）
第10回　調査（測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など）
第11回　調査（測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など）
第12回　調査（測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など）
第13回　調査（測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など）
第14回　調査（測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など）
第15回　調査（測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など）
第16回　調査（測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など）
第17回　調査（測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など）
第18回　調査（測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など）
第19回　調査（測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など）
第20回　調査（測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など）
第21回　調査（測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など）
第22回　調査（測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など）
第23回　調査（測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など）
第24回　調査（測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など）
第25回　調査（測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など）
第26回　調査（測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など）
第27回　調査（測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など）
第28回　調査（測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など）
第29回　調査報告
第30回　調査報告

履修上の注意点

教科書

参考書

よくわかる測量実習（増補）
著者：　細川吉晴他
出版社：コロナ社
出版年：2009　　ISBN：　9784339052237

a10412d980

埋蔵文化財発掘調査の手引き

著者:　文化庁文化財保護部

出版社: 国土地理協会

出版年: 1966　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等（ 0 ）

参加度 （ 60 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**遺産情報演習Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　一瀬 和夫	

テーマ

文化遺産に関わる情報の課題設定、情報収集、観察・調査、分析・考察をへて、自己の研究の活用提案に至る。

授業の到達目標

情報が大量に蓄積し、氾濫する文化遺産にかかわる情報について、収集、図化、模型表現する基礎を身につけるとともに、データ集積、分類、解釈の方法を合わせ体得する。さらに活用のための思考をめぐらせ、多様な表現でプレゼンテーションを試みる。

授業の概要

課題を見つけ、個々、もしくはグループで、情報を集め、図などで表現し、互いに向けて発表し、議論を行い、自己評価する。

準備学習（予習・復習）

つねに課題に対して構想を練る。

内　容

第1回　経験や知識を活用して自己の問題解決力を知る（1）
第2回　経験や知識を活用して自己の問題解決力を知る（1）
第3回　経験と知識、情報とは？
第4回　情報は誰のためのものか？
第5回　情報収集してみる（1）
第6回　情報収集してみる（2）フィールド調査
第7回　図書・PC情報の客観的・多角的な情報分析を試みる（1）
第8回　図書・PC情報の客観的・多角的な情報分析を試みる（2）現地調査
第9回　模型製作工程を見学する
第10回　情報をまとめて表現方法を構想する
第11回　図表などで表現する（1）
第12回　図表などで表現する（2）（自己評価）
第13回　図解作成やデータベースを点検する（集団評価）
第14回　文化遺産の活用のための提案を行う（1）
第15回　文化遺産の活用のための提案を行う（2）

履修上の注意点

互いの情報の共有に心がける。

教科書

参考書

博物館情報学入門
著者：　E.Orna & Ch.Pettitt
出版社：勉誠出版
出版年：2003　　ISBN：　4585001727

伝わる！図表のつくり方が身につく本
著者：　永山嘉昭
出版社：高橋書店
出版年：2013　　ISBN：　9784471191184

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**遺産情報演習Ⅰ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　一瀬 和夫	

テーマ

醍醐寺の資産を観察・調査し、パブリックな取り組みへの提案を模索する。

授業の到達目標

醍醐寺には京都最古、952年の建立の五重塔の他、桃山時代以降の数多くの堂宇が存在する。特に三宝院には桃山時代の襖絵葵の間や表書院もある。下醍醐、上醍醐含め100余りの堂塔がある広大な境内では、2月に「五大力尊仁王会」4月に「豊太閤花見行列」が毎年行われることは著名である。これら行事だけでなく、醍醐寺のもつ歴史文化資産を起点に子どもから大人まで親しめる「醍醐寺てらこやプロジェクト」や中・高校生、大学連携プログラムまで、多種多彩な活動プログラムがある。この演習ではまずそうした醍醐寺の資産を知り、その全容を観察・把握、まとめ、理解する。さらに分析することで広く周知活用されるための活動を提案して、その資産のパブリック化を試みる。活動プログラム内容の充実や広報面などの提案を行う能力を身につけようとするものである。

授業の概要

本科目では、まず「文化遺産」の文化資産群について、観察・調査する。そして、それに関わろうとする人たちに、醍醐寺への支援や子ども・地元の人たちへの深い理解の促進、それを行うための経験者への働きかけをうながす方策を考えだすことを目指します。実際には、醍醐寺の文化遺産の資産の「パブリック化」活動の中味をより広く周知することの実地学修となります。具体的には、現在境内に広がる文化資産の観察やヒアリング等を行い、さらに周辺に向けてより広く世界遺産の資産をパブリック化する活動課題について醍醐寺関係者と発見し、より深く関わりたい人たちを誘発する新たな活動のアイデアなどを探っていきます。

準備学習（予習・復習）

随時、授業展開に合わせて醍醐寺の情報を得るとともに現地観察及び調査を行う。

内　容

第1回　醍醐寺境内の観察　4月23日（於：醍醐寺）
第2回　インタビュートレーニング　5月7日（於：キャンパスプラザ京都）
第3回　全体オリエンテーション　5月22日（於：キャンパスプラザ京都）
第4回　世界遺産醍醐寺プロジェクトについてインタビュー　（於：醍醐寺）
第5回　醍醐寺インタビューのまとめと課題発見、調査計画の立案　6月11日（於：キャンパスプラザ京都）
第6回　境内の文化資産の観察調査と記録調査　6月26日（於：醍醐寺）
第7回　境内の文化資産の観察調査と記録調査　7月10日（於：醍醐寺）
第8回　資産のパブリック化に向けてのプロジェクト活動案の集約と分析　7月24日（於：キャンパスプラザ京都）
第9回　世界遺産醍醐寺プロジェクトのパブリック化に向けての調査項目の集約　9月11日（於：醍醐寺）
第10回　世界遺産パブリック化のモックアップを作成し、境内などでのインタビュー調査　9月25日（於：醍醐寺）
第11回　モックアップなどの評価を分析して提言案をまとめる　10月16日（於：キャンパスプラザ京都
第12回　プレゼンテーションの準備・プレゼンテーショントレーニング（レクチャー編）　10月22日（於：キャンパスプラザ京都）
第13回　プレゼンテーションの実践　11月13日（於：京都橘大学）
第14回　世界遺産パブリックに対する提言発表（成果発表会）　12月11日（於：キャンパスプラザ京都）
第15回　報告書の提出と互いの報告書に対しての討議　12月11日（於：キャンパスプラザ京都）

履修上の注意点

教科書

PCによる教材提示

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0% ）	小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 60% ）	授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ 20% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅰ〈a〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　小林 裕子.登谷 伸宏

テーマ

歴史的建造物を知る（登谷）美術工芸史研究の第一歩である観察と記録の方法を学ぶ（小林）

授業の到達目標

歴史的建造物についての理解を深めるためには、実際に建造物を観察することが必要となる。本講義では、歴史的建造物の実測調査を体験することにより、調査技術を身に付けるとともに、建造物に関する基本的な知識を獲得することを目指す（登谷）。美術工芸品をより深く専門的に理解するために如何なる方法があるのかを知る（小林）。

授業の概要

歴史的建造物の実測を通して調査の方法を学ぶとともに、実測図面をCADを用いて清書することにより、製図に関する技術を身に付ける（登谷）。計測・デッサン・撮影・ディスクリプションによって対象作例を調書におこしたうえで、記録データをInDesignで編集する（小林）。

準備学習（予習・復習）

歴史的建造物を見学し、木造建造物がどのように造られているのかを理解するよう心がけて欲しい（登谷）。寺社や遺跡に足を運び、本物と接する機会を積極的にもうける（小林）。

内　容

第1回　ガイダンス（登谷）
第2回　実測調査①（学外授業）（登谷）
第3回　実測調査②（学外授業）（登谷）
第4回　実測調査③（学外授業）（登谷）
第5回　実測調査④（学外授業）（登谷）
第6回　図面の清書①（登谷）
第7回　図面の清書②（登谷）
第8回　図面の清書③、まとめ（登谷）
第9回　ガイダンス・デッサンの心構え（小林）
第10回　デッサン①（小林）
第11回　デッサン②（小林）
第12回　法量計測・撮影（小林）
第13回　画像処理（小林）
第14回　スキャニング（小林）
第15回　簡単なディスクリプション（小林）
第16回　調書作成・総括（小林）

履修上の注意点

教科書

参考書

新建築学大系50　歴史的建造物の保存
著者:　新建築学大系編集委員会編
出版社:　彰国社
出版年:　1999年　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ ）
参加度　（ 60 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅰ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　登谷　伸宏.藤本　史子	

テーマ

歴史的建造物を知る（登谷）考古資料の実測・拓本（藤本）

授業の到達目標

歴史的建造物についての理解を深めるためには、実際に建造物を観察することが必要となる。本講義では、歴史的建造物の実測調査を体験することにより、調査技術を身に付けるとともに、建造物に関する基本的な知識を獲得することを目指す（登谷）。考古学研究の基本となる実測や拓本の技術を習得し、遺物を観察する力を養う（藤本）。

授業の概要

歴史的建造物の実測を通して調査の方法を学ぶとともに、実測図面をCADを用いて清書することにより、製図に関する技術を身に付ける（登谷）。資料の実測や拓本の方法を学び、実測図や拓本を完成させるとともに、資料の取り扱い方法や観察法についても指導する（藤本）。

準備学習（予習・復習）

歴史的建造物を見学し、木造建造物がどのように造られているのかを理解するよう心がけて欲しい（登谷）。文化庁文化財部記念物課監修『発掘調査のてびき』の実測・拓本の項を一読しておくこと（藤本）。

内　　容

第1回　考古資料の実測について解説、実測の開始（藤本）
第2回　実測（輪郭と断面）（1）（藤本）
第3回　実測（輪郭と断面）（2）（藤本）
第4回　実測（割付け・注記）（1）（藤本）
第5回　実測（割付け・注記）（2）（藤本）
第6回　拓本について解説、拓本の開始（藤本）
第7回　銭貨の拓本（藤本）
第8回　瓦の拓本（藤本）
第9回　ガイダンス（登谷）
第10回　実測調査①（学外授業）（登谷）
第11回　実測調査②（学外授業）（登谷）
第12回　実測調査③（学外授業）（登谷）
第13回　実測調査④（学外授業）（登谷）
第14回　図面の清書①（登谷）
第15回　図面の清書②、まとめ（登谷）

履修上の注意点

資料はていねいに扱い、作業に適した服装を心がけること（藤本）

教科書

使用しない（登谷）（藤本）
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

新建築学大系50　歴史的建造物の保存
著者:　新建築学大系編集委員会編
出版社:　彰国社
出版年:　1999年　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 60 ）
実測図・拓本の成果と参加度により評価する（藤本）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅰ〈c〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　有坂　道子.藤本　史子

テーマ

古文書に親しむ（有坂）考古資料の実測・拓本（藤本）

授業の到達目標

さまざまな古文書の姿を知り、古文書の扱いに慣れることを目指すとともに、くずし字の解読に挑戦する。（有坂）考古学研究の基本となる実測や拓本の技術を習得し、遺物を観察する力を養う（藤本）

授業の概要

古文書に関する基本的な知識や扱い方を学び、古文書のテキストを用いて初歩的なくずし字の解読を練習する。（有坂）資料の実測や拓本の方法を学び、実測図や拓本を完成させるとともに、資料の取り扱い方法や観察法についても指導する（藤本）

準備学習（予習・復習）

出来るだけ博物館や美術館で実際の古文書を見ること（有坂）文化庁文化財保護部編集『埋蔵文化財発掘調査の手びき』の実測・拓本の項を一読しておくこと（藤本）

内　容

第1回　古文書を扱う①（有坂）
第2回　古文書を扱う②（有坂）
第3回　古文書を扱う③（有坂）
第4回　くずし字を読む①（有坂）
第5回　くずし字を読む②（有坂）
第6回　くずし字を読む③（有坂）
第7回　くずし字を読む④（有坂）
第8回　考古資料の実測について解説、実測の開始（藤本）
第9回　実測（輪郭と断面）（1）（藤本）
第10回　実測（輪郭と断面）（2）（藤本）
第11回　実測（割付け・注記）（1）（藤本）
第12回　実測（割付け・注記）（2）（藤本）
第13回　拓本について解説、拓本の開始（藤本）
第14回　銭貨の拓本（藤本）
第15回　瓦の拓本（藤本）

履修上の注意点

資料はていねいに扱い、作業に適した服装を心がけること（藤本）

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 60 ）
実測図・拓本の成果と参加度により評価する（藤本）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅱ〈a〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　有坂 道子.巽 淳一郎

テーマ

古文書に親しむ（有坂）考古資料の実測・拓本（巽）

授業の到達目標

さまざまな古文書の姿を知り、古文書の扱いに慣れることを目指すとともに、くずし字の解読に挑戦する。（有坂）考古学研究の最も基本となる実測法を理解し、土器3点を実測、軒丸瓦2点の拓本を取る。（巽）

授業の概要

古文書に関する基本的な知識や扱い方を学び、古文書のテキストを用いて初歩的なくずし字の解読を練習する。（有坂）単に実測法を教授するだけでなく、史料の観察法を学ばせる。テレビカメラで実測法を実演し、理解に供する。（巽）

準備学習（予習・復習）

出来るだけ博物館や美術館で実際の古文書を見る。（有坂）文化庁文化財部記念物課編集の『発掘調査の手引き』を読めば、実測・拓本の仕方が分かりますので一度紐解いてください。本は研究室にあります。（巽）

内　容

第1回　古文書を扱う①（有坂）
第2回　古文書を扱う②（有坂）
第3回　古文書を扱う③（有坂）
第4回　くずし字を読む①（有坂）
第5回　くずし字を読む②（有坂）
第6回　くずし字を読む③（有坂）
第7回　くずし字を読む④（有坂）
第8回　くずし字を読む⑤（有坂）
第9回　考古資料の実測に関するガイダンス、実測開始
第10回　土器実測
第11回　土器実測
第12回　土器実測
第13回　土器実測
第14回　土器実測
第15回　土器実測
第16回　軒丸瓦の拓本を取る

履修上の注意点

短い期間に実測法を学び実践するため、やむをえない場合を除き欠席はしないでください。資料の扱いは丁寧に行ってください。

教科書

参考書

発掘調査のてびき－整理・報告書編－
著者：　文化庁文化財部記念物課
出版社：文化庁文化財部記念物課
出版年：2010　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ 60 ）
実測図のできばえ・参加度を総合し評価する（巽）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　有坂　道子.小林　裕子	

テーマ

美術工芸史研究の第一歩である観察と記録の方法を学ぶ（小林）古文書に親しむ（有坂）

授業の到達目標

美術工芸品をより深く専門的に理解するために如何なる方法があるのかを知る（小林）。さまざまな古文書の姿を知り、古文書の扱いに慣れることを目指すとともに、くずし字の解読に挑戦する。（有坂）

授業の概要

影・ディスクリプションによって対象作例を調書におこしたうえで、記録データをInDesignで編集する（小林）。古文書に関する基本的な知識や扱い方を学び、古文書のテキストを用いて初歩的なくずし字の解読を練習する。（有坂）

準備学習（予習・復習）

寺社や遺跡に足を運び、本物と接する機会を積極的にもうける（小林）。出来るだけ博物館や美術館で実際の古文書を見ること。（有坂）

内　容

第1回　ガイダンス・デッサンの心構え（小林）
第2回　デッサン①（小林）
第3回　デッサン②（小林）
第4回　法量計測・撮影（小林）
第5回　画像処理（小林）
第6回　スキャニング（小林）
第7回　簡単なディスクリプション（小林）
第8回　調書作成・総括（小林）
第9回　古文書を扱う①（有坂）
第10回　古文書を扱う②（有坂）
第11回　古文書を扱う③（有坂）
第12回　くずし字を読む①（有坂）
第13回　くずし字を読む②（有坂）
第14回　くずし字を読む③（有坂）
第15回　くずし字を読む④（有坂）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 60 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅱ <c>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　小林 裕子.登谷 伸宏

テーマ

歴史的建造物を知る（登谷）美術工芸史研究の第一歩である観察と記録の方法を学ぶ（小林）

授業の到達目標

歴史的建造物についての理解を深めるためには、実際に建造物を観察することが必要となる。本講義では、歴史的建造物の実測調査を体験することにより、調査技術を身に付けるとともに、建造物に関する基本的な知識を獲得することを目指す（登谷）。美術工芸品をより深く専門的に理解するために如何なる方法があるのかを知る（小林）。

授業の概要

歴史的建造物の実測を通して調査の方法を学ぶとともに、実測図面をCADを用いて清書することにより、製図に関する技術を身に付ける（登谷）。計測・デッサン・撮影・ディスクリプションによって対象作例を調書におこしたうえで、記録データをInDesignで編集する（小林）。

準備学習（予習・復習）

歴史的建造物を見学し、木造建造物がどのように造られているのかを理解するよう心がけて欲しい（登谷）。寺社や遺跡に足を運び、本物と接する機会を積極的にもうける（小林）。

内　容

第1回　ガイダンス（登谷）
第2回　実測調査①（学外授業）（登谷）
第3回　実測調査②（学外授業）（登谷）
第4回　実測調査③（学外授業）（登谷）
第5回　実測調査④（学外授業）（登谷）
第6回　図面の清書①（登谷）
第7回　図面の清書②（登谷）
第8回　図面の清書③、まとめ（登谷）
第9回　ガイダンス・デッサンの心構え（小林）
第10回　デッサン①（小林）
第11回　デッサン②（小林）
第12回　法量計測・撮影（小林）
第13回　画像処理（小林）
第14回　スキャニング（小林）
第15回　簡単なディスクリプション（小林）
第16回　調書作成・総括（小林）

履修上の注意点

教科書

参考書

新建築学大系50　歴史的建造物の保存
著者:　新建築学大系編集委員会編
出版社:　彰国社
出版年:　1999年　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ ）
参加度　（ 60 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅰ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定　希望制
担 当 者　巽　淳一郎	

テーマ

卒論に結びつく研究テーマを設定し、関連する先行研究成果を批判的に読み解く。

授業の到達目標

読解力を身に付け、できるだけ多くの先行研究を収集し、読み解く。独自の視点から研究テーマを見つめ直す。

授業の概要

司会者を決め、討議型式で授業を進める。

準備学習（予習・復習）

必ず発表前に分からない用語を辞書で調べること。理解を得やすいように図・写真等の視覚資料を用意して発表すること。

内　　容

第1回　自己紹介。授業内容の説明。授業計画の策定。
第2回　学外授業の振り替え休講。
第3回　ゼミ発表、討議。
第4回　ゼミ発表、討議。
第5回　ゼミ発表、討議。
第6回　ゼミ発表、討議。
第7回　ゼミ発表、討議。
第8回　ゼミ発表、討議。
第9回　ゼミ発表、討議。
第10回　ゼミ発表、討議。
第11回　ゼミ発表、討議。
第12回　ゼミ発表、討議。
第13回　ゼミ発表、討議。
第14回　ゼミ発表、討議。
第15回　夏休み中の課題と研究計画の策定。

履修上の注意点

私語を慎み討議に参加すること。やむをえない場合を除き、5回以上欠席すると単位の取得は難しくなる。

教科書

参考書

成績評価

試験（　0 ）　　小テスト（　0 ）
授業中課題（　10 ）　　授業中発表等（　60 ）
参加度（　30 ）

発表レジュメの内容、発表の仕方、司会の進め方、討議への参加度等を総合的に勘案して評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅰ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定　希望制
担 当 者　登谷　伸宏	

テーマ

歴史遺産学研究の方法を学ぶ

授業の到達目標

歴史遺産学に関して各自が興味を持つ研究テーマを設定し、それについて研究成果と課題を確認する。

授業の概要

各自の設定した研究テーマについて、先行研究の成果と課題について発表する。さらに、テーマに関連する代表的な研究論文を参加者全員で講読し、討論を行う。なお、必要に応じて学外授業を行うことがある。

準備学習（予習・復習）

興味のある分野に関する文献（概説書・新書・選書など）を積極的に読んでおくこと。

内　　容

第1回　ガイダンス①　歴史遺産学研究の進め方について
第2回　ガイダンス②　研究論文の検索と読み方について
第3回　研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読①
第4回　研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読②
第5回　研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読③
第6回　研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読④
第7回　研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読⑤
第8回　研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読⑥
第9回　学外授業
第10回　研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読⑦
第11回　研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読⑧
第12回　研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読⑨
第13回　研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読⑩
第14回　研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読⑪
第15回　研究テーマに関する先行研究の整理と論文講読⑫

履修上の注意点

この授業では、発表の内容はもちろん、討論への参加度を重視する。そのためには、授業での配布物にあらかじめ目を通しておくことが必要となる。この点をしっかりと理解した上で授業に出席して欲しい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 35 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 35 ）

参加度　（ 30 ）

学期末には、研究テーマに関わる先行研究の成果と課題をまとめたレポートを提出してもらう。

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅰ＜＊c＞**

クラス		配当回生	学部3回生
講義期間	前期	定　　員	
履修条件	2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定	希望制
担 当 者	小林　裕子		

テーマ

嘉承元年（1106）頃における奈良の諸大寺の様相を綴った日本美術史研究に欠かせない基本文献たる大江親通『七大寺日記』の輪読と研究発表を通じて、美術史の研究手法を体得する。

授業の到達目標

親通の記述から生じた各自の疑問や好奇心を先行研究や現存作例の詳細などによって分析、解決するものとし、これにより美術史研究の多角的な方法を知り、論文執筆の能力を養うことを目的とする。なお、学外見学・学部講師による特別講義を実施することがある。

授業の概要

本演習では、『七大寺日記』の輪読及び研究発表をおこなう。

準備学習（予習・復習）

『七大寺日記』に記載される寺院についての文献を読んだり、実際に訪れることにより、現存作例に対するイメージを明確にしてほしい。

内　　容

第1回　ガイダンス及び『七大寺日記』解題
第2回　上回生によるデモンストレーション
第3回　東大寺条①
第4回　東大寺条②
第5回　東大寺条③
第6回　東大寺条④
第7回　東大寺条⑤
第8回　学外見学
第9回　東大寺条⑥
第10回　東大寺条⑦
第11回　東大寺条⑧
第12回　東大寺条⑨
第13回　東大寺条⑩
第14回　東大寺条⑪
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

七大寺日記・七大寺巡礼私記
著者：　藤田経世
出版社：中央公論美術出版
出版年：1972年　　ISBN：

参考書

奈良六大寺大観全14巻
著者：　奈良六大寺大観刊行会
出版社：岩波書店
出版年：1999~2001年　　ISBN：

日本の古寺美術シリーズ
著者：
出版社：保育社
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験（ ）　　小テスト（ ）

a10413a113

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）

参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅰ＜＊d＞**

クラス		配当回生	学部3回生
講義期間	前期	定　　員	
履修条件	2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定	希望制
担 当 者	有坂　道子		

テーマ

近世の古文書を読む（初級）

授業の到達目標

古文書の読解力、および古文書に関する基礎的な知識を身につける。

授業の概要

古文書の現物を用いてくずし字を読む力をつけるとともに、古文書を扱うテーマでの演習発表を行う。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習（予習・復習）

必ず復習を行い、自宅学習用の教材を自習すること。日頃から古文書を読む練習を習慣づけること

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　歴史遺産学演習（1）
第3回　歴史遺産学演習（2）
第4回　歴史遺産学演習（3）
第5回　歴史遺産学演習（4）
第6回　学外授業
第7回　歴史遺産学演習（5）
第8回　歴史遺産学演習（6）
第9回　歴史遺産学演習（7）
第10回　歴史遺産学演習（8）
第11回　学外授業
第12回　歴史遺産学演習（9）
第13回　歴史遺産学演習（10）
第14回　歴史遺産学演習（11）
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

くずし字用例辞典
著者:　児玉幸多
出版社:　東京堂出版
出版年:　平成22年　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 60 ）
出席を重視する。

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅱ＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定　希望制
担 当 者　巽　淳一郎	

テーマ

研究テーマに沿って学習を深め、卒論作成に繋げる。

授業の到達目標

先行研究成果を批判的に読み問題点を整理する。研究テーマに則した考古資料の収集。

授業の概要

司会者を決め、討議型式で授業を進め最後に教師が総括し問題点を指摘し、課題を与える。

準備学習（予習・復習）

必ず発表前に分からない用語・言葉を調べること。図・写真を用意して発表すること。

内　　容

第1回　夏休み中の課題発表。
第2回　ゼミ発表、討議。
第3回　ゼミ発表、討議。
第4回　ゼミ発表、討議。
第5回　ゼミ発表、討議。
第6回　ゼミ発表、討議。
第7回　ゼミ発表、討議。
第8回　ゼミ発表、討議。
第9回　ゼミ発表、討議。
第10回　ゼミ発表、討議。
第11回　ゼミ発表、討議。
第12回　ゼミ発表、討議。
第13回　ゼミ発表、討議。
第14回　論文目次の策定。
第15回　論文目次の策定。

履修上の注意点

発表中は私語を慎み討議に積極的に加わること。発表者は図面・写真などの視覚資料を用いて分かり易く説明すること。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　0 ）　　小テスト（　0 ）
授業中課題（　10 ）　　授業中発表等（　60 ）
参加度　（　30 ）

発表レジュメの内容、発表の仕方、司会の進行のあり方、討議への参加度を総合的に勘案して評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅱ＜＊b＞**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること　　クラス指定　希望制

担 当 者　登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学研究の方法を学ぶ

授業の到達目標

歴史遺産学に関する論文を執筆するための準備を行う。

授業の概要

各自が設定した研究テーマに関して論文を執筆するための作業、すなわち（1）論文執筆に必要な材料（歴史資料）をみつけ、読解すること、（2）それを用いて議論を組み立てることを実際に行う。なお、必要に応じて学外授業を行うことがある。学期末には原稿用紙換算で15枚以上の小論を作成してもらう。

準備学習（予習・復習）

研究テーマに関わる学術書・論文を積極的に読むこと。

内　容

第1回　ガイダンス　研究に用いる歴史資料に関する発表①
第2回　ガイダンス　研究に用いる歴史資料に関する発表②
第3回　個別発表①
第4回　個別発表②
第5回　個別発表③
第6回　個別発表④
第7回　個別発表⑤
第8回　学外授業
第9回　個別発表⑥
第10回　個別発表⑦
第11回　個別発表⑧
第12回　個別発表⑨
第13回　個別発表⑩
第14回　個別発表⑪
第15回　まとめ　小論文の進捗状況の報告

履修上の注意点

この授業では、発表の内容はもちろん、討論への参加度を重視する。そのためには、授業での配布物にあらかじめ目を通しておくことが必要となる。この点をしっかりと理解した上で授業に出席して欲しい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 35 ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 35 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅱ＜＊c＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定　希望制
担 当 者　小林　裕子	

テーマ

嘉承元年(1106)頃における奈良の諸大寺の様相を綴った日本美術史研究に欠かせない基本文献たる大江親通『七大寺日記』の輪読と研究発表を通じて、美術史の研究手法を体得する。

授業の到達目標

親通の記述から生じた各自の疑問や好奇心を先行研究や現存作例の詳細などによって分析、解決するものとし、これにより美術史研究の多角的な方法を知り、論文執筆の能力を養うことを目的とする。なお、学外見学・外部講師による特別講義を実施することがある。

授業の概要

前期の演習Ⅰに引き続き『七大寺日記』の輪読及び研究発表をおこなう。

準備学習(予習・復習)

『七大寺日記』に記載される寺院についての文献を読んだり、実際に訪れることにより、現存作例に対するイメージを明確にしてほしい。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　東大寺条⑫
第3回　東大寺条⑬
第4回　東大寺条⑭
第5回　東大寺条⑮
第6回　東大寺条⑯
第7回　東大寺条⑰
第8回　外部講師による特別講義
第9回　大安寺条①
第10回　大安寺条②
第11回　大安寺条③
第12回　大安寺条④
第13回　大安寺条⑤
第14回　学外見学
第15回　卒論構想発表会

履修上の注意点

教科書

七大寺日記・七大寺巡礼私記
著者:　藤田経世
出版社:　中央公論美術出版
出版年:　1972年　　ISBN:

参考書

奈良六大寺大観全14巻
著者:　奈良六大寺大観刊行会
出版社:　岩波書店
出版年:　　ISBN:

日本の古寺美術シリーズ
著者:
出版社:　保育社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　(　)　　小テスト　(　)

a10413a253

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）

参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅱ＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　2回生終了までに合計40単位以上修得済みであること	クラス指定　希望制
担 当 者　有坂　道子	

テーマ

近世の古文書を読む（初級）

授業の到達目標

古文書の読解力、および古文書に関する基礎的な知識を身につける。

授業の概要

古文書の現物を用いてくずし字を読む力をつけるとともに、古文書を扱うテーマでの演習発表を行う。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習（予習・復習）

必ず復習を行い、自宅学習用の教材を自習すること。日頃から古文書を読む練習を習慣づけること

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　歴史遺産学演習（1）
第3回　歴史遺産学演習（2）
第4回　歴史遺産学演習（3）
第5回　歴史遺産学演習（4）
第6回　学外授業
第7回　歴史遺産学演習（5）
第8回　歴史遺産学演習（6）
第9回　歴史遺産学演習（7）
第10回　歴史遺産学演習（8）
第11回　学外授業
第12回　歴史遺産学演習（9）
第13回　歴史遺産学演習（10）
第14回　歴史遺産学演習（11）
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

くずし字用例辞典
著者:　児玉幸多
出版社:　東京堂出版
出版年:　平成22年　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 60 ）
出席を重視する。

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅲ <a>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　巽 淳一郎

テーマ

発掘調査から報告書の作成までの作業工程と作業内容を理解する。

授業の到達目標

平板測量法の習熟、遺構・遺物図面のトレース図作成。

授業の概要

作業室、野外作業。

準備学習（予習・復習）

内　容

第11回　遺物出土状況の実測。
第12回　測量図面・事物出土状況図のトレース。
第13回　測量図面・事物出土状況図のトレース。
第14回　測量図面・事物出土状況図のトレース。
第15回　考古資料の展示施設の見学（学外授業）。
第1回　発掘調査法の概要。
第2回　野外での平板測量。
第3回　野外での平板測量。
第4回　野外での平板測量。
第5回　野外での平板測量。
第6回　野外での平板測量。
第7回　野外での平板測量
第8回　発掘調査現場見学（学外授業）。
第9回　遺物出土状況の実測。
第10回　遺物出土状況の実測。

履修上の注意点

勝手な行動を執らず協調して共同作業に当たること。分からない点があれば質問すること。

教科書

発掘調査の手引き―集落遺跡発掘編―、－整理・報告書編―
著者:　文化庁文化財部記念物課
出版社:
出版年:　2010　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　0 ）　　小テスト（　0 ）
授業中課題（　60 ）　　授業中発表等（　20 ）
参加度　（　20 ）
課題の達成度、課題の取り組み方、参加度、共同作業での協調性等を総合的に勘案して評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅲ <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　登谷　伸宏	

テーマ

歴史資料（歴史的建造物・歴史都市・遺跡など）の評価方法を学ぶ

授業の到達目標

歴史資料（歴史的建造物・歴史都市・遺跡など）の評価、およびそれらの取り扱いに関する専門的な知識を習得する。

授業の概要

歴史遺産学研究を進めるにあたって必要となる歴史資料のうち、歴史的建造物、および古文書をとりあげる。歴史的建造物については、①図面の作成、②文化財としての評価方法、③報告書の作成方法に関する技術を身に付ける。古文書については、①くずし字の解読・読解、②取り扱い方法に関する技術を習得する。なお、各回の授業内容は変更する可能性がある。歴史的建造物に関する実習は学外で行うことがある。さらに、夏期には宿泊をともなう実習旅行を実施する予定である。

準備学習（予習・復習）

歴史的建造物や伝統的町並みの見学を自主的に行うこと。博物館・美術館などで古文書に触れる機会をより多くつくること。

内　　容

第1回　ガイダンス　歴史資料の評価、およびそれらの取り扱いについて
第2回　歴史的建造物の評価に関する実習①
第3回　歴史的建造物の評価に関する実習②
第4回　歴史的建造物の評価に関する実習③
第5回　歴史的建造物の評価に関する実習④
第6回　歴史的建造物の評価に関する実習⑤
第7回　歴史的建造物の評価に関する実習⑥
第8回　歴史的建造物の図面作成に関する実習①
第9回　歴史的建造物の図面作成に関する実習②
第10回　歴史的建造物の図面作成に関する実習③
第11回　古文書の評価・取り扱いに関する実習①
第12回　古文書の評価・取り扱いに関する実習②
第13回　古文書の評価・取り扱いに関する実習③
第14回　古文書の評価・取り扱いに関する実習④
第15回　古文書の評価・取り扱いに関する実習⑤

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 60 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅲ <c>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　小林 裕子

テーマ

美術作品の形状記述や図面作成、美術工芸作品（絵画・工芸品等）の調書作成方法や取扱など、実習を通じてより深く美術工芸史を理解する。

授業の到達目標

学芸員や研究者は直接実物資史料に触れる仕事であるが、その対象はかけがえのない作品であるため、決して過失があってはならない。実習では、作品を取り扱うための特殊な技術と専門的な知識を正しく身につけるとともに、美術工芸史に対する理解を深めることを目的とする。なお、必要に応じて外部講師を招聘する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

奈良や京都の寺院、博物館や美術館に足を運び、実物から学びとる機会をつくること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　美術工芸作品の種類と取扱説明
第3回　取扱実習（箱物①）
第4回　取扱実習（箱物②）
第5回　取扱実習（絵画①）
第6回　取扱実習（絵画②）
第7回　取扱実習（絵画③）
第8回　取扱実習（絵画④）
第9回　取扱実習（染織①）
第10回　取扱実習（染織②）
第11回　取扱実習（金工①）
第12回　取扱実習（金工②）
第13回　宿泊調査実習のための事前学習
第14回　宿泊調査実習のための事前学習
第15回　まとめ　※なお、必要に応じて学外授業をおこなうことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 60 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅲ <d>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　有坂 道子

テーマ

古文書の整理と扱い方

授業の到達目標

古文書整理の実際を体験しながら、作業の内容についての理解を深める。

授業の概要

古文書の現物を用いて、古文書の扱い方、整理・保存の仕方の実際を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習（予習・復習）

博物館・史料館などで古文書を見る機会を作り、現物を積極的に見学すること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　実習（1）古文書の扱い方
第3回　実習（2）実習で扱う古文書について
第4回　実習（3）内海家文書の整理①
第5回　実習（4）内海家文書の整理②
第6回　学外授業
第7回　実習（5）内海家文書の解読・初級①
第8回　実習（6）内海家文書の解読・初級②
第9回　実習（7）内海家文書の解読・初級③
第10回　実習（8）内海家文書の解読・初級④
第11回　学外授業
第12回　実習（9）内海家文書の解読・初級⑤
第13回　実習（10）内海家文書の解読・初級⑥
第14回　実習（11）内海家文書の解読・初級⑦
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

くずし字用例辞典
著者:　児玉幸多
出版社:　東京堂出版
出版年:　平成22年　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度　（ 70 ）
出席を重視する。

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅳ <a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　巽 淳一郎	

テーマ

発掘調査から報告書作成までの過程と各段階における作業法を理解する。、

授業の到達目標

遺物の割付図を作成しトレース図面を完成する。

授業の概要

割付図面をトレース図に起こし報告書の版下を作製する。

準備学習（予習・復習）

作業が人より遅れた場合には、材料を持ち帰り、空いた時間に作業し課題を達成すること。

内　容

第1回　発掘調査報告書の成り立ち、構成を理解する。
第2回　考古資料のスケッチと観察。
第3回　美術品・考古資料の観察と解説文の作成。
第4回　考古資料の割付　1。
第5回　考古資料の割付　2。
第6回　考古資料の割付　3。
第7回　考古資料の割付　4。
第8回　割付図面のトレース　1。
第9回　割付図面のトレース　2。
第10回　割付図面のトレース　3。
第11回　割付図面のトレース　4。
第12回　写真資料の割付　1。
第13回　写真資料の割付　2。ネガ写真とデジタ写真の違い。
第14回　コロタイプ印刷過程の見学（学外授業）。
第15回　総括と仕上がり図面のコンペ。

履修上の注意点

トレースペンは各自用意すること。カッターナイフの扱いに十分注意をはらうこと。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　0 ）　　小テスト（　0 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（　10 ）
参加度　（　30 ）

課題成果、参加度、課題に対する取組等を総合的に勘案して評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅳ <b>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　登谷 伸宏

テーマ

歴史資料（歴史的建造物・歴史都市・遺跡など）の評価方法を学ぶ

授業の到達目標

歴史資料（歴史的建造物・歴史都市・遺跡など）の評価、および取り扱いに関する専門的な知識を習得する。

授業の概要

歴史遺産学研究を進めるにあたって必要となる歴史資料のうち、歴史的建造物、および古文書をとりあげる。その上で、歴史的建造物については、①図面の作成、②文化財としての評価方法、③報告書の作成方法に関する技術を身に付ける。一方、古文書については、①くずし字の解読・読解、②取り扱い方法に関する技術を習得する。なお、各回の授業内容は変更する可能性がある。歴史的建造物に関する実習は学外で行うことがある。さらに、夏期には宿泊をともなう実習旅行を実施する予定である。

準備学習（予習・復習）

歴史的建造物や伝統的町並みの見学を自主的に行うこと。博物館・美術館などで古文書に触れる機会をより多くつくること。

内　容

第1回　ガイダンス　歴史資料の評価、および取り扱いについて
第2回　歴史的建造物の評価に関する実習①
第3回　歴史的建造物の評価に関する実習②
第4回　歴史的建造物の評価に関する実習③
第5回　歴史的建造物の評価に関する実習④
第6回　古文書の評価・取り扱いに関する実習①
第7回　古文書の評価・取り扱いに関する実習②
第8回　古文書の評価・取り扱いに関する実習③
第9回　古文書の評価・取り扱いに関する実習④
第10回　古文書の評価・取り扱いに関する実習⑤
第11回　歴史的建造物の報告書作成に関する実習①
第12回　歴史的建造物の報告書作成に関する実習②
第13回　歴史的建造物の報告書作成に関する実習③
第14回　歴史的建造物の報告書作成に関する実習④
第15回　まとめ　成果物に関する発表

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 60 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅳ <c>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小林　裕子	

テーマ

仏像の調書作成方法や取扱を身につけるとともに、拓本の取り方、和綴じの方法など、実習を通じてより深く美術工芸史を理解する。

授業の到達目標

学芸員や研究者は実物資史料に触れる仕事であるが、その対象はかけがえのない作品であるため、決して過失があってはならない。実習では、作品を取り扱うための特殊な技術と専門的な知識を正しく身につけるとともに、美術工芸史に対する理解を深めることを目的とする。

授業の概要

前期実習Ⅲに引き続き、美術工芸品の取扱いを学ぶ。なお、本実習では夏季休業中に近畿圏の寺院における宿泊実習をおこなう。

準備学習（予習・復習）

奈良や京都の寺院、博物館や美術館に足を運び、実物から学びとる機会をつくること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　仏像の種類と取扱説明
第3回　取扱実習（仏像①）
第4回　取扱実習（仏像②）
第5回　取扱実習（仏像③）
第6回　取扱実習（仏像④）
第7回　取扱実習（仏像⑤）
第8回　拓本
第9回　拓本
第10回　拓本
第11回　裏打ち
第12回　裏打ち
第13回　和綴じ
第14回　和綴じ
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 60 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学実習Ⅳ <d>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　有坂 道子

テーマ

古文書の整理と扱い方

授業の到達目標

古文書整理の実際を体験しながら、作業の内容についての理解を深める。

授業の概要

古文書の現物を用いて、古文書の扱い方、整理・保存の仕方の実際を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

準備学習（予習・復習）

博物館・史料館などで古文書を見る機会を作り、現物を積極的に見学すること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　実習（1）内海家文書の解読・中級①
第3回　実習（2）内海家文書の解読・中級②
第4回　実習（3）内海家文書の解読・中級③
第5回　実習（4）内海家文書の解読・中級④
第6回　学外授業
第7回　実習（5）内海家文書の解読・中級⑤
第8回　実習（6）内海家文書の解読・中級⑥
第9回　実習（7）内海家文書の解読・中級⑦
第10回　実習（8）内海家文書の解読・中級⑧
第11回　学外授業
第12回　実習（9）内海家文書の解読・上級①
第13回　実習（10）内海家文書の解読・上級②
第14回　実習（11）内海家文書の解読・上級③
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

くずし字用例辞典
著者:　児玉幸多
出版社:　東京堂出版
出版年:　平成22年　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度　（ 70 ）
出席を重視する。

2016 Syllabus

科 目 名　**建築遺産研究Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　裕	

テーマ

文化遺産として重要な位置を占める西洋の都市・建築の成り立ちを、社会的・文化的な人間の諸活動の痕跡として捉え直す。

授業の到達目標

西洋の事例を中心に、各時代で人々がどのような問題に直面し、いかなる都市的・建築的解決を模索してきたのか、その思考と試行のプロセスに着目して論じる。そうすることで、今日的課題にアプローチする際、過去の事例の中に多くの有効な知見を得ることができると期待する。到達目標：(1)西洋建築の起源から現代までの意匠、構造、技術を理解する、(2)西洋建築の設計手法と空間の特質を理解する、(3)西洋における建築と都市の関わりと成り立ちを理解する、(4)各種演習や卒業研究に取り組む際に、多くの示唆を与えてくれる参照必須事例についての基礎知識を身につける。

授業の概要

最新の都市・建築事情も紹介しつつ、履修者の身近な現代から過去へと時代をさかのぼる。独自に作成した画像・図版・レジュメ・VTR等の資料を用いて、西洋の都市・建築史の基本事項を理解できるよう講義を行う。

準備学習（予習・復習）

西洋の都市・建築について学ぶことで、日本の都市・建築をより相対的に把握することができるようになります。逆もまた然りです。まずは身近な日本の事例、特に関西の古建築・歴史的町並みを積極的に探訪してください。講義で紹介する重要事例について、夏休みなどに、実際に現地で現物に接しフィールドワークを行う努力をしてください。映画や文学などイメージとしてどのように西洋の都市・建築が扱われているか注意を払ってください。

内　　容

第1回　【序、現代-都市・建築概観1】 講義の進め方、評価（確認レポート、試験）について. 「都市組織」という考え方について. 現代都市・建築の様々な試みについて.

第2回　【現代-都市・建築概観2】 近代都市建築の残した課題、今日的課題に対する現代都市・建築の様々な試みについて.

第3回　【近代建築と都市計画の展開】 様式から空間への変遷を理解する：均質空間と近代建築、国際化の過程.

第4回　【近代建築・都市計画の萌芽】 新しい素材と近代建築の生成、各地のアールヌーヴォ等の思潮と特徴を把握する.

第5回　【産業革命・工業化と都市・建築】 高層建築の歴史について.

第6回　【都市大改造と理想都市計画】 理想都市計画（田園都市、工業都市、輝ける都市etc）とオスマンのパリ大改造の思潮と特徴を把握する. → この回は、前編「理想都市計画」を詳細に講義する

第7回　【様式リヴァイヴァル・革命期の建築と都市】 古典建築以降幻視建築を含む各様式の概要と基本類型・差異を把握する. → この回の内容は、一通りの流れを理解した後、第14回【西洋都市・建築史総括1】にて扱う→ よって、実際の講義では第6回目の内容の後編「オスマンのパリ大改造」を詳細に扱う

第8回　【古典主義・バロック建築と都市】 ヨーロッパ各地のバロック建築・ロココ建築の特徴、ルネサンス建築ならびにマニエリスム建築との差異を把握する. → 第8回目と第9回目は一体的に扱う

第9回　【ルネサンス・マニエリスム期の建築と都市】 神から人間のための建築・都市へと移行するルネサンス期の社会的文化的文脈と空間構成の特徴. マニエリスム期の特徴、ならびにそれらとバロック期建築との差異を把握する. → 第8回目と第9回目は一体的に扱う

第10回　【ゴシック建築と中世都市】 光の建築・ゴシック大聖堂の構造的特徴を中世都市の成り立ちと合わせて理解する。また、ゴシック建築の展開と地域的差異を把握する.

第11回　【初期キリスト教、ビザンチン、ロマネスク建築と中世都市、イスラム都市建築】 中世都市、初期キリスト教、ビザンチン建築、ロマネスク建築の成立過程と事例を把握する. また、イスラム都市建築を概観しその差異を把握する.

第12回　【古代ローマの建築と都市】 ローマ都市の形成、ローマ古典建築の特徴を理解する.

第13回　【古代ギリシャの建築と都市】 ギリシャ建築思潮とその実践（地中海都市含む）の関係性を理解

第14回　【西洋都市・建築史総括1】 原始的空間、古代から現代までの大きな流れをダイジェストとして通覧し（過去から現代へ）、今日的課題に対する現代都市・建築の様々な試みの意義を再確認する. ＜前編＞先史時代～様式リヴァイヴァル期.

第15回　【西洋都市・建築史総括2】 同上　＜後編＞　産業革命期、近代化～現代

履修上の注意点

教科書

テキスト建築意匠

著者：　平尾和洋＋末包伸吾編集、松本裕、他著

出版社：学芸出版社

出版年：2006　　ISBN：

参考書

近代建築史図集

著者：　日本建築学会編

a10413d110

出版社: 彰国社

出版年: 1981　　ISBN:

西洋建築史図集

著者:　日本建築学会編

出版社: 彰国社

出版年: 1976　　ISBN:

図説世界建築史』(全16巻)

著者:

出版社: 本の友社

出版年:　　ISBN:

卒業設計コンセプトメイキング

著者:　松本　裕

出版社: 学芸出版社

出版年: 2008　　ISBN:

成績評価

試験 (60)　　小テスト ( )

授業中課題 ( )　　授業中発表等 ( )

参加度 (40)

筆記試験(60点):「講義中に配布したプリントへ直接手書きでノートしたもの」と『テキスト建築意匠』のみ「持ち込み可」にて筆記試験を実施する. 参加度(40点):出席を重視します。毎回、出席確認を兼ねた簡単な小レポート(講義内容に関する履修者各自の見解＋講義への感想・要望＋質問など)を提出していただきます。

2016 Syllabus

科 目 名　**建築遺産研究Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　登谷　伸宏	

テーマ

日本建築史を読み解く

授業の到達目標

自分たちの身の回りに存在する歴史的建造物や歴史都市は、どのように成立・展開してきたのだろうか。その答えを、建築・都市遺構や文字・絵画史料を解読することにより見つけられるようになって欲しい。そのための基礎的な力を身につけることを目標とする。

授業の概要

日本列島においてどのような建造物・都市がつくられ、時代とともに如何なる空間的・機能的展開を遂げたのかを辿っていく。それとともに、その背景となる各時代の社会・文化や建築技術のあり方についても考えていきたい。なお、各回の内容は変更する可能性がある。

準備学習（予習・復習）

日本建築史に関する概説書・新書・選書を積極的に読むこと。歴史的建造物・歴史都市の見学を積極的に行い、自分自身でそれらを評価する力を養って欲しい。

内　　容

第1回　日本の建築技術と大工道具
第2回　日本建築入門
第3回　飛鳥時代の寺院建築
第4回　奈良時代の寺院建築
第5回　天台・真言宗の建築
第6回　顕密仏教の展開と寺院建築
第7回　古代における貴族住宅の成立と展開
第8回　神社本殿の成立
第9回　中世における新様式の移入
第10回　中世における寺社造営と新技術の導入
第11回　中世仏堂の空間と機能
第12回　戦国期京都の空間と社会
第13回　豊臣政権による寺社造営とその技術
第14回　織豊系城郭の成立
第15回　近世民家の類型と地域的特色

履修上の注意点

教科書

日本建築史図集　新訂第三版
著者:　日本建築学会編
出版社:　彰国社
出版年:　2011年　　ISBN:

参考書

建築学の基礎⑥　日本建築史
著者:　後藤治
出版社:　共立出版
出版年:　2003年　　ISBN:　4-320-07663-X

成績評価

試験　（ 60 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産研究Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　一瀬 和夫

テーマ

仁徳陵古墳と世界遺産の関係をみる

授業の到達目標

日本での世界遺産の登録とはいったい何か、文化財保護といかなる関係にあるのか。世界遺産の暫定リストにある「百舌鳥・古市古墳群 」のうち仁徳陵古墳の文化財的な普遍的価値を中心に見学・検討することで、日本社会における文化財の保存、公開、活用のあり方を具体的に考えてみる。

授業の概要

日本での世界遺産のあり方、「百舌鳥・古市古墳群 」のうち仁徳陵古墳の実態の実態を知る講義が中心である。学外授業を一部含む。講師を招いて講演会を含む。

準備学習（予習・復習）

世界的な視座をもって、まちと歴史遺産の調和関係を考えてみる。

内　容

第1回　世界遺産とは
第2回　世界遺産の登録とは
第3回　仁徳陵古墳の評価とは
第4回　古墳時代のシンボル
第5回　あばかれた内部
第6回　仁徳陵古墳の話題性
第7回　墳丘の復原
第8回　埴輪と須恵器
第9回　古墳時代のネットワーク
第10回　古墳時代の空間イメージ
第11回　仁徳陵古墳の見学（学外授業）
第12回　陵墓としての仁徳陵古墳
第13回　百舌鳥・古市古墳群の世界遺産の登録用件とは
第14回　百舌鳥・古市古墳群の顕著な普遍的価値とは
第15回　文化財保護と世界遺産登録の関係を展望する

履修上の注意点

教科書

古墳時代のシンボル・仁徳陵古墳
著者:　一瀬和夫
出版社:　新泉社
出版年:　2009　　ISBN:　9784787709356

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産研究Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　千枝子	

テーマ

日本の染織文化の変遷をたどる

授業の到達目標

布を織る・染める行為は古くから繰り返し行われてきた。今では私達の生活の中で必要不可欠になっている染織ですが歴史の中でどのような位置を占めながら変遷してきたのでしょうか。各時代の歴史的な背景をおさえながら意匠の解説とともに理解を深める。

授業の概要

視覚からの情報を大切にしている。パワーポイントとレジュメや参考ビデオの鑑賞、サンプル裂の提示などさまざまな角度から理解を深める。染織を理解するための基本的な知識である天然繊維の素材や織物組織に加え天然染料なども解説する。

準備学習（予習・復習）

日頃から博物館・美術館・社寺を訪れ、現在に伝わる染織品を見る。また伝統芸能や伝統文化のなかでどのような役割をもっているのか、染織品にスポットを当て考えてほしい。

内　　容

第1回　概論
第2回　古代の染織
第3回　天然繊維の解説
第4回　古墳時代の染織
第5回　上代裂
第6回　正倉院の染織Ⅰ
第7回　正倉院の染織Ⅱ
第8回　正倉院の染織Ⅲ
第9回　平安時代の染織Ⅰ
第10回　平安時代の染織Ⅱ
第11回　能装束
第12回　小袖Ⅰ
第13回　小袖Ⅱ
第14回　小袖Ⅲ
第15回　まとめと小テスト

履修上の注意点

私語を慎む。

教科書

参考書

織りと染めの歴史　日本編
著者：　川上繁樹・藤井健三共著
出版社：昭和堂
出版年：１９９９　　ISBN：

染と織を訪ねる
著者：　長崎巌
出版社：新潮社
出版年：　　ISBN：

正倉院の染織品の研究
著者：　尾形允彦
出版社：思文閣出版
出版年：２０１３　　ISBN：

a10413d410

源氏物語の色辞典

著者:　吉岡幸雄

出版社: 紫紅社

出版年: 2008　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ 30 ）

授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**古都学Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　巽 淳一郎

テーマ

日本古代都城の変遷と各都城の特質を考える。

授業の到達目標

都城の変遷を理解し、東アジアの都城との違いを捉えること。

授業の概要

毎回、プリントを配布し、それに基づき講義する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　都城成立以前の豪族居館。歴代遷宮。
第2回　飛鳥の諸宮1（豊浦宮・小墾田宮）。
第3回　飛鳥の諸宮2（岡本宮・百済宮・板蓋宮）。
第4回　孝徳朝前期難波宮の構造。
第5回　飛鳥の諸宮3（後岡本宮・飛鳥浄御原宮）。
第6回　朝鮮三国の都城1　高句麗の都城の構造。
第7回　朝鮮三国の都城2　百済の都城の構造。
第8回　朝鮮三国の都城3　新羅の都城の構造。
第9回　本格的な都城　藤原宮・成立。
第10回　藤原宮の構造。
第11回　平城宮・京の成立と構造。
第12回　唐長安城の構造。
第13回　藤原宮・平城宮・長安城の比較検討。
第14回　恭仁宮・紫香楽宮・後期難波宮・長岡宮。
第15回　都市住民の生活。
第16回　試験。

履修上の注意点

高校の日本史・世界史の教科書を復習ください。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　60 ）　　小テスト（　0 ）
授業中課題（　10 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（　30 ）

試験できばえ、参加度、課題の達成度等をもとに評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**古都学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　義明	

テーマ

地下に埋もれた遺構・遺物から京都の歴史と文化の特性を探る。

授業の到達目標

京都の歴史と文化が歴史・文化遺産として現代に影響を与え、生き続けていることを理解する。

授業の概要

平安京以前の京都、平安京の構造、民衆の生活、中世の京都、近世の京都など各時代の遺跡について、発掘調査の成果から考古学的方法により遺構・遺物の検討や実見することで古都の知見を掘り下げる。

準備学習（予習・復習）

予習：博物館や資料館の展示物実見や寺社仏閣・伝統的街並みの見学を心掛ける。復習：配布資料や参考図書から授業内容の確認と整理。

内　　容

第1回　平安京遷都　長岡京から平安京へ遷都された意味を探る
第2回　平安京の条坊制と条里制　平安京の条坊制・条里制と京都の町並みの関連を学ぶ
第3回　平安宮の構造　平安宮の構造について実態と変遷を探る
第4回　平安京の邸宅　京都の市街地に埋もれた平安時代の邸宅跡を探る
第5回　平安京の寺院　平安京とその周辺に造営された寺院についてその特性を理解する
第6回　平安京の出土遺物(1)　平安宮や寺院造営に伴い多量に作られた平安時代の瓦の特性を探る
第7回　平安京の出土遺物(2)　土器・祭祀遺物・銭貨・石製帯飾具などについてその特質や変遷を学ぶ
第8回　山科の遺跡(1)　山科盆地に所在する縄文時代から中世までの主要遺跡を学ぶ
第9回　山科の遺跡(2)　実地見学（大宅廃寺～中臣遺跡）
第10回　院政期(1)　白河上皇と鳥羽上皇によって造営された鳥羽離宮跡について学ぶ
第11回　院政期(2)　六勝寺・法金剛院・法住寺殿など院政期の遺跡を学ぶ
第12回　中世の遺跡　市街地遺跡の調査から中世の遺跡の実態を探る
第13回　織豊期(1)　聚楽第・御土居・天正地割・方広寺など豊臣秀吉が行なった土木事業を探る
第14回　織豊期(2)　造営開始から慶長の伏見大地震後の拡張整備など伏見城の変遷の実態を探る
第15回　近世の遺跡　二条城・淀城や公家町遺跡など近世の遺跡を学ぶ

履修上の注意点

出席参加度の重視

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

平安京提要
著者：
出版社：角川書店
出版年：1994　　ISBN：4-821044-0

つちの中の京都1
著者：
出版社：ユニプラン
出版年：2009　　ISBN：4-89704-267-1

つちの中の京都2
著者：
出版社：ユニプラン
出版年：2001　　ISBN：4-89704-163-5

a10413d650

つちの中の京都3

著者:

出版社: ユニプラン

出版年: 2006　　ISBN: 4-89704-224-0

つちの中の京都4

著者:

出版社: ユニプラン

出版年: 2010　　ISBN: 4-89704-278-7

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 20 ）

授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等 （ 0 ）

参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**地域文化論 <a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　柴田 陽一	

テーマ

最近の研究論文や先人の著作をとおして、「地域文化」(特に祭礼や伝説)に関する多面的・総合的な視点を学ぶと共に、特定の地域の文化現象についての調査・発表を行う。

授業の到達目標

いったい「地域文化」とは何だろうか。地域性があり、一定の地域にしか存在しない文化のことなのか。なぜそこにあり、なぜ地域によって異なるのか。こうした問いは学際的に解明される性格のものである。そのため本講義では、一分野に限らない文献(民俗学・文化人類学・人文地理学など)の読解と実際の調査を通して、「地域文化」に対する多面的・総合的な視点を獲得することを目標とする。

授業の概要

前半では＜地域と祭礼＞、後半では＜地域と伝説＞をテーマとして「地域文化」を考える視点について学ぶ。こうした視点を生かして、グループないしは個人で、ある「地域文化」に焦点を当てた調査・発表を行う。その他、2回分の学外授業(フィールドワーク、博物館の見学等)を予定している。

準備学習(予習・復習)

授業内容の復習、グループないしは個人発表の準備

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　地域と祭礼①:祭礼のタイプ
第3回　地域と祭礼②:変化する祭礼
第4回　地域と祭礼③:創られた伝統？
第5回　地域と祭礼④:地図とフィールド調査
第6回　地域と祭礼⑤:祭礼と地域の関係
第7回　学外授業①(京都を予定)
第8回　地域と伝説①:伝説と民俗学・地理学
第9回　地域と伝説②:柳田国男と伝説
第10回　地域と伝説③:空間認知
第11回　地域と伝説④:地域イメージ
第12回　地域と伝説⑤:伝説と地域の関係
第13回　学外授業②(大津を予定)
第14回　グループ／個人発表①
第15回　グループ／個人発表②、レポート作成の注意点

履修上の注意点

グループ／個人発表を設定しているため、授業時間外にそれに向けた準備をしていただく必要があります。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

授業中に指示する
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験 (50)　小テスト ( )
授業中課題 ( )　授業中発表等 (30)
参加度 (20)
グループ／個人発表のプレゼン、およびそれをまとめたレポートの内容によって評価する。加えて、出席回数や授業への参加態度も考慮する。

2016 Syllabus

科 目 名　**地域文化論 <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　一瀬 和夫

テーマ

醍醐寺の資産を観察・調査し、パブリックな取り組みへの提案を模索する。

授業の到達目標

醍醐寺には京都最古、952年の建立の五重塔の他、桃山時代以降の数多くの堂宇が存在する。特に三宝院には桃山時代の襖絵葵の間や表書院もある。下醍醐、上醍醐含め100余りの堂塔がある広大な境内では、2月に「五大力尊仁王会」4月に「豊太閤花見行列」が毎年行われることは著名である。これら行事だけでなく、醍醐寺のもつ歴史文化資産を起点に子どもから大人まで親しめる「醍醐寺てらこやプロジェクト」や中・高校生、大学連携プログラムまで、多種多彩な活動プログラムがある。この演習ではまずそうした醍醐寺の資産を知り、その全容を観察・把握、まとめ、理解する。さらに分析することで広く周知活用されるための活動を提案して、その資産のパブリック化を試みる。活動プログラム内容の充実や広報面などの提案を行う能力を身につけようとするものである。

授業の概要

本科目では、まず「文化遺産」の文化資産群について、観察・調査する。そして、それに関わろうとする人たちに、醍醐寺への支援や子ども・地元の人たちへの深い理解の促進、それを行うための経験者への働きかけをうながす方策を考えだすことを目指します。実際には、醍醐寺の文化遺産の資産の「パブリック化」活動の中味をより広く周知することの実地学修となります。具体的には、現在境内に広がる文化資産の観察やヒアリング等を行い、さらに周辺に向けてより広く世界遺産の資産をパブリック化する活動課題について醍醐寺関係者と発見し、より深く関わりたい人たちを誘発する新たな活動のアイデアなどを探っていきます。

準備学習（予習・復習）

随時、授業展開に合わせて醍醐寺の情報を得るとともに現地観察及び調査を行う。

内　容

第1回　醍醐寺境内の観察　4月23日（於：醍醐寺）
第2回　インタビュートレーニング　5月7日（於：キャンパスプラザ京都）
第3回　全体オリエンテーション　5月22日（於：キャンパスプラザ京都）
第4回　世界遺産醍醐寺プロジェクトについてインタビュー　（於：醍醐寺）
第5回　醍醐寺インタビューのまとめと課題発見、調査計画の立案　6月11日（於：キャンパスプラザ京都）
第6回　境内の文化資産の観察調査と記録調査　6月26日（於：醍醐寺）
第7回　境内の文化資産の観察調査と記録調査　7月10日（於：醍醐寺）
第8回　資産のパブリック化に向けてのプロジェクト活動案の集約と分析　7月24日（於：キャンパスプラザ京都）
第9回　世界遺産醍醐寺プロジェクトのパブリック化に向けての調査項目の集約　9月11日（於：醍醐寺）
第10回　世界遺産パブリック化のモックアップを作成し、境内などでのインタビュー調査　9月25日（於：醍醐寺）
第11回　モックアップなどの評価を分析して提言案をまとめる　10月16日（於：キャンパスプラザ京都
第12回　プレゼンテーションの準備・プレゼンテーショントレーニング（レクチャー編）　10月22日（於：キャンパスプラザ京都）
第13回　プレゼンテーションの実践　11月13日（於：京都橘大学）
第14回　世界遺産パブリックに対する提言発表（成果発表会）　12月11日（於：キャンパスプラザ京都）
第15回　報告書の提出と互いの報告書に対しての討議　12月11日（於：キャンパスプラザ京都）

履修上の注意点

教科書

PCによる教材提示

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0% ）	小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 60% ）	授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ 20% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**木簡・金石文学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　渡辺　晃宏	

テーマ

木簡を中心とする出土文字資料の特質と遺跡との関わり、そしてそれらが語る新しい歴史像

授業の到達目標

歴史を考える上で欠くことのできない重要な位置を占めるようになった木簡をはじめとする出土文字資料の特質を理解した上で、実際に木簡を読み解きながら、資料としての木簡の役割について理解を深め、新しい日本史像を探求する。

授業の概要

具体的な木簡に即して、日本古代を中心とするの木簡の概説、各論を講義する。なお、木簡研究の最先端にふれてもらうため、最新の木簡をはじめとする出土文字資料や発掘調査の情報などを適宜取り上げながら授業を進めていきたいと考えるので、取り上げる木簡やその順序に変更や偏りが生じる場合がある。また、平城宮跡における現地講義に振り替える場合があ

準備学習（予習・復習）

木簡をはじめとする出土文字資料や最新の発掘調査の情報に注目し、現地説明会などにも積極的に参加してほしい。特に、授業の主要な対象となる木簡が出土した平城宮跡を実際に訪れ、遺跡としての広がりを体験しておくことが望ましい。また、正倉院展（奈良国立博物館）や地下の正倉院展（奈文研平城宮跡資料館での木簡の展示）などの実物資料を見られる機会や、奈文研の木簡に関するデータベースなどを活用し、日頃から積極的に資料に親しむように努めてほしい。

内　　容

第1回　木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について概観する。
第2回　木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について概観する。
第3回　代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料の役割について考える。
第4回　代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料の役割について考える。
第5回　代表的な木簡出土地として平城宮跡を取り上げて概説し、その解明に果たしてきた木簡を初めとする出土文字資料の役割について考える。
第6回　長屋王家木簡（長屋王という貴族の家政に関わる木簡群）の特質を考える。
第7回　長屋王家木簡（長屋王という貴族の家政に関わる木簡群）の特質を考える。
第8回　長屋王家木簡（長屋王という貴族の家政に関わる木簡群）の特質を考える。
第9回　735、6年頃を中心とする二条大路木簡（光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群）の特質を考える。
第10回　735、6年頃を中心とする二条大路木簡（光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群）の特質を考える。
第11回　735、6年頃を中心とする二条大路木簡（光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群）の特質を考える。
第12回　西大寺旧境内出土木簡など、平城京跡出土のその他の代表的な木簡について検討する。
第13回　国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。
第14回　国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。
第15回　中世や近世の木簡について検討し、木簡の時間的な広がりについて理解を深める。最後に授業全体のまとめを行う。

履修上の注意点

教科書

特に使用しない。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

適宜プリントなどを配布する

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

a10413d850

参考書

木簡から古代がみえる(岩波新書)新赤版1256
著者: 木簡学会
出版社: 岩波書店
出版年: 2010 ISBN: 978-4004312567

木簡が語る日本の古代(岩波新書)黄版231
著者: 東野治之
出版社: 岩波書店
出版年: 1983 ISBN: 978-4004202318

平城京と木簡の世紀(講談社学術文庫)
著者: 渡辺晃宏
出版社: 講談社
出版年: 2009 ISBN: 978-4062919043

平城京1300年全検証—奈良の都を木簡から読み解く
著者: 渡辺晃宏
出版社: 柏書房
出版年: 2010 ISBN: 978-4760137404

日本古代木簡選
著者: 木簡学会
出版社: 岩波書店
出版年: 1990 ISBN: 978-4000016803

日本古代木簡集成
著者: 木簡学会
出版社: 東京大学出版会
出版年: 2003 ISBN: 978-4130201360

〈歴史の証人〉木簡を究める
著者: 奈良文化財研究所
出版社: クバプロ
出版年: 2014 ISBN: 978-4878051340

成績評価

試験 (80) 小テスト ( )
授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( )
参加度 (20)
試験はレポートによる場合もある。

2016 Syllabus

科 目 名　**考古学研究Ⅲ（中世Ⅰ）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　一瀬 和夫	

テーマ

考古学コンテキストの過去を読み取り、活用する。

授業の到達目標

社会と考古学との関わりあいの中で根本的な考古学の方法論を探り、その一般法則性と概念的変化を理解するとともに、先学の過去の解釈と現代社会と考古学の関わりも考える。そして、考古学を自己の創造的な活動へと応用するために備える。

授業の概要

考古学のもつ多様性をまず理解し、多角的な方法論と理論展開を知る。そして、具体例をゲストをまじえ検討しつつ、フィールドに出向き今後の考古学のあり方を考える。

準備学習（予習・復習）

発掘調査記事の新聞切抜きと発掘調査（現地説明会等）・史跡整備地の見学

内　容

第1回　考古学の文化解釈法（1）遺跡の分布
第2回　考古学の文化解釈法（2）集落形態と遺構の分布
第3回　考古学の文化解釈法（3）古墳時代の機能的集落の空間構成
第4回　考古学の文化解釈法（4）遺物の形態と機能の分析
第5回　歴史解釈法（1）自然のしわざ、偶然か必然か、二粒の籾：歴史はだれのものか（過去と現代）
第6回　歴史解釈法（2）考古学データの間を読む、経済史的な歴史の諸段階
第7回　過去の文化的意味（1）「もの」のもつ意味とコンテキスト
第8回　過去の文化的意味（2）『達成された』と『選択する』
第9回　過去の文化的意味（3）非連続の歴史
第10回　考古学と現代社会（1）考古学と社会との関わりあい、土地に刻まれたパブリック・アーケオロジー
第11回　考古学と現代社会（2）在野の考古学
第12回　考古学と現代社会（3）遺跡の価値観、五色塚古墳の整備
第13回　考古学と現代社会（4）考古資料の公開・展示、考古学のハンズ･オンとワークショップに向けて
第14回　考古学と現代社会（5）考古学への一般評価に向けて
第15回　これからの考古学

履修上の注意点

教科書

考古学の研究法
著者：　一瀬和夫
出版社：学生社
出版年：2013　　ISBN：　9784311300868

参考書

考古学研究入門
著者：　H・J・エガース著、田中琢・佐原真訳
出版社：岩波書店
出版年：1981　　ISBN：

考古学への招待
著者：　ジェイムズ・ディーツ著、関俊彦訳
出版社：雄山閣出版
出版年：1988　　ISBN：　4639007124

過去を読む
著者：　イアン・ホッダー著、深澤百合子訳
出版社：フジインターナショナルプレス
出版年：1997　　ISBN：

a10413d910

考古学－理論・方法・実践－

著者:　コリン・レンフルー、ポール・バーン

出版社:　東洋書林

出版年:　2007　　ISBN:　9784887217157

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 10 ）

授業中課題（ 45 ）　　授業中発表等（ 10 ）

参加度　（ 35 ）

Syllabus

科 目 名　**考古学研究Ⅳ（中世Ⅱ）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保存科学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　植田　直見.川本　耕三.山田　卓司	

テーマ

文化財資料の調査と保管環境

授業の到達目標

文化財資料を対象とした保存科学の歴史を学び、文化財資料の保存を考える上で必要な様々な調査の目的と方法を学ぶ。さらに、文化財資料のおかれている現状を把握し、長く後世に残し、活用するための保管環境についての知識も習得する。

授業の概要

文化財資料を後世に長く残すことを研究する学問である保存科学についてまずその歴史を学びこれまでの歩みを述べる。文化財資料を保存する上で理解しておかなければならない劣化について、材質毎に要因や状態、劣化機構を説明する。さらに資料を長く残すために必要な保管環境に影響をおよぼす要因と条件をまとめる。

準備学習（予習・復習）

授業が始まるまでに最低1館以上の博物館や資料館などを見学しておくこと。初回の授業でその感想をレポートにまとめる。

内　容

第1回　保存科学Ⅰの概要（ガイダンス）
第2回　保存科学の歴史①
第3回　保存科学の歴史②
第4回　文化財資料の劣化について①
第5回　文化財資料の劣化について②
第6回　文化財資料の劣化について③
第7回　文化財資料の調査・分析①
第8回　文化財資料の調査・分析②
第9回　文化財資料の調査・分析③
第10回　資料の保管環境①（概要）
第11回　資料の保管環境②（温湿度）
第12回　資料の保管環境③（空気汚染と光）
第13回　資料の保管環境④（生物劣化）
第14回　資料の保管環境⑤（IPM）
第15回　全体のまとめ

履修上の注意点

集中講義であるため1日に複数限の授業を実施するが、遅刻や欠席のないようにすること。出席率は成績に反映される。授業内容について不明な点は、その都度質問を受けるので積極的に質問すること。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度　（ 50% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保存科学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　植田　直見.川本　耕三.山田　卓司	

テーマ

文化財資料の保存処理と修復

授業の到達目標

保存処理の現場の見学も含め、様々な文化財資料を材質ごとに分けて具体的な例も交えながらどのように保存処理・修復するかその理念や方法を学ぶ。

授業の概要

様々な材質で構成された埋蔵文化財資料および伝世文化財資料について、保存処理と修復の理念を学び具体的な保存処理方法と修復方法を述べる。その上で実際の保存処理現場を見学することで保存処理・修復においてより具体的な知識および現状が把握出来るように説明する。

準備学習（予習・復習）

前期に保存科学Ⅰを履修して授業に臨むことが望ましいが、保存科学Ⅰを履修できない場合は初回の授業で保存科学に関する参考書などを知らせるので参考にすること。

内　容

第1回　保存科学Ⅱの概要（ガイダンス）
第2回　文化財資料の保存処理・修復の理念①
第3回　文化財資料の保存処理・修復の理念②
第4回　出土木製品の保存処理①
第5回　出土木製品の保存処理②
第6回　出土木製品の保存処理③
第7回　出土金属製品の保存処理①
第8回　出土金属製品の保存処理②
第9回　出土金属製品の保存処理③
第10回　文化財資料の保存処理の実際①（元興寺文化財研究所の見学）
第11回　文化財資料の保存処理の実際②（元興寺文化財研究所の見学）
第12回　文化財資料の保存処理の実際③（元興寺文化財研究所の見学）
第13回　伝世資料の保存修復①
第14回　伝世資料の保存修復②
第15回　全体のまとめ

履修上の注意点

集中講義であるため1日に複数限の授業を実施するが、遅刻や欠席のないようにすること。出席率は成績に反映される。授業内容について不明な点は、その都度質問を受けるので積極的に質問すること。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 50% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**考古学研究Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　一瀬 和夫	

テーマ

考古学コンテキストの過去を読み取り、活用する。

授業の到達目標

社会と考古学との関わりあいの中で根本的な考古学の方法論を探り、その一般法則性と概念的変化を理解するとともに、先学の過去の解釈と現代社会と考古学の関わりも考える。そして、考古学を自己の創造的な活動へと応用するために備える。

授業の概要

考古学のもつ多様性をまず理解し、多角的な方法論と理論展開を知る。そして、具体例をゲストをまじえ検討しつつ、フィールドに出向き今後の考古学のあり方を考える。

準備学習（予習・復習）

発掘調査記事の新聞切抜きと発掘調査（現地説明会等）・史跡整備地の見学

内　容

第1回　考古学の文化解釈法（1）遺跡の分布
第2回　考古学の文化解釈法（2）集落形態と遺構の分布
第3回　考古学の文化解釈法（3）古墳時代の機能的集落の空間構成
第4回　考古学の文化解釈法（4）遺物の形態と機能の分析
第5回　歴史解釈法（1）自然のしわざ、偶然か必然か、二粒の籾：歴史はだれのものか（過去と現代）
第6回　歴史解釈法（2）考古学データの間を読む、経済史的な歴史の諸段階
第7回　過去の文化的意味（1）「もの」のもつ意味とコンテキスト
第8回　過去の文化的意味（2）『達成された』と『選択する』
第9回　過去の文化的意味（3）非連続の歴史
第10回　考古学と現代社会（1）考古学と社会との関わりあい、土地に刻まれたパブリック・アーケオロジー
第11回　考古学と現代社会（2）在野の考古学
第12回　考古学と現代社会（3）遺跡の価値観、五色塚古墳の整備
第13回　考古学と現代社会（4）考古資料の公開・展示、考古学のハンズ･オンとワークショップに向けて
第14回　考古学と現代社会（5）考古学への一般評価に向けて
第15回　これからの考古学

履修上の注意点

教科書

考古学の研究法
著者：　一瀬和夫
出版社：学生社
出版年：2013　　ISBN：　9784311300868

参考書

考古学研究入門
著者：　H・J・エガース著、田中琢・佐原真訳
出版社：岩波書店
出版年：1981　　ISBN：

考古学への招待
著者：　ジェイムズ・ディーツ著、関俊彦訳
出版社：雄山閣出版
出版年：1988　　ISBN：　4639007124

過去を読む
著者：　イアン・ホッダー著、深澤百合子訳
出版社：フジインターナショナルプレス
出版年：1997　　ISBN：

a10413e350

考古学－理論・方法・実践－

著者:　コリン・レンフルー、ポール・バーン

出版社:　東洋書林

出版年:　2007　　ISBN:　9784887217157

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 10 ）

授業中課題（ 45 ）　　授業中発表等（ 10 ）

参加度　（ 35 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**遺産情報演習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山田　邦和	

テーマ

歴史遺産から復元する歴史像

授業の到達目標

歴史遺産的な史料を分析する力と、それを活用して一定の歴史像を構築する力を身につける。

授業の概要

歴史学で扱う材料は文献史料だけではない。現代の歴史学では、考古学の遺跡・遺構・遺物、古地図、絵図など、さまざまな歴史遺産的な史料を組み合わせることによって歴史像を復元しようとしている。この授業では、こうした文献史料以外の諸史料をどう分析するかを、具体例に即して体験してもらう。

準備学習（予習・復習）

京都の精彩な地図を備えて読み込んでおく。また、自主的に京都の史跡（寺院・神社など）、博物館を訪れることを勧める。

内　　容

第1回　イントロダクション—歴史の復元とは何か—
第2回　明治の地図から歴史の痕跡を学ぶ
第3回　平安京の復元
第4回　平安京の邸宅跡
第5回　「山科条里図」を読む
第6回　『都名所図会』と『新撰京都名所図会』の世界
第7回　城の天守とその再建
第8回　幻の「福原京」の復元
第9回　「参詣曼荼羅」の歴史情報
第10回　中世嵯峨の絵図史料を読む
第11回　『洛中洛外図屏風』と戦国時代の京都
第12回　聚楽第と豊臣期京都の復元
第13回　伏見城と城下町の復元
第14回　明治・大正の京都とその発展
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

演習授業なので、出席が前提となる。授業中の無断退席、私語、「内職」、授業内容に関係しない携帯電話操作などは厳禁。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に指示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）	

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <a>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　巽　淳一郎	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　登谷　伸宏	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <c>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　小林　裕子	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <d>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　有坂　道子	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅲ＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　巽 淳一郎	

テーマ

卒業論文に結びつく研究テーマを決め、関連する研究論文を読み解き、内容を分かり易く発表する。

授業の到達目標

読解力を身に着けること。話す内容を分かり易く論理的に組み立て発表すること。人の発表に耳を傾け、疑問点や分からない点について積極的に質問し、討論すること。

授業の概要

司会役を決め、討論型式で授業を進める。司会役は発表内容を概括した上で討論に入る。最後に教師が総括する。

準備学習（予習・復習）

分からない用語を予め調べ、理解深めてもらうため図面や写真を用意する。

内　容

第1回　授業内容の紹介。自己紹介。発表順の策定。
第2回　学外授業の振り替え休校。
第3回　研究発表、討議。
第4回　研究発表、討議。
第5回　研究発表、討議。
第6回　研究発表、討議。
第7回　研究発表、討議。
第8回　研究発表、討議。
第9回　研究発表、討議。
第10回　研究発表、討議。
第11回　研究発表、討議。
第12回　研究発表、討議。
第13回　研究発表、討議。
第14回　夏休み中の課題と研究計画の策定。卒論中間発表資料案の作成。
第15回　卒論中間発表資料案の作成。

履修上の注意点

発表中は私言を慎み静かにきくこと。止むをえない事情がある場合を除き5回以上欠席し発表しない場合には単位取得は難しくなる。インターネット配信の記事は論文の資料に使わないように。

教科書

参考書

成績評価

試験 （　0 ）　　小テスト（　0 ）
授業中課題（　20 ）　　授業中発表等（　60 ）
参加度 （　20 ）

発表レジュメの内容、発表の仕方、司会仕方、討議への参加度などを総合的に勘案して評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅲ＜＊b＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　登谷 伸宏

テーマ

歴史遺産学研究の実践

授業の到達目標

卒業論文を執筆するため、以下の作業を行う。①研究テーマの設定②使用する史料の収集と読解③研究内容の発表

授業の概要

各自が、それぞれの設定した研究テーマに関する研究報告を行う。それをもとに参加者で討論する。なお、必要に応じて学外授業を行うことがある。

準備学習（予習・復習）

研究報告に用いるレジュメを必ず作成すること。

内　容

第1回　ガイダンス（授業の進め方について）
第2回　個別研究報告①
第3回　個別研究報告②
第4回　個別研究報告③
第5回　個別研究報告④
第6回　個別研究報告⑤
第7回　個別研究報告⑥
第8回　個別研究報告⑦
第9回　個別研究報告⑧
第10回　個別研究報告⑨
第11回　個別研究報告⑩
第12回　個別研究報告⑪
第13回　個別研究報告⑫
第14回　個別研究報告⑬
第15回　まとめ（研究の進捗状況の確認）

履修上の注意点

各自の設定したテーマに関する学術書・論文を積極的に読むこと。授業開講までに研究に必要な材料（歴史資料）を集めておくこと。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度　（ 30 ）

研究テーマを設定し、論文執筆に必要な材料（歴史資料）をどれだけ読解できるかどうかが、成績評価に大きく関わる。そのことをしっかりと理解して欲しい。

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅲ＜＊c＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　小林　裕子

テーマ

卒業論文執筆指導

授業の到達目標

各々研究テーマを検討、先行研究をまとめたうえで論文構成を決定し、執筆を進める。

授業の概要

まず受講者各々が研究テーマに関する先行研究をまとめ、口頭発表を実施する。つぎに論文構成を練ったうえで、再度発表して執筆方針を確定する。なお、必要に応じて外部講師による研究発表及び学外授業を実施する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　図書館レファレンス
第3回　先行研究まとめ発表①
第4回　先行研究まとめ発表②
第5回　先行研究まとめ発表③
第6回　先行研究まとめ発表④
第7回　先行研究まとめ発表⑤
第8回　外部講師による研究発表
第9回　論文執筆方針及び構成の発表①
第10回　論文執筆方針及び構成の発表②
第11回　論文執筆方針及び構成の発表③
第12回　論文執筆方針及び構成の発表④
第13回　論文執筆方針及び構成の発表⑤
第14回　論文執筆方針及び構成の発表⑥
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅲ＜＊d＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　有坂　道子

テーマ

卒業論文作成にむけて

授業の到達目標

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。 〇テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。 〇文献・資料検索についての具体的指導。 〇順次各自の研究テーマについて発表させる。 〇中間発表にむけての指導。 〇中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。 〇論文作成にむけての個別指導

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　歴史遺産学演習（1）
第3回　歴史遺産学演習（2）
第4回　歴史遺産学演習（3）
第5回　歴史遺産学演習（4）
第6回　学外授業
第7回　歴史遺産学演習（5）
第8回　歴史遺産学演習（6）
第9回　歴史遺産学演習（7）
第10回　歴史遺産学演習（8）
第11回　学外授業
第12回　歴史遺産学演習（9）
第13回　歴史遺産学演習（10）
第14回　歴史遺産学演習（11）
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅳ＜＊a＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　巽 淳一郎

テーマ

先行研究を踏まえ、資料を検討し独創的な卒業論文に仕上げる。

授業の到達目標

全員卒論提出。

授業の概要

前半はゼミ発表、後半は卒論の個別指導。

準備学習（予習・復習）

就職活動と卒業論文作成を両立できるよう計画的に取り組むことが肝要である。

内　容

第1回　研究経過報告、卒論中間発表資料の作成。
第2回　研究経過報告、卒論中間発表資料の作成。
第3回　研究経過報告、卒論中間発表資料の作成。
第4回　卒論中間発表。
第5回　卒論中間発表。
第6回　卒論個別指導。
第7回　卒論個別指導。
第8回　卒論個別指導。
第9回　卒論個別指導
第10回　卒論個別指導。
第11回　卒論上梓提出。
第12回　各自による論文解題。
第13回　各自による論文解題。
第14回　各自による論文解題。口頭試問。
第15回　各自による論文解題。口頭試問。

履修上の注意点

無断欠席しないでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ 60 ）
参加度 （ 30 ）

発表レジュメの内容、発表の仕方・工夫、司会役進行様子等を総合的に判断して評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅳ＜＊b＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　　登谷　伸宏

テーマ

歴史遺産学研究の実践

授業の到達目標

卒業論文を作成するため、以下の作業を行う。①論文の執筆②史料の収集と読解

授業の概要

各自が、それぞれの卒業論文に関する研究報告を行う。それをもとに参加者で討論する。なお、必要に応じて学外授業を行うことがある。

準備学習（予習・復習）

研究報告に用いるレジュメを必ず作成すること。

内　　容

第1回　卒業論文中間発表に向けた準備①
第2回　卒業論文中間発表に向けた準備②
第3回　卒業論文に関する研究報告①
第4回　卒業論文に関する研究報告②
第5回　卒業論文に関する研究報告③
第6回　卒業論文に関する研究報告④
第7回　卒業論文に関する研究報告⑤
第8回　卒業論文に関する研究報告⑥
第9回　卒業論文に関する研究報告⑦
第10回　卒業論文に関する編集作業①
第11回　卒業論文に関する編集作業②
第12回　卒業論文に関する編集作業③
第13回　卒業論文に関する編集作業④
第14回　卒業論文の講評①
第15回　卒業論文の講評②

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）

参加度　（ 50 ）

卒業論文の執筆を積極的に進めて欲しい。

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅳ＜＊c＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　小林　裕子

テーマ

卒業論文執筆指導

授業の到達目標

先行研究を整理し、問題点を解決すべく自らの見解をまとめて論理を構築する論文執筆を目指す。

授業の概要

すでに作成した論文構成に沿った中間発表リハーサルによりプレゼン能力を養う。また、個別指導とグループ指導を組み合わせて緻密な論文に仕上げていく。なお、必要に応じて学外授業を実施する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　中間発表リハーサル①
第2回　中間発表リハーサル②
第3回　中間発表リハーサル③
第4回　学外授業
第5回　グループ指導①
第6回　グループ指導②
第7回　個別論文指導①
第8回　個別論文指導②
第9回　個別論文指導③
第10回　個別論文指導④
第11回　個別論文指導⑤
第12回　レイアウトの基本〈図版画像処理〉
第13回　レイアウトの基本〈版面作成〉
第14回　卒論提出
第15回　講評

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 70 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史遺産学演習Ⅳ＜＊d＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　有坂　道子

テーマ

卒業論文作成にむけて

授業の到達目標

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。 〇テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。 〇文献・資料検索についての具体的指導。 〇順次各自の研究テーマについて発表させる。 〇中間発表にむけての指導。 〇中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。 〇論文作成にむけての個別指導

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　歴史遺産学演習（1）
第3回　歴史遺産学演習（2）
第4回　歴史遺産学演習（3）
第5回　歴史遺産学演習（4）
第6回　学外授業
第7回　歴史遺産学演習（5）
第8回　歴史遺産学演習（6）
第9回　歴史遺産学演習（7）
第10回　歴史遺産学演習（8）
第11回　学外授業
第12回　歴史遺産学演習（9）
第13回　歴史遺産学演習（10）
第14回　歴史遺産学演習（11）
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ ＜＊A＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　芦名　猛夫	

テーマ

ゼミでの話し合いや様々な活動を通じて、一人ひとりが大学で学ぶ目的や将来の希望をを深めるとともに、学ぶために必要な基本的なスキルを獲得する。

授業の到達目標

この授業の目標は第一に、これまでの受験勉強という受動的な学習から積極的・主体的な学習へと一人ひとりの姿勢の転換を促すことにある。第二に、大学で学ぶために必要なスタディ・スキルを身につけることである。第三に、コース選択に向けて各自の考えを深めることである。

授業の概要

授業では教育や保育に関わる様々な話題や社会の出来事なども取り入れながら、それについて一人ひとりが調べ、考え、話し合うことを中心に進める。その中で、大学での学びの基礎として必要なスキルを身につける。図書館やインターネットを通じた情報検索の方法の理解、新聞や書籍を読む習慣の形成、議論やプレゼンテーションのスキルの理解などを重視する。またコース選択に向けて、教師と保育士の仕事について卒業生から話を聞く取り組みや、様々な疑問を出し合い調べることなどにも取り組む。

準備学習（予習・復習）

常に社会の出来事や教育や保育の現状について関心を持ち、新聞にも目を通す。またゼミのあとで振り返り、自分の考えをまとめる。

内　　容

第1回　★（前半合同）学科教員紹介　クラス自治組織を考える
第2回　プレゼンテーション：自己紹介／私のふるさと
第3回　図書館の利用方法・文献の探し方
第4回　★（合同）オリターによるチビッコランド紹介
第5回　本の読み方：図書館で調べた文献の要約
第6回　★（合同）保育士や教師として働く先輩から聴く
第7回　新聞をどう読むか　メディアリテラシーを考える
第8回　文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える①
第9回　教育・保育の素朴な疑問を出し合う
第10回　教育・保育について調べたことの発表
第11回　文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える②
第12回　討論のスキルを学ぶ
第13回　活動を企画する
第14回　仲間と協力して活動を創る
第15回　学びを振り返る

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ ＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　三上　周治	

テーマ

ゼミでの話し合いや様々な活動を通じて、一人ひとりが大学で学ぶ目的や将来の希望をを深めるとともに、学ぶために必要な基本的なスキルを獲得する。

授業の到達目標

この授業の目標は第一に、これまでの受験勉強という受動的な学習から積極的・主体的な学習へと一人ひとりの姿勢の転換を促すことにある。第二に、大学で学ぶために必要なスタディ・スキルを身につけることである。第三に、コース選択に向けて各自の考えを深めることである。

授業の概要

授業では教育や保育に関わる様々な話題や社会の出来事なども取り入れながら、それについて一人ひとりが調べ、考え、話し合うことを中心に進める。その中で、大学での学びの基礎として必要なスキルを身につける。図書館やインターネットを通じた情報検索の方法の理解、新聞や書籍を読む習慣の形成、議論やプレゼンテーションのスキルの理解などを重視する。またコース選択に向けて、教師と保育士の仕事について卒業生から話を聞く取り組みや、様々な疑問を出し合い調べることなどにも取り組む。

準備学習（予習・復習）

常に社会の出来事や教育や保育の現状について関心を持ち、新聞にも目を通す。またゼミのあとで振り返り、自分の考えをまとめる。

内　容

第1回　★（前半合同）学科教員紹介　クラス自治組織を考える
第2回　プレゼンテーション：自己紹介／私のふるさと
第3回　図書館の利用方法・文献の探し方
第4回　★（合同）オリターによるチビッコランド紹介
第5回　本の読み方：図書館で調べた文献の要約
第6回　★（合同）保育士や教師として働く先輩から聴く
第7回　新聞をどう読むか　メディアリテラシーを考える
第8回　文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える①
第9回　教育・保育の素朴な疑問を出し合う
第10回　教育・保育について調べたことの発表
第11回　文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える②
第12回　討論のスキルを学ぶ
第13回　活動を企画する
第14回　仲間と協力して活動を創る
第15回　学びを振り返る

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ ＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　神谷　栄司	

テーマ

ゼミでの話し合いや様々な活動を通じて、一人ひとりが大学で学ぶ目的や将来の希望をを深めるとともに、学ぶために必要な基本的なスキルを獲得する。

授業の到達目標

この授業の目標は第一に、これまでの受験勉強という受動的な学習から積極的・主体的な学習へと一人ひとりの姿勢の転換を促すことにある。第二に、大学で学ぶために必要なスタディ・スキルを身につけることである。第三に、コース選択に向けて各自の考えを深めることである。

授業の概要

授業では教育や保育に関わる様々な話題や社会の出来事なども取り入れながら、それについて一人ひとりが調べ、考え、話し合うことを中心に進める。その中で、大学での学びの基礎として必要なスキルを身につける。図書館やインターネットを通じた情報検索の方法の理解、新聞や書籍を読む習慣の形成、議論やプレゼンテーションのスキルの理解などを重視する。またコース選択に向けて、教師と保育士の仕事について卒業生から話を聞く取り組みや、様々な疑問を出し合い調べることなどにも取り組む。

準備学習（予習・復習）

常に社会の出来事や教育や保育の現状について関心を持ち、新聞にも目を通す。またゼミのあとで振り返り、自分の考えをまとめる。

内　　容

第3回　図書館の利用方法・文献の探し方
第4回　★（合同）オリターによるチビッコランド紹介
第5回　本の読み方：図書館で調べた文献の要約
第6回　★（合同）保育士や教師として働く先輩から聴く
第7回　新聞をどう読むか　メディアリテラシーを考える
第8回　文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える①
第9回　教育・保育の素朴な疑問を出し合う
第10回　教育・保育について調べたことの発表
第11回　文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える②
第12回　討論のスキルを学ぶ
第13回　活動を企画する
第14回　仲間と協力して活動を創る
第15回　学びを振り返る
第1回　★（前半合同）学科教員紹介　クラス自治組織を考える
第2回　プレゼンテーション：自己紹介／私のふるさと

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ ＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　森本　美絵	

テーマ

ゼミでの話し合いや様々な活動を通じて、一人ひとりが大学で学ぶ目的や将来の希望をを深めるとともに、学ぶために必要な基本的なスキルを獲得する。

授業の到達目標

この授業の目標は第一に、これまでの受験勉強という受動的な学習から積極的・主体的な学習へと一人ひとりの姿勢の転換を促すことにある。第二に、大学で学ぶために必要なスタディ・スキルを身につけることである。第三に、コース選択に向けて各自の考えを深めることである。

授業の概要

授業では教育や保育に関わる様々な話題や社会の出来事なども取り入れながら、それについて一人ひとりが調べ、考え、話し合うことを中心に進める。その中で、大学での学びの基礎として必要なスキルを身につける。図書館やインターネットを通じた情報検索の方法の理解、新聞や書籍を読む習慣の形成、議論やプレゼンテーションのスキルの理解などを重視する。またコース選択に向けて、教師と保育士の仕事について卒業生から話を聞く取り組みや、様々な疑問を出し合い調べることなどにも取り組む。

準備学習（予習・復習）

常に社会の出来事や教育や保育の現状について関心を持ち、新聞にも目を通す。またゼミのあとで振り返り、自分の考えをまとめる。

内　容

第1回　★（前半合同）学科教員紹介　クラス自治組織を考える
第2回　プレゼンテーション：自己紹介／私のふるさと
第3回　図書館の利用方法・文献の探し方
第4回　★（合同）オリターによるチビッコランド紹介
第5回　本の読み方：図書館で調べた文献の要約
第6回　★（合同）保育士や教師として働く先輩から聴く
第7回　新聞をどう読むか　メディアリテラシーを考える
第8回　文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える①
第9回　教育・保育の素朴な疑問を出し合う
第10回　教育・保育について調べたことの発表
第11回　文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える②
第12回　討論のスキルを学ぶ
第13回　活動を企画する
第14回　仲間と協力して活動を創る
第15回　学びを振り返る

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ ＜＊E＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　小寺　隆幸	

テーマ

ゼミでの話し合いや様々な活動を通じて、一人ひとりが大学で学ぶ目的や将来の希望をを深めるとともに、学ぶために必要な基本的なスキルを獲得する。

授業の到達目標

この授業の目標は第一に、これまでの受験勉強という受動的な学習から積極的・主体的な学習へと一人ひとりの姿勢の転換を促すことにある。第二に、大学で学ぶために必要なスタディ・スキルを身につけることである。第三に、コース選択に向けて各自の考えを深めることである。

授業の概要

授業では教育や保育に関わる様々な話題や社会の出来事なども取り入れながら、それについて一人ひとりが調べ、考え、話し合うことを中心に進める。その中で、大学での学びの基礎として必要なスキルを身につける。図書館やインターネットを通じた情報検索の方法の理解、新聞や書籍を読む習慣の形成、議論やプレゼンテーションのスキルの理解などを重視する。またコース選択に向けて、教師と保育士の仕事について卒業生から話を聞く取り組みや、様々な疑問を出し合い調べることなどにも取り組む。

準備学習（予習・復習）

常に社会の出来事や教育や保育の現状について関心を持ち、新聞にも目を通す。またゼミのあとで振り返り、自分の考えをまとめる。

内　容

第1回　★（前半合同）学科教員紹介　クラス自治組織を考える
第2回　プレゼンテーション：自己紹介／私のふるさと
第3回　図書館の利用方法・文献の探し方
第4回　★（合同）オリターによるチビッコランド紹介
第5回　本の読み方：図書館で調べた文献の要約
第6回　★（合同）保育士や教師として働く先輩から聴く
第7回　新聞をどう読むか　メディアリテラシーを考える
第8回　文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える①
第9回　教育・保育の素朴な疑問を出し合う
第10回　教育・保育について調べたことの発表
第11回　文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える②
第12回　討論のスキルを学ぶ
第13回　活動を企画する
第14回　仲間と協力して活動を創る
第15回　学びを振り返る

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ ＜＊F＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　青木　美智子	

テーマ

ゼミでの話し合いや様々な活動を通じて、一人ひとりが大学で学ぶ目的や将来の希望をを深めるとともに、学ぶために必要な基本的なスキルを獲得する。

授業の到達目標

この授業の目標は第一に、これまでの受験勉強という受動的な学習から積極的・主体的な学習へと一人ひとりの姿勢の転換を促すことにある。第二に、大学で学ぶために必要なスタディ・スキルを身につけることである。第三に、コース選択に向けて各自の考えを深めることである。

授業の概要

授業では教育や保育に関わる様々な話題や社会の出来事なども取り入れながら、それについて一人ひとりが調べ、考え、話し合うことを中心に進める。その中で、大学での学びの基礎として必要なスキルを身につける。図書館やインターネットを通じた情報検索の方法の理解、新聞や書籍を読む習慣の形成、議論やプレゼンテーションのスキルの理解などを重視する。またコース選択に向けて、教師と保育士の仕事について卒業生から話を聞く取り組みや、様々な疑問を出し合い調べることなどにも取り組む。

準備学習（予習・復習）

常に社会の出来事や教育や保育の現状について関心を持ち、新聞にも目を通す。またゼミのあとで振り返り、自分の考えをまとめる。

内　　容

第1回　★（前半合同）学科教員紹介　クラス自治組織を考える
第2回　プレゼンテーション：自己紹介／私のふるさと
第3回　図書館の利用方法・文献の探し方
第4回　★（合同）オリターによるチビッコランド紹介
第5回　本の読み方：図書館で調べた文献の要約
第6回　★（合同）保育士や教師として働く先輩から聴く
第7回　新聞をどう読むか　メディアリテラシーを考える
第8回　文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える①
第9回　教育・保育の素朴な疑問を出し合う
第10回　教育・保育について調べたことの発表
第11回　文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える②
第12回　討論のスキルを学ぶ
第13回　活動を企画する
第14回　仲間と協力して活動を創る
第15回　学びを振り返る

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ ＜＊G＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　長橋　聡	

テーマ

ゼミでの話し合いや様々な活動を通じて、一人ひとりが大学で学ぶ目的や将来の希望をを深めるとともに、学ぶために必要な基本的なスキルを獲得する。

授業の到達目標

この授業の目標は第一に、これまでの受験勉強という受動的な学習から積極的・主体的な学習へと一人ひとりの姿勢の転換を促すことにある。第二に、大学で学ぶために必要なスタディ・スキルを身につけることである。第三に、コース選択に向けて各自の考えを深めることである。

授業の概要

授業では教育や保育に関わる様々な話題や社会の出来事なども取り入れながら、それについて一人ひとりが調べ、考え、話し合うことを中心に進める。その中で、大学での学びの基礎として必要なスキルを身につける。図書館やインターネットを通じた情報検索の方法の理解、新聞や書籍を読む習慣の形成、議論やプレゼンテーションのスキルの理解などを重視する。またコース選択に向けて、教師と保育士の仕事について卒業生から話を聞く取り組みや、様々な疑問を出し合い調べることなどにも取り組む。

準備学習（予習・復習）

常に社会の出来事や教育や保育の現状について関心を持ち、新聞にも目を通す。またゼミのあとで振り返り、自分の考えをまとめる。

内　　容

第1回　★（前半合同）学科教員紹介　クラス自治組織を考える
第2回　プレゼンテーション：自己紹介／私のふるさと
第3回　図書館の利用方法・文献の探し方
第4回　★（合同）オリターによるチビッコランド紹介
第5回　本の読み方：図書館で調べた文献の要約
第6回　★（合同）保育士や教師として働く先輩から聴く
第7回　新聞をどう読むか　メディアリテラシーを考える
第8回　文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える①
第9回　教育・保育の素朴な疑問を出し合う
第10回　教育・保育について調べたことの発表
第11回　文化活動を通した子どもとのふれあいの企画を考える②
第12回　討論のスキルを学ぶ
第13回　活動を企画する
第14回　仲間と協力して活動を創る
第15回　学びを振り返る

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ ＜＊A＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　芦名　猛夫

テーマ

教育や保育への関心を深め積極的に書物・新聞・映像などを通して自分の考えを深めるとともに、子どもと関わる活動を行い実践的にも学んでいく。

授業の到達目標

教育や保育に関わることや社会の問題に関心を持ち、それに対する自分の考えを創るためにより深く学ぼうとする姿勢を育てる。また実際に子供と関わる中で、必要なスキルなどを実践的に考えていく。

授業の概要

ゼミごとに教育・保育に関わる文献を選び、それをじっくり読み合う中で、内容を要約する力、批判的に吟味する力を育む。またちびっこランドでの子どもとの関わりや子供の文化を考える取り組みを通して、教育・保育への関心を深める。

準備学習（予習・復習）

新聞や本を積極的に読み、教育・保育・社会への関心を深める。ゼミの後で、考えたことを振りかえりまとめる。

内　容

第1回　夏の体験交流　後期の課題を考える
第2回　ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画①
第3回　ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画②
第4回　ちびっこランドでの子どもとのふれあいを振り返る
第5回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　①
第6回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　②
第7回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　③
第8回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　④
第9回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　⑤
第10回　メディアリテラシーについて考える
第11回　教育・保育・社会の問題について調べ、自分の考えを深める
第12回　考えたことを発表し合い議論する
第13回　★（合同）人形劇鑑賞とワークショップ
第14回　2回生になるにあたっての決意や不安を話し合う
第15回　この一年の学びについて振り返る

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ ＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　池田 修	

テーマ

教育や保育への関心を深め積極的に書物・新聞・映像などを通して自分の考えを深めるとともに、子どもと関わる活動を行い実践的にも学んでいく。

授業の到達目標

教育や保育に関わることや社会の問題に関心を持ち、それに対する自分の考えを創るためにより深く学ぼうとする姿勢を育てる。また実際に子供と関わる中で、必要なスキルなどを実践的に考えていく。

授業の概要

ゼミごとに教育・保育に関わる文献を選び、それをじっくり読み合う中で、内容を要約する力、批判的に吟味する力を育む。またちびっこランドでの子どもとの関わりや子供の文化を考える取り組みを通して、教育・保育への関心を深める。

準備学習（予習・復習）

新聞や本を積極的に読み、教育・保育・社会への関心を深める。ゼミの後で、考えたことを振りかえりまとめる。

内　容

第1回　夏の体験交流　後期の課題を考える
第2回　ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画①
第3回　ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画②
第4回　ちびっこランドでの子どもとのふれあいを振り返る
第5回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　①
第6回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　②
第7回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　③
第8回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　④
第9回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　⑤
第10回　メディアリテラシーについて考える
第11回　教育・保育・社会の問題について調べ、自分の考えを深める
第12回　考えたことを発表し合い議論する
第13回　★（合同）人形劇鑑賞とワークショップ
第14回　2回生になるにあたっての決意や不安を話し合う
第15回　この一年の学びについて振り返る

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ ＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　神谷　栄司	

テーマ

教育や保育への関心を深め積極的に書物・新聞・映像などを通して自分の考えを深めるとともに、子どもと関わる活動を行い実践的にも学んでいく。

授業の到達目標

教育や保育に関わることや社会の問題に関心を持ち、それに対する自分の考えを創るためにより深く学ぼうとする姿勢を育てる。また実際に子供と関わる中で、必要なスキルなどを実践的に考えていく。

授業の概要

ゼミごとに教育・保育に関わる文献を選び、それをじっくり読み合う中で、内容を要約する力、批判的に吟味する力を育む。またちびっこランドでの子どもとの関わりや子供の文化を考える取り組みを通して、教育・保育への関心を深める。

準備学習（予習・復習）

新聞や本を積極的に読み、教育・保育・社会への関心を深める。ゼミの後で、考えたことを振りかえりまとめる。

内　容

第6回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって ②
第7回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって ③
第8回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって ④
第9回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって ⑤
第10回　メディアリテラシーについて考える
第11回　教育・保育・社会の問題について調べ、自分の考えを深める
第12回　考えたことを発表し合い議論する
第13回　★（合同）人形劇鑑賞とワークショップ
第14回　2回生になるにあたっての決意や不安を話し合う
第15回　この一年の学びについて振り返る
第1回　夏の体験交流　後期の課題を考える
第2回　ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画①
第3回　ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画②
第4回　ちびっこランドでの子どもとのふれあいを振り返る
第5回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって ①

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 50 ）	授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ ＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

教育や保育への関心を深め積極的に書物・新聞・映像などを通して自分の考えを深めるとともに、子どもと関わる活動を行い実践的にも学んでいく。

授業の到達目標

教育や保育に関わることや社会の問題に関心を持ち、それに対する自分の考えを創るためにより深く学ぼうとする姿勢を育てる。また実際に子供と関わる中で、必要なスキルなどを実践的に考えていく。

授業の概要

ゼミごとに教育・保育に関わる文献を選び、それをじっくり読み合う中で、内容を要約する力、批判的に吟味する力を育む。またちびっこランドでの子どもとの関わりや子供の文化を考える取り組みを通して、教育・保育への関心を深める。

準備学習（予習・復習）

新聞や本を積極的に読み、教育・保育・社会への関心を深める。ゼミの後で、考えたことを振りかえりまとめる。

内　　容

第1回　夏の体験交流　後期の課題を考える
第2回　ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画①
第3回　ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画②
第4回　ちびっこランドでの子どもとのふれあいを振り返る
第5回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　①
第6回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　②
第7回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　③
第8回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　④
第9回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　⑤
第10回　メディアリテラシーについて考える
第11回　教育・保育・社会の問題について調べ、自分の考えを深める
第12回　考えたことを発表し合い議論する
第13回　★（合同）人形劇鑑賞とワークショップ
第14回　2回生になるにあたっての決意や不安を話し合う
第15回　この一年の学びについて振り返る

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ ＜＊E＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　小寺　隆幸

テーマ

教育や保育への関心を深め積極的に書物・新聞・映像などを通して自分の考えを深めるとともに、子どもと関わる活動を行い実践的にも学んでいく。

授業の到達目標

教育や保育に関わることや社会の問題に関心を持ち、それに対する自分の考えを創るためにより深く学ぼうとする姿勢を育てる。また実際に子供と関わる中で、必要なスキルなどを実践的に考えていく。

授業の概要

ゼミごとに教育・保育に関わる文献を選び、それをじっくり読み合う中で、内容を要約する力、批判的に吟味する力を育む。またちびっこランドでの子どもとの関わりや子供の文化を考える取り組みを通して、教育・保育への関心を深める。

準備学習（予習・復習）

新聞や本を積極的に読み、教育・保育・社会への関心を深める。ゼミの後で、考えたことを振りかえりまとめる。

内　容

第1回　夏の体験交流　後期の課題を考える
第2回　ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画①
第3回　ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画②
第4回　ちびっこランドでの子どもとのふれあいを振り返る
第5回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　①
第6回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　②
第7回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　③
第8回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　④
第9回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　⑤
第10回　メディアリテラシーについて考える
第11回　教育・保育・社会の問題について調べ、自分の考えを深める
第12回　考えたことを発表し合い議論する
第13回　★（合同）人形劇鑑賞とワークショップ
第14回　2回生になるにあたっての決意や不安を話し合う
第15回　この一年の学びについて振り返る

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ ＜＊F＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　青木　美智子

テーマ

教育や保育への関心を深め積極的に書物・新聞・映像などを通して自分の考えを深めるとともに、子どもと関わる活動を行い実践的にも学んでいく。

授業の到達目標

教育や保育に関わることや社会の問題に関心を持ち、それに対する自分の考えを創るためにより深く学ぼうとする姿勢を育てる。また実際に子供と関わる中で、必要なスキルなどを実践的に考えていく。

授業の概要

ゼミごとに教育・保育に関わる文献を選び、それをじっくり読み合う中で、内容を要約する力、批判的に吟味する力を育む。またちびっこランドでの子どもとの関わりや子供の文化を考える取り組みを通して、教育・保育への関心を深める。

準備学習（予習・復習）

新聞や本を積極的に読み、教育・保育・社会への関心を深める。ゼミの後で、考えたことを振りかえりまとめる。

内　容

第1回　夏の体験交流　後期の課題を考える
第2回　ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画①
第3回　ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画②
第4回　ちびっこランドでの子どもとのふれあいを振り返る
第5回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　①
第6回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　②
第7回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　③
第8回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　④
第9回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　⑤
第10回　メディアリテラシーについて考える
第11回　教育・保育・社会の問題について調べ、自分の考えを深める
第12回　考えたことを発表し合い議論する
第13回　★（合同）人形劇鑑賞とワークショップ
第14回　2回生になるにあたっての決意や不安を話し合う
第15回　この一年の学びについて振り返る

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ ＜＊G＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　長橋 聡

テーマ

教育や保育への関心を深め積極的に書物・新聞・映像などを通して自分の考えを深めるとともに、子どもと関わる活動を行い実践的にも学んでいく。

授業の到達目標

教育や保育に関わることや社会の問題に関心を持ち、それに対する自分の考えを創るためにより深く学ぼうとする姿勢を育てる。また実際に子供と関わる中で、必要なスキルなどを実践的に考えていく。

授業の概要

ゼミごとに教育・保育に関わる文献を選び、それをじっくり読み合う中で、内容を要約する力、批判的に吟味する力を育む。またちびっこランドでの子どもとの関わりや子供の文化を考える取り組みを通して、教育・保育への関心を深める。

準備学習（予習・復習）

新聞や本を積極的に読み、教育・保育・社会への関心を深める。ゼミの後で、考えたことを振りかえりまとめる。

内　容

第1回　夏の体験交流　後期の課題を考える
第2回　ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画①
第3回　ちびっこランドでの子どもとのふれあいの企画②
第4回　ちびっこランドでの子どもとのふれあいを振り返る
第5回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　①
第6回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　②
第7回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　③
第8回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　④
第9回　文献内容を要約し、論評する；教育・保育に関する論点をめぐって　⑤
第10回　メディアリテラシーについて考える
第11回　教育・保育・社会の問題について調べ、自分の考えを深める
第12回　考えたことを発表し合い議論する
第13回　★（合同）人形劇鑑賞とワークショップ
第14回　2回生になるにあたっての決意や不安を話し合う
第15回　この一年の学びについて振り返る

履修上の注意点

この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育原論(初)**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　八木 英二

テーマ

教育の基本問題と教育改革

授業の到達目標

そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討し、教職科目全体の学習につながるおよそのイメージがつかめるようにすることを目的とする。

授業の概要

そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討する。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　教育の素朴概念
第2回　発達と教育
第3回　教育課程の基本問題
第4回　学習指導要領について
第5回　様々な教育方法
第6回　教科指導の意義
第7回　生活指導実践の意義
第8回　教育の公共性
第9回　進路指導
第10回　高等学校の進路指導
第11回　教育専門職論
第12回　日本の教育制度
第13回　教育改革動向
第14回　教育基本法と学校教育
第15回　教育の国際的合意形成

履修上の注意点

様々な教育書を各自で意欲的に探索し学生同士で論議を深めることを薦めるが、直接に教育と関係のないものでも、価値ある文学書や社会科学書などにたっぷりふれ、人間の理解を深めることを期待する。

教科書

教師の役割変化を問う
著者:　八木英二
出版社:　三学出版
出版年:　2013年　　ISBN:

参考書

講義のなかで紹介
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　(40)　　小テスト　( )
授業中課題　(30)　　授業中発表等　( )
参加度　(30)

2016 Syllabus

科 目 名　**現代と教育**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　岩本　賢治	

テーマ

教師として身につけるべき現代認識

授業の到達目標

私たちはどのような時代を生きているかを同時代史的視点から捉えるとともに、現代社会が取り組むべき教育の課題を考える。また、小学校、幼稚園、保育園、福祉施設の状況を知って、自らの進路を考える資質を養う。

授業の概要

現代認識を身につけるためのテーマとして平和の問題とジェンダーの問題を取り上げる。その上で、現代社会が取り組むべき教育の課題を調べ、発表する。また、小学校、幼稚園、保育園、福祉施設で働く人をゲストティーチャーとして招き講演を組織する。

準備学習（予習・復習）

新聞やテレビで報道される国際情勢や時事問題について関心を持って切り抜きなどを行う。また、講義テーマについての関連図書を読み込むこと。

内　　容

第1回　教育は未来を創造する仕事―21世紀の未来を見通すために20世紀の過去に学ぼう NHK『山田洋次×美輪明宏×二宮和也 未来のために』の視聴と講義
第2回　20世紀がなぜ戦争の世紀といわれるのか―NHK『映像の世紀』から 第1集「20世紀の幕開け」第2集「大量殺戮（りく）の完成」の視聴と講義
第3回　20世紀資本主義の発展が見せた光と影とはなにか 第3集「それはマンハッタンから始まった」第4集「ヒトラーの野望」の視聴と講義
第4回　20世紀最大の悲劇（ナチスによるユダヤ人虐殺、アメリカの原爆投下など）はなぜ起こったか 第5集「世界は地獄を見た」第6集「独立の旗の下に」の視聴と講義
第5回　20世紀新興独立国はどのようにして誕生したかの視聴と講義 第7集「勝者の世界分割」第8集「恐怖の中の平和」
第6回　20世紀末の民族紛争・内戦はなぜ起こったのか 第9集「ベトナムの衝撃」第10集「民族の悲劇果てしなく」の視聴と講
第7回　学校現場から教育を考える①：小学校
第8回　学校現場から教育を考える②：幼稚園
第9回　保育士の仕事を考える
第10回　福祉施設で働くということ
第11回　ジェンダーと教育を考える（1）
第12回　ジェンダーと教育を考える（2）
第13回　課題発表（1）
第14回　課題発表（2）
第15回　課題発表（3）※この授業では必要に応じて講演会を開催することがある。

履修上の注意点

教科書

授業内で配布する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業内で紹介する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト　（ 55 ）
授業中課題　（ 15 ）	授業中発表等　（ 15 ）
参加度　（ 15 ）	

a30101ad10

小テスト　第15回にそれまでの講義の要点を確認する。授業中課題　各授業の最後に短いレポートを書きます。授業中発表等　授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明の内容で評価します。参加度 授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明の積極性で評価します。

2016 Syllabus

科 目 名　**教職入門(初)**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小寺　隆幸	

テーマ

教師の仕事についての認識を深め、教職を志す目的や教師としての責任について考える。

授業の到達目標

今日の教育・学校・子どもをとりまく状況の中で、教師の仕事は何かを考え、教師としての責任と生きがいについて認識を深める。特に学習指導、生活指導、学校つくりについて、基本的な点を理解する。さらに現在の教育課題を自分自身が主体的に考える姿勢を育てる。

授業の概要

具体的な事例をもとに講義する。一方的な講義だけではなく、参加者相互が学び合える授業とするために、授業の感想やレポートを全員に還元することなどに取り組む。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　教育をとりまく状況と今日の教育課題
第2回　教師に期待されること、教師としての生き方、教師の日常
第3回　学習指導の歴史的な変遷と、現代に求められる学力
第4回　小学校での授業創りの実際(算数を例に考える)
第5回　少人数指導・習熟度別指導を巡って
第6回　子どもたちの現状と生活指導の課題
第7回　いじめや不登校にどう取り組むか
第8回　学級作りの取り組み
第9回　総合的な学習の時間の意義と実際
第10回　特別支援教育について(ADHDなどの子どもたちの指導について)
第11回　評価についての様々な考え方と実際
第12回　保護者・地域との連携をどうつくるか
第13回　教師としての研修、教師の権利と責任、教師の身分保障、教師を巡る法的問題
第14回　教師の生き方
第15回　授業のまとめ※この授業では必要に応じて講演会を開催することがある。

履修上の注意点

教育の理念を深く掘り下げるために、古典とされる書物、あるいは現在の優れた実践記録などを読む。教育を巡る様々なできごとや教育改革の報道に注目し、自分が教師であればどのように考え対処するか、という問題意識を常に持つ。

教科書

新しい時代の教職入門改訂版
著者:
出版社: 有斐閣アルマ
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に指示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 ( )	小テスト (30)
授業中課題 (50)	授業中発表等 ( )
参加度 (20)	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育心理学（初）**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　南 憲治

テーマ

子どもの発達と教育

授業の到達目標

教育心理学の基礎概念の習得を通じて、子どもの発達と教育のかかわりについての理解を深める。具体的には、「発達理論」、「学習理論」、「人格理論」、「教育評価理論」等の柱を立てて、そこでの基礎概念の習得を通じて、子どもに対する指導や援助の基本的な視点を得ることができるようにすること。

授業の概要

教育現場の様々な問題を取り上げ、その背後にある課題を心理学的に考察する

準備学習（予習・復習）

予習の必要はないが、教科書と配布資料を基に、講義内容を自分で整理して下さい。

内　容

第1回　教育心理学とは、本講義が目指すもの
第2回　系統発生と個体発生、子どもの発達にとって必要な基本条件
第3回　発達の原理と発達段階
第4回　ピアジェの発生的認識論とヴィゴツキーの社会文化的発達論
第5回　学習の原理と学習理論、行動主義とゲシュタルト学説
第6回　忘却の原理と忘却理論
第7回　学習動機とその発達（障がいのある児童の学習課程を含む）
第8回　人格の構造と人格理論（障がいのある児童の発達を含む）
第9回　欲求の階層構造と人格発達
第10回　子どもの行動と防衛機制
第11回　教育評価とは、指導と評価
第12回　絶対評価、相対評価、到達度評価
第13回　関心・意欲・態度と教育評価
第14回　発達障害
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

授業は包括的、概論的なものとなるため、それを補う意味で、各柱立てに沿ってのレポート（計４回、各1200字程度）を求める。その際、提示された参考文献を必ず参照することを求める。

教科書

たのしく学べる最新教育心理学
著者：　桜井茂男（編）
出版社：図書文化
出版年：2004　　ISBN：　9784810034196

参考書

授業中に指示する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 70 ）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（　）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**自然科学概論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮下　ゆたか	

テーマ

21世紀を生きる市民に求められる「科学的自然観」、「自然科学と社会との正しい関わり方」などについて具体的事例を通して学ぶ。

授業の到達目標

①「自然の階層性・歴史性」について具体的事例を通して学び、「科学的自然観とは」について考察する。②天動説から地動説への変遷の歴史をとおして、「自然科学とは」「科学的なものの見方とは」について考察する。③いまだに収束していない2011.3.11福島第一原発事故問題をとおして、「原発・エネルギー問題」、「自然科学と社会との正しい関わり方」について自分の意見が持てることをめざす。

授業の概要

「科学的な自然観とは」、「科学的なものの見方とは」、「自然科学と社会との正しい関わり方とは」などについてグループ討論、ミニプレゼンも取り入れて学習を深める。

準備学習（予習・復習）

授業で疑問に感じた事や興味を持った内容などについて、自分でインターネットなどで調べる姿勢を身に着けたい。

内　　容

第1回　自然科学概論オリエンテーション(講義内容・進め方、班編成、アンケートなど)
第2回　「自然の階層性（1）」:原子のミクロな世界から宇宙のマクロな世界まで、各階層を貫く法則性について学習する。
第3回　「自然の階層性（2）」:光と電子の振る舞いを中心に、量子の世界について学習する。
第4回　「自然の歴史性（1）」:宇宙の進化と星の一生について学習する。
第5回　「自然の歴史性（2）」:太陽、地球はどのようにして生まれ、進化してきたのかについて学習する。
第6回　「自然の歴史性（3）」:最初の生命体は地球上でどのようにして誕生し、進化してきたのかについて学習する。
第7回　「自然科学の起源」:自然科学誕生の歴史について学習する。
第8回　「自然科学とは、科学的なものの見方とは（1）」:天動説から地動説への変遷の歴史について学習する。
第9回　「自然科学とは、科学的なものの見方とは（2）」:「近代科学の父　ガリレオ」の科学的業績と生き方について学習する。
第10回　ミニプレゼンのガイダンスと準備　1
第11回　ミニプレゼンのガイダンスと準備　2
第12回　「原発・放射能問題（1）」:ミニ・プレゼン1
第13回　「原発・放射能問題（2）」:ミニ・プレゼン2
第14回　「原発・エネルギー問題　どう考えるか」補足説明
第15回　自然科学概論　ふりかえりとまとめ

履修上の注意点

①15回の講義のうち、10回以上出席すること。6回以上欠席した場合は単位は認められない。②出席カードによる確認と、その日の講義の「課題作文」提出とで出席となる。③「介護等体験」「保育実習」などカリキュラム上の講義の欠席のみ「公欠」とみなす。就職活動を理由にする欠席は「公欠」としないので回数に注意して就職活動をすること。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**音楽概論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　佐野 仁美	

テーマ

社会的背景や他の芸術との関わりから音楽の歴史を辿る。

授業の到達目標

1)西洋音楽や日本音楽についての基礎的な知識を習得し、音楽表現への理解を深める。2)音楽の特徴を自らの言葉で語れるようになることを目指す。

授業の概要

社会的背景や他の芸術との関わりという視点から西洋音楽や日本音楽の歴史を概説し、様々な音楽や総合芸術作品を鑑賞する。

準備学習（予習・復習）

予習：教科書をはじめ、音楽に関連する本や雑誌を読んでおく。復習：授業で取り上げた時代の音楽の特徴をまとめ、授業で触れた作品を聴く。

内　容

第1回　人間と音楽：音楽を考える視点、ワールドミュージック
第2回　西洋音楽：古代ギリシャ、中世の音楽
第3回　西洋音楽：ルネサンス音楽
第4回　西洋音楽：バロック音楽
第5回　西洋音楽：古典派の音楽
第6回　西洋音楽：ロマン派の音楽
第7回　西洋音楽：国民楽派の音楽
第8回　西洋音楽：近代・現代の音楽
第9回　ポピュラー音楽
第10回　日本の音楽：古代から中世へ
第11回　日本の音楽：能と狂言
第12回　日本の音楽：近世の音楽
第13回　総合芸術：音楽と舞踊
第14回　総合芸術：劇の音楽
第15回　まとめと理解度調査

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。遅刻や早退をしないように。音楽鑑賞を中心とする科目なので、私語は厳禁する。

教科書

西洋音楽史
著者：　岡田暁生
出版社：放送大学教育振興会
出版年：2013年　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 10 ）
各回に小レポートを課す。

2016 Syllabus

科 目 名　**美術概論**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　大久保 恭子

テーマ

芸術と人間、芸術と社会・文化との関連について理解する。

授業の到達目標

1）芸術作品の分析を通して個々の作品の意味内容を理解する。2）芸術作品を構成する造型言語に親しみ理解する。3）芸術作品に意味を与える文化の構造とそれを支える概念の理解に至る。4）作品の理解に際しては、受身で話を聞くのではなく自ら思考してその理解を確かなものとする。

授業の概要

パワーポイントを用いて具体的作例を呈示する。まずは作品に関する基本的なデータを解説し、次いで適宜問題を提起する。それを受けて受講生は思考し互いに意見交換をして解答を出す。その解答をもとに授業を進める。このQ&A方式によって受講生の積極的な授業への参加を求める。

準備学習（予習・復習）

1）展覧会なども含めて美術作品の鑑賞の機会を意識して持つこと。2）受講後速やかに講義内容のノートを作成すること。

内　容

第1回　はじめに
第2回　聖書の中の男性表象①
第3回　聖書の中の男性表象②
第4回　聖書の中の男性表象③
第5回　聖書の中の男性表象④
第6回　聖書の中の男性表象⑤
第7回　聖書の中の女性表象①
第8回　聖書の中の女性表象②
第9回　聖書の中の女性表象③
第10回　聖書の中の女性表象④
第11回　聖書の中の女性表象⑤
第12回　映画の中のジェンダー構造①
第13回　映画の中のジェンダー構造②
第14回　映画の中のジェンダー構造③
第15回　まとめ

履修上の注意点

私語厳禁。場合によっては減点対象となる。座席指定。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**数学概論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小寺　隆幸	

テーマ

算数教育の数学的基礎を学ぶ

授業の到達目標

幼児や小学生に算数を教える上で基本となる数・量・関数・図形・統計などの基本的な知識と考え方を学ぶ。教科教育法（算数）の前段として位置づける。

授業の概要

知識を広く獲得するよりも、重要な子どもの躓きをとりあげ、その中から大事な数学的概念や性質を抽出し理解していく。授業の中で、考えること、発見すること、数学を使うことなどを重視し、グループでの話し合いなども行っていく。

準備学習（予習・復習）

＊宿題を出すのでしっかり取り組むこと。＊授業中に小テストを随時行う。

内　容

第1回　数とは何か　十進位取り記数法の考え方
第2回　加法減法
第3回　乗法
第4回　九九表の分析
第5回　除法
第6回　連続量（小数）
第7回　連続量（分数）
第8回　外延量（長さ、重さ、面積など）
第9回　内包量（密度、濃度、速度など）
第10回　角　対称性
第11回　求積
第12回　算数をどう教えるか（小学校の先生に伺う）
第13回　座標と変換を活用して絵を描く
第14回　比例
第15回　生活の中の算数

履修上の注意点

教科書

入門算数学　第2版
著者：　黒木哲徳
出版社：日本評論社
出版年：　　ISBN：

参考書

算数・数学なぜなぜ事典
著者：　数学教育協議会
出版社：日本評論社
出版年：　　ISBN：

算数・数学なっとく事典
著者：　数学教育協議会
出版社：日本評論社
出版年：　　ISBN：

家庭の算数・数学百科
著者：　数学教育協議会
出版社：日本評論社
出版年：　　ISBN：

a30101d650

数学入門 上

著者: 遠山啓

出版社: 岩波書店

出版年: ISBN:

数学入門 下

著者: 遠山啓

出版社: 岩波書店

出版年: ISBN:

成績評価

試験 ( ) 小テスト (30)

授業中課題 (40) 授業中発表等 (10)

参加度 (20)

2016 Syllabus

科 目 名　**体育概論**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　口野 隆史

テーマ

文化としての体育・スポーツを理解し、その文化の継承・発展・創造を考える

授業の到達目標

現代の体育・スポーツに関する文化的、社会的、歴史的、科学的などの多方面の基礎知識を身に付ける。そして体育・スポーツについて、仲間と共に考えることができる力、体育・スポーツを正しく理解する力を身に付ける。

授業の概要

現代の体育・スポーツに関する文化的、社会的、歴史的、科学的な多方面の基礎知識を学ぶ。疑問の提起（クイズ）、資料、映像、簡単な実技などを通して基礎知識を学ぶ。また、自分たちで体育・スポーツに関するテーマを見付け、グループで共に考え、発表し理解を深める。

準備学習（予習・復習）

1．体育・スポーツとは何か、自分で受けてきた（あるいは受けている）体育・スポーツの授業を振り返り、またクラブやサークルで行っているスポーツ・身体活動を振り返り考えてみましょう。2．新聞やテレビのスポーツ関係の記事や番組を見る時、ひいきのチームや選手の試合結果ばかりではなく、試合の作戦、選手の技術、ファンへのサービス、地域・社会への貢献など、社会的、文化的、歴史的、科学的な背景等々、多くの視点で見てみましょう。

内　容

第1回　オリエンテーション 「投げる」に関する遊びとその動作の習得及び人間の運動発達
第2回　人間の運動発達と現代の子どもの運動能力
第3回　筋肉の構造と筋力の発達や特性
第4回　人間の汗と体温調節のしくみ
第5回　人間の運動学習（わかる・できるようになる）
第6回　眼の仕組みとスポーツにおける眼の役割（スポーツビジョン）
第7回　相撲の歴史と文化（日本のスポーツ・運動文化）
第8回　陸上競技の歴史と文化（世界のスポーツの歴史）
第9回　スポーツの科学、カーブはなぜカーブするのか
第10回　体育とは何か、スポーツとはどうちがうのか。「スポーツ基本法」には何が書いてあるのか
第11回　体育・スポーツに関するグループ別研究発表①
第12回　体育・スポーツに関するグループ別研究発表②
第13回　体育・スポーツに関するグループ別研究発表③
第14回　体育・スポーツに関するグループ別研究発表④
第15回　まとめ

履修上の注意点

毎回配布する資料にある質問（クイズ）をよく考えてみること。その資料を保管しておくこと。教員の話、他の学生の発表をよく聞くこと（私語を慎むこと）。体育・スポーツを様々な視点から考えてみること。

教科書

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 25 ）
参加度 （ 25 ）
しっかり授業に出席し、教員の話、学生の発表をよく聞き理解すること。

2016 Syllabus

科 目 名　**音楽演習Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　佐野 仁美	

テーマ

鍵盤楽器演奏の基礎とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌い

授業の到達目標

1)コードネームを理解し、子どもの歌の伴奏付けができる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。

授業の概要

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3～4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

準備学習（予習・復習）

予習：授業中の課題を各自で必ず予習しておく。分からないところは事前にまとめておいて、授業に臨むこと。復習：指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して身につける。

内　容

第1回　コードネームの復習、視唱、バイエルNo.81、82
第2回　ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.82、85
第3回　子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.88、89
第4回　子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.89、91
第5回　ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、バイエルNo.91、93
第6回　子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.93、94
第7回　子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.94、95
第8回　ヘ長調のコード進行(F、B♭、C、C7)、バイエルNo.95、96
第9回　子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.96、97
第10回　子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.97、98
第11回　ニ長調のコード進行(D、G、A、A7)、バイエルNo.98、99
第12回　子どもの歌の弾き歌い(ニ長調)、バイエルNo.99、100
第13回　子どもの歌の弾き歌い(ニ長調)、バイエルNo.100
第14回　子どもの歌の弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲
第15回　ピアノ実技発表

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。予習、復習が何よりも重要である。

教科書

楽譜をどう表現するか一旋律表現のためのやさしいピアノ曲集
著者：　小畑郁男・佐野仁美編著
出版社：サーベル社
出版年：2014年　　ISBN：

コードでかんたん！子どものうたマイ・レパートリー
著者：　坂井康子他編著
出版社：ヤマハ・ミュージックメディア
出版年：2008年　　ISBN：

参考書

プリントを配布する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 70 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**音楽演習Ⅰ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　佐野　仁美.阿部　真子	

テーマ

鍵盤楽器演奏の基礎とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌い

授業の到達目標

1)コードネームを理解し、子どもの歌の伴奏付けができる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。

授業の概要

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3～4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

準備学習（予習・復習）

予習：授業中の課題を各自で必ず予習しておく。分からないところは事前にまとめておいて、授業に臨むこと。復習：指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して身につける。

内　容

第1回　コードネームの復習、視唱、バイエルNo.81、82
第2回　ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.82、85
第3回　子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.88、89
第4回　子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.89、91
第5回　ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、バイエルNo.91、93
第6回　子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.93、94
第7回　子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.94、95
第8回　ヘ長調のコード進行(F、B♭、C、C7)、バイエルNo.95、96
第9回　子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.96、97
第10回　子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.97、98
第11回　ニ長調のコード進行(D、G、A、A7)、バイエルNo.98、99
第12回　子どもの歌の弾き歌い(ニ長調)、バイエルNo.99、100
第13回　子どもの歌の弾き歌い(ニ長調)、バイエルNo.100
第14回　子どもの歌の弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲
第15回　ピアノ実技発表

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。予習、復習が何よりも重要である。

教科書

楽譜をどう表現するか一旋律表現のためのやさしいピアノ曲集
著者：　小畑郁男・佐野仁美編著
出版社：サーベル社
出版年：2014年　ISBN：
コードでかんたん！子どものうたマイ・レパートリー
著者：　坂井康子他編著
出版社：ヤマハ・ミュージックメディア
出版年：2008年　ISBN：

参考書

プリントを配布する。
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 10 ）　授業中発表等（ 70 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**音楽演習Ⅰ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　佐野　仁美.阿部　真子	

テーマ

鍵盤楽器演奏の基礎とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌い

授業の到達目標

1)コードネームを理解し、子どもの歌の伴奏付けができる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。

授業の概要

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3～4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

準備学習（予習・復習）

予習：授業中の課題を各自で必ず予習しておく。分からないところは事前にまとめておいて、授業に臨むこと。復習：指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して身につける。

内　　容

第14回　子どもの歌の弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲
第15回　ピアノ実技発表
第1回　コードネームの復習、視唱、バイエルNo.81、82
第2回　ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.82、85
第3回　子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.88、89
第4回　子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.89、91
第5回　ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、バイエルNo.91、93
第6回　子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.93、94
第7回　子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.94、95
第8回　ヘ長調のコード進行(F、B♭、C、C7)、バイエルNo.95、96
第9回　子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.96、97
第10回　子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.97、98
第11回　ニ長調のコード進行(D、G、A、A7)、バイエルNo.98、99
第12回　子どもの歌の弾き歌い(ニ長調)、バイエルNo.99、100
第13回　子どもの歌の弾き歌い(ニ長調)、バイエルNo.100

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。予習、復習が何よりも重要である。

教科書

楽譜をどう表現するか一旋律表現のためのやさしいピアノ曲集
著者：　小畑郁男・佐野仁美編著
出版社：サーベル社
出版年：2014年　　ISBN：
コードでかんたん！子どものうたマイ・レパートリー
著者：　坂井康子他編著
出版社：ヤマハ・ミュージックメディア
出版年：2008年　　ISBN：

参考書

プリントを配布する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 70 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**音楽演習Ⅰ <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　佐野　仁美.阿部　真子	

テーマ

鍵盤楽器演奏の基礎とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌い

授業の到達目標

1)コードネームを理解し、子どもの歌の伴奏付けができる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。

授業の概要

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導とコード伴奏による子どもの歌の弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3～4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

準備学習（予習・復習）

予習：授業中の課題を各自で必ず予習しておく。分からないところは事前にまとめておいて、授業に臨むこと。復習：指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して身につける。

内　容

第1回　コードネームの復習、視唱、バイエルNo.81、82
第2回　ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.82、85
第3回　子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.88、89
第4回　子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.89、91
第5回　ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、バイエルNo.91、93
第6回　子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.93、94
第7回　子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、バイエルNo.94、95
第8回　ヘ長調のコード進行(F、B♭、C、C7)、バイエルNo.95、96
第9回　子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.96、97
第10回　子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、バイエルNo.97、98
第11回　ニ長調のコード進行(D、G、A、A7)、バイエルNo.98、99
第12回　子どもの歌の弾き歌い(ニ長調)、バイエルNo.99、100
第13回　子どもの歌の弾き歌い(ニ長調)、バイエルNo.100
第14回　子どもの歌の弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲
第15回　ピアノ実技発表

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。予習、復習が何よりも重要である。

教科書

楽譜をどう表現するか一旋律表現のためのやさしいピアノ曲集
著者：　小畑郁男・佐野仁美編著
出版社：サーベル社
出版年：2014年　ISBN：
コードでかんたん！子どものうたマイ・レパートリー
著者：　坂井康子他編著
出版社：ヤマハ・ミュージックメディア
出版年：2008年　ISBN：

参考書

プリントを配布する。
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 10 ）　授業中発表等（ 70 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**絵画・工芸演習 〈幼A〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　芦田　風馬	

テーマ

小学校図画工作科における絵、立体、工作に表わす活動についての講義及び実習を通して基礎的な知識と技術を学び、図画工作科の魅力を伝えるための実践力を培う。

授業の到達目標

本授業の到達目標は下記の3点である。1. 図画工作における多様な造形活動の意義を理解する。2. 造形活動における様々な道具の使用法を理解する。3. 材料の特質を生かして造形の発想を展開することができる。

授業の概要

描いたり作ったりする活動を行い、ものづくりの楽しさに気づくことで、学習を深め、教える際に必要な知識、技能を身につける。

準備学習（予習・復習）

作品制作の際に、大学が準備する材料だけでなく、使用したいと考える素材、材料を各自で積極的に準備すること。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　「絵に表わす活動」を中心とした課題①
第3回　「絵に表わす活動」を中心とした課題②
第4回　「絵に表わす活動」を中心とした課題③
第5回　「絵に表わす活動」を中心とした課題④
第6回　「立体表わす活動」を中心とした課題①
第7回　「立体表わす活動」を中心とした課題②
第8回　「立体表わす活動」を中心とした課題③
第9回　「立体表わす活動」を中心とした課題④
第10回　「工作表わす活動」を中心とした課題①
第11回　「工作表わす活動」を中心とした課題②
第12回　「工作表わす活動」を中心とした課題③
第13回　「工作表わす活動」を中心とした課題④
第14回　こどもの絵の特徴・傾向について
第15回　作品合評会

履修上の注意点

・欠席が4回以内であること（遅刻は、欠席0. 5回と数える。30分以上の遅刻は欠席. 病気、けが、公式戦、演奏会なども含む。但し、インフルエンザなど「出席停止」状態のときは含まない）。各課題の制作の前に構想などの指示があった場合には必ず準備しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（　）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**絵画・工芸演習 〈幼B〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　芦田　風馬	

テーマ

小学校図画工作科における絵、立体、工作に表わす活動についての講義及び実習を通して基礎的な知識と技術を学び、図画工作科の魅力を伝えるための実践力を培う。

授業の到達目標

本授業の到達目標は下記の3点である。1. 図画工作における多様な造形活動の意義を理解する。2. 造形活動における様々な道具の使用法を理解する。3. 材料の特質を生かして造形の発想を展開することができる。

授業の概要

描いたり作ったりする活動を行い、ものづくりの楽しさに気づくことで、学習を深め、教える際に必要な知識、技能を身につける。

準備学習（予習・復習）

作品制作の際に、大学が準備する材料だけでなく、使用したいと考える素材、材料を各自で積極的に準備すること。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　「絵に表わす活動」を中心とした課題①
第3回　「絵に表わす活動」を中心とした課題②
第4回　「絵に表わす活動」を中心とした課題③
第5回　「絵に表わす活動」を中心とした課題④
第6回　「立体表わす活動」を中心とした課題①
第7回　「立体表わす活動」を中心とした課題②
第8回　「立体表わす活動」を中心とした課題③
第9回　「立体表わす活動」を中心とした課題④
第10回　「工作表わす活動」を中心とした課題①
第11回　「工作表わす活動」を中心とした課題②
第12回　「工作表わす活動」を中心とした課題③
第13回　「工作表わす活動」を中心とした課題④
第14回　こどもの絵の特徴・傾向について
第15回　作品合評会

履修上の注意点

・欠席が4回以内であること（遅刻は、欠席0. 5回と数える。30分以上の遅刻は欠席. 病気、けが、公式戦、演奏会なども含む。但し、インフルエンザなど「出席停止」状態のときは含まない）。各課題の制作の前に構想などの指示があった場合には必ず準備しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（　）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**絵画・工芸演習 <幼C>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　芦田　風馬	

テーマ

小学校図画工作科における絵、立体、工作に表わす活動についての講義及び実習を通して基礎的な知識と技術を学び、図画工作科の魅力を伝えるための実践力を培う。

授業の到達目標

本授業の到達目標は下記の3点である。1．図画工作における多様な造形活動の意義を理解する。2．造形活動における様々な道具の使用法を理解する。3．材料の特質を生かして造形の発想を展開することができる。

授業の概要

描いたり作ったりする活動を行い、ものづくりの楽しさに気づくことで、学習を深め、教える際に必要な知識、技能を身につける。

準備学習（予習・復習）

作品制作の際に、大学が準備する材料だけでなく、使用したいと考える素材、材料を各自で積極的に準備すること。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　「絵に表わす活動」を中心とした課題①
第3回　「絵に表わす活動」を中心とした課題②
第4回　「絵に表わす活動」を中心とした課題③
第5回　「絵に表わす活動」を中心とした課題④
第6回　「立体表わす活動」を中心とした課題①
第7回　「立体表わす活動」を中心とした課題②
第8回　「立体表わす活動」を中心とした課題③
第9回　「立体表わす活動」を中心とした課題④
第10回　「工作表わす活動」を中心とした課題①
第11回　「工作表わす活動」を中心とした課題②
第12回　「工作表わす活動」を中心とした課題③
第13回　「工作表わす活動」を中心とした課題④
第14回　こどもの絵の特徴・傾向について
第15回　作品合評会

履修上の注意点

・欠席が4回以内であること（遅刻は、欠席0．5回と数える。30分以上の遅刻は欠席．病気、けが、公式戦、演奏会なども含む。但し、インフルエンザなど「出席停止」状態のときは含まない）。各課題の制作の前に構想などの指示があった場合には必ず準備しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（　）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**絵画・工芸演習 <児a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　芦田　風馬	

テーマ

小学校図画工作科における絵、立体、工作に表わす活動についての講義及び実習を通して基礎的な知識と技術を学び、図画工作科の魅力を伝えるための実践力を培う。

授業の到達目標

本授業の到達目標は下記の3点である。1. 図画工作における多様な造形活動の意義を理解する。2. 造形活動における様々な道具の使用法を理解する。3. 材料の特質を生かして造形の発想を展開することができる。

授業の概要

描いたり作ったりする活動を行い、ものづくりの楽しさに気づくことで、学習を深め、教える際に必要な知識、技能を身につける。

準備学習（予習・復習）

作品制作の際に、大学が準備する材料だけでなく、使用したいと考える素材、材料を各自で積極的に準備すること。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　「絵に表わす活動」を中心とした課題①
第3回　「絵に表わす活動」を中心とした課題②
第4回　「絵に表わす活動」を中心とした課題③
第5回　「絵に表わす活動」を中心とした課題④
第6回　「立体表わす活動」を中心とした課題①
第7回　「立体表わす活動」を中心とした課題②
第8回　「立体表わす活動」を中心とした課題③
第9回　「立体表わす活動」を中心とした課題④
第10回　「工作表わす活動」を中心とした課題①
第11回　「工作表わす活動」を中心とした課題②
第12回　「工作表わす活動」を中心とした課題③
第13回　「工作表わす活動」を中心とした課題④
第14回　こどもの絵の特徴・傾向について
第15回　作品合評会

履修上の注意点

・欠席が4回以内であること（遅刻は、欠席0. 5回と数える。30分以上の遅刻は欠席. 病気、けが、公式戦、演奏会なども含む。但し、インフルエンザなど「出席停止」状態のときは含まない）。各課題の制作の前に構想などの指示があった場合には必ず準備しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（　）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**絵画・工芸演習 <児b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　芦田　風馬	

テーマ

小学校図画工作科における絵、立体、工作に表わす活動についての講義及び実習を通して基礎的な知識と技術を学び、図画工作科の魅力を伝えるための実践力を培う。

授業の到達目標

本授業の到達目標は下記の3点である。1. 図画工作における多様な造形活動の意義を理解する。2. 造形活動における様々な道具の使用法を理解する。3. 材料の特質を生かして造形の発想を展開することができる。

授業の概要

描いたり作ったりする活動を行い、ものづくりの楽しさに気づくことで、学習を深め、教える際に必要な知識、技能を身につける。

準備学習（予習・復習）

作品制作の際に、大学が準備する材料だけでなく、使用したいと考える素材、材料を各自で積極的に準備すること。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　「絵に表わす活動」を中心とした課題①
第3回　「絵に表わす活動」を中心とした課題②
第4回　「絵に表わす活動」を中心とした課題③
第5回　「絵に表わす活動」を中心とした課題④
第6回　「立体表わす活動」を中心とした課題①
第7回　「立体表わす活動」を中心とした課題②
第8回　「立体表わす活動」を中心とした課題③
第9回　「立体表わす活動」を中心とした課題④
第10回　「工作表わす活動」を中心とした課題①
第11回　「工作表わす活動」を中心とした課題②
第12回　「工作表わす活動」を中心とした課題③
第13回　「工作表わす活動」を中心とした課題④
第14回　こどもの絵の特徴・傾向について
第15回　作品合評会

履修上の注意点

・欠席が4回以内であること（遅刻は、欠席0. 5回と数える。30分以上の遅刻は欠席. 病気、けが、公式戦、演奏会なども含む。但し、インフルエンザなど「出席停止」状態のときは含まない）。各課題の制作の前に構想などの指示があった場合には必ず準備しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（　）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**こども理解Ⅰ（幼児）**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　八木 英二

テーマ

実践で子どもたちと向き合う大切さ

授業の到達目標

幼児理解の基盤となる子どもの行為の意味と理解や発達の考え方、子どもたちがクラスで集う意味、保護者との信頼関係を築く大切さなどを実際の現場での事例を通して検討し、理解を深める。

授業の概要

幼児理解の基盤となる子どもの行為の意味と理解や発達の考え方、子どもたちがクラスで集う意味、保護者との信頼関係を築く大切さなどを実際の現場での事例を通して検討していく。

準備学習（予習・復習）

現場の保育に触れる機会を大切にすること

内　容

第1回　園づくりと子ども
第2回　現場における諸問題と保育士
第3回　入園当初の事例検討
第4回　遊べない事実
第5回　２歳と3歳の姿（理解の理論及び事例検討）
第6回　４歳と5歳の姿（理解の理論及び事例検討）
第7回　６歳の就学（理解の理論及び事例検討）
第8回　様々な保育形態
第9回　イメージ遊び
第10回　お話あそびの成立
第11回　クラスレベルの遊びの発展
第12回　秋の保育１
第13回　秋の保育２
第14回　劇遊びと生活発表会
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

幼児にふさわしいと思われる童話を選び学生どうしで読み聞かせをし合うなど、各自で独自のシミュレーションを重ねるような学習活動の発展を期待する。

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

子どもの遊びと学力の世界
著者:　八木英二
出版社:　法政出版
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 50% ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**こども理解Ⅱ（児童）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　河内 晴彦	

テーマ

こども理解を深めよう―こどもが表現した詩や作文を通して、こどもの生活や思いをつかむことからはじめる―

授業の到達目標

こども理解を深めるために1，こどもの詩や作文を読み合う。2，自分の「こども時代」を振りかえる。3，現場における問題を通して、こどもの現状をまるごと理解する。

授業の概要

こどもの詩や作文を読み合い、意見や感想を交流しあう。小学校2年生の国語の教科書に載っている教材「おてがみ」を読み、気持ちを考え、表現する．具体的な現場における問題を考えることで、今のこどもを理解する。

準備学習（予習・復習）

テキストをよく読む。こどもと教育に関する新聞記事を日頃から読む。自分なりの意見を持つ。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業の進め方、「自己紹介カード」回収）
第2回　第1次班の編成、班活動に取り組む
第3回　テキストを読み合う①
第4回　テキストを読み合う②
第5回　テキストを読み合う③
第6回　「おてがみ」をみんなで読み合う
第7回　「おてがみ」を演じてみる
第8回　第２次班の編成、自分たちの作文を読み合う①
第9回　自分たちの作文を読み合う②
第10回　自分たちの作文を読み合う③
第11回　こどもの現状をまるごと理解する①―「いじめ」の問題を通して―
第12回　こどもの現状をまるごと理解する②―「学級崩壊」をどう考える―
第13回　こどもの現状をまるごと理解する③―「不登校・引きこもり」の問題を通して―
第14回　こどもとともに歩む教師になろう
第15回　まとめ

履修上の注意点

4から5人の小グループを編成する。小グループでの討論・作業をもとに、全体での発表や討論を行う。自分の意見を持ち、積極的に参加して欲しい。

教科書

聞いてよ　こころのつぶやきと叫び
著者：　村山士郎
出版社：本の泉社
出版年：2009年　　ISBN：

参考書

子ども格差
著者：　尾木直樹
出版社：角川書店
出版年：2010年　　ISBN：

ふたりはともだち
著者：　アーノルド・ローベル
出版社：文化出版局
出版年：1972年　　ISBN：

いじめで遊ぶ子どもたち
著者：　村山士郎
出版社：新日本出版社
出版年：2012年　　ISBN：

a30101e150

子どもはどこで生きる力をたくわえるのだろう

著者:　佐伯洋

出版社: 日本機関紙出版センター

出版年: 2007年　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題 （ 60 ）　　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

授業で課する3つの課題の提出、討論や発表への参加を最重視する。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語コミュニケーション技術（ディベート）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

コミュニケーションの一形態であるディベート・討論を基礎から学ぶ。

授業の到達目標

公的なテーマについて異なる立場から議論を戦わせるディベート・討論の実践スキルを習得します。このスキルは、論文執筆やゼミ発表など今後の学生生活で必要となる様々な知的能力の基盤にもなります。また、ディベートの体験を通して、その指導スキルの習得もめざします。

授業の概要

ディベートの一種であるポリシーディベートの基礎概念を学んだ上で、チームを組んで実際にディベートの試合を体験します。ポリシーディベートは、コミュニケーション能力をはじめ、論理的思考力・批判的思考力や多角的視点など、様々な知的能力の涵養を図る一種の教育・学習ゲームです。

準備学習（予習・復習）

授業内で提示する課題や、チーム対抗戦に向けた準備に取り組んでください。また、身の回りの様々な議論について「なぜそう言えるのか」「だから何が言えるのか」「本当に言えるのか」などと批判的に考えつつ、それらの問いに論理的に応える習慣を身につけることが望まれます。

内　　容

第1回　ディベートの基礎(1)
第2回　ディベートの基礎(2)
第3回　クリティカルシンキングの基礎
第4回　ポリシーディベート「審査」(1)
第5回　ポリシーディベート「立論」
第6回　ポリシーディベート「質疑応答」
第7回　ポリシーディベート「反駁」
第8回　ポリシーディベート「準備」(1)
第9回　ポリシーディベート「準備」(2)
第10回　ポリシーディベート「審査」(2)
第11回　ポリシーディベート　チーム対抗戦 (1)
第12回　ポリシーディベート　チーム対抗戦 (2)
第13回　ポリシーディベート　チーム対抗戦 (3)
第14回　ポリシーディベート　チーム対抗戦 (4)
第15回　ディベート教育の基礎・総括

履修上の注意点

この授業は、個人・グループでの演習が中心となりますので、積極的な参加が求められます。遅刻や欠席がないようにしてください。授業計画の内容は、受講生の意欲・能力や、希望などによって変更する場合があります。

教科書

使用しない（必要に応じて教室でハンドアウトを配布する）

著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

はじめてのディベート
著者：　西部　直樹
出版社：　あさ出版
出版年：　2009　　ISBN：　4860633148

中等教育におけるディベートの研究
著者：　池田　修
出版社：　大学図書出版
出版年：　2008　　ISBN：　4903060365

a30101e210

伝え方のルール

著者:　新家　竜介

出版社: 明日香出版社

出版年: 2013　　ISBN:　4756915663

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）

参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**音楽演習Ⅱ〈幼A〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　田中　幹子	

テーマ

「人間の身体と音楽」「音楽の三要素（メロディ・ハーモニー・リズム）」この二つのキーワードをもとに、幼児期の音楽活動の可能性を探っていく。

授業の到達目標

音楽の基本を習得し、教育現場で実践し工夫できる能力を養うことを目標とする。指導者として基礎的なソルフェージュを身につけるため、ピアノ等楽器だけでなく自分の手や足、声など実際に身体を使って表現し、こどもたちに伝えることができることを実感し、創作に生かしてゆくことをねらいとする。

授業の概要

受講した内容をもとに、毎回設定されたテーマについて模擬授業を行なう。それに対しお互いに評価しあい、毎回レポートとして提出する。

準備学習（予習・復習）

担当する模擬授業の内容を、各グループごとに話し合い準備する。毎回の課題を最終的に創作として発表する。

内　容

第1回　オリエンテーション「音楽の基本について」
第2回　リズム①「ボディリズム（呼吸法）について」
第3回　リズム②「手拍子、手遊びを使って」
第4回　リズム③「足踏み（ステップ、ギャロップ）を使って」
第5回　メロディ①「歌ごころについて」
第6回　メロディ②「模倣の有効性について（絵本、アニメ曲より）」
第7回　メロディ③「日本の四季と日本語の歌詞」
第8回　ハーモニー①「日本人と身近な自然音」
第9回　ハーモニー②「こどもの音域と合唱」
第10回　ハーモニー③「世界の音楽（ポピュラー音楽）とコード」
第11回　アンサンブル①「こどもとのアンサンブルをめざして」
第12回　アンサンブル②「共に楽しむ音楽をめざして」
第13回　アンサンブル③「音楽から学ぶ生きる力」
第14回　創作の発表
第15回　全体のまとめ

履修上の注意点

テキストは必要に応じてコピーする。動きやすい服装での参加が望ましい。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト　（ 40% ）
授業中課題　（ 20% ）	授業中発表等　（ 20% ）
参加度　（ 20% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**音楽演習Ⅱ〈幼B〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　田中　幹子	

テーマ

「人間の身体と音楽」「音楽の三要素（メロディ・ハーモニー・リズム）」この二つのキーワードをもとに、幼児期の音楽活動の可能性を探っていく。

授業の到達目標

音楽の基本を習得し、教育現場で実践し工夫できる能力を養うことを目標とする。指導者として基礎的なソルフェージュを身につけるため、ピアノ等楽器だけでなく自分の手や足、声など実際に身体を使って表現し、こどもたちに伝えることができることを実感し、創作に生かしてゆくことをねらいとする。

授業の概要

受講した内容をもとに、毎回設定されたテーマについて模擬授業を行なう。それに対しお互いに評価しあい、毎回レポートとして提出する。

準備学習（予習・復習）

担当する模擬授業の内容を、各グループごとに話し合い準備する。毎回の課題を最終的に創作として発表する。

内　容

第1回　オリエンテーション「音楽の基本について」
第2回　リズム①「ボディリズム（呼吸法）について」
第3回　リズム②「手拍子、手遊びと使って」
第4回　リズム③「足踏み（ステップ、ギャロップ）を使って」
第5回　メロディ①「歌ごころについて」
第6回　メロディ②「模倣の有効性について（絵本、アニメ曲より）」
第7回　メロディ③「日本の四季と日本語の歌詞」
第8回　ハーモニー①「日本人と身近な自然音」
第9回　ハーモニー②「こどもの音域と合唱」
第10回　ハーモニー③「世界の音楽（ポピュラー音楽）とコード」
第11回　アンサンブル①「こどもとのアンサンブルをめざして」
第12回　アンサンブル②「共に楽しむ音楽をめざして」
第13回　アンサンブル③「音楽から学ぶ生きる力」
第14回　創作の発表
第15回　全体のまとめ

履修上の注意点

テキストは必要に応じてコピーする。動きやすい服装での参加が望ましい。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト　（ 40% ）
授業中課題　（ 20% ）	授業中発表等　（ 20% ）
参加度　（ 20% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**音楽演習Ⅱ〈幼C〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　田中　幹子	

テーマ

「人間の身体と音楽」「音楽の三要素（メロディ・ハーモニー・リズム）」この二つのキーワードをもとに、幼児期の音楽活動の可能性を探っていく。

授業の到達目標

音楽の基本を習得し、教育現場で実践し工夫できる能力を養うことを目標とする。指導者として基礎的なソルフェージュを身につけるため、ピアノ等楽器だけでなく自分の手や足、声など実際に身体を使って表現し、こどもたちに伝えることができることを実感し、創作に生かしてゆくことをねらいとする。

授業の概要

受講した内容をもとに、毎回設定されたテーマについて模擬授業を行なう。それに対しお互いに評価しあい、毎回レポートとして提出する。

準備学習（予習・復習）

担当する模擬授業の内容を、各グループごとに話し合い準備する。毎回の課題を最終的に創作として発表する。

内　容

第1回　オリエンテーション「音楽の基本について」
第2回　リズム①「ボディリズム（呼吸法）について」
第3回　リズム②「手拍子、手遊びを使って」
第4回　リズム③「足踏み（ステップ、ギャロップ）を使って」
第5回　メロディ①「歌ごころについて」
第6回　メロディ②「模倣の有効性について（絵本、アニメ曲より）」
第7回　メロディ③「日本の四季と日本語の歌詞」
第8回　ハーモニー①「日本人と身近な自然音」
第9回　ハーモニー②「こどもの音域と合唱」
第10回　ハーモニー③「世界の音楽（ポピュラー音楽）とコード」
第11回　アンサンブル①「こどもとのアンサンブルをめざして」
第12回　アンサンブル②「共に楽しむ音楽をめざして」
第13回　アンサンブル③「音楽から学ぶ生きる力」
第14回　創作の発表
第15回　全体のまとめ

履修上の注意点

テキストは必要に応じてコピーする。動きやすい服装での参加が望ましい。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト　（ 40% ）
授業中課題　（ 20% ）	授業中発表等　（ 20% ）
参加度　（ 20% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**音楽演習Ⅱ <児a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　阿部　真子.佐野　仁美	

テーマ

小学校の音楽指導に必要な歌唱技能や、楽典の知識を養う。

授業の到達目標

(1)日本語を歌う上での基本的な発声法、発語法を習得し、正しい音程で歌う能力を養う。(2)基本的な音楽理論を理解し、楽譜を読んで歌うことができる。(3)小学校の歌唱共通教材を使用し、斉唱・重唱などの体験を通して、実際の授業で歌唱教育を実践する上での様々な指導法を身につける。

授業の概要

小学校の共通教材である文部省唱歌や日本歌曲の曲調をつかんで歌うために必要な、基本的な発声法・日本語の発語法を目指しヴォイストレーニングや、音感のトレーニングなどを行う。併せて、基礎的な楽典の知識を、実際の楽譜に応用して理解を深める。

準備学習（予習・復習）

普段からできるだけ多くの唱歌・日本歌曲などに接する機会を持っておく。

内　容

第1回　オリエンテーション『歌うって何だろう』“語る”と“歌う”の違い、“日本語らしさ”の表現について考える。
第2回　基本的な発声法の実践。小学校1・2年の共通教材の歌唱、音感トレーニング、楽典
第3回　小学校1・2年共通教材の歌唱とその応用(輪唱など)。音感トレーニング、楽典
第4回　小学校3年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
第5回　小学校3年共通教材の歌唱とその応用(身体表現と歌唱)。音感トレーニング、楽典
第6回　小学校4年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
第7回　小学校4年共通教材の歌唱とその応用(重唱の導入)。音感トレーニング、楽典
第8回　小学校5年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
第9回　小学校5年共通教材の歌唱とその応用(重唱・合唱)。音感トレーニング、楽典
第10回　小学校6年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
第11回　小学校6年共通教材の歌唱とその応用(合唱)。音感トレーニング、楽典
第12回　テーマ別ヴォイストレーニングの実践1。合唱への取り組み。音感トレーニング、楽典
第13回　テーマ別ヴォイストレーニングの実践2。合唱練習（グループ）。音感トレーニング、楽典
第14回　テーマ別ヴォイストレーニングの実践3。合唱発表（グループ）。音感トレーニング、楽典
第15回　まとめと理解度調査

履修上の注意点

楽典は毎回プリントで確認します。わからないことがあったり、欠席した場合は早目に質問に来てください。

教科書

初等科音楽教育法[改訂版]
著者:　初等科音楽教育研究会
出版社:　音楽之友社
出版年:　2011　　ISBN:　978-4276820098

参考書

プリントを配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト　（ 40 ）
授業中課題　（　）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 20 ）
出席と受講時の積極性が評価に大きく関係します。

2016 Syllabus

科 目 名　**音楽演習Ⅱ <児b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　阿部　真子.佐野　仁美	

テーマ

小学校の音楽指導に必要な歌唱技能や、楽典の知識を養う。

授業の到達目標

(1)日本語を歌う上での基本的な発声法、発語法を習得し、正しい音程で歌う能力を養う。(2)基本的な音楽理論を理解し、楽譜を読んで歌うことができる。(3)小学校の歌唱共通教材を使用し、斉唱・重唱などの体験を通して、実際の授業で歌唱教育を実践する上での様々な指導法を身につける。

授業の概要

小学校の共通教材である文部省唱歌や日本歌曲の曲調をつかんで歌うために必要な、基本的な発声法・日本語の発語法を目指しヴォイストレーニングや、音感のトレーニングなどを行う。併せて、基礎的な楽典の知識を、実際の楽譜に応用して理解を深める。

準備学習（予習・復習）

普段からできるだけ多くの唱歌・日本歌曲などに接する機会を持っておく。

内　容

第1回　オリエンテーション『歌うって何だろう』“語る”と“歌う”の違い、“日本語らしさ”の表現について考える。
第2回　基本的な発声法の実践。小学校1・2年の共通教材の歌唱、音感トレーニング、楽典
第3回　小学校1・2年共通教材の歌唱とその応用(輪唱など)。音感トレーニング、楽典
第4回　小学校3年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
第5回　小学校3年共通教材の歌唱とその応用(身体表現と歌唱)。音感トレーニング、楽典
第6回　小学校4年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
第7回　小学校4年共通教材の歌唱とその応用(重唱の導入)。音感トレーニング、楽典
第8回　小学校5年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
第9回　小学校5年共通教材の歌唱とその応用(重唱・合唱)。音感トレーニング、楽典
第10回　小学校6年の共通教材の歌唱。音感トレーニング、楽典
第11回　小学校6年共通教材の歌唱とその応用(合唱)。音感トレーニング、楽典
第12回　テーマ別ヴォイストレーニングの実践1。合唱への取り組み。音感トレーニング、楽典
第13回　テーマ別ヴォイストレーニングの実践2。合唱練習（グループ）。音感トレーニング、楽典
第14回　テーマ別ヴォイストレーニングの実践3。合唱発表（グループ）。音感トレーニング、楽典
第15回　まとめと理解度調査

履修上の注意点

楽典は毎回プリントで確認します。わからないことがあったり、欠席した場合は早目に質問に来てください。

教科書

初等科音楽教育法[改訂版]
著者:　初等科音楽教育研究会
出版社:　音楽之友社
出版年:　2011　　ISBN:　978-4276820098

参考書

プリントを配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト　（ 40 ）
授業中課題　（　）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 20 ）
出席と受講時の積極性が評価に大きく関係します。

2016 Syllabus

科 目 名　**社会福祉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　幸重 忠孝

テーマ

現代の身近な社会課題を切り口に社会福祉の理念と制度を理解する

授業の到達目標

子どもを取り巻く家族や社会の様々な課題に社会福祉がどう関わっているのか、社会福祉の理念をベースにしながら現在の社会福祉の制度や仕組みを理解する。社会福祉の理念とは何かを講義を通して常に考えることを目的とする。

授業の概要

各回に関連した身近な福祉テーマをあつかった視聴覚教材（映画・ドラマ・アニメ・ドキュメンタリーなど）や地域の福祉活動を題材にし、社会福祉の現状と課題を講義する。小テストを通して社会福祉の知識の獲得。課外レポートを通して社会福祉の理念を考察する。

準備学習（予習・復習）

授業で紹介された参考文献（福祉コミック）を読み学びを深める課題レポートによるフィールドワーク

内　容

第1回　オリエンテーション 「現代社会における社会福祉の意義」
第2回　現代社会における社会福祉の意義 「社会福祉とは何か？」
第3回　社会福祉と児童家庭福祉① 「在宅福祉の推進」
第4回　社会福祉と児童家庭福祉② 「少子高齢化社会と社会福祉」
第5回　社会福祉と子どもの人権 「生活困窮と子どもの貧困」
第6回　社会福祉の制度と実施体系① 「社会福祉の法律と制度」
第7回　社会福祉の制度と実施体系② 「社会福祉の行政機関と社会福祉施設」
第8回　社会福祉の専門職 「ソーシャルワーカーとケアワーカー」
第9回　社会福祉の歴史的変遷 「社会福祉の先駆者たち」
第10回 ソーシャルワーク① 「ケースワーク・相談援助」
第11回 ソーシャルワーク② 「グループワーク・コミュニティーワーク」
第12回 社会福祉の動向と課題① 「多様な家族形態と福祉支援」
第13回 社会福祉の動向と課題② 「市民による福祉・NPO活動」
第14回 利用者の保護 「守秘義務と第三者評価」
第15回 まとめ

履修上の注意点

教科書

子どもたちとつくる貧困とひとりぼっちのないまち
著者:　山科醍醐こどものひろば
出版社:　かもがわ出版
出版年:　2013　　ISBN:　9784780305760

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 70 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
授業外課題（30%）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育原理**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　神谷 栄司

テーマ

幼児保育の年間の流れ―保育実践の事実のなかから理論をとりだす。

授業の到達目標

（1）幼児保育実践の年間の流れについてイメージをもつ。（2）保育の主題と構造について理解する。（3）保育の諸段階（積み上げ）について理解する。（4）保育実践の事実のなかに含まれる理論問題に関心をもつ。

授業の概要

テキストとレジュメにもとづいて講義する。受講生は各講義内容についてコメントを書く。

準備学習（予習・復習）

事前にテキストを読んでおくこと。講義の折に示す参考文献についてできる限り眼を通すこと。各講義内容についてコメントを記しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション（幼児とその保育について先入観なく事実を捉えることについて）
第2回　４～６月の幼児保育(1)　園庭の自然（小さな自然の世界）と保育
第3回　４～６月の幼児保育(2)　園庭の自然（小さな自然の世界）と保育の主題
第4回　４～６月の幼児保育(3)　中くらいの自然の世界と保育の構造
第5回　４～６月の幼児保育(4)　この時期の絵本の位置づけ
第6回　自然に対する幼児の見方・感じ方の特質
第7回　物語に対する幼児の理解・感動の特質
第8回　９～１２月の幼児保育(1)　運動会とそれ以降の秋の保育のあり方
第9回　９～１２月の幼児保育(2)　ドングリを主題にした保育（中くらいの自然の世界）
第10回　９～１２月の幼児保育(3)　ドングリを主題にした保育（絵本の役割）
第11回　９～１２月の幼児保育(4)　ドングリを主題にした保育（大きな自然の世界）
第12回　９～１２月の幼児保育(5)　木の葉を主題にした保育
第13回　９～１２月の幼児保育(6)　長編の物語とこの時期の保育
第14回　１～２月の幼児保育(1)　劇遊びについて
第15回　１～２月の幼児保育(2)　年間の保育と劇つくり

履修上の注意点

教科書

幼児の考え方・感じ方と遊び
著者:　神谷栄司
出版社:　三学出版
出版年:　2011　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**発達心理学（保）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　南 憲治	

テーマ

①乳幼児期から青年期までの人間の発達のプロセスと各発達段階の特徴②主要な発達理論③主な発達障害と障害に応じた支援の方法

授業の到達目標

乳幼児期から青年期までの人間の発達のプロセスと各発達段階の特徴、ならびに主要な発達理論について理解し、子どもの健全な成長・発達を支援するために必要とされる基礎的な知識や理論を習得する。また、主な発達障害の特徴と障害に応じた支援の方法についても理解する。

授業の概要

毎回の授業は教科書を参照しつつ、配布資料に基づいて進める。適宜、視覚教材を利用し、子どもの発達について具体的に理解できるようにする。

準備学習（予習・復習）

予習の必要はないが、講義の内容を配布資料と教科書を基に自分で整理すること。

内　容

第1回　胎生期の発達（卵胎期・胎芽期・胎児期の特徴）
第2回　新生児の発達的特徴
第3回　乳児期の発達と発達の諸相
第4回　幼児期前半の発達と発達の諸相（表象の成立）
第5回　幼児期前半から幼児期後半への移行（4歳頃の発達的変化）
第6回　幼児期後半の発達と発達の諸相：①直観的思考段階の特徴
第7回　幼児期後半の発達と発達の諸相：②心の理論の獲得など
第8回　児童期前半の発達と発達の諸相（論理的思考の始まり）
第9回　児童期後半の発達と発達の諸相（9～10歳の壁）
第10回　青年期の発達と発達の諸相：①青年期の発達課題（自我同一性の獲得）
第11回　青年期の発達と発達の諸相：②青年期に好発する精神疾患
第12回　ボウルビィの愛着理論
第13回　発達障害：①自閉症スペクトラム障害の特徴と支援のポイント
第14回　発達障害：②ADHDとLDの特徴と支援のポイント
第15回　まとめ

履修上の注意点

予習の必要性はないが、毎回授業の最後の行う確認テストにより、講義内容を自分で整理・確認して下さい。

教科書

よくわかる認知発達とその支援
著者：　子安増生（編）
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2005年　　ISBN：9784623043958

参考書

保育の心理学
著者：　新　保育士養成講座編纂委員会（編）
出版社：全国社会福祉協議会
出版年：2011年　　ISBN：9784793510311

0歳―6歳　子どもの発達と保育の本
著者：　港区保育を学ぶ会
出版社：学研
出版年：2011年　　ISBN：9784054048911

成績評価

試験　（　）　　小テスト（30%）
授業中課題（70%）　　授業中発表等（　）

参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**こどもの保健Ⅰ－1**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　　齋藤　洋子

テーマ

子どもの健やかな成長発達を支援するために必要な基礎的知識を学ぶ

授業の到達目標

子どもの健やかな成長発達を図る保健活動の意義を理解する乳幼児の成長発達の特徴を理解する

授業の概要

テキストを中心に講義を進めるが、必要に応じて資料の配布、DVDの視聴も行う。

準備学習（予習・復習）

テキストを読んで授業に臨み、疑問点は積極的に調べたり質問してほしい。

内　　容

第1回　子どもの健康と保健の意義
第2回　子どもの健康と統計
第3回　子どもの成長と発達Ⅰ（子どもの発育と環境因子・特徴・胎児の発育）
第4回　子どもの成長と発達Ⅱ（生理機能の発達―循環・呼吸・消化・排泄）
第5回　子どもの成長と発達Ⅲ（生理機能の発達―免疫・体温・感覚器・歯・骨）
第6回　子どもの成長と発達Ⅳ（乳幼児の身体発育）
第7回　子どもの成長と発達Ⅴ（神経系の構造と発達）
第8回　子どもの成長と発達Ⅵ（運動機能）
第9回　子どもの成長と発達Ⅶ（精神機能―認知・情緒）
第10回　子どもの成長と発達Ⅷ（精神機能－社会性・情緒）
第11回　子どもの精神保健
第12回　子どもの生活と保健Ⅰ（栄養）
第13回　子どもの生活と保健Ⅱ（乳幼児と食）
第14回　子どもの生活と保健Ⅲ（排泄・睡眠・衣服）
第15回　子どもの生活と保健Ⅳ（清潔・遊び）

履修上の注意点

教科書

保育を学ぶ人のための子どもの保健Ⅰ
著者：　堀浩樹・梶美保　編著
出版社：建帛社
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 70 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 10 ）

Syllabus

科 目 名　**教育課程研究（初）<Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**教育方法の研究（初）<Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**道徳教育の研究（初）<Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**保育内容（健康）〈Z〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

Syllabus

科 目 名　**保育内容（環境）<Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

Syllabus

科 目 名　**保育内容（言語）<Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

Syllabus

科 目 名　**保育内容（表現）<Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**養護原理 <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

社会的養護の現状及び課題の理解

授業の到達目標

社会的養護の現代的意義と歴史的変遷について学び、児童家庭福祉との関連性について理解する。また、社会的養護の制度および実施体制等を学び、子どもの権利擁護及び自立支援についての理解を深める。

授業の概要

社会的養護のもとにある子どもとその家族の課題･背景を理解し、彼らを支援する姿勢、援助計画、援助の進め方、活用資源などを学ぶ。

準備学習（予習・復習）

講義中に紹介された参考文献を読み進める。

内　　容

第1回　社会的養護の理念と方向性
第2回　社会的養護の原理
第3回　子どもの権利
第4回　社会的養護の体系
第5回　社会的養護の制度
第6回　日本における社会的養護のあゆみ
第7回　欧米における社会的養護の歩み
第8回　現代家族問題と社会的養護
第9回　ひとり親家庭の現状と課題
第10回　養育環境上の問題に対応する児童の施設養護
第11回　情緒・行動面上の問題に対応する児童の施設養護
第12回　障害のある児童の施設養護
第13回　社会的養護の実践方法
第14回　社会的養護を支える専門職と新しい仕組み
第15回　まとめと理解度調査

履修上の注意点

教科書

社会的養護
著者:　吉田明弘編著
出版社:　八千代出版
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト （ 60 ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 10 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ〈Z〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習＜＊A＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　芦名　猛夫

テーマ

子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。

授業の到達目標

子ども、人間、自分自身のおかれている状況を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、自分の新たな側面を見いだす。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて文献を選択し、それを精読し、討論を行う。②自分の意見をまとめ発表し、他の学生の意見をよく聞く。

準備学習（予習・復習）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内　容

第1回　前期授業の進め方（オリエンテーション）
第2回　クラス活動①全体の計画作り
第3回　クラス活動②各委員の役割と分担
第4回　クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
第5回　文献購読と討論①
第6回　文献購読と討論②
第7回　文献購読と討論③
第8回　クラス活動④「子どもが楽しめる企画と技術」の計画①
第9回　文献購読と討論④
第10回　文献購読と討論⑤
第11回　文献購読と討論⑥
第12回　クラス活動⑤「子どもが楽しめる企画と技術」の計画②
第13回　文献購読と討論⑦
第14回　文献購読と討論 ⑧
第15回　基礎演習の総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習＜＊B＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　池田 修

テーマ

子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。

授業の到達目標

子ども、人間、自分自身のおかれている状況を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、自分の新たな側面を見いだす。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて文献を選択し、それを精読し、討論を行う。②自分の意見をまとめ発表し、他の学生の意見をよく聞く。

準備学習（予習・復習）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内　容

第1回　前期授業の進め方（オリエンテーション）
第2回　クラス活動①全体の計画作り
第3回　クラス活動②各委員の役割と分担
第4回　クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
第5回　文献購読と討論①
第6回　文献購読と討論②
第7回　文献購読と討論③
第8回　クラス活動④「子どもが楽しめる企画と技術」の計画①
第9回　文献購読と討論④
第10回　文献購読と討論⑤
第11回　文献購読と討論⑥
第12回　クラス活動⑤「子どもが楽しめる企画と技術」の計画②
第13回　文献購読と討論⑦
第14回　文献購読と討論 ⑧
第15回　基礎演習の総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習 <＊C>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　神谷　栄司

テーマ

子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。

授業の到達目標

子ども、人間、自分自身のおかれている状況を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、自分の新たな側面を見いだす。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて文献を選択し、それを精読し、討論を行う。②自分の意見をまとめ発表し、他の学生の意見をよく聞く。

準備学習（予習・復習）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内　容

第1回　前期授業の進め方（オリエンテーション）
第2回　クラス活動①全体の計画作り
第3回　クラス活動②各委員の役割と分担
第4回　クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
第5回　文献購読と討論①
第6回　文献購読と討論②
第7回　文献購読と討論③
第8回　クラス活動④「子どもが楽しめる企画と技術」の計画①
第9回　文献購読と討論④
第10回　文献購読と討論⑤
第11回　文献購読と討論⑥
第12回　クラス活動⑤「子どもが楽しめる企画と技術」の計画②
第13回　文献購読と討論⑦
第14回　文献購読と討論 ⑧
第15回　基礎演習の総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習＜＊D＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　南 憲治

テーマ

子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。

授業の到達目標

子ども、人間、自分自身のおかれている状況を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、自分の新たな側面を見いだす。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて文献を選択し、それを精読し、討論を行う。②自分の意見をまとめ発表し、他の学生の意見をよく聞く。

準備学習（予習・復習）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内　容

第1回　前期授業の進め方（オリエンテーション）
第2回　クラス活動①全体の計画作り
第3回　クラス活動②各委員の役割と分担
第4回　クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
第5回　文献購読と討論①
第6回　文献購読と討論②
第7回　文献購読と討論③
第8回　クラス活動④「子どもが楽しめる企画と技術」の計画①
第9回　文献購読と討論④
第10回　文献購読と討論⑤
第11回　文献購読と討論⑥
第12回　クラス活動⑤「子どもが楽しめる企画と技術」の計画②
第13回　文献購読と討論⑦
第14回　文献購読と討論 ⑧
第15回　基礎演習の総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習＜＊E＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　大久保 恭子

テーマ

子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。

授業の到達目標

子ども、人間、自分自身のおかれている状況を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、自分の新たな側面を見いだす。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて文献を選択し、それを精読し、討論を行う。②自分の意見をまとめ発表し、他の学生の意見をよく聞く。

準備学習（予習・復習）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内　容

第1回　前期授業の進め方（オリエンテーション）
第2回　クラス活動①全体の計画作り
第3回　クラス活動②各委員の役割と分担
第4回　クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
第5回　文献購読と討論①
第6回　文献購読と討論②
第7回　文献購読と討論③
第8回　クラス活動④「子どもが楽しめる企画と技術」の計画①
第9回　文献購読と討論④
第10回　文献購読と討論⑤
第11回　文献購読と討論⑥
第12回　クラス活動⑤「子どもが楽しめる企画と技術」の計画②
第13回　文献購読と討論⑦
第14回　文献購読と討論 ⑧
第15回　基礎演習の総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習 <＊F>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　青木 美智子

テーマ

子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。

授業の到達目標

子ども、人間、自分自身のおかれている状況を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、自分の新たな側面を見いだす。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて文献を選択し、それを精読し、討論を行う。②自分の意見をまとめ発表し、他の学生の意見をよく聞く。

準備学習（予習・復習）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内　容

第1回　前期授業の進め方（オリエンテーション）
第2回　クラス活動①全体の計画作り
第3回　クラス活動②各委員の役割と分担
第4回　クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
第5回　文献購読と討論①
第6回　文献購読と討論②
第7回　文献購読と討論③
第8回　クラス活動④「子どもが楽しめる企画と技術」の計画①
第9回　文献購読と討論④
第10回　文献購読と討論⑤
第11回　文献購読と討論⑥
第12回　クラス活動⑤「子どもが楽しめる企画と技術」の計画②
第13回　文献購読と討論⑦
第14回　文献購読と討論 ⑧
第15回　基礎演習の総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習＜＊G＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　長橋 聡

テーマ

子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。

授業の到達目標

子ども、人間、自分自身のおかれている状況を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、自分の新たな側面を見いだす。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて文献を選択し、それを精読し、討論を行う。②自分の意見をまとめ発表し、他の学生の意見をよく聞く。

準備学習（予習・復習）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内　容

第1回　前期授業の進め方（オリエンテーション）
第2回　クラス活動①全体の計画作り
第3回　クラス活動②各委員の役割と分担
第4回　クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
第5回　文献購読と討論①
第6回　文献購読と討論②
第7回　文献購読と討論③
第8回　クラス活動④「子どもが楽しめる企画と技術」の計画①
第9回　文献購読と討論④
第10回　文献購読と討論⑤
第11回　文献購読と討論⑥
第12回　クラス活動⑤「子どもが楽しめる企画と技術」の計画②
第13回　文献購読と討論⑦
第14回　文献購読と討論 ⑧
第15回　基礎演習の総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**児童教育総合演習＜＊A＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　芦名　猛夫

テーマ

子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。

授業の到達目標

子ども、人間、自分自身のおかれている状況を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、自分の新たな側面を見いだす。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて文献を選択し、それを精読し、討論を行う。②自分の意見をまとめ発表し、他の学生の意見をよく聞く。

準備学習（予習・復習）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内　容

第1回　後期授業の進め方（オリエンテーション）
第2回　クラス活動①「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備①
第3回　クラス活動②「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備②
第4回　クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備③
第5回　文献購読と討論①
第6回　文献購読と討論②
第7回　文献購読と討論③
第8回　文献購読と討論④
第9回　文献購読と討論⑤
第10回　文献購読と討論⑥
第11回　文献購読と討論⑦
第12回　文献購読と討論⑧
第13回　文献購読と討論⑨
第14回　文献購読と討論⑩
第15回　総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**児童教育総合演習＜＊B＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　池田 修

テーマ

子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。

授業の到達目標

子ども、人間、自分自身のおかれている状況を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、自分の新たな側面を見いだす。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて文献を選択し、それを精読し、討論を行う。②自分の意見をまとめ発表し、他の学生の意見をよく聞く。

準備学習（予習・復習）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内　容

第1回　後期授業の進め方（オリエンテーション）
第2回　クラス活動①「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備①
第3回　クラス活動②「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備②
第4回　クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備③
第5回　文献購読と討論①
第6回　文献購読と討論②
第7回　文献購読と討論③
第8回　文献購読と討論④
第9回　文献購読と討論⑤
第10回　文献購読と討論⑥
第11回　文献購読と討論⑦
第12回　文献購読と討論⑧
第13回　文献購読と討論⑨
第14回　文献購読と討論⑩
第15回　総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**児童教育総合演習 <＊C>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　神谷　栄司

テーマ

子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。

授業の到達目標

子ども、人間、自分自身のおかれている状況を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、自分の新たな側面を見いだす。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて文献を選択し、それを精読し、討論を行う。②自分の意見をまとめ発表し、他の学生の意見をよく聞く。

準備学習（予習・復習）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内　容

第1回　後期授業の進め方（オリエンテーション）
第2回　クラス活動①「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備①
第3回　クラス活動②「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備②
第4回　クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備③
第5回　文献購読と討論①
第6回　文献購読と討論②
第7回　文献購読と討論③
第8回　文献購読と討論④
第9回　文献購読と討論⑤
第10回　文献購読と討論⑥
第11回　文献購読と討論⑦
第12回　文献購読と討論⑧
第13回　文献購読と討論⑨
第14回　文献購読と討論⑩
第15回　総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**児童教育総合演習 <＊D>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　森本　美絵

テーマ

子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。

授業の到達目標

子ども、人間、自分自身のおかれている状況を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、自分の新たな側面を見いだす。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて文献を選択し、それを精読し、討論を行う。②自分の意見をまとめ発表し、他の学生の意見をよく聞く。

準備学習（予習・復習）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内　容

第1回　後期授業の進め方（オリエンテーション）
第2回　クラス活動①「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備①
第3回　クラス活動②「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備②
第4回　クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備③
第5回　文献購読と討論①
第6回　文献購読と討論②
第7回　文献購読と討論③
第8回　文献購読と討論④
第9回　文献購読と討論⑤
第10回　文献購読と討論⑥
第11回　文献購読と討論⑦
第12回　文献購読と討論⑧
第13回　文献購読と討論⑨
第14回　文献購読と討論⑩
第15回　総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**児童教育総合演習 <＊E>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　大久保　恭子

テーマ

子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。

授業の到達目標

子ども、人間、自分自身のおかれている状況を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、自分の新たな側面を見いだす。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて文献を選択し、それを精読し、討論を行う。②自分の意見をまとめ発表し、他の学生の意見をよく聞く。

準備学習（予習・復習）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内　容

第1回　後期授業の進め方（オリエンテーション）
第2回　クラス活動①「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備①
第3回　クラス活動②「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備②
第4回　クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備③
第5回　文献購読と討論①
第6回　文献購読と討論②
第7回　文献購読と討論③
第8回　文献購読と討論④
第9回　文献購読と討論⑤
第10回　文献購読と討論⑥
第11回　文献購読と討論⑦
第12回　文献購読と討論⑧
第13回　文献購読と討論⑨
第14回　文献購読と討論⑩
第15回　総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**児童教育総合演習 <＊F>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　倉持 祐二

テーマ

子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。

授業の到達目標

子ども、人間、自分自身のおかれている状況を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、自分の新たな側面を見いだす。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて文献を選択し、それを精読し、討論を行う。②自分の意見をまとめ発表し、他の学生の意見をよく聞く。

準備学習（予習・復習）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内　容

第1回　後期授業の進め方（オリエンテーション）
第2回　クラス活動①「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備①
第3回　クラス活動②「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備②
第4回　クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備③
第5回　文献購読と討論①
第6回　文献購読と討論②
第7回　文献購読と討論③
第8回　文献購読と討論④
第9回　文献購読と討論⑤
第10回　文献購読と討論⑥
第11回　文献購読と討論⑦
第12回　文献購読と討論⑧
第13回　文献購読と討論⑨
第14回　文献購読と討論⑩
第15回　総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**児童教育総合演習 <＊G>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　長橋 聡

テーマ

子ども、人間、自分について、またそれらを取り囲む環境について自分で考え、みんなで考える。

授業の到達目標

子ども、人間、自分自身のおかれている状況を理解する。そのための知識を幅広く身につけ、見識を養い、また意見の交流を通じ、自分の新たな側面を見いだす。

授業の概要

①各ゼミの担当者の専門性に基づいて文献を選択し、それを精読し、討論を行う。②自分の意見をまとめ発表し、他の学生の意見をよく聞く。

準備学習（予習・復習）

新聞を読み、ニュースを視聴し社会の状況を理解する。様々な資料、文献を読む。

内　容

第1回　後期授業の進め方（オリエンテーション）
第2回　クラス活動①「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備①
第3回　クラス活動②「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備②
第4回　クラス活動③「子どもが楽しめる企画と技術」の内容検討と準備③
第5回　文献購読と討論①
第6回　文献購読と討論②
第7回　文献購読と討論③
第8回　文献購読と討論④
第9回　文献購読と討論⑤
第10回　文献購読と討論⑥
第11回　文献購読と討論⑦
第12回　文献購読と討論⑧
第13回　文献購読と討論⑨
第14回　文献購読と討論⑩
第15回　総括と今後の課題

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育制度論（初）<a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小田　義隆	

テーマ

教育課程と教育制度のあり方を考える

授業の到達目標

教育課程に関する教育制度の一般的な学習を通して，今日的課題や問題点に対する認識を深め，今後の教育課程と教育制度のあり方を考える資質・能力を養う。

授業の概要

教育課程と教育制度に関する基礎的・基本的な知識の内容と実践的な内容で学習していきます。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　授業の説明等（大学における「教職」）（イントロダックション）
第2回　教育課程に関する法制　①（教育課程とその基準）
第3回　教育課程に関する法制　②（教育課程に関する法令）
第4回　学習指導要領の法的性格
第5回　学習指導要領の変遷
第6回　学習指導要領の内容と特徴（平成10年版）
第7回　新学習指導要領の内容と特徴（平成20年版）
第8回　わが国の教育の目的と方針
第9回　学校教育の目的と目標
第10回　教育法規の体系と適用
第11回　学校組織について
第12回　教師に求められる資質・能力
第13回　教師の研修
第14回　教育職員について
第15回　まとめ

履修上の注意点

教育に関する情報や資料（テレビ，ラジオ，新聞，教育雑誌等）に目を配るようにして下さい。

教科書

現代教育制度論
著者：　土屋基規
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2011　　ISBN：　978-4623058358

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 70 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）
授業内容の理解度を確認するレポートを課すため全回出席が望ましい。

2016 Syllabus

科 目 名　**教育制度論（初）<b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　春期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小田　義隆	

テーマ

教育課程と教育制度のあり方を考える

授業の到達目標

教育課程に関する教育制度の一般的な学習を通して，今日的課題や問題点に対する認識を深め，今後の教育課程と教育制度のあり方を考える資質・能力を養う。

授業の概要

教育課程と教育制度に関する基礎的・基本的な知識の内容と実践的な内容で学習していきます。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　授業の説明等（大学における「教職」）（イントロダックション）
第2回　教育課程に関する法制　①（教育課程とその基準）
第3回　教育課程に関する法制　②（教育課程に関する法令）
第4回　学習指導要領の法的性格
第5回　学習指導要領の変遷
第6回　学習指導要領の内容と特徴（平成10年版）
第7回　新学習指導要領の内容と特徴（平成20年版）
第8回　わが国の教育の目的と方針
第9回　学校教育の目的と目標
第10回　教育法規の体系と適用
第11回　学校組織について
第12回　教師に求められる資質・能力
第13回　教師の研修
第14回　教育職員について
第15回　まとめ

履修上の注意点

教育に関する情報や資料（テレビ，ラジオ，新聞，教育雑誌等）に目を配るようにして下さい。

教科書

現代教育制度論
著者：　土屋基規
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2011　　ISBN：　978-4623058358

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 70 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）
授業内容の理解度を確認するレポートを課すため全回出席が望ましい。

2016 Syllabus

科 目 名　**教育課程論（初）<a>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　八木 英二

テーマ

教育課程の構造と教育実践

授業の到達目標

教育課程の基礎的な用語の理解をふまえ、「なぜ学校における教育課程なのか」を考えながら問題の整理を行い教育課程づくりのイメージがつかめるようにする。

授業の概要

1つには、「なぜ学校なのか」という本質論議をふまえた学校を基礎とする教育課程づくりの意味、2つには、子どもの成長と発達にかかわる教育課程の内容構成におけるスコープとシークェンスの構造論議、3つには、目標・内容・方法・評価など、実践過程の事実によって検証され、再構成される教育課程づくりの意味などをとりあげる。具体的事例として、とくに書き言葉成立後の思春期にかかわる教育課程の実践をとりあげたい。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　教育課程の構造と意味
第2回　内申書、通知票について
第3回　目標と評価のあり方
第4回　観点別評価の意味
第5回　教育実践評価と授業公開（初等）
第6回　学習指導要領と内容の基準化原理（初等）
第7回　教科書の採択システム
第8回　教科書づくり
第9回　教科と教科外の教育方法（初等）
第10回　総合学習について（初等）
第11回　身体と教育課程（初等）
第12回　教育課程と授業づくり（初等）
第13回　思春期の教育階梯
第14回　SNE（特別なニーズ教育）について
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

よく新聞・雑誌などを読み、教育課程編成と社会とのかかわりについて考えること。

教科書

教師の役割変化を問う
著者:　八木英二
出版社:　三学出版
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に指示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**道徳教育の理論と方法（初）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　碓井　敏正	

テーマ

学校教育における道徳教育の可能性

授業の到達目標

道徳概念の基本的意味を明らかにしながら、現代日本の学校教育においてどのような道徳教育が可能か、色々な角度から実践的に考えることを課題とする。

授業の概要

前半の授業は講義形式を基本とするが、後半の授業では、主として「道徳の時間」においてどのような授業が可能なのかを実践的に追究していきたい。また、現場の先生を呼んで、道徳教育のユニークな実践例をはなしてもらう予定である。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　道徳とは何か
第2回　道徳教育の歴史（明治以降）
第3回　道徳教育の歴史（戦後）
第4回　日本の学校教育の現実
第5回　小学校におけるにおける道徳教育の捉え方
第6回　小学生の道徳的発達の特徴
第7回　全面主義と特設主義
第8回　全面主義を前提とした特設主義
第9回　道徳の時間と各教科の関係
第10回　道徳教育と特別活動、総合学習との関係
第11回　道徳教育の要としての道徳の時間
第12回　道徳の時間の展開の仕方
第13回　家庭、地域と道徳教育
第14回　現場における道徳教育の実践例
第15回　評価の問題とまとめ

履修上の注意点

ニュースで報道される教育問題や、青少年の精神状況、道徳意識について常に関心を払うこと。

教科書

学習指導要領
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:
その他授業中に指示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

中学校指導書　道徳編
著者:　文部科学省
出版社:　大蔵省印刷局
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 70 ）	小テスト（　）
授業中課題　（　）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**特別活動論（初）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　土作　彰	

テーマ

集団で学び合う意義

授業の到達目標

①特別活動の基本的な概念を理解すること。②全教育活動の中で特別活動の視点を活かした学級経営、授業展開をいかに工夫するかを考察し理解すること。

授業の概要

講義は極力減らし、模擬授業を主に進める。その後、グループで授業づくり演習、検討会を行う。「教育現場では何が必要故、何をどのようにすべきなのか」という視点を常に持ち続けながら進めていく。

準備学習（予習・復習）

学校現場に立つ人間としてどういう心構えが必要か考えた上で受講すること。

内　容

第1回　授業ガイダンスと特別活動の内容・意義
第2回　集団教育の意義
第3回　学級づくりと授業づくり（国語編）
第4回　学級づくりと授業づくり（算数・理科編）
第5回　学級崩壊を考える
第6回　授業づくり演習と検討（1～3班）
第7回　児童会活動・クラブ活動・学校行事（異学級、異学年の指導）
第8回　学級づくりと授業づくり（理科・社会編）
第9回　授業づくり演習と検討（4～6班）
第10回　学級づくりと授業づくり（道徳・学活編）
第11回　学級づくりと授業づくり（体育・図工編）
第12回　授業づくり演習と検討（7～9班）
第13回　小学校の現場とはいかなるものか
第14回　まとめ①
第15回　まとめ②

履修上の注意点

様々な集団（教育集団は勿論のことバイト先やサークルなど）で、「自分一人だけでは決して身に付かない力は何か？」という視点を持ちながら毎日を大切に過ごして欲しい。また、特別活動に関する実践記録をたくさん読んで欲しい。

教科書

学級崩壊予防の極意
著者：　土作　彰著
出版社：小学館
出版年：2016　　ISBN：

参考書

教室のふんい気を変える　ミニネタ活用の授業づくり
著者：　土作　彰編著
出版社：学事出版
出版年：　　ISBN：

やる気・集中力を持続させる　算数の授業ミニネタ＆コツ101
著者：
出版社：学事出版
出版年：　　ISBN：

集中力を持続させる　理科の授業ミニネタ＆コツ101
著者：
出版社：学事出版
出版年：　　ISBN：

a30102d480

やる気・集中力を持続させる　国語の授業ミニネタ＆コツ１０１
著者：
出版社：学事出版
出版年：　　ISBN：

やる気・集中力を持続させる　社会科の指導ミニネタ＆コツ１０１
著者：
出版社：学事出版
出版年：　　ISBN：

子どもを伸ばす学級づくり
著者：　土作　彰著
出版社：日本標準
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（　）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育方法論（初）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梅本　裕	

テーマ

＜授業をつくる＞ことへのイメージを育む

授業の到達目標

教授＝学習過程としての授業過程を理論的に把握するための基礎概念と基礎技法を習得するとともに学習指導要領に示される内容を正確に理解するための知識を身につけること。具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、学習指導要領に即した改善のための処方的知見を得ることができるようになること。

授業の概要

80年代以降の日本の教育実践の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリーシステムを活用して「生き生き学べる授業」の要件を考察する。

準備学習（予習・復習）

学習指導要領を手元に置き、必要なときにすぐに参照できるようにしておくこと。

内　　容

第1回　「あの坂の名は？」社会科における発信型の授業とは何か？
第2回　「見たこと作文」子どもが＜動く＞授業の条件とは？
第3回　「木の葉の駅で」発問の構造
第4回　「発電所はどこにあるか？ 」教授行為とは何か？
第5回　授業づくりのカテゴリーとしての＜指示・発問・説明・応答・制御＞
第6回　「お化け屋敷で算数を」こどもたちの理解の構造をさぐる
第7回　「絵を描くのは苦手です」教育内容と方法の開発論理
第8回　「声を育てる音楽の授業」＜雰囲気のいい授業＞の構造は？
第9回　「世界とつながる、深く調べる」インターネットとコンピュータでできること
第10回　「蟹と戯れるのは誰か？」＜分析ツールを教える＞国語の授業
第11回　「オオカミ狩りはいいことか？」総合学習とは何か？
第12回　授業づくりの記号論的構造＜教育内容・教材・教具・授業行為・理解構造・評価＞
第13回　「これからの学校・授業と情報機器」授業の機能とITの活用
第14回　「地球の大きさはどれくらい？」イメージをそだてる授業の構造
第15回　まとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席が単位付与の前提である。実習などで授業を欠席する場合には「欠席届」を事前に提出するように。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に指示する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）	小テスト （ 60 ）
授業中課題 （ 40 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（算数）<a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　小寺　隆幸	

テーマ

小学校算数の指導法を理解する

授業の到達目標

算数の教科書を検討し、わかりやすい教え方を考え、実践できる力をつける

授業の概要

それぞれの項目について、説明、演習と解説をもとに受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　小学校1年生の数概念指導
第2回　加法・減法
第3回　整数の乗法
第4回　整数の除法
第5回　小数
第6回　分数とその加減
第7回　分数の乗除
第8回　外延量と測定
第9回　内包量
第10回　比例
第11回　図形
第12回　小学校の先生の講義
第13回　模擬授業1
第14回　模擬授業2
第15回　模擬授業3

履修上の注意点

宿題を出すのでしっかり取り組むこと。授業中に小テストを随時行う。

教科書

入門算数学
著者:　黒木哲徳
出版社:　日本評論社
出版年:　　ISBN:

小学校学習指導要領解説　算数編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　　ISBN:

参考書

らくらく算数ブック①-⑥
著者:
出版社:　太郎次郎社
出版年:　　ISBN:

どうしたら算数がわかるようになるか
著者:　銀林浩編
出版社:　日本評論社
出版年:　　ISBN:

a30102d650

子どもはどこでつまずくか
著者:　銀林浩
出版社:　国土社
出版年:　　ISBN:

いきいき算数シリーズ(1年ー6年)
著者:
出版社:　ひまわり社
出版年:　　ISBN:

教えてみよう算数
著者:　小笠毅
出版社:　日本評論社
出版年:　　ISBN:

子どもといっしょにたのしく算数1-3年
著者:　渡辺恵津子
出版社:　一声社
出版年:　　ISBN:

子どもといっしょにたのしく算数4ー6年
著者:　渡辺恵津子
出版社:　一声社
出版年:　　ISBN:

こまったときの算数の教え方1年生ー6年生
著者:
出版社:　大月書店
出版年:　　ISBN:

算数おもしろ教具
著者:　何森真人
出版社:　フォーラム・A
出版年:　　ISBN:

世界をひらく数学的リテラシー
著者:　小寺・清水
出版社:　明石書店
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　(　)　　小テスト　(30)
授業中課題　(30)　　授業中発表等　(30)
参加度　(10)

2016 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（算数）<b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　小寺　隆幸	

テーマ

小学校算数の指導法を理解する

授業の到達目標

算数の教科書を検討し、わかりやすい教え方を考え、実践できる力をつける

授業の概要

それぞれの項目について、説明、演習と解説をもとに受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　小学校1年生の数概念指導
第2回　加法・減法
第3回　整数の乗法
第4回　整数の除法
第5回　小数
第6回　分数とその加減
第7回　分数の乗除
第8回　外延量と測定
第9回　内包量
第10回　比例
第11回　図形
第12回　小学校の先生の講義
第13回　模擬授業1
第14回　模擬授業2
第15回　模擬授業3

履修上の注意点

宿題を出すのでしっかり取り組むこと。授業中に小テストを随時行う。

教科書

入門算数学
著者:　黒木哲徳
出版社:　日本評論社
出版年:　　ISBN:

小学校学習指導要領解説　算数編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　　ISBN:

参考書

らくらく算数ブック①-⑥
著者:
出版社:　太郎次郎社
出版年:　　ISBN:

どうしたら算数がわかるようになるか
著者:　銀林浩編
出版社:　日本評論社
出版年:　　ISBN:

a30102d652

子どもはどこでつまずくか
著者:　銀林浩
出版社: 国土社
出版年:　　ISBN:

いきいき算数シリーズ(1年ー6年)
著者:
出版社: ひまわり社
出版年:　　ISBN:

教えてみよう算数
著者:　小笠毅
出版社: 日本評論社
出版年:　　ISBN:

子どもといっしょにたのしく算数1-3年
著者:　渡辺恵津子
出版社: 一声社
出版年:　　ISBN:

子どもといっしょにたのしく算数4ー6年
著者:　渡辺恵津子
出版社: 一声社
出版年:　　ISBN:

こまったときの算数の教え方1年生ー6年生
著者:
出版社: 大月書店
出版年:　　ISBN:

算数おもしろ教具
著者:　何森真人
出版社: フォーラム・A
出版年:　　ISBN:

世界をひらく数学的リテラシー
著者:　小寺・清水
出版社: 明石書店
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 ( )　　小テスト (30)
授業中課題 (30)　　授業中発表等 (30)
参加度 (10)

2016 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（音楽）<a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　佐野 仁美	

テーマ

音楽授業をつくる

授業の到達目標

（1）小学校の音楽授業を構成することのできる能力を育てる。（2）授業を進めるための実践的な方法を理解する。（3）特色のある音楽授業を参考に、複数の観点から授業を計画し、適切な方法を提案することができる。

授業の概要

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

準備学習（予習・復習）

予習：音楽および音楽教育に関する本や雑誌を読む。復習：小学校音楽科の授業の立案、模擬授業を行えるよう、授業内容や授業の中で理解した点を整理しておく。

内　容

第1回　オリエンテーション－音楽科教育の目的
第2回　表現・歌唱－共通教材
第3回　表現・歌唱－教科書歌唱教材
第4回　表現・歌唱－合唱曲、世界の歌
第5回　表現・歌唱と器楽―リズム
第6回　表現・器楽－リコーダー、鍵盤ハーモニカ
第7回　表現・器楽－合奏
第8回　表現・創作-音楽づくりと手作り楽器
第9回　鑑賞－鑑賞教材による授業づくり
第10回　国際理解／異文化理解に挑戦する授業
第11回　授業行為と音楽授業
第12回　実践事例から学ぶ
第13回　指導案の作成と準備
第14回　模擬授業－器楽・創作
第15回　模擬授業－歌唱

履修上の注意点

（1）小学校で受けた音楽授業を振り返り、音楽授業の意義と課題について考える。（2）音楽、音楽教育関連の雑誌、本を読む。3分の2以上の出席が必要。遅刻や早退をしないように。

教科書

初等科音楽教育法(改訂版)
著者：　初等科音楽教育研究会編
出版社：音楽之友社
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（音楽）<b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　佐野 仁美	

テーマ

音楽授業をつくる

授業の到達目標

（1）小学校の音楽授業を構成することのできる能力を育てる。（2）授業を進めるための実践的な方法を理解する。（3）特色のある音楽授業を参考に、複数の観点から授業を計画し、適切な方法を提案することができる。

授業の概要

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

準備学習（予習・復習）

予習：音楽および音楽教育に関する本や雑誌を読む。復習：小学校音楽科の授業の立案、模擬授業を行えるよう、授業内容や授業の中で理解した点を整理しておく。

内　容

第1回　オリエンテーション－音楽科教育の目的
第2回　表現・歌唱－共通教材
第3回　表現・歌唱－教科書歌唱教材
第4回　表現・歌唱－合唱曲、世界の歌
第5回　表現・歌唱と器楽―リズム
第6回　表現・器楽－リコーダー、鍵盤ハーモニカ
第7回　表現・器楽－合奏
第8回　表現・創作-音楽づくりと手作り楽器
第9回　鑑賞－鑑賞教材による授業づくり
第10回　国際理解／異文化理解に挑戦する授業
第11回　授業行為と音楽授業
第12回　実践事例から学ぶ
第13回　指導案の作成と準備
第14回　模擬授業－器楽・創作
第15回　模擬授業－歌唱

履修上の注意点

（1）小学校で受けた音楽授業を振り返り、音楽授業の意義と課題について考える。（2）音楽、音楽教育関連の雑誌、本を読む。3分の2以上の出席が必要。遅刻や早退をしないように。

教科書

初等科音楽教育法(改訂版)
著者：　初等科音楽教育研究会編
出版社：音楽之友社
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（家庭）<a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　大塚　眞理子	

テーマ

初等教育における家庭科の指導者としての資質を備えることを目指す。

授業の到達目標

家庭科教育の内容について具体的に題材を教材として取り上げ、その教材の意義や指導方法について探求する。

授業の概要

各自、指導案を作成、模擬授業を行う。

準備学習（予習・復習）

家庭科概論の内容を踏まえた指導法であるので復習しておくこと。指導案を段階的にグループ活動で作成するが、授業後各自で復習すること。

内　容

第1回　家庭科教育の意義
第2回　家庭科の目標・内容
第3回　家庭科の内容構成
第4回　指導計画作成上の留意点
第5回　評価の目的・評価の観点について
第6回　家庭科学習指導案の書き方
第7回　教材研究・授業例
第8回　教材研究・授業例
第9回　教材研究
第10回　教材研究
第11回　指導案の検討　模擬授業の準備
第12回　模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する
第13回　模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する
第14回　模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する
第15回　まとめ

履修上の注意点

家庭科の教科書の中から1時間分の題材を選び、学習指導案を作成する。

教科書

小学校家庭科「新しい家庭」
著者:
出版社:　東京書籍
出版年:　　ISBN:

参考書

「小学校学習指導要領解説」家庭編
著者:
出版社:　東洋館出版社
出版年:　　ISBN:

初等家庭科教育法
著者:　加地芳子・大塚眞理子
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2011　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 60 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 20 ）
授業中課題としては指導案（2回提出）、製作品、実習レポート、授業感想など。2/3以上の出席、指導案提出と模擬授業実施は単位取得に必要である。

2016 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（家庭）<b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　大塚　眞理子	

テーマ

初等教育における家庭科の指導者としての資質を備えることを目指す。

授業の到達目標

家庭科教育の内容について具体的に題材を教材として取り上げ、その教材の意義や指導方法について探求する。

授業の概要

各自、指導案を作成、模擬授業を行う。

準備学習（予習・復習）

家庭科概論の内容を踏まえた指導法であるので復習しておくこと。指導案を段階的にグループ活動で作成するが、授業後各自で復習すること。

内　容

第1回　家庭科教育の意義
第2回　家庭科の目標・内容
第3回　家庭科の内容構成
第4回　指導計画作成上の留意点
第5回　評価の目的・評価の観点について
第6回　家庭科学習指導案の書き方
第7回　教材研究・授業例
第8回　教材研究・授業例
第9回　教材研究
第10回　教材研究
第11回　指導案の検討　模擬授業の準備
第12回　模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する
第13回　模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する
第14回　模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する
第15回　まとめ

履修上の注意点

家庭科の教科書の中から1時間分の題材を選び、学習指導案を作成する。

教科書

小学校家庭科「新しい家庭」
著者:
出版社:　東京書籍
出版年:　　ISBN:

参考書

「小学校学習指導要領解説」家庭編
著者:
出版社:　東洋館出版社
出版年:　　ISBN:

初等家庭科教育法
著者:　加地芳子・大塚眞理子
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2011　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 60 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 20 ）
授業中課題としては指導案（2回提出）、製作品、実習レポート、授業感想など。2/3以上の出席、指導案提出と模擬授業実施は単位取得に必要である。

2016 Syllabus

科 目 名　**国語概論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　尾西　正成.佐野　裕子	

テーマ

小学校国語科を教えるのに必要、かつ国語（日本語）を分析対象として科学的・客観的に考えるための基礎知識を学ぶ。

授業の到達目標

何の問題もなく運用することができる国語（日本語）について意識化し、これまで気づくことのなかった日本語の特性に目を向け物事を客観的に見る能力を養うとともに、小学校国語科の伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項を踏まえ、日本語に関する基本的な知識を学ぶ。

授業の概要

授業は講義形式で行う。毎回授業で学んだ内容に関する確認プリントを配布するので、必ず提出してもらう。また、小テストを第6回目と第10回目に、まとめのテストを12回目に実施する。

準備学習（予習・復習）

ハンドアウトや確認プリントで復習を行うこと。特に「音声」「系統と類型」の部分は、復習が求められる。日本語に関する関心を持つようにすること。特に「当たり前」と普段感じていることを「なぜなんだろう？」と思える感性を持つこと。

内　容

第1回　授業説明・評価説明
第2回　日本語の音1
第3回　日本語の音2
第4回　日本語の表記1
第5回　日本語の表記2
第6回　日本語の語彙
第7回　日本語の系統と類型
第8回　日本語のバラエティ1
第9回　日本語のバラエティ2
第10回　国語と日本語
第11回　国語を学ぶ意義
第12回　まとめ
第13回　書写1
第14回　書写2
第15回　書写3

履修上の注意点

書写を行う13～15回に関しては、集中講義として1日で3回分の授業を実施する。授業実施日や持ち物など諸連絡には十分注意し、欠席することのないように。

教科書

授業時配布プリント
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

授業時適宜紹介
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（ 30 ）　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 30 ）　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 20 ）

出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。また、遅刻は授業開始15分までとし、15分を超えた者は欠席として処理する。出席確認は、カードによる確認と確認プリントの提出による確認のダブルチェックを行う。出席に際しては、必ずカードのチェックと確認プリントの提出を忘れないように（どちらか欠けている場合も欠席と見なす）。また、小テストやまとめテストを未受験の場合も、評価の対象としない。

2016 Syllabus

科 目 名　**社会科概論**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　倉持 祐二

テーマ

小学校社会科の全体像をつかむ

授業の到達目標

各学年の社会科の授業を体験的に学びながら、社会科という教科の性格と役割、社会科の目標・内容・方法、社会科指導の基礎的な技能の習得をめざす。また、2008年度版の学習指導要領をふまえた実践的課題について考える視点を獲得する。

授業の概要

2008年度版学習指導要領や教科書をもとに、小学校3～6年の社会科学習の目標・内容・方法のアウトラインをつかむ。そのうえで、実際に1時間の授業案づくりを試みる。

準備学習（予習・復習）

予習：各回のテーマについて、事前に学習指導要領解説や教科書の内容を調べておく。復習：授業で扱った社会科授業の理論と実践の要点を振り返り、授業案づくりのポイントを整理する。

内　容

第1回　社会科で学ぶこと（社会科の誕生）
第2回　2008年度版学習指導要領の特徴をつかむ
第3回　社会科の目標と評価
第4回　小学校3・4年の学習内容　地域の生産労働をどう教えるか
第5回　小学校3・4年の学習内容　地図学習をどうすすめるか
第6回　小学校5年の学習内容　日本の農業をどう教えるか
第7回　小学校5年の学習内容　日本の工業をどう教えるか
第8回　小学校6年の学習内容　時代の特徴をどうイメージさせるか
第9回　小学校6年の学習内容　戦争と平和をどう教えるか
第10回　子どもの「学び」を引き出す「教材」と「教育内容」
第11回　「コンビニ」を素材に教材をつくる
第12回　授業をつくる（かじ屋のじょうきちさんの食事）
第13回　授業をつくる（漂流民とペリー来航）
第14回　インターネット時代の教材づくりと授業
第15回　1時間の授業案づくりの視点と方法

履修上の注意点

3分の2以上の出席を原則とする。遅刻や早退をしないように。

教科書

小学校学習指導要領解説　社会編
著者：　文部科学省
出版社：東洋館出版社
出版年：2008年　　ISBN：

社会認識を育てる教材・教具と社会科の授業づくり』
著者：　井ノ口貴史・倉持祐二
出版社：三学出版
出版年：2015年　　ISBN：

参考書

授業の中で紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（30%）
授業中課題（40%）　　授業中発表等（30%）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**生活科概論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　三上　周治	

テーマ

授業の到達目標

小学校低学年における、自然や社会に関わる学びを創る

授業の概要

小学校中学年以降に展開される学びの土台となる認識を培う。小学校低学年の子ども達の周りにある自然や社会について、個別にそして具体的に認識することを目的とする。動物や植物、磁石や空気、自分の体や自分がくらす、学校や家庭を具体的に取り上げることで、自然認識や社会認識の基礎を培う。

準備学習（予習・復習）

内　容

第14回　郵便局の仕事
第15回　生活科学習指導案の作り方
第1回　小学校低学年での教科教育が果たす役割(教科教育としての生活科の任務①)
第2回　小学校低学年での自然や社会にかかわる学びの意味(教科教育としての生活科の任務②)
第3回　生活科教科書、学習指導要領の定期する生活科とは？
第4回　身近な動物の飼育観察を通して、動物の生き様を学ぶ
第5回　身近な植物の栽培観察を通して、植物の生き様を学ぶ
第6回　トンカチ、サンドペーパー、豆電球をむ使って金属探し
第7回　磁石を使って、鉄探し
第8回　空気は、水とよく似ていることを学ぶ
第9回　色水遊び
第10回　音の鳴るおもちゃづくり
第11回　動くおもちゃづくり
第12回　学校の教室、家の部屋
第13回　家族の生活と、家で働く人の仕事

履修上の注意点

教科書

その都度プリントを示す。
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

生活科教科書
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

学習指導要領
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

授業中にプリントで示す
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験　（　）　小テスト（　）

a30102e210

授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 10 ）

参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**家庭科概論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小鶴　祥子	

テーマ

小学校家庭科を指導するための基礎力を高める。

授業の到達目標

①小学校家庭科が果たす教育的役割を理解し、生活課題に対する意識を高める。②小学校家庭科において扱う学習内容を理解し、指導に必要な技能を習得する。③小学校家庭科の授業を構想し、具体的な授業展開を提案することが出来る。

授業の概要

小学校家庭科の教育的意義や学習内容について解説、学生のグループ発表により理解を深める。

準備学習（予習・復習）

シラバスの内容を事前に確認し、テキストを事前に読んでおくこと。各内容について課題が出ます。各自準備をして授業に臨んでください。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明）小学校家庭科の役割
第2回　小学校家庭科の目標と意義について（テキスト小学校学習指導要領解説家庭編p8~14を事前に読んでおくこと）
第3回　「家庭生活と家族」の内容（1）宿題：課題内容のまとめと解説
第4回　「家庭生活と家族」の内容（2）課題発表とディスカッション
第5回　「日常の食事と調理の基礎」の内容（1）宿題：課題内容のまとめと解説
第6回　「日常の食事と調理の基礎」の内容（2）課題発表とディスカッション
第7回　「快適な衣服」の内容（1）宿題：課題内容のまとめと解説
第8回　「快適な衣服」の内容（2）課題発表とディスカッション
第9回　「快適な住まい」の内容（1）宿題：課題内容のまとめと解説
第10回　「快適な住まい」の内容（2）発表とディスカッション
第11回　「身近な消費生活と環境」の内容（1）宿題：課題内容のまとめと解説
第12回　「身近な消費生活と環境」の内容（2）課題発表とディスカッション
第13回　調理実習の指導について
第14回　小ものつくりの製作（1）　フェルト・縫い糸・ボタン・まち針・はさみ等用意する
第15回　小ものつくりの製作（2）ミシンの使い方
第16回　試験

履修上の注意点

テキストを熟読し、課題を調べ発表できるように準備をして下さい。

教科書

小学校家庭科教科書
著者：
出版社：東京書籍
出版年：　　ISBN：
小学校学習指導要領解説家庭科編
著者：　文部科学省
出版社：東洋館出版社
出版年：平成27年　　ISBN：　491-02374-8
小学校家庭科概論
著者：　加地芳子大塚眞理子
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2015年　　ISBN：　623-05994-2

参考書

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（　）

a30102e310

授業中課題（30%）　　授業中発表等（20%）

参加度（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容総論**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　八木 英二

テーマ

保育内容の総合性と指導の基本をつかむ

授業の到達目標

保育内容の健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域を総合的にとらえる視点を養う。さらに発達過程と幼児理解を基礎にした保育を行うための教育課程の編成と長期・短期の指導計画の立案過程について学ぶ。

授業の概要

実践事例に数多くふれながら、あわせて教育・保育実習の実習ができるような実習指導計画の作成方法について学んでいく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　幼稚園教育要領と保育所保育指針
第2回　自然（環境）と社会（人間関係）の関係
第3回　小学校への接続
第4回　入園当初の計画
第5回　ごっこ遊びの意義
第6回　遊びの素材論
第7回　遊びの発展
第8回　身振り表現の意義
第9回　お話を聞くこと
第10回　童話の扱い
第11回　保育計画とは何か
第12回　前期の保育
第13回　後期の保育
第14回　劇遊びと生活発表
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

できるだけ実践事例に多くふれることが大切であるが、学生同士で生活における自身の遊びの文化的社会的な意味を論議しあうなど、生涯発達の観点からも遊びの意義を広げ深めることを期待する。

教科書

学習指導要領
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

その他授業中に指示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に指示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（環境）Ⅰ〈幼a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　青木　美智子	

テーマ

授業の到達目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の概要

Ⅰでは主として、①幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」の理解を図る。②子どもの発達に相応しい生活環境・遊び場の諸条件を具体的に理解する。③身近な自然を子どもの興味・関心の対象とするための保育方法を学習する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　子どもの遊びと環境～空間・時間・仲間・方法の歴史的変遷
第2回　保育における栽培の取り組み～園芸技術の基礎・ペットボトルによる栽培実習
第3回　居場所としての保育環境～生活文化の歴史的考察
第4回　あそびの概念をめぐって絵本からの学び～子ども時代をイメージするもの
第5回　保育環境における動物飼育～養蚕の取り組み
第6回　野外観察実習　身近な樹木の識別と草花あそび
第7回　園庭の機能と環境構成～「園庭は自然を覗（のぞ）く窓」・ビオトープ
第8回　まとめ

履修上の注意点

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

幼児期
著者:　岡本夏木
出版社:　岩波新書
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（環境）Ⅰ〈幼b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　青木　美智子	

テーマ

授業の到達目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の概要

Ⅰでは主として、①幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」の理解を図る。②子どもの発達に相応しい生活環境・遊び場の諸条件を具体的に理解する。③身近な自然を子どもの興味・関心の対象とするための保育方法を学習する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　子どもの遊びと環境～空間・時間・仲間・方法の歴史的変遷
第2回　保育における栽培の取り組み～園芸技術の基礎・ペットボトルによる栽培実習
第3回　居場所としての保育環境～生活文化の歴史的考察
第4回　あそびの概念をめぐって絵本からの学び～子ども時代をイメージするもの
第5回　保育環境における動物飼育～養蚕の取り組み
第6回　野外観察実習　身近な樹木の識別と草花あそび
第7回　園庭の機能と環境構成～「園庭は自然を覗（のぞ）く窓」・ビオトープ
第8回　まとめ

履修上の注意点

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

幼児期
著者:　岡本夏木
出版社:　岩波新書
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（環境）Ⅰ〈幼c〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　長橋　聡	

テーマ

授業の到達目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の概要

Ⅰでは主として、①幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」の理解を図る。②子どもの発達に相応しい生活環境・遊び場の諸条件を具体的に理解する。③身近な自然を子どもの興味・関心の対象とするための保育方法を学習する。

準備学習（予習・復習）

予習は特に必要ありません。復習については、適宜ノートや配布資料等を見直してください。

内　　容

第1回　子どもの遊びと環境～空間・時間・仲間・方法の歴史的変遷
第2回　保育における栽培の取り組み～園芸技術の基礎・ペットボトルによる栽培実習
第3回　居場所としての保育環境～生活文化の歴史的考察
第4回　あそびの概念をめぐって絵本からの学び～子ども時代をイメージするもの
第5回　保育環境における動物飼育～養蚕の取り組み
第6回　野外観察実習　身近な樹木の識別と草花あそび
第7回　園庭の機能と環境構成～「園庭は自然を覗（のぞ）く窓」・ビオトープ
第8回　まとめ

履修上の注意点

出席・欠席について：出席時には学生証を携行してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申告してください。

教科書

なし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

保育所保育指針解説書
著者：　厚生労働省
出版社：フレーベル館
出版年：2008　　ISBN：

幼稚園教育要領解説
著者：　文部科学省
出版社：フレーベル館
出版年：2008　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（環境）Ⅰ〈児〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　長橋　聡	

テーマ

授業の到達目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の概要

Ⅰでは主として、①幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」の理解を図る。②子どもの発達に相応しい生活環境・遊び場の諸条件を具体的に理解する。③身近な自然を子どもの興味・関心の対象とするための保育方法を学習する。

準備学習（予習・復習）

予習は特に必要ありません。復習については、適宜ノートや配布資料を見直してください。

内　　容

第1回　子どもの遊びと環境～空間・時間・仲間・方法の歴史的変遷
第2回　保育における栽培の取り組み～園芸技術の基礎・ペットボトルによる栽培実習
第3回　居場所としての保育環境～生活文化の歴史的考察
第4回　あそびの概念をめぐって絵本からの学び～子ども時代をイメージするもの
第5回　保育環境における動物飼育～養蚕の取り組み
第6回　野外観察実習　身近な樹木の識別と草花あそび
第7回　園庭の機能と環境構成～「園庭は自然を覗（のぞ）く窓」・ビオトープ
第8回　まとめ

履修上の注意点

出席・欠席について：出席時には学生証を携行してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申し出てください。

教科書

なし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

保育所保育指針解説書
著者：　厚生労働省
出版社：フレーベル館
出版年：2008　　ISBN：

幼稚園教育要領解説
著者：　文部科学省
出版社：フレーベル館
出版年：2008　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（環境）Ⅱ〈幼a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　青木　美智子	

テーマ

授業の到達目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の概要

Ⅰの内容を踏まえ、Ⅱでは主として、①幼稚園設置基準および児童福祉施設最低基準の理解とその向上のための方策を探る。②乳幼児期を過ごす風土の特徴を諸外国の例も知り、「故郷の体験」の意義を考える。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　子どもの発達的特徴と安全管理・事故防止～リスクとハザード
第2回　幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「環境」の求めるものと最低基準
第3回　保育室の機能と環境構成～遊具・玩具の管理
第4回　諸外国の保育環境～「森の幼稚園
第5回　諸外国の保育環境～「保育環境評価」
第6回　人的環境としての保育者
第7回　子どもの権利の保障と平和の文化
第8回　まとめ

履修上の注意点

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

幼児期
著者:　岡本夏木
出版社:　岩波新書
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等（　）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（環境）Ⅱ〈幼b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　青木　美智子	

テーマ

授業の到達目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の概要

Ⅰの内容を踏まえ、Ⅱでは主として、①幼稚園設置基準および児童福祉施設最低基準の理解とその向上のための方策を探る。②乳幼児期を過ごす風土の特徴を諸外国の例も知り、「故郷の体験」の意義を考える。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　子どもの発達的特徴と安全管理・事故防止～リスクとハザード
第2回　幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「環境」の求めるものと最低基準
第3回　保育室の機能と環境構成～遊具・玩具の管理
第4回　諸外国の保育環境～「森の幼稚園
第5回　諸外国の保育環境～「保育環境評価」
第6回　人的環境としての保育者
第7回　子どもの権利の保障と平和の文化
第8回　まとめ

履修上の注意点

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

幼児期
著者:　岡本夏木
出版社:　岩波新書
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（環境）Ⅱ〈幼c〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　長橋　聡	
テーマ	

授業の到達目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の概要

Ⅰの内容を踏まえ、Ⅱでは主として、①幼稚園設置基準および児童福祉施設最低基準の理解とその向上のための方策を探る。②乳幼児期を過ごす風土の特徴を諸外国の例も知り、「故郷の体験」の意義を考える。

準備学習（予習・復習）

予習は特に必要ありません。復習については、適宜ノートや配布資料等を見直してください。

内　　容

第1回　子どもの発達的特徴と安全管理・事故防止～リスクとハザード
第2回　幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「環境」の求めるものと最低基準
第3回　保育室の機能と環境構成～遊具・玩具の管理
第4回　諸外国の保育環境～「森の幼稚園
第5回　諸外国の保育環境～「保育環境評価」
第6回　人的環境としての保育者
第7回　子どもの権利の保障と平和の文化
第8回　まとめ

履修上の注意点

出席・欠席について：出席時には学生証を携行してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申告してください。

教科書

なし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

保育所保育指針解説書
著者：　厚生労働省
出版社：フレーベル館
出版年：2008　　ISBN：

幼稚園教育要領解説
著者：　文部科学省
出版社：フレーベル館
出版年：2008　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（環境）Ⅱ <児>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期後半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　長橋 聡

テーマ

授業の到達目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の概要

Ⅰの内容を踏まえ、Ⅱでは主として、①幼稚園設置基準および児童福祉施設最低基準の理解とその向上のための方策を探る。②乳幼児期を過ごす風土の特徴を諸外国の例も知り、「故郷の体験」の意義を考える。

準備学習（予習・復習）

予習は特に必要ありません。復習については、適宜ノートや配布資料等を見直してください。

内　容

第1回　子どもの発達的特徴と安全管理・事故防止～リスクとハザード
第2回　幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「環境」の求めるものと最低基準
第3回　保育室の機能と環境構成～遊具・玩具の管理
第4回　諸外国の保育環境～「森の幼稚園
第5回　諸外国の保育環境～「保育環境評価」
第6回　人的環境としての保育者
第7回　子どもの権利の保障と平和の文化
第8回　まとめ

履修上の注意点

出席・欠席について：出席時には学生証を携行してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申告してください。

教科書

なし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

保育所保育指針解説書
著者：　厚生労働省
出版社：フレーベル館
出版年：2008　　ISBN：

幼稚園教育要領解説
著者：　文部科学省
出版社：フレーベル館
出版年：2008　　ISBN：

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（表現）Ⅰ〈幼a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　久堀　久美子	

テーマ

幼児期における自己表現の基盤となる表現活動について、具体的・実践的学びを深める。

授業の到達目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の概要

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。Ⅰでは主として、絵本の読み聞かせ、紙芝居の実演、歌や身振りの表現、粘土などの造型活動、等による表現指導法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

身近かな環境（自然・社会・人等）を通して心動かす経験を日頃から意識して行なう。

内　容

第1回　シラバスの説明・「表現」について
第2回　絵本の意義と伝え方
第3回　絵本の読み聞かせの実践
第4回　紙芝居の意義と演じ方
第5回　紙芝居の演じ方と実践
第6回　わらべ歌、手遊び歌の意義と実践・身ぶり表現の実践
第7回　粘土あそび等造形活動
第8回　まとめ

履修上の注意点

演習・実技の時は動ける服装・上靴を持参すること

教科書

授業に関する資料は随時配布する
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

幼稚園教育要領
著者:
出版社:　文部科学省
出版年:　平成20年3月　ISBN:

成績評価

試験　（ 40 ）　小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（表現）Ⅰ〈幼b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　久堀　久美子	

テーマ

幼児期における自己表現の基盤となる表現活動について、具体的・実践的学びを深める。

授業の到達目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の概要

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。Ⅰでは主として、絵本の読み聞かせ、紙芝居の実演、歌や身振りの表現、粘土などの造型活動、等による表現指導法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

身近かな環境（自然・社会・人等）を通して心動かす経験を日頃から意識して行なう。

内　容

第1回　シラバスの説明・「表現」について
第2回　絵本の意義と伝え方
第3回　絵本の読み聞かせの実践
第4回　紙芝居の意義と演じ方
第5回　紙芝居の演じ方と実践
第6回　わらべ歌、手遊び歌の意義と実践・身ぶり表現の実践
第7回　粘土あそび等造形活動
第8回　まとめ

履修上の注意点

演習・実技の時は動ける服装・上靴を持参すること

教科書

授業に関する資料は随時配布する
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

幼稚園教育要領
著者:
出版社:　文部科学省
出版年:　平成20年3月　ISBN:

成績評価

試験　（ 40 ）　小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（表現）Ⅰ〈幼c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　久堀　久美子	

テーマ

幼児期における自己表現の基盤となる表現活動について、具体的・実践的学びを深める。

授業の到達目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の概要

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。Ⅰでは主として、絵本の読み聞かせ、紙芝居の実演、歌や身振りの表現、粘土などの造型活動、等による表現指導法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

身近かな環境（自然・社会・人等）を通して心動かす経験を日頃から意識して行なう。

内　容

第1回　シラバスの説明・「表現」について
第2回　絵本の意義と伝え方
第3回　絵本の読み聞かせの実践
第4回　紙芝居の意義と演じ方
第5回　紙芝居の演じ方と実践
第6回　わらべ歌、手遊び歌の意義と実践・身ぶり表現の実践
第7回　粘土あそび等造形活動
第8回　まとめ

履修上の注意点

演習・実技の時は動ける服装・上靴を持参すること

教科書

授業に関する資料は随時配布する
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

幼稚園教育要領
著者:
出版社:　文部科学省
出版年:　平成20年3月　ISBN:

成績評価

試験　（ 40 ）　小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（表現）Ⅰ ＜児＞**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期前半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　久堀　久美子

テーマ

幼児期の表現活動の教育的意味を理解し、具体的・実践的な保育を学ぶ。

授業の到達目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の概要

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。Ⅰでは主として、絵本の読み聞かせ、紙芝居の実演、歌や身振りの表現、粘土などの造型活動、等による表現指導法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

授業以外で、身近な環境（自然・社会・人等）とのかかわりを積極的に行い感動する心を養う

内　容

第1回　シラバスの説明・「表現」について
第2回　絵本の意義と伝え方
第3回　絵本の読み聞かせの実践
第4回　紙芝居の意義と演じ方
第5回　紙芝居の演じ方と実践
第6回　わらべ歌、手遊び歌の意義と実践・身ぶり表現の実践
第7回　粘土あそび等造形活動
第8回　まとめ

履修上の注意点

演習の時は動ける服装、上靴持参のこと

教科書

授業に関する資料は随時配布する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

幼稚園教育要領
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（表現）Ⅱ〈幼a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　久堀　久美子	

テーマ

授業の到達目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の概要

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。Ⅱでは主として、ペープサート（紙人形劇）を素材として、劇づくりによる表現指導法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ペープサートの意義と表現について
第2回　ペープサートの作成と演出について
第3回　ペープサートによる実践
第4回　劇づくりの意義と指導法
第5回　劇づくりの作成、準備
第6回　劇づくりの役割分担と演技
第7回　劇づくりによる表現、実践
第8回　表現の指導のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

随時紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（表現）Ⅱ ＜児＞**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期後半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　久堀　久美子

テーマ

授業の到達目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の概要

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。Ⅱでは主として、ペープサート（紙人形劇）を素材として、劇づくりによる表現指導法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ペープサートの意義と表現について
第2回　ペープサートの作成と演出について
第3回　ペープサートによる実践
第4回　劇づくりの意義と指導法
第5回　劇づくりの作成、準備
第6回　劇づくりの役割分担と演技
第7回　劇づくりによる表現、実践
第8回　表現の指導のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

随時紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（健康）Ⅰ〈幼a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　口野　隆史	

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、子どもの運動発達と健康・体育領域の指導について理解を深める。

授業の到達目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解する。

授業の概要

乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解を深める。同時に現代の子どもたちが置かれている状況（生活習慣や生活リズム）・環境も理解し、子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を身に付ける。

準備学習（予習・復習）

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び等々、楽しかったものを思い出し、自分が子どもと一緒にするならどのようにするのかを考える。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　容

第1回　本学科のカリキュラムになぜ「保育内容（健康）」という科目があるのか?
第2回　健康とは何か。健康の概念、健康観の変遷
第3回　就学前の子どもたちの理解（発達段階の概要の把握）
第4回　人間の身体と健康についての理解（個体発生と系統発生）
第5回　子どもの健康をとりまく環境の理解
第6回　子どもの食事と偏食（「ライオンはお肉しか食べない」と子どもに言われたら？）
第7回　『幼稚園教育要領』の内容（特に健康領域）の理解
第8回　まとめ

履修上の注意点

しっかり出席すること。子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かすアイデアを考える。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を理解する。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

参考書

幼児のこころと運動
著者:　近藤充夫
出版社:　教育出版
出版年:　1995　　ISBN:

乳幼児の体育あそび
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　草土文化
出版年:　1999　　ISBN:

幼児体育の指導
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　ベースボール・マガジン社
出版年:　1974　　ISBN:

幼児のあそびと仕事
著者:　城丸章夫
出版社:　草土文化
出版年:　1981　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 20 ）
しっかり出席すること。授業中に出される課題について、よく考えて自分の意見を述べること。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（健康）Ⅰ〈幼b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　口野　隆史	

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、子どもの運動発達と健康・体育領域の指導について理解を深める。

授業の到達目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解する。

授業の概要

乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解を深める。同時に現代の子どもたちが置かれている状況（生活習慣や生活リズム）・環境も理解し、子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を身に付ける。

準備学習（予習・復習）

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び等々、楽しかったものを思い出し、自分が子どもと一緒にするならどのようにするのかを考える。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　容

第1回　本学科のカリキュラムになぜ「保育内容（健康）」という科目があるのか?
第2回　健康とは何か。健康の概念、健康観の変遷
第3回　就学前の子どもたちの理解（発達段階の概要の把握）
第4回　人間の身体と健康についての理解（個体発生と系統発生）
第5回　子どもの健康をとりまく環境の理解
第6回　子どもの食事と偏食（「ライオンはお肉しか食べない」と子どもに言われたら？）
第7回　『幼稚園教育要領』の内容（特に健康領域）の理解
第8回　まとめ

履修上の注意点

しっかり出席すること。子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かすアイデアを考える。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を理解する。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

参考書

幼児のこころと運動
著者:　近藤充夫
出版社:　教育出版
出版年:　1995　　ISBN:

乳幼児の体育あそび
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　草土文化
出版年:　1999　　ISBN:

幼児体育の指導
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　ベースボール・マガジン社
出版年:　1974　　ISBN:

幼児のあそびと仕事
著者:　城丸章夫
出版社:　草土文化
出版年:　1981　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 20 ）
しっかり出席すること。授業中に出される課題について、よく考えて自分の意見を述べること。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（健康）Ⅰ〈幼c〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　口野　隆史	

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、子どもの運動発達と健康・体育領域の指導について理解を深める。

授業の到達目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解する。

授業の概要

乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解を深める。同時に現代の子どもたちが置かれている状況（生活習慣や生活リズム）・環境も理解し、子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を身に付ける。

準備学習（予習・復習）

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び等々、楽しかったものを思い出し、自分が子どもと一緒にするならどのようにするのかを考える。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　容

第1回　本学科のカリキュラムになぜ「保育内容（健康）」という科目があるのか?
第2回　健康とは何か。健康の概念、健康観の変遷
第3回　就学前の子どもたちの理解（発達段階の概要の把握）
第4回　人間の身体と健康についての理解（個体発生と系統発生）
第5回　子どもの健康をとりまく環境の理解
第6回　子どもの食事と偏食（「ライオンはお肉しか食べない」と子どもに言われたら？）
第7回　『幼稚園教育要領』の内容（特に健康領域）の理解
第8回　まとめ

履修上の注意点

しっかり出席すること。子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かすアイデアを考える。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を理解する。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

参考書

幼児のこころと運動
著者:　近藤充夫
出版社:　教育出版
出版年:　1995　　ISBN:

乳幼児の体育あそび
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　草土文化
出版年:　1999　　ISBN:

幼児体育の指導
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　ベースボール・マガジン社
出版年:　1974　　ISBN:

幼児のあそびと仕事
著者:　城丸章夫
出版社:　草土文化
出版年:　1981　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 20 ）
しっかり出席すること。授業中に出される課題について、よく考えて自分の意見を述べること。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（健康）Ⅰ ＜児＞**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期集中　　定　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　田中 真紀

テーマ

幼児期の子どもの発育発達

授業の到達目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解する

授業の概要

乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解を深める。同時に現代の子どもたちが置かれている状況（生活習慣や生活リズム）・環境も理解し、子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を身に付ける。

準備学習（予習・復習）

毎回の授業時に指示します。

内　容

第1回　本学科のカリキュラムになぜ「保育内容（健康）」という科目があるのか?
第2回　健康とは何か。健康の概念、健康観の変遷
第3回　就学前の子どもたちの理解（発達段階の概要の把握）
第4回　人間の身体と健康についての理解（個体発生と系統発生）
第5回　子どもの健康をとりまく環境の理解
第6回　子どもの食事と偏食（「ライオンはお肉しか食べない」と子どもに言われたら？）
第7回　『幼稚園教育要領』の内容（特に健康領域）の理解
第8回　まとめ

履修上の注意点

集中講義による連続授業となるため、授業日時を忘れないようにしてください。文部科学省、スポーツ庁および日本体育協会のHPを定期的に閲覧してください。

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中指示する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ 40 ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（健康）Ⅱ〈幼a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　口野　隆史	

テーマ

乳幼児の運動発達及び保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解を深める。また、どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、就学前の健康・体育領域の指導力を向上させる

授業の到達目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解する

授業の概要

Ｉで学んだ、乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解、現代の子どもたちが置かれている状況（生活習慣や生活リズム）・環境に対する理解をもとに、実際に子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を、模擬保育の演習を通じて身に付ける。

準備学習（予習・復習）

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び等々、楽しかったものを思い出し、自分が子どもと一緒にするならどのようにするのかを考える。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　　容

第1回　人間の運動発達と子どもの運動遊びについての理解
第2回　幼児の体育（健康）の指導計画の作成について
第3回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）①（鬼ごっこ的な内容のもの）
第4回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）②（球技的な内容のもの）
第5回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）③（器械運動的な内容のもの）
第6回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）④（かけっこ・陸上競技的な内容のもの）
第7回　模擬保育の振り返り
第8回　まとめ

履修上の注意点

しっかり出席すること。子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かすアイデアを考える。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を理解する。グループ指導案を作成し、模擬保育を行う。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者：　学校体育研究同志会
出版社：創文企画
出版年：2009　　ISBN：

参考書

幼児のこころと運動
著者：　近藤充夫
出版社：教育出版
出版年：1995　　ISBN：

乳幼児の体育あそび
著者：　学校体育研究同志会
出版社：草土文化
出版年：1999　　ISBN：

幼児体育の指導
著者：　学校体育研究同志会
出版社：ベースボール・マガジン社
出版年：1974　　ISBN：

a30102f050

幼児のあそびと仕事

著者:　城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981　　ISBN:

成績評価

試験 （ 30 ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 20 ）

しっかり出席すること。授業中に出される課題について、よく考えて自分の意見を述べること。グループで指導案を作成し、模擬保育を実施し保育者役、子ども役の両方を経験すること。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（健康）Ⅱ〈幼b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　口野　隆史	

テーマ

乳幼児の運動発達及び保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解を深める。また、どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、就学前の健康・体育領域の指導力を向上させる

授業の到達目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解する

授業の概要

Ｉで学んだ、乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解、現代の子どもたちが置かれている状況（生活習慣や生活リズム）・環境に対する理解をもとに、実際に子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を、模擬保育の演習を通じて身に付ける。

準備学習（予習・復習）

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び等々、楽しかったものを思い出し、自分が子どもと一緒にするならどのようにするのかを考える。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　　容

第1回　人間の運動発達と子どもの運動遊びについての理解
第2回　幼児の体育（健康）の指導計画の作成について
第3回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）①（鬼ごっこ的な内容のもの）
第4回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）②（球技的な内容のもの）
第5回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）③（器械運動的な内容のもの）
第6回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）④（かけっこ・陸上競技的な内容のもの）
第7回　模擬保育の振り返り
第8回　まとめ

履修上の注意点

しっかり出席すること。子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かすアイデアを考える。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を理解する。グループ指導案を作成し、模擬保育を行う。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者：　学校体育研究同志会
出版社：創文企画
出版年：2009　　ISBN：

参考書

幼児のこころと運動
著者：　近藤充夫
出版社：教育出版
出版年：1995　　ISBN：

乳幼児の体育あそび
著者：　学校体育研究同志会
出版社：草土文化
出版年：1999　　ISBN：

幼児体育の指導
著者：　学校体育研究同志会
出版社：ベースボール・マガジン社
出版年：1974　　ISBN：

a30102f052

幼児のあそびと仕事

著者:　城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981　　ISBN:

成績評価

試験 （ 30 ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 20 ）

しっかり出席すること。授業中に出される課題について、よく考えて自分の意見を述べること。グループで指導案を作成し、模擬保育を実施し保育者役、子ども役の両方を経験すること。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（健康）Ⅱ〈幼c〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　口野　隆史	

テーマ

乳幼児の運動発達及び保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解を深める。また、どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、就学前の健康・体育領域の指導力を向上させる

授業の到達目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解する

授業の概要

Ｉで学んだ、乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解、現代の子どもたちが置かれている状況（生活習慣や生活リズム）・環境に対する理解をもとに、実際に子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を、模擬保育の演習を通じて身に付ける。

準備学習（予習・復習）

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び等々、楽しかったものを思い出し、自分が子どもと一緒にするならどのようにするのかを考える。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　　容

第1回　人間の運動発達と子どもの運動遊びについての理解
第2回　幼児の体育（健康）の指導計画の作成について
第3回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）①（鬼ごっこ的な内容のもの）
第4回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）②（球技的な内容のもの）
第5回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）③（器械運動的な内容のもの）
第6回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）④（かけっこ・陸上競技的な内容のもの）
第7回　模擬保育の振り返り
第8回　まとめ

履修上の注意点

しっかり出席すること。子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かすアイデアを考える。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を理解する。グループ指導案を作成し、模擬保育を行う。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者：　学校体育研究同志会
出版社：創文企画
出版年：2009　　ISBN：

参考書

幼児のこころと運動
著者：　近藤充夫
出版社：教育出版
出版年：1995　　ISBN：

乳幼児の体育あそび
著者：　学校体育研究同志会
出版社：草土文化
出版年：1999　　ISBN：

幼児体育の指導
著者：　学校体育研究同志会
出版社：ベースボール・マガジン社
出版年：1974　　ISBN：

a30102f053

幼児のあそびと仕事

著者:　城丸章夫

出版社: 草土文化

出版年: 1981　　ISBN:

成績評価

試験 （ 30 ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 20 ）

しっかり出席すること。授業中に出される課題について、よく考えて自分の意見を述べること。グループで指導案を作成し、模擬保育を実施し保育者役、子ども役の両方を経験すること。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（健康）Ⅱ ＜児＞**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　　田中　真紀

テーマ

幼児期の子どもの発育発達

授業の到達目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解する

授業の概要

Ⅰで学んだ、乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解、現代の子どもたちが置かれている状況（生活習慣や生活リズム）・環境に対する理解をもとに、実際に子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を、模擬保育の演習を通じて身に付ける。

準備学習（予習・復習）

毎回の授業時に指示します。予習復習時間は30分程度です。

内　　容

第1回　人間の運動発達と子どもの運動遊びについての理解
第2回　幼児の体育（健康）の指導計画の作成について
第3回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）①（鬼ごっこ的な内容のもの）
第4回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）②（球技的な内容のもの）
第5回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）③（器械運動的な内容のもの）
第6回　グループ別研究発表（運動遊びの模擬保育）④（かけっこ・陸上競技的な内容のもの）
第7回　模擬保育の振り返り
第8回　まとめ

履修上の注意点

集中講義による連続授業となるため、授業日時を忘れないようにしてください。文部科学省、スポーツ庁および日本体育協会のHPを定期的に閲覧してください。

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中指示する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト　（ 30 ）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（人間関係）Ⅰ ＜幼a＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　南 憲治	

テーマ

乳幼児の人間関係の特徴とその支援

授業の到達目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の概要

人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を現場での観察や多様な保育実践からの学びを通して具体的に理解していく。

準備学習（予習・復習）

予習の必要はないが、授業内容について自分で振り返り、整理すること。

内　容

第1回　授業の進め方について
第2回　保育所保育指針、幼稚園教育要領にみる保育内容・人間関係
第3回　社会の変化と子どもを取り巻く人間関係の状況　現代の家庭と地域社会
第4回　人との関わりが育つ道すじ①　発達初期の人との関わりの形成
第5回　人との関わりが育つ道すじ②　おとなへの依存と自立
第6回　人との関わりが育つ道すじ③　子ども同士の関係のなかで
第7回　多文化社会のなかでの保育
第8回　保護者との関係づくり

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

授業中指示する。
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（人間関係）Ⅰ ＜幼b＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　長橋　聡	

テーマ

授業の到達目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の概要

人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を現場での観察や多様な保育実践からの学びを通して具体的に理解していく。

準備学習（予習・復習）

予習は特に必要ありません。復習については、適宜ノートや配布資料等を見直してください。

内　容

第1回　授業の進め方について
第2回　保育所保育指針、幼稚園教育要領にみる保育内容・人間関係
第3回　社会の変化と子どもを取り巻く人間関係の状況　現代の家庭と地域社会
第4回　人との関わりが育つ道すじ①　発達初期の人との関わりの形成
第5回　人との関わりが育つ道すじ②　おとなへの依存と自立
第6回　人との関わりが育つ道すじ③　子ども同士の関係のなかで
第7回　多文化社会のなかでの保育
第8回　保護者との関係づくり

履修上の注意点

出席・欠席について：出席時には学生証を携行してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申し出てください。

教科書

参考書

保育所保育指針解説書
著者：　厚生労働省
出版社：フレーベル館
出版年：2008　　ISBN：

幼稚園教育要領解説
著者：　文部科学省
出版社：フレーベル館
出版年：2008　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（人間関係）Ⅰ ＜幼c＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　長橋　聡	

テーマ

授業の到達目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の概要

人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を現場での観察や多様な保育実践からの学びを通して具体的に理解していく。

準備学習（予習・復習）

予習は特に必要ありません。復習については、適宜ノートや配布資料等を見直してください。

内　容

第1回　授業の進め方について
第2回　保育所保育指針、幼稚園教育要領にみる保育内容・人間関係
第3回　社会の変化と子どもを取り巻く人間関係の状況　現代の家庭と地域社会
第4回　人との関わりが育つ道すじ①　発達初期の人との関わりの形成
第5回　人との関わりが育つ道すじ②　おとなへの依存と自立
第6回　人との関わりが育つ道すじ③　子ども同士の関係のなかで
第7回　多文化社会のなかでの保育
第8回　保護者との関係づくり

履修上の注意点

出席・欠席について：出席時には学生証を携行してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申し出てください。

教科書

参考書

保育所保育指針解説書
著者：　厚生労働省
出版社：フレーベル館
出版年：2008　　ISBN：

幼稚園教育要領解説
著者：　文部科学省
出版社：フレーベル館
出版年：2008　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（人間関係）Ⅰ ＜児＞**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　林 悠子

テーマ

保育における人間関係と保育者の役割

授業の到達目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の概要

人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を現場での観察や多様な保育実践からの学びを通して具体的に理解していく。

準備学習（予習・復習）

テキストの該当箇所を事前に読んでいることを前提に授業を進めます。

内　容

第1回　授業の進め方について
第2回　保育所保育指針、幼稚園教育要領にみる保育内容・人間関係
第3回　社会の変化と子どもを取り巻く人間関係の状況　現代の家庭と地域社会
第4回　人との関わりが育つ道すじ①　発達初期の人との関わりの形成
第5回　人との関わりが育つ道すじ②　おとなへの依存と自立
第6回　人との関わりが育つ道すじ③　子ども同士の関係のなかで
第7回　多文化社会のなかでの保育
第8回　保護者との関係づくり

履修上の注意点

集中講義のため毎回長時間の講義になりますが、お互い協力し合ってよい学びができるようにしましょう。グループ討議と発表には積極的参加を求めます。

教科書

最新保育講座 8　保育内容「人間関係」
著者：　森上　史朗・小林　紀子・渡辺　英則 編
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2009　　ISBN：　9784623054985

参考書

多文化保育・教育論
著者：　咲間まり子編
出版社：株式会社みらい
出版年：2014　　ISBN：　9784860153199

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（　）
授業中課題としてミニレポートおよび最終レポートを課します。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（人間関係）Ⅱ ＜幼a＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　南 憲治	

テーマ

乳幼児の人間関係とその支援

授業の到達目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の概要

Ⅰで学んだ理論をもとに、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を、現場での様々な事例を検討する中で具体的に理解していく。

準備学習（予習・復習）

予習の必要はないが、授業内容を振り返り、整理すること。

内　容

第1回　保育者と子どもの直接的関係　事例検討
第2回　保育者と子どもの直接的関係　事例検討のまとめ
第3回　子ども同士の関係と保育者―面白さや楽しさを広げる　事例検討
第4回　子ども同士の関係と保育者―ぶつかり合い・対立　事例検討
第5回　子ども同士の関係と保育者―協力して生活を作り出す　事例検討
第6回　子ども同士氏の関係と保育者―異年齢の子ども同士の関わり　事例検討
第7回　子ども同士の関係と保育者　事例検討のまとめ
第8回　全体と通してのまとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

授業中指示する。
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（人間関係）Ⅱ <幼b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　長橋　聡	

テーマ

授業の到達目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の概要

Ⅰで学んだ理論をもとに、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を、現場での様々な事例を検討する中で具体的に理解していく。

準備学習（予習・復習）

予習は特に必要ありません。復習については、適宜ノートや配布資料等を見直してください。

内　容

第1回　保育者と子どもの直接的関係　事例検討
第2回　保育者と子どもの直接的関係　事例検討のまとめ
第3回　子ども同士の関係と保育者―面白さや楽しさを広げる　事例検討
第4回　子ども同士の関係と保育者―ぶつかり合い・対立　事例検討
第5回　子ども同士の関係と保育者―協力して生活を作り出す　事例検討
第6回　子ども同士氏の関係と保育者―異年齢の子ども同士の関わり　事例検討
第7回　子ども同士の関係と保育者　事例検討のまとめ
第8回　全体と通してのまとめ

履修上の注意点

出席・欠席について：出席時には学生証を携行してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申告してください。

教科書

参考書

保育所保育指針解説書
著者：　厚生労働省
出版社：フレーベル館
出版年：2008　　ISBN：

幼稚園教育要領解説
著者：　文部科学省
出版社：フレーベル館
出版年：2008　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（人間関係）Ⅱ ＜幼c＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　長橋　聡	

テーマ

授業の到達目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の概要

Ⅰで学んだ理論をもとに、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を、現場での様々な事例を検討する中で具体的に理解していく。

準備学習（予習・復習）

予習は特に必要ありません。復習については、適宜ノートや配布資料等を見直してください。

内　容

第1回　保育者と子どもの直接的関係　事例検討
第2回　保育者と子どもの直接的関係　事例検討のまとめ
第3回　子ども同士の関係と保育者―面白さや楽しさを広げる　事例検討
第4回　子ども同士の関係と保育者―ぶつかり合い・対立　事例検討
第5回　子ども同士の関係と保育者―協力して生活を作り出す　事例検討
第6回　子ども同士氏の関係と保育者―異年齢の子ども同士の関わり　事例検討
第7回　子ども同士の関係と保育者　事例検討のまとめ
第8回　全体と通してのまとめ

履修上の注意点

出席・欠席について：出席時には学生証を携行してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申告してください。

教科書

参考書

保育所保育指針解説書
著者：　厚生労働省
出版社：フレーベル館
出版年：2008　　ISBN：

幼稚園教育要領解説
著者：　文部科学省
出版社：フレーベル館
出版年：2008　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（人間関係）Ⅱ ＜児＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　林　悠子	

テーマ

保育における人間関係と保育者の役割

授業の到達目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の概要

Ｉで学んだ理論をもとに、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を、現場での様々な事例を検討する中で具体的に理解していく。

準備学習（予習・復習）

事前にテキストの該当箇所を読んでいることを前提に授業を進めます。

内　　容

第1回　保育者と子どもの直接的関係　事例検討
第2回　保育者と子どもの直接的関係　事例検討のまとめ
第3回　子ども同士の関係と保育者―面白さや楽しさを広げる　事例検討
第4回　子ども同士の関係と保育者―ぶつかり合い・対立　事例検討
第5回　子ども同士の関係と保育者―協力して生活を作り出す　事例検討
第6回　子ども同士氏の関係と保育者―異年齢の子ども同士の関わり　事例検討
第7回　子ども同士の関係と保育者　事例検討のまとめ
第8回　全体を通してのまとめ

履修上の注意点

集中講義ですので毎回長時間講義になりますが、お互い協力してよい学びができるようにしましょう。

教科書

最新保育講座 8　保育内容「人間関係」
著者:　森上　史朗・小林　紀子・渡辺　英則 編
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2009　　ISBN:　9784623054985

参考書

多文化保育・教育論
著者:　咲間まり子編
出版社: 株式会社みらい
出版年: 2014　　ISBN:　9784860153199

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（言語）〈幼a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　神谷　栄司	

テーマ

授業の到達目標

乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割を考察する。

授業の概要

・乳幼児のことばの発達の本質と特徴を把握し、2・3歳未満児と学齢児と比較して3歳以上児のことばの発達的役割を理解する。・外的言語、自己中心的言語、内的言語の区別と連関を把握し、3歳以上児に特徴的となる「確立しつつある内的言語」の本質を理解する。・幼児期におけるコミュニケーションの可視性と「確立しつつある内的言語」の可視化を考察する。・乳幼児期の特質としての身体をくぐった認識と言語による認識を理解する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　本授業のオリエンテーションとして。ことばの意味と「落とし穴」
第2回　ことばの発達①　乳児期―有意味語の成立まで
第3回　ことばの発達②　幼児前期―話しことばの体系の一応の獲得まで
第4回　ことばの発達③　幼児後期－外的言語、自己中心的言語、内的言語
第5回　ことばと身ぶり書きことばの前史
第6回　書きことばの前史ことばと思考の発達
第7回　ことばと思考の発達
第8回　形象、複合、概念　－まとめにかえて

履修上の注意点

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜文献を紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（言語）<幼b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　神谷　栄司	

テーマ

授業の到達目標

乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割を考察する。

授業の概要

・乳幼児のことばの発達の本質と特徴を把握し、2・3歳未満児と学齢児と比較して3歳以上児のことばの発達的役割を理解する。・外的言語、自己中心的言語、内的言語の区別と連関を把握し、3歳以上児に特徴的となる「確立しつつある内的言語」の本質を理解する。・幼児期におけるコミュニケーションの可視性と「確立しつつある内的言語」の可視化を考察する。・乳幼児期の特質としての身体をくぐった認識と言語による認識を理解する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　本授業のオリエンテーションとして。ことばの意味と「落とし穴」
第2回　ことばの発達①　乳児期―有意味語の成立まで
第3回　ことばの発達②　幼児前期―話しことばの体系の一応の獲得まで
第4回　ことばの発達③　幼児後期－外的言語、自己中心的言語、内的言語
第5回　ことばと身ぶり書きことばの前史
第6回　書きことばの前史ことばと思考の発達
第7回　ことばと思考の発達
第8回　形象、複合、概念　－まとめにかえて

履修上の注意点

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

適宜文献を紹介する
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（言語）<児>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期前半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　神谷　栄司

テーマ

授業の到達目標

乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割を考察する。

授業の概要

・乳幼児のことばの発達の本質と特徴を把握し、2・3歳未満児と学齢児と比較して3歳以上児のことばの発達的役割を理解する。・外的言語、自己中心的言語、内的言語の区別と連関を把握し、3歳以上児に特徴的となる「確立しつつある内的言語」の本質を理解する。・幼児期におけるコミュニケーションの可視性と「確立しつつある内的言語」の可視化を考察する。・乳幼児期の特質としての身体をくぐった認識と言語による認識を理解する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　本授業のオリエンテーションとして。ことばの意味と「落とし穴」
第2回　ことばの発達①　乳児期―有意味語の成立まで
第3回　ことばの発達②　幼児前期―話しことばの体系の一応の獲得まで
第4回　ことばの発達③　幼児後期－外的言語、自己中心的言語、内的言語
第5回　ことばと身ぶり書きことばの前史
第6回　書きことばの前史ことばと思考の発達
第7回　ことばと思考の発達
第8回　形象、複合、概念　－まとめにかえて

履修上の注意点

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜文献を紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育の言語表現 <幼a>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期後半　　定　　員　40

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　神谷　栄司

テーマ

保育の言語表現について学ぶ

授業の到達目標

・幼児の遊びのなかに潜んでいることばと想像・情動の関係について理解する。・保育現場の実践を素材に、言葉と身ぶりを中心とする言語表現の展開を理解する。・多くの保育現場で取り組まれている劇遊び・劇つくりという総合的表現の実践を通して言葉と身ぶりについて理解を深める。

授業の概要

言語の指導として総合的表現活動について考察し、乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割について学んでいく

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ことばと想像
第2回　ことばと情動
第3回　幼児の遊びについて①
第4回　幼児の遊びについて②
第5回　自然を題材にした保育におけることばと身ぶり
第6回　物語を題材にした保育におけることばと身ぶり
第7回　劇遊びのなかのことばと身ぶり
第8回　まとめ

履修上の注意点

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜、文献を紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育の言語表現 <幼b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　神谷　栄司	

テーマ

保育の言語表現について学ぶ

授業の到達目標

・幼児の遊びのなかに潜んでいることばと想像・情動の関係について理解する。・保育現場の実践を素材に、言葉と身ぶりを中心とする言語表現の展開を理解する。・多くの保育現場で取り組まれている劇遊び・劇つくりという総合的表現の実践を通して言葉と身ぶりについて理解を深める。

授業の概要

言語の指導として総合的表現活動について考察し、乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割について学んでいく

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ことばと想像
第2回　ことばと情動
第3回　幼児の遊びについて①
第4回　幼児の遊びについて②
第5回　自然を題材にした保育におけることばと身ぶり
第6回　物語を題材にした保育におけることばと身ぶり
第7回　劇遊びのなかのことばと身ぶり
第8回　まとめ

履修上の注意点

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

適宜、文献を紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育の言語表現 <児>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期後半　　定　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　神谷 栄司

テーマ

保育の言語表現について学ぶ

授業の到達目標

・幼児の遊びのなかに潜んでいることばと想像・情動の関係について理解する。・保育現場の実践を素材に、言葉と身ぶりを中心とする言語表現の展開を理解する。・多くの保育現場で取り組まれている劇遊び・劇つくりという総合的表現の実践を通して言葉と身ぶりについて理解を深める。

授業の概要

言語の指導として総合的表現活動について考察し、乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割について学んでいく

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ことばと想像
第2回　ことばと情動
第3回　幼児の遊びについて①
第4回　幼児の遊びについて②
第5回　自然を題材にした保育におけることばと身ぶり
第6回　物語を題材にした保育におけることばと身ぶり
第7回　劇遊びのなかのことばと身ぶり
第8回　まとめ

履修上の注意点

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜、文献を紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**幼児体育Ⅰ〈幼a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　口野　隆史	

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみる。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　容

第1回　オリエンテーション(授業概要、教育課程での位置づけ、レポート作成要領)
第2回　自己の体力の理解と仲間づくりⅠ＜集団での運動課題＞長縄跳び、パラバルーン
第3回　自己の体力の理解と仲間づくりⅡ＜集団での運動課題＞ジャンケン遊び、鬼遊び
第4回　手具を用いた運動Ⅰ＜ボール＞用具の特性理解と動作理解(投げる、受けるなど)
第5回　手具を用いた運動Ⅱ＜縄＞用具の特性理解と動作理解(跳ぶ、引く、各種縄跳び)
第6回　手具を用いた運動Ⅲ＜輪＞用具の特性理解と動作理解(ケンパ、輪転がし、輪投げ)
第7回　手具を用いた運動Ⅳ＜棒＞用具の特性理解と動作理解(バンブーダンス、棒体操)
第8回　まとめ

履修上の注意点

しっかり出席すること。運動遊びの実技を行うので、子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かす。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を実技を通して理解する。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

参考書

幼児のこころと運動
著者:　近藤充夫
出版社:　教育出版
出版年:　1995　　ISBN:

乳幼児の体育あそび
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　草土文化
出版年:　1999　　ISBN:

幼児体育の指導
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　ベースボール・マガジン社
出版年:　1974　　ISBN:

幼児のあそびと仕事
著者:　城丸章夫
出版社:　草土文化
出版年:　1981　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 40 ）

実技を多く行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。考える際は保育者の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

2016 Syllabus

科 目 名　**幼児体育Ⅰ＜幼b＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　口野　隆史	

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども（幼児）像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能（適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力）を獲得する。

準備学習（予習・復習）

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみる。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　　容

第1回　オリエンテーション（授業概要、教育課程での位置づけ、レポート作成要領）
第2回　自己の体力の理解と仲間づくりⅠ＜集団での運動課題＞長縄跳び、パラバルーン
第3回　自己の体力の理解と仲間づくりⅡ＜集団での運動課題＞ジャンケン遊び、鬼遊び
第4回　手具を用いた運動Ⅰ＜ボール＞用具の特性理解と動作理解(投げる、受けるなど)
第5回　手具を用いた運動Ⅱ＜縄＞用具の特性理解と動作理解（跳ぶ、引く、各種縄跳び）
第6回　手具を用いた運動Ⅲ＜輪＞用具の特性理解と動作理解(ケンパ、輪転がし、輪投げ)
第7回　手具を用いた運動Ⅳ＜棒＞用具の特性理解と動作理解(バンブーダンス、棒体操)
第8回　まとめ

履修上の注意点

しっかり出席すること。運動遊びの実技を行うので、子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かす。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を実技を通して理解する。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者：　学校体育研究同志会
出版社：創文企画
出版年：2009　　ISBN：

参考書

幼児のこころと運動
著者：　近藤充夫
出版社：教育出版
出版年：1995　　ISBN：

乳幼児の体育あそび
著者：　学校体育研究同志会
出版社：草土文化
出版年：1999　　ISBN：

幼児体育の指導
著者：　学校体育研究同志会
出版社：ベースボール・マガジン社
出版年：1974　　ISBN：

幼児のあそびと仕事
著者：　城丸章夫
出版社：草土文化
出版年：1981　　ISBN：

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 40 ）

実技を多く行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。考える際は保育者の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

2016 Syllabus

科 目 名　**幼児体育Ⅰ＜幼c＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　口野　隆史	

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども（幼児）像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能（適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力）を獲得する。

準備学習（予習・復習）

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみる。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業概要、教育課程での位置づけ、レポート作成要領）
第2回　自己の体力の理解と仲間づくりⅠ＜集団での運動課題＞長縄跳び、パラバルーン
第3回　自己の体力の理解と仲間づくりⅡ＜集団での運動課題＞ジャンケン遊び、鬼遊び
第4回　手具を用いた運動Ⅰ＜ボール＞用具の特性理解と動作理解(投げる、受けるなど)
第5回　手具を用いた運動Ⅱ＜縄＞用具の特性理解と動作理解（跳ぶ、引く、各種縄跳び）
第6回　手具を用いた運動Ⅲ＜輪＞用具の特性理解と動作理解(ケンパ、輪転がし、輪投げ)
第7回　手具を用いた運動Ⅳ＜棒＞用具の特性理解と動作理解(バンブーダンス、棒体操)
第8回　まとめ

履修上の注意点

しっかり出席すること。運動遊びの実技を行うので、子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かす。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を実技を通して理解する。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者：　学校体育研究同志会
出版社：創文企画
出版年：2009　　ISBN：

参考書

幼児のこころと運動
著者：　近藤充夫
出版社：教育出版
出版年：1995　　ISBN：

乳幼児の体育あそび
著者：　学校体育研究同志会
出版社：草土文化
出版年：1999　　ISBN：

幼児体育の指導
著者：　学校体育研究同志会
出版社：ベースボール・マガジン社
出版年：1974　　ISBN：

幼児のあそびと仕事
著者：　城丸章夫
出版社：草土文化
出版年：1981　　ISBN：

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 40 ）

実技を多く行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。考える際は保育者の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

2016 Syllabus

科 目 名　**幼児体育Ⅰ＜児＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期前半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　新野　守

テーマ

運動遊びの達人！

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいかを考えながら、楽しく運動遊びを行う

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども（幼児）像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能（適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力）を獲得する。

準備学習（予習・復習）

日常的に腕立て伏せ、腹筋などの体幹トレーニング等により自己の健康と体力向上に努める。また運動遊びと子どもの発達特性について自習すること。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業概要、教育課程での位置づけ、レポート作成要領）
第2回　自己の体力の理解と仲間づくりⅠ＜集団での運動課題＞長縄跳び、パラバルーン
第3回　自己の体力の理解と仲間づくりⅡ＜集団での運動課題＞ジャンケン遊び、鬼遊び
第4回　手具を用いた運動Ⅰ＜ボール＞用具の特性理解と動作理解(投げる、受けるなど)
第5回　手具を用いた運動Ⅱ＜縄＞用具の特性理解と動作理解（跳ぶ、引く、各種縄跳び）
第6回　手具を用いた運動Ⅲ＜輪＞用具の特性理解と動作理解(ケンパ、輪転がし、輪投げ)
第7回　手具を用いた運動Ⅳ＜棒＞用具の特性理解と動作理解(バンブーダンス、棒体操)
第8回　まとめ

履修上の注意点

学校の指導者として相応しい運動服（スポーツウェアとシューズ）を着用すること。欠席は3回以内。出席君忘れは、2点減点。教育者としての自覚堅持。授業内容は、状況に応じて変更されることがあるので、オリエンテーションで確認すること。

教科書

参考書

幼児期運動遊びの進め方
著者：　学校体育研究同志会
出版社：創文企画
出版年：2009　　ISBN：

体育遊び
著者：　米谷光弘
出版社：ひかりのくに
出版年：2007　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）
出席（12回以上）、技術、授業記録、レポート、意欲（教育者としての自覚）を評価の対象とする。受講生の状況に応じて評価配分は変更されることがある。

2016 Syllabus

科 目 名　**幼児体育Ⅱ〈幼a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　口野　隆史	

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこかくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみる。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　　容

第1回　手具を用いない運動Ⅰ＜様々な鬼遊び①＞(少人数で単純なルールで)
第2回　手具を用いない運動Ⅱ＜様々な鬼遊び②＞(多人数でやや複雑なルールで)
第3回　手具を用いない運動Ⅲ＜マット運動①＞感覚・動きづくり
第4回　手具を用いない運動Ⅳ＜マット運動②＞側転を学ぶ
第5回　身近な物を用いた運動Ⅰ＜新聞紙＞用具の特性理解と動作理解(遊びの創造)
第6回　身近な物を用いた運動Ⅱ＜新聞紙＞作成した用具での運動遊び
第7回　子どもの運動発達の理解
第8回　まとめとレポート作成

履修上の注意点

しっかり出席すること。運動遊びの実技を行うので、子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かす。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を実技を通して理解する。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

参考書

幼児のこころと運動
著者:　近藤充夫
出版社:　教育出版
出版年:　1995　　ISBN:

乳幼児の体育あそび
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　草土文化
出版年:　1999　　ISBN:

幼児体育の指導
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　ベースボール・マガジン社
出版年:　1974　　ISBN:

幼児のあそびと仕事
著者:　城丸章夫
出版社:　草土文化
出版年:　1981　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 40 ）

参加度 （ 40 ）

実技を多く行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。考える際は保育者の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

2016 Syllabus

科 目 名　**幼児体育Ⅱ <幼b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　口野　隆史	

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこかくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみる。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　容

第1回　手具を用いない運動Ⅰ＜様々な鬼遊び①＞(少人数で単純なルールで)
第2回　手具を用いない運動Ⅱ＜様々な鬼遊び②＞(多人数でやや複雑なルールで)
第3回　手具を用いない運動Ⅲ＜マット運動①＞感覚・動きづくり
第4回　手具を用いない運動Ⅳ＜マット運動②＞側転を学ぶ
第5回　身近な物を用いた運動Ⅰ＜新聞紙＞用具の特性理解と動作理解(遊びの創造)
第6回　身近な物を用いた運動Ⅱ＜新聞紙＞作成した用具での運動遊び
第7回　子どもの運動発達の理解
第8回　まとめとレポート作成

履修上の注意点

しっかり出席すること。運動遊びの実技を行うので、子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かす。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を実技を通して理解する。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

参考書

幼児のこころと運動
著者:　近藤充夫
出版社:　教育出版
出版年:　1995　　ISBN:

乳幼児の体育あそび
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　草土文化
出版年:　1999　　ISBN:

幼児体育の指導
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　ベースボール・マガジン社
出版年:　1974　　ISBN:

幼児のあそびと仕事
著者:　城丸章夫
出版社:　草土文化
出版年:　1981　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 40 ）

参加度 （ 40 ）

実技を多く行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。考える際は保育者の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

2016 Syllabus

科 目 名　**幼児体育Ⅱ <幼c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　口野　隆史	

テーマ

どんな子どもに育って欲しいのか、どんな力を獲得して欲しいのかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいかを考えながら、楽しく運動遊びを行う。

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習)

①自分が子どもの頃、どんな運動遊びをしていたか思い出す。鬼ごっこかくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみる。②テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　　容

第1回　手具を用いない運動Ⅰ＜様々な鬼遊び①＞(少人数で単純なルールで)
第2回　手具を用いない運動Ⅱ＜様々な鬼遊び②＞(多人数でやや複雑なルールで)
第3回　手具を用いない運動Ⅲ＜マット運動①＞感覚・動きづくり
第4回　手具を用いない運動Ⅳ＜マット運動②＞側転を学ぶ
第5回　身近な物を用いた運動Ⅰ＜新聞紙＞用具の特性理解と動作理解(遊びの創造)
第6回　身近な物を用いた運動Ⅱ＜新聞紙＞作成した用具での運動遊び
第7回　子どもの運動発達の理解
第8回　まとめとレポート作成

履修上の注意点

しっかり出席すること。運動遊びの実技を行うので、子どもの気持ちや発達段階を考えながら、楽しく体を動かす。また、保育者の立場を考えながら体育的な指導に必要な事柄を実技を通して理解する。

教科書

みんなが輝く体育①　幼児期　運動あそびの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

参考書

幼児のこころと運動
著者:　近藤充夫
出版社:　教育出版
出版年:　1995　　ISBN:

乳幼児の体育あそび
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　草土文化
出版年:　1999　　ISBN:

幼児体育の指導
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　ベースボール・マガジン社
出版年:　1974　　ISBN:

幼児のあそびと仕事
著者:　城丸章夫
出版社:　草土文化
出版年:　1981　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 40 ）

参加度 （ 40 ）

実技を多く行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。考える際は保育者の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

2016 Syllabus

科 目 名　**幼児体育Ⅱ <児>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期後半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　新野 守

テーマ

運動遊びの達人！

授業の到達目標

どんな子どもに育って欲しいかを考えながら、楽しく運動遊びを行う

授業の概要

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

準備学習(予習・復習)

日常的に腕立て伏せ、腹筋などの体幹トレーニング等により自己の健康と体力向上に努める。また運動遊びと子どもの発達特性について自習すること。

内　容

第1回　手具を用いない運動Ⅰ＜様々な鬼遊び①＞(少人数で単純なルールで)
第2回　手具を用いない運動Ⅱ＜様々な鬼遊び②＞(多人数でやや複雑なルールで)
第3回　手具を用いない運動Ⅲ＜マット運動①＞感覚･動きづくり
第4回　手具を用いない運動Ⅳ＜マット運動②＞側転を学ぶ
第5回　身近な物を用いた運動Ⅰ＜新聞紙＞用具の特性理解と動作理解(遊びの創造)
第6回　身近な物を用いた運動Ⅱ＜新聞紙＞作成した用具での運動遊び
第7回　子どもの運動発達の理解
第8回　まとめとレポート作成

履修上の注意点

学校の指導者として相応しい運動服(スポーツウェアとシューズ)を着用すること。欠席は3回以内。出席君忘れは、2点減点。教育者としての自覚堅持。授業内容は、状況に応じて変更されることがあるので、オリエンテーションで確認すること。

教科書

参考書

幼児期運動遊びの進め方
著者:　学校体育研究同志会
出版社:　創文企画
出版年:　2009　　ISBN:

体育遊び
著者:　米谷光弘
出版社:　ひかりのくに
出版年:　2007　　ISBN:

成績評価

試験　(　)　　小テスト　(　)
授業中課題　(30)　　授業中発表等　(30)
参加度　(40)
出席(12回以上)、技術、授業記録、レポート、意欲(教育者としての自覚)を評価の対象とする。受講生の状況に応じて評価配分は変更されることがある。

2016 Syllabus

科 目 名　**音楽演習Ⅲ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　佐野 仁美	

テーマ

弾き歌い曲のレパートリーを広げる。

授業の到達目標

即興的コード伴奏法についての理解を深め、それを応用して子どもの前で実際に使えるように演奏技術を高める。

授業の概要

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と子どもの歌のコード弾き歌いおよび簡単な創作を含む即興的伴奏付けを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3～4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

準備学習（予習・復習）

予習：授業中に指示される課題を各自で必ず練習しておく。わからないところは事前にまとめておいて、授業に臨むこと。復習：指導により得られた助言をもとに課題を再度練習して身につける。

内　容

第1回　コード進行の復習（ハ長調、ト長調）、バイエルNo.104
第2回　コード進行の復習（ヘ長調、ニ長調）、アラベスク、牧歌
第3回　変ロ長調のコード進行(B♭、E♭、F、F7)、アラベスク、牧歌
第4回　子どもの歌の弾き歌い(変ロ長調)、狩、ひそかな嘆き
第5回　子どもの歌の弾き歌い(変ロ長調)、狩、ひそかな嘆き
第6回　イ短調のコード進行(Am、Dm、E、E7)、タランテラ、ツェルニ―30番No.1
第7回　ハ短調のコード進行（Cm、Fm、G、G7)、タランテラ、ツェルニ―30番No.1
第8回　子どもの歌の弾き歌い(ハ短調)、ツェルニ―30番No.1、ベートーヴェン・ソナチネ
第9回　旋律の変奏、ベートーヴェン・ソナチネ、リズム曲
第10回　効果音、即興的伴奏、ソナチネアルバム第1巻No.1
第11回　様々な種類の伴奏型、ソナチネアルバム第1巻No.1
第12回　子どもの歌の弾き歌い発表①、ソナチネアルバム第1巻No.1
第13回　子どもの歌の弾き歌い発表②、ソナチネアルバム第1巻No.1
第14回　子どもの歌の弾き歌い発表③、ピアノ実技発表曲
第15回　ピアノ実技発表

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。予習、復習が何よりも重要である。

教科書

楽譜をどう表現するか一旋律表現のためのやさしいピアノ曲集
著者：　小畑郁男・佐野仁美編著
出版社：サーベル社
出版年：2014年　　ISBN：

コードでかんたん！子どものうたマイ・レパートリー
著者：　坂井康子他編著
出版社：ヤマハ・ミュージックメディア
出版年：2008年　　ISBN：

参考書

プリントを配布する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 70 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**学級担任論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　池田　修	

テーマ

学級担任とは何かを考える。

授業の到達目標

学級担任の仕事を理解する。やがて教師として学級担任を持つ時に必要な「引き出し」をできるだけ多く理解し、さらに身につけることを目指す。

授業の概要

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。また、学習班を単位として学級担任の仕事を模擬的に行ってみる。学生諸君の積極的な発言、活動を期待する。＊　受講生の取り組み具合、受講生のリクエストなどによって多少の変更は想定される。

準備学習（予習・復習）

学級担任は、子どもや保護者から見れば学校の窓口である。学校のすべての仕事が広く関わってくる。それぞれの仕事を理解し、有機的に関連づけて子どもの成長に活かすことが期待される。学習集団であり生活集団でもある学級を束ね、より高いところに導こうとする担任の仕事は多岐に渡り、豊かで複雑である。新聞記事などに出る教育の話題、問題、課題について、もし自分が学級担任ならどのように取り組むのかと日常的に考え、文章にまとめることを勧める。それは、教員採用試験の学習にも直結するであろう。

内　　容

第1回　学級とは何か・授業ガイダンス。学級開きを通して、学級を考えてみる。先生と児童との距離感、黄金の三日間、3・7・30の法則。
第2回　学級担任の仕事。学級担任の仕事の種類や範囲を考えてみる。また、学級担任が「学級作り」で考えることを考える。担任窓口論、学級経営年間指導案、学級担任事務、学級通信、学級指導の記録などを手掛かりとする。
第3回　学級レクリエショーン。子どもは遊びの中から学んでいく。その遊びを学級の中で最初に組織するのは担任である。学級レクリエーションの例を見ながら、いくつかの具体的な方法を実際にやってみる。
第4回　学級集団内のグループ。公的集団と私的集団。班作り（生活班と学習班）、実行委員会、専門委員会、生徒会、プロジェクトチーム、学習係、お助け組、会社、遊び仲間、女子集団、ソシオメトリなどを考える。
第5回　学級の環境作り。子どもは生活リズムと環境を土台にして学習を行う。そのために重要な「座席・掲示物・給食・掃除・教室美化」について指導方法を考える。
第6回　体験作文の指導。学級担任の仕事の大きな一つに、子どもたちに作文を書かせるというものがある。運動会、遠足、新学期など様々な場面で子どもたちに作文を書かせる。その指導方法に付いて学ぶ。
第7回　担任の一日の仕事を考える1。出勤から退勤までの流れの中で、担任の仕事を考えてみる。
第8回　担任の一日の仕事を考える2。出勤から退勤までの流れの中で、担任の仕事を考えてみる。
第9回　場面別指導１。忘れ物、遅刻の指導を中心に扱う。
第10回　場面別指導２。私語、学習遅進児への対応を中心に扱う。
第11回　場面別指導３。喧嘩、いじめ、からかいなどのトラブルへの対応を中心に扱う。
第12回　保護者との関係作り。保護者との協力関係を作ることが、子どもの成長に繋がる。保護者会、家庭訪問、三者面談、電話対応などを中心に扱う。
第13回　学級担任としての写真講座。学級経営に生かす写真の在り方について考える。撮影、分析、提示などの観点から考える。
第14回　通知表の書き方。架空の児童の通知表を実際に書いてみる。通知表の相互評価。実際に書いてみた、架空の児童の通知表の相互評価を行う。
第15回　まとめ。「書き込み回覧作文」による学級担任論の授業評価。

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

こんな時どう言い返す
著者：　池田修
出版社：学事出版
出版年：　　ISBN：

子どもと歩む　教師の12ヶ月
著者：　家本芳郎
出版社：高文研
出版年：　　ISBN：

a30102f950

教師のための叱る作法
著者:　野口芳宏
出版社:　学陽書房
出版年:　ISBN:

新版　教師になるということ
著者:　池田修
出版社:　学陽書房
出版年:　ISBN:

＜教育力＞をみがく
著者:　家本芳郎
出版社:　寺子屋新書
出版年:　ISBN:

学級経営力を高める3・7・30の法則
著者:　野中信行
出版社:　学事出版
出版年:　ISBN:

参考書

「かくれたカリキュラム」発見・改善ガイド
著者:　横藤雅人・武藤久慶
出版社:　明治図書
出版年:　ISBN:

先生！　親ってそんなに怖いんですか？
著者:　星　幸宏
出版社:　立花書房
出版年:　ISBN:

ヒドゥンカリキュラム入門
著者:　多賀一郎
出版社:　明治図書
出版年:　ISBN:

〈学級〉の歴史学
著者:　柳　治男
出版社:　講談社選書メチエ
出版年:　ISBN:

学級経営10の原理100の原則
著者:　堀 裕嗣
出版社:　学事出版
出版年:　ISBN:

教師におくる「指導」のいろいろ
著者:　家本芳郎
出版社:　高文研
出版年:　ISBN:

学級担任に絶対必要な「フォロー」の技術
著者:　中村健一
出版社:　黎明書房
出版年:　ISBN:

いじめで子どもが壊れる前に
著者:　藤川大祐
出版社:　角川ONEテーマ新書
出版年:　ISBN:

クラスづくりの極意
著者:　岩瀬直樹
出版社:　農文協
出版年:　ISBN:

a30102f950

手軽に発行　学級通信のアイデア40

著者:　佐藤正寿

出版社: ひまわり社

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 25 ）

参加度　（ 35 ）

出欠席は、出席くんと授業後に指示する課題を掲示板に書くことの両方をセットにして確認する。片方だけでは出席とはならないことを理解すること。また、参加度は出席率のことではないことを理解すること。

2016 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（国語）<a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　他学科生等10名まで	クラス指定　大学指定
担 当 者　池田　修.多賀　一郎	

テーマ

国語科授業の基本的な指導法に触れる

授業の到達目標

学校現場に立った時すぐに行わなければならない国語科の基本的な指導について、具体的にその方法に触れる。漢字、読書、作文、音読などの項目について学習集団に対しての指導法を理解する。

授業の概要

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　国語科って何？　授業ガイダンス　学習指導要領では？　どんな力をつける教科？　国語科教育の歴史　学習権宣言　授業と家庭学習の循環　教科通信
第2回　国語の授業を作る基礎　発声の基礎、板書の基礎、教室の立ち位置、チョークの持ち方
第3回　メモ指導　聞く生徒を育てるために。 箇条書き、マッピング、マンダラート、KJ法
第4回　漢字指導　１ 漢字カルタ、漢字ウォーリーを捜せ、津川式超記憶術、漢字ドリル、漢字ルーツプリント、辞書指導　四字熟語でポン たほいや　百人一首　簡単な学習ゲーム論
第5回　読書指導　　読むは、書くである。読書感想文、読書郵便、朝の読書、書き抜きエッセイ、読書へのアニマシオン、図書館の使いかた指導
第6回　ポートフォリオ学習　和綴じ本づくり
第7回　作文指導　１ 体験作文指導の哲学。作文は、料理に似ている、原稿用紙の使い 方、アイディア出し、リサーチ、タイトルの付け方、書きはじめの指示、推敲、 評価
第8回　作文指導　２ デジタルストーリーテリングの可能性
第9回　作文指導　３ 「書き込み回覧作文」による評価
第10回　学習指導案作り　国語科の学習指導案の書き方を学び、実際に作ってみる。
第11回　テスト問題と採点方法　国語科のテスト問題を、お互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。
第12回　音読／プレゼン指導　　滑舌調音、群読、ショウ＆テル、ことわざスピーチバトル、評価の実際
第13回　句会方式による指導　句会、人生名言集、こんな本なら読んでみたいタイトルコンテスト
第14回　模擬授業1　国語の模擬授業を行う
第15回　模擬授業2　まとめ　国語の模擬授業を行う　まとめ

履修上の注意点

「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組での授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように働きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も勧める。

教科書

小学校学習指導要領
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

小学校学習指導要領解説編
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

その他は授業内で指示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に指示する
著者:

a30102g010

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 （ ） 小テスト（ ）

授業中課題 （ 50 ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（国語）<b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　他学科生等10名まで	クラス指定　大学指定
担 当 者　池田　修.多賀　一郎	

テーマ

国語科授業の基本的な指導法に触れる

授業の到達目標

学校現場に立った時すぐに行わなければならない国語科の基本的な指導について、具体的にその方法に触れる。漢字、読書、作文、音読などの項目について学習集団に対しての指導法を理解する。

授業の概要

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　国語科って何？　授業ガイダンス　学習指導要領では？　どんな力をつける教科？　国語科教育の歴史　学習権宣言　授業と家庭学習の循環　教科通信
第2回　国語の授業を作る基礎　発声の基礎、板書の基礎、教室の立ち位置、チョークの持ち方
第3回　メモ指導　聞く生徒を育てるために。 箇条書き、マッピング、マンダラート、KJ法
第4回　漢字指導　１　漢字カルタ、漢字ウォーリーを捜せ、津川式超記憶術、漢字ドリル、漢字ルーツプリント、辞書指導　四字熟語でポン たほいや　百人一首　簡単な学習ゲーム論
第5回　読書指導　　読むは、書くである。読書感想文、読書郵便、朝の読書、書き抜きエッセイ、読書へのアニマシオン、図書館の使いかた指導
第6回　ポートフォリオ学習　和綴じ本づくり
第7回　作文指導　１　体験作文指導の哲学。作文は、料理に似ている、原稿用紙の使い 方、アイディア出し、リサーチ、タイトルの付け方、書きはじめの指示、推敲、 評価
第8回　作文指導　２　デジタルストーリーテリングの可能性
第9回　作文指導　３「書き込み回覧作文」による評価
第10回　学習指導案作り　国語科の学習指導案の書き方を学び、実際に作ってみる。
第11回　テスト問題と採点方法　国語科のテスト問題を、お互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。
第12回　音読／プレゼン指導　　滑舌調音、群読、ショウ＆テル、ことわざスピーチバトル、評価の実際
第13回　句会方式による指導　句会、人生名言集、こんな本なら読んでみたいタイトルコンテスト
第14回　模擬授業1　国語の模擬授業を行う
第15回　模擬授業2　まとめ　国語の模擬授業を行う　まとめ

履修上の注意点

「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組での授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように働きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も勧める。

教科書

小学校学習指導要領
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

小学校学習指導要領解説編
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

その他は授業内で指示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に指示する
著者:

a30102g012

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 （ ） 小テスト（ ）

授業中課題 （ 50 ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（社会）<a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　他学科生等10名まで	クラス指定　大学指定
担 当 者　倉持　祐二	

テーマ

小学校社会科の授業づくりの基礎・基本

授業の到達目標

小学校社会科の授業をつくる視点と方法を獲得する。

授業の概要

小学校での社会科学習を、児童の実態に即してどのように指導するのかを学ぶために、次のような流れで展開する。(1)2008年度版学習指導要領や教科書から授業単元を選び、各自が学習指導案をつくる。(2)できあがった指導案をグループの中で検討する。(3)グループごとに指導案を1つ選び、全体で模擬授業を実施し、授業研究を行う。(4)模擬授業や授業研究から学んだことを確かめる。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　学習指導要領＝小学校社会科で学ぶこと
第2回　社会科教材研究入門
第3回　社会科授業の発問づくり
第4回　小学校社会科の授業方法
第5回　学習指導案をつくる
第6回　学習指導案をつくる
第7回　「町ではたらく人たち」をテーマにした模擬授業と授業研究
第8回　日本の産業をテーマにした模擬授業と授業研究
第9回　環境をテーマにした模擬授業と授業研究
第10回　各地のくらしをテーマにした模擬授業と授業研究
第11回　「貴族の世の中」の模擬授業と授業研究
第12回　「武士の世の中」の模擬授業と授業研究
第13回　日本国憲法を教える模擬授業と授業研究
第14回　世界の国ぐにとのつながりを教える模擬授業と授業研究
第15回　模擬授業や授業研究から学んだこと

履修上の注意点

（1）学習指導案の作成にあたっては、楽しい社会科の実践の先行実践を調べ、それをもとに資料収集をすすめることを期待する。（2）授業以外でも集団的に教材研究をすすめることができるようになることを期待する。

教科書

小学校学習指導要領解説　社会編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　2008年8月　　ISBN:

参考書

授業中に指示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（社会）<b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　他学科生等10名まで	クラス指定　大学指定
担 当 者　倉持　祐二	

テーマ

小学校社会科の授業づくりの基礎・基本

授業の到達目標

小学校社会科の授業をつくる視点と方法を獲得する。

授業の概要

小学校での社会科学習を、児童の実態に即してどのように指導するのかを学ぶために、次のような流れで展開する。(1)2008年度版学習指導要領や教科書から授業単元を選び、各自が学習指導案をつくる。(2)できあがった指導案をグループの中で検討する。(3)グループごとに指導案を1つ選び、全体で模擬授業を実施し、授業研究を行う。(4)模擬授業や授業研究から学んだことを確かめる。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　学習指導要領＝小学校社会科で学ぶこと
第2回　社会科教材研究入門
第3回　社会科授業の発問づくり
第4回　小学校社会科の授業方法
第5回　学習指導案をつくる
第6回　学習指導案をつくる
第7回　「町ではたらく人たち」をテーマにした模擬授業と授業研究
第8回　日本の産業をテーマにした模擬授業と授業研究
第9回　環境をテーマにした模擬授業と授業研究
第10回　各地のくらしをテーマにした模擬授業と授業研究
第11回　「貴族の世の中」の模擬授業と授業研究
第12回　「武士の世の中」の模擬授業と授業研究
第13回　日本国憲法を教える模擬授業と授業研究
第14回　世界の国ぐにとのつながりを教える模擬授業と授業研究
第15回　模擬授業や授業研究から学んだこと

履修上の注意点

（1）学習指導案の作成にあたっては、楽しい社会科の実践の先行実践を調べ、それをもとに資料収集をすすめることを期待する。（2）授業以外でも集団的に教材研究をすすめることができるようになることを期待する。

教科書

小学校学習指導要領解説　社会編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　2008年8月　　ISBN:

参考書

授業中に指示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（生活）<a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　他学科生等10名まで	クラス指定　大学指定
担 当 者　三上　周治	

テーマ

小学校生活科を豊かに教えることのできる教師を育む

授業の到達目標

小学校「生活科」は小学校１年、２年に限定された教科である。この時期の児童は大きく変容する精神発達を基礎に、人間力を獲得していくことでものやことがらに働きかけていく力が育っていく。その力に寄り添い引き出しながら、自然や社会に働きかけることを通して、よりゆたかな人間力を育むことのできる教師としての力量を育てる。

授業の概要

身近な環境を対象としながら体験を通して学習するため、地域や学校、児童の実態に即した学習を重視する。具体的な指導計画や学習展開を教材として生活科教育法の基本を把握していく。また、個の学びと集団における学びのひろがりと連続性についても実践の吟味を通して追究していく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　生活科教育の目的：自立への基礎を育むために。
第2回　実践報告「おだんごころがし」を読み取る。
第3回　「おだんごころがし」の生活科実践としての意味を考える。
第4回　地図を片手に東西南北－地域の自然と社会から学ぶ（含む：安全対策）
第5回　笠井守実践「おだんごころがし」から読み取ったもの
第6回　「やじろべえ」①「直角やじろべえ／鋭角やじろべえ／鈍角やじろべえ」
第7回　「やじろべえ」②「まっすぐやじろべえの改造」が意味するものはなんだろうか。
第8回　「やじろべえ」③「こどものわかり方によりそう授業を作る」ということを吟味する。
第9回　生活科とものづくり－おもちゃを作ろう①（含む：安全対策）
第10回　生源寺実践「やじろべえ」から読み取ったもの
第11回　生活科とものづくり－おもちゃを作ろう②（含む：安全対策）
第12回　はたらく人々－地域の人と社会から学ぶ①
第13回　生活科の指導案。何が重要なポイントか。
第14回　生活科の指導案をグループで発表・評価する。
第15回　試験問題の解説と授業のまとめ

履修上の注意点

（1）小学校現場での生活科の授業を参観し授業の作り方・進め方について学ぶ。（2）学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。

教科書

担当者からハンドアウト
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

小学校学習指導要領
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（ 20 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（生活）<b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　他学科生等10名まで	クラス指定　大学指定
担 当 者　三上　周治	

テーマ

小学校生活科を豊かに教えることのできる教師を育む

授業の到達目標

小学校「生活科」は小学校１年、２年に限定された教科である。この時期の児童は大きく変容する精神発達を基礎に、人間力を獲得していくことでものやことがらに働きかけていく力が育っていく。その力に寄り添い引き出しながら、自然や社会に働きかけることを通して、よりゆたかな人間力を育むことのできる教師としての力量を育てる。

授業の概要

身近な環境を対象としながら体験を通して学習するため、地域や学校、児童の実態に即した学習を重視する。具体的な指導計画や学習展開を教材として生活科教育法の基本を把握していく。また、個の学びと集団における学びのひろがりと連続性についても実践の吟味を通して追究していく。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　生活科教育の目的：自立への基礎を育むために。
第2回　実践報告「おだんごころがし」を読み取る。
第3回　「おだんごころがし」の生活科実践としての意味を考える。
第4回　地図を片手に東西南北－地域の自然と社会から学ぶ（含む：安全対策）
第5回　笠井守実践「おだんごころがし」から読み取ったもの
第6回　「やじろべえ」①「直角やじろべえ／鋭角やじろべえ／鈍角やじろべえ」
第7回　「やじろべえ」②「まっすぐやじろべえの改造」が意味するものはなんだろうか。
第8回　「やじろべえ」③「こどものわかり方によりそう授業を作る」ということを吟味する。
第9回　生活科とものづくり－おもちゃを作ろう①（含む：安全対策）
第10回　生源寺実践「やじろべえ」から読み取ったもの
第11回　生活科とものづくり－おもちゃを作ろう②（含む：安全対策）
第12回　はたらく人々－地域の人と社会から学ぶ①
第13回　生活科の指導案。何が重要なポイントか。
第14回　生活科の指導案をグループで発表・評価する。
第15回　試験問題の解説と授業のまとめ

履修上の注意点

（1）小学校現場での生活科の授業を参観し授業の作り方・進め方について学ぶ。（2）学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。

教科書

担当者からハンドアウト
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

小学校学習指導要領
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 20 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（生活）<c>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　その他	定　　員　40
履修条件　他学科生等10名まで	クラス指定　大学指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

小学校生活科を豊かに教えることのできる教師を育む

授業の到達目標

小学校「生活科」は小学校１年、２年に限定された教科である。この時期の児童は大きく変容する精神発達を基礎に、人間力を獲得していくことでものやことがらに働きかけていく力が育っていく。その力に寄り添い引き出しながら、自然や社会に働きかけることを通して、よりゆたかな人間力を育むことのできる教師としての力量を育てる。

授業の概要

身近な環境を対象としながら体験を通して学習するため、地域や学校、児童の実態に即した学習を重視する。具体的な指導計画や学習展開を教材として生活科教育法の基本を把握していく。また、個の学びと集団における学びのひろがりと連続性についても実践の吟味を通して追究していく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　生活科教育の目的：自立への基礎を育むために。
第2回　実践報告「おだんごころがし」を読み取る。
第3回　「おだんごころがし」の生活科実践としての意味を考える。
第4回　地図を片手に東西南北－地域の自然と社会から学ぶ（含む：安全対策）
第5回　笠井守実践「おだんごころがし」から読み取ったもの
第6回　「やじろべえ」①「直角やじろべえ／鋭角やじろべえ／鈍角やじろべえ」
第7回　「やじろべえ」②「まっすぐやじろべえの改造」が意味するものはなんだろうか。
第8回　「やじろべえ」③「こどものわかり方によりそう授業を作る」ということを吟味する。
第9回　生活科とものづくり－おもちゃを作ろう①（含む：安全対策）
第10回　生源寺実践「やじろべえ」から読み取ったもの
第11回　生活科とものづくり－おもちゃを作ろう②（含む：安全対策）
第12回　はたらく人々－地域の人と社会から学ぶ①
第13回　生活科の指導案。何が重要なポイントか。
第14回　生活科の指導案をグループで発表・評価する。
第15回　試験問題の解説と授業のまとめ

履修上の注意点

（1）小学校現場での生活科の授業を参観し授業の作り方・進め方について学ぶ。（2）学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。

教科書

担当者からハンドアウト
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

小学校学習指導要領
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（図画工作）〈a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　他学科生等10名まで	クラス指定　大学指定
担 当 者　大久保　恭子	

テーマ

小学校図画工作教育の意義及び具体的な指導内容・方法を学ぶ

授業の到達目標

学童期の発達段階と表現様式・表現内容のありようを理解し、具体的な指導内容・方法を理解する。乳・幼児期からの連続性と質的展開、低学年期・中学年期・高学年期の発達のちがいによる特徴とそれぞれの時期における指導のポイントを学ぶ。

授業の概要

図画工作教育の基本的な理論とともに、小学校現場実践における授業を取材して、ねらい・展開の実際を分析し、具体的な指導実践の課題に結びつける。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　はじめに
第2回　図工・美術教育の課題「表現&技術、その指導法」
第3回　「幼児期・低学年期」における図画工作教育の内容(学習指導要領＆取材実践から)
第4回　「中学年期」における図画工作教育の内容(学習指導要領＆取材実践から)
第5回　「高学年期」における図画工作教育の内容(学習指導要領＆取材実践から)
第6回　図画工作指導法①「入門期の指導」
第7回　図画工作指導法②「描画表現指導の実際」（現場実践者：ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰに学ぶ）
第8回　図画工作指導法③「手仕事表現指導の実際」（現場実践者：ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰに学ぶ）
第9回　実践に向けて「学習指導案」作成
第10回　教育実習に向けて「図画工作指導計画①模擬授業（低学年授業）と検証」
第11回　教育実習に向けて「図画工作指導計画①模擬授業（低学年授業）と検証」
第12回　教育実習に向けて「図画工作指導計画③模擬授業（高学年授業）と検証」
第13回　図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開①（日本絵画・西洋絵画）
第14回　図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開②（学級の仲間の作品）
第15回　まとめ

履修上の注意点

〇自主訪問などにより、小学校現場プロ教師の「図画工作」授業の実際から学ぶ。〇教育現場でのボランティア・フィールドワークなどで「美術表現活動」を意識的に展開し、自らの実践と結びつけながら学内学習を充実させる。〇自らの幼稚園・小学校・中学校・高等学校時代の「美術教育」の実際を振り返り、教育としての図画工作・美術の意味と課題検証も合わせて行

教科書

小学校学習指導要領
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（図画工作）<b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　他学科生等10名まで	クラス指定　大学指定
担 当 者　大久保　恭子	

テーマ

小学校図画工作教育の意義及び具体的な指導内容・方法を学ぶ

授業の到達目標

学童期の発達段階と表現様式・表現内容のありようを理解し、具体的な指導内容・方法を理解する。乳・幼児期からの連続性と質的展開、低学年期・中学年期・高学年期の発達のちがいによる特徴とそれぞれの時期における指導のポイントを学ぶ。

授業の概要

図画工作教育の基本的な理論とともに、小学校現場実践における授業を取材して、ねらい・展開の実際を分析し、具体的な指導実践の課題に結びつける。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　はじめに
第2回　図工・美術教育の課題「表現&技術、その指導法」
第3回　「幼児期・低学年期」における図画工作教育の内容(学習指導要領＆取材実践から)
第4回　「中学年期」における図画工作教育の内容(学習指導要領＆取材実践から)
第5回　「高学年期」における図画工作教育の内容(学習指導要領＆取材実践から)
第6回　図画工作指導法①「入門期の指導」
第7回　図画工作指導法②「描画表現指導の実際」（現場実践者：ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰに学ぶ）
第8回　図画工作指導法③「手仕事表現指導の実際」（現場実践者：ｹﾞｽﾄﾃｨｰﾁｬｰに学ぶ）
第9回　実践に向けて「学習指導案」作成
第10回　教育実習に向けて「図画工作指導計画①模擬授業（低学年授業）と検証」
第11回　教育実習に向けて「図画工作指導計画①模擬授業（低学年授業）と検証」
第12回　教育実習に向けて「図画工作指導計画③模擬授業（高学年授業）と検証」
第13回　図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開①（日本絵画・西洋絵画）
第14回　図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開②（学級の仲間の作品）
第15回　まとめ

履修上の注意点

〇自主訪問などにより、小学校現場プロ教師の「図画工作」授業の実際から学ぶ。〇教育現場でのボランティア・フィールドワークなどで「美術表現活動」を意識的に展開し、自らの実践と結びつけながら学内学習を充実させる。〇自らの幼稚園・小学校・中学校・高等学校時代の「美術教育」の実際を振り返り、教育としての図画工作・美術の意味と課題検証も合わせて行

教科書

小学校学習指導要領
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（体育）<a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　他学科生等10名まで	クラス指定　大学指定
担 当 者　口野　隆史	

テーマ

自分の体育授業で、どんな子どもに育ってほしいのかを考える

授業の到達目標

まず、体育の授業に関わる目的・目標、内容、方法、評価、教材化などに関する基礎的な知識を学ぶ。また、優れた体育の授業や学習指導要領等についても理解し、その上で自分の体育の授業を通して育てたい子ども像、学ばせたい内容を（理想でもよいのである程度）描けるようにする。

授業の概要

各自、指導案を作成、模擬授業を行う。

準備学習（予習・復習）

①自分がこれまで（特に小学生の時）どのような体育の授業を受けてきたかを思い出す。その時の良かった事や悪かった事を振り返り、自分の行う体育の授業の参考とする。②テレビや新聞の体育、教育に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　容

第1回　自分の受けて来た体育授業を振り返る　体育授業の目的・目標
第2回　体育授業で子どもたちに学ばせたい内容
第3回　体育授業の指導方法と評価
第4回　優れた体育授業について学ぶ
第5回　陸上競技①　陸上競技の授業実践を学ぶ
第6回　陸上競技②　模擬授業「短距離走」を題材に
第7回　陸上競技③　模擬授業「リレー」を題材に
第8回　器械運動①　マット・跳び箱の授業実践を学ぶ
第9回　器械運動②　模擬授業「側転」を題材に
第10回　器械運動③　模擬授業「お話マット」を題材に
第11回　球技①　球技の授業実践を学ぶ
第12回　球技②　模擬授業「じゃまじゃまサッカー」を題材に
第13回　球技③　模擬授業「フラッグフットボール」を題材に
第14回　模擬授業を振り返り「指導案」を修正する
第15回　まとめ

履修上の注意点

1．クラブやサークル、その他様々な機会に、あなたがスポーツや運動を行う時、あなたは何を目的にそれを行っていますか、またスポーツや運動を人に教えたり教えてもらったりする時に、教える難しさやわかりやすい教え方について考えてみて下さい。2．テレビや新聞の体育や教育に関する問題に注意を払って下さい。気になる問題は、授業で話題にしてみましょう。

教科書

小学校学習指導要領解説 体育編
著者：
出版社：東洋館出版社
出版年：2008年8月　　ISBN：

参考書

授業で紹介する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 20 ）
グループで学習を行い、実技も行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。子どもの指導について考える際は、教師の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

2016 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（体育）<b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　他学科生等10名まで	クラス指定　大学指定
担 当 者　口野　隆史	

テーマ

自分の体育授業で、どんな子どもに育ってほしいのかを考える

授業の到達目標

まず、体育の授業に関わる目的・目標、内容、方法、評価、教材化などに関する基礎的な知識を学ぶ。また、優れた体育の授業や学習指導要領等についても理解し、その上で自分の体育の授業を通して育てたい子ども像、学ばせたい内容を（理想でもよいのである程度）描けるようにする。

授業の概要

各自、指導案を作成、模擬授業を行う。

準備学習（予習・復習）

①自分がこれまで（特に小学生の時）どのような体育の授業を受けてきたかを思い出す。その時の良かった事や悪かった事を振り返り、自分の行う体育の授業の参考とする。②テレビや新聞の体育、教育に関する問題に注意を払う。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみる。

内　容

第1回　自分の受けて来た体育授業を振り返る　体育授業の目的・目標
第2回　体育授業で子どもたちに学ばせたい内容
第3回　体育授業の指導方法と評価
第4回　優れた体育授業について学ぶ
第5回　陸上競技①　陸上競技の授業実践を学ぶ
第6回　陸上競技②　模擬授業「短距離走」を題材に
第7回　陸上競技③　模擬授業「リレー」を題材に
第8回　器械運動①　マット・跳び箱の授業実践を学ぶ
第9回　器械運動②　模擬授業「側転」を題材に
第10回　器械運動③　模擬授業「お話マット」を題材に
第11回　球技①　球技の授業実践を学ぶ
第12回　球技②　模擬授業「じゃまじゃまサッカー」を題材に
第13回　球技③　模擬授業「フラッグフットボール」を題材に
第14回　模擬授業を振り返り「指導案」を修正する
第15回　まとめ

履修上の注意点

1．クラブやサークル、その他様々な機会に、あなたがスポーツや運動を行う時、あなたは何を目的にそれを行っていますか、またスポーツや運動を人に教えたり教えてもらったりする時に、教える難しさやわかりやすい教え方について考えてみて下さい。2．テレビや新聞の体育や教育に関する問題に注意を払って下さい。気になる問題は、授業で話題にしてみましょう。

教科書

小学校学習指導要領解説 体育編
著者：
出版社：東洋館出版社
出版年：2008年8月　　ISBN：

参考書

授業で紹介する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 20 ）
グループで学習を行い、実技も行うので出席をしっかりすること。実技を行う際は積極的に体を動かす。子どもの指導について考える際は、教師の立場や子どもの気持ちや発達段階を考慮する。

2016 Syllabus

科 目 名　**教育・心理統計学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

教育学・心理学の論文で用いられる統計数値の意味を学ぶことを通じて、統計的に考えることの理解を深める。

授業の到達目標

教育学・心理学領域では調査や実験を行い、理論・仮説の検証を行います。得られたデータには統計的な処理を行い、その結果をもとに論理を展開します。そのため論文を理解したり、自分で調査・実験研究を行う場合には、そうした統計数値の意味を理解することが欠かせません。本講義では実際に統計量を計算することを通じて、統計数値を読み取る能力を養い、統計的な考え方の基本を修得することを目指します。

授業の概要

統計数値を用いたさまざまな事例の理解を通じて、統計的な数値の読みとり方を学びます。また、代表的な統計処理の手順を実際に計算することで、元になるデータと統計量の関係、そこから何が言えるのかを学びます。

準備学習（予習・復習）

マスコミ等で用いられる統計的な表現が何を意味するのか、おかしな点は無いかを考える習慣を身につけましょう。

内　容

第1回　導入、統計的な考え方とは
第2回　心理測定の基本
第3回　記述統計の基本1　代表値
第4回　記述統計の基本2　散布度、変数の変換
第5回　2つの変数の関係の分析1　質的変数
第6回　2つの変数の関係の分析2　量的変数
第7回　統計的仮説検定とは
第8回　カイ2乗検定
第9回　平均値の差の検定1
第10回　平均値の差の検定2
第11回　分散分析
第12回　実際の調査データを分析する
第13回　多変量解析　因子分析
第14回　多変量解析　重回帰分析
第15回　総括

履修上の注意点

集中講義なので毎時間の授業が前の時間の復習でもあり、次の時間の予習にもなります。毎時間、集中して講義に臨んでください。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方
著者：　浦上昌則・脇田貴文
出版社：　東京図書
出版年：　2008　ISBN：　9784489020384

ファーストブック　統計学がわかる
著者：　向後千春・冨永敦子
出版社：　技術評論社
出版年：　2007　ISBN：　9784774131900

成績評価

試験　（ 0 ）　小テスト（ 0 ）

a30102g550

授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ 0 ）

参加度 （ 40 ）

Syllabus

科 目 名　**児童文学研究**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**児童文化論**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育相談（初）**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　芦名　猛夫

テーマ

カウンセリングマインドと人間関係づくり

授業の到達目標

心の病の諸相を知ること。教育相談関連の初歩的理論と技法を知ること。学校現場での人間関係づくりのためにカウンセリングマインドの活用を図る基礎力を身につける。

授業の概要

講義を主とするが、随時指名して発言を求めたり、バズ学習、人間関係づくりのエクササイズビデオ視聴などを入れながら進める。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　授業ガイダンス、教育相談の意義：“今なぜ教育相談？”
第2回　教育相談の機能と限界
第3回　教育相談の歩み
第4回　教育相談の事例検討（1）不登校、いじめ等
第5回　教育相談の事例検討（2）対人恐怖、神経症等
第6回　ストレスマネイジメント
第7回　教育相談に役立つ基礎的理論と技法（1）精神分析論（フロイト）
第8回　〃　（2）自己理論　（ロジャーズ）
第9回　〃　（3）行動理論、論理療法
第10回　〃　（4）交流分析、ゲシュタルト理論他
第11回　人間理解とカウンセリングマインド
第12回　人間関係づくりのエクササイズ
第13回　望ましいコミュニケーションのために
第14回　まとめと復習
第15回　試験

履修上の注意点

小説・自伝・人物評論などの読書、引きこもり・対人恐怖・摂食障害など心の問題を扱った読書。さまざまな機会をとらえ、人間ウオッチング（いろんな人がいるなー！）に努める。

教科書

授業中に指示する

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

授業中に指示する

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 80 ）　　小テスト（ ）

授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等（ ）

参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**相談援助 <幼A>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　森本　美絵	

テーマ

保育におけるソーシャルワークの意義と相談援助方法の理解

授業の到達目標

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、保育におけるソーシャルワークの意義と実践を理解する。また、多様な専門職と連携し、社会資源を活用しての事例やロールプレイ等により実践力をつける。

授業の概要

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、相談援助の技術を習得する。

準備学習（予習・復習）

授業中に紹介された参考文献等を読む。

内　容

第7回　記録・連携・協働の方法
第8回　まとめと理解度調査
第1回　相談援助の概要
第2回　相談援助の方法
第3回　個人に対する相談援助の具体的展開
第4回　事例による理解
第5回　集団を活用した相談援助の具体的展開
第6回　事例による理解

履修上の注意点

グループワーク、ロールプレイ等を取り入れるので、積極的に参加すること。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 50% ）
授業中課題（ 30% ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 20% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**相談援助 <幼B>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

保育におけるソーシャルワークの意義と相談援助方法の理解

授業の到達目標

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、保育におけるソーシャルワークの意義と実践を理解する。また、多様な専門職と連携し、社会資源を活用しての事例やロールプレイ等により実践力をつける。

授業の概要

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、相談援助の技術を習得する。

準備学習（予習・復習）

授業中に紹介された参考文献等を読む。

内　　容

第1回　相談援助の概要
第2回　相談援助の方法
第3回　個人に対する相談援助の具体的展開
第4回　事例による理解
第5回　集団を活用した相談援助の具体的展開
第6回　事例による理解
第7回　記録・連携・協働の方法
第8回　まとめと理解度調査

履修上の注意点

グループワーク、ロールプレイ等を取り入れるので、積極的に参加すること。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 50% ）
授業中課題（ 30% ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 20% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**相談援助 <幼C>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　森本　美絵	

テーマ

保育におけるソーシャルワークの意義と相談援助方法の理解

授業の到達目標

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、保育におけるソーシャルワークの意義と実践を理解する。また、多様な専門職と連携し、社会資源を活用しての事例やロールプレイ等により実践力をつける。

授業の概要

相談援助の理論、方法、技術、そして具体的な展開の仕方を学び、相談援助の技術を習得する。

準備学習（予習・復習）

授業中に紹介された参考文献等を読む。

内　容

第1回　相談援助の概要
第2回　相談援助の方法
第3回　個人に対する相談援助の具体的展開
第4回　事例による理解
第5回　集団を活用した相談援助の具体的展開
第6回　事例による理解
第7回　記録・連携・協働の方法
第8回　まとめと理解度調査

履修上の注意点

グループワーク、ロールプレイ等を取り入れるので、積極的に参加すること。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 50% ）
授業中課題（ 30% ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 20% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**保育相談支援 <幼A>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

保育相談支援の理論と実践を学ぶ

授業の到達目標

保護者支援の意義、支援における基本的視点を学び、保育相談支援のあり方を理解する。

授業の概要

保育者の保育相談支援技術を学ぶ。事例をもとに支援方法などを考え、その後グループメンバー間で意見交換し、全体に向けてグループで話し合ったことを発表する。

準備学習（予習・復習）

子育て支援機関・施設や保護者の子育て不安等について調べておく。

内　　容

第1回　保育相談支援の意義と基本的視点
第2回　保育相談支援の基本
第3回　保育相談支援の展開
第4回　環境を通した保育相談支援
第5回　保育所入所児童の保護者への保育相談支援
第6回　保育所の地域子育て支援における保育相談支援
第7回　児童福祉施設における保育相談支援
第8回　まとめと理解度調査

履修上の注意点

教科書

参考書

＜増補版＞保育者の保護者支援
著者:　柏女霊峰　橋本真紀
出版社:　フレーベル館
出版年:　　ISBN:

保育相談支援
著者:　小林育子
出版社:　萌文書林
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 50 ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等（　）
参加度 （ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**保育相談支援 <幼B>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

保育相談支援の理論と実践を学ぶ

授業の到達目標

保護者支援の意義、支援における基本的視点を学び、保育相談支援のあり方を理解する。

授業の概要

保育者の保育相談支援技術を学ぶ。事例をもとに支援方法などを考え、その後グループメンバー間で意見交換し、全体に向けてグループで話し合ったことを発表する。

準備学習（予習・復習）

子育て支援機関・施設や保護者の子育て不安等について調べておく。

内　　容

第1回　保育相談支援の意義と基本的視点
第2回　保育相談支援の基本
第3回　保育相談支援の展開
第4回　環境を通した保育相談支援
第5回　保育所入所児童の保護者への保育相談支援
第6回　保育所の地域子育て支援における保育相談支援
第7回　児童福祉施設における保育相談支援
第8回　まとめと理解度調査

履修上の注意点

教科書

参考書

＜増補版＞保育者の保護者支援
著者:　柏女霊峰　橋本真紀
出版社:　フレーベル館
出版年:　　ISBN:

保育相談支援
著者:　小林育子
出版社:　萌文書林
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 50 ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等（　）
参加度 （ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**保育相談支援 <幼C>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

保育相談支援の理論と実践を学ぶ

授業の到達目標

保護者支援の意義、支援における基本的視点を学び、保育相談支援のあり方を理解する。

授業の概要

保育者の保育相談支援技術を学ぶ。事例をもとに支援方法などを考え、その後グループメンバー間で意見交換し、全体に向けてグループで話し合ったことを発表する。

準備学習（予習・復習）

子育て支援機関・施設や保護者の子育て不安等について調べておく。

内　　容

第1回　保育相談支援の意義と基本的視点
第2回　保育相談支援の基本
第3回　保育相談支援の展開
第4回　環境を通した保育相談支援
第5回　保育所入所児童の保護者への保育相談支援
第6回　保育所の地域子育て支援における保育相談支援
第7回　児童福祉施設における保育相談支援
第8回　まとめと理解度調査

履修上の注意点

教科書

参考書

＜増補版＞保育者の保護者支援
著者:　柏女霊峰　橋本真紀
出版社:　フレーベル館
出版年:　　ISBN:

保育相談支援
著者:　小林育子
出版社:　萌文書林
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 50 ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等（　）
参加度 （ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**児童家庭福祉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

「子どもの最善の利益」保障の観点から児童家庭福祉を理解する。

授業の到達目標

児童家庭福祉の現代的意義、歴史的変遷を学び、子どもの権利及び保育との関係性を理解する。また、児童福祉法等を体系的に学び、子どもを取り巻く環境の諸課題の理解及び、その対策について考えを深める。

授業の概要

児童家庭福祉の法体系、里親制度、施設及び機関の機能等を学び、「子どもの最善の利益」を保障する児童家庭福祉を理解する。

準備学習（予習・復習）

児童家庭福祉の動向及び子ども・家庭に関わるニュース等に関心を持ち、メモを心がける。

内　　容

第1回　児童福祉の制定
第2回　児童福祉法の改正
第3回　児童福祉の歴史－イギリス
第4回　児童福祉の歴史－日本
第5回　児童の権利
第6回　児童福祉の法体系
第7回　児童福祉施設と里親制度
第8回　児童福祉の財政
第9回　現代家族の特徴と児童養護問題
第10回　ひとり親家庭の現状と課題
第11回　現代家族と保育問題－子育ての社会化
第12回　現代家族と保育問題－保育サービス
第13回　障害児福祉の理念と課題
第14回　児童福祉とソーシャルワーク
第15回　まとめ、質疑応答

履修上の注意点

教科書

児童福祉論
著者:　吉田明弘
出版社:　八千代出版
出版年:　2014　　ISBN:　4-8429-1481-7

参考書

児童の世紀
著者:　エレン・ケイ
出版社:　富山房百科文庫
出版年:　1979　　ISBN:　4-572-00124

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 10 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**社会的養護**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　森本　美絵

テーマ

社会的養護の現状及び課題の理解

授業の到達目標

社会的養護の現代的意義と歴史的変遷について学び、児童家庭福祉との関連性について理解する。また、社会的養護の制度および実施体制等を学び、子どもの権利擁護及び自立支援についての理解を深める。

授業の概要

社会的養護のもとにある子どもとその家族の課題･背景を理解し、彼らを支援する姿勢、援助計画、援助の進め方、活用資源などを学ぶ。

準備学習（予習・復習）

講義中に紹介された参考文献を読み進める。

内　容

第1回　社会的養護の理念と方向性
第2回　社会的養護の原理
第3回　子どもの権利
第4回　社会的養護の体系
第5回　社会的養護の制度
第6回　日本における社会的養護のあゆみ
第7回　欧米における社会的養護の歩み
第8回　現代家族問題と社会的養護
第9回　ひとり親家庭の現状と課題
第10回　養育環境上の問題に対応する児童の施設養護
第11回　情緒・行動面上の問題に対応する児童の施設養護
第12回　障害のある児童の施設養護
第13回　社会的養護の実践方法
第14回　社会的養護を支える専門職と新しい仕組み
第15回　まとめと理解度調査

履修上の注意点

教科書

社会的養護
著者:　吉田明弘編著
出版社:　八千代出版
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　こどもの保健Ⅰ－2

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　齋藤　洋子

テーマ

子どもの疾病予防と適切な対応、子どもの生活環境と精神保健、保育環境と衛生、安全管理について学ぶ

授業の到達目標

子どもの疾病の特徴と予防、適切な対応を理解する。子どもの精神保健とその課題等について理解する。保育の環境及び衛生管理・安全管理について理解する。

授業の概要

テキストと資料で進める。適宜小テストで振り返る。

準備学習（予習・復習）

テキストを読んで授業に臨むこと

内　容

第1回　子どもの病気の特徴
第2回　子どもに多い症状への対応Ⅰ（発熱・嘔吐・下痢）
第3回　子どもに多い症状への対応Ⅱ（けいれん・咳・頭痛・腹痛）
第4回　新生児マススクリーニング
第5回　予防接種
第6回　子どもの生活と環境
第7回　子どもの心身症と精神保健
第8回　子どもの心の健康Ⅰ（発達障害の概念）
第9回　子どもの心の健康Ⅱ
第10回　子どもの心の健康Ⅲ
第11回　保育環境と保健Ⅰ（環境整備）
第12回　保育環境と保健Ⅱ（衛生管理）
第13回　事故と安全Ⅰ（子どもの事故の特徴と現状）
第14回　事故と安全Ⅱ（事故への対応）
第15回　健康安全の実施体制

履修上の注意点

教科書

図表で学ぶこどもの保健Ⅰ
著者:　加藤忠明・岩田力　編著
出版社:　建帛社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 70 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**こどもの保健Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　齋藤　洋子	

テーマ

子どもの成長発達を促すために必要な基礎的知識と技術を学ぶ。

授業の到達目標

1.乳幼児の日常生活の養護について、知識と技術を学ぶ。2.乳幼児の健康管理の技術を学ぶ。3.乳幼児の事故防止と安全な保育環境について、知識と技術を学ぶ。

授業の概要

乳幼児の日常生活の養護、健康管理、病気の早期発見・対応、事故防止、安全な保育環境等について、実習を通して知識と技術を習得する。

準備学習（予習・復習）

事前に教科書の内容を読んで授業(実習)に臨むこと。

内　　容

第1回　オリエンテーションこどもの保健と保育
第2回　乳幼児の養護（衣類の着脱・おむつ交換等）
第3回　乳幼児の身体計測
第4回　乳幼児の生理機能の測定(バイタルサインの測定)
第5回　乳幼児の精神機能・感覚の発達と評価
第6回　乳幼児の運動機能の発達と評価
第7回　乳幼児の歯の健康
第8回　乳幼児の身体の清潔(沐浴)
第9回　乳幼児の異常症状と手当Ⅰ
第10回　乳幼児の異常症状と手当Ⅱ
第11回　乳幼児の事故と応急手当
第12回　心肺蘇生法
第13回　健康(安全)教育(グループワーク)
第14回　保健だより(グループワーク)
第15回　保育における環境衛生保育者の健康管理

履修上の注意点

教科書

子どもの保健演習ガイド
著者:　高内正子　編著
出版社:　建帛社
出版年:　　ISBN:
新装版　産婦人科の窓口から
著者:　河野美代子
出版社:　こども未来社
出版年:　　ISBN:

参考書

保育保健の基礎知識
著者:　巷野悟郎　監修
出版社:　日本小児医事出版社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 10 ）
「産婦人科の窓口から」を読んでレポートの提出を求める(20%)授業中に提出を求める課題・グループワークの発表(20%)

2016 Syllabus

科 目 名　**こどもの保健Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　宮田　経子	

テーマ

子どもの成長発達を促すために必要な基礎的知識と技術を学ぶ。

授業の到達目標

1.乳幼児の日常生活の養護について、知識と技術を学ぶ。2.乳幼児の健康管理の技術を学ぶ。3.乳幼児の事故防止と安全な保育環境について、知識と技術を学ぶ。

授業の概要

乳幼児の日常生活の養護、健康管理、病気の早期発見・対応、事故防止、安全な保育環境等について、実習を通して知識と技術を習得する。

準備学習（予習・復習）

事前に教科書の内容を読んで授業(実習)に臨むこと。

内　容

第1回　オリエンテーションこどもの保健と保育
第2回　乳幼児の養護（衣類の着脱・おむつ交換等）
第3回　乳幼児の身体計測
第4回　乳幼児の生理機能の測定(バイタルサインの測定)
第5回　乳幼児の精神機能・感覚の発達と評価
第6回　乳幼児の運動機能の発達と評価
第7回　乳幼児の歯の健康
第8回　乳幼児の身体の清潔(沐浴)
第9回　乳幼児の異常症状と手当Ⅰ
第10回　乳幼児の異常症状と手当Ⅱ
第11回　乳幼児の事故と応急手当
第12回　心肺蘇生法
第13回　健康(安全)教育(グループワーク)
第14回　保健だより(グループワーク)
第15回　保育における環境衛生保育者の健康管理

履修上の注意点

教科書

子どもの保健演習ガイド
著者:　高内正子　編著
出版社:　建帛社
出版年:　　ISBN:
新装版　産婦人科の窓口から
著者:　河野美代子
出版社:　こども未来社
出版年:　　ISBN:

参考書

保育保健の基礎知識
著者:　巷野悟郎　監修
出版社:　日本小児医事出版社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 10 ）
「産婦人科の窓口から」を読んでレポートの提出を求める(20%)授業中に提出を求める課題・グループワークの発表(20%)

2016 Syllabus

科 目 名　**こどもの保健Ⅱ <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　宮田　経子	

テーマ

子どもの成長発達を促すために必要な基礎的知識と技術を学ぶ。

授業の到達目標

1.乳幼児の日常生活の養護について、知識と技術を学ぶ。2.乳幼児の健康管理の技術を学ぶ。3.乳幼児の事故防止と安全な保育環境について、知識と技術を学ぶ。

授業の概要

乳幼児の日常生活の養護、健康管理、病気の早期発見・対応、事故防止、安全な保育環境等について、実習を通して知識と技術を習得する。

準備学習（予習・復習）

事前に教科書の内容を読んで授業(実習)に臨むこと。

内　容

第1回　オリエンテーションこどもの保健と保育
第2回　乳幼児の養護（衣類の着脱・おむつ交換等）
第3回　乳幼児の身体計測
第4回　乳幼児の生理機能の測定(バイタルサインの測定)
第5回　乳幼児の精神機能・感覚の発達と評価
第6回　乳幼児の運動機能の発達と評価
第7回　乳幼児の歯の健康
第8回　乳幼児の身体の清潔(沐浴)
第9回　乳幼児の異常症状と手当Ⅰ
第10回　乳幼児の異常症状と手当Ⅱ
第11回　乳幼児の事故と応急手当
第12回　心肺蘇生法
第13回　健康(安全)教育(グループワーク)
第14回　保健だより(グループワーク)
第15回　保育における環境衛生保育者の健康管理

履修上の注意点

教科書

子どもの保健演習ガイド
著者:　高内正子　編著
出版社:　建帛社
出版年:　　ISBN:
新装版　産婦人科の窓口から
著者:　河野美代子
出版社:　こども未来社
出版年:　　ISBN:

参考書

保育保健の基礎知識
著者:　巷野悟郎　監修
出版社:　日本小児医事出版社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 10 ）
「産婦人科の窓口から」を読んでレポートの提出を求める(20%)授業中に提出を求める課題・グループワークの発表(20%)

2016 Syllabus

科 目 名　**こどもの食と栄養 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　山中　祥子	

テーマ

子どもの発達に応じた栄養と食生活について学ぶ

授業の到達目標

子どもの発達に応じた栄養の基礎的知識、さらにライフステージごとの子どもの身体的・精神的特徴を理解し、子どもの食生活・栄養の課題を明確にし、多角的な視野から解決できる。

授業の概要

講義形式で、保育士に求められる基礎的な知識を習得し、さらにグループワークなどの演習により食生活・栄養に関する課題について考え、発表する。

準備学習（予習・復習）

専門用語も多いので、授業の前後には必ずテキストを読み、予習・復習を行うこと。

内　容

第1回　子どもの食生活の現状と課題
第2回　栄養に関する基礎知識
第3回　日本人の食事摂取基準の意義とその活用
第4回　妊娠期の食生活
第5回　乳汁栄養
第6回　離乳の意義とその実践
第7回　幼児期の心身の発達と食生活
第8回　学童期・思春期の心身の発達と食生活
第9回　学校給食の目的と目標
第10回　食育の必要性
第11回　保育所での食育
第12回　児童福祉施設における食事と栄養
第13回　特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養：こどもに多い疾病・症状と食生活
第14回　特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養：食事療法・アレルギー対応
第15回　特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養：障害のある子どもへの対応

履修上の注意点

遅刻は15分まで、授業中の私語や携帯電話の使用は厳禁とします。

教科書

子育て・子育ちを支援する　子どもの食と栄養
著者：　堤　ちはる・土井正子
出版社：　萌文書林
出版年：　2015　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 20 ）
与えられた課題についてのグループワークによる討論、発表はもちろん、個人で行う課題に対する積極性を重視します。

2016 Syllabus

科 目 名　**こどもの食と栄養 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　山中　祥子	

テーマ

子どもの発達に応じた栄養と食生活について学ぶ

授業の到達目標

子どもの発達に応じた栄養の基礎的知識、さらにライフステージごとの子どもの身体的・精神的特徴を理解し、子どもの食生活・栄養の課題を明確にし、多角的な視野から解決できる。

授業の概要

講義形式で、保育士に求められる基礎的な知識を習得し、さらにグループワークなどの演習により食生活・栄養に関する課題について考え、発表する。

準備学習（予習・復習）

専門用語も多いので、授業の前後には必ずテキストを読み、予習・復習を行うこと。

内　容

第1回　子どもの食生活の現状と課題
第2回　栄養に関する基礎知識
第3回　日本人の食事摂取基準の意義とその活用
第4回　妊娠期の食生活
第5回　乳汁栄養
第6回　離乳の意義とその実践
第7回　幼児期の心身の発達と食生活
第8回　学童期・思春期の心身の発達と食生活
第9回　学校給食の目的と目標
第10回　食育の必要性
第11回　保育所での食育
第12回　児童福祉施設における食事と栄養
第13回　特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養：こどもに多い疾病・症状と食生活
第14回　特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養：食事療法・アレルギー対応
第15回　特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養：障害のある子どもへの対応

履修上の注意点

遅刻は15分まで、授業中の私語や携帯電話の使用は厳禁とします。

教科書

子育て・子育ちを支援する　子どもの食と栄養
著者：　堤　ちはる・土井正子
出版社：　萌文書林
出版年：　2015　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 20 ）
与えられた課題についてのグループワークによる討論、発表はもちろん、個人で行う課題に対する積極性を重視します。

Syllabus

科 目 名　**こどもの食と栄養 <c>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育の心理学 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　長橋　聡	

テーマ

乳幼児の心理的な特徴を理解し、そこから生じる問題や、保育を行う上で大切なことを理解し、多角的な子どもの見方を身につけること。

授業の到達目標

・乳幼児期の子どもの特徴や発達の様子を知ること。・乳幼児期の発達と、そこから続く発達段階とのつながりをイメージし、保育・教育の実践や支援のあり方について、各々が考えられるようになること。

授業の概要

乳幼児の心理発達について、身体の発達や具体的な活動といったことと関連づけ、事例等も交えながらながら扱っていく。

準備学習（予習・復習）

予習：扱うテーマについて、簡潔で良いので、イメージするものや疑問に思うことなどを考え、整理しておくと良い。復習：配布資料やノート等を用いて復習したり、講義中に紹介する関連書籍などに目を通しておくと良い。

内　容

第1回　オリエンテーション、発達と心理学についての基本的な視座
第2回　子ども観と発達観：遺伝と環境
第3回　身体と運動の発達
第4回　感情の発達
第5回　精神の発達①：ピアジェの認知発達
第6回　精神の発達②：ヴィゴツキーの発達論
第7回　言語とイメージの発達
第8回　乳幼児の遊びとその発達的意義
第9回　愛着の発達とその意義
第10回　基本的生活習慣の発達
第11回　対人関係の発達
第12回　乳幼児期以降の発達：生涯発達という視座
第13回　発達における遅れやつまづき：発達障がい
第14回　まとめ：復習および子どもをみる視点について
第15回　期末試験

履修上の注意点

出席・欠席について：出席時には学生証を携行してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申告してください。学習上の助言：自身の興味や関心を大事にして、質問したり、講義で扱ったテーマに関して理解を深めることを望みます。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20 ）
評価方法の「授業中課題」については、第7回の前後にレポート課題を課します。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育の心理学 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　長橋　聡	

テーマ

乳幼児の心理的な特徴を理解し、そこから生じる問題や、保育を行う上で大切なことを理解し、多角的な子どもの見方を身につけること

授業の到達目標

・乳幼児期の子どもの特徴や発達の様子を知ること。・乳幼児期の発達と、そこから続く発達段階とのつながりをイメージし、保育・教育の実践や支援のあり方について、各々が考えられるようになること。

授業の概要

乳幼児期の心理発達について、身体の発達や具体的活動と言ったことと関連づけ、事例等も交えながら扱っていく。

準備学習（予習・復習）

予習：扱うテーマについて、簡潔で良いので、イメージするものや疑問に思うことなどを考え、整理しておくと良い。復習：復習：配布資料やノート等を用いて復習したり、講義中に紹介する関連書籍などに目を通しておくと良い。

内　容

第1回　オリエンテーション、発達と心理学についての基本的な視座
第2回　子ども観と発達観：遺伝と環境
第3回　身体と運動の発達
第4回　感情の発達
第5回　精神の発達①：ピアジェの認知発達
第6回　精神の発達②：ヴィゴツキーの発達論
第7回　言語とイメージの発達
第8回　乳幼児の遊びとその発達的意義
第9回　愛着の発達とその意義
第10回　基本的生活習慣の発達
第11回　対人関係の発達
第12回　乳幼児期以降の発達
第13回　発達における遅れやつまづき：発達障がい
第14回　まとめ：復習および子どもをみる視点について

履修上の注意点

出席・欠席について：出席時には学生証を携行してください。正当な理由のある欠席の場合は、事前または事後に申告してください。学習上の助言：自身の興味や関心を大事にして、質問したり、講義で扱ったテーマに関して理解を深めることを望みます。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 20 ）
評価方法の「授業中課題」については、第7回前後にレポート課題を課します。

2016 Syllabus

科 目 名　**乳児保育 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　青木　美智子	

テーマ

乳児保育の基本となる考え方、社会的な必要性、保育者の役割、保育の方法および内容について学ぶ。

授業の到達目標

乳児保育の理念、社会的役割、現状と課題について学び、理解する。3歳児未満の発達について学び、成長を支える生活と遊びについて理解する。乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録について学ぶ。

授業の概要

授業は教科書に沿って進むが、受講生の理解、興味や関心を考慮し一部の内容については順番が前後することがある。受講生は授業第1回には教科書および授業専用のノートを用意すること。「乳児保育」では、乳幼児期の子どもの発達に関する基礎知識の習得と、これを確認するための実技とが必要である。このことから、授業は講義と演習とを効果的に組み合わせた形式で行う。

準備学習（予習・復習）

受講にあたっては授業における講義と演習の内容上のつながりを意識すること。

内　　容

第1回　乳児保育とは
第2回　乳児保育の現状　ー「新制度」を中心にー
第3回　認定こども園
第4回　０，１，２歳児の発達過程①　ー保育所保育指針からー
第5回　０，１，２歳児の発達過程②　ー「愛着」についてー
第6回　０，１，２歳児の発達過程③　ー保育教材研究ー
第7回　乳児との触れあいの基礎を学ぶ　ーだっこ・おんぶ・おむつ替えー
第8回　授乳と離乳の支援①
第9回　授乳と離乳の支援②　ー調乳実習と離乳食づくりー
第10回　体の発育と運動機能の発達①
第11回　体の発育と運動機能の発達②
第12回　体の発育と運動機能の発達③　ー保育教材研究ー
第13回　乳児保育の計画
第14回　保護者との連携を考える
第15回　まとめ　筆記試験

履修上の注意点

学生証の携行。

教科書

はじめて学ぶ　乳児保育
著者：　志村聡子編著
出版社：同文書院
出版年：2015　　ISBN：　978-481031368

参考書

保育者が基礎から学ぶ乳児の発達
著者：　丸山美和子
出版社：かもがわ出版
出版年：2011　　ISBN：　978-4780304305

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 25% ）　　授業中発表等（ 0% ）
参加度（ 25% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**乳児保育 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　青木　美智子	

テーマ

乳児保育の基本となる考え方、社会的な必要性、保育者の役割、保育の方法および内容について学ぶ。

授業の到達目標

乳児保育の理念、社会的役割、現状と課題について学び、理解する。3歳児未満の発達について学び、成長を支える生活と遊びについて理解する。乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録について学ぶ。

授業の概要

授業は教科書に沿って進むが、受講生の理解、興味や関心を考慮し一部の内容については順番が前後することがある。受講生は授業第1回には教科書および授業専用のノートを用意すること。「乳児保育」では、乳幼児期の子どもの発達に関する基礎知識の習得と、これを確認するための実技とが必要である。このことから、授業は講義と演習とを効果的に組み合わせた形式で行う。

準備学習（予習・復習）

受講にあたっては授業における講義と演習の内容上のつながりを意識すること。

内　　容

第1回　乳児保育とは
第2回　乳児保育の現状　ー「新制度」を中心にー
第3回　認定こども園
第4回　０，１，２歳児の発達過程①　ー保育所保育指針からー
第5回　０，１，２歳児の発達過程②　ー「愛着」についてー
第6回　０，１，２歳児の発達過程③　ー保育教材研究ー
第7回　乳児との触れあいの基礎を学ぶ　ーだっこ・おんぶ・おむつ替えー
第8回　授乳と離乳の支援①
第9回　授乳と離乳の支援②　ー調乳実習と離乳食づくりー
第10回　体の発育と運動機能の発達①
第11回　体の発育と運動機能の発達②
第12回　体の発育と運動機能の発達③　ー保育教材研究ー
第13回　乳児保育の計画
第14回　保護者との連携を考える
第15回　まとめ　筆記試験

履修上の注意点

学生証の携行。

教科書

はじめて学ぶ　乳児保育
著者:　志村聡子編著
出版社:　同文書院
出版年:　2015　　ISBN:　978-481031368

参考書

保育者が基礎から学ぶ　乳児の発達
著者:　丸山美和子
出版社:　かもがわ出版
出版年:　2011　　ISBN:　978-4780304305

成績評価

試験　（ 50% ）	小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 25% ）	授業中発表等（ 0% ）
参加度（ 25% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**乳児保育 <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　青木　美智子	

テーマ

乳児保育の基本となる考え方、社会的な必要性、保育者の役割、保育の方法および内容について学ぶ。

授業の到達目標

乳児保育の理念、社会的役割、現状と課題について学び、理解する。3歳児未満の発達について学び、成長を支える生活と遊びについて理解する。乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録について学ぶ。

授業の概要

授業は教科書に沿って進むが、受講生の理解、興味や関心を考慮し一部の内容については順番が前後することがある。受講生は授業第1回には教科書および授業専用のノートを用意すること。「乳児保育」では、乳幼児期の子どもの発達に関する基礎知識の習得と、これを確認するための実技とが必要である。このことから、授業は講義と演習とを効果的に組み合わせた形式で行う。

準備学習（予習・復習）

受講にあたっては授業における講義と演習の内容上のつながりを意識すること。

内　　容

第1回　乳児保育とは
第2回　乳児保育の現状　ー「新制度」を中心にー
第3回　認定こども園
第4回　０，１，２歳児の発達過程①　ー保育所保育指針からー
第5回　０，１，２歳児の発達過程②　ー「愛着」についてー
第6回　０，１，２歳児の発達過程③　ー保育教材研究ー
第7回　乳児との触れあいの基礎を学ぶ　ーだっこ・おんぶ・おむつ替えー
第8回　授乳と離乳の支援①
第9回　授乳と離乳の支援②　ー調乳実習と離乳食づくりー
第10回　体の発育と運動機能の発達①
第11回　体の発育と運動機能の発達②
第12回　体の発育と運動機能の発達③　ー保育教材研究ー
第13回　乳児保育の計画
第14回　保護者との連携を考える
第15回　まとめ　筆記試験

履修上の注意点

学生証の携行。

教科書

はじめて学ぶ　乳児保育
著者：　志村聡子編著
出版社：同文書院
出版年：2015　　ISBN：　978-481031368

参考書

保育者が基礎から学ぶ　乳児の発達
著者：　丸山美和子
出版社：かもがわ出版
出版年：2011　　ISBN：　978-4780304305

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 25% ）　　授業中発表等（ 0% ）
参加度（ 25% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**障害児保育 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　秋期集中	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　岸本　栄嗣	

テーマ

この授業のテーマは、「障害のある子どもやその家族への共感的理解」である。このテーマのもとに、障害児保育の初歩的な理解に取り組む。

授業の到達目標

障害のある子ども、さらには障害のある子どもの家族の立場、視点に立って考えるようになること。

授業の概要

この授業では、障害の理解、障害のある子どもの理解、障害のある子どもの家族の理解、障害のある子どもへの保育や援助についての理解などを取り上げる。受講者自身がしっかり考えることを重視して授業を展開する。講義形式のほか、映像資料、事例、障害の疑似体験などを用いてのディスカッションも行なう。

準備学習（予習・復習）

「障害」あるいは「障害のある子ども」についての自分なりの考え・理解を、常に問い返しておくこと。また、実習やボランティア活動などで障害のある子どもとかかわる機会があれば、その子どもとの関係をしっかりと深めてほしい。

内　　容

第1回　障害とは何か（1）自分自身の「障害観」について振り返る。
第2回　障害とは何か（2）障害概念の変遷から障害について考える。
第3回　障害の理解（1）「見えない／見えにくいということ」について体験する。
第4回　障害の理解（2）「見通しがもてないということ」について体験する。
第5回　障害の理解（3）「車いすを利用するということ」について体験する。
第6回　障害の理解（4）「指先が不器用であるということ」について体験する。
第7回　障害種別の理解（1）自閉症スペクトラム障害を中心に
第8回　障害種別の理解（2）ADHDを中心に
第9回　障害種別の理解（3）視覚障害・聴覚障害を中心に
第10回　障害のある子どもの家族の理解
第11回　障害児保育の意義と目的
第12回　障害児保育の実際（1）事例の検討
第13回　障害児保育の実際（2）事例の検討
第14回　障害児保育の現状と課題
第15回　まとめ　改めて「障害とは何か」

履修上の注意点

・とくにディスカッションでは積極的な参加を望む。・授業で取り上げられることは限りがあるため、歴史的背景や制度の詳細などについては、各自文献等で学習を進めてほしい。

教科書

参考書

障害児保育
著者:　近藤直子・白石正久・中村尚子
出版社:　全障研出版部
出版年:　2013　　ISBN:　9784881341254

成績評価

試験　（　）　　小テスト　（ 50 ）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（　）
参加度　（　）
授業出席と態度、数回実施する小レポート、最終授業課題の総合評価。

2016 Syllabus

科 目 名　**障害児保育 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　若林　隆泰	

テーマ

障害児保育を進めるために、①障害児理解として、発達・障害・生活の相互の関連性に留意しつつ、発達の普遍的共通性を軸に評価する視点を養うこと、②障害児の発達を保障する保育・療育実践の基本的な概念の理解、③保護者・家族を支援する枠組みと方法、④療育システムとしての障害児保育・療育の制度理解について学ぶ

授業の到達目標

①障害児の保育・療育の実践で確かめられてきた発達の道筋を理解し、様々な障害の特性と関連付けて評価する方法を身につける②保育・療育の実践について、保育と療育と医療・訓練、親子療育、保育・療育内容と指導、集団の組織等について学ぶ③障害理解への支援等、保護者・家族支援の基本的内容と方法について学ぶ④社会福祉基礎構造改革等に留意しつつ、乳幼児期から学齢期への系統的な支援と医療・福祉・教育等の総合的な支援という療育システムの観点から、障害児保育・療育に関わる基本的な制度と機関連携等について理解する

授業の概要

前半は講義を中心に進め、後半はグループによる報告・討論を行う

準備学習（予習・復習）

参考文献（1）から、予定の内容に関わるところをあらかじめ学習しておくことが望ましい

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　発達の道筋と障害（1）
第3回　発達の道筋と障害（2）
第4回　障害の基礎知識と保育・療育の留意点（1）知的障害・自閉症スペクトラム障害
第5回　障害の基礎知識と保育・療育の留意点（2）注意欠陥多動性障害など
第6回　障害児保育・療育の方法・内容
第7回　保護者・家族支援のニーズと方法
第8回　療育システムとしての障害児保育・療育制度
第9回　グループ討論（1）
第10回　グループ討論（2）
第11回　グループ討論（3）
第12回　グループ討論（4）
第13回　グループ討論（5）
第14回　グループ討論（6）
第15回　まとめ；障害児保育・療育に関わる専門職の課題

履修上の注意点

季刊保育問題研究（新読書社）に掲載されている全国保育問題研究集会での障害児保育の実践報告を読み、課題意識を広めたり、深めたりしながら授業に参加してほしいと思っています

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

新版　テキスト障害児保育
著者：　近藤直子・白石正久・中村尚子
出版社：全国障害者問題研究会
出版年：2015年　ISBN：

”すてき”を見つける保育・療育・子育て
著者：　近藤直子
出版社：全国障害者問題研究会
出版年：2015年　ISBN：

成績評価

a30102h852

試験 （ 0% ）　小テスト（ 0% ）
授業中課題 （ 40% ）　授業中発表等 （ 40% ）
参加度 （ 20% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**障害児保育 <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　若林　隆泰	

テーマ

障害児保育を進めるために、①障害児理解として、発達・障害・生活の相互の関連性に留意しつつ、発達の普遍的共通性を軸に評価する視点を養うこと、②障害児の発達を保障する保育・療育実践の基本的な概念の理解、③保護者・家族を支援する枠組みと方法、④療育システムとしての障害児保育・療育の制度理解について学ぶ

授業の到達目標

①障害児の保育・療育の実践で確かめられてきた発達の道筋を理解し、様々な障害の特性と関連付けて評価する方法を身につける②保育・療育の実践について、保育と療育と医療・訓練、親子療育、保育・療育内容と指導、集団の組織等について学ぶ③障害理解への支援等、保護者・家族支援の基本的内容と方法について学ぶ④社会福祉基礎構造改革等に留意しつつ、乳幼児期から学齢期への系統的な支援と医療・福祉・教育等の総合的な支援という療育システムの観点から、障害児保育・療育に関わる基本的な制度と機関連携等について理解する

授業の概要

前半は講義を中心に進め、後半はグループによる報告・討論を行う

準備学習（予習・復習）

参考文献（1）から、予定の内容に関わるところをあらかじめ学習しておくことが望ましい

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　発達の道筋と障害（1）
第3回　発達の道筋と障害（2）
第4回　障害の基礎知識と保育・療育の留意点（1）知的障害・自閉症スペクトラム障害
第5回　障害の基礎知識と保育・療育の留意点（2）注意欠陥多動性障害など
第6回　障害児保育・療育の方法・内容
第7回　保護者・家族支援のニーズと方法
第8回　療育システムとしての障害児保育・療育制度
第9回　グループ討論（1）
第10回　グループ討論（2）
第11回　グループ討論（3）
第12回　グループ討論（4）
第13回　グループ討論（5）
第14回　グループ討論（6）
第15回　まとめ；障害児保育・療育に関わる専門職の課題

履修上の注意点

季刊保育問題研究（新読書社）に掲載されている全国保育問題研究集会での障害児保育の実践報告を読み、課題意識を広めたり、深めたりしながら授業に参加してほしいと思っています

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

新版　テキスト障害児保育
著者：　近藤直子・白石正久・中村尚子
出版社：全国障害者問題研究会
出版年：2015年　ISBN：

”すてき”を見つける保育・療育・子育て
著者：　近藤直子
出版社：全国障害者問題研究会
出版年：2015年　ISBN：

成績評価

a30102h853

試験 （ 0% ）　小テスト（ 0% ）
授業中課題 （ 40% ）　授業中発表等 （ 40% ）
参加度 （ 20% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**社会的養護内容 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　春田　真樹	

テーマ

様々な理由から家庭では養育されない児童に対して、家庭に替わる児童福祉施設の養育の意義と実際を理解する。

授業の到達目標

児童福祉施設で生活している児童の日常生活や職員の支援の実際を理解し、保育士として現場で活躍するための基礎知識を習得する。また、適宜グループ発表を行ったり、レポートを書いたりする中で、自ら考え表現する力を習得する。

授業の概要

基本的に教科書の項目に沿って授業を進めますが、児童養護施設でリアルタイムで働いている強みを活かし、実例を織り交ぜながら内容理解を深めていきます。また、施設のDVDを見たり、小グループを作り架空事例の検討やコミュニケーションスキルの模擬演習などを行い、次年度の施設実習に繋がるような授業となっています。

準備学習（予習・復習）

社会的養護に関わらず、世間一般の子ども達がどのような状況に置かれているか、あるいは、どのようなことが流行しているのかなどを具体的に知るために地域の活動に積極的に関わったり、TVや新聞、インターネット等を使いながら情報収集してください。

内　　容

第1回　子どもの養護と保育士①　オリエンテーション
第2回　子どもの養護と保育士②
第3回　施設養護のプロセスの理解
第4回　施設養護のプロセスの展開（児童養護施設のDVD鑑賞）
第5回　保育士の基本的な社会的養護援助・支援
第6回　こころの援助①
第7回　こころの援助②
第8回　中間の振り返り（児童養護施設のDVD鑑賞）
第9回　親子関係の援助
第10回　地域・学校との関係づくり
第11回　自己表現・自立への支援・援助①　自立の考え方
第12回　自己表現・自立への支援・援助②　自立に向けた支援・援助
第13回　児童福祉施設の運営管理
第14回　児童福祉施設における保育士の資質と倫理
第15回　まとめ

履修上の注意点

＜受講のマナー＞遅刻や早退、欠席はマイナス査定します。興味を持って授業に臨んでください。この授業でお伝えする情報は、近い将来必ず役に立つものばかりです。＜欠席について＞やむを得ず欠席する場合（部活動や実習等）については、事前に報告してください。また、急な体調不良等で欠席した場合は、事後速やかに報告してください。＜学習上の助言＞実際に児童福祉施設を訪問してみましょう。まずは施設の職員から生活の実態について話を聞いてみましょう。そこから展開していき、子どもたちの生活場面に触れること（たとえば学習ボランティア、休日の遊び相手等）により、授業の内容がより実感として理解できると思います。

教科書

保育士をめざす人の社会的養護内容
著者：　辰巳隆・岡本眞幸　編
出版社：株式会社　みらい
出版年：2011　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 40 ）
この授業は参加度と授業中の課題を重視します。授業中に与える課題はレポートを想定していますが、誤字脱字はもちろんのこと、与えられたテーマに対して筋道の通った文章展開がなされているか、適切な字数か等を採点項目にしています。

2016 Syllabus

科 目 名　**社会的養護内容 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　春田　真樹	

テーマ

様々な理由から家庭では養育されない児童に対して、家庭に替わる児童福祉施設の養育の意義と実際を理解する。

授業の到達目標

児童福祉施設で生活している児童の日常生活や職員の支援の実際を理解し、保育士として現場で活躍するための基礎知識を習得する。また、適宜グループ発表を行ったり、レポートを書いたりする中で、自ら考え表現する力を習得する。

授業の概要

基本的に教科書の項目に沿って授業を進めますが、児童養護施設でリアルタイムで働いている強みを活かし、実例を織り交ぜながら内容理解を深めていきます。また、施設のDVDを見たり、小グループを作り架空事例の検討やコミュニケーションスキルの模擬演習などを行い、次年度の施設実習に繋がるような授業となっています。

準備学習（予習・復習）

社会的養護に関わらず、世間一般の子ども達がどのような状況に置かれているか、あるいは、どのようなことが流行しているのかなどを具体的に知るために地域の活動に積極的に関わったり、TVや新聞、インターネット等を使いながら情報収集してください。

内　　容

第1回　子どもの養護と保育士①　オリエンテーション
第2回　子どもの養護と保育士②
第3回　施設養護のプロセスの理解
第4回　施設養護のプロセスの展開（児童養護施設のDVD鑑賞）
第5回　保育士の基本的な社会的養護援助・支援
第6回　こころの援助①
第7回　こころの援助②
第8回　中間の振り返り（児童養護施設のDVD鑑賞）
第9回　親子関係の援助
第10回　地域・学校との関係づくり
第11回　自己表現・自立への支援・援助①　自立の考え方
第12回　自己表現・自立への支援・援助②　自立に向けた支援・援助
第13回　児童福祉施設の運営管理
第14回　児童福祉施設における保育士の資質と倫理
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

保育士をめざす人の社会的養護内容
著者:　辰巳隆・岡本眞幸　編
出版社:　株式会社　みらい
出版年:　2011　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 40 ）
この授業は参加度と授業中の課題を重視します。授業中に与える課題はレポートを想定していますが、誤字脱字はもちろんのこと、与えられたテーマに対して筋道の通った文章展開がなされているか、適切な字数か等を採点項目にしています。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－1 〈a〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期前半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　一柳　敦子

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解する。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習Ⅰ−1の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、初めての実習への期待を高める。

準備学習（予習・復習）

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触　れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習してお　く。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で　実践する体験をしておく。

内　　容

第1回　保育実習Ⅰ−1の意義と目的
第2回　保育所の役割や機能保育所保育指針について①
第3回　保育所の1日の流れや保育士の仕事
第4回　年齢別指導方法や保育技術①
第5回　年齢別指導方法や保育技術②
第6回　帳票類と保菌検査について
第7回　・保育課程と指導計画・指導案作成の実際
第8回　実習簿の記入と記録の書き方

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
著者:　内閣府・文部科学省・厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（０）　　小テスト（０）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 40% ）
授業への参加度とともに、授業中の態度や課題へ取り組む姿勢、提出物等の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－1 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　太田　みつ枝	

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解する。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習Ⅰ-1の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、初めての実習への期待を高める。

準備学習（予習・復習）

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触　れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習してお　く。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で　実践する体験をしておく。

内　　容

第1回　保育実習Ⅰ-1の意義と目的
第2回　保育所の役割や機能保育所保育指針について①
第3回　保育所の1日の流れや保育士の仕事
第4回　年齢別指導方法や保育技術①
第5回　年齢別指導方法や保育技術②
第6回　帳票類と保菌検査について
第7回　・保育課程と指導計画・指導案作成の実際
第8回　実習簿の記入と記録の書き方

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
著者:　内閣府・文部科学省・厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（０）　　小テスト（０）
授業中課題　（30%）　　授業中発表等　（30%）
参加度　（40%）
授業への参加度とともに、授業中の態度や課題へ取り組む姿勢、提出物等の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－1 <c>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期前半　　定　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　大山　弘美

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解する。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習Ⅰ−1の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、初めての実習への期待を高める。

準備学習（予習・復習）

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触　れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習してお　く。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で　実践する体験をしておく。

内　容

第1回　保育実習Ⅰ−1の意義と目的
第2回　保育所の役割や機能保育所保育指針について①
第3回　保育所の1日の流れや保育士の仕事
第4回　年齢別指導方法や保育技術①
第5回　年齢別指導方法や保育技術②
第6回　帳票類と保菌検査について
第7回　・保育課程と指導計画・指導案作成の実際
第8回　実習簿の記入と記録の書き方

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
著者:　内閣府・文部科学省・厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（０）　　小テスト（０）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 40% ）
授業への参加度とともに、授業中の態度や課題へ取り組む姿勢、提出物等の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－1 <d>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期前半　　定　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　杉江　由紀子

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解する。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習Ⅰ-1の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、初めての実習への期待を高める。

準備学習（予習・復習）

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触　れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習してお　く。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で　実践する体験をしておく。

内　容

第8回　実習簿の記入と記録の書き方
第1回　保育実習Ⅰ-1の意義と目的
第2回　保育所の役割や機能保育所保育指針について①
第3回　保育所の1日の流れや保育士の仕事
第4回　年齢別指導方法や保育技術①
第5回　年齢別指導方法や保育技術②
第6回　帳票類と保菌検査について
第7回　・保育課程と指導計画・指導案作成の実際

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
著者:　内閣府・文部科学省・厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（０）　　小テスト（０）
授業中課題　（30%）　　授業中発表等　（30%）
参加度　（40%）
授業への参加度とともに、授業中の態度や課題へ取り組む姿勢、提出物等の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－1 <e>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期前半　　定　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　中﨑 あつ子

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解する。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習Ⅰ-1の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、初めての実習への期待を高める。

準備学習（予習・復習）

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触　れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習してお　く。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で　実践する体験をしておく。

内　容

第1回　保育実習Ⅰ-1の意義と目的
第2回　保育所の役割や機能保育所保育指針について①
第3回　保育所の1日の流れや保育士の仕事
第4回　年齢別指導方法や保育技術①
第5回　年齢別指導方法や保育技術②
第6回　帳票類と保菌検査について
第7回　・保育課程と指導計画・指導案作成の実際
第8回　実習簿の記入と記録の書き方

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
著者:　内閣府・文部科学省・厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（０）　　小テスト（０）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 40% ）
授業への参加度とともに、授業中の態度や課題へ取り組む姿勢、提出物等の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－1 <f>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期前半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　山口　陽子

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解する。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習Ⅰ−1の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、初めての実習への期待を高める。

準備学習（予習・復習）

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触　れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習してお　く。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で　実践する体験をしておく。

内　　容

第3回　保育所の1日の流れや保育士の仕事
第4回　年齢別指導方法や保育技術①
第5回　年齢別指導方法や保育技術②
第6回　帳票類と保菌検査について
第7回　・保育課程と指導計画・指導案作成の実際
第8回　実習簿の記入と記録の書き方
第1回　保育実習Ⅰ−1の意義と目的
第2回　保育所の役割や機能保育所保育指針について①

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
著者:　内閣府・文部科学省・厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（０）　　小テスト（０）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 40% ）
授業への参加度とともに、授業中の態度や課題へ取り組む姿勢、提出物等の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－1 <g>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　須藤　智代子	

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解する。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習Ⅰ-1の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、初めての実習への期待を高める。

準備学習（予習・復習）

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触　れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習してお　く。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で　実践する体験をしておく。

内　　容

第1回　保育実習Ⅰ-1の意義と目的
第2回　保育所の役割や機能保育所保育指針について①
第3回　保育所の1日の流れや保育士の仕事
第4回　年齢別指導方法や保育技術①
第5回　年齢別指導方法や保育技術②
第6回　帳票類と保菌検査について
第7回　・保育課程と指導計画・指導案作成の実際
第8回　実習簿の記入と記録の書き方

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
著者:　内閣府・文部科学省・厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（０）　　小テスト（０）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 40% ）
授業への参加度とともに、授業中の態度や課題へ取り組む姿勢、提出物等の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－1 <h>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期前半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　吉田　裕子

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解する。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習Ⅰ-1の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、初めての実習への期待を高める。

準備学習（予習・復習）

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触　れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習してお　く。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で　実践する体験をしておく。

内　　容

第1回　保育実習Ⅰ-1の意義と目的
第2回　保育所の役割や機能保育所保育指針について①
第3回　保育所の1日の流れや保育士の仕事
第4回　年齢別指導方法や保育技術①
第5回　年齢別指導方法や保育技術②
第6回　帳票類と保菌検査について
第7回　・保育課程と指導計画・指導案作成の実際
第8回　実習簿の記入と記録の書き方

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
著者:　内閣府・文部科学省・厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（０）　　小テスト（０）
授業中課題　（30%）　　授業中発表等　（30%）
参加度　（40%）
授業への参加度とともに、授業中の態度や課題へ取り組む姿勢、提出物等の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－1 <i>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　白井　昌子	

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解する。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習Ⅰ−1の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、初めての実習への期待を高める。

準備学習（予習・復習）

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触　れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習してお　く。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で　実践する体験をしておく。

内　　容

第1回　保育実習Ⅰ−1の意義と目的
第2回　保育所の役割や機能保育所保育指針について①
第3回　保育所の1日の流れや保育士の仕事
第4回　年齢別指導方法や保育技術①
第5回　年齢別指導方法や保育技術②
第6回　帳票類と保菌検査について
第7回　・保育課程と指導計画・指導案作成の実際
第8回　実習簿の記入と記録の書き方

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
著者:　内閣府・文部科学省・厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（０）　　小テスト（０）
授業中課題　（30%）　　授業中発表等　（30%）
参加度　（40%）
授業への参加度とともに、授業中の態度や課題へ取り組む姿勢、提出物等の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－1 〈j〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期前半　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　辻 啓子

テーマ

初めての保育所実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養を獲得する。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・読む力や書く力、話す力や聞く力を養成する。・基礎的な考え方(理論)や、専門的知識を身につける。・この科目・領域の具体的な内容や指導方法(スキルについて)を理解する。

授業の概要

・視聴覚教材や保育所保育指針解説書により、保育所実習の意義と目的について基本を理解し、保育実習Ⅰ−1の段階内容を知る。また実技演習を通して、教材の扱い等、保育の必要な技術や知識を身につけ、初めての実習への期待を高める。

準備学習（予習・復習）

・本授業の前段階として、保育所等のボランティア活動や子どもと直接触　れ合う体験ができるように努め、子どもへの探求心や温かい関心を培っておく。・乳児保育や保育内容に関する授業で学修したことを復習してお　く。・絵本や手遊び等を普段から興味をもって収集したり、実際に子どもの前で　実践する体験をしておく。

内　容

第1回　保育実習Ⅰ−1の意義と目的
第2回　保育所の役割や機能保育所保育指針について①
第3回　保育所の1日の流れや保育士の仕事
第4回　年齢別指導方法や保育技術①
第5回　年齢別指導方法や保育技術②
第6回　帳票類と保菌検査について
第7回　・保育課程と指導計画・指導案作成の実際
第8回　実習簿の記入と記録の書き方

履修上の注意点

・欠席はその後の実習にも響くため欠席のないよう注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
著者:　内閣府・文部科学省・厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（０）　　小テスト（０）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 40% ）
授業への参加度とともに、授業中の態度や課題へ取り組む姿勢、提出物等の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－1〈a〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　一柳　敦子

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習（予習・復習）

体調管理、社会人としてのルールを守ること。

内　容

第1回　実習の導入
第2回　観察実習
第3回　観察実習
第4回　観察実習
第5回　観察実習
第6回　観察実習
第7回　観察実習
第8回　観察実習
第9回　観察実習
第10回　観察実習
第11回　部分実習
第12回　部分実習
第13回　部分実習
第14回　責任実習
第15回　実習のまとめと反省

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 100　）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－1 〈b〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　太田 みつ枝

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習（予習・復習）

体調管理、社会人としてのルールを守ること。

内　容

第1回　実習の導入
第2回　観察実習
第3回　観察実習
第4回　観察実習
第5回　観察実習
第6回　観察実習
第7回　観察実習
第8回　観察実習
第9回　観察実習
第10回　観察実習
第11回　部分実習
第12回　部分実習
第13回　部分実習
第14回　責任実習
第15回　実習のまとめと反省

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 100 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－1 〈c〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　大山　弘美

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習（予習・復習）

体調管理、社会人としてのルールを守ること。

内　容

第1回　実習の導入
第2回　観察実習
第3回　観察実習
第4回　観察実習
第5回　観察実習
第6回　観察実習
第7回　観察実習
第8回　観察実習
第9回　観察実習
第10回　観察実習
第11回　部分実習
第12回　部分実習
第13回　部分実習
第14回　責任実習
第15回　実習のまとめと反省

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 100　）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－1 <d>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　杉江　由紀子

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習（予習・復習）

体調管理、社会人としてのルールを守ること。

内　容

第1回　実習の導入
第2回　観察実習
第3回　観察実習
第4回　観察実習
第5回　観察実習
第6回　観察実習
第7回　観察実習
第8回　観察実習
第9回　観察実習
第10回　観察実習
第11回　部分実習
第12回　部分実習
第13回　部分実習
第14回　責任実習
第15回　実習のまとめと反省

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 100　）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－1 〈e〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　　中﨑　あつ子

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習（予習・復習）

体調管理、社会人としてのルールを守ること。

内　　容

第1回　実習の導入
第2回　観察実習
第3回　観察実習
第4回　観察実習
第5回　観察実習
第6回　観察実習
第7回　観察実習
第8回　観察実習
第9回　観察実習
第10回　観察実習
第11回　部分実習
第12回　部分実習
第13回　部分実習
第14回　責任実習
第15回　実習のまとめと反省

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 100　）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－1〈f〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　山口　陽子

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習（予習・復習）

体調管理、社会人としてのルールを守ること。

内　容

第1回　実習の導入
第2回　観察実習
第3回　観察実習
第4回　観察実習
第5回　観察実習
第6回　観察実習
第7回　観察実習
第8回　観察実習
第9回　観察実習
第10回　観察実習
第11回　部分実習
第12回　部分実習
第13回　部分実習
第14回　責任実習
第15回　実習のまとめと反省

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 100　）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－1〈g〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　須藤　智代子

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習（予習・復習）

体調管理、社会人としてのルールを守ること。

内　容

第1回　実習の導入
第2回　観察実習
第3回　観察実習
第4回　観察実習
第5回　観察実習
第6回　観察実習
第7回　観察実習
第8回　観察実習
第9回　観察実習
第10回　観察実習
第11回　部分実習
第12回　部分実習
第13回　部分実習
第14回　責任実習
第15回　実習のまとめと反省

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 100　）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－1 <h>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　　青木　美智子.吉田　裕子

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習（予習・復習）

体調管理、社会人としてのルールを守ること。

内　　容

第1回　実習の導入
第2回　観察実習
第3回　観察実習
第4回　観察実習
第5回　観察実習
第6回　観察実習
第7回　観察実習
第8回　観察実習
第9回　観察実習
第10回　観察実習
第11回　部分実習
第12回　部分実習
第13回　部分実習
第14回　責任実習
第15回　実習のまとめと反省

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 100　）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－1 〈i〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　白井　昌子

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習（予習・復習）

体調管理、社会人としてのルールを守ること。

内　容

第1回　実習の導入
第2回　観察実習
第3回　観察実習
第4回　観察実習
第5回　観察実習
第6回　観察実習
第7回　観察実習
第8回　観察実習
第9回　観察実習
第10回　観察実習
第11回　部分実習
第12回　部分実習
第13回　部分実習
第14回　責任実習
第15回　実習のまとめと反省

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 100　）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－1〈j〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　辻 啓子

テーマ

子どもの発達と遊びの様子、保育者の関わりなどについて実地に学ぶ。

授業の到達目標

園の一日の流れを理解し、保育者の動きや子どもの発達の様子をよく観察し、実習生として保育に参加しながら、保育の内容や方法について体験的に学ぶこと。

授業の概要

保育所において実習を行う。

準備学習（予習・復習）

体調管理、社会人としてのルールを守ること。

内　容

第1回　実習の導入
第2回　観察実習
第3回　観察実習
第4回　観察実習
第5回　観察実習
第6回　観察実習
第7回　観察実習
第8回　観察実習
第9回　観察実習
第10回　観察実習
第11回　部分実習
第12回　部分実習
第13回　部分実習
第14回　責任実習
第15回　実習のまとめと反省

履修上の注意点

原則として一日8時間、10日間の実習

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 100 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅱ〈a〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期後半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　　一柳　敦子

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

授業の到達目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の育成教⑥物事を論理的に解決する能力の養成幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得幼⑤この科目･領域内容で学習したことについて振り返り、考える力の養成

授業の概要

保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身につける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。

準備学習（予習・復習）

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとも　に、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。

内　　容

第1回　保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育･保育要領も含む)
第2回　年齢別教材と保育技術、指導方法①･･0歳児
第3回　年齢別教材と保育技術、指導方法②･･１～２歳児
第4回　年齢別教材と保育技術、指導方法③･･３～５歳児
第5回　年齢別教材と保育技術、指導方法④･･指導案作成
第6回　年齢別教材と保育技術、指導方法⑤･･指導案作成
第7回　先輩の体験報告から学ぶ。
第8回　まとめ･･自己課題を明確にする。

履修上の注意点

欠席はその後の実習にも響くので注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文部科学省･厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度　（ 40% ）
授業への参加度とともに、授業の課題に対する取り組み姿勢や提出物等の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅱ <b>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期後半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　　太田　みつ枝

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

授業の到達目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の育成教⑥物事を論理的に解決する能力の養成幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得幼⑤この科目･領域内容で学習したことについて振り返り、考える力の養成

授業の概要

保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身につける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。

準備学習（予習・復習）

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとも　に、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。

内　　容

第1回　保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育･保育要領も含む)
第2回　年齢別教材と保育技術、指導方法①･･0歳児
第3回　年齢別教材と保育技術、指導方法②･･１～２歳児
第4回　年齢別教材と保育技術、指導方法③･･３～５歳児
第5回　年齢別教材と保育技術、指導方法④･･指導案作成
第6回　年齢別教材と保育技術、指導方法⑤･･指導案作成
第7回　先輩の体験報告から学ぶ。
第8回　まとめ･･自己課題を明確にする。

履修上の注意点

欠席はその後の実習にも響くので注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文部科学省･厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度　（ 40% ）
授業への参加度とともに、授業の課題に対する取り組み姿勢や提出物等の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅱ〈c〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期後半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　大山　弘美

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

授業の到達目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の育成教⑥物事を論理的に解決する能力の養成幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得幼⑤この科目･領域内容で学習したことについて振り返り、考える力の養成

授業の概要

保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身につける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。

準備学習（予習・復習）

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとも　に、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。

内　容

第1回　保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育･保育要領も含む)
第2回　年齢別教材と保育技術、指導方法①･･0歳児
第3回　年齢別教材と保育技術、指導方法②･･1～2歳児
第4回　年齢別教材と保育技術、指導方法③･･3～5歳児
第5回　年齢別教材と保育技術、指導方法④･･指導案作成
第6回　年齢別教材と保育技術、指導方法⑤･･指導案作成
第7回　先輩の体験報告から学ぶ。
第8回　まとめ･･自己課題を明確にする。

履修上の注意点

欠席はその後の実習にも響くので注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文部科学省･厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 30% ）　　授業中発表等（ 30% ）
参加度　（ 40% ）
授業への参加度とともに、授業の課題に対する取り組み姿勢や提出物等の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅱ <d>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期後半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　　杉江　由紀子

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

授業の到達目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の育成教⑥物事を論理的に解決する能力の養成幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得幼⑤この科目･領域内容で学習したことについて振り返り、考える力の養成

授業の概要

保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身につける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。

準備学習（予習･復習）

･日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとも　に、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。･保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園　教育･保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。

内　　容

第1回　保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育･保育要領も含む)
第2回　年齢別教材と保育技術、指導方法①･･0歳児
第3回　年齢別教材と保育技術、指導方法②･･1～2歳児
第4回　年齢別教材と保育技術、指導方法③･･3～5歳児
第5回　年齢別教材と保育技術、指導方法④･･指導案作成
第6回　年齢別教材と保育技術、指導方法⑤･･指導案作成
第7回　先輩の体験報告から学ぶ。
第8回　まとめ･･自己課題を明確にする。

履修上の注意点

欠席はその後の実習にも響くので注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文部科学省･厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 30% ）　　授業中発表等（ 30% ）
参加度　（ 40% ）
授業への参加度とともに、授業の課題に対する取り組み姿勢や提出物等の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅱ〈e〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期後半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　　中﨑　あつ子

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

授業の到達目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の育成教⑥物事を論理的に解決する能力の養成幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得幼⑤この科目･領域内容で学習したことについて振り返り、考える力の養成

授業の概要

保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身につける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。

準備学習（予習・復習）

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとも　に、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。

内　　容

第1回　保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育･保育要領も含む)
第2回　年齢別教材と保育技術、指導方法①･･0歳児
第3回　年齢別教材と保育技術、指導方法②･･１～２歳児
第4回　年齢別教材と保育技術、指導方法③･･３～５歳児
第5回　年齢別教材と保育技術、指導方法④･･指導案作成
第6回　年齢別教材と保育技術、指導方法⑤･･指導案作成
第7回　先輩の体験報告から学ぶ。
第8回　まとめ･･自己課題を明確にする。

履修上の注意点

欠席はその後の実習にも響くので注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文部科学省･厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 30% ）　　授業中発表等（ 30% ）
参加度　（ 40% ）
授業への参加度とともに、授業の課題に対する取り組み姿勢や提出物等の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅱ〈f〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期後半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　山口　陽子

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

授業の到達目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の育成教⑥物事を論理的に解決する能力の養成幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得幼⑤この科目･領域内容で学習したことについて振り返り、考える力の養成

授業の概要

保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身につける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。

準備学習（予習・復習）

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとも　に、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。

内　容

第1回　保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育･保育要領も含む)
第2回　年齢別教材と保育技術、指導方法①･･0歳児
第3回　年齢別教材と保育技術、指導方法②･･１～２歳児
第4回　年齢別教材と保育技術、指導方法③･･３～５歳児
第5回　年齢別教材と保育技術、指導方法④･･指導案作成
第6回　年齢別教材と保育技術、指導方法⑤･･指導案作成
第7回　先輩の体験報告から学ぶ。
第8回　まとめ･･自己課題を明確にする。

履修上の注意点

欠席はその後の実習にも響くので注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文部科学省･厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 30% ）　　授業中発表等（ 30% ）
参加度　（ 40% ）
授業への参加度とともに、授業の課題に対する取り組み姿勢や提出物等の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅱ〈g〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期後半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　須藤　智代子

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

授業の到達目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の育成教⑥物事を論理的に解決する能力の養成幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得幼⑤この科目･領域内容で学習したことについて振り返り、考える力の養成

授業の概要

保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身につける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。

準備学習（予習・復習）

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとも　に、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。

内　容

第1回　保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育･保育要領も含む)
第2回　年齢別教材と保育技術、指導方法①･･0歳児
第3回　年齢別教材と保育技術、指導方法②･･１～２歳児
第4回　年齢別教材と保育技術、指導方法③･･３～５歳児
第5回　年齢別教材と保育技術、指導方法④･･指導案作成
第6回　年齢別教材と保育技術、指導方法⑤･･指導案作成
第7回　先輩の体験報告から学ぶ。
第8回　まとめ･･自己課題を明確にする。

履修上の注意点

欠席はその後の実習にも響くので注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文部科学省･厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 40% ）
授業への参加度とともに、授業の課題に対する取り組み姿勢や提出物等の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅱ <h>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期後半　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　　吉田　裕子

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

授業の到達目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の育成教⑥物事を論理的に解決する能力の養成幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得幼⑤この科目･領域内容で学習したことについて振り返り、考える力の養成

授業の概要

保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身につける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。

準備学習（予習・復習）

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとも　に、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。

内　　容

第1回　保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育･保育要領も含む)
第2回　年齢別教材と保育技術、指導方法①･･0歳児
第3回　年齢別教材と保育技術、指導方法②･･１～２歳児
第4回　年齢別教材と保育技術、指導方法③･･３～５歳児
第5回　年齢別教材と保育技術、指導方法④･･指導案作成
第6回　年齢別教材と保育技術、指導方法⑤･･指導案作成
第7回　先輩の体験報告から学ぶ。
第8回　まとめ･･自己課題を明確にする。

履修上の注意点

欠席はその後の実習にも響くので注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文部科学省･厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 30% ）　　授業中発表等（ 30% ）
参加度　（ 40% ）
授業への参加度とともに、授業の課題に対する取り組み姿勢や提出物等の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅱ〈i〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　白井　昌子	

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

授業の到達目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の育成教⑥物事を論理的に解決する能力の養成幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得幼⑤この科目･領域内容で学習したことについて振り返り、考える力の養成

授業の概要

保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身につける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。

準備学習（予習・復習）

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとも　に、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。

内　容

第1回　保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育･保育要領も含む)
第2回　年齢別教材と保育技術、指導方法①･･0歳児
第3回　年齢別教材と保育技術、指導方法②･･１～２歳児
第4回　年齢別教材と保育技術、指導方法③･･３～５歳児
第5回　年齢別教材と保育技術、指導方法④･･指導案作成
第6回　年齢別教材と保育技術、指導方法⑤･･指導案作成
第7回　先輩の体験報告から学ぶ。
第8回　まとめ･･自己課題を明確にする。

履修上の注意点

欠席はその後の実習にも響くので注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文部科学省･厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 40% ）
授業への参加度とともに、授業の課題に対する取り組み姿勢や提出物等の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅱ <j>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　辻　啓子	

テーマ

保育所実習の一層の充実のために

授業の到達目標

教①市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得教⑤自分自身や社会が直面する様々な問題を理解し解決する能力の育成教⑥物事を論理的に解決する能力の養成幼③基礎的な考え方(理論)や専門的知識の獲得幼⑤この科目･領域内容で学習したことについて振り返り、考える力の養成

授業の概要

保育実習Ⅱの段階の内容を知り、必要な知識と技術を身につける。また演習や先輩の話等を通じて、保育実習Ⅱにふさわしい探求心を広げ課題意識を高める。

準備学習（予習・復習）

・日常的に絵本や手遊び等についての教材収集と研究を心がけるとも　に、実習関係の本等からも情報収集し現場での実践に生かせる引き出しを増やしておく。・保育所保育指針解説書、また実習先によっては幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説について、必要な箇所の予習復習を心がける。

内　　容

第1回　保育所保育指針について②(幼保連携型認定こども園教育･保育要領も含む)
第2回　年齢別教材と保育技術、指導方法①･･0歳児
第3回　年齢別教材と保育技術、指導方法②･･１～２歳児
第4回　年齢別教材と保育技術、指導方法③･･３～５歳児
第5回　年齢別教材と保育技術、指導方法④･･指導案作成
第6回　年齢別教材と保育技術、指導方法⑤･･指導案作成
第7回　先輩の体験報告から学ぶ。
第8回　まとめ･･自己課題を明確にする。

履修上の注意点

欠席はその後の実習にも響くので注意すること。

教科書

保育所保育指針解説書
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文部科学省･厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

授業の中で適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度　（ 40% ）
授業への参加度とともに、授業の課題に対する取り組み姿勢や提出物等の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**体育実技 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　新野　守	

テーマ

いくつかのスポーツ種目の体験とその基礎技術の習得

授業の到達目標

①スポーツのルールを理解し、基礎技術の習得を図る。②お互いに教えあい、指導のポイントを学ぶ。③体力とつける。

授業の概要

陸上、バレーボール、バスケットボール、サッカーを中心に各種目の基礎技術を習得しするとともに、ゲームの戦術を学ぶ。また、各授業の技術、戦術の基礎、指導ポイント、ゲームの結果と分析を授業記録としてまとめ、自主学習を加えて提出する。

準備学習（予習・復習）

日頃から規則正しい生活習慣を身につけること。また毎日30分以上の運動を行うと共に、腹筋、背筋、腕立て伏せなどの基礎体力の確保に努めること。

内　容

第3回　陸上運動①
第4回　陸上運動②
第5回　陸上運動③
第6回　バレーボール①
第7回　バレーボール②
第8回　バレーボール③
第9回　バスケットボール①
第10回　バスケットボール②
第11回　バスケットボール③
第12回　サッカー①
第13回　サッカー②
第14回　サッカー③
第15回　まとめ
第1回　オリエンテーション
第2回　体ほぐし、体力テスト

履修上の注意点

ジャージーやトレーナー、体育館シューズなど運動に相応しい服装を用意すること。タオルや水筒など水分補給できるものを用意すること。授業内容は、状況に応じて変更されることがあるのでオリエンテーションで確認すること。

教科書

参考書

基礎から身につく陸上競技
著者：　日本陸上競技連盟
出版社：大修館書店
出版年：2013　　ISBN：

見てわかるバスケットボール
著者：　森村義和
出版社：西東社
出版年：2004　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（10）
授業中課題（50）　　授業中発表等（10）
参加度　（30）
参加態度、授業記録、技能、体力等を加味して行う。受講生の状況に応じて評価配分は変更されることがある。

2016 Syllabus

科 目 名　**体育実技 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　新野　守	

テーマ

いくつかのスポーツ種目の体験とその基礎技術の習得

授業の到達目標

①スポーツのルールを理解し、基礎技術の習得を図る。②お互いに教えあい、指導のポイントを学ぶ。③体力とつける。

授業の概要

陸上、バレーボール、バスケットボール、サッカーを中心に各種目の基礎技術を習得しするとともに、ゲームの戦術を学ぶ。また、各授業の技術、戦術の基礎、指導ポイント、ゲームの結果と分析を授業記録としてまとめ、自主学習を加えて提出する。

準備学習（予習・復習）

日頃から規則正しい生活習慣を身につけること。また毎日30分以上の運動を行うと共に、腹筋、背筋、腕立て伏せなどの基礎体力の確保に努めること。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　体ほぐし、体力テスト
第3回　陸上運動①
第4回　陸上運動②
第5回　陸上運動③
第6回　バレーボール①
第7回　バレーボール②
第8回　バレーボール③
第9回　バスケットボール①
第10回　バスケットボール②
第11回　バスケットボール③
第12回　サッカー①
第13回　サッカー②
第14回　サッカー③
第15回　まとめ

履修上の注意点

ジャージーやトレーナー、体育館シューズなど運動に相応しい服装を用意すること。タオルや水筒など水分補給できるものを用意すること。授業内容は、状況に応じて変更されることがあるのでオリエンテーションで確認すること。

教科書

参考書

基礎から身につく陸上競技
著者：　日本陸上競技連盟
出版社：大修館書店
出版年：2013　　ISBN：

見てわかるバスケットボール
著者：　森村義和
出版社：西東社
出版年：2004　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（10）
授業中課題（50）　　授業中発表等（10）
参加度　（30）
参加態度、授業記録、技能、体力等を加味して行う。受講生の状況に応じて評価配分は変更されることがある。

2016 Syllabus

科 目 名　**体育実技 <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　新野　守	

テーマ

いくつかのスポーツ種目の体験とその基礎技術の習得

授業の到達目標

①スポーツのルールを理解し、基礎技術の習得を図る。②お互いに教えあい、指導のポイントを学ぶ。③体力とつける。

授業の概要

陸上、バレーボール、バスケットボール、サッカーを中心に各種目の基礎技術を習得しするとともに、ゲームの戦術を学ぶ。また、各授業の技術、戦術の基礎、指導ポイント、ゲームの結果と分析を授業記録としてまとめ、自主学習を加えて提出する。

準備学習（予習・復習）

日頃から規則正しい生活習慣を身につけること。また毎日30分以上の運動を行うと共に、腹筋、背筋、腕立て伏せなどの基礎体力の確保に努めること。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　体ほぐし、体力テスト
第3回　陸上運動①
第4回　陸上運動②
第5回　陸上運動③
第6回　バレーボール①
第7回　バレーボール②
第8回　バレーボール③
第9回　バスケットボール①
第10回　バスケットボール②
第11回　バスケットボール③
第12回　サッカー①
第13回　サッカー②
第14回　サッカー③
第15回　まとめ

履修上の注意点

ジャージーやトレーナー、体育館シューズなど運動に相応しい服装を用意すること。タオルや水筒など水分補給できるものを用意すること。授業内容は、状況に応じて変更されることがあるのでオリエンテーションで確認すること。

教科書

参考書

基礎から身につく陸上競技
著者：　日本陸上競技連盟
出版社：大修館書店
出版年：2013　　ISBN：

見てわかるバスケットボール
著者：　森村義和
出版社：西東社
出版年：2004　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（１０）
授業中課題（５０）　　授業中発表等（１０）
参加度　（３０）
参加態度、授業記録、技能、体力等を加味して行う。受講生の状況に応じて評価配分は変更されることがある。

2016 Syllabus

科 目 名　**音楽演習入門 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　佐野 仁美	

テーマ

鍵盤楽器演奏の基本と音楽理論

授業の到達目標

1)教育・保育で必要な音楽理論を理解し、読譜力を身に付ける。2)初歩的なピアノ演奏技能を習得する。3)コードネームを理解し、簡単な伴奏付けができる。

授業の概要

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と楽典の講義を並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3～4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

準備学習（予習・復習）

予習：授業中に指示された課題を各自で必ず練習しておく。わからないところは事前にまとめておいて、授業に臨むこと。復習：指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して身につける。

内　容

第1回　オリエンテーション、五線と音部記号、音名と変化記号、読譜練習、バイエルNo.12～15
第2回　音符と休符、読譜練習(低音部記号)、バイエルNo.17、18、23、24
第3回　拍子、リズム課題Ⅰ、バイエルNo.37、45、46
第4回　標語と記号、リズム課題Ⅱ、バイエルNo.48、49、51
第5回　長音階(♯調)、リズム課題Ⅲ、バイエルNo.52、55、57
第6回　長音階(♭調)、リズム課題Ⅳ、バイエルNo.59、60、61
第7回　短音階、バイエルNo.65、67
第8回　移調、バイエルNo.72、73
第9回　和音、バイエルNo.73、75
第10回　メジャーコードとマイナーコード、バイエルNo.77、78
第11回　ハ長調のコード進行、バイエルNo.77、78
第12回　ハ長調のコード伴奏による弾き歌い、バイエルNo.79、80
第13回　音楽理論小テスト、バイエルNo.79、80
第14回　弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲
第15回　ピアノ実技発表

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。課題の予習、復習が何よりも重要である。

教科書

楽譜をどう表現するか一旋律表現のためのやさしいピアノ曲集
著者：　小畑郁男・佐野仁美編著
出版社：サーベル社
出版年：2014年　ISBN：

コードでかんたん！子どものうたマイ・レパートリー
著者：　坂井康子他編著
出版社：ヤマハ・ミュージックメディア
出版年：2008年　ISBN：

参考書

プリントを配布する。
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**音楽演習入門 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　佐野 仁美	

テーマ

鍵盤楽器演奏の基本と音楽理論

授業の到達目標

1)教育・保育で必要な音楽理論を理解し、読譜力を身に付ける。2)初歩的なピアノ演奏技能を習得する。3)コードネームを理解し、簡単な伴奏付けができる。

授業の概要

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と楽典の講義を並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3～4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

準備学習（予習・復習）

予習：授業中に指示された課題を各自で必ず練習しておく。わからないところは事前にまとめておいて、授業に臨むこと。復習：指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して身につける。

内　容

第1回　オリエンテーション、五線と音部記号、音名と変化記号、読譜練習、バイエルNo.12～15
第2回　音符と休符、読譜練習(低音部記号)、バイエルNo.17、18、23、24
第3回　拍子、リズム課題Ⅰ、バイエルNo.37、45、46
第4回　標語と記号、リズム課題Ⅱ、バイエルNo.48、49、51
第5回　長音階(♯調)、リズム課題Ⅲ、バイエルNo.52、55、57
第6回　長音階(♭調)、リズム課題Ⅳ、バイエルNo.59、60、61
第7回　短音階、バイエルNo.65、67
第8回　移調、バイエルNo.72、73
第9回　和音、バイエルNo.73、75
第10回　メジャーコードとマイナーコード、バイエルNo.77、78
第11回　ハ長調のコード進行、バイエルNo.77、78
第12回　ハ長調のコード伴奏による弾き歌い、バイエルNo.79、80
第13回　音楽理論小テスト、バイエルNo.79、80
第14回　弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲
第15回　ピアノ実技発表

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。課題の予習、復習が何よりも重要である。

教科書

楽譜をどう表現するか一旋律表現のためのやさしいピアノ曲集
著者：　小畑郁男・佐野仁美編著
出版社：サーベル社
出版年：2014年　ISBN：

コードでかんたん！子どものうたマイ・レパートリー
著者：　坂井康子他編著
出版社：ヤマハ・ミュージックメディア
出版年：2008年　ISBN：

参考書

プリントを配布する。
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**音楽演習入門 <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　佐野 仁美	

テーマ

鍵盤楽器演奏の基本と音楽理論

授業の到達目標

1)教育・保育で必要な音楽理論を理解し、読譜力を身に付ける。2)初歩的なピアノ演奏技能を習得する。3)コードネームを理解し、簡単な伴奏付けができる。

授業の概要

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と楽典の講義を並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3～4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

準備学習（予習・復習）

予習：授業中に指示された課題を各自で必ず練習しておく。わからないところは事前にまとめておいて、授業に臨むこと。復習：指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して身につける。

内　容

第1回　オリエンテーション、五線と音部記号、音名と変化記号、読譜練習、バイエルNo.12～15
第2回　音符と休符、読譜練習(低音部記号)、バイエルNo.17、18、23、24
第3回　拍子、リズム課題Ⅰ、バイエルNo.37、45、46
第4回　標語と記号、リズム課題Ⅱ、バイエルNo.48、49、51
第5回　長音階(♯調)、リズム課題Ⅲ、バイエルNo.52、55、57
第6回　長音階(♭調)、リズム課題Ⅳ、バイエルNo.59、60、61
第7回　短音階、バイエルNo.65、67
第8回　移調、バイエルNo.72、73
第9回　和音、バイエルNo.73、75
第10回　メジャーコードとマイナーコード、バイエルNo.77、78
第11回　ハ長調のコード進行、バイエルNo.77、78
第12回　ハ長調のコード伴奏による弾き歌い、バイエルNo.79、80
第13回　音楽理論小テスト、バイエルNo.79、80
第14回　弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲
第15回　ピアノ実技発表

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。課題の予習、復習が何よりも重要である。

教科書

楽譜をどう表現するか一旋律表現のためのやさしいピアノ曲集
著者：　小畑郁男・佐野仁美編著
出版社：サーベル社
出版年：2014年　ISBN：

コードでかんたん！子どものうたマイ・レパートリー
著者：　坂井康子他編著
出版社：ヤマハ・ミュージックメディア
出版年：2008年　ISBN：

参考書

プリントを配布する。
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**音楽演習入門 <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　佐野 仁美	

テーマ

鍵盤楽器演奏の基本と音楽理論

授業の到達目標

1)教育・保育で必要な音楽理論を理解し、読譜力を身に付ける。2)初歩的なピアノ演奏技能を習得する。3)コードネームを理解し、簡単な伴奏付けができる。

授業の概要

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と楽典の講義を並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の3～4人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

準備学習（予習・復習）

予習：授業中に指示された課題を各自で必ず練習しておく。わからないところは事前にまとめておいて、授業に臨むこと。復習：指導により得られた助言をもとに、課題を再度練習して身につける。

内　容

第1回　オリエンテーション、五線と音部記号、音名と変化記号、読譜練習、バイエルNo.12～15
第2回　音符と休符、読譜練習(低音部記号)、バイエルNo.17、18、23、24
第3回　拍子、リズム課題Ⅰ、バイエルNo.37、45、46
第4回　標語と記号、リズム課題Ⅱ、バイエルNo.48、49、51
第5回　長音階(♯調)、リズム課題Ⅲ、バイエルNo.52、55、57
第6回　長音階(♭調)、リズム課題Ⅳ、バイエルNo.59、60、61
第7回　短音階、バイエルNo.65、67
第8回　移調、バイエルNo.72、73
第9回　和音、バイエルNo.73、75
第10回　メジャーコードとマイナーコード、バイエルNo.77、78
第11回　ハ長調のコード進行、バイエルNo.77、78
第12回　ハ長調のコード伴奏による弾き歌い、バイエルNo.79、80
第13回　音楽理論小テスト、バイエルNo.79、80
第14回　弾き歌い発表、ピアノ実技発表曲
第15回　ピアノ実技発表

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。課題の予習、復習が何よりも重要である。

教科書

楽譜をどう表現するか一旋律表現のためのやさしいピアノ曲集
著者：　小畑郁男・佐野仁美編著
出版社：サーベル社
出版年：2014年　ISBN：

コードでかんたん！子どものうたマイ・レパートリー
著者：　坂井康子他編著
出版社：ヤマハ・ミュージックメディア
出版年：2008年　ISBN：

参考書

プリントを配布する。
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**学校・地域調査（国内）Ⅰ ＜幼＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

施設の様子、子ども達の育ちを実感することを目的とする。

授業の到達目標

半期をとおして、子どもや保育者の生活に直接触れることにより、実際の現場の空気や子どもの成長の様子を感じ、施設等の機能や子ども理解を深めることを目的とする。

授業の概要

保育所、幼稚園、児童館、子育て支援センター等でのボランティア等の活動を通して気づいた子どもや保育者(職員）の姿、施設の機能等について、グループワークや全体への発表により、理解を深める。

準備学習（予習・復習）

1週間に1回程度（1か月3回以上）、継続して保育所、幼稚園、児童館、子育て支援センター等でボランティア等の活動を行う。

内　　容

第1回　オリエンテーション、ボランティア施設の紹介等
第2回　ボランティア活動の計画表の作成、　体験者の報告
第3回　施設の概要等の報告、ボランティア等の仕事内容についての意見交流
第4回　施設の雰囲気や子どもの様子についての意見交流
第5回　グループワーク：遊びの見守り等から気づいた事の意見交流
第6回　全体への発表、レポート作成
第7回　グループワーク：遊びの観察・参加・補助等から気づいた事の意見交流
第8回　振り返り：半期を通して、気づいたこと（どんなところに子どもの育ちの変化を感じたか、何故かを考えてみる）を整理する。 実習に向けた思い(何を学びたいか)を考える。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**学校・地域調査（国内）Ⅰ ＜児a＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　通年集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　河内 晴彦

テーマ

学校や地域の現実とこどもたちから学ぼう

授業の到達目標

1,学校や地域での経験を報告にまとめ、発表する2,報告からお互いに学び合う3,こども理解をさらに深める

授業の概要

学校や地域でのボランティア活動（フールドワーク）の経験を報告し、報告された内容について話し合う

準備学習（予習・復習）

日頃の経験や感じたことをメモ等に記録して報告に生かす。必要があれば、文献や実践に学ぶ。

内　容

第1回　学習支援の内容と方法（算数・国語・体育・その他）
第2回　報告をもとに話し合う①
第3回　報告をもとに話し合う②
第4回　報告をもとに話し合う③
第5回　報告をもとに話し合う④
第6回　報告をもとに話し合う⑤
第7回　報告をもとに話し合う⑥
第8回　まとめ

履修上の注意点

月に一回程度の授業となる。報告はもちろん、報告に対する話し合いに積極的に参加して欲しい。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

必要があれば、紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ 10 ）
報告の内容や話し合いへの積極性を最重視する。

2016 Syllabus

科 目 名　**学校・地域調査（国内）Ⅰ ＜児b＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　通年集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　河内 晴彦

テーマ

学校や地域の現実とこどもたちから学ぼう

授業の到達目標

1,学校や地域での経験を報告にまとめ発表する2,報告からお互いに学び合う3,こども理解をさらに深める

授業の概要

学校や地域でのボランティア活動（フィールドワーク）の経験を報告し、報告された内容について話し合う

準備学習（予習・復習）

日頃の経験や感じたことをメモ等に記録して報告に生かす。必要があれば文献や実践に学ぶ。

内　容

第1回　学習支援の内容と方法（算数・国語・体育・その他）
第2回　報告をもとに話し合う①
第3回　報告をもとに話し合う②
第4回　報告をもとに話し合う③
第5回　報告をもとに話し合う④
第6回　報告をもとに話し合う⑤
第7回　報告をもとに話し合う⑥
第8回　まとめ

履修上の注意点

月に一回程度の授業となる。報告はもちろん、報告に対する話し合いに積極的に参加して欲しい。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

必要に応じて紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ 10 ）
報告の内容や話し合いへの積極性を最重視する

2016 Syllabus

科 目 名　**学校・地域調査（国内）Ⅰ ＜児c＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　通年集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　河内 晴彦

テーマ

学校や地域の現実とこどもたちから学ぼう

授業の到達目標

1,学校や地域での経験を報告にまとめ発表する2,報告からお互いに学び合う3,こども理解をさらに深める

授業の概要

学校や地域でのボランティア活動（フィールドワーク）の経験を報告し、報告された内容について話し合う

準備学習（予習・復習）

日頃の経験や感じたことをメモ等に記録して報告に生かす。必要があれば文献や実践に学ぶ。

内　容

第1回　学習支援の内容と方法（算数・国語・体育・その他）
第2回　報告をもとに話し合う①
第3回　報告をもとに話し合う②
第4回　報告をもとに話し合う③
第5回　報告をもとに話し合う④
第6回　報告をもとに話し合う⑤
第7回　報告をもとに話し合う⑥
第8回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

必要に応じて紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ 10 ）
報告の内容や話し合いへの積極性を最重視する

2016 Syllabus

科 目 名　**学校・地域調査（国内）Ⅱ〈幼〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

施設の様子、子ども達の変化を実感することを目的とする。

授業の到達目標

運動会や発表会などの行事を中心とした流れの中に参加し、実際の現場の動きや子どもの成長の様子から、子ども理解を深めることを目的とする。

授業の概要

保育所や幼稚園、児童館、子育て支援センター等の行事の流れを知るとともに、行事で見られる子どもや保育者(職員）の姿等について、グループワークにより意見交流を促し、全体に対して話し合ったことを発表するなどにより、理解を深める。

準備学習（予習・復習）

保育所、幼稚園、児童館、子育て支援センター等の行事(夏祭り、運動会、遠足、生活発表会など）の準備から関わる。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　行事等の計画表の作成、 体験者の報告
第3回　グループワーク：保育者等の仕事や子どもの様子についての意見交流
第4回　全体への発表、レポート作成
第5回　グループワーク：保育者等の仕事や子どもの様子についての意見交流
第6回　全体への発表、レポート作成
第7回　グループワーク：保育者等の仕事や子どもの様子についての意見交流
第8回　振り返り：行事の流れのなかに参加して、気づいたこと（どんなところに子どもの育ちの変化を感じたか、変化の理由を考えてみる）を整理する。実習に向けた思い（何を学びたいか）を考える。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅰ〈＊a〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　青木 美智子

テーマ

卒業論文の主題を明確にすること。

授業の到達目標

1. 優れた論文から、論文の書き方を学ぶ。2. 先行研究を調べ、精読し、要約する。3. 論文執筆にかかわる注釈、引用などの決まりを守り、研究発表を行う。4. 問題意識を持ち、相互に意見交換を行う。

授業の概要

前半は一つの論文を精読することから論文とはどのようなものなのかを理解する。各自の問題意識を明確にしていくために、論文のテーマとしようとしていることについて、これまでどのようなことが言われてきており、何が問題であると考えられてきたのかを、生活のレベルから学問のレベルまで調べる。学期の最後にはこれらのことを踏まえて、自分の論文について口頭による発表を行うことを課しこれを評価の対象とする。

準備学習（予習・復習）

各回の課題に丁寧に取り組むこと。また、提出の期限を守ること。

内　容

第1回　導入
第2回　交流会
第3回　優れた論文から学ぶ①　論文の構造
第4回　優れた論文から学ぶ②　書き方の決まり
第5回　優れた論文から学ぶ③　資料について
第6回　主題の設定にむけて①　事典から学ぶ
第7回　主題の設定にむけて②　インターネットから情報を収集する
第8回　文献・資料収集①　図書館の本、雑誌から
第9回　文献・資料収集②　研究論文の検索から入手まで
第10回　文献・資料収集③　資料の整理法
第11回　章構成を考える
第12回　発表準備　1
第13回　発表準備　2
第14回　発表準備　3
第15回　研究発表

履修上の注意点

遅刻欠席の場合は事前に連絡をすること。

教科書

参考書

ぎりぎり合格への論文マニュアル
著者:　山内史朗
出版社:　平凡社新書
出版年:　2007　　ISBN:

入門論文の書き方
著者:　鷲田小彌太
出版社:　PHP新書
出版年:　2001　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等　（ 60% ）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅰ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　池田　修	

テーマ

国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献に学ぶ。国語科の学習材開発に取り組む。

授業の到達目標

国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献、または幼児や児童のことばに関する認識を育てる保育実践や教育実践の記録を読み、各自が関心のあるテーマを探し出す。テーマにそって調査したことを報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、問題意識を深める。また、国語科の学習材開発を行い、オリジナルの学習材開発に挑む。

授業の概要

幼児や児童ことばの形成にかかわる教育実践上の課題と、学級づくりに関する実践上の課題をつかむために、ことばの発達と教育に関する基本文献、学級づくりのための基本文献を読み進める。その中で、自分の研究課題を見つけ出し、研究課題を深める資料を収集し、わかったことをまとめて発表する。受講生の学ぼうとする領域の分布、または関心によって授業の進め方は調整することがある。また、学外授業やゼミ合宿を、適宜、行うことがある。

準備学習（予習・復習）

自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、国語科の授業づくりと学級づくりに関する論文や実践（『生活指導』『現代教育科学』『月刊国語教育』『教育』『生活教育』『授業づくりネットワーク』などの雑誌に掲載）を読む。教育研究会に積極的に参加する。

内　　容

第1回　国語科教育学、学校経営研究の研究対象と領域、研究の方法論について
第2回　国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む①
第3回　国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む②
第4回　国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む③
第5回　国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む④
第6回　国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む⑤、個別発表の計画づくり
第7回　個別発表と質疑・応答・討議①
第8回　個別発表と質疑・応答・討議②
第9回　個別発表と質疑・応答・討議③
第10回　個別発表と質疑・応答・討議④
第11回　個別発表と質疑・応答・討議⑤
第12回　国語学習材の開発検討①
第13回　国語学習材の開発検討②
第14回　国語学習材の開発検討③
第15回　国語学習材の開発検討④

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

論理が伝わる 世界標準の「書く技術」
著者:　倉島保美
出版社:　講談社
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に指示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 25 ）	授業中発表等　（ 25 ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅰ〈＊c〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　大久保　恭子

テーマ

人格の発達と表現の関係を研究する。

授業の到達目標

人格形成と結びついた表現の意味を探る視点を掴み、子どもの発達と表現との関わりを、さまざまな角度から深く追求する力を身につける。各自が問題意識を掘り起こし、研究活動の第一段階に入る。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

各自の関心事に関する文献を読み進めておくこと。

内　　容

第1回　オリエンテーション：表現と教育に関する学の研究領域、研究の方法論について
第2回　子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む①
第3回　子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む②
第4回　子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む③
第5回　子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む④
第6回　子どもの発達・表現・教育に関する基本文献を読む⑤
第7回　学外活動：実践取材＆調査と分析①
第8回　学外活動：実践取材＆調査と分析②
第9回　個別発表と質疑・応答・討議①②
第10回　個別発表と質疑・応答・討議③④
第11回　個別発表と質疑・応答・討議⑤⑥
第12回　個別発表と質疑・応答・討議⑦⑧
第13回　個別発表と質疑・応答・討議⑨⑩
第14回　個別発表と質疑・応答・討議⑪⑫
第15回　個別発表と質疑・応答・討議⑬⑭

履修上の注意点

〇学外授業…美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加を適宜、行うことがある〇自分の研究テーマを見つけ出すために、本学及び他大学図書館等を利用して、論文（実績のある大学のそれらに関わる論文集）や実践報告を読む。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題（　）　　授業中発表等（ 60 ）

参加度　（ 40 ）

全回出席を前提とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅰ〈＊d〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　口野　隆史	

テーマ

子どもの発達と教育をめぐる諸問題

授業の到達目標

文献等の読解と検討を通じて、研究「テーマ」を設定する基礎能力の向上を目指す。また、文献や資料を読み取り、分析する力量の向上を目指す。

授業の概要

文献・資料等の購読と検討を行う。文献・資料等を読み、分析・総合する。研究「テーマ」を設定しようと試みる。

準備学習（予習・復習）

図書館や自宅での、テーマ（関心領域）に沿った文献等の収集、ノートの作成は必須である。

内　　容

第1回　本演習の概要説明、及び本演習が目指すもの
第2回　文献の講読と検討
第3回　文献の講読と検討
第4回　文献の講読と検討
第5回　文献の講読と検討
第6回　文献の講読と検討
第7回　文献の講読と検討
第8回　文献の講読と検討
第9回　関心領域についてのレジュメ作成と発表①
第10回　関心領域についてのレジュメ作成と発表②
第11回　関心領域についてのレジュメ作成と発表③
第12回　関心領域についての文献リストの作成と発表①
第13回　関心領域についての文献リストの作成と発表②
第14回　関心領域についての文献リストの作成と発表③
第15回　まとめと夏季課題について

履修上の注意点

しっかり出席すること。授業中、まず他の学生の話、教員の話をよく聞くこと。毎回必ず、自分の意見を述べること。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 20 ）

しっかり出席すること。授業中、まず他の学生の話、教員の話をよく聞くこと。毎回必ず、自分の意見を述べること。資料を作成し、自分の意見をまとめ発表すること。これらのことができているかを含め評価していく。

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅰ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　倉持　祐二	

テーマ

“子どものくらしと学び”を考える基本文献を読む

授業の到達目標

自分の研究課題を見つけ出し、研究課題を深める資料を収集し、研究課題についての理解を深める。

授業の概要

子どものくらしと学びを考えるための基本文献を読み進め、わかったことをまとめて発表する。

準備学習（予習・復習）

予習：子どものくらしと学びを考える基本文献を読み、疑問等があれば挙げておく。復習：ゼミの討議の中で課題になったことについて調べ、自分の考えを深めていく。

内　　容

第1回　オリエンテーション　問題意識を交流する
第2回　子どものくらしと学びを考える基本文献を選ぶ①
第3回　子どものくらしと学びを考える基本文献を選ぶ②
第4回　フィールドワーク・山科地域を歩く
第5回　教育・保育で使える教材・教具づくり①
第6回　教育・保育で使える教材・教具づくり②
第7回　教育・保育で使える教材・教具づくり③
第8回　子どものくらしと学びを考える基本文献を読む①
第9回　子どものくらしと学びを考える基本文献を読む②
第10回　子どものくらしと学びを考える基本文献を読む③
第11回　子どものくらしと学びを考える基本文献を読む④
第12回　子どものくらしと学びを考える基本文献を読む⑤
第13回　子どものくらしと学びを考える基本文献を読む⑥
第14回　子どものくらしと学びを考える基本文献を読む⑦
第15回　子どものくらしと学びを考える基本文献を読む⑧
第16回　（学外授業を適宜行うことがある）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を原則とする。遅刻や早退をしないように。

教科書

未定
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

ちいさいなかま
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

新幼児と保育
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

教育
著者：
出版社：かもがわ出版
出版年：　　ISBN：

a30103aa15

生活教育
著者:
出版社:
出版年: ISBN:

授業づくりネットワーク
著者:
出版社:
出版年: ISBN:

どの子も伸びる
著者:
出版社:
出版年: ISBN:

作文と教育
著者:
出版社: 百合出版
出版年: ISBN:

成績評価

試験 (0%) 小テスト (0%)
授業中課題 (50%) 授業中発表等 (50%)
参加度 (0%)

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅰ〈＊f〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　佐野 仁美

テーマ

子どもと音楽の関わりについて考える。

授業の到達目標

1)授業や実習、ボランティア活動を通して抱いた興味・関心を具体化して、研究テーマを設定する。2)文献を検索し、文献を読み込む力をつける。

授業の概要

関心のある分野の基本文献を要約して発表し、問題点を取り上げて討論する。そのかたわら各自の研究テーマを設定し、研究方法について学んでいく。

準備学習（予習・復習）

予習：関心を持つ分野の書籍や新聞・雑誌の記事を読む。復習：討論で得られた意見を参考にして、最終レポートに向けて文献をまとめる。

内　容

第1回　オリエンテーション：自己紹介、ゼミ選択理由の報告、ゼミ運営についての説明
第2回　保育や教育の場における子どもと音楽の関わり①
第3回　保育や教育の場における子どもと音楽との関わり②
第4回　基本文献についての発表①
第5回　基本文献についての発表②
第6回　基本文献についての発表③
第7回　基本文献についての発表④
第8回　基本文献についての発表⑤
第9回　基本文献についての発表⑥
第10回　基本文献についての発表⑦
第11回　研究テーマ設定に向けての計画
第12回　関心を持つ分野および文献についての報告①
第13回　関心を持つ分野および文献についての報告②
第14回　関心を持つ分野および文献についての報告③
第15回　まとめ：夏季休暇中の課題と実習に向けての抱負

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。自主的な学習態度を重視する。

教科書

授業中に指示する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

必要に応じて紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ 50% ）
参加度 （ 20% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅰ〈＊g〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　三上　周治

テーマ

小学校の学級経営および教科教育についての研究。

授業の到達目標

1)授業や実習、ボランティア活動を通して抱いた興味・関心を具体化して、研究テーマを設定する。2)文献を検索し、文献を読み込む力をつける。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

自ら進んで、関心を持つ分野の書籍や新聞・雑誌の記事を読む。

内　容

第1回　オリエンテーション：自己紹介、ゼミ選択理由の報告、ゼミ運営についての説明
第2回　保育・小学校現場における子どもと教師の関わり①
第3回　保育・小学校現場における子どもと教師の関わり②
第4回　基本文献の輪読と発表①
第5回　基本文献の輪読と発表②
第6回　基本文献の輪読と発表③
第7回　基本文献の輪読と発表④
第8回　基本文献の輪読と発表⑤
第9回　基本文献の輪読と発表⑥
第10回　基本文献の輪読と発表⑦
第11回　研究テーマ設定に向けての計画
第12回　関心を持つ分野および文献についての報告①
第13回　関心を持つ分野および文献についての報告②
第14回　関心を持つ分野および文献についての報告③
第15回　まとめ：夏季休暇中の課題と実習に向けての抱負

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅰ〈＊h〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　南 憲治

テーマ

子どもの発達や発達障害について学ぶ。

授業の到達目標

①子どもの発達や発達障害についての理解を深める。②興味のあるテーマをみつけ、そのテーマに関連した資料や文献をさがすことができる。③資料や文献を読み、その内容について発表する力を養う。

授業の概要

子どもの発達や発達障害に関する資料・文献をみつけ、その内容を発表し、集団で討議し理解を深める。

準備学習（予習・復習）

十分に準備して発表に臨んで下さい。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業のねらいと進め方）
第2回　関心のある資料や文献をさがす①
第3回　関心のある資料や文献をさがす②
第4回　資料や文献を読む①
第5回　資料や文献を読む②
第6回　発表の準備をする①
第7回　発表の準備をする②
第8回　発表と討論
第9回　発表と討論
第10回　発表と討論
第11回　発表と討論
第12回　発表と討論
第13回　発表と討論
第14回　発表と討論
第15回　全体のまとめと課題

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜、指示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50% ）
参加度　（ 50% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅰ＜＊i＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

社会的養護のもとにある児童に関わる諸課題を基本文献から学ぶ。

授業の到達目標

基本となる文献を読み、各自が関心のあるテーマを探す。

授業の概要

基本文献を読み、発表する。

準備学習（予習・復習）

基本文献のほかに、各自の関心あるテーマに関して、大学図書館等を活用して、できるだけ多くの文献を読む。

内　　容

第1回　研究方法について学ぶ―1
第2回　研究方法について学ぶ－2
第3回　基本文献1の講読の分担報告－1
第4回　基本文献1の講読の分担報告－2
第5回　基本文献1の講読の分担報告－3
第6回　基本文献1の講読の分担報告－4
第7回　質疑・応答・討議
第8回　基本文献2の講読の分担報告－1
第9回　基本文献2の講読の分担報告－2
第10回　基本文献2の講読の分担報告－3
第11回　基本文献2の講読の分担報告－4
第12回　質疑・応答・討議
第13回　基本文献3の講読の分担報告－1
第14回　基本文献3の講読の分担報告－2
第15回　基本文献3の講読の分担報告－3

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 0 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅰ〈＊j〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　長橋　聡	

テーマ

卒業論文制作にあたっての問題意識の探索と確立

授業の到達目標

・子どもの発達や保育に関する文献の学習、発表を通じて、子どもの姿の分析的な見方を学ぶ。同時に、論文、研究として書く際のスタイルを学習する。・卒業論文に向けて各自の問題意識を発表し、課題を明らかにする

授業の概要

・子どもの発達や保育に関する文献を読み、発表する。・卒業論文のテーマについて、各自の問題意識を発表し、議論をしながら深めていく。

準備学習（予習・復習）

適時、各自の問題意識に関連した単行本や論文を探し、読んでください。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　子どもの発達や保育に関する研究①
第3回　子どもの発達や保育に関する研究②
第4回　子どもの発達や保育に関する研究③
第5回　子どもの発達や保育に関する研究④
第6回　子どもの発達や保育に関する研究⑤
第7回　子どもの発達や保育に関する研究⑥
第8回　子どもの発達や保育に関する研究⑦
第9回　卒業論文の問題意識の発表①
第10回　卒業論文の問題意識の発表②
第11回　卒業論文の問題意識の発表③
第12回　卒業論文の問題意識の発表④
第13回　卒業論文の問題意識の発表⑤
第14回　卒業論文の問題意識の発表⑥
第15回　卒業論文の問題意識の発表⑦

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅱ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　青木　美智子	

テーマ

卒業論文の序論の完成と本論執筆の開始

授業の到達目標

1. 先行研究から異なる二つの要素を取り出し、対比的に配置する。2. 1. に不足している観点や情報がないか、あるいはより増強すべき点はないかを考える。3. 研究発表を行い、相互に意見交換をする。

授業の概要

前半は先行研究を精読することから、自らの課題を明確にすることを目指す。中間発表を挟んで論文の見直しと論点の整理を行い、後半は先輩の卒業論文から学ぶ。

準備学習（予習・復習）

各回の課題に丁寧に取り組むこと。また、提出の期限を守ること。

内　　容

第1回　導入
第2回　先行研究の批判的検討　1
第3回　先行研究の批判的検討　2
第4回　先行研究の批判的検討　3
第5回　先行研究の批判的検討　4
第6回　先行研究の批判的検討　5
第7回　中間発表　1
第8回　中間発表　２
第9回　序論の執筆　1
第10回　序論の執筆　2
第11回　序論の執筆　3
第12回　先輩の卒業論文を読む　1
第13回　先輩の卒業論文を読む　2
第14回　研究発表　1
第15回　研究発表　2

履修上の注意点

遅刻欠席の場合は事前に連絡をすること。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 40% ）	授業中発表等　（ 60% ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅱ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　池田　修	

テーマ

国語科の授業づくりと学級づくりに関する理論と実践に学ぶ。卒業論文のテーマ決定。

授業の到達目標

各自が関心のあるテーマにそって、文献や実践記録を読みすすめる。その上で、テーマにそって調査・研究したことをまとめて報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、研究課題を深める。卒業論文のテーマを決める。

授業の概要

各自が関心のあるテーマにそって、文献や実践記録を読みすすめる。その上で、テーマにそって調査・研究したことをまとめて報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、研究課題を深める。卒業論文のテーマを決める。

準備学習（予習・復習）

自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、国語科の授業づくりと学級づくりに関する論文や実践（『生活指導』『現代教育科学』『月刊国語教育』『教育』『生活教育』『授業づくりネットワーク』などの雑誌に掲載）を読む。教育研究会に積極的に参加する。

内　　容

第3回　個別発表と質疑・応答・討議②
第4回　個別発表と質疑・応答・討議③
第5回　個別発表と質疑・応答・討議④
第6回　個別発表と質疑・応答・討議⑤
第7回　個別発表と質疑・応答・討議⑥
第8回　個別発表と質疑・応答・討議⑦
第9回　個別発表と質疑・応答・討議⑧
第10回　個別発表と質疑・応答・討議⑨
第11回　個別発表と質疑・応答・討議⑩
第12回　個別発表と質疑・応答・討議⑪
第13回　個別発表と質疑・応答・討議⑫
第14回　個別発表と質疑・応答・討議⑬
第15回　個別発表と質疑・応答・討議⑭
第1回　夏休みの研究成果の交流、個別発表の計画づくり。
第2回　個別発表と質疑・応答・討議①

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

授業中に指示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に指示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 25 ）	授業中発表等　（ 25 ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅱ〈＊c〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　大久保　恭子

テーマ

人格の発達と表現の関係を研究する。

授業の到達目標

人格形成と結びついた表現の意味を探る視点を掴み、子どもの発達と表現との関わりを、さまざまな角度から深く追求する力を身につける。各自が問題意識による研究活動第二段階に入る。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

前期を通して明確になった問題意識に沿って積極的に文献を読破すること。同時に実践経験を通して思考することを学ぶこと。

内　容

第1回　前期以降の研究成果の交流、各自の研究計画発表
第2回　学外活動：実践調査
第3回　個別発表と質疑・応答・討議①
第4回　個別発表と質疑・応答・討議②
第5回　個別発表と質疑・応答・討議③
第6回　個別発表と質疑・応答・討議④
第7回　個別発表と質疑・応答・討議⑤
第8回　個別発表と質疑・応答・討議⑥
第9回　個別発表と質疑・応答・討議⑦
第10回　個別発表と質疑・応答・討議⑧
第11回　個別発表と質疑・応答・討議⑨
第12回　個別発表と質疑・応答・討議⑩
第13回　個別発表と質疑・応答・討議⑪
第14回　個別発表と質疑・応答・討議⑫
第15回　まとめ

履修上の注意点

○学外授業…美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加を適宜、行うことがある○自分の研究テーマを見つけ出すために、本学及び他大学図書館等を利用して、論文（実績のある大学のそれらに関わる論文集）や実践報告を読む。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等　（ 40 ）

参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅱ＜＊d＞**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　　口野　隆史

テーマ

子どもの発達と教育をめぐる諸問題

授業の到達目標

各自が関心のあるテーマにそって、文献や実践記録を読みその内容を理解する。その上で、テーマに沿って調査・研究したことをまとめて報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、研究課題についての理解を深める

授業の概要

「教育演習Ⅰ」の中で深めようとしたテーマにそって、新しい文献や論文ならびに教育実践記録などを幅広く収集する。そして、それらの内容を理解し、整理し、順番に発表を行う。質疑・応答・討議では、各自の発表の到達点と課題を明らかにていく。

準備学習（予習・復習）

自分の研究テーマを見つけ出すために、本学や他大学、その他の図書館を利用して、子どもの発達、教育、実践等の文献・資料を読む。

内　　容

第1回　夏期休暇の研究成果の交流。後期個別発表の計画づくり。
第2回　個別発表と質疑・応答・討議①
第3回　個別発表と質疑・応答・討議②
第4回　個別発表と質疑・応答・討議③
第5回　個別発表と質疑・応答・討議④
第6回　個別発表と質疑・応答・討議（実習での課題を明確にする）⑤
第7回　個別発表と質疑・応答・討議（実習での課題を明確にする）⑥
第8回　中間まとめ（各自及び全体の進捗状況の確認と今後課題）
第9回　個別発表と質疑・応答・討議（実習での経験・成果を交流する）⑦
第10回　個別発表と質疑・応答・討議（実習での経験・成果を交流する）⑧
第11回　個別発表と質疑・応答・討議⑨
第12回　個別発表と質疑・応答・討議⑩
第13回　個別発表と質疑・応答・討議⑪
第14回　個別発表と質疑・応答・討議⑫
第15回　後期の振り返りと最終学年への課題・まとめ（学外授業やゼミ合宿を、適宜、行うことがある）

履修上の注意点

しっかり出席すること。授業中、まず他の学生の話、教員の話をよく聞くこと。毎回必ず、自分の意見を述べること。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 20 ）

しっかり出席すること。授業中、まず他の学生の話、教員の話をよく聞くこと。毎回必ず、自分の意見を述べること。資料を作成し、自分の意見をまとめ発表すること。これらのことができているかを含め評価していく。

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅱ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　倉持　祐二	

テーマ

“子どものくらしと学び”をテーマにした研究と実践に学ぶ

授業の到達目標

“子どものくらしと学び”をテーマにした文献を幅広く収集し、各自の研究テーマの到達点と課題を明らかにする。

授業の概要

現代の子どものくらしと学びを考える文献を読み、その中から関心のあるテーマにそって内容を理解し、まとめて発表を行う。

準備学習（予習・復習）

予習：子どものくらしと学びを考える実践記録を読み、疑問等があれば挙げておく。復習：ゼミの討議の中で課題になったことについて調べ、自分の考えを深めていく。

内　容

第1回　オリエンテーション　子どものくらしと学びを考える文献を選ぶ
第2回　現代の子どものくらしと学びを考える文献を読む①
第3回　現代の子どものくらしと学びを考える文献を読む②
第4回　現代の子どものくらしと学びを考える文献を読む③
第5回　現代の子どものくらしと学びを考える文献を読む④
第6回　現代の子どものくらしと学びを考える文献を読む⑤
第7回　現代の子どものくらしと学びを考える文献を読む⑥
第8回　奈良教育大学付属幼稚園・小学校のとりくみに学ぶ
第9回　教育実習・保育実習・幼稚園実習でのとりくみを検討する①
第10回　教育実習・保育実習・幼稚園実習でのとりくみを検討する②
第11回　教育実習・保育実習・幼稚園実習でのとりくみを検討する③
第12回　教育実習・保育実習・幼稚園実習でのとりくみを検討する④
第13回　卒論テーマに関わる文献検索の方法について
第14回　卒業論文のテーマを考える①
第15回　卒業論文のテーマを考える②
第16回　（学外授業やゼミ合宿を、適宜、行うことがある）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を原則とする。遅刻や早退をしないように。

教科書

未定
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

ちいさいなかま
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

新幼児と保育
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

生活教育
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

a30103ab55

授業づくりネットワーク
著者:
出版社:
出版年: ISBN:

どの子も伸びる
著者:
出版社:
出版年: ISBN:

作文と教育
著者:
出版社:
出版年: ISBN:

教育
著者:
出版社:
出版年: ISBN:

成績評価

試験 （ 0% ） 小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 50% ） 授業中発表等 （ 50% ）
参加度 （ 0% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅱ＜＊f＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　佐野　仁美	

テーマ

子どもと音楽の関わりについて考察を深める。

授業の到達目標

1)文献講読や発表を通して、文献を理解し、読み解く力の向上を図る。2)学術論文を読み解き、まとめることにより、研究目的や研究方法の提示、結果と考察との関連など、論文構成法を学ぶ。

授業の概要

1)実習やボランティアにおける事例について報告し、そこから得られた知見をもとに話し合う。2)各自の研究テーマに関連する文献について発表し、問題点を討論する。

準備学習（予習・復習）

予習：各自のテーマに関連する書籍、論文、雑誌記事などを検索し、読んでおく。復習：討論で得られた意見をもとに自らの考察を加え、最終レポート作成へ向けて、文献をまとめ直す。

内　　容

第1回　オリエンテーション：夏休みの課題についての報告、後期のゼミ運営についての説明
第2回　研究テーマの絞り込み、研究デザインについての助言
第3回　論文を読み解き、まとめる作業①
第4回　論文を読み解き、まとめる作業②
第5回　実習における学びの報告①
第6回　実習における学びの報告②
第7回　実習における学びの報告③
第8回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論①
第9回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論②
第10回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論③
第11回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論④
第12回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑤
第13回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑥
第14回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑦
第15回　まとめ：1年間の学習の総括と4年生に向けての抱負

履修上の注意点

教科書

授業時に指示する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

必要に応じて紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30% ）	授業中発表等　（ 50% ）
参加度　（ 20% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅱ＜＊g＞**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　三上　周治

テーマ

小学校の学級経営および教科教育にかんする研究。

授業の到達目標

1)文献講読や発表を通して、文献を理解し、読み解く力の向上を図る。2)学術論文を読み解き、まとめることにより、研究目的や研究方法の提示、結果と考察との関連など、論文構成法を学ぶ。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

各自のテーマに関連する書籍、論文、雑誌記事などを検索し、読んでおく。

内　容

第1回　オリエンテーション：夏休みの課題についての報告、後期のゼミ運営についての説明
第2回　研究テーマの絞り込み、研究デザインについての助言
第3回　論文を読み解き、まとめる作業①
第4回　論文を読み解き、まとめる作業②
第5回　実習における学びの報告①
第6回　実習における学びの報告②
第7回　実習における学びの報告③
第8回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論①
第9回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論②
第10回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論③
第11回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論④
第12回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑤
第13回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑥
第14回　研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑦
第15回　まとめ：1年間の学習の総括と4年生に向けての抱負

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅱ〈＊h〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　南 憲治

テーマ

子どもの発達や発達障害について学ぶ。

授業の到達目標

①子どもの発達や発達障害についての理解を深める。②資料や文献を読み、その内容を発表する力を養う。③発表を聞き、討論する力を養う。

授業の概要

教育演習Ⅰの成果の上に、関心のあるテーマをさらに絞り込み、絞り込んだテーマに関する資料や文献をさがし、その内容について発表する。

準備学習（予習・復習）

十分に準備して発表に臨んで下さい。

内　　容

第1回　オリエンテーション（授業のねらいと進め方）
第2回　テーマを絞る
第3回　絞り込んだテーマに関する資料や文献をさがす①
第4回　絞り込んだテーマに関する資料や文献をさがす②
第5回　資料や文献を読み、発表に備える①
第6回　資料や文献を読み、発表に備える②
第7回　資料や文献を読み、発表に備える③
第8回　発表と討論
第9回　発表と討論
第10回　発表と討論
第11回　発表と討論
第12回　発表と討論
第13回　発表と討論
第14回　発表と討論
第15回　全体のまとめと課題

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜、指示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50% ）
参加度　（ 50% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅱ＜＊i＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

社会的養護のもとにある児童に関わる諸課題を基本文献から学ぶ。

授業の到達目標

基本となる文献を読み、各自が関心のあるテーマを探す。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

基本文献のほかに、各自の関心あるテーマに関して、大学図書館等を活用して、できるだけ多くの文献を読む。

内　　容

第1回　各自の課題の検討
第2回　基本文献1の講読の分担報告－1
第3回　基本文献1の講読の分担報告－2
第4回　基本文献1の講読の分担報告－3
第5回　基本文献1の講読の分担報告－4
第6回　質疑・応答・討議
第7回　基本文献2の講読の分担報告－1
第8回　基本文献2の講読の分担報告－2
第9回　基本文献2の講読の分担報告－3
第10回　基本文献2の講読の分担報告－4
第11回　質疑・応答・討議
第12回　基本文献3の講読の分担報告－1
第13回　基本文献3の講読の分担報告－2
第14回　基本文献3の講読の分担報告－3
第15回　基本文献3の講読の分担報告－4

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 0 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅱ＜＊j＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　長橋　聡	

テーマ

卒業論文のテーマの深化

授業の到達目標

・卒業論文の問題意識について、焦点を絞り内容を深めること。・他のメンバーの問題意識や見解を聞き、議論することで、それが自身の研究にも生かせるよう相互交流を図ること。

授業の概要

教育演習Ⅰでの発表や議論、夏季休業中の作業を踏まえて、自身の問題意識や課題等について発表する。

準備学習（予習・復習）

各自のテーマに関連する単行本、論文の学習をしつつ、卒業論文の構想を考えてほしい

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文の問題意識の発表と議論①
第3回　卒業論文の問題意識の発表と議論②
第4回　卒業論文の問題意識の発表と議論③
第5回　卒業論文の問題意識の発表と議論④
第6回　卒業論文の問題意識の発表と議論⑤
第7回　卒業論文の問題意識の発表と議論⑥
第8回　卒業論文の問題意識の発表と議論⑦
第9回　卒業論文の問題意識の発表と議論⑧
第10回　卒業論文の問題意識の発表と議論⑨
第11回　卒業論文の問題意識の発表と議論⑩
第12回　卒業論文の問題意識の発表と議論⑪
第13回　卒業論文の問題意識の発表と議論⑫
第14回　卒業論文の問題意識の発表と議論⑬
第15回　卒業論文の問題意識の発表と議論⑭

履修上の注意点

自身の課題に取り組むことはもちろん、他の人の研究についても、疑問やアイディア等を積極的に発言してくれることを望みます。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**人間発達学入門**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　神谷 栄司.青木 美智子.浅井 雅志.アンガス ノーマン.池田 修.大久保 恭子.金山 敬.北林 利治.佐野 仁美.西村 友美.南 憲治.八木 英二

テーマ

「言語と人間」の視点から、人間の発達を多面的に考察する。

授業の到達目標

「言語と人間」の視点による人間発達の理解を学部生に共通する教養とする。

授業の概要

授業のテーマに関して人間発達学部両学科専任教員によるリレー講義を行う。

準備学習（予習・復習）

講義中に紹介された文献などを出来る限り学習する。また、講義内容についてコメントを記しておく。

内　容

第1回　オリエンテーション（神谷） 4/12(火)
第2回　日本語の魅力（池田） 4/19(火)
第3回　幼児とことば（青木） 4/26(火)
第4回　外言と内言（神谷） 5/10(火)
第5回　対話について（神谷） 5/17(火)
第6回　脳と言語（南） 5/24(火)
第7回　音楽とことば（佐野） 5/28(土)2限
第8回　美術とことば（大久保） 5/31(火)
第9回　言語の翻訳可能性（西村） 6/7(火)
第10回　死滅する言語（アンガス） 6/14(火)
第11回　多言語主義（北林） 6/21(火)
第12回　英語公用化論争（浅井） 6/28(火)
第13回　第二言語習得（金山） 7/5(火)
第14回　コミュニケーションと教育改革（八木） 7/12(火)
第15回　まとめ（神谷） 7/19(火)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ 70 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30 ）
試験はレポートによる。なお、レポート未提出の場合には採点されない。

2016 Syllabus

科 目 名　**生徒・進路指導（初）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　春期集中	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　芦名　猛夫	

テーマ

進路・生徒指導の理論と実践

授業の到達目標

学校現場における進路・生徒指導の理論と実践を具体的な事例を通して学ぶことを目的とする。

授業の概要

講義とグループ討議・交流を原則とする。1回～3回までは進路・生徒指導の理論・歴史講義。具体的事例からは「課題・問題」についてグループ討論、発表交流・まとめをする。（授業はじめに前時まとめと教育関係ニュース紹介）

準備学習（予習・復習）

①現代の日本社会の（大人社会）「いじめ」ともいえる差別と排除の構造の具体的な事例を一つ以上調べておく②いじめについて自分の体験（目撃も含む）を文章化できるようにしておく

内　容

第1回　こどもの現状・課題と進路・生徒指導　授業計画と授業の進め方
第2回　進路指導の理論とその歴史・課題
第3回　生徒指導の理論とその歴史・課題
第4回　集団に入れない子ども・登校しぶりの対応どうするか
第5回　不登校の子どもの理解とその指導
第6回　幼い子どもの「いじめ」その理解と対応
第7回　「いじめ」問題子どもの心・本音と指導
第8回　子どもの「けんか」「暴力」とその指導
第9回　子どもの「問題行動」「万引き」の指導と対応
第10回　「問題行動」「非行」問題とその指導
第11回　子どもの「荒れ」「学級崩壊」とその対応
第12回　学級の規律・問題と集団作り
第13回　課題を持つこどもと学級行事・取り組み
第14回　子どもの問題と進路指導の課題
第15回　「進路・生徒指導」まとめと試験・評価について

履修上の注意点

授業でパワーポイント作成できるよう、パソコン、USBなど準備する不登校・いじめ・非行等生徒指導関係の教育関係の本をたくさん読む

教科書

なし
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

授業中に指示する
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（ 50 ）　小テスト（　）
授業中課題　（ 20 ）　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（　）
レポート提出、パワーポイント発表を重視する。

2016 Syllabus

科 目 名　**教育実習指導（幼稚園）〈a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　一柳　敦子	

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　教育実習事前指導①1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの） 2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの） 3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）4. 幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）

第2回　教育実習事前指導②5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携 6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求 7. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する） 8. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第3回　教育実習事前指導③9. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）10. 部分指導実習②（指導案を作成し実践する）11. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）

第4回　教育実習事前指導④13. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）14. 部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う） 15. 部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）

第5回　教育実習事前指導⑤16. 責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）17. 責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）18. 責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける）

第6回　教育実習事後指導①◎教育実習のふりかえり

第7回　教育実習事後指導②◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：実習終了者の発表

第8回　教育実習事後指導②◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：質疑応答

履修上の注意点

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

幼稚園教育要領

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

実習幼稚園から配布される資料

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育実習指導（幼稚園）<b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　太田　みつ枝	

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　教育実習事前指導①1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの） 2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの） 3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）4. 幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）

第2回　教育実習事前指導②5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携 6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求 7. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する） 8. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第3回　教育実習事前指導③9. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）10. 部分指導実習②（指導案を作成し実践する）11. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）

第4回　教育実習事前指導④13. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）14. 部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う） 15. 部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）

第5回　教育実習事前指導⑤16. 責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）17. 責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）18. 責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける）

第6回　教育実習事後指導①◎教育実習のふりかえり

第7回　教育実習事後指導②◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：実習終了者の発表

第8回　教育実習事後指導②◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：質疑応答

履修上の注意点

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

幼稚園教育要領

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

実習幼稚園から配布される資料

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育実習指導（幼稚園）<c>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　大山　弘美	

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　教育実習事前指導①1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの） 2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの） 3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）4. 幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）

第2回　教育実習事前指導②5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携 6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求 7. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する） 8. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第3回　教育実習事前指導③9. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）10. 部分指導実習②（指導案を作成し実践する）11. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）

第4回　教育実習事前指導④13. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）14. 部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う） 15. 部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）

第5回　教育実習事前指導⑤16. 責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）17. 責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）18. 責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける）

第6回　教育実習事後指導①◎教育実習のふりかえり

第7回　教育実習事後指導②◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：実習終了者の発表

第8回　教育実習事後指導②◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：質疑応答

履修上の注意点

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

幼稚園教育要領

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

実習幼稚園から配布される資料

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育実習指導（幼稚園）<d>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　杉江　由紀子	

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　教育実習事前指導①1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの） 2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの） 3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）4. 幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）

第2回　教育実習事前指導②5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携 6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求 7. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する） 8. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第3回　教育実習事前指導③9. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）10. 部分指導実習②（指導案を作成し実践する）11. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）

第4回　教育実習事前指導④13. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）14. 部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う） 15. 部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）

第5回　教育実習事前指導⑤16. 責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）17. 責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）18. 責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける）

第6回　教育実習事後指導①◎教育実習のふりかえり

第7回　教育実習事後指導②◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：実習終了者の発表

第8回　教育実習事後指導②◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：質疑応答

履修上の注意点

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

幼稚園教育要領

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

実習幼稚園から配布される資料

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育実習指導（幼稚園）<e>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　中﨑　あつ子	

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　教育実習事前指導①1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの） 2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの） 3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）4. 幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）

第2回　教育実習事前指導②5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携 6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求 7. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する） 8. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第3回　教育実習事前指導③9. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）10. 部分指導実習②（指導案を作成し実践する）11. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）

第4回　教育実習事前指導④13. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）14. 部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う） 15. 部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）

第5回　教育実習事前指導⑤16. 責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）17. 責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）18. 責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける）

第6回　教育実習事後指導①◎教育実習のふりかえり

第7回　教育実習事後指導②◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：実習終了者の発表

第8回　教育実習事後指導②◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：質疑応答

履修上の注意点

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

幼稚園教育要領

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

実習幼稚園から配布される資料

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育実習指導（幼稚園）〈f〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　山口　陽子	

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　教育実習事前指導①1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの） 2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの） 3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）4. 幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）

第2回　教育実習事前指導②5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携 6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求 7. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する） 8. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第3回　教育実習事前指導③9. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）10. 部分指導実習②（指導案を作成し実践する）11. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）

第4回　教育実習事前指導④13. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）14. 部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う） 15. 部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）

第5回　教育実習事前指導⑤16. 責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）17. 責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）18. 責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける）

第6回　教育実習事後指導①◎教育実習のふりかえり

第7回　教育実習事後指導②◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：実習終了者の発表

第8回　教育実習事後指導②◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：質疑応答

履修上の注意点

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

幼稚園教育要領

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

実習幼稚園から配布される資料

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育実習指導（幼稚園）〈g〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　須藤　智代子	

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　教育実習事前指導①1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの） 2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの） 3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）4. 幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）

第2回　教育実習事前指導②5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携 6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求 7. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する） 8. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第3回　教育実習事前指導③9. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）10. 部分指導実習②（指導案を作成し実践する）11. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）

第4回　教育実習事前指導④13. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）14. 部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う） 15. 部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）

第5回　教育実習事前指導⑤16. 責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）17. 責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）18. 責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける）

第6回　教育実習事後指導①◎教育実習のふりかえり

第7回　教育実習事後指導②◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：実習終了者の発表

第8回　教育実習事後指導②◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：質疑応答

履修上の注意点

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

幼稚園教育要領

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

実習幼稚園から配布される資料

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育実習指導（幼稚園）<h>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　吉田　裕子	

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　教育実習事前指導①1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの） 2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの） 3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）4. 幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）

第2回　教育実習事前指導②5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携 6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求 7. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する） 8. 参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する）

第3回　教育実習事前指導③9. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）10. 部分指導実習②（指導案を作成し実践する）11. 参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）

第4回　教育実習事前指導④13. 部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）14. 部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う） 15. 部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）

第5回　教育実習事前指導⑤16. 責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）17. 責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）18. 責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける）

第6回　教育実習事後指導①◎教育実習のふりかえり

第7回　教育実習事後指導②◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：実習終了者の発表

第8回　教育実習事後指導②◎教育実習反省会（幼児教育コース2回生と合同）：質疑応答

履修上の注意点

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

幼稚園教育要領

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

実習幼稚園から配布される資料

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育実習指導（小学校）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　倉持　祐二	

テーマ

実りのある教育実習（教育実習　事前事後指導）

授業の到達目標

小学校実習の事前・本実習・事後の過程がイメージできるように、小学校教育の全体像への理解や指導者としての心得を身につける。そして、現場での実習を行い、教師への志を確かなものにする。

授業の概要

【事前指導】教職課程に関わる総論的なガイダンス、教育実習の意義と心得、準備の仕方、実習校の服務規律などについて講義する。外部講師を招くこともある。授業スケジュールについては、教務課の掲示板に掲示するので、見落としがないように注意すること。【事後指導】教育実習の終了後に、実習簿・実習校評価票・実習レポートをもとに個別指導を行う。さらに、次年度実習生の2回生との合同の教育実習反省会を実施し、実習生の教育実習報告及び質疑応答を行う。なお、この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　教育実習で何を学ぶのか
第2回　教師の仕事
第3回　学校の役割
第4回　授業実習の基礎・基本
第5回　現代子ども理解の基礎・基本
第6回　教育実習　直前ガイダンス
第7回　教育実習のふりかえり
第8回　育実習反省会（児童教育コース2回生と合同）

履修上の注意点

この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。

教科書

プリント

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

授業時に紹介

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育実習（幼稚園）<a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　一柳　敦子	

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　教育実習Ｉにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる）子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
第2回　子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
第3回　幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
第4回　幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）
第5回　家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
第6回　家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第8回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第9回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第10回　部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
第11回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第12回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第13回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第14回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
第15回　部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）
第16回　責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
第17回　責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
第18回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに　保育を見てもらい指導・助言を受ける）

履修上の注意点

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

幼稚園教育要領
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

実習幼稚園から配布される資料
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育実習（幼稚園）<b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　太田　みつ枝	

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習（予習・復習）

内　容

第17回　責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
第18回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに　保育を見てもらい指導・助言を受ける）
第1回　教育実習Ｉにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる）子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
第2回　子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
第3回　幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
第4回　幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）
第5回　家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
第6回　家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第8回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第9回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第10回　部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
第11回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第12回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第13回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第14回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
第15回　部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）
第16回　責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）

履修上の注意点

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

幼稚園教育要領
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

実習幼稚園から配布される資料
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育実習（幼稚園）<c>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　大山　弘美	

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　教育実習Ｉにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる）子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
第2回　子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
第3回　幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
第4回　幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）
第5回　家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
第6回　家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第8回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第9回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第10回　部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
第11回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第12回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第13回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第14回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
第15回　部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）
第16回　責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
第17回　責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
第18回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに　保育を見てもらい指導・助言を受ける）

履修上の注意点

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

幼稚園教育要領
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

実習幼稚園から配布される資料
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育実習（幼稚園）<d>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉江　由紀子	

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　教育実習Ｉにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる）子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
第2回　子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
第3回　幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
第4回　幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）
第5回　家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
第6回　家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第8回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第9回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第10回　部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
第11回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第12回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第13回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第14回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
第15回　部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）
第16回　責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
第17回　責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
第18回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに　保育を見てもらい指導・助言を受ける）

履修上の注意点

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

幼稚園教育要領
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

実習幼稚園から配布される資料
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育実習（幼稚園）<e>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中﨑　あつ子	

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　教育実習Ｉにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる）子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
第2回　子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
第3回　幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
第4回　幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）
第5回　家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
第6回　家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第8回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第9回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第10回　部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
第11回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第12回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第13回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第14回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
第15回　部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）
第16回　責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
第17回　責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
第18回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに　保育を見てもらい指導・助言を受ける）

履修上の注意点

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

幼稚園教育要領
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

実習幼稚園から配布される資料
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育実習（幼稚園）〈f〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　山口　陽子	

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　教育実習Ｉにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる）子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
第2回　子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
第3回　幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
第4回　幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）
第5回　家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
第6回　家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第8回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第9回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第10回　部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
第11回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第12回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第13回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第14回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
第15回　部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）
第16回　責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
第17回　責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
第18回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに　保育を見てもらい指導・助言を受ける）

履修上の注意点

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

幼稚園教育要領
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

実習幼稚園から配布される資料
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育実習（幼稚園）<g>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　須藤　智代子	

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　教育実習Ｉにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる）子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
第2回　子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
第3回　幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
第4回　幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）
第5回　家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
第6回　家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第8回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第9回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第10回　部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
第11回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第12回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第13回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第14回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
第15回　部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）
第16回　責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
第17回　責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
第18回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに　保育を見てもらい指導・助言を受ける）

履修上の注意点

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

幼稚園教育要領
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

実習幼稚園から配布される資料
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育実習（幼稚園）<h>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉田　裕子.神谷　栄司	

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

授業の到達目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の概要

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　教育実習Ｉにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる）子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など（外面的なもの）
第2回　子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など（内面的なもの）
第3回　幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭（その仕事、役割、指導の仕方など）
第4回　幼稚園の実情の観察②環境（園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等）
第5回　家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
第6回　家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
第7回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第8回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第9回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第10回　部分指導実習②（指導案を作成し実践する）
第11回　参加実習①（幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する）
第12回　参加実習②（指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の　仕事に積極的に従事する）
第13回　部分指導実習①（朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う）
第14回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導を行う）
第15回　部分指導実習③（指導案を作成し設定保育を行う）
第16回　責任実習①（指導案を作成し、午前中の指導を行う）
第17回　責任実習②（指導案を作成し、全日保育を行う）
第18回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに　保育を見てもらい指導・助言を受ける）

履修上の注意点

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

教科書

幼稚園教育要領
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

実習幼稚園から配布される資料
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育実習（小学校）**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　通年集中　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　倉持 祐二

テーマ

実りのある教育実習

授業の到達目標

小学校現場での実習を通して、小学校教育についての正しい理解を深め、教師の役割や指導についての適切な認識と技術を身につけ、教師としての人間性を高めることをめざす。

授業の概要

教育実習生として期待することは3つある。(1)実習校での学校づくりの内容を具体的に知り、そこにこめた願いをつかむこと。(2)大学で学んでいることがらを、教育現場の具体的なとりくみを通して検討し、さらに深めること。(3)教師として、社会人として自らを成長させていくうえでの課題をつかむこと。実習中は、①毎日の教育の記録を書く、②学習指導案を作成し授業を行う、③児童の様子や自らのとりくみを振り返る、が重点課題となる。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　〇第１週・学級担任の児童に対する願いをつかむ。・児童の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする。・学校の一日のくらしの内容をつかむ。

第2回　〇第２週・学習指導案の基本的な内容と様式を知る。・教科教育と教科以外のとりくみのそれぞれの役割と具体的な内容をつかむ。・児童相互の関係に目をむける。

第3回　〇第３週・指導のねらいを明確にして、授業にとりくむ。・児童の新しい面を見いだすように努める。・児童会の組織や実際のとりくみについて知る。

第4回　〇第４週・これまでに学んだことを生かして学習指導案を作成し、研究授業にとりくむ。・実習のまとめをし、成果と課題を明らかにする。なお、この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。

履修上の注意点

公開授業や現場教師の研究会、子どもを対象とした催しやボランティアに参加することを勧める。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業時に紹介

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等 （ 50 ）

参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**特別支援教育論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　森下　勇	

テーマ

障害のある子ども、発達に課題がある子どもに関する基礎的知識・理解とその教育のあり方

授業の到達目標

1．子ども理解の基本的視点がわかる。2．障害児のライフサイクルとそれぞれの時期の課題がわかる。3．日本の障害児教育の歴史と今日的課題がわかる。4．障害児、発達に課題がある子どもに関わる教師のあり方、役割についての考察が深まる。

授業の概要

今日、障害のある子どもや発達的に課題を有する子どもは特別支援学校、特別支援学級、そして、通常学級にも在籍している。その教育は「特別支援教育」としてとりくまれており、指導内容、指導方法などが主に議論されることが多い。本講義においては、そうした具体的な論点を検討する上での前提となる、子ども理解のあり方、その形成の歴史的経過など、より基本的な課題を理解すること、加えて、周辺領域とも関連しながら「障害児・者問題」の入門的理解を図りながら、障害児教育、特別支援教育のあり方を学んでいきたい。資料なども用い、主として講義形式でおこなう。

準備学習（予習・復習）

講義を通して関心をもった事項について、参考文献などを積極的に読み、障害児教育についての知識と理解を自主的に深めること、障害児・者問題について関心をもつことを日常的に心がけること。

内　　容

第1回　オリエンテーション：①障害児教育をめぐる動向、特別支援教育とは　②科目の目標、すすめ方、留意事項の確認
第2回　特別支援教育の現状と課題①：実践現場の状況
第3回　特別支援教育の現状と課題②：子ども理解と指導
第4回　特別支援教育の現状と課題③：考えるべき課題
第5回　特別支援教育の制度：特別支援学校、特別支援学級、通級指導、通常学級
第6回　障害児教育の歴史①：戦後～1960年代（特殊教育論）
第7回　障害児教育の歴史②：1960年代～養護学校完全義務制実施前
第8回　障害児教育の歴史③：養護学校完全義務制～特別支援教育
第9回　ライフステージと障害児教育①：乳幼児期（障害の発見と受容）
第10回　ライフステージと障害児教育②：学童期（就修学、地域生活）
第11回　ライフステージと障害児教育③：思春期・青年期（「第２の誕生」から社会へ）
第12回　子ども理解の基本的視点①：（障害）
第13回　子ども理解の基本的視点②：（発達）
第14回　子ども理解の基本的視点③：（生活）
第15回　①発達障害（主に自閉症スペクトラム障害）の理解と教育　②講義のまとめ

履修上の注意点

「授業計画」について、実習との関連などで一部内容、および前後を変更する場合があります。他科目受講と同様のマナーを守ることは当然です。質問などがあれば、ペーパーなども活用しながら積極的に出してください。小レポートを数回、小テスト（最低1回）を課します。講義内容を補足する意味で、興味、関心をもった関連事項を自主的かつ積極的に学習することを求めます。

教科書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

障害児と教育
著者：　茂木俊彦
出版社：岩波新書
出版年：1990　　ISBN：4-00-430131-9

障害児教育を考える
著者：　茂木俊彦
出版社：岩波新書
出版年：2007　　ISBN：4-00-431110-2

a30103d650

キーワードブック　特別支援教育

著者:　玉村公二彦他編

出版社: クリエイツかもがわ

出版年: 2015　　ISBN:

糸賀一雄

著者:　復刊　この子らを世の光に

出版社: NHK出版

出版年: 2003　　ISBN:　14-080836-5

発達保障ってなに？

著者:　丸山啓史・河合隆平・品川文雄

出版社: 全障研出版部.

出版年: 2012　　ISBN:　4-88134-085-1

糸賀一雄

著者:　福祉の思想

出版社: 日本放送出版協会

出版年: 1968　　ISBN:　14-001067-3

障害児教育学の現状・課題・将来

著者:　藤本文朗・小川克正共編

出版社: 培風館

出版年: 2006　　ISBN:　563-05771-1

障害児教育の歴史

著者:　中村満紀男・荒川智編

出版社: 明石書店

出版年: 2003　　ISBN:　7503-1801-9

成績評価

試験　(0)　　小テスト (20)

授業中課題 (50)　　授業中発表等 (　)

参加度　(30)

「授業中課題」:期末レポート(提出必須)の内容ー講義全般についての理解度、講義内容をおさえた自己の特別支援教育論、論理展開などー。「小テスト」:最低1回は実施予定。「参加度」:出席回数(最低限2/3以上の出席必須)、小レポート提出状況、受講態度全般(質問なども含む)。

2016 Syllabus

科 目 名　**表現教育論 <a>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　大久保 恭子

テーマ

芸術作品を分析して社会とのかかわりを理解し、芸術を人がいかに認知してきたかを考える。

授業の到達目標

1）芸術作品の分析を通して作品の意味内容を理解する。2）芸術作品が社会にいかに受け入れられたかを社会からの要請という視点で理解する。3）芸術作品をめぐる認知のメカニズムを考える。4）作品の理解に際しては受け身で話を聞くのではなく、自ら思考してその理解を確かなものにする。

授業の概要

パワーポイントを用いて具体的作例を呈示する。まずは作品に関する基本的なデータを解説し、次いで適宜問題を提起する。それを受けて受講生は思考し互いに意見交換をして解答を出す。その解答をもとに授業を進める。このQ&A方式によって受講生の積極的な授業への参加を求める。

準備学習（予習・復習）

1）展覧会なども含めて美術作品の鑑賞の機会を意識して持つこと。2）受講後速やかに講義内容のノートを作成すること。

内　容

第1回　はじめに
第2回　造形作品と物語の関係①
第3回　造形作品と物語の関係②
第4回　造形作品と物語の関係③
第5回　造形作品と物語の関係④
第6回　造形作品と物語の関係⑤
第7回　造形作品と物語の関係⑥
第8回　造形作品と物語の関係⑦
第9回　造形作品と物語の関係⑧
第10回　造形作品のタイトルと造形性の関係①
第11回　造形作品のタイトルと造形性の関係②
第12回　造形作品のタイトルと造形性の関係③
第13回　タイトルを考える①
第14回　タイトルを考える②
第15回　まとめ

履修上の注意点

私語厳禁。場合によっては減点対象となる。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）

Syllabus

科 目 名　**表現教育論 <b>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**総合学習論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小寺　隆幸	

テーマ

小学校における総合的な学習の意義を理解し、優れた実践から学ぶ。

授業の到達目標

子どもの学びをより主体的・能動的なものにするとともに、教科の枠を超えた現代的課題に総合的・横断的に取り組む場として総合学習をとらえ、その授業を構想できるようにする。

授業の概要

綜合学習で扱う主要テーマである環境・国際理解と平和・人権・福祉・地域などの問題を考えるための基本的な視点をおさえる。またその中で子どもが問いを持ち主体的に学ぶために何が大切かを考えていく。そして一人ひとりが自分のテーマで総合学習を構想し、授業計画や教材を創る。

準備学習（予習・復習）

社会の様々な問題に関心を持ち、新聞や本を読む。そして将来教師となったときにその問題をどのように子どもたちに伝え考えさせていけばよいのかという問題意識を持つ。

内　容

第1回　総合学習の意義と系譜
第2回　地域の川を考える総合学習
第3回　地域の自然を考える総合学習
第4回　福祉を考える総合学習
第5回　異文化国際理解の総合学習
第6回　平和を考える総合学習
第7回　沖縄を考える総合学習
第8回　東日本大震災と防災教育を考える総合学習
第9回　福島原発事故を考える総合学習
第10回　小学校の先生のお話を伺う
第11回　子どもの問いと主体的学びを育てる
第12回　自分の総合学習プラン発表1
第13回　自分の総合学習プラン発表2
第14回　自分の総合学習プラン発表3
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

授業の一環として立命館大国際平和ミュージアムの見学を実施する

教科書

小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　　ISBN:

参考書

未来をひらく総合学習
著者:　梅原利夫
出版社:　ふきのとう書房
出版年:　2000　　ISBN:

総合的学習の開拓1
著者:　村川雅弘
出版社:　明治図書
出版年:　　ISBN:

a30103d810

総合的学習の開拓2
著者:　柴田義松
出版社: 明治図書
出版年:　　ISBN:

総合的学習の開拓3
著者:　伊藤雅亮
出版社: 明治図書
出版年:　　ISBN:

総合的学習の開拓4
著者:　竹川訓由
出版社: 明治図書
出版年:　　ISBN:

総合的学習の開拓5
著者:　戸井和彦
出版社: 明治図書
出版年:　　ISBN:

総合的学習の開拓6
著者:　吉川広二
出版社: 明治図書
出版年:　　ISBN:

総合的学習の開拓7
著者:　橋本定男
出版社: 明治図書
出版年:　　ISBN:

総合的学習の開拓8
著者:　竹川訓由
出版社: 明治図書
出版年:　　ISBN:

原発を授業する
著者:　子安潤
出版社: 旬報社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）

Syllabus

科 目 名　**学校調査Ⅰ（国内）**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**学校調査Ⅱ（国内）**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**学校調査Ⅲ（海外）**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**学校調査Ⅳ（海外）**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**家庭支援論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　古橋　紗人子	

テーマ

保育所・子育て支援活動の現状を中心に、子どもや親・家庭への支援を考える。

授業の到達目標

1．家庭の意義とその機能について理解する。2．子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。3．子育て家庭の支援体制について理解する。4．子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。

授業の概要

保育所や子育て支援事業等における、利用者の主体性や自助をより尊重した「家庭支援論」の理解について、テキストを中心に参考書（絵本・小説・保育月刊 誌）や、事例を紹介しながら授業をすすめます。講義の他に家庭支援の視点から「連絡帳」や「指導計画」の書き方の実際についても学ぶ授業を目指します。

準備学習（予習・復習）

①参考書を読む。　②保育所・子育て支援事業・児童館などで自主実習させていただき実践力をつける。

内　　容

第1回　オリエンテーション　自己紹介　授業の進め方　「援助」と「支援」という言葉について
第2回　1．家庭支援の意義と役割　（1）家庭の意義と機能　子どもの成長・発達と家庭
第3回　1．家庭支援の意義と役割　（2）家庭支援の必要性　子どもの成長と親の成長　個別指導計画ー保護者支援
第4回　1．家庭支援の意義と役割　（3）保育士等が行う家庭支援の原理　小テスト
第5回　2．家庭生活を取り巻く社会的状況　（1）現代の家庭における人間関係　連絡帳の書き方
第6回　2．家庭生活を取り巻く社会的状況　（2）地域社会の変容と家庭支援
第7回　2．家庭生活を取り巻く社会的状況　（3）男女共同参画社会とワークライフバランス　小テスト
第8回　3．子育て家庭の支援体制　（1）子育て家庭の福祉を図るための社会資源
第9回　3．子育て家庭の支援体制　（2）子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進　小テスト
第10回　4．多様な支援の展開と関係機関との連携　（1）子育て支援サービスの概要
第11回　4．多様な支援の展開と関係機関との連携　（2）保育所入所児童の家庭への支援　リーフレット作成
第12回　4．多様な支援の展開と関係機関との連携　（3）地域の子育て家庭への支援
第13回　4．多様な支援の展開と関係機関との連携　（4）養保護児童及びその家庭に対する支援
第14回　4．多様な支援の展開と関係機関との連携　（5）子育て支援における関係機関との連携
第15回　4．多様な支援の展開と関係機関との連携　（6）子育て支援サービスの課題　小テスト

履修上の注意点

教科書

家族援助論
著者：　野澤正子・森本美絵
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2008　　ISBN：

参考書

こどもへのまなざし　完
著者：　佐々木正美
出版社：福音館書店
出版年：2010　　ISBN：

赤ちゃんから学ぶ「乳児保育の実践力」ー保育所・家庭で役立つ
著者：　川原佐公・古橋紗人子
出版社：保育出版社
出版年：2010　　ISBN：

わたし
著者：　谷川俊太郎・文　長新太・絵
出版社：福音館書店
出版年：1981　　ISBN：

a30103e350

まいごになったぞう
著者:　寺村輝夫・文　上村勉・絵
出版社: 偕成社
出版年: 1989　ISBN:

ねんねん　ねこねこ
著者:　ながのひでこ
出版社: アリス館
出版年: 1996　ISBN:

月刊　保育とカリキュラム
著者:
出版社: ひかりのくに株式会社
出版年: 2016　ISBN:

成績評価

試験 （ なし ）　小テスト （ 60 ）
授業中課題 （ 30 ）　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－２〈a〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期前半　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　一柳　敦子

テーマ

施設実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の概要

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務についてその専門性への認識を広げる。

準備学習（予習・復習）

・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集・規則正しい生活習慣の確立・生活支援に備えた自己の生活管理

内　容

第1回　施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成

第2回　帳票類と保菌検査等の説明
第3回　施設の機能と役割の理解①‥養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理
第4回　施設の機能と役割の理解②‥自分の実習予定施設の特徴や役割の調査　　オリエンテーションの心構え
第5回　生活支援の意味と内容の理解‥演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション
第6回　実習目標と課題の設定…意見交換
第7回　実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習直前指導
第8回　実習の振り返りとまとめ‥ 自己評価・意見交換・レポート作成

履修上の注意点

授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。授業参加度が授業評価に直結するため欠席をしないこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（０）　　小テスト（０）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 40% ）
授業への参加度とともに、授業態度、課題への取り組み方、提出物等の内容を吟味して評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－２〈b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　太田　みつ枝	

テーマ

施設実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の概要

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務についてその専門性への認識を広げる。

準備学習（予習・復習）

・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集・規則正しい生活習慣の確立・生活支援に備えた自己の生活管理

内　　容

第1回　施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成

第2回　帳票類と保菌検査等の説明
第3回　施設の機能と役割の理解①‥養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理
第4回　施設の機能と役割の理解②‥自分の実習予定施設の特徴や役割の調査　　オリエンテーションの心構え
第5回　生活支援の意味と内容の理解‥演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション
第6回　実習目標と課題の設定…意見交換
第7回　実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習直前指導
第8回　実習の振り返りとまとめ‥ 自己評価・意見交換・レポート作成

履修上の注意点

授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。授業参加度が授業評価に直結するため欠席をしないこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（０）　　小テスト（０）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 40% ）
授業への参加度とともに、授業態度、課題への取り組み方、提出物等の内容を吟味して評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－２〈c〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期前半　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　大山　弘美

テーマ

施設実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の概要

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務についてその専門性への認識を広げる。

準備学習（予習・復習）

・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集・規則正しい生活習慣の確立・生活支援に備えた自己の生活管理

内　容

第1回　施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成

第2回　帳票類と保菌検査等の説明
第3回　施設の機能と役割の理解①‥養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理
第4回　施設の機能と役割の理解②‥自分の実習予定施設の特徴や役割の調査　　オリエンテーションの心構え
第5回　生活支援の意味と内容の理解‥演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション
第6回　実習目標と課題の設定…意見交換
第7回　実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習直前指導
第8回　実習の振り返りとまとめ‥ 自己評価・意見交換・レポート作成

履修上の注意点

授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。授業参加度が授業評価に直結するため欠席をしないこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（０）　　小テスト（０）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 40% ）
授業への参加度とともに、授業態度、課題への取り組み方、提出物等の内容を吟味して評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－２ <d>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期前半　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　杉江　由紀子

テーマ

施設実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の概要

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務についてその専門性への認識を広げる。

準備学習（予習・復習）

・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集・規則正しい生活習慣の確立・生活支援に備えた自己の生活管理

内　容

第1回　施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成

第2回　帳票類と保菌検査等の説明
第3回　施設の機能と役割の理解①‥養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理
第4回　施設の機能と役割の理解②‥自分の実習予定施設の特徴や役割の調査　　オリエンテーションの心構え
第5回　生活支援の意味と内容の理解‥演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション
第6回　実習目標と課題の設定…意見交換
第7回　実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習直前指導
第8回　実習の振り返りとまとめ‥ 自己評価・意見交換・レポート作成

履修上の注意点

授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。授業参加度が授業評価に直結するため欠席をしないこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （０）　　小テスト（０）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 40% ）
授業への参加度とともに、授業態度、課題への取り組み方、提出物等の内容を吟味して評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－２〈e〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期前半　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　中﨑 あつ子

テーマ

施設実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の概要

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務についてその専門性への認識を広げる。

準備学習（予習・復習）

・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集・規則正しい生活習慣の確立・生活支援に備えた自己の生活管理

内　容

第1回　施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成

第2回　帳票類と保菌検査等の説明
第3回　施設の機能と役割の理解①‥養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理
第4回　施設の機能と役割の理解②‥自分の実習予定施設の特徴や役割の調査　　オリエンテーションの心構え
第5回　生活支援の意味と内容の理解‥演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション
第6回　実習目標と課題の設定…意見交換
第7回　実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習直前指導
第8回　実習の振り返りとまとめ‥ 自己評価・意見交換・レポート作成

履修上の注意点

授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。授業参加度が授業評価に直結するため欠席をしないこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （０）　　小テスト（０）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 40% ）
授業への参加度とともに、授業態度、課題への取り組み方、提出物等の内容を吟味して評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－２ <f>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期前半　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　山口　陽子

テーマ

施設実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の概要

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務についてその専門性への認識を広げる。

準備学習（予習・復習）

・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集・規則正しい生活習慣の確立・生活支援に備えた自己の生活管理

内　容

第1回　施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成

第2回　帳票類と保菌検査等の説明
第3回　施設の機能と役割の理解①‥養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理
第4回　施設の機能と役割の理解②‥自分の実習予定施設の特徴や役割の調査　　オリエンテーションの心構え
第5回　生活支援の意味と内容の理解‥演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション
第6回　実習目標と課題の設定…意見交換
第7回　実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習直前指導
第8回　実習の振り返りとまとめ‥ 自己評価・意見交換・レポート作成

履修上の注意点

授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。授業参加度が授業評価に直結するため欠席をしないこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （０）　　小テスト（０）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 40% ）
授業への参加度とともに、授業態度、課題への取り組み方、提出物等の内容を吟味して評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－２〈g〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期前半　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　須藤　智代子

テーマ

施設実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の概要

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務についてその専門性への認識を広げる。

準備学習（予習・復習）

・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集・規則正しい生活習慣の確立・生活支援に備えた自己の生活管理

内　容

第1回　施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成

第2回　帳票類と保菌検査等の説明
第3回　施設の機能と役割の理解①‥養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理
第4回　施設の機能と役割の理解②‥自分の実習予定施設の特徴や役割の調査　　オリエンテーションの心構え
第5回　生活支援の意味と内容の理解‥演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション
第6回　実習目標と課題の設定…意見交換
第7回　実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習直前指導
第8回　実習の振り返りとまとめ‥ 自己評価・意見交換・レポート作成

履修上の注意点

授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。授業参加度が授業評価に直結するため欠席をしないこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（０）　　小テスト（０）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 40% ）
授業への参加度とともに、授業態度、課題への取り組み方、提出物等の内容を吟味して評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅰ－２ <h>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期前半　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　吉田　裕子

テーマ

施設実習の充実のために

授業の到達目標

・市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得を目指す。・知的好奇心をもって学修していく態度や心構えを養成する。・市民や社会人として必要とされる倫理観や人間性を養成する。・この科目・領域内容で学習したことについて振り返り、自分なりに考える力を養成する。

授業の概要

初めての施設実習に向けた心構えと必要な技術や知識について、視聴覚教材や演習を通じて学習し、様々な福祉施設への関心や将来の保育士の職務についてその専門性への認識を広げる。

準備学習（予習・復習）

・社会的養護や児童家庭福祉等に関する科目や児童福祉法等の関係法規の復習・施設等におけるボランティア活動や自分の実習予定施設の情報収集・規則正しい生活習慣の確立・生活支援に備えた自己の生活管理

内　容

第1回　施設における実習の意義と目的の理解…視聴覚教材や配布資料を通してレポート作成

第2回　帳票類と保菌検査等の説明
第3回　施設の機能と役割の理解①‥養護原理や養護内容、児童福祉法等の振り返りと整理
第4回　施設の機能と役割の理解②‥自分の実習予定施設の特徴や役割の調査　　オリエンテーションの心構え
第5回　生活支援の意味と内容の理解‥演習ならびに視聴覚教材によるディスカッション
第6回　実習目標と課題の設定…意見交換
第7回　実習簿の記入方法と記録の書き方…事例による演習直前指導
第8回　実習の振り返りとまとめ‥ 自己評価・意見交換・レポート作成

履修上の注意点

授業期間と実習が重なる学生については補講を行う。授業参加度が授業評価に直結するため欠席をしないこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （０）　　小テスト（０）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 40% ）
授業への参加度とともに、授業態度、課題への取り組み方、提出物等の内容を吟味して評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－2 〈a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　一柳　敦子	

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。
また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習（予習・復習）

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内　容

第1回　①　実習施設について理解する。②　養護の一日の流れを理解し、参加する。③　乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④　援助計画を理解する。⑤　生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥　職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦　家庭・地域社会を理解する。⑧　子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨　保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩　安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設
実習期間　10日間（80時間）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（０）　　小テスト（０）
授業中課題（０）　　授業中発表等（０）
参加度　（０）
施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－2 <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　太田 みつ枝	

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。
また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習（予習・復習）

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内　容

第1回　①　実習施設について理解する。②　養護の一日の流れを理解し、参加する。③　乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④　援助計画を理解する。⑤　生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥　職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦　家庭・地域社会を理解する。⑧　子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨　保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩　安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設
実習期間　10日間（80時間）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（０）　　小テスト（０）
授業中課題（０）　　授業中発表等（０）
参加度　（０）
施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－２〈c〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　大山　弘美

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。
また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習（予習・復習）

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内　容

第1回　①　実習施設について理解する。②　養護の一日の流れを理解し、参加する。③　乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④　援助計画を理解する。⑤　生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥　職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦　家庭・地域社会を理解する。⑧　子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨　保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩　安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設
実習期間　10日間（80時間）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（０）　　小テスト（０）
授業中課題（０）　　授業中発表等（０）
参加度　（０）
施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－２ <d>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　杉江　由紀子

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。
また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習（予習・復習）

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内　容

第1回　①　実習施設について理解する。②　養護の一日の流れを理解し、参加する。③　乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④　援助計画を理解する。⑤　生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥　職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦　家庭・地域社会を理解する。⑧　子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨　保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩　安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設
実習期間　10日間（80時間）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（０）　　小テスト（０）
授業中課題（０）　　授業中発表等（０）
参加度　（０）
施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－２〈e〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　中﨑 あつ子

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。
また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習（予習・復習）

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内　容

第1回　①　実習施設について理解する。②　養護の一日の流れを理解し、参加する。③　乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④　援助計画を理解する。⑤　生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥　職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦　家庭・地域社会を理解する。⑧　子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨　保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩　安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設
実習期間　10日間（80時間）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（０）　　小テスト（０）
授業中課題（０）　　授業中発表等（０）
参加度　（０）
施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－２〈f〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　山口　陽子

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。
また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習（予習・復習）

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内　容

第1回　①　実習施設について理解する。②　養護の一日の流れを理解し、参加する。③　乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④　援助計画を理解する。⑤　生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥　職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦　家庭・地域社会を理解する。⑧　子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨　保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩　安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設
実習期間　10日間（80時間）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（０）　　小テスト（０）
授業中課題（０）　　授業中発表等（０）
参加度　（０）
施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－２〈g〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　須藤　智代子

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。
また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習（予習・復習）

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内　容

第1回　① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設
実習期間　10日間（80時間）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （０）　　小テスト （０）
授業中課題 （０）　　授業中発表等 （０）
参加度 （０）
施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅰ－2 <h>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期集中　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　森本 美絵.吉田 裕子

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

授業の到達目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の概要

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。
また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

準備学習（予習・復習）

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

内　容

第1回　① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設
実習期間　10日間（80時間）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 0 ）
施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　一柳　敦子	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施　－実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に－

授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

準備学習（予習・復習）

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。 2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

内　　容

第1回　（学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる）参加実習①（保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する）
第2回　参加実習②（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第3回　参加実習③（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第4回　参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見（配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける）
第5回　部分指導実習①（朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う）
第6回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第7回　部分指導実習③（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第8回　部分指導実習④（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第9回　部分指導実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）
第10回　責任実習①（指導案を作成し、午前の指導を行う）
第11回　責任実習②（指導案を作成し、午後の指導を行う）
第12回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う）
第13回　責任実習④（指導案を作成し、全日保育を行う）
第14回　責任実習⑤（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう）
第15回　責任実習及び全実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）

履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

教科書

平成20年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針＜原本＞
著者：　文部科学省、厚生労働省
出版社：チィルド社
出版年：2008年　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実に行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　太田　みつ枝	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施　ー実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧にー

授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

準備学習（予習・復習）

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。 2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

内　　容

第1回　（学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる）参加実習①（保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する）
第2回　参加実習②（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第3回　参加実習③（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第4回　参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見（配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける）
第5回　部分指導実習①（朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う）
第6回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第7回　部分指導実習③（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第8回　部分指導実習④（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第9回　部分指導実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）
第10回　責任実習①（指導案を作成し、午前の指導を行う）
第11回　責任実習②（指導案を作成し、午後の指導を行う）
第12回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う）
第13回　責任実習④（指導案を作成し、全日保育を行う）
第14回　責任実習⑤（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう）
第15回　責任実習及び全実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）

履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

教科書

平成20年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針＜原本＞
著者:　文部科学省、厚生労働省
出版社:　チィルド社
出版年:　2008年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実に行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅱ <c>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　大山　弘美	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施　ー実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧にー

授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

準備学習（予習・復習）

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。 2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

内　　容

第1回　（学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる）参加実習①（保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する）
第2回　参加実習②（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第3回　参加実習③（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第4回　参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見（配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける）
第5回　部分指導実習①（朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う）
第6回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第7回　部分指導実習③（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第8回　部分指導実習④（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第9回　部分指導実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）
第10回　責任実習①（指導案を作成し、午前の指導を行う）
第11回　責任実習②（指導案を作成し、午後の指導を行う）
第12回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う）
第13回　責任実習④（指導案を作成し、全日保育を行う）
第14回　責任実習⑤（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう）
第15回　責任実習及び全実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）

履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

教科書

平成20年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針＜原本＞
著者：　文部科学省、厚生労働省
出版社：チィルド社
出版年：2008年　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実に行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅱ <d>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　杉江　由紀子	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施　ー実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧にー

授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

準備学習（予習・復習）

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。 2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

内　　容

第1回　（学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる）参加実習①（保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する）
第2回　参加実習②（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第3回　参加実習③（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第4回　参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見（配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける）
第5回　部分指導実習①（朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う）
第6回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第7回　部分指導実習③（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第8回　部分指導実習④（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第9回　部分指導実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）
第10回　責任実習①（指導案を作成し、午前の指導を行う）
第11回　責任実習②（指導案を作成し、午後の指導を行う）
第12回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う）
第13回　責任実習④（指導案を作成し、全日保育を行う）
第14回　責任実習⑤（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう）
第15回　責任実習及び全実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）

履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

教科書

平成20年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針＜原本＞
著者：　文部科学省、厚生労働省
出版社：チィルド社
出版年：2008年　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実に行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅱ〈e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　中﨑　あつ子	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施　－実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に－

授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

準備学習（予習・復習）

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。 2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

内　　容

第1回　（学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる）参加実習①（保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する）
第2回　参加実習②（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第3回　参加実習③（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第4回　参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見（配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける）
第5回　部分指導実習①（朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う）
第6回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第7回　部分指導実習③（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第8回　部分指導実習④（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第9回　部分指導実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）
第10回　責任実習①（指導案を作成し、午前の指導を行う）
第11回　責任実習②（指導案を作成し、午後の指導を行う）
第12回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う）
第13回　責任実習④（指導案を作成し、全日保育を行う）
第14回　責任実習⑤（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう）
第15回　責任実習及び全実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）

履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

教科書

平成20年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針＜原本＞
著者：　文部科学省、厚生労働省
出版社：チィルド社
出版年：2008年　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実に行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅱ <f>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　山口　陽子	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施　ー実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧にー

授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

準備学習（予習・復習）

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。 2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

内　　容

第1回　（学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる）参加実習①（保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する）
第2回　参加実習②（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第3回　参加実習③（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第4回　参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見（配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける）
第5回　部分指導実習①（朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う）
第6回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第7回　部分指導実習③（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第8回　部分指導実習④（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第9回　部分指導実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）
第10回　責任実習①（指導案を作成し、午前の指導を行う）
第11回　責任実習②（指導案を作成し、午後の指導を行う）
第12回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う）
第13回　責任実習④（指導案を作成し、全日保育を行う）
第14回　責任実習⑤（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう）
第15回　責任実習及び全実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）

履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

教科書

平成20年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針＜原本＞
著者:　文部科学省、厚生労働省
出版社:　チィルド社
出版年:　2008年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実に行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅱ〈g〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　須藤　智代子	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施　ー実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧にー

授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

準備学習（予習・復習）

1．様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。 2．実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

内　　容

第1回　（学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる）参加実習①（保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する）
第2回　参加実習②（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第3回　参加実習③（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第4回　参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見（配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける）
第5回　部分指導実習①（朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う）
第6回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第7回　部分指導実習③（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第8回　部分指導実習④（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第9回　部分指導実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）
第10回　責任実習①（指導案を作成し、午前の指導を行う）
第11回　責任実習②（指導案を作成し、午後の指導を行う）
第12回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う）
第13回　責任実習④（指導案を作成し、全日保育を行う）
第14回　責任実習⑤（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう）
第15回　責任実習及び全実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）

履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

教科書

平成20年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針＜原本＞
著者：　文部科学省、厚生労働省
出版社：チィルド社
出版年：2008年　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実に行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅱ <h>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　口野　隆史.吉田　裕子	

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した保育所での実習の実施　－実習でのつまずきや失敗を今後の保育実践の糧に－

授業の到達目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育所における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導・援助を行い、子どもの反応を知り、指導保育士からの指導・助言を受け、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の概要

この実習では、受け入れ保育所の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

準備学習（予習・復習）

1. 様々な領域（体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的）の題材に関心を持ち、それを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。 2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。

内　　容

第1回　（学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる）参加実習①（保育所の指導保育士の指導と助言を受け、その範囲で保育士をサポートし保育に参加する）
第2回　参加実習②（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第3回　参加実習③（指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う）
第4回　参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見（配属クラスの担任や主任、園長らから指導、助言を受ける）
第5回　部分指導実習①（朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導・援助を行う）
第6回　部分指導実習②（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第7回　部分指導実習③（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第8回　部分指導実習④（指導案を作成し短時間の指導・援助を行う）
第9回　部分指導実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）
第10回　責任実習①（指導案を作成し、午前の指導を行う）
第11回　責任実習②（指導案を作成し、午後の指導を行う）
第12回　責任実習③（指導案を作成し、全日保育を行う）
第13回　責任実習④（指導案を作成し、全日保育を行う）
第14回　責任実習⑤（指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう）
第15回　責任実習及び全実習の振り返り（配属クラスの担任、主任、園長らから指導、助言を受ける）

履修上の注意点

健康に留意し、遅刻、早退、欠席のないようにする。遅刻、早退、欠席をせざるを得ない場合は、保育所、大学に必ず連絡する。基本的には、実習保育所の指導方針に従い実習をさせて頂く。実習において知り得た実習園の情報等の扱いに注意する。社会人と同様のマナーを意識し、積極的に実習に取り組む。

教科書

平成20年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針＜原本＞
著者:　文部科学省、厚生労働省
出版社:　チィルド社
出版年:　2008年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）

学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の事前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実に行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習指導Ⅲ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　塩見　哲史	

テーマ

授業の意義・目的・内容を理解する。実習前後の学びを通し、専門機関や施設職員としての素養を学ぶ。さらに進路を決定していくための自己覚知をめざす。

授業の到達目標

1. 保育実習Ⅲの意義・目的・内容の理解ができる。2. 保育士・児童指導員の業務内容や職業倫理について理解を深める。3. 入所児童のおかれている家庭環境や地域の生活実態に触れ児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識・技術・判断力を実践から養う。4. 保育士・児童指導員を目指す者として自己の課題を明確にすることができる。5. 児童自立支援計画票の作成・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。

授業の概要

将来の児童福祉施設職員を志す者たちが集い、既に保育実習Ⅰ・Ⅱで学んだ経験を語り合う。児童福祉施設の保育士・児童指導員に求められる資質・能力・技術の獲得を目指し、討論形式で進める。

準備学習（予習・復習）

実習目標を明確にしておく

内　　容

第1回　受講の意思確認と保育実習Ⅰ・Ⅱを終えての内容と自己課題を振り返り、実習目標を設定する。
第2回　「児童福祉施設の職員とは？」をテーマに討論形式で展開する（debate/インタビューゲーム）
第3回　施設の実体験をもとに社会的養護及び児童家庭福祉のあり方について学ぶ
第4回　支援計画をたてるポイントを学ぶ
第5回　実習直前における諸注意と実習目標設定の最終確認を行う
第6回　実習の報告を基に振り返る①
第7回　実習の報告を基に振り返る②
第8回　実習評価表を基に自己評価及び自己課題の整理と保育実習Ⅲのまとめ

履修上の注意点

保育実習Ⅲを履修しようとする自己の姿勢について整理を行っておく。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 50% ）　　授業中発表等（ 20% ）
参加度　（ 30% ）
授業中の課題（レポート含む）及び実習施設からの「評価表」・「実習日誌」なども含め総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅲ <a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　一柳　敦子	

テーマ

保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。

授業の到達目標

施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。

授業の概要

保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　①　養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。②　発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③　援助計画を立案し、実践する。④　親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤　地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥　児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦　施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧　児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨　以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。実習期間10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　(0)	小テスト (0)
授業中課題 (0)	授業中発表等 (0)
参加度 (0)	

施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅲ <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　太田　みつ枝	

テーマ

保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。

授業の到達目標

施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。

授業の概要

保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　①　養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。②　発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③　援助計画を立案し、実践する。④　親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤　地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥　児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦　施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧　児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨　以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。実習期間10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　(0)　　小テスト　(0)
授業中課題　(0)　　授業中発表等　(0)
参加度　(0)
施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅲ <c>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　大山　弘美	

テーマ

保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。

授業の到達目標

施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。

授業の概要

保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　①　養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。②　発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③　援助計画を立案し、実践する。④　親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤　地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥　児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦　施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧　児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨　以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。実習期間10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　(0)　　小テスト　(0)
授業中課題　(0)　　授業中発表等　(0)
参加度　(0)
施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅲ <d>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　杉江　由紀子	

テーマ

保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。

授業の到達目標

施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。

授業の概要

保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　①　養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。②　発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③　援助計画を立案し、実践する。④　親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤　地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥　児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦　施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧　児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨　以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。実習期間10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　(0)	小テスト (0)
授業中課題 (0)	授業中発表等 (0)
参加度 (0)	

施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅲ <e>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　中﨑 あつ子	

テーマ

保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。

授業の到達目標

施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。

授業の概要

保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　①　養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。②　発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③　援助計画を立案し、実践する。④　親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤　地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥　児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦　施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧　児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨　以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。実習期間10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　(0)　　小テスト (0)

授業中課題 (0)　　授業中発表等 (0)

参加度 (0)

施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅲ <f>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　山口　陽子	

テーマ

保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。

授業の到達目標

施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。

授業の概要

保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　①　養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。②　発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③　援助計画を立案し、実践する。④　親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤　地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥　児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦　施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧　児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨　以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。実習期間10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　(0)　　小テスト　(0)
授業中課題　(0)　　授業中発表等　(0)
参加度　(0)
施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅲ <g>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　須藤　智代子	

テーマ

保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。

授業の到達目標

施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。

授業の概要

保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　①　養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。②　発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③　援助計画を立案し、実践する。④　親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤　地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥　児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦　施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧　児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨　以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。実習期間10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　(0)　　小テスト　(0)

授業中課題　(0)　　授業中発表等　(0)

参加度　(0)

施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2016 Syllabus

科 目 名　**保育実習Ⅲ <h>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　森本　美絵.吉田　裕子	

テーマ

保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。

授業の到達目標

施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。

授業の概要

保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　①　養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。②　発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③　援助計画を立案し、実践する。④　親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤　地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥　児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦　施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧　児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨　以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。実習期間10日間(80時間)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　(0)　　小テスト　(0)
授業中課題　(0)　　授業中発表等　(0)
参加度　(0)
施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅲ＜＊a＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　倉持　祐二

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

各自のテーマにそって文献や資料等を収集し、集めた文献や資料等を読み深めながらテーマを絞り込み、論文にまとめることをめざす。

授業の概要

卒業研究に向けての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。

準備学習（予習・復習）

予習：卒論の研究テーマにそって、文献や資料等を収集する。復習：集めた文献や資料等を読み深め、テーマを絞り込んでいく。

内　容

第1回　テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを選ぶ①
第2回　テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを選ぶ②
第3回　テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを選ぶ③
第4回　文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導①
第5回　文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導②
第6回　文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導③
第7回　順次、各自の研究テーマについて発表させる①
第8回　順次、各自の研究テーマについて発表させる②
第9回　順次、各自の研究テーマについて発表させる③
第10回　順次、各自の研究テーマについて発表させる④
第11回　順次、各自の研究テーマについて発表させる⑤
第12回　順次、各自の研究テーマについて発表させる⑥
第13回　執筆要領、留意事項など細部について指導する①
第14回　執筆要領、留意事項など細部について指導する②
第15回　執筆要領、留意事項など細部について指導する③

履修上の注意点

3分の2以上の出席を原則とする。遅刻や早退をしないように。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題（　）　　授業中発表等（ 60% ）

参加度　（ 40% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅲ＜＊b＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　小寺　隆幸

テーマ

幅広く教育・保育のあり方について考える。

授業の到達目標

教育や保育を巡る課題について、自分の問題意識を深め、それを深く追求する。それぞれの報告をもとに、質疑・応答・討議を重ねながら、深め、卒業論文にまとめる。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

学外授業等を行うことがある自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、論文や雑誌などを読む。

内　容

第1回　問題意識の交流
第2回　文献を読む①
第3回　文献を読む②
第4回　文献を読む③
第5回　文献を読む④
第6回　文献を読む⑤
第7回　個別発表と質疑・応答・討議①
第8回　個別発表と質疑・応答・討議②
第9回　個別発表と質疑・応答・討議③
第10回　個別発表と質疑・応答・討議④
第11回　個別発表と質疑・応答・討議⑤
第12回　個別発表と質疑・応答・討議⑥
第13回　個別発表と質疑・応答・討議⑦
第14回　個別発表と質疑・応答・討議⑧
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 0 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅲ＜＊c＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　大久保　恭子

テーマ

ゼミ発表と討論を踏まえて卒業論文のテーマを明確にし、卒論執筆の基盤を形成する。

授業の到達目標

各自の卒業論文テーマと章立てを確定する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

論文テーマに関する文献を読み、情報を整理しておくこと。

内　容

第1回　卒業論文に関するガイダンス
第2回　学外活動：実践調査
第3回　卒業論文テーマにそった発表と討論①
第4回　卒業論文テーマにそった発表と討論②
第5回　卒業論文テーマにそった発表と討論③
第6回　卒業論文テーマにそった発表と討論④
第7回　卒業論文テーマにそった発表と討論⑤
第8回　卒業論文テーマにそった発表と討論⑥
第9回　卒業論文テーマにそった発表と討論⑦
第10回　卒業論文テーマにそった発表と討論⑧
第11回　卒業論文テーマにそった発表と討論⑨
第12回　卒業論文テーマにそった発表と討論⑩
第13回　卒業論文テーマにそった発表と討論⑪
第14回　卒業論文テーマにそった発表と討論⑫
第15回　まとめ

履修上の注意点

全回出席を前提とする。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題（　）　　授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅲ＜＊d＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　三上　周治

テーマ

卒業論文作成に向けて研究を深める。

授業の到達目標

1)各自が関心を持つテーマについて主体的に論文をまとめることにより、文献・資料収集の仕方を学び、論理的構成力および考察力を養う。2)研究発表および討論を通して、プレゼンテーション力を身につける。

授業の概要

卒業論文作成に向けて、各自の研究テーマにもとづき、発表および討論を行う。

準備学習（予習・復習）

予習：各自のテーマに沿って文献や資料を収集し、読み込む。復習：討論で得られた意見をもとに自分なりの考察を加え、最終レポートに向けて、文献及び資料をまとめていく。

内　容

第1回　オリエンテーション：春休みの課題の報告、ゼミ運営についての説明
第2回　論文作成方法の説明
第3回　研究目的と方法の明確化①
第4回　研究目的と方法の明確化②
第5回　研究目的と方法の明確化③
第6回　途中経過発表および討論①
第7回　途中経過発表および討論②
第8回　途中経過発表および討論③
第9回　途中経過発表および討論④
第10回　途中経過発表および討論⑤
第11回　途中経過発表および討論⑥
第12回　途中経過発表および討論⑦
第13回　途中経過発表および討論⑧
第14回　途中経過発表および討論⑨
第15回　まとめ：夏季休暇中の課題

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。主体的な学習態度を重視する。

教科書

参考書

必要に応じて紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅲ＜＊e＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　佐野 仁美

テーマ

卒業論文作成に向けて研究を深める。

授業の到達目標

1)各自が関心を持つテーマについて主体的に論文をまとめることにより、文献・資料収集の仕方を学び、論理的構成力および考察力を養う。2)研究発表および討論を通して、プレゼンテーション力を身につける。

授業の概要

卒業論文作成に向けて、各自の研究テーマにもとづき、発表および討論を行う。

準備学習（予習・復習）

予習：各自のテーマに沿って文献や資料を収集し、読み込む。復習：討論で得られた意見をもとに自分なりの考察を加え、最終レポートに向けて、文献及び資料をまとめていく。

内　容

第1回　オリエンテーション：春休みの課題の報告、ゼミ運営についての説明
第2回　論文作成方法の説明
第3回　研究目的と方法の明確化①
第4回　研究目的と方法の明確化②
第5回　研究目的と方法の明確化③
第6回　途中経過発表および討論①
第7回　途中経過発表および討論②
第8回　途中経過発表および討論③
第9回　途中経過発表および討論④
第10回　途中経過発表および討論⑤
第11回　途中経過発表および討論⑥
第12回　途中経過発表および討論⑦
第13回　途中経過発表および討論⑧
第14回　途中経過発表および討論⑨
第15回　まとめ：夏季休暇中の課題

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。主体的な学習態度を重視する。

教科書

参考書

必要に応じて紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅲ＜＊f＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　池田　修	

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業研究にむけての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導を通して卒業論文を書き進めることが出来る。

授業の概要

その日の担当を決めて、執筆中の卒業論文を発表し、ゼミ全体で議論をする。特に、目次案の検討が中心になる。

準備学習（予習・復習）

卒業研究のテーマに関して調査研究を進める。パラグラフライティングの書き方に関する本『論理が伝わる「書く技術」』（倉島保美）は必読。論文の書き方の本は、『論文の教室』（戸田山和久）、『論文・レポートの基本』（石黒圭）、『はじめての論文作成術』（宅間紘一）等の中から一冊は三回生の春休み中に読んでおくこと。レポートとして纏めて提出する指示が出る。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　論文の書き方。テーマの絞り方。討論・講評し、最終テーマを決定させる。文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導。
第3回　卒論進捗報告（序論）
第4回　卒論進捗報告（序論）
第5回　卒論進捗報告（序論）
第6回　卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）
第7回　卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）
第8回　卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）
第9回　卒論進捗報告（本論：調査内容）
第10回　卒論進捗報告（本論：調査内容）
第11回　卒論進捗報告（本論：調査内容）
第12回　卒論中間発表会　1
第13回　卒論中間発表会　2
第14回　卒論中間発表会　3
第15回　総括

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 25 ）	授業中発表等　（ 25 ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅲ＜＊g＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　南 憲治

テーマ

卒業論文作成の準備

授業の到達目標

各自のテーマにそって文献や資料等を収集し、集めた文献や資料等を読み深めながらテーマを絞り込み、論文にまとめることをめざす。

授業の概要

卒業研究に向けての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。

準備学習（予習・復習）

予習：卒論の研究テーマにそって、文献や資料等を収集する。復習：集めた文献や資料等を読み深め、テーマを絞り込んでいく。

内　容

第1回　テーマの絞り方について討論・講評し、最終テーマを選ぶ①
第2回　テーマの絞り方について討論・講評し、最終テーマを選ぶ②
第3回　テーマの絞り方について討論・講評し、最終テーマを選ぶ③
第4回　文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導①
第5回　文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導②
第6回　文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導③
第7回　各自の研究テーマについて発表する①
第8回　各自の研究テーマについて発表する②
第9回　各自の研究テーマについて発表する③
第10回　各自の研究テーマについて発表する④
第11回　各自の研究テーマについて発表する⑤
第12回　各自の研究テーマについて発表する⑥
第13回　執筆要領、留意事項などについて指導する①
第14回　執筆要領、留意事項などについて指導する②
第15回　まとめと教育演習Ⅳへ向けての準備

履修上の注意点

3分の2以上の出席を原則とする。遅刻や早退をしないように。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

適宜、指示する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50% ）
参加度　（ 50% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅲ＜＊h＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　　青木　美智子

テーマ

卒業論文の執筆

授業の到達目標

卒業論文の完成。

授業の概要

個別指導を中心に執筆作業を進め、中間に研究発表を行うことから作業状況の確認と見直しを行う。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　導入
第2回　卒業論文の執筆
第3回　卒業論文の執筆
第4回　卒業論文の執筆
第5回　卒業論文の執筆
第6回　卒業論文の執筆
第7回　卒業論文の執筆
第8回　卒業論文の執筆
第9回　卒業論文の執筆
第10回　卒業論文の執筆
第11回　卒業論文の執筆
第12回　卒業論文の執筆
第13回　卒業論文の執筆
第14回　中間報告　1
第15回　中間報告　2

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 100% ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅲ＜＊i＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　神谷　栄司

テーマ

卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての確定

授業の到達目標

1)卒業論文のタイトル、課題設定、章節立てを確定する。2)ゼミ内の人間関係を良好にする。

授業の概要

1)卒業論文のタイトル、課題設定、章節立てを報告する（1コマ当たり1人発表）。2)ゼミ内の交流のために親睦の活動を位置づける。

準備学習（予習・復習）

卒業論文に関連する単行本・論文等を研究し、タイトル、課題設定、章節立てについて考察する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(1)
第3回　卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(2)
第4回　卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(3)
第5回　卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(4)
第6回　卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(5)
第7回　卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(6)
第8回　卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(7)
第9回　卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(8)
第10回　卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(9)
第11回　卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(10)
第12回　卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(11)
第13回　卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(12)
第14回　卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(13)
第15回　卒業論文のタイトル、課題設定、章節立ての報告(14)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（　）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅲ＜＊j＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　八木 英二

テーマ

各自の問題意識を深める

授業の到達目標

各自が自身の見つけたテーマに基づいて発表討論ができるようになること

授業の概要

各自の発表を交流させ、対話ができる力を養うことのできるゼミ運営を行う

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　全体交流
第2回　全体交流
第3回　全体交流
第4回　全体交流
第5回　全体交流
第6回　全体交流
第7回　全体交流
第8回　全体交流
第9回　個別指導
第10回　個別指導
第11回　個別指導
第12回　個別指導
第13回　個別指導
第14回　個別指導
第15回　個別指導

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等 （ 50% ）
参加度 （ 50% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅳ＜＊a＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　倉持　祐二

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

各自のテーマにそって文献や資料等を収集し、集めた文献や資料等を読み深めながらテーマを絞り込み、論文にまとめる。

授業の概要

卒業研究に向けての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。

準備学習（予習・復習）

予習：卒論の研究テーマにそった文献や資料等を読み深める。復習：集めた文献や資料等をもとに、テーマにそって論文を作成する。

内　容

第1回　各自の研究テーマについて発表する①
第2回　各自の研究テーマについて発表する②
第3回　各自の研究テーマについて発表する③
第4回　論文作成に向けての個別指導①
第5回　論文作成に向けての個別指導②
第6回　論文作成に向けての個別指導③
第7回　論文作成に向けての個別指導④
第8回　論文作成に向けての個別指導⑤
第9回　論文作成に向けての個別指導⑥
第10回　論文作成に向けての個別指導⑦
第11回　論文作成に向けての個別指導⑧
第12回　論文作成に向けての個別指導⑨
第13回　論文作成に向けての個別指導⑩
第14回　論文発表会に向けての指導①
第15回　論文発表会に向けての指導②

履修上の注意点

3分の2以上の出席を原則とする。遅刻や早退をしないように。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 60% ）

参加度　（ 40% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅳ＜＊b＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　小寺　隆幸

テーマ

幅広く教育・保育のあり方について考える。

授業の到達目標

各自のテーマにそって調査・研究したことをまとめ、質疑・応答・討議を重ねながら論文に仕上げる。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

学外授業を適宜、行うことがある自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、論文や雑誌などを読む。

内　容

第1回　個別発表の計画づくり
第2回　個別発表と質疑・応答・討議①
第3回　個別発表と質疑・応答・討議②
第4回　個別発表と質疑・応答・討議③
第5回　個別発表と質疑・応答・討議④
第6回　個別発表と質疑・応答・討議⑤
第7回　個別発表と質疑・応答・討議⑥
第8回　個別発表と質疑・応答・討議⑦
第9回　個別発表と質疑・応答・討議⑧
第10回　論文中間発表会
第11回　個別発表と質疑・応答・討議⑨
第12回　個別発表と質疑・応答・討議⑩
第13回　立命館平和ミュージアム見学
第14回　ゼミ内論文発表会
第15回　まとめと今後の課題の確認

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 0 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅳ＜＊c＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　大久保　恭子

テーマ

卒業論文の執筆と完成

授業の到達目標

前期に確定した章立てに従って論文を執筆し完成させる。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

テーマに関する情報を整理し、考察することを執筆中も続けること。

内　容

第1回　卒業論文執筆についてのオリエンテーション
第2回　各自の卒業論文の進捗状況報告（中間発表）とそれに対する助言①
第3回　各自の卒業論文の進捗状況報告（中間発表）とそれに対する助言②
第4回　各自の卒業論文の進捗状況報告（中間発表）とそれに対する助言③
第5回　各自の卒業論文の進捗状況報告（中間発表）とそれに対する助言④
第6回　各自の卒業論文の進捗状況報告（中間発表）とそれに対する助言⑤
第7回　各自の卒業論文の進捗状況報告（中間発表）とそれに対する助言⑥
第8回　各自の卒業論文の進捗状況報告（中間発表）とそれに対する助言⑦
第9回　各自の卒業論文の進捗状況報告（中間発表）とそれに対する助言⑧
第10回　各自の卒業論文の進捗状況報告（中間発表）とそれに対する助言⑨
第11回　各自の卒業論文の進捗状況報告（中間発表）とそれに対する助言⑩
第12回　各自の卒業論文の進捗状況報告（中間発表）とそれに対する助言⑪
第13回　まとめ①
第14回　まとめ②
第15回　まとめ③

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）

参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅳ＜＊d＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　三上　周治

テーマ

卒業論文の作成

授業の到達目標

1)研究目的や研究方法の提示、結果と考察との関連など、論文構成法を学ぶ。2)これまで学んだことの集大成として卒業論文を作成する。

授業の概要

卒業論文作成について個別に指導し、中間発表会において研究結果の発表、討論を行う。

準備学習（予習・復習）

予習：論文作成計画に従い、論文を執筆する。復習：論文指導および中間発表会で得られた意見をもとに軌道修正しつつ、論文を書き進めていく。

内　容

第1回　オリエンテーション：夏休みの課題についての報告、後期のゼミ運営についての説明
第2回　卒論進捗報告①
第3回　卒論進捗報告②
第4回　卒論進捗報告③
第5回　中間発表会①
第6回　中間発表会②
第7回　論文作成に向けての個別指導①
第8回　論文作成に向けての個別指導②
第9回　論文作成に向けての個別指導③
第10回　論文作成に向けての個別指導④
第11回　論文作成に向けての個別指導⑤
第12回　論文作成に向けての個別指導⑥
第13回　卒論発表の準備①
第14回　卒論発表の準備②
第15回　まとめ：1年間の学習の総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。主体的な学習態度を重視する。

教科書

参考書

必要に応じて紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅳ＜＊e＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　佐野 仁美

テーマ

卒業論文の作成

授業の到達目標

1)研究目的や研究方法の提示、結果と考察との関連など、論文構成法を学ぶ。2)これまで学んだことの集大成として卒業論文を作成する。

授業の概要

卒業論文作成について個別に指導し、中間発表会において研究結果の発表、討論を行う。

準備学習（予習・復習）

予習：論文作成計画に従い、論文を執筆する。復習：論文指導および中間発表会で得られた意見をもとに軌道修正しつつ、論文を書き進めていく。

内　容

第1回　オリエンテーション：夏休みの課題についての報告、後期のゼミ運営についての説明
第2回　卒論進捗報告①
第3回　卒論進捗報告②
第4回　卒論進捗報告③
第5回　中間発表会①
第6回　中間発表会②
第7回　論文作成に向けての個別指導①
第8回　論文作成に向けての個別指導②
第9回　論文作成に向けての個別指導③
第10回　論文作成に向けての個別指導④
第11回　論文作成に向けての個別指導⑤
第12回　論文作成に向けての個別指導⑥
第13回　卒論発表の準備①
第14回　卒論発表の準備②
第15回　まとめ：1年間の学習の総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。主体的な学習態度を重視する。

教科書

参考書

必要に応じて紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅳ＜＊f＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　池田　修	

テーマ

卒業論文を完成させる。

授業の到達目標

卒業研究にむけての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導を受け、卒業論文を完成する。

授業の概要

その日の担当を決めて、執筆中の卒業論文を発表し、ゼミ全体で議論をする。

準備学習（予習・復習）

卒業研究のテーマについての調査研究。

内　　容

第1回　卒論進捗報告（結論）
第2回　卒論進捗報告（結論）
第3回　卒論進捗報告（結論）
第4回　卒論進捗報告（結論）
第5回　卒論中間報告会
第6回　卒論中間報告会
第7回　卒論ドラフト相互チェック
第8回　卒論ドラフト相互チェック
第9回　卒論ドラフト相互チェック
第10回　卒論最終報告（全体）
第11回　卒論最終報告（全体）
第12回　卒論最終報告（全体）
第13回　口頭試問の準備
第14回　口頭試問の準備　和綴じ本づくり
第15回　総括

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 25 ）	授業中発表等　（ 25 ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅳ＜＊g＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　南 憲治

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

各自のテーマにそって文献や資料等を収集し、集めた文献や資料等を読み深めながらテーマを絞り込み、論文にまとめる。

授業の概要

卒業研究に向けての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。

準備学習（予習・復習）

予習：卒論の研究テーマにそった文献や資料等を読み深める。復習：集めた文献や資料等をもとに、テーマにそって論文を完成させる。

内　容

第1回　各自の研究テーマについて発表する①
第2回　各自の研究テーマについて発表する②
第3回　各自の研究テーマについて発表する③
第4回　論文作成に向けての個別指導①
第5回　論文作成に向けての個別指導②
第6回　論文作成に向けての個別指導③
第7回　論文作成に向けての個別指導④
第8回　論文作成に向けての個別指導⑤
第9回　論文作成に向けての個別指導⑥
第10回　論文作成に向けての個別指導⑦
第11回　論文作成に向けての個別指導⑧
第12回　論文作成に向けての個別指導⑨
第13回　論文作成に向けての個別指導⑩
第14回　論文発表会に向けての指導①
第15回　論文発表会に向けての指導②

履修上の注意点

3分の2以上の出席を原則とする。遅刻や早退をしないように。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

適宜、指示する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験 （ 0% ）　　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 0% ）　　授業中発表等 （ 50% ）
参加度 （ 50% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅳ＜＊h＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　青木 美智子

テーマ

卒業論文の執筆

授業の到達目標

卒業論文の完成。

授業の概要

個別指導を中心に執筆作業を進め、中間に研究発表を行うことから作業状況の確認と見直しを行う。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　導入
第2回　卒業論文の執筆
第3回　卒業論文の執筆
第4回　卒業論文の執筆
第5回　卒業論文の執筆
第6回　卒業論文の執筆
第7回　卒業論文の執筆
第8回　卒業論文の執筆
第9回　中間発表 1
第10回　中間発表 2
第11回　卒業論文の執筆
第12回　卒業論文の執筆
第13回　卒業論文の執筆
第14回　卒業研究発表
第15回　卒業研究発表

履修上の注意点

遅刻欠席の場合は事前に連絡のこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 100% ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅳ＜＊i＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　神谷　栄司

テーマ

卒業論文の作成・完成

授業の到達目標

1)各自の卒業論文について助言を行い、論文を完成させる。2)ゼミ内の人間関係を良好にするために親睦の活動を位置づける。

授業の概要

1)各自の卒業論文執筆について助言する。2)卒業論文発表会に向けてポスターの作成について助言する。

準備学習（予習・復習）

卒業論文およびポスターを作成する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　各自の卒業論文についての助言
第3回　各自の卒業論文についての助言
第4回　各自の卒業論文についての助言
第5回　各自の卒業論文についての助言
第6回　各自の卒業論文についての助言
第7回　各自の卒業論文についての助言
第8回　各自の卒業論文についての助言
第9回　各自の卒業論文についての助言
第10回　各自の卒業論文についての助言
第11回　各自の卒業論文についての助言
第12回　ポスター作成の助言
第13回　ポスター作成の助言
第14回　ポスター作成の助言
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育演習Ⅳ＜＊j＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　八木 英二

テーマ

各自の問題意識を発展させる

授業の到達目標

自身のテーマについて活発な対話ができるようになること

授業の概要

参加者の間の質疑応答を援助する

準備学習（予習・復習）

レジュメはきちんと用意すること

内　容

第1回　全体交流
第2回　全体交流
第3回　全体交流
第4回　全体交流
第5回　全体交流
第6回　全体交流
第7回　全体交流
第8回　個別指導
第9回　個別指導
第10回　個別指導
第11回　個別指導
第12回　個別指導
第13回　個別指導
第14回　個別指導
第15回　個別指導

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <a>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　倉持　祐二	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　小寺　隆幸	

テーマ

教育・保育について自分のテーマを定め、文献研究や実地調査などをもとに考えをまとめ論文に仕上げる。

授業の到達目標

様々な文献や調査で得た知見をもとに、自分の考えを論理的に整理し、文章化する。小さくても自分のオリジナルな主張を盛り込む。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　問題意識を深める
第2回　文献を要約し、それに対する自分の考えをまとめる1
第3回　文献を要約し、それに対する自分の考えをまとめる2
第4回　文献を要約し、それに対する自分の考えをまとめる3
第5回　文献を要約し、それに対する自分の考えをまとめる4
第6回　文献を要約し、それに対する自分の考えをまとめる5
第7回　アンケートや実地調査の結果をまとめる1
第8回　アンケートや実地調査の結果をまとめる2
第9回　アンケートや実地調査の結果をまとめる3
第10回　全体の章構成を考える
第11回　論理的整合性を考えて文章を推敲する1
第12回　論理的整合性を考えて文章を推敲する2
第13回　まとめを考える
第14回　卒論を発表する
第15回　今後の課題を考える

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 20 ）	

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <c>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　大久保　恭子	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <d>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　三上　周治	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <e>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　佐野 仁美

テーマ

卒業論文の作成

授業の到達目標

1)研究目的や研究方法の提示、結果と考察との関連など、論文構成法を学ぶ。2)これまで学んだことの集大成として卒業論文を作成する。

授業の概要

卒業論文作成について個別に指導し、中間発表会において研究結果の発表、討論を行う。

準備学習（予習・復習）

予習：論文作成計画に従い、論文を執筆する。復習：論文指導および中間発表会で得られた意見をもとに軌道修正しつつ、論文を書き進めていく。

内　容

第1回　オリエンテーション：夏休みの課題についての報告、後期のゼミ運営についての説明
第2回　卒論進捗報告①
第3回　卒論進捗報告②
第4回　卒論進捗報告③
第5回　中間発表会①
第6回　中間発表会②
第7回　論文作成に向けての個別指導①
第8回　論文作成に向けての個別指導②
第9回　論文作成に向けての個別指導③
第10回　論文作成に向けての個別指導④
第11回　論文作成に向けての個別指導⑤
第12回　論文作成に向けての個別指導⑥
第13回　卒論発表の準備①
第14回　卒論発表の準備②
第15回　まとめ：1年間の学習の総括

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。主体的な学習態度を重視する。

教科書

参考書

必要に応じて紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ 20 ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <f>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　池田　修	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <g>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　南　憲治	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <h>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　青木　美智子	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <i>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　神谷　栄司	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <j>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　八木 英二

テーマ

卒業論文の作成

授業の到達目標

自分の書きたいテーマをみつけ、自分の考えを深め、論文作成にトライすること

授業の概要

各自の問題意識を尊重し、それぞれのテーマにそう参考文献の紹介に努め、卒論の作成方法まで援助する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　全体指導
第2回　個別指導
第3回　個別指導
第4回　個別指導
第5回　個別指導
第6回　個別指導
第7回　個別指導
第8回　中間発表交流会
第9回　個別指導
第10回　個別指導
第11回　個別指導
第12回　個別指導
第13回　個別指導
第14回　個別指導
第15回　個別指導

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等 （ 50% ）
参加度 （ 50% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教職実践演習（初等）<初a>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　倉持　祐二	

テーマ

授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、４年間の学びのまとめを行う。そのなかで、教育現場で教師として学級経営や教科指導に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の概要

学生は、４年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の５点である。１．子ども理解（①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境）、２．各教科の指導、３．実践的な知識と技能（①学級経営、②生徒指導、）、４．コミュニケーション（①学校における個人の役割、②地域・保護者との関係）、５．教育的愛情。以上の視点に基づいて、４年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なのかを明確にする。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　４年間の学習を振り返る（グループ討論、発表）
第2回　子ども理解－子どもの発達、子どもを取り巻く社会と環境（グループ討論、発表）
第3回　各教科の指導１：算数科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第4回　各教科の指導２：理科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第5回　各教科の指導３：国語科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第6回　各教科の指導４：社会科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第7回　各教科の指導５：音楽（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第8回　各教科の指導６：体育（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第9回　各教科の指導７：図工（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第10回　各教科の指導８：家庭科・生活科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第11回　道徳・総合的な学習の時間の指導（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第12回　特別活動の指導（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第13回　実践的な知識と技能－学級経営、生徒指導（グループ討論・クラス討論）
第14回　教職員との連携ならびに地域、保護者との連携（グループ討論、クラス討論）
第15回　教職の意義、教師の役割―小学校・幼稚園教諭の資質の吟味と確認（グループ討論と発表、クラス討論）

履修上の注意点

教科書

授業内で配布する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業内で紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教職実践演習（初等）<初b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小寺　隆幸	

テーマ

授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、４年間の学びのまとめを行う。そのなかで、教育現場で教師として学級経営や教科指導に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の概要

学生は、４年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の５点である。１．子ども理解（①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境）、２．各教科の指導、３．実践的な知識と技能（①学級経営、②生徒指導、）、４．コミュニケーション（①学校における個人の役割、②地域・保護者との関係）、５．教育的愛情。以上の視点に基づいて、４年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なのかを明確にする。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　４年間の学習を振り返る（グループ討論、発表）
第2回　子ども理解－子どもの発達、子どもを取り巻く社会と環境（グループ討論、発表）
第3回　各教科の指導１：算数科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第4回　各教科の指導２：理科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第5回　各教科の指導３：国語科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第6回　各教科の指導４：社会科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第7回　各教科の指導５：音楽（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第8回　各教科の指導６：体育（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第9回　各教科の指導７：図工（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第10回　各教科の指導８：家庭科・生活科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第11回　道徳・総合的な学習の時間の指導（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第12回　特別活動の指導（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第13回　実践的な知識と技能－学級経営、生徒指導（グループ討論・クラス討論）
第14回　教職員との連携ならびに地域、保護者との連携（グループ討論、クラス討論）
第15回　教職の意義、教師の役割―小学校・幼稚園教諭の資質の吟味と確認（グループ討論と発表、クラス討論）

履修上の注意点

教科書

授業内で配布する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業内で紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教職実践演習（初等）<初c>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　芦名　猛夫	

テーマ

授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、４年間の学びのまとめを行う。そのなかで、教育現場で教師として学級経営や教科指導に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の概要

学生は、４年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の５点である。１．子ども理解（①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境）、２．各教科の指導、３．実践的な知識と技能（①学級経営、②生徒指導、）、４．コミュニケーション（①学校における個人の役割、②地域・保護者との関係）、５．教育的愛情。以上の視点に基づいて、４年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なのかを明確にする。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　４年間の学習を振り返る（グループ討論、発表）
第2回　子ども理解－子どもの発達、子どもを取り巻く社会と環境（グループ討論、発表）
第3回　各教科の指導１：算数科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第4回　各教科の指導２：理科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第5回　各教科の指導３：国語科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第6回　各教科の指導４：社会科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第7回　各教科の指導５：音楽（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第8回　各教科の指導６：体育（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第9回　各教科の指導７：図工（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第10回　各教科の指導８：家庭科・生活科（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第11回　道徳・総合的な学習の時間の指導（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第12回　特別活動の指導（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第13回　実践的な知識と技能－学級経営、生徒指導（グループ討論・クラス討論）
第14回　教職員との連携ならびに地域、保護者との連携（グループ討論、クラス討論）
第15回　教職の意義、教師の役割―小学校・幼稚園教諭の資質の吟味と確認（グループ討論と発表、クラス討論）

履修上の注意点

教科書

授業内で配布する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業内で紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教職実践演習（初等）<幼a>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　口野　隆史	

テーマ

大学での学びと実習等の教育現場で獲得した力を統合し、卒業後の実践の場において力を発揮できるよう4年間の学びのまとめを行う

授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、幼稚園教育に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の概要

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。1．子ども理解（①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境）、2．各領域の指導、3．コミュニケーション（①幼稚園における個人の役割、②地域・保護者との関係）、4．教育的愛情、5．学級経営。以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なのかを明確にする。

準備学習（予習・復習）

大学で学んだことを、卒業後の教育・保育の実践の場で生かすにはどうすれば良いのか日頃から考えておくこと。様々な保育の場面を想定し、それに対応するプランを考えておくこと。そしてそれを友人や教員と日頃から交流しておくこと。

内　容

第1回　4年間の学習を振り返る
第2回　子ども理解－幼児の発達、幼児を取り巻く社会の実態と変化
第3回　各領域の教育・保育－健康①日常の生活リズム・健康に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第4回　各領域の教育・保育－健康②運動遊びに関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第5回　各領域の教育・保育－人間関係①グループでの活動に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第6回　各領域の教育・保育－人間関係②異年齢交流に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第7回　各領域の教育・保育－環境①生き物、自然環境に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第8回　各領域の教育・保育－環境②数や量に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第9回　各領域の教育・保育－言葉①絵本や紙芝居の読み聞かせに関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第10回　各領域の教育・保育－言葉②劇の発表に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第11回　各領域の教育・保育－表現①音楽やリズムに関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第12回　各領域の教育・保育－表現②図画・工作に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第13回　幼稚園における職員間の連携（グループ討議、クラス討論）
第14回　地域・保護者との連携（グループ討議、クラス討論）
第15回　幼稚園教諭の役割―幼稚園教諭の資質の吟味と確認

履修上の注意点

自分が4年間大学で学んだことを整理し、授業で発表すること。また、授業での他の学生や教員の発言に耳を傾け、自分に足りない部分を吸収すること。卒業後も生かせる他の学生との関係を深めて行くこと。

教科書

（特になし）
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

授業で紹介する
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験　（　）　小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 30 ）

a30104d154

授業にしっかり出席すること。授業中に出される課題、自分や自分のグループで設定した課題を、自分でまたグループで考え発表すること。また、他の学生、他のグループの発表に対し自分の意見を述べること。評価の際にはこれら点などから考える。

2016 Syllabus

科 目 名　**教職実践演習（初等）<幼b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　八木 英二	

テーマ

授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、幼稚園教育に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の概要

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。1．子ども理解（①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境）、2．各領域の指導、3．コミュニケーション（①幼稚園における個人の役割、②地域・保護者との関係）、4．教育的愛情、5．学級経営。以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なのかを明確にする。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　4年間の学習を振り返る
第2回　子ども理解－幼児の発達、幼児を取り巻く社会の実態と変化
第3回　各領域の教育・保育－健康①日常の生活リズム・健康に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第4回　各領域の教育・保育－健康②運動遊びに関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第5回　各領域の教育・保育－人間関係①グループでの活動に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第6回　各領域の教育・保育－人間関係②異年齢交流に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第7回　各領域の教育・保育－環境①生き物、自然環境に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第8回　各領域の教育・保育－環境②数や量に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第9回　各領域の教育・保育－言葉①絵本や紙芝居の読み聞かせに関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第10回　各領域の教育・保育－言葉②劇の発表に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第11回　各領域の教育・保育－表現①音楽やリズムに関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第12回　各領域の教育・保育－表現②図画・工作に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第13回　幼稚園における職員間の連携（グループ討議、クラス討論）
第14回　地域・保護者との連携（グループ討議、クラス討論）
第15回　幼稚園教諭の役割―幼稚園教諭の資質の吟味と確認

履修上の注意点

教科書

授業内で配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内で紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教職実践演習（初等）<幼c>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　神谷　栄司	

テーマ

保育・教育に関する実習を振り返り、保育者に必要な力量について考える

授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、幼稚園教育に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の概要

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。1．子ども理解（①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境）、2．各領域の指導、3．コミュニケーション（①幼稚園における個人の役割、②地域・保護者との関係）、4．教育的愛情、5．学級経営。以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なのかを明確にする。

準備学習（予習・復習）

実習のまとめである『保育の眼が拓かれたとき』に書いた自分の文章をはじめ、保育・教育実習を振り返っておくこと。

内　容

第1回　4年間の学習を振り返る
第2回　子ども理解－幼児の発達、幼児を取り巻く社会の実態と変化
第3回　各領域の教育・保育－健康①日常の生活リズム・健康に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第4回　各領域の教育・保育－健康②運動遊びに関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第5回　各領域の教育・保育－人間関係①グループでの活動に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第6回　各領域の教育・保育－人間関係②異年齢交流に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第7回　各領域の教育・保育－環境①生き物、自然環境に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第8回　各領域の教育・保育－環境②数や量に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第9回　各領域の教育・保育－言葉①絵本や紙芝居の読み聞かせに関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第10回　各領域の教育・保育－言葉②劇の発表に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第11回　各領域の教育・保育－表現①音楽やリズムに関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第12回　各領域の教育・保育－表現②図画・工作に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第13回　幼稚園における職員間の連携（グループ討議、クラス討論）
第14回　地域・保護者との連携（グループ討議、クラス討論）
第15回　幼稚園教諭の役割―幼稚園教諭の資質の吟味と確認

履修上の注意点

教科書

授業内で配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内で紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教職実践演習（初等）<幼d>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　加藤　倫子	

テーマ

保育者としての専門性を高めよう。

授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、幼稚園教育に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の概要

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。1．子ども理解（①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境）、2．各領域の指導、3．コミュニケーション（①幼稚園における個人の役割、②地域・保護者との関係）、4．教育的愛情、5．学級経営。以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なのかを明確にする。

準備学習（予習・復習）

実習簿を、読み返しておきましょう。

内　容

第1回　4年間の学習を振り返る
第2回　子ども理解－幼児の発達、幼児を取り巻く社会の実態と変化
第3回　各領域の教育・保育－健康①日常の生活リズム・健康に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第4回　各領域の教育・保育－健康②運動遊びに関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第5回　各領域の教育・保育－人間関係①グループでの活動に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第6回　各領域の教育・保育－人間関係②異年齢交流に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第7回　各領域の教育・保育－環境①生き物、自然環境に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第8回　各領域の教育・保育－環境②数や量に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第9回　各領域の教育・保育－言葉①絵本や紙芝居の読み聞かせに関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第10回　各領域の教育・保育－言葉②劇の発表に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第11回　各領域の教育・保育－表現①音楽やリズムに関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第12回　各領域の教育・保育－表現②図画・工作に関わる取り組み（グループ討議、クラス討論）
第13回　幼稚園における職員間の連携（グループ討議、クラス討論）
第14回　地域・保護者との連携（グループ討議、クラス討論）
第15回　幼稚園教諭の役割―幼稚園教諭の資質の吟味と確認

履修上の注意点

教科書

授業内で配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内で紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育実習（小学校）Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　通年集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　倉持 祐二

テーマ

実りのある教育実習

授業の到達目標

小学校現場での実習を通して、小学校教育についての正しい理解を深め、教師の役割や指導についての適切な認識と技術を身につけ、教師としての人間性を高めることをめざす。

授業の概要

教育実習生として期待することは3つある。(1)実習校での学校づくりの内容を具体的に知り、そこにこめた願いをつかむこと。(2)大学で学んでいることがらを、教育現場の具体的なとりくみを通して検討し、さらに深めること。(3)教師として、社会人として自らを成長させていくうえでの課題をつかむこと。実習中は、①毎日の教育の記録を書く、②学習指導案を作成し授業を行う、③児童の様子や自らのとりくみを振り返る、が重点課題となる。

準備学習（予習・復習）

公開授業や現場教師の研究会、子どもを対象とした催しやボランティアに参加することを勧める。

内　容

第1回　第１週・学級担任の児童に対する願いをつかむ。・児童の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする。・学校の一日のくらしの内容をつかむ。

第2回　第２週・学習指導案の基本的な内容と様式を知る。・教科教育と教科以外のとりくみのそれぞれの役割と具体的な内容をつかむ。・児童相互の関係に目をむける。

第3回　第３週・指導のねらいを明確にして、授業にとりくむ。・児童の新しい面を見いだすように努める。・児童会の組織や実際のとりくみについて知る。

第4回　第４週・これまでに学んだことを生かして学習指導案を作成し、研究授業にとりくむ。・実習のまとめをし、成果と課題を明らかにする。

履修上の注意点

なお、この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業時に紹介

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 50 ）

参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　SAP－Prep Ⅰ〈Z〉

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　（休講）	
テーマ	

授業の到達目標

①海外留学・国際インターンシップなど、「多文化理解プログラム」のgoalを明確にする。②「多文化理解プログラム」参加にあたっての十分な英語力を養成する。

授業の概要

2回生時に行われる「多文化理解プログラム」を成功させるためには、各人がプログラムの目的や目標をよく考え、明確にすることが大切です。この授業では、多文化理解プログラム履修の明確な目標をもつこととあわせ、いずれにしても、十分な英語力が要求されるので、英語力強化もこの授業の目的とします。

準備学習（予習・復習）

教科書で事前に読んでおく箇所を毎回指示するので予習をしてください。また、教科書に出てくる異文化理解に必要なキーワードを参考資料によって調べる課題を随時求めます。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　多文化理解プログラムの内容と今後の学習計画
第3回　多文化理解プログラムのgoalを考える
第4回　日本在住の外国人（教科書第１章）
第5回　帰国外国人（教科書第２章）
第6回　共文化コミュニケーション（教科書第３章）
第7回　海外留学（教科書第４章）
第8回　海外赴任（教科書第５章）
第9回　海外旅行（教科書第６章）
第10回　国際交渉（教科書第７章）
第11回　国際協力（教科書第８章）
第12回　マスメディアとパーセプション・ギャップ（教科書第９章）
第13回　留学におけるホームステイと異文化理解
第14回　インターンシップと異文化理解
第15回　まとめ

履修上の注意点

次年度の多文化理解プログラムに参加するための準備のクラスであるので、プログラムの情報を随時伝えます。各自、半年の履修中にプログラム内容の理解を深めて、来年度の参加にむけて積極的なクラス参加を望んでいます。なお、座席を指定したいのでご協力をお願いします。

教科書

ケースで学ぶ異文化コミュニケーション
著者:　久米昭元・長谷川典子
出版社:　有斐閣選書
出版年:　2007　　ISBN:

参考書

その都度紹介
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 10 ）
遅刻2回を欠席1回とし、規定の回数以上の欠席がある場合は、いかなる理由でも単位の認定はしません。

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ ＜＊A＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　浅井 雅志

テーマ

大学の学習スタイルを身につける

授業の到達目標

自分を取り巻く状況から「問題」を発見し、それについて調べて考え、その内容を発表し、議論する能力の伸長

授業の概要

大学での学習スタイルは高校までのそれとはかなり異なる。そのスタイルの最大の特徴は、与えられた知識を理解し、覚えるのではなく、自ら問題を発見し、それについて調べ、そして議論することである。それを実現するために、まず前期では、外国語を習得するとはどういうことかというテーマを扱ったテクストから「問題」を提供してもらい、それについて議論してみよう。　具体的には、テクストの担当箇所について、レジュメを作成し口頭発表する。それについて全員で議論する。 最終回に、授業で興味をもったテーマを取り上げたペイパーを提出する。

準備学習（予習・復習）

英語や英米文化関連の本をなるべくたくさん読む。また関連するテレビの特集番組などを見る。英語力強化のために授業外で e-learning に取り組む。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　１ 標準語と方言
第3回　２ 国家と言語
第4回　３ バイリンガルは悪か
第5回　４ 外国語教育
第6回　５ 手話という言語
第7回　６ 言語と文化（1）
第8回　６ 言語と文化（2）
第9回　７ 無意識への働きかけ（1）
第10回 ７ 無意識への働きかけ（2）
第11回 ８ 法と言語
第12回 ９ 言語障害
第13回 １０ 言語情報処理はどこまで来たか
第14回 DVD「英語が会社にやってくる」を見て、それについて議論。
第15回 総括。ペイパー提出。

履修上の注意点

6回以上休むと単位が認められない。

教科書

ことばの力学
著者:　白井恭弘
出版社:　岩波新書
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（（ペイパー）50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度　（ 20 ）
感想や質問など、口頭での発表を重視します。参加度20%のうち、10%はe-learning自学自習。

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ ＜＊B＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　西村 友美

テーマ

アカデミック・スキルの習得

授業の到達目標

高校とは違う大学での学びとはなにかを知り、少しずつ自分の学びをつくりあげられるようにすること。 (1) 大学で学ぶために必要なアカデミック・スキルを身につける。 (2) 英語を学ぶ意味を考え、その強化を図る。 (3) 英語コミュニケーション学科で学ぶ専門領域の基礎的文献を読む。 (4) 平常の授業を通して、自ら考え、自ら行動する習慣を身につける。

授業の概要

基本的には、課題の reading articles や図書を読んで授業で発表・討論すること、レポートの書き方を訓練することが中心になる。それらー連の活動から、自ら考え、自ら行動する力を養う。

準備学習（予習・復習）

発表のための reading や発表練習をする。英語力強化のために授業外で e-learning に取り組む。

内　容

第1回　大学で英語を学ぶということを考える
第2回　プレゼン①、レポート①提出
第3回　アカデミック・スタディーズ(1)、プレゼン②グループで準備
第4回　アカデミック・スタディーズ(2)、プレゼン②グループで準備
第5回　アカデミック・スタディーズ(3)、プレゼン②グループで準備
第6回　受講生のプレゼン②と全員での討論、レポート②ドラフトの提出
第7回　受講生のプレゼン②と全員での討論
第8回　受講生のプレゼン②と全員での討論
第9回　受講生のプレゼン②と全員での討論
第10回　受講生のプレゼン②と全員での討論、レポート②ファイナルの提出
第11回　受講生のプレゼン③と全員での討論
第12回　受講生のプレゼン③と全員での討論、レポート③ドラフトの提出
第13回　受講生のプレゼン③と全員での討論
第14回　受講生のプレゼン③と全員での討論
第15回　まとめ、レポート③ファイナルの提出

履修上の注意点

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 20 ）
参加度 20% のうち、10% はe-learning 自学自習。

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅠ ＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　アンガス ノーマン	

テーマ

Getting into Academia

授業の到達目標

1. To make the students more informed about their chosen major; 2. to have the students get into good and regular reading habits; 3. to encourage students to think in an academic, logical, informed and glocal way; 4. to give students the opportunity to form and express their opinions; 5. to encourage students to take notes; and 6. to give students the chance to make presentations and improve their presentation skills.

授業の概要

In this class we will read about various academic issues related to English and Communication. Students will choose a topic from the list and then read an acdemic or semi-academic text on the subject before making PowerPoint presentations on their chosen topic. A variety of in-class discussion and written activities will be held after each presentation.

準備学習（予習・復習）

Watch the news daily, read the newspaper regularly, and read related materials on English and Communication topics.

内　容

第1回　Introduction: The Desire and Pursuit of the Whole: text and discussion
第2回　Model Presentation: Global Languages – are they a good thing?
第3回　Student Topics 1 & 2: The Origin of Language & The History of the English and Japanese Languages
第4回　Student Topics 3 & 4: Enculturation & Defamiliarization
第5回　Student Topics 5 & 6: World Englishes & Comparing the Japanese and English Languages
第6回　Student Topics 7 & 8: The Self and the Other & Stereotyping
第7回　Student Topics 9 & 10: NVC & Individual and the Group
第8回　Student Topics 11 & 12: Foreign Language Acquisition & English Education in Japan
第9回　Student Topics 13 & 14: Culture Shock & Intercultural Competence
第10回　Student Topics 15 & 16: Worldviews & Glocalization
第11回　Student Topics 17 & 18: Different World Lifestyles & Cultural Differences
第12回　Student Topics 19 & 20: Language Death & Language and IT
第13回　Student Topic 21: Conflict and Resolution
第14回　Introduction to Academic Writing and Report Preparation
第15回　Final roundup and discussion

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ ＜＊A＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　浅井　雅志	

テーマ

大学の学習スタイルを身につける

授業の到達目標

自分を取り巻く状況から「問題」を発見し、それについて調べて考え、その内容を発表し、議論する能力の伸長

授業の概要

前期に習得した「問題」の発見の仕方、資料の調べ方、論の展開の仕方、発表の仕方、等々の力を生かして、今度は自分で「問題」を見つけ、それについて調べ、レジュメにまとめて発表してもらう。発表は数人のグループで行い、その後、前期と同じ要領でディスカッションを行いたい。ペイパーの書き方、参考文献の使い方や引用の方法についても指導する。

準備学習（予習・復習）

前期と同様、英語や英語圏文化について本を読み、テレビの特集番組などを見る。英語力強化のために授業外でe-learningに取り組む。

内　容

第1回　前期ペイパー返却、講評、後期へのイントロダクション
第2回　発表①
第3回　発表②
第4回　発表③
第5回　発表④
第6回　発表⑤
第7回　発表⑥
第8回　発表⑦
第9回　発表⑧
第10回　発表⑨
第11回　発表⑩
第12回　発表⑪
第13回　発表⑫
第14回　発表⑬
第15回　発表⑭、総括。ペイパー提出

履修上の注意点

6回以上欠席すると、単位が認められない。

教科書

参考書

成績評価

試験　（（ペイパー）50 ）	小テスト（　）
授業中課題　（　）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 20 ）	

参加度20%のうち、10%はe-learning 自学自習。

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ ＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　西村　友美	

テーマ

アカデミック・スキルの深化

授業の到達目標

「研究入門ゼミⅠ」で習得したアカデミック・スキルをより発展させ、自ら問題を発見し、表現する力を深化させる。

授業の概要

課題図書は「研究入門ゼミⅠ」で読んだものより専門性が高くなる。また、Critical な読みができるよう、自ら参考文献に当たって、読みを深めていく。発表では、異文化コミュニケーションに関する問題をグループで討議して、その成果をクラスでプレゼンする。レポート執筆では、ピア・リーディングを導入し、よりよい書き方を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

英語コミュニケーション学科で学ぶ専門領域の文献を読む。その他日頃からコミュニケーションに関する本や新聞を読み、TV などを見て、発表のテーマを自ら探す。英語力強化のため授業外で e-learning に取り組む。

内　　容

第1回　受講生のプレゼンと全員での討論（1回目）
第2回　受講生のプレゼンと全員での討論（1回目）、レポート①のドラフト提出
第3回　受講生のプレゼンと全員での討論（1回目）
第4回　受講生のプレゼンと全員での討論（1回目）
第5回　受講生のプレゼンと全員での討論（1回目）
第6回　受講生のプレゼンと全員での討論（1回目）、レポート①のピア・リーディング
第7回　受講生のプレゼンと全員での討論（1回目）
第8回　中間まとめ、レポート①のファイナル提出
第9回　受講生のプレゼンと全員での討論（2回目）
第10回　受講生のプレゼンと全員での討論（2回目）、レポート②のドラフト提出
第11回　受講生のプレゼンと全員での討論（2回目）
第12回　受講生のプレゼンと全員での討論（2回目）
第13回　受講生のプレゼンと全員での討論（2回目）、レポート②のピア・リーディング
第14回　受講生のプレゼンと全員での討論（2回目）
第15回　まとめ、レポート②ファイナル提出

履修上の注意点

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 20 ）
参加度 20% のうち、10%は e-learning 自学学習。

2016 Syllabus

科 目 名　**研究入門ゼミⅡ ＜＊C＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　アンガス ノーマン

テーマ

Study Strategies and Getting to Know the Modern World

授業の到達目標

1. To make the students more informed about world issues; 2. to have the students get into good and regular reading habits; 3. to encourage students to think in an academic, logical, informed and global way; 4. to give students the opportunity to express their opinions; 5. to encourage students to take notes; and 6. to give students the chance to make presentations and improve their presentation skills.

授業の概要

In this class we will read about various major world issues. Students will make PowerPoint presentations on one of the twenty-one topics, and a variety of in-class discussion and written activities will be held after each presentation, and also after each five weeks.

準備学習（予習・復習）

Watch the news daily, read the newspaper regularly, and read related materials on global topics.

内　容

第1回　イントロ：クラスの目標・評価とStudy Skills 1
第2回　池上彰の世界地図・テキストの紹介や発表の分担とStudy Skills 2
第3回　池上彰「ニュース、そこからですか！？」第1章
第4回　池上彰「ニュース、そこからですか！？」第2章
第5回　池上彰「ニュース、そこからですか！？」第3章
第6回　池上彰「ニュース、そこからですか！？」第4章
第7回　池上彰「ニュース、そこからですか！？」第5章
第8回　池上彰「ニュース、そこからですか！？」第6章
第9回　国別のテキストと教員発表（発表の見本）
第10回　受講生選択国別」テキストと発表1
第11回　受講生選択国別」テキストと発表2
第12回　受講生選択国別」テキストと発表3
第13回　受講生選択国別」テキストと発表4
第14回　受講生選択国別」テキストと発表6
第15回　受講生選択国別」テキストと発表6とまとめ

履修上の注意点

教科書

「ニュース、そこからですか！？」
著者：　池上彰
出版社：文藝春明
出版年：2012　　ISBN：　9784166608508

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　Reading & Vocabulary Building Ⅰ <a>

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　西村 友美

テーマ

Develop reading and vocabulary skills.

授業の到達目標

This course aims to build students' reading and vocabulary-building skills.

授業の概要

Students will work on reading a short passage each week, with the use of grammar and vocabulary knowledge they already have. They will also read some graded readers of their own choice for further reading in and out of class.

準備学習(予習・復習)

Study for the weekly vocabulary quizzes, and review the readings for the review tests.

内　容

第1回　Introduction
第2回　unit 1
第3回　unit 2
第4回　unit 3
第5回　unit 4
第6回　unit 5
第7回　unit 6
第8回　mid-term review test
第9回　unit 7
第10回　unit 8
第11回　unit 9
第12回　unit 10
第13回　unit 11
第14回　unit 12
第15回　final review and evaluation

履修上の注意点

教科書

Learn the Differences, Broaden Your World!
著者:　Nobumichi Kawada
出版社:　Asahi Press
出版年:　2016　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　(60%)　　小テスト (20%)
授業中課題 (　)　　授業中発表等 (　)
参加度　(20%)
The final quiz on the basic 1,000 word list will make up 20% of the final grade for all RVB I classes.

2016 Syllabus

科 目 名　Reading & Vocabulary Building Ⅰ <b>

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　山﨑 清水

テーマ

リーディング演習

授業の到達目標

平易な文章で書かれた英文を読みながら読解力と語彙力を身につけることを目指す。

授業の概要

西洋人と日本人の違いを考察する。

準備学習（予習・復習）

予習すること。詳細は授業で説明する。

内　容

第1回　Differences in Greetings between Japan and the West
第2回　Which Is More Difficult, English or Japanese?
第3回　Different Ways of Thinking: Sense of Identity
第4回　Mysteries of Alphabet and Kanji
第5回　Laughing in Culture and Science
第6回　Different Americans and the Same Japanese
第7回　Japanese Outlook on Religions
第8回　Compact Culture in Japan
第9回　Life after Death: Differences between Christianity and Buddhism
第10回　Aging Society with the Declining Birthrate
第11回　Right Culture and Left Culture
第12回　Foot Culture and Hand Culture
第13回　What Labor Means in Japan and the West
第14回　Westernization of Japan and the Japanese Culture
第15回　English Education in Japan and Why Japanese Are Poor at English

履修上の注意点

私語は慎むこと。

教科書

Step Up to Better English
著者:　石井 隆之 / 喜多 尊史 / Joe Ciunci / Lance Burrows / 馬渡 秀孝
出版社:　朝日出版社
出版年:　2009　　ISBN:　9784255154695

参考書

成績評価

試験 （ 40 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 10 ）
（期末のVocabulary Test=20%）

2016 Syllabus

科 目 名　Reading & Vocabulary Building Ⅰ <c>

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　ﾒｶﾞﾝ･ｸﾞｨﾝ･ｴﾘｽ

テーマ

A Pre-intermediate Reading and Vocabulary course on contemporary topics.

授業の到達目標

1. To introduce students to a variety of contemporary topics and their English vocabulary. 2. To ensure complete confidence with a basic 1,000 word vocabulary. 3. To develop pre-intermediate reading and vocabulary skills and knowledge. This class will be taught in English.

授業の概要

In the first semester we will look at a number of short texts on very different topics. Students will learn the vocabulary necessary to communicate in contemporary situations, and reinforce grammatical structures learned in high school. All RVB students will have a final vocabulary test in July on the 1,000 Kilgarrif Frequency Word List. This will make up 20% of their final grade.

準備学習（予習・復習）

Regular written homework based on the text will be given every two weeks. In addition, students will prepare during the weeks in between for small in-class vocabulary tests of 200 words. Students are encouraged to use the graded readers as supplemental reading.

内　容

第1回　Course Introduction. Textbook: Unit 1 - Olympic Cities
第2回　Vocabulary 1-200. Textbook Unit 2 - Graffiti
第3回　Textbook Unit 3 - Trans fats
第4回　Vocabulary 200-400. Textbook Unit 4 - Identity Theft
第5回　Textbook Unit 5 - Space Tourism
第6回　Vocabulary 400-600. Textbook Unit 6 - Volunteering
第7回　Textbook Unit 7 - Cultural Taboos
第8回　Vocabulary 600-800. Textbook Unit 8 - Internet Communities
第9回　Textbook Unit 9 - Artificial Intelligence
第10回　Vocabulary 800-1000. Textbook Unit 10 - E-books
第11回　Textbook Unit 11 - Climate Change
第12回　Vocabulary 1-1000. Textbook Unit 12 - Single Child Families
第13回　Textbook Unit 14 - Multiculturalism
第14回　Test on idioms.
第15回　Final discussion and evaluation.

履修上の注意点

To pass the course you must attend at least 11 classes. Students will have regular reading homework with questions on the text. These will be checked and go towards the final grade. There will also be regular vocabulary quizzes; and a final quiz on the basic 1,000 word list. This final vocabulary test will make up 20% of the final grade.

教科書

Reading Pass 1 by Andrew Bennet

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 40 ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　Reading & Vocabulary Building Ⅱ <a>

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　西村 友美

テーマ

Develop reading and vocabulary skills.

授業の到達目標

This course aims to build students' reading and vocabulary-building skills.

授業の概要

Students will work on reading a middle-length passage each week. Various types of articles will be presented, and students will learn logic and structure of what they read. They will also read some graded readers of their own choice for further reading in and out of class.

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　Introduction
第2回　unit 1
第3回　unit 2
第4回　unit 3
第5回　unit 4
第6回　unit 5
第7回　unit 6
第8回　mid-term review test
第9回　unit 7
第10回　unit 8
第11回　unit 9
第12回　unit 10
第13回　unit 11
第14回　unit 12
第15回　final review and evaluation

履修上の注意点

教科書

参考書

Multicultural Japan
著者：　Carolyn Wright et al.
出版社：Nanundo
出版年：2010　　ISBN：

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト（ 20% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 20% ）
The final quiz on the basic 2,000 word list will make up 20% of the final grade for all RVB II classes.

2016 Syllabus

科 目 名　Reading & Vocabulary Building Ⅱ <b>

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　山﨑 清水

テーマ

リーディング演習

授業の到達目標

読解力と語彙力を身につけることを目指す。

授業の概要

様々な著者による小説やエッセイを読んで読解力を養う。

準備学習（予習・復習）

予習すること。詳細は授業で説明する。

内　容

第1回　プリント
第2回　プリント
第3回　プリント
第4回　プリント
第5回　プリント
第6回　プリント
第7回　プリント
第8回　プリント
第9回　プリント
第10回　プリント
第11回　プリント
第12回　プリント
第13回　プリント
第14回　プリント
第15回　プリント

履修上の注意点

私語は慎むこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 40 ）　　小テスト （ 10 ）
授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 10 ）
（期末のVocabulary Test=20%）

2016 Syllabus

科 目 名　Reading & Vocabulary Building Ⅱ <c>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　ﾒｶﾞﾝ･ｸﾞｨﾝ･ｴﾘｽ	

テーマ

A Pre-intermediate Reading and Vocabulary course on contemporary topics.

授業の到達目標

1. To introduce students to a variety of contemporary topics and their English vocabulary. 2. To ensure complete confidence with a basic 2,000 word vocabulary. 3. To develop pre-intermediate reading and vocabulary skills and knowledge. This class will be taught in English.

授業の概要

In the second semester we will look at a number of short texts on very different topics. Students will learn the vocabulary necessary to communicate in contemporary situations, and reinforce grammatical structures learned in high school. All RVB students will have a final vocabulary test in July on the 2,000 Kilgarrif Frequency Word List. This will make up 20% of their final grade.

準備学習（予習・復習）

Regular written homework based on the text will be given every two weeks. In addition, students will prepare during the weeks in between for small in-class vocabulary tests of 200 words. Students are encouraged to use the graded readers as supplemental reading.

内　容

第1回　Course introduction. Textbook - Unit 1
第2回　Vocabulary 1000-1200 Textbook - Unit 2
第3回　Textbook - Unit 3
第4回　Vocabulary 1200-1400. Textbook - Unit 4
第5回　Textbook - Unit 5
第6回　Vocabulary 1400-1600. Textbook - Unit 6
第7回　Textbook - Unit 7
第8回　Vocabulary 1600-1800. Textbook - Unit 8
第9回　Textbook - Unit 9
第10回　Vocabulary 1800-2000. Textbook Unit 10
第11回　Textbook - Unit 11
第12回　Vocabulary 1000-2000. Textbook - Unit 12
第13回　Textbook - Unit 13
第14回　Test on idioms from class reading.
第15回　Final discussion and evaluation.

履修上の注意点

To pass the course you must attend at least 11 classes. Students will have regular reading homework with questions on the text. These will be checked and go towards the final grade. There will also be regular vocabulary quizzes; and a final quiz on the basic 2,000 word list. This final vocabulary test will make up 20% of the final grade.

教科書

Real Reading 2
著者:　David Wiese
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　Listening Ⅰ <a>

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定　到達度別

担 当 者　山﨑 清水

テーマ

リスニング能力を体得

授業の到達目標

リスニング力向上と英語特有のリズムとイントネーションに慣れることを目指す。

授業の概要

DVDやディクテーションなどのクラスアクティビティーを取り入れながら、テキストを中心にリスニングの基礎づくりをする。中間・学期末試験の他、小テストは随時実施する。

準備学習（予習・復習）

日頃から積極的に英語を聴くように心がけること。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Victoria, Canada
第3回　Cameroon
第4回　North Island, New Zealand
第5回　Nepal
第6回　復習
第7回　Birmingham, England
第8回　Nice, France
第9回　Wisconsin, U.S.A.
第10回　Rio, Brazil
第11回　復習
第12回　Wicklow, Ireland
第13回　Geneva, Switzerland
第14回　Gold Coast, Australia
第15回　St. Andrews, Scotland

履修上の注意点

私語は慎むこと。

教科書

World Explorer
著者：　John S. Lander
出版社：朝日出版社
出版年：2004　　ISBN：　9784255153872

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度　（ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　Listening Ⅰ <b>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　西村 友美	

テーマ

英語のリズムとイントネーションの体得

授業の到達目標

特に日本人が苦手とする英語特有のリズムとイントネーションに気づき、慣れることをめざす。

授業の概要

テキストを中心に、身近なトピックスとバラエティーにとんだアクティビティーでリスニングの基礎づくりをする。また、特に日本人が苦手とする英語特有のリズムとイントネーションに気づき、慣れることを目指す。中間・終了テスト以外に、小テストをする。

準備学習（予習・復習）

アウトプット（授業で説明するシャドーイングなど）を日課的に行う。自分の気に入ったマテリアル（映画や音楽）を選んでどんどん聞く。

内　容

第1回　授業の説明、リズムの基本
第2回　自己紹介、英語のリズム
第3回　要望の仕方
第4回　旅行の計画、ビデオ—日本人のリスニングの弱点（1）
第5回　公共交通機関の使い方、ビデオ—日本人のリスニングの弱点（2）
第6回　レストランでの注文、ビデオのまとめ—レポート提出
第7回　中間テストとまとめ
第8回　強く発音される音（1）
第9回　道を尋ねる、強く発音される音（2）
第10回　ショッピング、弱く撥音される音（1）
第11回　紛失物、弱く撥音される音（2）
第12回　病院で
第13回　経験を伝える
第14回　旅慣れる
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

Adventures Abroad
著者：　Dale Fuller　Kevin Cleary
出版社：MACMILLAN LANGUAGEHOUSE
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 50 ）	小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　Listening Ⅱ <a>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　野口　博代	

テーマ

自然な英語を聴きながらリスニングスキルの基礎を学習する。

授業の到達目標

DVDを通して、語彙の強化及び様々な表現を学習しながら、リスニングの力を養うことを目標とします。

授業の概要

テレビ番組のトークショー形式で構成されたDVD映像を教材に、様々なリスニングタスクを行います。

準備学習（予習・復習）

教科書付属のDVDを自宅でも試聴したり、興味ある英文を毎日聴くようにする事。

内　容

第1回　Introduction / Unit 1 New Friends, New Faces
第2回　Unit 1 / Unit 2 Express Yourself!
第3回　Unit 2 / Unit 3 What Do We Need?
第4回　Unit 3 / Unit 4 Vacation!
第5回　Unit 4 / Unit 5 Heroes
第6回　Unit 5 / Unit 6 The Mind
第7回　Unit 6 The Mind
第8回　Review for Unit 1 – Unit 6
第9回　Unit 7 In the City
第10回　Unit 8 All About You
第11回　Unit 9 Change
第12回　Unit 10 Your Health
第13回　Unit 11 That's Amazing!
第14回　Unit 12 At the Movies
第15回　Review for Unit 7 – Unit 12

履修上の注意点

教科書付属のDVDを自宅学習で活用し、授業にも毎回持参すること。

教科書

Good Morning World 2
著者:　Susan Stempleski / James R. Morgan / Nancy Douglas
出版社:　CENGAGE Learning
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 40% ）	小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ 20% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　Listening Ⅱ <b>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　日高 周平	

テーマ

TOEICのリスニングセクション対策と基礎文法の確認。

授業の到達目標

TOEICのリスニングセクションで、300点以上を狙う。

授業の概要

プリントを使い、基礎的な文法の確認をおこなったあと、リスニング問題に取り組む。

準備学習（予習・復習）

第一回講義で配布するTOEIC対策用の単語リストを暗記する事。

内　容

第1回　授業概要、TOEICについての説明、アプリの登録
第2回　名詞とPart 1
第3回　副詞とPart 1
第4回　形容詞とPart 1
第5回　形容詞の前置修飾とPart 2
第6回　形容詞の後置修飾とPart 2
第7回　文法問題の復習とPart 2
第8回　主語動詞・時制の一致とPart 2
第9回　関係詞とPart 2
第10回　従属接続詞とPart 3
第11回　熟語とPart 3
第12回　代名詞・再帰代名詞とPart 4
第13回　その他頻出問題とPart 4
第14回　総合復習Aと到達度確認テスト
第15回　総合復習Bと模試

履修上の注意点

初回配布の単語プリント、各講義で配る文法プリントを暗記すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）	小テスト （ 40 ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 60 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　Listening Ⅲ <a>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　山﨑 清水	

テーマ

リスニング能力を体得

授業の到達目標

リスニング力向上と英語特有のリズムとイントネーションに慣れることを目指す。

授業の概要

DVDやディクテーションなどのクラスアクティビティーを取り入れながら、テキストを中心にリスニングの基礎づくりをする。中間・学期末試験の他、小テストは随時実施する。

準備学習（予習・復習）

日頃から積極的に英語を聴くように心がけること。

内　容

第1回　The Hunger Games: Catching Fire
第2回　Blue Jasmine
第3回　Oz the Great and Powerful
第4回　Trance
第5回　Elysium
第6回　After Earth
第7回　Gravity
第8回　The Imitation Game
第9回　White House Down
第10回　Big Hero 6
第11回　Third Person
第12回　12 Years a Slave
第13回　The Butler
第14回　Foxcatcher
第15回　Interstellar

履修上の注意点

私語は慎むこと。

教科書

Movie English
著者:　John S. Lander
出版社:　朝日出版社
出版年:　2016　　ISBN:　9784255155852

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度　（ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　Listening Ⅲ <b>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　西村　友美	

テーマ

直聴直解技術の体得

授業の到達目標

(1) 英語を直聴直解できるようになること。(2) 英語のリスニングにはどんな戦略が必要なのか、自分がどんなリスニングの 弱点を持っているのか、また、その克服の為にどんなトレーニング法を実行していけばよいか、などの問題に自ら答えを出せるようになること。

授業の概要

シチュエーションに応じた語彙や表現をさらに増やし、聞いたものを直解するトレーニングをおこなう。授業も英語でおこなう。教科書はホームステイを題材にしたものなので、留学時に役立つ知識も吸収できるであろう。中間・終了テスト以外に、小テストをする。最後に、授業で提供されるマテリアルや情報を通じて、英語のリスニングにはどんな戦略が必要なのか自分がどんなリスニングの弱点を持っているのか、また、その克服の為にどんなトレーニング法を実行していけばよいか、などの問いに自ら答えを出せるようにする。

準備学習（予習・復習）

教科書を使ったアウトプット（授業で説明するシャドーイングなど）を日課的に行う。自分の気に入ったマテリアル（映画や音楽）を選んでどんどん聞く。

内　容

第1回　英語のリスニング・ストラテジー
第2回　unit 1
第3回　unit 2
第4回　unit 3
第5回　unit 4
第6回　unit 5
第7回　unit 6
第8回　中間まとめ
第9回　unit 7
第10回　unit 8
第11回　unit 9
第12回　unit 10
第13回　unit 11
第14回　unit 12
第15回　総合まとめ

履修上の注意点

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験 （ 50 ）　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ ）　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　Listening Ⅳ <a>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　野口　博代	

テーマ

Improving Practical Listening Skills

授業の到達目標

様々な素材の英語を扱った教材を用いて、実践的なリスニングの力を鍛えることを目標とする。

授業の概要

様々な素材の英語をたくさん聞き、豊富な練習問題に取り組みます。さらに英語特有の音や音の変化、イントネーション、リズムについても学習します。

準備学習（予習・復習）

教科書付属のCDや、興味のある英文を継続して聴くこと。

内　容

第1回　Introduction: The sounds of English
第2回　Unit 1　Work, relax, and play!
第3回　Unit 1 / Unit 2 My schedule for Friday
第4回　Unit 2 / Unit 3 How's the weather there?
第5回　Unit 3 / Unit 4 Looking for an apartment?
第6回　Unit 4 / Unit 5 How do I use this camera?
第7回　Unit 5 &　Review
第8回　Challenge & Review 1
第9回　Unit 6　A great price, today only!
第10回　Unit 7　Could you hold the line?
第11回　Unit 8　We should have a party!
第12回　Unit 9　Your attention, please!
第13回　Unit10　Can you fill out this form?
第14回　Review
第15回　Challenge & Review 2

履修上の注意点

テキスト付属のCDを自宅学習で活用し授業にも毎回持参すること。

教科書

Real-World　Listening
著者：　Richard Blight / Eri Tanaka / Tanya McCarthy
出版社：　CENGAGE Learning
出版年：　2010　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0% ）　　小テスト　（ 40% ）
授業中課題　（ 20% ）　　授業中発表等　（ 20% ）
参加度　（ 20% ）

2016 Syllabus

科 目 名　Listening Ⅳ <b>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　日高 周平	

テーマ

日常生活で必要となるリスニング能力の向上。

授業の到達目標

語彙力の育成と、文法の理解を深め、TOEIC形式でのリスニング能力の向上を目指す。

授業の概要

書く講義でプリントを使い語句と文法の確認をした後、TOEIC形式のリスニング問題に取り組む。

準備学習（予習・復習）

第一回講義で配布するTOEIC対策用の単語リストを暗記する事。

内　容

第1回　授業概要、TOEICについての説明、Quizletの登録と使用方法の説明、TOEIC形式問題に必要な語句についての説明。
第2回　問題集 1 とリスニング Pt 1
第3回　問題集 2 とリスニング Pt 1
第4回　問題集 3 とリスニング Pt 2
第5回　問題集 4 とリスニング Pt 2
第6回　問題集 5 とリスニング Pt 2
第7回　問題集 6 とリスニング Pt 2
第8回　問題集 7 とリスニング Pt 2
第9回　問題集 8 とリスニング Pt 3
第10回　問題集 9 とリスニング Pt 3
第11回　問題集 10 とリスニング Pt 3
第12回　問題集 11 とリスニング Pt 4
第13回　問題集 12 とリスニング Pt 4
第14回　問題集 13 とリスニング Pt 4
第15回　問題集 14 と到達度確認テスト

履修上の注意点

初回配布の単語プリントを暗記し、各講義で配る文法問題の復習をすること。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）	小テスト （ 40 ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 60 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　Writing & Academic Presentation Ⅰ <a>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　ﾒｶﾞﾝ･ｸﾞｨﾝ･ｴﾘｽ	

テーマ

Developing upper-intermediate level writing and presentation skills

授業の到達目標

1. To reinforce and extend writing skills learned in high school 2. To develop basic presentation skills on a variety of topics 3. To procuce a final, formally-typed essay of over 300 words　　Note: this class will be taught in English

授業の概要

The written work and presentations that students will make, including one Power Point presentation, will build into a portfollio that will be of use during the students' SAP, GFP or CTP programmes. All WAP I students will be required to produce a final 300 word essay based on their presentations.

準備学習（予習・復習）

Practice of writing and presentation skill using textbook exercises; and preparation for the three presentations required.

内　容

第1回　Course Introduction; Textbook orientation
第2回　Textbook - Unit 1: writing preparation (Introduce Self)
第3回　Textbook - Unit 1: presentation skills (Introduce Self 2)
第4回　Student presentation - This Is Me
第5回　Textbook - Unit 3: writing preparation (Japan's Global Responsibility)
第6回　Textbook - Unit 3:presentation preparation (Japan's Global Responsibility 2)
第7回　Student presentation - Japan In The World
第8回　Textbook - Unit 5: slide-show preparation (World Issues)
第9回　Textbook - Unit 5/6: writing and slide-show preparation (World Issues 2)
第10回　Student presentation (Power Point) - I Want To Change This World
第11回　Basic writing - process writing, paragraphs, topic sentences
第12回　Basic writing - format, introduction, essay body, conclusion
第13回　Preparation for 300 word essay - This Is Me And The World I Live In
第14回　Preparation for 300 word essay - This Is Me And The World I Live In (2)
第15回　Final Essay: 300 words

履修上の注意点

Students will have regular writing homework for their presentations which will count towards the final grade. The final essay of 300 words will make up 40% of the final grade. All WAP I students must complete the three presentations (one Power Point) and the final essay.

教科書

Presentation Workshop
著者：　C Smith, Y Tsubota, Y Ishikawa, M Dantsuji
出版社：Kinseido Publishing
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　Writing & Academic Presentation Ⅰ <b>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　到達度別

担 当 者　高田 悦子

テーマ

社会に出て役立つ英語プレゼンテーション能力の養成

授業の到達目標

グローバル化の進む日本社会で求められている「英語で考えをまとめ、それを発表するプレゼンテーションスキル」を持つ人材の育成を目指します。

授業の概要

プレゼンテーションの基礎を学び、その後はプロジェクトベースで展開します。「自己紹介」、「ニュースを世界に伝える」、「休暇プラン」などのトピックを 通して＜提案＞や＜PowerPointの使い方＞などのプレゼン技術を学びます。最後に300字程度のエッセイを提出してもらいます。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　Orientation, Basics of an English Presentation
第2回　Project 1“Introducing Yourself” : Step 1
第3回　Project 1“Introducing Yourself” : Step 2
第4回　Project 1“Introducing Yourself” : Step 3
第5回　Project 1“Introducing Yourself” : PRESENTATION
第6回　Project 2“News Digest” : Step 1
第7回　Project 2“News Digest” : Step 2
第8回　Project 2“News Digest” : Step 3
第9回　Project 2“News Digest” : PRESENTATION
第10回　Review
第11回　Project 3“Promoting Your Vacation Plans”: Step 1
第12回　Project 3“Promoting Your Vacation Plans”: Step 2
第13回　Project 3“Promoting Your Vacation Plans”: Step 3
第14回　Project 3“Promoting Your Vacation Plans”: PRESENTATION
第15回　Review

履修上の注意点

教科書

Presentations to Go
著者:　松岡　昇、立野貴之、三宅ひろ子
出版社:　センゲージ　ラーニング株式会社
出版年:　2014　　ISBN:　9784863122642

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 20% ）　　授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 40% ）

2016 Syllabus

科 目 名　Writing & Academic Presentation Ⅰ <c>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　金山 敬	

テーマ

「世界でモノをいう日本人」育成のために

授業の到達目標

英語で考えをまとめ、それを発表するプレゼンテーション技術を育成する。300語程度のプレゼンターションが出来るようになる。

授業の概要

今まで蓄積してきた英語をベースに、プロジェクトを経験しながら、提案や説得できる、あるいは、効果的に情報伝達が出来る英語力を養いつつ、プレゼンテーションの技術を身につけていきます。

準備学習（予習・復習）

発表は原稿を見ないで出来るようにしっかり準備をすること。

内　容

第1回　Orientation, Basics of the English Presentation
第2回　Project 1 "Introducing Yourself"Step 1
第3回　Project 1 "Introducing Yourself"Step 2
第4回　Project 1 "Introducing Yourself"Step 3
第5回　Project 1 "Introducing Yourself"Presentation
第6回　Project 2 "News Digest"Step 1
第7回　Project 2 "News Digest"Step 2
第8回　Project 2 "News Digest"Step 3
第9回　Project 2 "News Digest"Presentation
第10回　Review
第11回　Project 3 "Promoting Your Vacation Plans"Step 1
第12回　Project 3 "Promoting Your Vacation Plans"Step 2
第13回　Project 3 "Promoting Your vacation Plans"Step 3
第14回　Project 3 "Promoting YOur vacation Plans"Presentation
第15回　Review

履修上の注意点

発表の日の欠席は大きく減点します。

教科書

Presentations to Go
著者:　松岡　昇　他
出版社:　センゲージ　ラーニング株式会社
出版年:　2014　　ISBN:　9784863122642

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 20% ）　　授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 40% ）
積極的な授業参加を高く評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　Writing & Academic Presentation Ⅱ <a>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　ﾒｶﾞﾝ･ｸﾞｨﾝ･ｴﾘｽ	

テーマ

Developing upper-intermediate level writing and presentation skills

授業の到達目標

1. To extend writing skills learned in high school 2. To further develop basic presentation skills on a variety of topics 3. To procuce a final, formally-typed essay of over 600 words　　Note: this class will be taught in English

授業の概要

The written work and presentations that students will make, including one Power Point presentation, will build into a portfollio that will be of use during the students' SAP, GFP or CTP programmes. All WAP I students will be required to produce a final 600 word essay based on their presentations.

準備学習（予習・復習）

Practice of writing and presentation skill using textbook exercises; and preparation for the three presentations required.

内　容

第1回　Course introduction
第2回　Textbook Unit 8- writing preparation (Current Issues)
第3回　Textbook Unit 9- writing/poster preparation (Current Issues 2)
第4回　Student presentation: In The News This Week
第5回　Textbook Unit 10 - writing arguments
第6回　Textbook Unit 11 - writing preparation (Internationalizing Education)
第7回　Student presentation: 21st Century Japanese University Life
第8回　Textbook Unit 13 - writing and slide-show preparation (New Technologies)
第9回　Textbook Unit 13 - writing and slide-show preparation (New Technologies 2)
第10回　Student Power Point presentation: Imagine If We Could
第11回　Basic writing - elements of essay writing, creating structure and unity
第12回　Basic writing - coherence, cohesion, editing
第13回　Preparation for 600 word essay
第14回　Preparation for 600 word essay
第15回　Final essay - 600 words

履修上の注意点

Students will have regular writing homework for their presentations which will count towards the final grade. The final essay of 600 words will make up 40% of the final grade. All WAP II students must complete the three presentations (one Power Point) and the final essay.

教科書

Presentation Workshop
著者：　C Smith, Y Tsubota, Y Ishikawa, M Dantsuji
出版社：Kinseido Publishing
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　Writing & Academic Presentation Ⅱ <b>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　高田　悦子	

テーマ

社会に出て役立つ英語プレゼンテーション能力の養成

授業の到達目標

グローバル化の進む日本社会で求められている「英語で考えをまとめ、それを発表するプレゼンテーションスキル」を持つ人材の育成を目指します。

授業の概要

前期に引き続きプロジェクトベースで展開します。「日本紹介」、「社会問題」、「将来」などのトピックを通して＜提案＞や＜Power Pointの使い方＞などのプレゼン技術を学びます。最後に600字程度のエッセイを提出してもらいます。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　Project 4“Introducing Japan” : Step 1
第2回　Project 4“Introducing Japan” : Step 2
第3回　Project 4“Introducing Japan” : Step 3
第4回　Project 4“Introducing Japan” : PRESENTATION
第5回　Project 5“Discussing Social Issues”: Step 1
第6回　Project 5“Discussing Social Issues”: Step 2
第7回　Project 5“Discussing Social Issues”: Step 3
第8回　Project 5“Discussing Social Issues”: PRESENTATION
第9回　Review
第10回　Project 6“Talking about Your Future Plans”: Step 1
第11回　Project 6“Talking about Your Future Plans”: Step 2
第12回　Project 6“Talking about Your Future Plans”: Step 3
第13回　Project 6“Talking about Your Future Plans”: PRESENTATION（ 1）
第14回　Project 6“Talking about Your Future Plans”: PRESENTATION（ 2）
第15回　Review

履修上の注意点

教科書

Presentations to Go
著者:　松岡　昇、立野貴之、三宅ひろ子
出版社:　センゲージ　ラーニング株式会社
出版年:　2014　　ISBN:　9784863122642

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 20% ）	授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 40% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　Writing & Academic Presentation Ⅱ <c>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　　金山　敬	

テーマ

「世界でモノをいう日本人」育成のために

授業の到達目標

英語で考えをまとめ、それを発表するプレゼンテーション技術を育成する。600語程度のプレゼンテーションが出来るようになる。

授業の概要

今まで蓄積してきた英語をベースに、プロジェクトを経験しながら、提案や説得できる、あるいは、効果的に情報伝達が出来る英語力を養いつつ、プレゼンテーションの技術を身につけていきます。

準備学習（予習・復習）

プレゼンは原稿を見ないで、出来るように十分な準備をすること。

内　　容

第12回　Project 6 "Talking about Your Future Plans"Step 3
第13回　Project 6 "Talking about Your Future Plans"Presentation (1)
第14回　Project 6 "Talking about Your Future Plans"Presentation (2)
第15回　Review
第1回　Project 4 "Introducing Japan"Step 1
第2回　Project 4 "Introducing Japan"Step 2
第3回　Project 4 "Introducing Japan"Step 3
第4回　Project 4 "Introducing Japan"Presentation
第5回　Project 5 "Discussing Social Issues"Step 1
第6回　Project 5 "Discussing Social Issues"Step 2
第7回　Project 5 "Discussing Social Issues"Step 3
第8回　Project 5 "Discussing Social Issues"Presentation
第9回　Review
第10回　Project 6 "Talking about Your Future Plans"Step 1
第11回　Project 6 "Talking about Your Future Plans"Step 2

履修上の注意点

発表の日の欠席は大きく減点します。

教科書

Presentations to Go
著者:　松岡　昇　他
出版社:　センゲージ　ラーニング株式会社
出版年:　2014　　ISBN:　9784863122642

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 20% ）　　授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 40% ）
積極的な授業参加を高く評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**多文化理解プログラム講座 I**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　北林　利治	

テーマ

授業の到達目標

①海外留学・国際インターンシップなど、「多文化理解プログラム」のgoalを明確にする。②「多文化理解プログラム」参加にあたっての十分な英語力を養成する。

授業の概要

2回生時に行われる「多文化理解プログラム」を成功させるためには、各人がプログラムの目的や目標をよく考え、明確にすることが大切です。この授業では、多文化理解プログラム履修の明確な目標をもつこととあわせ、いずれにしても、十分な英語力が要求されるので、英語力強化もこの授業の目的とします。

準備学習（予習・復習）

教科書で事前に読んでおく箇所を毎回指示するので予習をしてください。また、教科書に出てくる異文化理解に必要なキーワードを参考資料によって調べる課題を随時求めます。

内　容

第3回　多文化理解プログラムのgoalを考える
第4回　日本在住の外国人（教科書第１章）
第5回　帰国外国人（教科書第２章）
第6回　共文化コミュニケーション（教科書第３章）
第7回　海外留学（教科書第４章）
第8回　海外赴任（教科書第５章）
第9回　海外旅行（教科書第６章）
第10回　国際交渉（教科書第７章）
第11回　国際協力（教科書第８章）
第12回　マスメディアとパーセプション・ギャップ（教科書第９章）
第13回　留学におけるホームステイと異文化理解
第14回　インターンシップと異文化理解
第15回　まとめ
第1回　イントロダクション
第2回　多文化理解プログラムの内容と今後の学習計画

履修上の注意点

次年度の多文化理解プログラムに参加するための準備のクラスであるので、プログラムの情報を随時伝えます。各自、半年の履修中にプログラム内容の理解を深めて、来年度の参加にむけて積極的なクラス参加を望んでいます。なお、座席を指定したいのでご協力をお願いします。

教科書

ケースで学ぶ異文化コミュニケーション
著者:　久米昭元・長谷川典子
出版社:　有斐閣選書
出版年:　2007　　ISBN:

参考書

その都度紹介
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 10 ）
遅刻2回を欠席1回とし、規定の回数以上の欠席がある場合は、いかなる理由でも単位の認定はしません。

2016 Syllabus

科 目 名　International Business English Ⅰ <Z>

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　（閉講：開⇒閉）

テーマ

国際ビジネスにおける実践的英語コミュニケーション力と貿易実務の習得

授業の到達目標

国際ビジネスにおける標準語は英語である。海外のビジネスパートナーとの日々の情報交換はEメールが主流であるが取引相手はネイティブスピーカーとは限らず、ノンネイティブの場合も多い。そのため高度なレベルの英語力は必要ないがシンプルでベーシックな的確に意図が相手に伝えられる実践的なものでなければならない。また貿易で使用される書類は、どこの国で発行されようが全て英語で書かれている。国際ビジネスでは英語力だけでなく貿易全体の仕組みや、貿易実務、専門用語の知識が必須です。さらにスムーズな商談を進めるための交渉能力には異文化理解も国際ビジネスパーソンには必要となります。将来国際ビジネスに係る者にとって最低限身につけておくべき実務能力として、基礎的な英語力、コミュニケーション力、貿易実務を習得します。日商ビジネス英語検定3級の合格レベルを目標とします。

授業の概要

国際商取引に必要な英文ビジネス・ライティングおよび貿易基礎知識を習得します。学校英語ではなく実際に国際ビジネスの現場で使用されている実践的英語を学びます。そのためこれまで学んだ英語の基礎を見直して確実な理解を目指し、仕事で使えるリアルな英語を学びます。また長年の商社で仕事をした私の経験からビジネス分野における異文化理解についても受講生と一緒に考えたいと思います。

準備学習（予習・復習）

予習は不要だが知識を定着させるために復習は必修。

内　容

第1回　オリエンテーション・英文ビジネスライティングの概要
第2回　海外取引の基本的な流れ
第3回　英文ビジネスレター・Eメールの基礎
第4回　海外取引先とビジネス交渉の流れ
第5回　英文ビジネスレターの構成と表現
第6回　貿易における国際ルール
第7回　英文ビジネスライティングの応用
第8回　国際取引に使われる英文文書
第9回　英文契約書の考え方と理解
第10回　インコタームズ（英文定型貿易条件）の概要
第11回　英文ビジネスレター（ケーススタディ）
第12回　国際物流で使われる英語
第13回　海外決済と外国為替で使われる英語
第14回　ビジネス英語のコンテクストと異文化理解
第15回　総括と確認

履修上の注意点

雑談禁止携帯電話は必ず電源を切っておくこと。教室の前方に着席するように心がけること。

教科書

日本商工会議所編「日商ビジネス英語検定　3級公式テキスト（改定版）」
著者：　日本商工会議所編
出版社：日本能率協会マネジメントセンター
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 34% ）　　小テスト （ 33% ）
授業中課題 （ 0% ）　　授業中発表等 （ 0% ）
参加度　（ 33% ）

適時実施する小テストと期末テスト及び出席日数を勘案して総合的に評価する。期間中に日商ビジネス英語検定3級に合格した者は最終評価を特別加点する。

2016 Syllabus

科 目 名　**多文化理解プログラム講座Ⅱ〈＊a〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　浅井　雅志

テーマ

充実した留学生活のために

授業の到達目標

多文化理解プログラムを成功させるための諸能力の獲得

授業の概要

・多文化理解プログラムの学習・生活面を充実したものにするため必要な諸能力を養成する。・まず、留学に関するものを多く読むことによって情報を収集し、同時に読む力を養う。リスニング力養成や、ペーパーを書くための準備などもおこなう。さらに、読んだ内容を授業で順に発表していくことによって、プレゼンやディスカッションの訓練も積んでいく。・授業外のキャンパスライフやホームステイも留学中の重要な側面を形成している。異文化環境で生活するために必要なことを知り、異文化への理解や問題解決力を養成する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第15回　まとめ※この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。
第1回　イントロダクションー留学とは、多文化理解プログラムの目標
第2回　留学希望国の概要を調べる／ホームステイ準備①
第3回　留学希望国の自然環境、生活環境などを調べる／ホームステイ準備②
第4回　留学希望国の民族性、民族問題などを調べる／ホームステイ準備③
第5回　留学希望国の文化：多文化理解などを深める／ホームステイ準備④
第6回　留学希望国の政治、経済状況を調べる／安全対策、リスク管理①
第7回　留学希望国の教育制度などを調べる／安全対策、リスク管理②
第8回　これまでの調査と学習の中間まとめ
第9回　ディスカッション ①　ー気候や環境について
第10回　ディスカッション②　ー食べ物や食生活についてー
第11回　ディスカッション③　ーオーストラリア、カナダ、アメリカの英語ー
第12回　留学経験者の話を聞く①ーアメリカまたはカナダ留学者ー（予定）
第13回　留学経験者の話を聞く②ーオーストラリア留学者ー（予定）
第14回　これまで行った、学習や討論の振り返り

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

参考資料等
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

授業中に指示する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（　）
参加度（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**多文化理解プログラム講座Ⅱ ＜＊b＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　西村 友美

テーマ

充実した留学生活のために

授業の到達目標

多文化理解プログラムを成功させるための諸能力の獲得

授業の概要

・多文化理解プログラムの学習・生活面を充実したものにするため必要な諸能力を養成する。・まず、留学に関するものを多く読むことによって情報を収集し、同時に読む力を養う。リスニング力養成や、ペーパーを書くための準備などもおこなう。さらに、読んだ内容を授業で順に発表していくことによって、プレゼンやディスカッションの訓練も積んでいく。・授業外のキャンパスライフやホームステイも留学中の重要な側面を形成している。異文化環境で生活するために必要なことを知り、異文化への理解や問題解決力を養成する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　イントロダクション－留学とは、多文化理解プログラムの目標
第2回　留学希望国の概要を調べる／ホームステイ準備①
第3回　留学希望国の自然環境、生活環境などを調べる／ホームステイ準備②
第4回　留学希望国の民族性、民族問題などを調べる／ホームステイ準備③
第5回　留学希望国の文化：多文化理解などを深める／ホームステイ準備④
第6回　留学希望国の政治、経済状況を調べる／安全対策、リスク管理①
第7回　留学希望国の教育制度などを調べる／安全対策、リスク管理②
第8回　これまでの調査と学習の中間まとめ
第9回　ディスカッション ①　－気候や環境について
第10回　ディスカッション②　－食べ物や食生活について－
第11回　ディスカッション③　－オーストラリア、カナダ、アメリカの英語－
第12回　留学経験者の話を聞く①－アメリカまたはカナダ留学者－（予定）
第13回　留学経験者の話を聞く②－オーストラリア留学者－（予定）
第14回　これまで行った、学習や討論の振り返り
第15回　まとめ※この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

授業で指示する

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

参考資料等

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

授業中に指示する

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ 20 ）

授業中課題 （ 60 ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**多文化理解プログラム講座Ⅱ ＜＊c＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　北林　利治	

テーマ

充実した留学生活のために

授業の到達目標

多文化理解プログラムを成功させるための諸能力の獲得

授業の概要

・多文化理解プログラムの学習・生活面を充実したものにするため必要な諸能力を養成する。・まず、留学に関するものを多く読むことによって情報を収集し、同時に読む力を養う。リスニング力養成や、ペーパーを書くための準備などもおこなう。さらに、読んだ内容を授業で順に発表していくことによって、プレゼンやディスカッションの訓練も積んでいく。・授業外のキャンパスライフやホームステイも留学中の重要な側面を形成している。異文化環境で生活するために必要なことを知り、異文化への理解や問題解決力を養成する。

準備学習（予習・復習）

毎回、英単語の小テストを行います。テキストの指定した箇所を事前に勉強してきてください。また、参考Websiteによって、英会話の練習を時間外に行ってもらいます。

内　容

第14回　これまで行った、学習や討論の振り返り
第15回　まとめ※この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。
第1回　イントロダクション－留学とは、多文化理解プログラムの目標
第2回　留学希望国の概要を調べる／ホームステイ準備①
第3回　留学希望国の自然環境、生活環境などを調べる／ホームステイ準備②
第4回　留学希望国の民族性、民族問題などを調べる／ホームステイ準備③
第5回　留学希望国の文化：多文化理解などを深める／ホームステイ準備④
第6回　留学希望国の政治、経済状況を調べる／安全対策、リスク管理①
第7回　留学希望国の教育制度などを調べる／安全対策、リスク管理②
第8回　これまでの調査と学習の中間まとめ
第9回　ディスカッション ① －気候や環境について－
第10回　ディスカッション② －食べ物や食生活について－
第11回　ディスカッション③ －オーストラリア、カナダ、アメリカの英語－
第12回　留学経験者の話を聞く① －アメリカまたはカナダ留学者－（予定）
第13回　留学経験者の話を聞く② －オーストラリア留学者－（予定）

履修上の注意点

遅刻は2回で1回分の欠席とします。規定回数以上の欠席については、いかなる理由があっても単位の認定をしません。なお、このクラスの単位が取得できない場合は、留学の参加について審議がなされる場合があります。

教科書

How Culture Affects Communication
著者：　Paul Stapleton
出版社：金星堂
出版年：　　ISBN：　9784764738119

参考書

授業中に指示する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 10 ）
小テストは毎回行います。そのほか、レポート（英語と日本語）を2通、プレゼンテーションを1回行ってもらいます。いずれかの課題が未提出の場合は、60%以上の点数がある場合も単位の認定はできません。

2016 Syllabus

科 目 名　**多文化理解プログラム講座Ⅱ ＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　アンガス　ノーマン	

テーマ

充実した留学生活のために

授業の到達目標

多文化理解プログラムを成功させるための諸能力の獲得

授業の概要

・多文化理解プログラムの学習・生活面を充実したものにするため必要な諸能力を養成する。・まず、留学に関するものを多く読むことによって情報を収集し、同時に読む力を養う。リスニング力養成や、ペーパーを書くための準備などもおこなう。さらに、読んだ内容を授業で順に発表していくことによって、プレゼンやディスカッションの訓練も積んでいく。・授業外のキャンパスライフやホームステイも留学中の重要な側面を形成している。異文化環境で生活するために必要なことを知り、異文化への理解や問題解決力を養成する。

準備学習（予習・復習）

Students will be expected to revise the content of the first introductory classes in order to have a firm grasp of the subject and its background. At a later stage, students will be given topics to research and present to the rest of the class.

内　容

第1回　イントロダクション－留学とは、多文化理解プログラムの目標
第2回　留学希望国の概要を調べる／ホームステイ準備①
第3回　留学希望国の自然環境、生活環境などを調べる／ホームステイ準備②
第4回　留学希望国の民族性、民族問題などを調べる／ホームステイ準備③
第5回　留学希望国の文化：多文化理解などを深める／ホームステイ準備④
第6回　留学希望国の政治、経済状況を調べる／安全対策、リスク管理①
第7回　留学希望国の教育制度などを調べる／安全対策、リスク管理②
第8回　これまでの調査と学習の中間まとめ
第9回　ディスカッション ①　－気候や環境について
第10回　ディスカッション②　－食べ物や食生活について－
第11回　ディスカッション③　－オーストラリア、カナダ、アメリカの英語－
第12回　留学経験者の話を聞く①－アメリカまたはカナダ留学者－（予定）
第13回　留学経験者の話を聞く②－オーストラリア留学者－（予定）
第14回　これまで行った、学習や討論の振り返り
第15回　まとめ※この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

Students should be constantly on the lookout for what is translated in their daily lives: for example, at stations, on food products, at leisure facilties, in shops, on menues etc. They should make constant notes of these translations, and the style in which they are written.

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　Reading & Vocabulary Building Ⅲ <a>

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　末澤　奈津子	

テーマ

Focusing on improving reading English skills

授業の到達目標

The aims of this course are as follows1. to enable students to read and thoroughly understand short English passages at the intermediate level2. to develop a basic vocabulary skills 3. to develop use and understanding of idiomatic expressions

授業の概要

Each week we will focus on a topic either about Japanese culture, or about intercultural issues.

準備学習（予習・復習）

Each week, students will have a homework review test

内　容

第1回　Orientation
第2回　What is critical thinking
第3回　Write your problems on a note pad
第4回　Media literacy
第5回　Xenophobia
第6回　Telephone Message Game
第7回　Analyze your pattern of thinking
第8回　The difference between Fact and Opinion
第9回　The pitfalls of the English Language
第10回　What is your blood type
第11回　How to make a persuasive presentation
第12回　Presentation Preparation / Speech Contest preparation
第13回　Presentation 1
第14回　Presentation 2
第15回　Speech Contest /　Review

履修上の注意点

毎回授業の最初に宿題の確認・予習の確認のquizをします。Quizのスコアが小テストスコアになります。

教科書

An invitation to critical thinking
著者:
出版社: 南雲堂
出版年:　ISBN: 9784523178217

参考書

成績評価

試験 （ 40 ）　小テスト （ 40 ）
授業中課題 （ ）　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20 ）
小テスト includes as follows quiz 20 % presentation 20 %（期末のVocabulary Test=20%）

2016 Syllabus

科 目 名　Reading & Vocabulary Building Ⅲ <b>

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　ｼﾞｪｰﾑｽ ﾃﾞｨｰｸﾞﾙ	

テーマ

Reading Comprehension and Vocabulary Building, Retention, and Usage

授業の到達目標

Students should be able to improve upon their reading comprehension skills as well as advancing their vocabulary.

授業の概要

There will be various readings and exercises completed in class every week. Students will also be responsible for studying for weekly vocabulary tests to prepare them for the end of the semester 3200 word vocabulary test.

準備学習（予習・復習）

The majority of the reading will be done in focus groups in class. Students will then be responsible for completing the assigned classroom tasks and correcting their own work. At the beginning of class when appropriate, students will do practice tests in order to prepare for the final exam.

内　容

第1回　Orientation
第2回　4B: The Changing Face of Kung FuVocabulary Focus: re- & en-
第3回　9B The Teenage BrainVocabulary Practice Test I
第4回　1B Food of the FutureVocabulary Focus: -ance & -ist
第5回　1A Sweet LoveVocabulary Practice Test II
第6回　11A Army AntsVocabulary Focus: co- & Understanding prefixes and suffixes
第7回　11B Unexpected BeautyVocabulary Practice Test III
第8回　7A The Flower TradeVocabulary Practice Test IV
第9回　7B The Power of PerfumeVocabulary Focus: Synonyms
第10回　10A The Big ThawVocabulary Practice Test V
第11回　8A Marco Polo in ChinaVocabulary Practice Test VI
第12回　8B The Travels of Ibn BattutaVocabulary Practice Test Review
第13回　Movie Review IVocabulary in Context I
第14回　Movie Review IIVocabulary in Context II
第15回　Review & Wrap-up

履修上の注意点

教科書

Reading Explorer 2
著者:
出版社: Cengage
出版年:　　ISBN: 9 781305 254473

参考書

成績評価

試験 （ 20 ）　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 20 ）　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 20 ）
（期末のVocabulary Test=20%）

2016 Syllabus

科 目 名　Reading & Vocabulary Building Ⅲ <c>

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　ﾒｶﾞﾝ･ｸﾞｨﾝ･ｴﾘｽ	

テーマ

A Pre-intermediate Reading and Vocabulary course on contemporary topics.

授業の到達目標

1. To introduce students to a variety of contemporary topics and their English vocabulary. 2. To ensure complete confidence with a basic 3,000 word vocabulary. 3. To develop pre-intermediate reading and vocabulary skills and knowledge. This class will be taught in English.

授業の概要

In the first semester we will look at a number of short texts on very different topics. Students will learn the vocabulary necessary to communicate in contemporary situations, and reinforce grammatical structures learned in high school. All RVB students will have a final vocabulary test in July on the 3,000 Kilgarrif Frequency Word List. This will make up 20% of their final grade.

準備学習（予習・復習）

Regular written homework based on the text will be given every two weeks. In addition, students will prepare during the weeks in between for small in-class vocabulary tests of 200-250 words. Students are encouraged to use the graded readers as supplemental reading.

内　容

第1回　Course Introduction. Textbook: Unit 1 -
第2回　Vocabulary 2000-2200 Textbook Unit 2 -
第3回　Textbook Unit 3 -
第4回　Vocabulary . 2200-2450 Textbook Unit 4 -
第5回　Textbook Unit 5 -
第6回　Vocabulary 2450-2700 Textbook Unit 6 -
第7回　Textbook Unit 7 -
第8回　Vocabulary .2700-2950 Textbook Unit 8 -
第9回　Textbook Unit 9 -
第10回　Vocabulary .2950-3200 Textbook Unit 10 -
第11回　Textbook Unit 11 -
第12回　Vocabulary .1-3200 Textbook Unit 12 -
第13回　Textbook Unit 14 -
第14回　Test on idioms.
第15回　Final discussion and evaluation.

履修上の注意点

To pass the course you must attend at least 11 classes. Students will have regular reading homework with questions on the text. These will be checked and go towards the final grade. There will also be regular vocabulary quizzes; and a final quiz on the basic 3,200 word list. This final vocabulary test will make up 20% of the final grade.

教科書

参考書

成績評価

試験 （ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　Listening V <a>

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　浅井 雅志	

テーマ

Improve your listening comprehension

授業の到達目標

The aim of this class is to improve your listening comprehension so that you can cope with various situations in English-spoken environment.

授業の概要

This class will be carried out entirely in English. You listen to a certain passage and take notes; then answer various questions either in the textbook or by the teacher. The teacher will also give you some background information about the topic of the text. Hopefully we will have some discussion on the topic. You will take an exam at the end of the term.

準備学習（予習・復習）

Listen to the CD provided and prepare for the class. Listen to English in whatever form--music, news, recorded stories.

内　容

第1回　Introduction
第2回　Chapter 1
第3回　Chapter 2
第4回　Chapter 3
第5回　Chapter 4
第6回　Chapter 5
第7回　Chapter 6
第8回　Chapter 7
第9回　Chapter 8
第10回　Chapter 9
第11回　Chapter 10
第12回　Chapter 11
第13回　Chapter 12
第14回　Chapter 13
第15回　Summing Up; Evaluation

履修上の注意点

Try to be active in responding and asking questions. If you are absent from the class more than 6 times, you cannot get a credit.

教科書

Social Issues in a Contemporary World
著者:　Naoki Sugimori, et al
出版社:　成美堂
出版年:　2007　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度　（ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　Listening Ⅴ <b>

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　末澤　奈津子	

テーマ

Improving accurate pronunciation skills and listening skills

授業の到達目標

The aims of this course are as follows: 1. to enable students to listen to short English talks and summarize the story in their own English. 2. to develop basic vocabulary skills 3. to develop accurate pronunciation skills

授業の概要

Each week we will listen to a topic either about Japanese culture, or about intercultural issues. Every week, we will have a homework review quiz.

準備学習（予習・復習）

Practice English pronunciation so that you'll be able to listen more clearly.What you can speak is what you can listen.

内　容

第1回　Orientation
第2回　Unit 1 Fashion and Shopping / Eating out
第3回　Unit 3 Entertainment
第4回　Unit 5 Media
第5回　Unit 7 Travel and Airports
第6回　Unit 9 Weather
第7回　Unit 11 Fitness
第8回　Unit 13 Business trips
第9回　Unit 15 Job hunting and Recruitment
第10回　Unit 17 Personal
第11回　Unit 19 Customer service
第12回　Unit 21 Negotiations
第13回　Unit 23 Marketing
第14回　Review 1
第15回　Review 2

履修上の注意点

授業のチャイムと同時に、出席としての小テストを行います。バスや電車の遅延も考慮に入れた上でのご自身の自己管理をお願い致します。小テスト＝出席とみなします。

教科書

Listening Breakthrough for the TOEIC TEST
著者:
出版社: 南雲堂
出版年: 2015　　ISBN: 9784523177692

参考書

成績評価

試験 （ 40 ）　小テスト （ 40 ）
授業中課題 （ 0 ）　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 20 ）
小テスト includes as follows quiz 20%speaking test 20%

2016 Syllabus

科 目 名　Listening Ⅴ <c>

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　　員　30

履修条件　　クラス指定

担 当 者　金山 敬

テーマ

Systematic, step-by-step approach to listening

授業の到達目標

Developing aural and oral fluency through engaging content and practical exercises

授業の概要

Units are thematically structured, including topics which frequently appear in daily conversations.

準備学習（予習・復習）

In each unit you have to do your assignment and perform it in the class.

内　容

第1回　UNIT 1 : Travel
第2回　UNIT 2 : Getting Wired
第3回　UNIT 3 : Houses and Apartments
第4回　UNIT 4 : Work
第5回　UNIT 5 : Campus Life
第6回　UNIT 6 : Entertainment
第7回　UNIT 7 : Getting Married
第8回　UNIT 8 : Health and Medicine
第9回　UNIT 9 : Cars, Boats and Planes
第10回　UNIT 10 : Kids
第11回　UNIT 11 : Eating and Drinking
第12回　UNIT 12 : Exercise and Sports
第13回　UNIT 13 : Time and Clocks
第14回　UNIT 14 : Politics
第15回　Review and Evaluation

履修上の注意点

Your sincere attitude in the class and in the performance is highly recommended.

教科書

Listening Workout
著者:　根間 弘海他
出版社:　南雲堂
出版年:　2007　　ISBN:　452317346

参考書

成績評価

試験　（ 20% ）　　小テスト（ 20% ）
授業中課題（ 20% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 40% ）
積極的な授業参加を高く評価します

2016 Syllabus

科 目 名　Listening Ⅵ <a>

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　野口　博代	

テーマ

Listening for Communication!

授業の到達目標

様々な場面において必要な情報が正確に聞きとれ、また自分の考えを英語で伝える事が出来るようになる事を目標にします。

授業の概要

主に日米間の文化の違いをトピックにとりあげた会話、インタビューなど様々な形式のリスニングタスクを行い、情報を正確にとらえ英語で自分の意見をまとめる練習をします。

準備学習（予習・復習）

初回の授業で指示します。

内　容

第1回　Introduction / weddings
第2回　student jobs / TV stations and programs
第3回　common superstitions / movies and movie theaters
第4回　living at college / national holidays
第5回　Review
第6回　being a volunteer / living with your parents after college
第7回　breakfast habits / spectator sports
第8回　bible and religion / romance and dating
第9回　Christmas / family time
第10回　Review
第11回　discipline at school / shopping on the Net
第12回　high school prom / newspapers
第13回　inappropriate language
第14回　Review
第15回　Review

履修上の注意点

授業中課題が小テストの代わりになるため、欠席、遅刻が多いと評価に影響します。注意してください。

教科書

Cubic Listening：Closing the Culture Gap 2nd Edition
著者：　Timothy Kiggell / Kevin Cleary
出版社：Macmillan Languagehouse
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ 30 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　Listening Ⅵ <b>

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　浅井 雅志	

テーマ

Improve your listening comprehension

授業の到達目標

The aim of this class is to improve your listening comprehension further so that you can understand English more quickly and express yourself in English.

授業の概要

This class will be carried out entirely in English. You listen to a certain passage and take notes; then answer various questions either in the textbook or by the teacher. The teacher will also give you some background information about the topic of the text. Hopefully we will have some discussion on the topic. You will take an exam at the end of the term.

準備学習（予習・復習）

Listen to English as much as possible in whatever form--music, news, recorded stories.

内　容

第1回　Introduction; Intermediate Listening Comprehension 1
第2回　Intermediate Listening Comprehension 2
第3回　Intermediate Listening Comprehension 3
第4回　Intermediate Listening Comprehension 4
第5回　Intermediate Listening Comprehension 5
第6回　Intermediate Listening Comprehension 6
第7回　Intermediate Listening Comprehension 7
第8回　Intermediate Listening Comprehension 8
第9回　Intermediate Listening Comprehension 9
第10回　Intermediate Listening Comprehension 10
第11回　Intermediate Listening Comprehension 11
第12回　Intermediate Listening Comprehension 12
第13回　Intermediate Listening Comprehension 13
第14回　Intermediate Listening Comprehension 14
第15回　exam

履修上の注意点

Try to be active in responding and asking questions. If you are absent from the class more than 6 times, you cannot get a credit.

教科書

Intermediate Listening Comprehension
著者:
出版社: 松柏社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 60 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 10 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　Listening Ⅵ <c>

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　日高 周平	

テーマ

高度なリスニング能力の向上。

授業の到達目標

今まで培ってきた力を更に伸ばし、複雑な内容も細かく聞き取れる力を付ける。

授業の概要

毎回の授業で、TOEIC600点以上レベルの語句と文法を確認した後、リスニング問題に取り組む。

準備学習（予習・復習）

初回の授業で配る単語プリントと、学習した文法は必ず復習すること。

内　容

第1回　授業概要、評価方法などの説明。リスニングの学習方法についての説明など。
第2回　Lesson 1 脳科学の現在　TOEIC Pt 1と5の対策
第3回　Lesson 2 重力とは？　TOEIC Pt 1と5の対策
第4回　Lesson 3 脳波を使った新技術　TOEIC Pt 1と5の対策
第5回　Lesson 4 ゴリラのコミュニケーション能力　TOEIC Pt 2と5の対策
第6回　Lesson 5 90年以降のアメリカ音楽史　TOEIC Pt 2と5の対策
第7回　Lesson 6 イスラム国？　国とは何か　TOEIC Pt 2と5の対策
第8回　Lesson 7 イスラム教とキリスト教　TOEIC Pt 2と5の対策
第9回　Lesson 8 車の未来　TOEIC Pt 2と5の対策
第10回　Lesson 9 アスリートとその環境　アメリカのボクサーの置かれた現状　TOEIC Pt 3と5の対策
第11回　Lesson 10 キューバとアメリカの国交回復　TOEIC Pt 3と5の対策
第12回　Lesson 11 アグリツーリズムとエコロジー　TOEIC Pt 3と5の対策
第13回　Lesson 12 食品添加物と健康　TOEIC Pt 4と6の対策
第14回　Lesson 13 アレルギーとは？　TOEIC Pt 4と6の対策
第15回　総合復習と到達度確認テスト

履修上の注意点

自主的に課題に取り組むこと。遅刻には厳しく対処します。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 60 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　Writing & Academic Presentation Ⅲ <a>

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　高田 悦子	

テーマ

ライティングで学ぶ英語プレゼンテーションの基礎

授業の到達目標

グローバル化が進む社会において、ますます重要になりつつある、世界の共通言語である英語によって、人前で情報を伝えたり、自分の考えを説明することので きる「プレゼンテーション能力 (Presentation Skills in English)」の育成を目指します。

授業の概要

「知識を提供するプレゼンテーション(Informative Presentations)」と、「説得的プレゼンテーション(Persuasive Presentations)を学び、自分でも作成します。3回のスピーチ（内1回はパワーポイント・プレゼンテーション）をおこないます。また、最後に 1000 字程度のエッセイを提出してもらいます。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　Orientation, Chapter 1 Section 1 The History of Our University
第2回　Chapter 1 Section 2 My Favorite Country
第3回　Chapter 1 Section 4 Japan's Education System
第4回　Review
第5回　PRESENTATION 1
第6回　Chapter 1 Section 5 What Is Science?
第7回　Chapter 1 Section 6 Social Networking Services
第8回　Chapter 2 Section 2 The Case for Organ Donation
第9回　Review
第10回　PRESENTATION 2
第11回　Chapter 2 Section 3 Global Warming: What Is to Be Done?
第12回　Chapter 2 Section 4 Exercise and Physical Fitness
第13回　Chapter 2 Section 5 Overpopulation: Causes and Consequences
第14回　Review
第15回　PRESENTATION 3

履修上の注意点

電子辞書を必ず持ってくること。（評価の対象になります。）

教科書

Writing for Presentations in English
著者:　Yoshihito Sugita, Richard R. Caraker
出版社:　南雲堂
出版年:　2012　　ISBN:　9784523177319

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 20% ）　　授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 40% ）

2016 Syllabus

科 目 名　Writing & Academic Presentation Ⅲ <b>

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　金山　敬	

テーマ

知識を提供するプレゼンテーション

授業の到達目標

自分の英語で情報を発信できる能力を養成する。

授業の概要

身近なトピックについての語彙や表現に関する基礎演習からスタートして、チャート的に英語のプレゼンテーションをイメージしながらぱらぐらふ・ライティングを行うことにより、原稿作成とプレゼンテーションの準備を並行して進める。最後に、1000字程度のエッセイを提出してもらいます。

準備学習（予習・復習）

発表は原稿を見ないで出来るようにしっかり準備をすること。

内　　容

第1回　Chapter 1: Section 1-1
第2回　Section 1-2
第3回　Section 2-1
第4回　Section 2-2
第5回　Section 3-1
第6回　Section 3-2
第7回　Section 4-1
第8回　Section 4-2
第9回　Section 5-1
第10回　Section 5-2
第11回　Section 6-1
第12回　Section 6-2
第13回　Chapter 3:Section 1-1
第14回　Section 1-2
第15回　Summary

履修上の注意点

発表の日の欠席は大きく減点します。

教科書

Writing for Presentation in English
著者:　杉田由仁
出版社:　南雲堂
出版年:　2012年　　ISBN:　978-4-523-17731

参考書

成績評価

試験　（ 20 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　Writing & Academic Presentation Ⅲ <c>

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　ﾒｶﾞﾝ･ｸﾞｨﾝ･ｴﾘｽ	

テーマ

Developing intermediate level writing and presentation skills

授業の到達目標

1. To extend writing skills learned in WAP I and WAP II 2. To further develop basic presentation skills on a variety of topics 3. To procuce a final, formally-typed essay of over 1,000 words　　Note: this class will be taught in English

授業の概要

The written work and presentations that students will make, including one Power Point presentation, will build into a portfollio that will be of use during the students' SAP, GFP or CTP programmes. All WAP III students will be required to produce a final 1000 word essay based on their presentations.

準備学習（予習・復習）

Practice of writing and presentation skill using textbook exercises; and preparation for the three presentations required.

内　容

第1回　Course introduction, textbook orientation
第2回　writing preparation 1
第3回　writing preparation 2
第4回　Student presentation
第5回　writing preparation 3
第6回　writing preparation 4
第7回　Student presentation
第8回　writing preparation 5
第9回　writing preparation 6 and Power Point preparation
第10回　Student presentation - Power Point
第11回　Basic writing - format review, topic and main ideas, introduction
第12回　Basic writing - format, supporting ideas, editing
第13回　Preparation for 1000 word essay
第14回　Preparation for 1000 word essay
第15回　Final essay - 1000 words

履修上の注意点

Students will have regular writing homework for their presentations which will count towards the final grade. The final essay of 1000 words will make up 40% of the final grade. All WAP III students must complete the three presentations (one Power Point) and the final essay.

教科書

Present Yourself 2 Viewpoints
著者:
出版社: Cambridge University Press
出版年: 2008　　ISBN: 9780521713306

参考書

成績評価

試験 （ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　Writing & Academic Presentation Ⅲ <d>

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　アンガス ノーマン	

テーマ

Writing and presentation on academic and cultural topics for SAP

授業の到達目標

(1) To familarize the students with more advanced forms of expression and more sophisticated writing styles(2) To develop intermediate presentation skills(3) To reinforce PowerPoint skills and equip students with more advanced PowerPoint functions

授業の概要

This class will prepare SAP, GFP, GIP and CTP students for the more sophisticated types of report and presentations that they will be required to produce when abroad, or in an English-speaking situation. The content will vary from the personal to current affairs. After preparing their topic for two weeks, at home and in class, students will present their written text to the whole class every three weeks. They will also produce a final essay based on one or more of these shorter texts.This class will be taught in English.

準備学習（予習・復習）

Reading of English newspapers and magazines is encouraged as a general preparation. Students will be given writing assignments each week, in preparation for individual advice given in class. Students will also be expected to amend their written work after class, and build it into a quality presentation.

内　容

第1回　Writing Preparation: a personal topic
第2回　Writing Preparation: a personal topic
第3回　Student presentations
第4回　Writing Preparation: a cultural topic
第5回　Writing Preparation: a cultural topic
第6回　Student presentations
第7回　Writing Preparation: a current affairs topic
第8回　Writing Preparation: a current affairs topic
第9回　Student presentations
第10回　Writing Preparation: an academic topic
第11回　Writing Preparation: an academic topic
第12回　Student presentations
第13回　Writing Preparation: for final essay (data and statistics)
第14回　Writing Preparation: for final essay (text)
第15回　Final essay and assessment

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度　（ 30 ）

Students will be required to produce at least three presentations, one of which must be PowerPoint; and a final essay of 1,000 words.

2016 Syllabus

科 目 名　**多文化理解プログラム演習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　アンガス ノーマン	

テーマ

Practicum in Community Translation

授業の到達目標

1. To give students practice in translating a variety of texts that will be of practical use in the Yamashina community2. To enable students to produce a variety of written styles3. To increase awareness of the practicalities of translation work as related to the real world and real people.4. To encourage a linguistic flexibilty of mind.

授業の概要

In this course students will translate solely from Japanese texts into English. After a short introductory section in which we revise what we mean by community translation, and also a variety of translation strategies, students will work on a number of texts. All the texts will be actually related to the foreign community in Japan, and will cover a wide range of topics from medical care, education, to leisure, and daily life. This will build up into a portfolio that students can use as reference at a later stage, when they start on the project-based work of the Global Business II course. This course will be taught basically in English.

準備学習（予習・復習）

Texts will be handed out every two weeks. In the first class, we will read the texts and identify the translation issues involved. Then students will make first draughts as homework. This will take at least 1 hour. They will bring the texts to the following class and present their work before the other students. Finally the teacher will add comments and give feedback, and provide a model translation. Students should then compare their translations to the model, and those of other students after class (30 minutes). Students should be on the lookout for various translated materials that they come across in daily life that relate to the foreign community, like English menus, tourist pamphlets, notices and information produced by local government etc.

内　容

第1回　Revision: what is community translation?
第2回　Revision: translation strategies
第3回　Text 1: translating a menu (1)
第4回　Text 1: translating a menu (2)
第5回　Text 2: translating an event pamphlet (1)
第6回　Text 2: translating an event pamphlet (2)
第7回　Text 3: translating a tourist pamphlet (1)
第8回　Text 3: translating a tourist pamphlet (2)
第9回　Text 4: translating an official letter (1)
第10回　Text 4: translating an official letter (2)
第11回　Text 5: translating a document related to education (1)
第12回　Text 5: translating a document related to education (2)
第13回　Text 6: translating a medical document (1)
第14回　Text 6: translating a medical document (2)
第15回　Final discussion and evaluation

履修上の注意点

教科書

参考書

A Texbook of Translation
著者:　P. Newmark
出版社:　Pretice Hall
出版年:　1988　　ISBN:　9780139125935

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ 30% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**地域文化研究Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　日高 周平	

テーマ

英語圏の文化について、理解を深める。

授業の到達目標

英語圏のマイノリティーに焦点をあて、彼らの生活様式、言語、教育など様々な角度から理解を深めていく。

授業の概要

国際化が進んでいる中、英語圏への理解は学生にとって必用不可欠なものになってきている。英語圏に住むマイノリティーを知る事により、さらに英語圏の人々への理解を深めたい。

準備学習（予習・復習）

課題で扱った異文化への理解を、文献やインターネットを使って深める。

内　容

第1回　ガイダンス（授業の進め方、成績評価方法についての説明など）、マイノリティー／マジョリティーについてのディスカッション
第2回　Maori 1: 歴史、生活様式、アート（Ta moko）、Haka、国歌
第3回　Maori 2: バイリンガル教育、社会福祉問題、文化保存
第4回　Amish 1: 歴史、生活様式、言語、教育、宗教
第5回　Amish 2: 歴史、生活様式、言語、教育、宗教
第6回　Mexican American: 不正入国問題、職業、Mexicanの中でのHip-hop文化
第7回　Jamaican: 歴史、生活様式、言語、宗教
第8回　Jewish 1: 歴史、生活様式、言語、教育、宗教
第9回　Jewish 2: アウシュビッツ
第10回　African American 1: 歴史、言語（発音/イディオム）、文学、音楽、人種差別
第11回　African American 2: 迫害の歴史
第12回　African American 3: ブラックパンサー党
第13回　Japanese American 1: 移民の歴史、移住者の生活など
第14回　Japanese American 2: 第二次大戦中の日系移民
第15回　まとめ、個人研究発表

履修上の注意点

積極的に課題に取り組むこと。また、遅刻に関しては厳しく対処します。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等　（ ）
参加度　（ 60 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英米文学論Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　浅井　雅志	

テーマ

近現代の短編を読む

授業の到達目標

英米を中心とし、ドイツ、フランス、ロシア、日本を含む近現代の短編を読むことを通して、文学の面白さを感じると同時に、背景となっている文化についての理解を深める。

授業の概要

近現代の代表的な短編を、1回に1ー2編ずつ読みながら、文学がどのように人間と生への理解を広げ、深めるかを経験してほしい。もう一つ、作品の背景となっている文化について知ることをとおして、それぞれの文化圏の諸側面にも理解を広げることを目指したい。 具体的には、作品ごとに担当者を決め、レジュメを作って発表する。教員が必要な説明を加えた後、内容について議論する。また、期末にはペイパーを提出する。書き方については授業で指導する。

準備学習（予習・復習）

その回にやる作品は必ず読んでくること。そうしないと、その時間に議論されていることがまったく分からず、時間もエネルギーも無駄になる。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　D.H.Lawrence
第3回　Guy de Maupassant
第4回　O.Henry
第5回　Franz Kafka
第6回　Jack London
第7回　E.A.Poe
第8回　Mark Twain
第9回　Katherine Mansfield
第10回　H.G.Wells
第11回　Rudyard Kipling
第12回　Oscar Wilde
第13回　Leo Tolstoi
第14回　Alexander Pushkin
第15回　Nathaniel Hawthorne; 総括。ペイパー提出

履修上の注意点

読む英文の分量が多く、積極的な参加が求められるので、相当の覚悟のある人の受講を期待している。欠席が6回以上になると単位は認められない。

教科書

Great Short Short Stories: Quick Reads by Great Writers

著者:　Paul Negri, ed

出版社:　Dover Publications

出版年:　2005　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（（ペイパー）60 ）　　小テスト（　）

授業中課題　（　）　　授業中発表等　（ 20 ）

参加度　（ 20 ）

毎回どの程度読んできたか、また議論への参加度を重視する。

2016 Syllabus

科 目 名　**国際ビジネスⅡ <Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

Community Translation Projects

授業の到達目標

1. To make students aware of the translation needs in the immediate community2. To give the students an opportunity to do meaningful fieldwork within the community3. To produce a piece of translation that will be of actual use within the community4. To encourage students to think of their linguistic studies as a part of the real world, not simply as a classroom excercise

授業の概要

After a short introductory section in which we reflect upon the translation portfolios the students produced in the「多文化理解プログラム演習」class, we will start on practical fieldwork related to the actual needs within the local community. Students will present their findings in class and feedback given. In the second half of the course students will choose a translation project (individual or group) that they will finally present in class. It is hoped that these projects will turn into actual community resources, such as free papers, pamphlets, data bases, or home pages. This course will be taught substantially in English.

準備学習（予習・復習）

The fieldwork will be time-consuming, involving perhaps a week, or so, of solid work researching the needs of the foreign community both online and by actually marketing the area. Surveys, interviews with local people and local govenrnment officials is also recommended. The projects will take a similar, intensive week of work.

内　容

第1回　Introduction: reflecting upon the「多文化理解プログラム演習」course
第2回　Preparing for the Fieldwork (1)
第3回　Preparing for the Fieldwork (2)
第4回　Preparing for the Fieldwork (3)
第5回　Fieldwork and Fieldwork Reports (1)
第6回　Fieldwork and Fieldwork Reports (2)
第7回　Community Translation Project Work (1)
第8回　Community Translation Project Work (2)
第9回　Community Translation Project Work (3)
第10回　Community Translation Project Work (4)
第11回　Community Translation Project Work (5)
第12回　Community Translation Project Work (6)
第13回　Community Translation Project Presentations (1)
第14回　Community Translation Project Presentations (2)
第15回　Final discussion and evaluation

履修上の注意点

Students should be prepared to set aside free time for the fieldwork part of this course. It is also important that students take an active role in class, providing constructive criticism.

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 30% ）	授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 30% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅰ（英）

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　西村 友美	

テーマ

グローバル時代におけるリスニング

授業の到達目標

グローバル時代における時事、国際問題のTVニュースなどを題材にした素材を聞き、理解することを目指す。

授業の概要

CALL教室で、紙媒体だけでなくネットでアクセスできる素材などを活用し、幅広いリスニング活動を行なう。また、聞くだけでなく、シャドーイングなどで教材とともに自分の声を録音するトレーニングを取り入れ、自然な発音やスピードを身につけるようにする。

準備学習（予習・復習）

新聞を読む。テキストの予習。シャドーイングの練習。

内　容

第1回　リスニングに必要なこと
第2回　Unit 1
第3回　Unit 2
第4回　Unit 3
第5回　Unit 4
第6回　Unit 5
第7回　Unit 6
第8回　中間まとめ
第9回　Unit 7
第10回　Unit 8
第11回　Unit 9
第12回　Unit 10
第13回　Unit 11
第14回　Unit 12
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

What's on Japan 10
著者：　T.Yamazaki et al.
出版社：Kinseido
出版年：2015　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅱ（英）

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　高田　悦子	

テーマ

リーディング力の向上を図る。

授業の到達目標

多読を通して英文を読むことへの抵抗をなくします。また、次世代の革新産業において世界をリードする日本のイノベーションを、最新の話題を取 り扱ったトピックで精読することにより、読解力の向上を目指します。

授業の概要

授業の20分程を多読タイムとし各自が自分のレベルに合った英語の本を持参し読みます。残りの時間をテキストを使用した精読の時間にあてます。

準備学習（予習・復習）

多読の時間に読む英語の本（辞書なしでスラスラ読める本）を持ってくるように。図書館などで借りてもよいです。

内　容

第1回　Orientation,
第2回　Chapter 1. Ken Watanabe / 多読
第3回　Chapter 2. Sakana-kun / 多読
第4回　Chapter 3. Kohei Uchimura / 多読
第5回　Chapter 4. Hiromi Miyake / 多読
第6回　Chapter 5. Taiwan / 多読
第7回　Chapter 6. Apples / 多読
第8回　Chapter 7. B-Class Food Boom / 多読
第9回　Chapter 8. Food Traceability / 多読
第10回　Chapter 9. Naming Rights / 多読
第11回　Chapter 10. Smart Cities / 多読
第12回　Chapter 11. Geopark / 多読
第13回　Chapter 12. Rare Earths / 多読
第14回　Chapter 13. Biomass / 多読
第15回　Review

履修上の注意点

電子辞書を忘れずに持ってきて下さい。多読用の本と共に、忘れ物はマイナス評価となります。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）　授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ 20% ）

2016 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅲ（英）

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾒｶﾞﾝ･ｸﾞｨﾝ･ｴﾘｽ	

テーマ

Writing and communicating about Japan for an international audience

授業の到達目標

This course will aim to improve English writing skills and encourage an understanding of cultural features of Japan, through research and discussion of a variety of topics.

授業の概要

The course will be conducted in English. Students will research and write short, engaging essays to be combined in a folio, and do a final presentation based on their writing.

準備学習（予習・復習）

Students will need to do some research and writing preparation outside of class.

内　容

第1回　Course introduction
第2回　Preparation for writing 1
第3回　Writing 1 — Life In The Home
第4回　Preparation for writing 2
第5回　Writing 2 — Life On Campus
第6回　Preparation for writing 3
第7回　Writing 3 — Having Fun
第8回　Preparation for writing 4
第9回　Writing 4 — Current Trends In Japan
第10回　Preparation for writing 5 —
第11回　Writing 5 — Important Current Issues
第12回　Preparation for giving effective presentations
第13回　Composing final presentation
第14回　Presentations
第15回　Presentations; Final discussion and evaluation

履修上の注意点

To pass the course, you must attend at least 11 classes. In addition, students must complete 5 writing tasks of 400 words each, and conduct a final Power Point presentation (30% of final grade) based on these tasks.

教科書

teacher generated materials

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等 （ ）
参加度　（ 20 ）
participation 20%folio 50% (5 x 10%)final exam (presentation) 30%

2016 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅳ（英）

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員　40

履修条件　　クラス指定

担 当 者　金山 敬

テーマ

小論文を作成し、それをしっかりと伝えることが出来る発表力を養う。

授業の到達目標

パラグラフライティングを復習しながら、様々な文体や目的によって異なった表現方法を学ぶ。報告書や学術論文を書く基礎となる小論文を作成し、発表する。

授業の概要

パート1ではパラグラフ作文の復習と深化をする。パート2では5段階からなる小論文の作成を目的とする。

準備学習（予習・復習）

その時々にあったテーマの中から何をどのように書けばよいのかを学び、絶えず自分の意見、考えをまとめ表現出来る能力を身につけるようにする。

内　容

第1回　Guidance
第2回　Part Ⅰ Unit 1 I Am Going to Write One Paragraph
第3回　Unit 2 Trying to be Polite
第4回　Unit 3 What Do You Think?
第5回　Unit 4 This May Work!
第6回　Unit 5 How Could It Happen?
第7回　Part Ⅱ Unit 6 What Is an Essay?
第8回　Unit 7 Who Am I?
第9回　Unit 8 Let Me Tell You about a Beautiful Place! (1)
第10回　Unit 9 Let Me Tell You about a Beautiful Place! (2)
第11回　Unit 10 That's a Good Point! (1)
第12回　Unit 11 That's a Good Point! (2)
第13回　Unit 12 How Are They Different? (1)
第14回　Unit 13 How Are They Different? (2)
第15回　Presentation

履修上の注意点

積極的な授業参加と活発な発言を高く評価します。

教科書

From Paragraph to Essay
著者: Kate Elwood他
出版社: 南雲堂
出版年: 2012　　ISBN: 9784523177272

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0% ）　　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ 40% ）
参加度 （ 30% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**地域文化研究 I**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　浅井　雅志	

テーマ

英語圏の文化についての理解を深める

授業の到達目標

英国とアメリカを中心にした「英語圏文化」についての理解を深めるとともに、これらの国々と日本、そしてその中の個人であるあなたが、どのような関係をもっているか、もつべきかについて考える。

授業の概要

現在進行しているグローバリゼーションは、世界のあちこちで大きな力ともなりまた脅威ともなっているが、その「基準」となっているのが、アメリカであり、またその文化的母胎である英国である。それゆえ、現在に生きる私たちは、否が応でもこの「アングロサクソン文化」と直面せざるを得ない。事実、この文化はまず大衆文化としてわれわれの周りにはびこっている。この得体の知れないものと、私たちはどう付き合えばよいのか。単なる「好」にも「親」にも、はたまた「嫌」にも走らずに、日本が長い関係を持つこの文化圏をしっかり見つめてみよう。この両国以外の英語文化圏にも触れる予定。授業では、なるべくヴィデオなどの視聴覚に訴えるものを使いながら、講義を進めていく。 受講生は、講義の内容についての感想、疑問、意見などを最低3回、関心を持ったテーマについて短いペイパーを1回提出すること。これらを授業にフィードバックしたい。

準備学習（予習・復習）

自分の周りに起こることに敏感になり、そうした出来事を「文化」と結びつけて考える習慣をつけてみよう。そのために、新聞の国際欄を読み、外国事情や文化を扱ったテレビの特集番組を見、参考文献をせっせと読もう。英語圏で作られた映画を観たりや音楽を聴いたりするときも、その文化的背景を考えてみよう。

内　　容

第1回　イントロダクション――日本と英語圏との接触の歴史
第2回　アイルランド
第3回　英国①
第4回　英国②
第5回　英国③
第6回　アメリカ①
第7回　アメリカ②
第8回　アメリカ③
第9回　アメリカ④
第10回　アメリカ⑤
第11回　アメリカ⑥
第12回　アメリカ⑦
第13回　アメリカ⑧
第14回　カナダ
第15回　オーストラリア；ニュージーランド；総括

履修上の注意点

自分という人間を作り上げた日本文化を他の文化、とりわけ英米の文化と比較する習慣を身につけてください。6回以上欠席すると単位が認められません。

教科書

なし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

参考文献一覧を配布する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 80 ）　　授業中発表等　（　）

a30202d150

参加度 （ 20 ）

講義に対する感想や疑問、それと小ペイパーが評価の大きな部分を占めます。たくさん出してください。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　久保田　美佳	

テーマ

What is English language? What are its characteristics?

授業の到達目標

①To learn the basics of English linguistics②To deepen understanding of the history, grammar, and social significance of the English language.

授業の概要

English is said to be the native language of 350 million people, an official language of 400 million people, and a second language (of various proficiency levels) of 1 billion people. The class is designed to study the English language from a variety of perspectives in order to answer the questions, "What is English language?" and "What are its characteristics?" This class is mostly conducted in English.

準備学習（予習・復習）

Students are required to read the designated sections of the textbook BEFORE coming to each class. (i.e. Students are expected to do some reading outside the class.) Also, since the lectures are mostly given in English, students are advised to study the relevant vocabulary items in advance.

内　容

第1回　English linguistics: OverviewEnglish as a global language
第2回　Language and Culture
第3回　English Phonetics
第4回　First Language Acquisition
第5回　American English and Other English Varieties
第6回　Pidgin English and Creole English
第7回　Future of English, English in Asia
第8回　Spelling and English Pronunciation
第9回　English Vocabulary
第10回　English Grammar
第11回　English Onomatopeia
第12回　Social Dialects of English (Class-based Dialects, Black English, etc.)
第13回　The Importance of Language
第14回　Modern Linguistics
第15回　Review

履修上の注意点

教科書

Twenty-Six Short Essays on English
著者：　清水克正、Naoyuki Akaso, William Herlofsy
出版社：英宝社
出版年：2013　　ISBN：　4-269-41018-9

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 80 ）
授業中課題（　）	授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 0 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英米文学論 I**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉山　泰	

テーマ

イギリス小説はなぜ18世紀に生まれたのか？　イギリスヴィクトリア時代の背景を学びながら、小説の台頭の秘密を考え、「手紙文学」がなぜ「novel小説」を生み出したのかを研究していく。

授業の到達目標

イギリス小説は18世紀に始まる。デフォーの『ロビンソン・クルーソー』(1719年)、スウィストの『ガリバー旅行記』(1726年)、リチャードソンの『パミラ』(1740年)で、確立されていく。植民地時代はまさしく「男の時代」で植民地に向かう船長もプラント・ハンターも牧師もすべて男性であった。そのために国内には50万人もの女たちが「余り」、何としても結婚しようとする女たちの闘いすらあった。そうした時代に、「私」が主人公のnovelなる新しいジャンルの文学作品が生まれ、男性作家しか存在しなかったイギリスに女性作家すらnovelを書くようになる。ヴィクトリア時代の音楽やスポーツの台頭を調べ、現代の英米文学、さらには日本文学にも言及しながら、その時代を見事に描き出している小説を読むことの楽しさを学んでもらいたい。

授業の概要

まず、アメリカのHemingway, “Indian Camp”を全員で購読して、短編小説の面白さを味わってもらう。その際、「死」を意識せざるをえなかった「時代背景(第一次世界大戦)」を調べてもらう。次に、日本とイギリスとの最初の出会い、1600年のウィリアム・アダムズについても調べてもらう。ヴィクトリア時代の小説や映画の鑑賞をしたあとで、最後に、ようやく日本でも完訳されたD・H・ロレンスの『チャタレー卿夫人の恋人』の心の内を描き出す「描出話法」の英語を読みながら、イギリス小説の原点ともいうべき「手紙」がなぜ「小説」につながるのかを、村上春樹の『ノルウェイの森』などのいわゆる手紙文学(武者小路実篤の『愛と死』など)の伝統などを論じながら、明らかにしてみたい。

準備学習(予習・復習)

できれば、イギリス文学を映画化した作品を鑑賞しておいてもらいたい。

内　　容

第1回　イギリス文学「チェックリスト」の完成。イギリス文学(文化)の知識度は？
第2回　イギリスのGive Wayの精神とは？　道を譲る精神＝Queuingの精神
第3回　アメリカのノーベル文学賞作家、ヘミングウェイ「インディアン飯場」講読。
第4回　factをfactとして描き出すhard-boiled styleの英語の行間を読む。(レポート1)
第5回　第一次世界大戦以前のヴィクトリア時代(ヘミングウェイ＋村上春樹、「女のいない男たち」)研究。
第6回　『余った女たち(The Odd Women, 1893)』の世界と『ピアノレッスン(The Piano)』— 時代を映す映画と小説
第7回　『ピアノレッスン(The Piano)』の映画鑑賞
第8回　『ピアノレッスン』に描かれたピアノ — なぜイギリスが世界一のピアノ製造国になったのか(レポート2)
第9回　1901年に見た漱石のロンドン — 自転車に乗り、ピアノを弾く女性たち
第10回　D.H. Lawrence, The Rainbowの映画鑑賞(ヴィクトリア時代とスポーツ)
第11回　イギリスヴィクトリア時代のスポーツと女性解放(水泳とテニスと自転車)「独白」的「私」の内面を語るD.H. Lawrence,LadyChatterley's Lover(1928)映画鑑賞。
第12回　女性と性の解放　Lady Chatterley's Lover, 1928の映画鑑賞と講読。「描出話法」の訳し方。(レポート3＝翻訳)
第13回　日本文学における「私小説」と「手紙文学」　村上春樹『ノルウェイの森』と武者小路実篤『愛と死』
第14回　心の内面を描く「描出話法」と日本語の「主観形容詞＝こころざまを描く形容詞」の研究
第15回　「手紙文学」と「小説」はどうつながるのか？(まとめ)

履修上の注意点

大学でもイギリス映画が観賞できるし、映画館でも上映しているので、暇を見つけて、E.M. Forster, A Room with a View(1908)やJane Austen, Senseand sensibility(1811)、さらにはKazuo Ishiguro, The Remains of the Day(1989)などできるだけ映画鑑賞をすること。特に、ロレンスとヘミングウェイの映画はすべて大学のAVセンターで鑑賞できる。

教科書

適時プリントして配布する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

一人称小説とは何か — 異界の「私」の物語

著者:　廣野由美子

出版社:　ミネルヴァ書房

出版年:　2011　　ISBN:

a30202d310

D.H. ロレンス　書簡集 I
著者:　吉村宏一・杉山泰
出版社: 松柏社
出版年: 2010　ISBN:

ヴィクトリア女王
著者:　君塚直隆
出版社: 中公新書
出版年: 2007　ISBN:

ガヴァネス(女家庭教師)
著者:　川本静子
出版社: 中公新書
出版年: 1994　ISBN:

イギリスの不思議と謎
著者:　金谷展雄
出版社: 集英社新書
出版年: 2012　ISBN:

ヴィクトリア朝の性と結婚
著者:　度会好一
出版社: 中公新書
出版年: 1997　ISBN:

イギリス帝国の歴史
著者:　秋田茂
出版社: 中公新書
出版年: 2012　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 30 ）
毎回提出物があるので、遅れてもその提出物を出さないと評価はつかないのでかならず提出すること。

2016 Syllabus

科 目 名　**国際ビジネスⅠ <Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　弓場　俊也	

テーマ

グローバル社会で求められる幅広い視野を持ったビジネスパーソンを目指す

授業の到達目標

あらゆる日本企業が海外ビジネスに取り組むグローバリズム時代に入り、国際ビジネスに対応できるスペシャリストが求められています。将来海外ビジネスの多様なフィールドで活躍を目指す人が必要な異文化理解とコミュニケーション能力を習得する。

授業の概要

貿易ビジネスの現場にいる私の経験を通した実務的視点から、実例を多く紹介し異文化理解をわかりやすく解説します。また国際ビジネス標準語である英語のスキルアップを目指す。そのために日本文化をベーシックでシンプルな表現で説明できるよう英語によるスピーチとプレゼンテーションの修練を行います。

準備学習（予習・復習）

Japan FAQ テキストについて必要な予習は適時指示をします。

内　　容

第1回　オリエンテーション・国際ビジネスにおける異文化理解
第2回　Japan FAQ テキストによる実践修練
第3回　言語コミュニケーションにおけるコンテクスト
第4回　Japan FAQ テキストによる実践修練
第5回　異文化によるビジネス思考の相違
第6回　Japan FAQ テキストによる実践修練
第7回　グローバルビジネスで使用される英語
第8回　Japan FAQ テキストによる実践修練
第9回　国際ビジネスにおける共通ルール
第10回　Japan FAQ テキストによる実践修練
第11回　国内契約と国際契約の考え方
第12回　Japan FAQ テキストによる実践修練
第13回　グローバル経営について
第14回　Japan FAQ テキストによる実践修練
第15回　総括と確認

履修上の注意点

TOEIC600点または英検準2級レベル以上、またはこのレベルを目指して勉強している人が望ましい。雑談禁止。携帯電話は必ず電源を切っておくこと。教室の前方に着席するように心がける。

教科書

Japan FAQ（ラダーシリーズ）
著者：　David Thayne
出版社：IBCパブリッシング
出版年：2011年　　ISBN：　784896840346

参考書

成績評価

試験　（ 試験34% ）　　小テスト （ 33% ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度　（ 33% ）
適時講義内で実施する小テストと学期末試験および参加度により評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**音声学**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　久保田 美佳

テーマ

Introduction to English Phonetics

授業の到達目標

(1)To learn the basics of phonetics, while studying and practicing English pronunciation.(2)To become able to distinguish and properly pronounce English sounds.

授業の概要

When a language is considered as a tool for oral communication, its sounds are understandably very important. The purpose of phonetics, as a discipline, is to study how exactly we humans use and control our digestive and respiratory organs such as lips, mouth, tongue, trachea, and lungs, to create the sounds of a language. We will study the characteristics of English sounds by comparing them with the sounds of Japanese. The class will be mostly conducted in English.

準備学習（予習・復習）

Students are expected to practice pronunciation outside the class, as well as in class. Students will be introduced to some useful websites to help them with their practice at home.

内　容

第1回　What is phonetics?
第2回　English Vowels ①
第3回　English Vowels ②
第4回　English Vowels ③
第5回　English Consonants ①
第6回　English Consonants ②
第7回　English Consonants ③
第8回　Syllable & Word Stress, Sentence Stress
第9回　Pause, Pitch, and Intonation
第10回　Elision
第11回　Assimilation
第12回　Intonation (series, alternative question, etc.)
第13回　Intonation (tag question, etc.)Strong and Weak Form of Function Words
第14回　Stress with Speaker's IntentionWord Stress Shift and Others
第15回　Review

履修上の注意点

教科書

Sounds Make Perfect 英語音声学への扉—発音とリスニングを中心に—
著者:　今井由美子・井上球美子・井上聖子・大塚朝美・高谷華・上田洋子・米田信子
出版社:　英宝社
出版年:　2010　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 60 ）
参加度　（　）

Syllabus

科 目 名　**翻訳基礎論**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**通訳基礎論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　西村　友美	

テーマ

通訳入門

授業の到達目標

(1) 基本的な通訳訓練法を身につける。(2) 通訳過程を理解し、簡単な逐次通訳・同時通訳ができるようになること。(3) 通訳学の基礎知識を学ぶ。

授業の概要

聞いたことを瞬時に口頭で訳す通訳者の頭の中はどうなっているのだろう。通訳学の基礎的な知識を学びながら、通訳をいろいろな角度から観察したり、解剖してその中身を覗いてみよう。　授業では簡単な通訳を練習し、日本の諸相を英語話者に紹介する場面でボランティアで通訳できるようになることをめざす。　また、プロとして活躍する通訳者はきわめて高い語学力を持っていると言われる。この授業では、シャドーイングをはじめ、一般の語学学習にもたいへん効果があるといわれる通訳訓練を実際におこなうことによって、受講生の英語力全般を養成する。

準備学習（予習・復習）

授業で紹介する通訳トレーニングを毎日実行すること。通訳のトレーニングを別の場で試してみること、応用してみること。

内　容

第1回　通訳とは、通訳実例の観察
第2回　Unit 1 自己紹介、通訳実例の分析
第3回　Unit 2 社会、クイック・リスポンス
第4回　Unit 3 大学生活、シャドーイング(1)
第5回　Unit 4 教育（留学）、シャドーイング(2)
第6回　Unit 5 社会（ファッション）、スラッシュ・リーディング
第7回　Unit 6 医療（メタボリック症候群）、サイト・トランスレーション
第8回　Unit 7 日本文化（アニメ・漫画）、中間まとめ
第9回　Unit 8 教育（ボランティア活動）、逐次通訳 (1)
第10回　Unit 9 社会（長寿社会）、逐次通訳 (2)
第11回　Unit 10 国際交流Ⅰ（実践演習）、逐次通訳 (3)
第12回　Unit 11 日本文化（伝統的な行事）、同時通訳 (1)
第13回　Unit 12 環境、同時通訳 (2)
第14回　Unit 13 国際交流Ⅱ（実践演習）、「「On-line の理解」の解剖と日英語対照研究
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

TOEIC150点アップを目指す　通訳訓練法
著者:　越智 美江
出版社:　大阪教育図書
出版年:　2010　　ISBN:

参考書

授業で指示する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　(70)　　小テスト　( )
授業中課題　( )　　授業中発表等　( )
参加度　(30)

2016 Syllabus

科 目 名　International Business English

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　弓場 俊也

テーマ

国際ビジネスにおける実践的英語コミュニケーション力と貿易実務の習得

授業の到達目標

国際ビジネスにおける標準語は英語である。海外のビジネスパートナーとの日々の情報交換はEメールが主流であるが取引相手はネイティブスピーカーとは限らず、ノンネイティブの場合も多い。そのため高度なレベルの英語力は必要ないがシンプルでベーシックな的確に意図が相手に伝えられる実践的なものでなければならない。また貿易で使用される書類は、どこの国で発行されようが全て英語で書かれている。国際ビジネスでは英語力だけでなく貿易全体の仕組みや、貿易実務、専門用語の知識が必須です。さらにスムーズな商談を進めるための交渉能力には異文化理解も国際ビジネスパーソンには必要となります。将来国際ビジネスに係る者にとって最低限身につけておくべき実務能力として、基礎的な英語力、コミュニケーション力、貿易実務を習得します。日商ビジネス英語検定3級の合格レベルを目標とします。

授業の概要

国際商取引に必要な英文ビジネス・ライティングおよび貿易基礎知識を習得します。学校英語ではなく実際に国際ビジネスの現場で使用されている実践的英語を学びます。そのためこれまで学んだ英語の基礎を見直して確実な理解を目指し、仕事で使えるリアルな英語を学びます。また長年の商社で仕事をした私の経験からビジネス分野における異文化理解についても受講生と一緒に考えたいと思います。

準備学習（予習・復習）

予習は不要だが知識を定着させるために復習は必修。

内　容

第1回　オリエンテーション・英文ビジネスライティングの概要
第2回　海外取引の基本的な流れ
第3回　英文ビジネスレター・Eメールの基礎
第4回　海外取引先とビジネス交渉の流れ
第5回　英文ビジネスレターの構成と表現
第6回　貿易における国際ルール
第7回　英文ビジネスライティングの応用
第8回　国際取引に使われる英文文書
第9回　英文契約書の考え方と理解
第10回　インコタームズ（英文定型貿易条件）の概要
第11回　英文ビジネスレター（ケーススタディ）
第12回　国際物流で使われる英語
第13回　海外決済と外国為替で使われる英語
第14回　ビジネス英語のコンテクストと異文化理解
第15回　総括と確認

履修上の注意点

雑談禁止携帯電話は必ず電源を切っておくこと。教室の前方に着席するように心がけること。

教科書

日本商工会議所編「日商ビジネス英語検定　3級公式テキスト（改定版）」
著者：　日本商工会議所編
出版社：日本能率協会マネジメントセンター
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 34% ）　　小テスト （ 33% ）
授業中課題 （ 0% ）　　授業中発表等 （ 0% ）
参加度　（ 33% ）

適時実施する小テストと期末テスト及び出席日数を勘案して総合的に評価する。期間中に日商ビジネス英語検定3級に合格した者は最終評価を特別加点する。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語教育論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金山　敬	

テーマ

英語教育、現在の日本の英語教育の問題点を提起し、国際理解と英語教育のあるべきすがたについて考える。

授業の到達目標

英語教育を理論面および実践面から概観し、考察する。

授業の概要

英語教育の基本理念、言語習得理論の基礎、国際理解などを学びながら、英語教育のあり方を考察する。、

準備学習（予習・復習）

割当てられた章の発表の準備をすること

内　　容

第1回　ガイダンス（国際理解教育と英語教育の問題点、そのあり方）
第2回　第１章　英語教育の基本理念
第3回　第２章　第二言語習得（言語習得理論の基礎）
第4回　第３章　外国語教授法
第5回　第４章　学習指導要領
第6回　第１章から４章までのまとめ
第7回　第５章　言語要素の指導
第8回　第６章　４技能の活動
第9回　第７章　授業展開
第10回　第８章　教材・教具
第11回　第５章から８章までのまとめ
第12回　第９章　評価とテスト
第13回　第１０章　学習者
第14回　第１１章　教員養成と教員研修
第15回　第９章から１１章までのまとめ

履修上の注意点

プレゼンテーションではテキストの内容だけでなく様々な資料から研究考察すること。

教科書

グローバル時代の英語教育
著者:　岡　秀夫　編著
出版社:　成美堂
出版年:　2011年　　ISBN:　978-4-7919-3099

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 40 ）	

積極的な授業安価を高く評価します。

2016 Syllabus

科 目 名　**グローバルビジネスⅠ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　弓場　俊也	

テーマ

グローバル社会で求められる幅広い視野を持ったビジネスパーソンを目指す

授業の到達目標

あらゆる日本企業が海外ビジネスに取り組むグローバリズム時代に入り、国際ビジネスに対応できるスペシャリストが求められています。将来海外ビジネスの多様なフィールドで活躍を目指す人が必要な異文化理解とコミュニケーション能力を習得する。

授業の概要

貿易ビジネスの現場にいる私の経験を通した実務的視点から、実例を多く紹介し異文化理解をわかりやすく解説します。また国際ビジネス標準語である英語のスキルアップを目指す。そのために日本文化をベーシックでシンプルな表現で説明できるよう英語によるスピーチとプレゼンテーションの修練を行います。

準備学習（予習・復習）

Japan FAQ テキストについて必要な予習は適時指示をします。

内　　容

第1回　オリエンテーション・国際ビジネスにおける異文化理解
第2回　Japan FAQ テキストによる実践修練
第3回　言語コミュニケーションにおけるコンテクスト
第4回　Japan FAQ テキストによる実践修練
第5回　異文化によるビジネス思考の相違
第6回　Japan FAQ テキストによる実践修練
第7回　グローバルビジネスで使用される英語
第8回　Japan FAQ テキストによる実践修練
第9回　国際ビジネスにおける共通ルール
第10回　Japan FAQ テキストによる実践修練
第11回　国内契約と国際契約の考え方
第12回　Japan FAQ テキストによる実践修練
第13回　グローバル経営について
第14回　Japan FAQ テキストによる実践修練
第15回　総括と確認

履修上の注意点

TOEIC600点または英検準2級レベル以上、またはこのレベルを目指して勉強している人が望ましい。雑談禁止。携帯電話は必ず電源を切っておくこと。教室の前方に着席するように心がける。

教科書

Japan FAQ（ラダーシリーズ）
著者：　David Thayne
出版社：IBCパブリッシング
出版年：2011年　　ISBN：　784896840346

参考書

成績評価

試験　（ 試験34% ）　　小テスト （ 33% ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度　（ 33% ）
適時講義内で実施する小テストと学期末試験および参加度により評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**グローバルビジネスⅡ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　アンガス ノーマン	

テーマ

Community Translation Projects

授業の到達目標

1. To make students aware of the translation needs in the immediate community2. To give the students an opportunity to do meaningful fieldwork within the community3. To produce a piece of translation that will be of actual use within the community4. To encourage students to think of their linguistic studies as a part of the real world, not simply as a classroom excercise

授業の概要

After a short introductory section in which we reflect upon the translation portfolios the students produced in the「多文化理解プログラム演習」class, we will start on practical fieldwork related to the actual needs within the local community. Students will present their findings in class and feedback given. In the second half of the course students will choose a translation project (individual or group) that they will finally present in class. It is hoped that these projects will turn into actual community resources, such as free papers, pamphlets, data bases, or home pages. This course will be taught substantially in English.

準備学習（予習・復習）

The fieldwork will be time-consuming, involving perhaps a week, or so, of solid work researching the needs of the foreign community both online and by actually marketing the area. Surveys, interviews with local people and local govenrnment officials is also recommended. The projects will take a similar, intensive week of work.

内　容

第1回　Introduction: reflecting upon the「多文化理解プログラム演習」course
第2回　Preparing for the Fieldwork (1)
第3回　Preparing for the Fieldwork (2)
第4回　Preparing for the Fieldwork (3)
第5回　Fieldwork and Fieldwork Reports (1)
第6回　Fieldwork and Fieldwork Reports (2)
第7回　Community Translation Project Work (1)
第8回　Community Translation Project Work (2)
第9回　Community Translation Project Work (3)
第10回　Community Translation Project Work (4)
第11回　Community Translation Project Work (5)
第12回　Community Translation Project Work (6)
第13回　Community Translation Project Presentations (1)
第14回　Community Translation Project Presentations (2)
第15回　Final discussion and evaluation

履修上の注意点

Students should be prepared to set aside free time for the fieldwork part of this course. It is also important that students take an active role in class, providing constructive criticism.

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 30% ）	授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 30% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**多文化の理解と教育 <Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　（閉講:開⇒閉）

テーマ

「言語と人間」の視点から、人間の発達を多面的に考察する。

授業の到達目標

「言語と人間」の視点による人間発達の理解を学部生に共通する教養とする。

授業の概要

授業のテーマに関して人間発達学部両学科専任教員によるリレー講義を行う。

準備学習（予習・復習）

講義中に紹介された文献などを出来る限り学習する。また、講義内容についてコメントを記しておく。

内　容

第1回　オリエンテーション（神谷）　4/12(火)
第2回　日本語の魅力（池田）　4/19(火)
第3回　幼児とことば（青木）　4/26(火)
第4回　外言と内言（神谷）　5/10(火)
第5回　対話について（神谷）　5/17(火)
第6回　脳と言語（南）　5/24(火)
第7回　音楽とことば（佐野）　5/28(土)2限
第8回　美術とことば（大久保）　5/31(火)
第9回　言語の翻訳可能性（西村）　6/7(火)
第10回　死滅する言語（アンガス）　6/14(火)
第11回　多言語主義（北林）　6/21(火)
第12回　英語公用化論争（浅井）　6/28(火)
第13回　第二言語習得（金山）　7/5(火)
第14回　コミュニケーションと教育改革（八木）　7/12(火)
第15回　まとめ（神谷）　7/19(火)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 70 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）
試験はレポートによる。なお、レポート未提出の場合には採点されない。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅰ〈＊A〉**

クラス		配当回生	学部3回生
講義期間	前期	定　員	
履修条件	2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB（全48単位）のうち30単位 以上を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	アンガス ノーマン		

テーマ

Seminar in Translation

授業の到達目標

1. To reinforce the translation strategies previously learned2. To develop a linguistic flexibilty of mind3. To develop advanced English language skills and vocabulary4. To give students the opportunity to make academic presentations

授業の概要

In this seminar, we will revise and reinforce the various translation strategies covered in the Basic Theory of Translation class, so that students are completely familiar with them. Then we will cover a number of different text translations before students are given translation assignments, which they will then present in class. This class will be taught in English.

準備学習（予習・復習）

Reading general introductory materials on translation and translation studies. Much of the class time will be student centred. As such, students should have thoroughly researched the content of their work beforehand, and be able to present it with confidence in class. They will be expected to review and polish their work after class using the feedback they receive from other students and the teacher. A minimum of 3 hours per week will be required to produce quality work in preparation for the graduation thesis the following year. Involvement in community projects could also be highly time consuming: for example, producing free materials, or adding to the planned community translation homepage. It is hoped that students will give generously of their time to these departmental projects.

内　容

第1回　Introduction 1: Comparing the English and Japanese languages & discussion
第2回　Introduction 2: Two basic translation strategies with examples & discussion
第3回　Introduction 3: More translation strategies with examples & discussion
第4回　Introduction 4: Advanced translation strategies with examples & discussion
第5回　Translation of a short essay (1)
第6回　Translation of a short essay (2)
第7回　Translation of a pamphlet (1)
第8回　Translation of a pamphlet (2)
第9回　Translation of a cultural text (1)
第10回　Translation of a cultural text (2)
第11回　Translation of a short story (1)
第12回　Translation of a short story (2)
第13回　Student presentations (1)
第14回　Student presentations (2)
第15回　Final Discussion and Conclusions

履修上の注意点

教科書

参考書

翻訳の基礎
著者：　宮脇　孝雄
出版社：研究社出版
出版年：2000　　ISBN：9784327451417

A Textbook of Translation
著者：　P. Newmark
出版社：Prentice Hall
出版年：1988　　ISBN：9780139125935

a30203a110

In Oher Words
著者： M. Baker
出版社： Routeledge
出版年： 2011　　ISBN： 9780415467543

The Translation Studies Reader
著者： L. Venuti
出版社： Routeledge
出版年： 2004　　ISBN： 9780415319201

Theories of Transaltion
著者： J. Biguenet
出版社： Chicago Guides
出版年： 1992　　ISBN： 9780226048710

翻訳はいかにすべきか
著者： 柳瀬　尚紀
出版社： 岩波新書
出版年： 2000　　ISBN： 9784004306528

実践翻訳の技術
著者： 別宮　貞徳
出版社： ちくま学芸文庫
出版年： 2006　　ISBN： 9784480090287

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅰ〈＊B〉**

クラス		配当回生	学部3回生
講義期間	前期	定　員	
履修条件	2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB（全48単位）のうち30単位 以上を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	浅井　雅志		

テーマ

言語と文化の関係を考えることを通して自己理解を深める

授業の到達目標

「文化」とは不思議なもので、まるで魚を取り巻く水のようにわれわれを取り巻いています。自分という人間は文化の産物なのに、その文化がよくわからないから自分という存在もよくわからないようです。明治以降の巨大な変化、さらに近年ではいわゆる「グローバル化」の急激な進行の中で、日本人は「アイデンティティ・クライシス」に陥っているようにも見えます。そんな中にいるから、わかりにくい自分が余計見えにくくなっている。――こんな状況を乗り越えるべく、文化というものに言語からアプローチすることで、自分とそれを取り巻く文化いう不可思議な存在についていろいろ考えてみましょう。

授業の概要

私たちは、望んだわけでもないのにあるときある場所に生まれ落ち、ある言語を「母語」としていやおうなく身につけ、そのためにその後の一生を大きく規定されます。この不条理とも言える状態をいかにして理解したらいいのでしょうか。外国語を学ぶとは、結局のところ、世界とか人生とかを母語だけで生きるのとは違ったように生きる可能性を学ぶということです。授業では、こうしたことをできるだけわかりやすく話すつもりです。皆さんにも大いに発言してもらいたいです。 具体的には、毎回の授業で学生担当者が、テクストの担当部分についてレジュメを用意して口頭発表し、教員が必要な補足説明を加え、それをもとにディスカッションをするという形で進めていきたいと思います。授業運営に関していは、受講生の皆さんの意見も尊重したいと思います。 学期中に一度、学外授業を行いたいと思います。日程は授業時に指示します。 学期末には、関心を持ったテーマについてペイパーを書き、提出します。

準備学習（予習・復習）

授業でやる章は必ず読んでくる。関連文献を読む。それ以外は授業で適宜指示します。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　Chap. 1
第3回　Chap. 2, Chap. 3
第4回　Chap. 4, Chap.5
第5回　Chap. 6
第6回　Chap. 7
第7回　Chap.8
第8回　学外授業
第9回　Chap. 9, Chap. 10
第10回　Chap. 11
第11回　Chap. 12
第12回　Chap. 13
第13回　Chap. 14, Chap. 15
第14回　Chap. 16
第15回　Chap. 17. Chap. 18；ペイパー提出

履修上の注意点

積極的な参加を期待しています。欠席が6回以上になると単位が認められません。

教科書

The World of Language
著者：　David Crystal
出版社：松柏社
出版年：2003　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 50（ペイパー））　　小テスト（　）

a30203a112

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅰ〈＊C〉**

クラス		配当回生	学部3回生
講義期間	前期	定　員	
履修条件	2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB（全48単位）のうち30単位 以上を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	北林　利治		

テーマ

異文化コミュニケーションの理論と実践を考える

授業の到達目標

①異文化コミュニケーションのさまざまな理論を学ぶ。②多文化理解プログラムで体験した異文化コミュニケーションのさまざまな体験を振り返り、①で学んだ理論のなかで、理解を深める。③クラスで効果的なプレゼンテーションが行えるように、また、説得力のあるレポートを書くことができるようにする。

授業の概要

みなさんは昨年度の多文化理解プログラムで、文化の異なる人々とのさまざまな体験と言語学修を通して、異文化コミュニケーションの難しさを体験したのではないだろうか。この演習では、これまで提案されてきたさまざまなコミュニケーションの仕組みを理解するための理論をテキストで読みながら、実際になかなか理解されていないコミュニケーションの仕組みを解明していこうと思う。 テキストの前半には、これまで提案されてきた異文化コミュニケーションの理論がわかりやすく紹介されている。プリントで補足をしながら、代表的な理論を学んでいきたい。後半には、主として、日本人と英語圏との人たちとのミスコミュニケーション、また、コミュニケーション上の違いが扱われている。一例をあげれば、誘いを受けたが、断りたいときに、日本語では、しばしば、「ちょっとその日は夕方用事がありますので……」というふうに、理由の部分だけを述べて「行けません」という本題の部分は省略するというか相手に推測させるような話し方をすることがある。言語が異なれば、こういった伝達方法はどうなのであろうか。 テキストの例に加えて、受講生が直接、多文化理解プログラムで経験した例を加えながら、そういった違いやそこから生まれるミスコミュニケーションがどうして起こったのか、その背景を、テキスト前半で学ぶ理論を通して、理解していきたい。 テキストは英語で書かれているが、身近な例が多く含まれていて、その上英語そのものも平易に書かれているので、分量は多少多いが、難なく読み進めることができるだろう。授業は、受講生による口頭発表を中心に進めていきたい。 受講生の皆さんもこれまでの体験のなかで、異文化との関わりが、自己の成長にも大きく関わることを経験してきたことと思う。そういった意味で、異文化コミュニケーションは、自分と相手との相互尊重のための情報交換、情報共有、そして、共通の意味形成行為であると八代ほか（2009）では定義しているが、まったくそのとおりであると言えよう。

準備学習（予習・復習）

クラスで参考文献を紹介するので、文献をたくさん読むこと。最新の論文の多くは、ネット上で簡単に手にいれることもできます。教科書以外にも各自に文献を割り当てて補足のプレゼンテーションを行ってもらいます。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　プレゼンテーションの基礎
第3回　受講生による発表（1回目）、クラスでの討論
第4回　受講生による発表（1回目）、クラスでの討論
第5回　受講生による発表（1回目）、クラスでの討論
第6回　アカデミックライティングの基礎①
第7回　受講生による発表（2回目）、クラスでの討論
第8回　受講生による発表（2回目）、クラスでの討論
第9回　受講生による発表（2回目）、クラスでの討論
第10回　受講生による発表（2回目）、クラスでの討論
第11回　アカデミックライティングの基礎②
第12回　受講生による発表（3回目）、クラスでの討論
第13回　受講生による発表（3回目）、クラスでの討論
第14回　受講生による発表（3回目）、クラスでの討論
第15回　受講生による発表（3回目）、クラスでの討論

履修上の注意点

遅刻は2回で1回の欠席扱いとします。規定の欠席回数を超えた場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。また欠席する場合は、必ず電子メールで連絡をしてください。

教科書

Introduction to Communication for Japanese Students

著者：　Kevin Heffernan

出版社：くろしお出版

出版年：2013年（1,500円）　ISBN：　9784874245866

参考書

a30203a113

クラスで紹介します

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 （ ） 小テスト（ ）

授業中課題 （ 50 ） 授業中発表等 （ 40 ）

参加度 （ 10 ）

3分の1以上の欠席がある場合は、いかなる理由があっても単位の認定はできません。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅰ〈＊D〉**

クラス		配当回生	学部3回生
講義期間	前期	定　員	
履修条件	2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB（全48単位）のうち30単位 以上を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	弥永　啓子		

テーマ

外国語（英語）習得と学習（教授）

授業の到達目標

①外国語を身につけるという現象をさまざまな観点から考察し、第2言語習得論について理解を深める。②クラスで効果的なプレゼンテーションが行えるように、また、説得力のあるレポートを書くことができるようにする。

授業の概要

わたしたちは、長い期間、英語という外国語を勉強してきた。相当な努力をして、勉強をしても、母語のように容易に外国語を操ることはできない。外国語を身につけるという現象にはどういうメカニズムが働いているのだろうか。それは、母語の習得とはどういう点で異なり、どういう点で共通しているのであろうか。 このクラスでは、下記の教科書と補足の参考文献（プリント配布）を受講生のプレゼンテーションを中心にして読み進めながら、さまざまな観点から「外国語を身につけるという現象」を考察し、近年、目覚しい発展をとげている第2言語習得論についての理解を深めていきたい。

準備学習（予習・復習）

クラスで参考文献を紹介するので、文献をたくさん読むこと。最新の論文の多くは、ネット上で簡単に手にいれることもできます。教科書以外にも各自に文献を割り当てて補足のプレゼンテーションを行ってもらいます。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　プレゼンテーションの基礎
第3回　受講生による発表（1回目）、クラスでの討論
第4回　受講生による発表（1回目）、クラスでの討論
第5回　受講生による発表（1回目）、クラスでの討論
第6回　アカデミックライティングの基礎①
第7回　受講生による発表（2回目）、クラスでの討論
第8回　受講生による発表（2回目）、クラスでの討論
第9回　受講生による発表（2回目）、クラスでの討論
第10回　受講生による発表（2回目）、クラスでの討論
第11回　アカデミックライティングの基礎②
第12回　受講生による発表（3回目）、クラスでの討論
第13回　受講生による発表（3回目）、クラスでの討論
第14回　受講生による発表（3回目）、クラスでの討論
第15回　受講生による発表（3回目）、クラスでの討論

履修上の注意点

遅刻は2回で1回の欠席扱いとします。規定の欠席回数を超えた場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。また欠席する場合は、必ず電子メールで連絡をしてください。

教科書

言語はどのように学ばれるか
著者：　P. M. Lightbown & N. Spada
出版社：岩波書店
出版年：2014　　ISBN：　9784000053280

参考書

クラスで紹介します
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

a30203a114

授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 40 ）

参加度 （ 10 ）

3分の1以上の欠席がある場合は、いかなる理由があっても単位の認定はできません。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅱ〈＊A〉**

クラス		配当回生	学部3回生
講義期間	後期	定　員	
履修条件	2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB（全48単位）のうち30単位 以上を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	アンガス ノーマン		

テーマ

Seminar in Translation within the Community

授業の到達目標

1. To introduce students to more advanced kinds of text translation and help them to be able to solve complex translation problems2. To introduce students to different types, or modes, of translation; and some translation theory3. To give students further opportunity to make academic presentations4. To prepare students for writing a graduation thesisThis class will be taught in English.

授業の概要

This seminar is a continuation for the Seminar in Translation class in the previous semester. In the first set of classes we will concentrate on advanced translation techniques and highly problematic translation issues, by closely analysing a number of complex or problematic texts. Students will undertake translation projects which they will also present to the rest of the class for discussion. We will then look towards their graduation theses, which will be a piece of translation of their own choice, and they will produce a translation of part of their chosen text for final evaluation.

準備学習（予習・復習）

Reading general introductory materials on translation and translation studies. Much of the class time will be student centred. As such, students should have thoroughly researched the content of their work beforehand, and be able to present it with confidence in class. They will be expected to review and polish their work after class using the feedback they receive from other students and the teacher. A minimum of 3 hours per week will be required to produce quality work in preparation for the graduation thesis the following year. Involvement in community projects could also be highly time consuming: for example, producing free materials, or adding to the planned community translation homepage. It is hoped that students will give generously of their time to these departmental projects.

内　容

第1回　Prioritization
第2回　Vocabulary choice
第3回　Consistency
第4回　Voice
第5回　Advanced translation strategies
第6回　Complex problem solving (1): linguistic issues
第7回　Complex problem solving (2): linguistic issues
第8回　Introduction to theories of translation
第9回　Translation projects (1)
第10回　Translation projects (2)
第11回　Translation projects (3)
第12回　Translation projects (4)
第13回　Student presentations (1) & discussion
第14回　Student presentations (2) & discussion
第15回　Preparation for the graduation thesis

履修上の注意点

教科書

参考書

Same as Spring Semester

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

a30203a250

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅱ〈＊B〉**

クラス		配当回生	学部3回生
講義期間	後期	定　員	
履修条件	2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB（全48単位）のうち30単位 以上を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	浅井　雅志		

テーマ

言語と文化の関係を考えることを通して自己理解を深める

授業の到達目標

「文化」とは不思議なもので、まるで魚を取り巻く水のようにわれわれを取り巻いています。自分という人間は文化の産物なのに、その文化がよくわからないから自分という存在もよくわからないようです。明治以降の巨大な変化、さらに近年ではいわゆる「グローバル化」の急激な進行の中で、日本人は「アイデンティティ・クライシス」に陥っているようにも見えます。そんな中にいるから、わかりにくい自分が余計見えにくくなっている。――こんな状況を乗り越えるべく、文化というものに言語からアプローチすることで、自分とそれを取り巻く文化いう不可思議な存在についていろいろ考えてみましょう。

授業の概要

授業の目標や進め方は前期と同じですが、テクストは未定です。受講生の希望も聞いて、前期中には決めたいと思います。後半は、グループであるテーマについて研究し、クラスで発表して、それについて討論したいと思います。 学期末には、関心を持ったテーマについてペイパーを書き、提出します。

準備学習（予習・復習）

授業でやる章は必ず読んでくる。関連文献を読む。それ以外は授業で適宜指示します。

内　容

第1回　前記ペイパー返却、講評。後期へのイントロダクション
第2回　テクストについての発表と討論。
第3回　テクストについての発表と討論。
第4回　テクストについての発表と討論。
第5回　テクストについての発表と討論。
第6回　テクストについての発表と討論。
第7回　テクストについての発表と討論。
第8回　テクストについての発表と討論。
第9回　テクストについての発表と討論。
第10回　グループ発表と討論。
第11回　グループ発表と討論。
第12回　グループ発表と討論。
第13回　グループ発表と討論。
第14回　グループ発表と討論。
第15回　総括；ペイパー提出

履修上の注意点

積極的な参加を期待しています。欠席が6回以上になると単位が認められません。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 50（ペイパー））	小テスト（　）
授業中課題　（　）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅱ〈＊C〉**

クラス		配当回生	学部3回生
講義期間	後期	定　員	
履修条件	2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB（全48単位）のうち30単位 以上を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	北林　利治		

テーマ

異文化コミュニケーションの理論と実践

授業の到達目標

①前期に引き続いて、異文化コミュニケーションの理論と実践について理解を深める。②上記のテーマで英語で発表したり、レポートにまとめる。

授業の概要

基本的には、前期の「英語コミュニケーション演習I」の内容を発展させていく。前期と同様に、クラスでのプレゼンテーション、そして、後期は書くこと（レポートの作成）にも力を入れたい。明晰な英語を書くことを通して、論理的な思考方法とは何かという問題も考えてみたい。卒業論文を意識して、テーマの設定、論の進め方、レポートの形式などを扱っていく。 なお、後期の2回目のプレゼンテーションは、原則として英語で行ってもらう。

準備学習（予習・復習）

参考文献の一覧をクラスでわたすので、クラス外で読むこと。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　プレゼンテーションについて
第3回　受講生による発表（1回目）、クラスでの討論
第4回　受講生による発表（1回目）、クラスでの討論
第5回　受講生による発表（1回目）、クラスでの討論
第6回　アカデミックライティングの基礎①
第7回　受講生による発表（2回目）、クラスでの討論
第8回　受講生による発表（2回目）、クラスでの討論
第9回　受講生による発表（2回目）、クラスでの討論
第10回　受講生による発表（2回目）、クラスでの討論
第11回　アカデミックライティングの基礎②
第12回　受講生による発表（3回目）、クラスでの討論
第13回　受講生による発表（3回目）、クラスでの討論
第14回　受講生による発表（3回目）、クラスでの討論
第15回　受講生による発表（3回目）、クラスでの討論

履修上の注意点

遅刻は2回で1回の欠席扱いとします。規定の欠席回数を超えた場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。また欠席する場合は、必ず電子メールで連絡をしてください。

教科書

使用しない（前期で使用したもの）
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

クラスで紹介します
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（　）　小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）　授業中発表等　（ 40 ）

a30203a253

参加度 （ 10 ）

3分の1以上の欠席がある場合は、いかなる理由があっても単位の認定はできません。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅱ ＜＊D＞**

クラス		配当回生	学部3回生
講義期間	後期	定　員	
履修条件	2回生終了までの専門教育科目群必修科目、専門教育科目群選択必修科目および英語ⅠA～ⅣB（全48単位）のうち30単位 以上を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	弥永　啓子		

テーマ

母語の獲得と外国語（英語）習得について考える

授業の到達目標

①前期に引き続いて、第２言語習得論や母語習得について理解を深める。②上記のテーマで英語で発表したり、レポートにまとめる。

授業の概要

基本的には、前期の「英語コミュニケーション演習I」の内容を発展させていく。前期と同様に、クラスでのプレゼンテーション、そして、後期は書くこと（レポートの作成）にも力を入れたい。明晰な英語を書くことを通して、論理的な思考方法とは何かという問題も考えてみたい。卒業論文を意識して、テーマの設定、論の進め方、レポートの形式などを扱っていく。 なお、後期の2回目のプレゼンテーションは、原則として英語で行ってもらう。

準備学習（予習・復習）

参考文献の一覧をクラスでわたすので、クラス外で読むこと。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　プレゼンテーションについて
第3回　受講生による発表（1回目）、クラスでの討論
第4回　受講生による発表（1回目）、クラスでの討論
第5回　受講生による発表（1回目）、クラスでの討論
第6回　アカデミックライティングの基礎①
第7回　受講生による発表（2回目）、クラスでの討論
第8回　受講生による発表（2回目）、クラスでの討論
第9回　受講生による発表（2回目）、クラスでの討論
第10回　受講生による発表（2回目）、クラスでの討論
第11回　アカデミックライティングの基礎②
第12回　受講生による発表（3回目）、クラスでの討論
第13回　受講生による発表（3回目）、クラスでの討論
第14回　受講生による発表（3回目）、クラスでの討論
第15回　受講生による発表（3回目）、クラスでの討論

履修上の注意点

遅刻は2回で1回の欠席扱いとします。規定の欠席回数を超えた場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。また欠席する場合は、必ず電子メールで連絡をしてください。

教科書

使用しない（前期で使用したもの）
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

クラスで紹介します
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験 （ ）　小テスト （ ）
授業中課題 （ 50 ）　授業中発表等 （ 40 ）

参加度 （ 10 ）

3分の1以上の欠席がある場合は、いかなる理由があっても単位の認定はできません。

2016 Syllabus

科 目 名　Critical Reading Ⅰ <a>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　芝原　妙子	

テーマ

This course is designed to help students develop purposeful reading skills and to build an appropriate vocabulary for use at college level.Students will learn reading skills including scanning, making inferences, and detailed scrutiny. Each chapter of the course book introduces approximately twenty new vocabulary items, and students will also expand their vocabulary by understanding the meaning of prefixes and suffixes, or by making compound words. Students will learn the forms and meanings of words and phrases that will be encountered in academic readings. Through reading materials and many types of exercise problems such as reading comprehension, story line reproduction, dialogue completion, and oral presentation, in addition to several vocabulary exercises, students will further improve their reading skills. By reading inspirational and real life stories, students will be motivated to learn more about the English speaking world.

授業の到達目標

The overall objectives of this class are not only to enhance reading skills made in the first and second years and to acquire new vocabulary, but also to encourage students to form their own opinions and thoughts to relate to the ideas in the text.

授業の概要

Students are responsible for completing the readings for the day they are assigned. They are also required to prepare for answering questions based on the assigned articles.They should come to class prepared with two to three questions. Questions should be designed to generate interesting discussions and critical thinking about the reading. This class will be taught in English.

準備学習（予習・復習）

Preparation and brushup for each unit is crucial in successfully completing this course.

内　容

第1回　Introduction to the course and Chapter 1 Phone Salesman becomes Opera Singer
第2回　Chapter 1 Phone Salesman becomes Opera Singer
第3回　Chapter 2 Sportsman's Wish Comes True
第4回　Chapter 2 Sportsman's Wish Comes True
第5回　Chapter 3 Fashion Model and UN Special Ambassador
第6回　Chapter 3 Fashion Model and UN Special Ambassador
第7回　Chapter 4 Never, Ever, Ever, Give up
第8回　Chapter 4 Never, Ever, Ever, Give up and mid-term evaluation
第9回　Chapter 5 A Man with an Iron Will
第10回　Chapter 5 A Man with an Iron Will
第11回　Chapter 6 Mottainai, the Slogan of Ecology
第12回　Chapter 6 Mottainai, the Slogan of Ecology
第13回　Chapter 7 A War Photo Changed a Vietnamese Girl's Future
第14回　Chapter 7 A War Photo Changed a Vietnamese Girl's Future
第15回　Final Review

履修上の注意点

Please do the day's reading and attached exercises before coming to class, and be prepared to discuss and ask questions about the reading assignments. You are expected to participate in discussion. Please turn off your mobile phones during class.全授業回数の3 分の2 以上の出席がない場合，期末受験資格を取り消すことがあります。

教科書

Inspirational Stories from Around the World
著者:　Masyuki Aoki and Peter Williams
出版社:　南雲堂
出版年:　2016　　ISBN:　9784523178064

参考書

成績評価

試験　（ 30 % ）　　小テスト（ 30 % ）
授業中課題　（ 10 % ）　　授業中発表等　（ 10 % ）
参加度　（ 20% ）

a30203a310

Grading for the course will be determined as follows:1. Contributions to the class, class discussions, attendance 2. Quizzes and final examination.上記の評価項目を総合して最終的な成績を算出します。なお，全授業回数の3 分の2 以上の出席がない場合，受験資格を取り消すことがあります。

2016 Syllabus

科 目 名　Critical Reading Ⅰ <b>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　末澤　奈津子	

テーマ

Focusing on critical thinking, students will be able to express their own opinions with empirical and clear reasons.

授業の到達目標

The aims of this course are as follows: 1. to enable students to read and thoroughly understand English passages at the advanced level2. to develop critical thinking skills 3. to know how to express their own opinions clearly through presentations.

授業の概要

Each week we will focus on a topic either about global issues, or about intercultural issues. Every 3rd or 4th week, we will have a group or individual presentation as a mid-term or final test to build up students presentation skills. Based on the presentation, students discuss the issues critically.

準備学習（予習・復習）

every week, students will have a homework review quiz

内　容

第1回　orientation
第2回　Mobile phone
第3回　smoking
第4回　junk food
第5回　celebrity marriage
第6回　bullying
第7回　Japan's LGBTs
第8回　Sexism and gender roles
第9回　Japan's population crisis
第10回　Parasite single
第11回　cosmetic surgery and physical appearance
第12回　presentation preparation
第13回　presentation 1
第14回　presentation 2
第15回　review

履修上の注意点

毎回授業の最初に宿題・予習確認のquiz を行います。

教科書

Provoke a Response
著者:
出版社: 南雲堂
出版年: 2015　　ISBN: 9784523178224

参考書

成績評価

試験 （ 40 ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）
小テスト includes as follows quiz 20%presentation 20%

2016 Syllabus

科 目 名　Critical Reading Ⅱ <a>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　芝原 妙子	

テーマ

This course is designed to help students develop purposeful reading skills and to build an appropriate vocabulary for use at college level.Students will learn reading skills including scanning, making inferences, and detailed scrutiny. Each chapter of the course book introduces approximately twenty new vocabulary items, and students will also expand their vocabulary by understanding the meaning of prefixes and suffixes, or by making compound words. Students will learn the forms and meanings of words and phrases that will be encountered in academic readings. Through reading materials and many types of exercise problems such as reading comprehension, story line reproduction, dialogue completion, and oral presentation, in addition to several vocabulary exercises, students will further improve their reading skills. By reading inspirational and real life stories, students will be motivated to learn more about the English speaking world.

授業の到達目標

The overall objectives of this class are not only to enhance reading skills made in the first and second years and to acquire new vocabulary, but also to encourage students to form their own opinions and thoughts to relate to the ideas in the text.

授業の概要

Students are responsible for completing the readings for the day they are assigned. They are also required to prepare for answering questions based on the assigned articles.They should come to class prepared with two to three questions. Questions should be designed to generate interesting discussions and critical thinking about the reading. Students are also required to give an in-class presentation based on their own research. This class will be taught in English.

準備学習（予習・復習）

Preparation and brushup for each unit is crucial in successfully completing this course.

内　容

第1回　Introduction to the course and Chapter 8 Time Waits for Nobody
第2回　Chapter 8 Time Waits for Nobody
第3回　Chapter 9 Argentina's beloved First Lady
第4回　Chapter 9 Argentina's beloved First Lady
第5回　Chapter 10 An Act of Compassion amid Devastation
第6回　Chapter 10 An Act of Compassion amid Devastation
第7回　Chapter 11 Fighting for Women's Education
第8回　Chapter 11 Fighting for Women's Education and mid-term evaluation
第9回　Chapter 12 The Founding Father of Apple
第10回　Chapter 12 The Founding Father of Apple
第11回　Chapter 13 A Most Respected Eye Doctor
第12回　Chapter 13 A Most Respected Eye Doctor
第13回　Chapter 14 Gateway to Freedom
第14回　Chapter 14 Gateway to Freedom
第15回　Final Review and presentations

履修上の注意点

Please do the day's reading and attached exercises before coming to class, and be prepared to discuss and ask questions about the reading assignments. You are expected to participate in discussion. Please turn off your mobile phones during class.全授業回数の3 分の2 以上の出席がない場合，期末受験資格を取り消すことがあります。

教科書

Inspirational Stories from Around the World
著者：　Masyuki Aoki and Peter Williams
出版社：南雲堂
出版年：2016　　ISBN：　9784523178064

参考書

成績評価

試験　（ 25 % ）
小テスト（ 25 % ）
授業中課題 （ 10 % ）
授業中発表等 （ 20 % ）
参加度 （ 20% ）

a30203a450

Grading for the course will be determined as follows:1. Contributions to the class, class discussions, an in-class preseantation, and attendance 2. Quizzez and final examination.上記の評価項目を総合して最終的な成績を算出します。なお，全授業回数の3 分の2 以上の出席がない場合，受験資格を取り消すことがあります。

2016 Syllabus

科 目 名　Critical Reading Ⅱ <b>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　日高 周平	

テーマ

Developing critical reading skills.

授業の到達目標

Through this course, students will learn how to critically approach various kinds of texts.

授業の概要

This course is designed to improve students' reading skills through a variety of reading tasks and discussion activities.

準備学習（予習・復習）

Students are expected to read the assigned chapter prior to coming to class.

内　容

第1回　Introduction and breaking the ice
第2回　Unit 1 Connecting Culture and Environmental Issues
第3回　Unit 2 Culture, Popular Pets, and Unwanted Animals
第4回　Unit 3 Cultural Beliefs: Life or Death to Endangered Animals
第5回　Unit 4 Culture and Energy Conservation
第6回　Unit 5 Fashion Culture and the Environment
第7回　Unit 6 Culture and Population Issues
第8回　Unit 7 Consuming Cultures and the Environment
第9回　Unit 8 Culture and Littering
第10回　Unit 9 Cultural Views of Animal Rights
第11回　Unit 10 Extinct Animals, Plants, and Cultures
第12回　Unit 11 Culture, Youth, and the Environment
第13回　Unit 12 Culture and Food
第14回　Unit 13 Culture, Religions, and Environmentalism
第15回　Review

履修上の注意点

教科書

環境と文化から見るグローバル世界
著者：　Gregory Goodmacher
出版社：南雲堂
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ 40 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 60 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**翻訳研究**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　日高 周平	

テーマ

翻訳の基礎を学ぶ

授業の到達目標

英日翻訳に必要とされる様々な手法を学び、原文の意図を的確に訳す能力を養う。

授業の概要

講義ごとに様々な種類の翻訳に取り組む。

準備学習（予習・復習）

演習で扱った翻訳課題の復習。

内　容

第1回　講義概要・成績評価などに関する説明・英日翻訳の基礎技術 A
第2回　英日翻訳の基礎技術 B
第3回　英日翻訳の基礎技術 C
第4回　翻訳演習（歌詞）
第5回　翻訳演習（歌詞）
第6回　翻訳演習（映画字幕）
第7回　翻訳演習（映画字幕）
第8回　翻訳演習（歌詞）
第9回　翻訳演習（歌詞）
第10回　翻訳演習（雑誌記事）
第11回　翻訳演習（雑誌記事）
第12回　翻訳演習（新聞記事）
第13回　翻訳演習（新聞記事）
第14回　翻訳演習（各自、発表へ向けて課題を選択する）
第15回　発表

履修上の注意点

個人で課題に取り組むのではなく、ペア・グループで協力しながら原文が内包している意味を想像しながら訳すこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 60 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**言語理論研究**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　久保田　美佳

テーマ

Understanding language and linguistics

授業の到達目標

The objective of this course is to give students a way of understanding what language is, what role it plays in our society, and how it is related to the way we think and perceive the world around us.

授業の概要

In order to communicate in a native or a second or third language, it is important to know what language is, and how it can be used or misused in communication. This class is designed to give an overview of linguistics as a discipline, as well as to have the students think for themselves what communication and language use is all about.

準備学習（予習・復習）

Students are expected to read the assignments before coming to the class. For the presentations in English, students will be required to research materials related to the issue on their own.

内　容

第1回　Age, Status, and Family
第2回　Politeness
第3回　Feedback
第4回　Rituals
第5回　Titles
第6回　Modesty
第7回　Heart-to-Heart Communication
第8回　Face-to-Face Communication
第9回　Proverbs
第10回　Idioms
第11回　Textbook Language
第12回　Comparing
第13回　Politically Correct Language
第14回　Pronunciation/ Agreeing, Disagreeing
第15回　Review

履修上の注意点

教科書

Hand-outs
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

How Culture Affects Communication
著者:　Paul Stapleton
出版社:　金星堂
出版年:　2006　　ISBN:　9784764738119

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度　（　）
This class will be conducted in English.

2016 Syllabus

科 目 名　**地域文化研究Ⅲ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　浅井　雅志	

テーマ

英語圏文化と日本文化への理解を同時に深める

授業の到達目標

英語圏文化についてより深く知ることを通して、自分を形成した日本文化への理解を深める。

授業の概要

この授業は2本の柱からなっています。前半は、近代日本の始動期に英国に派遣された夏目漱石の文明論を読み、議論します。後半は、アメリカの政治風土を知ることを通して、アメリカ文化への理解を深めることを目指します。 毎回、担当学生が担当個所の要約と問題点についてレジュメを作成し、それをもとに発表します。教員が補足説明を加え、その後ディスカッションを行います。

準備学習（予習・復習）

自分の周りに起こることに敏感になり、そうした出来事を「文化」と結びつけて考える習慣をつけてみよう。そのために、新聞の国際欄を読み、外国事情や文化を扱ったテレビの特集番組を見、関連する文献を読もう。英語圏で作られた映画を観たりや音楽を聴いたりするときも、その文化的背景を考えてみよう。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　「現代日本の開化」
第3回　「私の個人主義」①
第4回　「私の個人主義」②
第5回　「倫敦消息」（抄）、「日記」
第6回　「断片」「日記」
第7回　総括
第8回　『見えないアメリカ』①
第9回　『見えないアメリカ』②
第10回　『見えないアメリカ』③
第11回　『見えないアメリカ』④
第12回　『見えないアメリカ』⑤
第13回　『見えないアメリカ』⑥
第14回　『見えないアメリカ』⑦
第15回　総括、ペイパー提出

履修上の注意点

自分という人間を作り上げた日本文化を他の文化、とりわけ英米の文化と比較する習慣を身につけてください。6回以上欠席すると単位が認められません。

教科書

夏目漱石『漱石文明論集
著者:　三好行雄編
出版社:　岩波文庫
出版年:　1986年　　ISBN:
見えないアメリカ
著者:　渡辺将人
出版社:　講談社現代新書
出版年:　2008年　　ISBN:

参考書

授業中に指示します。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 60 ）　　小テスト（　）

a30203d310

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 20 ）

参加度 （ 20 ）

欠席が6回以上になると単位が認められません。

2016 Syllabus

科 目 名　Essay & Presentation Ⅰ

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員　30

履修条件　　クラス指定

担 当 者　日高 周平

テーマ

Essay and presentation

授業の到達目標

To learn both the language and the discourse structures needed to create a variety of types of emails.

授業の概要

In each class, students will be asked to write a number of emails.

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　Introduction & Course Description
第2回　Unit 1 Let me introduce myself
第3回　Unit 2 Would you do me a favor?
第4回　Unit 3 Please give me some advice
第5回　Unit 4 How about going to the museum?
第6回　Unit 5 Let's decide when to meet
第7回　Unit 6 I have to apologize to you
第8回　Unit 7 Room for two?
第9回　Unit 8 I have a problem
第10回　Unit 9 We would like to invite you to a party!
第11回　Unit 10 How to get to his place?
第12回　Unit 11 This is just a reminder
第13回　Unit 12 Thank you for the invitation, but...
第14回　Unit 13 Good luck!
第15回　Review

履修上の注意点

教科書

Write Me Back Soon! Communicating through Email
著者:　成岡恵子／早野 薫／Sean M. Hackett 著
出版社:　金星堂
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 60 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**国際ビジネス実務演習Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　弓場 俊也

テーマ

グローバル経済の浸透により、あらゆる企業が海外ビジネスに取り組む時代になりました。輸出入に携わる人が現場で必要な貿易に関する基本的知識を理解する。

授業の到達目標

貿易取引の基本的な仕組みや流れを理解し、グローバルビジネスの現場で使える実践的能力の確立。貿易実務検定C級合格レベルを目標とする。

授業の概要

海外と貿易取引をするうえで知っておくべき基本的な実務を解説し、異文化理解を取り入れた国際ビジネスノウハウをわかりやすく解説する。講義ではパワーポイントを使用して視覚的に説明する。

準備学習（予習・復習）

予習は不要だが知識を定着させるため復習は必須。

内　容

第1回　オリエンテーション・近年における国際ビジネス概況
第2回　貿易取引の流れと全体像の理解
第3回　国際取引交渉、マーケッティング、信用調査
第4回　国際取引における発注と受注の仕組み
第5回　インコタームズ（定型貿易条件）の概要
第6回　国際契約書の基礎知識
第7回　国際契約のケーススタディ
第8回　外国為替の基礎知識
第9回　海外決済の方法と種類
第10回　信用状決済の仕組み
第11回　国際物流の概要
第12回　海上貨物と航空貨物
第13回　輸出入通関手続きについて
第14回　グローバルビジネスにおける異文化理解
第15回　総括と確認

履修上の注意点

雑談禁止。携帯電話は必ず電源を切っておくこと。教室の前方に着席するように心がける。

教科書

貿易実務のエッセンス
著者:　勝田英紀
出版社:　中央経済社
出版年:　2012年　　ISBN:　9784502693809

参考書

成績評価

試験　（ 34% ）　　小テスト（ 33% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 33% ）
適時講義内で実施する小テストと学期末試験および出席日数により評価する

2016 Syllabus

科 目 名　**通訳研究**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　西村　友美	

テーマ

通訳の理論と集中訓練

授業の到達目標

(1) 実践を通して通訳術の基本を習得することを目指す。(2) 通訳を通じて異文化コミュニケーションについて考察する力を養う。

授業の概要

「通訳基礎論」で習得した基礎的理論と技術をもとに、より高度な通訳を集中的に訓練する。毎回の授業で、段階的なトレーニングを重ね、最終的には簡単な通訳（逐次・同時）ができるようにしたい。また同時に、通訳の基礎的な理論を学ぶ。教科書の理論編を分担して授業でプレゼンをし、全体でディスカッションをする。自ら通訳者を目指さない受講者も、通訳者はことばの壁をどう乗り越えているのか、また異文化間のコミュニケーションを円滑に進めるためにどんな工夫をしているのかを知ることは、自分の英語の運用にも役立つはずである。授業はそのような観点から進めていきたい。

準備学習（予習・復習）

教科書の理論編を理解するための文献を読む。各種通訳練習。本格的通訳トレーニングは、TOEIC 800点程度取得、あるいは英検準1級を取得してから始めるというのが通説になっている。この授業では、受講者ができるだけ早くそのレベルに到達することができるよう指導するので、授業外での自習をしっかりすることが必須条件となる。

内　容

第1回　通訳とは、通訳実例の観察
第2回　通訳の種類と活動の場
第3回　通訳に求められるもの
第4回　通訳の研究
第5回　通訳モデル
第6回　通訳と翻訳
第7回　中間まとめ
第8回　記憶とノートテーキング
第9回　逐次通訳 (1)
第10回　逐次通訳 (2)
第11回　同時通訳 (1)
第12回　同時通訳 (2)
第13回　同時通訳 (3)
第14回　通訳とデリバリー
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

通訳学101
著者:　友野百枝他
出版社:　大阪教育図書
出版年:　2012　　ISBN:

参考書

授業で指示する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**地域文化研究Ⅳ**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　アンガス ノーマン

テーマ

Area Studies (The United Kingdom)

授業の到達目標

The aim of this course is to give the students a general picture of the history, life, culture and people of The United Kingdom.This class will be taught in English.

授業の概要

Each session will pick up one aspect of the country then, after a short lecture, we will view some visual materials, review what is said in the text, or complete a set of questions on the content of the class.

準備学習(予習・復習)

Watching the BBC news, and reading British newspapers

内　容

第15回 Final discussion and evaluation
第1回 Geography
第2回 History
第3回 The Monarchy
第4回 Parliament and the EC
第5回 Holidays and Festivals
第6回 Education
第7回 The Welfare State
第8回 Sport
第9回 Northern Ireland
第10回 Wales
第11回 Scotland
第12回 London
第13回 Food
第14回 A Multi-racial Society

履修上の注意点

教科書

参考書

In Britain
著者: M. Vaughan-Rees
出版社: MACMILLAN LANGUAGEHOUSE
出版年: 2006　ISBN: 00140-3-112177

Spotlight in Britain
著者: S. Sheerin
出版社: Oxford
出版年: 1995　ISBN: 0-19-432788-4

Britain
著者: J. O'Driscoll
出版社: Oxford
出版年:　ISBN: 978019-4306478

成績評価

試験 (50%)　小テスト ( )
授業中課題 (20%)　授業中発表等 ( )

a30203d750

参加度 （ 30% ）

20% of the final grade will be made up of evaluated homework sheets on the weekly topics.

2016 Syllabus

科 目 名　Essay & Presentation Ⅱ

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員　30

履修条件　　クラス指定

担 当 者　日高 周平

テーマ

Essay and presentation

授業の到達目標

To learn both the language and the discourse structures needed to create a variety of types of emails.

授業の概要

In each class, students will be asked to write a number of emails.

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　Introduction & Course Description
第2回　Unit 14 Congratulations!
第3回　Unit 15 It would be appreciated if...
第4回　Unit 16 Can I make an offer?
第5回　Unit 17 Thank you!
第6回　Unit 18 You know what?
第7回　Unit 19 Get well soon!
第8回　Unit 20 Anybody interested?
第9回　Unit 21 Season's Greetings!
第10回　Unit 22 I would like to apply for a position
第11回　Unit 23 Inquiry about scholarship
第12回　Unit 24 Sorry for your loss
第13回　Academic writing 1
第14回　Academic writing 2
第15回　Review and presentation

履修上の注意点

教科書

Write Me Back Soon! Communicating through Email
著者:　成岡恵子／早野 薫／Sean M. Hackett 著
出版社:　金星堂
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 60 ）

2016 Syllabus

科 目 名　English Workshop Ⅰ <a>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　弥永 啓子	

テーマ

TOEIC試験形式の問題演習を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

7月のTOEIC試験で700点以上を目指す。Part 5頻出の文法項目を理解する。

授業の概要

TOEIC試験得点アップのため、リーディングセクションの文法･語彙パートの頻出項目を講義、演習、グループワークで学んでゆく。

準備学習（予習・復習）

毎回語彙テストを実施し、毎週リスニングを中心とする宿題を課すので、これらをしっかりとこなすようにしてください。

内　容

第19回　不定詞と動名詞(2)、読解：記事
第20回　復習、実践問題
第21回　接続詞(1)、読解：保証書
第22回　接続詞(2)、読解：保証書
第23回　前置詞(1)、読解総合問題
第24回　前置詞(2)、読解総合問題
第25回　関係詞(1)、読解総合問題
第26回　関係詞(2)、読解総合問題
第27回　分詞 (1)、読解総合問題
第28回　分詞 (2)、読解総合問題
第29回　総復習、実践問題(1)
第30回　総復習、実践問題(2)
第1回　オリエンテーション
第2回　リスニング、読解問題の典型的なパターン
第3回　品詞(1)、Listening Part 1
第4回　品詞(2)、Listening Part 2
第5回　代名詞(1)、Listening Part 3
第6回　代名詞(2)、Listening Part 4
第7回　比較(1)、読解：広告
第8回　比較(2)、読解：広告
第9回　形容詞(1)、読解：申込書
第10回　形容詞(2)、読解：申込書
第11回　復習、実践問題
第12回　時制(1)、読解：手紙、Eメール
第13回　時制(2)、読解：手紙、Eメール
第14回　態(1)、読解：掲示
第15回　態(2)、読解：掲示
第16回　主述一致(1)、読解：求人
第17回　主述一致(2)、読解：求人
第18回　不定詞と動名詞(1)、読解：記事

履修上の注意点

英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC550点以上の学生が対象となります。550点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行って下さい。

教科書

TOEICテスト書き込みドリル　スコア650文法編
著者：　早川幸治
出版社：　桐原書店
出版年：　2010　　ISBN：　4342000067

a30203d910

Listening Guide to the TOEIC Test

著者： Bruce Rogers

出版社： Cengage Learning

出版年： 2007　　ISBN： 9784902902693

参考書

成績評価

試験 （ 20% ）　　小テスト （ 60% ）

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 0 ）

参加度 （ 0 ）

上記試験成績は7月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験に基づくものです（前期中の公開テストでも可）。受講者は全員、IPないしは公開テストを受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることになりますので注意して下さい。

2016 Syllabus

科 目 名　English Workshop Ⅱ <a>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　弥永　啓子	

テーマ

TOEIC試験形式の問題演習を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

12月のTOEIC試験で750点以上を目指す。Part 7 頻出の実社会で実用性の高い語彙・表現を受容モードで理解することができる。

Part 7 頻出の実用文書のパターンを理解するとともに、そうした文書を一定速度で理解することができる。

授業の概要

TOEIC試験得点アップのため、リーディングセクションの読解パートの頻出パターンを講義、演習、グループワークで学んでゆく。

準備学習（予習・復習）

毎回語彙テストを実施し、毎週リスニングを中心とする宿題を課すので、これらをしっかりとこなすようにしてください。

内　容

第1回　オリエンテーション前期文法項目復習(1)
第2回　前期文法項目復習(2), 実践演習
第3回　実践練習　広告文の典型的なパターン
第4回　前期文法項目復習(3), 実践演習
第5回　実践練習　書式の典型的なパターン
第6回　前期文法項目復習(4), 実践演習
第7回　実践練習　通信文の典型的なパターン
第8回　前期文法項目復習(5), 実践演習
第9回　実践練習　通知文の典型的なパターン
第10回　前期文法項目復習(6), 実践演習
第11回　実践練習　求人広告の典型的なパターン
第12回　前期文法項目復習(7), 実践演習
第13回　実践練習　記事の典型的なパターン
第14回　前期文法項目復習(8), 実践演習
第15回　実践練習　保証書の典型的なパターン
第16回　２文書問題の典型的なパターン(1)
第17回　２文書問題の典型的なパターン(2)
第18回　２文書問題の典型的なパターン(3)
第19回　総復習
第20回　実践問題 (1)
第21回　実践問題 (2)
第22回　実践問題 (3)
第23回　実践問題 (4)
第24回　実践問題 (5)
第25回　実践問題 (6)
第26回　実践問題 (7)
第27回　実践問題 (8)
第28回　実践問題 (9)
第29回　模擬問題、解答解説
第30回　模擬問題解説、弱点補強

履修上の注意点

英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC600点以上の学生が対象となります。600点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行って下さい。

教科書

プリント教材の予定

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

a30203e050

参考書

成績評価

試験 （ 20% ）　小テスト （ 60% ）

授業中課題 （ 20% ）　授業中発表等 （ 0 ）

参加度 （ 0 ）

成績評価の留意点: 上記試験成績は12月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験に基づくものです（後期中の公開テストでも可）。受講者は全員、IPないしは公開テストを受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることになりますので注意して下さい。

Syllabus

科 目 名　English Workshop Ⅲ <a>	
クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

Syllabus

科 目 名　English Workshop Ⅲ <b>	
クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	
成績評価	
試験 （ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

Syllabus

科 目 名　English Workshop Ⅳ <a>	
クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　English Workshop Ⅳ <b>	
クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**国際ビジネス実務演習Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　弓場 俊也

テーマ

グローバル経済の浸透により、あらゆる企業が海外ビジネスに取り組む時代になりました。輸出入に携わる人が現場で必要な基本的貿易知識の確認と実践的な応用について体系的に理解する。

授業の到達目標

貿易取引の応用知識を習得して実践的能力の確立。貿易実務検定C級およびB級レベルを目標とする。

授業の概要

基本的貿易知識の確認と現場の実例をとりあげ応用力を養う。貿易関係の資格試験合格を目指す履修者にも参考になる内容とする。

準備学習（予習・復習）

予習は不要だが知識を定着させるため復習は必須。

内　容

第1回　オリエンテーション・国際ビジネスの最新概況
第2回　貿易取引の体系的理解
第3回　取引交渉、市場調査、信用調査について
第4回　貿易における発注と受注の仕組み
第5回　定型貿易条件(Incoterms 2010)の詳細
第6回　国際契約書の概要と要点
第7回　国際売買契約について解説
第8回　外国為替の概要と応用
第9回　代金決済と外国為替
第10回　信用状取引の性質と仕組み
第11回　国際ロジスティックスの概要
第12回　海上貨物と航空貨物の種類と手続き
第13回　通関手続きと関税システム
第14回　異文化理解と国際ビジネス
第15回　総括と確認

履修上の注意点

雑談禁止。携帯電話は必ず電源を切っておくこと。教室の前方に着席するように心がける。

教科書

貿易実務のエッセンス
著者:　勝田英紀
出版社:　中央経済社
出版年:　2012年　　ISBN:　9784502693809

参考書

成績評価

試験　（ 34% ）　　小テスト（ 33% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 33% ）
適時講義内で実施する小テストと学期末試験および出席日数により評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**児童英語教育研究**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　金山 敬

テーマ

幼児や児童の英語教育について

授業の到達目標

小学校への外国語活動導入が必修化された今、なぜ英語教育が児童に必要なのか、また、どのように教えたらよいのかを異文化理解と英語教育のあり方について、実践と理論の両側面から考察する。

授業の概要

実際に幼児や小学生に教える場合にすぐに役立つ歌、ライム、ゲームを始めとして、言語習得理論に基づいた指導法などを紹介し、学習した後、発表する。

準備学習（予習・復習）

発表は創意工夫に富んだものにすること。

内　容

第1回　ガイダンス（異文化理解と英語教育について）
第2回　英語の指導技術について
第3回　歌の指導法
第4回　歌指導の発表　Ⅰ
第5回　歌指導の発表　Ⅱ
第6回　ナーサリーライムの指導法
第7回　ナーサリーライム指導の発表　Ⅰ
第8回　ナーサリーライム指導の発表　Ⅱ
第9回　フォニックスの指導法
第10回　フォニックス指導の発表　Ⅰ
第11回　フォニックス指導の発表　Ⅱ
第12回　異文化理解教育について
第13回　異文化理解を促す指導の発表　Ⅰ
第14回　異文化理解を促す指導の発表　Ⅱ
第15回　まとめ

履修上の注意点

発表の日の欠席は大きく減点します。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ 60% ）
参加度 （ 40% ）
授業への積極的な取り組みと意欲的な態度を高く評価します。

2016 Syllabus

科 目 名　**児童英語教材研究**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　金山 敬

テーマ

幼児や児童の英語教材について

授業の到達目標

小学校への外国語活動導入が必修化された今、なぜ英語教育が児童に必要なのか、また、どのように教えたらよいのか、その目的と指導法について学ぶ。

授業の概要

実際に幼児や小学生に教える場合にすぐに役立つチャンツ、ゲームを始めとして、言語習得理論に基づいた指導法などを紹介し、学習した後、発表する。期末の課題としてｵﾘｼﾞﾅﾙ絵本を製作する。

準備学習（予習・復習）

発表は創意工夫に富んだものであること。

内　容

第1回　ガイダンス（EFL学習の目的と指導）
第2回　チャンツの指導法
第3回　チャンツの指導発表　Ⅰ
第4回　チャンツの指導発表　Ⅱ
第5回　TPRの指導法
第6回　TPRの指導発表　Ⅰ
第7回　TPRの指導発表　Ⅱ
第8回　折々の行事について
第9回　Halloween Party
第10回　ストーリーテリングの指導法
第11回　ｵﾘｼﾞﾅﾙ絵本製作のガイダンス
第12回　絵本のあらすじと構成
第13回　絵本のストーリーを英文にまとめる
第14回　絵本製作
第15回　絵本発表　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

発表の日の欠席は大きく減点します。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 60% ）
参加度　（ 40% ）
授業への積極的な取り組みと意欲的な態度を高く評価します。

2016 Syllabus

科 目 名　**児童英語指導演習 I**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　「児童英語教育研究」または「児童英語教材研究」を履修済みであること。　　クラス指定

担 当 者　金山 敬

テーマ

児童英語教育の実践のための演習

授業の到達目標

児童英語教育のあるべき教育内容の考察とその実践のための実習

授業の概要

児童英語教育の目的と意義を理解し、実際に小学校や幼稚園において英語活動を行うのに必要なカリキュラムの考察および作成、そして近隣の公立小学校における観察実習と短期実習

準備学習（予習・復習）

教育実習は引き受けて戴く小学校や幼稚園に対し非常に責任があるので、そのための模擬授業は特に真剣に取り組むこと。

内　容

第1回　ガイダンス（児童英語教育の目的と意義）
第2回　"Hi, friends!"を活用したカリキュラムの考察と討議①
第3回　"Hi, friends!"を活用したカリキュラムの考察と討議②
第4回　"Hi, friends!"を活用したカリキュラムの考察と討議③
第5回　"Hi, friends!"を使った模擬授業①
第6回　"Hi, friends!"を使った模擬授業②
第7回　"Hi, friends!"を使った模擬授業③
第8回　公立小学校における英語活動の観察実習ー低中学年
第9回　公立小学校における英語活動の観察実習ー高学年
第10回　小学校における観察実習の報告と討議
第11回　私立幼稚園における課外英語授業の観察実習
第12回　幼稚園における観察実習の報告と討議
第13回　実習反省会（教室運営、指導力についての評価）①
第14回　実習反省会（教室運営、指導力についての評価）②
第15回　まとめ（観察実習の総括と児童英語教育の意義の再確認）　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教育実習や模擬授業の日の欠席は大きく減点します。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

Hi, friends!　1
著者:　文部科学省
出版社:　東京書籍
出版年:　2012年　　ISBN:　9784487258833

Hi, friends!　2
著者:　文部科学省
出版社:　東京書籍
出版年:　2012年　　ISBN:　9784487258840

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ 30% ）

a30203e610

参加度 （ 40% ）

授業への積極的な取り組みを評価します

2016 Syllabus

科 目 名　**児童英語指導演習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　「児童英語教育研究」または「児童英語教材研究」を履修済みであること。	クラス指定
担 当 者　金山 敬	

テーマ

児童英語教育の実践のための演習

授業の到達目標

児童英語教育のあるべき教育内容の考察とその実践のための実習

授業の概要

実際に小学校や幼稚園において英語活動を行うのに必要なカリキュラムの考察および作成、そして近隣の公立小学校における観察実習と短期実習

準備学習（予習・復習）

公立小学校の英語活動および私立幼稚園の課外英語授業の観察実習のための模擬授業は真剣に取り組むこと。

内　容

第1回　ガイダンス（英語によるコミュニケーションとその指導法）
第2回　小学校英語活動カリキュラム考察－英語教育の狙いとそのあり方－
第3回　小学校英語活動カリキュラム発表－英語教育の狙いとそのあり方－
第4回　小学校英語カリキュラム考察授業案
第5回　小学校英語カリキュラム発表授業案
第6回　模擬授業①
第7回　模擬授業②
第8回　模擬授業③
第9回　小学校における教育実習①
第10回　小学校における教育実習②
第11回　幼稚園英語授業年間カリキュラム・授業案考察
第12回　幼稚園英語授業カリキュラム・授業案発表
第13回　模擬授業
第14回　幼稚園における教育実習
第15回　まとめ

履修上の注意点

教育実習や模擬授業の日の欠席は大きく減点します。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

Hi, friends!　1
著者:　文部科学省
出版社:　東京書籍
出版年:　2012年　ISBN:　9784487258833

Hi, friends!　2
著者:　文部科学省
出版社:　東京書籍
出版年:　2012年　ISBN:　9784487258840

成績評価

試験　（ ）　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30% ）　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 40% ）

授業への積極的な取り組みを評価します

2016 Syllabus

科 目 名　**グローバルビジネス実務演習 I**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　弓場　俊也	

テーマ

グローバル経済の浸透により、あらゆる企業が海外ビジネスに取り組む時代になりました。輸出入に携わる人が現場で必要な貿易に関する基本的知識を理解する。

授業の到達目標

貿易取引の基本的な仕組みや流れを理解し、グローバルビジネスの現場で使える実践的能力の確立。貿易実務検定C級合格レベルを目標とする。

授業の概要

海外と貿易取引をするうえで知っておくべき基本的な実務を解説し、異文化理解を取り入れた国際ビジネスノウハウをわかりやすく解説する。講義ではパワーポイントを使用して視覚的に説明する。

準備学習（予習・復習）

予習は不要だが知識を定着させるため復習は必須。

内　　容

第1回　オリエンテーション・近年における国際ビジネス概況
第2回　貿易取引の流れと全体像の理解
第3回　国際取引交渉、マーケッティング、信用調査
第4回　国際取引における発注と受注の仕組み
第5回　インコタームズ（定型貿易条件）の概要
第6回　国際契約書の基礎知識
第7回　国際契約のケーススタディ
第8回　外国為替の基礎知識
第9回　海外決済の方法と種類
第10回　信用状決済の仕組み
第11回　国際物流の概要
第12回　海上貨物と航空貨物
第13回　輸出入通関手続きについて
第14回　グローバルビジネスにおける異文化理解
第15回　総括と確認

履修上の注意点

雑談禁止。携帯電話は必ず電源を切っておくこと。教室の前方に着席するように心がける。

教科書

貿易実務のエッセンス
著者:　勝田英紀
出版社:　中央経済社
出版年:　2012年　　ISBN:　9784502693809

参考書

成績評価

試験　（ 34% ）　　小テスト（ 33% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 33% ）
適時講義内で実施する小テストと学期末試験および出席日数により評価する

2016 Syllabus

科 目 名　**グローバルビジネス実務演習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　弓場　俊也	

テーマ

グローバル経済の浸透により、あらゆる企業が海外ビジネスに取り組む時代になりました。輸出入に携わる人が現場で必要な基本的貿易知識の確認と実践的な応用について体系的に理解する。

授業の到達目標

貿易取引の応用知識を習得して実践的能力の確立。貿易実務検定C級およびB級レベルを目標とする。

授業の概要

基本的貿易知識の確認と現場の実例をとりあげ応用力を養う。貿易関係の資格試験合格を目指す履修者にも参考になる内容とする。

準備学習（予習・復習）

予習は不要だが知識を定着させるため復習は必須。

内　　容

第1回　オリエンテーション・国際ビジネスの最新概況
第2回　貿易取引の体系的理解
第3回　取引交渉、市場調査、信用調査について
第4回　貿易における発注と受注の仕組み
第5回　定型貿易条件(Incoterms 2010)の詳細
第6回　国際契約書の概要と要点
第7回　国際売買契約について解説
第8回　外国為替の概要と応用
第9回　代金決済と外国為替
第10回　信用状取引の性質と仕組み
第11回　国際ロジスティックスの概要
第12回　海上貨物と航空貨物の種類と手続き
第13回　通関手続きと関税システム
第14回　異文化理解と国際ビジネス
第15回　総括と確認

履修上の注意点

雑談禁止。携帯電話は必ず電源を切っておくこと。教室の前方に着席するように心がける。

教科書

貿易実務のエッセンス
著者:　勝田英紀
出版社:　中央経済社
出版年:　2012年　　ISBN:　9784502693809

参考書

成績評価

試験　（ 34% ）	小テスト （ 33% ）
授業中課題　（　）	授業中発表等　（　）
参加度　（ 33% ）	

適時講義内で実施する小テストと学期末試験および出席日数により評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅲ <＊A>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　アンガス ノーマン	

テーマ

卒業論文作成に向けて Translation Seminar on Translation

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて準備をする。1. To develop advanced and practical translation skills from and into English2. To prepare students for writing an academic paper.

授業の概要

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。〇テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。〇文献・資料検索についての具体的指導。〇順次各自の研究テーマについて発表させる。〇中間発表にむけての指導。〇中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。〇論文作成にむけての個別指導This course will be taught in English.

準備学習（予習・復習）

At this stage, students should be fully prepared to take an active lead in class. This involves thorough research of their chosen theme beforehand as well as confident presentation and management of discussion in class. It is also vital that individual students listen to the responses of their classmates, and use the in-class feedback to strengthen their approaches to, and content of their graduation project. An average of at least 5 hours per week will be necessary to produce a quality graduation essay. Students should also maintain an academic attitude throughout: rational, objective, informed, rhetorical, and an open mind.

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　論文の書き方
第3回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第4回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第5回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第6回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第7回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第8回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第9回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第10回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第11回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第12回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第13回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第14回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第15回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

履修上の注意点

This will be a student-centred class, and students should actively participate not just when they are making presentations, but during the question/discussion time for other presentations.

教科書

参考書

Translation – An advanced resource book
著者：　B. Hatim and J. Munday
出版社：Routledge
出版年：2004　　ISBN：　9780415-28305-9

In Other Words – A coursebook on translation
著者：　Mona Baker
出版社：Routledge
出版年：2011　　ISBN：　9781415-46754-4

a30204a110

A Textbook of Translation

著者:　P. Newmark

出版社: Prentice Hall

出版年: 1988　　ISBN:　9780139-125935

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 60 ）

参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅲ＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　浅井　雅志	

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて準備をする。

授業の概要

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。〇テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定する。〇文献・資料検索についての具体的指導。〇順次各自の研究テーマについて発表させる。〇中間発表にむけての指導。〇中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。〇論文作成にむけての個別指導学外授業を一回行う予定。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　論文の書き方
第3回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第4回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第5回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第6回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第7回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第8回　学外授業
第9回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第10回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第11回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第12回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第13回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第14回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第15回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 50（ペイパー））	小テスト（ 0 ）
授業中課題（　）	授業中発表等（ 40 ）
参加度　（ 10 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅲ ＜＊C＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　西村 友美

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて準備をする。

授業の概要

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。〇テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。〇文献・資料検索についての具体的指導。〇順次各自の研究テーマについて発表させる。〇中間発表にむけての指導。〇中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。〇論文作成にむけての個別指導

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　論文の書き方
第3回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第4回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第5回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第6回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第7回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第8回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第9回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第10回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第11回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第12回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第13回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第14回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第15回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

履修上の注意点

教科書

授業で指示する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ 0% ）　　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 60% ）　　授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 40% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅲ ＜＊D＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　北林　利治

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて準備をする。

授業の概要

内容は、卒業論文作成に向けて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下の通り。〇テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。〇文献・資料検索についての具体的指導。〇順次各自の研究テーマについて発表させる。〇中間発表に向けての指導。〇中間発表後、執筆要項、注意事項など細部について指導する。〇論文作成に向けての個別指導

準備学習（予習・復習）

卒業論文の執筆に向けて、先行研究の小レポートや報告をクラスでのプレゼンテーション以外にも随時行ってもらう。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　論文の書き方
第3回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第4回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第5回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第6回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第7回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第8回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第9回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第10回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第11回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第12回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第13回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第14回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第15回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

履修上の注意点

遅刻は2回で1回の欠席扱いとします。規定の欠席回数を超えた場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。また欠席する場合は、必ず電子メールで連絡をしてください。

教科書

なし

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（ 40 ）

参加度　（ 10 ）

欠席が3分の1を超える場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅲ ＜＊E＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　金山 敬

テーマ

児童英語教育言語習得と英語教育多文化理解とコミュニケーション

授業の到達目標

自分の興味関心は何か。それを見つけ、どのように取り組み、研究していくかを考察する。日本の英語教育、特に児童期の英語教育の果たすべき役割の研究世界の人々とよりよい理解と関係を築くためのコミュニケーション研究など

授業の概要

いかに論文に取り組んでいくか、論文はどのようにして書くのかをまず、研究し、それとともに自分のテーマを見つける。

準備学習（予習・復習）

自分の」テーマに沿った文献を読む。論文の書き方についての本を読む。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　論文の書き方
第3回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第4回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第5回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第6回　卒業研究進捗状況報告（序論）
第7回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第8回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第9回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第10回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第11回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第12回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第13回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第14回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）
第15回　卒業研究進捗発表（本論：先行研究を含む）

履修上の注意点

できるだけ多くの書籍を読破すること。

教科書

未定
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

未定
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 40% ）
積極的かつ意欲的な授業態度を高く評価します。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅳ ＜＊A＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　アンガス ノーマン	

テーマ

卒業論文作成に向けて Translation Seminar Focussing on Community Translation

授業の到達目標

卒業論文作成に向けて準備をする。1. To give students detailed and individual support for producing their graduation thesis2. To develop advanced and practical translation skills from and into English

授業の概要

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。〇テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。〇文献・資料検索についての具体的指導。〇順次各自の研究テーマについて発表させる。〇中間発表にむけての指導。〇中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。〇論文作成にむけての個別指導This course will be taught in English.

準備学習（予習・復習）

At this final stage, students will receive weekly or bi-weekly individual attention outside regular class time as an aid to producing a quality thesis. An average of at least 20 hours per week will be necessary to achieve this. Students should maintain an academic attitude throughout: rational, objective, informed, rhetorical, and an open mind. They should also be attentive to minute detail in completing the final written version of their thesis. Mid-term they are also required to make a thoroughly researched presentation to the third-year students, and answer their questions on the content presented.

内　容

第1回　中間発表の準備
第2回　中間発表の準備
第3回　中間発表の準備
第4回　中間発表の準備
第5回　中間発表
第6回　執筆要領、注意事項などの指導
第7回　執筆要領、注意事項などの指導
第8回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第9回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第10回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第11回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第12回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第13回　卒業研究提出後報告とまとめ
第14回　卒業研究提出後報告とまとめ
第15回　卒業研究提出後報告とまとめ

履修上の注意点

This class will mainly focus on directing individual teacher/student progress; nevertheless, students should actively participate during the general question/discussion time.

教科書

参考書

Translation – An advanced resource book
著者：　B. Hatim and J. Munday
出版社：Routledge
出版年：2004　　ISBN：　9780415-28305-9

In Other Words – A coursebook on translation
著者：　Mona Baker
出版社：Routledge
出版年：2011　　ISBN：　9781415-46754-4

a30204a250

A Textbook of Translation

著者： P. Newmark

出版社： Prentice Hall

出版年： 1988

ISBN： 9780139-125935

成績評価

試験 （ 0 ）

小テスト（ 0 ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ 40 ）

参加度 （ 60 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅳ ＜＊B＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　浅井　雅志

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文・卒業研究を完成させる。

授業の概要

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。〇テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。〇文献・資料検索についての具体的指導。〇順次各自の研究テーマについて発表させる。〇中間発表にむけての指導。〇中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。〇論文作成にむけての個別指導

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　中間発表の準備
第2回　中間発表の準備
第3回　中間発表の準備
第4回　中間発表の準備
第5回　中間発表
第6回　執筆要領、注意事項などの指導
第7回　執筆要領、注意事項などの指導
第8回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第9回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第10回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第11回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第12回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第13回　卒業研究提出後報告とまとめ
第14回　卒業研究提出後報告とまとめ
第15回　卒業研究提出後報告とまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題 （ 60 ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅳ ＜＊C＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　西村 友美

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文・卒業研究を完成させる。

授業の概要

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。〇テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。〇文献・資料検索についての具体的指導。〇順次各自の研究テーマについて発表させる。〇中間発表にむけての指導。〇中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。〇論文作成にむけての個別指導

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　中間発表の準備
第2回　中間発表の準備
第3回　中間発表の準備
第4回　中間発表の準備
第5回　中間発表
第6回　執筆要領、注意事項などの指導
第7回　執筆要領、注意事項などの指導
第8回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第9回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第10回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第11回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第12回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第13回　卒業研究提出後報告とまとめ
第14回　卒業研究提出後報告とまとめ
第15回　卒業研究提出後報告とまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ 0% ）　　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 60% ）　　授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 40% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅳ ＜＊D＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　北林 利治

テーマ

卒業論文作成に向けて

授業の到達目標

卒業論文・卒業研究を完成させる。

授業の概要

内容は、卒業論文作成に向けて、一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下の通り。〇テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。〇文献・資料検索についての具体的指導。〇順次各自の研究テーマについて発表させる。〇中間発表に向けての指導。〇中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。〇論文作成に向けての個別指導。

準備学習（予習・復習）

卒業論文の執筆に向けて、先行研究の小レポートや報告をクラスでのプレゼンテーション以外にも随時行ってもらう。

内　容

第1回　中間発表の準備
第2回　中間発表の準備
第3回　中間発表の準備
第4回　中間発表の準備
第5回　中間発表
第6回　執筆要領、注意事項などの指導
第7回　執筆要領、注意事項などの指導
第8回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第9回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第10回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第11回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第12回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第13回　卒業研究提出後報告とまとめ
第14回　卒業研究提出後報告とまとめ
第15回　卒業研究提出後報告とまとめ

履修上の注意点

遅刻は2回で1回の欠席扱いとします。規定の欠席回数を超えた場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。また欠席する場合は、必ず電子メールで連絡をしてください。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等 （ 40 ）

参加度 （ 10 ）

欠席が3分の1を超える場合には、いかなる理由であっても単位の認定はできません。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語コミュニケーション演習Ⅳ ＜＊E＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　金山 敬

テーマ

児童英語教育言語習得と英語教育多文化理解とコミュニケーション

授業の到達目標

自分の興味関心は何か。それを見つけ、どのように取り組み、研究していくかを考察する。日本の英語教育、特に児童期の英語教育の果たすべき役割の研究世界の人々とよりよい理解と関係を築くためのコミュニケーション研究など

授業の概要

いかに論文に取り組んでいくか、論文はどのようにして書くのかをまず、研究し、それとともに自分のテーマを見つける。

準備学習（予習・復習）

自分の」テーマに沿った文献を読む。論文の書き方についての本を読む。

内　容

第1回　中間発表の準備
第2回　中間発表の準備
第3回　中間発表の準備
第4回　中間発表の準備
第5回　中間発表
第6回　執筆要領、注意事項などの指導
第7回　執筆要領、注意事項などの指導
第8回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第9回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第10回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第11回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第12回　卒業研究作成にむけての報告と指導
第13回　卒業研究提出後報告とまとめ
第14回　卒業研究提出後報告とまとめ
第15回　卒業研究提出後報告とまとめ

履修上の注意点

個別指導が中心になります。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 40% ）
積極的かつ意欲的な授業態度を高く評価します。

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <a>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　アンガス　ノーマン	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　浅井　雅志	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <c>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　西村　友美	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <d>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　北林　利治	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <e>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　金山　敬	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**経営学概論（マ）<Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ〈＊A〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　　平尾　毅

テーマ

大学のゼミ形式の学習方法を修得する

授業の到達目標

新書版のテキストを読んで、発表者はレジュメを作り、全員が討論に参加して、レポートを作成する能力を身につける。

授業の概要

新書版のテキスト二冊を読む。レジュメに基づく発表者の報告→指定質問者の質問→全員の質問→論点についての意見→全員の感想、と展開して、テキストを読了したらレポートを作成する。

準備学習（予習・復習）

必ずテキストを予習する。

内　　容

第1回　ゼミの運営方法についてのガイダンス、自己紹介
第2回　学生による発表・討論(1)
第3回　学生による発表・討論(2)
第4回　学生による発表・討論(3)
第5回　学生による発表・討論(4)
第6回　学生による発表・討論(5)
第7回　学生による発表・討論(6)
第8回　学生による発表・討論(7)
第9回　学生による発表・討論(8)
第10回　学生による発表・討論(9)
第11回　学生による発表・討論(10)
第12回　学生による発表・討論(11)
第13回　学生による発表・討論(12)
第14回　学生による発表・討論(13)
第15回　総括

履修上の注意点

テキストを必ず予習して、十分に準備した上でゼミに参加すること。ゼミの欠席はありえない。

教科書

ブラック企業
著者:　今野晴貴
出版社:　文春新書
出版年:　2012　　ISBN:　4-16-660887-4

いじめ問題をどう克服するか
著者:　尾木直樹
出版社:　岩波新書
出版年:　2013　　ISBN:　00-431456-1

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ レポート20% ）　　授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 40% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ＜＊B＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　今井 まりな

テーマ

大学での学び方を学ぶ

授業の到達目標

大学での学び方の基礎を習得し、発表やディスカッションに向けて報告資料の準備に慣れることを目的とする。

授業の概要

グループ分けを行い、各グループに最低4回、報告を割り当てる。各報告に間に合うように該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　大学での学び①
第3回　大学での学び②
第4回　輪読の説明
第5回　輪読①②
第6回　輪読③④
第7回　輪読⑤⑥
第8回　輪読①②
第9回　輪読③④
第10回　輪読⑤⑥
第11回　新製品企画
第12回　新製品企画
第13回　新製品企画
第14回　新製品企画
第15回　新製品企画の報告

履修上の注意点

教科書

マーケティングをつかむ
著者:　黒岩健一郎・水越康介
出版社:　有斐閣
出版年:　2012　　ISBN:　978-4641177178

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 60 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ〈＊C〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　高山　一夫

テーマ

基礎的なアカデミック・スキルの習得と学部専門教育への導入

授業の到達目標

大学での学習に必要な基本的スキルを習得する。また、受講生相互の交流を通じて、コミュニケーション能力の向上と学習への動機づけを図る。

授業の概要

グループワークおよびテキストの輪読を内容とする演習形式の授業を展開する。また、毎回の演習の冒頭において、受講生による1分間スピーチやビジネス検定・時事問題の学習も行う。授業の到達目標に照らして、図書館ガイダンス等も開催する。

準備学習（予習・復習）

授業外において、グループワークやテキストの報告準備等を行う。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　グループワークⅠ①（学生生活に関するテーマ。KJ法を用いたブレイン・ストーミング）
第3回　グループワークⅠ②（調査結果を模造紙にとりまとめる）
第4回　アカデミック・スキル入門（本の読み方）
第5回　アカデミック・スキル入門（レジュメの作り方）
第6回　アカデミック・スキル入門（討論のルール）
第7回　アカデミック・スキル入門（IT機器を活用した文書共有等のグループワーク）
第8回　図書館ガイダンス（予定）　実際の図書貸借を体験する。
第9回　視聴覚教材を用いた学習①（キャリア形成に関するもの）
第10回　視聴覚教材を用いた学習②（ヘルスケアに関するもの）
第11回　テキストを用いた報告と討論　1章
第12回　テキストを用いた報告と討論　2章
第13回　テキストを用いた報告と討論　3章
第14回　テキストを用いた報告と討論　4章
第15回　演習全体のまとめ

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。

教科書

医療・介護問題を読み解く
著者:　池上直己
出版社:　日経文庫
出版年:　2014　　ISBN:　9784532113117

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ〈＊D〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　　片岡　裕介

テーマ

情報社会における経済活動の理解

授業の到達目標

経済、経営に関する身近な問題を題材として考えることで、情報で溢れかえる現代社会に起こる様々な現象を捉える視点を養うとともに、発表用資料の作成要領、発表における表現方法、質疑のポイントなどの学生生活に必要な技術を身に付ける。

授業の概要

毎回の発表および議論を通して、問題を整理し論理的に考える姿勢を学ぶとともに、自分の知識や考えを他の人に伝えるためのスキルを身に付ける。

準備学習（予習・復習）

発表前の準備と発表後のまとめが必要です。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　発表方法について
第3回　学生による発表および議論(1)
第4回　学生による発表および議論(2)
第5回　学生による発表および議論(3)
第6回　学生による発表および議論(4)
第7回　学生による発表および議論(5)
第8回　前半の総括
第9回　学生による発表および議論(6)
第10回　学生による発表および議論(7)
第11回　学生による発表および議論(8)
第12回　学生による発表および議論(9)
第13回　学生による発表および議論(10)
第14回　学生による発表および議論(11)
第15回　全体の総括

履修上の注意点

教科書

経済と経営を楽しむためのストーリー
著者:　学習院大学経済学部経済経営研究所
出版社:　東洋経済新報社
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ＜＊E＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　尾関　美智子

テーマ

大学における学習スキルの修得ならびに学習習慣の確立

授業の到達目標

学生生活を円滑にスタートできるよう、大学で必要な学習スキルを学ぶとともに、受講生が自ら学習する習慣の確立を図る。

授業の概要

大学での基本的学習スキルについての解説、テキストを用いた発表と討論を通じたコミュニケーションスキルの獲得。

準備学習（予習・復習）

テキストの予習と復習、グループワークに積極的に参加すること。学習ポートフォリオを作成し、学習内容や配布物等を各自保管すること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　テキストを用いたグループワークの説明と準備
第3回　図書館ガイダンス
第4回　テキストを用いたグループワークと討論①
第5回　テキストを用いたグループワークと討論②
第6回　テキストを用いたグループワークと討論③
第7回　テキストを用いたグループワークと討論④
第8回　テキストを用いたグループワークと討論⑤
第9回　テキストを用いたグループワークと討論⑥
第10回　キャリアガイダンス
第11回　グループワーク
第12回　グループワーク
第13回　レポートの書き方①
第14回　レポートの書き方②
第15回　演習全体のまとめ

履修上の注意点

無断欠席はしないようにしてください。

教科書

テレビの日本語
著者:　加藤昌男
出版社:　岩波新書
出版年:　2012　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ＜＊F＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　松石　泰彦

テーマ

大学での学習方法の基礎を習得する。

授業の到達目標

大学で勉強するために必要な基本的スキルの習得と、社会に対して視野と関心を広げること。

授業の概要

前半は、身近な題材を用いて、大学での基本的な勉強方法や、情報の収集・整理の方法を学ぶ。後半は、テキストを用いた発表と討論のスキルを学ぶ。必要に応じて映像教材なども用いる。

準備学習（予習・復習）

出された課題については、自覚と責任を持って準備してくること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　大学の学習での基礎スキル（1）
第3回　大学の学習での基礎スキル（2）
第4回　大学の学習での基礎スキル（3）
第5回　大学の学習での基礎スキル（4）
第6回　大学の学習での基礎スキル（5）
第7回　テキストを用いたグループワークと討論（1）
第8回　テキストを用いたグループワークと討論（2）
第9回　テキストを用いたグループワークと討論（3）
第10回　テキストを用いたグループワークと討論（4）
第11回　テキストを用いたグループワークと討論（5）
第12回　テキストを用いたグループワークと討論（6）
第13回　テキストを用いたグループワークと討論（7）
第14回　テキストを用いたグループワークと討論（8）
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

経済学的思考のセンスーお金がないヒトを助けるには
著者:　大竹文雄
出版社:　中公新書
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 30 ）
ゼミ形式の授業は参加を最重要視する。遅刻・欠席を極力しないこと。

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ〈＊G〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　西野　毅朗

テーマ

高校から大学への学びの転換～主体的に学ぶ、関係性を構築する、基本的なスタディスキルを高める～

授業の到達目標

①高校までの学びと、大学からの学びの違いを理解する②学生生活を通じて互いに助け合える関係性を構築する③自ら問題意識を持ち、自ら調べ学ぶ姿勢を身につける④大学で4年間学んでいくための基本的なスタディスキルを身につける⑤現代ビジネスに対する興味・関心を高める

授業の概要

本科目はグループワークを中心とした演習科目です。教員から教えてもらうということ以上に、実践を通じて自ら学ぶことを大切にして下さい。わからないこともまずは自分で調べてみてください。インターネットで調べたり、本を読んだり、人に訊いたりしてみてください。もちろん訊く相手の一人には教員も含まれます。遠慮なく質問したり、相談して下さいね。私もみなさんと一緒に考え、愉しく学びたいと思います。

準備学習（予習・復習）

授業外でグループワークや授業準備等を行っていただきます。自分の成長と自分の未来のためと思って頑張ってついてきてください。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　フィールドワーク①（京都橘大学探検）
第3回　フィールドワーク②（図書館ツアー（予定）／リサーチ技法）
第4回　スタディスキル入門①（書籍を読む）
第5回　スタディスキル入門②（レジュメ作成技法）
第6回　スタディスキル入門③（プレゼンテーション技法）
第7回　スタディスキル入門④（レポート作成技法）
第8回　スタディスキル入門⑤（ディスカッション技法）
第9回　スタディスキル入門⑥（チームワーク技法）
第10回　スタディスキル入門⑦（プランニング技法）
第11回　グループワークⅠ（ビジネスプランとは？）
第12回　グループワークⅡ（ビジネスプランを作成しよう）
第13回　グループワークⅢ（ビジネスプランを練り上げよう）
第14回　ミニビジネスプランコンテスト
第15回　総括（半年間の学びを振り返り、今後への活かし方を考える）

履修上の注意点

遅刻・欠席する場合は、必ず教員に連絡してください（受講生みんなに迷惑がかかる可能性があるからです）。

教科書

未使用
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 20 ）
詳細な評価方法は授業中に説明します。

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ＜＊A＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　松石　泰彦

テーマ

大学での学習方法の基礎を習得する。

授業の到達目標

大学で勉強するために必要な基本的スキルの習得と、社会に対して視野と関心を広げること。

授業の概要

前半は、身近な題材を用いて、大学での基本的な勉強方法や、情報の収集・整理の方法を学ぶ。後半は、テキストを用いた発表と討論のスキルを学ぶ。必要に応じて映像教材なども用いる。

準備学習（予習・復習）

出された課題については、自覚と責任を持って準備してくること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　大学の学習での基礎スキル（1）
第3回　大学の学習での基礎スキル（2）
第4回　大学の学習での基礎スキル（3）
第5回　大学の学習での基礎スキル（4）
第6回　大学の学習での基礎スキル（5）
第7回　テキストを用いたグループワークと討論（1）
第8回　テキストを用いたグループワークと討論（2）
第9回　テキストを用いたグループワークと討論（3）
第10回　テキストを用いたグループワークと討論（4）
第11回　テキストを用いたグループワークと討論（5）
第12回　テキストを用いたグループワークと討論（6）
第13回　テキストを用いたグループワークと討論（7）
第14回　テキストを用いたグループワークと討論（8）
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

経済学的思考のセンスーお金がないヒトを助けるには
著者:　大竹文雄
出版社:　中公新書
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 30 ）
ゼミ形式の授業は参加を最重要視する。遅刻・欠席を極力しないこと。

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ＜＊B＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　近藤　隆則

テーマ

現代の経済社会と金融の役割

授業の到達目標

新聞・雑誌の記事や文献の読解能力、レジュメにまとめる能力、発表能力、討論能力など、「自分で考える力」を養うための基礎力を身に付けることを目標とする。

授業の概要

経済、経営、金融に関わる新聞・雑誌の記事や基礎文献を輪読・発表・議論する。

準備学習（予習・復習）

課題とされた記事や文献は、報告者だけではなく全員がきちんと読んで討論できるように準備して下さい。

内　容

第1回　演習の進め方、レジュメの作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
第2回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第3回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第4回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第5回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第6回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第7回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第8回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第9回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第10回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第11回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第12回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第13回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第14回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第15回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）

履修上の注意点

授業中の積極的な発言、質問を期待します。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50% ）
参加度　（ 50% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ＜＊C＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　　片岡　裕介

テーマ

情報社会における経済活動の理解

授業の到達目標

経済、経営に関する身近な問題を題材として考えることで、情報で溢れかえる現代社会に起こる様々な現象を捉える視点を養うとともに、発表用資料の作成要領、発表における表現方法、質疑のポイントなどの学生生活に必要な技術を身に付ける。

授業の概要

毎回の発表および議論を通して、問題を整理し論理的に考える姿勢を学ぶとともに、自分の知識や考えを他の人に伝えるためのスキルを身に付ける。

準備学習（予習・復習）

発表前の準備と発表後のまとめが必要です。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　発表方法について
第3回　学生による発表および議論(1)
第4回　学生による発表および議論(2)
第5回　学生による発表および議論(3)
第6回　学生による発表および議論(4)
第7回　学生による発表および議論(5)
第8回　前半の総括
第9回　学生による発表および議論(6)
第10回　学生による発表および議論(7)
第11回　学生による発表および議論(8)
第12回　学生による発表および議論(9)
第13回　学生による発表および議論(10)
第14回　学生による発表および議論(11)
第15回　全体の総括

履修上の注意点

教科書

経済と経営を楽しむためのストーリー
著者:　学習院大学経済学部経済経営研究所
出版社:　東洋経済新報社
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　西野　毅朗	

テーマ

ディベートを通じた思考力・コミュニケーション力・協働力の向上

授業の到達目標

①【思考力】物事を複数の視点で考えることができる。②【思考力】物事を筋道立てて考えることができる。③【思考力】物事に対して「本当にそうか？」と考えることができる。④【コミュニケーション力】自分の主張をわかりやすく、説得力を持って伝えることができる。⑤【コミュニケーション力】相手の話をきき、相手の主張を理解した上で、建設的な議論ができる。⑥【協働力】チームにおける責任を果たし、仲間を助け、貢献できる。

授業の概要

この授業では、「ディベート」という討論のゲームを通じて大学での学び、ひいては社会生活で必要とされる汎用的技能を高めます。このゲームの特徴は、皆さんが一生懸命やればやるほど力が身につくということです。半年後には、きっと「自分、成長したな」と思うことができます。初心者でも全く問題ありません。愉しみながらやっていきましょう。

準備学習（予習・復習）

本科目ではグループでの活動が中心となります。授業外での準備学習は必須です。グループメンバーと相談し、協力しながら進めてください。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　ディベートとは？
第3回　思考力を鍛えるⅠ（複眼的思考と論理的思考）
第4回　思考力を鍛えるⅡ（論理的思考と批判的思考）
第5回　試合準備
第6回　ディベート試合①
第7回　ディベート試合②
第8回　ディベート試合③
第9回　中間振り返り
第10回　試合準備①
第11回　試合準備②
第12回　ディベート試合①
第13回　ディベート試合②
第14回　ディベート試合③
第15回　総括振り返り

履修上の注意点

試合当日の欠席やレポートの未提出は落第に繋がりかねません。必ず出席・提出するようにしましょう。また授業に遅刻・欠席する場合は教員に事前に連絡をしましょう（これはマナーです）。最後に、授業に関する不安や悩み、相談などは遠慮なく申し出てください。受講生のみなさんにとって最良の学びの機会になるよう、私も善処します。

教科書

参考書

はじめてのディベート
著者：　西部直樹
出版社：あさ出版
出版年：1998　　ISBN：　4900699292

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 20 ）
・詳細は授業で説明します。

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ＜＊E＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　高原　正興

テーマ

大学のゼミ形式の学習方法を修得する

授業の到達目標

新書版のテキストを読んで、発表者はレジュメを作り、全員が討論に参加して、レポートを作成する能力を身につける。

授業の概要

新書版のテキスト二冊を読む。レジュメに基づく発表者の報告→指定質問者の質問→全員の質問→論点についての意見→全員の感想、と展開して、テキストを読了したらレポートを作成する。

準備学習（予習・復習）

必ずテキストを予習する。

内　容

第1回　ゼミの運営方法についてのガイダンス、自己紹介
第2回　学生による発表・討論(1)
第3回　学生による発表・討論(2)
第4回　学生による発表・討論(3)
第5回　学生による発表・討論(4)
第6回　学生による発表・討論(5)
第7回　学生による発表・討論(6)
第8回　学生による発表・討論(7)
第9回　学生による発表・討論(8)
第10回　学生による発表・討論(9)
第11回　学生による発表・討論(10)
第12回　学生による発表・討論(11)
第13回　学生による発表・討論(12)
第14回　学生による発表・討論(13)
第15回　総括

履修上の注意点

テキストを必ず予習して、十分に準備した上でゼミに参加すること。ゼミの欠席はありえない。

教科書

ブラック企業
著者:　今野晴貴
出版社:　文春新書
出版年:　2012　　ISBN:　4-16-660887-4

いじめ問題をどう克服するか
著者:　尾木直樹
出版社:　岩波新書
出版年:　2013　　ISBN:　00-431456-1

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ レポート20% ）　　授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 40% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ＜＊F＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　高山　一夫

テーマ

基礎的なアカデミック・スキルの習得と学部専門教育への導入

授業の到達目標

大学での学習に必要な基本的スキルを習得する。また、受講生相互の交流を通じて、コミュニケーション能力の向上と学習への動機づけを図る。

授業の概要

グループワークおよびテキストの輪読を内容とする演習形式の授業を展開する。また、毎回の演習の冒頭において、受講生による1分間スピーチやビジネス検定・時事問題の学習も行う。授業の到達目標に照らして、図書館ガイダンス等も開催する。

準備学習（予習・復習）

授業外において、グループワークやテキストの報告準備等を行う。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　グループワークⅠ①（これからの目標やキャリア形成に関するテーマ。KJ法を用いたブレイン・ストーミング）
第3回　グループワークⅠ②（調査結果を模造紙にとりまとめる）
第4回　アカデミック・スキル入門（本の読み方）
第5回　アカデミック・スキル入門（レジュメの作り方）
第6回　アカデミック・スキル入門（討論のルール）
第7回　アカデミック・スキル入門（IT機器を活用した文書共有等のグループワーク）
第8回　図書館ガイダンス（予定）　実際の図書貸借を体験する。
第9回　視聴覚教材を用いた学習①（キャリア形成に関するもの）
第10回　視聴覚教材を用いた学習②（ヘルスケアに関するもの）
第11回　テキストを用いた報告と討論　1章
第12回　テキストを用いた報告と討論　2章
第13回　テキストを用いた報告と討論　3章
第14回　テキストを用いた報告と討論　4章
第15回　演習全体のまとめ

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。

教科書

医療・介護問題を読み解く
著者:　池上直己
出版社:　日経文庫
出版年:　2014　　ISBN:　9784532113117

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ＜＊G＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　平尾 毅

テーマ

意思決定の方法について学ぶ。

授業の到達目標

自分で考え、自分で決めるための思考法を身につける。

授業の概要

環境変化の激しい時代に自分の思い通りにキャリアを築くことは困難です。これまでのやり方や価値観、横並びの意思決定では対応できない状況が増えています。不確実性が増大している時代において、自分の将来を見据えながら現時点で最善と思える意思決定をしなければなりません。このゼミでは、ディベートを繰り返し行うことによって、自分で答えを導出するための思考法を身につけます。

準備学習（予習・復習）

テキストの発表レジュメ作成とディベートの準備を、予習として行ってください（2時間程度）。復習としてフローシートを作成してください（1時間程度）。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　学生による発表・討論（1）
第3回　学生による発表・討論（2）
第4回　学生による発表・討論（3）
第5回　学生による発表・討論（4）
第6回　学生による発表・討論（5）
第7回　学生による発表・討論（6）
第8回　学生による発表・討論（7）
第9回　ディベート（1）
第10回　ディベート（2）
第11回　ディベート（3）
第12回　ディベート（4）
第13回　ディベート（5）
第14回　ディベート（6）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

キャリアショック
著者:　高橋俊介
出版社:　ソフトバンク文庫
出版年:　2006年　　ISBN:　978-4797336214

武器としての決断思考
著者:　瀧本哲史
出版社:　星海社新書
出版年:　2011年　　ISBN:　978-4061385016

参考書

適宜紹介します。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 60 ）
参加度（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ＜＊救急Z＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　25
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　土井　一弘	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ＜＊救急ZA＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　25
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**救急医学総論Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員　50

履修条件　　クラス指定

担 当 者　夏目　美樹

テーマ

救急救命士の使命・基礎知識と代表的応急処置

授業の到達目標

救急救命士の業務遂行には、その社会的使命の理解や救急医療制度の理解、そして救急医学を中心とした医学全般の知識が必要となる。本講義では、救急救命の歴史や現代の救急医療について概観し、救急救命士の業務を担保する科学的思考の基礎知識や人間の体、心、くらしへの理解を深める。さらに、救急救命士の行う応急処置と種類、代表的な処置としての心肺蘇生法までを習得し、一連の講義を通して、職業としての救急救命士の具体的なイメージを持てるようにする。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション、医の倫理と生命論理
第2回　救急業務とは・救急業務の沿革
第3回　心肺蘇生法・病院前救護
第4回　科学的思考の基礎・人間と人間生活
第5回　救急救命士の役割と責任
第6回　救急医療体制とは
第7回　救急医療システムとは
第8回　メディカルコントロールとは
第9回　救急救命士に関する法規
第10回　救急活動要領について
第11回　救急活動要領について
第12回　搬送不適応者の対応要領について
第13回　医療保険等について
第14回　消防業務について
第15回　総括

履修上の注意点

第1回のガイダンスでの注意事項を遵守すること。

教科書

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　上巻
著者：　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社：へるす出版
出版年：2015　　ISBN：　978489268699
救急救命士標準テキスト　改訂第9版　下巻
著者：　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社：へるす出版
出版年：2015　　ISBN：　9784892698705

参考書

成績評価

試験　（ 100 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
受講態度が不良のもの、休みの回数が一定以上のものは成績評価を行わない。

2016 Syllabus

科 目 名　**救急医学総論Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　夏目　美樹	

テーマ

プレホスピタルケアと救急救命

授業の到達目標

救急医療においては、医療機関での受診を待たず、少しでも発症時にさかのぼって医療が開始されなければならない。また救急現場での観察・応急処置と病院内での診断治療が、一貫して傷病者に提供される救急医療体制をつくることが必要である。このようなプレホスピタルケアの中心的な担い手である消防隊員としての救急救命士の役割と責務について学習する。さらに病院前救護の質を管理する事後検証についても理解を深める。また通常の救急医療体制での対応が困難となる災害発生時の、組織的な救命救急医療についても学習する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　救急医療体制とは
第2回　人工呼吸と気道確保資機材
第3回　外傷処置
第4回　特定行為とは
第5回　大規模災害とは・トリアージとは
第6回　現場救護所の運営方法について
第7回　NBC災害とは・NBC災害対応要領について
第8回　国内の災害事例について
第9回　国外の災害事例について
第10回　ストレスマネージメント
第11回　救急活動事例と医事紛争
第12回　法医学総論・死体現象について
第13回　命を守る仕事
第14回　まとめ
第15回　総括

履修上の注意点

第1回のガイダンスでの注意事項を遵守すること。

教科書

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　上巻
著者：　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社：へるす出版
出版年：2015　　ISBN：　9784892698699
救急救命士標準テキスト　改訂第9版　下巻
著者：　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社：へるす出版
出版年：2015　　ISBN：　9784892698705

参考書

成績評価

試験　（ 100 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
受講態度が不良のもの、休みの回数が一定以上のものは成績評価を行わない。

2016 Syllabus

科 目 名　**救急救命実習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　通年	定　　員　50
履修条件　「救急救命実習Ⅰ」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　関根　和弘.北小屋　裕.千田　いずみ.夏目　美樹.深澤　雄二.福岡　範恭	

テーマ

救急隊活動と救急救命士の基本手技・知識を学ぶ

授業の到達目標

救急隊活動と救急救命士の救急救命処置の基本を習得する

授業の概要

救急救命士として職務遂行にあたり1回生で修得した基本行動要領を基礎とした救急救命行為を用いた救急隊活動を行うために必要な基本処置および技術を理解し、習得することを目標とする。そのために通年講義実習のほか、夏期および春期学休期等に学外・学内実習を実施する。

準備学習（予習・復習）

救急救命標準テキストに準ずる

内　容

第1回　第１回～３回　ガイダンス、基本CPA対応活動
第2回　第４回～６回　基本CPA対応活動
第3回　第７回～９回　基本CPA対応活動
第4回　第８回～12回　基本外傷処置
第5回　第13回～15回　基本外傷処置
第6回　第16回～18回　外傷処置総合
第7回　第19回～21回　傷病者観察
第8回　第22回～24回　傷病者観察
第9回　第25回～27回　傷病者観察
第10回　第28回～30回　傷病者観察
第11回　第31回～33回　外傷シナリオ想定
第12回　第34回～36回　外傷シナリオ想定
第13回　第37回～39回　CPAシナリオ想定
第14回　第40回～42回　CPAシナリオ想定
第15回　第43回～45回　前期まとめ
第16回　第46回～49回　総合演習、傷病者理解　＊授業期間外
第17回　第50回～52回　集団災害、トリアージ
第18回　第53回～55回　静脈ライン、静脈路確保準備
第19回　第56回～58回　静脈路確保基本手技
第20回　第59回～61回　静脈路確保基本手技
第21回　第62回～64回　静脈路確保基本手技
第22回　第65回～67回　静脈路確保基本手技
第23回　第68回～70回　器具を使用した気道確保
第24回　第71回～73回　器具を使用した気道確保
第25回　第74回～76回　気管挿管基本手技
第26回　第77回～79回　気管挿管基本手技
第27回　第80回～82回　気管挿管基本手技
第28回　第83回～85回　気管挿管基本手技
第29回　第86回～88回　気管挿管基本手技
第30回　第89回～91回　後期まとめ第92回～110回　介護高齢者とコミュニケーション（学外）＊平常授業日外第111回～113回　総括

履修上の注意点

欠席は認めない。教員の指示指導に従えない場合は単位を取り消す場合がある。

教科書

JPTECガイドブック
著者：　一般社団法人JPTEC協議会
出版社：へるす出版
出版年：2010　　ISBN：　9784892697036

a50101b110

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 上巻
著者: 救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社: へるす出版
出版年: 2015 ISBN: 9784892698699
救急救命士標準テキスト 改訂第9版 下巻
著者: 救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社: へるす出版
出版年: 2015 ISBN: 9784892698705
改定第4版 救急隊員標準テキスト
著者: 救急隊員用教本作成委員会
出版社: へるす出版
出版年: 2013 ISBN: 9784892697951
参考書

成績評価

試験 (100) 小テスト ( )
授業中課題 ( ) 授業中発表等 ( )
参加度 ( )
成績評価は知識に関する試験に加え、実技試験を実施する。なお、試験の受験にあたっては原則、すべての授業に参加していることを条件とし、無断欠席があった場合は受験を認めないものとする。

2016 Syllabus

科 目 名　**救急救命実習Ⅲ**

クラス		配当回生	学部3回生
講義期間	通年	定　　員	50
履修条件	「救急救命実習Ⅴ」を修得済みであること	クラス指定	
担 当 者	夏目　美樹.北小屋　裕.久保山　一敏.関根　和弘.千田　いずみ.西本　泰久.深澤　雄二.福岡　範恭.冨士原　彰		

テーマ

救急救命士の現場活動の修得

授業の到達目標

救急救命士が救急現場において実施する救急救命行為（プロトコル）を習得する
各種病態生理を理解し、病態に適応した対応が取れる

授業の概要

救急救命士の活動に必要な知識・技術をシミュレーションし、各事例における基本活動プロトコルの習得とともに隊活動を通して総合的な実践力を養うことを目標とする。

準備学習（予習・復習）

実習項目に関するテキストの各項目を熟読し、各種手技および病態生理を理解した後実習に参加すること。
実習後は実施した活動内容を復習し、必要に応じて自主練習を行い知識技術の習得に努めること。

内　　容

第1回　第１回～３回　オリエンテーション、CPA対応基本活動
第2回　第４回～６回　CPA対応基本活動
第3回　第７回～９回　静脈路確保および薬剤投与プロトコル
第4回　第10回～12回　静脈路確保および薬剤投与プロトコル
第5回　第13回～15回　静脈路確保および薬剤投与プロトコル
第6回　第16回～18回　器具を用いた気道確保プロトコル
第7回　第19回～21回　器具を用いた気道確保プロトコル
第8回　第22回～24回　気管挿管プロトコル
第9回　第25回～27回　気管挿管プロトコル
第10回　第28回～30回　CPA対応総合活動
第11回　第31回～33回　CPA対応総合活動
第12回　第34回～36回　CPA対応総合活動
第13回　第37回～39回　病院内でのCPA対応（ICLS）
第14回　第40回～42回　病院内でのCPA対応（ICLS）
第15回　第43回～45回　前期まとめ
第16回　第46回～48回　病態別対応（胸部痛対応活動）
第17回　第49回～51回　病態別対応（胸部痛対応活動）
第18回　第52回～54回　病態別対応（胸部痛対応活動）
第19回　第55回～57回　病態別対応（胸部痛対応活動）
第20回　第58回～60回　病態別対応（腰背部部痛対応活動）
第21回　第61回～63回　病態別対応（腰背部部痛対応活動）
第22回　第64回～66回　病態別対応（呼吸困難対応活動）
第23回　第67回～69回　病態別対応（呼吸困難対応活動）
第24回　第70回～72回　病態別対応（神経感覚系対応活動）
第25回　第73回～75回　病態別対応（頭蓋内病変対応活動）
第26回　第76回～78回　病態別対応（頭蓋内病変・意識消失対応活動）
第27回　第79回～81回　病態別対応（頭蓋内病変・意識消失対応活動）
第28回　第82回～84回　病態別対応（意識消失対応活動）
第29回　第85回～87回　病態別対応（意識消失対応活動）
第30回　第88回～90回　病態別対応（産科・総括）

履修上の注意点

受講態度、服装、頭髪等が実習学生として不適切な者は、成績評価の対象としないことがある。
授業中に実施するテストが基準点数に達していない者は、成績評価の対象としないことがある。

教科書

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　上巻
著者：　救急救命士標準テキスト編集委員会

a50101b280

出版社: へるす出版

出版年: 2015　　ISBN: 9784892698699

救急救命士標準テキスト 改訂第9版 下巻

著者: 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社: へるす出版

出版年: 2015　　ISBN: 9784892698705

参考書

成績評価

試験 (100)　　小テスト ( )

授業中課題 ( )　　授業中発表等 ( )

参加度 ( )

無断欠席した者は成績評価を行わない。

2016 Syllabus

科 目 名　**救急救命実習Ⅳ**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　夏目　美樹.北小屋　裕.千田　いずみ.西本　泰久.深澤　雄二.福岡　範恭.冨士原　彰	

テーマ

総合的な観察・処置技術を養う

授業の到達目標

これまでの各実習を通して学修した救急救命活動実践を総括し、救急救命士としての自覚を養う。また、各種高度シミュレーターや救急車を用いて、様々な現場と病態を想定した実践的な実習により、救急救命士としての総合的な観察・処置技術を習得すると共に一連の救急活動（救急救命活動）を自律的に遂行できる総合的な実践力を養う。そのために実践的なシミュレーション実習を実施する。

授業の概要

救急救命士の活動をシミュレーションし、各事例における基本活動プロトコルの更なる確認とともに、隊活動を通して現場活動に即応した実践力応用力を養うことを目標とする。

準備学習（予習・復習）

実習項目に関するテキストの各項目を熟読し、各種手技および病態生理を理解した後実習に参加すること。
実習後は実施した活動内容を復習し、必要に応じて自主練習を行い知識技術の習得に努めること。

内　容

第1回　第１回～３回　オリエンテーション、心肺停止症例対応
第2回　第４回～６回　神経系疾患症例対応
第3回　第７回?9回　呼吸器系疾患症例対応
第4回　第１０回?１２回　循環器系疾患症例対応
第5回　第１３回?１５回　消化器系疾患症例対応
第6回　第１６回?１８回　泌尿・生殖系疾患症例対応
第7回　第１９回?２１回　外傷症例
第8回　第２２回?２４回　精神障害・中毒疾患症例対応
第9回　第２５回?２７回　環境障害疾患症例対応
第10回　第２８回?３０回　分娩・産婦人科系疾患症例対応
第11回　第３１回?３３回　内分泌・代謝系疾患症例対応
第12回　第３４回?３６回　意識消失疾患症例対応
第13回　第３７回?３９回　ショック症例対応
第14回　第４０回?４２回　総合シミュレーション
第15回　第４３回?４５回　総合シミュレーション

履修上の注意点

受講態度、服装、頭髪等が実習学生として不適切な者は、成績評価の対象としないことがある。

教科書

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　上巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698699
救急救命士標準テキスト　改訂第9版　下巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698705

参考書

成績評価

試験　（ 100 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ ）　　授業中発表等　（ ）
参加度　（ ）
無断欠席したものについては、成績評価を行わない。

a50101b310

2016 Syllabus

科 目 名　**現代企業論 <Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　平尾 毅	

テーマ

企業の本質・役割・存在価値を学習する。

授業の到達目標

株式会社を中心とした、企業の存在価値について理解を深める。

授業の概要

企業関連諸理論、制度を熟知し、実践に応用できるような学習を目指している。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　講義概要、及び現代企業を見る観点
第2回　企業の目的と存在価値
第3回　財・サービスの提供機関としての企業
第4回　企業の形態論
第5回　株式会社制度の出現と展開
第6回　株式会社の本質と特徴
第7回　株式会社の組織
第8回　企業論の基本的概念の総括と理解度チェック
第9回　コーポレート・ガバナンスの国際比較
第10回　企業の境界
第11回　企業関関係の構造と行動
第12回　企業統合の形態論とM&A
第13回　会社機関
第14回　証券取引市場
第15回　企業に関わる主要理論の総括と理解度チェック

履修上の注意点

経済新聞の精読をお薦めします。

教科書

企業形態論 第3版（新経営学ライブラリー5）
著者:　小松　章
出版社:　新世社
出版年:　2006年　　ISBN:　978-4883840984

参考書

経験から学ぶ経営学入門
著者:　上林・奥林・團・開本・森田・竹林
出版社:　有斐閣ブックス
出版年:　2007年　　ISBN:　978-4641183483

1からの経営学 第2版
著者:　加護野忠男・吉村典久
出版社:　碩学舎
出版年:　2012年　　ISBN:　978-4502696107

企業論 第3版
著者:　三戸浩・池内秀己・勝部伸夫
出版社:　有斐閣アルマ
出版年:　2011年　　ISBN:　978-4641124448

成績評価

試験　（ 80 ）　　小テスト（ 0 ）

a50101d150

授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 0 ）

参加度 （ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**会計学入門**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河野　充央	

テーマ

財務諸表の概要を学ぶ

授業の到達目標

財務諸表の仕組みを学ぶことをとおして経営活動の本質を理解する

授業の概要

テキスト以外に，経済記事を活用しながら，常にグローバルビジネスの最前線に目を向けながら講義を進める。スケジュール等において，可能であれば，経営者をゲストスピーカーに招く場合もある

準備学習（予習・復習）

復習を必ず行ってもらいたい。

内　　容

第1回　ガイダンス資金の流れと会計的思考
第2回　制度としての会計システム財務会計と関連法規
第3回　財務諸表の仕組み・役割り
第4回　資産の意義と分類1
第5回　資産の意義と分類2
第6回　負債の意義と分類1
第7回　負債の意義と分類2
第8回　純資産の意義と分類1
第9回　純資産の意義と分類2
第10回　損益計算書のルール
第11回　損益計算の仕組み1
第12回　損益計算の仕組み2
第13回　財務管理1
第14回　財務管理2
第15回　まとめ

履修上の注意点

私語は厳に慎んで下さい。他の受講者にとって，これ以上の迷惑はありません。

教科書

これだけは知っておきたい「会計」の基本と常識
著者：　乾　隆一
出版社：フォレスト出版
出版年：　　ISBN：

参考書

最新財務諸表論
著者：　武田隆二
出版社：中央経済社
出版年：　　ISBN：

経営管理会計
著者：　西澤脩
出版社：中央経済社
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験 （ 40 ）	小テスト （ 10 ）
授業中課題 （ 10 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**医療マネジメント入門 <Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

医療経営についての入門科目

授業の到達目標

医療経営とその背景をなす医療制度と医療技術について、基礎的な知識を獲得する

授業の概要

医療制度、医療経営、医療技術とその評価について、講義形式で授業を行う。外部講師による特別講演も予定している。

準備学習（予習・復習）

受講に際して前提となる知識は不要であるが、授業中の配布プリントや確認テストを活用して知識の習得に努めること。

内　　容

第1回　ガイダンスと話題提供
第2回　概説－医療経営の特徴
第3回　医療制度（医療保険制度の概要）
第4回　医療制度（介護保険分野）
第5回　医療制度（医療法と医療法人制度）
第6回　医療制度（医療・介護総合改革）
第7回　中間まとめと理解度の確認
第8回　医療経営（人的資源管理）
第9回　医療経営（業務管理）
第10回　医療経営（資金管理）
第11回　医療経営（リスク管理）
第12回　医療技術評価の基礎
第13回　医療技術評価の基礎
第14回　外部講師による特別講演（予定）
第15回　講義全体のまとめと理解度の確認

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、授業中に紹介した参考書などを積極的に読むとともに、新聞や雑誌の医療記事に目を通す習慣をつけること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

医療経営白書2015－16年版
著者:　ヘルスケア総合研究所
出版社:　日本医療企画
出版年:　2015　　ISBN:　9784864393836

医療・介護問題を読み解く
著者:　池上直己
出版社:　日経文庫
出版年:　2014　　ISBN:　9784532113117

医療の選択
著者:　桐野高明
出版社:　岩波新書
出版年:　2014　　ISBN:　9784004314929

a50101d310

2015年版イラスト図解医療費の仕組み

著者:　木村憲洋、川越満

出版社: 日本実業出版社

出版年: 2014　　ISBN:　9784534051776

医療政策を問いなおす

著者:　島崎謙治

出版社: ちくま新書

出版年: 2015　　ISBN:　9784480068637

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ 50 ）

授業中課題 （ 25 ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ 25 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**社会調査・フィールドワーク入門 <Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

社会調査の意義・歴史・類型等、基本的なことについてわかりやすく解説する。

授業の到達目標

上記テーマに記載の内容（社会調査の基本知識）を身につける。

授業の概要

下記の教科書に準拠して、社会調査の基本知識を講義形式で展開する。第一に定義・目的・歴史、第二に各種調査の種類の紹介、第三に調査方法や手順の実際に関する内容を概説する。

準備学習（予習・復習）

テキストの予習・復習に努める

内　　容

第1回　社会調査とは何か　社会調査の目的
第2回　社会調査の歴史
第3回　調査方法論・調査倫理
第4回　各種調査　量的調査と質的調査
第5回　調査票調査と調査票作成
第6回　サンプリング
第7回　調査票調査の種類とプロセス
第8回　データ化作業
第9回　量的調査の試み（レポート課題の説明と先行調査の事例）
第10回　フィールドワークとは何か
第11回　聞き取り調査・参与観察
第12回　ドキュメント分析
第13回　フィールドワークの事例（映画鑑賞「サンダカン八番娼館－望郷」）
第14回　社会調査論アンケートの分析
第15回　前期試験対策
第16回　試験

履修上の注意点

期末のペーパー試験が50%分あることに留意して、特に復習に努めること。

教科書

新・社会調査へのアプローチ
著者：　大谷信介他
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2013　　ISBN：　9784623066544

参考書

成績評価

試験　（ 50% ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 30% ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 20% ）	

授業中課題は3回のレポートによる。

2016 Syllabus

科 目 名　**統計学基礎論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　片岡　裕介	

テーマ

授業の到達目標

本科目は、官庁や企業が公表する統計や調査結果を理解し、あるいは、社会調査を行うときに必要となる「統計学」の基礎的な知識と態度を身につけることを目的としている。授業では、まず、社会調査における「統計」の意味・目的、「データ」の種類・性質、実際の「統計調査」の事例を学び、続いて、「量的なデータ」のうち、「一変量データ」については、単純集計、度数分布、代表値、ばらつきなど、「二変量データ」については、クロス集計、相関関係などの意味、計算の仕方、グラフの読み方・描き方を学ぶ。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　授業ガイダンス：社会調査と統計学
第2回　調査方法とデータの種類：定性調査と定量調査、質的データと量的データ
第3回　定性調査（フィールドワーク論文）の事例
第4回　定量調査(官庁統計や簡単な調査報告）の事例
第5回　基本統計量：代表値
第6回　基本等計量：ちらばり
第7回　度数分布表とヒストグラム
第8回　正規分布
第9回　様々な図表化
第10回　クロス集計表
第11回　散布図と相関分析
第12回　因果関係と相関関係
第13回　3疑似相関
第14回　単回帰分析
第15回　順位相関分析

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 60 ）
授業中課題 （ 40 ）	授業中発表等 （　）
参加度　（　）	

Syllabus

科 目 名　**ビジネス数学 <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**ミクロ経済学 <Z>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　阪本 崇

テーマ

市場の働きと政府の役割

授業の到達目標

経済新聞や経済学に関連する文献を読むのに必要な、経済学の基礎的な概念や考え方を理解する。

授業の概要

現代の経済は市場を中心として動いている。この授業の前半では、グローバルな市場も含め市場はどのようなメカニズムで働き、そしてどのような意義を持つのかを理解した上で、市場の中で活動する消費者や企業の行動原理はいかなるものかについて学ぶ。後半では、市場が機能不全に陥る主要な4つの原因について触れ、その場合に市場の機能を補完する役割を果たす政府の活動や諸制度について学ぶ。

準備学習（予習・復習）

Knowledge Deliverを利用して復習テストを提供するので、必ず次の授業までに終えておいてください。積み上げ型の授業となるので、前回の授業の復習を授業前に行っておくことがもっとも重要な予習となります。

内　容

第1回　【イントロダクション】経済学の考え方
第2回　【需要と供給】ものの値段の決まり方
第3回　【需要と供給】価格の変化と需要供給の変化
第4回　【消費者行動】価格に対する消費者の反応
第5回　【消費者行動】所得の変化と必需品・贅沢品
第6回　【企業者行動】生産量の変化と費用の変化
第7回　【企業者行動】価格・生産量と利潤との関係
第8回　【国際経済】自由貿易が望ましい理由
第9回　【国際経済】貿易パターンの決定
第10回　【市場構造】独占と自然独占
第11回　【市場構造】寡占市場と戦略的行動
第12回　【政府の機能】公共財の範囲と政府の役割
第13回　【政府の機能】外部性の発生と政策課税
第14回　【情報と経済】モラル・ハザードと逆選択
第15回　【所得分配】不平等の評価と再分配政策

履修上の注意点

参考書とノートを利用してしっかりと復習しておくこと。

教科書

参考書

入門　経済学　第3版
著者:　伊藤元重
出版社:　日本評論社
出版年:　2009　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**マクロ経済学 <Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

国民経済の決定原理と変動要因

授業の到達目標

新聞等で報道されるさまざまな経済現象について、経済学的な視点から見ることのできる能力を身につける。

授業の概要

現実の経済の動向を知るためには、一国全体の経済を大局的に見る必要がある。この授業では、まず、経済を大局的に見るために必要なもっとも基礎的な指標であるGDPの概念について説明し、その大きさに影響を与える様々な要因について学ぶ。次に、貨幣に焦点を当てて、実物経済と貨幣経済との関係を学習する。これらの基本的な知識を理解した上で、物価変動や失業の問題、経済政策と経済成長、為替レートと国際収支などの重要なトピックスについて学ぶ。

準備学習（予習・復習）

Knowledge Deliverを利用して復習テストを提供するので、必ず次の授業までに終えておいてください。積み上げ型の授業となるので、前回の授業の復習を授業前に行っておくことがもっとも重要な予習となります。

内　　容

第1回　【イントロダクション】
第2回　【GDP】GDPの定義と性質
第3回　【GDP】経済循環とGDPの分解
第4回　【GDP】GDP決定の2つのメカニズム
第5回　【貨幣と金融】貨幣の機能と貨幣需要
第6回　【貨幣と金融】金融システムと貨幣供給
第7回　【物価】インフレーションとデフレーション
第8回　【労働市場】失業発生の諸要因
第9回　【経済政策】財政政策と公債の意義
第10回　【経済政策】金融政策のメカニズム
第11回　【長期の経済】景気変動に関する諸学説
第12回　【長期の経済】経済成長とその要因
第13回　【国際経済】為替レートの決定メカニズム
第14回　【国際経済】貿易と国際収支
第15回　【国際経済】国際金融と国際収支

履修上の注意点

参考書とノートを利用してしっかりと復習しておくこと。

教科書

参考書

入門　経済学　第3版
著者:　伊藤元重
出版社:　日本評論社
出版年:　2009　　ISBN:

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（　）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**経営学入門**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　松石 泰彦

テーマ

経営学の基礎的知識や考え方を習得する。

授業の到達目標

経営学に関する基礎知識の習得を目標とする。経営は、周囲の環境に対応しながら、組織目標に向かって生身の人間や組織をマネジメントすることである。まずは入門的な内容で経営学の対象領域を知り、内部組織やメンバー、外部環境の経済や社会にどう対処していくべきかについて、様々な専門的アプローチへの入り口部分を体系的に理解する。

授業の概要

経営管理、経営組織、経営戦略、生産管理、マーケティング、企業統治、それらの歴史的経緯など、経営学の主要テーマについて、それぞれ入り口となる基礎的な考え方（理論）や具体例を、広く浅くわかりやすく説明する。

準備学習（予習・復習）

先行して配布する資料には事前に目を通しておくこと。新聞等メディアに出る関連事項にも目を配ること。

内　容

第1回　経営学とは何か
第2回　企業の形態
第3回　株式会社の仕組みとコーポレートガバナンス
第4回　経営管理
第5回　フォーディズム
第6回　組織とは何か
第7回　組織の行動
第8回　色々な組織構造
第9回　経営戦略1（ポジショニングから）
第10回　経営戦略2（組織能力から）
第11回　マーケティング
第12回　生産の管理
第13回　企業の社会的責任
第14回　グローバルな経営の潮流と日本の経営
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

テキスト経営学第3版
著者：　井原久光
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2008　　ISBN：

ゼミナール経営学入門第3版
著者：　伊丹敬之他
出版社：有斐閣
出版年：2003　　ISBN：

よくわかる企業論
著者：　佐久間信夫他
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2012　　ISBN：

成績評価

試験　（ 70 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**医療事務研究Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　秋期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　森本　育子

テーマ

医療事務研究

授業の到達目標

医療事務技能審査（医科）＝メディカルクラーク（医科）の資格取得を目標とする。

授業の概要

短期間で単位と資格取得を目指すため、講義で理解し自宅で練習問題を行う。

準備学習（予習・復習）

①医療事務技能審査試験（医科）の受験対策として医療事務研究Ⅰ・Ⅱをすべて履修すること　②授業時間以外に復習・宿題のための時間を確保すること

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　医療保険制度
第3回　窓口業務
第4回　初診料
第5回　再診料
第6回　医学管理・在宅医療
第7回　投薬1
第8回　投薬2
第9回　注射1
第10回　注射2
第11回　処置1
第12回　処置2
第13回　手術
第14回　輸血・麻酔
第15回　修了試験1

履修上の注意点

短期間で単位と資格取得を目指すため、欠席は厳禁。

教科書

テキストは第１回目の授業にて販売16.432円（予定）

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト（ 0% ）

授業中課題（ 30% ）　　授業中発表等（ 0% ）

参加度　（ 40% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**医療事務研究Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　秋期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　森本　育子

テーマ

医療事務研究

授業の到達目標

医療事務技能審査（医科）＝メディカルクラーク（医科）の資格取得を目標とする。

授業の概要

短期間で単位と資格取得を目指すため、講義で理解し自宅で練習問題を行う。

準備学習（予習・復習）

①医療事務技能審査試験（医科）の受験対策として医療事務研究Ⅰ・Ⅱをすべて履修すること　②授業時間以外に復習・宿題のための時間を確保すること

内　容

第1回　検査1
第2回　検査2
第3回　検査3
第4回　検査4
第5回　画像診断1
第6回　画像診断2・リハビリテーション
第7回　入院料・接遇
第8回　レセプト点検1
第9回　レセプト点検2
第10回　レセプト点検3
第11回　レセプト点検4
第12回　レセプト点検5
第13回　試験対策（学科）
第14回　試験対策（点検）
第15回　修了試験2

履修上の注意点

短期間で単位と資格取得を目指すため、欠席は厳禁。

教科書

テキストは第１回目の授業にて販売16.432円（予定）

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 30% ）　　授業中発表等（ 0% ）
参加度　（ 40% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**簿記演習Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　河野　充央	

テーマ

「貸借平均の原理」および「簿記一巡の手続き」の理解をとおして複式簿記の科学性を理解する。

授業の到達目標

会計データの認識・測定・報告のプロセスを理解する。

授業の概要

講義をベースに，練習問題を随時，解きながら進める。小テストを実施したり，宿題を提出してもらったりする場合もある。

準備学習（予習・復習）

同じ問題を何度も解いてみること。復習を必ず行って下さい。

内　容

第1回　ガイダンス：企業経営と簿記会計の役割
第2回　複式簿記の意義と目的
第3回　財務諸表の仕組み：貸借対照表と損益計算書との関係
第4回　取引の分類と集計の方法：仕訳と勘定記入
第5回　商品取引1
第6回　商品取引2
第7回　現金取引1
第8回　現金取引2
第9回　手形取引1
第10回　手形取引2
第11回　種々の債権債務取引1
第12回　種々の債権債務取引2
第13回　有価証券
第14回　有形固定資産
第15回　講義全体のまとめ

履修上の注意点

私語は，厳に慎んで下さい。他の受講生に，この上もなく迷惑なことです。

教科書

スラスラできる日商簿記3級テキスト
著者：
出版社：大原出版
出版年：　　ISBN：

参考書

簿記Ⅰ
著者：　武田隆二
出版社：税務経理協会
出版年：　　ISBN：

簿記Ⅱ
著者：　武田隆二
出版社：税務経理協会
出版年：　　ISBN：

簿記Ⅲ
著者：　武田隆二
出版社：税務経理協会
出版年：　　ISBN：

成績評価

a50101e310

試験 （ 40 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**簿記演習Ⅰ <b>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　藤原　智緒

テーマ

簿記の初学者に基本的な仕組みを理解いただき、興味を持って積極的に勉強できるよう導きます。最終的には、検定試験3級の資格取得を目指します。

授業の到達目標

日商簿記検定試験3級の資格取得を目標とし、簿記演習Ⅰ及びⅡを通じて全範囲を網羅します。

授業の概要

基本理論を解説し、授業中に問題演習を行います。

準備学習（予習・復習）

簿記習得には、復習が欠かせません。授業ごとに宿題を課しますが、それ以外にも授業中に行った演習の繰り返し及び解説の振り返りを必ず行うようにしてください。

内　容

第1回　ガイダンス　簿記の意義としくみ　資産、負債、資本と貸借対照表
第2回　収益、費用と損益計算書
第3回　取引
第4回　勘定と仕分
第5回　帳簿の記入
第6回　決算と財務諸表
第7回　元帳の締め切りと財務諸表の作成（1）
第8回　元帳の締め切りと財務諸表の作成（2）
第9回　精算表の作成
第10回　現金、現金過不足
第11回　当座預金、当座借越
第12回　小口現金、商品売買(1)
第13回　商品売買（2）
第14回　商品有高帳
第15回　総合問題演習

履修上の注意点

できる限りの出席をお願いいたします。

教科書

検定簿記講義　3級
著者:
出版社:　中央経済社
出版年:　平成２８年　　ISBN:
検定簿記ワークブック
著者:
出版社:　中央経済社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**簿記演習Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　「簿記演習Ⅰ」を履修済みであること。	クラス指定
担 当 者　河野　充央	

テーマ

「貸借平均の原理」および「簿記一巡の手続き」の理解をとおして複式簿記の科学性を理解する。

授業の到達目標

会計データの認識・測定・伝達のプロセスを理解する。

授業の概要

講義をベースに，練習問題を随時，解きながら進める。小テストを実施したり，宿題を提出してもらったりする場合もある。

準備学習（予習・復習）

同じ問題を何度も解いてみること。

内　　容

第1回　合計残高試算表
第2回　帳簿組織1：仕訳帳・総勘定元帳
第3回　帳簿組織2：現金出納帳・当座預金出納帳
第4回　帳簿組織3：小口現金出納帳
第5回　帳簿組織4：手形記入帳
第6回　帳簿組織5：仕入帳・売上帳・売掛金元帳・買掛金元帳
第7回　帳簿組織6：商品有高帳
第8回　伝票会計
第9回　決算手続1：売上原価の計算
第10回　決算手続2：貸倒引当金の設定
第11回　決算手続3：減価償却
第12回　決算手続4：費用収益の繰延・見越し
第13回　決算手続5：その他の決算修正仕訳・英米式決算法
第14回　決算報告：財務諸表の作成
第15回　講義全体のまとめ

履修上の注意点

私語は厳に慎んで下さい。他の受講生にとって，この上もなく迷惑なことです。

教科書

スラスラできる日商簿記3級テキスト
著者：
出版社：スラスラできる日商簿記3級テキスト
出版年：　　ISBN：

参考書

簿記Ⅰ
著者：　武田隆二
出版社：税務経理協会
出版年：　　ISBN：

簿記Ⅱ
著者：　武田隆二
出版社：税務経理協会
出版年：　　ISBN：

簿記Ⅲ
著者：　武田隆二
出版社：税務経理協会
出版年：　　ISBN：

成績評価

a50101e450

試験 （ 40 ）
小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 10 ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**簿記演習Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　「簿記演習Ⅰ」を履修済みであること。	クラス指定
担 当 者　藤原　智緒	

テーマ

簿記の初学者に基本的な仕組みを理解いただき、興味を持って積極的に勉強できるよう導きます。最終的には、検定試験3級の資格取得を目指します。

授業の到達目標

日商簿記検定試験3級の資格取得を目標とし、簿記演習Ⅰ及びⅡを通じて全範囲を網羅します。

授業の概要

基本理論を解説し、授業中に問題演習を行います。

準備学習（予習・復習）

簿記習得には、復習が欠かせません。授業ごとに宿題を課しますが、それ以外にも授業中に行った演習の繰り返し及び解説の振り返りを必ず行うようにしてください。

内　　容

第1回　ガイダンス　売掛金・買掛金（1）
第2回　売掛金・買掛金（2）、その他の債権と債務（1）
第3回　その他の債権と債務（2）
第4回　その他の債権と債務（2）、手形（1）
第5回　手形（2）
第6回　手形（3）、有価証券
第7回　固定資産
第8回　貸倒損失と貸倒引当金、資本金と引出金
第9回　収益と費用（1）
第10回　収益と費用（2）、伝票
第11回　試算表の作成
第12回　決算整理手続
第13回　精算表の作成
第14回　財務諸表の作成
第15回　検定試験直前対策

履修上の注意点

できる限りの出席をお願いいたします。

教科書

検定簿記講義　3級
著者：
出版社：　中央経済社
出版年：　平成２８年　　ISBN：
検定簿記ワークブック
著者：
出版社：　中央経済社
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）	小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**金融入門**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　近藤　隆則	

テーマ

私たちの経済社会において金融機関がどのような役割を果たしているかを具体的に学びます。金融業界への就職を考えようとする人だけではなく、広くビジネスや公共的な仕事に携わろうとする人にとっても不可欠の金融の基礎知識を習得します。

授業の到達目標

金融仲介の意義を正しく理解し、様々な種類の金融機関の業務内容の共通点や相違点について具体的に説明できることを目標とします。

授業の概要

銀行、信用金庫、生命保険会社、損害保険会社、金融商品取引業者（証券会社など）、ノンバンクといった様々な種類の金融機関について、経済社会の中で果たしている役割や業務内容について学びます。授業は基本的に講義形式で進めますが、適宜、具体的課題についてみんなで考え発言する時間を作ります。

準備学習（予習・復習）

自分の身の回りにどのような金融機関（銀行、信用金庫、保険会社、証券会社など）が存在しているかチェックしてみてください。

内　容

第1回　金融を学ぶ意義：社会生活を営む上でも、経済情報を正確に理解する上でも、ビジネスや公共業務に携わる上でも、金融の基礎知識が不可欠であることを様々な事例から説き起こします。
第2回　金融機関の種類と業務の概要：全ての金融機関の共通機能である「金融仲介」とは何か、「直接金融」と「間接金融」の違いとは何かといったポイントを踏まえ、金融機関の種類と業務の概要を学びます。
第3回　銀行（1）：銀行について基礎的な知識を身に付けます。具体的には、銀行の種類、銀行の共通点、自由化による銀行の多様化について学びます。
第4回　銀行（2）：銀行の業務内容を具体的に見てゆきます。決済、預金、融資など支店の業務、リスク管理、審査、国際業務、市場業務など本部の業務について知った上で、銀行の収益の源泉は主として「信用リスク」と「金利リスク」にあることを学びます。
第5回　銀行（3）：銀行業務を支える人材の採用と育成、銀行員のキャリアパス、銀行員に求められる素養について考えます。
第6回　銀行（4）：銀行と地域の企業や産業が深いかかわりを持っていることを学びます。特に地方銀行や信用金庫といった地域金融機関は地元経済の発展に大きな役割を果たしています。
第7回　保険（1）：保険業界について基礎的な知識を身に付けます。まず保険の原理である「大数の法則」を理解した上で、公的保険、私的保険といった区別や生命保険、損害保険、第三分野といった区分を学習します。
第8回　保険（2）：生命保険会社の業務について学びます（生命保険の仕組み、契約の基本的事項、税金など）。またインターネット保険会社や外資系保険会社など、生命保険業界の多様化についても触れます。
第9回　保険（3）：損害保険会社の業務について学びます（損害保険の仕組み、商品の種類など）。また医療保険やガン保険と言った第三分野保険についても触れます。
第10回　金融商品取引業（1）：直接金融の仲介機能を果たしている「金融商品取引業」の特徴を間接金融との比較で考えます。また、金融商品取引業の種類も学びます。
第11回　金融商品取引業（2）：金融商品取引業のうち、証券の引受・販売業を学びます。具体的には、証券の流通市場の意味や引受・販売の担い手である証券会社の役割、証券業界の動向について見てゆきます。
第12回　金融商品取引業（3）：金融商品取引業のうち、資産運用業について学びます。具体的には、投資顧問会社と投資信託会社がどのような役割を担っているかを見てゆきます。
第13回　ノンバンク（1）：ノンバンクのうち、リース、信販、クレジットカードの各業界の機能について学習します。
第14回　ノンバンク（2）：ノンバンクのうち、ベンチャー・キャピタルやサービサーの機能について学習します。併せて、起業、株式公開、企業再編、企業再生といった企業の成長段階に応じた金融機能についてまとめます。
第15回　全体のまとめと復習

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

イラスト図解　銀行のしくみ

著者：　戸谷圭子

出版社：　日本実業出版社

a50101e510

出版年: 2008年　　ISBN: 4534044763

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ 80% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 20% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**公共経営入門**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

公共経営の理論と実践

授業の到達目標

・公共部門が社会の中で果たす役割について理解する。・公共部門がどのような組織から成り立っているかを理解する。・公共部門で働くこととはどのようなことかを理解する。

授業の概要

公共部門における経営は、政府やその関連機関の組織の経営だけを指すのではない。公共部門は社会そのものを経営する要としても重要な役割を担っている。この授業では、この2つの視点から、公共経営の役割と仕組み、公共経営改革などをはじめとして、公共経営について理解することを目指す。また、都道府県庁・市役所職員などをゲストスピーカーとして招き、公共部門で働くということは実際どのようなことなのかについても学ぶ。授業計画は以下のとおりであるが、ゲストスピーカーの都合等により日程を入れ替える場合がある。

準備学習（予習・復習）

新聞やニュースに関心を持ち、公共部門をめぐる世の中の動きに注意しておくことが必要である。しかし、報道されるのは真実の一面でしかない。社会のために、公共部門がどのように動いているのか、実際に目で見て確かめる機会を持つことも重要である。

内　　容

第1回　イントロダクション：日本の公共部門
第2回　公共部門の現在（1）：公共部門の機能と規模の変化
第3回　公共部門の現在（2）：「コスト病」と公共部門の拡大
第4回　公共部門の現在（3）：「格差社会」における公共部門の役割
第5回　公共経営のしくみ（1）：公共部門における意思決定と事務の執行
第6回　公共経営のしくみ（2）：公共部門の収入と支出
第7回　公共部門の実際（1）：ゲスト・スピーカーによる講演（行政分野）
第8回　公共部門の役割（1）：社会資本の提供と環境の保全
第9回　公共部門の役割（2）：社会保障一年金・医療・保険
第10回　公共部門の役割（3）：健康で文化的な生活の実現
第11回　公共経営改革（1）：地方分権とNPM
第12回　公共経営改革（2）：公共サービスを担う新しい主体の登場
第13回　公共経営改革（3）：官と民とのパートナーシップ
第14回　公共部門の実際（2）：ゲスト・スピーカーによる講演（NPO分野）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書を用いないため、遅刻、欠席をすると授業内容がわからなくなる可能性が高いので、注意してほしい。

教科書

指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業中に指示する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（　）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**医療経営入門**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

医療経営についての入門科目

授業の到達目標

医療経営とその背景をなす医療制度と医療技術について、基礎的な知識を獲得する

授業の概要

医療制度、医療経営、医療技術とその評価について、講義形式で授業を行う。外部講師による特別講演も予定している。

準備学習（予習・復習）

受講に際して前提となる知識は不要であるが、授業中の配布プリントや確認テストを活用して知識の習得に努めること。

内　　容

第1回　ガイダンスと話題提供
第2回　概説－医療経営の特徴
第3回　医療制度（医療保険制度の概要）
第4回　医療制度（介護保険分野）
第5回　医療制度（医療法と医療法人制度）
第6回　医療制度（医療・介護総合改革）
第7回　中間まとめと理解度の確認
第8回　医療経営（人的資源管理）
第9回　医療経営（業務管理）
第10回　医療経営（資金管理）
第11回　医療経営（リスク管理）
第12回　医療技術評価の基礎
第13回　医療技術評価の基礎
第14回　外部講師による特別講演（予定）
第15回　講義全体のまとめと理解度の確認

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、授業中に紹介した参考書などを積極的に読むとともに、新聞や雑誌の医療記事に目を通す習慣をつけること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

医療・介護問題を読み解く
著者:　池上直己
出版社:　日経文庫
出版年:　2014　　ISBN:　9784532113117

医療の選択
著者:　桐野高明
出版社:　岩波新書
出版年:　2014　　ISBN:　9784004314929

2015年版イラスト図解医療費の仕組み
著者:　木村憲洋、川越満
出版社:　日本実業出版社
出版年:　2014　　ISBN:　9784534051776

a50101e710

医療政策を問いなおす

著者:　島崎謙治

出版社: ちくま新書

出版年: 2015　　ISBN:　9784480068637

医療経営白書2015－16年版

著者:　ヘルスケア総合研究所

出版社: 日本医療企画

出版年: 2015　　ISBN:　9784864393836

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ 50 ）

授業中課題 （ 25 ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ 25 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**グローバルビジネス入門**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平尾　毅	

テーマ

グローバル時代におけるビジネスについて理解を深める。

授業の到達目標

グローバル化が進む現代において、企業が国境を越えて事業を展開する論理を学ぶとともに、ワールドワイドに働くということはどのようなことかを理解してもらうことが狙いである。

授業の概要

中小企業の多国籍化を促しながら発展してきた経営のグローバル展開と、そうしたグローバル時代を生き抜くために必要な条件について講義形式で学んでいく。

準備学習（予習・復習）

教科書と配布資料の予習をして授業に臨んでください（1時間程度）。また、復習として配布資料を自筆でノートにまとめてください（1時間程度）。

内　　容

第1回　経営のグローバル化と多国籍企業（多国籍企業の生成と発展を学ぶ）
第2回　多国籍企業の経営戦略と組織（21世紀の多国籍企業の経営戦略と組織について学ぶ）
第3回　多国籍企業の理論（多国籍企業の理論の変遷を学ぶ）
第4回　アメリカ多国籍企業のグローバル支配構造（アメリカ多国籍企業の優位性と特権性について学ぶ）
第5回　NAFTAとアメリカ多国籍企業（NAFTAの役割と多国籍企業の動向について学ぶ）
第6回　日本企業のグローバル展開（日本企業の多国籍企業化とその特徴を学ぶ）
第7回　外国投資をめぐる競合（中国とASEANへの外国投資と日本企業への影響を学ぶ）
第8回　IT革命とグローバル・ネットワーク企業（IT革命とともに登場したグローバル・ネットワーク企業の影響について学ぶ）
第9回　経済のグローバル化と社会運動の新しい波（多国籍企業に対抗する代替案としての非営利組織の役割について学ぶ）
第10回　ウォルマートの超低価格戦略と生協の課題（グローバル流通再編のメリット・デメリットを学ぶ）
第11回　多国籍企業の社会的責任（多国籍企業の環境への取り組みと国際機関の役割について学ぶ）
第12回　グローバル時代の思考パターン（グローバリゼーションとは何か、思考パターンの変化について学ぶ）
第13回　グローバル人材の条件①（グローバルマインドの設定と文化の世界地図について学ぶ）
第14回　グローバル人材の条件②（リーガルマインドの強化と日本型グローバル人材について学ぶ）
第15回　まとめ（全体のまとめ）

履修上の注意点

教科書

テキスト多国籍企業論
著者：　奥村皓一・上田慧・夏目啓二
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2006年　　ISBN：　978-4623038930

参考書

国際経営講義―多国籍企業とグローバル資本主義
著者：　G.ジョーンズ
出版社：有斐閣
出版年：2007年　　ISBN：　978-4641162815

ネクスト・マーケット（増補改訂版）
著者：　C.K.プラハラード
出版社：英治出版
出版年：2010年　　ISBN：　978-4862760784

多国籍企業と新興国市場
著者：　大石・桑名・田端・安室
出版社：文眞堂
出版年：2012年　　ISBN：　978-4830947681

a50101e810

「世界で戦える人材」の条件
著者: 渥美育子
出版社: PHP研究所
出版年: 2013年　ISBN: 978-4569811697

世界で勝つグローバル人材の条件
著者: 那珂通雅
出版社: 幻冬舎
出版年: 2013年　ISBN: 978-4344999374

グローバル経営入門
著者: 浅川和宏
出版社: 日経新聞出版社
出版年: 2003年　ISBN: 978-4532132606

理論とケースで学ぶ国際ビジネス(三訂版)
著者: 江夏健一・桑名義晴編著
出版社: 同文館
出版年: 2012年　ISBN: 978-4495368739

グローバル経営戦略
著者: 元橋一之
出版社: 東京大学出版会
出版年: 2013年　ISBN: 978-4130421393

成績評価

試験 (70)　小テスト (0)
授業中課題 (15)　授業中発表等 (0)
参加度 (15)

2016 Syllabus

科 目 名　**現代企業論Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平尾　毅	

テーマ

企業の本質・役割・存在価値を学習する。

授業の到達目標

株式会社を中心とした、企業の存在価値について理解を深める。

授業の概要

企業関連諸理論、制度を熟知し、実践に応用できるような学習を目指している。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　講義概要、及び現代企業を見る観点
第2回　企業の目的と存在価値
第3回　財・サービスの提供機関としての企業
第4回　企業の形態論
第5回　株式会社制度の出現と展開
第6回　株式会社の本質と特徴
第7回　株式会社の組織
第8回　企業論の基本的概念の総括と理解度チェック
第9回　コーポレート・ガバナンスの国際比較
第10回　企業の境界
第11回　企業関関係の構造と行動
第12回　企業統合の形態論とM&A
第13回　会社機関
第14回　証券取引市場
第15回　企業に関わる主要理論の総括と理解度チェック

履修上の注意点

経済新聞の精読をお薦めします。

教科書

企業形態論 第3版（新経営学ライブラリー5）
著者：　小松　章
出版社：新世社
出版年：2006年　　ISBN：　978-4883840984

参考書

経験から学ぶ経営学入門
著者：　上林・奥林・團・開本・森田・竹林
出版社：有斐閣ブックス
出版年：2007年　　ISBN：　978-4641183483

1からの経営学 第2版
著者：　加護野忠男・吉村典久
出版社：碩学舎
出版年：2012年　　ISBN：　978-4502696107

企業論 第3版
著者：　三戸浩・池内秀己・勝部伸夫
出版社：有斐閣アルマ
出版年：2011年　　ISBN：　978-4641124448

成績評価

試験　（ 80 ）　　小テスト（ 0 ）

a50101e950

授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 0 ）

参加度 （ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**経済と経営の歴史**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松石　泰彦	

テーマ

経営やそれを取り巻く経済・社会の動向を、長期的視野から理解する。

授業の到達目標

・企業や組織のマネジメントへの理解を通じて、社会人としての協働・コミュニケーション能力を養うこと。・近くその中に出て行くことになる日本の経済社会、企業や組織に対する見識を深めること。・歴史を単なる過去に対する知識ととらえず、現在の問題の源流ととらえ、未来を展望する大きな動きや構造の中でものごとを思考できるようになること。

授業の概要

歴史とは単に昔の話を知ることではありません。現在起こっている日本経済の諸問題や今後の展開は、その成立過程＝歴史の延長上で長期的に考える必要があります。この講義では、主として近代以降の日本経済と企業経営の変遷について大まかなあらすじを説明します。特に①世界情勢の中での日本の位置、②日本の社会経済の構造的特徴、③経済政策や制度の変遷、これらの要素を常に念頭に置きながら、日本の企業がどのような道筋をたどって今に至っているのかを考えてみましょう。

準備学習（予習・復習）

知識の暗記科目ではありません。物事の流れや要因を説明できるような復習を望みます。

内　　容

第1回　ガイダンス　この講義の対象領域と進め方
第2回　近代的諸経済制度の始まり
第3回　産業革命
第4回　紡績・製糸業と日本経済
第5回　第一次大戦前後の日本経済
第6回　工業社会の成立と労働の変化
第7回　日本的経営と経営家族主義
第8回　第三次産業・都市型産業の発展
第9回　世界恐慌と昭和恐慌
第10回　財閥と企業統治
第11回　戦時体制と1940年体制論
第12回　戦後改革と財閥解体
第13回　高度経済成長と日本企業
第14回　オイルショックと低成長時代
第15回　総括～長期的視野からとらえる現代の経済・経営

履修上の注意点

教科書

特になし（必要に応じて随時参考文献を紹介）
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

マテリアル経営史
著者:　宇田川勝他
出版社:　有斐閣
出版年:　1999　　ISBN:

1からの経営史
著者:　宮本又郎他
出版社:　碩学舎
出版年:　2014　　ISBN:

a50101f050

日本経営史(新版)
著者:　宮本又郎他
出版社: 有斐閣Y21
出版年: 2007　　ISBN:

概説日本経済史　近現代
著者:　三和良一
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2012　　ISBN:

日本的経営と企業城下町
著者:　松石泰彦
出版社: 同成社
出版年: 2010　　ISBN:

成績評価

試験 （ 70 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**社会調査論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　高原　正興	

テーマ

社会調査の意義・歴史・類型等、基本的なことについてわかりやすく解説する。

授業の到達目標

上記テーマに記載の内容（社会調査の基本知識）を身につける。

授業の概要

下記の教科書に準拠して、社会調査の基本知識を講義形式で展開する。第一に定義・目的・歴史、第二に各種調査の種類の紹介、第三に調査方法や手順の実際に関する内容を概説する。

準備学習（予習・復習）

テキストの予習・復習に努める

内　容

第1回　社会調査とは何か　社会調査の目的
第2回　社会調査の歴史
第3回　調査方法論・調査倫理
第4回　各種調査　量的調査と質的調査
第5回　調査票調査と調査票作成
第6回　サンプリング
第7回　調査票調査の種類とプロセス
第8回　データ化作業
第9回　量的調査の試み（レポート課題の説明と先行調査の事例）
第10回　フィールドワークとは何か
第11回　聞き取り調査・参与観察
第12回　ドキュメント分析
第13回　フィールドワークの事例（映画鑑賞「サンダカン八番娼館－望郷」）
第14回　社会調査論アンケートの分析
第15回　前期試験対策
第16回　試験

履修上の注意点

期末のペーパー試験が50%分あることに留意して、特に復習に努めること。

教科書

新・社会調査へのアプローチ
著者:　大谷信介他
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2013　　ISBN:　9784623066544

参考書

成績評価

試験　（ 50% ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 30% ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 20% ）	

授業中課題は3回のレポートによる。

2016 Syllabus

科 目 名　**解剖生理学**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮本　尚	

テーマ

授業の到達目標

医学を学ぶ上で基本となるからだの構造と機能に関する知識を修得する。

授業の概要

人体の基本的な仕組みと働きを知ることは、診療情報管理士として診療記録に記載される内容を理解する上で不可欠となる。また、疾病の機序や病態、治療方法などを理解する上でも、人体の構造と機能を理解することは非常に重要である。この授業では、人の細胞と組織、および器官ごとの機能と構造を理解した上で、後半では筋骨格系の疾患について学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　人体の機能・構造論：細胞①
第2回　人体の機能・構造論：細胞②
第3回　人体の機能・構造論：組織
第4回　人体の機能・構造論：器官
第5回　人体の機能・構造論：呼吸器の構造と機能
第6回　人体の機能・構造論：循環器の構造と機能①
第7回　人体の機能・構造論：循環器の構造と機能②
第8回　人体の機能・構造論：消化器の構造と機能
第9回　人体の機能・構造論：泌尿器系の構造と機能
第10回　人体の機能・構造論：上肢・下肢の骨と筋肉
第11回　臨床医学各論Ⅷ：関節障害
第12回　臨床医学各論Ⅷ：全身性結合組織障害
第13回　臨床医学各論Ⅷ：変形性脊柱障害
第14回　臨床医学各論Ⅷ：軟部組織障害
第15回　臨床医学各論Ⅷ：骨障害および軟骨障害

履修上の注意点

教科書

診療情報管理Ⅰ
著者：　日本病院会
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 80 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**現代企業と法 I**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　山田 廣己	

テーマ

企業とその法規制

授業の到達目標

企業（個人企業や会社企業）の組織や活動に関する基本的法律知識を習得する。

授業の概要

個人企業や会社企業（株式会社・合同会社・合資会社・合名会社）の組織や活動とその法規制を概観する。

準備学習（予習・復習）

事前に講義レジュメを配布します。配布された講義レジュメに目を通してくること。

内　容

第1回　経済活動と企業：　企業の種類、意義、企業活動一般について説明する。
第2回　資本主義・市場経済・貨幣（金融）制度：　企業をとりまく資本主義、市場経済原理について、また企業活動に不可欠な金融制度について概説する。
第3回　企業をめぐる法規制：　企業の組織や活動に関するさまざまな法律、法規定がある。たとえば、商法、会社法、民法、独占禁止法や金融商品取引法等の法律などに触れる。
第4回　企業の組織：　個人企業、組合、合名会社、合資会社、合同会社や株式会社の組織を説明し、さらに国内で活動する外国会社にも触れる。
第5回　企業の経営者・従業員：　株式会社を経営する取締役や会社の従業員の法的地位や権利義務を説明する。
第6回　企業グループ：　会社はグループを作って企業活動を展開する。その法規制を概観する。多国籍企業、合弁（ごうべん）企業についても触れる。
第7回　企業の資金：　企業（とくに会社）はその活動を展開するために資金を必要とする。その資金調達方法について説明する。金融市場の国際化についても触れる。
第8回　投資と利殖（りしょく）：　株式会社が発行する「株式」や「社債」は人々の投資・利殖の対象である。証券や金融商品の取引、商品先物取引、為替取引など活発に行われる。お金は世界を駆け巡っている。その実態を概観し、法規制の概要を見る。
第9回　企業の失敗：企業の事業活動が失敗に終わったとき（倒産）、どのように処理するか説明する。
第10回　企業の責任：企業の社会的責任、会社の法的責任、経営者が負う責任など、企業の組織活動などに関して発生するさまざまな責任を概説する。
第11回　競争と独占(1)：独占禁止法の話をする。
第12回　競争と独占(2)：独占禁止法の話をする。
第13回　企業の決済手段(1)：手形（約束手形・為替手形）や小切手など金銭の支払、つまり企業の決済手段に決済手段について説明する。
第14回　企業の決済手段(2)：手形（約束手形・為替手形）や小切手など金銭の支払い、つまり企業の決済手段について説明する。
第15回　企業の決済手段(3)：手形（約束手形・為替手形）や小切手など金銭の支払い。
第16回　理解確認のための小テスト

履修上の注意点

新聞報道やニュース報道に接し、多くの学生の就職先である企業（会社）の組織活動に興味を持つよう心がけて下さい。

教科書

特になし（講義レジュメ配布）

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

携帯用法令集（用意すれば、講義の理解に役立ちます）

著者：

出版社：　複数の出版社があります

出版年：　毎年出版　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（　）

a50101f350

参加度 （ 20 ）

授業に出席して講義を聞くことを前提として、講義期間の中ごろにレポート提出を求める。最終講義日に小テストを実施する（必ず受験してください）。以上を総合的に判断して評価する。毎回積極的に講義に参加し、集中して話を聞き、積極的に質問してほしい。

2016 Syllabus

科 目 名　**医療統計学**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　片岡　裕介	

テーマ

授業の到達目標

診療情報を解析、活用するための統計学の基礎的知識を身につける。

授業の概要

診療情報管理士には診療記録を整理するだけなく、記録に含まれる診療情報を収集・解析、活用することが求められている。この授業では、各種の診療情報を活用する手段としての統計的方法とデータの視覚化の方法を身につける。統計的方法として具体的には、収集した観測値を要約する記述統計、標本調査から母集団の特性を推し測る推測統計の基礎的方法などを学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　変量と尺度
第2回　記述統計(1)　度数分布表とヒストグラム記述統計(1)　度数分布表とヒストグラム
第3回　記述統計(2)　代表値
第4回　記述統計(3)　散布度
第5回　記述統計(4)　散布図と相関係数
第6回　記述統計(5)　回帰直線
第7回　推測統計(1)　母集団と標本
第8回　推測統計(2)　確率変数と確率分布
第9回　推測統計(3)　正規分布
第10回　推測統計(4)　点推定と区間推定
第11回　推測統計(5)　量的変量の仮説検定
第12回　推測統計(6)　質的変量の仮説検定
第13回　データのグラフ表現
第14回　病院の統計資料
第15回　まとめ

履修上の注意点

毎回の授業に平方根の計算機能がある電卓を持参する。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

診療情報管理Ⅲ
著者:　武田隆久
出版社:　日本病院会
出版年:　2012　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 0 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**医療概論**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　川上 明

テーマ

授業の到達目標

医学・医療の歴史から制度、現代が直面する問題を大きな視点で概括し理解する。また、臨床医学を学ぶ上での基本的な考え方と知識を学び、今後の医学分野の学習の基礎をつくる。

授業の概要

診療情報管理士などの医療管理者として働くために必要な医学と医療の基礎的な知識を修得する。そのためにまず、医療と医学に関する歴史的変遷をたどりつつ、現代の医療の現状を理解する。また、医療倫理や医療・社会保障制度など、医療を成立させている社会的な仕組みを学ぶとともに、病気とは何か、病気の原因、病態、診断、治療、予防など医学の基礎的な内容を理解していく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　講義の概要説明。医学、医療とは。
第2回　医学と医療の歴史：医学の起源　20世紀の医学
第3回　医学と医療の歴史：我が国の医学と医療の歴史
第4回　現代医療：実例等も示して概説し、現場での医療のイメージを持ってもらうことを目標とします。
第5回　医の倫理：実際に臨床の現場で起こっている倫理的問題等も提示し、問題意識を持ってもらうことを目標とします。
第6回　社会保障制度と医療制度：制度の概略と基本的な理念を理解し、実際にどのように運用されているのか紹介しながら、現状の問題点等も考えてもらうことを目標にします。
第7回　介護保険制度：制度の概略と基本的な理念を理解し、実際にどのように運用されているのか紹介しながら、現状の問題点等も考えてもらうことを目標にします。
第8回　医療法、公衆衛生、地域保健について概説します。
第9回　予防医学について概説します。
第10回　健康と疾病：健康と疾病についての基本的な考え方を学びます。
第11回　疾病の原因と病理１：テキストに沿って基本的な考え方と用語の理解を目指します。
第12回　疾病の原因と病理２：テキストに沿って基本的な考え方と用語の理解を目指します。
第13回　疾病の検査方法と診断：テキストに沿って基本的な考え方と用語の理解を目指します。
第14回　疾病の治療：テキストに沿って基本的な考え方と用語の理解を目指します。
第15回　まとめ：全体を通じて必要な内容を補います。

履修上の注意点

教科書

診療情報管理Ⅰ
著者：　日本病院会
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**医療管理論Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　橋本 昌浩.藤野 美幸

テーマ

授業の到達目標

医療の仕組み・病院組織を理解し、診療情報管理士とは何か、どのような役割を果たすことができるかを習得する。

授業の概要

医療の需要と供給は、事務スタッフ部門を含む医療従事者と患者、患者家族との信頼関係の上に成立しているが、それを支えるのは、経営学で言うところのヒト・モノ・カネ・情報といった資源である。この授業は診療情報管理の第1ステップの授業であり、医療の仕組みと病院組織を理解し、診療情報管理士とは何か、どのようなことを果たすことができるかを習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　医療管理論オリエンテーション・診療情報管理士について
第2回　医療資源　物的資源・人的資源
第3回　医療資源　人的資源・財的資源・情報資源
第4回　日本の医療制度　医療保障　医療制度の特徴
第5回　日本の医療制度　医療制度の成り立ち　諸外国の医療制度　国民医療費の現状と将来
第6回　医療の需要と供給　地域医療
第7回　医療関連の法規定　医療と保健衛生活動に関する法規～その他病院の医療活動に関係する主な法規
第8回　医療関連の法規定　健康増進法～専門職種の身分などに関する法規　中間まとめ
第9回　医療管理各論イントロダクション、プロセス（工程）について
第10回　組織・機能について、管理と組織について
第11回　財務・経営管理について、人事・労務管理について、施設管理について
第12回　医療管理、診療部門、看護部門、医療技術部門・診療協力部門・コメディカル部門
第13回　教育研究部門、診療情報管理部門、スタッフ機能事務部門、ライン機能事務部門
第14回　施設・機器維持管理部門、労働安全衛生・環境衛生管理部門、ハウスキーピング部門
第15回　テスト対策、総まとめ

履修上の注意点

教科書

診療情報管理Ⅲ
著者:
出版社: 日本病院会
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 70 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**経済学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

市場の働きと政府の役割

授業の到達目標

経済新聞や経済学に関連する文献を読むのに必要な、経済学の基礎的な概念や考え方を理解する。

授業の概要

現代の経済は市場を中心として動いている。この授業の前半では、グローバルな市場も含め市場はどのようなメカニズムで働き、そしてどのような意義を持つのかを理解した上で、市場の中で活動する消費者や企業の行動原理はいかなるものかについて学ぶ。後半では、市場が機能不全に陥る主要な4つの原因について触れ、その場合に市場の機能を補完する役割を果たす政府の活動や諸制度について学ぶ。

準備学習（予習・復習）

Knowledge Deliverを利用して復習テストを提供するので、必ず次の授業までに終えておいてください。積み上げ型の授業となるので、前回の授業の復習を授業前に行っておくことがもっとも重要な予習となります。

内　　容

第1回　【イントロダクション】経済学の考え方
第2回　【需要と供給】ものの値段の決まり方
第3回　【需要と供給】価格の変化と需要供給の変化
第4回　【消費者行動】価格に対する消費者の反応
第5回　【消費者行動】所得の変化と必需品・贅沢品
第6回　【企業者行動】生産量の変化と費用の変化
第7回　【企業者行動】価格・生産量と利潤との関係
第8回　【国際経済】自由貿易が望ましい理由
第9回　【国際経済】貿易パターンの決定
第10回　【市場構造】独占と自然独占
第11回　【市場構造】寡占市場と戦略的行動
第12回　【政府の機能】公共財の範囲と政府の役割
第13回　【政府の機能】外部性の発生と政策課税
第14回　【情報と経済】モラル・ハザードと逆選択
第15回　【所得分配】不平等の評価と再分配政策

履修上の注意点

参考書とノートを利用してしっかりと復習しておくこと。

教科書

参考書

入門　経済学　第3版
著者:　伊藤元重
出版社:　日本評論社
出版年:　2009　　ISBN:

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（　）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**経済学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

国民経済の決定原理と変動要因

授業の到達目標

新聞等で報道されるさまざまな経済現象について、経済学的な視点から見ることのできる能力を身につける。

授業の概要

現実の経済の動向を知るためには、一国全体の経済を大局的に見る必要がある。この授業では、まず、経済を大局的に見るために必要なもっとも基礎的な指標であるGDPの概念について説明し、その大きさに影響を与える様々な要因について学ぶ。次に、貨幣に焦点を当てて、実物経済と貨幣経済との関係を学習する。これらの基本的な知識を理解した上で、物価変動や失業の問題、経済政策と経済成長、為替レートと国際収支などの重要なトピックスについて学ぶ。

準備学習（予習・復習）

Knowledge Deliverを利用して復習テストを提供するので、必ず次の授業までに終えておいてください。積み上げ型の授業となるので、前回の授業の復習を授業前に行っておくことがもっとも重要な予習となります。

内　　容

第1回　【イントロダクション】
第2回　【GDP】GDPの定義と性質
第3回　【GDP】経済循環とGDPの分解
第4回　【GDP】GDP決定の2つのメカニズム
第5回　【貨幣と金融】貨幣の機能と貨幣需要
第6回　【貨幣と金融】金融システムと貨幣供給
第7回　【物価】インフレーションとデフレーション
第8回　【労働市場】失業発生の諸要因
第9回　【経済政策】財政政策と公債の意義
第10回　【経済政策】金融政策のメカニズム
第11回　【長期の経済】景気変動に関する諸学説
第12回　【長期の経済】経済成長とその要因
第13回　【国際経済】為替レートの決定メカニズム
第14回　【国際経済】貿易と国際収支
第15回　【国際経済】国際金融と国際収支

履修上の注意点

参考書とノートを利用してしっかりと復習しておくこと。

教科書

参考書

入門　経済学　第3版
著者:　伊藤元重
出版社:　日本評論社
出版年:　2009　　ISBN:

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（　）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ＜＊A＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　今久保 幸生

テーマ

現代日本の政治・経済・社会

授業の到達目標

世界における日本の地位の相対的低下の諸相を検討することにより、日本の現状を学び、その地位の回復の可能性を自ら考えうるようにする。

授業の概要

教科書を順に輪読し、討論を行う。

準備学習（予習・復習）

教科書の予習・復習を行い、参考書を学習し、新聞などの時事問題を把握しておくことが勧められる。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　序 章 「失われた時代」をトータルに捉える
第3回　第1章　人 口
第4回　第2章　金融･財政
第5回　第3章　マクロ経済
第6回　第4章　企業競争力
第7回　第5章　労働･雇用･格差
第8回　第6章　教 育
第9回　第7章　原発政策
第10回　第8章　政治改革
第11回　第9章　安全保障
第12回　第10章　貿 易
第13回　第11章 中国･アジア太平洋
第14回　第12章 日米同盟
第15回　第13章 歴史認識

履修上の注意点

教科書は必ず各自一冊ずつ準備し、毎回持参すること。教科書を準備していない学生の受講は認めない。3回を超えて無断欠席した学生には単位を出さない。やむを得ず欠席する場合は必ず事前に担当教員に連絡すること。部活・就活による欠席は出席扱いとはしない。

教科書

検証　日本の「失われた20年」
著者:　船橋洋一編著
出版社:　東洋経済新報社
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 70 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ＜＊B＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　尾関 美智子

テーマ

おとなの発達について考える

授業の到達目標

結婚、家族のあり様、ジェンダーの問題など、現代の社会を生きることについて、グループワークを通じて考える

授業の概要

テキストや副教材を用いてグループワークを行い、そこで得た知識や主張について討論する。

準備学習（予習・復習）

テキストの予習と復習、グループワークに積極的に参加すること。学習ポートフォリオを作成し、学習内容や配布物等を各自保存すること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　テキストを用いた学習と討論（1）
第3回　テキストを用いた学習と討論（2）
第4回　テキストを用いた学習と討論（3）
第5回　テキストを用いた学習と討論（4）
第6回　テキストを用いた学習と討論（5）
第7回　テキストを用いた学習と討論（6）
第8回　テキストを用いた学習と討論（7）
第9回　テキストを用いた学習と討論（8）
第10回　テキストを用いた学習と討論（9）
第11回　テキストを用いた学習と討論（10）
第12回　テキストを用いた学習と討論（11）
第13回　テキストを用いた学習と討論（12）
第14回　テキストを用いた学習と討論（13）
第15回　全体のまとめ

履修上の注意点

教科書

おとなが育つ条件
著者：　柏木惠子
出版社：岩波新書
出版年：2013　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ ＜＊C＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　近藤 隆則

テーマ

現代の経済社会と金融の役割

授業の到達目標

新聞・雑誌の記事や文献の読解能力、レジュメにまとめる能力、発表能力、討論能力など、「自分で考える力」を養うための基礎力を身に付けることを目標とする。

授業の概要

経済、経営、金融に関わる新聞・雑誌の記事や基礎文献を輪読・発表・議論する。

準備学習（予習・復習）

課題とされた記事や文献は、報告者だけではなく全員がきちんと読んで討論できるように準備して下さい。

内　容

第1回　演習の進め方、レジュメの作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
第2回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第3回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第4回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第5回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第6回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第7回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第8回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第9回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第10回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第11回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第12回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第13回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第14回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第15回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）

履修上の注意点

授業中の積極的な発言、質問を期待します。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ 50% ）
参加度 （ 50% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　今井 まりな	

テーマ

マーケティングの基礎をつかむ

授業の到達目標

マーケティングに関する基礎知識の習得、発表やディスカッションに向けて報告資料の準備に慣れることを目的とする

授業の概要

グループ分けを行い、各グループに最低3回の報告を割り当てる

準備学習（予習・復習）

身の回りのマーケティング現象を注意深く観察する。各報告に間に合うように該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　自己紹介の報告
第3回　輪読の説明
第4回　輪読①②
第5回　輪読③④
第6回　輪読⑤⑥
第7回　輪読①②
第8回　輪読③④
第9回　輪読⑤⑥
第10回　新製品開発のアイデアを考える
第11回　キャリアセンターでの説明会
第12回　プレゼンテーション方法の説明
第13回　ビジネスアイデアを考える①
第14回　ビジネスアイデアを考える②
第15回　ビジネスアイデアの報告

履修上の注意点

教科書

マーケティングをつかむ
著者:　黒岩健一郎・水越康介
出版社:　有斐閣
出版年:　2012　　ISBN:　978-4641177178

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 60 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ＜＊E＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　松石　泰彦

テーマ

大学での学習方法の基礎を習得する。

授業の到達目標

大学で勉強するために必要な基本的スキルの習得と、社会に対して視野と関心を広げること。

授業の概要

前半は、身近な題材を用いて、大学での基本的な勉強方法や、情報の収集・整理の方法を学ぶ。後半は、テキストを用いた発表と討論のスキルを学ぶ。必要に応じて映像教材なども用いる。

準備学習（予習・復習）

出された課題については、自覚と責任を持って準備してくること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　大学の学習での基礎スキル（1）
第3回　大学の学習での基礎スキル（2）
第4回　大学の学習での基礎スキル（3）
第5回　大学の学習での基礎スキル（4）
第6回　大学の学習での基礎スキル（5）
第7回　テキストを用いたグループワークと討論（1）
第8回　テキストを用いたグループワークと討論（2）
第9回　テキストを用いたグループワークと討論（3）
第10回　テキストを用いたグループワークと討論（4）
第11回　テキストを用いたグループワークと討論（5）
第12回　テキストを用いたグループワークと討論（6）
第13回　テキストを用いたグループワークと討論（7）
第14回　テキストを用いたグループワークと討論（8）
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

地方消滅
著者:　増田寛也
出版社:　中公新書
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 30 ）
ゼミ形式の授業は参加を最重要視する。遅刻・欠席を極力しないこと。

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ＜＊F＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾗﾝﾋﾞｰﾉ ﾊﾟﾗｶﾞｽ	

テーマ

日本と東南アジアの政治経済文化のダイナミックスを歴史的に理解することが主要なテーマです。テキストを精読して、自分の考えを展開し説明することが、授業の主なテーマとなります。

授業の到達目標

主な目標は、分かりやすいプレゼンテーション資料の作成と、その内容に関わる討論・対話の経験を身につけることです。その他、具体的な目標としては、歴史的展開を基盤として日本と東南アジアとの関係を理解し、イメージを豊富に持つこと、自分の考え方やアイデアを展開しそれらを論理的に説明する能力を身につけることが挙げられます。

授業の概要

本演習は、政治経済学における広範な基礎的知識と深い専門的知識を身につけ、国際的視野、ことに日本と東南アジアとの関係についての知見を持つ人材を育成することを目的としています。前半は白石隆『海の帝国―アジアをどう考えるか』、後半は鶴見良行『バナナと日本人―フィリピン農園と食卓のあいだ』をベースにして授業を進めます。授業の流れは次のようになります。①最初の授業で各回の報告者を割り当てる。②授業当日報告者はレジュメを作成する（授業日の2日前にレジュメを教員にメールで提出する）。③各授業で読むテキストの該当箇所を参加者全員が事前に読む。④報告者は要約と論点を報告する。⑤報告にベースにして参加者全員で議論する。

準備学習（予習・復習）

特になし。

内　　容

第1回　ガイダンス。報告者の割り当て。
第2回　『海の帝国』第１章「ラッフルズの夢」
第3回　『海の帝国』第２章「ブギス人の海」
第4回　『海の帝国』第３章「よちよち歩きのリヴァイアサン」
第5回　『海の帝国』第４章「複合社会の形態」
第6回　『海の帝国』第５章「文明化の論理」
第7回　『海の帝国』第６章「新しい帝国秩序」
第8回　『海の帝国』第７章「上からの国民国家建設」『海の帝国』第８章「アジアをどう考えるか」
第9回　『バナナと日本人』第１章「バナナはどちら」
第10回　『バナナと日本人』第２章「植民地ミンダナオで」『バナナと日本人』第３章「ダバオ麻農園の姿」
第11回　『バナナと日本人』第４章「バナナ農園の出発」『バナナと日本人』第５章「多国籍企業の戦略は？」
第12回　『バナナと日本人』第６章「契約農家『見えざる鎖」
第13回　『バナナと日本人』第７章「農園で働く人びと」
第14回　『バナナと日本人』第８章「日本へ、そして食卓へ」
第15回　『バナナと日本人』第９章「作る人びとを思いながら」

履修上の注意点

各授業で読むテキストの該当箇所を参加者全員が事前に読んで授業に備えてください。

教科書

バナナと日本人―フィリピン農園と食卓のあいだ
著者：　鶴見良行
出版社：岩波新書
出版年：１９８２年　　ISBN：　978-4004201991
教科書のほか、適宜プリントを配布する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0% ）	小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 0% ）	授業中発表等（ 35% ）

a50102a116

参加度 （ 65% ）

特になし。

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ＜＊G＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　片岡　裕介

テーマ

情報社会における経済活動の理解

授業の到達目標

経済、経営に関する身近な問題を題材として考えることで、情報で溢れかえる現代社会に起こる様々な現象を捉える視点を養うとともに、発表用資料の作成要領、発表における表現方法、質疑のポイントなどの学生生活に必要な技術を身に付ける。

授業の概要

毎回の発表および議論を通して、問題を整理し論理的に考える姿勢を学ぶとともに、自分の知識や考えを他の人に伝えるためのスキルを身に付ける。

準備学習（予習・復習）

発表前の準備と発表後のまとめが必要です。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　発表方法について
第3回　学生による発表および議論(1)
第4回　学生による発表および議論(2)
第5回　学生による発表および議論(3)
第6回　学生による発表および議論(4)
第7回　学生による発表および議論(5)
第8回　前半の総括
第9回　学生による発表および議論(6)
第10回　学生による発表および議論(7)
第11回　学生による発表および議論(8)
第12回　学生による発表および議論(9)
第13回　学生による発表および議論(10)
第14回　学生による発表および議論(11)
第15回　全体の総括

履修上の注意点

教科書

経済と経営を楽しむためのストーリー
著者:　学習院大学経済学部経済経営研究所
出版社:　東洋経済新報社
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ＜＊A＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　今井 まりな

テーマ

製品・サービスのヒットの理由を考える。

授業の到達目標

情報探索や報告のスキルを身に付ける。自身の報告や他人の報告を聞くことを通じて、特定の業界・企業・製品に詳しくなる。

授業の概要

業界ごとにグループ分けを行い、最低3回報告する。報告では各自が報告資料作成し、報告、ディスカッションを行う。最終的に製品・サービスのヒットした理由に関するレポートを作成し、提出する。

準備学習（予習・復習）

各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。なお、参考書を一読することで、製品・サービスのヒットの理由に関する理解が深まる。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　情報探索や報告の方法
第3回　報告1:業界構造（グループ1）
第4回　報告1:業界構造（グループ2）
第5回　報告1:業界構造（グループ3）
第6回　報告1:業界構造（グループ4）
第7回　報告2:ヒットした製品・サービス（グループ1）
第8回　報告2:ヒットした製品・サービス（グループ2）
第9回　報告2:ヒットした製品・サービス（グループ3）
第10回　報告2:ヒットした製品・サービス（グループ4）
第11回　報告3:製品・サービスの競争優位（グループ1）
第12回　報告3:製品・サービスの競争優位（グループ2）
第13回　報告3:製品・サービスの競争優位（グループ3）
第14回　報告3:製品・サービスの競争優位（グループ4）
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

売れる仕掛けはこうしてつくる
著者:　栗木契・余田拓郎・清水信年
出版社:　日本経済新聞社
出版年:　2006　　ISBN:　978-4532312985

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 45 ）　　授業中発表等　（ 45 ）
参加度　（ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ ＜＊B＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　今久保 幸生

テーマ

グローバル化のなかの世界経済を考える。

授業の到達目標

グローバル化が世界経済にどのような影響を及ぼしているかを学習することを通じて、現代の世界経済の特徴を把握させ、そこでの自らの立ち位置を確かめられるようにする。

授業の概要

教科書を順に輪読し、討論を行うことを通じて、ディスカッションの仕方を習得させる。

準備学習（予習・復習）

教科書の予習・復習は当然行う。時事問題に関する新聞等にも常時触れておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション。ゼミの方法に関する学習
第2回　序 章　国際経済を見る眼
第3回　第1章 国際貿易
第4回　第2章 国際金融
第5回　第3章　経済統合
第6回　第4章　貧困と開発
第7回　第5章 人口と食料
第8回　第6章 資源とエネルギー
第9回　第7章 地球環境問題
第10回　第8章　アメリカ
第11回　第9章 ヨーロッパ
第12回　第10章 日本
第13回　第11-12章 アジアNIES・(アセアンASEAN)
第14回　第13章 中国
第15回　第14章(最終章) BRICs

履修上の注意点

教科書は必ず各自一冊ずつ準備し、毎回持参すること。教科書を準備していない学生の受講は認めない。3回を超えて無断欠席した学生には単位を出さない。やむを得ず欠席する場合は必ず事前に担当教員に連絡すること。部活・就活による欠席は出席扱いとはしない。

教科書

私たちの国際経済 第3版 みつめよう、考えよう、世界のこと
著者:　東京経済大学国際経済グループ
出版社:　有斐閣
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ ）　　授業中発表等　（ 70 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　片岡　裕介	

テーマ

地域の拡がりの中で経済現象を理解する。

授業の到達目標

社会経済的な現象に対する空間的側面からのアプローチについて、基礎的な考え方を身に付けるとともに、具体的な事例を通して理解する。

授業の概要

情報社会における地域と経営の問題を対象とし、位置や場所に関わる情報のビジネス等への活用事例や社会問題の地域間格差に関するテーマを予定している。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　地域の把握(1)
第3回　地域の把握(2)
第4回　地域の把握(3)
第5回　プレゼンテーションの技術(1)
第6回　プレゼンテーションの技術(2)
第7回　前半の内容整理
第8回　文献発表および議論(1)
第9回　文献発表および議論(2)
第10回　文献発表および議論(3)
第11回　文献発表および議論(4)
第12回　文献発表および議論(5)
第13回　文献発表および議論(6)
第14回　文献発表および議論(7)
第15回　全体の総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　河野　充央	

テーマ

管理会計の研究を通して，マネジメントの本質を理解する

授業の到達目標

企業経営における会計の役割を理解する。日経新聞・日経ビジネスなどを無理なく読めるような力を養う。

授業の概要

原理原則・理論を学びながら，ビジネスの最前線の出来事に目を向ける。必要に応じて，工場見学等の学外学習を行う。

準備学習（予習・復習）

復習を必ず行うこと。

内　　容

第1回　ガイダンスプレゼミで学ぶ内容の概説
第2回　戦略的コストマネジメントの意義
第3回　製造活動とコストマネジメント1
第4回　製造活動とコストマネジメント2
第5回　製造活動とコストマネジメント3
第6回　製造活動とコストマネジメント4
第7回　製造活動とコストマネジメント5
第8回　マーケティング活動とコストマネジメント1
第9回　マーケティング活動とコストマネジメント2
第10回　マーケティング活動とコストマネジメント3
第11回　経営戦略とコストマネジメント1
第12回　経営戦略とコストマネジメント2
第13回　製造業のコストマネジメント戦略
第14回　サービス業のコストマネジメント戦略
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

経営管理会計
著者：　西澤脩
出版社：中央経済社
出版年：　　ISBN：

管理会計
著者：　岡本清　他
出版社：中央経済社
出版年：　　ISBN：

情報化社会における管理会計の役割
著者：　河野充央
出版社：税務経理協会
出版年：　　ISBN：

コトラーのマーケティングマネジメント
著者：　フィリップ・コトラー（恩蔵直人監訳）
出版社：パーソン・エデュケーション・ジャパン
出版年：　　ISBN：

a50102a254

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 20 ）
授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 60 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ＜＊E＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　近藤　隆則

テーマ

現代金融の発展と課題

授業の到達目標

現代金融の特徴や課題を理解しながら、金融に関わる新聞・雑誌の記事や文献の読解能力、レジュメにまとめる能力、発表能力、討論能力など、「金融について自分で考える力」や「金融機関を就職対象として考えるための知見」を身に付けることを目標とする。

授業の概要

金融に関わる新聞・雑誌の記事や基礎文献を輪読・発表・議論する。

準備学習（予習・復習）

課題とされた記事や文献は、報告者だけではなく全員がきちんと読んで討論できるように準備して下さい。

内　容

第1回　演習の進め方、レジュメの作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
第2回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第3回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第4回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第5回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第6回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第7回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第8回　金融に関わる映像資料を用いて学ぶ
第9回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第10回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第11回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第12回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第13回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第14回　担当学生による報告と討論（A4で2枚程度のレジュメを配布し、20分程度報告の後、質疑応答と議論）
第15回　金融の現場を探訪する

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

現代の金融入門【新版】
著者:　池尾和人
出版社:　ちくま新書
出版年:　2010年　　ISBN:

ソーシャルファイナンスの教科書
著者:　河口真理子
出版社:　生産性出版
出版年:　2015年　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50% ）
参加度　（ 50% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ＜＊F＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　阪本 崇

テーマ

公共部門の経済学について学ぶ

授業の到達目標

・卒業論文の作成に必要な文献調査や文章作成の技術を身につける。・経済学的な視点から社会現象を考えることができるようになる。

授業の概要

政府の活動は私たちのくらしにとって無くてはならないものです。このゼミでは、経済の中での政府の働きを理解するのに欠かせない公共経済学や財政学の基本的な内容を文献購読によって学び、自分自身で研究する際の基礎を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業に参加するための準備を各自があらかじめ行っておくことが必要である。具体的に言えば、指示された課題等は、指定日までに必ずこなしておかなければならない。

内　容

第1回　ガイダンス:テキストおよび分担の決定
第2回　情報検索演習（1）
第3回　情報検索演習（2）
第4回　プレゼンテーションの技術（1）
第5回　プレゼンテーションの技術（2）
第6回　プレゼンテーションの技術（3）
第7回　テキストの輪読（1）
第8回　テキストの輪読（2）
第9回　テキストの輪読（3）
第10回　テキストの輪読（4）
第11回　テキストの輪読（5）
第12回　テキストの輪読（6）
第13回　テキストの輪読（7）
第14回　テキストの輪読（8）
第15回　まとめ

履修上の注意点

他のメンバーの研究発表についてもしっかりと考え、可能な範囲でアドバイスを行うこと。

教科書

受講生との相談のうえ決定する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ 60 ）

参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ＜＊G＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　高原　正興

テーマ

社会学系ゼミで学習する

授業の到達目標

テキストを読んで、発表者はレジュメを作り、みんなが討論に参加して、社会学的な見方や分析のしかたを身につける。

授業の概要

①テキストの予習→レジュメにもとづく発表者の報告→指定質問者の質問→全員の質問→　全員の感想②『子どもの貧困』のレポート作成と学外授業

準備学習（予習・復習）

テキストは必ず予習すること

内　　容

第1回　ゼミの運営方法についてのガイダンスと自己紹介
第2回　学生による発表・討論(1)
第3回　学生による発表・討論(2)
第4回　学生による発表・討論(3)
第5回　学生による発表・討論(4)
第6回　学生による発表・討論(5)
第7回　学生による発表・討論(6)
第8回　学生による発表・討論(7)
第9回　学生による発表・討論(8)
第10回　学生による発表・討論(9)
第11回　学生による発表・討論(10)
第12回　学生による発表・討論(11)
第13回　山科青少年活動センターの見学
第14回　学生による発表・討論(12)
第15回　総括

履修上の注意点

テキストをよく読んで、十分に準備した上でゼミに参加すること。ゼミの欠席はありえない。

教科書

新版　社会学のエッセンス
著者:　友枝敏雄他
出版社:　有斐閣
出版年:　2007　　ISBN:　4-641-12338-0

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 20% ）　　授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 40% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ＜＊H＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

医療経営に関する基礎的な学習

授業の到達目標

医療経営や医療政策、医療経済について知見を深める

授業の概要

グループワークやテキストを用いた発表と討論を通じて、医療経営や医療政策、医療経済について理解を深めるとともに、大学での学びに必要なアカデミック・スキルの習得に努める。また、受講生が主体となって学外授業（施設訪問）を企画する。

準備学習（予習・復習）

授業時間外において、グループワークや発表の準備、学外授業の企画を立案する。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　図書館ガイダンス
第3回　グループワーク（グループ分けとテーマ設定）
第4回　グループワーク（仮説とアウトラインの明確化）
第5回　グループワーク（論点の掘り下げ）
第6回　グループワーク（調査の一応のとりまとめ）
第7回　グループワーク（パワーポイント資料の作成）
第8回　グループワーク成果発表会
第9回　キャリアガイダンス（予定）
第10回　テキストを用いた発表と討論
第11回　テキストを用いた発表と討論
第12回　テキストを用いた発表と討論
第13回　テキストを用いた発表と討論
第14回　学外授業（予定）
第15回　演習全体のまとめ

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、学外授業や自主ゼミ等に積極的に参加すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

医療・介護問題を読み解く
著者:　池上直己
出版社:　日経文庫
出版年:　2014　　ISBN:　9784532113117

医療政策を問いなおす
著者:　島崎謙治
出版社:　ちくま新書
出版年:　2015　　ISBN:　9784480068637

健康と医療の公平に挑む
著者:　松田亮三編
出版社:　勁草書房
出版年:　2009　　ISBN:　9784326700615

a50102a258

地域包括ケアと地域医療連携

著者:　二木立

出版社: 勁草書房

出版年: 2015　　ISBN:　9784326700875

経済政策で人は死ぬか

著者:　スタックラー＆バス

出版社: 草思社

出版年: 2014　　ISBN:　9784794220868

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）

参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ＜＊I＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　平尾 毅

テーマ

経営史的アプローチから企業の組織・戦略・社会的責任について学ぶ。

授業の到達目標

・産業や企業の成り立ち・変遷・現状を知り、今後の課題や戦略を長期的視点から考える。・卒業論文の作成に必要な資料や文献の調べ方や整理の仕方を身につける・ワープロや表計算、プレゼンテーションなどのツールの使いこなし方に習熟する

授業の概要

経営史・産業史・企業史の観点から、企業の経営戦略・組織、市場や社会への対応などを学びます。「史」といっても、必ずしも昔の話を学ぶということではなく、現代的企業・産業の特質や役割、今後の展開を、過去を含めた長期的観点から考えていきます（例えばアップル社もすでに創業40年の企業です）。

準備学習（予習・復習）

出された課題については、社会人に向けての自覚と責任を持って準備してくること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　テキストの輪読と討論（1）
第3回　テキストの輪読と討論（2）
第4回　テキストの輪読と討論（3）
第5回　テキストの輪読と討論（4）
第6回　テキストの輪読と討論（5）
第7回　テキストの輪読と討論（6）
第8回　テキストの輪読と討論（7）
第9回　テキストの輪読と討論（8）
第10回　文献・各種資料の調べ方とまとめ方（1）
第11回　文献・各種資料の調べ方とまとめ方（2）
第12回　文献・各種資料の調べ方とまとめ方（3）
第13回　文献・各種資料の調べ方とまとめ方（4）
第14回　文献・各種資料の調べ方とまとめ方（5）
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

授業で相談の上決定
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

適宜紹介
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ＜＊J＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　松石　泰彦

テーマ

経営史的アプローチから企業の組織・戦略・社会的責任について学ぶ。

授業の到達目標

・産業や企業の成り立ち・変遷・現状を知り、今後の課題や戦略を長期的視点から考える。・卒業論文の作成に必要な資料や文献の調べ方や整理の仕方を身につける。・ワープロや表計算、プレゼンテーションなどのツールの使いこなし方に習熟する。

授業の概要

経営史・産業史・企業史の観点から、企業の経営戦略・組織、市場や社会への対応などを学びます。「史」といっても、必ずしも昔の話を学ぶということではなく、現代的企業・産業の特質や役割、今後の展開を、過去を含めた長期的観点から考えていきます（例えばアップル社もすでに創業40年の企業です）。

準備学習（予習・復習）

出された課題については、社会人に向けての自覚と責任を持って準備してくること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　テキストの輪読と討論（1）
第3回　テキストの輪読と討論（2）
第4回　テキストの輪読と討論（3）
第5回　テキストの輪読と討論（4）
第6回　テキストの輪読と討論（5）
第7回　テキストの輪読と討論（6）
第8回　テキストの輪読と討論（7）
第9回　テキストの輪読と討論（8）
第10回　文献・各種資料の調べ方とまとめ方（1）
第11回　文献・各種資料の調べ方とまとめ方（2）
第12回　文献・各種資料の調べ方とまとめ方（3）
第13回　文献・各種資料の調べ方とまとめ方（4）
第14回　文献・各種資料の調べ方とまとめ方（5）
第15回　総括

履修上の注意点

上記各回の順序は適宜学習内容に応じて変更することがある。

教科書

授業で相談の上決定する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

適宜紹介する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ＜＊K＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾗﾝﾋﾞｰﾉ ﾊﾟﾗｶﾞｽ	

テーマ

この演習のテーマは地域および地域経済を把握し、テキストのキーワードである地域内再投資力論を理解するのです。その上で、テキストの精読を通して自分の考えを展開・精錬し、他の人に説明する力を身につけます。

授業の到達目標

主な目標は、分かりやすいプレゼンテーション資料の作成技術と、その内容に関わる討論の経験を獲得することです。さらに、具体的な目標として、地域および地域経済を自分なりに理解した上で、自分の考えを展開し、他の人に説明する能力を身につけることです。

授業の概要

本演習は、地域経済についての理論及び実証について知識を身につけ、地域発展についての知見を持つ人材を育成することを目指しています。テキストは四部構成で、一部は地域また基礎自治体の理論的フレームワークの紹介、二部は日本の地域開発政策の外観およびプロジェクト型地域開発の検証、続く三部では真の地域づくりおよび持続的な地域の発展、最終部四部は基礎自治体の在り方をテーマとしています。授業の流れは次のようになります。①最初の授業で各回の報告者を割り当てる。②授業当日に向けて報告者はレジュメを作成する（授業日の二日前にレジュメを教員に提出する）。③各授業で読むテキストの該当箇所を参加者全員が事前に読む。④授業当日、報告者は要約と論点を報告する。⑤報告にベースにして参加者全員で議論する。

準備学習（予習・復習）

特になし。

内　　容

第1回　ガイダンス。報告者の割り当て。
第2回　『地域づくりの経済学入門』第1章「地域と地域づくり」
第3回　『地域づくりの経済学入門』第2章「経済のグローバル化と地域の荒廃」
第4回　『地域づくりの経済学入門』第3章「『グローバル国家』型『構造改革』と日本・地域の未来」
第5回　『地域づくりの経済学入門』第4章「戦後地域開発政策の展開と地域」
第6回　『地域づくりの経済学入門』第5章「プロジェクト型地域開発と地域」
第7回　『地域づくりの経済学入門』第6章「企業誘致で地域は豊かになるのか」
第8回　『地域づくりの経済学入門』第7章1節～3節（134頁～150頁）
第9回　『地域づくりの経済学入門』第7章4節「『成長の管理』から学ぶ」
第10回　『地域づくりの経済学入門』第8章「『一村一品』から地域内産業連関の構築へ」
第11回　『地域づくりの経済学入門』第9章「小さいからこそ輝く自治体」
第12回　『地域づくりの経済学入門』第10章「大都市の産業空洞化とまちづくり」
第13回　『地域づくりの経済学入門』第11章1節～2節（228頁～240頁）
第14回　『地域づくりの経済学入門』第11章3節～4節（240頁～258頁）
第15回　『地域づくりの経済学入門』第12章「地域づくりと地域住民主権」

履修上の注意点

各授業で読むテキストの該当箇所を参加者全員が事前に読んで授業に備えてください。

教科書

地域づくりの経済学入門―地域内再投資力論―
著者:　岡田 知弘
出版社:　自治体研究社
出版年:　2005　　ISBN:　978-4880374437

参考書

成績評価

試験　（ 0% ）	小テスト　（ 0% ）
授業中課題　（ 0% ）	授業中発表等　（ 35% ）
参加度　（ 65% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ＜＊救A＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　その他	定　　員　15
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　（休講）	

テーマ

一般市民としてのみならず公務員として必要とされる幅広い知識を深め、教養を高める

授業の到達目標

救急救命士として活躍するために必要とされる幅広い知識と深い教養を修得しながら、いろいろなテーマについて論理的に考える能力を高め、文章や言葉で表現する能力を発展させる。

授業の概要

基礎演習Ⅲに引き続き、救急救命士として活躍するために必要となる幅広い知識と深い教養を修得しながら、より高度なテーマについても論理的に考える能力、文章等で表現する力を修得するとともにプレゼンテーション能力を発展させる。この授業では、現代の法律、政治、行政、経済、人権、福祉などに関する知識をさらに深めるとともに、学習した内容から関心のあるテーマを自らの発表テーマとして決め、情報収集し、意見をまとめてプレゼンテーションを行う。また、学習内容を小論文としてまとめる。

準備学習（予習・復習）

常日頃からテレビやネットでニュースを見たり、新聞を読み、日本や世界で起きている出来事を知るように努める。また、授業終了後に復習をするとともに、発表・小論文のテーマについて自分で調べる。

内　　容

第1回　政治選挙制度、政党と政党政治
第2回　行政地方自治、住民の権利、公務員制度
第3回　法学罪刑法定主義、最近の法律の制定と改正
第4回　基本的人権精神的自由権、経済的自由権、身体的自由権、社会権、国務請求権
第5回　国会国会の権限、衆議院の解散
第6回　内閣内閣の組織、内閣総理大臣の地位と権限
第7回　経済金融政策、信用創造、為替相場と円高・円安
第8回　財政財政の役割、財政政策、租税制度
第9回　経済事情日本の経済事情、世界の経済事情、地域的経済統合
第10回　労働問題雇用・失業対策
第11回　社会保障少子・高齢化問題
第12回　現代社会の諸相農業・食料問題、消費者問題
第13回　テーマの決定と発表（1）
第14回　テーマの決定と発表（2）
第15回　小論文の作成と完成

履修上の注意点

皆勤を目指し、授業に積極的に参加する。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

必要に応じ適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 10 ）
三分の二以上出席しないと単位が認定されない場合がある。12回の授業まではほぼ毎回小テストを実施する。

2016 Syllabus

科 目 名　**公衆衛生**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　河野　公一	

テーマ

公衆衛生

授業の到達目標

社会と健康・疾病との関係や地域医療について理解し、個体および集団をとりまく環境諸要因や地域社会における個人と集団の特性を予防医学的視点から修得する。

授業の概要

公衆衛生に関すること全般

準備学習（予習・復習）

指示テキスト及び救急救命士標準テキスト

内　容

第1回　公衆衛生総論
第2回　環境保健
第3回　産業保健
第4回　国際保健
第5回　感染症
第6回　食品保健・栄養
第7回　疫学
第8回　学校保健
第9回　人口・保健統計
第10回　老人保健
第11回　成人保健
第12回　地域保健
第13回　母子保健
第14回　口腔保健
第15回　精神保健
第16回　テスト

履修上の注意点

学外の講師の講義である。社会人として節度ある態度で授業にのぞむこと。

教科書

医療・福祉系学生のための専門基礎科目　改訂2版
著者:　編集代表　河野 公一
出版社:　株式会社金芳堂
出版年:　2013　　ISBN:　9784765315623

参考書

成績評価

試験　（ 100 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 0 ）
成績評価は出席点・テスト100%とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**救急疾病Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　小尾口　邦彦.福井　道彦	

テーマ

呼吸器系・循環器系・神経系の解剖生理を学び、関連する疾病の理解と観察につなげる。

授業の到達目標

呼吸器系（総論）・循環器系（総論）・神経系の疾病の理解

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　呼吸器①解剖と生理1
第2回　呼吸器②解剖と生理2
第3回　呼吸器③呼吸器疾患の病態生理
第4回　呼吸器④疾患の診断、問診・症状・理学所見、検査、喀血、呼吸困難、胸痛など
第5回　循環器①解剖と生理1
第6回　循環器①解剖と生理2
第7回　循環器③病態生理、循環電気生理
第8回　循環器④病態生理疾患の診断、問診・症状・理学所見、胸痛、呼吸困難、動機・不整脈、発熱
第9回　神経系①解剖・生理1、脳神経
第10回　神経系②解剖生理2、脊髄・末梢神経
第11回　神経系③主要な神経症候、神経感染症、脳血管障害、脊髄疾患感覚系疾患、その他神経疾患
第12回　神経系④脳血管障害、神経外傷学
第13回　高齢者に特有の疾患①　原因と病態
第14回　高齢者に特有の疾患②　高齢者をめぐる社会状況、観察・判断、処置・搬送
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

改訂第9版 救急救命士標準テキスト 上巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集員会
出版社:　株式会社　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:
改訂第9版 救急救命士標準テキスト 下巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集員会
出版社:　株式会社　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**救急疾病Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　冨士原　彰.大石　泰男.筈井　寛	

テーマ

循環器系・呼吸器系・消化器系の疾病

授業の到達目標

循環器系・呼吸器系・消化器系の疾病の理解をし救急活動に生かす

授業の概要

救急現場で遭遇する循環器・呼吸器、消化器系の疾患の病態

準備学習（予習・復習）

救急救命士標準テキストの該当箇所を予習のこと。

内　容

第1回　循環器系疾患各論①基本的な病態及び診断・検査方法、治療に用いる薬剤
第2回　循環器系疾患各論②心不全、虚血性心疾患
第3回　循環器系疾患各論③虚血性心疾患の救急医療　高血圧
第4回　循環器系疾患各論④不整脈
第5回　循環器系疾患各論⑤先天性心疾患、心臓弁膜症
第6回　循環器系疾患各論⑥心筋疾患、血管系疾患（動脈、静脈）
第7回　呼吸器系疾患各論①呼吸器感染症
第8回　呼吸器系疾患各論②気管支喘息とCOPD、肺腫瘍
第9回　呼吸器系疾患各論③間質性肺炎と周辺疾患、呼吸不全
第10回　呼吸器系疾患各論④肺血管疾患、胸膜・横隔疾患、その他の呼吸器疾患
第11回　消化器系疾患各論①胃・十二指腸疾患
第12回　消化器系疾患各論②大腸・小腸疾患
第13回　消化器系疾患各論③肝炎・肝硬変、肝腫瘍、胆石症
第14回　消化器系疾患各論④腫瘍、腹痛、吐血・下血など
第15回　まとめ

履修上の注意点

外部講師は、病院実習にお世話になる病院の医師であるため真摯な講義態度を期待する。

教科書

救急救命士標準テキスト第9版　上巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698699
救急救命士標準テキスト第9版　下巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698705

参考書

成績評価

試験　（ 20 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**救急の検査**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　西本　泰久.竹下　仁	

テーマ

授業の到達目標

救急疾患と臨床検査の関係を理解する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　検査総論
第2回　血液の基礎
第3回　出血／失血性ショックと検査
第4回　凝固異常（血栓・塞栓）と検査
第5回　肺動脈塞栓症と検査
第6回　黄疸と検査
第7回　血液ガス分析検査（基礎）
第8回　血液ガス分析検査（代謝性異常）
第9回　血液ガス分析検査（呼吸性異常）
第10回　糖尿病と検査
第11回　胸部痛救急の検査
第12回　心電図検査（基礎）
第13回　心電図検査（心筋梗塞と不整脈）
第14回　腹痛救急と検査
第15回　まとめ（超音波・X線撮影・CT・MRI・内視鏡）
第16回　試験

履修上の注意点

教科書

参考書

救急救命士標準テキスト
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**救急症候学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　久保山　一敏	

テーマ

外傷総論

授業の到達目標

救急医療のうち、特に外傷救急医学について学ぶ。外傷とは機械的外力により身体が形態的・機能的に障害を被ることであり、その種類や緊急度の評価に基づいて行われる処置を習得する。また外傷を引き起こす原因、メカニズム（受傷機転）や、複数の部位に一定以上の重症度を有する外傷（多発外傷）の特徴や病態・症状、観察と応急処置なども理解する。

授業の概要

それまでの授業内容に関する小テストを不定期に行う。

準備学習（予習・復習）

毎回の講義内容の復習を中心に行うこと【復習時間：30分】

内　容

第1回　外傷の定義、疫学
第2回　受傷機転とエネルギー
第3回　外傷の分類
第4回　出血と止血機構、創傷と感染、創傷の治療機転
第5回　受傷形態1
第6回　〃　2
第7回　外傷とショック
第8回　観察と判断：観察のポイント
第9回　外傷の評価：重症度評価と状況評価のポイント
第10回　多発外傷1
第11回　〃　2
第12回　応急処置と搬送1
第13回　〃　2
第14回　事例紹介
第15回　まとめ
第16回　試験

履修上の注意点

教科書

改訂第9版救急救命士標準テキスト
著者：
出版社：へるす出版
出版年：2015　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ 60% ）	小テスト （ 30% ）
授業中課題 （ 0% ）	授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 10% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**救急医学総論Ⅲ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定

担 当 者　宮本　尚.河原　宣子.千田　いずみ

テーマ

授業の到達目標

局所所見観察と在宅処置、看護、リスクマネジメントなどを理解する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　生命倫理とは?
第2回　安全管理とリスクマネジメント（1）?
第3回　安全管理とリスクマネジメント（2）?
第4回　観察（局所）（1）?
第5回　観察（局所）（2）?
第6回　観察（局所）（3）?
第7回　接遇演習（1）?
第8回　接遇演習（2）?
第9回　感染症とは?
第10回　消毒と滅菌について、清潔操作?
第11回　看護について?（1）
第12回　看護について?（2）
第13回　在宅療養者に対する処置（1）?
第14回　在宅療養者に対する処置（2）?
第15回　在宅療養者に対する処置（3）?

履修上の注意点

教科書

改訂第9版 救急救命士標準テキスト 上巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集員会
出版社:　株式会社　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:
改訂第9版 救急救命士標準テキスト 下巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集員会
出版社:　株式会社　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**救急医学総論Ⅳ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　関根　和弘	

テーマ

救急現場活動に必要な知識と技術・コミニュケーション力

授業の到達目標

救急現場活動を行うために必要なコミニュケーションスキル、救急隊の編成、救急自動車装備、通信体制、搬送方法や救急活動に関連する法律について理解することを目的とする。

授業の概要

講義及び実習

準備学習（予習・復習）

前半は、改訂8版救急救命士標準テキスト第2版を使用する。中盤は資料を作成したものを前週に配布し、翌週に演習を行う。配布した資料を熟読しておくこと。

内　容

第1回　救急活動の概論（DVD閲覧における救急体制の理解、ディスカッション）
第2回　救急現場活動（救急医療システム、救急搬送システム、救急情報システム、概論）
第3回　救急現場活動（周産期医療、医療計画と救急救護体制、救急医療情報システム、各論）
第4回　救急現場活動（病院前救護体制、救急活動の基本）
第5回　救急現場活動（救急の無線交信と出場）
第6回　救急現場のコミュニケーションスキル（コミュニケーションスキルの概論）講義と実習
第7回　救急現場のコミュニケーションスキル（消防・救急における情報の伝達）講義と実習
第8回　救急現場のコミュニケーションスキル（医療面接）講義と実習
第9回　救急現場のコミュニケーションスキル（医療面接と情報伝達）講義と実習
第10回　救急行政と救急関連法規（メディカルコントロールと事後検証制度）
第11回　救急活動と法律問題（医療業務に係る体系、救急救命士の名称独占と業務独占について）
第12回　惨事ストレスマネージメント（救助救急隊員のための惨事ストレス対策）
第13回　救急現場等の安全管理（危険予知訓練:KYT）講義と実習
第14回　海外の病院前救護体制（米国・英国や仏国等と日本の病院前救護体制の違い）
第15回　救急現場のコミュニケーション、情報の収集と評価・確認と周知、まとめ

履修上の注意点

前週に知識やルールを得て、翌週に演習を実施するので、配布資料を熟読してこないと同じテーブルになった他の者に迷惑をかけることとなる。無断欠席は試験の受講を認めない。

教科書

救急隊員標準テキスト　改訂第3版
著者：　救急隊員用教本作成委員会
出版社：へるす出版
出版年：2007　　ISBN：　9784892695902

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　上巻
著者：　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社：へるす出版
出版年：2015　　ISBN：　9784892698699

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　下巻
著者：　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社：へるす出版
出版年：2015　　ISBN：　9784892698705

交通救助のテクニック
著者：　関根　和弘
出版社：イカロス出版
出版年：2011　　ISBN：　9784863205222

参考書

a50102a950

救急活動コミニュケーションスキル
著者:　坂本哲也/畑中哲生/松本尚
出版社: ㈱メディカルサンエンス
出版年: 2009　ISBN: 9784903843063

惨事ストレスへのケア
著者:　松井　豊
出版社: ㈱おうふう
出版年: 2009　ISBN: 9784273035341

はじめての医療面接
著者:　斉藤清二
出版社: 医学書院
出版年: 2000　ISBN: 4260138677

成績評価

試験 （ 40 ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ ）
授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 40 ）
60%以上

2016 Syllabus

科 目 名　**救急症候学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　久保山　一敏	

テーマ

外傷各論

授業の到達目標

①身体各部位の外傷を理解する②外傷におけるショックの特徴を理解する③妊婦・小児・高齢者における外傷の特殊性を理解する

授業の概要

授業内容に関する小テストを不定期に行う。

準備学習（予習・復習）

毎回の講義内容の復習を中心に行うこと【復習時間：30分】

内　容

第1回　頭部外傷1
第2回　　〃　２
第3回　顔面・頸部外傷
第4回　脊椎・脊髄外傷
第5回　胸部外傷1
第6回　　〃　２
第7回　腹部外傷1
第8回　　〃　２
第9回　骨盤外傷
第10回　四肢外傷
第11回　皮膚・軟部組織外傷
第12回　小児・高齢者・妊婦の外傷1
第13回　　〃　２
第14回　外傷性ショック
第15回　まとめ
第16回　試験

履修上の注意点

教科書

改訂第9版救急救命士標準テキスト
著者：
出版社：へるす出版
出版年：2015　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト（ 30% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 10% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**環境障害**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員　50

履修条件　　クラス指定

担 当 者　久保山 一敏

テーマ

環境障害

授業の到達目標

①各種の環境障害の病態生理を理解する。②それぞれに関する観察と処置を説明出来る。

授業の概要

小テストを不定期に行う。

準備学習（予習・復習）

毎回の講義内容の復習を中心に行うこと【復習時間：30分】

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　溺水
第3回　熱中症
第4回　偶発性低体温症
第5回　放射線障害
第6回　高山病・減圧障害
第7回　酸素欠乏症・凍傷・紫外線による障害
第8回　まとめ
第9回　試験

履修上の注意点

教科書

改訂第9版救急救命士標準テキスト
著者：
出版社：へるす出版
出版年：2015　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ 60% ）　　小テスト （ 30% ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 10% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**人的資本の経済学 <Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

経済学の視点から、組織と仕事を分析する

授業の到達目標

1）組織の経済学の基本的な考え方を理解する2）人的資本理論を中心に労働経済学の基本的な考え方を理解する

授業の概要

入門的な経済学では、経済の中で活動する個人や組織はブラックボックスとして捉えられ、その内実や行動が詳細に分析することはない。この授業では、そうした個人と組織について経済学はいかにして分析を行うことが可能なのか焦点を当てる。

準備学習（予習・復習）

Knowledge Deliverを利用して復習テストを提供するので、必ず次の授業までに終えておいてください。積み上げ型の授業となるので、前回の授業の復習を授業前に行っておくことがもっとも重要な予習となります。

内　　容

第1回　教科書的な経済学が描く世界：労働市場のメカニズム
第2回　労働需要と労働供給（1）：余暇と労働の選択
第3回　労働需要と労働供給（2）：家計生産モデルと家庭内分業
第4回　労働需要と労働供給（3）：芸術家・クリエーターの働き方
第5回　労働需要と労働供給（4）：要素需要としての労働需要
第6回　労働需要と労働供給（5）：労働需要とシグナリング・モデル
第7回　仕事とキャリア（1）：長期雇用と賃金カーブ
第8回　仕事とキャリア（2）：内部労働市場とOJT
第9回　人的資本の理論（1）：資本としての人間の能力
第10回　人的資本の理論（2）：割引現在価値と内部収益率
第11回　人的資本の理論（3）：特殊訓練と一般訓練
第12回　組織の経済理論（1）：組織の存在理由と取引費用
第13回　組織の経済理論（2）：インセンティブの設計理論
第14回　組織の経済理論（3）：ヒエラルキーと権限配分
第15回　まとめ

履修上の注意点

積み上げ式の授業であるので、欠席、遅刻の無いようにすること。

教科書

指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業中に関連文献を紹介する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（　）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**経営戦略論Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　今久保　幸生	

テーマ

経営戦略の基礎を学ぶ

授業の到達目標

経営戦略に関する教科書を手がかりに、経営戦略の基礎的な理論や応用例を説明することを通じて、経営戦略の基礎を理解させる。

授業の概要

教科書に即して、経営学の理論と具体例を系統的に説明するが、教科書で触れられていないことも説明する。教科書の理解は必要だが授業での教科書以外の説明も重要だということである。

準備学習（予習・復習）

教科書の予習・復習および新聞記事などの時事問題の予習を行うこと。

内　容

第1回　授業全体の進め方ガイダンス
第2回　経営戦略の概念と体系
第3回　製品市場戦略と多角化
第4回　資源展開戦略とPPM
第5回　競争戦略と競争優位
第6回　リソース・ベースト・ビューと知識
第7回　経営戦略と組織
第8回　ネットワーク組織と組織間関係
第9回　Ｍ＆Ａ戦略と企業価値
第10回　情報ネットワークと経営戦略
第11回　グローバリゼーションと経営戦略
第12回　地球環境問題と経営戦略
第13回　起業と経営戦略
第14回　イノベーションと経営戦略
第15回　まとめ

履修上の注意点

新聞やインターネット、映像などで知った様々な経営戦略の実践や考え方などを教科書の諸理論と照らし合わせて考えてみること。

教科書

経営戦略・新版
著者:　大滝精一他
出版社:　有斐閣
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ ）	授業中発表等　（ ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**経営戦略論Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　150
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松石　泰彦	

テーマ

授業の到達目標

おもに京都の企業人や各種の経済団体等から経験豊なゲストスピーカーをお招きして組織文化、経営戦略、人材育成方針等について学ぶ。

授業の概要

企業経営や経済団体等の運営に直接に関係しておられるトップ・マネジメント職位にある人々から実務体験を直接にお聞きして、組織文化と経営戦略について理解を深めるのが獲得目標である。

準備学習（予習・復習）

当日の企業・団体の経営状況や関係する業界について、専門書、有価証券報告書、会社案内、会社四季報、ダイヤモンド、東洋経済などの業界紙、日本経済新聞、日本産業新聞、ホームページなどを手がかりに、予め調べておくことが有益である。

内　　容

第1回　講義のねらいと計画
第2回　大日本スクリーン製造（株）の経営戦略について
第3回　オムロン(株)の経営戦略について
第4回　宝ホールディングス（株）の経営戦略について
第5回　島津メクテム（株）の経営戦略について
第6回　京都電子計算（株）の経営戦略について
第7回　社団法人　京都工業会の経営戦略について
第8回　中間まとめ
第9回　（株）福田巧芸社の経営戦略について
第10回　（有）キャップスの経営戦略について
第11回　京都生活協同組合の経営戦略について
第12回　共英製鋼（株）の経営戦略について
第13回　（株）ケーケーシ情報システムの経営戦略について
第14回　京都経営者協会の経営戦略について
第15回　まとめと今後の展望

履修上の注意点

講義に関連する会社や団体のホームページを見て、事前に調べた上で講義に出席し、質問を用意するようにしてほしい。

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中指示する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（　）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**経営組織論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平尾　毅	

テーマ

経営組織論の基礎分野を学習する。

授業の到達目標

経営組織論の基礎知識を理解してもらうことが狙いである。経営学科の各コースの基礎知識になるとともに、将来の組織の一員として活躍する際に役立つ知識の修得が期待される。

授業の概要

組織とは何か、組織はどのように作られ、運営されるのか、どのように外部環境と関わっていくのかについて講義形式で学んでいく。

準備学習（予習・復習）

事前配布される資料の予習をして授業に臨んでください（1時間程度）。また、復習として配布資料を自筆でノートにまとめてください（1時間程度）。

内　　容

第1回　組織とは何か（組織とは一体何なのか、組織論を学ぶ意義を確認する）
第2回　環境と組織（組織が価値や信念をもった情報処理システムとして環境適応しながら、その構造を構築することを学ぶ）
第3回　分業と統合（組織における分業の意味合いと、メリット・デメリットを学ぶ）
第4回　組織デザイン①（分業と統合のバランスについて学ぶ）
第5回　組織デザイン②（職能制、事業部制、マトリクスについて学ぶ）
第6回　組織内プロセス①（人は何によってどのように組織に貢献しようとするのか、モチベーションを高揚させるために欠かせない視点について学ぶ）
第7回　組織内プロセス②（変革時代のリーダーシップについて、その行動特性などについて学ぶ）
第8回　組織文化①（組織文化が企業経営に及ぼす影響を学ぶ）
第9回　組織文化②（組織文化の変革の重要性と困難について学ぶ）
第10回　戦略的組織変革①（戦略的組織変革のプロセスに基づき、どのように組織の慣性から逃れて抜本的な変革が可能になるかを学ぶ）
第11回　戦略的組織変革②（組織構造、組織プロセスをどのように変革するかについて学ぶ）
第12回　ネットワーク組織①（ネットワーク組織とは何か、ネットワーク的な経営コンセプトについて学ぶ）
第13回　ネットワーク組織②（ネットワーク組織の形態とその特性について学ぶ）
第14回　ポストモダンの組織論（機能主義的パラダイムの限界とポストモダンの組織論について学ぶ）
第15回　まとめ（全体のまとめ）

履修上の注意点

配布資料に記載の文献一覧を参考に予習してください。

教科書

使用しない。毎回の授業で配布する資料をテキストの代用とする。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 70 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 15 ）	授業中発表等　（ 0 ）
参加度　（ 15 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**経営情報システム論 <Z>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

情報化社会における経営情報の役割と可能性

授業の到達目標

情報技術（IT）あるいは情報通信技術（ICT）の革新が、企業経営ならびに地域社会に及ぼす影響を考えるにあたり、経営情報システムの基礎的事項について学習するとともに、経営活動や社会生活の中で経営情報がどのように活用されているかを理解する。

授業の概要

まず、経営情報の基礎概念、情報化社会の進展、経営情報システムの考え方などについて基礎的内容を学習する。さらに、経営情報と社会生活との関わりについて具体的な事例を通して見ることで、経営情報システムの理解を深める。

準備学習（予習・復習）

授業で学習した用語や関連する事例について、授業後に整理するようにしてください。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　情報化社会の進展
第3回　情報化社会における経営情報
第4回　経営情報システムの変遷
第5回　情報技術の基礎
第6回　経営戦略と情報システム
第7回　経営組織と情報システム
第8回　システムとネットワーク
第9回　ナレッジマネジメント
第10回　経営情報と流通(1)　情報化と流通システム
第11回　経営情報と流通(2)　チェーンストアと物流システム
第12回　地域社会における経営情報(1)　インターネットビジネス
第13回　地域社会における経営情報(2)　エリアマーケティング
第14回　地域社会における経営情報(3)　位置情報サービス
第15回　地域社会における経営情報(4)　情報セキュリティと情報倫理

履修上の注意点

受講者数によっては座席指定をおこなう。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

経営情報システム 第4版
著者：　宮川公男・上田泰編著
出版社：　中央経済社
出版年：　2014　ISBN：

はじめて学ぶ経営情報学
著者：　高橋敏朗編
出版社：　日科技連出版社
出版年：　2005　ISBN：

経営情報論 新版
著者：　遠山暁・村田潔・岸眞理子著
出版社：　有斐閣
出版年：　2008　ISBN：

a50102d610

日本の流通と都市空間

著者:　荒井良雄・箸本健二編

出版社: 古今書院

出版年: 2004　　ISBN:

ビジネス・行政のためのGIS

著者:　村山祐司・柴崎亮介編

出版社: 朝倉書店

出版年: 2008　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ 40 ）

授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**人的資源管理論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平尾　毅	

テーマ

人的資源管理の基本的な仕組みを学習する。

授業の到達目標

組織における人間行動を規定するメカニズムを理解してもらうことが狙いである。就職後のキャリア形成に必要な観点を身につけることが期待される。

授業の概要

自分のキャリアは自分で考え、自分で作っていかなければならない時代において、自分がどのような仕組みの下で働き、どのようにして報酬を得るのかを、講義形式で学んでいく。

準備学習（予習・復習）

教科書と配布資料の予習をして授業に臨んでください（1時間程度）。また、復習として配布資料を自筆でノートにまとめてください（1時間程度）。

内　　容

第1回　人的資源管理入門（人の管理とはどんなことかを学ぶ）
第2回　人間モデル・組織行動（組織は人をどのように捉えるのかについて学ぶ）
第3回　組織設計（人の働く組織をどのように作るのかを学ぶ）
第4回　採用・配置（組織は人をどのように雇い入れるのかを学ぶ）
第5回　キャリア開発・人材育成・教育訓練（組織は人をどのように育てるのかを学ぶ）
第6回　評価・考課（組織は仕事の結果をどのように評価するのかを学ぶ）
第7回　昇進・昇格（組織は人をどのように処遇するのかを学ぶ）
第8回　賃金・福利厚生（組織は人にどのような報酬を与えるのかを学ぶ）
第9回　安全・衛生（組織は人の安全と健康をどのように守っているのかを学ぶ）
第10回　労使関係（組織は労働組合とどのように関わるのかを学ぶ）
第11回　退職（組織は辞めていく人とどのように関わるのかを学ぶ）
第12回　女性労働・高齢者雇用（多様化する働く人たちを組織はどう管理するのかを学ぶ）
第13回　非正規雇用（多様化する雇用形態を組織はどう管理するのかを学ぶ）
第14回　裁量労働・在宅勤務（多様化する労働時間と場所を組織はどう管理するのかを学ぶ）
第15回　ワーク・ライフ・バランス（多様化する働く意味づけを組織はどう管理するのかを学ぶ）

履修上の注意点

教科書

経験から学ぶ人的資源管理
著者：　上林憲雄・厨子直之・森田雅也
出版社：有斐閣
出版年：2010年　　ISBN：　978-4641183896

参考書

人事管理入門〈第2版〉
著者：　今野浩一郎
出版社：日経文庫
出版年：2008年　　ISBN：　978-4532111908

人事管理入門〈第2版〉
著者：　今野浩一郎・佐藤博樹
出版社：日経新聞出版社
出版年：2009年　　ISBN：　978-4532133795

新版　人材マネジメント論
著者：　高橋俊介
出版社：東洋経済新報社
出版年：2006年　　ISBN：　978-4492532119

a50102d710

21世紀のキャリア論
著者:　高橋俊介
出版社: 東洋経済新報社
出版年: 2012年　ISBN:　978-4492533116

キャリアショック
著者:　高橋俊介
出版社: ソフトバンク文庫
出版年: 2006年　ISBN:　978-4797336214

自分らしいキャリアのつくり方
著者:　高橋俊介
出版社: PHP新書
出版年: 2009年　ISBN:　978-4569709017

ヒューマン・リソース・マネジメント(ビジネス基礎シリーズ)
著者:　高橋俊介
出版社: ダイヤモンド社
出版年: 2004年　ISBN:　978-4478440513

働くひとのためのキャリア・デザイン
著者:　金井壽宏
出版社: PHP新書
出版年: 2002年　ISBN:　978-4569619415

成績評価

試験 （ 70 ）
小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 15 ）
授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 15 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**マーケティング論 I**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　今井 まりな	

テーマ

マーケティング論の視点を身につける。

授業の到達目標

マーケティング論に関する基礎概念を理解する。企業のマーケティング活動の実例を知り、マーケティング論の視点から読み解く力を養う。

授業の概要

マーケティング論の基礎概念について、企業の実例を交えながら解説する。また、履修者にもマーケティングの知識を運用する機会を設ける。具体的には履修者に最低1回のレポート課題の提出を義務付ける。詳細は初回のガイダンスで連絡するので、履修予定者は必ず出席すること。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　マーケティングとは何か
第3回　マーケティング・マネジメントの基本枠組み
第4回　製品・サービスのデザイン①（製品・サービスの捉え方と分類）
第5回　製品・サービスのデザイン②（新製品開発プロセス）
第6回　価格のデザイン
第7回　流通チャネルのデザイン
第8回　プロモーションのデザイン
第9回　マーケティング資源の配分
第10回　事業の定義
第11回　競争構造の理解
第12回　製品ライフサイクル
第13回　市場地位別戦略
第14回　国際マーケティング
第15回　総括

履修上の注意点

『日本経済新聞』や『日経ビジネス』などの記事に目を通し、企業の具体的なマーケティング活動を学習する。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験 （ 70 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**マーケティング論Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　150
履修条件	クラス指定
担 当 者　今井 まりな	

テーマ

授業の到達目標

マーケティング論における重要なトピック（各論）について理解する。

授業の概要

マーケティングに関する現象について実際のケースを取り上げながら、理論的に把握するための重要な概念を学んでいく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　ブランド論（1）（ブランド価値のデザイン）
第3回　ブランド論（2）（ブランド要素戦略）
第4回　ブランド論（3）（ブランドと経験価値）
第5回　消費者行動論（1）（消費者行動とマーケティング，購買決定プロセス）
第6回　消費者行動論（2）（市場データ分析）
第7回　顧客満足度（1）（顧客価値と顧客満足）
第8回　顧客満足度（2）（顧客リレーションシップ育成）
第9回　価格（1）（価格設定）
第10回　価格（2）（価格適合）
第11回　マーケティング・チャネル論（1）（チャネル設計と管理）
第12回　マーケティング・チャネル論（2）（電子商取引とマーケティング）
第13回　ロジスティクス（1）（マーケット・ロジスティクスの設計）
第14回　ロジスティクス（2）（サプライチェーン・マネジメント）
第15回　総括

履修上の注意点

『日本経済新聞』や『日経ビジネス』などの記事に目を通し、企業の具体的なマーケティング活動を学習する。

教科書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験 （ 70 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）	

Syllabus

科 目 名　**企業と社会的責任 <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**産業論Ⅰ（コンテンツ産業）〈Z〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉田　秀和	

テーマ

コンテンツ産業と呼ばれる産業部門が成長・成熟していく過程を1960年代以降の産業構造の変化を踏まえつつ読み解く

授業の到達目標

産業構造の在り方は、わたしたちの日常の生活環境に深く結びついています。言い換えると、年齢・性別・職業などによる生活時間の使い方や生活の質および量がその社会の産業構造の影響を大いに受けているということです。そこで、この授業では、産業構造と私たちの生活構造の変化、すなわち生活インフラの変遷に注目しつつ、現時点までの各種コンテンツの現状と課題を読み解きつつ、同時にその手法を修得してもらおうと思います。

授業の概要

この授業では、高度経済成長期から今日までの日本の産業構造の変遷を提示しながら、大衆社会の形成と成熟した産業社会における、その時代を代表する放送番組、映画、音楽、書籍などのコンテンツを紹介していきます。そして、当時のコンテンツが人々の日常生活を通じてどのように大衆意識として浸透していったかを読み解いていきます。さらに、これらを踏まえて、高度情報社会を背景としてグローバル化していく今日の社会に潜む諸課題をコンテンツ産業の現状と課題を通じてみなさんと考えていきたいと思います。授業では、その日の授業内容、質疑などを簡潔に記してもらうリアクション・ペーパーを毎回提出してもらい、質疑に関する回答は次回の授業冒頭に行うとう形態をとります。

準備学習（予習・復習）

授業後は、講義で紹介した内容のコンテンツに接してください。

内　　容

第1回　イントロダクション-産業構造と生活構造-
第2回　フォードシステムの導入と生活構造の変化
第3回　メディアの発達と大衆社会の進展
第4回　労使協調主義経済と世界経済の趨勢
第5回　産業社会の成熟とコンテンツ産業の変容
第6回　消費社会の到来と新規コンテンツ産業の萌芽
第7回　バブル経済と消費社会（不夜城社会の経験）
第8回　コミュニケーション媒体の多様化と産業構造の変貌
第9回　もう一つの社会変化ーモノ社会からイメージの社会へー
第10回　グローバル社会における産業と生活
第11回　クールジャパン戦略とコンテンツ産業
第12回　コンテンツ産業の定義と分類
第13回　映像系コンテンツ産業と音声系コンテンツ産業の現状と課題
第14回　ゲーム系コンテンツ産業とテキスト系コンテンツ産業の現状と課題
第15回　産業構造と生活構造の今後の課題

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 60 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 15 ）
試験60については、レポート課題とします。

2016 Syllabus

科 目 名　**応用簿記演習Ⅰ〈Z〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

「貸借平均の原理」および「簿記一巡の手続き」の理解をとおして複式簿記の科学性を理解する。

授業の到達目標

会計データの認識・測定・報告のプロセスを理解する。

授業の概要

講義をベースに，練習問題を随時，解きながら進める。小テストを実施したり，宿題を提出してもらったりする場合もある。

準備学習（予習・復習）

同じ問題を何度も解いてみること。復習を必ず行って下さい。

内　　容

第1回　ガイダンス：企業経営と簿記会計の役割
第2回　複式簿記の意義と目的
第3回　財務諸表の仕組み：貸借対照表と損益計算書との関係
第4回　取引の分類と集計の方法：仕訳と勘定記入
第5回　商品取引1
第6回　商品取引2
第7回　現金取引1
第8回　現金取引2
第9回　手形取引1
第10回　手形取引2
第11回　種々の債権債務取引1
第12回　種々の債権債務取引2
第13回　有価証券
第14回　有形固定資産
第15回　講義全体のまとめ

履修上の注意点

私語は，厳に慎んで下さい。他の受講生に，この上もなく迷惑なことです。

教科書

スラスラできる日商簿記3級テキスト
著者：
出版社：大原出版
出版年：　　ISBN：

参考書

簿記Ⅰ
著者：　武田隆二
出版社：税務経理協会
出版年：　　ISBN：

簿記Ⅱ
著者：　武田隆二
出版社：税務経理協会
出版年：　　ISBN：

簿記Ⅲ
著者：　武田隆二
出版社：税務経理協会
出版年：　　ISBN：

成績評価

a50102e210

試験 （ 40 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**応用簿記演習Ⅱ〈Z〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件　「応用簿記演習Ⅰ」を履修済みであること。	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

「貸借平均の原理」および「簿記一巡の手続き」の理解をとおして複式簿記の科学性を理解する。

授業の到達目標

会計データの認識・測定・伝達のプロセスを理解する。

授業の概要

講義をベースに，練習問題を随時，解きながら進める。小テストを実施したり，宿題を提出してもらったりする場合もある。

準備学習（予習・復習）

同じ問題を何度も解いてみること。

内　　容

第1回　合計残高試算表
第2回　帳簿組織1：仕訳帳・総勘定元帳
第3回　帳簿組織2：現金出納帳・当座預金出納帳
第4回　帳簿組織3：小口現金出納帳
第5回　帳簿組織4：手形記入帳
第6回　帳簿組織5：仕入帳・売上帳・売掛金元帳・買掛金元帳
第7回　帳簿組織6：商品有高帳
第8回　伝票会計
第9回　決算手続1：売上原価の計算
第10回　決算手続2：貸倒引当金の設定
第11回　決算手続3：減価償却
第12回　決算手続4：費用収益の繰延・見越し
第13回　決算手続5：その他の決算修正仕訳・英米式決算法
第14回　決算報告：財務諸表の作成
第15回　講義全体のまとめ

履修上の注意点

私語は厳に慎んで下さい。他の受講生にとって，この上もなく迷惑なことです。

教科書

スラスラできる日商簿記3級テキスト
著者：
出版社：スラスラできる日商簿記3級テキスト
出版年：　　ISBN：

参考書

簿記Ⅰ
著者：　武田隆二
出版社：税務経理協会
出版年：　　ISBN：

簿記Ⅱ
著者：　武田隆二
出版社：税務経理協会
出版年：　　ISBN：

簿記Ⅲ
著者：　武田隆二
出版社：税務経理協会
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験 （ 40 ）
小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 10 ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**ファイナンス論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　隆則	

テーマ

前半は、証券市場で資金運用する投資家の立場に立って、証券市場の機能、分散投資、証券価格の決定理論などの基礎知識を学びます。後半は、証券市場で資金調達する企業の立場に立って、企業の金融行動について学びます。

授業の到達目標

（1）リスクとリターンの関係や分散投資の意味を、ファイナンスの理論に依拠しながら説明できること（2）企業の投資や資金調達の意思決定、発展段階に応じた金融行動について、具体的に説明できること

授業の概要

株式市場をはじめ様々な証券市場の機能を学ぶとともに、証券投資に必要なリスク・リターンの関係や価格決定の理論、分散投資の考え方を身に付けます。また、企業がどのように資金調達方法を選択し、投資を意思決定するかといった金融行動の基本を学んだ後、企業の統治に関する諸問題や企業の各発展段階における金融行動についても触れます。

準備学習（予習・復習）

新聞の株式欄を見て、わかる範囲でその意味を調べてみてください。

内　　容

第1回　証券市場の概要
第2回　投資におけるリスクの意味
第3回　分散投資の必要性と限界
第4回　株式の評価（1）割引配当モデル
第5回　株式の評価（2）資本資産価格モデル（CAPM）
第6回　証券市場の効率性
第7回　前半のまとめ
第8回　企業はどう資金調達するのか―最適資本構成
第9回　企業はどう投資の意思決定をするのか―資本コストと投資収益率
第10回　企業統治（コーポレート・ガバナンス）（1）株主主権とステークホルダー
第11回　企業統治（コーポレート・ガバナンス）（2）経営者の規律付け
第12回　企業の発展段階と資金調達行動（1）中小企業金融の特徴、ベンチャー企業と株式公開
第13回　企業の発展段階と資金調達行動（2）M＆Aと企業再編
第14回　企業の発展段階と資金調達行動（3）倒産処理と企業再生
第15回　全体のまとめ

履修上の注意点

教科書

使用しません

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ 80% ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 20% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**企業と法 <Z>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　山田 廣己	

テーマ

企業とその法規制

授業の到達目標

企業（個人企業や会社企業）の組織や活動に関する基本的法律知識を習得する。

授業の概要

個人企業や会社企業（株式会社・合同会社・合資会社・合名会社）の組織や活動とその法規制を概観する。

準備学習（予習・復習）

事前に講義レジュメを配布します。配布された講義レジュメに目を通してくること。

内　容

第1回　経済活動と企業：　企業の種類、意義、企業活動一般について説明する。
第2回　資本主義・市場経済・貨幣（金融）制度：　企業をとりまく資本主義、市場経済原理について、また企業活動に不可欠な金融制度について概説する。
第3回　企業をめぐる法規制：　企業の組織や活動に関するさまざまな法律、法規定がある。たとえば、商法、会社法、民法、独占禁止法や金融商品取引法等の法律などに触れる。
第4回　企業の組織：　個人企業、組合、合名会社、合資会社、合同会社や株式会社の組織を説明し、さらに国内で活動する外国会社にも触れる。
第5回　企業の経営者・従業員：　株式会社を経営する取締役や会社の従業員の法的地位や権利義務を説明する。
第6回　企業グループ：　会社はグループを作って企業活動を展開する。その法規制を概観する。多国籍企業、合弁（ごうべん）企業についても触れる。
第7回　企業の資金：　企業（とくに会社）はその活動を展開するために資金を必要とする。その資金調達方法について説明する。金融市場の国際化についても触れる。
第8回　投資と利殖（りしょく）：　株式会社が発行する「株式」や「社債」は人々の投資・利殖の対象である。証券や金融商品の取引、商品先物取引、為替取引など活発に行われる。お金は世界を駆け巡っている。その実態を概観し、法規制の概要を見る。
第9回　企業の失敗：企業の事業活動が失敗に終わったとき（倒産）、どのように処理するか説明する。
第10回　企業の責任：企業の社会的責任、会社の法的責任、経営者が負う責任など、企業の組織活動などに関して発生するさまざまな責任を概説する。
第11回　競争と独占(1)：独占禁止法の話をする。
第12回　競争と独占(2)：独占禁止法の話をする。
第13回　企業の決済手段(1)：手形（約束手形・為替手形）や小切手など金銭の支払、つまり企業の決済手段に決済手段について説明する。
第14回　企業の決済手段(2)：手形（約束手形・為替手形）や小切手など金銭の支払い、つまり企業の決済手段について説明する。
第15回　企業の決済手段(3)：手形（約束手形・為替手形）や小切手など金銭の支払い。
第16回　理解確認のための小テスト

履修上の注意点

新聞報道やニュース報道に接し、多くの学生の就職先である企業（会社）の組織活動に興味を持つよう心がけて下さい。

教科書

特になし（講義レジュメ配布）
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

携帯用法令集（用意すれば、講義の理解に役立ちます）
著者：
出版社：　複数の出版社があります
出版年：　毎年出版　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（　）

a50102e510

参加度 （ 20 ）

授業に出席して講義を聞くことを前提として、講義期間の中ごろにレポート提出を求める。最終講義日に小テストを実施する（必ず受験してください）。以上を総合的に判断して評価する。毎回積極的に講義に参加し、集中して話を聞き、積極的に質問してほしい。

2016 Syllabus

科 目 名　**企業と産業の経済学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　隆則	

テーマ

企業の内部組織や産業の制度について経済学的な分析を行うこと

授業の到達目標

内部組織の経済学、産業組織論の基礎を学び、企業や産業を経済学的な視点から分析することができる力を身につける。

授業の概要

経済学を学び始めた多くの学生が、経済学の教科書では企業や産業の扱いが余りにも小さいことに疑問を感じるはずである。現実の社会では生産者は複雑な組織である場合が普通であり、また、複数の組織が多様な関係を形成しながら生産活動を行っているということは常識であるのに対し、初歩的なミクロ経済学の教科書などでは、企業はそれ自体が意志決定する能力を持つ点のようにとらえられ、また企業と企業の間にはほとんど何の関係もないかのように想定されているように見えるからである。こうした現実の企業活動、あるいは産業活動を分析するのが、内部組織の経済学や産業組織論である。この2つの経済学の分野をテーマとするこの授業では、取引費用やゲーム理論の基本的な考え方を基礎にして、そもそもなぜ企業は存在するのか、企業の中で権限はどう配分されるべきか、寡占市場（生産者がごく少数の場合の市場）で企業はどのような行動を行うか、どのような場合に企業は垂直統合（たとえば部品メーカーと組み立て企業の統合）が行われるのかといったトピックを学習しながら、内部組織の経済学や産業組織論の基礎を修得する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　イントロダクション：経済学は企業や産業をどのように見ているか？いくつかの比喩
第2回　取引費用の概念とコースの定理
第3回　なぜ企業は存在するのか
第4回　隠れた情報とモラル・ハザード
第5回　エイジェンシー理論（依頼人＝代理人関係の理論）
第6回　所有と経営の分離をどのように理解するか
第7回　中間のまとめ
第8回　企業の費用構造と独占企業の行動
第9回　潜在的参入者の役割
第10回　価格の差別化と製品の差別化
第11回　寡占市場における企業行動とゲーム理論の基礎
第12回　川上産業（部品メーカー）と川下産業（組み立てメーカー）の関係
第13回　垂直的統合と権限の配分
第14回　ネットワーク外部性（OSと市場支配力）
第15回　まとめ

履修上の注意点

授業内で参考文献を提示するので積極的に学習すること

教科書

特になし（授業中に配布するレジュメを使って授業を進める。）
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト　（ 80 ）
授業中課題　（　）	授業中発表等　（　）
参加度　（ 20 ）	

Syllabus

科 目 名　**ビジネスコミュニケーション演習 <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**広告とマスメディア**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　今井 まりな.加賀田 茂敏

テーマ

メディア制作の現場ー広告・新聞・雑誌・テレビ・インターネットー

授業の到達目標

各種メディア制作の考え方やそのプロセスを知ることを通じて、メディアの現状とその可能性について理解する。さらに、メディアと履修者との関わり方について考え、メディアを活用する能力を養う。

授業の概要

講師の都合により下記の講義の順番が入れ替わったり、内容が変更になる場合がある。

準備学習（予習・復習）

メディア関係の文献に目を通しておくこと。

内　容

第1回　本講義の趣旨　今井まりな
第2回　広告とはー＜広告産業論＞㈱大広関西
第3回　広告マーケティング㈱大広
第4回　クリエイティブ㈱大広
第5回　メディア環境論Ⅰ（メディア環境変化と広告）㈱博報堂DYメディアパートナーズ
第6回　メディア環境論Ⅱ（デジタルメディアの伸展）㈱博報堂DYメディアパートナーズ
第7回　テレビ業界　KBS京都　アナウンス部
第8回　新聞業界　朝日新聞社
第9回　出版業界
第10回　テレビ番組制作の現場
第11回　ラジオ業界
第12回　映画ビジネス
第13回　エンターテイメントビジネス
第14回　マスメディアの学説と広告効果　今井まりな
第15回　総括　今井まりな

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 60 ）
参加度は、授業への出席および小レポートによる。授業中課題は、期末レポートによる。

2016 Syllabus

科 目 名　**医療政策論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

現代日本社会における医療・社会保障制度の役割

授業の到達目標

貧困・格差拡大とグローバル化に留意しつつ、日本の医療制度と社会保障に関する基本的な知識を習得する

授業の概要

医療制度と社会保障の役割と改革課題について、講義形式で授業を行う。

準備学習（予習・復習）

受講に際して前提となる知識は不要であるが、授業中の配布プリントや確認テストを活用して知識の習得に努めること。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　社会保障総論（貧困・格差と社会保障の機能）
第3回　社会保障総論（社会保障の財政と国際比較）
第4回　医療制度と改革課題（医療保険制度）
第5回　医療制度と改革課題（医療提供体制）
第6回　介護保険制度の概要と改革課題
第7回　医療・介護総合改革
第8回　中間まとめと理解度の確認
第9回　社会保障制度各論（公的年金制度とその改革）
第10回　社会保障制度各論（雇用保険と労災保険）
第11回　社会保障制度各論（社会福祉と生活保護）
第12回　グローバル時代と医療政策（米国の医療保険制度改革）
第13回　グローバル時代の医療政策（自由貿易協定と医療制度）
第14回　グローバル時代の医療政策（途上国と国際保健医療）
第15回　講義全体のまとめと理解度の確認

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、授業中に紹介した参考書などを積極的に読むとともに、新聞や雑誌の医療記事に目を通す習慣をつけること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

健康と医療の公平に挑む
著者:　松田亮三編
出版社:　勁草書房
出版年:　2009　　ISBN:　978-4326700615

はじめての社会保障12版
著者:　椋野美智子、田中耕太郎
出版社:　有斐閣アルマ
出版年:　2014　　ISBN:　9784641220522

安倍政権の医療・介護戦略を問う
著者:　芝田英昭編
出版社:　あけび書房
出版年:　2014　　ISBN:　9784871541282

a50102e910

地域包括ケアと地域医療連携
著者:　二木立
出版社: 勁草書房
出版年: 2015　ISBN:　9784326700875

医療政策を問いなおす
著者:　島崎謙治
出版社: ちくま新書
出版年: 2015　ISBN:　9784480068637

医療白書2015－16年
著者:　ヘルスケア総合研究所
出版社: 日本医療企画
出版年: 2015　ISBN:　9784864393829

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ 50 ）
授業中課題 （ 25 ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ 25 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**医療経済論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

医療経済学入門

授業の到達目標

医療経済学の基本的な考え方を学習する。医療制度や経済学に関する知識を必ずしも前提とはしないが、「医療経営入門」「医療政策論」なども併せて履修することが望ましい。

授業の概要

医療経済思想の展開、医療費とその増加要因分析、医療の経済評価手法に関して、主として講義形式で授業を行う。また、医療経済に関する理解を深めるため、適宜、映像教材を活用する。

準備学習（予習・復習）

受講に際して前提となる知識は不要であるが、授業中の配布プリントや確認テストを活用して知識の習得に努めること。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　医療経済思想の展開（健康の経済的価値）
第3回　医療経済思想の展開（公衆衛生と保健投資論）
第4回　医療経済思想の展開（社会保険の制度設計）
第5回　医療経済思想の展開（CCMCと医療経済調査）
第6回　医療費とその増加要因（医療費の構造と推移、総医療支出）
第7回　医療費とその増加要因（医療の価格弾力性と所得弾力性）
第8回　医療費とその増加要因（供給者誘発需要）
第9回　中間まとめと理解度の確認
第10回　映像教材を用いた学習
第11回　映像教材を用いた学習
第12回　医療の経済評価の基礎（余剰分析、社会的厚生、衡平）
第13回　医療の経済評価の基礎（費用効果・費用効用分析とその事例）
第14回　医療の経済評価の基礎（費用便益とその事例、経済評価の適用限界）
第15回　講義全体のまとめと理解度の確認

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、授業中に紹介した参考書などを積極的に読むとともに、新聞や雑誌の医療記事に目を通す習慣をつけること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

健康と医療の公平に挑む
著者:　松田亮三
出版社:　勁草書房
出版年:　2009　　ISBN:　9784326700615

国際的視点から学ぶ医療経済学入門
著者:　マックペイク他
出版社:　東京大学出版会
出版年:　2004　　ISBN:　9784130421195

医療経済学の基礎理論と論点
著者:　西村周三・田中滋・遠藤久夫編
出版社:　勁草書房
出版年:　2006　　ISBN:　9784326748310

a50102f050

経済政策で人は死ぬか

著者:　スタックラー＆バス

出版社: 草思社

出版年: 2014　　ISBN:　9784794220868

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ 50 ）

授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 25 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**非営利組織論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

授業の到達目標

非営利組織の役割を理解する。

授業の概要

現代社会における非営利セクター、非営利組織の役割に関する基本的な知識を習得し、今後の経済社会のあり方を構想する。

準備学習（予習・復習）

受講に際して予備知識は不要であるが、授業中に配布されるプリントや資料をしっかりと復習し、確認テストも活用すること。また、非営利組織に関する新聞・雑誌記事に目を通す習慣をつけること。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　非営利組織とは
第3回　非営利組織の理論
第4回　政府、企業、非営利組織
第5回　英米の非営利セクターと法制度
第6回　日本の非営利セクターと法制度
第7回　日本の非営利セクターの活動領域（1）（教育分野）
第8回　日本の非営利セクターの活動領域（2）（医療分野）
第9回　日本の非営利セクターの活動領域（3）（介護分野）
第10回　日本の非営利セクターの活動領域（4）（グローバルヘルス）
第11回　日本の非営利セクターの活動領域（5）（国際機関とNGO）
第12回　非営利組織の人的資源管理
第13回　非営利組織の資金管理
第14回　非営利組織と経済社会の変革
第15回　まとめ

履修上の注意点

病気やけがなどにより遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

NPO入門
著者:　山内直人
出版社:　日経文庫
出版年:　1995　　ISBN:　9784532107840

協同組合は「未来の創造者」になれるか
著者:　中川雄一郎・JC総研編
出版社:　家の光協会
出版年:　2014　　ISBN:　9784259521806

イタリアの社会的協同組合
著者:　小磯明
出版社:　同時代社
出版年:　2015　　ISBN:　9784886837875

成績評価

a50102f110

試験 （ ）
小テスト（ 50 ）
授業中課題 （ 25 ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ 25 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**産業論Ⅱ（ヘルスケア産業）〈Z〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

ヘルスケア産業論

授業の到達目標

先進各国では、人口高齢化に対応し、また内需主導型の経済成長並びに雇用の受け皿として、広い意味でのヘルスケア産業への注目が高まっている。本講義では、こうしたヘルスケア産業をめぐる制度と現状、直面する課題、またヘルスケア産業と経済社会とのかかわりについて、基本的な知識を獲得し、受講生の進路選択に資することを目標とする。

授業の概要

ヘルスケア産業の全体像と構造、各産業部門と関連産業の現状等について、主として講義形式で授業を行う。

準備学習（予習・復習）

受講に際して前提となる知識は不要であるが、授業中の配布プリントや確認テストを活用して知識の習得に努めること。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　ヘルスケア産業総論（産業の全体像と現状）
第3回　ヘルスケア産業総論（ヘルスケアの労働市場）
第4回　医療・介護制度とその改革①
第5回　医療・介護制度とその改革②
第6回　医療・介護経営の動向①
第7回　医療・介護経営の動向②
第8回　中間まとめと理解度の確認
第9回　医療関連産業①（医薬品製造・流通業）
第10回　医療関連産業②（医薬品製造・流通業）
第11回　医療関連産業③（医療機器製造・流通業）
第12回　医療関連サービス業①
第13回　医療関連サービス業②
第14回　ヘルスケア産業の将来
第15回　講義全体のまとめと理解度の確認

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、授業中に紹介した参考書などを積極的に読むとともに、新聞や雑誌の医療記事に目を通す習慣をつけること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

よくわかる医療業界最新第2版
著者:　川越満、布施泰男
出版社:　日本実業出版社
出版年:　2010　　ISBN:　9784534046956

安倍政権の医療・介護戦略を問う
著者:　芝田英昭編
出版社:　あけび書房
出版年:　2014　　ISBN:　9784871541282

地域包括ケアと地域医療連携
著者:　二木立
出版社:　勁草書房
出版年:　2015　　ISBN:　9784326700875

a50102f250

医療経営白書2015－16年版

著者:　ヘルスケア総合研究所

出版社: 日本医療企画

出版年: 2015　　ISBN:　9784864393836

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ 50 ）

授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 25 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**サプライ・チェーン・マネジメント <Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　平尾 毅	

テーマ

ロジスティクスの基礎理論と実践を学習する。

授業の到達目標

生産拠点のグローバル化に伴い、サプライチェーンの再構築が注目される中、ロジスティクスの基礎を理解してもらうことが狙いである。現場においてロジスティクスを広く俯瞰する能力と論理的に分析・評価する能力の獲得が期待される。

授業の概要

サプライチェーン・マネジメントとロジスティクスの基礎を理解した上で、表計算ソフトウェアを用いて実践的な学習を行う。

準備学習（予習・復習）

事前配布される資料の予習をして授業に臨んでください（1時間程度）。また、復習として配布資料を自筆でノートにまとめてください（1時間程度）。

内　容

第1回　経営環境の変化とサプライチェーン・マネジメント（サプライチェーン・マネジメントの必要性を学ぶ）
第2回　サプライチェーン・マネジメントとロジスティクスの概要（ロジスティクスと比較しながら、サプライチェーン・マネジメントの理解を深める）
第3回　サプライチェーン・マネジメントの事例（サプライチェーン・マネジメントの成功事例から、そのエッセンスを学ぶ）
第4回　サプライチェーンのオペレーション①（サプライチェーン・マネジメントの実現を困難にしている要因を学ぶ）
第5回　サプライチェーンのオペレーション②（典型的なサプライチェーン・マネジメントの戦略を学ぶ）
第6回　需給管理（需要と供給を一致させるために考慮すべき事項を学ぶ）
第7回　在庫管理（在庫管理の目的と方法について学ぶ）
第8回　生産管理（生産計画と工程管理の概要を学ぶ）
第9回　調達管理（調達管理の課題とその解決策について学ぶ）
第10回　グローバル・サプライチェーン・マネジメント（グローバル・サプライチェーンの仕組みを構築するポイントを学ぶ）
第11回　PC演習：需要予測①（変数減少法）
第12回　PC演習：需要予測②（数量化1類）
第13回　PC演習：在庫管理（経済的発注量）
第14回　PC演習：生産管理（線形計画法）
第15回　まとめ（全体のまとめ）

履修上の注意点

配布資料に記載の文献一覧を参考に予習してください。第11回授業からPCを使った演習を行います。

教科書

使用しない。毎回の授業で配布する資料をテキストの代用とする。

著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

サプライチェーン経営入門
著者：　藤野直明
出版社：　日経文庫
出版年：　1999年　ISBN：　978-4532107925

サプライチェーン・マネジメントとロジスティクス管理入門
著者：　藤川裕晃
出版社：　日刊工業新聞社
出版年：　2008年　ISBN：　978-4526061325

改訂版サプライチェーンマネジメントの理論と実践
著者：　EYアドバイザリー
出版社：　幻冬舎
出版年：　2014年　ISBN：　978-4344971332

a50102f350

戦略的サプライチェーンマネジメント:競争優位を生み出す5つの原則

著者:　S.コーエン・J.ルーセル

出版社:　英治出版

出版年:　2015年　　ISBN:　978-4862761996

成績評価

試験　（ 70 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 0 ）

参加度　（ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**マーケティングリサーチ <a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　今井 まりな	

テーマ

マーケティング・リサーチを実践する。

授業の到達目標

マーケティング・リサーチの意義やそのプロセスを理解する。よく用いられる分析手法や解釈の仕方などに関する基礎的なスキルを習得する。

授業の概要

まず、マーケティング・リサーチの意義と概要、および各プロセスについて説明する。その上で、データを分析するために必要な手法について説明し、実際に履修者に分析を行ってもらう。

準備学習（予習・復習）

統計学に関する基礎的な文献に目を通しておくと、授業の内容がより理解しやすくなる。

内　容

第1回　マーケッティング・リサーチの概要
第2回　マーケティング・リサーチのプロセス
第3回　SPSS入門①
第4回　SPSS入門②
第5回　相関分析の考え方
第6回　相関分析の実施
第7回　因子分析の考え方
第8回　因子分析の実施
第9回　回帰分析の考え方
第10回　回帰分析の実施
第11回　分散分析の考え方
第12回　分散分析の実施
第13回　調査データを用いた分析①
第14回　調査データを用いた分析②
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

1からのマーケティング分析
著者:　恩蔵直人・富田健司
出版社:　碩学舎
出版年:　2011　　ISBN:　978-4502683602

参考書

社会調査法入門
著者:　盛山和夫
出版社:　有斐閣
出版年:　2004　　ISBN:　978-4641183056

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 60 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）	

Syllabus

科 目 名　**マーケティングリサーチ <b>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**会計学 <Z>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　「会計学入門」を履修済みであること。　　クラス指定

担 当 者　河野　充央

テーマ

会計規範と会計機構

授業の到達目標

制度会計の意義と本質を理解する

授業の概要

テキスト以外に，経済記事を活用しながら，常にグローバルビジネスの最前線に目を向けながら講義を進める。スケジュール等において，可能であれば，経営者をゲストスピーカーに招く場合もある

準備学習（予習・復習）

復習を必ず行ってから，次の時間の講義へ臨んでもらいたい。

内　容

第1回　ガイダンス会計機構とマネジメントの仕組み
第2回　財務会計の意義
第3回　財務会計と管理会計
第4回　会計と法規
第5回　損益計算論1
第6回　損益計算論2
第7回　損益計算論3
第8回　貸借対照表論1
第9回　貸借対照表論2
第10回　貸借対照表論3
第11回　財務諸表一般論1
第12回　財務諸表一般論2
第13回　財務会計から管理会計へ1
第14回　財務会計から管理会計へ2
第15回　講義全体のまとめ

履修上の注意点

私語は厳に慎んで下さい。他の受講者にとって，これ以上の迷惑はありません。

教科書

参考書

グロービズMBAアカウンティング
著者：　グロービズ経営大学院
出版社：ダイヤモンド社
出版年：　　ISBN：

最新財務諸表論
著者：　武田隆二
出版社：中央経済社
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**文化経済論 <Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　金武 創	

テーマ

・文化と経済との関係から、公共政策の理解を深める・生活の豊かさと個人の自立について考える

授業の到達目標

・文化的な活動が経済によって支えられていることを理解する・現在の経済活動が文化的な活動無しに成立し得ないことを理解する・経済学的な視点からものを見ることができるようになる

授業の概要

・文化と経済の関係を理解し、文化経済学の基礎を身につける

準備学習（予習・復習）

・新聞、経済週刊誌を読むこと。特に日経流通新聞（キャリアセンターに所蔵）は就職活動にも役立ちます。

内　容

第1回　イントロダクション：なぜ文化経済学を勉強するのか？
第2回　文化と経済との関係：経済学とはどんな学問か？
第3回　芸術と経済のジレンマ：実演芸術は商売にならない。
第4回　「コスト病」の考え方：実演芸術と共通の性質を持つ産業をさがしてみよう。
第5回　芸術作品の価格とオークション：芸術作品の値段はどのように決まるのか？
第6回　芸術作品の価格と価値：「高い」芸術作品は「よい」芸術作品か？
第7回　資産としての芸術作品：将来値上がりする芸術作品とは？
第8回　芸術文化の消費行動：蓼食う虫も好き好き？
第9回　スローライフの経済学：時間をフルに活用するということ。
第10回　創造的生産者としての芸術家：金儲けだけが仕事ではない。
第11回　文化と非営利組織の役割：文化施設は誰が運営すべきか
第12回　文化と情報の経済学：情報は誰のものか？
第13回　著作権の経済学：追求権は芸術家の味方になるか？
第14回　芸術文化の公的支援：経済的支援と表現の自由のジレンマ。
第15回　アームズ・レングスの原則：芸術支援政策とは？＊なお、学外講師を招いた特別授業を実地することもある

履修上の注意点

日常評価に結びつく授業中課題が毎回あります。指定された方法／手続きで課題を提出しないと出席、日常点評価は0点です。

教科書

文化経済論
著者：　金武創・阪本崇
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2005　　ISBN：

参考書

必要に応じて紹介する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**救急救命特別実習 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期集中	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　夏目　美樹.西本　泰久.福岡　範恭	

テーマ

水難救助実習（海）

授業の到達目標

1回生時のプール実習の特殊な救急活動に対する理解を深めた知識、技術を自然の中の水難救助法を学ぶ。実習を通して基本的な泳法、海に対する安全法と海の危険・生物、潮の流れ等を理解し資器材を使用しての救助法、応急手当、水難事故の実際とその対策を習得する。

授業の概要

水難事故に遭遇することを想定して、救急救命士として出来る基本的な対応から高度なものまでを実践する。

準備学習（予習・復習）

1回生時のプール実習の基本的手技・知識を実際の自然の海で実践するため、水難救助マニュアルの熟読復習が必須

内　　容

第1回　移動、オリエンテーション・講義（夜）
第2回　開校式、浜清掃、潮汐、バディシステム、シグナル、泳力確認、セルフレスキュー、PFD実習、搬送法、講義（夜）
第3回　潮汐、着衣泳、着衣泳のセルフレスキュー、シュノーケリング、シーカヤック、講義（夜）
第4回　潮汐、遠泳、チューブレスキュー、ボードレスキュー、スパイナルケア、歴史を学ぶ、講義（夜）
第5回　潮汐、総合訓練、浜清掃、閉講式、移動

履修上の注意点

学外実習となるため時刻の厳守、社会人としての行動を期待する。体調管理は十分にしておくこと。担当教員の指示に従うことを原則とする。

教科書

水難救助マニュアル
著者:　国士舘大学ウエルネスリサーチセンター
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 50 ）
実習中の参加度を重視する

2016 Syllabus

科 目 名　**救急救命特別実習 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　秋期集中	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　関根　和弘.深澤　雄二	

テーマ

海外先進地の救急体制の視察

授業の到達目標

海外先進地の救急体制を学ぶことで、より高度な実践力を身につけ、救急救命士としての視野を広げ、知識技能の向上を図ることを目的とします。

授業の概要

海外実習

準備学習（予習・復習）

事前学習では、日本の消防組織の仕組と活動を理解し、相互の共通点や相違点を明らかにできるようにしておくこと。

内　容

第1回　事前学習及びガイダンス
第2回　海外視察
第3回　海外視察
第4回　海外視察
第5回　海外視察
第6回　海外視察
第7回　海外視察
第8回　事後報告会

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 60 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**救急救命特別実習 <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期集中	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　喜熨斗　智也	

テーマ

水難救助実習（海）

授業の到達目標

1回生時のプール実習の特殊な救急活動に対する理解を深めた知識、技術を自然の中の水難救助法を学ぶ。実習を通して基本的な泳法、海に対する安全法と海の危険・生物、潮の流れ等を理解し資器材を使用しての救助法、応急手当、水難事故の実際とその対策を習得する。

授業の概要

水難事故に遭遇することを想定して、救急救命士として出来る基本的な対応から高度なものまでを実践する。

準備学習（予習・復習）

1回生時のプール実習の基本的手技・知識を実際の自然の海で実践するため、水難救助マニュアルの熟読復習が必須

内　容

第1回　移動、オリエンテーション・講義（夜）
第2回　開校式、浜清掃、潮汐、バディシステム、シグナル、泳力確認、セルフレスキュー、PFD実習、搬送法、講義（夜）
第3回　潮汐、着衣泳、着衣泳のセルフレスキュー、シュノーケリング、シーカヤック、講義（夜）
第4回　潮汐、遠泳、チューブレスキュー、ボードレスキュー、スパイナルケア、歴史を学ぶ、講義（夜）
第5回　潮汐、総合訓練、浜清掃、閉講式、移動

履修上の注意点

学外実習となるため時刻の厳守、社会人としての行動を期待する。体調管理は十分にしておくこと。担当教員の指示に従うことを原則とする。

教科書

水難救助マニュアル
著者:　国士舘大学ウエルネスリサーチセンター
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 50 ）
実習中の参加度を重視する

2016 Syllabus

科 目 名　**現代企業論Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松石　泰彦	

テーマ

現代企業の形態・システム・社会的責任について、それらの特色や課題をケーススタディを通じて学ぶ。

授業の到達目標

・企業や組織のマネジメントへの理解を通じて、社会人としての協働・コミュニケーション能力を養うこと。・近くその中に出て行くことになる日本の経済社会、企業や組織に対する見識を深めること。・歴史を単なる過去に対する知識ととらえず、現在の問題の源流ととらえ、未来を展望する大きな動きや構造の中でものごとを思考できるようになること。

授業の概要

現代企業はそれらを取り巻く環境・市場・産業社会との間で、常に相互に影響を与え合いながら展開してきました。この講義では、各産業において活躍する日本企業の生成・発展の過程を具体的な経営実践事例を見ながら学び、それらを通して企業が外部環境にどう対応し、どう働きかけていくのかを考えます。

準備学習（予習・復習）

受講者数にもよりますが、学生にも作業や発言をしてもらう形を考えています。

内　　容

第1回　ガイダンス　この講義の対象領域と進め方
第2回　日本の企業社会をめぐる論点
第3回　近代企業の成立　渋沢栄一を中心に
第4回　在来産業の革新　グンゼと東レを中心に
第5回　大企業時代の到来と経営家族主義　武藤山治を中心に
第6回　大衆消費社会の企業　松下電器を中心に
第7回　町工場から国際企業へ　ソニーを中心に
第8回　日本型生産システム　トヨタシステムを中心に
第9回　企業集団とメインバンク　三井系・三菱系を中心に
第10回　流通革命の展開　スーパーとコンビニを中心に
第11回　新サービス産業の開拓　ヤマト運輸を中心に
第12回　ベンチャー企業からの躍進　京セラを中心に
第13回　リストラクチャリングと企業文化　アサヒビールを中心に
第14回　インターネットとモバイル　通信キャリアを中心に
第15回　総括　～日本企業の足跡と未来

履修上の注意点

教科書

特に指定しない。必要に応じて随時参考文献を紹介する。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

ケースに学ぶ経営学
著者:　東北大学経営学グループ
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2008　　ISBN:

企業家に学ぶ日本経営史史』他
著者:　宇田川勝他
出版社:　有斐閣ブックス
出版年:　2011　　ISBN:

ケース・スタディ日本企業事例集
著者:　ハーバード・ビジネス・スクール
出版社:　ダイヤモンド社
出版年:　2010　　ISBN:

a50102g110

トヨタ生産方式の原点

著者:　大野耐一

出版社:　日本能率協会マネジメントセンター

出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等（　）

参加度　（ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**現代企業と法Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　山田　廣己	

テーマ

企業の責任（社会的責任と法的責任）および企業と従業員との法律関係

授業の到達目標

企業の責任（社会的責任と法的責任）と企業と従業員と関係（雇用契約・労働契約関係）の基礎を習得する。

授業の概要

現在の企業は、グローバル化によって国境を越えて活動し、世界の企業間で競争を行われている。規模の大小を問わず活動する企業は法令遵守（(コンプライアンス(compliance))が求められる。企業の組織・活動に関する法令違反に対しては、様々な制裁（契約の無効・取消し、損害賠償、刑罰など）が用意されている。これは法的な意味の「企業の責任」である。この責任は、会社、役員、株主、会社の取引相手との間で問題とされる。一方で、倫理的な責任として「企業の社会的責任(corporate social responsibility=CSR)」が注目され、企業は消費者や地域社会に対してどのように対処すべきかが問われる。株式会社と取締役等との関係は「委任関係」であるが、会社と従業員との関係は、雇用契約労働契約関係である。この科目では、企業と法の観点から、株主だけでなく、労働者、消費者、地域社会など、企業がさまざまな利害関係者に対して負っている責任について学習する。

準備学習（予習・復習）

予習としては、事前に配布する講義レジュメに目を通してくることを求めます。講義に参加して、レジュメの内容・講義の中身を理解するように努めてください。質問があったら、講義後に教壇に聞きに来てください。

内　容

第1回　企業の法的責任（総論）
第2回　企業が負担する民事責任（契約上の責任；債務不履行責任、瑕疵担保責任など）
第3回　企業が負担する不法行為責任
第4回　経営者の会社に対する責任・第三者に対する責任
第5回　企業の刑事責任
第6回　企業の社会的責任（corporate social responsibility、略称：CSR）（総論）
第7回　社会に対する責任や貢献（社会的公正性の確保や環境対策の実施など）
第8回　経営戦略としての社会的責任
第9回　コストの削減・技術革新・企業イメージの向上を通じたブランド価値の向上
第10回　日本の社会的責任論と国際的な社会的責任論
第11回　企業と従業員との関係（総論）
第12回　雇用契約関係としての法規制
第13回　労働契約関係としての法規制
第14回　市民法と社会法・労働法の理念と体系
第15回　労働保護法・労働団体法
第16回　理解確認のための小テスト

履修上の注意点

講義時に講義概要を記したレジュメを配布します。必ず受け取って講義時には持参してください。

教科書

特になし（毎講義時に講義概要（レジュメ）を印刷配布）
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

特になし（講義時に参考資料など適宜、印刷配布）
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 50 ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （　）
参加度 （ 20 ）	

a50102g250

出席状況を勘案しつつ、提出レポート、小テストの結果から判定する。

2016 Syllabus

科 目 名　**医療管理論Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　橋本 昌浩.藤野 美幸

テーマ

授業の到達目標

Ⅰに引き続き、医療の仕組み・病院組織を理解し、診療情報管理士とは、何か、どのような役割をはたすことができるかを習得する。

授業の概要

Ⅰに引き続き、医療の仕組みと病院組織を理解し、診療情報管理士とは何か、どのようなことを果たすことができるかを習得する。この授業により、日本における病院の医療管理や経営管理等について、さらに理解を深める。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　安全管理
第2回　医療の質管理
第3回　医療の質管理
第4回　診療報酬制度1
第5回　診療報酬制度2
第6回　わが国の診断群分類1
第7回　わが国の診断群分類2
第8回　わが国の診断群分類3
第9回　わが国の診断群分類4
第10回　診療情報管理における診療報酬請求のデータ活用1
第11回　診療情報管理における診療報酬請求のデータ活用2
第12回　診療情報管理における診療報酬請求のデータ活用3
第13回　病院の統計資料
第14回　経営管理指標
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

診療情報管理Ⅲ
著者:　日本病院会
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 70 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**医療情報学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　尾関　美智子	

テーマ

医療情報の基礎を学ぶ

授業の到達目標

医療情報の重要性を認識するとともに、ICT活用に関する基礎的知識を修得する。

授業の概要

情報通信技術（ICT）の発展は、電子カルテの導入をはじめ、医療現場に大きな変革をもたらしている。この授業では、コンピュータやネットワークの基礎的知識、医療情報と医療情報システム、情報セキュリティと個人情報保護などについて学び、ICTを活用した医療情報システムの発展が医療の質の向上に果たしている役割を理解する。

準備学習（予習・復習）

医療の世界は日進月歩です。日頃から「医療」に関する新聞記事等に関心を持ち、日々研鑽に励んでください。

内　容

第1回　医療情報学　ガイダンス
第2回　医療情報学とは
第3回　情報通信技術（IT）の基礎1
第4回　情報通信技術（IT）の基礎2
第5回　医療情報の特徴と種類
第6回　行政が進める医療の情報化政策
第7回　医療情報システム1
第8回　医療情報システム2
第9回　医療情報システム3
第10回　医療情報システム4
第11回　医療情報の標準化1
第12回　医療情報の標準化2
第13回　情報セキュリティ1
第14回　情報セキュリティ2
第15回　医療情報学のまとめ　※なお、この授業では必要に応じてゲストスピーカーによる特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

診療情報管理Ⅲ専門・診療情報管理編第6版
著者：
出版社：日本病院会
出版年：2014　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 60 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**診療情報管理論Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾関　美智子	

テーマ

診療情報管理の基礎を学ぶ

授業の到達目標

診療情報の意義と診療情報に関する法規などを理解する。

授業の概要

授業ではまず、診療情報管理とは何か、診療情報管理と診療情報管理士の関わり、医療機関において診療情報管理士が担う役割など、診療情報管理と診療情報管理士について理解を深める。また、診療情報管理業務を行う上で必要なコンプライアンス(法令遵守)について、診療情報管理士に必要とされる診療記録および診療情報に関わる法規などを学ぶ。

準備学習(予習・復習)

医療の世界は日進月歩です。日頃から「医療」に関する新聞記事等に目を通し、日々研鑽に励んでください。

内　　容

第1回　診療情報管理論Ⅰ　ガイダンス
第2回　診療情報管理士の教育・資格制度、診療情報管理士の役割
第3回　診療に関する情報　診療情報の定義及び意義、価値の理解
第4回　診療情報管理の背景1　診療記録のルーツ
第5回　診療情報管理の背景2　米国と日本の病院における診療情報管理
第6回　診療情報管理と法規1　診療記録の記載と保存及び提示に関する法規、医療事故に伴う法的責任
第7回　診療情報管理と法規2　診療録等の電子化に関する法規、診療情報の守秘に関する法規
第8回　診療情報管理と法規3　個人情報の保護に関する法規①
第9回　診療情報管理と法規4　個人情報の保護に関する法規②
第10回　診療情報管理部門のあり方1　組織上の位置づけ
第11回　診療情報管理部門のあり方2　診療情報管理委員会
第12回　診療情報管理部門のあり方3　診療記録管理規程
第13回　診療情報管理部門のあり方4　診療情報管理室の構成・運用
第14回　診療記録の電子化への対応
第15回　診療情報管理Ⅰのまとめ

履修上の注意点

教科書

診療情報管理Ⅲ専門・診療情報管理編第6版
著者:
出版社: 日本病院会
出版年: 2014　　ISBN:

参考書

医療のなにが問題なのか—超高齢社会日本の医療モデル
著者:　松田晋哉
出版社: 勁草書房
出版年: 2013　　ISBN:

成績評価

試験 （ 60 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 10 ）	授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**診療情報管理論Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　尾関　美智子

テーマ

診療情報管理の実務を学ぶ

授業の到達目標

診療情報の保管管理、点検・活用・提供などの診療情報管理士の役割を理解する。

授業の概要

診療情報管理士が担う業務は、病院の規模や配属される部門により異なることも多いが、この授業では、診療情報管理を円滑に行うために必要な、基本的な業務内容と実務を理解する。具体的には、診療記録の保管・管理、診療記録の回収と内容の点検、診療情報の活用、診療情報の提供、診療記録の記載方法と種類について学んでいく。

準備学習（予習・復習）

医療の世界は日進月歩です。日頃から「医療」に関する新聞記事等に目を通し、日々研鑽に励んでください。

内　　容

第1回　診療情報管理論Ⅱ　ガイダンス
第2回　診療記録の保管管理1　ナンバリング（番号法）とファイリング（保管法）
第3回　診療記録の保管管理2　診療記録の保存期間と保存方法、診療記録の管理方法
第4回　診療記録の保管管理3　診療記録の貸出管理
第5回　診療記録の保管管理4　個人情報保護の視点からの保管管理
第6回　診療記録の保管管理5　電子カルテシステムでの保管管理
第7回　診療情報の点検1　診療記録の回収と点検
第8回　診療情報の点検2　電子カルテシステムでの点検、製本
第9回　診療情報の点検3　ICDによる傷病名コーディングと情報の登録
第10回　診療情報の点検4　診療記録の監査（audit）
第11回　診療情報の活用　病院管理の視点、医療の質評価の視点、電子カルテでの情報活用
第12回　診療情報の提供
第13回　診療記録の記載方法と種類1　診療記録の記載方法
第14回　診療記録の記載方法と種類　診療記録で使われる用語、診療記録の種類
第15回　診療情報管理Ⅱのまとめ

履修上の注意点

教科書

診療情報管理Ⅲ専門・診療情報管理編第6版
著者:
出版社: 日本病院会
出版年: 2014　　ISBN:

参考書

医療のなにが問題なのか―超高齢社会日本の医療モデル
著者:　松田晋哉
出版社: 勁草書房
出版年: 2013　　ISBN:

成績評価

試験　（ 60 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**財務会計論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　河野　充央	

テーマ

会計規範と会計機構

授業の到達目標

制度会計の意義と本質を理解する

授業の概要

テキスト以外に，経済記事を活用しながら，常にグローバルビジネスの最前線に目を向けながら講義を進める。スケジュール等において，可能であれば，経営者をゲストスピーカーに招く場合もある

準備学習（予習・復習）

復習を必ず行ってから，次の時間の講義へ臨んでもらいたい。

内　容

第1回　ガイダンス会計機構とマネジメントの仕組み
第2回　財務会計の意義
第3回　財務会計と管理会計
第4回　会計と法規
第5回　損益計算論1
第6回　損益計算論2
第7回　損益計算論3
第8回　貸借対照表論1
第9回　貸借対照表論2
第10回　貸借対照表論3
第11回　財務諸表一般論1
第12回　財務諸表一般論2
第13回　財務会計から管理会計へ1
第14回　財務会計から管理会計へ2
第15回　講義全体のまとめ

履修上の注意点

私語は厳に慎んで下さい。他の受講者にとって，これ以上の迷惑はありません。

教科書

参考書

グロービズMBAアカウンティング
著者：　グロービズ経営大学院
出版社：ダイヤモンド社
出版年：　　ISBN：

最新財務諸表論
著者：　武田隆二
出版社：中央経済社
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 40 ）	小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**組織と仕事の経済学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

経済学の視点から、組織と仕事を分析する

授業の到達目標

1）組織の経済学の基本的な考え方を理解する2）人的資本理論を中心に労働経済学の基本的な考え方を理解する

授業の概要

入門的な経済学では、経済の中で活動する個人や組織はブラックボックスとして捉えられ、その内実や行動が詳細に分析することはない。この授業では、そうした個人と組織について経済学はいかにして分析を行うことが可能なのか焦点を当てる。

準備学習（予習・復習）

Knowledge Deliverを利用して復習テストを提供するので、必ず次の授業までに終えておいてください。積み上げ型の授業となるので、前回の授業の復習を授業前に行っておくことがもっとも重要な予習となります。

内　　容

第1回　教科書的な経済学が描く世界：労働市場のメカニズム
第2回　労働需要と労働供給（1）：余暇と労働の選択
第3回　労働需要と労働供給（2）：家計生産モデルと家庭内分業
第4回　労働需要と労働供給（3）：芸術家・クリエーターの働き方
第5回　労働需要と労働供給（4）：要素需要としての労働需要
第6回　労働需要と労働供給（5）：労働需要とシグナリング・モデル
第7回　仕事とキャリア（1）：長期雇用と賃金カーブ
第8回　仕事とキャリア（2）：内部労働市場とOJT
第9回　人的資本の理論（1）：資本としての人間の能力
第10回　人的資本の理論（2）：割引現在価値と内部収益率
第11回　人的資本の理論（3）：特殊訓練と一般訓練
第12回　組織の経済理論（1）：組織の存在理由と取引費用
第13回　組織の経済理論（2）：インセンティブの設計理論
第14回　組織の経済理論（3）：ヒエラルキーと権限配分
第15回　まとめ

履修上の注意点

積み上げ式の授業であるので、欠席、遅刻の無いようにすること。

教科書

指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業中に関連文献を紹介する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（　）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**金融論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　近藤　隆則	

テーマ

金融仲介や金融市場の経済社会における役割

授業の到達目標

金融仲介機関や金融市場が経済の中で果たしている役割を理解し、一国経済やグローバル経済の中での金融の機能について正しく説明できる力を身に付ける。

授業の概要

「経済の血液」とも呼ばれる金融は、グローバル化、ストック化の進んだ現代社会において、ますます重要なものとなりつつある。この科目では、金融論の基本について学習する。具体的には、金融市場と金融仲介機関の役割、貨幣の機能と貨幣需要の動機、貨幣供給と中央銀行の役割、国際通貨制度と為替レート決定のメカニズムなどについて学習する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　イントロダクション－金融を学ぶ意義
第2回　金融仲介とは何か
第3回　金融仲介機関の種類
第4回　間接金融と銀行の機能
第5回　直接金融と資本市場の機能
第6回　金融制度：セーフティ・ネットと健全性規制
第7回　中間のまとめ
第8回　貨幣とは何か
第9回　貨幣の需要と供給
第10回　物価と貨幣価値
第11回　中央銀行と金融政策
第12回　国際収支のメカニズム
第13回　為替相場の決定要因
第14回　金融危機はなぜ起こるか
第15回　全体のまとめ

履修上の注意点

教科書

特になし（その都度レジュメを配布）
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

特になし（授業各回で必要に応じて指定）
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 80% ）
授業中課題（　）	授業中発表等（　）
参加度　（ 20% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**産業論Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　吉田　秀和	

テーマ

コンテンツ産業と呼ばれる産業部門が成長・成熟していく過程を1960年代以降の産業構造の変化を踏まえつつ読み解く

授業の到達目標

産業構造の在り方は、わたしたちの日常の生活環境に深く結びついています。言い換えると、年齢・性別・職業などによる生活時間の使い方や生活の質および量がその社会の産業構造の影響を大いに受けているということです。そこで、この授業では、産業構造と私たちの生活構造の変化、すなわち生活インフラの変遷に注目しつつ、現時点までの各種コンテンツの現状と課題を読み解きつつ、同時にその手法を修得してもらおうと思います。

授業の概要

この授業では、高度経済成長期から今日までの日本の産業構造の変遷を提示しながら、大衆社会の形成と成熟した産業社会における、その時代を代表する放送番組、映画、音楽、書籍などのコンテンツを紹介していきます。そして、当時のコンテンツが人々の日常生活を通じてどのように大衆意識として浸透していったかを読み解いていきます。さらに、これらを踏まえて、高度情報社会を背景としてグローバル化していく今日の社会に潜む諸課題をコンテンツ産業の現状と課題を通じてみなさんと考えていきたいと思います。授業では、その日の授業内容、質疑などを簡潔に記してもらうリアクション・ペーパーを毎回提出してもらい、質疑に関する回答は次回の授業冒頭に行うとう形態をとります。

準備学習（予習・復習）

授業後は、講義で紹介した内容のコンテンツに接してください。

内　　容

第1回　イントロダクション-産業構造と生活構造-
第2回　フォードシステムの導入と生活構造の変化
第3回　メディアの発達と大衆社会の進展
第4回　労使協調主義経済と世界経済の趨勢
第5回　産業社会の成熟とコンテンツ産業の変容
第6回　消費社会の到来と新規コンテンツ産業の萌芽
第7回　バブル経済と消費社会（不夜城社会の経験）
第8回　コミュニケーション媒体の多様化と産業構造の変貌
第9回　もう一つの社会変化ーモノ社会からイメージの社会へー
第10回　グローバル社会における産業と生活
第11回　クールジャパン戦略とコンテンツ産業
第12回　コンテンツ産業の定義と分類
第13回　映像系コンテンツ産業と音声系コンテンツ産業の現状と課題
第14回　ゲーム系コンテンツ産業とテキスト系コンテンツ産業の現状と課題
第15回　産業構造と生活構造の今後の課題

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 60 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 15 ）
試験60については、レポート課題とします。

2016 Syllabus

科 目 名　**産業論Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

ヘルスケア産業論

授業の到達目標

先進各国では、人口高齢化に対応し、また内需主導型の経済成長並びに雇用の受け皿として、広い意味でのヘルスケア産業への注目が高まっている。本講義では、こうしたヘルスケア産業をめぐる制度と現状、直面する課題、またヘルスケア産業と経済社会とのかかわりについて、基本的な知識を獲得し、受講生の進路選択に資することを目標とする。

授業の概要

ヘルスケア産業の全体像と構造、各産業部門と関連産業の現状等について、主として講義形式で授業を行う。

準備学習（予習・復習）

受講に際して前提となる知識は不要であるが、授業中の配布プリントや確認テストを活用して知識の習得に努めること。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　ヘルスケア産業総論（産業の全体像と現状）
第3回　ヘルスケア産業総論（ヘルスケアの労働市場）
第4回　医療・介護制度とその改革①
第5回　医療・介護制度とその改革②
第6回　医療・介護経営の動向①
第7回　医療・介護経営の動向②
第8回　中間まとめと理解度の確認
第9回　医療関連産業①（医薬品製造・流通業）
第10回　医療関連産業②（医薬品製造・流通業）
第11回　医療関連産業③（医療機器製造・流通業）
第12回　医療関連サービス業①
第13回　医療関連サービス業②
第14回　ヘルスケア産業の将来
第15回　講義全体のまとめと理解度の確認

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、授業中に紹介した参考書などを積極的に読むとともに、新聞や雑誌の医療記事に目を通す習慣をつけること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

よくわかる医療業界最新第2版
著者:　川越満、布施泰男
出版社:　日本実業出版社
出版年:　2010　　ISBN:　9784534046956

安倍政権の医療・介護戦略を問う
著者:　芝田英昭編
出版社:　あけび書房
出版年:　2014　　ISBN:　9784871541282

地域包括ケアと地域医療連携
著者:　二木立
出版社:　勁草書房
出版年:　2015　　ISBN:　9784326700875

a50102h250

医療経営白書2015－16年版

著者:　ヘルスケア総合研究所

出版社: 日本医療企画

出版年: 2015　　ISBN:　9784864393836

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ 50 ）

授業中課題 （ 25 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 25 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**財政学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　阪本 崇	

テーマ

財政の制度と理論

授業の到達目標

財政学の基本的な概念と考え方を学び、中央および地方の政府の活動を経済的な側面から理解できるようになる。

授業の概要

財政は国・地方公共団体がその目的を達成するために行う経済活動であり、そこでは民間の経済活動とはさまざまな側面で異なる原理がはたらいている。この授業では、まず、民主主義社会における財政のコントロールのあり方について学んだ上で、歳出と歳入の両面、すなわち経費、および租税と公債について学習する。また、公債とかかわって財政と金融との関連についても触れる。最後に、この授業で学んだ概念や考え方を応用してこれからの日本財政はどうあるべきかについて考える。とくに、グローバル化のなかで各国の財政がどのような影響を受け、それにどのように対応してゆくべきかについて考える。

準備学習（予習・復習）

Knowledge Deliverを利用して復習テストを提供するので、必ず次の授業までに終えておいてください。積み上げ型の授業となるので、前回の授業の復習を授業前に行っておくことがもっとも重要な予習となります。

内　容

第1回　イントロダクション：財政とはなにか
第2回　財政のコントロール手段としての予算
第3回　財政民主主義と公共選択理論
第4回　現代の公共部門の役割と経費
第5回　公共投資と財政
第6回　社会保障と財政
第7回　環境、文化と財政
第8回　租税の基礎理論と租税原則
第9回　所得税と法人税
第10回　消費課税と資産課税
第11回　政策課税と税制改革
第12回　公債発行と財政政策
第13回　財政と金融システム
第14回　到達度の確認：これからの財政について考える
第15回　総復習：グローバル化と財政の未来

履修上の注意点

教科書

近刊（後日提示します）
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（　）
参加度（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**公共政策論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金武 創	

テーマ

公共政策の規範的理解

授業の到達目標

よりよい公共政策を考える基礎学力を習得し、政治社会が直面する公共的な諸問題への政策的対応を理解する力を身につける。

授業の概要

民主主義の下での公共政策はどうあるべきか。この授業では、はじめに、公共政策の作成・実施のプロセスを理解するために、授業の前半部では公共政策のよしあしを判断するための価値基準、すなわち公共政策規範を学んでいく。その際、政策の実現可能性や実現にかかるコストへの配慮に留意しつつ、時事問題などを紹介しながら公共政策規範の理解に努める。授業の後半では、個別の政策課題をとりあげて、政策設計のマクロ的指針と優先順位のためのミクロ的分析の両立の難しさを中心に公共政策の形成とその実地について学習する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　［第1部　イントロダクション］ 公共政策論を学ぶ意義　公共人材に求められる政策知
第2回　［第1部　イントロダクション］ 公共政策デザインの指針　一般妥当性、実効力、実際的有用性、社会的正当性
第3回　［第2部　公共政策の規範的検討］ 公共政策規範とは何か
第4回　［第2部　公共政策の規範的検討］ 自由主義アプローチ
第5回　［第2部　公共政策の規範的検討］ 自由主義アプローチへの批判
第6回　［第2部　公共政策の規範的検討］ 功利主義アプローチ
第7回　［第2部　公共政策の規範的検討］ 功利主義アプローチへの批判
第8回　［第2部　公共政策の規範的検討］ 本質主義アプローチ
第9回　［第2部　公共政策の規範的検討］ 本質主義アプローチへの批判
第10回［第3部　公共政策の過程とその実施］ 環境政策とその課題　グローバル社会、環境負荷とその認識
第11回［第3部　公共政策の過程とその実施］ 産業政策とその課題　衰退産業と成長産業、構造転換と研究開発支援
第12回［第3部　公共政策の過程とその実施］ 福祉政策とその課題　超高齢社会、well-beingと公共政策
第13回［第3部　公共政策の過程とその実施］ 観光政策とその課題　グローバルとローカル、観光公害と伝統文化
第14回［第3部　公共政策の過程とその実施］ 文化政策とその課題　個人に還元されない価値、表現の自由と創造性
第15回［第3部　公共政策の過程とその実施］ 都市と地域の公共政策　まちづくり活動、地域社会への参画※なお、この授業では必要に応じて講演会を実施することがある。

履修上の注意点

日常点評価（毎回の課題）が求められます。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

公共政策学とは何か
著者:　足立幸男
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2009　　ISBN:

公共政策規範
著者:　佐野亘
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2010　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）	小テスト （ 30 ）
授業中課題 （ 70 ）	授業中発表等 （ ）

a50102h410

参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**社会問題論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　高原　正興	

テーマ

授業の到達目標

私たちの身の回りで起こり、マスメディアで報道される様々な社会問題現象について、社会学的な視点から分析・解釈できる能力を身につける。

授業の概要

始めに「社会問題」の概念について学習し、社会諸問題の中から社会学的分析に適うメゾ・ミクロ領域の社会問題現象について、それらの定義・統計・動向・特徴・法的規制・援助の現状などを展開する。また、それらの諸現象を生起させている社会的原因や背景を社会学理論とマクロな視点から考察して、社会問題を全体的・構造的に理解できるようにする。さらに、マスメディアのあり方についても考えていきたい。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　イントロダクション:「社会問題」概念の定義と方法
第2回　社会学的社会問題論としての「社会病理学」の展開と方法
第3回　逸脱と統制
第4回　社会問題（1）少年非行の定義・統計・特徴
第5回　社会問題（1）少年非行の分析・解釈・援助
第6回　社会問題（2）自殺の定義・統計・特徴
第7回　社会問題（2）自殺の分析・解釈・援助
第8回　社会問題（3）いじめの定義・統計・特徴
第9回　社会問題（3）いじめの分析・解釈・援助
第10回　社会問題（4）児童虐待の定義・統計・特徴
第11回　社会問題（4）児童虐待の分析・解釈・援助
第12回　社会問題（5）ホームレスの定義・統計・特徴
第13回　社会問題（5）ホームレスの分析・解釈・援助
第14回　その他の社会問題とマスメディアの報道
第15回　社会問題の社会的原因と背景の総括

履修上の注意点

教科書

関係性の社会病理
著者:　日本社会病理学会編
出版社:　学文社
出版年:　2016　　ISBN:

参考書

社会病理学講座3　病める関係性
著者:　高原正興他編
出版社:　学文社
出版年:　2004　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**グローバル経済論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　今久保　幸生	

テーマ

経済のグローバル化を学ぶ

授業の到達目標

現代の世界経済・社会の動きを学ぶことを通じて、学生が、この動きに受動的に巻き込まれるのではなく、積極的・主体的に対応するための、確かな認識上の足がかりを得させることが、到達目標である。

授業の概要

経済活動が地球全体にわたって展開されるのは、いまに始まったことではないが、現代は、経済活動が未曾有の規模でグローバルに展開されており、事実上地球上のすべての人間は経済のグローバル化に否応なく関わらざるをえなくなっている。しかも、このような意味の経済のグローバル化は今後もいっそう進むことが予想される。この講義では、とくに現代における経済のグローバル化の諸相とその背景、経済のグローバル化の今後、経済のグローバル化の積極的効果と試練、試練への対応などを検討する。検討は、主として、グローバル経済における日本経済や日本企業の状況や対応などに即して行う。

準備学習（予習・復習）

教科書の予習・復習、および新聞等でグローバル経済に関する時事問題を読むこと。最低1時間は必要である。

内　容

第1回　はじめに --- 経済のグローバル化を学ぶことがなぜ重要か
第2回　グローバル化とアメリカ・モデル
第3回　グローバル化と国際経済システム
第4回　グローバル化と東アジア
第5回　企業のグローバル展開
第6回　グローバル化と国際金融危機
第7回　中国経済とグローバル化
第8回　中国のWTO加盟
第9回　東南アジア経済とグローバル化
第10回　ブラジル経済とグローバル化
第11回　日本経済とグローバル化---国際収支発展段階説に即して
第12回　グローバル化の試練への日本の対応
第13回　グローバル化の試練への日本企業の対応
第14回　２１世紀型グローバル化と諸制約
第15回　おわりに；小テスト

履修上の注意点

私語は厳禁。部活や就活による欠席は出席扱いとはしない。

教科書

世界経済とグローバル化
著者：　渋谷博史・河崎信樹・田村太一編
出版社：学文社
出版年：2013　　ISBN：

参考書

未定
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**保険論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　隆則	

テーマ

保険会社で必要な専門的な知識ではなく、私たちの生活や経済社会の中で必要な保険についての基礎知識を学習します。

授業の到達目標

私たちの生活や経済活動において「リスクとは何か」を正しく理解し、リスクマネージメントの方法や保険の役割について正しく理解することを目標とします。

授業の概要

リスクの基礎概念を学んだ上で、リスクマネジメントおよび保険について学習します。具体的には、リスクの意味、リスクを軽減する諸手段、保険の需要と供給をめぐる理論などを学びます。

準備学習（予習・復習）

生命保険や損害保険のテレビ・コマーシャルなどを見たら、その保険は人間生活のどんな「リスク」に対応しようとしているのか、を考えてみてください。

内　　容

第1回　リスクとは何か－結果のバラツキとリスク
第2回　リスクの実体とリスクの分類
第3回　リスクの計測と正規分布
第4回　リスクを軽減する方法（1）
第5回　リスクを軽減する方法（2）
第6回　リスクを軽減する方法（3）
第7回　保険の供給（1）収支相等の原則
第8回　保険の供給（2）公正保険料
第9回　保険の需要
第10回　保険における逆選択の問題
第11回　保険におけるモラルハザードの問題
第12回　保険商品と保険の分類
第13回　保険の法制度
第14回　保険の業態と契約者保護制度
第15回　全体のまとめと復習

履修上の注意点

教科書

使用しません
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

リスクと保険の基礎理論
著者:　米山高生
出版社:　同文館出版
出版年:　2012年　　ISBN:　4495440810

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 80% ）
授業中課題（　）	授業中発表等（　）
参加度　（ 20% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**経営情報論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　片岡　裕介	

テーマ

情報化社会における経営情報の役割と可能性

授業の到達目標

情報技術（IT）あるいは情報通信技術（ICT）の革新が、企業経営ならびに地域社会に及ぼす影響を考えるにあたり、経営情報システムの基礎的事項について学習するとともに、経営活動や社会生活の中で経営情報がどのように活用されているかを理解する。

授業の概要

まず、経営情報の基礎概念、情報化社会の進展、経営情報システムの考え方などについて基礎的内容を学習する。さらに、経営情報と社会生活との関わりについて具体的な事例を通して見ることで、経営情報システムの理解を深める。

準備学習（予習・復習）

授業で学習した用語や関連する事例について、授業後に整理するようにしてください。

内　　容

第1回　イントロダクション
第2回　情報化社会の進展
第3回　情報化社会における経営情報
第4回　経営情報システムの変遷
第5回　情報技術の基礎
第6回　経営戦略と情報システム
第7回　経営組織と情報システム
第8回　システムとネットワーク
第9回　ナレッジマネジメント
第10回　経営情報と流通(1)　情報化と流通システム
第11回　経営情報と流通(2)　チェーンストアと物流システム
第12回　地域社会における経営情報(1)　インターネットビジネス
第13回　地域社会における経営情報(2)　エリアマーケティング
第14回　地域社会における経営情報(3)　位置情報サービス
第15回　地域社会における経営情報(4)　情報セキュリティと情報倫理

履修上の注意点

受講者数によっては座席指定をおこなう。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

経営情報システム 第4版
著者:　宮川公男・上田泰編著
出版社:　中央経済社
出版年:　2014　　ISBN:

はじめて学ぶ経営情報学
著者:　高橋敏朗編
出版社:　日科技連出版社
出版年:　2005　　ISBN:

経営情報論 新版
著者:　遠山暁・村田潔・岸眞理子著
出版社:　有斐閣
出版年:　2008　　ISBN:

a50102h910

日本の流通と都市空間

著者:　荒井良雄・箸本健二編

出版社: 古今書院

出版年: 2004　　ISBN:

ビジネス・行政のためのGIS

著者:　村山祐司・柴崎亮介編

出版社: 朝倉書店

出版年: 2008　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ 40 ）

授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**ファイナンシャルプランニング**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　村田 裕人

テーマ

生きていくために、また社会に出て行くときのために必要となる「お金」に関する基本的な知識を身につけよう。

授業の到達目標

現役の税理士が開講する授業である。国家資格である3級ファイナンシャルプランニング技能士資格の取得を目的とする。また、これをきっかけに就職等に有利となる簿記検定試験や、難易度の高い税理士･会計士資格への足がかりともしていきたい。

授業の概要

テキストと問題集、さらに必要の都度パワーポイントや雑誌の記事等を使った授業としていく。また、授業の都度ミニテストなども行い、理解度を深める事とする。

準備学習（予習・復習）

国家資格である3級ファイナンシャルプランニング技能士資格を目指すため、授業時間外においても検定試験の対策として問題種痘を解くことが望ましい。

内　容

第1回　ファイナンシャルプランニングとは何か？なぜお金のことを勉強するのか。
第2回　ライフプランニングと資金計画　その1（ライフイベント、結婚、育児）
第3回　ライフプランニングと資金計画　その2（社会保険･年金）
第4回　リスクマネージメント　その1（保険とは）
第5回　リスクマネージメント　その2（生命保険、損害保険）
第6回　金融資産運用　その1（金融経済の基本）
第7回　金融資産運用　その2（投資資産のあれこれ）
第8回　前半のまとめ
第9回　タックスプランニング　その1（所得税の基本）
第10回　タックスプランニング　その2（税金の計算）
第11回　不動産　その1（不動産の基本）
第12回　不動産　その2（不動産に関するあれこれ）
第13回　相続・事業承継　その1（相続って何）
第14回　相続・事業承継　その2（相続税･贈与税）
第15回　後半のまとめ

履修上の注意点

教科書

みんなが欲しかったFPの教科書3級
著者:　滝澤ななみ
出版社:　TAC出版
出版年:　　ISBN:
みんなが欲しかったFPの問題集3級
著者:　滝澤ななみ
出版社:　TAC出版
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 20 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**臨床医学Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　道端 達也

テーマ

感染症・内分泌代謝性疾患の基礎知識

授業の到達目標

感染症・寄生虫症、内分泌・栄養・代謝の疾患に関する知識を修得する。

授業の概要

診療情報管理士の重要な業務である、世界保健機関(WHO)による国際疾病分類(ICD)のコーディングに必要な各疾病について、その原因、症状、所見、診断、治療などの基礎知識を修得する。この授業では、感染症の原因となる細菌、ウイルスなどの知識を身につけ、各感染症の特徴、症状、所見、診断法、治療法などについて学ぶ。また、後半では、内分泌、栄養、代謝に関連する疾患について学んでいく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　感染症および寄生虫症(総論)／腸管感染症
第2回　結核／人畜共通細菌感染疾患
第3回　その他の細菌感染疾患
第4回　主として性的伝搬様式をとる感染症／その他のスピロヘータ疾患
第5回　クラミジアによるその他の疾患／リケッチア症
第6回　中枢神経系のウイルス感染症／節足動物媒介ウイルス熱およびウイルス性出血熱
第7回　皮膚および粘膜病変を特徴とするウイルス感染症／ウイルス肝炎
第8回　ヒト免疫不全ウイルス病／その他のウイルス疾患
第9回　真菌症／原虫疾患
第10回　ぜん＜蠕＞虫症、感染症および寄生虫症(補足)
第11回　内分泌、栄養および代謝疾患(総論)／甲状腺障害
第12回　糖尿病／その他のグルコース調節および膵内分泌障害
第13回　その他の内分泌腺障害／栄養失調(症)／その他の栄養欠乏症／肥満(症)およびその他の過栄養＜過剰摂食＞
第14回　代謝障害
第15回　免疫機構の障害

履修上の注意点

あらかじめ教科書に目を通してきてください。授業では逐一教科書を説明するのではなく、教科書には書かれていないが重要な事項に重点を置いて講義を行います。

教科書

診療情報管理Ⅰ
著者:　日本病院会
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度　（ 30 ）
適宜レポート提出、小テストを行います。出席も重視しますが、単にその場にいるというだけでは評価しません。

2016 Syllabus

科 目 名　**臨床医学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西本　泰久	

テーマ

授業の到達目標

腫瘍、血液・造血器の疾患、免疫機構の障害に関する知識を修得する。

授業の概要

診療情報管理士の重要な業務である、世界保健機関(WHO)による国際疾病分類(ICD)のコーディングに必要な各疾病について、その原因、症状、所見、診断、治療などの基礎知識を修得する。この授業では、全診療科で扱われる疾患の新生物(腫瘍)の概要を理解するとともに、その診断法、治療法などを学ぶ。また、後半では、血液および造血器の疾患、免疫機構の障害についても学んでいく。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　臨床医学各論Ⅱ 新生物:口唇、口腔および咽頭の悪性新生物
第2回　臨床医学各論Ⅱ 新生物:消化器の悪性新生物
第3回　臨床医学各論Ⅱ 新生物:呼吸器および胸腔内臓器の悪性新生物
第4回　臨床医学各論Ⅱ 新生物:骨および関節軟骨,皮膚の黒色腫およびその他の悪性新生物
第5回　臨床医学各論Ⅱ 新生物:中皮および軟部組織,乳房の悪性新生物
第6回　臨床医学各論Ⅱ 新生物:女性生殖器,男性生殖器,腎尿路の悪性新生物
第7回　臨床医学各論Ⅱ 新生物:眼、脳およびその他の中枢神経系,甲状腺およびその他の内分泌腺の悪性新生物
第8回　臨床医学各論Ⅱ 新生物:リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物
第9回　臨床医学各論Ⅱ 新生物:上皮内新生物
第10回　臨床医学各論Ⅱ 新生物:良性新生物
第11回　臨床医学各論Ⅲ　血液・代謝・内分泌等:栄養性貧血
第12回　臨床医学各論Ⅲ　血液・代謝・内分泌等:溶血性貧血
第13回　臨床医学各論Ⅲ　血液・代謝・内分泌等:無形成性貧血およびその他の貧血
第14回　臨床医学各論Ⅲ　血液・代謝・内分泌等:凝固障害、紫斑病およびその他の出血性病態
第15回　臨床医学各論Ⅲ　血液・代謝・内分泌等:血液および造血器のその他の疾患

履修上の注意点

教科書

診療情報管理Ⅰ
著者:　日本病院会
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 70 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**臨床医学Ⅲ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　道端　達也	

テーマ

精神神経疾患・感覚器疾患・皮膚疾患の基礎知識

授業の到達目標

精神・脳神経・感覚器系、皮膚・皮下組織の疾患に関する知識を修得する。

授業の概要

診療情報管理士の重要な業務である、世界保健機関(WHO)による国際疾病分類(ICD)のコーディングに必要な各疾病について、その原因、症状、所見、診断、治療などの基礎知識を修得する。この授業では、精神および行動の障害、神経系の疾患、目・耳の感覚系の疾患について学ぶ。また、後半では、皮膚および皮下組織の疾患についても学んでいく。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　器質性精神障害／精神作用物質使用による精神・行動の障害／統合失調症、統合失調症型障害・妄想性障害
第2回　気分[感情]障害／神経症性障害／ストレス関連障害・身体表現性障害／生理的障害・身体的要因関連行動症候群
第3回　成人の人格・行動の障害／心理的発達の障害／小児＜児童＞期・青年期に通常発症する行動・情緒の障害
第4回　神経系の疾患(総論)／中枢神経系の炎症性疾患／主に中枢神経を障害する系統萎縮症／錐体外路障害・異常運動
第5回　神経系のその他の変性疾患／中枢神経系の脱髄疾患／挿間性・発作性障害 神経・神経根・神経そう＜叢＞の障害
第6回　多発性ニューロパチー・末梢神経系の障害／神経筋接合部・筋の疾患／脳性麻痺・麻痺性症候群／他の神経系障害
第7回　眼瞼、涙器および眼窩の障害／結膜の障害／水晶体の障害／脈絡膜および網膜の障害
第8回　緑内障／硝子体および眼球の障害／視神経および視(覚)路の障害／眼筋、眼球運動、調節および屈折の障害
第9回　外耳疾患／中耳および乳様突起の疾患
第10回　内耳疾患／耳のその他の障害
第11回　皮膚疾患(総論)／皮膚・皮下組織の感染症／水疱症
第12回　皮膚炎および湿疹／丘疹落屑＜鱗屑＞性障害
第13回　蕁麻疹および紅斑／皮膚および皮下組織の放射線非電離および電離に関連する障害
第14回　皮膚付属器の障害／皮膚および皮下組織のその他の障害
第15回　皮膚のその他の悪性新生物

履修上の注意点

あらかじめ教科書に目を通してきてください。授業では逐一教科書を説明するのではなく、教科書には書かれていないが重要な事項に重点を置いて講義を行います。

教科書

診療情報管理Ⅰ
著者:　日本病院会
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度　（ 30 ）
適宜レポート提出、小テストを行います。出席も重視しますが、単にその場にいるというだけでは評価しません。

2016 Syllabus

科 目 名　**臨床医学Ⅳ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　道端　達也	

テーマ

循環器・呼吸器・消化器系疾患の基礎知識

授業の到達目標

循環器系、呼吸器系、消化器系の疾患に関する知識を修得する。

授業の概要

診療情報管理士の重要な業務である、世界保健機関(WHO)による国際疾病分類(ICD)のコーディングに必要な各疾病について、その原因、症状、所見、診断、治療などの基礎知識を修得する。この授業では、生命の維持に直接関わる循環器・呼吸器系の疾病について、その特徴、症状、所見、診断法、治療法などについて学ぶ。また、後半では、消化器系の疾患について学んでいく。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　循環器系の疾患(総論)／急性リウマチ熱／慢性リウマチ性心疾患／循環器系の先天奇形
第2回　高血圧性疾患／低血圧症／虚血性心疾患／肺性心疾患および肺循環疾患
第3回　その他の型の心疾患
第4回　脳血管疾患／動脈、細動脈および毛細血管の疾患
第5回　静脈、リンパ管およびリンパ節の疾患、他に分類されないもの／循環器疾患(補足)
第6回　呼吸器系の疾患(総論)／急性上気道感染症
第7回　インフルエンザおよび肺炎／その他の急性下気道感染症
第8回　上気道のその他の疾患／慢性下気道疾患
第9回　外的因子による肺疾患／主として間質を障害するその他の呼吸器疾患
第10回　下気道の化膿性および壊死性病態／胸膜のその他の疾患／呼吸器系のその他の疾患
第11回　消化器系の疾患(総論)／口腔、唾液腺および顎の疾患／食道、胃および十二指腸の疾患
第12回　虫垂の疾患／ヘルニア／非感染性腸炎および非感染性大腸炎
第13回　腸のその他の疾患／腹膜の疾患
第14回　肝疾患
第15回　胆のう＜嚢＞、胆管および膵の障害／消化器系のその他の疾患

履修上の注意点

あらかじめ教科書に目を通してきてください。授業では逐一教科書を説明するのではなく、教科書には書かれていないが重要な事項に重点を置いて講義を行います。

教科書

診療情報管理Ⅰ
著者:　日本病院会
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 10 ）
参加度　（ 30 ）	

適宜レポート提出、小テストを行います。出席も重視しますが、単にその場にいるというだけでは評価しません。

2016 Syllabus

科 目 名　**臨床医学Ⅴ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　道端 達也

テーマ

泌尿器系疾患・周産期の基礎知識

授業の到達目標

泌尿器系の疾患および周産期における母体の障害等に関する知識を修得する。

授業の概要

診療情報管理士の重要な業務である、世界保健機関(WHO)による国際疾病分類(ICD)のコーディングに必要な各疾病について、その原因、症状、所見、診断、治療などの基礎知識を修得する。この授業では、前半に泌尿器および生殖器系の疾病の特徴、症状、所見、診断法、治療法などについて学ぶ。また、中盤からは、妊娠、分娩、産褥について理解するとともに、周産期に発生する病態について学んでいく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　腎尿路系の疾患(総論)／糸球体疾患
第2回　腎尿細管間質性疾患／腎不全
第3回　尿路結石症／腎および尿管のその他の障害
第4回　男性生殖器の疾患／乳房の障害
第5回　女性骨盤臓器の炎症性疾患　女性生殖器の非炎症性障害
第6回　妊娠・分娩(総論)
第7回　流産に終った妊娠（1）
第8回　流産に終った妊娠（2）
第9回　妊娠、分娩および産褥における浮腫、蛋白尿および高血圧障害／主として妊娠に関連するその他の母体障害
第10回　胎児・羊膜腔に関連する母体ケアならびに予想される分娩の諸問題（1）
第11回　胎児・羊膜腔に関連する母体ケアならびに予想される分娩の諸問題（2）
第12回　分娩の合併症
第13回　分娩／主として産褥に関する合併症
第14回　周産期に発生した病態
第15回　妊娠、分娩および産褥(補足)

履修上の注意点

あらかじめ教科書に目を通してきてください。授業では逐一教科書を説明するのではなく、教科書には書かれていないが重要な事項に重点を置いて講義を行います。

教科書

診療情報管理Ⅰ

著者:　日本病院会

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 40 ）

授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 10 ）

参加度　（ 30 ）

適宜レポート提出、小テストを行います。出席も重視しますが、単にその場にいるというだけでは評価しません。

2016 Syllabus

科 目 名　**自治体経営論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

自治体の行政と財政

授業の到達目標

変わりゆく自治体経営を理論と実証の両面から理解する。

授業の概要

地方自治論・地方行財政論の基礎について理解するとともに、自治体財政の逼迫や少子高齢化の進展、情報開示と説明責任への要求の高まりなど、自治体経営を取り巻く環境の変化について概観した上で、地方分権やニュー・パブリック・マネジメント、官民連携など、自治体経営における近年の新しい潮流について学ぶ。

準備学習（予習・復習）

Knowledge Deliverを利用して復習テストを提供するので、必ず次の授業までに終えておいてください。積み上げ型の授業となるので、前回の授業の復習を授業前に行っておくことがもっとも重要な予習となります。

内　　容

第1回　イントロダクション：日本の地方行財政システム
第2回　地方自治の本旨
第3回　首長の役割
第4回　議会の役割
第5回　条例と規則
第6回　自治体経営の実際（ゲストスピーカーによる講演と討論）
第7回　自治体の財政
第8回　自治体と税制
第9回　情報公開とアカウンタビリティ
第10回　国と地方の関係
第11回　地方分権改革
第12回　自治体改革
第13回　ニュー・パブリック・マネジメントの潮流
第14回　指定管理者制度
第15回　自治体経営と官民連携

履修上の注意点

教科書

指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

概説 日本の地方自治 第2版
著者：　新藤宗幸・阿部斉
出版社：　東京大学出版会
出版年：　　ISBN：

Basic地方財政論
著者：　植田和弘ほか編
出版社：　有斐閣
出版年：　　ISBN：

NPMによる行政革命―経営改革モデルの構築と実践
著者：　大住荘四郎
出版社：　日本評論社
出版年：　　ISBN：

a50102i650

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 40 ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**国際疾病分類概論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾関　美智子	

テーマ

国際疾病分類(ICD)とはなにか。

授業の到達目標

ICDコーディングに必要な基礎知識を身につける。

授業の概要

診療記録に記載される疾病や医療行為を収集・解析し、比較・活用するために設けられた、国際保健機関(WHO)が制定した国際疾病分類(ICD)の概念と利用方法に関する基本的な理解を深める。この授業では、ICDの歴史や現状、日本における利用状況を理解し、ICDコーディングの意味や問題点を把握する。

準備学習(予習・復習)

日頃から「医療」に関する新聞記事等に目を通し、日々研鑽に励んで下さい。

内　　容

第1回　国際疾病分類概論のガイダンス
第2回　国際疾病分類(ICD)とわが国の利用、ICDの歴史、ICDの現状と課題
第3回　国際疾病分類(ICD)の現状と課題、他の国際疾病分類(ICD)ファミリー
第4回　コーディングをはじめるにあたって1　ICD編さんの基準とその特徴、複数病態分類、複合病態分類・二重分類
第5回　コーディングをはじめるにあたって2　ICD-10・ICD-9-CMで使用される記号と符合、用語の定義、ICD索引表の構造および傷病名の構成
第6回　国際疾病分類(ICD)の実際の利用　ICD-10の使用上の注意点と問題、練習問題
第7回　主要病態の選択ルール1　　ルール説明と練習問題①
第8回　主要病態の選択ルール2　　ルール説明と練習問題②
第9回　原死因の選択ルール1　原死因の定義と死亡診断書の書き方①
第10回　原死因の選択ルール2　原死因の定義と死亡診断書の書き方②
第11回　原死因の選択ルール3　原死因の選択ルール説明①
第12回　原死因の選択ルール4　原死因の選択ルール説明②
第13回　国際疾病分類(ICD)以外の疾病分類、処置分類
第14回　診断群分類(DPC)との関わり
第15回　国際疾病分類概論のまとめ

履修上の注意点

2016年7月にテキストが改訂予定です。指示があるまで購入しないようにしてください。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　(60)	小テスト　(0)
授業中課題　(20)	授業中発表等　(0)
参加度　(20)	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ〈＊a〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　今井 まりな

テーマ

グループ論文の執筆に向けた準備

授業の到達目標

輪読を通じて、問いの設定、先行研究レビュー、事例記述といった一連の研究プロセスを学習する。夏休みに実施するインタビュー調査のためのスキルを習得する。

授業の概要

前半は研究方法と事例研究に関する文献を輪読する。後半はグループ分けを行い、2017年1月末までに執筆するグループ論文に向けて準備を行う。夏休みにグループ論文の作成に向けた合宿を実施する。

準備学習（予習・復習）

各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。※進捗状況に応じて、授業内容を変更することがある。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　輪読1（研究方法と事例研究に関する文献）
第3回　輪読2
第4回　輪読3
第5回　輪読4
第6回　グループ分けと問題設定の仕方
第7回　輪読5
第8回　問いの設定（グループ1,2）
第9回　問いの設定（グループ3,4）
第10回　問いの確定（グループ1,2）
第11回　問いの確定（グループ3,4）
第12回　先行研究レビューの仕方
第13回　先行研究レビュー（グループ1,2）
第14回　先行研究レビュー（グループ3,4）
第15回　インタビュー調査方法

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 70 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ〈＊b〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　今久保 幸生

テーマ

現代日本経済の研究(1)

授業の到達目標

グローバル化の進展のなかでの、現代の日本経済の変化の諸相を把握することにより、現代の経済社会における学生たち自身の立ち位置を確実なものにさせる。

授業の概要

教科書を順に輪読して、討論を行う。

準備学習（予習・復習）

教科書の予習・復習にとどまらず、関連の新聞記事・参考書などによる予習・復習を行うことが望ましい。

内　容

第1回　オリエンテーション ゼミの進め方などの相談
第2回　序 章　日本経済と経済の基本
第3回　第1章 日本経済の全体像
第4回　第2章 戦後日本の経済成長
第5回　第3章 景気循環の姿とそのとらえ方
第6回　第4章 ストックから見た日本経済
第7回　第5章 雇用の変動と日本型雇用慣行の行方
第8回　第6章 産業構造の変化と日本型企業経営の行方
第9回　第7章 物価の変動とデフレ問題
第10回　第8章 貿易と国際収支の姿
第11回　第9章 円レートの変動と日本経済
第12回　第10章 直接投資と空洞化をめぐる議論
第13回　第11章 財政をめぐる諸問題
第14回　第12章 経済の鍵を握る金融
第15回　ゼミのまとめ

履修上の注意点

教科書は必ず各自一冊ずつ準備し、毎回持参すること。教科書を準備していない学生の受講は認めない。3回を超えて無断欠席した学生には単位を出さない。やむを得ず欠席する場合は必ず事前に担当教員に連絡すること。部活・就活による欠席は出席扱いとはしない。

教科書

最新日本経済入門[第5版]
著者:　小峰隆夫他
出版社:　日本評論社
出版年:　2016　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 70 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ〈＊c〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　　片岡　裕介

テーマ

卒業論文作成のための準備

授業の到達目標

卒業論文の作成に必要となる研究能力として、文献の調査、論点の明確化、内容の構成、文章の作成、プレゼンテーションなどに関する基本的な知識とスキルを身につける。

授業の概要

前半は、位置や場所の情報を用いたビジネスの動向について、主にテキストの講読と関連する事例の調査を通して学ぶ。後半は、文献調査の方法と実践を通して卒業論文に向けた準備をおこなう。

準備学習（予習・復習）

特に、発表で寄せられたコメントについては、授業後に整理して確認しておくこと。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　位置情報ビジネスに関するテキスト講読(1)
第3回　位置情報ビジネスに関するテキスト講読(2)
第4回　位置情報ビジネスに関するテキスト講読(3)
第5回　位置情報ビジネスに関するテキスト講読(4)
第6回　位置情報ビジネスに関するテキスト講読(5)
第7回　位置情報ビジネスに関するテキスト講読(6)
第8回　位置情報ビジネスに関するテキスト講読(7)
第9回　文献調査の方法(1)
第10回　文献調査の方法(2)
第11回　文献調査報告(1)
第12回　文献調査報告(2)
第13回　文献調査報告(3)
第14回　文献調査報告(4)
第15回　文献調査報告の講評

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等　（ 60 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ〈＊d〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　河野　充央	

テーマ

財務管理の研究

授業の到達目標

有価証券報告書に掲載された財務諸表を分析できるようになること。

授業の概要

原理原則，理論を学びながら，複数企業の財務諸表を・比較分析し，差異の原因を考察してみる。

準備学習（予習・復習）

復習は必ず行う。その他については，随時指示する。

内　　容

第1回　資金管理と財務諸表
第2回　財務分析と比較
第3回　収益性の分析1
第4回　収益性の分析2
第5回　収益性の分析3
第6回　生産性の分析1
第7回　生産性の分析2
第8回　生産性の分析3
第9回　流動性の分析1
第10回　流動性の分析2
第11回　流動性の分析3
第12回　損益分岐点分析1
第13回　損益分岐点分析2
第14回　成長性の分析
第15回　まとめ　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

経営管理会計
著者:　西澤脩
出版社:　中央経済社
出版年:　　ISBN:

原価計算
著者:　西澤脩
出版社:　中央経済社
出版年:　　ISBN:

管理会計
著者:　岡本清　他
出版社:　中央経済社
出版年:　　ISBN:

情報化社会における管理会計の役割
著者:　河野充央
出版社:　税務経理協会
出版年:　　ISBN:

a50103a114

現代国家の危機

著者:　河野充央　他

出版社: 富嶽出版

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ 15 ）

参加度 （ 70 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　近藤　隆則	

テーマ

卒業論文作成に向けたグループ学習

授業の到達目標

論文の書き方、文献調査の仕方を習得することおよび各自の卒業論文のテーマを見出すこと

授業の概要

共通テーマをもつグループに分かれて、各グループでテーマについて学習しつつ、各自の卒論テーマを探求します。また、併せて、論文作成の作法や文献調査、統計処理、フィールドワークの仕方を身に着けてゆきます。

準備学習（予習・復習）

毎回、グループ学習の経過報告をしてもらいます。報告担当以外の人も積極的に発言すること。

内　　容

第1回　演習の進め方、レジュメの作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
第2回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第3回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第4回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第5回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第6回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第7回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第8回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第9回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第10回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第11回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第12回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第13回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第14回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第15回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題（　）　　授業中発表等　（ 50% ）

参加度　（ 50% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ〈＊f〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

公共経営と行政評価

授業の到達目標

1）行政評価のしくみと、公共経営におけるその意義について理解する2）資料調査の方法や、テクニカル・ライティングの方法などアカデミック・スキルの基礎を身につける。

授業の概要

授業の前半では、行政評価に関する文献を購読しつつ、事例として京都市の事務事業評価表を取り上げながら、行政評価のしくみと公共経営におけるその意義について学ぶ。授業の後半では、行政評価あるいは個々人が卒業論文で取り上げたいテーマを対象として発表を行うことを目指して、資料調査の方法やテクニカル・ライティングの基礎、スライド資料の作成、発表の仕方といったアカデミック・スキルについて学ぶ。

準備学習（予習・復習）

前半の授業においては、指定された文献を授業の当日までに読んでおく必要がある。後半では、自分が発表を担当する当日までにスライド資料と発表原稿を作成する必要がある。

内　　容

第1回　行政評価とは何か、行政評価が注目されるに至った背景
第2回　行政評価の種類と事務事業評価
第3回　事務事業評価票のしくみ
第4回　自治体の予算・決算
第5回　予算編成における事務事業評価票の利用
第6回　政策・施策評価と総合計画
第7回　資料検索の方法（1）：インターネットの利用
第8回　資料検索の方法（2）：図書館の使い方
第9回　資料検索の方法（3）：読書データベースの作成
第10回　アカデミック・ライティング（1）：論文と小説はどこが違うのか？
第11回　アカデミック・ライティング（2）：論文作成の実際
第12回　スライド資料の作り方（1）：分かりやすい資料を作る
第13回　スライド資料の作り方（2）：見やすい資料を作る
第14回　研究発表（1）
第15回　研究発表（2）　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがあります。

履修上の注意点

授業の役割は、情報交換の場、あるいは研究のペースメーカーであって、あくまでも個人個人の自主的な研究活動が中心であることを肝に銘じて取り組んでほしい。

教科書

受講生と相談の上決定する

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 10 ）	授業中発表等　（ 60 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ〈＊g〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　高原　正興

テーマ

研究課題の設定、スラムと貧困の学習とフィールドワーク、社会病理学系の講読

授業の到達目標

ゼミ生の社会学的な関心を深化させるとともに、社会病理学系に関するフィールドワークと文献講読を継続して、社会学的な素養を育成する。

授業の概要

テキストの講読・発表・討論、フィールドワークへの参加など

準備学習（予習・復習）

講読文献の予習は必須である。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　春季課題の発表（1）
第3回　春季課題の発表（2）
第4回　テキストの輪読（1）
第5回　テキストの輪読（2）
第6回　テキストの輪読（3）
第7回　テキストの輪読（4）
第8回　テキストの輪読（5）
第9回　釜ヶ崎のフィールドワーク
第10回　学生によるテキストの発表・討論（1）
第11回　学生によるテキストの発表・討論（2）
第12回　学生によるテキストの発表・討論（3）
第13回　学生によるテキストの発表・討論（4）
第14回　学生によるテキストの発表・討論（5）
第15回　学生によるテキストの発表・討論（6）

履修上の注意点

ゼミの欠席はありえないと考えること

教科書

カマやんの夢畑
著者:　ありむら潜
出版社:　明石書店
出版年:　2012　　ISBN:　7503-3549-0

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に示す
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 20% ）　　授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 40% ）
授業中課題は春季レポートの評価とフィールドワークのレポートである。

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ〈＊h〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

医療経営に関する発展的な学習

授業の到達目標

医療経営や医療政策、医療経済について知見を深める

授業の概要

グループワークやテキストを用いた発表と討論を通じて、医療経営や医療政策、医療経済について理解を深めるとともに、卒業研究のためのアカデミック・スキルの習得に努める。また、受講生が主体となって学外授業やゼミ合宿などを企画・開催する。

準備学習（予習・復習）

授業時間外において、グループワークや発表の準備、学外授業やゼミ合宿の企画を立案する。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　グループワーク（グループ分けとテーマの設定）
第3回　グループワーク（仮説とアウトラインの明確化）
第4回　グループワーク（論点の掘り下げ）
第5回　グループワーク（調査の一応のとりまとめ）
第6回　グループワーク（パワーポイント資料の作成）
第7回　グループワーク成果発表会
第8回　学外授業およびゼミ合宿の企画・準備
第9回　テキストを用いた演習
第10回　テキストを用いた演習
第11回　テキストを用いた演習
第12回　テキストを用いた演習
第13回　図書館ガイダンス（予定）
第14回　学外授業（予定）
第15回　演習全体のまとめ（ゼミ合宿）

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、学外授業やゼミ合宿、自主ゼミ等に積極的に参加すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

健康と医療の公平に挑む
著者:　松田亮三編
出版社:　勁草書房
出版年:　2009　　ISBN:　9784326700615

地域包括ケアと地域医療連携
著者:　二木立
出版社:　勁草書房
出版年:　2015　　ISBN:　9784326700875

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 50 ）

a50103a118

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ＜＊i＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　松石　泰彦	

テーマ

卒業論文作成のための文献調査方法・文章作成方法を学ぶ

授業の到達目標

卒業論文作成のための大まかなテーマを定め、作成の基礎となる調査能力・文章力を身につける。

授業の概要

専門演習Ⅰ・Ⅱでは、4回生で卒業論文を書くための準備を行う。専門演習Ⅰでは、まず基本的なレポート・論文作成方法や、統計・資料等の所在と収集方法など、卒論作成に向けた技術的方法論を学ぶ。それとともに、各個人がテーマの方向性を定めていき、その概要や文献をレポートしていく。テーマは基礎演習Ⅳの延長上で、自分の関心に応じて選んでよい。

準備学習（予習・復習）

卒業論文作成やゼミでは、学生の主体的な取り組みが大切である。また、教員も含めたメンバー間でのインタラクティブなやりとりが必要なので、他のメンバーの報告に対しても自分の報告と常に対照させながら考えること。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　文献・資料の調べ方
第3回　テクニカル・ライティング入門（1）
第4回　テクニカル・ライティング入門（2）
第5回　レポート発表Ⅰ（1）
第6回　レポート発表Ⅰ（2）
第7回　レポート発表Ⅰ（3）
第8回　中間のまとめ
第9回　レポート発表Ⅱ（1）
第10回　レポート発表Ⅱ（2）
第11回　レポート発表Ⅱ（3）
第12回　レポート発表Ⅱ（4）
第13回　レポート発表Ⅱ（5）
第14回　レポート発表Ⅱ（6）
第15回　半年間のまとめ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

他のメンバーの研究発表についても問題意識を共有し、しっかりと考え可能な範囲でアドバイスを行うこと。

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜紹介
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ＜＊j＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　李　在鎬	

テーマ

本講義では1957年～1993年までの企業の戦略論に関する代表的な論文をレビューし、議論する。

授業の到達目標

本講義履修後には、戦略論の学術的な流れを捉えた上で、各自の研究テーマとの関連性について理解できていることが求められる。

授業の概要

定評ある論文集を輪読・発表し合いながら、企業の成長や存続に関する重大な意思決定である戦略的意思決定分野における主流を俯瞰する。

準備学習（予習・復習）

報告者は必ず事前にリハーサルを行ってから、発表に臨むこと。

内　　容

第7回　学生による報告2-3件（各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論）
第8回　学生による報告2-3件（各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論）
第9回　学生による報告2-3件（各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論）
第10回　学生による報告2-3件（各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論）
第11回　学生による報告2-3件（各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論）
第12回　学生による報告2-3件（各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論）
第13回　学生による報告2-3件（各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論）
第14回　全体の総括、経営現場の見学または理解度チェック※尚、この授業では、必要に応じて学外授業、合宿を行うことがある。
第15回　全体の総括、経営現場の見学または理解度チェック※尚、この授業では、必要に応じて学外授業、合宿を行うことがある。
第1回　授業概要、報告とレジュメ作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
第2回　学生による報告2-3件（各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論）
第3回　学生による報告2-3件（各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論）
第4回　学生による報告2-3件（各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論）
第5回　学生による報告2-3件（各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論）
第6回　学生による報告2-3件（各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論）

履修上の注意点

2/3以上の出席が成績評価の前提条件になる。

教科書

戦略論1957－1993
著者:　DIAMONDハーバード・ビジネス・レビュー編集部
出版社:　ダイヤモンド社
出版年:　2010年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 55 ）
参加度　（ 45 ）
基本的に2回以上の発表、積極的な議論への参加が求められる。

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ〈＊救急〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　夏目　美樹.北小屋　裕.関根　和弘.千田　いずみ.深澤　雄二.福岡　範恭	

テーマ

公務員試験対策

授業の到達目標

救急救命士の最大就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学および時事問題等の理解を目指す。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　ガイダンス、公務員試験対策
第2回　公務員試験対策
第3回　公務員試験対策
第4回　公務員試験対策
第5回　公務員試験対策
第6回　公務員試験対策
第7回　公務員試験対策
第8回　公務員試験対策
第9回　公務員試験対策
第10回　公務員試験対策
第11回　公務員試験対策
第12回　公務員試験対策
第13回　公務員試験対策
第14回　公務員試験対策
第15回　まとめ

履修上の注意点

講義参加度および授業中課題の提出度が規定に達していない者は成績評価を実施しない。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 100 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ〈＊a〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　今井 まりな

テーマ

グループ論文の執筆

授業の到達目標

グループで論文を執筆することを通じて、一連の論文執筆プロセスを学習する。報告とディスカッションを通じて、プレゼンテーションスキル並びにコミュニケーションスキルを養成する。一つの論文を複数のメンバーで執筆することで、長期的な目標を計画的かつ組織的に達成するプロセスを経験する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。※進捗状況に応じて、授業内容を変更することがある。

内　容

第1回　前期の復習
第2回　事例研究の検討
第3回　先行研究レビュー（グループ1,2）
第4回　先行研究レビュー（グループ3,4）
第5回　インタビュー調査（グループ1,2）
第6回　インタビュー調査（グループ3,4）
第7回　目次構成の検討（グループ1,2）
第8回　目次構成の検討（グループ3,4）
第9回　中間報告（グループ1,2）
第10回　中間報告（グループ3,4）
第11回　グループ1の論文の検討会
第12回　グループ2の論文の検討会
第13回　グループ3の論文の検討会
第14回　グループ4の論文の検討会
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ〈＊b〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　今久保 幸生

テーマ

現代日本経済の研究(2)・卒業論文に関する報告

授業の到達目標

第一に、グローバル化の進展のなかでの、現代の日本経済の変化の諸相を把握することにより、現代の経済社会における学生たち自身の立ち位置を確実なものにさせる。第二に、演習の途中からは、卒論のテーマに関する報告を行わせる。

授業の概要

教科書を順に輪読して、討論を行う。卒業論文に関しては、テーマや問題意識などに関する報告を主とする。

準備学習（予習・復習）

教科書の予習・復習を行うほか、参考書や新聞などでの時事問題の学習を行うことが奨められる。この段階では、とくに卒論も意識した予習・復習が重要となる。

内　容

第1回　オリエンテーション　ゼミの進め方の相談
第2回　第13章 少子高齢化と社会保障
第3回　第14章 人口構造の変化と日本経済
第4回　第15章 東日本大震災後の日本経済と地域の振興
第5回　卒業論文のテーマに関する報告(1)
第6回　卒業論文のテーマに関する報告(2)
第7回　卒業論文のテーマに関する報告(3)
第8回　卒業論文のテーマに関する報告(4)
第9回　卒業論文のテーマに関する報告(5)
第10回　卒業論文のテーマに関する報告(6)
第11回　卒業論文のテーマに関する報告(7)
第12回　卒業論文のテーマに関する報告(8)
第13回　卒業論文のテーマに関する報告(9)
第14回　卒業論文のテーマに関する報告(10)
第15回　ゼミのまとめ

履修上の注意点

教科書は必ず各自一冊ずつ準備し、毎回持参すること。教科書を準備していない学生の受講は認めない。3回を超えて無断欠席した学生には単位を出さない。やむを得ず欠席する場合は必ず事前に担当教員に連絡すること。部活・就活による欠席は出席扱いとはしない。

教科書

最新日本経済入門[第5版]
著者:　小峰隆夫他
出版社:　日本評論社
出版年:　2016　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 70 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ〈＊c〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　　片岡　裕介

テーマ

卒業論文に向けた研究テーマおよび研究計画の設定

授業の到達目標

自分が取り組もうとする問題の研究意義を明確にするとともに、問題の他者との共有にあたって情報を適切に伝達できるようになること。

授業の概要

前半は、前期におこなった文献調査で得られた知識も参考にしつつ、各自で課題研究に取り組む。後半は、卒業論文のテーマの設定および研究計画書の作成をおこなう。

準備学習（予習・復習）

卒業論文を意識した研究に対する姿勢が求められる。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　研究デザインの方法(1)
第3回　研究デザインの方法(2)
第4回　課題研究(1)
第5回　課題研究(2)
第6回　課題研究(3)
第7回　課題研究(4)
第8回　課題研究の講評
第9回　卒業論文のテーマの設定(1)
第10回　卒業論文のテーマの設定(2)
第11回　卒業論文のテーマの設定(3)
第12回　研究計画書の作成(1)
第13回　研究計画書の作成(2)
第14回　研究計画書の作成(3)
第15回　研究計画の講評

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等　（ 60 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ〈＊d〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　河野　充央	

テーマ

企業経営と管理会計

授業の到達目標

会計によるマネジメントの意義を理解する。

授業の概要

卒論のテーマ選択につながるような学習を行う。必要に応じて，工場見学等の学外学習を行う。

準備学習（予習・復習）

復習は必ず行うこと。その他については，随時指示する。

内　　容

第1回　企業の利害関係者と経済的情報
第2回　企業経営と企業目標
第3回　経営管理者の職能
第4回　管理会計の目的1
第5回　管理会計の目的2
第6回　管理会計の目的3
第7回　管理会計担当者の役割
第8回　コストマネジメントの体系
第9回　戦略プランニングとコストマネジメント1
第10回　戦略プランニングとコストマネジメント2
第11回　戦略的コントロールとコストマネジメント1
第12回　戦略的コントロールとコストマネジメント2
第13回　管理的プランニングとコストマネジメント
第14回　管理的コントロールとコストマネジメント
第15回　まとめと卒論作成へ向けての指導　※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

情報化社会における管理会計の役割
著者：　河野充央
出版社：税務経理協会
出版年：　　ISBN：

経営管理会計
著者：　西澤脩
出版社：中央経済社
出版年：　　ISBN：

管理会計
著者：　岡本清　他
出版社：中央経済社
出版年：　　ISBN：

原価計算
著者：　岡本清
出版社：国元書房
出版年：　　ISBN：

a50103a254

ケースブック・コストマネジメント

著者:　加登豊　他

出版社: 新世社

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ 15 ）

参加度 （ 70 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　近藤　隆則	

テーマ

卒業論文の作成に向けた本格的な準備

授業の到達目標

各自の卒業論文のテーマを決め、目次案を作成すること

授業の概要

共通テーマをもつグループに分かれて、各グループでテーマについて学習しつつ、各自の卒論テーマを決め、構想と目次を固めてゆきます。また、引き続き、論文作成の作法や文献調査、統計処理、フィールドワークの仕方も学びます。

準備学習（予習・復習）

前半は、グループ学習の経過報告をしてもらいます。後半は、各自のテーマについて報告し、その都度軌道修正してゆきます。報告担当以外の人も積極的に発言すること。

内　　容

第1回　演習の進め方、レジュメの作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
第2回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第3回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第4回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第5回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第6回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第7回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第8回　担当グループによる報告と討論（報告担当のグループはレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第9回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第10回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第11回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第12回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第13回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第14回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）
第15回　報告担当者による報告と討論（報告担当者はレジュメを配布し調査・学習の成果を報告する。その後、質疑応答と議論）

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50% ）

a50103a255

参加度 （ 50% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ＜＊f＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

公共経営の実際を学ぶ

授業の到達目標

1）公共経営のしくみや課題を理解する2）資料を作成して発表する技術を身に付ける

授業の概要

京都市事務事業評価サポーター制度に参加し、複数事業の事務事業評価票を検討したり、所管課からヒアリングを行ったりする中で公共経営の仕組みや、行政を取り巻く課題について学ぶ。また、検討した内容についてスライド資料を作成し、発表することでプレゼンテーションの技術を実践的に身につける。（京都市事務事業評価サポーター制度に参加できなかった場合には、これに準じた内容を可能な限り近隣の自治体と協同で行うこととします。その場合、授業の計画は変更されます。）

準備学習（予習・復習）

グループで事務事業評価表を検討する前に、個人で評価票を検討するとともに当該事業について京都市の資料を検索して当該事業についての調査を行う。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　事務事業評価表の検討と所管課からのヒアリング（1）
第3回　事務事業評価表の検討と所管課からのヒアリング（2）
第4回　事務事業評価表の検討と所管課からのヒアリング（3）
第5回　事務事業評価表の検討と所管課からのヒアリング（4）
第6回　発表の対象とする事務事業の選択
第7回　発表原稿とスライド資料の作成（1）
第8回　発表原稿とスライド資料の作成（2）
第9回　発表原稿とスライド資料の作成（3）
第10回　発表原稿とスライド資料の作成（4）
第11回　リハーサル
第12回　リハーサルを受けての修正（1）
第13回　リハーサルを受けての修正（1）
第14回　本番リハーサルと発表内容の修正
第15回　事務事業評価委員会での発表

履修上の注意点

授業の役割は、情報交換の場、あるいは研究のペースメーカーであって、あくまでも個人個人の自主的な研究活動が中心であることを肝に銘じて取り組んでほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ〈＊g〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　高原　正興

テーマ

研究課題の深化とテキストの講読

授業の到達目標

ゼミ生の社会学的な関心をより深化させるとともに、テキストの講読を通して社会学的な素養を高め、卒業論文のテーマを考える。

授業の概要

夏季課題の報告、テキストの講読・発表・討論（合宿を含む）、4回生の卒論中間発表会への参加

準備学習（予習・復習）

テキストの予習は必須である。

内　容

第1回　後期ガイダンス
第2回　夏季課題の報告（1）
第3回　夏季課題の報告（2）
第4回　テキストの講読・発表・討論（1）
第5回　テキストの講読・発表・討論（2）
第6回　テキストの講読・発表・討論（3）
第7回　4回生の卒論中間発表会への参加
第8回　テキストの講読・発表・討論（4）
第9回　テキストの講読・発表・討論（5）
第10回　テキストの講読・発表・討論（6）
第11回　テキストの講読・発表・討論（7）
第12回　テキストの講読・発表・討論（8）
第13回　テキストの講読・発表・討論（9）
第14回　テキストの講読・発表・討論（10）
第15回　まとめと春休み課題の提示

履修上の注意点

ゼミの欠席はありえないと考えること。テキストは教員が著者割引で直接販売する。

教科書

関係性の社会病理
著者:　日本社会病理学会編
出版社:　学文社
出版年:　2016　　ISBN:

参考書

授業中に示す
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 20% ）　　授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 40% ）
授業中課題は夏季課題のレポートである。

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ〈＊h〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

医療経営についての発展的学習

授業の到達目標

医療経営についての知見を深めるとともに、各自の卒業研究のテーマを明確にする

授業の概要

グループワークおよびテキストを用いた発表と討論を通じて、医療経営や医療政策、医療経済に関する知見を深めるとともに、アカデミック・リテラシーを習得し、各自の卒業研究に向けてテーマ設定を行う。他大学生との合同ゼミ合宿も企画する。

準備学習（予習・復習）

授業時間以外に、グループワークやテキストを用いた発表のための準備を行う。また、受講生は主体的に自主ゼミを運営する。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　グループワーク
第3回　グループワーク
第4回　グループワーク
第5回　グループワーク
第6回　グループワーク
第7回　卒業研究中間発表会（4回生と合同）
第8回　卒業研究中間発表会（4回生と合同）
第9回　グループワーク成果発表会（予定）
第10回　テキストを用いた演習
第11回　テキストを用いた演習
第12回　テキストを用いた演習
第13回　テキストを用いた演習
第14回　キャリア講演会（予定）
第15回　演習全体のまとめ（他大学との合同ゼミ合宿を予定）

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、学外授業やゼミ合宿、自主ゼミ等に積極的に参加すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

地域包括ケアと地域医療連携
著者:　二木立
出版社:　勁草書房
出版年:　2015　　ISBN:　9784326700875

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ＜＊i＞**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　　松石　泰彦

テーマ

卒業論文作成に向けた研究とその報告

授業の到達目標

卒業論文作成の構想を立てる

授業の概要

専門演習Ⅰに引き続き、卒業論文作成にむけた準備を行う。各自が自分自身で決めたテーマのもとで資料や文献の調査と収集を行いつつ、特に文献を基にした論点整理を進める。そしてそれらの進捗状況をそれぞれ報告する。

準備学習（予習・復習）

卒業論文作成やゼミと、就職活動は必ずしもトレードオフの関係ではない。自ら卒論に取り組む姿勢や、資料や材料を集めて説得力のあるものを作ることは、社会人に向けて重要な素養であることを認識して取り組んで欲しい。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　テクニカル・ライティング実践（1）
第3回　テクニカル・ライティング実践（2）
第4回　プレゼンテーションの技術
第5回　卒業論文計画発表Ⅰ（1）
第6回　卒業論文計画発表Ⅰ（2）
第7回　卒業論文計画発表Ⅰ（3）
第8回　中間のまとめ
第9回　卒業論文計画発表Ⅱ（1）
第10回　卒業論文計画発表Ⅱ（2）
第11回　卒業論文計画発表Ⅱ（3）
第12回　卒業論文計画発表Ⅱ（4）
第13回　卒業論文計画発表Ⅱ（5）
第14回　卒業論文計画発表Ⅱ（6）
第15回　まとめ※必要に応じて学外学習を取り入れる

履修上の注意点

教科書

参考書

適宜紹介

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題（　）　　授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ ＜＊j＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　平尾　毅	

テーマ

ケース・メソッドを学ぶ。

授業の到達目標

ケース分析の方法を修得し、問題の発見と解決策の提案ができる。

授業の概要

経営学の専門知識は実際のビジネスの現場で生かされて意味を持つ。そのためには、インプットをアウトプットに変えるための思考トレーニングが必要です。このゼミでは、分析枠組みを確認した上で、グループワークで実際の企業を分析し、発表し、ディスカッションしていきます。

準備学習（予習・復習）

教科書と配布資料の予習をして授業に臨んでください（1時間程度）。また、復習としてケース・ディスカッションのコメントを踏まえてケースレポートを毎回作成してください（2時間程度）。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　分析ツール（1）財務・会計
第3回　分析ツール（2）マーケティング
第4回　分析ツール（3）組織
第5回　分析ツール（4）戦略
第6回　ケース分析の具体例
第7回　グループワーク：ケース分析（1）
第8回　ケース発表・ディスカッション（1）
第9回　グループワーク：ケース分析（2）
第10回　ケース発表・ディスカッション（2）
第11回　グループワーク：ケース分析（3）
第12回　ケース発表・ディスカッション（3）
第13回　グループワーク：ケース分析（4）
第14回　ケース発表・ディスカッション（4）
第15回　まとめ：最終ケースレポート

履修上の注意点

ケース・ディスカッションは様々なコメントを通じて自らの思考力を磨く機会なので、積極的な参加姿勢（発言等）が求められます。

教科書

MBAのためのケース分析（改訂版）
著者：　小樽商科大学ビジネススクール
出版社：　同文館出版
出版年：　2010年　　ISBN：　978-4495372620

参考書

戦略分析ケースブック
著者：　沼上幹・一橋MBA戦略ワークショップ
出版社：　東洋経済新報社
出版年：　2011年　　ISBN：　978-4492521946

戦略分析ケースブック Vol.2
著者：　沼上幹・一橋MBA戦略ワークショップ
出版社：　東洋経済新報社
出版年：　2012年　　ISBN：　978-4492522066

a50103a260

戦略分析ケースブック Vol.3

著者:　沼上幹・一橋MBA戦略ワークショップ

出版社: 東洋経済新報社

出版年: 2013年　　ISBN:　978-4492522103

一橋MBA戦略ケースブック

著者:　沼上幹・一橋MBA戦略ワークショップ

出版社: 東洋経済新報社

出版年: 2015年　　ISBN:　978-4492522134

ケース・スタディ日本企業事例集

著者:　ハーバード・ビジネス・スクール(著)・日本リサーチ・センター(編)

出版社: ダイヤモンド社

出版年: 2010年　　ISBN:　978-4478006740

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）

授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 40 ）

参加度 （ 20 ）

「授業中課題」40%は最終ケースレポートの評価です。

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ〈＊救急〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　夏目　美樹.北小屋　裕.関根　和弘.千田　いずみ.深澤　雄二.福岡　範恭	

テーマ

公務員試験対策

授業の到達目標

救急救命士の最大就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学および時事問題等の理解を目指す。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　ガイダンス、公務員試験対策
第2回　公務員試験対策
第3回　公務員試験対策
第4回　公務員試験対策
第5回　公務員試験対策
第6回　公務員試験対策
第7回　公務員試験対策
第8回　公務員試験対策
第9回　公務員試験対策
第10回　公務員試験対策
第11回　公務員試験対策
第12回　公務員試験対策
第13回　公務員試験対策
第14回　公務員試験対策
第15回　まとめ

履修上の注意点

講義参加度および授業中課題の提出度が規定に達していない者は成績評価を実施しない。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 100 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**薬理学(救)**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　天野　博夫	

テーマ

日常生活と薬・救急医療と薬

授業の到達目標

「薬の働き」との関連から、人間の生理機能やその障害に関する理解を深める。日常生活と薬の存在に関して、「有効性」と「安全性」の意味を認識できる。

授業の概要

前半7回は薬理学に関する基本的な概念を中心に、後半は救急医療に関連の深い薬物の働きを中心に解説する。

準備学習(予習・復習)

その日の講義内容がこれまでに他の科目で学んだ事柄に関連していないかを思い出してみることが望ましい。

内　容

第1回　基礎知識の確認と整理1
第2回　基礎知識の確認と整理2
第3回　薬理作用の基礎・薬の作用点
第4回　薬物投与と薬物動態1
第5回　薬物投与と薬物動態2
第6回　自律神経系作用薬1
第7回　自律神経系作用薬2・ホルモン
第8回　薬物の有害作用
第9回　中毒
第10回　心肺蘇生の薬理
第11回　救急医療の薬理1
第12回　救急医療の薬理2
第13回　よく用いられる日常薬1
第14回　よく用いられる日常薬2
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

救急救命士標準テキスト 第2巻
著者:
出版社: へるす出版
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 (100)　　小テスト ( )
授業中課題 ( )　　授業中発表等 ( )
参加度 ( )

2016 Syllabus

科 目 名　**救急症候学Ⅲ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定

担 当 者　冨士原　彰.大石　泰男.小畑　仁司.西本　泰久

テーマ

症候別に病態を学ぶ

授業の到達目標

救急症候・病態生理学

授業の概要

救急で遭遇する救急疾患

準備学習（予習・復習）

救急救命士テキストの該当する箇所を予習しておくこと。講義終了後は不明な点をなくしておくこと。

内　容

第1回　胸痛・動悸・不整脈　【大石　泰男】
第2回　心肺停止①　【西本　泰久】
第3回　喀血・痙攣　【大石　泰男】
第4回　心肺停止②　【西本　泰久】
第5回　意識障害　【小畑　仁司】
第6回　頭痛・めまい　【小畑　仁司】
第7回　運動障害･感覚障害　【小畑　仁司】
第8回　ショック・循環不全　【西本　泰久】
第9回　喀血・痙攣　【大石　泰男】
第10回　呼吸困難・発熱　【西本　泰久】
第11回　性器出血・鼻出血　【大石　泰男】
第12回　腹痛・吐下血・血尿　【冨士原　彰】
第13回　嘔吐・下痢・歯痛　【冨士原　彰】
第14回　鑑別診断（外科）　【冨士原　彰】
第15回　まとめ　【冨士原　彰】

履修上の注意点

外部講師の講義もあるため真摯に授業を受けること。

教科書

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　上巻
著者：　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社：へるす出版
出版年：2015　　ISBN：　9784892698699
救急救命士標準テキスト　改訂第9版　下巻
著者：　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社：へるす出版
出版年：2015　　ISBN：　9784892698705

参考書

成績評価

試験　（ 20 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**救急症候学Ⅳ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　石津　恒彦.田中　英夫	

テーマ

整形外科・脳神経外科の病態を学ぶ

授業の到達目標

整形外科・脳神経外科の病態を学び救急処置ができるようになる。

授業の概要

救急で遭遇する外傷

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　スポーツ外傷①　解剖・発生機序と病態
第2回　スポーツ外傷②　症状と観察、判断・応急処置等
第3回　皮膚・軟部組織外傷①　局所解剖、皮膚の損傷
第4回　皮膚・軟部組織外傷②　皮膚の損傷、特殊な外傷
第5回　骨盤・四肢外傷①　骨盤骨折
第6回　骨盤・四肢外傷②　四肢外傷
第7回　脳神経①　神経系の構造・機能、観察・判断等
第8回　脳神経②　応急処置、おもな疾患等
第9回　脊椎・脊髄外傷①　解剖、発生機序、主な外傷
第10回　脊椎・脊髄外傷②　症状と観察・応急処置、運送等
第11回　筋・骨格系の疾患①　構造と機能、観察と判断
第12回　筋・骨格系の疾患②　おもな疾患、応急処置と搬送
第13回　腰痛・背部痛①　原因と解剖生理、問診のポイント
第14回　腰痛・背部痛②　観察と判断、応急処置・搬送等
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

救急救命士標準テキスト第9版 上巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へうrす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698699
救急救命士標準テキスト第9版 下巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698705

参考書

成績評価

試験　（ 20 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度　（ 0 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**救急処置各論Ⅰ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　西本　泰久.西本　香王里	

テーマ

授業の到達目標

薬剤投与とメディカルコントロール

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　心肺停止前後の病態
第2回　特定行為が適応となる心肺停止の病態
第3回　薬物の作用
第4回　薬物の吸収・代謝・排泄
第5回　薬剤の投与経路と投与法、薬物の有害作用
第6回　薬剤の投与の原則、薬事法と医薬品
第7回　輸液製剤、自律神経薬
第8回　心肺停止に用いられる代表的な薬剤
第9回　医療機関で行われる二次救命処置
第10回　心肺停止と特定行為のプロトコル1
第11回　心肺停止と特定行為のプロトコル2
第12回　事後検証とウツタイン様式
第13回　救急救命処置とメディカルコントロール1
第14回　救急救命処置とメディカルコントロール2
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

救急救命士標準テキスト
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**救急処置各論Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　関根　和弘.久保山　一敏	

テーマ

応急処置各論と重症度・緊急度判断

授業の到達目標

救急救命士の行う処置の実践を学ぶ。呼吸、循環、特に外傷に関する処置の他、体位管理や体温管理、災害時に必要となる処置についても学習する。重症度・緊急度の判断方法についても説明し重症外傷傷病者の救命に重要な現場活動の基礎、そして評価と観察、重症度・緊急度の判断と車内での活動、必要な処置を習得する。この他救急隊員の安全管理についても理解を深める。

授業の概要

講義及び実習

準備学習（予習・復習）

救急救命士標準テキスト分野　外傷救急医学、環境障害・急性中毒を熟読しておくこと。

内　　容

第1回　我が国における災害時の救急医療体制
第2回　災害現場における現場活動
第3回　災害医療における救急救命士の業務
第4回　外傷学総論
第5回　受傷機転、全身所見の観察
第6回　局所所見の観察、重症度・緊急度の判断
第7回　外傷性ショック
第8回　頭部、顔面、頸部外傷
第9回　脊椎・脊髄外傷
第10回　胸部外傷、腹部外傷
第11回　骨盤・四肢外傷
第12回　皮膚・軟部組織外傷、多発外傷
第13回　妊婦、小児・高齢者の外傷
第14回　救急業務における応急処置各論と重症度・緊急度判断まとめ
第15回　総括・救急現場活動に対する観察要領と評価・判断のまとめ

履修上の注意点

救命救急センターに勤務している救急医の講義である。実際の現場や臨床の診察や処置のことを授業として聴講できる重要な講義である。無断欠席は試験の受講を認めない。

教科書

救急隊員標準テキスト　改訂第3版
著者：　救急隊員用教本作成委員会
出版社：へるす出版
出版年：2007　　ISBN：9784892695902

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　上巻
著者：　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社：へるす出版
出版年：2015　　ISBN：9784892698699

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　下巻
著者：　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社：へるす出版
出版年：2015　　ISBN：9784892698705

参考書

成績評価

a50103a750

試験 （ 100 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

60%以上

2016 Syllabus

科 目 名　**救急症候学Ⅴ**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　　員　50

履修条件　　クラス指定

担 当 者　久保山　一敏

テーマ

顔面・頸部の外傷（＆疾患）

授業の到達目標

①顔面・頸部外傷の特殊な事情について説明できる。②顔面の主な損傷形態について列挙し、説明できる。③頚部の主な損傷形態について列挙し、説明できる。④顔面・頸部外傷において緊急度が高い状況を列挙できる。

授業の概要

授業内容に関する小テストを不定期に行う。

準備学習（予習・復習）

毎回の講義内容の復習を中心に行うこと【復習時間：30分】

内　容

第1回　顔面・頚部の組織（解剖？）と機能
第2回　顔面の外傷
第3回　顔面軟部組織損傷
第4回　顔面骨骨折
第5回　眼外傷
第6回　耳損傷
第7回　鼻損傷・鼻出血
第8回　口唇・口腔・舌損傷
第9回　歯痛、頸部外傷
第10回　症状と観察1
第11回　〃　2
第12回　判断と応急処置1
第13回　〃　2
第14回　まとめ1
第15回　〃　2
第16回　試験

履修上の注意点

教科書

改訂第9版救急救命士標準テキスト
著者：
出版社：へるす出版
出版年：2015　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト（ 30% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 10% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**救急症候学Ⅵ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西本　泰久	

テーマ

授業の到達目標

救急症候・病態生理学

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　処置拡大の変遷と新たな処置拡大についての概要。傷病者への説明と医療倫理について。
第2回　糖尿病の病態と治療。低血糖の病態。
第3回　ブドウ糖の投与と合併症。意識障害をきたす疾患とその鑑別。
第4回　各種ショック等の病態と治療
第5回　ショックの原因別の分類・鑑別と輸液の効果。輸液と生体の反応と合併症。
第6回　メディカルコントロールとオンラインでの傷病者情報の効率的な伝達。
第7回　血糖測定に関する基本的手技
第8回　静脈路確保と輸液に関する基本的手技
第9回　静脈路確保と輸液に関する基本的手技
第10回　血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与のシナリオ訓練
第11回　血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与のシナリオ訓練
第12回　心肺機能停止前の静脈路確保と輸液のシナリオ訓練
第13回　心肺機能停止前の静脈路確保と輸液のシナリオ訓練
第14回　まとめ
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

救急救命士標準テキスト
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**小児科学(救)**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　吉田 匡人	

テーマ

小児科学

授業の到達目標

小児救急医療の特性

授業の概要

小児における救急疾患を学ぶ

準備学習(予習・復習)

救急救命士標準テキストに準じる

内　容

第1回　小児の特徴
第2回　観察と判断 応急処置と搬送法
第3回　おもな疾患 1熱性痙攣 4髄膜炎　5脳症、脳炎
第4回　おもな疾患 2クループ、急性喉頭蓋炎 3喘息
第5回　おもな疾患 6腸重積 7溶血性尿毒症症候群 8乳幼児突然死症候群
第6回　おもな疾患 9川崎病 10発疹性感染症 11流行性耳下腺炎 12伝染性膿か疹 13 ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群
第7回　おもな疾患 14被虐待児症候群
第8回　まとめ
第9回　試験

履修上の注意点

教科書

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　上巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698699
救急救命士標準テキスト　改訂第9版　下巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698705

参考書

成績評価

試験　(50)	小テスト　(0)
授業中課題　(0)	授業中発表等　(25)
参加度　(25)	

2016 Syllabus

科 目 名　**精神医学(救)**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　竹村　隆太	

テーマ

精神医学総論(ICD10に準拠し、具体的なケースを通じた精神疾患の病態への理解、精神医学の歴史、関連する社会制度など)

授業の到達目標

様々な精神疾患について具体的なイメージが持て、救急救命の現場に生かせるようになること

授業の概要

講義形式、スライドの提示、プリントの配布

準備学習(予習・復習)

精神医学に関連した、ご自身が興味の持てるテーマを一つ決めて追求してみましょう。第8回目のテスト時に、その成果を記述していただいても構いません。

内　容

第1回　精神医学総論(関連する社会制度、その歴史、対象となる状態像:興奮・混迷・自殺企図ほか)
第2回　いろいろな病態　①統合失調症圏
第3回　いろいろな病態　②躁うつ病圏
第4回　いろいろな病態　③神経症圏、児童･青年期精神障害、人格障害
第5回　いろいろな病態　④薬物依存、老年期精神障害
第6回　いろいろな病態　⑤摂食障害、児童青年期精神障害
第7回　いろいろな病態　⑥器質性精神障害など
第8回　テスト

履修上の注意点

受講のマナー:学外の医師の講義である。実際の現場や臨床の診察、傷病者の状態などを聴講できる重要な機会である。講師に対して失礼のない授業態度を期待する。無断欠席は試験の受講を認めない。

教科書

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　上巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698699

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　下巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698705

参考書

成績評価

試験　(50)	小テスト　( )
授業中課題　( )	授業中発表等　( )
参加度　(50)	

2016 Syllabus

科 目 名　**産婦人科学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　常田　裕子	

テーマ

臨床産科学

授業の到達目標

救急救命士に必要な産科・周産期救急医療を学ぶと共に、臨床産科学・婦人科学を学ぶ。

授業の概要

講義を通して、妊娠期・分娩期・産褥期の女性と胎児・新生児の正常な状態と病態を学ぶ。演習を通して、救急搬送時に必要となる病歴の聴取方法、観察項目・方法、対処方法について、理解を深める。そして医療機関の選定や搬送時に注意すべき事項などについて理解を深める。

準備学習（予習・復習）

・各授業回に該当する教科書の内容は事前に確認する。・演習（将来的な実践）に向けて講義内容を復習する。

内　容

第1回　我が国の産科（周産期）救急医療の実態
第2回　生殖器の解剖・生理・妊娠時の母体と胎児の変化（1）
第3回　妊娠時の母体と胎児の変化（2）
第4回　分娩経過（1）
第5回　分娩経過（2）産後の変化
第6回　周産期医療にかかわる搬送とその対応（演習）
第7回　周産期医療にかかわる搬送とその対応（演習）
第8回　婦人科疾患とまとめ

履修上の注意点

事前課題を期日までに提出の上、履修ください。「わが国の周産期救急」に関するメディア、新聞などの記事を1つ以上集めてレポートする（A4レポート用紙2枚以内）本科目は実習を伴いますので、座学を欠席し実習に参加するだけの知識を有しないと判断した場合、実習に参加させないことがありますので注意して下さい。

教科書

改訂第9版 救急救命士標準テキスト 上巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集員会
出版社:　株式会社　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:

改訂第9版 救急救命士標準テキスト 下巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集員会
出版社:　株式会社　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

病気がみえる10　産科
著者:　井上裕美ら編
出版社:　メディックメディア
出版年:　2013　　ISBN:

改訂7版　母子保健マニュアル
著者:　高野陽編
出版社:　南山堂
出版年:　2010　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**救急救命実習（同乗）**

クラス		配当回生	学部3回生
講義期間	秋期集中	定　　員	50
履修条件	「救急救命実習Ｖ」を修得済みであること	クラス指定	
担 当 者	関根　和弘.北小屋　裕.千田　いずみ.夏目　美樹.深澤　雄二.福岡　範恭		

テーマ

救急車同乗実習

授業の到達目標

救急車同乗実習により、実際の救急現場活動を見学することによって、出動から現場活動、搬送、医療機関引き継ぎ、救急活動記録記載や救急訓練などの救急業務について習得することを目的とする。

授業の概要

救急車同乗実習協力消防本部にて、実際の救急隊に同乗し救急車出場から現場対応、救急車内活動・搬送、病院における活動を体験する。

準備学習（予習・復習）

救急隊の活動の概要をwebや様々な媒体で調査しておくこと。現場活動を実施した症例は、テキスト等で確認すること。

内　　容

第1回　事前学習及びガイダンス
第2回　救急車同乗実習
第3回　救急車同乗実習
第4回　救急車同乗実習
第5回　救急車同乗実習
第6回　救急車同乗実習
第7回　救急車同乗実習
第8回　救急車同乗実習

履修上の注意点

この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。集中講義を行うこともある。

教科書

参考書

救急隊員標準テキスト　改訂第3版
著者：　救急隊員用教本作成委員会
出版社：へるす出版
出版年：2007　　ISBN：　9784892695902

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　上巻
著者：　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社：へるす出版
出版年：2015　　ISBN：　9784892698699

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　下巻
著者：　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社：へるす出版
出版年：2015　　ISBN：　9784892698705

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題（　）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 80 ）
各消防本部からの個人の報告受けて評価を実施する。60%

2016 Syllabus

科 目 名　**救急救命実習（病院）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年集中	定　　員　50
履修条件　「救急救命実習Ｖ」を修得済みであること	クラス指定
担 当 者　夏目　美樹.北小屋　裕.関根　和弘.千田　いずみ.深澤　雄二.福岡　範恭	

テーマ

医療機関の現場にて展開される救急医療の現状の把握およびそれらに必要な技術の習得。

授業の到達目標

救急医療に関連した知識の応用と救急救命処置に係る技術の習得を主体とすること。さらに既習の知識および技術を駆使し介助等を通じて診療の補助に対する理解を深め観察・判断能力を高めることを目的とする。

授業の概要

実習先医療機関の指示による。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　学内オリエンテーション、成人看護座学
第2回　学内成人看護演習
第3回　夏期病院実習
第4回　春期病院実習
第5回　各期病院実習後報告検討会

履修上の注意点

この単位履修は、救急救命実習Ⅲの履修状況および履修態度身だしなみとうが実習に不適切と担当教員が判断した場合および、成人看護座学演習に欠席した者は、実習に参加することは出来ない。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）
医療機関実習担当者の評価を参考にする。

Syllabus

科 目 名　**仕事研究Ⅰ〈Z〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**仕事研究Ⅱ <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**管理会計論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　河野　充央	

テーマ

マネジメントの本質を理解する

授業の到達目標

管理会計を通して，組織のリーダーが何を行っているのかということを学ぶ

授業の概要

テキスト以外に，経済記事を活用しながら，常にグローバルビジネスの最前線に目を向けながら講義を進める。スケジュール等において，可能であれば，経営者をゲストスピーカーに招く場合もある。

準備学習（予習・復習）

復習を必ずして，次の講義へ臨んでもらいたい。

内　容

第1回　ガイダンス会計的思考と管理会計
第2回　財務諸表の分析1
第3回　財務諸表の分析2
第4回　短期利益計画1
第5回　短期利益計画2
第6回　予算編成と予算統制
第7回　事業部業績評価
第8回　コストダウンの方法
第9回　投資意思決定の諸問題1
第10回　投資意思決定の諸問題2
第11回　在庫費用の管理1
第12回　在庫費用の管理2
第13回　マーケティング会計
第14回　経営戦略と管理会計
第15回　まとめ

履修上の注意点

私語は，厳に慎んで下さい。他の受講者にとって，これ以上の迷惑はありません。

教科書

管理会計を語る
著者：　西澤脩
出版社：中央経済社
出版年：　　ISBN：

参考書

経営管理会計
著者：　西澤脩
出版社：中央経済社
出版年：　　ISBN：

管理会計
著者：　岡本清　他
出版社：中央経済社
出版年：　　ISBN：

情報化社会における管理会計の役割
著者：　河野充央
出版社：税務経理協会
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験 （ 40 ）
小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 10 ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**臨床医学総論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　久保山　一敏	

テーマ

授業の到達目標

診療情報管理士認定試験レベルの臨床医学の知識を身につける。

授業の概要

この授業では、解剖生理学や臨床医学などを通して学んできた人体の構造と機能、さまざまな組織や器官の疾病と診断名、治療方法などについて、診療記録を管理するのに必要な専門用語をキーワードとして、医学と医療に関するこれまでの学習のまとめを行う。また、授業の前半では、先天奇形や染色体異常、および外傷、中毒についても講義する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　先天奇形、変形+および染色体異常：1．神経系の先天奇形～5．消化器系のその他の先天奇形
第2回　同上　：6．生殖器の先天奇形～9．染色体異常、他に分類されないもの
第3回　損傷、中毒、その他の外因の影響：1．軟部組織の損傷
第4回　同上　：2．各部位の損傷
第5回　同上　：3．薬物、薬剤および生物学的製剤による中毒、4．薬用を主としない物質の毒作用
第6回　「医学用語」：臨床医学各論｜のまとめを行いながら、医学用語を解説する
第7回　同上　：臨床医学各論Ⅰのまとめを行いながら、医学用語を解説する
第8回　同上　：臨床医学各論Ⅱのまとめを行いながら、医学用語を解説する
第9回　同上　：臨床医学各論Ⅲのまとめを行いながら、医学用語を解説する
第10回　同上　：臨床医学各論Ⅳのまとめを行いながら、医学用語を解説する
第11回　同上　：臨床医学各論Ⅴのまとめを行いながら、医学用語を解説する
第12回　同上　：臨床医学各論Ⅵのまとめを行いながら、医学用語を解説する
第13回　同上　：臨床医学各論Ⅶのまとめを行いながら、医学用語を解説する
第14回　同上　：臨床医学各論Ⅷのまとめを行いながら、医学用語を解説する
第15回　同上　：臨床医学総論のまとめを行いながら、医学用語を解説する

履修上の注意点

教科書

診療情報管理Ⅰ
著者：
出版社：日本病院会
出版年：　　ISBN：
診療情報管理Ⅱ
著者：
出版社：日本病院会
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）	小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**ロジスティクス論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　平尾 毅	

テーマ

ロジスティクスの基礎理論と実践を学習する。

授業の到達目標

生産拠点のグローバル化に伴い、サプライチェーンの再構築が注目される中、ロジスティクスの基礎を理解してもらうことが狙いである。現場においてロジスティクスを広く俯瞰する能力と論理的に分析・評価する能力の獲得が期待される。

授業の概要

サプライチェーン・マネジメントとロジスティクスの基礎を理解した上で、表計算ソフトウェアを用いて実践的な学習を行う。

準備学習（予習・復習）

事前配布される資料の予習をして授業に臨んでください（1時間程度）。また、復習として配布資料を自筆でノートにまとめてください（1時間程度）。

内　容

第1回　経営環境の変化とサプライチェーン・マネジメント（サプライチェーン・マネジメントの必要性を学ぶ）
第2回　サプライチェーン・マネジメントとロジスティクスの概要（ロジスティクスと比較しながら、サプライチェーン・マネジメントの理解を深める）
第3回　サプライチェーン・マネジメントの事例（サプライチェーン・マネジメントの成功事例から、そのエッセンスを学ぶ）
第4回　サプライチェーンのオペレーション①（サプライチェーン・マネジメントの実現を困難にしている要因を学ぶ）
第5回　サプライチェーンのオペレーション②（典型的なサプライチェーン・マネジメントの戦略を学ぶ）
第6回　需給管理（需要と供給を一致させるために考慮すべき事項を学ぶ）
第7回　在庫管理（在庫管理の目的と方法について学ぶ）
第8回　生産管理（生産計画と工程管理の概要を学ぶ）
第9回　調達管理（調達管理の課題とその解決策について学ぶ）
第10回　グローバル・サプライチェーン・マネジメント（グローバル・サプライチェーンの仕組みを構築するポイントを学ぶ）
第11回　PC演習：需要予測①（変数減少法）
第12回　PC演習：需要予測②（数量化1類）
第13回　PC演習：在庫管理（経済的発注量）
第14回　PC演習：生産管理（線形計画法）
第15回　まとめ（全体のまとめ）

履修上の注意点

配布資料に記載の文献一覧を参考に予習してください。第11回授業からPCを使った演習を行います。

教科書

使用しない。毎回の授業で配布する資料をテキストの代用とする。

著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

サプライチェーン経営入門
著者：　藤野直明
出版社：　日経文庫
出版年：　1999年　ISBN：　978-4532107925

サプライチェーン・マネジメントとロジスティクス管理入門
著者：　藤川裕晃
出版社：　日刊工業新聞社
出版年：　2008年　ISBN：　978-4526061325

改訂版サプライチェーンマネジメントの理論と実践
著者：　EYアドバイザリー
出版社：　幻冬舎
出版年：　2014年　ISBN：　978-4344971332

a50103d510

戦略的サプライチェーンマネジメント:競争優位を生み出す5つの原則

著者:　S.コーエン・J.ルーセル

出版社:　英治出版

出版年:　2015年　　ISBN:　978-4862761996

成績評価

試験　（ 70 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 0 ）

参加度　（ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**組織とメンタルヘルス**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　香坂　千佳子	

テーマ

ストレス社会と言われる現代社会では、企業にとってメンタルヘスの問題は無視することはできない。メンタルヘルスを学ぶことがどうして組織にとって重要なのかを理解する。

授業の到達目標

個人が集団の中で自分らしく生きていくための健康マネジメントのうち、組織におけるメンタルヘルスの問題をとりあげる。会社や職場等の組織の中で、私たちは様々なメンタルヘルス上の問題と出合う。どのような問題があるかを概観し、早期発見や回復の手立てを考える。メンタルヘルス、特に「セルフケア」を理解し修得する。

授業の概要

職場におけるメンタルヘルスの重要性とセルフケア、ストレス対処法などを学ぶ。毎回簡単な小テストを授業前に行う。（履修人数により、授業方法を変更する場合もある）

準備学習（予習・復習）

常に、新聞、ニュースなどでメンタルヘルス、健康に関係する情報収集をするようにすること。

内　容

第1回　はじめに：授業方針（受講上の注意、評価の方法）　メンタルヘルスケアの意義
第2回　メンタルヘルスとは
第3回　ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識　①
第4回　ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識　②
第5回　ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識　③こころと行動
第6回　ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識　④こころと脳
第7回　ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識　⑤こころと脳
第8回　産業領域における職場のメンタルヘルス
第9回　セルフケアの重要性　①
第10回　ストレスへの気づき
第11回　ストレスの対処・軽減法（コミュニケーション編）①
第12回　ストレスの対処・軽減法（コミュニケーション編）②
第13回　ストレスの対処・軽減法（コミュニケーション編）③
第14回　ストレスの対処・軽減法（コミュニケーション編）④
第15回　まとめテスト

履修上の注意点

(1) 遅刻は厳禁（講義スタート時までに教室内に着席）(2) 順序立てたスケジュールとなっているため、すべての授業に出席すること。(3) 事前準備レポートは、講義を進めていくために重要なエッセンスとなるため、必ず提出すること。(4)欠席・遅刻の多い学生は、単位取得は難しい。(5)態度の悪い学生に対しては、退出してもらう。

教科書

メンタルヘルス・マネジメント検定試験公式テキスト III種 セルフケアコース<第3版>
著者：　大阪商工会議所編
出版社：中央経済社
出版年：2013　　ISBN：　978-4502071805

参考書

メンタルヘルスを学ぶ
著者：　村井俊哉・森本恵子・石井信子
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2015　　ISBN：　978-623-07247-7

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 40 ）
授業前に小テスト＋宿題＋課題＝60％　出席回数＋授業中＝40％

Syllabus

科 目 名　**組織とメンタルヘルス <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**病院実務実習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾関　美智子	

テーマ

病院実務実習

授業の到達目標

病院実務実習をすることにより、①実践的な専門知識・技術の構築、②社会人としてのマナーの習得、③職業観・勤労観を得ること、④自己分析の機会を得ることを目標とする。

授業の概要

病院実習先において、実際の病院業務や診療情報管理業務を体験する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　事前学習及びガイダンス
第2回　病院実務実習
第3回　病院実務実習
第4回　病院実務実習
第5回　病院実務実習
第6回　病院実務実習
第7回　病院実務実習
第8回　事後報告会

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 80 ）
各病院実習先からの個人の報告も加味して評価を実施する。

2016 Syllabus

科 目 名　**グローバルマーケティング**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　今井 まりな	

テーマ

多国籍企業のマーケティング活動

授業の到達目標

グローバル・マーケティングに関連する基本的な知識を習得すること。グローバル・マーケティングの知識を活用し、実際の多国籍企業のマーケティング活動を分析することができる。

授業の概要

この授業では、多国籍企業経営の考え方について講義を行う。まず多国籍企業のマーケティング活動に関する各トピックについて検討を行う。その後、トピック別ではなく企業の業態別に、企業が国際経営を行う際に生じる課題を整理していく。授業では、上記の内容について、多国籍企業固有の問題や考え方に重点を置き、具体的な事例を交えて説明していく。

準備学習（予習・復習）

企業のグローバル・マーケティング活動に関する知識を身につけること。多国籍企業経営について、一国国内での水準で考えることとの違いを理解すること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　マーケティングマネジメントの基本枠組み
第3回　グローバリゼーションとマーケティング
第4回　文化の違いと購買行動
第5回　グローバルSTP
第6回　グローバル市場参入
第7回　グローバル製品政策
第8回　グローバル・ブランディング（1）
第9回　グローバル・ブランディング（2）
第10回　グローバル価格決定
第11回　グローバル流通チャネル戦略
第12回　グローバルプロモーション
第13回　非製造業のグローバル化
第14回　まとめ
第15回　小テスト

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験　（　）	小テスト　（ 50 ）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（　）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**財務管理論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　河野　充央	

テーマ

財務諸表を分析して，企業の評価指標である，収益性，生産性，流動性の意義とその活用法を学ぶ。

授業の到達目標

資金の流れと財務諸表の役割とを関連づけて理解する。

授業の概要

レポートや小テストをなどを交えながら，テキストの沿って進行する。日経新聞や日経ジネスなどの経済紙誌からタイムリーな話題を随時紹介する。

準備学習（予習・復習）

復習を必ず行ってから，次の時間の講義に臨んでもらいたい。

内　容

第1回　ガイダンス（1）講義の進め方や成績評価等について説明（2）資金管理と財務諸表の意義について（3）財務管理の概要
第2回　収益性の分析（1）
第3回　収益性の分析（2）
第4回　収益性の分析（3）
第5回　収益性の分析（4）
第6回　生産性の分析（1）
第7回　生産性の分析（2）
第8回　生産性の分析（3）
第9回　生産性の分析（4）
第10回　流動性の分析（1）
第11回　流動性の分析（2）
第12回　流動性の分析（3）
第13回　流動性の分析（4）
第14回　財務管理に対する鳥瞰的考察
第15回　講義全体のまとめ

履修上の注意点

私語は厳に慎んで下さい。言うまでもなく，他の受講生にとって，これ以上に迷惑なものはありません。

教科書

これだけ！　B/SとP/L　どこをどう見たら何がわかる？
著者：　見田村　元宣
出版社：すばる舎リンケージ
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）	小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**診療情報分類法演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾関　美智子	

テーマ

ICDコーディング技術の修得

授業の到達目標

具体的なコーディングを行い、コーディング技術を修得する。

授業の概要

診療記録のなかにある疾病や医療行為に関する情報を収集・解析するために利用される、世界保健機関(WHO)が制定した国際疾病分類(ICD)によるコーディングの方法を学ぶ。医学系科目や国際疾病分類概論などで学んだ知識を活かし、ICD-10やICD-9-CMを利用した具体的な分類手法を演習形式で身につける。

準備学習（予習・復習）

新聞等に掲載される疾病に関する記事に関心を持ち、日々学習に努めてください。

内　　容

第1回　診療情報分類法演習のガイダンス
第2回　第Ⅰ章　感染症および寄生虫症のコーディング演習
第3回　第Ⅲ章　血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害のコーディング演習①
第4回　第Ⅲ章　血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害のコーディング演習②
第5回　第Ⅱ章　新生物のコーディング演習①
第6回　第Ⅱ章　新生物のコーディング演習②
第7回　第Ⅳ章　内分泌、栄養および代謝疾患のコーディング演習
第8回　第Ⅴ章　精神および行動の障害のコーディング演習
第9回　第Ⅵ章　神経系の疾患のコーディング演習
第10回　第Ⅶ章　眼および付属器の疾患のコーディング演習
第11回　第Ⅷ章　耳および乳様突起の障害のコーディング演習
第12回　第Ⅸ章　循環器系の疾患のコーディング演習①
第13回　第Ⅸ章　循環器系の疾患のコーディング演習②
第14回　第Ⅹ章　呼吸器系の疾患のコーディング演習①
第15回　第Ⅹ章　呼吸器系の疾患のコーディング演習②
第16回　第ⅩⅠ章　消化器系の疾患のコーディング演習①
第17回　第ⅩⅠ章　消化器系の疾患のコーディング演習②
第18回　第ⅩⅡ章　皮膚および皮下組織の疾患のコーディング演習
第19回　第ⅩⅢ章　筋骨格系および結合組織の疾患のコーディング演習
第20回　第ⅩⅣ章　腎尿路生殖器系の疾患のコーディング演習①
第21回　第ⅩⅣ章　腎尿路生殖器系の疾患のコーディング演習②
第22回　第ⅩⅤ章　妊娠、分娩および産褥のコーディング演習
第23回　第ⅩⅥ章　周産期に発生した病態のコーディング練習
第24回　第ⅩⅦ章　先天奇形、変形および染色体異常のコーディング演習
第25回　第ⅩⅧ章　症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもののコーディング演習
第26回　第ⅩⅨ章　損傷・中毒およびその他の外因の影響のコーディング演習
第27回　第ⅩⅩ章　傷病および死亡の外因のコーディング演習
第28回　第ⅩⅩⅠ章　健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用のコーディング演習
第29回　原死因コーディング
第30回　診療情報分類法演習のまとめ

履修上の注意点

教科書

診療情報管理Ⅳ第7版
著者:
出版社: 日本病院会
出版年: 2014　　ISBN:

a50103e010

診療情報管理士教育問題集2015専門・分類法編

著者:

出版社: 日本病院会

出版年: 2015　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 60 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**診療情報総合演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　尾関　美智子	

テーマ

「診療情報管理士」認定試験に向けた受験対策

授業の到達目標

「診療情報管理士」認定試験の合格をめざす

授業の概要

認定試験受験科目のなかで不得意な科目を重点的に学習し受験に備える。

準備学習（予習・復習）

授業中にやり残したこと、理解が不十分な事柄について必ず復習すること。

内　　容

第1回　診療情報総合演習ガイダンス
第2回　診療情報総合演習①
第3回　診療情報総合演習②
第4回　診療情報総合演習③
第5回　診療情報総合演習④
第6回　診療情報総合演習⑤
第7回　診療情報総合演習⑥
第8回　診療情報総合演習⑦
第9回　診療情報総合演習⑧
第10回　診療情報総合演習⑨
第11回　診療情報総合演習⑩
第12回　診療情報総合演習⑪
第13回　診療情報総合演習⑫
第14回　診療情報総合演習⑬
第15回　診療情報総合演習まとめ

履修上の注意点

無断欠席はしないようにしてください。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 10 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ＜＊a＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　今井 まりな

テーマ

卒業論文の執筆

授業の到達目標

卒業論文に見合うテーマと問いを設定し、その解決に向けた調査を行う。ゼミ生の報告と報告内容に関するディスカッションを中心に進める。

授業の概要

各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。※進捗状況に応じて、授業内容を変更することがある。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　卒業論文の書き方
第3回　テーマ設定
第4回　テーマ設定
第5回　問いの設定
第6回　問いの設定
第7回　問いの設定
第8回　先行研究レビュー
第9回　先行研究レビュー
第10回　先行研究レビュー
第11回　先行研究レビュー
第12回　調査設計
第13回　調査設計
第14回　調査設計
第15回　調査設計

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ 70 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　今久保　幸生	

テーマ

卒業論文を作成する。

授業の到達目標

各自、課題に見合った研究方法や論文の書き方を学び、卒業論文を作成する。

授業の概要

卒業研究（卒業論文）の報告とそれへのコメントおよび受講生相互の意見交換を行う。

準備学習（予習・復習）

必要に応じて個別指導を行うほか、ゼミ生相互で卒論を報告し合い、議論し合うのが望ましい。

内　容

第1回　ガイダンスと論文の書き方
第2回　卒業研究報告１（序論・課題と方法）
第3回　卒業研究報告２（序論・課題と方法）
第4回　卒業研究報告３（序論・課題と方法）
第5回　卒業研究報告４（序論・課題と方法）
第6回　卒業研究報告５（本論：先行研究の検討）
第7回　卒業研究報告６（本論：先行研究の検討）
第8回　卒業研究報告７（本論：先行研究の検討）
第9回　卒業研究報告８（本論：先行研究の検討）
第10回　卒業研究中間報告会（予定）
第11回　卒業研究報告９（本論：調査内容の報告）
第12回　卒業研究報告１０（本論：調査内容の報告）
第13回　卒業研究報告１１（本論：調査内容の報告）
第14回　卒業研究報告１２（本論：調査内容の報告）
第15回　卒業研究中間報告会（予定）・演習のまとめ

履修上の注意点

報告のたびに、必ず内容をバーションアップさせること。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 70 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ＜＊c＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　　片岡　裕介

テーマ

卒業論文の作成

授業の到達目標

卒業論文の研究テーマにしたがって、文献収集、調査、分析アプローチ等における必要な知識を身に付けるとともに、研究論文として十分な内容を含んだ卒業論文を作成する。

授業の概要

卒業論文の作成にあたり、研究計画を明確にした上で、進捗状況について報告をおこなう。また、報告内容に関してディスカッションをおこなう。

準備学習（予習・復習）

報告の準備とともに卒業論文の作成を各自で進めること。報告時において疑問点を提示できるようにしておくこと。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　卒業論文のための研究デザイン(1)
第3回　卒業論文のための研究デザイン(2)
第4回　卒業論文のための研究デザイン(3)
第5回　卒業論文進捗報告：研究の背景と方法論(1)
第6回　卒業論文進捗報告：研究の背景と方法論(2)
第7回　卒業論文進捗報告：研究の背景と方法論(3)
第8回　卒業論文進捗報告：先行研究のレビュー(1)
第9回　卒業論文進捗報告：先行研究のレビュー(2)
第10回　卒業論文進捗報告：先行研究のレビュー(3)
第11回　卒業論文進捗報告：調査分析(1)
第12回　卒業論文進捗報告：調査分析(2)
第13回　卒業論文進捗報告：調査分析(3)
第14回　卒業論文進捗報告：調査分析(4)
第15回　卒業論文進捗報告：調査分析(5)

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 60 ）

参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ＜＊d＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　河野　充央

テーマ

卒業論文の作成

授業の到達目標

夏季休暇中に下書きを完成させる

授業の概要

パワーポイントによる報告報告内容にたいする質疑応答教員からのアドバイス希望者は，工場見学などの学外学習にも参加できる

準備学習（予習・復習）

レジュメの作成

内　容

第1回　ガイダンス春季休暇中の課題提出論文の書き方・形式について指導
第2回　卒論指導1卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第3回　卒論指導2卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第4回　卒論指導3卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第5回　卒論指導4卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第6回　卒論指導5卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第7回　卒論指導6卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第8回　卒論指導7卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第9回　卒論指導8卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第10回　卒論指導9卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第11回　卒論指導10卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第12回　卒論指導11卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第13回　卒論指導12卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第14回　卒論指導13卒論のテーマ・目次・概要および進捗報告報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する指導と参考文献の指示など（個別指導は随時実施）
第15回　夏季休暇中における下書き完成のための課題指示

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ＜＊e＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

卒業論文の書き方と構想

授業の到達目標

1）論文の書き方の基礎を身につける2）卒業論文の構想を形作る

授業の概要

最初の5回については、基本的な論文の書き方を実例に触れながら学ぶ。第6回以降については、2回に分けて進捗報告を行う。

準備学習（予習・復習）

自分が発表する時点までに、それぞれの会のテーマに即したレジュメを用意する。

内　　容

第1回　論文の書き方（1）：論文らしい文章とは
第2回　論文の書き方（2）：論文の流れ
第3回　論文の書き方（3）：論理的に書くには？
第4回　論文の書き方（4）：引用の仕方、参考文献の書き方、並べ方
第5回　論文の書き方（5）：図表の使い方、脚注、見出しの付け方
第6回　卒論進捗報告（1回目：研究テーマと幹とする参考資料）：6人
第7回　卒論進捗報告（1回目：研究テーマと幹とする参考資料）：6人
第8回　卒論進捗報告（1回目：研究テーマと幹とする参考資料）：6人
第9回　卒論進捗報告（2回目：仮説の提示と結論までの論理的展開）：3人
第10回　卒論進捗報告（2回目：仮説の提示と結論までの論理的展開）：3人
第11回　卒論進捗報告（2回目：仮説の提示と結論までの論理的展開）：3人
第12回　卒論進捗報告（2回目：仮説の提示と結論までの論理的展開）：3人
第13回　卒論進捗報告（2回目：仮説の提示と結論までの論理的展開）：3人
第14回　卒論進捗報告（2回目：仮説の提示と結論までの論理的展開）：3人
第15回　夏休み中の研究計画

履修上の注意点

他のメンバーの研究発表についてもしっかりと考え、可能な範囲でアドバイスを行うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ＜＊f＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　高原　正興	

テーマ

卒業論文の作成に向けて

授業の到達目標

12月の卒業論文の提出に向けて、よりよい卒業論文が作成できるように、ゼミ生の研究発表を続けて行う。

授業の概要

ゼミ生による卒業論文の研究発表（春季課題の発表、第一クール＝第1章、第二クール＝第2章、第三クール＝第3章）

準備学習（予習・復習）

日頃から卒業論文のテーマに関する文献や資料の収集に努めること。

内　　容

第1回　前期ガイダンス
第2回　春季課題の発表（1）
第3回　春季課題の発表（2）
第4回　春季課題の発表（3）
第5回　第一クール＝第1章の発表と指導（1）
第6回　第一クール＝第1章の発表と指導（2）
第7回　第一クール＝第1章の発表と指導（3）
第8回　予備
第9回　第二クール＝第2章の発表と指導（1）
第10回　第二クール＝第2章の発表と指導（2）
第11回　第二クール＝第2章の発表と指導（3）
第12回　予備
第13回　第三クール＝第3章の発表と指導（1）
第14回　第三クール＝第3章の発表と指導（2）
第15回　第三クール＝第3章の発表と指導（3）

履修上の注意点

就活による欠席は事前に連絡した上で代わりの人を確保すること。それ以外のゼミの欠席はありえない。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に示す
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 20% ）　　授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 40% ）
授業中課題は春季課題のレポートによる。

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ＜＊g＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　高山　一夫

テーマ

医療経営の発展的学習

授業の到達目標

医療経営に関する発展的な知識を習得するとともに、卒業研究の作成にむけた基本的な技術を確認する

授業の概要

主としてテキストを用いた報告と討論を行うとともに、卒業研究のための論文作成技法や図書館ガイダンスを実施する。また、3回生と合同でゼミ合宿を開催する。

準備学習（予習・復習）

授業時間以外にも報告の準備や学外授業・ゼミ合宿の企画立案等を行う。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　学外授業およびゼミ合宿の準備・立案
第3回　図書館ガイダンス（予定）
第4回　テキストを用いた演習
第5回　テキストを用いた演習
第6回　テキストを用いた演習
第7回　テキストを用いた演習
第8回　テキストを用いた演習
第9回　テキストを用いた演習
第10回　テキストを用いた演習のまとめ
第11回　論文の作成技法
第12回　論文の作成技法
第13回　キャリア講演会（予定）
第14回　学外授業（予定）
第15回　演習全体のまとめ（ゼミ合宿）

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。また、学外授業、ゼミ合宿、自主ゼミ等に主体的に参加すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

健康と医療の公平に挑む
著者:　松田亮三編
出版社:　勁草書房
出版年:　2009　　ISBN:　9784326700615

地域包括ケアと地域医療連携
著者:　二木立
出版社:　勁草書房
出版年:　2015　　ISBN:　9784326700875

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ＜＊h＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　李　在鎬	

テーマ

ゼミの研究テーマに加え、卒業研究の計画を立て、計画的に取り組む。

授業の到達目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を作成する。

授業の概要

基礎演習Ⅲでの経営リーダーシップ理論、専門演習Ⅰ・Ⅱでの経営戦略論を土台にし、自分の卒業研究のテーマを決め、研究計画を行う。

準備学習（予習・復習）

経済新聞を精読してください。

内　　容

第9回　学生による報告2-3件（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
第10回　学生による報告2-3件（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
第11回　学生による報告2-3件（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
第12回　学生による報告2-3件（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
第13回　学生による報告2-3件（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
第14回　学生による報告2-3件（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
第15回　学生による報告2-3件（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
第1回　授業概要、報告とレジュメ作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
第2回　学生による報告2-3件（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
第3回　学生による報告2-3件（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
第4回　学生による報告2-3件（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
第5回　学生による報告2-3件（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
第6回　学生による報告2-3件（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
第7回　学生による報告2-3件（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論
第8回　学生による報告2-3件（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論

履修上の注意点

経済新聞を精読してください。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 55 ）
参加度　（ 45 ）
基本的に2回以上の発表、積極的な議論への参加が求められます。

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ＜＊救急＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員　15
履修条件	クラス指定　希望制

担 当 者　夏目　美樹.北小屋　裕.関根　和弘.千田　いずみ.深澤　雄二.福岡　範恭

テーマ

公務員試験対策

授業の到達目標

救急救命士の最大就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学および時事問題等の理解を目指す。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス、公務員試験対策
第2回　公務員試験対策
第3回　公務員試験対策
第4回　公務員試験対策
第5回　公務員試験対策
第6回　公務員試験対策
第7回　公務員試験対策
第8回　公務員試験対策
第9回　公務員試験対策
第10回　公務員試験対策
第11回　公務員試験対策
第12回　公務員試験対策
第13回　公務員試験対策
第14回　公務員試験対策
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 100 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
講義参加度および授業中課題の提出度が規定に達していない者は成績評価を実施しない。

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ＜＊a＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　今井 まりな

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

これまでに行ってきた作業を取りまとめ、卒業論文として完成することを目的とする。

授業の概要

各報告に間に合うように、該当者は必ず報告資料の準備を行う必要がある。※進捗状況に応じて、授業内容を変更することがある。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　前期の復習
第2回　良い論文とは何か？
第3回　事例分析・考察
第4回　事例分析・考察
第5回　事例分析・考察
第6回　事例分析・考察
第7回　卒業論文中間報告会
第8回　卒業論文中間報告会
第9回　卒業論文最終報告
第10回　卒業論文最終報告
第11回　卒業論文最終報告
第12回　卒業論文最終報告
第13回　卒業論文の検討会
第14回　卒業論文の検討会
第15回　卒業論文の検討会

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ 70 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　今久保　幸生	

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

全員が卒論を完成させること。

授業の概要

順番に卒業論文の報告を行い、コメントを受け、卒論改訂版を報告し、さらにコメントを受ける。以上を繰り返して卒論完成に至る。

準備学習（予習・復習）

先行研究に関する書籍・論文などを丁寧に読解し、批評を行うこと。

内　容

第1回　卒業研究報告1（結論）
第2回　卒業研究報告2（結論）
第3回　卒業研究報告3（結論）
第4回　卒業研究報告4（結論）
第5回　卒業研究中間報告会（予定）
第6回　卒業研究最終報告1（全体）
第7回　卒業研究最終報告2（全体）
第8回　卒業研究最終報告3（全体）
第9回　卒業研究最終報告4（全体）
第10回　卒業研究最終報告5（全体）
第11回　卒論執筆原稿相互検討1
第12回　卒論執筆原稿相互検討2
第13回　卒論執筆原稿相互検討3
第14回　口頭試問の準備
第15回　演習の総括

履修上の注意点

報告するごとに、必ず内容をバーションアップすること。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（ 70 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ＜＊c＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　　片岡　裕介

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

卒業論文の研究テーマにしたがって、文献収集、調査、分析アプローチ等における必要な知識を身に付けるとともに、研究論文として十分な内容を含み、形式が整えられた卒業論文を完成させる。

授業の概要

卒業論文の完成に向けて、進捗状況について報告をおこなう。また、報告内容に関してディスカッションをおこなう。

準備学習（予習・復習）

報告の準備とともに卒業論文の作成を各自で進める。報告時において疑問点を提示できるようにしておくこと。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　卒業論文進捗報告
第3回　卒業論文進捗報告
第4回　卒業論文進捗報告
第5回　卒業論文進捗報告
第6回　卒業論文進捗報告
第7回　卒業論文中間報告会
第8回　卒業論文中間報告会
第9回　卒業論文最終報告
第10回　卒業論文最終報告
第11回　卒業論文最終報告
第12回　卒業論文最終報告
第13回　口頭試問の準備
第14回　口頭試問の準備
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 60 ）

参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　河野　充央	

テーマ

卒業論文の作成および完成

授業の到達目標

質の高い卒業論文を完成させ，学士号を取得する

授業の概要

パワーポイントによる報告報告内容にたいする質疑応答教員からのアドバイス希望者は，工場見学などの学外学習にも参加できる

準備学習（予習・復習）

レジュメの作成

内　　容

第1回　夏季休暇中課題の下書きを提出目次のみを全員に配布概要報告と意見交換・教員による指導
第2回　報告とチェック1報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する最終確認と指導（個別指導は随時実施）
第3回　報告とチェック2報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する最終確認と指導（個別指導は随時実施）
第4回　報告とチェック3報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する最終確認と指導（個別指導は随時実施）
第5回　報告とチェック4報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する最終確認と指導（個別指導は随時実施）
第6回　報告とチェック5報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する最終確認と指導（個別指導は随時実施）
第7回　報告とチェック6報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する最終確認と指導（個別指導は随時実施）
第8回　報告とチェック7報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する最終確認と指導（個別指導は随時実施）
第9回　報告とチェック8報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する最終確認と指導（個別指導は随時実施）
第10回　報告とチェック9報告内容に対する質疑応答テーマ・目次に対する最終確認と指導（個別指導は随時実施）
第11回　最終チェック1（個別指導は随時実施）
第12回　最終チェック2（個別指導は随時実施）
第13回　口頭試問準備1（個別指導は随時実施）
第14回　口頭試問準備2（個別指導は随時実施）
第15回　総括　※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等　（ 60 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ＜＊e＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

卒業論文の完成

授業の到達目標

1）卒業論文を執筆し、完成させる。2）他の受講生と協力し、相互に推敲を行う。

授業の概要

ゼミの内部で研究の進捗について情報を共有し、互いに助け合いながら卒業論文を完成させることを目指す。

準備学習（予習・復習）

卒業論文の執筆とブラッシュアップ

内　　容

第1回　卒論進捗報告（3回目：論理の展開のチェック）：6人
第2回　卒論進捗報告（3回目：論理の展開のチェック）：6人
第3回　卒論進捗報告（3回目：論理の展開のチェック）：6人
第4回　卒論中間報告会
第5回　卒論最終報告（4回目：完成原稿の発表）：3人
第6回　卒論最終報告（4回目：完成原稿の発表）：3人
第7回　卒論最終報告（4回目：完成原稿の発表）：3人
第8回　卒論最終報告（4回目：完成原稿の発表）：3人
第9回　卒論最終報告（4回目：完成原稿の発表）：3人
第10回　卒論最終報告（4回目：完成原稿の発表）：3人
第11回　誤字・脱字等の相互チェック
第12回　誤字・脱字等の相互チェック
第13回　口頭試問の準備
第14回　口頭試問の準備
第15回　口頭試問の準備

履修上の注意点

他のメンバーの研究発表についてもしっかりと考え、可能な範囲でアドバイスを行うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ＜＊f＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　高原　正興	

テーマ

卒業論文と論文集の作成に向けて

授業の到達目標

前期に引き続いて、よりよい卒業論文の作成のための研究発表を続ける。また、ゼミの卒業論文集を作成する準備を行う。

授業の概要

ゼミ生による研究発表と卒業論文の作成に向けた指導（合宿を含む）、卒業論文の添削と要約の作成

準備学習（予習・復習）

卒業論文の作成のための計画的な学習に尽きる。

内　　容

第1回　後期のガイダンス
第2回　第四クール＝第4章の発表（1）
第3回　第四クール＝第4章の発表（2）
第4回　第四クール＝第4章の発表（3）
第5回　予備
第6回　中間発表会の予行練習（1）
第7回　中間発表会の予行練習（2）
第8回　中間発表会
第9回　卒論の個別指導（1）
第10回　卒論の個別指導（2）
第11回　卒論の個別指導（3）
第12回　予備
第13回　卒論の要約の添削（1）
第14回　卒論の要約の添削（2）
第15回　卒論の要約の添削（3）

履修上の注意点

就活による欠席は事前に連絡した上で代わりの人を確保すること。それ以外の欠席はありえない。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に示す。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 20% ）　　授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 40% ）
授業中課題は夏季課題のレポートである。

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ＜＊g＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　高山　一夫

テーマ

卒業研究の完成

授業の到達目標

これまでの学習を基に各人がテーマを設定し、調査の方法と論文の書き方とを習得した上で、卒業研究として完成させる

授業の概要

演習において受講生は卒業研究の進捗状況を報告し教員より指導を受ける

準備学習（予習・復習）

授業時間以外にも個々人の進捗状況に応じて個別に指導する。また、自主ゼミを設け、受講生相互で卒業研究を検討する。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　卒業研究報告
第3回　卒業研究報告
第4回　卒業研究報告
第5回　卒業研究報告
第6回　卒業研究報告
第7回　卒業研究中間報告会（予定）
第8回　卒業研究中間報告会（予定）
第9回　卒業研究報告
第10回　卒業研究報告
第11回　卒業研究報告
第12回　卒業研究報告
第13回　口頭試問の準備
第14回　口頭試問の準備
第15回　演習全体のまとめ

履修上の注意点

病気等により遅刻・欠席する場合は、遅滞なく担当教員に連絡すること。卒業研究上の質問などがある場合は、早めに連絡・相談すること。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

理科系の作文技術
著者:　木下是雄
出版社:　中公新書
出版年:　1981　　ISBN:　9784121006240

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ <＊h>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　　李　在鎬

テーマ

ゼミの研究テーマおよび各ゼミ生の卒業研究を完成し、成果物としてまとめていく。

授業の到達目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成する。

授業の概要

個人的な興味だけではなく、学術的、社会的な問題意識から研究課題を見直し、これまで専門演習で習ってきた理論を土台にし、卒業研究を完成し、卒業論文を執筆する。

準備学習（予習・復習）

卒業研究の分析対象へのフィールドワーク、インタビュー調査などを勧めます。

内　　容

第1回　授業概要、報告とレジュメ作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
第2回　学生による報告2-3本（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論）
第3回　学生による報告2-3本（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論）
第4回　学生による報告2-3本（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論）
第5回　学生による報告2-3本（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論）
第6回　学生による報告2-3本（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論）
第7回　学生による報告2-3本（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論）
第8回　学生による報告2-3本（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論）
第9回　学生による報告2-3本（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論）
第10回　学生による報告2-3本（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論）
第11回　学生による報告2-3本（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論）
第12回　学生による報告2-3本（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論）
第13回　学生による報告2-3本（各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論）
第14回　全体の総括、または必要に応じて学外授業を行う場合がある。
第15回　全体の総括、または必要に応じて学外授業を行う場合がある。

履修上の注意点

発表の予定日に無断欠席をすることがないよう注意してください。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 55 ）
参加度 （ 45 ）
基本的に2回以上の報告と討論への積極的な参加が求められますが、それに加え、卒業論文の完成まで、数次にわたり、個人指導が必要な場合があります。

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ＜＊救急＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員　15
履修条件	クラス指定　希望制

担 当 者　夏目　美樹.北小屋　裕.久保山　一敏.関根　和弘.千田　いずみ.西本　泰久.深澤　雄二.福岡　範恭.冨士原　彰.宮本　尚

テーマ

救急救命士国家試験対策

授業の到達目標

救急救命士国家試験に合格できる知識を習得することを目的とする。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　ガイダンス、救急救命士国家試験対策
第2回　救急救命士国家試験対策
第3回　救急救命士国家試験対策
第4回　救急救命士国家試験対策
第5回　救急救命士国家試験対策
第6回　救急救命士国家試験対策
第7回　救急救命士国家試験対策
第8回　救急救命士国家試験対策
第9回　救急救命士国家試験対策
第10回　救急救命士国家試験対策
第11回　救急救命士国家試験対策
第12回　救急救命士国家試験対策
第13回　救急救命士国家試験対策
第14回　救急救命士国家試験対策
第15回　まとめ

履修上の注意点

講義参加度および授業中課題の提出度が規定に達していない者は成績評価を実施しない。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 100 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <a>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　今井 まりな	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　今久保　幸生	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <c>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　片岡　裕介	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <d>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　河野　充央	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <e>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <f>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　高原　正興	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <g>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　髙山　一夫	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <h>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　　李　在鎬

テーマ

ゼミ生それぞれの卒業研究テーマについて取り組み、それを卒業論文にまとめていく。

授業の到達目標

本学で求められる卒業論文の基準（体裁、論題の斬新性、論旨の明確性、論拠の客観性、論述の緻密性）をクリアし、口頭試問に耐えられる卒業論文を完成し、提出する。

授業の概要

各自卒業論文を執筆していく中で、個別に指導を行う。

準備学習（予習・復習）

文献検索、経済新聞記事の検索方法を熟知しておくこと。

内　　容

第1回　授業概要、報告とレジュメ作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
第2回　受講生による報告と個別指導
第3回　受講生による報告と個別指導
第4回　受講生による報告と個別指導
第5回　受講生による報告と個別指導
第6回　受講生による報告と個別指導
第7回　受講生による報告と個別指導
第8回　受講生による報告と個別指導
第9回　受講生による報告と個別指導
第10回　受講生による報告と個別指導
第11回　受講生による報告と個別指導
第12回　受講生による報告と個別指導
第13回　受講生による報告と個別指導
第14回　受講生による報告と個別指導
第15回　全体のまとめ

履修上の注意点

個人的な興味本位で研究テーマを決めるのではなく、学術的、社会的意義を考えなら卒業研究のテーマを選定すること。

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 55 ）
参加度 （ 45 ）
本学の卒業論文の要件を満たした上で、口頭試問を突破することが合格の条件となる。

Syllabus

科 目 名	**卒業研究 <救急>**
クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員　15
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者	夏目　美樹.北小屋　裕.久保山　一敏.関根　和弘.千田　いずみ.西本　泰久.深澤　雄二.福岡　範恭.冨士原　彰.宮本　尚
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**救急疾病Ⅲ**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定

担 当 者　宮本　尚

テーマ

授業の到達目標

内分泌系・代謝系・泌尿器・生殖器系の疾患を理解する事で、救急救命に携わる事が出来る

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　内分泌・代謝系器官①解剖・生理1
第2回　内分泌・代謝系器官②解剖・生理2
第3回　内分泌・代謝系器官③代謝器官障害、症状、おもな疾患
第4回　内分泌・代謝系期間④低血糖、甲状腺クリーゼなどについて学ぶ
第5回　泌尿器・生殖器系器官①解剖・生理1
第6回　泌尿器・生殖器系器官②解剖・生理2
第7回　泌尿器・生殖器系器官③障害、症状、おもな疾患
第8回　泌尿器・生殖器系器官④尿閉、子宮外妊娠などについて学ぶ
第9回　血液疾患①貧血の病態生理等
第10回　血液疾患②急性白血病の病態生理 播種性血管内症候群
第11回　血液疾患③骨髄移植、その他の血液疾患
第12回　血液疾患④汎血球減少症、MDSなどについて学ぶ
第13回　感染症と予防 特異な感染症、AIDS 皮膚疾患
第14回　高齢者の疾患
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

救急救命士標準テキスト　第1巻
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:
救急救命士標準テキスト　第2巻
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:
救急救命士標準テキスト　第3巻
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:
救急救命士標準テキスト　第4巻
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:
救急救命士標準テキスト　第5巻
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）
15回の授業のうち、5回以上の欠席があった場合は試験の受験を認めないものとする。

Syllabus

科 目 名　**都市環境デザイン論Ⅰ <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**都市環境デザイン論Ⅱ <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**デッサン <Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　富家　大器	

テーマ

デッサンや色彩の演習を通じ「色」や「かたち」を表現する基礎を学習する

授業の到達目標

自分の手を動かしていくことで体験的に観察力を養うとともに、もののもつ形態的な特徴や素材感などを把握し表現する能力を高め、あらゆる造形表現の基礎能力を獲得する。

授業の概要

鉛筆を使ったデッサン、色紙を使用する平面構成、ペーパーを使った立体構成を予定している。適宜事例の解説なども織りまぜて行く。場合によって各自の作品発表を行うこともある。

準備学習（予習・復習）

普段から「物をよく見る」という姿勢が重要。また、美術館に出向いたりして先人のよい作品などを積極的に観賞することも効果的である。家にある色々なものを最低限1日10分でも毎日描くなどして予習復習し、手や目に「慣れ」を作っていくのも良い方法。

内　　容

第1回　ガイダンス　道具の使い方、デッサンの基礎
第2回　デッサン1（課題1）
第3回　デッサン2（課題2-1）
第4回　デッサン3（課題2-2）
第5回　デッサン4（課題3-1）
第6回　デッサン5（課題3-2）
第7回　平面構成　課題説明　事例紹介
第8回　平面構成1（課題1-1）
第9回　平面構成2（課題1-2）
第10回　平面構成3（課題2-1）
第11回　平面構成4（課題2-2）
第12回　立体構成　課題説明　事例紹介
第13回　立体構成1（課題1-1）
第14回　立体構成2（課題1-2）
第15回　立体構成3　まとめと発表

履修上の注意点

クリエイティブな教室の空気を醸成するために私語などは厳禁です、謹んでください。私語などを含む授業態度や受講のマナーもチェックしていますので評価対象になります。尚、全授業回数の1/3以上の欠席をもって授業放棄と見なすので注意してください。尚、受講に必要なスケッチブック、鉛筆数本、その他画材（合わせて1000～2000円程度）を購入して頂く必要があります。これについては、初回の授業で説明します。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業中都度紹介します

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（ 20 ）

参加度　（ 30 ）

授業中課題50%、授業への出席状況・授業中の態度、授業への積極性・参加度を総合して50%

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ〈＊A〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　政木　哲也

テーマ

身近なものの収集と分析からはじめる大学生の思考法

授業の到達目標

・情報の収集、分類、分析方法を習得し実践する・他者と知識の共有を図るための手法を身につける・考えをまとめて発表する方法を学ぶ

授業の概要

私たちはたくさんのものや情報に囲まれて生活しています。この授業では、普段はあまり意識することのないありふれたものに目を向け、それを題材とします。授業の出席者全員がひとつのテーマに基づいて身の回りのもの・情報を収集をします。そうして集めたものを授業で共有したのち、分類・比較を行い、知的思考の習得を試みます。学外授業を行う場合は下記日程の中で適宜調整します。

準備学習（予習・復習）

あなたが日常の中で気づいた小さな発見を、忘れてしまわないようにメモをとり、言葉に変えて心に留めておく習慣を身につけましょう。また、この授業では出席者による発表をたくさん行いますが、あなたが伝えようとしていることを他の人にうまく伝わる工夫を日頃から心がけることが重要となります。

内　容

第1回　自己紹介・ガイダンスおよびテーマの発表
第2回　収集した素材の発表とディスカッション1
第3回　収集した素材の発表とディスカッション2
第4回　収集した素材の発表とディスカッション3
第5回　ワークショップ1
第6回　学外授業
第7回　収集した素材の発表とディスカッション4
第8回　収集した素材の発表とディスカッション5
第9回　収集した素材の発表とディスカッション6
第10回　ワークショップ2
第11回　プレゼンテーション1
第12回　プレゼンテーション2
第13回　プレゼンテーション3
第14回　反省会
第15回　レポート課題の発表

履修上の注意点

この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがあります。詳しい日程等は授業の中で周知します。

教科書

テキストは使用しません。授業では適宜資料を配布します。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

知的トレーニングの技術〔完全独習版〕
著者:　花村太郎
出版社:　筑摩書房
出版年:　2015　　ISBN:

知的複眼思考法
著者:　苅谷剛彦
出版社:　講談社
出版年:　2002　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

a50201aa10

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 50 ）

参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ〈＊B〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　福井　弘幸

テーマ

将来のキャリアをイメージするために大学生活のデザイン行い、学びの基礎的スキルを醸成する。

授業の到達目標

・将来のキャリア形成や充実した大学生活を過ごすため、4年間の目標・計画の策定。・高校までとは異なる学び方、知識の集め方 、知識の使い方を習得し、コミュニケーション力及びリーダーシップ力の修得をめざす。

授業の概要

・授業中の積極的な発言やグループ内での協調性を求めます。・社会の出来事に敏感になり、課題意識を醸成するために、一般的ニュースに関して意見を求めることがあります。

準備学習（予習・復習）

・日頃より課題意識をもって、身の周りの事象やニュースを捉えておくこと。・課題は、指定日に提出すること。

内　容

第1回　授業の狙いと大学での学び方、アイスブレイキング（初対面の人が相互のことを知ったり、緊張感をほぐすためのアクティビティ）。
第2回　個人発表：大学生活のデザイン
第3回　グループ討論と発表1：ブレインストーミング
第4回　グループ討論と発表2：新聞記事のレビューとレコメンド
第5回　レジュメの作成と発表1：テーマの発表と質問
第6回　情報収集（図書館利用、インターネット利用等）
第7回　レジュメ作成と報告2：報告、質問
第8回　レジュメの作成と報告3：対比と検討
第9回　シンキングトレーニング
第10回　レポート作成1：レポート作成の基本を知る
第11回　レポート作成2：レポート作成の基本を知る
第12回　レポート作成3：レポート作成の基本を知る
第13回　夏休みレポート準備1：テーマの検討、作成、発表
第14回　夏休みレポート準備2：引用・参考文献の作成
第15回　夏休みレポート準備3：調査方法

履修上の注意点

・授業時間外の調査・研究が必要です。・3分の2以上の出席が必要です。

教科書

プリントを配布します。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 40 ）

参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ〈＊C〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　織田　直文.五十川　伸矢.金武　創	

テーマ

本に親しみ、思考し議論する

授業の到達目標

書籍が持つ意義を理解し、内容をまとめ、読み、書き、話す力を身に付ける

授業の概要

教科書音読、「私のお奨め一冊」レポート、学外授業、学内イベント見学授業などを行う。なお、後期授業評価の中心部分を占める「夏休みレポート」の出題がある。

準備学習（予習・復習）

予習としては、「私のお奨め一冊」を準備すること、教科書の次回音読部分の下読みをしておくこと、復習は「私のお奨め一冊」発表時の反省を後日行うことである。

内　　容

第1回　進め方。学外授業の説明。
第2回　学外授業。
第3回　学外授業。
第4回　学外授業の反省会。
第5回　「私のお奨め一冊」発表と教科書音読。
第6回　「私のお奨め一冊」発表と教科書音読。
第7回　「私のお奨め一冊」発表と教科書音読。
第8回　「私のお奨め一冊」発表と教科書音読。
第9回　「私のお奨め一冊」発表と教科書音読。
第10回　「私のお奨め一冊」発表と教科書音読。
第11回　「私のお奨め一冊」発表と教科書音読。
第12回　学内イベントの見学。
第13回　学内イベントの見学。
第14回　学内イベントの見学の評価会。「夏休みレポート」の出題。
第15回　まとめ。

履修上の注意点

テキストは旧版ではなく新装版（2014年版）を購入すること、また学外授業や学内イベントも含め、授業は休まないように。公欠制度は無いので注意する。学外授業や学外イベント見学欠席時も代替措置はない（出席点は付かない）。ただしレポート評価部分は残るので、別途対応する。ゼミで説明するので、休まないようにする。欠席、遅刻等は必ず事前に教員に連絡し、休んだ場合、大事な配布物等もあるので、後日速やかに教員研究室に取りにくること。

教科書

京都の千二百年 上　新装版
著者：　西川幸治・高橋徹
出版社：草思社
出版年：2014　　ISBN：

参考書

その都度紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 60 ）
参加度（出席状況や受講態度、ゼミ運営上の役割分担や貢献度なども含む）を重視する。

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ＜＊D＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　小森　治夫

テーマ

現代日本社会をジェンダーの視点から考える

授業の到達目標

入門的文献の講読とビデオ学習により、女性学と男性学の基礎を学ぶ

授業の概要

以下の内容について、テキストと映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

準備学習（予習・復習）

事前にテキストの該当章を読んで、疑問点・討論点を考えておく。事後にもう一度テキストの該当章を読み、理解を深める。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　大学で学ぶ意味とは
第3回　ノートの取り方
第4回　『女性学・男性学』第１章
第5回　ビデオ「男と女の境界線」
第6回　『女性学・男性学』第２章
第7回　『女性学・男性学』第３章
第8回　『女性学・男性学』第４章
第9回　『女性学・男性学』第５章
第10回　『女性学・男性学』第６章
第11回　『女性学・男性学』第７章
第12回　『女性学・男性学』第８章
第13回　『女性学・男性学』第９章
第14回　夏休みレポートのテーマ報告（１）
第15回　夏休みレポートのテーマ報告（２）

履修上の注意点

教科書

女性学・男性学（改訂版）
著者：　伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子
出版社：有斐閣
出版年：2011年　　ISBN：

大学生の学習テクニック（第3版）
著者：　森　靖雄
出版社：大月書店
出版年：2014年　　ISBN：

参考書

大学生活ナビ
著者：　小原芳明監修
出版社：玉川大学出版部
出版年：2006年　　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ＜＊E＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　金武 創

テーマ

大学における学びの方法を身につける

授業の到達目標

1. 毎回の授業で必ず発言する2. 基本的な発表と討論の仕方を身につける。3. レジュメを作成できるようになる。どのコースを選択する学生にも必要な学びのスキルを身につけることをめざします。

授業の概要

高校までの学習では重視されなかったコミュニケーション・スキルとアカデミック・スキルを学びます。

準備学習（予習・復習）

授業で配布されたワークシートを完成させて当日提出すること。

内　容

第1回　大学の学び方
第2回　グループ討論1　就職活動と学校教育との違いを意識する
第3回　グループ討論2　時間内に結論を導く方法
第4回　グループ討論3　商品開発をデザインする
第5回　レジュメ作成と報告1　専門文献を読む
第6回　レジュメ作成と報告2　一人で報告する
第7回　レジュメ作成と報告3　報告から質問する
第8回　レジュメ作成と報告4　自分の報告と比べる
第9回　図書館の積極的利用1　書誌情報とは
第10回　図書館の積極的利用2　知的興味と文献探索
第11回　図書館の積極的利用3　夏休みレポートの素材探し
第12回　図書館の積極的利用4　研究対象の確定と参考文献の把握
第13回　夏休みレポートの準備1　焦点の絞られたテーマ設定
第14回　夏休みレポートの準備2　引用文献の探索
第15回　夏休みレポートの準備3　執筆準備の工夫

履修上の注意点

学外授業を行うことがあります。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 90 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 10 ）
学外授業を実施する場合も授業中課題を課します。

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ〈＊F〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　木下　達文

テーマ

大学生がもつべき「学習のための機能」を身につける～「研究」と「実践」の基礎から考える～

授業の到達目標

本演習では、今後の専門演習に向け大学における研究と実践の基礎としての課題設定、情報（文献）収集、レポート・原稿の書き方、調査（フィールドワーク）の方法など、基礎的な方法論と同時に、クラスで一つの事業実践を企画し、その事業テーマについて、理論と事例をまなびつつ、実践を行いながら、身をもって現代ビジネスのあり方を応用的に身につけるとともに、全体的には、企画力、表現力、行動力、コミュニケーション力の基礎を高めることを目的とする。同時に夏休みレポートの対応を行う。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

メールグループやメーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導も合わせて行う予定である。また、必要に応じてゼミ会等も行います。教室で学ぶだけではなく、身の回りの出来事を観察することが大切です。研究と実践に繋がる事象をこまめに観察したり、可能な範囲で体験できることはしてみましょう。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業目標・自己紹介）
第2回　セルフスピーチ（自分自身の考えを人に伝える）
第3回　シンキングメソッド（自分の興味関心を深く考える）
第4回　リサーチプログラム（問題解決のための方法論）
第5回　リーディング（文献をきちんと読む）
第6回　フィールドワーク（自分の五感で体感する）
第7回　フィールドワーク（自分の五感で体感する）
第8回　プレゼンテーション（発表）1
第9回　プレゼンテーション（発表）2
第10回　プレゼンテーション（発表）3
第11回　プレゼンテーション（発表）4
第12回　後期演習プロジェクト企画の設定1
第13回　後期演習プロジェクト企画の設定2
第14回　演習プロジェクト企画書のまとめと発表
第15回　夏休みレポートの課題設定※演習の内容によって多少変更をする場合もある。※この講義では、必要に応じて学外授業・ゲストスピーカーの講演を行うことがある。フィールドワークの時期等も状況に応じて決めていくこととする。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度　（ 40 ）
とくに出席を重視します。

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ〈＊G〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　康子	

テーマ

大学における学習の方法を学ぶ。

授業の到達目標

・論理的な思考方法を学ぶ。・発表、討論の仕方を身に付ける。・レポートの書き方を学ぶ。・京都の建築・インテリアを知る。

授業の概要

京都には見るべき建築・インテリアが多数ある。この授業では、代表的な作品を幾つか取り上げ、それに関する資料（図面、解説書など）を丁寧に読み解き、実際に現地に赴いて見学する。随時レポート提出、発表、討論を行なう。一人一人が、資料や作品の何に着目し、何を思い、それを人にどのように伝えるのか、ということについて自覚的であるよう心掛けること。学外授業を行なう際には、下記の日程を適宜調整する。

準備学習（予習・復習）

日常的に京都のまちを散策し、歴史、文化、デザインに触れ、スケッチや写真撮影などを通して、それらを丁寧に観察すること。

内　　容

第1回　自己紹介
第2回　作品紹介1
第3回　資料の読解、討論1
第4回　資料の読解、討論1
第5回　見学会1
第6回　作品紹介2
第7回　資料の読解、討論2
第8回　資料の読解、討論2
第9回　見学会2
第10回　作品紹介3
第11回　資料の読解、討論3
第12回　資料の読解、討論3
第13回　見学会3
第14回　資料読解と見学をふまえて、レポート発表、討論
第15回　夏休みレポートの説明

履修上の注意点

※この授業では、必要に応じて、学外での授業を行なうことがある。

教科書

なし。資料がある場合は、適宜配布する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 20 ）	

Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅰ〈＊救急A〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　25
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験（ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ＜＊A＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　政木　哲也	

テーマ

都市空間の観察と記述を通して思考法を身につける

授業の到達目標

・都市空間の観察を通じて景観・環境の成り立ちについて考察する・都市空間を自らの言葉で記述し抽象化を試みる・都市空間に対する独自の視点を見つけ出し、他者と共有する方法を学ぶ

授業の概要

私たちが暮らす都市は様々な要素が重なって構成されています。この授業では、身近な都市空間をフィールドに据えて、観察＝路上採集を行います。都市空間を構成している部分を自ら取り出し、分析を加えることを通して、景観や環境がどのようにして成り立っているかを探ります。また、授業では参加者がそれぞれ路上採集したものを発表し、得られた知見を全員で共有することを目指します。学外授業を行う場合は下記日程の中で適宜調整します。

準備学習（予習・復習）

あなたが普段過ごしているまち＝都市空間に対して、それがどのような要素によって作られているのか、意識的になって観察する姿勢が重要です。日頃から都市の細部までよく見ることを心がけてください。

内　　容

第1回　レポート課題の講評・ガイダンス
第2回　学外授業1
第3回　路上採集の発表とディスカッション1
第4回　路上採集の発表とディスカッション2
第5回　路上採集の発表とディスカッション3
第6回　ワークショップ1
第7回　学外授業2
第8回　路上採集の発表とディスカッション4
第9回　路上採集の発表とディスカッション5
第10回　路上採集の発表とディスカッション6
第11回　ワークショップ2
第12回　プレゼンテーション1
第13回　プレゼンテーション2
第14回　プレゼンテーション3
第15回　反省会

履修上の注意点

この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがあります。詳しい日程等は授業の中で周知します。

教科書

テキストは使用しません。授業では適宜資料を配布します。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

考現学入門
著者:　今和次郎
出版社:　筑摩書房
出版年:　1987　　ISBN:

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ＜＊B＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　福井　弘幸

テーマ

学びの基礎的スキル全般の修得。

授業の到達目標

・レポートとレジュメの作成、プレゼンテーション力の修得。・1年間の目標達成度の振り返りを行い、PDCAサイクルの考え方を理解する。

授業の概要

・個人単位のレポート及びグループ単位のレポートを協力し完遂する。・社会の出来事に敏感になり、課題意識を醸成するために一般的なニュースに関して意見を求めることがあります。

準備学習（予習・復習）

・日頃より課題意識をもって、身の周りの事象やニュースを捉えておくこと。・課題は指定日に提出すること。

内　容

第1回　夏休みレポートの発表1：討議と再作業
第2回　夏休みレポートの発表2：、討議と再作業
第3回　夏休みレポートの発表3：討議と再作業
第4回　休みレポートの発表4：討議と再作業
第5回　先行研究及び二次資料などを利用した研究の整理1
第6回　先行研究及び二次資料などを利用した研究の整理2
第7回　レジュメの作成と発表1：作成
第8回　レジュメ作成と発表2：発表
第9回　レジュメの作成発表3：質問
第10回　中間のまとめ
第11回　グループ研究1：テーマの検討
第12回　グループ研究2：テーマのの発表と討議
第13回　グループ研究3：作成
第14回　グループ研究4：発表
第15回　まとめ

履修上の注意点

・授業時間外の調査・研究が必要です。・3分の2以上の出席が必要です。

教科書

プリントを配布します。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ＜＊C＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　織田　直文

テーマ

本に親しみ、実際の地域事業も体験し、思考し議論できるようにする。

授業の到達目標

教科書をはじめ専門書を読解し、また実際の地域事業を体験したレポート執筆などをし、読み、書き、発表し、考える力を身につける。

授業の概要

教科書音読、「私のお奨め一冊」の発表、学外の地域事業見学（学外授業）を行う。夏休みレポートを書き上げ、提出し発表・討論し、年末の「インターゼミナール」で発表する。

準備学習（予習・復習）

私の

内　容

第1回　進め方
第2回　学外授業（地域事業の見学）の説明。
第3回　学外授業（地域事業の見学）。
第4回　学外授業（地域事業の見学）。
第5回　学外授業（地域事業の見学）の反省会。
第6回　教科書音読と「私のお奨め一冊」の発表。
第7回　教科書音読と「私のお奨め一冊」の発表。
第8回　将来の進路学習会。
第9回　夏休みレポートの発表。
第10回　夏休みレポートの発表。
第11回　夏休みレポートの発表。
第12回　学内インターゼミナールでの発表。
第13回　学内インターゼミナールでの発表。
第14回　学内インターゼミナールの反省会。
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書は新装版（2014年版）を購入すること。発表に備え、早めにレジュメ（発表用メモ）を作成する。夏休みレポートの提出とインターゼミナール出席は必須で、後期の評価の主要部分を占めるので怠らないように。

教科書

京都の千二百年　下　新装版
著者：　西川幸治・高橋徹
出版社：草思社
出版年：2014　　ISBN：

参考書

その都度紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 50 ）
参加度（出席状況、受講態度、ゼミ運営上での役割分担と貢献度等の総合評価）と「夏休みレポート」内容と発表（インターゼミナール参加）、「私のお奨め一冊」の内容と発表、その他を総合化して、評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ＜＊D＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　小森　治夫

テーマ

小論文とレジュメを作成し、プレゼンテーションをする

授業の到達目標

「夏休みレポート」（自分の意見を論理だてて展開した小論文）を作成する。そのレポートをもとに、レジュメを作成する。人を説得するためのプレゼンテーションの技法を身につける

授業の概要

インターゼミナールを目指して、以下の内容について実践する

準備学習（予習・復習）

レジュメを作成する、修正するプレゼンテーションの練習をする

内　容

第1回　夏休みレポートの提出とテーマ報告
第2回　レジュメの作成とプレゼンテーションの技法
第3回　夏休みレポートの発表（1）
第4回　夏休みレポートの発表（2）
第5回　夏休みレポートの発表（3）
第6回　夏休みレポートの発表（4）
第7回　夏休みレポートの発表（5）
第8回　プレゼンテーションの実践（1）
第9回　プレゼンテーションの実践（2）
第10回　プレゼンテーションの実践（3）
第11回　プレゼンテーションの実践（4）
第12回　プレゼンテーションの実践（5）
第13回　プレゼンテーションの実践（6）
第14回　インターゼミナールの反省
第15回　１年を振り返って

履修上の注意点

教科書

参考書

大学生の学習テクニック（第3版）
著者:　森　靖雄
出版社:　大月書店
出版年:　2014年　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ＜＊E＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　金武 創

テーマ

アカデミックスキルとベーシックスキルの取得

授業の到達目標

研究テーマを絞る方法を身につける自らの経験を通して、観察する／理解する／伝えるための言語力を伸ばす

授業の概要

アカデミック・スキルとソーシャル・スキルの習得

準備学習（予習・復習）

図書館の積極的利用を通して、専門学習への準備をすること

内　容

第1回　夏休みレポートの再作業①　作業の反省
第2回　夏休みレポートの再作業②　図書館でのさらなる文献探索
第3回　夏休みレポートの再作業③　5分間スピーチに向けて
第4回　夏休みレポートの再作業④　レジュメの作成
第5回　自分なりの研究テーマを考える1　視点を持つこと
第6回　自分なりの研究テーマを考える2　視点を変える
第7回　自分なりの研究テーマを考える3　逆演算
第8回　自分なりの研究テーマを考える4　条件を変えてみる
第9回　自分なりの研究テーマを考える5　要素と構造
第10回　自分なりの研究テーマを考える6　自分の尺度を持つ
第11回　自分なりの研究テーマを考える7　アナロジーを使う
第12回　自分なりの研究テーマを考える8　伝える場合、伝えない場合
第13回　自分なりの研究テーマを考える9　個で考えて集団で共有する
第14回　もう一度レジュメを作ってみる
第15回　まとめ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 100 ）　　授業中発表等（ ）

参加度　（ ）

学外授業を実施する場合も授業中課題を課します。

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ＜＊F＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　木下　達文

テーマ

現代マネジメントを総合的に考える～大学における研究と実践（プロジェクト）の実際を学ぶ～

授業の到達目標

本演習では、今後の専門演習に向け大学における研究と実践の基礎としての課題設定、情報（文献）収集、レポート・原稿の書き方、調査（フィールドワーク）の方法など、基礎的な方法論と同時に、クラスで一つの事業実践を企画し、その事業テーマについて、理論と事例をまなびつつ、実践を行いながら、身をもって現代ビジネスのあり方を応用的に身につけるとともに、全体的には、企画力、表現力、行動力、コミュニケーション力の基礎を高めることを目的とする。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

メールグループやメーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導も合わせて行う予定である。日頃の生活では、身の回りの出来事を観察することが大切です。研究と実践に繋がる事象をこまめに観察したり、可能な範囲で体験できることはしてみましょう。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業目標・自他理解）
第2回　個人研究発表１
第3回　個人研究発表２
第4回　個人研究発表３
第5回　個人研究発表４
第6回　個人研究発表５
第7回　個人研究発表６
第8回　個人研究発表７
第9回　個人研究発表８
第10回　プロジェクト企画に関する基礎研究の検討
第11回　プロジェクト企画に関する事業計画
第12回　学科インターゼミナールの実施
第13回　プロジェクト企画に関する事業準備
第14回　プロジェクト企画に関する事業実践
第15回　プロジェクト企画に関する事業評価（エヴァリエーション活動）※演習の内容や進行状況によって多少変更をする場合もある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度　（ 40 ）
特に出席を重視する。

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ＜＊G＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　康子	

テーマ

小論文を作成し、発表する。

授業の到達目標

・調査の方法を学ぶ。・論文の書き方を学ぶ。・プレゼンテーション能力を身に付ける。・基礎演習1に引き続き、京都の建築・インテリアを知る。

授業の概要

夏休みレポートをもとにして、各自、小論文を作成する。論文作成にあたり、必要な調査方法、論文の書き方、プレゼンテーション能力を身に付ける。またこの授業ではグループで見学会を企画し、それについての調査、発表を行なう。学外授業を行なうこともあり、その場合には下記の日程を適宜調整する。

準備学習（予習・復習）

日常的に新聞、雑誌、本などを読むこと。気になるところに傍線を引く、メモ書きをするなど、それぞれの仕方で理解するよう努めること。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　夏休みレポートをもとに、小論文のテーマを発表。
第3回　2グループに分かれて見学会を企画。見学する建築・インテリアについては、各グループ内で話し合って決めること。
第4回　見学する建築・インテリアの歴史、文化、思想、構成などの調査。（図書館を利用した文献調査や、地域の人へのヒアリングなど）
第5回　見学する建築・インテリアの歴史、文化、思想、構成などの調査。
第6回　調査内容についてのプレゼンテーション。（パワーポイントの利用）
第7回　調査内容についてのプレゼンテーション。
第8回　見学会の実践1
第9回　見学会の実践2
第10回　反省会（調査内容の不足や過多、見学会での発見などを確認）
第11回　小論文の作成。
第12回　小論文の作成。
第13回　小論文の発表。
第14回　小論文の発表。
第15回　発表予備日。一年間のまとめ。

履修上の注意点

※この授業では、必要に応じて、学外での授業を行なうことがある。

教科書

なし。資料がある場合は、適宜配布する。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 20 ）	

Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅱ＜＊救急A＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　25
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**造形基礎**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　富家　大器	

テーマ

デッサンや色彩の演習を通じ「色」や「かたち」を表現する基礎を学習する

授業の到達目標

自分の手を動かしていくことで体験的に観察力を養うとともに、もののもつ形態的な特徴や素材感などを把握し表現する能力を高め、あらゆる造形表現の基礎能力を獲得する。

授業の概要

鉛筆を使ったデッサン、色紙を使用する平面構成、ペーパーを使った立体構成を予定している。適宜事例の解説なども織りまぜて行く。場合によって各自の作品発表を行うこともある。

準備学習（予習・復習）

普段から「物をよく見る」という姿勢が重要。また、美術館に出向いたりして先人のよい作品などを積極的に観賞することも効果的である。家にある色々なものを最低限1日10分でも毎日描くなどして予習復習し、手や目に「慣れ」を作っていくのも良い方法。

内　　容

第1回　ガイダンス　道具の使い方、デッサンの基礎
第2回　デッサン1（課題1）
第3回　デッサン2（課題2-1）
第4回　デッサン3（課題2-2）
第5回　デッサン4（課題3-1）
第6回　デッサン5（課題3-2）
第7回　平面構成　課題説明　事例紹介
第8回　平面構成1（課題1-1）
第9回　平面構成2（課題1-2）
第10回　平面構成3（課題2-1）
第11回　平面構成4（課題2-2）
第12回　立体構成　課題説明　事例紹介
第13回　立体構成1（課題1-1）
第14回　立体構成2（課題1-2）
第15回　立体構成3　まとめと発表

履修上の注意点

クリエイティブな教室の空気を醸成するために私語などは厳禁です、謹んでください。私語などを含む授業態度や受講のマナーもチェックしていますので評価対象になります。尚、全授業回数の1/3以上の欠席をもって授業放棄と見なすので注意してください。尚、受講に必要なスケッチブック、鉛筆数本、その他画材（合わせて1000～2000円程度）を購入して頂く必要があります。これについては、初回の授業で説明します。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業中都度紹介します

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（ 20 ）

参加度　（ 30 ）

授業中課題50%、授業への出席状況・授業中の態度、授業への積極性・参加度を総合して50%

2016 Syllabus

科 目 名　**建築・インテリア設計演習Ⅰ〈a〉**

クラス		配当回生	学部1回生
講義期間	前期	定　　員	40
履修条件	「建築・インテリア設計演習Ⅰ」および「建築・インテリア設計演習Ⅱ」をセットで登録すること	クラス指定	
担 当 者	半海　宏一		

テーマ

建築・インテリアの基礎を修得する。

授業の到達目標

建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。

授業の概要

図面、模型製作から設計の基礎を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

身の回りの空間や物の寸法に関心を持つ。

内　　容

第1回　ガイダンス（1）
第2回　ガイダンス（2）
第3回　線の引き方（1）
第4回　線の引き方（2）
第5回　木造住宅のトレース1、平面図（1）
第6回　木造住宅のトレース1、平面図（2）
第7回　木造住宅のトレース2、立面図・断面図（1）
第8回　木造住宅のトレース2、立面図・断面図（2）
第9回　木造住宅のトレース3、矩計図（1）
第10回　木造住宅のトレース3、矩計図（2）
第11回　部屋の改装1、実測とエスキース（1）
第12回　部屋の改装1、実測とエスキース（2）
第13回　部屋の改装2、平面図・展開図（1）
第14回　部屋の改装2、平面図・展開図（2）
第15回　部屋の改装3、模型制作（1）
第16回　部屋の改装3、模型制作（2）
第17回　部屋の改装4、模型制作（1）
第18回　部屋の改装4、模型制作（2）
第19回　小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース（1）
第20回　小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース（2）
第21回　小住宅の設計2、エスキース、平面図の作成（1）
第22回　小住宅の設計2、エスキース、平面図の作成（2）
第23回　小住宅の設計3、立面図・断面図の作成（1）
第24回　小住宅の設計3、立面図・断面図の作成（2）
第25回　小住宅の設計4、模型制作（1）
第26回　小住宅の設計4、模型制作（2）
第27回　小住宅の設計5、模型制作（1）
第28回　小住宅の設計5、模型制作（2）
第29回　講評とまとめ（1）
第30回　講評とまとめ（2）

履修上の注意点

教科書

参考書

a50201d210

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）
授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**建築・インテリア設計演習Ⅰ <b>**

クラス		配当回生	学部1回生
講義期間	前期	定　　員	40
履修条件	「建築・インテリア設計演習Ⅰ」および「建築・インテリア設計演習Ⅱ」をセットで登録すること	クラス指定	
担 当 者	近藤　康子		

テーマ

建築・インテリアの基礎を修得する。

授業の到達目標

建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。

授業の概要

建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。

準備学習（予習・復習）

日常生活においても空間に対する関心を忘れずに、広く情報を得るよう心掛けること。

内　　容

第1回　ガイダンス（1）
第2回　ガイダンス（2）
第3回　線の引き方（1）
第4回　線の引き方（2）
第5回　木造住宅のトレース1、平面図（1）
第6回　木造住宅のトレース1、平面図（2）
第7回　木造住宅のトレース2、立面図・断面図（1）
第8回　木造住宅のトレース2、立面図・断面図（2）
第9回　木造住宅のトレース3、矩計図（1）
第10回　木造住宅のトレース3、矩計図（2）
第11回　部屋の改装1、実測とエスキース（1）
第12回　部屋の改装1、実測とエスキース（2）
第13回　部屋の改装2、平面図・展開図（1）
第14回　部屋の改装2、平面図・展開図（2）
第15回　部屋の改装3、模型制作（1）
第16回　部屋の改装3、模型制作（2）
第17回　部屋の改装4、模型制作（1）
第18回　部屋の改装4、模型制作（2）
第19回　小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース（1）
第20回　小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース（2）
第21回　小住宅の設計2、エスキース、平面図の作成（1）
第22回　小住宅の設計2、エスキース、平面図の作成（2）
第23回　小住宅の設計3、立面図・断面図の作成（1）
第24回　小住宅の設計3、立面図・断面図の作成（2）
第25回　小住宅の設計4、模型制作（1）
第26回　小住宅の設計4、模型制作（2）
第27回　小住宅の設計5、模型制作（1）
第28回　小住宅の設計5、模型制作（2）
第29回　講評とまとめ（1）
第30回　講評とまとめ（2）

履修上の注意点

教科書

初学者の建築講座　建築製図
著者：　瀬川康秀
出版社：　市ヶ谷出版
出版年：　　ISBN：

a50201d212

参考書

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）
授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**建築・インテリア設計演習Ⅰ〈c〉**

クラス		配当回生	学部1回生
講義期間	前期	定　　員	40
履修条件	「建築・インテリア設計演習Ⅰ」および「建築・インテリア設計演習Ⅱ」をセットで登録すること	クラス指定	
担 当 者	伊藤　健一		

テーマ

授業の到達目標

建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　ガイダンス（1）
第2回　ガイダンス（2）
第3回　線の引き方（1）
第4回　線の引き方（2）
第5回　木造住宅のトレース1、平面図（1）
第6回　木造住宅のトレース1、平面図（2）
第7回　木造住宅のトレース2、立面図・断面図（1）
第8回　木造住宅のトレース2、立面図・断面図（2）
第9回　木造住宅のトレース3、矩計図（1）
第10回　木造住宅のトレース3、矩計図（2）
第11回　部屋の改装1、実測とエスキース（1）
第12回　部屋の改装1、実測とエスキース（2）
第13回　部屋の改装2、平面図・展開図（1）
第14回　部屋の改装2、平面図・展開図（2）
第15回　部屋の改装3、模型制作（1）
第16回　部屋の改装3、模型制作（2）
第17回　部屋の改装4、模型制作（1）
第18回　部屋の改装4、模型制作（2）
第19回　小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース（1）
第20回　小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース（2）
第21回　小住宅の設計2、エスキース、平面図の作成（1）
第22回　小住宅の設計2、エスキース、平面図の作成（2）
第23回　小住宅の設計3、立面図・断面図の作成（1）
第24回　小住宅の設計3、立面図・断面図の作成（2）
第25回　小住宅の設計4、模型制作（1）
第26回　小住宅の設計4、模型制作（2）
第27回　小住宅の設計5、模型制作（1）
第28回　小住宅の設計5、模型制作（2）
第29回　講評とまとめ（1）
第30回　講評とまとめ（2）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**建築・インテリア設計演習Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　建築・インテリア設計演習 Ⅰを修得済み	クラス指定
担 当 者　半海　宏一	

テーマ

建築・インテリアの基礎を修得する。

授業の到達目標

建築・インテリアの基礎を習得するため、図面と模型の制作を行う。前半にインテリアの基礎として、一点透視図、二点透視図、アクソノメトリック図や家具図などの描き方を練習する。後半には一般的な戸建て住宅の設計を行い、講評を実施する。設計の途中段階で模型を制作し、空間と機能についてさまざまな角度から検討する。

授業の概要

表現技法を学び、戸建て住宅を設計する。

準備学習（予習・復習）

生活するイメージを持ち設計できるように、自分の生活にも関心を持つ。

内　容

第1回　ガイダンス（1）
第2回　ガイダンス（2）
第3回　インテリア・パースの練習1、一点透視図（1）
第4回　インテリア・パースの練習1、一点透視図（2）
第5回　インテリア・パースの練習2、二点透視図1（1）
第6回　インテリア・パースの練習2、二点透視図1（2）
第7回　インテリア・パースの練習3、二点透視図2（1）
第8回　インテリア・パースの練習3、二点透視図2（2）
第9回　アクソノメトリック図の作成1（1）
第10回　アクソノメトリック図の作成1（2）
第11回　アクソノメトリック図の作成2（1）
第12回　アクソノメトリック図の作成2（2）
第13回　講評（1）
第14回　講評（2）
第15回　戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース（1）
第16回　戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース（2）
第17回　戸建て住宅の設計2、エスキース（1）
第18回　戸建て住宅の設計2、エスキース（2）
第19回　戸建て住宅の設計3、平面図の作成（1）
第20回　戸建て住宅の設計3、平面図の作成（2）
第21回　戸建て住宅の設計4、立面図の作成（1）
第22回　戸建て住宅の設計4、立面図の作成（2）
第23回　戸建て住宅の設計5、断面図の作成（1）
第24回　戸建て住宅の設計5、断面図の作成（2）
第25回　戸建て住宅の設計6、模型（1）
第26回　戸建て住宅の設計6、模型（2）
第27回　戸建て住宅の設計7、模型（1）
第28回　戸建て住宅の設計7、模型（2）
第29回　講評とまとめ（1）
第30回　講評とまとめ（2）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

a50201d350

授業中課題（40）　授業中発表等（30）

参加度（30）

2016 Syllabus

科 目 名　**建築・インテリア設計演習Ⅱ <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　建築・インテリア設計演習 Ⅰを修得済み	クラス指定
担 当 者　福田　浩明	

テーマ

建築・インテリアの基礎を修得する。

授業の到達目標

建築・インテリアの基礎を習得するため、図面と模型の制作を行う。前半にインテリアの基礎として、一点透視図、二点透視図、アクソノメトリック図や家具図などの描き方を練習する。後半には一般的な戸建て住宅の設計を行い、講評を実施する。設計の途中段階で模型を制作し、空間と機能についてさまざまな角度から検討する。

授業の概要

建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。

準備学習（予習・復習）

日常生活においても空間に対する関心を忘れずに、広く情報を得るよう心掛けること。

内　容

第1回　ガイダンス（1）
第2回　ガイダンス（2）
第3回　インテリア・パースの練習1、一点透視図（1）
第4回　インテリア・パースの練習1、一点透視図（2）
第5回　インテリア・パースの練習2、二点透視図1（1）
第6回　インテリア・パースの練習2、二点透視図1（2）
第7回　インテリア・パースの練習3、二点透視図2（1）
第8回　インテリア・パースの練習3、二点透視図2（2）
第9回　アクソノメトリック図の作成1（1）
第10回　アクソノメトリック図の作成1（2）
第11回　アクソノメトリック図の作成2（1）
第12回　アクソノメトリック図の作成2（2）
第13回　講評（1）
第14回　講評（2）
第15回　戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース（1）
第16回　戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース（2）
第17回　戸建て住宅の設計2、エスキース（1）
第18回　戸建て住宅の設計2、エスキース（2）
第19回　戸建て住宅の設計3、平面図の作成（1）
第20回　戸建て住宅の設計3、平面図の作成（2）
第21回　戸建て住宅の設計4、立面図の作成（1）
第22回　戸建て住宅の設計4、立面図の作成（2）
第23回　戸建て住宅の設計5、断面図の作成（1）
第24回　戸建て住宅の設計5、断面図の作成（2）
第25回　戸建て住宅の設計6、模型（1）
第26回　戸建て住宅の設計6、模型（2）
第27回　戸建て住宅の設計7、模型（1）
第28回　戸建て住宅の設計7、模型（2）
第29回　講評とまとめ（1）
第30回　講評とまとめ（2）

履修上の注意点

教科書

初学者の建築講座　建築製図
著者：　瀬川康秀
出版社：市ヶ谷出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）
授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　CAD演習Ⅰ〈a〉

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　34
履修条件	クラス指定

担 当 者　中山 大介

テーマ

2次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

授業の到達目標

コンピューターの基本的な操作を習得する。データの保存方法や保存形式の違い、印刷設定や印刷方法、データの切り取りや貼付け、フォント名称やサイズの変更など、コンピューター操作全般に関わる基本的な知識を身に付ける。さらに、CADの基本的な操作方法について学ぶ。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　CADソフトについて
第2回　CAD製図の基礎とオブジェクトの操作
第3回　CAD製図の基礎とオブジェクトの操作（2）
第4回　平面図の作図
第5回　〃（2）
第6回　〃（3）
第7回　〃（4）
第8回　〃（5）
第9回　〃（6）
第10回　〃（7）
第11回　〃（8）
第12回　〃（9）
第13回　家具、窓等の作図
第14回　家具、窓等の作図（2）
第15回　課題の作図、提出
第16回　課題の作図、提出（2）
第17回　立面図の作図
第18回　〃（2）
第19回　〃（3）
第20回　〃（4）
第21回　〃（5）
第22回　〃（6）
第23回　断面図の作図
第24回　〃（2）
第25回　〃（3）
第26回　〃（4）
第27回　敷地図の作図、レイアウト
第28回　敷地図の作図、レイアウト（2）
第29回　図面の設定、印刷、
第30回　総括

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

VectorworksではじめるCAD 2010/2009/2008
著者:　五十嵐進
出版社:　ソーテック
出版年:　2010　　ISBN:　9784881667330

参考書

初学者の建築講座
著者:　瀬川康秀

a50201d410

出版社: 市ヶ谷出版社
出版年: 2011　　ISBN: 9784870710146

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　CAD演習Ⅰ <b>

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　34
履修条件	クラス指定
担 当 者　松本　正富	

テーマ

2次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

授業の到達目標

コンピューターの基本的な操作を習得する。データの保存方法や保存形式の違い、印刷設定や印刷方法、データの切り取りや貼付け、フォント名称やサイズの変更など、コンピューター操作全般に関わる基本的な知識を身に付ける。さらに、CADの基本的な操作方法について学ぶ。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　CADソフトについて
第2回　CAD製図の基礎とオブジェクトの操作
第3回　CAD製図の基礎とオブジェクトの操作（2）
第4回　平面図の作図
第5回　〃（2）
第6回　〃（3）
第7回　〃（4）
第8回　〃（5）
第9回　〃（6）
第10回　〃（7）
第11回　〃（8）
第12回　〃（9）
第13回　家具、窓等の作図
第14回　家具、窓等の作図（2）
第15回　課題の作図、提出
第16回　課題の作図、提出（2）
第17回　立面図の作図
第18回　〃（2）
第19回　〃（3）
第20回　〃（4）
第21回　〃（5）
第22回　〃（6）
第23回　断面図の作図
第24回　〃（2）
第25回　〃（3）
第26回　〃（4）
第27回　敷地図の作図、レイアウト
第28回　敷地図の作図、レイアウト（2）
第29回　図面の設定、印刷、
第30回　総括

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

VectorworksではじめるCAD 2010/2009/2008
著者:　五十嵐進
出版社:　ソーテック
出版年:　2010　　ISBN:　9784881667330

参考書

初学者の建築講座
著者:　瀬川康秀

a50201d412

出版社: 市ヶ谷出版社
出版年: 2011　　ISBN: 9784870710146

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**建築構造**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　福田 浩明

テーマ

建築の構成の基礎を学ぶ

授業の到達目標

建築における構造の仕組みや役割を学ぶ。木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、壁式鉄筋コンクリート構造、コンクリートブロック構造など基本的な構法を取り上げ、それらの特性について理解する。

授業の概要

建築における構造の仕組みや役割を学ぶために、サンプルや映像を通し理解を深め、スケッチや文章を板書することで、視覚的に考えることのできる基礎を学んでもらう。

準備学習（予習・復習）

最終日の試験に備えて、とにかくノートを自筆でしっかりとってください。

内　容

第1回　ガイダンス、建築構造と倫理
第2回　地盤特性について
第3回　基礎について、免震構造
第4回　木質構造1
第5回　木質構造2
第6回　コンクリートブロック構造、組石造
第7回　壁式鉄筋コンクリート構造
第8回　鉄筋コンクリート構造1
第9回　鉄筋コンクリート構造2
第10回　鉄骨構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造
第11回　建築の各部構造1、屋根
第12回　建築の各部構造2、床と壁
第13回　建築の各部構造3、天井と階段
第14回　建築の各部構造4、造作と開口部
第15回　まとめ

履修上の注意点

3回以上の欠席は原則認めません。欠席理由は必ず前後で申し出ること

教科書

図解　やさしい建築一般構造
著者:　今村仁美　他
出版社:　学芸出版社
出版年:　2009　　ISBN:

参考書

建築構造概論
著者:　桑村仁　他
出版社:　実教出版
出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）
人数、その他の状況で評価方法が変わることもありますが、原則出席をしてのノートの記録を重要視します。100点満点のペーパーテスト（ノートの持ち込みも可、コピーは不可）と一緒に成績の評価とします。

2016 Syllabus

科 目 名　**構造力学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　山本　康彦	

テーマ

建築物に働く力の基礎を理解する。

授業の到達目標

力に関する基本的な知識を学び、構造物について詳しく理解する。力学で使われる用語の解説から、構造物に生じる反力と応力の求め方、構造物の判別、静定構造物の弾性解析、断面の性質などについて練習問題を通して具体的に理解を深める。

授業の概要

テキストを中心に基本を理解し、プリントを使って練習を重ねる。

準備学習（予習・復習）

次回講義範囲をテキストを使って予習し、プリントで復習する。予習、復習で週1時間程度。また、常に建物に興味を持ち、建築途中の現場等では、建物がどのように建てられているのかを考えながら見るようにする。

内　容

第1回　構造力学について
第2回　力のつり合い
第3回　外力と内力のつりあい
第4回　構造物の分類とモデル化
第5回　構造部材に生じる応力と応力図
第6回　静定骨組みの応力計算1　片持ちはり
第7回　静定骨組みの応力計算2　単純はり
第8回　断面の性質1
第9回　断面の性質2
第10回　静定ラーメンの応力計算1　片持はり型ラーメン
第11回　静定ラーメンの応力計算2、単純はり型ラーメン
第12回　静定ラーメンの応力計算3、3ヒンジラーメン
第13回　静定トラスの解析1、節点法
第14回　静定トラスの解析2、切断法
第15回　まとめ

履修上の注意点

構造力学は、1回1回の受講の積み重ねで、理解が進んでいく科目です。欠席する事なく、受講に際しては、毎回ノートを取り、しっかりと復習するようにしてください。欠席した際には、講義範囲をテキストを使って学習し、理解不十分な所は、講師に質問し、次回以降の講義に支障のないように努めてください。

教科書

図説優しい構造力学
著者:　浅野清昭
出版社:（株)学芸出版社
出版年:　2014年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 50 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**インテリアデザイン論**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　近藤 康子

テーマ

インテリアデザインに関する基礎知識を修得する。

授業の到達目標

インテリアのデザインに関する基礎的な知識を修得する。建物の内装を構成する色彩、形態、空間、家具、建具、設備やそれらの性質、機能や構造などについて学ぶ。また、実際の事例について解説し、カタログ・見本帳・サンプルなどを実際に見ることで理解を深め、快適なインテリア空間の在り方について考える。

授業の概要

建物の内装を構成する色彩、形態、空間、家具、建具、設備および性質、機能、構造に関する知識を学ぶ。具体事例を多数参照し、そこに自らの経験を重ね合わせることで、一人一人が快適なインテリア空間のありかたについて考える。

準備学習（予習・復習）

日常生活においてもインテリアデザインに関心をもち、多くの情報を得るよう心掛けること。

内　容

第1回　暮らしとインテリア
第2回　日本の住まいとインテリア　西洋のインテリアと家具の様式
第3回　インテリアと寸法
第4回　インテリアの性能と安全性
第5回　空間のデザイン
第6回　インテリアの色彩、テクスチャー
第7回　インテリアの仕上げ材料
第8回　家具の種類、配置、インテリアファブリック
第9回　照明計画と照明器具
第10回　インテリアの構法とデザイン
第11回　室内環境の計画
第12回　インテリアの計画演習1
第13回　インテリアの計画演習2
第14回　インテリアの計画演習3
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

なし。資料を適宜配布。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 50 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**インテリアエレメント**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　康子	

テーマ

インテリア空間を構成する要素についての基礎知識を修得する。

授業の到達目標

インテリアにおいて、構造から仕上げに至るまでの基本的な知識を修得する。規格や性質等を含め、さまざまなインテリアエレメントについて学ぶ。構成要素・素材の総合的な知識を身に付け、材料・空間・生活の相互関連メカニズムを論じる。また、ユニバーサルデザイン、サスティナブルデザインにも言及する。

授業の概要

さまざまなインテリアエレメント（床、窓、壁、天井、階段、家具など）について、構造、規格、性質、仕上げなどの基本的な知識を修得する。インテリア空間と人間の生活とが、どのように関わり合うのかについても検討する。

準備学習（予習・復習）

見学や、雑誌・写真集の閲覧などを通して、なるべく多くの作品に触れること。

内　　容

第1回　インテリアエレメント・マテリアル概論
第2回　文化としての生活・建築・環境づくり：インテリア空間の基本的構成エレメント1
第3回　文化としての生活・建築・環境づくり：インテリア空間の基本的構成エレメント2
第4回　要素と構成：要素から室内空間へ1・・・・（エレメント-1）
第5回　要素と構成：要素から室内空間へ2・・・・（エレメント-2）
第6回　重要素の種類と性格・・・・・・・・・・・（エレメント-3）
第7回　内外環境計画の現場を知る【学外研修】：エレメントとマテリアルへの注目
第8回　空間構成と計画・・・（エレメントとマテリアル-1）
第9回　空間構成と表現・・・（エレメントとマテリアル-2）
第10回　要素と構築-1：石と壁組から・・・・・・（マテリアル-1）
第11回　要素と構築-2：木と軸組から・・・・・・（マテリアル-2）
第12回　重要材の種類と性質・・・・・・・・・・（マテリアル-3）
第13回　エレメントとマテリアルによる統合-1：ユニバーサルデザイン
第14回　エレメントとマテリアルによる統合-2：サスティナブルデザイン
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

なし。資料を適宜配布。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 50 ）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（　）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**観光学総論 <Z>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　谷口　知司	

テーマ

観光学の全体像を知る。

授業の到達目標

さまざまな観光の現況と、それらが社会の情報化の中でどのように変容してきたかについて理解する。

授業の概要

観光学の全般について論述する。

準備学習（予習・復習）

さまざまな調査・文献研究を授業外で要求する。それらは基本的にレポートとして提出する。

内　容

第1回　観光とは（歴史を含む）①
第2回　観光とは（歴史を含む）②
第3回　旅行業と観光①
第4回　旅行業と観光②
第5回　鉄道会社と観光①
第6回　鉄道会社と観光②
第7回　航空産業と観光①
第8回　航空産業と観光②
第9回　ホテル・旅館業と観光①
第10回　ホテル・旅館業と観光②
第11回　土産品と観光①
第12回　土産品と観光②
第13回　ニューツーリズム①
第14回　ニューツーリズム②
第15回　まとめ

履修上の注意点

レポート等の提出機会も多くなるので積極的に取り組んでください。

教科書

観光ビジネス論
著者:　谷口知司編著
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2010　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 20 ）
3分の2以上の出席が必要です。

2016 Syllabus

科 目 名　**観光資源論Ⅰ〈Z〉**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　谷口 知司

テーマ

日本国内の観光資源について概観する。

授業の到達目標

国内の主要な観光地理を概観し、国内観光資源の全体像を理解できることを目的とする。

授業の概要

ワークブックを用いて行う。なお、グループ単位での発表を行う。

準備学習（予習・復習）

毎回授業で小テストを行うので家庭学習が必要です。また、毎回グループでの発表を行うので予習が必要です。

内　容

第1回　北海道エリア1
第2回　北海道エリア2
第3回　東北エリア1
第4回　東北エリア2
第5回　関東エリア1
第6回　関東エリア2
第7回　中部エリア1
第8回　中部エリア2
第9回　関西エリア1
第10回　関西エリア2
第11回　中国・四国エリア1
第12回　中国・四国エリア2
第13回　九州・沖縄エリア1
第14回　九州・沖縄エリア2
第15回　まとめ

履修上の注意点

毎回行う小テストの成績評価でのウエイトが高いため、特に復習に時間を割いてほしい。

教科書

国内観光地理
著者:　JTB能力開発
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 10 ）　　小テスト （ 60 ）
授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 10 ）
3分の2以上の出席が必要です。

2016 Syllabus

科 目 名　**観光資源論Ⅱ <Z>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　谷口 知司

テーマ

海外観光地理を学ぶ。

授業の到達目標

海外の観光地理を学び、それぞれの地域の観光資源（自然、人文、複合）についての知識を得ることを目的とする。

授業の概要

テキストを中心に授業を進めるが、毎回小テストを課す。参加者の発表が毎回ある。

準備学習（予習・復習）

毎回小テストを課し、その成績評価でのウエイトが高いので、自宅学習は必要です。発表のための予習も必要です。

内　容

第1回　導入およびアジア①
第2回　アジア②
第3回　アジア③
第4回　ヨーロッパ①
第5回　ヨーロッパ②
第6回　ヨーロッパ③
第7回　南北アメリカ①
第8回　南北アメリカ②
第9回　南北アメリカ③
第10回　オセアニア、太平洋の島々①
第11回　オセアニア、太平洋の島々②
第12回　オセアニア、太平洋の島々②
第13回　中東、アフリカ①
第14回　中東、アフリカ②
第15回　中東、アフリカ③およびまとめ

履修上の注意点

教科書

海外観光地理サブノート
著者:　JTB能力開発
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 10 ）　　小テスト （ 60 ）
授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 10 ）
3分の2以上の出席が必要です。

Syllabus

科 目 名　**まちづくり論入門 <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**観光文化論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金武　創	

テーマ

観光学の基本的理解（主として観光文化の視点から）

授業の到達目標

観光学の基礎を学び理解すること観光現象における文化と経済の緊張関係を考えること地域の主体的自立を自分の問題として考えること

授業の概要

観光文化について、人類学や社会学、民俗学などを中心に学習する。受講人数によって、グループワークと文献購読あるいはツーリズム・コンテンツを組み合わせたPBL型授業を行うか、VTR+新聞資料を中心とした講義を進める。

準備学習（予習・復習）

日常評価に結びつく授業中課題が毎回あります

内　　容

第1回　観光学の基礎1
第2回　観光学の基礎2
第3回　観光学の基礎3
第4回　観光とメディア
第5回　個人化する観光
第6回　観光経験　ブーアスティンとマキャーネルの論考から
第7回　ホストとゲスト
第8回　「大きな物語」と文化遺産観光（1）
第9回　「大きな物語」と文化遺産観光（2）
第10回　「大きな物語」と文化遺産観光（3）
第11回　戦争と観光
第12回　アニメ・マンガ・ゲーム観光
第13回　ボランティア観光
第14回　エコツーリズム
第15回　総括※なお、この授業では必要に応じて講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

観光経験の人類学
著者：　橋本和也
出版社：　世界思想社
出版年：　2011　　ISBN：

観光文化学
著者：　山下晋司
出版社：　新陽社
出版年：　2007　　ISBN：

ふるさと資源化と民俗学
著者：　岩本通弥編
出版社：　吉川弘文館
出版年：　2007　　ISBN：

a50201e350

祭りのゆくえ

著者:　松平誠

出版社: 中央口論新社

出版年:　　ISBN:

n次創作観光

著者:　岡本健

出版社: 北海道冒険芸術出版

出版年: 2013　　ISBN:

観光学ガイドブック

著者:　大橋昭一ほか

出版社: ナカニシヤ出版

出版年: 2014　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ 30 ）

授業中課題 （ 70 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**文化プロデュース入門Ⅰ <Z>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小暮 宣雄	

テーマ

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科公共政策コースの扉を開く

授業の到達目標

文化と都市、プロデュースと公共政策≒環境デザインの関係を広く柔軟に学ぶ。地域公共政策と文化プロデュースの関係を知る。映画（アニメ、ホラーなど）を事例として、文化をプロデュースする世界を垣間見る。

授業の概要

都市環境デザイン学科の主に公共政策コースを学びたい学生さんの最初の一歩。でも、他の学修にも役に立つと思います。

準備学習（予習・復習）

地元の自治体のニュースや情報を知るようにすること。また、古典となった映画を系統的に紹介するので、それを、ただぼんやり見るのではなく、どういうプロデュース手法がとられているのか、監督の特質とはなんだろうかなど、分析的かつ批評的に鑑賞すること。メディアセンターなどに設置してあります。東部文化会館にいって実際に鑑賞を行うので、よく地理を調べておくこと。参考文献をいくつか購入して読むこと。そのために生協読書奨励制度を活用すること。ソーシャルメディアもfacebookを活用したりブログなどを手がけたりうまく利用したりするようにしてください。

内　容

第1回　はじめに・・地域公共政策士の初級プログラム「文化プロデュース力養成講座」とはなにか
第2回　文化ってなんだろう～静的な捉え方と動的（社会構成的）な捉え方
第3回　地域とはなにか―都市と地方、国と国際との概念を明確にするために―
第4回　政策とはなにか、行政とはなにか
第5回　学外授業　京都市内などにおいて、地域の公共的文化環境を視察する（京都芸術センターなどが候補）
第6回　地域と政策と文化との関係（互いの関係とすみわけ）
第7回　文化と政策との概略史
第8回　誕生日のあるアーツ、それが映画だ（活動写真からトーキーへ）
第9回　アニメ映画への接近（原恵一監督～「河童のクゥの夏休み」から分かること）、アニメと文化プロデュース、まちおこしとの関係
第10回　実写映画への接近1（黒沢清監督～ホラー映画は映画の本質を示すというのは本当か？）
第11回　実写映画への接近2（黒沢清監督～心理とアクション～）「東京ソナタ」を題材にして、映画は時代をどう映すのか？
第12回　映画プロデュースと地域公共との関係
第13回　文化プロデュースはまちに何をもたらすのか
第14回　私たちのまちと文化の未来へ、文化行政と企業メセナへの提案
第15回　まとめ・・・これからの公共政策コース、文化プロデュース力養成講座の予告文化プロデュースに関わる学外での活動を随時説明する。ゲストで飛び入りのアーティストなどが夏休みのボランティア募集などに来ることも可能性あり。

履修上の注意点

大学の図書館やメディアセンターを活用すると、資料や映画なども観ることができるので、空き時間などを無駄に使わないで自習すること。1回生のときから、文化プロデュースや地域公共政策に強い関心を持つ学生は、学外活動に参加することが出来るので、申し出ること。

教科書

参考書

アニメーション監督　原恵一
著者：　浜野保樹
出版社：晶文社
出版年：2005年　　ISBN：4-7949-6677-6

これからのアートマネジメント
著者：　中川真・小暮宣雄ほか
出版社：フィルムアート社
出版年：2011年　　ISBN：9784845911639

a50201e410

黒沢清の映画術
著者:　黒沢清
出版社: 新潮社
出版年: 2006年　ISBN:　4-10-302851-3

新版　行政ってなんだろう
著者:　新藤宗幸
出版社: 岩波書店
出版年: 2008年　ISBN:　4005005861

現職人事が書いた「公務員になりたい人へ」の本
著者:　大賀英徳
出版社: 実務教育出版
出版年: 2015年　ISBN:　9784788975590

アーツマネジメント学
著者:　小暮宣雄
出版社: 水曜社
出版年: 2013年　ISBN:　9784880653129

成績評価

試験 （ 0 ）　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 40 ）　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 40 ）
参加度には、学外授業や文化ボランティア参加なども考慮することにします。

2016 Syllabus

科 目 名　**文化プロデュース入門Ⅱ <Z>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　小辻　寿規

テーマ

京都の文化（特にまちづくり、神社仏閣、伝統工芸等）の理解を深め、文化プロデュースに必要な基礎知識を学ぶ。

授業の到達目標

京都のまちづくり、神社仏閣、伝統工芸の歴史を学び、その上で、これらの社会資源をどのようにプロデュースすることが可能かを考え、文化プロデューサーの基礎基盤を構築する。

授業の概要

様々な京都の文化を学んだ上で、その文化をどのようにプロデュースすれば、より有効な社会資源となるかの発表を行う。

準備学習（予習・復習）

様々なまちづくり活動や神社仏閣、伝統工芸に興味を持ち、その長所や短所について考えてみてください。

内　容

第1回　オリエンテーション 「京都に生まれ育って　ぶぶづけの作法」
第2回　京都のまちづくり1 「歴史編　番組小学校がまちづくりを育む」
第3回　京都のまちづくり2 「人物編　誰がまちづくりを担っているのか　ゲストスピーカーを招いて」
第4回　グループワーク1 「まちづくりをプロデュースするなら」
第5回　京都の神社仏閣 「この神社仏閣がスゴい」
第6回　京都の神社仏閣訪問（課外授業）
第7回　京都の伝統工芸 「この伝統工芸がスゴい」
第8回　グループワーク2 「プロデュースしたい文化を考える」
第9回　取捨選択を考える 「怪しい人々との付き合い方」
第10回　プレゼンテーション1
第11回　プレゼンテーション2
第12回　プレゼンテーション3
第13回　新しい価値観の創造を考える
第14回　プレゼンテーション4
第15回　文化プロデュースを担う者たち

履修上の注意点

出席を最低10回以上した方のみ評価します。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

京・まちづくり史
著者:　高橋康夫・中川理
出版社:　昭和堂
出版年:　2003　　ISBN:　4812203147

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度　（ 20 ）
総合的に判定します。必ず、1回は発表してください。

2016 Syllabus

科 目 名　**都市文化資源論**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　木下 達文

テーマ

都市を含む地域にある文化的な要素を考える

授業の到達目標

都市（地域）には、神社仏閣だけでなく、魅力的な文化施設や商業施設が多々あるように、その土地にあるさまざまな文化的資源を発掘・発見する目を養い、テーマ（エリア）を決めて実際にフィールドワークを行いながら、資源の掘り起こしとその情報の編集・制作までを行う。

授業の概要

今年度は、大学の地域連携関係で、和歌山・那智勝浦町と後半連携し、2泊3日程度で7月下旬か8月上旬に訪問する（原則全員参加）。本年度は補助金を獲得しているので、交通費（バス代）は支給される。日程は受講生の希望を確認して決める予定。

準備学習（予習・復習）

身の回りにあるものすべてが、文化資源であるといえる。ふだん見過ごしがちなものでも、多角的に観察してみることで、新たな価値を発見できる目を養って欲しい。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　都市の文化とは
第3回　文化資源の多様性
第4回　事例見学：音楽による地域振興事例「ラ・フォル・ジュルネびわ湖」（大津）
第5回　まち育てと文化資源
第6回　観光と文化資源
第7回　文化資源の発掘
第8回　個別都市（地域）の選定
第9回　個別文化資源研究（文献研究）1
第10回　個別文化資源研究（文献研究）2
第11回　文化資源の現地調査（フィールドワーク）
第12回　文化資源の現地調査（フィールドワーク）
第13回　文化資源の編集
第14回　文化資源の編集
第15回　総括※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

観光学への扉
著者：　井口貢・木下達文他編
出版社：学芸出版社
出版年：2009　　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度　（ 40 ）
※授業の内容によって多少変更をする場合もある。※後半グループワークや和歌山へのフィールドワークを行う。プロジェクトとして実施しているので、授業外の学生も参加することがある。

2016 Syllabus

科 目 名　**建築・インテリア入門**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　河野　良平	

テーマ

建築・インテリア分野に関連する専門家の現状を知り、建築設計や工事監理等の業務について考える場を提供する。

授業の到達目標

建築・インテリアに関する知識が、実社会においてどのように役立つのかを理解する。

授業の概要

建築・インテリアに関する様々な業種の知識を得て、各自の考えをまとめる。また、その他の授業との関係についても考えていく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　建築家による作品制作過程（1）
第3回　建築家による作品制作過程（2）
第4回　建築家による作品制作過程（3）
第5回　インテリアコーディネーターの実務
第6回　建設会社における実務（1）
第7回　建設会社における実務（2）
第8回　ハウスメーカーにおける実務（1）
第9回　ハウスメーカーにおける実務（2）
第10回　リフォームにおける建築工事過程
第11回　リフォームにおける建築工事過程（2）
第12回　まちづくりの現状（1）
第13回　まちづくりの現状（2）
第14回　設備機器・建材メーカー等における実務
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**建築デザイン基礎**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　山本 勇気

テーマ

建築パース製図

授業の到達目標

透視図法を理解し、デッサンやスケッチを通して遠近法を実感する。一通り下書きから着色まで学び、10分くらいで描く早描きも身につける。カリキュラムの最後には学内他授業の設計課題のパースを各自作成し、まとめとする。

授業の概要

プロジェクターで実演を映し、実習形態

準備学習（予習・復習）

テキストを一読

内　容

第1回　ガイダンス・透視図の原理
第2回　デッサン・スケッチ （インテリア）
第3回　インテリアパースの下書き（一消点）
第4回　インテリアの点景
第5回　インテリアパースのマーカー着色
第6回　デッサン・スケッチ （外観）
第7回　外観パースの下書き（二消点）
第8回　外観の点景
第9回　外観パースのマーカー着色
第10回　デッサン・スケッチ
第11回　インテリアパースの下書き（二消点）
第12回　インテリアパースのマーカー着色（二消点）
第13回　設計課題のパース作成
第14回　設計課題のパース作成
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

なぞっておぼえる遠近法スケッチパース　インテリア編
著者:　宮後浩　山本勇気
出版社:　秀和システム
出版年:　2014　　ISBN:　9784798041261

参考書

成績評価

試験 （ 50 ）　　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 20 ）
試験時間内で仕上げるスピードと質を評価

2016 Syllabus

科 目 名　**観光学入門**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　谷口　知司	

テーマ

観光学の全体像を知る。

授業の到達目標

さまざまな観光の現況と、それらが社会の情報化の中でどのように変容してきたかについて理解する。

授業の概要

観光学の全般について論述する。

準備学習（予習・復習）

さまざまな調査・文献研究を授業外で要求する。それらは基本的にレポートとして提出する。

内　　容

第1回　観光とは（歴史を含む）①
第2回　観光とは（歴史を含む）②
第3回　旅行業と観光①
第4回　旅行業と観光②
第5回　鉄道会社と観光①
第6回　鉄道会社と観光②
第7回　航空産業と観光①
第8回　航空産業と観光②
第9回　ホテル・旅館業と観光①
第10回　ホテル・旅館業と観光②
第11回　土産品と観光①
第12回　土産品と観光②
第13回　ニューツーリズム①
第14回　ニューツーリズム②
第15回　まとめ

履修上の注意点

レポート等の提出機会も多くなるので積極的に取り組んでください。

教科書

観光ビジネス論
著者:　谷口知司編著
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2010　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 20 ）
3分の2以上の出席が必要です。

2016 Syllabus

科 目 名　**観光資源論Ⅰ（国内）**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　谷口　知司

テーマ

日本国内の観光資源について概観する。

授業の到達目標

国内の主要な観光地理を概観し、国内観光資源の全体像を理解できることを目的とする。

授業の概要

ワークブックを用いて行う。なお、グループ単位での発表を行う。

準備学習（予習・復習）

毎回授業で小テストを行うので家庭学習が必要です。また、毎回グループでの発表を行うので予習が必要です。

内　容

第1回　北海道エリア1
第2回　北海道エリア2
第3回　東北エリア1
第4回　東北エリア2
第5回　関東エリア1
第6回　関東エリア2
第7回　中部エリア1
第8回　中部エリア2
第9回　関西エリア1
第10回　関西エリア2
第11回　中国・四国エリア1
第12回　中国・四国エリア2
第13回　九州・沖縄エリア1
第14回　九州・沖縄エリア2
第15回　まとめ

履修上の注意点

毎回行う小テストの成績評価でのウエイトが高いため、特に復習に時間を割いてほしい。

教科書

国内観光地理
著者:　JTB能力開発
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 10 ）　　小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 10 ）
3分の2以上の出席が必要です。

2016 Syllabus

科 目 名　**観光資源論Ⅱ（国外）**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　谷口　知司

テーマ

海外観光地理を学ぶ。

授業の到達目標

海外の観光地理を学び、それぞれの地域の観光資源（自然、人文、複合）についての知識を得ることを目的とする。

授業の概要

テキストを中心に授業を進めるが、毎回小テストを課す。参加者の発表が毎回ある。

準備学習（予習・復習）

毎回小テストを課し、その成績評価でのウエイトが高いので、自宅学習は必要です。発表のための予習も必要です。

内　容

第1回　導入およびアジア①
第2回　アジア②
第3回　アジア③
第4回　ヨーロッパ①
第5回　ヨーロッパ②
第6回　ヨーロッパ③
第7回　南北アメリカ①
第8回　南北アメリカ②
第9回　南北アメリカ③
第10回　オセアニア、太平洋の島々①
第11回　オセアニア、太平洋の島々②
第12回　オセアニア、太平洋の島々②
第13回　中東、アフリカ①
第14回　中東、アフリカ②
第15回　中東、アフリカ③およびまとめ

履修上の注意点

教科書

海外観光地理サブノート
著者:　JTB能力開発
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 10 ）　　小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 10 ）
3分の2以上の出席が必要です。

2016 Syllabus

科 目 名　**公共政策入門**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小暮　宣雄	

テーマ

現代ビジネス学部都市環境デザイン学科公共政策コースの扉を開く

授業の到達目標

文化と都市、プロデュースと公共政策≒環境デザインの関係を広く柔軟に学ぶ。地域公共政策と文化プロデュースの関係を知る。映画（アニメ、ホラーなど）を事例として、文化をプロデュースする世界を垣間見る。

授業の概要

都市環境デザイン学科の主に公共政策コースを学びたい学生さんの最初の一歩。でも、他の学修にも役に立つと思います。

準備学習（予習・復習）

地元の自治体のニュースや情報を知るようにすること。また、古典となった映画を系統的に紹介するので、それを、ただぼんやり見るのではなく、どういうプロデュース手法がとられているのか、監督の特質とはなんだろうかなど、分析的かつ批評的に鑑賞すること。メディアセンターなどに設置してあります。東部文化会館にいって実際に鑑賞を行うので、よく地理を調べておくこと。参考文献をいくつか購入して読むこと。そのために生協読書奨励制度を活用すること。ソーシャルメディアもfacebookを活用したりブログなどを手がけたりうまく利用したりするようにしてください。

内　容

第1回　はじめに・・地域公共政策士の初級プログラム「文化プロデュース力養成講座」とはなにか
第2回　文化ってなんだろう～静的な捉え方と動的（社会構成的）な捉え方
第3回　地域とはなにか―都市と地方、国と国際との概念を明確にするために―
第4回　政策とはなにか、行政とはなにか
第5回　学外授業　京都市内などにおいて、地域の公共的文化環境を視察する（京都芸術センターなどが候補）
第6回　地域と政策と文化との関係（互いの関係とすみわけ）
第7回　文化と政策との概略史
第8回　誕生日のあるアーツ、それが映画だ（活動写真からトーキーへ）
第9回　アニメ映画への接近（原恵一監督～「河童のクゥの夏休み」から分かること）、アニメと文化プロデュース、まちおこしとの関係
第10回　実写映画への接近1（黒沢清監督～ホラー映画は映画の本質を示すというのは本当か？）
第11回　実写映画への接近2（黒沢清監督～心理とアクション～）「東京ソナタ」を題材にして、映画は時代をどう映すのか？
第12回　映画プロデュースと地域公共との関係
第13回　文化プロデュースはまちに何をもたらすのか
第14回　私たちのまちと文化の未来へ、文化行政と企業メセナへの提案
第15回　まとめ・・・これからの公共政策コース、文化プロデュース力養成講座の予告文化プロデュースに関わる学外での活動を随時説明する。ゲストで飛び入りのアーティストなどが夏休みのボランティア募集などに来ることも可能性あり。

履修上の注意点

大学の図書館やメディアセンターを活用すると、資料や映画なども観ることができるので、空き時間などを無駄に使わないで自習すること。1回生のときから、文化プロデュースや地域公共政策に強い関心を持つ学生は、学外活動に参加することが出来るので、申し出ること。

教科書

参考書

アニメーション監督　原恵一
著者：　浜野保樹
出版社：晶文社
出版年：2005年　　ISBN：　4-7949-6677-6

これからのアートマネジメント
著者：　中川真・小暮宣雄ほか
出版社：フィルムアート社
出版年：2011年　　ISBN：　9784845911639

a50201f210

黒沢清の映画術
著者:　黒沢清
出版社: 新潮社
出版年: 2006年　ISBN:　4-10-302851-3

新版　行政ってなんだろう
著者:　新藤宗幸
出版社: 岩波書店
出版年: 2008年　ISBN:　4005005861

現職人事が書いた「公務員になりたい人へ」の本
著者:　大賀英徳
出版社: 実務教育出版
出版年: 2015年　ISBN:　9784788975590

アーツマネジメント学
著者:　小暮宣雄
出版社: 水曜社
出版年: 2013年　ISBN:　9784880653129

成績評価

試験 （ 0 ）　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 40 ）　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 40 ）
参加度には、学外授業や文化ボランティア参加なども考慮することにします。

2016 Syllabus

科 目 名　**文化経済・政策論**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　金武 創

テーマ

・文化と経済との関係から、公共政策の理解を深める・生活の豊かさと個人の自立について考える

授業の到達目標

・文化的な活動が経済によって支えられていることを理解する・現在の経済活動が文化的な活動無しに成立し得ないことを理解する・経済学的な視点からものを見ることができるようになる

授業の概要

・文化と経済の関係を理解し、文化経済学の基礎を身につける

準備学習（予習・復習）

・新聞、経済週刊誌を読むこと。特に日経流通新聞（キャリアセンターに所蔵）は就職活動にも役立ちます。

内　容

第1回　イントロダクション：なぜ文化経済学を勉強するのか？
第2回　文化と経済との関係：経済学とはどんな学問か？
第3回　芸術と経済のジレンマ：実演芸術は商売にならない。
第4回　「コスト病」の考え方：実演芸術と共通の性質を持つ産業をさがしてみよう。
第5回　芸術作品の価格とオークション：芸術作品の値段はどのように決まるのか？
第6回　芸術作品の価格と価値：「高い」芸術作品は「よい」芸術作品か？
第7回　資産としての芸術作品：将来値上がりする芸術作品とは？
第8回　芸術文化の消費行動：蓼食う虫も好き好き？
第9回　スローライフの経済学：時間をフルに活用するということ。
第10回　創造的生産者としての芸術家：金儲けだけが仕事ではない。
第11回　文化と非営利組織の役割：文化施設は誰が運営すべきか
第12回　文化と情報の経済学：情報は誰のものか？
第13回　著作権の経済学：追求権は芸術家の味方になるか？
第14回　芸術文化の公的支援：経済的支援と表現の自由のジレンマ。
第15回　アームズ・レングスの原則：芸術支援政策とは？＊なお、学外講師を招いた特別授業を実地することもある

履修上の注意点

日常評価に結びつく授業中課題が毎回あります。指定された方法／手続きで課題を提出しないと出席、日常点評価は0点です。

教科書

文化経済論
著者：　金武創・阪本崇
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2005　　ISBN：

参考書

必要に応じて紹介する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（60）　　授業中発表等（　）
参加度（　）

2016 Syllabus

科 目 名　CAD演習Ⅱ <Za>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　その他	定　　員　34
履修条件	クラス指定

担 当 者　（閉講：開⇒閉）

テーマ

2次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

授業の到達目標

コンピューターの基本的な操作を習得する。データの保存方法や保存形式の違い、印刷設定や印刷方法、データの切り取りや貼付け、フォント名称やサイズの変更など、コンピューター操作全般に関わる基本的な知識を身に付ける。さらに、CADの基本的な操作方法について学ぶ。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　CADソフトについて
第2回　CAD製図の基礎とオブジェクトの操作
第3回　CAD製図の基礎とオブジェクトの操作（2）
第4回　平面図の作図
第5回　〃（2）
第6回　〃（3）
第7回　〃（4）
第8回　〃（5）
第9回　〃（6）
第10回　〃（7）
第11回　〃（8）
第12回　〃（9）
第13回　家具、窓等の作図
第14回　家具、窓等の作図（2）
第15回　課題の作図、提出
第16回　課題の作図、提出（2）
第17回　立面図の作図
第18回　〃（2）
第19回　〃（3）
第20回　〃（4）
第21回　〃（5）
第22回　〃（6）
第23回　断面図の作図
第24回　〃（2）
第25回　〃（3）
第26回　〃（4）
第27回　敷地図の作図、レイアウト
第28回　敷地図の作図、レイアウト（2）
第29回　図面の設定、印刷、
第30回　総括

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

VectorworksではじめるCAD 2010/2009/2008
著者：　五十嵐進
出版社：ソーテック
出版年：2010　　ISBN：　9784881667330

参考書

初学者の建築講座
著者：　瀬川康秀

a502023910

出版社: 市ヶ谷出版社
出版年: 2011　　ISBN: 9784870710146

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　CAD演習Ⅱ <Zb>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　その他	定　　員　34
履修条件	クラス指定

担 当 者　（閉講：開⇒閉）

テーマ

2次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

授業の到達目標

コンピューターの基本的な操作を習得する。データの保存方法や保存形式の違い、印刷設定や印刷方法、データの切り取りや貼付け、フォント名称やサイズの変更など、コンピューター操作全般に関わる基本的な知識を身に付ける。さらに、CADの基本的な操作方法について学ぶ。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　CADソフトについて
第2回　CAD製図の基礎とオブジェクトの操作
第3回　CAD製図の基礎とオブジェクトの操作（2）
第4回　平面図の作図
第5回　〃（2）
第6回　〃（3）
第7回　〃（4）
第8回　〃（5）
第9回　〃（6）
第10回　〃（7）
第11回　〃（8）
第12回　〃（9）
第13回　家具、窓等の作図
第14回　家具、窓等の作図（2）
第15回　課題の作図、提出
第16回　課題の作図、提出（2）
第17回　立面図の作図
第18回　〃（2）
第19回　〃（3）
第20回　〃（4）
第21回　〃（5）
第22回　〃（6）
第23回　断面図の作図
第24回　〃（2）
第25回　〃（3）
第26回　〃（4）
第27回　敷地図の作図、レイアウト
第28回　敷地図の作図、レイアウト（2）
第29回　図面の設定、印刷、
第30回　総括

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

VectorworksではじめるCAD 2010/2009/2008
著者：　五十嵐進
出版社：ソーテック
出版年：2010　　ISBN：　9784881667330

参考書

初学者の建築講座
著者：　瀬川康秀

a502023912

出版社: 市ヶ谷出版社
出版年: 2011　　ISBN: 9784870710146

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**京都の歴史と文化 <Z>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　五十川 伸矢

テーマ

京都の古寺と古鐘 ——京都観光スポットと梵鐘探訪——

授業の到達目標

京都の観光スポットとなっている古寺をとりあげて、その歴史を解説するとともに、その寺が所蔵する古鐘について、最新の研究成果をもとに、その歴史を学習する。

授業の概要

日本史の教科書に出てくる京都府下の有力寺院の沿革と現状を解説し、その歴史の重要な証人としての梵鐘を紹介してゆく。

準備学習（予習・復習）

京都の寺院や神社をたずねた時には梵鐘を鑑賞し、ひとときながら功徳を積んで仏門へと誘われてほしい

内　容

第1回　京都の古寺と古鐘——梵鐘の様式——
第2回　梵鐘づくりの技術①民俗例のビデオ
第3回　梵鐘づくりの技術②実物観察と鋳造遺跡
第4回　妙心寺と最古の梵鐘
第5回　神護寺と華麗な陽鋳銘文
第6回　平等院と阿弥陀堂に似合う華麗な鐘
第7回　学外授業　宇治平等院
第8回　笠置寺と中国鐘をまねたユニークな鐘
第9回　安祥寺と河内鋳物師の鐘
第10回　清水寺と三条釜座の鋳物師が作った鐘
第11回　南蛮寺と洋鐘形の鐘
第12回　方広寺と豊臣滅亡の鐘
第13回　学外授業　東山知恩院・方広寺
第14回　中国の古鐘と日本鐘
第15回　韓国の古鐘と日本鐘

履修上の注意点

教科書

参考書

東アジア梵鐘生産史の研究
著者:　五十川伸矢
出版社:　岩田書院
出版年:　2016.3　　ISBN:

成績評価

試験 （ 60% ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**都市と文化資源 <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

都市を含む地域にある文化的な要素を考える

授業の到達目標

都市（地域）には、神社仏閣だけでなく、魅力的な文化施設や商業施設が多々あるように、その土地にあるさまざまな文化的資源を発掘・発見する目を養い、テーマ（エリア）を決めて実際にフィールドワークを行いながら、資源の掘り起こしとその情報の編集・制作までを行う。

授業の概要

今年度は、大学の地域連携関係で、和歌山・那智勝浦町と後半連携し、2泊3日程度で7月下旬か8月上旬に訪問する（原則全員参加）。本年度は補助金を獲得しているので、交通費（バス代）は支給される。日程は受講生の希望を確認して決める予定。

準備学習（予習・復習）

身の回りにあるものすべてが、文化資源であるといえる。ふだん見過ごしがちなものでも、多角的に観察してみることで、新たな価値を発見できる目を養って欲しい。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　都市の文化とは
第3回　文化資源の多様性
第4回　事例見学：音楽による地域振興事例「ラ・フォル・ジュルネびわ湖」（大津）
第5回　まち育てと文化資源
第6回　観光と文化資源
第7回　文化資源の発掘
第8回　個別都市（地域）の選定
第9回　個別文化資源研究（文献研究）1
第10回　個別文化資源研究（文献研究）2
第11回　文化資源の現地調査（フィールドワーク）
第12回　文化資源の現地調査（フィールドワーク）
第13回　文化資源の編集
第14回　文化資源の編集
第15回　総括※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

観光学への扉
著者：　井口貢・木下達文他編
出版社：　学芸出版社
出版年：　2009　　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）	

※授業の内容によって多少変更をする場合もある。※後半グループワークや和歌山へのフィールドワークを行う。プロジェクトとして実施しているので、授業外の学生も参加することがある。

2016 Syllabus

科 目 名　**イベントプランニング研究 <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**文化施設総論 <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**展示学 <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

展示メディアの理解と創造

授業の到達目標

展示という空間メディアには様々なものがあるが、中でも文化空間としての展示会やイベントなどを中心とし、それら空間を伴うメディアがどのようにして企画され作られているのかを基礎理論・歴史ならび手法等を含めて学ぶ。と同時に、可能な範囲で独自の展示企画を具体的に提案し実践する（1月予定）。

授業の概要

展示の歴史，展示メディア，展示による教育活動，展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を習得し、展示機能に関する基礎的能力を養うとともに、簡単な展示実践を行う。

準備学習（予習・復習）

身の回りにはさまざまな空間があり、何らかの意図をもって作られている。美術館や博物館などの文化的空間から、イベント・ショールームなどの商業的空間に至るまでの展示メディア表現に関心をもち社会を見つめてみる。

内　　容

第1回　展示メディアとは（展示の概念）展示を一つのコミュニケーションメディアとしてとらえ、その空間的時間的特性について考える。
第2回　展示の種類（形態）展示には閉ざされた空間における小さいものから、インスタレーションのような環境展示というものもある。大まかな展示の種類を説明する。
第3回　展示および展示論の歴史展示の世界は日本では1970年の大阪万博から開花していく、その後の展示の歴史と、展示学の流れについての概略を説明する。
第4回　展示の政治性と社会性展示はその規模が大きくなればなるほど政治的特色が強くなる。とくに大型展示などを例にあげながら政治性・社会性について説明する。
第5回　展示のプロセス（企画・設計・製作等）展示をつくるプロセスは映画制作とよく似ている。基本調査構想から製作までの一連の流れについて概説する。
第6回　展示の手法（展示技術）展示は実物を使うケース展示から、1分の1実大再構成展示に至るまで様々である。そうした基本的な展示手法について説明する。
第7回　展示と研究展示は固定的なものであり、嘘ができない。そのため時代考証など緻密な研究の裏付けが必要であり、また研究成果の場でもあることを説明する
第8回　展示と運営展示は完成すれば終わりではない。そこから様々な運営サービス・管理が行われる。ここでは基本的な展示場での活動について説明する。
第9回　展示と解説展示はコミュニケーションメディアであるから、その伝え方も多様である。パネルによる解説から機械・人による解説までの手法を説明する。
第10回　展示とその記録（図録、解説、資料等）とくに仮設的な展示は、そのイベントが終了すると何も残らない。そこで、展示記録としての図録や解説などの資料について説明する。
第11回　特別講義実際に展示を企画・設計・製作している人から、ある例を題材としながら具体的な展開とその問題点などについて考える。
第12回　展示の企画実践これまでの学習をもとに自分たちでオリジナルな展示企画を考える。考えてものを企画資料としてまとめてみる。
第13回　展示の製作実践企画で考えた展示について実際に簡単な製作を行う。自分たちなりにできる素材を集め、展示そのものをつくりあげてみる。
第14回　展示の運営実践つくりあげた展示を利用者に提供する。運営管理を学びながら、教育プログラムやアンケートなどもとり、展示評価の素材としていく。
第15回　展示の評価と改善・更新展示は実施して終わりではなく、いろんな場面でチェック（評価）をしていくことがつぎの改善に繋がる。実践例をもとに評価について考える。

履修上の注意点

教科書

授業内容に応じて適宜指示する。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

展示学事典

著者：　日本展示学会編

出版社：ぎょうせい

a502026450

出版年: 1996　　ISBN:

イベント講座

著者:　日本イベント産業振興協会

出版社:

出版年: 2004　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 40 ）

グループワークを組み合わせた授業方法にて進めるのと、展示創造に必要な責任感の向上を図るため、出席点をかなり厳しくしている。また、後半の展示創造プログラムでは授業外での連絡調整や制作作業などがある。

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　半海　宏一	

テーマ

住まいを探る

授業の到達目標

住宅、集合住宅など興味のある「住まい」を調べ、図面をトレースすることで空間寸法を身につける。

授業の概要

「住まい」について調べたことを発表し、図面をトレースする。

準備学習（予習・復習）

日常生活の中も、生活について関心をもつ。自分の興味のある住まい・住宅・空間を集めたり、調べたりする。

内　容

第1回　ガイダンス・住まいについて
第2回　発表・質疑応答1
第3回　発表・質疑応答1
第4回　発表・質疑応答1
第5回　発表・質疑応答1
第6回　発表・質疑応答1
第7回　図面トレース
第8回　図面トレース
第9回　図面トレース
第10回　図面トレース
第11回　発表・質疑応答2
第12回　発表・質疑応答2
第13回　発表・質疑応答2
第14回　発表・質疑応答2
第15回　発表・質疑応答2・授業まとめ

履修上の注意点

※この授業では、必要に応じて、学外での授業を行うことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　河野　良平	

テーマ

建築家やインテリアデザイナーについて調べる

授業の到達目標

普段から興味を持っている建築家やインテリアデザイナーについて時間をかけて調べ、自分の関心がどこにあるのかを確認する。

授業の概要

各自が調べたことをレジュメを用いて発表する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　見学
第3回　見学
第4回　発表1
第5回　発表1
第6回　発表1
第7回　発表1
第8回　発表2
第9回　発表2
第10回　発表2
第11回　発表2
第12回　発表3
第13回　発表3
第14回　発表3
第15回　発表3※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ＜＊c＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　今井　裕夫	

テーマ

建築・インテリアの設計の理解①

授業の到達目標

(居心地のよい美しい住宅をとの出会いを求めて)居心地のよい美しい住宅建築の魅力について世界の名作住宅を14作品ほど選び、空間の美しさや楽しさ、使い易さへの工夫などを資料と写真・DVDによる平面の簡単なトレースと空間の追体験とにより、その魅力の謎解きを行う。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

常日ごろカメラと取材ノート(A6)を持ち歩くこと。

内　容

第1回　近代建築史・芸術史の解説
第2回　W.Morris　RED HOUSE(自邸)
第3回　W.Gropius　ｱｳｴﾙﾊﾞｯﾊ邸
第4回　G.Riedveld　ｼｭﾚｰﾀﾞｰ邸(自邸)
第5回　L.Corbusier　ｻﾎﾞｱ邸・母の家
第6回　R.Noutra　VDLﾘｻｰﾁﾊｳｽ(自邸)
第7回　A.Aalto　(自邸)
第8回　F.L.Wright　落水荘(ｶｳﾌﾏﾝ邸)
第9回　L.Barragan　(自邸)
第10回　M.V.D.Rohe　ﾌｧﾝｽﾞﾜｰｽ邸
第11回　O.Niemeyer　(自邸)
第12回　C.Moore　ｼｰﾗﾝﾁ･ｺﾝﾄﾞﾐﾆｱﾑ
第13回　P.Koenig　ｽﾀｰﾙ邸
第14回　吉村順三　軽井沢の山荘(自邸)
第15回　藤木忠善(自邸)

履修上の注意点

教科書

スケッチ用紙(A3)　生協販売
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:
毎回　必要な資料は配布
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

成績評価

試験　(　)	小テスト　(　)
授業中課題　(70)	授業中発表等　(　)
参加度　(30)	

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　織田　直文.福井　弘幸	

テーマ

社会の病理を探り、問題の解決方法を考える

授業の到達目標

教科書を用い、現代社会の問題点を広くかつ深く読み解くとともに、解決策を考えることができる能力を身に付ける。

授業の概要

教科書を読破しつつ、担当を分担して要約ペーパーを用意し、ゼミにて順番に発表し 討論を行う。まちづくりの現場見等の学外授業も予定している。

準備学習（予習・復習）

次回発表部分を予め読み込んでおくことを予習とし、自らの発表後、指摘された内容を整理することを復習作業とする。

内　　容

第1回　進め方
第2回　教科書確認と発表分担、順番決定。
第3回　将来の進路学習会。
第4回　教科書発表。
第5回　教科書発表。
第6回　教科書発表。
第7回　教科書発表。
第8回　教科書発表。
第9回　卒論計画発表。
第10回　卒論計画発表。
第11回　学内イベントの説明
第12回　学内イベントの見学。
第13回　学内イベントの見学。
第14回　イベント評価会議
第15回　まとめ。

履修上の注意点

出席状況と受講態度、教科書発表成果を重視する。ゼミは様々な重要な情報提供の場であり、将来の卒業研究を進めていく上でも重要な場なので、休まないでください。やむを得ず休む時は必ず事前に連絡すること、また休んだ場合、研究室まで速やかに配布資料を取りにくること。

教科書

文藝春秋オピニオン2016の論点
著者:　文藝春秋編
出版社:（株)文藝春秋
出版年:　2016　　ISBN:

参考書

随時紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度　（ 60 ）
参加度と教科書要約のレベル、ゼミでの発表を基本に総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ＜＊e＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　小暮　宣雄	

テーマ

公共政策・文化プロデュース入門(1)

授業の到達目標

公共政策の概要を知る。文化のなかのアーツの概要と特質を知る。公共政策のなかの文化政策の現場を体験する

授業の概要

公共政策の現場体験や文化実践とともに、教科書を音読し、文章理解を努めるようにする。

準備学習(予習・復習)

授業中、学外授業のほか、自主的活動、アーツ鑑賞などにおいても、ノートをつけること。評価の対象とする可能性あり。授業として、数回、休日に学外にでるので、休日の予定を調整する必要がある。授業以外にも、アーツ鑑賞、アーツボランティア、アーツマネジメント・インターンシップを行ってもらうことが必須になるので、そういう学生を歓迎する。この内容の授業順序は行事予定、アーティストなどの事情で自由に入れ替わる。

内　容

第1回　オリエンテーション・・・話すこと、メモること、聞き取ること
第2回　文化とは・・・自然と文化、地域と公共と文化との関係
第3回　アーツとは・・文化の分類、術の分類、アーツの分類
第4回　行政とは・・・国と地方の関係をしる
第5回　学外授業1・・・京都など地域の公共施設を見学する
第6回　『ローカル志向の時代』を輪読する①　商店街と中心街
第7回　『ローカル志向の時代』を輪読する②　経済性と互酬性
第8回　『ローカル志向の時代』を輪読する③　地域経済政策とは何か
第9回　『奇跡の村』を輪読する①　長野県下條村
第10回　『奇跡の村』を輪読する②　群馬県南牧村
第11回　『奇跡の村』を輪読する③　神奈川県相模原市旧藤野町
第12回　学外授業2・・・まち歩きのなかで公共政策を探す
第13回　学生自身の発表①
第14回　学生自身の発表②
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書をどちらから始めるかは、まだ確定していないので2冊とも購入しておくこと。後期も一部は使用予定。遅刻や欠席の際には事前連絡をすること

教科書

ローカル志向の時代 働き方、産業、経済を考えるヒント
著者:　松永桂子
出版社:　光文社
出版年:　2015年　　ISBN:　9784334038915

奇跡の村―地方は「人」で再生する
著者:　相川俊英
出版社:　集英社
出版年:　2015年　　ISBN:　9784087208047

参考書

成績評価

試験　(0)　　小テスト　(0)
授業中課題　(20)　　授業中発表等　(30)
参加度　(50)
記録として、ノート、ブログ、ツイッターなどを活用していく。めくるめく紙芝居プロジェクト
https://www.facebook.com/mekmekY

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ＜＊f＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　谷口　知司	

テーマ

観光文化、観光ビジネス、観光情報、文化資源の情報化

授業の到達目標

世界中で年間10億人近くの人々が観光目的で移動していると言われています。こうした現状から観光は、それを担う21世紀最大の産業と言われています。ゼミでは、「ビジネスとしての観光」と「文化現象としての観光」という2つの視点から観光を眺めることによって、観光を総合的に理解する力を身につけることを目標とします。

授業の概要

シラバスの順番に授業を進めるが、あわせて観光英語の基礎やゼミで展開するいろいろな企画等の学習をおこなう。

準備学習（予習・復習）

グループに分けて、各種課題について調査・研究および発表を課すので、授業時間外の学習は必須である。また、観光英語の小テストも行うので復習をする必要がある。

内　容

第1回　「ビジネスとしての観光」概説
第2回　日本および世界の観光の現状について
第3回　旅行会社、鉄道、ホテル、エアライン等の観光ビジネスについて1
第4回　旅行会社、鉄道、ホテル、エアライン等の観光ビジネスについて2
第5回　旅行会社、鉄道、ホテル、エアライン等の観光ビジネスについて3
第6回　観光情報誌等の分析1
第7回　観光情報誌等の分析2
第8回　観光情報誌等の分析3
第9回　課題発表
第10回　観光資源（国内・国外）について
第11回　温泉地や世界遺産など日本の観光資源に関する知識1
第12回　温泉地や世界遺産など日本の観光資源に関する知識2
第13回　世界の観光資源に関する知識1
第14回　世界の観光資源に関する知識2
第15回　課題発表、まとめ※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

観光ビジネス論
著者:　谷口知司編著
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2010年　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）　小テスト（ 20 ）
授業中課題　（ 30 ）　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 30 ）
3分の2以上の出席が必要です。

Syllabus

科 目 名	**基礎演習Ⅲ＜＊g＞**		
クラス		配当回生	学部2回生
講義期間	その他	定　　員	
履修条件	『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定	
担 当 者	（休講）		
テーマ			
授業の到達目標			
授業の概要			
準備学習（予習・復習）			
内　　容			
履修上の注意点			
教科書			
参考書			

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ＜＊救A＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　25
履修条件	クラス指定
担 当 者　土井　一弘	

テーマ

基礎的数学

授業の到達目標

救急救命士を目指す皆さんが、仕事の上で必要となる数学的ものの見方(リテラシー)を身につけるとともに、数学に興味を持ち、公務員試験などをクリアーするために必要な基礎的数学を復習する。

授業の概要

一人ひとりが理解できるまで　を目指す

準備学習（予習・復習）

宿題・自由研究

内　　容

第1回　手順を数学する
第2回　推論・パズル
第3回　場合の数
第4回　確率って信じますか
第5回　確率・統計の落とし穴
第6回　平面図形1
第7回　平面図形2
第8回　立体図形1
第9回　立体図形2
第10回　図形のまとめ
第11回　統計・箱ひげ図
第12回　シンプソンのパラドックス
第13回　モンティーホール問題
第14回　総復習1
第15回　総復習2

履修上の注意点

欠席・遅刻をしない・授業を楽しむ

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 50 ）
小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 10 ）
授業中発表等（ 10 ）
参加度　（ 20 ）
出席率・ノート提出を重視

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅲ ＜＊救B＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　25
履修条件	クラス指定
担 当 者　土井　一弘	

テーマ

基礎的数学

授業の到達目標

救急救命士を目指す皆さんが、仕事の上で必要となる数学的ものの見方(リテラシー)を身につけるとともに、数学に興味を持ち、公務員試験などをクリアーするために必要な基礎的数学を復習する。

授業の概要

一人ひとりが理解できるまで　を目指す

準備学習（予習・復習）

宿題・自由研究

内　　容

第1回　手順を数学する
第2回　推論・パズル
第3回　場合の数
第4回　確率って信じますか
第5回　確率・統計の落とし穴
第6回　平面図形1
第7回　平面図形2
第8回　立体図形1
第9回　立体図形2
第10回　図形のまとめ
第11回　統計・箱ひげ図
第12回　シンプソンのパラドックス
第13回　モンティーホール問題
第14回　総復習1
第15回　総復習2

履修上の注意点

欠席・遅刻をしない　授業を楽しむ

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 50 ）
小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 10 ）
授業中発表等（ 10 ）
参加度　（ 20 ）
出席率・ノート提出を重視

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　半海　宏一	

テーマ

まちを歩き、まちを考える

授業の到達目標

まちを歩き、グループで現地調査・報告を行う。調査結果から各々が必要なモノ・コトを提案する。その場所に必要なのは建築物か、憩いの場か、周辺環境を読み解きプレゼンテーションする。

授業の概要

前半の調査・報告はグループワークとし、後半の提案は基本的に個人作業とする。

準備学習（予習・復習）

まちを歩き、建物や人・風景を観察すること。

内　容

第1回　ガイダンス・グループ分け
第2回　見学
第3回　グループワーク：対象地調査
第4回　グループワーク：ディスカッション
第5回　グループワーク：調査まとめ
第6回　グループワーク：調査報告
第7回　エスキース
第8回　図面作成
第9回　図面作成
第10回　図面作成
第11回　発表・質疑応答
第12回　発表・質疑応答
第13回　発表・質疑応答
第14回　発表・質疑応答
第15回　発表・質疑応答・授業まとめ

履修上の注意点

※この授業では、必要に応じて学外での授業を行うことがある。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　河野　良平	

テーマ

建築やインテリアの見学

授業の到達目標

各班で計画を提案し、合理的でスムーズな見学計画をまとめ、実行する。

授業の概要

各班で見学計画をたて、ゼミで発表する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス、班決め
第2回　１班計画発表、打ち合わせ
第3回　１班計画修正、２班計画発表、打ち合わせ
第4回　見学1
第5回　見学1
第6回　１班見学反省、２班計画修正、３班計画発表、打ち合わせ
第7回　見学2
第8回　見学2
第9回　２班見学反省、３班計画修正、４班計画発表、打ち合わせ
第10回　見学3
第11回　３班見学反省、４班計画修正、５班計画発表、打ち合わせ
第12回　見学4
第13回　４班見学反省、５班計画修正
第14回　見学5
第15回　５班見学反省、まとめ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ＜＊c＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　今井　裕夫	

テーマ

建築・インテリアの設計の理解②

授業の到達目標

住居と環境の親和性の理解（環境設計手法の獲得）人間と住居との関係や、人間の生活と自然環境、風土、風景との関わり方について、さまざまな観点や角度からの学習を行う。住居と環境との親和性を踏まえた設計手法を獲得するための簡単な実技を交える。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

常日ごろカメラと取材ノート（A6）を持ち歩くこと。

内　容

第1回　生活環境の理解①　里山（山辺）
第2回　生活環境の理解②　里山（水辺）
第3回　ベースとなる思考①　生物多様性
第4回　ベースとなる思考②　福岡　正信
第5回　ベースとなる思考③　宮本　常一
第6回　現代美術①　ﾗﾝﾄﾞｽｹｰﾌﾟｱｰﾄ
第7回　現代美術②　環境美術
第8回　記憶のデザイン　記憶地図の作成
第9回　美とはなにか
第10回　庭園と建築　桂離宮の構成と分析
第11回　茶庭と茶室（極小空間）　北野　武×千　宗室
第12回　環境建築　藤森照信の作品
第13回　イサム・ノグチの芸術　モエレ沼公園
第14回　新宮　晋の作品
第15回　環境設計　ﾎﾟｹｯﾄﾊﾟｰｸの設計

履修上の注意点

教科書

毎回　必要な資料を配布

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（　）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　織田　直文	

テーマ

社会の病理に気づき、解決方途を考える

授業の到達目標

教科書を基に現代社会の様々な病理を広くかつ深く読み取り、討論しながら解決策を考える力を身に付ける。

授業の概要

教科書読解を進め、順番に発表し討論する。また実際の地域振興授業の見学や他大学の学生の研究成果にも触れる機会を創出するなどの学外授業も予定している。。

準備学習（予習・復習）

順番に発表するレポート作成が予習である。聞いた学生は質問やコメントを出す。それを基に議論することで、内容を復習する。

内　　容

第1回　夏の宿題提出。後期の進め方。
第2回　学外授業。
第3回　学外授業。
第4回　上記の評価会議。
第5回　将来の進路学習会。
第6回　教科書発表。
第7回　教科書発表。
第8回　教科書発表。
第9回　教科書発表。
第10回　教科書発表。
第11回　教科書発表。学外授業（他大学学生との交流会等に参加）の説明。
第12回　学外授業（他大学学生との交流会等に参加）。
第13回　学外授業（他大学学生との交流会等に参加）。
第14回　学外授業の反省会。
第15回　まとめ

履修上の注意点

参加度（出席状況、受講態度、ゼミでの役割分担、運営上の貢献度等を含む）と、教科書要約・発表内容等を重視するので、授業は休まないように。なお公欠制度は無いので注意すること。

教科書

文藝春秋オピニオン　2016の論点100
著者:　文芸春秋編
出版社:　㈱文芸春秋
出版年:　2016　　ISBN:

参考書

無し
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 10 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 60 ）	

参加度（出席状況、受講態度、ゼミでの役割分担、運営上の貢献度等を含む）と、教科書要約・発表内容等を重視し、その他のレポートも含め総合的にみて評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ＜＊e＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　小暮　宣雄	

テーマ

公共政策・文化プロデュース入門(2)

授業の到達目標

公共政策の事例を調べ語れるようになる文化プロデュースとまちづくりの関係が分かるようになる公共政策のなかの文化政策の現場から学ぶようになる文献をきちんと読み、レジュメづくりができる。

授業の概要

公共政策の現場体験や文化実践とともに、教科書を音読し、要点をまとめ、専門研究の基礎を形成する。

準備学習(予習・復習)

授業中、学外授業のほか、自主的活動、行政やアーツ鑑賞などにおいても、ノートをつけること。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　夏休みの体験報告
第3回　文化プロデュースと公共政策
第4回　芸術と行政の関係論
第5回　『「稼ぐまちが地方を変える』を輪読する①　自立型まちづくり
第6回　『「稼ぐまちが地方を変える』を輪読する②　まち会社
第7回　『「稼ぐまちが地方を変える』を輪読する③　域内循環
第8回　『「稼ぐまちが地方を変える』を輪読する④　　自立した「民」
第9回　企業経営と地域経営
第10回　まちの芸術文化環境づくりを知ろう～ワークショップ体験～学外授業予定
第11回　文献レジュメづくりワーク
第12回　レジュメによる発表の心得と発表1
第13回　レジュメによる発表2
第14回　レジュメによる発表3
第15回　まとめ～地域の自立と文化の役割※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

前期の教科書も活用する。

教科書

「稼ぐまちが地方を変える
著者:　木下斉
出版社:　NHK出版
出版年:　2015年　　ISBN:　9784140884607

参考書

反骨の公務員、町をみがく---内子町・岡田文淑の 町並み、村並み保存
著者:　森まゆみ
出版社:　亜紀書房
出版年:　2014年　　ISBN:　9784750514079

成績評価

試験　(0)　　小テスト　(0)
授業中課題　(20)　　授業中発表等　(30)
参加度　(50)
夏休みに地域に関わる体験をしてもらい、その発表を行い、継続的に文化ボランティアなどに関わってもらう。学外授業については、他の授業などとの調整のため学内鑑賞に変える可能性あり。

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ＜＊f＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定
担 当 者　谷口　知司	

テーマ

観光文化、観光ビジネス、観光情報、文化資源の情報化

授業の到達目標

世界中で年間10億人近くの人々が観光目的で移動していると言われています。こうした現状から観光は、それを担う21世紀最大の産業と言われています。ゼミでは、「ビジネスとしての観光」と「文化現象としての観光」という2つの視点から観光を眺めることによって、観光を総合的に理解する力を身につけることを目標とします。特に基礎演習Ⅳ（後期）では、「文化現象としての観光」を中心に取り扱います。

授業の概要

課題発表は随時行う。

準備学習（予習・復習）

世界遺産の現地調査を行う。そのためのさまざまな準備等を授業外で行う。

内　容

第1回　文化と何か？
第2回　文化資源、文化財、文化遺産等と観光資源について1
第3回　文化資源、文化財、文化遺産等と観光資源について2
第4回　ニューツーリズムについて1　文化観光、グリーンツーリズム、エコツーリズム等
第5回　ニューツーリズムについて2
第6回　ニューツーリズムについて3
第7回　京都まちなかアーカイブ事前研究1
第8回　京都まちなかアーカイブ事前研究2
第9回　京都まちなかアーカイブを行う。
第10回　デジタル・アーカイブと観光資源の情報化1
第11回　デジタル・アーカイブと観光資源の情報化2
第12回　世界遺産現地調査事前研究1
第13回　世界遺産現地調査事前研究2
第14回　世界遺産現地調査事前研究3
第15回　課題発表　※なお、この授業では必要に応じて外部講師による特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

観光ビジネス論
著者:　谷口知司編著
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2010年　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）　小テスト（ 20 ）
授業中課題　（ 30 ）　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 30 ）
学外研修への参加でも成績評価に入ります。

Syllabus

科 目 名	基礎演習Ⅳ＜＊g＞		
クラス		配当回生	学部2回生
講義期間	その他	定　　員	
履修条件	『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定	
担 当 者	（休講）		
テーマ			
授業の到達目標			
授業の概要			
準備学習（予習・復習）			
内　　容			
履修上の注意点			
教科書			
参考書			

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ＜＊救A＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　15
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　山﨑　将文	

テーマ

一般市民としてのみならず公務員として必要とされる幅広い知識を深め、教養を高める

授業の到達目標

救急救命士として活躍するために必要とされる幅広い知識と深い教養を修得しながら、いろいろなテーマについて論理的に考える能力を高め、文章や言葉で表現する能力を発展させる。

授業の概要

基礎演習Ⅲに引き続き、救急救命士として活躍するために必要となる幅広い知識と深い教養を修得しながら、より高度なテーマについても論理的に考える能力、文章等で表現する力を修得するとともにプレゼンテーション能力を発展させる。この授業では、現代の法律、政治、行政、経済、人権、福祉などに関する知識をさらに深めるとともに、学習した内容から関心のあるテーマを自らの発表テーマとして決め、情報収集し、意見をまとめてプレゼンテーションを行う。また、学習内容を小論文としてまとめる。

準備学習（予習・復習）

常日頃からテレビやネットでニュースを見たり、新聞を読み、日本や世界で起きている出来事を知るように努める。また、授業終了後に復習をするとともに、発表・小論文のテーマについて自分で調べる。

内　容

第1回　政治選挙制度、政党と政党政治
第2回　行政地方自治、住民の権利、公務員制度
第3回　法学罪刑法定主義、最近の法律の制定と改正
第4回　基本的人権精神的自由権、経済的自由権、身体的自由権、社会権、国務請求権
第5回　国会国会の権限、衆議院の解散
第6回　内閣内閣の組織、内閣総理大臣の地位と権限
第7回　経済金融政策、信用創造、為替相場と円高・円安
第8回　財政財政の役割、財政政策、租税制度
第9回　経済事情日本の経済事情、世界の経済事情、地域的経済統合
第10回　労働問題雇用・失業対策
第11回　社会保障少子・高齢化問題
第12回　現代社会の諸相農業・食料問題、消費者問題
第13回　テーマの決定と発表（1）
第14回　テーマの決定と発表（2）
第15回　小論文の作成と完成

履修上の注意点

皆勤を目指し、授業に積極的に参加する。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

必要に応じ適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 10 ）
三分の二以上出席しないと単位が認定されない場合がある。12回の授業まではほぼ毎回小テストを実施する。

2016 Syllabus

科 目 名　**基礎演習Ⅳ ＜＊救B＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　15
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　山﨑　将文	

テーマ

一般市民としてのみならず公務員として必要とされる幅広い知識を深め、教養を高める

授業の到達目標

救急救命士として活躍するために必要とされる幅広い知識と深い教養を修得しながら、いろいろなテーマについて論理的に考える能力を高め、文章や言葉で表現する能力を発展させる。

授業の概要

基礎演習Ⅲに引き続き、救急救命士として活躍するために必要となる幅広い知識と深い教養を修得しながら、より高度なテーマについても論理的に考える能力、文章等で表現する力を修得するとともにプレゼンテーション能力を発展させる。この授業では、現代の法律、政治、行政、経済、人権、福祉などに関する知識をさらに深めるとともに、学習した内容から関心のあるテーマを自らの発表テーマとして決め、情報収集し、意見をまとめてプレゼンテーションを行う。また、学習内容を小論文としてまとめる。

準備学習（予習・復習）

常日頃からテレビやネットでニュースを見たり、新聞を読み、日本や世界で起きている出来事を知るように努める。また、授業終了後に復習をするとともに、発表・小論文のテーマについて自分で調べる。

内　容

第1回　政治選挙制度、政党と政党政治
第2回　行政地方自治、住民の権利、公務員制度
第3回　法学罪刑法定主義、最近の法律の制定と改正
第4回　基本的人権精神的自由権、経済的自由権、身体的自由権、社会権、国務請求権
第5回　国会国会の権限、衆議院の解散
第6回　内閣内閣の組織、内閣総理大臣の地位と権限
第7回　経済金融政策、信用創造、為替相場と円高・円安
第8回　財政財政の役割、財政政策、租税制度
第9回　経済事情日本の経済事情、世界の経済事情、地域的経済統合
第10回　労働問題雇用・失業対策
第11回　社会保障少子・高齢化問題
第12回　現代社会の諸相農業・食料問題、消費者問題
第13回　テーマの決定と発表（1）
第14回　テーマの決定と発表（2）
第15回　小論文の作成と完成

履修上の注意点

皆勤を目指し、授業に積極的に参加する。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

必要に応じ適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 10 ）
三分の二以上出席しないと単位が認定されない場合がある。12回の授業まではほぼ毎回小テストを実施する。

2016 Syllabus

科 目 名　**まちづくり論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　織田　直文.小辻　寿規	

テーマ

観光をはじめとする文化産業や文化政策を含む広義の「まちづくりや」の立案と実施のノウハウ＝まちづくりプロデュース力を身につけよう。

授業の到達目標

「まちづくり」の概念、特性、その成立過程などを知るとともに、多くの事例を通じて、その内容の多様性と深淵性を理解するとともに基礎的な知識、技術を習得し、まちづくりプロデュース力を高める。 これにより、政策概念と計画・執行に対する基本力が備わる。

授業の概要

「まちづくり」の基礎となるハード面としての空間認識、単位、住宅・建築、都市計画の基本事項を学ぶとともに、観光をはじめとする文化産業等の文化政策、福祉のまちづくりなどのソフト面の基本事項も学ぶ。また、まちづくりの歴史および、現代的課題の提示と解決手法なども学。さらに実践的学習として、イベントまたは観光ツアー企画を行うなどし、まちづくりプロデュース力を身に着ける。

準備学習（予習・復習）

あなたが暮らす地域で起こる出来事に関心を持ってください。また、地域での行事や、社会でのボランティア活動にできるだけ参加してください。

内　　容

第1回　講義の進め方と「まちづくり」に関する概論の講義。
第2回　ハード面のまちづくりのための基本事項。空間単位、住宅・建築について。
第3回　空間のバリアフリーとユニバーサルデザインについて。
第4回　ハード面のまちづくりとしての「都市計画」について。
第5回　景観まちづくりと「まちかどスポット整備」について。
第6回　「観光」「文化産業」「文化政策」について。
第7回　まちづくりの様々な主体について。とくにNPOに着目して。
第8回　まちづくりの6W2Hとまちづくりプロデュースについて。まちづくりプロデュース実践例紹介、研究。
第9回　まちづくり企画実践練習＜フィールドワーク＞
第10回　まちづくり企画実践練習＜地域イベント＞の企画（課題出題）。
第11回　事例から学ぶ①「歴史を活かしたまちづくり」について。
第12回　事例から学ぶ②「女性パワーを活かしたまちづくり」について。
第13回　フィールドワークの発表①
第14回　フィールドワークの発表②
第15回　講義の総括　※なお、この授業では必要に応じて学外授業およびゲストスピーカーによる特別講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

特に指定しない。
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

まちづくり百科事典
著者:　似田貝香門　他　編
出版社:　丸善
出版年:　2008　ISBN:

まちづくりキーワード事典
著者:　三船康道　他
出版社:　学芸出版社
出版年:　2002　ISBN:

a50202d150

まちづくりを学ぶ
著者:　石原武政・西村幸夫編
出版社: 有斐閣
出版年: 2010　　ISBN:

臨地まちづくり学
著者:　織田直文
出版社: サンライズ出版
出版年: 2005　　ISBN:

文化政策と臨地まちづくり
著者:　織田直文　編
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 20 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**建築・インテリア設計演習Ⅲ <a>**

クラス		配当回生	学部2回生
講義期間	前期	定　　員	40
履修条件	「建築・インテリア設計演習Ⅰ」および「建築・インテリア設計演習Ⅱ」を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	河野　良平		

テーマ

授業の到達目標

木造戸建て住宅の設計を行う。実在する敷地を想定し、容積率・建蔽率など基本的な建築基準法を満たす計画とする。建築計画や動線について考慮し、主要な室については展開図、内観パースやアクソノメトリック図を作成する。また、周辺環境に配慮し、建物の規模、形態、仕上材料や外構計画についても具体的に計画する。建築の立地する背景、都市、町並み、地形、気候などや利用者の条件等、建築を設計する上で考慮すべき条件や建築に求められる要件について学ぶ。また、木造住宅などの設計を通して、木造の架構方法を学ぶ。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　課題主旨説明、設計のポイント（1）
第2回　課題主旨説明、設計のポイント（2）
第3回　配置計画案の作成（1）
第4回　配置計画案の作成（2）
第5回　平面計画案の作成（1）
第6回　平面計画案の作成（2）
第7回　立面・断面計画案の作成（1）
第8回　立面・断面計画案の作成（2）
第9回　架構計画案の作成（1）
第10回　架構計画案の作成（2）
第11回　中間発表（1）
第12回　中間発表（2）
第13回　配置図・平面図の作成1（1）
第14回　配置図・平面図の作成1（2）
第15回　平面図の作成2（1）
第16回　平面図の作成2（2）
第17回　立面図の作成（1）
第18回　立面図の作成（2）
第19回　断面図の作成（1）
第20回　断面図の作成（2）
第21回　展開図、パースまたはアクソノメトリック図の作成（1）
第22回　展開図、パースまたはアクソノメトリック図の作成（2）
第23回　模型1（1）
第24回　模型1（2）
第25回　模型2（1）
第26回　模型2（2）
第27回　模型3（1）
第28回　模型3（2）
第29回　講評とまとめ（1）
第30回　講評とまとめ（2）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

a50202d210

試験 （ 0 ）　小テスト（ 0 ）
授業中課題 （ 40 ）　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名	建築・インテリア設計演習Ⅲ <b>		
クラス		配当回生	学部2回生
講義期間	前期	定　員	40
履修条件	「建築・インテリア設計演習Ⅰ」および「建築・インテリア設計演習Ⅱ」を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	松本　正富		

テーマ

戸建て住宅の設計

授業の到達目標

専用住宅の建築についてプランニングの方法を習得する。平面図・立面図・断面図等，設計における基本図書の表現方法を習得する。建築設計における基本的なプレゼンテーションの技法を習得する。

授業の概要

木造戸建て住宅の設計を行う。実在する敷地を想定し、容積率・建蔽率など基本的な建築基準法を満たす計画とする。建築計画や動線について考慮し、主要な室については展開図、内観パースやアクソノメトリック図を作成する。また、周辺環境に配慮し、建物の規模、形態、仕上材料や外構計画についても具体的に計画する。建築の立地する背景、都市、町並み、地形、気候などや利用者の条件等、建築を設計する上で考慮すべき条件や建築に求められる要件について学ぶ。また、木造住宅などの設計を通して、木造の架構方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

授業は個人ごとのエスキスチェックが中心になるので，時間外の設計作業が多く必要になります。

内　容

第1回　課題主旨説明、設計のポイント（1）
第2回　課題主旨説明、設計のポイント（2）
第3回　配置計画案の作成（1）
第4回　配置計画案の作成（2）
第5回　平面計画案の作成（1）
第6回　平面計画案の作成（2）
第7回　立面・断面計画案の作成（1）
第8回　立面・断面計画案の作成（2）
第9回　架構計画案の作成（1）
第10回　架構計画案の作成（2）
第11回　中間発表（1）
第12回　中間発表（2）
第13回　配置図・平面図の作成1（1）
第14回　配置図・平面図の作成1（2）
第15回　平面図の作成2（1）
第16回　平面図の作成2（2）
第17回　立面図の作成（1）
第18回　立面図の作成（2）
第19回　断面図の作成（1）
第20回　断面図の作成（2）
第21回　展開図、パースまたはアクソノメトリック図の作成（1）
第22回　展開図、パースまたはアクソノメトリック図の作成（2）
第23回　模型1（1）
第24回　模型1（2）
第25回　模型2（1）
第26回　模型2（2）
第27回　模型3（1）
第28回　模型3（2）
第29回　講評とまとめ（1）
第30回　講評とまとめ（2）

履修上の注意点

製図や模型製作に必要な用具，設計の参考資料等，授業準備をしっかり行ってください。7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

初学者の建築講座

著者：　瀬川康秀

a50202d212

出版社: 市ヶ谷出版社

出版年: 2011　　ISBN: 9784870710146

参考書

成績評価

試験 ( )　　小テスト ( )

授業中課題 (80)　　授業中発表等 ( )

参加度 (20)

2016 Syllabus

科 目 名　**建築・インテリア設計演習Ⅳ <a>**

クラス		配当回生	学部2回生
講義期間	後期	定　　員	40
履修条件	「建築・インテリア設計演習Ⅰ」および「建築・インテリア設計演習Ⅱ」を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	河野　良平		

テーマ

店舗併用住宅の設計

授業の到達目標

住宅を含む複合用途の建築についてプランニングの方法を習得する。平面図・立面図・断面図等，設計における基本図書の表現方法を習得する。模型やパース等，建築設計におけるプレゼンテーションの技法を習得する。

授業の概要

店舗などの付属した鉄筋コンクリート造併用住宅の設計を行う。敷地は商業地域などの高密度な都市を設定する。建築基準法をみたし適切な構造計画を踏まえた上で、快適な居住空間を実現するよう検討を重ねる。店舗等の付属部分と居住部分の関係について、時間をかけて計画をすすめる。しかし、平面だけでなく、上下階の繋がりなど立体的な構成についても配慮しつつ検討を重ねる。最終講評に向けて自分の提案を整理し、図面と模型を制作する。

準備学習（予習・復習）

授業は個人ごとのエスキスチェック等が中心になりますので，時間外の設計作業時間が多く必要になります。

内　　容

第1回　課題主旨説明、設計のポイント（1）
第2回　課題主旨説明、設計のポイント（2）
第3回　配置計画案の作成（1）
第4回　配置計画案の作成（2）
第5回　平面計画案の作成（1）
第6回　平面計画案の作成（2）
第7回　立面・断面計画案の作成（1）
第8回　立面・断面計画案の作成（2）
第9回　構造計画案の作成1（1）
第10回　構造計画案の作成1（2）
第11回　構造計画案の作成2（1）
第12回　構造計画案の作成2（2）
第13回　建築基準法の確認（1）
第14回　建築基準法の確認（2）
第15回　中間発表（1）
第16回　中間発表（2）
第17回　配置図・平面図の作成1（1）
第18回　配置図・平面図の作成1（2）
第19回　平面図の作成2（1）
第20回　平面図の作成2（2）
第21回　立面図の作成（1）
第22回　立面図の作成（2）
第23回　断面図の作成（1）
第24回　断面図の作成（2）
第25回　模型1（1）
第26回　模型1（2）
第27回　模型2（1）
第28回　模型2（2）
第29回　講評とまとめ（1）
第30回　講評とまとめ（2）

履修上の注意点

製図や模型製作に必要な用具，設計の参考資料等，授業準備をしっかり行ってください。7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 70 ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**建築計画Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　半海 宏一	

テーマ

建築計画の基礎を学ぶ

授業の到達目標

居住施設の計画について基本的な知識を習得する。人間の基本動作とそれに伴う必要寸法、戸建て住宅の歴史や様々な形式、各室の計画、配置計画、動線計画さらには集合住宅の種類と計画まで学ぶ。また、住宅の基本計画を実際に行うことで理解を深める。

授業の概要

人間の基本動作やそれに伴う寸法など、居住空間の基礎を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

身の回りの寸法に関心を持ち、心地よい空間や場所の写真を撮ったり、スケッチしてみる。

内　容

第1回　ガイダンス、建築計画の役割
第2回　住活様式と住宅の変化
第3回　人間の基本動作1
第4回　人間の基本動作2
第5回　戸建住宅の配置計画
第6回　戸建住宅の平面計画
第7回　戸建住宅の各室計画
第8回　戸建住宅の基本計画1
第9回　戸建住宅の基本計画2
第10回　団地計画
第11回　集合住宅の形式と配置計画
第12回　集合住宅の平面計画
第13回　集合住宅の住戸計画1
第14回　集合住宅の住戸計画2
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**建築計画Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　政木 哲也

テーマ

ビルディングタイプ：空間ユニットの集合と公共的施設の仕組みについて

授業の到達目標

居住施設以外のビルディングタイプの計画について基本的な知識を習得する。学校教育施設、社会教育施設、医療・福祉施設、商業施設や劇場等について、具体的な事例を挙げながら検証し、簡単な基本計画を行うことで各施設の機能、動線や配置計画についての理解を深める。

授業の概要

授業の前半では各ビルディングタイプについて、実例の紹介を交えて学習する。後半では、図面やデータを用い一般的な設計・計画の内容についての理解を深める。

準備学習（予習・復習）

建築の計画やデザインを学ぶ上で、建築図書やマスコミ・インターネット・展覧会などを利用して魅力的な空間イメージやデザインに常日頃から触れることが重要である。また、普段何気なく利用したり目にしたりしている身近な施設を、改めて観察し、その成り立ちについて考える習慣を身につけよう。

内　容

第1回　ガイダンス、建築計画における共通事項
第2回　学校建築の歴史、学校における教育システムと各室計画
第3回　小学校の計画、計画事例
第4回　図書館の歴史、規模類型、全体計画、各室計画
第5回　図書館の計画、計画事例
第6回　美術館の歴史、全体計画、各室計画
第7回　美術館の計画、計画事例
第8回　医療福祉施設の役割、部門構成、各室計画
第9回　医療福祉施設の計画、計画事例
第10回　劇場の歴史、劇場空間の機能的特性、全体計画
第11回　演劇・音楽の場、舞台と客席の設計計画と寸法
第12回　劇場、音楽ホールの計画、計画事例
第13回　事務所の全体計画、平面計画、モヂュール計画
第14回　事務所の計画、計画事例
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

テキストは使用しない。授業では適宜資料を配布する。

著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

建築計画＜改訂版＞
著者：　佐藤考一
出版社：　五十嵐太郎
出版年：　2006　　ISBN：

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**建築環境工学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松原　斎樹	

テーマ

地球環境と人間にやさしい建築デザインのあり方を学ぶ。

授業の到達目標

人体や建物を取り巻く多くの環境について考えることで、建築環境に関する理解を深める。建築環境工学に関する基礎的な内容を中心とする。

授業の概要

建築は本来自然環境を巧みに調節する機能をもっていたが，近年は機械設備依存，エネルギー浪費の傾向が強く，地球環境問題の原因の一つにもなっている。この講義では建築デザインの根本に環境問題や物理環境調節の視点を持つ必要性を認識することを重視し，物理的な環境調節の視点からの建築環境工学原論として，建築物の熱，空気，音，光のデザインにかかわる物理学的な取扱いについて学ぶ。

準備学習（予習・復習）

テキストおよびノートを用いて，予習・復習を行うこと。

内　　容

第1回　ガイダンス　建築環境の概要
第2回　熱環境　　気候
第3回　熱環境　　室内気候
第4回　熱環境　　伝熱
第5回　熱環境　　結露
第6回　空気環境　　室内空気質
第7回　空気環境　　換気と通風
第8回　熱・光環境　日照と日射と建築計画
第9回　熱・光環境　日影の検討と日照調整
第10回　光環境　　採光
第11回　光環境　　照明
第12回　光環境　　色彩
第13回　音環境　　音の性質
第14回　音環境　　音響計画
第15回　都市環境　　都市環境と建築
第16回　試験

履修上の注意点

授業中は私語をしないこと。

教科書

図説やさしい建築環境
著者：　辻原監修，今村・田中著
出版社：学芸出版社
出版年：２００９　　ISBN：　9784761524760

参考書

最新建築環境工学
著者：　田中，武田，岩田，土屋，寺尾
出版社：井上書院
出版年：2012改訂3版　　ISBN：　9784753017423

パッシブ建築設計手法事典新訂版
著者：　彰国社編
出版社：彰国社
出版年：2000　　ISBN：　4395110959

成績評価

試験　（ 70 ）　　小テスト（　）

a50202d610

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （30）

2016 Syllabus

科 目 名　**都市計画論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　佐々木　厚司	

テーマ

都市計画に関する知識について計画理論を中心に体系的に学ぶ。都市計画の政策、動向について理解し、また都市計画による実践例を学び、現代都市のかかえる課題および将来への計画方針、手法について理解を深める。

授業の到達目標

都市計画に関する知識について都市計画法を中心に体系的に学ぶ。都市計画の政策、動向について理解し、また都市計画による実践例を学び、現代都市のかかえる課題および将来への計画方針、手法について理解を深める。加えて、都市の成り立ちや現状について国内外の事例を紹介し、都市計画を総合的に把握する。

授業の概要

都市の成り立ちや現状について国内外の事例を紹介し、都市計画を総合的に把握するものである。

準備学習（予習・復習）

講義の流れで実施する「臨地研修」などを通じて、実践例も各種紹介するので十分に参照すること。

内　容

第1回　ガイダンス　都市計画について
第2回　都市の歴史
第3回　土地利用計画
第4回　都市の交通
第5回　都市の公園緑地
第6回　都市の上下水道
第7回　都市の防災
第8回　都市の景観
第9回　都市計画の事例1　近代以前　都城
第10回　都市計画の事例2　自治都市　京都
第11回　都市計画の事例3　日本の商工都市その1.京都
第12回　都市計画の事例4　日本の商工都市その2.長浜
第13回　都市計画の事例5　西欧の世界都市その1.ベルリン、ウィーン
第14回　都市計画の事例6　西欧の世界都市その2.ロンドンほか
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 40% ）	小テスト （ 30% ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度　（ 30% ）	

出席状況(30%)及び中間時点での演習レポート(30%)を勘案の上、期末テスト(40%)による評価とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**構造計画**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　福田　浩明	

テーマ

構造と意匠（デザイン）と建築計画の相互の関係性を学ぶ

授業の到達目標

構造と意匠（デザイン）と建築計画の相互の関係性を学ぶ。面と軸の構造概念の理解を通し、構造が直接意匠に及ぼす影響や、意匠を成立させる為の構造の重要性など具体例をあげ、業務レベルでの構造計画を実感し、理解を深める。

授業の概要

面と軸の構造概念の理解を通し、構造が直接意匠に及ぼす影響や、意匠を成立させる為の構造の重要性など具体例をあげ、業務レベルでの構造計画を実感し、理解を深める。模型を作製しながら構造を体感しながら理解を深めてもらう。

準備学習（予習・復習）

中間及び最終日の試験に備えて、とにかくノートを自筆でしっかりとってください。

内　　容

第1回　構造計画とは
第2回　面構造と軸構造の話
第3回　柱、梁の話
第4回　木構造　在来工法
第5回　木構造　民家型工法
第6回　木構造　2×4工
第7回　木構造　その他の工法
第8回　鉄筋コンクリート造　ラーメン構造
第9回　鉄筋コンクリート造　壁式構造
第10回　鉄筋コンクリート造　その他
第11回　鉄骨造、SRC造、他
第12回　混構造
第13回　その他の構造、工法
第14回　演習（構造模型作製等）
第15回　まとめ

履修上の注意点

3回以上の欠席は原則認めません。欠席理由は必ず前後で申し出ること

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

やさしい建築一般構造
著者:　１回生で使用したもの
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等（　）
参加度 （ 40 ）
テストの点数及び興味の持ち方、発想力、コミュニケーション力などを見ます。

2016 Syllabus

科 目 名　**構造力学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　「構造力学Ⅰ」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　山本　康彦	

テーマ

構造力学Ⅰで学習した内容を基礎にして、構造物に生じた力が、各部材にどのように作用するかを考える。

授業の到達目標

構造物に働く力についての基本的な知識を習得し、構造物を合理的に設計する上で必要な事項を学ぶ。部材や構造物に作用する力に対して、どのように力が伝わり、どのように変形するかなどを理解するために、部材の応力度やひずみ、柱の座屈、静定構造物の変形、不静定構造物の弾性解析について練習問題を通して具体的に理解を深める。

授業の概要

テキストを使って講義を進め、プリントを使って練習を重ねる。

準備学習（予習・復習）

次回講義範囲を、テキストを使って予習し、プリントを使って、復習する。予習、復習で毎週1時間程度。建築物に興味を持ち、建築途中の建物があれば、どのような骨組みになっているかを常に意識し、見るようにする。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　応力度
第3回　弾性とひずみ
第4回　柱の理論1、短柱
第5回　柱の理論2、長柱
第6回　静定構造物の変形1、片持ちはり1
第7回　静定構造物の変形1、片持ちはり2
第8回　静定構造物の変形2、単純はり1
第9回　静定構造物の変形2、単純はり2
第10回　不静定構造物と解法について
第11回　不静定構造物の解析1　たわみ角法1
第12回　不静定構造物の解析1　たわみ角法2
第13回　不静定構造物の解析2　固定法1
第14回　不静定構造物の解析2　固定法2
第15回　まとめ

履修上の注意点

構造力学は、1回1回の講義の積み重ねで、理解していく科目です。毎回受講の際には必ずノートを取り、確実に理解してください。欠席した際は、講義範囲をテキストを使って学習し、理解不十分な範囲は、必ず講師に質問をし、次回の講義に支障の無いように努めてください。

教科書

図説やさしい構造力
著者:　浅野清昭
出版社:（株)学芸出版社
出版年:　2014年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 50 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 0 ）	授業中発表等　（ 0 ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　CAD演習Ⅱ〈a〉

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員　34

履修条件　　クラス指定

担 当 者　中山 大介

テーマ

3次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

授業の到達目標

建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　2次元CADの基本操作　復習
第2回　3次元CADの基本操作（1）
第3回　3次元CADの基本操作（2）
第4回　3次元CADの基本操作（3）
第5回　演習1：空間のかたちと光のかたちをデザインする
第6回　〃
第7回　〃
第8回　講評
第9回　3次元CADの応用
第10回　演習2：いのりの空間をデザインする
第11回　〃
第12回　演習2-2：いのりの空間内を移動する
第13回　〃
第14回　〃
第15回　講評

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

VectorworksではじめるCAD 2010/2009/2008
著者：　五十嵐進
出版社：ソーテック
出版年：2010　　ISBN：9784881667330

参考書

初学者の建築講座
著者：　瀬川康秀
出版社：市ヶ谷出版社
出版年：2011　　ISBN：9784870710146

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 70 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　CAD演習Ⅱ <b>

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　34
履修条件	クラス指定
担 当 者　松本　正富	

テーマ

3次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

授業の到達目標

建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　2次元CADの基本操作　復習
第2回　3次元CADの基本操作（1）
第3回　3次元CADの基本操作（2）
第4回　3次元CADの基本操作（3）
第5回　演習1：空間のかたちと光のかたちをデザインする
第6回　〃
第7回　〃
第8回　講評
第9回　3次元CADの応用
第10回　演習2：いのりの空間をデザインする
第11回　〃
第12回　演習2-2：いのりの空間内を移動する
第13回　〃
第14回　〃
第15回　講評

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　CAD演習Ⅲ <Za>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　その他	定　　員　34
履修条件　「CAD演習Ⅱ」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

3次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

授業の到達目標

建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　2次元CADの基本操作　復習
第2回　3次元CADの基本操作（1）
第3回　3次元CADの基本操作（2）
第4回　3次元CADの基本操作（3）
第5回　演習1：空間のかたちと光のかたちをデザインする
第6回　〃
第7回　〃
第8回　講評
第9回　3次元CADの応用
第10回　演習2：いのりの空間をデザインする
第11回　〃
第12回　演習2-2：いのりの空間内を移動する
第13回　〃
第14回　〃
第15回　講評

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

VectorworksではじめるCAD 2010/2009/2008
著者：　五十嵐進
出版社：ソーテック
出版年：2010　　ISBN：　9784881667330

参考書

初学者の建築講座
著者：　瀬川康秀
出版社：市ヶ谷出版社
出版年：2011　　ISBN：　9784870710146

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　CAD演習Ⅲ <Zb>

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　員　34
履修条件　「CAD演習Ⅱ」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　松本　正富	

テーマ

3次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

授業の到達目標

建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　2次元CADの基本操作　復習
第2回　3次元CADの基本操作（1）
第3回　3次元CADの基本操作（2）
第4回　3次元CADの基本操作（3）
第5回　演習1：空間のかたちと光のかたちをデザインする
第6回　〃
第7回　〃
第8回　講評
第9回　3次元CADの応用
第10回　演習2：いのりの空間をデザインする
第11回　〃
第12回　演習2-2：いのりの空間内を移動する
第13回　〃
第14回　〃
第15回　講評

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**都市建築文化史Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　伊藤　健一

テーマ

日本の都市と建築の空間的特性

授業の到達目標

日本は島国であり，海外からの文明の流入によってさまざまな芸術が発展する一方で，文明の流入の抑制によって，芸術・文化が深まるということを繰り返してきた。この授業ではその中でも都市・建築におけるこれらの進化と深化を空間的な特性を軸に理解することを目指す。

授業の概要

プリントを配布し授業を進めます。

準備学習（予習・復習）

普段より古建築を訪ねるなど，実際の体験を積み重ねていく機会をもつことを心がけて欲しい。

内　容

第1回　はじめに。日本文化の大きな流れ。歴史を学ぶ意義について。
第2回　都市の誕生とその空間的特性
第3回　神社の空間的特性①
第4回　神社の空間的特性②
第5回　奈良時代までの建築
第6回　平安時代の建築
第7回　鎌倉・室町の建築
第8回　桃山・江戸の建築
第9回　茶室の建築空間①
第10回　茶室の建築空間②
第11回　日本の住宅について
第12回　現代の住宅
第13回　庭と空間構成①
第14回　庭と空間構成②
第15回　まとめ。レポート作成。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
最後の授業でレポートを作成する。

2016 Syllabus

科 目 名　**観光政策論**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　金武 創

テーマ

観光政策の基礎を理解する

授業の到達目標

観光振興の利点と問題点を学習することを通して、「観光は地域振興の万能薬ではなく、時には地域社会を混乱させる原因となりうる」ことを理解する

授業の概要

昨年度は観光交通と観光情報、都道府県の観光戦略を重視した。今年度も学生の関心分野や知的水準を勘案して、シラバスで示した分野を網羅しながらも、重点分野を設けてみたい。

準備学習（予習・復習）

経済系週刊誌の読解を通して、最新の動向を把握する

内　容

第1回　観光の基本構造
第2回　観光とレクリエーション
第3回　観光商品
第4回　事例研究　文化遺産と観光
第5回　旅行に対する需要
第6回　パック旅行の長所と短所
第7回　旅行代理店の長所と短所
第8回　観光産業の競争
第9回　観光行動
第10回　観光交通
第11回　国際観光
第12回　観光の経済効果
第13回　観光による受益と負担
第14回　持続可能な観光　自然環境保全と市場規制
第15回　観光振興を推進する主体※なお、講師を招いて講演会を実施することがある。

履修上の注意点

・自分の知らない地域の観光政策、名所旧跡、時事問題にも積極的に関心をもつこと。・日常評価に結びつく授業中課題が毎回あります。指定された方法／手続きで課題を提出しないと出席、日常点評価は0点です。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 30 ）

授業中課題 （ 70 ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ ）

受講人数によるが、毎回の課題提出を日常点評価（授業中課題）とするので、単に教室にいるだけでは評価の対象とならない。受講人数によって、授業内容、授業方法を変更することがある。

2016 Syllabus

科 目 名　**観光施設論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　福井　弘幸	

テーマ

観光産業の重要な役割を担う施設について理解することによる観光産業全体像の理解

授業の到達目標

観光施設で重要なホスピタリティの概念とユニバーサルデザインの理解、そして主な観光施設から最近話題のIR（統合型リゾート）まで、観光施設全般について理解を深めることを目的とします。

授業の概要

・できるだけ事例を取り上げます。・観光施設関係のニュースについて意見を求めることがあります。

準備学習（予習・復習）

・課題については、期日までに提出すること。・日頃より課題意識をもって、観光施設関係のニュース等を捉えておくこと。

内　　容

第1回　イントロダクション（授業の全体構成の説明、授業で取扱う観光施設の説明）
第2回　ホスピタリティの概念とビジネス用語としての「ホスピタリティ」
第3回　サービスの一般的意味と構造
第4回　サービスの用語法分析と観光におけるサービス、観光地におけるホスピタリティ
第5回　宿泊産業①
第6回　宿泊産業②
第7回　宿泊産業③
第8回　宿泊産業④
第9回　ブライダル産業
第10回　テーマパーク
第11回　動物園、水族館、博物館
第12回　空港及び航空関連施設
第13回　カジノと統合型リゾート（IR）
第14回　観光施設におけるユニバーサルデザイン
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

・3分の2以上の出席が必要です。・グループでの授業時間外の調査・研究を課する場合があります。・適宜リアクションペーパー（授業の感想、疑問等を記載）の提出を求めることがあります。

教科書

プリントを配布します。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 20 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**観光ビジネス論**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　福井　弘幸

テーマ

観光ビジネスの全体像を理解する。

授業の到達目標

観光産業や自治体等におけるまちづくりで活躍できる中核的な人材を想定し、観光ビジネスの現状、仕組み、将来への展望・課題などを理解することを目標とする。

授業の概要

現代社会において観光ビジネスがどのような役割や意義を持ち、どのような事柄と関わりを持っているのか、更に観光を支え促進する仕組みにはどのようなものがあるかなど、現代の観光に係わる様々な内容を多角的に理解する。・適宜リアクションペーパー（授業の感想、疑問などを記載）の提出を求めることがある。・観光ビジネスに関係のニュースについて意見を求めることがある。

準備学習（予習・復習）

・課題については期日までに提出すること。・日頃より問題意識をもって、観光ビジネス関係のニュース等を捉えておくこと。

内　容

第1回　イントロダクション（授業の全体構成の説明、観光ビジネスの意義と役割）
第2回　ホスピタリティと観光ビジネス
第3回　観光と観光ビジネス
第4回　旅行業ビジネス
第5回　鉄道会社と観光ビジネス
第6回　航空産業と観光ビジネス
第7回　ホテル・旅館業と観光ビジネス
第8回　メディア戦略と観光ビジネス
第9回　コンベンションと観光ビジネス
第10回　スポーツマーケティングと観光ビジネス
第11回　観光戦略ブランドと観光ビジネス
第12回　土産品と観光ビジネス
第13回　インバンドツーリズムと観光ビジネス
第14回　ニューツーリズムと観光ビジネス
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

・3分の2以上の出席が必要です。・授業時間外の調査・研究を課する場合があります。

教科書

プリントを配布します。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 20 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**観光情報論 <Z>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　谷口 知司

テーマ

観光にかかわるさまざまな情報および情報媒体について学ぶ。

授業の到達目標

観光という巨大産業では、観光素材や観光商品の流通・販売のためにさまざまな情報がかかわっている。これらを総合的に理解することを目的とする。

授業の概要

講義と受講者による発表で構成される。

準備学習（予習・復習）

グループを編成し、指定された課題について調査、研究すること、またその成果を発表することを要求するので、調査、研究やプレゼンテーション資料等の作成は授業時間外で行う必要がある。

内　容

第1回　観光情報とは
第2回　観光情報とメディア
第3回　観光ビジネスと情報活用について①
第4回　観光ビジネスと情報活用について②
第5回　観光ビジネスと情報活用について③
第6回　観光ビジネスと情報活用について④
第7回　いろいろな観光情報
第8回　観光情報について分析する（発表を含む）①
第9回　観光情報について分析する（発表を含む）②
第10回　観光情報について分析する（発表を含む）③
第11回　観光情報について分析する（発表を含む）④
第12回　観光情報について分析する（発表を含む）⑤
第13回　観光情報について分析する（発表を含む）⑥
第14回　観光情報について分析する（発表を含む）⑦
第15回　まとめ

履修上の注意点

グループ活動による授業時間外での学習が必要になるので、積極的に参加されることを期待する。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

観光ビジネス論
著者:　谷口知司他
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2010　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 20 ）
授業時間外の活動についても参加度において加味する。

2016 Syllabus

科 目 名　**観光メディア論 <Z>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　谷口 知司

テーマ

観光関連資料のデジタル化について学ぶ。

授業の到達目標

観光資料等のデジタル化およびデータベースによる管理ができるようになること。テキストベースの観光情報媒体についての全体的な理解ができるようになる。併せて地域資料情報記録管理者資格またはデジタル情報記録管理者資格を取得することを目指す。

授業の概要

歴史的な観光資料等のデジタル化ができるようにする。講義と受講者による発表で構成される。

準備学習（予習・復習）

グループを編成し、指定された課題について調査、研究すること、またその成果を発表することを要求するので、調査、研究やプレゼンテーション資料等の作成は授業時間外で行う必要がある。

内　容

第1回　デジタルとアナログ
第2回　デジタル化のプロセス
第3回　テキストベースの観光情報媒体について（歴史）①
第4回　テキストベースの観光情報媒体について（分析）②
第5回　歴史的な観光情報媒体をデジタル化する①
第6回　歴史的な観光情報媒体をデジタル化する②
第7回　歴史的な観光情報媒体をデジタル化する③
第8回　観光資源をデジタル媒体化する①
第9回　観光資源をデジタル媒体化する②
第10回　観光資源をデータベース化する①
第11回　観光資源をデータベース化する②
第12回　観光資源をデータベース化する③
第13回　成果発表①
第14回　成果発表②
第15回　まとめ

履修上の注意点

授業時間外での活動機会も増えるので、積極的に参加するようにしてください。3分の2以上の出席が必要です。

教科書

デジタルアーカイブの資料基盤と開発技法　-記録遺産学への視点-
著者:　谷口知司他
出版社:　晃洋書房
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**まちづくりデザイン論 <Z>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　織田　直文

テーマ

文化に着目したまちづくりデザイン

授業の到達目標

現代社会の大きなキーワードの一つである＜文化＞に着目した「文化政策」を理解するとともに、そのこととまちづくりがどのように関わっているのかを理解してもらいながら、最も現代的なまちづくりの課題の認識、課題解決手法を身につける。

授業の概要

テキストと補足資料で授業を進める。テーマは商店街やまち中再生、伝統産業や祭りの再興、情報戦略、文化施設とまちづくり、まちづくりのコーデネート等である。

準備学習（予習・復習）

「まちづくり」という言葉や講義で不明だったキーワード等のネット検索、身近な所にある商店街、伝統産業産地、文化財や観光施設、文化施設等の見学をし、それらの概要や感想をメモるようにする習慣をつける。授業は、その回の復習を次週までに約30分、次回予告された講義内容（キーワード）についての予習約30分確保するようにする。

内　容

第1回　講義を進めるにあたって。文化政策とまちづくりについて
第2回　日本の都市計画について
第3回　区画整理事業について
第4回　歴史的商店街の価値の創造
第5回　民間活力による市街地再生
第6回　まちづくりの溜り場の意義
第7回　伝統産業と生産地の再生
第8回　伝統的な祭りと地域コミュニティ
第9回　キャラクター活用によるまちづくり
第10回　文化施設とまちづくり
第11回　日本の過疎過密と過疎地振興政策
第12回　臨地まちづくりの実践経過。その成果と課題。
第13回　地域づくりコーディネーター論
第14回　総括レポートの執筆
第15回　まとめ。※なお、この授業では必要に応じて、特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

文化政策と臨地まちづくり
著者：　織田直文
出版社：水曜社
出版年：2009　　ISBN：

参考書

臨地まちづくり
著者：　織田直文
出版社：サンライズ出版
出版年：2005　　ISBN：

成績評価

試験　（ 10 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 60 ）
出席をはじめ受講態度（私語や講義に関係のない携帯やスマホは厳禁）を重視します。授業中に指名して質問をする場合があります。不定期でレポート出題や小テストを行いますが、詳細はその都度示します。

2016 Syllabus

科 目 名　**ニューツーリズム研究**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金武　創	

テーマ

新版「ニューツーリズム」と観光マーケティング

授業の到達目標

観光マーケティング・消費者行動論を基礎にしながら、2000年以降の新たなニューツーリズムの利点と問題点を学習することを通して、「観光は地域振興の万能薬ではなく、時には地域社会を混乱させる原因となりうる」ことを理解する。

授業の概要

（1）国土交通省や観光庁が提唱する「ニューツーリズム」は古い概念に過ぎない。最新のニュース映像や新聞資料を活用しながら、最新事例を紹介し、ニューツーリズムのあり方を考える。（2）（1）の理解を深めるために、同時に消費者行動論からみたニューツーリズムの事例を説明する（目標達成のため、1,2回のアクティブ・ラーニングを水曜午後の学外授業として計画している）。

準備学習（予習・復習）

日経MJを読むこと

内　　容

第1回　観光の基本構造　マスツーリズムと古いニューツーリズム
第2回　購買プロセスと心理的プロセス1
第3回　購買プロセスと心理的プロセス2
第4回　問題認識
第5回　情報検索1
第6回　情報検索2
第7回　評価選択1
第8回　評価選択2
第9回　動機づけ
第10回　態度形成1
第11回　態度形成2
第12回　知覚1
第13回　知覚2
第14回　フロー状態と観光行動
第15回　観光まちづくりとまちづくり観光※なお、この授業では必要に応じて講演会を実施することがある。

履修上の注意点

日常評価に結びつく授業中課題が毎回あります。指定された方法／手続きで課題を提出しないと出席、日常点評価は0点です。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

消費者行動論
著者:　平久保直人
出版社:　ダイヤモンド社
出版年:　2005年　　ISBN:

ことばとマーケティング
著者:　松井剛
出版社:　碩学舎
出版年:　2013年　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 20 ）

a50202f250

授業中課題（ 80 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

授業中の課題をまじめに取り組み、期限内に提出しないと出席が認められない

2016 Syllabus

科 目 名　**観光ビジネス実務演習Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　福井　弘幸	

テーマ

旅行業を中心に観光ビジネスの実務全般に触れることにより、その理解を深め、観光産業で求めらている人物像をイメージさせ、今後の学習、研究の指針を示す。

授業の到達目標

観光ビジネスの実務を通じ、その実務を遂行するために必要である多種多様な知識、能力のレベルを把握する。

授業の概要

観光ビジネス実務を個人単位、グループ単位でプレゼンターション及びロールプレイングを行って頂く機会が多いため積極的に参加することが必要です。

準備学習（予習・復習）

授業時間外の調査が必要になってくる場合があります。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　観光ビジネス全般について
第3回　ツアーコンダクター実務①（講義とロールプレイング）
第4回　ツアーコンダクター実務②（講義とロールプレイング）
第5回　ツアーコンダクター実務③（講義とロールプレイング）
第6回　旅行カウンター販売実務①（講義とロールプレイング）
第7回　旅行カウンター販売実務②（講義とロールプレイング）
第8回　旅行カウンター販売実務③（講義とロールプレイング）
第9回　旅行商品造成実務①
第10回　旅行商品造成実務②
第11回　旅行商品造成実務③
第12回　旅行商品造成実務④
第13回　MICE（ Meeting：会議・研修・セミナー、Incentive travel：報奨・招待旅行、 Convention ：大会・国際会議、Event/Exhibition：イベント/展示会）ビジネス実務①
第14回　MICE（ Meeting：会議・研修・セミナー、Incentive travel：報奨・招待旅行、 Convention ：大会・国際会議、Event/Exhibition：イベント/展示会）ビジネス実務②
第15回　まとめ　※外部講師を招いて特別公演を行う場合があります。※演習の内容により計画を多少変更する場合があります。※学外授業を行う場合があります。

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。

教科書

プリントを配布します。
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

「JTB時刻表」（B5版）＊旅行商品造成実務で使用
著者：
出版社：JTBパブリッシング
出版年：2016年4月号以降なら可　ISBN：

参考書

都度指示します。
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験（ ）　小テスト（ ）

a50202f380

授業中課題（ 30 ）　授業中発表等（ 30 ）

参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**観光ビジネス実務演習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　福井　弘幸	

テーマ

旅行業を中心に観光ビジネスの実務全般に触れることにより、その理解を深め、観光産業で求めらている人物像をイメージさせ、今後の学習、研究の指針を示す。

授業の到達目標

観光ビジネスの実務を通じ、その実務を遂行するために必要である多種多様な知識、能力のレベルを把握する。

授業の概要

観光ビジネス実務を個人単位、グループ単位でプレゼンターション及びロールプレイングを行って頂く機会が多いため積極的に参加することが必要です。

準備学習（予習・復習）

授業時間外の調査が必要になってくる場合があります。

内　容

第1回　旅行業一般営業実務①（講義、プラン作成とロールプレイング）
第2回　旅行業一般営業実務②（講義、プラン作成とロールプレイング）
第3回　旅行業一般営業実務③（講義、プラン作成とロールプレイング）
第4回　宿泊施設ビジネス実務とホスピタリティ①（講義とロールプレイング）
第5回　宿泊施設ビジネス実務とホスピタリティ②（講義とロールプレイング）
第6回　宿泊施設ビジネス実務とホスピタリティ③（講義とロールプレイング）
第7回　宿泊施設ビジネス実務とホスピタリティ④（講義とロールプレイング）
第8回　訪日旅行（インバウンドビジネス）ビジネス実務①
第9回　訪日旅行（インバウンドビジネス）ビジネス実務②
第10回　ブライダルビジネス実務①（講義とロールプレイング）
第11回　ブライダルビジネス実務②（講義とロールプレイング）
第12回　エアポートビジネス実務①（講義とロールプレイング）
第13回　エアポートビジネス実務②（講義とロールプレイング）
第14回　ランドオペレーター実務
第15回　まとめ　※外部講師を招いて特別公演を行う場合があります。※演習の内容により計画を多少変更する場合があります。※学外授業を行う場合があります。

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。前期の「観光ビジネス実務Ⅰ」を受講しておくこと。

教科書

プリントを配布します。
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

都度指示します。
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**観光法規・経営論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　福井　弘幸	

テーマ

観光関連事業の基本的な経営とそれに関連する法規等の理解。

授業の到達目標

観光関連の各種事業活動を概観し、主として旅行業を中心に、どのような法規等の規制の中で事業活動を行っているかを理解することを目的とする。

授業の概要

・観光関連の各種事業活動を経営の面から概観し上で、具体的に法規などの規制を考察します。・観光法規・経営のニュースについて意見を求めることがあります。

準備学習（予習・復習）

・日頃より課題意識を持って観光法規・経営のニュースを捉えておくこと。

内　　容

第1回　イントロダクション（授業の全体構成の説明、授業で取扱う内容の説明）
第2回　観光経営の基礎
第3回　観光政策・行政
第4回　観光まちづくり
第5回　観光行動と観光市場
第6回　交通産業経営
第7回　旅行産業経営
第8回　宿泊産業経営
第9回　旅行業法の概要1
第10回　旅行業法の概要2
第11回　旅行業約款の概要1
第12回　旅行業約款の概要2
第13回　旅行業以外の法規1：航空業など
第14回　旅行業以外の法規2：宿泊業など
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

・3分の2以上の出席が必要です。・適宜リアクションペーパー（授業の感想、疑問等を記載）の提出を求めることがあります。

教科書

プリントを配布します。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 20 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 25 ）	授業中発表等　（ 25 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**アーツマネジメント論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小暮　宣雄	

テーマ

アーツマネジメントを学ぶ入り口

授業の到達目標

アーツマネジメントが都市環境デザインにどう位置づけられるかを知る。アーツマネジメントの基礎的用語を理解し説明できる。アーツマネジメントの分類ができる。

授業の概要

古典の世界を重視して、芸術リテラシー向上に資する。アーティストやアーツマネージャーが呼びかけに来てくれることもあるので、楽しみに。

準備学習（予習・復習）

アーツマネジメントの基本文献を紹介したり配布するので、時間外によく読んでおくこと。生協の読書奨励制度を積極的に活用するととても役立つ。芸術鑑賞と文化ボランティアの学外での活動を評価する。

内　容

第1回　これからの予定の紹介（冒頭に、これからの演劇ダンス公演のPRだとか、美術関係のボランティア募集などの呼びかけが随時行われることがあり、そこに登場する方々は、それぞれ新進気鋭のアーツマネージャーなので、適宜、生のアーツマネジメントの姿を挿入することを促進する。）
第2回　アーツマネジメント（芸術営）の基本、本質、実践
第3回　アーツマネジメント（芸術営の定義と文化政策、まちづくりとの関係
第4回　芸術場（劇場ホール、美術館）芸術団（劇団、楽団など）
第5回　学外授業―芸術鑑賞　京都かその周辺（予定としては、東部文化会館5/21の若者向け雅楽鑑賞会）
第6回　アーツプレース論～劇場、コンサートホール、ライブハウス、美術館、画廊の真実～
第7回　アーツ（諸芸術）の分類
第8回　伝統芸術概論―雅楽、能楽、文楽、歌舞伎
第9回　日本実演芸術概論―落語、講談、浪曲（できれば、浄瑠璃、長唄も）
第10回　アーツマネジメントの分類と歴史
第11回　文化芸術振興法と劇場法など法制度と芸術営
第12回　イベントプロデュースと芸術営の関係
第13回　非営利民間活動の公共性～アーツNPOと企業メセナ
第14回　限界芸術と先端芸術、伝統芸術、市場芸術の関係
第15回　まとめ・・・アーツ（マネジメント）の公共性とは

履修上の注意点

学外授業はもとより、できるだけ、現地での鑑賞・体験を行うようにすることめくるめく紙芝居プロジェクト（略してMEK）には参加が有効。 https://www.facebook.com/mekmekY

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

アーツマネジメント学
著者：　小暮宣雄
出版社：水曜社
出版年：2013　ISBN：9784880653129

文化政策学の展開
著者：　池上惇ほか
出版社：晃洋書房
出版年：2003　ISBN：

a50202f610

アーツ･マネジメント概論三訂版
著者:　伊藤裕夫ほか
出版社: 水曜社
出版年: 2009　ISBN:

アーツマネジメントみち
著者:　小暮宣雄
出版社: 晃洋書房
出版年: 2003　ISBN:

分権時代の自治体文化政策
著者:　中川幾郎
出版社: 勁草書房
出版年: 2001　ISBN:

限界芸術論
著者:　鶴見俊輔
出版社: 筑摩書房
出版年: 1999　ISBN:

著作権とは何か
著者:　福井健策
出版社: 集英社
出版年: 2005　ISBN:

地域再生の罠
著者:　久繁哲之介
出版社: 筑摩書房
出版年: 2010　ISBN:

未来型サバイバル音楽論
著者:　牧村憲一ほか
出版社: 中央公論新社
出版年: 2010　ISBN:

これからのアートマネジメント
著者:　中川真ほか
出版社: フィルムアート社
出版年: 2011　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 30 ）　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 50 ）
毎回、A5版程度の用紙（出席確認を兼ねるもの）に感想や意見、時にはミニテストなどをして提出してもらう。欠席の場合はそれに替わるものをA5用紙で提出して15回をクリアすることをめざす。

2016 Syllabus

科 目 名　**舞台プロデュース論 <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**文化施設マネジメント論**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　秋期集中　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　笠井　敏光

テーマ

国や自治体の文化政策の変遷と文化施設のマネジメントについて学ぶ

授業の到達目標

法律・制度や国や自治体の文化政策の変遷の中で国公立の文化施設のマネジメントのあり方が大きく変わってきている。文化ホール・博物館・公民館・図書館などの事例を取り上げ、文化施設マネジメントの課題とあり方について学ぶ。

授業の概要

双方向の進行をめざすとともに、映像などを用いた立体的な授業をおこなう。後半には、実際に現地において学ぶ。

準備学習（予習・復習）

図書館、博物館、文化ホールを利用するときには、マネジメントの視点から観察してみること

内　容

第1回　オリエンテーション—文化施設の種類について—
第2回　日本の文化政策の変遷
第3回　文化芸術振興基本法にいついて
第4回　文化関係予算の現状
第5回　文化施設の運営主体について
第6回　指定管理者制度の現状と課題
第7回　文化ホールのマネジメント
第8回　博物館のマネジメント
第9回　公民館のマネジメント
第10回　生涯学習センターのマネジメント
第11回　図書館のマネジメント
第12回　生涯学習センターの実際（学外現地授業）
第13回　複合型文化施設の実際（学外現地授業）
第14回　市立歴史民俗資料館の実際（学外現地授業）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（０）　　小テスト（　）
授業中課題　（５０％）　　授業中発表等（　）
参加度　（５０％）

2016 Syllabus

科 目 名　**イベントデザイン論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小暮　宣雄	

テーマ

アーツマネジメント各論としてのイベントプロデュースを学ぶ

授業の到達目標

アーツマネジメントの現場へ接近して理論を活用するための手法を学ぶ。イベントとは何か、そのあり方を知る。音楽ジャンルや冠婚葬祭のイベント諸相を体験的に学修する。

授業の概要

アーツマネジメント論を学修していることが望ましい。イベントを実際に企画するアーティストがゲストとして来ることがあるので、積極的に現場感覚を学ぶことができる。

準備学習（予習・復習）

京都における文化活動を紹介するのでできるだけ、時間外において参加し記録すること。

内　容

第1回　はじめに～アーツマネジメント（芸術営）の基本理解の確認
第2回　イベントの要件・目的・手段について
第3回　限界芸術としての冠婚葬祭、そのイベントとの関係
第4回　音楽という文化は都市にどのように関わるのか・・ライブハウス、音楽ホール以外に音楽はどこで鳴っている？
第5回　まちの文化イベントを探し、自らの調査対象を選ぶ（第14回に繋げる作業）
第6回　劇団・ダンスカンパニーの歴史と現状
第7回　演劇ダンスプロデュース公演のあり方
第8回　イベントとしての公演と非イベントとしてのワークショップ
第9回　学外授業1　糸賀一雄記念賞音楽祭（滋賀県内）に参加（栗東市さくら大ホールの予定）
第10回　観察したイベントの効果と問題点を検証する
第11回　学外授業2　実演芸術関連のイベントを鑑賞する　場所は未定（適当なものがない場合は、映像鑑賞に変える）
第12回　演劇ダンスと冠婚葬祭との比較論
第13回　限界芸術論を現代化する
第14回　イベントプロデュースの事例を自分なりに応用する
第15回　発表とまとめ―芸術イベントへの関心を継続するように―

履修上の注意点

学外授業はもとより、できるだけ、現地での鑑賞・体験を行うようにすること

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

アーツマネジメント学
著者:　小暮宣雄
出版社:　水曜社
出版年:　2013年　ISBN:　9784880653129

ライブシーンよ、どこへいく―ライブカルチャーとポピュラー音楽
著者:　宮入恭平他
出版社:　青弓社
出版年:　2011年　ISBN:　9784787273116

ライブハウス文化論
著者:　宮入恭平
出版社:　青弓社
出版年:　2008年　ISBN:　9784787232854

a50202f950

ロックミュージックの社会学

著者:　南田勝也

出版社: 青弓社

出版年: 2001年　　ISBN:　9784787231901

限界芸術論

著者:　鶴見俊輔

出版社: 筑摩書房

出版年: 1999年　　ISBN:　4480085254

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト（ 20 ）

授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 30 ）

現場活動を紹介するので、できるだけ参加すること。

2016 Syllabus

科 目 名　**展示デザイン論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　木下　達文	

テーマ

展示メディアの理解と創造

授業の到達目標

展示という空間メディアには様々なものがあるが、中でも文化空間としての展示会やイベントなどを中心とし、それら空間を伴うメディアがどのようにして企画され作られているのかを基礎理論・歴史ならび手法等を含めて学ぶ。と同時に、可能な範囲で独自の展示企画を具体的に提案し実践する（1月予定）。

授業の概要

展示の歴史，展示メディア，展示による教育活動，展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を習得し、展示機能に関する基礎的能力を養うとともに、簡単な展示実践を行う。

準備学習（予習・復習）

身の回りにはさまざまな空間があり、何らかの意図をもって作られている。美術館や博物館などの文化的空間から、イベント・ショールームなどの商業的空間に至るまでの展示メディア表現に関心をもち社会を見つめてみる。

内　　容

第1回　展示メディアとは（展示の概念）展示を一つのコミュニケーションメディアとしてとらえ、その空間的時間的特性について考える。

第2回　展示の種類（形態）展示には閉ざされた空間における小さいものから、インスタレーションのような環境展示というものもある。大まかな展示の種類を説明する。

第3回　展示および展示論の歴史展示の世界は日本では1970年の大阪万博から開花していく、その後の展示の歴史と、展示学の流れについての概略を説明する。

第4回　展示の政治性と社会性展示はその規模が大きくなればなるほど政治的特色が強くなる。とくに大型展示などを例にあげながら政治性・社会性について説明する。

第5回　展示のプロセス（企画・設計・製作等）展示をつくるプロセスは映画制作とよく似ている。基本調査構想から製作までの一連の流れについて概説する。

第6回　展示の手法（展示技術）展示は実物を使うケース展示から、1分の1実大再構成展示に至るまで様々である。そうした基本的な展示手法について説明する。

第7回　展示と研究展示は固定的なものであり、嘘ができない。そのため時代考証など緻密な研究の裏付けが必要であり、また研究成果の場でもあることを説明する

第8回　展示と運営展示は完成すれば終わりではない。そこから様々な運営サービス・管理が行われる。ここでは基本的な展示場での活動について説明する。

第9回　展示と解説展示はコミュニケーションメディアであるから、その伝え方も多様である。パネルによる解説から機械・人による解説までの手法を説明する。

第10回　展示とその記録（図録、解説、資料等）とくに仮設的な展示は、そのイベントが終了すると何も残らない。そこで、展示記録としての図録や解説などの資料について説明する。

第11回　特別講義実際に展示を企画・設計・製作している人から、ある例を題材としながら具体的な展開とその問題点などについて考える。

第12回　展示の企画実践これまでの学習をもとに自分たちでオリジナルな展示企画を考える。考えてものを企画資料としてまとめてみる。

第13回　展示の製作実践企画で考えた展示について実際に簡単な製作を行う。自分たちなりにできる素材を集め、展示そのものをつくりあげてみる。

第14回　展示の運営実践つくりあげた展示を利用者に提供する。運営管理を学びながら、教育プログラムやアンケートなどもとり、展示評価の素材としていく。

第15回　展示の評価と改善・更新展示は実施して終わりではなく、いろんな場面でチェック（評価）をしていくことがつぎの改善に繋がる。実践例をもとに評価について考える。

履修上の注意点

教科書

授業内容に応じて適宜指示する。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

展示学事典

著者：　日本展示学会編

出版社：ぎょうせい

a50202g050

出版年: 1996　　ISBN:

イベント講座

著者:　日本イベント産業振興協会

出版社:

出版年: 2004　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 40 ）

グループワークを組み合わせた授業方法にて進めるのと、展示創造に必要な責任感の向上を図るため、出席点をかなり厳しくしている。また、後半の展示創造プログラムでは授業外での連絡調整や制作作業などがある。

2016 Syllabus

科 目 名　**舞台イベント研究 <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**ビジュアルアーツ演習 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　清水 俊洋	

テーマ

美的表現が感動を起こす作用の理解とデザイン制作実践（※主に視覚芸術の領域における）

授業の到達目標

昨今の「美」の基準が多様化する中で、「発案としての芸術」と「解決としてのデザイン」はそれぞれの影響を受け、進化し続けている。「芸術」と「デザイン」と便宜上領域が分けられているそれぞれの作品のあいだでも、その感動をもよおす効果が共通している例が多く見受けられる。舞台公演の宣伝美術（ちらし）デザイナー・舞台写真家として活動してきた講師が芸術とデザイン双方を横断しつつ、美しさとは／芸術性とは何かを学生の皆さんと一緒に探りつつ、デザイン・写真撮影スキルの習得も目指します。

授業の概要

（1）視覚芸術の名作（現代美術・グラフィックデザイン・写真・映像など）の鑑賞と分析・説明　（2）Illustrator・Photoshopを用いたデザイン制作の実践　（3）写真撮影実習とPhotoshopをつかった修整作業の実践

準備学習（予習・復習）

PhotoshopやIllustratorといったソフトは触っている時間が長ければ長いほど上達します。情報メディアセンターのPCを可能な限り使ってPhotoshopやIllustratorに慣れるようにしてください。

内　容

第1回　文字をみる・文字をつくる … タイポグラフィー制作
第2回　文字をみる・文字をつくる … 自分のシンボルマークを考える
第3回　文字をみる・文字をつくる … 自分のシンボルマークをつくってみる
第4回　Illustratorでイラストを描く
第5回　文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
第6回　文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
第7回　文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
第8回　文字をみる・文字をつくる … 名刺制作
第9回　文字をみる・文字をつくる … 名刺制作
第10回　商品の企画とデザイン … エコバッグのデザイン
第11回　商品の企画とデザイン … エコバッグのデザイン
第12回　商品広告写真を撮る
第13回　心にひびくことばを考える …キャッチコピー
第14回　見る人に伝わる商品広告をつくる
第15回　見る人に伝わる商品広告をつくる
第16回　最終試験（60分ほどの時間内でデザイン作品制作・提出）

履修上の注意点

PhotoshopやIllustratorといったソフトは触っている時間が長ければ長いほど上達します。情報メディアセンターのPCを可能な限り使ってPhotoshopやIllustratorに慣れるようにしてください。

教科書

参考書

フライヤーのレイアウト
著者：　志賀 隆生
出版社：ビー・エヌ・エヌ新社
出版年：2007　　ISBN：　978-4861005442

タイポグラフィの基本ルール
著者：　大崎 善治
出版社：ソフトバンククリエイティブ
出版年：2010　　ISBN：　978-4797359220

a50202g250

なぜ、これがアートなの?

著者:　アメリア アレナス

出版社: 淡交社

出版年: 1998　　ISBN:　978-4473015785

成績評価

試験 （ 30 ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**ビジュアルアーツ演習 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　清水 俊洋	

テーマ

美的表現が感動を起こす作用の理解とデザイン制作実践（※主に視覚芸術の領域における）

授業の到達目標

昨今の「美」の基準が多様化する中で、「発案としての芸術」と「解決としてのデザイン」はそれぞれの影響を受け、進化し続けている。「芸術」と「デザイン」と便宜上領域が分けられているそれぞれの作品のあいだでも、その感動をもよおす効果が共通している例が多く見受けられる。舞台公演の宣伝美術（ちらし）デザイナー・舞台写真家として活動してきた講師が芸術とデザイン双方を横断しつつ、美しさとは／芸術性とは何かを学生の皆さんと一緒に探りつつ、デザイン・写真撮影スキルの習得も目指します。

授業の概要

（1）視覚芸術の名作（現代美術・グラフィックデザイン・写真・映像など）の鑑賞と分析・説明　（2）Illustrator・Photoshopを用いたデザイン制作の実践　（3）写真撮影実習とPhotoshopをつかった修整作業の実践

準備学習（予習・復習）

PhotoshopやIllustratorといったソフトは触っている時間が長ければ長いほど上達します。情報メディアセンターのPCを可能な限り使ってPhotoshopやIllustratorに慣れるようにしてください。

内　容

第1回　文字をみる・文字をつくる … タイポグラフィー制作
第2回　文字をみる・文字をつくる … 自分のシンボルマークを考える
第3回　文字をみる・文字をつくる … 自分のシンボルマークをつくってみる
第4回　Illustratorでイラストを描く
第5回　文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
第6回　文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
第7回　文字をみる・文字をつくる … ABCのデザイン
第8回　文字をみる・文字をつくる … 名刺制作
第9回　文字をみる・文字をつくる … 名刺制作
第10回　商品の企画とデザイン … エコバッグのデザイン
第11回　商品の企画とデザイン … エコバッグのデザイン
第12回　商品広告写真を撮る
第13回　心にひびくことばを考える …キャッチコピー
第14回　見る人に伝わる商品広告をつくる
第15回　見る人に伝わる商品広告をつくる
第16回　最終試験（60分ほどの時間内でデザイン作品制作・提出）

履修上の注意点

PhotoshopやIllustratorといったソフトは触っている時間が長ければ長いほど上達します。情報メディアセンターのPCを可能な限り使ってPhotoshopやIllustratorに慣れるようにしてください。

教科書

参考書

フライヤーのレイアウト
著者：　志賀 隆生
出版社：ビー・エヌ・エヌ新社
出版年：2007　　ISBN：　978-4861005442

タイポグラフィの基本ルール
著者：　大崎 善治
出版社：ソフトバンククリエイティブ
出版年：2010　　ISBN：　978-4797359220

a50202g252

なぜ、これがアートなの?

著者:　アメリア アレナス

出版社: 淡交社

出版年: 1998　　ISBN:　978-4473015785

成績評価

試験 （ 30 ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 40 ）

Syllabus

科 目 名　**地域文化財論 <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**地域文化行政論 <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**建築施工**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　笠井　俊明	

テーマ

建築物が造り出される過程や施工のポイントについて、具体的にやさしく学ぶ。建築積算についても平行して学ぶ。

授業の到達目標

建築施工における基礎的な知識を学び、一般的な建築工事のプロセスについて理解する。各工程、工種での基本的な工事内容、技術的な手法や積算方法について具体的に知ることで、施工計画や工程管理などの重要性を認識する。

授業の概要

建築施工における基礎的な知識を教えます、一般的な建築工事のプロセスについて、テキストに従いまた配布資料・写真や図を用いて具体的に説明します。

準備学習（予習・復習）

テキストの予習　テキスト・配布資料の復習。（毎回、前回授業の小テストをします。）日常生活から興味をもって建築施工について考える。工事現場を注意して観察する。

内　　容

第1回　建築施工について
第2回　建築生産に関わる各種業務；設計・工事発注・施工など
第3回　施工の流れと工程計画作成
第4回　仮設工事について、および、地盤強度と地盤調査
第5回　土工事と、地業工事の種類と施工法
第6回　鉄筋工事と型枠工事
第7回　コンクリートの配合と、その打設手順
第8回　鉄骨の種類と、その接合や建て方について
第9回　メーソンリー（組積）工事とプレキャストパネル
第10回　建具工事
第11回　内外装の機能材料と仕上工事
第12回　給排水・空調・電気設備工事
第13回　工事費の積算の手順
第14回　簡単な構造物の積算演習
第15回　まとめ

履修上の注意点

受講中は私語厳禁　質問は随時受けます。欠席については成績評価の対象になります。授業では配布資料の空欄を埋める。

教科書

初学者の建築講座建築施工
著者：　中澤明夫　門田誠
出版社：市ヶ谷出版社
出版年：2010　　ISBN：　9784870711211

参考書

建築施工テキスト
著者：　兼歳昌直
出版社：井上書院
出版年：2012　　ISBN：　9784753005871

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 20 ）
総合試験は最終授業後別日程で実施します。 前回授業の小テストを毎回します。

2016 Syllabus

科 目 名　**建築法規**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　大戸　寛	

テーマ

より良い街づくりや、良い環境、安全な建物づくりをするための考え方やその法規を学ぶ。

授業の到達目標

建築物、地域や都市を計画し、それを実現するために必要な建築基準法や関連する法令について基礎的な知識を習得する。

授業の概要

より良い街づくりや安全な建物づくりのための建築基準法、都市計画法、消防法などの基本を学ぶ。この授業の単位取得は建築士などの受験資格の必要要件となります。

準備学習（予習・復習）

街を歩いているときには常に建築物の形状、周辺環境等に気を配っておくこと。授業後その細目について街や、建築の構造について再確認しておくことが大事です。

内　容

第1回　建築基準法の概要1
第2回　建築基準法の概要2
第3回　用途と形態の制限1
第4回　用途と形態の制限2
第5回　防火対策と内装の規制1
第6回　防火対策と内装の規制2
第7回　避難施設の基準
第8回　構造強度の規制1
第9回　構造強度の規制2
第10回　環境と整備に関する基準1
第11回　環境と整備に関する基準2
第12回　建築協定・建築士法
第13回　ハートビル法・耐震改修促進法、建築業
第14回　消防法、都市計画法、品確法、その他の法令
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書を必ず準備してください。またメジャー（2m程度）を用意しておいてください。

教科書

基礎シリーズ最新建築法規入門
著者:　松本光平ほか
出版社:　実教出版株式会社
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

建築申請MEMO
著者:　建築申請実務研究会
出版社:　新日本法規
出版年:　2015　　ISBN:

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 30 ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等（　）
参加度 （ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**観光情報演習 I**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　谷口　知司	

テーマ

観光にかかわるさまざまな情報および情報媒体について学ぶ。

授業の到達目標

観光という巨大産業では、観光素材や観光商品の流通・販売のためにさまざまな情報がかかわっている。これらを総合的に理解することを目的とする。

授業の概要

講義と受講者による発表で構成される。

準備学習（予習・復習）

グループを編成し、指定された課題について調査、研究すること、またその成果を発表することを要求するので、調査、研究やプレゼンテーション資料等の作成は授業時間外で行う必要がある。

内　　容

第1回　観光情報とは
第2回　観光情報とメディア
第3回　観光ビジネスと情報活用について①
第4回　観光ビジネスと情報活用について②
第5回　観光ビジネスと情報活用について③
第6回　観光ビジネスと情報活用について④
第7回　いろいろな観光情報
第8回　観光情報について分析する（発表を含む）①
第9回　観光情報について分析する（発表を含む）②
第10回　観光情報について分析する（発表を含む）③
第11回　観光情報について分析する（発表を含む）④
第12回　観光情報について分析する（発表を含む）⑤
第13回　観光情報について分析する（発表を含む）⑥
第14回　観光情報について分析する（発表を含む）⑦
第15回　まとめ

履修上の注意点

グループ活動による授業時間外での学習が必要になるので、積極的に参加されることを期待する。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

観光ビジネス論
著者:　谷口知司他
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2010　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 20 ）
授業時間外の活動についても参加度において加味する。

2016 Syllabus

科 目 名　**観光情報演習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　谷口　知司	

テーマ

観光関連資料のデジタル化について学ぶ。

授業の到達目標

観光資料等のデジタル化およびデータベースによる管理ができるようになること。テキストベースの観光情報媒体についての全体的な理解ができるようになる。併せて地域資料情報記録管理者資格またはデジタル情報記録管理者資格を取得することを目指す。

授業の概要

歴史的な観光資料等のデジタル化ができるようにする。講義と受講者による発表で構成される。

準備学習（予習・復習）

グループを編成し、指定された課題について調査、研究すること、またその成果を発表することを要求するので、調査、研究やプレゼンテーション資料等の作成は授業時間外で行う必要がある。

内　　容

第1回　デジタルとアナログ
第2回　デジタル化のプロセス
第3回　テキストベースの観光情報媒体について（歴史）①
第4回　テキストベースの観光情報媒体について（分析）②
第5回　歴史的な観光情報媒体をデジタル化する①
第6回　歴史的な観光情報媒体をデジタル化する②
第7回　歴史的な観光情報媒体をデジタル化する③
第8回　観光資源をデジタル媒体化する①
第9回　観光資源をデジタル媒体化する②
第10回　観光資源をデータベース化する①
第11回　観光資源をデータベース化する②
第12回　観光資源をデータベース化する③
第13回　成果発表①
第14回　成果発表②
第15回　まとめ

履修上の注意点

授業時間外での活動機会も増えるので、積極的に参加するようにしてください。3分の2以上の出席が必要です。

教科書

デジタルアーカイブの資料基盤と開発技法　-記録遺産学への視点-
著者:　谷口知司他
出版社:　晃洋書房
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**法律学研究**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　山﨑 将文

テーマ

憲法、行政法、地方自治法、民法、会社法、労働法などの過去の重要な判例を研究する。

授業の到達目標

判例を学ぶことによって、社会人や公務員として求められる法律の知識や考え方を修得する。

授業の概要

社会に出て実際に仕事をするにあたって法律の知識が必要とされるのは、弁護士、司法書士、行政書士などの法律の専門家ばかりではない。どのような企業や組織でも、経理、契約、労務管理などの業務において法律の知識は欠かせない。まして、コンプライアンス（法令遵守）が求められている現代社会にあってはなおさらである。また、公務員になれば、法律による行政の原理があるように、法律の知識は必要不可欠である。そこで、本授業では、実社会や行政において必要とされる法律の知識や考え方を裁判所の過去の判例を研究しながら修得していく。

準備学習（予習・復習）

毎回、次週の授業で学ぶ判例のプリントを配布するので、授業の前に必ず読んでおく。また、常日頃から、裁判所の判決に関するニュースなどを見るようにする。

内　容

第1回　法とは何か、法はどのような形で存在するのか判例とは何か、裁判所の仕組みと権限など
第2回　憲法の判例研究（1）基本的人権
第3回　憲法の判例研究（2）国会・内閣
第4回　憲法の判例研究（3）9条と自衛隊
第5回　行政法の判例研究（1）国家賠償法
第6回　行政法の判例研究（2）行政不服審査法
第7回　行政法の判例研究（3）行政事件訴訟法
第8回　公務員法の判例研究（1）公務員の人権、公務員の懲戒処分
第9回　地方自治法の判例研究（1）地方公共団体の条例
第10回　民法の判例研究（1）契約
第11回　民法の判例研究（2）不法行為
第12回　民法の判例研究（3）親族、相続
第13回　会社法の判例研究（1）会社の基本原則
第14回　会社法の判例研究（2）株式会社
第15回　労働法の判例研究（1）労働基準法

履修上の注意点

皆勤を目指すとともに、発表、質問など授業に積極的に参加する。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

必要な場合に適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）
三分の二以上出席しないと単位が認定されない場合がある。また、判例についての発表や質疑応答などを評価の重要な対象とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**観光臨地演習**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　谷口 知司

テーマ

海外観光地での臨地演習

授業の到達目標

計画に基づいて臨地演習（海外）を行う。

授業の概要

海外観光地への臨地演習のために目的地に必要な事前情報や現地情報を精査し、目的地を設定し、実際に訪問するための様々な計画を行い臨地演習を行う。

準備学習（予習・復習）

授業時間外での活動にも多くの時間を費やす。

内　容

第1回　臨地演習のための事前情報や現地情報の精査ならびに実施のための計画
第2回　臨地演習のための事前情報や現地情報の精査ならびに実施のための計画
第3回　臨地演習のための事前情報や現地情報の精査ならびに実施のための計画
第4回　臨地演習のための事前情報や現地情報の精査ならびに実施のための計画
第5回　臨地演習のための事前情報や現地情報の精査ならびに実施のための計画
第6回　臨地演習
第7回　臨地演習
第8回　臨地演習
第9回　臨地演習
第10回　臨地演習
第11回　臨地演習
第12回　臨地演習
第13回　臨地演習
第14回　臨地演習
第15回　臨地演習

履修上の注意点

臨地演習は2月の中下旬（4日～7日程度）に実施する。演習のための費用は自己負担になる。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）

授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 40 ）

参加度 （ 60 ）

全般的な取り組みについて総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　今井　裕夫	

テーマ

「スペース・エレメント（建築を構成している要素）」の研究

授業の到達目標

私たちを取りまく環境は、いろいろな「建築を構成しているエレメント」により成立している。環境に漠然と散在する「エレメント」の中から、興味を引く「エレメント」を求め、それから一つ一つの存在意味を探るデザイン・サーヴェイ（デザイン取材）を写真の撮影により行う。その場所に赴き、凝視（じっとみつめること）を通して建築やインテリアの設計、環境を構想する人のデザイナーとしての感性の獲得とさらに磨きをかけるための感性ノート作りを行うとともに作家研究または設計課題を行う。

授業の概要

毎日の視線から気になる建築のデザイン要素を求めて歩く。例えば窓や階段といった機能や用途が明解である対象物を撮影する。エレメントの意味を読み取り、その成立背景から大まかに分類する。・写真によるチェックを行う。・写生または写真からのドローイングにより記憶素として確認を行う。・眼差しによる言葉をつづること。（箇条書程度でよいがキイワードやキャプションが必要）・適宜、報告と情報交換をゼミ形式で行う。発表者は発表用レジュメを人数分用意する。・2-3名のグループ行動がよいと思われる。・提出物は感性ノートⅠ　A4版(20P)クリアファイル(A4 用紙に写真またはそのカラーコピーを添付(コメント付き)20枚以上／ドローイング2枚)・カメラ（できればマニュアルカメラ）を所有すること。・その他指示による。

準備学習（予習・復習）

つね日頃、カメラを持ち歩くこと。環境に散在するかたちに興味をもつこと。凝視すること。言葉を交わすこと。撮影すること。

内　　容

第1回　ガイダンス（課題主旨の説明）
第2回　講義
第3回　取材①
第4回　取材①
第5回　取材①
第6回　講義
第7回　課題（設計・ドローイング）
第8回　課題（設計・ドローイング）
第9回　課題（設計・ドローイング）
第10回　取材②
第11回　取材②
第12回　取材②
第13回　発表・講評
第14回　発表・講評
第15回　ノート作成（提出）※尚、この授業は必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 10 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　福井　弘幸	

テーマ

旅行商品（着地型含む）造成の多様な着眼点を通じての観光産業及びまちづくり・地域活性化の研究。

授業の到達目標

旅行商品の造成プロセスを通じて、観光産業、関係団体、観光関連産業等の総合的な知識を身につけ、旅行産業が国や地域の課題に対してどのように関わっているのか、その課題の認識方、解決の着眼点及びプロセスを習得することを目的とし、併せて、早い時期から卒業研究のテーマを見つけ出す。

授業の概要

基本的な商品造成の手法、着眼点、考え方の講義は行うが、学生中心の活動となる。

準備学習（予習・復習）

観光資源や資料などの収集や実態調査のためフィールドワークが必要となる場合があります。

内　容

第1回　オリエンテーション：自己紹介、授業の進め方の説明、各個人の年間目標・計画の策定
第2回　旅行会社国内旅行パンフレットの読み方
第3回　旅行会社国内旅行パンフレットの比較：グループワーク
第4回　国内旅行実務1
第5回　国内旅行実務2
第6回　インバンド研究
第7回　国内旅行商品とインバンド商品の造成1
第8回　国内旅行商品とインバンド商品の造成2：グループワーク
第9回　国内旅行商品とインバンド商品の造成3：グループワーク
第10回　国内旅行商品とインバンド商品の造成4：グループワーク
第11回　観光によるまちづくり研究
第12回　観光によるまちづくり・地域活性化事例研究1：グループワーク
第13回　観光によるまちづくり・地域活性化事例研究2：グループワーク
第14回　観光によるまちづくり・地域活性化事例研究3：グループワーク
第15回　まとめ　　＊外部講師を招いて特別公演会を行うことがある。

履修上の注意点

・授業時間外の調査・研究は必須である。・3分の2以上の出席が必要です。

教科書

適宜プリントを配布します。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

都度指示します。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　松本　正富	

テーマ

現代建築家のデザイン手法についての検討

授業の到達目標

当ゼミでは，卒業研究として建築・インテリア設計作品の制作を前提とする。様々な建築家のデザイン手法や設計に対する概念を学ぶことで，建築・インテリア設計やデザインという行為に対する興味と見識を広げる。効果的なプレゼンテーションの技能を習得する。ものづくりやデザインという行為の楽しさを見つけ出す。先輩と後輩を含めたゼミ生同士の交流を深め，デザインワークを協同することの大切さを学ぶ。

授業の概要

1)各自が興味を持った建築家とその作品について調査し，パワーポイントによるプレゼンテーションを行う。2)数回の建築見学会を開催する。3)建築やデザイン系のコンペへの参加を奨励し，これに関わるアドバイスと支援を行う。

準備学習(予習・復習)

建築・美術関係の展覧会や講演会への参加，見学旅行等，デザインを学ぶ者としての積極的な活動を望む。その中で，モノを創造する際の自分なりの“こだわり”を見つけ出してくれることを期待する。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　調査テーマの設定
第3回　プレゼンテーション-1
第4回　プレゼンテーション-2
第5回　プレゼンテーション-3
第6回　プレゼンテーション-4
第7回　プレゼンテーション-5
第8回　プレゼンテーション-6
第9回　建築見学会-1
第10回　コンペ課題コンセプト検討-1
第11回　コンペ課題コンセプト検討-2
第12回　コンペ課題ドローイング-1
第13回　コンペ課題ドローイング-2
第14回　建築見学会-2
第15回　まとめと講評※なお、この授業では必要に応じて学外授業・特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

参考書

コンパクト設計資料集成
著者:　日本建築学会編
出版社:　丸善株式会社
出版年:　2005　　ISBN:　9784621075098

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ〈＊d〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　河野　良平	

テーマ

自分の好きな建築やインテリアとは？

授業の到達目標

自分の建築やインテリアに対する興味のありかを探す。

授業の概要

各自が3回ずつ発表を行う。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　発表1
第3回　発表1
第4回　発表1
第5回　発表1
第6回　発表2
第7回　発表2
第8回　発表2
第9回　発表2
第10回　発表3
第11回　発表3
第12回　発表3
第13回　発表3、まとめ
第14回　見学
第15回　見学※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　近藤　康子	

テーマ

建築・インテリアの読解とデザイン

授業の到達目標

建築家やインテリアデザイナーの作品を、図面、スケッチ、言説などから多角的、批評的に読み解く方法論を身に付ける。設計課題を通して、自身のイメージや発想を具体的な作品としてデザインし、それを効果的に表現するプレゼンテーション能力を鍛える。

授業の概要

・作品分析（取り上げる作品については講義中に発表）図面の模写、スケッチや言説の読解などを通して、作品を成立させている歴史的背景や作家の意図などを読み解く。作品を批評的に捉えることとして、そこに自らのデザインを加えて発表する。・設計課題（テーマについては講義中に発表）テーマに沿って設計をする。

準備学習（予習・復習）

日常的にスケッチや写真撮影を行なうなど、常に身のまわりのものに積極的に向き合うこと。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　作品の模写
第3回　作品の模写
第4回　作品の調査・分析
第5回　作品の調査・分析
第6回　作品の提案
第7回　作品の提案
第8回　プレゼンテーション
第9回　設計課題
第10回　設計課題
第11回　設計課題
第12回　設計課題
第13回　プレゼンテーション
第14回　見学会
第15回　見学会

履修上の注意点

※本ゼミでは、必要に応じて学外での授業を行うことがある。見学会（日帰り）、見学旅行（1泊2日）、など。日常的なスケッチや写真撮影を行なうなど、常に身のまわりのものに積極的に向き合うことを心掛けること。

教科書

なし。資料がある場合は、適宜配布する。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（ 70 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ＜＊f＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　織田　直文.中谷　武雄	

テーマ

観光・まちづくりの専門知識習得＋卒業研究（以下「卒論」とす）仮テーマの決定

授業の到達目標

観光・まちづくりの専門知識習得と卒論テーマ探しを進め、仮テーマを決定し、作業計画書を作成する。

授業の概要

専門知識の学習と、順番に卒論テーマと作業計画を発表し、討論する。学内イベントの見学体験や学外授業等も行う予定である。

準備学習（予習・復習）

専門知識習得のための復習小テストや、卒論発表に向けた資料準備を十分行うことが予習となる。

内　容

第1回　ゼミの進め方。
第2回　卒論とは。過去の卒論学習会＜１＞。
第3回　過去の卒論学習会＜２＞。
第4回　将来の進路学習会。
第5回　卒論シートA出題。
第6回　過去の卒論学習会＜３＞。
第7回　卒論テーマ発表。質疑討論＜１＞。
第8回　卒論テーマ発表。質疑討論＜２＞。
第9回　卒論テーマ発表。質疑討論＜３＞。
第10回　卒論テーマ発表。質疑討論＜４＞。
第11回　学内イベントの解説。
第12回　学内イベントの見学。
第13回　学内イベントの見学。
第14回　学内イベントの評価会議。
第15回　まとめ。

履修上の注意点

ゼミへの出席が大前提で、事前に連絡の無い欠席、遅刻はマイナス評価とする。公欠制度は無いので注意すること。

教科書

とくに使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

その都度紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 10 ）　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 60 ）
参加度（出席状況、受講態度、ゼミ運営上の貢献度等）、卒論作業の進捗度と質、その他のレポート等を総合的に判断して評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ〈＊g〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　小暮　宣雄	

テーマ

アーツを伝える、文化を創る（その1）

授業の到達目標

1）アーツマネジメントの概念を自分のものにする2）各種の文化プロデュース現場に参加し意味を考える3）実演芸術、視覚芸術、言語芸術のほか、冠婚葬祭イベントなど自分のテーマをみつける

授業の概要

自主性を大事にします。形にしばられない考え方をしたい人向きです。卒業研究も卒業論文だけでなく、卒業制作（独自に企画を考えたり、外部企画に積極的に参加したりして、その成果を写真や動画なども含めて提出する形）も積極的に取り入れます。ゼミの運営もできるだけ、その場で起きる「創発」的な状態にしたい。就職活動にも、義務感でするのではなく、自分たちで楽しくできるように、工夫をしようと思っています。就活の準備を演劇的に模擬化したり、自らを伝える術を芸術（アーツ）によって身に付けるように考えています。自分のテーマのために、積極的に読書すること。その際、参考書欄を見つつ、生協の読書奨励制度を活用すること。

準備学習（予習・復習）

ツイッターやブログの活用を検討する。京都や滋賀、大阪などにおけるさまざまなアーツセンターのボランティアなどをゼミで提示するので、活用する。

内　　容

第1回　オリエンテーション―平田オリザ『わかりあえないことから―コミュニケーション能力とは何か』の紹介
第2回　アーツマネジメント（芸術営）の概説（復習）
第3回　地域の文化イベントについての概説（復習）
第4回　グループ学習（1）・・・テーマを探る
第5回　グループ学習（2）・・・決めたテーマに沿った資料収集
第6回　（学外）アーツマネジメント現場でのフィールドワーク―劇場鑑賞や美術館鑑賞など、適宜設定する―
第7回　グループ学習（3）・・・研究発表
第8回　音楽と社会との関係論
第9回　音楽と映画との関係論
第10回　音楽と美術との関係論
第11回　アーツプロジェクト体験ー自分が参加できる企画を見つけ、アプローチする（あるいは、めくるめく紙芝居などのワークショップ参加）
第12回　各地の夏休み企画を探してみる（卒業制作の準備とも連動）
第13回　文化プロジェクト体験―自分が参加できる企画を見つけ、アプローチする
第14回　キャリア研究（インターンシップ先など）
第15回　まとめ

履修上の注意点

学外授業については、いまのところ、京都市東部文化会館と本学との連携が主なテーマになることが予想される。

教科書

参考書

キャラクター文化入門
著者：　暮沢剛巳
出版社：NTT出版
出版年：2010　　ISBN：

大学論
著者：　大塚英志
出版社：講談社
出版年：2010　　ISBN：

a50203a117

アーツ･マネジメント概論三訂版
著者:　伊藤裕夫ほか
出版社:　水曜社
出版年:　2009　ISBN:

入門都市政策
著者:　真山達志ほか
出版社:　大学コンソーシアム京都
出版年:　2009　ISBN:

アーツマネジメントみち
著者:　小暮宣雄
出版社:　晃洋書房
出版年:　2003　ISBN:

限界芸術論
著者:　鶴見俊輔
出版社:　筑摩書房
出版年:　1999　ISBN:

地域再生の罠
著者:　久繁哲之介
出版社:　筑摩書房
出版年:　2010　ISBN:

コミュニティを問いなおす
著者:　広井良典
出版社:　筑摩書房
出版年:　2009　ISBN:

ニッポンの音楽
著者:　佐々木敦
出版社:　講談社
出版年:　2014年　ISBN:　4062882965

わかりあえないことから―コミュニケーション能力とは何か
著者:　平田オリザ
出版社:　講談社
出版年:　2012年　ISBN:　97840628817777

成績評価

試験　（ 0 ）　小テスト（ 0 ）
授業中課題 （ 20 ）　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 50 ）
積極的な参加が評価の決め手　SNSの丁寧な利用めくるめく紙芝居プロジェクト　https://www.facebook.com/mekmekY

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ〈＊h〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　谷口　知司	

テーマ

観光ビジネス、観光文化、観光情報と観光資源・文化資源の情報化に関する研究

授業の到達目標

観光メディア、観光情報、観光ビジネス、観光文化についての総合的な知識を身につけるとともに、観光資源や文化資源等の情報化のための基礎的な理論や技術と、その周辺的な知識・技術を習得する。また、卒業研究への発展性を考慮し、早い時点から興味のあるテーマを見つけ出すことを、あわせて要求する。なお、併せて教科書の輪読を行う。

授業の概要

演習であるため、学生の活動が中心になる。

準備学習（予習・復習）

様々な観光資源や地域資料等の収集やその方法を身につけるためのフィールドワークを行う。

内　容

第1回　観光資源や文化資源の情報化について学ぶ。
第2回　観光資源や文化資源の情報化について学ぶ。
第3回　観光資源や文化資源の情報化について学ぶ。
第4回　観光資源や文化資源の情報化について学ぶ。
第5回　観光情報・観光ビジネスについて課題を解決する。
第6回　観光情報・観光ビジネスについて課題を解決する。
第7回　観光情報・観光ビジネスについて課題を解決する。
第8回　観光情報・観光ビジネスについて課題を解決する。
第9回　課題についての発表
第10回　課題についての発表
第11回　旅（調査）をプランニングする。 夏休み中に観光地の現地調査（観光資源調査を含む）を行う。そのための①現地予備調査（書籍・雑誌・Web・ビデオ等）をする。②現地予備調査を基に旅（調査）のプランニングをする。なお、ゼミメンバー各人が責任分担し全体を構成する。
第12回　旅（調査）をプランニングする。
第13回　旅（調査）をプランニングする。
第14回　旅（調査）をプランニングする。
第15回　まとめ※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。また研修旅行に参加することが必修である。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

観光ビジネス論
著者:　谷口知司編著
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2010年　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 30 ）　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ〈＊i〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　金武　創	

テーマ

観光/文化と現代ビジネス

授業の到達目標

ビジネス・マインドを基礎に文化観光の理解を深める

授業の概要

①基本文献講読、②討論による企画立案、③卒論準備のための文章力訓練（専門演習Ⅰ，Ⅱ共通）前後期ともに都市環境デザイン学科2コースの専門的な学習を予定しているが、詳しい内容はゼミ生と相談して決める。 他と比べて、2倍以上のゼミ学習量なので、1コース集中の他ゼミと遜色ない水準を維持できるのではないか。条件が整えば、らくたび文庫プロジェクトを実施予定です。

準備学習（予習・復習）

日経MJ,日経ビジネスオンラインを読むこと。学外授業を行うこともある。

内　容

第1回　「ハイ・コンセプト」を読む①
第2回　「ハイ・コンセプト」を読む②
第3回　「祭りのゆくえ」を読む①
第4回　「祭りのゆくえ」を読む②
第5回　「モチベーション3.0」を読む①
第6回　「モチベーション3.0」を読む②
第7回　観光ビジネス改善提案①
第8回　観光ビジネス改善提案②
第9回　観光ビジネス改善提案③
第10回　『ワークショップと学び（全3巻）』を読む①
第11回　『ワークショップと学び（全3巻）』を読む②
第12回　『ワークショップと学び（全3巻）』を読む③
第13回　「ふるさと資源化と民俗学」を読む①
第14回　「ふるさと資源化と民俗学」を読む②
第15回　「ふるさと資源化と民俗学」を読む③※尚、この授業では必要に応じて学外授業を行う

履修上の注意点

学会大会への参加、地域連携活動への参加、ワークショップの開催、学外研修など、キャンパス外/時間外活動があります。事前に予定を調整します。ゼミ登録にあたり、授業登録上の注意をすでに説明済みです。不明であれば、担当教員にメールで質問してください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

ハイ・コンセプト
著者:　ピンク
出版社:　講談社
出版年:　2006　　ISBN:

モチベーション3.0
著者:　ピンク
出版社:　三笠書房
出版年:　2010　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（　）

a50203a119

授業中課題 （ 60 ）　　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

授業出席と授業(中)課題は成績評価の最低条件です。

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ＜＊j＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　木下　達文	

テーマ

プロジェクトマネジメント＆空間プロデュース（1）～自己テーマの確立と基礎知識の習得～

授業の到達目標

本演習では、各自のテーマを明確にし、文献を通じて基礎的知識を養う。なお、等ゼミにおいては、ゼミ生相互の交流と共同研究を促進するため、「サブプログラム」を実施している。また、夏休みには、アパレンティスシップとして、将来設計に応じたインターン的プログラムを自分自身で設定し、それらを達成していくことを目的としている。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

個人研究は基本的に学生自ら行うことなので、計画的に時間をとって研究を進めること。ゼミでは、研究だけでなく、就職支援も積極的に行うので、将来のことを早くから考えるようにする。また、当ゼミではメールグループやメーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導を適宜行っている。なお、必要に応じて、ゼミ会等の懇親会も毎年行っている。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業目標）
第2回　自己関心発見ワークショップ
第3回　専門領域・テーマの絞り込み（1）
第4回　専門領域・テーマの絞り込み（2）
第5回　将来目標の設定
第6回　基礎文献の収集と購読（1）
第7回　基礎文献の収集と購読（2）
第8回　中間発表（1）
第9回　中間発表（2）
第10回　基礎文献の収集と購読（1）
第11回　基礎文献の収集と購読（2）
第12回　基礎文献の収集と購読（3）
第13回　期末発表（1）
第14回　期末発表（2）
第15回　評価とまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）	

特に出席を重視する。

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ〈＊k〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　小森　治夫	

テーマ

京都の歴史の中で京都の観光資源を学ぶ

授業の到達目標

①京都の歴史の中で、京都の観光資源について、テキストと映像資料を活用して、イ　メージ豊かに学ぶ。②卒業論文のテーマを決め、執筆を始める。③就活の準備を始める。

授業の概要

毎回、テキストの1章ごとに担当者を決める。担当者はレジュメを作成して、報告をする。その報告にもとづいて、全員で討論をすることにより、理解を深める。

準備学習（予習・復習）

事前にテキストの該当章を読んで、疑問点・討論点を考えておく。事後にもう一度テキストの該当章を読み、理解を深める。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　京都の世界遺産
第3回　京都の四季
第4回　葵祭
第5回　平安前期の京都（1）
第6回　平安前期の京都（2）
第7回　平安前期の京都（3）
第8回　平安後期の京都（1）
第9回　平安後期の京都（2）
第10回　鎌倉時代の京都（1）
第11回　鎌倉時代の京都（2）
第12回　祇園祭（1）
第13回　祇園祭（2）
第14回　五山送り火、地蔵盆
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

ビジュアル版　京都1000年地図帳
著者：　山田邦和・河内将芳監修
出版社：宝島社
出版年：２０１５年　　ISBN：

参考書

京都千年の都の歴史
著者：　高橋昌明
出版社：岩波書店
出版年：２０１４年　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（３０）　　授業中発表等　（４０）
参加度　（３０）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅰ〈＊I〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　政木　哲也	

テーマ

パブリックスペースを通して都市について考える

授業の到達目標

・フィールドワークによって地域のパブリックスペースを自ら発見し共有する・実際のパブリックスペースを参照しながら公共空間のあり方について考える・パブリックスペースのよりよい活用方法やリノベーションについて提案する

授業の概要

私たちが暮らす都市には、誰もが自由に過ごせるパブリックスペースが数多くあります。この授業では、実際に街へ出かけて様々なパブリックスペースを自ら見つけ、その特徴や魅力を写真や図を用いて記述します。このプロセスを通して、普段過ごしている都市空間の成り立ちについて考えます。また、自分で見つけたパブリックスペースを設計課題の敷地として設定し、その空間をさらに魅力的に変える提案を行います。

準備学習（予習・復習）

あなたが普段過ごしているまち＝都市空間の中に、パブリックスペースがどのように組み込まれているのか、意識的に観察してみましょう。また、自分がどのように関わっている・関わることができるかを考えてみること。

内　　容

第1回　自己紹介・ガイダンスおよびテーマの発表
第2回　学外授業1
第3回　フィールド採集の発表とディスカッション1
第4回　フィールド採集の発表とディスカッション2
第5回　フィールド採集の発表とディスカッション3
第6回　ワークショップ1
第7回　学外授業2
第8回　フィールド採集の発表とディスカッション4
第9回　フィールド採集の発表とディスカッション5
第10回　フィールド採集の発表とディスカッション6
第11回　ワークショップ2
第12回　プレゼンテーション1
第13回　プレゼンテーション2
第14回　プレゼンテーション3
第15回　反省会とレポート課題の発表

履修上の注意点

この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがあります。詳しい日程等は授業の中で周知します。

教科書

テキストは使用しません。授業では適宜資料を配布します。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

人間のための街路
著者:　B.ルドフスキー
出版社:　鹿島出版会
出版年:　1973　　ISBN:

人間の街　公共空間のデザイン
著者:　ヤン・ゲール
出版社:　鹿島出版会
出版年:　2014　　ISBN:

a50203a122

都市と建築のパブリックスペース

著者:　ヘルマン・ヘルツベルハー

出版社: 鹿島出版会

出版年: 2011　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 50 ）

参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　今井　裕夫	

テーマ

「フォルム・マテリアル（建築素材）」の研究

授業の到達目標

素材、材料として建築や工作物の美しさや時間、物質的な滅びや腐食を読み取り、空間と人間の関係性についてイメージすることにより、建築やインテリアの設計、環境を構想する人のデザイナーとしての視線・眼差しを獲得する。同時に作家研究もしくは設計課題を行う。

授業の概要

日常的な環境からの建築の素材や材料の多様な魅力を素材と言葉を交わし獲得すること。撮影すること。建築素材の〔質〕を読み取り、人間の感性とイメージを重ねることを行う。・写真によるチェックを行う。・写生または写真からのドローイングにより記憶素としての確認を行う。・眼差しによる言葉をつづること。（箇条書でよいがキイワードやキャプションが必要）・適宜、報告と情報交換をゼミ形式で行う。発表者はメモを用意する。・2-3名のグループ行動がよいと思われる。・提出物は感性ノートⅡ A4版(20P)クリアファイル（A4 用紙に写真またはコピーを添付（コメント付き）20枚以上／ドローイング2枚・カメラ（できればマニュアルカメラ）を所有すること。・その他指示による。

準備学習（予習・復習）

つね日頃、カメラを持参すること。環境のすみずみに息づく空間に興味を持つこと。空間の〔質〕を問うこと。撮影すること。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　講義
第3回　取材①
第4回　取材①
第5回　取材①
第6回　講義
第7回　課題（設計　ドローイング）
第8回　課題（設計　ドローイング）
第9回　課題（設計　ドローイング）
第10回　取材②
第11回　取材②
第12回　取材②
第13回　発表・講評
第14回　発表・講評
第15回　ノート作成（提出）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 10 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　福井　弘幸	

テーマ

旅行商品（着地型含む）造成の多様な着眼点を通じての観光産業及びまちづくり・地域活性化の研究。

授業の到達目標

旅行商品造成のプロセスを通じて、ツーリズム産業、関係団体、ツーリズム関連産業等の総合的な知識を身につけ、旅行産業が国や地域の課題に対してどのように関わっているのか、その課題の認識方、解決の着眼点及びプロセスを習得することを目的とし、併せて、早い時期から卒業研究のテーマを見つけ出す。

授業の概要

基本的な商品造成の手法、着眼点、考え方の講義は行うが、学生中心の活動となる。

準備学習（予習・復習）

観光資源や資料などの収集や実態調査のためフィールドワークが必要となる場合がある。

内　容

第1回　旅行会社海外旅行パンフレットの読み方
第2回　旅行会社海外パンフレット比較
第3回　海外旅行実務1
第4回　海外旅行実務2
第5回　海外旅行商品造成1：グループワーク
第6回　海外旅行商品造成2：グループワーク
第7回　海外旅行商品造成3：グループワーク
第8回　海外旅行商品造成4：グループワーク
第9回　海外旅行商品造成5：グループワーク
第10回　中間の纏め：ツーリズム産業の課題抽出と改善提案
第11回　卒業論文のテーマ検討1
第12回　卒業論文のテーマ検討2
第13回　卒業論文のテーマ検討3
第14回　卒業論文のテーマ検討4
第15回　まとめ　　＊外部講師を招いて特別公演を行うことがある。

履修上の注意点

・授業時間外の調査・研究は必須である。・3分の2以上の出席が必要です。

教科書

適宜プリントを配布します。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

都度指示します。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　松本　正富	

テーマ

卒業制作・論文に向けたテーマとコンセプトの模索

授業の到達目標

当ゼミでは，卒業研究として建築・インテリア設計作品の制作を前提とする。生活環境や空間デザインを扱う分野において自分の興味対象を絞り込み，魅力とやりがいのある卒業制作のテーマを設定する。

授業の概要

1)各自の興味を抱いた内容について調査分析し，ビジュアル的に配慮したプレゼンテーションに纏める。これに対するディスカッションを繰り返すなかで，テーマの絞り込みとコンセプトの構想につなげる。2)“社会的な問題を提起し，その解決に向けた建築的仕掛けを考察する”といった一連の行為についての練習を重ねる。3)数回の建築見学会を開催する。4)4回生の卒業制作を補助するなかで，先輩の技術を修得する。

準備学習(予習・復習)

建築・美術関係の展覧会や講演会への参加，見学旅行等，デザインを学ぶ者としての積極的な活動を望む。その中で，モノを創造する際の自分なりの“こだわり”を見つけ出してくれることを期待する。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　課題の設定
第3回　プレゼンテーション-1
第4回　プレゼンテーション-2
第5回　プレゼンテーション-3
第6回　プレゼンテーション-4
第7回　プレゼンテーション-5
第8回　建築見学会-1
第9回　卒業制作・論文のテーマ設定-1
第10回　卒業制作・論文のテーマ設定-2
第11回　卒業制作・論文のテーマ設定-3
第12回　卒業制作・論文のテーマ設定-4
第13回　卒業制作・論文のテーマ設定-5
第14回　建築見学会-2
第15回　まとめと講評※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

参考書

建築系学生のための卒業設計の進め方
著者:　日本建築学会 編
出版社:　井上書院
出版年:　2009　　ISBN:　9784753010554

コンパクト設計資料集成
著者:　日本建築学会編
出版社:　丸善株式会社
出版年:　2005　　ISBN:　9784621075098

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　河野　良平	

テーマ

テーマに沿った空間のデザインと就職活動について

授業の到達目標

あるテーマに沿って空間をデザインする。

授業の概要

空間デザインと就活に関する発表を4回行う。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　発表1
第3回　発表1
第4回　発表1
第5回　発表2
第6回　発表2
第7回　発表2
第8回　発表3
第9回　発表3
第10回　発表3
第11回　発表4（業界研究）
第12回　発表4
第13回　発表4
第14回　見学
第15回　見学

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）
小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）
授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ＜＊e＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　近藤　康子	

テーマ

「現代」における建築・インテリアの読解とデザイン

授業の到達目標

「現代」を独自の視点から捉え、何が求められているのか問う力を養う。卒業制作・論文や、就職活動へと繋がる課題を見つける。専門演習Ⅰに引き続き、読解力、表現力を身に付ける。

授業の概要

・ 作品分析現代作家の作品を取り上げ（各自興味をもった建築やインテリア）、それについての調査・分析を行ない、「現代」における課題を確認する。これをふまえたうえで、建築・インテリアのデザインを通して自分なりの解答を出す。・設計課題具体的に決められた敷地、必要諸室などの様々な条件を丁寧に読み解き、設計を行なう。

準備学習（予習・復習）

卒業制作・論文や就職活動を視野に入れて活動すること。展覧会やイベントなどに積極的に参加し、自身の経験を通して社会の動向を学ぶこと。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　各自取り上げる作品を決定する
第3回　作品を調査・分析する
第4回　作品を調査・分析する
第5回　調査・分析をふまえたうえで、その作品に自分なりの新しい提案を加える
第6回　作品の提案
第7回　プレゼンテーション
第8回　設計課題
第9回　設計課題
第10回　設計課題
第11回　設計課題
第12回　設計課題
第13回　プレゼンテーション
第14回　見学会
第15回　見学会

履修上の注意点

※本ゼミでは、必要に応じて学外での授業を行うことがある。見学会（日帰り）、見学旅行（1泊2日）、など。日常的なスケッチや写真撮影を行なうなど、常に身のまわりのものに積極的に向き合うことを心掛けること。

教科書

なし。資料がある場合は、適宜配布する。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ ）	授業中発表等　（ 70 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ <＊f>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　織田　直文	

テーマ

卒業研究（以下「卒論」とす）のための学術研究手法の学習

授業の到達目標

観光・まちづくりを中心とする各自の卒論研究の深化と合わせ、学術研究の性格と手法をを身に着ける。

授業の概要

学術研究論文の読解と研究手法を学びつつ、各自が順番に卒論進捗状況と成果報告をし、質疑応答をする。実際の地域の観光・まちづくり事業の見学や他大学生との研究交流といった学外授業も予定している。

準備学習（予習・復習）

発表準備が最大の予習、発表後は指摘された事項を参考に作業を進めること、また学外授業レポート執筆が復習である。

内　　容

第1回　進め方。夏課題の提出。
第2回　「卒論を進めるにあたって」と題し、教員より講義。
第3回　学外授業①。
第4回　学外授業②。
第5回　卒論研究発表＋質疑。
第6回　卒論研究発表＋質疑。
第7回　卒論研究発表＋質疑。
第8回　4回生ゼミ生卒論中間報告会に参加。
第9回　4回生ゼミ生卒論中間報告会に参加。
第10回　卒論研究発表＋質疑。
第11回　卒論研究発表＋質疑。
第12回　学外授業③。
第13回　学外授業④。
第14回　学外授業の反省会。卒論研究発表＋質疑。
第15回　まとめ

履修上の注意点

参加度（出席状況、受講態度、ゼミ運営上の役割分担、貢献度等を含む）と卒論発表内容を重視するので、授業は休まないないようにする。

教科書

使わない。
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

その都度紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 10 ）　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 60 ）
参加度（出席状況、受講態度、ゼミ運営上の役割分担、貢献度等を含む）と卒論作業成果内容や発表を重視し、他のレポート等も含め総合評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ〈＊g〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　小暮　宣雄	

テーマ

アーツを伝える、文化を創る（その2）―アーツマネジメント経験の伝達と理論化―

授業の到達目標

1）自分のアーツマネジメント活動を発表できるようになる2）卒業後の自分の仕事イメージを形成できるようにする3）実演芸術、視覚芸術、言語芸術のほか、冠婚葬祭イベントなど自分のテーマをみつけ、将来の自分の仕事との関係を考える

授業の概要

教室でのディスカッションや発表のほか、個別相談も適宜行う。

準備学習（予習・復習）

就職活動との連動に配慮する卒業研究について、制作の場合は、この秋からスタートにするて、自分が購読すべき文献リストとスケジュールを作る課題を出すので、それに従って努力すること。また、学外で研究成果を発表する機会を作る（紹介する）ので、積極的に参加すること。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　4回生の卒業研究中間報告に参加①・・・発表を聞いて自分の卒業研究の課題に気づく
第3回　4回生の卒業研究中間報告に参加②・・・自分の卒業研究スケジュールを考える
第4回　アーツマネジメントの領域確認①・・・音楽など実演芸術
第5回　アーツマネジメントの領域確認②・・・美術やデザイン領域
第6回　アーツマネジメントの領域確認③・・・アニメ、映画などの領域
第7回　アーツマネジメントの領域確認④・・・限界芸術、アーツ以外のイベントについて
第8回　卒業研究に関わるレジュメを作って発表する①
第9回　卒業研究に関わるレジュメを作って発表する②
第10回　卒業研究に関わるレジュメを作って発表する③
第11回　文化プロデュースの実践の仕方・・・めくるめく紙芝居など、現地でのワークショップ―学外授業
第12回　キャリア研究①　自分のキャリアとアーツマネジメント
第13回　キャリア研究②　生活と文化プロデュース分野を探る
第14回　キャリア研究③　限界芸術と冠婚葬祭
第15回　まとめ　卒業研究をこれから深めるために

履修上の注意点

遅刻や欠席のときは、事前に連絡すること。

教科書

参考書

日本映画史110年
著者：　四方田犬彦
出版社：集英社
出版年：2014年　　ISBN：　4087207528

J・POP文化論
著者：　宮入恭平
出版社：　彩流社
出版年：2015年　　ISBN：　9784779170317

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 50 ）
日ごろの実践活動をノートやブログ、ツイッターなどにして見えるようにすること。その自分の行動のプロセスを客体化している様子を評価に加えたい。めくるめく紙芝居プロジェクト　https://www.facebook.com/mekmekY

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ＜＊h＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　谷口　知司	

テーマ

観光ビジネス、観光文化、観光情報と観光資源・文化資源の情報化に関する研究

授業の到達目標

観光メディア、観光情報、観光ビジネス、観光文化についての総合的な知識を身につけるとともに、観光資源や文化資源等の情報化のための基礎的な理論や技術と、その周辺的な知識・技術を習得する。また、卒業研究への発展性を考慮し、早い時点から興味のあるテーマを見つけ出すことを、あわせて要求する。なお、教科書の輪読を併せて行う。

授業の概要

演習であるため、学生の活動が中心になる。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　京都まちなかアーカイブ事前学習　前期で学習したデジタル・アーカイブの知識や技術を活用し、京都まちなかアーカイブを行う。また、新たにGPSによる位置情報や撮影方向などの記録を同時に取得する方法について学ぶ。
第2回　京都まちなかアーカイブ事前学習
第3回　京都まちなかアーカイブ事前学習
第4回　京都まちなかアーカイブ事前学習
第5回　京都まちなかアーカイブを行う。
第6回　ツーリズムの形態について学ぶ。 1班3名のグループを構成し、グループによる課題研究方式で、ツーリズムの形態（エコ、グリーン、産業、都市etc）や、その意味・意義・課題等について研究する。また、特定の地域におけるそれぞれの形態での旅の計画を行う。なお、研究成果は指定された日に発表することを要求する。課題解決の方法ならびに発表内容については適宜指導する。
第7回　ツーリズムの形態について学ぶ。
第8回　ツーリズムの形態について学ぶ。
第9回　ツーリズムの形態について学ぶ。
第10回　ツーリズムの形態について学ぶ。
第11回　課題発表
第12回　卒業論文のテーマについて考える。
第13回　卒業論文のテーマについて考える。
第14回　卒業論文のテーマについて考える。
第15回　まとめ

履修上の注意点

３分の２以上の出席が必要です。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

観光ビジネス論
著者:　谷口知司編著
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　２０１０年　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ＜＊i＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　金武　創	

テーマ

観光/文化とビジネスマインド

授業の到達目標

ビジネス・マインドを基礎にした文化プロデュースを学ぶ姿勢を確立する

授業の概要

①基本文献講読、②討論による企画立案、③卒論準備のための文章力訓練（専門演習Ⅰ，Ⅱ共通）・読む、書く、話す、考える、伝える等、様々な学習方法を通して、専門領域の学習はいうまでもなく、オリジナルな卒論執筆に向けた準備を進める。苦手分野を平均レベルにあげることを念頭に、授業外で就職活動についての相互サポートを積極的に実施し、学生生活の充実を共通目標に定めて、4回生春の内定獲得を副次的目標とする。

準備学習（予習・復習）

日経ビジネスオンライン、日経新聞を読んでおくこと。学外授業を行うこともある。

内　容

第1回　「場のマネジメント」を読む①
第2回　「場のマネジメント」を読む②
第3回　「観光文化学」を読む①
第4回　「観光文化学」を読む②
第5回　「人を助けるとはどういうことか」を読む①
第6回　「人を助けるとはどういうことか」を読む②
第7回　卒論準備書誌情報作成①
第8回　卒論準備書誌情報作成②
第9回　卒論準備書誌情報作成③
第10回　旅行企画①
第11回　旅行企画②
第12回　旅行企画③
第13回　「アートに関わるエキスパート」『実践知』を読む①
第14回　「アートに関わるエキスパート」『実践知』を読む②
第15回　「アートに関わるエキスパート」『実践知』を読む③※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

専門演習1と同じです。ゼミ登録にあたり、授業登録上の注意をすでに説明済みです。不明であれば、担当教員にメールで質問してください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

実践知
著者:　金井壽宏/楠見孝
出版社:　有斐閣
出版年:　2012　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 60 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 20 ）
授業出席と授業（中）課題は成績評価の最低条件です。

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ ＜＊j＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　木下　達文	

テーマ

プロジェクトマネジメント ＆ 空間プロデュース（2）～専門研究の展開と仕事研究の準備～

授業の到達目標

本演習では、まず夏休みに実施した各自のアパレンティスシップの報告を通じて、各々の経験を共有し、自分たちの将来について考えることを行う。また、後半では各自のテーマ内容をより深め、基礎知識から専門知識へと高めていく。卒業論文と同時に就職の準備サポートも可能な限り行う。あわせて、サブプログラムの継続実施をし、応用実践の一連のプログラムを学ぶ。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

個別研究課題を設定するのに時間がかかる人が多いため、なるべく早くからさまざまな社会的関心をもち、候補をいくつか考えるようにしてほしい。また、文献も収集するのに時間がかかるため、日頃から情報アンテナを広げる癖をつけるようにしてほしい。また、前期に引き続き、メーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導を行うのと、全体で行うサブプログラムを継続実施する。なお、必要に応じてゼミ会も行う。

内　容

第1回　オリエンテーション（授業目標）
第2回　アパレンティスシップ報告（1）
第3回　アパレンティスシップ報告（2）
第4回　前期に確立した研究・活動スケジュールの修正
第5回　文献研究の整理（1）
第6回　文献研究の整理（2）
第7回　文献研究の整理（3）
第8回　中間発表（1）
第9回　中間発表（1）
第10回　個別研究課題の設定
第11回　個別研究課題の調査（1）
第12回　個別研究課題の調査（2）
第13回　期末発表（1）
第14回　期末発表（2）
第15回　評価とまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）
特に出席を重視する。

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ＜＊k＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　小森　治夫	

テーマ

京都の歴史の中で京都の観光資源を学ぶ

授業の到達目標

①京都の歴史の中で、京都の観光資源について、テキストと映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ②卒業論文の執筆を進める③就活の準備を進める。

授業の概要

毎回、テキストの1章ごとに担当者を決める。担当者はレジュメを作成して、報告をする。その報告にもとづいて、全員で討論することにより、理解を深める

準備学習（予習・復習）

事前にテキストの該当章を読んで、疑問点・討論点を考えておく事後にもう一度テキストを読み、理解を深める

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　室町時代の京都（1）
第3回　室町時代の京都（2）
第4回　室町時代の京都（3）
第5回　時代祭、鞍馬の火祭
第6回　安土桃山時代の京都（1）
第7回　安土桃山時代の京都（2）
第8回　安土桃山時代の京都（3）
第9回　安土桃山時代の京都（4）
第10回　江戸時代の京都（1）
第11回　江戸時代の京都（2）
第12回　明治時代の京都（1）
第13回　明治時代の京都（2）
第14回　現代の京都
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

ビジュアル版　京都1000年地図帳
著者：　山田邦和・河内将芳監修
出版社：宝島社
出版年：２０１５年　　ISBN：

参考書

京都千年の都の歴史
著者：　高橋昌明
出版社：岩波書店
出版年：２０１４年　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（３０）　　授業中発表等　（４０）
参加度　（３０）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅱ＜＊I＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　『履修の手引き』記載の条件を満たしていること	クラス指定　希望制
担 当 者　政木　哲也	

テーマ

都市の文脈を読み解く

授業の到達目標

・フィールドワークや地図など資料を用いて地域の特徴を見つけ出すことができる・都市の文脈を図や言葉で表現しコミュニケーションを図ることができる・都市の文脈をもとにした建築空間を考えることができる

授業の概要

私たちが暮らす都市は、地域によってそれぞれ個性や特徴があるとされています。しかし、わたしたちは普段どれだけ地域性を意識して過ごしているでしょうか。これから建築や都市に携わる者は、都市の文脈を広く読み取ることをしなければなりません。この授業では、実際に街へ出て都市を構成している空間を採集し、地図等を用いてみんなで共有することを試みます。また、読み解いた地域の特徴をふまえた建築空間の提案を行います。

準備学習（予習・復習）

普段あなたが居心地のよいと感じている建築は、都市の文脈をうまく利用して魅力的な空間を作っています。どのような場所が居心地がよいと感じたり、たくさん人が集まったりしているか、よく観察して考えてみましょう。

内　　容

第4回　フィールド採集の発表とディスカッション2
第5回　フィールド採集の発表とディスカッション3
第6回　ワークショップ1
第7回　学外授業2
第8回　フィールド採集の発表とディスカッション4
第9回　フィールド採集の発表とディスカッション5
第10回　フィールド採集の発表とディスカッション6
第11回　ワークショップ2
第12回　プレゼンテーション1
第13回　プレゼンテーション2
第14回　プレゼンテーション3
第15回　反省会
第1回　レポート課題の講評およびガイダンス
第2回　学外授業1
第3回　フィールド採集の発表とディスカッション1

履修上の注意点

この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがあります。詳しい日程等は授業の中で周知します。

教科書

テキストは使用しません。授業では適宜資料を配布します。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本の都市空間
著者:　都市デザイン研究体
出版社:　彰国社
出版年:　1968　　ISBN:

実測術
著者:　陣内秀信・中山繁信
出版社:　学芸出版社
出版年:　2001　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

a50203a262

授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 50 ）

参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**景観・アメニティ論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小森　治夫	

テーマ

現代における景観やアメニティについて考える。

授業の到達目標

地域計画を通じて現代における景観やアメニティを考える。地域開発の歴史や景観論争の実態を把握し、論点を理解・整理した上で、日本の伝統文化が育んできたアメニティについて学ぶ。

授業の概要

毎回配付する資料にもとづき、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

準備学習（予習・復習）

講義資料を講義日の夜、つまり寝るまでに1回、次回の講義までにもう1回、合計2回以上読んで、復習をする。それぞれ1時間程度

内　容

第1回　オリエンテーション、地域計画・景観・アメニティ
第2回　京都の町屋
第3回　京都景観論争
第4回　京都の新景観政策
第5回　鞆浦景観論争
第6回　ソウル大改造
第7回　農村の景観（1）里山
第8回　農村の景観（2）棚田
第9回　農村の景観（3）黒川温泉
第10回　建築の美（1）桂離宮
第11回　建築の美（2）白川郷
第12回　建築の美（3）かやぶき屋根
第13回　建築の美（4）蔵と石橋
第14回　建築の美（5）ヴォーリズ
第15回　建築家のミッション

履修上の注意点

私語厳禁・授業集中のための座席指定制、スマホ・ケータイ厳禁、居眠り・内職厳禁出席は3分の2以上、遅刻・無断早退は厳禁向上心をもって授業に集中する、必ずメモをとる

教科書

参考書

日本の風景を殺したのはだれだ？
著者：　船瀬俊介
出版社：彩流社
出版年：２００４年　　ISBN：

風景再生論
著者：　船瀬俊介
出版社：彩流社
出版年：２００７年　　ISBN：

日本美の再発見
著者：　ブルーノ・タウト
出版社：岩波書店
出版年：１９３９年　　ISBN：

a50203d110

ブルーノ・タウト
著者:　田中辰明
出版社:　中央公論社
出版年:　2012年　ISBN:

日本人の景観認識と景観政策
著者:　土岐　寛
出版社:　日本評論社
出版年:　2015年　ISBN:

都市不動産の経済学
著者:　柿本尚志
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2008年　ISBN:

鞆の浦を歩く
著者:　三浦正幸
出版社:　南々社
出版年:　2010年　ISBN:

ソウル大改造
著者:　李　明博
出版社:　マネジメント社
出版年:　2007年　ISBN:

町屋再生の論理
著者:　宗田好史
出版社:　学芸出版社
出版年:　2009年　ISBN:

ヴォーリズ建築の100年
著者:　山形政昭
出版社:　創元社
出版年:　2008年　ISBN:

成績評価

試験　（　）　小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）　授業中発表等（　）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**測量実習**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　五十川 伸矢

テーマ

測量の基礎技術

授業の到達目標

土地の形状や大きさを計測するため、トラバーシング、レベリング、平板測量などの実習を行い、測量の基礎を習得する。

授業の概要

測量の基礎理論と測量機器の取り扱い方を習得する。

準備学習（予習・復習）

地図を作るという作業には、地形を見抜く目をもつことが必要です。地形を見て、どんな図ができるか、いつも考える癖をつけること。

内　容

第1回　ガイダンス（班分け方法、実習上の諸注意、レポートの書き方）
第2回　距離測量1（目測・歩測）
第3回　距離測量2（巻尺による測量、数値の取り扱い、有効数字）
第4回　レベル基本操作、スタジア測量（レベル、標尺(スタッフ)、スタジア、スタジア定数）
第5回　水準測量1（レベル、標尺(スタッフ)、閉合水準測量）
第6回　水準測量2（レベル、標尺(スタッフ)、往復水準測量）
第7回　平板測量1（平板、アリダード、骨組測量、標定、放射法、道線法）
第8回　平板測量2（平板、アリダード、細部測量）
第9回　セオドライト基本操作、測角（セオドライト、水平角、鉛直角）
第10回　トラバース測量（多角測量）1（単測法、倍角法）
第11回　トラバース測量（多角測量）2（トラバース、緯距・経距、閉合誤差）
第12回　地形測量1（平板測量法による）
第13回　地形測量2（地形図を描く）
第14回　写真測量
第15回　測量実習の総括

履修上の注意点

この実習は積み重ね型の授業ですから、欠席すれば何をすべきなのか分からなくなります。またチームを作って共同作業をしますから、個人的なわがままは他の学生に迷惑となります。これらのことをしっかり認識して取り組んで下さい。

教科書

参考書

絵とき測量
著者:　粟津清蔵
出版社:　オーム社
出版年:　1994　　ISBN:

測量入門
著者:　大杉和由・福島博行
出版社:　実教出版
出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 60 ）　　授業中発表等　（ ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**建築・インテリア設計演習Ⅴ〈a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　建築・インテリア設計演習 Ⅰ・Ⅱを修得済み	クラス指定
担 当 者　今井　裕夫	

テーマ

授業の到達目標

4階以上の中または高層集合住宅の設計を行う。現代の様々な居住者に対応した建築計画を提案する。各住戸の平面計画と同時に周辺環境に配慮した全体計画を行う。あわせて建築基準法、設備計画や内装などの検討も行う。構造はRC造とする。他の事例について研究し、計画に反映させる。図面・模型の表現を工夫し、プレゼンテーション能力を身に付ける。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　課題趣旨説明、事例紹介、設計のポイント（1）
第2回　課題趣旨説明、事例紹介、設計のポイント（2）
第3回　集合住宅の事例調査発表（1）
第4回　集合住宅の事例調査発表（2）
第5回　配置計画、全体計画案の作成（1）
第6回　配置計画、全体計画案の作成（2）
第7回　構造計画案の作成（1）
第8回　構造計画案の作成（2）
第9回　設備計画案の作成（1）
第10回　設備計画案の作成（2）
第11回　全体計画案の修正、建築基準法の確認（1）
第12回　全体計画案の修正、建築基準法の確認（2）
第13回　基本住戸平面計画案の作成（1）
第14回　基本住戸平面計画案の作成（2）
第15回　立面・断面・内装計画案の作成（1）
第16回　立面・断面・内装計画案の作成（2）
第17回　中間発表（1）
第18回　中間発表（2）
第19回　配置図の作成（1）
第20回　配置図の作成（2）
第21回　平面図の作成（1）
第22回　平面図の作成（2）
第23回　立面・断面図の作成（1）
第24回　立面・断面図の作成（2）
第25回　模型1（1）
第26回　模型1（2）
第27回　模型2（1）
第28回　模型2（2）
第29回　講評とまとめ（1）
第30回　講評とまとめ（2）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 80 ）	授業中発表等　（　）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**建築・インテリア設計演習Ⅵ <a>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　建築・インテリア設計演習 Ⅰ・Ⅱを修得済み	クラス指定
担 当 者　松本　正富	

テーマ

建築・インテリア設計演習を総括し，卒業制作への橋渡しとすべくデザインワークを行う。

授業の到達目標

公共施設（コミュニティーセンター・図書館・学校）の設計を行う。地域に密着した小規模の公共施設を想定し、他の事例を参考にしながら新しい公共空間を提案する。主要室は美しく快適で機能的な空間となるよう配慮する。建築計画に関して、公共部分と管理・事務部門を明確に区分けし、動線について十分検討する。建築基準法に関して、容積率・建蔽率に加え二方向避難を確認する。構造はRC造または鉄骨造とする。

授業の概要

一級建築士受験資格に対応した，大規模建築の設計を行う。なお，対象とする建築の用途は適宜検討して変更する可能性がある。（大学ラーニングセンター，集合住宅，等）

準備学習（予習・復習）

授業は個人ごとのエスキスチェックが中心になるので，時間外の設計作業が多く必要になります。

内　容

第1回　課題趣旨説明、事例紹介、設計のポイント（1）
第2回　課題趣旨説明、事例紹介、設計のポイント（2）
第3回　コミュニティーセンターの事例調査発表（1）
第4回　コミュニティーセンターの事例調査発表（2）
第5回　配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成（1）
第6回　配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成（2）
第7回　平面・立面・断面図の作成（1）
第8回　平面・立面・断面図の作成（2）
第9回　講評（1）
第10回　講評（2）
第11回　図書館の事例調査発表（1）
第12回　図書館の事例調査発表（2）
第13回　配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成（1）
第14回　配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成（2）
第15回　平面計画図の作成（1）
第16回　平面計画図の作成（2）
第17回　立面・断面図の作成（1）
第18回　立面・断面図の作成（2）
第19回　講評（1）
第20回　講評（2）
第21回　学校の事例調査発表（1）
第22回　学校の事例調査発表（2）
第23回　配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成（1）
第24回　配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成（2）
第25回　平面計画図の作成（1）
第26回　平面計画図の作成（2）
第27回　立面・断面図の作成（1）
第28回　立面・断面図の作成（2）
第29回　講評（1）
第30回　講評（2）

履修上の注意点

製図や模型製作に必要な用具，設計の参考資料等，授業準備をしっかり行ってください。7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

参考書

a50203d450

コンパクト設計資料集成

著者:　日本建築学会編

出版社: 丸善株式会社

出版年: 2005　　ISBN:　9784621075098

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 80 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**住宅計画**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　織田　直文.河野　良平.近藤　康子.半海　宏一.政木　哲也.松本　正富	

テーマ

健康的で文化的、機能的な理想の住まいをデザインする。

授業の到達目標

住宅とは、決して単なる物ではなく、人間の多様で豊かな生活のための空間であること、そのためには、住宅というハードと使いかたのソフトを融合させ、安全で快適、健康的かつ衛生的、また便利で文化的な住宅設計の基本を修得する。

授業の概要

住宅を生活と環境の側面からとらえ、既往の建築計画学の成果である寸法計画、規模や形態に関する計画、地域計画などの知見も取り入れながら、住宅設計の基本と応用を学ぶ。具体的な住宅作品を解説し、評価し、住まい手について安全で快適、かつ健康的で文化的・機能的な住宅とはどのようなものか考察する。また、設計や監理計画もに関する知見も学び、将来の実務に役立つ知識を修得する。

準備学習（予習・復習）

教科書を早めに入手し、一読しておいてください。配布資料は設計の参考になるので、保管してください。簡単な平面設計を行う予定です。住宅・建築系以外の学生は、かなりの自主学習が必要となることは了解したうえで受講してください。

内　容

第1回　住宅の定義および生活と住環境。
第2回　住宅計画学の体系と計画のプロセス
第3回　住空間の形態と設計
第4回　住宅計画のための調査の種類と進め方
第5回　人間の寸法と設計の方法
第6回　法規と設計
第7回　平面計画の方法
第8回　構造計画の方法
第9回　室内環境のの計画
第10回　住宅設計実例の研究①
第11回　住宅設計実例の研究②
第12回　地域計画における住宅計画と景観づくり
第13回　住宅の管理
第14回　住み手参加による集合住宅デザイン
第15回　まとめ　＊なお、学外授業及びゲストスピーカーによる特別講義を行う場合がある。

履修上の注意点

出席を重視します。受講マナーの悪い学生は、厳重注意をしますが、ひどい場合は成績評価でマイナス評価されます。

教科書

住宅のデザインと製図
著者:　三川榮吉
出版社:　彰国社
出版年:　1988　　ISBN:

参考書

その都度紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 60 ）
参加度と提出課題を重視し、総合評価します。

2016 Syllabus

科 目 名　**建築設備**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　福坂　誠	

テーマ

建築設備の基礎を学ぶ

授業の到達目標

快適な建築空間を構築するために、建築と建築設備との関わりを理解した上で、給排水・衛生設備、空気調和設備、電気設備、搬送設備について、基礎的な知識を得ることとする。

授業の概要

テキストの内容を中心に、必要に応じて補足するプリントの配布や演習等を行いながら講義を進める。

準備学習（予習・復習）

予習としては、事前に次回の授業の教科書を読んでくること。復習は授業時に重要な用語を示すので、意味を理解して覚えていくこと。

内　容

第1回　建築と建築設備との関わり、地球環境と建築設備との関わり
第2回　給排水・衛生設備　給水設備について
第3回　給排水・衛生設備　給湯設備・ガス設備について
第4回　給排水・衛生設備　排水・通気設備について
第5回　給排水・衛生設備　排水処理設備・衛生器具設備について
第6回　給排水・衛生設備　消火設備について
第7回　空気調和設備　空気調和と室内環境について
第8回　空気調和設備　空気線図の使い方について
第9回　空気調和設備　空調負荷について
第10回　空気調和設備　空気調和方式の種類・特徴について
第11回　空気調和設備　熱源・熱搬送設備と機器部材について
第12回　空気調和設備　換気・排煙・自動制御設備について
第13回　空気設備　受変電・幹線設備と動力設備について
第14回　空気設備　照明・コンセント設備と情報・通信設備について
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

初学者の建築講座　建築設備
著者:　大塚雅之
出版社:　市ヶ谷出版社
出版年:　2016　　ISBN:　9784870710238

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）
小テストは中間で習熟度の確認。参加度は出席と授業態度

2016 Syllabus

科 目 名　**建築材料**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　河野 良平

テーマ

授業の到達目標

建築に用いられる主な材料の基本的な性質について理解する。木材、コンクリート、鉄といった構造材と木質系材料、石、ガラス、金属、プラスチック、各種ボード類、左官材、塗料などの仕上材について材料ごとに特徴、施工法や注意点などサンプルや事例を示しながら具体的に説明していく。また、コンクリート製造工場にて供試体の作成や圧縮試験の見学を行う。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　木（1）種類と性質
第3回　木（2）木の使われ方
第4回　木（3）木質系材料
第5回　鉄筋コンクリート（1）材料、製法と性質など
第6回　鉄筋コンクリート（2）調合と試験、セメントの種類など
第7回　鉄筋コンクリート（3）施工と維持管理など
第8回　鉄筋コンクリート（4）様々なコンクリート（PC、ALC、SRCとCBなど）
第9回　金属材料（1）鉄の性質、鉄骨造など
第10回　金属材料（2）ステンレス・アルミ・銅など
第11回　仕上材（1）石材・タイル
第12回　仕上材（2）ガラス・プラスチック・ボード類
第13回　仕上材（3）ビニール系材料・左官材・塗料・断熱・防水材など
第14回　コンクリート材料実験　供試体の作成、空気量の測定など
第15回　コンクリート材料実験　圧縮試験、施設見学など

履修上の注意点

教科書

図説やさしい建築材料
著者:　松本進
出版社:　学芸出版社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**京都の歴史・文化と観光**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　五十川 伸矢

テーマ

京都の古寺と古鐘 ——京都観光スポットと梵鐘探訪——

授業の到達目標

京都の観光スポットとなっている古寺をとりあげて、その歴史を解説するとともに、その寺が所蔵する古鐘について、最新の研究成果をもとに、その歴史を学習する。

授業の概要

日本史の教科書に出てくる京都府下の有力寺院の沿革と現状を解説し、その歴史の重要な証人としての梵鐘を紹介してゆく。

準備学習（予習・復習）

京都の寺院や神社をたずねた時には梵鐘を鑑賞し、ひとときながら功徳を積んで仏門へと誘われてほしい

内　容

第1回　京都の古寺と古鐘——梵鐘の様式——
第2回　梵鐘づくりの技術①民俗例のビデオ
第3回　梵鐘づくりの技術②実物観察と鋳造遺跡
第4回　妙心寺と最古の梵鐘
第5回　神護寺と華麗な陽鋳銘文
第6回　平等院と阿弥陀堂に似合う華麗な鐘
第7回　学外授業　宇治平等院
第8回　笠置寺と中国鐘をまねたユニークな鐘
第9回　安祥寺と河内鋳物師の鐘
第10回　清水寺と三条釜座の鋳物師が作った鐘
第11回　南蛮寺と洋鐘形の鐘
第12回　方広寺と豊臣滅亡の鐘
第13回　学外授業　東山知恩院・方広寺
第14回　中国の古鐘と日本鐘
第15回　韓国の古鐘と日本鐘

履修上の注意点

教科書

参考書

東アジア梵鐘生産史の研究
著者:　五十川伸矢
出版社:　岩田書院
出版年:　2016.3　　ISBN:

成績評価

試験 （ 60% ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**観光・まちづくり事例研究**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　織田　直文	

テーマ

観光をテーマとしたまちづくりをデザインしよう。

授業の到達目標

地域の観光資源発掘力とそれらを使った観光振興や地域振興を計画する力を習得する。

授業の概要

前半は学外授業も含め講義方式であるが、後半はグループに分かれ課題研究をしてもらう。ゲストスピーカーによる特別講義もある。

準備学習（予習・復習）

時々復習テストを行う。グループ研究では、授業時間外に自主的に集まって現地調査やワーキング作業をしてもらう場合がある。

内　容

第1回　進め方
第2回　日本と京都の観光動向と全国の観光まちづくり成功例
第3回　全国の観光まちづくり成功例研究とグループ研究課題の提示
第4回　全国の観光まちづくり成功例研究
第5回　山科区内の観光資源と活用策についての講義
第6回　学外授業
第7回　学外授業
第8回　グループ別ワークショップ
第9回　グループ別ワークショップ
第10回　グループ別ワークショップ
第11回　中間報告会。ゲストスピーカーの参加（講評アドバイスと特別講義）
第12回　グループ別ワークショップ
第13回　グループ別ワークショップ
第14回　最終報告会
第15回　まとめ

履修上の注意点

参加度を重視する。グループワークがあり、積極的な提案をすること。グループの中での役を積極的に分担すること。

教科書

無し
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

その都度、紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 20 ）　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 60 ）
参加度とグループ成果、個別成果を総合的に見て評価する。出席状況や受講態度が悪いと減点する。グループでの役割と貢献度をプラス評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**空間デザイン演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　井上 信太	

テーマ

空間デザインとワークショップ

授業の到達目標

1、五感で感じる空間を体験する2、即興的にオリジナルの発想力を養う3、ワークショップを通してコミュニケーション能力を養う上記三点の課題を軸に据え、空間から「感じる力」を習得する。

授業の概要

テーマに基づいた課題を通し、デザイン、ダンス、音楽、美術の表現方法を約90分のワークショップでディスカッションしながら学びます。

準備学習（予習・復習）

いつでも、どこでも、どんなときでも、自己の空間をたのしむ。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　空間ワークショップ1（絵を描く）
第3回　空間ワークショップ2（音を奏でる）
第4回　空間ワークショップ3（コンテンポラリーダンスを見る、体験する）
第5回　空間ワークショップ4（立体制作）
第6回　空間ワークショップ5（映像）
第7回　空間ワークショップ6（絵を描く:コラージュ）
第8回　空間ワークショップ7（即興で演奏する）
第9回　ピクニック演習
第10回　空間ワークショップ8（紙芝居作り）
第11回　空間ワークショップ9（物語作り）
第12回　空間ワークショップ10（音作り）
第13回　空間ワークショップ11（即興で遊ぶ）
第14回　空間ワークショップ12（リハーサル）
第15回　空間ワークショップ13（発表会）※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 100 ）
実践中心の演習です。

2016 Syllabus

科 目 名　**パフォーミングアーツ演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岡村　宏懇	

テーマ

演劇の「ライブな表現」について知識を深め、人前で緊張せずにパフォーマンスできる力を身につける。古典芸能の「舞」にも挑戦してみよう。

授業の到達目標

〈舞台〉と〈映像〉の違いは「ライブ」性にあります。演劇は、現代劇から古典芸能まで、その表現方法は違っても人前で何かを発表する「ライブな表現」活動であることに変わりはありません。この授業では「表現」について基礎的な知識を習得し、人前で緊張せずに話す力と発声力を身につけてもらいたい。後半、簡単な「舞」を覚えて発表することで、古典芸能の美にも触れてみたい。体験的な授業になればと思っている。

授業の概要

「演技」は何も俳優や声優に限られた特別な技能ではなく、日常生活では誰もが「いろんな自分」をフツーに演じています。普段の何気無い自分の表現に少し自覚的になるだけで表現力はUPします。先ずは、失敗を恐れずに挑戦してみましょう。授業は表現の練習と課題演技(舞)で進める予定です。

準備学習（予習・復習）

TVドラマや映画を、演出や俳優の演技に注目して観る。リメイクされた同じ作品の邦画と洋画の違いにも留意してみよう。

内　　容

第1回　ガイダンス。（表現についての基礎知識）
第2回　演技①（演技のタイプ）
第3回　演技②（舞台演技と映像演技の違い）
第4回　声優①（台本の読み方）
第5回　声優②（台本を演じてみよう）
第6回　映像（アニメを実写で演じてみよう）
第7回　現代劇（台本の読み方）
第8回　現代演劇の舞台裏ドキュメンタリー（DVD）
第9回　現代演劇観賞（DVD）
第10回　古典芸能の様式（落語）
第11回　古典芸能「舞」の練習①
第12回　「舞」の練習②
第13回　「舞」の練習③
第14回　「舞」の練習④
第15回　発表

履修上の注意点

毎回、コミュニケーションカードの提出を求めます。試験の「舞」は継続的な練習が必須のため、積極的な授業参加を求めます。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:
扇子を用意すること。（100均のものでも可）
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 20 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 50 ）	

成果よりも、取り組み姿勢などプロセスを重視します。

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　今井　裕夫	

テーマ

卒業論文を完成させる（1）テーマの設定と調査

授業の到達目標

論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の概要

卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導をする。受講生の研究の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。〇テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。 ・論理の構成、目次の作成 ・論理的な文章を書く方法〇文献・資料検索についての具体的指導を行う。 ・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査〇順次各自の研究テーマについて発表させる。〇中間発表に向けての指導。 ・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　発表1
第3回　発表1
第4回　発表1
第5回　発表2
第6回　発表2
第7回　発表2
第8回　発表3
第9回　発表3
第10回　発表3
第11回　発表4
第12回　発表4
第13回　発表4
第14回　ゼミ合宿
第15回　ゼミ合宿※尚、この授業では必要に応じて学外での授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ＜＊b＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　竹山 清明

テーマ

卒業制作の準備

授業の到達目標

大学における4年間の勉強の集大成となる質の高い卒業制作の中間発表を行うことの出来る達成をめざす。

授業の概要

各自が自主的に卒業制作の構想を作成し、授業ではその改善を学生と教員が掘り下げて議論をしながら進める。

準備学習（予習・復習）

資料を集め卒業制作のイメージを豊かにしておく。

内　容

第1回　卒業制作の基本構想作成1
第2回　卒業制作の基本構想作成2
第3回　卒業制作の基本構想作成3
第4回　卒業制作のラフスケッチ案作成1
第5回　卒業制作のラフスケッチ案作成2
第6回　卒業制作のラフスケッチ案作成3
第7回　卒業制作のラフスケッチ案作成4
第8回　卒業制作のラフスケッチ案作成5
第9回　卒業制作のラフスケッチ案作成6
第10回　卒業制作のスケッチ案作成表1
第11回　卒業制作のスケッチ案作成2
第12回　卒業制作のスケッチ案作成3
第13回　中間報告案の作成・発表
第14回　中間報告
第15回　中間報告の反省・改善点の検討　※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

資料を広く集め多様な計画イメージをを自主的に勉強しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 50 ）
制作に取り組む姿勢、および成果物の達成度により評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ＜＊c＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　松本　正富

テーマ

建築・インテリアを題材とした卒業研究(1)

授業の到達目標

研究論文作成のためのスキルを習得する。コンセプトある卒業制作を効果的にプレゼンテーションするためのスキルを習得する。

授業の概要

1)テーマ設定と絞込みに関するディスカッション2)論文構成や論理的文章作成のためのアドバイス3)文献調査・事例調査のアドバイス4)コンセプトに沿ったデザイン手法についてのアドバイス

準備学習(予習・復習)

建築・美術関係の展覧会や講演会への参加，見学旅行等，デザインを学ぶ者としての積極的な活動を望む。その中で，モノを創造する際の自分なりの“こだわり”を見つけ出してくれることを期待する。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　テーマについてのディスカッション-1
第3回　テーマについてのディスカッション-2
第4回　テーマについてのディスカッション-3
第5回　テーマについてのディスカッション-4
第6回　テーマについてのディスカッション-5
第7回　テーマについてのディスカッション-6
第8回　建築見学会-1
第9回　文献調査・事例調査報告-1
第10回　文献調査・事例調査報告-2
第11回　文献調査・事例調査報告-3
第12回　文献調査・事例調査報告-4
第13回　文献調査・事例調査報告-5
第14回　建築見学会-2
第15回　まとめと講評※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

参考書

建築系学生のための卒業設計の進め方
著者:　日本建築学会 編
出版社:　井上書院
出版年:　2009　　ISBN:　9784753010554

コンパクト設計資料集成
著者:　日本建築学会編
出版社:　丸善株式会社
出版年:　2005　　ISBN:　9784621075098

成績評価

試験　(　)　　小テスト　(　)
授業中課題　(40)　　授業中発表等　(30)
参加度　(30)

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ＜＊d＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　河野　良平

テーマ

卒論のテーマを考える。

授業の到達目標

研究を通して論理的な思考を修得する。

授業の概要

卒論テーマに沿った資料を収集・整理する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　テーマ発表
第3回　テーマ発表
第4回　テーマ発表
第5回　資料調査発表1
第6回　資料調査発表1
第7回　資料調査発表1
第8回　資料調査発表2
第9回　資料調査発表2
第10回　資料調査発表2
第11回　事例分析
第12回　事例分析
第13回　事例分析
第14回　見学
第15回　見学※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ＜＊e＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　近藤　康子	

テーマ

卒業研究（設計・論文）に取り組む。

授業の到達目標

・卒業研究のテーマを決める。・研究の方法を学ぶ。・研究対象を、調査、分析し、新たな知見を得る。

授業の概要

各自、進捗状況を報告する。

準備学習（予習・復習）

卒業研究のテーマを手掛かりに、なるべく多くの本を読むこと。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　発表1
第3回　発表1
第4回　発表1
第5回　発表2
第6回　発表2
第7回　発表2
第8回　発表3
第9回　発表3
第10回　発表3
第11回　発表4
第12回　発表4
第13回　発表4
第14回　見学会
第15回　まとめ

履修上の注意点

※この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

教科書

使用しない。適宜資料を配布。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（ 70 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ＜＊f＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　織田　直文.中谷　武雄

テーマ

卒業研究（以下「卒論」とす）を仕上げる。

授業の到達目標

学術的手法で卒論を完成させる。

授業の概要

順番に成果を発表し、討論しながら修正し完成させる。

準備学習（予習・復習）

発表準備

内　　容

第1回　進め方。
第2回　進路研究学習会。
第3回　先行優秀論文の読解。
第4回　先行優秀論文の読解。
第5回　発表。
第6回　発表。
第7回　発表。
第8回　発表。
第9回　発表。
第10回　発表。
第11回　発表。
第12回　発表。
第13回　発表。
第14回　発表。夏休み作業課題の確認。
第15回　まとめ。

履修上の注意点

過去の卒論や関連参考文献、論文を探し、熟読すること。ゼミでの発表、議論、教員からのアドバイス等はたいへん参考になるはずなので、授業は休まないように。

教科書

2015年度織田ゼミナール卒業論文集
著者:　京都橘大学織田研究室
出版社:　京都橘大学織田研究室
出版年:　2016　　ISBN:

マネジメントとデザインの世界』第11号、第12号
著者:　京都橘大学文化政策・現代ビジネス学会
出版社:　京都橘大学文化政策・現代ビジネス学会
出版年:　2015、2016　　ISBN:

参考書

個別に提示する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度　（ 60 ）
参加度（出席状況や受講態度も含む）と発表を重視する。

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ＜＊g＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　小暮　宣雄	

テーマ

文化プロデュース・アーツマネジメント研究を形にしていく

授業の到達目標

文化プロデュース・アーツマネジメント研究を自分の研究、制作として形にするための計画をつくること卒業研究（論文・制作）の準備と着手をきちんとおこないこと

授業の概要

教室でのディスカッションや発表のほか、個別指導も行う。

準備学習（予習・復習）

卒業研究の作業は授業中ではできるものではないので、授業外で文献を読み、フィールドワークにおいてはインタビューや観察を丹念にし、記録すること。

内　容

第1回　はじめに
第2回　自分の卒業研究の内容確認
第3回　卒業研究の作法の確認
第4回　卒業制作と卒業研究の違い、共通事項
第5回　卒業研究の企画書発表（1）
第6回　卒業研究の企画書発表（2）
第7回　卒業研究の企画書発表（3）
第8回　卒業研究の企画書発表（4）
第9回　卒業研究のための先行事例と文献の確認
第10回　フィールドワークの作法とノーツの確認
第11回　卒業研究の概要発表（1）
第12回　卒業研究の概要発表（2）
第13回　卒業研究の概要発表（3）
第14回　卒業研究の概要発表（4）
第15回　まとめ、夏休みの確認

履修上の注意点

遅刻や欠席の際には、事前に連絡すること

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

アーツマネジメント学
著者：　小暮宣雄
出版社：水曜社
出版年：2013年　ISBN：9784880653129

アーツ･マネジメント概論三訂版
著者：　伊藤裕夫ほか
出版社：水曜社
出版年：2009年　ISBN：

アーツマネジメントみち
著者：　小暮宣雄
出版社：晃洋書房
出版年：2003年　ISBN：

a50204a117

限界芸術論
著者: 鶴見俊輔
出版社: 筑摩書房
出版年: 1999年　ISBN: 4480085254

地域再生の罠
著者: 久繁哲之介
出版社: 筑摩書房
出版年: 2010年　ISBN:

コミュニティを問いなおす
著者: 広井良典
出版社: 筑摩書房
出版年: 2009年　ISBN:

メディアミックス化する日本
著者: 大塚英志
出版社: イースト・プレス
出版年: 2014年　ISBN: 4781650392

成績評価

試験 （ 0 ）　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）　授業中発表等 （ 60 ）
参加度 （ 40 ）
積極的に1週間で研究したことを断片でもいいので発表する姿勢を評価します。

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ＜＊h＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　谷口　知司	

テーマ

卒業論文を完成させる（1）テーマの設定と調査

授業の到達目標

論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の概要

卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導をする。受講生の研究の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。〇テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。 ・論理の構成、目次の作成 ・論理的な文章を書く方法〇文献・資料検索についての具体的指導を行う。 ・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査〇順次各自の研究テーマについて発表させる。〇中間発表に向けての指導。 ・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方

準備学習（予習・復習）

卒論を作成するための資料調査などに授業外でも多くの時間と手間を要求する。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　発表1
第3回　発表1
第4回　発表1
第5回　発表2
第6回　発表2
第7回　発表2
第8回　発表3
第9回　発表3
第10回　発表3
第11回　発表4
第12回　発表4
第13回　発表4
第14回　ゼミ合宿等
第15回　ゼミ合宿等※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

随時指示します。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ <＊i>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　金武 創

テーマ

観光/文化と現代ビジネス

授業の到達目標

ビジネス・マインドを基礎に文化観光の理解を深める

授業の概要

①基本文献講読、②討論による企画立案、③卒論準備のための文章力訓練（専門演習Ⅰ，Ⅱ共通）前後期ともに都市環境デザイン学科2コースの専門的な学習を予定しているが、詳しい内容はゼミ生と相談して決める。 他と比べて、2倍以上のゼミ学習量なので、1コース集中の他ゼミと遜色ない水準を維持できるのではないか。条件が整えば、らくたび文庫プロジェクトを実施予定です。

準備学習（予習・復習）

日経MJ,日経ビジネスオンラインを読むこと。学外授業を行うこともある。

内　容

第1回　「ハイ・コンセプト」を読む①
第2回　「ハイ・コンセプト」を読む②
第3回　「祭りのゆくえ」を読む①
第4回　「祭りのゆくえ」を読む②
第5回　「モチベーション3.0」を読む①
第6回　「モチベーション3.0」を読む②
第7回　観光ビジネス改善提案①
第8回　観光ビジネス改善提案②
第9回　観光ビジネス改善提案③
第10回 『ワークショップと学び（全3巻）』を読む①
第11回 『ワークショップと学び（全3巻）』を読む②
第12回 『ワークショップと学び（全3巻）』を読む③
第13回 「ふるさと資源化と民俗学」を読む①
第14回 「ふるさと資源化と民俗学」を読む②
第15回 「ふるさと資源化と民俗学」を読む③※尚、この授業では必要に応じて学外授業を行う

履修上の注意点

学会大会への参加、地域連携活動への参加、ワークショップの開催、学外研修など、キャンパス外/時間外活動があります。
事前に予定を調整します。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

ハイ・コンセプト
著者:　ピンク
出版社:　講談社
出版年:　2006　　ISBN:

モチベーション3.0
著者:　ピンク
出版社:　三笠書房
出版年:　2010　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 60 ）　　授業中発表等　（ 20 ）

a50204a119

参加度 （ 20 ）

授業出席と授業中課題は成績評価の最低条件です。

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ <＊j>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　木下　達文

テーマ

卒業研究を作成する。

授業の到達目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を作成する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　論文の書き方
第3回　卒論進捗報告（序論）
第4回　卒論進捗報告（序論）
第5回　卒論進捗報告（序論）
第6回　卒論進捗報告（序論）
第7回　卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）
第8回　卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）
第9回　卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）
第10回　卒論進捗報告（本論：先行研究の検討）
第11回　卒論進捗報告（本論：調査内容）
第12回　卒論進捗報告（本論：調査内容）
第13回　卒論進捗報告（本論：調査内容）
第14回　卒論進捗報告（本論：調査内容）
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 55 ）
参加度 （ 45 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅲ＜＊k＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　小森　治夫	

テーマ

まちづくり論を学ぶ卒論の構想をまとめる

授業の到達目標

テキストの講読と映像資料により、まちづくり論を学ぶ卒論の構想を報告を繰り返す中でまとめる

授業の概要

以下の内容について、テキストと映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ卒論の構想を報告を繰り返す中でまとめる

準備学習（予習・復習）

事前にテキストの該当章を読んで、疑問点･討論点を考える事後にもう一度テキストの該当章を読んで、理解を深める卒論の参考文献を読んで、卒論の構想をまとめる

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　フィルムコミッション（1）
第3回　フィルムコミッション（2）
第4回　芝居小屋を活かしたまちづくり（1）
第5回　芝居小屋を活かしたまちづくり（2）
第6回　産業観光
第7回　商店街の再生（1）
第8回　商店街の再生（2）
第9回　卒論の構想（1）
第10回　卒論の構想（2）
第11回　卒論の構想（3）
第12回　卒論の構想（4）
第13回　卒論の構想（5）
第14回　卒論の構想（6）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

わが街再生
著者：　鈴木嘉一
出版社：平凡社
出版年：２０１１年　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ ３０ ）	授業中発表等　（ ４０ ）
参加度　（ ３０ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　今井　裕夫	

テーマ

卒業論文を完成させる（2）調査の整理と論文の完成

授業の到達目標

卒業論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の概要

卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。各受講生の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。〇進捗状況を相互に確認する。〇10月中を目途に中間発表を実施する。〇中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。〇卒業研究を進めるための個別指導を行う。 ・論理構成および文章のチェック ・資料の再点検〇口頭試問に向けてのプレゼンテーションと質疑応答の方法を指導する。 ・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　発表1
第3回　発表1
第4回　発表1
第5回　発表2
第6回　発表2
第7回　発表2
第8回　発表3
第9回　発表3
第10回　発表3
第11回　発表4
第12回　発表4
第13回　発表4
第14回　発表または見学
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　竹山　清明	

テーマ

卒業制作の作成

授業の到達目標

大学における4年間の勉強の集大成となる質の高い卒業制作を作成する。

授業の概要

各自が自主的に卒業制作を作成し、教員はその内容の改善を指導する。

準備学習（予習・復習）

アーキキャドが使えるよう準備しておく。

内　　容

第1回　卒業制作1次案の作成1
第2回　卒業制作1次案の作成2
第3回　卒業制作1次案の作成3
第4回　卒業制作1次案の作成4
第5回　卒業制作最終案の作成1
第6回　卒業制作最終案の作成2
第7回　卒業制作最終案の作成3
第8回　卒業制作最終案の作成4
第9回　卒業制作最終案の卒業制作最終案キャド図面の作成1
第10回　卒業制作最終案の卒業制作最終案キャド図面の作成2
第11回　卒業制作最終案の卒業制作最終案キャド図面の作成3
第12回　卒業制作口頭試問の準備
第13回　卒業制作口頭試問
第14回　卒業制作口頭試問の結果に基づく修正1
第15回　卒業制作口頭試問の結果に基づく修正2

履修上の注意点

アーキキャド学生版(無料)をダウンロードする(個人パソコンに)などキャドが使えるよう準備をしておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 80 ）
参加度　（ 20 ）	

出席も評価するが、成果物の質を評価の基本とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ＜＊c＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　松本　正富

テーマ

建築・インテリアを題材とした卒業研究(2)

授業の到達目標

4年間の学習の集大成として，完成度の高い卒業研究を仕上げる

授業の概要

1)完成に向けてのスケジュールコントロール2)論文構成や論理的文章作成のためのアドバイス3)効果的プレゼンテーションについてのアドバイス

準備学習(予習・復習)

建築・美術関係の展覧会や講演会への参加，見学旅行等，デザインを学ぶ者としての積極的な活動を望む。その中で，モノを創造する際の自分なりの“こだわり”を見つけ出してくれることを期待する。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　進捗報告・個別指導-1
第3回　進捗報告・個別指導-2
第4回　進捗報告・個別指導-3
第5回　進捗報告・個別指導-4
第6回　進捗報告・個別指導-5
第7回　建築見学会-1
第8回　卒業研究の仮完成チェック
第9回　卒業研究の手直しとレベルアップ-1
第10回　卒業研究の手直しとレベルアップ-2
第11回　卒業研究の手直しとレベルアップ-3
第12回　ゼミ内プレゼンテーション-1
第13回　ゼミ内プレゼンテーション-2
第14回　建築見学会-2
第15回　まとめと講評※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

7割以上の出席が単位取得の条件です。

教科書

参考書

建築系学生のための卒業設計の進め方
著者:　日本建築学会 編
出版社:　井上書院
出版年:　2009　　ISBN:　9784753010554

コンパクト設計資料集成
著者:　日本建築学会編
出版社:　丸善株式会社
出版年:　2005　　ISBN:　9784621075098

成績評価

試験　(　)　　小テスト　(　)
授業中課題　(40)　　授業中発表等　(30)
参加度　(30)

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ＜＊d＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　河野　良平

テーマ

卒業研究を完成させる。

授業の到達目標

卒業研究を通して論理的思考を修得する。

授業の概要

集めた資料を分析し、結論を得る。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　資料調査発表1
第3回　資料調査発表1
第4回　資料調査発表1
第5回　中間発表
第6回　全体構成の検討
第7回　全体構成の検討
第8回　全体構成の検討
第9回　結論と考察
第10回　結論と考察
第11回　結論と考察
第12回　発表練習
第13回　発表練習
第14回　発表練習
第15回　まとめ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ＜＊e＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　近藤 康子

テーマ

卒業研究（論文・設計）を完成させる。

授業の到達目標

卒業研究（論文・設計）を完成させる。

授業の概要

各自進捗状況を報告する。

準備学習（予習・復習）

卒業研究の発表を視野にいれ、自身の研究内容を他の人に効果的に伝える方法（プレゼンテーション）について、考えること。
なるべく多くの本を読むこと。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　発表1
第3回　発表1
第4回　発表1
第5回　発表2
第6回　発表2
第7回　発表2
第8回　発表3
第9回　発表3
第10回　発表3
第11回　発表4
第12回　発表4
第13回　発表4
第14回　見学会
第15回　まとめ

履修上の注意点

※この授業では、必要に応じて学外での授業を行うことがある。

教科書

使用しない。適宜資料を配布。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ 70 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ <＊f>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　織田　直文

テーマ

卒業研究（以下「卒論」とす）を完成させる。

授業の到達目標

卒論を完成させる。

授業の概要

ゼミで各自が卒論の進捗状況と成果を順番に発表し、討論する。

準備学習（予習・復習）

発表準備が最大の予習で討論やアドバイスを受けて次の発表に向けて作業することが最大の復習となる。

内　容

第1回　進め方
第2回　発表と討論。
第3回　発表と討論。
第4回　発表と討論。
第5回　発表と討論。
第6回　発表と討論。
第7回　発表と討論。
第8回　中間報告会。
第9回　中間報告会。
第10回　発表と討論。
第11回　発表と討論。
第12回　発表と討論。
第13回　卒論の提出と反省会。
第14回　口頭試問。
第15回　口頭試問とゼミの総括。

履修上の注意点

発表準備を常にしっかり行うこと、ゼミを休まず発表し討論に参加すること、アドバイスに耳を傾けることなどに心がけてください。やむをえず欠席の場合は予め教員に連絡すること、休んだ場合は重要な配布物も多いので、速やかに必ず研究室に取りに来ること。

教科書

個別に示す。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

個別に示す。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 10 ）
授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 60 ）
参加度と発表を重視する。

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ＜＊g＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　小暮　宣雄	

テーマ

文化プロデュース・アーツマネジメント研究の完成

授業の到達目標

文化プロデュース・アーツマネジメント研究として卒業研究（論文・制作）の作業を続け完成させること卒業研究（論文・制作）を要約して対外的に提示できるようにすること

授業の概要

教室でのディスカッションや発表のほか、個別指導も行う。

準備学習（予習・復習）

卒業制作の場合は、現場の作業。卒業論文は現地調査などのあと、自分自身の論稿をまとめる作業を各自行うこと。研究室で個別添削。

内　容

第1回　はじめに
第2回　夏休みの作業の報告とこれからのスケジュールづくり
第3回　卒業研究の進捗状況の把握と疑問点の解消
第4回　卒業研究中間報告
第5回　中間報告についての反省と課題摘出
第6回　卒業論文の部分的発表と点検（1）
第7回　卒業論文の部分的発表と点検（2）
第8回　卒業論文の部分的発表と点検（3）
第9回　卒業論文の部分的発表と点検（4）
第10回　これからのアーツマネジメントと私たち（総括的に）※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
第11回　卒業論文の完成と添削（1）
第12回　卒業論文の完成と添削（2）
第13回　卒業論文の完成と添削（3）
第14回　卒業研究を要約し対外的に伝えるために
第15回　まとめ

履修上の注意点

遅刻や欠席の際には、事前に連絡すること

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ＜＊h＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　谷口　知司	

テーマ

卒業論文を完成させる（2）調査の整理と論文の完成

授業の到達目標

卒業論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の概要

卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。各受講生の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。〇進捗状況を相互に確認する。〇10月中を目途に中間発表を実施する。〇中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。〇卒業研究を進めるための個別指導を行う。 ・論理構成および文章のチェック ・資料の再点検〇口頭試問に向けてのプレゼンテーションと質疑応答の方法を指導する。 ・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方

準備学習（予習・復習）

卒論を作成するための資料調査などに授業外でも多くの時間と手間を要求する。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　発表1
第3回　発表1
第4回　発表1
第5回　発表2
第6回　発表2
第7回　発表2
第8回　発表3
第9回　発表3
第10回　発表3
第11回　発表4
第12回　発表4
第13回　発表4
第14回　発表または見学
第15回　まとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

随時指示します。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ <＊i>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定　希望制

担 当 者　金武 創

テーマ

水準の高い卒業論文を書こう

授業の到達目標

（1）質の高い中間報告を準備すること（2）毎月設定される卒論原稿文字数を必ずクリアすること（3）仲間の論文批評の成果を自らの論文に生かすこと

授業の概要

中間報告および卒業研究に向けてのグループ学習

準備学習（予習・復習）

図書館の積極的利用

内　容

第1回　中間報告準備（1）
第2回　中間報告準備（2）
第3回　中間報告準備（3）
第4回　中間報告会
第5回　中間報告会
第6回　卒業論文に関するグループ学習（1）
第7回　卒業論文に関するグループ学習（2）
第8回　卒業論文に関するグループ学習（3）
第9回　卒業論文に関するグループ学習（4）
第10回　卒業論文に関するグループ学習（5）
第11回　論文執筆の反省
第12回　卒業ゼミ研究プロジェクト（1）
第13回　卒業ゼミ研究プロジェクト（2）
第14回　卒業ゼミ研究プロジェクト（3）
第15回　卒業ゼミ研究プロジェクト（4）※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ 0% ）　　小テスト （ 0% ）

授業中課題 （ 50% ）　　授業中発表等 （ 20% ）

参加度 （ 30% ）

学外授業を実施する場合も授業中課題を課します。

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ ＜＊j＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　　木下　達文	

テーマ

卒業論文を完成する。

授業の到達目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　卒論進捗報告（結論）
第2回　卒論進捗報告（結論）
第3回　卒論進捗報告（結論）
第4回　卒論進捗報告（結論）
第5回　卒論中間報告会
第6回　卒論最終報告（全体）
第7回　卒論最終報告（全体）
第8回　卒論最終報告（全体）
第9回　卒論最終報告（全体）
第10回　卒論ドラフト相互チェック
第11回　卒論ドラフト相互チェック
第12回　口頭試問の準備
第13回　口頭試問の準備
第14回　口頭試問の準備
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 55 ）
参加度　（ 45 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**専門演習Ⅳ＜＊k＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定　希望制
担 当 者　小森　治夫	

テーマ

卒論の執筆、完成

授業の到達目標

参考文献を読みこなし、卒論を執筆、完成する

授業の概要

卒論の報告を繰り返す中で、卒論を完成する

準備学習（予習・復習）

参考文献を読みこなし、卒論報告の準備をする報告後、コメントを参考に卒論を再度書き直し、次の報告に備える

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒論の報告（1）
第3回　卒論の報告（2）
第4回　卒論の報告（3）
第5回　卒論の報告（4）
第6回　卒論の報告（5）
第7回　中間報告会
第8回　卒論の報告（6）
第9回　卒論の報告（7）
第10回　卒論の報告（8）
第11回　卒論の報告（9）
第12回　卒論の報告（10）
第13回　卒論の修正（1）
第14回　卒論の修正（2）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 30 ）	

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <a>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　今井　裕夫	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　竹山　清明	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <c>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　正富	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <d>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河野　良平	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <e>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　近藤　康子	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <f>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　織田　直文.中谷　武雄	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <g>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小暮　宣雄	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <h>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　谷口　知司	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <i>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　金武　創	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <j>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　木下　達文	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**卒業研究 <k>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小森　治夫	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**看護学原論Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　梶谷　佳子.小板橋　喜久代	

テーマ

授業の到達目標

1.看護（助産・公衆衛生看護含む）の核となる要素であるケアの概念について説明できる。2.健康・不健康の連続性を踏まえて、健康を総合的に捉え説明できる。3.多様な価値観や人生経験を有している人々を尊重することの意味を説明できる4.人間の健康と生活、基本的ニードとセルフケアの諸概念および関連について具体的に説明できる。5.看護理論の発展を概観し、看護についての考えを深め、自分の言葉で表現できる。6.医療・看護に携わる者として自己を見つめ、理想像を明確にしてその実現に努める姿勢を獲得する。

授業の概要

実践科学としての看護学（助産学・公衆衛生看護学含む）の成り立ちおよび本質について理解する。人々の健康への取り組みを社会的観点から支援する看護の役割と、看護実践を支える看護学の構築のための学問的探求の方法についての基礎を得る。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　看護学の目的と看護（助産、公衆衛生看護含む）実践について考える
第2回　看護学を構成する主要な概念を検討する(看護における人間のとらえ方と健康へのニーズ)
第3回　看護学を構成する主要な概念を検討する（健康に影響する環境の諸要因と看護の役割）
第4回　多様な看護実践の場と看護サービスの提供の仕方、多職種連携について検討する
第5回　看護の展開方法について知る
第6回　看護実践に関わる倫理的な課題を探求する
第7回　時代/社会による看護の役割機能の違いを検討し、自身の看護への探求姿勢を深める
第8回　闘病記、出産体験記や地域の住民活動等を通して、具体的な看護の展開について考える。（グループ編成を行う）
第9回　看護実践および看護学の探究方法としての看護理論への理解を深める（GW）ナイチンゲール、ロジャーズ、ロイ、ヘンダーソン、オレム、ペプロー、マーサー、ペンダー等
第10回　理論家による理論構築の背景を知り理論の持つ強みについて、事例を用いて検討する(GW1)
第11回　理論家による理論構築の背景を知り理論の持つ強みについて、事例を用いて検討する(GW2)
第12回　理論にもとづき事例展開した内容をプレゼンテーションする（その1）
第13回　理論にもとづき事例展開した内容をプレゼンテーションする（その2）
第14回　いくつかの看護理論への理解を深める（その１）
第15回　いくつかの看護理論への理解を深める（その２）

履修上の注意点

教科書

系等看護学講座　基礎看護学　看護学概論
著者:
出版社:　医学書院
出版年:　最新年　　ISBN:

看護の基本となるもの
著者:　ヴァージニア・ヘンダーソン著/湯槇ます、小玉香津子訳
出版社:　日本看護協会出版会
出版年:　最新年　　ISBN:

看護覚え書き
著者:　ナイチンゲール著/小玉香津子、尾田葉子
出版社:　日本看護協会出版会
出版年:　最新年　　ISBN:

新版　愛、深き淵より
著者:　星野富弘
出版社:　Gakken
出版年:　最新年　　ISBN:

参考書

著者:
出版社:
出版年: ISBN:

成績評価

試験 （ 50 ） 小テスト（ ）
授業中課題 （ 20 ） 授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）
ペーパー試験、授業中の課題や取り組みなど総合的に評価します。

2016 Syllabus

科 目 名　**災害看護学Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期後半　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　野島　敬祐.奥野　信行.川口　淳.河原　宣子.竹下　夏美.千田　いずみ.夏目　美樹.堀　妙子

テーマ

授業の到達目標

1.災害看護に関する基本的知識と援助技術を理解する。2.ライフサイクル各期の災害看護活動を理解する。3.国内諸地域および国際協力における健康危機管理とその対策、災害看護活動を理解する。4.救命救急活動に必要なBLS、応急手当等を習得する。

授業の概要

災害看護に関する基本的知識を学び、災害サイクル各期のさまざまな看護の場における看護活動についてライフサイクルを踏まえて理解する。また、救命救急活動における基本的技術を習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　災害看護とは、災害に関する基礎知識、災害サイクル各期における災害看護活動、健康危機発生時の緊急対応、心的外傷後ストレス障害
第2回　地域ケアの体制づくりー災害への備えと減災に向けた地域連携システムと看護の役割
第3回　災害看護活動における国際協力
第4回　ライフサイクル各期における災害看護活動①：新生児期から小児期，妊産褥婦
第5回　ライフサイクル各期における災害看護活動②：成人期から老年期，健康障害を有する人
第6回　救命救急処置技術の基本：新生児期から老年期まで，妊産褥婦を対象として
第7回　救命救急処置技術の演習（BLS、応急手当等）①：新生児期から老年期まで，妊産褥婦を対象として
第8回　救命救急処置技術の演習（BLS、応急手当等）②：新生児期から老年期まで，妊産褥婦を対象として

履修上の注意点

教科書

災害看護学習テキストー概論編ー
著者：　南裕子・山本あい子
出版社：日本看護協会出版会
出版年：　　ISBN：
災害看護学習テキストー実践編ー
著者：　南裕子・山本あい子
出版社：日本看護協会出版会
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 60 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**ヘルスプロモーション**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　西村　美八.伊藤　恵美子.河原　宣子.神崎　光子.竹下　夏美.堀　妙子.望月　紀子	

テーマ

授業の到達目標

1.健康の概念を理解する。2.ヘルスプロモーションの概念を理解する。3.人の誕生からライフサイクル各期における健康課題を明らかにし、ヘルスプロモーション活動を理解する。4.現代社会の保健医療福祉におけるヘルスプロモーション活動を理解し、その中における看護の役割を理解する。5.それぞれの地域における健康課題を明らかにし、ヘルスプロモーションと政策について理解する。

授業の概要

健康の概念およびヘルスプロモーションの概念を学び、ライフサイクル各期において、対象の尊厳と権利を擁護されることを前提とし、人々が自らの健康をコントロールし、改善する過程を支援する看護方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　健康の概念
第2回　ヘルスプロモーションの概念
第3回　地域を基盤とした疾病予防の考え方と対応の比較
第4回　人々の健康行動の特性・効果的な介入方法と技術
第5回　健康教育の定義・歴史と変遷
第6回　健康教育の理論とモデル
第7回　健康教育活動展開の実施例－地域－
第8回　健康教育活動展開の実施例－母性・助産－
第9回　健康教育活動展開の実施例－小児－
第10回　回 健康教育活動展開の実施例－成人－
第11回　現代社会、現代文化におけるヘルスプロモーションと政策
第12回　健康教育活動展開の実施例－精神－
第13回　健康教育活動展開の実施例－老年－
第14回　健康教育活動展開の実施例－成人－
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

ライフサイクル論で使用するテキストを適宜用いる.

著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

第1～6回は「最新保健学講座＜別巻1＞健康教育論」 宮坂忠夫・川田智恵子・吉田亨編著（メヂカルフレンド社）を使用するので持参すること.

著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

ヘルスプロモーション

著者:　大西和子・櫻井しのぶ
出版社:　ヌーベルヒロカワ
出版年:　ISBN:

その他, 参考となる書籍や文献等は授業中に適宜, 紹介する.

著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

a70101a310

試験 （ 40 ）
小テスト（ ）
授業中課題（ 60 ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**ヘルスプロモーション演習 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　西村　美八	

テーマ

前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　健康教育企画・実施・評価について講義
第2回　オリエンテーション
第3回　グループワーク　対象のニーズの理解
第4回　グループワーク　対象のニーズの理解
第5回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第6回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第7回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第8回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第9回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第10回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第11回　グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第12回　グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第13回　各グループの健康教育の実施及び活動の評価
第14回　活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ
第15回　活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ

履修上の注意点

教科書

ライフサイクル論及びヘルスプロモーションで用いたテキスト
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

参考となる書籍や文献等は授業中に適宜，紹介する.
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**ヘルスプロモーション演習 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹下　夏美	

テーマ

前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　健康教育企画・実施・評価について講義
第2回　オリエンテーション
第3回　グループワーク　対象のニーズの理解
第4回　グループワーク　対象のニーズの理解
第5回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第6回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第7回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第8回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第9回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第10回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第11回　グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第12回　グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第13回　各グループの健康教育の実施及び活動の評価
第14回　活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ
第15回　活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ

履修上の注意点

教科書

ライフサイクル論及びヘルスプロモーションで用いたテキスト
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

参考となる書籍や文献等は授業中に適宜，紹介する.
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**ヘルスプロモーション演習 <c>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　堀 妙子

テーマ

前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　健康教育企画・実施・評価について講義
第2回　オリエンテーション
第3回　グループワーク　対象のニーズの理解
第4回　グループワーク　対象のニーズの理解
第5回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第6回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第7回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第8回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第9回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第10回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第11回　グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第12回　グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第13回　各グループの健康教育の実施及び活動の評価
第14回　活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ
第15回　活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ

履修上の注意点

教科書

ライフサイクル論及びヘルスプロモーションで用いたテキスト
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

参考となる書籍や文献等は授業中に適宜，紹介する.
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**ヘルスプロモーション演習 <d>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　神﨑 光子

テーマ

前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　健康教育企画・実施・評価について講義
第2回　オリエンテーション
第3回　グループワーク　対象のニーズの理解
第4回　グループワーク　対象のニーズの理解
第5回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第6回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第7回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第8回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第9回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第10回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第11回　グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第12回　グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第13回　各グループの健康教育の実施及び活動の評価
第14回　活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ
第15回　活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ

履修上の注意点

教科書

ライフサイクル論及びヘルスプロモーションで用いたテキスト
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

参考となる書籍や文献等は授業中に適宜，紹介する.
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**ヘルスプロモーション演習 <e>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　中橋 苗代

テーマ

前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第10回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第11回　グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第12回　グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第13回　各グループの健康教育の実施及び活動の評価
第14回　活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ
第15回　活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ
第1回　健康教育企画・実施・評価について講義
第2回　オリエンテーション
第3回　グループワーク　対象のニーズの理解
第4回　グループワーク　対象のニーズの理解
第5回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第6回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第7回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第8回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第9回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成

履修上の注意点

教科書

ライフサイクル論及びヘルスプロモーションで用いたテキスト
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

参考となる書籍や文献等は授業中に適宜，紹介する.
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**ヘルスプロモーション演習 <f>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　工藤 里香

テーマ

前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　健康教育企画・実施・評価について講義
第2回　オリエンテーション
第3回　グループワーク　対象のニーズの理解
第4回　グループワーク　対象のニーズの理解
第5回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第6回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第7回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第8回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第9回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第10回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第11回　グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第12回　グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第13回　各グループの健康教育の実施及び活動の評価
第14回　活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ
第15回　活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ

履修上の注意点

教科書

ライフサイクル論及びヘルスプロモーションで用いたテキスト
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

参考となる書籍や文献等は授業中に適宜，紹介する.
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**ヘルスプロモーション演習 <g>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　伊藤　恵美子

テーマ

前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　健康教育企画・実施・評価について講義
第2回　オリエンテーション
第3回　グループワーク　対象のニーズの理解
第4回　グループワーク　対象のニーズの理解
第5回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第6回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第7回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第8回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第9回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第10回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第11回　グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第12回　グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第13回　各グループの健康教育の実施及び活動の評価
第14回　活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ
第15回　活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ

履修上の注意点

教科書

ライフサイクル論及びヘルスプロモーションで用いたテキスト
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

参考となる書籍や文献等は授業中に適宜，紹介する.
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**ヘルスプロモーション演習 <h>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　植村 由美子

テーマ

前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第10回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第11回　グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第12回　グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第13回　各グループの健康教育の実施及び活動の評価
第14回　活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ
第15回　活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ
第1回　健康教育企画・実施・評価について講義
第2回　オリエンテーション
第3回　グループワーク　対象のニーズの理解
第4回　グループワーク　対象のニーズの理解
第5回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第6回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第7回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第8回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第9回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成

履修上の注意点

教科書

ライフサイクル論及びヘルスプロモーションで用いたテキスト
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

参考となる書籍や文献等は授業中に適宜，紹介する.
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**ヘルスプロモーション演習 <i>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　富永　真己	

テーマ

前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　健康教育企画・実施・評価について講義
第2回　オリエンテーション
第3回　グループワーク　対象のニーズの理解
第4回　グループワーク　対象のニーズの理解
第5回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第6回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第7回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第8回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第9回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第10回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第11回　グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第12回　グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第13回　各グループの健康教育の実施及び活動の評価
第14回　活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ
第15回　活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ

履修上の注意点

教科書

ライフサイクル論及びヘルスプロモーションで用いたテキスト
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

参考となる書籍や文献等は授業中に適宜，紹介する.
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**ヘルスプロモーション演習 <j>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　望月 紀子

テーマ

前期に実施したヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する。

授業の到達目標

1.健康教育の理論を理解する。2.看護・助産技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する。3.人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力育成のための健康教育プロセスを理解する。4.地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる。

授業の概要

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　健康教育企画・実施・評価について講義
第2回　オリエンテーション
第3回　グループワーク　対象のニーズの理解
第4回　グループワーク　対象のニーズの理解
第5回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第6回　グループワーク　健康教育企画書の作成
第7回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第8回　グループワーク　健康教育指導案の作成
第9回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第10回　グループワーク　健康教育シナリオ及び教材の作成
第11回　グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第12回　グループワーク　健康教育活動実施の準備（デモンストレーション等）
第13回　各グループの健康教育の実施及び活動の評価
第14回　活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ
第15回　活動の報告・評価（全体発表）及びまとめ

履修上の注意点

教科書

ライフサイクル論及びヘルスプロモーションで用いたテキスト
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

参考となる書籍や文献等は授業中に適宜，紹介する.
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**プライマリケア論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　河原　宣子.伊藤　恵美子.竹下　夏美.富永　真己.西村　美八.堀　妙子.望月　紀子	

テーマ

授業の到達目標

1.プライマリケアとプライマリヘルスケアの概念を理解する。2.保健・医療・福祉における看護の機能と看護活動のあり方の基礎を理解する。3.ライフサイクル各期の保健医療福祉対策と看護活動を理解できる。4.保健・医療・福祉における協働と連携の意義を理解する。

授業の概要

プライマリケアの基本概念である、人々を取り巻く環境とあらゆる健康や疾病に対する総合的・継続的、全人的に対応する地域の政策と機能について学ぶ。ライフサイクル論やヘルスプロモーションを踏まえ、ライフサイクル各期における様々な健康レベルにある人と政策や施策等との関連および看護活動を理解する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第13回　身体的疾病の発症予防から再発予防までを含めた保健医療福祉対策の現状と課題、看護活動−医療の仕組み、医療保険制度、診療報酬制度
第14回　高齢者における保健医療福祉対策の現状と課題、看護活動
第15回　まとめ−2回生「プライマリケア実習Ⅰ」に向けて地域特性や社会資源に関する資料を活用して地域の健康課題を把握する意義学校や職場などの健康課題を把握する意義
第16回　試験
第1回　プライマリケアの理念プライマリケアとは、プライマリヘルスケアとは、人々の尊厳と権利を擁護する社会の仕組み、社会・文化と健康
第2回　地域の特性と健康課題のアセスメントと看護介入コミュニティ・アズ・パートナーモデル、健康に影響する環境と社会的要因の理解山科区の地区視診課題提示（プライマリケア実習Ⅰ関連）
第3回　プライマリヘルスケアと看護職の役割－国際看護の視点からプライマリヘルスケア、社会・文化と健康
第4回　保健医療福祉における看護機能保健医療福祉制度と法律（概論）、看護の機能、組織論、保健医療福祉における協働と連携
第5回　在宅看護の理念・目的・歴史と看護の実際－個人と家族の生活アセスメントと看護援助
第6回　地域ケアの構築と看護機能①地域ケアに関わる医療政策、地域ケアの体制づくり、地域組織活動、ケアネットワークづくり、支援システムの構築
第7回　地域ケアの構築と看護機能②地域組織活動とその育成の実際、健康課題に対する地域の組織的取り組み、集団の形成・発達、自立・自律支援、個人・グループ・機関との調整
第8回　母子における保健医療福祉対策の現状と課題、看護活動①～②
第9回　〃
第10回　地域保健と学校保健①～②
第11回　〃
第12回　精神疾病の発症予防から再発予防までを含めた保健医療福祉対策の現状と課題、看護活動−個人・家族・地域のメンタルヘルスの促進

履修上の注意点

教科書

最新保健学講座7　保健医療福祉行政論
著者:　野村陽子編集
出版社:　メヂカルフレンド社
出版年:　最新刊　　ISBN:

参考書

授業中に紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 70 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**ライフサイクル論（看護）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀　妙子.伊藤　恵美子.遠藤　俊子.河原　宣子.望月　紀子	

テーマ

授業の到達目標

1.人のライフサイクルと発達について説明できる。2.人の発達段階各期における保健統計から健康課題の特徴を説明できる。3.人の発達段階各期における、身体的変化、認知や感情、心理社会的変化について説明できる。4.人を生活している人ととらえ、発達段階各期におけるその特徴を説明できる。5.妊娠・産婦・褥婦の生理、胎児・新生児・乳幼児の生理について説明できる。6.人の発達段階各期における健康課題について理解し、健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助方法について説明できる。

授業の概要

人のライフサイクルと発達について学び、それぞれのライフサイクルにおける生活のあり方や健康課題の特徴を学び看護の対象となる人々を理解するための基礎的な能力を養う。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　ライフサイクル論概説（1）～（2）　教科書：小児看護学概論
第2回　ライフサイクル論概説（1）～（2）　教科書：小児看護学概論
第3回　ライフサイクル論概説（3）　教科書：成人看護学概論
第4回　青年期の成長・発達課題と健康課題（1）～（3）　教科書：成人看護学概論
第5回　青年期の成長・発達課題と健康課題（1）～（3）　教科書：成人看護学概論
第6回　青年期の成長・発達課題と健康課題（1）～（3）　教科書：成人看護学概論
第7回　青年期の成長・発達課題と健康課題（4）　教科書：母性看護学概論
第8回　青年期の成長・発達課題と健康課題（5）　教科書：精神看護の基礎
第9回　成人前期の成長・発達課題と健康課題（1）　教科書：成人看護学概論
第10回　成人前期の成長・発達課題と健康課題（2）　教科書：母性看護学概論
第11回　成人中期の成長・発達課題と健康課題（1）　教科書：成人看護学概論
第12回　小児期の成長・発達課題と健康課題（1）　教科書：小児看護学概論
第13回　成人中期の成長・発達課題と健康課題（2）教科書：成人看護学
第14回　小児期の成長・発達課題と健康課題（2）　教科書：小児看護学概論
第15回　成熟期の成長・発達課題と健康課題（1）　教科書：成人看護学概論
第16回　成熟期の成長・発達課題と健康課題（2）～（3）教科書：母性看護学概論
第17回　成熟期の成長・発達課題と健康課題（2）～（3）教科書：母性看護学概論
第18回　小児期の成長・発達課題と健康課題（3）～（6）　教科書：小児看護学概論
第19回　小児期の成長・発達課題と健康課題（3）～（6）　教科書：小児看護学概論
第20回　小児期の成長・発達課題と健康課題（3）～（6）　教科書：小児看護学概論
第21回　小児期の成長・発達課題と健康課題（3）～（6）　教科書：小児看護学概論
第22回　成熟期の成長・発達課題と健康課題（4）　教科書：成人看護学概論
第23回　小児期の成長・発達課題と健康課題（7）　教科書：小児看護学概論
第24回　成熟期の成長・発達課題と健康課題（5）　教科書：精神看護学の基礎
第25回　老年期の成長・発達課題と健康課題（1）～（5）　教科書：老年看護学
第26回　老年期の成長・発達課題と健康課題（1）～（5）　教科書：老年看護学
第27回　老年期の成長・発達課題と健康課題（1）～（5）　教科書：老年看護学
第28回　老年期の成長・発達課題と健康課題（1）～（5）　教科書：老年看護学
第29回　老年期の成長・発達課題と健康課題（1）～（5）　教科書：老年看護学
第30回　ライフサイクル論　まとめ

履修上の注意点

教科書

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学総論
著者：　小松浩子他
出版社：医学書院
出版年：最新刊　　ISBN：

a70101a610

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学概論・小児臨床看護総論
著者:　奈良間美保他
出版社: 医学書院
出版年: 最新刊　ISBN:

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学[1]
著者:　武井麻子他
出版社: 医学書院
出版年: 最新刊　ISBN:

新体系看護学全書　母性看護学①母性看護学概論/ウィメンズヘルスと看護
著者:　新藤幸恵他
出版社: メヂカルフレンド社
出版年: 最新刊　ISBN:

新体系看護学全書　母性看護学②マタニティサイクルにおける母子の健康と看護
著者:　中野仁雄他
出版社: メヂカルフレンド社
出版年: 最新刊　ISBN:

最新保健学講座別巻1　健康教育論
著者:　宮坂忠夫他編
出版社: メヂカルフレンド社
出版年: 最新刊　ISBN:

老年看護学　概論と看護の実践
著者:　奥野茂代他
出版社: ヌーベルヒロカワ
出版年: 最新刊　ISBN:

成人看護学　ヘルスプロモーション
著者:　大西和子他編
出版社: ヌーベルヒロカワ
出版年: 最新刊　ISBN:

公衆衛生マニュアル
著者:　柳川洋他編
出版社: 南山堂
出版年: 最新刊　ISBN:

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験 （ 50 ）　小テスト （ 50 ）
授業中課題 （ ）　授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**フィジカルアセスメントⅠ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　植村　由美子.西野　武志.林正　健二	

テーマ

授業の到達目標

1.人体の構造を系統的・立体的に理解できる。2.人体の各組織や器官の正常機能およびそれらの協調による恒常性の維持などの調節機構を理解できる。3.看護に必要な人体の防御システムについて説明できる。

授業の概要

解剖学、微生物学の基礎医学を系統的に学び、身体の健康状態をアセスメントするための基礎的知識を修得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　生命とは(生命現象、人体のつくり)細胞、組織、器官と器官系、身体の区分と生命現象を維持するからだの基本構造（解剖1）
第2回　生命とは(生命現象、人体のつくり)細胞、組織、器官と器官系、身体の区分と生命現象を維持するからだの基本構造(解剖1）
第3回　筋系からだの枠組みをつくり、力を発揮する～骨格系①(解剖3）骨格、関節、骨格筋の構造と機能、全身の骨と関節
第4回　筋系からだの枠組みをつくり、力を発揮する～筋肉系②(解剖4）全身の骨格筋
第5回　刺激を伝達し、情報を処理・指令する ～神経系(解剖5）
第6回　生体を包み、外界と内部機構との応答を促進するシステム～皮膚、感覚器(解剖6)視覚器、聴覚器、味覚器、嗅覚器、皮膚、体性感覚、痛覚、内臓感覚
第7回　血液恒常性維持のため生体内を流動し、物質を運搬する(解剖7)①～血液･リンパ液･循環器系血液の成分と機能、血管、リンパ管、心臓、血管系、血圧･血流･脈拍、循環の調整、リンパ循環
第8回　血液恒常性維持のため生体内を流動し、物質を運搬する(解剖8)②～血液･リンパ液･循環器系血液の成分と機能、血管、リンパ管、心臓、血管系、血圧･血流･脈拍、循環の調整、リンパ循環
第9回　気体を取り込み、代謝産物を排出する ～呼吸器系（解剖9）呼吸器系の構造と機能、ガス交換とガスの運搬、呼吸運動、呼吸運動の調整
第10回　食物を取り入れ生体を栄養する～消化･吸収系①(解剖１０）消化･吸収栄養と代謝
第11回　食物を取り入れ生体を栄養する～消化･吸収系②(解剖１１） 消化･吸収栄養と代謝
第12回　内分泌系恒常性維持のためにホルモンにより液性調節を促す ～内分泌系(解剖12）
第13回　泌尿器系残渣物･老廃物をより分け排出する ～排泄系(解剖13）
第14回　生殖器系子孫を残す ～生殖と発生、個体の維持、生命のおわり(解剖14)生殖とは、男性生殖器、女性生殖器、授精･妊娠･分娩
第15回　発生(解剖15）
第16回　微生物学概論
第17回　感染の定義と経路
第18回　細菌学総論
第19回　細菌学各論1
第20回　細菌学各論2
第21回　ウイルス学総論
第22回　ウイルス学各論1
第23回　ウイルス学各論2
第24回　真核生物とプリオンによる感染症
第25回　感染に対する防御機構1
第26回　感染に対する防御機構2
第27回　感染症の診断と治療
第28回　感染症の予防
第29回　まとめおよび実習(細菌検査）
第30回　感染看護:感染看護の動向(ゲストスピーカー）

履修上の注意点

教科書

ナーシンググラフィカ(1)　人体の構造と機能 解剖生理学，第4版
著者：　林正健二編
出版社：メディカ出版
出版年：2016　　ISBN：

a70101a810

ビジュアル微生物学　第2版
著者:　小田紘
出版社: ヌーヴェルヒロカワ
出版年: 2012　ISBN:　9784861740527

参考書

日本人体解剖学改訂19版(上・下)
著者:　金子丑之助
出版社: 南山堂
出版年:　ISBN:

プロメテウス解剖学アトラス(解剖学総論、運動器系)
著者:　坂井建雄他監訳
出版社: 医学書院
出版年:　ISBN:

ギャノング生理学原書第24版
著者:　岡田泰伸監訳
出版社: 丸善
出版年:　ISBN:

成績評価

試験 (100)　小テスト ( )
授業中課題 ( )　授業中発表等 ( )
参加度 ( )

2016 Syllabus

科 目 名　**フィジカルアセスメントⅡ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　天野　博夫.植村　由美子.川上　ゆかり.林正　健二	

テーマ

授業の到達目標

1.看護に必要な人体の構造と機能を関連付けて説明できる。2.薬物療法の種類と効果について説明できる。3.組織や器官の正常な状態との比較から異常な状態を説明できる。4.看護に必要な栄養と代謝について説明できる。5.主要な疾患の症状、病因、病態、治療、予後について説明できる。

授業の概要

看護に必要な生理学、薬理学、病理学、栄養学等を系統的に学び、身体の健康状態をアセスメントするための基礎的知識を修得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　筋系からだの枠組みをつくり、力を発揮する～骨･筋肉系(生理1)①骨格、関節、骨格筋の構造と機能、運動の調節、全身の骨と関節、全身の骨格筋
第2回　筋系からだの枠組みをつくり、力を発揮する～骨･筋肉系(生理2)②骨格、関節、骨格筋の檎造と機能、運動の調節、全身の骨と関節、全身の骨格筋
第3回　刺激を伝達し、情報を処理･指令する～神経系(生理3)①
第4回　刺激を伝達し、情報を処理･指令する～神経系(生理4)②
第5回　生体を包み、外界と内部機構との応答を促進するシステム～皮膚、感覚器(生理5)①視覚器、聴覚器、味覚器、嗅覚器、皮膚、体性感覚、痛覚、内臓感覚
第6回　生体を包み、外界と内部機構との応答を促進するシステム～皮膚、感覚器(生理6)②視覚器、聴覚器、味覚器、嗅覚器、皮膚、体性感覚、痛覚、内臓感覚
第7回　血液恒常性維持のため生体内を流動し、物質を運搬する(生理7)①～血液･リンパ液･循環器系血液の成分と機能、血管、リンパ管、心臓、血管系、血圧･血流･脈拍、循環の調整、リンパ循環
第8回　血液恒常性維持のため生体内を流動し物質を運搬する(生理8)②～血液･リンパ液･循環器系血液の成分と機能、血管、リンパ管、心臓、血管系、血圧･血流･脈拍、循環の調整、リンパ循環
第9回　気体を取り込み、代謝産物を排出する～呼吸器系①(生理9)呼吸器系の構造と機能、ガス交換とガスの運搬、呼吸運動、呼吸運動の調整
第10回　回気体を取り込み、代謝産物を排出する～呼吸器系②(生理10)呼吸器系の構造と機能、ガス交換とガスの運搬、呼吸運動、呼吸運動の調整
第11回　食物を取り入れ生体を栄養する～消化･吸収系①(生理11)消化･吸収栄養と代謝
第12回　食物を取り入れ生体を栄養する～消化･吸収系②(生理12)消化･吸収栄義と代謝
第13回　内分泌系恒常性維持のためにホルモンにより液性調節を促す ～内分泌系(生理13)
第14回　泌尿器系残渣物･老廃物をより分け排出する ～排泄系(生理14)
第15回　生殖器系子孫を残す ～生殖と発生、個体の維持、生命のおわり(生理15)生殖とは、男性生殖器、女性生殖器、授精･妊娠･分娩
第16回　生体機能の変調 ～病理学の基礎　　病理学とは、病因論
第17回　生体機能の変調 ～病理学の基礎　　病理学とは、病因論
第18回　先天異常と遺伝子異常
第19回　代謝障害
第20回　循環障害
第21回　炎症と修復
第22回　腫瘍
第23回　生体機能を補う～薬学の基礎
第24回　薬物療法と看護
第25回　薬物の作用と作用機序
第26回　薬物動態
第27回　薬物相互作用
第28回　薬物療法に影響を与える因子
第29回　薬物の有害作用
第30回　医薬品の管理

履修上の注意点

教科書

ナーシンググラフィカ(1)　人体の構造と機能 解剖生理学，第4版
著者：　林正健二編

a70101a910

出版社: メディカ出版
出版年: 2016　　ISBN:

ナーシンググラフィカ(4) 臨床栄養学 第4版
著者: 關戸啓子編
出版社: メディカ出版
出版年: 2015　　ISBN:

系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 第13版
著者: 吉岡充弘編
出版社: 医学書院
出版年: 2014　　ISBN:

系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 第5版
著者: 大橋健一他編
出版社: 医学書院
出版年: 2015　　ISBN:

参考書

日本人体解剖学改訂19版(上・下)
著者: 金子丑之助
出版社: 南山堂
出版年:　　ISBN:

プロメテウス解剖学アトラス(解剖学総論、運動器系)
著者: 坂井建雄他監訳
出版社: 医学書院
出版年:　　ISBN:

ギャノング生理学原書第24版
著者: 岡田泰伸監訳
出版社: 丸善
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 (100)　　小テスト ( )
授業中課題 ( )　　授業中発表等 ( )
参加度 ( )

2016 Syllabus

科 目 名　**フィジカルアセスメント演習 I**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　植村　由美子.奥野　信行.梶谷　佳子.中橋　苗代.野島　敬祐.堀　妙子.マルティネス　真喜子	

テーマ

授業の到達目標

1.看護に必要な人体の構造と機能を系統的な知識を活用できる。2.成長発達の視点に基づき、身体についての情報収集ができる。3.情報収集に必要な診察技法（問診、視診、聴診、打診、触診）が活用できる。4.身体及び精神の状態の正常が理解できる。5.身体及び精神の状態の代表的な異常が理解できる。6.対象との援助的なコミュニケーションを展開できる。7.アセスメント過程での援助的関係を形成できる。

授業の概要

フイジカルアセスメントIで学んだ身体の機能と構造の知識に基づいて、身体の状態を理解し、健康状態を把握するための基本的技術を獲得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　科目の構造と位置づけ（関連学問との関係）フィジカルアセスメントとは看護におけるフイジカルアセスメントの意義 看護における身体及び精神状態の観察の意義、観察の種類、観察の方法
第2回　演習における諸注意実習室の使用方法
第3回　演習に必要な基本的技術（衛生学手洗い、ボディメカニクス、ベッドメイキング）
第4回　バイタルサインの測定(講義)：バイタルサイン（脈拍、血圧、呼吸、体温、意識）測定の意義、測定に必要な知識と測定方法
第5回　〃
第6回　バイタルサインの測定（演習）
第7回　〃
第8回　気体を取り込み、代謝産物を排出するシステムについてのアセスメント;呼吸器系の問診、視診、打診、触診、呼吸音の聴取、異常呼吸の観察、肺活量
第9回　〃
第10回　恒常性維持のため生体内を流動し、物質を運搬するシステムについてのアセスメント；循環器系の問診、視診、打診、触診、心音の聴取、異常心音の観察
第11回　〃
第12回　生体を包み、外界と内部機構との応答を促進するシステム（感覚器）のアセスメント；各器管の形態の観察（眼・鼻・耳・皮膚、爪、毛髪、頭皮）
第13回　〃
第14回　小児のフィジカルアセスメント
第15回　〃
第16回　試験

履修上の注意点

教科書

看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術
著者：　角濱春美、梶谷佳子
出版社：　メヂカルフレンド社
出版年：　2015　　ISBN：

フィジカルアセスメントガイドブック第2版
著者：　山内豊明
出版社：　医学書院
出版年：　2011　　ISBN：

参考書

ナーシンググラフィカ基礎看護学②ヘルスアセススメント
著者：　松尾ミヨ子他編
出版社：　メディカ出版
出版年：　2013　　ISBN：

成績評価

a70101b010

試験 （ 70 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**フィジカルアセスメント演習Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期前半　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　植村　由美子.梶谷　佳子.中橋　苗代.野島　敬祐.松本　賢哉.マルティネス　真喜子.深山　つかさ

テーマ

フィジカルアセスメントⅡで学んだ身体の機能と構造の知識に基づいて、身体の状態を理解し、健康状態を把握するための基本的技術を獲得する。

授業の到達目標

1.看護(助産含む)に必要な人体の構造と機能を系統的な知識を活用できる。2.成長発達をふまえた視点に基づき身体についての情報収集ができる。3.情報収集に必要な診察技法(問診、視診、聴診、打診、触診)が活用できる。4.身体の状態の正常が理解できる。5.身体の状態の代表的な異常が理解できる。6.対象との援助的なコミュニケーションを展開できる。7.アセスメント過程での援助的関係を形成できる。

授業の概要

実習室で行う演習を中心とする科目です。フィジカルアセスメントI・Ⅱの内容を基に発展させる科目となります。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　食物を取り入れ生体を栄養するシステムのアセスメント:消化器系のアセスメント;腹部の問診、視診、触診、打診、聴診、骨密度
第2回　〃
第3回　栄養状態のアセスメント(身体計測、食生活の評価:身長・体重測定、肥満度測定、肥脂厚測定、頭囲・腹囲測定
第4回　〃
第5回　残渣物・老廃物をより分け排出するシステムのアセスメント:尿の観察(尿検査)、便の観察
第6回　〃
第7回　からだの枠組みをつくり、力を発揮するシステムのアセスメント:ROM測定、MMT測定、ADLのアセスメント
第8回　〃
第9回　刺激を伝達し、情報を処理・指令するシステムのアセスメント(神経系);生命維持機能、小脳機能の判定、腱反射の評価、高次機能の評価精神のアセスメント
第10回　〃
第11回　脳神経の観察;嗅覚、対光反射、視野、眼球運動、触覚、味覚、聴覚、深部知覚
第12回　〃
第13回　模擬患者へのバイタルサイン測定
第14回　〃
第15回　小テスト・まとめ
第16回　実技試験・時間割内のだけで技術の習得は困難です。主体的に実習室にて練習してください。・内容の理解を深めるために視聴覚教材も準備していますので活用してください。

履修上の注意点

教科書

看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術
著者:　角濱春美、梶谷佳子
出版社:　メヂカルフレンド社
出版年:　2015　　ISBN:

フィジカルアセスメントガイドブック第2版
著者:　山内豊明
出版社:　医学書院
出版年:　2011　　ISBN:

参考書

ナーシンググラフィカ基礎看護学②ヘルスアセススメント
著者:　松尾ミヨ子他編
出版社:　メディカ出版
出版年:　2013　　ISBN:

成績評価

試験　(40)　　小テスト　(30)

a70101b150

授業中課題（30）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**異文化コミュニケーション論（看護）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹下　夏美	

テーマ

授業の到達目標

1.文化・異文化とコミュニケーションの概念を総体的に理解し、看護（助産・公衆衛生看護を含む、以下、看護）における異文化理解の意義と必要性を認識する。2.看護の対象となる人々の生活・ライフサイクルにおける（文化）現象を多様な角度から理解する。

3.文化の違いに由来する看護アセスメントやコミュニケーション技術を学ぶ。4.1～4について学びながら、多文化共生社会における看護職者の役割について考える。

授業の概要

多文化共生社会におけるあらゆるコミュニケーションを異文化コミュニケーションとしてとらえた上でさまざまな文化をグローバルな視点で考える。その上で看護職者として多文化共生社会における対象理解のための異文化看護と異文化コミュニケーション技術を養う。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　授業ガイダンス、文化・異文化・コミュニケーション・異文化コミュニケーションの定義
第2回　看護における対象理解と異文化コミュニケーションを学ぶことの意義
第3回　多文化社会における異文化への対応と適応モデル
第4回　人々の生活・ライフサイクルにおける文化現象と異文化コミュニケーション
第5回　文化の違いに由来する看護アセスメントと異文化コミュニケーション
第6回　在日外国人医療・看護と異文化コミュニケーション
第7回　「外国人看護師として働くこと」あるいは「外国人看護師とともに働くこと」と異文化コミュニケーション
第8回　まとめ、多文化共生社会における看護職者の役割と異文化コミュニケーション

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 70 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 15 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 15 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**家族看護学**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　河原　宣子.堀　妙子.松本　賢哉.望月　紀子	

テーマ

授業の到達目標

1.家族とは何か、また個人とどのように関連しているかを考える2.家族理解のための諸理論を知る3.家族看護に関する代表的な諸理論を知る4.ライフサイクル各期における家族の生活と健康障害との関連、疾病・傷害が家族生活に及ぼす影響について理解する5.ライフサイクル各期における家族への看護の役割を理解する

授業の概要

家族看護に関する理論的知識体系を学び、ライフサイクルに沿って個人と家族の生活とその関連を把握し、家族の持つ健康課題に取り組む看護の役割を考える。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　家族とは、家族機能とは、家族看護学の軌跡と対象
第2回　家族理解のための諸理論
第3回　家族アセスメントモデル・介入モデル、家族看護過程
第4回　ライフサイクル各期における家族看護（家族形成期の家族の援助）
第5回　ライフサイクル各期における家族看護（病児を持つ家族の援助）
第6回　ライフサイクル各期における家族看護（成人期の慢性的健康課題を有する療養者を抱える家族の援助）
第7回　ライフサイクル各期における家族看護（精神障害者を持つ家族の援助）
第8回　ライフサイクル各期における家族看護（在宅で高齢者を介護する家族の援助）

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

授業時に紹介する
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 100 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報科学Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　味田　治子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　パソコンの基本操作オリエンテーション（学内ネットワークの説明など）、Windows7（OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
第2回　セキュリティと情報モラル（1）セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット
第3回　Word2007（1）チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、インデント、タブ、表作成、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
第4回　Word2007（2）レポート作成《主な機能》ページ設定、表紙の作成、ページ番号、Excelの表とグラフの挿入、脚注、引用、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
第5回　Excel2007（1）スコア表の作成《主な機能》AVERAGE関数、IF関数、絶対参照、合計、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数
第6回　Excel2007（2）スコア表の作成《主な機能》小数点以下の表示桁数を減らす/増やす、桁区切りスタイル、フォントサィズ、セルを結合して中央揃え、罫線、ページ設定、印刷
第7回　Excel2007（3）グラフの作成《主な機能》シートの操作、並べ替え、積み上げ横棒グラフの作成、グラフの編集、改ページ、印刷
第8回　PowerPoint（1）スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
第9回　Word2007（3）レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
第10回　Excel2007（4）アンケート結果の集計1《主な機能》リスト形式、アンケート結果の数値化、COUNTIF関数、SUMIF関数、積み上げ縦棒グラフの作成、グラフの編集
第11回　Excel2007（5）アンケート結果の集計2《主な機能》列単位で並べ替え、シートを分けてアンケート結果を検証文章とは、分かりやすい文（1文が短い、主語と述語の関係が分かりやすい、誤解されない、文に矛盾がない、品格がある）、良い文章のポイント（文体の統一、用語の統一と確認）
第12回　Word2007（4）アンケート結果レポートの作成《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注
第13回　PowerPoint（2）アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更、画面切り替え効果、アニメーションの設定
第14回　PowerPoint（3）スライドショーの実行発表《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
第15回　テストとまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者：　noa出版

出版社：　noa出版

出版年：　　ISBN：

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者：　noa出版

出版社：　noa出版

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報科学Ⅰ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　味田 治子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　パソコンの基本操作オリエンテーション（学内ネットワークの説明など）、Windows7（OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
第2回　セキュリティと情報モラル（1）セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット
第3回　Word2007（1）チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、インデント、タブ、表作成、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
第4回　Word2007（2）レポート作成《主な機能》ページ設定、表紙の作成、ページ番号、Excelの表とグラフの挿入、脚注、引用、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
第5回　Excel2007（1）スコア表の作成《主な機能》AVERAGE関数、IF関数、絶対参照、合計、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数
第6回　Excel2007（2）スコア表の作成《主な機能》小数点以下の表示桁数を減らす/増やす、桁区切りスタイル、フォントサイズ、セルを結合して中央揃え、罫線、ページ設定、印刷
第7回　Excel2007（3）グラフの作成《主な機能》シートの操作、並べ替え、積み上げ横棒グラフの作成、グラフの編集、改ページ、印刷
第8回　PowerPoint（1）スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
第9回　Word2007（3）レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
第10回　Excel2007（4）アンケート結果の集計1《主な機能》リスト形式、アンケート結果の数値化、COUNTIF関数、SUMIF関数、積み上げ縦棒グラフの作成、グラフの編集
第11回　Excel2007（5）アンケート結果の集計2《主な機能》列単位で並べ替え、シートを分けてアンケート結果を検証文章とは、分かりやすい文（1文が短い、主語と述語の関係が分かりやすい、誤解されない、文に矛盾がない、品格がある）、良い文章のポイント（文体の統一、用語の統一と確認）
第12回　Word2007（4）アンケート結果レポートの作成《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注
第13回　PowerPoint（2）アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更、画面切り替え効果、アニメーションの設定
第14回　PowerPoint（3）スライドショーの実行発表《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
第15回　テストとまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)

著者：　noa出版

出版社：　noa出版

出版年：　　ISBN：

文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者：　noa出版

出版社：　noa出版

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ 30 ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）
授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報科学Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　味田　治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。これらの情報活用力をもとに、地域保健・看護活動に役立つ保健統計調査の知識と方法を学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。保健統計調査の基礎的な知識、活用できる能力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　情報活用力とは
第2回　ICT利活用力診断テストRasti試験
第3回　情報検索：検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
第4回　情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第5回　数値分析Ⅰ：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ：数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第7回　データベース：表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う（ファイル容量とメディア、ファイル形式）。
第9回　保健統計学の基礎を理解する。（人口統計の基礎：主な健康指標）
第10回　保健統計学の基礎を理解する。（人口静態統計：日本の人口、年少人口、老年人口、世界の人口）
第11回　保健統計学の基礎を理解する。（人口動態統計：死亡と生命表、出生と人口再生産、死産、婚姻と離婚）
第12回　保健統計学の基礎を理解する。（保健統計調査：業務統計、調査統計）
第13回　保健統計学の基礎を理解する。（指定統計：国勢調査、国民生活基礎調査、患者調査医療施設調査、学校保健統計）
第14回　保健統計学の基礎を理解する。（その他の統計調査：感染症発生動向調査、食中毒統計、国民健康・栄養調査、身体障害者（児）実態調査）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力（情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む）
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術（※前期使用テキスト）
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ 30 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報科学Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　味田　治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。これらの情報活用力をもとに、地域保健・看護活動に役立つ保健統計調査の知識と方法を学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。保健統計調査の基礎的な知識、活用できる能力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　情報活用力とは
第2回　ICT利活用力診断テストRasti試験
第3回　情報検索：検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
第4回　情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第5回　数値分析Ⅰ：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ：数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第7回　データベース：表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う（ファイル容量とメディア、ファイル形式）。
第9回　保健統計学の基礎を理解する。（人口統計の基礎：主な健康指標）
第10回　保健統計学の基礎を理解する。（人口静態統計：日本の人口、年少人口、老年人口、世界の人口）
第11回　保健統計学の基礎を理解する。（人口動態統計：死亡と生命表、出生と人口再生産、死産、婚姻と離婚）
第12回　保健統計学の基礎を理解する。（保健統計調査：業務統計、調査統計）
第13回　保健統計学の基礎を理解する。（指定統計：国勢調査、国民生活基礎調査、患者調査医療施設調査、学校保健統計）
第14回　保健統計学の基礎を理解する。（その他の統計調査：感染症発生動向調査、食中毒統計、国民健康・栄養調査、身体障害者（児）実態調査）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力（情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む）
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術（※前期使用テキスト）
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ 30 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**論理的思考**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梅本　裕	

テーマ

看護学学習と研究および一般教養として必要な論理的思考の基礎を講義と演習によって身につける。

授業の到達目標

看護の研究と実践に必要な論理的思考の基礎を身につける。(1)思考を深めるための定型を、書きことばと話しことばの両面にわたって身につける。(2)作文と作文の添削という二つの方法により、見学や実習の体験を文章化する技法に習熟する。

授業の概要

前半は、受講生がひとまとまりの文章を書き、それをクラスで検討する。翻訳書や論文の文章も検討する。後半はディベートを学ぶことにより主張と根拠の関係を理解し、論理的な文章やディスコースの特質を理解する。授業には常に国語辞書(電子辞書でよい)を持参すること。

準備学習(予習・復習)

日ごろより本をたくさん読もう。また、文章を書く時には、常に一文一義の文体で書くように心がけよう

内　　容

第1回　400字で論評文を書く(その1)
第2回　400字で論評文を書く(その2)
第3回　思考単位としての文
第4回　文章書き換えの練習(その1)
第5回　文章書き換えの練習(その2)
第6回　段落のはたらき・つくり方
第7回　800字で論評文を書く(その1)
第8回　800字で論評文を書く(その2)
第9回　語句の選び方と使い方(その1)
第10回　語句の選び方と使い方(その1)
第11回　演習:ブックレビューを書く
第12回　演習:案内文を書く
第13回　ディベートの立論を書く(その1)
第14回　ディベートの立論を書く(その2)
第15回　アカデミックスキルとしての論理的文章

履修上の注意点

教科書

新版論理的思考
著者:　宇佐美寛
出版社:　メディカルフレンド社
出版年:　1989　　ISBN:

参考書

論理トレーニング101題
著者:　野矢茂樹
出版社:　産業図書
出版年:　2001　　ISBN:

レポート・論文の書き方入門　第3版
著者:　河野哲也
出版社:　慶應義塾大学出版会
出版年:　2002　　ISBN:

成績評価

試験　(　)	小テスト　(60%)
授業中課題　(40%)	授業中発表等　(　)
参加度　(　)	

2016 Syllabus

科 目 名　**統計学基礎論（看護）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　片岡　裕介	

テーマ

授業の到達目標

看護、地域保健に関する調査報告・論文を理解するために求められるデータ分析の基本的な知識を習得する。

授業の概要

統計学の概念と方法を理解し、看護、地域保健に役立てる基礎的な知識を修得する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　日常生活の中の統計から見える看護の課題や成果
第2回　調査方法とデータの種類
第3回　度数分布表とヒストグラム
第4回　基本統計量：代表値
第5回　基本等計量：ちらばり
第6回　確率分布（二項分布）
第7回　確率分布（正規分布）
第8回　グラフ化と分割表
第9回　散布図と相関係数
第10回　回帰分析（回帰式）
第11回　回帰分析（分散分析表）
第12回　分割表の分析（オッズ比、連関係数）
第13回　分割表の検定（カイ2乗検定）
第14回　偏差値
第15回　総括

履修上の注意点

日頃、新聞などに掲載されている統計データを解釈してみる。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（　）	授業中発表等（　）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（看護）＜＊A＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梶谷　佳子.富永　真己	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける　1）スタディ・スキル　（1）文章を読み、理解する（大学の講義の教科書レベル）　（2）文章の書き方（一般的なレポート）　（3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）　（4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）　（5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）　2）スチューデント・スキル　（1）主体的な学習姿勢　（2）社会ルールやマナーを遵守する姿勢　（3）社会人としての自立　2. 知的好奇心をもつ　3. キャリアデザインが描ける　　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ2）看護学に関心をもつ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。

準備学習（予習・復習）

授業の進捗状況に合わせて適時指示する

内　　容

第1回　科目オリエンテーション
第2回　演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等文献検索について：図書館オリエンテーションA～Eクラス（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii）
第3回　演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等文献検索について：図書館オリエンテーションF～Jクラス（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii）
第4回　看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
第5回　看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
第6回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第7回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第8回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第9回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回　文献講読およびディスカッション
第13回　文献講読およびディスカッション
第14回　文献講読およびディスカッション
第15回　前期のまとめ

履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目です。事前学習を主体的に行ってください。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者：　前原澄子，遠藤俊子監修
出版社：金芳堂
出版年：2014　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）	授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）	

授業中課題40%、授業中発表等30%、参加度　30%前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（看護）＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　富永　真己.中島　登美子	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける　1）スタディ・スキル　（1）文章を読み、理解する（大学の講義の教科書レベル）　（2）文章の書き方（一般的なレポート）　（3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）　（4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）　（5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）　2）スチューデント・スキル　（1）主体的な学習姿勢　（2）社会ルールやマナーを遵守する姿勢　（3）社会人としての自立　2. 知的好奇心をもつ　3. キャリアデザインが描ける　　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ2）看護学に関心をもつ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。

準備学習（予習・復習）

授業の進捗状況に合わせて適時指示する

内　　容

第1回　科目オリエンテーション
第2回　演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等文献検索について：図書館オリエンテーションA～Eクラス（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii）
第3回　演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等文献検索について：図書館オリエンテーションF～Jクラス（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii）
第4回　看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
第5回　看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
第6回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第7回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第8回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第9回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回　文献講読およびディスカッション
第13回　文献講読およびディスカッション
第14回　文献講読およびディスカッション
第15回　前期のまとめ

履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目です。事前学習を主体的に行ってください。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方

著者：　前原澄子，遠藤俊子監修

出版社：金芳堂

出版年：2014　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等　（ 30% ）

参加度　（ 30% ）

授業中課題40%、授業中発表等30%、参加度　30%前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（看護）＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中島　登美子.阿部　祝子	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける　1）スタディ・スキル　（1）文章を読み、理解する（大学の講義の教科書レベル）　（2）文章の書き方（一般的なレポート）　（3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）　（4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）　（5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）　2）スチューデント・スキル　（1）主体的な学習姿勢　（2）社会ルールやマナーを遵守する姿勢　（3）社会人としての自立　2. 知的好奇心をもつ　3. キャリアデザインが描ける　　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ2）看護学に関心をもつ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。

準備学習（予習・復習）

授業の進捗状況に合わせて適時指示する

内　　容

第1回　科目オリエンテーション
第2回　演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等文献検索について：図書館オリエンテーションA～Eクラス（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii）
第3回　演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等文献検索について：図書館オリエンテーションF～Jクラス（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii）
第4回　看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
第5回　看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
第6回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第7回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第8回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第9回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回　文献講読およびディスカッション
第13回　文献講読およびディスカッション
第14回　文献講読およびディスカッション
第15回　前期のまとめ

履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目です。事前学習を主体的に行ってください。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者：　前原澄子，遠藤俊子監修
出版社：金芳堂
出版年：2014　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）	授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）	

授業中課題40%、授業中発表等30%、参加度　30%前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（看護）＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阿部　祝子.奥野　信行	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける　1）スタディ・スキル　（1）文章を読み、理解する（大学の講義の教科書レベル）　（2）文章の書き方（一般的なレポート）　（3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）　（4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）　（5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）　2）スチューデント・スキル　（1）主体的な学習姿勢　（2）社会ルールやマナーを遵守する姿勢　（3）社会人としての自立　2. 知的好奇心をもつ　3. キャリアデザインが描ける　　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ2）看護学に関心をもつ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。

準備学習（予習・復習）

授業の進捗状況に合わせて適時指示する

内　　容

第1回　科目オリエンテーション
第2回　演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等文献検索について：図書館オリエンテーションA～Eクラス（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii）
第3回　演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等文献検索について：図書館オリエンテーションF～Jクラス（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii）
第4回　看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
第5回　看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
第6回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第7回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第8回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第9回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回　文献講読およびディスカッション
第13回　文献講読およびディスカッション
第14回　文献講読およびディスカッション
第15回　前期のまとめ

履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目です。事前学習を主体的に行ってください。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者：　前原澄子，遠藤俊子監修
出版社：金芳堂
出版年：2014　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）	授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）	

授業中課題40%、授業中発表等30%、参加度　30%前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（看護）＜＊E＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　奥野　信行.工藤　里香	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける　1）スタディ・スキル　（1）文章を読み、理解する（大学の講義の教科書レベル）　（2）文章の書き方（一般的なレポート）　（3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）　（4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）　（5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）　2）スチューデント・スキル　（1）主体的な学習姿勢　（2）社会ルールやマナーを遵守する姿勢　（3）社会人としての自立　2. 知的好奇心をもつ　3. キャリアデザインが描ける　　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ2）看護学に関心をもつ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。

準備学習（予習・復習）

授業の進捗状況に合わせて適時指示する

内　　容

第1回　科目オリエンテーション
第2回　演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等文献検索について：図書館オリエンテーションA～Eクラス（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii）
第3回　演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等文献検索について：図書館オリエンテーションF～Jクラス（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii）
第4回　看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
第5回　看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
第6回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第7回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第8回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第9回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回　文献講読およびディスカッション
第13回　文献講読およびディスカッション
第14回　文献講読およびディスカッション
第15回　前期のまとめ

履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目です。事前学習を主体的に行ってください。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者：　前原澄子，遠藤俊子監修
出版社：金芳堂
出版年：2014　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）
授業中課題40%、授業中発表等30%、参加度　30%前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（看護）＜＊F＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　工藤　里香.竹下　夏美	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける　1）スタディ・スキル　（1）文章を読み、理解する（大学の講義の教科書レベル）　（2）文章の書き方（一般的なレポート）　（3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）　（4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）　（5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）　2）スチューデント・スキル　（1）主体的な学習姿勢　（2）社会ルールやマナーを遵守する姿勢　（3）社会人としての自立　2. 知的好奇心をもつ　3. キャリアデザインが描ける　　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ2）看護学に関心をもつ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。

準備学習（予習・復習）

授業の進捗状況に合わせて適時指示する

内　　容

第1回　科目オリエンテーション
第2回　演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等文献検索について：図書館オリエンテーションA～Eクラス（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii）
第3回　演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等文献検索について：図書館オリエンテーションF～Jクラス（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii）
第4回　看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
第5回　看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
第6回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第7回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第8回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第9回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回　文献講読およびディスカッション
第13回　文献講読およびディスカッション
第14回　文献講読およびディスカッション
第15回　前期のまとめ

履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目です。事前学習を主体的に行ってください。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方

著者：　前原澄子，遠藤俊子監修

出版社：金芳堂

出版年：2014　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）	授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）	

授業中課題40%、授業中発表等30%、参加度　30%前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（看護）＜＊G＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　竹下　夏美.望月　紀子	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける　1）スタディ・スキル　（1）文章を読み、理解する（大学の講義の教科書レベル）（2）文章の書き方（一般的なレポート）（3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）（4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）（5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）　2）スチューデント・スキル　（1）主体的な学習姿勢　（2）社会ルールやマナーを遵守する姿勢　（3）社会人としての自立　2. 知的好奇心をもつ　3. キャリアデザインが描ける　　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ2）看護学に関心をもつ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。

準備学習（予習・復習）

授業の進捗状況に合わせて適時指示する

内　　容

第1回　科目オリエンテーション
第2回　演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等文献検索について：図書館オリエンテーションA～Eクラス（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii）
第3回　演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等文献検索について：図書館オリエンテーションF～Jクラス（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii）
第4回　看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
第5回　看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
第6回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第7回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第8回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第9回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回　文献講読およびディスカッション
第13回　文献講読およびディスカッション
第14回　文献講読およびディスカッション
第15回　前期のまとめ

履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目です。事前学習を主体的に行ってください。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者：　前原澄子，遠藤俊子監修
出版社：金芳堂
出版年：2014　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）
授業中課題40%、授業中発表等30%、参加度　30%前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（看護）＜＊H＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　望月　紀子.野島　敬祐	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける　1）スタディ・スキル　（1）文章を読み、理解する（大学の講義の教科書レベル）（2）文章の書き方（一般的なレポート）（3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）（4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）（5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）　2）スチューデント・スキル　（1）主体的な学習姿勢　（2）社会ルールやマナーを遵守する姿勢　（3）社会人としての自立　2. 知的好奇心をもつ　3. キャリアデザインが描ける　　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ2）看護学に関心をもつ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。

準備学習（予習・復習）

授業の進捗状況に合わせて適時指示する

内　　容

第1回　科目オリエンテーション
第2回　演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等文献検索について：図書館オリエンテーションA～Eクラス（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii）
第3回　演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等文献検索について：図書館オリエンテーションF～Jクラス（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii）
第4回　看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
第5回　看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
第6回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第7回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第8回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第9回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回　文献講読およびディスカッション
第13回　文献講読およびディスカッション
第14回　文献講読およびディスカッション
第15回　前期のまとめ

履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目です。事前学習を主体的に行ってください。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者：　前原澄子，遠藤俊子監修
出版社：金芳堂
出版年：2014　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）	授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）	

授業中課題40%、授業中発表等30%、参加度　30%前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（看護）＜＊Ⅰ＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野島　敬祐.マルティネス　真喜子	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける　1）スタディ・スキル　（1）文章を読み、理解する（大学の講義の教科書レベル）　（2）文章の書き方（一般的なレポート）　（3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）　（4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）　（5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）　2）スチューデント・スキル　（1）主体的な学習姿勢　（2）社会ルールやマナーを遵守する姿勢　（3）社会人としての自立　2. 知的好奇心をもつ　3. キャリアデザインが描ける　　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ2）看護学に関心をもつ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。

準備学習（予習・復習）

授業の進捗状況に合わせて適時指示する

内　　容

第1回　科目オリエンテーション
第2回　演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等文献検索について：図書館オリエンテーションA～Eクラス（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii）
第3回　演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等文献検索について：図書館オリエンテーションF～Jクラス（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii）
第4回　看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
第5回　看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
第6回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第7回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第8回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第9回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回　文献講読およびディスカッション
第13回　文献講読およびディスカッション
第14回　文献講読およびディスカッション
第15回　前期のまとめ

履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目です。事前学習を主体的に行ってください。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者：　前原澄子，遠藤俊子監修
出版社：金芳堂
出版年：2014　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 40% ）	授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）	

授業中課題40%、授業中発表等30%、参加度　30%前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（看護）＜＊J＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　マルティネス　真喜子.梶谷　佳子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける　1）スタディ・スキル　（1）文章を読み、理解する（大学の講義の教科書レベル）　（2）文章の書き方（一般的なレポート）　（3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）　（4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）　（5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）　2）スチューデント・スキル　（1）主体的な学習姿勢　（2）社会ルールやマナーを遵守する姿勢　（3）社会人としての自立　2. 知的好奇心をもつ　3. キャリアデザインが描ける　　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ2）看護学に関心をもつ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマについて、文献検索が可能となるテーマを設定し、学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する。2. 検索した文献を読み、自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理して、メンバーに対してプレゼンテーションを実施する。

準備学習（予習・復習）

授業の進捗状況に合わせて適時指示する

内　　容

第1回　科目オリエンテーション
第2回　演習(1)グループディスカッション、文献講読、発表等文献検索について：図書館オリエンテーションA～Eクラス（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii）
第3回　演習(2)グループディスカッション、文献講読、発表等文献検索について：図書館オリエンテーションF～Jクラス（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii）
第4回　看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
第5回　看護学分野における関心事を発表しテーマを絞り込む
第6回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第7回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第8回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第9回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回　文献講読およびディスカッション
第13回　文献講読およびディスカッション
第14回　文献講読およびディスカッション
第15回　前期のまとめ

履修上の注意点

前期前半、前期後半の担当教員は交代します。プレゼンテーションやグループディスカッションが中心の科目です。事前学習を主体的に行ってください。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方

著者：　前原澄子，遠藤俊子監修

出版社：金芳堂

出版年：2014　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等　（ 30% ）

参加度　（ 30% ）

授業中課題40%、授業中発表等30%、参加度　30%前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（看護）＜＊A＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　望月　紀子.野島　敬祐	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ－自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける－

授業の到達目標

1．主体的に学ぶ姿勢を身につける　1）スタディ・スキル　（1）文章を読み、理解する（大学の講義の教科書レベル）　（2）文章の書き方（一般的なレポート）　（3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）　（4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）　（5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）　2）スチューデント・スキル　（1）主体的な学習姿勢　（2）社会ルールやマナーを遵守する姿勢　（3）社会人としての自立2．知的好奇心をもつ3．キャリアデザインが描ける　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ　2）看護学に関心をもつ4．自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。

準備学習（予習・復習）

授業進捗に合わせて適時指示する前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。

内　　容

第1回　科目オリエンテーション
第2回　演習(1) グループディスカッション、文献講読、発表等
第3回　演習(2) グループディスカッション、文献講読、発表等
第4回　演習(3)グループディスカッション、文献講読、発表等
第5回　演習(4)グループディスカッション、文献講読、発表等
第6回　演習(5)グループディスカッション、文献講読、発表等
第7回　4回生の論文発表会に向けて演習(6)グループディスカッション、文献講読、発表等
第8回　4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加（1・2回生合同）
第9回　演習（7）看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換
第10回　演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等（後半演習内容のオリエンテーションを含む）
第11回　演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等
第12回　演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等
第13回　演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等
第14回　演習(12)グループディスカッション、文献講読、発表等
第15回　1年間のまとめ

履修上の注意点

個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者：　前原澄子，遠藤俊子監修
出版社：金芳堂
出版年：2014　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）
後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（看護）＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　野島　敬祐.マルティネス　真喜子	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ－自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける－

授業の到達目標

1．主体的に学ぶ姿勢を身につける　1）スタディ・スキル　（1）文章を読み、理解する（大学の講義の教科書レベル）　（2）文章の書き方（一般的なレポート）　（3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）　（4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）　（5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）　2）スチューデント・スキル　（1）主体的な学習姿勢　（2）社会ルールやマナーを遵守する姿勢　（3）社会人としての自立2．知的好奇心をもつ3．キャリアデザインが描ける　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ　2）看護学に関心をもつ4．自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。

準備学習（予習・復習）

授業進捗に合わせて適時指示する前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。

内　　容

第1回　科目オリエンテーション
第2回　演習(1) グループディスカッション、文献講読、発表等
第3回　演習(2) グループディスカッション、文献講読、発表等
第4回　演習(3)グループディスカッション、文献講読、発表等
第5回　演習(4)グループディスカッション、文献講読、発表等
第6回　演習(5)グループディスカッション、文献講読、発表等
第7回　4回生の論文発表会に向けて演習(6)グループディスカッション、文献講読、発表等
第8回　4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加（1・2回生合同）
第9回　演習（7）看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換
第10回　演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等（後半演習内容のオリエンテーションを含む）
第11回　演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等
第12回　演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等
第13回　演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等
第14回　演習(12)グループディスカッション、文献講読、発表等
第15回　1年間のまとめ

履修上の注意点

個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者：　前原澄子，遠藤俊子監修
出版社：金芳堂
出版年：2014　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）
後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（看護）＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　マルティネス　真喜子.梶谷　佳子	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ－自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける－

授業の到達目標

1．主体的に学ぶ姿勢を身につける　1）スタディ・スキル　（1）文章を読み、理解する（大学の講義の教科書レベル）（2）文章の書き方（一般的なレポート）（3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）（4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）（5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）　2）スチューデント・スキル　（1）主体的な学習姿勢　（2）社会ルールやマナーを遵守する姿勢　（3）社会人としての自立2．知的好奇心をもつ3．キャリアデザインが描ける　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ　2）看護学に関心をもつ4．自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。

準備学習（予習・復習）

授業進捗に合わせて適時指示する前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。

内　　容

第8回　4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加（1・2回生合同）
第9回　演習（7）看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換
第10回　演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等（後半演習内容のオリエンテーションを含む）
第11回　演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等
第12回　演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等
第13回　演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等
第14回　演習(12)グループディスカッション、文献講読、発表等
第15回　1年間のまとめ
第1回　科目オリエンテーション
第2回　演習(1) グループディスカッション、文献講読、発表等
第3回　演習(2) グループディスカッション、文献講読、発表等
第4回　演習(3)グループディスカッション、文献講読、発表等
第5回　演習(4)グループディスカッション、文献講読、発表等
第6回　演習(5)グループディスカッション、文献講読、発表等
第7回　4回生の論文発表会に向けて演習(6)グループディスカッション、文献講読、発表等

履修上の注意点

個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者：　前原澄子，遠藤俊子監修
出版社：金芳堂
出版年：2014　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）
後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（看護）＜＊D＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　梶谷　佳子.富永　真己	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ－自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける－

授業の到達目標

1．主体的に学ぶ姿勢を身につける　1）スタディ・スキル　（1）文章を読み、理解する（大学の講義の教科書レベル）　（2）文章の書き方（一般的なレポート）　（3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）　（4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）　（5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）　2）スチューデント・スキル　（1）主体的な学習姿勢　（2）社会ルールやマナーを遵守する姿勢　（3）社会人としての自立2．知的好奇心をもつ3．キャリアデザインが描ける　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ　2）看護学に関心をもつ4．自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。

準備学習（予習・復習）

授業進捗に合わせて適時指示する前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。

内　　容

第1回　科目オリエンテーション
第2回　演習(1) グループディスカッション、文献講読、発表等
第3回　演習(2) グループディスカッション、文献講読、発表等
第4回　演習(3)グループディスカッション、文献講読、発表等
第5回　演習(4)グループディスカッション、文献講読、発表等
第6回　演習(5)グループディスカッション、文献講読、発表等
第7回　4回生の論文発表会に向けて演習(6)グループディスカッション、文献講読、発表等
第8回　4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加（1・2回生合同）
第9回　演習（7）看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換
第10回　演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等（後半演習内容のオリエンテーションを含む）
第11回　演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等
第12回　演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等
第13回　演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等
第14回　演習(12)グループディスカッション、文献講読、発表等
第15回　1年間のまとめ

履修上の注意点

個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者：　前原澄子，遠藤俊子監修
出版社：金芳堂
出版年：2014　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）
後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（看護）＜＊E＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　富永　真己.中島　登美子	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ－自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける－

授業の到達目標

1．主体的に学ぶ姿勢を身につける　1）スタディ・スキル　（1）文章を読み、理解する（大学の講義の教科書レベル）　（2）文章の書き方（一般的なレポート）　（3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）　（4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）　（5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）　2）スチューデント・スキル　（1）主体的な学習姿勢　（2）社会ルールやマナーを遵守する姿勢　（3）社会人としての自立2．知的好奇心をもつ3．キャリアデザインが描ける　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ　2）看護学に関心をもつ4．自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。

準備学習（予習・復習）

授業進捗に合わせて適時指示する前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。

内　　容

第1回　科目オリエンテーション
第2回　演習(1) グループディスカッション、文献講読、発表等
第3回　演習(2) グループディスカッション、文献講読、発表等
第4回　演習(3)グループディスカッション、文献講読、発表等
第5回　演習(4)グループディスカッション、文献講読、発表等
第6回　演習(5)グループディスカッション、文献講読、発表等
第7回　4回生の論文発表会に向けて演習(6)グループディスカッション、文献講読、発表等
第8回　4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加（1・2回生合同）
第9回　演習（7）看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換
第10回　演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等（後半演習内容のオリエンテーションを含む）
第11回　演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等
第12回　演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等
第13回　演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等
第14回　演習(12)グループディスカッション、文献講読、発表等
第15回　1年間のまとめ

履修上の注意点

個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者：　前原澄子，遠藤俊子監修
出版社：金芳堂
出版年：2014　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）
後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（看護）＜＊F＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中島　登美子.阿部　祝子	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ－自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける－

授業の到達目標

1．主体的に学ぶ姿勢を身につける　1）スタディ・スキル　（1）文章を読み、理解する（大学の講義の教科書レベル）　（2）文章の書き方（一般的なレポート）　（3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）　（4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）　（5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）　2）スチューデント・スキル　（1）主体的な学習姿勢　（2）社会ルールやマナーを遵守する姿勢　（3）社会人としての自立2．知的好奇心をもつ3．キャリアデザインが描ける　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ　2）看護学に関心をもつ4．自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。

準備学習（予習・復習）

授業進捗に合わせて適時指示する前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。

内　　容

第1回　科目オリエンテーション
第2回　演習(1) グループディスカッション、文献講読、発表等
第3回　演習(2) グループディスカッション、文献講読、発表等
第4回　演習(3)グループディスカッション、文献講読、発表等
第5回　演習(4)グループディスカッション、文献講読、発表等
第6回　演習(5)グループディスカッション、文献講読、発表等
第7回　4回生の論文発表会に向けて演習(6)グループディスカッション、文献講読、発表等
第8回　4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加（1・2回生合同）
第9回　演習（7）看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換
第10回　演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等（後半演習内容のオリエンテーションを含む）
第11回　演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等
第12回　演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等
第13回　演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等
第14回　演習(12)グループディスカッション、文献講読、発表等
第15回　1年間のまとめ

履修上の注意点

個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者：　前原澄子，遠藤俊子監修
出版社：金芳堂
出版年：2014　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）
後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（看護）＜＊G＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阿部　祝子.奥野　信行	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ－自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける－

授業の到達目標

1．主体的に学ぶ姿勢を身につける　1）スタディ・スキル　（1）文章を読み、理解する（大学の講義の教科書レベル）　（2）文章の書き方（一般的なレポート）　（3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）　（4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）　（5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）　2）スチューデント・スキル　（1）主体的な学習姿勢　（2）社会ルールやマナーを遵守する姿勢　（3）社会人としての自立2．知的好奇心をもつ3．キャリアデザインが描ける　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ　2）看護学に関心をもつ4．自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。

準備学習（予習・復習）

授業進捗に合わせて適時指示する前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。

内　　容

第1回　科目オリエンテーション
第2回　演習(1) グループディスカッション、文献講読、発表等
第3回　演習(2) グループディスカッション、文献講読、発表等
第4回　演習(3)グループディスカッション、文献講読、発表等
第5回　演習(4)グループディスカッション、文献講読、発表等
第6回　演習(5)グループディスカッション、文献講読、発表等
第7回　4回生の論文発表会に向けて演習(6)グループディスカッション、文献講読、発表等
第8回　4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加（1・2回生合同）
第9回　演習（7）看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換
第10回　演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等（後半演習内容のオリエンテーションを含む）
第11回　演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等
第12回　演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等
第13回　演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等
第14回　演習(12)グループディスカッション、文献講読、発表等
第15回　1年間のまとめ

履修上の注意点

個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者：　前原澄子，遠藤俊子監修
出版社：金芳堂
出版年：2014　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）
後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（看護）＜＊H＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　奥野　信行.工藤　里香	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ－自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける－

授業の到達目標

1．主体的に学ぶ姿勢を身につける　1）スタディ・スキル　（1）文章を読み、理解する（大学の講義の教科書レベル）　（2）文章の書き方（一般的なレポート）　（3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）　（4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）　（5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）　2）スチューデント・スキル　（1）主体的な学習姿勢　（2）社会ルールやマナーを遵守する姿勢　（3）社会人としての自立2．知的好奇心をもつ3．キャリアデザインが描ける　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ　2）看護学に関心をもつ4．自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。

準備学習（予習・復習）

授業進捗に合わせて適時指示する前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。

内　　容

第1回　科目オリエンテーション
第2回　演習(1) グループディスカッション、文献講読、発表等
第3回　演習(2) グループディスカッション、文献講読、発表等
第4回　演習(3)グループディスカッション、文献講読、発表等
第5回　演習(4)グループディスカッション、文献講読、発表等
第6回　演習(5)グループディスカッション、文献講読、発表等
第7回　4回生の論文発表会に向けて演習(6)グループディスカッション、文献講読、発表等
第8回　4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加（1・2回生合同）
第9回　演習（7）看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換
第10回　演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等（後半演習内容のオリエンテーションを含む）
第11回　演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等
第12回　演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等
第13回　演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等
第14回　演習(12)グループディスカッション、文献講読、発表等
第15回　1年間のまとめ

履修上の注意点

個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者：　前原澄子，遠藤俊子監修
出版社：金芳堂
出版年：2014　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）
後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（看護）＜＊I＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　工藤　里香.竹下　夏美	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ－自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける－

授業の到達目標

1．主体的に学ぶ姿勢を身につける　1）スタディ・スキル　（1）文章を読み、理解する（大学の講義の教科書レベル）　（2）文章の書き方（一般的なレポート）　（3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）　（4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）　（5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）　2）スチューデント・スキル　（1）主体的な学習姿勢　（2）社会ルールやマナーを遵守する姿勢　（3）社会人としての自立2．知的好奇心をもつ3．キャリアデザインが描ける　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ　2）看護学に関心をもつ4．自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。

準備学習（予習・復習）

授業進捗に合わせて適時指示する前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。

内　　容

第1回　科目オリエンテーション
第2回　演習(1) グループディスカッション、文献講読、発表等
第3回　演習(2) グループディスカッション、文献講読、発表等
第4回　演習(3)グループディスカッション、文献講読、発表等
第5回　演習(4)グループディスカッション、文献講読、発表等
第6回　演習(5)グループディスカッション、文献講読、発表等
第7回　4回生の論文発表会に向けて演習(6)グループディスカッション、文献講読、発表等
第8回　4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加（1・2回生合同）
第9回　演習（7）看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換
第10回　演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等（後半演習内容のオリエンテーションを含む）
第11回　演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等
第12回　演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等
第13回　演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等
第14回　演習(12)グループディスカッション、文献講読、発表等
第15回　1年間のまとめ

履修上の注意点

個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者：　前原澄子，遠藤俊子監修
出版社：金芳堂
出版年：2014　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）
後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（看護）＜＊J＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　竹下　夏美.望月　紀子	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ－自らの健康と生活を考察し、主体的な学習態度を身につける－

授業の到達目標

1．主体的に学ぶ姿勢を身につける　1）スタディ・スキル　（1）文章を読み、理解する（大学の講義の教科書レベル）　（2）文章の書き方（一般的なレポート）　（3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）　（4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）　（5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）　2）スチューデント・スキル　（1）主体的な学習姿勢　（2）社会ルールやマナーを遵守する姿勢　（3）社会人としての自立2．知的好奇心をもつ3．キャリアデザインが描ける　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ　2）看護学に関心をもつ4．自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の概要

自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握します。その後に取り組み内容を決定していきます。

準備学習（予習・復習）

授業進捗に合わせて適時指示する前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につけます。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直します。

内　　容

第1回　科目オリエンテーション
第2回　演習(1) グループディスカッション、文献講読、発表等
第3回　演習(2) グループディスカッション、文献講読、発表等
第4回　演習(3)グループディスカッション、文献講読、発表等
第5回　演習(4)グループディスカッション、文献講読、発表等
第6回　演習(5)グループディスカッション、文献講読、発表等
第7回　4回生の論文発表会に向けて演習(6)グループディスカッション、文献講読、発表等
第8回　4回生の看護研究演習Ⅱ論文発表会への参加（1・2回生合同）
第9回　演習（7）看護研究演習Ⅱ論文発表会についての情報共有・意見交換
第10回　演習(8)グループディスカッション、文献講読、発表等（後半演習内容のオリエンテーションを含む）
第11回　演習(9)グループディスカッション、文献講読、発表等
第12回　演習(10)グループディスカッション、文献講読、発表等
第13回　演習(11)グループディスカッション、文献講読、発表等
第14回　演習(12)グループディスカッション、文献講読、発表等
第15回　1年間のまとめ

履修上の注意点

個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意しましょう。

教科書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方
著者：　前原澄子，遠藤俊子監修
出版社：金芳堂
出版年：2014　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）
後期前半の教員が後期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**国際看護学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　竹下　夏美.河原　宣子.近藤　松子.常田　裕子	

テーマ

授業の到達目標

1.国際看護・異文化看護について理解するとともに、基礎的な知識を習得する2.医療（主として看護）における国際協力の実際を知る3.多文化共生社会における看護活動の考え方を理解することができる

授業の概要

国際看護の概念を理解し、多文化共生社会における看護の役割について考える。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　授業ガイダンス、国際保健・国際看護とは何か
第2回　国際看護の主要概念
第3回　国際看護と異文化看護
第4回　国際協力機関と協力の仕組み
第5回　NGOの役割と動向
第6回　世界における身体・心理・社会的健康問題の現状と諸要因
第7回　保健医療システムと看護職の役割
第8回　国際協力の実際①プライマリ・ヘルス・ケア
第9回　国際協力の実際②子どもの健康，メンタルヘルス
第10回　国際協力の実際③～④ジェンダー、リプロダクティブヘルス（1）～（2）
第11回　国際協力の実際③～④ジェンダー、リプロダクティブヘルス（1）～（2）
第12回　国際協力の実際⑤感染症対策
第13回　国際協力の実際⑥社会的・文化的背景の異なる看護職との協働
第14回　国際協力の実際⑦日本に居住する外国人に対する看護の役割
第15回　多文化共生社会における看護について考える（まとめ）

履修上の注意点

授業の内容と日程は、外部講師との関連で変更する場合があります。授業に関連した事前学習について、授業中掲示したいと思っています。また、学生の皆さん自身も様々なメディアを通じて、世界の動向について、日常的に考える習慣を身につけましょう。また、国内外を問わず、医療や看護に関連した内容について興味・関心を持って考えてみましょう。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）	小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 10 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　中橋　苗代.伊藤　恵美子.植村　由美子.梶谷　佳子.小板橋　喜久代.野島　敬祐.堀　妙子.松本　賢哉.マルティネス　真喜子.深山　つかさ	

テーマ

授業の到達目標

1.ライフサイクル各期における人間の基本的ニードを理解できる。2.ライフサイクル各期における日常生活援助を中心とした看護方法を理解できる。3.看護にける安全性・安楽性の重要性について理解できる。4.看護におけるコミュニケーションのプロセスの意義を考える。5.対人関係におけるコミュニケーションのありようを知る。6.コミュニケーションにおける自己の傾向を知る。7.根拠に基づいた看護を提供するための看護過程の意義および必要性を理解できる。8.根拠に基づいた看護を提供するための情報を探索し活用できる。9.批判的思考や分析的方法を活用して、看護計画を立案できる。10.問題解決思考を活用し看護計画を立案できる。

授業の概要

既習の学習を踏まえ、発達段階や人間の基本的ニードと関連させながら、さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場における健康レベルに応じた看護過程を病態・治療の理解を含めて学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　看護過程の意義－看護の目的･対象･方法を再確認する
第2回　対人関係プロセスとコミュニケーション
第3回　対人関係プロセスとコミュニケーション
第4回　対人関係プロセスとコミュニケーション
第5回　看護過程の要素－情報収集
第6回　看護過程の要素－情報収集
第7回　看護過程の要素－情報の整理
第8回　看護過程の要素－情報の整理
第9回　看護過程の要素－情報の分析
第10回　看護過程の要素－情報の分析
第11回　看護過程の要素－健康問題･課題の明確化
第12回　看護過程の要素－健康問題･課題の明確化
第13回　看護過程の要素－看護計画
第14回　看護遇程の要素－実施、評価
第15回　看護過程と記録
第16回　看護の方法論－ライフサイクル各期の心身の特徴を理解した日常生活援助の意義
第17回　看護技術の安全性・安楽性・経済性
第18回　環境とは－生活環境の安全性･安楽性、環境を整えることの意義
第19回　スタンダードプリコーションの考え方
第20回　ボディメカニクス 廃用性症候群
第21回　身体活動の援助－活動の意義、ライフサイクル各期の特徴
第22回　身体活動の援助－健康レベルに応じた身体活動の方法
第23回　身体の清潔の援助－清潔の意義、ライフサイクル各期の特徴
第24回　身体の清潔の援助－ライフサイクル各期の身体の清潔方法
第25回　身体の清潔の援助－健康レベルに応じた清潔方法
第26回　食事の援助－食事の意義、ライフサイクル各期の特徴
第27回　食事の援助－ライフサイクル各期の食事方法、健康レベルに応じた食事の方法
第28回　排泄を整える援助－排泄の意義、ライフサイクル各期の特徴
第29回　排泄を整える援助－ライフサイクル各期の排泄方法
第30回　排泄を整える援助－健康レベルに応じた排泄方法

履修上の注意点

教科書

根拠がわかる基礎看護技術
著者:　角濱春美・梶谷佳子
出版社:　メヂカルフレンド社
出版年:　2015　　ISBN:

a70102a210

看護の基本となるもの
著者:　ヴァージニア・ヘンダーソン著/湯槇ます・小玉香津子訳
出版社:　日本看護協会出版社
出版年:　2006　　ISBN:
事例でわかる看護理論を看護過程に生かす本
著者:　小田正枝
出版社:　照林社
出版年:　2008　　ISBN:

参考書

看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第4版
著者:　秋葉公子
出版社:　ヌーベルヒロカワ
出版年:　2005　　ISBN:
看護記録の書き方がわかる！看護過程展開ガイド
著者:　任和子
出版社:　照林社
出版年:　2009　　ISBN:
看護診断のアセスメント力をつける－臨床判断力をみがく看護過程-
著者:　岡﨑美智子・道重文子
出版社:　ヂカルフレンド社
出版年:　2013　　ISBN:

成績評価

試験　（ 60(実技30、ペーパー30) ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護学演習Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　マルティネス　真喜子.伊藤　恵美子.植村　由美子.梶谷　佳子.中橋　苗代.野島　敬祐.堀　妙子.松本　賢哉.深山　つかさ

テーマ

授業の到達目標

1.ライフサイクル各期における日常生活援助の看護方法を修得する。2.様々な場における日常生活援助の看護方法を修得する。

3.対象の身体的・精神的状態に合わせて看護の方法を説明できる。4.看護の実施において、対象の意思決定を支援することができる。5.対象と援助的なコミュニケーションを展開することができる。6.安全性・安楽性を配慮しながら看護を実践できる。7.患者（妊産褥婦）のプライバシーを守りながら、看護実践できる。8.看護実践において、理論的知識を活用できる。9.対象と援助的な関係を形成することができる10.看護・助産実践を評価し記録できる。

授業の概要

実践看護学Iと対応しながら、さまざまな看護（助産含む）の対象とその家族、多様な看護の場における発達段階や人間の基本的ニードに応じた必要な看護技術とその適用方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　【環境調整技術】基本的なベッドメイキング
第2回　基本的なベッドメイキング
第3回　リネンチェンジ、環境整備
第4回　リネンチエンジ、環境整備
第5回　臥床患者の寝衣交換
第6回　発達段階に応じたリネン;サークルベッドのベッドメイキング
第7回　【活動・休息援助技術】安楽な体位
第8回　体位変換(ベッド上での体位を変える。ベッド上で移動する）
第9回　車椅子での移乗・移送
第10回　ストレッチャーでの移乗・移送
第11回　発達段階に応じた移動:杖・歩行器・老人カー・おんぶひも(スリング）
第12回　廃用性症候群の予防
第13回　臥床患者の洗髪
第14回　臥床患者の洗髪
第15回　【清潔・衣生活の援助】臥床患者の清拭
第16回　臥床患者の清拭
第17回　部分浴:足浴、手浴、陰部洗浄
第18回　部分浴:足浴、手浴、陰部洗浄
第19回　口腔ケア
第20回　口腔ケア
第21回　発達段階に応じた清潔の援助;沐浴・寝衣交換
第22回　整容:ひげ剃り、爪きり、アルコール結髪、義歯の手入れ
第23回　【食事の援助技術】患者の状態に応じた食事援助
第24回　患者の状態に応じた食事援助
第25回　発達段階に応じた食事の援助;離乳食、調乳
第26回　【排泄援助技術】便器・尿器での援助
第27回　便器・尿器での援助、ポータブルトイレでの援助
第28回　発達段階に応じた排泄の援助;おむつ、おまるの援助
第29回　発達段階に応じた排泄の援助;おむつ、おまるの援助
第30回　まとめ

履修上の注意点

教科書

根拠がわかる基礎看護技術
著者:　梶谷佳子，角濱春美編
出版社:　メヂカルフレンド社
出版年:　2015　　ISBN:　8392-1461-6

参考書

a70102a410

看護技術プラクティス　第3版
著者:　竹尾恵子監修
出版社: 学研
出版年: 2014　　ISBN:　7809-1126-8

看護技術がみえるvol.1
著者:　藤本真記子他監修
出版社: メディックメディア
出版年: 2014　　ISBN:　89632-511-9

成績評価

試験 （ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護学演習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　中橋　苗代.伊藤　恵美子.植村　由美子.奥野　信行.梶谷　佳子.河原　宣子.神﨑　光子.野島　敬祐.堀　妙子.松本　賢哉.マルティネス　真喜子.深山　つかさ

テーマ

授業の到達目標

1.ライフサイクルに合わせた健康レベルの各期（急性期･回復期･リハビリテーション期･慢性期･終末期）における看護援助技術を適切に実施する能力を修得する。2.安全なケア環境を提供するための基礎的能力を修得する。

授業の概要

実践看護学Ⅱと対応しながら、さまざまな看護（助産含む）の対象とその家族、多様な看護の場における健康レベルに応じた必要な看護技術とその適用方法についてライフサイクルを踏まえて学ぶ。

準備学習（予習･復習）

内　容

第1回　救命救急処置技術･診療に伴う援助技術－患肢の固定･包帯法
第2回　安楽促進･苦痛の緩和－罨法
第3回　情動･認知･行動への働きかけ－病歴聴取･観察･モニタリング･コミュニケーション①
第4回　情動･認知･行動への働きかけ－病歴聴取･観察･モニタリング･コミュニケーション②
第5回　感染予防、安全･自己防止の技術－無菌操作、ガウンテクニック、滅菌手袋の装着脱①
第6回　感染予防、安全･自己防止の技術－無菌操作、ガウンテクニック、滅菌手袋の装着脱②
第7回　感染予防、安全･自己防止の技術－無菌操作、ガウンテクニック、滅菌手袋の装着脱③
第8回　感染予防、安全･自己防止の技術－無菌操作、ガウンテクニック、滅菌手袋の装着脱④
第9回　感染予防、安全･自己防止の技術－無菌操作、ガウンテクニック、滅菌手袋の装着脱⑤
第10回　感染予防、安全･自己防止の技術－無菌操作、ガウンテクニック、滅菌手袋の装着脱⑥
第11回　医療処置の実施･管理－採血①
第12回　医療処置の実施･管理－採血②
第13回　医療処置の実施･管理－採血③
第14回　医療処置の実施･管理－採血④
第15回　医療処置の実施･管理－注射①
第16回　医療処置の実施･管理－注射②
第17回　医療処置の実施･管理－注射③
第18回　医療処置の実施･管理－注射④
第19回　医療処置の実施･管理－輸液①
第20回　医療処置の実施･管理－輸液②
第21回　医療処置の実施･管理－輸液③
第22回　医療処置の実施･管理－輸液④
第23回　医療処置の実施･管理－導尿①
第24回　医療処置の実施･管理－導尿②
第25回　医療処置の実施･管理－導尿③
第26回　医療処置の実施･管理－酸素療法の管理、吸入①
第27回　医療処置の実施･管理－酸素療法の管理、吸入②
第28回　医療処置の実施･管理－浣腸、消毒薬の準備①
第29回　医療処置の実施･管理－浣腸、消毒薬の準備②
第30回　まとめ

履修上の注意点

教科書

根拠がわかる基礎看護技術
著者:　角濱春美･梶谷佳子
出版社:　メヂカルフレンド社
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術
著者:　医療情報科学研究所

a70102a550

出版社: メディックメディア

出版年: 2014　　ISBN:

看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術

著者:　医療情報科学研究所

出版社: メディックメディア

出版年: 2013　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40 ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護学実習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　春期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　梶谷　佳子.伊藤　恵美子.植村　由美子.奥野　信行.河原　宣子.神﨑　光子.工藤　里香.常田　裕子.中島　登美子.中橋　苗代.西村　美八.野島　敬祐.堀　妙子.松本　賢哉.マルティネス　真喜子.深山　つかさ.望月　紀子	

テーマ

看護過程の理論を活用し、対象者が自らの健康問題を解決するために根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を培う。

授業の到達目標

1．入院中の対象者を多面的に理解することができる。2．対象者の健康上の問題を解決するために既習の知識を活用し看護を展開の実際を理解することができる。3．対象者との人間関係を構築することができる。4．医療チームメンバーの一員として適切な人間関係を形成できる。5．実習体験を振り返り，看護観を自らの言葉で表現できる。

授業の概要

病院での実習です。1名患者を受け持ち、看護過程を展開します。実践看護学Ⅰ・実践看護学Ⅱ・実践看護学演習Ⅰ・実践看護学演習Ⅱで学んだ知識を確認しながら、患者の看護を学びます。

準備学習（予習・復習）

約1ヶ月前に、実習ガイダンスを行います。その時には実習病院および病棟が決定していますので、必要な疾患・病態・治療を学習し、標準的な看護について学習してから臨んでください。

内　　容

第1回　実習オリエンテーション
第2回　病院・病棟オリエンテーション患者紹介
第3回　患患者とコミュニケーションを図りながら情報収集を行うケアの見学
第4回　患者とコミュニケーションを図りながら情報収集を行うケアの見学
第5回　患者の全体像を統合し、看護の方向性を考える中間カンファレンス
第6回　看護計画を立案し、それに基づいて看護実施し、実践内容を評価する
第7回　看護計画を修正・追加しながら看護実践し、実践内容を評価する
第8回　看護計画を修正・追加しながら看護実践し、実践内容を評価する
第9回　看護計画を修正・追加しながら看護実践し、実践内容を評価する最終カンファレンス
第10回　学習の学びをディスカッションし報告会にて、共有する学びを評価する

履修上の注意点

補講は原則不可能ですので、体調管理を万全にして臨むこと。実習時期前半グループは、2月20日～3月3日後半グループは、2月24日～3月9日

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
実習の到達度，実習態度，出席状況などを総合的に評価する。具体的な実践看護学実習Ⅱの評価内容は評価表を参照のこと

2016 Syllabus

科 目 名　**ヘルスケアシステムⅠ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　富永　真己.西村　美八.野村　陽子	

テーマ

授業の到達目標

1.地域の人々の生活、地域の環境、社会経済構造を把握し、地域の特性を基盤とした看護活動を説明できる。2.保健医療福祉制度の歴史から看護の現状と動向、地域の保健医療福祉政策について理解し、その中で看護職が担う活動や役割を説明できる。3.疫学調査、分析活用方法、統計上とその活用方法について理解する。4.行政における組織や財政の仕組みを理解するとともに、住民の健康ニーズの把握方法や施策を実施するための財源や人的資源の確保，評価など基本構造を説明できる。5.地域の保健医療福祉制度、健康に関する情報や指標を理解し、地域の健康課題を導く方法について説明できる

授業の概要

ヘルスプロモーション、ヘルスプロモーション演習、プライマリケア論、プライマリケア実習Ⅰを踏まえ、人々を取り巻くヘルスケアシステムとその基盤となる保健医療福祉の関連法規および財政の理解、施策等行政組織について、看護の視点からライフサイクル各期の特徴を踏まえて理解する。また統計学基礎論、情報科学を踏まえ、地域の特性や社会資源に関する資料・健康指標を活用して、地域の健康課題を解決する過程を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　地域を基盤とした看護活動①－地域看護の成立基盤
第2回　地域を基盤とした看護活動②－地域看護の活動方法
第3回　地域保健行政における看護職の役割
第4回　我が国の保健医療福祉の変遷①－公衆衛生の歴史と体系
第5回　我が国の保健医療福祉の変遷②－看護の現状と動向
第6回　地域の看護活動の実際
第7回　地域看護管理①－保健医療福祉分野における計画策定と施策化
第8回　地域看護管理②－地域保健行政における情報管理システム，予算管理と人材育成
第9回　地域看護管理③－行政評価と事業評価
第10回　地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用① 集団の健康状態の把握
第11回　地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用② 疫学的研究方法
第12回　地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用③ 疾病の予防とスクリーニング
第13回　地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用④ 感染症の疫学
第14回　地域の看護活動の展開における疫学・保健統計の活用⑤ おもな疾患の疫学
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

公衆衛生看護学jp
著者：　荒賀直子・後閑容子編集
出版社：インターメディカル
出版年：　　ISBN：
保健師業務要覧
著者：　井伊久美子他編集
出版社：日本看護協会出版会
出版年：　　ISBN：
はじめて学ぶやさしい疫学～疫学への招待
著者：　日本疫学会監修
出版社：南江堂出版
出版年：　　ISBN：
保健医療福祉行政論
著者：　野村陽子編
出版社：メヂカルフレンド社
出版年：　　ISBN：

参考書

a70102a910

国民衛生の動向2015/2016

著者:　一般財団法人厚生労働統計協会

出版社: 一般財団法人厚生労働統計協会

出版年:　　ISBN:

疫学～医学的研究と実践のサイエンス

著者:　木原正博・木原雅子・加治正行監訳

出版社: メディカル・サイエンス・インターナショナル

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 90 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　ヘルスケアシステムⅡ

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　富永　真己.遠藤　俊子.西村　美八	

テーマ

授業の到達目標

1. 地域における健康危機管理およびその対策に関わる看護職の役割について理解できる。2. 社会保障制度の体系と保健医療福祉の関連法規を説明できる。3. 保健医療福祉における看護の機能と役割を理解できる。4. 健康管理と公衆衛生看護活動に必要な支援技術を説明できる。

授業の概要

ヘルスケアシステムⅠを踏まえ、人々を取り巻くヘルスケアシステムとその基盤となる社会保障制度の体系と保健医療福祉の関連法規および財政の理解、施策等行政組織について、看護の視点からライフサイクル各期の特徴を踏まえて理解する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　社会保障制度①理念・体系
第2回　社会保障制度②高齢者福祉・介護保険制度a
第3回　社会保障制度②高齢者福祉・介護保険制度b
第4回　社会保障制度④障害児・者
第5回　社会保障制度⑤児童
第6回　社会保障制度⑥医療保障制度
第7回　社会保障制度⑦所得保障・年金制度
第8回　地域保健と健康危機管理①－地域における日常的な健康危機管理
第9回　地域保健と健康危機管理②－災害と保健師活動
第10回　母子における保健医療福祉対策の現状と課題
第11回　地域における保健事業の展開
第12回　地区診断の実際①:コミュニティ・アズ・パートナーモデルと保健事業の施策化
第13回　地区診断の実際②:疫学・保健統計のデータの活用と実際
第14回　地区診断の実際③:対象別（母子・成人・高齢者等）の情報の活用と実際
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

公衆衛生看護学jp
著者:　荒賀直子・後閑容子編集
出版社:　インターメディカル
出版年:　　ISBN:

保健師業務要覧
著者:　井伊久美子他編集
出版社:　日本看護協会出版会
出版年:　　ISBN:

国民衛生の動向2016/2017
著者:　一般財団法人厚生労働統計協会
出版社:　一般財団法人厚生労働統計協会
出版年:　　ISBN:

保健医療福祉行政論
著者:　野村陽子編
出版社:　メヂカルフレンド社
出版年:　　ISBN:

参考書

a70102b050

成績評価

試験 （ 40 ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ（看護）＜＊A＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　梶谷　佳子	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、CiNii）専門分野における文献講読の方法について学ぶ文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶテーマに沿い、理解した内容を表現するテーマに沿って探究したことを伝達する

準備学習（予習・復習）

内　容

第8回　テーマに基づき文献検索を行う
第9回　テーマに基づき文献検索を行う
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回　文献講読及びディスカッション
第13回　文献講読及びディスカッション
第14回　文献講読及びディスカッション
第15回　まとめなお、学外授業を実施することがある。
第1回　オリエンテーション
第2回　文献検索について(1)図書館オリエンテーション（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii）
第3回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第4回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第5回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う

履修上の注意点

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方　スタディスキル/キャリアでデザイン/プロフェッショナルデザイン

著者：　前原澄子，遠藤俊子監修

出版社：金芳堂

出版年：2014　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ（看護）＜＊B＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　富永　真己	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、CiNii）専門分野における文献講読の方法について学ぶ文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶテーマに沿い、理解した内容を表現するテーマに沿って探究したことを伝達する

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　文献検索について(1)図書館オリエンテーション（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii）
第3回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第4回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第5回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　テーマに基づき文献検索を行う
第9回　テーマに基づき文献検索を行う
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回　文献講読及びディスカッション
第13回　文献講読及びディスカッション
第14回　文献講読及びディスカッション
第15回　まとめなお、学外授業を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方　スタディスキル/キャリアでデザイン/プロフェッショナルデザイン

著者：　前原澄子，遠藤俊子監修

出版社：金芳堂

出版年：2014　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ（看護）＜＊C＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中島　登美子	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、CiNii）専門分野における文献講読の方法について学ぶ文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶテーマに沿い、理解した内容を表現するテーマに沿って探究したことを伝達する

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　文献検索について(1)図書館オリエンテーション（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii）
第3回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第4回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第5回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　テーマに基づき文献検索を行う
第9回　テーマに基づき文献検索を行う
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回　文献講読及びディスカッション
第13回　文献講読及びディスカッション
第14回　文献講読及びディスカッション
第15回　まとめなお、学外授業を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方　スタディスキル/キャリアでデザイン/プロフェッショナルデザイン

著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社:　金芳堂

出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ（看護）＜＊D＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　阿部 祝子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、CiNii）専門分野における文献講読の方法について学ぶ文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶテーマに沿い、理解した内容を表現するテーマに沿って探究したことを伝達する

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　文献検索について(1)図書館オリエンテーション（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii）
第3回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第4回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第5回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　テーマに基づき文献検索を行う
第9回　テーマに基づき文献検索を行う
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回　文献講読及びディスカッション
第13回　文献講読及びディスカッション
第14回　文献講読及びディスカッション
第15回　まとめなお、学外授業を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方　スタディスキル/キャリアでデザイン/プロフェッショナルデザイン

著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社:　金芳堂

出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）

参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ（看護）＜＊E＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　奥野 信行

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、CiNii）専門分野における文献講読の方法について学ぶ文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶテーマに沿い、理解した内容を表現するテーマに沿って探究したことを伝達する

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　文献検索について(1)図書館オリエンテーション（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii）
第3回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第4回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第5回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　テーマに基づき文献検索を行う
第9回　テーマに基づき文献検索を行う
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回　文献講読及びディスカッション
第13回　文献講読及びディスカッション
第14回　文献講読及びディスカッション
第15回　まとめなお、学外授業を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方　スタディスキル/キャリアでデザイン/プロフェッショナルデザイン

著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社:　金芳堂

出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）

参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ（看護）＜＊F＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　工藤 里香

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、CiNii）専門分野における文献講読の方法について学ぶ文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶテーマに沿い、理解した内容を表現するテーマに沿って探究したことを伝達する

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　文献検索について(1)図書館オリエンテーション（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii）
第3回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第4回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第5回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　テーマに基づき文献検索を行う
第9回　テーマに基づき文献検索を行う
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回　文献講読及びディスカッション
第13回　文献講読及びディスカッション
第14回　文献講読及びディスカッション
第15回　まとめなお、学外授業を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方　スタディスキル/キャリアでデザイン/プロフェッショナルデザイン

著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社:　金芳堂

出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）

参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ（看護）＜＊G＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　竹下 夏美

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、CiNii）専門分野における文献講読の方法について学ぶ文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶテーマに沿い、理解した内容を表現するテーマに沿って探究したことを伝達する

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　文献検索について(1)図書館オリエンテーション（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii）
第3回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第4回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第5回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　テーマに基づき文献検索を行う
第9回　テーマに基づき文献検索を行う
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回　文献講読及びディスカッション
第13回　文献講読及びディスカッション
第14回　文献講読及びディスカッション
第15回　まとめなお、学外授業を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方　スタディスキル/キャリアでデザイン/プロフェッショナルデザイン

著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社:　金芳堂

出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）

参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ（看護）＜＊H＞**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　望月　紀子	

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、CiNii）専門分野における文献講読の方法について学ぶ文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶテーマに沿い、理解した内容を表現するテーマに沿って探究したことを伝達する

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　文献検索について(1)図書館オリエンテーション（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii）
第3回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第4回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第5回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　テーマに基づき文献検索を行う
第9回　テーマに基づき文献検索を行う
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回　文献講読及びディスカッション
第13回　文献講読及びディスカッション
第14回　文献講読及びディスカッション
第15回　まとめなお、学外授業を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方　スタディスキル/キャリアでデザイン/プロフェッショナルデザイン

著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社:　金芳堂

出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ（看護）＜＊I＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　野島 敬祐

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、CiNii）専門分野における文献講読の方法について学ぶ文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶテーマに沿い、理解した内容を表現するテーマに沿って探究したことを伝達する

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　文献検索について(1)図書館オリエンテーション（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii）
第3回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第4回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第5回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　テーマに基づき文献検索を行う
第9回　テーマに基づき文献検索を行う
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回　文献講読及びディスカッション
第13回　文献講読及びディスカッション
第14回　文献講読及びディスカッション
第15回　まとめなお、学外授業を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方　スタディスキル/キャリアでデザイン/プロフェッショナルデザイン

著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社:　金芳堂

出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）

参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ（看護）＜＊J＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　マルティネス　真喜子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる2.関連する文献を検索する方法が理解して、文献を講読することができる3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

授業の概要

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、CiNii）専門分野における文献講読の方法について学ぶ文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.プレゼンテーションを行う方法について学ぶテーマに沿い、理解した内容を表現するテーマに沿って探究したことを伝達する

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　文献検索について(1)図書館オリエンテーション（OPAC,NACSIS Webcat,医中誌Web,GiNii）
第3回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第4回　看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
第5回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　テーマに基づき文献検索を行う
第9回　テーマに基づき文献検索を行う
第10回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第11回　テーマに基づいて収集した文献をまとめる
第12回　文献講読及びディスカッション
第13回　文献講読及びディスカッション
第14回　文献講読及びディスカッション
第15回　まとめなお、学外授業を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方　スタディスキル/キャリアでデザイン/プロフェッショナルデザイン

著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社:　金芳堂

出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）

参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅳ（看護）＜＊A＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　マルティネス　真喜子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、GiNii）2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ各自で文献ノート（RefWorks）を作成する。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
第3回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
第4回　テーマに基づき文献検索を行う
第5回　テーマに基づき文献検索を行う
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　４回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
第9回　４回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加（１、２回生合同）
第10回　４回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
第11回　文献講読及びディスカッション
第12回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第13回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第14回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第15回　まとめ（２回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む）

履修上の注意点

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方　スタディスキル/キャリアでデザイン/プロフェッショナルデザイン

著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社:　金芳堂

出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）

参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅳ（看護）＜＊B＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　梶谷 佳子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、GiNii）2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ各自で文献ノート（RefWorks）を作成する。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
第3回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
第4回　テーマに基づき文献検索を行う
第5回　テーマに基づき文献検索を行う
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　４回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
第9回　４回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加（１、２回生合同）
第10回　４回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
第11回　文献講読及びディスカッション
第12回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第13回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第14回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第15回　まとめ（２回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む）

履修上の注意点

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方　スタディスキル/キャリアでデザイン/プロフェッショナルデザイン

著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社:　金芳堂

出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）

参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅳ（看護）＜＊C＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　富永 真己

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、GiNii）2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ各自で文献ノート（RefWorks）を作成する。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
第3回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
第4回　テーマに基づき文献検索を行う
第5回　テーマに基づき文献検索を行う
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　４回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
第9回　４回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加（１、２回生合同）
第10回　４回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
第11回　文献講読及びディスカッション
第12回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第13回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第14回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第15回　まとめ（２回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む）

履修上の注意点

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方　スタディスキル/キャリアでデザイン/プロフェッショナルデザイン

著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社:　金芳堂

出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）

参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅳ（看護）＜＊D＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　中島 登美子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、GiNii）2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ各自で文献ノート（RefWorks）を作成する。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
第3回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
第4回　テーマに基づき文献検索を行う
第5回　テーマに基づき文献検索を行う
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　４回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
第9回　４回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加（１、２回生合同）
第10回　４回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
第11回　文献講読及びディスカッション
第12回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第13回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第14回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第15回　まとめ（２回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む）

履修上の注意点

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方　スタディスキル/キャリアでデザイン/プロフェッショナルデザイン

著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社:　金芳堂

出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）

参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅳ（看護）＜＊E＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　阿部 祝子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、GiNii）2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ各自で文献ノート（RefWorks）を作成する。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
第3回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
第4回　テーマに基づき文献検索を行う
第5回　テーマに基づき文献検索を行う
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　４回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
第9回　４回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加（１、２回生合同）
第10回　４回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
第11回　文献講読及びディスカッション
第12回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第13回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第14回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第15回　まとめ（２回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む）

履修上の注意点

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方　スタディスキル/キャリアでデザイン/プロフェッショナルデザイン

著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社:　金芳堂

出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）

参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅳ（看護）＜＊F＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　奥野 信行

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、GiNii）2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ各自で文献ノート（RefWorks）を作成する。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習（予習・復習）

内　容

第9回　4回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加（1、2回生合同）
第10回　4回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
第11回　文献講読及びディスカッション
第12回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第13回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第14回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第15回　まとめ（2回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む）
第1回　オリエンテーション
第2回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
第3回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
第4回　テーマに基づき文献検索を行う
第5回　テーマに基づき文献検索を行う
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　4回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション

履修上の注意点

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方　スタディスキル/キャリアでデザイン/プロフェッショナルデザイン

著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社:　金芳堂

出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）

参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅳ（看護）＜＊G＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　工藤 里香

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、GiNii）2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ各自で文献ノート（RefWorks）を作成する。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
第3回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
第4回　テーマに基づき文献検索を行う
第5回　テーマに基づき文献検索を行う
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　４回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
第9回　４回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加（1、2回生合同）
第10回　４回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
第11回　文献講読及びディスカッション
第12回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第13回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第14回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第15回　まとめ（2回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む）

履修上の注意点

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方　スタディスキル/キャリアでデザイン/プロフェッショナルデザイン

著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社:　金芳堂

出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）

参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅳ（看護）＜＊H＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　竹下 夏美

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、GiNii）2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ各自で文献ノート（RefWorks）を作成する。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
第3回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
第4回　テーマに基づき文献検索を行う
第5回　テーマに基づき文献検索を行う
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　４回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
第9回　４回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加（１、２回生合同）
第10回　４回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
第11回　文献講読及びディスカッション
第12回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第13回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第14回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第15回　まとめ（２回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む）

履修上の注意点

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方　スタディスキル/キャリアでデザイン/プロフェッショナルデザイン

著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社:　金芳堂

出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）

参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅳ（看護）＜＊Ⅰ＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　望月 紀子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、GiNii）2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ各自で文献ノート（RefWorks）を作成する。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
第3回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
第4回　テーマに基づき文献検索を行う
第5回　テーマに基づき文献検索を行う
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　４回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
第9回　４回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加（１、２回生合同）
第10回　４回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
第11回　文献講読及びディスカッション
第12回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第13回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第14回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第15回　まとめ（２回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む）

履修上の注意点

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方　スタディスキル/キャリアでデザイン/プロフェッショナルデザイン

著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社:　金芳堂

出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）

参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅳ（看護）＜＊J＞**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　野島 敬祐

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

授業の到達目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の概要

1. 看護学分野における文献検索の方法について学ぶ学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する（医中誌Web、GiNii）2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ各自で文献ノート（RefWorks）を作成する。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. 論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
第3回　看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
第4回　テーマに基づき文献検索を行う
第5回　テーマに基づき文献検索を行う
第6回　テーマに基づき文献検索を行う
第7回　テーマに基づき文献検索を行う
第8回　４回生の看護研究発表会に向けて各クラスでオリエンテーション
第9回　４回生の看護研究演習Ⅱの発表会に参加（１、２回生合同）
第10回　４回生の看護研究演習Ⅱの発表についての情報・意見交換
第11回　文献講読及びディスカッション
第12回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第13回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第14回　自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
第15回　まとめ（２回生の学習目標の到達度及び3回生の課題なども含む）

履修上の注意点

教科書

参考書

看護学生のためのよくわかる大学での学び方　スタディスキル/キャリアでデザイン/プロフェッショナルデザイン

著者:　前原澄子, 遠藤俊子監修

出版社:　金芳堂

出版年:　2014　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）

参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**生命・医療倫理**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　荒木　正見	

テーマ

授業の到達目標

医療人としての生命観、倫理観を、存在論の根底や倫理の根拠などから厳密に展開するとともに、現実の医療現場の生命、倫理に関する諸問題を理解し解決策を探求することによって、より発展的に磨く。特に、理論として知るとともに、自らの人格発達によって全人格的に対応できることを目指す。なお、随時ナイチンゲール誓詞、ヘルシンキ宣言などの資料や、昔話などにおける価値観を挿入して、社会的理解を深める。

授業の概要

医療人としての生命観、倫理観を養う

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　哲学とバイオエシックスに関する総論的概説
第2回　医療を取り巻く現実的諸問題と倫理学との関係
第3回　人格発達論と自己理解の目安
第4回　生命誕生の科学的、存在論的、倫理学的意味
第5回　生命の終末とホスピス、ターミナルケアの問題と倫理学的、人間学的意味
第6回　医療倫理をめぐる諸問題とその根本的解決
第7回　優生学と遺伝子診断をめぐる諸問題とその人類学的意味
第8回　真の健康とスポーツをめぐる倫理学的諸問題評価用レポート作成
第9回　人間の尊厳と安楽死、クローン生殖などの諸問題（教育効果を考慮して前後期にわけて授業を行うので、この回以降は、それ以前の内容の確認を交えて講義を行う。）
第10回　医療倫理の教育と理解をめぐる諸問題
第11回　医療倫理理解のための訓練と技法
第12回　チーム医療における医療専門職者としての根拠と自覚
第13回　患者、家族、関係者とのかかわりの社会的意味と在り方
第14回　倫理的諸規定、宣言、法的根拠
第15回　医療従事者としてのQOL評価用レポート作成

履修上の注意点

テキストを読むとともに、美術館、博物館、寺社、旧跡などを訪れて見識を深め、自らの癒しを得ることを期待する。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**災害看護学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　野島　敬祐.奥野　信行.河原　宣子.堀　妙子.松本　賢哉.マルティネス　真喜子	

テーマ

災害看護学Ⅰを踏まえ，災害看護に関する実践方法論を学ぶ．さまざまな看護の対象とその家族，多様な看護の場における災害サイクル各期の看護の役割を考察する．授業には演習形式のトリアージ訓練を中心とした防災・減災訓練を含む．

授業の到達目標

1.災害看護の実例を学び，災害サイクル各期およびライフサイクル各期の特徴を踏まえた看護の役割を理解する．2.トリアージ訓練を中心とした防災・減災訓練の準備・実施に参加し，準備期における看護の役割を理解する．

授業の概要

災害支援活動の実例を通した講義とトリアージ訓練などの演習により，災害サイクル各期の看護師の役割について考える．

準備学習（予習・復習）

必ず授業前の予習及び演習前の事前課題に取り組むこと

内　　容

第1回　災害支援活動の実際①　災害サイクル中長期におけるケア
第2回　災害支援活動の実際②　メンタルヘルス
第3回　災害支援活動の実際③　京都橘大学防災マップの作成
第4回　災害支援活動の実際④　子どもへの支援
第5回　トリアージ
第6回　演習：防災・減災訓練の準備と実施ートリアージ訓練等
第7回　演習：防災・減災訓練の準備と実施ートリアージ訓練等
第8回　まとめなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 60 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**学校保健**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　寺口　佐與子.近藤　恵	

テーマ

学校保健の基礎を学ぶ

授業の到達目標

1）学校教育における学校保健の目的を説明できる　2）学校保健の行政と制度,学校保健関係職員について説明できる　3）学校における保健管理と保健教育,保健組織活動の内容について説明できる　4）児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題について具体的な事例を通して 理解できる　5）学校保健の今日的課題と展望について考察できる

授業の概要

講義およびグループワークでの討論を行います。学校保健における自身の関心のあるテーマについて調べ、その成果を発表してもらいます。知識の定着を確認するために小テストを複数回行います。

準備学習（予習・復習）

児童生徒やその保護者となる対象に関連するニュースや学校教育・児童生徒の保健や健康に関する内容について日頃より関心をもち、自己の考えをもつこと。復習としては、テキストの該当ページを読み、知識の整理をしておくこと。

内　　容

第1回　学校保健の概要、学校保健の歴史
第2回　学校における保健教育（保健学習と保健指導）
第3回　学校における保健管理①（健康診断、保健調査、健康評価）
第4回　学校における保健管理②（疾病管理）
第5回　学校における保健管理③（疾病管理）（発表）
第6回　学校における保健管理④（感染症）、学校環境衛生
第7回　児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題①
第8回　児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題②
第9回　児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題③
第10回　児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題④
第11回　児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題⑤
第12回　学校保健組織活動と学校安全
第13回　応急手当、食育
第14回　学校保健の今日的課題と展望（課題）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

学校保健ハンドブック第6次改訂
著者:　教員養成系大学保健協議会
出版社:　ぎょうせい
出版年:　2014　　ISBN:　4-324-09800-4

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）	小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ 10% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**養護概説**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　佐藤 浩子

テーマ

学校教育及び学校保健活動における養護教諭の役割と、専門性を理解する。

授業の到達目標

学校教育及び学校保健活動における養護教諭の役割を理解し、養護教諭としての基礎的な知識と技術について学び、専門職としての能力を習得する。

授業の概要

保健室実践を通してより深く具体的に理解し、保健指導演習を行い養護教諭としての資質と力量を高める。

準備学習（予習・復習）

子どもの健康情報を収集し、子どもの健康課題を考えておくこと。それを保健指導演習に生かす。

内　容

第1回　養護の概念と、養護の目的機能
第2回　養護教諭の専門性と、専門職化の過程
第3回　養護教諭と保健室・保健室機能
第4回　養護活動の展開・来室児童生徒への対応
第5回　養護活動の方法・健康実態の把握と支援
第6回　教育としての健康診断①
第7回　教育としての健康診断②
第8回　保健指導演習
第9回　養護活動の方法・健康実態の把握と支援(健康管理)
第10回　健康問題に応じた養護活動(内科的な訴えを持つ子ども)
第11回　健康問題に応じた養護活動(外科的な訴えを持つ子ども)
第12回　健康問題に応じた養護活動(慢性疾患を抱えた子ども)
第13回　健康問題に応じた養護活動(心の問題を抱えた子ども)
第14回　学校の特性に応じた養護活動・研究活動の意義
第15回　レポート作成・まとめ

履修上の注意点

養護教諭免許状取得のための必須科目であるため、教育的観点を踏まえて学ぶこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

教育としての学校保健
著者:　数見隆生
出版社:　青木書店
出版年:　　ISBN:

養護教諭の役割と教育実践
著者:　宍戸洲美
出版社:　学事出版
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 35 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 45 ）
授業中課題35%・・・レポート・課題提出授業中発表20%・・・グループワークと演習参加度45%

2016 Syllabus

科 目 名　**精神保健**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　國松　典子	

テーマ

学校における精神保健的問題への対しかた

授業の到達目標

・特に学童期や思春期にみられる精神保健的諸問題についての知識を得る。・養護教育に関わる心理学的視点をもち、相談的対応の心得を身につける。

授業の概要

心の発達について知り、特に学童期や思春期において生じやすい精神保健的問題を取り上げて講義する。事例をとおして考え、受講生同士の意見を共有する。児童・生徒や保護者への相談的対応を学び、養護教諭としてのアイデンティティをそなえる機会としたい。

準備学習（予習・復習）

授業で紹介した資料や参考書を積極的に読み、内容について関心を深めること。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　心の発達1　：　乳～幼児期
第3回　心の発達2　：　学童期～思春期
第4回　心の発達3　：　思春期～青年期
第5回　相談的対応の心得1　：　養護教諭として
第6回　相談的対応の心得2　：　カウンセリングの基本
第7回　相談的対応の心得3　：　保健室での実際
第8回　学校で関わる精神保健的問題1　：　緘黙／抜毛
第9回　学校で関わる精神保健的問題2　：　神経症／うつ病／統合失調症
第10回　学校で関わる精神保健的問題3　：　自傷行為／摂食障害
第11回　学校で関わる精神保健的問題4　：　いじめ／虐待／PTSD
第12回　学校で関わる精神保健的問題5　：　発達障害
第13回　学校で関わる精神保健的問題6　：　不登校
第14回　補足
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

養護教諭の相談的対応[3版]
著者:　養護教諭の相談を学ぶ会
出版社:　学事出版
出版年:　1997　　ISBN:

心をみつめる養護教諭たち
著者:　カウンセリング研究会
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2012　　ISBN:

保健室と養護教諭
著者:　教育科学研究会
出版社:　国土社
出版年:　2008　　ISBN:

a70102d450

養護教諭の健康相談ハンドブック
著者:　森田光子
出版社: 東山書房
出版年: 2010　ISBN:

看護のための精神医学[2版]
著者:　中井久夫・山口直彦
出版社: 医学書院
出版年: 2004　ISBN:

少年期の心
著者:　山中康裕
出版社: 中公新書
出版年: 1978　ISBN:

発達障害の豊かな世界
著者:　杉山登志郎
出版社: 日本評論社
出版年: 2000　ISBN:

カウンセリングを語る(上)(下)
著者:　河井隼雄
出版社: 講談社＋α文庫
出版年: 1999　ISBN:

不登校
著者:　田嶌誠一
出版社: 金剛出版
出版年: 2010　ISBN:

成績評価

試験 （ 50% ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 20% ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ 30% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習 I**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　中島　登美子

テーマ

授業の到達目標

1.看護における研究の意義を理解する2.看護研究のプロセスを知る3.文献検討の意義と方法を理解し、自ら必要な文献が収集できる4.研究デザインと研究方法について知る5.データの収集と分析方法を知る6.研究計画書の意義と立案について知る7.研究論文の書き方を知る8.研究における倫理を知る

授業の概要

看護研究に必要な基本的知識を理解する

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　看護における研究の意義
第2回　看護研究のプロセス
第3回　研究における倫理
第4回　研究の問い
第5回　文献検索と文献検討
第6回　研究デザイン･研究方法（1）　概念枠組み
第7回　研究デザイン･研究方法 実態調査研究
第8回　研究デザイン･研究方法　介入研究
第9回　研究デザイン･研究方法　分析
第10回　研究結果の記載と考察
第11回　研究デザイン･研究方法（2）　質的研究
第12回　グラウンデッドセオリーの概要
第13回　エスノグラフィー、現象学的研究法の概要
第14回　質的研究のまとめ方
第15回　研究成果の発表

履修上の注意点

教科書

看護における研究
著者:　南裕子編
出版社:　日本看護協会出版会
出版年:　2016　　ISBN:　9784818013643

参考書

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ ）
参加度　（ 20 ）
出席 2/3以上の参加がない場合、単位認定をしない

2016 Syllabus

科 目 名　**看護管理学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阿部　祝子	

テーマ

看護管理の基礎概念と患者中心志向の医療における看護サービスのマネジメントを学ぶ。

授業の到達目標

1. マネジメント及び看護におけるマネジメントの主要概念を理解する. 2. 看護におけるマネジメントに必要な理論的知識体系を理解する. 3. 医療施設の看護におけるマネジメントの実際を理解する. 4. 患者中心志向医療における看護職の役割を理解する.

授業の概要

本講は、看護管理の基礎的知識および21世紀に期待される患者中心志向の医療における看護サービスのマネジメントについて理解することを意図している。授業内容は、近代看護における看護管理の発想はF。ナイチンゲールの看護の概念･方法論にあることを認識した上で、「看護管理」についての基礎知識を概説する。これらを論拠として、医療施設におけるケアのマネジメントと看護サービスのマネジメントの実際、患者中心志向の医療サービス提供体制や運営にかかわる看護職・看護管理者のあり方を、資料・映像学習、課題学習によって学習する。

準備学習（予習・復習）

・専門用語, 定義, 概念が多いため,「授業の計画」に沿って, テキストの該当箇所を読み, 講義に臨む. ・受講後は, 臨地実習や社会生活における自身の経験と結び付けて, 理解するよう努める.

内　　容

第1回　看護管理学とは何か、なぜ看護管理学を学ぶのか
第2回　看護におけるマネジメント1（管理におけるマネジメントとその変遷）
第3回　看護におけるマネジメント2（マネジメントが行われる場）
第4回　ケアのマネジメント（看護職の機能、患者の権利）
第5回　看護業務実践の基本的なしくみ1（組織とは何か）
第6回　看護業務実践の基本的なしくみ2（看護職との協働、他職種との協働）
第7回　看護サービスのマネジメント1（組織の有効な維持、運営、変革）
第8回　看護サービスのマネジメント2（人材の育成と活用）
第9回　看護サービスのマネジメント3（安全管理、情報管理と医療情報システム）
第10回　看護をとりまく諸制度1（看護職と法制度）
第11回　看護をとりまく諸制度2（看護実践の領域、医療制度）
第12回　マネジメントに必要な知識と技術（リーダーシップとマネジメント、組織・個人の調整）
第13回　医療サービスと看護職の役割1（患者本位の医療における看護職の役割拡大）
第14回　医療サービスと看護職の役割2（医療施設における環境と建築設備）
第15回　医療サービスにおける看護サービスマネジメントの展望

履修上の注意点

・看護, 医療, 福祉に関する動向について, ホームページや新聞等のメディアを活用して, 厚生労働省や日本看護協会などが発信する情報から把握する. ・新聞や他のメディアを活用し, 日本や世界の経済, 経営の動きをキャッチする.

教科書

系統看護学講座統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理　第8版
著者:　上泉和子他著
出版社:　医学書院
出版年:　2007年　　ISBN:　978-4260001748

参考書

看護管理学
著者:　手島　恵
出版社:　南江堂
出版年:　2013年　　ISBN:　978-4524250073

系統看護学講座統合分野 看護の統合と実践[2] 医療安全　第2版
著者:　川村治子著
出版社:　医学書院
出版年:　2011年　　ISBN:　978-4260007535

a70103a210

系統看護学講座別巻 看護情報学

著者: 中山和弘他著

出版社: 医学書院

出版年: 2012年　　ISBN: 4260013602

看護法令要覧<平成25年版>

著者: 門脇豊子他編

出版社: 日本看護協会出版会

出版年: 2013年　　ISBN: 4818017000

成績評価

試験 (80)　　小テスト ( )

授業中課題 (10)　　授業中発表等 ( )

参加度 (10)

新聞や他メディアで報道される保健医療福祉に関係する政治や政策などに関心を持ち，それらについて考えてみるよう，心がける.

2016 Syllabus

科 目 名　**看護教育学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阿部　祝子.梶谷　佳子	

テーマ

授業の到達目標

1.看護の対象への教育的支援について理解する。2.看護教育について理解する。

授業の概要

看護教育の歴史、看護の教育的機能、授業の構造化や教授学習過程について学ぶ。また、集団を対象とした教育方法や集団力学を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション、授業の進め方、看護の教育的機能
第2回　教育に関連する概念や定義（学習、教育、指導等）
第3回　看護の対象への教育
第4回　患者教育のプロセス
第5回　グループ学習①－グループ編成、課題設定
第6回　グループ学習②－授業案の作成
第7回　グループ学習③－教育方法の検討、教材作成
第8回　グループ学習④－授業評価の媒体の作成
第9回　グループ学習⑤－模擬授業の準備
第10回　模擬授業と評価①
第11回　模擬授業と評価②
第12回　模擬授業と評価③
第13回　看護教育の発達と看護教育制度
第14回　キャリア開発と看護継続教育
第15回　まとめ

履修上の注意点

模擬授業の教育内容等については、図書室で学習してください。

教科書

特に指定しない.
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

看護教育学
著者:　グレッグ美鈴, 池西悦子
出版社:　南江堂
出版年:　2009年　　ISBN:　978-4524250493

看護教育における授業設計 第4版
著者:　佐藤みつ子, 宇佐美千恵子, 青木康子
出版社:　医学書院
出版年:　2009年　　ISBN:　978-4260008402

患者教育のポイント　アセスメントから評価まで
著者:　Barbara McVan（武山満智子訳）
出版社:　医学書院
出版年:　1990年　　ISBN:　978-4260340199

a70103a310

ナースのための患者教育と健康教育

著者:　A. Graham／Carol J. Gleit／Marlyn Duncan Boyd(安酸史子監訳)

出版社: 医学書院

出版年: 1996年　　ISBN:　978-4260342094

成績評価

試験 （ 30 ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護学Ⅲ－1**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　松本　賢哉.天野　博夫.伊藤　恵美子.奥野　信行.神崎　光子.喜多　伸幸.鈴木　要子.野島　敬祐.堀　妙子.マルティネス　真喜子.村上　節.望月　紀子

テーマ

授業の到達目標

1.健康破綻をもたらす病態や疾患とその治療を理解する2.ライフサイクルを踏まえ、さまざまな健康課題と健康レベルについて理解する3.健康に影響する生活環境の把握と健康な環境づくりについて理解する

授業の概要

さまざまな健康課題をもつ対象とその家族、多様な看護の場における、人によりそう看護に必要な病態・治療についてライフサイクルを踏まえて理解する

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　がんとは　がんの予防と検査
第2回　手術療法①　がん事例を中心に
第3回　手術療法②　がん事例を中心に
第4回　放射線療法・化学療法　がん事例を中心に
第5回　悪性腫瘍をもつ小児の看護　白血病
第6回　消化・吸収障害とは　肝・移植
第7回　糖代謝障害とは　糖尿病を中心に
第8回　内分泌疾患をもつ小児の看護　糖尿病
第9回　排泄機能障害とは　腎疾患を中心に
第10回　循環機能障害とは　心疾患を中心に
第11回　呼吸機能障害とは　呼吸器疾患を中心に
第12回　呼吸機能障害をもつ高齢者の看護
第13回　小児によくみられる腎・呼吸器疾患と治療　ネフローゼ・喘息
第14回　運動機能障害とは　脳神経系疾患を中心に
第15回　小児によくみられる循環器・筋・骨疾患と治療
第16回　泌尿器系の障害をもつ高齢者の看護
第17回　感覚器系の障害をもつ 高齢者の看護
第18回　感染症とは
第19回　感染症の小児の看護
第20回　認知症の診断と治療①
第21回　認知症の診断と治療②
第22回　高齢者の薬物療法
第23回　統合失調症患者の特徴と治療
第24回　気分障害患者の特徴と治療
第25回　アルコール依存症患者の特徴と治療
第26回　薬物療法、心理社会療法
第27回　生殖生理
第28回　周産期の診断と検査
第29回　地区診断①
第30回　地区診断②なお、外部講師を招いて講演会を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ
著者:　武井麻子
出版社:　医学書院
出版年:　　ISBN:
老年看護学 概論と看護の実践 第4版
著者:　奥野茂代
出版社:　ヌーヴェルヒロカワ
出版年:　　ISBN:

a70103a410

糖尿病食事療法のための食品交換表　第7版
著者:　日本糖尿病学会
出版社: 日本糖尿病協会
出版年:　ISBN:
これからの精神看護学
著者:　森千鶴
出版社: ピラール
出版年: 2015　ISBN:　4861941113
系統看護学講座　専門分野Ⅱ小児看護学[2]小児臨床看護各論
著者:　奈良間美保
出版社: 医学書院
出版年:　ISBN:
系統看護学講座　別巻　臨床外科看護学　第8版
著者:　北島政樹
出版社: 医学書院
出版年:　ISBN:
成人看護学　慢性期看護
著者:　鈴木久美
出版社: 南江堂
出版年:　ISBN:
参考書

成績評価

試験 （ 70 ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護学演習Ⅲ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　松本　賢哉.伊藤　恵美子.奥野　信行.河原　宣子.工藤　里香.鈴木　要子.常田　裕子.野島　敬祐.堀　妙子.マルティネス　真喜子.深山　つかさ.望月　紀子

テーマ

授業の到達目標

1.ライフサイクルを踏まえ、さまざまな健康課題と看護（助産・公衆衛生看護含む）の場に応じたアセスメントの方法について理解できる。2.ライフサイクルを踏まえ、さまざまな健康課題と看護（助産・公衆衛生看護含む）の場に応じた看護技術を修得することができる。3.がん看護、精神看護、地域看護、老年看護、小児看護、母性看護、慢性疾患看護、急性・重症患者看護、感染症看護、家族支援看護、助産、公衆衛生看護等のさまざまな看護の場における看護活動と専門性を理解する。

授業の概要

実践看護学Ⅲ-2と対応しながら、さまざまな看護（助産・公衆衛生看護含む）の対象とその家族、多様な看護の場において必要な看護技術とその適用方法についてライフサイクルを踏まえて学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　新生児期のアセスメントと看護②
第2回　低出生体重児の看護技術
第3回　統合失調症患者の地域生活支援
第4回　周産期の看護技術(実技演習：妊婦と褥婦のﾌｨｼﾞｶﾙ系)
第5回　周産期の看護技術(実技演習:新生児と授乳系)
第6回　周産期の看護技術(実技演習:新生児と授乳系)
第7回　感染看護　在宅・臨床看護演習
第8回　精神障害をもつ人の地域生活支援の実際①
第9回　入院によりADLが低下した高齢者の看護事例演習①
第10回　入院によりADLが低下した高齢者の看護事例演習②
第11回　排泄経路を変更した人への看護
第12回　在宅・臨床看護演習①（保健統計からみた地域の理解）
第13回　在宅・臨床看護演習②（保健統計からみた地域の理解）
第14回　在宅・臨床看護演習③（保健統計からみた地域の理解）
第15回　小児に特有の看護技術
第16回　小児の権利を守るための看護技術
第17回　小児に特有の症状に対する看護
第18回　がんの終末期の看護
第19回　入院によりADLが低下した高齢者の看護事例演習③
第20回　入院によりADLが低下した高齢者の看護事例演習④
第21回　在宅・臨床看護演習④（地域における健康課題と家族看護過程）
第22回　在宅・臨床看護演習⑤（地域における健康課題と家族看護過程）
第23回　在宅・臨床看護演習⑥（地域における健康課題と家族看護過程）
第24回　小児の終末期の看護
第25回　看取りと看護①
第26回　看取りと看護②
第27回　精神障害をもつ人の地域生活支援の実際②
第28回　在宅・臨床看護演習⑦（地域における看護活動の実際）
第29回　在宅・臨床看護演習⑧（地域における看護活動の実際）
第30回　在宅・臨床看護演習⑨（地域における看護活動の実際）なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 70 ）　　小テスト（　）

a70103a610

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （30）

2016 Syllabus

科 目 名　**看護倫理Ⅰ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　植村　由美子	

テーマ

授業の到達目標

1.看護倫理の重要概念であるケアリング、アドボカシー等について概念的実践的に説明できる。2.看護の場における看護職としての倫理的判断を導く原則や綱領を説明できる。3.患者の権利を尊重し、擁護するアドボケイトとしての看護の役割を説明できる。4.看護の場における倫理問題とその解決の道筋を説明できる。

授業の概要

看護は社会制度・政策の枠内で、さらには実践現場の様々な制約のなかで提供されるものでもあるため、看護者が対象者の「求めに応じる」のは、思いの外難しく、看護者に期待される対象者の権利擁護の役割を果たしていくには、明確な倫理観が求められる。看護者の第三者的立場ではなく、当事者性（つまり、責任感）の獲得を目指す。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　看護倫理とは 看護実践と看護倫理 看護専門職と看護倫理 医療(生命)倫理と看護倫理(理原則･ケアリングの倫理)レポート提出「実習で体験した倫理問題」A4版1枚程度(1000字～1200字程度）＊これまでの実習のなかで、「患者さんの権利が損なわれているのでは」「これでは患者さんが気の毒だ」と感じたできごと、患者の背景情報や自分はその時どうしたかも、含めて記述すること＊２部作成し、１部提出、１部は手元に
第2回　患者の権利(リスボン宣言）看護者の倫理綱領(日本看護協会）倫理的問題分析と解決への道筋
第3回　看護倫理ワークショップ
第4回　〃
第5回　〃
第6回　全体発表グループワークの成果発表 質疑応答 コメント
第7回　〃
第8回　まとめ権利擁護者としての看護師の役割

履修上の注意点

教科書

看護者の基本的責務―定義・概念／基本法／倫理（新版）
著者:　日本看護協会編
出版社:　日本看護協会出版会
出版年:　2006　　ISBN:　978-4818012516

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
事前課題レポート(個人点）　１０点グループワーク発表(グループ点）２０点グループワーク貢献(相互評価点）１０点最終レポート　６０点「事前課題事例に関する、倫理的問題の分析と解決のためにとる行動」タイトルを考え、表紙をつけること／A4版 １～２枚（1400字～2000字程度）　ワープロ使用のこと

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅴ（看護）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　松本　賢哉.伊藤　恵美子.常田　裕子.西村　美八.野島　敬祐.マルティネス　真喜子.深山　つかさ.望月　紀子

テーマ

授業の到達目標

1.さまざまな健康課題について、ライフサイクルと看護の場を踏まえてアセスメントすることができる2.自らの学習上の課題を見出し、解決方法を考えて取り組むことができる

授業の概要

2回生までの学びを踏まえて、実践看護学実習に向けて事例検討を行い、自らの課題を明確化する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　妊婦事例看護過程演習
第2回　産褥・新生児期事例の看護過程演習①
第3回　産褥・新生児期事例の看護過程演習②
第4回　健康障害をもつ高齢者と家族の事例展開①
第5回　健康障害をもつ高齢者と家族の事例展開②
第6回　健康障害をもつ高齢者と家族の事例展開③
第7回　精神障がいをもつ人と家族の事例展開①
第8回　精神障がいをもつ人と家族の事例展開②
第9回　精神障がいをもつ人と家族の事例展開③
第10回　地区活動計画と評価①
第11回　地区活動計画と評価②
第12回　地区活動計画と評価③
第13回　地区活動計画と評価④
第14回　地区活動計画と評価⑤
第15回　地区活動計画と評価⑥

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**看護管理学ⅡA**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阿部　祝子	

テーマ

医療の場における看護マネジメントの実際

授業の到達目標

1. 医療の場における看護マネジメントの実際を学ぶ. 2.看護マネジメントにかかわる諸理論, 技法, 政策を理解する. 3.経営参画者として, 組織・チームの一員としての看護職者の役割を理解する.

授業の概要

本講は, 看護管理学Ⅰでの学びを踏まえ, 看護職者として医療チームの一員として, 身近な看護マネジメントのテーマを設定し, それにかかわる諸理論, 技法, 政策等を理解する. これらにより, 医療の場における看護マネジメントの実際を多様な側面から学び, 看護サービスのあり方や医療経営への参画者として, また組織・チームの一員としての看護職者の役割について学習する.

準備学習（予習・復習）

・看護管理学Ⅰでの学習内容(看護におけるマネジメント, 看護をとりまく諸制度)について復習し, 本講に臨む. ・グループごとのテーマに沿って, 各メンバーが必要な事前学習を行う.

内　　容

第1回　オリエンテーション(学習目標, 授業の進め方)テーマの設定とグループ編成
第2回　グループごとにテーマに基づく文献検索, グループ学習①
第3回　グループごとにテーマに基づく文献検索, グループ学習②
第4回　グループごとにテーマに基づく文献検索, グループ学習③
第5回　グループごとにテーマに基づく文献検索, グループ学習④
第6回　グループごとにプレゼンテーション準備①
第7回　グループごとにプレゼンテーション準備②
第8回　学習成果のプレゼンテーション, 討議①
第9回　学習成果のプレゼンテーション, 討議②
第10回　学習成果のプレゼンテーション, 討議③
第11回　学習成果のプレゼンテーション, 討議④
第12回　学習成果のプレゼンテーション, 討議⑤
第13回　学習成果のプレゼンテーション, 討議⑥
第14回　看護実践とマネジメント
第15回　まとめ

履修上の注意点

・学びたいテーマを自ら提案する姿勢を持つ. ・医療, 看護マネジメントに関する動向について, 先行研究, 文献のほか, ホームページ, 新聞等のメディアを活用しキャッチする.

教科書

特に指定しない.

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ 20% ）
グループ学習における課題への取り組み, 参加の度合, 発表, レポートにより総合的に評価する.

2016 Syllabus

科 目 名　**看護管理学ⅡB**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期集中	定　　員　10
履修条件	クラス指定
担 当 者　神﨑 光子	

テーマ

助産実践のケア環境とチーム体制整備に関する看護実践能力を養う

授業の到達目標

1　日本および世界の母子保健の動向における助産のあり方を理解できる2　我が国の母子保健制度と施策および助産業務を理解できる3　施設における助産業務と地域母子保健の連携を理解できる4　助産サービスの質の管理および改善の取り組みについて理解できる5　周産期における医療の安全とリスクマネージメントの方法を理解できる6　病院、診療所、助産所における助産管理の実際を理解できる

授業の概要

講義およびグループワーク

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　助産師の定義と業務・役割
第2回　助産の歴史と助産師教育
第3回　助産師が行うケアを支える理論
第4回　助産実践の倫理
第5回　女性と子ども、家族の健康と人権
第6回　日本の母子保健の動向
第7回　世界の母子保健の動向
第8回　わが国の母子保健制度と関連法
第9回　保健師助産師看護師法とその他の助産師関連法
第10回　周産期における質と安全の保証
第11回　周産期におけるリスクマネージメント
第12回　助産業務管理と地域母子保健
第13回　院内助産システム
第14回　助産サービスの質管理－病院･診療所
第15回　助産サービスの質管理－助産所
第16回　テスト

履修上の注意点

教科書

助産師基礎教育テキスト1　2016年版　助産概論
著者:　山本あい子他
出版社:　日本看護協会出版会
出版年:　　ISBN:

助産師基礎教育テキスト3　2016年版　周産期における医療の質と安全
著者:　成田伸
出版社:　日本看護協会出版会
出版年:　　ISBN:

助産師基礎教育テキスト2　2016年版女性の健康とケア
著者:　吉沢豊予子
出版社:　日本看護協会出版会
出版年:　　ISBN:

新版助産師業務要覧Ⅰ
著者:　福井トシ子他
出版社:　日本看護協会出版会
出版年:　　ISBN:

a70103d210

新版助産師業務要覧Ⅱ

著者:　福井トシ子他

出版社: 日本看護協会出版会

出版年:　　ISBN:

参考書

国民衛生の動向

著者:

出版社:

出版年: 2015　　ISBN:

成績評価

試験 （ 80 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

全回出席を原則とする

2016 Syllabus

科 目 名　**国際看護学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　常田　裕子.河原　宣子.竹下　夏美.マルティネス　真喜子	

テーマ

1）研修をとおして国際看護・国際保健および国際協力の実際を知り，その重要性について理解することができる．2）国際看護Ⅱの講義・研修全体をふまえて，多文化共生社会における看護師の役割について　自分の意見を述べることができる．

授業の到達目標

1）多文化共生社会における看護活動の展開方法について理解することができる．2）海外研修をとおして国際看護・国際保健および国際協力の実際を知り，その重要性について理解することができる．3）多文化共生社会における看護職の役割について自分なりの意見を述べることができる．

授業の概要

受講者全員が協力しながら下記に関する内容について、主体的に事前学習を進め、中間発表による情報共有及び意見交換を通して海外研修における学びにつなげる。1)オーストラリアの文化、2)オーストラリアの保健，医療，福祉、3)病院，ナーシングホーム，高齢者施設，レスパイトセンター等の保健・医療・福祉機関、4)オーストラリアの看護、5)英会話等

準備学習（予習・復習）

本講義を通して学びを深めたいテーマについて各自考えた上で、初回授業に臨んでください。また授業概要に記載されている1）～3）について具体的にどのような内容を調べる必要があるか考えてきてください。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　事前学習（1）
第3回　事前学習（2）
第4回　中間発表会（1）
第5回　中間発表会（2）
第6回　海外研修（1）
第7回　海外研修（2）
第8回　海外研修（3）
第9回　海外研修（4）
第10回　海外研修（5）
第11回　海外研修（6）
第12回　海外研修（7）
第13回　海外研修（8）
第14回　最終発表会（1）
第15回　最終発表会（2）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**ヘルスケアシステムⅢ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　富永　真己.西村　美八	

テーマ

公衆衛生看護の支援技術と地域看護管理と公衆衛生看護活動の理論と実践について学ぶ。

授業の到達目標

1.公衆衛生看護活動の基本となる、個人・家族・集団・組織・地域を対象とした活動の方法論と、具体的な支援技術について理解する。2.地区踏査や地域診断を通して地域に顕在・潜在する健康課題を導き出すと同時に、その課題に対し住民とのパートナーシップのもと、効果的な介入の展開方法について理解を深める。3.地方行政における人的管理・人材確保など公衆衛生看護管理について説明できる。4.地域におけるヘルスケアシステムづくりの方法と実際について、理解できる。

授業の概要

ヘルスケアシステムⅠ・ヘルスケアシステムⅡを踏まえ、地域における個人・家族・集団・組織・地域を対象とした公衆衛生看護活動の理論と実践についての理解を深める。

準備学習（予習・復習）

予習：ヘルスケアシステムⅡで行った地域診断の内容を復習すると同時に、行った課題の提出物をさらに充実させ持参して、初回の授業に臨むこと。復習：各授業で学んだ内容の要点を整理する。

内　　容

第1回　健康管理体制と支援技術①（各種健診）
第2回　健康管理体制と支援技術②（保健指導：個別保健指導）
第3回　健康管理体制と支援技術③（保健指導：個別・集団保健指導）
第4回　健康管理体制と支援技術④（健康相談）
第5回　健康管理体制と支援技術⑤（家庭訪問：乳幼児）
第6回　健康管理体制と支援技術⑥（家庭訪問：乳幼児）
第7回　健康管理体制と支援技術⑦（家庭訪問：結核）
第8回　健康管理体制と支援技術⑧（家庭訪問：結核）
第9回　地区踏査①
第10回　地区踏査②
第11回　地区踏査③
第12回　地区踏査④
第13回　地区踏査⑤
第14回　地区踏査の発表とまとめ
第15回　地域におけるグループ活動
第16回　地区組織活動とヘルスケアシステム
第17回　地域診断①（地域別・対象別の情報収集）
第18回　地域診断②（地域別・対象別の情報収集）
第19回　地域診断③（地域別・対象別の情報収集）
第20回　地域診断④（地域別・対象別の情報収集）
第21回　地域診断⑤（地域別・対象別のアセスメント）
第22回　地域診断⑥（地域別・対象別のアセスメント）
第23回　地域診断⑦（対象別健康課題の抽出：母子・成人・感染症）
第24回　地域診断⑧（対象別健康課題の抽出：母子・成人・感染症）
第25回　地域診断⑨（健康課題に基づく保健事業計画の立案）
第26回　地域診断⑩（健康課題に基づく保健事業計画の立案）
第27回　地域診断の発表とふりかえり
第28回　公衆衛生看護管理①（理論と方法）
第29回　公衆衛生看護管理②（組織・人材・社会資源・情報・予算）
第30回　まとめ

履修上の注意点

プライマリケア実習Ⅱにおいて行政（保健所・市町村）で臨地実習を予定する者は必ず履修すること。3分の2以上の出席を原則とする。遅刻と途中退席をしないこと。

教科書

公衆衛生看護学jp

著者：　荒賀直子・後閑容子編集

出版社：　インターメディカル

出版年：　　ISBN：

a70103d410

保健師業務要覧
著者:　井伊久美子他編集
出版社: 日本看護協会出版会
出版年:　ISBN:
国民衛生の動向2015/2016
著者:　一般財団法人厚生労働統計協会
出版社: 一般財団法人厚生労働統計協会
出版年:　ISBN:
参考書

成績評価

試験 （ 50 ）　小テスト（ 0 ）
授業中課題 （ 40 ）　授業中発表等（ 0 ）
参加度 （ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**助産診断学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　春期集中	定　　員　10
履修条件	クラス指定
担 当 者　　工藤　里香.神﨑　光子.常田　裕子	

テーマ

周産期看護を根拠に基づいて計画的に実践するための基礎的な助産診断力を養う

授業の到達目標

1．女性のライフサイクルにおけるウェルネスにもとづいた看護を考えることができる2．ライフサイクルにおける周産期の特徴を理解する3．周産期の健康の保持増進および異常の予防のために必要な知識を獲得する4．周産期の母児と家族の健康状態や健康課題・発達課題について、身体的・心理的・社会的側面から理解し、診断ができる5．個人の特性および地域の特性に応じたニーズを診断し、支援を考えることができる

授業の概要

1．リプロダクティブヘルス／リプロダクティブライツの概念を理解し、女性の健康について学ぶ2．周産期における母児とその家族の健康の保持増進と異常の予防・早期発見を目指して、ウェルネスの視点から助産診断を学ぶ

準備学習（予習・復習）

1．既修得の看護理論について説明できるようにしておくこと2．既修得の周産期看護に関連する知識の復習を行ってから授業に臨むこと

内　　容

第1回　オリエンテーション女性のライフサイクルとウェルネスにもとづいた看護（1）
第2回　女性のライフサイクルとウェルネスにもとづいた看護（2）
第3回　妊娠期の生理、診断
第4回　妊娠経過（1）
第5回　妊娠経過（2）
第6回　ハイリスク妊娠
第7回　妊娠経過に対応した看護（1）
第8回　妊娠経過に対応した看護（2）
第9回　妊娠経過に対応した看護（3）
第10回　妊娠経過に対応した看護（4）
第11回　分娩経過（1）
第12回　分娩経過（2）
第13回　分娩経過（3）
第14回　分娩期の助産診断と看護（1）
第15回　分娩期の助産診断と看護（2）
第16回　分娩期の異常のアセスメントと看護（1）
第17回　分娩期の異常のアセスメントと看護（2）
第18回　出生直後の新生児のアセスメントと看護
第19回　新生児の健康診査と子宮外適応のアセスメントと看護
第20回　新生児の異常のアセスメントと看護
第21回　産褥期の身体的変化とフィジカルアセスメント
第22回　バースレビュー、産褥期の心理変化
第23回　進行性変化と母乳育児支援
第24回　産褥期の異常のアセスメントと看護
第25回　産褥・新生児期の家族のアセスメントと看護
第26回　帝王切開術－分娩期・産褥期・新生児期のアセスメントと看護
第27回　不妊治療を受けている人子どもを失った人と家族への看護
第28回　一か月健診のアセスメントと看護
第29回　まとめ（1）
第30回　まとめ（2）

履修上の注意点

1．事前に指示された課題は必ず行ってから授業に臨むこと2．グループワークでは、メンバー全員で協力して課題に取り組むこと

教科書

助産師基礎教育テキスト5

著者：　町浦　美智子　他

出版社：　日本看護協会出版会

出版年：　2017　　ISBN：

a70103d550

参考書

助産師基礎教育テキスト4,6,7
著者:
出版社: 日本看護協会出版会
出版年: 2017　ISBN:

最新産科学　正常編　改訂第22版
著者:　荒木　勤
出版社: 文光堂
出版年: 2008　ISBN:

最新産科学　異常編　改訂第22版
著者:　荒木　勤
出版社: 文光堂
出版年: 2012　ISBN:

改訂2版 胎児心拍数モニタリング講座　大事なサインを見逃さない！
著者:　藤森 敬也
出版社: メディカ出版
出版年: 2011　ISBN:

新訂第3版　マタニティアセスメントガイド
著者:　吉沢 豊予子　他
出版社: 真興交易医書出版部
出版年: 2016　ISBN:

今日の助産−マタニティサイクルの助産診断・実践過程　第3版
著者:　北川　眞理子　他
出版社: 南江堂
出版年: 2013　ISBN:

成績評価

試験 （ 50% ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 20% ）
授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ 10% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**生徒指導論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　井ノ口　貴史	

テーマ

生徒指導の理論と実践を学ぶ

授業の到達目標

生徒指導の意義と必要性，生徒指導の領域と内容，生徒指導の組織と計画など概念上の理解を深めた上で，生徒指導の今日的課題について具体的に学校現場で一般的に見られる生徒指導のあり方を事例を通して学ぶことを目的とする。

授業の概要

生徒指導上、学校現場で養護教諭に期待される役割、学級担任のクラス経営の事例、生徒会指導についてを学ぶ。

準備学習（予習・復習）

新聞やテレビで報道される教育問題について関心を持って切り抜きなどを行う。また、講義テーマについての関連図書を読み込むこと。

内　容

第1回　生徒指導の領域と内容 ― いわゆる「教育困難校」の一日
第2回　生徒指導の意義 ― 校務分掌と組織（生徒指導体制は？）
第3回　生徒指導の方法 ― ゼロ・トレランス方式を考える
第4回　グループ討議：ゼロ・トレランス方式に賛成か反対か？
第5回　養護教諭の一日 ― 養護教諭が生徒指導に果たす役割を考えてみよう
第6回　グループ討議：養護教諭は生徒指導場面でどのような役割を果たせるだろか？
第7回　養護教諭の立場から、学校現場の生徒指導の在り方を考える
第8回　グループ討議：いじめや不登校に対する指導を手がかりにして養護教諭の役割を考えよう
第9回　生徒指導提要を読む：学級担任・ホームルーム担任の指導
第10回　生徒指導提要を読む：特別活動における生徒指導
第11回　グループ討議：生徒を取り巻く社会と現実を考える
第12回　生徒指導提要を読む：個別の課題を抱える児童生徒の指導（喫煙・飲酒・薬物乱用）
第13回　生徒指導提要を読む：個別の課題を抱える児童生徒の指導（性に関する課題）
第14回　子どもの学校参加 ― 問題行動（授業妨害や校則違反、いじめや暴力行為）を克服するための試み
第15回　ケーススタディ ― 摂食障害の生徒とその保護者、学級担任に対し、どのようなアドバイスをするべきか？

履修上の注意点

教科書

生徒指導提要
著者：　文部科学省
出版社：教育図書
出版年：平成25年　　ISBN：

参考書

授業内で紹介する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験 （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 60 ）	授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**看護管理学Ⅱ <Za>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

医療の場における看護マネジメントの実際

授業の到達目標

1. 医療の場における看護マネジメントの実際を学ぶ. 2.看護マネジメントにかかわる諸理論，技法，政策を理解する. 3.経営参画者として，組織・チームの一員としての看護職者の役割を理解する.

授業の概要

本講は，看護管理学Ⅰでの学びを踏まえ，看護職者として医療チームの一員として，身近な看護マネジメントのテーマを設定し，それにかかわる諸理論，技法，政策等を理解する. これらにより，医療の場における看護マネジメントの実際を多様な側面から学び，看護サービスのあり方や医療経営への参画者として，また組織・チームの一員としての看護職者の役割について学習する.

準備学習（予習・復習）

・看護管理学Ⅰでの学習内容(看護におけるマネジメント，看護をとりまく諸制度)について復習し，本講に臨む. ・グループごとのテーマに沿って，各メンバーが必要な事前学習を行う.

内　容

第1回　オリエンテーション(学習目標，授業の進め方)テーマの設定とグループ編成
第2回　グループごとにテーマに基づく文献検索，グループ学習①
第3回　グループごとにテーマに基づく文献検索，グループ学習②
第4回　グループごとにテーマに基づく文献検索，グループ学習③
第5回　グループごとにテーマに基づく文献検索，グループ学習④
第6回　グループごとにプレゼンテーション準備①
第7回　グループごとにプレゼンテーション準備②
第8回　学習成果のプレゼンテーション，討議①
第9回　学習成果のプレゼンテーション，討議②
第10回　学習成果のプレゼンテーション，討議③
第11回　学習成果のプレゼンテーション，討議④
第12回　学習成果のプレゼンテーション，討議⑤
第13回　学習成果のプレゼンテーション，討議⑥
第14回　看護実践とマネジメント
第15回　まとめ

履修上の注意点

・学びたいテーマを自ら提案する姿勢を持つ. ・医療，看護マネジメントに関する動向について，先行研究，文献のほか，ホームページ，新聞等のメディアを活用しキャッチする.

教科書

特に指定しない.

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ 20% ）
グループ学習における課題への取り組み，参加の度合，発表，レポートにより総合的に評価する.

2016 Syllabus

科 目 名　**看護管理学Ⅱ <Zb>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　その他	定　　員　10
履修条件	クラス指定

担 当 者　（閉講：開⇒閉）

テーマ

助産実践のケア環境とチーム体制整備に関する看護実践能力を養う

授業の到達目標

1　日本および世界の母子保健の動向における助産のあり方を理解できる2　我が国の母子保健制度と施策および助産業務を理解できる3　施設における助産業務と地域母子保健の連携を理解できる4　助産サービスの質の管理および改善の取り組みについて理解できる5　周産期における医療の安全とリスクマネージメントの方法を理解できる6　病院、診療所、助産所における助産管理の実際を理解できる

授業の概要

講義およびグループワーク

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　助産師の定義と業務・役割
第2回　助産の歴史と助産師教育
第3回　助産師が行うケアを支える理論
第4回　助産実践の倫理
第5回　女性と子ども、家族の健康と人権
第6回　日本の母子保健の動向
第7回　世界の母子保健の動向
第8回　わが国の母子保健制度と関連法
第9回　保健師助産師看護師法とその他の助産師関連法
第10回　周産期における質と安全の保証
第11回　周産期におけるリスクマネージメント
第12回　助産業務管理と地域母子保健
第13回　院内助産システム
第14回　助産サービスの質管理－病院･診療所
第15回　助産サービスの質管理－助産所
第16回　テスト

履修上の注意点

教科書

助産師基礎教育テキスト1　2016年版　助産概論
著者：　山本あい子他
出版社：日本看護協会出版会
出版年：　　ISBN：

助産師基礎教育テキスト3　2016年版　周産期における医療の質と安全
著者：　成田伸
出版社：日本看護協会出版会
出版年：　　ISBN：

助産師基礎教育テキスト2　2016年版女性の健康とケア
著者：　吉沢豊予子
出版社：日本看護協会出版会
出版年：　　ISBN：

新版助産師業務要覧Ⅰ
著者：　福井トシ子他
出版社：日本看護協会出版会
出版年：　　ISBN：

a701043112

新版助産師業務要覧Ⅱ

著者:　福井トシ子他

出版社: 日本看護協会出版会

出版年:　　ISBN:

参考書

国民衛生の動向

著者:

出版社:

出版年: 2015　　ISBN:

成績評価

試験 （ 80 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

全回出席を原則とする

2016 Syllabus

科 目 名　**看護学原論Ⅱ**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　梶谷　佳子.小板橋　喜久代	

テーマ

授業の到達目標

1.保健医療福祉における看護の機能と看護活動のあり方について説明できる。2.社会政策やの変革の方向を理解し、看護を発展させていくことの重要性を説明できる。3.専門職としてのキャリア発達の過程や生涯学習の意義について説明できる。4.専門職としての自己学習、自己教育力の意義を説明できる。5.看護職の発展の方向性について自分なりの意見を説明できる。

授業の概要

卒業を控え、4年間の学習の振り返り、看護の専門性と機能・役割を再考する。看護専門職としての社会における役割を認識し、社会に出た後も自ら発展できる能力を養う素地を培う。そのために、看護を取り巻く社会や政策、自己の研鑽の必要性を確認し、また、看護の対象である人々の声に耳を傾け、看護職者に求められる使命を追究する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　看護における法的側面1
第2回　看護における法的側面2
第3回　社会政策と看護政策
第4回　専門職としての看護組織（京都府看護協会ゲストスピーカー）
第5回　薬害被害について（ゲストスピーカー）
第6回　患者の立場から考える医療（ゲストスピーカー）
第7回　21世紀に求められる看護
第8回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 60 ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等　（ ）
参加度　（ ）	

グループディスカッション、事前学習等を鑑みて総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　梶谷　佳子	

テーマ

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　講義：卒業研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a70104a350

参加度 （ ）

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　植村　由美子	

テーマ

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　講義：卒業研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a70104a352

参加度 （ ）

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中橋　苗代	

テーマ

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　講義：卒業研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a70104a353

参加度 （ ）

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河原　宣子	

テーマ

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　講義：卒業研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a70104a354

参加度 （ ）

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　奥野 信行	

テーマ

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　講義：卒業研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a70104a355

参加度 （ ）

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ＜＊f＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　野島　敬祐	

テーマ

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　講義：卒業研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a70104a356

参加度 （ ）

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊g〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　マルティネス　真喜子	

テーマ

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　講義：卒業研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a70104a357

参加度 （ ）

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ＜＊h＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　通年集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　阿部　祝子

テーマ

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　講義：卒業研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

a70104a358

参加度 （ ）

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ＜＊i＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　望月　紀子	

テーマ

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　講義：卒業研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a70104a359

参加度 （ ）

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ＜＊j＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　深山　つかさ	

テーマ

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　講義：卒業研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a70104a360

参加度 （ ）

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ＜＊k＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　伊藤　恵美子	

テーマ

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　講義：卒業研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a70104a361

参加度 （ ）

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ＜＊I＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　賢哉	

テーマ

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　講義：卒業研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a70104a362

参加度 （ ）

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ＜＊m＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中島　登美子	

テーマ

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　講義：卒業研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a70104a363

参加度 （ ）

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ＜＊n＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀　妙子	

テーマ

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　講義：卒業研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a70104a364

参加度 （ ）

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊o〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　神﨑　光子	

テーマ

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　講義：卒業研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a70104a365

参加度 （ ）

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊p〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　工藤　里香	

テーマ

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　講義：卒業研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a70104a366

参加度 （ ）

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊q〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　常田　裕子	

テーマ

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　講義：卒業研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a70104a367

参加度 （ ）

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ＜＊r＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　通年集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　富永 真己

テーマ

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　講義：卒業研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

a70104a368

参加度 （ ）

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**看護研究演習Ⅱ〈＊s〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西村　美八	

テーマ

授業の到達目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展し、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を立案することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質向上に向けた自らの意見を述べることができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の概要

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　講義：卒業研究演習Ⅱガイダンス
第2回　各領域におけるガイダンス
第3回　研究課題に関する文献検討
第4回　研究課題に関する文献検討
第5回　研究課題に関する文献検討
第6回　研究目的の明確化
第7回　研究計画書作成
第8回　研究計画書作成
第9回　研究計画書作成
第10回　計画に沿ってデータ収集・分析
第11回　計画に沿ってデータ収集・分析
第12回　計画に沿ってデータ収集・分析
第13回　計画に沿ってデータ収集・分析
第14回　計画に沿ってデータ収集・分析
第15回　計画に沿ってデータ収集・分析
第16回　計画に沿ってデータ収集・分析
第17回　計画に沿ってデータ収集・分析
第18回　計画に沿ってデータ収集・分析
第19回　計画に沿ってデータ収集・分析
第20回　計画に沿ってデータ収集・分析
第21回　計画に沿ってデータ収集・分析
第22回　計画に沿ってデータ収集・分析
第23回　計画に沿ってデータ収集・分析
第24回　計画に沿ってデータ収集・分析
第25回　計画に沿ってデータ収集・分析
第26回　発表準備
第27回　研究発表、論文作成
第28回　研究発表、論文作成
第29回　研究発表、論文作成
第30回　研究発表、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）

a70104a369

参加度 （ ）

参加状況、論文、発表の内容から総合的に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）〈a〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　梶谷　佳子	

テーマ

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（　）	
参加度　2/3以上	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　植村　由美子	

テーマ

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（　）	
参加度　2/3以上	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<c>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中橋　苗代	

テーマ

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（　）	
参加度　2/3以上	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<d>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　河原　宣子

テーマ

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 70 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ ）
参加度　2/3以上

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<e>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　奥野 信行	

テーマ

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ ）	
参加度　2/3以上	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）〈f〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野島　敬祐	

テーマ

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（　）	
参加度　2/3以上	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）〈g〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　マルティネス　真喜子	

テーマ

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（　）	
参加度　2/3以上	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<h>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阿部　祝子	

テーマ

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（　）	
参加度　2/3以上	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<i>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　望月　紀子	

テーマ

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（　）	
参加度　2/3以上	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）〈j〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　深山　つかさ	

テーマ

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（　）	
参加度　2/3以上	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<k>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　伊藤　恵美子	

テーマ

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（　）	
参加度　2/3以上	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<I>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　賢哉	

テーマ

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（　）	
参加度　2/3以上	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<m>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　中島　登美子

テーマ

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（　）
参加度　2/3以上

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<n>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀　妙子	

テーマ

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（　）	
参加度　2/3以上	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<o>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　神﨑 光子	

テーマ

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ ）	
参加度　2/3以上	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<p>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　工藤　里香	

テーマ

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（　）	
参加度　2/3以上	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<q>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　常田　裕子	

テーマ

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（　）	
参加度　2/3以上	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<r>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　富永　真己	

テーマ

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（　）	
参加度　2/3以上	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅵ（看護）<s>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西村　美八	

テーマ

授業の到達目標

1.看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2.看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3.4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4.自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の概要

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護専門職の専門分野とキャリアについて
第3回　看護専門職としてのキャリア発達および生涯学習について
第4回　4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
第5回　課題に取り組むための学習計画を立案する
第6回　学習計画を実施する（1）
第7回　学習計画を実施する（2）
第8回　実施を評価し、計画を修正する（1）
第9回　学習計画を実施する（3）
第10回　学習計画を実施する（4）
第11回　実施を評価し、計画を修正する（2）
第12回　学習計画を実施する（5）
第13回　学習計画を実施する（6）
第14回　学習計画を実施する（7）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（　）	
参加度　2/3以上	

2016 Syllabus

科 目 名　**看護教育学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　（閉講:開⇒閉）

テーマ

1. 看護継続教育2. 看護職のキャリア発達・開発

授業の到達目標

1. 看護基礎教育・看護継続教育について理解する. 2. 看護職のキャリア発達・開発と教育機会について理解する.

授業の概要

準備学習（予習・復習）

グループによる課題学習は, 図書館, インターネット等により情報を得る.

内　容

第1回　オリエンテーション, 授業の進め方（阿部）看護教育についての外観（阿部）
第2回　キャリア発達・開発につながる教育（阿部）グループによる課題学習①
第3回　グループによる課題学習②（阿部）
第4回　グループによる課題学習③（阿部）
第5回　グループによる課題学習④（阿部）
第6回　学習内容の共有－発表①（阿部）
第7回　学習内容の共有－発表②（阿部）
第8回　学習内容の共有－発表③（阿部）
第9回　海外の看護教育（梶谷）グループによる課題学習①
第10回　グループによる課題学習②（梶谷）
第11回　グループによる課題学習③（梶谷）
第12回　学習内容の共有－発表①（梶谷）
第13回　学習内容の共有－発表②（梶谷）
第14回　学習内容の共有－発表③（梶谷）
第15回　まとめ(梶谷)

履修上の注意点

教科書

特に指定しない.
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

看護師のキャリア論
著者:　藤原裕美子
出版社:　ライフサポート社
出版年:　2007　ISBN:　978-4904084014

キャリア・ダイナミクス
著者:　Schein, Edbar H.（二村敏子, 三善勝代訳）
出版社:　白桃書房
出版年:　1991　ISBN:　978-4561221623

成績評価

試験　（ 20% ）　小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）　授業中発表等　（ 20% ）
参加度　（ 20% ）
レポート, 課題発表, および授業参加度により総合的に評価する.

2016 Syllabus

科 目 名　**高度実践看護論**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀　妙子.梶谷　佳子	

テーマ

実践看護学Ⅰ～Ⅲ-1・2. 実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ、実践看護学実習Ⅰ～Ⅲ-1～5などで経験した事をもとに、臨地で行われていた看護を振り返り、高度実践看護のあり方について学ぶ。

授業の到達目標

1. 看護専門職の専門性を発展させていくことの必要性について説明できる2. 専門職として生涯にわたり学習し続け、成長していくために自己を評価し管理　していく必要性について説明できる3. 高度実践看護を行うための基礎となる、様々な健康課題を有する患者の全身状　態の査定方法、および看護援助方法について説明できる4. 高度実践看護を行うための基礎となる、看護技術を理解し実施できる5. チーム医療における看護及び多職種の役割を理解し、対象者を中心とした協働　のあり方について説明できる

授業の概要

高度実践看護に関する講義及びディスカッションを行うとともに、高度実践看護の実践を想定した、シミュレーション事例をグループで作成し、実際にシミュレーションを実施し、その評価を行う。

準備学習（予習・復習）

4回生前期までに学んだことを全て活用しながら行う授業です。実習を中心として学びの振り返りを必ず行ってから、参加して下さい。

内　容

第1回　オリエンテーション　高度実践看護とは
第2回　日本における高度実践看護師と専門看護師の教育制度・役割と機能
第3回　高度実践看護とチーム医療
第4回　専門看護師の活動の実際と課題
第5回　シミュレーション事例作成に関するオリエンテーション
第6回　シミュレーション事例の作成①
第7回　シミュレーション事例の作成②
第8回　シミュレーション事例の作成③
第9回　シミュレーション事例の作成④
第10回　シミュレーション事例の作成⑤
第11回　事例に対する看護演習①
第12回　事例に対する看護演習②
第13回　事例に対する看護演習③
第14回　事例に対する看護演習④
第15回　まとめ

履修上の注意点

この授業は、主体的に学ぶ姿勢を重視していますので、高度実践看護に対する関心を持って受講するように

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等 （ 50% ）
参加度 （ 50% ）
特になし

2016 Syllabus

科 目 名　**助産技術学**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期集中	定　　員　10
履修条件	クラス指定
担 当 者　常田　裕子.神﨑　光子.工藤　里香	

テーマ

周産期看護を根拠に基づいて計画的に実践する基礎的な助産技術を養う

授業の到達目標

1　周産期の健康の保持増進および異常の予防のために必要な助産を理解し、経過に沿った診断に基づいて実践できる2　家族形成期にある母児および家族の発達課題について理解し、必要な助産を診断に基づいて実践できる3　妊娠・分娩・育児期の母児と家族の健康状態、健康課題、発達課題を身体的、心理的、社会的側面から理解し、必要な助産を診断に基づいて実践できる

4　個人の特性および地域の特性に対応した健康のための環境づくりのニーズを診断し、それに基づいた支援を実践できる

授業の概要

周産期における母児と家族の健康の保持増進と異常の予防・早期発見を目指して、妊娠・分娩・産褥の経過に沿った母児及び家族の健康問題と課題に関するニーズを満たす助産技術を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

既習得の周産期看護に関連する知識の復習及び各回の授業に該当するテキスト・参考図書は事前に確認の上、授業に臨むこと授業で学習した各技術は、自己演習を通して確実に手技を習得すること

内　容

第1回　オリエンテーション助産に必要な知識、技術の復習1（バイタル、清拭、浣腸　導尿、ガウンテクニック、滅菌操作、妊婦計測、レオポルド触診、乳房ケア等）
第2回　助産に必要な知識、技術の復習2（バイタル、清拭、浣腸　導尿、ガウンテクニック、滅菌操作、妊婦計測、レオポルド触診、乳房ケア等）
第3回　分娩経過と助産ケア・分娩介助技術（1）（産痛緩和、骨盤位分娩、フリースタイル分娩を含む分娩介助のVTR視聴などを含む）
第4回　分娩経過と助産ケア・分娩介助技術（2）（産痛緩和、骨盤位分娩、フリースタイル分娩を含む分娩介助のVTR視聴などを含む）
第5回　入院時の産婦へのケア（入院時の診断・分娩に必要な物品／機器の準備）
第6回　分娩第1期の産婦およびその家族への援助方法
第7回　分娩第1期の援助：ロールプレイ（1）
第8回　分娩第1期の援助：ロールプレイ（2）
第9回　分娩介助方法（1）（ファントームを用いたデモンストレーション、人工破膜、縫合の介助、出血時や異常分娩時の対応などを含む）
第10回　分娩介助方法（2）（ファントームを用いたデモンストレーション、人工破膜、縫合の介助、出血時や異常分娩時の対応などを含む）
第11回　分娩介助方法：ロールプレイ（1）
第12回　分娩介助方法：ロールプレイ（2）
第13回　分娩経過の診断と技術(事例検討：正常)（1）
第14回　分娩経過の診断と技術(事例検討：正常)（2）
第15回　分娩監視装置の判読方法
第16回　分娩介助方法：ロールプレイ（VTRによる検討）
第17回　分娩経過の診断と技術(事例検討：異常)（1）
第18回　分娩経過の診断と技術(事例検討：異常)（2）
第19回　入院から分娩終了までのロールプレイ（1）(直接介助、間接介助、新生児係）
第20回　入院から分娩終了までのロールプレイ（2）(直接介助、間接介助、新生児係）
第21回　入院から分娩終了までのロールプレイ（3）(直接介助、間接介助、新生児係）
第22回　入院から分娩終了までのロールプレイ（4）(直接介助、間接介助、新生児係）
第23回　新生児蘇生法（基礎知識）
第24回　新生児蘇生法（実技：アセスメントと方法）
第25回　妊娠期～産褥期の継続的な看護（1）（産褥期における看護展開を含む）
第26回　妊娠期～産褥期の継続的な看護（2）（産褥期における看護展開を含む）
第27回　妊娠期～産褥期の継続的な看護（3）（産褥期における看護展開を含む）
第28回　産褥期の退院指導および継続看護（新生児訪問、地域連携含む）の方法
第29回　継続看護の事例検討
第30回　助産技術のまとめ（事例とその対応）なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

全回出席が原則です。第2実習室での演習が中心となります。グループワーク及び演習では、受講者全員で協力しながら主体的に取り組むこと実践看護学Ⅲ及び助産診断学の授業資料など授業に関連する資料は持参すること

教科書

今日の助産　改訂第3版
著者:　北村眞理子ら
出版社: 南江堂
出版年: 2013　ISBN:

最新産科学正常編改訂第22版
著者:　荒木勤
出版社: 文光堂
出版年: 2008　ISBN:

最新産科学異常編改訂第22版
著者:　荒木勤
出版社: 文光堂
出版年: 2012　ISBN:

助産師基礎教育テキスト2016年版第4巻
著者:　森恵美
出版社: 日本看護協会出版会
出版年: 2016　ISBN:

助産師基礎教育テキスト2016年版第6巻
著者:　横尾京子
出版社: 日本看護協会出版会
出版年: 2016　ISBN:

助産師基礎教育テキスト2016年版第7巻
著者:　遠藤俊子
出版社: 日本看護協会出版会
出版年: 2016　ISBN:

参考書

助産師基礎教育テキスト第1巻
著者:　山本あい子
出版社: 日本看護協会出版会
出版年: 2016　ISBN:

助産師基礎教育テキスト第2巻
著者:　吉沢豊予子
出版社: 日本看護協会出版会
出版年: 2016　ISBN:

助産師基礎教育テキスト第3巻
著者:　成田伸
出版社: 日本看護協会出版会
出版年: 2016　ISBN:

助産師基礎教育テキスト2016年版第5巻
著者:　町浦美智子
出版社: 日本看護協会出版会
出版年: 2016　ISBN:

改訂第2版新生児蘇生法テキスト
著者:　田村正徳
出版社: メジカルビュー社
出版年: 2011　ISBN:

胎児心拍数モニタリング集中トレーニング
著者:　池田智明
出版社: メディカ出版
出版年: 2010　ISBN:

成績評価

試験　(100)　小テスト（ ）
授業中課題　（ ）　授業中発表等　（ ）
参加度　（ ）
試験は筆記試験、実技試験、口頭試問となります。

2016 Syllabus

科 目 名　**看護倫理Ⅱ**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件　「看護倫理Ⅰ」を修得済み	クラス指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

看護倫理Ⅰを踏まえ，さまざまな看護の対象とその家族，多様な看護の場における倫理的課題について考察する.

授業の到達目標

1. 事例検討を通して，倫理観に基づく看護実践について考察する. 2. グループディスカッションにおいて，自身の看護倫理に関する考えを述べることができる.

授業の概要

自分自身の体験した事例を看護倫理の視点で振り返る。グループで、事例を一つ決定し、ディスカッションを行う。

準備学習（予習・復習）

倫理的課題を考えるための事例を基にディスカッションを行う。必要なテクニカルタームについて事前に調べておく。自身の体験事例を振り返ることも可。

内　容

第1回　看護者の倫理綱領について看護倫理の重要性と必然性
第2回　事例検討①：看護ケアを行う看護師の苦悩 － 看護ケアが患者の症状悪化を招いてしまうとき　がん患者に対する化学療法の是非に関する疑義照会
第3回　事例検討②：認知症の術後患者を抑制・拘束せずに安楽に過ごさせるための看護師の挑戦
第4回　事例検討③：延命措置拒否のリビングウィルを持った救急患者の意思決定　急激な発症により生命危機状態に陥った患者・家族のいのちの捉え方
第5回　事例検討④：入院直後に急死した患者の遺族の気持ち　B型肝炎の夫の唯一のドナー候補者となった妻の苦悩
第6回　事例検討⑤：患児へのインフォームド・アセントをどのように展開するか － 両親が拒否する場合　患者の家族による暴言と看護ケアの妨害
第7回　事例検討⑥：統合失調症患者の意思決定
第8回　まとめ

履修上の注意点

主体的にディスカッションに参加してください。

教科書

新版看護者の基本的責務
著者：　日本看護協会監修
出版社：日本看護協会出版会
出版年：2006　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 60% ）	授業中発表等　（ 20% ）
参加度　（ 20% ）	

グループワークの参加度や最終的なレポートで総合的に評価する。

Syllabus

科 目 名　**芸術と癒し <Za>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講:開⇒閉）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**芸術と癒し <Zb>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　山本　善則	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**芸術と癒し <Zc>**	
クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**日本人の宗教と福祉 <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**医療リスクマネジメント**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　山野 薫	

テーマ

・医療における安全とその管理の概要について。・理学療法士が臨床で対応するリスクマネジメントについて。

授業の到達目標

1. 医療における安全とその管理の概要を理解し説明できる。2. 医療の質を向上させることとリスクマネジメントの関係性について理解し説明できる。3. 各種治療におけるリスクおよび事故防止方法について理解し説明できる。4. 理学療法士の業務に関わる感染症とその対策について理解し説明できる。

授業の概要

医療における安全とその管理を講義し、医療の質を高めることとリスクマネジメントの関係性について教授する。具体的には、医療安全における患者側の要因と病院施設側の要因について講義し、理解を深める。また、理学療法士の業務に関わる感染症とその対策について解説する。

準備学習（予習・復習）

授業後にテキストや参考書で知識を深め、ノートの内容を充実させること。

内　容

第1回　医療における安全とその管理の概要
第2回　医療の質とリスクマネジメントの関係
第3回　診療記録の共有（公開）とリスクマネジメント
第4回　医療安全における患者側の要因と病院施設側の要因
第5回　チーム医療におけるリスクマネジメントのあり方
第6回　理学療法士の業務における感染症の概要と対策
第7回　理学療法士の業務における医療機器の安全管理
第8回　病院施設の管理体制（医療安全・感染症）と理学療法士の業務
第9回　単位認定試験

履修上の注意点

本授業は、理学療法士（医療職）の養成の一端を担っています。理学療法士（医療職）は、患者さんやその家族との信頼関係を構築することが何よりも重要です。それには、その人の誠実さが第一ですので、「繰り返す遅刻」、「授業中の私語」、「あからさまな居眠り」等は厳しくチェックし、参加度20%に含めて成績に反映させます。

教科書

理学療法リスク管理・ビューポイント
著者：　丸山仁司（編集）
出版社：文光堂
出版年：2007　　ISBN：9784830643415

参考書

リハビリテーション リスク管理ハンドブック
著者：　亀田メディカルセンター（編集）
出版社：MEDICAL VIEW
出版年：2008　　ISBN：9784758306942

在宅・訪問リハビリテーション　リスク管理実践テキスト
著者：　石黒友康・他（監修）
出版社：診断と治療社
出版年：2009　　ISBN：9784787817488

リスク管理　その統合と解釈
著者：　嶋田智明・他（常任編集）
出版社：文光堂
出版年：2010　　ISBN：9784830643705

成績評価

試験　（ 80% ）　　小テスト（ 実施しない ）

a90101a150

授業中課題（ 実施しない ）　　授業中発表等（ 参考にする ）

参加度 （ 20% ）

全授業回数の3分の2以上の出席がないものは、単位認定試験の受験資格を与えないものとする。

2016 Syllabus

科 目 名　**人体の構造と機能演習Ⅰ（骨・関節・筋・神経など）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　林正　健二	

テーマ

理学療法の実践に必要な、人体の構造(解剖学)と機能(生理学)の基礎知識を修得する。

授業の到達目標

1．構造(解剖学)に関する知識を機能(生理学)に関連させる習慣を養う。2．細胞、組織、器官に関する知識を統合して、生体特有の合目的性と恒常　性を理解する。

授業の概要

事前に配付する予習用プリントとテキストで予習をした上で演習に臨む。講義ではなく演習なので，演習ではプリントとテキストに関連した質問を行うのでそれに答える。終了後、次回に前回の内容に関する小テストを行うので、復習も毎回必要である。

準備学習（予習・復習）

高校時代、理系の科目の予習をした経験が無い学生が多いので、どのように予習すればよいかは、演習中に解説する。1回につき1時間以上の予習時間が必要である。復習時間は理解の程度により自分で判断できる。

内　容

第1回　細胞(人体を構成するしくみ1)
第2回　組織(人体を構成するしくみ2)
第3回　皮膚と膜(体や臓器を守るしくみ1)
第4回　皮膚と膜(体や臓器を守るしくみ2)
第5回　骨格系1(骨の構造と機能)
第6回　骨格系2(頭蓋、胸郭、脊柱)
第7回　骨格系3(上肢帯と上肢)
第8回　骨格系4(骨盤と下肢)
第9回　筋系1(筋の構造と機能)
第10回　筋系2(頭部、頸部、胸部)
第11回　筋系3(上肢、背部)
第12回　筋系4(腹部、下肢)
第13回　神経系1(神経系の構造と機能)
第14回　神経系2(中枢神経系と末梢神経系)
第15回　感覚器系1(視覚)
第16回　感覚器系2(聴覚他)

履修上の注意点

3分の2以上の出席により、成績評価対象とする

教科書

ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①解剖生理学
著者：　林正健二他
出版社：メディカ出版
出版年：2016　　ISBN：

プロメテウス解剖学解剖学総論・運動器系
著者：　坂井建雄他訳
出版社：医学書院
出版年：2013　　ISBN：

参考書

イラスト解剖学
著者：　松村譲児
出版社：中外医学社
出版年：2014　　ISBN：

a90101a210

日本人体解剖学(上巻)
著者:　金子丑之助
出版社: 南山堂
出版年: 2000　　ISBN:

ギャノング生理学
著者:　岡田泰伸監訳
出版社: 丸善出版
出版年: 2014　　ISBN:

人体の構造と機能
著者:　林正健二他訳
出版社: 医学書院
出版年: 2016　　ISBN:

成績評価

試験 (90)　　小テスト (10)
授業中課題 ( )　　授業中発表等 ( )
参加度 ( )
中間・期末試験90%(4肢または5肢択一式の客観試験)、小テスト10%(主に穴埋め形式)

2016 Syllabus

科 目 名　**人体の構造と機能演習Ⅱ（呼吸・循環系、消化系など）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　林正　健二	

テーマ

理学療法の実践に必要な、人体の構造（解剖学）と機能（生理学）の基礎知識を修得する。

授業の到達目標

1．構造（解剖学）に関する知識を機能（生理学）に関連させる習慣を養う。2．細胞、組織、器官に関する知識を統合して、生体特有の合目的性および恒常性を理解する。

授業の概要

事前に配付する予習用プリントとテキストで予習をした上で演習に臨む。講義ではなく演習なので、予習は必須である。演習ではプリントとテキストに関連した質問を行うので、それに答える。終了後、次回に前回の内容に関する小テストを行うので、復習も毎回必要である。

準備学習（予習・復習）

授業の概要に述べた予習と復習の仕方は、実際の演習で確認できる。1回につき1時間以上の予習が必要であり、復習は理解の程度によって自分で判断できる。

内　　容

第1回　血液の成分（血球、血漿、造血）
第2回　血液の機能（凝固、線溶、血液型）
第3回　循環器系（心臓の構造と機能）
第4回　循環器系（血管とリンパ系）
第5回　呼吸器系（鼻、咽頭、喉頭、肺）
第6回　呼吸器系（換気とガスの運搬、内呼吸と外呼吸、呼吸の調節）
第7回　消化器系（食欲と咀嚼・嚥下、口腔、歯、咽頭、食道）
第8回　消化器系（胃・小腸・肝臓・膵臓の構造と機能）
第9回　消化器系（消化と吸収、大腸の構造と機能）
第10回　泌尿器系（腎臓の機能と働き、尿管・膀胱・尿道と排尿の生理）
第11回　生殖器系（女性生殖器の構造と機能、性周期）
第12回　生殖器系（妊娠・出産、乳腺の構造と機能、男性生殖器の構造と機能）
第13回　内分泌系（視床下部、下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体）
第14回　内分泌系（副腎、性腺、消化管、腎臓、胸腺、その他）
第15回　免疫系

履修上の注意点

演習中、私語と飲食は厳禁。欠席した場合、プリント配付の有無を友人に聞いて確認し、配付された場合は教員の研究室(E620)に取りに来る事。演習中は質問の時間が取れないので、毎回配付するアンケート用紙に記入して提出して下さい。3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。

教科書

ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①解剖生理学　林正健二他
著者：
出版社：メディカ出版
出版年：2016　　ISBN：

参考書

イラスト解剖學
著者：　松村譲児
出版社：中外医学社
出版年：2014　　ISBN：

日本人体解剖学(下巻)
著者：　金子丑之助
出版社：南山堂
出版年：2000　　ISBN：

a90101a350

ギャノング生理学

著者:　岡田泰伸監訳

出版社: 丸善出版

出版年: 2014　　ISBN:

人体の構造と機能

著者:　林正健二他訳

出版社: 医学書院

出版年: 2016　　ISBN:

成績評価

試験 （ 90 ）　　小テスト（ 10 ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

中間・期末試験90%(4肢又は5肢択一の客観試験)、小テスト10%(穴埋め形式)

2016 Syllabus

科 目 名　**運動学**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　甲斐　義浩	

テーマ

四肢・体幹における関節の解剖学的構造とその運動について理解する。

授業の到達目標

1.身体運動に関与する骨格筋の解剖学的作用および運動学的作用について理解できる。2.身体の動作における各筋の相互作用について理解できる。　3.運動学で得た知識に基づき、運動障害分析の基礎を理解できる。
4.運動学に関する過去の国家試験問題を解き、解説することができる。

授業の概要

解剖生理学で学んだ知識をベースにしながら、運動器を主とする障害学の基礎となる、人間の正常状態における身体運動のメカニズムについて理解を深める。具体的にはまず、身体運動を理解するために必要な力学、骨・関節・筋・神経系を中心とした運動器の構造と機能を教授し、その上で、上肢、下肢および体幹の各部位における運動学について概説する。

準備学習（予習・復習）

当該科目における国家試験の過去問において、どのような問題が出題されているか十分に確認しておくこと。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　キネシオロジーの基本原理（1）
第3回　キネシオロジーの基本原理（2）
第4回　骨関節の構造と機能（1）
第5回　骨関節の構造と機能（2）
第6回　骨格筋の構造と機能（1）
第7回　骨格筋の構造と機能（2）
第8回　肩関節複合体の構造と機能（1）
第9回　肩関節複合体の構造と機能（2）
第10回　肩関節複合体の構造と機能（3）
第11回　肘・前腕複合体の構造と機能（1）
第12回　肘・前腕複合体の構造と機能（2）
第13回　手関節の構造と機能（1）
第14回　手関節の構造と機能（2）
第15回　総まとめ

履修上の注意点

授業の進行を妨げる行為（私語、携帯電話の使用など）や、受講態度に明らかな問題がある場合（うつ伏せ居眠り、内職、スマートフォンの使用など）は受講をお断りします。

教科書

基礎運動学　第6版
著者：　中村　隆一・他
出版社：医歯薬出版株式会社
出版年：2013　　ISBN：

エッセンシャル・キネシオロジー　第2版
著者：　Mansfield PJ・他（著）弓岡光徳・他（訳）
出版社：南江堂
出版年：2015　　ISBN：

参考書

プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論／運動器系　第2版
著者：　坂井建雄・他
出版社：医学書院
出版年：2011　　ISBN：

成績評価

試験　（ 100% ）　　小テスト（　）

a90101a450

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

期末試験の受験は、講義の3分の2以上の出席を必要とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**病理学(理学)**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　宮本　尚

テーマ

疾病の成り立ち、徴候，予後について

授業の到達目標

疾病の本質を探究する学問である「病理学」に関する正しい知識を身に付ける。

授業の概要

病理学の概要、疾病の総論的解説、更に諸臓器の障害を引き起こす様々な疾病につき解説する。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　総論1-6:概要
第2回　総論7-8:免疫、炎症・感染症
第3回　総論4:腫瘍
第4回　総論11:老化
第5回　総論10:放射線障害
第6回　総論12:先天異常、奇形
第7回　各論1:循環器
第8回　各論2:呼吸器
第9回　各論3:消化器
第10回　各論4:神経系
第11回　各論5:運動器
第12回　各論6:泌尿器・生殖器
第13回　各論7:代謝・内分泌系
第14回　各論8:造血器
第15回　各論9:皮膚・感覚器

履修上の注意点

3分の1以上の欠席を認めない(原則として)

教科書

標準理学療法学・作業療法学「病理学」第3版
著者:　梶原博毅・横井豊治編
出版社:　医学書院
出版年:　2010　　ISBN:

参考書

カラーで学べる病理学
著者:　渡辺照男
出版社:　ヌーベルヒロカワ
出版年:　平成21年　　ISBN:

成績評価

試験　(80)　　小テスト　( )
授業中課題　( )　　授業中発表等　( )
参加度　(20)

2016 Syllabus

科 目 名　**リハビリテーション概論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　兒玉　隆之.mitei.mitei1.mitei2	

テーマ

「リハビリテーション」とは何か，その本質と仕組みの理解

授業の到達目標

リハビリテーション医学が，歴史的にどのように発展したかを考察することにより，リハビリテーションが医師や作業療法士などの異業種を包括したチームとして活動するチームアプローチであることを理解する。その中で，理学療法士がどのようにチーム活動に寄与できるかを考えながら，これから学んでいく理学療法についてその道しるべとなるよう全体像を形成する。

授業の概要

1．リハビリテーション医学の定義と歴史を講義した上で，脳・脊髄・神経・運動器・外傷・内部障害・小児疾患などの障害に関する診断・検査・評価および治療プロセスについて教授する。2．リハビリテーションの定義・理念・目的・歴史，障害の概念と分類，障害の心理・社会的側面，リハビリテーションのプロセス・段階・職種，リハビリテーションとチーム医療の関わりなど，リハビリテーションの現状を教授する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　リハビリテーション医学の歴史
第2回　リハビリテーション医学の定義・概念
第3回　運動器系疾患に対するリハビリテーション医学（上肢）
第4回　運動器系疾患に対するリハビリテーション医学（体幹）
第5回　運動器系疾患に対するリハビリテーション医学（下肢）
第6回　小児整形疾患に対するリハビリテーション医学
第7回　内部障害に対するリハビリテーション医学
第8回　脳・脊髄障害に対するリハビリテーション医学
第9回　リハビリテーションの概念・理念・定義
第10回　健康と障害の概念と分類
第11回　障害の心理，心理的社会的問題と受容
第12回　リハビリテーション過程
第13回　リハビリテーションの諸段階
第14回　リハビリテーション専門職種とチームアプローチ
第15回　ADL，QOLの概念

履修上の注意点

期末試験の受験には、3分の2以上の出席が必要。

教科書

医学生・コメディカルのための手引書 リハビリテーション概論
著者：　上好昭孝，土肥信之
出版社：永井書店
出版年：2011　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 80 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**保健医療福祉論**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期後半　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　窓場 勝之.並河 孝

テーマ

日本における保健医療福祉に関する政策・制度・法律についての基礎的理解

授業の到達目標

1. 地域で生活する人々の健康の保持・増進、疾病予防のための活動を説明できる。2. 地域の保健医療福祉論政策について理解し、保健、医療、福祉の連携やその中で　専門職が担う活動や役割を説明できる。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　我が国での社会保険制度について
第2回　リハビリテーションにおける医療制度Ⅰ
第3回　リハビリテーションにおける医療制度Ⅱ
第4回　今後の医療保険制度について

履修上の注意点

教科書

参考となる書籍や文献などは授業中に適宜、紹介する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）
3分の1以上の欠席を認めない。

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法概論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松尾　奈々	

テーマ

理学療法学および理学療法士の職能について基礎的な理解を促進する。

授業の到達目標

本講義では、理学療法の歴史や定義、理学療法士の職能や倫理、エトス、治療のプロセスや方法をはじめ、4年間のうちに習得する知識、技術の基礎となる事柄を学習する。

授業の概要

我が国の社会保障制度の概要、リハビリテーション医学および理学療法の歴史や定義、理学療法士の職能や倫理、エトス、障害評価や治療のプロセスおよび方法など、4年間の理学療法教育の基礎的事項を学習する.

準備学習（予習・復習）

教科書、参考書にとどまらず、興味のあるリハビリテーション関連書籍を読み、理解を深めて欲しい。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　リハビリテーションと理学療法－その歴史と思想－
第3回　世界の理学療法とリハビリテーションの情勢
第4回　理学療法士の職能
第5回　理学療法の対象と専門領域
第6回　障害の構造－ICIDHとICF－
第7回　理学療法における評価
第8回　理学療法における治療
第9回　理学療法士の関連職種と関連領域およびチーム医療について
第10回　理学療法士の倫理
第11回　理学療法の教育課程
第12回　医療・福祉情勢
第13回　理学療法と研究
第14回　理学療法士の組織と運営
第15回　まとめ

履修上の注意点

遅刻や欠席の際は、分かった時点で必ず担当教員に連絡すること。

教科書

理学療法学概論 第3版
著者:
出版社: 神陵文庫
出版年: 2013　　ISBN: 9784915814327

参考書

リハビリテーションの思想—人間復権の医療を求めて
著者: 上田敏
出版社: 医学書院
出版年: 2004　　ISBN:

リハビリテーション　新しい生き方を創る医学
著者: 上田敏
出版社: 講談社
出版年: 1996　　ISBN:

ICF(国際生活機能分類)の理解と活用—人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか
著者: 上田敏
出版社: きょうされん
出版年: 2005　　ISBN:

a90101a810

ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版

著者:　障害者福祉研究会

出版社: 中央法規出版

出版年: 2002　　ISBN:

ICF(国際生活機能分類)活用の試み

著者:　国立特別支援教育総合研究所

出版社: ジアース教育新社

出版年: 2005　　ISBN:

成績評価

試験 （ 80% ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 10% ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 10% ）

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。試験成績のみならず、レポート課題成績も成績評価に含まれる。連絡なき遅刻・欠席は参加度評価の対象となります。

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法技術学入門演習Ⅰ（骨・関節の触察）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮﨑　純弥.松尾　奈々	

テーマ

骨関節疾患の評価・治療ができるようになるために、機能解剖学と体表からの触診を演習形式で学習する。

授業の到達目標

1. 学習者が演習を理解するために、解剖学的構造の名称および形を知る。2. 学習者が視診・触診を行うために、人体での体表の解剖学的構造の形を認識する。3. 学習者が評価、治療の実施ができるために、解剖学的構造を実際の身体で視診・触診する技術を修得する。

授業の概要

理学療法士は、関節を操作することで身体運動の改善を促す専門家である。そのためには、その原点である関節を構成する組織について、解剖学・運動学・生体力学などの観点から理解していることが望ましい。この講義では、骨・関節を中心にそれらの解剖学的知識を学び、それらを触り部位を確認できる能力を習得することを目的とする。また、実際の治療では対象者の身体を扱うため、触られたときの感覚を知っておくことも重要である。そのため、触られている感覚を言語化してフィードバックすることで相互の学習効果が期待できる。演習への姿勢、受講態度を通じて医療人としての意識を芽生えさせることもねらいとする。

準備学習（予習・復習）

テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　総論（運動方向、運動の軸と面、骨の名称、骨・関節の形、触診法）
第3回　骨の視診・触察（指骨、手根骨）
第4回　手関節の触察
第5回　骨の視診・触察（橈骨、尺骨、上腕骨）
第6回　肘関節の触察
第7回　骨の視診・触察（肩甲骨、鎖骨）
第8回　上肢帯と肩関節の触察
第9回　骨の視診・触察（脛骨、腓骨、足根骨）
第10回　足関節の触察
第11回　骨の視診・触察（大腿骨、膝蓋骨）
第12回　膝関節の触察
第13回　骨の視診・触察（寛骨）
第14回　股関節の触察
第15回　骨の視診・触察（脊柱）

履修上の注意点

茶髪等・ピアス等のアクセサリー着用は厳禁とする。パートナーを傷つけないように爪を短く切ること。いつでも実習に行ける服装で来ること。

教科書

改訂第2版　運動療法のための機能解剖学的触診技術　上肢
著者：　林典雄
出版社：メジカルビュー
出版年：2011　　ISBN：　9784758311366

改訂第2版　運動療法のための機能解剖学的触診技術　下肢・体幹
著者：　林典雄
出版社：メジカルビュー
出版年：2011　　ISBN：　9784758311373

プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系
著者：　坂井建雄
出版社：医学書院
出版年：2011　　ISBN：　9784260010689

参考書

成績評価

試験 （ 50% ）　　小テスト（ 実技試験50% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

2016 Syllabus

科 目 名　**臨床基礎実習**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期集中　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　宮崎 純弥.安彦 鉄平.小田桐 匡.甲斐 義浩.兒玉 隆之.崎田 正博.白岩 加代子.濱出 茂治.堀江 淳.松尾 奈々.村田 伸.横山 茂樹

テーマ

授業の到達目標

1)社会人・専門職としての基本的態度を身につける。2)対象者とのコミュニケーションをとることができる。3)医療従事者として責任および節度のある態度と行動を身につける。4)自身が目指す理学療法士像を具体化できる。5)理学療法士が勤務する施設の機能・概要を把握できる。6)学内での講義・実習の意義を理解し学習意欲を高める。

授業の概要

第一段階の「入門的」な実習であり、実習指導者の指導・教育のもと見学を中心とした実習を行う。本実習を通して、理学療法士が勤務する病院や施設が果たす社会的役割とその病院、施設における理学療法士の役割や機能の概要を把握する。また、医療従事者間の関係や医療従事者と患者・利用者との関係を見学し、コミュニケーションの重要性についても体験する。自分が目指すべき理学療法士のイメージを形づくり、以降の学習への動機づけとする。さらに理学療法士の業務内容と義務および責任について学び、社会人・保健医療専門職としてのあり方、資質についての理解を深める。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション：実習概要を理解し、実習に取り組む際の注意事項などについて確認する。
第2回　現場実習
第3回　現場実習
第4回　現場実習
第5回　現場実習
第6回　現場実習
第7回　現場実習
第8回　現場実習
第9回　現場実習
第10回　現場実習
第11回　現場実習
第12回　現場実習
第13回　現場実習
第14回　現場実習
第15回　現場実習
第16回　現場実習
第17回　現場実習
第18回　現場実習
第19回　現場実習
第20回　現場実習
第21回　現場実習
第22回　現場実習
第23回　現場実習
第24回　現場実習
第25回　現場実習
第26回　現場実習
第27回　現場実習
第28回　現場実習
第29回　現場実習
第30回　実習終了後セミナー：実習経験報告、集団討議、事例検討・報告などから成る。学生は、実習課題を中心に、実習施設の特徴や実習した内容および経験について要点をまとめて簡潔に発表する。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）
授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）
実習の出席は80%以上で単位認定の資格を得る。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ（理学）＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村田　伸	

テーマ

大学で学ぶ姿勢、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

主体的に学ぶ姿勢を身につける　1）文章を読み、理解する　2）文章の書き方、レポート作成の基礎　3）文献の探し方（基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法）　4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）　5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）キャリアデザインが描ける　　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ　　2）理学療法学に関心をもつ

授業の概要

大学で学ぶための重要な姿勢やスキルを学ぶ。今後の様々な科目を学ぶ上での土台となる内容であり、資料や図書を読み、プレゼンテーションのための資料を作成し、グループディスカッションを行う。

準備学習（予習・復習）

分からないことはそのままにせず、担当教員に確認すること。また、インターネットからの情報だけに頼らずに、積極的に図書や学術雑誌などを参考にすること。

内　　容

第1回　全体オリエンテーション
第2回　図書館オリエンテーション
第3回　文献講読
第4回　文献講読
第5回　グループディスカッション
第6回　グループディスカッション
第7回　グループディスカッション、発表
第8回　グループディスカッション、発表
第9回　全体講義：レポートの書き方、情報リテラシー
第10回　全体講義：レポートの書き方、情報リテラシー
第11回　文献講読
第12回　グループディスカッション
第13回　グループディスカッション、発表
第14回　グループディスカッション、発表
第15回　まとめ

履修上の注意点

クラスの中でグループをつくり、グループで協働して資料を作成したり、プレゼンしたりします。遅刻や欠席すると他のメンバーに迷惑をかけることになり、学習効果も得られませんので十分注意してください。3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ（理学）＜＊a＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村田　伸	

テーマ

主体的な学習態度を身につけ、理学療法士としての姿勢を学ぶ

授業の到達目標

主体的に学ぶ姿勢を身につける　1）文章を読み、理解する　2）文章の書き方、レポート作成　3）文献の探し方　4）コンピューターリテラシー（文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮）　5）ディスカッションの方法（論理的に発言、他者の意見を理解）キャリアデザインが描ける　1）医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ　2）理学療法学に関心をもつ理学療法に関する文献を活用し考察することができる

授業の概要

前期に引き続き、大学生としての学びのスキルを身につける。加えて、自分自身の健康に着目し、健康の維持・増進を目指して生活の在り方を見直す。

準備学習（予習・復習）

自らの健康状態を捉える指標について調べ、それに基づいて生活についての情報を整理し、問題や課題を把握する。

内　　容

第1回　全体講義：オリエンテーション、ポートフォリオについて
第2回　文献講読
第3回　文献講読、グループディスカッション
第4回　文献講読、グループディスカッション
第5回　グループディスカッション、発表等
第6回　グループディスカッション、発表等
第7回　4回生の卒業論文発表会への参加
第8回　グループディスカッション
第9回　レポート作成
第10回　レポート作成
第11回　レポート作成、発表
第12回　グループディスカッション
第13回　グループディスカッション、発表
第14回　グループディスカッション、発表
第15回　まとめ

履修上の注意点

個人ワークとグループワークを並行に行います。そのため遅刻や欠席は他の学生の学習の妨げとなりますので十分注意すること。3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**医学概論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　宮本　尚	

テーマ

医学概論：医学が辿ってきた歴史を振り返る事で、最新の医療の成り立ちを知る

授業の到達目標

古代から最新の医療までを系統的に知る事で、臨床現場での医療関係者との円滑な連携、及び患者と家族への対人援助職としての役割の再認識、さらには日本が直面している超高齢者社会及び少子化社会での医療の方向性を学ぶ

授業の概要

［テキスト授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　先史時代の医療～インドの医療（テキスト6～27ページ）
第2回　中国の医学～プレ・コロンビアの医学（テキスト27～46ページ）
第3回　エジプトの医学～ギリシャの医学（テキスト46～77ページ）
第4回　エルトリアの医療～ローマの医学（テキスト77～95ページ）
第5回　修道院とビザンチンの医学～アラビアの医学（テキスト95～110ページ）
第6回　大学の誕生～15世紀の医学（テキスト110～128ページ）
第7回　16世紀の医学（テキスト128～142ページ）
第8回　17世紀の医学～樽を叩く医者（テキスト142～159ページ）
第9回　巨人モルガーニ～動物の磁性（テキスト159～178ページ）
第10回　体の単位～パスツールの犬（テキスト178～201ページ）
第11回　無菌法～防衛の細胞（テキスト201～223ページ）
第12回　エンドウを研究する修道士～無意識の発見（テキスト223～241ページ）
第13回　アレルギー：ある不思議な物語～遺伝子の問題（テキスト241～269ページ）
第14回　臓器移植の時代～遠隔医療とバーチャル・リアリティー(テキスト269～297ページ）
第15回　アルツハイマー病～21世紀：未来が待つ（テキスト297～313ページ）

履修上の注意点

過去の医療や医学が果たしてきた役割を学ぶ

教科書

医学の歴史
著者：　ルチャーノ・ステルペローネ 著 小川 熙 訳
出版社：原書房
出版年：　　ISBN：

参考書

ホルモンハンター・アドレナリンの発見
著者：　石田三雄　著
出版社：京都大学学術出版会
出版年：　　ISBN：

セレンディピティーと近代医学
著者：　モートン・マイヤーズ　著　小林力　訳
出版社：中央公論新社
出版年：　　ISBN：

遺伝子医療革命
著者：　フランシス・S・マイヤーズ　著　矢野真千子　訳
出版社：NHK出版
出版年：　　ISBN：

a90101d110

輸血医ドニの人体実験

著者:　ホリー・タッカー　著　寺西のぶ子　訳

出版社: 河出書房新社

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　(80)　　小テスト ( )

授業中課題 ( )　　授業中発表等 ( )

参加度　(20)

再試験:レポート提出(欠席回数も考慮する)

2016 Syllabus

科 目 名　**統計学基礎論（理学）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　永井　宏達	

テーマ

統計学の基礎的な知識を修得する

授業の到達目標

・実生活において、目の前のデータを統計学的視点をもって捉えることができる。・理学療法に関する調査報告・論文を理解するために求められるデータ分析の基本　的な知識を習得する。・統計学的視点をもった

授業の概要

統計学の基本的知識を習得するための講義形式の授業に加え、グループワークを交えた演習形式のアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れる。また、PCを使用した演習も実施する。

準備学習（予習・復習）

各授業ごとに適宜指示する

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　研究のデザイン
第3回　統計のものさしと基本知識
第4回　有意水準と仮説
第5回　連続データの差の検定（t検定）
第6回　あるなしデータの差の検定（カイ二乗検定）
第7回　推定の考え方と区間推定
第8回　オッズ比とリスク比
第9回　相関と回帰
第10回　中間まとめ
第11回　分散分析
第12回　多変量解析
第13回　総合演習
第14回　総合演習
第15回　まとめ

履修上の注意点

講義中のおしゃべりは絶対にしない。もし講義中に理解できない点がでてきた時は，講師に質問という形で尋ね，速やかに解消すること。

教科書

「医療統計」わかりません！！
著者：　五十嵐　中
出版社：東京図書
出版年：２０１０　　ISBN：　4489020791

参考書

統計学の図鑑
著者：　涌井良幸
出版社：技術評論社
出版年：２０１５　　ISBN：　4774173312

統計と確率ケーススタディ30
著者：
出版社：ニュートンプレス
出版年：２０１４　　ISBN：　4315519901

成績評価

試験　（ 60 ）　　小テスト（　）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 20 ）

a90101d210

グループワークの評価にはルーブリック等を使用します。内容は、授業中に教示します。

2016 Syllabus

科 目 名　**臨床心理学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　濱田　智崇	

テーマ

対人援助職に必要な臨床心理学の知識や考え方を身につける

授業の到達目標

対人援助職として人とかかわるために必要な、臨床心理学の知識や考え方を身につけることを目的とする。理論だけではなく、それをバックボーンとして「自分が」どのように相手へかかわる存在になっていくのか、それぞれが、主体的に考えられるようになることを目指す。

授業の概要

いくつかの心理療法の基礎となる理論的枠組みと、さまざまな精神的障害に関する基本的な知識を学ぶ。知識だけにとどまらず、自分が現場にコミットして、相手との関係の中で考える「臨床の知」としての思考力を身につける。

準備学習（予習・復習）

授業中に紹介する参考文献を読んでおくと理解が深まる

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　臨床心理学とは何か
第3回　カウンセリングの基礎とロジャーズ①
第4回　カウンセリングの基礎とロジャーズ②
第5回　フロイトの精神分析理論（防衛機制）
第6回　フロイトの精神分析理論（転移）
第7回　記憶・学習・行動療法①
第8回　記憶・学習・行動療法②
第9回　その他の心理療法
第10回　対人援助職として必要な態度
第11回　発達理論（フロイト・エリクソン・ピアジェ）①
第12回　発達理論（フロイト・エリクソン・ピアジェ）②
第13回　心理検査（人格検査・知能検査）①
第14回　心理検査（人格検査・知能検査）②
第15回　まとめ
第16回　期末試験

履修上の注意点

欠席はしないようにしてください。毎回練習問題を解きながら進めますので、その都度内容は頭に入れるようにしてください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 60% ）	小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度　（ 20% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**人体の構造と機能実習Ⅰ（構造系）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　林正　健二	

テーマ

骨・筋の触診と神経系の知識を統合して、神経系の診察の基礎を修得する。

授業の到達目標

触診の手技だけでなく、神経系の構造と機能を頭に描きつつ，論理的に考えを進めていく態度を身につける。

授業の概要

1）1年次に学修した、人体の構造と機能演習Ⅰ・Ⅱ、運動学、理学療法技術学入門演習Ⅰにおける神経系のより詳細な知識を学ぶ。2）上記の知識が理学療法士国家試験で，どのように出題されているかを確認する。

準備学習（予習・復習）

骨・筋の名称の復習が予習となる。復習は国家試験の既出問題を自分で解く。

内　　容

第1回　末梢神経系(脊髄神経)
第2回　上肢帯と肩関節の運動
第3回　肘関節と前腕の運動Ⅰ
第4回　肘関節と前腕の運動Ⅱ
第5回　手関節と手指の運動Ⅰ
第6回　手関節と手指の運動Ⅱ
第7回　下肢帯と股関節の運動Ⅰ
第8回　下肢帯と股関節の運動Ⅱ
第9回　膝関節の運動Ⅰ
第10回　膝関節の運動Ⅱ
第11回　足関節と足の運動Ⅰ
第12回　足関節と足の運動Ⅱ
第13回　頸椎の運動
第14回　胸椎と胸郭の運動
第15回　腰椎の運動
第16回　顔面と頸部の運動

履修上の注意点

予習と復習は必須です。実技が出来たかどうかの評価は正確に行って下さい。3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。

教科書

ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①解剖生理学
著者：　林正健二他
出版社：メディカ出版
出版年：2016　　ISBN：

エッセンシャル・キネシオロジー
著者：　一　村田伸他訳
出版社：南江堂
出版年：2012　　ISBN：

基礎運動学
著者：　中村隆一他
出版社：医歯薬出版
出版年：2013　　ISBN：

プロメテウス解剖学解剖学総論・運動器系
著者：　坂井建雄他訳
出版社：医学書院
出版年：2013　　ISBN：

参考書

a90102a210

ベッドサイドの神経の診かた

著者:　田崎義昭他

出版社: 南山堂

出版年: 2013　　ISBN:

成績評価

試験 （ 90 ）　　小テスト（ 10 ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

試験(4肢又は5肢択一式の客観試験)90%、小テスト10%

2016 Syllabus

科 目 名　**人体の構造と機能実習Ⅱ（機能系）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期前半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　林正　健二	

テーマ

理学重宝の実践に必要な人体の機能(生理学)を知る基本的検査を体験し、修得する。

授業の到達目標

1）身体診察の基本であるバイタルサインが測定出来る。2）循環器、呼吸器、運動器、神経系の機能検査の概要を理解出来る。

授業の概要

1）バイタルサインの測定は二人一組で練習する。2）呼吸機能検査、心電図、筋電図、筋力検査で実施可能な物は体験する。

準備学習（予習・復習）

1年生の時に学修した，生理学的事項野復習が予習となる。基準値を記憶しているかどうかも確認しておく。

内　　容

第1回　脈拍測定
第2回　血圧測定、聴診器の使い方
第3回　心音聴取
第4回　心電図
第5回　呼吸の観察
第6回　呼吸音聴取
第7回　呼吸機能検査１（スパイロメーター、経皮的動脈血酸素飽和度測定）
第8回　呼吸機能検査２
第9回　筋力検査1(握力、背筋力測定)
第10回　筋力検査2
第11回　筋力検査3(筋電図)
第12回　神経系の診察1
第13回　神経系の診察2(脳波)
第14回　神経系の診察3
第15回　体成分分析
第16回　補遺

履修上の注意点

小テストと講義の後、実技を行う。3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。

教科書

ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能①解剖生理学
著者：　林正健二他
出版社：メディカ出版
出版年：2016　　ISBN：

参考書

フィジカルアセスメントガイドブック
著者：　山内豊明
出版社：医学書院
出版年：2005　　ISBN：

成績評価

試験　（ 90 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
試験(4肢又は5肢択一式の客観試験)90%、小テスト10%

2016 Syllabus

科 目 名　**運動生理学演習 <a>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　甲斐 義浩.堀江 淳

テーマ

運動における神経系、筋骨格系、呼吸循環器系、代謝系の変化を理解し理学療法へ応用する。

授業の到達目標

本授業の目的は以下のこととする。・神経細胞の構造と情報伝達のメカニズムについて理解すること。・骨格筋の構造と筋収縮のメカニズムについて理解すること。・呼吸器系の解剖、生理学を復習し、運動時の呼吸器系の変化を理解すること。・循環器系の解剖、生理学を復習し、運動時の循環器系の変化を理解すること。・代謝、体温調節など生体における運動中の変化を理解すること。

授業の概要

講義による座学を中心とするが、測定方法などを理解する場合は実技、実習を取り入れていく。

準備学習（予習・復習）

当該科目における国家試験の過去問において、どのような問題が出題されているか十分に確認しておくこと。

内　容

第1回　呼吸①　呼吸器の構造と機能、呼吸調節、血液ガスの解釈について学習する。
第2回　呼吸②　呼吸機能検査（フローボリューム検査と肺気量分画検査）の解釈と実際について学習する。
第3回　循環①　循環器の構造と機能、循環調節
第4回　循環②　運動時の心拍変動について学習する。
第5回　運動耐容能　酸素輸送系における循環応答（呼気ガス分析による酸素摂取量測定）の解釈と実際について学習する。
第6回　代謝　基礎代謝と運動時エネルギー代謝の理解する。
第7回　体温調節　体温、熱産生、熱放散の理解する。
第8回　運動を支配する機能[神経系]①　神経系の基本的構造と機能
第9回　運動を支配する機能[神経系]②　神経系と運動
第10回　運動を支配する機能[神経系]③　運動を支配する機能の障害
第11回　運動を発現する機能[骨格筋]①　筋収縮のメカニズム
第12回　運動を発現する機能[骨格筋]②　筋収縮のエネルギー
第13回　運動を発現する機能[骨格筋]③　筋線維の種類
第14回　運動を発現する機能[骨格筋]④　筋収縮の様式　筋機能の障害
第15回　総まとめ

履修上の注意点

講義の進行を妨げる行為（私語、携帯電話の使用など）や、受講態度に明らかな問題がある場合（うつ伏せ居眠り、内職、スマートフォンの使用など）は受講をお断りします。

教科書

標準理学療法学・作業療法学　生理学　第4版
著者:　岡田隆夫・他
出版社:　医学書院
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 90% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 10% ）
期末試験の受験は堀江担当範囲、甲斐担当範囲のそれぞれの講義の3分の2以上の出席を必要とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**運動学演習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　甲斐　義浩.中野　英樹	

テーマ

四肢・体幹における関節の解剖学的構造と運動について理解する。

授業の到達目標

1.身体運動に関与する骨格筋の解剖学的作用および運動学的作用について理解できる。2.身体の動作における各筋の相互作用について理解できる。3.運動学で得た知識に基づき、運動障害分析の基礎を理解できる。4.運動学に関する過去の国家試験問題を解き、解説することができる。

授業の概要

運動学の講義内容をもとにした演習を行う。身体運動を定量化する手法について学ぶとともに、四肢・体幹における運動の計測を通して正常な関節運動について理解を深める。

準備学習（予習・復習）

当該科目における国家試験の過去問において、どのような問題が出題されているか十分に確認しておくこと。

内　　容

第1回　手の構造と機能（1）
第2回　手の構造と機能（2）
第3回　手の構造と機能（3）
第4回　脊柱の構造と機能（1）
第5回　脊柱の構造と機能（2）
第6回　脊柱の構造と機能（3）
第7回　股関節の構造と機能（1）
第8回　股関節の構造と機能（2）
第9回　股関節の構造と機能（3）
第10回　膝関節の構造と機能（1）
第11回　膝関節の構造と機能（2）
第12回　膝関節の構造と機能（3）
第13回　足関節・足部の構造と機能（1）
第14回　足関節・足部の構造と機能（2）
第15回　総まとめ

履修上の注意点

講義の進行を妨げる行為（私語、携帯電話の使用など）や、受講態度に明らかな問題がある場合（うつ伏せ居眠り、内職、スマートフォンの使用など）は受講をお断りします。

教科書

基礎運動学　第6版補訂
著者：　中村　隆一・他
出版社：医歯薬出版株式会社
出版年：2013　　ISBN：

エッセンシャル・キネシオロジー　第2版
著者：　Mansfield PJ・他（著）弓岡光徳・他（訳）
出版社：南江堂
出版年：2015　　ISBN：

参考書

プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論／運動器系　第2版
著者：　坂井建雄（監訳）
出版社：医学書院
出版年：2011　　ISBN：

成績評価

試験　（ 100% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

a90102a510

参加度 （ ）

期末試験の受験は、講義の3分の2以上の出席を必要とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**臨床運動学演習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　甲斐　義浩.中野　英樹	

テーマ

生体力学の基礎を学び，重力環境下における姿勢や歩行のメカニズムを理解する。

授業の到達目標

1. 身体運動に関与する力学的要素（力，加速度，重心，モーメントなど）を理解できる。 2. 姿勢や歩行の力学的メカニズムについて理解できる。 3. 運動学習の理論について理解できる。

授業の概要

人間の動作や運動にかかわる人体の解剖学的構造と生理学的機能、および生体力学的変数と臨床上の問題との関係について解説する。

準備学習（予習・復習）

当該科目における国家試験の過去問において、どのような問題が出題されているか十分に確認しておくこと。

内　　容

第1回　生体力学の基礎（1）－身体に作用する力、重心について
第2回　生体力学の基礎（2）－床反力と重心の加速度について
第3回　生体力学の基礎（3）－関節モーメントについて
第4回　歩行の基礎（1）－歩行周期および相，基本的な機能について
第5回　歩行の基礎（2）－歩き始めの歩行力学
第6回　歩行の基礎（3）－足関節および足部における歩行力学 1
第7回　歩行の基礎（4）－足関節および足部における歩行力学 2
第8回　歩行の基礎（5）－膝関節における歩行力学
第9回　歩行の基礎（6）－股関節における歩行力学
第10回　力の合成と分解について
第11回　仕事と力学的エネルギーについて
第12回　姿勢の基礎（1）－姿勢と安定性について
第13回　姿勢の基礎（2）－姿勢制御について
第14回　運動学習
第15回　総まとめ

履修上の注意点

講義の進行を妨げる行為（私語、携帯電話の使用など）や、受講態度に明らかな問題がある場合（うつ伏せ居眠り、内職、スマートフォンの使用など）は受講をお断りします。

教科書

基礎運動学　第6版補訂
著者：　中村隆一・他
出版社：医歯薬出版株式会社
出版年：2012　　ISBN：

歩行分析　正常歩行と異常歩行　原著第2版
著者：　Perry J（著），武田功（訳）
出版社：医歯薬出版株式会社
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 100% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
期末試験の受験は、講義の3分の2以上の出席を必要とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**人間発達学 <a>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　崎田　正博.村田　伸

テーマ

人間の誕生から死に至るまでの生涯を発達という視点からとらえ、身体・心理両面における人間発達に関する基礎的知識を教授する。その際、人間が発達する上で欠かせない外界との関わりにも言及する。

授業の到達目標

1. 人間の胎生期、新生児期、乳児期に焦点をあて、発達的視点を理解する。　2. 身体や運動機能、知的、心理的、社会的発達を理解する。

授業の概要

発表形式の授業も含みます。

準備学習（予習・復習）

ヒトの発達を学ぶことは、リハビリテーション対象者の回復を学ぶことと同等であるので、主体的に参加すること。

内　容

第1回　総論1：定義と目的、発達理論、発達の法則
第2回　総論2：定義と目的、発達理論、発達の法則
第3回　反射と運動1：中枢神経の階層性1
第4回　反射と運動2：中枢神経の階層性2
第5回　知覚・認知の発達1：胎児・新生児の知覚・認知
第6回　知覚・認知の発達2：乳幼児の知覚・認知
第7回　知覚・認知の発達3：学童の知覚・認知
第8回　知覚・認知の発達4：成人期以降の知覚・認知
第9回　運動発達1：新生児・乳幼児の運動発達1
第10回　運動発達2：新生児・乳幼児の運動発達2
第11回　運動発達3：新生児・乳幼児の運動発達3
第12回　社会性の発達1：乳幼児の社会性
第13回　社会性の発達2：学童の社会性
第14回　社会性の発達3：青年期・成人期の社会性
第15回　まとめ

履修上の注意点

1／3以上の欠席で単位なし

教科書

リハビリテーションのための人間発達学
著者：　大城昌平
出版社：メディカルプレス
出版年：　　ISBN：　9784944026609

参考書

成績評価

試験　（ 90% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 10% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**内科学**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　宮本 尚

テーマ

受講者参加型の講義であり、ロールプレイも随時取り入れていく

授業の到達目標

臨床現場でいつでも内科学の知識を活用しながらリハビリテーションが施行出来るようになる医師のリハビリテーション指示書の内容が的確に理解出来る医療現場でのチームプレイを円滑に行えるようになる

授業の概要

最新の医学的知見を入れながら授業を進めていくDVDによる視覚的講義も随意取り入れて行く

準備学習（予習・復習）

教科書の予習、復習

内　容

第1回　オリエンテーション、内科学の概念
第2回　診断、治療
第3回　症候学
第4回　循環器疾患
第5回　呼吸器疾患
第6回　消化管疾患
第7回　肝胆膵疾患
第8回　血液・造血器疾患
第9回　代謝性疾患
第10回　内分泌疾患
第11回　腎・泌尿器疾患
第12回　膠原病・アレルギー疾患
第13回　感染症
第14回　中毒性疾患
第15回　皮膚疾患

履修上の注意点

欠席回数は試験に反映される再試験はレポート提出

教科書

標準理学療法学・作業療法学「内科学」第3版
著者:　前田眞治　上月正博　飯山準一
出版社:　医学書院
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

ハリソン内科学　第4版
著者:　福井次矢　黒川清
出版社:　メディカル・サイエンス・インターナショナル
出版年:　2013　　ISBN:

PT/OT 基礎から学ぶ内科学ノート
著者:　中島雅美　松本貴子
出版社:　医歯薬出版株式会社
出版年:　2008　　ISBN:

成績評価

試験　（ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 20 ）
3分の1以上の欠席を認めない（原則として）

2016 Syllabus

科 目 名　**小児科学(理学)**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　安藤 忠

テーマ

人の「発達」上の諸現象を,主として感覚運動の発達の総和という観点からとらえ,脳・神経系の発達,骨・関節系の発達および相動運動系の発達の重要性を理解する。

授業の到達目標

1.原始反射や立ち直り反応や平衡反応の種類とその役割や消褪について理解する2.粗大運動や巧緻運動の発達について理解する3.視覚や聴覚など他の感覚器官の発達について理解する4.認知活動や社会性の発達について理解する5.代表的小児疾患の特徴と対応について理解する

授業の概要

準備学習(予習・復習)

実習やボランティア活動を通じて子供と接する機会を増やす様にし,子供をの発達を分析的にみるように心がけること

内　容

第1回　運動とは何か
第2回　運動の三要素
第3回　反射の発達
第4回　ボイタ博士の姿勢反射と運動発達
第5回　乳幼児の発達の見方
第6回　ボイタ博士の発達診断法
第7回　粗大運動の発達
第8回　巧緻運動の発達
第9回　認知活動の発達および社会性の発達
第10回　視覚・聴覚機能の発達
第11回　子供の神経系の疾患と理学療法
第12回　子供の骨・関節系の疾患と理学療法
第13回　子供の筋肉系の疾患と理学療法
第14回　知的障害の理解と理学療法
第15回　発達障害の理解と理学療法

履修上の注意点

教科書

随時資料を配布する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

正常発達
著者:　JUNG SUN HONG
出版社:　三輪書店
出版年:　2011　　ISBN:

成績評価

試験 (50)　　小テスト (20)
授業中課題 (20)　　授業中発表等 (5)
参加度 (5)
小テストは2回　授業中課題は2回　授業中発表はグループ活動で1回参加度は無欠席者に加点3分の1以上の欠席を認めない

2016 Syllabus

科 目 名　**整形外科学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　安藤　忠	

テーマ

まず、整形外科の歴史や理学療法との関わりを明らかにし、理学療法が、研究や臨床において、整形外科学の良きパートナーであることを認識することを主目的とする。そのため、講義では、整形外科学における診断・検査の概要と、外傷性疾患、炎症性疾患、先天性疾患、代謝・内分泌系疾患、腫瘍などの主要疾患と理学療法の役割を解説する。

授業の到達目標

研究・臨床における理学療法と整形外科との関連の重要性について理解し、次に、整形外科臨床においてよく見られる、各種疾患における理学療法の要点を理解する。

授業の概要

まず、整形外科の歴史や理学療法との関わりを明らかにし、理学療法が、研究や臨床において、整形外科学の良きパートナーであることを認識することを主目的とする。そのため、講義では、整形外科学における診断・検査の概要と、外傷性疾患、炎症性疾患、先天性疾患、代謝・内分泌系疾患、腫瘍などの主要疾患と理学療法の役割を解説する。

準備学習（予習・復習）

整形外科学や理学療法技術ガイドなどの関連書の購読や学会・研究会への参加

内　容

第1回　総論　整形外科学とリハビリテーションの関連
第2回　総論　整形外科学における診断法・検査法・治療法
第3回　総論　整形外科疾病論　①炎症性疾患
第4回　総論　整形外科疾病論　②代謝・内分泌性疾患
第5回　総論　整形外科疾病論　③骨・関節性疾患
第6回　総論　整形外科疾病論　④骨・軟部腫瘍
第7回　総論　整形外科疾病論　⑤神経・筋疾患
第8回　各論　外傷性疾患　①骨折
第9回　各論　外傷性疾患　②脊髄損傷
第10回　各論　外傷性疾患　③関節の損傷
第11回　各論　外傷性疾患　④腱・人体の損傷
第12回　各論　外傷性疾患　⑤末梢神経の損傷
第13回　各論　外傷性疾患　⑥スポーツ障害
第14回　各論　外傷性疾患　⑦熱傷と凍傷
第15回　各論　外傷性疾患　⑧切断と離断

履修上の注意点

教科書

整形外科学（標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野シリーズ）
著者:　立野勝彦　著
出版社:　医学書院
出版年:　　ISBN:

参考書

小児整形外科の実際
著者:　藤井敏男　編
出版社:　南山堂
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 70 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）
3分の1以上の欠席を認めない

2016 Syllabus

科 目 名　**精神医学（理学）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　川岸　久也	

テーマ

適切な保健医療福祉活動を行うために必要な基本的な精神医学の知識を習得する。

授業の到達目標

理学療法士に必要な精神医学の基本を修得する。①症状を理解し、精神医学用語で説明できるようになる。②代表的な精神疾患の症状・経過・診断・治療などの基本事項を理解する。概要を理解し、メンタルヘルスの諸問題の適切に対応できることを目指す。

授業の概要

講義形式で進める。各講義の終了時に小テストを実施する。授業の理解度を確認するため、全体の講義終了後に試験を実施する。

準備学習（予習・復習）

講義終了後に教科書に目を通し、専門用語と疾患概念について再確認しておくこと。

内　容

第1回　序論：精神とはなにか、異常とは何か、精神医学の方法、精神医学の歴史
第2回　精神症候学Ⅰ（意識、知覚、思考、感情）～症例から学ぶ～
第3回　精神症候学Ⅱ（記憶、知能、意欲、自我意識）～症例から学ぶ～
第4回　状態像（神経衰弱状態、幻覚妄想状態、うつ状態、躁状態、緊張病症候群、錯乱状態、器質性症候群）
第5回　統合失調症Ⅰ
第6回　統合失調症Ⅱ、類縁疾患
第7回　気分障害（うつ病、躁うつ病）
第8回　神経症性障害（不安障害、身体表現性障害、解離性障害、ストレス性障害）
第9回　人格障害、行動障害、摂食障害
第10回　物質関連性障害（アルコール依存・中毒、薬物依存・中毒）
第11回　器質性精神障害、症状性精神病（認知症）
第12回　児童・青年期精神障害（発達障害、多動性障害）
第13回　てんかん
第14回　睡眠障害
第15回　精神科治療学

履修上の注意点

授業終了後の復習を欠かさないこと。遅刻と途中退席はご遠慮願いたい。

教科書

精神医学 第4版（標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野）
著者：　奈良 勲
出版社：医学書院
出版年：2015　　ISBN：　4260024345

参考書

成績評価

試験　（ 60 ）	小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 10 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**神経内科学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　久保山 哲彦	

テーマ

脳および神経の機能や障害について、知識を深める。

授業の到達目標

臨床で直面するであろう傷病について、戸惑うことなく対処できるだけの知識を身に付ける。

授業の概要

知っておくべき事がらについて十分な理解を持って習得できるよう、口頭や書字にて説明する。

準備学習（予習・復習）

講義中に大事な事がらと思った部分については、今後も忘れずに覚えておくようにする。

内　容

第1回　中枢神経系の解剖、生理①
第2回　中枢神経系の解剖、生理②
第3回　神経症候学①
第4回　神経症候学②
第5回　神経症候学③
第6回　検査①
第7回　検査②
第8回　脳血管障害①
第9回　脳血管障害②
第10回　脳腫瘍
第11回　頭部外傷
第12回　脊髄疾患
第13回　先天性疾患、感染症、その他
第14回　神経内科疾患①
第15回　神経内科疾患②

履修上の注意点

特にない。【理学療法学科科目共通】3分の１以上の欠席を認めない。

教科書

標準理学療法学・作業療法学「神経内科学」第4版
著者:　川平和美編
出版社:　医学書院
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 100 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法技術学入門演習Ⅱ（筋・神経の触察）〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　宮﨑　純弥.松尾　奈々	

テーマ

筋・神経の機能解剖学を学び、検査・測定や治療に必要な触診を演習形式で学習する。

授業の到達目標

1. 学習者が演習を理解するために、解剖学的構造の名称および形などの基礎知識を修得することができる。
2. 学習者が視診・触診を行うために、人体での体表の解剖学的構造の形について認識できる。
3. 学習者が評価・治療の実施ができるために、解剖学的構造を実際の身体で視診・触診する技術を修得できる。

授業の概要

理学療法士は、関節を操作することで身体運動の改善を促す専門家である。そのためには、その原点である関節を構成する組織について、解剖学・運動学・生体力学などの観点から理解していることが望ましい。この講義では、筋・神経の解剖学的知識を学び、それらを触り部位を確認できる能力を習得することを目的とする。また、実際の治療では対象者の身体を扱うため、触られたときの感覚を知っておくことも重要である。そのため、触られている感覚を言語化してフィードバックすることで相互の学習効果が期待できる。演習への姿勢、受講態度を通じて医療人としての意識を芽生えさせることもねらいとする。

準備学習（予習・復習）

テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

内　　容

第1回　オリエンテーション、総論（筋の形、触診法）
第2回　肩甲帯筋の触診
第3回　肩甲帯筋の触診
第4回　上腕筋の触診
第5回　上腕筋の触診
第6回　前腕筋の触診
第7回　前腕筋・手の内在筋の触診
第8回　頸筋・頭部の筋の触診
第9回　体幹筋の触診
第10回　体幹筋の触診
第11回　骨盤筋の触診
第12回　大腿筋の触診
第13回　大腿筋・下腿筋の触診
第14回　下腿筋の触診
第15回　足の内在筋の触診

履修上の注意点

実技を行いますので、臨床実習に行けるような身だしなみで参加すること。茶髪などやアクセサリーなどの着用は禁止する。

教科書

触診機能解剖カラーアトラス 上 総論・身体の面と軸・骨/関節・靭帯
著者：　竹井仁
出版社：文光堂
出版年：2008　　ISBN：9784830643446

触診機能解剖カラーアトラス 下 筋・血管・神経
著者：　竹井仁
出版社：文光堂
出版年：2008　　ISBN：9784830643453

プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系
著者：　坂井建雄
出版社：医学書院
出版年：2011　　ISBN：9784260010689

参考書

a90102b310

成績評価

試験 （ 50% ）　小テスト（ 実技試験50% ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法評価学総論 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小田桐　匡.内藤　紘一	

テーマ

理学療法評価を総論的に学習する. また形態測定および関節可動域の測定については技術的な学習も合わせて行う.

授業の到達目標

1. 障害モデルと生活モデルを説明できる。2. 理学療法における検査・測定、治療の流れを説明できる。3. 形態測定の方法と関節可動域の測定を実施できる。

授業の概要

理学療法における検査・測定、治療の流れを理解し、基本的な検査・測定の意義や手技について学習する。また、リハビリテーションの観点から障害評価を理解し、患者の問題を考える指標となる障害モデルについて学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　理学療法評価の流れ
第2回　患者が抱える問題を見極める
第3回　障害モデルと生活モデルの理解
第4回　障害モデルの抽出方法
第5回　患者の一般情報の収集方法
第6回　患者の問題点を予測する
第7回　問題点の抽出
第8回　治療計画の立案
第9回　形態測定（肢長）
第10回　形態測定（周径）
第11回　形態測定の実践と記録方法
第12回　関節可動域の測定（上肢）
第13回　関節可動域の測定（下肢）
第14回　関節可動域の測定（体幹）
第15回　関節可動域の実践と記録方法

履修上の注意点

教科書

理学療法評価学　改訂第4版
著者:　松澤正
出版社:　金原出版株式会社
出版年:　2012　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 10 ）　　授業中発表等　（ 10 ）
参加度　（ 20 ）
3分の1以上の欠席を認めない

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法評価学総論実習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松尾　奈々.安彦　鉄平	

テーマ

理学療法評価における検査測定の実際について学習する。理学療法評価を施行する上で必要な基礎的知識の理解と技術の習得を中心に、各種検査・評価を演習形式で教授する。

授業の到達目標

1. 各種検査・評価の意義や目的を説明することができる。2. 各種検査・評価の手順および注意点について説明することができる。3. 適した検査法が具体的に実施することができる。4. 各種検査・評価の結果が記録できる。

授業の概要

理学療法評価とは、対象者にとってその障害がどういう意味をなすかを解釈し判断する過程である。理学療法はその過程を通して、適宜必要と判断された治療行為に結び付けていく。この授業では、評価の意義、またその目的を理解し、治療行為に結び付けていく考え方について判断できるようになることを目標とする。また、理学療法評価でも基本的な評価項目である徒手筋力検査法（MMT）をはじめとする理学療法評価の実習を行い、各種理学療法評価技術の習得を目指す。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション、神経学的検査：感覚検査（意義、目的）
第2回　神経学的検査：感覚検査（方法について）
第3回　神経学的検査：感覚検査（学生間での実習）
第4回　筋力検査（意義、目的）
第5回　粗大筋力検査
第6回　徒手筋力検査（原理について）
第7回　徒手筋力検査（肩関節）
第8回　徒手筋力検査（肩関節）
第9回　徒手筋力検査（肩甲骨）
第10回　徒手筋力検査（肩甲骨）
第11回　徒手筋力検査（肘関節、前腕）
第12回　徒手筋力検査（前腕、手関節）
第13回　徒手筋力検査（頚筋、頭部）
第14回　徒手筋力検査（頚筋、頭部、顔面）
第15回　徒手筋力検査（体幹）
第16回　徒手筋力検査（体幹）
第17回　徒手筋力検査（股関節）
第18回　徒手筋力検査（股関節）
第19回　徒手筋力検査（股関節）
第20回　徒手筋力検査（膝関節）
第21回　徒手筋力検査（足関節）
第22回　まとめ
第23回　まとめ

履修上の注意点

実技の際の身だしなみや服装は、病院実習時に準ずること。

教科書

理学療法評価学　改訂第4版
著者：　松澤正、他
出版社：金原出版株式会社
出版年：2012　　ISBN：　9784307750325
新・徒手筋力検査法　原著第9版
著者：　津山直一、他
出版社：協同医書出版社
出版年：2014　　ISBN：　9784763900388

参考書

触診機能解剖カラーアトラス 下 筋・血管・神経

a90102b510

著者:　竹井仁
出版社: 文光堂
出版年: 2008　　ISBN:　9784830643453

成績評価

試験 （ 60% ）　　小テスト（ 実技試験　40% ）
授業中課題 （ 0% ）　　授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 0% ）
授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法評価学各論演習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　安彦　鉄平.小田桐　匡.松尾　奈々	

テーマ

本講義は、理学療法の対象となる代表的な疾患の検査方法の意義と方法論を学び、各疾患の評価結果を踏まえた理学療法の流れについて学ぶ。

授業の到達目標

1. 各種検査を実施するにあたり解剖学、生理学、神経内科学などの基礎知識を整理することができる。2. 疾患・部位別の代表的な理学療法評価を理解することができる。3. 各種検査・評価の意義および目的や注意点を説明することができる。4. 各種検査における種類と方法を正しく理解することができる。

5. 疾患・部位別に適した検査法が具体的に実施することができる。
6. 各種検査・評価の結果が記録できる。
7. 適切なオリエンテーションができる。
8. 医療人としての基本的態度を身につけ、患者様に実践できる準備をする。

授業の概要

理学療法評価とは、対象者にとってその障害がどういう意味をなすかを解釈し判断する過程である。理学療法はその過程を通して、適宜必要と判断された治療行為に結び付けていく。この授業では、評価の意義、またその目的を理解し、治療行為に結び付けていく考え方について判断できるようになることを目標とする。

準備学習（予習・復習）

予習：テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて理学療法評価に必要な専門基礎科目の復習を行う。復習：各自の理解度に応じて学生間で理学療法評価の概要及び実技の復習を行う。

内　容

第1回　オリエンテーション、神経学的検査：筋緊張検査
第2回　神経学的検査:筋緊張検査
第3回　神経学的検査:筋緊張検査
第4回　神経学的検査:筋緊張検査
第5回　神経学的検査：反射検査
第6回　神経学的検査：反射検査
第7回　神経学的検査：反射検査
第8回　協調性検査
第9回　協調性検査
第10回　神経障害系疾患の評価：片麻痺機能検査
第11回　神経障害系疾患の評価：片麻痺機能検査
第12回　神経障害系疾患の評価：片麻痺機能検査
第13回　神経障害系疾患の評価：片麻痺機能検査
第14回　神経障害系疾患の評価：脳神経検査
第15回　神経障害系疾患の評価：脳神経検査
第16回　神経障害系疾患の評価：脳神経検査
第17回　神経障害系疾患の評価：高次脳機能検査
第18回　神経障害系疾患の評価：高次脳機能検査
第19回　神経障害系疾患の評価：高次脳機能検査
第20回　神経障害系疾患の評価：高次脳機能検査
第21回　平衡機能検査
第22回　平衡機能検査
第23回　平衡機能検査
第24回　平衡機能検査
第25回　運動器疾患の評価：整形外科的検査（頚部・体幹疾患）
第26回　運動器疾患の評価：整形外科的検査（上肢疾患）
第27回　運動器疾患の評価：整形外科的検査（下肢疾患）
第28回　痛みの評価
第29回　痛みの評価
第30回　まとめ、記述テストなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

実技の際の身だしなみや服装は、病院実習時に準ずること。

教科書

a90102b650

理学療法評価学　改訂第4版
著者:　松澤正、他(著)
出版社:　金原出版株式会社
出版年:　2012　ISBN:　9784307750325

病気がみえる〈vol.7〉脳・神経
著者:　医療情報科学研究所(編)
出版社:　メディックメディア
出版年:　2011　ISBN:　9784896323580

参考書

ベッドサイドの神経の診かた
著者:　田崎義昭、他(著
出版社:　南山堂
出版年:　2010　ISBN:　9784525247171

片麻痺の運動療法
著者:　S.Brunnstrom(著)、佐久間穣爾・他(訳)
出版社:　医歯薬出版株式会社
出版年:　1974　ISBN:　9784263210116

成績評価

試験　(70)　小テスト　(30)
授業中課題　(0)　授業中発表等　(0)
参加度　(0)
授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法評価学各論実習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期後半	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　安彦　鉄平.小田桐　匡.松尾　奈々	

テーマ

本講義は、理学療法評価学各論演習で学んだ各種理学療法評価について、疾患および障害に適した検査・測定を選択できるようになる。また、評価方法について実習し、技術の習得や結果の解釈について学ぶ。また、学生同士で練習することで、対象者への配慮やリスク管理などについても理解する。

授業の到達目標

1. 各種疾患の障害メカニズムを説明することができる。2. 各種疾患の代表的評価項目を述べることができる。3. 各種疾患の評価手順に沿って実施することができる。4. 各種疾患とICFにもとづく障害の整理ができる。5. 対象者への配慮やリスク管理に留意して検査・測定を遂行することができる。

授業の概要

理学療法評価とは、対象者にとってその障害がどういう意味をなすかを解釈し判断する過程である。理学療法はその過程を通して、適宜必要と判断された治療行為に結び付けていく。この授業では、各疾患ごとの病態に応じた評価の意義、またその目的を理解し、評価項目の抽出および治療行為に結び付けていく考え方について理解できるようになることを目標とする。

準備学習（予習・復習）

予習：テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて理学療法評価に必要な専門基礎科目の復習を行う。復習：各自の理解度に応じて学生間で理学療法評価の概要及び実技の復習を行う。

内　容

第1回　オリエンテーション　神経・筋疾患（パーキンソン病）の障害像の理解と理学療法評価
第2回　神経・筋疾患（パーキンソン病）の障害像の理解と理学療法評価
第3回　神経・筋疾患（パーキンソン病）の障害像の理解と理学療法評価
第4回　神経・筋疾患（パーキンソン病）の障害像の理解と理学療法評価
第5回　運動器疾患（大腿骨頸部骨折）の障害像の理解と理学療法評価
第6回　運動器疾患（大腿骨頸部骨折）の障害像の理解と理学療法評価
第7回　運動器疾患（関節リウマチ）の障害像の理解と理学療法評価
第8回　運動器疾患（関節リウマチ）の障害像の理解と理学療法評価
第9回　運動器疾患（変形性関節症）の障害像の理解と理学療法評価
第10回　運動器疾患（変形性関節症）の障害像の理解と理学療法評価
第11回　運動器疾患（腰痛症）の障害像の理解と理学療法評価
第12回　運動器疾患（腰痛症・肩関節周囲炎）の障害像の理解と理学療法評価
第13回　運動器疾患（肩関節周囲炎）の障害像の理解と理学療法評価
第14回　神経障害系疾患（小脳疾患）の障害像の理解と理学療法評価
第15回　神経障害系疾患（小脳疾患）の障害像の理解と理学療法評価
第16回　神経障害系疾患（脳血管障害）の障害像の理解と理学療法評価
第17回　神経障害系疾患（脳血管障害）の障害像の理解と理学療法評価
第18回　神経障害系疾患（脳血管障害）の障害像の理解と理学療法評価
第19回　神経障害系疾患（脳血管障害）の障害像の理解と理学療法評価
第20回　神経障害系疾患（脊髄損傷）の障害像の理解と理学療法評価
第21回　神経障害系疾患（脊髄損傷）の障害像の理解と理学療法評価
第22回　神経障害系疾患（脊髄損傷）の障害像の理解と理学療法評価
第23回　まとめ

履修上の注意点

授業日程の3分の2以上の出席が原則

教科書

理学療法評価学　改訂第4版
著者：　松澤正、他（著）
出版社：金原出版株式会社
出版年：2012　　ISBN：9784307750325
病気がみえる〈vol.7〉脳・神経
著者：　医療情報科学研究所（編）
出版社：メディックメディア
出版年：2011　　ISBN：9784896323580

a90102b750

3日間で行う理学療法臨床評価プランニング

著者:　中山 恭秀

出版社: 南江堂

出版年: 2013　　ISBN:　9784524268146

参考書

ベッドサイドの神経の診かた

著者:　田崎義昭、他(著

出版社: 南山堂

出版年: 2010　　ISBN:　9784525247171

理学療法学ゴールド・マスター・テキスト1理学療法評価学

著者:　柳澤健(編)

出版社: MEDICAL VIEW

出版年: 2010　　ISBN:　9784758311083

成績評価

試験 (90)　　小テスト ( )

授業中課題 (10)　　授業中発表等 ( )

参加度 ( )

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

2016 Syllabus

科 目 名　**運動療法学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　横山　茂樹	

テーマ

運動療法の基本的事項に関する知識と技術・方法について理解する。

授業の到達目標

本講義では、運動療法の構成要素について、生理学的および機能解剖学的知識を踏まえた上で学習します。理学療法の基盤となる運動療法に関する幅広い基礎知識を身につけることが目標となる。

授業の概要

運動療法学の理論的背景と基礎運動が身体の組織・臓器に与える影響を理解した上で，運動療法の関する基礎知識を身につける.

準備学習（予習・復習）

教科書を中心に進行するため，事前に必ず予習を行うこと．特に医学用語もしくは専門用語，キーワードは調べておくこと．また講義ノートを作製し，予習および復習した内容はノートに書き留めておくこと.

内　容

第1回　運動療法総論
第2回　関節可動域制限に対する運動療法（1）
第3回　関節可動域制限に対する運動療法（2）
第4回　関節可動域制限に対する運動療法（3）
第5回　筋力低下に対する運動療法（1）
第6回　筋力低下に対する運動療法（2）
第7回　持久力低下に対する運動療法
第8回　痛みに対する運動療法
第9回　中枢神経性運動麻痺に対する運動療法(1）
第10回　中枢神経性運動麻痺に対する運動療法（2）
第11回　末梢神経性・感覚障害に対する運動療法
第12回　バランス障害/協調性運動障害に対する運動療法
第13回　姿勢・歩行障害に対する運動療法
第14回　各疾患に対する治療体操
第15回　ゲストスピーカーによる講義「臨床現場における運動療法」

履修上の注意点

これまでに学習した基礎科目の知識を十分に整理した上で講義に臨んでください．3分の2以上の出席により、成績評価対象とする.

教科書

運動療法学
著者：　市橋則明　編集
出版社：文光堂
出版年：2008　　ISBN：　9784830643422

参考書

運動療法大全
著者：　キャロリン・キスナー，他
出版社：ガイアブックス
出版年：2008　　ISBN：

成績評価

試験　（ 60 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 5 ）
参加度　（ 5 ）
授業開始時に基礎知識に関する確認テストを実施します．授業中課題として，レポートおよび講義ノートを参考に評価を行います.

2016 Syllabus

科 目 名　**物理療法学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　濱出　茂治	

テーマ

物理療法における治療技術、治療特性、適応と禁忌等の知識を理解する。さらに骨・関節、神経・筋疾患に対する臨床適用技術法を修得する。

授業の到達目標

1．物理療法における評価方法および治療量の適切な決定基準を理解する。2．疼痛症状、創傷、骨・関節障害、神経・筋障害等の病態を理解する。3．治療リスクおよび事故防止方法を理解する。4．基本的治療技術方法を理解する。

授業の概要

物理療法における治療技術、治療特性、適応と禁忌などの知識を理解する。さらに種々の疾患における臨床適用方法を修得する。

準備学習（予習・復習）

物理療法学に関する教科書、文献等の自己学習、レポート課題の学習

内　　容

第1回　物理療法の歴史、定義、体系
第2回　物理療法における評価法
第3回　表在温熱療法Ⅰ：伝導熱、輻射熱、対流熱
第4回　表在温熱療法Ⅱ：パラフイン浴、赤外線療法
第5回　深部温熱療法Ⅰ：エネルギー変換熱（超短波、極超短波）
第6回　深部温熱療法Ⅱ：エネルギー変換熱（超音波療法、低出力超音波療法）
第7回　寒冷療法：冷却法、痙性抑制法、神経・筋促通法
第8回　極低温療法：局部冷却、全身冷却
第9回　水治療法：ハバードタンク、過流浴、圧注法、交代浴、灌注法
第10回　光線療法：紫外線、ソフトレーザー療法
第11回　電気刺激療法Ⅰ：経皮的末梢神経電気刺激、高電圧刺激、干渉電流刺激
第12回　電気刺激療法Ⅱ：神経・筋電気刺激、機能的電気刺激法
第13回　牽引療法：四肢牽引、頸椎牽引、腰椎牽引
第14回　電気診断：時間ー強さ曲線作図法、誘発筋電図（M波、H波、F波、運動誘発電位）
第15回　まとめ

履修上の注意点

1/3以上の欠席は認めない。

教科書

物理療法マニュアル
著者：　濱出茂治・他
出版社：医歯薬出版
出版年：1997　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 80 ）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（　）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**生活技術学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村田　伸.安彦　鉄平	

テーマ

理学療法の大きな目標の一つである日常生活活動の自立を目指すための理学療法の一連の流れを学習する。

授業の到達目標

1．基本的ADLと手段的ADLを説明できる。2．ADLの代表的な評価方法を実践できる。3．ADLの自立に向けた基本的なアプローチ方法を説明できる。4．疾患特有のADL障害を理解し、そのアプローチ方法を説明できる。

授業の概要

ADLの評価について講義および演習形式で学習する。また、補装具やADL自立に向けた基本的なアプローチに関しては、体験や実技を加えながら学習を進める。

準備学習（予習・復習）

予習：テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて理学療法評価に必要な専門基礎科目の復習を行う。復習：各自の理解度に応じて復習を行う。

内　　容

第1回　日常生活活動（ADL）の概念
第2回　ADLの評価の実際（BI）
第3回　ADLの評価の実際（FIM）
第4回　ADLの評価の実際（FIM）
第5回　手段的日常生活活動（IADL）の評価
第6回　補装具（杖と車いす）
第7回　起居・移動動作
第8回　身の回り動作
第9回　ADLを支援する機器
第10回　疾患別ADL（脳卒中）
第11回　疾患別ADL（脊髄損傷）
第12回　疾患別ADL（関節リウマチ）
第13回　疾患別ADL（大腿骨頸部骨折）
第14回　疾患別ADL（変形性関節症）
第15回　疾患別ADL（下肢切断）

履修上の注意点

3分の2の出席をもって、成績判定を行う。3分の１以上の欠席を認めない

教科書

日常生活活動テキスト
著者：　河元岩男・他偏
出版社：南江堂
出版年：2011　　ISBN：　4524247084

参考書

成績評価

試験　（ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 20 ）
授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

2016 Syllabus

科 目 名　**運動器障害系理学療法学基礎演習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮﨑　純弥	

テーマ

運動器障害系理学療法の基礎的な知識と技術の習得を促進

授業の到達目標

運動器系疾患に対する理学療法を実施するうえで必要な基礎知識を学び、基本的な治療手技を学ぶ。講義と実技を行う。

授業の概要

運動器系疾患に対する理学療法を実施するうえで必要な基礎知識を学び、基本的な治療手技を学ぶ。講義と実技を行う。

準備学習（予習・復習）

テキストや参考書を使用して、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

内　　容

第1回　理学療法プロセスとは
第2回　理学療法プロセス（障害の階層性）
第3回　理学療法プロセス（情報収集～検査測定の意味）
第4回　理学療法プロセス（統合解釈～治療計画立案）
第5回　骨折に関する基礎知識
第6回　大腿骨頸部骨折の理学療法
第7回　大腿骨頸部骨折の理学療法実技
第8回　変形性股関節症の理学療法
第9回　変形性股関節症の理学療法実技
第10回　変形性膝関節症の理学療法
第11回　変形性膝関節症の理学療法実技
第12回　腰痛症の理学療法1
第13回　腰痛症の理学療法2
第14回　腰痛症の理学療法実技
第15回　腰部疾患の理学療法
第16回　腰部疾患の理学療法実技
第17回　肩関節疾患の理学療法1
第18回　肩関節疾患の理学療法2
第19回　肩関節疾患の理学療法実技
第20回　関節リウマチの理学療法
第21回　関節リウマチの理学療法実技
第22回　下肢骨折の理学療法
第23回　下肢骨折の理学療法実技
第24回　上肢骨折の理学療法
第25回　上肢骨折の理学療法実技
第26回　脊椎疾患の理学療法
第27回　脊椎疾患の理学療法実技
第28回　靭帯損傷の理学療法
第29回　靭帯損傷の理学療法実技
第30回　総括

履修上の注意点

茶髪等・ピアス等のアクセサリーの着用は厳禁です。いつでも実技が出来る服装で参加して下さい。

教科書

運動器障害理学療法学改定2版
著者:　編集）高柳清美・中川法一・木藤伸宏
出版社:　南江堂
出版年:　2016　　ISBN:　9784524242542

a90102c150

ここがポイント！整形外科疾患の理学療法改訂第2版

著者:　監修)冨士武史

出版社: 金原出版

出版年: 2006　　ISBN:　9784307251334

参考書

成績評価

試験 （ 90% ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等 （ 5% ）

参加度 （ 5% ）

授業日程の2/3以上出席した者を成績評価の対象とします。

2016 Syllabus

科 目 名　**神経障害系理学療法学基礎演習**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　小田桐 匡.兒玉 隆之.濱出 茂治

テーマ

中枢性・末梢性神経障害に対する理学療法学を学ぶ.

授業の到達目標

解剖学、生理学、臨床医学などで学んだ神経系の知識を基礎に、それらの損傷がもたらす中枢性疾患や末梢性疾患の病態を理解し、その障害に対する理学療法（評価方法や治療トレーニング）の知識を演習形式にて学習する.

授業の概要

準備学習（予習・復習）

神経障害学に関する参考書、文献等の自己学習、レポート課題の学習

内　容

第1回　下位ニューロン障害の病態
第2回　下位ニューロン障害に対する評価（電気診断法）
第3回　下位ニューロン障害に対する理学療法
第4回　模擬下位ニューロン障害症例に対するグループ演習Ⅰ
第5回　模擬下位ニューロン障害症例に対するグループ演習Ⅱ
第6回　大脳の解剖生理と機能について
第7回　大脳における運動神経系および感覚神経系について
第8回　大脳の内因性疾患（脳卒中など）に対する理学療法
第9回　大脳の外因性疾患（頭部外傷など）に対する
第10回　グループ演習①
第11回　大脳基底核の解剖と生理および代表的な障害について
第12回　小脳の解剖と生理および代表的な障害について
第13回　脊髄の解剖と生理および代表的な障害について
第14回　グループ演習②
第15回　グループ演習③

履修上の注意点

3分の1以上の欠席を認めない.

教科書

神経理学療法学
著者:　奈良　勲
出版社:　医学書院
出版年:　　ISBN:

参考書

パーキンソン病の理解とリハビリテーション
著者:　山永裕明, 野尻晋一
出版社:　三輪書店
出版年:　2012　　ISBN:　978-4-89590-0

成績評価

試験　（ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**検査・測定実習**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期集中　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　宮﨑 純弥.安彦 鉄平.小田桐 匡.甲斐 義浩.兒玉 隆之.崎田 正博.白岩 加代子.濱出 茂治.堀江 淳.松尾 奈々.村田 伸.横山 茂樹

テーマ

授業の到達目標

1)社会人・専門職としての基本的態度を身につける。2)対象者とのコミュニケーションをとることができる。3)医療従事者として責任および節度のある態度と行動を身につける。4)対象者に対して、基本的な評価項目を正しく実施できる。5)基本的な評価結果を記録し、報告することができる6)学内での講義・実習の意義を理解し学習意欲を高める。

授業の概要

基礎医学および疾病と障害に関する知識と「臨床基礎実習」の経験をふまえて、実習指導者の指導・教育のもと、理学療法士の評価・治療場面の見学のほか、初歩的な検査・測定の手順についても体験し、統合と解釈の重要性を理解する。本実習を通して、理学療法の対象者の障害の多様性を認識すると共に、疾病や障害に応じた評価および障害像の捉え方を学び、専門知識と技術の重要性について認識する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション：実習概要を理解し、実習に取り組む際の注意事項などについて確認する。
第2回　現場実習
第3回　現場実習
第4回　現場実習
第5回　現場実習
第6回　現場実習
第7回　現場実習
第8回　現場実習
第9回　現場実習
第10回　現場実習
第11回　現場実習
第12回　現場実習
第13回　現場実習
第14回　現場実習
第15回　現場実習
第16回　現場実習
第17回　現場実習
第18回　現場実習
第19回　現場実習
第20回　現場実習
第21回　現場実習
第22回　現場実習
第23回　現場実習
第24回　現場実習
第25回　現場実習
第26回　現場実習
第27回　現場実習
第28回　現場実習
第29回　現場実習
第30回　実習終了後セミナー：実習経験報告、集団討議、事例検討・報告などから成る。学生は、実習課題を中心に、実習施設の特徴や実習した内容および経験について要点をまとめて簡潔に発表する。

履修上の注意点

教科書

参考書

a90102c350

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）
実習の出席は80%以上で単位認定の資格を得る。

2016 Syllabus

科 目 名　**公衆衛生学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　伊藤　健一	

テーマ

理学療法士に必要な公衆衛生の基礎的な知識を身につける。

授業の到達目標

公衆衛生の前提となる集団・社会の健康の意義、社会医学の考え方、公衆衛生学の発展過程を理解した上で、公衆衛生活動の人口・疾病統計と健康指標、疫学、健康管理の基礎を身につける。地域保健、成人保健、母子保健、老人保健、産業保健、学校保健の各分野における保健活動について理解する。

授業の概要

公衆衛生学の中でも，とりわけ理学療法と関連が深い内容を抽出し，教授を行う。授業はオリジナルの資料に基づき行い，随時演習も取り入れる。

準備学習（予習・復習）

普段から日本の医療・保健における現状と問題点を気にかけること。

内　容

第1回　集団の健康の定義と社会医学の考え方
第2回　公衆衛生学の発展過程
第3回　人口統計の健康指標
第4回　疫学の定義、疫学の調査方法
第5回　環境保健・健康管理
第6回　地域保健・母子保健
第7回　成人保健・老人保健福祉
第8回　学校保健・産業保健

履修上の注意点

受け身姿勢で受講するのではなく，授業に積極的に参加すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験 （ 80 ）　小テスト（ ）
授業中課題 （ ）　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**老年医学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　宮本　尚	

テーマ

超高齢化社会を迎えつつある我が国では、病気を持つ高齢者が増加している。高齢者は「老化した成人」と同一ではない、高齢者固有の身体的・精神的特徴を有している。そうした高齢者の特徴について学んでいきたい。

授業の到達目標

病に悩む高齢者の臨床現場で、高齢者の身体的・精神的特徴に配慮した診療実践ができるよう基礎的知識を獲得してほしい。

授業の概要

益々増加する高齢者の様々な疾患の病像、治療について教授する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　加齢と老化
第2回　高齢者へのアプローチ
第3回　老年症候群
第4回　循環器疾患
第5回　呼吸器疾患
第6回　消化器疾患
第7回　骨・運動器疾患
第8回　神経疾患
第9回　精神疾患
第10回　内分泌代謝疾患
第11回　血液・免疫疾患
第12回　腎・泌尿器・皮膚・口腔疾患
第13回　感染症・耳鼻咽喉・眼疾患
第14回　高齢者の環境
第15回　高齢者のリハビリテーション

履修上の注意点

3分の1以上の欠席を認めない（原則として）

教科書

標準理学療法学・作業療法学「老年学」第4版
著者:　大内尉義編集
出版社:　医学書院
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 80 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**救急医学**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

救急医学の基礎知識

授業の到達目標

本講義では、救急救命の歴史や現代の救急医療について概観し、科学的思考の基礎知識や人間の身体、心、くらしへの理解を深める。さらに、応急処置と種類、代表的な処置として心肺蘇生法の理解する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション、胃の倫理と生命倫理
第2回　救急業務とは、救急業務の沿革
第3回　病院前救護
第4回　科学的思考の基礎、人間と人間生活
第5回　救急救命の役割と責任
第6回　救急医療体制
第7回　救急医療システム
第8回　メディカルコントロール
第9回　救急救命に関係する法令
第10回　救急活動要領
第11回　救急活動要領
第12回　死者の対応要領
第13回　医療保険制度
第14回　まとめ
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 100 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
規定の講義参加度に達した者のみ試験評価を実施する。

2016 Syllabus

科 目 名　**画像診断学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　田村　慶朗.西川　仁史.畑　正樹.久保山　哲彦	

テーマ

基本的な画像診断学の知識を習得する。

授業の到達目標

・画像診断のための各種検査法の原理と診断方法を理解する。・治療への応用であるIVR(インターベンショナル・ラジオロジー)について理解する。・整形外科領域における医用診断画像の読影法を学び、理学療法評価や治療プログラム遂行上の病態把握、リスク管理に欠かせない情報であることを理解する。・理学療法士に必要な画像の見方を習得する。

授業の概要

授業による座学を中心とする。

準備学習（予習・復習）

当該科目における国家試験の過去問においてどのような問題が出題されているか確認しておくこと。第8～11回授業では、授業の理解度を確認するために小テストを実施します。小テスト結果は、成績判定に反映します。なお、遅刻10分で欠席扱いにしますので注意してください。

内　容

第1回　放射線診断の歴史および画像診断学の概要を学ぶ。
第2回　各種検査法（X線CT）の原理と画像診断学について学ぶ。
第3回　各種検査検査（MRI）の原理と画像診断学について学ぶ。
第4回　整形外科領域の画像の見方：代表的な外傷性疾患について学ぶ
第5回　整形外科領域の画像の見方：高齢者の4大骨折について学ぶ
第6回　整形外科領域の画像の見方：変形性関節症（OA）と関節リウマチ（RA）について学ぶ
第7回　整形外科領域の画像の見方：若年者とスポーツ障害について学ぶ
第8回　内臓器疾患の画像の見方1
第9回　内臓器疾患の画像の見方2
第10回　脳外科疾患の画像の見方1
第11回　脳外科疾患の画像の見方2
第12回　脳外科疾患の画像の見方3
第13回　理学療法士に必要な画像の見方1
第14回　理学療法士に必要な画像の見方2
第15回　理学療法士に必要な画像の見方3

履修上の注意点

教科書

メディカルノート画像診断
著者：　小川敏英
出版社：西村書店
出版年：2007年　　ISBN：

参考書

運動療法に役立つ単純X線像の読み方
著者：　青木隆明
出版社：MEDICAL VIEW社
出版年：2011年　　ISBN：

成績評価

試験　（ 80 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 20 ）
3分の1以上の欠席を認めない

2016 Syllabus

科 目 名　**スポーツ医学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　北條　達也.吉村　直心.吉田　昌平

テーマ

スポーツ選手に対する医学的アプローチについて

授業の到達目標

スポーツ選手に対して，多方面からの医学的アプローチを理解し，実践できることを目標とする．またスポーツ傷害の理解を通して，筋・骨格系，呼吸循環系の機能解剖や運動生理学の基礎知識を深める．

授業の概要

本講義では，運動器系のスポーツ外傷・障害の診断，治療，予防および内科系のスポーツ障害，さらには成長期や女性，中高年のスポーツ選手特有の障害を解説する．また競技別傷害や知っておくべきメディカルチェックやドーピングにも言及する．さらには傷害から競技復帰までのメディカルリハビリテーションおよびアスレティックリハビリテーションに関しても具体的な手法をふまえ解説する．授業はスライドを用いた講義を中心に進め，各講義の終わりに小テストを実施し，理解を深める予定である．

準備学習（予習・復習）

事前に参考図書等，講義内容に関するものに目を通しておくことが望ましい．

内　容

第1回　スポーツ医学概論：外傷と障害外傷総論（1）：打撲
第2回　スポーツ外傷総論（2）：捻挫・脱臼・骨折（救急処置含む）
第3回　スポーツ傷害各論（1）：頭頸部および腰部・体幹
第4回　スポーツ傷害各論（2）：上肢
第5回　スポーツ傷害各論（3）：下肢
第6回　スポーツ傷害各論（4）：成長期・女性・障害者・その他
第7回　内科系および特殊環境下でのスポーツ傷害
第8回　メディカルチェックとアンチ・ドーピング
第9回　アスレティックリハビリテーション：上肢・体幹（1）
第10回　アスレティックリハビリテーション：上肢・体幹（2）
第11回　アスレティックリハビリテーション：上肢・体幹（3）
第12回　アスレティックリハビリテーション：下肢（1）
第13回　アスレティックリハビリテーション：下肢（2）
第14回　アスレティックリハビリテーション：下肢（3）
第15回　まとめ

履修上の注意点

欠席に関しては規定に従い取り扱う．

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

日本体育協会/公認アスレティックトレーナー専門テキスト3「スポーツ外傷・障害の基礎知識」
著者：　福林徹　他
出版社：　文光堂
出版年：　2007　ISBN：

成績評価

試験　（ 90 ）　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 10 ）
試験により成績評価を行うが，必要に応じ出席率も加味する．

2016 Syllabus

科 目 名　**薬理学(理学)**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

日常生活と薬の関わり(無い方がベター)

授業の到達目標

「薬の働き」との関連から、動作を中心とする人間の生理的機能やその障害に関する理解を深める。人間の日常生活と薬の存在に関して、「有効性」と「安全性」の意味を認識できる。

授業の概要

運動・動作に影響を与える薬や運動機能障害の治療薬などを中心に、代表的な数種の薬を例として取り上げ、その作用について解説する。

準備学習(予習・復習)

その日の講義内容がこれまでに他の科目で学んだ事柄に関連していないかを思い出してみることが望ましい。

内　容

第1回　薬とは
第2回　薬が効くメカニズム(作用点と作用機序)
第3回　体内での薬の移動と変化(薬物動態)
第4回　運動機能に影響を与える薬
第5回　自律神経機能に影響を与える薬
第6回　抗けいれん薬
第7回　気分障害の治療薬(抗うつ薬)
第8回　統合失調症の治療薬(抗精神病薬)
第9回　運動機能障害の治療薬
第10回　内分泌機能障害の治療薬
第11回　糖尿病治療薬
第12回　血液凝固に関連する薬
第13回　リハビリテーションと薬
第14回　アンチドーピング(I)
第15回　アンチドーピング(II)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　(100)	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**栄養学**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

子どもの発育に応じた栄養と食生活

授業の到達目標

栄養の基礎知識と小児の発達を理解し、小児の栄養と食生活を学ぶ。

授業の概要

子どもが健やかに発育するために必要な栄養の基本的な知識を身につける。小児の発育に必要な栄養は成長とともに変化し、成人と異なる点も多い。各発達段階における栄養と食事を具体的に学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　小児栄養の意義
第2回　小児の発育・発達と栄養（味覚・食物嗜好・食習慣の形成）
第3回　食品と栄養に関する基礎知識1
第4回　食品と栄養に関する基礎知識2
第5回　食品と栄養に関する基礎知識3
第6回　食品と栄養に関する基礎知識4
第7回　妊娠・授乳期の食生活
第8回　乳児期・離乳期の食生活
第9回　学童期の食生活
第10回　食育の基本
第11回　家庭や児童福祉施設における食事と栄養
第12回　食べる機能の発達、障害のある小児の食生活
第13回　幼児期の食生活と疾病
第14回　小児期の食生活と疾病

履修上の注意点

教科書

最新子どもの食と栄養～食生活の基礎を築くために～
著者:　飯塚美和子他
出版社:　医学書院
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 60 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 20 ）
3分の1以上の欠席を認めない

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅰ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村田　伸	

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理（倫理委員会審査方法など）を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習（予習・復習）

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内　　容

第1回　理学療法分野における研究について学ぶ
第2回　研究課題と見つけ方について学ぶ
第3回　研究計画の立て方について学ぶ
第4回　研究デザインの種類について学ぶ
第5回　評価指標の選択方法について学ぶ（信頼性、妥当性とは）
第6回　研究倫理について学ぶ
第7回　文献の収集方法と読解方法について学ぶ
第8回　研究の進め方1（基礎研究）について学ぶ
第9回　研究の進め方2（介入研究）について学ぶ
第10回　研究の進め方3（疫学研究、調査研究）について学ぶ
第11回　研究の進め方4（質的研究）について学ぶ
第12回　統計手法1（関係性を検証する）について学ぶ
第13回　統計手法2（群間の比較をする）について学ぶ
第14回　研究成果の公表方法について学ぶ
第15回　プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 80 ）	授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ ）	

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅰ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀江　淳	

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理（倫理委員会審査方法など）を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習（予習・復習）

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内　　容

第1回　理学療法分野における研究について学ぶ
第2回　研究課題と見つけ方について学ぶ
第3回　研究計画の立て方について学ぶ
第4回　研究デザインの種類について学ぶ
第5回　評価指標の選択方法について学ぶ（信頼性、妥当性とは）
第6回　研究倫理について学ぶ
第7回　文献の収集方法と読解方法について学ぶ
第8回　研究の進め方1（基礎研究）について学ぶ
第9回　研究の進め方2（介入研究）について学ぶ
第10回　研究の進め方3（疫学研究、調査研究）について学ぶ
第11回　研究の進め方4（質的研究）について学ぶ
第12回　統計手法1（関係性を検証する）について学ぶ
第13回　統計手法2（群間の比較をする）について学ぶ
第14回　研究成果の公表方法について学ぶ
第15回　プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 80 ）	授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（　）	

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅰ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　白岩　加代子	

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理（倫理委員会審査方法など）を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習（予習・復習）

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内　容

第1回　理学療法分野における研究について学ぶ
第2回　研究課題と見つけ方について学ぶ
第3回　研究計画の立て方について学ぶ
第4回　研究デザインの種類について学ぶ
第5回　評価指標の選択方法について学ぶ（信頼性、妥当性とは）
第6回　研究倫理について学ぶ
第7回　文献の収集方法と読解方法について学ぶ
第8回　研究の進め方1（基礎研究）について学ぶ
第9回　研究の進め方2（介入研究）について学ぶ
第10回　研究の進め方3（疫学研究、調査研究）について学ぶ
第11回　研究の進め方4（質的研究）について学ぶ
第12回　統計手法1（関係性を検証する）について学ぶ
第13回　統計手法2（群間の比較をする）について学ぶ
第14回　研究成果の公表方法について学ぶ
第15回　プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 80 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ ）	

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅰ＜＊d＞**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　安彦　鉄平

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理（倫理委員会審査方法など）を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習（予習・復習）

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内　容

第1回　理学療法分野における研究について学ぶ
第2回　研究課題と見つけ方について学ぶ
第3回　研究計画の立て方について学ぶ
第4回　研究デザインの種類について学ぶ
第5回　評価指標の選択方法について学ぶ（信頼性、妥当性とは）
第6回　研究倫理について学ぶ
第7回　文献の収集方法と読解方法について学ぶ
第8回　研究の進め方1（基礎研究）について学ぶ
第9回　研究の進め方2（介入研究）について学ぶ
第10回　研究の進め方3（疫学研究、調査研究）について学ぶ
第11回　研究の進め方4（質的研究）について学ぶ
第12回　統計手法1（関係性を検証する）について学ぶ
第13回　統計手法2（群間の比較をする）について学ぶ
第14回　研究成果の公表方法について学ぶ
第15回　プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 80 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ ）
3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅰ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　横山 茂樹	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる. ②研究成果を理解した上で, 論考することができる. ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる. ④論文作成過程を理解し, 実践できる.

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて, 論文作成を目指します. 論文指導は, コース毎に複数教員による指導体制のもと, 行います.

準備学習（予習・復習）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する. さらに論文作成の過程を十分に習得してください,

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文発表準備(1)
第3回　卒業論文発表準備(2)
第4回　卒業論文発表準備(3)
第5回　卒業論文発表準備(4)
第6回　卒業論文発表準備(5)
第7回　卒業論文発表準備(6)
第8回　卒業論文発表準備(7)
第9回　卒業論文発表準備(8)
第10回　卒業論文発表準備(9)
第11回　卒業論文発表準備(10)
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備(11)
第14回　卒業論文発表準備(12)
第15回　卒業論文発表準備(13)
第16回　卒業論文発表準備(14)
第17回　卒業論文発表準備(15)
第18回　卒業論文発表準備(16)
第19回　卒業論文発表会(1)
第20回　卒業論文発表会(2)
第21回　卒業論文発表会(3)
第22回　卒業論文発表会(4)
第23回　卒業論文発表会(5)
第24回　卒業論文発表会(6)
第25回　卒業論文作成(1)
第26回　卒業論文作成(2)
第27回　卒業論文作成(3)
第28回　卒業論文作成(4)
第29回　卒業論文作成(5)
第30回　卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

a90103a115

試験 （ 50 ）　小テスト（ 0 ）

授業中課題 （ 10 ）　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅰ＜＊f＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　甲斐　義浩	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる. ②研究成果を理解した上で, 論考することができる. ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる. ④論文作成過程を理解し, 実践できる.

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて, 論文作成を目指します. 論文指導は, コース毎に複数教員による指導体制のもと, 行います.

準備学習（予習・復習）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する. さらに論文作成の過程を十分に習得してください,

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文発表準備（1）
第3回　卒業論文発表準備（2）
第4回　卒業論文発表準備（3）
第5回　卒業論文発表準備（4）
第6回　卒業論文発表準備（5）
第7回　卒業論文発表準備（6）
第8回　卒業論文発表準備（7）
第9回　卒業論文発表準備（8）
第10回　卒業論文発表準備（9）
第11回　卒業論文発表準備（10）
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備（11）
第14回　卒業論文発表準備（12）
第15回　卒業論文発表準備（13）
第16回　卒業論文発表準備（14）
第17回　卒業論文発表準備（15）
第18回　卒業論文発表準備（16）
第19回　卒業論文発表会（1）
第20回　卒業論文発表会（2）
第21回　卒業論文発表会（3）
第22回　卒業論文発表会（4）
第23回　卒業論文発表会（5）
第24回　卒業論文発表会（6）
第25回　卒業論文作成（1）
第26回　卒業論文作成（2）
第27回　卒業論文作成（3）
第28回　卒業論文作成（4）
第29回　卒業論文作成（5）
第30回　卒業論文作成（6）

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

a90103a116

試験 （ 50 ）　小テスト（ 0 ）

授業中課題 （ 10 ）　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅰ〈＊g〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松尾　奈々	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる. ②研究成果を理解した上で, 論考することができる. ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる. ④論文作成過程を理解し, 実践できる.

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて, 論文作成を目指します. 論文指導は, コース毎に複数教員による指導体制のもと, 行います.

準備学習（予習・復習）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する. さらに論文作成の過程を十分に習得してください,

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文発表準備(1)
第3回　卒業論文発表準備(2)
第4回　卒業論文発表準備(3)
第5回　卒業論文発表準備(4)
第6回　卒業論文発表準備(5)
第7回　卒業論文発表準備(6)
第8回　卒業論文発表準備(7)
第9回　卒業論文発表準備(8)
第10回　卒業論文発表準備(9)
第11回　卒業論文発表準備(10)
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備(11)
第14回　卒業論文発表準備(12)
第15回　卒業論文発表準備(13)
第16回　卒業論文発表準備(14)
第17回　卒業論文発表準備(15)
第18回　卒業論文発表準備(16)
第19回　卒業論文発表会(1)
第20回　卒業論文発表会(2)
第21回　卒業論文発表会(3)
第22回　卒業論文発表会(4)
第23回　卒業論文発表会(5)
第24回　卒業論文発表会(6)
第25回　卒業論文作成(1)
第26回　卒業論文作成(2)
第27回　卒業論文作成(3)
第28回　卒業論文作成(4)
第29回　卒業論文作成(5)
第30回　卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

a90103a117

試験 （ 50 ）　小テスト（ 0 ）

授業中課題 （ 10 ）　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅰ＜＊h＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　宮﨑　純弥	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる. ②研究成果を理解した上で, 論考することができる. ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる. ④論文作成過程を理解し, 実践できる.

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて, 論文作成を目指します. 論文指導は, コース毎に複数教員による指導体制のもと, 行います.

準備学習（予習・復習）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する. さらに論文作成の過程を十分に習得してください,

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文発表準備(1)
第3回　卒業論文発表準備(2)
第4回　卒業論文発表準備(3)
第5回　卒業論文発表準備(4)
第6回　卒業論文発表準備(5)
第7回　卒業論文発表準備(6)
第8回　卒業論文発表準備(7)
第9回　卒業論文発表準備(8)
第10回　卒業論文発表準備(9)
第11回　卒業論文発表準備(10)
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備(11)
第14回　卒業論文発表準備(12)
第15回　卒業論文発表準備(13)
第16回　卒業論文発表準備(14)
第17回　卒業論文発表準備(15)
第18回　卒業論文発表準備(16)
第19回　卒業論文発表会(1)
第20回　卒業論文発表会(2)
第21回　卒業論文発表会(3)
第22回　卒業論文発表会(4)
第23回　卒業論文発表会(5)
第24回　卒業論文発表会(6)
第25回　卒業論文作成(1)
第26回　卒業論文作成(2)
第27回　卒業論文作成(3)
第28回　卒業論文作成(4)
第29回　卒業論文作成(5)
第30回　卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

a90103a118

試験 （ 50 ）　小テスト（ 0 ）

授業中課題 （ 10 ）　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅰ＜＊i＞**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　濱出　茂治

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理（倫理委員会審査方法など）を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習（予習・復習）

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内　容

第1回　理学療法分野における研究について学ぶ
第2回　研究課題と見つけ方について学ぶ
第3回　研究計画の立て方について学ぶ
第4回　研究デザインの種類について学ぶ
第5回　評価指標の選択方法について学ぶ（信頼性、妥当性とは）
第6回　研究倫理について学ぶ
第7回　文献の収集方法と読解方法について学ぶ
第8回　研究の進め方1（基礎研究）について学ぶ
第9回　研究の進め方2（介入研究）について学ぶ
第10回　研究の進め方3（疫学研究、調査研究）について学ぶ
第11回　研究の進め方4（質的研究）について学ぶ
第12回　統計手法1（関係性を検証する）について学ぶ
第13回　統計手法2（群間の比較をする）について学ぶ
第14回　研究成果の公表方法について学ぶ
第15回　プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 80 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ ）
3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅰ＜＊j＞**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　崎田　正博

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理（倫理委員会審査方法など）を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習（予習・復習）

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内　容

第1回　理学療法分野における研究について学ぶ
第2回　研究課題と見つけ方について学ぶ
第3回　研究計画の立て方について学ぶ
第4回　研究デザインの種類について学ぶ
第5回　評価指標の選択方法について学ぶ（信頼性、妥当性とは）
第6回　研究倫理について学ぶ
第7回　文献の収集方法と読解方法について学ぶ
第8回　研究の進め方1（基礎研究）について学ぶ
第9回　研究の進め方2（介入研究）について学ぶ
第10回　研究の進め方3（疫学研究、調査研究）について学ぶ
第11回　研究の進め方4（質的研究）について学ぶ
第12回　統計手法1（関係性を検証する）について学ぶ
第13回　統計手法2（群間の比較をする）について学ぶ
第14回　研究成果の公表方法について学ぶ
第15回　プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 80 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ ）
3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅰ＜＊k＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　兒玉　隆之	

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理（倫理委員会審査方法など）を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習（予習・復習）

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内　　容

第1回　理学療法分野における研究について学ぶ
第2回　研究課題と見つけ方について学ぶ
第3回　研究計画の立て方について学ぶ
第4回　研究デザインの種類について学ぶ
第5回　評価指標の選択方法について学ぶ（信頼性、妥当性とは）
第6回　研究倫理について学ぶ
第7回　文献の収集方法と読解方法について学ぶ
第8回　研究の進め方1（基礎研究）について学ぶ
第9回　研究の進め方2（介入研究）について学ぶ
第10回　研究の進め方3（疫学研究、調査研究）について学ぶ
第11回　研究の進め方4（質的研究）について学ぶ
第12回　統計手法1（関係性を検証する）について学ぶ
第13回　統計手法2（群間の比較をする）について学ぶ
第14回　研究成果の公表方法について学ぶ
第15回　プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 80 ）	授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（　）	

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅰ＜＊I＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小田桐　匡	

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理（倫理委員会審査方法など）を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習（予習・復習）

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内　容

第1回　理学療法分野における研究について学ぶ
第2回　研究課題と見つけ方について学ぶ
第3回　研究計画の立て方について学ぶ
第4回　研究デザインの種類について学ぶ
第5回　評価指標の選択方法について学ぶ（信頼性、妥当性とは）
第6回　研究倫理について学ぶ
第7回　文献の収集方法と読解方法について学ぶ
第8回　研究の進め方1（基礎研究）について学ぶ
第9回　研究の進め方2（介入研究）について学ぶ
第10回　研究の進め方3（疫学研究、調査研究）について学ぶ
第11回　研究の進め方4（質的研究）について学ぶ
第12回　統計手法1（関係性を検証する）について学ぶ
第13回　統計手法2（群間の比較をする）について学ぶ
第14回　研究成果の公表方法について学ぶ
第15回　プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 80 ）	授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ ）	

3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅱ＜＊a＞**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　村田 伸

テーマ

理学療法分野における研究方法の基礎について学ぶ

授業の到達目標

①研究方法の基礎を理解すること②研究倫理（倫理委員会審査方法など）を理解すること③データから統計学的分析ができること④わかりやすくプレゼンテーションできること以上を本授業の目的とする。

授業の概要

研究方法の基礎を理解し、研究計画立案から研究成果の公表までの一連の流れを、パソコン、統計解析ソフト、インターネットなどを活用し授業を展開する。

準備学習（予習・復習）

パソコン、インターネットの活用方法を理解しておく。これまでの統計学、理学療法概論などで研究方法について復習しておく。

内　容

第2回　研究課題と見つけ方について学ぶ
第3回　研究計画の立て方について学ぶ
第4回　研究デザインの種類について学ぶ
第5回　評価指標の選択方法について学ぶ（信頼性、妥当性とは）
第6回　研究倫理について学ぶ
第7回　文献の収集方法と読解方法について学ぶ
第8回　研究の進め方1（基礎研究）について学ぶ
第9回　研究の進め方2（介入研究）について学ぶ
第10回　研究の進め方3（疫学研究、調査研究）について学ぶ
第11回　研究の進め方4（質的研究）について学ぶ
第12回　統計手法1（関係性を検証する）について学ぶ
第13回　統計手法2（群間の比較をする）について学ぶ
第14回　研究成果の公表方法について学ぶ
第15回　プレゼンテーション方法について学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。
第1回　理学療法分野における研究について学ぶ

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 80 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ ）
3分の2以上の出席がなければ成績評価に値しない。

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅱ＜＊b＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀江　淳	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅱ＜＊c＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　白岩　加代子	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅱ＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　安彦　鉄平	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅱ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　横山　茂樹	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる. ②研究成果を理解した上で, 論考することができる. ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる. ④論文作成過程を理解し, 実践できる.

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて, 論文作成を目指します. 論文指導は, コース毎に複数教員による指導体制のもと, 行います.

準備学習（予習・復習）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する. さらに論文作成の過程を十分に習得してください,

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文発表準備(1)
第3回　卒業論文発表準備(2)
第4回　卒業論文発表準備(3)
第5回　卒業論文発表準備(4)
第6回　卒業論文発表準備(5)
第7回　卒業論文発表準備(6)
第8回　卒業論文発表準備(7)
第9回　卒業論文発表準備(8)
第10回　卒業論文発表準備(9)
第11回　卒業論文発表準備(10)
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備(11)
第14回　卒業論文発表準備(12)
第15回　卒業論文発表準備(13)
第16回　卒業論文発表準備(14)
第17回　卒業論文発表準備(15)
第18回　卒業論文発表準備(16)
第19回　卒業論文発表会(1)
第20回　卒業論文発表会(2)
第21回　卒業論文発表会(3)
第22回　卒業論文発表会(4)
第23回　卒業論文発表会(5)
第24回　卒業論文発表会(6)
第25回　卒業論文作成(1)
第26回　卒業論文作成(2)
第27回　卒業論文作成(3)
第28回　卒業論文作成(4)
第29回　卒業論文作成(5)
第30回　卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

a90103a255

試験 （ 50 ）　小テスト（ 0 ）

授業中課題 （ 10 ）　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅱ＜＊f＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　甲斐　義浩	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる. ②研究成果を理解した上で, 論考することができる. ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる. ④論文作成過程を理解し, 実践できる.

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて, 論文作成を目指します. 論文指導は, コース毎に複数教員による指導体制のもと, 行います.

準備学習（予習・復習）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する. さらに論文作成の過程を十分に習得してください,

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文発表準備（1）
第3回　卒業論文発表準備（2）
第4回　卒業論文発表準備（3）
第5回　卒業論文発表準備（4）
第6回　卒業論文発表準備（5）
第7回　卒業論文発表準備（6）
第8回　卒業論文発表準備（7）
第9回　卒業論文発表準備（8）
第10回　卒業論文発表準備（9）
第11回　卒業論文発表準備（10）
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備（11）
第14回　卒業論文発表準備（12）
第15回　卒業論文発表準備（13）
第16回　卒業論文発表準備（14）
第17回　卒業論文発表準備（15）
第18回　卒業論文発表準備（16）
第19回　卒業論文発表会（1）
第20回　卒業論文発表会（2）
第21回　卒業論文発表会（3）
第22回　卒業論文発表会（4）
第23回　卒業論文発表会（5）
第24回　卒業論文発表会（6）
第25回　卒業論文作成（1）
第26回　卒業論文作成（2）
第27回　卒業論文作成（3）
第28回　卒業論文作成（4）
第29回　卒業論文作成（5）
第30回　卒業論文作成（6）

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

a90103a256

試験 （ 50 ）　小テスト（ 0 ）

授業中課題 （ 10 ）　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅱ〈＊g〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松尾　奈々	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる. ②研究成果を理解した上で, 論考することができる. ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる. ④論文作成過程を理解し, 実践できる.

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて, 論文作成を目指します. 論文指導は, コース毎に複数教員による指導体制のもと, 行います.

準備学習（予習・復習）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する. さらに論文作成の過程を十分に習得してください,

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文発表準備(1)
第3回　卒業論文発表準備(2)
第4回　卒業論文発表準備(3)
第5回　卒業論文発表準備(4)
第6回　卒業論文発表準備(5)
第7回　卒業論文発表準備(6)
第8回　卒業論文発表準備(7)
第9回　卒業論文発表準備(8)
第10回　卒業論文発表準備(9)
第11回　卒業論文発表準備(10)
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備(11)
第14回　卒業論文発表準備(12)
第15回　卒業論文発表準備(13)
第16回　卒業論文発表準備(14)
第17回　卒業論文発表準備(15)
第18回　卒業論文発表準備(16)
第19回　卒業論文発表会(1)
第20回　卒業論文発表会(2)
第21回　卒業論文発表会(3)
第22回　卒業論文発表会(4)
第23回　卒業論文発表会(5)
第24回　卒業論文発表会(6)
第25回　卒業論文作成(1)
第26回　卒業論文作成(2)
第27回　卒業論文作成(3)
第28回　卒業論文作成(4)
第29回　卒業論文作成(5)
第30回　卒業論文作成(6)

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

a90103a257

試験 （ 50 ）　小テスト（ 0 ）

授業中課題 （ 10 ）　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅱ＜＊h＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　宮﨑　純弥	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる. ②研究成果を理解した上で, 論考することができる. ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる. ④論文作成過程を理解し, 実践できる.

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて, 論文作成を目指します. 論文指導は, コース毎に複数教員による指導体制のもと, 行います.

準備学習（予習・復習）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する. さらに論文作成の過程を十分に習得してください,

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文発表準備（1）
第3回　卒業論文発表準備（2）
第4回　卒業論文発表準備（3）
第5回　卒業論文発表準備（4）
第6回　卒業論文発表準備（5）
第7回　卒業論文発表準備（6）
第8回　卒業論文発表準備（7）
第9回　卒業論文発表準備（8）
第10回　卒業論文発表準備（9）
第11回　卒業論文発表準備（10）
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備（11）
第14回　卒業論文発表準備（12）
第15回　卒業論文発表準備（13）
第16回　卒業論文発表準備（14）
第17回　卒業論文発表準備（15）
第18回　卒業論文発表準備（16）
第19回　卒業論文発表会（1）
第20回　卒業論文発表会（2）
第21回　卒業論文発表会（3）
第22回　卒業論文発表会（4）
第23回　卒業論文発表会（5）
第24回　卒業論文発表会（6）
第25回　卒業論文作成（1）
第26回　卒業論文作成（2）
第27回　卒業論文作成（3）
第28回　卒業論文作成（4）
第29回　卒業論文作成（5）
第30回　卒業論文作成（6）

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

a90103a258

試験 （ 50 ）　小テスト（ 0 ）

授業中課題 （ 10 ）　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅱ＜＊i＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　濱出　茂治	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる. ②研究成果を理解した上で, 論考することができる. ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる. ④論文作成過程を理解し, 実践できる.

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて, 論文作成を目指します. 論文指導は, コース毎に複数教員による指導体制のもと, 行います.

準備学習（予習・復習）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する. さらに論文作成の過程を十分に習得してください,

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文発表準備（1）
第3回　卒業論文発表準備（2）
第4回　卒業論文発表準備（3）
第5回　卒業論文発表準備（4）
第6回　卒業論文発表準備（5）
第7回　卒業論文発表準備（6）
第8回　卒業論文発表準備（7）
第9回　卒業論文発表準備（8）
第10回　卒業論文発表準備（9）
第11回　卒業論文発表準備（10）
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備（11）
第14回　卒業論文発表準備（12）
第15回　卒業論文発表準備（13）
第16回　卒業論文発表準備（14）
第17回　卒業論文発表準備（15）
第18回　卒業論文発表準備（16）
第19回　卒業論文発表会（1）
第20回　卒業論文発表会（2）
第21回　卒業論文発表会（3）
第22回　卒業論文発表会（4）
第23回　卒業論文発表会（5）
第24回　卒業論文発表会（6）
第25回　卒業論文作成（1）
第26回　卒業論文作成（2）
第27回　卒業論文作成（3）
第28回　卒業論文作成（4）
第29回　卒業論文作成（5）
第30回　卒業論文作成（6）

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

a90103a259

試験 （ 50 ）　小テスト（ 0 ）

授業中課題 （ 10 ）　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅱ＜＊j＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　崎田　正博	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる. ②研究成果を理解した上で, 論考することができる. ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる. ④論文作成過程を理解し, 実践できる.

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて, 論文作成を目指します. 論文指導は, コース毎に複数教員による指導体制のもと, 行います.

準備学習（予習・復習）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する. さらに論文作成の過程を十分に習得してください,

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文発表準備（1）
第3回　卒業論文発表準備（2）
第4回　卒業論文発表準備（3）
第5回　卒業論文発表準備（4）
第6回　卒業論文発表準備（5）
第7回　卒業論文発表準備（6）
第8回　卒業論文発表準備（7）
第9回　卒業論文発表準備（8）
第10回　卒業論文発表準備（9）
第11回　卒業論文発表準備（10）
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備（11）
第14回　卒業論文発表準備（12）
第15回　卒業論文発表準備（13）
第16回　卒業論文発表準備（14）
第17回　卒業論文発表準備（15）
第18回　卒業論文発表準備（16）
第19回　卒業論文発表会（1）
第20回　卒業論文発表会（2）
第21回　卒業論文発表会（3）
第22回　卒業論文発表会（4）
第23回　卒業論文発表会（5）
第24回　卒業論文発表会（6）
第25回　卒業論文作成（1）
第26回　卒業論文作成（2）
第27回　卒業論文作成（3）
第28回　卒業論文作成（4）
第29回　卒業論文作成（5）
第30回　卒業論文作成（6）

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

a90103a260

試験 （ 50 ）　小テスト（ 0 ）

授業中課題 （ 10 ）　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅱ＜＊k＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　兒玉　隆之	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる. ②研究成果を理解した上で, 論考することができる. ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる. ④論文作成過程を理解し, 実践できる.

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて, 論文作成を目指します. 論文指導は, コース毎に複数教員による指導体制のもと, 行います.

準備学習（予習・復習）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する. さらに論文作成の過程を十分に習得してください,

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文発表準備（1）
第3回　卒業論文発表準備（2）
第4回　卒業論文発表準備（3）
第5回　卒業論文発表準備（4）
第6回　卒業論文発表準備（5）
第7回　卒業論文発表準備（6）
第8回　卒業論文発表準備（7）
第9回　卒業論文発表準備（8）
第10回　卒業論文発表準備（9）
第11回　卒業論文発表準備（10）
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備（11）
第14回　卒業論文発表準備（12）
第15回　卒業論文発表準備（13）
第16回　卒業論文発表準備（14）
第17回　卒業論文発表準備（15）
第18回　卒業論文発表準備（16）
第19回　卒業論文発表会（1）
第20回　卒業論文発表会（2）
第21回　卒業論文発表会（3）
第22回　卒業論文発表会（4）
第23回　卒業論文発表会（5）
第24回　卒業論文発表会（6）
第25回　卒業論文作成（1）
第26回　卒業論文作成（2）
第27回　卒業論文作成（3）
第28回　卒業論文作成（4）
第29回　卒業論文作成（5）
第30回　卒業論文作成（6）

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

a90103a261

試験 （ 50 ）　小テスト（ 0 ）

授業中課題 （ 10 ）　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法研究法Ⅱ＜＊I＞**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小田桐　匡	

テーマ

卒業論文の作成・発表

授業の到達目標

①研究テーマの意義・位置づけを説明できる. ②研究成果を理解した上で, 論考することができる. ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる. ④論文作成過程を理解し, 実践できる.

授業の概要

ラーニングコースに沿った研究テーマについて, 論文作成を目指します. 論文指導は, コース毎に複数教員による指導体制のもと, 行います.

準備学習（予習・復習）

研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する. さらに論文作成の過程を十分に習得してください,

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文発表準備（1）
第3回　卒業論文発表準備（2）
第4回　卒業論文発表準備（3）
第5回　卒業論文発表準備（4）
第6回　卒業論文発表準備（5）
第7回　卒業論文発表準備（6）
第8回　卒業論文発表準備（7）
第9回　卒業論文発表準備（8）
第10回　卒業論文発表準備（9）
第11回　卒業論文発表準備（10）
第12回　卒業論文発表検討会
第13回　卒業論文発表準備（11）
第14回　卒業論文発表準備（12）
第15回　卒業論文発表準備（13）
第16回　卒業論文発表準備（14）
第17回　卒業論文発表準備（15）
第18回　卒業論文発表準備（16）
第19回　卒業論文発表会（1）
第20回　卒業論文発表会（2）
第21回　卒業論文発表会（3）
第22回　卒業論文発表会（4）
第23回　卒業論文発表会（5）
第24回　卒業論文発表会（6）
第25回　卒業論文作成（1）
第26回　卒業論文作成（2）
第27回　卒業論文作成（3）
第28回　卒業論文作成（4）
第29回　卒業論文作成（5）
第30回　卒業論文作成（6）

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

a90103a262

試験 （ 50 ）　小テスト（ 0 ）

授業中課題 （ 10 ）　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ−ション能力，ディスカッション能力で構成します．

2016 Syllabus

科 目 名　**動作分析学演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　甲斐　義浩.中野　英樹	

テーマ

動作分析に必要な運動力学の原理を学び、重力環境下における基本動作の成り立ちについて理解を促進する。

授業の到達目標

1.動作分析のおおまかな流れを理解することができる。　2.動作分析に必要な運動力学の要素を理解することができる。　3.基本動作（立ち上がりや歩行など）の運動要素を理解し、説明することができる。4.3次元動作解析装置を用いた動作分析の基礎を理解することができる。

授業の概要

正常から逸脱した異常姿勢や異常歩行の原因と影響について力学的な視点から解説する。

準備学習（予習・復習）

臨床運動学演習で学んだ歩行の基礎を十分に復習して講義に臨むこと。

内　容

第1回　立ち上がり動作の観察および分析 1
第2回　立ち上がり動作の観察および分析 2
第3回　正常歩行の観察および分析 1
第4回　正常歩行の観察および分析 2
第5回　異常歩行の観察および分析－膝関節固定 1
第6回　異常歩行の観察および分析－膝関節固定 2
第7回　異常歩行の観察および分析－足関節固定 1
第8回　異常歩行の観察および分析－足関節固定 2
第9回　変形性膝関節症患者の歩行分析 1
第10回　変形性膝関節症患者の歩行分析 2
第11回　変形性股関節症患者の歩行分析 1
第12回　変形性股関節症患者の歩行分析 2
第13回　片麻痺患者の歩行分析 1
第14回　片麻痺患者の歩行分析 2
第15回　まとめ

履修上の注意点

講義の進行を妨げる行為（私語、携帯電話の使用など）や、受講態度に明らかな問題がある場合（うつ伏せ居眠り、内職、スマートフォンの使用など）は受講をお断りします。3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

歩行分析　正常歩行と異常歩行　原著第2版
著者：　Perry J（著），武田功（訳）
出版社：医歯薬出版株式会社
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 50% ）	授業中発表等　（ 50% ）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**運動療法学演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　横山　茂樹	

テーマ

運動療法の方法論の理解と実践遂行能力の獲得

授業の到達目標

①運動療法の基本的知識と技術を身につける. ②各疾患に対する運動療法プログラムを組み立てることができる. 実践能力を培う. ③運動療法の現状を理解し, 今後の課題・展望について議論することができる.

授業の概要

本講義では,「運動療法学」を基礎とし, 運動療法の方法論について学習します. また疾患特性を考慮した運動療法プログラムの立案とそのリスク管理について解説します. さらには実技を通して, 運動療法の実践能力を身につけます.

準備学習（予習・復習）

関連する基礎知識や医学的知識（疾病, 病態を含む）および専門用語について十分に予習を行うこと.

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　有痛性疾患に対する運動療法；下肢（1）
第3回　有痛性疾患に対する運動療法；下肢（2）
第4回　有痛性疾患に対する運動療法；上肢（1）
第5回　有痛性疾患に対する運動療法；上肢（2）
第6回　有痛性疾患に対する運動療法；体幹（1）
第7回　有痛性疾患に対する運動療法；体幹（2）
第8回　立位・歩行障害に対する運動療法；運動器疾患（1）
第9回　立位・歩行障害に対する運動療法；運動器疾患（2）
第10回　立位・歩行障害に対する運動療法；中枢神経系疾患（1）
第11回　立位・歩行障害に対する運動療法；中枢神経系疾患（2）
第12回　水中運動療法
第13回　嚥下障害に対する運動療法
第14回　めまいに対する運動療法
第15回　ゲストスピーカーによる講義「臨床における運動療法Ⅱ」

履修上の注意点

実習を取り入れながら進めることから, 実習着に着替えて, 受講してください. 3分の2以上の出席により, 成績評価対象とする.

教科書

参考書

運動療法学
著者:　市橋則明
出版社:　文光堂
出版年:　2008　　ISBN:

運動療法大全
著者:　キャロリン・キスナー, 他
出版社:　ガイアブックス
出版年:　2008　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 5 ）
参加度　（ 5 ）
講義開始時に, 基礎知識（国家試験レベル）の復習を目的とした確認テストを実施します. 授業中課題として提出されたレポートを参考に評価を行います.

2016 Syllabus

科 目 名　**物理療法学演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　濱出　茂治.中野　英樹	

テーマ

物理療法の適切な使用法を学修することを目的とする。また、各種物理療法が生体に与える影響についても実習を通して学習し、物理療法機器の危険性と安全性の理解を図る。

授業の到達目標

物理療法における疼痛抑制、温熱、痙性抑制等の治療効果に関する基本的特性を実験によって修得する。

授業の概要

・治療機器の操作を理解する。・物理エネルギーがどのような影響を生体に与えるかを理解する。・多様な機能障害への臨床適用技術を修得する。

準備学習（予習・復習）

物理療法学に関する教科書、文献等の自己学習、レポート課題の学習

内　容

第1回　電気療法におけるモーターポイント探索実習（上肢）
第2回　電気療法におけるモーターポイント探索実習（上肢）
第3回　電気療法におけるモーターポイント探索実習（下肢）
第4回　電気療法におけるモーターポイント探索実習（下肢）
第5回　温熱・寒冷療法における生体皮膚温度の測定実習(1)
第6回　温熱・寒冷療法における生体皮膚温度の測定実習(2)
第7回　温熱・寒冷療法における生体皮膚温度の測定実習(3)
第8回　水治療法における生体皮膚温度の測定実習(1)
第9回　水治療法における生体皮膚温度の測定実習(2)
第10回　光線療法における皮膚紅斑反応測定実習(1)
第11回　光線療法における皮膚紅斑反応測定実習(2)
第12回　電気療法における治療シミュレーション実習(1)
第13回　電気療法における治療シミュレーション実習(2)
第14回　牽引療法におけるシミュレーション実習(1)
第15回　牽引療法におけるシミュレーション実習(2)

履修上の注意点

3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。

教科書

物理療法マニュアル
著者:　濱出茂治
出版社:　医歯薬
出版年:　1996　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 80% ）	授業中発表等　（ 10% ）
参加度　（ 10% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**生活技術学演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　安彦　鉄平.村田　伸	

テーマ

本講義は、生活技術学で学んだ各種の日常生活動作の評価について、疾患別の検査・測定と、その結果の解釈について学ぶ。また、各疾患特有のADL障害の要因について理解し、その指導方法や理学療法プログラムについて学ぶ。

授業の到達目標

1. 疾患特有の機能障害とADL障害を理解し、説明できる。 2. 各疾患ごとにADL制限の要因を説明できる。3. ADLの自立に向けた基本的なアプローチ方法を説明、実施できる。

授業の概要

理学療法の大きな目標の一つである日常生活活動の自立を目指すための理学療法の一連の流れを学習する。

準備学習（予習・復習）

テキストや参考文献を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

内　容

第1回　脳血管障害者のADL（評価の実践：BI）
第2回　脳血管障害者のADL（評価の実践：FIM）
第3回　脳血管障害者のADL（動作分析）
第4回　脳血管障害者のADL（基本動作の指導）
第5回　脳血管障害者のADL（IADLの指導）
第6回　下肢運動器障害者のADL評価
第7回　下肢運動器障害者のADL評価（大腿骨頚部骨折）
第8回　下肢運動器障害者のADL評価（変形性股関節症）
第9回　下肢運動器障害者のADL評価（変形性膝関節症）
第10回　体幹運動器障害者のADL評価
第11回　体幹運動器障害者のADL評価（腰痛症）
第12回　その他の疾患による障害者のADL評価
第13回　その他の疾患による障害者のADL評価（関節リウマチ）
第14回　その他の疾患による障害者のADL評価（パーキンソン病）
第15回　その他の疾患による障害者のADL評価（下肢切断）

履修上の注意点

授業日程の3分の2以上の出席が原則。

教科書

疾患別日常生活活動学テキスト
著者：
出版社：学術研究出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ 90 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

2016 Syllabus

科 目 名　**義肢装具学演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　横山　茂樹.安彦　鉄平.坂本　明信.吉田　剛	

テーマ

義肢・装具に関する基礎と臨床

授業の到達目標

①義肢・装具の適応，使用目的，構成要素等の基礎知識を身につける.②疾患別に対する義肢・装具，スプリント等の種類とチェックアウトについて説明できる.

授業の概要

本講義は，オムニバス形式にて演習と施設見学を組み合わせて展開する．義肢装具士の講師を招いて，義肢・装具の製作過程の実演および義肢制作過程の見学を行う.

準備学習（予習・復習）

講義範囲について，事前にテキストを熟読しておいてください.

内　　容

第1回　装具学総論
第2回　装具(頚部・体幹)
第3回　装具(下肢)１
第4回　装具(下肢)２
第5回　装具(下肢)３
第6回　装具(下肢)４
第7回　装具(上肢)１
第8回　装具(上肢)２
第9回　スプリント・自助具（1）
第10回　スプリント・自助具（2）
第11回　義肢学総論
第12回　断端管理と理学療法
第13回　義肢(上肢)１
第14回　義肢(上肢)２
第15回　義肢(上肢)３
第16回　義肢(下肢)１
第17回　義肢(下肢)２
第18回　義肢(下肢)３
第19回　義肢(下肢)４
第20回　義足装着時の異常歩行とその対策（1）
第21回　義足装着時の異常歩行とその対策（2）
第22回　義肢装具トピックス（1）
第23回　義肢装具トピックス（2）
第24回　機能代償機器の種別／義肢装具製作所見学（1）
第25回　機能代償機器の種別／義肢装具製作所見学（2）
第26回　義肢装具製作所見学／機能代償機器の種別（1）
第27回　義肢装具製作所見学／機能代償機器の種別（2）
第28回　簡易式短下肢装具作製実習（1）
第29回　簡易式短下肢装具作製実習（2）
第30回　まとめ

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

義肢装具学テキスト
著者:　磯崎　弘司
出版社:　南江堂
出版年:　2013　　ISBN:　978-4524268399

参考書

成績評価

試験 （ 50 ）
小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）
授業中発表等（ 5 ）
参加度 （ 5 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**内部障害系理学療法学基礎演習**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　堀江　淳.内藤　紘一

テーマ

内部障害系（呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患）理学療法学の基礎的な知識、技術の理解を促進する。

授業の到達目標

本講義は、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患に関係する解剖学、運動学、生理学（運動生理学）の知識を整理し、それら疾患における理学療法評価法、治療法、リスク管理についての基礎的な知識、技術の習得を目標とする。

授業の概要

これまで学習した呼吸、循環の解剖、生理、運動学の知識を整理しつつ、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患に対する理学療法の評価、治療の基礎を座学を中心として学習する。また、簡単な実習を通じて知識を深めていく。

準備学習（予習・復習）

臨床実習、国家試験対策として「覚える」ことを授業以外の学習の主眼とする。特に、自宅での復習を重視し、確認のための質疑応答を随時行う。

内　容

第1回　呼吸リハビリテーションと理学療法
第2回　呼吸器系の生理学、解剖学、運動学
第3回　呼吸リハビリテーションの対象疾患とその病態 、治療
第4回　呼吸理学療法のための評価（問診、視診、聴診、触診、測定）
第5回　呼吸理学療法のための評価（運度耐容能評価）
第6回　呼吸理学療法のための治療プログラム
第7回　酸素療法と人工呼吸療法
第8回　循環器系の生理学、解剖学
第9回　心電図の診かた
第10回　心臓リハビリテーション の対象疾患とその病態、治療
第11回　循環器理学療法のための評価（リスクの層別化）
第12回　循環器理学療法のための治療プログラム
第13回　糖尿病の病態、検査、治療
第14回　糖尿病のための理学療法評価と治療プログラム
第15回　講義のまとめと最新トピックスなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

教科書

理学療法テキスト内部障害理学療法学「呼吸」
著者:　石川朗
出版社:　中山書店
出版年:　2010　　ISBN:　9784521732282
理学療法テキスト内部障害理学療法学「循環・代謝」
著者:　石川朗
出版社:　中山書店
出版年:　2010　　ISBN:　9784521732275

参考書

成績評価

試験　（ 100 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
期末に実施する筆記試験にて評価する。3分の1以上の欠席のあるものは筆記試験を受験できない。出席点は減点方式とし欠席1回につき2点減点、無断欠席は4点減点とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**スポーツ障害系理学療法学基礎演習**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　横山 茂樹

テーマ

スポーツ障害に対する評価と理学療法

授業の到達目標

①スポーツ動作のバイオメカニクスやスポーツ障害の疾患特性を十分に理解する. ②スポーツ障害に対する理学療法評価および治療プログラムを説明できる. ③スポーツ障害の予防に向けた取り組みを説明できる.

授業の概要

部位別におけるスポーツ障害の発生機序, 病態・疾病特性について解説します. さらにはスポーツ障害に対する理学療法評価および治療プログラムを実践できるように実技も取り入れながら講義を進めます.

準備学習（予習・復習）

各回において, 評価や治療・指導が実践できるレベルを目指します. このため事前に取り上げる疾患を告知しますので, 疾患特性や病態等について, 十分に予習しておいてください. さらに講義を行った範囲で確認テストを実施しますので, 復習してください.

内　容

第1回　スポーツ理学療法総論
第2回　足関節・足部疾患（1）;足関節外側側副靭帯損傷
第3回　足関節・足部疾患（2）;足底腱膜炎／腓骨筋腱炎
第4回　足関節・足部疾患（3）;足根洞症候群／ジョーンズ骨折
第5回　下腿部疾患;アキレス腱断裂／脛骨疲労骨折
第6回　膝関節疾患（1）;膝靭帯損傷
第7回　膝関節疾患（2）;膝蓋大腿関節障害
第8回　膝関節疾患（3）;腸脛靭帯炎／鵞足炎
第9回　大腿部疾患;大腿四頭筋挫傷／ハムストリングス肉離れ
第10回　股関節疾患;鼠径部痛症候群
第11回　腰部疾患;腰痛症
第12回　肩関節疾患;肩関節脱臼／野球肩
第13回　肘・手関節疾患;野球肘／テニス肘／TFCC
第14回　ゲストスピーカーによる講義「スポーツ現場に求められる理学療法」
第15回　まとめ

履修上の注意点

実習着を着用して出席してください. 3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

スポーツ外傷学　Ⅰ～Ⅳ
著者:　黒沢　尚・他　編集
出版社:　医歯薬出版
出版年:　2001　　ISBN:

スポーツリハビリテーション
著者:　コルト・他
出版社:　西村書店
出版年:　2006　　ISBN:　4-89013-342-9

成績評価

試験　（ 60 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 5 ）
参加度　（ 5 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**脊髄障害系理学療法学基礎演習**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　武田 功

テーマ

授業の到達目標

脊髄（疾患）損傷の講義は、単に病態像や身体障害の治療訓練のみを教授するのでなく、近年、高齢化から超高齢社会を迎えようとしている。そのため 脊髄疾患の対象は多岐にわたってきた。すなわち、乳幼児から（超）高齢脊髄疾患までと幅広く、さらに多様化、重度化、重複化が進み社会のニーズの変化に伴い脊髄（疾患）損傷者自身のニーズも変化してきた。それはリハビリテーションの進歩に伴い、生存率を高め、通常の余命を期待できるようになったことにある。また、理学療法においても従来のimpairmentレベルに偏重した理学療法の理念からdisability そしてhandicap に至るまでのチームアプローチを実現することが可能となったことにある。それをさらに前進させるため理学療法はそのチームの一員として全人間的な見地から社会生活を含めた生活者として生きる脊髄（疾患）損傷者の広範囲なアプローチに主眼をおき、その基礎的なことを教授する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　脊髄損傷の理学療法概論
第2回　脊髄損傷の理学療法概論
第3回　脊髄損傷の理学療法に関する評価（1）
第4回　脊髄損傷の理学療法に関する評価（2）
第5回　脊髄損傷の高位診断
第6回　脊髄不全損傷とその特殊型
第7回　痙性麻痺の定義、概念、評価、治療
第8回　脊髄損傷に関する自律神経障害
第9回　回復期初期から後期における理学療法（1）
第10回　回復期初期から後期における理学療法（2）
第11回　回復期初期から後期における理学療法（3）
第12回　慢性期における理学療法（1）
第13回　慢性期における理学療法（2）
第14回　泌尿器系における理学療法
第15回　定期試験

履修上の注意点

教科書

脊髄損傷の理学療法（第2版）
著者:　武田 功・他
出版社:　医歯薬出版
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 90 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 10 ）
次の項目で総合評価する。①出席は減点法（1回につき欠席－2点、遅刻－1点を減点） ② 講義の質疑応答③提出物、④授業態度、⑤定期試験（2／3以上出席していること）以上の総合点とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**神経・筋疾患理学療法学演習**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　兒玉 隆之.濱出 茂治

テーマ

神経筋変性疾患、脱髄性疾患および免疫性疾患に対する理学療法を理解を促進する。

授業の到達目標

神経筋変性疾患、脱髄性疾患および免疫性疾患の病態、それらに起因する障害、回復過程、予後に関する知識を学び、それらをもとにした障害の回復促進および増悪の予防に対する理学療法の基本原理と治療体系を修得することが目標となる.

授業の概要

準備学習（予習・復習）

講義内容に関するレポート作成

内　容

第1回　オリエンテーション　神経筋疾患とは
第2回　ギラン・バレー症候群の病態
第3回　ギラン・バレー症候群の理学療法（演習）
第4回　ニューロパチーの病態
第5回　ニューロパチーの理学療法（演習）
第6回　腕神経叢麻痺の病態
第7回　腕神経叢麻痺の理学療法（演習）
第8回　顔面神経麻痺の病態および理学療法（演習）
第9回　パーキンソン病・パーキンソン症候群の病態
第10回　パーキンソン病・パーキンソン症候群の理学療法（演習）
第11回　運動ニューロン疾患の病態
第12回　運動ニューロン疾患の理学療法（演習）
第13回　脊髄小脳変性症の病態
第14回　脊髄小脳変性症の理学療法（演習）
第15回　多発性硬化症の病態および理学療法（演習）

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

理学療法ハンドブック　第1−3巻
著者:　細田多穂,柳澤健 編
出版社:　共同医書出版社
出版年:　　ISBN:

神経系理学療法実践マニュアル
著者:　内山靖,臼田滋,潮見泰藏編
出版社:　文光堂
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 70 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**発達障害系理学療法学基礎演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　崎田　正博	

テーマ

発達障害における理学療法の基本的な知識の理解、評価および治療を学ぶ。

授業の到達目標

1)正常運動発達を理解し、発達障害の異常発達との違いを明確にする。2)理学療法の対象疾患の障害を理解する。3)各疾患による障害の病態・発達及び複合障害を理解する。4)代表的疾患についての基本的な評価・動作分析・治療を身につける。

授業の概要

発達障害における理学療法の基本的な知識の理解、評価および治療を学ぶ。

準備学習(予習・復習)

事前に授業資料を配布するため予習して授業に参加

内　容

第1回　乳幼児の正常運動発達(1)
第2回　乳幼児の正常運動発達(2)
第3回　乳幼児の正常運動発達と姿勢反射・反応(1)
第4回　乳幼児の正常運動発達と姿勢反射・反応(2)
第5回　姿勢反射・反応検査の技法:原始反射
第6回　姿勢反射・反応検査の技法:立ち直り反応・平衡反応
第7回　運動発達検査・評価(1)
第8回　運動発達検査・評価(2)
第9回　疾患別姿勢・運動分析とその記録(1)
第10回　疾患別姿勢・運動分析とその記録(2)
第11回　疾患別姿勢・運動分析とその記録(3)
第12回　疾患別発達障害理学療法における問題解決方法(1)
第13回　疾患別発達障害理学療法における問題解決方法(2)
第14回　疾患別発達障害理学療法における問題解決方法(3)
第15回　まとめ

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

こどもの理学療法
著者:　千住秀明
出版社:　神陵文庫
出版年:　　ISBN:　9784915814204

参考書

成績評価

試験　(70%)	小テスト (20%)
授業中課題 (　)	授業中発表等 (　)
参加度　(10%)	

2016 Syllabus

科 目 名　**ヘルスプロモーション理学療法学基礎演習**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　白岩 加代子.堀江 淳.村田 伸

テーマ

ヘルスプロモーションの理念と実践について学ぶ

授業の到達目標

従来の理学療法に加え、疾病予防や介護予防、健康増進を含んだ包括的なヘルスプロモーション理学療法について学び、ヘルスプロモーションを推進するための理学療法の知識と技術を獲得する。

授業の概要

ヘルスプロモーションの定義を理解し、地域で生活する高齢者に対し病気やけがの予防、虚弱予防、介護予防の観点から、理学療法士ができる役割について学習する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ヘルスプロモーション総論
第2回　高齢者の評価（総論）
第3回　高齢者の身体機能評価1
第4回　高齢者の身体機能評価2
第5回　高齢者の身体機能評価3
第6回　高齢者の認知機能、精神・心理機能およびQOLの評価
第7回　ヘルスプロモーションの実践（虚弱予防）
第8回　ヘルスプロモーションの実践（転倒予防）
第9回　ヘルスプロモーションの実践（認知症予防）
第10回　ヘルスプロモーションの実践（生活習慣病予防・改善）
第11回　行動科学とヘルスプロモーション
第12回　要介護高齢者のヘルスプロモーション
第13回　ヘルスプロモーションのための住環境整備
第14回　ヘルスプロモーション関係法規
第15回　ヘルスプロモーション研究の進め方

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

「理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション-理論と実践」

著者:

出版社: 南江堂

出版年: 2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 90 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**地域理学療法学基礎演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　白岩　加代子.村田　伸	

テーマ

演習授業に積極的に参加し、各グループ内での活発な意見交換を通して、主体的に地域での理学療法士の役割を学習する。

授業の到達目標

地域理学療法学基礎演習で学んだ地域理学療法学の理念に基づき、地域社会を基盤として行われるリハビリテーションの分野で、地域社会に貢献できる理学療法士の育成をめざす。

授業の概要

地域社会における理学療法士の役割を体験できるような学外研修を中心に授業を行う予定

準備学習（予習・復習）

自分が住んでいる地域や育った環境での保険・福祉制度や地域理学療法の現状について調べてみる。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　地域理学療法の考え方
第3回　学外研修（福祉・リハ関連機器）
第4回　学外研修（福祉・リハ関連機器）
第5回　障害者を取り巻く社会状況
第6回　介護保険制度の仕組み
第7回　介護保険制度における住宅改修
第8回　介護福祉制度における福祉用具のサービス
第9回　障害の捉え方
第10回　急性期から維持期における理学療法
第11回　維持期理学療法の実際（入所・通所サービス）
第12回　維持期理学療法の実際（訪問サービス）
第13回　障害予防への取り組み方
第14回　地域における活動紹介
第15回　まとめなお、外部講師を招いて講演会を開催することがある。

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

地域理学療法学テキスト
著者:
出版社: 学術研究出版
出版年: 2015　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 80 ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 10 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 10 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**地域理学療法学応用演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　白岩　加代子.村田　伸	

テーマ

演習授業に積極的に参加し、各グループ内での活発な意見交換を通して、主体的に地域での理学療法士の役割を学習する。

授業の到達目標

地域理学療法基礎演習で学んだ地域理学療法学の理念に基づき、地域社会を基盤として行われるリハビリテーションの分野で、地域社会に貢献できる理学療法士の育成をめざす。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　地域包括ケアを地域リハビリテーションの必要性
第3回　リハビリテーションと自立支援
第4回　在宅介護での自立支援のあり方
第5回　連携とネットワークづくり
第6回　介護保険とリハビリテーションにおける課題と展望
第7回　通所・訪問リハビリテーションの実際と理学療法士の役割
第8回　地域における健康増進のための取り組み1
第9回　地域における健康増進のための取り組み2
第10回　学外研修（地域における住環境整備、地域事業への参加）
第11回　学外研修（地域における福祉用具の活用、地域事業への参加）
第12回　学外研修（訪問リハビリテーション、地域事業への参加）
第13回　学外研修（訪問リハビリテーション、地域事業への参加）
第14回　まとめ（意見交換、グループ発表）
第15回　まとめ（意見交換、グループ発表）

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 90 ）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等（　）
参加度　（ 10 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**生活環境論**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　白岩 加代子.村田 伸

テーマ

障害を持つ人が自立した生活を送るのに必要となる環境整備の理論と実際について学ぶ。

授業の到達目標

障害を持つ人の生活環境整備の方法や障害を通して関係してくる法制度、福祉用具やユニバーサル・デザイン住宅について学ぶ。理学療法士として障害を持つ人が安心した生活を営むために必要な知識を習得し、アドバイスできるようになることが目標となる。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　高齢者・障害者を取り巻く社会状況と住環境
第3回　学外研修（福祉用具・リハ関連機器について学ぶ）
第4回　学外研修（福祉用具・リハ関連機器について学ぶ）
第5回　福祉住環境コーディネーターの役割と機能
第6回　福祉住環境整備の進め方
第7回　福祉住環境整備の共通基本技術
第8回　生活行為別にみた福祉住環境整備の手法
第9回　福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識
第10回　障害別にみた福祉住環境
第11回　福祉用具の意味と活用
第12回　生活行為別にみた福祉用具の活用
第13回　ケーススタディを用いた住宅改修1
第14回　ケーススタディを用いた住宅改修2
第15回　まとめ

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

生活環境学テキスト
著者:
出版社: 南江堂
出版年: 2016　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**臨床評価実習**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期集中　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　宮﨑 純弥.安彦 鉄平.小田桐 匡.甲斐 義浩.兒玉 隆之.崎田 正博.白岩 加代子.濱出 茂治.堀江 淳.松尾 奈々.村田 伸.横山 茂樹

テーマ

授業の到達目標

1)対象者に対して、適切な態度で対応することができる。2)医療専門職として責任および節度のある態度と行動をとることができる。3)基本的な理学療法の情報収集、評価方法の選択、検査・測定を正しく実施することができる。4)得られた評価結果から対応課題を抽出し、初歩的な治療プログラムを立案できる。5)理学療法の基本的な記録をすることができる。6)担当症例の評価報告書をまとめ、提出することができる。

授業の概要

実習指導者の指導・教育のもと、対象者に対する評価を中心とした実習を行う。対象者に応じた情報の収集、評価方法の選択、検査・測定の実施、結果の記録、統合と解釈、対応課題の抽出までの一連の評価過程を体験することにより、評価技術の習得のみならず、対応課題の解決を図る思考過程を学習する。一連の過程で得られた情報に基づき初歩的な治療プログラムの作成方法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション：実習概要を理解し、実習に取り組む際の注意事項などについて確認する
第2回　現場実習
第3回　現場実習
第4回　現場実習
第5回　現場実習
第6回　現場実習
第7回　現場実習
第8回　現場実習
第9回　現場実習
第10回　現場実習
第11回　現場実習
第12回　現場実習
第13回　現場実習
第14回　現場実習
第15回　現場実習
第16回　現場実習
第17回　現場実習
第18回　現場実習
第19回　現場実習
第20回　現場実習
第21回　現場実習
第22回　現場実習
第23回　現場実習
第24回　現場実習
第25回　現場実習
第26回　現場実習
第27回　現場実習
第28回　現場実習
第29回　現場実習
第30回　実習終了後セミナー：実習経験報告、集団討議、事例検討・報告などから成る。学生は、実習課題を中心に、実習施設の特徴や実習した内容および経験について要点をまとめて簡潔に発表する。

履修上の注意点

教科書

参考書

a90103b750

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）
授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）
実習の出席は80%以上で単位認定の資格を得る。

2016 Syllabus

科 目 名　**運動器障害系理学療法学応用演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮﨑　純弥	

テーマ

運動器系疾患理学療法のより詳細な評価・治療を考え、臨床能力の向上を図る

授業の到達目標

運動器系疾患に対する理学療法を多角的に捉え、評価・治療を行う。より臨床に即した一連の理学療法を実践するにあたって、必要な運動器疾患の知識・解剖学的知識・運動学的知識を統合して捉えることが出来るようにする。

授業の概要

症例を通して、患者の全体像を把握して検査測定・問題点抽出・治療プログラム立案して実施するところまでを行う。

準備学習（予習・復習）

テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　姿勢の評価①
第3回　姿勢の評価②
第4回　下肢疾患の症例検討①
第5回　下肢疾患の症例検討②
第6回　下肢疾患の症例検討③
第7回　下肢疾患の症例検討④
第8回　上肢疾患の症例検討①
第9回　上肢疾患の症例検討②
第10回　上肢疾患の症例検討③
第11回　上肢疾患の症例検討④
第12回　脊椎疾患の症例検討①
第13回　脊椎疾患の症例検討②
第14回　脊椎疾患の症例検討③
第15回　総括なお、外部講師を招いて講演会を開催することがある

履修上の注意点

講義の前にテキストの指示された部分について最低でも3回は熟読し、分からない単語等は各自で調べておくこと。実技の出来る服装で参加すること。

教科書

運動機能障害症候群のマネジメント
著者:　監訳　竹井仁
出版社:　医歯薬出版
出版年:　2005　　ISBN:　4263212851

参考書

成績評価

試験　（ 80% ）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 10% ）　　授業中発表等　（ 5% ）
参加度　（ 5% ）
授業日程の2/3以上出席した者を成績評価の対象とします。

2016 Syllabus

科 目 名　**神経障害系理学療法学応用演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小田桐　匡.兒玉　隆之.濱出　茂治	

テーマ

中枢性，末梢性の神経障害に対する理学療法について学びを一層深める

授業の到達目標

神経障害系理学療法学基礎演習で学んだ知識を基礎に，より臨床に近いレベルでの疾患の病態，障害のメカニズム（回復，予後を含む），治療戦略に関する知識を演習形式にて指導する．さらに，研究的視点でそれらに対する理学療法に必要な専門的理論に対する思考過程の習熟を図る．

授業の概要

2回生で学んだ内容の復習を行いつつ，座学，グループ活動も含めた演習形式など多様な形態で進める．レポート課題も適宜行う．

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　末梢性神経障害の病態
第2回　末梢性神経障害の評価
第3回　末梢性神経障害に対する理学療法
第4回　末梢性神経障害症例に対する臨床推論1
第5回　末梢性神経障害症例に対する臨床推論2
第6回　脳血管障害後の神経学的徴候について　（主に痙縮，固縮のメカニズム）
第7回　脳血管障害患者の急性期における問題点および治療プログラム
第8回　脳血管障害患者の慢性期における問題点および治療プログラム
第9回　症例（CVA）に対する臨床推論
第10回　グループ演習
第11回　大脳基底核の情報処理特性とパーキンソン病
第12回　パーキンソン病の問題点と治療プログラム
第13回　小脳の情報処理特性と多系統委縮症
第14回　多系統委縮症の問題点と治療プログラム
第15回　症例（多系統委縮症，パーキンソン病）に対する臨床推論

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 85 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 10 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 5 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**内部障害系理学療法学応用演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀江　淳.内藤　紘一	

テーマ

内部障害系（呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患）理学療法学の高度な知識、技術の習得を促進する。

授業の到達目標

本講義は、呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患に関係する特異的な留意点を整理し、それら疾患における理学療法評価法、治療法、リスク管理、および薬物療法、酸素療法、人工呼吸療法と理学療法の関わりについて学び、その知識、技術の習得を目標とする。

授業の概要

呼吸器疾患、循環器疾患、代謝疾患に関係する特異的な留意点を整理し、それら疾患における理学療法評価法、治療法、リスク管理、および薬物療法、酸素療法、人工呼吸療法と理学療法の関わりについて学び、その知識、技術を習得する。

準備学習（予習・復習）

教員作成資料、内部障害関連学術雑誌の抄読、理学療法士対象の関連勉強会、講習会への参加促進

内　　容

第1回　COPDの病態
第2回　COPDにおける動的肺過膨張、薬物療法と理学療法
第3回　間質性肺炎や気管支拡張症の病態
第4回　間質性肺炎や気管支拡張症の理学療法
第5回　急性期（ICU、CCUなど）における呼吸、循環動態
第6回　急性期（ICU、CCUなど）における呼吸器疾患の病態、評価と治療
第7回　酸素療法、非侵襲的、侵襲的人工呼吸療法と理学療法
第8回　胸部、腹部外科術後における理学療法とリスク管理
第9回　心筋梗塞、狭心症における心臓リハビリテーション
第10回　急性期（ICU、CCUなど）における循環器疾患の病態、評価と治療
第11回　心臓血管外科術後における心臓リハビリテーションの評価と治療
第12回　回復期から慢性期における心臓リハビリテーションの評価と治療
第13回　Ⅱ型糖尿病の病態、検査、治療
第14回　Ⅱ型糖尿病のための理学療法評価と治療プログラム
第15回　講義のまとめと最新トピックスなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

理学療法テキスト内部障害理学療法学「呼吸」
著者:　石川朗
出版社:　中山書店
出版年:　2010　　ISBN:　9784521732282

理学療法テキスト内部障害理学療法学「循環・代謝」
著者:　石川朗
出版社:　中山書店
出版年:　2010　　ISBN:　9784521732275

参考書

成績評価

試験　（ 100 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

期末に実施する筆記試験にて評価する。3分の1以上の欠席のあるものは筆記試験を受験できない。出席点は減点方式とし欠席1回につき2点減点、無断欠席は4点減点とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**スポーツ障害系理学療法学応用演習**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　横山 茂樹

テーマ

スポーツ障害の再発防止に向けた理学療法

授業の到達目標

①スポーツ障害に関連する関節の機能不全や運動異常を説明できる. ②スポーツ障害の再発防止に向けたアプローチを実践できる.

授業の概要

スポーツ動作からみた障害発生要因について, さまざまな競技について検討するとともに, 腰痛をはじめ股関節. 膝関節および肩関節疾患に共通する体幹の機能評価およびアプローチ方法, 自己管理の指導について実践的に解説します.

準備学習（予習・復習）

テキスト・資料を配付しますので, 事前に熟読しておいてください.

内　容

第1回　オリエンテーション／マルアライメント症候群に対する治療概念
第2回　アライメント評価（1）
第3回　アライメント評価（2）
第4回　メディカルチェック（1）
第5回　メディカルチェック（2）
第6回　メディカルチェック（3）
第7回　体幹の機能改善アプローチ
第8回　股関節の機能改善アプローチ
第9回　膝関節の機能改善アプローチ（1）
第10回　膝関節の機能改善アプローチ（2）
第11回　足関節の機能改善アプローチ
第12回　肩関節の機能改善アプローチ
第13回　スポーツ現場における障害予防教育（1）
第14回　スポーツ現場における障害予防教育（2）
第15回　まとめ

履修上の注意点

実技を交えながら行いますので, 実習着に着替えて参加してください. スポーツ現場の見学実習も行います. 3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

ファンクショナル・エクササイズ
著者:　川野哲英
出版社:　ブックハウスHD
出版年:　　ISBN:

リアライン・トレーニング
著者:　蒲田和芳
出版社:　講談社
出版年:　2014　　ISBN:　978-4062806589

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度　（ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**脊髄障害系理学療法学応用演習**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　武田 功

テーマ

授業の到達目標

前期の脊髄障害系に関する基礎演習に続いて、後期では「脊髄障害系理学療法学応用演習」としてFunction／structuereに偏重した理学療法の理念からActivities limitationそしてParticipation に至るまでの脊髄損傷理学療法の応用演習により社会生活を含めた生活者として生きる脊髄（疾患）損傷者の広範囲なアプローチに主眼をおき、それに加えて国家試験対策を含めた知識・技術を駆使できるよう教授する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　脊髄損傷の理学療法(治療訓練)
第2回　実習Ⅰ（含む国家試験対策）
第3回　実習Ⅱ（含む国家試験対策）
第4回　脊髄損傷の車いす訓練
第5回　実習（含む国家試験対策）
第6回　脊髄損傷の痙性麻痺の評価と治療
第7回　実習（含む国家試験対策）
第8回　脊髄損傷の褥瘡の評価と治療
第9回　脊髄損傷者の坐位バランスの評価
第10回　排尿・尿路障害（含む国家試験対策）
第11回　肺理学療法
第12回　実習Ⅰ（含む国家試験対策）
第13回　実習Ⅱ（含む国家試験対策）
第14回　脊髄損傷のスポーツ(概論)
第15回　脊髄損傷の性機能

履修上の注意点

教科書

脊髄損傷の理学療法（第2版）
著者:　武田 功・他
出版社:　医歯薬出版
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 90 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 10 ）
次の項目で総合評価する。　①試験90％：出欠は減点法（1回につき欠席－2点、遅刻－1点を減点）② 講義の質疑応答③提出物、④授業態度、⑤定期試験（2／3以上出席していること）以上の総合点とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**発達障害系理学療法学応用演習**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　崎田　正博

テーマ

発達障害における理学療法の応用的な知識の理解、評価および治療を学ぶ。

授業の到達目標

1)脳性麻痺の多様な病態と異常発達を理解する。　2)脳性麻痺の各病型別動作分析の視点を学ぶ。　3)重度障害の病態･発達及び複合障害を理解する。　4)応用的な評価･動作分析･治療を身につける。

授業の概要

実技を中心に実施します。

準備学習(予習･復習)

事前に授業資料を配布するため予習して授業に参加

内　容

第1回　脳性麻痺の概念:脳性麻痺とは？
第2回　脳性麻痺の病型分類と麻痺分布
第3回　脳性麻痺の評価
第4回　脳性麻痺の評価(動作分析を中心に)①
第5回　脳性麻痺の評価(動作分析を中心に)②
第6回　脳性麻痺の治療(神経生理学的アプローチを中心に)①
第7回　脳性麻痺の治療(神経生理学的アプローチを中心に)②
第8回　脳性麻痺の評価(実習)①
第9回　脳性麻痺の評価(実習)②
第10回　脳性麻痺の評価、統合と解釈①
第11回　脳性麻痺の評価、統合と解釈②
第12回　脳性麻痺理学療法における問題解決方法(1)
第13回　脳性麻痺理学療法における問題解決方法(2)
第14回　脳性麻痺理学療法における問題解決方法(3)
第15回　まとめとテスト対策

履修上の注意点

1／3以上の欠席で単位なし

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60%)　　小テスト ( )
授業中課題 ( )　　授業中発表等 (30%)
参加度 (10%)

2016 Syllabus

科 目 名　**老年期障害理学療法学演習**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　白岩　加代子.村田　伸	

テーマ

老人疾患の特徴や機能低下の特徴に合わせた理学療法について学ぶ。

授業の到達目標

加齢に伴う身体機能の変化や老化の特徴について学び、個々に合わせた対応策を考案できるようになることを目標とする。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

高齢者の動作分析や特徴などを観察してみる

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　老年期の特徴と老年期に生じやすい障害
第3回　廃用症候群
第4回　視覚・聴覚・言語障害
第5回　骨粗鬆症と骨折
第6回　脳血管障害
第7回　高次脳機能障害
第8回　認知症
第9回　関節リウマチ
第10回　パーキンソン病
第11回　内部障害
第12回　糖尿病
第13回　悪性新生物
第14回　切断
第15回　脊髄損傷

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

老年期障害理学療法学テキスト
著者:
出版社: 学術研究出版
出版年: 2016　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 90 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**ヘルスプロモーション理学療法学応用演習**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期集中　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　白岩 加代子.堀江 淳.村田 伸

テーマ

演習授業に積極的に参加し、各グループ内での活発な意見交換を通して、主体的にヘルスプロモーションを促進するための理学療法士の役割を学習する。

授業の到達目標

ヘルスプロモーション理学療法学基礎演習で学んだ知識を活かし、より実践的な事項について学び、医療機関や地域の関係諸機関においても活躍できる理学療法士をめざす。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　生活習慣病予防のための運動処方
第2回　生活習慣病予防のための運動処方（運動指針と運動処方）
第3回　生活習慣病予防のための運動処方（効果的なウォーキング方法）
第4回　介護予防のための運動処方（介護予防と身体活動）
第5回　介護予防のための運動処方（骨粗鬆症の予防）
第6回　介護予防のための運動処方（転倒予防）
第7回　介護予防のための運動処方（認知症予防）
第8回　運動実施時の注意点（健康チェック）
第9回　運動実施時の注意点（環境と健康）
第10回　運動実施時の注意点（肥満者への運動指導）
第11回　運動実施時の注意点（腰・膝・肩に痛みがある人への運動指導）
第12回　運動実施時の注意点（筋力低下・虚弱高齢者への運動指導）
第13回　運動実施時の注意点（運動習慣の形成方法）
第14回　生活習慣病・介護予防に対する運動効果のエビデンス
第15回　生活習慣病・介護予防に対する運動効果のエビデンス

履修上の注意点

3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

「理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション-理論と実践」
著者:
出版社: 南江堂
出版年: 2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 90 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法技術学Ⅰ（運動器障害）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮﨑　純弥	

テーマ

運動器系疾患理学療法に関する治療・研究の方向性について紹介し、整形徒手理学療法の理論と技術を学ぶ

授業の到達目標

整形徒手理学療法（Kaltenborn-Evjenth Concept）の理論を理解し、基本的な技術を習得し、この基本的技術を患者に使用できるようにすることを目的とする。また、その過程で必要な学術論文が読めるようになることを目的とする。

授業の概要

講義形式とグループワークを行ってもらう

準備学習（予習・復習）

テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　整形徒手理学療法の理論
第3回　上肢の徒手療法1
第4回　上肢の徒手療法2
第5回　下肢の徒手療法1
第6回　下肢の徒手療法2
第7回　脊柱の徒手療法
第8回　まとめ

履修上の注意点

実技が可能な服装で参加すること。

教科書

整形徒手理学療法
著者:　富雅男・砂川勇監修
出版社:　医歯薬出版
出版年:　2011　　ISBN:　9784263213872

参考書

成績評価

試験　（ 80% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 15% ）
参加度　（ 5% ）
授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法技術学Ⅱ（神経障害）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　兒玉　隆之	

テーマ

授業の到達目標

神経科学の視点から認知、運動などの高次脳機能を理解するとともに、機能回復のために必要な、脳内神経ネットワークの再構築を神経基盤とする運動学習メカニズムに基づいた理学療法技術（神経リハビリテーション）を学ぶことを目的にする。

授業の概要

機能回復の促進、援助、さらに残存機能と代償機能を利用した理学療法技術を教授する。神経障害に対する訓練機器を応用した治療も学習する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　神経リハビリテーションとは
第2回　運動学習とは①
第3回　運動学習とは②
第4回　神経障害に対する基本的なアプローチ
第5回　神経リハビリテーション（運動イメージ）について①
第6回　神経リハビリテーション（振動刺激）について②
第7回　神経リハビリテーション（ニューロフィードバック）について③
第8回　まとめ

履修上の注意点

教科書

運動と高次神経機能
著者:　西平賀昭, 大築立志
出版社:　杏林書院
出版年:　2005　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 70 ）	小テスト（　）
授業中課題　（　）	授業中発表等　（　）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法技術学Ⅲ（内部障害）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀江　淳	

テーマ

内部障害患者に対する代表的な検査、治療の技術を、より深く探求する。より臨床的、かつ最新の治療、論理を学習する。

授業の到達目標

内部障害患者に対する代表的な検査、治療の技術を学び、臨床実習で活用できることを目標とする。また、より臨床的な内容に着目した知識、技術を習得することを目標とする。

授業の概要

教科書的な内容よりも、より臨床的な内容で授業を展開する。学術論文など最新のトピックスなども合わせて読み解く。

準備学習（予習・復習）

前期で学んだ内部障害系理学療法学基礎演習の内容を事前に復習しておく。

内　　容

第4回　フィールド歩行テスト（シャトルウォーキングテスト）の技術と理論を学ぶ
第5回　心肺運動負荷テストの技術と理論を学ぶ（最高酸素摂取量と嫌気性代謝作業閾値）
第6回　心肺運動負荷テストの技術と理論を学ぶ（換気と循環）
第7回　運動処方の実際と理論を学ぶ
第8回　気道クリアランスを高める技術と理論（排痰手技）を学ぶなお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。
第1回　呼吸機能検査（肺気量分画）の技術と理論を学ぶ
第2回　呼吸機能検査（フローボリューム）の技術と理論を学ぶ
第3回　フィールド歩行テスト（6分間歩行距離テスト）の技術と理論を学ぶ

履修上の注意点

3分の2以上の出席により、成績評価対象とする。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 60 ）
参加度　（ 10 ）
授業中の課題とその発表内容にて評価する。3分の1以上の欠席のあるものは発表を認めない。出席点は減点方式とし欠席1回につき2点減点、無断欠席は4点減点とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法技術学Ⅳ（スポーツ障害）**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　横山 茂樹

テーマ

スポーツ障害に対するテーピング

授業の到達目標

①スポーツテーピングの使用目的・適応・種類・注意事項などを説明できる. ②応急処置におけるテーピング固定を実践できる. ③疾患特性を考慮したテーピングを施行することができる.

授業の概要

スポーツ障害に対する応急処置やテーピング法について実技を交えながら解説します.

準備学習（予習・復習）

スポーツ障害に関する基礎知識を復習しておいてください.

内　容

第1回　スポーツ障害総論
第2回　テーピング技術1（足関節）
第3回　テーピング技術2（足部）
第4回　テーピング技術3（膝関節）
第5回　テーピング技術4（肩関節）
第6回　テーピング技術5（肘・手関節）
第7回　応急処置
第8回　まとめ

履修上の注意点

軽装に着替えて参加してください. スポーツ現場における実践を行う場合もあります. 3分の2以上出席した者を成績評価の対象とする。

教科書

参考書

ファンクショナル・テーピング
著者:　川野哲英
出版社:　ブックハウスHD
出版年:　　ISBN:

スポーツ理学療法
著者:　浦辺幸夫
出版社:　医歯薬出版
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 20 ）
筆記試験および実技試験を行う

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法技術学Ⅴ（発達障害）**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　崎田　正博

テーマ

各疾患別発達障害理学療法を症例を中心にディスカッション形式で授業を展開し、理学療法プロセスの思考を養う。

授業の到達目標

1）脳性麻痺の動作分析を学ぶ。
2）近年のトピック的な評価・治療を学ぶ。
3）発達障害の加齢による退行を学ぶ。

授業の概要

ディスカッション形式で実施します。

準備学習（予習・復習）

事前に授業資料を配布するため予習して授業に参加

内　容

第1回　痙直型脳性麻痺の近年の評価・治療
第2回　アテトーゼ型脳性麻痺の近年の評価・治療
第3回　ジストニア型脳性麻痺の近年の評価・治療
第4回　失調型脳性麻痺の近年の評価・治療
第5回　症例1．ディスカッション
第6回　症例2．ディスカッション
第7回　症例3．ディスカッション
第8回　症例4．ディスカッション

履修上の注意点

1／3以上の欠席で単位なし

教科書

未定
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 40% ）
参加度　（ 10% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法総合演習 <＊a>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村田　伸	

テーマ

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　授業のオリエンテーション、グループ編成、グループ内での役割の明確化
第2回　グループワーク
第3回　グループワーク
第4回　グループワーク
第5回　グループワーク
第6回　小テスト1
第7回　グループワーク
第8回　グループワーク
第9回　グループワーク
第10回　グループワーク
第11回　グループワーク
第12回　小テスト2
第13回　グループワーク
第14回　グループワーク
第15回　グループワーク
第16回　グループワーク
第17回　グループワーク
第18回　小テスト3
第19回　グループワーク
第20回　グループワーク
第21回　グループワーク
第22回　グループワーク
第23回　グループワーク
第24回　小テスト4
第25回　グループワーク
第26回　グループワーク
第27回　グループワーク
第28回　グループワーク
第29回　グループワーク
第30回　小テスト5、授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ 100 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法総合演習 <＊b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　横山　茂樹	

テーマ

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　授業のオリエンテーション、グループ編成、グループ内での役割の明確化
第2回　グループワーク
第3回　グループワーク
第4回　グループワーク
第5回　グループワーク
第6回　小テスト1
第7回　グループワーク
第8回　グループワーク
第9回　グループワーク
第10回　グループワーク
第11回　グループワーク
第12回　小テスト2
第13回　グループワーク
第14回　グループワーク
第15回　グループワーク
第16回　グループワーク
第17回　グループワーク
第18回　小テスト3
第19回　グループワーク
第20回　グループワーク
第21回　グループワーク
第22回　グループワーク
第23回　グループワーク
第24回　小テスト4
第25回　グループワーク
第26回　グループワーク
第27回　グループワーク
第28回　グループワーク
第29回　グループワーク
第30回　小テスト5、授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ 100 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法総合演習 <＊c>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　甲斐　義浩	

テーマ

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　授業のオリエンテーション、グループ編成、グループ内での役割の明確化
第2回　グループワーク
第3回　グループワーク
第4回　グループワーク
第5回　グループワーク
第6回　小テスト1
第7回　グループワーク
第8回　グループワーク
第9回　グループワーク
第10回　グループワーク
第11回　グループワーク
第12回　小テスト2
第13回　グループワーク
第14回　グループワーク
第15回　グループワーク
第16回　グループワーク
第17回　グループワーク
第18回　小テスト3
第19回　グループワーク
第20回　グループワーク
第21回　グループワーク
第22回　グループワーク
第23回　グループワーク
第24回　小テスト4
第25回　グループワーク
第26回　グループワーク
第27回　グループワーク
第28回　グループワーク
第29回　グループワーク
第30回　小テスト5、授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ 100 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法総合演習 <＊d>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　崎田　正博	

テーマ

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　授業のオリエンテーション、グループ編成、グループ内での役割の明確化
第2回　グループワーク
第3回　グループワーク
第4回　グループワーク
第5回　グループワーク
第6回　小テスト1
第7回　グループワーク
第8回　グループワーク
第9回　グループワーク
第10回　グループワーク
第11回　グループワーク
第12回　小テスト2
第13回　グループワーク
第14回　グループワーク
第15回　グループワーク
第16回　グループワーク
第17回　グループワーク
第18回　小テスト3
第19回　グループワーク
第20回　グループワーク
第21回　グループワーク
第22回　グループワーク
第23回　グループワーク
第24回　小テスト4
第25回　グループワーク
第26回　グループワーク
第27回　グループワーク
第28回　グループワーク
第29回　グループワーク
第30回　小テスト5、授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ 100 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法総合演習 <＊e>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　白岩　加代子	

テーマ

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　授業のオリエンテーション、グループ編成、グループ内での役割の明確化
第2回　グループワーク
第3回　グループワーク
第4回　グループワーク
第5回　グループワーク
第6回　小テスト1
第7回　グループワーク
第8回　グループワーク
第9回　グループワーク
第10回　グループワーク
第11回　グループワーク
第12回　小テスト2
第13回　グループワーク
第14回　グループワーク
第15回　グループワーク
第16回　グループワーク
第17回　グループワーク
第18回　小テスト3
第19回　グループワーク
第20回　グループワーク
第21回　グループワーク
第22回　グループワーク
第23回　グループワーク
第24回　小テスト4
第25回　グループワーク
第26回　グループワーク
第27回　グループワーク
第28回　グループワーク
第29回　グループワーク
第30回　小テスト5、授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ 100 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法総合演習 <＊f>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小田桐　匡	

テーマ

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　授業のオリエンテーション、グループ編成、グループ内での役割の明確化
第2回　グループワーク
第3回　グループワーク
第4回　グループワーク
第5回　グループワーク
第6回　小テスト1
第7回　グループワーク
第8回　グループワーク
第9回　グループワーク
第10回　グループワーク
第11回　グループワーク
第12回　小テスト2
第13回　グループワーク
第14回　グループワーク
第15回　グループワーク
第16回　グループワーク
第17回　グループワーク
第18回　小テスト3
第19回　グループワーク
第20回　グループワーク
第21回　グループワーク
第22回　グループワーク
第23回　グループワーク
第24回　小テスト4
第25回　グループワーク
第26回　グループワーク
第27回　グループワーク
第28回　グループワーク
第29回　グループワーク
第30回　小テスト5、授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ 100 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法総合演習 <＊g>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松尾　奈々	

テーマ

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　授業のオリエンテーション、グループ編成、グループ内での役割の明確化
第2回　グループワーク
第3回　グループワーク
第4回　グループワーク
第5回　グループワーク
第6回　小テスト1
第7回　グループワーク
第8回　グループワーク
第9回　グループワーク
第10回　グループワーク
第11回　グループワーク
第12回　小テスト2
第13回　グループワーク
第14回　グループワーク
第15回　グループワーク
第16回　グループワーク
第17回　グループワーク
第18回　小テスト3
第19回　グループワーク
第20回　グループワーク
第21回　グループワーク
第22回　グループワーク
第23回　グループワーク
第24回　小テスト4
第25回　グループワーク
第26回　グループワーク
第27回　グループワーク
第28回　グループワーク
第29回　グループワーク
第30回　小テスト5、授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ 100 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法総合演習 <＊h>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　宮﨑　純弥	

テーマ

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　授業のオリエンテーション、グループ編成、グループ内での役割の明確化
第2回　グループワーク
第3回　グループワーク
第4回　グループワーク
第5回　グループワーク
第6回　小テスト1
第7回　グループワーク
第8回　グループワーク
第9回　グループワーク
第10回　グループワーク
第11回　グループワーク
第12回　小テスト2
第13回　グループワーク
第14回　グループワーク
第15回　グループワーク
第16回　グループワーク
第17回　グループワーク
第18回　小テスト3
第19回　グループワーク
第20回　グループワーク
第21回　グループワーク
第22回　グループワーク
第23回　グループワーク
第24回　小テスト4
第25回　グループワーク
第26回　グループワーク
第27回　グループワーク
第28回　グループワーク
第29回　グループワーク
第30回　小テスト5、授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ 100 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法総合演習 <＊i>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　兒玉　隆之	

テーマ

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　授業のオリエンテーション、グループ編成、グループ内での役割の明確化
第2回　グループワーク
第3回　グループワーク
第4回　グループワーク
第5回　グループワーク
第6回　小テスト1
第7回　グループワーク
第8回　グループワーク
第9回　グループワーク
第10回　グループワーク
第11回　グループワーク
第12回　小テスト2
第13回　グループワーク
第14回　グループワーク
第15回　グループワーク
第16回　グループワーク
第17回　グループワーク
第18回　小テスト3
第19回　グループワーク
第20回　グループワーク
第21回　グループワーク
第22回　グループワーク
第23回　グループワーク
第24回　小テスト4
第25回　グループワーク
第26回　グループワーク
第27回　グループワーク
第28回　グループワーク
第29回　グループワーク
第30回　小テスト5、授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ 100 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法総合演習 <＊j>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀江　淳	

テーマ

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　授業のオリエンテーション、グループ編成、グループ内での役割の明確化
第2回　グループワーク
第3回　グループワーク
第4回　グループワーク
第5回　グループワーク
第6回　小テスト1
第7回　グループワーク
第8回　グループワーク
第9回　グループワーク
第10回　グループワーク
第11回　グループワーク
第12回　小テスト2
第13回　グループワーク
第14回　グループワーク
第15回　グループワーク
第16回　グループワーク
第17回　グループワーク
第18回　小テスト3
第19回　グループワーク
第20回　グループワーク
第21回　グループワーク
第22回　グループワーク
第23回　グループワーク
第24回　小テスト4
第25回　グループワーク
第26回　グループワーク
第27回　グループワーク
第28回　グループワーク
第29回　グループワーク
第30回　小テスト5、授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 100 ）
授業中課題（　）	授業中発表等（　）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法総合演習 <＊k>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　安彦　鉄平	

テーマ

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　授業のオリエンテーション、グループ編成、グループ内での役割の明確化
第2回　グループワーク
第3回　グループワーク
第4回　グループワーク
第5回　グループワーク
第6回　小テスト1
第7回　グループワーク
第8回　グループワーク
第9回　グループワーク
第10回　グループワーク
第11回　グループワーク
第12回　小テスト2
第13回　グループワーク
第14回　グループワーク
第15回　グループワーク
第16回　グループワーク
第17回　グループワーク
第18回　小テスト3
第19回　グループワーク
第20回　グループワーク
第21回　グループワーク
第22回　グループワーク
第23回　グループワーク
第24回　小テスト4
第25回　グループワーク
第26回　グループワーク
第27回　グループワーク
第28回　グループワーク
第29回　グループワーク
第30回　小テスト5、授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ 100 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法総合演習 <＊I>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　濱出　茂治	

テーマ

授業の到達目標

理学療法士国家試験に合格できるだけの知識を身につけること、理学療法士として働くための責任感や態度を身につけることを目指す。

授業の概要

少人数の演習形式により、臨床実習で深化・統合させてきた基礎医学、臨床医学、理学療法学に関する知識の定着を図ることを目的とするとともに、国家試験レベルの知識を確実に身につける。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　授業のオリエンテーション、グループ編成、グループ内での役割の明確化
第2回　グループワーク
第3回　グループワーク
第4回　グループワーク
第5回　グループワーク
第6回　小テスト1
第7回　グループワーク
第8回　グループワーク
第9回　グループワーク
第10回　グループワーク
第11回　グループワーク
第12回　小テスト2
第13回　グループワーク
第14回　グループワーク
第15回　グループワーク
第16回　グループワーク
第17回　グループワーク
第18回　小テスト3
第19回　グループワーク
第20回　グループワーク
第21回　グループワーク
第22回　グループワーク
第23回　グループワーク
第24回　小テスト4
第25回　グループワーク
第26回　グループワーク
第27回　グループワーク
第28回　グループワーク
第29回　グループワーク
第30回　小テスト5、授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ 100 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**理学療法管理学**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　濱出　茂治	

テーマ

理学療法部門における管理運営者としての業務や他部門との連携の在り方について教授する。

授業の到達目標

理学療法部門における管理運営の在り方について学ぶ。

授業の概要

理学療法部門における人材育成や治療技術の向上を目的とした臨床研修教員、研究体制、さらに部門管理者としてのマネージメント理論について講義する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　理学療法部門管理とは
第3回　チームリーダーの役割
第4回　医療保険制度
第5回　介護保険制度
第6回　回復期病棟における理学療法の役割
第7回　通所ケアにおける理学療法の役割
第8回　他部門との連携の在り方
第9回　認定理学療法士制度
第10回　専門理学療法士制度
第11回　生涯教育としての理学療法の在り方
第12回　理学療法と医療コスト
第13回　研究と教育
第14回　理学療法施設基準
第15回　まとめ

履修上の注意点

2/3以上の出席により、成績評価対象とする。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 80% ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 20% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**総合臨床実習Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　宮﨑 純弥.安彦 鉄平.小田桐 匡.甲斐 義浩.兒玉 隆之.崎田 正博.白岩 加代子.濱出 茂治.堀江 淳.松尾 奈々.村田 伸.横山 茂樹

テーマ

授業の到達目標

1)対象者に対して、適切な態度で対応することができる。2)医療専門職として責任および節度ある態度と行動をとることができる。

3)対象者の課題解決を図るための基本的な理学療法（評価から治療計画の立案、治療プログラムの実施までの一連の過程）を総合的に学ぶ。4)学生として必要な記録と報告ができる。5)症例報告書をまとめ、発表・提出することができる。

授業の概要

実習指導者の指導・教育のもと、学内で習得した専門知識と技術を基礎として、総合的な理学療法の実習を行う。複数の対象者に対して、それぞれに応じた評価、治療計画立案、治療といった一連の過程を体験する。この実習を通して、各種疾患の障害像や生活機能を理解するとともに背景因子（環境因子や個人因子、等）を考慮した理学療法の実践力を養う。さらにリハビリテーションチームの一員としての役割を自覚し、医療従事者として節度ある態度と協調性を身につける。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション：実習概要を理解し、実習に取り組む際の注意事項などについて確認する。
第2回　現場実習
第3回　現場実習
第4回　現場実習
第5回　現場実習
第6回　現場実習
第7回　現場実習
第8回　現場実習
第9回　現場実習
第10回　現場実習
第11回　現場実習
第12回　現場実習
第13回　現場実習
第14回　現場実習
第15回　現場実習
第16回　現場実習
第17回　現場実習
第18回　現場実習
第19回　現場実習
第20回　現場実習
第21回　現場実習
第22回　現場実習
第23回　現場実習
第24回　現場実習
第25回　現場実習
第26回　現場実習
第27回　現場実習
第28回　現場実習
第29回　現場実習
第30回　実習終了後セミナー：実習経験報告、集団討議、事例検討・報告などから成る。学生は、実習課題を中心に、担当患者の理学療法評価・問題点・治療目標・治療内容・効果判定などを報告する。

履修上の注意点

教科書

参考書

a90104a310

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）
実習の出席は80%以上で単位認定の資格を得る。

2016 Syllabus

科 目 名　**総合臨床実習Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　前期集中　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　宮﨑 純弥.安彦 鉄平.小田桐 匡.甲斐 義浩.兒玉 隆之.崎田 正博.白岩 加代子.濱出 茂治.堀江 淳.松尾 奈々.村田 伸.横山 茂樹

テーマ

授業の到達目標

1)対象者に対して、適切な態度で対応することができる。2)医療専門職として責任および節度ある態度と行動をとることができる。

3)対象者の課題解決を図るための基本的な理学療法（評価から治療計画の立案、治療プログラムの実施までの一連の過程）を総合的に学ぶ。4)学生として必要な記録と報告ができる。5)症例報告書をまとめ、発表・提出することができる。

授業の概要

実習指導者の指導・教育のもと、学内で習得した専門知識と技術を基礎として、総合的な理学療法の実習を行う。対象者に対して、それぞれに応じた評価、治療計画立案、治療といった一連の過程を体験する。この実習を通して、各種疾患の障害像や生活機能を理解するとともに背景因子（環境因子や個人因子、等）を考慮した理学療法の実践力を養う。さらにリハビリテーションチームの一員としての役割を身につける。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション：実習概要を理解し、実習に取り組む際の注意事項などについて確認する。
第2回　現場実習
第3回　現場実習
第4回　現場実習
第5回　現場実習
第6回　現場実習
第7回　現場実習
第8回　現場実習
第9回　現場実習
第10回　現場実習
第11回　現場実習
第12回　現場実習
第13回　現場実習
第14回　現場実習
第15回　現場実習
第16回　現場実習
第17回　現場実習
第18回　現場実習
第19回　現場実習
第20回　現場実習
第21回　現場実習
第22回　現場実習
第23回　現場実習
第24回　現場実習
第25回　現場実習
第26回　現場実習
第27回　現場実習
第28回　現場実習
第29回　現場実習
第30回　実習終了後セミナー：実習経験報告、集団討議、事例検討・報告などから成る。学生は、実習課題を中心に、担当患者の理学療法評価・問題点・治療目標・治療内容・効果判定などを報告する。

履修上の注意点

教科書

参考書

a90104a450

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）
授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）
実習の出席は80%以上で単位認定の資格を得る。

2016 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅰ（心理）<Ha>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌｫｽﾀｰ ﾍﾝﾘｰ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money.（人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

毎週の小テストに備えて、定期的に単語を勉強して、各レッスンの内容を復習しましょう。

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1a – Explorers（個人情報を聞き取り、交換する）
第3回　Unit 1b – A family in East Africa（家族および友達について読む・話す）
第4回　Unit 2a – My possessions（持ち物について話す・聞く）
第5回　Unit 2b – At home（部屋を描写する）
第6回　Unit 3a: – No-car zones（街での暮らしについて読む・話す）
第7回　Unit 3b – Working under the sea（仕事について聞く・話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4a – 100% identical?（好き嫌いについて読む・話す）
第10回　Unit 4b – Free time at work（日課について読む・話す）
第11回　Unit 5a – Famous for food（食べ物について聞く・話す）
第12回　Unit 5b – Food markets（買い物と量について読む・話す）
第13回　Unit 6a – The face of money（過去の人物につて読む・書く・話す）
第14回　Unit 6b – Discover the past（過去のことを聞く・読む・話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。毎回色々なクラスメートと組んで英語でやり取りしますので、積極的に英語でコミュニケーションをする覚悟で授業に挑みましょう。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者：　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（ 50% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅰ（心理）<Hb>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌﾘﾝﾊﾝﾅﾏｲｹﾙ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation.（友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

Do assigned homework, preview and review textbook.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet and Introduce People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (B/C): Family members / Describing people（家族・人の外見を描写する）
第4回　Unit 2 (A/B): Jobs（仕事について話す）
第5回　Unit 2 (C): Countries（世界の国々ついて話す）
第6回　Unit 3 (A/B): Your house（家を描写する）
第7回　Unit 3 (C): Household objects（家具や家庭用品について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A/B): Personal possessions（持ち物について話す）
第10回　Unit 4 (C): Buy a present（ギフトを選ぶ）
第11回　Unit 5 (A/B): Daily routine（日課を描写する）
第12回　Unit 5 (C): Work activities（仕事内容について話す）
第13回　Unit 6 (A/B): Giving directions（道案内をする）
第14回　Unit 6 (C): Transportation（交通機関について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者：　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305089518

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 55 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 45 ）

Participation score is a composite score that includes homework and evaulation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2016 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅰ（心理）<Hc>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ｿｰｿﾝ ﾏｰｶｽ	

テーマ

Acting English Drama

授業の到達目標

This class is designed to be a lively class encouraging acting out drama scenes, analyzing character emotions, western styles and body language helping studnts develop their own English characters.

授業の概要

The purpose of this class is to improve reading, speaking and listening skills from practicing and reviewing drama dialogue.This course will be taught in English.

準備学習（予習・復習）

B5 Notebook Journals will be required homework and research

内　容

第1回　Introductions
第2回　Journal notebook, week one – Story Research
第3回　Week 2 Story Characters
第4回　Episode 3 Monsters – New words
第5回　,Journal week 4 Quiz – Morning After
第6回　Acting Scene 5 Q and A
第7回　Natural pronunciation practice
第8回　Episode7 Acting scene with studens and Teacher
第9回　Journals week 8 – Story Summary
第10回　Story Questions – Vocabulary Test
第11回　Final Journal Notebook week 10
第12回　Favorite Actor Report – Presentation
第13回　Final Story notes– Q and A
第14回　Heat wave Idioms and Dialougues
第15回　Final Papers and Discussion

履修上の注意点

you must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.

教科書

Acting English Drama
著者:　Marcus Thorson
出版社:　Sun Publishing
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）	小テスト（ 15 ）
授業中課題（ 15 ）	授業中発表等（ 15 ）
参加度　（ 15 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅰ（心理）<Hd>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌﾞﾗｲｱﾝﾊﾞｽｶｳﾞｨﾙ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money.（人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

If you forgot to bring your textbook and dictionary, you must make a copy of the next pages in the textbook and borrow a dictionary BEFORE class starts. Also, review the last lesson, look ahead at the next pages and check your dictionary for any new words.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1a – Explorers（個人情報を聞き取り、交換する）
第3回　Unit 1b – A family in East Africa（家族および友達について読む・話す）
第4回　Unit 2a – My possessions（持ち物について話す・聞く）
第5回　Unit 2b – At home（部屋を描写する）
第6回　Unit 3a: – No-car zones（街での暮らしについて読む・話す）
第7回　Unit 3b – Working under the sea（仕事について聞く・話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4a – 100% identical?（好き嫌いについて読む・話す）
第10回　Unit 4b – Free time at work（日課について読む・話す）
第11回　Unit 5a – Famous for food（食べ物について聞く・話す）
第12回　Unit 5b – Food markets（買い物と量について読む・話す）
第13回　Unit 6a – The face of money（過去の人物につて読む・書く・話す）
第14回　Unit 6b – Discover the past（過去のことを聞く・読む・話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者：　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）

Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅰ（心理）<火4・金4>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅱ（心理）<Ha>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌｫｽﾀｰ ﾍﾝﾘｰ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth.（旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

毎週の小テストに備えて、定期的に単語を勉強して、各レッスンの内容を復習しましょう。

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7a – Flight of the Silver Queen（旅について読む・聞く・話す）
第3回　Unit 7b – Animal migrations（比較する）
第4回　Unit 8a – The faces of festivals（人の外見を描写する）
第5回　Unit 8b – Global fashion（洋服・ファッションについて読む・話す）
第6回　Unit 9a: – All roads film festival（映画について読む・聞く・話す）
第7回　Unit 9b – People in film and the arts（予定について読む・聞く・話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10a – Technology has changed our lives（テクノロジーについて読む・聞く・話す）
第10回　Unit 10b – How well can you remember?（記憶と学びについて話す・読む・聞く）
第11回　Unit 11a – Going on holiday（観光について読む・聞く・話す）
第12回　Unit 11b – Planning a holiday（旅行の計画を立てる）
第13回　Unit 12a – Climate change（測定の表現・未来について予測する）
第14回　Unit 12b – Exploring the earth（世界の果ての地を描写する）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。毎回色々なクラスメートと組んで英語でやり取りしますので、積極的に英語でコミュニケーションをする覚悟で授業に挑みましょう。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者：　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト（ 40% ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅱ（心理）<Hb>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌﾘﾝﾊﾝﾅﾏｲｹﾙ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving.（余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

Do assigned homework, preview and review textbook.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A/B): What's happening now（現在進行形を使う）
第3回　Unit 7 (C): Abilities（できること・できないことについて話す）
第4回　Unit 8 (A/B): Clothes（洋服・買い物・服装の描写）
第5回　Unit 8 (C): Likes and dislikes（好みを表現する）
第6回　Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party（レストランでの注文・パーティーの計画を立てる）
第7回　Unit 9 (C): Healthy diet（健康な食事について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A/B): The body and symptoms（体と症状を描写する）
第10回　Unit 10 (C): Remedies and advice（治療に関する語彙；アドバイスを聞く・与える）
第11回　Unit 11 (A/B): Plan special days（誕生日や休日の予定を立てる）
第12回　Unit 11 (C): Life plans（人生設計について話す）
第13回　Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past（出身、過去の引っ越しを説明する）
第14回　Unit 12 (C): Preparations for moving（引っ越しの準備について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者：　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305089501

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 35 ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 45 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%Participation score is a composite score that includes homework and evaulation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2016 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅱ（心理）<Hc>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ｿｰｿﾝ ﾏｰｶｽ	

テーマ

Acting English Drama

授業の到達目標

This class is designed to be a lively class encouraging acting out drama scenes, analyzing character emotions, western styles and body language helping studnts develop their own English characters.

授業の概要

The purpose of this class is to improve reading, speaking and listening skills from practicing and reviewing drama dialogue.This course will be taught in English

準備学習（予習・復習）

B5 Notebook Journals will be required homework and research

内　容

第1回　Summer Holiday – Story Review
第2回　Journal week 1 Episode 12 The Convention
第3回　Story Summary Q and A
第4回　Episode 14 Blinddate
第5回　Journal week 4 – Quiz – Episodes 12 – 14
第6回　Acting Scene 5 Q and A
第7回　Independence Day – Acting scene
第8回　Journals week 7 Story Summary
第9回　Acting – New Girl Scene
第10回　Story Questions – Vocabulary Test
第11回　Final Journal Notebook week 10
第12回　Episode 19 Four Square
第13回　Final Story notes– Q and A
第14回　Final Episode Destiny – Reports – Presentations
第15回　Final Papers and Discussion

履修上の注意点

you must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.

教科書

Acting English Drama
著者：　Marcus Thorson
出版社：Sun Publishing
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 40% ）
小テスト （ 10% ）
授業中課題 （ 10% ）
授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 10% ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅱ（心理）<Hd>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌﾞﾗｲｱﾝﾊﾞｽｶｳﾞｨﾙ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth.（旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

If you forgot to bring your textbook and dictionary, you must make a copy of the next pages in the textbook and borrow a dictionary BEFORE class starts. Also, review the last lesson, look ahead at the next pages and check your dictionary for any new words.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7a – Flight of the Silver Queen（旅について読む・聞く・話す）
第3回　Unit 7b – Animal migrations（比較する）
第4回　Unit 8a – The faces of festivals（人の外見を描写する）
第5回　Unit 8b – Global fashion（洋服・ファッションについて読む・話す）
第6回　Unit 9a: – All roads film festival（映画について読む・聞く・話す）
第7回　Unit 9b – People in film and the arts（予定について読む・聞く・話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10a – Technology has changed our lives（テクノロジーについて読む・聞く・話す）
第10回　Unit 10b – How well can you remember?（記憶と学びについて話す・読む・聞く）
第11回　Unit 11a – Going on holiday（観光について読む・聞く・話す）
第12回　Unit 11b – Planning a holiday（旅行の計画を立てる）
第13回　Unit 12a – Climate change（測定の表現・未来について予測する）
第14回　Unit 12b – Exploring the earth（世界の果ての地を描写する）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 20 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅱ（心理）<火4・金4>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅰ <Ha>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　松村 優子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

･人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動･各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

授業中に指定する箇所の予習・復習。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する)
第3回　Unit 1d, e: 自己紹介をする
第4回　Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)
第5回　Unit 2d, e: 物を描写する
第6回　Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)
第7回　Unit 3d, e: 道案内をする、場所を描写する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)
第10回　Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く
第11回　Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)
第12回　Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する
第13回　Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)
第14回　Unit 6d, e: リクエストをする　礼状を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。2回の授業でテキスト1章のペースで進む予定ですが、学習状況により進め方を変更したり、微調整することもあります。

教科書

Life - American Edition -, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　(0%)	小テスト　(60%)
授業中課題　(10%)	授業中発表等　(15%)
参加度　(15%)	

2016 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅰ <Hb>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　山﨑 清水	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・人、仕事、住まい、所持品、日常活動、旅に関する世界各地からの話題の理解（読解・ビデオ視聴）活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習）

事前に英単語は調べておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (D): (Reading) Families around the World、(Writing/Speaking) 自分と家族の情報を与える
第3回　Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Animal Families」
第4回　Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers、(Writing/Speaking) 国によって異なる仕事を比較する
第5回　Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Job for Children」
第6回　Unit 3 (D): (Reading) Unusual Houses、(Writing/Speaking) 住居を比較する
第7回　Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Very Special Village」
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (D): (Reading) Jewelry、(Writing/Speaking) 所持している物について話す
第10回　Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Uncovering the Past」)
第11回　Unit 5 (D): (Reading) Robots at Work、(Writing/Speaking) 仕事を説明する
第12回　Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル 「Zoo Dentists」
第13回　Unit 6 (D): (Reading,) Shackleton's Epic Journey – A diary、(Writing/Speaking) 旅を記録する
第14回　Unit 6 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Volcano Trek」
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。私語は慎むこと。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089518

参考書

成績評価

試験 （ 50 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 10 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅰ <Hc>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　櫃本　一美	

テーマ

英語リーディング

授業の到達目標

速く正確に深く内容を把握するために必要な文法演習も交えながら、速読、精読を行う。スピーキングやリスニング、ライティング演習もしながら英語力の養成を目指す。

授業の概要

リーディングのクラスであるが、リスニング、スピーキング、ライティングもしながら英語力の養成を目指す。自宅学習としての速読の課題有り。

準備学習（予習・復習）

課題は必ずこなす。語彙を増やす。

内　容

第1回　オリエンテーション、５文型と品詞
第2回　辞書の使い方
第3回　Chapter1
第4回　Chapter1
第5回　Chapter1
第6回　Chapter2
第7回　Chapter2
第8回　Chapter2
第9回　復習
第10回　Chapter4
第11回　Chapter4
第12回　Chapter4
第13回　Chapter5
第14回　Chapter5
第15回　復習

履修上の注意点

３分の２以上の出席が必要。テキストは通年使用。

教科書

Issues for Today
著者：　Lorraine C. Smith,Nancy Nici Mare
出版社：HEINLE CENGAGE Learning
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）	小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （　）
参加度 （ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅰ <Hd>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　弥永 啓子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

毎回、予習語彙テストを行うので準備しておくこと。定期的に復習の宿題を課すのでこれをきちんとこなすこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する)
第3回　Unit 1d, e: 自己紹介をする
第4回　Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)
第5回　Unit 2 d, e: 物を描写する
第6回　Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)
第7回　Unit3d, e: 道案内をする、場所を描写する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)
第10回　Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く
第11回　Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)
第12回　Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する
第13回　Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)
第14回　Unit6d, e: リクエストをする　礼状を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

毎回必ずテキストを持ってくること。3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト （ 65% ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 15% ）	

Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅰ〈火4・金4〉

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅱ <Ha>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　松村 優子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

授業中に指定する箇所の予習・復習。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
第3回　Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
第4回　Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
第5回　Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
第6回　Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
第7回　Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
第10回　Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
第11回　Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
第12回　Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
第13回　Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)
第14回　Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。2回の授業でテキスト1章のペースで進む予定ですが、学習状況により進め方を変更したり、微調整することもあります。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　(0%)　　小テスト　(50%)
授業中課題　(10%)　　授業中発表等　(10%)
参加度　(10%)
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅱ <Hb>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　山﨑 清水	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解（読解・ビデオ視聴）活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習）

事前に英単語は調べておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (D): (Reading) Sports – Then and Now、(Writing/Speaking) スポーツに関して話す
第3回　Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Land Divers of Vanuatu」
第4回　Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 衣服や色について知る
第5回　Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Inuit Fashion」
第6回　Unit 9 (D): (Reading) Special Days, Special Food、(Writing/Speaking) 行事のための食べ物について話す
第7回　Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す
第10回　Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Pyrethrum」
第11回　Unit 11 (D): (Reading) Life's Milestones、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る
第12回　Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」
第13回　Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 移住について論じる
第14回　Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。私語は慎むこと。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験　(40)　　小テスト　( )
授業中課題　(20)　　授業中発表等　(10)
参加度　(10)
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅱ <Hc>

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員　40

履修条件　　クラス指定

担 当 者　櫃本 一美

テーマ

英語リーディング

授業の到達目標

速く正確に深く内容を把握するために必要な文法演習も交えながら、速読、精読を行う。スピーキングやリスニング、ライティング演習もしながら英語力の養成を目指す。

授業の概要

リーディングのクラスであるが、リスニング、スピーキング、ライティングもしながら英語力の養成を目指す。自宅学習としての速読の課題有り。

準備学習（予習・復習）

課題は必ずこなす。語彙を増やす。

内　容

第1回　Chapter6
第2回　Chapter6
第3回　Chapter6
第4回　Chapter8
第5回　Chapter8
第6回　Chapter8
第7回　復習
第8回　Chapter11
第9回　Chapter11
第10回　Chapter11
第11回　Chapter11
第12回　Chapter12
第13回　Chapter12
第14回　Chapter12
第15回　復習

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。テキストは通年使用。

教科書

Issues for Today
著者:　Lorraine C. Smith,Nancy Nici Mare
出版社:　HEINLE CENGAGE Learning
出版年:　　ISBN:　9781111033576

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 10 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅱ <Hd>

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　弥永　啓子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

毎回、予習語彙テストを行うので準備しておくこと。定期的に復習の宿題を課すのでこれをきちんとこなすこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
第3回　Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
第4回　Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
第5回　Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
第6回　Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
第7回　Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
第10回　Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
第11回　Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
第12回　Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
第13回　Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)
第14回　Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

毎回必ずテキストを持ってくること。3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト　（ 50 ）
授業中課題　（ 15 ）	授業中発表等　（　）
参加度　（ 15 ）	

上記に加えて学期末英語テスト20%

Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅱ 〈火4・金4〉

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**アカデミックスキルズ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　西野　毅朗	

テーマ

「学びの基礎力を高める」 本科目では、4年間の大学生活の基礎力を養います。大学での学びをより有意義なものにするための考え方や姿勢、大学で学ぶにあたって必要な基本的知識や基本的能力を養います。またこの科目では大学を卒業してからの社会生活も意識した指導を行います。

授業の到達目標

①高校までの学びと大学での学びの違いを説明できる。②ノートやメモをとる習慣をつくる。③わかりやすいレジュメが作成できる。④わかりやすく説得力のあるプレゼンテーションができる。⑤自らの主張を客観的根拠を伴って主張できるレポートが作成できる。⑥他者と協力し合い、高め合うことができる。⑦自分の興味関心を元に探究し、他者の探求に学び、教養を深める。

授業の概要

この授業は、前半と後半で分かれています。前半は大学での学びの成果をより高めるための考え方や基本的な技法を学んでいただきます。後半は、前半学んだことを活かして、自らの興味関心を元に自ら探究し、他者と共に教養を深めていく探究活動をしていただきます。

準備学習（予習・復習）

毎回課題を出します。忘れずに持って来るようにしてください。きちんと行えば、半年間でかなり成長することができるはずです。

内　　容

第1回　オリエンテーション　―大学で学ぶとは？
第2回　ノートテイキング技法　―大学授業でのノートの取り方
第3回　リーディング技法　―本の探し方、読み方
第4回　レジュメ作成技法　―コンパクトなまとめ方
第5回　情報収集分析技法　―様々な情報収集と分析の方法
第6回　プレゼンテーション技法　―伝わる伝え方のポイント
第7回　レポート作成技法　―大学でのレポートの書き方
第8回　ディスカッション技法　―議論をし、高め合う力の向上
第9回　探究活動①　探究テーマの設定と探究計画の策定
第10回　探究活動②　レジュメ作成
第11回　探究活動③　レジュメ修正①
第12回　探究活動④　レジュメ修正②
第13回　探究活動⑤　プレゼンテーション
第14回　探究活動⑥　レポート修正ディスカッション
第15回　総括―これまでの学び、これからの学び―

履修上の注意点

●とにかく出席しましょう。大変だと思いますが、やれば力がつきます。●困ったら、友達や教員に遠慮なく相談してください。●「わからない」「もやもやする」ということが多々あるはずです。大学での学びは複雑なので、すぐに「わかった！」とならないことも多いものです。諦めず、自分なりに考えて、一歩踏み出しましょう。●授業内容は進捗に応じて変更したり、入れ替える場合があります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

大学基礎講座改増版－充実した大学生活をおくるために

著者:　藤田哲也

出版社:　北大路書房

出版年:　2006　　ISBN:

a90201a510

知へのステップ第3版—大学生からのスタディ・スキルズ
著者:　学習技術研究会
出版社: くろしお出版
出版年: 2011　ISBN:

ゼミで学ぶスタディスキル【改訂版】
著者:　南田勝也・矢田部圭介・山下玲子
出版社: 北樹出版
出版年: 2013　ISBN:

大学生の学習テクニック第3版
著者:　森靖雄
出版社: 大月書店
出版年: 2014　ISBN:

アカデミック・スキルズ第2版—大学生のための知的技法入門
著者:　佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦
出版社: 丸井工文社
出版年: 2012　ISBN:

スタートアップセミナー学習マニュアル　なせば成る！
著者:　立松潔・大島武・下平裕介・山本陽史
出版社: 山形大学出版会
出版年: 2010　ISBN:

広げる和の世界　大学でのまなびのレッスン
著者:　北尾謙治他
出版社: ひつじ書房
出版年: 2005　ISBN:

知のナビゲーター
著者:　中澤務・森貴史・本村康哲
出版社: くろしお出版
出版年: 2007　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 40 ）　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）
詳細は授業中に示します。

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅰ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中西　龍一	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義･体験学習による気づき･学びについて、振り返り･言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

準備学習（予習･復習）

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内　　容

第1回　体験学習から学ぶことの意味（濱田）
第2回　「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド（濱田）
第3回　Tグループについて（濱田）
第4回　「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド（中西）
第5回　自己理解を深めるための「学習ジャーナル」（中西）
第6回　体験学習と引き裂く学習（中西）
第7回　プロセスとコンテント（菱田）
第8回　グループププロセス①（菱田）
第9回　グループププロセス②（青木）
第10回　組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習（青木）
第11回　体験プログラム①（大久保）
第12回　体験プログラム②（大久保）
第13回　集団規範（ジェイムス）
第14回　集団における意志決定（ジェイムス）
第15回　リーダーシップ（ジェイムス）

履修上の注意点

毎回の授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度が評価の大きな要素となります。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅰ〈＊b〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　大久保　千惠

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義･体験学習による気づき･学びについて、振り返り･言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

準備学習（予習･復習）

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内　容

第2回　「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド（濱田）
第3回　Tグループについて（濱田）
第4回　「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド（中西）
第5回　自己理解を深めるための「学習ジャーナル」（中西）
第6回　体験学習と引き裂く学習（中西）
第7回　プロセスとコンテント（菱田）
第8回　グループププロセス①（菱田）
第9回　グループププロセス②（青木）
第10回　組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習（青木）
第11回　体験プログラム①（大久保）
第12回　体験プログラム②（大久保）
第13回　集団規範（ジェイムス）
第14回　集団における意志決定（ジェイムス）
第15回　リーダーシップ（ジェイムス）
第1回　体験学習から学ぶことの意味（濱田）

履修上の注意点

毎回の授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度が評価の大きな要素となります。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅰ〈＊c〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　ジェイムス　朋子

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義･体験学習による気づき･学びについて、振り返り･言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

準備学習（予習･復習）

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内　容

第1回　体験学習から学ぶことの意味（濱田）
第2回　「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド（濱田）
第3回　Tグループについて（濱田）
第4回　「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド（中西）
第5回　自己理解を深めるための「学習ジャーナル」（中西）
第6回　体験学習と引き裂く学習（中西）
第7回　プロセスとコンテント（菱田）
第8回　グループププロセス①（菱田）
第9回　グループププロセス②（青木）
第10回　組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習（青木）
第11回　体験プログラム①（大久保）
第12回　体験プログラム②（大久保）
第13回　集団規範（ジェイムス）
第14回　集団における意志決定（ジェイムス）
第15回　リーダーシップ（ジェイムス）

履修上の注意点

毎回の授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度が評価の大きな要素となります。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅰ＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　菱田　一仁	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義･体験学習による気づき･学びについて、振り返り･言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

準備学習（予習･復習）

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内　　容

第1回　体験学習から学ぶことの意味（濱田）
第2回　「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド（濱田）
第3回　Tグループについて（濱田）
第4回　「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド（中西）
第5回　自己理解を深めるための「学習ジャーナル」（中西）
第6回　体験学習と引き裂く学習（中西）
第7回　プロセスとコンテント（菱田）
第8回　グループププロセス①（菱田）
第9回　グループププロセス②（青木）
第10回　組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習（青木）
第11回　体験プログラム①（大久保）
第12回　体験プログラム②（大久保）
第13回　集団規範（ジェイムス）
第14回　集団における意志決定（ジェイムス）
第15回　リーダーシップ（ジェイムス）

履修上の注意点

毎回の授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度が評価の大きな要素となります。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅰ〈＊e〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　濱田　智崇

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義･体験学習による気づき･学びについて、振り返り･言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

準備学習（予習･復習）

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内　容

第1回　体験学習から学ぶことの意味（濱田）
第2回　「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド（濱田）
第3回　Tグループについて（濱田）
第4回　「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド（中西）
第5回　自己理解を深めるための「学習ジャーナル」（中西）
第6回　体験学習と引き裂く学習（中西）
第7回　プロセスとコンテント（菱田）
第8回　グループプロセス①（菱田）
第9回　グループプロセス②（青木）
第10回　組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習（青木）
第11回　体験プログラム①（大久保）
第12回　体験プログラム②（大久保）
第13回　集団規範（ジェイムス）
第14回　集団における意志決定（ジェイムス）
第15回　リーダーシップ（ジェイムス）

履修上の注意点

毎回の授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度が評価の大きな要素となります。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅱ＜＊a＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　中西　龍一

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義･体験学習による気づき･学びについて、振り返り･言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下のような15のテーマについての講義･体験学習を行い、それに基づいて、体験を振り返り、概念化し、グループで発表･討論を行う。

準備学習（予習･復習）

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内　容

第1回　社会的相互作用の循環過程（濱田）
第2回　ジョハリの窓（濱田）
第3回　成長のためのフィードバック（濱田）
第4回　グループの発達（中西）
第5回　コミュニケーションのプロセスと留意点①（中西）
第6回　コミュニケーションのプロセスと留意点②（中西）
第7回　援助的なコミュニケーション（菱田）
第8回　効果的コミュニケーションのための要素（菱田）
第9回　対話の中での聞き手の留意点（青木）
第10回　感情とのつきあい方（青木）
第11回　ことばによるコミュニケーション（大久保）
第12回　非言語コミュニケーション（大久保）
第13回　からだとことば（ジェイムス）
第14回　自己概念･経験･成長（ジェイムス）
第15回　私たちの主観的世界（ジェイムス）

履修上の注意点

授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度などが評価の要素となります。積極的に取り組んでください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）

参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅱ＜＊b＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　mitei

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義･体験学習による気づき･学びについて、振り返り･言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下のような15のテーマについての講義･体験学習を行い、それに基づいて、体験を振り返り、概念化し、グループで発表･討論を行う。

準備学習（予習･復習）

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内　容

第1回　社会的相互作用の循環過程（濱田）
第2回　ジョハリの窓（濱田）
第3回　成長のためのフィードバック（濱田）
第4回　グループの発達（中西）
第5回　コミュニケーションのプロセスと留意点①（中西）
第6回　コミュニケーションのプロセスと留意点②（中西）
第7回　援助的なコミュニケーション（菱田）
第8回　効果的コミュニケーションのための要素（菱田）
第9回　対話の中での聞き手の留意点（青木）
第10回　感情とのつきあい方（青木）
第11回　ことばによるコミュニケーション（大久保）
第12回　非言語コミュニケーション（大久保）
第13回　からだとことば（ジェイムス）
第14回　自己概念･経験･成長（ジェイムス）
第15回　私たちの主観的世界（ジェイムス）

履修上の注意点

授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度などが評価の要素となります。積極的に取り組んでください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）

参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅱ＜＊c＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　ジェイムス　朋子

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義･体験学習による気づき･学びについて、振り返り･言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下のような15のテーマについての講義･体験学習を行い、それに基づいて、体験を振り返り、概念化し、グループで発表･討論を行う。

準備学習（予習･復習）

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内　容

第1回　社会的相互作用の循環過程（濱田）
第2回　ジョハリの窓（濱田）
第3回　成長のためのフィードバック（濱田）
第4回　グループの発達（中西）
第5回　コミュニケーションのプロセスと留意点①（中西）
第6回　コミュニケーションのプロセスと留意点②（中西）
第7回　援助的なコミュニケーション（菱田）
第8回　効果的コミュニケーションのための要素（菱田）
第9回　対話の中での聞き手の留意点（青木）
第10回　感情とのつきあい方（青木）
第11回　ことばによるコミュニケーション（大久保）
第12回　非言語コミュニケーション（大久保）
第13回　からだとことば（ジェイムス）
第14回　自己概念･経験･成長（ジェイムス）
第15回　私たちの主観的世界（ジェイムス）

履修上の注意点

授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度などが評価の要素となります。積極的に取り組んでください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）

参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅱ＜＊d＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　菱田　一仁

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義･体験学習による気づき･学びについて、振り返り･言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下のような15のテーマについての講義･体験学習を行い、それに基づいて、体験を振り返り、概念化し、グループで発表･討論を行う。

準備学習（予習･復習）

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内　容

第1回　社会的相互作用の循環過程（濱田）
第2回　ジョハリの窓（濱田）
第3回　成長のためのフィードバック（濱田）
第4回　グループの発達（中西）
第5回　コミュニケーションのプロセスと留意点①（中西）
第6回　コミュニケーションのプロセスと留意点②（中西）
第7回　援助的なコミュニケーション（菱田）
第8回　効果的コミュニケーションのための要素（菱田）
第9回　対話の中での聞き手の留意点（青木）
第10回　感情とのつきあい方（青木）
第11回　ことばによるコミュニケーション（大久保）
第12回　非言語コミュニケーション（大久保）
第13回　からだとことば（ジェイムス）
第14回　自己概念･経験･成長（ジェイムス）
第15回　私たちの主観的世界（ジェイムス）

履修上の注意点

授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度などが評価の要素となります。積極的に取り組んでください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）

参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅱ＜＊e＞**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　濱田 智崇

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

心理学素材を用いた講義･体験学習による気づき･学びについて、振り返り･言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

以下のような15のテーマについての講義･体験学習を行い、それに基づいて、体験を振り返り、概念化し、グループで発表･討論を行う。

準備学習（予習･復習）

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

内　容

第1回　社会的相互作用の循環過程（濱田）
第2回　ジョハリの窓（濱田）
第3回　成長のためのフィードバック（濱田）
第4回　グループの発達（中西）
第5回　コミュニケーションのプロセスと留意点①（中西）
第6回　コミュニケーションのプロセスと留意点②（中西）
第7回　援助的なコミュニケーション（菱田）
第8回　効果的コミュニケーションのための要素（菱田）
第9回　対話の中での聞き手の留意点（青木）
第10回　感情とのつきあい方（青木）
第11回　ことばによるコミュニケーション（大久保）
第12回　非言語コミュニケーション（大久保）
第13回　からだとことば（ジェイムス）
第14回　自己概念･経験･成長（ジェイムス）
第15回　私たちの主観的世界（ジェイムス）

履修上の注意点

授業での体験学習を重視しますので、出席状況、参加態度などが評価の要素となります。積極的に取り組んでください。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学研究法Ⅰ（概論）**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　上北　朋子.田中　芳幸	

テーマ

心理学研究の方法論の概要、および量的データの心理統計学的解析の理解

授業の到達目標

心理学が目標とする「実証（データ）に基づく客観的な行動理解」を実現するための方法論について理解を深める。

授業の概要

心理学の方法論である、実験法、調査法、観察法などを理解するともに、心理学における研究計画を身につける。またそれぞれの研究法において用いられる統計的方法（量的データへの分析方法の適用と解釈）についても理解を深める。

準備学習（予習・復習）

教科書や参考文献に示すものなど心理学研究法関連図書による自学自習、および、心理学関連の研究論文で実際に用いられている研究方法や統計学的解析方法への考察

内　容

第1回　オリエンテーションと実験法の概略
第2回　実験計画と研究デザイン
第3回　実験結果を歪める要因
第4回　実験法に基づく心理学に関連する精神生理学的研究
第5回　実験法のまとめ
第6回　調査法（質問紙を使用した社会調査）の概略
第7回　標本抽出（サンプリング）の考え方と方法
第8回　調査結果の整理方法①
第9回　調査結果の整理方法②
第10回　調査法のまとめ
第11回　観察法の概略
第12回　観察法における量的研究
第13回　観察法における質的研究
第14回　研究レポートの書き方
第15回　心理学研究法Ⅰのまとめ

履修上の注意点

授業中の私語を慎む、スマートフォンの操作をしないなど、基本的な受講態度を守ってください。

教科書

Progress & Application 心理学研究法
著者:　村井潤一郎
出版社:　サイエンス社
出版年:　　ISBN:

参考書

心理学研究法入門
著者:　南風原朝和　市川伸一　下山晴彦
出版社:　東京大学出版会
出版年:　　ISBN:

心理学マニュアル 要因計画法
著者:　後藤 宗理・中沢 潤・大野木 裕明　著
出版社:　北大路書房
出版年:　　ISBN:

心理学マニュアル 質問紙法
著者:　鎌原 雅彦・大野木 裕明・宮下 一博・中沢 潤　著
出版社:　北大路書房
出版年:　　ISBN:

a90201a850

心理学マニュアル 観察法

著者:　中沢 潤 ・南 博文・大野木 裕明　著

出版社: 北大路書房

出版年:　　ISBN:

パソコンによるデータ分析

著者:　大西 正和　編著

出版社: 建帛社

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40 ）　　小テスト （ 40 ）

授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　細谷　周史.田中　芳幸.藤原　勇	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験を実施し、収集したデータを解析する。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。返却されたレポートは復習すること。

内　容

第1回　実験演習のオリエンテーション
第2回　錯視実験（1）概要説明
第3回　錯視実験（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　鏡映描写実験（1）概要説明
第6回　鏡映描写実験（2）実験の実施
第7回　鏡映描写実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　コミュニケーション実験（1）概要説明
第10回　コミュニケーション実験（2）実験の実施
第11回　データ解析とレポートの説明
第12回　記憶実験（1）概要説明
第13回　記憶実験（2）実験の実施
第14回　記憶実験（3）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　藤原　勇.田中　芳幸.細谷　周史	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験を実施し、収集したデータを解析する。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。返却されたレポートは復習すること。

内　　容

第1回　実験演習のオリエンテーション
第2回　錯視実験（1）概要説明
第3回　錯視実験（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　鏡映描写実験（1）概要説明
第6回　鏡映描写実験（2）実験の実施
第7回　鏡映描写実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　コミュニケーション実験（1）概要説明
第10回　コミュニケーション実験（2）実験の実施
第11回　データ解析とレポートの説明
第12回　記憶実験（1）概要説明
第13回　記憶実験（2）実験の実施
第14回　記憶実験（3）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅰ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　上北　朋子.坂本　久美.坂本　敏郎	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験を実施し、収集したデータを解析する。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。返却されたレポートは復習すること。

内　容

第1回　実験演習のオリエンテーション
第2回　錯視実験（1）概要説明
第3回　錯視実験（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　鏡映描写実験（1）概要説明
第6回　鏡映描写実験（2）実験の実施
第7回　鏡映描写実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　コミュニケーション実験（1）概要説明
第10回　コミュニケーション実験（2）実験の実施
第11回　データ解析とレポートの説明
第12回　記憶実験（1）概要説明
第13回　記憶実験（2）実験の実施
第14回　記憶実験（3）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅰ〈d〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　上北　朋子.坂本　久美.坂本　敏郎	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験を実施し、収集したデータを解析する。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。返却されたレポートは復習すること。

内　容

第1回　実験演習のオリエンテーション
第2回　錯視実験（1）概要説明
第3回　錯視実験（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　鏡映描写実験（1）概要説明
第6回　鏡映描写実験（2）実験の実施
第7回　鏡映描写実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　コミュニケーション実験（1）概要説明
第10回　コミュニケーション実験（2）実験の実施
第11回　データ解析とレポートの説明
第12回　記憶実験（1）概要説明
第13回　記憶実験（2）実験の実施
第14回　記憶実験（3）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅰ〈e〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　細谷　周史.田中　芳幸.藤原　勇	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験を実施し、収集したデータを解析する。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。返却されたレポートは復習すること。

内　容

第1回　実験演習のオリエンテーション
第2回　錯視実験（1）概要説明
第3回　錯視実験（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　鏡映描写実験（1）概要説明
第6回　鏡映描写実験（2）実験の実施
第7回　鏡映描写実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　コミュニケーション実験（1）概要説明
第10回　コミュニケーション実験（2）実験の実施
第11回　データ解析とレポートの説明
第12回　記憶実験（1）概要説明
第13回　記憶実験（2）実験の実施
第14回　記憶実験（3）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅰ〈f〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　藤原　勇.田中　芳幸.細谷　周史	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験を実施し、収集したデータを解析する。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。返却されたレポートは復習すること。

内　　容

第1回　実験演習のオリエンテーション
第2回　錯視実験（1）概要説明
第3回　錯視実験（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　鏡映描写実験（1）概要説明
第6回　鏡映描写実験（2）実験の実施
第7回　鏡映描写実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　コミュニケーション実験（1）概要説明
第10回　コミュニケーション実験（2）実験の実施
第11回　データ解析とレポートの説明
第12回　記憶実験（1）概要説明
第13回　記憶実験（2）実験の実施
第14回　記憶実験（3）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅰ〈g〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　上北　朋子.坂本　久美.坂本　敏郎	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験を実施し、収集したデータを解析する。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。返却されたレポートは復習すること。

内　容

第1回　実験演習のオリエンテーション
第2回　錯視実験（1）概要説明
第3回　錯視実験（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　鏡映描写実験（1）概要説明
第6回　鏡映描写実験（2）実験の実施
第7回　鏡映描写実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　コミュニケーション実験（1）概要説明
第10回　コミュニケーション実験（2）実験の実施
第11回　データ解析とレポートの説明
第12回　記憶実験（1）概要説明
第13回　記憶実験（2）実験の実施
第14回　記憶実験（3）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅰ <h>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　上北　朋子.坂本　久美.坂本　敏郎	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験を実施し、収集したデータを解析する。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。返却されたレポートは復習すること。

内　容

第5回　鏡映描写実験（1）概要説明
第6回　鏡映描写実験（2）実験の実施
第7回　鏡映描写実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　コミュニケーション実験（1）概要説明
第10回　コミュニケーション実験（2）実験の実施
第11回　データ解析とレポートの説明
第12回　記憶実験（1）概要説明
第13回　記憶実験（2）実験の実施
第14回　記憶実験（3）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明
第1回　実験演習のオリエンテーション
第2回　錯視実験（1）概要説明
第3回　錯視実験（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅰ〈R〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　上北　朋子	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。心理学での基礎実験を通して、科学的研究の手法を学び、論文作成の基礎をつくる。

授業の概要

小グループに分かれて実験を実施し、収集したデータを解析する。各実験についてレポートを作成する。

準備学習（予習・復習）

本講義で扱う実験についての関連図書を読み、実験の背景を理解すること。実験レポートを完成させること。返却されたレポートは復習すること。

内　容

第1回　実験演習のオリエンテーション
第2回　錯視実験（1）概要説明
第3回　錯視実験（2）実験の実施
第4回　データ解析とレポートの説明
第5回　鏡映描写実験（1）概要説明
第6回　鏡映描写実験（2）実験の実施
第7回　鏡映描写実験（3）実験の実施
第8回　データ解析とレポートの説明
第9回　コミュニケーション実験（1）概要説明
第10回　コミュニケーション実験（2）実験の実施
第11回　データ解析とレポートの説明
第12回　記憶実験（1）概要説明
第13回　記憶実験（2）実験の実施
第14回　記憶実験（3）実験の実施
第15回　データ解析とレポートの説明

履修上の注意点

レポートの提出および出席を重視します。遅刻しないよう、授業開始時までに着席しておくこと。実験中の私語を慎み、スマートフォンの操作を行わないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎	

テーマ

心理学の基礎的領域の概説

授業の到達目標

心理学の歴史、心理学の研究方法について概観し、心理学がどのような学問分野であるかを理解する。心理学の中でも、科学的に明らかにされてきた知覚、認知、学習、感情、動機づけなどの基礎心理学領域について理解を深める。

授業の概要

こころのはたらきを客観的、科学的に観察、解析することの重要性が、心理学、とりわけ実験心理学、基礎心理学において指摘されてきた。本講義では、情動、動機づけ、知覚、認知、学習、記憶、発達といった実験や観察によって明らかにされてきた心理機能について、わかりやすく概説する。これらの基礎心理学全般の基本的な知見を概観することにより、心理学とはどういう学問なのかを探究する。

準備学習（予習・復習）

テキストの熟読と講義ノートの復習

内　　容

第1回　心理学とは
第2回　心理学の研究方法
第3回　実験心理学の歴史
第4回　こころの数量化、実験計画法
第5回　感覚と知覚
第6回　錯視と運動の知覚
第7回　感情と情動
第8回　動機づけと生得的行動
第9回　学習の基礎1：古典的条件づけとその理論
第10回　学習の基礎2：オペラント条件づけとその理論
第11回　遺伝と発達
第12回　こころの発達と成長
第13回　認知、記憶、思考
第14回　推論と意思決定
第15回　心理学の未来（社会の役に立つ心理学とは）

履修上の注意点

私語をしない等、常識的な態度で受講すること。

教科書

心理学概論第2版
著者：　岡市廣成、鈴木直人　監修
出版社：ナカニシヤ出版
出版年：　　ISBN：

参考書

心理学・入門 心理学はこんなにおもしろい
著者：　サトウタツヤ・渡邊芳之
出版社：有斐閣
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 60 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　永野　光朗	

テーマ

授業の到達目標

「社会的過程」や「社会への応用」をテーマとする心理学

授業の概要

過去の心理学研究における研究の流れを概観した上で、実証に基づき人間の心と行動の仕組みを理解するという心理学の学問的目標が、人間の社会生活や産業場面においてどのように役立つのかを理解する。また、以上を達成するための心理学的方法論の有用性についても理解をする。

準備学習（予習・復習）

社会や企業活動のなかで生じる問題を常に注視した上で、心理学の立場からその問題を解決する方策を立案してほしい。

内　容

第1回　心理学の目標
第2回　人間理解と心理学
第3回　心理学と社会生活とのつながり
第4回　これまでの心理学の取り組み（1）　実証科学としての心理学の確立
第5回　これまでの心理学の取り組み（2）　学習理論
第6回　これまでの心理学の取り組み（3）　認知理論
第7回　社会を理解するための心理学（1）　社会的相互作用としての人間行動
第8回　社会を理解するための心理学（2）　対人認知と印象形成
第9回　社会を理解するための心理学（3）　対人行動
第10回　社会を理解するための心理学（4）　集合行動
第11回　社会を理解するための心理学（5）　社会的認知理論
第12回　心理学の応用（1）　社会生活への応用
第13回　心理学の応用（2）　企業活動への応用（組織行動）
第14回　心理学の応用（3）　企業活動への応用（消費者行動）
第15回　心理学の応用（4）　環境配慮行動の促進

履修上の注意点

社会や企業活動のなかで生じる問題を常に注視した上で、心理学の立場からその問題を解決する方策を立案してほしい。授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為については厳重に注意します。

教科書

参考書

心理学概論（第2版）
著者：　岡市広成監修
出版社：（ナカニシヤ出版）
出版年：2014年　　ISBN：

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（ 50 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
毎回の授業の終了時に小テストを実施する。

2016 Syllabus

科 目 名　**心理統計学Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　前田 洋光

テーマ

基礎的な統計学の理解

授業の到達目標

基礎的な統計手法や概念について理解し、心理統計学Ⅱ以降で前提となる知識の基盤をつくる。また、統計の必要性について理解を深める。

授業の概要

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。この授業では、統計の基礎的なテーマについて、講義形式と演習形式を併用しながら、理解を深めていく。

準備学習（予習・復習）

下記参考書をはじめとする統計学関連の書籍の講読

内　容

第1回　イントロダクション：統計学の必要性について
第2回　尺度水準（Stevensの4つの尺度水準）
第3回　度数分布
第4回　さまざまな代表値
第5回　散布度
第6回　前半部分のまとめと確認
第7回　変数変換（標準得点と偏差値）
第8回　共分散とピアソンの相関係数(1)
第9回　共分散とピアソンの相関係数(2)
第10回　順位相関係数
第11回　クロス集計と連関係数
第12回　後半部分のまとめと確認
第13回　データ分析演習（1）
第14回　データ分析演習（2）
第15回　授業全体のまとめ

履修上の注意点

本科目は、知識を積み上げていくという性質のものです。そのため、遅刻・欠席によって各回の内容を修得できなければ、その後の授業を理解することが困難になっていきます。欠席したり、わからないことがあれば、いつでも質問にきてください。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本

著者：　吉田寿夫 著

出版社：北大路書房

出版年：　　ISBN：

よくわかる心理統計

著者：　山田剛史・村井潤一郎 著

出版社：ミネルヴァ書房

出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 50 ）

授業中課題（　）　　授業中発表等（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**臨床心理学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　日比野　英子.濱田　智崇.松下　幸治	

テーマ

臨床心理学の概論の理解

授業の到達目標

臨床心理学の基本的な理論・援助法・査定法について理解する。

授業の概要

臨床心理学は、現代社会が抱えている心理的問題のみならず、教育の問題、高齢者・障害者のケアとリハビリテーション、犯罪被害者のケアなどのさまざまな問題の解決や改善を要請されている学問領域であるが、本科目ではその基礎理論と心理アセスメント・心理的援助を概観して、その理念・歴史・構造・実践活動を理解することをねらいとする。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　臨床心理学とは
第2回　臨床心理学の歴史
第3回　臨床心理学の主な学問分野
第4回　臨床心理学の基礎理論①　精神分析学
第5回　臨床心理学の基礎理論②　人間性心理学
第6回　臨床心理学の基礎理論③　認知・行動理論
第7回　心の発達と心の病理①　乳幼児期の心と心のつまずき
第8回　心の発達と心の病理②　児童期・思春期の心理的問題
第9回　心の発達と心の病理③青年期の心と心の迷い
第10回　心の状態を測る—心理アセスメント—
第11回　心理アセスメントの方法
第12回　心の病の回復の援助①　カウンセリング
第13回　心の病の回復の援助②　子どもの心理療法
第14回　心の病の回復の援助③　問題行動の心理療法
第15回　まとめ

履修上の注意点

授業中に紹介する専門書を最低3冊読んでみよう。

教科書

臨床心理学を基本から学ぶ
著者:　丸島令子・日比野英子
出版社:　北大路書房
出版年:　　ISBN:

参考書

よくわかる臨床心理学
著者:　下山晴彦　編
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**臨床心理学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

精神分析学派による主要な2つの人格理論についてその基礎を学ぶ

授業の到達目標

S.Freud による心理性的理論（Psychosexual theory）及び E.H.Erikson による心理社会的理論（Psychosocial theory）について、その基礎を理解する。

授業の概要

臨床心理学の対象は、乳幼児から老人までその年齢を問わない。本講座では、臨床心理学の基礎的視座とも呼べるS.Freudによる心理性的理論（Psychosexual theory）及びE.H.Eriksonによる心理社会的理論（Psychosocial theory）について講義していく。

準備学習（予習・復習）

毎回の講義内容の復習を中心に行うこと（1時間程度）

内　容

第1回　オリエンテーション/臨床心理学
第2回　精神分析学
第3回　防衛機制とは（1）
第4回　防衛機制とは（2）
第5回　心理性的理論　口唇期
第6回　心理性的理論　肛門期
第7回　心理性的理論　幼児性器期
第8回　心理性的理論　潜在期　成熟性器期
第9回　心理性的理論　まとめ
第10回　心理社会的理論　第一の危機
第11回　心理社会的理論　第二の危機　第三の危機
第12回　心理社会的理論　第四の危機　第五の危機
第13回　心理社会的理論　第六の危機　第七の危機
第14回　心理社会的理論　第八の危機
第15回　心理性的理論　心理社会的理論　まとめ

履修上の注意点

理由なく1/3以上欠席した学生は、不合格とします。

教科書

講義に必要なテキストは講義で配布します。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

自我同一性
著者：　小此木啓吾　訳編
出版社：誠信書房
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 100 ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 0 ）
「まとめ」の回に小テストを2度行います。

2016 Syllabus

科 目 名　**こころとからだの臨床学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　日比野　英子.小田桐　匡.坂本　敏郎.夏目　美樹	

テーマ

こころとからだの健康と臨床

授業の到達目標

健康科学部の学びの目的とその基礎知識として、こころとからだの健康と臨床についての研究とその応用である実践活動への理解を深める。

授業の概要

心理学科・理学療法学科・救急救命学科の教員がオムニバスで担当し、こころとからだの健康と臨床の研究と実践活動を紹介する。

準備学習（予習・復習）

下欄に掲げた参考書にうち、興味ある本を1冊以上読むこと。

内　　容

第1回　オリエンテーション　心と外見の関係（日比野）
第2回　顔のよそおい—化粧の心理学—（日比野）
第3回　男の女の脳科学（坂本）
第4回　絆を育む感情の科学（坂本）
第5回　どうすれば人の行動は変わるのか（坂本）
第6回　脳障害者の心の世界：神経心理学へのいざない（小田桐）
第7回　伸び縮みする身体と心：切断者の幻肢痛および道具使用について（小田桐）
第8回　″自分″の身体と″他人″の身体：自己所属感と自己主体感（小田桐）
第9回　脳と運動（小田桐）
第10回　ニューロリハビリテーション（小田桐）
第11回　いのちの教育①いのちとは何故大切にしなければならないか（夏目）
第12回　いのちの教育②いのちを守るために必要なこと（夏目）
第13回　いのちを守る職業①　消防　救急　レスキュー（夏目）
第14回　いのちを守る職業②　ドクターカー　ドクターヘリ（夏目）
第15回　防災の話　京の都の防災（夏目）

履修上の注意点

大きなサイズのクラスになるが、すべての受講生が静穏な環境で受講できるようマナーを守りましょう。

教科書

参考書

心と脳
著者：　安西祐一郎
出版社：　岩波新書1331
出版年：　2011　　ISBN：　9784004313311

生存する脳：心と脳と身体の神秘
著者：　アントニオ・R・ダマシオ
出版社：　講談社
出版年：　　ISBN：

ミラーニューロン
著者：　ジャコモ・リゾラッティ＆コラド・シニガリア
出版社：　紀伊國屋書店
出版年：　　ISBN：

a90201b510

脳のなかの幽霊

著者:　V.S.ラマチャンドラン

出版社:　角川書店

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 100 ）　　授業中発表等（　）

参加度　（　）

オムニバス科目であり、複数の教員が担当するので、欠席の場合に課題提出がなされていないと最終的な成績にマイナスの影響がおよびます。気を付けましょう。

2016 Syllabus

科 目 名　**こころとからだの臨床学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　中西　龍一.安彦　鉄平.田中　芳幸.西本　泰久.松尾　奈々

テーマ

こころとからだを「心身一如」、ホリスティック(Holistic)な視点から捉える。

授業の到達目標

心と身体、そしてその関係について、各担当者により語られる様々な視点・視座を学び、全体として分かち難く結びつく心と身体についての理解を深める。

授業の概要

健康科学部、心理学科、理学療法学科、救急救命学科の3分野の教員によるオムニバス科目です。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　運動器疾患に対するこころとからだのリハビリテーション(1)【安彦　鉄平】
第2回　運動器疾患に対するこころとからだのリハビリテーション(2)【安彦　鉄平】
第3回　運動器疾患に対するこころとからだのリハビリテーション(3)【安彦　鉄平】
第4回　心身のストレスに関する基礎理論 【田中　芳幸】
第5回　ストレスへの対処 【田中　芳幸】
第6回　ストレスマネジメントの実際 【田中　芳幸】
第7回　様々なストレッサー(心理社会的ストレスを中心に)【中西　龍一】
第8回　ストレスと反応(こころとからだの結びつき)【中西　龍一】
第9回　心理療法と心理社会的ストレッサー【中西　龍一】
第10回　高齢者の救急医療【西本　泰久】
第11回　応急手当実施者のストレス【西本　泰久】
第12回　災害医療の問題点【西本　泰久】
第13回　脳血管障害患者の心と体のリハビリテーション1【松尾　奈々】
第14回　脳血管障害患者の心と体のリハビリテーション2【松尾　奈々】
第15回　脳血管障害患者の心と体のリハビリテーション3【松尾　奈々】

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ( )	小テスト ( )
授業中課題 (40%)	授業中発表等 ( )
参加度 (60%)	

2016 Syllabus

科 目 名　こころとからだの健康科学Ⅰ

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　190
履修条件	クラス指定
担 当 者　日比野　英子.小田桐　匡.坂本　敏郎.夏目　美樹	

テーマ

こころとからだの健康と臨床

授業の到達目標

健康科学部の学びの目的とその基礎知識として、こころとからだの健康と臨床についての研究とその応用である実践活動への理解を深める。

授業の概要

心理学科・理学療法学科・救急救命学科の教員がオムニバスで担当し、こころとからだの健康と臨床の研究と実践活動を紹介する。

準備学習（予習・復習）

下欄に掲げた参考書にうち、興味ある本を1冊以上読むこと。

内　容

第1回　オリエンテーション　心と外見の関係（日比野）
第2回　顔のよそおい—化粧の心理学—（日比野）
第3回　男の女の脳科学（坂本）
第4回　絆を育む感情の科学（坂本）
第5回　どうすれば人の行動は変わるのか（坂本）
第6回　脳障害者の心の世界：神経心理学へのいざない（小田桐）
第7回　伸び縮みする身体と心：切断者の幻肢痛および道具使用について（小田桐）
第8回　″自分″の身体と″他人″の身体：自己所属感と自己主体感（小田桐）
第9回　脳と運動（小田桐）
第10回　ニューロリハビリテーション（小田桐）
第11回　いのちの教育①いのちとは何故大切にしなければならないか（夏目）
第12回　いのちの教育②いのちを守るために必要なこと（夏目）
第13回　いのちを守る職業①　消防　救急　レスキュー（夏目）
第14回　いのちを守る職業②　ドクターカー　ドクターヘリ（夏目）
第15回　防災の話　京の都の防災（夏目）

履修上の注意点

大きなサイズのクラスになるが、すべての受講生が静穏な環境で受講できるようマナーを守りましょう。

教科書

参考書

心と脳
著者：　安西祐一郎
出版社：　岩波新書1331
出版年：　2011　　ISBN：　9784004313311

生存する脳：心と脳と身体の神秘
著者：　アントニオ・R・ダマシオ
出版社：　講談社
出版年：　　ISBN：

ミラーニューロン
著者：　ジャコモ・リゾラッティ＆コラド・シニガリア
出版社：　紀伊國屋書店
出版年：　　ISBN：

a90201b710

脳のなかの幽霊

著者:　V.S.ラマチャンドラン

出版社:　角川書店

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 100 ）　　授業中発表等（　）

参加度　（　）

オムニバス科目であり、複数の教員が担当するので、欠席の場合に課題提出がなされていないと最終的な成績にマイナスの影響がおよびます。気を付けましょう。

2016 Syllabus

科 目 名　**こころとからだの健康科学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　190
履修条件	クラス指定

担 当 者　中西　龍一.安彦　鉄平.田中　芳幸.西本　泰久.松尾　奈々

テーマ

こころとからだを「心身一如」、ホリスティック(Holistic)な視点から捉える。

授業の到達目標

心と身体、そしてその関係について、各担当者により語られる様々な視点・視座を学び、全体として分かち難く結びつく心と身体についての理解を深める。

授業の概要

健康科学部、心理学科、理学療法学科、救急救命学科の3分野の教員によるオムニバス科目です。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　運動器疾患に対するこころとからだのリハビリテーション(1)【安彦　鉄平】
第2回　運動器疾患に対するこころとからだのリハビリテーション(2)【安彦　鉄平】
第3回　運動器疾患に対するこころとからだのリハビリテーション(3)【安彦　鉄平】
第4回　心身のストレスに関する基礎理論 【田中　芳幸】
第5回　ストレスへの対処 【田中　芳幸】
第6回　ストレスマネジメントの実際 【田中　芳幸】
第7回　様々なストレッサー(心理社会的ストレスを中心に)【中西　龍一】
第8回　ストレスと反応(こころとからだの結びつき)【中西　龍一】
第9回　心理療法と心理社会的ストレッサー【中西　龍一】
第10回　高齢者の救急医療【西本　泰久】
第11回　応急手当実施者のストレス【西本　泰久】
第12回　災害医療の問題点【西本　泰久】
第13回　脳血管障害患者の心と体のリハビリテーション1【松尾　奈々】
第14回　脳血管障害患者の心と体のリハビリテーション2【松尾　奈々】
第15回　脳血管障害患者の心と体のリハビリテーション3【松尾　奈々】

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 ( )　　小テスト ( )
授業中課題 (40%)　　授業中発表等 ( )
参加度 (60%)

2016 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅰ（心理）**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　トウ カ

テーマ

日常生活でよく使う単語、表現の習得と理解

授業の到達目標

中国語の基本的な表現を習得して、簡単な会話ができるようになることを目指す。

授業の概要

[スクーリング授業／全15回]短時間で集中して、無理なく、楽しく勉強できるのがこの集中講義のポイントです。①文法のコツだけを覚える。②日常生活でよく使う文を繰り返し、練習して、話す。③より集中して覚えるために、一時間ごとに五分間、中国の文化や習慣などを紹介する時間を設ける。④最終テストではなく、当日習った内容を当日に小テストする。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　中国と中国語の概説
第2回　発音A
第3回　発音B
第4回　発音C
第5回　発音D
第6回　第一課　単語と文法
第7回　第一課の表現練習
第8回　第二課　単語と文法
第9回　第二課の表現練習
第10回　第三課　単語と文法
第11回　第三課の表現練習
第12回　第四課　単語と文法
第13回　第四課の表現練習
第14回　総復習
第15回　ミニ発表

履修上の注意点

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 100% ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度　（ ）

最終の試験ではなく、毎回の小テスト

2016 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅱ（心理）**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　トウ カ

テーマ

日常生活でよく使う単語、表現の習得と理解

授業の到達目標

中国語の基本的な表現を習得して、簡単な会話ができるようになることを目指す。

授業の概要

[スクーリング授業／全15回]短時間で集中して、無理なく、楽しく勉強できるのがこの集中講義のポイントです。①文法のコツだけを覚える。②日常生活でよく使う文を繰り返し、練習して、話す。③より集中して覚えるために、一時間ごとに五分間、中国の文化や習慣などを紹介する時間を設ける。④最終テストではなく、当日習った内容を当日に小テストする。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　前期の総復習
第2回　第五課　単語と文法
第3回　第五課の表現練習
第4回　第六課　単語と文法
第5回　第六課の表現練習
第6回　第七課　単語と文法
第7回　第七課の表現練習
第8回　第八課　単語と文法
第9回　第八課の表現練習
第10回　第九課　単語と文法
第11回　第九課の表現練習
第12回　第十課　単語と文法
第13回　第十課の表現練習
第14回　総復習
第15回　ミニ発表

履修上の注意点

教科書

毎回ぷリントを配る

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 100% ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度　（ ）

最終の試験ではなく、毎回の小テスト

2016 Syllabus

科 目 名　**女性とイメージ <eL>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期集中　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　志賀 亮一

テーマ

私たち自身のジェンダーへの気づき

授業の到達目標

ヨーロッパでは古来、家父長制社会が営まれてきた。絵画・彫刻など芸術をはじめとして、近現代のポスターやテレビCMまで、この社会の女性イメージは、上記家父長制の影響を色濃く示し、男性優位のジェンダー像を呈している。授業では、このイメージを母・妻・妖婦の3要素に集約したうえ、さまざまな視覚イメージをもとに個々の要素を詳説しつつ、各要素間の関係を明らかにし、その全体像を再構築する。あわせて、近現代の女性たちの業績をつうじて、このイメージに対する女性たちの反抗の足取りを跡づける。以上の学修を通じて、受講生は自らの課されているジェンダーの枠組みを自覚すること。

授業の概要

［メディア授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

身近なジェンダー像の表出に日常注意を払うこと

内　容

第1回　導入：視覚メディアにおける女性のイメージ
第2回　母親像1：子孫再生産の担い手
第3回　母親像2：究極の母親・聖母マリア――子孫再生産と男系血統の保障
第4回　母親像3：一家の母(マーテル・ファミリアス)と一家の父(パーテル・ファミリアス)――子孫再生産とジェンダー
第5回　妻像1：夫を補佐するもの
第6回　妻像2：男性を補佐するもの
第7回　妻像3：家内を管理するもの
第8回　妻像4：女・家内・私事 vs 男・社会・公事――社会的役割とジェンダー
第9回　妖婦像1：近代以前の妖婦像――伝説の妖婦たち
第10回　妖婦像2：近代の妖婦たち
第11回　妖婦像3：妖婦像の二重構造――魅惑するものと堕落させるもの
第12回　妖婦像4：ジェンダーの要としての妖婦像
第13回　女性たちの反抗1：男性に伍した女性たち
第14回　女性たちの反抗2：解放運動のイメージあれこれ
第15回　まとめ：解放の歴史

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

女のイマージュ
著者：　G・デュビィ　編
出版社：（藤原書店）
出版年：　　ISBN：

聖母マリアの美術
著者：　諸川春樹・利倉隆　著
出版社：（美術出版社）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（ 50% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

小テストは第４回、第８回、第12回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**ヨーロッパの歴史**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　南　直人	

テーマ

食という視点からヨーロッパ近現代の歴史を考察する

授業の到達目標

ヨーロッパの近現代の歴史を食生活・食文化にかかわるさまざまなテーマから検討し、ヨーロッパ近現代史についての理解を深める。

授業の概要

ヨーロッパの近代社会の形成と食生活との関わりについて考察する。およびベルリンの歴史遺産を探索することを通じてドイツ近現代史を考察する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　食の歴史の意義
第2回　食の産業化（1）
第3回　食の産業化（2）
第4回　食の産業化（3）
第5回　都市化と食の変化（1）
第6回　都市化と食の変化（2）
第7回　都市化と食の変化（3）
第8回　食品偽装問題と食品監視システムの形成（1）
第9回　食品偽装問題と食品監視システムの形成（2）
第10回　食品偽装問題と食品監視システムの形成（3）
第11回　外食の発達（1）
第12回　外食の発達（2）
第13回　ベルリンの歴史を歩く（1）
第14回　ベルリンの歴史を歩く（2）
第15回　ベルリンの歴史を歩く（3）

履修上の注意点

教科書

参考書

〈食〉から読み解くドイツ近代史
著者：　南　直人
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2015年　　ISBN：

世界の食文化⑱ドイツ
著者：　南　直人
出版社：農文協
出版年：2003年　　ISBN：　978-4540032202

ヨーロッパの食文化
著者：　マッシモ・モンタナーリ
出版社：平凡社
出版年：1999年　　ISBN：　978-4582476354

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 70 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 30 ）

a90201d410

小テストを頻繁に行います。不受験への救済措置はありません。

2016 Syllabus

科 目 名　**文学にみる京都**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　熊谷　昭宏	

テーマ

京都が舞台となっている小説を読む。

授業の到達目標

①明治以降、伝統文化と近代都市文化が交錯してきた京都が、小説でどのように描かれ、その中でどのような物語が生成されてきたかを考える。②21世紀の作家である森見登美彦の小説の中で、京都を舞台とする作品を読み、近代の名作との共通点と相違点を考える。

授業の概要

前半では京都を舞台とした近代日本の重要な作品を紹介する。後半では森見登美彦の作品を紹介する。基本的には講義形式だが、授業中に受講生に質問することもある。毎回、授業の最後に、授業内容に関する分析的なコメントを所定の用紙に書いて提出してもらう。事前配布資料により授業の予習を行う。

準備学習（予習・復習）

①事前配布資料を熟読し、作品の問題点や疑問点を整理しておく。②事前配布資料の引用が抜粋の場合は、さらに自主的に作品全体に目を通しておくことが望ましい。③期末レポートに向けて、授業で扱った作品への理解を深め、関係する京都の具体的な場所についての 調査を行う。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　森鴎外「高瀬舟」
第3回　芥川龍之介「羅生門」①
第4回　芥川龍之介「羅生門」②
第5回　水上勉「雁の寺」
第6回　川端康成「美しさと哀しみと」①
第7回　川端康成「美しさと哀しみと」②
第8回　森見登美彦『新釈 走れメロス』より「山月記」
第9回　森見登美彦『新釈 走れメロス』より「藪の中」
第10回　森見登美彦『新釈 走れメロス』より「走れメロス」①
第11回　森見登美彦『新釈 走れメロス』より「走れメロス」②
第12回　森見登美彦「有頂天家族」①
第13回　森見登美彦「有頂天家族」②
第14回　森見登美彦「有頂天家族」③
第15回　まとめとレポート指導

履修上の注意点

大学生として、授業における基本的なマナーを守ること。出席の確認は授業中課題のコメント用紙によって行うので、出席した場合には必ず提出すること。授業資料の解説終了後（映像資料の紹介中など）に入室した場合、出席とはみなさないので注意すること。忌引、特定の感染症、教育実習（その他大学の授業に関係する事柄）等に限って公欠を認め、参加度の加点を考慮する（担当者に申し出ること）。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ ）
参加度　（ 20% ）

期末レポート（内容と形式については授業中に説明する）を試験とする。毎回提出するコメント用紙を授業中課題とする。鋭い質問、授業内容を他の作品の読解に結びつける意見を含むコメントに対しては、より高い評価を与える。

Syllabus

科 目 名　**京都の歴史・文化 <eL>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田端　泰子	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**政治学概説 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　田代 和也	

テーマ

政治学に関する基礎知識の習得

授業の到達目標

本講義は、政治学への入門段階において習得しておく必要がある政治的現象や用語を、現代日本政治の具体的な事例の中から、受講生に理解してもらうことを目指す。

授業の概要

政治学を学ぶ入門段階において、理解する必要がある事柄を扱う。主に日本政治の展開の中から、政治アクターや政治学上の基本的概念を説明し、受講生に理解してもらう。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　イントロダクション・選挙について
第2回　投票行動・メディアと政治
第3回　政治家
第4回　日本政治史①　～戦後政治と55年体制～
第5回　日本政治史②　～疑似政権交代・55年体制の崩壊～
第6回　政党
第7回　官僚制
第8回　利益団体
第9回　国会（議会）
第10回　政策過程
第11回　首相～強い首相と弱い首相～
第12回　地方自治①～地方自治制度の変遷を中心に～
第13回　地方自治②～地方自治体の政策課題を中心に
第14回　国際政治
第15回　本講義のまとめ
第16回　定期試験

履修上の注意点

教科書

ポリティカルサイエンス事始め　第3版
著者：　伊藤光利編
出版社：有斐閣ブックス
出版年：2009　　ISBN：

参考書

図説世界を変えた50の政治
著者：　アン・パーキンズ著、小林朋則訳
出版社：原書房
出版年：2014　　ISBN：

政治学大図鑑
著者：　ポール・ケリー著、堀田義太郎監修、豊島実和訳
出版社：三省堂
出版年：2014　　ISBN：

戦後政治史
著者：　石川真澄
出版社：岩波書店
出版年：2001　　ISBN：

a90201d710

戦争の日本近現代史
著者:　加藤陽子
出版社:　講談社
出版年:　2002　ISBN:

近代ヨーロッパ国際政治史
著者:　君塚直隆
出版社:　有斐閣
出版年:　2010　ISBN:

大国の興亡
著者:　ポール・ケネディ著、鈴木主税訳
出版社:　草思社
出版年:　1988　ISBN:

The Logic of Political Survival
著者:　Bruce Bueno de Mesquita, et al.
出版社:　MIT Press
出版年:　2004　ISBN:

Politics(Palgrave Foundations)
著者:　Andrew Haywood
出版社:　Palgrave Macmillan
出版年:　2013　ISBN:

はじめて学ぶ政治学　古典・名著への誘い
著者:　岡崎晴輝、木村俊道編
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2008　ISBN:

Encyclopedia of Politics: The Left and the Right
著者:　Rodney P. Carlisle, ed.
出版社:　SAGE Publication
出版年:　2005　ISBN:

成績評価

試験　(100)　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
詳細については第一回のイントロダクションで説明する。

2016 Syllabus

科 目 名　**政治学概説 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　田代 和也	

テーマ

政治学に関する基礎知識の習得

授業の到達目標

本講義は、政治学への入門段階において習得しておく必要がある政治的現象や用語を、現代日本政治の具体的な事例の中から、受講生に理解してもらうことを目指す。

授業の概要

政治学を学ぶ入門段階において、理解する必要がある事柄を扱う。主に日本政治の展開の中から、政治アクターや政治学上の基本的概念を説明し、受講生に理解してもらう。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　イントロダクション・選挙について
第2回　投票行動・メディアと政治
第3回　政治家
第4回　日本政治史①　～戦後政治と55年体制～
第5回　日本政治史②　～疑似政権交代・55年体制の崩壊～
第6回　政党
第7回　官僚制
第8回　利益団体
第9回　国会（議会）
第10回　政策過程
第11回　首相～強い首相と弱い首相～
第12回　地方自治①～地方自治制度の変遷を中心に～
第13回　地方自治②～地方自治体の政策課題を中心に
第14回　国際政治
第15回　本講義のまとめ
第16回　定期試験

履修上の注意点

教科書

ポリティカルサイエンス事始め　第3版
著者：　伊藤光利編
出版社：有斐閣ブックス
出版年：2009　　ISBN：

参考書

図説世界を変えた50の政治
著者：　アン・パーキンズ著、小林朋則訳
出版社：原書房
出版年：2014　　ISBN：

政治学大図鑑
著者：　ポール・ケリー著、堀田義太郎監修、豊島実和訳
出版社：三省堂
出版年：2014　　ISBN：

戦後政治史
著者：　石川真澄
出版社：岩波書店
出版年：2001　　ISBN：

a90201d712

戦争の日本近現代史
著者:　加藤陽子
出版社:　講談社
出版年:　2002　ISBN:

近代ヨーロッパ国際政治史
著者:　君塚直隆
出版社:　有斐閣
出版年:　2010　ISBN:

大国の興亡
著者:　ポール・ケネディ著、鈴木主税訳
出版社:　草思社
出版年:　1988　ISBN:

The Logic of Political Survival
著者:　Bruce Bueno de Mesquita, et al.
出版社:　MIT Press
出版年:　2004　ISBN:

Politics(Palgrave Foundations)
著者:　Andrew Haywood
出版社:　Palgrave Macmillan
出版年:　2013　ISBN:

はじめて学ぶ政治学　古典・名著への誘い
著者:　岡崎晴輝、木村俊道編
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2008　ISBN:

Encyclopedia of Politics: The Left and the Right
著者:　Rodney P. Carlisle, ed.
出版社:　SAGE Publication
出版年:　2005　ISBN:

成績評価

試験　(100)　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
詳細については第一回のイントロダクションで説明する。

2016 Syllabus

科 目 名　**経済学概説**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　今久保　幸生	

テーマ

経済現象を認識する手段としての経済学を学ぶ

授業の到達目標

身の回りに始まり国や世界に至るまでの経済現象は、どれも、人々のくらしに密接に関わっている。こうした様々な経済現象を、経済学の概念や思考方法を学習しながら、自分自身で論理的に理解し、かつ考える力を身につける。

授業の概要

まず、現代の社会に生きる私たちになじみの様々な経済現象の内容を知り、その上で、それらの経済現象や、そこから生じる多様な経済問題－地球環境の問題、国際金融の問題、格差の問題など－に、経済学がどのように取り組んでいるかを学ぶ。授業は教科書に即して進められるが、教科書以外の説明も行われる。

準備学習（予習・復習）

教科書の予習・復習は必須である。少なくとも各1時間は費やすこと。

内　容

第1回　経済の成長と個人の成長
第2回　TPP－なぜ賛否両論になるのか
第3回　なぜギリシャを日本が助けなければならないのか
第4回　誰が、なぜ貧困なのか
第5回　日本の財政を考える
第6回　「大学生が多すぎる」？
第7回　今の医療でいいのか
第8回　廃棄物の値段はどう決まるか
第9回　イノベーションをどう促すか
第10回　効率と公平について
第11回　需要と供給の世界
第12回　経済全体を丸ごとつかむ！
第13回　社会をデザインする
第14回　増税も国債も同じこと？
第15回　まとめ：自立して生きるための経済学

履修上の注意点

私語は厳禁です。部活や就活での欠席は、出席扱いとはしません。

教科書

教養としての経済学
著者：　一橋大学経済学部
出版社：有斐閣
出版年：2013　　ISBN：

参考書

未定
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ ）	授業中発表等　（ ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**国際マーケティング論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　文男	

テーマ

日本企業の国際マーケティングの特徴について

授業の到達目標

国際マーケティングの概念について理解した上で、日本企業の持つ国際マーケティングの特徴を理解する。

授業の概要

講義の前半では、国際マーケティングについての一般的な理論について理解する。そのうえで、日本企業の代表的産業である家電産業のパナソニック、ソニーを中心として、化粧品産業の資生堂、小売業の代表ファミリーマート、中堅企業の大戸屋における国際マーケティングについて説明する。

準備学習（予習・復習）

授業に臨むにあたって、日常的に、新聞や雑誌を意識的に読み、そこから日本企業の動向、とりわけ、マーケティング活動についてできるだけ多くの知識を蓄積しておくよう心がける。最後に参考書を掲載してあるので、講義の前後でいいから、しっかり読むこと。

内　　容

第1回　国際マーケティングとは何か、その概念について理解する。
第2回　国際マーケティングにおける商品戦略についての説明する。
第3回　国際マーケティングにおける価格戦略について説明する。
第4回　国際マーケティングにおける流通チャネル戦略について説明する。
第5回　三洋電機の対米輸出マーケティングについて説明する。
第6回　松下電器の対米輸出マーケティングについて説明する。
第7回　ソニーの対米輸出マーケティングについて説明する。
第8回　先進国市場を対象とする家電企業パナソニックのグローバル・マーケティングについて説明する。
第9回　新興国・中国市場における中堅外食企業大戸屋と8番ら一めんの国際マーケティングについて説明する。
第10回　新興国・中国市場における化粧品企業資生堂のグローバル・マーケティングについて説明する。
第11回　ASEAN市場のタイ・ベトナム・インドネシアにおける小売企業ファミリーマートのグローバル・マーケティングについて説明する。
第12回　新興国・中国市場におけるアパレル企業ユニクロのグローバル・マーケティングについて説明する。
第13回　新興国・インド市場における家電企業ソニーのグローバル・マーケティングについて説明する。
第14回　新興国・中国市場における家電企業パナソニックのグローバル・マーケティングについて説明する
第15回　日本企業の国際マーケティングについてのまとめ
第16回　試験

履修上の注意点

テキストと参考文献を掲載しているので、最低これだけは予習、復習をすること。マーケティングに関する科目や国際経営、広告論などの関連科目をできるだけ受講すること。マーケティングや国際経営に関する予備知識を持っていることを希望する。

教科書

日本企業のアジア・マーケティング戦略
著者：　マーケティング史研究会編
出版社：同文館
出版年：2004年　　ISBN：　9784495646714

参考書

日本企業の国際マーケティング
著者：　近藤文男
出版社：有斐閣
出版年：２００４年　　ISBN：　4-641-16199-2

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト（ 70% ）
授業中課題（ 0% ）　　授業中発表等（ 0% ）
参加度　（ 0% ）
成績評価は試験と小テストの総計で評価する。小テストは毎回の講義の最後の１０分間で行う。ここでは講義で学んだこと、質問を中心に書く。

Syllabus

科 目 名　**看護情報論 <eL>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**看護倫理 <eL>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**国際看護学 <eL>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**看護管理学 <eL>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**高齢者のヘルスプロモーション <eL>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**高齢者のヘルスプロモーション**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　山野 薫	

テーマ

高齢者におけるヘルスプロモーションの理論と実践を講義し、現在の本邦での高齢者介護は介護保険制度を抜きにして進めないことから、介護保険との関係性について教授する。具体的には、高齢者の持つ身体的要因、精神的要因、環境側の要因について理解を深める。また、介護保険にかかわる職種の業務についても解説する。

授業の到達目標

1. 高齢者ヘルスプロモーションの概要を理解する。2. 高齢者ヘルスプロモーションと介護保険制度の関係性について理解する。

3. 転倒予防・生活習慣病予防について理解する。4. 認知症におけるヘルスプロモーションについて理解する。

授業の概要

高齢者のヘルスプロモーションについて教授する。国家的目標である「介護予防」について、高齢者の身体的側面と精神的側面から講義する。加えて、介護保険制度との関係性について理解を深める。高齢者におけるヘルスプロモーションの具体的方法（転倒予防・生活習慣病予防・認知症予防）について解説する。

準備学習（予習・復習）

高齢者の心身の健康や介護問題に関する参考書、文献等の自己学習、レポート課題等の学習

内　容

第1回　オリエンテーション，ヘルスプロモーション総論（山野）
第2回　高齢者の評価（山野）
第3回　高齢者の身体機能Ⅰ（山野）
第4回　高齢者の身体機能Ⅱ（山野）
第5回　転倒予防（山野）
第6回　生活習慣病予防（山野）
第7回　要介護高齢者のヘルスプロモーション（山野）
第8回　ヘルスプロモーションのための住環境整備（山野）
第9回　脳科学から見た認知症（重森）
第10回　認知症の評価（重森）
第11回　軽度認知機能障害におけるヘルスプロモーション（重森）
第12回　高齢者の注意力や自発性へのアプローチ（重森）
第13回　高齢者の記憶障害へのアプローチ（重森）
第14回　高齢者の空間認知やボディイメージへのアプローチ（重森）
第15回　重度認知症におけるヘルスプロモーション（重森）

履修上の注意点

30分を超過しての遅刻は出席として認めません。あからさまな午睡や私語は厳重に対応します。

教科書

理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション―理論と実践
著者:　日本ヘルスプロモーション理学療法学会（編集）
出版社:　南江堂
出版年:　2014　　ISBN:　9784524267552

参考書

近赤外分光法による前頭前野計測
著者:　志村孚城（編集）
出版社:　コロナ社
出版年:　2009　　ISBN:　9784339072228

成績評価

試験　（ 80% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 20% ）
参加度（20%）には、出席のほか、遅刻・私語などの授業態度も含まれ、成績評価に反映されます。

Syllabus

科 目 名　**認知症看護学 <eL>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**看護と死生観 <eL>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**次世代育成看護学概論 <eL>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**災害看護学 <eL>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**家族看護学 <eL>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**パーソナリティ心理学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　mitei	

テーマ

人の成長過程を連続したものとして捉えながら、そのパーソナリティの形成について学ぶ

授業の到達目標

パーソナリティの形成とはどういうことかを、基礎的な知識を習得しつつ、自分で考えることを目標とする。

授業の概要

配布資料を使った講義形式。

準備学習（予習・復習）

事前、事後学習として、自分が興味をもった関連図書を読む。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　パーソナリティの理論（1）
第3回　パーソナリティの理論（2）
第4回　パーソナリティの理論（3）
第5回　パーソナリティの形成要因（1）
第6回　パーソナリティの形成要因（2）
第7回　パーソナリティの形成要因（3）
第8回　パーソナリティの形成要因（4）
第9回　パーソナリティの形成要因（5）
第10回　パーソナリティの形成要因（6）
第11回　パーソナリティの測定方法（1）
第12回　パーソナリティの測定方法（2）
第13回　パーソナリティの測定方法（3）
第14回　パーソナリティの病理（1）
第15回　パーソナリティの病理（2）

履修上の注意点

毎回、最初に配布された資料を持参すること。出席状況において、欠席3分の1以上は試験資格を失う。

教科書

参考書

はじめて学ぶパーソナリテイ心理学
著者：　小塩真司
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：　　ISBN：

パーソナリテイ心理学
著者：　二宮克美他編
出版社：新曜社
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 100% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
試験期間中に行う試験（100点満点）が60点以上が合格とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**家族の心理・社会学**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　滝野　功久	

テーマ

家族に関わるさまざまな歴史的事実と言説について調べ、今日の家族のさまざまな問題を多面的に理解すること、さらには家族の諸課題に対して心理的かつ社会的なアプローチによって、それぞれにより適切な対応を探求し考えること

授業の到達目標

今日、家族のあり方は極めて多様になってきている、そのことと多くの家族が抱える問題・課題も複雑になってきていることをできるだけ具体的に理解し、それらのうちいくつかを言葉や図像、そしてできればロールプレイなどのパフォーマンスで説明したり、表現できるようになる。一方では、自分の家族の歴史を関心をもち、また他方では、自分の家族とは違った家族のあり様をできるだけ多く具体的に知ること。さらには「家族」を通して自らのなかに内化されている世界観・価値観を見直す糸口をつかむこと。

授業の概要

「授業」という名称にはなっているが、この科目は、周りのさまざまな人々の暮らしや・家族の有り様に積極的に関心をもち、できるだけ具体的な問いをもって取り組むことで、初めて展開できる学びであり、その中身と成果が「内容」いうことになる。そうしたことを含めて、下に記載されるスケジュールは、きっちりその通りに順次行われるプログラムでは全くない。家族問題が実際に扱われる時は、大体は〈原因があり帰結があるという〉直線的な動きというより、さまざまなことが複雑に絡む非直線的な展開になるが、ここでもそれと同じ動きがでて来る。

準備学習（予習・復習）

自らの家族、特に親について、関心をもって、無理のない程度に調べてみるということは、学習にとっての大きな資源を見つけることになる。

内　　容

第1回　全体のオリエンテーション1　なぜ家族か？　家族とはなにか？　家・イエ・家庭・family・foyer
第2回　オリエンテーション2　家族を心理学するとは？社会学するとは？　家族の心理・社会学の課題と方法
第3回　家族をめぐる諸問題と家族のイメージ 「家族」の歴史とその多様性
第4回　名前と呼び方　名称・氏名　家族の名前　夫婦別姓という問題
第5回　家族の内と外、家族と世間　日本の家族はメンバーを世間から守れるか？
第6回　家族の心理的プロセスと家族内コミュニケーション
第7回　男と女の関係1　近年の女性の革命的変化と女性の変わらぬこと
第8回　男と女の関係2　セクシュアリティとジェンダーに関わること
第9回　親子関係の心理と病理　　母子密着と家庭内暴力　児童虐待とネグレクトと
第10回　兄弟関係と一人っ子という問題 （あるいは一人っ子の課題）
第11回　男と女の関係3　夫婦関係の変化と課題　離婚・再婚（あるいは結婚の新しい形）
第12回　老いと家族の課題　独居老人の増加と老人介護という問題
第13回　家族のなかの喪失と死
第14回　家族と宗教　先祖崇拝とお墓と　日本の伝統仏教の問題と課題
第15回　全体の振り返り　家族にとって先祖と子孫

履修上の注意点

出席数だけ確保すれば自動的に単位がとれると考えないように！　しっかりと取り組めば、家族との関わりや、自らの学び方も大きく変わるものにしたいと願っています。

教科書

家族心理学入門（補訂版）
著者：　岡堂哲也　編
出版社：培風館
出版年：　　ISBN：

家族を超える社会学－新たな生の基盤を求めて
著者：　牟田和恵　編
出版社：新曜社
出版年：　　ISBN：

家族という神話
著者：　下重暁
出版社：幻冬舎新書
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ 25 ）

授業中課題 （ 45 ）　　授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ ）

評価は基本的に減点法でなく、加点法。学んだことが評価の対象であり、なにをどのような形で学んでいくか、学んだかを、最初と途中そして最後に話し合いたい。参加することが学びの基本条件なので「参加度」に数値などを入れてはいない。

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅱ〈a〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　坂本　敏郎.塩谷　尚正.中川　明仁

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習（予習・復習）

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内　容

第1回　鏡映描写の説明･鏡映描写実験計画の説明
第2回　鏡映描写実験の実施（1）
第3回　鏡映描写実験の実施（2）
第4回　データの処理・分析（1）
第5回　データの処理・分析（2）
第6回　質問紙の作成・実施方法の解説
第7回　質問紙の作成
第8回　調査の実施
第9回　データの解析（1）
第10回　データの解析（2）
第11回　動物実験の概要・データの取得方法の説明
第12回　動物実験の実施
第13回　ビデオ撮影された動物の行動の解析（1）
第14回　ビデオ撮影された動物の行動の解析（2）
第15回　データの解析

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　坂本　敏郎.塩谷　尚正.田中　芳幸	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習（予習・復習）

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内　容

第1回　鏡映描写の説明･鏡映描写実験計画の説明
第2回　鏡映描写実験の実施（1）
第3回　鏡映描写実験の実施（2）
第4回　データの処理・分析（1）
第5回　データの処理・分析（2）
第6回　質問紙の作成・実施方法の解説
第7回　質問紙の作成
第8回　調査の実施
第9回　データの解析（1）
第10回　データの解析（2）
第11回　動物実験の概要・データの取得方法の説明
第12回　動物実験の実施
第13回　ビデオ撮影された動物の行動の解析（1）
第14回　ビデオ撮影された動物の行動の解析（2）
第15回　データの解析

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅱ〈c〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　坂本　敏郎.田中　芳幸.前田　洋光

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習（予習・復習）

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内　容

第1回　鏡映描写の説明･鏡映描写実験計画の説明
第2回　鏡映描写実験の実施（1）
第3回　鏡映描写実験の実施（2）
第4回　データの処理・分析（1）
第5回　データの処理・分析（2）
第6回　質問紙の作成・実施方法の解説
第7回　質問紙の作成
第8回　調査の実施
第9回　データの解析（1）
第10回　データの解析（2）
第11回　動物実験の概要・データの取得方法の説明
第12回　動物実験の実施
第13回　ビデオ撮影された動物の行動の解析（1）
第14回　ビデオ撮影された動物の行動の解析（2）
第15回　データの解析

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅱ <d>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　田中 芳幸.坂本 久美.前田 洋光

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習（予習・復習）

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内　容

第1回　鏡映描写の説明･鏡映描写実験計画の説明
第2回　鏡映描写実験の実施（1）
第3回　鏡映描写実験の実施（2）
第4回　データの処理・分析（1）
第5回　データの処理・分析（2）
第6回　質問紙の作成・実施方法の解説
第7回　質問紙の作成
第8回　調査の実施
第9回　データの解析（1）
第10回　データの解析（2）
第11回　動物実験の概要・データの取得方法の説明
第12回　動物実験の実施
第13回　ビデオ撮影された動物の行動の解析（1）
第14回　ビデオ撮影された動物の行動の解析（2）
第15回　データの解析

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅱ〈e〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　前田 洋光.坂本 久美.中川 明仁

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習（予習・復習）

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内　容

第1回　鏡映描写の説明･鏡映描写実験計画の説明
第2回　鏡映描写実験の実施（1）
第3回　鏡映描写実験の実施（2）
第4回　データの処理・分析（1）
第5回　データの処理・分析（2）
第6回　質問紙の作成・実施方法の解説
第7回　質問紙の作成
第8回　調査の実施
第9回　データの解析（1）
第10回　データの解析（2）
第11回　動物実験の概要・データの取得方法の説明
第12回　動物実験の実施
第13回　ビデオ撮影された動物の行動の解析（1）
第14回　ビデオ撮影された動物の行動の解析（2）
第15回　データの解析

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅱ〈f〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　坂本 久美.塩谷 尚正.中川 明仁

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習（予習・復習）

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内　容

第1回　鏡映描写の説明･鏡映描写実験計画の説明
第2回　鏡映描写実験の実施（1）
第3回　鏡映描写実験の実施（2）
第4回　データの処理・分析（1）
第5回　データの処理・分析（2）
第6回　質問紙の作成・実施方法の解説
第7回　質問紙の作成
第8回　調査の実施
第9回　データの解析（1）
第10回　データの解析（2）
第11回　動物実験の概要・データの取得方法の説明
第12回　動物実験の実施
第13回　ビデオ撮影された動物の行動の解析（1）
第14回　ビデオ撮影された動物の行動の解析（2）
第15回　データの解析

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅱ <R>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習（予習・復習）

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内　容

第1回　鏡映描写の説明･鏡映描写実験計画の説明
第2回　鏡映描写実験の実施（1）
第3回　鏡映描写実験の実施（2）
第4回　データの処理・分析（1）
第5回　データの処理・分析（2）
第6回　質問紙の作成・実施方法の解説
第7回　質問紙の作成
第8回　調査の実施
第9回　データの解析（1）
第10回　データの解析（2）
第11回　動物実験の概要・データの取得方法の説明
第12回　動物実験の実施
第13回　ビデオ撮影された動物の行動の解析（1）
第14回　ビデオ撮影された動物の行動の解析（2）
第15回　データの解析

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅱ <S>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　その他　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　（閉講:開⇒閉）

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

小グループに分かれて実験を行い、レポートを作成、提出する。

準備学習（予習・復習）

実験心理学関連の図書を読むこと。返却されたレポートを復習すること。

内　容

第1回　鏡映描写の説明･鏡映描写実験計画の説明
第2回　鏡映描写実験の実施（1）
第3回　鏡映描写実験の実施（2）
第4回　データの処理・分析（1）
第5回　データの処理・分析（2）
第6回　質問紙の作成・実施方法の解説
第7回　質問紙の作成
第8回　調査の実施
第9回　データの解析（1）
第10回　データの解析（2）
第11回　動物実験の概要・データの取得方法の説明
第12回　動物実験の実施
第13回　ビデオ撮影された動物の行動の解析（1）
第14回　ビデオ撮影された動物の行動の解析（2）
第15回　データの解析

履修上の注意点

実験中に私語はしない、スマホは出さないなど、基本的なルールを守ること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**心理検査法Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　田中 芳幸	

テーマ

心理検査法に関する基礎理論の理解、および心理検査施行における基本姿勢の検討

授業の到達目標

心理検査(Psychological test)とは、心理査定(Psychological assessment)を行うための方法の一つであり、「ひと」(client)を「全人的に理解しようとする活動」の一部である。そこで本講義では、(1)各種心理検査の信頼性と妥当性を含めた特徴、(2)心理検査の選び方や検査施行時の環境の整え方、(3)心理検査結果の報告やフィードバックの仕方などを学ぶとともに、(4)心理検査施行時の検査者の姿勢・態度について考えることも目的とする。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

各回の内容に該当する教科書の熟読、および、心理検査・心理査定・心理測定などの関連図書による自学自習を行うこと。

内　容

第1回　心理検査とは －心理検査と心理査定－
第2回　心理検査開発の歴史的背景
第3回　心理検査の信頼性と妥当性
第4回　検査者の基本的姿勢・態度
第5回　「性格」理解のための諸理論
第6回　性格検査(1)質問紙法
第7回　性格検査(2)投影法
第8回　性格検査(3)作業検査法
第9回　知能検査(1)知能とは
第10回　知能検査(2)知能検査の種類
第11回　発達に関する諸検査
第12回　行動・社会性に関する諸検査
第13回　心理的な症状に関する諸検査
第14回　その他の心理検査
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為を慎むこと。

教科書

図表で学ぶ心理テスト
著者:　長尾 博
出版社:　ナカニシヤ出版
出版年:　　ISBN:

参考書

心理臨床アセスメント入門－心の治療のための臨床判断学－
著者:　赤塚大樹・森谷寛之・豊田洋子・鈴木国文
出版社:　培風館
出版年:　　ISBN:

心理測定への招待－測定からみた心理学入門－
著者:　市川伸一
出版社:　サイエンス社
出版年:　　ISBN:

各種心理検査の手引書
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

a90202a250

成績評価

試験 （ 40% ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ 20% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**社会心理学Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　前田 洋光

テーマ

社会心理学という学問の基礎的な考え方を理解する。

授業の到達目標

理論の習得はもちろんのことながら、受講者にとってきわめて身近なテーマであるため、日常生活と照らし合わせて考えることによって、「よりよい人間関係」「自分にとってより望ましいこれからの生き方」を考える。

授業の概要

社会心理学者Aronsonは、人間を「社会的動物 (The social animal)」と呼んだ。その言葉の通り、私たちは日常生活を営む上で、他者や社会から多大な影響を受けており、同時に他者や社会に多大な影響を及ぼしている。本講では、社会的認知や社会的影響の問題を中心に、様々な自己と他者のかかわりを、心理学的視点から論考していく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　原因帰属
第3回　対人認知
第4回　対人魅力
第5回　性役割
第6回　社会的欲求
第7回　自尊感情
第8回　自己開示と自己呈示
第9回　対人不安と自己意識
第10回　態度
第11回　説得的コミュニケーション1：受け手・送り手・メッセージ内容に着目した検討
第12回　説得的コミュニケーション2：説得への抵抗と説得技法
第13回　言語的コミュニケーション
第14回　非言語的コミュニケーション
第15回　まとめと確認

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

グラフィック　社会心理学
著者：　池上知子・遠藤由美
出版社：　サイエンス社
出版年：　　ISBN：

新編社会心理学　改訂版
著者：　堀洋道　監修　吉田富二雄・松井豊・宮元聡介　編著
出版社：　福村出版
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 70 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**発達心理学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　中村　和夫	

テーマ

胎生期から成人期までの人間の発達の様相の理解

授業の到達目標

胎生期から成人期までの人間の発達の様相の理解

授業の概要

発達心理学についての基礎的知識と発達的な見方が理解できること、および人間の発達上の重要なトピックスについて、それぞれの発達段階におけるその意味を理解するとともに、具体的なイメージをもつことができるようになること。

準備学習（予習・復習）

テキストによる予習と配布資料による復習

内　容

第1回　出生前期の感覚の発達と胎児診断の問題
第2回　ヒトの生理的早産と社会的存在としての人間
第3回　新生児期の共鳴動作と新生児反射の意味
第4回　乳児期の姿勢・運動、手指の操作性の発達
第5回　前言語的コミュニケーションと共同注意・三項関係の発達
第6回　愛着理論と愛着の発達
第7回　幼児期の表象的思考と話し言葉の発達
第8回　こころの理論と他者の心の理解、自己抑制の発達
第9回　児童期の内言と書き言葉の発達
第10回　具体的操作の発達と9・10歳の節
第11回　思春期の第二次性徴と自己意識的感情、形式的操作の発達
第12回　青年期のアイデンティティの発達、アイデンティティ・ステイタス
第13回　時間的展望と親密性の発達、アイデンティティの拡散
第14回　成人期のキャリア発達とジェネラティヴィティの発達
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

発達心理学関連図書による自学自習

教科書

よくわかる認知発達とその支援
著者:　子安増生　編
出版社:　ミネルヴァ書
出版年:　　ISBN:

参考書

小学生の生活とこころの発達
著者:　心理科学研究会　編
出版社:　福村出版
出版年:　　ISBN:

資料でわかる認知発達心理学
著者:　加藤義信　編
出版社:　ひとなる書房
出版年:　　ISBN:

そのほか、授業中に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 60 ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅲ（心理）<a>

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌﾞﾗｲｱﾝﾊﾞｽｶｳﾞｨﾙ	

テーマ

Expressing Your Ideas in English

授業の到達目標

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills. Class activities, discussion topics and so forth will be aimed at preparing students for participation in a global society.

授業の概要

This course will be taught in English.

準備学習（予習・復習）

If you forgot to bring your textbook and dictionary, you must make a copy of the next pages in the textbook and borrow a dictionary BEFORE class starts. Also, review the last lesson, look ahead at the next pages and check your dictionary for any new words.

内　容

第1回　introductions
第2回　classroom English
第3回　student interviews-A
第4回　student interviews-B
第5回　getting acquainted
第6回　experiences-A
第7回　experiences-B
第8回　sports & leisure
第9回　money
第10回　shopping
第11回　food-A
第12回　food-B
第13回　travel-A
第14回　travel-B
第15回　review

履修上の注意点

If you forget your textbook, you must photocopy the necessary pages from a classmate's book BEFORE class starts.

教科書

Let's Chat
著者:　John Pak
出版社:　EFL Press
出版年:　2007　　ISBN:　4580244420056

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅲ（心理）<b>

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌﾞﾗｲｱﾝﾊﾞｽｶｳﾞｨﾙ	

テーマ

Expressing Your Ideas in English

授業の到達目標

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills. Class activities, discussion topics and so forth will be aimed at preparing students for participation in a global society.

授業の概要

This course will be taught in English.

準備学習（予習・復習）

If you forgot to bring your textbook and dictionary, you must make a copy of the next pages in the textbook and borrow a dictionary BEFORE class starts. Also, review the last lesson, look ahead at the next pages and check your dictionary for any new words.

内　容

第1回　introductions
第2回　classroom English
第3回　student interviews-A
第4回　student interviews-B
第5回　getting acquainted
第6回　experiences-A
第7回　experiences-B
第8回　sports & leisure
第9回　money
第10回　shopping
第11回　food-A
第12回　food-B
第13回　travel-A
第14回　travel-B
第15回　review

履修上の注意点

If you forget your textbook, you must photocopy the necessary pages from a classmate's book BEFORE class starts.

教科書

Let's Chat
著者:　John Pak
出版社:　EFL Press
出版年:　2007　　ISBN:　4580244420056

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅲ <a>

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員　40

履修条件　　クラス指定

担 当 者　久保田　美佳

テーマ

Academic Readingの実践

授業の到達目標

一般的な英語で書かれた文献を読んで自力である程度理解できるようになる。専門分野の基礎語彙を習得する。英語の音とリズムに慣れる。

授業の概要

「ストレス」というテーマに特化したテキストを使って、正しく読み取る練習をします。また、同テキスト付属の音源を聞き英語の音やリズムを体得して行きます。

準備学習（予習・復習）

毎週授業で扱う箇所を事前に読んで来ること。また、単語テストを随時行うのでその準備も忘れないようにして下さい。

内　容

第1回　授業オリエンテーションUnit 1 What is Stress?
第2回　Unit 2 What Causes Stress?　Unit 3 What Is the Stress Response?
第3回　Unit 4 How Did We First Learn about the Bad Effects of Stress?
第4回　Unit 5 How are Bodily Systems Affected by Stress?
第5回　Unit 6 Unhealthy Stress: How Can We Resist It?
第6回　Unit 7 Laugh　Unit 8 Get Rid of Anger
第7回　Review Unit 1-8
第8回　Unit 9 Break the Stress-Sleeplessness Cycle and Live by Lists
第9回　Unit 10 Adapt Your Environment
第10回　Unit 11 Pen Pent-up Emotions and Frown on Perfection
第11回　Unit 12 Take Time Out for Meals
第12回　Unit 13 Try Aerobic Exercise and Take a Walk　Unit 14 Learn Good Posture and Be Conscious of Your Jaw
第13回　Unit 15 Reaching the True Relaxation State
第14回　Review Unit 9-15
第15回　Listening and Vocabulary

履修上の注意点

教科書

Beating Stress ストレスフリー・ライフを目指す
著者:　田部井世志子、井上径子
出版社:　朝日出版
出版年:　2006　　ISBN:　4255154228C1082

参考書

成績評価

試験　（ 20 ）　　小テスト（ 80 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
習熟度を測るため、定期的にテストを行います。

2016 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅲ <b>

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　久保田　美佳	

テーマ

Academic Readingの実践

授業の到達目標

一般的な英語で書かれた文献を読んで自力である程度理解できるようになる。専門分野の基礎語彙を習得する。英語の音とリズムに慣れる。

授業の概要

「ストレス」というテーマに特化したテキストを使って、正しく読み取る練習をします。また、同テキスト付属の音源を聞き英語の音やリズムを体得して行きます。

準備学習（予習・復習）

毎週授業で扱う箇所を事前に読んで来ること。また、単語テストを随時行うのでその準備も忘れないようにして下さい。

内　容

第5回　Unit 6 Unhealthy Stress: How Can We Resist It?
第6回　Unit 7 Laugh　Unit 8 Get Rid of Anger
第7回　Review Unit 1-8
第8回　Unit 9 Break the Stress-Sleeplessness Cycle and Live by Lists
第9回　Unit 10 Adapt Your Environment
第10回　Unit 11 Pen Pent-up Emotions and Frown on Perfection
第11回　Unit 12 Take Time Out for Meals
第12回　Unit 13 Try Aerobic Exercise and Take a Walk　Unit 14 Learn Good Posture and Be Conscious of Your Jaw
第13回　Unit 15 Reaching the True Relaxation State
第14回　Review Unit 9-15
第15回　Listening and Vocabulary
第1回　授業オリエンテーションUnit 1 What is Stress?
第2回　Unit 2 What Causes Stress?　Unit 3 What Is the Stress Response?
第3回　Unit 4 How Did We First Learn about the Bad Effects of Stress?
第4回　Unit 5 How are Bodily Systems Affected by Stress?

履修上の注意点

教科書

Beating Stress ストレスフリー・ライフを目指す
著者:　田部井世志子、井上径子
出版社:　朝日出版
出版年:　2006　　ISBN:　4255154228C1082

参考書

成績評価

試験　（ 20 ）　　小テスト（ 80 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
習熟度を測るため、定期的にテストを行います。

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理応用演習 I**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

Excelを使用し、業務データを目的に応じて活用・分析する方法を習得する。

授業の到達目標

Excelを使用し、効率の良い業務データの処理分析、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT利活用のための実践的な知識を習得し、『日商PC検定試験3級（データ活用）』資格の取得をめざす。

授業の概要

現在、最もシェアの高い表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、データの集計処理やグラフ化、データベース分析などを行い、効率よく目的に応じた資料を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、取引の仕組みや業務データの流れなどもあわせて学習し、総合的なデータの処理分析能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT利活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級（データ活用）』受験レベルのスキルを身につける。授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。授業日程は、各日1～4講時とし、最終回のみ1～3講時とす

準備学習（予習・復習）

パソコンの基本スキル（入力、保存など）がある、もしくは、パソコン基本スキル習得の授業をあわせて受講することが望ましい。授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内パソコン教室・自宅などで学習しておいてください。

内　容

第1回　オリエンテーション／日商PC検定とは知識科目対策・電子商取引、電子政府・電子自治体、ハードウェア
第2回　知識科目対策・ソフトウェア、ファイル、ネットワーク基礎
第3回　Wordの基本操作・社外文書作成
第4回　Wordの基本操作・表作成
第5回　知識科目対策・ビジネス文書の基本、社内文書の書き方、社外文書の書き方
第6回　知識科目対策・ビジネス文書のライティング技術
第7回　実技問題演習
第8回　実技問題演習
第9回　知識科目対策・ビジネス文書のライティング技術・ビジネス図解の基本・ビジネス文書の管理
第10回　実技科目問題演習
第11回　実技問題演習
第12回　検定対策・模擬試験
第13回　実技科目問題演習
第14回　検定対策・模擬試験
第15回　試験（知識科目+実技科目）

履修上の注意点

教科書

日商PC検定試験 データ活用 3級 完全マスター　合格のコツがわかる問題集Word2010対応
著者：　富士通エ フ・オー・エム（株）
出版社：FOM出版
出版年：　　ISBN：　9784893118981

参考書

成績評価

試験　（ 60% ）	小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 30% ）	授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理応用演習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小西　康子	

テーマ

Wordを使用し、質の高いビジネス文書を効率よく作成する方法を習得する。

授業の到達目標

Wordを使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書の作成、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT利活用のための実践的な知識を習得し、『日商PC検定試験3級（文書作成）』資格の取得をめざす。

授業の概要

現在、最もシェアの高いワープロソフト「Microsoft Word」を使用し、効率よく適切なビジネス文書を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、ビジネス文書の形式や、文書作成の上で必要となる文法や文章表現などもあわせて学習し、総合的な文書作成能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT利活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級（文書作成）』受験レベルのスキルを身につける。授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。授業日程は、各日1～4講時とし、最終日のみ1～3講時とする。

準備学習（予習・復習）

パソコンの基本スキル（入力、保存など）がある、もしくは、パソコン基本スキル習得の授業をあわせて受講することが望ましい。授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内パソコン教室・自宅などで学習しておいてください。

内　容

第1回　オリエンテーション／日商PC検定とは知識科目対策・電子商取引、電子政府・電子自治体、ハードウェア
第2回　知識科目対策・ソフトウェア、ファイル、ネットワーク基礎
第3回　Wordの基本操作・社外文書作成
第4回　Wordの基本操作・表作成
第5回　知識科目対策・ビジネス文書の基本、社内文書の書き方、社外文書の書き方
第6回　知識科目対策・ビジネス文書のライティング技術
第7回　実技問題演習
第8回　実技問題演習
第9回　知識科目対策・ビジネス文書のライティング技術・ビジネス図解の基本・ビジネス文書の管理
第10回　知識科目問題演習
第11回　実技問題演習
第12回　検定対策・模擬試験
第13回　実技科目問題演習
第14回　検定対策・模擬試験
第15回　試験（知識科目+実技科目）

履修上の注意点

教科書

日商PC検定試験 文書作成 3級 完全マスター　合格のコツがわかる問題集Word2010対応
著者：　富士通エ フ・オー・エム（株）
出版社：FOM出版
出版年：　ISBN：
日商PC検定試験 文書作成 3級 公式テキスト
著者：　富士通エ フ・オー・エム（株）
出版社：FOM出版
出版年：　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ 60% ）	小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 30% ）	授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学研究法Ⅱ（質的調査）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　和夫	

テーマ

質的研究方法を理解し、一連の手続きを取得すること

授業の到達目標

インタビューや観察を通して得られたデータに基づいて、ボトムアップ的に研究領域に密着した理論や概念モデルを構成していく質的研究方法を理解し、一連の手続きを取得すること。

授業の概要

質的な研究方法として、具体的には、グラウンデッド・セオリー・アプローチ（GTA）に基づいて、データの収集（とくに、半構造化面接）、データのコード化、カテゴリーの関係づけによる理論（ストーリーライン）の生成について、それらの手続き・方法を実習する。

準備学習（予習・復習）

とくに復習が重要

内　　容

第1回　質的研究、質的心理学とは何か
第2回　グラウンデッド・セオリー・アプローチ（GTA）とは何か
第3回　インタビュー・観察によるデータ収集について
第4回　プロパティとディメンションによる概念把握について
第5回　ラベル名をつける――オープンコーディングについて
第6回　カテゴリーにまとめる――アクシャルコーディングについて
第7回　比較と理論的サンプリングについて
第8回　カテゴリーの関係をとらえる――セレクティブコーディングについて
第9回　インタビューによるデータの収集
第10回　トランスクリプトの作成
第11回　オープンコーディング
第12回　アクシャルコーディング
第13回　セレクティブコーディング
第14回　研究発表（前段の班）
第15回　研究発表（後段の班）と授業のまとめ

履修上の注意点

欠席・遅刻は認めない。やむを得ぬ事情で欠席する（欠席した）場合には、事前に（事後に）理由を届け出ること。

教科書

質的研究方法ゼミナール第2版
著者：　戈木クレイグヒル滋子
出版社：医学書院
出版年：　　ISBN：

参考書

授業中に提示
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**実験計画法**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　上北　朋子.奈田　哲也	

テーマ

実験計画の基礎と実践

授業の到達目標

この講義では、受講生が実験計画法の基礎を理解し、実際に実験を実施できるようになることを目標とする。

授業の概要

知覚、記憶、学習、動機づけに関するテーマについて実験計画を立案し、データ収集、統計処理までを実践的に学ぶ。

準備学習（予習・復習）

心理統計の基礎的事項について復習をしておくこと。各自の選択テーマによって、必要な場合は資料およびデータ収集を授業時間以外に行う。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　実験計画法の基礎
第3回　実験計画法の実際（1）
第4回　実験計画法の実際（2）
第5回　１要因の実験計画の立案（1元配置）
第6回　実験実施
第7回　データ整理と解析
第8回　発表資料の作成
第9回　発表とディスカッション
第10回　2要因の実験計画の立案（2元配置）
第11回　実験実施
第12回　データ整理
第13回　データ解析
第14回　発表資料の作成
第15回　発表とディスカッション

履修上の注意点

グループでの作業が中心となるため、授業への出席はもちろん、課題への積極的な参加が求められる。

教科書

参考書

よくわかる心理統計
著者:　山田剛史、村井潤一郎
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　　ISBN:

SPSSのススメ
著者:　竹原卓真
出版社:　北大路書房
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ ）	授業中発表等　（ 60 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**心理統計学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光	

テーマ

推測統計学の理解

授業の到達目標

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。本講義では、実際の心理学研究において頻繁に用いられる種々の統計解析について、具体的な問題を解きながら理解を深めていく。それによって、各分析手法の概念について理解することを、第一の目的とする。加えて、与えられたデータ分析し、適切な結論を導くことができる実践力を獲得することを目標とする。

授業の概要

心理統計学Ⅰで習得した内容を踏まえ、本講では、卒業研究において自らで心理学研究をまとめるにあたり最低限必要となる、より発展的・実践的な統計学の概念について学んでいく。また、種々の統計手法について、電卓を用いて手計算をおこなう演習を併用することによって、一層の理解を深めていく。

準備学習（予習・復習）

下記参考書をはじめとする統計学関連の書籍の講読

内　　容

第1回　イントロダクション：統計学の基礎の復習
第2回　標本と母集団、及び正規分布と中心極限定理(1)
第3回　標本と母集団、及び正規分布と中心極限定理(2)
第4回　統計的検定の基礎
第5回　t検定(1)：対応のない場合のt検定
第6回　t検定(2)：対応のある場合のt検定
第7回　一元配置分散分析(1)：一要因被験者間検定
第8回　一元配置分散分析(2)：多重比較
第9回　ノンパラメトリック検定(1)
第10回　ノンパラメトリック検定(2)
第11回　ここまでの確認とまとめ
第12回　データ分析演習(1)
第13回　データ分析演習(2)
第14回　データ分析演習(3)
第15回　授業全体のまとめ

履修上の注意点

教科書

本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本
著者：　吉田 寿夫
出版社：北大路書房
出版年：　　ISBN：
よくわかる心理統計
著者：　山田 剛史・村井 潤一郎
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）	小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 10 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学データ解析 <a>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員　50

履修条件　　クラス指定

担 当 者　塩谷　尚正

テーマ

SPSSを用いた統計解析の基礎

授業の到達目標

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。本講義では、統計解析ソフト「SPSS」を用いて、得られたデータを解析していく手順について学んでいく。加えて、得られた結果を適切に読み取り、論文やレポートにまとめる力を身につけていく。

授業の概要

本講では、心理統計学Ⅱまでで習得した分析手法（t検定、分散分析等）について、統計ソフト「SPSS」を用いたデータ解析手法を学んでいく。単なるソフトの使用方法のみならず、得られた結果から情報を適切に読み取る力、および、それらを論文やレポートにまとめる力を身につけることに力点を置き、次年度以降の専門科目につなげていく。

準備学習（予習・復習）

授業時間内に終わらなかった課題については、一定期間内に提出しなければならない。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　記述統計
第3回　相関係数
第4回　ここまでのまとめと演習
第5回　対応のない場合のt検定
第6回　対応のある場合のt検定
第7回　対応のない場合の一要因分散分析
第8回　対応のある場合の一要因分散分析
第9回　ここまでのまとめと演習
第10回　対応のない場合の二要因分散分析(1)：主効果の理解
第11回　対応のない場合の二要因分散分析(1)：交互作用の理解
第12回　ここまでのまとめと演習
第13回　総合演習(1)
第14回　総合演習(2)
第15回　総合演習(3)

履修上の注意点

教科書

教科書は特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

SPSSのススメ〈1〉2要因の分散分析をすべてカバー
著者：　竹原 卓真
出版社：北大路書房
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 20 ）
レポート30%

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学データ解析 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　塩谷　尚正	

テーマ

SPSSを用いた統計解析の基礎

授業の到達目標

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。本講義では、解析ソフト「SPSS」を用いて、得られたデータを解析していく手順について学んでいく。加えて、得られた結果を適切に読み取り、論文やレポートにまとめる力を身につけていく。

授業の概要

本講では、心理統計学Ⅱまでで習得した分析手法（t検定、分散分析等）について、統計ソフト「SPSS」を用いたデータ解析手法を学んでいく。単なるソフトの使用方法のみならず、得られた結果から情報を適切に読み取る力、および、それらを論文やレポートにまとめる力を身につけることに力点を置き、次年度以降の専門科目につなげていく。

準備学習（予習・復習）

授業時間内に終わらなかった課題については、一定期間内に提出しなければならない。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　記述統計
第3回　相関係数
第4回　ここまでのまとめと演習
第5回　対応のない場合のt検定
第6回　対応のある場合のt検定
第7回　対応のない場合の一要因分散分析
第8回　対応のある場合の一要因分散分析
第9回　ここまでのまとめと演習
第10回　対応のない場合の二要因分散分析(1)：主効果の理解
第11回　対応のない場合の二要因分散分析(1)：交互作用の理解
第12回　ここまでのまとめと演習
第13回　総合演習(1)
第14回　総合演習(2)
第15回　総合演習(3)

履修上の注意点

教科書

教科書は特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

SPSSのススメ〈1〉2要因の分散分析をすべてカバー
著者：　竹原 卓真
出版社：北大路書房
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 20 ）
レポート30%

2016 Syllabus

科 目 名　**知覚・認知心理学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　細谷　周史	

テーマ

知覚心理学および認知心理学に関する基礎的な知識・考え方の理解

授業の到達目標

実験心理学、生理学の研究によって明らかにされてきた感覚、知覚、認知領域の心理学理論について理解する。ヒトや動物は環境内の刺激をどのように知覚し、認知するのかについて理解を深める。

授業の概要

ヒトを含む動物は、環境内の刺激（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚）をどのように知覚し、認知しているのだろうか。動物の行動は、環境刺激を知覚、認知し、意志決定することにより表出される。講義の前半では、ヒトや動物が持つ感覚、知覚の特性を理解する。講義の後半では、感覚、知覚情報を動物がどうように理解、認知するかという情報処理システムについて解説する。動物による道具の使用、ヒトの言語、推論や意志決定など高次の認知機能についても解説する。

準備学習（予習・復習）

テキストを使用しないので、講義後にノートや配付プリントを復習して理解を深めておくこと。

内　容

第1回　感覚、知覚、認知とは？
第2回　精神物理学・知覚過程の一般的特性
第3回　明暗の知覚
第4回　形と大きさの知覚
第5回　奥行き知覚・運動視
第6回　色の知覚
第7回　音の大きさの知覚
第8回　音の高さの知覚
第9回　嗅覚と味覚
第10回　時間知覚
第11回　記憶
第12回　知覚的情報処理
第13回　注意
第14回　問題解決と推論
第15回　言語

履修上の注意点

授業内容の性質上、講義に出席して知覚現象を実際に体験しないと理解が困難なものが多いので、欠席しないようにすること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

知覚心理学の基礎
著者:　松田隆夫
出版社:　培風館
出版年:　ISBN:

認知心理学　―知のアーキテクチャを探る―
著者:　道又爾　他
出版社:　有斐閣アルマ
出版年:　ISBN:

成績評価

試験　（ 60 ）　小テスト（　）

a90202d950

授業中課題（40）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**感情心理学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　坂本 久美	

テーマ

授業の到達目標

人や動物のこころのはたらきの重要な機能のひとつである感情・情動のメカニズムについて理解する。なぜ感情が生起するのか、感情と身体反応（脳の活動、生理反応、免疫反応）はどのような関係をもつのかについて理解を深める。

授業の概要

ヒトを含む動物は感情・情動という心理的機能を生得的に有している。情動は比較的短期の感情の動きと定義され、快と不快の情動に分類される。食欲や性欲などが充足された時には快の情動が生じ、恐怖、嫌悪、怒りなどは不快情動が生じる。本講義では、情動の起源、情動の分類、情動を制御する脳内機構、情動障害のメカニズムについて、ヒトや動物から得られた知見を紹介し、解説する。さらに、二個体以上の相互作用からなる行動、社会行動（攻撃行動、性行動、養育行動、愛着行動）の心理的メカニズムおよびそれを制御する脳内機構、神経内分泌機構についても解説する。

準備学習（予習・復習）

予復習は特に求めませんが，その分授業時間内で集中して取り組んで下さい。

内　容

第1回　感情とは？
第2回　情動と感情
第3回　情動理論
第4回　進化と情動
第5回　快の情動
第6回　快の情動と神経回路
第7回　不快の情動
第8回　不快の情動の神経回路
第9回　情動障害1
第10回　情動障害2
第11回　攻撃行動の基礎
第12回　つがい形成行動、愛着行動の基礎
第13回　養育行動の基礎
第14回　他個体の認知
第15回　こころの絆の形成

履修上の注意点

遅刻をしないで下さい。皆さんの主体的な取り組みに期待します。

教科書

感情と心理学
著者：　高橋雅延・谷口高士　編
出版社：北大路書房
出版年：2009年　　ISBN：

参考書

認知と感情の心理学
著者：　高橋雅延
出版社：岩波書店
出版年：2008年　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（　）
参加度（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学史**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　上村 晃弘	

テーマ

近代心理学の成立以前から現代まで、心理学の歩んできた歴史について理解を深める。

授業の到達目標

心理学の成立についての関連領域からの影響や各領域の歴史、社会との関わりについて理解する。心理学における研究がどのような背景で生まれ、また以降にどのような影響を及ぼしたのかという因果関係について把握する。

授業の概要

心理学の歴史について、テキストを中心に資料や動画などを使用して講義する。

準備学習（予習・復習）

予習：あらかじめテキストを読んでおく。復習：テキスト、資料等を読んで理解の確認をすること。

内　容

第1回　序章 心理学史の方法論　終章 心理学史の現状と展望
第2回　第1章 19世紀の心理学 1 心理学の前史
第3回　第1章 19世紀の心理学 2 精神物理学とヴントの実験心理学 3 ドイツにおける学派
第4回　第1章 19世紀の心理学 4 アメリカの心理学　第2章 20世紀の3大潮流とその批判 1 行動主義
第5回　第2章 20世紀の3大潮流とその批判 2 ゲシュタルト心理学 3 精神分析
第6回　第2章 20世紀の3大潮流とその批判 4 認知心理学 5 ヒューマニスティック心理学
第7回　第3章 心理学と社会 1 概説 2 初期における社会と心理学のコラボレーション 2-1 児童心理学 2-2 教育と心理学 2-3 法と心理学
第8回　第3章 心理学と社会 2-4 精神病と心理学 2-5 集団, 産業, 社会と心理学 3 心理学と社会とのさらなる関わり 3-1 社会心理学の二分化 3-2 個人差の理解の進展
第9回　第3章 心理学と社会 3-3 発達への視点・発達からの視点 3-4 個人差測定検査および臨床心理学の展開
第10回 第3章 心理学と社会 4 第二次世界大戦後の展開
第11回 第4章 日本の心理学史 1 前史 2 心理学という学範の成立
第12回 第4章 日本の心理学史 3 心理学の展開 4 制度化と展開 5 復興期の心理学
第13回 第5章 心理学史の見方 1 個人差への興味とその先駆者 2 実用的な知能検査の成立
第14回 第5章 心理学史の見方 3 知能検査の普及と変質 4 知能研究の広がり
第15回 第5章 心理学史の見方 5 争点としての知能 6 知能検査の歴史から学ぶこと

履修上の注意点

出席、授業態度などの平常点を重視する。単位認定には10回以上の出席が必要である。授業中のスマートフォンや携帯電話の使用は厳禁とする。

教科書

流れを読む心理学史
著者：　サトウタツヤ・高砂美樹
出版社：有斐閣
出版年：2003　　ISBN：4641121958

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 70 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）
授業中課題とは、第15回終了後の期末レポートのことを指す。

2016 Syllabus

科 目 名　**実験心理学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　上北　朋子	

テーマ

心理学実験の方法論と意義

授業の到達目標

行動や心を科学的に分析するための心理学実験の基礎について学ぶ。各自が研究に取り組む際に適切な手法を選択し、実験を実施出来るようになることを目標とする。

授業の概要

実証的な研究を行うときに、どのように変数を操作して行動を測定すればよいのか、また、統制すべきものは何かが問題になる。これらを様々な実験場面にあわせて、体系的に学習する。

準備学習（予習・復習）

教科書を読み、講義中に作成したノートを充実させる。

内　容

第1回　心理学実験の意義
第2回　実験法の基本
第3回　信頼性と妥当性
第4回　被験者間計画と被験者内計画
第5回　剰余変数の統制
第6回　カウンターバランスと無作為化
第7回　要因計画（1）要因と水準
第8回　要因計画（2）主効果と交互作用
第9回　実験計画の実際（1）
第10回　実験計画の実際（2）
第11回　記述統計と推測統計
第12回　帰無仮説と対立仮説
第13回　有意水準と臨界値
第14回　データの統計処理
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

パワーポイントのハンドアウトは配布しません。自筆ノートを作成してください。

教科書

心理学研究法　心を見つめる科学のまなざし
著者:　高野陽太郎、岡隆
出版社:　有斐閣
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 60 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 10 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**行動分析学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　上北　朋子	

テーマ

こころを理解するための行動分析学：基礎から応用まで

授業の到達目標

こころを科学的にとらえる手法を提示した行動分析学の考え方を理解する。その上で、この理論が教育、医療、福祉、および子育ての場面でいかに活用されてきたのかを学ぶ。

授業の概要

自分を理解し、他者を理解するには、まず人間の行動がどのようなものであるかについての知識が必要である。これまでの研究で得られた実証的事実やそれに基づく理論を解説し、それらが我々にとってどのような意味を持ち、夜会において機能しているかについて考える。

準備学習（予習・復習）

授業後に教科書や参考書を読み、理解の不十分だった点を補うこと。

内　容

第1回　行動分析学とは
第2回　行動分析学における行動の捉え方
第3回　行動のきっかけとなる環境変化
第4回　確立操作
第5回　レスポンデント条件付け（1）成立過程
第6回　レスポンデント条件付け（2）情動反応
第7回　レスポンデント条件付け（3）消去と恐怖症の治療
第8回　オペラント条件付け（1）行動随伴生
第9回　オペラント条件付け（2）強化スケジュール
第10回　オペラント条件付け（3）消去
第11回　オペラント条件付け（4）オペラントクラスと行動次元
第12回　事例をもとにした機能分析
第13回　言語行動
第14回　模倣行動
第15回　迷信行動

履修上の注意点

パワーポイントのハンドアウトは配布しない。自筆ノートを作成すること。

教科書

行動の基礎 豊かな人間理解のために
著者：　小野浩一
出版社：培風館
出版年：　　ISBN：

参考書

行動分析
著者：　大河内浩人、武藤崇
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 80 ）	小テスト（　）
授業中課題　（　）	授業中発表等　（ 10 ）
参加度　（ 10 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**パーソナリティ心理学Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　井上　裕樹

テーマ

パーソナリティ心理学への理解をさらに深めていく

授業の到達目標

臨床心理学の基礎となるパーソナリティ理論について学びつつ、人間への理解、自分とはいったい何者かということに対しても多面的な理解を深めていくことを目標とする。

授業の概要

パーソナリティの研究においては、それらがどのように形成され、変容していくのか、人格に関する諸理論を紹介しながら概説する。また簡易な検査や測定などの体験によって、自分自身についても理解を深めていく。

準備学習（予習・復習）

事前に配布するレジュメに目を通して授業に臨んでください。また、授業中に紹介する参考文献も積極的に読んでもらいたい。

内　容

第1回　パーソナリティという概念について
第2回　パーソナリティの 類型論と特性論
第3回　パーソナリティ発達の諸要因
第4回　パーソナリティの諸理論(1)
第5回　パーソナリティの諸理論(2)
第6回　パーソナリティの変化
第7回　パーソナリティと文化
第8回　発達とパーソナリティの形成(1)
第9回　発達とパーソナリティの形成(2)
第10回　人格と適応(1)
第11回　人格と適応(2)
第12回　パーソナリティ理解の方法(1)
第13回　パーソナリティ理解の方法(2)
第14回　パーソナリティ障害について
第15回　まとめ
第16回　期末試験

履修上の注意点

講義をしっかり聴き、学ぶ意志のあること。授業内で少人数グループでのディスカッションを適宜取り入れていくので、積極的に参加してもらいたい。また授業への受講態度の不適切な者には退出を求めることがあります。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　(60)　　小テスト（ ）

授業中課題　(20)　　授業中発表等（ ）

参加度　(20)

授業内での発言、コメントカードへの記述など積極的な授業参加を評価します。

2016 Syllabus

科 目 名　**対人援助論A**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　菅　佐和子	

テーマ

授業の到達目標

心理学的対人援助の基礎を学ぶ

授業の概要

心理学的対人援助の理論とスキルについて、その基礎となるC・ロジャーズによる「来談者中心法（Client centered therapy）」およびE・バーンによる「交流分析（Transactional Analysis）」の理論について理解する。また、ロジャーズがセラピストに求めた「受容」「共感」「自己一致」の態度や傾聴のスキル、バーンによる「交流」の視点を獲得する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　心理学的対人援助とは
第2回　Rogersによる「来談者中心法」
第3回　「来談者中心法」を考える
第4回　「来談者中心法」とは
第5回　「来談者中心法」をマイクロカウンセリングの視点から分析する
第6回　「マイクロカウンセリング」基本的傾聴技法、質問技法
第7回　「マイクロカウンセリング」言い換え技法、最小限お励まし、感情の同定
第8回　「傾聴」とは
第9回　来談者中心法　まとめ
第10回　交流分析　交流分析とは
第11回　交流分析　エゴグラム
第12回　交流分析　やりとり分析
第13回　交流分析　ゲーム・人生脚本
第14回　交流分析　再決断療法（TA・ゲシュタルト）
第15回　授業　まとめ

履修上の注意点

C・ロジャーズおよびE・バーン関連図書の講読。

教科書

ロジャーズ　クライエント中心療法の現在
著者：　村瀬孝雄・村瀬嘉代子　編
出版社：日本評論社
出版年：　　ISBN：

講座サイコセラピー 第8巻　交流分析
著者：　杉田峰康
出版社：日本文化科学社
出版年：　　ISBN：

参考書

マイクロカウンセリングの理論と実践
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 80 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等　（　）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**対人援助論B**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　松下　幸治.坂本　敏郎.菅　佐和子.滝野　功久.殿谷　仁志.中西　龍一.日比野　英子	

テーマ

心理・福祉・教育・医療等の種々の領域で展開されている「対人援助行為」について広く概観する。

授業の到達目標

「臨床の知」のみならず「科学」の視点も盛り込み、広く「人が人を援助するとはどういうことか」について考える。具体的には脳科学の視点からの貢献、母子臨床からの視点、コミュニティ・サポートの視点、心理療法からのアプローチについて、それぞれの観点から「人の役に立つ」営みについて考察を深めることができる。

授業の概要

松下を全15回のコーディネーターとし、5名の教員（坂本、日比野、菅、滝野、中西）との対話形式で対人援助についての議論を展開する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション①～対人援助行為とは～
第2回　オリエンテーション②～対人援助の「光」と「影」～
第3回　心理学への興味とその後の展開
第4回　「臨床の知」と「科学の知」
第5回　治療的面接学と脳科学の出会い
第6回　乳幼児の発達～愛着を中心として～
第7回　母と子のユニット
第8回　「臨床乳児」と「被観察乳児」
第9回　対人援助論
第10回　個人開業の立場から
第11回　Perls.F.S.の背景
第12回　ゲシュタルト療法の実際
第13回　広く心理療法に通底するもの
第14回　まとめ①～「精神科心理臨床」と「日常的心理臨床」～
第15回　まとめ②～「良識」に基づいた「当たり前の行為」としての対人援助～

履修上の注意点

教科書

参考書

現実に介入しつつ心に関わる
著者：　田嶌誠一
出版社：金剛出版
出版年：２００９年　　ISBN：　978-7724-1103-5

嘘を生きる人妄想を生きる人ー個人神話の創造と病ー
著者：　武野俊弥
出版社：新曜社
出版年：２００５年　　ISBN：　4-7885-0960-1

ゲシュタルト療法入門
著者：　倉戸ヨシヤ（編）
出版社：金剛出版
出版年：２０１２年　　ISBN：　978-7724-1281-0

a90202e650

愛着の発達

著者:　繁多進

出版社: 大日本図書

出版年: １９８７年　　ISBN:　4-477-12155-5

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 50 ）

毎回の講義の感想を自由に書いてもらう。

2016 Syllabus

科 目 名　**カウンセリング**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　大久保　千恵	

テーマ

カウンセリングの理論についての基礎知識を習得し、カウンセリングの実践についての理解を深める

授業の到達目標

ストレス社会と言われる現代社会では、多くの人が様々な問題で悩んでいます。そうした悩み解決の一つの方法としして「カウンセリング」があります。本講義では、カウンセリングの基本的な知識を学び、実践現場の様子を知っていただきますが、カウンセリングの技法を用いた「話の聴き方」というのは、日常生活での人間関係を円滑にすることにも役立つものです。したがって、こころの問題やカウンセリングの技法について専門的な知識のを習得していただくとともに、自己理解を深め、日常場面でも役立つことを目指します。

授業の概要

パワーポイントを用いて授業を行います。テキストは特に指定せず、毎回資料を配布します。授業の中で体験的なワークや、ロールプレイなども取り入れます。

準備学習（予習・復習）

社会で起きている「人のこころに関わる問題」に目を向けてください。授業後の復習をしっかり行い、疑問に思ったことやわからないことは自分で調べたり、積極的に質問をしたりするようにしてください。ご紹介した参考書籍を読んでみてください。

内　容

第1回　オリエンテーションカウンセリングとは　カウンセリングの定義と目的
第2回　カウンセリングの理論と技法Ⅰ　クライアント中心療法①カール・ロジャーズの生涯とクライエント中心療法
第3回　カウンセリングの理論と技法Ⅰ　クライアント中心療法②クライエント中心療法の基本的な考え方体験ワーク1
第4回　カウンセリングの理論と技法Ⅰ　クライアント中心療法③クライエント中心療法の基本的な考え方体験ワーク2
第5回　カウンセリングの理論と技法Ⅱ　精神分析的心理療法
第6回　カウンセリングの理論と技法Ⅲ　認知行動論的立場に立つカウンセリング・問題解決志向的立場に立つカウンセリング・折衷的立場に立つカウンセリング
第7回　カウンセリングの段階とプロセス①カウンセリングの初期

第8回　カウンセリングの段階とプロセス②カウンセリングの中期ロールプレイ1
第9回　カウンセリングの段階とプロセス　①カウンセリングの後期ロールプレイ2
第10回　カウンセリングの実践①医療におけるカウンセリング
第11回　カウンセリングの実践②学校におけるカウンセリング
第12回　カウンセリングの実践③発達臨床におけるカウンセリング
第13回　カウンセリングの実践④産業領域におけるカウンセリング
第14回　日常に役立つカウンセリング①カウンセリングマインド・認知療法体験ワーク3
第15回　日常に役立つカウンセリング②アサーショントレーニング体験ワーク4

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

カウンセリングプロセスハンドブック
著者:　福島脩美・田上不二夫・沢崎達夫・諸富祥彦　編
出版社:　金子書房
出版年:　2004　　ISBN:　9784760823178

カウンセリング・心理療法の基礎
著者:　金沢吉展　編
出版社:　有斐閣アルマ
出版年:　2007　　ISBN:　9784641123373

a90202e710

新版 カウンセリングの話
著者:　平木典子
出版社: 朝日選書
出版年: 2004　ISBN: 9784022598448

新しいカウンセリングの技法
著者:　諸富祥彦
出版社: 誠信書房
出版年: 2014　ISBN: 9784414403756

カウンセリングを学ぶ　第2版　理論・体験・実習
著者:　佐治守夫・岡村達也・保坂了　編
出版社: 東京大学出版会
出版年: 2007　ISBN: 9784130120456

成績評価

試験 （ 50% ）　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ 10% ）
試験以外の成績評価として、授業中に行う体験ワークやロールプレイについての振り返りを重視します。

2016 Syllabus

科 目 名　**グループワークⅠ〈a〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　松下　幸治

テーマ

他者（グループ・メンバー）と出会う体験を通して自身の内的世界と多少なりとも目を背けない姿勢を養う。

授業の到達目標

人間性心理学的立場の論理的理解を深めるとともに、それとは別次元に「なま」の関係性を通して、ともすれば「回避的」ないし「退却的」になりがちな自らの対人関係のあり様を見つめ、「自己援助的内省」を活性化していくこと。

授業の概要

グループワーク中心に展開されます。

準備学習（予習・復習）

グループ体験の中で得られた「自己の気づき」をその場限りで流すことなく、必ずふり返り、日常生活の中に活かすことを心がけてください。評価の対象とはなりませんが、「自己の気づき」についてジャーナル（日誌）をつけることをお勧めします。

内　容

第1回　オリエンテーション（アイスブレイキング）
第2回　回避性人格（avoidant personality)の理解とディスカッション
第3回　対人関係体験様式①（関係性拒否・拘束段階）の理解とディスカッション
第4回　対人関係体験様式②（関係性観察段階）の理解とディスカッション
第5回　対人関係体験様式③（関係性直面段階）の理解とディスカッション
第6回　対人関係体験様式④）関係性体験段階）の理解とディスカッション
第7回　対人関係体験様式⑤（関係性受容段階）の理解とディスカッション
第8回　対人関係体験様式①～⑤の「吟味」と「物語紡ぎ」
第9回　「いま、ここ（here and now）」での「感じ」の焦点化
第10回　「伝えること」と「伝わること」
第11回　「論理的普遍性」と「臨床的個別性」
第12回　「空想（fantasy)」と「想像（imagination)」の区別について
第13回　「出会い体験」から「つながり体験」へ
第14回　マイクロカウンセリング技法概観
第15回　より深く豊かな関係性をめざして～ディスカッション（まとめ）

履修上の注意点

基本的には全授業の出席と、どのような形であれ主体的な参加態度が求められます。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 60 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**グループワークⅠ〈b〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　菅 佐和子

テーマ

他者（グループ・メンバー）と出会う体験を通して自身の内的世界と多少なりとも目を背けない姿勢を養う。

授業の到達目標

人間性心理学的立場の論理的理解を深めるとともに、それとは別次元に「なま」の関係性を通して、ともすれば「回避的」ないし「退却的」になりがちな自らの対人関係のあり様を見つめ、「自己援助的内省」を活性化していくこと。

授業の概要

グループワーク中心に展開されます。

準備学習（予習・復習）

グループ体験の中で得られた「自己の気づき」をその場限りで流すことなく、必ずふり返り、日常生活の中に活かすことを心がけてください。評価の対象とはなりませんが、「自己の気づき」についてジャーナル（日誌）をつけることをお勧めします。

内　容

第1回　オリエンテーション（アイスブレイキング）
第2回　回避性人格（avoidant personality)の理解とディスカッション
第3回　対人関係体験様式①（関係性拒否・拘束段階）の理解とディスカッション
第4回　対人関係体験様式②（関係性観察段階）の理解とディスカッション
第5回　対人関係体験様式③（関係性直面段階）の理解とディスカッション
第6回　対人関係体験様式④）関係性体験段階）の理解とディスカッション
第7回　対人関係体験様式⑤（関係性受容段階）の理解とディスカッション
第8回　対人関係体験様式①～⑤の「吟味」と「物語紡ぎ」
第9回　「いま、ここ（here and now）」での「感じ」の焦点化
第10回　「伝えること」と「伝わること」
第11回　「論理的普遍性」と「臨床的個別性」
第12回　「空想（fantasy)」と「想像（imagination)」の区別について
第13回　「出会い体験」から「つながり体験」へ
第14回　マイクロカウンセリング技法概観
第15回　より深く豊かな関係性をめざして～ディスカッション（まとめ）

履修上の注意点

基本的には全授業の出席と、どのような形であれ主体的な参加態度が求められます。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 60 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**グループワークⅠ〈c〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　殿谷 仁志

テーマ

他者（グループ・メンバー）と出会う体験を通して自身の内的世界と多少なりとも目を背けない姿勢を養う。

授業の到達目標

人間性心理学的立場の論理的理解を深めるとともに、それとは別次元に「なま」の関係性を通して、ともすれば「回避的」ないし「退却的」になりがちな自らの対人関係のあり様を見つめ、「自己援助的内省」を活性化していくこと。

授業の概要

グループワーク中心に展開されます。

準備学習（予習・復習）

グループ体験の中で得られた「自己の気づき」をその場限りで流すことなく、必ずふり返り、日常生活の中に活かすことを心がけてください。評価の対象とはなりませんが、「自己の気づき」についてジャーナル（日誌）をつけることをお勧めします。

内　容

第1回　オリエンテーション（アイスブレイキング）
第2回　回避性人格（avoidant personality)の理解とディスカッション
第3回　対人関係体験様式①（関係性拒否・拘束段階）の理解とディスカッション
第4回　対人関係体験様式②（関係性観察段階）の理解とディスカッション
第5回　対人関係体験様式③（関係性直面段階）の理解とディスカッション
第6回　対人関係体験様式④）関係性体験段階）の理解とディスカッション
第7回　対人関係体験様式⑤（関係性受容段階）の理解とディスカッション
第8回　対人関係体験様式①～⑤の「吟味」と「物語紡ぎ」
第9回　「いま、ここ（here and now）」での「感じ」の焦点化
第10回　「伝えること」と「伝わること」
第11回　「論理的普遍性」と「臨床的個別性」
第12回　「空想（fantasy)」と「想像（imagination)」の区別について
第13回　「出会い体験」から「つながり体験」へ
第14回　マイクロカウンセリング技法概観
第15回　より深く豊かな関係性をめざして～ディスカッション（まとめ）

履修上の注意点

基本的には全授業の出席と、どのような形であれ主体的な参加態度が求められます。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 60 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**グループワークⅠ <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　滝野 功久	

テーマ

他者（グループ・メンバー）と出会う体験を通して自身の内的世界と多少なりとも目を背けない姿勢を養う。

授業の到達目標

人間性心理学的立場の論理的理解を深めるとともに、それとは別次元に「なま」の関係性を通して、ともすれば「回避的」ないし「退却的」になりがちな自らの対人関係のあり様を見つめ、「自己援助的内省」を活性化していくこと。

授業の概要

グループワーク中心に展開されます。

準備学習（予習・復習）

グループ体験の中で得られた「自己の気づき」をその場限りで流すことなく、必ずふり返り、日常生活の中に活かすことを心がけてください。評価の対象とはなりませんが、「自己の気づき」についてジャーナル（日誌）をつけることをお勧めします。

内　容

第1回　オリエンテーション（アイスブレイキング）
第2回　回避性人格（avoidant personality)の理解とディスカッション
第3回　対人関係体験様式①（関係性拒否・拘束段階）の理解とディスカッション
第4回　対人関係体験様式②（関係性観察段階）の理解とディスカッション
第5回　対人関係体験様式③（関係性直面段階）の理解とディスカッション
第6回　対人関係体験様式④）関係性体験段階）の理解とディスカッション
第7回　対人関係体験様式⑤（関係性受容段階）の理解とディスカッション
第8回　対人関係体験様式①～⑤の「吟味」と「物語紡ぎ」
第9回　「いま、ここ（here and now）」での「感じ」の焦点化
第10回　「伝えること」と「伝わること」
第11回　「論理的普遍性」と「臨床的個別性」
第12回　「空想（fantasy)」と「想像（imagination)」の区別について
第13回　「出会い体験」から「つながり体験」へ
第14回　マイクロカウンセリング技法概観
第15回　より深く豊かな関係性をめざして～ディスカッション（まとめ）

履修上の注意点

基本的には全授業の出席と、どのような形であれ主体的な参加態度が求められます。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 40 ）	授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 60 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**グループワークⅠ〈e〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　山崎　貴子	

テーマ

他者（グループ・メンバー）と出会う体験を通して自身の内的世界と多少なりとも目を背けない姿勢を養う。

授業の到達目標

人間性心理学的立場の論理的理解を深めるとともに、それとは別次元に「なま」の関係性を通して、ともすれば「回避的」ないし「退却的」になりがちな自らの対人関係のあり様を見つめ、「自己援助的内省」を活性化していくこと。

授業の概要

グループワーク中心に展開されます。

準備学習（予習・復習）

グループ体験の中で得られた「自己の気づき」をその場限りで流すことなく、必ずふり返り、日常生活の中に活かすことを心がけてください。評価の対象とはなりませんが、「自己の気づき」についてジャーナル（日誌）をつけることをお勧めします。

内　容

第1回　オリエンテーション（アイスブレイキング）
第2回　回避性人格（avoidant personality)の理解とディスカッション
第3回　対人関係体験様式①（関係性拒否・拘束段階）の理解とディスカッション
第4回　対人関係体験様式②（関係性観察段階）の理解とディスカッション
第5回　対人関係体験様式③（関係性直面段階）の理解とディスカッション
第6回　対人関係体験様式④）関係性体験段階）の理解とディスカッション
第7回　対人関係体験様式⑤（関係性受容段階）の理解とディスカッション
第8回　対人関係体験様式①～⑤の「吟味」と「物語紡ぎ」
第9回　「いま、ここ（here and now）」での「感じ」の焦点化
第10回　「伝えること」と「伝わること」
第11回　「論理的普遍性」と「臨床的個別性」
第12回　「空想（fantasy)」と「想像（imagination)」の区別について
第13回　「出会い体験」から「つながり体験」へ
第14回　マイクロカウンセリング技法概観
第15回　より深く豊かな関係性をめざして～ディスカッション（まとめ）

履修上の注意点

基本的には全授業の出席と、どのような形であれ主体的な参加態度が求められます。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 60 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　グループワークⅡ〈a〉

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　松下　幸治

テーマ

対人援助行為の本質として、他者の「他者性」を身体感覚を媒介に感じ取り、真の共感性を体験する。

授業の到達目標

対人援助行為においてはもちろんのこと、日常ないし生活の中の人間関係においても、自身の、時として身勝手な空想―fantasyに基づく他者への「思い込み」や「決めつけ」が、長い間他者を傷つけてしまう恐れがあるという臨床的事実について、身体を媒介にしたワークの体験を通じて実感してもらうことを本科目のねらいとする。他者の「他者性」を自覚することにより、真の「共感―empathy」が可能となることを体感してもらうことで、「良質な」対人援助行為の理解を深める。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

「思い込み」と「思いやり」のちがいを日常的に感じてみる。

内　容

第1回　I(私) ―message法(「自」と「他」の区別を実感する体験)
第2回　振り返り(気づき)
第3回　肩たたきのワーク(他者化―alienateされた他者の実感①)
第4回　振り返り(気づき)
第5回　trust walk(他者化―alienateされた他者の実感②)
第6回　振り返り(気づき)
第7回　「思い込み」の弊害(「空想―fantasy」と「想像―imagination」の違いを実感する体験)
第8回　振り返り(気づき)
第9回　「わかること」から「わかろうとするこころ」へ(相互性―mutualityの深化)
第10回　振り返り(気づき)
第11回　「自」と「他」の区別について
第12回　他者化―alienateされた他者について
第13回　「空想―fantasy」と「想像―imagination」の違いについて
第14回　「会話」と「対話」
第15回　「共感―empathyと同情―sympathyの相違点」についての概念化

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 60% ）

2016 Syllabus

科 目 名　グループワークⅡ <b>

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　菅 佐和子

テーマ

対人援助行為の本質として、他者の「他者性」を身体感覚を媒介に感じ取り、真の共感性を体験する。

授業の到達目標

対人援助行為においてはもちろんのこと、日常ないし生活の中の人間関係においても、自身の、時として身勝手な空想―fantasyに基づく他者への「思い込み」や「決めつけ」が、長い間他者を傷つけてしまう恐れがあるという臨床的事実について、身体を媒介にしたワークの体験を通じて実感してもらうことを本科目のねらいとする。他者の「他者性」を自覚することにより、真の「共感―empathy」が可能となることを体感してもらうことで、「良質な」対人援助行為の理解を深める。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

「思い込み」と「思いやり」のちがいを日常的に感じてみる。

内　容

第1回　I(私) ―message法(「自」と「他」の区別を実感する体験)
第2回　振り返り(気づき)
第3回　肩たたきのワーク(他者化―alienateされた他者の実感①)
第4回　振り返り(気づき)
第5回　trust walk(他者化―alienateされた他者の実感②)
第6回　振り返り(気づき)
第7回　「思い込み」の弊害(「空想―fantasy」と「想像―imagination」の違いを実感する体験)
第8回　振り返り(気づき)
第9回　「わかること」から「わかろうとするこころ」へ(相互性―mutualityの深化)
第10回　振り返り(気づき)
第11回　「自」と「他」の区別について
第12回　他者化―alienateされた他者について
第13回　「空想―fantasy」と「想像―imagination」の違いについて
第14回　「会話」と「対話」
第15回　「共感―empathyと同情―sympathyの相違点」についての概念化

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 60% ）

2016 Syllabus

科 目 名　グループワークⅡ <c>

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　殿谷 仁志

テーマ

対人援助行為の本質として、他者の「他者性」を身体感覚を媒介に感じ取り、真の共感性を体験する。

授業の到達目標

対人援助行為においてはもちろんのこと、日常ないし生活の中の人間関係においても、自身の、時として身勝手な空想―fantasyに基づく他者への「思い込み」や「決めつけ」が、長い間他者を傷つけてしまう恐れがあるという臨床的事実について、身体を媒介にしたワークの体験を通じて実感してもらうことを本科目のねらいとする。他者の「他者性」を自覚することにより、真の「共感―empathy」が可能となることを体感してもらうことで、「良質な」対人援助行為の理解を深める。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

「思い込み」と「思いやり」のちがいを日常的に感じてみる。

内　容

第1回　I(私) ―message法(「自」と「他」の区別を実感する体験)
第2回　振り返り(気づき)
第3回　肩たたきのワーク(他者化―alienateされた他者の実感①)
第4回　振り返り(気づき)
第5回　trust walk(他者化―alienateされた他者の実感②)
第6回　振り返り(気づき)
第7回　「思い込み」の弊害(「空想―fantasy」と「想像―imagination」の違いを実感する体験)
第8回　振り返り(気づき)
第9回　「わかること」から「わかろうとするこころ」へ(相互性―mutualityの深化)
第10回　振り返り(気づき)
第11回　「自」と「他」の区別について
第12回　他者化―alienateされた他者について
第13回　「空想―fantasy」と「想像―imagination」の違いについて
第14回　「会話」と「対話」
第15回　「共感―empathyと同情―sympathyの相違点」についての概念化

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 60% ）

2016 Syllabus

科 目 名　グループワークⅡ <d>

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　滝野 功久

テーマ

対人援助行為の本質として、他者の「他者性」を身体感覚を媒介に感じ取り、真の共感性を体験する。

授業の到達目標

対人援助行為においてはもちろんのこと、日常ないし生活の中の人間関係においても、自身の、時として身勝手な空想―fantasyに基づく他者への「思い込み」や「決めつけ」が、長い間他者を傷つけてしまう恐れがあるという臨床的事実について、身体を媒介にしたワークの体験を通じて実感してもらうことを本科目のねらいとする。他者の「他者性」を自覚することにより、真の「共感―empathy」が可能となることを体感してもらうことで、「良質な」対人援助行為の理解を深める。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

「思い込み」と「思いやり」のちがいを日常的に感じてみる。

内　容

第1回　I(私) ―message法(「自」と「他」の区別を実感する体験)
第2回　振り返り(気づき)
第3回　肩たたきのワーク(他者化―alienateされた他者の実感①)
第4回　振り返り(気づき)
第5回　trust walk(他者化―alienateされた他者の実感②)
第6回　振り返り(気づき)
第7回　「思い込み」の弊害(「空想―fantasy」と「想像―imagination」の違いを実感する体験)
第8回　振り返り(気づき)
第9回　「わかること」から「わかろうとするこころ」へ(相互性―mutualityの深化)
第10回　振り返り(気づき)
第11回　「自」と「他」の区別について
第12回　他者化―alienateされた他者について
第13回　「空想―fantasy」と「想像―imagination」の違いについて
第14回　「会話」と「対話」
第15回　「共感―empathyと同情―sympathyの相違点」についての概念化

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 60% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**グループワークⅡ <e>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　山崎　貴子

テーマ

対人援助行為の本質として、他者の「他者性」を身体感覚を媒介に感じ取り、真の共感性を体験する。

授業の到達目標

対人援助行為においてはもちろんのこと、日常ないし生活の中の人間関係においても、自身の、時として身勝手な空想―fantasyに基づく他者への「思い込み」や「決めつけ」が、長い間他者を傷つけてしまう恐れがあるという臨床的事実について、身体を媒介にしたワークの体験を通じて実感してもらうことを本科目のねらいとする。他者の「他者性」を自覚することにより、真の「共感―empathy」が可能となることを体感してもらうことで、「良質な」対人援助行為の理解を深める。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

「思い込み」と「思いやり」のちがいを日常的に感じてみる。

内　容

第1回　I(私) ―message法(「自」と「他」の区別を実感する体験)
第2回　振り返り(気づき)
第3回　肩たたきのワーク(他者化―alienateされた他者の実感①)
第4回　振り返り(気づき)
第5回　trust walk(他者化―alienateされた他者の実感②)
第6回　振り返り(気づき)
第7回　「思い込み」の弊害(「空想―fantasy」と「想像―imagination」の違いを実感する体験)
第8回　振り返り(気づき)
第9回　「わかること」から「わかろうとするこころ」へ(相互性―mutualityの深化)
第10回　振り返り(気づき)
第11回　「自」と「他」の区別について
第12回　他者化―alienateされた他者について
第13回　「空想―fantasy」と「想像―imagination」の違いについて
第14回　「会話」と「対話」
第15回　「共感―empathyと同情―sympathyの相違点」についての概念化

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 60% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**グループワークⅢ <a>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　松下　幸治

テーマ

集団内における、自身の「心の安全保障感」の重要性を体感し、心の声に耳を傾ける。

授業の到達目標

グループの風土によって各自確保されてきつつある「安全保障感」を味わう中で、自身の身体感覚に耳を傾け、緊張が徐々に弛緩されていくプロセスを体験してもらう。その際、グループの安全な風土とともに、その非日常空間における「聖域性」を体験し、その雰囲気こそが自己援助的内省を活性化させるのに大変重要であることを理解してもらうことを、本科目のねらいとする。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

日常場面における自らの安全な居場所探しをしてみる。

内　容

第1回　他者に必要とされること、我に返るということ(社会的居場所、人間的居場所について)
第2回　振り返り(気づき)
第3回　グループという「安全な場所」(一時的居場所、永続的居場所について)
第4回　振り返り(気づき)
第5回　グループという「特別な場所」(非日常空間の聖域性を自覚する体験)
第6回　振り返り(気づき)
第7回　身体の声に耳を傾ける(自己援助的内省を活性化させる体験)
第8回　振り返り(気づき)
第9回　身体の声を表現する(内省体験の自己開示)
第10回　振り返り(気づき)
第11回　社会的居場所、人間的居場所について
第12回　心身相関
第13回　日常の中の非日常
第14回　自己援助的内省を活性化させる体験
第15回　「安全空間における身体感覚の賦活」についての概念化

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 60 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**グループワークⅢ <b>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　菅 佐和子

テーマ

集団内における、自身の「心の安全保障感」の重要性を体感し、心の声に耳を傾ける。

授業の到達目標

グループの風土によって各自確保されてきつつある「安全保障感」を味わう中で、自身の身体感覚に耳を傾け、緊張が徐々に弛緩されていくプロセスを体験してもらう。その際、グループの安全な風土とともに、その非日常空間における「聖域性」を体験し、その雰囲気こそが自己援助的内省を活性化させるのに大変重要であることを理解してもらうことを、本科目のねらいとする。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

日常場面における自らの安全な居場所探しをしてみる。

内　容

第1回　他者に必要とされること、我に返るということ(社会的居場所、人間的居場所について)
第2回　振り返り(気づき)
第3回　グループという「安全な場所」(一時的居場所、永続的居場所について)
第4回　振り返り(気づき)
第5回　グループという「特別な場所」(非日常空間の聖域性を自覚する体験)
第6回　振り返り(気づき)
第7回　身体の声に耳を傾ける(自己援助的内省を活性化させる体験)
第8回　振り返り(気づき)
第9回　身体の声を表現する(内省体験の自己開示)
第10回　振り返り(気づき)
第11回　社会的居場所、人間的居場所について
第12回　心身相関
第13回　日常の中の非日常
第14回　自己援助的内省を活性化させる体験
第15回　「安全空間における身体感覚の賦活」についての概念化

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 60 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**グループワークⅢ <c>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　殿谷 仁志

テーマ

集団内における、自身の「心の安全保障感」の重要性を体感し、心の声に耳を傾ける。

授業の到達目標

グループの風土によって各自確保されてきつつある「安全保障感」を味わう中で、自身の身体感覚に耳を傾け、緊張が徐々に弛緩されていくプロセスを体験してもらう。その際、グループの安全な風土とともに、その非日常空間における「聖域性」を体験し、その雰囲気こそが自己援助的内省を活性化させるのに大変重要であることを理解してもらうことを、本科目のねらいとする。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

日常場面における自らの安全な居場所探しをしてみる。

内　容

第1回　他者に必要とされること、我に返るということ(社会的居場所、人間的居場所について)
第2回　振り返り(気づき)
第3回　グループという「安全な場所」(一時的居場所、永続的居場所について)
第4回　振り返り(気づき)
第5回　グループという「特別な場所」(非日常空間の聖域性を自覚する体験)
第6回　振り返り(気づき)
第7回　身体の声に耳を傾ける(自己援助的内省を活性化させる体験)
第8回　振り返り(気づき)
第9回　身体の声を表現する(内省体験の自己開示)
第10回　振り返り(気づき)
第11回　社会的居場所、人間的居場所について
第12回　心身相関
第13回　日常の中の非日常
第14回　自己援助的内省を活性化させる体験
第15回　「安全空間における身体感覚の賦活」についての概念化

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等（　）

参加度　（ 60 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**グループワークⅢ <d>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　滝野 功久

テーマ

集団内における、自身の「心の安全保障感」の重要性を体感し、心の声に耳を傾ける。

授業の到達目標

グループの風土によって各自確保されてきつつある「安全保障感」を味わう中で、自身の身体感覚に耳を傾け、緊張が徐々に弛緩されていくプロセスを体験してもらう。その際、グループの安全な風土とともに、その非日常空間における「聖域性」を体験し、その雰囲気こそが自己援助的内省を活性化させるのに大変重要であることを理解してもらうことを、本科目のねらいとする。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

日常場面における自らの安全な居場所探しをしてみる。

内　容

第1回　他者に必要とされること、我に返るということ(社会的居場所、人間的居場所について)
第2回　振り返り(気づき)
第3回　グループという「安全な場所」(一時的居場所、永続的居場所について)
第4回　振り返り(気づき)
第5回　グループという「特別な場所」(非日常空間の聖域性を自覚する体験)
第6回　振り返り(気づき)
第7回　身体の声に耳を傾ける(自己援助的内省を活性化させる体験)
第8回　振り返り(気づき)
第9回　身体の声を表現する(内省体験の自己開示)
第10回　振り返り(気づき)
第11回　社会的居場所、人間的居場所について
第12回　心身相関
第13回　日常の中の非日常
第14回　自己援助的内省を活性化させる体験
第15回　「安全空間における身体感覚の賦活」についての概念化

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 60 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**グループワークⅢ <e>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　山崎　貴子

テーマ

集団内における、自身の「心の安全保障感」の重要性を体感し、心の声に耳を傾ける。

授業の到達目標

グループの風土によって各自確保されてきつつある「安全保障感」を味わう中で、自身の身体感覚に耳を傾け、緊張が徐々に弛緩されていくプロセスを体験してもらう。その際、グループの安全な風土とともに、その非日常空間における「聖域性」を体験し、その雰囲気こそが自己援助的内省を活性化させるのに大変重要であることを理解してもらうことを、本科目のねらいとする。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

日常場面における自らの安全な居場所探しをしてみる。

内　容

第1回　他者に必要とされること、我に返るということ(社会的居場所、人間的居場所について)
第2回　振り返り(気づき)
第3回　グループという「安全な場所」(一時的居場所、永続的居場所について)
第4回　振り返り(気づき)
第5回　グループという「特別な場所」(非日常空間の聖域性を自覚する体験)
第6回　振り返り(気づき)
第7回　身体の声に耳を傾ける(自己援助的内省を活性化させる体験)
第8回　振り返り(気づき)
第9回　身体の声を表現する(内省体験の自己開示)
第10回　振り返り(気づき)
第11回　社会的居場所、人間的居場所について
第12回　心身相関
第13回　日常の中の非日常
第14回　自己援助的内省を活性化させる体験
第15回　「安全空間における身体感覚の賦活」についての概念化

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 60 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**グループワークⅣ <a>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　松下 幸治

テーマ

グループ体験とは

授業の到達目標

グループワークⅠ~Ⅲにおいてなされた様々な経験に知的枠組みを与え、経験の整理を目的とする。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　グループ･メンバーに助けられたこと(有機体としてのグループ)
第2回　振り返り(気づき)
第3回　改めて自分を物語ること(自分史紡ぎの体験)
第4回　振り返り(気づき)
第5回　グループの中の「ありのままの私」(グループ体験を通じて自己受容できる体験)
第6回　振り返り(気づき)
第7回　グループの中で「癒された私」(グループの治癒力)
第8回　振り返り(気づき)
第9回　まとめ(グループ体験の「とりあえずの」完結)
第10回　振り返り(気づき)
第11回　有機体としてのグループ
第12回　人生を物語ること
第13回　グループの治癒力
第14回　自己受容
第15回　「グループの潜在力―potential」あるいは「グループの知恵―wisdom」の考察

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 60% ）

2016 Syllabus

科 目 名　グループワークⅣ <b>

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　菅 佐和子

テーマ

グループ体験とは

授業の到達目標

グループワークⅠ~Ⅲにおいてなされた様々な経験に知的枠組みを与え、経験の整理を目的とする。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　グループ･メンバーに助けられたこと(有機体としてのグループ)
第2回　振り返り(気づき)
第3回　改めて自分を物語ること(自分史紡ぎの体験)
第4回　振り返り(気づき)
第5回　グループの中の「ありのままの私」(グループ体験を通じて自己受容できる体験)
第6回　振り返り(気づき)
第7回　グループの中で「癒された私」(グループの治癒力)
第8回　振り返り(気づき)
第9回　まとめ(グループ体験の「とりあえずの」完結)
第10回　振り返り(気づき)
第11回　有機体としてのグループ
第12回　人生を物語ること
第13回　グループの治癒力
第14回　自己受容
第15回　「グループの潜在力―potential」あるいは「グループの知恵―wisdom」の考察

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 60% ）

2016 Syllabus

科 目 名　グループワークⅣ <c>

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　殿谷 仁志

テーマ

グループ体験とは

授業の到達目標

グループワークⅠ~Ⅲにおいてなされた様々な経験に知的枠組みを与え、経験の整理を目的とする。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　グループ･メンバーに助けられたこと(有機体としてのグループ)
第2回　振り返り(気づき)
第3回　改めて自分を物語ること(自分史紡ぎの体験)
第4回　振り返り(気づき)
第5回　グループの中の「ありのままの私」(グループ体験を通じて自己受容できる体験)
第6回　振り返り(気づき)
第7回　グループの中で「癒された私」(グループの治癒力)
第8回　振り返り(気づき)
第9回　まとめ(グループ体験の「とりあえずの」完結)
第10回　振り返り(気づき)
第11回　有機体としてのグループ
第12回　人生を物語ること
第13回　グループの治癒力
第14回　自己受容
第15回　「グループの潜在力―potential」あるいは「グループの知恵―wisdom」の考察

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）

授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 0 ）

参加度 （ 60% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**グループワークⅣ <d>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　滝野 功久

テーマ

グループ体験とは

授業の到達目標

グループワークⅠ~Ⅲにおいてなされた様々な経験に知的枠組みを与え、経験の整理を目的とする。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　グループ･メンバーに助けられたこと(有機体としてのグループ)
第2回　振り返り(気づき)
第3回　改めて自分を物語ること(自分史紡ぎの体験)
第4回　振り返り(気づき)
第5回　グループの中の「ありのままの私」(グループ体験を通じて自己受容できる体験)
第6回　振り返り(気づき)
第7回　グループの中で「癒された私」(グループの治癒力)
第8回　振り返り(気づき)
第9回　まとめ(グループ体験の「とりあえずの」完結)
第10回　振り返り(気づき)
第11回　有機体としてのグループ
第12回　人生を物語ること
第13回　グループの治癒力
第14回　自己受容
第15回　「グループの潜在力―potential」あるいは「グループの知恵―wisdom」の考察

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 60% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**グループワークⅣ <e>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　山崎　貴子

テーマ

グループ体験とは

授業の到達目標

グループワークⅠ~Ⅲにおいてなされた様々な経験に知的枠組みを与え、経験の整理を目的とする。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　グループ･メンバーに助けられたこと(有機体としてのグループ)
第2回　振り返り(気づき)
第3回　改めて自分を物語ること(自分史紡ぎの体験)
第4回　振り返り(気づき)
第5回　グループの中の「ありのままの私」(グループ体験を通じて自己受容できる体験)
第6回　振り返り(気づき)
第7回　グループの中で「癒された私」(グループの治癒力)
第8回　振り返り(気づき)
第9回　まとめ(グループ体験の「とりあえずの」完結)
第10回　振り返り(気づき)
第11回　有機体としてのグループ
第12回　人生を物語ること
第13回　グループの治癒力
第14回　自己受容
第15回　「グループの潜在力―potential」あるいは「グループの知恵―wisdom」の考察

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 60% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**コミュニケーションとアート**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期集中　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　菅 佐和子

テーマ

総合的なアートとしての映画観賞とその後の話し合いを通してコミュニケーションを深める。

授業の到達目標

人間心理に深くかかわる名作映画から「感じ取る」力を深める。感じたことを、仲間と話し合うことによって、新たな「気づき」を得る。感じたこと、考えたことを「言語で表現する」力を育てる。表現したものについて仲間と話し合うことによって体験の「共有」を目指す。

授業の概要

土曜日に集中講義（3コマずつ）として行う。

準備学習（予習・復習）

授業後、各自の感じたことを記録し、再体験していただきたい。

内　容

第1回　オリエンテーション映画①の観賞
第2回　映画①の観賞（続き）
第3回　映画①についてのコミュニケーション
第4回　映画②の観賞
第5回　映画②の観賞（続き）
第6回　映画②についてのコミュニケーション
第7回　映画③の観賞
第8回　映画③の観賞（続き）
第9回　映画③についてのコミュニケーション
第10回　映画④の観賞
第11回　映画④の観賞（続き）
第12回　映画④についてのコミュニケーション
第13回　映画⑤の観賞
第14回　映画⑤の観賞（続き）
第15回　映画⑤についてのコミュニケーション　まとめ

履修上の注意点

授業中は、授業の内容に集中していただきたい。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に適宜伝達する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 50 ）
出席および授業中の発表やミニレポートの総計で行う

2016 Syllabus

科 目 名　**コミュニティ心理学**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　濱田 智崇

テーマ

地域社会に生かす臨床心理学

授業の到達目標

人間を生活者として、環境を含めて理解し、その視点での心理的援助を学ぶ

授業の概要

コミュニティ心理学の歴史的背景、基本的な発想、背景となるいくつかの理論、介入と援助について理解する。家庭や地域、学校教育、産業領域といった各分野での実践例にふれることを通じて、理解を深める。さらに、社会的文脈から人間の心理を理解できるようになり、さらに心理学を学んだ者として、自分自身が社会に対しどうかかわるかを考えることができるようになる。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　コミュニティ心理学とは何か・その概念と理念
第3回　コミュニティ心理学の歴史的背景
第4回　基本的発想（1）人と環境の適合を目指して
第5回　基本的発想（2）エンパワメントとサービス提供のあり方
第6回　背景となる理論（1）危機理論・ストレス理論等
第7回　背景となる理論（2）ソーシャルサポートをめぐって
第8回　介入と援助（1）危機介入・コンサルテーション
第9回　介入と援助（2）さまざまなアプローチ
第10回　子育て支援の実践から
第11回　DV対応における実践から
第12回　学校・教育における実践から
第13回　産業・職場における実践から
第14回　男性のための悩み相談の実践から
第15回　まとめ～学んだ皆さん自身の社会とのかかわりを考えるなお、外部講師を招いて講演会を開催することがある。

履修上の注意点

毎回の授業内容を復習し、それに対する自分の考え方をまとめておく。行政やNPO団体、ボランティア団体などが行っている市民活動にも関心を向けておき、授業中に紹介した実践に関連するものについて調べてみる。自分が関心をもてるものには、余裕があれば参加してみる。

教科書

よくわかるコミュニティ心理学
著者：　植村勝彦・高畠克子・箕口雅博・原裕視・久田満　編
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：　　ISBN：

参考書

男の電話相談
著者：　『男』悩みのホットライン　編
出版社：かもがわ出版
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
後半の実践の話では、毎回感想を提出してもらい、評価に含めます。

2016 Syllabus

科 目 名　**社会心理学Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　前田　洋光

テーマ

対人関係・対人行動・集団行動など、社会心理学の中心的テーマの概要を理解する

授業の到達目標

理論の習得はもちろんのことながら、受講者にとってきわめて身近なテーマであるため、日常生活と照らし合わせて考えることによって、「よりよい人間関係」「自分にとってより望ましいこれからの生き方」を考える。

授業の概要

本講では、社会心理学Ⅰの内容を踏まえた上で、特に対人関係・集団行動を中心に論考していく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　援助行動
第3回　攻撃行動
第4回　対人関係の諸相
第5回　恋愛
第6回　対人葛藤、社会的ジレンマ
第7回　孤独とソーシャルサポート
第8回　集団と個人
第9回　集団行動
第10回　リーダーシップ
第11回　群集行動
第12回　流言・デマ
第13回　流行
第14回　マスメディアの影響
第15回　まとめと確認

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

グラフィック　社会心理学
著者:　池上知子・遠藤由美
出版社:　サイエンス社
出版年:　　ISBN:

新編社会心理学　改訂版
著者:　堀洋道　監修　吉田富二雄・松井豊・宮元聡介　編
出版社:　福村出版
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 70 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**産業心理学Ⅰ（組織行動論）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　石田　正浩	

テーマ

よりよい組織を作るために必要な心理学的な視点を獲得する。

授業の到達目標

組織において人を動かす上で生じる問題を、心理学的な観点から適切に理解し、効果的な対処が考えられるようになる。現在進行中の働きかたの変化に対しても、その心理学的な意味を理解・説明できるようになる。

授業の概要

組織に生きる人々の心理・行動の問題として、ワークモチベーション・集団生産性・リーダーシップ・ストレスを取り上げ、心理学的な人間理解とはどのようなものかを学ぶ。自分が所属する集団での経験を参照できるように身近な事例を多く取り入れて講義する。

準備学習（予習・復習）

自分が所属している（した）集団での経験を振り返り、概念の意味を実感する。

内　　容

第1回　組織行動論・組織心理学とは
第2回　ワーク・モチベーション1　基本概念、欲求階層理論
第3回　ワーク・モチベーション2　２要因理論と達成動機づけ
第4回　ワーク・モチベーション3　内発的動機づけ
第5回　ワーク・モチベーション4　公平理論・期待理論・目標設定理論
第6回　応用行動分析
第7回　ワークモチベーション理論と実践　目標管理・成果主義・ジョブデザイン
第8回　集団生産性1　基本的な枠組み、社会的促進、規範の影響
第9回　集団生産性2　シュタイナーの課題分類と生産性
第10回　集団生産性3　集団意思決定
第11回　リーダーシップ1　リーダーシップとは、特性論、行動論
第12回　リーダーシップ2　条件即応理論
第13回　リーダーシップ3　変革型リーダーシップ理論、LMX
第14回　組織ストレス1　組織ストレス理解の基本的枠組み、ラザルスのストレス理論
第15回　組織ストレス2　バーンアウト、ストレスの管理

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

産業・組織心理学エッセンシャルズ　改訂三版
著者:　田中堅一郎編
出版社:　ナカニシヤ出版
出版年:　2011　　ISBN:

新版　組織行動のマネジメント
著者:　スティーブン P. ロビンス著、高木晴夫訳
出版社:　ダイヤモンド社
出版年:　2009　　ISBN:

心理学の世界　基礎編10　組織心理学
著者:　古川久敬
出版社:　培風館
出版年:　2011　　ISBN:

a90202f510

成績評価

試験 （ 60 ）
小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 20 ）
授業中発表等（ 0 ）
参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**産業心理学Ⅱ（消費者行動論）**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　永野　光朗	

テーマ

消費と広告の心理学

授業の到達目標

心理学研究に基づいて消費者の心理・行動についての客観的理解を深める。このような理解は自身の消費生活の向上に寄与し、同時に企業人としての能力を高めるであろう。

授業の概要

企業が実施している広告戦略や販売促進活動の実例をあげながら、企業が消費者の心理・行動をどのように理解しているのかを心理学理論をベースにしながら考察する。

準備学習（予習・復習）

消費者としての自分自身のあり方を振り返り，その心理や行動についての素朴な疑問（なぜ消費者はこんな商品に惹かれるのか？なぜ消費者はこんなときにこんな行動をとってしまうのか？）をつねに持ちながら授業に臨んで欲しい．このような疑問を思いつく限りメモ書きにしておくこと.

内　　容

第1回　消費者行動研究の目的と意義・消費者行動とマーケティング
第2回　消費者の購買意思決定過程①（EBMモデルの紹介）
第3回　消費者の購買意思決定過程②（ブランド選択過程を中心にして）
第4回　価格の心理学①（価格の心理的機能）
第5回　価格の心理学②（心理的財布理論・行動経済学）
第6回　広告の社会心理学①（広告効果モデル・広告の類型）
第7回　広告の社会心理学②（タレント・専門家起用広告
第8回　広告の社会心理学③（恐怖喚起広告）
第9回　広告の社会心理学④（弱点開示広告・比較広告）
第10回　販売場面における説得のテクニック①（foot in the door techniqueなど）
第11回　販売場面における説得のテクニック②（Cialdiniの「影響力の武器」）
第12回　店舗内の消費者行動①（店舗内における行動のコントロール）
第13回　店舗内の消費者行動②（店舗内における販売促進の方法）
第14回　ブランドと消費者行動
第15回　まとめと確認

履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為については厳重に注意します。

教科書

新・消費者理解のための心理学
著者：　杉本徹雄編著
出版社：福村出版
出版年：2012　　ISBN：　4571250401

参考書

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（ 50 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
毎回の授業において小テストを実施する。

2016 Syllabus

科 目 名　**発達心理学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　奈田　哲也	

テーマ

青年期以降における人間の発達の様相の理解

授業の到達目標

エリ・エス・ヴィゴーツキーにより基本的枠組みが提唱された「高次心理機能の発達の文化-歴史的理論」について学び、人間の発達理解にとって、その理論の意義を理解できる。

授業の概要

最初に、ヴィゴーツキーの生涯とその心理学理論の概略について説明をする。続いて、ヴィゴーツキー理論を構成するよく知られた2つの重要な概念である「最近接発達の領域」と「内言」の概念を取り上げ、ヴィゴーツキー理論の体系の中でこれらの概念が真に意味するところは何かについて解説をおこなう。

準備学習（予習・復習）

親等に過去を振り返ってもらったりすることで、人の発達的変化の過程、またその変化を生じさせたものについて考えてみたりする。

内　　容

第1回　ヴィゴーツキーの生涯とその研究について
第2回　発達の文化-歴史的理論の概要
第3回　「最近接発達の領域」の概念をめぐって
第4回　(1)問題の設定
第5回　(2)教授と最近接発達の領域と科学的概念の発達
第6回　(3)科学的概念の発達とは何が発達することか
第7回　(4)書き言葉の発達
第8回　(5)結論
第9回　「内言」の概念をめぐって
第10回　(1)問題の設定
第11回　(2)内言の意味の分析
第12回　(3)意味の作用とイメージの運動法則
第13回　(4)想像の発達
第14回　(5)まとめ
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

講義において分からない点がでてきたりした場合は、速やかに教員に質問し、理解するように努める。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

ようこそ!青年心理学
著者:　宮下一博
出版社:　ナカニシヤ出版
出版年:　2009　　ISBN:　4779503159

老いのこころ
著者:　佐藤眞一、髙山緑、増本康平
出版社:　有斐閣アルマ
出版年:　2014　　ISBN:　4641220166

成績評価

試験　（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等（ ）

a90202f750

参加度 （ 10 ）

期末テストまたはレポート（70%）

2016 Syllabus

科 目 名　**学習心理学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎	

テーマ

ヒトおよび動物の学習のメカニズムを理解する。

授業の到達目標

ヒトを含む動物が環境内の刺激をどのように学習し、記憶するのか、そのメカニズムを理解する。学習と記憶に関わる脳神経回路を学ぶことで、学習・記憶障害のメカニズムを理解する。

授業の概要

心理学において、“学習”とは、“経験による比較的永続的な行動の変容”と定義される。ヒトを含む動物は、環境内の様々な刺激から、餌のある場所、捕食者の足音や匂い、危険な場所など、様々な事象を学習し、記憶する。情動や社会行動が生得的な性質を持つのに対して、学習、記憶は経験によって獲得していく後発的な心理機能である。本講義では、様々な学習の種類（報酬学習、運動学習、逃避・回避学習、空間認知学習）とその理論を解説する。さらに学習・記憶を担う神経回路についても解析し、学習障害、記憶障害、認知障害が生起するメカニズムを紹介する。

準備学習（予習・復習）

テキストの熟読、講義ノートの復習、関連図書の精読

内　　容

第1回　学習とは
第2回　馴化と鋭敏化
第3回　古典的条件づけの獲得
第4回　古典的条件づけの消去
第5回　オペラント条件づけの基礎
第6回　オペラント条件づけ（強化スケジュール）
第7回　消去と罰
第8回　随伴性
第9回　弁別と般化
第10回　運動学習
第11回　観察学習と概念学習
第12回　記憶と学習
第13回　学習障害
第14回　記憶障害
第15回　行動療法

履修上の注意点

遅刻をしない、講義中に私語をしないなど常識ある態度で受講して下さい。

教科書

学習の心理　行動のメカニズムを探る
著者:　実森正子・中島定彦
出版社:　サイエンス社
出版年:　　ISBN:

参考書

メイザーの学習と行動
著者:　メイザー
出版社:　二瓶社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 60 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育心理学（心理）**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　中村 和夫

テーマ

学校教育における子どもの発達と教育との関係の理解

授業の到達目標

教育心理学についての基礎的知識を理解すること。および子どもの発達にとって学校教育の持つ重要な意味を、学校での基本的教育活動との関係において理解できるようになること。

授業の概要

パワーポイントによる資料提示に沿って講義をする。

準備学習（予習・復習）

復習が重要

内　容

第1回　教育心理学の基本領域－教育とは何か、発達とは何か－
第2回　発達の規定要因
第3回　発達における初期経験の重要性、発達の可塑性
第4回　発達と教育の関係、発達のプロセス－ピアジェの知能の発達段階論－
第5回　発達のプロセス－フロイトの心理・性的発達段階論、エリクソンの心理・社会的発達段階論－
第6回　学習の基礎過程－連合説－
第7回　学習の基礎過程－認知説－
第8回　教科学習の前提
第9回　学習の動機づけ
第10回　知識獲得及び問題解決のメカニズム
第11回　発見学習と有意味受容学習
第12回　集団準拠評価
第13回　目標準拠評価
第14回　指導要録の実際と問題
第15回　その他学力以外の評価

履修上の注意点

欠席・遅刻はしないこと。

教科書

特に指定しない。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 80% ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 20% ）

欠席が5回を超える場合には成績を評価しない（0点となる）。

2016 Syllabus

科 目 名　**臨床知と文化の多様性**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

臨床の知（臨床知）は本学の教学理念の三本柱の一つです。しかし、多くの人にはしっかりと考えられているようには思えません。「臨床」という言葉についても考えたいと思いますが、「知」についても考えて見ましょう。「知」という日常的でない言葉は、「知る」という行為とその成果である「知識」を同時に指すために使われています。「科学の知」や「学校の知」といったものと比較すると、「臨床の知」は、現在の自分のものの学び方について、根底的な見直しを迫ることになるかと思います。近代の「科学の知」とは、コトを厳密な客観的対象化によって主体が対象を観察し研究し操作できるという考えです。「臨床の知」はそれを越えて、相互関係の中で、頭脳だけではなく身体も関わって、全体的意味として世界を理解しようとする動きのなかで展開することです。そこにおいて最も重要なことは多様性です。それは世界の多様性だけではなく、自分の中にある多様性を発見することなのです。それが実は臨床の実践のなかでも極めて大切なことであることなのです。それをさまざまな具体的な事象のなかで確認したいと思います。

授業の到達目標

臨床知と近代科学知の対比についての理解を具体的に説明できる。自分と世界をつくっている多様性を、具体的な事例を通じて発見したり確認したりして、それを言葉ないし図像で説明できるようになる。

授業の概要

全員参加型のワークショップ方式で行います。参加メンバーの構成とその展開によって、大きく変わるので、スケジュールとして下に挙げたことは、ワークショップのなかで、できるだけ取り上げたいテーマに過ぎません。なにを取り上げられるか、また順序や密度など、グループの展開によって大きく変わって行くことになります。

準備学習（予習・復習）

見聞きしたこと体験したことを吟味検討しそれを言葉に表すという習慣を身につけること。関心のあるテーマに関わる事例を集めたり、それを詳細に考察する。日常の身の回りに起きることの観察と記録をつける。

内　　容

第1回　全体のオリエンテーション　臨床の知と学び方　学ぶとはそもそもなにか？自分の学び方を調べる
第2回　全体のオリエンテーション2　学校知と臨床知の違い　　自分の学び方の見直し：長所と弱点を考える
第3回　「臨床の知」の誕生　中村雄二郎の関心と河合隼雄の臨床心理学
第4回　「臨床」とはなにか？　現場で実践しながら学ぶことの意味　　身体技法とパフォーマンス
第5回　社会構成主義とナラティヴ・アプローチ
第6回　事例研究と当事者研究　言葉とイメージの力
第7回　多様性に関わる問題1　障碍と個性という問題
第8回　多様性に関わる問題2　セクシュアリティ　人間の性　性的欲望
第9回　多様性に関わる問題3　セクシュアリティとジェンダー
第10回　多様性に関わる問題4　食べ物と食事
第11回　多様性に関わる問題5　聖なるもの、宗教における多様性
第12回　多様性に関わる問題6　民主主義と政治　あるいはPC問題
第13回　日本の単一性神話と今日の問題
第14回　自分のなかにある多様性の発見　異文化との交流
第15回　全体の振り返り　自分には何が出来るか？どういう可能性があるか？

履修上の注意点

教科書

1. 臨床の知とは何か
著者：　中村雄二郎
出版社：岩波書店（岩波新書）
出版年：1992　　ISBN：

参考書

感覚の博物誌
著者：　D. アッカーマン
出版社：河出書房新社ss
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**死生学**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　松下　幸治.川岸　久也.滝野　功久

テーマ

人間の「死」を見つめ、それと向き合うことを通して、「生きること」ないし「いま、生きていること」についての体験的実感を得ること。

授業の到達目標

すべての人間が平等に経験する「死」を眺め、向き合い、そしてそれについてより豊かに思い巡らせることを通して、「生きる」ないし「生きている」という営みを考える。「生」と「死」という二項対立的発想を越えて、その二項が包含する領域にこそ真に生きた人間関係が存在し、真に生きた宗教性が存在することを複数の教員がそれぞれの観点から論じ、ともに考え、たましいのあり様に接近する。

授業の概要

1～6回目講義（担当：松下）7～12回目講義（担当：滝野）13～15回目集中講義（担当：上鹿渡）

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　思春期・青年期の心と心の迷い
第2回　「象徴的な死」について
第3回　心理臨床家からみた「死」と「生」
第4回　「死」と「生」の二項対立的発想の落とし穴
第5回　「たましい」について
第6回　いきいきと生きるために死と向き合うということ
第7回　「死ぬ」ということ　そのイメージ　それと直面すること（キュブラー＝ロスの貢献）
第8回　緩慢な死と突然死そして「過労死」
第9回　自殺　個人的決断と社会的現象としての自殺　その実態と予防
第10回　尊厳死と安楽死　緩和ケアーとホスピス
第11回　臨死体験　彼岸はあるのか？　スピリチュアリティとはなにか？
第12回　悲嘆の作業　喪の営み　内観法　葬儀・法事　日本人と宗教
第13回　精神科疾患と死
第14回　トラウマと自殺
第15回　ターミナルケア

履修上の注意点

教科書

参考書

対話する生と死
著者：　河合隼雄
出版社：　潮出版社
出版年：　１９９２年　　ISBN：　4-267-01320-9

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（　）
参加度　（ 50 ）
1～6回：毎回の授業後各自の感想をまとめること。7～12回随時課題集中講義：子どもが生きること、死ぬことについて、講義内容をまとめてください。その上で、あなたの考えを自由に述べてください。（1600字から2000字程度）13～15回：毎回の授業後各自の感想をまとめること。

2016 Syllabus

科 目 名　**臨床心理学ワークショップ(事例研究と当事者研究)**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　滝野　功久	

テーマ

「臨床の知」を、実践的学習にできる限り近い形で行おうとするものです。「臨床」とは今や医療に全く限りません。「臨床心理」とはそれ以上に、医療的援助活動に関わるだけのものではありません。教育、福祉、司法、さらには宗教(あるいはスピリチュアリティ)に関わるなど、さまざまな領域での観察や評価そして介入技法などの実践に、心理的なアプローチを生かそうとするものです。対象の大きさは、個人だけでなく、カップル・家族、そして集団や組織までひろげることができます。それらはほとんど人のこころに関わってきますので、「臨床心理」は、そこでの心理的支援と援助などの実践活動の全てをカバーできると言えるでしょう。臨床心理に「学」がついていますが、学術的権威をつけるというより、自らの「学び」と「学び方」について、考え見直す新たに発見するということが、この科目のもう一つのテーマとしてあるからです。

授業の到達目標

集団研究と事例研究とを二つの大きな柱にしながら、実際に役に立つスキルを高める。1)集団同調圧力(集団の力動の一つ)のからくりを見抜き、個人と集団の成長に生かすための問題提起のスキルを磨く(対人援助という活動においては、たとえ個人が対象でも、個人を取りまく集団についての考察ができることが不可欠)。2)振り返りの技法と応用の可能性を考え、少なくとも一つの技法を身に着ける。

授業の概要

1)さまざまな事例を通して問題のとらえ方、学び方を検討します。できればですが、それを身体表現やドラマなども試み生かしながら行えればと、願っています。2)自らを素材にして、当事者研究の意義と限界についても具体的に考える以上のことを、全員参加型のワークショップ方式で行います。メンバーに響いてくるテーマとアプローチを採用したいと考えていますので、扱うことは参加メンバーの構成とその展開によって大きく変わってきます。下にスケジュールとして挙げていることは、ワークショップのなかでできるだけ扱いたいと考えているものにすぎません。最も基本的なテーマと課題に関しては、詳しく丁寧に扱いますが、全く扱えないものもあるでしょうし、扱えても順序はもちろん密度も、グループの展開によって大きく変わって行くことになります。

準備学習(予習・復習)

自分の周りで生じていること、社会で起きていることに対しての好奇心をもつこと。常識を疑ってみること。観察力と内的な感覚を磨くこと。そのために日常的に何ができるかを考え、試み、振り返ること。

内　　容

第1回　全体のオリエンテーション1　臨床の知と学び方　自らの学び方について見直す。勉強と学びの違い、授業・講義とワークショップの違いを考え、自らの学びを根底から見直す。　全体のオリエンテーション1　臨床の知と学び方　自らの学び方について見直す
第2回　全体のオリエンテーション2　自分の学びの方の癖、特徴、条件づけられているもの
第3回　「臨床」とはなにか？　臨床の知と科学の知　その起源と歴史　日本での「臨床の知」という波の特別な意味と意義
第4回　事例研究という方法　当事者研究の威力
第5回　パフォーマンスと学び　道具としてのロールプレイ・演劇
第6回　臨床心理はいかに使われているか？　今後の可能性は？
第7回　集団力動と個人　集団のもつ魅力と魔力　個人はどのように集団と付き合えるか？
第8回　個人と社会:引きこもりはなぜ起きるか、なぜ治るか？
第9回　個人と集団:いじめという問題　差別と排除
第10回　破壊的カルト集団とマインドコントロール(宗教をはるかに超えた問題として)
第11回　児童虐待とネグレクトという問題(家族という矛盾した集団と場)
第12回　臨床の知と文化の多様性
第13回　文化の多様性と性愛問題、宗教問題
第14回　心理と政治の問題　政治的正義(Political Correctness)の効用と　乱用
第15回　全体の振り返り　吟味検討、振り返りの仕方　現実が変わるためには？変えるためには？

履修上の注意点

教科書

レッツ！当事者研究1
著者:　べてるしあわせ研究所
出版社:
出版年:　2009　　ISBN:

ひきこもりはなぜ「治る」のか?
著者:　斎藤環
出版社:
出版年:　2012　　ISBN:

参考書

a90202g250

感覚の博物誌

著者:　D.アッカーマン

出版社:　河出書房新社

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40 ）

授業中課題（ 55 ）　　授業中発表等（ 55 ）

参加度　（　）

参加することが前提なので評価に参加度は入っていません。評価は基本的に減点法でなく、加点法で行います。

2016 Syllabus

科 目 名　**よそおいの心理学 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　190
履修条件	クラス指定
担 当 者　　日比野　英子	

テーマ

外見と心の関係

授業の到達目標

本講義では、粧いと装いという外見のデザインや印象管理を行うことが、人の心の有り様や心の健康とどのような関係があるのか、人と人とのコミュニケーションにどのような影響をおよぼすのかを理解し、さらに、福祉や医療の場でのこれらを用いたサポートの実践例についても理解を深める。

授業の概要

以下のように、装いと化粧についての心理学各領域における基礎研究を紹介し、後にそれらを用いた実践例を紹介するとともに臨床心理学的見地からのよそおいについての考察を展開する。

準備学習（予習・復習）

化粧や服装について、多岐にわたる視点からアプローチするため、特に1冊の教科書を用いないが、下記の参考書や授業中に紹介する書籍を精読して興味を深めてもらいたい。

内　　容

第1回　オリエンテーション外見をめぐる諸問題、よそおいとは、本授業のねらい・方針
第2回　装いの社会・心理的機能①
第3回　装いの社会・心理的機能②
第4回　顔について①　顔とは（乳幼児期における顔認知などから）
第5回　顔について②　こども顔とおとな顔、女顔とお男顔
第6回　顔について③　顔認知のステレオタイプ
第7回　化粧とは　化粧の文化誌、メーキャップの心理学
第8回　社会心理学における化粧研究
第9回　感情心理学・生理心理学における化粧研究①
第10回　感情心理学・生理心理学における化粧研究②
第11回　化粧とパーソナリティ
第12回　化粧の臨床的応用①　精神障害者を対象として
第13回　化粧の臨床的応用②　高齢者を対象として
第14回　化粧と装いの臨床的応用③　身体障害者を対象として
第15回　まとめ　臨床心理学的視点からみたよそおいの意味なお、外部講師を招いて講演会を開催することがある。

履修上の注意点

受講生は、授業中のすべての配布資料をファイルしておくこと。定期試験に使用することがあります。

教科書

参考書

被服と化粧の社会心理学―人はなぜ装うのか
著者：　大坊郁夫・神山進他
出版社：北大路書房
出版年：1996年　　ISBN：　978-4762820588

化粧行動の社会心理学
著者：　大坊郁夫他
出版社：北大路書房
出版年：2001年　　ISBN：　4－7628－2226－4

個と向き合う介護
著者：　西本典良・日比野英子他
出版社：誠信書房
出版年：2006年　　ISBN：　4－414－60137－1

成績評価

a90202g310

試験 （ 50 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**よそおいの心理学 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　190
履修条件	クラス指定
担 当 者　永野 光朗	

テーマ

外見と心の関係

授業の到達目標

本講義では、よそおいが自己と他者の行動に及ぼす影響の仕組みについて理解し、それを社会生活の向上に応用するための知識を身につける。

授業の概要

よそおい（衣服や装飾品）を人間同士のコミュニケーション・ツールとして位置づけ、それによって何が伝わり、どのような影響力を持つかについて理解する。基礎となる社会心理学の研究事例を、ビデオ教材などを用いて紹介しながら心理学の概念や方法論についても理解する。

準備学習（予習・復習）

よそおいについて、多岐にわたる視点からアプローチするため、特に1冊の教科書を用いないが、下記の参考書や授業中に紹介する書籍を精読して興味を深めてもらいたい。

内　容

第1回　衣服の着装動機　なぜ人は服を着るのか？
第2回　衣服の社会的・心理的機能
第3回　心理学とはどのような学問か？
第4回　コミュニケーション・ツールとしての衣服
第5回　よそおいと社会心理学
第6回　対人認知と衣服①　印象形成過程
第7回　対人認知と衣服②　印象管理過程
第8回　対人認知と衣服③　衣服によるステレオタイプ
第9回　対人行動と衣服
第10回　社会・集団と衣服①　社会的役割と衣服
第11回　社会・集団と衣服②　制服の影響力
第12回　流行の社会心理学①　流行の構造と多様性
第13回　流行の社会心理学②　流行を生み出す心理的要因
第14回　化粧の心理学
第15回　まとめと復習

履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為については厳重に注意します。

教科書

参考書

被服と化粧の社会心理学―人はなぜ装うのか
著者：　大坊郁夫・神山進他
出版社：　北大路書房
出版年：1996年　　ISBN：

被服行動の社会心理学―装う人間のこころと行動（シリーズ21世紀の社会心理学8）
著者：　高木修（監修）
出版社：北大路書房
出版年：1999年　　ISBN：

まとう―被服行動の心理学（人間行動学講座第1巻）
著者：　中島義明・神山進（編）
出版社：朝倉書店
出版年：1996年　　ISBN：

成績評価

a90202g312

試験 （ 50 ）　小テスト（ 50 ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
毎回の授業において小テストを実施する。

2016 Syllabus

科 目 名　**健康心理学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　田中 芳幸	

テーマ

健康心理学に関わる諸理論の理解

授業の到達目標

健康心理学の基本的な知識を学び、心理・社会・身体的な要因が様々な心身の問題にどの様に関連しているのかを把握する。また、心身疾患やストレスへの予防および心身の健康の維持増進方法について、健康心理学的な視点に基づいて考察する。さらに、自分自身や他者の健康関連行動や生活習慣について考える機会とすることも目的とする。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

各回の内容に該当する教科書の熟読、および、健康心理学関連図書や関連論文による自学自習を行うこと。

内　容

第1回　オリエンテーション　健康心理学とは＆「健康」のとらえ方
第2回　健康心理学の基盤となる心理学理論
第3回　健康行動の諸理論と心身不調の予防
第4回　ストレスと健康
第5回　ストレスへの対処とストレス関連身体疾患
第6回　トランスセオレティカルモデルに基づくストレスマネジメント
第7回　パーソナリティ・生活習慣と健康
第8回　健康生成に役立つソーシャルサポートとヘルスケアシステム
第9回　発達段階に応じた健康教育
第10回　生活場面に応じた健康教育
第11回　健康心理学に基づくアセスメント
第12回　健康心理カウンセリングの理論
第13回　健康心理カウンセリングの実際
第14回　健康的な生活習慣の形成
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為を慎むこと。

教科書

新版健康心理学
著者：　野口京子
出版社：金子書房
出版年：　　ISBN：

参考書

健康心理学・入門　健康なこころ・身体・社会づくり
著者：　島井哲史・長田久雄・小玉正博(編)
出版社：有斐閣
出版年：　　ISBN：

健康心理学概論（健康心理学基礎シリーズ1）
著者：　日本健康心理学会(編)
出版社：実務教育出版
出版年：　　ISBN：

健康心理アセスメント概論（健康心理学基礎シリーズ2）
著者：　日本健康心理学会(編)
出版社：実務教育出版
出版年：　　ISBN：

a90203d110

健康心理カウンセリング概論（健康心理学基礎シリーズ3）
著者：　日本健康心理学会(編)
出版社：実務教育出版
出版年：　　ISBN：

健康教育概論（健康心理学基礎シリーズ4」）
著者：　日本健康心理学会(編)
出版社：実務教育出版
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 20% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅰ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　日比野　英子	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

準備学習（予習・復習）

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
第3回　文献の検索と収集
第4回　文献の要約の発表と討論①
第5回　文献の要約の発表と討論②
第6回　文献の要約の発表と討論③
第7回　文献の要約の発表と討論④
第8回　文献の要約の発表と討論⑤
第9回　文献の要約の発表と討論⑥
第10回　文献の要約の発表と討論⑦
第11回　研究テーマ決定と研究法の検討①
第12回　研究テーマ決定と研究法の検討②
第13回　研究テーマ決定と研究法の検討③
第14回　研究計画の発表と討論①
第15回　研究計画の発表と討論②

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行いますが、自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

各受講生に適した書を指定します。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30% ）	授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 30% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅰ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　中村　和夫	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

準備学習（予習・復習）

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
第3回　文献の検索と収集
第4回　文献の要約の発表と討論①
第5回　文献の要約の発表と討論②
第6回　文献の要約の発表と討論③
第7回　文献の要約の発表と討論④
第8回　文献の要約の発表と討論⑤
第9回　文献の要約の発表と討論⑥
第10回　文献の要約の発表と討論⑦
第11回　研究テーマ決定と研究法の検討①
第12回　研究テーマ決定と研究法の検討②
第13回　研究テーマ決定と研究法の検討③
第14回　研究計画の発表と討論①
第15回　研究計画の発表と討論②

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行いますが、自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

各受講生に適した書を指定します。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30% ）	授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 30% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅰ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　坂本　敏郎	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

準備学習（予習・復習）

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
第3回　文献の検索と収集
第4回　文献の要約の発表と討論①
第5回　文献の要約の発表と討論②
第6回　文献の要約の発表と討論③
第7回　文献の要約の発表と討論④
第8回　文献の要約の発表と討論⑤
第9回　文献の要約の発表と討論⑥
第10回　文献の要約の発表と討論⑦
第11回　研究テーマ決定と研究法の検討①
第12回　研究テーマ決定と研究法の検討②
第13回　研究テーマ決定と研究法の検討③
第14回　研究計画の発表と討論①
第15回　研究計画の発表と討論②

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行いますが、自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

各受講生に適した書を指定します。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30% ）	授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 30% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅰ〈＊d〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ジェイムス　朋子	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

準備学習（予習・復習）

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
第3回　文献の検索と収集
第4回　文献の要約の発表と討論①
第5回　文献の要約の発表と討論②
第6回　文献の要約の発表と討論③
第7回　文献の要約の発表と討論④
第8回　文献の要約の発表と討論⑤
第9回　文献の要約の発表と討論⑥
第10回　文献の要約の発表と討論⑦
第11回　研究テーマ決定と研究法の検討①
第12回　研究テーマ決定と研究法の検討②
第13回　研究テーマ決定と研究法の検討③
第14回　研究計画の発表と討論①
第15回　研究計画の発表と討論②

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行いますが、自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

各受講生に適した書を指定します。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30% ）	授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 30% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅰ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松下　幸治	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

準備学習（予習・復習）

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
第3回　文献の検索と収集
第4回　文献の要約の発表と討論①
第5回　文献の要約の発表と討論②
第6回　文献の要約の発表と討論③
第7回　文献の要約の発表と討論④
第8回　文献の要約の発表と討論⑤
第9回　文献の要約の発表と討論⑥
第10回　文献の要約の発表と討論⑦
第11回　研究テーマ決定と研究法の検討①
第12回　研究テーマ決定と研究法の検討②
第13回　研究テーマ決定と研究法の検討③
第14回　研究計画の発表と討論①
第15回　研究計画の発表と討論②

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行いますが、自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

各受講生に適した書を指定します。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30% ）	授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 30% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅰ〈＊f〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中西　龍一	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

準備学習（予習・復習）

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
第3回　文献の検索と収集
第4回　文献の要約の発表と討論①
第5回　文献の要約の発表と討論②
第6回　文献の要約の発表と討論③
第7回　文献の要約の発表と討論④
第8回　文献の要約の発表と討論⑤
第9回　文献の要約の発表と討論⑥
第10回　文献の要約の発表と討論⑦
第11回　研究テーマ決定と研究法の検討①
第12回　研究テーマ決定と研究法の検討②
第13回　研究テーマ決定と研究法の検討③
第14回　研究計画の発表と討論①
第15回　研究計画の発表と討論②

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行いますが、自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

各受講生に適した書を指定します。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30% ）	授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 30% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅰ〈＊g〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　永野 光朗	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

準備学習（予習・復習）

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
第3回　文献の検索と収集
第4回　文献の要約の発表と討論①
第5回　文献の要約の発表と討論②
第6回　文献の要約の発表と討論③
第7回　文献の要約の発表と討論④
第8回　文献の要約の発表と討論⑤
第9回　文献の要約の発表と討論⑥
第10回　文献の要約の発表と討論⑦
第11回　研究テーマ決定と研究法の検討①
第12回　研究テーマ決定と研究法の検討②
第13回　研究テーマ決定と研究法の検討③
第14回　研究計画の発表と討論①
第15回　研究計画の発表と討論②

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行いますが、自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

各受講生に適した書を指定します。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30% ）	授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 30% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅰ〈＊h〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　菅　佐和子	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。

授業の概要

少人数の演習クラスにおいて、担当者の指導の下、心理学の専門書や学術論文の精読、要約、発表、討論を行い、研究テーマを決定し、研究計画を作成する。

準備学習（予習・復習）

興味・関心のある分野、領域、テーマの書物をできるだけ多く読んでおくこと。授業での発表の機会が多いので、その準備を周到に行うこと。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　卒業論文の成り立ちと論文作成スケジュール
第3回　文献の検索と収集
第4回　文献の要約の発表と討論①
第5回　文献の要約の発表と討論②
第6回　文献の要約の発表と討論③
第7回　文献の要約の発表と討論④
第8回　文献の要約の発表と討論⑤
第9回　文献の要約の発表と討論⑥
第10回　文献の要約の発表と討論⑦
第11回　研究テーマ決定と研究法の検討①
第12回　研究テーマ決定と研究法の検討②
第13回　研究テーマ決定と研究法の検討③
第14回　研究計画の発表と討論①
第15回　研究計画の発表と討論②

履修上の注意点

卒業研究は、授業時間外で受講生自身が研究の各段階の作業を進めることに多くの時間が必要です。授業時間はそのための指導を行いますが、自らの研究を進行させるのは受講生自身であることを肝に銘じてください。

教科書

各受講生に適した書を指定します。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30% ）	授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 30% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**心理検査法Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　青木　剛	

テーマ

心理検査の実際について、検査用具を用いて施行法・結果の処理・結果の解釈を学習する。

授業の到達目標

心理検査の中から、特に投映法の代表的な検査であるロールシャッハ法と、児童心理臨床の現場で用いられることの多い新版K式発達検査2001とウェクスラー知能検査を取り上げ、実際に検査用具を用いて、施行法・結果の整理・結果の解釈について習得する。

授業の概要

前半はロールシャッハ・テストについて、後半は新版K式発達検査2001とウェクスラー知能検査について、施行法・結果の整理法・結果の解釈について学ぶ。

準備学習（予習・復習）

ロールシャッハ・テストのスコアリングの練習はできるだけ多くの事例にあたることが望ましい。授業以外の時間にも、すでに刊行されている書籍の中の事例のスコアリングを試みることを勧める。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　ロールシャッハ・テスト①ロールシャッハ・テストの被検
第3回　ロールシャッハ・テスト②基礎技法
第4回　ロールシャッハ・テスト③スコアリングの基礎知識（反応領域・反応決定因）
第5回　ロールシャッハ・テスト④スコアリングの基礎知識（反応内容・形態水準）
第6回　ロールシャッハ・テスト⑤スコアリング練習
第7回　ロールシャッハ・テスト⑥スコアリング練習
第8回　ロールシャッハ・テスト⑦結果の整理・解釈
第9回　発達検査とは～子どもの姿をとらえる
第10回　やってみよう！新版K式発達検査①
第11回　やってみよう！新版K式発達検査②
第12回　やってみよう！ウェクスラー知能検査①
第13回　やってみよう！ウェクスラー知能検査②
第14回　その他の発達検査
第15回　まとめ～検査結果をどう生かしていくか

履修上の注意点

ロールシャッハ・テストのスコアリング練習は、毎回の受講の前にあらかじめ2－3時間の予習を前提としているので、十分な準備をして出席すること。

教科書

参考書

改訂新・心理診断法―ロールシャッハ・テストの解説と研究
著者:　片口安史
出版社:　金子書房
出版年:　1987年　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 25 ）	授業中発表等　（　）
参加度　（ 25 ）	

上記の試験50%とは、前半と後半に合計2回のレポート提出の課題を与えることを示す。

2016 Syllabus

科 目 名　**心理検査法Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　室　紀子	

テーマ

心理検査の実際について、検査用具を用いて施行法・結果の処理・結果の解釈を学習する。

授業の到達目標

心理検査の中から、特に投映法の代表的な検査であるロールシャッハ法と、児童心理臨床の現場で用いられることの多い新版K式発達検査2001とウェクスラー知能検査を取り上げ、実際に検査用具を用いて、施行法・結果の整理・結果の解釈について習得する。

授業の概要

前半はロールシャッハ・テストについて、後半は新版K式発達検査2001とウェクスラー知能検査について、施行法・結果の整理法・結果の解釈について学ぶ。

準備学習（予習・復習）

ロールシャッハ・テストのスコアリングの練習はできるだけ多くの事例にあたることが望ましい。授業以外の時間にも、すでに刊行されている書籍の中の事例のスコアリングを試みることを勧める。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　ロールシャッハ・テスト①ロールシャッハ・テストの被検
第3回　ロールシャッハ・テスト②基礎技法
第4回　ロールシャッハ・テスト③スコアリングの基礎知識（反応領域・反応決定因）
第5回　ロールシャッハ・テスト④スコアリングの基礎知識（反応内容・形態水準）
第6回　ロールシャッハ・テスト⑤スコアリング練習
第7回　ロールシャッハ・テスト⑥スコアリング練習
第8回　ロールシャッハ・テスト⑦結果の整理・解釈
第9回　発達検査とは～子どもの姿をとらえる
第10回　やってみよう！新版K式発達検査①
第11回　やってみよう！新版K式発達検査②
第12回　やってみよう！ウェクスラー知能検査①
第13回　やってみよう！ウェクスラー知能検査②
第14回　その他の発達検査
第15回　まとめ～検査結果をどう生かしていくか

履修上の注意点

ロールシャッハ・テストのスコアリング練習は、毎回の受講前に2－3時間の予習を前提としているので、十分な準備をしてから出席してください。

教科書

参考書

改訂新・心理診断法―ロールシャッハ・テストの解説と研究
著者:　片口安史
出版社:　金子書房
出版年:　1987年　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 25 ）	授業中発表等　（　）
参加度　（ 25 ）	

上記の試験50%とは、前半と後半に合計2回のレポート提出の課題を与えることを示す。

2016 Syllabus

科 目 名　**心理統計学Ⅲ（多変量解析）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　永野 光朗	

テーマ

統計ソフトSPSSを用いておこなう多変量解析の修得

授業の到達目標

心理学データ解析で修得した内容を踏まえ、心理学研究において多用されている因子分析・重回帰分析をはじめとする種々の多変量解析を理解し、取得されたデータを適切に分析する能力を身につける。

授業の概要

各種の多変量解析の手法について適用事例を含めながら説明をし、模擬的なデータを使って各自でSPSSを用いて分析を行う。

準備学習（予習・復習）

下記参考書をはじめとする統計学関連の書籍の講読

内　容

第1回　多変量解析とは
第2回　因子分析（理論の説明）
第3回　因子分析（適用例の紹介）
第4回　因子分析（演習）
第5回　重回帰分析（理論の説明）
第6回　重回帰分析（適用例の紹介）
第7回　重回帰分析（演習）
第8回　判別分析（理論の説明と適用例の紹介）
第9回　判別分析（演習）
第10回　クラスター分析（理論の説明と適用例の紹介）
第11回　クラスター分析（演習）
第12回　MDS（多次元尺度構成法）（理論の説明と適用例の紹介）
第13回　MDS（多次元尺度構成法）（演習）
第14回　総合演習①（データ収集）
第15回　総合演習②（データ分析）

履修上の注意点

教科書

使用しない（資料配付）
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

SPSSとAmosによる心理・調査データ解析---因子分析・共分散構造分析まで
著者：　小塩真司
出版社：　東京図書
出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50% ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 50% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英書講読**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ジェイムス　朋子	

テーマ

心理学の英語文献の講読と理解

授業の到達目標

卒業研究あるいは大学院進学後に、英語の専門的な心理学文献を読みこなす力、理解する力、その理解を基に討議する力を養うことを目的とする。文献を読みこなすのに必要な、背景となる専門的知識や専門的語彙、さらに理論的なものの考え方や思考力なども身につけ、英書を実践的に読める力を身につける。

授業の概要

毎回の授業では、事前に提示された文献の該当箇所を各自購読し、理解してくること、担当者は発表の準備をしてくることが課される。グループ討議も課されるため、全回出席を原則とする。

準備学習（予習・復習）

授業前の文献の事前講読、理解のまとめの作成、およびグループ課題（必修）

内　容

第1回　イントロダクション：英語文献の読解基礎
第2回　課題①："Caring for Children Following Crisis"の講読
第3回　課題①："Caring for Children Following Crisis"の理解
第4回　課題①："Caring for Children Following Crisis"の討議
第5回　課題②"Dream work, Dream-Telling and Mental Space"の講読
第6回　課題②"Dream work, Dream-Telling and Mental Space"の理解
第7回　課題②"Dream work, Dream-Telling and Mental Space"の討議
第8回　課題③"The Vicissitudes of Agression: It powers for good and harm"の講読
第9回　課題③"The Vicissitudes of Agression: It powers for good and harm"の理解
第10回　課題③"The Vicissitudes of Agression: It powers for good and harm"の討議
第11回　課題③"The Vicissitudes of Agression: It powers for good and harm"からの学び：攻撃性の心理学
第12回　課題④"The Key Psychodynamics of Femaile Personality Development:Phallivc Activeness and Safe Space"の講読
第13回　課題④"The Key Psychodynamics of Femaile Personality Development:Phallivc Activeness and Safe Space"の理解
第14回　課題④"The Key Psychodynamics of Femaile Personality Development:Phallivc Activeness and Safe Space"の討議
第15回　英語文献講読からの学び

履修上の注意点

課題文献は事前に配布する。事前の個人課題とグループ課題が必修となること、また、全回出席が原則となる授業であることを留意すること。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）	授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 20% ）	

事前課題の達成度、授業中課題、および討議への参加度を総合して評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**生理心理学**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　坂本　敏郎

テーマ

こころや行動に関わる神経内分泌系（ホルモン）の働きを理解する。

授業の到達目標

中枢神経系である脳の作用だけでなく、末梢神経、性ホルモン、免疫系などのはたらきと、情動、ストレス、学習、認知などの心的機能との関係を理解する。さらに、生理心理学、行動神経科学に関わる、心理学的トピックを紹介する。

授業の概要

講義形式とする。パワーポイントスライドを提示し、資料を配付する。

準備学習（予習・復習）

配布プリントの熟読、講義ノートの復習、関連図書の精読

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　ホルモンと行動研究　／　母親の養育行動と脳の変化
第3回　ホルモン分泌の神経調節　／　母親の認知機能の変化
第4回　父親の養育行動と脳の変化
第5回　ホメオスタシスと行動
第6回　性の決定と哺乳類の性分化
第7回　行動の周期性
第8回　脳の性差・精神疾患の性差
第9回　個体の絆の形成
第10回　種内のコミュニケーション
第11回　社会的報酬の脳内機構・遊びの重要性
第12回　ストレス応答と行動
第13回　生育環境と行動
第14回　情動、学習、記憶とホルモン
第15回　脳と心の進化・まとめ

履修上の注意点

遅刻をしない、私語をしない等の常識ある態度で受講して下さい。

教科書

使用しない。プリントを配布します。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

脳とホルモンの行動学－行動神経内分泌学への招待－
著者:　近藤保彦他　編
出版社:　西村書店
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 60 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　こころの脳科学

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　上北 朋子

テーマ

我々の心や行動をつくる脳の仕組みについて学ぶ。

授業の到達目標

ヒトがどのように感じ、考え、行動するのかを神経科学の視点から理解することを目標とする。

授業の概要

神経科学の基礎的な事項を行動との関連に焦点をあてながら概説する。パワーポイントやプリントによる図解により、イメージしやすいよう工夫する。

準備学習（予習・復習）

ノートへの追加事項の書き込み、配布プリントの読み込みなど、復習を重視する。

内　容

第1回　オリエンテーション　心理学における脳科学の位置づけ
第2回　脳の構造と機能（1）大脳皮質
第3回　脳の構造と機能（2）皮質下領域
第4回　脳の構造と機能（3）大脳辺縁系
第5回　シナプス伝達と受容体（1）
第6回　シナプス伝達と受容体（2）
第7回　中間まとめ
第8回　運動
第9回　視覚
第10回　聴覚
第11回　学習と記憶
第12回　言語
第13回　社会性
第14回　脳の障害と可塑性
第15回　全体のまとめ

履修上の注意点

私語やスマートフォンの使用は慎んでください。

教科書

参考書

神経科学テキスト　脳と行動
著者：　カールソン
出版社：丸善株式会社
出版年：　　ISBN：

神経科学　脳の探求
著者：　ベアー　コノーズ　パラディーソ
出版社：西村書店
出版年：　　ISBN：

脳神経科学　イラストレイテッド
著者：　森寿　真鍋俊也　渡辺雅彦　岡野栄之　宮川剛
出版社：羊土社
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

a90203d710

参加度 （ 20 ）

期末試験を重視する。

2016 Syllabus

科 目 名　**心理的援助論A**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　菱田　一仁

テーマ

スクールカウンセリングを中心に、学校臨床についての知識を学ぶ。

授業の到達目標

スクールカウンセリングに関する知識のほか、学校現場での臨床活動の特徴、学校現場に関連する領域での臨床心理学的な働きについて学ぶ。

授業の概要

講義形式で行います。

準備学習（予習・復習）

積極的に出席するようにしてください。

内　容

第1回　オリエンテーション・スクールカウンセリングとは
第2回　スクールカウンセリングの基礎知識①
第3回　スクールカウンセリングの基礎知識②
第4回　発達についての理解
第5回　学校での問題行動
第6回　発達検査について
第7回　スクールカウンセリングの実際①
第8回　スクールカウンセリングの実際②
第9回　保護者面接について①
第10回　保護者面接について②
第11回　教員とのコンサルテーション①
第12回　教員とのコンサルテーション②
第13回　他機関との連携（児童相談所）
第14回　他機関との連携（適応指導教室）
第15回　まとめ

履修上の注意点

授業には積極的に参加してください。

教科書

参考書

スクールカウンセリングの基礎と経験
著者:　馬場謙一　松本京介
出版社:　日本評論社
出版年:　2008　　ISBN:　9784535562578

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 60 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**心理的援助論B**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　濱田　智崇	

テーマ

心理的援助における「表現」との向き合い方について考える

授業の到達目標

心理的援助における「表現」について体験的に学ぶ。ここで言う「表現」には言語による表現も、描画や箱庭、遊戯療法の遊びといったものも含まれるが、そうした「表現」に援助者としてどう向きあうのかを考えていく。他者の内面を理解しようとすることは、自ずと自分自身の内面と向きあうことにもなる。そうした姿勢の中から体験的に学ぶことを目標とする。

授業の概要

この授業では主に風景構成法と箱庭療法、遊戯療法に関して取り上げる。まずそれぞれの技法の成り立ちや特徴を解説し、その後、実際に描いたり、作成したりするワークを行う。実際に自分が表現してみること、そしてそれを自分で分析してみることで学びを深めていく。

準備学習（予習・復習）

実習・ワークの前に、講義の内容をよく理解しておかないと、せっかくの実習・ワークの体験を活かすことができなかったり、他の受講者に迷惑をかけたりしますので、よく理解しておいてください。

内　容

第1回　オリエンテーション（心理的援助における表現とは）
第2回　心理療法における象徴的イメージとは
第3回　箱庭療法とは
第4回　箱庭を使ったワーク（1）
第5回　箱庭を使ったワーク（2）
第6回　箱庭療法の事例から学ぶ（1）
第7回　箱庭療法の事例から学ぶ（2）
第8回　心理療法における描画法
第9回　風景構成法とは
第10回　風景構成法実習（1）
第11回　風景構成法実習（2）
第12回　遊戯療法とは
第13回　遊戯療法の実際
第14回　遊戯療法の事例から学ぶ
第15回　まとめ

履修上の注意点

講義の回に出席できていない（実習やワークに必要なことを理解できていない）場合、その後の実習やワークの回の受講を制限せざるを得ないこともありますので、気をつけてください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

風景構成法—その基礎と実践
著者:　皆藤章
出版社:　誠信書房
出版年:　1994　ISBN:　978-4414401691

風景構成法のしくみ: 心理臨床の実践知をことばにする
著者:　佐々木玲仁
出版社:　創元社
出版年:　2012　ISBN:　978-4422115429

a90203d950

箱庭療法―基礎的研究と実践
著者:　木村晴子
出版社: 創元社
出版年: 1985　ISBN:　978-4422111032

箱庭療法の事例と展開
著者:　岡田 康伸(編)
出版社: 創元社
出版年: 2007　ISBN:　978-4422113647

遊戯療法の実際
著者:　河合 隼雄
出版社: 誠信書房
出版年: 2005　ISBN:　978-4414400212

成績評価

試験 ( )　小テスト ( )
授業中課題 (40%)　授業中発表等 (30%)
参加度 (30%)
授業中や自宅でのレポート作成が主になります。

2016 Syllabus

科 目 名　**犯罪心理学**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　ジェイムス 朋子

テーマ

犯罪心理学基礎理論の理解および矯正心理学の臨床心理学的理解

授業の到達目標

本講義においては、主に臨床心理学的な視点から、反社会的行動化としての犯罪を理解することをめざす。犯罪臨床領域では、特定の犯罪理論に依拠して統計的に犯罪を分析をすることよりも、多次元的な観点から一人ひとりの犯罪者・非行少年の人格的特徴や問題性を理解し、矯正心理教育を模索する。臨床的援助としての犯罪防止および矯正心理教育の実際を理解することを目標とする。

授業の概要

授業では、講義、質疑応答、ディスカッション、簡単な演習を中心に展開する。それらの理解の確認のため、適宜小レポートや小テストを課す場合がある。

準備学習（予習・復習）

配布資料や参考文献を読み、授業の理解を深める。

内　容

第1回　イントロダクション：犯罪心理学とは
第2回　生物学的側面からみた犯罪
第3回　生物学的側面からみた犯罪
第4回　パーソナリティと犯罪
第5回　精神障害と犯罪
第6回　アディクションと犯罪
第7回　犯罪に関わる被害体験
第8回　日本における犯罪理論
第9回　犯罪プロファイリング
第10回　矯正施設における心理学の活用
第11回　犯罪者の更生と社会システム
第12回　行動療法
第13回　認知行動療法
第14回　力動的心理療法
第15回　事例からの学び

履修上の注意点

教科書

参考書

コンパクト犯罪心理学
著者：　河野荘子/岡本英生
出版社：北大路書房
出版年：2013　　ISBN：

犯罪心理学－行動科学のアプローチ―
著者：　C. R. バートル/A. M. バートル
出版社：北大路書房
出版年：2006　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40% ）
授業中課題 （ レポート40% ）　　授業中発表等（　）
参加度 （ 20% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**集団力動学**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　ジェイムス 朋子

テーマ

集団力動の理論とグループ・アプローチの基礎理解

授業の到達目標

集団はその構造によりさまざまな特徴をもつ。臨床心理学では古くから、個人力動の特質と集団力動の特質、そしてその交叉の力動を活かして、対人援助にアプローチしてきた。その知見は、教育、医療、矯正など、多くの領域で活用されている。本講義では、集団力動の基本理論と実際を理解し、援助処方としてのグループ・アプローチの基礎を理解することを目標とする。

授業の概要

授業では、講義、質疑応答、ディスカッション、簡単な演習を中心に展開する。それらの理解の確認のため、適宜小レポートや小テストを課す場合がある。

準備学習（予習・復習）

配布資料や参考文献を読み、授業の理解を深める。

内　容

第1回　イントロダクション—集団とは何か—
第2回　映画に見る集団力動
第3回　青年と集団
第4回　集団力動とは何か
第5回　グループ・サイズと機能：小演習
第6回　リーダーシップ
第7回　集団力動の実際
第8回　心の発達力学と集団
第9回　集団と対人関係
第10回　集団と家族・集団と学校
第11回　グループ・アプローチのあれこれ
第12回　グループ・ワーク：学校教育におけるグループ・ワークの例
第13回　グループ・ワーク：刑務所における心理教育グループ・ワークの例
第14回　グループ・カウンセリングと集団精神療法
第15回　事例による理解のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

人間理解のグループ・ダイナミックス
著者：　吉田道雄
出版社：ナカニシヤ出版
出版年：2001　　ISBN：

現代のエスプリ別冊　心の安全空間—家庭・地域・学校・社会—
著者：　小谷英文
出版社：至文堂
出版年：2006　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 20% ）
授業中課題（ レポート60% ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 20% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**広告心理学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光	

テーマ

広告を科学的見地から理解する

授業の到達目標

広告の心理・社会的機能を、客観的な視点から論考することができる。

授業の概要

私たちは日々、多くの広告に接触しながら生活している。本講では、心理学や行動科学の研究成果を中心に、これら広告の心理・社会的機能を学習し、広告の送り手・受け手の双方の視点から種々のトピックについて論考していく。加えて、広告を通して人間（消費者）理解を深めることによって、さまざまなマーケティング戦略について議論していく。

準備学習（予習・復習）

・日常生活において、さまざまな広告に接触すること・下記参考書をはじめとする広告心理学に関連する書籍の講読

内　　容

第1回　イントロダクション
第2回　広告効果
第3回　ブランドと広告
第4回　メディアによる差異
第5回　購買後効果と長期的効果
第6回　広告表現と戦略：タレント起用広告
第7回　広告表現と戦略：比較広告
第8回　広告表現と戦略：ユーモア広告
第9回　広告表現と戦略：その他の広告表現（性的表現・恐怖アピール等）
第10回　POP広告
第11回　公共広告
第12回　インターネット広告
第13回　プロダクトプレイスメント
第14回　広告の倫理：広告苦情
第15回　まとめと確認

履修上の注意点

ある程度の心理学の知識を有している方が望ましい。

教科書

参考書

広告心理
著者：　仁科貞文ほか
出版社：　電通
出版年：　　ISBN：

新・消費者理解のための心理学
著者：　杉本徹雄（編）
出版社：　福村出版
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 80 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等　（　）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**消費者コミュニケーション論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光	

テーマ

現代社会における消費者行動の理解

授業の到達目標

現代における消費者コミュニケーションの意義・機能について、客観的な視点から理解することができる

授業の概要

消費者行動とは、消費者が購買し、使用・維持を経て廃棄に至るすべての行動プロセスを含んだものである。私たちは、このすべてのプロセスにおいて、他者とくちコミ情報を授受しあう、企業から情報を入手する、企業に苦情を伝える、Web上で情報交換をおこなう等、種々のコミュニケーション活動をおこなっている。本講では、これらの消費者をめぐるコミュニケーション活動に焦点をあて、そのプロセス・機能・役割について明らかにしていく。

準備学習（予習・復習）

・日常生活における消費者行動に注意を向ける・下記参考書をはじめとする関連書籍の講読

内　　容

第1回　イントロダクション
第2回　消費者間コミュニケーション①：他メディアとの効果差異を中心に
第3回　消費者間コミュニケーション②：くちコミの受け手・メッセージ内容を中心に
第4回　消費者間コミュニケーション③：くちコミの送り手に関する検討
第5回　消費者間コミュニケーション④：Webくちコミ
第6回　企業と消費者間のコミュニケーション①：消費者の問題認識
第7回　企業と消費者間のコミュニケーション②：消費者の購買意思決定過程
第8回　企業と消費者間のコミュニケーション③：購買意思決定を左右する種々の要因
第9回　企業と消費者間のコミュニケーション④：不合理な消費者の購買意思決定
第10回　企業と消費者間のコミュニケーション⑤：選択肢評価
第11回　企業と消費者間のコミュニケーション⑥：消費者満足
第12回　消費者とモノとのコミュニケーション①：モノの意味
第13回　消費者とモノとのコミュニケーション②：被服心理学
第14回　現代社会における消費者コミュニケーション：環境配慮行動
第15回　まとめと確認

履修上の注意点

ある程度の心理学の知識を有している方が望ましい。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

消費者・コミュニケーション戦略
著者：　田中洋・清水聰
出版社：　有斐閣
出版年：　　ISBN：

新・消費者理解のための心理学
著者：　杉本徹雄（編）
出版社：　福村出版
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**マーケティング調査演習**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　永野 光朗

テーマ

マーケティング遂行に必要な情報収集手段としての消費者調査

授業の到達目標

マーケティング遂行の手段としての「来街者調査」の企画立案，実施，結果の分析，報告書の作成を自らが行うことで，社会調査についての「体験的理解」を深めると同時に実務的・実践的スキルを身につける.

授業の概要

商店街など地域社会の活性化を目指してプランを立案する場合にしばしば行われる来街者調査（地域への来訪者を対象とした面接調査，行動観察調査など）のプロセスを体験する.

準備学習（予習・復習）

商店街や店舗での販売促進の事例を収集し、その遂行のためにはどのような情報が必要になるのかを自分なりに考える。

内　容

第1回　来街者調査とは？
第2回　来街者調査の事例紹介
第3回　来街者調査の方法①（面接調査）
第4回　来街者調査の方法②（通行量調査）
第5回　質問紙の設計と調査計画の作成
第6回　来街者調査の実施①
第7回　来街者調査の実施②
第8回　来街者調査の実施③
第9回　来街者調査の実施④
第10回　来街者調査の実施⑤
第11回　来街者調査の実施⑥
第12回　データの入力
第13回　データの分析
第14回　調査結果の検討
第15回　調査報告書の作成

履修上の注意点

教科書

教科書はなし

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ ）

参加度　（ 70% ）

・10月または11月の土曜日及び日曜日に商店街などにおいて来街者調査を行う。また事前の現地への下見や事後の報告会なども実施する。・現地への交通費はすべて自己負担とする。・上記の詳細（調査実施場所など）については未定であるが決まり次第通知をする。・報告会については授業終了後の2月または3月に実施する予定である。これについても参加することを原則とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**環境心理学**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　太子 のぞみ

テーマ

現実の様々な環境における人間の心理・行動についての知識や考え方を習得

授業の到達目標

本講義では、環境心理学の考え方を踏まえた上で、住環境や教育環境、対人社会環境、自然環境など様々なテーマについて論じる。受講者は環境心理学の概念や理論を知識として得て、さらに人間を取り巻く様々な環境を心理学の視点から把握できるように理解を深める。

授業の概要

一回もしくは二回の講義で一つのテーマについて講義を行う。また、講義に際して出欠をとる。講義の途中で小レポートを二回課し、数週間後に提出する必要がある。

準備学習（予習・復習）

講義で学習したことを踏まえた上で、身近な環境に対してよく注意を払うように心がけて、人間と環境の相互作用について考えてみましょう。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　環境心理学の考え方
第3回　環境の認知①
第4回　環境の認知②
第5回　環境の評価①
第6回　環境の評価②
第7回　対人・社会環境①
第8回　対人・社会環境②
第9回　住環境①
第10回　住環境②
第11回　教育環境
第12回　職場環境
第13回　犯罪環境
第14回　自然環境
第15回　まとめと理解の確認
第16回　試験

履修上の注意点

質問があれば授業中だけでなく、授業前後に気軽にお越しください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

環境心理学—人間と環境の調和のために（ライブラリ 実践のための心理学）
著者:　羽生和紀
出版社:　サイエンス社
出版年:　2008年　　ISBN:　4781911943

環境心理学（朝倉心理学講座）
著者:　佐古順彦・小西啓史
出版社:　朝倉書店
出版年:　2007年　　ISBN:　4254526725

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（　）

a90203e510

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ 30 ）

成績は、試験50点、授業中に課される課題20点、出欠を含む参加度30点の合計得点を算出して評価を行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**社会心理学実験演習**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　前田 洋光

テーマ

グループで決定した研究テーマについて、実証研究を実施する

授業の到達目標

本講では、受講生をいくつかのグループに分け、グループ研究を実施していく。具体的には、グループごとで研究テーマを決定し、文献を講読し、研究仮説を構築する。その後、調査によって収集されたデータを分析し、レポートにまとめる。こうした一連の研究プロセスを直接体験することによって、卒業研究で活用すべきスキルを習得していく。

授業の概要

社会心理学分野における実証研究を共同でおこなう。

準備学習（予習・復習）

授業内で作業が完了しない場合、授業時間外でもグループで議論する必要がある。

内　容

第1回　オリエンテーション（グループの決定）
第2回　研究テーマの決定と文献検索の方法
第3回　文献講読
第4回　仮説の設定
第5回　質問項目の設計
第6回　質問紙の設計
第7回　調査準備（印刷）
第8回　調査の実施
第9回　データ入力
第10回　データ分析（基礎集計）
第11回　データ分析（仮説の検討）
第12回　データ分析（発展的検討）
第13回　レポートのまとめ方
第14回　結果のまとめと考察
第15回　プレゼンテーション

履修上の注意点

グループ作業が中心のため、遅刻・欠席は厳禁である。フリーライダーに対しても厳正に評価をおこなう。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**コーチング心理学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　本山 雅英	

テーマ

卒業後に企業で働くことを前提としていた講座である。企業活動における生産性向上に、コーチング、ファシリテーションがどう役立っているかを学ぶ。

授業の到達目標

企業におけるヒューマンマネジメント(人的資源管理)は、心理学の諸理論の援用により構成、運用されている。静的アプローチとしての人事制度設計には、主として動機づけ理論。目標管理を中心とした、動的アプローチにはコーチング、ファシリテーションなどの行動科学の考え方が援用されている。本講座では、コーチング、ファシリテーションが企業内でどう活用され、どのような効果をあげているかを理解し、心理学を学んだものが企業内で、それをどう活用すべきかのポイントを習得する。

授業の概要

連続した三日間の集中講義により、企業社会で求められているコーチングとファシリテーションの基本スキルを習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　企業社会で期待される心理学とは?　大学で学ぶ心理学と、社会人が勉強したい心理学とのギャップ。企業が期待する「スキルとしての心理学」を理解しよう。
第2回　コーチングの本質である、人の話をよく聴いて、仕事に役立てるスキル。例えば、モノが受ける営業マンになるためのヒヤリングにコーチングを活用する。良い人材を見つけるための採用面接に役立つコーチングを理解しよう。
第3回　企業でよく使われている心理学の諸理論のうち、TA理論について理解する。TA理論が、企業での人財育成に使われる理由と、その活用法のポイントを理解する。
第4回　TA理論の具体的理解のため、エゴグラム分析を体験する。エリック・バーンの自我状態分析の考え方と、企業におけるその活用法を理解する。
第5回　TA理論のうち、ストローク/ディスカウント分析について学ぶ。企業での一般的なストローク活用法や、ゲーミフィケションと連動させて全社を活性化させた事例などを理解する。
第6回　優良企業では従業員のキャリア開発についても熱心なトレーニングか行われている。代表的な援用理論である、エドガー・社員の自己成長のためのキャリア・アンカー理論ついて理解する。
第7回　企業で行われている人材教育としてのコーチングの位置づけを理解する。なぜ企業がコーチングを必要としているか、他者に語り説得するスキルを習得する。
第8回　他者への支援スキルとしてのコーチングにおける、他者理解のためのTA、エゴグラムの活用法を理解する。併せて、学生としてのコーチングの具体的な練習法を理解する。
第9回　企業における組織活性化と動機づけ理論の関係を理解する。ハーツバーグの二要因理論と、マズローの五段階説のおさらいを兼ねる。
第10回　ファシリテーションおよびチェンジエージェントという考え方を知り、企業における会議やミーティング時のファシリテーションの具体的な活用法を理解する。
第11回　企業から期待されるファシリテーションの基本的なスキルと、そのトレーニングの方法を会する。
第12回　企業に入ると必ず出会う目標管理とその基本的な考え方を理解する。企業社会に与えているドラッカー理論の影響と、その考え方のポイントを理解する。（1）
第13回　企業に入ると必ず出会う目標管理とその基本的な考え方を理解する。企業社会に与えているドラッカー理論の影響と、その考え方のポイントを理解する。（2）
第14回　目標管理とリーダーシップ、企業が求める人材へのコンピテンシー概念を理解し、その中でコーチングがどういう役割を果たしているのかを理解する。
第15回　自分自身が学んだ心理学やカウンセリングを、自分の人生にどう役立てようとするかを考察する。エドガー・シャインのキャリアアンカーモデルを援用して、受講者自身のキャリアデザインを体験することで、その技法を習得する。

履修上の注意点

教科書

大学生のためのコーチングとファシリテーションの心理学
著者:　本山雅英
出版社:　北大路書房
出版年:　2014年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

a90203e750

参加度 （ 50% ）

第15回終了時に、レポート課題を課す。50%

2016 Syllabus

科 目 名　**メンタルヘルス・マネジメント**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　大久保　千惠.田中　芳幸	

テーマ

こころもからだもウエルビーイングな生活を維持増進するために重要な諸理論と技法について学ぶ。

授業の到達目標

心身の健康の維持増進や疾病への対処について、心理・社会・身体的な要因がどのような役割をもつのかを心理学の側面から学ぶ。ストレス、ライフスタイル、生活習慣病、疾病予防、食物・嗜好品の摂取や運動などといった健康関連行動など、現代社会で問題になっている事柄についての具体的な理解を深める。また、職場におけるメンタルヘルスの重要性について、事例を参照しながら講義する。さらに、人間性のネガティブな側面についてのみではなく、ポジティブな側面についても言及し、それらが心身の健康や疾病に対してどの様な関わりをもつのかを考察する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

ニュースや新聞記事などに目を向け、現代社会でおきているメンタルヘルス関連問題に関心をもっていただきたい。

内　容

第1回　オリエンテーション　メンタルヘルスと心身の健康
第2回　心身のストレス反応と健康
第3回　ストレス緩和要因としてのコーピングと行動パターン
第4回　ストレスに強いパーソナリティ
第5回　社会への意識と心身の健康
第6回　楽観主義・完璧主義と心身の健康
第7回　メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法　(1)リラクセーション
第8回　メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法　(2)問題解決と時間の節約
第9回　メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法　(3)認知への働きかけ
第10回　メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法　(4)自己主張（アサーション）と社会的スキル
第11回　メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法　(5)セルフ・マネジメント法
第12回　ストレス理論とメンタルヘルスマネジメント理論・技法のまとめ
第13回　勤労者におけるストレス関連問題　(1)社会における勤労者のメンタルヘルス問題の実態と対処
第14回　勤労者おけるストレス関連問題　(2)ハラスメント問題の実態と対処
第15回　勤労者におけるストレス関連問題　(3)勤労者への支援

履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為を慎むこと。

教科書

ストレス・マネジメント入門　自己診断と対処法を学ぶ
著者：　中野敬子　著
出版社：（金剛出版）
出版年：2013　　ISBN：

参考書

ストレスマネジメントと職場カウンセリング　主要な方法論とアプロ−チ
著者：　内山喜久雄　監訳
出版社：（川島書店）
出版年：2002　　ISBN：

健康の心理学　心と体の健康のために
著者：　春木豊ほか　著
出版社：（サイエンス社）
出版年：2007　　ISBN：

産業心理臨床入門
著者：　CPI研究会
出版社：（ナカニシヤ出版）
出版年：2006　　ISBN：

成績評価

試験 （ 30% ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 50% ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 20% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**発達臨床心理学**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　中村 和夫

テーマ

人としての発達を生きる上での障害の実際とソーシャルサポートについて理解する。

授業の到達目標

人としての発達を生きる上での様々な障害についてその実際の姿を理解するとともに、社会生活におけるソーシャルサポートのあり様と実践現場の活動について理解すること。

授業の概要

資料とDVDを参照しながら講義する。

準備学習（予習・復習）

復習が重要

内　容

第1回　授業のオリエンテーション
第2回　知的発達の障害
第3回　ダウン症候群
第4回　知的障害へのソーシャルサポート1
第5回　知的障害へのソーシャルサポート2
第6回　姿勢・運動の障害
第7回　姿勢・運動の障害へのソーシャルサポート
第8回　重症心身障害へのソーシャルサポート
第9回　ことばの障害とソーシャルサポート
第10回　視覚障害・聴覚障害とソーシャルサポート
第11回　発達障害
第12回　自閉症スペクトラム
第13回　発達障害とソーシャルサポート
第14回　児童虐待
第15回　児童虐待とソーシャルサポート

履修上の注意点

遅刻・欠席はしないこと。

教科書

特に指定しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

よくわかる臨床発達心理学
著者:　麻生・浜田編
出版社: ミネルヴァ書房
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 50% ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 50% ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
欠席が5回を超える場合には成績は0点となる。

2016 Syllabus

科 目 名　**リハビリテーション文化論**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

この科目は、「こころとからだの臨床学」の続編と見ることもできます。からだの機能をこころの動きに焦点を当てて見直し、また、こころにとって殆ど不可避的なさまざまな問題、特に心的外傷体験に関してその基本を理解しようとします。からだのケアーとリハビリテーションに当たる者が留意すべきことについても役に立つものを目指します。そして、心理学的アプローチと理学療法の実践を生かし、心理的ケアーと身体的ケアーそれぞれの知見を、リハビリテーションのなかでいかに統合できるかについて、一緒に考えたいと願っています。

授業の到達目標

リハビリテーションをこころの問題や社会的文化的背景にも広げて考えることで、リハビリテーションについての新しい考え方と障碍と問題の新しい見方を獲得します。そこで扱われる主要な具体的問題に関して、そのうち少なくとも2つについて、その新しいアプローチに従って　言葉で解説できるようになることを目指します。

授業の概要

リハビリテーションについての新しい考え方や障碍の具体的な解説のため、事例を示しながらの講義も行いますが、必要に応じて、あるいは受講者の関心によっては、体験学習をも取り入れたいと思っています。

準備学習（予習・復習）

特にありませんが、自身がリハビリ体験をしたことがあれば、その自身の体験を振り返ってみることは大いに役に立つでしょう。また、障碍をもった人が近くにいれば、その人たちのとのつきあいも、意義深いものになるでしょう。

内　　容

第1回　リハビリテーション（社会復帰）という考え方、リハビリテーションが可能な社会的文脈その起源と心理・社会学全般的概論
第2回　リハビリテーションの心理・社会的意味と方法、扱えるテーマの概観
第3回　心的外傷（トラウマ）という概念の誕生とその発展
第4回　障碍の発生とその認知までのプロセス　喪失と「喪の営み」 うつ状態
第5回　うつ状態はからだにどのように現れるか
第6回　うつ状態に対しての運動療法とリクリエーションの可能性
第7回　児童虐待という問題　伝統的問題と新しい課題　セクシャル・アビューズとネグレクトという問題
第8回　暴力と犯罪　　被害者と加害者のそれぞれのリハビリテーションの課題
第9回　破壊的カルト集団のマインドコントロールからの開放と社会復帰の難しさ
第10回　人間の身体運動をどのように捉えるか①：ベルンシュタイン一運動・行為の進化と階層構造
第11回　人間の身体運動をどのように捉えるか②：ユクスキュル一果てしなき知覚と運動の循環と生物世界
第12回　認知神経リハビリテーション
第13回　認知神経リハビリテーションの実際
第14回　認知神経リハビリテーションの実際②
第15回　まとめ

履修上の注意点

受講者の構成や関心、そしてグ学習グループの展開によって、やることは大きく変わって行くので、上に書かれているようなスケジュールで行われるとは限りません。この点を予め了承しておいてください。

教科書

新版　トラウマの心理学
著者：　小西聖子
出版社：NHK出版
出版年：2012　　ISBN：

脳のなかの身体―認知運動療法の挑戦
著者：　宮本省三
出版社：講談社
出版年：2008　　ISBN：　978-4062879293

参考書

運動の生物学
著者：　塚本芳久
出版社：協同医書出版社
出版年：2009　　ISBN：　9784763910530

a90203f010

生物から見た世界
著者:　ユクスキュル/クリサート
出版社: 岩波文庫
出版年: 2005　ISBN:　4-00-339431-3

デクステリティ 巧みさとその発達
著者:　ニコライ・A・ベルンシュタイン
出版社: 金子書房
出版年: 2003　ISBN:　978-4760828210

神経心理学の基礎
著者:　ルリヤ
出版社: 創造出版
出版年: 2003　ISBN:　4-88158-251-8

リハビリテーションルネッサンス
著者:　宮本省三
出版社: 春秋社
出版年: 2006　ISBN:　4-393-72903-X

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）　授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ ）
評価は基本的に減点法でなく、加点法です。学んだことが評価の対象であり、なにをどのような形で学んでいくか、学んだかを、最初と最後に話し合いたいと思っています。参加することが学びの基本条件なので「参加度」に数値などを入れてはいません。

2016 Syllabus

科 目 名　**医療と生命の倫理**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　鶴田　尚美

テーマ

生命倫理学の基本的問題

授業の到達目標

1. 生命倫理の基礎的な知識を習得する。2. 自分自身で倫理的問題について考える力を養う。

授業の概要

教科書は使用しない. 毎回レジュメを配布し、それに基づいて授業を行う。

準備学習（予習・復習）

生命倫理に関わる問題はしばしばニュースで報道されるので、日頃からそういった情報をチェックしておくこと。

内　容

第1回　授業の概要説明、生命倫理学の成立
第2回　インフォームド・コンセント
第3回　医療情報
第4回　安楽死（1）
第5回　安楽死（2）
第6回　安楽死（3）
第7回　人工妊娠中絶（1）
第8回　人工妊娠中絶（2）
第9回　人工妊娠中絶（3）
第10回　生殖補助医療（1）
第11回　生殖補助医療（2）
第12回　出生前診断
第13回　脳死と臓器移植（1）
第14回　脳死と臓器移植（2）
第15回　授業のまとめと試験の説明
第16回　試験

履修上の注意点

私語は慎むこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

はじめて学ぶ生命倫理
著者:　小林亜津子
出版社:　筑摩書房
出版年:　2011　　ISBN:　978-4480688682

看護のための生命倫理
著者:　小林亜津子
出版社:　ナカニシヤ出版
出版年:　2010　　ISBN:　978-4779504792

成績評価

試験　（ 100 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
論述式の試験をおこなう。

2016 Syllabus

科 目 名　**ライフサイクル論（健康）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　菱田　一仁	

テーマ

カウンセリングなど、専門的なかかわりの中で必要となる、現代のライフサイクルについての基本的な知識を身につける。

授業の到達目標

カウンセリングなどの場面で、実際にクライエントなどと会い、専門的なかかわりを行う上で必要となるライフサイクルについての知識を身につける。

授業の概要

映像資料なども使いながら、講義形式で行います。

準備学習（予習・復習）

授業内で身につけた知識をもとに、日常的に触れるもの（ドラマや映画など）についても、心理学的な視点で考えてもらえると面白いと思います。

内　　容

第1回　オリエンテーション・ライフサイクルとは
第2回　ライフサイクルの概観・ライフサイクルの色々
第3回　乳児期①
第4回　乳児期②
第5回　幼児期①
第6回　幼児期②
第7回　児童期①
第8回　児童期②
第9回　思春期
第10回　青年期
第11回　成人期①
第12回　成人期②
第13回　中年期
第14回　老年期
第15回　まとめ

履修上の注意点

授業にはできる限り積極的に出席するようにしてください。

教科書

参考書

エピソードでつかむ　生涯発達心理学
著者：　岡本祐子　深瀬裕子
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2013　　ISBN：　9784623065318

成績評価

試験　（ 30 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 10 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 60 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**精神医学Ⅰ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　川岸　久也	

テーマ

精神疾患の症状を理解するための各種用語をまず学び、その上で精神疾患の概要と基本的な対応法について理解する。

授業の到達目標

最初に精神医学の歴史と現状の概略について説明し、その後様々な精神疾患について、その成因、診断、治療法について理解する。本人や家族への支援について最新の知見と、当事者の視点も入れながら理解を深める。

授業の概要

授業は配布する資料を基に講義形式で進める。前半は、精神医学の歴史ならび用語を症例を通して説明し、後半から代表的な疾患について説明する。授業では、講義毎に課題と期末レポートを実施する。授業中の活発な発言を期待する。

準備学習（予習・復習）

授業後、専門用語の理解に努めること。

内　容

第1回　オリエンテーション、精神医学、精神医療の歴史
第2回　精神症候学Ⅰ（意識、知覚、思考、感情）～症例から学ぶ～
第3回　精神症候学Ⅱ（記憶、知能、意欲、自我意識）～症例から学ぶ～
第4回　状態像（神経衰弱状態、幻覚妄想状態、うつ状態、躁状態、緊張病症候群、錯乱状態、器質性症候群）
第5回　精神医学の概念～精神障害の概念と成因・分類について
第6回　診断の手順と方法～精神科医はどう考えるか
第7回　精神症状と状態像～当事者の世界を理解する
第8回　心理検査と身体的検査、その利用方法と注意点
第9回　代表的な疾患について1　～　症状性を含む器質性精神障害
第10回　代表的な疾患について2　～　精神作用物質使用による精神および行動の障害
第11回　代表的な疾患について3　～　統合失調症、統合失調症型および妄想性障害（1）
第12回　代表的な疾患について4　～　統合失調症、統合失調症型および妄想性障害（2）
第13回　代表的な疾患について5～　気分障害（1）　うつ病
第14回　代表的な疾患について6～　気分障害（2）　双極性障害
第15回　代表的な疾患について7　～　神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害（1）

履修上の注意点

授業中の活発な発言を期待する。授業後、テキストの該当部分を熟読し、内容を確認すること。

教科書

新・精神保健福祉士養成講座　精神疾患とその治療
著者:　日本精神保健福祉士養成校協会
出版社:　中央法規
出版年:　2012　　ISBN:　4805835745

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**精神医学Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　川岸　久也	

テーマ

様々な精神疾患の概要と、基本的な対応法について理解する。

授業の到達目標

様々な精神疾患について、その成因、診断、治療法について理解する。治療については、薬物療法や心理的対応だけでなく、チーム医療としての各専門職種の役割について学び、現状の精神科医療の中でなされていることを理解する。

授業の概要

授業は配布する資料を基に、講義形式で進める。前半は、前期に引き続き代表的な疾患について説明し、その後精神医学を支える社会資源や法律、そして治療法について説明する。授業では、講義毎に課題と期末レポートを実施する。授業中の活発な発言を期待する。期間中1回、精神病院の見学を予定している。

準備学習（予習・復習）

授業後、専門用語の理解に努めること。授業後、テキストの該当部分を熟読し、内容を確認すること。

内　容

第1回　代表的な疾患について8　神経症性障害、ストレス関連障害
第2回　代表的な疾患について9　解離性障害、身体表現性障害、パーソナリティ障害
第3回　代表的な疾患について10　パーソナリティ障害、摂食障害
第4回　代表的な疾患について11　生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
第5回　代表的な疾患について12　発達障害（総論と知的障害）
第6回　代表的な疾患について13　発達障害（自閉症スペクトラム（1））
第7回　代表的な疾患について14　発達障害（自閉症スペクトラム（2））
第8回　代表的な疾患について15　発達障害（注意欠陥多動性障害）
第9回　代表的な疾患について16　発達障害（学習障害）、小児期および青年期に通常発症する行動及び情緒の障害
第10回　病院精神医療の実際　歴史と現状、司法精神医学、精神保健福祉法（入院形態、行動制限）、インフォームドコンセント
第11回　精神医療と関連機関との連携
第12回　病院見学
第13回　精神疾患と死
第14回　治療について1　薬物療法、電気けいれん療法
第15回　治療について2　精神療法・心理療法

履修上の注意点

授業中の活発な発言を期待する。

教科書

新・精神保健福祉士養成講座　精神疾患とその治療
著者:　日本精神保健福祉士養成校協会
出版社:　中央法規
出版年:　2012　　ISBN:　4805835745

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**障害児医学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　安藤　忠	

テーマ

「障害臨床学」という学問の価値を、教科書を基にした授業から学び、学びの内容を、学生間のディスカッションやレポート作成の過程を通じて深化する。単なる”障害”の特性についての理解のみならず、環境を含めたその援助方法についてそれぞれに理解し、支援を実践するに当たっての当面の手がかりを掴むことを本授業のテーマとする。

授業の到達目標

個々の学生が、さまざまな障害のある児童・生徒に備わった、機能・能力障害の特殊性ばかりに目を向けて、改善の対象として障害をとらえるのではなく、障害児・者とその家族の生活を主体とした、臨床支援、障害児・者とその家族の社会とのかかわりを視野に入れ、その生涯を通しての臨床支援の考え方を学び、実践に結び付けることができるよう知識を深める。

授業の概要

ここで支援対象とする”障害”は、知的障害、自閉性障害、多動性障害、学習障害、運動障害、中途障害などで、支援の具体的内容は、”障害”の原因、概念・特徴、支援の考え方、医学的基礎知識、障害受容、早期療育、障害児教育などで、教科書のほかに、レジュメ、視聴覚資材を多用し、多角的な理解を進める。

準備学習（予習・復習）

毎回の予習と復習、メディアに報道される障害者問題についての関心を深めること。

内　容

第1回　”障害”とは何か、”障害”をどうとらえるか
第2回　脳・神経系の機能と障害
第3回　知的障害児の心理と支援
第4回　ダウン症
第5回　自閉性障害の心理と支援
第6回　TEACCHプログラム
第7回　多動性障害と学習障害の心理と支援
第8回　応用行動分析
第9回　運動障害の心理と支援　脳性まひ
第10回　筋ジストロフィー症
第11回　二分脊椎症、骨系統疾患など
第12回　中途障害の心理と支援
第13回　障害児の親・家族の心理と支援
第14回　早期発見と早期療育
第15回　インクルージョン教育の思想と現実
第16回　テスト

履修上の注意点

教科書

参考書

ダウン症児の育ち方・育て方
著者:　安藤忠　著
出版社:　学研
出版年:　2002年　ISBN:

ダウン症療育のパイオニア
著者:　安藤忠・他　訳
出版社:　あいり出版
出版年:　2006年　ISBN:

ダウン症のぼくから
著者:　安藤忠・他　著
出版社:　あいり出版
出版年:　2013年　ISBN:

a90203f510

障害は個性か

著者:　茂木俊彦　著

出版社: 大月書店

出版年: 2004年　　ISBN:

成績評価

試験 （ 50% ）　　小テスト （ 10% ）

授業中課題 （ 15% ）　　授業中発表等 （ 10% ）

参加度 （ 15% ）

試験)筆記テスト　小テスト)筆記テスト　授業中課題)グループ・ディスカッション　授業中発表)指名による個別評価　参加度)出席回数

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ〈＊a〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　日比野　英子	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ｉで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究計画にもとづき、データ収集を行い、分析し、結果を導き出し、検討する。

準備学習（予習・復習）

授業時間以外に、データ収集・文献購読・データ入力と統計的分析・質的分析などの研究作業を滞りなく進めることが重要である。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　データ収集についての指導①
第3回　データ収集についての指導②
第4回　データ処理①
第5回　データ処理②
第6回　データ処理③
第7回　データの分析①
第8回　データの分析②
第9回　データの分析③
第10回　データの分析④
第11回　分析結果の検討①
第12回　分析結果の検討②
第13回　データの再分析①
第14回　結果の発表と討論①
第15回　結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報が守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に充分に留意すること。

教科書

各受講生に適した文献購読を指導します。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）	授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ〈＊b〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　中村　和夫	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ｉで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究計画にもとづき、データ収集を行い、分析し、結果を導き出し、検討する。

準備学習（予習・復習）

授業時間以外に、データ収集・文献購読・データ入力と統計的分析・質的分析などの研究作業を滞りなく進めることが重要である。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　データ収集についての指導①
第3回　データ収集についての指導②
第4回　データ処理①
第5回　データ処理②
第6回　データ処理③
第7回　データの分析①
第8回　データの分析②
第9回　データの分析③
第10回　データの分析④
第11回　分析結果の検討①
第12回　分析結果の検討②
第13回　データの再分析①
第14回　結果の発表と討論①
第15回　結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報が守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に充分に留意すること。

教科書

各受講生に適した文献購読を指導します。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）	授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ〈＊c〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ｉで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究計画にもとづき、データ収集を行い、分析し、結果を導き出し、検討する。

準備学習（予習・復習）

授業時間以外に、データ収集・文献購読・データ入力と統計的分析・質的分析などの研究作業を滞りなく進めることが重要である。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　データ収集についての指導①
第3回　データ収集についての指導②
第4回　データ処理①
第5回　データ処理②
第6回　データ処理③
第7回　データの分析①
第8回　データの分析②
第9回　データの分析③
第10回　データの分析④
第11回　分析結果の検討①
第12回　分析結果の検討②
第13回　データの再分析①
第14回　結果の発表と討論①
第15回　結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報が守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に充分に留意すること。

教科書

各受講生に適した文献購読を指導します。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）	授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ〈＊d〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ジェイムス　朋子	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ｉで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究計画にもとづき、データ収集を行い、分析し、結果を導き出し、検討する。

準備学習（予習・復習）

授業時間以外に、データ収集・文献購読・データ入力と統計的分析・質的分析などの研究作業を滞りなく進めることが重要である。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　データ収集についての指導①
第3回　データ収集についての指導②
第4回　データ処理①
第5回　データ処理②
第6回　データ処理③
第7回　データの分析①
第8回　データの分析②
第9回　データの分析③
第10回　データの分析④
第11回　分析結果の検討①
第12回　分析結果の検討②
第13回　データの再分析①
第14回　結果の発表と討論①
第15回　結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報が守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に充分に留意すること。

教科書

各受講生に適した文献購読を指導します。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）	授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ〈＊e〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　松下　幸治	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ｉで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究計画にもとづき、データ収集を行い、分析し、結果を導き出し、検討する。

準備学習（予習・復習）

授業時間以外に、データ収集・文献購読・データ入力と統計的分析・質的分析などの研究作業を滞りなく進めることが重要である。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　データ収集についての指導①
第3回　データ収集についての指導②
第4回　データ処理①
第5回　データ処理②
第6回　データ処理③
第7回　データの分析①
第8回　データの分析②
第9回　データの分析③
第10回　データの分析④
第11回　分析結果の検討①
第12回　分析結果の検討②
第13回　データの再分析①
第14回　結果の発表と討論①
第15回　結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報が守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に充分に留意すること。

教科書

各受講生に適した文献購読を指導します。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）	授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ〈＊f〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ｉで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究計画にもとづき、データ収集を行い、分析し、結果を導き出し、検討する。

準備学習（予習・復習）

授業時間以外に、データ収集・文献購読・データ入力と統計的分析・質的分析などの研究作業を滞りなく進めることが重要である。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　データ収集についての指導①
第3回　データ収集についての指導②
第4回　データ処理①
第5回　データ処理②
第6回　データ処理③
第7回　データの分析①
第8回　データの分析②
第9回　データの分析③
第10回　データの分析④
第11回　分析結果の検討①
第12回　分析結果の検討②
第13回　データの再分析①
第14回　結果の発表と討論①
第15回　結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報が守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に充分に留意すること。

教科書

各受講生に適した文献購読を指導します。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）	授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ〈＊g〉**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　永野 光朗	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ｉで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究計画にもとづき、データ収集を行い、分析し、結果を導き出し、検討する。

準備学習（予習・復習）

授業時間以外に、データ収集・文献購読・データ入力と統計的分析・質的分析などの研究作業を滞りなく進めることが重要である。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　データ収集についての指導①
第3回　データ収集についての指導②
第4回　データ処理①
第5回　データ処理②
第6回　データ処理③
第7回　データの分析①
第8回　データの分析②
第9回　データの分析③
第10回　データの分析④
第11回　分析結果の検討①
第12回　分析結果の検討②
第13回　データの再分析①
第14回　結果の発表と討論①
第15回　結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報が守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に充分に留意すること。

教科書

各受講生に適した文献購読を指導します。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）	授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ〈＊h〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ｉで作成した研究計画に基づき、実験・調査・観察等の方法によりデータを収集し、または文献を収集し、データあるいは先行研究を分析して結果を導き出す。

授業の概要

各受講生の設定したテーマについて、研究計画にもとづき、データ収集を行い、分析し、結果を導き出し、検討する。

準備学習（予習・復習）

授業時間以外に、データ収集・文献購読・データ入力と統計的分析・質的分析などの研究作業を滞りなく進めることが重要である。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　データ収集についての指導①
第3回　データ収集についての指導②
第4回　データ処理①
第5回　データ処理②
第6回　データ処理③
第7回　データの分析①
第8回　データの分析②
第9回　データの分析③
第10回　データの分析④
第11回　分析結果の検討①
第12回　分析結果の検討②
第13回　データの再分析①
第14回　結果の発表と討論①
第15回　結果の発表と討論②

履修上の注意点

調査・実験・観察等によりデータ収集を行うについては、研究協力者に敬意をもって接し、前もって研究目的・データ処理の方法を説明し、個人情報が守られていることを伝えて承諾を得るという研究倫理に則った手続き・姿勢に充分に留意すること。

教科書

各受講生に適した文献購読を指導します。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40% ）	授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅲ〈＊a〉**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　日比野 英子

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的、〉(序論)、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり

内　容

第1回　データの分析結果に基づく考察①
第2回　データの分析結果に基づく考察②
第3回　卒業論文の構成
第4回　〈問題と目的〉の執筆指導
第5回　〈方法〉の執筆指導
第6回　〈結果〉の執筆指導①
第7回　〈結果〉の執筆指導②
第8回　〈考察〉の執筆指導
第9回　〈考察〉の執筆指導②
第10回　卒業論文完成
第11回　卒業論文提出
第12回　卒業論文要旨の提出
第13回　卒業研究発表準備①
第14回　卒業研究発表準備②
第15回　卒業研究発表会

履修上の注意点

教科書

各受講生に適した文献を指示します。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　(卒業論文70%)　　小テスト ( )
授業中課題 (10%)　　授業中発表等 (10%)
参加度 (10%)
卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅲ＜＊b＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　中村 和夫

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的、〉(序論)、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり

内　容

第1回　データの分析結果に基づく考察①
第2回　データの分析結果に基づく考察②
第3回　卒業論文の構成
第4回　〈問題と目的〉の執筆指導
第5回　〈方法〉の執筆指導
第6回　〈結果〉の執筆指導①
第7回　〈結果〉の執筆指導②
第8回　〈考察〉の執筆指導
第9回　〈考察〉の執筆指導②
第10回　卒業論文完成
第11回　卒業論文提出
第12回　卒業論文要旨の提出
第13回　卒業研究発表準備①
第14回　卒業研究発表準備②
第15回　卒業研究発表会

履修上の注意点

教科書

各受講生に適した文献を指示します。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　(卒業論文70%)　　小テスト ( )
授業中課題 (10%)　　授業中発表等 (10%)
参加度 (10%)
卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅲ＜＊c＞**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　坂本　敏郎

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的、〉(序論)、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり

内　容

第1回　データの分析結果に基づく考察①
第2回　データの分析結果に基づく考察②
第3回　卒業論文の構成
第4回　〈問題と目的〉の執筆指導
第5回　〈方法〉の執筆指導
第6回　〈結果〉の執筆指導①
第7回　〈結果〉の執筆指導②
第8回　〈考察〉の執筆指導
第9回　〈考察〉の執筆指導②
第10回　卒業論文完成
第11回　卒業論文提出
第12回　卒業論文要旨の提出
第13回　卒業研究発表準備①
第14回　卒業研究発表準備②
第15回　卒業研究発表会

履修上の注意点

教科書

各受講生に適した文献を指示します。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　(卒業論文70%)　　小テスト ( )

授業中課題 (10%)　　授業中発表等 (10%)

参加度 (10%)

卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅲ＜＊d＞**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ジェイムス　朋子	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的、〉(序論)、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり

内　容

第1回　データの分析結果に基づく考察①
第2回　データの分析結果に基づく考察②
第3回　卒業論文の構成
第4回　〈問題と目的〉の執筆指導
第5回　〈方法〉の執筆指導
第6回　〈結果〉の執筆指導①
第7回　〈結果〉の執筆指導②
第8回　〈考察〉の執筆指導
第9回　〈考察〉の執筆指導②
第10回　卒業論文完成
第11回　卒業論文提出
第12回　卒業論文要旨の提出
第13回　卒業研究発表準備①
第14回　卒業研究発表準備②
第15回　卒業研究発表会

履修上の注意点

教科書

各受講生に適した文献を指示します。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　(卒業論文70%)　　小テスト ( )
授業中課題 (10%)　　授業中発表等 (10%)
参加度 (10%)
卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅲ〈＊e〉**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　松下　幸治

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的、〉(序論)、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり

内　容

第1回　データの分析結果に基づく考察①
第2回　データの分析結果に基づく考察②
第3回　卒業論文の構成
第4回　〈問題と目的〉の執筆指導
第5回　〈方法〉の執筆指導
第6回　〈結果〉の執筆指導①
第7回　〈結果〉の執筆指導②
第8回　〈考察〉の執筆指導
第9回　〈考察〉の執筆指導②
第10回　卒業論文完成
第11回　卒業論文提出
第12回　卒業論文要旨の提出
第13回　卒業研究発表準備①
第14回　卒業研究発表準備②
第15回　卒業研究発表会

履修上の注意点

教科書

各受講生に適した文献を指示します。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　(卒業論文70%)　　小テスト ( )
授業中課題 (10%)　　授業中発表等 (10%)
参加度 (10%)
卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅲ＜＊f＞**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的、〉(序論)、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習（予習・復習）

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり

内　　容

第1回　データの分析結果に基づく考察①
第2回　データの分析結果に基づく考察②
第3回　卒業論文の構成
第4回　〈問題と目的〉の執筆指導
第5回　〈方法〉の執筆指導
第6回　〈結果〉の執筆指導①
第7回　〈結果〉の執筆指導②
第8回　〈考察〉の執筆指導
第9回　〈考察〉の執筆指導②
第10回　卒業論文完成
第11回　卒業論文提出
第12回　卒業論文要旨の提出
第13回　卒業研究発表準備①
第14回　卒業研究発表準備②
第15回　卒業研究発表会

履修上の注意点

教科書

各受講生に適した文献を指示します。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 卒業論文70％ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 10％ ）　　授業中発表等 （ 10％ ）
参加度 （ 10％ ）
卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅲ〈＊g〉**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　永野 光朗

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的、〉(序論)、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習(予習・復習)

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり

内　容

第1回　データの分析結果に基づく考察①
第2回　データの分析結果に基づく考察②
第3回　卒業論文の構成
第4回　〈問題と目的〉の執筆指導
第5回　〈方法〉の執筆指導
第6回　〈結果〉の執筆指導①
第7回　〈結果〉の執筆指導②
第8回　〈考察〉の執筆指導
第9回　〈考察〉の執筆指導②
第10回　卒業論文完成
第11回　卒業論文提出
第12回　卒業論文要旨の提出
第13回　卒業研究発表準備①
第14回　卒業研究発表準備②
第15回　卒業研究発表会

履修上の注意点

教科書

各受講生に適した文献を指示します。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　(卒業論文70%)　　小テスト ( )
授業中課題 (10%)　　授業中発表等 (10%)
参加度 (10%)
卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅲ〈＊h〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

心理学科の学びの集大成として、各受講生自らが興味あるテーマを設定し、これまで修得した心理学の研究法に則って、研究し、卒業論文を作成する。

授業の到達目標

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察をおこない、卒業論文を執筆し、完成させ、発表する。

授業の概要

卒業研究Ⅱで得られた研究結果を基に、考察を行い、〈問題と目的、〉(序論)、〈方法〉、〈結果〉、〈考察〉、〈文献〉、〈資料〉等からなる卒業論文を作成する。

準備学習（予習・復習）

考察や執筆作業は授業時間以外で進めて、授業時間ではそれを基に指導を受けたり

内　　容

第1回　データの分析結果に基づく考察①
第2回　データの分析結果に基づく考察②
第3回　卒業論文の構成
第4回　〈問題と目的〉の執筆指導
第5回　〈方法〉の執筆指導
第6回　〈結果〉の執筆指導①
第7回　〈結果〉の執筆指導②
第8回　〈考察〉の執筆指導
第9回　〈考察〉の執筆指導②
第10回　卒業論文完成
第11回　卒業論文提出
第12回　卒業論文要旨の提出
第13回　卒業研究発表準備①
第14回　卒業研究発表準備②
第15回　卒業研究発表会

履修上の注意点

教科書

各受講生に適した文献を指示します。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 卒業論文70％ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 10％ ）　　授業中発表等 （ 10％ ）
参加度 （ 10％ ）
卒業論文の完成・提出・発表により、卒業研究Ⅲの単位を授与します。

2016 Syllabus

科 目 名　**救急救命キャリア開発演習Ⅰ〈＊A〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　山﨑　将文	

テーマ

一般市民としてのみならず公務員として必要とされる政治的・法的・社会的な知識と教養の修得

授業の到達目標

主体的な学習姿勢やマナーなどを身につけるとともに、学習の仕方を修得する。また、幅広い知識を身につけるだけでなく、いろいろな社会問題を多面的に見て、関連付けることのできる論理的思考力を養う。

授業の概要

大学で学修するための基本的な態度（主体的な学習姿勢、マナーなど）と学習能力（文献の探し方、読み方、書き方、意見のまとめ方、発表の仕方など）を身につけるとともに、将来救急救命士として働くために必要となる論理的思考力や社会に関する基礎的な知識を修得する。社会に関する基礎的な知識としては、日本国憲法や戦後の政治・経済の変遷など、現代社会に関する基礎的な知識を演習形式で修得し、あわせて憲法およびその他の法律、政治、行政、経済、人権、福祉などの重要な問題や時事問題について文献を読解したうえでレポートを作成する。

準備学習（予習・復習）

常日頃からテレビやネットでニュースを見たり、新聞を読み、日本や世界で起きている出来事を知るように努める。また、授業終了後に復習をするとともに、毎回出された問題を解く。

内　　容

第1回　授業を受けるにあたっての注意事項の説明勉強の仕方の説明
第2回　政治民主政治の思想、議院内閣制と大統領制
第3回　行政行政学の基礎理論、官僚制
第4回　法学比較憲法、民法
第5回　憲法の基本原理国民主権、平和主義、憲法改正
第6回　基本的人権基本的人権の適用範囲・制約、幸福追求権、法の下の平等
第7回　国会国権の最高機関、国会議員、立法府の活動
第8回　裁判所違憲法令審査権、裁判所の組織と権能、裁判官の独立
第9回　国際政治国際連盟と国際連合、国際社会と国際法
第10回　ミクロ経済需要と供給、不完全競争市場、市場の失敗
第11回　マクロ経済経済循環と国民所得、日銀の景気政策
第12回　国際経済国際分業と国際経済、貿易政策
第13回　社会保障日本の社会保障制度史、医療保険制度
第14回　現代社会の諸相女性・家族問題、環境・エネルギー問題
第15回　レポートの作成と完成

履修上の注意点

皆勤を目指し、授業に積極的に参加する。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

必要に応じ適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 10 ）
三分の二以上出席しないと単位が認定されない場合がある。ほぼ毎回小テストを実施する。

2016 Syllabus

科 目 名　**救急救命キャリア開発演習Ⅰ〈＊B〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　山﨑　将文	

テーマ

一般市民としてのみならず公務員として必要とされる政治的・法的・社会的な知識と教養の修得

授業の到達目標

主体的な学習姿勢やマナーなどを身につけるとともに、学習の仕方を修得する。また、幅広い知識を身につけるだけでなく、いろいろな社会問題を多面的に見て、関連付けることのできる論理的思考力を養う。

授業の概要

大学で学修するための基本的な態度（主体的な学習姿勢、マナーなど）と学習能力（文献の探し方、読み方、書き方、意見のまとめ方、発表の仕方など）を身につけるとともに、将来救急救命士として働くために必要となる論理的思考力や社会に関する基礎的な知識を修得する。社会に関する基礎的な知識としては、日本国憲法や戦後の政治・経済の変遷など、現代社会に関する基礎的な知識を演習形式で修得し、あわせて憲法およびその他の法律、政治、行政、経済、人権、福祉などの重要な問題や時事問題について文献を読解したうえでレポートを作成する。

準備学習（予習・復習）

常日頃からテレビやネットでニュースを見たり、新聞を読み、日本や世界で起きている出来事を知るように努める。また、授業終了後に復習をするとともに、毎回出された問題を解く。

内　　容

第1回　授業を受けるにあたっての注意事項の説明勉強の仕方の説明
第2回　政治民主政治の思想、議院内閣制と大統領制
第3回　行政行政学の基礎理論、官僚制
第4回　法学比較憲法、民法
第5回　憲法の基本原理国民主権、平和主義、憲法改正
第6回　基本的人権基本的人権の適用範囲・制約、幸福追求権、法の下の平等
第7回　国会国権の最高機関、国会議員、立法府の活動
第8回　裁判所違憲法令審査権、裁判所の組織と権能、裁判官の独立
第9回　国際政治国際連盟と国際連合、国際社会と国際法
第10回　ミクロ経済需要と供給、不完全競争市場、市場の失敗
第11回　マクロ経済経済循環と国民所得、日銀の景気政策
第12回　国際経済国際分業と国際経済、貿易政策
第13回　社会保障日本の社会保障制度史、医療保険制度
第14回　現代社会の諸相女性・家族問題、環境・エネルギー問題
第15回　レポートの作成と完成

履修上の注意点

皆勤を目指し、授業に積極的に参加する。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

必要に応じ適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 10 ）
三分の二以上出席しないと単位が認定されない場合がある。ほぼ毎回小テストを実施する。

2016 Syllabus

科 目 名　**病理学(救)**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　川上 ゆかり

テーマ

授業の到達目標

身体的変化、組織学的変化から病気の原因、発症のメカニズムを知る。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　概論
第2回　先天異常と遺伝子異常
第3回　老化と死、細胞・組織の障害
第4回　代謝障害
第5回　循環障害
第6回　炎症、発熱
第7回　腫瘍
第8回　感染症
第9回　免疫
第10回　循環器系、血液、造血系
第11回　呼吸器系
第12回　消化器系
第13回　泌尿器系、生殖器系
第14回　脳・神経系・内分泌系
第15回　筋、骨・関節、感覚器系、熱傷

履修上の注意点

教科書

救急救命士標準テキスト 第1巻
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 (100)　　小テスト (0)
授業中課題 (0)　　授業中発表等 (0)
参加度 (0)

2016 Syllabus

科 目 名　**救急救命実習（水難）<a>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　秋期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　関根　和弘.福岡　範恭

テーマ

水難救助実習

授業の到達目標

特殊な救急活動に対する理解を深めるため、水難救助法を学ぶ。実習を通して基本的な泳法、水に対する安全法と救助法、資器材を使っての救助法、応急手当、水難事故の実際とその対策を習得する。

授業の概要

遭遇することを想定して、救急救命士として出来る基本的な対応から、高度なものまでを実践する。

準備学習（予習・復習）

講義と実習、特に実習は課題が習得できなければ次に進めない。

内　容

第1回　座学
第2回　実習1日目(プール)
第3回　実習2日目(プール)
第4回　実習3日目(プール)
第5回　筆記試験

履修上の注意点

※この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。また、安全管理上から実習中における担当教員の指示には従うことを原則とする。

教科書

水難救助マニュアル
著者:　国士舘大学ウエルネス・リサーチセンター
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 20 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 50 ）

Syllabus

科 目 名　**教職教養講座Ⅲ <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**教職教養講座Ⅳ <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**京都の歴史と文化財Ⅰ〈Z〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**京都の歴史と文化財Ⅱ〈eL〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　0
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

京の都の盛衰とそれぞれの時代に生きた人々

授業の到達目標

”都”と呼ばれる政治・経済の中心の位置に京都がすわることによって、どのような歴史のうねりが生じたのか、またそこに住んだ人々の生活にどのような変化が生まれたのかを学びとってほしい。

授業の概要

［メディア授業／全15回］古代以来の都の変遷から説き起こし、京の都がどのような経緯を辿って成立し、発展し、その後の変化を迎えたのかを基軸に、そこに住む人々、京に入った人々に焦点を合わせて歴史の流れを解説する。

準備学習（予習・復習）

京都に関する書物を読み、また授業に登場した場所を実際に訪れてみると、理解が深まる。

内　　容

第1回　都城の変遷
第2回　平安京の成立
第3回　平安京に暮らす人々
第4回　院政期の京都
第5回　京－鎌倉をつなぐ人々
第6回　「このごろ都にはやるもの」－南北朝期の京都
第7回　室町幕府の成立と京の都
第8回　土一揆の時代
第9回　京の商工業者
第10回　『洛中洛外図』に描かれた京都
第11回　祇園祭と京の町
第12回　中世京都の芸能
第13回　織田信長と京都
第14回　豊臣政権と京の町
第15回　元禄時代の京都

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

物語　京都の歴史
著者：　脇田修・晴子
出版社：（中央公論新社）
出版年：　　ISBN：

女性芸能の源流
著者：　脇田晴子
出版社：（角川書店）
出版年：　　ISBN：

中世京都と祇園祭
著者：　脇田晴子
出版社：（中央公論新社）
出版年：　　ISBN：

ajg1016310

秀吉の経済感覚
著者:　脇田修
出版社:（中央公論社）
出版年:　　ISBN:

北政所おね
著者:　田端泰子
出版社:（ミネルヴァ書房）
出版年:　　ISBN:

足利義政と日野富子
著者:　田端泰子
出版社:（山川出版社）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 100% ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
「授業中課題」は第15回の後にレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Aa〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　米澤　洋子	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（20）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Ab〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　古澤　夕起子	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Ac〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　禧美　智章	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Ad〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　権藤　愛順	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ
第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Ae〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　名和 久仁子	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（20）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Af〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　松井　治子	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（20）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Ag〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　熊谷　昭宏	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（20）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Ah〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　橋本　正志	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Ai〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　青木 優子	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（20）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Aj〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　橋本　章彦	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（20）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Ak〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　伊藤　典文	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（20）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈AI〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　鳥谷　善史	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Am〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　辻本　千鶴	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 40 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈An〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　檜垣　泰代	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（20）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Ba〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　米澤　洋子	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（20）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Bb〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　古澤　夕起子	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（20）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ <Bc>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　禧美　智章	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ <Bd>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　権藤　愛順	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ <Be>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　名和 久仁子	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ <Bf>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　松井 治子	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第15回　まとめ
第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール

履修上の注意点

教科書

スタート
著者:　京都橘大学
出版社:　京都橘大学生協
出版年:　　ISBN:
キャリアアップ国語表現法
著者:　丸山顕徳
出版社:　嵯峨野書院
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ <Bg>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　熊谷 昭宏	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Bh〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　橋本　正志	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（20）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ <Bi>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　青木 優子	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ <Bj>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　橋本　章彦	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Bk〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　伊藤　典文	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（20）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ <BI>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　鳥谷　善史	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Bm〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　辻本　千鶴	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅰ〈Bn〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　檜垣　泰代	

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

授業の到達目標

話す力、聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す、授業はグループワーク中心に行う

授業の概要

小学校から中学校、高等学校とは異なり、大学の授業は自己発信や相互発信を中心にした授業がたくさんあります。そのような授業に積極的に参加できるよう話す力聞く力を身につけます。

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　授業計画全体の説明とグループワーク
第2回　自己紹介シートの作成とグループワーク（1）
第3回　自己紹介シートの作成とグループワーク（2）
第4回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第5回　自己紹介シートの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第6回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（1）
第7回　アクションプランの記入とクラス全体に向けたプレゼンテーション（2）
第8回　「贈る言葉」の発表
第9回　待遇表現（1）
第10回　待遇表現（2）
第11回　来客の応対
第12回　案内状
第13回　プレゼンテーション
第14回　面接の作戦・自己アピール
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（20）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Aa〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　米澤　洋子	

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Ab〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　古澤　夕起子	

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題 （ 60 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Ac〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　禧美　智章	

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題 （ 60 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Ad〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　権藤　愛順	

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題 （ 60 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Ae〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　名和 久仁子	

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Af〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　松井　治子	

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題 （ 60 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Ag〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員　30

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　熊谷 昭宏

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Ah〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　橋本　正志	

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Ai〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員　30

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　青木 優子

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Aj〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　橋本　章彦	

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題 （ 60 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Ak〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　伊藤　典文	

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈AI〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　鳥谷　善史	

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈Am〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　辻本　千鶴	

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ〈An〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　檜垣　泰代	

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ <Ba>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員　30

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　米澤　洋子

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ <Bb>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員　30

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　古澤　夕起子

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ <Bc>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　禧美　智章	

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ <Bd>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　権藤　愛順	

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ <Be>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員　30

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　名和 久仁子

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ <Bf>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　松井　治子	

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ <Bg>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　熊谷 昭宏	

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ <Bh>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　橋本　正志	

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ <Bi>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員　30

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　青木 優子

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ <Bj>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　橋本　章彦	

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ <Bk>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　伊藤　典文	

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ <BI>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　鳥谷　善史	

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ <Bm>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員　30

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　　辻本　千鶴

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語表現Ⅱ <Bn>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　檜垣　泰代	

テーマ

アカデミックスキルの習得

授業の到達目標

レポートを書く、論文を書く、論文を読む、データや資料を解読する、分析するなどなど、大学における学修活動において必要とされるアカデミックスキルの基礎を中心にして日本語運用能力の習得を目ざす

授業の概要

ほぼ毎回、文章を書いてもらうことになる。講義の内容をしっかり踏まえて与えられた課題をこなしていくことで、実践的な書く力、読む力を身につけます

準備学習（予習・復習）

授業中に示された課題は必ずやってくること

内　容

第1回　文章を書く（1）文のしくみ
第2回　文章を書く（2）文章構成
第3回　文章を書く（3）手紙と葉書
第4回　文章を書く（4）レポート・小論文
第5回　文章を書く（5）論説文と解説文
第6回　文章を表現する技術を手に入れよう（1）文章の型を知る
第7回　文章を表現する技術を手に入れよう（2）パラグラフを活用する
第8回　文章を表現する技術を手に入れよう（3）資料を使って説明する
第9回　文章を表現する技術を手に入れよう（4）要約、引用して批判する
第10回　文章を表現する技術を手に入れよう（5）批判を先回りして反論する
第11回　読解力を養おう（1）文脈を読む
第12回　読解力を養おう（2）論理構造を把握する
第13回　読解力を養おう（3）文章を要約する
第14回　読解力を養おう（4）文章を要約する
第15回　読解力を養おう（5）文章を要約する

履修上の注意点

教科書

スタート
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：　　ISBN：
キャリアアップ国語表現法
著者：　丸山顕徳
出版社：嵯峨野書院
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリアコミュニケーションⅠ〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　100
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　松本　広美	

テーマ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの習得を目的とする

授業の到達目標

1．話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の習得2．人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く3．パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける4．正しい日本語の運用についての知識の習得

授業の概要

講義とワーク、トレーニング、小テストにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ。期末テストの代わりに、模擬テスト・小テスト等で成績を評価する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション　　話しことばを学ぶ意義　　挨拶と受け答え
第2回　発声と発音　　腹式呼吸　　発音　　日本語の音
第3回　発音を正しく　　発音の基本練習　　声の大きさ・高低・速度・リズム　　音声表現
第4回　話しことばの特徴　　話しことばと書きことば　　パブリックスピーキング　　共通語
第5回　～敬語Ⅰ～　　人間関係の認識　　使う場面　　種類と働き
第6回　～敬語Ⅱ～　　尊敬語と謙譲語　　一般的なパターンと特別な形
第7回　～敬語Ⅲ～　　第三者についての敬語表現　　間違いやすい例
第8回　話しことば検定　模擬テスト
第9回　～話す・聞くⅠ～　　話し手・聞き手　　場面・内容　　話の種類　　話すときのポイント　聞くときのポイント
第10回　～話す・聞くⅡ～　　わかりやすい表現　　正しく話す　　豊かな表現
第11回　～スピーチⅠ～　　話を組み立てる　　就活のための自己PR
第12回　～スピーチⅡ～　　自己PR発表1
第13回　～スピーチⅢ～　　自己PR発表2
第14回　～読む・話す～　　お知らせ文を読む　　内容を話す　　聞きながら一緒に読む
第15回　総まとめ

履修上の注意点

教科書

話しことば検定　3級テキスト
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：2014　　ISBN：

参考書

話しことば検定　3級問題集
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：　　ISBN：

話しことば検定　2級テキスト
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：　　ISBN：

話しことば検定　2級問題集
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

aks102a110

試験 （ 0 ）　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 10 ）　授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリアコミュニケーションⅠ〈b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　100
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　松本　広美	

テーマ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの習得を目的とする

授業の到達目標

1．話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の習得2．人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く3．パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける4．正しい日本語の運用についての知識の習得

授業の概要

講義とワーク、トレーニング、小テストにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ。期末テストの代わりに、模擬テスト・小テスト等で成績を評価する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション　話しことばを学ぶ意義　挨拶と受け答え
第2回　発声と発音　腹式呼吸　発音　日本語の音
第3回　発音を正しく　発音の基本練習　声の大きさ・高低・速度・リズム　音声表現
第4回　話しことばの特徴　話しことばと書きことば　パブリックスピーキング　共通語
第5回　～敬語Ⅰ～　人間関係の認識　使う場面　種類と働き
第6回　～敬語Ⅱ～　尊敬語と謙譲語　一般的なパターンと特別な形
第7回　～敬語Ⅲ～　第三者についての敬語表現　間違いやすい例
第8回　話しことば検定　模擬テスト
第9回　～話す・聞くⅠ～　話し手・聞き手　場面・内容　話の種類　話すときのポイント　聞くときのポイント
第10回　～話す・聞くⅡ～　わかりやすい表現　正しく話す　豊かな表現
第11回　～スピーチⅠ～　話を組み立てる　就活のための自己PR
第12回　～スピーチⅡ～　自己PR発表1
第13回　～スピーチⅢ～　自己PR発表2
第14回　～読む・話す～　お知らせ文を読む　内容を話す　聞きながら一緒に読む
第15回　総まとめ

履修上の注意点

教科書

話しことば検定　3級テキスト
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：2014　ISBN：

参考書

話しことば検定　3級問題集
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：　ISBN：

話しことば検定　2級テキスト
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：　ISBN：

話しことば検定　2級問題集
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

aks102a112

試験 （ 0 ）　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 10 ）　授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリアコミュニケーションⅠ〈c〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　　員　100

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　吉田　真知子

テーマ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの習得を目的とする

授業の到達目標

1．話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の習得2．人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く3．パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける4．正しい日本語の運用についての知識の習得

授業の概要

講義とワーク、トレーニング、小テストにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ。期末テストの代わりに、模擬テスト・小テスト等で成績を評価する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション　話しことばを学ぶ意義　挨拶と受け答え
第2回　発声と発音　腹式呼吸　発音　日本語の音
第3回　発音を正しく　発音の基本練習　声の大きさ・高低・速度・リズム　音声表現
第4回　話しことばの特徴　話しことばと書きことば　パブリックスピーキング　共通語
第5回　～敬語Ⅰ～　人間関係の認識　使う場面　種類と働き
第6回　～敬語Ⅱ～　尊敬語と謙譲語　一般的なパターンと特別な形
第7回　～敬語Ⅲ～　第三者についての敬語表現　間違いやすい例
第8回　話しことば検定　模擬テスト
第9回　～話す・聞くⅠ～　話し手・聞き手　場面・内容　話の種類　話すときのポイント　聞くときのポイント
第10回　～話す・聞くⅡ～　わかりやすい表現　正しく話す　豊かな表現
第11回　～スピーチⅠ～　話を組み立てる　就活のための自己PR
第12回　～スピーチⅡ～　自己PR発表1
第13回　～スピーチⅢ～　自己PR発表2
第14回　～読む・話す～　お知らせ文を読む　内容を話す　聞きながら一緒に読む
第15回　総まとめ

履修上の注意点

教科書

話しことば検定　3級テキスト
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：2014　　ISBN：

参考書

話しことば検定　3級問題集
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：　　ISBN：

話しことば検定　2級テキスト
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：　　ISBN：

話しことば検定　2級問題集
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

aks102a113

試験 （ 0 ）　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 10 ）　授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリアコミュニケーションⅠ〈d〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　100
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　吉田　真知子	

テーマ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの習得を目的とする

授業の到達目標

1．話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の習得2．人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く3．パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける4．正しい日本語の運用についての知識の習得

授業の概要

講義とワーク、トレーニング、小テストにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ。期末テストの代わりに、模擬テスト・小テスト等で成績を評価する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション　話しことばを学ぶ意義　挨拶と受け答え
第2回　発声と発音　腹式呼吸　発音　日本語の音
第3回　発音を正しく　発音の基本練習　声の大きさ・高低・速度・リズム　音声表現
第4回　話しことばの特徴　話しことばと書きことば　パブリックスピーキング　共通語
第5回　～敬語Ⅰ～　人間関係の認識　使う場面　種類と働き
第6回　～敬語Ⅱ～　尊敬語と謙譲語　一般的なパターンと特別な形
第7回　～敬語Ⅲ～　第三者についての敬語表現　間違いやすい例
第8回　話しことば検定　模擬テスト
第9回　～話す・聞くⅠ～　話し手・聞き手　場面・内容　話の種類　話すときのポイント　聞くときのポイント
第10回　～話す・聞くⅡ～　わかりやすい表現　正しく話す　豊かな表現
第11回　～スピーチⅠ～　話を組み立てる　就活のための自己PR
第12回　～スピーチⅡ～　自己PR発表1
第13回　～スピーチⅢ～　自己PR発表2
第14回　～読む・話す～　お知らせ文を読む　内容を話す　聞きながら一緒に読む
第15回　総まとめ

履修上の注意点

教科書

話しことば検定　3級テキスト
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：2014　ISBN：

参考書

話しことば検定　3級問題集
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：　ISBN：

話しことば検定　2級テキスト
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：　ISBN：

話しことば検定　2級問題集
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

aks102a114

試験 （ 0 ）　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 10 ）　授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリアコミュニケーションⅠ〈e〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　100
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　松岡　とお子	

テーマ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの習得を目的とする

授業の到達目標

1．話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の習得2．人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く3．パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける4．正しい日本語の運用についての知識の習得

授業の概要

講義とワーク、トレーニング、小テストにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ。期末テストの代わりに、模擬テスト・小テスト等で成績を評価する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション　話しことばを学ぶ意義　挨拶と受け答え
第2回　発声と発音　腹式呼吸　発音　日本語の音
第3回　発音を正しく　発音の基本練習　声の大きさ・高低・速度・リズム　音声表現
第4回　話しことばの特徴　話しことばと書きことば　パブリックスピーキング　共通語
第5回　～敬語Ⅰ～　人間関係の認識　使う場面　種類と働き
第6回　～敬語Ⅱ～　尊敬語と謙譲語　一般的なパターンと特別な形
第7回　～敬語Ⅲ～　第三者についての敬語表現　間違いやすい例
第8回　話しことば検定　模擬テスト
第9回　～話す・聞くⅠ～　話し手・聞き手　場面・内容　話の種類　話すときのポイント　聞くときのポイント
第10回　～話す・聞くⅡ～　わかりやすい表現　正しく話す　豊かな表現
第11回　～スピーチⅠ～　話を組み立てる　就活のための自己PR
第12回　～スピーチⅡ～　自己PR発表1
第13回　～スピーチⅢ～　自己PR発表2
第14回　～読む・話す～　お知らせ文を読む　内容を話す　聞きながら一緒に読む
第15回　総まとめ

履修上の注意点

教科書

話しことば検定　3級テキスト
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：2014　ISBN：

参考書

話しことば検定　3級問題集
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：　ISBN：

話しことば検定　2級テキスト
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：　ISBN：

話しことば検定　2級問題集
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

aks102a115

試験 （ 0 ）　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 10 ）　授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリアコミュニケーションⅠ〈f〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　100
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　松岡　とお子	

テーマ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの習得を目的とする

授業の到達目標

1．話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の習得2．人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く3．パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける4．正しい日本語の運用についての知識の習得

授業の概要

講義とワーク、トレーニング、小テストにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ。期末テストの代わりに、模擬テスト・小テスト等で成績を評価する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション　話しことばを学ぶ意義　挨拶と受け答え
第2回　発声と発音　腹式呼吸　発音　日本語の音
第3回　発音を正しく　発音の基本練習　声の大きさ・高低・速度・リズム　音声表現
第4回　話しことばの特徴　話しことばと書きことば　パブリックスピーキング　共通語
第5回　～敬語Ⅰ～　人間関係の認識　使う場面　種類と働き
第6回　～敬語Ⅱ～　尊敬語と謙譲語　一般的なパターンと特別な形
第7回　～敬語Ⅲ～　第三者についての敬語表現　間違いやすい例
第8回　話しことば検定　模擬テスト
第9回　～話す・聞くⅠ～　話し手・聞き手　場面・内容　話の種類　話すときのポイント　聞くときのポイント
第10回　～話す・聞くⅡ～　わかりやすい表現　正しく話す　豊かな表現
第11回　～スピーチⅠ～　話を組み立てる　就活のための自己PR
第12回　～スピーチⅡ～　自己PR発表1
第13回　～スピーチⅢ～　自己PR発表2
第14回　～読む・話す～　お知らせ文を読む　内容を話す　聞きながら一緒に読む
第15回　総まとめ

履修上の注意点

教科書

話しことば検定　3級テキスト
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：2014　ISBN：

参考書

話しことば検定　3級問題集
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：　ISBN：

話しことば検定　2級テキスト
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：　ISBN：

話しことば検定　2級問題集
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

aks102a116

試験 （ 0 ）　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 10 ）　授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリアコミュニケーションⅡ〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　100
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　堀　由紀	

テーマ

コミュニケーション能力・ビジネスマナーを身につけ、社会で有用な人材になることを目的とする

授業の到達目標

1．知性と教養のある大人の社会人としての話し方やマナーを身につける。2．自信を持って自分をアピールできるスキルを習得する。3．社会の中で自分の立場や場面を的確に把握し、よい人間関係を築く。

授業の概要

基本的なビジネスマナーをはじめ、ことばのマナー・ビジネス文書の書き方・効果的な自己紹介など、幅広いスキルを学びます。また、話すための発声・発音、笑顔・アイコンタクト・姿勢など、ワークを中心にした実践的な授業を行います。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション～ビジネスマナー1～　好感度アップに欠かせない基本態度
第2回　～ビジネスマナー2～　清潔感を大事にする服装と身だしなみ
第3回　～ビジネスマナー3～　就活で一目置かれる立ち居振る舞い
第4回　～ことばのマナー1～　社会人のエチケット「敬語」
第5回　～ことばのマナー2～　コミュニケーションに役立つ話し方
第6回　～コミュニケーション1～　効果的な自己紹介
第7回　～コミュニケーション2～　自己紹介発表
第8回　～コミュニケーション3～　スピーチ発表
第9回　～コミュニケーション4～　相手の心を開く心理テクニック
第10回　～ビジネスマナー4～　基本的マナー
第11回　～魅力を引き出す印象管理1～　顔色がよく見えるパーソナルカラー（専門の講師が担当します）
第12回　～魅力を引き出す印象管理2～　表情ぐせチェック・人相学・ナチュラルメイクのポイント
第13回　～ビジネスマナー5～　電話応対の基本
第14回　～ビジネスマナー6～　ビジネスメール・ビジネス文書の書き方
第15回　総復習

履修上の注意点

《欠席について》①授業開始から5分までは出席、6分から29分は遅刻、30分以降は欠席。②出席認証されていても、当日の小テストや課題が未提出の場合は欠席。③出欠確認時、不在の場合は欠席。《学生証忘れについて》当日のみ受け付ける。所定の用紙（講師がその場で手渡し）に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。《出席したのに出席が認証されていなかった時》翌週のみ受け付ける。所定の用紙（講師がその場で手渡し）に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。出席したとみられる日の提出物などを確認して、出席と確認できた場合のみ講師が記録を変更する。《その他》◆教育実習などで欠席する場合は「事前連絡表」を出すこと。但し、出したからと言って出席扱いにはならない。◆小テストや課題の提出・返却の受け取りは、本人のみ可能。不正が明らかになった場合は本人と代行者が減点。◆居眠り、スマートフォン操作、周りに迷惑をかける私語は、減点。

教科書

好感度を上げる！　ビジネスマナーとコミュニケーション

著者：　NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年：2015　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 15 ）
授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 50 ）
期末テストの代わりに、授業中に行う小テストやワークの参加等で成績を評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリアコミュニケーションⅡ〈b〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員　100

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　　堀　由紀

テーマ

コミュニケーション能力・ビジネスマナーを身につけ、社会で有用な人材になることを目的とする

授業の到達目標

1．知性と教養のある大人の社会人としての話し方やマナーを身につける。2．自信を持って自分をアピールできるスキルを習得する。3．社会の中で自分の立場や場面を的確に把握し、よい人間関係を築く。

授業の概要

基本的なビジネスマナーをはじめ、ことばのマナー・ビジネス文書の書き方・効果的な自己紹介など、幅広いスキルを学びます。また、話すための発声・発音、笑顔・アイコンタクト・姿勢など、ワークを中心にした実践的な授業を行います。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション～ビジネスマナー1～　好感度アップに欠かせない基本態度
第2回　～ビジネスマナー2～　清潔感を大事にする服装と身だしなみ
第3回　～ビジネスマナー3～　就活で一目置かれる立ち居振る舞い
第4回　～ことばのマナー1～　社会人のエチケット「敬語」
第5回　～ことばのマナー2～　コミュニケーションに役立つ話し方
第6回　～コミュニケーション1～　効果的な自己紹介
第7回　～コミュニケーション2～　自己紹介発表
第8回　～コミュニケーション3～　スピーチ発表
第9回　～コミュニケーション4～　相手の心を開く心理テクニック
第10回　～ビジネスマナー4～　基本的マナー
第11回　～魅力を引き出す印象管理1～　顔色がよく見えるパーソナルカラー（専門の講師が担当します）
第12回　～魅力を引き出す印象管理2～　表情ぐせチェック・人相学・ナチュラルメイクのポイント
第13回　～ビジネスマナー5～　電話応対の基本
第14回　～ビジネスマナー6～　ビジネスメール・ビジネス文書の書き方
第15回　総復習

履修上の注意点

《欠席について》①授業開始から5分までは出席、6分から29分は遅刻、30分以降は欠席。②出席認証されていても、当日の小テストや課題が未提出の場合は欠席。③出欠確認時、不在の場合は欠席。《学生証忘れについて》当日のみ受け付ける。所定の用紙（講師がその場で手渡し）に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。《出席したのに出席が認証されていなかった時》翌週のみ受け付ける。所定の用紙（講師がその場で手渡し）に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。出席したとみられる日の提出物などを確認して、出席と確認できた場合のみ講師が記録を変更する。《その他》◆教育実習などで欠席する場合は「事前連絡表」を出すこと。但し、出したからと言って出席扱いにはならない。◆小テストや課題の提出・返却の受け取りは、本人のみ可能。不正が明らかになった場合は本人と代行者が減点。◆居眠り、スマートフォン操作、周りに迷惑をかける私語は、減点。

教科書

好感度を上げる！　ビジネスマナーとコミュニケーション

著者：　NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年：2015　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 15 ）

授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ 20 ）

参加度　（ 50 ）

期末テストの代わりに、授業中に行う小テストやワークの参加等で成績を評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリアコミュニケーションⅡ〈c〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員　100

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　田村　純子

テーマ

コミュニケーション能力・ビジネスマナーを身につけ、社会で有用な人材になることを目的とする

授業の到達目標

1．知性と教養のある大人の社会人としての話し方やマナーを身につける。2．自信を持って自分をアピールできるスキルを習得する。3．社会の中で自分の立場や場面を的確に把握し、よい人間関係を築く。

授業の概要

基本的なビジネスマナーをはじめ、ことばのマナー・ビジネス文書の書き方・効果的な自己紹介など、幅広いスキルを学びます。また、話すための発声・発音、笑顔・アイコンタクト・姿勢など、ワークを中心にした実践的な授業を行います。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション～ビジネスマナー1～　好感度アップに欠かせない基本態度
第2回　～ビジネスマナー2～　清潔感を大事にする服装と身だしなみ
第3回　～ビジネスマナー3～　就活で一目置かれる立ち居振る舞い
第4回　～ことばのマナー1～　社会人のエチケット「敬語」
第5回　～ことばのマナー2～　コミュニケーションに役立つ話し方
第6回　～コミュニケーション1～　効果的な自己紹介
第7回　～コミュニケーション2～　自己紹介発表
第8回　～コミュニケーション3～　スピーチ発表
第9回　～コミュニケーション4～　相手の心を開く心理テクニック
第10回　～ビジネスマナー4～　基本的マナー
第11回　～ビジネスマナー5～　電話応対の基本（専門の講師が担当します）
第12回　～ビジネスマナー6～　ビジネスメール・ビジネス文書の書き方（専門の講師が担当します）
第13回　～魅力を引き出す印象管理1～　顔色がよく見えるパーソナルカラー
第14回　～魅力を引き出す印象管理2～　表情ぐせチェック・人相学・ナチュラルメイクのポイント
第15回　総復習

履修上の注意点

《欠席について》①授業開始から5分までは出席、6分から29分は遅刻、30分以降は欠席。②出席認証されていても、当日の小テストや課題が未提出の場合は欠席。③出欠確認時、不在の場合は欠席。《学生証忘れについて》当日のみ受け付ける。所定の用紙（講師がその場で手渡し）に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。《出席したのに出席が認証されていなかった時》翌週のみ受け付ける。所定の用紙（講師がその場で手渡し）に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。出席したとみられる日の提出物などを確認して、出席と確認できた場合のみ講師が記録を変更する。《その他》◆教育実習などで欠席する場合は「事前連絡表」を出すこと。但し、出したからと言って出席扱いにはならない。◆小テストや課題の提出・返却の受け取りは、本人のみ可能。不正が明らかになった場合は本人と代行者が減点。◆居眠り、スマートフォン操作、周りに迷惑をかける私語は、減点。

教科書

好感度を上げる！　ビジネスマナーとコミュニケーション

著者：　NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年：2015　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 15 ）

授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ 20 ）

参加度　（ 50 ）

期末テストの代わりに、授業中に行う小テストやワークの参加等で成績を評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリアコミュニケーションⅡ〈d〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員　100

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　田村　純子

テーマ

コミュニケーション能力・ビジネスマナーを身につけ、社会で有用な人材になることを目的とする

授業の到達目標

1．知性と教養のある大人の社会人としての話し方やマナーを身につける。2．自信を持って自分をアピールできるスキルを習得する。3．社会の中で自分の立場や場面を的確に把握し、よい人間関係を築く。

授業の概要

基本的なビジネスマナーをはじめ、ことばのマナー・ビジネス文書の書き方・効果的な自己紹介など、幅広いスキルを学びます。また、話すための発声・発音、笑顔・アイコンタクト・姿勢など、ワークを中心にした実践的な授業を行います。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション～ビジネスマナー1～　好感度アップに欠かせない基本態度
第2回　～ビジネスマナー2～　清潔感を大事にする服装と身だしなみ
第3回　～ビジネスマナー3～　就活で一目置かれる立ち居振る舞い
第4回　～ことばのマナー1～　社会人のエチケット「敬語」
第5回　～ことばのマナー2～　コミュニケーションに役立つ話し方
第6回　～コミュニケーション1～　効果的な自己紹介
第7回　～コミュニケーション2～　自己紹介発表
第8回　～コミュニケーション3～　スピーチ発表
第9回　～コミュニケーション4～　相手の心を開く心理テクニック
第10回　～ビジネスマナー4～　基本的マナー
第11回　～ビジネスマナー5～　電話応対の基本（専門の講師が担当します）
第12回　～ビジネスマナー6～　ビジネスメール・ビジネス文書の書き方（専門の講師が担当します）
第13回　～魅力を引き出す印象管理1～　顔色がよく見えるパーソナルカラー
第14回　～魅力を引き出す印象管理2～　表情ぐせチェック・人相学・ナチュラルメイクのポイント
第15回　総復習

履修上の注意点

《欠席について》①授業開始から5分までは出席、6分から29分は遅刻、30分以降は欠席。②出席認証されていても、当日の小テストや課題が未提出の場合は欠席。③出欠確認時、不在の場合は欠席。《学生証忘れについて》当日のみ受け付ける。所定の用紙（講師がその場で手渡し）に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。《出席したのに出席が認証されていなかった時》翌週のみ受け付ける。所定の用紙（講師がその場で手渡し）に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。出席したとみられる日の提出物などを確認して、出席と確認できた場合のみ講師が記録を変更する。《その他》◆教育実習などで欠席する場合は「事前連絡表」を出すこと。但し、出したからと言って出席扱いにはならない。◆小テストや課題の提出・返却の受け取りは、本人のみ可能。不正が明らかになった場合は本人と代行者が減点。◆居眠り、スマートフォン操作、周りに迷惑をかける私語は、減点。

教科書

好感度を上げる！　ビジネスマナーとコミュニケーション

著者：　NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年：2015　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 15 ）

授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ 20 ）

参加度　（ 50 ）

期末テストの代わりに、授業中に行う小テストやワークの参加等で成績を評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリアコミュニケーションⅡ〈e〉**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員　100

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　松岡 とお子

テーマ

コミュニケーション能力・ビジネスマナーを身につけ、社会で有用な人材になることを目的とする

授業の到達目標

1．知性と教養のある大人の社会人としての話し方やマナーを身につける。2．自信を持って自分をアピールできるスキルを習得する。3．社会の中で自分の立場や場面を的確に把握し、よい人間関係を築く。

授業の概要

基本的なビジネスマナーをはじめ、ことばのマナー・ビジネス文書の書き方・効果的な自己紹介など、幅広いスキルを学びます。また、話すための発声・発音、笑顔・アイコンタクト・姿勢など、ワークを中心にした実践的な授業を行います。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション～ビジネスマナー1～　好感度アップに欠かせない基本態度
第2回　～ビジネスマナー2～　清潔感を大事にする服装と身だしなみ
第3回　～ビジネスマナー3～　就活で一目置かれる立ち居振る舞い
第4回　～ことばのマナー1～　社会人のエチケット「敬語」
第5回　～ことばのマナー2～　コミュニケーションに役立つ話し方
第6回　～コミュニケーション1～　効果的な自己紹介
第7回　～コミュニケーション2～　自己紹介発表
第8回　～コミュニケーション3～　スピーチ発表
第9回　～コミュニケーション4～　相手の心を開く心理テクニック
第10回　～ビジネスマナー4～　基本的マナー
第11回　～ビジネスマナー5～　電話応対の基本
第12回　～ビジネスマナー6～　ビジネスメール・ビジネス文書の書き方
第13回　～魅力を引き出す印象管理1～　顔色がよく見えるパーソナルカラー（専門の講師が担当します）
第14回　～魅力を引き出す印象管理2～　表情ぐせチェック・人相学・ナチュラルメイクのポイント
第15回　総復習

履修上の注意点

《欠席について》①授業開始から5分までは出席、6分から29分は遅刻、30分以降は欠席。②出席認証されていても、当日の小テストや課題が未提出の場合は欠席。③出欠確認時、不在の場合は欠席。《学生証忘れについて》当日のみ受け付ける。所定の用紙（講師がその場で手渡し）に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。《出席したのに出席が認証されていなかった時》翌週のみ受け付ける。所定の用紙（講師がその場で手渡し）に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。出席したとみられる日の提出物などを確認して、出席と確認できた場合のみ講師が記録を変更する。《その他》◆教育実習などで欠席する場合は「事前連絡表」を出すこと。但し、出したからと言って出席扱いにはならない。◆小テストや課題の提出・返却の受け取りは、本人のみ可能。不正が明らかになった場合は本人と代行者が減点。◆居眠り、スマートフォン操作、周りに迷惑をかける私語は、減点。

教科書

好感度を上げる！　ビジネスマナーとコミュニケーション

著者：　NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年：2015　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 15 ）

授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ 20 ）

参加度　（ 50 ）

期末テストの代わりに、授業中に行う小テストやワークの参加等で成績を評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリアコミュニケーションⅡ〈f〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　100
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　松岡　とお子	

テーマ

コミュニケーション能力・ビジネスマナーを身につけ、社会で有用な人材になることを目的とする

授業の到達目標

1．知性と教養のある大人の社会人としての話し方やマナーを身につける。2．自信を持って自分をアピールできるスキルを習得する。3．社会の中で自分の立場や場面を的確に把握し、よい人間関係を築く。

授業の概要

基本的なビジネスマナーをはじめ、ことばのマナー・ビジネス文書の書き方・効果的な自己紹介など、幅広いスキルを学びます。また、話すための発声・発音、笑顔・アイコンタクト・姿勢など、ワークを中心にした実践的な授業を行います。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション～ビジネスマナー1～　好感度アップに欠かせない基本態度
第2回　～ビジネスマナー2～　清潔感を大事にする服装と身だしなみ
第3回　～ビジネスマナー3～　就活で一目置かれる立ち居振る舞い
第4回　～ことばのマナー1～　社会人のエチケット「敬語」
第5回　～ことばのマナー2～　コミュニケーションに役立つ話し方
第6回　～コミュニケーション1～　効果的な自己紹介
第7回　～コミュニケーション2～　自己紹介発表
第8回　～コミュニケーション3～　スピーチ発表
第9回　～コミュニケーション4～　相手の心を開く心理テクニック
第10回　～ビジネスマナー4～　基本的マナー
第11回　～ビジネスマナー5～　電話応対の基本
第12回　～ビジネスマナー6～　ビジネスメール・ビジネス文書の書き方
第13回　～魅力を引き出す印象管理1～　顔色がよく見えるパーソナルカラー（専門の講師が担当します）
第14回　～魅力を引き出す印象管理2～　表情ぐせチェック・人相学・ナチュラルメイクのポイント
第15回　総復習

履修上の注意点

《欠席について》①授業開始から5分までは出席、6分から29分は遅刻、30分以降は欠席。②出席認証されていても、当日の小テストや課題が未提出の場合は欠席。③出欠確認時、不在の場合は欠席。《学生証忘れについて》当日のみ受け付ける。所定の用紙（講師がその場で手渡し）に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。《出席したのに出席が認証されていなかった時》翌週のみ受け付ける。所定の用紙（講師がその場で手渡し）に記入の上、授業終了時までに講師に提出すること。出席したとみられる日の提出物などを確認して、出席と確認できた場合のみ講師が記録を変更する。《その他》◆教育実習などで欠席する場合は「事前連絡表」を出すこと。但し、出したからと言って出席扱いにはならない。◆小テストや課題の提出・返却の受け取りは、本人のみ可能。不正が明らかになった場合は本人と代行者が減点。◆居眠り、スマートフォン操作、周りに迷惑をかける私語は、減点。

教科書

好感度を上げる！　ビジネスマナーとコミュニケーション
著者：　NPO法人 日本話しことば協会
出版社：
出版年：2015　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 15 ）
授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 50 ）
期末テストの代わりに、授業中に行う小テストやワークの参加等で成績を評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ｼﾞｪｰﾑｽ ﾃﾞｨｰｸﾞﾙ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money.（人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

Students will need to bring all materials to class on a weekly basis. Also, all homework needs to be done regardless of whether you attended the previous class or not. If you are absent for any reason, please check with a classmate and get caught up on the material that you missed in class as well as complete the homework for the following week.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1a – Explorers（個人情報を聞き取り、交換する）
第3回　Unit 1b – A family in East Africa（家族および友達について読む・話す）
第4回　Unit 2a – My possessions（持ち物について話す・聞く）
第5回　Unit 2b – At home（部屋を描写する）
第6回　Unit 3a: – No-car zones（街での暮らしについて読む・話す）
第7回　Unit 3b – Working under the sea（仕事について聞く・話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4a – 100% identical?（好き嫌いについて読む・話す）
第10回　Unit 4b – Free time at work（日課について読む・話す）
第11回　Unit 5a – Famous for food（食べ物について聞く・話す）
第12回　Unit 5b – Food markets（買い物と量について読む・話す）
第13回　Unit 6a – The face of money（過去の人物につて読む・書く・話す）
第14回　Unit 6b – Discover the past（過去のことを聞く・読む・話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　占部　幹也	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Part 1(写真描写問題)、宿題説明
第3回　Part 2（応答問題）対策
第4回　Part 3（会話問題）対策
第5回　Part 4（説明文問題）対策
第6回　模擬試験TEST1リスニングテスト演習・解答及びリーディング・リスニングパートの解説
第7回　Part 2（応答問題）対策、Part 3（会話問題）対策
第8回　Part 4（説明文問題）対策、Part 2（応答問題）対策
第9回　Part 3（会話問題）対策、Part 1(写真描写問題)対策
第10回　Part 2（応答問題）対策、Part 1(写真描写問題)対策
第11回　Part 4（説明文問題）対策、Part 2（応答問題）対策
第12回　Part 3（会話問題）対策、Part 4（説明文問題）対策
第13回　模擬試験TEST2リスニングテスト演習・解答及び リーディング・リスニングパートの解説
第14回　リスニングテスト演習及び解答解説
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Emerald
著者:　ECC
出版社:　ECC
出版年:　2013年6月　　ISBN:
ECC TOEIC TEST CLINIC Emerald　模試
著者:　ECC
出版社:　ECC
出版年:　2013年6月　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　久保田　美佳	

テーマ

国際語としての英語を使うことに自信を持とう。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (C) 出身地や仕事について話す。
第3回　Unit 1 (D) 人の名前と仕事について述べる。
第4回　Unit 2 (C) 家族とその年齢を表現する。
第5回　Unit 2 (D) 家族や友達について情報を与える。
第6回　Unit 3 (C) 衣服や持ち物について話す。
第7回　Unit 3 (D) 好きな持ち物を描写する。
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (C) 日課について話す。
第10回　Unit 4 (D) 週末にしていることを描写する。
第11回　Unit 5 (C) 余暇活動について話す。
第12回　Unit 5 (D) IT機器の使い方について話し合う。
第13回　Unit 6 (C) 自分の才能や能力を説明する。
第14回　Unit 6 (D) 留学や海外インターンについて話す。
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM
著者：　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社：Cambridge University Press
出版年：2013　　ISBN：
Four Corners, 1, Workbook
著者：　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社：Cambridge University Press
出版年：2013　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 20 ）	小テスト（ 60 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　高居　佐紀	

テーマ

将来的にTOEICスコアアップを目指す為の英語基礎力養成

授業の到達目標

TOEIC試験スコアを50点アップを目指す。リスニング到達目標：発音力を高めることで、リスニング力の向上を目指す。リーディング到達目標：主語と述語を見分けることでリーディング力の向上を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングスキルの基礎力を養成する。TOEICの演習問題を通じ、各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　母音の聞き取り（1）・子音の聞き取り（1）
第3回　リンキングを学ぶ、tとdの弱音化を学ぶ、
第4回　母音の聞き取り（2）、子音の聞き取り（2）
第5回　短縮形を聞き取る（1）、音の脱落を知る
第6回　短縮形を聞き取る（2）、ストレスやイントネーションを学ぶ
第7回　単語の音声変化を知る（1）、単語の音声変化を知る（2）
第8回　予測しながら読む（2）
第9回　Part1、2の総合問題（1）
第10回　Part1、2の総合問題（2）
第11回　Part3（会話問題）の問題形式、ポイントを学ぶ
第12回　Part3演習
第13回　Part4(説明文問題)の問題形式、ポイントを学ぶ
第14回　Part4演習・模擬試験リスニングパート実施・解答・解説
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC　Ruby
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：2014年10月　　ISBN：
ECC TOEIC TEST CLINIC　Ruby　模試
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：2014年10月　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈e〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　川口　玲子	

テーマ

将来的にTOEICスコアアップを目指す為の英語基礎力養成

授業の到達目標

TOEIC試験スコアを50点アップを目指す。リスニング到達目標：発音力を高めることで、リスニング力の向上を目指す。リーディング到達目標：主語と述語を見分けることでリーディング力の向上を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングスキルの基礎力を養成する。TOEICの演習問題を通じ、各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　母音の聞き取り（1）・子音の聞き取り（1）
第3回　リンキングを学ぶ、tとdの弱音化を学ぶ、
第4回　母音の聞き取り（2）、子音の聞き取り（2）
第5回　短縮形を聞き取る（1）、音の脱落を知る
第6回　短縮形を聞き取る（2）、ストレスやイントネーションを学ぶ
第7回　単語の音声変化を知る（1）、単語の音声変化を知る（2）
第8回　予測しながら読む（2）
第9回　Part1、2の総合問題（1）
第10回　Part1、2の総合問題（2）
第11回　Part3（会話問題）の問題形式、ポイントを学ぶ
第12回　Part3演習
第13回　Part4(説明文問題)の問題形式、ポイントを学ぶ
第14回　Part4演習・模擬試験リスニングパート実施・解答・解説
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC　Ruby
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：2014年10月　　ISBN：
ECC TOEIC TEST CLINIC　Ruby　模試
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：2014年10月　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈f〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　田中　美和子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・人、仕事、住まい、所持品、日常活動、旅に関する世界各地からの話題の理解（読解・ビデオ視聴）活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習）

授業が終わったら、その授業で学んだ語彙や文法事項の復習を行ってください。また、授業の前に、予習として教科書の本文（英文）を読んで、出席しましょう。

内　容

第1回　オリエンテーション＆Unit 1 (D): (Reading) Families around the World、(Writing/Speaking) 自分の家族の情報を与える
第2回　Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Animal Families
第3回　Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers(Writing/Speaking) 仕事を描写する
第4回　Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル A Job for Children
第5回　Unit 3 (D): (Reading) Kent Larson: Brilliant Designs toFit More People in Every City、(Writing/Speaking) 住居を描写する
第6回　Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル A Very Special Village
第7回　Unit 4 (D): (Reading) Jewelry、(Writing/Speaking) クラスでの調査を要約する
第8回　Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Uncovering the Past
第9回　Unit 5 (D): (Reading) Karen Bass: Unseen Footage, Untamed Nature,(Writing/Speaking) 仕事内容について書く
第10回　Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Zoo Dentists
第11回　Unit 6 (D): (Reading,) Journey to Antarctica(Writing/Speaking) 旅程表を書く
第12回　Unit 6(E): (総合) ビデオ・ジャーナル Volcano Trek
第13回　日本語を英語にしてみよう 1
第14回　日本語を英語にしてみよう 2
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。授業には、英和辞書（電子辞書もしくは紙の辞書）を必ず持って出席してください。また、学生カードを忘れたときには、その授業が終わるまでに、報告をしてください。遅刻3回で参加点-1とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者：　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社：　Cengage Learning

出版年：　2015　　ISBN：　9781305089518

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト　（ 40 ）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等　（ 10 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<g>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　野口　博代	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

･人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動･各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

読解問題については、わからない単語や熟語の意味を事前に調べておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する
第3回　Unit 1d, e: 自己紹介をする
第4回　Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)
第5回　Unit 2 d, e: 物を描写する
第6回　Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)
第7回　Unit3d, e: 道案内をする、場所を描写する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)
第10回　Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く
第11回　Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)
第12回　Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する
第13回　Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)
第14回　Unit6d, e: リクエストをする　礼状を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

. Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　(30%)　　小テスト　(30%)
授業中課題　(20%)　　授業中発表等　(10%)
参加度　(10%)

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<h>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　山﨑 清水	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・人、仕事、住まい、所持品、日常活動、旅に関する世界各地からの話題の理解（読解・ビデオ視聴）活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習）

事前に英単語は調べておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (D): (Reading) Families around the World、(Writing/Speaking) 自分と家族の情報を与える
第3回　Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Animal Families」
第4回　Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers、(Writing/Speaking) 国によって異なる仕事を比較する
第5回　Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Job for Children」
第6回　Unit 3 (D): (Reading) Unusual Houses、(Writing/Speaking) 住居を比較する
第7回　Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Very Special Village」
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (D): (Reading) Jewelry、(Writing/Speaking) 所持している物について話す
第10回　Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Uncovering the Past」)
第11回　Unit 5 (D): (Reading) Robots at Work、(Writing/Speaking) 仕事を説明する
第12回　Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル 「Zoo Dentists」
第13回　Unit 6 (D): (Reading,) Shackleton's Epic Journey – A diary、(Writing/Speaking) 旅を記録する
第14回　Unit 6 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Volcano Trek」
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。私語は慎むこと。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089518

参考書

成績評価

試験　（ 50 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 10 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<i>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　原 俊樹	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

･人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動･各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する)
第3回　Unit 1d, e: 自己紹介をする
第4回　Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)
第5回　Unit 2 d, e: 物を描写する
第6回　Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)
第7回　Unit3d, e: 道案内をする、場所を描写する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)
第10回　Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く
第11回　Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)
第12回　Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する
第13回　Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)
第14回　Unit6d, e: リクエストをする　礼状を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 50% ）	小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 10% ）	授業中発表等 （ 10% ）
参加度　（ 10% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<j>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾒｶﾞﾝ･ｸﾞｨﾝ･ｴﾘｽ	

テーマ

Research and communicate about various topics.

授業の到達目標

This course will encourage academic curiosity and critical thinking by using basic English skills to research and share (present) topics, individually and in groups.

授業の概要

The course will be conducted in English in a computer lab. Students will research and present individual and group projects as well as keeping a vocabulary log and doing grammar, listening and reading exercises. Note that the content of this class will be coordinated with that of English I B.

準備学習（予習・復習）

You will need to do some project preparation, vocabulary review, and language exercises outside of class.

内　容

第1回　Course Introduction; using the site & recording vocabulary.
第2回　Model autobiographies (analyse structure)
第3回　Vocabulary test; choosing a theme and planning your project.
第4回　Composing your autobiography.
第5回　Vocabulary test; editing your autobiography.
第6回　Making your Powerpoint.
第7回　Voccabulary test; recording your script.
第8回　Viewing classmates' projects & giving feedback.
第9回　Vocabulary test; model newsletters.
第10回　Researching your topic.
第11回　Vocabulary test; composing your newsletter.
第12回　Editing your newsletter.
第13回　Vocabulary test; planning your group presentation.
第14回　Making your presentation.
第15回　Vocabulary test; group presentations.

履修上の注意点

To pass the course you must attend at least 11 classes.

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<k>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　小川　享子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

･人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動･各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

まとめの単語テスト、単元テストは授業中に行ったことをもとに行うので、ノートをきちんと取ること。それに基づいて、語彙や表現の復習を重点的に行うこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する)
第3回　Unit 1d, e: 自己紹介をする
第4回　Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)
第5回　Unit 2 d, e: 物を描写する
第6回　Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)
第7回　Unit3d, e: 道案内をする、場所を描写する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)
第10回　Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く
第11回　Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)
第12回　Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する
第13回　Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)
第14回　Unit6d, e: リクエストをする　礼状を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2の出席を必要とする。授業中に携帯を触った場合は成績より減点する。遅刻は授業が始まってから30分以内を遅刻と認める。それ以上の場合は欠席扱い。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 5 ）
参加度　（ 15 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<I>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉江　正	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

･人、仕事、住まい、所持品、日常活動、旅に関する世界各地からの話題の理解（読解･ビデオ視聴)活動･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (D): (Reading) Families around the World、(Writing/Speaking) 自分の家族の情報を与える
第3回　Unit 1 (E): (総合) ビデオ･ジャーナル「Animal Families」
第4回　Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers、(Writing/Speaking) 仕事を描写する
第5回　Unit 2 (E): (総合) ビデオ･ジャーナル「A Job for Children」
第6回　Unit 3 (D): (Reading) Kent Larson: Brilliant Designs to Fit More People in Every City、(Writing/Speaking) 住居を描写する
第7回　Unit 3 (E): (総合) ビデオ･ジャーナル「A Very Special Village」
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (D): (Reading) Jewelry、(Writing/Speaking) クラスでの調査を要約する
第10回　Unit 4 (E): (総合) ビデオ･ジャーナル「Uncovering the Past」)
第11回　Unit 5 (D): (Reading) Karen Bass: Unseen Footage, Untamed Nature,(Writing/Speaking) 仕事内容について書く
第12回　Unit 5 (E): (総合) ビデオ･ジャーナル 「Zoo Dentists」
第13回　Unit 6 (D): (Reading,) Journey to Antarctica、(Writing/Speaking) 旅程表を書く
第14回　Unit 6(E): (総合) ビデオ･ジャーナル「Volcano Trek」
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089518

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<m>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌｫｽﾀｰ ﾍﾝﾘｰ	

テーマ

Research and communicate about various topics

授業の到達目標

This course will aim to improve basic English skills and encourage academic curiosity and critical thinking by focusing on and sharing individual and group research topics.

授業の概要

The course will be conducted in English, in a computer lab. Students will research and present individual and group projects, as well as doing grammar, listening and reading exercises.

準備学習（予習・復習）

You will need to do some project preparation and language exercises outside of class.

内　容

第1回　Introduction; life story interview
第2回　Model autobiographies (blog)
第3回　Choosing a theme & planning your project; composing your blog entry
第4回　Composing your blog entry; using the editing symbols
第5回　Editing your blog entry; model autobiographies (movie)
第6回　Making your Powerpoint; presentation round-robin
第7回　Recording your script; making your movie
第8回　Reading/viewing classmates' projects; choosing a topic for the group project
第9回　Model wikis; using the wikis
第10回　Researching your topic
第11回　Composing your wiki
第12回　Reading wikis & giving feedback
第13回　Presentation practice
第14回　Group presentations I
第15回　Group presentations II

履修上の注意点

To pass the course, you must attend at least 10 classes.

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 75% ）　　授業中発表等　（ 25% ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<n>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　溝部 芳子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

･人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動･各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

単語テストの準備をする（1時間程度）。日頃からスマホやPCなどを使って英語で情報を取り入れる体験をする。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する)
第3回　Unit 1d, e: 自己紹介をする
第4回　Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)
第5回　Unit 2 d, e: 物を描写する
第6回　Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)
第7回　Unit3d, e: 道案内をする、場所を描写する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)
第10回　Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く
第11回　Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)
第12回　Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する
第13回　Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)
第14回　Unit6d, e: リクエストをする　礼状を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。ペアワーク、グループワークに積極的に参加し、英語で発信することに慣れる。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト　（ 40% ）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ ）
参加度　（ 30% ）
小テストには、単語テストと複数単元ごとに行うまとめテストが含まれます。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<o>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　占部　幹也	

テーマ

「環境」や「健康」問題について、今世界で人々が直面している現状を知り、その解決に人々が努力している様子を理解する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング・ライティング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。・英字新聞に慣れ英語記事を読めるようになる。

授業の概要

Pre-reading,Reading,Post-readingの3つのパートでリーディングスキルを効果的に修得する。CDを利用して音読練習を行う。

Key Wordsコーナーで語彙を修得し、英作文の練習をする。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit1 Scientists Zap Coral Reefs with Electricity to Save Team
第3回　Unit1 電流を流した金属で復活するサンゴ礁-インドネシア発
第4回　Unit2 ″Humble″ Potato Emerging as World's Next Food Source
第5回　Unit2 食糧難を救うじゃがいも-ペルー発
第6回　Unit3 Offices Use Ice to Cool Down and Save Power
第7回　Unit3 オフィスに氷の塊を置いて夏の省エネ-アメリカ発
第8回　Unit4 Study:Exercise in Middle Age Cuts Risk of Alzheimer's
第9回　Unit4 運動がアルツハイマー予防に効果-イギリス発
第10回　Unit5 Egyptians Look Desert for Hot Residential Property
第11回　Unit5 サハラ砂漠を緑化して、増える人口に土地を確保-エジプト発
第12回　Unit6 College Students Feel Better After Screaming Together
第13回　Unit6 テスト勉強中のストレス、叫んで解消-アメリカ発
第14回　Unit7 Indian Dam Drowns Valley,Angering Famers
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

Hearing Our World
著者:　小笠原真司　Pino Cutron
出版社:　南雲堂
出版年:　2010　　ISBN:　9784523176473

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<p>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ｼﾞｪｰﾑｽ ﾃﾞｨｰｸﾞﾙ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money.（人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

Students will need to bring all materials to class on a weekly basis. Also, all homework needs to be done regardless of whether you attended the previous class or not. If you are absent for any reason, please check with a classmate and get caught up on the material that you missed in class as well as complete the homework for the following week.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1a – Explorers（個人情報を聞き取り、交換する）
第3回　Unit 1b – A family in East Africa（家族および友達について読む・話す）
第4回　Unit 2a – My possessions（持ち物について話す・聞く）
第5回　Unit 2b – At home（部屋を描写する）
第6回　Unit 3a: – No-car zones（街での暮らしについて読む・話す）
第7回　Unit 3b – Working under the sea（仕事について聞く・話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4a – 100% identical?（好き嫌いについて読む・話す）
第10回　Unit 4b – Free time at work（日課について読む・話す）
第11回　Unit 5a – Famous for food（食べ物について聞く・話す）
第12回　Unit 5b – Food markets（買い物と量について読む・話す）
第13回　Unit 6a – The face of money（過去の人物につて読む・書く・話す）
第14回　Unit 6b – Discover the past（過去のことを聞く・読む・話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 25 ）　　授業中発表等（ 25 ）
参加度（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<q>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　久保田　美佳	

テーマ

国際語としての英語を使うことに自信を持とう。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

･新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動･各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　Orientation (オリエンテーション)
第2回　Unit 1 (C) 出身地や仕事について話す。
第3回　Unit 1 (D) 人の名前と仕事について述べる。
第4回　Unit 2 (C) 家族とその年齢を表現する。
第5回　Unit 2 (D) 家族や友達について情報を与える。
第6回　Unit 3 (C) 衣服や持ち物について話す。
第7回　Unit 3 (D) 好きな持ち物を描写する。
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (C) 日課について話す。
第10回　Unit 4 (D) 週末にしていることを描写する。
第11回　Unit 5 (C) 余暇活動について話す。
第12回　Unit 5 (D) IT機器の使い方について話し合う。
第13回　Unit 6 (C) 自分の才能や能力を説明する。
第14回　Unit 6 (D) 留学や海外インターンについて話す。
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM
著者:　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　2013　　ISBN:

Four Corners, 1, Workbook
著者:　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 20 ）	小テスト（ 60 ）
授業中課題（　）	授業中発表等（　）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<r>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾒｶﾞﾝ･ｸﾞｨﾝ･ｴﾘｽ	

テーマ

Research and communicate about various topics.

授業の到達目標

This course will encourage academic curiosity and critical thinking by using basic English skills to research and share (present) topics, individually and in groups.

授業の概要

The course will be conducted in English in a computer lab. Students will research and present individual and group projects as well as keeping a vocabulary log and doing grammar, listening and reading exercises. Note that the content of this class will be coordinated with that of English I B.

準備学習（予習・復習）

You will need to do some project preparation, vocabulary review, and language exercises outside of class.

内　容

第12回　Editing your newsletter.
第13回　Vocabulary test; planning your group presentation.
第14回　Making your presentation.
第15回　Vocabulary test; group presentations.
第1回　Course Introduction; using the site & recording vocabulary.
第2回　Model autobiographies (analyse structure)
第3回　Vocabulary test; choosing a theme and planning your project.
第4回　Composing your autobiography.
第5回　Vocabulary test; editing your autobiography.
第6回　Making your Powerpoint.
第7回　Voccabulary test; recording your script.
第8回　Viewing classmates' projects & giving feedback.
第9回　Vocabulary test; model newsletters.
第10回　Researching your topic.
第11回　Vocabulary test; composing your newsletter.

履修上の注意点

To pass the course you must attend at least 11 classes.

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<s>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　野口　博代	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

･人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動･各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

読解問題については、わからない単語や熟語の意味を事前に調べておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する
第3回　Unit 1d, e: 自己紹介をする
第4回　Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)
第5回　Unit 2 d, e: 物を描写する
第6回　Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)
第7回　Unit3d, e: 道案内をする、場所を描写する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)
第10回　Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く
第11回　Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)
第12回　Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する
第13回　Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)
第14回　Unit6d, e: リクエストをする　礼状を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

. Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　(30%)　　小テスト　(30%)
授業中課題　(20%)　　授業中発表等　(10%)
参加度　(10%)

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<t>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　田中　美和子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

･人、仕事、住まい、所持品、日常活動、旅に関する世界各地からの話題の理解（読解･ビデオ視聴)活動･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習）

授業が終わったら、その授業で学んだ語彙や文法事項の復習を行ってください。また、授業の前に、予習として教科書の本文（英文）を読んで、出席しましょう。

内　容

第1回　オリエンテーション＆Unit 1 (D): (Reading) Families around the World、(Writing/Speaking) 自分の家族の情報を与える
第2回　Unit 1 (E): (総合) ビデオ･ジャーナル Animal Families
第3回　Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers(Writing/Speaking) 仕事を描写する
第4回　Unit 2 (E): (総合) ビデオ･ジャーナル A Job for Children
第5回　Unit 3 (D): (Reading) Kent Larson: Brilliant Designs toFit More People in Every City、(Writing/Speaking) 住居を描写する
第6回　Unit 3 (E): (総合) ビデオ･ジャーナル A Very Special Village
第7回　Unit 4 (D): (Reading) Jewelry、(Writing/Speaking) クラスでの調査を要約する
第8回　Unit 4 (E): (総合) ビデオ･ジャーナル Uncovering the Past
第9回　Unit 5 (D): (Reading) Karen Bass: Unseen Footage, Untamed Nature,(Writing/Speaking) 仕事内容について書く
第10回　Unit 5 (E): (総合) ビデオ･ジャーナル　Zoo Dentists
第11回　Unit 6 (D): (Reading,) Journey to Antarctica(Writing/Speaking) 旅程表を書く
第12回　Unit 6(E): (総合) ビデオ･ジャーナル Volcano Trek
第13回　日本語を英語にしてみよう 1
第14回　日本語を英語にしてみよう 2
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。授業には、英和辞書（電子辞書もしくは紙の辞書）を必ず持って出席してください。また、学生カードを忘れたときには、その授業が終わるまでに、報告をしてください。遅刻3回で参加点-1とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code

著者：　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社：Cengage Learning

出版年：2015　　ISBN：　9781305089518

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 40 ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<u>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　原　俊樹	

テーマ

ーコミュニケーションの道具としての英語を身につけるー

授業の到達目標

基本的な英文の解釈（読解・聴解）や表現（作文・発話）を通して、また日本語・英語双方の表現方法の違いや文法的理解を「感性」ではなく「論理的」に考えて、国際人として世界的に活躍するために必須となる「伝達の手段としての英語」に必要な4技能の幅広い実践的な運用能力を習得することを目的とする。同時に医療従事者（co-medical）として専門課程で学ぶ知識への橋渡しになることを望んでいる。

授業の概要

基本的には、テキストの各ユニットに沿って授業を展開する。習熟度・理解力を判断するための小テスト・実力テスト・課題も用意する。授業スケジュールは一応の目安として各回で学ぶ「学習重要ポイント」と考えてください。

準備学習（予習・復習）

基本的な外国語を学ぶ体制になるように、予習・復習を確実にやりなさい。

内　　容

第1回　講義内容・テキストの利用法の説明、基礎力判定テスト
第2回　フォニックス（アルファベットや単語の発音）英文の基本表現構造①：述語動詞と態（能動態と受動態）
第3回　英文の基本表現構造②：述語動詞と時制1
第4回　英文の基本表現構造③：述語動詞と時制2
第5回　英文の基本表現構造④：基本5文型（自動詞と他動詞）
第6回　英文の基本表現構造⑤：文の要素・修飾語句・語の品詞
第7回　準動詞の用法①：不定詞
第8回　準動詞の用法②：動名詞
第9回　準動詞の用法3：分詞
第10回　冠詞・名詞・代名詞
第11回　形容詞・副詞
第12回　前置詞と句
第13回　接続詞と節
第14回　関係詞
第15回　前期のまとめ・到達度の確認

履修上の注意点

教科書

LIFESAVER Basic English in Medical Situation
著者：　Maki Inoue/Toshiya Sato
出版社：MACMILLANLANGUAGEHOUSE
出版年：2005　　ISBN：　9784777360369

参考書

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 10% ）　　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 10% ）
個人成績表を持たせるつもりです。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<v>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　高居 佐紀	

テーマ

「医療」や「健康」問題について、今世界で人々が直面している現状を知り、その解決に人々が努力している様子を理解する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

医療やhealth careの題材でリーディングスキルを効率的に修得する。CDを利用して音読練習を行う。患者と医者、患者と看護婦の意思疎通に役立つ表現を覚える。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit1 Colds,Flu and Folk Advice
第3回　Unit1 かぜ、インフルエンザ、その伝統療法の検証
第4回　Unit2 Mask-wearing Significantly Boosts Flu Protection
第5回　Unit2 マスクの着用で呼吸器系伝染病から身を守る
第6回　Useful Expressions1: Making an Appointment
第7回　Unit3 Drinking Beer Could Provide Health Benefits
第8回　Unit3 ビールと健康面の新たな追求
第9回　Unit4 Alcohol,the 'Asian Flush'and the Risk of Cancer
第10回　Unit4 アルコールと発ガンのリスク
第11回　Useful Expressions2: Forms,Medical History and Building
第12回　Unit5 Cancer May Soon Be World's Leading killer
第13回　Unit5 ガンはやがて世界の子音のトップに
第14回　Unit6 Insomnia不眠症　Useful Expressions3: Pains and Sensations
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

Coregiver
著者:　近藤進　Gerald R.Gordon
出版社:　朝日出版社
出版年:　2010　　ISBN:　9784255154893

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<w>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌｫｽﾀｰ ﾍﾝﾘｰ	

テーマ

Research and communicate about various topics

授業の到達目標

This course will aim to improve basic English skills and encourage academic curiosity and critical thinking by focusing on and sharing individual and group research topics.

授業の概要

The course will be conducted in English, in a computer lab. Students will research and present individual and group projects, as well as doing grammar, listening and reading exercises.

準備学習（予習・復習）

You will need to do some project preparation and language exercises outside of class.

内　容

第1回　Introduction; life story interview
第2回　Model autobiographies (blog)
第3回　Choosing a theme & planning your project; composing your blog entry
第4回　Composing your blog entry; using the editing symbols
第5回　Editing your blog entry; model autobiographies (movie)
第6回　Making your Powerpoint; presentation round-robin
第7回　Recording your script; making your movie
第8回　Reading/viewing classmates' projects; choosing a topic for the group project
第9回　Model wikis; using the wikis
第10回　Researching your topic
第11回　Composing your wiki
第12回　Reading wikis & giving feedback
第13回　Presentation practice
第14回　Group presentations I
第15回　Group presentations II

履修上の注意点

To pass the course, you must attend at least 10 classes.

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 75% ）　　授業中発表等　（ 25% ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<x>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　櫃本　一美	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

･人、仕事、住まい、所持品、日常活動、旅に関する世界各地からの話題の理解（読解･ビデオ視聴)活動･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習）

小テストを頻繁に行う。授業中、自宅の課題は確実にこなすこと。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (D): (Reading) Families around the World、(Writing/Speaking) 自分の家族の情報を与える
第3回　Unit 1 (E): (総合) ビデオ･ジャーナル「Animal Families」
第4回　Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers、(Writing/Speaking) 仕事を描写する
第5回　Unit 2 (E): (総合) ビデオ･ジャーナル「A Job for Children」
第6回　Unit 3 (D): (Reading) Kent Larson: Brilliant Designs to Fit More People in Every City、(Writing/Speaking) 住居を描写する
第7回　Unit 3 (E): (総合) ビデオ･ジャーナル「A Very Special Village」
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (D): (Reading) Jewelry、(Writing/Speaking) クラスでの調査を要約する
第10回　Unit 4 (E): (総合) ビデオ･ジャーナル「Uncovering the Past」)
第11回　Unit 5 (D): (Reading) Karen Bass: Unseen Footage, Untamed Nature,(Writing/Speaking) 仕事内容について書く
第12回　Unit 5 (E): (総合) ビデオ･ジャーナル 「Zoo Dentists」
第13回　Unit 6 (D): (Reading,) Journey to Antarctica、(Writing/Speaking) 旅程表を書く
第14回　Unit 6(E): (総合) ビデオ･ジャーナル「Volcano Trek」
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　978130508951-8

参考書

成績評価

試験　（ 50 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（　）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<y>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉江　正	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

･人、仕事、住まい、所持品、日常活動、旅に関する世界各地からの話題の理解（読解･ビデオ視聴)活動･各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (D): (Reading) Families around the World、(Writing/Speaking) 自分の家族の情報を与える
第3回　Unit 1 (E): (総合) ビデオ･ジャーナル「Animal Families」
第4回　Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers、(Writing/Speaking) 仕事を描写する
第5回　Unit 2 (E): (総合) ビデオ･ジャーナル「A Job for Children」
第6回　Unit 3 (D): (Reading) Kent Larson: Brilliant Designs to Fit More People in Every City、(Writing/Speaking) 住居を描写する
第7回　Unit 3 (E): (総合) ビデオ･ジャーナル「A Very Special Village」
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (D): (Reading) Jewelry、(Writing/Speaking) クラスでの調査を要約する
第10回　Unit 4 (E): (総合) ビデオ･ジャーナル「Uncovering the Past」)
第11回　Unit 5 (D): (Reading) Karen Bass: Unseen Footage, Untamed Nature,(Writing/Speaking) 仕事内容について書く
第12回　Unit 5 (E): (総合) ビデオ･ジャーナル 「Zoo Dentists」
第13回　Unit 6 (D): (Reading,) Journey to Antarctica、(Writing/Speaking) 旅程表を書く
第14回　Unit 6(E): (総合) ビデオ･ジャーナル「Volcano Trek」
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089518

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<z>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　小川　享子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

･人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動･各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

まとめの単語テスト、単元テストは授業中に行ったことをもとに行うので、ノートをきちんと取ること。それに基づいて、語彙や表現の復習を重点的に行うこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する)
第3回　Unit 1d, e: 自己紹介をする
第4回　Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)
第5回　Unit 2 d, e: 物を描写する
第6回　Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)
第7回　Unit3d, e: 道案内をする、場所を描写する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)
第10回　Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く
第11回　Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)
第12回　Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する
第13回　Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)
第14回　Unit6d, e: リクエストをする　礼状を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2の出席を必要とする。授業中に携帯を触った場合は成績より減点する。遅刻は授業が始まってから30分以内を遅刻と認める。それ以上の場合は欠席扱い。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 5 ）
参加度　（ 15 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<Ha>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌｫｽﾀｰ ﾍﾝﾘｰ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money.（人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

毎週の小テストに備えて、定期的に単語を勉強して、各レッスンの内容を復習しましょう。

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1a – Explorers（個人情報を聞き取り、交換する）
第3回　Unit 1b – A family in East Africa（家族および友達について読む・話す）
第4回　Unit 2a – My possessions（持ち物について話す・聞く）
第5回　Unit 2b – At home（部屋を描写する）
第6回　Unit 3a: – No-car zones（街での暮らしについて読む・話す）
第7回　Unit 3b – Working under the sea（仕事について聞く・話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4a – 100% identical?（好き嫌いについて読む・話す）
第10回　Unit 4b – Free time at work（日課について読む・話す）
第11回　Unit 5a – Famous for food（食べ物について聞く・話す）
第12回　Unit 5b – Food markets（買い物と量について読む・話す）
第13回　Unit 6a – The face of money（過去の人物につて読む・書く・話す）
第14回　Unit 6b – Discover the past（過去のことを聞く・読む・話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。毎回色々なクラスメートと組んで英語でやり取りしますので、積極的に英語でコミュニケーションをする覚悟で授業に挑みましょう。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者：　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（ 50% ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<Hb>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　山﨑 清水	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・人、仕事、住まい、所持品、日常活動、旅に関する世界各地からの話題の理解（読解・ビデオ視聴）活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習）

事前に英単語は調べておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1 (D): (Reading) Families around the World、(Writing/Speaking) 自分と家族の情報を与える
第3回　Unit 1 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Animal Families」
第4回　Unit 2 (D): (Reading) Different Farmers、(Writing/Speaking) 国によって異なる仕事を比較する
第5回　Unit 2 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Job for Children」
第6回　Unit 3 (D): (Reading) Unusual Houses、(Writing/Speaking) 住居を比較する
第7回　Unit 3 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「A Very Special Village」
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4 (D): (Reading) Jewelry、(Writing/Speaking) 所持している物について話す
第10回　Unit 4 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Uncovering the Past」)
第11回　Unit 5 (D): (Reading) Robots at Work、(Writing/Speaking) 仕事を説明する
第12回　Unit 5 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル 「Zoo Dentists」
第13回　Unit 6 (D): (Reading,) Shackleton's Epic Journey – A diary、(Writing/Speaking) 旅を記録する
第14回　Unit 6 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Volcano Trek」
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。私語は慎むこと。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089518

参考書

成績評価

試験　（ 50 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 10 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<Hc>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　櫃本　一美	

テーマ

英語リーディング

授業の到達目標

速く正確に深く内容を把握するために必要な文法演習も交えながら、速読、精読を行う。スピーキングやリスニング、ライティング演習もしながら英語力の養成を目指す。

授業の概要

リーディングのクラスであるが、リスニング、スピーキング、ライティングもしながら英語力の養成を目指す。自宅学習としての速読の課題有り。

準備学習（予習・復習）

課題は必ずこなす。語彙を増やす。

内　　容

第1回　オリエンテーション、５文型と品詞
第2回　辞書の使い方
第3回　Chapter1
第4回　Chapter1
第5回　Chapter1
第6回　Chapter2
第7回　Chapter2
第8回　Chapter2
第9回　復習
第10回　Chapter4
第11回　Chapter4
第12回　Chapter4
第13回　Chapter5
第14回　Chapter5
第15回　復習

履修上の注意点

３分の２以上の出席が必要。テキストは通年使用。

教科書

Issues for Today
著者：　Lorraine C. Smith,Nancy Nici Mare
出版社：HEINLE CENGAGE Learning
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ <Hd>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌﾞﾗｲｱﾝﾊﾞｽｶｳﾞｨﾙ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money.（人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

If you forgot to bring your textbook and dictionary, you must make a copy of the next pages in the textbook and borrow a dictionary BEFORE class starts. Also, review the last lesson, look ahead at the next pages and check your dictionary for any new words.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1a – Explorers（個人情報を聞き取り、交換する）
第3回　Unit 1b – A family in East Africa（家族および友達について読む・話す）
第4回　Unit 2a – My possessions（持ち物について話す・聞く）
第5回　Unit 2b – At home（部屋を描写する）
第6回　Unit 3a: – No-car zones（街での暮らしについて読む・話す）
第7回　Unit 3b – Working under the sea（仕事について聞く・話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4a – 100% identical?（好き嫌いについて読む・話す）
第10回　Unit 4b – Free time at work（日課について読む・話す）
第11回　Unit 5a – Famous for food（食べ物について聞く・話す）
第12回　Unit 5b – Food markets（買い物と量について読む・話す）
第13回　Unit 6a – The face of money（過去の人物につて読む・書く・話す）
第14回　Unit 6b – Discover the past（過去のことを聞く・読む・話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<R>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　杉山 泰	

テーマ

英語が分かれば日本語も分かる ― 日英語対照をしながら学ぶ基礎英語

授業の到達目標

「原爆が落ちた」とか「山の音が聞こえた」「ビールが飲みたい」のように＜主語＞と＜動詞＞が曖昧なまま理解できる日本語になれていると、An atomic bomb was dropped.だとか、I heard the sound of the mountain. I want to drink beer.といった「主語」と「動詞」がきわめて論理的になりたっている英語的発想が分からない日本人が出てくる。そうした発想の違いを学んでいく。

授業の概要

教科書の問題を丁寧にやっていきながら、毎回日英語の違いの小テスト「プリント」を仕上げて退出してもらう。翌週、添削して返却し、英語の発想について学んでもらう。

準備学習（予習・復習）

毎回問題を授業中にやっていくので、辞書と教科書が必要。

内　容

第1回　自己紹介。Lesson 1 日英語の違い。（I love you.構文と「あなたが好き」という形容詞構文の違い）
第2回　Lesson 2 「私」からの発想。（I have a good time.と「楽しい」）
第3回　Lesson 3 「命令文」（On your mark. Get set. Go. 主語がなければ命令文）
第4回　Lesson 4 「be動詞という曲者（1）」（なぜ、I am illness.と言えないのか？）
第5回　Lesson 5 「be動詞という曲者（2）」（なぜ、It is hard.と言えるのに、It is happy.とは言えないのか？）
第6回　Lesson 6 「未来」を示す英語（なぜ、「先生、酒を飲みに行きますか」はWill you go for a drink?なのか？）
第7回　Lesson 7 「不定詞」構文（I have no need to hurry.とI have difficulty finding a job.の構文の違いは？）
第8回　Lesson 8 「現在完了形」構文（Have you eaten sushi?とDid you eat sushi?はどう違うのか？）
第9回　Lesson 9 「能動態」と「受動態」（I am excited.とFootball is exciting.はどう違うのか？）
第10回　Lesson 10 5W1Hで始まる疑問文（Do / Does / Did / Willの使い方がわかりますか？）
第11回　Lesson 11 「動名詞」構文（I enjoy driving a new car.のように動名詞を取る同氏は<Megafeps>です）
第12回　Lesson 12 「比較級」構文（The sooner, the better.という比較級が日本語にはなぜないのか？）
第13回　Lesson 13 「Tere is(are)」構文 （新聞に多用されるThere is構文。「ある」と「いる」の違いを留学生に教えられますか？）
第14回　Lesson 14 「仮定法」構文 （原子力発電所事故が起こりえないものであれば、だからこそ起こった時のシュミレーションが必要なのです）
第15回　Lesson 15 「て・に・を・は」と英語の前置詞（日本文学の英訳はなぜむずかしい？）

履修上の注意点

毎回、授業中に作業をやるので出席することが重要。欠席した場合、「プリント」をもらい、解答して提出すれば、遅れの出席とみなすこともある。

教科書

Discover English Grammar
著者：　杉山　泰
出版社：朝日出版社
出版年：2006　　ISBN：

参考書

日本人はなぜ英語ができないのか
著者：　鈴木孝夫
出版社：岩波新書
出版年：1999　　ISBN：

日本語教室
著者：　大野晋
出版社：岩波新書
出版年：2002　　ISBN：

aks201a141

日本語教のすすめ
著者:　鈴木孝夫
出版社: 新潮新書
出版年: 2009　　ISBN:

英語化は愚民化
著者:　施光恒
出版社: 集英社新書
出版年: 2015　　ISBN:

英語のツボ
著者:　マーク・ピーターセン
出版社: 光文社文庫
出版年: 2011　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 20% ）
参加度 （ 20% ）
20%はTOEICなどの英語検定試験の受験とその得点結果がら判断するので、必ず検定試験を受験すること。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<Tb>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　　溝部　芳子	

テーマ

TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEICのリーディングパートに対応できる文法力と読解力の養成を目的とする。

授業の概要

TOEIC Part 5 で問われる基礎的な文法事項を学習する。Part 7に出題される様々な文書の情報を読み取る練習をする。語彙については毎回単語テストを行うのでしっかりと準備をしてくることが必要です。随時、学習した範囲の復習テストを行います。終盤ではTOEICのリーディングパートの実践演習を行います。

準備学習（予習・復習）

予習：語彙学習と各ユニットのBrush-up。（毎回1時間程度の学習が必要です。）復習としてその日に学習した問題文を暗唱すること。

内　　容

第1回　Unit 1 表、用紙
第2回　Unit 2 手紙、Eメール
第3回　Unit 3 品詞
第4回　Unit 4 動詞
第5回　Unit 5 広告
第6回　Unit 6 ダブルパッセージ
第7回　Unit 7 代名詞・関係代名詞
第8回　Unit 8 接続詞・前置詞
第9回　Unit 9&10 Part 5, 7の復習
第10回　Unit 11 時制・代名詞・語彙問題
第11回　Unit 12 つなぎ言葉
第12回　Unit 13 Part 6 の復習
第13回　実践演習 (1)
第14回　実践演習 (2)
第15回　実践演習 (3)

履修上の注意点

3分の２以上の出席を必要とします。辞書を持ってくること。音読やペアワークに積極的に取り組んでください。

教科書

Mastery Drills for the TOEIC Test All in One Target 400
著者：　早川幸治
出版社：桐原書店
出版年：2011　　ISBN：　9784342553080

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 20% ）
授業中課題（ 30% ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 30% ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ<火1>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈火2〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**英語ＩＡ〈火4〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　松村 優子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

･人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動･各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

授業中に指定する箇所の予習・復習。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する)
第3回　Unit 1d, e: 自己紹介をする
第4回　Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)
第5回　Unit 2d, e: 物を描写する
第6回　Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)
第7回　Unit 3d, e: 道案内をする、場所を描写する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)
第10回　Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く
第11回　Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)
第12回　Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する
第13回　Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)
第14回　Unit 6d, e: リクエストをする　礼状を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。2回の授業でテキスト1章のペースで進む予定ですが、学習状況により進め方を変更したり、微調整することもあります。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　(0%)	小テスト　(60%)
授業中課題　(10%)	授業中発表等　(15%)
参加度　(15%)	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ<b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　　占部　幹也	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　　容

第1回　オリエンテーションPart 5（短文穴埋め問題）対策
第2回　Part 6（長文穴埋め問題）対策 Part 7（読解問題）対策
第3回　模擬試験TEST1リーディングテスト演習及び解答
第4回　模擬試験TEST1リーディング・リスニングパートの解説
第5回　Part 7対策 、, Part 5（短文穴埋め問題）対策
第6回　Part 7（読解問題）対策、Part 5（短文穴埋め問題）対策
第7回　Part 5（短文穴埋め問題）対策、Part 5（短文穴埋め問題）対策
第8回　Part 5（短文穴埋め問題）対策、Part 5（短文穴埋め問題）対策
第9回　Part 6（長文穴埋め問題）対策、Part 7（読解問題）対策
第10回　Part 7（読解問題）対策、Part 7（読解問題）対策
第11回　模擬試験TEST2リーディングテスト演習及び解答
第12回　模擬試験TEST2リーディング・リスニングパートの解説 教科書①を使用してTOEIC試験の実践形式でスキルの定着をはかる
第13回　TEST 1 リーディングテスト演習及び解答 TEST 1 リーディングテスト解説
第14回　TEST 2 リーディングテスト演習及び解答 TEST 2 リーディングテスト解説
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

はじめての新TOEICテスト本番模試
著者:　森川美貴子 著
出版社:　旺文社
出版年:　2009年9月　　ISBN:　9784010940969

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ<c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　クーラン コーリ	

テーマ

Build confidence in using English as a global language.（国際語としての英語を使うことに自信を持とう。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）

授業の概要

・Various activities for understanding content in English involving the topics of new friends, people and places, personal possessions, daily life, free time, and work and play.（新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）This course will be taught in English.

準備学習（予習・復習）

Whenever possible, the teacher will introduce new methods (through free smartphone apps, free online English learning websites, DVDs, etc) for the students to take advantage of to further their English studies in their free time.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A) 名前を聞く・教える
第3回　Unit 1 (B) スペルを聞く・教える
第4回　Unit 2 (A) 出身・国籍について話す
第5回　Unit 2 (B) メールアドレスと電話番号を交換する
第6回　Unit 3 (A) 身の回りのものについて話す
第7回　Unit 3 (B) 英語での言い方を尋ねる
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A) 移動の手段・交通機関について話す
第10回　Unit 4 (B) 時間を尋ねる・表現する
第11回　Unit 5 (A) インターネット利用について話す
第12回　Unit 5 (B) 買い物をする
第13回　Unit 6 (A) 職業・仕事について話す
第14回　Unit 6 (B) 電話をかける・電話にでる
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM
著者：　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社：Cambridge University Press
出版年：2013　　ISBN：　9780521126151

Four Corners, 1, Workbook
著者：　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社：Cambridge University Press
出版年：2013　　ISBN：　9780521126540

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 30 ）

Tests/quizzes are worth the same amount of points as in-class performance (participation, discussion, attitude, effort) when calculating the final grade.

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ<d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　高居 佐紀	

テーマ

将来的にTOEICスコアアップを目指す為の英語基礎力養成

授業の到達目標

TOEIC試験スコアを50点アップを目指す。リスニング到達目標：発音力を高めることで、リスニング力の向上を目指す。リーディング到達目標：主語と述語を見分けることでリーディング力の向上を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングスキルの基礎力を養成する。TOEICの演習問題を通じ、各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　英文の読み方を学ぶ
第2回　文のエッセンスを掴む（1）単語の意味を推測する（1）
第3回　チャンクリーディングを身につける（1）、スキャニングして読む（1）
第4回　スキミングして大意を掴む（1）
第5回　テーマを把握する、予測しながら読む（1）、
第6回　単語の位置と成り立ちを知る、まとまり毎の意味を捉える
第7回　スキャニングして読む（2）
第8回　スキミングして読む（2）、文のエッセンスを掴む（2）
第9回　単語の意味を推測する（2）、チャンクリーディングを身につける（2）
第10回　予測しながら読む（2）
第11回　複雑な文章を読み解く、主題文を見つける 教科書②を使用してTOEIC Part3、4、5、6を学ぶ
第12回　Part5（短文穴埋め問題）の問題形式、ポイントを学ぶ Part5演習
第13回　Part6（長文穴埋め問題）の問題形式、ポイントを学ぶ Part6演習 教材①付属模試を使用して実践の模試に挑戦する
第14回　模擬試験リーディングパート実施・解答
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

新 TOEIC Test レベル判定模試
著者：　小山克明, David Rondeau, Kevin Glenz, Sebastian Brooke 著
出版社：Z会
出版年：2007年9月　　ISBN：　9784862900012

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈e〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　川口　玲子	

テーマ

将来的にTOEICスコアアップを目指す為の英語基礎力養成

授業の到達目標

TOEIC試験スコアを50点アップを目指す。リスニング到達目標：発音力を高めることで、リスニング力の向上を目指す。リーディング到達目標：主語と述語を見分けることでリーディング力の向上を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングスキルの基礎力を養成する。TOEICの演習問題を通じ、各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　英文の読み方を学ぶ
第2回　文のエッセンスを掴む（1）単語の意味を推測する（1）
第3回　チャンクリーディングを身につける（1）、スキャニングして読む（1）
第4回　スキミングして大意を掴む（1）
第5回　テーマを把握する、予測しながら読む（1）、
第6回　単語の位置と成り立ちを知る、まとまり毎の意味を捉える
第7回　スキャニングして読む（2）
第8回　スキミングして読む（2）、文のエッセンスを掴む（2）
第9回　単語の意味を推測する（2）、チャンクリーディングを身につける（2）
第10回　予測しながら読む（2）
第11回　複雑な文章を読み解く、主題文を見つける 教科書②を使用してTOEIC Part3、4、5、6を学ぶ
第12回　Part5（短文穴埋め問題）の問題形式、ポイントを学ぶ Part5演習
第13回　Part6（長文穴埋め問題）の問題形式、ポイントを学ぶ Part6演習 教材①付属模試を使用して実践の模試に挑戦する
第14回　模擬試験リーディングパート実施・解答
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

新 TOEIC Test レベル判定模試
著者：　小山克明, David Rondeau, Kevin Glenz, Sebastian Brooke 著
出版社：Z会
出版年：2007年9月　　ISBN：　9784862900012

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈f〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　田中　美和子	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation.（友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

授業が終わったら、その授業で学んだ語彙や文法事項の復習を行ってください。また、授業の前に、予習として教科書の本文（英文）を読んで、出席しましょう。

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet and Introduce People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (B/C): Family members / Describing people（家族・人の外見を描写する）
第4回　Unit 2 (A/B): Jobs（仕事について話す）
第5回　Unit 2 (C): Countries（世界の国々ついて話す）
第6回　Unit 3 (A/B): Your house（家を描写する）
第7回　Unit 3 (C): Household objects（家具や家庭用品について話す）
第8回　Unit 4 (A/B): Personal possessions（持ち物について話す）
第9回　Unit 4 (C): Buy a present（ギフトを選ぶ）
第10回　Unit 5 (A/B): Daily routine（日課を描写する）
第11回　Unit 5 (C): Work activities（仕事内容について話す）
第12回　Unit 6 (A/B): Giving directions（道案内をする）
第13回　Unit 6 (C): Transportation（交通機関について話す）
第14回　Let's act in a play（演じてみよう）
第15回　Review（復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。前期は、毎回、英和辞書（電子辞書もしくは紙の辞書）を必ず持って出席してください。また、学生カードを忘れたときには、その授業が終わるまでに、報告をしてください。遅刻3回で参加点-1とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者：　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305089518

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ<g>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　ﾌﾞﾗｲｱﾝﾊﾞｽｶｳﾞｨﾙ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money.（人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

If you forgot to bring your textbook and dictionary, you must make a copy of the next pages in the textbook and borrow a dictionary BEFORE class starts. Also, review the last lesson, look ahead at the next pages and check your dictionary for any new words.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1a – Explorers（個人情報を聞き取り、交換する）
第3回　Unit 1b – A family in East Africa（家族および友達について読む・話す）
第4回　Unit 2a – My possessions（持ち物について話す・聞く）
第5回　Unit 2b – At home（部屋を描写する）
第6回　Unit 3a: – No-car zones（街での暮らしについて読む・話す）
第7回　Unit 3b – Working under the sea（仕事について聞く・話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4a – 100% identical?（好き嫌いについて読む・話す）
第10回　Unit 4b – Free time at work（日課について読む・話す）
第11回　Unit 5a – Famous for food（食べ物について聞く・話す）
第12回　Unit 5b – Food markets（買い物と量について読む・話す）
第13回　Unit 6a – The face of money（過去の人物につて読む・書く・話す）
第14回　Unit 6b – Discover the past（過去のことを聞く・読む・話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ<h>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　スミス ジョン	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions,daily activities and transportation.（友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）This course will be taught in English.

準備学習（予習・復習）

Please do all the homework, preview and review the textbook.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet and Introduce People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (B/C): Family members / Describing people（家族・人の外見を描写する）
第4回　Unit 2 (A/B): Jobs（仕事について話す）
第5回　Unit 2 (C): Countries（世界の国々ついて話す）
第6回　Unit 3 (A/B): Your house（家を描写する）
第7回　Unit 3 (C): Household objects（家具や家庭用品について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A/B): Personal possessions（持ち物について話す）
第10回　Unit 4 (C): Buy a present（ギフトを選ぶ）
第11回　Unit 5 (A/B): Daily routine（日課を描写する）
第12回　Unit 5 (C): Work activities（仕事内容について話す）
第13回　Unit 6 (A/B): Giving directions（道案内をする）
第14回　Unit 6 (C): Transportation（交通機関について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089518

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）	小テスト（ 10 ）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ <i>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　ｿｰｿﾝ ﾏｰｶｽ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money.（人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）This course will be taught in English.

準備学習（予習・復習）

Preview next lesson before each class and extra for tests.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1a – Explorers（個人情報を聞き取り、交換する）
第3回　Unit 1b – A family in East Africa（家族および友達について読む・話す）
第4回　Unit 2a – My possessions（持ち物について話す・聞く）
第5回　Unit 2b – At home（部屋を描写する）
第6回　Unit 3a – No-car zones（街での暮らしについて読む・話す）
第7回　Unit 3b – Working under the sea（仕事について聞く・話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4a – 100% identical?（好き嫌いについて読む・話す）
第10回　Unit 4b – Free time at work（日課について読む・話す）
第11回　Unit 5a – Famous for food（食べ物について聞く・話す）
第12回　Unit 5b – Food markets（買い物と量について読む・話す）
第13回　Unit 6a – The face of money（過去の人物につて読む・書く・話す）
第14回　Unit 6b – Discover the past（過去のことを聞く・読む・話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者：　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 25 ）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 25 ）　　授業中発表等　（　）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ <j>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　ﾒｶﾞﾝ･ｸﾞｨﾝ･ｴﾘｽ	

テーマ

Research and communicate about various topics.

授業の到達目標

This course will encourage academic curiosity and critical thinking by using basic English skills to research and share (present) topics, individually and in groups.

授業の概要

The course will be conducted in English in a computer lab. Students will research and present individual and group projects as well as keeping a vocabulary log and doing grammar, listening and reading exercises. Note that the content of this class will be coordinated with that of English I A.

準備学習（予習・復習）

You will need to do some project preparation, vocabulary review, and language exercises outside of class.

内　容

第1回　Life story interview; using the grammar site.
第2回　Model autobiographies (analyse and summarise)
第3回　Composing your autobiography.
第4回　Using the editing symbols.
第5回　Model autobiographies (movie).
第6回　Presentation round-robin
第7回　Making your movie.
第8回　World-changers; choosing a topic.
第9回　Analysing newsletter structures.
第10回　Researching your topic.
第11回　Composing your newsletter.
第12回　Reading newsletters & give feedback.
第13回　Making your presentation.
第14回　Presentation practice.
第15回　Group presentations.

履修上の注意点

To pass the course you must attend at least 11 classes.

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ<k>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　小川　享子	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。）･Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）･Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

･Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money.（人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）･Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

まとめの単語テスト、単元テストは授業中に行ったことをもとに行うので、ノートをきちんと取ること。それに基づいて、語彙や表現の復習を重点的に行うこと。

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1a – Explorers（個人情報を聞き取り、交換する）
第3回　Unit 1b – A family in East Africa（家族および友達について読む・話す）
第4回　Unit 2a – My possessions（持ち物について話す・聞く）
第5回　Unit 2b – At home（部屋を描写する）
第6回　Unit 3a: – No-car zones（街での暮らしについて読む・話す）
第7回　Unit 3b – Working under the sea（仕事について聞く・話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4a – 100% identical?（好き嫌いについて読む・話す）
第10回　Unit 4b – Free time at work（日課について読む・話す）
第11回　Unit 5a – Famous for food（食べ物について聞く・話す）
第12回　Unit 5b – Food markets（買い物と量について読む・話す）
第13回　Unit 6a – The face of money（過去の人物につて読む・書く・話す）
第14回　Unit 6b – Discover the past（過去のことを聞く・読む・話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2の出席を必要とする。授業中に携帯を触った場合は成績より減点する。遅刻は授業が始まってから30分以内を遅刻と認める。それ以上の場合は欠席扱い。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 15 ）　　小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ 15 ）
参加度　（ 15 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ <I>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　フリンハンナマイケル	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation.（友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

Do assigned homework, preview and review textbook.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet and Introduce People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (B/C): Family members / Describing people（家族・人の外見を描写する）
第4回　Unit 2 (A/B): Jobs（仕事について話す）
第5回　Unit 2 (C): Countries（世界の国々ついて話す）
第6回　Unit 3 (A/B): Your house（家を描写する）
第7回　Unit 3 (C): Household objects（家具や家庭用品について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A/B): Personal possessions（持ち物について話す）
第10回　Unit 4 (C): Buy a present（ギフトを選ぶ）
第11回　Unit 5 (A/B): Daily routine（日課を描写する）
第12回　Unit 5 (C): Work activities（仕事内容について話す）
第13回　Unit 6 (A/B): Giving directions（道案内をする）
第14回　Unit 6 (C): Transportation（交通機関について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者：　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305089518

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 55 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 45 ）

Participation score is a composite score that includes homework and evaulation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ<m>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　弥永　啓子	

テーマ

典型的なプレゼンテーションのパターンを学ぶことで発信能力の基礎を身に着ける

授業の到達目標

・中級レベルのリスニング、読解能力を身に着ける・英語によるプレゼンテーションの基本を知る

授業の概要

英語 I-A で行うプロジェクトに基づくプレゼンテーションをより効果的に行えるよう、様々な話題に関するパブリック・スピーキングを聴き、読む。

準備学習（予習・復習）

毎回行う予習小テストの準備をしておくこと授業内で指示する復習の宿題を期限厳守で完了すること

内　容

第1回　オリエンテーション自己紹介(1)
第2回　自己紹介 (2)
第3回　趣味について話す (1)
第4回　趣味について話す (2)
第5回　人について話す (1)
第6回　人について話す (2)
第7回　場所を紹介する (1)
第8回　場所を紹介する (2)
第9回　逸話を話す (1)
第10回　逸話を話す (2)
第11回　健康について話す (1)
第12回　健康について話す (2)
第13回　社会の問題について話す (1)
第14回　社会の問題について話す (2)
第15回　まとめと振り返り

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とする

教科書

Speaking in Public
著者:　Miyako Nakata, John Pak
出版社:　Seibido
出版年:　2009　　ISBN:　9784791910816

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ 65% ）
授業中課題（ 20% ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 15% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ<n>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　　溝部　芳子	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money.（人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

単語テストの準備をする（1時間程度）。日頃からPCなどを使って英語で情報を取り入れる体験をする。

内　　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1a – Explorers（個人情報を聞き取り、交換する）
第3回　Unit 1b – A family in East Africa（家族および友達について読む・話す）
第4回　Unit 2a – My possessions（持ち物について話す・聞く）
第5回　Unit 2b – At home（部屋を描写する）
第6回　Unit 3a: – No-car zones（街での暮らしについて読む・話す）
第7回　Unit 3b – Working under the sea（仕事について聞く・話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4a – 100% identical?（好き嫌いについて読む・話す）
第10回　Unit 4b – Free time at work（日課について読む・話す）
第11回　Unit 5a – Famous for food（食べ物について聞く・話す）
第12回　Unit 5b – Food markets（買い物と量について読む・話す）
第13回　Unit 6a – The face of money（過去の人物につて読む・書く・話す）
第14回　Unit 6b – Discover the past（過去のことを聞く・読む・話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。ペアワーク、グループワークに積極的に参加し、英語で発信することに慣れる。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40% ）
授業中課題（ 30% ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 30% ）
小テストには単語テスト、複数単元ごとに行うまとめテストが含まれます。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈o〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　　占部　幹也	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEIC試験スコア５０点アップを目指す

授業の概要

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリスニング、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　　容

第1回　Unit 1 Computers and Society（コンピューター社会）
第2回　Unit 2 Business Transaction（ビジネス）
第3回　Unit 3 At the Office（オフィス）
第4回　Unit 4 Cars and Society（車社会）
第5回　Unit 5 Eating and Drinking（食生活）
第6回　Unit 6 Shopping（ショッピング）
第7回　Unit 7 Entertainmnet（娯楽）
第8回　Unit 8 Accidents & Crimes（事故・犯罪）
第9回　Unit 9 Teaching & Learning（教育・学問）
第10回　Unit 10 Medicine & Hospitals（医療・病院）
第11回　Unit 11 Finance and Banks（金融・銀行）
第12回　Unit 12 Economy and Industry（経済・産業）
第13回　Unit 13 Geography and Travels（地理・旅行）
第14回　Unit 14 Weather and Climate（気象・気候）
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

Total Strategy for the TOEIC Test
著者:　石井隆之
出版社:　成美堂
出版年:　2006　　ISBN:　9784791905539

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ<p>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　松村 優子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

･人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動･各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

授業中に指定する箇所の予習・復習。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する)
第3回　Unit 1d, e: 自己紹介をする
第4回　Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)
第5回　Unit 2d, e: 物を描写する
第6回　Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)
第7回　Unit 3d, e: 道案内をする、場所を描写する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)
第10回　Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く
第11回　Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)
第12回　Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する
第13回　Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)
第14回　Unit 6d, e: リクエストをする　礼状を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。2回の授業でテキスト1章のペースで進む予定ですが、学習状況により進め方を変更したり、微調整することもあります。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　(0%)	小テスト　(60%)
授業中課題　(10%)	授業中発表等　(15%)
参加度　(15%)	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ<q>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　クーラン コーリ	

テーマ

Build confidence in using English as a global language.（国際語としての英語を使うことに自信を持とう。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）

授業の概要

・Various activities for understanding content in English involving the topics of new friends, people and places, personal possessions, daily life, free time, and work and play.（新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）This course will be taught in English.

準備学習（予習・復習）

Whenever possible, the teacher will introduce new methods (through free smartphone apps, free online English learning websites, DVDs, etc) for the students to take advantage of to further their English studies in their free time.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A) 名前を聞く・教える
第3回　Unit 1 (B) スペルを聞く・教える
第4回　Unit 2 (A) 出身・国籍について話す
第5回　Unit 2 (B) メールアドレスと電話番号を交換する
第6回　Unit 3 (A) 身の回りのものについて話す
第7回　Unit 3 (B) 英語での言い方を尋ねる
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A) 移動の手段・交通機関について話す
第10回　Unit 4 (B) 時間を尋ねる・表現する
第11回　Unit 5 (A) インターネット利用について話す
第12回　Unit 5 (B) 買い物をする
第13回　Unit 6 (A) 職業・仕事について話す
第14回　Unit 6 (B) 電話をかける・電話にでる
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM
著者：　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社：Cambridge University Press
出版年：2013　　ISBN：　9780521126151

Four Corners, 1, Workbook
著者：　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社：Cambridge University Press
出版年：2013　　ISBN：　9780521126540

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 30 ）

Tests/quizzes are worth the same amount of points as in-class performance (participation, discussion, attitude, effort) when calculating the final grade.

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ<r>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　ﾒｶﾞﾝ･ｸﾞｨﾝ･ｴﾘｽ	

テーマ

Research and communicate about various topics.

授業の到達目標

This course will encourage academic curiosity and critical thinking by using basic English skills to research and share (present) topics, individually and in groups.

授業の概要

The course will be conducted in English in a computer lab. Students will research and present individual and group projects as well as keeping a vocabulary log and doing grammar, listening and reading exercises. Note that the content of this class will be coordinated with that of English I A.

準備学習（予習・復習）

You will need to do some project preparation, vocabulary review, and language exercises outside of class.

内　容

第1回　Life story interview; using the grammar site.
第2回　Model autobiographies (analyse and summarise)
第3回　Composing your autobiography.
第4回　Using the editing symbols.
第5回　Model autobiographies (movie).
第6回　Presentation round-robin
第7回　Making your movie.
第8回　World-changers; choosing a topic.
第9回　Analysing newsletter structures.
第10回　Researching your topic.
第11回　Composing your newsletter.
第12回　Reading newsletters & give feedback.
第13回　Making your presentation.
第14回　Presentation practice.
第15回　Group presentations.

履修上の注意点

To pass the course you must attend at least 11 classes.

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ<s>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　ﾌﾞﾗｲｱﾝﾊﾞｽｶｳﾞｨﾙ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money.（人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

If you forgot to bring your textbook and dictionary, you must make a copy of the next pages in the textbook and borrow a dictionary BEFORE class starts. Also, review the last lesson, look ahead at the next pages and check your dictionary for any new words.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1a – Explorers（個人情報を聞き取り、交換する）
第3回　Unit 1b – A family in East Africa（家族および友達について読む・話す）
第4回　Unit 2a – My possessions（持ち物について話す・聞く）
第5回　Unit 2b – At home（部屋を描写する）
第6回　Unit 3a: – No-car zones（街での暮らしについて読む・話す）
第7回　Unit 3b – Working under the sea（仕事について聞く・話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4a – 100% identical?（好き嫌いについて読む・話す）
第10回　Unit 4b – Free time at work（日課について読む・話す）
第11回　Unit 5a – Famous for food（食べ物について聞く・話す）
第12回　Unit 5b – Food markets（買い物と量について読む・話す）
第13回　Unit 6a – The face of money（過去の人物につて読む・書く・話す）
第14回　Unit 6b – Discover the past（過去のことを聞く・読む・話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈t〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　田中　美和子	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation.（友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

授業が終わったら、その授業で学んだ語彙や文法事項の復習を行ってください。また、授業の前に、予習として教科書の本文（英文）を読んで、出席しましょう。

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet and Introduce People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (B/C): Family members / Describing people（家族・人の外見を描写する）
第4回　Unit 2 (A/B): Jobs（仕事について話す）
第5回　Unit 2 (C): Countries（世界の国々ついて話す）
第6回　Unit 3 (A/B): Your house（家を描写する）
第7回　Unit 3 (C): Household objects（家具や家庭用品について話す）
第8回　Unit 4 (A/B): Personal possessions（持ち物について話す）
第9回　Unit 4 (C): Buy a present（ギフトを選ぶ）
第10回　Unit 5 (A/B): Daily routine（日課を描写する）
第11回　Unit 5 (C): Work activities（仕事内容について話す）
第12回　Unit 6 (A/B): Giving directions（道案内をする）
第13回　Unit 6 (C): Transportation（交通機関について話す）
第14回　Let's act in a play（演じてみよう）
第15回　Review（復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。前期は、毎回、英和辞書（電子辞書もしくは紙の辞書）を必ず持って出席してください。また、学生カードを忘れたときには、その授業が終わるまでに、報告をしてください。遅刻3回で参加点-1とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者：　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305089518

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（ 10 ）
参加度（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ<u>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　ｿｰｿﾝ ﾏｰｶｽ	

テーマ

Acting English Drama

授業の到達目標

This class is designed to be a lively class encouraging acting out drama scenes, analyzing character emotions, western styles and body language helping studnts develop their own English characters.

授業の概要

The purpose of this class is to improve reading, speaking and listening skills from practicing and reviewing drama dialogue.This course will be taught in English.

準備学習（予習・復習）

B5 Notebook Journals will be required homework and research

内　容

第1回　Introductions
第2回　Journal notebook, week one – Story Research
第3回　Week 2 Story Characters
第4回　Episode 3 Monsters – New words
第5回　,Journal week 4 Quiz – Morning After
第6回　Acting Scene 5 Q and A
第7回　Natural pronunciation practice
第8回　Episode7 Acting scene with studens and Teacher
第9回　Journals week 8 – Story Summary
第10回　Story Questions – Vocabulary Test
第11回　Final Journal Notebook week 10
第12回　Favorite Actor Report – Presentation
第13回　Final Story notes– Q and A
第14回　Heat wave Idioms and Dialougues
第15回　Final Papers and Discussion

履修上の注意点

You must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.

教科書

Acting English Drama
著者:　Marcus Thorson
出版社:　Sun Publishing
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ 15 ）
授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ 15 ）
参加度　（ 15 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ<v>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　　高居　佐紀	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEIC試験スコア５０点アップを目指す

授業の概要

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリスニング、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　　容

第1回　Unit 1 Eating Out　文の構造
第2回　Unit 2 Amusement　名詞Ⅰ：　名詞・代名詞
第3回　Unit 3 Daily Life　名詞Ⅱ：　加算/不可算名詞
第4回　Unit 4 Directions　形容詞・副詞
第5回　Unit 5 Travel　動詞・助動詞
第6回　Unit 6　Advertising　時制
第7回　Unit 7 Personnel　イディオムⅠ
第8回　Unit 8 Purchases　一致
第9回　Unit 9 Office Work　分詞・動名詞・不定詞
第10回　Unit 10　Employment　関係詞
第11回　Unit 11 Business　接続詞・前置詞
第12回　Unit 12 Finance & Banking　特殊構文
第13回　Unit 13 Health & Welfare　比較
第14回　Unit 14 Computers & The Internet　仮定法　　Unit 15　Media　イディオムⅡ
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

Power Charge for the TOEIC Test
著者：　西田晴美　Brian Covert
出版社：金星堂
出版年：2009　　ISBN：　9784764738744

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈w〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　弥永　啓子	

テーマ

典型的なプレゼンテーションのパターンを学ぶことで発信能力の基礎を身に着ける

授業の到達目標

・中級レベルのリスニング、読解能力を身に着ける・英語によるプレゼンテーションの基本を知る

授業の概要

英語 I-A で行うプロジェクトに基づくプレゼンテーションをより効果的に行えるよう、様々な話題に関するパブリック・スピーキングを聴き、読む。

準備学習（予習・復習）

毎回行う予習小テストの準備をしておくこと授業内で指示する復習の宿題を期限厳守で完了すること

内　容

第1回　オリエンテーション自己紹介(1)
第2回　自己紹介 (2)
第3回　趣味について話す (1)
第4回　趣味について話す (2)
第5回　人について話す (1)
第6回　人について話す (2)
第7回　場所を紹介する (1)
第8回　場所を紹介する (2)
第9回　逸話を話す (1)
第10回　逸話を話す (2)
第11回　健康について話す (1)
第12回　健康について話す (2)
第13回　社会の問題について話す (1)
第14回　社会の問題について話す (2)
第15回　まとめと振り返り

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とする

教科書

Speaking in Public
著者:　Miyako Nakata, John Pak
出版社:　Seibido
出版年:　2009　　ISBN:　9784791910816

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ 65% ）
授業中課題（ 20% ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 15% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈x〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　スミス ジョン	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions,daily activities and transportation.（友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）This course will be taught in English.

準備学習（予習・復習）

Please do all the homework, preview and review the textbook.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet and Introduce People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (B/C): Family members / Describing people（家族・人の外見を描写する）
第4回　Unit 2 (A/B): Jobs（仕事について話す）
第5回　Unit 2 (C): Countries（世界の国々ついて話す）
第6回　Unit 3 (A/B): Your house（家を描写する）
第7回　Unit 3 (C): Household objects（家具や家庭用品について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A/B): Personal possessions（持ち物について話す）
第10回　Unit 4 (C): Buy a present（ギフトを選ぶ）
第11回　Unit 5 (A/B): Daily routine（日課を描写する）
第12回　Unit 5 (C): Work activities（仕事内容について話す）
第13回　Unit 6 (A/B): Giving directions（道案内をする）
第14回　Unit 6 (C): Transportation（交通機関について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English IntroA,
著者:　Matin Milner
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781285848563

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈y〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　ﾌﾘﾝﾊﾝﾅﾏｲｹﾙ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation.（友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

Do assigned homework, preview and review textbook.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet and Introduce People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (B/C): Family members / Describing people（家族・人の外見を描写する）
第4回　Unit 2 (A/B): Jobs（仕事について話す）
第5回　Unit 2 (C): Countries（世界の国々ついて話す）
第6回　Unit 3 (A/B): Your house（家を描写する）
第7回　Unit 3 (C): Household objects（家具や家庭用品について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A/B): Personal possessions（持ち物について話す）
第10回　Unit 4 (C): Buy a present（ギフトを選ぶ）
第11回　Unit 5 (A/B): Daily routine（日課を描写する）
第12回　Unit 5 (C): Work activities（仕事内容について話す）
第13回　Unit 6 (A/B): Giving directions（道案内をする）
第14回　Unit 6 (C): Transportation（交通機関について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者：　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305089518

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 55 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 45 ）

Participation score is a composite score that includes homework and evaulation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈z〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　小川　享子	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, possessions, places, free time, food and money.（人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

まとめの単語テスト、単元テストは授業中に行ったことをもとに行うので、ノートをきちんと取ること。それに基づいて、語彙や表現の復習を重点的に行うこと。

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1a – Explorers（個人情報を聞き取り、交換する）
第3回　Unit 1b – A family in East Africa（家族および友達について読む・話す）
第4回　Unit 2a – My possessions（持ち物について話す・聞く）
第5回　Unit 2b – At home（部屋を描写する）
第6回　Unit 3a: – No-car zones（街での暮らしについて読む・話す）
第7回　Unit 3b – Working under the sea（仕事について聞く・話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4a – 100% identical?（好き嫌いについて読む・話す）
第10回　Unit 4b – Free time at work（日課について読む・話す）
第11回　Unit 5a – Famous for food（食べ物について聞く・話す）
第12回　Unit 5b – Food markets（買い物と量について読む・話す）
第13回　Unit 6a – The face of money（過去の人物につて読む・書く・話す）
第14回　Unit 6b – Discover the past（過去のことを聞く・読む・話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2の出席を必要とする。携帯を授業中に触った場合、成績から減点する。遅刻は30分までとする。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者：　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 15 ）	小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 15 ）	授業中発表等（ 15 ）
参加度　（ 15 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈Ha〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　松村 優子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

･人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動･各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

授業中に指定する箇所の予習・復習。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する)
第3回　Unit 1d, e: 自己紹介をする
第4回　Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)
第5回　Unit 2d, e: 物を描写する
第6回　Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)
第7回　Unit 3d, e: 道案内をする、場所を描写する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)
第10回　Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く
第11回　Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)
第12回　Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する
第13回　Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)
第14回　Unit 6d, e: リクエストをする　礼状を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。2回の授業でテキスト1章のペースで進む予定ですが、学習状況により進め方を変更したり、微調整することもあります。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　(0%)	小テスト　(60%)
授業中課題　(10%)	授業中発表等　(15%)
参加度　(15%)	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ <Hb>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　フリンハンナマイケル	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of friends and family, jobs, houses, possessions, daily activities and transportation.（友達・家族、仕事、住まい、持ち物、日常活動、交通といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

Do assigned homework, preview and review textbook.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 1 (A): Meet and Introduce People（初対面・自己紹介）
第3回　Unit 1 (B/C): Family members / Describing people（家族・人の外見を描写する）
第4回　Unit 2 (A/B): Jobs（仕事について話す）
第5回　Unit 2 (C): Countries（世界の国々ついて話す）
第6回　Unit 3 (A/B): Your house（家を描写する）
第7回　Unit 3 (C): Household objects（家具や家庭用品について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 4 (A/B): Personal possessions（持ち物について話す）
第10回　Unit 4 (C): Buy a present（ギフトを選ぶ）
第11回　Unit 5 (A/B): Daily routine（日課を描写する）
第12回　Unit 5 (C): Work activities（仕事内容について話す）
第13回　Unit 6 (A/B): Giving directions（道案内をする）
第14回　Unit 6 (C): Transportation（交通機関について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition): Combo Split Intro A with Online Workbook Access Code
著者：　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305089518

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 55 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 45 ）

Participation score is a composite score that includes homework and evaulation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ <Hc>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　ｿｰｿﾝ ﾏｰｶｽ	

テーマ

Acting English Drama

授業の到達目標

This class is designed to be a lively class encouraging acting out drama scenes, analyzing character emotions, western styles and body language helping studnts develop their own English characters.

授業の概要

The purpose of this class is to improve reading, speaking and listening skills from practicing and reviewing drama dialogue.This course will be taught in English.

準備学習（予習・復習）

B5 Notebook Journals will be required homework and research

内　容

第1回　Introductions
第2回　Journal notebook, week one – Story Research
第3回　Week 2 Story Characters
第4回　Episode 3 Monsters – New words
第5回　,Journal week 4 Quiz – Morning After
第6回　Acting Scene 5 Q and A
第7回　Natural pronunciation practice
第8回　Episode7 Acting scene with studens and Teacher
第9回　Journals week 8 – Story Summary
第10回　Story Questions – Vocabulary Test
第11回　Final Journal Notebook week 10
第12回　Favorite Actor Report – Presentation
第13回　Final Story notes– Q and A
第14回　Heat wave Idioms and Dialougues
第15回　Final Papers and Discussion

履修上の注意点

you must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.

教科書

Acting English Drama
著者:　Marcus Thorson
出版社:　Sun Publishing
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ 15 ）
授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ 15 ）
参加度　（ 15 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ <Hd>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　弥永　啓子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

･人、持ち物、場所、余暇、食べ物、お金といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動･各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

毎回、予習語彙テストを行うので準備しておくこと。定期的に復習の宿題を課すのでこれをきちんとこなすこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1c: (Reading) The face of seven billion people (書き手の目的を把握する)
第3回　Unit 1d, e: 自己紹介をする
第4回　Unit 2c: (Reading) Global objects (詳細を読み取る)
第5回　Unit 2 d, e: 物を描写する
第6回　Unit 3c: (Reading) Places and languages (関連性を読み取る)
第7回　Unit3d, e: 道案内をする、場所を描写する
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 4c: (Reading) Extreme sports (事実と意見を区別する)
第10回　Unit 4d, e: 自分の能力を表現する、短いe-mailを書く
第11回　Unit 5c: (Reading) The seed vault (要約する)
第12回　Unit 5d, e: 料理を注文する、料理の手順を説明する
第13回　Unit 6c: (Reading) A cashless world (関連性を読み取る)
第14回　Unit6d, e: リクエストをする　礼状を書く
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

毎回必ずテキストを持ってくること。3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト　（ 65% ）
授業中課題　（ 20% ）	授業中発表等　（ ）
参加度　（ 15% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ <R>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　杉山 泰	

テーマ

基礎英語（Basic English）、特に「基礎動詞＋前置詞」というやさしい英語で日本文化を伝えよう

授業の到達目標

中学校で学んだ基礎英語（850語）で、日本文化を伝えることができる。基礎動詞（go/come,give/get,let/keep,put/take,make,have,do,sayなど）を徹底的に利用して、やさしい英語で自由に日本文化を伝える訓練をしていきたい。

授業の概要

教科書の問題を最初からやっていく。毎回「プリント」を配布して、解答してもらうので、毎回の参加が大事になる。

準備学習（予習・復習）

毎回プリントを提出し、その添削をして点数をつけて返却するので、返却されたプリントを次回までに完全なものにしておく必要がある。

内　容

第1回　自己紹介。Lesson 1 一語一文で英語は通じる。（No work, no money.のアジアの英語も役に立つ。Long time, no see.の意味は？）
第2回　Lesson 2 動詞＋er＝～する人、～する道具（I am a mind reader.＝君の心が読めるんだ）
第3回　Lesson 3 動詞＋...ing＝（現在分詞と動名詞の違い＝I am feeling well.とI gave up smoking.の違いは？）
第4回　Lesson 4 動詞＋ed＝過去分詞（I love fried rice and smoked salmon.とAn A-bomb was dropped on Hiroshima.）
第5回　Lesson 5 be動詞＋形容詞（I am pleased to see you.とIt is pleasant to get all my credits.）
第6回　Lesson 6 InとOut（in controlとout of controlの違いは？　命令文Get in my car.とGet out of the room.の違いは？）
第7回　Lesson 7 OnとOff（Is the switch on? No, it's off.）
第8回　Lesson 8 Haveの構文（We had nothing to do with it.の構文）
第9回　Lesson 9 Comeの構文（Dinner is ready. I am coming.＝今行きます＝近づいていくニュアンス）
第10回　Lesson 10 Goの構文（Dinner is ready. I am going.＝用事があるから出かけます＝離れていくニュアンス）
第11回　Lesson 11 Takeの構文（I'll take this.＝これください）
第12回　Lesson 12 Putの構文（Don't put off till tommorow what you can do today.）
第13回　Lesson 13 Giveの構文（魔法の杖のGiveとGet＝on/offやin/outを用いたイディオムの意味は？）
第14回　Lesson 14 Getの構文（基礎動詞＝go-come / let-keep / put- take / give-get / make / have / do / sayを使いこなそう）
第15回　Lesson 15 Makeの構文（基礎動詞を用いて、履歴書で自己アピール文を書こう）

履修上の注意点

毎回教科書の説明と問題を仕上げた後で、プリントをやってもらう。授業への参加が重視される。

教科書

Putting Common Verbs to Work
著者：　鳥飼慎一郎
出版社：朝日出版社
出版年：2010　　ISBN：

参考書

英語の壁
著者：　マーク・ピーターセン
出版社：文春新書
出版年：2003　　ISBN：

日本語教のすすめ
著者：　鈴木孝夫
出版社：新潮新書
出版年：2009　　ISBN：

aks201a241

j実践日本人の英語

著者:　マーク・ピーターセン

出版社: 岩波新書

出版年: 2013　　ISBN:

日本語は敬語があって主語がないん

著者:　金谷武洋

出版社: 光文社新書

出版年: 2010　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 20% ）

参加度 （ 20% ）

毎回の出席と毎回の提出物を最大限重視する。毎回授業に参加できない場合は、各自教科書の問題を自宅でやり、プリントをもらって提出すれば、遅れの出席として評価する場合がある。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ <Tb>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　　溝部　芳子	

テーマ

TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEICリスニングに対応できるリスニングスキルの養成および基礎となる語彙力の修得を目的とする。

授業の概要

TOEICリスニングの各パートごとに必要なスキルを確認した上で、リスニング練習を行う。英語の音の変化、リズムに慣れ、リスニングに多く出題される場面を理解するために必要な語彙を習得する。ディクテーション、音読、シャドーイングなどを行いながら、TOEIC頻出である日常生活やビジネスの場面での英語表現に少しずつ慣れて行くことを目標にする。終盤ではTOEICの実践演習を行う

準備学習（予習・復習）

予習:語彙学習と各ユニットのBrush up。（1時間程度）。復習として学習したところのCDを何度も聴き、シャドーイング練習をする。

内　　容

第1回　Introduction, Class Rules, TOEICについて
第2回　Unit 1 人物の動作と状態
第3回　Unit 2 疑問詞を使った疑問文
第4回　Unit 3 電話での会話
第5回　Unit 4 留守番電話
第6回　Unit 5 物の状態と位置
第7回　Unit 6 依頼・提案・申し出
第8回　Unit 7 屋外や交通機関での会話
第9回　Unit 8 アナウンス
第10回　Unit 9 Yes/No疑問文
第11回　Unit 10 店での会話
第12回　Unit 11 ラジオ放送
第13回　Unit 12 オフィスでの会話
第14回　実践演習（1）
第15回　実践演習（2）

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。辞書を持ってくること。音読やペアワークに積極的に取り組んでください。

教科書

Mastery Drills for the TOEIC Test All in One Target 400
著者:　早川幸治
出版社:　桐原書店
出版年:　2011　　ISBN:　9784342553080

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト　（ 20% ）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（　）
参加度　（ 30% ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈金2〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈金1〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**英語ＩＢ〈金4〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ｼﾞｪｰﾑｽ ﾃﾞｨｰｸﾞﾙ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth.（旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

Students will need to bring all materials to class on a weekly basis. Also, all homework needs to be done regardless of whether you attended the previous class or not. If you are absent for any reason, please check with a classmate and get caught up on the material that you missed in class as well as complete the homework for the following week.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7a – Flight of the Silver Queen（旅について読む・聞く・話す）
第3回　Unit 7b – Animal migrations（比較する）
第4回　Unit 8a – The faces of festivals（人の外見を描写する）
第5回　Unit 8b – Global fashion（洋服・ファッションについて読む・話す）
第6回　Unit 9a: – All roads film festival（映画について読む・聞く・話す）
第7回　Unit 9b – People in film and the arts（予定について読む・聞く・話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10a – Technology has changed our lives（テクノロジーについて読む・聞く・話す）
第10回　Unit 10b – How well can you remember?（記憶と学びについて話す・読む・聞く）
第11回　Unit 11a – Going on holiday（観光について読む・聞く・話す）
第12回　Unit 11b – Planning a holiday（旅行の計画を立てる）
第13回　Unit 12a – Climate change（測定の表現・未来について予測する）
第14回　Unit 12b – Exploring the earth（世界の果ての地を描写する）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 25 ）　　授業中発表等　（ 25 ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　占部　幹也	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Part 1対策：2人の人物、Part 2対策：問題文に注意する
第3回　Part 3対策：必要な情報を聞き取る
第4回　Part 4対策：トークの概要をつかむ
第5回　模擬試験TEST1リスニングテスト演習・解答及びリーディング・リスニングパートの解説
第6回　模擬試験TEST1リーディング・リスニングパートの解説
第7回　Part 3対策：問題と解決策についての会話、Part 3対策：人物の行動
第8回　Part 4対策：アナウンスメント、Part 1対策：人が小さく風景が大きい写真
第9回　Part 2対策：否定疑問文、Part 3対策：会話のテーマを聞き取る
第10回　Part 2対策：提案に答える 、Part 3対策：提案を含んだ会話
第11回　Part 4対策：指示内容を聞き取る、Part 2対策：総合問題
第12回　Part 3対策：理由に関する設問 、Part 4対策：詳細をつかむ
第13回　模擬試験TEST2リスニングテスト演習・解答及びリーディング・リスニングパートの解説
第14回　リスニングテスト演習及び解答解説
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Sapphire
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：2013年6月　　ISBN：

ECC TOEIC TEST CLINIC Sapphire　模試
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：2013年6月　　ISBN：

ECC TOEIC TEST CLINIC Ruby　模試
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：2014年10月　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト （ 20 ）

aks201a352

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 30 ）

上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <c>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員　40

履修条件　　クラス指定

担 当 者　久保田　美佳

テーマ

国際語としての英語を使うことに自信を持とう。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　Orientation (オリエンテーション)
第2回　Unit 7 (C) 食習慣について話す。
第3回　Unit 7 (D) 好きな食べ物について話す。
第4回　Unit 8 (C) 自分の町の面白い場所について話す。
第5回　Unit 8 (D) 観光スポットについてプレゼンテーションをする。
第6回　Unit 9 (C) 人が最近していることを説明する。
第7回　Unit 9 (D) 人が最近していることについて話し合う。
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (C) 日課を話す（過去）。
第10回　Unit 10 (D) 過去の活動を説明する。
第11回　Unit 11 (C) 過去の休暇について話す。
第12回　Unit 11 (D) 旅行の経験を説明する。
第13回　Unit 12 (C) 計画について話し合う。
第14回　Unit 12 (D) 伝統的な誕生日の過ごし方を説明する。
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM
著者:　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　2013　　ISBN:
Four Corners, 1, Workbook
著者:　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　(20)　　小テスト　(60)
授業中課題　(　)　　授業中発表等　(　)
参加度　(　)
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　高居 佐紀	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第13回　模擬試験TEST2リスニングテスト演習・解答及び リーディング・リスニングパートの解説
第14回　リスニングテスト演習及び解答解説
第15回　総復習
第1回　オリエンテーション
第2回　Part 1(写真描写問題)、宿題説明
第3回　Part 2（応答問題）対策
第4回　Part 3（会話問題）対策
第5回　Part 4（説明文問題）対策
第6回　模擬試験TEST1リスニングテスト演習・解答及びリーディング・リスニングパートの解説
第7回　Part 2（応答問題）対策、Part 3（会話問題）対策
第8回　Part 4（説明文問題）対策、Part 2（応答問題）対策
第9回　Part 3（会話問題）対策、Part 1(写真描写問題)対策
第10回　Part 2（応答問題）対策、Part 1(写真描写問題)対策
第11回　Part 4（説明文問題）対策、Part 2（応答問題）対策
第12回　Part 3（会話問題）対策、Part 4（説明文問題）対策

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Emerald
著者:　ECC
出版社:　ECC
出版年:　2013年6月　　ISBN:
ECC TOEIC TEST CLINIC Emerald　模試
著者:　ECC
出版社:　ECC
出版年:　2013年6月　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <e>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員　40

履修条件　　クラス指定

担 当 者　川口　玲子

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Part 1(写真描写問題)、宿題説明
第3回　Part 2（応答問題）対策
第4回　Part 3（会話問題）対策
第5回　Part 4（説明文問題）対策
第6回　模擬試験TEST1リスニングテスト演習・解答及びリーディング・リスニングパートの解説
第7回　Part 2（応答問題）対策、Part 3（会話問題）対策
第8回　Part 4（説明文問題）対策、Part 2（応答問題）対策
第9回　Part 3（会話問題）対策、Part 1(写真描写問題)対策
第10回　Part 2（応答問題）対策、Part 1(写真描写問題)対策
第11回　Part 4（説明文問題）対策、Part 2（応答問題）対策
第12回　Part 3（会話問題）対策、Part 4（説明文問題）対策
第13回　模擬試験TEST2リスニングテスト演習・解答及び リーディング・リスニングパートの解説
第14回　リスニングテスト演習及び解答解説
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Emerald
著者:　ECC
出版社:　ECC
出版年:　2013年6月　　ISBN:
ECC TOEIC TEST CLINIC Emerald　模試
著者:　ECC
出版社:　ECC
出版年:　2013年6月　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <f>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　田中　美和子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解（読解・ビデオ視聴）活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習）

授業が終わったら、その授業で学んだ語彙や文法事項の復習を行ってください。また、授業の前に、予習として教科書の本文（英文）を読んで、出席しましょう。

内　容

第1回　オリエンテーション＆Unit 7 (D): (Reading) Soccer-The Beautiful Game、(Writing/Speaking) 自分の能力に関して書く
第2回　Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Danny's Challenge
第3回　Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 人の衣服を描写する
第4回　Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Traditional Silk-Making
第5回　Unit 9 (D): (Reading) "Ron Finley: A Guerilla Gardener in South Central L.A、(Writing/Speaking) 食習慣について書く
第6回　Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Slow Food
第7回　Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease (Writing/Speaking) 病気の防止について話す
第8回　Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Farley, the Red Panda
第9回　Unit 11 (D): (Reading) Derek Sivers: Keep Your Goals to Yourself、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る
第10回　Unit 11(E): (総合) ビデオ・ジャーナル Making a Thai Boxing Champion
第11回　Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 休暇中の葉書を書く
第12回　Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Monarch Migration
第13回　英語を日本語にしてみよう 1
第14回　英語を日本語にしてみよう 2
第15回　復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。学生カードを忘れた場合には、その授業が終わるまでに、報告をしてください。なお、前期と同じように、遅刻3回で参加点-1となりますので、ご注意ください。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者：　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社：　Cengage Learning

出版年：　2015　　ISBN：　9781305089501

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト　（ 30 ）
授業中課題　（ 10 ）　　授業中発表等　（ 10 ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%が入ります。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <g>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　野口　博代	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

読解問題については、わからない単語や熟語の意味を事前に調べておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
第3回　Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
第4回　Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
第5回　Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
第6回　Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
第7回　Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
第10回　Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
第11回　Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
第12回　Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
第13回　Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)
第14回　Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　(30%)　　小テスト　(20%)
授業中課題　(10%)　　授業中発表等　(10%)
参加度　(10%)
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <h>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　山﨑 清水	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解（読解・ビデオ視聴）活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習）

事前に英単語は調べておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (D): (Reading) Sports – Then and Now、(Writing/Speaking) スポーツに関して話す
第3回　Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Land Divers of Vanuatu」
第4回　Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 衣服や色について知る
第5回　Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Inuit Fashion」
第6回　Unit 9 (D): (Reading) Special Days, Special Food、(Writing/Speaking) 行事のための食べ物について話す
第7回　Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す
第10回　Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Pyrethrum」
第11回　Unit 11 (D):(Reading) Life's Milestones、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る
第12回　Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」
第13回　Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 移住について論じる
第14回　Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。私語は慎むこと。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験　(40)　　小テスト　( )
授業中課題　(20)　　授業中発表等　(10)
参加度　(10)
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <i>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　原 俊樹	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

基本的な外国語を学ぶ体制になるように、予習・復習を確実にやりなさい。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
第3回　Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
第4回　Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
第5回　Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
第6回　Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
第7回　Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
第10回　Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
第11回　Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
第12回　Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
第13回　Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)
第14回　Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 35% ）　　小テスト（ 15% ）
授業中課題（ 10% ）　　授業中発表等（ 10% ）
参加度　（ 10% ）
個人成績表を持たせるつもりです。上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <j>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾒｶﾞﾝ･ｸﾞｨﾝ･ｴﾘｽ	

テーマ

Research and communicate about various topics.

授業の到達目標

This course will encourage academic curiosity and critical thinking by using basic English skills to research and share (present) topics, individually and in groups.

授業の概要

The course will be conducted in English in a computer lab. Students will research and present individual and group projects as well as keeping a vocabulary log and doing grammar, listening and reading exercises. Note that the content of this class will be coordinated with that of English IIB.

準備学習（予習・復習）

You will need to do some project preparation, vocabulary review, and language exercises outside of class.

内　容

第1回　Movie reviews: exploring the topic.
第2回　Model movie reviews: analyse structure & language.
第3回　Vocabulary test; Choosing a movie & researching.
第4回　Composing your movie review.
第5回　Vocabulary test; Editing your movie review.
第6回　Model presentation.
第7回　Vocabualry test; Planning your Powerpoint.
第8回　Movie review presentation round-robin.
第9回　Vocabualry test; Choosing a topic and planning your survey.
第10回　Making your survey.
第11回　Vocabulary test; Administer the surveys.
第12回　Analysing the responses & making graphs.
第13回　Vocabulary test; Planning your Powerpoint.
第14回　Making your Powerpoint.
第15回　Group presentations.

履修上の注意点

To pass the course you must attend at least 11 classes.

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 10 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <k>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　小川　享子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

･旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動･各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

まとめの単語テスト、単元テストは授業中に行ったことをもとに行うので、ノートをきちんと取ること。それに基づいて、語彙や表現の復習を重点的に行うこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
第3回　Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
第4回　Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
第5回　Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
第6回　Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
第7回　Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
第10回　Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
第11回　Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
第12回　Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
第13回　Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)
第14回　Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2の出席を必要とする。授業中に携帯を触った場合は成績より減点する。遅刻は授業が始まってから30分以内を遅刻と認める。それ以上の場合は欠席扱い。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 35 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 5 ）
参加度　（ 10 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <I>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　吉江　正	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解（読解・ビデオ視聴）活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (D): (Reading) Soccer-The BeautifulGame、(Writing/Speaking) 自分の能力に関して書く
第3回　Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Danny's Challenge」
第4回　Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 人の衣服を描写する
第5回　Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Traditional Silk-Making」
第6回　Unit 9 (D): (Reading) "Ron Finley: A Guerilla Gardener in SouthCentral L.A、(Writing/Speaking) 食習慣について書く

第7回　Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す
第10回　Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Farley, the Red Panda」
第11回　Unit 11 (D): (Reading) Derek Sivers: Keep Your Goals to Yourself、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る
第12回　Unit 11(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」
第13回　Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 休暇中の葉書を書く
第14回　Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <m>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌｫｽﾀｰ ﾍﾝﾘｰ	

テーマ

Research and communicate about various topics

授業の到達目標

This course will aim to improve basic English skills and encourage academic curiosity and critical thinking by focusing on and sharing individual and group research topics.

授業の概要

The course will be conducted in English, in a computer lab. Students will research and present individual and group projects, as well as doing grammar, listening and reading exercises.

準備学習（予習・復習）

You will need to do some project preparation and language exercises outside of class.

内　容

第1回　Model movie reviews (blog entries); choosing a movie
第2回　Researching/composing your review
第3回　Composing your review
第4回　Reading movie reviews & giving feedback
第5回　Model presentation
第6回　Planning & making your Powerpoint
第7回　Movie review presentation round-robin
第8回　Choosing a topic and planning/making your survey
第9回　Analyze the surveys; plan your powerpoint
第10回　Making your Powerpoint
第11回　Making your Powerpoint
第12回　Partner presentation practice
第13回　Group presentation practice
第14回　Presentations Ⅰ
第15回　Presentations Ⅱ

履修上の注意点

To pass the course, you must attend at least 10 classes.

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 60% ）　　授業中発表等　（ 20% ）
参加度　（ ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <n>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　溝部 芳子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

単語テストの準備をする（1時間程度）。日頃からWebなどを使って英語で情報を取り入れる体験をする。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
第3回　Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
第4回　Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
第5回　Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
第6回　Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
第7回　Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
第10回　Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
第11回　Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
第12回　Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
第13回　Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)
第14回　Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。ペアワーク、グループワークに積極的に参加し、英語で発信することに慣れる。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト （ 30% ）
授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30% ）
上記に加えて学期末英語テスト20%小テストには単語テストと複数単元ごとに行うまとめテストが含まれます。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <o>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　占部　幹也	

テーマ

「環境」や「健康」問題について、今世界で人々が直面している現状を知り、その解決に人々が努力している様子を理解する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング・ライティング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。・英字新聞に慣れ英語記事を読めるようになる。

授業の概要

Pre-reading,Reading,Post-readingの3つのパートでリーディングスキルを効率的に修得する。CDを利用して音読練習を行う。

Key Wordsコーナーで語彙を修得し、英作文の練習をする。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　　容

第1回　Unit8 Smoking Bans Could Cut into Cuban Cigar Sales
第2回　Unit8 世界的な禁煙傾向、タバコ産業の将来は-キューバ発
第3回　Unit9 Global Warming Claiming Next Victim:Andes Water
第4回　Unit9 溶ける氷河におびやかされる人々の生活-ボリビア発
第5回　Unit10 Aborigines Still Rely on Bush Medicines for Remedies
第6回　Unit10 アボリジニの命の綱、伝統的な薬草医療-オーストラリア発
第7回　Unit11 African Farmers Seek Ways to Survive Droughts
第8回　Unit11 温暖化で干ばつ続き⇒早い、強い作物に栽培転換-ザンビア発
第9回　Unit12 Study:Fruity Cocktails May Be Good for Health
第10回　Unit12 フルーツカクテルで健康に？アルコールで抗酸化作用の効果アップか-アメリカ発
第11回　Unit13 Rising Seas May Force Island Nations to Evacuate
第12回　Unit13 住民を国外へ追いやる海面上昇-モルディブ発
第13回　Unit14 Malaysians Getting Appetite for Healthier Eating
第14回　Unit15 Planned Chinese City wants all Eco-Friedly Power
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

Healing Our World
著者:　小笠原　真司 Pino Cutrone
出版社:　南雲堂
出版年:　2010　　ISBN:　9784523176473

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <p>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ｼﾞｪｰﾑｽ ﾃﾞｨｰｸﾞﾙ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth.（旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

Students will need to bring all materials to class on a weekly basis. Also, all homework needs to be done regardless of whether you attended the previous class or not. If you are absent for any reason, please check with a classmate and get caught up on the material that you missed in class as well as complete the homework for the following week.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7a – Flight of the Silver Queen（旅について読む・聞く・話す）
第3回　Unit 7b – Animal migrations（比較する）
第4回　Unit 8a – The faces of festivals（人の外見を描写する）
第5回　Unit 8b – Global fashion（洋服・ファッションについて読む・話す）
第6回　Unit 9a: – All roads film festival（映画について読む・聞く・話す）
第7回　Unit 9b – People in film and the arts（予定について読む・聞く・話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10a – Technology has changed our lives（テクノロジーについて読む・聞く・話す）
第10回　Unit 10b – How well can you remember?（記憶と学びについて話す・読む・聞く）
第11回　Unit 11a – Going on holiday（観光について読む・聞く・話す）
第12回　Unit 11b – Planning a holiday（旅行の計画を立てる）
第13回　Unit 12a – Climate change（測定の表現・未来について予測する）
第14回　Unit 12b – Exploring the earth（世界の果ての地を描写する）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 25 ）　　授業中発表等　（ 25 ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <q>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　員　40

履修条件　　クラス指定

担 当 者　久保田　美佳

テーマ

国際語としての英語を使うことに自信を持とう。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　Orientation (オリエンテーション)
第2回　Unit 7 (C) 食習慣について話す。
第3回　Unit 7 (D) 好きな食べ物について話す。
第4回　Unit 8 (C) 自分の町の面白い場所について話す。
第5回　Unit 8 (D) 観光スポットについてプレゼンテーションをする。
第6回　Unit 9 (C) 人が最近していることを説明する。
第7回　Unit 9 (D) 人が最近していることについて話し合う。
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (C) 日課を話す（過去）。
第10回　Unit 10 (D) 過去の活動を説明する。
第11回　Unit 11 (C) 過去の休暇について話す。
第12回　Unit 11 (D) 旅行の経験を説明する。
第13回　Unit 12 (C) 計画について話し合う。
第14回　Unit 12 (D) 伝統的な誕生日の過ごし方を説明する。
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM
著者:　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　2013　　ISBN:

Four Corners, 1, Workbook
著者:　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社:　Cambridge University Press
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　(20)　　小テスト　(60)
授業中課題　(　)　　授業中発表等　(　)
参加度　(　)
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <r>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾒｶﾞﾝ･ｸﾞｨﾝ･ｴﾘｽ	

テーマ

Research and communicate about various topics.

授業の到達目標

This course will encourage academic curiosity and critical thinking by using basic English skills to research and share (present) topics, individually and in groups.

授業の概要

The course will be conducted in English in a computer lab. Students will research and present individual and group projects as well as keeping a vocabulary log and doing grammar, listening and reading exercises. Note that the content of this class will be coordinated with that of English IIB.

準備学習（予習・復習）

You will need to do some project preparation, vocabulary review, and language exercises outside of class.

内　容

第1回　Movie reviews: exploring the topic.
第2回　Model movie reviews: analyse structure & language.
第3回　Vocabulary test; Choosing a movie & researching.
第4回　Composing your movie review.
第5回　Vocabulary test; Editing your movie review.
第6回　Model presentation.
第7回　Vocabualry test; Planning your Powerpoint.
第8回　Movie review presentation round-robin.
第9回　Vocabualry test; Choosing a topic and planning your survey.
第10回　Making your survey.
第11回　Vocabulary test; Administer the surveys.
第12回　Analysing the responses & making graphs.
第13回　Vocabulary test; Planning your Powerpoint.
第14回　Making your Powerpoint.
第15回　Group presentations.

履修上の注意点

To pass the course you must attend at least 11 classes.

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 10 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <s>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　野口　博代	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

読解問題については、わからない単語や熟語の意味を事前に調べておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
第3回　Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
第4回　Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
第5回　Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
第6回　Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
第7回　Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
第10回　Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
第11回　Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
第12回　Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
第13回　Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)
第14回　Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者：　Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 10% ）　　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 10% ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <t>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　田中　美和子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解（読解・ビデオ視聴）活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習）

授業が終わったら、その授業で学んだ語彙や文法事項の復習を行ってください。また、授業の前に、予習として教科書の本文（英文）を読んで、出席しましょう。

内　容

第1回　オリエンテーション＆Unit 7 (D): (Reading) Soccer-The Beautiful Game、(Writing/Speaking) 自分の能力に関して書く
第2回　Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Danny's Challenge
第3回　Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 人の衣服を描写する
第4回　Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Traditional Silk-Making
第5回　Unit 9 (D): (Reading) "Ron Finley: A Guerilla Gardener in South Central L.A、(Writing/Speaking) 食習慣について書く
第6回　Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Slow Food
第7回　Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease (Writing/Speaking) 病気の防止について話す
第8回　Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Farley, the Red Panda
第9回　Unit 11 (D): (Reading) Derek Sivers: Keep Your Goals to Yourself、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る
第10回　Unit 11(E): (総合) ビデオ・ジャーナル Making a Thai Boxing Champion
第11回　Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 休暇中の葉書を書く
第12回　Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル Monarch Migration
第13回　英語を日本語にしてみよう 1
第14回　英語を日本語にしてみよう 2
第15回　復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。学生カードを忘れた場合には、その授業が終わるまでに、報告をしてください。なお、前期と同じように、遅刻3回で参加点-1となりますので、ご注意ください。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者：　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase

出版社：　Cengage Learning

出版年：　2015　　ISBN：　9781305089501

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト　（ 30 ）
授業中課題　（ 10 ）　　授業中発表等　（ 10 ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%が入ります。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <u>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　原 俊樹	

テーマ

英語を普段使いにしよう

授業の到達目標

ＩＡと同様に基本的な英語の理解・表現に必要な語彙・文法的知識・語法を身につける。

授業の概要

基本的にはテキストの各ユニットに沿って英語学習のための基礎力をつける。中学・高校で学んできたいわゆる「学校英文法」を今一度体系的に確認・拡充する。

準備学習（予習・復習）

予習・復習を確実にやりこなすこと。

内　容

第1回　テキスト前半部（ＩＡ範囲）の学習内容の整理と確認。基礎力判定テスト。
第2回　英文の基本表現の確認Ⅰ：英文の成り立ち・主語と述語動詞・態・時制。
第3回　英文の基本表現の確認Ⅱ：文の要素と5文型・修飾語句。
第4回　叙法の確認：命令法・直説法・仮定法
第5回　助動詞の用法1
第6回　助動詞の用法2
第7回　不定詞、動名詞と分詞
第8回　話法1
第9回　話法2
第10回　比較：構文と級変化
第11回　複雑な構造を持つ文の理解1：分詞構文
第12回　複雑な構造を持つ文の理解2：接続語句と重文・複文
第13回　否定：部分否定と全否定
第14回　疑問詞と疑問文
第15回　後期学習事項のまとめと確認

履修上の注意点

教科書

LIFESAVER Basic English in Medical Situation
著者：　Maki Inoue/ Toshiya Sato
出版社：　MACMILLANLANGUAGEHOUSE
出版年：　2005　　ISBN：　9784777360369

参考書

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト （ 10% ）
授業中課題 （ 10% ）　　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 10% ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <v>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　高居 佐紀	

テーマ

「医療」や「健康」問題について、今世界で人々が直面している現状を知り、その解決に人々が努力している様子を理解する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。

授業の概要

医療やhealth careの題材でリーディングスキルを効率的に修得する。CDを利用して音読練習を行う。患者と医者、患者と看護婦の意思疎通に役立つ表現を覚える。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　unit7 The Mystery of Dreams and Dreaming
第2回　Unit7 夢のミステリー
第3回　Unit8 Headache
第4回　Unit8　頭痛
第5回　Useful Expressions4: Examination Language and General Exam Instructions
第6回　Unit9 Saving Preterm Babies with an idea from Nature
第7回　Unit9 カンガルーからヒントを得た未熟児看護法
第8回　Unit10 Looking for New Uses for spices in the Medical Lab
第9回　Unit10 スパイスの新たな医学的可能性
第10回　Useful Expressions5: Emergency Room
第11回　Unit11 Feeling No Pain: The World of Anesthesia
第12回　UNit11 麻酔の限界
第13回　Unit11 How Autoimmune Diseases Attack the Body's Defenses
第14回　Unit11 自己免疫疾患・ルーブスの検証　Useful Expressions6: Medication
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

Caregiver
著者:　近藤進　Gerald R.Gordon
出版社:　朝日出版社
出版年:　2010　　ISBN:　9784255154893

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <w>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員　40

履修条件　　クラス指定

担 当 者　ﾌｫｽﾀｰ ﾍﾝﾘｰ

テーマ

Research and communicate about various topics

授業の到達目標

This course will aim to improve basic English skills and encourage academic curiosity and critical thinking by focusing on and sharing individual and group research topics.

授業の概要

The course will be conducted in English, in a computer lab. Students will research and present individual and group projects, as well as doing grammar, listening and reading exercises.

準備学習（予習・復習）

You will need to do some project preparation and language exercises outside of class.

内　容

第1回　Model movie reviews (blog entries); choosing a movie
第2回　Researching/composing your review
第3回　Composing your review
第4回　Reading movie reviews & giving feedback
第5回　Model presentation
第6回　Planning & making your Powerpoint
第7回　Movie review presentation round-robin
第8回　Choosing a topic and planning/making your survey
第9回　Analyze the surveys; plan your powerpoint
第10回　Making your Powerpoint
第11回　Making your Powerpoint
第12回　Partner presentation practice
第13回　Group presentation practice
第14回　Presentations Ⅰ
第15回　Presentations Ⅱ

履修上の注意点

To pass the course, you must attend at least 10 classes.

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 60% ）　　授業中発表等 （ 20% ）
参加度　（ ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <x>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　櫃本　一美	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解（読解・ビデオ視聴）活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (D): (Reading) Soccer-The BeautifulGame、(Writing/Speaking) 自分の能力に関して書く
第3回　Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Danny's Challenge」
第4回　Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 人の衣服を描写する
第5回　Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Traditional Silk-Making」
第6回　Unit 9 (D): (Reading) "Ron Finley: A Guerilla Gardener in SouthCentral L.A、(Writing/Speaking) 食習慣について書く
第7回　Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す
第10回　Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Farley, the Red Panda」
第11回　Unit 11 (D): (Reading) Derek Sivers: Keep Your Goals to Yourself、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る
第12回　Unit 11(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」
第13回　Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 休暇中の葉書を書く
第14回　Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　(30)	小テスト　(20)
授業中課題　(30)	授業中発表等　(　)
参加度　(　)	

上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <y>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　吉江　正	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解（読解・ビデオ視聴）活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (D): (Reading) Soccer-The BeautifulGame、(Writing/Speaking) 自分の能力に関して書く
第3回　Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Danny's Challenge」
第4回　Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 人の衣服を描写する
第5回　Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Traditional Silk-Making」
第6回　Unit 9 (D): (Reading) "Ron Finley: A Guerilla Gardener in SouthCentral L.A、(Writing/Speaking) 食習慣について書く
第7回　Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す
第10回　Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Farley, the Red Panda」
第11回　Unit 11 (D): (Reading) Derek Sivers: Keep Your Goals to Yourself、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る
第12回　Unit 11(E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」
第13回　Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 休暇中の葉書を書く
第14回　Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <z>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　小川　享子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

･旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動･各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

まとめの単語テスト、単元テストは授業中に行ったことをもとに行うので、ノートをきちんと取ること。それに基づいて、語彙や表現の復習を重点的に行うこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
第3回　Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
第4回　Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
第5回　Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
第6回　Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
第7回　Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
第10回　Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
第11回　Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
第12回　Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
第13回　Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)
第14回　Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2の出席を必要とする。授業中に携帯を触った場合は成績より減点する。遅刻は授業が始まってから30分以内を遅刻と認める。それ以上の場合は欠席扱い。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 35 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 5 ）
参加度　（ 10 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <Ha>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌｫｽﾀｰ ﾍﾝﾘｰ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth.（旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

毎週の小テストに備えて、定期的に単語を勉強して、各レッスンの内容を復習しましょう。

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7a – Flight of the Silver Queen（旅について読む・聞く・話す）
第3回　Unit 7b – Animal migrations（比較する）
第4回　Unit 8a – The faces of festivals（人の外見を描写する）
第5回　Unit 8b – Global fashion（洋服・ファッションについて読む・話す）
第6回　Unit 9a: – All roads film festival（映画について読む・聞く・話す）
第7回　Unit 9b – People in film and the arts（予定について読む・聞く・話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10a – Technology has changed our lives（テクノロジーについて読む・聞く・話す）
第10回　Unit 10b – How well can you remember?（記憶と学びについて話す・読む・聞く）
第11回　Unit 11a – Going on holiday（観光について読む・聞く・話す）
第12回　Unit 11b – Planning a holiday（旅行の計画を立てる）
第13回　Unit 12a – Climate change（測定の表現・未来について予測する）
第14回　Unit 12b – Exploring the earth（世界の果ての地を描写する）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。毎回色々なクラスメートと組んで英語でやり取りしますので、積極的に英語でコミュニケーションをする覚悟で授業に挑みましょう。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者：　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト（ 40% ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <Hb>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　山﨑 清水	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住に関する世界各地からの話題の理解（読解・ビデオ視聴）活動・各テーマに関連する発信活動

準備学習（予習・復習）

事前に英単語は調べておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7 (D): (Reading) Sports – Then and Now、(Writing/Speaking) スポーツに関して話す
第3回　Unit 7 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Land Divers of Vanuatu」
第4回　Unit 8 (D): (Reading) Chameleon and Clothes、(Writing/Speaking) 衣服や色について知る
第5回　Unit 8 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Inuit Fashion」
第6回　Unit 9 (D): (Reading) Special Days, Special Food、(Writing/Speaking) 行事のための食べ物について話す
第7回　Unit 9 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Slow Food」
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10 (D) (Reading) Preventing Disease、(Writing/Speaking) 病気の防止について話す
第10回　Unit 10 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Pyrethrum」
第11回　Unit 11 (D):(Reading) Life's Milestones、(Writing/Speaking) 夢と計画を語る
第12回　Unit 11 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Making a Thai Boxing Champion」
第13回　Unit 12 (D): (Reading) Human Migration、(Writing/Speaking) 移住について論じる
第14回　Unit 12 (E): (総合) ビデオ・ジャーナル「Monarch Migration」
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。私語は慎むこと。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者:　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305089501

参考書

成績評価

試験　(40)　　小テスト　( )
授業中課題　(20)　　授業中発表等　(10)
参加度　(10)
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <Hc>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　櫃本　一美	

テーマ

英語リーディング

授業の到達目標

速く正確に深く内容を把握するために必要な文法演習も交えながら、速読、精読を行う。スピーキングやリスニング、ライティング演習もしながら英語力の養成を目指す。

授業の概要

リーディングのクラスであるが、リスニング、スピーキング、ライティングもしながら英語力の養成を目指す。自宅学習としての速読の課題有り。

準備学習（予習・復習）

課題は必ずこなす。語彙を増やす。

内　容

第1回　Chapter6
第2回　Chapter6
第3回　Chapter6
第4回　Chapter8
第5回　Chapter8
第6回　Chapter8
第7回　復習
第8回　Chapter11
第9回　Chapter11
第10回　Chapter11
第11回　Chapter11
第12回　Chapter12
第13回　Chapter12
第14回　Chapter12
第15回　復習

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。テキストは通年使用。

教科書

Issues for Today
著者:　Lorraine C. Smith,Nancy Nici Mare
出版社:　HEINLE CENGAGE Learning
出版年:　　ISBN:　9781111033576

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 10 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <Hd>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌﾞﾗｲｱﾝﾊﾞｽｶｳﾞｨﾙ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth.（旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

If you forgot to bring your textbook and dictionary, you must make a copy of the next pages in the textbook and borrow a dictionary BEFORE class starts. Also, review the last lesson, look ahead at the next pages and check your dictionary for any new words.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7a – Flight of the Silver Queen（旅について読む・聞く・話す）
第3回　Unit 7b – Animal migrations（比較する）
第4回　Unit 8a – The faces of festivals（人の外見を描写する）
第5回　Unit 8b – Global fashion（洋服・ファッションについて読む・話す）
第6回　Unit 9a: – All roads film festival（映画について読む・聞く・話す）
第7回　Unit 9b – People in film and the arts（予定について読む・聞く・話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10a – Technology has changed our lives（テクノロジーについて読む・聞く・話す）
第10回　Unit 10b – How well can you remember?（記憶と学びについて話す・読む・聞く）
第11回　Unit 11a – Going on holiday（観光について読む・聞く・話す）
第12回　Unit 11b – Planning a holiday（旅行の計画を立てる）
第13回　Unit 12a – Climate change（測定の表現・未来について予測する）
第14回　Unit 12b – Exploring the earth（世界の果ての地を描写する）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 20 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <R>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　杉山 泰	

テーマ

Cultural Literacy（文化的基礎知識）を生かして学ぶ英語

授業の到達目標

「パン」や「アルバイト」が大和言葉の日本語でないことは誰でも知っているが、「フリーター」だとか「カンニング」を英語だと勘違いしてはいないだろうか。今は日本語は英語の基礎知識なしにはAKB48も正しい発音すらできない。筆記体の書き方から始まり、大学生として当然知っておくべき日英語対照基礎英文法を毎回教科書の問題と、プリントを仕上げることで学んでいきたい。

授業の概要

毎回が手作業なので、教科書と辞書を持ってきて授業中に教科書の問題を解き、応用のプリント問題を仕上げてもらう。翌週添削して返却する。

準備学習（予習・復習）

教科書の問題を自宅でやっておけば、毎回のプリントを仕上げる時間が短くなり、授業をスムーズに済ませることが可能となる。

内　容

第1回　自己紹介。文化的基礎知識の説明と「氏名カード」の記入。
第2回　Lesson 1 アルファベットの不思議（パスポートのサインとLanding cardへのサインを筆記体で書いてもらう）
第3回　Lesson 2 「私」からの発想（S+V+O構文による、現在/過去/未来の文）
第4回　Lesson 3 「動名詞構文」（Megafeps＝Would you mind opening the window?）
第5回　Lesson 4 客観的存在表現There is構文（There is no problem of ...ing）
第6回　Lesson 5 The sooner, the better.の比較構文
第7回　Lesson 6 I am your mind reader.（S+V+C）構文
第8回　Lesson 7 be動詞と「不定詞」構文（I am pleased to see you.構文）
第9回　Lesson 8 S+V+O構文と受動態（An A-bomb was dropped on Hiroshima.）
第10回　Lesson 9 英語の時制と受動態（A big earthquake hit the Fukushima Daiichi nuke stations on 11 March in 2011.）
第11回　Lesson 10 S+V+C構文と比較級（Rock is stronger than scisors. Scisors are stronger than paper. Paper is...どこかおかしい？）
第12回　Lesson 11 have動詞を用いた役に立つ表現（The room had a good view of Mt. Fuji.）
第13回　Lesson 12 現在完了形（Have you eaten deep-fried vegitables?）
第14回　Lesson 13 仮定法（If the world were a village of 100 people, ...）
第15回　Lesson 14 Why-Because theoryの英語表現（Why do Japanese women look so cute and young?）

履修上の注意点

毎回最後にプリントを配布し、仕上げてもらうので、辞書が必要。翌週添削し返却するので、プリントを提出していないと出席にならないので要注意。

教科書

Do You Know This?
著者：　杉山泰ほか
出版社：朝日出版社
出版年：2005年　　ISBN：

参考書

「イギリス社会」入門
著者：　コリン・ジョイス
出版社：NHK出版
出版年：2011　　ISBN：

英語化は愚民化
著者：　施光恒
出版社：集英社新書
出版年：2015　　ISBN：

aks201a381

実践日本人の英語

著者:　マーク・ピーターセン

出版社: 岩波新書

出版年: 2013　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 20% ）

参加度 （ 20% ）

毎回プリントを仕上げてもらうので、欠席した場合は必ず次週に「プリント」をもらい、仕上げて提出すること。その場合は遅れの出席として評価する場合がある。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA <Tb>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　　溝部　芳子	

テーマ

TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEICのリーディングパートに対応できる文法力、読解力の育成を目的とする。

授業の概要

Part 5 で問われる文法項目を復習しつつ、Part 5の問題を数多く解く。またPart 6, Part 7の問題を解きながら、文章から必要な情報を効率よく読み取る訓練をする。単に問題を解くだけに終わらず、ペアワークなどを通じて、リーディングスキルの確認と定着を計る。単語テストや復習テストを随時行う。前半は基礎的な問題に取り組み、終盤ではまとまった問題を解く実践演習も行う。

準備学習（予習・復習）

予習として、一時間程度語彙学習をする。復習については授業内で指示をする。日頃から英語に触れる機会を増やし、情報を英語で取り込むことに慣れる。

内　　容

第1回　Basics for Part 5 :形容詞と副詞
第2回　Basics for Part 5 :名詞と代名詞
第3回　Basics for Part 5: 現在・過去・未来
第4回　Basics for Part 5: 完了形
第5回　Basics for Part 5: 受動態
第6回　Basics for Part 5: to 不定詞
第7回　Basics for Part 5: 接続詞と前置詞
第8回　Basics for Part 6 : 文脈をつかむ
第9回　Basics for Part 7: Single Passages と Double Passages
第10回　Strategies for Part 5 : 総合問題
第11回　Strategies for Part 6: 語彙問題
第12回　Strategies for Part 7: スピーディに情報を読み取る
第13回　Mini Test (1)
第14回　Mini Test (2)
第15回　Review (Reading Skills, Vocabulary)

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。辞書を持ってくる。ペアワークや音読に積極的に取り組む。毎回たくさんの問題を解くので集中力を持って授業に臨む。

教科書

Strategic Learning for the TOEIC Test
著者:　森田光宏他
出版社:　松柏社
出版年:　2015.4.　　ISBN:　978488198-705-6

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト　（ 20% ）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ ）
参加度　（ 30% ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA〈火1〉**

クラス	配当回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　mitei	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA〈火2〉**

クラス	配当回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　mitei	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**英語ⅡA〈火4〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　松村 優子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

授業中に指定する箇所の予習・復習。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
第3回　Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
第4回　Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
第5回　Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
第6回　Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
第7回　Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
第10回　Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
第11回　Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
第12回　Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
第13回　Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)
第14回　Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。2回の授業でテキスト1章のペースで進む予定ですが、学習状況により進め方を変更したり、微調整することもあります。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　(0%)　　小テスト　(50%)
授業中課題　(10%)　　授業中発表等　(10%)
参加度　(10%)
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　　占部　幹也	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　　容

第1回　オリエンテーション、Part 5対策：接続詞・前置詞、宿題説明
第2回　Part 6対策：接続詞・接続副詞、
第3回　Part 7対策（シングル）：主旨を素早くつかむ、Part 7対策（ダブル）：2文書を関連させて解く
第4回　模擬試験TEST1リーディングテスト演習及び解答
第5回　Part 5対策：不定詞・動名詞、・ Part 6対策：動詞の語法
第6回　Part 7対策（シングル）：難易度が高い語句を含む問題、Part 5対策：現在分詞・過去分詞
第7回　Part 6対策：総合問題、 Part 7対策（シングル）：手紙
第8回　Part 5対策：総合問題、Part 7対策（シングル）：言い換えされた答え
第9回　Part 5対策：総合問題、Part 6対策：前置詞・前置詞句
第10回　Part 7対策（シングル）：スキミングで大意をつかむ、 Part 7対策（ダブル）：情報量の多いメール・手紙
第11回　模擬試験TEST2リーディングテスト演習及び解答
第12回　模擬試験TEST2リーディング・リスニングパートの解説
第13回　TEST 1 リーディングテスト演習及び解答TEST 1 リーディングテスト解説
第14回　TEST 2 リーディングテスト演習及び解答 TEST 2 リーディングテスト解説
第15回　試験

履修上の注意点

教科書

新 TOEIC Test レベル判定模試【2】
著者：　小山克明, David Rondeau, Kevin Glenz, Sebastian Brooke 著
出版社：Z会
出版年：2007年9月　　ISBN：　9784862900012

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　クーラン コーリ	

テーマ

Build confidence in using English as a global language.（国際語としての英語を使うことに自信を持とう。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）

授業の概要

・Various activities for understanding content in English involving the topics of new friends, people and places, personal possessions, daily life, free time, and work and play.（新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）This course will be taught in English

準備学習（予習・復習）

Whenever possible, the teacher will introduce new methods (through free smartphone apps, free online English learning websites, DVDs, etc) for the students to take advantage of to further their English studies in their free time.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A) 食事を描写する
第3回　Unit 7 (B) 好き嫌いを述べる
第4回　Unit 8 (A) 近所にある店等の位置を説明する
第5回　Unit 8 (B) 道案内を聞く・述べる
第6回　Unit 9 (A) 今していることを述べる
第7回　Unit 9 (B) 電話で話す時間があるかを尋ねる・今話せない理由を言う
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A) 先週末について話す
第10回　Unit 10 (B) 相槌を打つ・驚きを示す
第11回　Unit 11 (A) どこに居たのかを説明する
第12回　Unit 11 (B) 人の話に反応する
第13回　Unit 12 (A) 予定について話す
第14回　Unit 12 (B) 招待に応じる・断る
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM
著者：　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社：Cambridge University Press
出版年：2013　　ISBN：　9780521126151

Four Corners, 1, Workbook
著者：　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社：Cambridge University Press
出版年：2013　　ISBN：　9780521126540

参考書

成績評価

試験　（ 20 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 20 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%In class tests/quizzes are worth the same amount of points as in-class performance (participation, discussion, attitude, effort) when calculating the final grade.

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　高居 佐紀	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーションPart 5（短文穴埋め問題）対策
第2回　Part 6（長文穴埋め問題）対策 Part 7（読解問題）対策
第3回　模擬試験TEST1リーディングテスト演習及び解答
第4回　模擬試験TEST1リーディング・リスニングパートの解説
第5回　Part 7対策 、, Part 5（短文穴埋め問題）対策
第6回　Part 7（読解問題）対策、Part 5（短文穴埋め問題）対策
第7回　Part 5（短文穴埋め問題）対策、Part 5（短文穴埋め問題）対策
第8回　Part 5（短文穴埋め問題）対策、Part 5（短文穴埋め問題）対策
第9回　Part 6（長文穴埋め問題）対策、Part 7（読解問題）対策
第10回　Part 7（読解問題）対策、Part 7（読解問題）対策
第11回　模擬試験TEST2リーディングテスト演習及び解答
第12回　模擬試験TEST2リーディング・リスニングパートの解説 教科書①を使用してTOEIC試験の実践形式でスキルの定着をはかる
第13回　TEST 1 リーディングテスト演習及び解答 TEST 1 リーディングテスト解説
第14回　TEST 2 リーディングテスト演習及び解答 TEST 2 リーディングテスト解説
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

はじめての新TOEICテスト本番模試
著者:　森川美貴子 著
出版社:　旺文社
出版年:　2009年9月　　ISBN:　9784010940969

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <e>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　川口　玲子	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーションPart 5（短文穴埋め問題）対策
第2回　Part 6（長文穴埋め問題）対策 Part 7（読解問題）対策
第3回　模擬試験TEST1リーディングテスト演習及び解答
第4回　模擬試験TEST1リーディング・リスニングパートの解説
第5回　Part 7対策 、, Part 5（短文穴埋め問題）対策
第6回　Part 7（読解問題）対策、Part 5（短文穴埋め問題）対策
第7回　Part 5（短文穴埋め問題）対策、Part 5（短文穴埋め問題）対策
第8回　Part 5（短文穴埋め問題）対策、Part 5（短文穴埋め問題）対策
第9回　Part 6（長文穴埋め問題）対策、Part 7（読解問題）対策
第10回　Part 7（読解問題）対策、Part 7（読解問題）対策
第11回　模擬試験TEST2リーディングテスト演習及び解答
第12回　模擬試験TEST2リーディング・リスニングパートの解説 教科書①を使用してTOEIC試験の実践形式でスキルの定着をはかる
第13回　TEST 1 リーディングテスト演習及び解答 TEST 1 リーディングテスト解説
第14回　TEST 2 リーディングテスト演習及び解答 TEST 2 リーディングテスト解説
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

はじめての新TOEICテスト本番模試
著者:　森川美貴子 著
出版社:　旺文社
出版年:　2009年9月　　ISBN:　9784010940969

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB 〈f〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　田中　美和子	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving.（余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

授業が終わったら、その授業で学んだ語彙や文法事項の復習を行ってください。また、授業の前に、予習として教科書の本文（英文）を読んで、出席しましょう。

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）Unit 7 (A/B): What's happening now（現在進行形を使う）
第2回　Unit 7 (C): Abilities（できること・できないことについて話す）
第3回　Unit 8 (A/B): Clothes（洋服・買い物・服装の描写）
第4回　Unit 8 (C): Likes and dislikes（好みを表現する）
第5回　Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party（レストランでの注文・パーティーの計画を立てる）
第6回　Unit 9 (C): Healthy diet（健康な食事について話す）
第7回　Unit 10 (A/B): The body and symptoms（体と症状を描写する）
第8回　Unit 10 (C): Remedies and advice（治療に関する語彙；アドバイスを聞く・与える）
第9回　Unit 11 (A/B): Plan special days（誕生日や休日の予定を立てる）
第10回　Unit 11 (C): Life plans（人生設計について話す）
第11回　Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past（出身、過去の引っ越しを説明する）
第12回　Unit 12 (C): Preparations for moving（引っ越しの準備について話す）
第13回　Let's act in a play 2-1
第14回　Let's act in a play 2-2
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。学生カードを忘れた場合には、その授業が終わるまでに、報告をしてください。なお、前期と同じように、遅刻3回で参加点-1となりますので、ご注意ください。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者：　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305089501

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <g>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　ﾌﾞﾗｲｱﾝﾊﾞｽｶｳﾞｨﾙ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth.（旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

If you forgot to bring your textbook and dictionary, you must make a copy of the next pages in the textbook and borrow a dictionary BEFORE class starts. Also, review the last lesson, look ahead at the next pages and check your dictionary for any new words.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7a – Flight of the Silver Queen（旅について読む・聞く・話す）
第3回　Unit 7b – Animal migrations（比較する）
第4回　Unit 8a – The faces of festivals（人の外見を描写する）
第5回　Unit 8b – Global fashion（洋服・ファッションについて読む・話す）
第6回　Unit 9a: – All roads film festival（映画について読む・聞く・話す）
第7回　Unit 9b – People in film and the arts（予定について読む・聞く・話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10a – Technology has changed our lives（テクノロジーについて読む・聞く・話す）
第10回　Unit 10b – How well can you remember?（記憶と学びについて話す・読む・聞く）
第11回　Unit 11a – Going on holiday（観光について読む・聞く・話す）
第12回　Unit 11b – Planning a holiday（旅行の計画を立てる）
第13回　Unit 12a – Climate change（測定の表現・未来について予測する）
第14回　Unit 12b – Exploring the earth（世界の果ての地を描写する）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 20 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <h>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　スミス ジョン	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving.（余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住とったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

Please do all the homework, preview and review the textbook.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A/B): What's happening now（現在進行形を使う）
第3回　Unit 7 (C): Abilities（できること・できないことについて話す）
第4回　Unit 8 (A/B): Clothes（洋服・買い物・服装の描写）
第5回　Unit 8 (C): Likes and dislikes（好みを表現する）
第6回　Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party（レストランでの注文・パーティーの計画を立てる）
第7回　Unit 9 (C): Healthy diet（健康な食事について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A/B): The body and symptoms（体と症状を描写する）
第10回　Unit 10 (C): Remedies and advice（治療に関する語彙；アドバイスを聞く・与える）
第11回　Unit 11 (A/B): Plan special days（誕生日や休日の予定を立てる）
第12回　Unit 11 (C): Life plans（人生設計について話す）
第13回　Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past（出身、過去の引っ越しを説明する）
第14回　Unit 12 (C): Preparations for moving（引っ越しの準備について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者：　Martin Milner,
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305089501

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度　（ 10 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <i>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　ソーソン マーカス	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts,science, tourism and the earth.（旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）This course will be taught in English

準備学習（予習・復習）

Preview next lesson before each class and extra for tests.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7a – Flight of the Silver Queen（旅について読む・聞く・話す）
第3回　Unit 7b – Animal migrations（比較する）
第4回　Unit 8a – The faces of festivals（人の外見を描写する）
第5回　Unit 8b – Global fashion（洋服・ファッションについて読む・話す）
第6回　Unit 9a: – All roads film festival（映画について読む・聞く・話す）
第7回　Unit 9b – People in film and the arts（予定について読む・聞く・話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10a – Technology has changed our lives（テクノロジーについて読む・聞く・話す）
第10回　Unit 10b – How well can you remember?（記憶と学びについて話す・読む・聞く）
第11回　Unit 11a – Going on holiday（観光について読む・聞く・話す）
第12回　Unit 11b – Planning a holiday（旅行の計画を立てる）
第13回　Unit 12a – Climate change（測定の表現・未来について予測する）
第14回　Unit 12b – Exploring the earth（世界の果ての地を描写する）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 20 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等　（ 0 ）
参加度　（ 40 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <j>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　ﾒｶﾞﾝ･ｸﾞｨﾝ･ｴﾘｽ	

テーマ

Research and communicate about various topics.

授業の到達目標

This course will encourage academic curiosity and critical thinking by using basic English skills to research and share (present) topics, individually and in groups.

授業の概要

The course will be conducted in English in a computer lab. Students will research and present individual and group projects as well as keeping a vocabulary log and doing grammar, listening and reading exercises. Note that the content of this class will be coordinated with that of English IIA.

準備学習（予習・復習）

You will need to do some project preparation, vocabulary review, and language exercises outside of class.

内　容

第1回　Movie reviews: exploring the topic.
第2回　Model movie reviews: analyse structure & language.
第3回　Vocabulary test; Choosing a movie & researching.
第4回　Composing your movie review.
第5回　Reading movie reviews and giving feedback.
第6回　Presentation techniques.
第7回　Making your Powerpoint.
第8回　Survey project: exploring the topic.
第9回　Making your survey.
第10回　Administer the surveys.
第11回　Analyzing the responses & making graphs.
第12回　Planning your Powerpoint.
第13回　Making your Powerpoint.
第14回　Round-robin presentation practice.
第15回　Group presentations.

履修上の注意点

To pass the course you must attend at least 11 classes.

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 10 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <k>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　小川　享子	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth.（旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

まとめの単語テスト、単元テストは授業中に行ったことをもとに行うので、ノートをきちんと取ること。それに基づいて、語彙や表現の復習を重点的に行うこと。

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7a – Flight of the Silver Queen（旅について読む・聞く・話す）
第3回　Unit 7b – Animal migrations（比較する）
第4回　Unit 8a – The faces of festivals（人の外見を描写する）
第5回　Unit 8b – Global fashion（洋服・ファッションについて読む・話す）
第6回　Unit 9a: – All roads film festival（映画について読む・聞く・話す）
第7回　Unit 9b – People in film and the arts（予定について読む・聞く・話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10a – Technology has changed our lives（テクノロジーについて読む・聞く・話す）
第10回　Unit 10b – How well can you remember?（記憶と学びについて話す・読む・聞く）
第11回　Unit 11a – Going on holiday（観光について読む・聞く・話す）
第12回　Unit 11b – Planning a holiday（旅行の計画を立てる）
第13回　Unit 12a – Climate change（測定の表現・未来について予測する）
第14回　Unit 12b – Exploring the earth（世界の果ての地を描写する）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 10 ）　　小テスト（ 35 ）
授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ 5 ）
参加度　（ 15 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%授業中に携帯を触った場合は成績より減点する。遅刻は授業が始まってから30分以内を遅刻と認める。それ以上の場合は欠席扱い。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <I>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　ﾌﾘﾝﾊﾝﾅﾏｲｹﾙ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving.（余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

Do assigned homework, preview and review textbook.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A/B): What's happening now（現在進行形を使う）
第3回　Unit 7 (C): Abilities（できること・できないことについて話す）
第4回　Unit 8 (A/B): Clothes（洋服・買い物・服装の描写）
第5回　Unit 8 (C): Likes and dislikes（好みを表現する）
第6回　Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party（レストランでの注文・パーティーの計画を立てる）
第7回　Unit 9 (C): Healthy diet（健康な食事について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A/B): The body and symptoms（体と症状を描写する）
第10回　Unit 10 (C): Remedies and advice（治療に関する語彙；アドバイスを聞く・与える）
第11回　Unit 11 (A/B): Plan special days（誕生日や休日の予定を立てる）
第12回　Unit 11 (C): Life plans（人生設計について話す）
第13回　Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past（出身、過去の引っ越しを説明する）
第14回　Unit 12 (C): Preparations for moving（引っ越しの準備について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者：　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305089501

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 35 ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 45 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%Participation score is a composite score that includes homework and evaulation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <m>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　弥永　啓子	

テーマ

情報提供型、説得型スピーチ

授業の到達目標

・ 読むために必要な高校文法を復習し理解する・ 社会問題を扱った英文を読むことに慣れる

授業の概要

英語 I-Bに引き続き、II-Aで各自が行うプロジェクトとそのプレゼンテーションを間接的に支えるため、様々な話題に関するプレゼンテーション・スピーチ原稿を読んでゆきます。同時に、読むために必要な高校文法を復習し、学生がプロジェクトのために様々な英文リソースを読む際の手助けとします。

準備学習（予習・復習）

毎回の予習小テスト、復習テストに備えること。各ユニットの復習宿題を期限通りに提出すること。

内　容

第1回　前期復習と後期オリエンテーション
第2回　娯楽について(1)
第3回　娯楽について(2)
第4回　アンケート結果の発表(1)
第5回　アンケート結果の発表 (2)
第6回　社会の問題（いじめ）(1)
第7回　社会の問題（いじめ）(2)
第8回　中間まとめ、復習
第9回　大学を紹介する(1)
第10回　大学を紹介する(2)
第11回　社会の問題(死刑制度)(1)
第12回　社会の問題(死刑制度)(2)
第13回　旅行プランの提案(1)
第14回　旅行プランの提案(2)
第15回　まとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Speaking in Public （前期使用のものを継続使用）
著者： Miyako Nakata, John Pak
出版社： Seibido
出版年： 2009　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ ）	小テスト （ 45 ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 15 ）	

上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <n>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　溝部 芳子	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth.（旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

単語テストの準備をする（1時間程度）。日頃からWebなどを使って英語で情報を取り入れる体験をする。

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7a – Flight of the Silver Queen（旅について読む・聞く・話す）
第3回　Unit 7b – Animal migrations（比較する）
第4回　Unit 8a – The faces of festivals（人の外見を描写する）
第5回　Unit 8b – Global fashion（洋服・ファッションについて読む・話す）
第6回　Unit 9a: – All roads film festival（映画について読む・聞く・話す）
第7回　Unit 9b – People in film and the arts（予定について読む・聞く・話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10a – Technology has changed our lives（テクノロジーについて読む・聞く・話す）
第10回　Unit 10b – How well can you remember?（記憶と学びについて話す・読む・聞く）
第11回　Unit 11a – Going on holiday（観光について読む・聞く・話す）
第12回　Unit 11b – Planning a holiday（旅行の計画を立てる）
第13回　Unit 12a – Climate change（測定の表現・未来について予測する）
第14回　Unit 12b – Exploring the earth（世界の果ての地を描写する）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。ペアワーク、グループワークに積極的に参加し、英語で発信することに慣れる。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 30% ）
授業中課題（ 20% ）　　授業中発表等（　）
参加度（ 30% ）
上記に加えて学期末英語テスト20%小テストには、単語テストと複数単元ごとに行うまとめテストが含まれます。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <o>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　　占部　幹也	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の概要

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリスニング、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　　容

第1回　Unit 1 Entertainment　映画や音楽などの娯楽
第2回　Unit 2 Personnel　求人広告や社内人事
第3回　Unit 3 Office Work & Supplies　オフィス業務や備品など
第4回　Unit 4 Office Messages　電話やEメールなどのオフィスメッセージ
第5回　Unit 5 Eating Out　ランチやパーティーなどの外食
第6回　Unit 6 Technololgy　コンピューターなどの化学技術
第7回　Unit 7 Research & Merchnadise Development　調査研究や商品開発
第8回　Unit 8 Finance & Budgets　銀行業務や経理などの財務
第9回　Unit 9 Purchases　ショッピングや注文・出荷など
第10回　Unit 10 Manufacturing　工場管理や生産ラインなどの製造
第11回　Unit 11 Marketing & Sales　マーケティングや販売
第12回　Unit 12 Travel　交通機関や旅行関連
第13回　Unit 13 Contracts & Negotiations　契約や交渉など
第14回　Unit 14 Housing & Properties　住宅やビルなどの不動産　Unit 15　Health　医療や健康
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

Successful Steps for the TOEIC Test　Revised Edition
著者：　塚野壽一　Rovert VanBenthuysen
出版社：成美堂
出版年：2007　　ISBN：　9784791910465

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <p>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　松村 優子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

･基礎的な読解･リスニング技能を獲得する。･基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

･旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動･各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

授業中に指定する箇所の予習・復習。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
第3回　Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
第4回　Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
第5回　Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
第6回　Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
第7回　Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
第10回　Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
第11回　Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
第12回　Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
第13回　Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)
第14回　Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。2回の授業でテキスト1章のペースで進む予定ですが、学習状況により進め方を変更したり、微調整することもあります。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　(0%)　　小テスト　(50%)
授業中課題　(10%)　　授業中発表等　(10%)
参加度　(10%)
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <q>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　クーラン コーリ	

テーマ

Build confidence in using English as a global language.（国際語としての英語を使うことに自信を持とう。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）

授業の概要

・Various activities for understanding content in English involving the topics of new friends, people and places, personal possessions, daily life, free time, and work and play.（新しい友達、人と場所、身の回りの物、日常生活、余暇、仕事と遊びといった様々な話題を理解するための活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）This course will be taught in English

準備学習（予習・復習）

Whenever possible, the teacher will introduce new methods (through free smartphone apps, free online English learning websites, DVDs, etc) for the students to take advantage of to further their English studies in their free time.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A) 食事を描写する
第3回　Unit 7 (B) 好き嫌いを述べる
第4回　Unit 8 (A) 近所にある店等の位置を説明する
第5回　Unit 8 (B) 道案内を聞く・述べる
第6回　Unit 9 (A) 今していることを述べる
第7回　Unit 9 (B) 電話で話す時間があるかを尋ねる・今話せない理由を言う
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A) 先週末について話す
第10回　Unit 10 (B) 相槌を打つ・驚きを示す
第11回　Unit 11 (A) どこに居たのかを説明する
第12回　Unit 11 (B) 人の話に反応する
第13回　Unit 12 (A) 予定について話す
第14回　Unit 12 (B) 招待に応じる・断る
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

**You must attend 10 or more classes toreceive credit for the course. **In this semester, performance in class counts as much as in-class tests and quizzes. **20% of your final grade will be determined by an English test given by the university.

教科書

Four Corners, 1, Student's Book with Self-study CD-ROM
著者：　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社：Cambridge University Press
出版年：2013　　ISBN：　9780521126151

Four Corners, 1, Workbook
著者：　Jack C. Richards, David Bohlke
出版社：Cambridge University Press
出版年：2013　　ISBN：　9780521126540

参考書

成績評価

試験　（ 20 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 20 ）

aks201a467

上記に加えて学期末英語テスト20%　　In class tests/quizzes are worth the same amount of points as in-class performance (participation, discussion, attitude, effort) when calculating the final grade.

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <r>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　ﾒｶﾞﾝ･ｸﾞｨﾝ･ｴﾘｽ	

テーマ

Research and communicate about various topics.

授業の到達目標

This course will encourage academic curiosity and critical thinking by using basic English skills to research and share (present) topics, individually and in groups.

授業の概要

The course will be conducted in English in a computer lab. Students will research and present individual and group projects as well as keeping a vocabulary log and doing grammar, listening and reading exercises. Note that the content of this class will be coordinated with that of English IIA.

準備学習（予習・復習）

You will need to do some project preparation, vocabulary review, and language exercises outside of class.

内　容

第1回　Movie reviews: exploring the topic.
第2回　Model movie reviews: analyse structure & language.
第3回　Vocabulary test; Choosing a movie & researching.
第4回　Composing your movie review.
第5回　Reading movie reviews and giving feedback.
第6回　Presentation techniques.
第7回　Making your Powerpoint.
第8回　Survey project: exploring the topic.
第9回　Making your survey.
第10回　Administer the surveys.
第11回　Analyzing the responses & making graphs.
第12回　Planning your Powerpoint.
第13回　Making your Powerpoint.
第14回　Round-robin presentation practice.
第15回　Group presentations.

履修上の注意点

To pass the course you must attend at least 11 classes.

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 10 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <s>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　ﾌﾞﾗｲｱﾝﾊﾞｽｶｳﾞｨﾙ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth.（旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

If you forgot to bring your textbook and dictionary, you must make a copy of the next pages in the textbook and borrow a dictionary BEFORE class starts. Also, review the last lesson, look ahead at the next pages and check your dictionary for any new words.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7a – Flight of the Silver Queen（旅について読む・聞く・話す）
第3回　Unit 7b – Animal migrations（比較する）
第4回　Unit 8a – The faces of festivals（人の外見を描写する）
第5回　Unit 8b – Global fashion（洋服・ファッションについて読む・話す）
第6回　Unit 9a: – All roads film festival（映画について読む・聞く・話す）
第7回　Unit 9b – People in film and the arts（予定について読む・聞く・話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10a – Technology has changed our lives（テクノロジーについて読む・聞く・話す）
第10回　Unit 10b – How well can you remember?（記憶と学びについて話す・読む・聞く）
第11回　Unit 11a – Going on holiday（観光について読む・聞く・話す）
第12回　Unit 11b – Planning a holiday（旅行の計画を立てる）
第13回　Unit 12a – Climate change（測定の表現・未来について予測する）
第14回　Unit 12b – Exploring the earth（世界の果ての地を描写する）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 20 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <t>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　田中　美和子	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving.（余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

授業が終わったら、その授業で学んだ語彙や文法事項の復習を行ってください。また、授業の前に、予習として教科書の本文（英文）を読んで、出席しましょう。

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）Unit 7 (A/B): What's happening now（現在進行形を使う）
第2回　Unit 7 (C): Abilities（できること・できないことについて話す）
第3回　Unit 8 (A/B): Clothes（洋服・買い物・服装の描写）
第4回　Unit 8 (C): Likes and dislikes（好みを表現する）
第5回　Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party（レストランでの注文・パーティーの計画を立てる）
第6回　Unit 9 (C): Healthy diet（健康な食事について話す）
第7回　Unit 10 (A/B): The body and symptoms（体と症状を描写する）
第8回　Unit 10 (C): Remedies and advice（治療に関する語彙；アドバイスを聞く・与える）
第9回　Unit 11 (A/B): Plan special days（誕生日や休日の予定を立てる）
第10回　Unit 11 (C): Life plans（人生設計について話す）
第11回　Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past（出身、過去の引っ越しを説明する）
第12回　Unit 12 (C): Preparations for moving（引っ越しの準備について話す）
第13回　Let's act in a play 2-1
第14回　Let's act in a play 2-2
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。授業には、英和辞書（電子辞書もしくは紙の辞書）を必ず持って出席してください。また、学生カードを忘れたときには、その授業が終わるまでに、報告をしてください。遅刻3回で参加点-1とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者：　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305089501

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%が入ります。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <u>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　ｿｰｿﾝ ﾏｰｶｽ	

テーマ

Acting English Drama

授業の到達目標

This class is designed to be a lively class encouraging acting out drama scenes, analyzing character emotions, western styles and body language helping studnts develop their own English characters.

授業の概要

The purpose of this class is to improve reading, speaking and listening skills from practicing and reviewing drama dialogue.This course will be taught in English

準備学習（予習・復習）

B5 Notebook Journals will be required homework and research

内　容

第1回　Summer Holiday – Story Review
第2回　Journal week 1 Episode 12 The Convention
第3回　Story Summary Q and A
第4回　Episode 14 Blinddate
第5回　Journal week 4 – Quiz – Episodes 12 – 14
第6回　Acting Scene 5 Q and A
第7回　Independence Day – Acting scene
第8回　Journals week 7 Story Summary
第9回　Acting – New Girl Scene
第10回　Story Questions – Vocabulary Test
第11回　Final Journal Notebook week 10
第12回　Episode 19 Four Square
第13回　Final Story notes– Q and A
第14回　Final Episode Destiny – Reports – Presentations
第15回　Final Papers and Discussion

履修上の注意点

You must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.

教科書

Acting English Drama
著者:　Marcus Thorson
出版社:　Sun Publishing
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40% ）
小テスト （ 10% ）
授業中課題 （ 10% ）
授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 10% ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <v>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　　高居　佐紀	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の概要

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリスニング、リーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度を調整することがある。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　　容

第1回　Chapter 1　人物の動作、状態
第2回　Chapter 2　名詞の数え方
第3回　Chapter 3　5W1H の疑問文
第4回　Chapter 4　書き手と読み手の推測
第5回　Chapter 5　話し手と聞き手の推測
第6回　Chapter 6　名詞をつくる接頭辞
第7回　Chapter 7　周辺の状況
第8回　Chapter 8　読み手の次の行動を予測
第9回　Chapter 9　依頼の文に対する適切な答え
第10回　Chapter 10　パラフレーズに注意
第11回　Chapter 11　写真の細部に注目
第12回　Chapter 12　助動詞をおさえる
第13回　模擬試験
第14回　模擬試験
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

Practical Tips for the TOEIC Test
著者：　杉田麻哉　Jeff Smith
出版社：成美堂
出版年：2010　　ISBN：　9784791931231
新TOEIC Test レベル判定模試
著者：　小山克明　David Rondeau
出版社：Z会
出版年：2007　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <w>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　弥永　啓子	

テーマ

情報提供型、説得型スピーチ

授業の到達目標

・ 読むために必要な高校文法を復習し理解する・ 社会問題を扱った英文を読むことに慣れる

授業の概要

英語 I-Bに引き続き、II-Aで各自が行うプロジェクトとそのプレゼンテーションを間接的に支えるため、様々な話題に関するプレゼンテーション・スピーチ原稿を読んでゆきます。同時に、読むために必要な高校文法を復習し、学生がプロジェクトのために様々な英文リソースを読む際の手助けとします。

準備学習（予習・復習）

毎回の予習小テスト、復習テストに備えること。各ユニットの復習宿題を期限通りに提出すること。

内　容

第1回　前期復習と後期オリエンテーション
第2回　娯楽について(1)
第3回　娯楽について(2)
第4回　アンケート結果の発表(1)
第5回　アンケート結果の発表 (2)
第6回　社会の問題（いじめ）(1)
第7回　社会の問題（いじめ）(2)
第8回　中間まとめ、復習
第9回　大学を紹介する(1)
第10回　大学を紹介する(2)
第11回　社会の問題(死刑制度)(1)
第12回　社会の問題(死刑制度)(2)
第13回　旅行プランの提案(1)
第14回　旅行プランの提案(2)
第15回　まとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Speaking in Public （前期使用のものを継続使用）
著者： Miyako Nakata, John Pak
出版社： Seibido
出版年： 2009　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ 45 ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 15 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <x>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　スミス ジョン	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving.（余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住とったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A/B): What's happening now（現在進行形を使う）
第3回　Unit 7 (C): Abilities（できること・できないことについて話す）
第4回　Unit 8 (A/B): Clothes（洋服・買い物・服装の描写）
第5回　Unit 8 (C): Likes and dislikes（好みを表現する）
第6回　Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party（レストランでの注文・パーティーの計画を立てる）
第7回　Unit 9 (C): Healthy diet（健康な食事について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A/B): The body and symptoms（体と症状を描写する）
第10回　Unit 10 (C): Remedies and advice（治療に関する語彙；アドバイスを聞く・与える）
第11回　Unit 11 (A/B): Plan special days（誕生日や休日の予定を立てる）
第12回　Unit 11 (C): Life plans（人生設計について話す）
第13回　Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past（出身、過去の引っ越しを説明する）
第14回　Unit 12 (C): Preparations for moving（引っ越しの準備について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code

著者：　Martin Milner

出版社：　Cengage Learning

出版年：　2015　　ISBN：　9781305089501

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度　（ 10 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <y>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　ﾌﾘﾝﾊﾝﾅﾏｲｹﾙ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving.（余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

Do assigned homework, preview and review textbook.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A/B): What's happening now（現在進行形を使う）
第3回　Unit 7 (C): Abilities（できること・できないことについて話す）
第4回　Unit 8 (A/B): Clothes（洋服・買い物・服装の描写）
第5回　Unit 8 (C): Likes and dislikes（好みを表現する）
第6回　Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party（レストランでの注文・パーティーの計画を立てる）
第7回　Unit 9 (C): Healthy diet（健康な食事について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A/B): The body and symptoms（体と症状を描写する）
第10回　Unit 10 (C): Remedies and advice（治療に関する語彙；アドバイスを聞く・与える）
第11回　Unit 11 (A/B): Plan special days（誕生日や休日の予定を立てる）
第12回　Unit 11 (C): Life plans（人生設計について話す）
第13回　Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past（出身、過去の引っ越しを説明する）
第14回　Unit 12 (C): Preparations for moving（引っ越しの準備について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者：　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305089501

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 35 ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 45 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%Participation score is a composite score that includes homework and evaulation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <z>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　小川　享子	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of journeys, appearance, film and the arts, science, tourism and the earth.（旅、人の外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

まとめの単語テスト、単元テストは授業中に行ったことをもとに行うので、ノートをきちんと取ること。それに基づいて、語彙や表現の復習を重点的に行うこと。

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7a – Flight of the Silver Queen（旅について読む・聞く・話す）
第3回　Unit 7b – Animal migrations（比較する）
第4回　Unit 8a – The faces of festivals（人の外見を描写する）
第5回　Unit 8b – Global fashion（洋服・ファッションについて読む・話す）
第6回　Unit 9a: – All roads film festival（映画について読む・聞く・話す）
第7回　Unit 9b – People in film and the arts（予定について読む・聞く・話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10a – Technology has changed our lives（テクノロジーについて読む・聞く・話す）
第10回　Unit 10b – How well can you remember?（記憶と学びについて話す・読む・聞く）
第11回　Unit 11a – Going on holiday（観光について読む・聞く・話す）
第12回　Unit 11b – Planning a holiday（旅行の計画を立てる）
第13回　Unit 12a – Climate change（測定の表現・未来について予測する）
第14回　Unit 12b – Exploring the earth（世界の果ての地を描写する）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（ 10 ）　　小テスト（ 35 ）
授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ 5 ）
参加度　（ 15 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%授業中に携帯を触った場合は成績より減点する。遅刻は授業が始まってから30分以内を遅刻と認める。それ以上の場合は欠席扱い。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <Ha>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　松村 優子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

授業中に指定する箇所の予習・復習。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
第3回　Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
第4回　Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
第5回　Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
第6回　Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
第7回　Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
第10回　Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
第11回　Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
第12回　Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
第13回　Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)
第14回　Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。2回の授業でテキスト1章のペースで進む予定ですが、学習状況により進め方を変更したり、微調整することもあります。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　(0%)　　小テスト　(50%)
授業中課題　(10%)　　授業中発表等　(10%)
参加度　(10%)
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <Hb>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　ﾌﾘﾝﾊﾝﾅﾏｲｹﾙ	

テーマ

Learn and express about the world through English as an international language.（国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）

授業の到達目標

Students will:・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。）・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）

授業の概要

・Various activities for understanding global content in English involving the topics of free time, clothes, food, health, making plans and moving.（余暇、衣服、食生活、健康、人生設計、移住といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）

準備学習（予習・復習）

Do assigned homework, preview and review textbook.

内　容

第1回　Orientation（オリエンテーション）
第2回　Unit 7 (A/B): What's happening now（現在進行形を使う）
第3回　Unit 7 (C): Abilities（できること・できないことについて話す）
第4回　Unit 8 (A/B): Clothes（洋服・買い物・服装の描写）
第5回　Unit 8 (C): Likes and dislikes（好みを表現する）
第6回　Unit 9 (A/B): Order a meal/Plan a party（レストランでの注文・パーティーの計画を立てる）
第7回　Unit 9 (C): Healthy diet（健康な食事について話す）
第8回　Review 1（前半の復習とまとめ）
第9回　Unit 10 (A/B): The body and symptoms（体と症状を描写する）
第10回　Unit 10 (C): Remedies and advice（治療に関する語彙；アドバイスを聞く・与える）
第11回　Unit 11 (A/B): Plan special days（誕生日や休日の予定を立てる）
第12回　Unit 11 (C): Life plans（人生設計について話す）
第13回　Unit 12 (A/B): Talk about moving in the past（出身、過去の引っ越しを説明する）
第14回　Unit 12 (C): Preparations for moving（引っ越しの準備について話す）
第15回　Review 2（後半の復習とまとめ）

履修上の注意点

3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

World English (2nd edition), Combo Split Intro B with Online Workbook Access Code
著者：　Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
出版社：Cengage Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781305089501

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 35 ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 45 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%Participation score is a composite score that includes homework and evaulation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <Hc>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　ｿｰｿﾝ ﾏｰｶｽ	

テーマ

Acting English Drama

授業の到達目標

This class is designed to be a lively class encouraging acting out drama scenes, analyzing character emotions, western styles and body language helping studnts develop their own English characters.

授業の概要

The purpose of this class is to improve reading, speaking and listening skills from practicing and reviewing drama dialogue.This course will be taught in English

準備学習（予習・復習）

B5 Notebook Journals will be required homework and research

内　容

第1回　Summer Holiday - Story Review
第2回　Journal week 1 Episode 12 The Convention
第3回　Story Summary Q and A
第4回　Episode 14 Blinddate
第5回　Journal week 4 - Quiz - Episodes 12 - 14
第6回　Acting Scene 5 Q and A
第7回　Independence Day - Acting scene
第8回　Journals week 7 Story Summary
第9回　Acting - New Girl Scene
第10回　Story Questions - Vocabulary Test
第11回　Final Journal Notebook week 10
第12回　Episode 19 Four Square
第13回　Final Story notes- Q and A
第14回　Final Episode Destiny - Reports - Presentations
第15回　Final Papers and Discussion

履修上の注意点

you must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.

教科書

Acting English Drama
著者:　Marcus Thorson
出版社:　Sun Publishing
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40% ）
小テスト （ 10% ）
授業中課題 （ 10% ）
授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 10% ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <Hd>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　弥永　啓子	

テーマ

国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。

授業の到達目標

・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで使用することができる。

授業の概要

・旅、外見、映画と芸術、科学、観光、地球といったテーマで世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動・各テーマに関連するトピックの発信活動

準備学習（予習・復習）

毎回、予習語彙テストを行うので準備しておくこと。定期的に復習の宿題を課すのでこれをきちんとこなすこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 7c: (Reading) The longest journey in space (事実と意見を区別する)
第3回　Unit 7d, e: 旅について尋ねる、Travel Blogを書く
第4回　Unit 8c: (Reading) Tattoos in fashion and for life (詳細を読み取る)
第5回　Unit 8d, e: 写真や絵画について話す、携帯メールを書く
第6回　Unit 9c: (Reading) Nature in art (書き手の好みを読み取る)
第7回　Unit 9d, e: 旅の手配をする、ホテルのレビューやコメントを書く
第8回　前半の復習とまとめ
第9回　Unit 10c: (Reading) Why haven't scientists invented it yet? (論旨と支持情報を区別する)
第10回　Unit 10d, e: 機器のトラブルに対処する、電話で伝言を残す
第11回　Unit 11c: (Reading) A tourist destination (賛否を区別する)
第12回　Unit 11d, e: 旅で提案をする、宿泊施設のアンケートに答える
第13回　Unit 12c: (Reading) Looking for a new earth (議論の組立を分析する)
第14回　Unit 12d, e: 短いプレゼンテーションをする、イベントのポスターを作る
第15回　後半の復習とまとめ

履修上の注意点

毎回必ずテキストを持ってくること。3分の2以上の出席を必要とします。

教科書

Life – American Edition –, Level 2, Student Book, Text Only
著者:　Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:　9781305255777

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト　（ 50 ）
授業中課題　（ 15 ）　　授業中発表等　（　）
参加度　（ 15 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <R>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　杉山 泰	

テーマ

日本文化を基礎英語で紹介する

授業の到達目標

日本人が海外に出る場合、まずパスポートが必要だ。このパスポートは北朝鮮を除いてあらゆる国で有効、と書かれている。国連加盟国は193か国、日本語だけでは理解できないことを知れば、第二外国語が必要になってくる。中学校で学んだ基礎英語だけで、日本のことをかなり紹介できる。発信型英語を学び、英語の楽しさを学んでもらう。

授業の概要

テキストの問題をやるだけでなく、毎回プリントを配布し、それを時間内に仕上げてもらう。翌週添削し返却する。毎回辞書の持参が必要。

準備学習（予習・復習）

添削された「プリント」を毎回手直ししておく必要がある。

内　容

第1回　英語で自己紹介。「氏名カード」の記入と英語で「履歴書」を書いてもらう。
第2回　Unit 1 Graduation 自動詞と他動詞
第3回　Unit 2 自動詞と他動詞（talkとdiscussの英作）
第4回　日本文化（日本食）を英語で説明しよう（現在完了＝時間に幅がある）
第5回　英語の時制（attendとgraduateの英作）
第6回　Unit 3 S+V+C構文と比較級（S+V+C構文を使って「履歴書」を書こう）
第7回　S+V+C構文を用いて、ユニークな英語を書こう。（I hate politicians, because they are dirtier than yakuza gang.）
第8回　Unit 4 It is...for人...to動詞構文と受身構文
第9回　Unit 5 Long time, no see.構文。英単語だけで何でも言える。（No work, no money.とはどんな意味？）
第10回　Unit 6 疑問文（5W1Hの疑問文）＝日本人への外国人の質問に答えよう。
第11回　仮定法（ありえないことを仮定する）
第12回　仮定法（If the world were a village of 100 people, ...）
第13回　Unit 7 haveを使った役に立つ表現（Japan has a rainy season.＝There is a rainy season in Japan.）
第14回　Why-Because theory（なぜ日本の若者は茶髪なのですか）
第15回　日本人が苦手な、Whyと仮定法を使って、ユニークな英文を作ろう。

履修上の注意点

毎回作業をやるので、参加できなかった学生は、必ずプリントをもらって、自宅で解答し、提出すること。添削して返却するので、60点以上なければ、遅れの出席にはならないので、要注意。

教科書

Let's Talk with Friends Around the World!
著者：　行時潔ほか
出版社：松柏社
出版年：2012　　ISBN：

参考書

日本人はなぜ英語ができないのか
著者：　鈴木孝夫
出版社：新潮新書
出版年：2009　　ISBN：

沈みゆく大国アメリカ
著者：　包未果
出版社：集英社新書
出版年：2015　　ISBN：

aks201a481

英語科は愚民化

著者:　施光恒

出版社: 集英社新書

出版年: 2015　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 20% ）

参加度 （ 20% ）

出席不足の学生は、教科書の問題を全てやって提出するか、プリントを全て仕上げて提出すれば、遅れの出席として認める場合もある。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB <Tb>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　　溝部　芳子	

テーマ

TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEICリスニングに対応できるリスニングスキルの養成および基礎となる語彙力の修得を目的とする。

授業の概要

TOEICリスニングに必要なスキルを整理しつつ、Part 1から4 の問題演習を行っていく。またTOEIC頻出の日常生活やビジネスの場面で必要な語彙を学習してから、TOEICリスニングの問題に取り組む。終盤では総合的な演習を行う。スクリプトの確認や音読も行う。

準備学習（予習・復習）

予習として、一時間程度語彙学習をする。Self Study Audio をダウンロードして復習リスニングを30分程度行う。日頃から英語に触れる機会を増やし、情報を英語で取り込むことに慣れる。

内　　容

第1回　Basics for Part 1　　Key Word を聞き取る
第2回　Basics for Part 2　　WH疑問文と応答
第3回　Basics for Part 2　　Yes/No 疑問文と応答
第4回　Basics for Part 3　　場面を理解する
第5回　Basics for Part 4　　留守電メッセージ
第6回　Mini Test (1)
第7回　Strategies for Part 1　人物のいる写真と風景
第8回　Strategies for Part 2　スピーディに答えを選ぶ
第9回　Strategies for Part 3　質問の先読み
第10回　Strategies for Part 4　質問のキーワード
第11回　Mini Test (2)
第12回　実践演習　（1）
第13回　実践演習　（2）
第14回　実践演習　（3）
第15回　Review (Listening Skills, Vocabulary)

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。毎回集中力を持って授業に臨むこと。

教科書

Strategic Learning for the TOEIC Test
著者:　森田光宏
出版社:　松柏社
出版年:　2015.4　　ISBN:　978488198-705-6

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 20% ）
授業中課題（ 30% ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 30% ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB〈金2〉**

クラス	配当回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　mitei	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB〈金1〉**

クラス	配当回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　mitei	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**英語ⅡB〈金4〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員　40
履修条件	クラス指定　到達度別
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　占部　幹也	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Part 1対策：2人の人物、Part 2対策：問題文に注意する
第3回　Part 3対策：必要な情報を聞き取る
第4回　Part 4対策：トークの概要をつかむ
第5回　模擬試験TEST1リスニングテスト演習・解答及びリーディング・リスニングパートの解説
第6回　模擬試験TEST1リーディング・リスニングパートの解説
第7回　Part 3対策：問題と解決策についての会話、Part 3対策：人物の行動
第8回　Part 4対策：アナウンスメント、Part 1対策：人が小さく風景が大きい写真
第9回　Part 2対策：否定疑問文、Part 3対策：会話のテーマを聞き取る
第10回　Part 2対策：提案に答える 、Part 3対策：提案を含んだ会話
第11回　Part 4対策：指示内容を聞き取る、Part 2対策：総合問題
第12回　Part 3対策：理由に関する設問 、Part 4対策：詳細をつかむ
第13回　模擬試験TEST2リスニングテスト演習・解答及びリーディング・リスニングパートの解説
第14回　リスニングテスト演習及び解答解説
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Sapphire
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：2013年6月　　ISBN：

ECC TOEIC TEST CLINIC Sapphire　模試
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：2013年6月　　ISBN：

ECC TOEIC TEST CLINIC Ruby　模試
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：2014年10月　　ISBN：

参考書

成績評価

aks202a110

試験 （ 30 ）　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <b>**

クラス		配当回生	学部2回生
講義期間	前期	定　　員	40
履修条件	「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	ﾌｫｽﾀｰ ﾍﾝﾘｰ		

テーマ

An introduction to international business English

授業の到達目標

This course aims to give you confidence in communicating in everyday business situations, use and understand international English, and understand global business culture.

授業の概要

The course will require lots of spoken interaction with classmates as well as listening practice.

準備学習（予習・復習）

There will be weekly vocabulary quizzes based on the text book. Students will need to study the vocabulary regularly.

内　　容

第1回　Introduction
第2回　Unit 1: Meeting people
第3回　Unit 1: Meeting people (cont'd)
第4回　Unit 2: Telephoning
第5回　Unit 2: Telephoning (cont'd)
第6回　Unit 3: Schedules and appointments
第7回　Unit 3: Schedules and appointments (cont'd)
第8回　Review 1
第9回　Unit 4: Company performance
第10回　Unit 4: Company performance (cont'd)
第11回　Unit 5: Products and services
第12回　Unit 5: Products and services (cont'd)
第13回　Unit 6: Talking about decisions
第14回　Unit 6: Talking about decisions (cont'd)
第15回　Review 2

履修上の注意点

This course will be conducted in English. You must attend at least 2/3rds of the classes to pass.

教科書

Business Venture 2 (3/E) Student Book + Multi-ROM
著者:
出版社: Oxford University Press
出版年:　　ISBN: 9780194578189

参考書

成績評価

試験 （ 50 ）　　小テスト （ 50 ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　ｼﾞｪｰﾑｽ ﾃﾞｨｰｸﾞﾙ	

テーマ

Global Events and Topics

授業の到達目標

Students should be able to improve upon their reading, writing, speaking, and listening skills by discussing topics that are important on a global level and how they affect their lives and the lives of others

授業の概要

There will be varioius activities targeting the four skills through a variety of units. There will be a special concentration on comprehension and understanding of content and expression of ideas and thoughts regarding each of the units. There will also be supplementary materials when appropriate in addition to the text for various topics that will be introduced to and responsible for. This course will be taught in English

準備学習（予習・復習）

This is designed to be a communication class so a large focus will be upon communicating with other members of the class in various ways – so students should try their best to improve upon their ability in this regard.

内　容

第1回　Orientation
第2回　People 1
第3回　People 2
第4回　Work, Rest, and Play 1
第5回　Work, Rest, and Play 2
第6回　Going Places 1
第7回　Going Places 2
第8回　Review
第9回　Food 1
第10回　Food 2
第11回　Sports 1
第12回　Sports 2
第13回　Destinations
第14回　Destinations 2
第15回　Final Review

履修上の注意点

教科書

World English 1 Student Book with Online Workbook
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:　9781305089549

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　高居 佐紀	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Part 1(写真描写問題)、宿題説明
第3回　Part 2（応答問題）対策
第4回　Part 3（会話問題）対策
第5回　Part 4（説明文問題）対策
第6回　模擬試験TEST1リスニングテスト演習・解答及びリーディング・リスニングパートの解説
第7回　Part 2（応答問題）対策、Part 3（会話問題）対策
第8回　Part 4（説明文問題）対策、Part 2（応答問題）対策
第9回　Part 3（会話問題）対策、Part 1(写真描写問題)対策
第10回　Part 2（応答問題）対策、Part 1(写真描写問題)対策
第11回　Part 4（説明文問題）対策、Part 2（応答問題）対策
第12回　Part 3（会話問題）対策、Part 4（説明文問題）対策
第13回　模擬試験TEST2リスニングテスト演習・解答及び リーディング・リスニングパートの解説
第14回　リスニングテスト演習及び解答解説
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Emerald
著者:　ECC
出版社:　ECC
出版年:　2013年6月　　ISBN:

ECC TOEIC TEST CLINIC Emerald　模試
著者:　ECC
出版社:　ECC
出版年:　2013年6月　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <e>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　田中　美和子	

テーマ

国際語としての英語を身に付けて、世界に発信する

授業の到達目標

グローバルに活躍するためには、英語でのプレゼンテーション能力が必要とされます。この授業では、英語でのプレゼンテーションを実際に行うことを通して、発信力としてのスピーキングとライティング、受容力としてリスニングとリーディングの四技能を、総合的に、プロジェクト・ベーストで、学んでいきます。コミュニケーションに必要とされる文法能力、テーマに関連する語彙力を身に付け、パワーポイントを作成して、自分の言いたいこと、伝えたいことを、自分なりに英語で表現することができるようになることを目標とします。

授業の概要

「自己紹介」など複数のテーマで、1人で2分間の英語プレゼンテーションを、準備に3週間かけて4週目で発表をします。発表は全て英語で行われ、原稿を手に持って読むことは禁止されます。授業内では、英語だけで、スムーズにプレゼンテーションを行えるように、十分な準備と練習をしますので、真剣にとりくみましょう。

準備学習（予習・復習）

英語の発表原稿を用意したり、発表内容を英語で暗記したりするには、授業時間以外に、1週間あたり3時間はかかると考えておいてください。また授業中はプレゼンテーションの準備に時間がかかるので、英語の文法学習は授業外で、参考書をみたり、ラジオやテレビの講座を見たりして興味を持って取り組んでいきましょう。

内　容

第1回　Orientation　Basics of the English Presentation
第2回　Project1-1: Introducing Yourself:Writing Speech
第3回　Project1-2: Introducing Yourself:Making PowerPoint
第4回　Project1-3: Introducing Yourself:Revise and Rehearsal
第5回　Prsentation 1
第6回　Project2-1:News Digest:Writing Speech
第7回　Project2-2:News Digest:Making PowerPoint
第8回　Project2-3:News Digest:Revise and Rehearsal
第9回　Presentation 2
第10回　Review
第11回　Project3-1:Promoting Vacation Plans:Writing Speech
第12回　Project3-2:Promoting Vacation Plans:Making PowerPoint
第13回　Project3-3:Promoting Vacation Plans:Revise and Rehearsal
第14回　Presentation 3
第15回　Review

履修上の注意点

発表原稿、パワーポイントなどには提出期限があり、遅れると加点されません。また、遅刻3回で参加度から−1となり、グループ発表で欠席すると参加度から-2となります。なお、授業には、英和辞書が必要です。

教科書

Presentations to Go　DVDで学ぶ　はじめての英語プレゼンテーション
著者：　松岡昇　立野貴之　三宅ひろ子
出版社：センゲージラーニング株式会社
出版年：2014　　ISBN：　9484863122642

参考書

1分間英語で自分のことを話してみる
著者：　浦島久　クライド・ダブンボート
出版社：(株)中経出版
出版年：2012　　ISBN：　9784806124184

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 30 ）

aks202a115

参加度 （ 40 ）

プレゼンのクラスでは、発表を聞く場合のマナーも大切です。クラス全体でよい雰囲気を作り上げていくことが必要となりますので、上記以外に「協調性」も評価に入ります。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <f>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　小川　享子	

テーマ

TOEIC テスト受験の準備を介して、英語の読む力、文法力をアップしよう。

授業の到達目標

スコアを伸ばす（少なくとも15点以上）。語彙力を増やす。文法力を増す。目的に合わせて英文を読む力を養う。

授業の概要

復習語彙・文法小テスト文法事項のまとめのあとPart5, 6, 7の演習問題をする

準備学習（予習・復習）

復習語彙・文法小テストの準備、語彙力をアップさせるためにも語彙を復習する

内　容

第1回　授業の進め方、評価方法の説明Pre-testの実施
第2回　Unit 1 動詞・5文型Parts 5, 6, 7
第3回　Unit 2　名詞Parts 5, 6, 7
第4回　Unit 3 形容詞、副詞Parts 5, 6, 7
第5回　Unit 4　フレーズリーディングParts 5, 6, 7
第6回　Unit 5　動名詞Parts 5, 6, 7
第7回　Unit 6　to不定詞Parts 5, 6, 7
第8回　Unit 7 分詞Parts 5, 6, 7
第9回　Unit 8　スキャニングParts 5, 6, 7
第10回　Unit 9 受動態Parts 5, 6, 7
第11回　Unit 10　比較Parts 5, 6, 7
第12回　Unit 11　関係詞Parts 5, 6, 7
第13回　Unit 12　スキミングParts 5, 6, 7
第14回　模擬テスト
第15回　時事英語を読む

履修上の注意点

授業中に携帯電話を触ったり、見る者は成績から減点する。

教科書

The TOEIC Test Trainer Target 470 (Revised Edition)
著者:　山口昌彦 George W. Pifer
出版社:　センゲージラーニング
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 25 ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 5 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度　（ 10 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%授業中課題、発表、参加度は合計をして25%で計算をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <g>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　山﨑 清水	

テーマ

総合的な英語運用能力を習得

授業の到達目標

基本的な観光英語を学習することで、日常会話が可能になる英語運用能力を習得することを目指す。

授業の概要

海外旅行において最低限必要な会話を演習する。

準備学習（予習・復習）

予習すること。詳細は授業で説明する。

内　容

第1回　Preparing for the Trip
第2回　On the Airplane
第3回　Arrival and Passport Control
第4回　Banking and Leaving the Airport
第5回　Checking Into the Hotel
第6回　Hotel Facilities
第7回　Let's Eat!
第8回　Sightseeing
第9回　Making Small Talk
第10回　Shopping
第11回　Feeling Sick
第12回　Getting Around
第13回　Checking Out of the Hotel
第14回　Heading Home
第15回　Talking About Your Trip

履修上の注意点

私語は慎むこと。

教科書

Simply Traveling
著者:　Diane H. Nagatomo / Fumiko Murase
出版社:　金星堂
出版年:　2016　　ISBN:　9784764740204

参考書

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <h>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　久保田　美佳	

テーマ

時事英語への導入。

授業の到達目標

比較的平易な英語で書かれた英文記事が読めるようになる。時事英語に関連した基本語彙を学習する。授業で検討したそれぞれの社会的問題についての意識を高める。英語の音とリズムに慣れる。

授業の概要

英文テキストの内容を正確に読み取る練習をします。また、付属の音源を使って英語の音とリズムに慣れる練習をします。

準備学習（予習・復習）

語彙の復習は欠かさず行い定着させ、授業外でも音読をするなどして毎日英語に触れる習慣を付けるようにして下さい。

内　容

第1回　Introduction　Chapter 1　Freeters and NEETS
第2回　Chapter 1　Freeters and NEETS
第3回　Chapter 2　Low Birth Rate
第4回　Chapter 2　Low Birth Rate
第5回　Chapter 3　Working Poor
第6回　Chapter 3　Working Poor
第7回　Review
第8回　Chapter 4　Net Cafe Refugee
第9回　Chapter 4　Net Cafe Refugee
第10回　Chapter 5　Loser Dog
第11回　Chapter 5　Loser Dog
第12回　Chapter 6　False Accusation
第13回　Chapter 6　False Accusation
第14回　Summary
第15回　Review

履修上の注意点

単語テストを定期的に行うので、出席は大切です。

教科書

Keywords for Japan Today
著者：　Paul Stapleton
出版社：　Cengage Learning
出版年：　2008　　ISBN：　9784863120433

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 80 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 20 ）
小テストや復習テストを定期的に行い習熟度をチェックして行きます。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <i>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　溝部　芳子	

テーマ

TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEICリーディングに必要な語彙力および文法、読解力の育成を目的とする。

授業の概要

Part 5 に必要な文法項目の確認をしてから、問題を解く。また、Part6, 7 に出題される様々な英語文書を読み、必要な情報をスピーディに読み取るためのスキルを習得していく。ペアワークを通じて理解を深め、スキルの定着を計る。語彙については事前に学習をして単語テストで確認をすることにより、リーディングのスピードアップを促す。終盤では実践演習を行う。また適宜時事英語も扱う。

準備学習（予習・復習）

予習:語彙学習をする(30分から1時間程度)。Webなどを利用して日頃から英語で情報を取り入れる習慣をつける。宿題として課されたリーディング問題に取り組む（３０分から１時間程度）

内　　容

第1回　品詞　ビジネスレター
第2回　動詞の形　告知
第3回　動詞の形　広告
第4回　不定詞・動名詞　記事・報告書
第5回　使役動詞　表・グラフ
第6回　仮定法　表・グラフ
第7回　関係詞　ダブルパッセージ（1）
第8回　比較　ダブルパッセージ　（2）
第9回　注意すべき副詞　ダブルパッセージ（3）
第10回　前置詞　ダブルパッセージ（4）
第11回　接続詞　ダブルパッセージ（5）
第12回　代名詞　ダブルパッセージ（6）
第13回　実践演習（1）
第14回　実践演習（2）
第15回　実践演習（3）

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。辞書を持ってくる。ペアワークや音読に積極的に取り組む。毎回たくさんの問題を解くので集中力を持って授業に臨む。TOEIC自己目標スコアを設定して、必ず達成しましょう。

教科書

Reading and Vocabulary Training for the TOEIC Test
著者:　古谷聡・藤岡美香子
出版社:　三修社
出版年:　2016　　ISBN:　9784384334531

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 20% ）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ ）
参加度　（ 30% ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <j>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　川口　玲子	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Part 1(写真描写問題)、宿題説明
第3回　Part 2（応答問題）対策
第4回　Part 3（会話問題）対策
第5回　Part 4（説明文問題）対策
第6回　模擬試験TEST1リスニングテスト演習・解答及びリーディング・リスニングパートの解説
第7回　Part 2（応答問題）対策、Part 3（会話問題）対策
第8回　Part 4（説明文問題）対策、Part 2（応答問題）対策
第9回　Part 3（会話問題）対策、Part 1(写真描写問題)対策
第10回　Part 2（応答問題）対策、Part 1(写真描写問題)対策
第11回　Part 4（説明文問題）対策、Part 2（応答問題）対策
第12回　Part 3（会話問題）対策、Part 4（説明文問題）対策
第13回　模擬試験TEST2リスニングテスト演習・解答及び リーディング・リスニングパートの解説
第14回　リスニングテスト演習及び解答解説
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Emerald
著者:　ECC
出版社:　ECC
出版年:　2013年6月　　ISBN:

ECC TOEIC TEST CLINIC Emerald　模試
著者:　ECC
出版社:　ECC
出版年:　2013年6月　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <k>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　櫃本　一美	

テーマ

実用的な英語のリーディングと文法の習得。

授業の到達目標

基本的な文法を復習しながら、日常生活に関係した情報を英語で正確に読み、また、伝達できるようになる。

授業の概要

テキストに加えに、速読や文法のプリントに基づいて学習する。

準備学習（予習・復習）

授業中、自宅での課題を確実にこなす。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　1）Unit1 2)品詞と文型
第3回　1）Unit1 2)品詞と文型
第4回　1）Unit1 2)品詞と文型
第5回　1）Unit2 2)品詞と文型
第6回　1）Unit2 2)動詞
第7回　1）Unit2 2)動詞
第8回　復習
第9回　1）Unit3 2)動詞
第10回　1）Unit3 2)動詞
第11回　1）Unit4 2)準動詞
第12回　1）Unit4 2)準動詞
第13回　1）Unit5 2)準動詞
第14回　1）Unit5 2)準動詞
第15回　復習

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。テキストは通年使用する。

教科書

Real　Reading 1
著者：　Liz Driscoll
出版社：Cambridge University Press
出版年：　　ISBN：　9780521702027

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <I>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　野口　博代	

テーマ

世界中で起こる様々な現代社会の問題を英語で学ぶ。

授業の到達目標

英語でニュースを聞いて、その内容について議論することで、リスニングとスピーキングの力の向上を目指す。さらにニュースの内容に関連した英文を読み、英語で質問に答えることで、語彙・文法の強化と読解力、ライティングの力を養う。

授業の概要

AFPのニュース映像を教材に、リスニング練習を行い、内容確認を英語と日本語で行う。さらにニュースに関連した英文を読み、語彙・文法の確認。内容把握。英語の質問に英語で答える練習を行う。

準備学習（予習・復習）

テキスト付属のCDを授業の予習、復習に十分活用すること。読解用の英文は必ず語彙や内容を確認してから授業に臨むこと。

内　容

第1回　オリエンテーション。Lesson 1 DVD Viewing
第2回　Lesson 1 Japan: Hello KittyListening and comprehension
第3回　Lesson 1 Reading and GrammarLesson 2 DVD viewing
第4回　Lesson 2 U.S.A.: Life with No TechnologyListening and comprehension
第5回　Lesson 2 Reading and GrammarLesson 3 DVD viewing
第6回　Lesson 3 TUNISIA: College MajorListening and comprehension / Reading and Grammar
第7回　Lesson 4 PHILIPPINES: Climate ChangeDVD viewing / Listening and comprehension
第8回　Lesson 4 Reading and GrammarLesson 5 DVD viewing
第9回　Lesson 5 NORWAY: Food SafetyListening and comprehension
第10回　Lesson 5 Reading and GrammarLesson 6 DVD viewing
第11回　Lesson 6 CHILE: Alternative EnergyListening and comprehension / Reading and Grammar
第12回　Lesson 7 PAKISTAN: Women and EducationDVD viewing / Listening and comprehensionReading and Grammar
第13回　Lesson 8 JAPAN: SmartphonesDVD viewing / Listening and comprehension
第14回　Lesson 8 Reading and Grammar
第15回　Lesson 1~ Lesson 8 Review and Comprehension Check

履修上の注意点

単位取得には2/3以上の出席が必要。

教科書

AFP World News Report 3
著者:　宍戸真・Kevin Murphy・高橋真理子
出版社:　成美堂
出版年:　2016　　ISBN:　9784791947935

参考書

成績評価

試験　（ 50　％ ）　　小テスト（ 0　％ ）
授業中課題（ 30　％ ）　　授業中発表等（ 10　％ ）
参加度　（ 10　％ ）
上記評価の授業中課題には授業外課題も含まれ、小テストに代わるものとして全て評価対象となる。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <m>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　原　俊樹	

テーマ

英語を普段使いに一一段上の英語理解

授業の到達目標

基本的な英文の解釈（読解・聴解）や表現（作文・発話）を通して、また日本語と英語双方の表現方法・構造の違いや文法的な理解を、「感性」でなく「論理的」に考えて、国際人として世界的に活躍するために必須の「伝達手段としての英語」を身につけるのに必要な4技能の幅広い実践的な能力を習得する。また同時にMEDIA ENGLISH.の特徴も考えて、普通に新聞や論文を理解する能力も身につける

授業の概要

基本的にはテキストの各ユニットに沿って授業を展開する。習熟度・理解力を判断するための小テスト・実力テスト・課題も用意します。授業予定は,一応の目安として各回で学ぶ「学習重要ポイント」と考えてください。

準備学習（予習・復習）

予習・復習を確実にすること

内　容

第1回　講義内容・テキストの利用法を説明、基礎力判定テスト
第2回　フォニックス（アルファベットや単語の発音）
第3回　英文の基本構造Ⅰ：述語動詞と態
第4回　英文の基本構造Ⅱ：述語動詞と時制1
第5回　英文の基本構造Ⅲ：述語動詞と時制2
第6回　英文の基本構造Ⅳ：基本5文型（自動詞と他動詞）
第7回　英文の基本構造Ⅴ：文の要素・修飾語句・語と品詞
第8回　準動詞の用法1：不定詞
第9回　準動詞の用法2：動名詞
第10回　準動詞の用法3：分詞
第11回　冠詞・名詞・代名詞
第12回　形容詞・副詞
第13回　前置詞と句
第14回　接続詞と節
第15回　前記の学習内容のまとめ・到達度の確認

履修上の注意点

教科書

English through the News Media 2016 edition
著者：　Masami Takahashi/Noriko Itoh/ Richard Powell
出版社：Asahi Press
出版年：２０１６　　ISBN：　9784255155494

参考書

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 10% ）　　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 10% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <n>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　野口　博代	

テーマ

世界中で起こる様々な現代社会の問題を英語で学ぶ。

授業の到達目標

英語でニュースを聞いて、その内容について議論することで、リスニングとスピーキングの力の向上を目指す。さらにニュースの内容に関連した英文を読み、英語で質問に答えることで、語彙・文法の強化と読解力、ライティングの力を養う。

授業の概要

AFPのニュース映像を教材に、リスニング練習を行い、内容確認を英語と日本語で行う。さらにニュースに関連した英文を読み、語彙・文法の確認。内容把握。英語の質問に英語で答える練習を行う。

準備学習（予習・復習）

テキスト付属のCDを授業の予習、復習に十分活用すること。読解用の英文は必ず語彙や内容を確認してから授業に臨むこと。

内　容

第1回　オリエンテーション。Lesson 1 DVD Viewing
第2回　Lesson 1 Japan: Hello KittyListening and comprehension
第3回　Lesson 1 Reading and GrammarLesson 2 DVD viewing
第4回　Lesson 2 U.S.A.: Life with No TechnologyListening and comprehension
第5回　Lesson 2 Reading and GrammarLesson 3 DVD viewing
第6回　Lesson 3 TUNISIA: College MajorListening and comprehension / Reading and Grammar
第7回　Lesson 4 PHILIPPINES: Climate ChangeDVD viewing / Listening and comprehension
第8回　Lesson 4 Reading and GrammarLesson 5 DVD viewing
第9回　Lesson 5 NORWAY: Food SafetyListening and comprehension
第10回　Lesson 5 Reading and GrammarLesson 6 DVD viewing
第11回　Lesson 6 CHILE: Alternative EnergyListening and comprehension / Reading and Grammar
第12回　Lesson 7 PAKISTAN: Women and EducationDVD viewing / Listening and comprehensionReading and Grammar
第13回　Lesson 8 JAPAN: SmartphonesDVD viewing / Listening and comprehension
第14回　Lesson 8 Reading and Grammar
第15回　Lesson 1~ Lesson 8 Review and Comprehension Check

履修上の注意点

単位取得には2/3以上の出席が必要。

教科書

AFP World News Report 3
著者:　宍戸真・Kevin Murphy・高橋真理子
出版社:　成美堂
出版年:　2016　　ISBN:　9784791947935

参考書

成績評価

試験　（ 50　％ ）　　小テスト（ 0　％ ）
授業中課題（ 30　％ ）　　授業中発表等（ 10　％ ）
参加度　（ 10　％ ）
上記評価の授業中課題には授業外課題も含まれ、小テストに代わるものとして全て評価対象となる。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <o>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　川口　玲子	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Part 1対策：2人の人物、Part 2対策：問題文に注意する
第3回　Part 3対策：必要な情報を聞き取る
第4回　Part 4対策：トークの概要をつかむ
第5回　模擬試験TEST1リスニングテスト演習・解答及びリーディング・リスニングパートの解説
第6回　模擬試験TEST1リーディング・リスニングパートの解説
第7回　Part 3対策：問題と解決策についての会話、Part 3対策：人物の行動
第8回　Part 4対策：アナウンスメント、Part 1対策：人が小さく風景が大きい写真
第9回　Part 2対策：否定疑問文、Part 3対策：会話のテーマを聞き取る
第10回　Part 2対策：提案に答える 、Part 3対策：提案を含んだ会話
第11回　Part 4対策：指示内容を聞き取る、Part 2対策：総合問題
第12回　Part 3対策：理由に関する設問 、Part 4対策：詳細をつかむ
第13回　模擬試験TEST2リスニングテスト演習・解答及びリーディング・リスニングパートの解説
第14回　リスニングテスト演習及び解答解説
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Sapphire
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：2013年6月　　ISBN：

ECC TOEIC TEST CLINIC Sapphire　模試
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：2013年6月　　ISBN：

ECC TOEIC TEST CLINIC Ruby　模試
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：2014年10月　　ISBN：

参考書

成績評価

aks202a125

試験 （ 30 ）　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <p>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　原　俊樹	

テーマ

どこでも使える英語力を身につける

授業の到達目標

国際人として世界的に活躍するために必須の「伝達手段としての英語」を理解するために必要な4技能の幅広い実践的運営能力を身につける。また同時に医療従事者としても必要な英語力も身につけることを目標とする。

授業の概要

基本的にはテキストの各ユニットに沿った形で授業を進める。習熟度・理解度を判断する小テスト・実力テスト・課題を用意する。授業予定は、あくまでも一応の目安で、各回の「重要学習ポイント」と考えてください。

準備学習（予習・復習）

予習・復習を確実にこなすこと

内　容

第1回　講義内容・テキストの利用法の説明基礎力判定テスト
第2回　フォニックス（アルファベットと単語の発音）
第3回　英文の基本構造1：述語動詞と態
第4回　英文の基本構造2：時制表現1
第5回　英文の基本構造3：時制表現2
第6回　英文の基本構造4：基本5文型
第7回　英文の基本構造5：文の要素・修飾語句・語と品詞
第8回　準動詞の用法1：不定詞
第9回　準動詞の用法2：動名詞
第10回　準動詞の用法3：分詞
第11回　冠詞・名詞・代名詞
第12回　形容詞・副詞
第13回　前置詞と句
第14回　接続詞と節
第15回　前期の学習のまとめ・到達度の確認

履修上の注意点

教科書

Understanding Health Care
著者：　Tsukimaro Nishimura/ David I. Brooks/ Akiko Sekiguchi　ほか
出版社：Asahi Press
出版年：2011　　ISBN：　9784255155036

参考書

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（ 20% ）
授業中課題（ 10% ）　　授業中発表等（ 10% ）
参加度　（ 10% ）

Syllabus

科 目 名	英語ⅢA <TOEIC>		
クラス		配当回生	
講義期間	その他	定　員	40
履修条件	「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	（休講）		
テーマ			
授業の到達目標			
授業の概要			
準備学習（予習・復習）			
内　容			
履修上の注意点			
教科書			
参考書			

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名	英語ⅢA <Gen>		
クラス		配当回生	
講義期間	その他	定　員	40
履修条件	「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	（休講）		
テーマ			
授業の到達目標			
授業の概要			
準備学習（予習・復習）			
内　容			
履修上の注意点			
教科書			
参考書			

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <Zb>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　久保田　美佳	

テーマ

Academic Readingの実践

授業の到達目標

一般的な英語で書かれた文献を読んで自力である程度理解できるようになる。専門分野の基礎語彙を習得する。英語の音とリズムに慣れる。

授業の概要

「ストレス」というテーマに特化したテキストを使って、正しく読み取る練習をします。また、同テキスト付属の音源を聞き英語の音やリズムを体得して行きます。

準備学習（予習・復習）

毎週授業で扱う箇所を事前に読んで来ること。また、単語テストを随時行うのでその準備も忘れないようにして下さい。

内　容

第1回　授業オリエンテーションUnit 1 What is Stress?
第2回　Unit 2 What Causes Stress?　Unit 3 What Is the Stress Response?
第3回　Unit 4 How Did We First Learn about the Bad Effects of Stress?
第4回　Unit 5 How are Bodily Systems Affected by Stress?
第5回　Unit 6 Unhealthy Stress: How Can We Resist It?
第6回　Unit 7 Laugh　Unit 8 Get Rid of Anger
第7回　Review Unit 1-8
第8回　Unit 9 Break the Stress-Sleeplessness Cycle and Live by Lists
第9回　Unit 10 Adapt Your Environment
第10回　Unit 11 Pen Pent-up Emotions and Frown on Perfection
第11回　Unit 12 Take Time Out for Meals
第12回　Unit 13 Try Aerobic Exercise and Take a Walk　Unit 14 Learn Good Posture and Be Conscious of Your Jaw
第13回　Unit 15 Reaching the True Relaxation State
第14回　Review Unit 9-15
第15回　Listening and Vocabulary

履修上の注意点

教科書

Beating Stress ストレスフリー・ライフを目指す
著者:　田部井世志子、井上径子
出版社:　朝日出版
出版年:　2006　　ISBN:　4255154228C1082

参考書

成績評価

試験　（ 20 ）　　小テスト（ 80 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
習熟度を測るため、定期的にテストを行います。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢA <R>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　杉山 泰	

テーマ

基礎英語(Basic English)を学びながら俳万智の短歌を英訳していく。

授業の到達目標

中学時代に学んだ基礎英文法の知識さえあれば、俳万智の短歌も楽しく英訳できることを学んでいく。「主語なし日本語」で「時制のない日本語」をどうしたらS+V+O構文の英語にできるのか、毎回プリントを配り、英訳し、それを翌週に添削して返却する。最後に、自分が英訳した俳万智の英訳を、すべて提出してもらう。

授業の概要

毎回「プリント」を配布し、各自辞書を利用して英訳し、提出する。英訳する前に、「翻訳英文法」を教え、ポイントを指摘するので、毎回の参加が大切になる。

準備学習(予習・復習)

自宅では、添削して修正された英訳を、自分なりにもう一度最適と思われる英語に書き換える作業が必要。

内　容

第1回　自己紹介(I am Japanese. I am from Nagasaki.)から始めよう。
第2回　「氏名カード」の提出。その際、翻訳しづらい日本語(「がんばれ日本」など)を10ほど上げて、英語に翻訳してもらう。
第3回　＜be動詞＞「この味がいいね」と君が言ったから七月六日はサラダ記念日
第4回　＜be動詞＞「寒いね」と言えば「寒いね」と答える人のいるあたたかさ
第5回　＜主語と動詞＞愛してる愛していない花びらの数だけ愛があればいいのに
第6回　＜主語と動詞＞焼肉とグラタンが好きという少女よ私はあなたのお父さんが好き
第7回　＜過去形＞この部屋で君と暮らしていた女の髪の長さを知りたい夕べ
第8回　＜未来の文＞「三〇で俺は死ぬよ」と言う君とそれなら吾もそれまで生きん
第9回　＜疑問文＞ガーベラの首を両手で持ち上げておまえ一番好きなのは誰
第10回　＜否定文＞電話から少し離れてお茶を飲む聞いていないよと言うように飲む
第11回　＜進行形＞「また恋の歌作っているのか」と面白そうに心配そうに
第12回　＜疑問文と冠詞＞わが髪を三度切りたる美容師に「初めてですか」と聞かれて座る
第13回　＜能動態と受動態＞食べたいでもやせたいというコピーあり愛されたいでも愛したくない
第14回　＜助動詞＞思い出はミックスベジタブルのようだけれど解凍してはいけない
第15回　＜全体のまとめ＞これまで書き上げた、俳万智の短歌の英訳を再度推敲して全て仕上げて提出する。

履修上の注意点

4回生、5回生など卒業に必要な単位である場合、出席不足の学生は遅れても提出物を必ず仕上げて提出すること。遅れの出席として認めることもある。

教科書

杉山「プリント」
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

英語対訳版サラダ記念日
著者:　俳万智・J・スタム訳
出版社:　河出文庫
出版年:　1989　ISBN:

チョコレート革命
著者:　俳万智
出版社:　河出書房新車
出版年:　1997　ISBN:

aks202a148

日本語で読む万葉集
著者: リービ英雄
出版社: 岩波新書
出版年: 2004　ISBN:

実践日本人の英語
著者: マーク・ピーターセン
出版社: 岩波新書
出版年: 2013　ISBN:

成績評価

試験 ( )　小テスト ( )
授業中課題 (40%)　授業中発表等 (20%)
参加度 (20%)
大学で行なうTOEICのテストなど、外部の英語検定試験を受けること。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　占部　幹也	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第10回　Part 7対策（シングル）：スキミングで大意をつかむ、 Part 7対策（ダブル）：情報量の多いメール・手紙
第11回　模擬試験TEST2リーディングテスト演習及び解答
第12回　模擬試験TEST2リーディング・リスニングパートの解説
第13回　TEST 1 リーディングテスト演習及び解答TEST 1 リーディングテスト解説
第14回　TEST 2 リーディングテスト演習及び解答 TEST 2 リーディングテスト解説
第15回　試験
第1回　オリエンテーション、Part 5対策：接続詞・前置詞、宿題説明
第2回　Part 6対策：接続詞・接続副詞、
第3回　Part 7対策（シングル）：主旨を素早くつかむ、Part 7対策（ダブル）：2文書を関連させて解く
第4回　模擬試験TEST1リーディングテスト演習及び解答
第5回　Part 5対策：不定詞・動名詞、・ Part 6対策：動詞の語法
第6回　Part 7対策（シングル）：難易度が高い語句を含む問題、Part 5対策：現在分詞・過去分詞
第7回　Part 6対策：総合問題、 Part 7対策（シングル）：手紙
第8回　Part 5対策：総合問題、Part 7対策（シングル）：言い換えされた答え
第9回　Part 5対策：総合問題、Part 6対策：前置詞・前置詞句

履修上の注意点

教科書

新 TOEIC Test レベル判定模試【2】
著者：　小山克明, David Rondeau, Kevin Glenz, Sebastian Brooke 著
出版社：Z会
出版年：2007年9月　　ISBN：　9784862900012

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　田中　美和子	

テーマ

国際語としての英語を身に付けて、世界に発信する

授業の到達目標

グローバルに活躍するためには、英語でのプレゼンテーション能力が必要とされます。この授業では、英語でのプレゼンテーションを実際に行うことを通して、発信力としてのスピーキングとライティング、受容力としてリスニングとリーディングの四技能を、総合的に、プロジェクト・ベーストで、学んでいきます。コミュニケーションに必要とされる文法能力、テーマに関連する語彙力を身に付け、パワーポイントを作成して、自分の言いたいこと、伝えたいことを、自分なりに英語で表現することができるようになることを目標とします。

授業の概要

「自己紹介」など複数のテーマで、1人で2分間の英語プレゼンテーションを、準備に3週間かけて4週目で発表をします。発表は全て英語で行われ、原稿を手に持って読むことは禁止されます。授業内では、英語だけで、スムーズにプレゼンテーションを行えるように、十分な準備と練習をしますので、真剣にとりくみましょう。

準備学習（予習・復習）

英語の発表原稿を用意したり、発表内容を英語で暗記したりするには、授業時間以外に、1週間あたり3時間はかかると考えておいてください。また授業中はプレゼンテーションの準備に時間がかかるので、英語の文法学習は授業外で、参考書をみたり、ラジオやテレビの講座を見たりして興味を持って取り組んでいきましょう。

内　容

第1回　Orientation　Basics of the English Presentation
第2回　Project1-1: Introducing Yourself:Writing Speech
第3回　Project1-2: Introducing Yourself:Making PowerPoint
第4回　Project1-3: Introducing Yourself:Revise and Rehearsal
第5回　Prsentation 1
第6回　Project2-1:News Digest:Writing Speech
第7回　Project2-2:News Digest:Making PowerPoint
第8回　Project2-3:News Digest:Revise and Rehearsal
第9回　Presentation 2
第10回　Review
第11回　Project3-1:Promoting Vacation Plans:Writing Speech
第12回　Project3-2:Promoting Vacation Plans:Making PowerPoint
第13回　Project3-3:Promoting Vacation Plans:Revise and Rehearsal
第14回　Presentation 3
第15回　Review

履修上の注意点

発表原稿、パワーポイントなどには提出期限があり、遅れると加点されません。また、遅刻3回で参加度から−1となり、グループ発表で欠席すると参加度から-2となります。なお、授業には、英和辞書が必要です。

教科書

Presentations to Go　DVDで学ぶ　はじめての英語プレゼンテーション
著者：　松岡昇　立野貴之　三宅ひろ子
出版社：センゲージラーニング株式会社
出版年：2014　　ISBN：　9484863122642

参考書

1分間英語で自分のことを話してみる
著者：　浦島久　クライド・ダブンボート
出版社：(株)中経出版
出版年：2012　　ISBN：　9784806124184

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 30 ）

aks202a212

参加度 （ 40 ）

プレゼンのクラスでは、発表を聞く場合のマナーも大切です。クラス全体でよい雰囲気を作り上げていくことが必要となりますので、上記以外に「協調性」も評価に入ります。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　松村 優子	

テーマ

AFP-World Academic Archiveのニュースを視聴しながら、現代社会の様々な問題・現象を理解し、読解・リスニングを中心とした英語総合力を向上させることを目指す。

授業の到達目標

1. DVDを視聴しながら英文ニュースの構造や表現などに慣れる。2. ニュースで扱われている現代社会の様々な問題に対する認識、関心を高める。3. ニュース・トピックに関する語彙力、聴解力、読解力、文法力などの総合力を伸ばす。

授業の概要

各章はListening (L), Reading (R)部門に分かれている。1つの章を2回の授業で以下の順通りに進める。L: 1.Key Word Study 2. Listening Practice (T/F Questions) 3. Listening Practice (Dictation) 4. Comprehension Check, SummaryR: 1. Vocabulary Check 2. Comprehension Questions 3. Grammar Check 4. Discussionさらに、発表形式も取り入れていく。

準備学習（予習・復習）

DVDを利用して、テキスト指定箇所の予習、復習をすること。

内　容

第1回　1回 Introduction (授業の概要や進め方などの説明も含む)
第2回　Lesson 1 Hello Kitty
第3回　Lesson 1 Hello Kitty
第4回　Lesson 2 Life with No Technology
第5回　Lesson 2 Life with No Technology
第6回　Lesson 3 College Major
第7回　Lesson 3 College Major
第8回　Lesson 4 Climate Change
第9回　Lesson 4 Climate Change
第10回 Lesson 5 Food Safety
第11回 Lesson 5 Food Safety
第12回 Lesson 6 Alternative Energy
第13回 Lesson 7 Women and Education
第14回 Lesson 7 Women and Education復習、復習テスト
第15回 復習、復習テスト

履修上の注意点

1. テキスト指定箇所を予習してきたことを前提に授業を進める。2. 2回の授業でテキスト1章のペースで進む予定であるが、学習状況により進め方の変更や調整もある。

教科書

AFP World News Report 3 <AFPニュースで見る世界3>
著者: 宍戸 真他
出版社: 成美堂
出版年: 2016　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0% ）	小テスト （ 60% ）
授業中課題 （ 10% ）	授業中発表等 （ 15% ）
参加度 （ 15% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　高居 佐紀	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーションPart 5（短文穴埋め問題）対策
第2回　Part 6（長文穴埋め問題）対策 Part 7（読解問題）対策
第3回　模擬試験TEST1リーディングテスト演習及び解答
第4回　模擬試験TEST1リーディング・リスニングパートの解説
第5回　Part 7対策 、, Part 5（短文穴埋め問題）対策
第6回　Part 7（読解問題）対策、Part 5（短文穴埋め問題）対策
第7回　Part 5（短文穴埋め問題）対策、Part 5（短文穴埋め問題）対策
第8回　Part 5（短文穴埋め問題）対策、Part 5（短文穴埋め問題）対策
第9回　Part 6（長文穴埋め問題）対策、Part 7（読解問題）対策
第10回　Part 7（読解問題）対策、Part 7（読解問題）対策
第11回　模擬試験TEST2リーディングテスト演習及び解答
第12回　模擬試験TEST2リーディング・リスニングパートの解説 教科書①を使用してTOEIC試験の実践形式でスキルの定着をはかる
第13回　TEST 1 リーディングテスト演習及び解答 TEST 1 リーディングテスト解説
第14回　TEST 2 リーディングテスト演習及び解答 TEST 2 リーディングテスト解説
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

はじめての新TOEICテスト本番模試
著者:　森川美貴子 著
出版社:　旺文社
出版年:　2009年9月　　ISBN:　9784010940969

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <e>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　ﾌﾞﾗｲｱﾝﾊﾞｽｶｳﾞｨﾙ	

テーマ

Expressing Your Ideas in English

授業の到達目標

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills.

授業の概要

This course will be taught in English

準備学習（予習・復習）

If you forgot to bring your textbook and dictionary, you must make a copy of the next pages in the textbook and borrow a dictionary BEFORE class starts. Also, review the last lesson, look ahead at the next pages and check your dictionary for any new words.

内　容

第1回　introductions
第2回　classroom English
第3回　student interviews-A
第4回　student interviews-B
第5回　getting acquainted
第6回　experiences-A
第7回　experiences-B
第8回　sports & leisure
第9回　money
第10回　shopping
第11回　food-A
第12回　food-B
第13回　travel-A
第14回　travel-B
第15回　review

履修上の注意点

If you forget your textbook, you must photocopy the necessary pages from a classmate's book BEFORE class starts.

教科書

Let's Chat
著者：　John Pak
出版社：EFL Press
出版年：2007　　ISBN：　4580244420056

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <f>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　小川　享子	

テーマ

TOEIC テストの受験準備を通してリスニング力をアップしよう

授業の到達目標

スコアを伸ばす（少なくとも15点以上）。語彙力を増やす。リスニング力を目的に合わせてリスニング問題の英文を速く読む力を養う。

授業の概要

予習語彙小テスト宿題のリスニング課題問題のチェック（さらなるリスニング演習）

準備学習（予習・復習）

語彙の学習が予習となり、それを踏まえての小テストとなるので、授業の前に該当範囲を予習する。復習は、いくつかの単元を学習したのち同じ音声テキストを使用して復習テストを行うので、聞き返しを行う。

内　容

第1回　Unit1 予定の表現
第2回　Unit2　数量を尋ねる
第3回　Unit3　命令・依頼
第4回　Unit4　広告・宣伝音声復習テスト
第5回　Unit5　時間を尋ねる
第6回　Unit6　場所を尋ねる
第7回　Unit7　確認の表現
第8回　Unit8　留守電音声復習テスト
第9回　Unit9　アドヴァイス
第10回　Unit10 誘い
第11回　Unit11 申し出
第12回　Unit12 講演者の紹介音声復習テスト
第13回　まとめテスト
第14回　模擬テスト
第15回　模擬テスト

履修上の注意点

音声はDownloadによる教材なので、しない学生は成績より5点減点する。授業中に携帯を触った場合は成績より減点をする。必ず辞書を携帯すること。

教科書

The TOEIC Test Trainer Target 470 (Revised Edition)
著者:　山口昌彦 George W. Pifer
出版社:　センゲージラーニング
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 25 ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 5 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度　（ 10 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%授業中課題、発表、参加度はこの3つを合わせて25%とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <g>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　クーラン コーリ	

テーマ

Travel English

授業の到達目標

Learn the basics of travel English and survival English

授業の概要

Follow four young Japanese students as they travel abroad and introduce Japan to overseas guests. The course introduces key language needed for speaking English at home or abroad.This course will be taught in English

準備学習（予習・復習）

Whenever possible, the teacher will introduce new methods (through free smartphone apps, free online English learning websites, DVDs, etc) for the students to take advantage of to further their Travel English studies in their free time.

内　容

第1回　Class introduction and preview an begin Unit 1 "Would you like some more?"
第2回　Finish Unit 1
第3回　Begin Unit 2 "What should we do first?"
第4回　Finish Unit 2
第5回　Begin Unit 3 "We're going to visit Chinatown"
第6回　Finish Unit 3
第7回　Review and reflection of Units 1 to 3
第8回　Begin Unit 4 "Are you good at skiing?"
第9回　Finish Unit 4
第10回　Begin Unit 5 "This one is cheaper"
第11回　Finish Unit 5
第12回　Begin Unit 6 "Don't forget your money!"
第13回　Finish Unit 6
第14回　Review and reflection of Units 4 to 6
第15回　Semester review and recap

履修上の注意点

**You must attend 10 or more classes to receive credit for the course. **More than half of your grade will be based on your in-class performance.

教科書

My First Passport 2
著者:　Tanja McCandie
出版社:　Oxford
出版年:　2006　　ISBN:　9780194718004

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 15 ）
授業中課題（ 15 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 20 ）

This will be a very fun class, but to get a good grade, you must do well on exams and quizzes as well as have good class performance

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <h>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　ﾋｴﾀﾗﾋﾃｨ ｴﾚｷ	

テーマ

Oral English with Culture Content

授業の到達目標

Learn to speak about culture of countries around the world in basic to elementary level English.

授業の概要

- THIS COURSE WILL BE TAUGHT IN ENGLISH -You'll learn about interesting culture events and customs in countries all over the waorld. Also, practical skills such as ordering food in a restaurant.

準備学習（予習・復習）

It's a big help to preview and review every lesson. Especially, check textbook's difficult words.

内　容

第1回　Class introduction and preview excercises
第2回　Start Unit 1 "People"
第3回　Continue Unit 1
第4回　Finish Unit 1
第5回　Start Unit 2 "Work, Rest and Play"
第6回　Continue Unit 2
第7回　Finish Unit 2
第8回　Review and reflection on Units 1 and 2
第9回　Start Unit 3 "Going Places"
第10回　Continue Unit 3
第11回　Finish Unit 3
第12回　Start Unit 4 "Food"
第13回　Continue Unit 4
第14回　Finish Unit 4
第15回　Review and reflection on Units 3 and 4

履修上の注意点

You must attend 10 or more classes to pass the course.

教科書

World English 1
著者:　Martin Milner
出版社:　Heinle, Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:
World English 1: Printed Workbook
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 10 ）

You will enjoy and have fun in this class. But to get a good grade, you have to do well on tests and also perform well in class.

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <i>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　溝部　芳子	

テーマ

TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEICリスニングに必要なリスニングスキルの修得を目標とする。

授業の概要

各パートの特徴を理解し、必要なスキルと語彙を確認した後、練習問題のリスニングをする。部分ディクテーションをして解答を確認後、スクリプトの音読やシャドーイングなどを通じて理解を深める。中盤以降は実践演習を行う。単語テスト、復習テストを随時行う。

準備学習（予習・復習）

予習:語彙学習［30分から1時間程度］復習：音声をダウンロードしてスクリプトを確認しながら聴く。同時シャドーイングを行う。［30分］

内　容

第1回　Course Introduction（テキストの使い方、準備学習、宿題について）
第2回　Daily Life / Restaurant
第3回　Party / Airport
第4回　Hotel / Traffic
第5回　Tour & Event / Shopping
第6回　Service / Health
第7回　Finance & Banking / Housing
第8回　Media / Business
第9回　Reception Desk / Office Work
第10回　Employment / Office Anouncement
第11回　Office Talk / New Products
第12回　Sales / Seminar & Meeting
第13回　Logistics / Construction and Production
第14回　実践演習（Part 1 & 2）
第15回　実践演習　（Part 3 & 4）

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。ペアワークや音読に積極的に取り組む。毎回たくさんの英語を聴くので集中力を持って授業に臨む。TOEIC自己目標スコアを設定して、必ず達成しましょう。

教科書

Strike Up the TOEIC Test
著者:　塚田　幸光
出版社:　金星堂
出版年:　2015　　ISBN:　9784764740051

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト　（ 20% ）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（　）
参加度　（ 30% ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <j>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　川口　玲子	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

基礎的な英語力を身に着け、TOEICスコア500を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。そのため、受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーションPart 5（短文穴埋め問題）対策
第2回　Part 6（長文穴埋め問題）対策 Part 7（読解問題）対策
第3回　模擬試験TEST1リーディングテスト演習及び解答
第4回　模擬試験TEST1リーディング・リスニングパートの解説
第5回　Part 7対策 、, Part 5（短文穴埋め問題）対策
第6回　Part 7（読解問題）対策、Part 5（短文穴埋め問題）対策
第7回　Part 5（短文穴埋め問題）対策、Part 5（短文穴埋め問題）対策
第8回　Part 5（短文穴埋め問題）対策、Part 5（短文穴埋め問題）対策
第9回　Part 6（長文穴埋め問題）対策、Part 7（読解問題）対策
第10回　Part 7（読解問題）対策、Part 7（読解問題）対策
第11回　模擬試験TEST2リーディングテスト演習及び解答
第12回　模擬試験TEST2リーディング・リスニングパートの解説 教科書①を使用してTOEIC試験の実践形式でスキルの定着をはかる
第13回　TEST 1 リーディングテスト演習及び解答 TEST 1 リーディングテスト解説
第14回　TEST 2 リーディングテスト演習及び解答 TEST 2 リーディングテスト解説
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

はじめての新TOEICテスト本番模試
著者:　森川美貴子 著
出版社:　旺文社
出版年:　2009年9月　　ISBN:　9784010940969

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <k>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　ｿｰｿﾝ ﾏｰｶｽ	

テーマ

Acting English Drama

授業の到達目標

This class is designed to improve vocabulary, listening comprehension and pronunciation by studying and acting natural speaking situations in a video drama.

授業の概要

Using video from a popular drama and supported by interesting exercises concerning new vocaulary, pronunciation, idiomatic expression and usage, the class will inspire student learning.This course will be taught in English.

準備学習（予習・復習）

Preview next lesson before each class and extra for tests.

内　容

第1回　Introductions, Class Objectives
第2回　Journals Homework #1 Introduction.
第3回　The Alien Truth - Story Research
第4回　Journals week 3 Pronunciation Pg. 5
第5回　Leaving Normal - Acting Scene.
第6回　Episode 5 Missing Q - A
第7回　Journals week 6 Kyle and Liz Scene
第8回　Episode 7 Riverdog - Acting
第9回　Story Review - Tell the story.
第10回　Episode 9 Heat Wave
第11回　Final Journals week 10
第12回　Presentations - Reports
第13回　Toy House - Acting Scene
第14回　Into the Woods
第15回　The Convention - Q and A

履修上の注意点

You must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.

教科書

Acting English Drama
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 20 ）　　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <I>**

クラス		配当回生	学部2回生
講義期間	前期	定　　員	40
履修条件	「英語ＩＢ」または「英語ⅡＢ」を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	スミス　ジョン		

テーマ

This is an English communication course that will focus on speaking and listening skills to improve communication ability.

授業の到達目標

By the end of the semester, students will have increased their confidence in their ability to communicate in English with the instructor and their classmates.

授業の概要

This course will be taught in English. There are are a variety of motivating topics that will be meaningful to the learners in their everyday lives.

準備学習（予習・復習）

Please do all the homework, preview and review the textbook.

内　　容

第1回　Self-introduction
第2回　Getting to know the teacher and classmates
第3回　Describing occupations
第4回　Talking about a work day and free time
第5回　Describing festivals and celebrations
第6回　Talking about favorite celebrities
第7回　Identify possessions
第8回　Giving travel advice
第9回　Food and favorite kinds of restaurants
第10回　Count and noncount nouns
第11回　Activities happening now
第12回　Favorite sports
第13回　Adventure holidays
第14回　Past vacation experiences
第15回　Summer plans and course review.

履修上の注意点

You must attend 10 or more classes to pass the course.

教科書

World English 1
著者:　Martin Milner
出版社:　Heinle Cengage
出版年:　2015　　ISBN:　9781285848693

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度　（ 20 ）

The students need to show a positive desire to communicate in English. Preparation and completion of homework is also required.

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <m>**

クラス		配当回生	学部2回生
講義期間	前期	定　　員	40
履修条件	「英語ＩＢ」または「英語ⅡＢ」を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	ﾌﾘﾝﾊﾝﾅﾏｲｹﾙ		

テーマ

Using English for Communication

授業の到達目標

Improved speaking, listening and writing skills in a cross cultural communicative context

授業の概要

This course will be taught in English.

準備学習（予習・復習）

Do assigned homework, preview and review textbook.

内　　容

第1回　Orientation
第2回　Introductions
第3回　Introducting others
第4回　Exchanging personal information
第5回　How do you spend your day?
第6回　Work and school
第7回　Daily schedules
第8回　Review
第9回　Meaning of colors
第10回　Clothes shopping
第11回　Making Comparisons
第12回　Music
第13回　Entertainment
第14回　Invitations
第15回　Review

履修上の注意点

You must attend 10 or more classes to pass the course.

教科書

Interchange I Student's Book A(fourth Edition)
著者：　Jack C. Richards
出版社：Cambridge University Press
出版年：　　ISBN：　9780521601757

Interchange I Workbook Book A(4th Edition)
著者：　Jack C. Richards
出版社：Cambridge University Press
出版年：　　ISBN：　9780521601788

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 55 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 45 ）

Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <n>**

クラス		配当回生	学部2回生
講義期間	前期	定　　員	40
履修条件	「英語ＩＢ」または「英語ⅡＢ」を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	ﾋｴﾀﾗﾋﾃｨ ｴﾚｷ		

テーマ

Nursing English

授業の到達目標

Learn the basics of healthcare English.

授業の概要

- THIS COURSE WILL BE TAUGHT IN ENGLISH -This course will teach you how to speak in usual hospital and clinic situations. You will learn special healthcare words, too.

準備学習（予習・復習）

It's important to preview and review every lesson. Especially, check textbook's difficult words.

内　容

第1回　Class introduction and preview exercises
第2回　Start Unit 1 "Hospital Departments"
第3回　Finish Unit 1
第4回　Start Unit 2 "Application Forms"
第5回　Finish Unit 2
第6回　Start Unit 3 "Parts of the Body"
第7回　Finish Unit 3
第8回　Review and reflection of Units 1 to 3
第9回　Start Unit 4 "Illnesses"
第10回　Finish Unit 4
第11回　Start Unit 5 "Daily Routine"
第12回　Finish Unit 5
第13回　Start Unit 6 "Hospital Objects"
第14回　Finish Unit 6
第15回　Review and reflection of Units 4 to 6

履修上の注意点

You must attend 10 or more classes to pass the course.

教科書

Vital Signs
著者:　Morooka & Sugiura
出版社:　Nan'un-do
出版年:　2009　　ISBN:　9784523176305

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度　（ 10 ）
You will enjoy and have fun in this class. But to get a good grade, you have to do well on tests and also perform well in class.

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <o>**

クラス		配当回生	学部2回生
講義期間	前期	定　　員	40
履修条件	「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	スミス　ジョン		

テーマ

授業の到達目標

This is a communication course that will practice listening and speaking skills with a nursing topic based content. Students will increase their confidence to use English by regular practice.

授業の概要

The teacher will use a popular text that has a variety of interesting activities to create a positive learning environment in the classroom. The four skills of English will be developed online with the opportunity to use online resources. The class will be taught only in English.

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　Explanation of the course.
第2回　The hospital team.
第3回　In and around the hospital.
第4回　Hospital admissions.
第5回　Patient records.
第6回　Accidents and emergencies.
第7回　Giving instructions.
第8回　Pain.
第9回　Symptoms.
第10回　Caring for the elderly.
第11回　Transfer to a care home.
第12回　Nutrition.
第13回　Giving advice.
第14回　Diabetes
第15回　Plans for the summer break.

履修上の注意点

教科書

Nursing 1 (Oxford English for Careers)
著者:　Tony Grice
出版社:　Oxford University Press
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <p>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　クーラン コーリ	

テーマ

Beginner level English for students of nursing.

授業の到達目標

The aim of this course is to enable students to communicate in English in everyday situations and gain the knowledge and confidence they need to use English in a wide variety of situations in and around the hospital.

授業の概要

Different topics related to nursing will be addressed and discussed through speaking, reading, writing, and listening exercises.

準備学習（予習・復習）

In class, teacher will point out useful websites, videos, and other educational materials that pertain to the class. The students may use these for their own personal improvement in the fields of nursing and medicine.

内　容

第1回　Introductions and class explanation
第2回　"The Nurse" printout
第3回　Hospital departments
第4回　Hospital departments
第5回　Reasons for entering the nursing field
第6回　Describing illness
第7回　Review and recap of weeks 2 to 6
第8回　Parts of the body and their functions
第9回　Parts of the body and thier functions
第10回　Illnesses
第11回　Illnesses
第12回　Symptoms of illness
第13回　Video
第14回　Review and recap of weeks 11 to 13
第15回　Review and recap of course

履修上の注意点

You must attend 10 or more classes to receive credit for the course. **60%of your grade will be based on your in-class performance.Text material prints will be given out only ONCE. If you lose them, you must photocopy the pages needed before the start of the next class.

教科書

Vital Signs 2
著者：　E. Morooka, T. Sugiura
出版社：南雲堂
出版年：2014　　ISBN：　978-4523177555

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度　（ 30 ）
Although review test exercises will be given, coming to class prepared and ready to participate is also very important.

Syllabus

科 目 名	英語ⅢB <TOEIC>		
クラス		配当回生	
講義期間	その他	定　員	40
履修条件	「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	（休講）		
テーマ			
授業の到達目標			
授業の概要			
準備学習（予習・復習）			
内　容			
履修上の注意点			
教科書			
参考書			
成績評価			

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名	英語ⅢB <Gen>		
クラス		配当回生	
講義期間	その他	定　　員	40
履修条件	「英語ＩB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	（休講）		
テーマ			
授業の到達目標			
授業の概要			
準備学習（予習・復習）			
内　　容			
履修上の注意点			
教科書			
参考書			

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅢB <R>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　杉山 泰	

テーマ

新聞英語を読みながら、英語構文と国際ニュースの理解の仕方を学ぶ

授業の到達目標

TPPだとか、skypeを日本語に訳しているだろうか。smartphoneもCDも日本語に訳していない。逆に、「自衛隊」だとか「後方支援」、「専守防衛」といった日本語を英語に置き換えることははなはだむずかしい。literatureを「文学」、economicsを「経済」と日本語に翻訳した明治時代の日本人の偉大さを学びながら、最近の新聞英語を徹底的に日本語に翻訳する作業を行なう。国際情勢を学ぶことを最大の目標とする。

授業の概要

毎回、やさしい英字新聞を提示して、それを日本語に翻訳してもらう。日頃から新聞を読んでいれば、そうむずかしくはない。翻訳した日本語を添削して、翌週に返却する。毎回それをファイルして、国際情勢の知識を高めてもらう。

準備学習（予習・復習）

毎回新聞英語を翻訳してもらうので、辞書の持参が必要。

内　容

第1回　自己紹介。「氏名カード」の記入。最近の10大ニュースを書いてもらう。
第2回　それぞれが書いた10大ニュースを英語に翻訳してもらう。
第3回　新聞英語の英文法と使用頻度の高い短い英単語を丸暗記してもらう。
第4回　英語の時制（新聞英語の中で、時制に注意すべき英文の翻訳実践）
第5回　完了形の英語（時間の幅がある場合の英文の翻訳実践）
第6回　不定詞の英語（未来志向の不定詞の英文の翻訳実践）
第7回　There is構文の英語（客観的存在表現の英文の翻訳実践）
第8回　比較級の英語（比較表現の英文の翻訳実践）
第9回　仮定法の英語（ありえないことの仮定をする英文の翻訳実践）
第10回　仮定法の英語（If節がない仮定をする英文の翻訳実践）
第11回　日本語に訳せない英語（日本語では表現できない英文の翻訳実践）
第12回　文化の違いを示している英語（文化の違いが明らかな英文の翻訳実践）
第13回　英字新聞で書かれているPrime Minister Shinzo Abeをどう考えるか？
第14回　英字新聞で「紫式部」や「清少納言」はどう翻訳されているのか？
第15回　今年度の英字新聞に現れた新しい英語を10以上あげてその日本語訳を考える

履修上の注意点

毎回英字新聞からの切り抜きをプリントして翻訳していくので、必ず辞書を持参すること。また、毎回添削返却するので、返却された答案用紙を必ずファイルしておくこと。

教科書

杉山「プリント」
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

「超基本」の英単語
著者：　尾崎哲夫
出版社：　角川新書
出版年：　2002　ISBN：

大世界史
著者：　池上彰・佐藤優
出版社：　文春新書
出版年：　2015　ISBN：

aks202a248

翻訳教室

著者:　鴻巣友季子

出版社: ちくまプリマー新書

出版年: 2013　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 20% ）

参加度 （ 20% ）

必ずTOEICなどの英語検定試験を受験すること。20%分の評価に加える。また、欠席した場合、「プリント」を自宅で仕上げ提出すれば、遅れとしての出席を認める場合がある。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　占部　幹也	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

英語ビジネスコミュニケーション力の伸びは主にTOEICで測る。演習問題では70～80%以上の正答率を保持することを目標とする。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。テキストの設問を発展させ、解答理由の根拠を英語で述べたり、リーディングパッセージを要約して発表したり、一方通行ではないアクティブラーニングを行う。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Peopleをテーマにした問題を学ぶ
第3回　Travelをテーマにした問題を学ぶ
第4回　トリプル模試 第1回Listening Section＋解説
第5回　Listening Section 解説続き
第6回　Officeをテーマにした問題を学ぶ
第7回　Technologyをテーマにした問題を学ぶ
第8回　Purchasingをテーマにした問題を学ぶ
第9回　トリプル模試 第2回Listening Section＋解説
第10回　Listening Section 解説続き
第11回　Financesをテーマにした問題を学ぶ
第12回　Mediaをテーマにした問題を学ぶ
第13回　トリプル模試 第3回Listening Section＋解説
第14回　Listening Section 解説続き
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

SUCCESSFUL KEYS TO THE TOEIC TEST3　GOAL700
著者:　Mark D. Stafford　著
出版社:　桐原書店
出版年:　2015年1月　　ISBN:　9784342552953

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <b>**

クラス		配当回生	学部2回生
講義期間	後期	定　　員	40
履修条件	「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	ﾌｫｽﾀｰ ﾍﾝﾘｰ		

テーマ

An introduction to international business English

授業の到達目標

This course aims to give you confidence in communicating in everyday business situations, use and understand international English, and understand global business culture.

授業の概要

The course will require lots of spoken interaction with classmates as well as listening practice.

準備学習（予習・復習）

There will be weekly vocabulary quizzes based on the text book. Students will need to study the vocabulary regularly.

内　　容

第1回　Introduction
第2回　Unit 7: Complaints and problems
第3回　Unit 7: Complaints and problems (cont'd)
第4回　Unit 8: Checking progress
第5回　Unit 8: Checking progress (cont'd)
第6回　Unit 9: Future prospects
第7回　Unit 9: Future prospects (cont'd)
第8回　Review 1
第9回　Unit 10: Regulations and advice
第10回　Unit 10: Regulations and advice (cont'd)
第11回　Unit 11: Meetings and discussions
第12回　Unit 11: Meetings and discussions (cont'd)
第13回　Unit 12: Speaking in public
第14回　Unit 12: Speaking in public (cont'd)
第15回　Review 2

履修上の注意点

This course will be conducted in English. You must attend at least 2/3rds of the classes to pass.

教科書

Business Venture 2 (3/E) Student Book + Multi-ROM
著者:
出版社: Oxford University Press
出版年:　　ISBN: 9780194578189

参考書

成績評価

試験 （ 50 ）　　小テスト （ 50 ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　ｼﾞｪｰﾑｽ ﾃﾞｨｰｸﾞﾙ	

テーマ

Global Events and Topics

授業の到達目標

Students should be able to improve upon their reading, writing, speaking, and listening skills by discussing topics that are important on a global level and how they affect their lives and the lives of others

授業の概要

There will be varioius activities targeting the four skills through a variety of units. There will be a special concentration on comprehension and understanding of content and expression of ideas and thoughts regarding each of the units. There will also be supplementary materials when appropriate in addition to the text for various topics that will be introduced to and responsible for. This course will be taught in English

準備学習（予習・復習）

This is designed to be a communication class so a large focus will be upon communicating with other members of the class in various ways – so students should try their best to improve upon their ability in this regard.

内　容

第1回　Orientation
第2回　Communication 1
第3回　Communication 2
第4回　The Future 1
第5回　The Future 2
第6回　Shopping For Clothes 1
第7回　Shopping For Clothes 2
第8回　Review
第9回　Lifestyles 1
第10回　Lifestyles 2
第11回　Achievements 1
第12回　Achievements 2
第13回　Consequences 1
第14回　Consequences 2
第15回　Final Review

履修上の注意点

教科書

World English 1 Student Book with Online Workbook
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:　9781305089549

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　高居　佐紀	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Part 1対策：2人の人物、Part 2対策：問題文に注意する
第3回　Part 3対策：必要な情報を聞き取る
第4回　Part 4対策：トークの概要をつかむ
第5回　模擬試験TEST1リスニングテスト演習・解答及びリーディング・リスニングパートの解説
第6回　模擬試験TEST1リーディング・リスニングパートの解説
第7回　Part 3対策：問題と解決策についての会話、Part 3対策：人物の行動
第8回　Part 4対策：アナウンスメント、Part 1対策：人が小さく風景が大きい写真
第9回　Part 2対策：否定疑問文、Part 3対策：会話のテーマを聞き取る
第10回　Part 2対策：提案に答える 、Part 3対策：提案を含んだ会話
第11回　Part 4対策：指示内容を聞き取る、Part 2対策：総合問題
第12回　Part 3対策：理由に関する設問 、Part 4対策：詳細をつかむ
第13回　模擬試験TEST2リスニングテスト演習・解答及びリーディング・リスニングパートの解説
第14回　リスニングテスト演習及び解答解説
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Sapphire
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：2013年6月　　ISBN：

ECC TOEIC TEST CLINIC Sapphire　模試
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：2013年6月　　ISBN：

ECC TOEIC TEST CLINIC Ruby　模試
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：2014年10月　　ISBN：

参考書

成績評価

aks202a354

試験 （ 30 ）　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <e>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　田中　美和子	

テーマ

国際語としての英語を身に付けて、世界に発信する

授業の到達目標

グローバルに活躍するためには、英語でのプレゼンテーション能力が必要とされます。この授業では、英語でのプレゼンテーションを実際に行うことを通して、発信力としてのスピーキングとライティング、受容力としてリスニングとリーディングの四技能を、総合的に、プロジェクト・ベーストで、学んでいきます。コミュニケーションに必要とされる文法能力、テーマに関連する語彙力を身に付け、パワーポイントを作成して、自分の言いたいこと、伝えたいことを、自分なりに英語で表現することができるようになることを目標とします。

授業の概要

「日本の魅力」など複数のテーマで、2分間以上（150 words～）のプレゼンテーションを、準備に3週間かけ4週目で発表をします。発表は全て英語、原稿を手に持って読むことは禁止です。前期でうまくいかなかった点を、各自、後期のプロジェクトにおいて課題としましょう。そして、ただ英語を棒読みするのではなく、オーディエンスの心に届くよう、聞き手の立場に立ったプレゼンテーションができるように、練習します。

準備学習（予習・復習）

英語の発表原稿を用意したり、発表内容を英語で暗記したりするには、1週間に授業時間外で1～3時間かかると考えておいて下さい。また授業中に英文法を学ぶ時間が少ないので、授業外で自分でそれを補って下さい。テキストについているDVDは、発表前に見ておいてください。そして、英語の歌やドラマ、また映画などに、普段から触れておきましょう。

内　容

第1回　Orientation ＆ Icebreaking
第2回　Project4-1:Introducing Japan: Speech Writing
第3回　Project4-2:Introducing Japan: Making PowerPoint
第4回　Project4-3:Introducing Japan: Revise ＆ Rehearsal
第5回　Presentation4
第6回　Project5-1:Discussing Social Issues: Speech Writing
第7回　Project5-2:Discussing Social Issues: Making PowerPoint
第8回　Project5-3:Discussing Social Issues: Revise ＆ Rehearsal
第9回　Presentation5
第10回　Review
第11回　Project6-1:Talking about Future Plans: Speech Writing
第12回　Project6-2:Talking about Future Plans: Making PowerPoint
第13回　Project6-3:Talking about Future Plans: Revise ＆ Rehearsal
第14回　Presentation6
第15回　Review

履修上の注意点

発表原稿、パワーポイントなどには提出期限があり、遅れると加点されません。また、遅刻3回で参加度から−1となり、グループ発表で欠席すると参加度から-2となります。なお、授業には、英和辞書が必要です。

教科書

Presentations to Go　DVDで学ぶ　はじめての英語プレゼンテーション
著者：　松岡昇　立野貴之　三宅ひろ子
出版社：センゲージラーニング株式会社
出版年：2014　　ISBN：　9484863122642

参考書

「意味順」英語学習法
著者：　田地野彰
出版社：(株)ディスカバー・トゥエンティワン
出版年：2011　　ISBN：　9784799310995

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 30 ）

aks202a355

参加度 （ 40 ）

プレゼンのクラスでは、発表を聞く場合のマナーも大切です。クラス全体でよい雰囲気を作り上げていくことが必要となりますので、上記以外に「協調性」も評価に入ります。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <f>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　小川　享子	

テーマ

TOEIC テストの受験準備を通して英語読解力、文法力をアップしよう

授業の到達目標

スコアを伸ばす（少なくとも15点以上）。語彙力を増やす。文法力を増す。目的に合わせて英文を読む力を養う。

授業の概要

復習語彙・文法小テスト文法事項のまとめのあとPart5, 6, 7の演習問題をする。

準備学習（予習・復習）

復習語彙・文法小テストの準備、語彙力をアップさせるためにも語彙を復習する

内　容

第1回　Unit 1 Daily life　品詞の違い、広告を読む
第2回　Unit 2　Places　カードを読む
第3回　Unit 3 People　代名詞、図表と手紙を読む
第4回　Unit 4 Travel　案内を読む文法まとめ小テスト
第5回　Unit 5 Business 動詞の形、通知・メモを読む
第6回　Unit 6 Office　手紙を読む
第7回　Unit 7 Technology　語彙関連、図表、手紙を読む文法まとめ小テスト
第8回　Unit 8 Personnel　記事を読むUnit 9 Management 接続詞
第9回　Unit 9 Management通知を読むUnit 10 Purchasing 手紙とレシートを読む
第10回　Unit 11 Finances 時制、レシピを読むUnit 12 Media 記事を読む
第11回　Unit 13 Entertainment 前置詞unit 15 Restaurant 熟語
第12回　文法まとめ小テスト　模擬テスト
第13回　模擬テスト
第14回　時事英語を読む
第15回　時事英語を読む

履修上の注意点

辞書を必ず携帯する授業中に携帯を触った場合、成績から減点する

教科書

Successful Keys to the TOEIC Test Goal 500
著者:　水本篤, Mark D. Stafford
出版社:　ピアソン桐原
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 5 ）
参加度　（ 10 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%授業中課題、発表、参加度は合わせて25%とする

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <g>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　山﨑 清水	

テーマ

総合的な英語運用能力を習得する。

授業の到達目標

総合的な英語力を養うと同時に異国の文化や風習を理解することを目指す。

授業の概要

安易な英語で書かれた様々な国の文化や風習を学び、英語運用能力を養う。

準備学習（予習・復習）

詳細は授業で説明する。

内　容

第1回　Carving the History of the Earth
第2回　The Lying Dragon
第3回　Monument to the Beloved
第4回　Where Ancient Spirits Live
第5回　Beautiful Paris, Forever
第6回　Hidden City
第7回　The Challenge to Find Longitude
第8回　The Maze City
第9回　A Tragic Masquerade
第10回　Underground Towns
第11回　A Nation of Civility
第12回　The Water Palace
第13回　A Landscape Shaped by Glaciers
第14回　Reawakened City
第15回　The Memory of the Holocaust

履修上の注意点

私語は慎むこと。

教科書

Exploring World Heritage on DVD
著者:　Hisakazu Tsukano / Robert Van Benthuysen / Kenichi Ohyama
出版社:　成美堂
出版年:　2010　　ISBN:　9784791931187

参考書

成績評価

試験　（ 50 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 10 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <h>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　久保田　美佳	

テーマ

時事英語への発展。

授業の到達目標

比較的平易な英語で書かれた英文記事を読めるようになる。時事英語に関連した基本語彙を学習する。授業で検討したそれぞれの社会的問題についての意識を高める。英語の音とリズムに慣れる。

授業の概要

英文テキストの内容を正確に読み取る練習を続けます。テキスト付属の音源その他で英語の音とリズムに慣れる練習をします。

準備学習（予習・復習）

語彙の復習は欠かさず行い定着させ、授業外でも音読をするなどして毎日英語に触れる習慣を付けて下さい。

内　容

第1回　Chapter 7 Hikikomori
第2回　Chapter 7 Hikikomori
第3回　Chapter 8 Cults
第4回　Chapter 8 Cults
第5回　Chapter 9 Baby Boomers Retire
第6回　Chapter 9 Baby Boomers Retire
第7回　Review
第8回　Chapter 10 Immigration
第9回　Chapter 11 Telecommuting
第10回　Chapter 11 Telecommuting, Chapter 12 Buying Organs
第11回　Chapter 12 Buying Organs, Chapter 13 Surrogate Mother
第12回　Chapter 13 Surrogate Mother, Chapter 14 Baby Hatch
第13回　Chapter 14 Baby Hatch, Chapter 15 Eating Disorder
第14回　Chapter 15 Eating Disorder, Summary
第15回　Review

履修上の注意点

単語テストを定期的に行うので、出席は大切です。

教科書

Keywords for Japan Today
著者：　Paul Stapleton
出版社：Cengage Learning
出版年：2008　　ISBN：　9784863120433

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 80 ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 20 ）
小テストや復習テストを定期的行い習熟度をチェックします。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <i>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　溝部　芳子	

テーマ

TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEICリーディングに必要な語彙力および文法、読解力の育成を目的とする。

授業の概要

TOEIC頻出の文法項目の再確認をしつつ、リーディングパートを量的にこなすことに主眼を置き、スピーディにしかも正確に英文を処理する力の育成をめざす。問題を解いた後、ペアワークで、構文の理解やキーセンテンスの確認などを行い、確実に英文を理解する力をつけて行く。終盤では総合演習を行い、適宜時事英語も扱う。

準備学習（予習・復習）

語彙学習 （予習・30分程度） リーディングタスク（宿題・40分程度）、日ごろから英語で情報を取り入れることを習慣化すること。

内　容

第1回　時制(1)
第2回　時制(2)
第3回　助動詞
第4回　フレーズリーディング
第5回　代名詞
第6回　前置詞
第7回　接続詞
第8回　スキャニング
第9回　関係詞
第10回　分詞構文
第11回　仮定法
第12回　スキミング
第13回　総合演習 （1）
第14回　総合演習 （2）
第15回　総合演習 （3）

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。辞書を持ってくること。TOEIC自己目標スコアを設定し、集中力を持って授業に臨むこと。

教科書

The TOEIC Test Trainer Target 650
著者:　山口昌彦　他
出版社:　Cengage Learning
出版年:　2016　　ISBN:　9784863122741

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 30% ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <j>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　川口　玲子	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Part 1対策：2人の人物、Part 2対策：問題文に注意する
第3回　Part 3対策：必要な情報を聞き取る
第4回　Part 4対策：トークの概要をつかむ
第5回　模擬試験TEST1リスニングテスト演習・解答及びリーディング・リスニングパートの解説
第6回　模擬試験TEST1リーディング・リスニングパートの解説
第7回　Part 3対策：問題と解決策についての会話、Part 3対策：人物の行動
第8回　Part 4対策：アナウンスメント、Part 1対策：人が小さく風景が大きい写真
第9回　Part 2対策：否定疑問文、Part 3対策：会話のテーマを聞き取る
第10回　Part 2対策：提案に答える 、Part 3対策：提案を含んだ会話
第11回　Part 4対策：指示内容を聞き取る、Part 2対策：総合問題
第12回　Part 3対策：理由に関する設問 、Part 4対策：詳細をつかむ
第13回　模擬試験TEST2リスニングテスト演習・解答及びリーディング・リスニングパートの解説
第14回　リスニングテスト演習及び解答解説
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Sapphire
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：2013年6月　　ISBN：

ECC TOEIC TEST CLINIC Sapphire　模試
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：2013年6月　　ISBN：

ECC TOEIC TEST CLINIC Ruby　模試
著者：　ECC
出版社：ECC
出版年：2014年10月　　ISBN：

参考書

成績評価

aks202a360

試験 （ 30 ）　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <k>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　櫃本　一美	

テーマ

実用的な英語のリーディングと文法の習得。

授業の到達目標

基本的な文法を復習しながら、日常生活に関係した情報を英語で正確に読み、また、伝達できるようになる。

授業の概要

テキストに加えに、速読や文法のプリントに基づいて学習する。

準備学習（予習・復習）

授業中、自宅での課題を確実にこなす。

内　容

第1回　1)Unit62)接続詞
第2回　1)Unit62)接続詞
第3回　1)Unit62)接続詞
第4回　1)Unit72)関係詞
第5回　1)Unit72)関係詞
第6回　1)Unit82)関係詞
第7回　1)Unit82)関係詞
第8回　復習
第9回　1)Unit92)比較
第10回　1)Unit92)比較
第11回　1)Unit102)比較
第12回　1)Unit102)仮定法
第13回　1)Unit112)仮定法
第14回　1)Unit112)仮定法
第15回　復習

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要。テキストは通年使用する。

教科書

Real　Reading 1
著者：　Liz Driscoll
出版社：　Cambridge University Press
出版年：　　ISBN：　9780521702027

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <I>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　野口　博代	

テーマ

世界中で起こる様々な現代社会の問題を英語で学ぶ。

授業の到達目標

英語でニュースを聞いて、その内容について議論することで、リスニングとスピーキングの力の向上を目指す。さらにニュースの内容に関連した英文を読み、英語で質問に答えることで、語彙・文法の強化と読解力、ライティングの力を養う。

授業の概要

AFPのニュース映像を教材に、リスニング練習を行い、内容確認を英語と日本語で行う。さらにニュースに関連した英文を読み、語彙・文法の確認。内容把握。英語の質問に英語で答える練習を行う。

準備学習（予習・復習）

テキスト付属のCDを授業の予習、復習に十分活用すること。読解用の英文は必ず語彙や内容を確認してから授業に臨むこと。

内　容

第1回　オリエンテーションLesson 9 DVD Viewing
第2回　Lesson 9 KENYA: Wildlife and DevelopmentListening and comprehension
第3回　Lesson 9 Reading and GrammarLesson 10 DVD viewing
第4回　Lesson 10 UK: Fight after WorkListening and comprehension
第5回　Lesson 10 Reading and GrammarLesson 11 DVD viewing
第6回　Lesson 11 PORTUGAL: Bilingual EducationListening and comprehension / Reading and Grammar
第7回　Lesson 12 GERMANY: The Berlin WallDVD viewing / Listening and comprehension
第8回　Lesson 12 Reading and GrammarLesson 13 DVD viewing
第9回　Lesson 13 FRANCE: Luxurious Items Listening and comprehension
第10回　Lesson 13 Reading and GrammarLesson 14 DVD viewing
第11回　Lesson 14 SIERRA LEONE: Ebola and VolunteeringListening and comprehension / Reading and Grammar
第12回　Lesson 15 JAPAN: Immigration PolicyDVD viewing / Listening and comprehensionReading and Grammar
第13回　Lesson 16 U.S.A.: Future TechnologyDVD viewing / Listening and comprehension
第14回　Lesson 16 Reading and Grammar
第15回　Lesson 9 ~ Lesson 16 Review and Comprehension Check

履修上の注意点

単位取得には2/3以上の出席が必要。

教科書

AFP World News Report 3
著者:　宍戸真・Kevin Murphy・高橋真理子
出版社:　成美堂
出版年:　2016　　ISBN:　9784791947935

参考書

成績評価

試験　（ 50　％ ）　　小テスト（ 0　％ ）
授業中課題（ 30　％ ）　　授業中発表等（ 10　％ ）
参加度　（ 10　％ ）
上記評価の授業中課題には授業外課題も含まれ、小テストに代わるものとして全て評価対象となる。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <m>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　原　俊樹	

テーマ

一段上の英語力を身につけよ

授業の到達目標

ⅢAと同様に、実践的な英語運用能力を身につける

授業の概要

基本的には各ユニットに沿って授業を進める。

準備学習（予習・復習）

予習・復習を確実にしてくること。

内　　容

第1回　テキスト前半部の学習内容の整理と確認
第2回　基礎力判定実力テスト英文の基本表現の確認1：英文の成り立ち・主語と述語動詞のとらえ方
第3回　英文の基本表現の確認2：5文型
第4回　英文の基本表現の確認3：文の要素・修飾語句
第5回　叙法
第6回　関係詞（関係代名詞と関係副詞）
第7回　助動詞の用法1
第8回　助動詞の用法2
第9回　話法
第10回　比較
第11回　否定
第12回　疑問
第13回　複雑な構造を持つ文の理解1：接続語句と重文・複文
第14回　複雑な構造を持つ文の理解2：分詞構文
第15回　後期のまとめ・到達度の確認

履修上の注意点

教科書

English through the News Media 2016 edition
著者：　MasamiTakahashi/ Noriko Itoh/ RichardPowell
出版社：Asahi Press
出版年：２０１６　　ISBN：　9784255155494

参考書

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 10% ）　　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 10% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <n>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　野口　博代	

テーマ

世界中で起こる様々な現代社会の問題を英語で学ぶ。

授業の到達目標

英語でニュースを聞いて、その内容について議論することで、リスニングとスピーキングの力の向上を目指す。さらにニュースの内容に関連した英文を読み、英語で質問に答えることで、語彙・文法の強化と読解力、ライティングの力を養う。

授業の概要

AFPのニュース映像を教材に、リスニング練習を行い、内容確認を英語と日本語で行う。さらにニュースに関連した英文を読み、語彙・文法の確認。内容把握。英語の質問に英語で答える練習を行う。

準備学習（予習・復習）

テキスト付属のCDを授業の予習、復習に十分活用すること。読解用の英文は必ず語彙や内容を確認してから授業に臨むこと。

内　容

第1回　オリエンテーションLesson 9 DVD Viewing
第2回　Lesson 9 KENYA: Wildlife and DevelopmentListening and comprehension
第3回　Lesson 9 Reading and GrammarLesson 10 DVD viewing
第4回　Lesson 10 UK: Fight after WorkListening and comprehension
第5回　Lesson 10 Reading and GrammarLesson 11 DVD viewing
第6回　Lesson 11 PORTUGAL: Bilingual EducationListening and comprehension / Reading and Grammar
第7回　Lesson 12 GERMANY: The Berlin WallDVD viewing / Listening and comprehension
第8回　Lesson 12 Reading and GrammarLesson 13 DVD viewing
第9回　Lesson 13 FRANCE: Luxurious Items Listening and comprehension
第10回　Lesson 13 Reading and GrammarLesson 14 DVD viewing
第11回　Lesson 14 SIERRA LEONE: Ebola and VolunteeringListening and comprehension / Reading and Grammar
第12回　Lesson 15 JAPAN: Immigration PolicyDVD viewing / Listening and comprehensionReading and Grammar
第13回　Lesson 16 U.S.A.: Future TechnologyDVD viewing / Listening and comprehension
第14回　Lesson 16 Reading and Grammar
第15回　Lesson 9 ~ Lesson 16 Review and Comprehension Check

履修上の注意点

単位取得には2/3以上の出席が必要。

教科書

AFP World News Report 3
著者:　宍戸真・Kevin Murphy・高橋真理子
出版社:　成美堂
出版年:　2016　　ISBN:　9784791947935

参考書

成績評価

試験　（ 50　％ ）　　小テスト（ 0　％ ）
授業中課題（ 30　％ ）　　授業中発表等（ 10　％ ）
参加度　（ 10　％ ）
上記評価の授業中課題には授業外課題も含まれ、小テストに代わるものとして全て評価対象となる。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <o>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　川口　玲子	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション、Part 5対策：接続詞・前置詞、宿題説明
第2回　Part 6対策：接続詞・接続副詞、
第3回　Part 7対策（シングル）：主旨を素早くつかむ、Part 7対策（ダブル）：2文書を関連させて解く
第4回　模擬試験TEST1リーディングテスト演習及び解答
第5回　Part 5対策：不定詞・動名詞、・ Part 6対策：動詞の語法
第6回　Part 7対策（シングル）：難易度が高い語句を含む問題、Part 5対策：現在分詞・過去分詞
第7回　Part 6対策：総合問題、 Part 7対策（シングル）：手紙
第8回　Part 5対策：総合問題、Part 7対策（シングル）：言い換えされた答え
第9回　Part 5対策：総合問題、Part 6対策：前置詞・前置詞句
第10回　Part 7対策（シングル）：スキミングで大意をつかむ、 Part 7対策（ダブル）：情報量の多いメール・手紙
第11回　模擬試験TEST2リーディングテスト演習及び解答
第12回　模擬試験TEST2リーディング・リスニングパートの解説
第13回　TEST 1 リーディングテスト演習及び解答TEST 1 リーディングテスト解説
第14回　TEST 2 リーディングテスト演習及び解答 TEST 2 リーディングテスト解説
第15回　試験

履修上の注意点

教科書

新 TOEIC Test レベル判定模試
著者：　小山克明, David Rondeau, Kevin Glenz, Sebastian Brooke 著
出版社：Z会
出版年：2007年9月　　ISBN：　9784862900012

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <p>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　原　俊樹	

テーマ

一段上の英語の運営能力を身につける

授業の到達目標

ⅢAと同様に、英語の理解・運用の能力を身につける。

授業の概要

ⅢA同様に基本的にはテキストの各ユニットに沿って授業を進める習熟度・理解度をみるための小テスト・実力テスト・課題を用意します

準備学習（予習・復習）

予習・復習を確実にすること

内　　容

第1回　テキスト前半部（ⅢA範囲）の学習内容の整理と確認
第2回　基礎力判定テスト英文の基本表現の確認1：英文の成り立ち・主語と述語動詞のとらえ方
第3回　英文の基本表現の確認2：5文型
第4回　英文の基本構造の確認3：文の要素と修飾語句
第5回　叙法：直説法・命令法・仮定法
第6回　関係詞：関係代名詞と関係副詞
第7回　助動詞の用法1
第8回　助動詞の用法2
第9回　話法
第10回　比較
第11回　否定
第12回　疑問
第13回　複雑な構造を持つ文の理解1：接続語句と重文・複文
第14回　複雑な構造を持つ文の理解2：分詞構文
第15回　後期のまとめ・到達度の確認

履修上の注意点

教科書

Understanding Health Care
著者：　Tsukimaro Nishimura/ David I. Brooks/ etc.
出版社：Asahi Press
出版年：2011　　ISBN：　9784255155036

参考書

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト （ 20% ）
授業中課題 （ 10% ）　　授業中発表等 （ 10% ）
参加度　（ 10% ）

Syllabus

科 目 名	英語ⅣA <TOEIC>		
クラス		配当回生	
講義期間	後期	定　　員	40
履修条件	「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	mitei		
テーマ			
授業の到達目標			
授業の概要			
準備学習（予習・復習）			
内　　容			
履修上の注意点			
教科書			
参考書			
成績評価			

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名	英語ⅣA <Gen>		
クラス		配当回生	
講義期間	その他	定　員	40
履修条件	「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	（休講）		
テーマ			
授業の到達目標			
授業の概要			
準備学習（予習・復習）			
内　容			
履修上の注意点			
教科書			
参考書			

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣA <R>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ⅠA」または「英語ⅡA」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　杉山 泰	

テーマ

英日翻訳を実践していくことで、日英語の違いを学んでいく

授業の到達目標

日本は翻訳天国と言われている。世界哲学全集を日本語で読める国などそう多くはない。大学の医学部で全て日本語で講義できる国はアジアでは日本だけと言えるだろう。「十二指腸」や「盲腸」という翻訳日本語は、オランダ語から生まれている。カタカナ日本語が氾濫している現在、英語から日本語にどうしたら翻訳できるのか、その技術を「翻訳英文法」として学んでいく。

授業の概要

日本語に翻訳しづらいS+V+C構文やS+V+O構文という「名詞中心構文」をどうしたら「動詞中心構文」の日本語に翻訳できるか、具体的に英文を読み、翻訳していく。

準備学習（予習・復習）

毎回、「翻訳プリント」を訳してもらう。辞書の持参が必要。

内　容

第1回　英日翻訳とは何か。To be or not to be: that is the question.をどう訳すのか？
第2回　主語あり英語を主語なし日本語にどう訳すのか？
第3回　厄介な＜代名詞＞の訳し方（「彼」「彼女」「それ」と訳してはダメ）
第4回　名詞中心構文をどう動詞中心構文に訳すのか？（I have a fear of death＝いつか死ぬという不安がある＝死ぬのは怖い）
第5回　名詞中心構文の代表選手＜関係代名詞＞の訳し方
第6回　前から訳せ、＜関係代名詞＞という鉄則
第7回　魔法の杖＜that＞という接続詞の訳し方
第8回　＜時制＞という魔物（「秋でした」はいいが、「美しいでした」は？）
第9回　歴史書はすべて＜過去形＞で訳せばいいのか？（日本語に＜時制＞はない）
第10回　＜間接話法＞は＜直接話法＞で訳せ（日本語は直接話法が好き）
第11回　＜隠れた文化＞をどう訳すか？（Good morningはなぜ「おはよう」なのか？）
第12回　＜ベッドの文化＞を＜畳の文化＞にどう訳せばいいのか？
第13回　drinkと「飲む」、waterと「水」はどう違うのか？英日語対照による、＜意味＞のずれ
第14回　英日翻訳の実践（日本語に存在しない英語をどう訳すのか？）
第15回　英日翻訳の実践（児童文学の翻訳）

履修上の注意点

毎回「プリント」を配布して翻訳実践していくので、そのプリントを仕上げて提出してもらう。それを翌週に添削返却するので各自添削されたプリントをファイルしておくこと。

教科書

杉山泰「プリント」
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

初めて学ぶ「翻訳」「通訳」
著者：　杉山泰ほか
出版社：　松柏社
出版年：　1999　ISBN：

実践　日本人の英語
著者：　マーク・ピーターセン
出版社：　岩波新書
出版年：　2013　ISBN：

aks202a369

日本語は敬語があって主語がない

著者:　金谷武洋

出版社: 光文社新書

出版年: 2010　　ISBN:

翻訳教室

著者:　鴻巣友季子

出版社: ちくまプリマー新書

出版年: 2013　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 20% ）

20%はTOEICの検定試験を受けることが必要だし、レポートの提出も必要となる。欠席した場合は、プリントの提出で遅れの出席を認めることがあるので、必ずプリントを貰いに来ること。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　占部　幹也	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

英語ビジネスコミュニケーション力の伸びは主にTOEICで測る。演習問題では70～80%以上の正答率を保持することを目標とする。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。テキストの設問を発展させ、解答理由の根拠を英語で述べたり、リーディングパッセージを要約して発表したり、一方通行ではないアクティブラーニングを行う。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　Daily Lifeをテーマにした問題を学ぶ
第2回　Placesをテーマにした問題を学ぶ
第3回　Businessをテーマにした問題を学ぶ
第4回　トリプル模試 第１回Reading Sec
第5回　Reading Section 解説続き
第6回　Personnelをテーマにした問題を学ぶ
第7回　Managementをテーマにした問題を学ぶ
第8回　Review
第9回　トリプル模試 第2回Reading Section＋解説
第10回　Reading Section 解説続き
第11回　Entertainmentをテーマにした問題を学ぶ
第12回　Healthをテーマにした問題を学ぶ
第13回　Restaurantsをテーマにした問題を学ぶ
第14回　トリプル模試 第3回Reading Section＋解説
第15回　総復習

履修上の注意点

教科書

TOEICテスト　新・最強　トリプル模試1
著者：　神崎正哉／著　小林美和／著　森田鉄也／著
出版社：ジャパンタイムズ
出版年：2010年4月　　ISBN：　9784789013888

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　田中　美和子	

テーマ

国際語としての英語を身に付けて、世界に発信する

授業の到達目標

グローバルに活躍するためには、英語でのプレゼンテーション能力が必要とされます。この授業では、英語でのプレゼンテーションを実際に行うことを通して、発信力としてのスピーキングとライティング、受容力としてリスニングとリーディングの四技能を、総合的に、プロジェクト・ベーストで、学んでいきます。コミュニケーションに必要とされる文法能力、テーマに関連する語彙力を身に付け、パワーポイントを作成して、自分の言いたいこと、伝えたいことを、自分なりに英語で表現することができるようになることを目標とします。

授業の概要

「日本の魅力」など複数のテーマで、2分間以上（150 words～）のプレゼンテーションを、準備に3週間かけ4週目で発表をします。発表は全て英語、原稿を手に持って読むことは禁止です。前期でうまくいかなかった点を、各自、後期のプロジェクトにおいて課題としましょう。そして、ただ英語を棒読みするのではなく、オーディエンスの心に届くよう、聞き手の立場に立ったプレゼンテーションができるように、練習します。

準備学習（予習・復習）

英語の発表原稿を用意したり、発表内容を英語で暗記したりするには、1週間に授業時間外で1～3時間かかると考えておいて下さい。また授業中に英文法を学ぶ時間が少ないので、授業外で自分でそれを補って下さい。テキストについているDVDは、発表前に見ておいてください。そして、英語の歌やドラマ、また映画などに、普段から触れておきましょう。

内　容

第1回　Orientation ＆ Icebreaking
第2回　Project4-1:Introducing Japan: Speech Writing
第3回　Project4-2:Introducing Japan: Making PowerPoint
第4回　Project4-3:Introducing Japan: Revise ＆ Rehearsal
第5回　Presentation4
第6回　Project5-1:Discussing Social Issues: Speech Writing
第7回　Project5-2:Discussing Social Issues: Making PowerPoint
第8回　Project5-3:Discussing Social Issues: Revise ＆ Rehearsal
第9回　Presentation5
第10回　Review
第11回　Project6-1:Talking about Future Plans: Speech Writing
第12回　Project6-2:Talking about Future Plans: Making PowerPoint
第13回　Project6-3:Talking about Future Plans: Revise ＆ Rehearsal
第14回　Presentation6
第15回　Review

履修上の注意点

発表原稿、パワーポイントなどには提出期限があり、遅れると加点されません。また、遅刻3回で参加度から−1となり、グループ発表で欠席すると参加度から-2となります。なお、授業には、英和辞書が必要です。

教科書

Presentations to Go　DVDで学ぶ　はじめての英語プレゼンテーション
著者：　松岡昇　立野貴之　三宅ひろ子
出版社：センゲージラーニング株式会社
出版年：2014　　ISBN：　9484863122642

参考書

「意味順」英語学習法
著者：　田地野彰
出版社：(株)ディスカバー・トゥエンティワン
出版年：2011　　ISBN：　9784799310995

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 30 ）

aks202a452

参加度 （ 40 ）

プレゼンのクラスでは、発表を聞く場合のマナーも大切です。クラス全体でよい雰囲気を作り上げていくことが必要となりますので、上記以外に「協調性」も評価に入ります。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　松村　優子	

テーマ

AFP-World Academic Archiveのニュースを視聴しながら、現代社会の様々な問題・現象を理解し、読解・リスニングを中心とした英語総合力を向上させることを目指す。

授業の到達目標

1. DVDを視聴しながら英文ニュースの構造や表現などに慣れる。2. ニュースで扱われている現代社会の様々な問題に対する認識、関心を高める。3. ニュース・トピックに関する語彙力、聴解力、読解力、文法力などの総合力を伸ばす。

授業の概要

各章はListening (L), Reading (R)部門に分かれている。前期と同様に1つの章を2回の授業で以下の順通りに進める。L: 1.Key Word Study 2. Listening Practice (T/F Questions) 3. Listening Practice (Dictation) 4. Comprehension Check, SummaryR: 1. Vocabulary Check 2. Comprehension Questions 3. Grammar Check 4. Discussionさらに、発表形式も取り入れていく。

準備学習（予習・復習）

DVDを利用して、テキスト指定箇所の予習、復習をすること。

内　容

第1回　前期と同じテキストLesson 8 Smartphones
第2回　Lesson 8 Smartphones
第3回　Lesson 9 Wildlife and Development
第4回　Lesson 9 Wildlife and Development
第5回　Lesson 10 Fight after Work
第6回　Lesson 10 Fight after Work
第7回　Lesson 11 Bilingual Education
第8回　Lesson 11 Bilingual Education
第9回　Lesson 12 The Berlin Wall
第10回　Lesson 12 The Berlin Wall
第11回　Lesson 13 Luxurious Items
第12回　Lesson 13 Luxurious Items
第13回　Lesson 15 Future Technology
第14回　Lesson 15 Future Technology復習、復習テスト
第15回　復習、復習テスト

履修上の注意点

1. テキスト指定箇所を予習してきたことを前提に授業を進める。2. 2回の授業でテキスト1章のペースで進む予定であるが、学習状況により進め方の変更や調整もある。

教科書

AFP World News Report 3 <AFPニュースで見る世界3>
著者:　宍戸　真他
出版社:　成美堂
出版年:　2016　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0% ）	小テスト （ 60% ）
授業中課題 （ 10% ）	授業中発表等 （ 15% ）
参加度 （ 15% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　高居 佐紀	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション、Part 5対策：接続詞・前置詞、宿題説明
第2回　Part 6対策：接続詞・接続副詞、
第3回　Part 7対策（シングル）：主旨を素早くつかむ、Part 7対策（ダブル）：2文書を関連させて解く
第4回　模擬試験TEST1リーディングテスト演習及び解答
第5回　Part 5対策：不定詞・動名詞、・ Part 6対策：動詞の語法
第6回　Part 7対策（シングル）：難易度が高い語句を含む問題、Part 5対策：現在分詞・過去分詞
第7回　Part 6対策：総合問題、 Part 7対策（シングル）：手紙
第8回　Part 5対策：総合問題、Part 7対策（シングル）：言い換えされた答え
第9回　Part 5対策：総合問題、Part 6対策：前置詞・前置詞句
第10回　Part 7対策（シングル）：スキミングで大意をつかむ、 Part 7対策（ダブル）：情報量の多いメール・手紙
第11回　模擬試験TEST2リーディングテスト演習及び解答
第12回　模擬試験TEST2リーディング・リスニングパートの解説
第13回　TEST 1 リーディングテスト演習及び解答TEST 1 リーディングテスト解説
第14回　TEST 2 リーディングテスト演習及び解答 TEST 2 リーディングテスト解説
第15回　試験

履修上の注意点

教科書

新 TOEIC Test レベル判定模試【2】
著者：　小山克明, David Rondeau, Kevin Glenz, Sebastian Brooke 著
出版社：Z会
出版年：2007年9月　　ISBN：　9784862900012

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <e>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　ﾌﾞﾗｲｱﾝﾊﾞｽｶｳﾞｨﾙ	

テーマ

Expressing More of Your Ideas in English

授業の到達目標

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills.

授業の概要

This course will be taught in English

準備学習（予習・復習）

If you forgot to bring your textbook and dictionary, you must make a copy of the next pages in the textbook and borrow a dictionary BEFORE class starts. Also, review the last lesson, look ahead at the next pages and check your dictionary for any new words.

内　容

第1回　introductions
第2回　classroom English
第3回　movies
第4回　television
第5回　work-A
第6回　work-B
第7回　health-A
第8回　health-B
第9回　love & marriage
第10回　music
第11回　books
第12回　places in Japan
第13回　Japanese culture
第14回　talking about Japan
第15回　review

履修上の注意点

If you forget your textbook, you must photocopy the necessary pages from a classmate's book BEFORE class starts.

教科書

Let's Chat
著者：　John Pak
出版社：EFL Press
出版年：2007　　ISBN：　4580244420056

参考書

成績評価

試験　（ 20 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <f>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　員　40
履修条件　「英語ＩB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　小川　享子	

テーマ

TOEIC テストの受験準備を通してリスニング力をアップしよう

授業の到達目標

スコアを伸ばす（少なくとも15点以上）。語彙力を増やす。目的に合わせてリスニング問題の英文を速く読む力を養う。

授業の概要

予習語彙小テスト宿題のリスニング課題問題のチェック（さらなるリスニング演習）

準備学習（予習・復習）

語彙の学習が予習となり、それを踏まえての小テストとなるので、授業の前に該当範囲を予習する。数回分のユニットを学習後、同じリスニング教材を使って復習テストをするので、繰り返し聞くこと。

内　容

第1回　授業や評価方法の説明、宿題、語彙テストのやり方の説明Unit 1 Daily life
第2回　Unit2 Places
第3回　Unit 3 People
第4回　Unit 4 Travel音声復習テスト
第5回　Unit 5 Business
第6回　Unit 6 Office
第7回　Unit 7 Technology音声復習テスト
第8回　Unit 8 Personnel
第9回　Unit 9 Management
第10回　Unit 10 Purchasing音声復習テスト
第11回　Unit 11 Finances
第12回　Unit 12 Media
第13回　Unit 13 Health音声復習テスト
第14回　時事英語を読む
第15回　時事英語を読む

履修上の注意点

必ず辞書を携帯すること。授業中に携帯を触った場合は成績より減点をする。音声はDownloadによる教材なので、しない学生は成績より5点減点する

教科書

Successful Keys to the TOEIC Test Goal 500
著者：　水本篤, Mark D. Stafford
出版社：ピアソン桐原
出版年：2015　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 25 ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 10 ）　　授業中発表等（ 5 ）
参加度　（ 10 ）
上記に加えて学期末英語テスト20%授業中課題、発表、参加度は合わせて25%で計算する。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <g>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　クーラン コーリ	

テーマ

Travel English

授業の到達目標

Continue to learn and improve on the basics of travel and survival English.

授業の概要

This course will be taught in English We will continue to follow four young Japanese students as they travel abroad and introduce Japan to overseas guests. The course introduces key language needed for speaking English at home or abroad.

準備学習（予習・復習）

Whenever possible, the teacher will introduce new methods (through free smartphone apps, free online English learning websites, DVDs, etc) for the students to take advantage of to further their Travel English studies in their free time.

内　容

第1回　Welcome back, fall semester preview, and begin Unit 7 "Do you want to go to a concert?"
第2回　Finish Unit 7
第3回　Begin Unit 8 "I have to study."
第4回　Finish Unit 8
第5回　Begin Unit 9 "Did you go on the rollercoaster?"
第6回　Finish Unit 9
第7回　Review and reflection of Units 7 to 9
第8回　Begin Unit 10 "I think I'm lost!"
第9回　Finish Unit 10
第10回　Begin Unit 11 "Have you been to Kyoto?"
第11回　Finish Unit 11
第12回　Begin Unit 12 "Are the hotdogs ready yet?"
第13回　Finish Unit 12
第14回　Review and reflection of Units 10 to 12
第15回　Review and recap of semester

履修上の注意点

**You must attend 10 or more classes to receive credit for the course. **More than half of your grade will be based on your in-class performance.

教科書

My First Passport 2
著者:　Tanja McCandie
出版社:　Oxford
出版年:　2006　　ISBN:　9780194718004

参考書

成績評価

試験　（ 20 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度　（ 30 ）
In this semester, more emphasis will be put on in-class performance compared to the spring semester.

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <h>**

クラス		配当回生	学部2回生
講義期間	後期	定　　員	40
履修条件	「英語ＩＢ」または「英語ⅡＢ」を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	ﾋｴﾀﾗﾋﾃｨ ｴﾚｷ		

テーマ

Oral English with Culture Content

授業の到達目標

Learn to speak about culture of countries around the world in basic to elementary level English.

授業の概要

- THIS COURSE WILL BE TAUGHT IN ENGLISH -You'll learn about interesting culture events and customs in countries all over the world. Also, practical skills such as using basic verb tenses.

準備学習（予習・復習）

It's a big help to preview and review every lesson. Especially, check textbook's difficult words.

内　　容

第1回　Start Unit 5 "Sports"
第2回　Continue Unit 5
第3回　Finish Unit 5
第4回　Start Unit 6 "Destinations"
第5回　Continue Unit 6
第6回　Finish Unit 6
第7回　Review and reflection of Units 5 and 6
第8回　Start Unit 7 "Communication"
第9回　Continue Unit 7
第10回　Finish Unit 7
第11回　Start Unit 8 "Moving Forward"
第12回　Continue Unit 8
第13回　Finish Unit 8
第14回　Review and reflection of Units 7 and 8
第15回　Semester review and recap

履修上の注意点

You must attend 10 or more classes to pass the course.

教科書

World English 1
著者:　Martin Milner
出版社:　Heinle, Cengage Learning
出版年:　2015　　ISBN:
World English 1: Printed Workbook
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度　（ 10 ）

You will enjoy and have fun in this class. But to get a good grade, you have to do well on tests and also perform well in class.

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <i>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　溝部　芳子	

テーマ

TOEIC対策を通しての英語運用能力の向上

授業の到達目標

TOEICリスニングに必要なリスニングスキルの修得を目標とする。

授業の概要

各ユニットのテーマに沿った表現を確認した後、リスニング問題を解く。スクリプトの穴埋めや音読も行う。終盤では実践演習をして集中して聴き続ける力を養う。

準備学習（予習・復習）

音声は必ずダウンロードすること。予習：語彙学習（30分程度）。f復習：課題のリスニングタスクを行う（30分程度）。Web 等を利用して、身近なニュースを英語で聴く習慣をつける。

内　容

第7回　Unit 7　苦情
第8回　Unit 8　交通情報
第9回　Unit 9　Yes/Noで答える質問
第10回　Unit 10　意見
第11回　Unit 11　意見の一致・不一致
第12回　Unit 12　会議
第13回　実践演習（1）
第14回　実践演習（2）
第15回　実践演習　（3）
第1回　Introduction / Unit 1 提案
第2回　Unit 2　確認
第3回　Unit 3　会話を始める
第4回　Unit 4　ニュース報道
第5回　Unit 5　義務
第6回　Unit 6　理由

履修上の注意点

3分の2以上の出席が必要です。TOEICの自己目標スコアを設定し、集中力を持って授業に臨んでください。

教科書

The TOEIC Test Trainer Target 650
著者：　山口昌彦　他
出版社：Cengage Learning
出版年：2016　　ISBN：　9784863122741

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 20% ）
授業中課題（ 30% ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 30% ）
上記に加えて学期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <j>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　川口　玲子	

テーマ

TOEIC対策を通した英語運用能力の向上

授業の到達目標

応答表現のバリエーションを増やしたり、文章の大意だけでなく詳細を整理して読む力を身に付け、TOEICスコア600を取得可能な英語力の習得を目指す。

授業の概要

英語でのビジネスコミュニケーションに必要なリーディング、リスニング、スピーキングのスキルを向上させるために、週2回開講し、少人数の演習方式で行う。演習問題を通じ、TOEICの各パートの設問形式に慣れると共にリピーティングや会話演習などの発話練習を行う。受け身ではなく、能動的に英語を発することが義務付けられる。恥ずかしがらずに大きな声を出すよう努める事が求められる。

準備学習（予習・復習）

英語の運用能力を高めるためには毎日の練習が欠かせません。たとえ5分でも日々英語と接することを心掛けて下さい。復習、反復練習などを積み重ねることが大切です。

内　容

第1回　オリエンテーション、Part 5対策：接続詞・前置詞、宿題説明
第2回　Part 6対策：接続詞・接続副詞、
第3回　Part 7対策（シングル）：主旨を素早くつかむ、Part 7対策（ダブル）：2文書を関連させて解く
第4回　模擬試験TEST1リーディングテスト演習及び解答
第5回　Part 5対策：不定詞・動名詞、・ Part 6対策：動詞の語法
第6回　Part 7対策（シングル）：難易度が高い語句を含む問題、Part 5対策：現在分詞・過去分詞
第7回　Part 6対策：総合問題、 Part 7対策（シングル）：手紙
第8回　Part 5対策：総合問題、Part 7対策（シングル）：言い換えされた答え
第9回　Part 5対策：総合問題、Part 6対策：前置詞・前置詞句
第10回　Part 7対策（シングル）：スキミングで大意をつかむ、 Part 7対策（ダブル）：情報量の多いメール・手紙
第11回　模擬試験TEST2リーディングテスト演習及び解答
第12回　模擬試験TEST2リーディング・リスニングパートの解説
第13回　TEST 1 リーディングテスト演習及び解答TEST 1 リーディングテスト解説
第14回　TEST 2 リーディングテスト演習及び解答 TEST 2 リーディングテスト解説
第15回　試験

履修上の注意点

教科書

新 TOEIC Test レベル判定模試【2】
著者：　小山克明, David Rondeau, Kevin Glenz, Sebastian Brooke 著
出版社：Z会
出版年：2007年9月　　ISBN：　9784862900012

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）
上記に加えて後期末英語テスト20%

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <k>**

クラス		配当回生	学部2回生
講義期間	後期	定　　員	40
履修条件	「英語ＩＢ」または「英語ⅡＢ」を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	ｿｰｿﾝ ﾏｰｶｽ		

テーマ

Acting English Drama

授業の到達目標

This class is designed to improve vocabulary, listening comprehension and pronunciation by studying and acting natural speaking situations in a video drama.

授業の概要

Using video from a popular drama and supported by interesting exercises concerning new vocaulary, pronunciation, idiomatic expression and usage, the class will inspire student learning.This course will be taught in English.

準備学習（予習・復習）

Preview next lesson before each class and extra for tests.

内　容

第1回　Introductions, Class Objectives
第2回　Journals Homework #1 Introduction.
第3回　The Alien Truth - Story Research
第4回　Journals week 3 Pronunciation Pg. 5
第5回　Leaving Normal - Acting Scene.
第6回　Episode 5 Missing Q - A
第7回　Journals week 6 Kyle and Liz Scene
第8回　Episode 7 Riverdog - Acting
第9回　Story Review - Tell the story.
第10回　Episode 9 Heat Wave
第11回　Final Journals week 10
第12回　Presentations - Reports
第13回　Toy House - Acting Scene
第14回　Into the Woods
第15回　The Convention - Q and A

履修上の注意点

You must attend 10 classes to pass. B5 Notebook is required homework.

教科書

Acting English Drama
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 20 ）　　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <I>**

クラス		配当回生	学部2回生
講義期間	後期	定　　員	40
履修条件	「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	スミス　ジョン		

テーマ

This is an English communication course that will focus on speaking and listening skills to improve communication ability.

授業の到達目標

By the end of the semester, students will have increased their confidence in their ability to communicate in English with the instructor and their classmates.

授業の概要

This course will be taught in English. There are are a variety of motivating topics that will be meaningful to the learners in their everyday lives.

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　Summer vacation reports
第2回　Describing characteristics and qualities
第3回　Comparing different types of communication styles
第4回　Halloween and superstitions
第5回　Talking about weekend plans
第6回　Making weather predictions
第7回　Making comparisons
第8回　Talking about clothing and shopping styles
第9回　Healthy habits
第10回　Making suggestions
第11回　Evaluating one's lifestyle
第12回　Interviewing for a job
第13回　Christmas around the world
第14回　Making financial choices
第15回　Actions and consequences and course review

履修上の注意点

教科書

World English 1
著者：　Martin Milner
出版社：Cengage　Learning
出版年：2015　　ISBN：　9781285848693

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 20 ）

The students need to show a positive desire to communicate in English. Preparation and completion of homework is also required.

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <m>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡＢ」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　ﾌﾘﾝﾊﾝﾅﾏｲｹﾙ	

テーマ

Using English for Communication

授業の到達目標

Improved speaking, listening and writing skills in a cross cultural communicative context

授業の概要

This course will be taught in English.

準備学習（予習・復習）

Do assigned homework, preview and review textbook.

内　容

第1回　Orientation and Summer vacation
第2回　Your Family
第3回　Typical families
第4回　Making generalizations
第5回　Sports
第6回　Fitness
第7回　Talking about quantity and frequency
第8回　Review
第9回　Leisure activities
第10回　Weekends
第11回　Vacations
第12回　Your neighborhood
第13回　Places
第14回　Complaints
第15回　Review

履修上の注意点

You must attend 10 or more classes to pass the course.

教科書

Interchange I Student's Book A(fourth Edition)
著者：　Jack C. Richards
出版社：Cambridge University Press
出版年：　ISBN：　9780521601757

Interchange I Workbook A(4th Edition)
著者：　Jack C. Richards
出版社：Cambridge University Press
出版年：　ISBN：　9780521601788

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　小テスト（ 55 ）
授業中課題（ 0 ）　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 45 ）

Participation score is a composite score that includes homework and evaulation of participation of in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <n>**

クラス		配当回生	学部2回生
講義期間	後期	定　　員	40
履修条件	「英語ＩＢ」または「英語ⅡＢ」を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	ﾋｴﾀﾗﾋﾃｨ ｴﾚｷ		

テーマ

Nursing English

授業の到達目標

Learn the basics of healthcare English.

授業の概要

- THIS COURSE WILL BE TAUGHT IN ENGLISH -This course will teach you how to speak in usual hospital and clinic situations. You will also learn special healthcare words.

準備学習（予習・復習）

It's important to preview and review every lesson. Especially, check textbook's difficult words.

内　容

第1回　Start Unit 7 "Locations of Hospital Objects"
第2回　Finish Unit 7
第3回　Start Unit 8 "Hospital Directions and Instructions"
第4回　Finish Unit 8
第5回　Start Unit 9 "Directions (Outside the Hospital)"
第6回　Finish Unit 9
第7回　Review and reflection of Units 7 to 9
第8回　Start Unit 10 "Chatting with a Patient"
第9回　Finish Unit 10
第10回　Start Unit 11 "Taking a Medical History"
第11回　Finish Unit 11
第12回　Start Unit 12 "Hospital Procedures"
第13回　Finish Unit 12
第14回　Review and reflection of Units 10 to 12
第15回　Semester review and recap

履修上の注意点

You must attend 10 or more classes to pass the course.

教科書

Vital Signs
著者:　Morooka & Sugiura
出版社:　Nan'un-do
出版年:　2009　　ISBN:　9784523176305

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等（ 10 ）
参加度　（ 10 ）
You will enjoy and have fun in this class. But to get a good grade, you have to do well on tests and also perform well in class.

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <o>**

クラス		配当回生	学部2回生
講義期間	後期	定　　員	40
履修条件	「英語ＩＢ」または「英語ⅡＢ」を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	スミス　ジョン		

テーマ

授業の到達目標

This is a communication course that will practice listening and speaking skills with a nursing topic based content. Students will increase their confidence to use English by regular practice.

授業の概要

The teacher will use a popular text that has a variety of interesting activities to create a positive learning environment in the classroom. The four skills of English will be developed online with the opportunity to use online resources. The class will be taught only in English.

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　1. Explanation of the course.
第2回　2. Blood.
第3回　3. Making difficult decisions.
第4回　4. Death and dying.
第5回　5. Hygiene.
第6回　6. Talking about obligation.
第7回　7. Mental health nursing.
第8回　8. A case conference.
第9回　9. Monitoring the patient.
第10回　10. Describing a procedure.
第11回　11. Medication.
第12回　12. Alternative treatments.
第13回　13. Giving reasons.
第14回　14. Types of therapy
第15回　15. Future plans and dreams.

履修上の注意点

教科書

Nursing 1 (Oxford English for Careers)
著者:　Tony Grice
出版社:　Oxford University Press
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <p>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　クーラン コーリ	

テーマ

Beginner level English for students of nursing.

授業の到達目標

The aim of this course is to enable students to communicate in English in everyday situations and gain the knowledge and confidence they need to use English in a wide variety of situations in and around the hospital.

授業の概要

Different topics related to nursing will be addressed and discussed through speaking, reading, writing, and listening exercises.This course will be taught in English

準備学習（予習・復習）

In class, teacher will point out useful websites, videos, and other educational materials that pertain to the class. The students may use these for their own personal improvement in the fields of nursing and medicine.

内　容

第1回　Review of materials covered in Semester 1
第2回　"Catching a cold" printout
第3回　Hospital routine
第4回　Hospital routine
第5回　Parts of the body
第6回　Parts of the body
第7回　Review and recap of weeks 2 t o6
第8回　"The pharmacist" printout
第9回　Hospital routine
第10回　Hospital routine
第11回　Hospital objects
第12回　Hospital objects
第13回　Count and no-count of hospital objects
第14回　Review and recap of weeks 11 to 13
第15回　Review and recap of course

履修上の注意点

**You must attend 10 or more classes to receive credit for the course. **60% of your grade will be based on your in-class performance. **Text material prints will be given out only ONCE. If you lose them, you must photocopy the pages needed before the start of the next class. **There will be a heavier focus on medical procedure and medical vocabulary in this semester.

教科書

Vital Signs 2
著者:　V. Morooka, T. Sugiura
出版社:　南雲堂
出版年:　2014　　ISBN:　978-4523177555

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）
Although review test exercises will be given, coming to class prepared and ready to participate is also very important.

Syllabus

科 目 名	英語ⅣB <TOEIC>		
クラス		配当回生	
講義期間	後期	定　員	40
履修条件	「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	mitei		
テーマ			
授業の到達目標			
授業の概要			
準備学習（予習・復習）			
内　容			
履修上の注意点			
教科書			
参考書			

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名	英語ⅣB <Gen>		
クラス		配当回生	
講義期間	その他	定　　員	40
履修条件	「英語ＩＢ」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	（休講）		
テーマ			
授業の到達目標			
授業の概要			
準備学習（予習・復習）			
内　　容			
履修上の注意点			
教科書			
参考書			
成績評価			

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語ⅣB <R>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　「英語ＩB」または「英語ⅡB」を修得済みであること。	クラス指定
担 当 者　杉山 泰	

テーマ

基礎英語（Basic English）をフルに活用して、日本人への外国人の質問（なぜ＝Why）に答える

授業の到達目標

「これください」をI'll take this.とはなかなか言えない。「私」を主語にして、自己主張をしないと、英語という言語は機能しない。「ここはどこですか」にしてもWhere am I?と表現する。英語では常に「私」が必要となる。「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」という主語なし日本語を話している日本人は、変身しないと英語は話せない。そのことを毎回プリントを英訳することで実践していきたい。

授業の概要

「基礎英語文法」を15回にわたって学んでもらい、実際に毎回「プリント」を仕上げていくことで、中学校で学んだ英文法を整理してもらう。役に立つ表現（There is構文/ It is easy to構文 / 比較級構文 / 仮定法構文 / Why構文）を学んでいく。

準備学習（予習・復習）

毎回プリントを仕上げてもらうので、辞書が必要。

内　容

第1回　自己紹介。「氏名カード」の記入。
第2回　「私」からの発想（I need your credits.）
第3回　S+V+O構文＝have動詞による役に立つ表現（Do you have a pain?）
第4回　英語的発想＝S+V+O構文（I have a fever.＝熱があります）
第5回　英語的発想＝現在/過去/未来（Did you have much information?）
第6回　英語的発想＝S+V+C構文（Where are you from?）
第7回　英語的発想＝S+V+C構文（動詞＋ingと動詞＋ed構文）
第8回　There is構文＝「～があります」という存在構文（英詩を書こう）
第9回　日本文学の英訳を再度日本語に訳そう（川端康成、村上春樹、石牟礼道子など）
第10回　There is 構文で高級な英語を作ろう（There is no way of stopping the leak of polluted water in the nuke stations.）
第11回　There is構文で俳万智を英訳する（愛している愛していない花びらの数だけ愛があればいいのに）
第12回　仮定法（ありえないことを仮定する）＝シュミレーションが苦手な日本人
第13回　仮定法（もし世界が100人の村ならば）＝各自ネットから英語でIf the world were a vilage of 100 peopleを引いてきて翻訳してもらう。
第14回　Why-Because thiory（なぜ日本人は漫画が好きなのですか）＝外国人の質問に各自ユニークに答えてもらう。
第15回　英語的発想のまとめ。特に、外国人の日本人への質問にやさしい英語で各自答えてもらい、提出してもらう。

履修上の注意点

毎回「プリント」を仕上げていくので、辞書を持参して参加することが大切。

教科書

杉山「プリント」
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

日本は世界で第何位？
著者：　岡崎大五
出版社：　新潮新書
出版年：　2007　ISBN：

rラーメン屋VSマクドナルド
著者：　竹中正治
出版社：　新潮新書
出版年：　2008　ISBN：

aks202a478

京都ぎらい

著者:　井上章一

出版社: 朝日新書

出版年: 2015　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 20% ）

参加度 （ 20% ）

毎回作業をやるので、欠席した学生は「プリント」をもらい自宅で必ずやり、提出すること。その場合、遅れの出席として評価する場合がある。

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　味田　治子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション・学内システム（ActiveMailなど）について
第2回　セキュリティと情報モラルWord2010（1）　Wordの基本操作≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング
第3回　Word2010（2）　チラシの作成≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成
第4回　Word2010（3）レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷
第5回　Word2010（4）レポートの作成(2)≪主な機能≫脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
第6回　Word2010（5）小テストWord（レポート作成）小テストの実施
第7回　Excel2010（1）Excelの基本操作、表作成≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
第8回　Excel2010（2）　計算式、関数(1)≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）
第9回　Excel2010（3）　関数(2)≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数
第10回　Excel2010（4）　グラフ作成≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集
第11回　Excel2010（5）小テスト、関数(3)EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）小テストの実施≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷
第12回　PowerPoint2010（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
第13回　PowerPoint2010（2）　スライド作成（2）≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
第14回　PowerPoint2010（3）　スライド作成（3）≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
第15回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト（ 40% ）

aks301a110

授業中課題（20%）　授業中発表等（10%）

参加度（0%）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　小西　康子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション・学内システム（ActiveMailなど）について
第2回　セキュリティと情報モラルWord2010（1）　Wordの基本操作≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング
第3回　Word2010（2）　チラシの作成≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成
第4回　Word2010（3）レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷
第5回　Word2010（4）レポートの作成(2)≪主な機能≫脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
第6回　Word2010（5）小テストWord（レポート作成）小テストの実施
第7回　Excel2010（1）Excelの基本操作、表作成≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
第8回　Excel2010（2）　計算式、関数(1)≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）
第9回　Excel2010（3）　関数(2)≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数
第10回　Excel2010（4）　グラフ作成≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集
第11回　Excel2010（5）小テスト、関数(3)EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）小テストの実施≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷
第12回　PowerPoint2010（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
第13回　PowerPoint2010（2）　スライド作成（2）≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
第14回　PowerPoint2010（3）　スライド作成（3）≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
第15回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト （ 40% ）

aks301a112

授業中課題（20%）　　授業中発表等（10%）

参加度（0%）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　味田　治子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション・学内システム（ActiveMailなど）について
第2回　セキュリティと情報モラルWord2010（1）　Wordの基本操作≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング
第3回　Word2010（2）　チラシの作成≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成
第4回　Word2010（3）レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷
第5回　Word2010（4）レポートの作成(2)≪主な機能≫脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
第6回　Word2010（5）小テストWord（レポート作成）小テストの実施
第7回　Excel2010（1）Excelの基本操作、表作成≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
第8回　Excel2010（2）　計算式、関数(1)≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）
第9回　xcel2010（3）　関数(2)≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数
第10回　Excel2010（4）　グラフ作成≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集
第11回　Excel2010（5）小テスト、関数(3)EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）小テストの実施≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷
第12回　PowerPoint2010（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
第13回　PowerPoint2010（2）　スライド作成（2）≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
第14回　PowerPoint2010（3）　スライド作成（3）≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
第15回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト （ 40% ）

aks301a113

授業中課題（20%）　　授業中発表等（10%）

参加度（0%）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　小西　康子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション・学内システム（ActiveMailなど）について
第2回　セキュリティと情報モラルWord2010（1）　Wordの基本操作≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング
第3回　Word2010（2）　チラシの作成≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成
第4回　Word2010（3）レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷
第5回　Word2010（4）レポートの作成(2)≪主な機能≫脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
第6回　Word2010（5）小テストWord（レポート作成）小テストの実施
第7回　Excel2010（1）Excelの基本操作、表作成≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
第8回　Excel2010（2）　計算式、関数(1)≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）
第9回　Excel2010（3）　関数(2)≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数
第10回　Excel2010（4）　グラフ作成≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集
第11回　Excel2010（5）小テスト、関数(3)EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）小テストの実施≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷
第12回　PowerPoint2010（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
第13回　PowerPoint2010（2）　スライド作成（2）≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
第14回　PowerPoint2010（3）　スライド作成（3）≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
第15回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト （ 40% ）

aks301a114

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 10% ）

参加度 （ 0% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈e〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　味田　治子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション・学内システム（ActiveMailなど）について
第2回　セキュリティと情報モラルWord2010（1）　Wordの基本操作≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング
第3回　Word2010（2）　チラシの作成≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成
第4回　Word2010（3）レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷
第5回　Word2010（4）レポートの作成(2)≪主な機能≫脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
第6回　Word2010（5）小テストWord（レポート作成）小テストの実施
第7回　Excel2010（1）Excelの基本操作、表作成≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
第8回　Excel2010（2）　計算式、関数(1)≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）
第9回　Excel2010（3）　関数(2)≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数
第10回　Excel2010（4）　グラフ作成≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集
第11回　Excel2010（5）小テスト、関数(3)EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）小テストの実施≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷
第12回　PowerPoint2010（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
第13回　PowerPoint2010（2）　スライド作成（2）≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
第14回　PowerPoint2010（3）　スライド作成（3）≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
第15回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト （ 40% ）

aks301a115

授業中課題（20%）　　授業中発表等（10%）

参加度（0%）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈f〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　小西　康子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション・学内システム（ActiveMailなど）について
第2回　セキュリティと情報モラルWord2010（1）　Wordの基本操作≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング
第3回　Word2010（2）　チラシの作成≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成
第4回　Word2010（3）レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷
第5回　Word2010（4）レポートの作成(2)≪主な機能≫脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
第6回　Word2010（5）小テストWord（レポート作成）小テストの実施
第7回　Excel2010（1）Excelの基本操作、表作成≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
第8回　Excel2010（2）　計算式、関数(1)≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）
第9回　Excel2010（3）　関数(2)≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数
第10回　Excel2010（4）　グラフ作成≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集
第11回　Excel2010（5）小テスト、関数(3)EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）小テストの実施≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷
第12回　PowerPoint2010（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
第13回　PowerPoint2010（2）　スライド作成（2）≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
第14回　PowerPoint2010（3）　スライド作成（3）≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
第15回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト（ 40% ）

aks301a116

授業中課題（20%）　　授業中発表等（10%）

参加度（0%）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ＜g＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　小西　康子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション・学内システム（ActiveMailなど）について
第2回　セキュリティと情報モラルWord2010（1）　Wordの基本操作≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング
第3回　Word2010（2）　チラシの作成≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成
第4回　Word2010（3）レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷
第5回　Word2010（4）レポートの作成(2)≪主な機能≫脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
第6回　Word2010（5）小テストWord（レポート作成）小テストの実施
第7回　Excel2010（1）Excelの基本操作、表作成≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
第8回　Excel2010（2）　計算式、関数(1)≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）
第9回　Excel2010（3）　関数(2)≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数
第10回　Excel2010（4）　グラフ作成≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集
第11回　Excel2010（5）小テスト、関数(3)EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）小テストの実施≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷
第12回　PowerPoint2010（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
第13回　PowerPoint2010（2）　スライド作成（2）≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
第14回　PowerPoint2010（3）　スライド作成（3）≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
第15回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト （ 40% ）

aks301a117

授業中課題（20%）　　授業中発表等（10%）

参加度（0%）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ <h>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　井上 薫	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション・学内システム（ActiveMailなど）について
第2回　セキュリティと情報モラルWord2010（1）　Wordの基本操作≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング
第3回　Word2010（2）　チラシの作成≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成
第4回　Word2010（3）レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷
第5回　Word2010（4）レポートの作成(2)≪主な機能≫脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
第6回　Word2010（5）小テストWord（レポート作成）小テストの実施
第7回　Excel2010（1）Excelの基本操作、表作成≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
第8回　Excel2010（2）　計算式、関数(1)≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）
第9回　Excel2010（3）　関数(2)≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数
第10回　Excel2010（4）　グラフ作成≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集
第11回　Excel2010（5）小テスト、関数(3)EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）小テストの実施≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷
第12回　PowerPoint2010（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
第13回　PowerPoint2010（2）　スライド作成（2）≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
第14回　PowerPoint2010（3）　スライド作成（3）≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
第15回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト （ 40% ）

aks301a118

授業中課題（20%）　　授業中発表等（10%）

参加度（0%）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ <i>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　小西　康子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション・学内システム（ActiveMailなど）について
第2回　セキュリティと情報モラルWord2010（1）　Wordの基本操作≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング
第3回　Word2010（2）　チラシの作成≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成
第4回　Word2010（3）レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷
第5回　Word2010（4）レポートの作成(2)≪主な機能≫脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
第6回　Word2010（5）小テストWord（レポート作成）小テストの実施
第7回　Excel2010（1）Excelの基本操作、表作成≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
第8回　Excel2010（2）　計算式、関数(1)≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）
第9回　Excel2010（3）　関数(2)≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数
第10回　Excel2010（4）　グラフ作成≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集
第11回　Excel2010（5）小テスト、関数(3)EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）小テストの実施≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷
第12回　PowerPoint2010（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
第13回　PowerPoint2010（2）　スライド作成（2）≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
第14回　PowerPoint2010（3）　スライド作成（3）≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
第15回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト （ 40% ）

aks301a119

授業中課題（20%）　　授業中発表等（10%）

参加度（0%）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ <j>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　井上 薫	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション・学内システム（ActiveMailなど）について
第2回　セキュリティと情報モラルWord2010（1）　Wordの基本操作≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング
第3回　Word2010（2）　チラシの作成≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成
第4回　Word2010（3）レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷
第5回　Word2010（4）レポートの作成(2)≪主な機能≫脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
第6回　Word2010（5）小テストWord（レポート作成）小テストの実施
第7回　Excel2010（1）Excelの基本操作、表作成≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
第8回　Excel2010（2）　計算式、関数(1)≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）
第9回　Excel2010（3）　関数(2)≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数
第10回　Excel2010（4）　グラフ作成≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集
第11回　Excel2010（5）小テスト、関数(3)EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）小テストの実施≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷
第12回　PowerPoint2010（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
第13回　PowerPoint2010（2）　スライド作成（2）≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
第14回　PowerPoint2010（3）　スライド作成（3）≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
第15回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト （ 40% ）

aks301a120

授業中課題（ 20% ）　　授業中発表等（ 10% ）

参加度 （ 0% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ <k>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　小西　康子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション・学内システム（ActiveMailなど）について
第2回　セキュリティと情報モラルWord2010（1）　Wordの基本操作≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング
第3回　Word2010（2）　チラシの作成≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成
第4回　Word2010（3）レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷
第5回　Word2010（4）レポートの作成(2)≪主な機能≫脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
第6回　Word2010（5）小テストWord（レポート作成）小テストの実施
第7回　Excel2010（1）Excelの基本操作、表作成≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
第8回　Excel2010（2）　計算式、関数(1)≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）
第9回　Excel2010（3）　関数(2)≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数
第10回　Excel2010（4）　グラフ作成≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集
第11回　Excel2010（5）小テスト、関数(3)EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）小テストの実施≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷
第12回　PowerPoint2010（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
第13回　PowerPoint2010（2）　スライド作成（2）≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
第14回　PowerPoint2010（3）　スライド作成（3）≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
第15回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト （ 40% ）

aks301a121

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 10% ）

参加度 （ 0% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ <I>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　井上 薫	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション・学内システム（ActiveMailなど）について
第2回　セキュリティと情報モラルWord2010（1）　Wordの基本操作≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング
第3回　Word2010（2）　チラシの作成≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成
第4回　Word2010（3）レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷
第5回　Word2010（4）レポートの作成(2)≪主な機能≫脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
第6回　Word2010（5）小テストWord（レポート作成）小テストの実施
第7回　Excel2010（1）Excelの基本操作、表作成≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
第8回　Excel2010（2）　計算式、関数(1)≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）
第9回　Excel2010（3）　関数(2)≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数
第10回　Excel2010（4）　グラフ作成≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集
第11回　Excel2010（5）小テスト、関数(3)EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）小テストの実施≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷
第12回　PowerPoint2010（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
第13回　PowerPoint2010（2）　スライド作成（2）≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
第14回　PowerPoint2010（3）　スライド作成（3）≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
第15回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト （ 40% ）

aks301a122

授業中課題（20%）　　授業中発表等（10%）

参加度（0%）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈m〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　小西　康子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション・学内システム（ActiveMailなど）について
第2回　セキュリティと情報モラルWord2010（1）　Wordの基本操作≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング
第3回　Word2010（2）　チラシの作成≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成
第4回　Word2010（3）レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷
第5回　Word2010（4）レポートの作成(2)≪主な機能≫脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
第6回　Word2010（5）小テストWord（レポート作成）小テストの実施
第7回　Excel2010（1）Excelの基本操作、表作成≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
第8回　Excel2010（2）　計算式、関数(1)≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）
第9回　Excel2010（3）　関数(2)≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数
第10回　Excel2010（4）　グラフ作成≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集
第11回　Excel2010（5）小テスト、関数(3)EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）小テストの実施≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷
第12回　PowerPoint2010（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
第13回　PowerPoint2010（2）　スライド作成（2）≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
第14回　PowerPoint2010（3）　スライド作成（3）≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
第15回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト （ 40% ）

aks301a123

授業中課題（20%）　　授業中発表等（10%）

参加度（0%）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ <n>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　小西 康子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション・学内システム（ActiveMailなど）について
第2回　セキュリティと情報モラルWord2010（1）　Wordの基本操作≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング
第3回　Word2010（2）　チラシの作成≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成
第4回　Word2010（3）レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷
第5回　Word2010（4）レポートの作成(2)≪主な機能≫脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
第6回　Word2010（5）小テストWord（レポート作成）小テストの実施
第7回　Excel2010（1）Excelの基本操作、表作成≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
第8回　Excel2010（2）　計算式、関数(1)≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）
第9回　Excel2010（3）　関数(2)≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数
第10回　Excel2010（4）　グラフ作成≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集
第11回　Excel2010（5）小テスト、関数(3)EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）小テストの実施≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷
第12回　PowerPoint2010（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
第13回　PowerPoint2010（2）　スライド作成（2）≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
第14回　PowerPoint2010（3）　スライド作成（3）≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
第15回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト （ 40% ）

aks301a124

授業中課題（20%）　　授業中発表等（10%）

参加度（0%）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈o〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　味田　治子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション・学内システム（ActiveMailなど）について
第2回　セキュリティと情報モラルWord2010（1）　Wordの基本操作≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング
第3回　Word2010（2）　チラシの作成≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成
第4回　Word2010（3）レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷
第5回　Word2010（4）レポートの作成(2)≪主な機能≫脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
第6回　Word2010（5）小テストWord（レポート作成）小テストの実施
第7回　Excel2010（1）Excelの基本操作、表作成≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
第8回　Excel2010（2）　計算式、関数(1)≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）
第9回　Excel2010（3）　関数(2)≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数
第10回　Excel2010（4）　グラフ作成≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集
第11回　Excel2010（5）小テスト、関数(3)EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）小テストの実施≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷
第12回　PowerPoint2010（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
第13回　PowerPoint2010（2）　スライド作成（2）≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
第14回　PowerPoint2010（3）　スライド作成（3）≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
第15回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト （ 40% ）

aks301a125

授業中課題（20%）　　授業中発表等（10%）

参加度（0%）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ <p>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　井上 薫	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション・学内システム（ActiveMailなど）について
第2回　セキュリティと情報モラルWord2010（1）　Wordの基本操作≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング
第3回　Word2010（2）　チラシの作成≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成
第4回　Word2010（3）レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷
第5回　Word2010（4）レポートの作成(2)≪主な機能≫脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
第6回　Word2010（5）小テストWord（レポート作成）小テストの実施
第7回　Excel2010（1）Excelの基本操作、表作成≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
第8回　Excel2010（2）　計算式、関数(1)≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）
第9回　Excel2010（3）　関数(2)≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数
第10回　Excel2010（4）　グラフ作成≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集
第11回　Excel2010（5）小テスト、関数(3)EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）小テストの実施≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷
第12回　PowerPoint2010（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
第13回　PowerPoint2010（2）　スライド作成（2）≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
第14回　PowerPoint2010（3）　スライド作成（3）≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
第15回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト （ 40% ）

aks301a126

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 10% ）

参加度 （ 0% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈q〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　味田　治子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション・学内システム（ActiveMailなど）について
第2回　セキュリティと情報モラルWord2010（1）　Wordの基本操作≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング
第3回　Word2010（2）　チラシの作成≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成
第4回　Word2010（3）レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷
第5回　Word2010（4）レポートの作成(2)≪主な機能≫脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
第6回　Word2010（5）小テストWord（レポート作成）小テストの実施
第7回　Excel2010（1）Excelの基本操作、表作成≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
第8回　Excel2010（2）　計算式、関数(1)≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）
第9回　Excel2010（3）　関数(2)≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数
第10回　Excel2010（4）　グラフ作成≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集
第11回　Excel2010（5）小テスト、関数(3)EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）小テストの実施≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷
第12回　PowerPoint2010（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
第13回　PowerPoint2010（2）　スライド作成（2）≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
第14回　PowerPoint2010（3）　スライド作成（3）≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
第15回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト（ 40% ）

aks301a127

授業中課題（20%）　授業中発表等（10%）

参加度（0%）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ <r>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　井上 薫	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション・学内システム（ActiveMailなど）について
第2回　セキュリティと情報モラルWord2010（1）　Wordの基本操作≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング
第3回　Word2010（2）　チラシの作成≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成
第4回　Word2010（3）レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷
第5回　Word2010（4）レポートの作成(2)≪主な機能≫脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
第6回　Word2010（5）小テストWord（レポート作成）小テストの実施
第7回　Excel2010（1）Excelの基本操作、表作成≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
第8回　Excel2010（2）　計算式、関数(1)≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）
第9回　Excel2010（3）　関数(2)≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数
第10回　Excel2010（4）　グラフ作成≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集
第11回　Excel2010（5）小テスト、関数(3)EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）小テストの実施≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷
第12回　PowerPoint2010（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
第13回　PowerPoint2010（2）　スライド作成（2）≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
第14回　PowerPoint2010（3）　スライド作成（3）≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
第15回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト （ 40% ）

aks301a128

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 10% ）

参加度 （ 0% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈s〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　小西　康子	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション・学内システム（ActiveMailなど）について
第2回　セキュリティと情報モラルWord2010（1）　Wordの基本操作≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング
第3回　Word2010（2）　チラシの作成≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成
第4回　Word2010（3）レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷
第5回　Word2010（4）レポートの作成(2)≪主な機能≫脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
第6回　Word2010（5）小テストWord（レポート作成）小テストの実施
第7回　Excel2010（1）Excelの基本操作、表作成≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
第8回　Excel2010（2）　計算式、関数(1)≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）
第9回　Excel2010（3）　関数(2)≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数
第10回　Excel2010（4）　グラフ作成≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集
第11回　Excel2010（5）小テスト、関数(3)EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）小テストの実施≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷
第12回　PowerPoint2010（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
第13回　PowerPoint2010（2）　スライド作成（2）≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
第14回　PowerPoint2010（3）　スライド作成（3）≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
第15回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト （ 40% ）

aks301a129

授業中課題（20%）　授業中発表等（10%）

参加度（0%）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ〈t〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　井上 薫	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション(1)、パソコン基本操作・情報処理演習Ⅰのオリエンテーション・学内システム（ActiveMailなど）について
第2回　セキュリティと情報モラルWord2010（1）　Wordの基本操作≪主な機能≫Wordの起動方法、画面構成、タイピング
第3回　Word2010（2）　チラシの作成≪主な機能≫文章の保存・終了、書式、表の作成
第4回　Word2010（3）レポート作成(1)《主な機能》ページ設定、表紙の作成、フッター、図の挿入、Excelのグラフの挿入、引用、図表番号、印刷
第5回　Word2010（4）レポートの作成(2)≪主な機能≫脚注、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
第6回　Word2010（5）小テストWord（レポート作成）小テストの実施
第7回　Excel2010（1）Excelの基本操作、表作成≪主な機能≫Excelの起動方法、画面構成、データ入力、フォント設定、セルの配置設定、罫線、行列の幅変更、ページ設定、印刷
第8回　Excel2010（2）　計算式、関数(1)≪主な機能≫ビジネスで使われる計算式、数式の入力、オートフィル、相対参照・絶対参照、基本関数（SUM・AVERAGE・MAX・MIN・COUNT・COUNTA関数）
第9回　Excel2010（3）　関数(2)≪主な機能≫関数の復習、シートの切り替え、IF関数
第10回　Excel2010（4）　グラフ作成≪主な機能≫グラフの作成(縦棒グラフの作成、グラフの移動とサイズ変更、グラフの要素、円グラフの作成、レーダーチャートの作成)、グラフの編集
第11回　Excel2010（5）小テスト、関数(3)EXCEL（表作成、計算式。関数、グラフ）小テストの実施≪主な機能≫複合グラフの作成、グラフの印刷
第12回　PowerPoint2010（1）　プレゼンとは、スライド作成(1)≪主な機能≫PowerPointの起動方法、画面構成、新規作成、スライドのサイズ変更、スライドの挿入、文字入力、スライドのレイアウト
第13回　PowerPoint2010（2）　スライド作成（2）≪主な機能≫スライドの操作（コピー、スライドの移動）、スライド編集、SmartArt・ワードアート・オンライン画像の挿入、Excelの表とグラフの挿入、図形の作成
第14回　PowerPoint2010（3）　スライド作成（3）≪主な機能≫画面切り替え効果、アニメーション効果、スライドショーの実行、ノート入力、印刷、リハーサル、発表
第15回　最終試験（課題）とまとめ

履修上の注意点

教科書

Office基礎と情報モラル(Office2013・2010対応)
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 30% ）　　小テスト（ 40% ）

aks301a130

授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 10% ）

参加度 （ 0% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　味田　治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り　・情報活用力診断テストRasti(1回目)　・ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法　・情報検索：検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

・情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ　・メールの活用（CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等）や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ－（1）：情報処理演習Ⅰ Excel復習　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ－（2）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ－（3）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ：数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第7回　データベース：表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現（1）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現（2）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　ビジュアル表現：図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　プレゼンテーションⅠ：プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第12回　プレゼンテーションⅡ：プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第13回　プレゼンテーションⅢ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第14回　プレゼンテーションⅣ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
第15回　情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力（情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む）
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術（※前期使用テキスト）
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ 20% ）	小テスト （ 30% ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 0% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　小西　康子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り　・情報活用力診断テストRasti(1回目)　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習Ⅰ Excel復習　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第7回　データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第12回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第13回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第14回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
第15回　情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20%)	小テスト (30%)
授業中課題 (20%)	授業中発表等 (30%)
参加度 (0%)	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　味田　治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り　・情報活用力診断テストRasti(1回目)　・ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法　・情報検索：検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

・情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ　・メールの活用（CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等）や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ－（1）：情報処理演習Ⅰ Excel復習　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ－（2）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ－（3）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ：数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第7回　データベース：表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現（1）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現（2）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　ビジュアル表現：図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　プレゼンテーションⅠ：プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第12回　プレゼンテーションⅡ：プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第13回　プレゼンテーションⅢ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第14回　プレゼンテーションⅣ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
第15回　情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力（情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む）
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術（※前期使用テキスト）
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ 20% ）	小テスト （ 30% ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 0% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　小西　康子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り　・情報活用力診断テストRasti(1回目)　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習Ⅰ Excel復習　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第7回　データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第12回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第13回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第14回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
第15回　情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20%)	小テスト (30%)
授業中課題 (20%)	授業中発表等 (30%)
参加度 (0%)	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈e〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　味田　治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り　・情報活用力診断テストRasti(1回目)　・ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法　・情報検索：検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

・情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ　・メールの活用（CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等）や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ－（1）：情報処理演習Ⅰ Excel復習　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ－（2）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ－（3）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ：数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第7回　データベース：表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現（1）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現（2）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　ビジュアル表現：図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　プレゼンテーションⅠ：プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第12回　プレゼンテーションⅡ：プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第13回　プレゼンテーションⅢ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第14回　プレゼンテーションⅣ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
第15回　情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力（情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む）
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術（※前期使用テキスト）
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ 20% ）	小テスト （ 30% ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 0% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈f〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　小西　康子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り　・情報活用力診断テストRasti(1回目)　・ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法　・情報検索：検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

・情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ　・メールの活用（CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等）や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ－（1）：情報処理演習Ⅰ Excel復習　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ－（2）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ－（3）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ：数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第7回　データベース：表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現（1）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現（2）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　ビジュアル表現：図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　プレゼンテーションⅠ：プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第12回　プレゼンテーションⅡ：プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第13回　プレゼンテーションⅢ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第14回　プレゼンテーションⅣ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
第15回　情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力（情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む）
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術（※前期使用テキスト）
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ 20% ）	小テスト （ 30% ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 0% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ <g>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　小西　康子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り　・情報活用力診断テストRasti(1回目)　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習Ⅰ Excel復習　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第7回　データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第12回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第13回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第14回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
第15回　情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20%)	小テスト (30%)
授業中課題 (20%)	授業中発表等 (30%)
参加度 (0%)	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ <h>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り　・情報活用力診断テストRasti(1回目)　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習Ⅰ Excel復習　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第7回　データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第12回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第13回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第14回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
第15回　情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20%)	小テスト (30%)
授業中課題 (20%)	授業中発表等 (30%)
参加度 (0%)	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ <i>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　小西　康子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り　・情報活用力診断テストRasti(1回目)　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習Ⅰ Excel復習　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第7回　データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第12回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第13回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第14回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
第15回　情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20%)	小テスト (30%)
授業中課題 (20%)	授業中発表等 (30%)
参加度 (0%)	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ <j>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り　・情報活用力診断テストRasti(1回目)　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習Ⅰ Excel復習　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第7回　データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第12回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第13回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第14回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
第15回　情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20%)	小テスト (30%)
授業中課題 (20%)	授業中発表等 (30%)
参加度 (0%)	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ <k>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　小西　康子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り　・情報活用力診断テストRasti(1回目)　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習Ⅰ Excel復習　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第7回　データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第12回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第13回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第14回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
第15回　情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20%)	小テスト (30%)
授業中課題 (20%)	授業中発表等 (30%)
参加度 (0%)	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ <I>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り　・情報活用力診断テストRasti(1回目)　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習Ⅰ Excel復習　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第7回　データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第12回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第13回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第14回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
第15回　情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20%)	小テスト (30%)
授業中課題 (20%)	授業中発表等 (30%)
参加度 (0%)	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ <m>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　小西　康子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り　・情報活用力診断テストRasti(1回目)　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習Ⅰ Excel復習　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第7回　データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第12回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第13回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第14回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
第15回　情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20%)	小テスト (30%)
授業中課題 (20%)	授業中発表等 (30%)
参加度 (0%)	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ <n>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　小西　康子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り　・情報活用力診断テストRasti(1回目)　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習Ⅰ Excel復習　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第7回　データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第12回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第13回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第14回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
第15回　情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20%)	小テスト (30%)
授業中課題 (20%)	授業中発表等 (30%)
参加度 (0%)	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ <o>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　味田　治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り　・情報活用力診断テストRasti(1回目)　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習Ⅰ Excel復習　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第7回　データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第12回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第13回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第14回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
第15回　情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20%)	小テスト (30%)
授業中課題 (20%)	授業中発表等 (30%)
参加度 (0%)	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ <p>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り　・情報活用力診断テストRasti(1回目)　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習Ⅰ Excel復習　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第7回　データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第12回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第13回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第14回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
第15回　情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20%)	小テスト (30%)
授業中課題 (20%)	授業中発表等 (30%)
参加度 (0%)	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ <q>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　味田　治子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り　・情報活用力診断テストRasti(1回目)　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習Ⅰ Excel復習　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第7回　データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第12回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第13回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第14回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
第15回　情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20%)	小テスト (30%)
授業中課題 (20%)	授業中発表等 (30%)
参加度 (0%)	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ <r>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　井上 薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り　・情報活用力診断テストRasti(1回目)　・ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法　・情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

・情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ　・メールの活用(CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ-(1):情報処理演習Ⅰ Excel復習　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ-(2):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ-(3):数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第7回　データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現(1):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現(2):ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　プレゼンテーションⅠ:プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第12回　プレゼンテーションⅡ:プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第13回　プレゼンテーションⅢ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第14回　プレゼンテーションⅣ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
第15回　情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力 (情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術(※前期使用テキスト)
著者:　noa出版
出版社:　noa出版
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20%)	小テスト (30%)
授業中課題 (20%)	授業中発表等 (30%)
参加度 (0%)	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈s〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　小西　康子	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り　・情報活用力診断テストRasti(1回目)　・ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法　・情報検索：検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

・情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ　・メールの活用（CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等）や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ－（1）：情報処理演習Ⅰ Excel復習　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ－（2）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ－（3）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ：数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第7回　データベース：表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現（1）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現（2）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　ビジュアル表現：図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　プレゼンテーションⅠ：プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第12回　プレゼンテーションⅡ：プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第13回　プレゼンテーションⅢ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第14回　プレゼンテーションⅣ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
第15回　情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力（情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む）
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術（※前期使用テキスト）
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ 20% ）	小テスト （ 30% ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 0% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ〈t〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　井上　薫	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　情報処理演習Ⅱガイダンス/前期振返り　・情報活用力診断テストRasti(1回目)　・ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
第2回　情報収集とは、様々な情報収集方法　・情報検索：検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。

・情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要
第3回　インターネットコミュニケーションⅠ　・メールの活用（CC/BCC・添付ファイル・マナー・トラブル対処等）や掲示板の特性や利用マナーを理解する。数値分析Ⅰ－（1）：情報処理演習Ⅰ Excel復習　・数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第4回　数値分析Ⅰ－（2）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第5回　数値分析Ⅰ－（3）：数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
第6回　数値分析Ⅱ：数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第7回　データベース：表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
第8回　文書表現（1）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第9回　文書表現（2）：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第10回　ビジュアル表現：図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第11回　プレゼンテーションⅠ：プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第12回　プレゼンテーションⅡ：プレゼンテーション資料の作成および発表準備
第13回　プレゼンテーションⅢ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　1/2
第14回　プレゼンテーションⅣ：作成したプレゼンテーション資料による発表と評価　2/2
第15回　情報活用力診断テストRasti(2回目)これまでのまとめ

履修上の注意点

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力（情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む）
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：
文書作成・プレゼンに役立つ！ 実践ドリルで学ぶOffice活用術（※前期使用テキスト）
著者：　noa出版
出版社：noa出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 20% ）	小テスト （ 30% ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 0% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本事情Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者　河村　静江	

テーマ

日本語運用能力の向上

授業の到達目標

日本語を用いたビジネス場面で必要となる、電話応対・マナー・手紙の書き方などの基礎を身に付ける。

授業の概要

ビジネス用語の理解・ビジネス会話・ビジネスレターの書き方を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

会話がスムーズにできるまで復習を行う。

内　容

第1回　面接場面を意識した自己紹介
第2回　敬語の復習
第3回　「電話応対」(1)「ビジネス会話」第5課「頼む・断る」
第4回　「ビジネス会話」第5課
第5回　「ビジネスメール」依頼　第5課・第6課「許可をもらう」
第6回　「ビジネス会話」第6課
第7回　「電話応対」(2)「ビジネス会話」第6課
第8回　「ビジネスメール」問い合わせ「ビジネス会話」第7課「アポイントをとる」
第9回　「ビジネス会話」第7課
第10回　「電話応対」(3)「ビジネス会話」第8課「訪問する」
第11回　ビジネス会話」第8課
第12回　「ビジネスメール」(3)確認「ビジネス会話」第8課
第13回　冠婚葬祭のマナー
第14回　ビジネスマナーのまとめ
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

しごとの日本語（電話応対基礎編）
著者:　奥村真希他
出版社:　アルク
出版年:　2007年　ISBN:

にほんごで働く！ビジネス日本語30時間
著者:　宮崎道子他
出版社:　スリーエーネットワーク
出版年:　2009年　ISBN:

しごとの日本語（メールの書き方編）
著者:　奥村真紀他
出版社:　アルク
出版年:　2008年　ISBN:

成績評価

試験　（ 60% ）　小テスト（ ）

aks401d510

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （40%）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本事情Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者　河村　静江	

テーマ

日本語運用能力の向上

授業の到達目標

日本語を用いたビジネス場面で必要となる、電話応対・マナー・手紙の書き方などの基礎を身に付ける。

授業の概要

ビジネス用語の理解・ビジネス会話・ビジネスレターの書き方を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

会話がスムーズにできるまで復習を行う。

内　容

第1回　面接場面を想定した自己紹介
第2回　敬語の復習
第3回　「電話応対」(1)　「ビジネス会話」第5課「頼む・断る」
第4回　「ビジネス会話」第5課
第5回　「ビジネスメール」依頼　第6課「許可をもらう」
第6回　「ビジネス会話」第6課
第7回　「電話応対」(2)　「ビジネス会話」第6課
第8回　「ビジネスメール」問い合わせ　「ビジネス会話」第7課「アポイントをとる」
第9回　「ビジネス会話」第7課
第10回　「電話応対」(3)「ビジネス会話」第8課「訪問する」
第11回　「ビジネス会話」第8課
第12回　「ビジネスメール」確認「ビジネス会話」第8課
第13回　冠婚葬祭のマナー
第14回　ビジネスマナーのまとめ
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

しごとの日本語（電話応対基礎編）
著者:　奥村真希他
出版社:　アルク
出版年:　2007年　　ISBN:

にほんごで働く！ビジネス日本語30時間
著者:　宮崎道子他
出版社:　スリーエーネットワーク
出版年:　2009年　　ISBN:

しごとの日本語（メールの書き方編）
著者:　奥村真紀他
出版社:　アルク
出版年:　2008年　　ISBN:

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト（　）

aks401d512

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （40%）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本事情Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者　河村　静江	

テーマ

日本語運用能力の向上

授業の到達目標

日本語を用いたビジネス場面で必要となるマナー・会話・電話応対などの基礎を身に付ける。

授業の概要

ビジネス用語の理解・会話の聴解・会話の練習等を行う。

準備学習（予習・復習）

会話がスムーズにできるまで復習を行う。

内　容

第1回　自己紹介してみよう
第2回　「ビジネスマナー」名刺交換・敬語の基本（1）
第3回　敬語の基本（2）
第4回　敬語を使って友人を紹介しよう
第5回　店員になってみよう
第6回　「ビジネスマナー」お辞儀・「ビジネス会話」第1課「紹介する」
第7回　「ビジネス会話」第1課
第8回　「ビジネスマナー」身だしなみ・「ビジネス会話」第2課「挨拶」
第9回　「ビジネス会話」第2課
第10回　「ビジネスマナー」話し方・「ビジネス会話」第2課
第11回　「ビジネス会話」第3課「電話」
第12回　「ビジネスマナー」接客・「ビジネス会話」第3課
第13回　「ビジネス会話」第4課「注意」
第14回　「ビジネス会話」第4課
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

しごとの日本語ビジネスマナー編
著者:　釜渕優子
出版社:　アルク
出版年:　2008年　ISBN:

にほんごで働く！ビジネス日本語30時間
著者:　宮崎道子
出版社:　スリーエーネットワーク
出版年:　2009年　ISBN:

成績評価

試験　（ 60% ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度　（ 40% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本事情Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者　河村　静江	

テーマ

日本語運用能力の向上

授業の到達目標

日本語を用いたビジネス場面で必要となるマナー・会話・電話応対などの基礎を身に付ける。

授業の概要

ビジネス用語の理解・会話の聴解・会話の練習等を行う。

準備学習（予習・復習）

会話がスムーズにできるまで復習を行う。

内　容

第1回　自己紹介してみよう
第2回　「ビジネスマナー」名刺交換・敬語の基本（1）
第3回　敬語の基本（2）
第4回　敬語を使って友人を紹介しよう
第5回　店員になってみよう
第6回　「ビジネスマナー」お辞儀・「ビジネス会話」第1課「紹介する」
第7回　「ビジネス会話」第1課
第8回　「ビジネスマナー」身だしなみ・「ビジネス会話」第2課「挨拶」
第9回　「ビジネス会話」第2課
第10回　「ビジネスマナー」話し方・「ビジネス会話」第3課「電話」
第11回　「ビジネス会話」第3課
第12回　「ビジネスマナー」接客・「ビジネス会話」第3課
第13回　「ビジネス会話」第4課「注意」
第14回　「ビジネス会話」第4課
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

しごとの日本語ビジネスマナー編
著者:　釜渕優子
出版社:　アルク
出版年:　2008年　ISBN:

にほんごで働く！ビジネス日本語30時間
著者:　宮崎道子
出版社:　スリーエーネットワーク
出版年:　2009年　ISBN:

成績評価

試験　（ 60% ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度　（ 40% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本事情Ⅲ <a>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員　30

履修条件　外国人留学生のみ履修可　　クラス指定

担 当 者　佐野　裕子

テーマ

日本語能力試験N1対策

授業の到達目標

日本語能力試験N1に合格することを目指し、決められた短時間で、能力試験の問題を解けるようにする。また、能力試験の問題集を解くことで、発話・作文の基礎となる、言語知識（語彙・文法）、読解、聴解の能力の向上を目指していく。

授業の概要

演習形式で日本語能力試験N1問題集を受講生がを説いたのちに、解説を担当者が行う。また、全5回に分けてN1語彙の小テストを実施する。この科目では日本語能力試験模試も2回実施し、現在のレベルや弱点を受講生自身が把握する。

準備学習（予習・復習）

N1語彙プリントを毎回配布するので、小テストの勉強を行うこと。毎回その回に行った問題の関連プリントを配布するので、きちんと復習すること。「日本語」の授業で学んだ言語知識やストラテジーを活かすようにすること。

内　容

第1回　授業説明・評価説明・N2語彙テスト
第2回　第2回目模試（言語知識・読解）
第3回　第2回模試（聴解・フィードバック）
第4回　能力試験対策１（言語知識①読解①）／語彙小テスト1
第5回　能力試験対策２（言語知識②読解②聴解①）
第6回　能力試験対策３（言語知識③読解③）／語彙小テスト2
第7回　能力試験対策４（言語知識④読解④聴解②）
第8回　能力試験対策５（言語知識⑤読解⑤）／語彙小テスト3
第9回　能力試験対策６（言語知識⑥読解⑥聴解③）
第10回　能力試験対策７（言語知識⑦読解⑦）／語彙小テスト4
第11回　模試3回目（言語知識・読解）
第12回　模試3回目（聴解・フィードバック）
第13回　まとめ１／語彙小テスト5
第14回　まとめ２
第15回　前期終了時・留学終了時アンケート／総まとめ

履修上の注意点

＊日本語能力試験N1に合格している者は、担当教員に申し出ること。他の科目に受講振り替えを行う。

教科書

授業時配布プリント
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業時適宜紹介
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 20 ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 10 ）
参加度　（ 15 ）

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。模試2回分の成績を「試験」として、各10点×2＝計20点分に換算する。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本事情Ⅲ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者　佐野　裕子	

テーマ

日本語能力試験N1対策

授業の到達目標

日本語能力試験N1に合格することを目指し、決められた短時間で、能力試験の問題を解けるようにする。また、能力試験の問題集を解くことで、発話・作文の基礎となる、言語知識（語彙・文法）、読解、聴解の能力の向上を目指していく。

授業の概要

演習形式で日本語能力試験N1問題集を受講生がを説いたのちに、解説を担当者が行う。また、全5回に分けてN1語彙の小テストを実施する。この科目では日本語能力試験模試も2回実施し、現在のレベルや弱点を受講生自身が把握する。

準備学習（予習・復習）

N1語彙プリントを毎回配布するので、小テストの勉強を行うこと。毎回その回に行った問題の関連プリントを配布するので、きちんと復習すること。「日本語」の授業で学んだ言語知識やストラテジーを活かすようにすること。

内　容

第1回　授業説明・評価説明・N2語彙テスト
第2回　第2回目模試（言語知識・読解）
第3回　第2回模試（聴解・フィードバック）
第4回　能力試験対策１（言語知識①読解①）／語彙小テスト1
第5回　能力試験対策２（言語知識②読解②聴解①）
第6回　能力試験対策３（言語知識③読解③）／語彙小テスト2
第7回　能力試験対策４（言語知識④読解④聴解②）
第8回　能力試験対策５（言語知識⑤読解⑤）／語彙小テスト3
第9回　能力試験対策６（言語知識⑥読解⑥聴解③）
第10回　能力試験対策７（言語知識⑦読解⑦）／語彙小テスト4
第11回　模試3回目（言語知識・読解）
第12回　模試3回目（聴解・フィードバック）
第13回　まとめ１／語彙小テスト5
第14回　まとめ２
第15回　前期終了時・留学終了時アンケート／総まとめ

履修上の注意点

＊日本語能力試験N1に合格している者は、担当教員に申し出ること。他の科目に受講振り替えを行う。

教科書

授業時配布プリント
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業時適宜紹介
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 20 ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 10 ）
参加度　（ 15 ）

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。模試2回分の成績を「試験」として、各10点×2＝計20点分に換算する。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本事情Ⅳ <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者　佐野　裕子	

テーマ

日本語能力試験N1対策、N2復習

授業の到達目標

日本語能力試験N1に合格することを目指し、N1問題集のうち、助詞や副詞、N3・N2レベルの語彙や文法などの復習問題を中心に解いていく。またこれらの問題を解くことで、発話・作文の基礎となる、言語知識（語彙・文法）、読解、聴解の能力の向上を目指していく。

授業の概要

主に演習形式で日本語能力試験N1問題集を受講生がを説いたのちに、解説を担当者が行う。また、全5回に分けてN2語彙の小テストを実施する。この科目では日本語能力試験模試も1回実施し、現在のレベルや弱点を受講生自身が把握する。

準備学習（予習・復習）

N2語彙プリントを毎回配布するので、小テストの勉強を行うこと。毎回その回に行った問題の関連プリントを配布するので、きちんと復習すること。「日本語」の授業で学んだ言語知識やストラテジーを活かすようにすること。

内　容

第1回　授業説明・評価説明／大学のマナー
第2回　生活のマナー
第3回　能力試験対策１（言語知識①読解①）／語彙小テスト1
第4回　能力試験対策２（言語知識②読解②聴解①）
第5回　能力試験対策３（言語知識③読解③）語彙小テスト2
第6回　能力試験対策４（言語知識④読解④聴解②）
第7回　能力試験対策５（言語知識⑤読解⑤）／語彙小テスト3
第8回　模試（言語知識・読解）
第9回　模試（聴解・フィードバック）
第10回　能力試験対策６（言語知識⑥読解⑥聴解③）／語彙小テスト4
第11回　能力試験対策７（言語知識⑦読解⑦）
第12回　能力試験対策８（言語知識⑧／読解⑧／聴解④）
第13回　能力試験対策９（まとめ１）／語彙小テスト5
第14回　能力試験対策10（まとめ２）
第15回　後期終了時・留学終了時アンケート／総まとめ

履修上の注意点

＊日本語能力試験N1に合格している者は、担当教員に申し出ること。他の科目に受講振り替えを行う。

教科書

授業時配布プリント
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業時適宜紹介
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 15 ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 15 ）
参加度　（ 15 ）

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。模試の成績を「試験」として、各15点＝計15点分に換算する。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本事情Ⅳ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件　外国人留学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者　佐野　裕子	

テーマ

日本語能力試験N1対策、N2復習

授業の到達目標

日本語能力試験N1に合格することを目指し、N1問題集のうち、助詞や副詞、N3・N2レベルの語彙や文法などの復習問題を中心に解いていく。またこれらの問題を解くことで、発話・作文の基礎となる、言語知識（語彙・文法）、読解、聴解の能力の向上を目指していく。

授業の概要

主に演習形式で日本語能力試験N1問題集を受講生がを説いたのちに、解説を担当者が行う。また、全5回に分けてN2語彙の小テストを実施する。この科目では日本語能力試験模試も1回実施し、現在のレベルや弱点を受講生自身が把握する。

準備学習（予習・復習）

N2語彙プリントを毎回配布するので、小テストの勉強を行うこと。毎回その回に行った問題の関連プリントを配布するので、きちんと復習すること。「日本語」の授業で学んだ言語知識やストラテジーを活かすようにすること。

内　容

第1回　授業説明・評価説明／大学のマナー
第2回　生活のマナー
第3回　能力試験対策１（言語知識①読解①）／語彙小テスト1
第4回　能力試験対策２（言語知識②読解②聴解①）
第5回　能力試験対策３（言語知識③読解③）語彙小テスト2
第6回　能力試験対策４（言語知識④読解④聴解②）
第7回　能力試験対策５（言語知識⑤読解⑤）／語彙小テスト3
第8回　模試（言語知識・読解）
第9回　模試（聴解・フィードバック）
第10回　能力試験対策６（言語知識⑥読解⑥聴解③）／語彙小テスト4
第11回　能力試験対策７（言語知識⑦読解⑦）
第12回　能力試験対策８（言語知識⑧／読解⑧／聴解④）
第13回　能力試験対策９（まとめ１）／語彙小テスト5
第14回　能力試験対策10（まとめ２）
第15回　後期終了時・留学終了時アンケート／総まとめ

履修上の注意点

＊日本語能力試験N1に合格している者は、担当教員に申し出ること。他の科目に受講振り替えを行う。

教科書

授業時配布プリント
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業時適宜紹介
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 15 ）　　小テスト（ 25 ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 15 ）
参加度　（ 15 ）

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。模試の成績を「試験」として、各15点＝計15点分に換算する。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本文化演習Ⅰ〈留〉**

クラス		配当回生	学部1回生
講義期間	前期	定　　員	30
履修条件	外国人留学生および履修許可を得た日本人学生のみ履修可	クラス指定	
担 当 者	名和　久仁子		

テーマ

日本文化を学習・理解するとともに、京都橘大学を紹介する冊子／映像の作成を通して、日本人学生と留学生が互いの理解を深めあい助け合う能力を養う。

授業の到達目標

日本文化についての知識を、実践を通して学習し深めることを目的とする。また、大学紹介の冊子／映像作成を共に行うことで、留学生は自身の日本語力の向上を図り、日本人学生はわかりやすく相手に伝える力を伸ばす。このような活動を通して、日本人学生も留学生も、互いの文化・慣習の違いに気づき尊重する態度を身につけることも、本科目の重要な目的である。

授業の概要

本科目は「日本文化演習Ⅱ」との連続授業であり、グループワークを行う以下の活動に分けられる。①日本文化に関する講義によって、留学生だけでなく日本人学生も日本文化に対する理解を深める。②京都橘大学のサークルの協力のもと、サークル活動の体験を通して日本文化を学び、受講生同士が翌週のふりかえりで理解を深める。③日本人学生と留学生が共に京都橘大学を紹介する冊子／映像を作成する。なお、②については、活動内容の軽微な変更もありうる。

準備学習（予習・復習）

受講にあたり、互いを尊重しわかりやすく伝え合う心構えを持つこと。

内　　容

第1回　授業説明／評価説明
第2回　サークル体験1（裏千家茶道）
第3回　サークル体験1のふりかえり／大学紹介企画書1
第4回　学外授業（隨心院見学）
第5回　学外授業のふりかえり
第6回　サークル体験2（書道）
第7回　サークル体験2のふりかえり／大学紹介企画書2
第8回　サークル体験3（剣道）
第9回　サークル体験3のふりかえり／大学紹介取材
第10回　サークル体験4（箏曲）
第11回　サークル体験4のふりかえり／大学紹介統括1
第12回　サークル体験5（居合道）
第13回　サークル体験5のふりかえり／大学紹介統括2
第14回　サークル体験6（和太鼓）
第15回　サークル体験6のふりかえり／大学紹介合同発表／まとめ

履修上の注意点

※「日本文化演習Ⅱ」と必ずセットで受講すること。「日本文化演習Ⅰ」のみの履修は認めない。グループワークを主体とする科目であるため、欠席は極力慎むように。遅刻／早退は授業開始後／終了前の各15分までとし、それ以上超過した場合は欠席とする。

教科書

授業時プリント配布
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業時適宜紹介
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 60 ）　　授業中発表等　（ 20 ）

参加度 （ 20 ）

3分の１以上の欠席をした者は、成績評価の対象とならない。また、剽窃やウェブなどからコピーアンドペーストを行った者には「C」以上の評価を付けることはない。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本文化演習Ⅱ〈留〉**

クラス		配当回生	学部1回生
講義期間	前期	定　　員	30
履修条件	外国人留学生および履修許可を得た日本人学生のみ履修可	クラス指定	
担 当 者	名和　久仁子		

テーマ

日本文化を学習・理解するとともに、京都橘大学を紹介する冊子／映像の作成を通して、日本人学生と留学生が互いの理解を深めあい助け合う能力を養う。

授業の到達目標

日本文化についての知識を、実践を通して学習し深めることを目的とする。また、大学紹介の冊子／映像作成を共に行うことで、留学生は自身の日本語力の向上を図り、日本人学生はわかりやすく相手に伝える力を伸ばす。このような活動を通して、日本人学生も留学生も、互いの文化・慣習の違いに気づき尊重する態度を身につけることも、本科目の重要な目的である。

授業の概要

本科目は「日本文化演習Ⅰ」との連続授業であり、本科目はグループワークを行う以下の活動に分けられる。①日本文化に関する講義によって、留学生だけでなく日本人学生も日本文化に対する理解を深める。②京都橘大学のサークルの協力のもと、サークル活動の体験を通して日本文化を学び、受講生同士が翌週のふりかえりで理解を深める。③日本人学生と留学生が共に京都橘大学を紹介する冊子／映像を作成する。なお、②については、活動内容の軽微な変更もありうる。

準備学習（予習・復習）

受講にあたり、互いを尊重しわかりやすく伝え合う心構えを持つこと。

内　　容

第1回　授業説明／評価説明／アイスブレーキング
第2回　仏教と神道
第3回　大学紹介企画書1
第4回　学外授業（隨心院見学）
第5回　京都三大祭
第6回　能と狂言
第7回　大学紹介企画書2
第8回　人形浄瑠璃文楽
第9回　大学紹介取材
第10回　歌舞伎
第11回　大学紹介統括1
第12回　七夕
第13回　大学紹介統括2
第14回　短歌と俳句
第15回　合同発表／まとめ

履修上の注意点

※「日本文化演習Ⅰ」と必ずセットで受講すること。「日本文化演習Ⅱ」のみの履修は認めない。グループワークを主体とする科目であるため、欠席は極力慎むように。遅刻／早退は授業開始後／終了前の各15分までとし、それ以上超過した場合は欠席とする。

教科書

授業時プリント配布
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業時適宜紹介
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 60 ）　　授業中発表等 （ 20 ）

aks403d250

参加度 （ 20 ）

3分の１以上の欠席をした者は、成績評価の対象とならない。また、剽窃やウェブなどからコピーアンドペーストを行った者には「C」以上の評価を付けることはない。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本文化演習Ⅱ〈日a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　外国人留学生および履修許可を得た日本人学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者　辻本　千鶴	

テーマ

日本文化を体験する。

授業の到達目標

日本文化について理解を深める。

授業の概要

京都橘大学の日本文化に関するサークル活動を見学、体験する。事前学習としてその概要を調べ、事後（ふり返り）学習としてグループでの報告会を行う。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　全体説明・茶道について
第2回　茶道裏千家サークル体験
第3回　振り返り学習・箏曲について
第4回　箏曲サークル体験
第5回　振り返り学習・弓道について
第6回　弓道サークル体験
第7回　振り返り学習・居合道について
第8回　居合道サークル体験
第9回　振り返り学習・書道について
第10回　書道サークル体験
第11回　振り返り学習・剣道について
第12回　剣道サークル体験
第13回　振り返り学習・和太鼓について
第14回　和太鼓体験
第15回　まとめ

履修上の注意点

サークル訪問の日程（順番）は見学先の都合により変更されます。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 60% ）	授業中発表等　（ 20% ）
参加度　（ 20% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本文化演習Ⅱ＜日b＞**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　外国人留学生および履修許可を得た日本人学生のみ履修可	クラス指定
担 当 者　古澤　夕起子	

テーマ

日本文化を体験する。

授業の到達目標

日本文化について理解を深める。

授業の概要

京都橘大学の日本文化に関するサークル活動を見学、体験する。事前学習としてその概要を調べ、事後（ふり返り）学習としてグループでの報告会を行う。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　全体説明・茶道について
第2回　茶道裏千家サークル体験
第3回　振り返り学習・箏曲について
第4回　箏曲サークル体験
第5回　振り返り学習・弓道について
第6回　弓道サークル体験
第7回　振り返り学習・居合道について
第8回　居合道サークル体験
第9回　振り返り学習・書道について
第10回　書道サークル体験
第11回　振り返り学習・剣道について
第12回　剣道サークル体験
第13回　振り返り学習・和太鼓について
第14回　和太鼓体験
第15回　まとめ

履修上の注意点

サークル訪問の日程（順番）は見学先の都合により変更されます。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 60% ）	授業中発表等　（ 20% ）
参加度　（ 20% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教養入門 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　アンガス　ノーマン.河原　宣子.阪本　崇.西野　毅朗.南　直人.禧美　智章	

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を主な対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が今後進むべき方向について考える機会を設ける。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
第2回　「世界の言語」
第3回　「東洋と西洋の考え方」
第4回　「自由貿易と私たちのくらし」
第5回　「お金とどう向き合うか」
第6回　「京都の歴史・文化遺産」
第7回　「異文化理解」
第8回　「人と死」
第9回　「人と脳」
第10回　「社会を学問する意義とは？」
第11回　「社会問題としての環境問題」
第12回　「現代の思想」
第13回　「メディアと情報」
第14回　外部講師による講演
第15回　総括、今後の各自の進むべき方向について

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 60 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教養入門 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　南　直人.アンガス　ノーマン.河原　宣子.阪本　崇.西野　毅朗.禧美　智章	

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を主な対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が今後進むべき方向について考える機会を設ける。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
第2回　「世界の言語」
第3回　「東洋と西洋の考え方」
第4回　「自由貿易と私たちのくらし」
第5回　「お金とどう向き合うか」
第6回　「京都の歴史・文化遺産」
第7回　「異文化理解」
第8回　「人と死」
第9回　「人と脳」
第10回　「社会を学問する意義とは？」
第11回　「社会問題としての環境問題」
第12回　「現代の思想」
第13回　「メディアと情報」
第14回　外部講師による講演
第15回　総括、今後の各自の進むべき方向について

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 60 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教養入門 <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　河原　宣子.アンガス　ノーマン.阪本　崇.西野　毅朗.南　直人.禧美　智章	

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を主な対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が今後進むべき方向について考える機会を設ける。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
第2回　「世界の言語」
第3回　「東洋と西洋の考え方」
第4回　「自由貿易と私たちのくらし」
第5回　「お金とどう向き合うか」
第6回　「京都の歴史・文化遺産」
第7回　「異文化理解」
第8回　「人と死」
第9回　「人と脳」
第10回　「社会を学問する意義とは？」
第11回　「社会問題としての環境問題」
第12回　「現代の思想」
第13回　「メディアと情報」
第14回　外部講師による講演
第15回　総括、今後の各自の進むべき方向について

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 60 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教養入門 <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　阪本　崇.アンガス　ノーマン.河原　宣子.西野　毅朗.南　直人.禧美　智章	

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を主な対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が今後進むべき方向について考える機会を設ける。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
第2回　「世界の言語」
第3回　「東洋と西洋の考え方」
第4回　「自由貿易と私たちのくらし」
第5回　「お金とどう向き合うか」
第6回　「京都の歴史・文化遺産」
第7回　「異文化理解」
第8回　「人と死」
第9回　「人と脳」
第10回　「社会を学問する意義とは？」
第11回　「社会問題としての環境問題」
第12回　「現代の思想」
第13回　「メディアと情報」
第14回　外部講師による講演
第15回　総括、今後の各自の進むべき方向について

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 60 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 20 ）	

Syllabus

科 目 名　**教養入門 <Ga>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**教養入門 <Gb>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教養入門 <e>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　西野　毅朗.アンガス　ノーマン.河原　宣子.阪本　崇.南　直人.禧美　智章	

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を主な対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が今後進むべき方向について考える機会を設ける。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
第2回　「世界の言語」
第3回　「東洋と西洋の考え方」
第4回　「自由貿易と私たちのくらし」
第5回　「お金とどう向き合うか」
第6回　「京都の歴史・文化遺産」
第7回　「異文化理解」
第8回　「人と死」
第9回　「人と脳」
第10回　「社会を学問する意義とは？」
第11回　「社会問題としての環境問題」
第12回　「現代の思想」
第13回　「メディアと情報」
第14回　外部講師による講演
第15回　総括、今後の各自の進むべき方向について

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 60 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教養入門 <f>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　南　直人.アンガス　ノーマン.河原　宣子.阪本　崇.西野　毅朗.禧美　智章	

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を主な対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が今後進むべき方向について考える機会を設ける。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
第2回　「世界の言語」
第3回　「東洋と西洋の考え方」
第4回　「自由貿易と私たちのくらし」
第5回　「お金とどう向き合うか」
第6回　「京都の歴史・文化遺産」
第7回　「異文化理解」
第8回　「人と死」
第9回　「人と脳」
第10回　「社会を学問する意義とは？」
第11回　「社会問題としての環境問題」
第12回　「現代の思想」
第13回　「メディアと情報」
第14回　外部講師による講演
第15回　総括、今後の各自の進むべき方向について

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 60 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（　）	授業中発表等（　）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教養入門 <g>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　河原　宣子.アンガス　ノーマン.阪本　崇.西野　毅朗.南　直人.禧美　智章	

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を主な対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が今後進むべき方向について考える機会を設ける。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
第2回　「世界の言語」
第3回　「東洋と西洋の考え方」
第4回　「自由貿易と私たちのくらし」
第5回　「お金とどう向き合うか」
第6回　「京都の歴史・文化遺産」
第7回　「異文化理解」
第8回　「人と死」
第9回　「人と脳」
第10回　「社会を学問する意義とは？」
第11回　「社会問題としての環境問題」
第12回　「現代の思想」
第13回　「メディアと情報」
第14回　外部講師による講演
第15回　総括、今後の各自の進むべき方向について

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 60 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教養入門 <h>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　阪本　崇.アンガス　ノーマン.河原　宣子.西野　毅朗.南　直人.禧美　智章	

テーマ

大学での学び、教養を身につけることの意義

授業の到達目標

この春入学した1回生を主な対象として、大学での学び、とくに教養教育の重要性を確認し、その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を修得させていく。

授業の概要

最初に、京都橘大学の教学の理念および大学で学ぶことの意義を確認し、その後6人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマに即して、授業担当教員が講義を行う。さらに、実社会で活躍しておられる外部講師の方に1度講演をしていただく。最後に、各自が今後進むべき方向について考える機会を設ける。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　京都橘大学の歴史と教育理念、大学における教養教育の意義、4年間の各自の学びの重要性について教授する。
第2回　「世界の言語」
第3回　「東洋と西洋の考え方」
第4回　「自由貿易と私たちのくらし」
第5回　「お金とどう向き合うか」
第6回　「京都の歴史・文化遺産」
第7回　「異文化理解」
第8回　「人と死」
第9回　「人と脳」
第10回　「社会を学問する意義とは？」
第11回　「社会問題としての環境問題」
第12回　「現代の思想」
第13回　「メディアと情報」
第14回　外部講師による講演
第15回　総括、今後の各自の進むべき方向について

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 60 ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 20 ）	

Syllabus

科 目 名　**教養入門 <Gc>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**教養入門 <Gd>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**教養入門 <S>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**教養入門 <Re>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**教養入門 <月1>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**教養入門 <月2>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　安達　太郎.重松　恵美.野村　幸一郎.林　久美子	

テーマ

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶ－地域課題を知り、その解決法を考える－

授業の到達目標

前期「教養入門」の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

授業の概要

文学作品の舞台あるいは文学作品を生み出す土地としての京都（とくに洛東）から滋賀にかけての地域に着目し，現地に足を運ぶことによって，作品を通してこの地域の歴史的・文化的背景を理解する。

準備学習（予習・復習）

一部分でもよいので関連する作品を読んでから授業に参加すると，理解がより深まります。ぜひ原典を手にとって下さい。

内　容

第1回　地域課題研究について／宮崎駿と日本人の信仰
第2回　岩屋神社見学
第3回　琵琶湖疎水と日本の近代化
第4回　無鄰菴見学
第5回　門跡寺院の文化と四宮の伝承
第6回　毘沙門堂・諸羽神社・徳林庵見学
第7回　六波羅と平家
第8回　六波羅蜜寺見学

履修上の注意点

授業と学外見学を組み合わせた4回分の授業を実施します。参加することが重要ですので，くれぐれも欠席しないようにしてください。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　尾西　正成.橋本　二三	

テーマ

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶ－地域課題を知り、その解決法を考える－

授業の到達目標

前期「教養入門」の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

授業の概要

京都から滋賀にかけての地域に残されている書道作品を見学し，書として鑑賞，分析するにとどまらず，その書の歴史的・文化的背景についても学ぶ。

準備学習（予習・復習）

訪問する場所，施設について事前に各自で調べておくこと。

内　　容

第1回　京都を中心とした書の歴史について
第2回　京都国立博物館見学（1）
第3回　京都国立博物館見学（2）
第4回　京都国立博物館見学（3）
第5回　近代の京都滋賀を地盤として活躍した書人について
第6回　京都市美術館見学（1）
第7回　京都市美術館見学（2）
第8回　東山に隣接する美術館博物館見学

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究 <c>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　通年集中　　定　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　松浦　京子.王　衛明.尾下　成敏.小野　浩.高久　嶺之介.増渕　徹

テーマ

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶ－地域課題を知り、その解決法を考える－

授業の到達目標

地域社会と大学および大学生の役割について考えるために、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

授業の概要

この授業では、京都とその周辺の地域性を歴史の観点を重点に置いて追うことを目的としている。具体的には、講義や学外研究、報告会を通して、京都とその周辺の地域性を追うことになろう。

準備学習（予習・復習）

京都府・滋賀県の歴史遺産をなるべく見学すること、また京都・滋賀に関する本を少しでも多く読むこと。

内　容

第1回　総論（京都の歴史遺産と歳時記など）
第2回　グループワークの説明と企画
第3回　学外研究、その１（葵祭りの見学）
第4回　学外研究、その１（葵祭りの見学）
第5回　学外研究、その２（京都市内の歴史遺産の見学）
第6回　学外研究、その２（京都市内の歴史遺産の見学）
第7回　研究入門ゼミ単位での学外研究に関する報告会
第8回　研究入門ゼミ単位での学外研究に関する報告会

履修上の注意点

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなるので、この点をよく心得て欲しい。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

京都府の歴史散歩（全3冊）
著者:　京都府歴史遺産研究会
出版社:　山川出版社
出版年:　2011年　　ISBN:

滋賀県の歴史散歩（全2冊）
著者:　滋賀県歴史散歩編集委員会
出版社:　山川出版社
出版年:　2008年　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ 40% ）
参加度　（ 30% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究 <d>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　通年集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　小林　裕子.有坂　道子.一瀬　和夫

テーマ

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶ－地域課題を知り、その解決法を考える－

授業の到達目標

前期「教養入門」の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

授業の概要

学外見学によって地域歴史遺産を実見および体感したうえで、その歴史的成立背景や文化財的価値について討究する。

準備学習（予習・復習）

各自授業外で、洛東・湖国にある遺跡、博物館、資料館、美術館に足を運び、さまざまな文化財に触れること。またこれらに関わる書籍を読み、その歴史的成立背景や文化財的価値について学ぶこと。

内　容

第1回　京都の祭りを知る①（葵祭・祇園祭・時代祭）
第2回　京都の祭りを知る②（葵祭・祇園祭・時代祭）
第3回　学外見学（建築遺産）
第4回　学外見学（考古遺産）
第5回　学外見学（美術遺産）Ⅰ
第6回　学外見学（美術遺産）Ⅱ
第7回　事後学習（研究発表）
第8回　事後学習（研究発表）　※なお、この授業では必要に応じて、特別講演会が行われることがある。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度　（ 60 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究 <e>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　通年集中　　定　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　アンガス ノーマン.神谷 栄司.倉持 祐二.佐野 仁美

テーマ

山科地域の魅力と課題をさぐる

授業の到達目標

前期「教養入門」の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。山科地域を自然・歴史・文化・教育・産業などの面からとらえ、学んだことをもとに山科地域の課題を考える。

授業の概要

学生の履修における学科間（英コミ）との相互乗り入れを可能にする。 第2回～5回は両学科合同で行う。　第1回と第6回は原則として学科独自の授業になる。 第7回と8回は、英語コミは1クラス、児童教育は3クラスに分けて行う。

準備学習（予習・復習）

山科地域の自然・歴史・文化・教育・産業などの関心を持ち、自分の足で歩いて、山科地域の魅力と課題を探ってみる。

内　容

第1回　オリエンテーション（地域ボランティア活動や地域の文化について）
第2回　山科地域をとらえるフィールドワークの視点と方法、計画づくり
第3回　山科地域の自然と農業 「山科なすについて」（＊ゲストスピーカーはいから園　林　光男さん）
第4回　山科地域の伝統産業 「山科砥の粉について」（＊ゲストスピーカー　進藤謙商店　進藤　謙二さん）
第5回　山科地域の子どもと教育 「山科地域の子どもたち」（＊ゲストスピーカー　幸重社会福祉事務所　幸重　忠孝さん）
第6回　学校フィールドワーク、地域ボランティア、地域の文化の調査、地域の子どもの実態調査などをまとめる
第7回　山科地域の魅力と課題の発表①
第8回　山科地域の魅力と課題の発表②

履修上の注意点

教科書

参考書

知っとこ　見とこ　山科ガイド～京都・山科のミリョク
著者:　木下　達文
出版社:　つむぎ出版
出版年:　2010年　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 20 ）
地域の実態調査をまとめた記録レポート（A4を1枚程度）及び第7回～8回のプレゼンテーションの内容を評価対象とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究 <f>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　松石　泰彦	

テーマ

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶ－地域課題を知りその解決法を考える－

授業の到達目標

前期「教養入門」の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域について調べ、情報を得、発表する。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

授業の概要

京都、とくに山科地域はどのような特性を持つ地域なのか、それが日本全国の中や世界との接点においてはどのように位置づけられるのかについて、総合的に学習をおこなう。各種の地域統計、メディアでの情報、地域で活躍する人々の話などを題材とし、実践的なグループ学習を通じて山科地域の特徴や課題を理解する。なお、以下の通りの講義計画を予定しているが、講師の都合等により 順番やテーマを入れ替えることがある。

準備学習（予習・復習）

各自が居住する地域の社会に関心を持ち、京都市や山科区との比較ができるようにしておくこと。

内　　容

第1回　地域を理解するための諸概念を学ぶ。特に、人口、財政、行政、産業などを中心に、地域の特性の見方や現状を理解する。
第2回　第1回を踏まえて、さまざまな資料から地域をめぐる論点を整理し、まとめる。
第3回　京都府・京都市の産業、企業、それらの歴史など地域特性を学ぶ。地域からのゲスト講師による講演を聴く。
第4回　京都市、特に山科地域の産業、企業の特性や具体的活動を学ぶ。地域からのゲスト講師による講演を聴く。
第5回　地域の医療と福祉の現状と課題を学ぶ。地域から招いたゲストの講演を聴く。
第6回　第3,4,5回を踏まえて、地域の現状や特性について、レポートを作成する。
第7回　地域の経済と企業について具体的様相を学ぶ。特に山科地域の企業や産業について資料を見て、その存在や特色を調べる。
第8回　第7回を踏まえて、グループ単位でディスカッションをして内容をまとめ、それらを発表する。

履修上の注意点

ゲスト講師の調整等で、実施日程が後日発表になるので注意。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究 <g>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　小辻　寿規	

テーマ

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶ－地域課題を知り、その解決法を考える－

授業の到達目標

前期「教養入門」の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

授業の概要

「地域」で学ぶという視点から地域でのフィールドワークを行うとともに、「地域」から学ぶという視点から地域で活動されている方々を大学にお招きしお話しを聞くとともに、それをもとに地域の課題についてディスカッションを行う。

準備学習（予習・復習）

当該科目以外の科目や、新聞・雑誌・インターネットなどから地域の課題についてつねに情報を仕入れておく。

内　容

第1回　①　地域から課題を発見する方法について
第2回　②　ゲストを招き若者が参加するまちづくりの事例紹介及び教員とゲストのディスカッション
第3回　③　ゲストを招き山科区清水焼団地の事例紹介（山科区）
第4回　④　③を受けての学生ディスカッション及び発表
第5回　⑤　山科・醍醐地域の歴史と地域との関わり（山科・醍醐地域フィールドワーク）1
第6回　⑥　山科・醍醐地域の歴史と地域との関わり（山科・醍醐地域フィールドワーク）2
第7回　⑦　ゲストを招き京都市で活躍するまちづくり実践者の話を聞く（住民＋役所職員）
第8回　⑧　⑦を受けてのディスカッション及び発表

履修上の注意点

必修科目のため、遅刻及び欠席に関してはご注意ください。

教科書

参考書

文化政策と臨地まちづくり
著者：　織田直文
出版社：水曜社
出版年：2009　　ISBN：　4880652180

知っとこ見とこ山科ガイド
著者：　木下達文
出版社：つむぎ出版
出版年：2009　　ISBN：　4876681643

京・まちづくり史
著者：　高橋康夫・中川理
出版社：昭和堂
出版年：2003　　ISBN：　4812203147

京都・山科まちづくり物語
著者：　織田直文・廣川桃子・鈴木好美
出版社：晃洋書房
出版年：2009　　ISBN：　4771020809

地域再生　滋賀の挑戦
著者：　近江環人地域再生学座
出版社：新評論
出版年：2011　　ISBN：　4794808887

aky101a287

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）
授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究 <h>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　関根　和弘	

テーマ

過去の災害を知ること。その災害を、昔の人々はどのように知らせたかを学ぶことで、地域から学ぶ、地域を学ぶ。

授業の到達目標

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶ　−地域課題を知り、その解決法を考える−

授業の概要

前記「教養入門」の学修により得た、地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

準備学習（予習・復習）

京都府、京都市・特に山科区や大津市の過去の災害をwebや新聞を通じて調べておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション、災害についての講義
第2回　地域の危険地区や危険な状況の観察や評価方法を伝授し、自ら調査する。
第3回　地域の今を知る。京都市消防局　山科消防署・消防団、京都橘大学学生消防団との協働実習
第4回　地域の今を知る。京都市消防局　山科消防署・消防団、京都橘大学学生消防団との協働実習
第5回　災害時の対応を学ぶ。過去の災害を探り、どのような行動を実施しどのような対応をするのかを学ぶ。
第6回　地域の今を知る。新聞や地域情報誌、webなどから山科・大津地域の過去の災害を探り、模造紙などにまとめる。
第7回　地域を数字で理解する。京都・大津市の地域統計を利用して、山科・大津地域が京都市や滋賀県のなかでどのような特徴を持つ地域なのかを数字から明らかにする。
第8回　まとめ。山科地域の現況と課題。課題に対する企画の立案をし、グループ毎に発表する。

履修上の注意点

前週に知識やルールを得て、翌週に演習を実施するので、配布資料を熟読してこないと同じテーブルになった他の者に迷惑をかけることとなる。無断欠席は試験の受講を認めない。

教科書

救急隊員標準テキスト　改訂第3版
著者:　救急隊員用教本作成委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2007　　ISBN:　9784892695902

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　上巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698699

救急救命士標準テキスト　改訂第9版　下巻
著者:　救急救命士標準テキスト編集委員会
出版社:　へるす出版
出版年:　2015　　ISBN:　9784892698705

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 10 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）	

aky101a288

成績評価は知識や課題に対するプレゼンテーションやグループ間での発表を考査する。またグループを代表しての共通演題のプレゼンテーションを実施する。なお、考査については、原則、すべての授業に参加していることを条件とし、無断欠席があった場合は受験を認めないものとする。

2016 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究 <i>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　賢哉	

テーマ
他学部と統一テーマ

授業の到達目標
他学部と統一テーマ

授業の概要
山科・醍醐地区の地域を知り，人々の暮らしと健康について考える

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション「地域から学ぶ」意義について
第2回　「地域を知る」ための方法論　アンケートのつくり方　インタビューの仕方
第3回　山科・醍醐地区を知る①自然環境　（地域を歩く）
第4回　山科・醍醐地区を知る②安全　（住民との会話から）
第5回　山科・醍醐地区を知る③行政，保健・医療・福祉サービス　（データ分析・住民との会話から）
第6回　山科・醍醐地区を知る④教育，レクリエーション
第7回　山科・醍醐地区を知る⑤この地域に暮らす人びと
第8回　まとめ・発表

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究 <j>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　通年集中　　定　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　日比野 英子.井上 裕樹.永野 光朗.濱田 智崇

テーマ

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶ —地域課題を知り、その解決法を考える—

授業の到達目標

地域社会と大学および大学生の役割についての基本的な考え方を基礎に、その実践として、実際に地域に出かけていく。そのことを通じ、①地域課題を発見する力、②地域課題の解決法について考える力を身につける。

授業の概要

京都府や滋賀県の各地域でどのようなことが課題とされているのかについての情報収集を行い、その課題を解決するための方法を企画立案し、それをフィールドワークとして実践したうえで、得られた成果についての確認を行う。

準備学習（予習・復習）

他の科目や新聞・雑誌・インターネットなどから地域の課題について常に情報を仕入れておく。とくに地域の課題を解決した実践的事例（町おこし、地域内ネットワークの形成、環境問題の解決など）についても注意をしておく。

内　容

第1回　オリエンテーション・地域における課題とは？
第2回　地域課題解決についての事例の紹介（講義）
第3回　地域課題解決のためのフィールドワーク①
第4回　地域課題解決のためのフィールドワーク②
第5回　地域課題解決のためのフィールドワーク③
第6回　地域課題解決のためのフィールドワーク④
第7回　事後学習（成果の確認）
第8回　事後学習（成果の発表）

履修上の注意点

＊第1課の授業で課題別のグループ分けなどを行うので必ず出席すること。＊第2回は、地域課題に取り組んでいるゲストスピーカーによる講演を予定。＊フィールドワーク①－④は1－2日に集中して実施する予定。これに必要な交通費は受講生の自己負担とする。

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

ワークショップ　住民主体のまちづくりへの方法論
著者:　木下勇
出版社:　学芸出版社
出版年:　2007　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ 20% ）
参加度　（ 50% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究 <k>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　通年集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定　大学指定

担 当 者　崎田　正博.安彦　鉄平.小田桐　匡

テーマ

高齢化社会を迎えている我が国において、地域に根付いた医療とケアが益々必要となっている。そこで、京都・滋賀の地域医療の現状を把握し、今後の展望も含めた課題を提案する。

授業の到達目標

京都・滋賀地域で地域医療に携わる現職者から各分野（地域政策、訪問看護、訪問リハビリテーション）の現状を聞き、今後の課題を見出す。

授業の概要

前半は授業形式、後半はグループワーク

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　地域医療概論（オリエンテーション）
第2回　地域政策の現状
第3回　地域医療（訪問医療主体）の現状
第4回　地域の健康施策・訪問リハビリテーションの現状
第5回　グループワーク
第6回　グループワーク
第7回　グループワーク
第8回　課題の発表なお、外部講師を招いて講演会を開催することがある。

履修上の注意点

1/3以下の出席率で単位認定不可

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等　（ 50% ）
参加度　（ 10% ）
グループワークでは、メンバーと積極的にディスカッションし、課題提案を行うこと。

2016 Syllabus

科 目 名　**哲学概論 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　安部　彰	

テーマ

哲学の広がりと深さを学ぶ。

授業の到達目標

哲学とは何かをできるだけ身近な問いに引きつけて理解すること。

授業の概要

哲学は何を問題にしてきたのか、またそれにどのように取り組んできたか、そしてその問いは私達にとってどんな意味をもつのかについて、様々な哲学者の著作を通して考える。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　哲学とはなにか？
第3回　哲学の問い
第4回　哲学の問いの意味
第5回　懐疑論
第6回　懐疑論と自己
第7回　経験論とカントの哲学
第8回　カントの哲学――認識論と倫理学
第9回　社会哲学
第10回　実存主義
第11回　分析哲学の展開
第12回　現代哲学（1）――暴力と国家
第13回　現代哲学（2）――社会哲学の再興と展開
第14回　現代正義論
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

他者の受講する権利を侵害する行為（たとえば「私語」）には厳格に対処します。予習・復習については授業時に適宜指示します。初回授業時に、本授業についてより詳しい説明をおこなうので、履修を検討しているひとは必ず出席してください。

教科書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

マンガは哲学する
著者：　永井　均
出版社：　岩波書店(岩波現代文庫
出版年：　2009　ISBN：

思考実験
著者：　岡本　裕一朗
出版社：　筑摩書房(ちくま新書)
出版年：　2013　ISBN：

哲学トレーニング
著者：　伊勢田　哲治
出版社：　筑摩書房(ちくま新書
出版年：　2005　ISBN：

aky201d210

哲学ってどんなこと？

著者:　T・ネーゲル

出版社: 昭和堂

出版年: 1993　　ISBN:

哲学の道具箱

著者:　J・バッジーニ／P・フォルス

出版社: 共立出版

出版年: 2007　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 100 ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ ）

1）最終講義時に実施する習熟確認課題の結果にもとづき成績を判定する。2）出席が総授業数の3分の2に満たない場合、受験資格はあたえない（つまり評価対象外とする）。

2016 Syllabus

科 目 名　**哲学概論 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　碓井　敏正	

テーマ

哲学の広がりと深さを学ぶ。

授業の到達目標

哲学とは何かをできるだけ身近な問いに引きつけて理解すること。

授業の概要

哲学は何を問題にしてきたのか、またそれにどのように取り組んできたか、そしてその問いは私達にとってどんな意味をもつのかについて、様々な哲学者の著作を通して考える。

準備学習（予習・復習）

現代の諸問題を、自らの生き方との関係でとらえる習慣をつけておくこと。

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　哲学とはなにか？
第3回　哲学の問い
第4回　哲学の問いの意味
第5回　懐疑論
第6回　懐疑論と自己
第7回　経験論とカントの哲学
第8回　カントの哲学――認識論と倫理学
第9回　社会哲学
第10回　実存主義
第11回　分析哲学の展開
第12回　現代哲学(1)――暴力と国家
第13回　現代哲学(2)――社会哲学の再興と展開
第14回　現代正義論
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

人生論の12週
著者:　碓井敏正
出版社:　三学出版
出版年:　2008年　　ISBN:　9784903520292

参考書

成績評価

試験　（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**倫理学概論 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　安部 彰	

テーマ

倫理学とは何か、倫理学にどのような意義があるのかを理解する。

授業の到達目標

倫理学的な考え方を身につけることを目標とする。

授業の概要

近代以降の倫理学の学説を中心として、倫理学的な考え方の基礎を歴史的背景を含めて理解し、現代社会の諸問題を考える上で倫理学的な思考法の意義と重要性を知る。

準備学習（予習・復習）

予習・復習については授業時に適宜指示します。

内　容

第1回　イントロダクション――倫理学とは何か
第2回　倫理学の基礎
第3回　近代の倫理学
第4回　功利主義（1）――功利主義とは何か？
第5回　功利主義（2）――功利主義の意義と限界
第6回　義務論（1）――カントの倫理学
第7回　義務論（2）――義務論の意義と限界
第8回　義務論と功利主義の展開
第9回　自由主義
第10回　自由と責任
第11回　現代正義論（1）――その基本的発想
第12回　現代正義論（2）――平等主義と分配
第13回　現代正義論（3）――正義論への批判
第14回　正義論の展開
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

他者の受講する権利を侵害する行為（たとえば「私語」）には厳格に対処します。初回授業時に、本授業についてより詳しい説明をおこなうので、履修を検討しているひとは必ず出席してください。毎講義後の復習をつよく推奨する。

教科書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

功利主義入門
著者：　児玉 聡
出版社：筑摩書房(ちくま新書)
出版年：2012　ISBN：

正義論の名著
著者：　中山 元
出版社：筑摩書房(ちくま新書)
出版年：2011　ISBN：

プレップ倫理学
著者：　柘植 尚則
出版社：弘文堂
出版年：2010　ISBN：

aky201d350

高校生と大学一年生のための倫理学講義

著者:　藤野 寛

出版社: ナカニシヤ出版

出版年: 2011　　ISBN:

政治哲学への招待

著者:　A・スウィフト

出版社: 風行社

出版年: 2011　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 100 ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ ）

1）最終講義時に実施する習熟確認課題の結果にもとづき成績を判定する。2）出席が総授業数の3分の2に満たない場合、受験資格はあたえない（つまり評価対象外とする）。

2016 Syllabus

科 目 名　**倫理学概論 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　碓井　敏正	

テーマ

倫理学とは何か、倫理学にどのような意義があるのかを理解する。

授業の到達目標

倫理学的な考え方を身につけることを目標とする。

授業の概要

近代以降の倫理学の学説を中心として、倫理学的な考え方の基礎を歴史的背景を含めて理解し、現代社会の諸問題を考える上で倫理学的な思考法の意義と重要性を知る。

準備学習（予習・復習）

応用倫理の各領域については、メディアでもしばしば話題となるので、日ごろからテレビや新聞、雑誌などの情報に注意しておくこと。

内　　容

第1回　イントロダクション――倫理学とは何か
第2回　倫理学の基礎
第3回　近代の倫理学
第4回　功利主義（1）――功利主義とは何か？
第5回　功利主義（2）――功利主義の意義と限界
第6回　義務論（1）――カントの倫理学
第7回　義務論（2）――義務論の意義と限界
第8回　義務論と功利主義の展開
第9回　自由主義
第10回　自由と責任
第11回　現代正義論（1）――その基本的発想
第12回　現代正義論（2）――平等主義と分配
第13回　現代正義論（3）――正義論への批判
第14回　正義論の展開
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

講義形式であるが、主体的に自らの問題意識を大事にして、講義内容を今後の生き方に生かしていくこと。毎講義後の復習をつよく推奨する。

教科書

成熟社会における組織と人間
著者:　碓井　敏正
出版社:　花伝社
出版年:　2015年　　ISBN:　9784763407344

参考書

授業中に指示する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（　）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本人と宗教**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　章彦	

テーマ

日本人はの宗教観の原理的性格を考える

授業の到達目標

日本人は、無宗教だとよく言われる。確かに西欧のキリスト教的な意味での「宗教」は存在しなかったかもしれない。だが仏教は確かに日本に定着したし、また様々な事物に対する「信仰」というものがなかったわけではない。日本人もやはり信心深い性格を強烈に有していたのである。その意味では「宗教」は確かにあったと言えるだろう。だが、今日では科学的な合理性を重んじるが故に本来的に不合理な面を持つ「宗教」や「信仰」が社会全体で急激に希薄になっている。だが人間はすぐれて宗教的な性格を持った存在でもある。結局は日常において宗教もしくは宗教的なものに触れざるを得ないといっても過言ではない。一方で宗教を否定しつつも他方ではそれを無視し得ないのである。そうした矛盾が今日起きている問題の背景のひとつにあるといってよい。本講義では、日本人の宗教観を支える原理的な側面を探り出し、人は宗教とどのように関わるべきかについて考えてみたい。したがって諸君の到達目標は、一つには日本人の宗教観の原理的側面を知ることであり、二つには自分たちが宗教とどのように関係を取り結ぶべきかについて一定の考えを持つ、ということになる。

授業の概要

生活の中にあるさまざまな宗教現象を材料として上記の目標に近づきたい。

準備学習（予習・復習）

宗教学の基礎的な知識を得てほしい。また日常のなかで折に触れて宗教と自身の関係について考えてほしい。

内　　容

第1回　宗教をどのように枠づけるか
第2回　日本人の宗教観の原理的側面をさぐる（1）—カミ・仏教公伝に学ぶ—
第3回　日本人の宗教観の原理的側面をさぐる（2）—カミ・仏教公伝に学ぶ—
第4回　観音と地蔵（1）観音の誘惑—庶民にとっての観音信仰
第5回　観音と地蔵（2）野の石仏が「地蔵」と呼ばれる理由
第6回　福の神と日本人（1）—総論・京洛の福神信仰—
第7回　福の神と日本人（2）—毘沙門天信仰・起源と歴史的展開—
第8回　福の神と日本人（3）—毘沙門天信仰・仏教守護神から福の神へ—
第9回　水神の制御と仏教的神（1）—寺院創建伝説に探る—
第10回　水神の制御と仏教的神（2）—寺院創建伝説に探る—
第11回　眼の霊力について考える—一つ目の鬼、節分・放相氏、そして写楽包介へ付・仏教の天眼通と明恵上人
第12回　盗む空海（1）—神話的空海の仏教伝承
第13回　盗む空海（2）—神話的空海の仏教伝承
第14回　日本人のあの世—日本人の他界観はどのように変わったか
第15回　復習とまとめ

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

宗教学
著者:　岸本英夫
出版社:　大明堂
出版年:　1991　　ISBN:

宗教学入門
著者:　棚次正和・山中弘 編著
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2005　　ISBN:

その他授業内で指示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 50 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 50 ）

Syllabus

科 目 名　**日本人と宗教 <b>**	
クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**ジェンダー研究**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　芝原　妙子	

テーマ

ジェンダーは人種、民族、階級、社会、文化、宗教とともに、人間の歴史的経験を作り上げる最も基本的な要素である。この授業では社会・文化・政治・宗教・教育において、ジェンダーがどのように作用してきたかを考察する。また、人間の差異によって作りだされる支配関係を明らかにするジェンダーの視点を用いて今日的な課題を考える。

授業の到達目標

ジェンダーに関する基本的な概念を理解すると共に、ジェンダーの視点を用いて歴史・文化・社会を理解する力を養うことを目的とする。

授業の概要

講義中心の授業である。テキストは用いず講義に必要な資料を適時配布する。その資料に基づいての予習と復習が講義の理解のために不可欠である。また 講義の理解を深めるため映像資料を用いることがある。講義中に配布するコメント用紙への記入を求める。コメントの内容は評価の対象となる。

準備学習（予習・復習）

日常から授業内容に関連するメディア（新聞・雑誌・報道番組など）に目を通す。授業中に紹介された参考文献を読み進めること。講義の理解のためには配付した資料の予習と復習が必要である。

内　　容

第1回　オリエンテーション、ジェンダー史・ジェンダー研究の概観
第2回　ジェンダー研究キー・コンセプト
第3回　ジェンダーと家族　（1）
第4回　ジェンダーと家族　（2）
第5回　ジェンダーと法・社会規範
第6回　ジェンダーと宗教
第7回　ジェンダーと戦争
第8回　ジェンダーと戦争
第9回　ジェンダーと政治
第10回　ジェンダーと平和運動
第11回　ジェンダーと平和運動
第12回　ジェンダーと労働・経済
第13回　ジェンダーと経済・教育
第14回　ジェンダーと表象文化
第15回　ジェンダーとセクシュアリティーまとめ

履修上の注意点

テキストを用いず、必要な資料を配付する。受講者は講義の内容を各自記録する必要がある。講義中は携帯電話・スマートホーンの電源を切る。講義の内容を写真に撮ることを禁止する。

教科書

参考書

女性の目からみたアメリカ史
著者：　エレン・キャロル・ディチュボイス、リン・ディメニル
出版社：明石書店
出版年：2009　　ISBN：

知らないと恥ずかしいジェンダー入門
著者：　加藤秀一
出版社：　朝日新聞社
出版年：2006　　ISBN：

aky201d550

Japanese Women and the Transnational Feminist Movement before World War II
著者:　Taeko Shibahara
出版社: Temple University Press
出版年: 2014　ISBN:

アメリカ・ジェンダー研究入門
著者:　有賀夏紀、小檜山ルイ編
出版社: 青木書店
出版年: 2010　ISBN:

近代日本女性論の系譜
著者:　金子幸子
出版社: 不二出版
出版年: 1999　ISBN:

ジェンダーから世界を読むII
著者:　中野知律、越智博美編
出版社: 明石書店
出版年: 2008　ISBN:

ジェンダーで学ぶ社会学
著者:　伊藤公雄、牟田和恵編
出版社:　世界思想社
出版年: 2006　ISBN:

キーコンセプト　ジェンダー・スタディーズ
著者:　ジェイン・ピルチャー、イメルダ・ウィラハン　著
出版社: 新曜社
出版年: 2009　ISBN:

成績評価

試験 （ 30% ）　小テスト （ 30% ）
授業中課題 （ 40% ）　授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）
授業中課題40%は、講義時に複数回提出を求めるコメントを意味する。試験は期末レポート試験を意味する。

2016 Syllabus

科 目 名　**宗教学概論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　章彦	

テーマ

宗教と向き合うより良き方法を考える

授業の到達目標

宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるのか、といった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成してほしい。

授業の概要

以下の予定で授業を行う

準備学習（予習・復習）

宗教の基礎を学ぶ

内　　容

第1回　総論Ⅰ　宗教と宗教学―宗教にどのようにアプローチするか―
第2回　総論Ⅱ　宗教をどのように定義するか
第3回　総論Ⅲ　世界の宗教を分類する―宗教現象の概括理解のために―
第4回　総論Ⅳ　個人において宗教はどのように顕れるか―信仰ということ・その1―
第5回　総論Ⅳ　個人において宗教はどのように顕れるか―信仰ということ・その2―
第6回　総論Ⅴ　祈るということ
第7回　総論Ⅵ　宗教の人間観
第8回　各論Ⅰ　（1）　仏教―釈迦とその後の展開・その1―
第9回　各論Ⅰ　（2）　仏教―釈迦とその後の展開・その2―
第10回　各論Ⅰ　（3）　仏教―日本仏教―
第11回　各論Ⅰ　キリスト教の歴史を概観する
第12回　各論Ⅰ　イスラームの基礎を知る
第13回　各論Ⅱ　日本の新宗教を考える
第14回　各論Ⅲ　世界の出来事を宗教との関係で読み解く
第15回　各論Ⅳ　まとめ―宗教とどのように向き合うか

履修上の注意点

「日本人と宗教」を同時に受講することが望ましい

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

宗教学
著者:　岸本英夫
出版社:　原書房
出版年:　2004　　ISBN:

宗教学入門
著者:　棚次政和　他編
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2005　　ISBN:

宗教学入門
著者:　脇本平也
出版社:　講談社
出版年:　1997　　ISBN:

成績評価

試験 （ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 50 ）
＊参加度は授業各回の理解状況と積極的姿勢を持って臨んでいるかどうかをリアクションペーパーなどで評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学概論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　濱田　智崇	

テーマ

心理学の諸分野に触れ基礎的な知識を身につける

授業の到達目標

「こころ」は誰もが毎日働かせているものであり、対人関係や社会生活について考える上でも「こころ」を抜きにすることはできない。こうした身近な存在であるがゆえに、関心を持つ人は多いが、誤解されることや表層的な理解にとどまることも多いと考えられる。そこでこの講義では、自然科学の一種としての心理学の全体像を概観する。そのことで、受講者の持っていた興味や関心が正確な知識とつながり、さらに自らで考えることができるようになるための基礎づくりを目標とする。

授業の概要

生理、知覚、認知、社会、教育、発達、人格、臨床といった心理学の諸分野にわたって広く概説し、心理学の基礎的な知識や、その考え方を身につけられるように進めていく。

準備学習（予習・復習）

普段の自分の生活と講義内容を結びつけて考えてみてください。

内　容

第1回　オリエンテーション 「こころ」とは何か？「心理学」とは何か？
第2回　こころとからだ～生きている上で実感すること
第3回　「動物」としての人間
第4回　「機械」としての人間～行動主義の心理学
第5回　学習と知能
第6回　認知と記憶
第7回　子どものこころの世界
第8回　こころの成長とは？
第9回　ライフサイクルから人生を考える
第10回　社会や集団を考える心理学
第11回　対人関係を考える心理学
第12回　パーソナリティとは？～自分の性格について考える
第13回　感情とは何か？～自分の感情に気づく
第14回　カウンセリングの基礎
第15回　まとめ
第16回　期末試験

履修上の注意点

授業中に紹介する参考文献を読んでおくと理解が深まる

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 70% ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）
授業中課題（レポート）は抜き打ちで実施します。

2016 Syllabus

科 目 名　**言語コミュニケーション論 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

コミュニケーションにおける「配慮」

授業の到達目標

コミュニケーションに必要な「配慮」を身に付ける。

授業の概要

コミュニケーションに関する基本的な知識を学ぶとともに、わかりやすいコミュニケーションの実践を行う。

準備学習（予習・復習）

「変な看板を集めよう！」などの課題はきちんと証拠を集めてくること。

内　容

第1回　ガイダンス：コミュニケーションとはなにか？
第2回　コミュニケーションを集めよう（1）：看板
第3回　コミュニケーションを集めよう（2）：イラッとするメール、LINE
第4回　書き言葉によるコミュニケーション（1）：メール
第5回　書き言葉によるコミュニケーション（2）：お知らせ
第6回　書き言葉によるコミュニケーション（3）：アンケート
第7回　やさしい日本語（1）：日本語と権利
第8回　やさしい日本語（2）：色々な日本語を書き換えよう
第9回　コミュニケーションの理論（1）：語用論入門
第10回　コミュニケーションの理論（2）：協調の原則
第11回　コミュニケーションの理論（3）：丁寧さを考える
第12回　話し言葉によるコミュニケーション（1）：電話での問い合わせ
第13回　話し言葉によるコミュニケーション（2）：お願い
第14回　話し言葉によるコミュニケーション（3）：プレゼン

履修上の注意点

教科書

参考書

日本語を話すトレーニング
著者：　野田尚史・森口稔
出版社：ひつじ書房
出版年：2004　　ISBN：978-4894762107

日本語を書くトレーニング
著者：　野田尚史・森口稔
出版社：ひつじ書房
出版年：2003　　ISBN：978-4894761773

「やさしい日本語」は何を目指すか
著者：　庵功雄・イ ヨンスク・森篤嗣
出版社：ココ出版
出版年：2013　　ISBN：978-4904595381

ディスコース
著者：　橋内武
出版社：くろしお出版
出版年：1999　　ISBN：978-4874241721

成績評価

aky301d110

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 70 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）

Syllabus

科 目 名　言語コミュニケーション論 <b>	
クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**現代のメディアと表現 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　禧美　智章	

テーマ

宮崎駿と細田守のアニメーションを「読む」

授業の到達目標

宮崎駿・細田守が作品に込めたメッセージや思想を理解する

授業の概要

「風の谷のナウシカ」や「サマーウォーズ」等の作品分析を中心として講義形式で授業を行う（なお、授業規模・進行等によって、授業内容・取り上げる作品を変更する場合がある）。

準備学習（予習・復習）

予めテキストを読んだ上で、講義に臨むこと。

内　　容

第1回　宮崎駿の思想
第2回　「風の谷のナウシカ」読解（1）
第3回　「風の谷のナウシカ」読解（2）
第4回　「風の谷のナウシカ」読解（3）
第5回　「風の谷のナウシカ」読解（4）
第6回　「紅の豚」読解
第7回　「ハウルの動く城」読解
第8回　宮崎駿まとめ
第9回　細田守の演出
第10回　「サマーウォーズ」読解（1）
第11回　「サマーウォーズ」読解（2）
第12回　「サマーウォーズ」読解（3）
第13回　「おおかみこどもの雨と雪」読解
第14回　「バケモノの子」読解
第15回　まとめ

履修上の注意点

講義中の私語やスマホの使用は禁止。大学生として相応しい態度で授業に臨むこと。また、不定期に授業中課題を課すので、授業にはきちんと参加すること。

教科書

宮崎駿の地平
著者：　野村幸一郎
出版社：白地社
出版年：2010/10　　ISBN：　4893591037

サマーウォーズ
著者：　岩井恭平
出版社：角川書店
出版年：2009/7　　ISBN：　4044288224

参考書

おおかみこどもの雨と雪
著者：　細田守
出版社：角川書店
出版年：2012/6　　ISBN：　978-4044288228

バケモノの子
著者：　細田守
出版社：角川書店
出版年：2015/6　　ISBN：　978-4041030004

aky301d210

成績評価

試験 （ 70 ）
小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**現代のメディアと表現 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　禧美　智章	

テーマ

宮崎駿と細田守のアニメーションを「読む」

授業の到達目標

宮崎駿・細田守が作品に込めたメッセージや思想を理解する

授業の概要

「風の谷のナウシカ」や「サマーウォーズ」等の作品分析を中心として講義形式で授業を行う(なお、授業規模・進行等によって、授業内容・取り上げる作品を変更する場合がある)。

準備学習(予習・復習)

予めテキストを読んだ上で、講義に臨むこと。

内　　容

第1回　宮崎駿の思想
第2回　「風の谷のナウシカ」読解(1)
第3回　「風の谷のナウシカ」読解(2)
第4回　「風の谷のナウシカ」読解(3)
第5回　「風の谷のナウシカ」読解(4)
第6回　「紅の豚」読解
第7回　「ハウルの動く城」読解
第8回　宮崎駿まとめ
第9回　細田守の演出
第10回　「サマーウォーズ」読解(1)
第11回　「サマーウォーズ」読解(2)
第12回　「サマーウォーズ」読解(3)
第13回　「おおかみこどもの雨と雪」読解
第14回　「バケモノの子」読解
第15回　まとめ

履修上の注意点

講義中の私語やスマホの使用は禁止。大学生として相応しい態度で授業に臨むこと。また、不定期に授業中課題を課すので、授業にはきちんと参加すること。

教科書

宮崎駿の地平
著者:　野村幸一郎
出版社:　白地社
出版年:　2010/10　　ISBN:　4893591037

サマーウォーズ
著者:　岩井恭平
出版社:　角川書店
出版年:　2009/7　　ISBN:　4044288224

参考書

おおかみこどもの雨と雪
著者:　細田守
出版社:　角川書店
出版年:　2012/6　　ISBN:　978-4044288228

バケモノの子
著者:　細田守
出版社:　角川書店
出版年:　2015/6　　ISBN:　978-4041030004

aky301d212

成績評価

試験 （ 70 ）
小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**現代のメディアと表現 <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報社会論 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　三輪　幸一	

テーマ

IT社会におけるエンドユーザとしての基礎知識

授業の到達目標

経営戦略，システム企画，マネジメント，ハードウェア，ネットワーク，情報セキュリティ，著作権，情報分析などの手法に関する基礎知識を修得すること

授業の概要

IT技術の進展した高度情報化社会に対処していく上で，経営戦略，システム企画，マネジメント，ハードウェアやネットワークのしくみに関する基礎的な知識は不可欠となっています。また個人情報の漏洩やコンピュータウィルスなどの脅威にさらされており，情報セキュリティに関する知識も不可欠となっています。これらについて概説するとともに，国家資格である情報処理技術者試験のITパスポート試験レベルを視野に入れた情報技術の基礎知識や情報分析の手法についても概説します。講義内容の理解を深めるため，ほぼ毎回授業の最後に小テスト形式での課題の提出が必要です。

準備学習（予習・復習）

授業の理解を深め，また授業中に実施する小テストの練習のため，以下のITパスポート試験の過去問を分野別に解説している携帯用サイト（私のWEBサイトからQRコードでアクセスできます）の問題を解き，理解を深めること。ITパスポート試験の過去問解説http://www7b.biglobe.ne.jp/~a0mediac/index_k.htmまたITパスポート試験を受験する場合は，ITパスポート試験の参考書を完全に精読し理解しておく必要があります。またITパスポート試験では70%は過去問から同様な問題が出題されるので過去問題集により傾向把握し問題練習するのが効果的です。

内　容

第1回　経営管理と組織論業務の把握と分析手法
第2回　経営戦略の手法
第3回　マネジメントの手法事業戦略，経営管理システム
第4回　システム戦略とシステム企画Ⅰ
第5回　システム戦略とシステム企画Ⅱ
第6回　プロジェクトマネジメントとサービスマネジメント
第7回　コンピュータシステムⅠコンピュータの構成要素（メモリ，CPU，バスシステム，補助記憶装置，入出力インタフェース）
第8回　コンピュータシステムⅡ・ソフトウェアシステム（OS，ファイルシステムなど）
第9回　ネットワークの構成としくみⅠ・IPアドレスとネットワークのしくみ
第10回　ネットワークの構成としくみⅡ・ネットワークのプロトコルやネットワーク構成に必要なサーバなど
第11回　ホームページやソフトウェアの著作権・コンピュータウィルスの種類と対策・ネットワークのセキュリティ対策・情報漏えい対策（フィッシング対策，スパイウェア対策など）
第12回　情報セキュリティ・情報セキュリティ管理と脅威，リスク対策・アクセス権，認証，暗号化，ディジタル署名，メッセージ認証
第13回　情報分析の手法Ⅰ（決定表とDFDによる分析）
第14回　情報分析の手法Ⅱ（E-R図による分析）
第15回　情報分析の手法Ⅲ（ポートフォリオ図による分析，SWOT分析）情報分析の手法Ⅳ（アローダイアグラムによる日程計画）

履修上の注意点

授業及び小テストは，指定された席で，受講すること。また小テスト時には，学生証を机上に提示し受験すること。私語など受講マナーが悪く，授業に悪影響を及ぼすと判断される場合，減点の対象とします。

教科書

授業中にレジュメや小テスト形式の課題のプリントを配布します。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

ITパスポート スーパー合格本(CBT対応)

著者：　三輪幸市（ペンネーム）

出版社：　秀和システム

出版年：　　ISBN：

aky301d310

秀和システム「ITパスポート スーパー合格本(CBT対応)」三輪幸市（ペンネーム）の電子書籍版（pdf形式）がPドライブの以下のフォルダにありますので、授業の参考にしてください。

著者： 「2016年度」→「三輪先生」→「教材提示用」→「情報社会論」とたどり、「ITパスポート スーパー合格本.pdf」

出版社：

出版年：　　ISBN：

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ 80% ）

授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ 10% ）

参加度 （ 10% ）

授業中の小テスト形式の課題による平常点評価のウエイトが高いので（80%），やむを得ぬ理由があり授業に欠席した場合は，申し出て小テスト形式の課題を受取り，指定の提出期限までに課題を提出するようにして下さい。また授業中発表課題のプレゼンテーションについての評価も行います（10%）。

2016 Syllabus

科 目 名　**情報社会論 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　三輪　幸一	

テーマ

IT社会におけるエンドユーザとしての基礎知識

授業の到達目標

経営戦略，システム企画，マネジメント，ハードウェア，ネットワーク，情報セキュリティ，著作権，情報分析などの手法に関する基礎知識を修得すること

授業の概要

IT技術の進展した高度情報化社会に対処していく上で，経営戦略，システム企画，マネジメント，ハードウェアやネットワークのしくみに関する基礎的な知識は不可欠となっています。また個人情報の漏洩やコンピュータウィルスなどの脅威にさらされており，情報セキュリティに関する知識も不可欠となっています。これらについて概説するとともに，国家資格である情報処理技術者試験のITパスポート試験レベルを視野に入れた情報技術の基礎知識や情報分析の手法についても概説します。講義内容の理解を深めるため，ほぼ毎回授業の最後に小テスト形式での課題の提出が必要です。

準備学習（予習・復習）

授業の理解を深め，また授業中に実施する小テストの練習のため，以下のITパスポート試験の過去問を分野別に解説している携帯用サイト（私のWEBサイトからQRコードでアクセスできます）の問題を解き，理解を深めること。ITパスポート試験の過去問解説http://www7b.biglobe.ne.jp/~a0mediac/index_k.htmまたITパスポート試験を受験する場合は，ITパスポート試験の参考書を完全に精読し理解しておく必要があります。またITパスポート試験では70%は過去問から同様な問題が出題されるので過去問題集により傾向把握し問題練習するのが効果的です。

内　容

第1回　経営管理と組織論業務の把握と分析手法
第2回　経営戦略の手法
第3回　マネジメントの手法事業戦略，経営管理システム
第4回　システム戦略とシステム企画Ⅰ
第5回　システム戦略とシステム企画Ⅱ
第6回　プロジェクトマネジメントとサービスマネジメント
第7回　コンピュータシステムⅠコンピュータの構成要素（メモリ，CPU，バスシステム，補助記憶装置，入出力インタフェース）
第8回　コンピュータシステムⅡ・ソフトウェアシステム（OS，ファイルシステムなど）
第9回　ネットワークの構成としくみⅠ・IPアドレスとネットワークのしくみ
第10回　ネットワークの構成としくみⅡ・ネットワークのプロトコルやネットワーク構成に必要なサーバなど
第11回　ホームページやソフトウェアの著作権・コンピュータウィルスの種類と対策・ネットワークのセキュリティ対策・情報漏えい対策（フィッシング対策，スパイウェア対策など）
第12回　情報セキュリティ・情報セキュリティ管理と脅威，リスク対策・アクセス権，認証，暗号化，ディジタル署名，メッセージ認証
第13回　情報分析の手法Ⅰ（決定表とDFDによる分析）
第14回　情報分析の手法Ⅱ（E-R図による分析）
第15回　情報分析の手法Ⅲ（ポートフォリオ図による分析，SWOT分析）情報分析の手法Ⅳ（アローダイアグラムによる日程計画）

履修上の注意点

授業及び小テストは，指定された席で，受講すること。また小テスト時には，学生証を机上に提示し受験すること。私語など受講マナーが悪く，授業に悪影響を及ぼすと判断される場合，減点の対象とします。

教科書

授業中にレジュメや小テスト形式の課題のプリントを配布します。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

ITパスポート スーパー合格本(CBT対応)

著者：　三輪幸市（ペンネーム）

出版社：　秀和システム

出版年：　　ISBN：

aky301d312

秀和システム「ITパスポート スーパー合格本(CBT対応)」三輪幸市（ペンネーム）の電子書籍版（pdf形式）がPドライブの以下のフォルダにありますので、授業の参考にしてください。

著者：　「2016年度」→「三輪先生」→「教材提示用」→「情報社会論」とたどり、「ITパスポート スーパー合格本.pdf」

出版社：

出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト　（ 80% ）

授業中課題　（　）　　授業中発表等　（ 10% ）

参加度　（ 10% ）

授業中の小テスト形式の課題による平常点評価のウエイトが高いので（80%），やむを得ぬ理由があり授業に欠席した場合は，申し出て小テスト形式の課題を受取り，指定の提出期限までに課題を提出するようにして下さい。また授業中発表課題のプレゼンテーションについての評価も行います（10%）。

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Aa〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　青木　寛史	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。 この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。 授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Ab〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　白井　安夫	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。 この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。 授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Ac〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　鶴谷　直樹	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。 この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。 授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Ad〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　池本 浩章	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。 この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。 授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Ae〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　厳樫　昌弘	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。 この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。 授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Af〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　富岡　康	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。 この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。 授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Ag〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　杉本 みち子	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。 この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。 授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ ）	小テスト （ 40 ）
授業中課題 （ 40 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Ah〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　武田　春美	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。 この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。 授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Ba〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　青木　寛史	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。 この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。 授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ <Bb>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　白井　安夫	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。 この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。 授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Bc〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　鶴谷　直樹	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。 この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。 授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ <Bd>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　池本 浩章	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。 この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。 授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ ）	小テスト （ 40 ）
授業中課題 （ 40 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ <Be>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　厳樫　昌弘	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。 この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。 授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ <Bf>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　富岡　康	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。 この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。 授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Bg〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　杉本　みち子	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。 この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。 授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈Bh〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　武田　春美	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。 この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。 授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　青木 寛史	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。 この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。 授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　青木　寛史	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。 この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。 授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　白井　安夫	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。 この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。 授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　白井 安夫	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。 この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。 授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認
第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ ）	小テスト （ 40 ）
授業中課題 （ 40 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈水3〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。 この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。 授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈e〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅰ〈水4〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入学して、やっと数学から解放されると思っている人もいるでしょう。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野（非言語分野と呼ばれます）の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけではなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。 この授業では、入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。 授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　イントロダクション：入社試験を体験してみよう！
第2回　数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
第3回　数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
第4回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第5回　数の世界の不思議から文字へ
第6回　展開、因数分解～文字式の計算
第7回　展開、因数分解～式の計算と因数分解
第8回　方程式の活用（1）～一次・連立・二次方程式
第9回　方程式の活用（2）～方程式の応用問題
第10回　不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
第11回　関数とグラフ（1）～グラフの見方・1次関数
第12回　関数とグラフ（2）～2次関数・平方完成
第13回　関数とグラフ（3）～2次関数の最大値・最小値
第14回　関数とグラフ（4）～関数と方程式
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（40）
授業中課題（40）	授業中発表等（　）
参加度（20）	

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Aa〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　青木　寛史	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（　）
参加度（20）

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Ab〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　白井　安夫	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（　）
参加度（20）

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Ac〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　鶴谷　直樹	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（　）
参加度（20）

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ <Ad>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　池本　浩章	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（　）
参加度（20）

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Ae〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　厳樫　昌弘	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（　）
参加度（20）

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Af〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　富岡　康	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（　）
参加度（20）

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Ag〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　杉本　みち子	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（　）
参加度（20）

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Ah〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　武田　春美	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（　）
参加度（20）

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Ba〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　青木　寛史	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（　）
参加度（20）

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ <Bb>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　白井　安夫	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（　）
参加度（20）

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ <Bc>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　鶴谷　直樹	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（　）
参加度（20）

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ <Bd>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　池本　浩章	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（　）
参加度（20）

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ <Be>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　厳樫　昌弘	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（　）
参加度（20）

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ <Bf>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　富岡　康	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（　）
参加度（20）

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈Bg〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　杉本　みち子	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（　）
参加度（20）

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ <Bh>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　武田　春美	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（　）
参加度（20）

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　青木　寛史	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（　）
参加度（20）

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　青木　寛史	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（　）
参加度（20）

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　白井　安夫	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（　）
参加度（20）

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　白井　安夫	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（　）
参加度（20）

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈水4〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（　）
参加度（20）

Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈e〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**数学演習Ⅱ〈水3〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

授業の到達目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の概要

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

内　　容

第1回　比・比例・割合（1）～考え方とその基礎
第2回　比・比例・割合（2）～応用問題
第3回　論理と集合（1）～補集合・和集合・積集合
第4回　論理と集合（2）～命題と論理
第5回　論理と集合（2）～命題と論理
第6回　場合の数と確率（2）～順列と組み合わせ
第7回　場合の数と確率（3）～確率とその応用
第8回　平面図形（1）～平行線と角
第9回　平面図形（2）～円とその性質
第10回　平面図形（3）～合同と相似
第11回　図形と計量（1）～面積・三平方の定理
第12回　図形と計量（2）～応用問題
第13回　空間図形（1）～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
第14回　空間図形（2）～応用問題
第15回　まとめと到達度の確認

履修上の注意点

自分自身で手を動かして取り組まなければ数学の力は身につかないので、欠席や遅刻をしないのはもちろんのこと、積極的に授業に参加する必要がある。

教科書

スタートⅡ　京都橘のポートフォリオ
著者：　京都橘大学
出版社：京都橘大学生協
出版年：2012　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（40）
授業中課題（40）　　授業中発表等（　）
参加度（20）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅲ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期集中	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　小西　康子	

テーマ

Excelを使用し、業務データを目的に応じて活用・分析する方法を習得する。

授業の到達目標

Excelを使用し、効率の良い業務データの処理分析、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT利活用のための実践的な知識を習得し、『日商PC検定試験3級（データ活用）』資格の取得をめざす。

授業の概要

現在、最もシェアの高い表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、データの集計処理やグラフ化、データベース分析などを行い、効率よく目的に応じた資料を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、取引の仕組みや業務データの流れなどもあわせて学習し、総合的なデータの処理分析能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT利活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級（データ活用）』受験レベルのスキルを身につける。授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。授業日程は、各日1～4講時とし、最終回のみ1～3講時とす

準備学習（予習・復習）

パソコンの基本スキル（入力、保存など）がある、もしくは、パソコン基本スキル習得の授業をあわせて受講することが望ましい。授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内パソコン教室・自宅などで学習しておいてください。

内　容

第1回　オリエンテーション／日商PC検定とは知識科目対策・電子商取引、電子政府・電子自治体、ハードウェア
第2回　知識科目対策・ソフトウェア、ファイル、ネットワーク基礎
第3回　Wordの基本操作・社外文書作成
第4回　Wordの基本操作・表作成
第5回　知識科目対策・ビジネス文書の基本、社内文書の書き方、社外文書の書き方
第6回　知識科目対策・ビジネス文書のライティング技術
第7回　実技問題演習
第8回　実技問題演習
第9回　知識科目対策・ビジネス文書のライティング技術・ビジネス図解の基本・ビジネス文書の管理
第10回　実技科目問題演習
第11回　実技問題演習
第12回　検定対策・模擬試験
第13回　実技科目問題演習
第14回　検定対策・模擬試験
第15回　試験（知識科目+実技科目）

履修上の注意点

教科書

日商PC検定試験 データ活用 3級 完全マスター　合格のコツがわかる問題集Word2010対応
著者：　富士通エ フ・オー・エム（株）
出版社：FOM出版
出版年：　　ISBN：　9784893118981

参考書

成績評価

試験　（ 60% ）	小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 30% ）	授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅳ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期集中	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　小西　康子	

テーマ

Wordを使用し、質の高いビジネス文書を効率よく作成する方法を習得する。

授業の到達目標

Wordを使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書の作成、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT利活用のための実践的な知識を習得し、『日商PC検定試験3級（文書作成）』資格の取得をめざす。

授業の概要

現在、最もシェアの高いワープロソフト「Microsoft Word」を使用し、効率よく適切なビジネス文書を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、ビジネス文書の形式や、文書作成の上で必要となる文法や文章表現などもあわせて学習し、総合的な文書作成能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT利活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級（文書作成）』受験レベルのスキルを身につける。授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。授業日程は、各日1～4講時とし、最終日のみ1～3講時とする。

準備学習（予習・復習）

パソコンの基本スキル（入力、保存など）がある、もしくは、パソコン基本スキル習得の授業をあわせて受講することが望ましい。授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内パソコン教室・自宅などで学習しておいてください。

内　容

第1回　オリエンテーション／日商PC検定とは知識科目対策・電子商取引、電子政府・電子自治体、ハードウェア
第2回　知識科目対策・ソフトウェア、ファイル、ネットワーク基礎
第3回　Wordの基本操作・社外文書作成
第4回　Wordの基本操作・表作成
第5回　知識科目対策・ビジネス文書の基本、社内文書の書き方、社外文書の書き方
第6回　知識科目対策・ビジネス文書のライティング技術
第7回　実技問題演習
第8回　実技問題演習
第9回　知識科目対策・ビジネス文書のライティング技術・ビジネス図解の基本・ビジネス文書の管理
第10回　知識科目問題演習
第11回　実技問題演習
第12回　検定対策・模擬試験
第13回　実技科目問題演習
第14回　検定対策・模擬試験
第15回　試験（知識科目+実技科目）

履修上の注意点

教科書

日商PC検定試験 文書作成 3級 完全マスター　合格のコツがわかる問題集Word2010対応
著者：　富士通エ フ・オー・エム（株）
出版社：FOM出版
出版年：　ISBN：
日商PC検定試験 文書作成 3級 公式テキスト
著者：　富士通エ フ・オー・エム（株）
出版社：FOM出版
出版年：　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 60% ）　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 30% ）　授業中発表等 （ 10% ）
参加度 （ 0% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅴ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定

担 当 者　三輪　幸一

テーマ

アニメーションを主としたプログラミング入門

授業の到達目標

JavaScriptやFlashアニメーションの初歩的なプログラミングができることを目指す

授業の概要

ホームページでの動的なアニメーション表現やデータ処理などにJavaScriptやFlashのActionScriptによるプログラムが使われています。JavaScriptやFlashのActionScriptによるプログラミングは、現在のWeb技術には欠くことのできない技術になっています。WebデザイナやWebプログラマの基礎技術にもなっています。画像や図形のアニメーションを主としたJavaScriptやFlashアニメーションのプログラミングを通してプログラミングの初歩とプログラミングの基本的な処理パターンを修得します。初めてプログラミングを学ぶ人のために、実習を通して易しくプログラミングを修得します。授業では「プログラミングによるアニメーションの初歩と表現の可能性」を追及しながら授業をすすめていきます。1．JavaScriptによるプログラミング入門（第1～11回）　画像や図形のアニメーションを主としたプログラムの作成を通して、ループ処理や分岐処理、マウスによるイベント処理などのプログラミングの基本的な処理パターンを修得します。2．FlashのActionScriptによるアニメーションプログラミング入門（第12～15回）　ActionScriptはFlashアニメーションのプログラムの作成を支援するツールで、プログラムの作成が初心者でも比較的容易になります。これを用いて、初歩的なプログラミング技術を修得します。ActionScriptにより高度なFlashアニメーションの作成技術が修得できますので、情報処理演習Ⅵの受講者も引続き受講されることを推奨します。

準備学習（予習・復習）

授業形態は、積み上げ型による演習形式であり、授業時間も限られているので、授業に欠席した場合は、受講者はパソコン教室などを利用し、授業時間以外の学習によって、次の時間までに自習し追いつくようにして下さい。

内　容

第1回　JavaScriptの準備（HTMLの基礎）
第2回　画像の配置とJavaScriptでプログラミングを行うための基礎知識
第3回　ボタンクリックで背景色が変わるプログラムキャラクタの画像の移動を制御するアニメーションのプログラム
第4回　キャラクタの画像がボタンクリックにより上下左右にアニメーションするプログラム
第5回　複数の画像が画面遷移しながら切替わり表示されるプログラム
第6回　ボタンクリックで複数の画像が画面遷移しながら切替わり表示されるプログラム
第7回　配列とfor文やwhile文によるループ処理
第8回　for文による二重ループ処理
第9回　飛行機が左下から右上へ拡大しながら上昇するアニメーションのプログラム雪が降る情景のアニメーションのプログラム
第10回　桜が散る情景のアニメーションのプログラムトトロと風船がふんわりと上昇するアニメーションのプログラム
第11回　アニメーションのプログラムを改造・組み合わせて作成するプログラム
第12回　ActionScriptniよるFlashアニメーションの基礎・トトロがマウスの動きに追従するアニメーション・透明度とサイズをランダムに変えながら明滅するロゴアニメーション
第13回　キャラクタの画像がステージの両端でリターンするアニメーションボタンクリックで移動を開始または停止するアニメーション
第14回　当たり判定により命中すると爆発する宇宙船のゲームプログラミング
第15回　ノープログラミングツールAppinventor2による携帯アプリの作成

履修上の注意点

教科書

授業中にプリントを配布します。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

授業中に紹介します。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

成績評価

aky302d310

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 50% ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ 50% ）

提出課題により平常点評価（50%）と出席率（50%）により成績評価を行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅵ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　三輪　幸一	

テーマ

プレゼンテーションとマルチメディア素材の作成

授業の到達目標

PwerPointによるプレゼンテーション作成及びFlashアニメーションの作成やSkechUpによる3D作成ができることを目指す

授業の概要

授業では先ずPowerPointを活用したプレゼンテーションの作成を行います。更にコンピュータ上での静止画像のマルチメディア表現の技術としてフォトレタッチ（画像の編集・合成），アニメーション動画素材の作成技術としてFlashアニメーション，三次元マルチメディア素材の作成技術として3Dグラフィックス作成の基礎技術を修得します。ホームページ上で動きを与えるアニメーションとしてFlashアニメーションがよく使われています。Flashアニメーションにより、映画のタイトルロゴのような迫力ある演出や迫力あるリアルなアニメーションを作成できます。FlashアニメーションはWebデザイナの基礎技術にもなっています。授業ではホームページ上のアニメーションとして人気のあるFlashアニメーションの作成のしかたを修得します。授業では「Flashアニメーションや Flashロゴデザインと表現の可能性」と「楽しさ、面白さ」を追求しながら授業をすすめていきます。また三次元マルチメディア素材作成技術としてSkechUpという3Dグラフィクス作成ソフトウェアにより建物などの三次元物体の作成の基礎技術を修得します。

準備学習（予習・復習）

授業形態は、積み上げ型による演習形式であり、授業時間も限られているので、授業に欠席した場合は、受講者はパソコン教室などを利用し、授業時間以外の学習によって、次の時間までに自習し追いつくようにして下さい。

内　容

第1回　・PowerPointにより世界遺産や歴史的建造物のプレゼンテーションを作成してみる
第2回　・PowerPointにより世界遺産や歴史的建造物のプレゼンテーションを作成してみる
第3回　・PowerPointにより商品のプレゼンテーションを作成してみる
第4回　・画像編集ソフトPixiaによる画像のフォトレタッチ（画像の編集・合成基礎）Ⅰ
第5回　・画像編集ソフトPixiaによる画像のフォトレタッチ（画像の編集・合成応用）Ⅱ
第6回　・Flashの図形描画の基本
第7回　・球の移動と長方形が転がるモーショントゥーンによるアニメーションの基本・トトロと風船がふんわりと上昇するアニメーション・ロゴが集結するアニメーション
第8回　・パスに沿って鳥と風船が移動するアニメーション・階段を回転しながら転がり落ちるアニメーション・ショパンのレリーフが分解・統合するアニメーション
第9回　・ロゴが１文字ずつ色を変えながら落下するロゴアニメーション・トランポリンズームと落下するロゴを組み合わせたアニメーション
第10回　・水面に落下したロゴの周囲に波紋の拡がるアニメーション
第11回　・マウスクリックによりランプが点灯するアニメーション・シェープトゥイーンによる立方体が転がるアニメーション
第12回　・画像がフェードイン・フェードアウトし移動するアニメーション・画像の遷移効果と移動を組み合わせたアニメーション
第13回　・SkechUpによる3Dグラフィックスの基礎
第14回　・SkechUpによる3Dグラフィックスの作成（椅子，建築物の作成Ⅰ）
第15回　・SkechUpによる3Dグラフィックスの作成（BurgやSchrossなどの建築物の作成Ⅱ）

履修上の注意点

授業形態は、積み上げ型による演習形式であり、授業時間も限られているので、授業に欠席した場合は、受講者はパソコン教室などを利用し、授業時間以外の学習によって、次の時間までに自習し追いつくようにして下さい。

教科書

授業中にプリントを配布します。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

授業中に紹介します。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

成績評価

aky302d450

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 50% ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 50% ）

提出課題により平常点評価（50%）と出席率（50%）により成績評価を行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**比較文化論 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　杉山 泰	

テーマ

イギリスから眺めた日本文化 ― 日本文化は「辺境文化」なのか、「雑種文化」なのか

授業の到達目標

イギリスに1年間滞在して気づいたことは、イギリスでは今でもカンタベリー大主教を初めとする聖職貴族、法律貴族と750名の世襲貴族による上院(The House of Lords)が存在することだった。また、イギリスには自動販売機が極端に少なく、ブレア首相は、公立学校からコーラの販売(junk food)すら禁止した。日本には天皇が「国民の総意によって」象徴として存在し、イギリスにもエリザベス女王が存在している。しかし、イギリスには、自動販売機はほとんどないし、ましてや酒や煙草の自動販売機は皆無である。タクシーに自動ドアなどないし、百貨店のハロッズの扉も自分で開けないと開かない。そうした違いをpushing cultureだとかpulling culture、widening cultureだとかshortening cultureといった「文化」比較をしながら、日本文化ははたして、特殊な「辺境文化」と言えるのだろうか、という問いに答えていきたい。

授業の概要

昨年は、「ラーメンとマクドナルドの文化」「縮志向の文化」の話から始まり、「kondoingの片付け文化」を取り上げ、「食(和食とフレンチ)の文化」に話を拡げ、さらには、「里山資本主義」というスローライフの文化を論じることになった。今年もテーマは同じだが、最後には、「弘法太師空海」の＜わび＞＜さび＞の「吽字義」の世界と、文化の対極にある「戦争」についても、宗教問題を絡めて論じる予定である。

準備学習(予習・復習)

図書館で新聞を調べてもらっての宿題を出すし、あなたにとっての「日本文化」を＜衣食住＞から1つずつ探してもらう。最も美しい京都、最も醜い京都の写真の提出をしてもらう。

内　容

第1回　「比較文化」の常識テスト。八幡神社や稲荷神社の神はなぜ『古事記』『日本書紀』に載っていないのか。世界の国の数は？　では、世界の言語の数は？　出雲大社ではなぜ4回も柏手を打つ？ まずは、日本文化を知ろう。

第2回　active incomeとpassive income(不労所得)を知っているだろうか。英米の人たちはなぜ貯金をしないのか。speculations(投機)とは「沈思黙考」できる人がやる。日本では大学出の賢い人でも、share marketやderivativeに手を出さない。

第3回　島国イギリスが、football world cupになぜ4チームも参加できるのか。The United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland(U.K.)とは何？

第4回　quality of life(生活の質)とは、大阪万博(Expo'70)の英国館のテーマ。Industryになぜ、「勤勉」と「工業」の意味がある？planthunterの意味は？

第5回　「文化」とは人間が創ったもの。最大の文化は「言語」である。日英語の違いは何だろうか。「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」＜視点＞は？

第6回　「主語なし日本語」(subject-free Japanese)を操る日本人の「あいまいさ」は日本文化に影響を及ぼしているのだろうか。「二度と過ちは繰り返しませぬから」の主語は？　「擬態語・擬声語」の文化(ぬるぬる、べとべと、ぷりぷり)。

第7回　「詰まらない」文化と「詰まる」文化。弁当箱に詰め、風呂敷に包み、傘でも折りたたんで、「縮んでいく」のが日本文化。ベッドと布団の文化。

第8回　「左脳」の文化と「右脳」の文化。漢字や邦楽の音(琴や三味線)を右脳で聞き取る日本人。「しこしこ」のアワビ、「とろとろ」のスープの英訳は？

第9回　唯一神のGodと八百万の神の違いは何か？　＜みずから＞の文化・＜おのずから＞の文化、key cultureとshoji culture、identity-oriented cultureとgroup-oriented culture

第10回　日本の神社からなぜ明治政府は仏教を排除しようとしたのか？　「廃物毀釈」による、神社の純粋化(イギリス教会のpuritanism化との比較)。文化は＜純粋＞なのか＜雑種＞なのか？　＜雑種文化論＞とは何か？

第11回　＜純粋文化論＞と、＜雑種文化論＞。＜文化相対主culturalrelativism＞とは何か？　ニュージーランドのマオリの文化、カナダの先住民文化と日本文化。

第12回　「食」の文化。本マグロや鯨は食べてはいけないのか？　人口問題と食。和食の＜だし＞文化が最近世界の料理人の間でも知られてきた。隠し味に醤油を使っているイタリア人シェフがイギリスのテレビ番組でよく見かける。

第13回　「和食」がユネスコの無形文化遺産になったのはなぜ？　＜macrobiotics＞を知っていますか。世界193か国の伝統的食事を守れるのか。人口爆発の21世紀。

第14回　slow lifeを楽しむイギリス(大英博物館など無料、300の歴史的建造物と200の庭園もナショナル・トラスト会員は無料、20年働けば日本人でも年金生活者)。

第15回　日本にはなぜイギリスやフランスの10分の1の観光客しか来ないのか？ また、イギリス人は人口以上に海外旅行を楽しんでいる。なぜ、同じ島国で生活しているのに、これほど海外に日本人は出ないのか。「恋し、結婚し、母になったこの町で、おばあちゃんになりたい」という京都にどうすればできるのか？　京都タワーは京都らしくない？　京都はどんな町。

履修上の注意点

教科書

毎回レジュメを配布する。(授業の最後に簡単な小テストを実施する時がある。)

著者:

出版社:

aky401d110

出版年:　　ISBN:

参考書

日本語の起源
著者:　大野晋
出版社:　岩波新書
出版年:　1994　　ISBN:

世界が認めた和食の知恵 — マクロビオティック物語
著者:　持田鋼一郎
出版社:　新潮新書
出版年:　2005　　ISBN:

ルポ貧困大国アメリカ
著者:　堤未果
出版社:　岩波新書
出版年:　2008　　ISBN:

日本語教のすすめ
著者:　鈴木孝夫
出版社:　新潮新書
出版年:　2009　　ISBN:

オノマトピア — 擬音語大国にっぽん考
著者:　桜井順
出版社:　岩波文庫
出版年:　2010　　ISBN:

日本辺境論
著者:　内田樹
出版社:　新潮新書
出版年:　2009　　ISBN:

サバイバル宗教論
著者:　佐藤優
出版社:　文藝春秋
出版年:　2012　　ISBN:

空海と日本思想
著者:　篠原資明
出版社:　岩波新書
出版年:　2012　　ISBN:

半市場経済
著者:　内山節
出版社:　角川新書
出版年:　2015　　ISBN:

里山資本主義
著者:　藻谷浩介
出版社:　角川oneテーマ21
出版年:　2013　　ISBN:

成績評価

試験　(20)　　小テスト　(50)
授業中課題　(30)　　授業中発表等　(　)
参加度　(　)

15回の講義のうち、5、6回ほどレポート提出(10分ほどでできるもの)がある。この提出がないと、いくら出席していても、欠席扱いにするので要注意。また、各自の自由なレポート提出は高く評価する。日本文化についても素朴な質問なども、次回の講義でその質問に答えるという形で、その質問者は成績評価の際に加味する。

2016 Syllabus

科 目 名　**比較文化論 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　杉山 泰	

テーマ

イギリスから眺めた日本文化 ― 日本文化は「辺境文化」なのか、「雑種文化」なのか

授業の到達目標

イギリスに1年間滞在して気づいたことは、イギリスでは今でもカンタベリー大主教を初めとする聖職貴族、法律貴族と750名の世襲貴族による上院(The House of Lords)が存在することだった。また、イギリスには自動販売機が極端に少なく、ブレア首相は、公立学校からコーラの販売(junk food)すら禁止した。日本には天皇が「国民の総意によって」象徴として存在し、イギリスにもエリザベス女王が存在している。しかし、イギリスには、自動販売機はほとんどないし、ましてや酒や煙草の自動販売機は皆無である。タクシーに自動ドアなどないし、百貨店のハロッズの扉も自分で開けないと開かない。そうした違いをpushing cultureだとかpulling culture、widening cultureだとかshortening cultureといった「文化」比較をしながら、日本文化ははたして、特殊な「辺境文化」と言えるのだろうか、という問いに答えていきたい。

授業の概要

昨年は、「ラーメンとマクドナルドの文化」「縮志向の文化」の話から始まり、「kondoingの片付け文化」を取り上げ、「食(和食とフレンチ)の文化」に話を拡げ、さらには、「里山資本主義」というスローライフの文化を論じることになった。今年もテーマは同じだが、最後には、「弘法太師空海」の＜わび＞＜さび＞の「吽字義」の世界と、文化の対極にある「戦争」についても、宗教問題を絡めて論じる予定である。

準備学習(予習・復習)

図書館で新聞を調べてもらっての宿題を出すし、あなたにとっての「日本文化」を＜衣食住＞から1つずつ探してもらう。最も美しい京都、最も醜い京都の写真の提出をしてもらう。

内　容

第1回　「比較文化」の常識テスト。八幡神社や稲荷神社の神はなぜ『古事記』『日本書紀』に載っていないのか。世界の国の数は？　では、世界の言語の数は？　出雲大社ではなぜ4回も柏手を打つ？ まずは、日本文化を知ろう。

第2回　active incomeとpassive income(不労所得)を知っているだろうか。英米の人たちはなぜ貯金をしないのか。speculations(投機)とは「沈思黙考」できる人がやる。日本では大学出の賢い人でも、share marketやderivativeに手を出さない。

第3回　島国イギリスが、football world cupになぜ4チームも参加できるのか。The United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland(U.K.)とは何？

第4回　quality of life(生活の質)とは、大阪万博(Expo'70)の英国館のテーマ。Industryになぜ、「勤勉」と「工業」の意味がある？planthunterの意味は？

第5回　「文化」とは人間が創ったもの。最大の文化は「言語」である。日英語の違いは何だろうか。「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」＜視点＞は？

第6回　「主語なし日本語」(subject-free Japanese)を操る日本人の「あいまいさ」は日本文化に影響を及ぼしているのだろうか。「二度と過ちは繰り返しませぬから」の主語は？　「擬態語・擬声語」の文化(ぬるぬる、べとべと、ぷりぷり)。

第7回　「詰まらない」文化と「詰まる」文化。弁当箱に詰め、風呂敷に包み、傘でも折りたたんで、「縮んでいく」のが日本文化。ベッドと布団の文化。

第8回　「左脳」の文化と「右脳」の文化。漢字や邦楽の音(琴や三味線)を右脳で聞き取る日本人。「しこしこ」のアワビ、「とろとろ」のスープの英訳は？

第9回　唯一神のGodと八百万の神の違いは何か？　＜みずから＞の文化・＜おのずから＞の文化、key cultureとshoji culture、identity-oriented cultureとgroup-oriented culture

第10回　日本の神社からなぜ明治政府は仏教を排除しようとしたのか？　「廃物毀釈」による、神社の純粋化(イギリス教会のpuritanism化との比較)。文化は＜純粋＞なのか＜雑種＞なのか？　＜雑種文化論＞とは何か？

第11回　＜純粋文化論＞と、＜雑種文化論＞。＜文化相対主culturalrelativism＞とは何か？　ニュージーランドのマオリの文化、カナダの先住民文化と日本文化。

第12回　「食」の文化。本マグロや鯨は食べてはいけないのか？　人口問題と食。和食の＜だし＞文化が最近世界の料理人の間でも知られてきた。隠し味に醤油を使っているイタリア人シェフがイギリスのテレビ番組でよく見かける。

第13回　「和食」がユネスコの無形文化遺産になったのはなぜ？　＜macrobiotics＞を知っていますか。世界193か国の伝統的食事を守れるのか。人口爆発の21世紀。

第14回　slow lifeを楽しむイギリス(大英博物館など無料、300の歴史的建造物と200の庭園もナショナル・トラスト会員は無料、20年働けば日本人でも年金生活者)。

第15回　日本にはなぜイギリスやフランスの10分の1の観光客しか来ないのか？ また、イギリス人は人口以上に海外旅行を楽しんでいる。なぜ、同じ島国で生活しているのに、これほど海外に日本人は出ないのか。「恋し、結婚し、母になったこの町で、おばあちゃんになりたい」という京都にどうすればできるのか？　京都タワーは京都らしくない？　京都はどんな町。

履修上の注意点

教科書

毎回レジュメを配布する。(授業の最後に簡単な小テストを実施する時がある。)

著者:

出版社:

aky401d112

出版年:　　ISBN:

参考書

日本語の起源
著者:　大野晋
出版社:　岩波新書
出版年:　1994　　ISBN:

世界が認めた和食の知恵 — マクロビオティック物語
著者:　持田鋼一郎
出版社:　新潮新書
出版年:　2005　　ISBN:

ルポ貧困大国アメリカ
著者:　堤未果
出版社:　岩波新書
出版年:　2008　　ISBN:

日本語教のすすめ
著者:　鈴木孝夫
出版社:　新潮新書
出版年:　2009　　ISBN:

オノマトピア — 擬音語大国にっぽん考
著者:　桜井順
出版社:　岩波文庫
出版年:　2010　　ISBN:

日本辺境論
著者:　内田樹
出版社:　新潮新書
出版年:　2009　　ISBN:

サバイバル宗教論
著者:　佐藤優
出版社:　文藝春秋
出版年:　2012　　ISBN:

空海と日本思想
著者:　篠原資明
出版社:　岩波新書
出版年:　2012　　ISBN:

半市場経済
著者:　内山節
出版社:　角川新書
出版年:　2015　　ISBN:

里山資本主義
著者:　藻谷浩介
出版社:　角川oneテーマ21
出版年:　2013　　ISBN:

成績評価

試験　(20)　　小テスト　(50)
授業中課題　(30)　　授業中発表等　(　)
参加度　(　)

15回の講義のうち、5、6回ほどレポート提出(10分ほどでできるもの)がある。この提出がないと、いくら出席していても、欠席扱いにするので要注意。また、各自の自由なレポート提出は高く評価する。日本文化についても素朴な質問なども、次回の講義でその質問に答えるという形で、その質問者は成績評価の際に加味する。

Syllabus

科 目 名　**比較文化論 <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**異文化コミュニケーション論（人文）<a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　蒲　豊彦	

テーマ

東アジアを題材とした異文化理解。

授業の到達目標

本授業は、コミュニケーションの理論を学ぶのではなく、東アジア、なかでも中国の文化や歴史をおもな題材として、異文化を実際にどのように理解すればいいのかを考える。そして、諸外国の文化や歴史を理解することの重要性と、それがまた日本を理解する鍵となることを学ぶ。

授業の概要

授業は異なったテーマで1回ごとに完結する。基本的には、パワーポイントで年表や各種の写真、画像などと紹介しながら進める。そして、歴史的な史料や新聞記事などを適宜プリントで配布し、内容に関して受講者から意見を求める。

準備学習（予習・復習）

何回か、小ﾚﾎﾟｰﾄを課す。これは、授業の復習のためのものであると同時に、これが成績の基本部分となる。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　あんパンはどこから来たのか？（あんパン（なかに小豆のアンが入ったパン）を通して、日本の現状を考える。）
第3回　日本に住む外国人、外国に住む日本人
第4回　貿易と食糧（貿易の状況から、世界の中での日本の位置を考える。）
第5回　中国の町と暮らし（スライドを使って、現在の中国を紹介する。）
第6回　日本語を書くということ（「中国由来のもの」を使わずに日本語を書くことができるかどうか、実験する。）
第7回　大航海時代（歴史と文化面から東アジアの近代史とそのなかでの日本の位置を確認する。）
第8回　アジアの近代と日本（歴史と文化面から東アジアの近代史とそのなかでの日本の位置を確認する。）
第9回　江戸時代の日韓交流（朝鮮通信使をめぐる日韓交流の文人の交流）
第10回　東アジアの近代と日本（歴史と文化面から東アジアの近代史とそのなかでの日本の位置を確認する。）
第11回　東アジアの国々（タイ、ベトナム、ネパールなどの文化と歴史）
第12回　１時間で読めるハングル（ハングルの仕組みを中心として、韓国語を紹介する）
第13回　中国語入門1（中国語の歴史）
第14回　中国語入門2（発音と簡単な文法）
第15回　おまけー計画言語の夢（平等なコミュニケーションを目指して開発されたEsperantoやIdo等を通して、言語の問題を考える。）

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**異文化コミュニケーション論（人文）<b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　蒲　豊彦	

テーマ

東アジアを題材とした異文化理解。

授業の到達目標

本授業は、コミュニケーションの理論を学ぶのではなく、東アジア、なかでも中国の文化や歴史をおもな題材として、異文化を実際にどのように理解すればいいのかを考える。そして、諸外国の文化や歴史を理解することの重要性と、それがまた日本を理解する鍵となることを学ぶ。

授業の概要

授業は異なったテーマで1回ごとに完結する。基本的には、パワーポイントで年表や各種の写真、画像などと紹介しながら進める。そして、歴史的な史料や新聞記事などを適宜プリントで配布し、内容に関して受講者から意見を求める。

準備学習（予習・復習）

何回か、小ﾚﾎﾟｰﾄを課す。これは、授業の復習のためのものであると同時に、これが成績の基本部分となる。

内　容

第1回　ガイダンス
第2回　あんパンはどこから来たのか？（あんパン（なかに小豆のアンが入ったパン）を通して、日本の現状を考える。）
第3回　日本に住む外国人、外国に住む日本人
第4回　貿易と食糧（貿易の状況から、世界の中での日本の位置を考える。）
第5回　中国の町と暮らし（スライドを使って、現在の中国を紹介する。）
第6回　日本語を書くということ（「中国由来のもの」を使わずに日本語を書くことができるかどうか、実験する。）
第7回　大航海時代（歴史と文化面から東アジアの近代史とそのなかでの日本の位置を確認する。）
第8回　アジアの近代と日本（歴史と文化面から東アジアの近代史とそのなかでの日本の位置を確認する。）
第9回　江戸時代の日韓交流（朝鮮通信使をめぐる日韓交流の文人の交流）
第10回　東アジアの近代と日本（歴史と文化面から東アジアの近代史とそのなかでの日本の位置を確認する。）
第11回　東アジアの国々（タイ、ベトナム、ネパールなどの文化と歴史）
第12回　１時間で読めるハングル（ハングルの仕組みを中心として、韓国語を紹介する）
第13回　中国語入門１（中国語の歴史）
第14回　中国語入門２（発音と簡単な文法）
第15回　おまけ－計画言語の夢（平等なコミュニケーションを目指して開発されたEsperantoやIdo等を通して、言語の問題を考える。）

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 80 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**文化人類学**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　本林　靖久	

テーマ

ブータンの文化を通して、異文化理解と人類の幸福とは何かについて学ぶ。

授業の到達目標

文化人類学の方法論を学びながら、ブータンという仏教王国に暮らすブータン人の生活様式を理解する。そのうえで、現代の日本人との比較を通して、国や国民の幸福のカタチを考察する。

授業の概要

私たちは多様な生活習慣のなかで生きている。その生活習慣がさまざまな文化を作り上げている。文化人類学は人間の科学といわれ、個別文化の調査・分析から文化の普遍的な法則を見つけ出し、そこに写しだされる人間行動の諸相を明らかにすることを目的としている。講義では、まず、文化人類学がどのような学問なのかを理解することから始め、その研究史、研究視角、調査方法について、やさしく解説する。そのうえで、アジアのなかでも、ブータンを中心に、そこに住む人々の生活観・価値観を学びながら、異文化に対する理解を深めていきたい。

準備学習（予習・復習）

テキストを読んでしっかり復習をしてください。

内　容

第1回　文化人類学におけるフィールドワークの意義
第2回　文化人類学における全体理解と比較理解
第3回　異文化理解の心得
第4回　異文化理解から学ぶ幸福
第5回　アジアの国々とブータンの地勢
第6回　ブータンのGNH（国民総幸福）
第7回　民族と言語
第8回　君主制と民主制
第9回　GNHと環境政策
第10回　人の一生と儀礼
第11回　宗教文化と祭礼
第12回　近代化と伝統文化
第13回　難民問題と国際社会
第14回　幸福論の実験国家
第15回　まとめ—人類にとっての幸福とは—

履修上の注意点

教科書

ブータンと幸福論—宗教文化と儀礼—
著者：　本林靖久
出版社：法藏館
出版年：2006年　　ISBN：　4-8318-5680-0

参考書

ブータン　スタイル—仏教文化の国から—
著者：　本林靖久
出版社：京都書院
出版年：1998年　　ISBN：

ブータンで本当の幸せについて考えてみました。「足るを知る」と経済成長は両立するのだろうか？
著者：　本林靖久・高橋孝郎
出版社：阪急コミュニケーションズ
出版年：2013年　　ISBN：

aky401d350

ブータンに魅せられて
著者:　今枝由郎
出版社: 岩波新書
出版年: 2008年　ISBN:

秘境ブータン
著者:　中尾佐助
出版社: 岩波書店
出版年: 2011年　ISBN:

現代ブータンを知るための60章
著者:　平山修一
出版社: 明石書店
出版年: 2005年　ISBN:

ブータン、これでいいのだ
著者:　御手洗瑞子
出版社: 新潮社
出版年: 2012年　ISBN:

ブータン神秘の王国
著者:　西岡京治・西岡里子
出版社: NTT出版
出版年: 1998年　ISBN:

ブータン小・中学校歴史教科書　ブータンの歴史
著者:　ブータン国王教育省教育部編
出版社: 明石書店
出版年: 2008年　ISBN:

ブータン王室はなぜこんなに愛されるのか
著者:　田中敏恵
出版社: 小学館
出版年: 2012年　ISBN:

未来国家ブータン
著者:　高野秀行
出版社: 集英社
出版年: 2012年　ISBN:

成績評価

試験 （ 80 ）　小テスト（ ）
授業中課題 （ ）　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20 ）
定期試験80%授業出席（感想文提出）20%

2016 Syllabus

科 目 名　**芸術と文化 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　山本　善則	

テーマ

芸術を知ることで文化的価値の感じ方、自分自身の追求力を養う。

授業の到達目標

主に音楽の見地から芸術を広い目線と角度から感じ取り、芸術の目的や価値について知る。知識として「知る」だけでなく、実際に肌で芸術を感じ取ってもらう。

授業の概要

授業では音楽を中心に、各分野の芸術を映像や楽器、資料を参考にしながら実際 に感じてもらい、具体的に芸術の本質に触れてゆきます。毎回、小レポートなどで意見や感想を提出します。

準備学習（予習・復習）

授業での学習をもとに、自主的に日常で芸術に触れる機会を増やしてください。

内　容

第1回　音楽の芸術表現1
第2回　音楽の芸術表現2
第3回　音楽の芸術表現3
第4回　情報化と価値観1
第5回　情報化と価値観2
第6回　情報化と価値観3
第7回　五感芸術1
第8回　五感芸術2
第9回　五感芸術3
第10回　表現者心理と聴衆者心理1
第11回　表現者心理と聴衆者心理2
第12回　表現者心理と聴衆者心理3
第13回　自然性と芸術の関係1
第14回　自然性と芸術の関係2
第15回　まとめ

履修上の注意点

私語を慎んでください。欠席する場合は欠席連絡表を提出してください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 10 ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 50 ）
毎回の出席、提出物は評価基準ですので、授業内容をよく理解し、必ず提出してください。

2016 Syllabus

科 目 名　**芸術と文化 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　山本　善則	

テーマ

芸術を知ることで文化的価値の感じ方、自分自身の追求力を養う。

授業の到達目標

主に音楽の見地から芸術を広い目線と角度から感じ取り、芸術の目的や価値について知る。知識として「知る」だけでなく、実際に肌で芸術を感じ取ってもらう。

授業の概要

授業では音楽を中心に、各分野の芸術を映像や楽器、資料を参考にしながら実際 に感じてもらい、具体的に芸術の本質に触れてゆきます。毎回、小レポートなどで意見や感想を提出します。

準備学習（予習・復習）

授業での学習をもとに、自主的に日常で芸術に触れる機会を増やしてください。

内　容

第1回　音楽の芸術表現1
第2回　音楽の芸術表現2
第3回　音楽の芸術表現3
第4回　情報化と価値観1
第5回　情報化と価値観2
第6回　情報化と価値観3
第7回　五感芸術1
第8回　五感芸術2
第9回　五感芸術3
第10回　表現者心理と聴衆者心理1
第11回　表現者心理と聴衆者心理2
第12回　表現者心理と聴衆者心理3
第13回　自然性と芸術の関係1
第14回　自然性と芸術の関係2
第15回　まとめ

履修上の注意点

私語を慎んでください。欠席する場合は欠席連絡表を提出してください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 10 ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 50 ）
毎回の出席、提出物は評価基準ですので、授業内容をよく理解し、必ず提出してください。

2016 Syllabus

科 目 名　**芸術と文化 <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　山本　善則	

テーマ

芸術を知ることで文化的価値の感じ方、自分自身の追求力を養う。

授業の到達目標

主に音楽の見地から芸術を広い目線と角度から感じ取り、芸術の目的や価値について知る。知識として「知る」だけでなく、実際に肌で芸術を感じ取ってもらう。

授業の概要

授業では音楽を中心に、各分野の芸術を映像や楽器、資料を参考にしながら実際 に感じてもらい、具体的に芸術の本質に触れてゆきます。毎回、小レポートなどで意見や感想を提出します。

準備学習（予習・復習）

授業での学習をもとに、自主的に日常で芸術に触れる機会を増やしてください。

内　容

第1回　音楽の芸術表現1
第2回　音楽の芸術表現2
第3回　音楽の芸術表現3
第4回　情報化と価値観1
第5回　情報化と価値観2
第6回　情報化と価値観3
第7回　五感芸術1
第8回　五感芸術2
第9回　五感芸術3
第10回　表現者心理と聴衆者心理1
第11回　表現者心理と聴衆者心理2
第12回　表現者心理と聴衆者心理3
第13回　自然性と芸術の関係1
第14回　自然性と芸術の関係2
第15回　まとめ

履修上の注意点

私語を慎んでください。欠席する場合は欠席連絡表を提出してください。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 10 ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ 50 ）
毎回の出席、提出物は評価基準ですので、授業内容をよく理解し、必ず提出してください。

2016 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　蒲　豊彦	

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。 中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の概要

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中（中国語Ⅰ）に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

準備学習（予習・復習）

新しい単語は、必ず覚えてください。

内　　容

第1回　中国語について、授業について
第2回　発音1　母音
第3回　発音2　子音
第4回　発音3　鼻音
第5回　発音4　声調
第6回　第1課　あいさつと自己紹介　　（こんにちは。私は田中といいます。）
第7回　練習
第8回　練習
第9回　第2課　～する　　（大学へ行きます。）
第10回　練習
第11回　練習
第12回　第3課　～したい　　（ウーロン茶を飲みたい。）
第13回　練習
第14回　練習
第15回　第1課～3課の復習
第16回　第4課　場所・時間＋～する　　（レストランで何を食べますか。）
第17回　練習
第18回　練習
第19回　第5課　曜日　　（水曜日の午後に来ます。）
第20回　練習
第21回　練習
第22回　第4課～5課の復習
第23回　第6課　様子、状態　　（すごくおいしい。）
第24回　練習
第25回　練習
第26回　第7課　所有、存在　　（彼は北京にいます。）
第27回　練習
第28回　練習
第29回　第6課～7課の復習
第30回　小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　小テスト （ 90 ）
授業中課題 （ 0 ）　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 10 ）
各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

2016 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　蒲　豊彦	

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の概要

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中（中国語Ⅰ）に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

準備学習（予習・復習）

新しい単語は、必ず覚えてください。

内　　容

第1回　中国語について、授業について
第2回　発音1　母音
第3回　発音2　子音
第4回　発音3　鼻音
第5回　発音4　声調
第6回　第1課　あいさつと自己紹介　　（こんにちは。私は田中といいます。）
第7回　練習
第8回　練習
第9回　第2課　～する　　（大学へ行きます。）
第10回　練習
第11回　練習
第12回　第3課　～したい　　（ウーロン茶を飲みたい。）
第13回　練習
第14回　練習
第15回　第1課～3課の復習
第16回　第4課　場所・時間＋～する　　（レストランで何を食べますか。）
第17回　練習
第18回　練習
第19回　第5課　曜日　　（水曜日の午後に来ます。）
第20回　練習
第21回　練習
第22回　第4課～5課の復習
第23回　第6課　様子、状態　　（すごくおいしい。）
第24回　練習
第25回　練習
第26回　第7課　所有、存在　　（彼は北京にいます。）
第27回　練習
第28回　練習
第29回　第6課～7課の復習
第30回　小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　小テスト （ 90 ）
授業中課題 （ 0 ）　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 10 ）
各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

2016 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅰ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　トウ カ	

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の概要

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中（中国語Ⅰ）に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

準備学習（予習・復習）

新しい単語は、必ず覚えてください。

内　容

第1回　中国語について、授業について
第2回　発音1　母音
第3回　発音2　子音
第4回　発音3　鼻音
第5回　発音4　声調
第6回　第1課　あいさつと自己紹介　（こんにちは。私は田中といいます。）
第7回　練習
第8回　練習
第9回　第2課　～する　（大学へ行きます。）
第10回　練習
第11回　練習
第12回　第3課　～したい　（ウーロン茶を飲みたい。）
第13回　練習
第14回　練習
第15回　第1課～3課の復習
第16回　第4課　場所・時間＋～する　（レストランで何を食べますか。）
第17回　練習
第18回　練習
第19回　第5課　曜日　（水曜日の午後に来ます。）
第20回　練習
第21回　練習
第22回　第4課～5課の復習
第23回　第6課　様子、状態　（すごくおいしい。）
第24回　練習
第25回　練習
第26回　第7課　所有、存在　（彼は北京にいます。）
第27回　練習
第28回　練習
第29回　第6課～7課の復習
第30回　小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

参考書

aky401d513

成績評価

試験 （ 0 ）　小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 20 ）　授業中発表等（ 0 ）
参加度 （ 20 ）
各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

2016 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅰ〈d〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　トウ カ	

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の概要

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中（中国語Ⅰ）に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

準備学習（予習・復習）

新しい単語は、必ず覚えてください。

内　容

第1回　中国語について、授業について
第2回　発音1　母音
第3回　発音2　子音
第4回　発音3　鼻音
第5回　発音4　声調
第6回　第1課　あいさつと自己紹介　（こんにちは。私は田中といいます。）
第7回　練習
第8回　練習
第9回　第2課　～する　（大学へ行きます。）
第10回　練習
第11回　練習
第12回　第3課　～したい　（ウーロン茶を飲みたい。）
第13回　練習
第14回　練習
第15回　第1課～3課の復習
第16回　第4課　場所・時間＋～する　（レストランで何を食べますか。）
第17回　練習
第18回　練習
第19回　第5課　曜日　（水曜日の午後に来ます。）
第20回　練習
第21回　練習
第22回　第4課～5課の復習
第23回　第6課　様子、状態　（すごくおいしい。）
第24回　練習
第25回　練習
第26回　第7課　所有、存在　（彼は北京にいます。）
第27回　練習
第28回　練習
第29回　第6課～7課の復習
第30回　小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

参考書

aky401d514

成績評価

試験 （ 0 ）　小テスト（ 60 ）
授業中課題 （ 20 ）　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 20 ）
各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

2016 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅰ〈e〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　蒲　豊彦	

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。 中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の概要

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中（中国語Ⅰ）に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

準備学習（予習・復習）

新しい単語は、必ず覚えてください。

内　　容

第1回　中国語について、授業について
第2回　発音1　母音
第3回　発音2　子音
第4回　発音3　鼻音
第5回　発音4　声調
第6回　第1課　あいさつと自己紹介　　（こんにちは。私は田中といいます。）
第7回　練習
第8回　練習
第9回　第2課　～する　　（大学へ行きます。）
第10回　練習
第11回　練習
第12回　第3課　～したい　　（ウーロン茶を飲みたい。）
第13回　練習
第14回　練習
第15回　第1課～3課の復習
第16回　第4課　場所・時間＋～する　　（レストランで何を食べますか。）
第17回　練習
第18回　練習
第19回　第5課　曜日　　（水曜日の午後に来ます。）
第20回　練習
第21回　練習
第22回　第4課～5課の復習
第23回　第6課　様子、状態　　（すごくおいしい。）
第24回　練習
第25回　練習
第26回　第7課　所有、存在　　（彼は北京にいます。）
第27回　練習
第28回　練習
第29回　第6課～7課の復習
第30回　小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）　小テスト （ 90 ）
授業中課題 （ 0 ）　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 10 ）
各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅰ〈f〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅰ〈月2・木3〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅰ〈月3・木2〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件　中国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担 当 者　トウ カ	

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

前期の授業を継続し、第15課までで、基本的な文法事項の習得を終える。

授業の概要

週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。

準備学習（予習・復習）

新しい単語は、必ず覚えてください。

内　容

第1回　前期の復習
第2回　第8課　数量　　（本を5冊買います。）
第3回　練習
第4回　練習
第5回　第9課　月日と時刻　　（今日は11月2日です。）
第6回　練習
第7回　練習
第8回　第8課～9課の復習
第9回　第10課　完了と経験　　（中国へ行ったことがあります。）
第10回　練習
第11回　練習
第12回　第11課　時間の長さ、回数　　（2時間勉強します。）
第13回　練習
第14回　練習
第15回　第10課～11課の復習
第16回　第12課　結果補語、可能補語　　（書き間違えました。）
第17回　練習
第18回　練習
第19回　第13課　方向補語　　（駆け上がっていきます。）
第20回　練習
第21回　練習
第22回　第12課～13課の復習
第23回　第14課　～から、～と、～まで　　（いつから冬休みですか。）
第24回　練習
第25回　練習
第26回　第15課　様態補語　　（彼は歩くのがはやい。）
第27回　練習
第28回　練習
第29回　第14課～15課の復習
第30回　小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 0 ）

aky401d650

参加度 （ 20 ）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

2016 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅱ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件　中国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担 当 者　トウ カ	

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

前期の授業を継続し、第15課までで、基本的な文法事項の習得を終える。

授業の概要

週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。

準備学習（予習・復習）

新しい単語は、必ず覚えてください。

内　容

第1回　前期の復習
第2回　第8課　数量　　（本を5冊買います。）
第3回　練習
第4回　練習
第5回　第9課　月日と時刻　　（今日は11月2日です。）
第6回　練習
第7回　練習
第8回　第8課～9課の復習
第9回　第10課　完了と経験　　（中国へ行ったことがあります。）
第10回　練習
第11回　練習
第12回　第11課　時間の長さ、回数　　（2時間勉強します。）
第13回　練習
第14回　練習
第15回　第10課～11課の復習
第16回　第12課　結果補語、可能補語　　（書き間違えました。）
第17回　練習
第18回　練習
第19回　第13課　方向補語　　（駆け上がっていきます。）
第20回　練習
第21回　練習
第22回　第12課～13課の復習
第23回　第14課　～から、～と、～まで　　（いつから冬休みですか。）
第24回　練習
第25回　練習
第26回　第15課　様態補語　　（彼は歩くのがはやい。）
第27回　練習
第28回　練習
第29回　第14課～15課の復習
第30回　小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 60 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 0 ）

aky401d652

参加度 （ 20 ）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

2016 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅱ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件　中国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担 当 者　蒲　豊彦	

テーマ

中国語入門

授業の到達目標

前期の授業を継続し、第15課までで、基本的な文法事項の習得を終える。

授業の概要

週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。

準備学習（予習・復習）

新しい単語は、必ず覚えてください。

内　容

第1回　前期の復習
第2回　第8課　数量　　（本を5冊買います。）
第3回　練習
第4回　練習
第5回　第9課　月日と時刻　　（今日は11月2日です。）
第6回　練習
第7回　練習
第8回　第8課～9課の復習
第9回　第10課　完了と経験　　（中国へ行ったことがあります。）
第10回　練習
第11回　練習
第12回　第11課　時間の長さ、回数　　（2時間勉強します。）
第13回　練習
第14回　練習
第15回　第10課～11課の復習
第16回　第12課　結果補語、可能補語　　（書き間違えました。）
第17回　練習
第18回　練習
第19回　第13課　方向補語　　（駆け上がっていきます。）
第20回　練習
第21回　練習
第22回　第12課～13課の復習
第23回　第14課　～から、～と、～まで　　（いつから冬休みですか。）
第24回　練習
第25回　練習
第26回　第15課　様態補語　　（彼は歩くのがはやい。）
第27回　練習
第28回　練習
第29回　第14課～15課の復習
第30回　小テストの再テスト

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

aky401d653

成績評価

試験 （ 0 ）　小テスト（ 90 ）
授業中課題（ 0 ）　授業中発表等（ 0 ）
参加度 （ 10 ）
各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

2016 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅲ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件　中国語Ⅱを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担 当 者　トウ カ	

テーマ

中国語中級

授業の到達目標

中国語Ⅰ、Ⅱで学んだことを復習しつつ、もう一段階上のレベルを目指す。非常にやさしい例文を使用しながら、日常生活に充分役立つ各種表現を身につけてほしい。

授業の概要

4回の授業で1課ずつ進む。とくに、口頭で受け答えの練習を行いたい。プリントを使用するため、教科書を購入する必要はない。

準備学習（予習・復習）

単語はすべて覚えてください。授業中の練習のためにも必要です。

内　容

第1回　発音の復習
第2回　第1課　中国の朝ご飯
第3回　会話（助動詞、方向補語等）
第4回　短文
第5回　練習
第6回　第2課　服装
第7回　会話（助動詞、兼語文等）
第8回　短文
第9回　練習
第10回　第1課～2課の復習
第11回　第3課　映画を見る
第12回　会話（完了、比較等）
第13回　短文
第14回　練習
第15回　第4課　割り勘
第16回　会話（受け身、比較等）
第17回　短文
第18回　練習
第19回　第3課～4課の復習
第20回　第5課　病気になる
第21回　会話（状態の持続等）
第22回　短文
第23回　練習
第24回　第6課　携帯電話
第25回　会話（～しながら等）
第26回　短文
第27回　練習
第28回　第5課～6課の復習
第29回　小テストの再テスト
第30回　全体の復習

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 60 ）

aky401d710

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 0 ）

参加度 （ 20 ）

小テストを行います。この小テストが成績評価の中心となります。

2016 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅳ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件　中国語Ⅲを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担 当 者　トウ カ	

テーマ

中国語中級

授業の到達目標

中国語Ⅲを継続する。中国語Ⅰ、Ⅱで学んだことを復習しつつ、もう一段階上のレベルを目指す。非常にやさしい例文を使用しながら、日常生活に充分役立つ各種表現を身につけてほしい。

授業の概要

4回の授業で1課ずつ進む。とくに、口頭での受け答えの練習を行いたい。プリントを配布するため、教科書を購入する必要はない。教科書のほかに、中国各地の新聞を使い、現在の社会事情なども見てみたい。

準備学習（予習・復習）

単語はすべて覚えてください。授業中の練習のためにも必要です。

内　容

第1回　前期の復習
第2回　第7課　大学生活
第3回　会話（疑問詞等）
第4回　短文
第5回　練習
第6回　第8課　恋愛事情
第7回　会話（～でさえ等）
第8回　短文
第9回　練習
第10回　第7課～8課の復習
第11回　第9課　感謝の表現
第12回　会話（動作の回数等）
第13回　短文
第14回　練習
第15回　第10課　一人っ子
第16回　会話（可能補語等）
第17回　短文
第18回　練習
第19回　第9課～10課の復習
第20回　第11課　若者と職業
第21回　会話（～のために等）
第22回　短文
第23回　練習
第24回　第12課　外国語の学習
第25回　会話（～の他に、使役等）
第26回　短文
第27回　練習
第28回　第11課～12課の復習
第29回　小テストの再テスト
第30回　全体の復習

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 60 ）

aky401d850

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 0 ）

参加度 （ 20 ）

小テストを行います。この小テストが成績評価の中心となります。

2016 Syllabus

科 目 名　**韓国語Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　朴　惠貞	

テーマ

韓国語の基礎を学ぶと同時に、韓国について理解する。

授業の到達目標

①韓国語の文字（ハングル）と発音の習得を目指す。②簡単な自己紹介と基本的な挨拶ができることを目指す。 ③ハングル能力検定試験5級レベルの力を付けるための基礎を学ぶ。

授業の概要

このクラスでは、文字と発音の学習から始めて、丁寧な表現、指定詞、存在詞、数詞などの文法事項を体系的に学ぶが、その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習していく。進度については基本的にシラバス通りに行うが、受講生の理解度に合わせて緩急をつけ、できるだけフォローしていきたい。

準備学習（予習・復習）

1．円滑に授業を進められ、授業を楽しむためにもテキストのCDなどを活用し、必ず予習・復習を欠かさず行って欲しい。2．NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。3．韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解する。

内　容

第1回　授業の進め方について韓国語とは？
第2回　子音字と母音字〈1〉－1
第3回　子音字と母音字〈1〉－2
第4回　子音字と母音字〈2〉－1
第5回　子音字と母音字〈2〉－2
第6回　子音字と母音字〈3〉－1
第7回　子音字と母音字〈3〉－2
第8回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう！ ①
第9回　パッチム1
第10回　パッチム2
第11回　日本の地名・人名のハングル表記
第12回　指定詞の表現
第13回　実践会話と検定対策 1
第14回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう！ ②
第15回　指定詞・疑問詞の表現
第16回　指示詞の否定の表現
第17回　漢数詞
第18回　月日・曜日の表現
第19回　存在詞・位置の表現
第20回　実践会話と検定対策 2
第21回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう！ ③
第22回　用言の「ハムニダ体」の表現
第23回　助詞
第24回　好き嫌いの表現
第25回　用言の「ハムニダ体」の否定の表現
第26回　固有数詞
第27回　実践会話と検定対策 3
第28回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう！ ④
第29回　「韓国語Ⅰ」の授業のまとめ ①
第30回　「韓国語Ⅰ」の授業のまとめ ②

履修上の注意点

平常点の点数配分にかかわらず出席を重視するので、授業には必ず出席すること（詳細については第1回の授業で解説する）。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。

教科書

改訂版　パランセ韓国語　初級
著者：　金京子/喜多恵美子
出版社：朝日出版社
出版年：2015　　ISBN：

aky401d910

参考書

適宜、資料配布

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 （ 20 ） 小テスト （ 40 ）

授業中課題 （ 20 ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

テスト、課題、出席、予習・復習、授業への積極的・自発的な参加など、学期全般の学習成果を総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**韓国語Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　朴　惠貞	

テーマ

韓国語の基礎を学ぶと同時に、韓国について理解する。

授業の到達目標

①韓国語の文字（ハングル）と発音の習得を目指す。②簡単な自己紹介と基本的な挨拶ができることを目指す。 ③ハングル能力検定試験5級レベルの力を付けるための基礎を学ぶ。

授業の概要

このクラスでは、文字と発音の学習から始めて、丁寧な表現、指定詞、存在詞、数詞などの文法事項を体系的に学ぶが、その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習していく。進度については基本的にシラバス通りに行うが、受講生の理解度に合わせて緩急をつけ、できるだけフォローしていきたい。

準備学習（予習・復習）

1．円滑に授業を進められ、授業を楽しむためにもテキストのCDなどを活用し、必ず予習・復習を欠かさず行って欲しい。2．NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。3．韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解する。

内　容

第1回　授業の進め方について韓国語とは？
第2回　子音字と母音字〈1〉－1
第3回　子音字と母音字〈1〉－2
第4回　子音字と母音字〈2〉－1
第5回　子音字と母音字〈2〉－2
第6回　子音字と母音字〈3〉－1
第7回　子音字と母音字〈3〉－2
第8回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう！ ①
第9回　パッチム1
第10回　パッチム2
第11回　日本の地名・人名のハングル表記
第12回　指定詞の表現
第13回　実践会話と検定対策 1
第14回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう！ ②
第15回　指定詞・疑問詞の表現
第16回　指示詞の否定の表現
第17回　漢数詞
第18回　月日・曜日の表現
第19回　存在詞・位置の表現
第20回　実践会話と検定対策 2
第21回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう！ ③
第22回　用言の「ハムニダ体」の表現
第23回　助詞
第24回　好き嫌いの表現
第25回　用言の「ハムニダ体」の否定の表現
第26回　固有数詞
第27回　実践会話と検定対策 3
第28回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう！ ④
第29回　「韓国語Ⅰ」の授業のまとめ ①
第30回　「韓国語Ⅰ」の授業のまとめ ②

履修上の注意点

平常点の点数配分にかかわらず出席を重視するので、授業には必ず出席すること（詳細については第1回の授業で解説する）。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。

教科書

改訂版　パランセ韓国語　初級
著者：　金京子/喜多恵美子
出版社：朝日出版社
出版年：2015　　ISBN：

aky401d912

参考書

適宜、資料配布

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 （ 20 ） 小テスト （ 40 ）

授業中課題 （ 20 ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

テスト、課題、出席、予習・復習、授業への積極的・自発的な参加など、学期全般の学習成果を総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**韓国語Ⅰ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　崔　孝先	

テーマ

楽しく効果的に韓国語を学ぶ。

授業の到達目標

①韓国文字の発音と読み、書きの中心。②自己紹介と会話を目指す。③韓国語能力試験1級にでてくる単語と文法の学習。

授業の概要

韓国語を学びながら、文化・社会・歴史・飲食・芸能など、韓国に関する全般的な知識を伝えます。それから日本語と韓国語が文法的にどれほど似ているか、学べば学ぶほど驚くでしょう。当然母国語と近い韓国語が学生のみなさんにとって、いかに学びやすい外国語であるかがわかり、楽しくなるはずです。また、文字の発音を効果的に抑えるために、最近流行っている韓国の歌を聴き、一緒に発音しながら歌う方法をとりいれますので、楽しく韓国語を学びましょう。

準備学習（予習・復習）

予習は必要ありません。授業中に集中して学習するだけで、充分です。テストは二回します。一回目は発音をテストする会話暗唱テスト、二回目は文法と単語テストです。いずれも授業時間に何回も強調し、繰り返しますので、もう一度言いますが、授業時、集中すればだれでも通るテストです。

内　　容

第1回　オリエンテーション(各自、自己紹介とこれからの授業の方針)
第2回　基本文字(母音子10文字の音と書き)
第3回　基本文字(子音子14文字の音と書き)
第4回　基本文字(複母音子11文字の音と書き)
第5回　基本文字(複子音子5文字の音と書き)
第6回　パッチム
第7回　韓国文字の総括復習と読みの法則
第8回　期末テストの会話暗唱に当たる〈自己紹介〉文を作成し、発音練習。
第9回　パソコン教室に移動し〈自己紹介〉の韓国文章をwordで打ち込む。それから、韓国のサイトの開き方、閲覧の仕方を紹介。
第10回　歌で発音練習　＋　文法(名詞の丁寧語　／　これはリンゴです)
第11回　歌で発音練習　＋　文法(動詞・形容詞の丁寧語　／　綺麗です)
第12回　歌で発音練習　＋　文法(助詞　／　は、が、を)
第13回　歌で発音練習　＋　文法(過去形　／焼肉屋に行きました)
第14回　歌で発音練習　＋　文法(尊敬語　／　先生もいらっしゃいました)
第15回　歌で発音練習　＋　文法(未来形　／　明日は休みます)
第16回　映画鑑賞
第17回　歌で発音練習　＋　文法(会話体の丁寧語　／　誰もおられませんか)①
第18回　歌で発音練習　＋　文法(会話体の丁寧語　／　明洞に行きたいですが)②
第19回　歌で発音練習　＋　文法(連用形　／　食事をして映画館に行きました)①
第20回　歌で発音練習　＋　文法(連用形　／楽しくてたまりません)②
第21回　歌で発音練習　＋　文法(連用形　／温かくて気持ちいいですね)③
第22回　歌で発音練習　＋　文法(連体形　／綺麗な人)①
第23回　歌で発音練習　＋　文法(連体形　／歌っている人が素敵ですね)②
第24回　歌で発音練習　＋　文法(連体形　／綺麗なガバン、ありますか)③
第25回　歌で発音練習　＋　文法(連体形　／楽しくて幸せな日々)④
第26回　韓国語能力試験文法問題と聞き取り問題を通じて今までの授業のまとめ①
第27回　韓国語能力試験文法問題と聞き取り問題を通じて今までの授業のまとめ②
第28回　映画鑑賞
第29回　期末テスト(〈自己紹介〉の文章暗唱)①
第30回　期末テスト(文法と単語)②

履修上の注意点

教科書

韓国語　これ一冊で終わり
著者:　金　文洙・崔　孝先
出版社:　文芸林
出版年:　2015/3　　ISBN:

aky401d913

参考書

成績評価

試験 （ 20 ）
小テスト（ 20 ）
授業中課題 （ 20 ）
授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**韓国語Ⅰ <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　崔　孝先	

テーマ

楽しく効果的に韓国語を学ぶ。

授業の到達目標

①韓国文字の発音と読み、書きの中心。②自己紹介と会話を目指す。③韓国語能力試験1級にでてくる単語と文法の学習。

授業の概要

韓国語を学びながら、文化・社会・歴史・飲食・芸能など、韓国に関する全般的な知識を伝えます。それから日本語と韓国語が文法的にどれほど似ているか、学べば学ぶほど驚くでしょう。当然母国語と近い韓国語が学生のみなさんにとって、いかに学びやすい外国語であるかがわかり、楽しくなるはずです。また、文字の発音を効果的に抑えるために、最近流行っている韓国の歌を聴き、一緒に発音しながら歌う方法をとりいれますので、楽しく韓国語を学びましょう。

準備学習（予習・復習）

予習は必要ありません。授業中に集中して学習するだけで、充分です。テストは二回します。一回目は発音をテストする会話暗唱テスト、二回目は文法と単語テストです。いずれも授業時間に何回も強調し、繰り返しますので、もう一度言いますが、授業時、集中すればだれでも通るテストです。

内　　容

第1回　オリエンテーション(各自、自己紹介とこれからの授業の方針)
第2回　基本文字(母音子10文字の音と書き)
第3回　基本文字(子音子14文字の音と書き)
第4回　基本文字(複母音子11文字の音と書き)
第5回　基本文字(複子音子5文字の音と書き)
第6回　パッチム
第7回　韓国文字の総括復習と読みの法則
第8回　期末テストの会話暗唱に当たる<自己紹介>文を作成し、発音練習。
第9回　パソコン教室に移動し<自己紹介>の韓国文章をwordで打ち込む。それから、韓国のサイトの開き方、閲覧の仕方を紹介。
第10回　歌で発音練習　＋　文法(名詞の丁寧語　／　これはリンゴです)
第11回　歌で発音練習　＋　文法(動詞・形容詞の丁寧語　／　綺麗です)
第12回　歌で発音練習　＋　文法(助詞　／　は、が、を)
第13回　歌で発音練習　＋　文法(過去形　／焼肉屋に行きました)
第14回　歌で発音練習　＋　文法(尊敬語　／　先生もいらっしゃいました)
第15回　歌で発音練習　＋　文法(未来形　／　明日は休みます)
第16回　映画鑑賞
第17回　歌で発音練習　＋　文法(会話体の丁寧語　／　誰もおられませんか)①
第18回　歌で発音練習　＋　文法(会話体の丁寧語　／　明洞に行きたいですが)②
第19回　歌で発音練習　＋　文法(連用形　／　食事をして映画館に行きました)①
第20回　歌で発音練習　＋　文法(連用形　／楽しくてたまりません)②
第21回　歌で発音練習　＋　文法(連用形　／温かくて気持ちいいですね)③
第22回　歌で発音練習　＋　文法(連体形　／綺麗な人)①
第23回　歌で発音練習　＋　文法(連体形　／歌っている人が素敵ですね)②
第24回　歌で発音練習　＋　文法(連体形　／綺麗なガバン、ありますか)③
第25回　歌で発音練習　＋　文法(連体形　／楽しくて幸せな日々)④
第26回　韓国語能力試験文法問題と聞き取り問題を通じて今までの授業のまとめ①
第27回　韓国語能力試験文法問題と聞き取り問題を通じて今までの授業のまとめ②
第28回　映画鑑賞
第29回　期末テスト(<自己紹介>の文章暗唱)①
第30回　期末テスト(文法と単語)②

履修上の注意点

教科書

韓国語　これ一冊で終わり
著者:　金　文洙・崔　孝先
出版社:　文芸林
出版年:　2015/3　　ISBN:

aky401d914

参考書

成績評価

試験 （ 20 ）
小テスト（ 20 ）
授業中課題 （ 20 ）
授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**韓国語Ⅱ〈a〉**

クラス		配当回生	学部1回生
講義期間	後期	定　　員	50
履修条件	韓国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定	
担 当 者	朴　惠貞		

テーマ

韓国語の基礎文法の学習と韓国社会に対する理解を深める。

授業の到達目標

①自己紹介ができ、韓国旅行が楽しめる韓国語レベルの習得を目指す。②ハングル能力検定試験5級レベルの力を付ける。

授業の概要

このクラスでは、「韓国語Ⅰ」クラスで学んだ文法事項を確認しながら新しい文法項目などを少しずつ積み上げていく。その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習しながら読む・書く・聴く・話すの4技能をバランスよく身に付けていく。進度については基本的にシラバス通りに行うが、受講生の理解度に合わせて緩急をつけ、できるだけフォローしていきたい。

準備学習（予習・復習）

1．円滑に授業を進められ、授業を楽しむためにもテキストのCDなどを活用し、必ず予習・復習を欠かさず行って欲しい。2．NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。3．韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解する。

内　　容

第1回　「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習①
第2回　「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習②
第3回　「ヘヨ体」1
第4回　代名詞の縮約形1
第5回　「ヘヨ体」2
第6回　代名詞の縮約形2
第7回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう ①
第8回　「ヘヨ体」3
第9回　実践会話と検定対策 4
第10回　「ヘヨ体」の過去形
第11回　接続詞の表現
第12回　時刻の表現
第13回　一日のスケジュール
第14回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう ②
第15回　助詞、疑問詞
第16回　実践会話と検定対策 5
第17回　変則活用1
第18回　変則活用1の過去形
第19回　変則活用2
第20回　変則活用2の過去形、副詞1
第21回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう ③
第22回　進行形、希望の表現
第23回　長文を読んでみよう！
第24回　尊敬の表現
第25回　特別な尊敬語の表現
第26回　副詞2、勧誘・意志の表現
第27回　実践会話と検定対策 6
第28回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう ④
第29回　「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ①
第30回　「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ②

履修上の注意点

平常点の点数配分にかかわらず出席を重視するので、授業には必ず出席すること（詳細については第1回の授業で解説する）。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。

教科書

改訂版　パランセ韓国語　初級
著者：　金京子/喜多恵美子
出版社：朝日出版社
出版年：2015　　ISBN：

aky401e050

参考書

適宜、資料配布

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 （ 20 ） 小テスト（ 40 ）

授業中課題 （ 20 ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

テスト、課題、出席、予習・復習、授業への積極的・自発的な参加など、学期全般の学習成果を総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**韓国語Ⅱ <b>**

クラス		配当回生	学部1回生
講義期間	後期	定　　員	50
履修条件	韓国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定	
担 当 者	朴　惠貞		

テーマ

韓国語の基礎文法の学習と韓国社会に対する理解を深める。

授業の到達目標

①自己紹介ができ、韓国旅行が楽しめる韓国語レベルの習得を目指す。②ハングル能力検定試験5級レベルの力を付ける。

授業の概要

このクラスでは、「韓国語Ⅰ」クラスで学んだ文法事項を確認しながら新しい文法項目などを少しずつ積み上げていく。その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習しながら読む・書く・聴く・話すの4技能をバランスよく身に付けていく。進度については基本的にシラバス通りに行うが、受講生の理解度に合わせて緩急をつけ、できるだけフォローしていきたい。

準備学習（予習・復習）

1．円滑に授業を進められ、授業を楽しむためにもテキストのCDなどを活用し、必ず予習・復習を欠かさず行って欲しい。2．NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。3．韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解する。

内　　容

第2回　「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習②
第3回　「ヘヨ体」1
第4回　代名詞の縮約形1
第5回　「ヘヨ体」2
第6回　代名詞の縮約形2
第7回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう ①
第8回　「ヘヨ体」3
第9回　実践会話と検定対策 4
第10回　「ヘヨ体」の過去形
第11回　接続詞の表現
第12回　時刻の表現
第13回　一日のスケジュール
第14回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう ②
第15回　助詞、疑問詞
第16回　実践会話と検定対策 5
第17回　変則活用1
第18回　変則活用1の過去形
第19回　変則活用2
第20回　変則活用2の過去形、副詞1
第21回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう ③
第22回　進行形、希望の表現
第23回　長文を読んでみよう！
第24回　尊敬の表現
第25回　特別な尊敬語の表現
第26回　副詞2、勧誘・意志の表現
第27回　実践会話と検定対策 6
第28回　DVD鑑賞　韓国（文化・社会）を知ろう ④
第29回　「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ①
第30回　「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ②
第1回　「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習①

履修上の注意点

平常点の点数配分にかかわらず出席を重視するので、授業には必ず出席すること（詳細については第1回の授業で解説する）。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。

教科書

改訂版　パランセ韓国語　初級

著者：　金京子/喜多恵美子

出版社：朝日出版社

出版年：2015　　ISBN：

aky401e052

参考書

適宜、資料配布

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 （ 20 ） 小テスト（ 40 ）

授業中課題 （ 20 ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

テスト、課題、出席、予習・復習、授業への積極的・自発的な参加など、学期全般の学習成果を総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**韓国語Ⅱ〈c〉**

クラス		配当回生	学部1回生
講義期間	後期	定　　員	50
履修条件	韓国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定	
担 当 者	崔　孝先		

テーマ

楽しく効果的に韓国語を学ぶ。

授業の到達目標

前期の続きで、文法を抑えると当時に会話練習。韓国語能力試験2-3級の実力を目指す。

授業の概要

韓国語を学びながら、文化・社会・歴史・飲食・芸能など、韓国に関する全般的な知識を伝えます。この際、韓国語能力試験問題2級の問題紙を配り、文法・聞き取り・会話の練習をする。

準備学習（予習・復習）

予習は必要ありません。授業中に集中して学習するだけで、充分です。テストは二回します。一回目は発音をテストする会話暗唱テスト、二回目は文法と単語テストです。いずれも授業時間に何回も強調し、繰り返しますので、もう一度言いますが、授業時、集中すればだれでも通るテストです。

内　　容

第1回　オリエンテーション(各自、自己紹介とこれからの授業の方針)
第2回　前期の復習
第3回　テキストの長文翻訳①
第4回　テキストの長文翻訳②
第5回　韓国語能力試験2級の文法問題①
第6回　韓国語能力試験2級の聞き取り①
第7回　韓国語ニュス翻訳①
第8回　韓国語ニュス翻訳②
第9回　テキストの会話①
第10回　テキストの会話②
第11回　テキストの長文翻訳③
第12回　テキストの長文翻訳④
第13回　期末テスト用韓国文章作り①
第14回　期末テスト用韓国文章作り②
第15回　韓国語ニュス翻訳③
第16回　映画鑑賞
第17回　韓国語ニュス翻訳④
第18回　テキストの会話③
第19回　テキストの会話④
第20回　テキストの長文翻訳⑤
第21回　テキストの長文翻訳⑥
第22回　韓国語能力試験2級の文法問題②
第23回　韓国語能力試験2級の聞き取り②
第24回　韓国語ニュス翻訳⑤
第25回　テキストの会話⑤
第26回　テキストの会話⑥
第27回　授業の総括復習
第28回　映画鑑賞
第29回　期末テスト(韓国文章暗唱)①
第30回　期末テスト(文法と単語)②

履修上の注意点

教科書

韓国語　これ一冊で終わり
著者:　金　文洙・崔　孝先
出版社:　文芸林
出版年:　2015/3　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 20 ）
小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）
授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**韓国語Ⅱ <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件　韓国語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担 当 者　崔　孝先	

テーマ

楽しく効果的に韓国語を学ぶ。

授業の到達目標

前期の続きで、文法を抑えると当時に会話練習。韓国語能力試験2-3級の実力を目指す。

授業の概要

韓国語を学びながら、文化・社会・歴史・飲食・芸能など、韓国に関する全般的な知識を伝えます。この際、韓国語能力試験問題2級の問題紙を配り、文法・聞き取り・会話の練習をする。

準備学習（予習・復習）

予習は必要ありません。授業中に集中して学習するだけで、充分です。テストは二回します。一回目は発音をテストする会話暗唱テスト、二回目は文法と単語テストです。いずれも授業時間に何回も強調し、繰り返しますので、もう一度言いますが、授業時、集中すればだれでも通るテストです。

内　容

第1回　オリエンテーション(各自、自己紹介とこれからの授業の方針)
第2回　前期の復習
第3回　テキストの長文翻訳①
第4回　テキストの長文翻訳②
第5回　韓国語能力試験2級の文法問題①
第6回　韓国語能力試験2級の聞き取り①
第7回　韓国語ニュス翻訳①
第8回　韓国語ニュス翻訳②
第9回　テキストの会話①
第10回　テキストの会話②
第11回　テキストの長文翻訳③
第12回　テキストの長文翻訳④
第13回　期末テスト用韓国文章作り①
第14回　期末テスト用韓国文章作り②
第15回　韓国語ニュス翻訳③
第16回　映画鑑賞
第17回　韓国語ニュス翻訳④
第18回　テキストの会話③
第19回　テキストの会話④
第20回　テキストの長文翻訳⑤
第21回　テキストの長文翻訳⑥
第22回　韓国語能力試験2級の文法問題②
第23回　韓国語能力試験2級の聞き取り②
第24回　韓国語ニュス翻訳⑤
第25回　テキストの会話⑤
第26回　テキストの会話⑥
第27回　授業の総括復習
第28回　映画鑑賞
第29回　期末テスト(韓国文章暗唱)①
第30回　期末テスト(文法と単語)②

履修上の注意点

教科書

韓国語　これ一冊で終わり
著者:　金　文洙・崔　孝先
出版社:　文芸林
出版年:　2015/3　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 20 ）
小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 20 ）
授業中発表等（ 20 ）
参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**韓国語Ⅲ**

クラス		配当回生	学部1回生
講義期間	前期	定　　員	50
履修条件	韓国語Ⅱを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定	
担 当 者	朴　惠貞		

テーマ

韓国語の習熟

授業の到達目標

①初・中級レベルの韓国語会話運用能力の獲得を目指す。②いろいろなシチュエーションでの多様な表現ができるように実践力を身につける。

授業の概要

様々な状況や話題に必要な語彙と表現を学び、ペアワークやグループワークなどの色々な会話練習を通して会話運用能力を高めながら生きた韓国語を楽しく学んでいきたい。また、CDやDVD・動画などの各種視聴覚資料を用いて韓国語を聞き取る力も向上させていくが、その際には、韓国の文化・社会などにも触れていく。進度については基本的にシラバス通りに行うが、受講生の理解度に合わせて緩急をつけ、できるだけフォローしていきたい。

準備学習（予習・復習）

1. 円滑に授業を進められ、授業を楽しむためにもテキストのCDなどを活用し、必ず予習・復習を欠かさず行って欲しい。2. NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。3. 辞書を用いて作文をしてみること。

内　　容

第1回　授業の進め方についてお互いのことを知ろう！
第2回　こんにちは。お会いできて嬉しいです。①
第3回　こんにちは。お会いできて嬉しいです。②
第4回　弟/妹が二人います。①
第5回　弟/妹が二人います。②
第6回　寮はどこにありますか。①
第7回　寮はどこにありますか。②
第8回　誕生日はいつですか。①
第9回　誕生日はいつですか。②
第10回　趣味は何ですか。①
第11回　趣味は何ですか。②
第12回　スンドゥブとテンジャンチゲ下さい。①
第13回　スンドゥブとテンジャンチゲ下さい。②
第14回　家で休みました。①
第15回　家で休みました。②
第16回　デパート正面入口の前で3時に会いましょう。①
第17回　デパート正面入口の前で3時に会いましょう。②
第18回　2号線から3号線に乗り換えなければいけません。①
第19回　2号線から3号線に乗り換えなければいけません。②
第20回　少し大きいのを下さい。①
第21回　少し大きいのを下さい。②
第22回　ヨンヒさん、いらっしゃいますか。①
第23回　ヨンヒさん、いらっしゃいますか。②
第24回　済州島に行ったことがありますか。①
第25回　済州島に行ったことがありますか。②
第26回　実際の場面を設定した会話を楽しんでみよう！①
第27回　実際の場面を設定した会話を楽しんでみよう！②
第28回　実際の場面を設定した会話を楽しんでみよう！③
第29回　「韓国語Ⅲ」の授業のまとめ ①
第30回　「韓国語Ⅲ」の授業のまとめ ②

履修上の注意点

平常点の点数配分にかかわらず出席を重視するので、授業には必ず出席すること（詳細については第1回の授業で解説する）。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。

教科書

楽しく学ぶ韓国語 1（日本語版，CD2枚付き）

著者：　康承惠著・吉本一訳

出版社：DARAKWON

aky401e110

出版年: 2013　　ISBN:

参考書

適宜、資料配布　＊必ず、辞書を持参すること

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40 ）　　小テスト（ 20 ）

授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

テスト、課題、出席、予習・復習、授業への積極的・自発的な参加など、学期全般の学習成果を総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**韓国語Ⅳ**

クラス		配当回生	学部1回生
講義期間	後期	定　　員	50
履修条件	韓国語Ⅲを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定	
担 当 者	朴　惠貞		

テーマ

韓国語の習熟

授業の到達目標

①中級レベルの韓国語会話運用能力の獲得を目指す。②いろいろなシチュエーションでの多様な表現ができるように実践力を身につける。

授業の概要

様々な状況や話題に必要な語彙と表現を学び、ペアワークやグループワークなどの色々な会話練習を通して会話運用能力を高めながら生きた韓国語を楽しく学んでいきたい。また、CDやDVD・動画などの各種視聴覚資料を用いて韓国語を聞き取る力も向上させていくが、その際には、韓国の文化・社会などにも触れていく。進度については基本的にシラバス通りに行うが、受講生の理解度に合わせて緩急をつけ、できるだけフォローしていきたい。

準備学習（予習・復習）

1．円滑に授業を進められ、授業を楽しむためにもテキストのCDなどを活用し、必ず予習・復習を欠かさず行って欲しい。2．NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。3．辞書を用いて積極的に作文をしてみること。4．韓国の新聞・雑誌などを積極的に読むこと。

内　　容

第1回　夏休みの自由談話
第2回　韓国に来て6か月になります。①
第3回　韓国に来て6か月になります。②
第4回　お召し上がりですか。①
第5回　お召し上がりですか。②
第6回　交通カードはどこでチャージするんですか。①
第7回　交通カードはどこでチャージするんですか。②
第8回　このカバンを返品できますか。①
第9回　このカバンを返品できますか。②
第10回　禁煙席と喫煙席、どちらになさいますか。①
第11回　禁煙席と喫煙席、どちらになさいますか。②
第12回　風邪を引いたみたいですね。①
第13回　風邪を引いたみたいですね。②
第14回　十万ウォンから二十万ウォンぐらいならいいです。①
第15回　十万ウォンから二十万ウォンぐらいならいいです。②
第16回　デパートのセールが始まるんですが、買い物に行きましょうか。①
第17回　デパートのセールが始まるんですが、買い物に行きましょうか。②
第18回　あそこの横断歩道で停めて下さい。①
第19回　あそこの横断歩道で停めて下さい。②
第20回　3泊4日の旅行に行きたいんですが。①
第21回　3泊4日の旅行に行きたいんですが。②
第22回　ここが清渓川というところですか。①
第23回　ここが清渓川というところですか。②
第24回　席は窓側でお願いします。①
第25回　席は窓側でお願いします。②
第26回　実際の場面を設定した会話を楽しんでみよう！①
第27回　実際の場面を設定した会話を楽しんでみよう！②
第28回　実際の場面を設定した会話を楽しんでみよう！③
第29回　「韓国語Ⅳ」の授業のまとめ ①
第30回　「韓国語Ⅳ」の授業のまとめ ②

履修上の注意点

平常点の点数配分にかかわらず出席を重視するので、授業には必ず出席すること（詳細については第1回の授業で解説する）。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。授業への積極的・自発的な参加が求められるが、授業を楽しむためにも、必ず予習・復習を欠かさず行うこと。

教科書

楽しく学ぶ韓国語 2（日本語版，CD2枚付き）

著者：　康承惠著・吉本一訳

aky401e250

出版社: DARAKWON

出版年: 2013　　ISBN:

参考書

適宜、資料配布　＊必ず、辞書を持参すること

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40 ）　　小テスト（ 20 ）

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

テスト、課題、出席、予習・復習、授業への積極的・自発的な参加など、学期全般の学習成果を総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**フランス語 I**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　志賀　亮一	

テーマ

フランス語の基礎（その1）

授業の到達目標

フランス語文法の重要な規則のうち、もっとも基本的な項目を学び、それらを用いた短い文を聴き、話し、読み、書く力を身につける。

授業の概要

「講義による説明　→　音声と筆記による反復練習　→　練習問題＋小テスト」というサイクルで、ひとつ一つの項目を着実に学ぶ。なお、音声による反復練習の齋には、クラス全員に聞こえるようしっかり発声することが望まれる。

準備学習（予習・復習）

初習外国語なので予習はかなり困難。むしろ、各回終了ごとに10－20分程度復習する（ex.通学帰りの車中でその日のノートを読み返す）ことが望ましい。ただし、各章の学習項目を学び終えたところで、リーダーの読解に移るので、予告された回にはかならず予習を欠かさないこと。

内　　容

第1回　講義「フランス語とはどんな言語か？」＋授業の進め方
第2回　フランス語のアルファベット：文字の呼び方と筆記体
第3回　発音記号と発音の仕方①：母音
第4回　発音記号と発音の仕方②：鼻母音と子音
第5回　名詞の変化：性と数
第6回　不定冠詞の変化①
第7回　不定冠詞の変化②・練習問題＋小テスト
第8回　定冠詞の変化①
第9回　定冠詞の変化②・練習問題＋小テスト
第10回　品質形容詞の変化①
第11回　品質形容詞の変化②・練習問題＋小テストリーダー
第12回　不規則動詞 etre の直説法現在①
第13回　不規則動詞 etre の直説法現在②・疑問文と否定文
第14回　不規則動詞 etre の直説法現在③・練習問題＋小テスト
第15回　第１章リーダー不規則動詞 avoir の直説法現在①
第16回　不規則動詞 avoir の直説法現在②・練習問題＋小テスト
第17回　第一群規則動詞の直説法現在①
第18回　第一群規則動詞の直説法現在②・練習問題＋小テスト
第19回　第２章リーダー＋基数形容詞
第20回　指示形容詞の変化①
第21回　指示形容詞の変化②・練習問題＋小テスト
第22回　所有形容詞の変化①
第23回　所有形容詞の変化②・練習問題＋小テスト
第24回　不規則動詞 pouvoir の直説法現在①
第25回　不規則動詞 pouvoir の直説法現在②・練習問題＋小テスト
第26回　不規則動詞 vouloir の直説法現在①
第27回　不規則動詞 vouloir の直説法現在②・練習問題＋小テスト
第28回　命令法①
第29回　命令法②・練習問題＋小テスト
第30回　第３章リーダー

履修上の注意点

教科書

オルセー美術館にて−初級フランス語総合教本

著者：　中山眞彦

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ ）	小テスト（ 100 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**フランス語Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件　フランス語Ⅰを修得済み、 もしくは同等以上の者	クラス指定
担 当 者　志賀　亮一	

テーマ

フランス語の基礎（その2）

授業の到達目標

フランス語Ⅰにつづいて、フランス語の発音と文法の重要な規則のうち、もっとも基本的な項目を学び、それらを用いた短い文を聴き、話し、読み、書く力を身につける。

授業の概要

フランス語Ⅰと同様、「講義による説明　→　音声と筆記による反復練習　→　練習問題＋小テスト」のサイクルで、各事項を直実に身につける。

準備学習（予習・復習）

初習外国語なので、文法の予習はかなり困難。むしろ、フランス語Ⅰと同様、各回終了ごとに10－20分程度復習することが望ましい。ただし、各章の学習項目を学び終えたところで、リーダーの読解に移るので、予告された回にはかならず予習を欠かさないこと

内　容

第1回　不規則動詞 aller の直説法現在と命令法①
第2回　不規則動詞 aller の直説法現在と命令法②・練習問題＋小テスト
第3回　不規則動詞 venir の直説法現在と命令法①
第4回　不規則動詞 venir の直説法現在と命令法②・練習問題＋小テスト
第5回　不規則動詞 faire の直説法現在と命令法①
第6回　不規則動詞 faire の直説法現在と命令法②・練習問題＋小テスト
第7回　非人称表現（etre と avoir）①
第8回　非人称表現（etre と avoir）②・練習問題＋小テスト
第9回　非人称表現（天候）①
第10回　非人称表現（天候）②・練習問題＋小テスト
第11回　非人称表現（falloi ほか）①
第12回　非人称表現（falloi ほか）②・練習問題＋小テスト
第13回　第4章のリーダー
第14回　不規則動詞 prendre の直説法現在と命令法①
第15回　不規則動詞 prendre の直説法現在と命令法②・練習問題＋小テスト
第16回　不規則動詞 devoir の直説法現在と命令法
第17回　不規則動詞 voir の直説法現在
第18回　不規則動詞 devoir, voir 練習問題＋小テスト
第19回　形容詞・副詞の比較級①
第20回　形容詞・副詞の比較級②
第21回　形容詞・副詞の比較級③・練習問題＋小テスト
第22回　形容詞・副詞の最上級①
第23回　形容詞・副詞の最上級②
第24回　形容詞・副詞の最上級③・練習問題＋小テスト
第25回　関係代名詞 qui
第26回　関係代名詞 que
第27回　第5章リーダー
第28回　第二群規則動詞の直説法現在と命令法①
第29回　第二群規則動詞の直説法現在と命令法③・練習問題＋小テスト
第30回　疑問形容詞

履修上の注意点

教科書

オルセー美術館にて-初級フランス語総合教本
著者：　中山眞彦
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ ）	小テスト（ 100 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**ドイツ語Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　久下　泰弘	

テーマ

ドイツ語入門その1

授業の到達目標

ドイツ語の初級文法、講読、会話の習得　その1

授業の概要

このクラスでは、様々な状況ですぐに応用できる簡単な表現を学習すると同時にドイツの文化や社会についての話題も扱いながら、授業をすすめていく。必要に応じて各自補足記入することを怠らないように。辞書を毎回、持参のこと。

準備学習（予習・復習）

CDを活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。

内　容

第1回　授業の進め方について、辞書の話
第2回　Das Alphabet, ドイツ語の綴りと発音
第3回　ドイツ語の綴りと発音　注意すべき母音の発音　挨拶表現
第4回　ドイツ語の綴りと発音　注意すべき子音の発音　曜日、月の表現
第5回　Lektion　1「ミュンヒェンで自己紹介」 動詞の現在人称変化 （規則変化）
第6回　Lektion　1「ミュンヒェンで自己紹介」語順、定動詞の位置
第7回　Lektion　1「ミュンヒェンで自己紹介」 自己紹介
第8回　Lektion　1「ミュンヒェンで自己紹介」　ことば、君はなに読派？！
第9回　Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」　名詞の性、冠詞、定冠詞と名詞の変化
第10回　Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」　名詞の性、不定冠詞と名詞の変化
第11回　Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」　格の用法　職業、身分をたづねるとき
第12回　Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」　～するのが好きです、　塩について
第13回　Lektion3 「ヴィーン市街で」人称代名詞の変化、不規則動詞現在人称変化
第14回　Lektion3 「ヴィーン市街で」命令形
第15回　Lektion3 「ヴィーン市街で」名詞の複数形、 非人称表現
第16回　Lektion3 「ヴィーン市街で」　場所をたづねるとき、 クールな都
第17回　Lektion4 「ハンブルクで買い物」 定冠詞類
第18回　Lektion4 「ハンブルクで買い物」 不定冠詞類
第19回　Lektion4 「ハンブルクで買い物」 否定冠詞
第20回　Lektion4 「ハンブルクで買い物」身につけるもの、家族をあらわす表現　買い物をするとき、 ハンスと太郎　名前のあれこれ
第21回　Lektion5 「バーゼルで」前置詞と格
第22回　Lektion5 「バーゼルで」前置詞と名詞の融合形
第23回　Lektion5 「バーゼルで」人称代名詞の3格と4格、その語順
第24回　Lektion5 「バーゼルで」　行きかたをたづねるとき、ドライな数　三・さん
第25回　前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
第26回　前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
第27回　前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
第28回　前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
第29回　前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
第30回　前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習

履修上の注意点

教科書

ブーメラン・エルエー

著者：　小野寿美子、中川明博、西巻丈児

出版社：朝日出版社

出版年：2015　ISBN：　9784255253800

参考書

aky401e510

アポロン独和辞典[第3版]

著者:　根本道也ほか

出版社: 同学社

出版年: 2010　　ISBN:　9784810200065

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ 40 ）

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 40 ）

参加度 （ ）

授業出席重視。

2016 Syllabus

科 目 名　**ドイツ語Ⅰ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　久下　泰弘	

テーマ

ドイツ語入門その1

授業の到達目標

ドイツ語の初級文法、講読、会話の習得　その1

授業の概要

このクラスでは、様々な状況ですぐに応用できる簡単な表現を学習すると同時にドイツの文化や社会についての話題も扱いながら、授業をすすめていく。必要に応じて各自補足記入することを怠らないように。辞書を毎回、持参のこと。

準備学習（予習・復習）

CDを活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。

内　容

第1回　授業の進め方について、辞書の話
第2回　Das Alphabet, ドイツ語の綴りと発音
第3回　ドイツ語の綴りと発音　注意すべき母音の発音　挨拶表現
第4回　ドイツ語の綴りと発音　注意すべき子音の発音　曜日、月の表現
第5回　Lektion　1「ミュンヒェンで自己紹介」 動詞の現在人称変化 （規則変化）
第6回　Lektion　1「ミュンヒェンで自己紹介」語順、定動詞の位置
第7回　Lektion　1「ミュンヒェンで自己紹介」 自己紹介
第8回　Lektion　1「ミュンヒェンで自己紹介」　ことば、君はなに読派？！
第9回　Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」　名詞の性、冠詞、定冠詞と名詞の変化
第10回　Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」　名詞の性、不定冠詞と名詞の変化
第11回　Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」　格の用法　職業、身分をたづねるとき
第12回　Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」　～するのが好きです、　塩について
第13回　Lektion3 「ヴィーン市街で」人称代名詞の変化、不規則動詞現在人称変化
第14回　Lektion3 「ヴィーン市街で」命令形
第15回　Lektion3 「ヴィーン市街で」名詞の複数形、 非人称表現
第16回　Lektion3 「ヴィーン市街で」　場所をたづねるとき、 クールな都
第17回　Lektion4 「ハンブルクで買い物」 定冠詞類
第18回　Lektion4 「ハンブルクで買い物」 不定冠詞類
第19回　Lektion4 「ハンブルクで買い物」 否定冠詞
第20回　Lektion4 「ハンブルクで買い物」身につけるもの、家族をあらわす表現　買い物をするとき、 ハンスと太郎　名前のあれこれ
第21回　Lektion5 「バーゼルで」前置詞と格
第22回　Lektion5 「バーゼルで」前置詞と名詞の融合形
第23回　Lektion5 「バーゼルで」人称代名詞の3格と4格、その語順
第24回　Lektion5 「バーゼルで」　行きかたをたづねるとき、ドライな数　三・さん
第25回　前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
第26回　前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
第27回　前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
第28回　前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
第29回　前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
第30回　前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習

履修上の注意点

教科書

ブーメラン・エルエー

著者:　小野寿美子、中川明博、西巻丈児

出版社:　朝日出版社

出版年:　2015　ISBN:　9784255253800

参考書

aky401e512

アポロン独和辞典[第3版]

著者:　根本道也ほか

出版社: 同学社

出版年: 2010　　ISBN:　9784810200065

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ 40 ）

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 40 ）

参加度 （ ）

授業出席重視。

2016 Syllabus

科 目 名　**ドイツ語Ⅱ <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件　ドイツ語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担 当 者　久下　泰弘	

テーマ

ドイツ語入門その2

授業の到達目標

ドイツ語の初級文法、講読、会話の習得　その2ドイツ語検定5級合格を指標として

授業の概要

このクラスでは、様々な状況ですぐに応用できる簡単な表現を学習すると同時にドイツの文化や社会についての話題も扱いながら、授業をすすめていく。必要に応じて各自補足記入することを怠らないように。辞書を毎回、持参のこと。

準備学習（予習・復習）

CDを活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。

内　容

第1回　Lektion 6 「コンサートに行きたい」話法の助動詞、未来形
第2回　Lektion 6 「コンサートに行きたい」従属接続詞と副文
第3回　Lektion 6 「コンサートに行きたい」分離動詞と非分離動詞
第4回　Lektion 6 「コンサートに行きたい」　チケットをかうとき、 森鴎外とドイツ ドイツ留学の先駆者
第5回　Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞の格変化、強変化、弱変化
第6回　Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞の格変化、混合変化
第7回　Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞、副詞の比較
第8回　Lektion 7 「レストランで食事」　料理を注文するとき　負のエネルギー 核から各へ
第9回　Lektion 8 「週末の外出」動詞の３基本形
第10回　Lektion 8 「週末の外出」現在完了形
第11回　Lektion 8 「週末の外出」時を表す副詞
第12回　Lektion 8 「週末の外出」枠構造　過去を語るとき（現在完了） 天職 思いの強さが生み出すもの
第13回　Lektion9 「ヴァイマルで」過去形
第14回　Lektion9 「ヴァイマルで」再帰代名詞と再帰動詞
第15回　Lektion9 「ヴァイマルで」「お互いに」の意味をもつ再帰代名詞
第16回　Lektion9 「ヴァイマルで」　過去を語るとき（過去形） マイスター 縦と横
第17回　Lektion10 「冬休みに」zu不定詞句
第18回　Lektion10 「冬休みに」関係代名詞
第19回　Lektion10 「冬休みに」お祝いの言葉
第20回　Lektion10 「冬休みに」　予定を言うとき　祭り　西と東
第21回　ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
第22回　ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
第23回　ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
第24回　ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
第25回　ステップアップのためのドイツ語、受動形
第26回　ステップアップのためのドイツ語、分詞の用法
第27回　ステップアップのためのドイツ語、接続法第１式
第28回　ステップアップのためのドイツ語、接続法第２式
第29回　補足練習問題、まとめ今後のドイツ語学習への説明
第30回　補足練習問題、まとめ今後のドイツ語学習への説明

履修上の注意点

教科書

ブーメラン・エルエー

著者：　小野寿美子、中川明博、西巻丈児

出版社：朝日出版社

出版年：2015　　ISBN：　9784255253800

参考書

aky401e650

アポロン独和辞典［第3版］

著者:　根本道也ほか

出版社: 同学社

出版年: 2010　　ISBN:　9784810200065

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ 40 ）

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 40 ）

参加度 （ ）

出席重視

2016 Syllabus

科 目 名　**ドイツ語Ⅱ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件　ドイツ語Ⅰを修得済み、もしくは同等以上の者	クラス指定
担 当 者　久下　泰弘	

テーマ

ドイツ語入門その2

授業の到達目標

ドイツ語の初級文法、講読、会話の習得　その2ドイツ語検定5級合格を指標として

授業の概要

このクラスでは、様々な状況ですぐに応用できる簡単な表現を学習すると同時にドイツの文化や社会についての話題も扱いながら、授業をすすめていく。必要に応じて各自補足記入することを怠らないように。辞書を毎回、持参のこと。

準備学習（予習・復習）

CDを活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。

内　　容

第1回　Lektion 6 「コンサートに行きたい」話法の助動詞、未来形
第2回　Lektion 6 「コンサートに行きたい」従属接続詞と副文
第3回　Lektion 6 「コンサートに行きたい」分離動詞と非分離動詞
第4回　Lektion 6 「コンサートに行きたい」　チケットをかうとき、 森鴎外とドイツ ドイツ留学の先駆者
第5回　Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞の格変化、強変化、弱変化
第6回　Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞の格変化、混合変化
第7回　Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞、副詞の比較
第8回　Lektion 7 「レストランで食事」　料理を注文するとき　負のエネルギー 核から各へ
第9回　Lektion 8 「週末の外出」動詞の３基本形
第10回　Lektion 8 「週末の外出」現在完了形
第11回　Lektion 8 「週末の外出」時を表す副詞
第12回　Lektion 8 「週末の外出」枠構造　過去を語るとき（現在完了） 天職 思いの強さが生み出すもの
第13回　Lektion9 「ヴァイマルで」過去形
第14回　Lektion9 「ヴァイマルで」再帰代名詞と再帰動詞
第15回　Lektion9 「ヴァイマルで」「お互いに」の意味をもつ再帰代名詞
第16回　Lektion9 「ヴァイマルで」　過去を語るとき（過去形） マイスター 縦と横
第17回　Lektion10 「冬休みに」zu不定詞句
第18回　Lektion10 「冬休みに」関係代名詞
第19回　Lektion10 「冬休みに」お祝いの言葉
第20回　Lektion10 「冬休みに」　予定を言うとき　祭り　西と東
第21回　ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
第22回　ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
第23回　ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
第24回　ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
第25回　ステップアップのためのドイツ語、受動形
第26回　ステップアップのためのドイツ語、分詞の用法
第27回　ステップアップのためのドイツ語、接続法第１式
第28回　ステップアップのためのドイツ語、接続法第２式
第29回　補足練習問題、まとめ今後のドイツ語学習への説明
第30回　補足練習問題、まとめ今後のドイツ語学習への説明

履修上の注意点

教科書

ブーメラン・エルエー

著者：　小野寿美子、中川明博、西巻丈児

出版社：朝日出版社

出版年：2015　　ISBN：　9784255253800

参考書

aky401e652

アポロン独和辞典［第3版］

著者:　根本道也ほか

出版社: 同学社

出版年: 2010　　ISBN:　9784810200065

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ 40 ）

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 40 ）

参加度 （ ）

出席重視

2016 Syllabus

科 目 名　**歴史学入門**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　増渕　徹.松浦　京子	

テーマ

歴史学の方法と対象分野

授業の到達目標

歴史学の学問としての方法論を知り、その考え方の特徴を理解する

授業の概要

前半は日本史分野の教員、後半は西洋史分野の教員が担当し、史料の持つ意味やその扱い方などの研究スキルと、多様な研究ジャンルの視点とメソッドを紹介することを通して、史学とその歴史を概説する

準備学習（予習・復習）

参考文献は適宜紹介するので、それの精読を期待する

内　　容

第1回　歴史学とは何か
第2回　歴史研究の素材と手順
第3回　真正な史料は真実を伝えるか
第4回　史料を論理的に読む
第5回　伝達されるものと伝達されないもの
第6回　事実の追求と歴史事象の評価
第7回　さまざまな資料の情報化
第8回　史学史を語る～歴史叙述の始まり　ー歴史の父（西洋世界における）ヘロドトス
第9回　批判的歴史叙述の追求　ートゥキディデス
第10回　古代から中性にかけての歴史叙述　ーポリュビオス（歴史理論の始まり）
第11回　キリスト教史観　ー聖書とアウグスティヌス『神国論』（ヨーロッパ文化の源泉の一つ）
第12回　西洋史歴史叙述の流れ　ーフライジング、マキヤベッリ、マビヨン、ヴォルテール
第13回　近代の歴史叙述　ーランケ（近代歴史学の祖）
第14回　現代の歴史叙述　ーアナール学派、女性史
第15回　総括

履修上の注意点

いわゆる日本史概説・世界史概説とは異なる。その点はあらかじめ注意しておいてほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（　）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**京都講座Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　永田 信一	

テーマ

京都の複合する遺跡から京都の歴史と文化を探る。

授業の到達目標

考古資料をもとに京都の地下の文化財に触れ、京文化の根源を学び、探り、理解し、考えてみる。そして京都の遺跡からわかる歴史を前提に京文化の表現方法の取得に向う。

授業の概要

平安京以前から現代まで、時系列で複合する京都の遺跡を紹介する。適宜、歩き探りながら京文化を理解できる資料を読み解く。

準備学習（予習・復習）

日本史の概説を読み解くこと。配布資料を熟読すること。歩いて文化財を確認すること。

内　容

第1回　京都の文化財ガイダンス。（地下の文化財と地上の文化財）
第2回　平安京以前の京都（旧石器時代→奈良時代）
第3回　長岡京（短命の都）
第4回　平安京の創設（平安京の構造と街路）
第5回　平安宮の遺跡と遺物（大内裏の構造）
第6回　羅城門と東寺、西寺（平安京の南辺）
第7回　平安京右京（平安前期・中期の遺跡）
第8回　平安京左京（平安後期の遺跡）
第9回　平安京の変質（郊外地への進展）
第10回　中世京都の成立（鎌倉・室町時代）
第11回　近世京都の始まり（安土桃山時代→江戸時代初期）
第12回　伏見城と城下町
第13回　江戸時代の京都
第14回　遺跡が語る京都の近代化
第15回　京都市考古資料館の見学（学外授業）

履修上の注意点

授業中、他人への迷惑行為のある場合は欠席とします。

教科書

適宜プリントを配布する。
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（　）　小テスト　（ 10 ）
授業中課題　（ 40 ）　授業中発表等　（ 10 ）
参加度　（ 40 ）
授業中に課題を設け、レポートの提出を求める。出席も重要視する。

2016 Syllabus

科 目 名　**京都講座Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　熊谷　昭宏	

テーマ

京都が舞台となっている小説を読む。

授業の到達目標

①明治以降、伝統文化と近代都市文化が交錯してきた京都が、小説でどのように描かれ、その中でどのような物語が生成されてきたかを考える。②21世紀の作家である森見登美彦の小説の中で、京都を舞台とする作品を読み、近代の名作との共通点と相違点を考える。

授業の概要

前半では京都を舞台とした近代日本の重要な作品を紹介する。後半では森見登美彦の作品を紹介する。基本的には講義形式だが、授業中に受講生に質問することもある。毎回、授業の最後に、授業内容に関する分析的なコメントを所定の用紙に書いて提出してもらう。事前配布資料により授業の予習を行う。

準備学習（予習・復習）

①事前配布資料を熟読し、作品の問題点や疑問点を整理しておく。②事前配布資料の引用が抜粋の場合は、さらに自主的に作品全体に目を通しておくことが望ましい。③期末レポートに向けて、授業で扱った作品への理解を深め、関係する京都の具体的な場所についての 調査を行う。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　森鴎外「高瀬舟」
第3回　芥川龍之介「羅生門」①
第4回　芥川龍之介「羅生門」②
第5回　水上勉「雁の寺」
第6回　川端康成「美しさと哀しみと」①
第7回　川端康成「美しさと哀しみと」②
第8回　森見登美彦『新釈 走れメロス』より「山月記」
第9回　森見登美彦『新釈 走れメロス』より「藪の中」
第10回　森見登美彦『新釈 走れメロス』より「走れメロス」①
第11回　森見登美彦『新釈 走れメロス』より「走れメロス」②
第12回　森見登美彦「有頂天家族」①
第13回　森見登美彦「有頂天家族」②
第14回　森見登美彦「有頂天家族」③
第15回　まとめとレポート指導

履修上の注意点

大学生として、授業における基本的なマナーを守ること。出席の確認は授業中課題のコメント用紙によって行うので、出席した場合には必ず提出すること。授業資料の解説終了後（映像資料の紹介中など）に入室した場合、出席とはみなさないので注意すること。忌引、特定の感染症、教育実習（その他大学の授業に関係する事柄）等に限って公欠を認め、参加度の加点を考慮する（担当者に申し出ること）。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ ）
参加度　（ 20% ）

期末レポート（内容と形式については授業中に説明する）を試験とする。毎回提出するコメント用紙を授業中課題とする。鋭い質問、授業内容を他の作品の読解に結びつける意見を含むコメントに対しては、より高い評価を与える。

Syllabus

科 目 名　**京都講座Ⅱ <b>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**京都の歴史・文化Ⅰ〈eL〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期集中	定　　員　0
履修条件	クラス指定
担 当 者　田端　泰子	

テーマ

京の都の盛衰とそれぞれの時代に生きた人々

授業の到達目標

”都”と呼ばれる政治・経済の中心の位置に京都がすわることによって、どのような歴史のうねりが生じたのか、またそこに住んだ人々の生活にどのような変化が生まれたのかを学びとってほしい。

授業の概要

[メディア授業／全15回]古代以来の都の変遷から説き起こし、京の都がどのような経緯を辿って成立し、発展し、その後の変化を迎えたのかを基軸に、そこに住む人々、京に入った人々に焦点を合わせて歴史の流れを解説する。

準備学習（予習・復習）

京都に関する書物を読み、また授業に登場した場所を実際に訪れてみると、理解が深まる。

内　容

第1回　都城の変遷
第2回　平安京の成立
第3回　平安京に暮らす人々
第4回　院政期の京都
第5回　京－鎌倉をつなぐ人々
第6回　「このごろ都にはやるもの」－南北朝期の京都
第7回　室町幕府の成立と京の都
第8回　土一揆の時代
第9回　京の商工業者
第10回　『洛中洛外図』に描かれた京都
第11回　祇園祭と京の町
第12回　中世京都の芸能
第13回　織田信長と京都
第14回　豊臣政権と京の町
第15回　元禄時代の京都

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

物語　京都の歴史
著者:　脇田修・晴子
出版社:（中央公論新社）
出版年:　ISBN:

女性芸能の源流
著者:　脇田晴子
出版社:（角川書店）
出版年:　ISBN:

中世京都と祇園祭
著者:　脇田晴子
出版社:（中央公論新社）
出版年:　ISBN:

aky501f110

秀吉の経済感覚
著者:　脇田修
出版社:（中央公論社）
出版年:　　ISBN:

北政所おね
著者:　田端泰子
出版社:（ミネルヴァ書房）
出版年:　　ISBN:

足利義政と日野富子
著者:　田端泰子
出版社:（山川出版社）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 100% ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
「授業中課題」は第15回の後にレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**京都の歴史・文化Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　仲田　順和	

テーマ

京都の文化財を現代にまで伝わる文化財、信仰行事等を通じて学ぶ。

授業の到達目標

文化がどのように伝承されたかを学び、将来に伝えていく方策を考える。

授業の概要

この授業は、京都橘大学と総本山醍醐寺の学術交流協定に基づく授業である。現代に伝わる様々な文化をそれぞれの専門家が担当して講義する。さらに醍醐寺に残る文化財、信仰行事に接する機会を設け、日本文化について考察を進める。 各回毎に専門の担当者が授業を行うリレー形式で行われる。

準備学習（予習・復習）

積極的に街に残る行事に参加あるいは見学すること

内　容

第1回　京都に残る有形文化財がどのように伝えられてきたか、さらに将来への保存に向けてどのような方法が取られているか、具体例を上げて講義する。
第2回　京都の歴史について（醍醐寺を中心に）＜その1＞
第3回　京都の歴史について（醍醐寺を中心に）＜その2＞
第4回　文化財にふれる（醍醐寺霊宝館見学・学外授業）
第5回　醍醐寺所蔵の文化財について＜その1＞
第6回　醍醐寺所蔵の文化財について＜その2＞
第7回　現代に生きる山岳信仰＜その1＞
第8回　現代に生きる山岳信仰＜その2＞
第9回　信仰行事にふれる（柴灯護摩見学・学外授業）
第10回　日本人の生活の中に生きる仏教
第11回　日本人の根底に流れる仏教の影響
第12回　桃山文化にふれる（醍醐寺三宝院見学・学外授業）
第13回　華やかな桃山文化について（醍醐の花見を中心に）＜その1＞
第14回　華やかな桃山文化について（醍醐の花見を中心に）＜その2＞
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（ 40 ）　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**文学と京都**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　熊谷　昭宏	

テーマ

京都が舞台となっている小説を読む。

授業の到達目標

①明治以降、伝統文化と近代都市文化が交錯してきた京都が、小説でどのように描かれ、その中でどのような物語が生成されてきたかを考える。②21世紀の作家である万城目学と森見登美彦の小説の中で、京都を舞台とし、学生（主に大学生）が登場する作品を読み、近代の名作との共通点と相違点を考える。

授業の概要

前半では、京都を舞台とした近代日本の重要な作品を紹介する。後半では、万城目学と森見登美彦の作品を紹介する。基本的には講義形式だが、授業中に受講生に対して質問をすることもある。毎回、授業の最後に、授業内容に関する分析的なコメントを所定の用紙に書いて提出してもらう。事前配布資料によって授業の予習を行う。

準備学習（予習・復習）

①事前配布資料を熟読し、作品の問題点や疑問点を整理しておく。②事前配布資料の引用が抜粋の場合は、さらに自主的に作品全体に目を通しておくことが望ましい。③期末レポートに向けて、授業で扱った作品への理解を深め、関係する京都の具体的な場所についての調査を行う。

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　梶井基次郎「檸檬」①
第3回　梶井基次郎「檸檬」②
第4回　三島由紀夫「金閣寺」
第5回　川端康成「古都」①
第6回　川端康成「古都」②
第7回　万城目学「鴨川ホルモー」①
第8回　万城目学「鴨川ホルモー」②
第9回　万城目学『ホルモー六景』より「もっちゃん」
第10回　森見登美彦「太陽の塔」
第11回　森見登美彦「四畳半神話大系」①
第12回　森見登美彦「四畳半神話大系」②
第13回　森見登美彦「夜は短し歩けよ乙女」①
第14回　森見登美彦「夜は短し歩けよ乙女」②
第15回　まとめとレポート指導

履修上の注意点

大学生として、授業における基本的なマナーを守ること。出席の確認は授業中課題のコメント用紙によって行うので、出席した場合には必ず提出すること。授業資料の解説終了後（映像資料の紹介中など）に入室した場合、出席とはみなさないので注意すること。忌引、特定の感染症、教育実習（その他大学の授業に関係する事柄）等に限って公欠を認め、参加度の加点を考慮する（担当者に申し出ること）。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ ）
参加度　（ 20% ）

期末レポートを試験（内容と形式については授業中に説明する）とする。毎回提出するコメント用紙を授業中課題とする。鋭い質問や授業中内容を他の作品の読解に結びつける意見を含むコメントに対しては、より高い評価を与える。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本国憲法 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　上出 浩	

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

授業の到達目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の概要

日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　日本国憲法の位置づけ
第2回　日本国憲法の3大原則
第3回　日本国憲法の人権（人権総論：主体、制限、公共の福祉）
第4回　日本国憲法の人権（幸福追求権、新しい権利）
第5回　日本国憲法の人権（人権の分類、精神的自由：思想／良心の自由）
第6回　日本国憲法の人権（信教の自由）
第7回　日本国憲法の人権（表現の自由）
第8回　日本国憲法の人権（表現の自由）
第9回　日本国憲法の人権（経済的自由）
第10回　日本国憲法の人権（社会権）
第11回　日本国憲法の人権（手続き的保証、そのほかの権利）
第12回　日本国憲法の統治（三権分立、議会）
第13回　日本国憲法の統治（内閣と議会）
第14回　日本国憲法の統治（裁判所）
第15回　到達度確認試験、復習
第16回　総まとめ

履修上の注意点

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。ほぼ毎回有る復習プリントをうまく活用すること。講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。授業の進度等により、スケジュール及び内容を調整する可能性がある。

教科書

いま日本国憲法は・・・原点からの検証（第5版）
著者：　小林武ほか編
出版社：法律文化社
出版年：2011　　ISBN：　978-4589033529

参考書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 70 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題　（　）　　授業中発表等　（　）
参加度　（ 10 ）
受講生数、授業の進度などにより、若干の修正を行う可能性がある。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本国憲法 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　上出 浩	

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

授業の到達目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の概要

日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　日本国憲法の位置づけ
第2回　日本国憲法の3大原則
第3回　日本国憲法の人権（人権総論：主体、制限、公共の福祉）
第4回　日本国憲法の人権（幸福追求権、新しい権利）
第5回　日本国憲法の人権（人権の分類、精神的自由：思想／良心の自由）
第6回　日本国憲法の人権（信教の自由）
第7回　日本国憲法の人権（表現の自由）
第8回　日本国憲法の人権（表現の自由）
第9回　日本国憲法の人権（経済的自由）
第10回　日本国憲法の人権（社会権）
第11回　日本国憲法の人権（手続き的保証、そのほかの権利）
第12回　日本国憲法の統治（三権分立、議会）
第13回　日本国憲法の統治（内閣と議会）
第14回　日本国憲法の統治（裁判所）
第15回　到達度確認試験、復習
第16回　総まとめ

履修上の注意点

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。ほぼ毎回有る復習プリントをうまく活用すること。講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。授業の進度等により、スケジュール及び内容を調整する可能性がある。

教科書

いま日本国憲法は・・・原点からの検証（第5版）
著者：　小林武ほか編
出版社：法律文化社
出版年：2011　　ISBN：　978-4589033529

参考書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 70 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 10 ）
受講生数、授業の進度などにより、若干の修正を行う可能性がある。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本国憲法 <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　山﨑　将文	

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

授業の到達目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の概要

日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　日本国憲法の位置づけ
第2回　日本国憲法の3大原則
第3回　日本国憲法の人権（人権総論：主体、制限、公共の福祉）
第4回　日本国憲法の人権（幸福追求権、新しい権利）
第5回　日本国憲法の人権（人権の分類、精神的自由：思想／良心の自由）
第6回　日本国憲法の人権（信教の自由）
第7回　日本国憲法の人権（表現の自由）
第8回　日本国憲法の人権（表現の自由）
第9回　日本国憲法の人権（経済的自由）
第10回　日本国憲法の人権（社会権）
第11回　日本国憲法の人権（手続き的保証、そのほかの権利）
第12回　日本国憲法の統治（三権分立、議会）
第13回　日本国憲法の統治（内閣と議会）
第14回　日本国憲法の統治（裁判所）
第15回　到達度確認試験、復習
第16回　総まとめ

履修上の注意点

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。ほぼ毎回有る復習プリントをうまく活用すること。講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。授業の進度等により、スケジュール及び内容を調整する可能性がある。

教科書

プラクティス法学実践教室Ⅱ《憲法編》〔第3版〕
著者：　高乗正臣・奥村文雄編著
出版社：成文堂
出版年：2014年　　ISBN：　9784792304881

参考書

憲法〔第6版〕
著者：　芦部信喜著
出版社：岩波書店
出版年：2015年　　ISBN：　9784000227995

成績評価

試験　（ 80 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 10 ）
三分の二以上出席しないと試験を受けることができない場合がある。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本国憲法 <d>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　山﨑　将文	

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

授業の到達目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の概要

日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　日本国憲法の位置づけ
第2回　日本国憲法の3大原則
第3回　日本国憲法の人権（人権総論：主体、制限、公共の福祉）
第4回　日本国憲法の人権（幸福追求権、新しい権利）
第5回　日本国憲法の人権（人権の分類、精神的自由：思想／良心の自由）
第6回　日本国憲法の人権（信教の自由）
第7回　日本国憲法の人権（表現の自由）
第8回　日本国憲法の人権（表現の自由）
第9回　日本国憲法の人権（経済的自由）
第10回　日本国憲法の人権（社会権）
第11回　日本国憲法の人権（手続き的保証、そのほかの権利）
第12回　日本国憲法の統治（三権分立、議会）
第13回　日本国憲法の統治（内閣と議会）
第14回　日本国憲法の統治（裁判所）
第15回　到達度確認試験、復習
第16回　総まとめ

履修上の注意点

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。ほぼ毎回有る復習プリントをうまく活用すること。講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。授業の進度等により、スケジュール及び内容を調整する可能性がある。

教科書

プラクティス法学実践教室Ⅱ《憲法編》〔第3版〕
著者：　高乗正臣・奥村文雄編著
出版社：成文堂
出版年：2014年　　ISBN：　9784792304881

参考書

憲法〔第6版〕
著者：　芦部信喜著
出版社：岩波書店
出版年：2015年　　ISBN：　9784000227995

成績評価

試験　（ 80 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 10 ）
三分の二以上出席しないと試験を受けることができない場合がある。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本国憲法 <e>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　秋期集中	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　上出 浩	

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

授業の到達目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の概要

日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　日本国憲法の位置づけ
第2回　日本国憲法の3大原則
第3回　日本国憲法の人権（人権総論：主体、制限、公共の福祉）
第4回　日本国憲法の人権（幸福追求権、新しい権利）
第5回　日本国憲法の人権（人権の分類、精神的自由：思想／良心の自由）
第6回　日本国憲法の人権（信教の自由）
第7回　日本国憲法の人権（表現の自由）
第8回　日本国憲法の人権（表現の自由）
第9回　日本国憲法の人権（経済的自由）
第10回　日本国憲法の人権（社会権）
第11回　日本国憲法の人権（手続き的保証、そのほかの権利）
第12回　日本国憲法の統治（三権分立、議会）
第13回　日本国憲法の統治（内閣と議会）
第14回　日本国憲法の統治（裁判所）
第15回　到達度確認試験、復習
第16回　総まとめ

履修上の注意点

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。ほぼ毎回有る復習プリントをうまく活用すること。講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。授業の進度等により、スケジュール及び内容を調整する可能性がある。

教科書

いま日本国憲法は・・・原点からの検証（第5版）
著者：　小林武ほか編
出版社：法律文化社
出版年：2011　　ISBN：　978-4589033529

参考書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 70 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 10 ）
受講生数、授業の進度などにより、若干の修正を行う可能性がある。

2016 Syllabus

科 目 名　**法学概論Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　山﨑　将文	

テーマ

現代社会と法の関わりを考察する

授業の到達目標

日常生活において、法が多様な分野で関連していることを理解する。分野別に、法の基本的な考え方、制度の仕組み、重要判例等について概観し、法的な基礎知識や思考力を習得する。これにより、社会全体における法の機能を把握する。

授業の概要

毎回レジュメと参考資料を配布し、これに沿って解説する。時事の内容は、適宜に講義に加えていく。小テストや課題の扱いについては、講義時に説明する。

準備学習（予習・復習）

常日頃から、法に関係する事件や裁判をニュースで見たり、新聞で読むようにする。また、授業終了後、どのような授業内容であったのかをノートを見ながら復習する。

内　容

第1回　現代社会と法
第2回　人権と法
第3回　政治と法
第4回　司法と法
第5回　行政活動と法
第6回　雇用社会と法
第7回　消費者と法
第8回　まとめとテスト①（第1回～第7回分）
第9回　事故と法
第10回　医療と法
第11回　家族と法
第12回　犯罪と法
第13回　裁判と法
第14回　国際社会と法
第15回　まとめとテスト②（第9回～第14回分）

履修上の注意点

皆勤を目指すとともに、授業中は集中してノートをこまめに取るようにする。新聞・テレビ等の報道に注意を払い、社会問題に留意すること。各制度に関連する法改正や判決について、解説を試みること。

教科書

プラクティス法学実践教室Ⅰ《法学・民法・刑法編》
著者：　高乗正臣・奥村文男編
出版社：成文堂
出版年：2014　　ISBN：　9784792304874

参考書

現代法学入門
著者：　伊藤正巳・加藤一郎編
出版社：有斐閣
出版年：2011　　ISBN：　9784641112568

法学六法
著者：　石川明　他編
出版社：信山社
出版年：2014　　ISBN：　9784797257380

成績評価

試験　（ 80 ）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）

参加度 （ 10 ）

受講生の数、授業の進度などにより、割合（%）が若干調整されることがある。三分の二以上出席しないと試験を受けることができない場合がある。

2016 Syllabus

科 目 名　**法学概論Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　近藤　実千代	

テーマ

現代社会と法の関わりを考察する

授業の到達目標

日常生活において、法が多様な分野で関連していることを理解する。分野別に、法の基本的な考え方、制度の仕組み、重要判例等について概観し、法的な基礎知識や思考力を習得する。これにより、社会全体における法の機能を把握する。

授業の概要

毎回レジュメと参考資料を配布し、これに沿って解説する。時事の内容は、適宜に講義に加えていく。小テストや課題の扱いについては、講義時に説明する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　現代社会と法
第2回　人権と法
第3回　政治と法
第4回　司法と法
第5回　行政活動と法
第6回　雇用社会と法
第7回　消費者と法
第8回　まとめとテスト①（第1回～第7回分）
第9回　事故と法
第10回　医療と法
第11回　家族と法
第12回　犯罪と法
第13回　裁判と法
第14回　国際社会と法
第15回　まとめとテスト②（第9回～第14回分）

履修上の注意点

新聞・テレビ等の報道に注意を払い、社会問題に留意すること。各制度に関連する法改正や判決について、解説を試みること。

教科書

ポケット六法
著者：
出版社：有斐閣
出版年：2016　ISBN：

デイリー六法
著者：
出版社：三省堂
出版年：2016　ISBN：

＊上記のどちらか1つを持参すること
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

法と現代社会
著者：　中川淳(編)
出版社：世界思想社
出版年：　ISBN：

aky601f512

法の世界へ
著者:　池田真朗ほか
出版社:　有斐閣
出版年:　　ISBN:

新・なるほど公法入門
著者:　村上英明・小原清信(編)
出版社:　法律文化社
出版年:　　ISBN:

民事法入門
著者:　野村豊弘
出版社:　有斐閣など
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 90 ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**法学概論Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　山﨑　将文	

テーマ

現代社会と法の関わりを考察する

授業の到達目標

日常生活において、法が多様な分野で関連していることを理解する。分野別に、法の基本的な考え方、制度の仕組み、重要判例等について概観し、法的な基礎知識や思考力を習得する。これにより、社会全体における法の機能を把握する。本講義では、法学概論Ⅰと異なった内容・分野を展開していく。

授業の概要

毎回レジュメと参考資料を配布し、これに沿って解説する。時事の内容は、適宜に講義に加えていく。小テストや課題の扱いについては、講義時に説明する。

準備学習（予習・復習）

常日頃から、法に関係する事件や裁判をニュースで見たり、新聞で読むようにする。また、授業終了後、どのような授業内容であったのかをノートを見ながら復習する。

内　容

第1回　現代社会と法
第2回　人権と法
第3回　社会保障と法
第4回　行政救済と法
第5回　企業活動と法
第6回　労働者と法
第7回　情報と法
第8回　まとめとテスト①（第1回～第7回分）
第9回　契約と法
第10回　住居と法
第11回　財産と法
第12回　金融と法
第13回　事故と法
第14回　家族と法
第15回　まとめとテスト②（第9回～第14回分）

履修上の注意点

皆勤を目指すとともに、授業中は集中してノートをこまめに取るようにする。新聞・テレビ等の報道に注意を払い、社会問題に留意すること。各制度に関連する法改正や判決について、解説を試みること。

教科書

プラクティス法学実践教室Ⅰ《法学・民法・刑法編》
著者：　高乗正臣・奥村文男編
出版社：成文堂
出版年：2014　　ISBN：　9784792304874

参考書

現代法学入門
著者：　伊藤正巳・加藤一郎編
出版社：有斐閣
出版年：2011　　ISBN：　9784641112568

法学六法
著者：　石川明　他編
出版社：信山社
出版年：2014　　ISBN：　9784797257380

成績評価

試験　（ 80 ）　　小テスト（ 10 ）

aky601f650

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 10 ）

受講生の数、授業の進度などにより、割合（%）が若干調整されることがある。三分の二以上出席しないと試験を受けることができない場合がある。

2016 Syllabus

科 目 名　**法学概論Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　実千代	

テーマ

現代社会と法の関わりを考察する

授業の到達目標

日常生活において、法が多様な分野で関連していることを理解する。分野別に、法の基本的な考え方、制度の仕組み、重要判例等について概観し、法的な基礎知識や思考力を習得する。これにより、社会全体における法の機能を把握する。本講義では、法学概論Ⅰと異なった内容・分野を展開していく。

授業の概要

毎回レジュメと参考資料を配布し、これに沿って解説する。時事の内容は、適宜に講義に加えていく。小テストや課題の扱いについては、講義時に説明する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　現代社会と法
第2回　人権と法
第3回　社会保障と法
第4回　行政救済と法
第5回　企業活動と法
第6回　労働者と法
第7回　情報と法
第8回　まとめとテスト①（第1回～第7回分）
第9回　契約と法
第10回　住居と法
第11回　財産と法
第12回　金融と法
第13回　事故と法
第14回　家族と法
第15回　まとめとテスト②（第9回～第14回分）

履修上の注意点

新聞・テレビ等の報道に注意を払い、社会問題に留意すること。各制度に関連する法改正や判決について、解説を試みること。

教科書

ポケット六法
著者：
出版社：有斐閣
出版年：2016　　ISBN：

デイリー六法
著者：
出版社：三省堂
出版年：2016　　ISBN：

＊上記のどちらか1つを持参すること
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

法と現代社会
著者：　中川淳(編)
出版社：世界思想社
出版年：　　ISBN：

aky601f652

法の世界へ
著者:　池田真朗ほか
出版社:　有斐閣
出版年:　　ISBN:

新・なるほど公法入門
著者:　村上英明・小原清信(編)
出版社:　法律文化社
出版年:　　ISBN:

民事法入門
著者:　野村豊弘
出版社:　有斐閣など
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 90 ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**政治学概論Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　田代 和也	

テーマ

政治学に関する基礎知識の習得

授業の到達目標

本講義は、政治学への入門段階において習得しておく必要がある政治的現象や用語を、現代日本政治の具体的な事例の中から、受講生に理解してもらうことを目指す。

授業の概要

政治学を学ぶ入門段階において、理解する必要がある事柄を扱う。主に日本政治の展開の中から、政治アクターや政治学上の基本的概念を説明し、受講生に理解してもらう。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　イントロダクション・選挙について
第2回　投票行動・メディアと政治
第3回　政治家
第4回　日本政治史①　～戦後政治と55年体制～
第5回　日本政治史②　～疑似政権交代・55年体制の崩壊～
第6回　政党
第7回　官僚制
第8回　利益団体
第9回　国会（議会）
第10回　政策過程
第11回　首相～強い首相と弱い首相～
第12回　地方自治①～地方自治制度の変遷を中心に～
第13回　地方自治②～地方自治体の政策課題を中心に
第14回　国際政治
第15回　本講義のまとめ
第16回　定期試験

履修上の注意点

教科書

ポリティカルサイエンス事始め　第3版
著者：　伊藤光利編
出版社：有斐閣ブックス
出版年：2009　　ISBN：

参考書

図説世界を変えた50の政治
著者：　アン・パーキンズ著、小林朋則訳
出版社：原書房
出版年：2014　　ISBN：

政治学大図鑑
著者：　ポール・ケリー著、堀田義太郎監修、豊島実和訳
出版社：三省堂
出版年：2014　　ISBN：

戦後政治史
著者：　石川真澄
出版社：岩波書店
出版年：2001　　ISBN：

aky601f710

戦争の日本近現代史
著者： 加藤陽子
出版社： 講談社
出版年： 2002　　ISBN：

近代ヨーロッパ国際政治史
著者： 君塚直隆
出版社： 有斐閣
出版年： 2010　　ISBN：

大国の興亡
著者： ポール・ケネディ著、鈴木主税訳
出版社： 草思社
出版年： 1988　　ISBN：

The Logic of Political Survival
著者： Bruce Bueno de Mesquita, et al.
出版社： MIT Press
出版年： 2004　　ISBN：

Politics(Palgrave Foundations)
著者： Andrew Haywood
出版社： Palgrave Macmillan
出版年： 2013　　ISBN：

はじめて学ぶ政治学　古典・名著への誘い
著者： 岡崎晴輝、木村俊道編
出版社： ミネルヴァ書房
出版年： 2008　　ISBN：

Encyclopedia of Politics: The Left and the Right
著者： Rodney P. Carlisle, ed.
出版社： SAGE Publication
出版年： 2005　　ISBN：

成績評価

試験 （ 100 ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）
詳細については第一回のイントロダクションで説明する。

2016 Syllabus

科 目 名　**政治学概論Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　田代 和也	

テーマ

政治学体系の理解

授業の到達目標

本講義は、受講生に政治学を体系的に理解してもらい、政治学の概念や理論を自分の言葉で説明してもらうことを目指す。

授業の概要

本講義は、政治学を学ぶ上で、必要な概念や理論について扱う。特に、権力、民主主義、統治機構・地方自治に関する概念について詳しく説明する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　民主政治の起源
第3回　民主政治の変容
第4回　福祉と政治
第5回　議院内閣制
第6回　大統領制
第7回　選挙制度①（小選挙区制度と大選挙区制度）
第8回　選挙制度②（比例代表と各国の選挙制度）
第9回　選挙制度③（選挙制度と政策）
第10回　議会制度と政党
第11回　政策過程と官僚・利益集団
第12回　世論とマスメディア
第13回　地方自治①（制度と機能）
第14回　地方自治②（現代行政の課題）
第15回　民主政治のこれから
第16回　定期試験

履修上の注意点

教科書

独裁者のためのハンドブック
著者：　ブルース・ブエノ・デ・メスキータほか著、四本健二ほか訳
出版社：亜紀書房
出版年：2013　　ISBN：

参考書

図説世界を変えた50の政治
著者：　アン・パーキンズ著、小林朋則訳
出版社：原書房
出版年：2014　　ISBN：

政治学大図鑑
著者：　ポール・ケリー著、堀田義太郎監修、豊島実和訳
出版社：三省堂
出版年：2014　　ISBN：

戦後政治史
著者：　石川真澄
出版社：岩波書店
出版年：2001　　ISBN：

aky601f850

戦争の日本近現代史
著者： 加藤陽子
出版社： 講談社
出版年： 2002 ISBN：

近代ヨーロッパ国際政治史
著者： 君塚直隆
出版社： 有斐閣
出版年： 2010 ISBN：

大国の興亡
著者： ポール・ケネディ著、鈴木主税訳
出版社： 草思社
出版年： 1988 ISBN：

The Logic of Political Survival
著者： Bruce Bueno de Mesquita, et al.
出版社： MIT Press
出版年： 2004 ISBN：

Politics(Palgrave Foundations)
著者： Andrew Haywood
出版社： Palgrave Macmillan
出版年： 2013 ISBN：

はじめて学ぶ政治学 古典・名著への誘い
著者： 岡崎晴輝、木村俊道編
出版社： ミネルヴァ書房
出版年： 2008 ISBN：

Encyclopedia of Politics: The Left and the Right
著者： Rodney P. Carlisle, ed.
出版社： SAGE Publication
出版年： 2005 ISBN：

成績評価

試験 （ 100 ） 小テスト（ ）
授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
詳細は第一回のイントロダクションで説明する。

2016 Syllabus

科 目 名　**民法**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　近藤　実千代	

テーマ

民法に関する基礎知識と初歩的な応用力の習得

授業の到達目標

1. 日常生活の各場面において、民法の関連や位置付けを理解する。2. 法的な思考方法に触れ、多面的な考え方を身につける。

3. 初歩的な問題発見能力と処理能力を身につける。

授業の概要

日常生活の各場面おいて、事例を用いながら、民法の基本的な制度とその背景にある考え方について講義する。講義時には、毎回レジュメや参考資料を配布し、これに沿って講義する。

準備学習（予習・復習）

普段から、新聞・テレビ等の報道に注意を払い、社会問題に留意するよう心掛けておくこと。授業後は、各制度について解説を試み、関連する法改正や判決のニュースがあれば、チェックしておく。

内　容

第1回　民法の基本原理
第2回　意思表示(詐欺・強迫など)
第3回　未成年者と高齢者の契約
第4回　代理制度
第5回　契約総論
第6回　債務不履行責任
第7回　まとめとテスト①(第1回～第6回)
第8回　債権回収①(物的担保と抵当権)
第9回　債権回収②(人的担保と保証人)
第10回　不法行為責任
第11回　婚姻
第12回　離婚
第13回　親子
第14回　遺言と相続
第15回　まとめとテスト②(第8回～第14回)

履修上の注意点

受講時には、小型の六法を持参すること。

教科書

参考書

民事法入門 第5版増補版
著者:　野村 豊弘
出版社:　有斐閣
出版年:　　ISBN:

民法への招待 第4版
著者:　池田真朗
出版社:　税務経理協会
出版年:　　ISBN:

新・キーワード民法
著者:　中田邦博・髙嶌英弘
出版社:　法律文化社
出版年:　　ISBN:

成績評価

aky602d110

試験 （ ）　小テスト（ 90 ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**行政法**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　近藤　実千代	

テーマ

行政法に関する基礎知識と初歩的な応用力の習得

授業の到達目標

1.日常生活の各場面において、行政法の関連や位置づけを理解する。2.現代の行政体制について、しくみを学び、問題意識をもつ。3.法的な思考方法に触れ、多面的な考え方を身につける。

授業の概要

毎講義レジュメまたは参考資料を配布し、これに沿って講義する。小テストや課題の扱いについては、適宜に説明する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　行政法の領域と基本原理
第2回　行政主体と行政機関
第3回　行政作用の一般理論
第4回　行政活動(1)（行政立法・行政計画）
第5回　行政活動(2)（行政処分の効力）
第6回　行政活動(3)（行政処分の裁量）
第7回　行政活動(4)（行政指導・行政契約）
第8回　まとめとテスト①（第1回～第7回）
第9回　行政による強制手段
第10回　情報公開と個人情報保護
第11回　行政不服審査法
第12回　行政事件訴訟法(1)(訴訟の類型)
第13回　行政事件訴訟法(2)(訴訟要件)
第14回　国家補償制度
第15回　まとめとテスト（第9回～第14回）

履修上の注意点

新聞やテレビ等のニュースに注意を払い、社会問題について留意すること。

教科書

ポケット六法
著者:
出版社:　有斐閣
出版年:　2016　　ISBN:

デイリー六法
著者:
出版社:　三省堂
出版年:　2016　　ISBN:

＊上記のいずれか1つを持参すること
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

行政法のエッセンス
著者:　櫻井敬子
出版社:　学陽書房
出版年:　　ISBN:

aky602d250

はじめての行政法

著者:　石川敏行ほか

出版社: 有斐閣

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ 90 ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 10 ）

成績評価については、第1回の授業の中のイントロダクションで説明する。

2016 Syllabus

科 目 名　**人権と教育 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　井手　幸喜	

テーマ

授業の到達目標

今日、部落問題、子どもや女性、障害者問題など、多様な人権問題が指摘されているが、相互の関係性も含めてそもそも人権問題とは何か、その基本的認識についての理解をはかり、これからの人権教育のあり方について考える。

授業の概要

日本社会の中で本格的に人権が論じられ始めるのは戦後になってからである。今日、部落問題をはじめとして様々な人権問題が指摘され、問題解決のための取り組みもおこなわれている。教育的な営みとして日本社会はこれまでどんな取り組みをおこなってきたか、主に同和教育の通ってきた道からその成果と課題を示す。かつ、世界人権宣言をはじめとした、普遍性を持つとされる人権の概念をどう受容してきたかも合わせて検討したい。その上でこれからの人権教育の方向性、特に指導する側の能力や態度について明らかにしたい。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　世界的な人権の流れ－そもそも人権とは－
第2回　世界的な人権の流れ－人権の概略史－
第3回　明治期、人権なる言葉の導入とその理解
第4回　人権の変容－戦前期まで－
第5回　人権に対する戦後の理解
第6回　人権教育の提唱－国連人権教育10 カ年計画－
第7回　同和問題とは
第8回　同和（融和）教育の軌跡－戦前－
第9回　同和教育の軌跡－地域での独自の取り組み－
第10回　同和教育の軌跡－法の下での成果と課題－
第11回　同和教育の功罪
第12回　人権教育の現状とこれからの教育における人権－提唱されている人権教育－
第13回　人権教育の現状とこれからの教育における人権－その指導にあたって－
第14回　まとめ－教育実践と教材－
第15回　まとめ－教育実践、留意すべきこと－

履修上の注意点

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　小テスト（ ）
授業中課題　（ 40 ）　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**人権と教育 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　井手　幸喜	

テーマ

授業の到達目標

今日、部落問題、子どもや女性、障害者問題など、多様な人権問題が指摘されているが、相互の関係性も含めてそもそも人権問題とは何か、その基本的認識についての理解をはかり、これからの人権教育のあり方について考える。

授業の概要

日本社会の中で本格的に人権が論じられ始めるのは戦後になってからである。今日、部落問題をはじめとして様々な人権問題が指摘され、問題解決のための取り組みもおこなわれている。教育的な営みとして日本社会はこれまでどんな取り組みをおこなってきたか、主に同和教育の通ってきた道からその成果と課題を示す。かつ、世界人権宣言をはじめとした、普遍性を持つとされる人権の概念をどう受容してきたかも合わせて検討したい。その上でこれからの人権教育の方向性、特に指導する側の能力や態度について明らかにしたい。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　世界的な人権の流れ－そもそも人権とは－
第2回　世界的な人権の流れ－人権の概略史－
第3回　明治期、人権なる言葉の導入とその理解
第4回　人権の変容－戦前期まで－
第5回　人権に対する戦後の理解
第6回　人権教育の提唱－国連人権教育10 カ年計画－
第7回　同和問題とは
第8回　同和（融和）教育の軌跡－戦前－
第9回　同和教育の軌跡－地域での独自の取り組み－
第10回　同和教育の軌跡－法の下での成果と課題－
第11回　同和教育の功罪
第12回　人権教育の現状とこれからの教育における人権－提唱されている人権教育－
第13回　人権教育の現状とこれからの教育における人権－その指導にあたって－
第14回　まとめ－教育実践と教材－
第15回　まとめ－教育実践、留意すべきこと－

履修上の注意点

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　小テスト（ ）
授業中課題　（ 40 ）　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**国際関係入門**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　久保田　裕次	

テーマ

国際政治学における歴史と理論

授業の到達目標

国際関係を主要な研究対象の一つとする国際政治学が、学問体系としてどのように誕生したのか、どのような理論を構築してきたのかを理解する。また、近代以降の主に東アジアの国際関係はどのように展開してきたのかを学ぶ。

授業の概要

国際政治学に関する基礎的な理論を学び、歴史学的なアプローチについて理解を深める。

準備学習（予習・復習）

シラバスに掲載されている参考文献を読み、配付資料で復習を行うこと。

内　容

第1回　イントロダクション—国際政治学の誕生
第2回　国際政治学の理論（1）
第3回　国際政治学の理論（2）
第4回　近代ヨーロッパ主権国家体制の成立（1）
第5回　近代ヨーロッパ主権国家体制の成立（2）
第6回　前近代の東アジア世界（1）
第7回　前近代の東アジア世界（2）
第8回　近代東アジア世界と国民国家
第9回　第一次世界大戦と現代化
第10回　冷戦という国際システム
第11回　東アジアにおける冷戦
第12回　国際政治経済
第13回　越境的世界（1）
第14回　越境的世界（2）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない。授業時に配布する。
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

東アジア国際政治史
著者:　川島真、服部龍二
出版社:　名古屋大学出版会
出版年:　2007　ISBN:　9784815805616

国際政治学
著者:　中西寛、石田淳、田所昌幸
出版社:　有斐閣
出版年:　2013　ISBN:　9784641053786

成績評価

試験　（ 60 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 10 ）	授業中発表等　（　）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**行政学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　小暮　宣雄	

テーマ

国と地域の行政に関する制度と実際の両面を探る

授業の到達目標

1)身近なところから行政の働きと仕組みに関心をもてるようになる2)国家の統治機構のなかの行政分野を制度的歴史的に理解できるようになる3)地方自治体や地方公務員の実際を分析し地域公共政策について考察できるようにする

授業の概要

教科書(真渕勝『行政学案内』)を丁寧に読み、そこから発展的に調べることをメインとするので、毎回教科書を携行すること

準備学習(予習・復習)

新聞や総合雑誌のなかの行政に関わる記事(インターネットも活用可)を読むようにすること。行政や公務員に関する文学作品、映画などを紹介するので、それを楽しみながら、かつ、理論と照らして、考えることなど、自主的な課題に挑戦すること。

内　容

第1回　はじめに—行政にまつわるトピックス、あるいは、政治学や法学との関係について—
第2回　学修方法の提示—行政学を学ぶための補助教材の紹介。文学や映画、各種メディアの紹介、自主課題について—
第3回　行政学の歴史(ここからは教科書必携)
第4回　国家公務員と天下りなど
第5回　内閣制度と首相の指導力
第6回　国の中央省庁はいま
第7回　予算制度と編成過程
第8回　行政改革はどのようにすすんだか第1回ミニテスト
第9回　中央と地方、国と地域の関係・・・このあたりでうまくタイミングがあえば、京都府庁舎(現存日本最古)の見学など、地方行政の現場学外授業を予定。
第10回　地方財政論
第11回　大都市行政と市町村合併
第12回　官僚制とは何か
第13回　第2回ミニテスト行政責任の類型とあり方
第14回　日本における行政システムの特徴
第15回　まとめ—いまの日本の行政、とくに地域公共政策に必要なものとは—日本の行政に関わる映像などを活用する

履修上の注意点

はじめに、前回の復習ミニテストを行うので遅れないように気をつけること

教科書

行政学案内第2版
著者:　真渕勝
出版社:　滋学社出版
出版年:　2014　　ISBN:　9784903425917

参考書

行政学〔新板〕
著者:　西尾勝
出版社:　有斐閣
出版年:　2001　　ISBN:

Next教科書シリーズ　行政学
著者:　外山公美ほか
出版社:　弘文堂
出版年:　2011　　ISBN:

行政学
著者:　真渕勝
出版社:　有斐閣
出版年:　2009　　ISBN:

aky602d550

公共経済学

著者:　林正義ほか

出版社: 有斐閣

出版年: 2010　　ISBN:

身近な公共政策論—ミクロ行政学入門

著者:　安章浩ほか

出版社: 学陽書房

出版年: 2010　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 30 ）

授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 0 ）

参加度 （ 30 ）

レポート課題は、行政への参加をしてみた結果についてを企画中。たとえば、自分が関心をもつ計画や政策・制度設計へのパブリックコメントを行なってみる実践的なものなど。

2016 Syllabus

科 目 名　**くらしと経済**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　今久保　幸生	

テーマ

経済現象を認識する手段としての経済学を学ぶ

授業の到達目標

身の回りに始まり国や世界に至るまでの経済現象は、どれも、人々のくらしに密接に関わっている。こうした様々な経済現象を、経済学の概念や思考方法を学習しながら、自分自身で論理的に理解し、かつ考える力を身につける。

授業の概要

まず、現代の社会に生きる私たちになじみの様々な経済現象の内容を知り、その上で、それらの経済現象や、そこから生じる多様な経済問題－地球環境の問題、国際金融の問題、格差の問題など－に、経済学がどのように取り組んでいるかを学ぶ。授業は教科書に即して進められるが、教科書以外の説明も行われる。

準備学習（予習・復習）

教科書の予習・復習は必須である。少なくとも各1時間は費やすこと。

内　容

第1回　経済の成長と個人の成長
第2回　TPP－なぜ賛否両論になるのか
第3回　なぜギリシャを日本が助けなければならないのか
第4回　誰が、なぜ貧困なのか
第5回　日本の財政を考える
第6回　「大学生が多すぎる」？
第7回　今の医療でいいのか
第8回　廃棄物の値段はどう決まるか
第9回　イノベーションをどう促すか
第10回　効率と公平について
第11回　需要と供給の世界
第12回　経済全体を丸ごとつかむ！
第13回　社会をデザインする
第14回　増税も国債も同じこと？
第15回　まとめ：自立して生きるための経済学

履修上の注意点

私語は厳禁です。部活や就活での欠席は、出席扱いとはしません。

教科書

教養としての経済学
著者：　一橋大学経済学部
出版社：有斐閣
出版年：2013　　ISBN：

参考書

未定
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ ）	授業中発表等　（ ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**経営学概論 <eL>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期集中	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　仲田　正機	

テーマ

企業、経営、マネジメントの理論を学び、企業経営の実際を分析する手がかりにする。

授業の到達目標

「会社（企業）が事業を経営する」という基本命題を分析的に理解して、企業経営をめぐる社会の仕組み＝社会システムを理解することが、この科目の目標である。

授業の概要

［メディア授業／全15回］会社の仕組みを明らかにし、経営のノウハウやスキルについても講義します。

準備学習（予習・復習）

授業中に示されたキーワード、概念、理論、事例（ケース）について、講義の前後には参考文献やインターネット等で再確認しよう。

内　容

第1回　はじめに－企業とは何か、会社とは何か、「会社（企業）が事業を経営する」とは？その仕組みを理解する－
第2回　企業における様々な形態について－会社の基本を押さえる－
第3回　企業が営む事業の種類と業態に目を向けよう－自社の営む事業やその業態は、会社のどこで決めるのか－
第4回　企業における一般的な意思決定の仕組みについて
第5回　事業の経営に必要な具体的な仕事（1）―会社の側から見た仕事―
第6回　事業の経営に必要な具体的な仕事（2）―業種と業態、個人の入社から退職まで―
第7回　経営組織の基本を押さえる―職能部門組織と事業部制組織、ラインとスタッフ―
第8回　マネジメントの見方・考え方を知ろう―マネジメント論の源流と主流―
第9回　マネジメントへの工学的アプローチ（「科学的管理法」とその後の発展）
第10回　マネジメントへの心理・社会学的アプローチ（「人間関係論」とその後の発展）
第11回　現代マネジメントの基礎理論―C.I.バーナード『経営者の役割』で示されたこと―
第12回　経営における意思決定の理論―H.A.サイモン『経営行動』で示されたこと―
第13回　経営における個人と組織の関係―H.A.サイモン「貢献と誘因のシステム」が示すもの―
第14回　激変する環境へ適応する戦略的マネジメント、そして競争優位の経営戦略とは？―A.D.チャンドラー、H.I.アンゾフやM.ポーターが示したこと―
第15回　経営の国際化、グローバル化とは何か？―経営の今日的な課題とは？―

履修上の注意点

教科書

テキストは定めません。レジュメを配布して、授業を進めます。
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

基礎コース　経営学
著者：　小松　章
出版社：（新世社）
出版年：　ISBN：

イラスト図解　会社のしくみ
著者：　坂田岳史
出版社：（日本実業出版社）
出版年：　ISBN：

現代アメリカ管理論史
著者：　仲田正機
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：　ISBN：

aky701d210

成績評価

試験 （ 50% ）　　小テスト（ 50% ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

小テストは第４回、第７回、第９回、第12回、第14回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**会計学概論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　河野　充央	

テーマ

貸借平均の原理と経済活動をマネジメントする会計の役割を学ぶ

授業の到達目標

財務諸表の構造と仕組みを理解する

授業の概要

テキスト以外に，経済記事を活用しながら，常にグローバルビジネスの最前線に目を向けながら講義を進める。スケジュール等において，可能であれば，経営者をゲストスピーカーに招く場合もある。

準備学習（予習・復習）

復習に重点をおいてもらいたい。

内　容

第1回　ガイダンス会計的思考について
第2回　財務諸表について
第3回　貸借対照表とは1
第4回　貸借対照表とは2
第5回　貸借対照表とは3
第6回　貸借対照表とは4
第7回　損益計算書とは1
第8回　損益計算書とは2
第9回　損益計算書とは3
第10回　損益計算書とは4
第11回　キャッシュプロ―計算書とは1
第12回　キャッシュプロ―計算書とは2
第13回　財務諸表を読む1
第14回　財務諸表を読む2
第15回　講義全体のまとめ

履修上の注意点

私語は厳に慎んで下さい。他の受講者にとって，これ以上の迷惑はありません。

教科書

これだけは知っておきたい会計の基本と常識
著者：
出版社：フォレスト出版
出版年：　　ISBN：

参考書

グロービズMBAアカウンティング
著者：　グロービズ経営大学院
出版社：ダイヤモンド社
出版年：　　ISBN：

最新財務諸表論
著者：　武田隆二
出版社：中央経済社
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 40 ）	小テスト（ 10 ）
授業中課題（ 10 ）	授業中発表等（　）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**福祉とボランティア <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　高原　正興	

テーマ

社会福祉の歴史と住民参加・ボランティアのあり方

授業の到達目標

社会学の一分野としての社会福祉とその歴史を学習してから、住民参加やボランティアの諸形態とその意義・限界を理解する。

授業の概要

レジュメにもとづく講義、ボランティア体験レポート、ビデオ鑑賞レポートなどから構成する

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス及び社会学とその一分野としての福祉・社会福祉・ボランティアの定義
第2回　社会福祉の歴史（日本の場合1　概要と明治期まで）
第3回　社会福祉の歴史（日本の事例　石井十次と孤児院）
第4回　社会福祉の歴史（日本の場合2　大正期～現在）
第5回　社会福祉の歴史（英国の場合）
第6回　地域社会（学）と地域福祉の考え方
第7回　社会学とボランティア（総論）
第8回　社会学とボランティア（各論　委嘱ボランティア）
第9回　子ども夜回りボランティア
第10回　住民参加とは何か（社会学の主要論点）
第11回　夕張市と住民参加
第12回　社会福祉協議会
第13回　山科区社会福祉協議会
第14回　まとめ1（レポート総括と山科区社協からのコメント）
第15回　まとめ2（コミュニティ問題、社協の今後、ボランティア活動）

履修上の注意点

ボランティア体験レポートを課すので、ボランティア受け入れ先について学習・準備すること。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

福祉ボランティア論
著者:　三本松政之他
出版社:　有斐閣
出版年:　2007　ISBN:

ボランティアの今を考える
著者:　守本友美他
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2013　ISBN:

社会福祉をつかむ　改訂版
著者:　稲沢公一他
出版社:　有斐閣
出版年:　2014　ISBN:

成績評価

試験　（ 40 ）　小テスト（　）

aky701d450

授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ 20 ）

授業中課題はレポートとボランティア体験レポートの2種類である。

2016 Syllabus

科 目 名　**福祉とボランティア <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　高原　正興	

テーマ

社会福祉の歴史と住民参加・ボランティアのあり方

授業の到達目標

社会学の一分野としての社会福祉とその歴史を学習してから、住民参加やボランティアの諸形態とその意義・限界を理解する。

授業の概要

レジュメにもとづく講義、ボランティア体験レポート、ビデオ鑑賞レポートなどから構成する

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス及び社会学とその一分野としての福祉・社会福祉・ボランティアの定義
第2回　社会福祉の歴史（日本の場合1　概要と明治期まで）
第3回　社会福祉の歴史（日本の事例　石井十次と孤児院）
第4回　社会福祉の歴史（日本の場合2　大正期～現在）
第5回　社会福祉の歴史（英国の場合）
第6回　地域社会（学）と地域福祉の考え方
第7回　社会学とボランティア（総論）
第8回　社会学とボランティア（各論　委嘱ボランティア）
第9回　子ども夜回りボランティア
第10回　住民参加とは何か（社会学の主要論点）
第11回　夕張市と住民参加
第12回　社会福祉協議会
第13回　山科区社会福祉協議会
第14回　まとめ1（レポート総括と山科区社協からのコメント）
第15回　まとめ2（コミュニティ問題、社協の今後、ボランティア活動）

履修上の注意点

ボランティア体験レポートを課すので、ボランティア受け入れ先について学習・準備すること。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

福祉ボランティア論
著者:　三本松政之他
出版社:　有斐閣
出版年:　2007　ISBN:

ボランティアの今を考える
著者:　守本友美他
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2013　ISBN:

社会福祉をつかむ　改訂版
著者:　稲沢公一他
出版社:　有斐閣
出版年:　2014　ISBN:

成績評価

試験　（ 40 ）　小テスト（　）

aky701d452

授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ 20 ）

授業中課題はレポートとボランティア体験レポートの2種類である。

2016 Syllabus

科 目 名　**社会学概論Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　松田 いりあ	

テーマ

現代日本社会の諸問題を社会学理論とデータを参照しながら読み解く

授業の到達目標

現代日本は20 世紀につちかわれた「自明性」の感覚が空洞化し再編される時代を迎えている。私たちが「あたりまえ」と思ってきたことがもはや「あたりまえ」ではない時代に「まとも」に生きることは簡単ではない。この授業ではかつて「あたりまえ」と思われてきた事柄をメタレベルから再検討することによって、21世紀の社会で少しでも「まとも」に生きていく方法をともに模索していく。

授業の概要

自我、家族、コミュニティ、階級・階層、国民国家、グローバル化、情報化など社会学の基本概念の理解を通じて、現代の日常生活を社会学的に理解する方法の習得を目指す。社会学を学習する上での困難のひとつは、社会が空気のような当たり前の存在に思われがちな点にあるが、この授業では、社会の歴史的な形成を明らかにすると同時に、社会の自明性や秩序を守るために私たちには何が求められているのか、という問題意識を身につけることも目標になる

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　はじめに：この授業の概要の説明
第2回　社会学とは何か（1）：社会とは
第3回　社会学とは何か（2）：近代社会とは
第4回　社会学とは何か（3）：現代社会とは
第5回　家族をめぐる社会学（1）：家族を定義することの困難
第6回　家族をめぐる社会学（2）：現代家族をめぐる諸問題
第7回　ジェンダーをめぐる社会学
第8回　自己（自我）をめぐる社会学
第9回　仕事をめぐる社会学
第10回　地域をめぐる社会学
第11回　国家をめぐる社会学
第12回　グローバル化をめぐる社会学
第13回　メディアと情報化をめぐる社会学(1)：メディアの歴史的展開
第14回　メディアと情報化をめぐる社会学(2)：現代社会とメディア
第15回　まとめ：この授業の総括

履修上の注意点

授業中に指示するテキストの該当箇所を読んでおくこと

教科書

社会理論と社会システム
著者：　三本松政之・杉岡直人・武川正吾編
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2009　　ISBN：

参考書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 70 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（　）
参加度（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**社会学概論Ⅱ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　松田 いりあ	

テーマ

現代日本社会の諸問題に関する社会学的想像力の習得

授業の到達目標

現在の日本では高度経済成長期につちかわれた「自明性」がもたらした副作用ともいうべき問題に対峙している。この授業では社会の「あたりまえ」という感覚の崩壊や空洞化の前に立ちすくむのではなく、新たな「自明性」の再構築あるいはバージョンアップを社会学的な知識と方法を通じて探究する。

授業の概要

近年社会学の研究対象として定着した中・後期親子関係、教育システム、親密性、記憶、情報技術などのテーマについて、それぞれの研究分野の第一人者によるテキストの読解を通じて、社会学的想像力の定着を目指す。企業、行政、コミュニティなどそれぞれの現場でのプロフェッショナルにこそ、日常業務と（社会学的）知識との間を往還が重要であることを授業を通じて実感してもらうことが目標である。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　はじめに：この授業の概要の説明
第2回　家族関係の現在
第3回　友人関係の現在
第4回　学校・教育の現在
第5回　親密性の現在
第6回　記憶の現在
第7回　ポピュラー文化の現在（1）：ファン・オーディエンスの変容
第8回　ポピュラー文化の現在（2）：コンテンツのグローバル化
第9回　情報技術の現在（1）：インターネットの文化的前提
第10回　情報技術の現在（2）：SNSの可能性と限界
第11回　情報技術の現在（3）：アーキテクチャとしての重要性
第12回　現代社会と社会学（1）：認識をめぐる問題
第13回　現代社会と社会学（2）：実存をめぐる問題
第14回　現代社会と社会学（3）：コミュニケーションをめぐる問題
第15回　まとめ：この授業の総括

履修上の注意点

授業中に指示するテキストの該当箇所を読んでおくこと

教科書

社会理論と社会システム
著者：　三本松政之・杉岡直人・武川正吾編
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2009　　ISBN：

参考書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 70 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（　）
参加度（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Aa>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　熊谷　昭宏	

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習（予習・復習）

授業内で指示する

内　容

第1回　概要説明
第2回　領土問題
第3回　歴史認識問題
第4回　憲法改正問題
第5回　経済グローバリゼーション
第6回　円相場・株相場と世界経済
第7回　少子高齢化と一億総活躍社会に向けての取り組み
第8回　TPP
第9回　地球温暖化問題
第10回　TPP
第11回　イスラミック・ステイト(IS)
第12回　従軍慰安婦問題
第13回　中国経済の行方と日本
第14回　南シナ海問題
第15回　まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Ab>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　橋本　章彦	

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習（予習・復習）

授業内で指示する

内　　容

第1回　概要説明
第2回　領土問題
第3回　歴史認識問題
第4回　憲法改正問題
第5回　経済グローバリゼーション
第6回　円相場・株相場と世界経済
第7回　少子高齢化と一億総活躍社会に向けての取り組み
第8回　TPP
第9回　地球温暖化問題
第10回　TPP
第11回　イスラミック・ステイト(IS)
第12回　従軍慰安婦問題
第13回　中国経済の行方と日本
第14回　南シナ海問題
第15回　まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Ac>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　福岡　弘彬	

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習（予習・復習）

授業内で指示する

内　　容

第1回　概要説明
第2回　領土問題
第3回　歴史認識問題
第4回　憲法改正問題
第5回　経済グローバリゼーション
第6回　円相場・株相場と世界経済
第7回　少子高齢化と一億総活躍社会に向けての取り組み
第8回　TPP
第9回　地球温暖化問題
第10回　TPP
第11回　イスラミック・ステイト(IS)
第12回　従軍慰安婦問題
第13回　中国経済の行方と日本
第14回　南シナ海問題
第15回　まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等　（ ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Ad>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　禧美　智章	

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習（予習・復習）

授業内で指示する

内　　容

第1回　概要説明
第2回　領土問題
第3回　歴史認識問題
第4回　憲法改正問題
第5回　経済グローバリゼーション
第6回　円相場・株相場と世界経済
第7回　少子高齢化と一億総活躍社会に向けての取り組み
第8回　TPP
第9回　地球温暖化問題
第10回　TPP
第11回　イスラミック・ステイト(IS)
第12回　従軍慰安婦問題
第13回　中国経済の行方と日本
第14回　南シナ海問題
第15回　まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Ae>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　青木　優子	

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習（予習・復習）

授業内で指示する

内　　容

第1回　概要説明
第2回　領土問題
第3回　歴史認識問題
第4回　憲法改正問題
第5回　経済グローバリゼーション
第6回　円相場・株相場と世界経済
第7回　少子高齢化と一億総活躍社会に向けての取り組み
第8回　TPP
第9回　地球温暖化問題
第10回　TPP
第11回　イスラミック・ステイト(IS)
第12回　従軍慰安婦問題
第13回　中国経済の行方と日本
第14回　南シナ海問題
第15回　まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Ga>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　堀越　昭夫	

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習（予習・復習）

授業内で指示する

内　　容

第1回　概要説明
第2回　領土問題
第3回　歴史認識問題
第4回　憲法改正問題
第5回　経済グローバリゼーション
第6回　円相場・株相場と世界経済
第7回　少子高齢化と一億総活躍社会に向けての取り組み
第8回　TPP
第9回　地球温暖化問題
第10回　TPP
第11回　イスラミック・ステイト(IS)
第12回　従軍慰安婦問題
第13回　中国経済の行方と日本
第14回　南シナ海問題
第15回　まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Gb>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　畑山　博史	

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習（予習・復習）

授業内で指示する

内　　容

第1回　概要説明
第2回　領土問題
第3回　歴史認識問題
第4回　憲法改正問題
第5回　経済グローバリゼーション
第6回　円相場・株相場と世界経済
第7回　少子高齢化と一億総活躍社会に向けての取り組み
第8回　TPP
第9回　地球温暖化問題
第10回　TPP
第11回　イスラミック・ステイト(IS)
第12回　従軍慰安婦問題
第13回　中国経済の行方と日本
第14回　南シナ海問題
第15回　まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等　（ ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Ba>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　熊谷　昭宏	

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習（予習・復習）

授業内で指示する

内　容

第1回　概要説明
第2回　領土問題
第3回　歴史認識問題
第4回　憲法改正問題
第5回　経済グローバリゼーション
第6回　円相場・株相場と世界経済
第7回　少子高齢化と一億総活躍社会に向けての取り組み
第8回　TPP
第9回　地球温暖化問題
第10回　TPP
第11回　イスラミック・ステイト(IS)
第12回　従軍慰安婦問題
第13回　中国経済の行方と日本
第14回　南シナ海問題
第15回　まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Bb>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　橋本　章彦	

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習（予習・復習）

授業内で指示する

内　　容

第1回　概要説明
第2回　領土問題
第3回　歴史認識問題
第4回　憲法改正問題
第5回　経済グローバリゼーション
第6回　円相場・株相場と世界経済
第7回　少子高齢化と一億総活躍社会に向けての取り組み
第8回　TPP
第9回　地球温暖化問題
第10回　TPP
第11回　イスラミック・ステイト(IS)
第12回　従軍慰安婦問題
第13回　中国経済の行方と日本
第14回　南シナ海問題
第15回　まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等　（ ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Bc>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　福岡　弘彬	

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習（予習・復習）

授業内で指示する

内　　容

第1回　概要説明
第2回　領土問題
第3回　歴史認識問題
第4回　憲法改正問題
第5回　経済グローバリゼーション
第6回　円相場・株相場と世界経済
第7回　少子高齢化と一億総活躍社会に向けての取り組み
第8回　TPP
第9回　地球温暖化問題
第10回　TPP
第11回　イスラミック・ステイト(IS)
第12回　従軍慰安婦問題
第13回　中国経済の行方と日本
第14回　南シナ海問題
第15回　まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Bd>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　禧美　智章	

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習（予習・復習）

授業内で指示する

内　　容

第1回　概要説明
第2回　領土問題
第3回　歴史認識問題
第4回　憲法改正問題
第5回　経済グローバリゼーション
第6回　円相場・株相場と世界経済
第7回　少子高齢化と一億総活躍社会に向けての取り組み
第8回　TPP
第9回　地球温暖化問題
第10回　TPP
第11回　イスラミック・ステイト(IS)
第12回　従軍慰安婦問題
第13回　中国経済の行方と日本
第14回　南シナ海問題
第15回　まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Be>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　青木 優子	

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習（予習・復習）

授業内で指示する

内　容

第1回　概要説明
第2回　領土問題
第3回　歴史認識問題
第4回　憲法改正問題
第5回　経済グローバリゼーション
第6回　円相場・株相場と世界経済
第7回　少子高齢化と一億総活躍社会に向けての取り組み
第8回　TPP
第9回　地球温暖化問題
第10回　TPP
第11回　イスラミック・ステイト(IS)
第12回　従軍慰安婦問題
第13回　中国経済の行方と日本
第14回　南シナ海問題
第15回　まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Gc>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　堀越　昭夫	

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習（予習・復習）

授業内で指示する

内　　容

第1回　概要説明
第2回　領土問題
第3回　歴史認識問題
第4回　憲法改正問題
第5回　経済グローバリゼーション
第6回　円相場・株相場と世界経済
第7回　少子高齢化と一億総活躍社会に向けての取り組み
第8回　TPP
第9回　地球温暖化問題
第10回　TPP
第11回　イスラミック・ステイト(IS)
第12回　従軍慰安婦問題
第13回　中国経済の行方と日本
第14回　南シナ海問題
第15回　まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Gd>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　畑山　博史	

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習（予習・復習）

授業内で指示する

内　容

第1回　概要説明
第2回　領土問題
第3回　歴史認識問題
第4回　憲法改正問題
第5回　経済グローバリゼーション
第6回　円相場・株相場と世界経済
第7回　少子高齢化と一億総活躍社会に向けての取り組み
第8回　TPP
第9回　地球温暖化問題
第10回　TPP
第11回　イスラミック・ステイト(IS)
第12回　従軍慰安婦問題
第13回　中国経済の行方と日本
第14回　南シナ海問題
第15回　まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 40 ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Ca>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員　60

履修条件　　クラス指定

担 当 者　橋本 章彦

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習（予習・復習）

授業内で指示する

内　容

第12回　小選挙区制と政権交代
第13回　普天間基地移設問題
第14回　IPS細胞
第15回　まとめ
第1回　概要説明
第2回　領土問題
第3回　歴史認識問題
第4回　憲法改正
第5回　３・１１以降の原発問題
第6回　デフレ脱却とアベノミクス
第7回　少子高齢化
第8回　年金破綻
第9回　地球温暖化
第10回　TPP
第11回　経済グローバリゼーション

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の１以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <Cb>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員　60

履修条件　　クラス指定

担 当 者　橋本　章彦

テーマ

現代社会の課題

授業の到達目標

現代日本のさまざまな社会的課題を理解し、大学生として求められる時事問題に関する知識を習得する

授業の概要

新聞やテレビ報道などさまざまなメディアで報道される社会動向について知識を習得するとともに、小レポートやグループワークを通じて理解を深めていく。毎回の授業で取り上げる課題については担当教員によって順序が変更することがある。

準備学習（予習・復習）

授業内で指示する

内　　容

第1回　概要説明
第2回　領土問題
第3回　歴史認識問題
第4回　憲法改正
第5回　３・１１以降の原発問題
第6回　デフレ脱却とアベノミクス
第7回　少子高齢化
第8回　年金破綻
第9回　地球温暖化
第10回　TPP
第11回　経済グローバリゼーション
第12回　小選挙区制と政権交代
第13回　普天間基地移設問題
第14回　IPS細胞
第15回　まとめ

履修上の注意点

出席カードを通しただけでは出席と認めない。積極的に授業に参加すること。病欠を含めて3分の１以上欠席した場合は単位を認定しない。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ ）

授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等（ ）

参加度　（ 40 ）

Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <月1>**

クラス	配当回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　mitei	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

Syllabus

科 目 名　**時事問題研究 <月2>**

クラス	配当回生
講義期間　後期	定　　員　60
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　mitei	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**経済学概論Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　小森　治夫	

テーマ

現代日本経済をめぐる諸問題

授業の到達目標

バブル崩壊後の90年代不況、女性労働、労働問題など、現代日本経済をめぐる諸問題について学ぶ

授業の概要

以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

準備学習（予習・復習）

講義資料を講義日の夜、つまり寝るまでに1回、次回の講義までにもう1回、合計2回以上読んで、復習をする。それぞれ1時間程度

内　容

第1回　オリエンテーション経済学とは何か
第2回　90年代不況（1）不良債権処理の10年
第3回　90年代不況（2）不良債権処理の10年
第4回　90年代不況（3）ケーススタディ・日本長期信用銀行
第5回　90年代不況（4）ケーススタディ・山一証券
第6回　中小企業問題
第7回　女性労働（1）均等法誕生
第8回　女性労働（2）均等法その後
第9回　女性労働（3）卵子の老化、育児支援
第10回　労働問題（1）過労死・過労自殺
第11回　労働問題（2）残業代ゼロ制度
第12回　労働問題（3）派遣労働
第13回　労働問題（4）ネットカフェ難民
第14回　労働問題（5）ブラック企業
第15回　労働問題（6）ブラックバイト

履修上の注意点

私語厳禁・授業集中のための座席指定制、スマホ・ケータイ厳禁、居眠り・内職厳禁出席は3分の2以上、遅刻・無断早退は厳禁向上心をもって授業に集中する、必ずメモをとる

教科書

参考書

日本の宿題
著者：　NHK「日本の宿題」プロジェクト
出版社：NHK出版
出版年：2001年　　ISBN：

中小企業が日本経済を救う
著者：　森靖雄
出版社：大月書店
出版年：2004年　　ISBN：

ワーキング・プア
著者：　デイヴィッド・K・シプラー
出版社：岩波書店
出版年：2007年　　ISBN：

aky702d110

今日、ホームレスになった
著者:　増田明利
出版社:　新風舎
出版年:　2006年　ISBN:

フリーター漂流
著者:　松宮健一
出版社:　旬報社
出版年:　2006年　ISBN:

若者が働くとき
著者:　熊沢誠
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2006年　ISBN:

派遣村
著者:　宇都宮健児・湯浅誠編
出版社:　岩波書店
出版年:　2009年　ISBN:

15歳のワークルール
著者:　道幸哲也
出版社:　旬報社
出版年:　2007年　ISBN:

反貧困
著者:　湯浅誠
出版社:　岩波新書
出版年:　2008年　ISBN:

派遣のリアル
著者:　門倉貴史
出版社:　宝島社
出版年:　2007年　ISBN:

成績評価

試験　(0)　小テスト (0)
授業中課題 (70)　授業中発表等 (0)
参加度 (30)

2016 Syllabus

科 目 名　**経済学概論Ⅰ〈Z〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

現代日本経済をめぐる諸問題

授業の到達目標

バブル崩壊後の90年代不況、女性労働、労働問題など、現代日本経済をめぐる諸問題について学ぶ

授業の概要

以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

準備学習（予習・復習）

講義資料を講義日の夜、つまり寝るまでに1回、次回の講義までにもう1回、合計2回以上読んで、復習をする。それぞれ1時間程度

内　容

第1回　オリエンテーション経済学とは何か
第2回　90年代不況（1）不良債権処理の10年
第3回　90年代不況（2）不良債権処理の10年
第4回　90年代不況（3）ケーススタディ・日本長期信用銀行
第5回　90年代不況（4）ケーススタディ・山一証券
第6回　中小企業問題
第7回　女性労働（1）均等法誕生
第8回　女性労働（2）均等法その後
第9回　女性労働（3）卵子の老化、育児支援
第10回　労働問題（1）過労死・過労自殺
第11回　労働問題（2）残業代ゼロ制度
第12回　労働問題（3）派遣労働
第13回　労働問題（4）ネットカフェ難民
第14回　労働問題（5）ブラック企業
第15回　労働問題（6）ブラックバイト

履修上の注意点

私語厳禁・授業集中のための座席指定制、スマホ・ケータイ厳禁、居眠り・内職厳禁出席は3分の2以上、遅刻・無断早退は厳禁向上心をもって授業に集中する、必ずメモをとる

教科書

参考書

日本の宿題
著者：　NHK「日本の宿題」プロジェクト
出版社：NHK出版
出版年：2001年　　ISBN：

中小企業が日本経済を救う
著者：　森靖雄
出版社：大月書店
出版年：2004年　　ISBN：

ワーキング・プア
著者：　デイヴィッド・K・シプラー
出版社：岩波書店
出版年：2007年　　ISBN：

aky702d112

今日、ホームレスになった
著者:　増田明利
出版社:　新風舎
出版年:　2006年　ISBN:

フリーター漂流
著者:　松宮健一
出版社:　旬報社
出版年:　2006年　ISBN:

若者が働くとき
著者:　熊沢誠
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2006年　ISBN:

派遣村
著者:　宇都宮健児・湯浅誠編
出版社:　岩波書店
出版年:　2009年　ISBN:

15歳のワークルール
著者:　道幸哲也
出版社:　旬報社
出版年:　2007年　ISBN:

反貧困
著者:　湯浅誠
出版社:　岩波新書
出版年:　2008年　ISBN:

派遣のリアル
著者:　門倉貴史
出版社:　宝島社
出版年:　2007年　ISBN:

成績評価

試験　(0)　小テスト (0)
授業中課題 (70)　授業中発表等 (0)
参加度 (30)

2016 Syllabus

科 目 名　**経済学概論Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　小森　治夫	

テーマ

戦後日本経済の歩みについて学ぶ

授業の到達目標

敗戦直後から、高度経済成長を経て、低成長経済に移行し、1980年代後半にバブル経済に突入するまでの、戦後日本経済の歩みについて学ぶ

授業の概要

以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

準備学習（予習・復習）

講義資料を講義日の夜、つまり寝るまでに1回、次回の講義までにもう1回、合計2回以上読んで、復習をする。それぞれ1時間程度

内　容

第1回　戦後日本経済の概観
第2回　特需景気
第3回　もはや戦後ではない
第4回　金の卵
第5回　エネルギー革命
第6回　所得倍増計画
第7回　公害
第8回　列島改造
第9回　ドルショックと石油ショック
第10回　日米経済摩擦
第11回　分割民営
第12回　バブル経済
第13回　プラザ合意
第14回　外国人労働者
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

医学者は公害事件で何をしてきたのか
著者：　津田敏秀
出版社：岩波書店
出版年：2004年　ISBN：

民営化で誰が得をするのか
著者：　石井陽一
出版社：平凡社
出版年：2007年　ISBN：

JR福知山線事故の本質
著者：　山口栄一
出版社：NTT出版
出版年：2007年　ISBN：

aky702d250

＜研修生＞という名の奴隷労働
著者: 「外国人労働者問題とこれからの日本」編集委員会
出版社: 花伝社
出版年: 2009年　ISBN:

外国人研修生殺人事件
著者: 安田浩一
出版社: 七つ森書館
出版年: 2007年　ISBN:

集団就職の時代
著者: 加瀬和俊
出版社: 青木書店
出版年: 1997年　ISBN:

戦後50年　そのとき日本は　第4巻、第6巻
著者: NHK取材班
出版社: NHK出版
出版年: 1996年　ISBN:

「移民列島」ニッポン
著者: 藤巻秀樹
出版社: 藤原書店
出版年: 2012年　ISBN:

高度成長
著者: 武田晴人
出版社: 岩波書店
出版年: 2008年　ISBN:

検証　バブル失政
著者: 軽部謙介
出版社: 岩波書店
出版年: 2015年　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 70 ）　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**健康に生きるⅠ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀　妙子.河原　宣子.松本　賢哉	

テーマ

健康について、様々な視点から学ぶ事により、自分自身の健康に関心をもち、健康に生きるための方法を考える。

授業の到達目標

1．健康とは何かを理解する2．健康に対して関心を持つことができる3．健康に生きるための方法を考える事ができる

授業の概要

健康についてや日本人によくみられる病気についてそしてそれを講義で学ぶとともに、自分自身の実際の生活の振り返りも行い、健康に生きるという事について考える授業です。

準備学習（予習・復習）

授業中に配布する資料をもとに、復習をしながら授業にのぞむ事。予習等が必要な場合には、事前に連絡をするので、その指示にしたがって予習を行う事

内　　容

第1回　オリエンテーション　健康とは
第2回　日本人の健康の特徴
第3回　心の健康（1）　心のはたらき
第4回　心の健康（2）　ストレスと健康
第5回　心の健康（3）　大学生の心の問題
第6回　人間のからだの仕組み
第7回　青年期の健康　性感染症
第8回　成人期の健康　がん
第9回　老年期の健康　認知症
第10回　環境と健康
第11回　食生活と健康
第12回　喫煙と健康
第13回　飲酒と健康
第14回　運動と健康
第15回　まとめ　小テスト

履修上の注意点

受講時は、他者の迷惑となるような行動をとらない事

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト　（ 50% ）
授業中課題　（ 50% ）　　授業中発表等　（　）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**健康に生きるⅡ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　西　彰子.中村　一郎	

テーマ

健康を食生活の視点から学び、食生活の自己管理能力を高める。

授業の到達目標

1．健康と栄養の関連を理解する。2．食の安全性に関心を持つ。3．健康的な食生活を志向する。

授業の概要

健康を食の視点から考察する。はじめに、栄養素と健康について解説する。次に、最近話題となっている健康情報について考察する。最後に自らの食生活を顧みて健康的な食生活を営むための基本的知識を整理する。

準備学習（予習・復習）

日頃から食に関連する事項に関心を持ち、様々な情報を入手してほしい。次に、その事項に対して疑問を持ち、本当にそうなのかよく考えてほしい。その疑問を授業で検証しよう。

内　　容

第1回　オリエンテーション　健康と栄養 （西）
第2回　健康と栄養　－糖質と糖類－ （西）
第3回　健康と栄養　－脂肪とコレステロールとDHA－ （西）
第4回　健康と栄養　－アミノ酸とたんぱく質－ （西）
第5回　健康と栄養　－ミネラルと骨密度－ （西）
第6回　健康と栄養　－ビタミンと美容－ （西）
第7回　健康と栄養　－色と食品－ （西）
第8回　健康と食トピックス　－ビタミン－ （中村）
第9回　健康と食トピックス　－ポリフェノール－ （中村）
第10回　健康と食トピックス　－BSE－ （中村）
第11回　健康と食トピックス　－食品添加物－ （中村）
第12回　健康と食生活　－ダイエット－ （西）
第13回　健康と食生活　－運動と食べ方－ （西）
第14回　健康と食生活　－ストレス－ （西）
第15回　まとめ （西）

履修上の注意点

①積極的に授業に参加してほしい。②毎回出席することが望ましく、1/3以上の欠席では評価が極めて低くならざるを得ない。③授業中のミニ課題も評価対象としていることに留意してほしい。④授業中の飲食、私語、スマホ、メールなどのマナー違反は厳禁。

教科書

栄養と健康
著者:
出版社: 建帛社
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 0 ）	小テスト （ 70 ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 10 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**健康に生きるⅢ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　田中　芳幸	

テーマ

精神的な「健康」(メンタルヘルス)の概要とその維持増進に役立つ心理学・行動科学理論の理解

授業の到達目標

個人の「健康」について精神的な側面(メンタルヘルス)を中心に学ぶ。心理学や医療行動科学の分野で研究されている様々なメンタルヘルスの理論や、その歴史的背景を学び、現代人が健康に生活するうえでのメンタルヘルスの重要性を理解する。健康に関する精神的側面を主軸としながら、個人の心理社会生物学的な健康を包括的に理解する。さらに、メンタルヘルスの維持増進や予防に役立つとされる様々な理論・技法についても考察する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

教科書や参考文献に示すものなどといった心理学・医療行動科学関連図書や講義中に配布する資料による自学自習、および、講義内容を踏まえての自分自身の心身の健康への考察

内　容

第1回　オリエンテーション 「健康」の捉え方
第2回　メンタルヘルスの関連学問領域
第3回　パーソナリティと健康
第4回　パーソナリティやメンタルヘルスの測定方法
第5回　ストレスのメカニズムと健康
第6回　ストレスへの対処
第7回　様々なストレスマネジメント技法
第8回　社会・集団とメンタルヘルス
第9回　様々な健康関連行動
第10回　健康関連行動と生活習慣
第11回　メンタルヘルスの維持・増進に役立つ諸理論・技法Ⅰ:認知・学習心理学の視点から
第12回　メンタルヘルスの維持・増進に役立つ諸理論・技法Ⅱ:学習・行動心理学の視点から
第13回　メンタルヘルスの維持・増進に役立つ諸理論・技法Ⅲ:精神分析学の視点から
第14回　メンタルヘルスの維持・増進に役立つ諸理論・技法Ⅳ:人間性心理学の視点から
第15回　健康に生きるⅢ(メンタルヘルス)のまとめ

履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為を慎むこと。

教科書

医療の行動科学Ⅰ　医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー
著者:　山田　冨美雄(編)
出版社:　北大路書房
出版年:　　ISBN:

参考書

健康とくらしに役立つ心理学
著者:　金政　祐司・大竹　恵子
出版社:　北樹出版
出版年:　　ISBN:

新版健康心理学
著者:　野口　京子
出版社:　金子書房
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　(50%)　　小テスト ( )
授業中課題 (30%)　　授業中発表等 ( )
参加度 (20%)

2016 Syllabus

科 目 名　**体育理論 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　新野　守	

テーマ

体育科教育の概要とスポーツ文化の継承・発展を考える

授業の到達目標

①体育科教育の概要を理解する。②体育やスポーツについて、文化的、社会的、歴史的側面の理解を深める。③これらを踏まえ、体育やスポーツについて理解する力、仲間と共に考える力、創造する力を身に付ける。

授業の概要

現在の体育やスポーツができるまでの過程の概要を学んだ上で、現在の体育やスポーツの問題を考えるために必要な、遊び、部活動、職場スポーツ、オリンピック、健康や生涯スポーツの概要を学ぶ。各講義テーマの導入にビデオでイメージを創り、レジュメで概念化していく、また3回の確認テストで講義内容を整理する。

準備学習（予習・復習）

日頃から新聞やニュースで体育、スポーツ、健康の記事を読んでおくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　前近代スポーツ
第3回　イギリスのスポーツ教育
第4回　日本の学校体育
第5回　到達度検証①
第6回　学校体育
第7回　スポーツ部活動
第8回　職場スポーツ
第9回　女性スポーツ
第10回　スポーツと健康
第11回　到達度検証②
第12回　オリンピック
第13回　生涯スポーツ1
第14回　生涯スポーツ2
第15回　到達度検証③
第16回　試験

履修上の注意点

新聞やテレビのスポーツ関係の記事や番組を見る時、ひいきのチームや選手の試合や記録の結果ばかりでなく、学校教育との関連で見てみましょう。プロスポーツやオリンピックなどのビッグイベントは、青少年の人間形成にどのような影響を与えているのでしょう。皆さんは、どのような影響を受けてきたのでしょうか。考えてみましょう。講義テーマは変更の可能性があるので、オリエンテーションで確認すること。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

スポーツと教育の歴史
著者:　成田十次郎
出版社:　不昧堂書店
出版年:　1988　　ISBN:

成績評価

試験　（ 100 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
評価方法は、状況に応じて、変更の可能性もあるので、初回のオリエンテーションや補足説明、到達度検証の時間に確認すること。

2016 Syllabus

科 目 名　**体育理論 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　新野　守	

テーマ

体育科教育の概要とスポーツ文化の継承・発展を考える

授業の到達目標

①体育科教育の概要を理解する。②体育やスポーツについて、文化的、社会的、歴史的側面の理解を深める。③これらを踏まえ、体育やスポーツについて理解する力、仲間と共に考える力、創造する力を身に付ける。

授業の概要

現在の体育やスポーツができるまでの過程の概要を学んだ上で、現在の体育やスポーツの問題を考えるために必要な、遊び、部活動、職場スポーツ、オリンピック、健康や生涯スポーツの概要を学ぶ。各講義テーマの導入にビデオでイメージを創り、レジュメで概念化していく、また3回の確認テストで講義内容を整理する。

準備学習（予習・復習）

日頃から新聞やニュースで体育、スポーツ、健康の記事を読んでおくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　前近代スポーツ
第3回　イギリスのスポーツ教育
第4回　日本の学校体育
第5回　到達度検証①
第6回　学校体育
第7回　スポーツ部活動
第8回　職場スポーツ
第9回　女性スポーツ
第10回　スポーツと健康
第11回　到達度検証②
第12回　オリンピック
第13回　生涯スポーツ1
第14回　生涯スポーツ2
第15回　到達度検証③
第16回　試験

履修上の注意点

新聞やテレビのスポーツ関係の記事や番組を見る時、ひいきのチームや選手の試合や記録の結果ばかりでなく、学校教育との関連で見てみましょう。プロスポーツやオリンピックなどのビッグイベントは、青少年の人間形成にどのような影響を与えているのでしょう。皆さんは、どのような影響を受けてきたのでしょうか。考えてみましょう。講義テーマは変更の可能性があるので、オリエンテーションで確認すること。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

スポーツと教育の歴史
著者:　成田十次郎
出版社:　不昧堂書店
出版年:　1988　　ISBN:

成績評価

試験　（ 100 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
評価方法は、状況に応じて、変更の可能性もあるので、初回のオリエンテーションや補足説明、到達度検証の時間に確認すること。

2016 Syllabus

科 目 名　**体育理論 <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　新野　守	

テーマ

体育科教育の概要とスポーツ文化の継承・発展を考える

授業の到達目標

①体育科教育の概要を理解する。②体育やスポーツについて、文化的、社会的、歴史的側面の理解を深める。③これらを踏まえ、体育やスポーツについて理解する力、仲間と共に考える力、創造する力を身に付ける。

授業の概要

現在の体育やスポーツができるまでの過程の概要を学んだ上で、現在の体育やスポーツの問題を考えるために必要な、遊び、部活動、職場スポーツ、オリンピック、健康や生涯スポーツの概要を学ぶ。各講義テーマの導入にビデオでイメージを創り、レジュメで概念化していく、また3回の確認テストで講義内容を整理する。

準備学習（予習・復習）

日頃から新聞やニュースで体育、スポーツ、健康の記事を読んでおくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　前近代スポーツ
第3回　イギリスのスポーツ教育
第4回　日本の学校体育
第5回　到達度検証①
第6回　学校体育
第7回　スポーツ部活動
第8回　職場スポーツ
第9回　女性スポーツ
第10回　スポーツと健康
第11回　到達度検証②
第12回　オリンピック
第13回　生涯スポーツ1
第14回　生涯スポーツ2
第15回　到達度検証③
第16回　試験

履修上の注意点

新聞やテレビのスポーツ関係の記事や番組を見る時、ひいきのチームや選手の試合や記録の結果ばかりでなく、学校教育との関連で見てみましょう。プロスポーツやオリンピックなどのビッグイベントは、青少年の人間形成にどのような影響を与えているのでしょう。皆さんは、どのような影響を受けてきたのでしょうか。考えてみましょう。講義テーマは変更の可能性があるので、オリエンテーションで確認すること。

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

スポーツと教育の歴史
著者:　成田十次郎
出版社:　不昧堂書店
出版年:　1988　　ISBN:

成績評価

試験　（ 100 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
評価方法は、状況に応じて、変更の可能性もあるので、初回のオリエンテーションや補足説明、到達度検証の時間に確認すること。

2016 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅠ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　新野　守	

テーマ

生涯スポーツとしてのバレーボール

授業の到達目標

①バレーボールの基礎的な技術・戦術とルールを獲得する。②多様な要求や能力の参加者が協力して練習やゲームの運営ができる。

授業の概要

①性別、能力を均等に班分けして共通の練習とゲームを行う。②第7，8週目で班の再編を行い、新しいチームで練習とゲームを行う。③ゲームは班対抗の他に、男女別や能力別のゲームを行うことがある。④練習はパス、スパイク、ブロック、サーブなどの技術練習の他に腕立て伏せや腹筋などの軽い筋トレや体幹トレーニングを行い技能向上とけがの防止に努める。⑤ゲームは25点のセット制だけでなく、時間制や特定の技能の制限、サーブの限定など状況に応じて変更する。⑥最後に実技テスト（サーブ他）とルールテストを行う。

準備学習（予習・復習）

規則正しい生活習慣と通学や課外時間などを有効に利用して日常的に運動とストレッチに努めることが望ましい。

内　容

第1回　ガイダンス（授業の目標、内容、方法、評価などの説明）
第2回　チーム編成（体力、運動能力、性別などに基づきチームに分ける）
第3回　練習①基礎的な練習とゲーム（パス、スパイク、ブロック、サーブ）
第4回　練習②基礎的な練習とゲーム（セッターとセンターの固定）
第5回　練習③リーグ戦
第6回　練習④リーグ戦
第7回　練習⑤リーグ戦
第8回　チーム再編
第9回　練習①応用的な練習とゲーム（レシーブ・トス・スパイクの連続）
第10回　練習②応用的な練習とゲーム（速攻とバックアタック、カバーリングとポジションチェンジ）
第11回　練習③リーグ戦
第12回　練習④リーグ戦
第13回　練習⑤リーグ戦
第14回　実技・ルールテスト①
第15回　実技・ルールテスト②

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト　（ 20 ）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（　）

参加度　（ 50 ）

①参加活動（50）は出席、遅刻、早退、見学、準備片付けなどを含む。②授業中の活動（30）は技能や体力、協調性を含む。③小テスト（20）は実技・ルールテストを含む。

2016 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅠ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　新野　守	

テーマ

生涯スポーツとしてのバレーボール

授業の到達目標

①バレーボールの基礎的な技術・戦術とルールを獲得する。②多様な要求や能力の参加者が協力して練習やゲームの運営ができる。

授業の概要

①性別、能力を均等に班分けして共通の練習とゲームを行う。②第7，8週目で班の再編を行い、新しいチームで練習とゲームを行う。③ゲームは班対抗の他に、男女別や能力別のゲームを行うことがある。④練習はパス、スパイク、ブロック、サーブなどの技術練習の他に腕立て伏せや腹筋などの軽い筋トレや体幹トレーニングを行い技能向上とけがの防止に努める。⑤ゲームは25点のセット制だけでなく、時間制や特定の技能の制限、サーブの限定など状況に応じて変更する。⑥最後に実技テスト（サーブ他）とルールテストを行う。

準備学習（予習・復習）

規則正しい生活習慣と通学や課外時間などを有効に利用して日常的に運動とストレッチに努めることが望ましい。

内　容

第1回　ガイダンス（授業の目標、内容、方法、評価などの説明）
第2回　チーム編成（体力、運動能力、性別などに基づきチームに分ける）
第3回　練習①基礎的な練習とゲーム（パス、スパイク、ブロック、サーブ）
第4回　練習②基礎的な練習とゲーム（セッターとセンターの固定）
第5回　練習③リーグ戦
第6回　練習④リーグ戦
第7回　練習⑤リーグ戦
第8回　チーム再編
第9回　練習①応用的な練習とゲーム（レシーブ・トス・スパイクの連続）
第10回　練習②応用的な練習とゲーム（速攻とバックアタック、カバーリングとポジションチェンジ）
第11回　練習③リーグ戦
第12回　練習④リーグ戦
第13回　練習⑤リーグ戦
第14回　実技・ルールテスト①
第15回　実技・ルールテスト②

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト　（ 20 ）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（　）

参加度　（ 50 ）

①参加活動（50）は出席、遅刻、早退、見学、準備片付けなどを含む。②授業中の活動（30）は技能や体力、協調性を含む。③小テスト（20）は実技・ルールテストを含む。

Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅠ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅠ〈d〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅠ〈e〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験（ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅠ <ラクト>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　佐々木 雅人	

テーマ

フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動とダイエット

授業の到達目標

ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、運動ダイエットプログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。

授業の概要

JR・京阪山科駅前のラクトB　5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15～18:45までの時間帯授業になります

準備学習（予習・復習）

授業日時外に京都橘大学生は、JR・京阪山科駅前ラクトスポーツプラザを特別料金で利用できます（学生証提示）『学生生活の手引き』-（課外活動）を参照

内　容

第1回　オリエンテーション: フィットネスを始める前に（運動に適切な服装・靴　水分補給　メディカルチェック）
第2回　ストレッチ実践: 柔軟性の向上と準備・整理体操
第3回　体力・形態測定: 自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデーターとの比較
第4回　マシンジム: オリエンテーション。機器の扱いと利用方法を学ぶ
第5回　ストレッチ理論: ストレッチとは。ラジオ体操との違いは。やわらかいしなやかな体づくり
第6回　ダイエットの為の栄養と理論: 体脂肪とはなんぞや？正しい運動ダイエット。リバウンドについて体脂肪率について
第7回　有酸素運動: 体脂肪を燃焼させるメカニズムについて
第8回　エアロビクスⅠ: 踏み台昇降ステップ台でのオリエンテーション。理論、種類、実践。敏捷性、巧緻性（器用さ）の向上
第9回　無酸素運動: ウェイトトレーニング、部位ひきしめシェイプアップと「基礎代謝熱量」
第10回　自律訓練法: ストレッチと自律訓練法で心身のストレス解消法・眠れない夜に
第11回　マシンジム実践: ジム機器を利用して運動
第12回　腹部ひきしめ体操: 腹筋群、背筋群、コアトレーニング
第13回　ヨガ：紀元前からあった修行です。現代は柔軟、筋力、バランス運動を兼ねた健康運動として普及しました。
第14回　脚部ひきしめ体操: 脚筋群、臀部を強化、スクワット
第15回　マシンジム実践: ジム機器を利用して運動と体脂肪測定

履修上の注意点

実技授業です。出席し身体能力を高めることで単位取得となります。就職活動、必修セミナーなどで出席することが出来ない場合は『欠席連絡表』を提出のこと。

教科書

教室でハンドアウト（プリント）を配布する
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

日本食品標準成分表
著者：
出版社：　出版社は問いません
出版年：　最新版　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 60 ）
（技能20%）（態度20%）

2016 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅡ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　新野　守	

テーマ

生涯スポーツとしてのバレーボール

授業の到達目標

①バレーボールの基礎的な技術・戦術とルールを獲得する。②多様な要求や能力の参加者が協力して練習やゲームの運営ができる。

授業の概要

①性別、能力を均等に班分けして共通の練習とゲームを行う。②第7，8週目で班の再編を行い、新しいチームで練習とゲームを行う。③ゲームは班対抗の他に、男女別や能力別のゲームを行うことがある。④練習はパス、スパイク、ブロック、サーブなどの技術練習の他に腕立て伏せや腹筋などの軽い筋トレや体幹トレーニングを行い技能向上とけがの防止に努める。⑤ゲームは25点のセット制だけでなく、時間制や特定の技能の制限、サーブの限定など状況に応じて変更する。⑥最後に実技テスト（サーブ他）とルールテストを行う。

準備学習（予習・復習）

規則正しい生活習慣と通学や課外時間などを有効に利用して日常的に運動とストレッチに努めることが望ましい。

内　容

第1回　ガイダンス（授業の目標、内容、方法、評価などの説明）
第2回　チーム編成（体力、運動能力、性別などに基づきチームに分ける）
第3回　練習①基礎的な練習とゲーム（パス、スパイク、ブロック、サーブ）
第4回　練習②基礎的な練習とゲーム（セッターとセンターの固定）
第5回　練習③リーグ戦
第6回　練習④リーグ戦
第7回　練習⑤リーグ戦
第8回　チーム再編
第9回　練習①応用的な練習とゲーム（レシーブ・トス・スパイクの連続）
第10回　練習②応用的な練習とゲーム（速攻とバックアタック、カバーリングとポジションチェンジ）
第11回　練習③リーグ戦
第12回　練習④リーグ戦
第13回　練習⑤リーグ戦
第14回　実技・ルールテスト①
第15回　実技・ルールテスト②

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト　（ 20 ）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（　）

参加度　（ 50 ）

①参加活動（50）は出席、遅刻、早退、見学、準備片付けなどを含む。②授業中の活動（30）は技能や体力、協調性を含む。③小テスト（20）は実技・ルールテストを含む。

2016 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅡ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　新野　守	

テーマ

生涯スポーツとしてのバレーボール

授業の到達目標

①バレーボールの基礎的な技術・戦術とルールを獲得する。②多様な要求や能力の参加者が協力して練習やゲームの運営ができる。

授業の概要

①性別、能力を均等に班分けして共通の練習とゲームを行う。②第7，8週目で班の再編を行い、新しいチームで練習とゲームを行う。③ゲームは班対抗の他に、男女別や能力別のゲームを行うことがある。④練習はパス、スパイク、ブロック、サーブなどの技術練習の他に腕立て伏せや腹筋などの軽い筋トレや体幹トレーニングを行い技能向上とけがの防止に努める。⑤ゲームは25点のセット制だけでなく、時間制や特定の技能の制限、サーブの限定など状況に応じて変更する。⑥最後に実技テスト（サーブ他）とルールテストを行う。

準備学習（予習・復習）

規則正しい生活習慣と通学や課外時間などを有効に利用して日常的に運動とストレッチに努めることが望ましい。

内　容

第1回　ガイダンス（授業の目標、内容、方法、評価などの説明）
第2回　チーム編成（体力、運動能力、性別などに基づきチームに分ける）
第3回　練習①基礎的な練習とゲーム（パス、スパイク、ブロック、サーブ）
第4回　練習②基礎的な練習とゲーム（セッターとセンターの固定）
第5回　練習③リーグ戦
第6回　練習④リーグ戦
第7回　練習⑤リーグ戦
第8回　チーム再編
第9回　練習①応用的な練習とゲーム（レシーブ・トス・スパイクの連続）
第10回　練習②応用的な練習とゲーム（速攻とバックアタック、カバーリングとポジションチェンジ）
第11回　練習③リーグ戦
第12回　練習④リーグ戦
第13回　練習⑤リーグ戦
第14回　実技・ルールテスト①
第15回　実技・ルールテスト②

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト　（ 20 ）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（　）

参加度　（ 50 ）

①参加活動（50）は出席、遅刻、早退、見学、準備片付けなどを含む。②授業中の活動（30）は技能や体力、協調性を含む。③小テスト（20）は実技・ルールテストを含む。

Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅡ〈c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　スポーツコースⅡ〈d〉	
クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度（ ）	

Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅡ〈e〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅡ <ラクト>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　佐々木　雅人	

テーマ

フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動と筋力アップ

授業の到達目標

ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、運動ダイエットプログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。

授業の概要

JR・京阪山科駅前のラクトB　5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15～18:45までの時間帯授業になります。

準備学習（予習・復習）

授業日時外に京都橘大学生は、JR・京阪山科駅前ラクトスポーツプラザを特別料金で利用できます（学生証提示）『学生生活の手引き』-（課外活動）を参照

内　容

第1回　オリエンテーション: フィットネスを始める前に（運動に適切な服装・靴　水分補給　メディカルチェック）
第2回　ストレッチ実践: 柔軟性の向上と準備・整理体操
第3回　体力・形態測定: 自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデーターとの比較
第4回　筋力アップの実践: 筋持久力、筋力向上の理論と実践。白筋と赤筋とは
第5回　ストレッチ実践: 柔軟性の向上と準備・整理体操
第6回　無酸素運動: 筋肉づくりの栄養・理論を学び筋力をつける
第7回　エアロビクス: ダンスオリエンテーション。理論、種類、実践
第8回　マシンジム実践: ジム機器を利用して運動
第9回　サーキットトレーニング: 部屋でできる運動プログラム
第10回　体幹エクササイズ: バランスボール、ストレッチポールを使ってインナーマッスルを強化する
第11回　ヨガ:紀元前からあった修行です。現代は柔軟、筋力、バランス運動を兼ねた健康運動として普及しました。
第12回　マシンジム実践: ジム機器を利用して運動
第13回　コアトレーニング: 腹筋群・背筋群を強化する。体幹のトレーニング
第14回　脚部強化運動 脚筋群・臀部を強化する。脚部を引き締める運動
第15回　マシンジム実践: ジム機器を利用して運動。体脂肪測定

履修上の注意点

実技授業です。出席し身体能力を高めることで単位取得となります。就職活動、必修セミナーなどで出席することが出来ない場合は『欠席連絡表』を提出のこと。

教科書

教室でハンドアウト（プリント）を配布する
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

日本食品標準成分表
著者:
出版社:　出版社は問いません
出版年:　最新版　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 60 ）
（技能20%）（態度20%）

2016 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅢ 〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　宇部 一	

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化（※2011年度以前入学生は2単位です。）

授業の到達目標

バレーボールとバスケットボールの基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

授業の概要

バレーボール、バスケットボール両種目ともに全体での基礎練習から始め、グループ単位での練習を行い、リーグ戦形式でゲームを楽しむ。バレーボールは6人制を基本に男女混合のチーム構成で行う。バスケットボールは男女別とする。

準備学習（予習・復習）

スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通した情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。

内　容

第1回　授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認など
第2回　バレーボールの基礎技能（パス、サービス）
第3回　バレーボールの基礎技能（サーブレシーブ、スパイク）、ミニゲーム
第4回　グルーピング、チームでの練習の取り組み
第5回　リーグ戦形式でのゲーム（ルールの確認と審判法について）
第6回　リーグ戦形式でのゲーム（フォーメーションに関わるチーム練習）
第7回　リーグ戦形式でのゲーム（チーム力の分析と反省）
第8回　バレーボールの基礎的なスキルテスト、まとめ
第9回　バスケットボールの基礎技能（ボールハンドリング）
第10回　バスケットボールの基礎技能（シュート、ドリブル、パス）、ミニゲーム
第11回　グルーピング、チームでの練習の取り組み
第12回　リーグ戦形式でのゲーム（ルールの確認と審判法について）
第13回　リーグ戦形式でのゲーム（組織的なディフェンスの活用）
第14回　リーグ戦形式でのゲーム（チーム力の分析と反省）
第15回　バスケットボールの基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ

履修上の注意点

積極的に運動に取り組める服装、シューズ等を準備すること。体調のすぐれないときは必ず申し出ること。

教科書

参考書

成績評価

試験 （ 10 ）　小テスト （ 5 ）
授業中課題 （ 5 ）　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 60 ）
授業実施回数の3分の2以上出席しないと成績評価の対象としない。

2016 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅢ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　宇部 一	

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化（※2011年度以前入学生は2単位です。）

授業の到達目標

バレーボールとバスケットボールの基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

授業の概要

バレーボール、バスケットボール両種目ともに全体での基礎練習から始め、グループ単位での練習を行い、リーグ戦形式でゲームを楽しむ。バレーボールは6人制を基本に男女混合のチーム構成で行う。バスケットボールは男女別とする。

準備学習（予習・復習）

スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通した情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。

内　容

第1回　授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認など
第2回　バレーボールの基礎技能（パス、サービス）
第3回　バレーボールの基礎技能（サーブレシーブ、スパイク）、ミニゲーム
第4回　グルーピング、チームでの練習の取り組み
第5回　リーグ戦形式でのゲーム（ルールの確認と審判法について）
第6回　リーグ戦形式でのゲーム（フォーメーションに関わるチーム練習）
第7回　リーグ戦形式でのゲーム（チーム力の分析と反省）
第8回　バレーボールの基礎的なスキルテスト、まとめ
第9回　バスケットボールの基礎技能（ボールハンドリング）
第10回　バスケットボールの基礎技能（シュート、ドリブル、パス）、ミニゲーム
第11回　グルーピング、チームでの練習の取り組み
第12回　リーグ戦形式でのゲーム（ルールの確認と審判法について）
第13回　リーグ戦形式でのゲーム（組織的なディフェンスの活用）
第14回　リーグ戦形式でのゲーム（チーム力の分析と反省）
第15回　バスケットボールの基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ

履修上の注意点

積極的に運動に取り組める服装、シューズ等を準備すること。体調のすぐれないときは必ず申し出ること。

教科書

参考書

成績評価

試験 （ 10 ）　小テスト （ 5 ）
授業中課題 （ 5 ）　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 60 ）
授業実施回数の3分の2以上出席しないと成績評価の対象としない。

2016 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅢ <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　宇部 一	

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化（※2011年度以前入学生は2単位です。）

授業の到達目標

バレーボールとバスケットボールの基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

授業の概要

バレーボール、バスケットボール両種目ともに全体での基礎練習から始め、グループ単位での練習を行い、リーグ戦形式でゲームを楽しむ。バレーボールは6人制を基本に男女混合のチーム構成で行う。バスケットボールは男女別とする。

準備学習（予習・復習）

スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通した情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。

内　容

第1回　授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認など
第2回　バレーボールの基礎技能（パス、サービス）
第3回　バレーボールの基礎技能（サーブレシーブ、スパイク）、ミニゲーム
第4回　グルーピング、チームでの練習の取り組み
第5回　リーグ戦形式でのゲーム（ルールの確認と審判法について）
第6回　リーグ戦形式でのゲーム（フォーメーションに関わるチーム練習）
第7回　リーグ戦形式でのゲーム（チーム力の分析と反省）
第8回　バレーボールの基礎的なスキルテスト、まとめ
第9回　バスケットボールの基礎技能（ボールハンドリング）
第10回　バスケットボールの基礎技能（シュート、ドリブル、パス）、ミニゲーム
第11回　グルーピング、チームでの練習の取り組み
第12回　リーグ戦形式でのゲーム（ルールの確認と審判法について）
第13回　リーグ戦形式でのゲーム（組織的なディフェンスの活用）
第14回　リーグ戦形式でのゲーム（チーム力の分析と反省）
第15回　バスケットボールの基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ

履修上の注意点

積極的に運動に取り組める服装、シューズ等を準備すること。体調のすぐれないときは必ず申し出ること。

教科書

参考書

成績評価

試験 （ 10 ）　小テスト （ 5 ）
授業中課題 （ 5 ）　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 60 ）
授業実施回数の3分の2以上出席しないと成績評価の対象としない。

2016 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅢ <ラクト>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　佐々木　雅人	

テーマ

フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動と柔軟性の向上

授業の到達目標

ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、柔軟性向上プログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。

授業の概要

JR・京阪山科駅前のラクトB　5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15～18:45までの時間帯授業になります。

準備学習（予習・復習）

授業日時外に京都橘大学生は、JR・京阪山科駅前ラクトスポーツプラザを特別料金で利用できます（学生証提示）『学生生活の手引き』-（課外活動）を参照

内　容

第1回　オリエンテーション フィットネスを始める前に（運動に適切な服装・靴　水分補給　メディカルチェック）
第2回　ストレッチⅠ 柔軟性の向上と準備・整理体操
第3回　体力・形態測定 ：自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデーターとの比較
第4回　マシンジム ：オリエンテーション。機器の扱いと利用方法を学ぶ
第5回　ストレッチ理論： ストレッチとは。ラジオ体操との違いは。やわらかいしなやかな体づくり
第6回　ストレッチⅡ： スタティックストレッチとは。体前屈で良い結果をだす
第7回　マシンジム実践： ジム機器を利用して運動
第8回　エアロビクスⅠ ダンスオリエンテーション。理論、種類、実践
第9回　ストレッチⅢ： ストレッチで柔軟性を向上する
第10回　ペアストレッチ： ペアになってストレッチを実践する
第11回　自律訓練法： ストレッチと自律訓練法で心身のストレス解消法・眠れない夜に
第12回　ボールストレッチ： バランスボールを使ったストレッチ
第13回　ヨガ：紀元前からあった修行です。現代は柔軟、筋力、バランス運動を兼ねた健康運動として普及しました。
第14回　肩こり・腰痛体操： 柔軟・筋力不足の肩こり、腰痛を解消する
第15回　マシンジム実践： ジム機器を利用して運動

履修上の注意点

実技授業です。出席し身体能力を高めることで単位取得となります。就職活動、必修セミナーなどで出席することが出来ない場合は『欠席連絡表』を提出のこと。

教科書

教室でハンドアウト（プリント）を配布する
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

日本食品標準成分表
著者：
出版社： 出版社は問いません
出版年： 最新版　ISBN：

成績評価

試験 （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 0 ）	授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 60 ）	
（技能20%）（態度20%）	

2016 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅣ 〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　宇部 一	

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化（※2011年度以前入学生は2単位です。）

授業の到達目標

バドミントンと卓球の基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

授業の概要

バドミントンと卓球について各7時間行う。それぞれの種目の基本的な技術練習とルールの理解から始め、後半はシングルスおよびダブルスでのリーグ戦形式でのゲームを中心に行う。

準備学習（予習・復習）

スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通した情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。

内　容

第1回　授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認。
第2回　バドミントンの基礎技能練習（ハイクリア、スマッシュ、ヘアピンなど）
第3回　バドミントンの基礎技能練習（ドロップ、ドライブ、サービスなど）
第4回　シングルスのルールの理解、リーグ戦形式ゲーム
第5回　シングルスの戦術とリーグ戦形式ゲーム
第6回　ダブルスのルールの理解と基礎練習、ルールの理解
第7回　ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム、戦術
第8回　ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム（ミックスダブルス、チーム対抗など）
第9回　卓球の基礎技術練習（フォアハンドの基本、バックショートなど）
第10回　卓球の基礎技術練習（サービスの打ち分け、ドライブ、カットの理解）
第11回　シングルスのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム
第12回　ダブルスのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム
第13回　ダブルスの戦術の理解とリーグ戦形式でのゲーム
第14回　チーム対抗形式でのゲーム
第15回　卓球の基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ

履修上の注意点

積極的に運動に取り組める服装・シューズ等を準備すること。体調がすぐれないときは必ず申し出ること。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 10 ）　　小テスト（ 5 ）
授業中課題（ 5 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 60 ）
授業実施回数の3分の2以上の出席がないと成績評価の対象としない。

2016 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅣ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　宇部　一	

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化（※2011年度以前入学生は2単位です。）

授業の到達目標

バドミントンと卓球の基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

授業の概要

バドミントンと卓球について各7時間行う。それぞれの種目の基本的な技術練習とルールの理解から始め、後半はシングルスおよびダブルスでのリーグ戦形式でのゲームを中心に行う。

準備学習（予習・復習）

スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通した情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。

内　容

第1回　授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認。
第2回　バドミントンの基礎技能練習（ハイクリア、スマッシュ、ヘアピンなど）
第3回　バドミントンの基礎技能練習（ドロップ、ドライブ、サービスなど）
第4回　シングルスのルールの理解、リーグ戦形式ゲーム
第5回　シングルスの戦術とリーグ戦形式ゲーム
第6回　ダブルスのルールの理解と基礎練習、ルールの理解
第7回　ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム、戦術
第8回　ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム（ミックスダブルス、チーム対抗など）
第9回　卓球の基礎技術練習（フォアハンドの基本、バックショートなど）
第10回　卓球の基礎技術練習（サービスの打ち分け、ドライブ、カットの理解）
第11回　シングルスのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム
第12回　ダブルスのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム
第13回　ダブルスの戦術の理解とリーグ戦形式でのゲーム
第14回　チーム対抗形式でのゲーム
第15回　卓球の基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ

履修上の注意点

積極的に運動に取り組める服装・シューズ等を準備すること。体調がすぐれないときは必ず申し出ること。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 10 ）　　小テスト（ 5 ）
授業中課題（ 5 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 60 ）
授業実施回数の3分の2以上の出席がないと成績評価の対象としない。

2016 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅣ <c>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　45
履修条件	クラス指定
担 当 者　宇部 一	

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化（※2011年度以前入学生は2単位です。）

授業の到達目標

バドミントンと卓球の基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

授業の概要

バドミントンと卓球について各7時間行う。それぞれの種目の基本的な技術練習とルールの理解から始め、後半はシングルスおよびダブルスでのリーグ戦形式でのゲームを中心に行う。

準備学習（予習・復習）

スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通した情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。

内　容

第1回　授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認。
第2回　バドミントンの基礎技能練習（ハイクリア、スマッシュ、ヘアピンなど）
第3回　バドミントンの基礎技能練習（ドロップ、ドライブ、サービスなど）
第4回　シングルスのルールの理解、リーグ戦形式ゲーム
第5回　シングルスの戦術とリーグ戦形式ゲーム
第6回　ダブルスのルールの理解と基礎練習、ルールの理解
第7回　ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム、戦術
第8回　ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム（ミックスダブルス、チーム対抗など）
第9回　卓球の基礎技術練習（フォアハンドの基本、バックショートなど）
第10回　卓球の基礎技術練習（サービスの打ち分け、ドライブ、カットの理解）
第11回　シングルスのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム
第12回　ダブルスのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム
第13回　ダブルスの戦術の理解とリーグ戦形式でのゲーム
第14回　チーム対抗形式でのゲーム
第15回　卓球の基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ

履修上の注意点

積極的に運動に取り組める服装・シューズ等を準備すること。体調がすぐれないときは必ず申し出ること。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 10 ）　　小テスト（ 5 ）
授業中課題（ 5 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度（ 60 ）
授業実施回数の3分の2以上の出席がないと成績評価の対象としない。

2016 Syllabus

科 目 名　**スポーツコースⅣ <ラクト>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　佐々木　雅人	

テーマ

フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動とダイエット

授業の到達目標

ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、運動ダイエットプログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。

授業の概要

JR山科駅前のラクトB　5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15～18:45までの時間帯授業になります

準備学習（予習・復習）

授業日時外に京都橘大学生は、JR・京阪山科駅前ラクトスポーツプラザを特別料金で利用できます（学生証提示）『学生生活の手引き』-（課外活動）を参照

内　容

第1回　オリエンテーション：フィットネスを始める前に（運動に適切な服装・靴　水分補給　メディカルチェック）
第2回　ストレッチ実践：柔軟性の向上と準備・整理体操
第3回　体力・形態測定：自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデーターとの比較
第4回　マシンジム：オリエンテーション。機器の扱いと利用方法を学ぶ
第5回　ストレッチ理論：ストレッチとは。ラジオ体操との違いは。やわらかいしなやかな体づくり
第6回　ダイエットの為の栄養と理論：体脂肪とはなんぞや？正しい運動ダイエット。リバウンドについて体脂肪率について
第7回　有酸素運動：体脂肪を燃焼させるメカニズムについて
第8回　エアロビクスⅠ：ダンスオリエンテーション。理論、種類、実践
第9回　無酸素運動：ウェイトトレーニング、部位ひきしめシェイプアップと「基礎代謝熱量」
第10回　自律訓練法：ストレッチと自律訓練法で心身のストレス解消法・眠れない夜に
第11回　ダンスエクササイズ：ズンバ（ZUMBA）で敏捷性、巧緻性（器用さ）の向上
第12回　マシンジム実践：ジム機器を利用して運動
第13回　腹部ひきしめ体操：腹筋群、背筋群、コアトレーニング
第14回　脚部ひきしめ体操：脚筋群、臀部を強化、スクワット
第15回　マシンジム実践：ジム機器を利用して運動。体脂肪測定

履修上の注意点

実技授業です。出席し身体能力を高めることで単位取得となります。就職活動、必修セミナーなどで出席することが出来ない場合は『欠席連絡表』を提出のこと。

教科書

教室でハンドアウト（プリント）を配布する
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

日本食品標準成分表
著者：
出版社：出版社は問いません
出版年：最新版　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 60 ）	
（技能20%）（態度20%）	

2016 Syllabus

科 目 名　**地球生命論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　秋期集中	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　趙　哲済	

テーマ

生命の発生から人類が進化・発展して現在に至った地球と生物の歴史の基礎的理解

授業の到達目標

地球の誕生から現在に至るまでの地球と生物の歴史を学ぶ。その中でも特に、人類が進化・発展してきた第四紀と呼ぶ現代社会と密接に関係する時代を、人類の諸特徴とともに、氷河の消長、海水準変動、植生変遷などの古地理に係る変遷、および生物地理と人類の拡散などの事象を通して理解することを目標にする。これらは地層そのものと地層中に含まれる化石や考古遺物などの証拠に基づくものであるから、層序と地層の対比、地質学・堆積学の諸法則、化石の二面性、堆積と浸食、堆積構造と変形構造などの地層学の基礎事項の理解を図るとともに、現代生活にも係る火山噴火や地震、土石流などの地盤災害の事例と、その原因も合わせて学習する。

授業の概要

人類史を含む地球と生物の歴史、およびそれらの証拠となる化石や考古遺物を理解するために必要な地層学の基礎事項について、スライドを用いた講義を主体に行うとともに、スライド内容を資料として配布する。なお、授業の進捗状況により、内容を一部変更する場合がある。

準備学習（予習・復習）

授業開始以前に大阪市立自然史博物館、滋賀県立琵琶湖博物館、兵庫県立人と自然の博物館、国立科学博物館などの、自然と人間の歴史をテーマとする施設を1か所見学しておく事が望ましい。夏休み中に参考書3-10の中から1冊を読む事が望ましい。

内　　容

第1回　先カンブリア時代（1） 地球の年代区分、地球と月の形成、生命の発生と化学進化
第2回　先カンブリア時代（2） 原核生物と真核生物、細菌の光合成による遊離酸素の発生、全球凍結、 多細胞生物の出現、地球の構造と大陸の移動
第3回　古生代（1）骨格をもった多細胞生物・脊椎動物の出現、 コケ類・地衣類の水辺への進出、シダ植物の上陸と繁栄
第4回　古生代（2）魚類の繁栄、硬骨魚類から両生類への進化、最初に上陸した動物、生物の5大大量死（大量絶滅）事件
第5回　中生代（1） 超大陸パンゲア、アンモナイト類の進化、羊膜類、爬虫類の大分類、恐竜、空の爬虫類・古鳥類、海の爬虫類
第6回　中生代（2） 日本列島の中生代爬虫類、裸子植物から被子植物への景観変遷、中生代末の大量死
第7回　新生代（1） ヒマラヤ山脈とモンスーン気候、環南極海流、氷河時代と無氷河時代、日本海と日本列島の成立
第8回　新生代（2） 哺乳類の系統と進化、被子植物がもたらした霊長類進化への影響
第9回　新生代（3） 長鼻類の繁栄、霊長類の進化
第10回　第四紀（1） 第四紀とは、層序学の基礎、氷期と間氷期の編年 、酸素同位体比、火山灰編年
第11回　第四紀（2） 氷期の景観、鮮新統・更新統（大阪層群・古琵琶湖層群を中心にして）、遺存種（レリック）
第12回　人類の進化（1） 人類の系統、猿人、華奢型猿人、頑丈型猿人、年代の調べ方
第13回　人類の進化（2） 原人、石器の発達、第1次出アフリカ、火の使用、旧人、原人のレリック
第14回　人類の進化（3） 遺伝子情報からみる分子系統、新人、第2次出アフリカ、東～東南アジア・日本列島の新人、石器の文化、抽象的思考（言語と芸術の発生）
第15回　人類の進化（4） 晩氷期以降の古気候・古地理変遷、定住・農耕・牧畜、地球温暖化、活断層（黄檗断層）、狂牛病、核エネルギー、地球の未来

履修上の注意点

授業中に問いかけをすることがあるので、積極的な応答を期待する。ただし、授業に関係のない私語は慎むこと。疑問点があれば授業の最後に質問を受ける。また、質問用紙に書いて提出してもよい。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

地球生物学

著者:　池谷仙之・北里洋

出版社:　東京大学出版会

出版年:　2004年　　ISBN:　4-13-062711-2

aky901d950

人類紀自然学
著者:　人類紀自然学編集委員会
出版社: 共立出版
出版年: 2007年　ISBN:　978-4-320-

リズミカルな地球の変動
著者:　増田富士雄
出版社: 岩波書店
出版年: 1993年　ISBN:　4-00-007903-4

生物と無生物のあいだ
著者:　福岡伸一
出版社: 講談社現代新書
出版年: 2007年　ISBN:　978-4-06-

進化の大爆発…動物のルーツを探る
著者:　大森昌衛
出版社: 新日本出版社
出版年: 2000年　ISBN:　4-406-02756-4

「退化」の進化学
著者:　犬塚則久
出版社: ブルーバックス
出版年: 2006年　ISBN:　4-06-257537-X

人類進化の700万年
著者:　三井誠
出版社: 講談社現代新書
出版年: 2005年　ISBN:　4-06-149805-3

人類がたどってきた道
著者:　海部陽介
出版社: NHKブックス
出版年: 2005年　ISBN:　4-14-091028-3

気候変動はなぜ起こるのか
著者:　ウォーレス・ブロッカー
出版社: ブルーバックス
出版年: 2006年　ISBN:　4-320-04682-X

古代文明と気候変動
著者:　ブライアン・ファイガン
出版社: 河出書房新社
出版年: 2005年　ISBN:　4-309-25192-7

成績評価

試験 （ ）　小テスト （ 35 ）
授業中課題 （ 20 ）　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 45 ）
参加度と授業の中で行う基礎事項に関する小テストで評価する。授業中課題の提出は自由。

2016 Syllabus

科 目 名　**地球環境論 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　南 聡一郎	

テーマ

地球温暖化問題へのとりくみ

授業の到達目標

・地球環境問題に取り組むことの重要性を理解する。・環境政策とはどんなものなのかということを理解する。・環境政策は、どのように決まり、誰が主体となって実施するのかを理解する。・地球環境問題に関する国際的なとりくみ、国内や地域でのとりくみ、そしてその連携を理解する。

授業の概要

もっとも重要な地球環境問題である地球温暖化問題について講義する。2015年12月、パリ協定が制定され、地球温暖化問題は新たなステージに入った。温暖化問題は、影響や被害が地球規模であり国際的な協力が不可欠である一方、温室効果ガス削減は個人や企業の努力の積み重ねで達成すべき性格をもっている。そこで、地球温暖化対策に関する講義を通じて、地球環境問題をいかに解決すべきかについて学んでいく。

準備学習（予習・復習）

きちんと復習をしてノートを仕上げてください。テレビの環境番組などを見れば、興味がわき理解がわくのおすすめです。

内　容

第1回　環境問題とは
第2回　環境問題の種類と主な環境問題
第3回　地球温暖化問題入門
第4回　温暖化問題のメカニズムと影響
第5回　地球温暖化を巡る国際的なとりくみ（条約）
第6回　地球温暖化問題におけるNGOの活躍
第7回　公害問題に学ぶ(1)水俣病
第8回　公害問題に学ぶ(2)大気汚染公害
第9回　地球温暖化問題に関するパリ協定の意義
第10回　地球温暖化対策・部門別とりくみ(1)家庭と企業
第11回　地球温暖化対策・部門別とりくみ(2)ごみと廃棄物
第12回　地球温暖化対策・部門別とりくみ(3)乗り物
第13回　地球温暖化対策・部門別とりくみ(4)エネルギー
第14回　環境経済学と地球温暖化問題
第15回　持続可能な社会をめざして

履修上の注意点

実習、就活などによる欠席は、申告があったものは考慮します。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

不都合な真実
著者:　アル・ゴア
出版社:　ランダムハウス講談社
出版年:　2007　ISBN:　427000181X

改訂版ごみの環境経済学
著者:　坂田 裕輔
出版社:　晃洋書房
出版年:　2009　ISBN:　4771021074

aky901e050

地球温暖化の政治学
著者:　竹内啓二
出版社: 朝日新聞社
出版年: 1998　　ISBN:　4022597046

環境経済学　新版
著者:　宮本憲一
出版社: 岩波書店
出版年: 2007　　ISBN:　4000224816

成績評価

試験 （ 70 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**地球環境論 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　南 聡一郎	

テーマ

地球温暖化問題へのとりくみ

授業の到達目標

・地球環境問題に取り組むことの重要性を理解する。・環境政策とはどんなものなのかということを理解する。・環境政策は、どのように決まり、誰が主体となって実施するのかを理解する。・地球環境問題に関する国際的なとりくみ、国内や地域でのとりくみ、そしてその連携を理解する。

授業の概要

もっとも重要な地球環境問題である地球温暖化問題について講義する。2015年12月、パリ協定が制定され、地球温暖化問題は新たなステージに入った。温暖化問題は、影響や被害が地球規模であり国際的な協力が不可欠である一方、温室効果ガス削減は個人や企業の努力の積み重ねで達成すべき性格をもっている。そこで、地球温暖化対策に関する講義を通じて、地球環境問題をいかに解決すべきかについて学んでいく。

準備学習（予習・復習）

きちんと復習をしてノートを仕上げてください。テレビの環境番組などを見れば、興味がわき理解がわくのおすすめです。

内　容

第1回　環境問題とは
第2回　環境問題の種類と主な環境問題
第3回　地球温暖化問題入門
第4回　温暖化問題のメカニズムと影響
第5回　地球温暖化を巡る国際的なとりくみ（条約）
第6回　地球温暖化問題におけるNGOの活躍
第7回　公害問題に学ぶ(1)水俣病
第8回　公害問題に学ぶ(2)大気汚染公害
第9回　地球温暖化問題に関するパリ協定の意義
第10回　地球温暖化対策・部門別とりくみ(1)家庭と企業
第11回　地球温暖化対策・部門別とりくみ(2)ごみと廃棄物
第12回　地球温暖化対策・部門別とりくみ(3)乗り物
第13回　地球温暖化対策・部門別とりくみ(4)エネルギー
第14回　環境経済学と地球温暖化問題
第15回　持続可能な社会をめざして

履修上の注意点

実習、就活などによる欠席は、申告があったものは考慮します。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

不都合な真実
著者:　アル・ゴア
出版社:　ランダムハウス講談社
出版年:　2007　ISBN:　427000181X

改訂版ごみの環境経済学
著者:　坂田 裕輔
出版社:　晃洋書房
出版年:　2009　ISBN:　4771021074

aky901e052

地球温暖化の政治学
著者:　竹内啓二
出版社: 朝日新聞社
出版年: 1998　　ISBN:　4022597046

環境経済学　新版
著者:　宮本憲一
出版社: 岩波書店
出版年: 2007　　ISBN:　4000224816

成績評価

試験 （ 70 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**エコロジー研究 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　小森　治夫	

テーマ

環境と開発の総合的研究

授業の到達目標

日本における山と森林・河川・海の開発事例について、自然環境と開発の関係を学ぶ。

授業の概要

毎回配付する資料にもとづき、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ。

準備学習（予習・復習）

講義資料を講義日の夜、つまり寝るまでに1回、次回の講義までにもう1回、合計2回以上読んで、復習をする。それぞれ1時間程度。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　日本の自然保護（1）尾瀬
第3回　日本の自然保護（2）富士山
第4回　山と森林の自然保護（1）白神山地
第5回　山と森林の自然保護（2）国有林の危機
第6回　山と森林の自然保護（3）林業政策の大転換
第7回　川の自然保護（1）川の文化
第8回　川の自然保護（2）四万十川
第9回　川の自然保護（3）四万十川、琵琶湖
第10回　海の自然保護・諫早湾干拓
第11回　日本の世界遺産（1）屋久島
第12回　日本の世界遺産（2）知床
第13回　日本のエコツーリズム（沖縄）
第14回　世界のエコツーリズム（コスタリカ、ガラパゴス諸島）
第15回　レイチェル・カーソン

履修上の注意点

私語厳禁・授業集中のための座席指定制、スマホ・ケータイ厳禁、居眠り・内職厳禁出席は3分の2以上、遅刻・無断早退は厳禁向上心をもって授業に集中する、必ずメモをとる

教科書

参考書

日本の自然保護
著者：　石川徹也
出版社：平凡社
出版年：2001年　　ISBN：

シカと日本の森林
著者：　依光良三編
出版社：築地書館
出版年：2011年　　ISBN：

富士山を汚すのは誰か
著者：　野口　健
出版社：角川書店
出版年：2008年　　ISBN：

aky901e110

富士山の光と影
著者:　渡辺豊博
出版社: 清流出版
出版年: 2014年　ISBN:

森は海の恋人
著者:　畠山重篤
出版社: 北斗出版
出版年: 1994年　ISBN:

四万十川・歩いて下る
著者:　多田　実
出版社: 築地書館
出版年: 1995年　ISBN:

諫早の叫び
著者:　永尾俊彦
出版社: 岩波書店
出版年: 2005年　ISBN:

沈黙の春
著者:　レイチェル・カーソン
出版社: 新潮社
出版年: 1974年　ISBN:

プロジェクトX第6巻
著者:　NHKプロジェクトX制作班編
出版社: NHK出版
出版年: 2001年　ISBN:

世界遺産・知床がわかる本
著者:　中側　元
出版社: 岩波書店
出版年: 2006年　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題 （ 70 ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**エコロジー研究 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　小森　治夫	

テーマ

環境と開発の総合的研究

授業の到達目標

日本における山と森林・河川・海の開発事例について、自然環境と開発の関係を学ぶ

授業の概要

毎回配付する資料にもとづき、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

準備学習（予習・復習）

講義資料を講義日の夜、つまり寝るまでに1回、次回の講義までにもう1回、合計2回以上読んで、復習をする。それぞれ1時間程度。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　日本の自然保護（1）尾瀬
第3回　日本の自然保護（2）富士山
第4回　山と森林の自然保護（1）白神山地
第5回　山と森林の自然保護（2）国有林の危機
第6回　山と森林の自然保護（3）林業政策の大転換
第7回　川の自然保護（1）川の文化
第8回　川の自然保護（2）四万十川
第9回　川の自然保護（3）四万十川、琵琶湖
第10回　海の自然保護・諫早湾干拓
第11回　日本の世界遺産（1）屋久島
第12回　日本の世界遺産（2）知床
第13回　日本のエコツーリズム（沖縄）
第14回　世界のエコツーリズム（コスタリカ、ガラパゴス諸島）
第15回　レイチェル・カーソン

履修上の注意点

私語厳禁・授業集中のための座席指定制、スマホ・ケータイ厳禁、居眠り・内職厳禁、出席は3分の2以上、遅刻・無断早退は厳禁向上心を持って授業に集中する、必ずメモをとる

教科書

参考書

日本の自然保護
著者：　石川徹也
出版社：平凡社
出版年：2001年　　ISBN：

シカと日本の森林
著者：　依光良三編
出版社：築地書館
出版年：2011年　　ISBN：

富士山を汚すのは誰か
著者：　野口　健
出版社：角川書店
出版年：2008年　　ISBN：

富士山の光と影
著者:　渡辺豊博
出版社: 清流出版
出版年: 2014年　ISBN:

森は海の恋人
著者:　畠山重篤
出版社: 北斗出版
出版年: 1994年　ISBN:

四万十川・歩いて下る
著者:　多田　実
出版社: 築地書館
出版年: 1995年　ISBN:

諫早の叫び
著者:　永尾俊彦
出版社: 岩波書店
出版年: 1995年　ISBN:

沈黙の春
著者:　レイチェル・カーソン
出版社: 新潮社
出版年: 1974年　ISBN:

プロジェクトX第6巻
著者:　NHKプロジェクトX制作班編
出版社: NHK出版
出版年: 2001年　ISBN:

世界遺産・知床がわかる本
著者:　中川　元
出版社: 岩波書店
出版年: 2006年　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題 （ 70 ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**自然の探求 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　岡野 淳一	

テーマ

現在の生物の多様さは数十億年の月日をかけて形成されてきたが、近年、人間活動による生物多様性の急激な減少が危惧されている。本講義では、生態学の基礎を学びながら、生物多様性とはなにかを理解する。またその応用として、生態系の保全についても考えていく。

授業の到達目標

生態学の基礎を習得し、生物多様性の意味を理解する。また、その理解を通じて生態系の保全について自分なりの考えを持つ。

授業の概要

生物多様性の構成要素である、遺伝子の多様性、種の多様性、生態系の多様性について生態学的視点から解説していく。

準備学習（予習・復習）

基本的には予習なく授業内で理解できるよう講義するため、授業後の復習をしっかりと行うこと。また、新聞などのメディアで野生生物に関するニュースがあれば、授業内容と照らし合わせ自分なりに考えてみることが望まれる。

内　容

第1回　授業ガイダンス～生態系とは何か
第2回　生態系の恩恵
第3回　生態系を調べる・「種」とは何か？
第4回　種多様性1
第5回　種多様性2
第6回　種多様性3
第7回　種多様性4
第8回　生態系の多様性1
第9回　生態系の多様性2
第10回　外来種1
第11回　外来種2
第12回　外来種3
第13回　遺伝的多様性1
第14回　遺伝的多様性2
第15回　テスト

履修上の注意点

疑問などがあればその都度、遠慮なく質問してください。授業の出欠も成績評価の重要な項目となるため、毎回出欠を取る予定です。

教科書

参考書

生物多様性と生態学
著者:　宮下直・井鷺裕司・千葉聡
出版社:　朝倉書店
出版年:　2012　　ISBN:　4254171501

生物多様性のしくみを解く
著者:　宮下 直
出版社:　工作舎
出版年:　2014　　ISBN:　4875024568

成績評価

試験　（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**自然の探求 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　岡野　淳一	

テーマ

現在の生物の多様さは数十億年の月日をかけて形成されてきたが、近年、人間活動による生物多様性の急激な減少が危惧されている。本講義では、生態学の基礎を学びながら、生物多様性とはなにかを理解する。またその応用として、生態系の保全についても考えていく。

授業の到達目標

生態学の基礎を習得し、生物多様性の意味を理解する。また、その理解を通じて生態系の保全について自分なりの考えを持つ。

授業の概要

生物多様性の構成要素である、遺伝子の多様性、種の多様性、生態系の多様性について生態学的視点から解説していく。

準備学習（予習・復習）

基本的には予習なく授業内で理解できるよう講義するため、授業後の復習をしっかりと行うこと。また、新聞などのメディアで野生生物に関するニュースがあれば、授業内容と照らし合わせ自分なりに考えてみることが望まれる。

内　　容

第1回　授業ガイダンス～生態系とは何か
第2回　生態系の恩恵
第3回　生態系を調べる・「種」とは何か？
第4回　種多様性1
第5回　種多様性2
第6回　種多様性3
第7回　種多様性4
第8回　生態系の多様性1
第9回　生態系の多様性2
第10回　外来種1
第11回　外来種2
第12回　外来種3
第13回　遺伝的多様性1
第14回　遺伝的多様性2
第15回　テスト

履修上の注意点

疑問などがあればその都度、遠慮なく質問してください。授業の出欠も成績評価の重要な項目となるため、毎回出欠を取る予定です。

教科書

参考書

生物多様性と生態学
著者:　宮下直・井鷺裕司・千葉聡
出版社:　朝倉書店
出版年:　2012　　ISBN:　4254171501

生物多様性のしくみを解く
著者:　宮下 直
出版社:　工作舎
出版年:　2014　　ISBN:　4875024568

成績評価

試験　（ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**地理学概論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　中西　和子	

テーマ

地理学の成立を学び、世界・日本の諸地域について理解を深める。あわせて、地理教育に関する諸問題について考える。

授業の到達目標

「地理学」は他の研究分野とどのように異なり、どのように類似するのか考え,「地理学的発想」および「地理学的手法」を取得する。さらに上記を踏まえたうえで、現代社会に必要な地理知識について検証する力を養う。

授業の概要

教科書は指定せず、配布プリントにて行うものとする。パワーポイントも使用するが、一部、全体でのディスカッション含む。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　イントロダクション：いままでの地理で習ったこと、覚えていますか？—“ジャングル大帝レオ”って 、正しいですか？
第2回　地理学と地図1　人は何故、地図を描くのかー“文字”が先か“地図”が先か？
第3回　地理学と地図2　日本で最初の地図とそれから—何を何に描いたのか？
第4回　地理学と地図3　地理学の必殺技！“地図化する”ということ
第5回　地理学の成立と展開1　王子様の必須科目！—ヘカタイオスからアレクサンダーの東方遠征
第6回　地理学の成立と展開2　教養人の必須科目へ—エデンの園と新世界発見
第7回　地理学の成立と展開3　近代地理学の成立—「環境決定論」と「環境可能論」の仁義なき戦い
第8回　日本における地理学の成立
第9回　新しい（？）「環境決定論」—『銃・病原菌・鉄』
第10回　アジア諸地域と人びとのくらし　ギョーザは主食？それともおかず？
第11回　ヨーロッパ諸地域と人びとのくらし　ショコラティエは、夏、何やってるの？
第12回　現代の日本の諸地域と人びとのくらし1　日本の農業の不思議について
第13回　現代の日本の諸地域と人びとのくらし2　大都市の“電力”の不思議について
第14回　かつての街道と現代の高速道路—地理条件と社会条件、勝つのはどっち？
第15回　「地理教育」の問題点—どうして“地理嫌い”が多いの？

履修上の注意点

授業中に紹介する本を読み、事前に次回テーマに関して下調べをしておくこと。

教科書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

現代地理学入門　身近な地域から世界まで
著者：　高橋伸夫他編
出版社：　古今書院
出版年：　2005　　ISBN：

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 10 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）
授業中の質疑応答に積極的に答えて下さい。また、試験に関しては、従来説など既往の研究をまとめるだけではなく、自分の意見を明確にして論じて下さい。

2016 Syllabus

科 目 名　**生活の中の数学**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　小寺　隆幸	

テーマ

実生活の様々な問題を数学的にとらえるとより深く理解できることを知り、数学への興味・関心を高め、市民としての数学的リテラシーを育む。

授業の到達目標

実生活の様々な問題には数量・図形・変化などが関わっている。この授業では、具体的な場面を取り上げ、数学的に物事を見ることでより適切な判断が出来ることを理解していく。それぞれの数学の内容を掘り下げ習熟することが目的ではなく、数理的に見るとはどういうことかを理解し、数学に対する関心を深め、将来必要になった時に数学を自分で学ぼうとする姿勢を育てることが目的である。

授業の概要

算数から微積分まで、小中高の数学の内容を生活との関わりという視点で見直す。さらにカオスなどの新たな数学にもふれる。今まで数学が苦手な人もわかるようにすすめる。

準備学習（予習・復習）

授業で関連した本を紹介する。興味がある人は読んで深めよう。

内　容

第1回　携帯料金　どれがお得？　一次関数から線型計画法へ
第2回　スキー場の数学　斜面の運動から二次関数へ
第3回　落下運動　微分・積分の考え
第4回　ドライバーの数学　制動距離は二次関数
第5回　オウムガイとアワビの数学　相似・指数関数
第6回　サラ金から身を守るために　指数関数
第7回　ローンの返済　半対数グラフの活用
第8回　放射能に向き合って生きる　対数
第9回　リスク　確率・期待値
第10回　統計の利用と嘘　代表値・推測統計
第11回　確率の実験
第12回　成長を考える　指数関数
第13回　成長を考える　ロジスティック関数
第14回　新しい数学　カオス
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

数学で考える環境問題
著者:　小寺隆幸
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**物理学基礎**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　後期　　定　　員　200

履修条件　　クラス指定

担 当 者　富岡 康

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として物理学の基礎について学ぶ。

授業の到達目標

高等学校で学習した物理の内容を再確認するとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。物理学が日常生活や社会とどのように関連しているかを知り、科学技術への関心を高め、市民として必要な科学的な知識・能力・態度を身につける。

授業の概要

運動とエネルギー、電気、波について、原理・法則を学び、日常的な現象や先端科学技術との関連を考える。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　物体の運動
第2回　力のつりあい（1）
第3回　力のつりあい（2）
第4回　運動の法則（1）
第5回　運動の法則（2）
第6回　仕事とエネルギー（1）
第7回　仕事とエネルギー（2）
第8回　仕事とエネルギー（3）－力のモーメント
第9回　温度と熱
第10回　仕事と熱エネルギー
第11回　電気（1）
第12回　電気（2）
第13回　波動
第14回　音波
第15回　光波

履修上の注意点

教科書

Primary　大学テキスト　これだけはおさえたい物理
著者：　金原粲
出版社：実教出版
出版年：2009年　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0% ）　　小テスト（ 40% ）
授業中課題（ 20% ）　　授業中発表等（ 0% ）
参加度　（ 40% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**化学基礎 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　富岡　康	

テーマ

私たちの日常生活において利用されている様々な物質（マクロ）の変化を微視的（ミクロ）な目で見ていく。

授業の到達目標

私たちは化学変化を利用して生活している。その変化は決して偶発的なものでなく必然性があり、その必然性を知ることで、化学変化を利用することができる。文明をこのように進化させてきた化学を深く学ぶことにより、化学に興味を持つとともに、今後化学を活かして様々な可能性にチャレンジできることを目的とする。

授業の概要

化学の基礎概念を教材に沿い丁寧に解説するとともに、日常生活への化学の利用を具体例をあげ解説する。

準備学習（予習・復習）

必ず、前回の復習をすること。予習はしなくて良い。

内　容

第1回　なぜ化学を学ぶか。物質は何からできているか。
第2回　物質の最小単位について・・・原子・イオン・分子
第3回　原子とイオン
第4回　分子の形はどうして決まるか・・・電子軌道
第5回　異性体と立体構造
第6回　物質の三態・・・固体・液体・気体
第7回　溶液について（1）
第8回　溶液について（2）
第9回　化学変化はなぜ起こるか
第10回　触媒・化学平衡
第11回　酸と塩基（1）
第12回　酸と塩基（2）
第13回　酸化と還元
第14回　日常の中の化学（1）
第15回　日常の中の化学（2）

履修上の注意点

教科書

新化学「もの」を見る目
著者:　大野惇吉　安井伸郎他
出版社:　三共出版
出版年:　2015年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0% ）　　小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）　　授業中発表等 （ 0% ）
参加度　（ 40% ）

Syllabus

科 目 名　**化学基礎 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**生物学基礎**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　富岡　康	

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として生物学の基礎について学ぶ。

授業の到達目標

高等学校における生物の内容を再確認するとともに専門科目を学ぶために必要な生物学の基礎知識を身につけることを目標とする。

授業の概要

生物学の中でも主にヒトに焦点を当てた生命化学について概説する。生命現象の科学的な解析、解明が急速に進展する現代において、できるだけ最新のトピックスをまじえて解説する。

準備学習（予習・復習）

毎回の授業テーマについて教科書または事前に配布するレジメを予習しておくこと。

内　　容

第1回　細胞生物学（1）　細胞の構造と役割
第2回　細胞生物学（2）　細胞を構成する物質ー1
第3回　細胞生物学（3）　細胞を構成する物質ー2
第4回　細胞生物学（4）　エネルギー、酵素、代謝
第5回　細胞生物学（5）　エネルギー獲得
第6回　遺伝（1）メンデル遺伝学とその後
第7回　遺伝（2）DNAと遺伝におけるその役割
第8回　遺伝（3）DNAからタンパク合成まで
第9回　発生と老化（1）
第10回　発生と老化（2）
第11回　脳の構造と機能
第12回　がん
第13回　食と健康（1）
第14回　食と健康（2）
第15回　感染と免疫

履修上の注意点

教科書

やさしい基礎生物学 第2版
著者:　南雲　保　編
出版社:　羊土社
出版年:　2014年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0% ）	小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ 20% ）	授業中発表等 （ 0% ）
参加度　（ 40% ）	

Syllabus

科 目 名	教育方法の研究 <Z>		
クラス		配当回生	学部2回生
講義期間	その他	定　　員	200
履修条件	教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定	
担 当 者	（休講）		
テーマ			
授業の到達目標			
授業の概要			
準備学習（予習・復習）			
内　　容			
履修上の注意点			
教科書			
参考書			

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**同和教育 <Z>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発講座Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　山脇　康彦	

テーマ

夢・目標に向かってキャリア・デザインを考えるきっかけとする

授業の到達目標

世の中にどんなビジネスがあるのか、また、これからの企業経営に求められる人材について理解する。加えて、話題の現代用語などについても理解を深める。

授業の概要

講義を中心に、適宜、演習などを交えて進める

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　キャリア開発とは（自分を知る、社会を知る）
第3回　大学生活とキャリア形成
第4回　衣料品やペットボトル飲料を私たちが手にするまでのしくみ
第5回　インターネット社会を知る
第6回　様々なビジネスモデル（アマゾン、LINEのスタンプビジネスなど）
第7回　＜演習＞机上インターンシップ体験（営業企画体験）
第8回　企業経営と求められる人材像
第9回　社会人基礎力を磨く（マナー、言葉遣い、文章力など）
第10回　コミュニケーションとは
第11回　＜演習＞コミュニケーション基礎力を磨く
第12回　その他のビジネス(NPO、企業など)
第13回　今、注目のソーシャルビジネス、コミュニティビジネスなど
第14回　私のキャリアデザイン
第15回　まとめ（総括）

履修上の注意点

①日ごろから日本経済新聞や業界地図などに目をとおしておく②日常の買い物で感動したこと、ガッカリしたことをメモしておく

教科書

使用しません
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本の優良企業パーフェクトガイドブック2017年度版
著者:　日経HR
出版社:　日本経済新聞出版社
出版年:　　ISBN:　9784532692018

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 60 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発講座Ⅰ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　山脇 康彦	

テーマ

夢・目標に向かってキャリア・デザインを考えるきっかけとする

授業の到達目標

世の中にどんなビジネスがあるのか、また、これからの企業経営に求められる人材について理解する。加えて、話題の現代用語などについても理解を深める。

授業の概要

講義を中心に、適宜、演習などを交えて進める

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　キャリア開発とは（自分を知る、社会を知る）
第3回　大学生活とキャリア形成
第4回　衣料品やペットボトル飲料を私たちが手にするまでのしくみ
第5回　インターネット社会を知る
第6回　様々なビジネスモデル（アマゾン、LINEのスタンプビジネスなど）
第7回　＜演習＞机上インターンシップ体験（営業企画体験）
第8回　企業経営と求められる人材像
第9回　社会人基礎力を磨く（マナー、言葉遣い、文章力など）
第10回　コミュニケーションとは
第11回　＜演習＞コミュニケーション基礎力を磨く
第12回　その他のビジネス(NPO、企業など)
第13回　今、注目のソーシャルビジネス、コミュニティビジネスなど
第14回　私のキャリアデザイン
第15回　まとめ（総括）

履修上の注意点

①日ごろから日本経済新聞や業界地図などに目をとおしておく②日常の買い物で感動したこと、ガッカリしたことをメモしておく

教科書

使用しません
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

日本の優良企業パーフェクトガイドブック2017年度版
著者:　日経HR
出版社:　日本経済新聞出版社
出版年:　　ISBN:　9784532692018

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 60 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 40 ）	

Syllabus

科 目 名	キャリア開発講座Ⅱ〈a〉		
クラス		配当回生	学部1回生
講義期間	その他	定　　員	50
履修条件	キャリア開発講座Ⅲ〈2a〉 とセットで履修すること	クラス指定	
担 当 者	（休講）		
テーマ			
授業の到達目標			
授業の概要			
準備学習（予習・復習）			
内　　容			
履修上の注意点			
教科書			
参考書			

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名	キャリア開発講座Ⅱ〈b〉		
クラス		配当回生	学部1回生
講義期間	その他	定　　員	50
履修条件	キャリア開発講座Ⅲ〈2a〉 とセットで履修すること	クラス指定	
担 当 者	（休講）		
テーマ			
授業の到達目標			
授業の概要			
準備学習（予習・復習）			
内　　容			
履修上の注意点			
教科書			
参考書			

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名	キャリア開発講座Ⅱ〈c〉		
クラス		配当回生	学部1回生
講義期間	その他	定　　員	50
履修条件	キャリア開発講座Ⅲ〈2a〉 とセットで履修すること	クラス指定	
担 当 者	（休講）		
テーマ			
授業の到達目標			
授業の概要			
準備学習（予習・復習）			
内　　容			
履修上の注意点			
教科書			
参考書			
成績評価			

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名	キャリア開発講座Ⅱ〈d〉		
クラス		配当回生	学部1回生
講義期間	その他	定　　員	50
履修条件	キャリア開発講座Ⅲ〈2a〉 とセットで履修すること	クラス指定	
担 当 者	（休講）		
テーマ			
授業の到達目標			
授業の概要			
準備学習（予習・復習）			
内　　容			
履修上の注意点			
教科書			
参考書			
成績評価			

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　小暮　宣雄	

テーマ

地域政策ー地方公務員

授業の到達目標

1.地域政策を担う地方公共団体の仕組みと現状を理解する。2.地方公務員が担う地方行政の特質と機能を、自らが働くことを想定しつつ、具体的に知る。3.地方公務員になるための公務員試験の特色を知り、チャレンジするための心構えとスケジュールづくりを行う。

授業の概要

公務員試験を受験することを前提として、受験しようと考える地方自治体を選んで、自発的に研究を行う。個人の地道な積み上げが基本だが、刺激を与えるためグループ化が進むような学修方法も検討する予定。

準備学習（予習・復習）

公務員試験のための授業外学習が不可欠なので、生協などの情報を事前に調べ、そのセミナーなどを活用すること。

内　容

第1回　オリエンテーション、自己紹介　教科書を前半は使うので事前に用意すること　憲法、民法、行政法、政治学概論Ⅰ Ⅱ、行政学、経済学などの受講（予定）科目を聞き、各人の学習スタンスを確認する
第2回　地域政策の概要　志望動機にどう関わるか
第3回　地方行政とは何か　志望動機に関係して考える
第4回　地方自治制度の理解　地方財政や公務員制度の特質などまず何か一つに詳しくなるようにする
第5回　地方公務員のイメージと実際の働くすがた（1）　世間的印象と実体との乖離の理由を考える
第6回　地方公務員のイメージと実際の働くすがた（2）　地方公務員というキャリアと民間企業キャリアとの関係
第7回　地方公務員試験の研究（1）
第8回　地方公務員試験の研究（2）
第9回　地方自治の原点を知る（映像などを活用する）
第10回　国の省庁の役割と課題を知る（参考資料による）
第11回　地方公務員に必要な法学的知識
第12回　地方公務員に必要な政治学的・行政学的知識
第13回　会計検査院、国税庁、労働基準監督署などを例に公務員のイメージを具体化する（1）
第14回　会計検査院、国税庁、労働基準監督署などを例に公務員のイメージを具体化する（2）
第15回　まとめ―これからの公務員試験勉強のスケジュールづくり―

履修上の注意点

マイ自治体というテーマでレポートを作成してもらう予定なので、地元の自治体のニュースをスクラップしたり、現地訪問するようにすること。

教科書

公務員試験 現職人事が書いた「公務員になりたい人へ」の本 2017年度
著者：　大賀 英徳
出版社：実務教育出版
出版年：2015　　ISBN：　9784788975590

参考書

コミュニティ・スタディーズ－災害と復興、無縁化、ポスト成長の中で、新たな共生社会を展望する
著者：　吉原直樹
出版社：作品社
出版年：2011　　ISBN：

コミュニティ再生のための地域自治のしくみと実践
著者：　中川幾郎編著
出版社：学芸出版社
出版年：2011　　ISBN：

ask101d350

コミュニティデザインー人がつながるしくみをつくる
著者:　山崎亮
出版社:　学芸出版社
出版年:　2011　ISBN:

地域主権時代の新しい公共: 希望を拓くNPOと自治・協働改革
著者:　今瀬政司
出版社:　学芸出版社
出版年:　2011　ISBN:

地方自治ことばの基礎知識 キーワードを通して地域主権を考える
著者:　兼子仁
出版社:　ぎょうせい
出版年:　2010　ISBN:

教育の職業的意義ー若者、学校、社会をつなぐ
著者:　本田由紀
出版社:　筑摩書房
出版年:　2009　ISBN:

大学センターのぶっちゃけ話ー知的現場主義の就職活動ー
著者:　沢田健太
出版社:　ソフトバンククリエイティブ
出版年:　2011　ISBN:

大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法
著者:　松本茂他
出版社:　玉川大学出版部
出版年:　2007　ISBN:

公務員試験のカラクリ
著者:　大原瞠
出版社:　光文社
出版年:　2011　ISBN:

肚が据わった公務員になる！
著者:　中野雅至
出版社:　朝日新聞出版
出版年:　2014　ISBN:　9784022735584

成績評価

試験　（ 0 ）　小テスト（ 40 ）
授業中課題　（ 40 ）　授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 20 ）
数回ミニテスト（問題を事前に提示する）を行うので、欠席がちな学生は友達にテストがあることを教えてもらうようにすること。

Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　その他	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験（ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ〈2a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　秋期集中	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　濱田 剛	

テーマ

非言語分野に特化し、就職筆記試験に対応し得る知識の習得と実践力を、短期集中で養う。

授業の到達目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。とりわけ非言語分野は、筆記試験において点差が開く分野であり、本分野の克服無くして筆記試験の突破は困難である。非言語分野に特化、集中して学ぶことにより、一気に本番の筆記試験に対応し得る能力を養成することを目的とする。

授業の概要

就職筆記試験における非言語分野を、基礎から応用発展まで単元ごとに演習中心に学習。後半5コマは本番レベルの問題を、模試、解答解説を繰り返し実施する。

準備学習（予習・復習）

授業で出した課題の提出

内　容

第1回　ガイダンス・プレテスト
第2回　基礎数学　四則混合計算から総復習
第3回　非言語分野①　速度算の基礎、速度算、旅人算、通過算、時刻表
第4回　非言語分野②　損益算、料金の割引、分割払い、代金の精算
第5回　非言語分野③　仕事算、年齢算、濃度算
第6回　非言語分野④　場合の数、確率
第7回　非言語分野⑤　集合、ブラックボックス
第8回　非言語分野⑥　資料の整理、長文読み取り
第9回　非言語分野⑦　推論
第10回　非言語分野⑧　領域、物の流れと比率
第11回　非言語分野⑨　徹底答練Ⅰ
第12回　非言語分野⑩　徹底答練Ⅱ
第13回　非言語分野⑪　徹底答練Ⅲ
第14回　非言語分野⑫　徹底答練Ⅳ
第15回　非言語分野⑬　徹底答練Ⅴ

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト
著者:　株式会社イング
出版社:　株式会社イング
出版年:　2013年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（ 30 ）
授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅱ〈教職〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　小寺　隆幸	

テーマ

教職に就くにあたって求められる基本的な数学の力を育てる。

授業の到達目標

教員採用試験に出題される数学の問題が解けるように、数Ⅰや数Aの復習と問題演習を行う。

授業の概要

教員採用試験の過去問題を用い、前半は各自が解き、後半は説明する。

準備学習（予習・復習）

数Ⅰと数Aの内容は各自で復習し、わからない点は質問すること。

内　容

第1回　教員採用試験の問題のレベルと傾向
第2回　教員採用試験の過去問から①滋賀県
第3回　教員採用試験の過去問から②京都府
第4回　教員採用試験の過去問から③京都市
第5回　教員採用試験の過去問から④大阪府
第6回　教員採用試験の過去問から⑤福井県
第7回　教員採用試験の過去問から⑥愛知県
第8回　教員採用試験の過去問から⑦その他の県
第9回　教員採用試験の過去問から　数と式
第10回　教員採用試験の過去問から　関数
第11回　教員採用試験の過去問から　図形
第12回　教員採用試験の過去問から　確率
第13回　教員採用試験の過去問から　総合
第14回　教員採用試験の過去問から　算数科教育法
第15回　教員採用試験にむけて

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリアデザイン入門 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　香坂　千佳子	

テーマ

将来の目的・目標に応じた自己形成と社会人基礎力を身につけ、自らのキャリアを方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとし、また、大学で学ぶ意義、働くことの意義を理解し、学びによる成長を支援します。

授業の到達目標

キャリア形成していく上で、大学4年間はとても重要で貴重な時間です。1460日（1年間＝365日）を使い、「授業を基本とするさまざまな経験や活動、体験を通じて〝何を〟学び、どんなことに気づき、どのような知識を獲得するか」。これらのことが、今後のキャリア（人生）に大きな影響を与えることになるかを考え,働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の概要

(1)順序立てたスケジュールとなっているため、すべての授業に出席すること。(2)態度が悪い学生は退出してもらうこともあります。(3)積極的な発言、グループでの話し合いなどを通して探索・考察・発表することでより理解を深めて行きます。(4)スケジュールを変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

新聞（特に日経新聞）、雑誌などから情報収集したり、また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

内　容

第1回　オリエンテーション／キャリアとは
第2回　社会人基礎力を身につけることの意義
第3回　これからの学生生活を考える
第4回　私の価値観を考える①
第5回　私の価値観を考える②
第6回　人生の目的・目標①
第7回　人生の目的・目標②
第8回　人生の目的・目標③
第9回　これからの日本の将来と私達のキャリア
第10回　キャリアとグローバル社会を考える
第11回　ケーススタディ①
第12回　ゲストスピーカー
第13回　ケーススタディ②
第14回　ケーススタディ③
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0% ）　　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 60% ）　　授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 40% ）
出席を最重要視するが講義中に実施するレポート、宿題などの提出期限、内容（質）及び、講義内で行われる実習などの積極的参加度合などを含めて評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリアデザイン入門 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　堀越　昭夫	

テーマ

就職活動に必要な自己形成と社会人基礎力を身につけてもらいます。講義に参加して　自分で考え　人に伝える練習をします。

授業の到達目標

就職活動で企業に採用されるポイントを理解してもらいます。社会人としての世の中の仕組みを学んでもらいます

授業の概要

講義　グループ討議　発表の流れで理解を深めていきます。

準備学習（予習・復習）

時事問題に対する情報収集　ニュースに関心を持つこと

内　　容

第1回　スタートアップ講義の概要と評価方法
第2回　社会人の基礎力
第3回　私の価値観(キャリア)を考える①
第4回　私の価値観を考える②
第5回　人生の目的・自己表現
第6回　これからの日本の将来と私たちのキャリア
第7回　グローバル経済を考える
第8回　企業エントリー
第9回　ゲストスピーカー
第10回　ゲストスピーカー
第11回　ケーススタディ
第12回　ケーススタディ
第13回　ケーススタディ
第14回　ケーススタディ
第15回　まとめ

履修上の注意点

ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更があります遅刻・途中退出は減点対象です。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 50% ）　　授業中発表等（ 20% ）
参加度　（ 30% ）
毎回の講義での提出物・発表で評価テストはありません　出席が足りないと確実に不合格になります

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリアデザイン入門 <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　香坂　千佳子	

テーマ

将来の目的・目標に応じた自己形成と社会人基礎力を身につけ、自らのキャリアを方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとし、また、大学で学ぶ意義、働くことの意義を理解し、学びによる成長を支援します。

授業の到達目標

キャリア形成していく上で、大学4年間はとても重要で貴重な時間です。1460日（1年間＝365日）を使い、「授業を基本とするさまざまな経験や活動、体験を通じて〝何を〟学び、どんなことに気づき、どのような知識を獲得するか」。これらのことが、今後のキャリア（人生）に大きな影響を与えることになるかを考え,働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の概要

(1)順序立てたスケジュールとなっているため、すべての授業に出席すること。(2)態度が悪い学生は退出してもらうこともあります。(3)積極的な発言、グループでの話し合いなどを通して探索・考察・発表することでより理解を深めて行きます。(4)スケジュールを変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

新聞（特に日経新聞）、雑誌などから情報収集したり、また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

内　容

第1回　オリエンテーション／キャリアとは
第2回　社会人基礎力を身につけることの意義
第3回　これからの学生生活を考える
第4回　私の価値観を考える①
第5回　私の価値観を考える②
第6回　人生の目的・目標①
第7回　人生の目的・目標②
第8回　人生の目的・目標③
第9回　これからの日本の将来と私達のキャリア
第10回　キャリアとグローバル社会を考える
第11回　ケーススタディ①
第12回　ゲストスピーカー
第13回　ケーススタディ②
第14回　ケーススタディ③
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0% ）　　小テスト （ 0% ）

授業中課題 （ 60% ）　　授業中発表等 （ 0% ）

参加度 （ 40% ）

出席を最重要視するが講義中に実施するレポート、宿題などの提出期限、内容（質）及び、講義内で行われる実習などの積極的参加度合などを含めて評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリアデザイン入門 <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　堀越　昭夫	

テーマ

就職活動に必要な自己形成と社会人基礎力を身につけてもらいます。講義に参加して　自分で考え　人に伝える練習をします。

授業の到達目標

就職活動で企業に採用されるポイントを理解してもらいます。社会人としての世の中の仕組みを学んでもらいます

授業の概要

講義　グループ討議　発表の流れで理解を深めていきます。

準備学習（予習・復習）

時事問題に対する情報収集　ニュースに関心を持つこと

内　　容

第1回　スタートアップ講義の概要と評価方法
第2回　社会人の基礎力
第3回　私の価値観(キャリア)を考える①
第4回　私の価値観を考える②
第5回　人生の目的・自己表現
第6回　これからの日本の将来と私たちのキャリア
第7回　グローバル経済を考える
第8回　企業エントリー
第9回　ゲストスピーカー
第10回　ゲストスピーカー
第11回　ケーススタディ
第12回　ケーススタディ
第13回　ケーススタディ
第14回　ケーススタディ
第15回　まとめ

履修上の注意点

ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更があります遅刻・途中退出は減点対象です。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 30 ）
毎回の講義での提出物・発表で評価テストはありません　出席が足りないと確実に不合格になります

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリアデザイン入門 <G>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　香坂　千佳子	

テーマ

将来の目的・目標に応じた自己形成と社会人基礎力を身につけ、自らのキャリアを方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとし、また、大学で学ぶ意義、働くことの意義を理解し、学びによる成長を支援します。

授業の到達目標

キャリア形成していく上で、大学4年間はとても重要で貴重な時間です。1460日（1年間＝365日）を使い、「授業を基本とするさまざまな経験や活動、体験を通じて〝何を〟学び、どんなことに気づき、どのような知識を獲得するか」。これらのことが、今後のキャリア（人生）に大きな影響を与えることになるかを考え,働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の概要

(1)順序立てたスケジュールとなっているため、すべての授業に出席すること。(2)態度が悪い学生は退出してもらうこともあります。(3)積極的な発言、グループでの話し合いなどを通して探索・考察・発表することでより理解を深めて行きます。(4)スケジュールを変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

新聞（特に日経新聞）、雑誌などから情報収集したり、また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

内　容

第1回　オリエンテーション／キャリアとは
第2回　社会人基礎力を身につけることの意義
第3回　これからの学生生活を考える
第4回　私の価値観を考える①
第5回　私の価値観を考える②
第6回　人生の目的・目標①
第7回　人生の目的・目標②
第8回　人生の目的・目標③
第9回　これからの日本の将来と私達のキャリア
第10回　キャリアとグローバル社会を考える
第11回　ケーススタディ①
第12回　ゲストスピーカー
第13回　ケーススタディ②
第14回　ケーススタディ③
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0% ）　　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 60% ）　　授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 40% ）
出席を最重要視するが講義中に実施するレポート、宿題などの提出期限、内容（質）及び、講義内で行われる実習などの積極的参加度合などを含めて評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリアデザイン入門 <f>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　　堀越　昭夫	

テーマ

就職活動に必要な自己形成と社会人基礎力を身につけてもらいます。講義に参加して　自分で考え　人に伝える練習をします。

授業の到達目標

就職活動で企業に採用されるポイントを理解してもらいます。社会人としての世の中の仕組みを学んでもらいます

授業の概要

講義　グループ討議　発表の流れで理解を深めていきます。

準備学習（予習・復習）

講義　グループ討議　発表の流れで理解を深めていきます。時事問題に対する情報収集　ニュースに関心を持つこと

内　　容

第1回　スタートアップ講義の概要と評価方法
第2回　社会人の基礎力
第3回　私の価値観(キャリア)を考える①
第4回　私の価値観を考える②
第5回　人生の目的・自己表現
第6回　これからの日本の将来と私たちのキャリア
第7回　グローバル経済を考える
第8回　企業エントリー
第9回　ゲストスピーカー
第10回　ゲストスピーカー
第11回　ケーススタディ
第12回　ケーススタディ
第13回　ケーススタディ
第14回　ケーススタディ
第15回　まとめ

履修上の注意点

ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更があります遅刻・途中退出は減点対象です。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 30 ）
毎回の講義での提出物・発表で評価テストはありません　出席が足りないと確実に不合格になります

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発講座Ⅲ〈a〉**

クラス		配当回生	学部2回生
講義期間	前期	定　　員	200
履修条件	キャリア開発講座Ⅳとセットで履修すること	クラス指定	
担 当 者	濱田　剛		

テーマ

大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる一般社会常識を学ぶ。

授業の到達目標

・コミュニケーション能力の前提となる一般社会常識を学び、就職筆記試験対策だけでなく社会に順応できる力の養成を目指す。・就職活動でよく実施される筆記試験の基礎内容を丁寧な解説で習得することを目指す。

授業の概要

授業計画に沿って、すでに学んできた一般常識問題を各単元ごとに再確認していく。ファイナルテスト60点以下の対象者については、補講授業の受講が必須になります。

準備学習（予習・復習）

授業で出した課題の提出

内　　容

第1回　ガイダンス・プレテスト
第2回　基礎国語①　国語力の基礎演習　Ⅰ
第3回　基礎国語②　国語力の基礎演習　Ⅱ
第4回　基礎国語③　文章力育成　Ⅰ
第5回　基礎国語④　文章力育成　Ⅱ
第6回　基礎国語⑤　文章力育成　Ⅲ
第7回　基礎数学①　四則混合計算からの総復習
第8回　基礎数学②　単位変換、速さの計算等の総復習
第9回　基礎数学③　速さに関する問題Ⅰ
第10回　基礎数学④　速さに関する問題Ⅱ
第11回　基礎数学⑤　金銭に関する問題Ⅰ
第12回　基礎数学⑥　金銭に関する問題Ⅱ
第13回　基礎数学⑦　場合の数・確率
第14回　基礎数学⑧　資料の整理・集合
第15回　基礎数学⑨　推論・ファイナルテスト

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト
著者：　株式会社イング
出版社：株式会社イング
出版年：2016年　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）
授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発講座Ⅲ <b>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件　キャリア開発講座Ⅳとセットで履修すること	クラス指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる一般社会常識を学ぶ。

授業の到達目標

・コミュニケーション能力の前提となる一般社会常識を学び、就職筆記試験対策だけでなく社会に順応できる力の養成を目指す。
・就職活動でよく実施される筆記試験の基礎内容を丁寧な解説で習得することを目指す。

授業の概要

授業計画に沿って、すでに学んできた一般常識問題を各単元ごとに再確認していく。ファイナルテスト60点以下の対象者については、補講授業の受講が必須になります。

準備学習（予習・復習）

授業で出した課題の提出

内　　容

第1回　ガイダンス・プレテスト
第2回　基礎国語①　国語力の基礎演習　Ⅰ
第3回　基礎国語②　国語力の基礎演習　Ⅱ
第4回　基礎国語③　文章力育成　Ⅰ
第5回　基礎国語④　文章力育成　Ⅱ
第6回　基礎国語⑤　文章力育成　Ⅲ
第7回　基礎数学①　速さに関する問題Ⅰ
第8回　基礎数学②　速さに関する問題Ⅱ
第9回　基礎数学③　金銭に関する問題Ⅰ
第10回　基礎数学④　金銭に関する問題Ⅱ
第11回　基礎数学⑤　場合の数・確率
第12回　基礎数学⑥　資料の整理・集合
第13回　基礎数学⑦　推論
第14回　基礎数学⑧　総合演習Ⅰ
第15回　基礎数学⑨　推論・ファイナルテスト

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト
著者：　株式会社イング
出版社：株式会社イング
出版年：2016年　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）
授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発講座Ⅲ <c>**

クラス		配当回生	学部2回生
講義期間	前期	定　　員	200
履修条件	キャリア開発講座Ⅳとセットで履修すること	クラス指定	
担 当 者	濱田　剛		

テーマ

大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる一般社会常識を学ぶ。

授業の到達目標

・コミュニケーション能力の前提となる一般社会常識を学び、就職筆記試験対策だけでなく社会に順応できる力の養成を目指す。
・就職活動でよく実施される筆記試験の基礎内容を丁寧な解説で習得することを目指す。

授業の概要

授業計画に沿って、すでに学んできた一般常識問題を各単元ごとに再確認していく。ファイナルテスト60点以下の対象者については、補講授業の受講が必須になります。

準備学習（予習・復習）

授業で出した課題の提出

内　　容

第1回　ガイダンス・プレテスト
第2回　基礎国語①　国語力の基礎演習　Ⅰ
第3回　基礎国語②　国語力の基礎演習　Ⅱ
第4回　基礎国語③　文章力育成　Ⅰ
第5回　基礎国語④　文章力育成　Ⅱ
第6回　基礎国語⑤　文章力育成　Ⅲ
第7回　基礎数学①　四則混合計算からの総復習
第8回　基礎数学②　単位変換、速さの計算等の総復習
第9回　基礎数学③　速さに関する問題Ⅰ
第10回　基礎数学④　速さに関する問題Ⅱ
第11回　基礎数学⑤　金銭に関する問題Ⅰ
第12回　基礎数学⑥　金銭に関する問題Ⅱ
第13回　基礎数学⑦　場合の数・確率
第14回　基礎数学⑧　資料の整理・集合
第15回　基礎数学⑨　推論・ファイナルテスト

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト
著者:　株式会社イング
出版社:　株式会社イング
出版年:　2016年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）
授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発講座Ⅲ <d>**

クラス		配当回生	学部2回生
講義期間	前期	定　　員	200
履修条件	キャリア開発講座Ⅳとセットで履修すること	クラス指定	
担 当 者	峰　浩司.篭田　彰宏.吉田　斉		

テーマ

大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる一般社会常識を学ぶ

授業の到達目標

・コミュニケーション能力の前提となる一般社会常識を学び、就職筆記試験対策だけでなく社会に順応できる力の養成を目指す。
・就職活動でよく実施される筆記試験の基礎内容を丁寧な解説で習得することを目指す。

授業の概要

授業計画に沿って、すでに学んできた一般常識問題を各単元ごとに再確認していく。ファイナルテスト60点以下の対象者については、補講授業の受講が必須になります。

準備学習（予習・復習）

授業で出した課題の提出

内　　容

第1回　ガイダンス・プレテスト
第2回　基礎国語①　国語力の基礎演習　Ⅰ
第3回　基礎国語②　国語力の基礎演習　Ⅱ
第4回　基礎国語③　文章力育成　Ⅰ
第5回　基礎国語④　文章力育成　Ⅱ
第6回　基礎国語⑤　文章力育成　Ⅲ
第7回　基礎数学①　速さに関する問題Ⅰ
第8回　基礎数学②　速さに関する問題Ⅱ
第9回　基礎数学③　金銭に関する問題Ⅰ
第10回　基礎数学④　金銭に関する問題Ⅱ
第11回　基礎数学⑤　場合の数・確率
第12回　基礎数学⑥　資料の整理・集合
第13回　基礎数学⑦　推論
第14回　基礎数学⑧　総合演習Ⅰ
第15回　基礎数学⑨　推論・ファイナルテスト

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト
著者:　株式会社イング
出版社:　株式会社イング
出版年:　2016年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）
授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発講座Ⅳ <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　峰　浩司.mitei	

テーマ

多様化する就職筆記試験に対するポイント授業により就職基礎能力を養成する

授業の到達目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を筆頭に、多様化する筆記試験対策授業を実施。言語分野、非言語分野ともに、膨大な範囲の中から頻出単元を抽出し、わかりやすい講義を実施。基礎力から応用まで対応できる学力を養成する。

授業の概要

授業計画に沿って、言語・非言語分野の頻出する単元ごとの解法を学び、問題演習を実践していく。ファイナルテスト60点以下の対象者については、補講授業の受講が必須になります。

準備学習（予習・復習）

授業で出した課題の提出

内　　容

第1回　ガイダンス・プレテスト
第2回　SPI試験とは　／　言語分野①　同意語、反意語、四字熟語
第3回　就職と言語能力　／　言語分野②　ことわざ、慣用句、二語の関係
第4回　コミュニケーション能力　／　言語分野③　敬語、謙譲語、丁寧語、文法、語彙力、国語常識、教養問題
第5回　自己分析と能力の磨き方　／　言語分野④　文の並び替え、文章読解基礎
第6回　伝える力を育てる　／　言語分野⑤　文章読解応用
第7回　非言語分野①　計算・計数の総復習
第8回　非言語分野②　速度算の基礎、速度算、旅人算、通過算、時刻表
第9回　非言語分野③　損益算、料金の割引、分割払い、代金の精算
第10回　非言語分野④　仕事算、年齢算、濃度算
第11回　非言語分野⑤　場合の数、確率
第12回　非言語分野⑥　集合、ブラックボックス
第13回　非言語分野⑦　資料の整理、長文読み取り
第14回　非言語分野⑧　推論
第15回　非言語分野⑨　物の流れと比率・ファイナルテスト

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト
著者:　株式会社イング
出版社:　株式会社イング
出版年:　2016年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）
授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発講座Ⅳ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　濱田　剛	

テーマ

多様化する就職筆記試験に対するポイント授業により就職基礎能力を養成する

授業の到達目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を筆頭に、多様化する筆記試験対策授業を実施。言語分野、非言語分野ともに、膨大な範囲の中から頻出単元を抽出し、わかりやすい講義を実施。基礎力から応用まで対応できる学力を養成する。

授業の概要

授業計画に沿って、言語・非言語分野の頻出する単元ごとの解法を学び、問題演習を実践していく。ファイナルテスト60点以下の対象者については、補講授業の受講が必須になります。

準備学習（予習・復習）

授業で出した課題の提出

内　容

第1回　ガイダンス・プレテスト
第2回　SPI試験とは　／　言語分野①　同意語、反意語、四字熟語
第3回　就職と言語能力　／　言語分野②　ことわざ、慣用句、二語の関係
第4回　コミュニケーション能力　／　言語分野③　敬語、謙譲語、丁寧語、文法、語彙力、国語常識、教養問題
第5回　自己分析と能力の磨き方　／　言語分野④　文の並び替え、文章読解基礎
第6回　伝える力を育てる　／　言語分野⑤　文章読解応用
第7回　非言語分野①　計算・計数の総復習
第8回　非言語分野②　速度算の基礎、速度算、旅人算、通過算、時刻表
第9回　非言語分野③　損益算、料金の割引、分割払い、代金の精算
第10回　非言語分野④　仕事算、年齢算、濃度算
第11回　非言語分野⑤　場合の数、確率
第12回　非言語分野⑥　集合、ブラックボックス
第13回　非言語分野⑦　資料の整理、長文読み取り
第14回　非言語分野⑧　推論
第15回　非言語分野⑨　物の流れと比率・ファイナルテスト

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト
著者:　株式会社イング
出版社:　株式会社イング
出版年:　2016年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）
授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発講座Ⅳ <c>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員　200

履修条件　　クラス指定

担 当 者　濱田 剛

テーマ

多様化する就職筆記試験に対するポイント授業により就職基礎能力を養成する

授業の到達目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を筆頭に、多様化する筆記試験対策授業を実施。言語分野、非言語分野ともに、膨大な範囲の中から頻出単元を抽出し、わかりやすい講義を実施。基礎力から応用まで対応できる学力を養成する。

授業の概要

授業計画に沿って、言語・非言語分野の頻出する単元ごとの解法を学び、問題演習を実践していく。ファイナルテスト60点以下の対象者については、補講授業の受講が必須になります。

準備学習（予習・復習）

授業で出した課題の提出

内　容

第1回　ガイダンス・プレテスト
第2回　SPI試験とは　／　言語分野①　同意語、反意語、四字熟語
第3回　就職と言語能力　／　言語分野②　ことわざ、慣用句、二語の関係
第4回　コミュニケーション能力　／　言語分野③　敬語、謙譲語、丁寧語、文法、語彙力、国語常識、教養問題
第5回　自己分析と能力の磨き方　／　言語分野④　文の並び替え、文章読解基礎
第6回　伝える力を育てる　／　言語分野⑤　文章読解応用
第7回　非言語分野①　計算・計数の総復習
第8回　非非言語分野②　速度算の基礎、速度算、旅人算、通過算、時刻表
第9回　非言語分野③　損益算、料金の割引、分割払い、代金の精算
第10回　非言語分野④　仕事算、年齢算、濃度算
第11回　非言語分野⑤　場合の数、確率
第12回　非言語分野⑥　集合、ブラックボックス
第13回　非言語分野⑦　資料の整理、長文読み取り
第14回　非非言語分野⑧　推論
第15回　非言語分野⑨　物の流れと比率・ファイナルテスト

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト
著者:　株式会社イング
出版社:　株式会社イング
出版年:　2016年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発講座Ⅳ <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　峰　浩司.mitei	

テーマ

多様化する就職筆記試験に対するポイント授業により就職基礎能力を養成する

授業の到達目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を筆頭に、多様化する筆記試験対策授業を実施。言語分野、非言語分野ともに、膨大な範囲の中から頻出単元を抽出し、わかりやすい講義を実施。基礎力から応用まで対応できる学力を養成する。

授業の概要

授業計画に沿って、言語・非言語分野の頻出する単元ごとの解法を学び、問題演習を実践していく。ファイナルテスト60点以下の対象者については、補講授業の受講が必須になります。

準備学習（予習・復習）

授業で出した課題の提出

内　　容

第1回　ガイダンス・プレテスト
第2回　SPI試験とは　／　言語分野①　同意語、反意語、四字熟語
第3回　就職と言語能力　／　言語分野②　ことわざ、慣用句、二語の関係
第4回　コミュニケーション能力　／　言語分野③　敬語、謙譲語、丁寧語、文法、語彙力、国語常識、教養問題
第5回　自己分析と能力の磨き方　／　言語分野④　文の並び替え、文章読解基礎
第6回　伝える力を育てる　／　言語分野⑤　文章読解応用
第7回　非言語分野①　計算・計数の総復習
第8回　非言語分野②　速度算の基礎、速度算、旅人算、通過算、時刻表
第9回　非言語分野③　損益算、料金の割引、分割払い、代金の精算
第10回　非言語分野④　仕事算、年齢算、濃度算
第11回　非言語分野⑤　場合の数、確率
第12回　非言語分野⑥　集合、ブラックボックス
第13回　非言語分野⑦　資料の整理、長文読み取り
第14回　非言語分野⑧　推論
第15回　非言語分野⑨　物の流れと比率・ファイナルテスト

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト
著者:　株式会社イング
出版社:　株式会社イング
出版年:　2016年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）
授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　香坂　千佳子	

テーマ

企業や組織についての知識を広めることをテーマとします。

授業の到達目標

①企業組織についての知識を広めより深く理解する②働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の概要

企業で、実際に行われている仕事がどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解していきます。*スケジュールを変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

新聞（特に日経新聞）、雑誌などから情報収集すること。また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

内　容

第1回　オリエンテーション　講義の進め方
第2回　人生の目的・目標（振り返り）
第3回　日本の雇用の仕組みを考える
第4回　日本の産業を考える（業界・企業とは）①
第5回　日本の産業を考える（業界・企業とは）②
第6回　日本の産業を考える（業界・企業とは）③
第7回　三回生の向けての取り組み①
第8回　職種を考える
第9回　ゲストスピーカー①
第10回　ゲストスピーカー②
第11回　三回生に向けての取り組み②
第12回　三回生に向けての取り組み③
第13回　ケーススタディ
第14回　目標と時間管理
第15回　全体まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0% ）　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 60% ）　授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 40% ）
出席も重要視しますが、それに加えて宿題、講義内で実施するレポートの提出期限、内容（質）なども重要となります。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀越　昭夫	

テーマ

就職活動に必要な自己形成と社会人基礎力を身につけてもらいます。講義に参加して　自分で考え　人に伝える練習をします。

授業の到達目標

就職活動で企業に採用されるポイントを理解してもらいます。社会人としての世の中の仕組みを学んでもらいます

授業の概要

実際の企業の仕事を理解してもらう。インターシップについて理解してもらうことで企業が求める人材に成長してもらう。

準備学習（予習・復習）

時事問題に対する情報収集　ニュースに関心を持つこと

内　　容

第1回　スタートアップ講義の概要と評価方法
第2回　人生の目的・目標
第3回　雇用の仕組み　正社員　非正規社員
第4回　日本の産業を考える　製造業
第5回　日本の産業を考える　小売り・流通
第6回　日本の産業を考える　サービス　外食
第7回　タイムプラン
第8回　インターシップ
第9回　公務員試験と就活を両立
第10回　ゲストスピーカー
第11回　ゲストスピーカー
第12回　ケーススタディ
第13回　ケーススタディ
第14回　ケーススタディ
第15回　まとめ

履修上の注意点

ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更があります遅刻・途中退出は減点対象です

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 30 ）
毎回の講義での提出物・発表で評価テストはありません　出席が足りないと確実に不合格になります

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ <c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　香坂　千佳子	

テーマ

企業や組織についての知識を広めることをテーマとします。

授業の到達目標

①企業組織についての知識を広めより深く理解する②働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の概要

企業で、実際に行われている仕事がどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解していきます。*スケジュールを変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

新聞（特に日経新聞）、雑誌などから情報収集すること。また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

内　容

第1回　オリエンテーション　講義の進め方
第2回　人生の目的・目標（振り返り）
第3回　日本の雇用の仕組みを考える
第4回　日本の産業を考える（業界・企業とは）①
第5回　日本の産業を考える（業界・企業とは）②
第6回　日本の産業を考える（業界・企業とは）③
第7回　三回生の向けての取り組み①
第8回　職種を考える
第9回　ゲストスピーカー①
第10回　ゲストスピーカー②
第11回　三回生に向けての取り組み②
第12回　三回生に向けての取り組み③
第13回　ケーススタディ
第14回　目標と時間管理
第15回　全体まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0% ）　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 60% ）　授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 40% ）
出席も重要視しますが、それに加えて宿題、講義内で実施するレポートの提出期限、内容（質）なども重要となります。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ <d>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀越　昭夫	

テーマ

就職活動に必要な自己形成と社会人基礎力を身につけてもらいます。講義に参加して　自分で考え　人に伝える練習をします。

授業の到達目標

就職活動で企業に採用されるポイントを理解してもらいます。社会人としての世の中の仕組みを学んでもらいます

授業の概要

実際の企業の仕事を理解してもらう。インターシップについて理解してもらうことで企業が求める人材に成長してもらう

準備学習（予習・復習）

時事問題に対する情報収集　ニュースに関心を持つこと

内　　容

第1回　スタートアップ講義の概要と評価方法
第2回　人生の目的・目標
第3回　雇用の仕組み　正社員　非正規社員
第4回　日本の産業を考える　製造業
第5回　日本の産業を考える　小売り・流通
第6回　日本の産業を考える　サービス　外食
第7回　タイムプラン
第8回　インターシップ
第9回　公務員試験と就活を両立
第10回　ゲストスピーカー
第11回　ゲストスピーカー
第12回　ケーススタディ
第13回　ケーススタディ
第14回　ケーススタディ
第15回　まとめ

履修上の注意点

ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更があります遅刻・途中退出は減点対象です。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 30 ）
毎回の講義での提出物・発表で評価テストはありません　出席が足りないと確実に不合格になります

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ <G>**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員　200

履修条件　　クラス指定

担 当 者　香坂　千佳子

テーマ

企業や組織についての知識を広めることをテーマとします。

授業の到達目標

①企業組織についての知識を広めより深く理解する②働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の概要

企業で、実際に行われている仕事がどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解していきます。*スケジュールを変更することもあります。

準備学習（予習・復習）

新聞（特に日経新聞）、雑誌などから情報収集すること。また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

内　容

第1回　オリエンテーション　講義の進め方
第2回　人生の目的・目標（振り返り）
第3回　日本の雇用の仕組みを考える
第4回　日本の産業を考える（業界・企業とは）①
第5回　日本の産業を考える（業界・企業とは）②
第6回　日本の産業を考える（業界・企業とは）③
第7回　三回生の向けての取り組み①
第8回　職種を考える
第9回　ゲストスピーカー①
第10回　ゲストスピーカー②
第11回　三回生に向けての取り組み②
第12回　三回生に向けての取り組み③
第13回　ケーススタディ
第14回　目標と時間管理
第15回　全体まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0% ）　　小テスト （ 0% ）
授業中課題 （ 60% ）　　授業中発表等 （ 0% ）
参加度 （ 40% ）
出席も重要視しますが、それに加えて宿題、講義内で実施するレポートの提出期限、内容（質）なども重要となります。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅲ <f>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀越　昭夫	

テーマ

就職活動に必要な自己形成と社会人基礎力を身につけてもらいます。講義に参加して　自分で考え　人に伝える練習をします。

授業の到達目標

就職活動で企業に採用されるポイントを理解してもらいます。社会人としての世の中の仕組みを学んでもらいます

授業の概要

実際の企業の仕事を理解してもらう。インターシップについて理解してもらうことで企業が求める人材に成長してもらう。

準備学習（予習・復習）

時事問題に対する情報収集　ニュースに関心を持つこと

内　　容

第1回　スタートアップ講義の概要と評価方法
第2回　人生の目的・目標
第3回　雇用の仕組み　正社員　非正規社員
第4回　日本の産業を考える　製造業
第5回　日本の産業を考える　小売り・流通
第6回　日本の産業を考える　サービス　外食
第7回　タイムプラン
第8回　インターシップ
第9回　公務員試験と就活を両立
第10回　ゲストスピーカー
第11回　ゲストスピーカー
第12回　ケーススタディ
第13回　ケーススタディ
第14回　ケーススタディ
第15回　まとめ

履修上の注意点

ケーススタディ・ゲストスピーカーの日程は変更があります遅刻・途中退出は減点対象です。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 30 ）
毎回の講義での提出物・発表で評価テストはありません　出席が足りないと確実に不合格になります

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅳ <Ga>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　篭田　彰宏	

テーマ

就活実践力の養成に必要な社会人になるための素地を鍛え上げる。

授業の到達目標

グローバル人材に最低限求められる能力を、体現することから養成する。

授業の概要

プレゼンテーションの授業を通して、チーム・問題解決のプロセスを踏みながらコミュニケーション能力を育成する。

準備学習（予習・復習）

授業で出した課題の提出

内　　容

第1回　最後の学生生活～社会人になることの意義
第2回　先入観・固定概念・潜在意識からの脱却1
第3回　先入観・固定概念・潜在意識からの脱却2
第4回　新聞の読み方実践
第5回　協調性との共通点と相違点
第6回　聞き上手になるための極意
第7回　アイコンタクトの重要性
第8回　定義とルール～実践
第9回　ディスカッションの楽しさの体現
第10回　プレゼンテーションの基本～課題発表
第11回　課題研究～ディスカッション・グループワーク
第12回　プレゼンテーション大会in橘
第13回　戦略と戦術の違いを体現
第14回　チームワークで世界チャンプを倒す
第15回　総まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 60 ）	授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発演習Ⅳ <Gb>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　15
履修条件	クラス指定
担 当 者　野村　幸一郎	

テーマ

現在の日本人と日本文化を学ぶ

授業の到達目標

日本人の人生観や道徳観、宗教観を諸メディアを手がかりにして学んでいく。

授業の概要

日本人と信仰、日本人と英雄、日本人と道徳という三つのテーマを設定し、長年日本人に愛されてきた物語や歴史小説、アニメーションを手掛かりにて、考えていく。そして留学生と合同で実施することになるこの授業では、海外から見た日本人や日本文化の姿をも、学ぶことになるはずである。わせて学外授業を実施し、関係する場所を尋ね、理解を深める

準備学習（予習・復習）

授業で配布するプリントは事前に読んでくること

内　容

第1回　全体の説明
第2回　日本人と信仰 「となりのトトロ」を手掛かりにして
第3回　学外授業　伏見稲荷
第4回　グループワーク　伏見稲荷見学の振り返り
第5回　日本人と英雄　司馬遼太郎『竜馬がゆく』をてがかりにして（1）
第6回　日本人と英雄　司馬遼太郎『竜馬がゆく』をてがかりにして（2）
第7回　学外実習　円山公園から清水寺
第8回　グループワーク　円山公園・清水寺の振り返り
第9回　日本人と英雄　司馬遼太郎『竜馬がゆく』をてがかりにして（3）
第10回　日本人と英雄　司馬遼太郎『竜馬がゆく』をてがかりにして（4）
第11回　学外見学　二条城
第12回　グループワーク　二条城見学振り返り
第13回　日本人と道徳　宮沢賢治『銀河鉄道の夜』を手がかりにして（1）
第14回　日本人と道徳　宮沢賢治『銀河鉄道の夜』を手がかりにして（2）
第15回　まとめ

履修上の注意点

グループワークには積極的に参加すること。学外見学の拝観料は大学負担だが交通費は個人負担になる。見学は水曜日1，2限目に行う予定。1限目にほかの授業が入っている場合は、欠席してもかまわない。ただし、グループワークまでに個人で見学に行っておくこと（拝観料は個人負担になるので注意）。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 60 ）	授業中発表等　（　）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅰ〈初等〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　島田　尚夫	

テーマ

自ら、教職につくための確かな見通しを持ち、教育の意義と目的を明らかにするための理論の構築を目指す。

授業の到達目標

「生きる力」という概念は、こらからも続く激変の社会において、益々重要度をますことから、「生きる力」を形成する「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた育成が重視されている。これからの教職を志願するものは、単に学習指導要領の改善点の知識の獲得だけでなく、改定の趣旨や背景、法制の改正なども踏まえて認識し、教師としての力量を高めることが大事である。教師として採用された後も、学習指導要領を始め、国レベルの答申や通知、報告などを継続的に理解し、時代の社会の変化に対応する資質と能力を身に付けることを目標とする。

授業の概要

学習指導要領の法制上の位置づけや教育課程を編成する際の基準等を理解する。

準備学習（予習・復習）

文部科学省のホームページを見ることや、新聞等の教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌などを読むようにする。

内　容

第1回　オリエンテーション「自らの表現力を高める」
第2回　教育課程の意義
第3回　学校の教師に求められる資質や能力
第4回　教師の役割と仕事①
第5回　学習指導要領の特色
第6回　道徳教育
第7回　総合的な学習の時間と特別活動
第8回　特別支援と生徒指導
第9回　学習指導要領・その変遷①
第10回　学級と学校の運営①
第11回　学力と学習指導
第12回　指導案づくり①「あさ」教材研究
第13回　学級集団と指導
第14回　初等・中等教育における教育課程のあり方
第15回　全学年、全教科の指導内容とその概要③

履修上の注意点

教科書

小学校学習指導要領
著者:　文部科学省
出版社:　東京書籍株式会社
出版年:　　ISBN:

小学校学習指導要領解説　総則編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　　ISBN:

小学校学習指導要領解説　道徳編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中指示します。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

ask102e110

成績評価

試験 （ なし ）　　小テスト（ なし ）

授業中課題 （ 70 ）　　授業中発表等 （ 15 ）

参加度 （ 15 ）

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅰ〈中等〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　廣瀬　忠愛	

テーマ

学校教育実践論Ⅰ

授業の到達目標

これからの教職を志す者は，今日の学校教育における，具体的な課題を主体的に考察し，認識を深める資質･能力を身につける必要があります。そのために，現在の学校教育をめぐる基本的課題を取り上げ，多角的･複眼的に考察し，学校教育の現状についての認識･理解を深め，実践的な課題克服の方途を主体的に考える力を身につけることを目標とします。

授業の概要

今日の学校教育をめぐる基本的課題を多角的･複眼的に考察し，学校教育の現状についての認識･理解を深め，自らの実践を主体的に考え，発表する。基本的なことを学び、それをもとに関連した課題について考え、グループで討議し深める。グループで討議した内容を全体で報告する。

準備学習（予習･復習）

文部科学省のホームページを日頃から見ておくこと。一般の新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌など読んでおくこと

内　　容

第1回　授業の説明等（教職を志す資質･能力及び教員採用試験）イントロダクション
第2回　教師の求められる資質･能力
第3回　ワークショップ
第4回　教育観について
第5回　ワークショップ
第6回　今日的な教育課題
第7回　ワークショップ
第8回　学習指導の在り方
第9回　ワークショップ
第10回　児童生徒の問題行動について
第11回　ワークショップ
第12回　これからの人権教育
第13回　ワークショップ
第14回　都道府県政令指定都市の教育方針や教育目標などに関する内容
第15回　ワークショップのまとめ

履修上の注意点

教科書

中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　　ISBN:

中学校学習指導要領解説特別活動編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　　ISBN:

中学校学習指導要領本体
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　　ISBN:

中学校学習指導要領解説総則編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　　ISBN:

ask102e112

中学校学習指導要領解説道徳編

著者:　文部科学省

出版社: 東洋館出版社

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 70 ）　　授業中発表等 （ 15 ）

参加度 （ 15 ）

授業における課題のレポート, 授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う

2016 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅰ〈幼a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　一柳　敦子	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

･保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、将来の進路に向けて意欲と期待をふくらませる。

授業の概要

･時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応　じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深　める。･ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し　将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習（予習･復習）

･積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。･実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意　分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内　容

第1回　発達段階に応じた教材研究①･･健康領域関係
第2回　発達段階に応じた教材研究②･･健康領域関係
第3回　発達段階に応じた教材研究③･･環境領域関係
第4回　発達段階に応じた教材研究④･･環境領域関係
第5回　発達段階に応じた教材研究⑤･･表現領域関係
第6回　発達段階に応じた教材研究⑥･･表現領域関係
第7回　発達段階に応じた教材研究⑦･･言葉領域関係
第8回　発達段階に応じた教材研究⑧･･言葉領域関係
第9回　素敵な保育者になるために①･･実習を振り返って自分を見つめる。その1　振り返りシートによる意見交流
第10回　素敵な保育者になるために②･･実習を振り返って自分を見つめる。その2　自己課題に関するレポート作成
第11回　素敵な保育者になるために③･･子どもの豊かな体験のために。その1　（ゲスト講師）
第12回　素敵な保育者になるために④･･子どもの豊かな体験のために。その2　実技交流やディスカッション
第13回　素敵な保育者になるために⑤･･子どもの豊かな体験野ために。その3　様々な保育の現場の状況や制度を知る。（ゲスト講師）
第14回　素敵な保育者になるために⑥･･保育者としての自覚に向けて　（2回生との合同授業で実習報告会）
第15回　素敵な保育者になるために⑦･･まとめ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。（11回と13回で予定）

履修上の注意点

･実技による教材研究だけではなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説
著者:　文部科学省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　ISBN:

保育所保育士指針解説
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　ISBN:

参考書

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文科省･厚労省
出版社:　フレーベル館

ask102e113

出版年: 2015　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 40% ）
授業の参加度と、授業中の態度や課題に対する取り組む姿勢、提出物の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅰ〈幼b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　太田　みつ枝	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

･保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、将来の進路に向けて意欲と期待をふくらませる。

授業の概要

･時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応　じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深　める。･ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し　将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習（予習･復習）

･積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。･実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意　分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内　容

第1回　発達段階に応じた教材研究①･･健康領域関係
第2回　発達段階に応じた教材研究②･･健康領域関係
第3回　発達段階に応じた教材研究③･･環境領域関係
第4回　発達段階に応じた教材研究④･･環境領域関係
第5回　発達段階に応じた教材研究⑤･･表現領域関係
第6回　発達段階に応じた教材研究⑥･･表現領域関係
第7回　発達段階に応じた教材研究⑦･･言葉領域関係
第8回　発達段階に応じた教材研究⑧･･言葉領域関係
第9回　素敵な保育者になるために①･･実習を振り返って自分を見つめる。その1　振り返りシートによる意見交流
第10回　素敵な保育者になるために②･･実習を振り返って自分を見つめる。その2　自己課題に関するレポート作成
第11回　素敵な保育者になるために③･･子どもの豊かな体験のために。その1　（ゲスト講師）
第12回　素敵な保育者になるために④･･子どもの豊かな体験のために。その2　実技交流やディスカッション
第13回　素敵な保育者になるために⑤･･子どもの豊かな体験野ために。その3　様々な保育の現場の状況や制度を知る。　（ゲスト講師）
第14回　素敵な保育者になるために⑥･･保育者としての自覚に向けて　（2回生との合同授業で実習報告会）
第15回　素敵な保育者になるために⑦･･まとめ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。（11回と13回で予定）

履修上の注意点

･実技による教材研究だけではなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説
著者:　文部科学省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:

保育所保育士指針解説
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:

参考書

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文科省･厚労省
出版社:　フレーベル館

ask102e114

出版年: 2015 ISBN:

成績評価

試験 （ 0% ） 小テスト（ 0% ）
授業中課題 （ 30% ） 授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 40% ）
授業の参加度と、授業中の態度や課題に対する取り組む姿勢、提出物の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅰ〈幼c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　大山　弘美	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

･保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、将来の進路に向けて意欲と期待をふくらませる。

授業の概要

･時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応　じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深　める。･ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し　将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習（予習･復習）

･積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。･実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意　分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内　容

第1回　発達段階に応じた教材研究①･･健康領域関係
第2回　発達段階に応じた教材研究②･･健康領域関係
第3回　発達段階に応じた教材研究③･･環境領域関係
第4回　発達段階に応じた教材研究④･･環境領域関係
第5回　発達段階に応じた教材研究⑤･･表現領域関係
第6回　発達段階に応じた教材研究⑥･･表現領域関係
第7回　発達段階に応じた教材研究⑦･･言葉領域関係
第8回　発達段階に応じた教材研究⑧･･言葉領域関係
第9回　素敵な保育者になるために①･･実習を振り返って自分を見つめる。その1　振り返りシートによる意見交流
第10回　素敵な保育者になるために②･･実習を振り返って自分を見つめる。その2　自己課題に関するレポート作成
第11回　素敵な保育者になるために③･･子どもの豊かな体験のために。その1　（ゲスト講師）
第12回　素敵な保育者になるために④･･子どもの豊かな体験のために。その2　実技交流やディスカッション
第13回　素敵な保育者になるために⑤･･子どもの豊かな体験野ために。その3　様々な保育の現場の状況や制度を知る。（ゲスト講師）
第14回　素敵な保育者になるために⑥･･保育者としての自覚に向けて　（2回生との合同授業で実習報告会）
第15回　素敵な保育者になるために⑦･･まとめ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。（11回と13回で予定）

履修上の注意点

･実技による教材研究だけではなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説
著者:　文部科学省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　ISBN:

保育所保育士指針解説
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　ISBN:

参考書

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文科省･厚労省
出版社:　フレーベル館

ask102e115

出版年: 2015 ISBN:

成績評価

試験 （ 0% ） 小テスト（ 0% ）
授業中課題 （ 30% ） 授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 40% ）
授業の参加度と、授業中の態度や課題に対する取り組む姿勢、提出物の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅰ〈幼d〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　杉江　由紀子	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

･保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、将来の進路に向けて意欲と期待をふくらませる。

授業の概要

･時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応　じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深　める。･ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し　将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習（予習･復習）

･積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。･実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意　分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内　容

第1回　発達段階に応じた教材研究①･･健康領域関係
第2回　発達段階に応じた教材研究②･･健康領域関係
第3回　発達段階に応じた教材研究③･･環境領域関係
第4回　発達段階に応じた教材研究④･･環境領域関係
第5回　発達段階に応じた教材研究⑤･･表現領域関係
第6回　発達段階に応じた教材研究⑥･･表現領域関係
第7回　発達段階に応じた教材研究⑦･･言葉領域関係
第8回　発達段階に応じた教材研究⑧･･言葉領域関係
第9回　素敵な保育者になるために①･･実習を振り返って自分を見つめる。その1　振り返りシートによる意見交流
第10回　素敵な保育者になるために②･･実習を振り返って自分を見つめる。その2　自己課題に関するレポート作成
第11回　素敵な保育者になるために③･･子どもの豊かな体験のために。その1　（ゲスト講師）
第12回　素敵な保育者になるために④･･子どもの豊かな体験のために。その2　実技交流やディスカッション
第13回　素敵な保育者になるために⑤･･子どもの豊かな体験野ために。その3　様々な保育の現場の状況や制度を知る。　（ゲスト講師）
第14回　素敵な保育者になるために⑥･･保育者としての自覚に向けて　（2回生との合同授業で実習報告会）
第15回　素敵な保育者になるために⑦･･まとめ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。（11回と13回で予定）

履修上の注意点

･実技による教材研究だけではなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説
著者:　文部科学省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:

保育所保育士指針解説
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:

参考書

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文科省･厚労省
出版社:　フレーベル館

ask102e116

出版年: 2015 ISBN:

成績評価

試験 （ 0% ） 小テスト（ 0% ）
授業中課題 （ 30% ） 授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 40% ）
授業の参加度と、授業中の態度や課題に対する取り組む姿勢、提出物の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅰ〈幼e〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中﨑　あつ子	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

･保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、将来の進路に向けて意欲と期待をふくらませる。

授業の概要

･時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応　じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深　める。･ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し　将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習（予習･復習）

･積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。･実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意　分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内　容

第1回　発達段階に応じた教材研究①･･健康領域関係
第2回　発達段階に応じた教材研究②･･健康領域関係
第3回　発達段階に応じた教材研究③･･環境領域関係
第4回　発達段階に応じた教材研究④･･環境領域関係
第5回　発達段階に応じた教材研究⑤･･表現領域関係
第6回　発達段階に応じた教材研究⑥･･表現領域関係
第7回　発達段階に応じた教材研究⑦･･言葉領域関係
第8回　発達段階に応じた教材研究⑧･･言葉領域関係
第9回　素敵な保育者になるために①･･実習を振り返って自分を見つめる。その1　振り返りシートによる意見交流
第10回　素敵な保育者になるために②･･実習を振り返って自分を見つめる。その2　自己課題に関するレポート作成
第11回　素敵な保育者になるために③･･子どもの豊かな体験のために。その1　（ゲスト講師）
第12回　素敵な保育者になるために④･･子どもの豊かな体験のために。その2　実技交流やディスカッション
第13回　素敵な保育者になるために⑤･･子どもの豊かな体験野ために。その3　様々な保育の現場の状況や制度を知る。　（ゲスト講師）
第14回　素敵な保育者になるために⑥･･保育者としての自覚に向けて　（2回生との合同授業で実習報告会）
第15回　素敵な保育者になるために⑦･･まとめ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。（11回と13回で予定）

履修上の注意点

･実技による教材研究だけではなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説
著者:　文部科学省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:

保育所保育士指針解説
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:

参考書

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文科省･厚労省
出版社:　フレーベル館

ask102e117

出版年: 2015　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 40% ）
授業の参加度と、授業中の態度や課題に対する取り組む姿勢、提出物の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅰ〈幼f〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　山口　陽子	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

･保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、将来の進路に向けて意欲と期待をふくらませる。

授業の概要

･時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応　じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深　める。･ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し　将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習（予習･復習）

･積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。･実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意　分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内　容

第1回　発達段階に応じた教材研究①･･健康領域関係
第2回　発達段階に応じた教材研究②･･健康領域関係
第3回　発達段階に応じた教材研究③･･環境領域関係
第4回　発達段階に応じた教材研究④･･環境領域関係
第5回　発達段階に応じた教材研究⑤･･表現領域関係
第6回　発達段階に応じた教材研究⑥･･表現領域関係
第7回　発達段階に応じた教材研究⑦･･言葉領域関係
第8回　発達段階に応じた教材研究⑧･･言葉領域関係
第9回　素敵な保育者になるために①･･実習を振り返って自分を見つめる。その1　振り返りシートによる意見交流
第10回　素敵な保育者になるために②･･実習を振り返って自分を見つめる。その2　自己課題に関するレポート作成
第11回　素敵な保育者になるために③･･子どもの豊かな体験のために。その1　（ゲスト講師）
第12回　素敵な保育者になるために④･･子どもの豊かな体験のために。その2　実技交流やディスカッション
第13回　素敵な保育者になるために⑤･･子どもの豊かな体験野ために。その3　様々な保育の現場の状況や制度を知る。　（ゲスト講師）
第14回　素敵な保育者になるために⑥･･保育者としての自覚に向けて　（2回生との合同授業で実習報告会）
第15回　素敵な保育者になるために⑦･･まとめ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。（11回と13回で予定）

履修上の注意点

･実技による教材研究だけではなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説
著者:　文部科学省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　ISBN:

保育所保育士指針解説
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　ISBN:

参考書

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文科省･厚労省
出版社:　フレーベル館

ask102e118

出版年: 2015 ISBN:

成績評価

試験 （ 0% ） 小テスト（ 0% ）
授業中課題 （ 30% ） 授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 40% ）
授業の参加度と、授業中の態度や課題に対する取り組む姿勢、提出物の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅰ〈幼g〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　須藤　智代子	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

･保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、将来の進路に向けて意欲と期待をふくらませる。

授業の概要

･時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応　じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深　める。･ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し　将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習（予習･復習）

･積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。･実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意　分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内　容

第1回　発達段階に応じた教材研究①･･健康領域関係
第2回　発達段階に応じた教材研究②･･健康領域関係
第3回　発達段階に応じた教材研究③･･環境領域関係
第4回　発達段階に応じた教材研究④･･環境領域関係
第5回　発達段階に応じた教材研究⑤･･表現領域関係
第6回　発達段階に応じた教材研究⑥･･表現領域関係
第7回　発達段階に応じた教材研究⑦･･言葉領域関係
第8回　発達段階に応じた教材研究⑧･･言葉領域関係
第9回　素敵な保育者になるために①･･実習を振り返って自分を見つめる。その1　振り返りシートによる意見交流
第10回　素敵な保育者になるために②･･実習を振り返って自分を見つめる。その2　自己課題に関するレポート作成
第11回　素敵な保育者になるために③･･子どもの豊かな体験のために。その1　（ゲスト講師）
第12回　素敵な保育者になるために④･･子どもの豊かな体験のために。その2　実技交流やディスカッション
第13回　素敵な保育者になるために⑤･･子どもの豊かな体験野ために。その3　様々な保育の現場の状況や制度を知る。　（ゲスト講師）
第14回　素敵な保育者になるために⑥･･保育者としての自覚に向けて　（2回生との合同授業で実習報告会）
第15回　素敵な保育者になるために⑦･･まとめ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。（11回と13回で予定）

履修上の注意点

･実技による教材研究だけではなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説
著者:　文部科学省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　ISBN:

保育所保育士指針解説
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　ISBN:

参考書

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文科省･厚労省
出版社:　フレーベル館

ask102e119

出版年: 2015 ISBN:

成績評価

試験 （ 0% ） 小テスト（ 0% ）
授業中課題 （ 30% ） 授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 40% ）
授業の参加度と、授業中の態度や課題に対する取り組む姿勢、提出物の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅰ〈幼h〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉田　裕子	

テーマ

子どもにとってふさわしい保育者になるために

授業の到達目標

･保育者や社会人としてふさわしい人間性と資質を高めるとともに、将来の進路に向けて意欲と期待をふくらませる。

授業の概要

･時代の変化に伴う保育所や幼稚園、認定こども園の新たな役割や子どもの実態に応　じた、保育者としての必要な能力、知識について実技や実習体験等を通して学びを深　める。･ゲスト講師の話や学生同士のディスカッションを通して自分自身の課題を意識化し　将来の保育者像の具体化につなぐ。

準備学習（予習･復習）

･積極的なボランティア活動等により子どもとの交わりや様々な保育者との出会いを豊富にしておく。･実習簿の記録や反省を基に得意分野を伸ばすとともに、自分の不得意　分野の内容について整理をしたり克服方法を考える。

内　容

第1回　発達段階に応じた教材研究①･･健康領域関係
第2回　発達段階に応じた教材研究②･･健康領域関係
第3回　発達段階に応じた教材研究③･･環境領域関係
第4回　発達段階に応じた教材研究④･･環境領域関係
第5回　発達段階に応じた教材研究⑤･･表現領域関係
第6回　発達段階に応じた教材研究⑥･･表現領域関係
第7回　発達段階に応じた教材研究⑦･･言葉領域関係
第8回　発達段階に応じた教材研究⑧･･言葉領域関係
第9回　素敵な保育者になるために①･･実習を振り返って自分を見つめる。その1　振り返りシートによる意見交流
第10回　素敵な保育者になるために②･･実習を振り返って自分を見つめる。その2　自己課題に関するレポート作成
第11回　素敵な保育者になるために③･･子どもの豊かな体験のために。その1　（ゲスト講師）
第12回　素敵な保育者になるために④･･子どもの豊かな体験のために。その2　実技交流やディスカッション
第13回　素敵な保育者になるために⑤･･子どもの豊かな体験野ために。その3　様々な保育の現場の状況や制度を知る。　（ゲスト講師）
第14回　素敵な保育者になるために⑥･･保育者としての自覚に向けて　（2回生との合同授業で実習報告会）
第15回　素敵な保育者になるために⑦･･まとめ※外部講師を招いて講演会を実施することがある。（11回と13回で予定）

履修上の注意点

･実技による教材研究だけではなく、保育所、幼稚園、認定こども園の現場の状況を直接知ることができる場や自身の実習体験を活かした企画の場など4回生の就職活動につながる実践的体験的な授業が中心となるので欠席のないよう受講すること。

教科書

幼稚園教育要領解説
著者:　文部科学省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:

保育所保育士指針解説
著者:　厚生労働省
出版社:　フレーベル館
出版年:　2008　　ISBN:

参考書

幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説
著者:　内閣府･文科省･厚労省
出版社:　フレーベル館

ask102e120

出版年: 2015 ISBN:

成績評価

試験 （ 0% ） 小テスト（ 0% ）
授業中課題 （ 30% ） 授業中発表等 （ 30% ）
参加度 （ 40% ）
授業の参加度と、授業中の態度や課題に対する取り組む姿勢、提出物の内容から評価をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅱ <初等>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　島田　尚夫	

テーマ

自ら教職につくための確かな見通しを持ち、教育実践の力量を培う。

授業の到達目標

これからの教職を志すものは、今日の学校教育における具体的な課題を主体的に考察し、認識を深める資質・能力を深める必要がある。そのために、現在の学校教育をめぐる基本的課題を取り上げ、その課題解決に向けて考察し、学校教育の現状認識を深め実践的な課題克服を主体的に考える力を培うようにする。

授業の概要

今日の学校教育をめぐる状況とその課題を考察し、学校教育の現状について理解と認識を深め、自らの実践を主体的に考え表出しようとする。

準備学習（予習・復習）

文部科学省のホームページを見ること。新聞などにおける教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌などを読むようにする。

内　容

第1回　教育の意義と目的
第2回　学校教育の役割
第3回　教育課程の編成と評価
第4回　教員の役割・仕事・学習指導②
第5回　学習指導要領の特色②
第6回　教師の仕事と生徒指導①
第7回　教師の仕事と生徒指導②
第8回　現在の教育課題
第9回　学習指導要領の改訂②
第10回　学級と学校の運営②
第11回　生きる力と確かな学力
第12回　授業づくり②　指導案作成　国語科「あさ」
第13回　全学年、全教科の指導内容とその概要①
第14回　全学年、全教科の指導内容とその概要②
第15回　目指す教師像

履修上の注意点

教科書

小学校学習指導要領
著者:　文部科学省
出版社:　東京書籍
出版年:　　ISBN:

小学校指導要領解説総則編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　　ISBN:

生徒指導提要
著者:　文部科学省
出版社:　教育図書
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中指示する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

ask102e250

成績評価

試験 （ なし ）　小テスト（ なし ）
授業中課題 （ 70 ）　授業中発表等 （ 15 ）
参加度 （ 15 ）
授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅱ〈中等〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　廣瀬　忠愛	

テーマ

学校教育実践論Ⅱ

授業の到達目標

今回の学習指導要領改訂において，「生きる力」という概念は，知識基盤社会の時代においてますます重要となっていることから，これを継承し，「生きる力」を支える「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた育成が重視されている。これからの教職を志望する者は，教員採用試験のために，学習指導要領の改善点を単に暗記するだけではなく，改訂の趣旨及び背景（例えば，教育基本法の改正，学校教育法の改正など）も含めて理解し，教師としての実践力として身につけることが大切である。また，将来教師として採用された後も，学習指導要領をはじめ，国レベルで出される答申や通知，報告等を歴史的視点で継続的に理解し，時代の変化に対応できる資質・能力を身につけることなどを目標とする。

授業の概要

学習指導要領の法令上の位置づけや教育課程を編成する際の基準性等を理解する。

準備学習（予習・復習）

文部科学省のホームページを日頃から見ておくことや，一般の新聞等における教育関係の記事，教育専門誌，教育専門月刊誌などを読んでおくこと。

内　　容

第1回　授業の説明等，イントロダクション
第2回　新学習指導要領の改善点
第3回　教育課程の編成，教育課程の意義，教育課程の概念など
第4回　教育課程とその基準，教育課程に関する法制など
第5回　教育課程編成の一般方針
第6回　内容等の取扱いに関する共通的事項
第7回　授業時数に関する知識1
第8回　授業時数に関する知識2
第9回　指導計画の作成
第10回　教育課程実施上の配慮事項1
第11回　教育課程実施上の配慮事項2
第12回　教育課程実施上の配慮事項3
第13回　道徳，外国語
第14回　総合的な学習の時間，特別活動
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

中学校学習指導要領本体
著者：　文部科学省
出版社：東洋館出版社
出版年：　　ISBN：

中学校学習指導要領解説総則編
著者：　文部科学省
出版社：東洋館出版社
出版年：　　ISBN：

中学校学習指導要領解説道徳編
著者：　文部科学省
出版社：東洋館出版社
出版年：　　ISBN：

中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編
著者：　文部科学省
出版社：東洋館出版社
出版年：　　ISBN：

ask102e252

中学校学習指導要領解説特別活動編

著者:　文部科学省

出版社: 東洋館出版社

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 70 ）　　授業中発表等 （ 15 ）

参加度 （ 15 ）

授業における課題のレポート, 授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

Syllabus

科 目 名　**産業心理学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**広告と消費の心理学**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**広告と消費の心理学**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　その他	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅲ <初等>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　島田　尚夫	

テーマ

教育的論理形成と具体的な教育実践及び評価。

授業の到達目標

教育を目指す者に求められる専門的力量の中心課題は、児童生徒理解に基づく授業づくりはもとより、学級づくり･集団及び個別指導を通し、一人ひとりの教育保障を可能にする力量形成にある。学校教育に対する基本認識を深め、教育の質的向上を目指し、推進していくうえでの知識･技術･能力･態度を身に付ける。

授業の概要

教育原理･教育心理･教育行政等の理論を学ぶと同時に、それらの理論が具現化された実際の教育活動についての理解を深める。

準備学習（予習･復習）

文部科学省のホームページを見て学ぶことや、一般の新聞記事などにおける教育関係の記事、教育専門誌、教育月刊誌などを読む。

内　容

第1回　オリエンテーション、自らの生き方
第2回　今の学校の姿
第3回　教育課程の一般方針
第4回　様々な教育方法
第5回　論作文①
第6回　学習指導要領の改訂とその経過
第7回　学校教育改革
第8回　授業力を高める視点
第9回　指導案作成②
第10回　学校･学級経営
第11回　道徳教育
第12回　特別支援教育①
第13回　発達と障害
第14回　教育時事①
第15回　教職教養のポイント②

履修上の注意点

教科書

小学校学習指導要領
著者:　文部科学省
出版社:　東京書籍
出版年:　　ISBN:
小学校指導要領解説総則編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　　ISBN:

参考書

必要に応じて紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ なし ）	小テスト （ なし ）
授業中課題 （ 70 ）	授業中発表等 （ 15 ）
参加度 （ 15 ）	

ask103d410

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な評定を行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**教職・保育職教養講義Ⅲ <中等>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　廣瀬　忠愛	

テーマ

客観的論理と主体的な教育実践

授業の到達目標

中央教育審議会答申は，教育の専門家としての確かな力量を具体的に「子ども理解力」「児童・生徒指導力」「集団指導の力」「学級づくりの力」「学習指導・授業づくりの力」「教材解釈の力」などを掲げている。教職を目指す学生・院生は，これらの知識や技能を身につけることはもちろんのこと，これらに加えて客観的論理に基づいた自己の考え方や，その論理から導き出された具体的な教育実践について，発信できる資質や能力を身につけることである。

授業の概要

客観的論理に基づいた自己の考え方や，その論理から導き出された教育実践についての表現力を身につける。

準備学習（予習・復習）

文部科学省のホームページを日頃から見ておくことや，一般の新聞等における教育関係の記事，教育専門誌，教育専門月刊誌などを読んでおくこと。

内　　容

第1回　オリエンテーション，本授業の構成要素等について
第2回　教師論について
第3回　学習指導について①（確かな学力・学習意欲・学習習慣・探究的な学習の重視
第4回　学習指導について②（学力向上・読書指導・言語活動の充実・体験活動の重視）
第5回　生徒指導について（生徒理解・自己肯定感・コミュニケーション能力）
第6回　生徒指導について（いじめ・教師と生徒の信頼関係・規範意識・社会性）
第7回　学級経営について
第8回　道徳指導について
第9回　人権教育について
第10回　進路指導について
第11回　キャリア教育について
第12回　地域や保護者の信頼について
第13回　家庭・地域の教育力について
第14回　安全教育について
第15回　体育・健康教育について

履修上の注意点

教科書

（中等）中学校学習指導要領本体
著者：　文部科学省
出版社：東洋館出版社
出版年：　　ISBN：
（中等）中学校学習指導要領解説総則編
著者：　文部科学省
出版社：東洋館出版社
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題（ 70 ）　　授業中発表等（ 15 ）
参加度　（ 15 ）
授業における課題のレポート，授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**教職･保育職教養講義Ⅳ <初等>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　島田　尚夫	

テーマ

「生きる力」を育む教育実践。

授業の到達目標

教職を目指す者は、その専門職としての力量を高めることが求められている。専門的力量の大半は授業力である。児童の実態を踏まえ、学習指導要領に示される基本方針にのっとり、各教科の目標や内容は計画的に意図し、積極的に取り組むようにする。また、各教科の特性、及び、その系統性を理解し、指導上、必要な基礎･基本の力量を身に付ける。

授業の概要

「生きる力」をどのように育んでいくかを教育実践･授業づくりを通して理解する。その際、指導の根底にある学習指導要領、教育理論、教師の使命感、子どもたちの現状等の理解は、教育の重要な条件である。

準備学習（予習･復習）

文部科学省のホームページを見ておくことや、新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育月刊誌などを読むようにする。

内　容

第1回　教師の力量
第2回　学習指導要領について
第3回　特色のある学校教育活動
第4回　学校教育づくり
第5回　論作文②
第6回　学習指導について
第7回　学校評価･学校教育目標･授業評価
第8回　指導案作成①
第9回　指導案作成③
第10回　生徒指導について①
第11回　生徒指導について②
第12回　特別活動
第13回　教職教養ポイント①
第14回　教育時事②
第15回　信頼される教師

履修上の注意点

教科書

小学校指導要領
著者:　文部科学省
出版社:　東京書籍
出版年:　　ISBN:

小学校指導要領解説総則編
著者:　文部科学省
出版社:　東洋館出版社
出版年:　　ISBN:

生徒指導提要
著者:　文部科学省
出版社:　教育図書
出版年:　　ISBN:

参考書

必要に応じて紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

ask103d510

成績評価

試験 （ なし ）　小テスト（ なし ）
授業中課題 （ 70 ）　授業中発表等 （ 15 ）
参加度 （ 15 ）
授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**教職・保育職教養講義Ⅳ <中等>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　廣瀬　忠愛	

テーマ

教育サイクル（PDCA）の理解と「指導と評価の一体化」について

授業の到達目標

学校の教育活動は，PDCAという教育サイクルがスパイラルに繰り返されながら，生徒のよりよい成長を願った指導が展開される。授業は，生徒の実態を踏まえ，学習指導要領に示される基本方針や授業時間数，各教科等の目標・内容等を計画的に実施されることについて理解する。また，各教科等の内容・目標等及び教科等の系統性を理解し，学習指導案作成の基礎を身につける。一方，教育評価の結果によって今後の指導を改善し，さらに新しい指導の成果を再度評価するという，指導に生かす教育評価の基礎的・基本的な知識・技能を身につける。

授業の概要

各教科等の目標・内容等及び教科等の系統性を理解し，学習指導案作成の基礎を身につける。一方，教育評価の結果によって今後の指導を改善し，さらに新しい指導の成果を再度評価するという，指導に生かす教育評価の基礎的・基本的な知識・技能を身につける

準備学習（予習・復習）

文部科学省のホームページを日頃から見ておくことや，一般の新聞等における教育関係の記事，教育専門誌，教育専門月刊誌などを読んでおくこと。

内　　容

第1回　オリエンテーション，本授業の構成要素等について
第2回　中（高）学校学習指導要領　解説　教科編①
第3回　中（高）学校学習指導要領　解説　教科編②
第4回　中（高）学校学習指導要領　解説　教科編③
第5回　授業づくりについて
第6回　授業づくりの必要事項について
第7回　学習指導計画案作成①
第8回　授業設計について
第9回　学習指導計画案作成②
第10回　授業中の大切なことについて
第11回　学習指導計画案作成③
第12回　授業の評価と授業の改善（指導と評価の一体化）
第13回　中教審（報告）から評価規準作成の参考資料
第14回　教育評価の基本的用語
第15回　目標に準拠した評価」について

履修上の注意点

教科書

（中等）中・高学校学習指導要領専門教科の解説編

著者：　文部科学省

出版社：東洋館出版社

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ 15 ）
参加度　（ 15 ）	

授業における課題のレポート，授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**救急救命基礎講義Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　通年　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　mitei

テーマ

政治の常識①

授業の到達目標

卒業後救急救命職（公務員）に就くことを前提に、救命士に相応しい数学および政治・経済の知識を身につける。

授業の概要

第1回の授業は、a・bクラス合同でオリエンテーションともに公務員試験を模擬体験し、第2回以降は、数学と政治の授業を隔週で実施する。政治の授業では、各回ともノート作成用のシートを配布し、テーマにそってできるだけ詳しく講義する。受講生は、講義にもとづいてシートの空欄に必要事項を記入し、講義ノートを完成する。なお毎回宿題の小テストを配布するので、次回（2週間後）の授業でかならず提出すること。

準備学習（予習・復習）

各回とも終了時に小テストを配布するので、ノートをもとにしっかり復習し、小テストの解答を記入する。

内　容

第1回　合同：オリエンテーション＆公務員試験問題の体験
第2回　数の世界の不思議から文字へ
第3回　政治：国家とはなにか？――その思想と原則
第4回　文字式の計算を図で考えよう～展開、因数分解、平方完成、解の公式
第5回　政治：人権――原理と歴史
第6回　数の世界の拡張～有理数、無理数、正負の数
第7回　政治：いろいろな政治制度
第8回　量の世界の探求～密度、濃度、速度
第9回　政治：日本国憲法
第10回　方程式の活用～一次・連立・二次方程式
第11回　政治：憲法と人権①
第12回　不等式とその活用
第13回　政治：憲法と人権②
第14回　比・比例・割合
第15回　政治：まとめ

履修上の注意点

教科書

授業毎にプリント配付

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 80 ）

授業中課題（　）　　授業中発表等（　）

参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**救急救命基礎講義Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　mitei	

テーマ

経済の常識①

授業の到達目標

卒業後救急救命職（公務員）に就くことを前提に、救命士に相応しい数学および政治・経済の知識を身につける。

授業の概要

第１回の授業から、数学と経済の授業を隔週で実施し、最終回には数学＆政治・経済の総合テストを実施する。経済の授業では、各回ともノート作成用のシートを配布し、テーマにそってできるだけ詳しく講義する。受講生は、講義にもとづいてシートの空欄に必要事項を記入し、講義ノートを完成する。なお毎回宿題の小テストを配布するので、次回（２週間後）の授業でかならず提出すること。

準備学習（予習・復習）

各回とも終了時に小テストを配布するので、ノートをもとにしっかり復習し、小テストの解答を記入する。

内　容

第1回　場合の数
第2回　経済：経済体制
第3回　順列・組み合わせ
第4回　経済：経済理論①
第5回　確率
第6回　経済：経済理論②
第7回　平面図形の基礎
第8回　経済：経済理論③
第9回　相似
第10回　経済：戦後の日本経済
第11回　図形の計量
第12回　経済：その分野別問題
第13回　空間図形
第14回　政治：まとめ
第15回　合同：まとめのテスト

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 50 ）	小テスト（ 30 ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発研究Ⅰ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　　柳本　周介.豊福　千穂	

テーマ

正課授業と課外授業との連動による反復学習を実現し、就活実践力を養成する。

授業の到達目標

今後の就活実践力を養い、社会人として活躍するための基礎になる力を身に付け、抽象的な言葉を具体的にし、自分の特徴を表現する。

授業の概要

社会人に向けて、必要となる実践的なスキルや経験値を身に付けながら自己理解を深め各業界・企業について学習します。

準備学習（予習・復習）

授業で出した課題の提出

内　　容

第1回　就職活動の現状～進め方・仕事とは？
第2回　業界企業の研究方法1
第3回　業界企業の研究方法2
第4回　業界企業の研究方法3
第5回　自己PR1　作成のための基本
第6回　自己PR2　実践
第7回　志望動機1　作成のための基本
第8回　志望動機2　実践
第9回　先入観・固定概念からの脱却～人事の視点
第10回　就活の常識・非常識～採用現場の本音
第11回　グループディスカッションのルール～実践
第12回　グループディスカッション実践
第13回　ブラッシュアップ
第14回　集団面接実践1
第15回　集団面接実践2

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト
著者:　株式会社イング
出版社:　株式会社イング
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度　（ ）
課外授業の参加状況を加味する。

Syllabus

科 目 名　**キャリア開発研究Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　その他	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験（ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度（ ）

Syllabus

科 目 名　**キャリア開発研究Ⅰ〈c〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　その他	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発研究Ⅰ〈救急〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　山﨑　将文	

テーマ

消防官・警察官・自衛官など公安職に求められる知識と能力の修得

授業の到達目標

公務員、特に公安職とはどのようなものかを知るとともに、消防官・警察官・自衛官などに求められる知識と能力の修得と自らの職業観の育成と開発

授業の概要

消防官・警察官・自衛官など公務員に求められる専門知識の獲得と自らの職業観の育成・開発のために、各職種の仕事内容について講義や講演を通して学ぶ。公務員の一形態としての公安職の特徴と、求められる知識や能力について講義を通じて学び、消防官・警察官・自衛官など具体的な職種の業務について、現役者の講演などを通じて深く理解する。

準備学習（予習・復習）

常日頃から公務員に関するニュースや新聞記事を見るとともに、ワークシートや論文の作成などの課題を出された場合には必ず授業前に完成しておく。

内　容

第1回　公務員とはどのような者か？公務員の概念、全体の奉仕者としての公務員
第2回　公務員の種類と公安職の位置づけ特別職公務員と一般職公務員、国家公務員と地方公務員、現業公務員と非現業公務員
第3回　公務員の勤務関係特別権力関係、国家公務員法・地方公務員法における勤務関係
第4回　公務員の権利身分保障の権利、給与請求権など財産に関する権利、労働基本権の制限
第5回　公務員の義務法令及び上司の命令に従う義務、信用失墜行為の禁止、秘密を守る義務など
第6回　公安職の仕事内容と採用試験消防官・警察官・自衛官の仕事の内容と採用試験の概要
第7回　公安職人事担当者講演会（1）消防官人事担当者の講演
第8回　公安職人事担当者講演会（2）警察官人事担当者の講演
第9回　公安職人事担当者講演会（3）自衛官人事担当者の講演
第10回　ワークシート（1）ワークシート記入
第11回　ワークシート（2）ワークシート発表と質疑応答
第12回　面接試験対策講座（1）面接試験に対する対策
第13回　面接試験対策講座（2）模擬面接と面接の指導
第14回　論文試験対策講座（1）論文の作成
第15回　論文試験対策講座（2）論文の添削と指導

履修上の注意点

皆勤を目指すとともに、授業に積極的に参加する。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

必要な場合に適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験　（　）　小テスト　（ 20 ）
授業中課題　（ 20 ）　授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 40 ）
公安職を含めた公務員に関する小テストを一回か二回実施する。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発研究Ⅱ〈Ga〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　今久保　幸生	

テーマ

グローバル経済とグローバル企業の研究

授業の到達目標

グローバル経済とグローバル企業の動向を把握させた上で、経済や企業のグローバル化のもとで不可欠となる、グループ活動のなかで個人が主体的・能動的に課題に取り組む力を身につけさせる。

授業の概要

経済のグローバル化、グローバル企業の動向について講義で概観したあと、いくつかの調査研究グループを編成してグループ発表と討論を実施するとともに、グループワークによる特定課題に関する取り組みを行わせる。可能であれば、グローバル企業で活躍されているビジネスマンに、その豊かな経験を伺う機会も設けたい。

準備学習（予習・復習）

グループ発表の場合もグループワークの場合も、テーマに関する、専時事問題であれ経済や企業の根本問題であれ、グループ構成者全員がそれぞれ独自な解答を提示しうるよう、新聞、雑誌などあらゆる媒体が提示する情報にがむしゃらに取り組んで、問題感覚を研ぎ澄ましておくこと。これが必ず主体的な対応力を持つ自己形成に役立つからである。

内　容

第1回　授業の狙いや進め方のガイダンスとグループ編成など
第2回　経済のグローバル化1
第3回　経済のグローバル化2
第4回　経済のグローバル化3
第5回　グローバル企業の展開
第6回　グループ発表と討論1
第7回　グループ発表と討論2
第8回　グループ発表と討論3
第9回　グループ発表と討論4
第10回　グループワーク1
第11回　グループワーク2
第12回　グループワーク3
第13回　グループワーク4
第14回　グローバル企業の実務家による講義
第15回　グローバル企業への就職について（まとめ）

履修上の注意点

私語は厳禁。部活や就活による欠席は出席扱いとはしない。

教科書

用いない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ 70 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発研究Ⅱ〈Gb〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　30
履修条件	クラス指定
担 当 者　野村　幸一郎	

テーマ

グローバル化の中の日本とアジア

授業の到達目標

日本と中国・ASEANの関係を経済の観点から考えていく

授業の概要

グローバル化が進む世界状況の中でヒト・モノ・カネの往来がますます盛んになりつつある。日本人学生と留学生が合同で実施するこの授業では、グループワークを中心に、日本とアジアの関係を学び、留学生の知恵を借りながら、「メイド・イン・ジャパン」をさらにグローバル化していく方法を考えていく。併せてダブルトラックの形で、100年前に日本人が体験した明治のグローバリゼーションについても学んでいく。

準備学習（予習・復習）

授業で配布するプリントは事前に読んでくること。

内　容

第1回　全体の説明
第2回　グローバル化する日本とアジア・グローバル化する就職活動
第3回　グループワーク　橘大学をグローバル化しよう
第4回　日本経済のグローバル化（1）
第5回　日本経済のグローバル化（2）
第6回　学外見学　明治のグローバリゼーション（1）　梅小路鉄道博物館
第7回　グループワーク　梅小路鉄道博物館　振り返り学習
第8回　日本経済と中国（1）
第9回　日本経済と中国（2）
第10回　学外見学　明治のグローバリゼーション（2）　伏見　月桂冠・寺田屋
第11回　グループワーク　伏見　月桂冠　寺田屋　見学振り返り
第12回　日本経済とASEAN（1）
第13回　日本経済とASEAN（2）
第14回　学外見学　明治のグローバリゼーション（3）　京都御所・新島襄邸
第15回　グループワーク　京都御所・新島襄亭　振り返り学習

履修上の注意点

学外見学は水曜日の1，2限で実施する。見学料は大学負担になるが交通費は個人の負担になる。水曜日の1限目にほかの授業が入っている場合は、学外見学は欠席することになるが、かならずグループワークで個人で見学に行っておくこと。この場合見学料は個人負担になるので注意すること。

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 60 ）	授業中発表等　（　）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発研究Ⅲ <Ga>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　宇都宮　麻美.吉田　斉	

テーマ

就職筆記試験を突破するための総合的な学力の養成

授業の到達目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を中心に、多様化する筆記試験対策授業を実施。就職筆記試験で高得点で突破するために、最重要単元を中心に応用～発展レベルを確実に解法に導ける学力を養成する。

授業の概要

授業計画に沿って、重要単元における応用～発展的問題レベルまでを問題演習中心の授業を実施し、本番レベルの問題までを、改めてインプットしていく。

準備学習（予習・復習）

授業で出した課題の提出

内　容

第1回　ガイダンス・プレテスト
第2回　言語分野①　語彙・読解総合演習Ⅰ
第3回　言語分野②　語彙・読解総合演習Ⅱ
第4回　言語分野③　文章力養成　発展編Ⅰ
第5回　言語分野④　文章力養成　発展編Ⅱ
第6回　言語分野⑤　文章力養成　発展編Ⅲ
第7回　非言語分野①　SPI重要単元発展編　計算・計数Ⅰ
第8回　非言語分野②　SPI重要単元発展編　計算・計数ⅠⅡ
第9回　非言語分野③　SPI重要単元発展編　数的推理・論証Ⅰ
第10回　非言語分野④　SPI重要単元発展編　数的推理・論証Ⅱ
第11回　非言語分野⑤　SPI重要単元発展編　数的推理・論証Ⅲ
第12回　非言語分野⑥　SPI以外の筆記試験対策Ⅰ
第13回　非言語分野⑦　SPI以外の筆記試験対策Ⅱ
第14回　非言語分野⑧　SPI以外の筆記試験対策Ⅲ
第15回　非言語分野⑨　SPI以外の筆記試験対策Ⅳ

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト
著者:　株式会社イング
出版社:　株式会社イング
出版年:　2013年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）
授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発研究Ⅲ <Gb>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　峰　浩司.濱田　剛.柳　あず美	

テーマ

就職筆記試験を突破するための総合的な学力の養成

授業の到達目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を中心に、多様化する筆記試験対策授業を実施。就職筆記試験で高得点で突破するために、最重要単元を中心に応用～発展レベルを確実に解法に導ける学力を養成する。

授業の概要

授業計画に沿って、重要単元における応用～発展的問題レベルまでを問題演習中心の授業を実施し、本番レベルの問題までを、改めてインプットしていく。

準備学習（予習・復習）

授業で出した課題の提出

内　　容

第1回　ガイダンス・プレテスト
第2回　言語分野①　語彙・読解総合演習Ⅰ
第3回　言語分野②　語彙・読解総合演習Ⅱ
第4回　言語分野③　文章力養成　発展編Ⅰ
第5回　言語分野④　文章力養成　発展編Ⅱ
第6回　言語分野⑤　文章力養成　発展編Ⅲ
第7回　非言語分野①　SPI重要単元発展編　計算・計数Ⅰ
第8回　非言語分野②　SPI重要単元発展編　計算・計数ⅠⅡ
第9回　非言語分野③　SPI重要単元発展編　数的推理・論証Ⅰ
第10回　非言語分野④　SPI重要単元発展編　数的推理・論証Ⅱ
第11回　非言語分野⑤　SPI重要単元発展編　数的推理・論証Ⅲ
第12回　非言語分野⑥　SPI以外の筆記試験対策Ⅰ
第13回　非言語分野⑦　SPI以外の筆記試験対策Ⅱ
第14回　非言語分野⑧　SPI以外の筆記試験対策Ⅲ
第15回　非言語分野⑨　SPI以外の筆記試験対策Ⅳ

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト
著者:　株式会社イング
出版社:　株式会社イング
出版年:　2013年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）
授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発研究Ⅳ <Ga>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　宇都宮　麻美.吉田　斉	

テーマ

就職筆記試験を高得点で突破するための実践力の養成

授業の到達目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を中心に、多様化する筆記試験対策授業を実施。本番での就職筆記試験を想定、答練形式の授業実施により、応用～発展レベルの問題を時間内に確実に解法に導ける実践力を養成する。

授業の概要

授業計画に沿って、キャリア開発講座Ⅱ、キャリア開発講座Ⅲ、及びキャリア開発研究Ⅲで学んだことを、模試・解答解説方式での実施。アウトプット中心の授業を実践していく。

準備学習（予習・復習）

授業で出した課題の提出

内　容

第1回　ガイダンス・プレテスト
第2回　言語分野①　SPI　WEBテスト対策Ⅰ
第3回　言語分野②　SPI　WEBテスト対策Ⅱ
第4回　言語分野③　SPI　WEBテスト対策Ⅲ
第5回　言語分野④　SPI　模試式実践演習Ⅰ
第6回　言語分野⑤　SPI　模試式実践演習Ⅱ
第7回　非言語分野①　SPI　WEBテスト対策Ⅰ
第8回　非言語分野②　SPI　WEBテスト対策Ⅱ
第9回　非言語分野③　SPI　WEBテスト対策Ⅲ
第10回　非言語分野④　SPI　模試式実践演習Ⅰ
第11回　非言語分野⑤　SPI　模試式実践演習Ⅱ
第12回　非言語分野⑥　SPI　模試式実践演習Ⅲ
第13回　非言語分野⑦　SPI以外　模試式実践演習Ⅰ
第14回　非言語分野⑧　SPI以外　模試式実践演習Ⅱ
第15回　非言語分野⑨　SPI以外　模試式実践演習Ⅲ

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト
著者:　株式会社イング
出版社:　株式会社イング
出版年:　2013年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）
授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

Syllabus

科 目 名	キャリア開発研究Ⅳ <b>		
クラス		配当回生	学部3回生
講義期間	その他	定　　員	50
履修条件		クラス指定	
担 当 者	（休講）		
テーマ			
授業の到達目標			
授業の概要			
準備学習（予習・復習）			
内　　容			
履修上の注意点			
教科書			
参考書			

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**キャリア開発研究Ⅳ <Gb>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　峰　浩司.柳　あず美	

テーマ

就職筆記試験を高得点で突破するための実践力の養成

授業の到達目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重点項目である。「SPI試験」を中心に、多様化する筆記試験対策授業を実施。本番での就職筆記試験を想定、答練形式の授業実施により、応用～発展レベルの問題を時間内に確実に解法に導ける実践力を養成する。

授業の概要

授業計画に沿って、キャリア開発講座Ⅱ、キャリア開発講座Ⅲ、及びキャリア開発研究Ⅲで学んだことを、模試・解答解説方式での実施。アウトプット中心の授業を実践していく。

準備学習（予習・復習）

授業で出した課題の提出

内　　容

第1回　ガイダンス・プレテスト
第2回　言語分野①　SPI　WEBテスト対策Ⅰ
第3回　言語分野②　SPI　WEBテスト対策Ⅱ
第4回　言語分野③　SPI　WEBテスト対策Ⅲ
第5回　言語分野④　SPI　模試式実践演習Ⅰ
第6回　言語分野⑤　SPI　模試式実践演習Ⅱ
第7回　非言語分野①　SPI　WEBテスト対策Ⅰ
第8回　非言語分野②　SPI　WEBテスト対策Ⅱ
第9回　非言語分野③　SPI　WEBテスト対策Ⅲ
第10回　非言語分野④　SPI　模試式実践演習Ⅰ
第11回　非言語分野⑤　SPI　模試式実践演習Ⅱ
第12回　非言語分野⑥　SPI　模試式実践演習Ⅲ
第13回　非言語分野⑦　SPI以外　模試式実践演習Ⅰ
第14回　非言語分野⑧　SPI以外　模試式実践演習Ⅱ
第15回　非言語分野⑨　SPI以外　模試式実践演習Ⅲ

履修上の注意点

教科書

イングオリジナルテキスト
著者:　株式会社イング
出版社:　株式会社イング
出版年:　2013年　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）
授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

Syllabus

科 目 名　**キャリア開発研究Ⅴ〈a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　その他	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**キャリア開発研究Ⅴ <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　その他	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名	キャリア開発研究Ⅵ		
クラス		配当回生	学部3回生
講義期間　その他		定　　員	50
履修条件		クラス指定	
担 当 者			
テーマ			
授業の到達目標			
授業の概要			
準備学習（予習・復習）			
内　　容			
履修上の注意点			
教科書			
参考書			

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教職入門**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　岩本　賢治	

テーマ

教職（教師）には、どのような資質・能力・役割が求められているのか

授業の到達目標

本授業では、教師の職務内容、教師の役割のあり方、その歴史的変遷などの理解を通じて、教師としての資質及び教師の果たすべき役割について多角的に考察する。また、適宜、教職への意欲を向上させ、進路選択に有効となる内容も組み込んでいく。(1) 教科指導、特別活動、道徳・総合的な学習の時間の各分野にわたる教師の職務について、その概要を理解する。(2) 教師の職務の特質・役割、教師の権利と責任について、その概要を理解する。(3) 教育の諸問題について、自分の意見を持ち、グループで意見を交流し、意見表明ができる。

授業の概要

教育とは何か、学校とは何か、その中で教師の果たす役割とその意義はどこにあるかを教師の一日をつづりながら考えていきたい。学校を舞台にした映画とテレビドラマから代表的な3作品を視聴し、子どもたちにとって学校とは何かを考える。さらに教育領域としての総合的な学習の時間や道徳の時間を取りあげ、最近の教育動向とともに講義する。最後に学校教育を支える教育行政の役割を中心に、特に子どもの貧困化からくる諸問題と就学援助制度の果たす役割を考える。

準備学習（予習・復習）

教育や保育、子どもの現状についての新聞報道やテレビのドキュメンタリーなどを積極的に見て考えるようにする。授業の後で、その日の授業で自分が考えたことなどを振り返り、疑問点などがあれば調べて深めていく努力をする。

内　　容

第1回　学校とは—講義のガイダンスと今日の教育問題の概説。グループ分けをするので、かならず出席のこと。
第2回　教師の一日①—朝の会から終わりの会まで。生活指導
第3回　教師の一日②—教師の話術と授業づくり。教科指導
第4回　教師の一日③—保健室から見た学校と子どもたち
第5回　教師の一日④—特別な支援を要する子どもたち
第6回　物語のなかの教師①—テレビドラマ「3年B組金八先生」の視聴と分析
第7回　物語のなかの教師②—映画「学校」（前半）の視聴と分析
第8回　物語のなかの教師③—映画「学校」（後半）の視聴と分析
第9回　物語のなかの教師④—映画「フリーダムライターズ」の視聴と分析
第10回　教師のしごと①—道徳の教科化と『私たちの道徳』
第11回　教師のしごと②—道徳・総合的学習の時間とシティズンシップ教育
第12回　教師のしごと③—子どもの貧困と就学援助制度
第13回　教師と教育行政①—教育基本法全面改正と学校教育
第14回　教師と教育行政②—教育委員会、教員評価、教員研修
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

・グループでの討論と発表を行うので、出席を重視する。・現代の教育の諸問題について日常から関心を持ち、新聞やテレビ・ラジオ・インターネット等による情報を得て、授業中に発表できるようにしておく。

教科書

講義内で配布する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

講義中に紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ 55 ）
授業中課題 （ 15 ）　　授業中発表等 （ 15 ）
参加度 （ 15 ）

ask201d110

小テスト　第15回にそれまでの講義の要点を確認します。授業中課題　各授業の最後に短いレポートを書きます。授業中発表等　授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明の内容で評価します。参加度 授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明の積極性で評価します。

2016 Syllabus

科 目 名　**教育心理学 <a>**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　南 憲治

テーマ

中等教育段階の子どもの発達と教育

授業の到達目標

中等教育段階の子ども（中学生・高校生）における発達と教育の問題に関する教育心理学領域における基本的な知見を理解するとともに、教職への関心・意欲を高めることを目的とする。

授業の概要

中学生・高校生の発達と教育の問題に焦点を当てて、新学習指導要領や学校教育現場での諸問題を踏まえ、教育心理学の基本領域における概念や研究成果について講義をする。

準備学習（予習・復習）

予習の必要はありませんが、教科書と配布資料を基に、講義内容を自分で整理して下さい。

内　容

第6回　授業の心理学
第7回　学習指導と評価
第8回　欲求不満とその解消
第9回　個人差の理解・その1（知的能力）
第10回　個人差の理解・その2（性格）
第11回　学級の心理学
第12回　不適応とカウンセリング
第13回　発達障害・その1（自閉症スペクトラム障害）
第14回　発達障害・その2（学習障害とADHD）
第15回　まとめ
第1回　発達とは何か
第2回　発達段階と発達課題
第3回　学習のメカニズム
第4回　記憶のメカニズム
第5回　学習への動機づけと学力形成

履修上の注意点

予習の必要はないが、復習については、毎時間、配布資料を基に、講義内容の整理・確認をすること。

教科書

たのしく学べる最新教育心理学
著者:　桜井茂男（編）
出版社:　図書文化
出版年:　2004　　ISBN:　9784810034196

参考書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 80 ）　　小テスト（ 20 ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教育心理学 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　南 憲治	

テーマ

中等教育段階の子どもの発達と教育

授業の到達目標

中等教育段階の子ども（中学生・高校生）における発達と教育の問題に関する教育心理学領域における基本的な知見を理解するとともに、教職への関心・意欲を高めることを目的とする。

授業の概要

中学生・高校生の発達と教育の問題に焦点を当てて、新学習指導要領や学校教育現場での諸問題を踏まえ、教育心理学の基本領域における概念や研究成果について講義をする。

準備学習（予習・復習）

予習の必要はありませんが、教科書と配布資料を基に、講義内容を自分で整理して下さい。

内　容

第1回　発達とは何か
第2回　発達段階と発達課題
第3回　学習のメカニズム
第4回　記憶のメカニズム
第5回　学習への動機づけと学力形成
第6回　授業の心理学
第7回　学習指導と評価
第8回　欲求不満とその解消
第9回　個人差の理解・その1（知的能力）
第10回　個人差の理解・その2（性格）
第11回　学級の心理学
第12回　不適応とカウンセリング
第13回　発達障害・その1（自閉症スペクトラム障害）
第14回　発達障害・その2（学習障害とADHD）
第15回　まとめ

履修上の注意点

予習の必要はないが、復習については、毎時間、配布資料を基に、講義内容の整理・確認をすること。

教科書

たのしく学べる最新教育心理学
著者：　桜井茂男（編）
出版社：図書文化
出版年：2004　　ISBN：　9784810034196

参考書

成績評価

試験　（ 80 ）	小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育原論 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　八木 英二	

テーマ

教育の基本問題と教育改革

授業の到達目標

そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討し、教職科目全体の学習につながるおよそのイメージがつかめるようにすることを目的とする。

授業の概要

教師は何のために教え、子どもはなぜ学校で学ぶのか、といった永遠の問いとしての教育の理念・歴史・思想をふまえ、発達と教育の関係、内容・方法など教育実践における基本的単位の意義を考察する。そして、教科指導や生活指導、教養教育と職業(専門)教育などの領域に関する位置づけ、教育制度にかかわる公共性の意義や改革問題、接続問題や進路問題、教師専門職の在り方などについて概観する。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　教育の理念(教育とは何か、なぜ私たちは学ぶのか)
第2回　教育の歴史(明治の教育改革と近代学校の成立、戦後の教育改革)
第3回　教育の思想(公教育の成立と教育思想の発展)
第4回　学習指導要領について(何をどのように教えるか、教育課程の編成原理)
第5回　学校制度・施設のあり方(新旧教育基本法と学校制度システム)
第6回　教育の公共性(公共性の創造と人格形成)
第7回　発達と教育(発達と教育の区別と連関)
第8回　教育階梯(接続問題の現状と課題)
第9回　生活指導実践の意義(いじめその他の教育病理に対応する生活指導の原理)
第10回　様々な教育方法(教育内容・教材・教具の工夫と実践指導)
第11回　教科指導の意義(教科間領域や科目毎の指導と評価の意義)
第12回　進路指導(学校から仕事への移行の重要性)
第13回　教育専門職論(教師専門職としての職務内容や役割)
第14回　教育改革動向(現代の教育改革と学力問題)
第15回　父母との関係(学校教育と家庭教育の違いと関連)

履修上の注意点

様々な教育書を意欲的に探索し学生同士で論議を深めることを薦めるが、直接に教育と関係のないものでも、価値ある文学書や社会科学書などにたっぷりふれ、人間の理解を深めることを期待する。

教科書

教師の役割変化を問う
著者:　八木英二
出版社:　三学出版
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

新・教育学(第2版)
著者:　南新・佐々木・吉岡の共編
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2009　　ISBN:

成績評価

試験　(40)　　小テスト　( )
授業中課題　(20)　　授業中発表等　(20)
参加度　(20)
最終時間に試験を課する。授業出席と授業中の発表ならびにレスポンスカードを総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**教育原論 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　春期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　八木 英二	

テーマ

教育の基本問題と教育改革

授業の到達目標

そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討し、教職科目全体の学習につながるおよそのイメージがつかめるようにすることを目的とする。

授業の概要

教師は何のために教え、子どもはなぜ学校で学ぶのか、といった永遠の問いとしての教育の理念・歴史・思想をふまえ、発達と教育の関係、内容・方法など教育実践における基本的単位の意義を考察する。そして、教科指導や生活指導、教養教育と職業(専門)教育などの領域に関する位置づけ、教育制度にかかわる公共性の意義や改革問題、接続問題や進路問題、教師専門職の在り方などについて概観する。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　教育の理念(教育とは何か、なぜ私たちは学ぶのか)
第2回　教育の歴史(明治の教育改革と近代学校の成立、戦後の教育改革)
第3回　教育の思想(公教育の成立と教育思想の発展)
第4回　学習指導要領について(何をどのように教えるか、教育課程の編成原理)
第5回　学校制度・施設のあり方(新旧教育基本法と学校制度システム)
第6回　教育の公共性(公共性の創造と人格形成)
第7回　発達と教育(発達と教育の区別と連関)
第8回　教育階梯(接続問題の現状と課題)
第9回　生活指導実践の意義(いじめその他の教育病理に対応する生活指導の原理)
第10回　様々な教育方法(教育内容・教材・教具の工夫と実践指導)
第11回　教科指導の意義(教科間領域や科目毎の指導と評価の意義)
第12回　進路指導(学校から仕事への移行の重要性)
第13回　教育専門職論(教師専門職としての職務内容や役割)
第14回　教育改革動向(現代の教育改革と学力問題)
第15回　父母との関係(学校教育と家庭教育の違いと関連)

履修上の注意点

様々な教育書を意欲的に探索し学生同士で論議を深めることを薦めるが、直接に教育と関係のないものでも、価値ある文学書や社会科学書などにたっぷりふれ、人間の理解を深めることを期待する。

教科書

教師の役割変化を問う
著者:　八木英二
出版社:　三学出版
出版年:　2013　　ISBN:

参考書

新・教育学(第2版)
著者:　南新・佐々木・吉岡の共編
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2009　　ISBN:

成績評価

試験　(40)　　小テスト　( )
授業中課題　(20)　　授業中発表等　(20)
参加度　(20)
最終時間に試験を課する。授業出席と授業中の発表ならびにレスポンスカードを総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**道徳教育の理論と方法**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　碓井　敏正.岩本　賢治	

テーマ

学校教育における道徳教育の可能性

授業の到達目標

押し付けであっては、道徳教育の効果はない。学校教育を通して、子どもたちが自然と道徳性をいかに身につけるかを学ぶことを目標とする。

授業の概要

道徳概念の基本的意味を明らかにしながら、現代日本の学校教育においてどのような道徳教育が可能か、色々な角度から実践的に考えることを課題とする。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　道徳とは何か
第2回　中学生期の発達の特徴
第3回　道徳教育の歴史（明治～大正）
第4回　道徳教育の歴史（戦後）
第5回　全面主義と特設主義
第6回　他の教科と道徳教育の関連
第7回　道徳教育と特別活動
第8回　道徳教育と総合学習
第9回　道徳の内容の理解
第10回　家庭、地域と道徳教育
第11回　道徳の時間の年間計画
第12回　道徳の時間の教材研究
第13回　道徳の時間の指導案づくり
第14回　道徳教育の実践と評価の方法
第15回　まとめ

履修上の注意点

時事的な話題として取り上げられる、教育問題や現代の青少年の精神状況や行動の特徴などに絶えず、関心を払うこと。

教科書

中学校指導書・道徳編　必ず購入すること
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

中学校学修指導要領
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

その他はその都度指示する。
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験　（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育制度論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　八木　英二	

テーマ

現代日本の教育制度の基礎をなす原理とその展開について学び、課題を発見する。

授業の到達目標

現代日本の教育制度の基礎をなす制度原理とその展開について基礎的な理解と、教育改革の現状について考察し、課題を発見して学習研究を行うことを目標とする。

授業の概要

現代日本の教育の基本理念、学校制度、教育行政、教職員法制の原理と展開について概説し、学習研究の課題を提示する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　Ⅰ 憲法・教育基本法制 ①憲法の教育条項
第3回　同 上 ②教育基本法の制定と改正
第4回　同 上 ③国際教育法
第5回　Ⅱ 学校制度 ①初等・中等教育制度
第6回　同 上 ②就学奨励制度
第7回　同 上 ③教科書制度
第8回　同 上 ④学校の組織運営
第9回　Ⅲ 教育行政制度 ①中央教育行政組織
第10回　同 上 ②教育委員会制度の創設
第11回　同 上 ③教育委員会制度の展開
第12回　Ⅳ 教職員法制 ①教員養成・免許制度
第13回　同 上 ②教員採用制度
第14回　同 上 ③教員研修制度
第15回　同 上 ④教員評価制度

履修上の注意点

講義を通じ、または自主的に発見した課題について、教育関係の雑誌、情報等で問題の所在と改革の課題を学習研究し、中間または最終的なレポートにまとめることが望ましい。

教科書

現代教育制度論
著者:　土屋基規編
出版社: ミネルヴァ書房
出版年:　　ISBN:

参考書

現代教育法概説
著者:　平原・室井・土屋 共
出版社: 学陽書房
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 50 ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**特別活動論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　池田　修	

テーマ

特別活動の具体的な事例を考察し、ワークショップを通して学ぶ。

授業の到達目標

特別活動の事例を理解し、指導計画を作成すること、体験することを目的とする。

授業の概要

特別活動が示す領域を理解し、その後、学級活動の指導、行事に関わる指導、安全指導について学ぶ。特に安全指導では、ワークショップを取り入れる。課題が多く出ることを予め告げておく。ワード、エクセル、e-mailはある程度使えることが望ましい。

準備学習（予習・復習）

母校に行く機会を作り、各種行事に関する職員会議資料を見せてもらうと良い。想像以上に綿密に計画が立てられていることが分かるだろう。また、それを参考に自分で計画を立ててみるのも勉強になるだろう。

内　容

第1回　特別活動とは 特別活動が扱う領域を学習指導要領で確認する。
第2回　学級活動 1 日常生活。当番活動、係り活動、教科係り、プロジェクトチーム。学級開き（ゲーム、why-becausegame, 流れ）、学級収め、どう言い返すのワーク（データ収集）、掃除指導、席替え、班長会議、連絡カード
第3回　学級活動 2 学級行事。転入生を迎える、転校生を送り出す、進路指導、進路宣言、安全指導
第4回　その他 学芸行事／体育大会／学年行事／学校行事／儀式など 担任の仕事
第5回　課題作成 遠足指導の実踏計画 遠足指導の実踏計画を作成する。
第6回　遠足指導の実踏計画を作成する。（アイデア出し）
第7回　遠足指導の実踏計画を作成する。（実地調査）
第8回　遠足指導の実踏計画を作成する。（まとめ）
第9回　課題回収 お礼状の書き方指導
第10回　特別授業 学校教育現場の第一線で活躍されている先生にお越しいただき、特別活動を中心に講義と演習をしていただく。（理論）
第11回　特別授業 学校教育現場の第一線で活躍されている先生にお越しいただき、特別活動を中心に講義と演習をしていただく。（実践）
第12回　特別授業 学校教育現場の第一線で活躍されている先生にお越しいただき、特別活動を中心に講義と演習をしていただく。（質疑応答）
第13回　特別授業まとめ 授業を受けて、自分の課題、学んだことについての文章を書く。今村先生にお礼状を書く。
第14回　特別授業まとめ 特別授業の講義を受けての体験作文を書く。
第15回　まとめ 特別活動論を振り返りながら評価する。書き込み回覧作文で振り返る。最終課題の提示。

履修上の注意点

教科書

特になし
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

学習指導要領
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験 （ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育方法論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　梅本　裕	

テーマ

＜授業をつくる＞ことへのイメージを育む

授業の到達目標

教授＝学習過程としての授業過程を理論的に把握するための基礎概念と基礎技法を習得するとともに学習指導要領に示される内容を正確に理解するための知識を身につけること。より具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、学習指導要領に即した改善のための処方的知見を得ることができるようになること。

授業の概要

80年代以降の日本の教育実践の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリーシステムを活用して学習者が「生き生きと学べる授業」の要件を考察する。

準備学習（予習・復習）

自分の追求する免許教科の学習指導要領を手元に置き、熟読すると共に、授業において常に参照できるようにしておくこと。

内　容

第1回　「あの坂の名は？」：社会科における発信型の授業と学力とは何か？
第2回　「見たこと作文」：子どもが＜動く＞授業の条件とは？
第3回　「木の葉の駅で」：発問の構造
第4回　「発電所はどこにあるか？」：教授行為とは何か？
第5回　授業づくりのカテゴリーとしての＜指示・発問・説明・応答・調整＞
第6回　「お化け屋敷で算数を」：こどもたちの理解の構造をさぐる
第7回　「絵を描くのは苦手です」：教育内容と方法の開発論理
第8回　「声を育てる音楽の授業」：＜雰囲気のいい授業＞の構造は？
第9回　「世界とつながる、深く調べる」：コンピュータとインターネットでできること
第10回　「蟹と戯れるのは誰か？」：言語技術としての＜分析ツールを教える＞国語の授業
第11回　「琵琶湖で学ぶ」：総合学習とは何か？
第12回　授業づくりの記号論的構造：＜教育内容・教材・教具・授業行為・理解構造・評価＞
第13回　「これからの学校・授業と情報機器」：授業の機能とITの活用
第14回　「地球の大きさはどれくらい？」：イメージをそだてる授業の構造
第15回　まとめ

履修上の注意点

単位認定には3分の2以上の出席が前提となる。実習などで欠席する場合は、事前に欠席届を提出すること。

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 50 ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（　）
参加度（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育相談**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　芦名　猛夫

テーマ

カウンセリングマインドと人間関係づくり

授業の到達目標

心の病の諸相を知ること。教育相談関連の初歩的理論と技法を知ること。学校現場での人間関係づくりのためにカウンセリングマインドの活用を図る基礎力を身につける。

授業の概要

講義を主とするが、随時指名して発言を求めたり、バズ学習、人間関係づくりのエクササイズビデオ視聴などを入れながら進める。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　授業ガイダンス、教育相談の意義："今なぜ教育相談？"
第2回　教育相談の機能と限界
第3回　教育相談の歩み
第4回　教育相談の事例検討（1）不登校、いじめ等
第5回　教育相談の事例検討（2）対人恐怖、神経症等
第6回　ストレスマネイジメント
第7回　教育相談に役立つ基礎的理論と技法（1）精神分析論（フロイト）
第8回　〃　（2）自己理論　（ロジャーズ）
第9回　〃　（3）行動理論、論理療法
第10回　〃　（4）交流分析、ゲシュタルト理論他
第11回　人間理解とカウンセリングマインド
第12回　人間関係づくりのエクササイズ
第13回　望ましいコミュニケーションのために
第14回　まとめと復習
第15回　試験

履修上の注意点

教育に関するニュースや情報を新聞やネットで知る。小説・自伝・人物評論などの読書、引きこもり・対人恐怖・摂食障害など心の問題を扱った読書。さまざまな機会をとらえ、人間ウオッチング（いろんな人がいるなー！）に努める。

教科書

参考書

学習指導要領(中学校)
著者：
出版社：文部科学省
出版年：平成20年3月　　ISBN：

生徒指導提要
著者：
出版社：文部科学省
出版年：平成22年3月　　ISBN：

成績評価

試験　（ 70 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 10 ）　　授業中発表等　（ 10 ）
参加度　（ 10 ）
試験問題を含めて授業への集中参加が成績評価を左右します。

2016 Syllabus

科 目 名　**英語科教育法Ⅰ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　中井　弘一	

テーマ

授業業作りのABC

授業の到達目標

授業とは・授業づくりとはどういうものかを、体験を通じて理解する。また、英語教師として最低限必要な英語力をつける。

授業の概要

模擬授業を積極的に行い、授業づくりに必要な基礎的技術を身につけていく。ほとんどの授業で発表・模擬授業がある。この授業はプロフェッショナルへの第１歩である。受講者は甘えず、真摯に課題に取り組み、積極的に授業に参加することが求められる。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　イントロダクション　英語を学ぶとはどのような体験か。
第2回　英語教師のレベルに達する学習の仕方の紹介、発音練習（リズムチャンツ）
第3回　「教材研究とは」説明と体験。発音練習（リズムチャンツ2）
第4回　英語授業の構造。教案の書き方。発音練習（リズムチャンツ3）
第5回　「文法の導入とは」場面づくりの方法。発音練習　（破裂音1）
第6回　模擬授業1（前置詞、疑問詞）「内容の導入とは」Oral Introduction の方法発音練習（破裂音2）
第7回　模擬授業2(助動詞、中3題材内容) Oral interaction の方法発音練習（破裂音3）
第8回　模擬授業3（不定詞、中2題材内容）先輩の授業から学ぶ　発音練習（摩擦音1）
第9回　模擬授業4（現在完了、中1題材内容）単語の提示の仕方　発音練習（摩擦音2）
第10回　模擬授業5（比較、高校題材内容）　場面転換の方法　発音練習（破擦音）
第11回　模擬授業6（受動態、中3題材内容）指示・発問の大切さ　発音練習（鼻音）
第12回　模擬授業を通じて、授業の進め方の基礎となる技術を習得する。（種々の言語活動）発音練習（側音）
第13回　模擬授業8（関係代名詞、高校題材内容）生徒への関与、人間関係づくり　発音練習（半母音）
第14回　学習指導案の書き方　ビデオによる反省　今までの授業と自分の学びを省察。
第15回　まとめ

履修上の注意点

数多くでている英語教育・教授法の本に目を通し、自分なりの考えを持って、授業づくりにのぞむこと。指定された文献を読む。

教科書

New Crown English Series New Edition(Book1, 2, 3)
著者:
出版社: 三省堂
出版年:　　ISBN:

現代英語教授法総覧』
著者:　田崎清忠 編著（1995）
出版社: 大修館
出版年: 1995　　ISBN:

参考書

中学校学習指導要領解説外国語編
著者:
出版社: 開隆堂出版社
出版年: 2008　　ISBN:

高等学校学習指導要領解説　外国語編
著者:
出版社: 開隆堂出版社
出版年: 2009　　ISBN:

ask203d110

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）
授業中課題＜提出物・レポート＞（ 40 %）、参加・貢献度（ 30 %）、授業中発表等<模擬授業含む＞（ 30 %）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語科教育法Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　中井　弘一	

テーマ

授業づくりのABC，授業者としての感覚づくり、理論と実践の橋渡し。

授業の到達目標

英語教師として最低限必要な英語力をつける。50分の授業を計画でき、実際に行うことができるようになる。「英語教授のための原理・原則」を学び、実際の授業への応用を考えることができるようになる。

授業の概要

英語科教育法Iの達成の上に、教授技術のさらなる体得を目指す。導入や展開のみならず、50分の授業づくりを体験する。4技能に特有な教授技術を学び、総合的なプロジェクト・ワークを体験する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　再イントロダクション　発音練習（子音総復習）
第2回　英語授業の構造～導入から説明・音読へ～　50分授業の組み立て方種々の音読法　発音練習（短母音１）
第3回　グループによる50分模擬授業（１）　理論と実践「第２言語習得理論と教授法」
第4回　ビデオによる授業検討会　理論と実践「コミュニケーション能力とは」発音練習（短母音２）
第5回　グループによる50分模擬授業（２）理論と実践「語彙習得論」
第6回　グループによる模擬授業と授業検討会
第7回　ビデオによる授業検討会　理論と実践「自動性の獲得」発音練習（短母音３）
第8回　グループによる50分模擬授業（３）理論と実践「有意味学習」
第9回　ビデオによる授業検討会　理論と実践「報酬と罰～外発的動機づけ」発音練習（二重母音）
第10回　グループによる50分模擬授業（４）理論と実践「内発的動機づけ」
第11回　Reading活動と授業づくり。理論と実践「学習方略」発音練習（音の変化１）
第12回　Listening活動と授業づくり。理論と実践「言語自我と自信」発音練習（音の変化２）
第13回　Writing活動と授業づくり。理論と実践「言語と文化」発音練習（総合練習１）
第14回　Speaking 活動と授業づくり。理論と実践「中間言語」発音練習（総合練習２）
第15回　Project Work 活動と授業づくり。まとめ。

履修上の注意点

数多くでている英語教育・教授法の本に目を通し、自分なりの考えを持って、授業づくりにのぞむこと。指定された文献を読む。

教科書

New Crown English Series NewEdition(Book1，2，3)
著者：
出版社：三省堂
出版年：　　ISBN：

新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践
著者：　三浦省吾・深沢清治編著
出版社：ミネルバ書房
出版年：2009　　ISBN：

参考書

学習指導要領
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）

授業中課題＜提出物・レポート＞（ 40 %）、参加・貢献度（ 30 %）、授業中発表等<模擬授業含む＞（ 30 %）

2016 Syllabus

科 目 名　**英語科教育法Ⅲ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　梅本　裕	

テーマ

授業業作りのABC

授業の到達目標

授業とは・授業づくりとはどういうものかを、体験を通じて理解する。また、英語教師として最低限必要な英語力をつける。

授業の概要

国内・国外における英語教育の現状を紹介し、個々の授業においてどのように活かしていけるかを考察し、実現できるよう工夫していく。

準備学習（予習・復習）

なるべく多くの英文を読むこと。多読が英語学力の基礎である。

内　容

第1回　これからの英語教育
第2回　異文化コミュニケーションとは？
第3回　異文化理解のための教育とは？（日本における異文化理解の歴史から学ぶ）
第4回　異文化理解のための教育とは？（諸外国の事例に学ぶ）
第5回　リーディングの指導における異文化理解の指導
第6回　実践・模擬授業（リーディングを中心としたコミュニケーション）
第7回　ライティングの指導における異文化理解の指導
第8回　実践・模擬授業（ライティングを中心としたコミュニケーション）
第9回　スピーキングとリスニングの指導における異文化理解の指導
第10回　実践・模擬授業（スピーキングを中心としたコミュニケーション）
第11回　海外におけるESL教育における文化理解指導（アメリカ合衆国、カナダの事例）
第12回　海外におけるESL教育における文化理解指導（オーストラリア、ニュージーランドの事例）
第13回　異文化への態度変容と外国語学習
第14回　実践・模擬授業（第11回目、12回で学んだ海外の事例をもとにして）
第15回　まとめ

履修上の注意点

毎回、授業に必要な学習用具をきちんと持参すること。筆記具や辞書、参考書以外の持参物は授業時に指示する。なお、授業は、当然、定刻に始めるので遅刻をしないこと。

教科書

英語科教育法I・IIと共通

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 60 ）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（　）	

授業中発表等には授業中の課題も含む。

2016 Syllabus

科 目 名　**国語科教育法Ⅰ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　池田　修	

テーマ

国語科授業の基本的な指導法に触れる

授業の到達目標

学校現場に立った時すぐに行わなければならない国語科の基本的な指導について、具体的にその方法に触れる。具体的には、漢字、読書、作文、音読などの項目について学習集団に対しての指導法を理解する。

授業の概要

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な参加を期待する。＊　受講生の取り組み具合、受講生のリクエストなどによって多少の変更は想定される。外部講師をお招きする可能性もある。

準備学習（予習・復習）

「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組での授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように働きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も勧める。

内　　容

第1回　国語科って何？　授業ガイダンス。学習指導要領では？　どんな力をつける教科なの？　国語科教育の歴史　学習権宣言
第2回　国語の授業を作る基礎。発声の基礎、板書の基礎、教室の立ち位置、チョークの持ち方。
第3回　メモ指導。聞く生徒を育てるために。　箇条書き、マッピング、マンダラート、KJ法。
第4回　漢字指導　1。漢字カルタ、漢字ウォーリーを捜せ、津川式超記憶術、漢字ドリル、漢字ルーツプリント
第5回　漢字指導　2。自作漢字学習教材の相互評価　四字熟語でポン たほいや　簡単な学習ゲーム論。
第6回　読書指導　1。読むは、書くである。読書感想文、読書郵便、朝の読書、書き抜きエッセイ、読書へのアニマシオン。
第7回　読書指導　2。「書き込み回覧作文」による評価　和綴じ本づくり。
第8回　作文指導　1。体験作文指導の哲学。作文は、料理に似ている、原稿用紙の使い方。
第9回　作文指導　2。アイディア出し、リサーチ、タイトルの付け方、書きはじめの指示、推敲、評価。
第10回　作文指導　3。「書き込み回覧作文」による評価　テスト問題のつくり方。
第11回　小テストと定期考査。国語科で行うテストについて、具体的に考え、実際に作ってみる。
第12回　音読／プレゼン指導。滑舌調音、群読、ショウ＆テル、ことわざスピーチバトル、評価の実際。
第13回　句会方式による指導。句会、人生名言集、こんな本なら読んでみたいタイトルコンテスト。
第14回　小テストと定期考査と採点方法。第11回の授業で求められた課題としての考査問題を、お互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。
第15回　国語科教育法1を評価する。「書き込み回覧作文」による国語科教育法1の評価。

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。出席君と掲示板へ授業後の課題提出を合わせて、出席をカウントすることを理解すること。

教科書

まともな日本語教えない勘違いだらけの国語教育
著者：　有元秀文
出版社：合同出版
出版年：　　ISBN：

いちばんやさしい教える技術
著者：　向後千春
出版社：永岡書店
出版年：　　ISBN：

実践へのヒント　国語科授業用語の手引き　第二版
著者：　中原國明・大熊徹編
出版社：教育出版
出版年：　　ISBN：

ask203d510

国語科資料総覧
著者:　吉野教育図書編集部
出版社: 吉野教育図書
出版年:　ISBN:

発問の作法
著者:　野口芳宏
出版社: 学陽書房
出版年:　ISBN:

参考書

中学校言語能力がぐーんと身につく学習ゲーム集
著者:　石川晋・平山雅一
出版社: 学事出版
出版年:　ISBN:

みんな言葉を持っていた
著者:　柴田保之
出版社: オクムラ書店
出版年:　ISBN:

一斉指導10の原理100の原則
著者:　堀 裕嗣
出版社: 学事出版
出版年:　ISBN:

新版　教師になるということ
著者:　池田修
出版社: 学陽書房
出版年:　ISBN:

読書で遊ぼうアニマシオン
著者:　モセラット・サルト
出版社: 柏書房
出版年:　ISBN:

プレイフル・ラーニング
著者:　上田信行×中原淳
出版社: 三省堂
出版年:　ISBN:

授業の作法
著者:　野口芳宏
出版社: 学陽書房
出版年:　ISBN:

これだけは身につけたい　超定番！　授業づくりの基礎・基本
著者:　八木正一・上條晴夫
出版社: 学事出版
出版年:　ISBN:

奇跡の教室
著者:　伊藤氏貴
出版社: 小学館
出版年:　ISBN:

白川静さんに学ぶ　漢字は楽しい
著者:　小山鉄郎
出版社: 新潮文庫
出版年:　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　小テスト （ 10 ）
授業中課題 （ 40 ）　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**国語科教育法Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　池田　修	

テーマ

実技教科としての国語科のあり方を探る

授業の到達目標

教師が「教科書を読んで板書して解説して」という国語科を脱却し、学習者が主体的に学びに参加する国語科の授業を構築するための観点と方法を手に入れることを目的とする。

授業の概要

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。また、学習班を単位として「模擬授業」「教材作り」「学習ゲーム」などの活動を行う。＊　受講生の取り組み具合、受講生のリクエストなどによって多少の変更は想定される。外部講師をお招きする可能性もある。

準備学習（予習・復習）

「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組での授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように働きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も勧める。

内　　容

第1回　国語科と教材作り　授業ガイダンス。夏休みの課題の相互評価。ワークシートの実例から、教材とは何かを考える。学習班づくり。発問とは何か？
第2回　国語科を実技教科として考える。学習ゲーム、ワークシート、資料集作り、辞書作り、アンソロジーノート、対義語でポン、和綴じ本作りなど。
第3回　学習ゲームの実際。辞書しり取り、たほいや、why-becauseゲーム、無関係ゲーム、ディベート、J1百人一首など。人生名言集。
第4回　ワークシートの実際。短編問題集、漢字学習、言語事項学習など。実際にゲームを作ってみる　スピーチテスト。
第5回　指導案の書き方　1。授業のビデオを見て、その授業の指導案を書いてみる。
第6回　指導案の書き方　2。指導案の相互評価。
第7回　定番教材の指導　韻文。中学校の定番教材として扱われる韻文の指導方法を学習指導要領の5観点から検討する。
第8回　定番教材の指導　散文。中学校の定番教材として扱われる散文の指導方法を学習指導要領の5観点から検討する。
第9回　定番教材の指導　古典。中学校の定番教材として扱われる古典の指導方法を学習指導要領の5観点から検討する。
第10回　作成教材の検討　1。定番教材として提出した教材を実際に使って、定期考査を作る。
第11回　国語教育の現在　1。メディアリテラシー教育。メディア断食、CMの分析、番組作りなど。
第12回　国語教育の現在　2。コンピュータと国語。タッチタイプ、ブログ、デジタルストーリーテーリング、読書感想文など。
第13回　作成教材の検討　2。第10回の授業で求められた課題としての考査問題を、お互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。評価／評定指導。評価とは何か、評価から評定への実際。
第14回　模擬授業　1　5分程度の模擬授業を全員が行う。
第15回　模擬授業　2　5分程度の模擬授業を全員が行う。国語科教育法2のまとめ。

履修上の注意点

遅刻、欠席は基本的に認めない。但し、事前に分かっている個別の案件については、予め授業者に相談する。許可の場合、欠席届を事前に提出のこと。体調不良や、社会正義を貫くことで急に遅刻欠席をする場合は、授業開始前までにメールで連絡のこと。欠席した場合、事後速やかに欠席届を提出のこと。

教科書

教師のための「教える技術」
著者：　向後千春
出版社：明治図書
出版年：　　ISBN：

白石範孝の国語授業の教科書
著者：　白石範孝
出版社：東洋館出版
出版年：　　ISBN：

ask203d650

授業づくりエンターテイメント
著者:　藤川大祐
出版社:　学事出版
出版年:　　ISBN:

参考書

中学校言語能力がぐーんと身につく学習ゲーム集
著者:　石川晋・平山雅一
出版社:　学事出版
出版年:　　ISBN:

みんな言葉を持っていた
著者:　柴田保之
出版社:　オクムラ書店
出版年:　　ISBN:

一斉指導10の原理100の原則
著者:　堀 裕嗣
出版社:　学事出版
出版年:　　ISBN:

新版　教師になるということ
著者:　池田修
出版社:　学陽書房
出版年:　　ISBN:

読書で遊ぼうアニマシオン
著者:　モセラット・サルト
出版社:　柏書房
出版年:　　ISBN:

プレイフル・ラーニング
著者:　上田信行×中原淳
出版社:　三省堂
出版年:　　ISBN:

授業の作法
著者:　野口芳宏
出版社:　学陽書房
出版年:　　ISBN:

これだけは身につけたい　超定番！　授業づくりの基礎・基本
著者:　八木正一・上條晴夫
出版社:　学事出版
出版年:　　ISBN:

奇跡の教室
著者:　伊藤氏貴
出版社:　小学館
出版年:　　ISBN:

白川静さんに学ぶ　漢字は面白い
著者:　小山鉄郎
出版社:　新潮文庫
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 10 ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 30 ）
グループで行う模擬授業と、個人で行う模擬授業を評価では重点とします。準備、実際、まとめとそれぞれを丁寧に取り組むこと。

2016 Syllabus

科 目 名　**国語科教育法Ⅲ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　渡邉　久暢	

テーマ

中等国語科教育の実践的な学習指導の研究

授業の到達目標

中学校・高等学校における国語科授業の構成、実施、評価にかかわる知識、能力を身につける。特に、教材研究、授業計画、授業分析の実際を通して力量を高める。

授業の概要

高等学校における「国語総合」の学習指導案を作成し、その模擬授業を行うことを通して、上記の目標を達成する。活動を通して、力を培う形式で行う。指導案はパソコン室で作成する。模擬授業を主たる評価の対象とする。

準備学習（予習・復習）

指定テキストをふまえて事前課題（別途指示）を提出した上で授業に臨むこと。

内　容

第1回　中学校・高等学校国語科教育の目標と内容―平成20年版学習指導要領から―①　読むこと
第2回　中学校・高等学校国語科教育の目標と内容―平成20年版学習指導要領から―②-書くこと・話すこと・聞くこと
第3回　新しい学習指導要領に向けた動き
第4回　学習指導案作成のポイントと評価の仕方
第5回　文学的文章の学習指導①
第6回　文学的文章の学習指導②
第7回　文学的文章の学習指導③
第8回　文学的文章の学習指導④
第9回　模擬授業に向けた指導案の作成①
第10回　模擬授業に向けた指導案の作成②
第11回　模擬授業に向けた指導案の作成③
第12回　模擬授業に向けた指導案の作成④
第13回　模擬授業
第14回　模擬授業
第15回　ふりかえり

履修上の注意点

テキストは、繰り返し熟読した上で授業に臨むこと。

教科書

教室における読みのカリキュラム設計
著者：　八田幸恵
出版社：日本標準
出版年：2015　　ISBN：　9784820805878

今求められる学力と学びとは　コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影
著者：　石井英真
出版社：日本標準
出版年：2015　　ISBN：　9784820805823

参考書

国語科授業づくり入門
著者：　堀 裕嗣
出版社：明治図書
出版年：２０１４　　ISBN：　4181660168

成績評価

試験　（６０）　　小テスト（０）
授業中課題（４０）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）

ask203d710

指定された教材での模擬授業を、主たる評価の対象とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**社会科教育法Ⅰ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　岩本　賢治	

テーマ

戦後社会科教育の政策の変化と実践史への理解

授業の到達目標

戦後社会科教育の政策の変化と実践史への理解を通じて、今日の社会科教育の目標と課題について考察を深める。特に社会科教育の実践例と特徴ある教材を分析することにより、自分が受けてきた社会科教育のイメージにとらわれることなく、社会科教育のあるべき実践の姿について考えられるようになる。1　社会科教育の諸理論や意義について理解している2　社会科教育並びに授業をめぐる諸課題について理解している3　社会科教育並びに授業について、自分なりの意見を持っている。

授業の概要

講義の前半では、戦後社会科教育の成立から現在に至るまでの社会科教育の歴史を振り返りながら、社会科教育の目標について考える。 後半では、教材研究を行う。現行の教科書の問題点、戦後社会科教科書の記述の変遷、戦後社会科教育実践の分析から、社会科教育実践上の課題について考える。

準備学習（予習・復習）

高等学校（社会科：地歴科・公民科）の復習、特に履修していない科目などについては教科書を準備して少しずつ復習する。社会科の内容は時事問題も含 まれるで、新聞やTVでニュースに注意する。また、授業で扱った社会事象や社会問題を復習する。このようなことを、毎日1時間程度行う。

内　　容

第1回　中学生・高校生の意識状況（大学生の被教育体験を振り返りながら）
第2回　戦後社会科教育の歴史①（戦前の皇民化教育について）
第3回　戦後社会科教育の歴史②（戦後の初期社会科について）
第4回　戦後社会科教育の歴史③（系統主義か生活主義か）
第5回　戦後社会科教育の歴史④（指導要領の改訂と社会科教育）
第6回　戦後社会科教育実践の授業分析①（やまびこ学校・無着成恭）
第7回　戦後社会科教育実践の授業分析②（アメリカの授業）
第8回　戦後社会科教育実践の授業分析③（江戸時代の授業）
第9回　戦後社会科教育実践の授業分析④（商品の価格の授業）
第10回　戦後社会科教育実践の授業分析⑤（未成年模擬投票）
第11回　教科書の研究－日本の社会科教科書の変遷
第12回　社会科教材の工夫と活用①（地域の教材化）
第13回　社会科教材の工夫と活用②（地域の教材化）
第14回　社会科教材の工夫と活用③（地域の教材化）
第15回　社会科教材の工夫と活用④（地域の教材化）

履修上の注意点

図書館などにある授業実践を記録した書籍などに触れるようにしてほしい。

教科書

中学校学習指導要領解説社会編
著者：　文部科学省
出版社：日本文教出版
出版年：2008年9月　　ISBN：

参考書

中学校学修指導要領
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 40 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 15 ）
参加度　（ 15 ）	

ask203d910

小テスト　第5回、第10回、第15回に講義内容に関する小テストを実施します。授業中課題　各授業の最後に短いレポートを書きます。授業中発表等　毎時間社会科教育で使える教材を探してきて、どこでどのように使えそうか、説明する。参加度 授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明で評価します。

2016 Syllabus

科 目 名　**社会科教育法Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　岩本　賢治	

テーマ

中等社会科の目標、内容、方法について、教材分析と授業づくりを通じて基本的な理解を深める。

授業の到達目標

1　中等社会科の目標、内容、方法に関する基本的な理解を深めるために、中学校　・高等学校の社会科の歴史とすぐれた社会科実践の分析を行う中で、教材づくり　の視点と方法を学ぶ。2　中等社会科の授業案づくりを作成して、実践力を身につける。

授業の概要

中等社会科について戦後社会科の誕生から現在までの学習指導要領の歴史、民間の社会科実践のあゆみ、中学校教科書論、教材論、社会科の授業案を作成する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　戦後社会科教育実践史から学ぶ① —中学校世界地理の授業づくりと学力（安井俊夫「西アジアの遊牧」実践・ビデオ視聴）
第2回　戦後社会科教育実践史から学ぶ② —高校日本史の授業づくりと学力（加藤公明「徳政一揆」実践・ビデオ視聴）
第3回　ものを創る授業と社会科教育①—火おこしと原始技術（火おこし器の製作）
第4回　ものを創る授業と社会科教育②—火おこしと原始技術（火おこしの実習）
第5回　戦後社会科教育実践史から学ぶ③ —高校地理の授業づくりと学力（「紀の川市の工業から産業空洞化を考える」実践・ビデオ視聴）
第6回　戦後社会科教育実践史から学ぶ④ —高校公民の授業づくりと学力（「21世紀の国際理解」実践・ビデオ視聴）
第7回　ものを創る授業と社会科教育③—石器と土器（打製石器と磨製石器）
第8回　ものを創る授業と社会科教育④—石器と土器（縄紋のいろいろ）
第9回　社会科教育における学力問題①—加藤文三『すべての子どもに100点を』実践の分析
第10回　社会科教育における学力問題②—牧野英一「教科書用語ビンゴマッキーノ」実践の分析
第11回　社会科教育における学力問題③—社会科教科書用語ビンゴカードの製作
第12回　社会科教材の工夫と活用①—日本地理カルタの製作のための調査・研究
第13回　社会科教材の工夫と活用②—日本地理カルタの製作
第14回　社会科教材の工夫と活用③—日本地理カルタの製作と学習ゲーム体験
第15回　中等社会科教育実践の歴史とまとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

中学校学習指導要領
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト　（ 50 ）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等　（ 15 ）
参加度　（ 15 ）

小テスト　第15回にそれまでの講義の要点を確認する。授業中課題　各授業の最後に短いレポートを書きます。授業中発表等　毎時間社会科教育で使える教材を探してきて、どこでどのように使えそうか、説明する。参加度 授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明で評価します。

2016 Syllabus

科 目 名　**社会科教育法Ⅲ**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可　　クラス指定

担 当 者　岩本 賢治

テーマ

模擬授業の計画と実践を通して、教材研究や教科指導の力を養う。

授業の到達目標

教育実習での研究授業（公開授業）を念頭において、「学習指導案（細案）」を作成することができる。授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。協力して授業実践を行うことを通して、授業研究や授業改善の方法を知る。

授業の概要

小集団または個人によって教材を開発し、学習指導案を作成する。さらに模擬授業実践を行い、それを検討するまでを行う。

準備学習（予習・復習）

社会科の授業の教材や教具として利用できないかを考えるという視点を常にもつ。普段から小中学生でもわかるような話し方を意識する。各授業での発表について、内容や方法を検討し、感想や意見を交換できるよう準備をしておく。

内　容

第1回　オリエンテーションとグループ分け（地・歴・公）
第2回　授業づくりと教材研究の方法 ① 目標と内容—学習指導要領と教科書
第3回　授業づくりと教材研究の方法 ② 教材と教授法—説明と発問と指示
第4回　地理的分野の授業分析（ブラジルの授業）
第5回　歴史的分野の授業分析（アジア太平洋戦争の授業）
第6回　公民的分野の授業分析（人権の歴史の授業）
第7回　模擬授業と講評、相互評価 ①地理的分野（近畿地方）
第8回　模擬授業と講評、相互評価 ②地理的分野（近畿地方）
第9回　模擬授業と講評、相互評価 ③地理的分野（近畿地方）
第10回　模擬授業と講評、相互評価 ④歴史的分野（アジア太平洋戦争）
第11回　模擬授業と講評、相互評価 ⑤歴史的分野（アジア太平洋戦争）
第12回　模擬授業と講評、相互評価 ⑥歴史的分野（アジア太平洋戦争）
第13回　模擬授業と講評、相互評価 ⑦公民的分野（基本的人権の尊重）
第14回　模擬授業と講評、相互評価 ⑧公民的分野（基本的人権の尊重）
第15回　まとめ 模擬授業の振り返りと自己評価

履修上の注意点

教科書

中学校学習指導要領解説　社会編
著者:　文部科学省
出版社:　日本文教出版
出版年:　2008年9月　　ISBN:

参考書

中学校学習指導要領
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 70 ）　　授業中発表等　（ 15 ）
参加度　（ 15 ）

授業中課題　各授業の最後に短いレポートを書きます。模擬授業の学習指導案を作成します。模擬授業を行います。授業中発表等　毎時間社会科教育で使える教材を探してきて、どこでどのように使えそうか、説明する。参加度 授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明で評価します。

2016 Syllabus

科 目 名　**社会科教育法Ⅳ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　倉持　祐二.岩本　賢治.片岡　裕介.南　憲治	

テーマ

地理教育の内容理解と授業づくり

授業の到達目標

中等社会科の地理分野を中心に、中学校学習指導要領(地理的分野の目標、内容)、中学校の地理的分野の教科書構成を検討し、生徒の興味・関心を引き出しながら、地理的な見方や考え方を培うための地理的分野の教材開発と授業づくりの方法を学ぶ。

授業の概要

系統地理分野から地形図学習、地図学習、世界と日本の地形、環境問題、エネルギー問題を取り上げ教材構成と授業手法の検討を行う。地誌の分野では、世界の諸地域からアフリカ、アジア、ヨーロッパ、アメリカを取り上げ、グループで模擬授業を行い、授業研究を行う。また、日本の諸地域では、受講者が個人で学習テーマを設定して授業をつくり、模擬授業を行う。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　生徒が楽しく地形図学習と地図学習をする教材と授業方法を考える
第2回　生徒が楽しく世界の気候・日本の気候を学ぶことができる教材を考える。
第3回　地域統計に関する情報収集の仕方と主題図の作成と読解の手法を学ぶ。
第4回　【共同研究１】現代世界の環境問題／エネルギー問題について教材研究をする。
第5回　地球環境問題・エネルギー問題について教材構成と授業手法を検討する。
第6回　「世界の諸地域(1)－アフリカ：地下資源に恵まれたアフリカが貧しいのはなぜか」の授業を体験し、授業づくりの手法を学ぶ。
第7回　【共同研究２】世界の諸地域(2)アジア州とヨーロッパ州—食べ物を教材にした授業を考える
第8回　食べ物を教材にした地理の模擬授業と授業研究
第9回　【共同研究３】世界の諸地域(3)北アメリカ州－移民から見えてくるアメリカ社会を教材研究
第10回　アメリカ合衆国を教材にした模擬授業と教材研究
第11回　【共同研究４】日本の諸地域の範囲で、学生一人ひとりが学習テーマを設定して授業をつくる。
第12回　模擬授業と合評会(1)グループ①
第13回　模擬授業と合評会(2)グループ②
第14回　模擬授業と合評会(3)グループ③
第15回　身近な地域の調査－コンビニエンスストアを取り上げ、商業店舗の立地用件を学ぶ。

履修上の注意点

教科書

中等社会科ハンドブック —〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き—
著者：　二谷貞夫他
出版社：学文社
出版年：2013　　ISBN：

参考書

中学校学修指導要領
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

地理授業で使いたい教材資料
著者：　地理教育研究会編
出版社：清水書院
出版年：2014　　ISBN：

中学校学習指導要領　解説
著者：　社会科編
出版社：
出版年：平成20年7月　　ISBN：

ask203e210

高等学校学習指導要領　解説

著者:　地理歴史編

出版社:

出版年:　平成21年12月　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題（ 60 ）　　授業中発表等（　）

参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**書道科教育法Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　前期集中　　定　員

履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可　　クラス指定

担 当 者　西村 大輔

テーマ

講義や模擬授業を通して、高等学校芸術科書道の確かな指導力を身につけるとともに、その現状と課題について考える。

授業の到達目標

高等学校の指導内容と現状を把握し、教科教材の研究・開発から、実際に現場でしっかりとした授業が行えるように準備・展開できるようにする。「書道科教育法Ⅱ」にあっては、書道Ⅱ、書道Ⅲ(漢字、かな、漢字仮名交じり他)を主として進める。また、いろいろな教材の可能性についての模索に取り組みたい。積極的な意見交換が行われ、書道教育の新たな展開を図りたい。

授業の概要

①高等学校芸術科書道の現状理解や指導案作成、指導方法等についての講義。②指導案(細案)及び年間指導計画の作成。③作成した指導案に基づく模擬授業及び相互講評。

準備学習(予習・復習)

模擬授業での適正な計画や準備などのため、相当量の家庭での学習と取り組みが必要になる。また、教育実習に向けての諸準備も怠らないようにしたい。

内　容

第1回　基本的な内容の講義Ⅰ(①高等学校芸術科書道についての概説、②指導案作成法、③指導方法の基本、等)
第2回　基本的な内容の講義Ⅱ(①高等学校芸術科書道についての概説、②指導案作成法、③指導方法の基本、等)
第3回　授業の基本についての実践(短時間での模擬授業)
第4回　模範授業(指導者による授業)
第5回　模擬授業Ⅰ(指導案略案に基づく短時間での模擬授業及び講評)
第6回　模擬授業Ⅱ(指導案略案に基づく短時間での模擬授業及び講評)
第7回　模擬授業①(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第8回　模擬授業②(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第9回　模擬授業③(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第10回　模擬授業④(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第11回　模擬授業⑤(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第12回　模擬授業⑥(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第13回　模擬授業⑦(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第14回　模擬授業⑧(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)
第15回　模擬授業⑨(指導案細案に基づく模擬授業及び講評)

履修上の注意点

教科書

書Ⅰ(文部科学省検定済教科書)
著者:　高木聖雨、宮澤正明　他
出版社:　光村書店
出版年:　　ISBN:　9784895286046

参考書

学習指導要領
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　(0)　　小テスト　(0)
授業中課題　(40)　　授業中発表等　(40)
参加度　(20)
レポート、模擬授業での意欲的な取り組み、出席率等、総合的に評価することとする。

2016 Syllabus

科 目 名　**書道科教育法Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　西村　大輔	

テーマ

講義や模擬授業を通して、高等学校芸術科書道の確かな指導力を身につけるとともに、その現状と課題について考える。

授業の到達目標

高等学校の指導内容と現状を把握し、教科教材の研究・開発から、実際に現場でしっかりとした授業が行えるように準備・展開できるようにする。「書道科教育法Ⅱ」にあっては、書道Ⅱ、書道Ⅲ〈漢字、かな、漢字仮名交じり他〉を主として進める。また、いろいろな教材の可能性についての模索に取り組みたい。積極的な意見交換が行われ、書道教育の新たな展開を図りたい。

授業の概要

①高等学校芸術科書道の現状理解や指導案作成、指導方法等についての講義。②指導案（細案）及び年間指導計画の作成。③作成した指導案に基づく模擬授業及び相互講評。

準備学習（予習・復習）

模擬授業での適正な計画や準備などのため、相当量の家庭での学習と取り組みが必要になる。また、教育実習に向けての諸準備も怠らないようにしたい。

内　容

第1回　発展的な内容の講義Ⅰ（①高等学校芸術科書道についての現状と課題、②書道Ⅱ・Ⅲを含めた指導案作成法、③指導方法の基本、等）
第2回　発展的な内容の講義Ⅱ（①高等学校芸術科書道についての現状と課題、②書道Ⅱ・Ⅲを含めた指導案作成法、③指導方法の基本、等）
第3回　模擬授業①（指導案細案に基づく模擬授業及び講評）
第4回　模擬授業②（指導案細案に基づく模擬授業及び講評）
第5回　模擬授業③（指導案細案に基づく模擬授業及び講評）
第6回　模擬授業④（指導案細案に基づく模擬授業及び講評）
第7回　模擬授業⑤（指導案細案に基づく模擬授業及び講評）
第8回　模擬授業⑥（指導案細案に基づく模擬授業及び講評）
第9回　模擬授業⑦（指導案細案に基づく模擬授業及び講評）
第10回　模擬授業⑧（指導案細案に基づく模擬授業及び講評）
第11回　模擬授業⑨（指導案細案に基づく模擬授業及び講評）
第12回　模擬授業⑩（指導案細案に基づく模擬授業及び講評）
第13回　模擬授業⑪（指導案細案に基づく模擬授業及び講評）
第14回　模擬授業⑫（指導案細案に基づく模擬授業及び講評）
第15回　模擬授業⑬（指導案細案に基づく模擬授業及び講評）

履修上の注意点

教科書

書Ⅰ（文部科学省検定済教科書）
著者:　高木聖雨、宮澤正明　他
出版社:　光村書店
出版年:　　ISBN:　9784895286046

参考書

学習指導要領
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度　（ 20 ）
レポート、模擬授業での意欲的な取り組み、出席率等、総合的に評価することとする。

2016 Syllabus

科 目 名　**地歴科教育法Ⅰ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　井ノ口　貴史	

テーマ

地歴科教育の意義・課題と授業方法

授業の到達目標

高校地歴科分野の学習内容とその変遷を分析することにより、現代史学習や現代の課題を学ぶことが求められていることを理解する。また、子どもの授業参加を創り出す方法について学ぶ。

授業の概要

教育実習に向けて、教材研究の仕方、地歴科の授業の作り方、指導案の書き方を学び、教材を作成する。

準備学習（予習・復習）

新聞やTVニュース、小説や映画などにふれ、歴史や地理についての関心を深めて欲しい

内　　容

第1回　学習指導要領をよむ：21世紀の中等社会科の重要課題は何か
第2回　授業の作り方：教材研究をどう進めるか
第3回　授業の作り方：教材をどう作るか
第4回　学習指導案の作り方：先輩の学習指導案と授業づくりに学ぶ
第5回　地理の導入教材を作る：仮説実験授業でイスラームのイメージをつくる
第6回　世界史の導入教材を作る：ギリシア世界
第7回　授業プランをつくる：古代中国史の学習を素材にして
第8回　新聞記事を導入にして現代史の授業を作る
第9回　模擬授業と学習指導案の検討
第10回　導入教材の作成と模擬授業（1）
第11回　導入教材の作成と模擬授業（2）
第12回　導入教材の作成と模擬授業（3）
第13回　導入教材の作成と模擬授業（4）
第14回　導入教材の作成と模擬授業（5）
第15回　模擬授業の振り返り

履修上の注意点

教科書

社会認識を育てる教材・教具と社会科の授業づくり
著者：　井ノ口貴史・倉持祐二
出版社：三学出版
出版年：2015年　　ISBN：

参考書

中等社会科ハンドブック　―〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き―』
著者：　二谷貞夫・和井田清司・小林汎・大野一夫・吉田俊弘編
出版社：学文社
出版年：2014年　　ISBN：

成績評価

試験　（ 0% ）　　小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 60% ）　　授業中発表等（ 10% ）
参加度（ 30% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**地歴科教育法Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　井ノ口　貴史	

テーマ

地歴科の授業づくりと模擬授業

授業の到達目標

現職教師の授業づくりの方法を学ぶとともに、教科書をもとに実際に授業を作って、模擬授業と授業研究をする。

授業の概要

教育実習に向けて、教材研究の仕方、地歴科の授業の作り方、指導案の書き方を学び、教材を作成する。

準備学習（予習・復習）

全国の著名な実践家の授業実践報告を読んだり、民間の教育研究団体の研究会に参加して、現場で授業づくりをおこなっている教師の生の声を聞いて欲しい。

内　　容

第1回　同時代史の授業づくりと実践報告を検討する
第2回　模擬授業と授業研究（1）
第3回　模擬授業と授業研究（2）
第4回　模擬授業と授業研究（3）
第5回　模擬授業と授業研究（4）
第6回　模擬授業と授業研究（5）
第7回　模擬授業と授業研究（6）
第8回　模擬授業と授業研究（7）
第9回　模擬授業と授業研究（8）
第10回　模擬授業と授業研究（9）
第11回　模擬授業と授業研究（10）
第12回　模擬授業と授業研究（11）
第13回　模擬授業と授業研究（12）
第14回　模擬授業と授業研究（13）
第15回　模擬授業と授業研究（14）

履修上の注意点

教科書

中等社会科ハンドブック　―〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き―
著者：　二谷貞夫・和井田清司・小林汎・大野一夫・吉田俊弘編
出版社：学文社
出版年：2014年　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 0% ）	小テスト（ 0% ）
授業中課題（ 60% ）	授業中発表等（ 10% ）
参加度　（ 30% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**公民科教育法Ⅰ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　井ノ口　貴史	

テーマ

公民科教育の意義・内容・課題

授業の到達目標

多様化する現代社会について理解を深め、民主的で平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養うために、高校公民科教育の意義や内容についての理解を深める。特に、高校での公民科の授業を追体験することで、カリキュラム作成、教材開発、授業評価の実際を学ぶ。

授業の概要

新聞の切り抜きをもとにした「社会科通信」づくりを通して、現代の社会が抱える諸問題を教材化させ、授業づくりの方法論、学習指導案の書き方、授業評価の方法を実践的に学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　学習指導要領のもとでの公民科の位置づけとそれを具体化する授業づくりを考える
第2回　「日本国憲法の成立」の授業づくりを通して学習指導案の書き方を学ぶ
第3回　身近なものを教材化する－コンビニから戦後の小売業を考える
第4回　身近なものを教材化する－コンビニから情報化社会を考える
第5回　身近なものを教材化する－コンビニから食糧自給を考える
第6回　メディアリテラシー：今日のニュースや国際紛争・事件をどのように教材化するか
第7回　新聞で学ぶ現代の社会－「９．１１」からイラク戦争を教材化する
第8回　新聞で学ぶ現代の社会－「９．１１」以降の実践記録の特徴を検討する
第9回　経済分野の授業：経済学入門をどう教材化するか
第10回　経済分野の授業：絵本『レモンをお金にかえる方』を教材化する
第11回　憲法の授業をつくる：日米安保条約と沖縄
第12回　憲法の授業をつくる：冷戦終結と日米安保条約
第13回　模擬授業と授業研究（1）
第14回　模擬授業と授業研究（2）
第15回　模擬授業と授業研究（3）

履修上の注意点

人間の生き方・あり方及び社会の現実と理想について関心を持ち、そうした分野の読書をすること。新聞を読み、時事問題に留意すること

教科書

中等社会科ハンドブック―〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き―
著者：　二谷貞夫・和井田清司・小林汎・大野一夫・吉田俊弘編
出版社：学文社
出版年：2013　　ISBN：

参考書

高等学校学習指導要領解説　公民編
著者：
出版社：文部科学省
出版年：平成22年　　ISBN：

中等社会科の理論と実践
著者：　二谷貞夫・和井田清司
出版社：学文社
出版年：2007　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 60 ）	授業中発表等　（ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**公民科教育法Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　井ノ口　貴史	

テーマ

公民科教育の内容理解と授業づくり

授業の到達目標

模擬授業づくりを通して、教材開発の手法とカリキュラムデザインの実際を学ぶ。

授業の概要

「現代社会」「政治経済」「倫理」の中から個人で模擬授業を行い、授業後、授業研究を行う。また、学生が小グループでカリキュラム開発や教材開発を行い、模擬授業を行って、授業研究会を組織する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　学習指導案を検討する：食糧問題の授業づくり
第2回　生命倫理に関する授業を作る：ディベートの手法を学ぶ
第3回　倫理の授業をつくる：尾崎豊を教材に青年期の授業をつくる
第4回　模擬授業と授業研究（1）：第1グループ
第5回　模擬授業と授業研究（2）：第2グループ
第6回　模擬授業と授業研究（3）：第3グループ
第7回　模擬授業と授業研究（4）：第4グループ
第8回　共同研究1：「民主政治の基本原理と日本国憲法」単元の授業案を考える
第9回　模擬授業と授業研究（5）：第5グループ
第10回　模擬授業と授業研究（6）：第6グループ
第11回　共同研究2：「現代の経済」単元の授業案を考える
第12回　共同研究3：「現代の国際政治」単元の授業案を考える
第13回　「民主政治の基本原理と日本国憲法」の模擬授業
第14回　「現代の経済」単元の模擬授業
第15回　「現代の国際政治」の模擬授業

履修上の注意点

人間の生き方・あり方及び社会の現実と理想について関心を持ち、そうした分野の読書をすること。新聞を読み、時事問題に留意すること

教科書

中等社会科ハンドブック―〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き―
著者：　二谷貞夫・和井田清司・小林汎・大野一夫・吉田俊弘編
出版社：学文社
出版年：2013　　ISBN：

参考書

高等学校学習指導要領解説　公民編
著者：
出版社：文部科学省
出版年：平成22年　　ISBN：

中等社会科の理論と実践
著者：　二谷貞夫・和井田清司
出版社：学文社
出版年：2007　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 60 ）　　授業中発表等　（ 10 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**生徒・進路指導**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　井ノ口　貴史	

テーマ

生徒指導とそれを支える生活指導

授業の到達目標

生徒指導の意義と必要性、生徒指導の領域と内容、生徒指導の組織と計画など概念上の理解を深めた上で、生徒指導の今日的課題、クラス経営や生徒会づくりの具体的な指導事例、生徒の学校参加の事例、進路指導の在り方を学ぶことを目的とする。

授業の概要

基本的には、学校現場で見られる事象を紹介し、それについて学生が意見表明をすることを授業の柱にする。授業の中で提示される具体的な事例や資料をもとに、小グループで検討・意見交換をし、全体の場で交流した後に重要ポイントを抽出する。また、事例研究では、具体的な事例に現場教師がどのようにかかわっているかを読み解き、レポートとして提出を義務づける。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　生徒指導の領域と内容：いわゆる「教育困難校」の１日
第2回　学校がどんな組織で運営されているか―校務分掌と組織（生徒指導体制？）
第3回　生徒指導の方法―ゼロ・トレランス方式を考える
第4回　子どもの学校参加の考え方を学ぶ
第5回　「いじめ」事象における生徒指導のあり方
第6回　事例研究「いじめ」事象が疑われる生徒に対する担任教師の指導のあり方を検討する
第7回　生徒指導提要を読む（1）:生徒指導の意義と原理
第8回　生徒指導提要を読む（2）：生徒会活動やホームルーム活動が生徒指導に果たす役割を考える
第9回　生徒指導提要を読む（3）：個別の課題を抱える児童生徒への指導をどうするか
第10回　生徒指導提要を読む（4）：生徒指導に関する法制度を知る
第11回　キャリア教育の理念を学ぶ：目標、進路指導の定義、中学校におけるキャリア教育の特徴
第12回　高校での進路指導の考え方を学ぶ：職業教育の考え方、3年間を見通した指導計画の在り方
第13回　グループ討議：高校時代の進路学習を振り返って、どのような進路指導が必要と考えるか
第14回　事例研究：「カンニング」疑惑を指導した教師の対応を生徒指導の観点から検討する
第15回　事例研究：「部活動における体罰」事例を教職員の連携という視点から検討する

履修上の注意点

新聞やテレビで報道される教育問題について関心を持って切り抜きなどを行う。また、講義テーマについての関連図書を読み込むこと。

教科書

生徒指導提要
著者：　文部科学省
出版社：
出版年：　平成22年　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 60 ）	授業中発表等　（ 10 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育実習Ⅰ**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　集中	定　　員
履修条件　教育実習受講許可者のみ 登録可	クラス指定
担 当 者　岩本　賢治	

テーマ

実りのある教育実習

授業の到達目標

学校現場での実習を通して、学校教育についての正しい理解を深め、教師の役割や指導についての適切な認識と技術を身につけ、教師としての人間性を高めることをめざす。

授業の概要

教育実習生として期待することは3つある。(1)実習校での学校づくりの内容を具体的に知り、そこにこめた願いをつかむこと。(2)大学で学んでいることがらを、教育現場の具体的なとりくみを通して検討し、さらに深めること。(3)教師として、社会人として自らを成長させていくうえでの課題をつかむこと。実習中は、①毎日の教育の記録を書く、②学習指導案を作成し授業を行う、③生徒の様子や自らのとりくみを振り返る、が重点課題となる。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　〇第3週・指導のねらいを明確にして、授業にとりくむ。・児童の新しい面を見いだすように努める。・児童会の組織や実際のとりくみについて知る。

第2回　〇第4週・これまでに学んだことを生かして学習指導案を作成し、研究授業にとりくむ。・実習のまとめをし、成果と課題を明らかにする。なお、この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。

履修上の注意点

公開授業や現場教師の研究会、子どもを対象とした催しやボランティアに参加することを勧める。「教育実習Ⅱ」を参照

教科書

プリント

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

授業時に紹介

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　(　)	小テスト (　)
授業中課題 (50)	授業中発表等 (　)
参加度 (50)	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育実習Ⅱ（3回生枠）**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件　教育実習受講許可者のみ 登録可	クラス指定
担 当 者　岩本　賢治	

テーマ

実りある教育実習（教育実習事前指導）

授業の到達目標

教職関係学習の総決算として、教育実習体験報告会などに参加して、教師への志を確たるものにする

授業の概要

教育実習に向けて、教師として必要な資質、教師の社会的役割について講義、教育実習校決定までの手続きについてのガイダンスをする。その上で、3回生には、教育実習を終えた4回生の実習体験及び研究授業の報告会に参加させ、教育実習に向けての準備をさせる。また、各学校で行われる公開研究会に参加させ、現場教師の授業づくりや授業方法をまなばせる。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　教員の適性について・教育職員免許法について・教育実習について・免許取得の心構えについて
第2回　教員の資質について　・教育実習の実態について－実習生評価票、実習校訪問の結果等に基づいて　・教育実習受講の心構えについて・実習校事前訪問の意義と心構えについて　・教育実習受講資格について（内規）
第3回　ビデオによる教育実習の観察指導
第4回　先輩実習生の教育実習報告及び質疑応答
第5回　教育実習の心得
第6回　現場教員による講演
第7回　教育実習直前指導
第8回　実習簿記入指導と実習後のとるべき措置について及び教育実習反省会や適宜個別指導を行う
第9回　【実習】第１週・学級担任の生徒に対する願いをつかむ。・生徒の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする。・学校の一日のくらしの内容をつかむ。
第10回　【実習】第２週・学習指導案の基本的な内容と様式を知る。・教科教育と教科以外のとりくみのそれ　ぞれの役割と具体的な内容をつかむ。・生徒相互の関係に目をむける。

履修上の注意点

公開授業や現場教師の研究会、子ども対象の催しやボランティア活動等に参加することを望む。

教科書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教職実践演習（中等）<a>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　岩本　賢治	

テーマ

授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、４年間の学びのまとめを行う。そのなかで、教育現場で教師として学級経営や教科指導に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の概要

学生は、履修カルテを読み返して4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。1．子ども理解（①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境）、2．各教科の指導、3．実践的な知識と技能（①学級経営、②生徒指導、）、4．コミュニケーション（①学校における個人の役割、②地域・保護者との関係）、5．教育的愛情。以上の視点に基づいて、履修カルテを読み解いて到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なのかを明確にする。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション－本演習の目的と計画、履修カルテを読み返し自分の課題を明らかにする。
第2回　子ども理解－中学生・高校生を取り巻く社会の現状（グループ討論、発表）
第3回　学級経営－学級活動・ホームルーム活動の組織作りと指導（グループ討議、クラス討議）
第4回　学校行事・生徒会活動の指導（学校現場の調査、グループ討議、クラス討議）
第5回　事例研究（生徒指導）：いじめ問題への教師の対応（グループ討議と発表、クラス討議）
第6回　事例研究（教育相談）：不登校傾向の生徒への担任の関わり方（グループ討議と発表、クラス討議）
第7回　学校現場での進路指導・キャリア教育の在り方（グループ討議、クラス討論）
第8回　各教科（国語科、英語科、社会科、地歴・公民科）の指導力について考える（指導に当たる教員による講義とグループ討論）
第9回　学校訪問：兵庫県立尼崎小田高校を訪問し、授業参観と授業研究会に参加する。
第10回　学校訪問：兵庫県立尼崎小田高校を訪問し、授業参観と授業研究に参加する。
第11回　学校訪問：奈良女子大学附属中等教育学校を訪問し、現場教師から生徒指導の現状を聞く。
第12回　学校訪問：奈良女子大学附属中等教育学校を訪問し、現場教師から特別活動の実践報告を聞く。
第13回　学校訪問での学習成果について研究協議（グループ討議と発表）
第14回　道徳・総合的な学習の時間の指導（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第15回　教師の社会的役割について考え、履修カルテのまとめをする。

履修上の注意点

教科書

特になし（授業内で配布する）
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

特になし（授業内で紹介する）
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）
授業中課題　各授業の最後に短いレポートを書きます。授業中発表等　毎時間、教育問題について新聞記事などからレポートします。参加度 授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明で評価します。

2016 Syllabus

科 目 名　**教職実践演習（中等）<b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　岩本　賢治	

テーマ

授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、４年間の学びのまとめを行う。そのなかで、教育現場で教師として学級経営や教科指導に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の概要

学生は、履修カルテを読み返して4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。1．子ども理解（①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境）、2．各教科の指導、3．実践的な知識と技能（①学級経営、②生徒指導、）、4．コミュニケーション（①学校における個人の役割、②地域・保護者との関係）、5．教育的愛情。以上の視点に基づいて、履修カルテを読み解いて到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なのかを明確にする。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション－本演習の目的と計画、履修カルテを読み返し自分の課題を明らかにする。
第2回　子ども理解－中学生・高校生を取り巻く社会の現状（グループ討論、発表）
第3回　学級経営－学級活動・ホームルーム活動の組織作りと指導（グループ討議、クラス討議）
第4回　学校行事・生徒会活動の指導（学校現場の調査、グループ討議、クラス討議）
第5回　事例研究（生徒指導）：いじめ問題への教師の対応（グループ討議と発表、クラス討議）
第6回　事例研究（教育相談）：不登校傾向の生徒への担任の関わり方（グループ討議と発表、クラス討議）
第7回　学校現場での進路指導・キャリア教育の在り方（グループ討議、クラス討論）
第8回　各教科（国語科、英語科、社会科、地歴・公民科）の指導力について考える（指導に当たる教員による講義とグループ討論）
第9回　学校訪問：兵庫県立尼崎小田高校を訪問し、授業参観と授業研究会に参加する。
第10回　学校訪問：兵庫県立尼崎小田高校を訪問し、授業参観と授業研究に参加する。
第11回　学校訪問：奈良女子大学附属中等教育学校を訪問し、現場教師から生徒指導の現状を聞く。
第12回　学校訪問：奈良女子大学附属中等教育学校を訪問し、現場教師から特別活動の実践報告を聞く。
第13回　学校訪問での学習成果について研究協議（グループ討議と発表）
第14回　道徳・総合的な学習の時間の指導（授業分析・グループ討論・クラス討論）
第15回　教師の社会的役割について考え、履修カルテのまとめをする。

履修上の注意点

教科書

特になし（授業内で配布する）
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

特になし（授業内で紹介する）
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）
授業中課題　各授業の最後に短いレポートを書きます。授業中発表等　毎時間、教育問題について新聞記事などからレポートします。参加度 授業中にグループ討論をします。その際の発言や説明で評価します。

2016 Syllabus

科 目 名　**教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　集中　　定　員

履修条件　教育実習受講許可者のみ
登録可　　クラス指定

担 当 者　岩本 賢治

テーマ

実りある教育実習（教育実習事前指導）

授業の到達目標

教職関係学習の総決算として、教育実習体験報告会などに参加して、教師への志を確たるものにする

授業の概要

教育実習直前指導で実習での心構えと授業観察の要点指導、学習指導案の添削等、個別指導を行う。また、実習後の事後指導として教育実習報告会を行い、3回生へのアドバイスや質問に答える交流会を行う。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　教員の適性について・教育職員免許法について・教育実習について・免許取得の心構えについて
第2回　教員の資質について　・教育実習の実態について－実習生評価票、実習校訪問の結果等に基づいて　・教育実習受講の心構えについて・実習校事前訪問の意義と心構えについて　・教育実習受講資格について（内規）
第3回　ビデオによる教育実習の観察指導
第4回　先輩実習生の教育実習報告及び質疑応答
第5回　教育実習の心得
第6回　現場教員による講演
第7回　教育実習直前指導
第8回　実習簿記入指導と実習後のとるべき措置について及び教育実習反省会や適宜個別指導を行う
第9回　【実習】第１週・学級担任の生徒に対する願いをつかむ。・生徒の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする。・学校の一日のくらしの内容をつかむ。
第10回　【実習】第２週・学習指導案の基本的な内容と様式を知る。・教科教育と教科以外のとりくみのそれ　ぞれの役割と具体的な内容をつかむ。・生徒相互の関係に目をむける。

履修上の注意点

公開授業や現場教師の研究会、子ども対象の催しやボランティア活動等に参加することを望む。

教科書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**教職実践演習（養護）**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　佐藤　浩子	

テーマ

授業の到達目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまと めを行う。そのなかで、学校保健に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資 質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の概要

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と養護実習を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の4点である。1. 児童生徒の理解（①児童生徒の発達と健康、②児童生徒を取り巻く社会と環境）、2. 健康問題支援、3. コミュニケー ション（①学校における養護教諭の役割、②地域・保護者との関係）、4. 教育的愛情。以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完す る。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なのかを明確にする。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　4年間の学習を振り返る―レポート発表
第2回　4年間の学習を振り返る―レポート発表
第3回　健康教育の理解(性と生の教育)―講義・グループワーク
第4回　健康教育の理解(男女平等教育)―講義
第5回　養護教諭の仕事を考える(保護者・教職員・関連機関との連携)
第6回　養護教諭の仕事を考える―事例についてグループワーク
第7回　養護教諭の仕事を考える(学校特性の中での養護活動)①
第8回　養護教諭の仕事を考える(学校特性の中での養護活動)②
第9回　子どもを取り巻く健康課題―講義
第10回　子どもを取り巻く健康課題―事例についてグループワーク
第11回　健康教育の理解(こころの問題)―講義・グループワーク
第12回　スクールカウンセラーの仕事・養護教諭との連携
第13回　健康教育の理解(特別支援教育)―講義・グループワーク
第14回　スクールソーシャルワーカーの仕事・特別支援教育と保健指導
第15回　養護教諭の仕事を考える―子どもへの「養護」と教育職としてのまとめ

履修上の注意点

教科書

授業内で配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内で紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 15 ）
参加度 （ 45 ）
授業中課題40%・・・レポート30%、授業中課題の提出10%授業中発表15%参加度　45%

2016 Syllabus

科 目 名　**養護実習（4回生枠）**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　集中　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　佐藤　浩子

テーマ

実りある養護実習（養護実習事前・事後指導）

授業の到達目標

（獲得目標）教育課程の総決算として、教育現場で実習を行い、養護教諭としての専門的知識の習得と技術を磨き、教職に関する実践的研究的能力と態度を養い、養護教諭への志を確たるものにする。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　（事前指導）養護実習事前ガイダンス・養護実習をはじめるにあたっての準備と関係書類作成・養護実習訪問指導までの流れ
第2回　養護実習事前指導・養護実習の意義と実態について・養護実習の心得・心構えについて・実習校事前訪問・事前打ち合わせについて・養護実習内容について（定期健康診断・研究授業・実習日誌の書き方など）
第3回　養護実習事前指導　養護実習内容について
第4回　養護教諭の職務と実際について
第5回　養護実習反省会　養護実習体験報告を受けてのグループ討議・実践交流　　養護実習の成果と課題・まとめ
（4－3回生合同開催)授業以外での学習方法　公開授業や現場教師の研究会、児童教育学科の学生との情報交流、子ども対象の催しや学校ボランティ活動などに積極的に参加する。

履修上の注意点

教科書

授業内で配布する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内で紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等 （ 0 ）
参加度 （ 50 ）
教育実習評価・授業中課題 （50%）

2016 Syllabus

科 目 名　**生涯学習概論Ⅰ〈a〉**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　吉岡 いずみ

テーマ

生涯学習・社会教育の基礎的理解

授業の到達目標

生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、地域社会における多様な課題を解決する市民の主体形成を支援する職員としての資質形成を目標とする。

授業の概要

わが国における生涯学習・社会教育の歴史的特質の理解を基礎に、社会教育・生涯学習の法制と行政、施設論、地域住民の諸階層の生活課題と学習課題、学校教育、社会福祉との連携協力等、今日的課題について解説し、学習支援に求められる課題を明らかにする。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　生涯学習の意義および、学校教育、社会教育との関係を解説する
第2回　明治期通俗教育から大正期青年教育の成立までにいたる、日本の生涯学習の歴史的特質を解説する。
第3回　昭和期の女性に対する社会教育—婦人教育の成立およびその意義について解説する。
第4回　戦後の社会教育行政の法制と行政の特質について解説する。
第5回　公民館・生涯学習センター等の社会教育施設像の発展について事例に即して解説する。
第6回　社会教育施設としての図書館、博物館の発展について、事例に即して解説する。
第7回　女性の学習の発展および今日的課題としての女性問題の学習について、事例に即して解説する。
第8回　女性の学習としての子育て支援について、家庭教育学級の事例に即して解説する。
第9回　少子高齢社会における高齢者の学習について、今日の理論的実践的な到達点につき解説する
第10回　青少年教育における教育と福祉の連携の必要性および、とりわけ青少年施設運営の今日的到達点につき事例を交えて解説する
第11回　青少年の居場所づくりと地域社会の役割につき、多様な実践を紹介し理解を深める。
第12回　多様な実践を紹介し、校区社会教育の可能性について考察を深める
第13回　学校支援地域本部、PTA等などの地域の組織・団体の役割を解説し、学校教育と社会教育の分担と連携を考察する。
第14回　障がい者をはじめマイノリティの人々との共生を可能にする、社会教育・生涯学習と社会福祉の連携の課題を考察する。
第15回　これまでの講義をふりかえり、質疑応答を通じてまとめを行う。

履修上の注意点

私語を慎むこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 50% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 50% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**生涯学習概論Ⅰ〈b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉岡 いずみ	

テーマ

生涯学習・社会教育の基礎的理解

授業の到達目標

生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、地域社会における多様な課題を解決する市民の主体形成を支援する職員としての資質形成を目標とする。

授業の概要

わが国における生涯学習・社会教育の歴史的特質の理解を基礎に、社会教育・生涯学習の法制と行政、施設論、地域住民の諸階層の生活課題と学習課題、学校教育、社会福祉との連携協力等、今日的課題について解説し、学習支援に求められる課題を明らかにする。

準備学習（予習・復習）

日本の近代史について高校教科書を読んでおくこと。身近な社会教育施設（公民館、図書館、博物館等）を最低一度は訪ねてみること。

内　容

第1回　生涯学習の意義および、学校教育、社会教育との関係を解説する
第2回　明治期通俗教育から大正期青年教育の成立までにいたる、日本の生涯学習の歴史的特質を解説する。
第3回　昭和期の女性に対する社会教育―婦人教育の成立およびその意義について解説する。
第4回　戦後の社会教育行政の法制と行政の特質について解説する。
第5回　公民館・生涯学習センター等の社会教育施設像の発展について事例に即して解説する。
第6回　社会教育施設としての図書館、博物館の発展について、事例に即して解説する。
第7回　女性の学習の発展および今日的課題としての女性問題の学習について、事例に即して解説する。
第8回　女性の学習としての子育て支援について、家庭教育学級の事例に即して解説する。
第9回　少子高齢社会における高齢者の学習について、今日の理論的実践的な到達点につき解説する
第10回　青少年教育における教育と福祉の連携の必要性および、とりわけ青少年施設運営の今日的到達点につき事例を交えて解説する
第11回　青少年の居場所づくりと地域社会の役割につき、多様な実践を紹介し理解を深める。
第12回　多様な実践を紹介し、校区社会教育の可能性について考察を深める
第13回　学校支援地域本部、PTA等などの地域の組織・団体の役割を解説し、学校教育と社会教育の分担と連携を考察する。
第14回　障がい者をはじめマイノリティの人々との共生を可能にする、社会教育・生涯学習と社会福祉の連携の課題を考察する。
第15回　これまでの講義をふりかえり、質疑応答を通じてまとめを行う。

履修上の注意点

私語は極力慎むこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 50% ）　　小テスト （ ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 50% ）
授業中に説明

2016 Syllabus

科 目 名　**図書館概論 <a>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　明定　義人	

テーマ

司書課程の導入科目として、公共図書館とそれに関連した事項について概観する。

授業の到達目標

司書課程の導入科目として、我国の公立図書館を中心に学校図書館、大学図書館、国立国会図書館、専門図書館等の制度、機能、現状や課題を理解させる。

授業の概要

図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を解説する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　図書館の現状と動向図書館数、貸出点数、資料費の変化、職員数の構成、管理運営の変化等について解説する。
第2回　図書館の構成要素と機能図書館の定義、図書館の法的基盤(憲法、教育基本法、社会教育法等)、図書館システムの構成等について解説する。
第3回　図書館の社会的意義（ユネスコ公共図書館宣言、地域社会と図書館を含む）ユネスコ公共図書館宣言、地域の情報拠点としての図書館、まちづくりと図書館、図書館づくりへの住民参加等について解説する。
第4回　知的自由と図書館（図書館の自由に関する宣言等）アメリカの図書館の権利宣言や我国の図書館の自由に関する宣言の採択や図書館の自由に関する事例、略年表について解説する。
第5回　図書館の歴史古代より近代公立図書館の成立及び我国の公立図書館100年の歴史を中心に解説する。
第6回　公立図書館の成立と展開我国の図書館法(1950年)制定以降の「中小都市における公立図書館の運営」(1963年刊行)、「日野市立図書館の実践」(1965年)、「市民の図書館」(1970年刊行)を中心に解説する。
第7回　館種別図書館と利用者のニーズ(その1)学校図書館及び大学図書館の制度と機能について解説する。
第8回　館種別図書館と利用者のニーズ(その2)国立国会図書館、専門図書館、その他の図書館の制度と機能について解説する。
第9回　図書館職員の役割と資格図書館長の役割、図書館員の資質と資格付与制度、司書の専門性(司書職制度)、司書の養成教育と研修等について解説する。
第10回　図書館の類縁機関・関係団体（文書館を含む）類縁機関との協力、国際的図書館団体と図書館協会、日本の図書館団体、学会、研究会等について解説する。
第11回　図書館の課題と展望直営から民間委託へ、予算の削減、厳しい職員体制(正規職員の減少)等を把握し、課題解決への方策を解説する。
第12回　外国の図書館アメリカ、イギリス、北欧、中国、韓国の各図書館について解説する。
第13回　これからの図書館生涯学習社会と図書館、情報化の進展、電子図書館等について解説する。
第14回　公共図書館をめぐる諸問題サービス拠点の整備、特化したサービス(ビジネス支援、健康情報の提供、行政支援策の課題解決支援)等について解説する。
第15回　図書館を支える力図書館協議会、図書館友の会、図書館ボランティア、議会運営等について解説する。

履修上の注意点

教科書

図書館概論
著者:　塩見昇編著
出版社:　日本図書館協会
出版年:　2015　　ISBN:　4－8204－1417－9

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**図書館概論 <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　明定　義人	

テーマ

司書課程の導入科目として、公共図書館とそれに関連した事項について概観する。

授業の到達目標

司書課程の導入科目として、我国の公立図書館を中心に学校図書館、大学図書館、国立国会図書館、専門図書館等の制度、機能、現状や課題を理解させる。

授業の概要

図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を解説する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　図書館の現状と動向図書館数、貸出点数、資料費の変化、職員数の構成、管理運営の変化等について解説する。
第2回　図書館の構成要素と機能図書館の定義、図書館の法的基盤(憲法、教育基本法、社会教育法等)、図書館システムの構成等について解説する。
第3回　図書館の社会的意義（ユネスコ公共図書館宣言、地域社会と図書館を含む）ユネスコ公共図書館宣言、地域の情報拠点としての図書館、まちづくりと図書館、図書館づくりへの住民参加等について解説する。
第4回　知的自由と図書館（図書館の自由に関する宣言等）アメリカの図書館の権利宣言や我国の図書館の自由に関する宣言の採択や図書館の自由に関する事例、略年表について解説する。
第5回　図書館の歴史古代より近代公立図書館の成立及び我国の公立図書館100年の歴史を中心に解説する。
第6回　公立図書館の成立と展開我国の図書館法(1950年)制定以降の「中小都市における公立図書館の運営」(1963年刊行)、「日野市立図書館の実践」(1965年)、「市民の図書館」(1970年刊行)を中心に解説する。
第7回　館種別図書館と利用者のニーズ(その1)学校図書館及び大学図書館の制度と機能について解説する。
第8回　館種別図書館と利用者のニーズ(その2)国立国会図書館、専門図書館、その他の図書館の制度と機能について解説する。
第9回　図書館職員の役割と資格図書館長の役割、図書館員の資質と資格付与制度、司書の専門性(司書職制度)、司書の養成教育と研修等について解説する。
第10回　図書館の類縁機関・関係団体（文書館を含む）類縁機関との協力、国際的図書館団体と図書館協会、日本の図書館団体、学会、研究会等について解説する。
第11回　図書館の課題と展望直営から民間委託へ、予算の削減、厳しい職員体制(正規職員の減少)等を把握し、課題解決への方策を解説する。
第12回　外国の図書館アメリカ、イギリス、北欧、中国、韓国の各図書館について解説する。
第13回　これからの図書館生涯学習社会と図書館、情報化の進展、電子図書館等について解説する。
第14回　公共図書館をめぐる諸問題サービス拠点の整備、特化したサービス(ビジネス支援、健康情報の提供、行政支援策の課題解決支援)等について解説する。
第15回　図書館を支える力図書館協議会、図書館友の会、図書館ボランティア、議会運営等について解説する。

履修上の注意点

教科書

図書館概論
著者:　塩見昇編著
出版社:　日本図書館協会
出版年:　2015　　ISBN:　4－8204－1417－9

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**図書館制度・経営論 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　明定　義人	

テーマ

図書館の制度と図書館経営の意義と課題併せて最近の動向を理解させる。

授業の到達目標

図書館の制度と図書館経営の意義と課題併せて最近の動向を理解させる。

授業の概要

図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　図書館法（逐条解説）1950年制定の「図書館法」の内容や特徴と戦前の「図書館令」との比較、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」等の解説をする。

第2回　他館種の図書館に関する法律等（学校図書館法、国立国会図書館法、大学設置基準、身体障害者福祉法）「公立図書館」以外の図書館に関する法律を解説し、学校図書館・大学図書館・国立国会図書館・専門図書館等の制度や機能を解説する。

第3回　図書館サービス関連法規（子どもの読書活動推進法、文字・活字文化振興法、著作権法、個人情報保護法、労働関係法規、民法等）図書館サービスの提供には法に定められた権利や規制が関わる場合があり、トラブル発生の解決策や未然防止のための関連法規の解説をする。

第4回　図書館政策（国、地方公共団体）国の図書館政策と都道府県レベルの図書館振興政策(1960年代の東京都や1980年代の振興策を中心に)を解説する。

第5回　公共機関・施設の経営方法（マーケティング,危機管理を含む）新しい公共経営(ニュー、パブリック、マネージメント)と図書館マーケティングの歴史とマーケティングの計画・立案について解説する。

第6回　図書館の組織・職員（組織構成、館長の役割、人事管理、図書館協議会、ボランティアとの連携）図書館の組織の類型の現状と傾向、職員体制、館長の職務、専門的職員の資質の向上や研修、図書館を支える人々について解説する。

第7回　図書館の施設・設備(その1)図書館建築と図書館新設の課程(企画、構想、建築、施工、運営等)を解説する。

第8回　図書館の施設・設備(その2)図書館のスペースの構成、配慮すべき装備、快適な空間の創造等について解説する。

第9回　図書館のサービス計画と予算の確保図書館サービス計画の企画、作成と図書館の予算編成のしくみと実態について解説する。

第10回　図書館業務・サービスの調査と評価調査の方法や評価の目的と対象、評価の方法、評価のための統計と指標等について解説する。

第11回　図書館の管理形態の多様化図書のアウトソーシング(窓口業務の委託、指定管理者制度、PFI、市場化テスト等)の現状や問題点を解説する。

第12回　図書館業務の理論と実際(その1)パブリックサービス(閲覧、奉仕業務)について解説する。

第13回　図書館業務の理論と実際(その2)テクニカルサービス(資料整理)と管理業務等について解説する。

第14回　図書館協力とネットワークの形成図書館協力とネットワークの意義、種類、運営と評価、相互貸借、相互利用、協力レファレンス、分担収集と保存等を解説する。

第15回　図書館経営の課題図書館運営経費の大幅削減、直営から民営化、正規職員の削減と非正規化の推進等図書館経営の課題を解説する。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**図書館制度・経営論 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　明定　義人	

テーマ

図書館の制度と図書館経営の意義と課題併せて最近の動向を理解させる。

授業の到達目標

図書館の制度と図書館経営の意義と課題併せて最近の動向を理解させる。

授業の概要

図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　図書館法（逐条解説）1950年制定の「図書館法」の内容や特徴と戦前の「図書館令」との比較、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」等の解説をする。

第2回　他館種の図書館に関する法律等（学校図書館法、国立国会図書館法、大学設置基準、身体障害者福祉法）「公立図書館」以外の図書館に関する法律を解説し、学校図書館・大学図書館・国立国会図書館・専門図書館等の制度や機能を解説する。

第3回　図書館サービス関連法規（子どもの読書活動推進法、文字・活字文化振興法、著作権法、個人情報保護法、労働関係法規、民法等）図書館サービスの提供には法に定められた権利や規制が関わる場合があり、トラブル発生の解決策や未然防止のための関連法規の解説をする。

第4回　図書館政策（国、地方公共団体）国の図書館政策と都道府県レベルの図書館振興政策(1960年代の東京都や1980年代の振興策を中心に)を解説する。

第5回　公共機関・施設の経営方法（マーケティング,危機管理を含む）新しい公共経営(ニュー、パブリック、マネージメント)と図書館マーケティングの歴史とマーケティングの計画・立案について解説する。

第6回　図書館の組織・職員（組織構成、館長の役割、人事管理、図書館協議会、ボランティアとの連携）図書館の組織の類型の現状と傾向、職員体制、館長の職務、専門的職員の資質の向上や研修、図書館を支える人々について解説する。

第7回　図書館の施設・設備(その１)図書館建築と図書館新設の課程(企画、構想、建築、施工、運営等)を解説する。

第8回　図書館の施設・設備(その２)図書館のスペースの構成、配慮すべき装備、快適な空間の創造等について解説する。

第9回　図書館のサービス計画と予算の確保図書館サービス計画の企画、作成と図書館の予算編成のしくみと実態について解説する。

第10回　図書館業務・サービスの調査と評価調査の方法や評価の目的と対象、評価の方法、評価のための統計と指標等について解説する。

第11回　図書館の管理形態の多様化図書のアウトソーシング(窓口業務の委託、指定管理者制度、PFI、市場化テスト等)の現状や問題点を解説する。

第12回　図書館業務の理論と実際(その１)パブリックサービス(閲覧、奉仕業務)について解説する。

第13回　図書館業務の理論と実際(その２)テクニカルサービス(資料整理)と管理業務等について解説する。

第14回　図書館協力とネットワークの形成図書館協力とネットワークの意義、種類、運営と評価、相互貸借、相互利用、協力レファレンス、分担収集と保存等を解説する。

第15回　図書館経営の課題図書館運営経費の大幅削減、直営から民営化、正規職員の削減と非正規化の推進等図書館経営の課題を解説する。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**図書館情報技術論 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　米谷　優子	

テーマ

現代の図書館サービスの実施や図書館での諸業務の遂行に必要な基礎的情報技術について、理解を深め、知識と実践力を身につける

授業の到達目標

高度情報化社会にあって、激変する社会経済の影響のもと、図書館に求められる機能や役割が多様化している。このような状況のなか、「進化する図書館」を視野に入れて、「図書館サービスとは何か」を、さまざまな館種における現実の図書館サービスに根ざしながら、実証的に理解することを目指す。

授業の概要

館種ごとの図書館サービスを知り、その基盤となる考え方や、図書館機能とその構造を理解することを図る。具体的には、閲覧、資料提供、情報提供、予約、リクエスト、読書案内、レファレンス、問題解決支援などの働き、さらに児童・ヤングサービス、障害者、高齢者、多文化サービスなど、各種のサービスを扱い、それに関わる著作権や接遇の基本を解説する。

準備学習（予習・復習）

普段から、新たな情報技術について積極的に触れる機会を持つとともに、図書館の現場をよく観察しておくこと

内　容

第1回　図書館サービスの開始までの建設と準備業務
第2回　図書館サービスの変遷
第3回　図書館サービスの意義と方法①　図書館の基本機能
第4回　図書館サービスの意義と方法②　図書館サービスの種類
第5回　資料、情報の提供①　資料、情報サービスの基本
第6回　資料、情報の提供②　利用案内、応対接遇とフロアワーク
第7回　読書案内と予約・リクエスト①　読書案内とレファレンス
第8回　読書案内と予約・リクエスト②　その処理過程と相互協力
第9回　ニーズに沿ったサービスの展開①　児童ヤングサービス
第10回　ニーズに沿ったサービスの展開②　障害者、高齢者、多文化サービス
第11回　ニーズに沿ったサービスの展開③　各種課題解決支援サービス
第12回　図書館ネットワーク協力と類縁機関等との連携
第13回　図書館サービスと著作権①
第14回　図書館サービスと著作権②
第15回　図書館サービス、現代の課題

履修上の注意点

上記計画は、理解度その他の理由によって変更することがある

教科書

図書館情報技術論
著者：　斎藤ひとみ,二村健
出版社：学文社
出版年：2012　　ISBN：　9784762021923

参考書

情報検索の知識と技術 基礎編　－検索技術者検定3級対応テキスト－
著者：　吉井隆明編著
出版社：情報科学技術協会
出版年：2015　　ISBN：9784889510515

情報検索の知識と技術 応用編　－検索技術者検定2級対応テキスト－
著者：　時実象一ほか
出版社：情報科学技術協会
出版年：2015　　ISBN：9784889510522

ask302d210

図書館と情報技術

著者:　岡紀子，田中邦英

出版社: 樹村房

出版年: 2013　　ISBN:　9784883672240

電子書籍と電子ジャーナル

著者:　日本図書館情報学会研究委員会

出版社: 勉誠出版

出版年: 2014　　ISBN:　9784585205012

成績評価

試験 （ 65 ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 25 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 10 ）

3分の2以上の出席ならびに演習課題提出を、まとめの試験の受験の要件とする

2016 Syllabus

科 目 名　**図書館情報技術論 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　米谷　優子	

テーマ

現代の図書館サービスの実施や図書館での諸業務の遂行に必要な基礎的情報技術について、理解を深め、知識と実践力を身につける

授業の到達目標

高度情報化社会にあって、激変する社会経済の影響のもと、図書館に求められる機能や役割が多様化している。このような状況のなか、「進化する図書館」を視野に入れて、「図書館サービスとは何か」を、さまざまな館種における現実の図書館サービスに根ざしながら、実証的に理解することを目指す。

授業の概要

館種ごとの図書館サービスを知り、その基盤となる考え方や、図書館機能とその構造を理解することを図る。具体的には、閲覧、資料提供、情報提供、予約、リクエスト、読書案内、レファレンス、問題解決支援などの働き、さらに児童・ヤングサービス、障害者、高齢者、多文化サービスなど、各種のサービスを扱い、それに関わる著作権や接遇の基本を解説する。

準備学習（予習・復習）

普段から、新たな情報技術について積極的に触れる機会を持つとともに、図書館の現場をよく観察しておくこと

内　容

第1回　図書館サービスの開始までの建設と準備業務
第2回　図書館サービスの変遷
第3回　図書館サービスの意義と方法①　図書館の基本機能
第4回　図書館サービスの意義と方法②　図書館サービスの種類
第5回　資料、情報の提供①　資料、情報サービスの基本
第6回　資料、情報の提供②　利用案内、応対接遇とフロアワーク
第7回　読書案内と予約・リクエスト①　読書案内とレファレンス
第8回　読書案内と予約・リクエスト②　その処理過程と相互協力
第9回　ニーズに沿ったサービスの展開①　児童ヤングサービス
第10回　ニーズに沿ったサービスの展開②　障害者、高齢者、多文化サービス
第11回　ニーズに沿ったサービスの展開③　各種課題解決支援サービス
第12回　図書館ネットワーク協力と類縁機関等との連携
第13回　図書館サービスと著作権①
第14回　図書館サービスと著作権②
第15回　図書館サービス、現代の課題

履修上の注意点

上記計画は、理解度その他の理由によって変更することがある

教科書

図書館情報技術論
著者：　斎藤ひとみ,二村健
出版社：　学文社
出版年：　2012　　ISBN：　9784762021923

参考書

情報検索の知識と技術 基礎編　－検索技術者検定3級対応テキスト－
著者：　吉井隆明編著
出版社：　情報科学技術協会
出版年：　2015　　ISBN：　9784889510515

情報検索の知識と技術 応用編　－検索技術者検定2級対応テキスト－
著者：　時実象一ほか
出版社：　情報科学技術協会
出版年：　2015　　ISBN：　9784889510522

ask302d212

図書館と情報技術

著者:　岡紀子，田中邦英

出版社: 樹村房

出版年: 2013　　ISBN:　9784883672240

電子書籍と電子ジャーナル

著者:　日本図書館情報学会研究委員会

出版社: 勉誠出版

出版年: 2014　　ISBN:　9784585205012

成績評価

試験 （ 65 ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 25 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 10 ）

3分の2以上の出席ならびに演習課題提出を、まとめの試験の受験の要件とする

2016 Syllabus

科 目 名　**図書館情報資源特論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　明定　義人	

テーマ

児童資料の評価力をつける。

授業の到達目標

児童サービス論で詳しく紹介できなかった様々な分野の児童資料について学習することで、児童資料の評価力をつける。

授業の概要

児童サービス論の概要を学んだ者に、一人ひとりの発達の違いや好奇心に対応した様々な内容や分野が児童資料にあることを知らせるとともに、実際に数多くの資料を紹介し、受講生にも読むことを課題とします。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　児童資料のひろがり　物語や絵本から実用書、ゲームの攻略本まで、子どもを対象にした児童資料は多様化し続けている。同時に「子ども向け」と「大人向け」のボーダレス化も進んでいる。児童資料のひろがりを紹介する

第2回　絵本1―挿絵から絵本へ　絵本の歴史をたどることで、挿絵から絵本への転換を解説する。読み継がれてきた絵本が「絵」と「文」の相乗効果による魅力を持ち得ていることを解説する。

第3回　絵本2―表現としてのひろがり　絵本は子どものものだけではない。作者や出版社が想定している読者は乳幼児から大人まで幅広い。そのひろがりとメディアとしての絵本の「子ども離れ」の側面について紹介する。

第4回　児童文学1―童話から創作へ　児童文学の歴史を解説し、大正期に発刊された「赤い鳥」などの童話の時代から、昭和期までの代表的な作品をその時代背景とともに解説する。

第5回　童文学2―児童文学批評　清水真砂子『子どもの本の現在』が日本の児童文学に問いかけたことを中心に、日本の児童文学を考えるとともに、90年代から現在につながるアダルトチルドレンと児童文学との関係、外国の児童文学についてもふれる。

第6回　科学読み物1―歴史　日本の科学読み物の歴史は、明治時代の数年前から始まり、大正デモクラシーの時期に数多く出版される。その背景について解説し、第二次世界大戦とそれ以降の科学読み物についても紹介する。また、教育との関わりのなかでの科学読み物についても考える。

第7回　科学読み物2―科学読み物とは　科学読み物は、科学的に考えることの楽しさやすばらしさを伝えるものであるが、「科学読み物」のなかには「自然は美しい」「自然と親しくなろう」「自然界の不思議」といった類のものもある。その違いを解説する。

第8回　知識の絵本・資料集・事典　「知識の絵本」の出版は月刊誌が発行されていることもあり、また「調べ学習」がひろがったことで、出版点数は多い。それらのなかから高い評価を受けている絵本を紹介する。児童向け資料集においても、統計をグラフにして説明をすることがあるが、グラフを比べることにより、よりよいグラフについて考える。事典についても紹介する。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**図書館施設論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　明定　義人.政木　哲也	

テーマ

図書館施設のあり方について考察し、施設の面から図書館活動を理解する。あわせて、建築における機能、動線、配置、構造や設備といった基本的な知識にも触れる。

授業の到達目標

市民が自由に資料(情報)を利用し、有意義な時間を過ごす快適空間としての役割も求められている図書館施設のあり方について考察し、施設の面から図書館活動を理解する。あわせて、建築における機能、動線、配置、構造や設備といった基本的な知識にも触れる。

授業の概要

必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書館活動・サービスが展開される場としての図書館施設について、地域計画、建築計画、その構成要素等を解説する。代表的かつ具体的な事例を複数取り上げ、実地でも施設を確認することで様々な角度から図書館建築に関する知識を修得する。

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　図書館活動を支える施設とは　これまでの図書館が果たしてきた役割を考え、市民が求める図書館像の変遷とともに図書館施設がどのように変わりつつあるのかを説明
第2回　図書館運営方針と図書館建築計画
第3回　図書館建築の設計について　図書館建築に必要な機能について解説し、デザイン、全体計画、動線計画や各部計画について詳しく解説する。
第4回　図書館建築の設計事例　近年の代表的な図書館を中心に様々な図書館建築の事例に触れる。
第5回　館内環境の計画(家具、環境要素、サイン計画など)
第6回　図書館の設備と維持、防火対策や避難計画について　図書館に用いられる一般的な設備形式、防火対策や二方向避難について建築基準法などを参照しながら確認していく。
第7回　実際の図書館を見学し、館長の話を聞く　実際に使われている図書館を見学し、館長の話を聞くことによって図書館が市民にどのように使われているのか、また改善したいことなども率直に聞く。
第8回　見学後の評価とまとめ授業では学生達が見学前と見学後の印象や意見が変わったかどうか、互いに議論を進める中で、「図書館とは何か」について深く考える場とする

履修上の注意点

教科書

参考書

よい図書館施設をつくる(JLA図書館実践シリーズ)
著者:　植松貞夫等
出版社:　日本図書館協会
出版年:　2010年　　ISBN:

成績評価

試験　(　)　　小テスト(　)
授業中課題　(50)　　授業中発表等　(　)
参加度　(50)
施設見学は必要条件である。

2016 Syllabus

科 目 名　**図書館サービス概論 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　竹島 昭雄	

テーマ

現在行われている図書館のさまざまなサービスを論理的に紹介し、サービスに通底する原理を明らかにするとともに、サービスに関する知識や技術を効果的に修得することを目標とする。

授業の到達目標

高度情報化社会にあって、激変する社会経済の影響のもと、図書館に求められる機能や役割が多様化している。このような状況のなか、「進化する図書館」を視野に入れて、「図書館サービスとは何か」を、さまざまな館種における現実の図書館サービスに根ざしながら、実証的に理解することを目指す。

授業の概要

館種ごとの図書館サービスを知り、その基盤となる考え方や、図書館機能とその構造を理解することを図る。具体的には、閲覧、資料提供、情報提供、予約、リクエスト、読書案内、レファレンス、問題解決支援などの働き、さらに児童・ヤングサービス、障害者、高齢者、多文化サービスなど、各種のサービスを扱い、それに関わる著作権や接遇の基本を解説する。

準備学習（予習・復習）

毎回配布するプリントを熟読するとともに、各回のテーマについて参考文献を事前に読んでおく。

内　容

第1回　図書館サービスの開始までの建設と準備業務
第2回　図書館サービスの変遷
第3回　図書館サービスの意義と方法①　図書館の基本機能
第4回　図書館サービスの意義と方法②　図書館サービスの種類
第5回　資料、情報の提供①　資料、情報サービスの基本
第6回　資料、情報の提供②　利用案内、応対接遇とフロアワーク
第7回　読書案内と予約・リクエスト①　読書案内とレファレンス
第8回　読書案内と予約・リクエスト②　その処理過程と相互協力
第9回　ニーズに沿ったサービスの展開①　児童ヤングサービス
第10回　ニーズに沿ったサービスの展開②　障害者、高齢者、多文化サービス
第11回　ニーズに沿ったサービスの展開③　各種課題解決支援サービス
第12回　図書館ネットワーク協力と類縁機関等との連携
第13回　図書館サービスと著作権①
第14回　図書館サービスと著作権②
第15回　図書館サービス、現代の課題

履修上の注意点

成績については出席状況を参考とするので、欠席の場合は事前又は事後に理由を添えて報告すること。また、中間小テストと期末試験は必ず受験すること。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

図書館サービス論
著者:　小田　光宏
出版社:　日本図書館協会
出版年:　2010　ISBN:　9784820409175

図書館サービス概論
著者:　金沢　みどり
出版社:　学文社
出版年:　2014　ISBN:

ask302d510

図書館サービス概論

著者:　宮部　頼子

出版社: 樹村房

出版年: 2012　　ISBN:　9784883672042

新版　図書館の発見

著者:　前川恒雄・石井敦

出版社: NHKブックス

出版年: 2006　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40 ）　　小テスト（ 40 ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**図書館サービス概論 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹島　昭雄	

テーマ

現在行われている図書館のさまざまなサービスを論理的に紹介し、サービスに通底する原理を明らかにするとともに、サービスに関する知識や技術を効果的に修得することを目標とする。

授業の到達目標

高度情報化社会にあって、激変する社会経済の影響のもと、図書館に求められる機能や役割が多様化している。このような状況のなか、「進化する図書館」を視野に入れて、「図書館サービスとは何か」を、さまざまな館種における現実の図書館サービスに根ざしながら、実証的に理解することを目指す。

授業の概要

館種ごとの図書館サービスを知り、その基盤となる考え方や、図書館機能とその構造を理解することを図る。具体的には、閲覧、資料提供、情報提供、予約、リクエスト、読書案内、レファレンス、問題解決支援などの働き、さらに児童・ヤングサービス、障害者、高齢者、多文化サービスなど、各種のサービスを扱い、それに関わる著作権や接遇の基本を解説する。

準備学習（予習・復習）

毎回配布するプリントを熟読するとともに、各回のテーマについて参考文献を事前に読んでおく。

内　　容

第1回　図書館サービスの開始までの建設と準備業務
第2回　図書館サービスの変遷
第3回　図書館サービスの意義と方法①　図書館の基本機能
第4回　図書館サービスの意義と方法②　図書館サービスの種類
第5回　資料、情報の提供①　資料、情報サービスの基本
第6回　資料、情報の提供②　利用案内、応対接遇とフロアワーク
第7回　読書案内と予約・リクエスト①　読書案内とレファレンス
第8回　読書案内と予約・リクエスト②　その処理過程と相互協力
第9回　ニーズに沿ったサービスの展開①　児童ヤングサービス
第10回　ニーズに沿ったサービスの展開②　障害者、高齢者、多文化サービス
第11回　ニーズに沿ったサービスの展開③　各種課題解決支援サービス
第12回　図書館ネットワーク協力と類縁機関等との連携
第13回　図書館サービスと著作権①
第14回　図書館サービスと著作権②
第15回　図書館サービス、現代の課題

履修上の注意点

成績については出席状況を参考とするので、欠席の場合は事前又は事後に理由を添えて報告すること。また、中間小テストと期末試験は必ず受験すること。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

図書館サービス論
著者:　小田　光宏
出版社:　日本図書館協会
出版年:　2010　　ISBN:　9784820409175

図書館サービス概論
著者:　金沢　みどり
出版社:　学文社
出版年:　2014　　ISBN:

ask302d512

図書館サービス概論

著者:　宮部　頼子

出版社: 樹村房

出版年: 2012　　ISBN:　9784883672042

新版　図書館の発見

著者:　前川恒雄・石井敦

出版社: NHKブックス

出版年: 2006　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40 ）　　小テスト（ 40 ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報サービス論 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　明定　義人	

テーマ

図書館における「情報サービス」とは何か、その意義や利用者のニーズへの理解、情報サービスを支える情報原の種類や評価などについて理解する。

授業の到達目標

インターネットや情報検索という言葉が普通に話される現代において、図書館における「情報サービス」とは何か、その意義や利用者のニーズへの理解、情報サービスを支える情報原の種類や評価などについて理解する。

授業の概要

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　情報サービスの概要情報サービスの意義について述べ、現代社会の情報サービス機関を概観する中で図書館の情報サービスについて考える
第2回　情報サービスの基礎（1）レファレンスサービス、利用案内、レフェラルサービスについて説明
第3回　情報サービスの基礎（2）カレントアウェアネス、オンライン検索、CD－ROM利用のサービスなどについて説明
第4回　情報サービスの展開読書相談、学習情報提供、地域における情報サービス（館独自の二次資料作成も含めて）、図書館利用教育（情報リテラシーの育成を含む）について説明
第5回　情報源の種類と評価　印刷メディアと電子メディア、館内で作成・編成する情報源、情報源の構築および評価について説明
第6回　情報ニーズへの対応（1）　情報ニーズの理解、情報探索行動、レファレンスプロセスについて説明
第7回　情報ニーズへの対応（2）　レファレンス質問の意義と分析、レファレンスインタビューについて具体例を示しながら説明
第8回　情報の検索と回答（1）　検索戦略、情報源の選択、検索語の選定、データベースの検索機能　VHSなどの映像も見せながら検索式などのわかりやすい説明を試みる
第9回　情報の検索と回答（2）および情報サービスの管理検索の実行、回答の提供と評価について説明情報サービスの組織化、外部データベース利用の課題、担当者の資質と能力について説明
第10回　事実検索の情報源（1）　辞書・事典・便覧・図鑑の種類と特質について説明　（データベース等の情報原も含む）
第11回　事実検索の情報源（2）　歴史情報、統計情報の調べ方について具体的例を示しながら説明
第12回　事実検索の情報源（3）　地理・地名情報、人物・団体情報の調べ方について具体例を示しながら説明
第13回　文献検索の情報源　書誌・目録・記事索引の種類と特質について具体例を示しながら説明
第14回　電子メディアの活用　大学で使えるデータベースやCD－ROMを使って検索の実際を見せる、さらにインターネット利用の功罪にもふれる
第15回　発信型情報サービスの意義と方法　パスファインダーの実例など新しいサービスを紹介する

履修上の注意点

教科書

情報サービス論
著者:　大串夏身他編
出版社:　理想社
出版年:　2010　　ISBN:　4－650－01060－2

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 80 ）	授業中発表等　（ ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報サービス論 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　明定　義人	

テーマ

図書館における「情報サービス」とは何か、その意義や利用者のニーズへの理解、情報サービスを支える情報原の種類や評価などについて理解する。

授業の到達目標

インターネットや情報検索という言葉が普通に話される現代において、図書館における「情報サービス」とは何か、その意義や利用者のニーズへの理解、情報サービスを支える情報原の種類や評価などについて理解する。

授業の概要

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　情報サービスの概要情報サービスの意義について述べ、現代社会の情報サービス機関を概観する中で図書館の情報サービスについて考える
第2回　情報サービスの基礎（1）レファレンスサービス、利用案内、レフェラルサービスについて説明
第3回　情報サービスの基礎（2）カレントアウェアネス、オンライン検索、CD－ROM利用のサービスなどについて説明
第4回　情報サービスの展開読書相談、学習情報提供、地域における情報サービス（館独自の二次資料作成も含めて）、図書館利用教育（情報リテラシーの育成を含む）について説明
第5回　情報源の種類と評価　印刷メディアと電子メディア、館内で作成・編成する情報源、情報源の構築および評価について説明
第6回　情報ニーズへの対応（1）　情報ニーズの理解、情報探索行動、レファレンスプロセスについて説明
第7回　情報ニーズへの対応（2）　レファレンス質問の意義と分析、レファレンスインタビューについて具体例を示しながら説明
第8回　情報の検索と回答（1）　検索戦略、情報源の選択、検索語の選定、データベースの検索機能　VHSなどの映像も見せながら検索式などのわかりやすい説明を試みる
第9回　情報の検索と回答（2）および情報サービスの管理検索の実行、回答の提供と評価について説明情報サービスの組織化、外部データベース利用の課題、担当者の資質と能力について説明
第10回　事実検索の情報源（1）　辞書・事典・便覧・図鑑の種類と特質について説明　（データベース等の情報原も含む）
第11回　事実検索の情報源（2）　歴史情報、統計情報の調べ方について具体的例を示しながら説明
第12回　事実検索の情報源（3）　地理・地名情報、人物・団体情報の調べ方について具体例を示しながら説明
第13回　文献検索の情報源　書誌・目録・記事索引の種類と特質について具体例を示しながら説明
第14回　電子メディアの活用　大学で使えるデータベースやCD－ROMを使って検索の実際を見せる、さらにインターネット利用の功罪にもふれる
第15回　発信型情報サービスの意義と方法　パスファインダーの実例など新しいサービスを紹介する

履修上の注意点

教科書

情報サービス論
著者:　大串夏身
出版社:　理想社
出版年:　2010　　ISBN:　4-650-01060-2

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 80 ）	授業中発表等　（ ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**児童サービス論 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　明定　義人	

テーマ

公共図書館や学校図書館における児童サービスの意義を理解し、児童・生徒を「本好き」にするための方策について知識を深め、その技術を理解する。

授業の到達目標

公共図書館や学校図書館における児童サービスの意義を理解し、児童・生徒を「本好き」にするための方策について知識を深め、その技術を理解する。また、自らたくさんの児童書に接し、その豊かさと魅力を体験する。

授業の概要

児童（乳幼児からヤングアダルトまで）を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせやブックトークなどの技術、学校や地域との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　発達と学習における読書の役割児童の発達段階と読書興味、読書能力の段階について解説し、読書ばなれの原因と問題に言及し、読書の意義について考える。

第2回　児童サービスの意義と概要　これまでの公共図書館における児童サービスの歴史に触れ、今日的な流れの中で「なぜ児童サービスなのか」、その意義と概要について解説する

第3回　児童資料の特色と選択１　絵本　絵本は乳幼児から大人まで幅広く読まれているが、児童の発達に沿って、読みつがれている基本的な絵本を紹介しつつ、ジャンル別に紹介したい新しい絵本にもふれる。絵本の魅力とその留意点を解説する。

第4回　児童資料の特色と選択２　創作児童文学と詩　「読書ばなれ」が言われる今日、本当は読書能力に応じたおもしろい本は存在するということをもっと学生達に体験してほしい。さまざまな創作児童文学を、基本図書や新しい図書も含めて紹介する。また児童に「ことばの楽しさ」を体験してもらえる詩の本もたくさん紹介する。

第5回　児童資料の特色と選択３　昔話・伝承文学、知識の本　最近の児童は昔話を読書体験として育っていないように見られるが、昔話を含む伝承文学の豊かさを紹介し、創作児童文学と伝承文学の違いにも触れる。またノンフィクションや知識の本の特色を解説し、その評価方法を解説する。

第6回　児童資料の特色と選択４　児童資料の出版と流通　主に明治以降の児童資料出版の歴史に触れ、あわせて児童図書出版の流通の課題にも焦点をあてて解説する。

第7回　児童資料コレクションの形成と管理　児童資料の収集方針と評価方法、選書会議など、また維持管理のための方策などについて解説する。

第8回　児童サービスの業務１　資料提供サービス　資料提供の意義、貸出の意義、フロアーワークの重要性、児童のリクエストの扱いや「図書館の自由」の問題などについて解説し、討論する。

第9回　児童サービスの業務２　情報サービス　情報サービスの意義、レファレンス資料や「調べ学習」に役立つ情報ファイルの形成、パスファインダーなどについて解説する。

第10回　児童サービスの業務３　乳幼児サービス　ブックスタートや乳幼児サービスについて解説し、乳幼児向け資料の特色とわらべ歌や手遊びについても解説・実演する。

第11回　児童サービスの業務４　ヤングアダルト・サービス　子どもから大人へ移行するこの時期特有の世代に向けて、資料の特色や、そのサービスについて解説し、サービスの企画立案について考える。

第12回　児童サービスの方法・技術　１　読み聞かせ、ストーリーテリング　児童を読書に誘う方法として使われる代表的な技術について解説し、実演する。

第13回　児童サービスの方法・技術　２　ブックトーク、書評、ブックリスト　ブックトークの実演を見て、課題としてブックトーク案を作成する。またブックリスト用の「本の解題」を書いて提出させる。

第14回　児童サービスの展開（運営、施設と設備、児童図書館員の役割）　児童サービス関連法規、運営方針、児童の特徴をふまえた施設と設備のあり方、児童図書館員の役割などについて解説する。

第15回　学校、家庭、地域との連携・協力　学校図書館の活動（公共図書館との相違点を含む）、司書教諭・学校司書の役割について解説する。また、「子どもの読書活動推進に関する法律」を理解し、学校と公共図書館、家庭を含む地域および県立図書館や他の自治体を含めた連携・協力の実例を紹介し、その重要性と今後のあり方について解説する。

履修上の注意点

教科書

参考書

児童サービス論

著者：　堀川照代編著

出版社：日本図書館協会

出版年：2015　　ISBN：　4-8204-1315-8

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 70 ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**児童サービス論 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　明定　義人	

テーマ

公共図書館や学校図書館における児童サービスの意義を理解し、児童・生徒を「本好き」にするための方策について知識を深め、その技術を理解する。

授業の到達目標

公共図書館や学校図書館における児童サービスの意義を理解し、児童・生徒を「本好き」にするための方策について知識を深め、その技術を理解する。また、自らたくさんの児童書に接し、その豊かさと魅力を体験する。

授業の概要

児童（乳幼児からヤングアダルトまで）を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせやブックトークなどの技術、学校や地域との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　発達と学習における読書の役割児童の発達段階と読書興味、読書能力の段階について解説し、読書ばなれの原因と問題に言及し、読書の意義について考える。

第2回　児童サービスの意義と概要　これまでの公共図書館における児童サービスの歴史に触れ、今日的な流れの中で「なぜ児童サービスなのか」、その意義と概要について解説する

第3回　児童資料の特色と選択1　絵本　絵本は乳幼児から大人まで幅広く読まれているが、児童の発達に沿って、読みつがれている基本的な絵本を紹介しつつ、ジャンル別に紹介したい新しい絵本にもふれる。絵本の魅力とその留意点を解説する。

第4回　児童資料の特色と選択2　創作児童文学と詩　「読書ばなれ」が言われる今日、本当は読書能力に応じたおもしろい本は存在するということをもっと学生達に体験してほしい。さまざまな創作児童文学を、基本図書や新しい図書も含めて紹介する。また児童に「ことばの楽しさ」を体験してもらえる詩の本もたくさん紹介する。

第5回　児童資料の特色と選択3　昔話・伝承文学、知識の本　最近の児童は昔話を読書体験として育っていないように見られるが、昔話を含む伝承文学の豊かさを紹介し、創作児童文学と伝承文学の違いにも触れる。またノンフィクションや知識の本の特色を解説し、その評価方法を解説する。

第6回　児童資料の特色と選択4　児童資料の出版と流通　主に明治以降の児童資料出版の歴史に触れ、あわせて児童図書出版の流通の課題にも焦点をあてて解説する。

第7回　児童資料コレクションの形成と管理　児童資料の収集方針と評価方法、選書会議など、また維持管理のための方策などについて解説する。

第8回　児童サービスの業務1　資料提供サービス　資料提供の意義、貸出の意義、フロアーワークの重要性、児童のリクエストの扱いや「図書館の自由」の問題などについて解説し、討論する。

第9回　児童サービスの業務2　情報サービス　情報サービスの意義、レファレンス資料や「調べ学習」に役立つ情報ファイルの形成、パスファインダーなどについて解説する。

第10回　児童サービスの業務3　乳幼児サービス　ブックスタートや乳幼児サービスについて解説し、乳幼児向け資料の特色とわらべ歌や手遊びについても解説・実演する。

第11回　児童サービスの業務4　ヤングアダルト・サービス　子どもから大人へ移行するこの時期特有の世代に向けて、資料の特色や、そのサービスについて解説し、サービスの企画立案について考える。

第12回　児童サービスの方法・技術　1　読み聞かせ、ストーリーテリング　児童を読書に誘う方法として使われる代表的な技術について解説し、実演する。

第13回　児童サービスの方法・技術　2　ブックトーク、書評、ブックリスト　ブックトークの実演を見て、課題としてブックトーク案を作成する。またブックリスト用の「本の解題」を書いて提出させる。

第14回　児童サービスの展開（運営、施設と設備、児童図書館員の役割）　児童サービス関連法規、運営方針、児童の特徴をふまえた施設と設備のあり方、児童図書館員の役割などについて解説する。

第15回　学校、家庭、地域との連携・協力　学校図書館の活動（公共図書館との相違点を含む）、司書教諭・学校司書の役割について解説する。また、「子どもの読書活動推進に関する法律」を理解し、学校と公共図書館、家庭を含む地域および県立図書館や他の自治体を含めた連携・協力の実例を紹介し、その重要性と今後のあり方について解説する。

履修上の注意点

教科書

参考書

児童サービス論

著者：　堀川照代編著

出版社：日本図書館協会

出版年：2015　　ISBN：　4-8204-1315-8

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 70 ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報サービス演習Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平野　翠	

テーマ

情報サービスの中心となるレファンレンスサービス演習や新たな情報発信サービスであるパスファインダーの作成

授業の到達目標

情報サービスの設計をはじめ、利用者の質問に対するレファレンスサービスやパスファインダー(調べ方案内)を作成することによって、より発展した情報サービス(情報発信型サービス)を含めた様々な図書館における情報サービスを実践できる能力を身につける。

授業の概要

情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、特にレファレンスサービスにおける情報資源の選択を中心に、積極的な発信型情報サービス(パスファインダーの作成)などの演習を行い、情報サービスを実践できる能力を養成する。

準備学習(予習・復習)

大学図書館の参考図書コーナーにある辞典・事典・書誌(目録)を眺め、手にとってみる。また、図書館HPを閲覧し、「文献検索/電子コンテンツ」「役立つリンク集」をみて、自大学がどのような有料データベースを導入しているか、どのようなデータベースにリンクをはっているかを知る。

内　容

第1回　演習情報サービスの設計 1(総論)
第2回　演習情報サービスの設計 2(レファレンスサービスの設計)
第3回　演習情報サービスの設計 3(レファレンスコレクションの整備)
第4回　演習レファレンスインタビューの技法と実際
第5回　演習各種情報源の選択－質問分析と回答1事実調査(言葉・歴史を調べる)
第6回　演習各種情報源の選択－質問分析と回答2 事実調査(地名・人名を調べる)
第7回　演習各種情報源の選択－質問分析と回答3 演習(グループ)発表
第8回　演習各種情報源の選択－質問分析と回答4 事実調査(統計・法令をしらべる)
第9回　各種情報源の選択－質問分析と回答5 事実調査(その他)
第10回　各種情報源の選択－質問分析と回答6 文献調査(図書)
第11回　各種情報源の選択－質問分析と回答7 文献調査(雑誌)
第12回　各種情報源の選択－質問分析と回答8 文献調査(新聞)
第13回　各種情報源の選択－質問分析と回答9演習(グループ発表)
第14回　発信型情報サービスの実際(パスファインダーの作成)
第15回　情報サービスの評価(レファレンス事例の作成)

履修上の注意点

「グループ演習」や「個人演習」で、検索方法等がわからない場合は積極的に質問すること。やむを得ず授業を欠席するときは「欠席届」を提出すること。演習では図書館を利用するが、大きな声で会話するなど他の利用者の迷惑になるようなことをしないこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

情報サービス論及び演習
著者:　中西裕等著
出版社:　学文社
出版年:　2012　　ISBN:　978-4762023187

レファレンスサービス演習(改訂版)
著者:　吉田右子著
出版社:　勉誠出版
出版年:　2010　　ISBN:　458500184-0

ask302d880

問題解決のためのレファレンスサービス

著者:　長澤雅男(ほか)著

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2009　　ISBN:　978-4820407027

成績評価

試験 （ 50 ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

演習科目なので、普段の授業に取り組む態度、グループ演習の結果発表態度などに50%評価を与える。

2016 Syllabus

科 目 名　**情報サービス演習Ⅰ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　春期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平野　翠	

テーマ

情報サービスの中心となるレファンレンスサービス演習や新たな情報発信サービスであるパスファインダーの作成

授業の到達目標

情報サービスの設計をはじめ、利用者の質問に対するレファレンスサービスやパスファインダー(調べ方案内)を作成することによって、より発展した情報サービス(情報発信型サービス)を含めた様々な図書館における情報サービスを実践できる能力を身につける。

授業の概要

情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、特にレファレンスサービスにおける情報資源の選択を中心に、積極的な発信型情報サービス(パスファインダーの作成)などの演習を行い、情報サービスを実践できる能力を養成する。

準備学習(予習・復習)

大学図書館の参考図書コーナーにある辞典・事典・書誌(目録)を眺め、手にとってみる。また、図書館HPを閲覧し、「文献検索/電子コンテンツ」「役立つリンク集」をみて、自大学がどのような有料データベースを導入しているか、どのようなデータベースにリンクをはっているかを知る。

内　容

第1回　演習情報サービスの設計 1(総論)
第2回　演習情報サービスの設計 2(レファレンスサービスの設計)
第3回　演習情報サービスの設計 3(レファレンスコレクションの整備)
第4回　演習レファレンスインタビューの技法と実際
第5回　演習各種情報源の選択－質問分析と回答1事実調査(言葉・歴史を調べる)
第6回　演習各種情報源の選択－質問分析と回答2 事実調査(地名・人名を調べる)
第7回　演習各種情報源の選択－質問分析と回答3 演習(グループ)発表
第8回　演習各種情報源の選択－質問分析と回答4 事実調査(統計・法令をしらべる)
第9回　各種情報源の選択－質問分析と回答5 事実調査(その他)
第10回　各種情報源の選択－質問分析と回答6 文献調査(図書)
第11回　各種情報源の選択－質問分析と回答7 文献調査(雑誌)
第12回　各種情報源の選択－質問分析と回答8 文献調査(新聞)
第13回　各種情報源の選択－質問分析と回答9演習(グループ発表)
第14回　発信型情報サービスの実際(パスファインダーの作成)
第15回　情報サービスの評価(レファレンス事例の作成)※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行なうことがある。

履修上の注意点

「グループ演習」や「個人演習」で、検索方法等がわからない場合は積極的に質問すること。やむを得ず授業を欠席するときは「欠席届」を提出すること。演習では図書館を利用するが、大きな声で会話するなど他の利用者の迷惑になるようなことをしないこと。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

情報サービス論及び演習
著者:　中西裕等著
出版社:　学文社
出版年:　2012　　ISBN:　978-4762023187

レファレンスサービス演習(改訂版)
著者:　吉田右子著
出版社:　勉誠出版
出版年:　2010　　ISBN:　458500184-0

ask302d882

問題解決のためのレファレンスサービス

著者:　長澤雅男(ほか)著

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2009　　ISBN:　978-4820407027

成績評価

試験 （ 50 ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 10 ）　　授業中発表等 （ 20 ）

参加度 （ 20 ）

演習科目なので、普段の授業に取り組む態度、グループ演習の結果発表態度などに50%評価を与える。

2016 Syllabus

科 目 名　**情報サービス演習Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　秋期集中	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　米谷　優子	

テーマ

情報サービスのうち、データベース等の電子情報を検索して利用者からの質問に対応する、情報検索サービスについて学習する

授業の到達目標

情報サービスの概念・手順の基礎を確認したうえで、利用者の質問に対するレファレンスサービス・情報検索サービスの演習を通して、実践的な質問回答能力を養成する。

授業の概要

メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。

準備学習（予習・復習）

積極的にさまざまなデータベースにアクセスし、いろいろな検索の実習経験を重ねてほしい。インターネット情報源はその作成者を確認して、信頼性の高いもののみを用いることが肝要である。

内　容

第1回　情報検索の概念、情報検索の手順、検索結果の評価
第2回　情報検索の理論（論理演算、トランケ―ション、検索式等）、データベース
第3回　検索エンジンのしくみ・全文検索
第4回　検索エンジンによる情報検索演習
第5回　図書情報（書誌情報、所蔵情報）の検索
第6回　図書情報検索演習
第7回　雑誌・新聞／雑誌記事・新聞記事の検索
第8回　雑誌・新聞／雑誌記事・新聞記事検索演習
第9回　人物情報・団体情報の検索
第10回　人物情報・団体情報の検索演習
第11回　統計情報・地理的情報の検索
第12回　統計情報・地理的情報の検索演習
第13回　法律情報等の検索
第14回　法律情報等の検索演習
第15回　まとめ（試験を含む）

履修上の注意点

教科書

デジタル情報資源の検索増訂第5版
著者：　高鍬裕樹
出版社：京都図書館情報研究会
出版年：2014　　ISBN：9784820413226

参考書

キーワード検索がわかる
著者：　藤田節子
出版社：筑摩書房
出版年：2007　　ISBN：9784480063854

情報サービス演習
著者：　原田智子
出版社：樹村房
出版年：2012　　ISBN：9784883672073

成績評価

試験　（ 45 ）　　小テスト（　）

ask302d980

授業中課題 （ 45 ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ 10 ）

演習時に課す授業課題は必ず提出すること。課題提出が授業参加の必須条件である。また、3分の1以上欠席の場合は、失格とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**情報サービス演習Ⅱ〈b〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　秋期集中	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　米谷　優子	

テーマ

情報サービスのうち、データベース等の電子情報を検索して利用者からの質問に対応する、情報検索サービスについて学習する

授業の到達目標

情報サービスの概念・手順の基礎を確認したうえで、利用者の質問に対するレファレンスサービス・情報検索サービスの演習を通して、実践的な質問回答能力を養成する。

授業の概要

メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。

準備学習（予習・復習）

積極的にさまざまなデータベースにアクセスし、いろいろな検索の実習経験を重ねてほしい。インターネット情報源はその作成者を確認して、信頼性の高いもののみを用いることが肝要である。

内　容

第1回　情報検索の概念、情報検索の手順、検索結果の評価
第2回　情報検索の理論（論理演算、トランケ―ション、検索式等）、データベース
第3回　検索エンジンのしくみ・全文検索
第4回　検索エンジンによる情報検索演習
第5回　図書情報（書誌情報、所蔵情報）の検索
第6回　図書情報検索演習
第7回　雑誌・新聞／雑誌記事・新聞記事の検索
第8回　雑誌・新聞／雑誌記事・新聞記事検索演習
第9回　人物情報・団体情報の検索
第10回　人物情報・団体情報の検索演習
第11回　統計情報・地理的情報の検索
第12回　統計情報・地理的情報の検索演習
第13回　法律情報等の検索
第14回　法律情報等の検索演習
第15回　まとめ（試験を含む）

履修上の注意点

教科書

デジタル情報資源の検索増訂第5版
著者：　高鍬裕樹
出版社：京都図書館情報研究会
出版年：2014　　ISBN：9784820413226

参考書

キーワード検索がわかる
著者：　藤田節子
出版社：筑摩書房
出版年：2007　　ISBN：9784480063854

情報サービス演習
著者：　原田智子
出版社：樹村房
出版年：2012　　ISBN：9784883672073

成績評価

試験　（ 45 ）　　小テスト（　）

ask302d982

授業中課題 （ 45 ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ 10 ）

演習時に課す授業課題は必ず提出すること。課題提出が授業参加の必須条件である。また、3分の1以上欠席の場合は、失格とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**情報サービス演習Ⅱ〈c〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　春期集中	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　米谷　優子	

テーマ

情報サービスのうち、データベース等の電子情報を検索して利用者からの質問に対応する、情報検索サービスについて学習する

授業の到達目標

情報サービスの概念・手順の基礎を確認したうえで、利用者の質問に対するレファレンスサービス・情報検索サービスの演習を通して、実践的な質問回答能力を養成する。

授業の概要

メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。

準備学習（予習・復習）

積極的にさまざまなデータベースにアクセスし、いろいろな検索の実習経験を重ねてほしい。インターネット情報源はその作成者を確認して、信頼性の高いもののみを用いることが肝要である。

内　容

第1回　情報検索の概念、情報検索の手順、検索結果の評価
第2回　情報検索の理論（論理演算、トランケ―ション、検索式等）、データベース
第3回　検索エンジンのしくみ・全文検索
第4回　検索エンジンによる情報検索演習
第5回　図書情報（書誌情報、所蔵情報）の検索
第6回　図書情報検索演習
第7回　雑誌・新聞／雑誌記事・新聞記事の検索
第8回　雑誌・新聞／雑誌記事・新聞記事検索演習
第9回　人物情報・団体情報の検索
第10回　人物情報・団体情報の検索演習
第11回　統計情報・地理的情報の検索
第12回　統計情報・地理的情報の検索演習
第13回　法律情報等の検索
第14回　法律情報等の検索演習
第15回　まとめ（試験を含む）

履修上の注意点

教科書

デジタル情報資源の検索増訂第5版
著者：　高鍬裕樹
出版社：京都図書館情報研究会
出版年：2014　　ISBN：9784820413226

参考書

キーワード検索がわかる
著者：　藤田節子
出版社：筑摩書房
出版年：2007　　ISBN：9784480063854

情報サービス演習
著者：　原田智子
出版社：樹村房
出版年：2012　　ISBN：9784883672073

成績評価

試験　（ 45 ）　　小テスト（　）

ask302d983

授業中課題 （ 45 ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ 10 ）

演習時に課す授業課題は必ず提出すること。課題提出が授業参加の必須条件である。また、3分の1以上欠席の場合は、失格とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**図書館情報資源概論 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　竹島 昭雄	

テーマ

公立図書館を中心とする図書館の所蔵資料の種類を知り、その収集と管理のあり方を学ぶ。また、出版流通のしくみについても理解を深める。

授業の到達目標

公立図書館をとりまく社会環境の変化と情報技術の進展は、図書館資料の概念や取り扱いにも大きな変化をもたらしている。この科目では、伝統的な印刷メディアと先端的な電子メディアを紹介しながら、市民の要求に応えてどのように蔵書を形成し、提供するかを知る。また、出版流通に関する基礎的知識と電子メディアの動向、資料の受入方法・蔵書管理の在り方についての知識を修得する。

授業の概要

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。

準備学習（予習・復習）

復習として配布資料を熟読するとともに、各授業のテーマについて事前に参考文献を読んでおくこと。

内　容

第1回　印刷資料・非印刷資料の類型と特質(1)　図書・雑誌・新聞、資料の歴史。
第2回　印刷資料・非印刷資料の類型と特質(2)　主要な一次・二次資料(小冊子、地図等)。
第3回　電子資料、ネットワーク情報源の類型と特質　電子資料の収集・選択・利用、課題　ネットワーク情報源の類型・特質、インターネットの運用・課題。
第4回　地域資料　地域資料の種類と内容、収集と提供、課題。
第5回　行政資料(政府刊行物)、灰色文献　行政資料、政府刊行物の種類と特徴、収集・提供、灰色文献の種類と特徴。
第6回　情報資源の生産(出版)と流通(1)　出版、書店、図書館、出版流通経路。
第7回　情報資源の生産(出版)と流通(2)　再販制度、主な出版社に関する基礎知識。
第8回　図書館業務と情報資源に関する知識（主な著者に関する基礎知識を含む)。
第9回　コレクション形成の理論　蔵書構成論、図書選択論。
第10回　コレクション形成の方法(1)　資料の選択・収集・評価。
第11回　コレクション形成の方法(2)　選択ツールの利用、選定、評価。
第12回　人文・社会科学分野の情報資源とその特質
第13回　科学技術分野の情報源とその特質
第14回　資料の管理(1)　資料の受入・除籍・保存・管理。
第15回　資料の管理(2)　資料の装備・補修・排架・展示・点検等。

履修上の注意点

成績には授業参加度を考慮するので、欠席の場合は事前か事後に報告すること。また、第1回目の授業で、レポート課題を説明するので、出席すること。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

図書館情報資源概論
著者:　馬場　俊明著
出版社:　日本図書館協会
出版年:　2012　ISBN:　9784820412175

図書館情報資源概論
著者:　高山　正也・平野　英俊編集
出版社:　樹村房
出版年:　2013　ISBN:　9784883672080

ask302e010

図書館情報資源概論

著者:　伊藤　民雄

出版社: 学文社

出版年: 2012　　ISBN:

成績評価

試験 （ 50 ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**図書館情報資源概論 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹島　昭雄	

テーマ

公立図書館を中心とする図書館の所蔵資料の種類を知り、その収集と管理のあり方を学ぶ。また、出版流通のしくみについても理解を深める。

授業の到達目標

公立図書館をとりまく社会環境の変化と情報技術の進展は、図書館資料の概念や取り扱いにも大きな変化をもたらしている。この科目では、伝統的な印刷メディアと先端的な電子メディアを紹介しながら、市民の要求に応えてどのように蔵書を形成し、提供するかを知る。また、出版流通に関する基礎的知識と電子メディアの動向、資料の受入方法・蔵書管理の在り方についての知識を修得する。

授業の概要

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。

準備学習（予習・復習）

復習として配布資料を熟読するとともに、各授業のテーマについて事前に参考文献を読んでおくこと。

内　　容

第1回　印刷資料・非印刷資料の類型と特質(1)　図書・雑誌・新聞、資料の歴史。
第2回　印刷資料・非印刷資料の類型と特質(2)　主要な一次・二次資料(小冊子、地図等)。
第3回　電子資料、ネットワーク情報源の類型と特質　電子資料の収集・選択・利用、課題　ネットワーク情報源の類型・特質、インターネットの運用・課題。
第4回　地域資料　地域資料の種類と内容、収集と提供、課題。
第5回　行政資料(政府刊行物)、灰色文献　行政資料、政府刊行物の種類と特徴、収集・提供、灰色文献の種類と特徴。
第6回　情報資源の生産(出版)と流通(1)　出版、書店、図書館、出版流通経路。
第7回　情報資源の生産(出版)と流通(2)　再販制度、主な出版社に関する基礎知識。
第8回　図書館業務と情報資源に関する知識（主な著者に関する基礎知識を含む)。
第9回　コレクション形成の理論　蔵書構成論、図書選択論。
第10回　コレクション形成の方法(1)　資料の選択・収集・評価。
第11回　コレクション形成の方法(2)　選択ツールの利用、選定、評価。
第12回　人文・社会科学分野の情報資源とその特質
第13回　科学技術分野の情報源とその特質
第14回　資料の管理(1)　資料の受入・除籍・保存・管理。
第15回　資料の管理(2)　資料の装備・補修・排架・展示・点検等。

履修上の注意点

成績には授業参加度を考慮するので、欠席の場合は事前か事後に報告すること。また、第1回目の授業で、レポート課題を説明するので、出席すること。

教科書

使用しない。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

図書館情報資源概論
著者:　『図書館情報資源概論』
出版社:　日本図書館協会
出版年:　2012年　　ISBN:　9784820412175

図書館情報資源概論
著者:　高山　正也・平野　英俊編集
出版社:　樹村房
出版年:　2013年　　ISBN:　9784883672080

ask302e012

図書館情報資源概論

著者:　伊藤　民雄

出版社: 学文社

出版年: 2012　　ISBN:

成績評価

試験 （ 50 ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**情報資源組織論 <a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　福井　多恵子	

テーマ

図書館における情報資源の組織化について、その意義・目的・方法を学ぶ。

授業の到達目標

図書館情報学の内、学生にとって最もわかりにくいのが情報資源組織論であろう。情報検索を可能にしている仕組み、メタデータや書誌データの機能と活用を説明し、また図書館内における情報資源の組織化についても実際に図書館へ行って調べるなどして机上の理解だけでなく体験して理解できるようにする。

授業の概要

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を解説する。

準備学習（予習・復習）

本講では極めて専門的な内容を学ぶ。従って、事前に教科書の該当部分は勿論のこと、『日本目録規則』『日本十進分類法』『基本件名標目表』の該当箇所を精読した上で受講すること。講義終了後は復習をし、疑問点を確実に解消して次の授業に臨むこと。日頃から大学図書館や地域の公共図書館を利用し、それぞれのOPAC、カード目録を実際に利用してみる。また資料の排列についても注意して観察すること。

内　　容

第1回　情報資源組織化の意義（1）図書館の機能と情報資源組織、図書館業務の中での位置づけなどを説明。
第2回　情報資源組織化の意義（2）多様化するメディアや資料アクセスと情報資源組織の関係について説明
第3回　資料コントロール意義、歴史、国際標準について説明
第4回　書誌情報の作成・流通・管理　書誌ユーティリティ、OPAC，MARC等について、その歴史的経過から今日に至る現状と課題もあわせて説明
第5回　コンピュータによる目録作成の実際　流用入力とオリジナル入力、総合目録、オンライン検索について説明
第6回　目録法の基礎　記述目録法と主題目録法、目録の種類と機能、メタデータと書誌データなどの説明
第7回　記述目録法の基礎　記述目録法の概要、記述の範囲、「日本目録規則1987年版改訂3版」の構成について説明
第8回　記述の単位と順序／記述目録作成の実際（1）　書誌階層の考え方と階層化の利点、書誌記述の情報原、書誌的事項と記述の順序、記述ユニット方式、ISBD区切り記号について説明
第9回　記述目録作成の実際（2）　各書誌的事項作成の説明
第10回　記述目録作成の実際（3）各書誌的事項および標目・排列について説明
第11回　主題目録法　主題目録法の概要、「日本十進分類法」、「基本件名標目表」の概要説明
第12回　分類法の基礎（1）　分類法の概要、書誌分類と書架分類、十進分類法と序列表示型分類法の説明
第13回　分類法の基礎（2）　列挙型分類法と分析型分類法、ファセット分類法ほか世界の主要な分類法について説明
第14回　主題目録作成の実際　「日本十進分類法」の適用、件名目録作成の実際について説明
第15回　まとめと補足情報資料の物理的排架に必要な補助記号としての図書記号・著者記号表、およびシソーラスと件名標目表など説明

履修上の注意点

一回一回の授業はすべて関連していて、前回の授業の上に、次回の授業が展開されるので、欠席は極力しないように。取り付きにくく分りにくい授業内容が一層理解し難くなるので注意すること。

教科書

情報資源組織論（JLA図書館情報学シリーズⅢ-9）
著者：　柴田正美著
出版社：日本図書館協会
出版年：2012　　ISBN：

参考書

情報資源組織論（現代図書館情報学シリーズ9）
著者：　田窪直樹編
出版社：樹村房
出版年：2011　　ISBN：

ask302e110

情報資源組織法

著者:　志保田務　他編著

出版社: 第一法規

出版年: 2012　　ISBN:

成績評価

試験 （ 60% ）　　小テスト（ 30% ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 10% ）

小テストはレポートに振り替える場合があります。

2016 Syllabus

科 目 名　**情報資源組織論 <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　福井　多恵子	

テーマ

図書館における情報資源の組織化について、その意義・目的・方法を学ぶ。

授業の到達目標

図書館情報学の内、学生にとって最もわかりにくいのが情報資源組織論であろう。情報検索を可能にしている仕組み、メタデータや書誌データの機能と活用を説明し、また図書館内における情報資源の組織化についても実際に図書館へ行って調べるなどして机上の理解だけでなく体験して理解できるようにする。

授業の概要

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を解説する。

準備学習（予習・復習）

本講では極めて専門的な内容を学ぶ。従って、事前に教科書の該当部分は勿論のこと、「日本目録規則」「日本十進分類法」「基本件名標目表」の該当箇所を精読した上で受講すること。講義終了後は復習をし、疑問点を確実に解消して次の授業に臨むこと。日頃から大学図書館や地域の公共図書館を利用し、それぞれのOPAC、カード目録を実際に利用してみる。また資料の排列についても注意して観察すること。

内　　容

第1回　情報資源組織化の意義（1）図書館の機能と情報資源組織、図書館業務の中での位置づけなどを説明。
第2回　情報資源組織化の意義（2）多様化するメディアや資料アクセスと情報資源組織の関係について説明
第3回　資料コントロール意義、歴史、国際標準について説明
第4回　書誌情報の作成・流通・管理　書誌ユーティリティ、OPAC，MARC等について、その歴史的経過から今日に至る現状と課題もあわせて説明
第5回　コンピュータによる目録作成の実際　流用入力とオリジナル入力、総合目録、オンライン検索について説明
第6回　目録法の基礎　記述目録法と主題目録法、目録の種類と機能、メタデータと書誌データなどの説明
第7回　記述目録法の基礎　記述目録法の概要、記述の範囲、「日本目録規則1987年版改訂3版」の構成について説明
第8回　記述の単位と順序／記述目録作成の実際（1）　書誌階層の考え方と階層化の利点、書誌記述の情報原、書誌的事項と記述の順序、記述ユニット方式、ISBD区切り記号について説明
第9回　記述目録作成の実際（2）　各書誌的事項作成の説明
第10回　記述目録作成の実際（3）各書誌的事項および標目・排列について説明
第11回　主題目録法　主題目録法の概要、「日本十進分類法」、「基本件名標目表」の概要説明
第12回　分類法の基礎（1）　分類法の概要、書誌分類と書架分類、十進分類法と序列表示型分類法の説明
第13回　分類法の基礎（2）　列挙型分類法と分析型分類法、ファセット分類法ほか世界の主要な分類法について説明
第14回　主題目録作成の実際　「日本十進分類法」の適用、件名目録作成の実際について説明
第15回　まとめと補足情報資料の物理的排架に必要な補助記号としての図書記号・著者記号表、およびシソーラスと件名標目表など説明

履修上の注意点

一回一回の授業は関連していて、前回の授業内容の上に次回の授業が展開されるので、欠席は極力しないように。とりつきにくく、わかりにくい授業内容が一層理解し難くなるので、注意すること。

教科書

情報資源組織論（JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ－9）
著者：　柴田正美著
出版社：日本図書館協会
出版年：2012　　ISBN：

参考書

情報資源組織論（現代図書館情報学シリーズ9）
著者：　田窪直規編
出版社：樹村房
出版年：2011　　ISBN：

ask302e112

情報資源組織法

著者:　志保田務他編著

出版社: 第一法規

出版年: 2012　　ISBN:

成績評価

試験 （ 60% ）　　小テスト（ 30% ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 10% ）

小テストはレポートに振り替えることがあります。

2016 Syllabus

科 目 名　**情報資源組織演習Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平野　翠	

テーマ

多様な情報資源(図書館資料)に関する書誌データ、メタデータの作成

授業の到達目標

多様な情報資源に関する書誌データの作成、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。

授業の概要

主に単行資料書誌データを作成することにより、継続資料や電子資料等多様な情報資源の書誌データを作成する能力を養い、集中化・共同化による書誌データの作成や、ネットワーク情報資源のメタデータの作成も実践する。

準備学習(予習・復習)

京都橘大学図書館OPACや、CiNii-BOOKS、NDL-OPACなどを検索し、検索結果のデータをみること。また、図書実物と検索結果のデータを見比べてみる。

内　　容

第4回　書誌データ作成　４（形態・シリーズ）
第5回　書誌データ作成　５（注記）
第6回　書誌データ作成　６（国際標準図書番号・入手条件）
第7回　書誌データ作成　７（継続資料）
第8回　書誌データ作成　８（継続資料）
第9回　書誌データ作成　９（標目について）
第10回　集中化・共同化による書誌データ作成　１（所蔵登録）
第11回　集中化・共同化による書誌データ作成　２（書誌流用）
第12回　集中化・共同化による書誌データ作成　３（新規登録）
第13回　ネットワーク情報資源のメタデータ作成　１（概要）
第14回　ネットワーク情報資源のメタデータ作成　２（作成）
第15回　書誌データ管理・検索システムの構築
第1回　書誌データ作成　１（総則）
第2回　書誌データ作成　２（タイトル・責任表示）
第3回　書誌データ作成　３（版表示・出版事項）

履修上の注意点

「書誌データ作成」など、この授業は今まで経験のない演習である。授業中、不明な点があればそのつど質問すること。やむをえず授業欠席する場合は、「欠席届」を提出すること。

教科書

テキストは使用しない。授業のつどプリントを配布する。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

資料組織演習(JLA図書館情報学シリーズⅡ)
著者:　吉田憲一編
出版社:　日本図書館協会
出版年:　2007　　ISBN:　978-48204062

情報資源組織論及び演習
著者:　那須雅熙著
出版社:　学文社
出版年:　2012　　ISBN:　978-4762022388

成績評価

試験　（ 確認試験　50% ）　　小テスト（ 20% ）
授業中課題（ 10% ）　　授業中発表等（　）

ask302e250

参加度 （ 20% ）

演習科目なので、授業中の成果や授業に取り組む態度に50%の評価を与える。

2016 Syllabus

科 目 名　**情報資源組織演習Ⅰ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　　平野　翠	

テーマ

多様な情報資源(図書館資料)に関する書誌データ、メタデータの作成

授業の到達目標

多様な情報資源に関する書誌データの作成、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。

授業の概要

主に単行資料書誌データを作成することにより、継続資料や電子資料等多様な情報資源の書誌データを作成する能力を養い、集中化・共同化による書誌データの作成や、ネットワーク情報資源のメタデータの作成も実践する。

準備学習(予習・復習)

京都橘大学図書館OPACや、CiNii-BOOKS、NDL-OPACなどを検索し、検索結果のデータをみること。また、図書実物と検索結果のデータを見比べてみる。

内　　容

第1回　書誌データ作成　１（総則）
第2回　書誌データ作成　２（タイトル・責任表示）
第3回　書誌データ作成　３（版表示・出版事項）
第4回　書誌データ作成　４（形態・シリーズ）
第5回　書誌データ作成　５（注記）
第6回　書誌データ作成　６（国際標準図書番号・入手条件）
第7回　書誌データ作成　７（継続資料）
第8回　書誌データ作成　８（継続資料）
第9回　書誌データ作成　９（標目について）
第10回　集中化・共同化による書誌データ作成　１（所蔵登録）
第11回　集中化・共同化による書誌データ作成　２（書誌流用）
第12回　集中化・共同化による書誌データ作成　３（新規登録）
第13回　ネットワーク情報資源のメタデータ作成　１（概要）
第14回　ネットワーク情報資源のメタデータ作成　２（作成）
第15回　書誌データ管理・検索システムの構築

履修上の注意点

「書誌データ作成」など、この授業は今まで経験のない演習である。授業中、不明な点があればそのつど質問すること。やむをえず授業欠席する場合は、「欠席届」を提出すること。

教科書

テキストは使用しない。授業のつどプリントを配布する。

著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

資料組織演習(JLA図書館情報学シリーズⅡ)
著者:　吉田憲一編
出版社:　日本図書館協会
出版年:　2007　　ISBN:　978-48204062

情報資源組織論及び演習
著者:　那須雅熙著
出版社:　学文社
出版年:　2012　　ISBN:　978-4762022388

成績評価

試験　（ 確認試験　50% ）　　小テスト（ 20% ）
授業中課題（ 10% ）　　授業中発表等（　）

ask302e252

参加度 （ 20% ）

演習科目なので、授業中の成果や授業に取り組む態度に50%の評価を与える。

2016 Syllabus

科 目 名　**情報資源組織演習Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　福井　多恵子	

テーマ

図書館情報資源の組織化業務の一つである資料分類法を中心に、件名法も含めて、その知識と技法を学ぶ。

授業の到達目標

NDC10版、BSH4版を使って、情報資源の主題を記号およびことば（統制語）で表現できるようにする。

授業の概要

多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。この科目では、上記の内、主題分析、分類作業、統制語彙の適用の演習を行う。

準備学習（予習・復習）

予習として教科書を精読し、その章のポイントは何かを整理しておく。復習には特に重点をおき、教科書の例題の分類記号や件名(統制語)について、NDCやBSHを使って確認する。余力があれば教科書の演習問題にチャレンジする。できるだけ数多くの事例を実践することにより、スキルアップをはかる。また大学図書館や公共図書館を積極的に利用し、排架されている資料の背ラベルに記されている数字や記号を意識的に見ること。

内　　容

第1回　主題分析とその表示　情報原の主題を分析し、要約主題と網羅的主題について説明
第2回　基本件名標目表の概略　基本件名標目表の概略、階層構造の詳細について説明
第3回　基本件名標目表による件名作業　細目の用い方、件名規程の説明
第4回　演習とまとめ　ここまで学習したことを、演習を通してどこまで理解しているかを見る
第5回　日本十進分類法（NDC）の概略　NDCの構成を説明
第6回　日本十進分類法による分類作業一般補助表（形式区分等）・固有補助表の用い方を説明
第7回　分類記号付与の実際分類規程の説明、教科書の問題も交えながら理解をさせる
第8回　演習とまとめ
第9回　分類記号付与の実際／人文科学（2類、1類）　これら各類の特徴的な分類の展開と適用について説明
第10回　分類記号付与の実際／人文科学（7類、8類、9類）
第11回　演習とまとめ
第12回　分類記号付与の実際／社会科学（3類）
第13回　分類記号付与の実際／自然科学（4類）、技術（5類）
第14回　分類記号付与の実際／産業（6類）、総記（0類）
第15回　図書記号・別置記号の付与；演習とまとめ

履修上の注意点

一回一回の授業の積み重ねが大事なので、欠席はしないこと。

教科書

情報資源組織演習(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ－10)
著者：　和中幹雄他著
出版社：日本図書館協会
出版年：2014　　ISBN：

参考書

情報資源組織論及び演習(ライブラリー図書館情報学9)
著者：　那須雅熙著
出版社：学文社
出版年：2012　　ISBN：

情報資源組織演習
著者：　小西和信他編
出版社：樹村房
出版年：2013　　ISBN：

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（ 20% ）

ask302e350

授業中課題 （ 10% ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ 20% ）

授業に積極的に参加する姿勢（出席率、課題発表等）を重視する。授業の中間(第8回）及び授業最終日に理解度を確認するためのテストを行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**情報資源組織演習Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　福井　多恵子	

テーマ

図書館情報資源の組織化業務の一つである資料分類法を中心に、件名法も含めて、その知識と技法を学ぶ。

授業の到達目標

NDC10版、BSH4版を使って、情報資源の主題を記号およびことば（統制語）で表現できるようにする。

授業の概要

多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。この科目では、上記の内、主題分析、分類作業、統制語彙の適用の演習を行う。

準備学習（予習・復習）

予習として教科書を精読し、その章のポイントは何かを整理しておく。復習には特に重点をおき、教科書の例題の分類記号や件名（統制語）について、NDCやBSHを使って確認する。余力があれば教科書の演習問題にチャレンジする。出来るだけ数多くの事例を実践することにより、スキルアップをはかる。また大学図書館や公共図書館を積極的に利用し、排架されている資料の背ラベルに記されている数字や記号を意識的に見ること。

内　　容

第1回　主題分析とその表示　情報原の主題を分析し、要約主題と網羅的主題について説明
第2回　基本件名標目表の概略　基本件名標目表の概略、階層構造の詳細について説明
第3回　基本件名標目表による件名作業　細目の用い方、件名規程の説明
第4回　演習とまとめ　ここまで学習したことを、演習を通してどこまで理解しているかを見る
第5回　日本十進分類法（NDC）の概略　NDCの構成を説明
第6回　日本十進分類法による分類作業一般補助表（形式区分等）・固有補助表の用い方を説明
第7回　分類記号付与の実際分類規程の説明、教科書の問題も交えながら理解をさせる
第8回　演習とまとめ
第9回　分類記号付与の実際／人文科学（2類、1類）　これら各類の特徴的な分類の展開と適用について説明
第10回　分類記号付与の実際／人文科学（7類、8類、9類）
第11回　演習とまとめ
第12回　分類記号付与の実際／社会科学（3類）
第13回　分類記号付与の実際／自然科学（4類）、技術（5類）
第14回　分類記号付与の実際／産業（6類）、総記（0類）
第15回　図書記号・別置記号の付与；演習とまとめ

履修上の注意点

一回一回の授業の積み重ねが大事なので、欠席はしないこと。

教科書

情報資源組織演習（JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ－10）
著者：　和中幹雄他著
出版社：日本図書館協会
出版年：2014　　ISBN：

参考書

情報資源組織論及び演習(ライブラリー図書館情報学9）
著者：　那須雅熙著
出版社：学文社
出版年：2012　　ISBN：

情報資源組織演習
著者：　小西和信他編
出版社：樹村房
出版年：2013　　ISBN：

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（ 20% ）

ask302e352

授業中課題 （ 10% ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ 20% ）

授業に積極的に参加する姿勢（出席率、課題発表等）を重視する。授業の中間（第8回）及び授業最終日に理解度を確認するためのテストを行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**図書館実習**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　通年集中　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　明定 義人

テーマ

それまでの図書館学で学んだことを図書館現場で実習することにより、現実に対応できる能力を獲得する。

授業の到達目標

それまでの図書館学で学んだことを図書館現場で実習することを通じて、仕事をより深く理解し、今日の図書館が抱える課題についても問題意識を深めることが期待される。

授業の概要

図書館に関する科目で得た知識・技術を元にして、事前・事後学習の指導を受けつつ公立図書館業務を経験させる。実習は公立図書館で5日間（40時間）を基礎とする。実習の内容は下記の内容を中心にすえつつ順序等については実習館の都合にあわせる。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　事前ガイダンス
第2回　実習先による図書館施設見学と概略説明
第3回　貸出・返却業務および配架作業
第4回　レファレンス業務およびリクエスト処理等
第5回　選書・発注作業および資料整理技術の実際を学ぶ
第6回　図書館行事（お話会や講演会等）補助作業および館長の話（まとめ）
第7回　学生からの報告と評価①
第8回　学生からの報告と評価②

履修上の注意点

実習館ごとに、運営・サービス内容に違いがあるので、事前に複数の図書館を見学しておくことが望ましい。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）
実習終了後に提出されたレポートを、授業中課題として評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**学校経営と学校図書館**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村岡　益子	

テーマ

学校図書館の理念と意義を学校教育の抱える課題の中に位置づけて理解する。

授業の到達目標

今日の学校教育の諸課題をふまえ、学校図書館の教育的意義及び司書教諭の果たすべき任務について　理解し、意欲的・創造的に活動する司書教諭をめざす。

授業の概要

当科目が講義科目全体の総論的な位置づけであることを踏まえ、まず学校教育における学校図書館の果たす役割等、学校図書館全般について論じ、基本的理解を図る。次に教師として、学校図書館経営の責任者としての司書教諭の任務と職務を明確にし、校内の協力体制づくり、司書教諭としての研修の重要性にふれる。さらに、学校図書館メディア・学校図書館活動・他の館種を含めた図書館ネットワーク等についての基本的理解を図る。

準備学習（予習・復習）

授業後は、テキストと配布資料で復習をしておくこと。

内　　容

第1回　学校図書館の理念と教育的意義
第2回　生涯学習社会・知識基盤社会と学校図書館
第3回　学校図書館の発展と課題
第4回　教育行政と学校図書館
第5回　学校図書館法と関係法令
第6回　教育サービスとしての学校図書館施策
第7回　学校経営組織における学校図書館
第8回　学校図書館のマネジメント・サイクル
第9回　司書教諭の任務と役割
第10回　学校内の協力体制と司書教諭の職務
第11回　学校図書館メディアの構築と管理
第12回　学校図書館活動の対象と領域
第13回　学校図書館活動の内容と方法
第14回　「読む力」と「読書へのアニマシオン」
第15回　学校図書館が築くネットワーク

履修上の注意点

母校を訪問し、無償で図書館ボランティアを体験させてもらう。また、必要な事前学習については、適宜指示する。

教科書

学校経営と学校図書館
著者：「シリーズ学校図書館学」編集委員会編著
出版社：全国学校図書館協議会
出版年：2011　　ISBN：
※加えて、適宜、講義の理解に必要な「印刷資料」を配布
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

学校図書館・司書教諭講習資料　第7版
著者：　全国学校図書館協議会編
出版社：全国学校図書館協議会
出版年：2012　　ISBN：

成績評価

試験　（ 50 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等　（ 0 ）

ask312d110

参加度 （ 30 ）

出席・授業参加が大前提。２５％以上の欠席は履修不可能。試験及び授業中の課題ペーパー、そして授業参加点を加味し、総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**学校図書館メディアの構成**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村岡　益子	

テーマ

学校図書館メディアの構成に必要な実務的知識を得る。

授業の到達目標

学校図書館メディアの構成に関する理解および実務能力の育成と、学校図書館メディアの専門職である司書教諭としての基本的な知識を獲得する。

授業の概要

先ず初めに、高度情報社会のおける学習環境の変化に伴うメディアの教育的意義と役割について論じ、同時に各種メディアの種別と特性について説明し、理解を図る。次に、より優れたメディアの構築について、さらにメディアの組織化の意義と展開について講義し、必要に応じて演習や実習を行う。

準備学習（予習・復習）

授業後に、テキストと配布資料で復習をしておくこと。

内　　容

第1回　高度情報社会における学校図書館メディア
第2回　学校図書館におけるメディアの種類と特性
第3回　学校図書館メディア構築のための基本
第4回　学校図書館メディアの選択と収集方針（評価方法を含む）
第5回　学校図書館メディアの選択のための情報源と発注
第6回　情報ファイル資料の構築
第7回　学校図書館メディアの維持と発展（更新・廃棄を含む）
第8回　学校図書館メディアの組織化の意義とプロセス
第9回　学校図書館メディアの配架
第10回　学校図書館メディアの組織化の新しい展開
第11回　学校図書館メディアの目録
第12回　学校図書館メディアの目録法
第13回　学校図書館メディアの主題索引法
第14回　特別な支援のための学校図書館メディア
第15回　学校図書館メディアの充実と提供

履修上の注意点

小・中・高・大学の図書館及び公共図書館へ足を運ぶ。また、必要な事前学習については、適宜指示する。

教科書

学校図書館メディアの構成
著者:　小田光宏　編集
出版社:　樹村房
出版年:　2010　　ISBN:
※加えて、適宜、講義の理解に必要な「印刷資料」を配布
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

学校図書館・司書教諭講習資料　第7版
著者:　全国学校図書館協議会編
出版社:　全国学校図書館協議会
出版年:　2012　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等　（ 0 ）
参加度　（ 30 ）	

ask312d250

出席・授業参加が大前提。２５％以上の欠席は履修不可能。試験及び授業中の課題ペーパー、そして授業参加点を加味し、総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**学習指導と学校図書館**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　村岡　益子	

テーマ

学習センター機能としての学校図書館は、教科学習や読書などと関連付けて活用されることが重要である。司書教諭は教師として、また多様なメディアの専門家として、その役割を果たすことが求められている。学校教育の目標と結びついた学習指導において学校図書館の活用を考えていく。

授業の到達目標

学習指導の基盤となる教育の理論を理解した上で、学校図書館メディアの活用方法を実践例を見ながら考察する。教科学習における担当教諭と司書教諭のコラボレーション、学習情報センターとしての学校図書館利用指導などについて事例を研究し、実際に自分で指導計画を作成する。情報リテラシー育成の一端を担う学校図書館活用の理論と実践のつながりを理解する。

授業の概要

講義中心であるが、課題をこなし、それに基づいた討論を行う。学習指導計画を実際に作成し、学校図書館を活用した授業を考える。最後に筆記試験を行う。

準備学習（予習・復習）

授業後に、テキストと配布資料で復習をしておくこと。

内　　容

第1回　オリエンテーションとビデオ視聴『司書教諭の役割』
第2回　学校教育と学校図書館
第3回　主体的な学習を支える学校図書館
第4回　メディア活用能力育成とその方法
第5回　メディア活用能力育成の計画と評価
第6回　レファレンスサービスと情報サービス
第7回　学校図書館メディアの活用―レファレンスブックの利用
第8回　情報サービスの新しい展開
第9回　インターネット情報源の利用
第10回　情報の利用とまとめ方
第11回　ビデオ視聴『図書館を生かす学校は変わる』
第12回　調べ学習の事例（1）
第13回　調べ学習の事例（2）
第14回　学校図書館活用を組み込んだ学習指導計画の作成
第15回　学習指導計画の発表と討議、まとめと筆記試験

履修上の注意点

教育学、教科教育法の授業を履修した人は復習しておくこと。また、必要な、事前学習については、適宜指示する。

教科書

学習指導と学校図書館』
著者：「シリーズ学校図書館学」編集委員会編
出版社：全国学校図書館協議会
出版年：2010　　ISBN：
※加えて、適宜、講義の理解に必要な「印刷資料」を配布
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

学校図書館・司書教諭講習資料　第7版
著者：　全国学校図書館協議会編
出版社：全国学校図書館協議会編
出版年：2012　　ISBN：

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（　）

ask312d350

授業中課題（ 20 ）　　授業中発表等（ 0 ）

参加度 （ 30 ）

出席・授業参加が大前提。２５％以上の欠席は履修不可能。試験及び授業中の課題ペーパー、授業中の発表内容、そして授業参加点を加味し、総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**読書と豊かな人間性**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　明定　義人	

テーマ

子どもが読書することの意義、子どもに読書を薦める意義について自分なりの考えを持つ。

授業の到達目標

子どもが読書することの意義、子どもに読書を薦める意義について自分なりの考えを持つ。また、学校図書館における読書教育の方策についての知識と理解を獲得する。子どもを本好きにするために何ができるか、読書教育と環境について考える

授業の概要

子どもの読書の意義について理解を深め、読書資料をジャンルごとに解説し、子供を本好きにするためのさまざまな技術や方法についても学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　子どもの読書の現状
第2回　子どもの読書と人間形成
第3回　学校教育における読書
第4回　発達段階と読書
第5回　小学生、中学生、高校生の読書
第6回　読書指導の実際
第7回　子どもを読書に誘う方法（1）読み聞かせとストーリーテリング
第8回　子どもを読書に誘う方法（2）ブックトーク
第9回　子どもを読書に誘う方法（3）朝の読書 ほか
第10回　読書資料の種類と活用（1）絵本
第11回　読書資料の種類と活用（2）児童文学 ほか
第12回　読書資料の種類と活用（3）昔話・伝承文学、知識の本
第13回　読書活動における司書教諭の役割、「図書館の自由」と「読書の秘密」
第14回　生涯学習への読書、家庭・地域・公共図書館との連携、協力
第15回　子ども読書活動の推進
第16回　試験

履修上の注意点

教科書

参考書

読書と豊かな人間性
著者:　朝比奈大作　編
出版社:　樹村房
出版年:　2002　　ISBN:　4-88367-093-2

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**情報メディアの活用**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　米谷　優子	

テーマ

存在するさまざまなメディアの特色を理解した上で、学校教育への活用を論じる。そして、児童生徒の情報リテラシーの育成について学ぶ。

授業の到達目標

司書教諭資格取得希望者、もしくは教職希望者が、情報メディアを授業で活用することを目標において行う講義である。実践に役立つ知識とスキルを身につけ、情報メディアの活用を目的とした教材の制作も行う。また、グループワークを取り入れ、コミュニケーションスキルの向上も図る。

授業の概要

現代社会におけるさまざまなメディアの特色を理解し、実際に学校教育に活用することができるような知識の習得をめざす。また著作権の問題やメディアに潜む「負」の要素を認識すると共に、併せて児童生徒への指導方法についても考える。

準備学習（予習・復習）

まず、自身が図書館をはじめとする情報源に親しむこと。また、司書教諭の科目は全てが関連し合っている。学校図書館や司書教諭について総合的に把握することができるよう、他の科目で学んだことも復習しておくこと。

内　容

第1回　情報メディアの発達と変化：情報社会と人間
第2回　学校教育における情報メディア、高度情報社会における図書館の役割
第3回　情報メディアの特性と選択
第4回　視聴覚メディアの活用・実例の紹介
第5回　電子メディアの活用・実例の紹介
第6回　学校図書館におけるコンピュータの利用
第7回　情報活用能力、メディアリテラシー
第8回　教育用ソフトウェアの活用
第9回　情報検索の仕組みと実際：データベースを用いて
第10回　情報検索の仕組みと実際：インターネットを用いて
第11回　インターネットの利用：ネチケット、フィルタリング
第12回　インターネット：情報の発信
第13回　プレゼンテーションと情報の評価
第14回　情報メディアと著作権およびテスト
第15回　テストの確認と自己評価

履修上の注意点

授業は講義のほか、演習も含む。情報検索演習はコンピュータの基本操作能力を前提として進める。授業中の課題は締切や形式等の指示を守って提出すること。なお、授業計画は理解度その他の理由によって変更することがある。授業で紹介する資料およびURLへは各自で閲覧やアクセスを行っておいてください。

教科書

情報メディアの活用(シリーズ学校図書館学)
著者：
出版社：全国学校図書館協議会
出版年：2010　ISBN：9784793322464

参考書

キーワード検索がわかる(ちくま新書)
著者：藤田節子
出版社：筑摩書房
出版年：2007　ISBN：9784480063854

18歳の著作権入門（ちくまプリマー新書）
著者：福井健策
出版社：筑摩書房
出版年：2015　ISBN：9784480689283

成績評価

ask312d580

試験 （ 60 ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 10 ）

1/3以上の欠席は不合格とする

2016 Syllabus

科 目 名　**博物館学概論**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　小林 裕子

テーマ

博物館理解のための基礎

授業の到達目標

博物館に関する基礎的知識を理解し、博物館の現状と問題点を学び、その解決法を考える。

授業の概要

受講生に現代の博物館、美術館が抱える問題点について理解させ、今後のあり方について考えさせる。さらに経験をふまえた展示や運営などの具体的な事例について講義する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　博物館学の目的・方法・構成博物館学の目的・方法・構成を学ぶ。授業の進め方についてのガイダンスを兼ねる。
第2回　博物館学史博物館学の歴史について学ぶ
第3回　博物館とは何か①博物館の定義と種類（館種、設置者別、法的区分等）を学ぶ
第4回　博物館とは何か②博物館の目的と機能を学ぶ
第5回　博物館の歴史と現状①我が国の博物館・美術館
第6回　博物館の歴史と現状②欧米の博物館・美術館1
第7回　博物館の歴史と現状③欧米の博物館・美術館2
第8回　博物館の歴史と現状④中国の博物館
第9回　博物館の歴史と現状⑤韓国の博物館
第10回　博物館の歴史と現状⑥博物館、美術館の問題—展覧会について
第11回　博物館の歴史と現状⑦博物館、美術館の問題—収集について
第12回　学芸員の役割①学芸員の定義・役割について学ぶ
第13回　学芸員の役割②学芸員の実態について学ぶ
第14回　博物館関係法令博物館関係法令について学ぶ
第15回　まとめ21世紀の博物館、美術館のあり方　※なお、この授業では必要に応じてゲストスピーカーによる特別講演会を行うことがある。

履修上の注意点

本講義では座席指定制とする。

教科書

資料配付

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 50 ）

授業中課題（ 40 ）　　授業中発表等（ ）

参加度　（ 10 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**博物館教育論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　一瀬 和夫	

テーマ

博物館という場のなかで、博物館資料素材を起点とした利用者へのよりよい教育シーンを探っていく

授業の到達目標

これまで日本の博物館では、収集資料重視の偏重があったため、館の使命の中に教育という側面がおろそかにされてきた。ところが、近年、利用者を重視する博物館運営にウエイトが増しており、普及部門の活動の中でも教育が必要不可欠な存在となってきた。本論では、博物館における教育展開の多方面にわたる手法と利用者の多様性を提示することで、よりよいカリキュラムの構築について考えてみたい。

授業の概要

博物館における教育活動の基盤となる理論や実践的な諸事例や方法を知り、それを展開する博物館がいかなる社会的存在となり得るかを探り、博物館機能の中に教育が参画できる基礎的な方策を立てることの能力を養う。

準備学習（予習・復習）

博物館行われている活動に接する

内　容

第1回　学びの意義（博物館の社会的存在感）
第2回　【博物館教育の意義と理念】①コミュニケーションの場として博物館教育
第3回　②博物館機能の１つとしての教育的意義
第4回　③展示開発の中での教育担当者として役割
第5回　④博物館教育の意義（生涯学習の場としての博物館、人材養成の場としての博物館、地域における博物館の教育機能、博物館リテラシーの涵養等）
第6回　⑤博物館教育の方針と評価
第7回　【博物館の利用と学び】①博物館の利用実態と利用者の博物館体験
第8回　②校外学習の場、アウトリーチの場としての博物館活動と利用方法
第9回　③博物館における有効な学びの特性ーハンズ・オン、ワークショップの展開
第10回【博物館教育の実際】①国立民族学博物館の見学
第11回 ②キッズプラザ大阪の見学
第12回 ③学校教育に生かす活動（展示ストーリー、収蔵資料と学習指導要領の関係）
第13回 ④博物館教育活動の企画案の作成
第14回 ⑤博物館教育活動の実施案の作成
第15回 ⑥博物館展示教育のカリキュラム案の作成

履修上の注意点

博物館見学のマナーを留意しながら、博物館と接する。

教科書

造形ワークショップの広がり
著者:　高橋陽一編
出版社:　武蔵野美術大学出版局
出版年:　2011　　ISBN:　9784901631983

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**博物館情報・メディア論**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　木下　達文	

テーマ

メディアの意味を理解しつつ、視聴覚メディアの活用能力を磨く

授業の到達目標

博物館などの文化施設における視聴覚メディアの利用は、単なる視聴覚機器の時代から、デジタルテクノロジーを活用したマルチメディア時代へと大きく転換してきている。それに伴い、運営に携わるスタッフにもそれらを抵抗なく使いこなしていく能力が求められてきている。視聴覚メディアに関する歴史や意義を今一度振り返るとともに、文化施設等で実際に使用されている映像等を通じて、基礎的なメディア活用の能力を磨いていく。

授業の概要

博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。

準備学習（予習・復習）

文化施設で開催される講演会やシンポジウム・映画鑑賞会などに出席したり、テーマパーク等のメディア技術の観察などを行うこと。

内　　容

第1回　メディアの意義　今日、我々にとって様々なメディアは生活に不可欠となっており、文化施設等でも日常的に使用している。基本的なメディアの意義を説明する。

第2回　メディアの歴史と発展　これまで人類が創造してきた広い意味でのメディアの歴史を紐解きながら、それが博物館等でどのように利用されてきたかを説明する。

第3回　メディアの未来とICT社会　メディアは日々進化しており、ここでは最新のメディア機器とそれに関わる博物関東でのCT社会について説明する。

第4回　メディアと認知心理学　情報を発信すれば良いのではなく、最も重要なのがどう認知するかである。認知心理学の理論から、主に記憶と認知の構造を説明する。

第5回　メディアの利用とその影響　博物館にかぎらず、メディアの利用には気をつけなくてはならない点がある。過去の活用例をもとに、その影響力について説明する。

第6回　博物館におけるメディアの利用　博物館において、利用者や職員が使う様々なメディアについて、その全体像について説明する。

第7回　視聴覚情報メディア機器の活用（静止画）　おもに従来から使用されてきたスライドやOHPなど静止画を中心とする具体的な機器について博物館での事例を交えて説明を行う。

第8回　視聴覚情報メディア機器の活用（動画）　ここでは教育用に利用されてきたフィルムやビデオテープなどの動画を中心とする機器について博物館での事例を交えて説明を行う。

第9回　デジタル型視聴覚情報メディアについて　今日では、パソコンを含むデジタル型視聴覚情報メディアが利用されている。ここでは一般的な機器やインターネット等ついての説明を行う。

第10回　デジタル機器とデータベース　情報コンテンツのデジタル化が一般化する中で、デジタルデータベース（＝デジタルアーカイブ）をどのように構築し、利用するかを説明する。

第11回　ドキュメンテーションとシソーラス　デジタル環境におけるドキュメンテーションづくりについて、とくに既製分類のない博物館におけるシソーラスのあり方について説明する。

第12回　博物館と著作権　博物館における知的財産権との関係の中で、とくに著作権を中心に日常業務で必要な事柄（版権処理等を含む）について説明を行う。

第13回　情報管理と情報公開　おもにホームページ等への公開と管理を中心として、情報の管理形式とその公開について、ネットワークシステム論と併せて説明を行う。

第14回　学生によるプレゼンテーション（1）　学生自身が施設からコンテンツを発信するという前提で、必要な視聴覚情報メディアを活用してプレゼンテーションを行い、それを評価する。

第15回　学生によるプレゼンテーション（2）　学生自身が施設からコンテンツを発信するという前提で、必要な視聴覚情報メディアを活用してプレゼンテーションを行い、それを評価する。

履修上の注意点

教科書

山科ガイド

著者：　木下達文著

出版社：　つむぎ出版

出版年：　2010　　ISBN：

参考書

視聴覚メディアと教育方法

著者：　井上知義編

ask401d350

出版社: 北大路書房
出版年: 1999　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 40 ）
特に出席を重視する。

2016 Syllabus

科 目 名　**博物館経営論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　木下　達文	

テーマ

社会に役立つ博物館とは

授業の到達目標

現代の博物館は非常に多様化しており、また経営方法も変わってきた。一方で、財政的にも厳しくなっているため、従来の経営方法では立ちゆかなくなってきている。したがって、これからの学芸員は経営感覚が必須といわれるようになってきた。そこで、本講座を通じて経営的視点をもつ人材の養成を行う。

授業の概要

博物館の形態面と活動面における適切な管理･運営について理解し、博物館経営（ミュージアムマネジメント）に関する基礎的能力を養う。

準備学習（予習・復習）

できるだけ機会をつくっていろいろな博物館を見学したり活動に参加してほしい。また、広報誌やガイドブックを参考にそれぞれの博物館の特徴や社会サービスの内容を知ること。

内　　容

第1回　ミュージアムマネージメントの概念と必要性　ここでは、ミュージアムマネジメントとは何かということから、なぜ博物館において「経営」的視点が必要になってきたのかということを解説する。

第2回　博物館の行財政（経営とその種類）　近年、独立行政法人や指定管理者制度の導入によりその経営のあり方は大きく変化した。ここでは、そうした行財政制度の基本を説明する。

第3回　博物館の設置（主体）　国や自治体のみならず、多様な市立博物館が今日たくさん設置されている。ここでは、設置主体毎の特徴をおおまかに説明していく。

第4回　博物館の施設・設備（ユニバーサル化を含む）　そもそも博物館がどのように計画・設置されるのかというプロセスと同時に、博物館に必要な施設設備について解説する。

第5回　博物館の組織と職員　博物館にとっての組織のあり方と同時に、学芸員を含む様々な職務スタッフについての概要を海外と比較しながら説明を行う。

第6回　博物館の使命と計画と評価博物館は「何のために存在するのか」を常に自身および他者に問わなければならない。その使命と実施評価の方法について説明する。

第7回　博物館倫理（行動規範）　博物館は公益活動を行うところであり、コレクションを持つという特色がある。業務の特色をふまえた行動規範について解説する。

第8回　博物館の危機管理　東日本大震災の調査記録等を素材としながら、博物館の様々な事故とそれに対応する管理体制およびリカバリー等について解説する。

第9回　ミュージアムマーケティング　社会には様々な娯楽があり、年々利用者獲得が難しくなってきている。ここでは、博物館の市場および利用者獲得のためのマネジメントを考える。

第10回　博物館と市民参画（友の会、ボランティア等）　博物館をとりまく支援組織のあり方が変化している。おもに友の会と文化ボランティア活動についての概要を説明する。

第11回　博物館とサービス（ミュージアムショップ・レストラン等）　博物館は法の定義にもあるように、レクリエーションの場でもある。ここでは、博物館サービスとしてのショップとレストラン等のあり方を考える。

第12回　博物館と地域連携　博物館はもはや単独経営では成り立たなくなってきている。地域連携や博学連携などを例にあげながら、博物館の新たな役割について説明する。

第13回　博物館の財務（資金調達）　これまでの博物館は一定の予算枠で活動を行うことが多かった。寄付に関する法律が変わっていくことで、今後の資金調達のあり方を考える。

第14回　特別講義これまで博物館経営を行ってきている人、あるいは学芸員としての実績がある人をお招きし、その経験的視点からのケーススタディを考える。

第15回　博物館の見学　実際に博物館の現場を訪れ、展示だけでなく経営的な視点から博物館の運営状況、スタッフ、ショップ・レストランに至るまで観察を行う。

履修上の注意点

教科書

ひろがる日本のミュージアム

著者：　千地万造・木下達文編

出版社：晃洋書房

出版年：2007　　ISBN：

参考書

新しい博物館学

著者：　全国大学博物館学講座協議会西日本部会編

出版社：芙蓉書房出版

ask402d150

出版年: 2008 ISBN:

成績評価

試験 （ 50 ） 小テスト（ 0 ）
授業中課題 （ 20 ） 授業中発表等（ 0 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**博物館資料論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　五十川　伸矢	

テーマ

博物館資料の収集保管・調査研究・整理活動の方法

授業の到達目標

博物館資料の収集，整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し，また博物館の調査研究活動について理解することを通じて，博物館資料に関する基礎的能力を養う。

授業の概要

博物館における調査研究と資料公開の方法、すなわち、博物館資料の収集・調査研究・展示の方法を理解する。博物館資料の種類（文献・考古・民俗・自然史など）ごとに、その特徴と研究方法、博物館での研究と公開の方法を解説する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　博物館資料には、どんなものがあるか
第2回　博物館資料の収集方法
第3回　見学実習①　学外授業　博物館参観
第4回　遺跡博物館の展示方法
第5回　博物館資料の調査研究①　考古資料(1)
第6回　博物館資料の調査研究②　考古資料(2)
第7回　博物館資料の調査研究③　民俗資料
第8回　博物館資料の調査研究④　歴史資料
第9回　博物館資料の調査研究⑤　美術資料
第10回　見学実習②　学外授業　博物館参観
第11回　博物館資料の調査研究⑥　自然史資料
第12回　博物館資料の調査報告書・図録の編集
第13回　博物館学芸員による資料収集・調査研究活動(講演会)
第14回　博物館資料の調査研究展示普及活動の課題
第15回　まとめとスライド

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ 60 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等（　）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**博物館資料保存論**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　一瀬 和夫

テーマ

博物館資料の保存に向けた加工法と劣化予防対策の実際を学ぶ

授業の到達目標

博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え，資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通じて，資料の保存に関する基礎的能力を養う

授業の概要

博物館等に所蔵の文化財資料について、その保存に関する科学的手法を学ぶとともに、実際の博物館における実態を学ぶことで文化財保存とその環境、博物館の役割について学ぶ

準備学習（予習・復習）

博物館を見学するとき、展示照明や空調、収蔵施設の位置といったものに注意することを心がける。

内　容

第1回　資料保存の意義
第2回　文化財保存における国内外の状況①
第3回　文化財保存における国内外の状況②
第4回　資料の状態調査・現状把握
第5回　資料の修復・修理
第6回　資料の梱包と輸送1
第7回　資料の梱包と輸送2
第8回　博物館資料の保存環境事例1
第9回　博物館資料の保存環境事例2
第10回　学外授業①　博物館資料の保存環境事例3
第11回　地域文化資源の保存と活用事例1
第12回　地域文化資源の保存と活用事例2
第13回　学外授業②　地域文化資源の保存と活用事例3
第14回　環境保全と博物館
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

新課程博物館学ハンドブック
著者:　米田文孝他
出版社:　関西大学出版部
出版年:　2015　　ISBN:　9784873546162

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 45 ）　　授業中発表等　（ 10 ）
参加度　（ 45 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**博物館展示論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　木下　達文	

テーマ

展示メディアの理解と創造

授業の到達目標

展示という空間メディアには様々なものがあるが、中でも文化空間としての展示会やイベントなどを中心とし、それら空間を伴うメディアがどのようにして企画され作られているのかを基礎理論・歴史ならび手法等を含めて学ぶ。と同時に、可能な範囲で独自の展示企画を具体的に提案し実践する（1月予定）。

授業の概要

展示の歴史，展示メディア，展示による教育活動，展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を習得し、展示機能に関する基礎的能力を養うとともに、簡単な展示実践を行う。

準備学習（予習・復習）

身の回りにはさまざまな空間があり、何らかの意図をもって作られている。美術館や博物館などの文化的空間から、イベント・ショールームなどの商業的空間に至るまでの展示メディア表現に関心をもち社会を見つめてみる。

内　　容

第1回　展示メディアとは（展示の概念）展示を一つのコミュニケーションメディアとしてとらえ、その空間的時間的特性について考える。

第2回　展示の種類（形態）展示には閉ざされた空間における小さいものから、インスタレーションのような環境展示というものもある。大まかな展示の種類を説明する。

第3回　展示および展示論の歴史展示の世界は日本では1970年の大阪万博から開花していく、その後の展示の歴史と、展示学の流れについての概略を説明する。

第4回　展示の政治性と社会性展示はその規模が大きくなればなるほど政治的特色が強くなる。とくに大型展示などを例にあげながら政治性・社会性について説明する。

第5回　展示のプロセス（企画・設計・製作等）展示をつくるプロセスは映画制作とよく似ている。基本調査構想から製作までの一連の流れについて概説する。

第6回　展示の手法（展示技術）展示は実物を使うケース展示から、1分の1実大再構成展示に至るまで様々である。そうした基本的な展示手法について説明する。

第7回　展示と研究展示は固定的なものであり、嘘ができない。そのため時代考証など緻密な研究の裏付けが必要であり、また研究成果の場でもあることを説明する

第8回　展示と運営展示は完成すれば終わりではない。そこから様々な運営サービス・管理が行われる。ここでは基本的な展示場での活動について説明する。

第9回　展示と解説展示はコミュニケーションメディアであるから、その伝え方も多様である。パネルによる解説から機械・人による解説までの手法を説明する。

第10回　展示とその記録（図録、解説、資料等）とくに仮設的な展示は、そのイベントが終了すると何も残らない。そこで、展示記録としての図録や解説などの資料について説明する。

第11回　特別講義実際に展示を企画・設計・製作している人から、ある例を題材としながら具体的な展開とその問題点などについて考える。

第12回　展示の企画実践これまでの学習をもとに自分たちでオリジナルな展示企画を考える。考えてものを企画資料としてまとめてみる。

第13回　展示の製作実践企画で考えた展示について実際に簡単な製作を行う。自分たちなりにできる素材を集め、展示そのものをつくりあげてみる。

第14回　展示の運営実践つくりあげた展示を利用者に提供する。運営管理を学びながら、教育プログラムやアンケートなどもとり、展示評価の素材としていく。

第15回　展示の評価と改善・更新展示は実施して終わりではなく、いろんな場面でチェック（評価）をしていくことがつぎの改善に繋がる。実践例をもとに評価について考える。

履修上の注意点

教科書

授業内容に応じて適宜指示する。

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

展示学事典

著者：　日本展示学会編

出版社：ぎょうせい

ask402d450

出版年: 1996　　ISBN:

イベント講座

著者:　日本イベント産業振興協会

出版社:

出版年: 2004　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 40 ）

グループワークを組み合わせた授業方法にて進めるのと、展示創造に必要な責任感の向上を図るため、出席点をかなり厳しくしている。また、後半の展示創造プログラムでは授業外での連絡調整や制作作業などがある。

2016 Syllabus

科 目 名　**博物館実習Ⅰ〈a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　五十川　伸矢.宇野　日出生	

テーマ

博物館資料の取り扱い方・研究のための資料化

授業の到達目標

実習Ⅰでは、考古資料の実測図や古文書の取り扱いを学ぶことを通じて、博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え，資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを目標とする。

授業の概要

考古資料の実測図・拓本・解説図の作成技術を身につける。また、古文書整理の技術習得をめざす。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　【事前指導1】実習に係る事前指導と、実測図と拓本の技術解説
第2回　実測図の意味と線画を描く基礎的練習
第3回　実測図の作成①
第4回　実測図の作成②
第5回　解説図の作成
第6回　拓本の作成
第7回　見学実習①　学外授業　博物館参観
第8回　【事後指導1】実習総括
第9回　【事前指導2】実習に係る事前指導と、古文書の扱い方
第10回　見学実習②　学外授業　博物館参観
第11回　古文書の解読と整理(冊子を中心に)
第12回　古文書の解読と整理(冊子を中心に)
第13回　古文書の解読と整理(状を中心に)
第14回　古文書の解読と整理(状を中心に)
第15回　事後指導2】実習総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**博物館実習Ⅰ <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　五十川　伸矢.宇野　日出生	

テーマ

博物館資料の取り扱い方・研究のための資料化

授業の到達目標

実習Ⅰでは、考古資料の実測図や古文書の取り扱いを学ぶことを通じて、博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え，資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを目標とする。

授業の概要

考古資料の実測図・拓本・解説図の作成技術を身につける。また、古文書整理の技術習得をめざす。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　【事前指導1】実習に係る事前指導と、実測図と拓本の技術解説
第2回　実測図の意味と線画を描く基礎的練習
第3回　実測図の作成①
第4回　実測図の作成②
第5回　解説図の作成
第6回　拓本の作成
第7回　見学実習①　学外授業　博物館参観
第8回　【事後指導1】実習総括
第9回　【事前指導2】実習に係る事前指導と、古文書の扱い方
第10回　見学実習②　学外授業　博物館参観
第11回　古文書の解読と整理(冊子を中心に)
第12回　古文書の解読と整理(冊子を中心に)
第13回　古文書の解読と整理(状を中心に)
第14回　古文書の解読と整理(状を中心に)
第15回　事後指導2】実習総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 60 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**博物館実習Ⅱ〈a〉**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　一瀬　和夫.戸花　亜利州	

テーマ

授業の到達目標

実習Ⅱでは、資料台帳カード作成と展示・体験学習のﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞを行う。さらに、これらの作業を通して博物館業務の多様性を理解する。既存の博物館の資料台帳カード、要覧、図録、ホームページなどを参考に作業を進める。また、博物館における美術工芸品の取り扱い方法と調査方法を中心に講義を進め、学芸員に求められる知識と技術の修得を目指す。

授業の概要

講義形式で進めながら適宜資料を用いる。また、撮影の基礎(中判カメラの使用方法やライティング等)についても講義する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　【事前指導1】実習に係る事前指導、取り扱い資料に関する概説(民俗資料・美術工芸資料)
第2回　民俗資料台帳カード作成(資料情報記入、写真撮影)
第3回　民俗資料台帳カード作成(資料情報記入、画像処理)
第4回　見学実習①　学外授業　博物館参観
第5回　民俗資料展示・体験学習の原案検討
第6回　民俗資料展示企画書作成、展示場平面図作成
第7回　体験学習企画書作成
第8回　【事後指導1】実習総括
第9回　【事前指導2】実習に係る事前指導、展示環境の基礎
第10回　美術工芸資料（軸装、巻子・折本・冊子）の取り扱い
第11回　美術工芸資料（彫刻）の取り扱い
第12回　見学実習②　学外授業　博物館参観
第13回　撮影の基礎、中判カメラを用いた撮影
第14回　美術品の梱包、展示・図録編集作業
第15回　【事後指導2】実習総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**博物館実習Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　一瀬 和夫.戸花 亜利州	

テーマ

授業の到達目標

実習Ⅱでは、資料台帳カード作成と展示・体験学習のﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞを行う。さらに、これらの作業を通して博物館業務の多様性を理解する。既存の博物館の資料台帳カード、要覧、図録、ホームページなどを参考に作業を進める。また、博物館における美術工芸品の取り扱い方法と調査方法を中心に講義を進め、学芸員に求められる知識と技術の修得を目指す。

授業の概要

講義形式で進めながら適宜資料を用いる。また、撮影の基礎(中判カメラの使用方法やライティング等)についても講義する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　【事前指導1】実習に係る事前指導、取り扱い資料に関する概説(民俗資料・美術工芸資料)
第2回　民俗資料台帳カード作成(資料情報記入、写真撮影)
第3回　民俗資料台帳カード作成(資料情報記入、画像処理)
第4回　見学実習①　学外授業　博物館参観
第5回　民俗資料展示・体験学習の原案検討
第6回　民俗資料展示企画書作成、展示場平面図作成
第7回　体験学習企画書作成
第8回　【事後指導1】実習総括
第9回　【事前指導2】実習に係る事前指導、展示環境の基礎
第10回　美術工芸資料（軸装、巻子・折本・冊子）の取り扱い
第11回　美術工芸資料（彫刻）の取り扱い
第12回　見学実習②　学外授業　博物館参観
第13回　撮影の基礎、中判カメラを用いた撮影
第14回　美術品の梱包、展示・図録編集作業
第15回　【事後指導2】実習総括

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**博物館実習Ⅲ <a>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　木下　達文	

テーマ

博物館学芸員としての共通の基礎的技術を身につける。

授業の到達目標

博物館学芸員としての自覚と共通の基礎的技術を身につける。とくにどのような博物館においても、二次資料としての写真、レプリカ、出版物（編集物）などは日常的に用いられるものであるため、それらの基本的な知識を学ぶとともに、小さな展示会をつうじて実際の制作を行うことで、理解を深めることを目標とする。また、博物館の現場における実務を経験すること（館園実習）によって、博物館への理解をよりいっそう深める。

授業の概要

現在、博物館の種類は多様化しているが、学内における実習によって、共通して学芸員が身につけていなければならない基礎的技術（おもに二次資料の制作と利用）を習得する。同時に博物館の現場における実務を経験することによって、博物館への理解を深める。

準備学習（予習・復習）

実務実習に入るまでに博物館たくさん見学をして、学芸員の日常業務を理解する努力をしてほしい。また、外にでるため、さまざまな社会人としての素養を身につけておくことが望ましい。

内　容

第1回　写真機（カメラ）の構造博物館で使用される写真機には多様なものがあり、その種類と基本的な構造について、テキストと実物を用いて説明する。
第2回　博物館における資料撮影について博物館における撮影は、いわゆる芸術作品とは全く異なり、正確に資料を映し出す必要がある。図録などを用いてその意味を体験的に説明する。
第3回　写真機の取り扱いブローニカメラを用いて、グループ毎に実習用カメラの操作方法について体験的に学ぶ。ここではあくまでシミュレーションを中心に行う。
第4回　写真展の考え方撮影する対象を考える。具体的な写真展を行うという設定で、自分たちの撮影モチーフ（資料）の設定と、展示展開を考える。
第5回　資料撮影の実際（1）撮影モチーフをもちより、1人ひとり資料撮影を行う。とくに被写界深度を考え、絞りとの関係が理解できることを念頭において撮影指導する。
第6回　資料撮影の実際（2）1回目できちんと撮影するのは難しいため、何度か撮影を繰り返したり、モチーフを変更することで、より質の高い撮影法の習得を指導する。
第7回　写真パネルの制作（1）撮影した写真の現像を行い、グループ毎に以前決めたシナリオ毎に展開を考えながら、主となる写真のパネルをボードなどを利用し作成指導する。
第8回　写真パネルの制作（2）写真パネルと同時に、その写真に付属する解説キャンプションボードや関連資料などの制作全てを行い、展示制作へとつなげていく。
第9回　図録編集の実務（1）博物館では図録をはじめとする多種多様な出版物・印刷物の編集を行っている。ここでは、印刷までの流れについて実物を用いて体験的に説明する。
第10回　図録編集の実務（2）編集の最終段階である「校正作業」について、校正記号の説明とともに、それらを使用して実際の編集物の校正を体験的に指導する。
第11回　レプリカ資料の制作（1）博物館においては、写真とともにレプリカ（複製資料）も多く取り扱う。ここでは、レプリカの意味と利用を知り、型どりを指導する。
第12回　レプリカ資料の制作（2）ここでは、自然資料や歴史資料など、様々な型を利用してFRPのレプリカをまず成形する。その後、見本サンプルをもとに着色までを指導する。
第13回　写真展示の実際（1）自らが撮影した写真を一定の展示ストーリーにしたがって動線・配色・レイアウト・分かりやすさなどを考慮し、完成させる。
第14回　写真展示の実際（2）写真を設置するのみならず、多様な利用者サービスを考える。写真撮影の目的やモチーフの解説資料作成や人による解説などをも行う。
第15回　バリエーション（自己評価・他者評価）自分たちが制作した写真や展示について、自己評価と他者評価のワークショップを通じて、今後の改善に向けた視点を学び取れるよう指導する。
第16回　【実習直前ガイダンス】実習者の心得、大学側・実習館側との連絡、実習後のレポート、実習館との連絡と挨拶訪問、事前学修その他の指導
第17回　（各実習館でのスケジュールに準じる）
第18回　（各実習館でのスケジュールに準じる）
第19回　（各実習館でのスケジュールに準じる）
第20回　（各実習館でのスケジュールに準じる）
第21回　（各実習館でのスケジュールに準じる）
第22回　【事後指導】レポートの提出・実習まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

博物館学実習マニュアル

著者:　全国大学博物館学講座協議会西日本部会編

出版社: 芙蓉書房出版

出版年: 2002　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 40 ）

特に出席を重視する

2016 Syllabus

科 目 名　**博物館実習Ⅲ <b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年	定　　員　40
履修条件	クラス指定
担 当 者　木下　達文	

テーマ

博物館学芸員としての共通の基礎的技術を身につける。

授業の到達目標

博物館学芸員としての自覚と共通の基礎的技術を身につける。とくにどのような博物館においても、二次資料としての写真、レプリカ、出版物（編集物）などは日常的に用いられるものであるため、それらの基本的な知識を学ぶとともに、小さな展示会をつうじて実際の制作を行うことで、理解を深めることを目標とする。また、博物館の現場における実務を経験すること（館園実習）によって、博物館への理解をよりいっそう深める。

授業の概要

現在、博物館の種類は多様化しているが、学内における実習によって、共通して学芸員が身につけていなければならない基礎的技術（おもに二次資料の制作と利用）を習得する。同時に博物館の現場における実務を経験することによって、博物館への理解を深める。

準備学習（予習・復習）

実務実習に入るまでに博物館たくさん見学をして、学芸員の日常業務を理解する努力をしてほしい。また、外にでるため、さまざまな社会人としての素養を身につけておくことが望ましい。

内　容

第1回　写真機（カメラ）の構造博物館で使用される写真機には多様なものがあり、その種類と基本的な構造について、テキストと実物を用いて説明する。
第2回　博物館における資料撮影について博物館における撮影は、いわゆる芸術作品とは全く異なり、正確に資料を映し出す必要がある。図録などを用いてその意味を体験的に説明する。
第3回　写真機の取り扱いブローニカメラを用いて、グループ毎に実習用カメラの操作方法について体験的に学ぶ。ここではあくまでシミュレーションを中心に行う。
第4回　写真展の考え方撮影する対象を考える。具体的な写真展を行うという設定で、自分たちの撮影モチーフ（資料）の設定と、展示展開を考える。
第5回　資料撮影の実際（1）撮影モチーフをもちより、1人ひとり資料撮影を行う。とくに被写界深度を考え、絞りとの関係が理解できることを念頭において撮影指導する。
第6回　資料撮影の実際（2）1回目できちんと撮影するのは難しいため、何度か撮影を繰り返したり、モチーフを変更することで、より質の高い撮影法の習得を指導する。
第7回　写真パネルの制作（1）撮影した写真の現像を行い、グループ毎に以前決めたシナリオ毎に展開を考えながら、主となる写真のパネルをボードなどを利用し作成指導する。
第8回　写真パネルの制作（2）写真パネルと同時に、その写真に付属する解説キャンプションボードや関連資料などの制作全てを行い、展示制作へとつなげていく。
第9回　図録編集の実務（1）博物館では図録をはじめとする多種多様な出版物・印刷物の編集を行っている。ここでは、印刷までの流れについて実物を用いて体験的に説明する。
第10回　図録編集の実務（2）編集の最終段階である「校正作業」について、校正記号の説明とともに、それらを使用して実際の編集物の校正を体験的に指導する。
第11回　レプリカ資料の制作（1）博物館においては、写真とともにレプリカ（複製資料）も多く取り扱う。ここでは、レプリカの意味と利用を知り、型どりを指導する。
第12回　レプリカ資料の制作（2）ここでは、自然資料や歴史資料など、様々な型を利用してFRPのレプリカをまず成形する。その後、見本サンプルをもとに着色までを指導する。
第13回　写真展示の実際（1）自らが撮影した写真を一定の展示ストーリーにしたがって動線・配色・レイアウト・分かりやすさなどを考慮し、完成させる。
第14回　写真展示の実際（2）写真を設置するのみならず、多様な利用者サービスを考える。写真撮影の目的やモチーフの解説資料作成や人による解説などをも行う。
第15回　バリエーション（自己評価・他者評価）自分たちが制作した写真や展示について、自己評価と他者評価のワークショップを通じて、今後の改善に向けた視点を学び取れるよう指導する。
第16回　【実習直前ガイダンス】実習者の心得、大学側・実習館側との連絡、実習後のレポート、実習館との連絡と挨拶訪問、事前学修その他の指導
第17回　（各実習館でのスケジュールに準じる）
第18回　（各実習館でのスケジュールに準じる）
第19回　（各実習館でのスケジュールに準じる）
第20回　（各実習館でのスケジュールに準じる）
第21回　（各実習館でのスケジュールに準じる）
第22回　【事後指導】レポートの提出・実習まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

博物館学実習マニュアル

著者:　全国大学博物館学講座協議会西日本部会編

出版社: 芙蓉書房出版

出版年: 2002　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 40 ）

特に出席を重視する

2016 Syllabus

科 目 名　**生涯学習概論Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部1回生

講義期間　秋期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　吉岡 いずみ

テーマ

日本と世界の生涯学習

授業の到達目標

生涯学習を世界史的視野からとらえ、共通する現代的課題の国際的動向を把握する。

授業の概要

講義を主とするが、コメントシートを活用し意見交流を行う。配布プリントとVTRを教材とする。

準備学習（予習・復習）

授業中配布・紹介した文献を読み、世界の動向や教育改革の動きについて敏感になる

内　容

第1回　ハンブルク宣言の意味するもの
第2回　イギリスにおける大学拡張
第3回　成人教育の成立と現在
第4回　ドイツにおける民衆大学
第5回　市民大学の現在
第6回　有給教育休暇の理念と制度
第7回　職業資格と生涯学習
第8回　社会的教育学の成立と青少年教育
第9回　高齢社会と生涯学習
第10回　多文化共生と生涯学習
第11回　世界と日本の環境・まちづくり学習
第12回　エコミュージアムと市民の学習
第13回　アジアの生涯学習 中国
第14回　アジアの生涯学習　韓国
第15回　まとめ　可能であれば学外授業を予定

履修上の注意点

高校の世界史教科書の近代以降を自習しておくこと。授業中のディスカッションに積極的に参加すること。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

世界の大学危機
著者:　潮木守一
出版社:　中央公論新社
出版年:　2004　　ISBN:　4-12-101764-1

現代世界の生涯学習
著者:　新海英行／牧野篤
出版社:　大学教育出版
出版年:　2002　　ISBN:　4-88730-477-3

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 50% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 50% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**社会教育計画Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　吉岡 いずみ

テーマ

学習者の理解と学習課題の把握

授業の到達目標

社会教育計画策定の前提として、地域に暮らす多様な学習者を理解し、生活課題と学習課題をさぐることを狙いとする。

授業の概要

講義を主とするが、コメントシートを活用し意見交流を行う。

準備学習（予習・復習）

市町村の社会教育政策に関心を持つ。授業中に提示する参考文献を読む。

内　容

第14回　マイノリティと共生の課題
第15回　企画・考察の交流とまとめ
第1回　オリエンテーション
第2回　婦人教育から女性の学習へ
第3回　女性が働くことと学び　女性施設の役割
第4回　子育て支援政策の現在
第5回　子育てに関わる学びとネットワークづくり
第6回　今日の青少年教育施設
第7回　子どもと地域　プレイパークの現在
第8回　エイジングはよくないことか？高齢者の可能性
第9回　教育と文化の主体としての高齢者
第10回　高齢社会と共生の課題
第11回　障害者の学習のあゆみ
第12回　障害者の自己表現と社会教育
第13回　障害者の自立支援と社会教育

履修上の注意点

コメントシートを活用し、自分の意見を表現する。配布プリントおよびVTRを教材とする。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）
社会教育計画Ⅰもしくは社会教育計画Ⅱのいずれかで、必ず企画立案を行うようにする。

2016 Syllabus

科 目 名　**社会教育計画Ⅱ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　吉岡 いずみ

テーマ

地域・学校の直面する課題と社会教育の役割について考える。

授業の到達目標

様々な実践事例を素材として、地域社会における学校教育と社会教育の協力と社会教育独自の役割を考える。また学級・講座の企画力を養う。

授業の概要

講義を主とするが、コメントシートを活用し意見交流を行う。配布プリントとVTRを教材とする。

準備学習（予習・復習）

地域社会と学校および社会教育施設の関係について、自分の体験にもとづいて考えること。授業中提示した参考文献を読むこと。

内　容

第1回　オリエンテーション　社会教育の場としての学校
第2回　小学校における施設開放
第3回　学社連携の実際
第4回　開かれた小学校とは？地域のおとなの役割について。
第5回　校区社会教育の事例から可能性を探る。
第6回　総合型地域スポーツクラブと部活動について考える
第7回　中学校におけるキャリア教育について、事例検討。
第8回　キャリア教育と地域の役割について考える。
第9回　高等学校と地域社会の関わりについて考える。
第10回　青年の学習と新しい高等学校の役割
第11回　青年の自立支援のための施設と事業
第12回　大学開放の歴史と現在
第13回　権利としての職業教育・訓練
第14回　多文化共生社会と社会教育の課題ー在日外国人の学習権保障ー
第15回　企画ないしはテーマ研究の発表・交流

履修上の注意点

コメントシートを活用し、自分の意見を表現する。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）
社会教育計画Ⅰもしくは社会教育計画Ⅱのいずれかで、必ず企画立案を行うようにする。

2016 Syllabus

科 目 名　**社会教育演習**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉岡 いずみ	

テーマ

社会教育における学習方法の理解と習得

授業の到達目標

小集団による話し合い、調査など社会教育実践における主要な学習方法を習得する

授業の概要

受講生の関心にもとづいたテーマを設定し、グループワークやアクティビティによる学習プログラムを共同で構築する訓練を行う。

準備学習（予習・復習）

日頃から様々な問題に関心を持ち、自分の意見をまとめるようにする。また他者の意見に耳を傾けるようにする。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　語ってみよう、自分のこと、地域のこと　1
第3回　語ってみよう、自分のこと、地域のこと　2
第4回　ゲーム、スポーツなどによる親睦・交流
第5回　郷土料理を通じて知る地域
第6回　調理実習の企画
第7回　調理実習の準備
第8回　調理実習の実施
第9回　学習のふりかえり
第10回　地域社会教育の調査1
第11回　地域社会教育の調査2
第12回　調査結果の発表準備
第13回　発表と交流
第14回　発表と交流
第15回　全体のまとめと評価

履修上の注意点

参加し、自己表現することが原則。なお、希望人数が多数の時には、社会教育主事補資格取得希望者を優先する。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ 70 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**社会教育課題研究**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉岡　いずみ	

テーマ

京都市を中心とした施設・職員調査

授業の到達目標

地域の社会教育調査の方法を習得し、社会教育関係施設の課題を考える

授業の概要

京都市を中心とした身近な市町村の社会教育関連施設について、グループに分かれて訪問調査を行う。小集団による学習に習熟し、コミュニケーション能力を高め、プレゼンテーションの経験を積む。

準備学習（予習・復習）

日頃から地域の学習・文化施設について関心を持つ。

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　京都市の社会教育の特徴
第3回　京都市の青少年教育施設について
第4回　京都市の児童館について
第5回　京都市の成人の教育施設について1
第6回　京都市の成人の教育施設について2
第7回　社会教育と地域福祉施設について
第8回　調査のグルーピング
第9回　調査のグルーピング
第10回　フィールドワーク
第11回　フィールドワーク　2
第12回　調査結果のまとめ1
第13回　調査結果のまとめ2
第14回　発表と交流
第15回　全体のまとめと評価

履修上の注意点

社会教育演習を履修していることが望ましい。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 70 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語教授法Ⅰ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　前期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　中川　裕子	

テーマ

日本語教育概論

授業の到達目標

日本語教育を理解する上で必要な基礎知識を身につける。

授業の概要

日本語教育の現状、日本語教育の歴史、外国語教授法、日本語教育の内容、言語の習得を主に扱う。授業は、基本的に講義形式であるが、内容によっては、課題を与え、発表(もしくは提出)を課す。

準備学習(予習・復習)

日本語教育関係の文献を数多く読む。日本語教育関係のみならず、文化、日常社会生活に関する様々なものに多く接する。異文化理解に関する文献や、メディアからの情報に接する。日本語学習者との交流の機会に積極的に参加する。

内　容

第1回　日本語教育の現状
第2回　日本語教育現場の実際と日本語教育に従事する人々の役割
第3回　日本語教育の歴史①
第4回　日本語教育の歴史②
第5回　日本語教育の歴史③
第6回　外国語教授法①(文法訳読法、直接法)
第7回　外国語教授法②(オーディオリンガルメソッド)
第8回　外国語教授法③(コミュニカティブアプローチ他)
第9回　日本語教育の内容①(初級で扱う文型)
第10回　日本語教育の内容②(入門期の発音指導)
第11回　日本語教育の内容③(入門期の文字、語彙の指導範囲とその方法)
第12回　日本語教育の内容④(指導の手順、指導の流れ)
第13回　日本語教育の内容⑤(指導準備、指導内容の知識の整理)
第14回　日本語教育の内容⑥(指導案作成～実践へ)、言語の習得
第15回　まとめ

履修上の注意点

三分の二以上の出席が原則。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

新・はじめての日本語教育　基本用語事典
著者:　高見澤孟監修
出版社:　アスク
出版年:　2004　ISBN:

成績評価

試験　(30%)
小テスト　(10%)
授業中課題　(30%)
授業中発表等　(20%)
参加度　(10%)

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語教授法Ⅱ**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　100
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中川　裕子	

テーマ

日本語教育概論

授業の到達目標

日本語教育の現場で必要となる、基礎知識を身につける。

授業の概要

コースデザイン、ニーズ分析、シラバスデザイン、教材選択の基礎知識（種類、特徴）、日本語指導の方法、日本語指導の内容、評価法、異文化理解と日本事情を主に扱う。授業は、基本的に講義形式であるが、内容によっては、課題を与え、発表（もしくは提出）を課す。

準備学習（予習・復習）

日本語教育関係の文献を数多く読む。基本的な用語を理解する。外国語教授法に関する文献を数多く読む。日本語学習者との交流の機会に積極的に参加する。提出物の一つである課題ノート（日本語指導の方法に関する）に取り組む。

内　　容

第1回　コースデザイン、ニーズ分析、シラバスデザイン
第2回　教材論①（教材の種類と特徴―初級、中級、上級）
第3回　教材論②（教材の種類と特徴―技能別、学習者別）
第4回　教材論③（視聴覚教材、絵教材作成練習、教具の使用法）
第5回　日本語指導の内容①（初級の指導内容）
第6回　日本語指導の内容②（指導のプロセスと指導案）
第7回　日本語指導の内容③（練習方法の種類とその具体的指導方法）
第8回　日本語指導の内容④（初級後半の指導内容の分析と具体的指導方法）
第9回　日本語指導の内容⑤（初級後半の指導内容の分析と具体的指導方法）
第10回　日本語指導の内容⑥（中級の会話指導）
第11回　日本語指導の内容⑦（中級の文型指導、作文指導）
第12回　日本語指導の内容⑧（中級～上級の読解指導、教材作成）
第13回　日本語指導の内容⑨（異文化理解と日本事情）
第14回　評価法
第15回　まとめ

履修上の注意点

三分の二以上の出席が原則。

教科書

使用しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

新・はじめての日本語教育　基本用語事典
著者:　高見澤孟監修
出版社:　アスク
出版年:　2004　　ISBN:

日本語の教え方ABC
著者:　寺田和子他
出版社:　アルク
出版年:　2001　　ISBN:

成績評価

試験　（ 30% ）
授業中課題　（ 30% ）
参加度　（ 10% ）
小テスト　（ 10% ）
授業中発表等　（ 20% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語教授法Ⅲ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　前期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　佐野　裕子	

テーマ

初級レベル（主に初級前期）の授業を想定し、実際に指導するための基礎的な技術を学ぶ。

授業の到達目標

これまで「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」において学んだ日本語教育の基礎技術を応用し、英語などの媒介語を使用しない直接法で初級レベルの授業が行えるようになることを目標とする。

授業の概要

初級レベル（主に初級前期）の授業を想定し、実際に指導するための基礎的な技術を学ぶ。具体的には、模擬授業を通して、受講生同士コメントを加え、日本語初級文型の導入の仕方を学ぶ。授業は講義形式ではなく、毎回1～2名の学生が自分の担当する課の学習項目についての模擬授業を行い、その内容についてクラス全体でフィードバックする。その際各自の模擬授業は録画し、授業後はその映像を元に教案や教材を修正し、翌々週それらを担当教員に再提出する。

準備学習（予習・復習）

自分が担当しない課でも、必ず文型の意味や導入、応用練習を考えること。日頃から留学生と接し、なるべく多くの時間を外国人と共有することを心掛けるように。特に本学に交換留学で来ている留学生とは、交流に勤めることを推奨する。また日本語学校、地域の日本語教室などへの見学や参加などを自主的に行うこと。

内　　容

第1回　ガイダンス・授業方針・評価方法説明・模擬授業の担当課の決定
第2回　初級指導概説（初級の学習目標と指導の流れ）
第3回　初級指導概説（文型の定着方法と教案の作り方）
第4回　模擬授業1（みんなの日本語初級Ⅰ　1課と2課前半）
第5回　模擬授業2（みんなの日本語初級Ⅰ　2課後半と3課）
第6回　模擬授業3（みんなの日本語初級Ⅰ　4課と5課前半）
第7回　模擬授業3（みんなの日本語初級Ⅰ　4課と5課前半）
第8回　模擬授業5（みんなの日本語初級Ⅰ　7課と8課前半）
第9回　模擬授業1～5の振り返り
第10回　模擬授業6（みんなの日本語初級Ⅰ　8課後半と9課）
第11回　模擬授業7（みんなの日本語初級Ⅰ　10課と11課前半）
第12回　模擬授業8（みんなの日本語初級Ⅰ　11課後半と12課）
第13回　模擬授業9（みんなの日本語初級Ⅰ　13課と14課前半）
第14回　模擬授業10（みんなの日本語初級Ⅰ　14課後半と15課）
第15回　模擬授業6～10の振り返り、まとめ

履修上の注意点

「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」を履修済みまたは今年度履修登録しており、かつ日本語教員養成に関する科目(日本語学概説など)をいくつか履修済みまたは登録している、文学部日本語日本文学科の学生を対象としている。＊単なる卒業単位取得のための履修は認めない。基本的に「日本語教授法Ⅲ」以外の日本語教員養成に関する科目を履修しない学生に対しては、事前相談なしに履修を認めないので、登録前に担当教員と相談すること。

教科書

みんなの日本語初級Ⅰ第2版　本冊
著者:　スリーエーネットワーク
出版社:　スリーエーネットワーク
出版年:　2012　　ISBN:　9784883196036

参考書

授業時適宜紹介
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 25 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 15 ）

ask703d110

出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。また、模擬授業の改善教案やフィードバックシートを提出しない場合も、成績評価の対象としない。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語教授法Ⅳ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　佐野　裕子	

テーマ

初級後期・初中級レベルの授業を想定し、実際に指導するための基礎的な技術を学ぶ。

授業の到達目標

これまで学んだ日本語教育の基礎技術を応用し、初級後期・初中級レベルの授業が行えるようになることを目標とする。

授業の概要

授業は講義形式ではなく、毎回毎回1～2名の学生が自分の担当する課の学習項目についての模擬授業を行い、その内容についてクラス全体でフィードバックする。その際各自の模擬授業は録画し、授業後はその映像を元に教案や教材を修正し、翌々週それらを担当教員に再提出する。また、大阪大学日本語日本文化教育センター（大阪大学CJLC）での授業見学に、11月の各自の都合の良い日に参加する。あわせて中級指導の概説も簡単に行う。

準備学習（予習・復習）

自分が担当しない課でも、必ず文型の意味や導入、応用練習を考えること。日頃から留学生と接し、なるべく多くの時間を外国人と共有することを心掛けるように。特に本学に交換留学で来ている留学生とは、交流に勤めることを推奨する。また日本語学校、地域の日本語教室などへの見学や参加などを自主的に行うこと。

内　容

第1回　ガイダンス・授業方針・評価方法説明・模擬授業の担当課決定
第2回　前期模擬授業の反省点と課題
第3回　模擬授業1（みんなの日本語初級Ⅱ26課と27課前半）
第4回　模擬授業2（みんなの日本語初級Ⅱ27課後半と28課）
第5回　大阪大学CJLC授業見学のガイダンス（予定）
第6回　模擬授業3（みんなの日本語初級Ⅱ29課と30課前半）
第7回　模擬授業4（みんなの日本語初級Ⅱ30課後半と31課）
第8回　応用練習の方法の振り返り
第9回　模擬授業5（みんなの日本語初級Ⅱ32課と33課前半）
第10回　模擬授業6（みんなの日本語初級Ⅱ33課後半と34課）
第11回　模擬授業7（みんなの日本語初級Ⅱ35課と36課前半）
第12回　模擬授業8（みんなの日本語初級Ⅱ36課後半と37課）
第13回　中級授業概説1（中級レベルの概説）
第14回　中級授業概説2（中級教材検討）
第15回　教育実習報告会

履修上の注意点

「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」「日本語教授法Ⅲ」を履修済みまたは今年度履修登録しており、かつ日本語教員養成に関する科目(日本語学概説など)をいくつか履修済みまたは登録している、文学部日本語日本文学科の学生を対象としている。＊単なる卒業単位取得のための履修は認めない。基本的に「日本語教授法Ⅳ」以外の日本語教員養成に関する科目を履修しない学生に対しては、事前相談なしに履修を認めないので、登録前に担当教員と相談すること。

教科書

みんなの日本語初級Ⅱ第2版本冊
著者:　スリーエーネットワーク
出版社:　スリーエーネットワーク
出版年:　2013　　ISBN:　9784883196463

参考書

授業時に適宜紹介
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 15 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 40 ）
参加度　（ 15 ）	

ask703d250

出席回数が全授業数の３分の２に満たない場合は評価の対象としない。また、模擬授業の改善教案やフィードバックシート、大阪大学CJLC授業見学レポートを提出しない場合も、成績評価の対象としない。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語教材研究**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　秋期集中	定　　員　50
履修条件　日本語教授法Ⅰ～Ⅳ履修済みであること	クラス指定
担 当 者　佐野　裕子	

テーマ

日本語教育の様々な教材を分析し、学習レベルや学習目的による教材の特徴や違いを学ぶ。

授業の到達目標

初級教材、中上級教材を分析し、初級と中上級との相違点や扱われる内容の違いを理解する。年代の異なる教材を分析し、年代による変化を把握する。

授業の概要

授業は、講義形式ではなく、学生の発表を主体とした討議形式によって行い、補足として各レベルおよび技能での大まかな授業の流れについての説明を行う。前半はグループ形式で教材を分析しその内容を発表してもらい、後半は個人で特定のレベルを対象として教材作成を行ってもらう。

準備学習（予習・復習）

自分が担当しない教材についても、必ず教材研究を行うことが望ましい。地域の日本語教室への見学や参加などを自主的に行うこと。

内　容

第1回　ガイダンス　授業方針・評価方法説明・担当教材の決定
第2回　教材分析の方法1（学習段階と到達目標）
第3回　教材分析の方法2（教材分析の観点）
第4回　初級教材（『日本語初歩』『初級日本語　げんき』）の分析・発表・討論1
第5回　初級教材（『新文化初級日本語』『みんなの日本語初級』）の分析・発表・討論2
第6回　初級教材（『学ぼうにほんご　初級』）の分析・発表・討論3
第7回　初中級教材（『できる日本語　初中級編』の分析・発表・討論1
第8回　中上級教材（『わたしの見つけた日本』）の分析・発表・討論1
第9回　中上級教材（『表現テーマ別にほんご作文の方法』）の分析・発表・討論2
第10回　中上級教材（『中級からはじめるニュースの日本語40』）の分析・発表・討論3
第11回　中上級教材（『日本語上級話者への道』）の分析・発表・討論4
第12回　教材作成実習（学習段階・学習項目の検討）１
第13回　教材作成実習（教材の選定）２
第14回　教材作成実習（教育実習用教材の作成）3
第15回　教材作成実習（教育実習用教材の作成）4

履修上の注意点

＊「日本語教授法」Ⅰ～Ⅳをはじめとする、日本語教員養成課程科目の大部分が履修済みである学生を対象としている。日本語教員養成課程科目を履修していない学生に対しては、原則として履修を認めない。

教科書

授業時配布プリント
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

授業時適宜紹介
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験　（ 30 ）　小テスト（ 0 ）
授業中課題 （ 20 ）　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 20 ）
出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。また、発表や教材作成実習の課題を提出しない場合も、成績評価の対象としない。

2016 Syllabus

科 目 名　**日本語教育実習**

クラス		配当回生	学部4回生
講義期間	秋期集中	定　　員	50
履修条件	日本語教材研究も同時に 登録すること	クラス指定	
担 当 者	佐野　裕子.田中　恵子.中川　裕子		

テーマ

日本語教育の授業見学、教案作成、教壇実習。

授業の到達目標

実際に日本語の授業の計画（教案作成、教材開発など）、実践、批判を行うことができる。

授業の概要

この授業においては教員はあくまでアドバイザーであり、学生に主体的に教案作成、教材開発を行ってもらう。事前授業における教員との個別指導は、原則週１回とする。

準備学習（予習・復習）

円滑に実習が行えるよう、教材の選定や教案の作成を計画的に行うことが重要である。少なくとも夏休み中に教案の草案を完成させておくように。教案の作成について相談がある場合は、必ずオフィスアワーなどを利用し指導を求めること。その際、必ず事前にアポイントメントをとること。教員からの連絡に常に注意を払うこと。不定期に行われるガイダンスなどの授業を最優先とし、授業に参加すること。

内　　容

第1回　第１回実習ガイダンス　海外実習、国内実習の概要説明・実習先決定調査（５月中旬～下旬）
第2回　第２回実習ガイダンス　実習担当クラス（指導教師）の決定（７月上旬予定）
第3回　第３回実習ガイダンス　実習の授業計画（８月中旬予定）
第4回　教案・教材作成（夏休み期間中）
第5回　事前授業　教案・教材の提出・教員との個別指導（10月）
第6回　大阪大学CJLC授業見学ガイダンス（10月中旬）
第7回　大阪大学CJLC授業見学（10月下旬）
第8回　国内実習（11月上旬から中旬予定）
第9回　海外実習（11月下旬予定）
第10回　実習報告書作成（１月中旬から１月下旬予定）
第11回　事後授業　実習報告会［実習の感想や反省などを発表］、実習報告書などの課題提出（１月下旬予定）

履修上の注意点

日本語教員養成課程に関する大部分の科目を履修した学生を対象としている。特に「日本語教授法」Ⅰ～Ⅳと「日本語教材研究」の計5科目を履修していない学生の受講は許可しない。

教科書

授業時配布プリント
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業時適宜紹介
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 30 ）　　授業中発表等（ 55 ）
参加度　（ 15 ）

実習ガイダンス（全3回を予定、ただし海外実習参加者は増える可能性あり）、大阪大学CJLC授業見学とガイダンス、事前・事後授業に「すべて」出席することが単位認定の要件である。特に事前事業、教育実習期間中の指導教員による授業見学に欠席した場合は、ただちに実習参加許可を取り消し、単位認定の対象としない。

2016 Syllabus

科 目 名　**教職入門(特例)**

クラス	配当回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　小寺　隆幸.吉田　裕子	

テーマ

教師の仕事についての認識を深め、教職を志す目的や教師としての責任について考える。

授業の到達目標

今日の教育・学校・子どもをとりまく状況の中で、教師の仕事は何かを考え、教師としての責任と生きがいについて認識を深める。特に学習指導、生活指導、学校つくりについて、基本的な点を理解する。さらに現在の教育課題を自分自身が主体的に考える姿勢を育てる。

授業の概要

具体的な事例をもとに講義する。一方的な講義だけではなく、参加者相互が学び合える授業とするために、授業の感想やレポートを全員に還元することなどに取り組む。

準備学習（予習・復習）

教育を巡る様々なできごとや教育改革の報道に注目する。

内　　容

第1回　教育とは何か
第2回　教育とは何か　を巡る話し合い
第3回　3.11東日本大震災で問われたこと
第4回　教師の役割
第5回　幼稚園教育の基本理解
第6回　環境を通して行う教育の意義と遊びを通しての総合的な指導　その①
第7回　環境を通して行う教育の意義と遊びを通しての総合的な指導　その②
第8回　家庭・地域との連携とこれからの幼稚園経営
第9回　明日の保育を構成する幼児理解と記録　その①
第10回　明日の保育を構成する幼児理解と記録　その②
第11回　学び合いと保育の探求
第12回　森の幼稚園　　デンマークと日本の自然の中での幼児教育の実際
第13回　教師の生き方　　コルチャックと子どもの権利条約
第14回　日本の教師の現状
第15回　教師の権利と責任　※なお、この授業では必要に応じてゲストスピーカーの講演を行うことがある。

履修上の注意点

教科書

「幼稚園教育要領解説」
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

「教育とは何か」
著者:　大田堯
出版社:　岩波新書
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育制度論(特例)**

クラス	配当回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　古田　薫	

テーマ

現代日本の教育制度の基礎をなす原理とその展開について学び、課題を発見する。

授業の到達目標

現代日本の教育制度の基礎をなす制度原理とその展開について基礎的事項および教育改革の現状について理解し、教育と社会の関係の中から課題を発見して自ら考察することを目標とする。

授業の概要

現代日本の教育の基本理念、学校制度、教育行政の原理と展開について概説し、学習研究の課題を提示する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション：教育制度の基礎知識
第2回　Ⅰ 憲法・教育基本法制 ①教育法規の体系
第3回　Ⅰ 憲法・教育基本法制 ②憲法と憲法・教育基本法制
第4回　Ⅰ 憲法・教育基本法制 ③教育基本法
第5回　Ⅱ 教育行政制度 ①教育行政組織とその職務権限
第6回　Ⅱ 教育行政制度 ②教育委員会制度
第7回　Ⅲ 学校制度 ①学校体系および学校の設置と管理・運営
第8回　Ⅲ 学校制度 ②学校評価
第9回　Ⅲ 学校制度 ③教育課程
第10回 Ⅲ 学校制度 ④就学前教育制度
第11回 Ⅳ 教員に関する制度 ①教員免許制度
第12回 Ⅳ 教員に関する制度 ②教員の身分と義務
第13回 Ⅳ 教員に関する制度 ③教員の任免と研修
第14回 Ⅳ 教育を受ける権利の保障 ①義務教育制度
第15回 Ⅳ 教育を受ける権利の保障 ②特別支援教育

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ 60 ）	小テスト （ 40 ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教育課程論(特例)**

クラス　　配当回生

講義期間　夏期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　八木 英二

テーマ

教育課程の構造と教育実践

授業の到達目標

教育課程の基礎的な用語の理解をふまえ、「なぜ学校における教育課程なのか」を考えながら問題の整理を行い教育課程づくりのイメージがつかめるようにする。

授業の概要

1つには、「なぜ学校なのか」という本質論議をふまえた学校を基礎とする教育課程づくりの意味、2つには、子どもの成長と発達にかかわる教育課程の内容構成におけるスコープとシークェンスの構造論議、3つには、目標・内容・方法・評価など、実践過程の事実によって検証され、再構成される教育課程づくりの意味などをとりあげる。具体的事例として、とくに書き言葉成立後の思春期にかかわる教育課程の実践をとりあげたい。

準備学習（予習・復習）

よく新聞・雑誌などを読み、教育課程編成と社会とのかかわりについて考えること。

内　容

第1回　教育課程の構造と意味
第2回　発達的視点について
第3回　目標と評価のあり方
第4回　観点別評価の意味
第5回　教育実践評価と授業公開（初等）
第6回　要領・指針と内容の基準化原理（初等）
第7回　保育計画
第8回　授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

教師の役割変化を問う
著者:　八木英二
出版社:　三学出版
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習(言語)Ⅰ(特例)**

クラス　　配当回生

講義期間　夏期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　神谷　栄司

テーマ

ことばをはじめにした幼児の表現について考える。

授業の到達目標

以下の点について理解を深める。(1)乳幼児におけることばの発達(2)ことばをはじめとした幼児期の表現の独自性(3)幼児期における表現と保育の基本原理

授業の概要

授業の目的に沿って講義するとともに、乳幼児に直接・間接にかかわる現場の保育者が受講生の中心であることを考慮し、授業の半分ほどは受講生の発表にあてたい。発表の内容は、乳幼児のことばに関するその人の発見が望ましいが、それに限らず、各自の保育経験のなかで、子どもの表現とその保育について「眼が拓かれた」事例とその考察を報告されたい。その歳、受講生のあいだで討論しやすいように、何歳児クラスのどの時期の事例であるかを明記してほしい。授業初日に発表資料(A4サイズ)を提出すること。(大学の方で全員分の印刷をおこなう)。

準備学習(予習・復習)

上記の発表資料を準備すること。

内　容

第1回　オリエンテーション　幼児のことばの発達について考える。
第2回　幼児のことばの独特さについて考える。
第3回　幼児の表現の独特さについて考える。
第4回　受講生からの発表:子どもの表現あるいは保育について「自分の眼が拓かれた」事例の報告(1)
第5回　受講生からの発表:子どもの表現あるいは保育について「自分の眼が拓かれた」事例の報告(2)
第6回　受講生からの発表:子どもの表現あるいは保育について「自分の眼が拓かれた」事例の報告(3)
第7回　受講生からの発表:子どもの表現あるいは保育について「自分の眼が拓かれた」事例の報告(4)
第8回　まとめ

履修上の注意点

教科書

保育の四季--「こころ」の成長
著者:　神谷栄司、前田美智代編
出版社:　三学出版
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　(　)　　小テスト　(　)
授業中課題　(　)　　授業中発表等　(50)
参加度　(50)
受講生が提出した発表資料をもとに評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**教育方法論(特例)**

クラス	配当回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梅本　裕	

テーマ

＜授業をつくる＞ことへのイメージを育む

授業の到達目標

教授＝学習過程としての授業過程を理論的に把握するための基礎概念と基礎技法を習得するとともに学習指導要領に示される内容を正確に理解するための知識を身につけること。具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、学習指導要領に即した改善のための処方的知見を得ることができるようになること。

授業の概要

80年代以降の日本の教育実践の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリーシステムを活用して「生き生き学べる授業」の要件を考察する。

準備学習（予習・復習）

教育問題を取り上げたテレビ番組や教師や学校を主題とするドラマを見てみよう。その中で授業がそのように伝えられ、描かれているかに留意しなさい。

内　　容

第1回　鉛筆対談：授業づくりにおける教材の機能
第2回　発電所はどこにあるか（その1）：授業記録の方法
第3回　発電所はどこにあるか（その2）：授業と教授行為の分析方法
第4回　木の葉の駅：教材解釈と発問づくりの方法
第5回　「絵を描くのは苦手です」：教育内容構成における＜制限＞の意味
第6回　カノンで遊ぶ：ICTの活用技法
第7回　5円玉の秘密：教授行為の構造
第8回　これからの授業づくりの課題：ICTと協同的な学び

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 50% ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 50% ）	授業中発表等（　）
参加度　（　）	

2016 Syllabus

科 目 名　**こども理解Ⅰ(特例)**

クラス	配当回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　八木　英二	

テーマ

実践で子どもたちと向き合う大切さ

授業の到達目標

幼児理解の基盤となる子どもの行為の意味と理解や発達の考え方、子どもたちがクラスで集う意味、保護者との信頼関係を築く大切さなどを実際の現場での事例を通して検討し、理解を深める。

授業の概要

子ども理解は幼児教育の目標・内容・方法・評価の全体構造を把握するための基盤である。その幼児期には顕著な劇的な役割遊び活動と運動遊びの二つの発展が始まる。その「遊び」の原理をふまえて、多様な子どもの行為に関する意味理解を深め、幼児の発達と保育実践の在り方との連関を問うことになる。子どもの発達の見方にとどまらず、カウンセリングマインドやケア、家庭や保護者との信頼関係を築く大切さなども視野に入れ、実際の具体的な実践事例を通して検討していく。

準備学習(予習・復習)

内　　容

第1回　園づくりと子ども
第2回　入園当初の事例検討
第3回　遊べない事実
第4回　イメージ遊び
第5回　お話あそびの成立
第6回　クラスレベルの遊びの発展
第7回　劇遊びと生活発表会
第8回　授業のまとめ

履修上の注意点

各自で独自のシミュレーションを重ねるような学習活動の発展を期待する。

教科書

参考書

成績評価

試験　(50%)	小テスト　(　)
授業中課題　(50%)	授業中発表等　(　)
参加度　(　)	

2016 Syllabus

科 目 名　**福祉と養護(特例)**

クラス	配当回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　森本　美絵	

テーマ

現代社会における社会福祉・児童家庭福祉・社会的養護を理解する。

授業の到達目標

社会福祉・児童家庭福祉・社会的養護の意義と役割、制度の実施体系および、施設養護の実際について理解する。

授業の概要

主として講義形式となるが、グループワークも一部取り入れる予定である。

準備学習（予習・復習）

授業時に紹介した本を読む。

内　　容

第1回　現代社会における社会福祉、児童家庭福祉及び社会的養護の意義と歴史的変遷
第2回　現代社会における社会福祉、児童家庭福祉及び社会的養護の意義と歴史的変遷
第3回　社会福祉と児童家庭福祉の役割
第4回　社会福祉と児童家庭福祉の役割
第5回　各制度の法体系・行財政と実施機関
第6回　社会的養護の仕組みと実施体系
第7回　社会福祉施設等と児童家庭福祉施設等（家庭養護と施設養護）
第8回　社会福祉施設等と児童家庭福祉施設等（家庭養護と施設養護）
第9回　児童家庭福祉の現状と課題
第10回　児童家庭福祉の現状と課題
第11回　児童家庭福祉の現状と課題
第12回　児童家庭福祉の現状と課題
第13回　施設養護の実際
第14回　施設養護の実際
第15回　全体の振り返りと授業内レポート

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**相談支援(特例)**

クラス　　配当回生

講義期間　前期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　山口　陽子.幸重　忠孝

テーマ

現代社会における家庭支援のあり方と関係機関との連携保育相談支援の理論と実践

授業の到達目標

保育を必要とする家庭、福祉課題(貧困・虐待・病気や障害)を抱える家庭、また地域での子育て支援における相談支援について必要な知識と支援の視点について具体的な事例から学んでいきます。そして支援に必要な関係機関との連携について学びます。保護者支援の意義や基本を学び保育相談支援の実際について理解を深める

授業の概要

視聴覚教材を活用した事例や実践から学ぶます。第4回・第8回に講義内レポート試験を実施します。保育相談支援の実際と保護者支援の方法を具体的事例から学ぶ

準備学習(予習・復習)

授業の計画のキーワードについて事前に調べておく

内　容

第1回　保育と保育相談支援
第2回　相談支援の実際
第3回　保育相談支援の方法と技術
第4回　保育相談支援の進め方と連携
第5回　事例の概要と展開
第6回　事例検討
第7回　事例検討
第8回　まとめと理解度調査(前半部分:山口)
第9回　家庭支援の意義と役割について(後半部分:幸重)
第10回　保育を必要とする家庭での事例から 【キーワード】就労　保育料・諸費　給食・弁当　参観　役員
第11回　福祉課題を抱える家庭での事例から 【キーワード】貧困　虐待　障害　ひとり親
第12回　家庭支援の意義と役割についてレポート試験
第13回　多様な支援の展開と関係機関の連携について
第14回　フォーマルな関係機関での連携について 【キーワード】児童相談所　要保護児童対策地域協議会　児童発達支援センター
第15回　インフォーマルな地域での支援について 【キーワード】NPO　民生児童委員
第16回　多様な支援の展開と関係機関の連携について

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　(　)　　小テスト(　)
授業中課題(　)　　授業中発表等(　)
参加度　(　)
山口　陽子／授業中課題(50%)、参加度(50%)幸重　忠孝／授業中課題(100%)※上記を100%に換算して成績評価を行います。

2016 Syllabus

科 目 名　**保健と食と栄養(特例)**

クラス	配当回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　齋藤　洋子.小川　亜紀	

テーマ

子どもの発育に応じた栄養と食生活（小川）子どもの身体と心の健康について、確かな知識を基に健康増進及び疾病の予防について、特に乳児の発育・発達について学びを深める。また、乳幼児の保育環境・衛生管理について理解を深める。（齋藤）

授業の到達目標

1．子どもの健康状態の把握、子どもの病気と予防について知識を深める。2．子どもの心の健康について知識を深め二次障害を防ぐ。3．より良い保育環境、安全と衛生管理について知識を深める。4．子どもの保健の今日的課題と知識を習得する栄養の基礎知識と子どもの発達を理解し、子どもの栄養と食生活を学ぶ。（小川）

授業の概要

子どもが健やかに発育するために必要な栄養の基本的な知識を身につける。子どもの発育に必要な栄養は成長とともに変化し、成人と異なる点も多い。各発達段階における栄養と食事を具体的に学ぶ。（小川）教科書とプリントの資料ですすめる。（齋藤）

準備学習（予習・復習）

事前に教科書を読んで授業に臨むこと。（齋藤）

内　　容

第1回　栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能（小川）
第2回　食事摂取基準と献立作成・調理の基本（小川）
第3回　乳児期の授乳・離乳の意義と食生活（小川）
第4回　幼児期・学童期の心身の発達と食生活（小川）
第5回　食育の基本1：食育の意義、計画、評価（小川）
第6回　食育の基本2：地域の関係機関や職員間の連携と食生活指導、保護者への支援（小川）
第7回　疾病、体調不良・障害、食物アレルギーのある子どもへの対応（小川）
第8回　まとめ
第9回　子どもの健康と保健の意義（齋藤）
第10回　子どもの疾病と保育①（齋藤）
第11回　子どもの疾病と保育②（齋藤）
第12回　子どもの心の健康（齋藤）
第13回　保育環境整備と保健（齋藤）
第14回　母子保健対策と保育（齋藤）
第15回　保育所をとりまく安心・安全の環境整備（齋藤）
第16回　健康および安全の取り組み（齋藤）

履修上の注意点

教科書

子どもの保健Ⅰ（齋藤）
著者：　遠藤郁夫　他　編集
出版社：学建書院
出版年：　　ISBN：
最新子どもの食と栄養～食生活の基礎を築くために～（小川）
著者：　飯塚美和子他
出版社：学建書院
出版年：　　ISBN：

参考書

よくわかる子どもの保健
著者：　竹内義博・大矢紀昭　編著
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

atk201d310

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

試験(60%)、小テスト(10%)、授業中課題(10%)、参加度(20%)(小川)授業中課題(100%)レポート課題で評価する。(齋藤)

2016 Syllabus

科 目 名　**乳児保育(特例)**

クラス	配当回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　古橋　紗人子	

テーマ

①乳児保育の理念と役割　②乳児保育の現状と課題。　③3歳未満児の発達と保育内容。 ④乳児保育の実際。 ⑤乳児保育における連携

授業の到達目標

3歳未満児の保育を行うについて、乳児保育の理念と役割、歴史的変遷を学ぶ。保育所、乳児院等の乳児保育の現状と課題及び、3歳未満児の発育・発達を学ぶことにより生活と遊びについて理解する。保育課程に基づく指導計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等についても学び、更に保護者や関係機関の連携についても学ぶ。

授業の概要

乳児保育の概念と意義を把握し乳児保育の歴史と現状について理解を深める。誕生前後の脳の成長発達を学ぶことから赤ちゃんは、なぜかわいいか考える。また母子関係、養護と教育の一体化の重要性、3歳未満児の成長発達の特徴と保育課題を把握するとともに、乳児保育担当者としての心がまえ、保育観を確立するために保育の原理や知識、技術の基礎を演習形態で学ぶ。

準備学習（予習・復習）

予習：教科書の「ケーススタディー」P14、P108、P136、P146、基本的な問題点と具体的な対処方法を考察し簡潔に記述する。復習：第2回振り返り小テスト　第15回振り返り試験をしますのでノートをまとめておくこと。

内　　容

第1回　1.乳児保育の理念と役割　(1)乳児保育の理念と歴史的変遷　(2)乳児保育の役割と機能：「乳児保育のなかった頃」
第2回　2.乳児保育の現状と課題　(1)保育所における乳児保育の意義：「乳児保育の語意の理解と実際」
第3回　2.乳児保育の現状と課題　(2)乳児院における乳児保育：「保育所・乳児院における乳児保育」
第4回　2.乳児保育の現状と課題　(3)家庭的保育等における乳児保育：「家庭的保育事業における乳児保育」
第5回　2.乳児保育の現状と課題　(4)乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場：予習P14「赤ちゃんからのシグナル」
第6回　3.3歳未満児の発達と保育内容　(1)乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり：「発達の8区分について」
第7回　3.3歳未満児の発達と保育内容　(2)6か月未満児の発達と保育内容：予習「人見知りと担当制保育」
第8回　3.3歳未満児の発達と保育内容　(3)6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容：実習「調乳・授乳・離乳食」「沐浴とオムツ交換」
第9回　3.3歳未満児の発達と保育内容　(4)1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容：「連絡帳の書き方」
第10回　3.3歳未満児の発達と保育内容　(5)2歳児の発達と保育内容：「排せつの自立と清潔のしつけ」
第11回　4.乳児保育の実際　(1)保育課程に基づく指導計画の作成と観察・記録及び自己評価：予習「特定の保育士との関わり」「保育課程に基づく個別指導計画」
第12回　4.乳児保育の実際　(2)一人ひとりの発達を促す生活と遊びの環境：「乳児の遊び」絵本・ふれ合い遊び・造形遊び
第13回　4.乳児保育の実際　(3)職員間の協働：予習「母子健康手帳に何が書いてあるの」
第14回　5.乳児保育における連携　(1)保護者・医療機関・家庭的保育室等：「地域子育て支援等との連携」
第15回　5.「乳児保育」のまとめと振り返り：試験

履修上の注意点

・原則、全出席とし欠席は、1回欠席すると5点減点。 グループ討議・発表や実習態度を評価します。積極的態度で楽しく学ぶことをモットーとします。

教科書

赤ちゃんから学ぶ「乳児保育」の実践力ー保育所・家庭で役立つ
著者：　古橋紗人子
出版社：保育出版社
出版年：2014　　ISBN：

保育所保育指針解説書
著者：　厚生省労働省編
出版社：フレーベル館
出版年：2008　　ISBN：

シードブック　乳児保育　第4版　科学的観察力と優しい心
著者：　川原佐公　古橋紗人子
出版社：建帛社
出版年：2016　　ISBN：

atk201d410

参考書

乳児保育−科学的観察食と優しい心
著者:　川原佐公・古橋紗人子
出版社: 建帛社
出版年: ２０１２　　ISBN:

0, 1, 2歳児の連絡帳の書き方
著者:　川原佐公・古橋紗人子他
出版社: ひかりのくに
出版年: ２０１３　　ISBN:

月刊　保育とカリキュラム
著者:
出版社: ひかりのくに
出版年: ２０１６　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40 ）　　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**看護理論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　中島　登美子	

テーマ

看護理論および周辺諸理論を体系的に理解し看護実践 への活用をめざす。この活用に向けて、看護理論を体系的に概観し、諸理論の変遷と内容的構造及び特徴を理解する。主要な看護理論家の看護モデルについて、その哲学的基盤、概念及び看護の実践/教育/研究への活用について理解する。広範囲理論であるロイ適応理論により、これら理論の実践への活用をより具体的に理解する。また、自ら関心ある領域において、その看護理論及び諸理論の適用の妥当性を考察したうえで、実践/研究/教育への具体的な活用について検討する。

授業の到達目標

１　看護理論を体系的に概観し、諸理論の変遷と内容的構造及び特徴を理解する。２　主要な看護理論家の看護モデルについて、その哲学的基盤、概念及び看護の実践／教育／研究への活用について理解する。３　広範囲理論であるロイ適応モデルの理論構築、重要概念及び看護の実践／研究／教育への適用における具体的な活用について理解する。４　自ら関心ある領域において、その看護理論及び諸理論の適用の妥当性を考察して、実践／研究／教育への具体的な活用について検討する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　学びの希望、講義の進め方, 看護理論/諸理論に関する文献の活用の留意点, 看護理論の実践における活用上の課題,
第2回　看護理論の哲学的基盤とその発達, 看護理論の構造, 看護理論の構成要素
第3回　守備範囲, 看護理論の分析・評価, 看護理論の看護実践/教育/研究への活用、専門的な分野における看護理論の適用とその活用
第4回　看護理論/看護モデルと関連する諸理論
第5回　看護理論/看護モデルの分類とその概括(1) プレゼンテーション（1）
第6回　看護理論/看護モデルの分類とその概括(2) プレゼンテーション（2）
第7回　看護理論/看護モデルの分類とその概括(3) プレゼンテーション（3）
第8回　看護理論/看護モデルの分類とその概括(4) プレゼンテーション（4）
第9回　広範囲理論の成り立ち, ロイ適応モデル概観, 理論構築の背景, 哲学的基盤
第10回　ロイ適応モデル重要概念（人間, 環境, 健康, 看護）
第11回　ロイモデル看護過程, 看護理論と看護過程との関係および実践への具体的な活用の仕方
第12回　ロイモデル（看護の実践/研究への適用、各専門領域における活用、評価）
第13回　自らの関心ある領域における看護理論及び諸理論の具体的な活用（1）の検討
第14回　自らの関心ある領域における看護理論及び諸理論の具体的な活用（2）の検討
第15回　看護理論に対する研究的な課題とアプローチ

履修上の注意点

教科書

参考書

Theory and nursing A systematic approach 4th edition　看護理論とは何か
著者：　Chinn, P.L., Kramer,M.K.(1995),白石聡監訳(1997)
出版社：医学書院
出版年：　　ISBN：

Nursing theorists and their work　看護理論家とその業績
著者：　Marriner-Tomey,A.(1990),都留伸子監訳(2009)
出版社：医学書院
出版年：　　ISBN：

Analysis and evaluation of nursing theories　フォーセット看護理論の分析と評価
著者：　Fawcett,J.(1993),太田喜久子・筒井真優美監訳(2008)
出版社：医学書院
出版年：　　ISBN：

h701010110

Strategies for theory construction in nursin　看護における理論構築の方法

著者:　Walker & Avant(2005),中木高夫・川崎修一訳(2008)

出版社: 医学書院

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

レポート40%，プレゼンテーション内容ディスカション状況40%，参加態度と出席20%，から総合的に評価する.

2016 Syllabus

科 目 名　**看護研究 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中島　登美子	

テーマ

看護における研究の意義と役割について理解するとともに、看護研究課題における概念の明確化、概念枠組みの構成、研究プロセス、研究倫理について修得する。看護現象を説明する研究方法としての質的研究および量的研究等について理解し、特に看護実践におけるに研究を展開するうえで必要となる、多様な研究方法を具体的に理解する。

授業の到達目標

1　看護における研究の意義と役割について理解できる。2　看護研究課題における概念の明確化、概念枠組みの構成、研究方法の活用、論理的問題について理解できる。3　2を通し、実践に結びついた具体的な研究方法の展開について具体的に理解できる。4　看護現象を説明する研究方法としての質的研究および量的研究等について理解できる。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　看護学の発展と科学的アプローチについて文献検索し、看護研究の外観を学ぶ
第2回　看護研究における倫理的配慮について、事例を通して意見交換をする
第3回　倫理委員会の目的と役割
第4回　文献レビュー
第5回　研究の問いと研究デザイン
第6回　量的研究の研究デザイン
第7回　量的研究の実例　実験研究、質問紙調査研究の計画と分析
第8回　〃
第9回　〃
第10回　量的データのまとめ方
第11回　質的研究法の研究デザイン
第12回　グラウンデッドアプローチ
第13回　エスノグラフィーによるデータ収集方法
第14回　現象学的解釈法
第15回　質的研究のまとめ方

履修上の注意点

教科書

参考書

看護研究　原理と方法　第2版
著者：　D.F.Polit.,C.T.Beck(2004),近藤潤子監訳(2010)
出版社：医学書院
出版年：　　ISBN：

看護における研究第2版
著者：　南裕子編(2010)
出版社：日本看護協会出版会
出版年：　　ISBN：

看護研究計画書作成の基本ステップ
著者：　Brink,P.J., Wood,M.J.(1994):小玉香津子・輪湖史子訳(2003)
出版社：日本看護協会出版会
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

h701010210

レポート50%，討論および授業への参加態度50%，から総合的に評価する.

2016 Syllabus

科 目 名　**看護教育論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阿部　祝子	

テーマ

看護学教育全体を概観したうえで、看護ケアの質を高めるために継続的にキャリア開発を進める教育を中心に理解する。教育の基本的な理論のもと、教育目標設定、教育計画の立案、教育活動、評価などの一連の過程を理解し、そのうえで、継続教育に特徴的なOFFおよびONのOJT、生涯学習の方法、学習の環境やシステムづくり等、看護の質を高めるために実践の場に実際に活用できるように、教育者側・学習者側の双方からの視点で、継続教育全体の知識・技術を理解する。

授業の到達目標

1　教育の本質を理解した上で，看護教育の特徴と課題について理解できる。2　看護基礎教育と継続教育の特徴を理解し、その教育課程、方法、評価について理解できる。3　生涯学習としての看護の継続教育の運用に関して、環境やシステムづくり、方法について理解できる。4　看護の質を高めるために看護実践の場における教育計画立案と運営方法について具体的に理解できる。

5　看護教育の現状における課題と解決の方策について考察できる。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　教育の本質、意義、看護学の特徴と教育、看護教育制度の特徴と変遷
第2回　看護基礎教育と看護継続教育
第3回　看護基礎教育の看護教育課程の構造と意味
第4回　看護基礎教育の看護教育方法、教育評価
第5回　看護継続教育の看護教育課程の意味と構築の方法
第6回　看護継続教育の看護教育方法、教育評価
第7回　生涯学習の背景とシステムづくりの意義，方法；OFFおよびONのOJT
第8回　質向上を目指す看護実践の場における具体的な継続教育の教育企画と運営(1)
第9回　質向上を目指す看護実践の場における具体的な継続教育の教育企画と運営(2)
第10回　質向上を目指す看護実践の場における具体的な継続教育の教育企画と運営(3)
第11回　質向上を目指す看護実践の場における具体的な継続教育の教育方法（1）
第12回　質向上を目指す看護実践の場における具体的な継続教育の教育方法（2）
第13回　質向上を目指す看護実践の場における具体的な継続教育の教育方法（3）
第14回　質向上を目指す看護実践の場における具体的な継続教育の教育評価
第15回　看護教育における現在かかえている課題とその解決の方策

履修上の注意点

看護という職業の特徴を明確にしておく

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

看護教育学
著者：　グレッグ美鈴/池西悦子
出版社：南江堂
出版年：　　ISBN：

看護教育学第4版
著者：　杉森みどり
出版社：医学書院
出版年：　　ISBN：

h701010310

看護の教育学序説

著者:　杉下喜代子

出版社: ゆみる出版

出版年:　　ISBN:

その他授業内で提示する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**コンサルテーション論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　新道　幸恵.木村　里美.吉田　智美	

テーマ

高度実践看護職は、ケアの対象者に直接かかわるだけでなく、看護職を含むケア提供者に対しても「相談」機能を果たす。その効果的な方法を体験的に学習するとともに、コンサルテーションの概念、プロセスや実践モデル、コンサルタントの役割等の知識を習得し課題を探究する。また、管理、教育的支援、コミュニケーション、評価等の機能をもって、かかわる人々の主体性や独自性を尊重しつつ、自らの専門性と他職種との連携について探究する。

授業の到達目標

CNS等の高度実践看護者にとって重要な役割のひとつである相談（コンサルテーション）は、働く組織を知り、マネジメント力を発揮しながら、高度実践力によってモデルとしての役割を示すことで、効果を上げる。そこで、この授業においてはコンサルテーションについての概念を理解し、その実践を可能にする方法論を学ぶと同時に、組織へのアプローチやマネジメント力等をコンサルテーションにどのように活用するかを理解することを目標とする。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　コンサルテーションとは（ガイダンス、学習の意義と専門看護師の役割）
第2回　コンサルテーション概論①（コンサルテーションの概念と歴史的背景）
第3回　コンサルテーション概念(スーパービジョンとプロセス/コンサルテーション)
第4回　コンサルテーション概論③（コミュニケーション技法と文化のかかわり）
第5回　コンサルタントの役割と機能、コンサルタントに必要な教育
第6回　コンサルテーションのプロセスとコンサルテーションモデル
第7回　コンサルテーション・コンサルタントに関する文献レビュー
第8回　医療分野におけるコンサルテーションの実際①
第9回　医療分野におけるコンサルテーションの実際①
第10回　医療分野におけるコンサルテーションの実際②
第11回　医療分野におけるコンサルテーションの実際②
第12回　医療分野におけるコンサルテーションの実際③（組織変革の推進）
第13回　医療分野におけるコンサルテーションの実際③（組織変革の推進）
第14回　マネジメントの活用
第15回　CNSのエンパワメント

履修上の注意点

教科書

プロセスコンサルテーション
著者:　E.H.シャイン
出版社:　白桃書房
出版年:　2002　　ISBN:

参考書

随時紹介
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
レポート50%，討論および授業への参加態度50%，から総合的に評価する.

2016 Syllabus

科 目 名　**看護管理論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

看護管理に関する諸理論と看護サービス・マネジメントへの適用について理解する。また、関連学問領域の概念や諸理論についても多角的に理解した上で、最近の看護管理の実践に関する研究動向を文献によって把握し、質の高い看護実践を提供するために有効な看護管理のシステムづくり、保健医療福祉にかかわる人々の連携等、看護管理の効果的あり方および方向性や課題について探究する。

授業の到達目標

1 看護管理に必要な基本的な諸理論，管理プロセス，実践システムについて多角的な見地から理解できる。2 最近の看護管理の実践に関する研究動向を文献によって把握できる。3 質の高い看護実践を提供するために有効な看護管理のシステムづくり、保健医療福祉にかかわる人々の連携等、効果的な看護サービス･マネジメントを理解できる。4 看護管理の効果的あり方および方向性や課題について探求することができる。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　看護マネジメントに関わる主要な用語とその概念
第2回　看護を取り巻く環境の変化
第3回　看護組織
第4回　看護マネジメント（1）
第5回　看護マネジメント（2）
第6回　看護の質保証とその評価
第7回　看護経営・経済（1）
第8回　看護経営・経済（2）
第9回　看護制度・政策
第10回　看護における人的資源活用（1）
第11回　看護における人的資源活用（2）
第12回　専門職と看護管理，医療職間の連携
第13回　情報技術･情報管理
第14回　効果的な看護サービス･マネジメント
第15回　看護管理における課題と今後の方向性上記に関し、各自が研究論文･参考資料等を活用し、それぞれの内容について討議を進める。

履修上の注意点

広く関連図書・専門誌等を読み，自らの関心領域．課題を明確にする．討議における発表の準備をする

教科書

適宜提示
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

看護管理学習テキスト第1巻～第8巻
著者：　井部俊子/中西睦子監修
出版社：医学書院
出版年：　　ISBN：

看護サービス管理第3版
著者：　中西睦子編
出版社：医学書院
出版年：　　ISBN：

h701010510

その他授業内で提示する

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 （ ） 小テスト（ ）

授業中課題（ 60 ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 40 ）

レポート60%, 授業への参加態度と出席状況40%, から総合的に評価する.

2016 Syllabus

科 目 名　**看護政策論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　野村　陽子.霜鳥　一彦	

テーマ

看護職の活動の場が拡大し、活動対象者が多様化している中で、質の高い看護活動の提供を保証する看護政策を理解する。また、看護政策の歴史的発展過程と看護職の抱える課題について、広い視点からクリティークしたうえで理解し、課題解決の時期、規模等考察したうえでの目標設定レベル、解決の方策について具体的に思考できる能力を養う。さらにわが国における看護制度・看護政策・看護教育制度・諸外国の看護政策について学習し、看護職を取り巻く国内外の環境について理解すると共に、政策と政策決定に関与する基本的な構造およびヘルスケア政策決定の過程とそこで直面する課題についても考察する。

授業の到達目標

1　看護職の活動の場が拡大、対象者が多様化と、質の高い看護活動を提供するた　めの環境づくりとしての看護政策を理解できる。2　地域の保健医療福祉政策決定の過程と看護職の役割について理解できる。3　質の高い看護活動を保証するシステムに向けて、直面する課題について考察す　ることが出来る。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　政策とは何か、政策過程とは何か、政治過程とは何か
第2回　看護職者と政策、看護における政策の重要性、専門職としての看護と政策
第3回　看護に関する政策（1）保健師助産師看護師法の変遷
第4回　〃
第5回　看護に関する政策（2）看護教育制度
第6回　〃
第7回　看護に関する政策（3）わが国の看護の人材：看護職員需給見通し、看護師等の人材確保の促進に関する法律、その他看護の人材確保に関する法令
第8回　看護に関する政策（4）保健医療福祉施策と看護保健医療福祉の法令、診療報酬、介護報酬
第9回　〃
第10回　政策過程への参画：政策形成のプロセスにおける意志決定・公共性の視座医療安全への取り組み
第11回　〃
第12回　政策過程への参画：政策エビデンスの意義、学際的アプローチ、多職種との協働
第13回　〃
第14回　〃
第15回　質の高い看護活動を保証するシステムに向けて、直面する課題と対応、まとめ

履修上の注意点

教科書

授業中に示す
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

政策型思考と政治
著者：　松下圭一
出版社：　東京大学出版会
出版年：　　ISBN：

看護管理学習テキスト7　看護制度・政策論
著者：　井部俊子、中西睦子編集
出版社：　日本看護協会出版会
出版年：　2003　　ISBN：

h701010610

保健師助産師看護師法60年史

著者:

出版社: 日本看護協会出版会

出版年: 2009　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 20 ）　　授業中発表等 （ 50 ）

参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**看護倫理論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　梶谷　佳子.高田　早苗	

テーマ

看護倫理の意義とその必要性について哲学的、理論的、社会的な見地から考察でき、「倫理」の概念、本質、原則、倫理的なジレンマについて理解する。同時に、生命倫理の歴史的な背景、変遷と現在の社会的な要請の見地等についても理解する。また、医療および看護場面における倫理的ジレンマについて多様な観点から考察し、看護実践に活用出来るモチベーションを高めると共に、その専門領域に関する具体的な倫理的ジレンマについて、倫理的な調整等、解決策を含めた考察を深める。さらに看護倫理に対する研究的な課題とアプローチおよび看護倫理に関する組織的な取り組みについても理解する。

授業の到達目標

1　看護倫理の意義とその必要性について理論的、社会的な見地から考察きる。2　伝統的倫理学と近代的倫理学の概括から理論的基盤に基づき、倫理の「倫理」の概念、原則、倫理的なジレンマについて理解する。3　生命倫理の考え方の歴史的な背景、変遷と現在の社会的な要請の見地から、そのあり様を理解する。4　看護倫理の概念、本質、哲学的な基盤、意義について理解する。5　看護倫理を実践していく上で必要なコンピテンシー、方法について理解出来る。6　医療および看護場面における倫理的ジレンマについて多様な観点から考察し、看護実践に活用出来るモチベーションを高める。専門看護師をめざすものについては、その領域に関する倫理的なジレンマについて考察を深める。7　看護倫理に対する研究的な課題とアプローチ、看護倫理に関する組織的な取り組みについて理解する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　学修内容の確認、学修希望、看護倫理に関して体験した問題、感じていること
第2回　看護倫理の意義とその必要性，医療倫理に対する社会からの要請
第3回　伝統的倫理学と近代的倫理学
第4回　「倫理」の概念、倫理の原則、倫理と法律との関係、倫理的なジレンマ
第5回　生命倫理に対する考え方の歴史的な背景、変遷と現在の社会的な要請の見地
第6回　看護倫理の概念、本質、哲学的な基盤、意義
第7回　看護実践における倫理的なコンピテンシー；倫理的な感受性、倫理的判断
第8回　看護実践における倫理的なコンピテンシー；倫理的なジレンマへの調整等アプローチ，アサーション能力
第9回　医療および看護場面における倫理的ジレンマとその対応についての事例の検討（2）
第10回　医療および看護場面における倫理的ジレンマとその対応についての事例の検討（2）
第11回　医療および看護場面における倫理的ジレンマとその対応についての事例の検討（3）
第12回　医療および看護場面における倫理的ジレンマとその対応についての事例のプレゼンテーションと討論（1）
第13回　医療および看護場面における倫理的ジレンマとその対応についてについてプレゼンテーションと討論（2）
第14回　看護倫理に対する研究的な課題とアプローチ、研究倫理の取り組み、組織上の取り組み
第15回　看護倫理の今後の課題と取り組み．まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

看護実践の倫理，第2版
著者：　サラT.フライ（片田範子他訳）
出版社：日本看護協会出版会
出版年：2009　　ISBN：

新版看護者の基本的責務
著者：　日本看護協会監修
出版社：日本看護協会出版会
出版年：2009　　ISBN：

看護倫理学
著者：　松木光子
出版社：NOUVELLE HIROKAWA
出版年：　　ISBN：

h701010710

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 40 ）
授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護基礎学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

実践基礎看護学の位置づけとこれまでの先行研究の成果と到達点を見極める。さらにこれからの課題について探求する

授業の到達目標

看護学の基盤となる実践基礎看護学の位置づけを探求し、これまでの研究成果とその到達点を知る。社会のニーズや臨床実践の変化に応じた、実践基礎看護学の課題を探求し、研究成果の臨床への還元を図る方法を探求する

授業の概要

看護学の発展してきた歴史的な経緯を考察することから始め、現在の看護学を支える基礎理論を探求することを通して、基礎看護学への学問的な理解を深める。看護学と臨床実践路の繋がりを太くするために、何ができるかを探求する

準備学習（予習・復習）

受講生による課題学習とレポートにもとづいたセミナー方式で進める

内　　容

第1回　実践基礎看護学イントロダクション
第2回　専門的な看護活動と看護学の歴史的な発展
第3回　看護学を構成する諸要件について
第4回　看護学と関連領域との融合と発展
第5回　看護学の基盤となる研究成果の探求
第6回　看護学の基盤となる研究成果の探求
第7回　看護学の基盤となる研究成果の探求
第8回　看護学の基盤となる研究成果の探求
第9回　看護学と臨床智の融合
第10回　看護学と臨床智の融合
第11回　看護学と臨床智の融合
第12回　看護学と臨床智の融合
第13回　看護学と臨床智の融合
第14回　看護学から見た臨床の課題
第15回　看護学から見た臨床の課題
第16回　看護学から見た臨床の課題
第17回　看護学から見た臨床の課題
第18回　臨床実践と看護学の研究成果の活用
第19回　臨床実践と看護学の研究成果の活用
第20回　臨床実践と看護学の研究成果の活用
第21回　臨床実践と看護学の研究成果の活用
第22回　相互に必要なトランスレーショナルリサーチ
第23回　相互に必要なトランスレーショナルリサーチ
第24回　相互に必要なトランスレーショナルリサーチ
第25回　相互に必要なトランスレーショナルリサーチ
第26回　実践基礎看護学の発展の方向性
第27回　実践基礎看護学の発展の方向性
第28回　実践基礎看護学の発展の方向性
第29回　教育・研究・実践の融合
第30回　教育・研究・実践の融合

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

h701010910

授業中課題（40）　授業中発表等（30）

参加度（30）

2016 Syllabus

科 目 名　**看護技術学 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小板橋　喜久代	

テーマ

看護技術学の位置づけと看護技術学の構築のための課題

授業の到達目標

看護技術学への理解を深め、看護技術学に関わる先行研究の成果を探求する。さらに、臨床実践における介入技術のエビデンスと問題点を精選し、看護技術学の研究成果の活用法を探求する。

授業の概要

看護誤術学は確立した学問分野となっていないという見方もある中で、臨床における看護ケアの課題とエビデンスを洗い出す中から、看護技術学の成果をどのように臨床実践に反映させることができるか、探求していく。

準備学習（予習・復習）

受講生自らの、臨床における看護実践の課題を洗い出すための情報収集と問題提起をもとに取り組む

内　容

第1回　看護技術学イントロダクション
第2回　看護技術学への関心とは
第3回　人間と技術開発の歴史
第4回　これまでに開発されてきた生活技術と医療（看護）技術の成果
第5回　これまでに開発されてきた生活技術と医療（看護）技術の成果
第6回　これまでに開発されてきた生活技術と医療（看護）技術の成果
第7回　技術開発の成果と課題（問題点）
第8回　技術開発の成果と課題（問題点）
第9回　技術開発の成果と課題（問題点）
第10回　技術開発の成果と課題（問題点）
第11回　臨床実践に反映された技術学の成果を探求する
第12回　臨床実践に反映された技術学の成果を探求する
第13回　臨床実践に反映された技術学の成果を探求する
第14回　臨床実践に反映された技術学の成果を探求する
第15回　臨床実践に反映された技術学の成果を探求する
第16回　臨床実践に反映された技術学の成果を探求する
第17回　看護技術の開発法（物理学的検証）
第18回　看護技術の開発法（物理学的検証）
第19回　看護技術の開発法（人間工学的検証）
第20回　看護技術の開発法（人間工学的検証）
第21回　看護技術の開発法（生理学的検証）
第22回　看護技術の開発法（生理学的検証）
第23回　看護技術の開発法（現象学的検証）
第24回　看護技術の開発法（現象学的検証）
第25回　実践看護を発展させる看護技術の開発の課題
第26回　実践看護を発展させる看護技術の開発の課題
第27回　実践看護を発展させる看護技術の開発の課題
第28回　看護技術学と哲学的考察の重要性
第29回　看護技術学と哲学的考察の重要性
第30回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

看護技術の科学と検証
著者：　菱沼典子、川嶋みどり
出版社：日本看護協会出版会
出版年：2013　　ISBN：

h701011010

実践へのフィードバックで活かすケア技術のエビデンスⅢ

著者:　深井喜代子

出版社: ヘルス出版

出版年: 2015　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護基礎学演習Ⅰ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

自らの今後取り組む課題研究に繋がるように、看護基礎学に関する基本的な研究手法について学ぶ。

授業の到達目標

1．看護基礎学における今日的課題が理解できる。2．看護基礎学における基礎的研究の手法について理解できる。3．看護基礎学における先行研究について批判的な解釈ができる。

授業の概要

文献クリティークを行い、看護基礎学の領域における看護研究に必要な重要な概念を理解する。それに基づいて、今後、自らが取り組む研究課題を明確にし。研究方法を選択していきます。

準備学習（予習・復習）

講義前日までにプレゼン内容を共有し、講義内においては、ディスカッションを深めていきます。

内　　容

第4回　看護基礎学における研究方法(1)
第5回　看護基礎学における研究方法(2)
第6回　実験研究アプローチ(1)
第7回　実験研究アプローチ(2)
第8回　実験研究アプローチ(3)
第9回　質的研究アプローチ(1)
第10回　質的研究アプローチ(2)
第11回　質的研究アプローチ(3)
第12回　その他の研究方法の取り組み(1)人間工学的方法(1)
第13回　その他の研究方法の取り組み(2)人間工学的方法(2)
第14回　その他の研究方法の取り組み(3)現象学的取り組み(1)
第15回　その他の研究方法の取り組み(4)現象学的取り組み(2)
第16回　まとめ
第1回　看護基礎学イントロダクション
第2回　看護基礎学の今日的課題(1)
第3回　看護基礎学の今日的課題(2)

履修上の注意点

テキストは適宜提示します。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護基礎学演習Ⅱ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

看護基礎学に関連する事象について、様々な視点から考察し、看護の本質について考える。

授業の到達目標

1. 看護基礎学に関連する事象を様々な点から考察することができる。2. 看護基礎学における課題を明確にし、対策について提言できる。

授業の概要

講義・学生によるプレゼンテーションおよびフィールドワークを通して、看護基礎学に関連する事象についての考察を深めます。

準備学習（予習・復習）

院生が関心を寄せているテーマに基づいて進めます。問題意識をもって臨んでください。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　看護基礎学の特徴(1)
第3回　看護基礎学の特徴(2)
第4回　看護基礎学分野に関連した理論(1)
第5回　看護基礎学分野に関連した理論(2)
第6回　看護基礎学分野に関連した理論(3)
第7回　看護基礎学分野に関連した理論(4)
第8回　看護基礎学分野に関連した理論(5)
第9回　看護基礎学に関連した文献精査(1)
第10回　看護基礎学に関連した文献精査(2)
第11回　看護基礎学に関連した文献精査(3)
第12回　看護基礎学に関連した文献精査(4)
第13回　看護基礎学に関連した文献精査(5)
第14回　看護基礎学に関連した文献精査(6)
第15回　看護基礎学に関連した文献精査(7)
第16回　看護基礎学に関連した文献精査(8)
第17回　看護基礎学に関連した文献精査(9)
第18回　看護基礎学に関連した文献精査(10)
第19回　看護基礎学分野に関連したフィールドワーク(1)
第20回　看護基礎学分野に関連したフィールドワーク(2)
第21回　看護基礎学分野に関連したフィールドワーク(3)
第22回　看護基礎学分野に関連したフィールドワーク(4)
第23回　看護基礎学分野に関連したフィールドワーク(5)
第24回　看護基礎学分野に関連したフィールドワーク(6)
第25回　看護基礎学分野に関連したフィールドワーク(7)
第26回　看護基礎学分野に関連したフィールドワーク(8)
第27回　看護基礎学分野に関連したフィールドワーク(9)
第28回　看護基礎学分野に関連したフィールドワーク(10)
第29回　看護基礎学分野に関連したフィールドワーク(11)
第30回　まとめ

履修上の注意点

テキストは適宜提示します。

教科書

参考書

成績評価

h701011250

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護基礎学演習Ⅲ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

院生の研究動機から研究課題を明確化する

授業の到達目標

1．関心分野についての看護現象における課題について多角的に分析できる2．関心分野についての看護現象における課題を論理的に説明できる。3．自らの研究に取り組む目的を明確にすることができる。

授業の概要

関心分野における研究課題を明確にすることにより看護課題研究に繋げる。

準備学習（予習・復習）

これまでの臨床経験を振り返り、看護現象についての課題を探ります。問題意識をもって臨んでください。

内　容

第1回　研究課題の明確化のための文献検索(1)
第2回　研究課題の明確化のための文献検索(2)
第3回　研究課題の明確化のための文献検索(3)
第4回　研究課題の明確化のための文献検索(4)
第5回　研究課題の明確化のための文献検索(5)
第6回　研究課題の明確化のための文献検索(6)
第7回　研究課題の明確化のための文献検索(7)
第8回　研究課題の明確化のための文献検索(8)
第9回　研究課題の明確化のための文献検索(9)
第10回　研究課題の明確化のための文献検索(10)
第11回　研究課題の明確化のための文献精査(1)
第12回　研究課題の明確化のための文献精査(2)
第13回　研究課題の明確化のための文献精査(3)
第14回　研究課題の明確化のための文献精査(4)
第15回　研究課題の明確化のための文献精査(5)
第16回　研究課題の明確化のための文献精査(6)
第17回　研究課題の明確化のための文献精査(7)
第18回　研究課題の明確化のための文献精査(8)
第19回　研究課題の明確化のための文献精査(9)
第20回　研究課題の明確化のための文献精査(10)
第21回　研究課題の明確化のためのフィールドワーク(1)
第22回　研究課題の明確化のためのフィールドワーク(2)
第23回　研究課題の明確化のためのフィールドワーク(3)
第24回　研究課題の明確化のためのフィールドワーク(4)
第25回　研究課題の明確化のためのフィールドワーク(5)
第26回　研究課題の明確化のためのフィールドワーク(6)
第27回　研究課題の明確化のためのフィールドワーク(7)
第28回　研究課題の絞り込み(1)
第29回　研究課題の絞り込み(2)
第30回　研究課題の絞り込み(3)

履修上の注意点

テキストは適宜提示します。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

h701011350

授業中課題（50）　授業中発表等（25）

参加度（25）

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護基礎学特別研究 <Ma>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　梶谷　佳子	

テーマ

看護の本質と目的・対象論・実践への方法論の観点から、院生の抱える研究課題について、適切なプロセス、研究倫理に基づき研究を行い、その成果を修士論文としてまとめる。

授業の到達目標

1.看護の本質と目的、対象論、方法論の見地から、院生の持つ問題意識を明確にする。2.先行研究を考察し、研究課題を絞り込む3.その事象の課題解決を目指した研究計画を立案する。4.一連の課程において研究の倫理の重要生を理解し、研究倫理委員会の審査を受ける。5.研究計画に基づき研究を遂行し、十分な考察を加えて修士論文としてまとめる。6.論文を発表し適切な評価を行う。

授業の概要

1.研究課題の明確化2.文献検討3.研究テーマの決定4.研究計画立案5.研究倫理審査申請6.研究に必要な準備学修、プレテスト7.研究データの収集8.データの集計9.データの分析10.データの考察11.論文作成12.論文の発表

準備学習（予習・復習）

限られた研究期間なので、計画的に取り組んでください。

内　容

第1回　研究テーマの決定
第2回　研究計画立案(1)
第3回　研究計画立案(2)
第4回　研究計画立案(3)
第5回　研究倫理審査申請(1)
第6回　研究倫理審査申請(1)
第7回　研究に必要な学修、プレテスト
第8回　研究データの収集(1)
第9回　研究データの収集(2)
第10回　研究データの収集(3)
第11回　研究データの収集(4)
第12回　研究データの収集(5)
第13回　研究データの集計(1)
第14回　研究データの集計(2)
第15回　研究データの集計(3)
第16回　研究データの集計(4)
第17回　研究データの分析(1)
第18回　研究データの分析(2)
第19回　研究データの分析(3)
第20回　研究データの分析(4)
第21回　結果の考察(1)
第22回　結果の考察(2)
第23回　結果の考察(3)
第24回　結果の考察(4)
第25回　論文作成(1)
第26回　論文作成(2)
第27回　論文作成(3)
第28回　論文作成(4)
第29回　論文作成(5)
第30回　論文発表

履修上の注意点

テキストは適宜、提示します。

教科書

参考書

h701011410

成績評価

試験 （ 70 ）
小テスト（ ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ 15 ）
参加度 （ 15 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護基礎学特別研究 <Mb>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小板橋　喜久代	

テーマ

看護学を構成する基礎的な看護理論と用法論について、探求する

授業の到達目標

基礎看護学に関わる看護理論を探求し、看護学の知見を活用した看護実践を追行する能力を高める。基礎看護学に関わる研究課題を精選し、先行研究の到達点とこれからの課題を明確化する

授業の概要

最新の看護学の研究成果を検索し、理論構築、研究法の開発、臨床実践における看護学の知見の活用について、一連の流れを通して見ていく。

準備学習（予習・復習）

各自の事前学習と課題レポートを用意してセミナー方式で進める。

内　容

第1回　実践基礎看護学イントロダクション
第2回　社会の変化と看護学の発展
第3回　実践基礎看護学の課題①
第4回　実践基礎看護学の課題②
第5回　基礎看護学に関連の深い看護理論を探求する
第6回　基礎看護学に関連の深い看護理論を探求する
第7回　基礎看護学に関連の深い看護理論を探求する
第8回　基礎看護学に関連の深い看護理論を探求する
第9回　基礎看護学に関連の深い看護理論を探求する
第10回　基礎看護学に関連の深い看護理論を探求する
第11回　実践基礎看護学を支える先行研究の成果を探求する
第12回　実践基礎看護学を支える先行研究の成果を探求する
第13回　実践基礎看護学を支える先行研究の成果を探求する
第14回　実践基礎看護学を支える先行研究の成果を探求する
第15回　実践基礎看護学を支える先行研究の成果を探求する
第16回　実践基礎看護学を支える先行研究の成果を探求する
第17回　実践基礎看護学を支える先行研究の成果を探求する
第18回　実践基礎看護学を支える先行研究の成果を探求する
第19回　研究課題のしぼりこみと研究目的の設定
第20回　研究課題の絞り込みと研究目的の設定
第21回　研究課題の絞り込みと研究目的の設定
第22回　研究課題の絞り込みと研究目的の設定
第23回　研究計画と研究方法の探求
第24回　研究計画と研究方法の探求
第25回　研究計画と研究方法の探求
第26回　研究計画と研究方法の探求
第27回　研究計画と研究方法の探求
第28回　アウトカムリサーチとしての評価方法の探求
第29回　アウトカムリサーチとしての評価方法の探求
第30回　アウトカムリサーチとしての評価方法の探求

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

h701011412

授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 30 ）

課題学習とセミナーへの参加度、レポート評価

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学特論Ⅰ（老年）<M>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　沼本　教子.鶴屋　邦江.村田　伸.望月　紀子

テーマ

高齢者の健康生活とその評価

授業の到達目標

健康障害を持つ高齢者が自律したその人らしい生活の実現を可能にするための看護実践を提供することを目的に、高齢者の生活機能を身体的・心理社会的側面から包括的に評価する方法について探究する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　健康障害を持つ高齢者の健康生活を支援するための健康生活評価技術について考察する。
第2回　〃
第3回　高齢者総合機能評価（CGA）の内容と評価の実際について探求する。(1) 日常生活動作、行動機能について（基本的ADL、手段的ADL、FIM、身体バランス・柔軟性など）
第4回　〃
第5回　高齢者総合機能評価（CGA）の内容と評価の実際について探求する。(2) 認知機能、気分、意欲について（MMSE、HDS-R、GDSなど）
第6回　〃
第7回　高齢者総合機能評価（CGA）の内容と評価の実際について探求する。(3) モラール、生活の質について（主観的幸福感、生きがい、生活満足度など）
第8回　〃
第9回　高齢者総合機能評価（CGA）の内容と評価の実際について探求する。(4) 生活環境、社会関係、ソーシャルサポート、家族の介護力評価など
第10回　〃
第11回　高齢者の生活機能の維持・回復のためのリハビリテーションと社会資源の活用（福祉用具・自助具の活用を含む）について探求する。
第12回　〃
第13回　老年専門看護師として高齢者の健康生活を支援するための総合的アセスメントの実際について探求する。
第14回　〃
第15回　高齢者の健康生活評価に対する看護研究の動向と今後の課題について考察する。

履修上の注意点

教科書

参考書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）

参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学特論Ⅱ（成人・精神）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

看護アセスメント技術

授業の到達目標

1.成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を，身体的・心理的・社会的側面から全人的に理解するためのアセスメント技術を修得する．2.様々な健康レベルにある個人および家族のQOL向上に向けた効果的な看護実践方法を行うための諸理論と看護介入方法，支援システムについて説明できる．

授業の概要

成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題について，身体的・精神的・社会的側面から全人的に理解し，個人および家族のQOL向上に向けた効果的な看護実践方法を行うための諸理論と看護介入方法を考究する．

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション，成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を理解するための包括的なアセスメント技術①：家族アセスメントモデル
第2回　成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を理解するための包括的なアセスメント技術②：家族アセスメントモデル
第3回　成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を理解するための包括的なアセスメント技術③：家族アセスメントモデル
第4回　成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を理解するための包括的なアセスメント技術④：家族アセスメントモデル
第5回　成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を理解するための包括的なアセスメント技術①：家族支援モデル
第6回　成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を理解するための包括的なアセスメント技術②：家族支援モデル
第7回　成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を理解するための包括的なアセスメント技術③：家族支援モデル
第8回　成人期にある人とその家族における健康生活や健康問題を理解するための包括的なアセスメント技術④：家族支援モデル
第9回　精神障害者及び精神症状を呈する人に対しての援助の方法・看護介入の方法①
第10回　精神障害者及び精神症状を呈する人に対しての援助の方法・看護介入の方法②
第11回　精神障害者及び精神症状を呈する人に対しての援助の方法・看護介入の方法③
第12回　精神障害者及び精神症状を呈する人に対しての援助の方法・看護介入の方法④
第13回　精神障害者及び精神症状を呈する人に対しての援助の方法・看護介入の方法⑤
第14回　精神障害者及び精神症状を呈する人に対しての精神状態の査定とセルフケア理論と査定の方法①
第15回　精神障害者及び精神症状を呈する人に対しての精神状態の査定とセルフケア理論と査定の方法②

履修上の注意点

授業内容に関連する文献講読

教科書

参考書

授業中に紹介する

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 70 ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**クリティカル看護学 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

クリティカルケア看護における理論と看護実践に関する学習

授業の到達目標

1. クリティカルの状況に置かれた対象とその家族の特徴を理解し、必要な看護援助について根拠にもとづき検討できる。2. クリティカルケア看護に有用な理論やモデルについて理解し、看護援助への活用方法について考えられる3. クリティカル場面での倫理的問題について理解し、看護援助の方法がわかる。4. クリティカルケアを必要とする対象とその家族への適切な看護実践の遂行に必要なコンピテンシーについて理解することができる。

授業の概要

クリティカルな状況にある対象とその家族への看護について、各自で文献検討や事例展開等をおこなう。その上で資料を作成し、発表とディスカッションを通して探究していく。

準備学習（予習・復習）

予め配布された資料を読み、効果的なディスカッションができるように準備しておくこと。

内　容

第1回　クリティカルケアの概念、特徴
第2回　クリティカルな状況にある対象の身体的・心理社会的特徴
第3回　クリティカルな場面で活用される理論①：危機理論（定義、概要、事例演習）
第4回　クリティカルな場面で活用される理論②：ストレスコーピング理論（定義、概要、事例演習）
第5回　クリティカルな状況にある対象の反応とケア①：悲嘆・喪失（定義、概要、事例演習）
第6回　クリティカルな状況にある対象の反応とケア②：ボディイメージ（定義、概要、事例演習）
第7回　クリティカルな状況にある対象への看護①：意識障害
第8回　クリティカルな状況にある対象への看護②：呼吸不全
第9回　クリティカルな状況にある対象への看護③：循環不全
第10回　クリティカルな状況にある対象への看護④：感染
第11回　クリティカルな状況にある対象への看護⑤：痛み
第12回　クリティカルケアにおけるインフォームドコンセントと倫理，意思決定に向けた支援
第13回　クリティカルケアにおける安楽・ケアリング
第14回　クリティカルケアにおける看護師のコンピテンシーと看護実践モデル①
第15回　クリティカルケアにおける看護師のコンピテンシーと看護実践モデル②

履修上の注意点

教科書

参考書

ベナー看護ケアの臨床知　行動しつつ考えること
著者：　Benner,P.,Hooper-Kyriakidis,P.&Stannard,D/井上智子監訳
出版社：医学書院
出版年：2005　　ISBN：

Synergy for Clinical Excellence: The AACN Synergy Model for Patient Care
著者：　Hardin, S & Kaplow, R.
出版社：Sudbury,MA: Jones and Bartlett Publishers.
出版年：2005　　ISBN：

クリティカルケア看護 理論と臨床への応用
著者：　寺町優子，井上智子他編
出版社：日本看護協会 出版会
出版年：2007　　ISBN：

成績評価

試験（ ）　　小テスト（ ）

h701011710

授業中課題（ 50 ）　授業中発表等（ 30 ）

参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**生活習慣系看護学 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講:開⇒閉）	

テーマ

慢性疾患や慢性疾患を原因とする障害をもつ成人とその家族におよぼす影響

授業の到達目標

1.慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の健康問題を包括的に理解できる. 2.慢性疾患や障害を体験する成人とその家族を対象とした効果的な看護実践を行うための諸理論と看護介入方法を考究する.

授業の概要

慢性疾患や慢性疾患を原因とする障害をもつ成人とその家族におよぼす影響, 特徴を理解する. それらの人々のもつ療養上の困難や問題について全人的にとらえ, 効果的援助方法に関連する理論、看護理論について考察する.

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション, 慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の健康問題の特徴①
第2回　慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の健康問題の特徴②
第3回　慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の健康問題の特徴③
第4回　慢性疾患や障害を体験する成人とその家族に適用される看護理論の背景および概念
第5回　慢性疾患や障害を体験する人を理解するための諸理論
第6回　慢性疾患や障害を体験する人と家族を理解するための諸理論
第7回　慢性疾患や障害を体験する人と家族を対象とした研究①:文献検索
第8回　慢性疾患や障害を体験する人と家族を対象とした研究②
第9回　慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討①
第10回　慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討②
第11回　慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討③
第12回　慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討④
第13回　慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討⑤
第14回　慢性疾患や障害を体験する成人とその家族の事例検討⑥
第15回　事例検討の結果を評価し, 諸理論と看護介入方法の活用について自己の課題を明確にする.

履修上の注意点

授業内容に関連する文献の講読

教科書

参考書

授業中に紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 70 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ ）	

Syllabus

科 目 名　**精神看護学 <M>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学演習Ⅰ（成人・精神）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法の検討

授業の到達目標

１．精神の健康状態のアセスメント及び援助方法を検討する。２．精神看護における課題を明確にする。

授業の概要

精神の健康状態を包括的にアセスメントし、援助する方法を検討する。また、精神看護における倫理的な課題及び多職種間の連携、地域サポートシステムについて考察する。学生のプレゼンテーションを主として、文献検討及び事例検討を進める。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　精神の健康状態のアセスメント（1）文献検討
第3回　精神の健康状態のアセスメント（2）文献検討
第4回　精神の健康状態のアセスメント（3）事例検討
第5回　精神の健康状態のアセスメント（4）事例検討
第6回　精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法（1）文献
第7回　精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法（2）文献
第8回　精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法（3）文献
第9回　精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法（4）事例検討
第10回　精神的な健康問題をもつ人及び精神障がい者に対する援助方法（5）事例検討
第11回　精神看護における多職種間の連携、地域におけるサポートシステムの現状と課題
第12回　精神看護における倫理的課題
第13回　精神看護における課題の明確化（1）
第14回　精神看護における課題の明確化（2）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学演習Ⅱ（成人・精神）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人と家族の健康課題

授業の到達目標

1.慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族の療養上の課題を包括的に理解する方法を説明できる. 2.慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族への効果的な看護実践方法について自らの考えを述べることができる. 3.在宅で療養する身体障害者とその家族のQOLの維持・向上を目指した看護実践方法について自らの考えを述べることができる.

授業の概要

慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族の療養上の課題を包括的に理解し, 効果的な看護実践方法を探求する. 特に, 在宅で療養する身体障害者のQOLの維持・向上を目指した看護実践方法を探究する.

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション, 慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族の療養上の課題に関する文献的検討
第2回　慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族の療養上の課題に関する文献的検討
第3回　在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討①
第4回　在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討②
第5回　在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討③
第6回　慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族への効果的な看護実践方法に関する文献的検討
第7回　在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討①
第8回　在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討②
第9回　在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討③
第10回　在宅で療養する身体障害者とその家族の事例検討④
第11回　慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族を対象とした研究疑問を明確にするための文献的検討①
第12回　慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族を対象とした研究疑問を明確にするための文献的検討②
第13回　慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族を対象とした研究疑問を解決するための理論的枠組みと研究方法を検討するための文献的検討①
第14回　慢性疾患や障害を体験しながら生活する個人および家族を対象とした研究疑問を解決するための理論的枠組みと研究方法を検討するための文献的検討②
第15回　発表, まとめ

履修上の注意点

授業内容に関連する文献の講読

教科書

参考書

授業中に紹介する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 70 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学演習Ⅲ（成人・精神）<M>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　その他　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　（休講）

テーマ

クリティカルな状況にある個人および家族への対応能力

授業の到達目標

1.クリティカルな状況にある個人および家族の身体的・心理社会的問題について、包括的に理解する。2.クリティカルな状況にある個人および家族への効果的な看護実践方法について考究できる。3.クリティカル領域での研究動向を把握し、看護の課題を探求する。

授業の概要

クリティカルな状況にある個人および家族への対応能力を養い、効果的な看護援助を提供するための方法・課題を探究する能力を養う。そのため、クリティカルな状況にある個人および家族の身体的・心理社会的問題について、包括的に理解し、クリティカルな状況にある個人および家族への効果的な看護実践方法について考究する。また、クリティカル領域での研究動向を把握し、看護の課題を探求する。

準備学習（予習・復習）

授業内容に関連する文献の講読

内　容

第1回　クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援①
第2回　クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援②
第3回　クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援③
第4回　クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援④
第5回　クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援⑤
第6回　クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援⑥
第7回　クリティカルな状況にある患者とその家族への看護アセスメントと支援⑦
第8回　国内外のクリティカル領域に関する文献検討①
第9回　国内外のクリティカル領域に関する文献検討②
第10回　国内外のクリティカル領域に関する文献検討③
第11回　国内外のクリティカル領域に関する文献検討④
第12回　国内外のクリティカル領域に関する文献検討⑤
第13回　国内外のクリティカル領域に関する文献検討⑥
第14回　国内外のクリティカル領域に関する文献検討⑦
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

未定
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 70% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 30% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学特別研究 <Ma>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　河原　宣子	

テーマ

特論、演習での学びを基盤とし、特定の健康課題をもった対象患者またその家族の健康増進、療養生活支援等に関する研究課題に取り組み、看護研究能力を高める

授業の到達目標

1. 研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する. 2. 研究の概念枠組みを明確にし, 研究に必要なデータ収集を開始する. 3. 集めたデータを分析し, 考察する. 4. 論文の作成.

授業の概要

自らのテーマに関して修士論文の完成に向けた準備を行う.

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する①
第2回　研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する②
第3回　研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する③
第4回　研究の概念枠組みの明確化①
第5回　研究の概念枠組みの明確化②
第6回　研究の概念枠組みの明確化③
第7回　データ収集①
第8回　データ収集②
第9回　データ収集③
第10回　データ収集④
第11回　データ収集⑤
第12回　データ収集⑥
第13回　データ収集⑦
第14回　データ収集⑧
第15回　データ収集⑨
第16回　データ収集⑩
第17回　データ分析と考察①
第18回　データ分析と考察②
第19回　データ分析と考察③
第20回　データ分析と考察④
第21回　データ分析と考察⑤
第22回　データ分析と考察⑥
第23回　データ分析と考察⑦
第24回　データ分析と考察⑧
第25回　データ分析と考察⑨
第26回　データ分析と考察⑩
第27回　論文作成①
第28回　論文作成②
第29回　論文作成③
第30回　論文作成④

履修上の注意点

教科書

参考書

授業中に紹介する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

h701012310

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 70 ）
授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ ）

Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学特別研究 <Mb>**	
クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**老年看護学Ⅰ <M>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　沼本　教子.長谷川　美智子

テーマ

高齢者看護を実践するうえで必要な理論と看護の役割

授業の到達目標

高齢者看護を実践するうえで重要となる自己の高齢者観について追及する。さらに、高齢者の看護実践において発生する現象を分析し、援助の発展につなげるための基礎となる概念および理論を探求する。これらの学習を通して、老年看護を担う高度実践家としての役割について考える。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　老年期における発達課題および高齢者の健康の概念に関する理論を学び、高齢者の生活を支援するための援助者としてのあり方を探求する。
第2回　〃
第3回　高齢者看護を実践するうえで重要となる援助の視点に関する理論について学ぶ。・ニード論、セルフケア論、ストレングスモデル、ICF生活機能評価モデルなど
第4回　〃
第5回　〃
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　高齢者看護を実践する中で起こる現象を理解し、援助の方向性を考えるための理論について学ぶ。・危機理論、役割理論、自尊感情、自己効力感など
第10回　〃
第11回　〃
第12回　〃
第13回　老年専門看護師としての役割と機能について学ぶ。さらに老年専門看護師の活動の現状について探求し、自己の老年専門看護師としての役割について考える。
第14回　〃
第15回　高齢者看護実践における課題と今後の展望について探求する。

履修上の注意点

教科書

参考書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**老年看護学Ⅱ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　沼本　教子.mitei1.mitei2.望月　紀子	

テーマ

高齢者の生活を支援する保健医療福祉制度・政策およびサポートシステム の現状

授業の到達目標

高齢者が健康な生活を送れるよう支援するために、世界・日本における高齢者の保健医療福祉制度・政策の現状について学び、日本における保健医療福祉制度・政策の課題について探究する。また高齢者の健康生活を支援するためのサポートシステムの現状と今後の課題について探求する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　高齢者の健康生活を支援するために必要な社会資源およびサポートシステムの現状について学ぶ。
第2回　〃
第3回　諸外国および日本における高齢者保健医療福祉制度・政策に関する歴史的変遷、諸外国と日本の共通点、相違点について学び、今後の課題について探求する。
第4回　〃
第5回　高齢者の自律した健康生活を支援するための看護職としてのケアマネジメントの役割とプロセスについて学ぶ。
第6回　〃
第7回　施設および在宅における看護職のケアマネジメントの現状、多職種との連携・協働の実際について学ぶ。
第8回　〃
第9回　〃
第10回　〃
第11回　健康課題をもった高齢者の事例をもとに、健康生活を復権するためのケアマネジメント計画を立案する。その事例分析から、老年専門看護師としてのケアマネジメントの役割について探求する。
第12回　〃
第13回　〃
第14回　〃
第15回　老年看護における保健医療福祉システムの今後の課題について探求する。

履修上の注意点

教科書

参考書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）	授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**老年看護学Ⅲ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　沼本　教子.花房　由美子.望月　紀子	

テーマ

健康課題をもつ高齢者と介護家族に対する専門的な看護援助

授業の到達目標

健康課題をもつ高齢者のセルフケア能力を尊重した看護実践と、高齢者看護を担う家族の力を支援するために必要な看護援助について探求する。また、高齢者看護の現場で起こっている身体拘束や高齢者虐待について考察し、高齢者の権利や尊厳を守るための看護者としての在り方について追及する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　老年期における疾病の回復過程の特徴とセルフケア能力に視点を当てた看護援助について探求する。
第2回　〃
第3回　急性期、慢性期、終末期など各健康段階にある高齢者に対する援助の特徴と課題について探求する。
第4回　〃
第5回　家族形態の変遷と高齢者および家族の介護に対する意識の変化について考察し、家族介護力の実態について探求する。
第6回　〃
第7回　高齢者および家族の生活再構築を支援するための方法について、エンパワメントの概念から考察する。
第8回　〃
第9回　家族システム理論を基盤に、家族を単位とした高齢者への援助および生活調整のあり方などの家族看護の実際とその評価について学ぶ。
第10回　〃
第11回　高齢者看護の現場で起こっている高齢者に対する様々な看護実践の状況について、倫理的視点から考察する。
第12回　〃
第13回　高齢者看護の現場で起こっている身体拘束や高齢者虐待について考察し、高齢者の権利擁護と看護の在り方について学ぶ。
第14回　〃
第15回　高齢者看護実践の研究動向と今後の課題について展望する。

履修上の注意点

教科書

参考書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学演習Ⅰ（老年）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　沼本　教子.大畑　茂子.望月　紀子	

テーマ

認知症高齢者および 介護家族の理解と専門的な看護援助

授業の到達目標

認知症高齢者および介護する家族が生活者としての権利や尊厳を守られ、高齢者が今まで培ってきた生き方や生活機能を重視し、より質の高い健康生活を送れるよう支援するために、認知症高齢者の理解を深め、専門的な看護について実証的に検討する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　高齢社会における認知症高齢者の動向およびケアの倫理的視点について考察し、認知症に対する看護の課題について考える。
第2回　〃
第3回　認知症の病態、診断法、治療法について学び、認知症の理解が看護とどのように結びつくのかを、経験した事例を通して理解を深める。
第4回　〃
第5回　認知症高齢者の人権を尊重しながら、高齢者が安心して療養生活を送れるための生活環境の調整について事例をもとに検討し、高齢者が持つ生活機能を発揮できるための看護実践の実際を学ぶ。
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　認知症高齢者のBPSDについて、その誘因となる高齢者の背景や動機を理解し、適切な対応ができるための、コミュニケーションの方法や環境調整について、事例を通し実際の看護現場で理解を深める。
第10回　〃
第11回　〃
第12回　〃
第13回　認知症高齢者を介護する家族の介護負担について理解を深める。さらに、介護家族が介護満足感を得ながら少しでも長く介護が継続できるための家族への疾患や対応に関する教育、家族関係の調整方法や相談など、介護家族を支援するサポートについての実際を学ぶ。
第14回　〃
第15回　認知症高齢者および含家族に関する看護実践の研究の動向と課題について考察する。

履修上の注意点

教科書

参考書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学演習Ⅱ（老年）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　沼本　教子.mitei2.望月　紀子	

テーマ

高齢者の健康課題と介護施設における専門的な看護援助

授業の到達目標

介護施設において健康課題をもつ高齢者とその家族に対し専門関連領域の理論等を活用した生活環境および生活行動の調整、健康行動の変容をめざした実践的なアセスメント、看護援助について探究する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　多様な慢性疾患や障害を有しながら施設で暮らす高齢者に対するアセスメント能力を培い、生活環境を整えるための具体的な援助方法について探求する。
第2回　〃
第3回　介護施設で暮らしている高齢者に多い転倒、誤嚥、感染などのリスクを早期発見し、予防的ケアを提供するためのリスクマネジメントの現状について学び、高齢者の自立支援とリスクマネジメントの両側面から看護の課題を考える。
第4回　〃
第5回　介護施設で高齢者看護に携わる看護職者および介護家族の相談内容の実態について学び、看護職者と家族に対する老年専門看護師としての看護コンサルテーションの在り方について探求する。
第6回　〃
第7回　高齢者の健康生活を支援するうえで発生する看護職の倫理的葛藤の現状について学び、介護施設における老年専門看護師としての倫理的な判断や関係職種との倫理的調整の在り方について検討する。
第8回　〃
第9回　介護施設に入所している高齢者の健康生活を包括的に援助していくために、看護職としての専門的立場から多職種間のコーディネーションを実践する方法について学ぶ。
第10回　〃
第11回　介護施設に入所している高齢者の健康生活を支援するための看護管理システムと看護職者への教育の現状について学び、老年専門看護師として多職種との調整方法や施設で働く看護職者への高齢者看護についての教育方法について探求する。
第12回　〃
第13回　〃
第14回　〃
第15回　施設で暮らす高齢者とその家族の健康課題に対する老年専門看護についての研究の動向と課題について考察する。

履修上の注意点

教科書

参考書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学課題研究 <Ma>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　通年集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　沼本 教子

テーマ

特論及び演習で学んだことを基盤とし実践看護応用学実習（老年）において高齢者およびその家族に関する課題を見出し、最適な研究計画にもとづき研究成果を課題研究論文としてまとめ、専門看護師としての研究的能力を養う。

授業の到達目標

1.見出した課題に対して文献検討を加え最適な研究方法と対象を選択し、研究計画を立てる。2.研究計画書を作成し、京都橘大学看護学部倫理委員会の承認をうける。3.計画に基づき、かつ十分に倫理的配慮をした上でデータ収集を行う。4.収集したデータを計画的、系統的、論理的に記述・整理し、分析して老年看護学における専門的知識・技術の向上や開に向けて考察する。5.課題研究論文を作成する。6.課題研究論文は、発表会において発表する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　研究課題の指導
第2回　研究課題の指導
第3回　研究課題の指導
第4回　研究課題の指導
第5回　研究課題の指導
第6回　研究課題の指導
第7回　研究課題の指導
第8回　研究課題の指導
第9回　研究課題の指導
第10回　研究課題の指導
第11回　研究課題の指導
第12回　研究課題の指導
第13回　研究課題の指導
第14回　研究課題の指導
第15回　研究課題の指導

履修上の注意点

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
課題研究論文、発表会における発表内容、学習態度などを総合的に評価

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学課題研究 <Mb>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　通年集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　松本　賢哉

テーマ

特論及び演習で学んだことを基盤とし実践看護応用学実習(精神)において精神病症状をもった人およびその家族に関する課題を見出し、最適な研究計画にもとづき研究成果を課題研究論文としてまとめ、専門看護師としての研究的能力を養う。

授業の到達目標

1.見出した課題に対して文献検討を加え最適な研究方法と対象を選択し、研究計画を立てる。 2.研究計画書を作成し、京都橘大学看護学部倫理委員会の承認をうける。 3.計画に基づき、かつ十分に倫理的配慮をした上でデータ収集を行う。 4.収集したデータを計画的、系統的、論理的に記述・整理し、分析して老年看護学における専門的知識・技術の向上や開に向けて考察する。

5.課題研究論文を作成する。6.課題研究論文は、発表会において発表する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　研究課題の指導
第2回　研究課題の指導
第3回　研究課題の指導
第4回　研究課題の指導
第5回　研究課題の指導
第6回　研究課題の指導
第7回　研究課題の指導
第8回　研究課題の指導
第9回　研究課題の指導
第10回　研究課題の指導
第11回　研究課題の指導
第12回　研究課題の指導
第13回　研究課題の指導
第14回　研究課題の指導
第15回　研究課題の指導

履修上の注意点

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)　　小テスト ( )

授業中課題 (50)　　授業中発表等 (20)

参加度 ( )

課題研究論文、発表会における発表内容、学習態度などを総合的に評価

2016 Syllabus

科 目 名　**小児看護学 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講:開⇒閉）	

テーマ

子どもと共に親も育っていく過程を考えてみましょう

授業の到達目標

子どもの健康レベルや状況に応じたケアについての考えを発展させるために、小児看護における重要な理論や研究、最新の知見を学ぶ。

授業の概要

小児看護におけるさまざまな現象を理解する上で、重要な理論や研究、最新の知見を学び、子どもの健康レベルや状況に応じたより効果的なケアについて検討する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　小児看護における子どもの理解と理論・研究の実践への応用
第2回　家族の発達 (1)
第3回　家族の発達 (2)
第4回　母親の発達 (1)
第5回　母親の発達 (2)
第6回　父親の発達 (1)
第7回　父親の発達 (2)
第8回　子どもの痛み知覚 (1)
第9回　子どもの痛み知覚 (2)
第10回　子どものボディイメージの発達 (1)
第11回　子どものボディイメージの発達 (2)
第12回　子どもの死の概念形成 (1)
第13回　子どもの死の概念形成 (2)
第14回　小児看護における倫理
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30% ）	授業中発表等 （ 50% ）
参加度 （ 20% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**周産期看護学 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

マタニティサイクルにある母子とその家族の健康問題をめぐる今日的話題をとりあげ、周産期看護援助に関するあり方を学ぶ。 安全で質の高い実践を行うためには、周産期医療に関する最新のガイドラインについて学び、周産期看護援助をエビデンスに基づき実施する方法を習得する。また、FIGO,ICM等グローバルスタンダードを意識しながらのありかたを学ぶ。更に、母子とその家族の援助を組織的に展開することを学ぶ。

授業の到達目標

1　周産期のプライマリー・ヘルスケアをエビデンスに基づき検討する。2　周産期にある母子とその家族への査定に必要なアセスメント力と必要なケア、 緊急時対応能力を獲得する。3　周産期医療における倫理的課題に対応できる基礎力をつける4　周産期医療チームにおける看護の役割を明確にしながら多職種協働を　推進できる力を獲得する

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　周産期のプライマリー・ヘルスケア国内外の周産期医療提供に関するガイドラインを集積し検討をする
第2回　〃
第3回　周産期の母子とその家族の健康問題査定のためのアセスメント上記のガイドラインをもとにアセスメントツールの検討を行う
第4回　〃
第5回　周産期の正常性を維持･促進するためのエビデンスとケア
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　救急時における看護の役割
第10回　〃
第11回　周産期における倫理的課題救急搬送事例を用いて、9-12回の検討を深める
第12回　〃
第13回　周産期医療チームにおける調整とリスクマネージメント
第14回　〃
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

産婦人科診療ガイドライン2014
著者：
出版社：日本産科婦人科学会
出版年：2014　　ISBN：

参考書

助産師の意思決定
著者：　MaureenD.Raynor(堀内成子監修)
出版社：エルゼピア・ジャパン
出版年：　　ISBN：

看護アウトカムの測定、患者満足とケアの質指標
著者：　OraLea Stricland(井部俊子監修)
出版社：エルゼピア・ジャパン
出版年：　　ISBN：

産婦人科診療ガイドライン産科編2014
著者：
出版社：日本産科婦人科学会
出版年：　　ISBN：

h701013410

参加医療補償制度　再発防止に関する報告書～参加医療の質向上に向けて～HPよりダウンロード可能

著者:

出版社: 公益法人日本医療評価機構

出版年:　　ISBN:

その他授業中に提示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**女性健康看護学 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

思春期・成熟期・更年期・老年期にある女性の健康をめぐる今日的な問題を理解し、女性看護学の方向性を考察する。

授業の到達目標

1　ライフサイクル各期（思春期・成熟期・更年期・老年期）にある女性の健康をめぐる今日的話題を取り上げ女性の健康問題を多角的に捉える。2　女性の健康問題を解決する援助に必要な知識を最新のエビデンスに基づいて学び、ケアの在り方を考察する。

3　保健政策、男女共同参画社会政策を学び、社会組織的・政策的な側面から女性の健康の保証にむけた女性医療・看護ケアの方向性を考察する。4　母子とその家族の援助を組織的に展開する基礎理論や母子保健行政について学ぶ。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　日本におけるリプロダクティブヘルス/ライツ、性差医療、ウィメンズヘルスの基礎概念と活用されている理論
第2回　〃
第3回　〃
第4回　女性の健康と妊孕性、不妊治療の現状と課題および看護援助
第5回　〃
第6回　〃
第7回　わが国の思春期・成熟期・更年期・老年期女性の健康問題と支援の現状
第8回　〃
第9回　性差の観点からみた女性のライフサイクルを通じた身体・心理・社会的変化と健康問題
第10回　〃
第11回　〃
第12回　ドメスティックバイオレンスおよび乳幼児虐待への課題とその対応
第13回　〃
第14回　女性の健康への保健施策と諸制度、今後の課題
第15回　〃

履修上の注意点

教科書

参考書

女性生涯看護学
著者：　吉沢豊予子編
出版社：真興交易出版
出版年：　　ISBN：

ウーマンライフ、ジェンダーはいかにして形成されるか
著者：　Bernice Lott(西村恕彦監訳)
出版社：日本評論者
出版年：1998　　ISBN：

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**次世代育成看護学演習Ⅰ（周産期）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

周産期における母子と家族のプライマリーケアにかかわる看護介入モデルを活用し、質の高いケアの提供の在り方を理解する。

授業の到達目標

1　母子とその家族の生活を基盤とした健康支援を行うためのアセスメントとケア計画、評価方法を検討する。2　周産期の母子援助に関する有益な看護理論を活用し、質の高い看護実践のあり方を理解する。3　周産期における複雑かつ困難事例を用いて、妊産婦と家族への相談・助言・教育のスキルを学ぶ。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　妊産婦の健康診査と正常性を維持するためのアセスメントおよび保健指導の検討
第2回　〃
第3回　〃
第4回　〃
第5回　妊産婦とその家族に必要なケアを親役割獲得プロセス、アタッチメント理論、家族看護理論に基づき検討
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　〃
第10回　〃
第11回　分娩期の妊産婦ケアと家族のアセスメントならびに家族間調整、バースプランの活用、分娩ケアの在り方の検討
第12回　〃
第13回　〃
第14回　〃
第15回　〃
第16回　エビデンスに基づく母乳育児支援のための諸活動
第17回　〃
第18回　〃
第19回　産褥期の母子とその家族の家族アセスメントとケア
第20回　〃
第21回　地域周産期システムと医師および保健師、ソーシャルワーカーとの協働
第22回　〃
第23回　〃
第24回　〃
第25回　〃
第26回　周産期の家族に関わる心理・社会的問題とその援助
第27回　〃
第28回　〃
第29回　〃
第30回　〃

履修上の注意点

教科書

参考書

望ましい周産期ケアとその根拠
著者：　Marsden　Wagner（井上裕美監訳）
出版社：メディカ出版
出版年：　　ISBN：

h701013910

ボウルビィ　母と子のアタッチメント：心の安全基地
著者：　二木武監訳
出版社：医歯薬出版
出版年：　　ISBN：

ファミリーナーシングプラクティス：家族看護の理論と実践
著者：　森山美知子編集
出版社：医学書院
出版年：　　ISBN：

Nurses and Families: A Guide to Family Assessment and Intervention, edition5　Lorraine M
著者：　Wright and Maureen Leahey
出版社：F.A.DAVIS
出版年：　　ISBN：

乳幼児の心理的誕生　母子共生と個体化
著者：　M.S.マーラー他
出版社：黎明書房
出版年：　　ISBN：

家族看護学　理論と実践
著者：　鈴木和子
出版社：日本看護協会出版会
出版年：　　ISBN：

母乳育児支援スタンダード第２版
著者：
出版社：日本ラクテーションコンサルタント協会
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 20 ）　　授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**次世代育成看護学演習Ⅱ（周産期）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

周産期における妊産婦とその子どもと家族へのプライマリーケアを踏まえ、異常の診断、救急処置への対応について、他職種との協働をも含めたケアの提供方法を学ぶ。

授業の到達目標

1　周産期医療施設における妊産婦、新生児、家族の状況に応じた質の高いケアを探求する。2　周産期救急時の対応ができる知識、技術を獲得する。3　周産期救急や社会的に複雑な事例に対応する実践、相談、調整、倫理調整能力を獲得する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　わが国と諸外国の妊産婦ケア、安心･安全な医療提供のための健診のあり方とハイリスク妊産婦･新生児の実態を知り、異常の早期発見や搬送のあり方を再認識する。
第2回　〃
第3回　〃
第4回　〃
第5回　事例を通して、妊娠合併症をもつ妊産婦と家族への支援の具体例を検討する。PIH、妊娠糖尿病、心疾患、自己免疫疾患、血液疾患、婦人科疾患、精神･神経疾患、母子感染症,多胎、早期産、切迫早産
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　〃
第10回　〃
第11回　分娩異常の事例から出産時の産婦ケアの在り方を具体的に検討する。娩出力の異常、胎児および付属物の異常、産道の異常･分娩時裂傷産科DIC、羊水塞栓症、HELLP症候群、産科出血の対応、産科手術の介助
第12回　〃
第13回　〃
第14回　〃
第15回　周産期医療におけるME機器の活用分娩監視装置、超音波診断
第16回　〃
第17回　〃
第18回　〃
第19回　新生児蘇生の実際
第20回　〃
第21回　産褥期における母子と家族への支援の実際、倫理調整を含む産褥うつ病を発生した事例,緊急帝王切開になった事例子どもを亡くした母子とその家族の事例等
第22回　〃
第23回　〃
第24回　〃
第25回　〃
第26回　NICUにおける家族への援助と連携
第27回　〃
第28回　〃
第29回　周産期医療システム内でのマネージメントと法や諸制度の活用への理解を深める
第30回　〃

履修上の注意点

教科書

参考書

産婦人科診療ガイドライン産科編
著者:　日本産科婦人科学会編
出版社:

h701014050

出版年: 2011　　ISBN:

ウイリアムス臨床産科マニュアル22版

著者:　Williams(大鷹美子監訳)

出版社:

出版年: 2009　　ISBN:

新生児蘇生法テキスト

著者:　田村正徳監修

出版社: メディカルビュー

出版年: 2011　　ISBN:

その他授業中に示す。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 50 ）

参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**次世代育成看護学演習Ⅲ（周産期）<M>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　遠藤　俊子.中野　育子	

テーマ

今日のわが国の周産期医療の課題を踏まえ、周産期医療提供システムにおける看護職の新たな働き方を創造する力を養う。

授業の到達目標

1　変化の激しいわが国の周産期医療の実態を分析し、これからの母子援助の　ケアを組み込んだ周産期医療提供システムのあり方をチーム医療の観点か　らとらえる。2　周産期医療の各々の現場に応じた多職種が協働できる接近法や、新たなシ　ステム構築にむけての調整ができる基礎能力を獲得する。3　周産期の母子援助のためのケアを政策へと結びつける手立てについて学ぶ。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　わが国と諸外国の周産期医療の歴史的推移周産期医療統計、周産期医療対策整備事業の方針、設置基準と実際、母体搬送の定義、搬送理由、基準、手順医療提供者の数と質等から,周産期医療体制の現状を分析し、課題の抽出
第2回　〃
第3回　〃
第4回　〃
第5回　わが国と諸外国の現在の周産期医療提供システム日本、英国、オーストラリア、ニュージーランドの実情から分析し、わが国のあり方を検討
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　わが国と諸外国の周産期医療に関する看護・助産師教育制度
第10回　〃
第11回　〃
第12回　〃
第13回　周産期医療における具体的な医療訴訟を取り上げ,検討する。
第14回　〃
第15回　〃
第16回　〃
第17回　医療安全と助産師活動周産期医療における機能評価、医療安全に関わるシステム
第18回　〃
第19回　〃
第20回　〃
第21回　新たな周産期医療システムに関わる看護職（助産師）の役割と機能助産師と産科医の協働の推進―チーム医療　院内助産システムの体制整備の経緯
第22回　〃
第23回　〃
第24回　〃
第25回　〃
第26回　〃
第27回　〃
第28回　〃
第29回　〃
第30回　〃

履修上の注意点

教科書

新生児補正方テキスト2015
著者:　田村正徳
出版社:　メディカルビュー
出版年:　2015　　ISBN:

参考書

h701014110

専門誌の論文等から、その都度配布

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 40 ）

Syllabus

科 目 名　**次世代育成看護学課題研究 <M>**	
クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**次世代育成看護学特別研究 <Ma>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　通年集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　　堀　妙子

テーマ

自分自身の体験を基に、講義や演習等で得られた知識を活用して、自己の研究課題に対する看護研究を実施する中で、看護研究の実践能力を身につける

授業の到達目標

1．研究課題を見出す事ができる　2．研究計画が作成できる　3．研究が実施できる　4．研究結果の分析ができる　5．研究論文が作成できる　6．論文の内容を発表できる

授業の概要

講義・演習で学習した事を基に、研究計画を立案し、実施する。研究計画にそって、得られたデータの分析を行い、論文を作成する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　研究指導（1）
第2回　研究指導（2）
第3回　研究指導（3）
第4回　研究指導（4）
第5回　研究指導（5）
第6回　研究指導（6）
第7回　研究指導（7）
第8回　研究指導（8）
第9回　研究指導（9）
第10回　研究指導（10）
第11回　研究指導（11）
第12回　研究指導（12）
第13回　研究指導（13）
第14回　研究指導（14）
第15回　研究指導（15）

履修上の注意点

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題　（ 100 ）　　授業中発表等（ ）

参加度　（ ）

課題研究論文、発表会における発表内容、学習態度などを総合的に評価

2016 Syllabus

科 目 名　**次世代育成看護学特別研究 <Mb>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　遠藤　俊子	

テーマ

自分自身の体験を基に、講義や演習等で得られた知識を活用して、自己の研究課題に対する看護研究を実施することを通じて看護研究の実践能力を身につける

授業の到達目標

1　看護の課題を研究課題にすることができる2　先行文献レビューを行い、研究計画書の作成ができる3　倫理的課題をクリアし、フィールド開拓できる4　データの収集ができる5　結果の分析を行い、考察する6　論理的一貫性のある研究論文の作成ができる7　適切な発表を行い、看護学実践に寄与する

授業の概要

ゼミ形式で行い、個別指導と組み合わせる。主指導教員ならびに副指導教員の指導を受け、計画書作成時、倫理審査時、論文作成時などに全員での検討会を設け、着実に構成していく。

準備学習（予習・復習）

次回までの課題を明確にして、自己学習に励む。フィールドの調整など調整能力の獲得に努める。

内　　容

第1回　研究テーマの設定のために、課題整理と先行研究の文献等を読み込む。
第2回　同上
第3回　同上(ゼミ)
第4回　研究方法の設定と準備
第5回　同上
第6回　同上
第7回　研究計画書の作成(ゼミ)
第8回　同上　修正
第9回　同上
第10回　発表会（研究計画書)と意見集約
第11回　研究計画書の修正と倫理委員会準備
第12回　同上
第13回　同上
第14回　研究フィールド調整
第15回　同上
第16回　データ取集　と　結果分析（方法論による相違はある）
第17回　同上
第18回　同上
第19回　同上
第20回　同上
第21回　結果の分析
第22回　同上
第23回　同上
第24回　同上
第25回　結果の記述と、考察、論文化
第26回　同上
第27回　論文の予備審査
第28回　結果、考察の修正や加筆
第29回　抄録と発表の準備
第30回　論文ならび発表の振りかえり(評価）

履修上の注意点

主指導者と詳細な打ち合わせをしながら進める

教科書

参考書

h701014312

成績評価

試験 （ 論文80 ）　小テスト（ ）
授業中課題 （ 10 ）　授業中発表等 （ 10 ）
参加度 （ ）
論文の評価(審査基準に応じる)と発表や授業中の課題

2016 Syllabus

科 目 名　**国際看護学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講:開⇒閉）	

テーマ

国際看護の概念を理解し、多文化共生社会における看護の役割について考える

授業の到達目標

1. 国際看護・異文化看護について理解し、多文化共生社会における看護の役割について考察する。2. 医療（主として看護）における国際協力の実際を知る。3. 自分のこれまでの経験および今行っている看護と結びつけて、国際協力・援助とは何か、国際看護の実践とは何かについて考える。

授業の概要

文献講読、プレゼン、ディスカッション等。受講生のレディネスの状況に併せて授業を進める。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　授業ガイダンス、国際保健・国際看護とは何か
第2回　国際看護の主要概念、国際看護と異文化看護
第3回　国際協力機関と協力の仕組み、NGOの役割と動向
第4回　多文化共生社会における人々の健康問題と医療・看護の現状①国内の動向
第5回　多文化共生社会における人々の健康問題と医療・看護の現状②世界の動向
第6回　国際保健医療・看護協力の課題に対するアプローチ（内外の開発援助システムと看護職）
第7回　文化とのかかわりからみた看護理論、内外研究の動向
第8回　保健行動関連の諸理論
第9回　国際協力の実際①　プライマリ・ヘルス・ケア
第10回　国際協力の実際②　子どもの健康
第11回　国際協力の実際③　ジェンダー、リプロダクティブヘルス
第12回　国際協力の実際④　ジェンダー、リプロダクティブヘルス
第13回　国際協力の実際⑤　在日外国人の医療と現状と看護の役割
第14回　国際協力の実際⑥　社会的・文化的背景の異なる看護職との協働
第15回　多文化共生社会における看護について考える（まとめ）

履修上の注意点

講義を行うだけでなく、必要な課題を適宜指定するので、それに合わせて各自プレゼンを行っていただく予定です。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
レポートやプレゼンおよび授業への参加態度から総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**地域看護学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　富永　真己	

テーマ

地域における健康課題と地域看護活動について

授業の到達目標

我が国の公衆衛生上の課題を踏まえ、地域における健康課題の理解とともに、地域ヘルスケアの質の向上に寄与できる視点を確立する。

授業の概要

地域看護学の基盤となる公衆衛生学の基本理念を踏まえ、地域を単位とした予防活動に関する昨今の研究の動向から、地域における健康課題について理解を深め、看護職の役割について探求する。

準備学習（予習・復習）

予習：事前に配付する各回の研究テーマの関する研究論文を熟読しておく。疑問などがあればあげておくこと。復習：最終的に1つのレポートにして学びをまとめるため、各授業で研究した内容の要点を整理する。

内　　容

第1回　わが国の保健・医療・福祉・行政と公衆衛生上の課題
第2回　地域における対象集団別の健康課題（職域1）
第3回　地域における対象集団別の健康課題と予防活動（職域2）
第4回　地域における疾病別の健康課題（精神保健1）
第5回　地域における疾病別の健康課題と予防活動（精神保健2）
第6回　地域における疾病別の健康課題（生活習慣病1）
第7回　地域における疾病別の健康課題と予防活動（生活習慣病2）
第8回　地域における疾病別の健康課題（感染症1）
第9回　地域における疾病別の健康課題と予防活動（感染症2）
第10回　地域におけるライフステージ別の健康課題（母子1）
第11回　地域におけるライフステージ別の健康課題と予防活動（母子2）
第12回　地域におけるライフステージ別の健康課題（成人1）
第13回　地域におけるライフステージ別の健康課題と予防活動（成人2）
第14回　地域におけるライフステージ別の健康課題（高齢者1）
第15回　地域におけるライフステージ別の健康課題と予防活動（高齢者2）

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないこと。テーマに関連した図書・専門誌等を読み、積極的に討議に参加することで、自らの関心領域や課題を明確にする。

教科書

使用しない 。専門誌の論文は適宜、紹介する。

著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

看護研究第2版　原理と方法
著者：　D. F. ポーリット (著), C. T. ベック (著),近藤潤子監訳
出版社：医学書院
出版年：2010　　ISBN：

予防医学のストラテジー　生活習慣病対策と健康増進
著者：　曽田研二, 田中平三監訳
出版社：医学書院
出版年：2006　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 30 ）	授業中発表等　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**看護教育学特論 <M>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　阿部 祝子

テーマ

看護職の人材育成における教育のあり方

授業の到達目標

看護教育論での学びを踏まえ，自らの看護実践を通して捉えた教育的問題の考察を通して，教育の本質を探究する.

授業の概要

看護実践において自身が感じている教育的問題を提示し，文献講読や討議によりその問題の本質を探り，問題の本質とその解決の視点を探る．1．看護実践における教育的問題の提起2．問題の事実関係の再考3．文献講読及び討議による問題の本質の探究4．問題に対する解決の視点の発見5．提起した問題についての総括

準備学習（予習・復習）

看護実践において問題意識を持つ．広く関連図書・専門誌等を読む．討議における発表の準備をする.

内　容

第1回　オリエンテーション(学習目標，授業の進め方)
第2回　各自の看護実践における教育的問題の提起
第3回　問題の現状，背景などから問題の事実関係(プレゼンテーション，討議)
第4回　問題の本質の理解(文献講読，プレゼンテーション，討議)
第5回　問題の本質の理解(文献講読，プレゼンテーション，討議)
第6回　問題の本質の理解(文献講読，プレゼンテーション，討議)
第7回　問題の本質の理解(文献講読，プレゼンテーション，討議)
第8回　問題の本質の見極め
第9回　問題解決にむけた視点の理解
第10回　問題の解決にむけた方策の立案(文献講読，プレゼンテーション，討議)
第11回　問題の解決にむけた方策の立案(文献講読，プレゼンテーション，討議)
第12回　問題の解決にむけた方策の立案(文献講読，プレゼンテーション，討議)
第13回　問題の解決にむけた方策の立案(文献講読，プレゼンテーション，討議)
第14回　提起した問題及びその解決方策についての総括(プレゼンテーション，討議)
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業内で提示する.
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）
プレゼンテーションおよび授業への参加態度から総合的に評価する.

2016 Syllabus

科 目 名　**看護管理学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

看護管理に関する国内外の研究について探求し、修士論文計画立案に活用する

授業の到達目標

看護管理論で学んだ諸理論、管理プロセス、実践システムを踏まえ、看護サービス管理における研究の動向から医療システムや看護への影響要因や課題の認識を深め、ヘルスケアシステムにおける看護管理のあり方について探求する。

授業の概要

看護管理領域で多く用いられる研究方法についての理解を深め、修士論文の課題や研究方法論の選択についてに示唆が得られるように、研究方法についての理解を深め、優れた研究文献のクリティークを行う。

準備学習（予習・復習）

自己の研究課題に関連した文献検索、レビューを行い、文献亜k－どの作成、クリティークを行う。

内　　容

第1回　学習目標、授業の進め方についてのガイダンス
第2回　看護管理に関する量的、質的研究文献の検索
第3回　看護管理に関する量的研究の検討①
第4回　看護管理に関する量的研究の検討②
第5回　看護管理に関する量的研究の検討③
第6回　看護管理に関する質的研究の検討①
第7回　看護管理に関する質的研究の検討②
第8回　看護管理に関する質的研究の検討③
第9回　研究テーマの探索のための文献クリティーク①
第10回　研究テーマの探索のための文献クリティーク②
第11回　研究テーマの探索のための文献クリティーク③
第12回　研究テーマの探索のための文献クリティーク④
第13回　研究テーマの探索のための文献クリティーク⑤
第14回　研究テーマの探索のための文献クリティーク⑥
第15回　まとめ

履修上の注意点

積極的に文献レビュー、クリティークを行い、研究課題を見出す

教科書

看護研究第2版原理と方法
著者：　D.F.ポーリット他
出版社：医学書院
出版年：２０１０　　ISBN：　４２６０００５２６Ｘ

参考書

看護管理学習テキスト第１巻～8巻
著者：　井部俊子／中西睦子編集
出版社：日本看護協会出版会
出版年：2014　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 50% ）　　授業中発表等　（ ３０% ）
参加度　（ ２０% ）
2人の担当教員で合議して最終的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**広域看護学特別研究 <Ma>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阿部　祝子	

テーマ

特論，演習での学びを基盤として，看護管理学領域における院生の研究課題について，一連の研究プロセスを通して，修士論文をまとめる.

授業の到達目標

1.研究課題に関連する先行研究・文献について検討を加え，研究課題を明確にする. 2.研究計画書を作成し，倫理審査委員会の承認を受ける. 3.研究計画に基づき，十分な倫理的配慮のもと研究を遂行する. 4.得られた結果をもとに十分に考察を加え，修士論文にまとめる. 5.修士論文について，効果的なプレゼンテーションを考え. 発表する. 6.1～5の一連の研究プロセスを通して，研究を遂行できる基礎能力を身につける.

授業の概要

研究課題の明確化，文献検討，研究テーマの決定，研究計画立案，研究倫理審査委員会への申請，研究の実施，データの収集，データの分析，データに基づく考察，修士論文の作成，論文の発表

準備学習（予習・復習）

自らの研究課題・テーマに沿って，主体的に学習を進める.

内　　容

第26回　論文作成
第27回　論文の発表資料の作成
第28回　論文の発表資料の作成
第29回　論文の発表資料の作成
第30回　論文の発表
第1回　研究課題の明確化
第2回　研究課題の明確化
第3回　文献の収集と検討
第4回　文献の収集と検討
第5回　研究テーマの決定
第6回　研究テーマに適した方法，倫理的配慮の検討の検討
第7回　研究テーマに適した方法，倫理的配慮の検討の検討
第8回　研究計画の立案，研究計画書の作成
第9回　研究計画の立案，研究計画書の作成
第10回　研究計画の立案，研究計画書の作成
第11回　研究協力依頼とデータ収集
第12回　データ収集
第13回　データ収集
第14回　データ分析
第15回　データ分析
第16回　データ分析
第17回　データ分析
第18回　データに基づく考察
第19回　データに基づく考察
第20回　データに基づく考察
第21回　論文作成
第22回　論文作成
第23回　論文作成
第24回　論文作成
第25回　論文作成

履修上の注意点

研究課題・テーマに関した文献等の情報収集につとめる.

教科書

参考書

h701015310

成績評価

試験 （ 70% ）
小テスト（ ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ 15% ）
参加度 （ 15% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**広域看護学特別研究 <Mb>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　新道　幸恵	

テーマ

修士論文の完成

授業の到達目標

修士論文の課題探索、研究計画所の作成、倫理審査申請書の作成、データ収集、データ分析、論文作成を経て、論文を完成させる。

授業の概要

看護管理学特論における学習を基に、修士論文を仕上げるためのプロセスに必要な知識や技術を積極的に習得する。

準備学習（予習・復習）

文献を幅広く探索し、深く読み、指導教員との面談を主体的、計画的にうけ、論文完成の努力をする。

内　　容

第1回　研究課題の探索
第2回　研究課題の探索
第3回　研究方法論の探索
第4回　研究方法論の探索
第5回　研究計画書の作成
第6回　研究計画書の作成
第7回　研究計画書の作成
第8回　研究計画書の審査を受ける準備
第9回　倫理審査申請書の作成
第10回　倫理審査申請書の作成
第11回　研究データ収集のための事前準備、関連スキルの学習
第12回　研究データ収集のための準備、関連スキルの学習
第13回　研究データの収集及びデータ分析
第14回　研究データの収集及びデータ分析
第15回　研究データの収集及びデータ分析
第16回　研究データの収集及びデータ分析
第17回　結果のまとめ
第18回　結果のまとめ
第19回　結果の考察
第20回　結果の考察
第21回　結果の考察
第22回　論文の作成
第23回　論文の作成
第24回　論文の作成
第25回　公開発表の準備
第26回　公開発表の準備
第27回　公開発表
第28回　論文の見直し
第29回　学会発表などの準備
第30回　総まとめ

履修上の注意点

研究論文作成プロセスの全過程において、多くの文献や関係者の支援を積極的に受けて、優れた論文作成にベストを尽くすこと。

教科書

参考書

成績評価

h701015312

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

ゼミの参加状況を参考に成果物である論文で評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**広域看護学特別研究 <Mc>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

特論，演習での学びを基盤として，看護管理学領域における院生の研究課題について，一連の研究プロセスを通して，修士論文をまとめる.

授業の到達目標

1.研究課題に関連する先行研究・文献について検討を加え，研究課題を明確にする. 2.研究計画書を作成し，倫理審査委員会の承認を受ける. 3.研究計画に基づき，十分な倫理的配慮のもと研究を遂行する. 4.得られた結果をもとに十分に考察を加え，修士論文にまとめる. 5.修士論文について，効果的なプレゼンテーションを考え. 発表する. 6.1～5の一連の研究プロセスを通して，研究を遂行できる基礎能力を身につける.

授業の概要

研究課題の明確化，文献検討，研究テーマの決定，研究計画立案，研究倫理審査委員会への申請，研究の実施，データの収集，データの分析，データに基づく考察，修士論文の作成，論文の発表

準備学習（予習・復習）

自らの研究課題・テーマに沿って，主体的に学習を進める.

内　容

第1回　研究課題の明確化
第2回　研究課題の明確化
第3回　文献の収集と検討
第4回　文献の収集と検討
第5回　研究テーマの決定
第6回　研究テーマに適した方法，倫理的配慮の検討の検討
第7回　研究テーマに適した方法，倫理的配慮の検討の検討
第8回　研究計画の立案，研究計画書の作成
第9回　研究計画の立案，研究計画書の作成
第10回　研究計画の立案，研究計画書の作成
第11回　研究協力依頼とデータ収集
第12回　データ収集
第13回　データ収集
第14回　データ分析
第15回　データ分析
第16回　データ分析
第17回　データ分析
第18回　データに基づく考察
第19回　データに基づく考察
第20回　データに基づく考察
第21回　論文作成
第22回　論文作成
第23回　論文作成
第24回　論文作成
第25回　論文作成
第26回　論文作成
第27回　論文の発表資料の作成
第28回　論文の発表資料の作成
第29回　論文の発表資料の作成
第30回　論文の発表

履修上の注意点

研究課題・テーマに関した文献等の情報収集につとめる.

教科書

参考書

h701015313

成績評価

試験 （ 70% ）
小テスト（ ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ 15% ）
参加度 （ 15% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**フィジカルアセスメント <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梶谷　佳子.林正　健二	

テーマ

対象（個人/集団）の健康状態/生命・生活過程における生理的な反応について、適切に臨床判断し、医療および看護の必要性を的確・迅速に判断できる、この一連のアセスメントに必要な知識・技術を修得する。このために、系統的全体的な対象の身体診査について的確な方法を修得する。また、それらのデータを統合して解釈・判断し、複雑な対象の健康状態について、優先度もふくめ、全体的な見地からアセスメントが適切にできるために、臨床的、統合的な知識およびクリティカルシンキングスキルの活用を修得する。

授業の到達目標

1　対象の生理的心理社会的な健康状態/生命・生活過程における生理的な反応について、適切に臨床判断することの意義を看護実践の視点から理解できる。2　対象を生理的な全体としてアセスメントするための系統的な方法が理解できる。3　身体診査（フィジカルイグザミネーション）の方法がわかり、実施できる。4　3で得られたデータを統合し対象の健康状態/生命・生活過程における複雑な状況を、全体的な見地から的確にアセスメントすることができ、看護実践に活用できる。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　対象にとってフィジカルアセスメントの持つ意義，フィジカルアセスメントに必要な知識、技術、看護におけるフィジカルアセスメント
第2回　対象を全体的な見地からアセスメントするための診査方法、スクリーニング、システムレビュー、観察法、測定法、問診、聴診、打診、視診、触診，対象による診査の留意点
第3回　身体的系統的診査（イグザミネーション）とは，
第4回　頭部、頸部、感覚器系の診査とそのデータの判定；聴診、打診、視診、触診
第5回　胸部(心臓･血管系)の診査とそのデータの判定；聴診、打診、心電図測定
第6回　胸部(呼吸器系)･の診査とそのデータの判定；聴診、打診、視診、触診
第7回　胸部（乳房）の診査とそのデータの判定；打診、視診、触診
第8回　腹部の診査とそのデータの判定；聴診、打診、視診、触診
第9回　腹部・泌尿器系の診査とそのデータの判定；聴診、打診、視診、触診
第10回　生殖器系の診査とそのデータの判定；聴診、打診、視診、触診
第11回　骨・筋肉系の診査とそのデータの判定；　打診、視診、触診
第12回　神経系の診査とそのデータの判定；聴診、打診、視診、触診
第13回　フィジカルイグザミネーション得られたデータの統合と看護における臨床判断
第14回　フィジカルイグザミネーション得られたデータの統合と看護における臨床判断
第15回　看護における臨床判断，全人的な見地からのフィジカルメントとその臨床での活用

履修上の注意点

DVDや視聴覚教材を効果的に用いて理解を深めて下さい。

教科書

Essentials of Human Anatomy & Physiology 11th edition.人体の構造と機能
著者：　Elaine N.Marieb(2012)／林正健二他訳
出版社：医学書院
出版年：2015　　ISBN：

参考書

ナーシング・グラフィカ　解剖生理学　第2版
著者：　林正健二編集
出版社：メディカ出版
出版年：2008　　ISBN：

ナーシンググラフィカ ヘルスアセスメント 第2版
著者：　松尾ミヨ子，志自岐康子，城生弘美
出版社：メディカ出版.
出版年：2010　　ISBN：

h701015450

Bates' Guide to Physical Examination and History Taking 9th Edition.ベイツ診察法 第9版
著者： Lynn S. Bickley, Peter G. Szilagyi(2007)/福井次矢, 井部俊子(2007)
出版社： メディカル・サイエンス・インターナショナル
出版年： ISBN：

Health Assessment Nursing Practice Third Edition
著者： Susan F.Wilson, Jean Foret Giddens(2005)
出版社： Elsevier Mosby
出版年： ISBN：

その他授業中に示す。
著者：
出版社：
出版年： ISBN：

成績評価

試験 （ ） 小テスト（ ）
授業中課題 （ 60 ） 授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**臨床薬理学 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　奥野　信行.天野　博夫.西谷　葉子	

テーマ

対象の病態の回復への促進に向けた薬物療法について、薬剤の選択、管理等、その過程の臨床判断を含む知識および技術を修得する。薬物が人間におよぼす影響を薬物動態として理解し、病態に対応した薬理作用をエビデンスと共に理解する。そのうえで、救急処置、また、症状の調整や症状の変化に伴う薬物の選択、慢性疾患の管理に必要な薬剤等、対象が出会う多面的な薬物との問題に対応して、モニタリング、生活調整、回復力の促進や患者の服薬管理等の援助が適切にできるために必要な知識、技術を修得する。

授業の到達目標

1 薬物が人間におよぼす影響を、薬物動態（からだと薬の機能、動き、体の反応）として理解できる。2　病態に対応した薬理作用をエビデンスと共に理解できる。3　救急処置、症状の調整や症状の変化に伴う薬物の選択、慢性疾患の管理に必要な薬剤等、対象が出会う多面的な薬物との問題がわかる。4　対象が出会う多面的な薬物との問題に対応して、モニタリング、生活調整、回復力の促進や患者の服薬管理等の援助が適切にできる

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　人間と薬物；薬とは何か，人間にとって薬の持つ意味，医療における薬物療法，薬と毒
第2回　からだにおける薬の働き；薬理作用，容量と反応，受容体と薬理作用，薬物作用点
第3回　からだにおける薬の動き①；薬物の投与経路と体循環，薬物の吸収と代謝・組織への分布，薬物の排泄
第4回　からだにおける薬の動き②；薬物送達システム，治療薬物モニタリング，薬物動態パラメータ，からだと薬の反応；からだと薬の反応に影響を与える因子，薬物相互作用とからだ
第5回　病態における薬物療法（1）神経，精神，循環，血液の働きに対応した薬物療法
第6回　病態における薬物療法（2）体液・電解質，ホルモン免疫，炎症，感染症に対応した薬物療法
第7回　病態における薬物療法（3）消化・吸収・代謝，呼吸の働きに対応した薬物療法
第8回　病態における薬物療法（4）悪性腫瘍，中毒に対応した薬物療法
第9回　病態における薬物療法（5）エイジング（妊婦，高齢者，小児），漢方医学に対応した薬物療法
第10回　薬物療法を受ける対象のからだ（細胞・分子レベル）と心理社会的な影響をアセスメントの意味，薬物療法を有効にする人間全体としての反応としての臨床判断の方法と対象が出会う多面的な薬物の問題
第11回　救急処置、症状の調整や症状の変化に伴う薬物の選択
第12回　慢性疾患の管理に必要な薬剤
第13回　モニタリング、生活調整、回復力の促進や患者の服薬管理等の援助
第14回　対象が出会う多面的な薬物との問題に対応した適切なモニタリング、生活調整、回復力の促進や患者の服薬管理
第15回　対象が有効な薬物療法を受け、回復への促進が継続的に進められる医療体制づくり、医療職者の連携システムの在り方，医薬品開発時のプロセスと倫理

履修上の注意点

教科書

参考書

病態生理に基づく臨床薬理学—ハーバード大学テキスト
著者：　デービッド・E. ゴーラン 編集, Jr.アーメン・H. タシジアン 編集
出版社：メディカルサイエンスインターナショナル
出版年：2006　　ISBN：

シリーズ看護の基礎科学，薬とのかかわり，臨床薬理学
著者：　中谷晴昭，大橋京一編集
出版社：日本科看護協会出版会
出版年：2005　　ISBN：

その他授業中に示す。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

h701015550

成績評価

試験 （ 60 ）
小テスト（ ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**病態生理学 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　奥野　信行.林正　健二	

テーマ

対象の病態を全体的、統合的に的確に理解できるために必要な知識を修得する。対象が示している徴候や症候から、その対象に起きている生理・生化学的なからだの仕組みおよび、変調である病態をエビデンスに基づいて適切に判断でき、その過程を通し、対象におきている病態について、今後の見通しも含めて統合的に理解することができる知識と技術を修得する。

授業の到達目標

1　からだの仕組みにおける生命維持のメカニズムについて、生理・生化学的な見地からエビデンスと共に理解できる。2　からだの仕組みの異常状態である病態について、どのようなメカニズムによりその異常が起こるか、その種類や程度に対する検査法や診断についてエビデンスと共に理解できる。3　その病態における修復、改善のため治療法について理解でき、看護ケアの根拠との関連を考察する。4　対象におきている病態をそのメカニズムと共に、今後の見通しも含めて統合的にとらえることができる。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　からだの仕組み/生命維持のメカニズム（1）細胞の働き，筋，神経系，体温調節，感覚系のはたらき
第2回　からだの仕組み/生命維持のメカニズム（2）体液バランスと腎機能，内分泌の調節
第3回　からだの仕組み/生命維持のメカニズム（3）呼吸，循環，消化吸収，代謝，免疫，血液のはたき
第4回　病態のメカニズム，検査，診断、治療（1）糖尿病で腎機能，視機能，知覚障害，血管の変性をきたしている事例
第5回　病態のメカニズム，検査，診断、治療（1）糖尿病で腎機能，視機能，知覚障害，血管の変性をきたしている事例
第6回　病態のメカニズム，検査，診断、治療（1）糖尿病で腎機能，視機能，知覚障害，血管の変性をきたしている事例
第7回　病態のメカニズム，検査，診断、治療（1）糖尿病で腎機能，視機能，知覚障害，血管の変性をきたしている事例
第8回　病態のメカニズム，検査，診断、治療（2）慢性呼吸不全，心不全をきたしている事例
第9回　病態のメカニズム，検査，診断、治療（2）慢性呼吸不全，心不全をきたしている事例
第10回　病態のメカニズム，検査，診断、治療（2）慢性呼吸不全，心不全をきたしている事例
第11回　病態のメカニズム，検査，診断、治療（3）骨粗しょう症から骨折をきたした事例
第12回　病態のメカニズム，検査，診断、治療（3）骨粗しょう症から骨折をきたした事例
第13回　病態のメカニズム，検査，診断、治療（3）骨粗しょう症から骨折をきたした事例
第14回　対象におきている病態を、今後の見通しも含めて、そのメカニズムと共に統合的にとらえる。急激に発生したクリティカルな病態のメカニズムをもつ事例における検討
第15回　対象におきている病態を、今後の見通しも含めて、そのメカニズムと共に統合的にとらえる。慢性的複合的な病態のメカニズムをかかえる事例の検討

履修上の注意点

教科書

参考書

Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach, 5ed
著者:　Ann B. Hamric PhD RN FAAN , Judith A.
出版社:　Saunders
出版年:　2013　　ISBN:

即応用可能な日常診療の実際—Up dateな糖尿病診療へのナビゲーション（糖尿病UP-DATE賢島セミナー）
著者:　坂本 信夫 ・ 吉川 隆一・豊田 隆謙・赤沼 安夫・中村二郎・清野 裕・堀田 饒 , 編集
出版社:　医歯薬出版
出版年:　2008　　ISBN:

その他授業中に示す。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 60 ）　　小テスト（　）

h701015650

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 20 ）

参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**次世代育成看護学演習Ⅳ（周産期）<M>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

周産期の医療施設における家族の心理・社会的問題への援助方法を習得し、看護の質向上に向けたアプローチを学ぶ。

授業の到達目標

1　周産期の母子と家族をめぐる心理・社会的問題や倫理的問題と家族のメンタルヘルスとの関連を学ぶ。2　周産期のさまざまな問題に対する家族の意思決定が適切に行われるようケア（相談、助言、倫理的調整）の提供方法をカウンセリング理論、危機介入理論に基づいて習得する。3　事例分析を通して、心理社会的問題を抱えた家族への適切なケア（相談、助言、倫理調整）や他職種との連携を行う実践能力を養う。4　母子と家族への心理・社会的援助を適切に実践するための組織内の教育活動やスタッフへのコンサルテーション、連携システムの構築など看護の質向上のためのアプローチを考察する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　周産期の家族の変容とリプロダクティブヘルスに関連した心理社会的問題
第2回　〃
第3回　心理社会的問題を抱えた家族のアセスメントと看護援助（相談・助言・倫理的調整）
第4回　〃
第5回　事例検討①：周産期の社会的ハイリスク家族への看護援助
第6回　〃
第7回　周産期の倫理的問題における家族の意思決定を支える看護援助
第8回　〃
第9回　事例検討②：周産期の倫理的問題への看護援助
第10回　〃
第11回　家族形成期のメンタルヘルスと看護援助
第12回　〃
第13回　妊産褥婦のメンタルヘルスと心理的援助および心理臨床家との連携
第14回　〃
第15回　妊産褥婦とその家族への援助（ケア、相談、助言）の実際
第16回　〃
第17回　事例検討③：精神疾患を持つ妊産婦と家族への援助
第18回　〃
第19回　周産期看護者のメンタルヘルスとコンサルテーション
第20回　〃
第21回　心理社会的な問題を抱える困難事例を担当するスタッフへの相談、助言、業務調整の実際
第22回　〃
第23回　事例検討④：妊産褥婦およびその家族への援助の実際（相談、助言、家族間の調整：実習受持事例への介入の分析）
第24回　〃
第25回　事例検討⑤：妊産褥婦およびその家族への援助の実際（相談、助言、家族間の調整：実習受持事例への介入の分析）
第26回　〃
第27回　事例検討⑥：周産期看護者へのカウンセリングとコンサルテーションの実際（相談、助言、スタッフ間の調整、教育：実習での活動の分析）
第28回　〃
第29回　心理社会的問題を抱えた困難事例における多職種間の協働にむけたCNSの役割と活動（実習受持事例へのコーディネーションの分析、連携システム構造の考察）
第30回　〃

履修上の注意点

教科書

参考書

ディブリーフィング・ワークの研究
著者：　中島暢美

h701015710

出版社: 関西学院大学出版会
出版年: ISBN:

ビリーフ―家族看護実践の新たなパラダイム
著者: ロレイン・Mライト、ウェンディ・Lワトソン、ジャニス・ベル
出版社: 日本看護協会出版会
出版年: ISBN:

患者とのコミュニケーションを検討する吉田哲著. 改訂[版]
著者: 看護とカウンセリング / 吉田哲著 ; [1])
出版社: メディカ出版
出版年: 2000 ISBN:

看護とカウンセリング / 吉田哲著 ; [1])
著者: 北島謙吾編
出版社: 慧文社
出版年: 2005 ISBN:

産後の母親と家族のメンタルヘルス
著者: 吉田敬子編
出版社:
出版年: 2006 ISBN:

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( )
授業中課題 (30) 授業中発表等 (50)
参加度 (20)

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学特論Ⅲ（老年）<M>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　沼本　教子.安藤　忠.宮本　尚.望月　紀子.林正　健二

テーマ

老年期の疾患と検査、治療

授業の到達目標

高齢者に特有な疾患や症候、およびそれらに関連する検査、治療を学び、看護アセスメント能力の向上を目指す。さらに老年期の回復過程の特徴をとらえながら、生活機能の維持・回復を目指した看護を探求する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　老年期の生理的変化（エイジング）と病的変化について学ぶ。
第2回　〃
第3回　高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。(1) 骨・運動器疾患（骨粗しょう症、変形性骨関節疾患、大腿骨頸部骨折）
第4回　〃
第5回　〃
第6回　〃
第7回　高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。(2) 糖尿病、心臓疾患、血管系疾患（心不全、末梢動脈疾患など）
第8回　〃
第9回　〃
第10回　高齢者に特有な疾患・検査・治療について学び、看護としてのアセスメント能力を培う。(3) 腎・泌尿器系疾患（尿路感染症、前立腺肥大症、腎不全など）
第11回　〃
第12回　〃
第13回　高齢者に特有な症候に対する看護アセスメント能力を培い、生活の不活発化および寝たきりを予防するための高齢者の生活機能の維持・回復を目指した看護アセスメントとケアについて探求する。
第14回　〃
第15回　〃

履修上の注意点

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）

参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**次世代育成看護学演習Ⅰ（小児看護）<M>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　その他　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　（休講）

テーマ

子どもの健全な成長発達について、様々な視点から考察し、子どもに成長発達を支えるために必要な看護支援を考案し実践できる能力を養う

授業の到達目標

1．子どもの成長発達を様々な視点からアセスメントする事ができる　2．子どもの成長発達を支えるために必要な看護援助方法を考案する事ができる

授業の概要

講義・学生によるプレゼンテーション・フィールドワークなどを通して、子どもの成長発達を支えるために必要な看護に関する考察を深める

準備学習（予習・復習）

オリエンテーションで説明します。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　子どもの成長発達の特徴（1）
第3回　子どもの成長発達の特徴（2）
第4回　子どもの成長発達と社会の関係（1）
第5回　子どもの成長発達と社会の関係（2）
第6回　子どもの成長発達に関連した理論（1）
第7回　子どもの成長発達に関連した理論（2）
第8回　子どもの成長発達に関連した理論（3）
第9回　子どもの成長発達に関連した理論（4）
第10回　子どもの成長発達に関連したフィールドワーク（1）
第11回　子どもの成長発達に関連したフィールドワーク（2）
第12回　子どもの成長発達に関連したフィールドワーク（3）
第13回　子どもの成長発達に関連したフィールドワーク（4）
第14回　子どもの成長発達に関連したフィールドワーク（5）
第15回　まとめ

履修上の注意点

オリエンテーションで説明します

教科書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

使用しない
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（　）　小テスト（　）
授業中課題　（　）　授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**次世代育成看護学演習Ⅱ（小児看護）<M>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　その他　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　（休講）

テーマ

健康課題をもつ子どもと家族に対する包括的な看護援助を実践できる能力を養う

授業の到達目標

1．健康課題をもつ子どもや家族に対する包括的な看護援助方法が理解できる　2．健康課題をもつ子どもや家族に対する包括的な看護援助方法を考案できる

授業の概要

講義・学生によるプレゼンテーション、フィールドワーク等を通して、健康課題をもつ子どもと家族に対する看護に関する考察を深める

準備学習（予習・復習）

オリエンテーションで説明します。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　健康課題をもつ子どもと家族（1）
第3回　健康課題をもつ子どもと家族（2）
第4回　健康課題をもつ子どもと家族（3）
第5回　健康課題をもつ子どもと家族（4）
第6回　健康課題をもつ子どもと家族（5）
第7回　健康問題をもつ子どもと家族に関するフィールドワーク（1）
第8回　健康問題をもつ子どもと家族に関するフィールドワーク（2）
第9回　健康問題をもつ子どもと家族に関するフィールドワーク（3）
第10回　健康問題をもつ子どもと家族に関するフィールドワーク（4）
第11回　健康問題をもつ子どもと家族に関するフィールドワーク（5）
第12回　健康問題をもつ子どもと家族に関するフィールドワーク（6）
第13回　健康問題をもつ子どもと家族に関するフィールドワーク（7）
第14回　健康問題をもつ子どもと家族に関するフィールドワーク（8）
第15回　まとめ

履修上の注意点

オリエンテーションで説明します

教科書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**次世代育成看護学演習Ⅲ（小児看護）<M>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　その他　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　（休講）

テーマ

健康課題をもつ子どもとその家族を取り巻く社会や社会制度の特徴を理解したうえで、Patient and Family Centered Careの視点に立った看護援助をを実践できる能力を養う

授業の到達目標

1．健康課題をもつ子どもや家族を取り巻く社会の特徴を理解する　2．健康課題をもつ子どもや家族が利用できる社会福祉制度を理解する　3．Patent and Family Centered Careの理念を理解する

授業の概要

講義・学生によるプレゼンテーション、事例検討等を通し、Patient and Family Centerd care に対する理解を深める

準備学習（予習・復習）

オリエンテーションで説明します。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　健康課題をもつ子どもや家族を取り巻く社会の特徴（1）
第3回　健康課題をもつ子どもと家族を取り巻く社会の特徴（2）
第4回　健康課題をもつ子どもと家族が利用できる社会福祉制度（1）
第5回　健康課題をもつ子どもと家族が利用できる社会福祉制度（2）
第6回　健康課題をもつ子どもと家族に対するPatient and Family Centerd Care （1）
第7回　健康課題をもつ子どもと家族に対するPatient and Family centerd care（2）
第8回　健康課題をもつ子どもと家族に対するPatient and Family centerd care（3）
第9回　Patient and Family Centerd Care に関連した事例検討（1）
第10回　Patient and Family Centerd Care に関連した事例検討（1）
第11回　Patient and Family Centerd Care に関連した事例検討（1）
第12回　Patient and Family Centerd Care に関連した事例検討（1）
第13回　Patient and Family Centerd Care に関連した事例検討（1）
第14回　Patient and Family Centerd Care に関連した事例検討（1）
第15回　まとめ

履修上の注意点

オリエンテーションで説明します。

教科書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

特になし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学特論Ⅳ（精神）<M>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　　松本　賢哉.伊藤　恵美子

テーマ

精神病症状をもった人とその家族に関係する精神保健医療福祉の制度と体制

授業の到達目標

1. 日本および海外の精神保健医療福祉の制度と体制について、法制度の変遷と人権擁護や倫理、治療的環境、地域保健福祉体制等の視点から説明できる。2. 精神保健医療福祉の制度と体制についての今後のあり方を論理的に述べることができる。3. 基礎的理論と方法に関する学習を踏まえ、卓越した精神看護実践を行う上での課題や方向性を提示できる。

授業の概要

精神看護の専門看護師として卓越した実践に必要な精神保健医療福祉の制度と体制に関する知識について、講義及び学生自身のプレゼンテーション、研究論文のクリティーク、討議を通して学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　実践看護応用学特論Ⅳの概説　精神看護に関する概念及び理論と実践方法の概要
第2回　精神医療・看護の歴史的変遷（保護隔離の時代）
第3回　精神医療・看護の歴史的変遷（精神障害者福祉の時代）
第4回　精神障害者の現状と国際比較
第5回　精神保健福祉法の歴史的位置付けと精神障害のスティグマ
第6回　精神障害者の人権とアドボカシー
第7回　家族支援に関する制度
第8回　産業保健とメンタルヘルス
第9回　学校保健とメンタルヘルス
第10回　精神保健医療福祉の制度と体制―看護の歴史―
第11回　精神保健医療福祉の制度と体制―地域精神医療福祉―
第12回　精神保健医療福祉の制度と体制―現行制度の現状と問題点―
第13回　精神保健医療福祉の制度と体制―現行制度の現状と問題点に対する今後の課題―
第14回　精神保健医療福祉法、障害者自立支援法、心神喪失者等医療観察法の理解と今後の課題
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

授業時に指示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業時に指示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学特論Ⅴ（精神）<M>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　松本　賢哉.伊藤　恵美子

テーマ

精神病症状をもつ人の生活の評価に必要な理論と方法

授業の到達目標

1. 精神病症状をもつ人とその家族を理解し、生活を評価するために必要な理論と方法について説明できる。2. プレゼンテーションや討議を通して、精神保健医療福祉の制度と体制に関する自分自身の考えを明確にできる。3. 討議を通して、対象を理解し生活を評価するための理論と方法について、高度な精神看護実践を行う上での課題を述べることができる。

授業の概要

専門性の高い精神看護を行う上で必要な精神病症状をもつ人の理解と生活の評価に必要な理論と方法について講義及び学生自身のプレゼンテーション、討議を通して学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　実践看護応用学特論Ⅴ概説
第2回　対象の理解と生活の評価に必要な基礎的理論―精神力動論―
第3回　対象の理解と生活の評価―精神力動論―
第4回　対象の理解と生活の評価に必要な基礎的理論―心理・社会的成長発達に関する理論―
第5回　対象の理解と生活の評価に必要な基礎的理論―家族に関する理論―
第6回　対象の理解と生活の評価に必要な基礎的理論―認知・行動に関する理論―
第7回　対象の理解と生活の評価に必要な基礎的理論―ストレス・コーピング理論―
第8回　対象の理解と生活の評価―対人関係論―（H.E.Peplau）
第9回　対象の理解と生活の評価―対人関係論―（I.J.Orlando）
第10回　生活状態のアセスメント（食事・清潔・金銭）
第11回　生活状態のアセスメント（服薬・対人・安全）
第12回　精神状態のアセスメント（精神症状評価）
第13回　精神状態のアセスメント（能力障害評価）
第14回　対象の精神状態の査定（事例1）
第15回　対象の精神状態の査定（事例2）まとめ

履修上の注意点

教科書

授業時に指示
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業時に指示
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）　　小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 50 ）　　授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 0 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**精神看護学Ⅰ <M>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　松本　賢哉.伊藤　恵美子.下里　誠二

テーマ

精神領域のセラピーに関する理論と方法

授業の到達目標

1. 精神領域のセラピーに関する諸理論と方法について、事例や最新の研究成果を系統的に調べ、論理的にまとめた上でプレゼンテーションができる。2. 1. の内容について、科学的、論理的な視点から討議することができる。3. 精神領域のセラピーに関する諸理論と方法について理解し、専門看護師として高度な実践を行う上での課題や方向性を述べることができる。

授業の概要

精神看護の専門看護師として卓越した実践に必要な精神領域のセラピーに関する理論と方法について、講義及び事例や最新の研究に関する学生自身のプレゼンテーション、討議を通して学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　精神看護学Ⅰ概説
第2回　認知行動療法の理論と方法
第3回　認知行動療法を用いた展開（統合失調症事例）
第4回　認知行動療法を用いた展開（うつ病事例）
第5回　認知行動療法を用いた展開（不安障害事例）
第6回　SSTの理論と方法
第7回　SSTを用いた展開（統合失調症事例）
第8回　SSTを用いた展開（うつ病事例）
第9回　心理教育の理論と方法
第10回　心理教育を用いた事例の展開（統合失調症事例）
第11回　心理教育を用いた事例の展開（家族教室）
第12回　暴力のリスクマネジメントに関する理論と方法
第13回　暴力のリスクマネジメントを用いた事例の展開（ディエスカレーション事例）
第14回　暴力のリスクマネジメントを用いた事例の展開（チームテクニクス事例）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

授業時に指示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業時に指示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ 0 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**精神看護学Ⅱ <M>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　松本　賢哉.伊藤　恵美子

テーマ

精神病症状をもつ人とその家族へのサポートのための理論

授業の到達目標

1. 精神病症状をもつ人とその家族の生活をサポートするために必要な理論について説明できる。2. プレゼンテーションや討議を通して、精神看護理論に関する自分自身の考えを明確にできる。3. 討議を通して、精神病症状をもつ人とその家族の生活をサポートするために必要な理論について理解し、高度な精神看護実践を行う上での課題を述べることができる。

授業の概要

専門性の高い精神看護を行う上で必要な、精神病症状をもつ人の理解と生活のサポートに必要な理論と方法について講義及び学生自身のプレゼンテーション、討議を通して学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　精神看護学Ⅱ概説
第2回　オレム・アンダーウッド理論（普遍的セルフケア①）
第3回　オレム・アンダーウッド理論（普遍的セルフケア②）
第4回　オレム・アンダーウッド理論（成長発達に関するセルフケア①）
第5回　オレム・アンダーウッド理論（成長発達に関するセルフケア②）
第6回　オレム・アンダーウッド理論（健康逸脱に関するセルフケア①）
第7回　オレム・アンダーウッド理論（健康逸脱に関するセルフケア②）
第8回　脆弱性-ストレス-対処モデル（遺伝的）
第9回　脆弱性-ストレス-対処モデル（生物学的）
第10回　脆弱性-ストレス-対処モデル（心理的）
第11回　就労支援と訪問看護ーリカバリモデル・ストレングルモデルー（選択とコントロール）
第12回　就労支援・訪問看護ーリカバリモデル・ストレングルモデルー（生活の目的）
第13回　就労支援・訪問看護ーリカバリモデル・ストレングルモデルー（達成感の体験）
第14回　就労支援・訪問看護ーリカバリモデル・ストレングルモデルー（支持的な関係と変化）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

授業時に指示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業時に指示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ 0 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**精神看護学Ⅲ <M>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　　松本　賢哉.伊藤　恵美子.竹村　隆太

テーマ

精神病症状への作用機序を理解した薬物療法

授業の到達目標

1. 精神病症状をもつ人に行われる薬物療法の理論や技法について、事例や最新の研究成果を系統的に調べ、論理的にまとめた上でプレゼンテーションができる。2. 1. の内容について、科学的、論理的な視点から討議することができる。3. 精神領域の薬物療法について理解し、専門看護師として高度な実践を行う上での課題や方向性を述べることができる。

授業の概要

専門性の高い精神看護を行う上での基盤となる精神薬理の理論や技法を学び症状マネージメントに関する教育や相談に応じられる能力を、講義や学生自身のプレゼンテーションや討議を通じて学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　精神看護Ⅲの概説
第2回　精神薬理の理論と作用機序－定型抗精神病薬－
第3回　精神薬理の理論と作用機序－非定型抗精神病薬－
第4回　定型・非定型抗精神病薬の主作用の観察と看護
第5回　定型・非定型抗精神病薬の副作用の観察と看護
第6回　精神薬理の理論と作用機序－三環系などの抗うつ薬－
第7回　精神薬理の理論と作用機序－SSRI・SNRIの抗うつ薬－
第8回　気分障害の薬理作用の観察と看護
第9回　アルコールや幻覚薬が精神に及ぼす影響（物質関連障害）
第10回　ギャンブルや買い物が精神に及ぼす影響（非物質関連障害）
第11回　精神薬理の理論と作用機序－抗不安薬－
第12回　抗不安薬の作用の観察と看護
第13回　精神薬理の理論と作用機序－睡眠薬－
第14回　睡眠薬の作用の観察と看護
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

授業時に指示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業時に指示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ 0 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**精神看護学Ⅳ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　賢哉.伊藤　恵美子.福岡　雅津子	

テーマ

精神病症状をもつ人とその家族へのサポートのための援助方法

授業の到達目標

1. 精神病症状をもつ人とその家族の生活をサポートするために必要な援助方法について説明できる。2. プレゼンテーションや討議を通して、援助方法に関する自分自身の考えを明確にできる。3. 討議を通して、精神病症状をもつ人とその家族の生活をサポートするために必要な援助方法について、高度な精神看護実践を行う上での課題を述べることができる。4. 臨床スタッフのストレス、コーピング、臨床倫理、教育に関する事例を分析し、介入計画が立案できる。

授業の概要

精神看護の専門看護師として卓越した実践に必要な精神領域の援助に関する理論と方法について、講義及び事例や最新の研究に関する学生自身のプレゼンテーション、討議を通して学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　精神看護学Ⅳ概説
第2回　精神病症状の悪化により対応が困難な事例（家族機能の理解）
第3回　精神病症状の悪化により対応が困難な事例（アプローチの検討）
第4回　家族機能へのアプローチした事例①
第5回　家族機能へのアプローチした事例②
第6回　家族機能へのアプローチした事例③
第7回　具体的な事例をもとに精神看護の倫理・安全・人権についての検討①
第8回　具体的な事例をもとに精神看護の倫理・安全・人権についての検討②
第9回　具体的な事例をもとに精神看護の倫理・安全・人権についての検討③
第10回　専門看護師の倫理調整（自律尊重・善行・無危害）
第11回　専門看護師の倫理調整（正義・誠実・忠誠）
第12回　組織と医療者のメンタルヘルス（研修）
第13回　組織と医療者のメンタルヘルス（個別ケア）
第14回　組織と医療者のメンタルヘルス（看護管理者へのコンサル）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

授業時に指示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業時に指示
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ）　　小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 50 ）　　授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ 0 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学演習Ⅰ－1（精神）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　松本　賢哉.北島　謙吾.小島　信雄.下里　誠二.福岡　雅津子	

テーマ

専門看護師に必要な機能と役割と急性増悪した精神病症状に応じた看護介入の理論と方法

授業の到達目標

1. 精神看護の専門看護師に必要な機能と役割である、実践、コンサルテーション、倫理調整、コーディネーション、教育、研究活動について討議を通して習得する。2. 急性増悪した精神病症状に応じた看護介入の理論と方法について事例の分析とエビデンスに基づく援助計画の立案できる。3. 討議やプレゼンテーションを通して、高度な精神看護実践を行う上での課題や方向性を提示できる。

授業の概要

精神看護の専門看護師に必要な機能と役割である、実践、コンサルテーション、倫理調整、コーディネーション、教育活動について、基礎的知識と方法と、専門性の高い精神看護を展開する上で必要な精神領域でのセラピーに関する理論と方法、急性増悪した精神病症状に応じた看護介入の理論と方法について、講義と演習、討議、また学生自身のプレゼンテーションを通して学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　実践看護応用学演習Ⅰ-1
第2回　救急・急性期病棟における専門看護師の機能、役割とコンサルテーション
第3回　救急・急性期病棟におけるケース中心のコンサルテーション
第4回　救急・急性期病棟におけるコンサルテイ中心のケース・コンサルテーション
第5回　倫理上の問題に対するコンサルテーション（開放処遇）
第6回　倫理上の問題に対するコンサルテーション（隔離・身体的拘束）
第7回　倫理上の問題に対するコンサルテーション（通信・面会）
第8回　コンサルテーションの実際
第9回　コンサルテーションの展開（事例1）
第10回　コンサルテーションの展開（事例2）
第11回　コンサルテーションの展開（事例3）
第12回　病棟スタッフのコーピング、倫理、教育に関する事例の援助計画（事例1）
第13回　病棟スタッフのコーピング、倫理、教育に関する事例の援助計画（事例2）
第14回　病棟スタッフのコーピング、倫理、教育に関する事例の援助計画（事例3）
第15回　病棟スタッフのコーピング、倫理、教育に関する事例の援助計画（事例4）
第16回　急性期の看護介入―理論と方法―（危機理論）
第17回　急性期の看護介入―理論と方法―（ストレス理論）
第18回　急性期の看護介入―理論と方法―（認知行動療法）
第19回　急性期の看護介入―理論と方法―（SST）
第20回　急性期の看護介入―暴力への介入―（リスクアセスメント・デエスカレーション）
第21回　急性期の看護介入―暴力への介入―（チームテクニクス）
第22回　急性期の看護介入―暴力への介入―（ブレイクアウェイ・デブリーフィング）
第23回　患者と家族に関する事例の援助計画（事例1家族アセスメント）
第24回　患者と家族に関する事例の援助計画（事例1家族介入）
第25回　患者と家族に関する事例の援助計画（事例2家族アセスメント）
第26回　患者と家族に関する事例の援助計画（事例2家族介入）
第27回　保健医療福祉関係者とのコーディネーションに関する事例（退院困難）
第28回　保健医療福祉関係者とのコーディネーションに関する事例（社会生活の継続）
第29回　保健医療福祉関係者とのコーディネーションに関する事例（急性増悪）
第30回　まとめ

履修上の注意点

教科書

授業時に指示

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

h701017010

授業時に指示

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ） 小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 50 ） 授業中発表等（ 50 ）

参加度 （ 0 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学演習Ⅰ－2（精神）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　松本　賢哉.河原　宣子.北島　謙吾.小島　信雄.福岡　雅津子.mitei2	

テーマ

専門看護師に必要な機能と役割と精神的な問題を抱えた人が地域で生活し続けるための看護介入の理論と方法

授業の到達目標

1. 精神看護の専門看護師に必要な機能と役割である、実践、コンサルテーション、倫理調整、コーディネーション、教育、研究活動について討議を通して習得する。2. 地域で生活を続けるために必要な訪問看護の機能と役割について習得する。3. 討議やプレゼンテーションを通して、高度な精神看護実践を行う上での課題や方向性を提示できる。

授業の概要

精神看護の専門看護師に必要な機能と役割である、実践、コンサルテーション、倫理調整、コーディネーション、教育活動について、基礎的知識と方法と、専門性の高い精神看護を展開する上で必要な精神領域でのセラピーに関する理論と方法、地域で生活を続けるための訪問看護の理論と方法について、講義と演習、討議、事例検討また学生自身のプレゼンテーションを通して学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　実践看護応用学演習Ⅰ-1
第2回　訪問看護における専門看護師の機能、役割とコンサルテーション
第3回　訪問看護におけるケース中心のコンサルテーション
第4回　訪問看護におけるコンサルテイ中心のケース・コンサルテーション
第5回　倫理上の問題に対するコンサルテーション（患者の意向と看護者との食い違い）
第6回　倫理上の問題に対するコンサルテーション（患者の意向と家族との食い違い）
第7回　倫理上の問題に対するコンサルテーション（患者と家族との関係性）
第8回　コンサルテーションの実際
第9回　コンサルテーションの展開（問題点の明確化）
第10回　コンサルテーションの展開（医療チームの関係性の理解）
第11回　コンサルテーションの展開（統合的な働きかけ）
第12回　訪問看護スタッフのコーピング、倫理、教育に関する事例の援助計画（事例1）
第13回　訪問看護スタッフのコーピング、倫理、教育に関する事例の援助計画（事例2）
第14回　訪問看護スタッフのコーピング、倫理、教育に関する事例の援助計画（事例3）
第15回　訪問看護スタッフのコーピング、倫理、教育に関する事例の援助計画（事例4）
第16回　訪問看護の対象者と生活
第17回　在宅における生活行為と生活支援（症状コントロール）
第18回　在宅における生活行為と生活支援（服薬継続支援）
第19回　在宅における生活行為と生活支援（家族支援）
第20回　精神病症状悪化における危機予測と介入（対象者の特性把握）
第21回　精神病症状悪化における危機予測と介入（家族の感情表出）
第22回　精神病症状悪化における危機予測と介入（再発警告徴候の把握と対処）
第23回　個別就労支援プログラムの実際（対象者の長所をのばす方法）
第24回　個別就労支援プログラムの実際（興味に基づく職探し）
第25回　個別就労支援プログラムの実際（就労継続）
第26回　ACTの活動と効果（ACTの特徴）
第27回　ACTの活動と効果（ACTの支援）
第28回　ACTの活動と効果（ACT-Kの活動事例）
第29回　ACTの活動と効果（ACT-Kの活動事例）
第30回　まとめ

履修上の注意点

教科書

授業時に指示

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

h701017110

授業時に指示

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 （ 0 ） 小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 50 ） 授業中発表等（ 50 ）

参加度 （ 0 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学実習Ⅰ（精神）<M>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　賢哉.伊藤　恵美子	

テーマ

専門看護師を役割モデルとしながら、高度実践、調整、患者および家族への倫理調整、院内や病棟看護師の教育及び臨床研究指導、コンサルテーションに関わる活動を学び、精神看護専門看護師としての役割と機能を果たす能力を習得する。

授業の到達目標

（段階的に進めていく。段階1として目標1、段階2として2～4, 段階3として5～7とする）1. 精神看護専門看護師の役割と機能について、その実際を知り、自己の課題を考察することができる。2. 精神看護専門看護師が実践する看護の対象への直接的ケアの特徴を理解し、自らの看護援助を検討することができる。3. 精神看護専門看護師が行う調整を必要とする問題、調整する際の留意点、具体的方法を知り、自己の調整能力の課題を明確にすることができる。4. 精神看護専門看護師がかかわる精神症状をもつ人とその周囲に関する倫理的問題およびその対応 ・調整について知り、自己の倫理観を振り返ることができる。5. 精神看護専門看護師が行う院内及び病棟看護師に対する教育的な関わり及び精神看護の質の向上のための教育活動について、実際の活動を理解し、その効果を評価するための視点をもつことができる。6. 精神看護専門看護師が実施・指導している研究活動の目的・内容について知り、研究的な視点で実践をとらえることができる。7. 精神看護専門看護師が行うコンサルテーションの特徴とその方法の実際を理解し、技術習得に向けた自己の課題を明確にすることができる。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　精神看護学演習Ⅰにおいて学習した内容を参考に、援助対象者を設定した上で、精神看護専門看護師に必要とされる機能と役割を効果的に習得できるように、学生が実習計画を立てる（約1か月）。実習目標に沿い、評価及び修正をしながら段階的に進めていく。

第2回　まず、病院内の精神看護専門看護師の活動に同行し、精神看護専門看護師の役割と機能（実践・調整・倫理調整・教育・相談・研究）について参加観察し、自己の課題を明らかにする。病院内で精神看護専門看護師が関わっている精神科診断・治療の場面を参加観察する。（約2週間）

第3回　次に、患者を1～2名受け持ち、直接ケアを実施し評価する。また、必要時はケースカンファレンスを開催し、多職種との調整を行う。また、倫理調整についても実施する。（約3週間）

第4回　精神看護専門看護師が関わっている教育、研究及びコンサルテーション活動に参画または一部を実施し、その方法及び効果を評価する視点を養う。（実習後半が望ましいが、実習期間を通して機会を検討する）

第5回　参加観察した事柄について、カンファレンスの中で精神看護専門看護師や教員とディスカッションし、理解を深める。

第6回　実習日ごとに、精神看護専門看護師の役割と機能である、実践、教育、調整、相談、研究、倫理調整のうち、実習した内容を記録し、その内容を分析した後、精神看護専門看護師が果たす役割と機能の側面から科学的に考察する。

第7回　適宜、精神看護専門看護師や病棟スタッフ（看護師、医師、臨床心理士、精神保健福祉士等）からの指導・助言を得るとともに、チームとの連携・調整を行いながら実習をすすめる。また、教員及び精神看護専門看護師、医師からのスーパーバイズを受け、振り返りを行う。特に診断・治療の場面においては、医師からのスーパーバイズを受ける。

第8回　カンファレンスは学生主体で実施し、主体的に精神看護専門看護師および教員とディスカッションをして、精神看護専門看護師の役割と機能について探求する。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度　（ ）

実習計画の作成（個別行動目標）、実習状況、実習目標の到達状況、プレゼンテーション、課題レポート、学習態度などを総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学実習Ⅱ－2(精神)<M>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講:開⇒閉）	

テーマ

講義・演習で学んだ理論、知識、技術を実践に適用・統合し、専門看護師として訪問看護活動ができる看護実践能力の形成・向上を図る。そのために地域で訪問看護を活用しながら生活している精神病症状をもつ人とその家族に対し、専門的な精神看護の実践、スタッフや他職種への教育、相談、保健医療福祉に関わる人々の調整、倫理的調整などに創意工夫をしながら取り組む。

授業の到達目標

1. 訪問看護を利用し、地域で生活する複雑多様な健康課題・生活状況にある精神病症状をもつ人とその家族を包括的にアセスメントし、対象者のセルフケア能力を高め、QOLの維持・向上を目指したケアを実践することができる。 2. 訪問看護を利用し、地域で生活する複雑多様な健康課題・生活状況にある精神病症状をもつ人とその家族の関係調整に関して、ケアを調整することができる。3. 精神病症状をもつ人の訪問看護における看護スタッフへの教育・相談の企画・実践およびコンサルテーションのプロセスに参画し、実施したことを評価できる。4. 地域で生活する精神病症状をもつ人とその家族の尊厳を守り、倫理的課題について分析する。さらにその課題の解決に向けて介入計画を立て実施する。5. 看護、他職種スタッフ等に対する教育・相談の企画・実践・評価の一連のプロセスに参画及び実践を通して、自身の教育能力、リーダーシップ能力を育成する。6. 地域で訪問看護を利用し生活する精神病症状をもつ人とその家族のケアの実践に関する課題を見出し、その解決に向けた実践に取り組む。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　訪問看護ステーションのスタッフに同行し訪問看護活動を実施する。
第2回　生活の場で精神病症状をもつ人および家族への援助活動を2～3事例継続して実施する。（週2～3日、約3～4ヶ月）
第3回　演習Ⅰ-2で学んだ援助プログラムを対象に合わせて具体的に計画し実施する。
第4回　実施した援助の効果を安定した社会生活を営むための視点から評価する。
第5回　実施した援助の効果を文献等を活用しつつ、科学的視点から評価する。
第6回　訪問看護ステーションのスタッフから指導・助言を得るとともに、多職種カンファレンス等に参加し、地域でサポートする多職種との連携・調整を行いながら、実習を進める。実習場所：訪問看護ステーション及び精神科病院の訪問看護部門

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
実習計画の作成（個別行動目標）、実習状況、実習目標の到達状況、プレゼンテーション、課題レポート、学習態度などを総合的に評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**次世代育成看護学特論Ⅰ（小児看護）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

子どもの不思議について発達理論をもとに紐解いてみましょう

授業の到達目標

子どもの健康と生活についての概念を理解すると共に、研究の動向、最新の知見を学ぶ。

授業の概要

子どもの成長発達および家族や子どもを取り巻く環境との相互作用を理解するため主要な理論について学ぶとともに、子どもの発達と健康に関する最新の知見を検討する。

準備学習（予習・復習）

各回の学習内容について文献を読み、自らの意見や問いを話し合えるようにしておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　小児看護における発達理論の読み方
第3回　母子関係の形成 (1)
第4回　母子関係の形成 (2)
第5回　子どもの自我の発達 (1)
第6回　子どもの自我の発達 (2)
第7回　子どもの自我の発達 (3)
第8回　子どもの自我の発達 (4)
第9回　子どもの認識の発達 (1)
第10回　子どもの認識の発達 (2)
第11回　子どもの認識の発達 (3)
第12回　子どもの認識の発達 (4)
第13回　子どもの社会性の発達 (1)
第14回　子どもの社会性の発達 (2)
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 30% ）	授業中発表等 （ 50% ）
参加度 （ 20% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**次世代育成看護学特論Ⅱ(周産期)<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　(閉講:開⇒閉)

テーマ

次世代を育成する女性と家族をライフサイクルに沿って身体的、心理・社会的側面から包括的に理解する。

授業の到達目標

1　次世代を育成する女性と家族の健康生活および健康問題についてライフサイクルの視点から理解する。2　生殖内分泌学的知識や遺伝学的知識、周産期医学的知識、さらに発達や愛着理論など専門的知識体系を習得する。3　専門知識体系による対象理解を基に、マタニティサイクルにある女性と家族の健康問題や生活、発達課題などを多角的かつ的確に理解する。

授業の概要

準備学習(予習・復習)

内　　容

第1回　次世代を育成する女性を取り巻く家族・社会・環境の変化および経済についての理解
第2回　〃
第3回　母性健康科学の考え方、日本における母性概念、リプロダクティブヘルス/ライツ、愛着や親役割理論、発達危機理論などの理解
第4回　〃
第5回　健康な女性に成長するための思春期への理解
第6回　〃
第7回　成熟期女性の健康課題への理解
第8回　〃
第9回　周産期の生殖内分泌学、遺伝学
第10回　〃
第11回　妊産婦とその子ども、家族の発達と関係への理解
第12回　〃
第13回　更年期・老年期女性の健康課題への理解
第14回　〃
第15回　〃

履修上の注意点

教科書

参考書

Romona T. Mercer: Transitions in a Woman's Life,springerSeries 母性の主観的体験
著者:　ルヴァ・ルーヴィン(新道幸恵、後藤桂子訳)
出版社:　医学書院
出版年:　1997他　　ISBN:

成績評価

試験　(　)	小テスト　(　)
授業中課題　(20)	授業中発表等　(50)
参加度　(30)	

2016 Syllabus

科 目 名　**国際看護学演習Ⅰ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

国際看護学に関連した自己の研究課題を明確にして、適切な研究方法を検討する。

授業の到達目標

1．自己の研究課題に関連する国内外の先行文献を収集して、文献リストを作成する。2．1の先行文献を講読し、自己の研究課題に活用できる諸理論及び研究方法を検討する。3．1，2を通して自己の研究課題を明確にして、研究計画を立てる。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　ガイダンス、（授業目標と授業のすすめ方、学習の意義）
第2回　研究課題を明確にするための国内外の文献検索①
第3回　研究課題を明確にするための国内外の文献検索②
第4回　研究課題に関連した国内外の文献購読①
第5回　研究課題に関連した国内外の文献購読②
第6回　研究課題に関連した国内外の文献購読③
第7回　研究課題に関連した国内外の文献購読④
第8回　研究課題に関連した国内外の文献購読⑤
第9回　研究課題に関連した国内外の文献購読⑥
第10回　研究課題に関連した国内外の文献購読⑦
第11回　研究課題に関連した国内外の文献購読⑧
第12回　研究課題と研究方法の検討①
第13回　研究課題と研究方法の検討②
第14回　自己の研究課題に関する研究計画を立案し、プレゼンを行う。
第15回　研究計画の検討を行う。

履修上の注意点

自己の研究課題に関連した先行文献収集は、時間外にも随時行ってください。Abstract（研究課題・研究目的・方法等）を記載した文献リストを随時作成してください。作成方法は授業中に説明します。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）	授業中発表等（ 40 ）
参加度（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**国際看護学演習Ⅱ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

国際交流・国際協力・国際看護に関連した文献講読、関連施設訪問、学会やシンポジウムへの参加等を通して、自己の研究課題や方法を追及する。

授業の到達目標

1．国際協力の現状と動向を組織・分野別に整理して学ぶ。2．国際交流と国際協力の違いについて学ぶ。3．実際の国際交流や国際協力に関連した関連施設訪問、学会やシンポジウムへの参加等を通して、その実際について学ぶ。4．国際看護とは何かについて、考える。5．自己の研究課題の位置づけについて、「看護」の視点で考える。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　ガイダンス、（授業目標と授業のすすめ方、学習の意義）
第2回　文献講読とプレゼン①（国際協力の仕組みと動向、国際協力とは何か）
第3回　文献講読とプレゼン②（JICAと技術協力）
第4回　文献講読とプレゼン③（国際協力銀行と資金協力他）
第5回　文献講読とプレゼン④（貧困問題と国際協力）
第6回　文献講読とプレゼン⑤（環境問題と国際協力）
第7回　文献講読とプレゼン⑥（ジェンダーと開発）
第8回　文献講読とプレゼン⑦（医療人類学と国際協力1）
第9回　文献講読とプレゼン⑧（医療人類学と国際協力2）
第10回　JICA関連施設訪問
第11回　医療通訳同行実習
第12回　国際看護や国際保健医療関係の学会参加①
第13回　国際看護や国際保健医療関係の学会参加②
第14回　国際看護や国際保健医療関係のシンポジウムへの参加
第15回　まとめ

履修上の注意点

第10回～14回は、関連施設の予定や学会開催日等に応じて日程調整を行うので、順不同である。国内外で行われる学会やシンポジウム、国際交流ほかに関して随時、調べ積極的に参加することを推奨する。

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 20 ）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 30 ）	

各施設訪問や学会等は訪問後、レポート提出してください。レポートおよび授業への参加態度から総合的に評価する

2016 Syllabus

科 目 名　**国際看護学演習Ⅲ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

看護の対象を理解し、その対象のニードに合った看護を実践するために、その対象者の属する文化の身体観、疾病観、健康観、治療観などを理解し、それに適したあるいは応じたかかわりを持つ必要がある。効果的な看護実践のために何が必要か考える。

授業の到達目標

1）文化と医療について学ぶ。2）諸外国の看護(保健医療)の実践について学ぶ。3）対象を理解し、より効果的な看護(保健医療)の実践を行うためには何が必要かを学ぶ。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス、(授業目標と授業のすすめ方、学習の意義）
第2回　文化と医療に関連した国内外の文献購読①
第3回　文化と医療に関連した国内外の文献購読②
第4回　文化と医療に関連した国内外の文献購読③
第5回　文化と医療に関連した国内外の文献購読④
第6回　文化と医療に関連した国内外の文献購読⑤
第7回　文化と医療に関連した国内外の文献購読⑥
第8回　研究課題に関連したフィールド調査①
第9回　開研究課題に関連したフィールド調査②
第10回　研究課題に関連したフィールド調査③
第11回　研究課題に関連したフィールド調査④
第12回　調査結果のまとめと分析①
第13回　調査結果のまとめと分析②
第14回　調査結果のプレゼン
第15回　研究課題と研究方法の再検討

履修上の注意点

フィールド調査に関しては、随時実施を行う。但し、事前に調査法についての指導を行う。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
フィールド調査結果はまとめてレポート作成する。またプレゼンも実施する。総合的に判断して評価を行う。レポートおよび授業への参加態度から総合的に評価する

2016 Syllabus

科 目 名　**地域看護学演習Ⅰ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

健康に影響を与える社会的な要因（Social Determinants of Health: SDH）と人々の健康

授業の到達目標

1. 人々の健康に影響を与える社会的な要因（Social Determinants of Health: SDH）について理解できる。2. 公衆衛生看護の看護実践において基礎となる概念及び理論について考察できる。

授業の概要

・一次予防の観点から健康に影響を与える社会的な要因（SDH）と個人および集団の健康について、関連文献や先行研究の知見から理解を深め、公衆衛生看護の実践の基礎となる概念及び理論について考察する。・授業形式：プレゼンテーションをもとにセミナー形式で進行する。

準備学習（予習・復習）

予習：プレゼンテーションをもとにセミナー形式で進行するため、事前に配付する各回の研究テーマの関する研究論文を熟読しておく。また、発表担当となった場合は、十分な準備のもと、発表を行うこと。復習：各授業で研究した内容の要点を整理する。

内　容

第1回　オリエンテーション
第2回　ソーシャル・キャピタル①：概念とその背景
第3回　ソーシャル・キャピタル②：人々の健康との関連
第4回　ソーシャル・キャピタル③：人々の健康との関連
第5回　ソーシャル・キャピタル④：労働者への影響
第6回　ソーシャル・キャピタル⑤：看護職への影響
第7回　ソーシャル・キャピタル⑥：まとめ
第8回　職場の心理社会的要因の影響①（職業性ストレスモデルと健康：Job Demand-Control model）
第9回　職場の心理社会的要因の影響②（職業性ストレスモデルと健康：Job Demand-Control model）
第10回　職場の心理社会的要因の影響③（職業性ストレスモデルと健康：Effort－Reward Imbalance model）
第11回　職場の心理社会的要因の影響④（職業性ストレスモデルと健康：Effort－Reward Imbalance model）
第12回　組織の心理社会的要因の影響⑤（病院組織の看護師への影響）
第13回　組織の心理社会的要因の影響⑥（病院組織の看護管理者への影響）
第14回　組織の心理社会的要因の影響⑦（地域のヘルスケア機関の看護職への影響）
第15回　まとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。テキスト以外の資料は授業時に配布する。広く関連図書・専門誌等の知見をもとにした自らの関心領域や課題を明確にするため、積極的に授業に参加すること。

教科書

ソーシャル・キャピタルと格差社会　幸福の計量社会学
著者：　辻 竜平 編, 佐藤 嘉倫 編
出版社：東京大学出版会
出版年：2014　　ISBN：9784130501828

参考書

適宜紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験 （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**地域看護学演習Ⅱ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

ヘルスリテラシー（Health literacy）と人々の健康

授業の到達目標

健康に影響を与える個人要因として代表的な生活習慣に加え、昨今注目されているヘルスリテラシー（Health literacy）について、理解を深めると同時に、公衆衛生看護の看護実践のあり方について考察できる。

授業の概要

一次予防の観点から、人々の健康に関する知識や行動様式が、個人および集団の健康に及ぼす影響について、ヘルスリテラシー（Health literacy）の関連文献や先行研究の文献検討から理解を深める。これらに基づき、公衆衛生看護のあり方を探求する。なお授業は、プレゼンテーションをもとにセミナー形式で進行する。

準備学習（予習・復習）

予習：プレゼンテーションをもとにセミナー形式で進行するため、事前に配付する各回の研究テーマの関する研究論文を熟読しておく。また、発表担当となった場合は、十分な準備のもと、発表を行うこと。復習：各授業で研究した内容の要点を整理する。

内　　容

第1回　ヘルスリテラシーと健康①
第2回　ヘルスリテラシーと健康②
第3回　ヘルスリテラシーと健康③
第4回　ヘルスリテラシーと健康④
第5回　生活習慣と健康（身体活動）①
第6回　生活習慣と健康（身体活動）②
第7回　生活習慣と健康（栄養・食生活）③
第8回　生活習慣と健康（栄養・食生活）④
第9回　生活習慣と健康（栄養・食生活）⑤
第10回　生活習慣と健康（栄養・食生活）⑥
第11回　生活習慣と健康（喫煙）①
第12回　生活習慣と健康（喫煙）②
第13回　生活習慣と健康（飲酒）③
第14回　生活習慣と健康（飲酒）④
第15回　まとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。広く関連図書・専門誌等の知見をもとにした自らの関心領域や課題を明確にするため、積極的に授業に参加すること。

教科書

健康・医療の情報を読み解く 第2版 健康情報学への招待（京大人気講義シリーズ）
著者：　中山 健夫
出版社：丸善出版
出版年：2014　　ISBN：　978-4621087329

参考書

適宜紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 20 ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**地域看護学演習Ⅲ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

二次予防・三次予防と公衆衛生看護のあり方

授業の到達目標

心身の健康問題の早期発見・早期治療（二次予防）とリハビリテーション・社会復帰（三次予防）について最新の実証研究の知見から理解を深め、公衆衛生看護のあり方について探求できる。

授業の概要

心身の健康問題の早期発見・早期治療（二次予防）とリハビリテーション・社会復帰（三次予防）について、最新の実証研究の知見から理解を深め、健康課題を抱える人々への早期介入や社会復帰の支援における、公衆衛生看護のあり方について探求する。授業は、プレゼンテーションをもとにセミナー形式で進行する。

準備学習（予習・復習）

予習：プレゼンテーションをもとにセミナー形式で進行するため、事前に配付する各回の研究テーマの関する研究論文を熟読しておく。また、発表担当となった場合は、十分な準備のもと、発表を行うこと。復習：各授業で研究した内容の要点を整理する。

内　　容

第1回　身体的な健康問題の二次予防①（悪性新生物）
第2回　身体的な健康問題の二次予防②（悪性新生物）
第3回　身体的な健康問題の二次予防③（メタボリックシンドローム）
第4回　身体的な健康問題の二次予防④（メタボリックシンドローム）
第5回　精神的な健康問題の二次予防①（うつ病・うつ状態）
第6回　精神的な健康問題の二次予防②（うつ病・うつ状態）
第7回　精神的な健康問題の二次予防③（その他のメンタル不全）
第8回　精神的な健康問題の二次予防④（その他のメンタル不全）
第9回　身体的な健康問題の三次予防①
第10回　身体的な健康問題の三次予防②
第11回　精神的な健康問題の三次予防①
第12回　精神的な健康問題の三次予防②
第13回　精神的な健康問題の三次予防③
第14回　精神的な健康問題の三次予防④
第15回　まとめ

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。遅刻と途中退席をしないこと。テーマに関連した図書・専門誌等を読み、積極的に討議に参加することで、自らの関心領域や課題を明確にする。

教科書

授業時に紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

授業時に紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験 （ 0 ）	小テスト （ 0 ）
授業中課題 （ 20 ）	授業中発表等 （ 50 ）
参加度 （ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**看護教育学演習Ⅰ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阿部　祝子	

テーマ

看護基礎教育制度とその教育課程，教育方法，教育評価の特徴

授業の到達目標

看護専門職養成の土台となる看護基礎教育について，その制度，教育課程，教育方法，教育評価の特徴について，実証的に検討する.

授業の概要

「授業計画」の各テーマについて，関連文献や先行研究の文献検討を通して理解を深める. また，各テーマに関する研究の動向や方法について理解する. これらに基づき，自身の看護教育の経験を事例として，ディスカッションにより考察を深める.

準備学習（予習・復習）

自身が携わっている看護基礎教育について，各テーマの側面から関心を持ち，考察する姿勢を持つ.

内　　容

第1回　ガイダンス(演習の意義，授業目標の理解)
第2回　看護政策と看護基礎教育制度
第3回　教育対象の特徴①:文献検討，事例検討
第4回　教育対象の特徴②:文献検討，事例検討
第5回　教育課程(カリキュラム)の特徴①:文献検討，事例検討
第6回　教育課程(カリキュラム)の特徴②:文献検討，事例検討
第7回　教育方法の特徴①:文献検討，事例検討
第8回　教育方法の特徴②:文献検討，事例検討
第9回　教育評価の特徴①:文献検討，事例検討
第10回　教育評価の特徴②:文献検討，事例検討
第11回　授業形態(看護技術教育)の特徴①:文献検討，事例検討
第12回　授業形態(看護技術教育)の特徴)②:文献検討，事例検討
第13回　授業形態(臨地実習)の特徴①:文献検討，事例検討
第14回　授業形態(臨地実習)の特徴②:文献検討，事例検討
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**看護教育学演習Ⅱ <M>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　阿部 祝子

テーマ

看護継続教育制度とその教育課程，教育方法，教育評価の特徴

授業の到達目標

専門職養成のための看護継続教育について，その制度，教育課程，教育方法，教育評価の特徴について，実証的に探究する．

授業の概要

「授業計画」の各テーマについて，関連文献や先行研究の文献検討を通して理解を深める．また，各テーマに関する研究の動向や方法について理解する．これらに基づき，自身の看護教育の経験を事例として，ディスカッションにより考察を深める．

準備学習（予習・復習）

自身が携わっている，あるいは経験した看護継続教育について，各テーマの側面から関心を持ち，考察する姿勢を持つ．

内　容

第1回　ガイダンス(演習の意義，授業目標の理解)
第2回　看護政策と看護継続教育
第3回　教育対象の特徴①:文献検討，事例検討
第4回　教育対象の特徴②:文献検討，事例検討
第5回　成人学習の特徴①:文献検討，事例検討
第6回　成人学習の特徴②:文献検討，事例検討
第7回　人材育成計画(人材フロー)の特徴①:文献検討，事例検討
第8回　人材育成計画(人材フロー)の特徴②:文献検討，事例検討
第9回　教育プログラムの特徴①:文献検討，事例検討
第10回　教育プログラムの特徴②:文献検討，事例検討
第11回　Off-JT及びOJTの教育プログラムと教育方法の特徴①:文献検討，事例検討
第12回　Off-JT及びOJTの教育プログラムと教育方法の特徴②:文献検討，事例検討
第13回　教育評価の特徴①:文献検討，事例検討
第14回　教育評価の特徴②:文献検討，事例検討
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

なし
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 50 ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**看護教育学演習Ⅲ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阿部　祝子	

テーマ

専門職としてのキャリア開発

授業の到達目標

専門職としてのキャリア開発の視点から，看護基礎教育及び看護継続教育について，統合的に考察する.

授業の概要

「授業計画」の各テーマについて，関連文献や先行研究の文献検討を通して理解を深める．また，各テーマに関する研究の動向や方法について理解する．これらに基づき，自身の看護教育の経験を事例として，ディスカッションにより考察を深める.

準備学習（予習・復習）

シームレスな看護基礎教育及び看護継続教育の連携に基づく，キャリア開発を考察する姿勢を持つ.

内　　容

第1回　ガイダンス(演習の意義，授業目標の理解)
第2回　専門職とは
第3回　キャリアとは①
第4回　キャリアとは②
第5回　看護職の生涯学習①：文献検討，事例検討
第6回　看護職の生涯学習の特徴②：文献検討，事例検討
第7回　看護職のキャリアパスの特徴①：文献検討，事例検討
第8回　看護職のキャリアパスの特徴②：文献検討，事例検討
第9回　看護職のキャリア開発の特徴①：文献検討，事例検討
第10回　看護職のキャリア開発の特徴②：文献検討，事例検討
第11回　スペシャリストとジェネラリストの養成①：文献検討，事例検討
第12回　スペシャリストとジェネラリストの養成②：文献検討，事例検討
第13回　臨地実習指導の意義①：文献検討，事例検討
第14回　臨地実習指導の意義②：文献検討，事例検討
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

なし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

なし
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ 50 ）	

Syllabus

科 目 名　**看護管理学演習Ⅰ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	
テーマ	
授業の到達目標	
授業の概要	
準備学習（予習・復習）	
内　　容	
履修上の注意点	
教科書	
参考書	

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**看護管理学演習Ⅱ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

看護管理者に日宇町な経営知識と方法論

授業の到達目標

看護管理者、特に看護師長や看護部長に求められる経営意識／知識をもとに、それらの実践への活用についてフィールドワークや国内外の文献をもとに学ぶ

授業の概要

医療経営管理論及び「看護経済組織論（看護間理学演習Ⅰ）などで学んだ知識をもとに、看護管理者に求められる経営者としての意識や行動をフィールドワークや事例、文献などを用いた演習を通して学ぶ。、

準備学習（予習・復習）

事前に提示された課題を十分準備して授業の際に、プレゼンする。

内　　容

第1回　看護管理者に必要な経営意識、知識、能力（新道）
第2回　看護管理者としてのポジションパワーとその活用（新道）
第3回　看護管理者に求められる経営者としての役割（新道）
第4回　フィールドワーク（トップマネジャーの経営式や役割）（野村）
第5回　フィールドワーク（野村）
第6回　フィールドワークのレポートをもとに討議（野村）
第7回　看護管理者の倫理的ジレンマと意思決定（新道）
第8回　看護管理者の倫理的感受性と実践行動（新道）
第9回　看護事業の開発（川添高志）
第10回　起業家論（川添高志）
第11回　起業の実際（川添高志）
第12回　経営的側面からの看護部における組織分析（小山秀夫）
第13回　組織分析の実施（小山秀夫）
第14回　経営改善計画（小山秀夫）
第15回　まとめ　経営者としての看護管理者のあり方について討議（新道）

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。やむを得ず遅刻する場合は、事前連絡をする。

教科書

適宜、授業中に紹介する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 40%（レポート））　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30% ）
参加度　（ 30% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**看護管理学演習Ⅲ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

保健医療組織における看護管理者として経済学的側面からの組織論的特性と組織デザイン論

授業の到達目標

保健医療組織における看護管理者として経済学的な側面から組織の経済状況を理解するための基礎知識を身につける一方で、保健医療組織を利用者の療養の場であり保健医療職員の働く場として快適に暮らし働ける環境を作り出すための組織デザイン論を学ぶ

授業の概要

認定看護管理者を目指す学生の必須科目。オムニバス科目で複数の教員による授業である。各授業において、学生の積極的な授業参加によって、看護管理者としてのマネージメントに活用する。

準備学習（予習・復習）

事前課題に十分に取り組んで授業に出席する

内　容

第1回　医療経済学の基礎知識（高山一夫）
第2回　医療経済学における保健医療組織の経済性（高山一夫）
第3回　医療における非営利性と公益性（高山一夫）
第4回　医療における経済学的組織論（高山一夫）
第5回　医療経済と診療情報管理（尾関美智子）
第6回　看護部門の経済学的組織論（新道幸恵）
第7回　経済学的観点からの看護部門の将来展望（新道幸恵）
第8回　組織デザイン（李　在鎬）
第9回　組織間のネットワークのデザイン（1）（李　在鎬）
第10回　組織間のネットワークのデザイン（2）（李　在鎬）
第11回　組織デザインと人的資源の配置（秋山高志）
第12回　療養環境のデザイン（1）（大戸　貴）
第13回　療養環境のデザイン（2）（大戸　貴）
第14回　看護部組織の経済性と快適的なデザインについての討議（野村陽子）
第15回　まとめ（看護管理者としての快適性、効率性と組織のあり方についての討議）（新道幸恵）

履修上の注意点

3分の2以上の出席が原則。

教科書

参考書

成績評価

試験　（ レポート（40%） ）	小テスト（　）
授業中課題　（　）	授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（ 30% ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**看護実践研究方法論 <D>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　中島　登美子.小板橋　喜久代.富永　真己	

テーマ

授業の到達目標

1. 看護における多様な研究方法論の特徴をふまえ、研究方法論が抱える課題を理解する。2. ヘルスケアの質改善等につながる研究の理論的基盤と方法論について学ぶ。

授業の概要

医療および看護における研究の重要性を理解し、多様な研究方法論の特徴をふまえ、研究方法論が抱える課題を検討し、今日、看護に求められているヘルスケアやヘルスケアシステムの質改善につながる研究方法を修得するため、ヘルスケアの質改善等に資した国内外の研究論文をもとに、ケアのアウトカムを明らかにする研究の理論的基盤と方法論について学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　看護研究における研究方法について、研究デザインの多様性と研究方法論が抱える課題
第2回　看護研究における概念枠組、研究の理論的基盤と研究方法論
第3回　アウトカムズモデル・サブストラクションを用いた研究論文の批評と研究方法論の検討
第4回　〃
第5回　ヘルスケアの質改善にアウトカムリサーチを適用する課題と有用性
第6回　子どもと家族に関する研究の理論的基盤と研究方法論
第7回　子どもと家族に関する成果指標抽出の課題と測定方法の妥当性
第8回　子どもと家族に関する研究論文をもとにヘルスケアの質を改善する方略について検討
第9回　労働職場環境特性と労働者の職業性ストレスに関する研究の理論的基盤と多変量解析を用いた量的研究方法論
第10回　〃
第11回　労働者のストレス等に関する研究成果をもとに、ヘルスケアの質を改善する方略について検討
第12回　〃
第13回　リラクセーション等に関する研究の理論的基盤と研究方法論
第14回　〃
第15回　リラクセーション等の研究論文をもとにヘルスケアの質を改善する方略について検討

履修上の注意点

教科書

バーンズ＆グローブ看護研究入門－実施・評価・活用－
著者：　Burns,N., Grove,S.K.：黒田裕子ら監訳
出版社：エルゼビア・ジャパン
出版年：2015　　ISBN：

参考書

看護研究ハンドブック ヘルスケアの質改善のために
著者：　Henry,B.M.：上田礼子監訳
出版社：医学書院
出版年：2004　　ISBN：

Handbook of qualitative research
著者：　Denzin,N.K., Lincoln,Y.S.
出版社：Sage
出版年：1994　　ISBN：

Advanced design in nursing research, second edition
著者：　Brink,P.,Wood,M.J.
出版社：Sage
出版年：1998　　ISBN：

h701510010

アウトカムズリサーチおよび介入研究に関する研究論文を選定し授業資料とする。

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 （ ） 小テスト（ ）

授業中課題 （ 40 ） 授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**看護実践イノベーション論 <D>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　新道　幸恵.遠藤　俊子.mitei.村田　伸	

テーマ

授業の到達目標

1. 看護実践の変革モデルのプロセスと成果を理解する。2. 看護の提供される場における多職種との連携やチーム医療の必要性を理解する。3. 信頼に応える医療の実現に、看護実践におけるイノベーションとチーム医療が果たす役割を理解する。

授業の概要

長期的な視点で持続可能な医療を構築するために、看護の立場から信頼に応える医療の実現を支える看護実践の場の変革モデルとなる実践を取り上げ、そのプロセスと成果に焦点をおく。多職種との連携やチーム医療の成果を主に看護の提供される場での具体例から学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　イノベーションの概念 構成要素
第2回　イノベーションの実践例とその分析
第3回　イノベーションの生成のための基本的な要素
第4回　看護イノベーションにつながるアイデアの生成
第5回　看護イノベーションにつながるアイデアの生成
第6回　看護の臨床の知の発展と保健医療福祉の変革の関連性の分析
第7回　看護のイノベーション構想への人材育成の課題
第8回　まとめ－看護のイノベーション構想の検討
第9回　わが国の戦後における人口動態統計等を踏まえ、周産期医療関連の法律や医療制度と関連した課題と展望
第10回　チーム医療の観点からの周産期医療システムを再考院内助産システム導入の経過と進捗状況を把握し、現状の課題の俯瞰
第11回　院内助産システムの評価指標の再検討と評価の仕組み
第12回　＜病院ならびに施設における転倒予防対策＞転倒リスクの高い要介護高齢者についての効果的に転倒予防理学療法士や作業療法士との連携による転倒予防対策の具体例の検討
第13回　＜ヘルスプロモーションとして行う転倒予防対策＞地域で生活する元気高齢者の転倒予防の実践例と評価多職種協働による（行政や地域住民、高齢者リーダーなどのボランティアとの連携）の実践例
第14回　病院における専門・認定看護師の活用の実際と評価
第15回　病院における新しいケア導入時の多職種協働によるシステム構築

履修上の注意点

教科書

U理論
著者：　Cオットーシャーマン
出版社：英治出版
出版年：2010　　ISBN：

参考書

組織の中の人間
著者：　原岡一馬、若林満編
出版社：福村出版
出版年：1992　　ISBN：

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)
著者：　American Nurses Association
出版社：
出版年：2007　　ISBN：

h701510110

厚生労働科学研究補助金報告書-地 域における周産期医療システムの充実と医療資源の適正配置に関する研究

著者:　主任(岡村州博、海野信也)、分担(遠藤俊子

出版社:

出版年:　ISBN:

イノベーションに関する研究論文を選定し授業資料とする。

著者:

出版社:

出版年:　ISBN:

U理論入門

著者:　中土井僚

出版社: PHP

出版年: 2014　ISBN:

成績評価

試験 (40)　小テスト ( )

授業中課題 ( )　授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2016 Syllabus

科 目 名　**ヘルスケア組織・政策論 <D>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　野村　陽子.髙山　一夫.林正　健二	

テーマ

授業の到達目標

1. 保健医療に係わる歴史的変遷を踏まえ、法制度の仕組みや政策決定プロセスを理解する。2. 医療のあり方と役割、多職種連携のあり方等を自己の課題と関連づけて考察することができる。

授業の概要

わが国の戦後の保健医療に係わる歴史的変遷を踏まえて、社会の変化と保健医療に関わる法制度の仕組みや決定の政策プロセスを学ぶ。日米の医療制度を比較しながら、わが国の医療のあり方と役割、多職種連携のあり方等を考察し、自己の課題と関連づけて学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　チーム医療の概念の整理、チーム医療における政策過程チーム医療における看護職の役割と機能を検討
第2回　チーム医療に関与する専門職の資格制度施設内、在宅医療における専門職の連携のあり方を検討
第3回　看護業務の拡大に関する検討諸外国の看護業務の進展状況と関連づけて検討
第4回　看護業務拡大と看護の資格制度の位置づけ看護師の専門資格化と保健師、助産師の資格制度のあり方について検討
第5回　特定行為の看護師研修制度の創設当該研修制度の意義と看護師の役割変化について検討
第6回　介護職の医療行為に関する政策過程社会福祉士・介護福祉士法改正の意味と課題について検討
第7回　看護業務と介護業務の制度的看護・介護の資格制度の今後のあり方について検討
第8回　看護の今後の役割と課題チーム医療における今後の課題について検討
第9回　医療経済学および比較政策学の基本概念
第10回　医療費とその増加要因、超過医療費分析
第11回　健康格差、医療保障、民間保険と公的保険
第12回　医療における非営利性と公益性、医療法人制度の改革
第13回　医療と看護の経済評価、政策適用上の課題
第14回　EPAによる外国人看護師受け入れを通した多職種連携の現状と課題
第15回　今後の看護のグローバル化におけるチーム医療の課題

履修上の注意点

授業を欠席する場合は、早期に担当教授に連絡すること。

教科書

看護制度と政策
著者:　野村　陽子
出版社:　法政大学出版局
出版年:　2015年　　ISBN:　9784588675188

参考書

健康と医療の公平に挑む
著者:　松田亮三･青木郁夫･髙山一夫
出版社:　勁草書房
出版年:　2009　　ISBN:

日米の医療
著者:　杉田米行編
出版社:　大阪大学出版会
出版年:　2008　　ISBN:

医療経済学の基礎理論と論点
著者:　西村周三･田中滋･遠藤久雄
出版社:　勁草書房
出版年:　2006　　ISBN:

h701510210

国際的視点から学ぶ医療経済学入門

著者:

出版社: 東京大学出版会

出版年: 2004　　ISBN:

The Oxford Handbook of Health Economics

著者: S. Glied and P.C. Smith, eds.

出版社:

出版年: 2012　　ISBN:

ヘルスケア政策に関する研究論文を選定し授業資料とする。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 ( )　　小テスト ( )

授業中課題 (40)　　授業中発表等 (30)

参加度 (30)

2016 Syllabus

科 目 名　**看護キャリア教育開発論 <D>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

看護職の職業的発達を促す教育内容・方法の開発を検討する

授業の到達目標

1. 看護職の職業的発達を促す教育内容と教育方法を開発する必要性を理解する。2. 生涯にわたる看護学の基盤になる自己教育力および人を理解するという理論を体系的に修得する。

授業の概要

看護基礎教育ならびに卒後教育、継続教育等における看護職の職業的発達を促す教育内容・方法の開発を検討する。学士課程においては、生涯にわたる看護学の基盤になる自己教育力と共に、人を理解するという理論を基盤に組織的・体系的に学ぶ。

準備学習（予習・復習）

プレゼンテーション資料に基づいて行います。ディスカッションしながら内容を深めます。

内　容

第1回　看護職者の生涯発達とキャリア形成支援
第2回　看護師のキャリアの可能性
第3回　看護師が臨床で用いる『知』の形成過程(1)
第4回　看護師が臨床で用いる『知』の形成過程(2)
第5回　看護生涯発達学研究：基礎教育におけるキャリア形成とその支援方法
第6回　看護生涯発達学研究：継続教育におけるキャリア形成とその支援方法
第7回　看護生涯発達学研究：卒後教育におけるキャリア形成とその支援方法
第8回　看護生涯発達学研究：看護職のキャリアの可能性
第9回　学士力と社会人基礎力としての看護実践能力
第10回　看護技術修得に向けた自己学習力と自己評価力(1)
第11回　看護技術修得に向けた自己学習力と自己評価力(2)
第12回　看護職業アイデンティティの形成と看護生涯学習
第13回　療養の場における人間関係、病める人々との関わり、感情労働としての看護について検討
第14回　看護職における援助的対人技術とストレスコーピング、患者理解と自己理解、看護師の感情と知性、及びこれらと看護職の職業的発達との関連について検討
第15回　様々なケアが提供されている場における看護行為を探究し、看護職の知の様式と知識創造について検討

履修上の注意点

これまでの自身のキャリアを振り返る機会とし、今後のキャリア教育開発に繋げる。キャリア開発に関する研究論文を授業資料とする。

教科書

参考書

看護師の臨床の『知』－看護職生涯発達学の視点から
著者：　佐藤紀子
出版社：　医学書院
出版年：　2007　　ISBN：

ベナー　ナースを育てる
著者：　パトリシア・ベナー:早野ZITO真佐子訳
出版社：　医学書院
出版年：　2011　　ISBN：

成人教育の現代的実践
著者：　マルカム・ノールズ:堀薫夫監訳、
出版社：　鳳書房
出版年：　2008　　ISBN：

h701510310

キャリア教育開発に関する研究論文を授業資料とする。

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 （ 40 ） 小テスト（ ）

授業中課題（ ） 授業中発表等（ 30 ）

参加度 （ 30 ）

試験として最終レポートを提出していただきます。

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護基礎学特論演習 <D>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小板橋　喜久代.梶谷　佳子.竹下　夏美	

テーマ

関連する学際領域の知見も踏まえて、看護学の基盤となる理論を見なおす。看護学の実証研究に必要な方法論を開発し、臨床へのトランスレーショなるをめざした体系的なエビデンスの構築を探求する

授業の到達目標

1. 看護実践の基盤となる看護技術や教育方法を実証的に明らかにする必要性を理解する。2. 質の高い看護実践を保証するために、介入モデルとその検証方法の開発に取り組むことができる。3. 得られた知見を有機的につなぎ、体系的なエビデンスの生成と理論化に取り組むことができる。

授業の概要

質の高い看護実践を保証していくために、看護実践の基盤となる看護技術や教育方法を実証的に明らかにし、それらを再構築して、本質から実践へと有機的につなぎ、理論的、体系的なエビデンスの生成をめざす。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　実践看護基礎学特論演習イントロダクション
第2回　看護学および看護実践の核となる概念を問い直す
第3回　看護の対象である「健康を目指して生きる人間」への考察(1)
第4回　看護の対象である「健康を目指して生きる人間」への考察(2)
第5回　その人に備わった能力を発見し引き出すための取り組み(1)
第6回　その人に備わった能力を発見し引き出すための取り組み(2)
第7回　看護実践のエビデンスを解くための先行文献のクリティークと課題の発見(1)
第8回　看護実践のエビデンスを解くための先行文献のクリティークと課題の発見(2)
第9回　看護実践における技術の適用の問題
第10回　基礎看護学における研究方法の検討(1)
第11回　基礎看護学における研究方法の検討(2)
第12回　基礎看護学における研究方法の検討(2)
第13回　これからの看護の流れ－看護療法の開発－タッチ・マッサージ手技
第14回　実践看護学と適切な自己防衛
第15回　（総括）学びを通しての自己変容
第16回　看護実践能力の発達と看護職業アイデンティティの形成
第17回　看護実践能力開発のためのプログラム開発－ナラティブアプローチ
第18回　看護実践能力開発のためのプログラム開発－リフレクション
第19回　看護技術修得に向けた学習について
第20回　看護実践能力向上のための事例開発、シミュレーション開発
第21回　看護実践の質に影響する要素について、文献講読を通じて分析を行い、看護実践の評価方法や実証的研究方法についての学びを考察
第22回　看護場面のアセスメントやリフレクティブを通じて分析を行い、看護実践のエビデンスの生成方法について考察
第23回　看護実践の場における自己、患者、状況との関係を考察し、看護実践家やケアギバーに求められる看護行為の要素や看護職の感情労働について検討
第24回　看護実践の質の向上や臨床での有効なケア提供及びその能力開発における課題に関する自己の問題意識の抽出
第25回　看護実践に関連する自己の課題に関連づけながら、信頼性と妥当性のある実証的デザインの研究活動方法について検討
第26回　文化的ケアの多様性と普遍性
第27回　民俗医療システムとヘルスケアシステム
第28回　伝承される民間療法～東南アジアにおける文化的価値観と生活様式
第29回　文化および民俗に対応したケア～特にリプロダクティブヘルスのありよう
第30回　多様な医療システムにおける文化的ケアの意味

履修上の注意点

自分自身の問題意を深める姿勢を持って自律的に取り組む。常に、社会のニーズを先取りし、臨床の改革を進めるリーダーとしての責任を自覚して研究にとりくむ。

教科書

こころと身体の対話
著者:　神庭重信
出版社:　文藝春秋

h701510410

出版年: 2006　　ISBN:

参考書

ベナー看護ケアの臨床知　行動しつつ考える

著者:　P. Benner,P.L. Hooper-Kyriakidis,D.Stannard:井上智子監訳

出版社: 医学書院

出版年: 2005　　ISBN:

成績評価

試験 （ 30 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等 （ 40 ）

参加度 （ 30 ）

課題レポートの提出を求める

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学特論演習 <D>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　沼本　教子.河原　宣子.富永　真己.松本　賢哉	

テーマ

授業の到達目標

1. 老年症候群を有する高齢者、地域で生活する療養者および精神保健上の課題をもつ人々に対する看護介入方法と支援システムの必要性について考究する。2. 慢性疾患や精神疾患を抱える人々の質の高い療養生活を支援するための介入モデルの開発とその検証方法の開発に取り組むことができる。

授業の概要

慢性疾患や精神疾患、老年症候群を有する人々および精神保健上の課題をもつ人々が質の高い入院・入所生活や地域生活を営めるようなヘルスケアシステムが求められている。このような健康課題をもつ個人や家族、集団に対して、質の高い療養生活を支援するための介入モデルの開発とその検証方法、支援システムについて探求する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　「老いること」に関する哲学的考察：歴史的文脈を踏まえて考察
第2回　〃
第3回　生涯発達論をもとにした老年期のとらえ方について考察
第4回　〃
第5回　生涯発達を支える老年看護のあり方と課題について考察
第6回　〃
第7回　高齢者の終末期をめぐる医療・看護モデルの再構築について考察
第8回　〃
第9回　高齢者ケアを担う連携・協働（医療・福祉チームワークのあり方、課題）について考察
第10回　〃
第11回　在宅療養者とその家族における支援システムについて国内外の文献から考究
第12回　文献検討を踏まえ、在宅療養者の療養生活継続を可能にするための看護ケアについて家族看護の視点から事例検討
第13回　地域における災害時要援護者対策に関する支援システムについて国内外の文献から考究
第14回　文献検討と上記の検討内容を踏まえ、災害への減災ならびに災害時要援護者対策の支援システムについて事例検討を通して考察
第15回　〃
第16回　疾病予防と看護：第一次、第二次、第三次予防の概念を踏まえ、人々の健康、中でも精神保健に焦点をあて、看護職の役割について探究
第17回　精神疾患と危険因子：精神保健について問題を抱える人々に関し、精神疾患の頻度と危険因子から考察
第18回　精神健康の測定尺度と評価：精神保健について問題を抱える人々へのアプローチ方法として、精神健康の測定尺度とその評価について考察
第19回　第一次予防の科学的根拠と対策：精神保健の第一次予防について、労働者に焦点をあて、科学的根拠に基づく保健対策について探究
第20回　第二次、三次予防の科学的根拠と対策：精神保健の第二次、三次予防について、労働者に焦点をあて、科学的根拠に基づく保健対策と看護職の役割について探究
第21回　精神の健康問題を抱えている人や家族の問題を文献検討
第22回　精神の健康問題を抱えている人の地域生活支援について文献検討
第23回　病状評価・社会生活技能に関する評価方法について事例検討を通して考察
第24回　精神の健康問題を抱えている人の地域生活を継続するための支援を考察
第25回　精神の健康問題を抱えている人とその家族への介入方法について事例検討を通して考察
第26回　悪性疾患を有しながら療養生活を営む人々ならびにその家族のセルフケア介入モデルについて国内外の文献から考究
第27回　生活習慣病を有しながら療養生活を営む人々ならびにその家族のセルフケア介入モデルについて国内外の文献から考究
第28回　文献検討の結果から、セルフケア介入モデルの課題の明確化および課題の適切性を検討
第29回　悪性疾患や生活習慣病を有しながら療養生活を営む人々ならびにその家族のセルフケア能力に焦点を当てた介入モデルの課題を解決するための方法論を検討
第30回　悪性疾患や生活習慣病を有しながら療養生活を営む人々ならびにその家族のセルフケア能力に焦点を当てた介入モデルについて事例検討を通して探究

履修上の注意点

教科書

参考書

老いの近代
著者:　天野正子
出版社:　岩波書店
出版年:　1999　ISBN:

老年期
著者:　E.H.エリクソン:朝長正徳ら訳
出版社:　みすず書房
出版年:　1990　ISBN:

幼児期と社会Ⅰ,Ⅱ
著者:　E.H.エリクソン:仁科弥生訳
出版社:　みすず書房
出版年:　1977　ISBN:

老後がなぜ悲劇なのか
著者:　ロバート・バトラー:グレッグ・中村文子訳
出版社:　メジカルフレンド社
出版年:　1991　ISBN:

ケアの社会学
著者:　上野千鶴子
出版社:　太田出版
出版年:　2011　ISBN:

延命医療と臨床現場
著者:　会田薫子
出版社:
出版年:　2011　ISBN:

Theory and Practice in Nursing
著者:
出版社:　Community As Partner
出版年:　ISBN:

Leahey Maureen, Nurses and Families: A Guide to Family Assessment and Intervention
著者:
出版社:　Lorraine M.,. Wright
出版年:　ISBN:

Principles and Practice of Psychiatric Nursing
著者:
出版社:　Gail W. Stuart. & Michele T. Laraia
出版年:　ISBN:

予防医学のストラテジー
著者:
出版社:　メジカルフ学書院
出版年:　1998　ISBN:

成績評価

試験　(30)　小テスト　( )
授業中課題　( )　授業中発表等　(40)
参加度　(30)

2016 Syllabus

科 目 名　**次世代育成看護学特論演習 <D>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　遠藤　俊子.神﨑　光子.中島　登美子.堀　妙子	

テーマ

授業の到達目標

1. 女性や子ども、家族の立場を基軸に、様々な角度から社会における保健医療システムのあり方を考究する。2. 女性と子ども、家族のニーズに沿った周産期・育児期の看護ケアを開発する必要性を理解できる。3. ヘルスケアプロバイザーとして看護介入モデルの開発に取り組むことができる。

授業の概要

少子化が継続しているわが国の、子を産むこと・育てることを、女性や子ども、家族の立場を基軸に就業･雇用、教育など様々な角度から検討し、社会における保健医療のシステムのありかたも含めて、ヘルスケアプロバイザーとしての看護介入モデルの開発に取り組む。女性と子ども、家族のニーズに沿った周産期・育児期の看護ケアに焦点をあてる。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　母性看護（Maternity Nursing ）、助産（Midwifery）に関する研究の動向を、わが国ならびに諸外国の主要論文5年間程度収集論文から、妊娠・分娩・産褥(子育て)期の研究課題の抽出(1)
第2回　母性看護（Maternity Nursing ）、助産（Midwifery）に関する研究の動向を、わが国ならびに諸外国の主要論文5年間程度収集論文から、妊娠・分娩・産褥(子育て)期の研究課題の抽出(2)
第3回　親役割獲得理論の概観(1)(Klaus,M&Kennell1982)(Lutz,K&MayK2007)(Mercer,R2004,2006,),(Moore,E2009)(Nelson,A2003)(Rubin,R1961)し、わが国の実践ならびに研究への活用性についての検討
第4回　親役割獲得理論の概観(2)(Klaus,M&Kennell1982)(Lutz,K&MayK2007)(Mercer,R2004,2006,),(Moore,E2009)(Nelson,A2003)(Rubin,R1961)し、わが国の実践ならびに研究への活用性についての検討
第5回　親役割獲得理論の概観(3)(Klaus,M&Kennell1982)(Lutz,K&MayK2007)(Mercer,R2004,2006,),(Moore,E2009)(Nelson,A2003)(Rubin,R1961)し、わが国の実践ならびに研究への活用性についての検討
第6回　わが国の妊娠・出産に関する安全性を保証するガイドライン、産婦人科ガイドライン産科編2011、助産所業務ガイドラインの理解
第7回　わが国の産科医療補償制度に沿った事例分析方法と結果・今後の取り組みについて理解以上からのわが国の看護(助産)の方向性と研究課題への示唆
第8回　乳幼児虐待の実態と、周産期における予防的ケアについて検討
第9回　生殖補助医療の実態と、母子・家族の抱える課題
第10回　利用者の立場から考える「安全なお産、安心なお産」
第11回　母子関係の形成における介入研究の理論的基盤と成果変数抽出の課題について検討
第12回　母子関係の形成が家族の発達に及ぼす影響に関する研究論文をもとに、小児看護とヘルスケアシステムの課題について検討
第13回　発達理論をもとに子どもの発達上の課題を検討し、家族の関わりとの関連をふまえ、看護における介入研究の方向性を検討
第14回　発達理論を基盤とした介入研究における成果変数を抽出する課題、および看護介入の成果を実証する課題について検討
第15回　健康を患う子どもと家族に対する看護介入の理論的基盤と成果変数の抽出について検討
第16回　健康を患う子どもと家族に対する看護介入の研究成果をヘルスケアシステムに反映する方略を検討
第17回　早期産の母親に対する看護介入の理論的基盤と成果変数の抽出および介入に伴う倫理的課題について検討
第18回　早期産の母親に対する看護介入の研究成果を、ヘルスケアシステムに反映する方略を検討
第19回　早期産児の成長発達を支える看護介入の理論的基盤と成果変数の抽出、および発達を長期間フォローする研究デザインの構築と課題を検討
第20回　子どもと家族に対する看護介入の成果をヘルスケアシステムに反映する方略を検討
第21回　低出生体重児に関連した医療や看護の現状
第22回　Developmental Careの背景と臨床への応用
第23回　Patient and Family Centered care とは
第24回　在宅ケアを必要とする小児やその家族を取り巻く環境
第25回　在宅ケアを必要とする小児やその家族に対する包括的支援のあり方
第26回　家族についての理論と概念家族を捉えるための理論を概観し、家族という概念について考察
第27回　家族看護理論システム理論、構造的アプローチ、発達的アプローチ家族看護の方法論としてのさまざまなアプローチについての考察
第28回　家族ヘルスアセスメント家族のヘルスアセスメントの視点を理解し、家族のヘルスケア機能評価についての考察
第29回　家族形成期の看護（1）育児に関する研究と理論の発達育児と親となる過程に関する研究と理論を概観し、家族看護における問題点の探索
第30回　家族形成期の看護（2）ヘルスケア機能を高める看護の教育的アプローチ家族形成期のヘルスケア機能を高める教育的アプローチに関する看護研究を概観し、研究動向を理解するとともに看護の役割や今後の課題を探索

h701510610

履修上の注意点

教科書

参考書

Maternity &Women's Health Care10th
著者： DeritraLowdermilk, ShannonPerry
出版社： Mosbyu ELSEVIER
出版年： 2011 ISBN：

産婦人科診療ガイドライン産科編2011
著者： 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会
出版社：
出版年： ISBN：

安全なお産、安心なお産「つながり」で気付く、壊れない医療
著者： 河合蘭
出版社： 岩波書店
出版年： 2012 ISBN：

Nursing interventions for infants, children, and families
著者： Craft-Rosenberg,M., Denehy,J.
出版社： Sage
出版年： 2001 ISBN：

家族看護学 理論と実践第3版
著者： 鈴木和子、渡辺裕子
出版社： 日本看護協会出版会
出版年： 2006 ISBN：

次世代育成看護に関する研究論文を選定し授業資料とする。
著者：
出版社：
出版年： ISBN：

成績評価

試験 （ 30 ） 小テスト （ ）
授業中課題 （ ） 授業中発表等 （ 40 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**看護マネジメント学特論演習 <D>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

1. 専門職が協働する場において、高いマネジメント能力を発揮する必要性を理解する。2. 実務から育ててきた統率力や情報の分析、統合力、経営感覚と経済性などの能力を統合し、トップマネジャーとして活用できるレベルに強化する。3. 保健･医療現場運営の中心的存在となる看護マネジメントの在り方を考究する。

授業の概要

〇概要：保健医療福祉の分野で、専門職が協働しながらサービスを提供している現場において、臨床の知を踏まえた高いマネジメント能力を発揮するため、コミュニケーション力、人間関係調整力、交渉力などを用いた統率力や情報の分析、統合力、経営感覚と経済性などの実務から育ててきた能力を、さらに統合し、トップマネジャーとして活用できるレベルに強化する。すなわち、保健･医療現場運営の中心的存在となる看護マネジメントの在り方を考究する。〇授業形式：プレゼンテーションをもとにセミナー形式で進める

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　保健医療福祉の変革と求められる看護の役割
第2回　近年における看護学の発展と看護の機能拡大
第3回　看護マネジメント力について
第4回　看護におけるトップマネジメントに求められる能力と期待
第5回　看護のトップマネジャーの育成(1)
第6回　看護のトップマネジャーの育成(2)
第7回　病院の各部門におけるトップマネジャーとの連携とその成果
第8回　看護マネジメントの課題について事例分析による明確化
第9回　看護のトップマネジャーの課題について事例分析による明確化
第10回　まとめ－看護マネジメントの未来を開くための研究課題や方法論を検討
第11回　保健師助産師看護師法の成立過程及び改正における政策過程－保健師助産師看護師法における教育、業務の規定に関する課題の明確化
第12回　看護サービスに関する諸制度の構造－医療法、健康保険法、介護保険法等における看護サービスの課題を討議
第13回　医療及び福祉の資格制度の変遷と、資格制度の構造－近年の資格制度における課題について討議し、レポートを作成
第14回　政策の基本的考え方－政策過程の理論と分析方法を理解し、看護政策の課題を討議
第15回　看護政策の量的課題である看護職員確保対策に関する政策決定過程－看護師等の人材確保法の意義と確保対策について討議
第16回　看護政策の質的課題である准看護師制度の政策決定過程－専門性を高める政策についてレポートを作成
第17回　看護政策の経済的評価である診療報酬における政策過程－政策過程における統計データ、エビデンスや研究データの活用方法
第18回　看護業務の拡大の事例として訪問看護制度の政策決定過程－在宅医療における政策課題についてレポートを作成
第19回　近年のチーム医療における看護業務の拡大について検討過程－看護業務の拡大と特定行為の研修制度化について討議
第20回　学生各自の問題意識に基づく政策課題について、アクター分析を行い、その解決策を討議し、政策提言としてレポートを作成
第21回　看護・医療における情報学の位置づけと意義
第22回　情報の定義と看護・医療における情報及び情報処理の特徴
第23回　看護・医療における情報の電子化に関連する法規と倫理
第24回　看護・医療に関する各種マネジメントツールと情報
第25回　看護・医療の質保証と情報(安全管理、EBN開発を含む)
第26回　看護・医療における意思決定プロセスと情報
第27回　医療経営・経済の観点における情報活用
第28回　情報及び情報通信テクノロジーを活用した看護・医療におけるマーケティング
第29回　看護における知識創造と情報
第30回　看護・医療に関するビッグデータ・マイニングとマネジメントへの活用と課題

履修上の注意点

教科書

h701510710

参考書

政策型思考と政治
著者:　松下圭一
出版社:　東京大学出版会
出版年:　1999　　ISBN:

看護マネジメントに関する研究論文を選定し授業資料とする。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

マネジメント上、中、下
著者:　P.F. ドラッカー
出版社:　ダイアモンド社
出版年:　2008　　ISBN:

知識創造の方法論
著者:　野中郁次郎、今野登る
出版社:　東洋経済新報社
出版年:　2008　　ISBN:

成績評価

試験　(30)　　小テスト　(　)
授業中課題　(　)　　授業中発表等　(40)
参加度　(30)

2016 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅰ <Da>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小板橋　喜久代	

テーマ

授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

授業の概要

１年次から2年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第１回公開発表会（中間発表会）をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス　合同
第2回　取り組みたい研究分野　研究疑問　合同セッション①
第3回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第4回　〃
第5回　〃
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　〃
第10回　研究背景の報告会　合同セッション②
第11回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第12回　〃
第13回　〃
第14回　〃
第15回　〃
第16回　〃
第17回　〃
第18回　〃
第19回　〃
第20回　研究計画(案)の報告会　合同セッション③
第21回　研究計画書　作成
第22回　〃
第23回　〃
第24回　〃
第25回　〃
第26回　〃
第27回　〃
第28回　〃
第29回　〃
第30回　研究計画書の発表　合同セッション④

履修上の注意点

各自の課題に沿って、研究テーマを絞り込んでいきます。社会的・あるいは看護学上の課題に照らして、問題の関心を絞り込んでいってください。

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)
著者：　American Nurses Association

h701510810

出版社:
出版年: 2007 ISBN:

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( )
授業中課題 ( ) 授業中発表等 (50)
参加度 (50)
課題に沿ったレポートとプレゼンテーションを重要視します。

2016 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅰ <Db>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　賢哉	

テーマ

授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

授業の概要

１年次から2年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第１回公開発表会（中間発表会）をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　ガイダンス　合同
第2回　取り組みたい研究分野　研究疑問　合同セッション①
第3回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第4回　〃
第5回　〃
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　〃
第10回　研究背景の報告会　合同セッション②
第11回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第12回　〃
第13回　〃
第14回　〃
第15回　〃
第16回　〃
第17回　〃
第18回　〃
第19回　〃
第20回　研究計画(案)の報告会　合同セッション③
第21回　研究計画書　作成
第22回　〃
第23回　〃
第24回　〃
第25回　〃
第26回　〃
第27回　〃
第28回　〃
第29回　〃
第30回　研究計画書の発表　合同セッション④

履修上の注意点

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)
著者:　American Nurses Association
出版社:
出版年:　2007　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅱ <Da>**

クラス		配当回生	大学院2回生
講義期間	後期集中	定　　員	
履修条件	特別研究Ⅰを修得済であること	クラス指定	
担 当 者	小板橋　喜久代		

テーマ

授業の到達目標

特別研究Ⅰの研究計画を実施し、データ収集を経て分析し、新たな知の構築をめざして水準の高い研究論文を作成する。審査ならびに第2回公開発表会を経て、博士論文を完成する。これらの過程を経て、自立的に研究を実施、評価する能力を獲得する。

授業の概要

特別研究Ⅰで立案した研究計画をもとに、主指導教員および副指導教員の指導を受けながら研究活動を実施する。研究活動によって得られたデータを分析し、新たな知の構築をめざして研究論文としてまとめ、審査ならびに公開発表を経て博士論文を完成させる。

準備学習（予習・復習）

研究計画書の作成から研究倫理委員会の審査に向けて、研究方法を確定していきます。現時点で得られる関連資料を精査して、進めてください

内　　容

第1回　データ収集と分析
第2回　〃
第3回　〃
第4回　〃
第5回　〃
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　〃
第10回　〃
第11回　結果の論述
第12回　〃
第13回　〃
第14回　〃
第15回　〃
第16回　〃
第17回　〃
第18回　〃
第19回　〃
第20回　〃
第21回　分析・考察して論文全体の作成
第22回　〃
第23回　〃
第24回　〃
第25回　〃
第26回　〃
第27回　〃
第28回　〃
第29回　〃
第30回　〃

履修上の注意点

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)

著者：　American Nurses Association

出版社：

h701510950

出版年: 2007 ISBN:

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( )
授業中課題 ( ) 授業中発表等 (50)
参加度 (50)
研究計画書の立案と研究開始後のデータ収集の進捗状況により、自己評価をしてください。

2016 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅱ <Db>**

クラス		配当回生	大学院2回生
講義期間	後期集中	定　　員	
履修条件	特別研究Ⅰを修得済であること	クラス指定	
担 当 者	沼本　教子		

テーマ

授業の到達目標

特別研究Ⅰの研究計画を実施し、データ収集を経て分析し、新たな知の構築をめざして水準の高い研究論文を作成する。審査ならびに第2回公開発表会を経て、博士論文を完成する。これらの過程を経て、自立的に研究を実施、評価する能力を獲得する。

授業の概要

特別研究Ⅰで立案した研究計画をもとに、主指導教員および副指導教員の指導を受けながら研究活動を実施する。研究活動によって得られたデータを分析し、新たな知の構築をめざして研究論文としてまとめ、審査ならびに公開発表を経て博士論文を完成させる。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　データ収集と分析
第2回　〃
第3回　〃
第4回　〃
第5回　〃
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　〃
第10回　〃
第11回　結果の論述
第12回　〃
第13回　〃
第14回　〃
第15回　〃
第16回　〃
第17回　〃
第18回　〃
第19回　〃
第20回　〃
第21回　分析・考察して論文全体の作成
第22回　〃
第23回　〃
第24回　〃
第25回　〃
第26回　〃
第27回　〃
第28回　〃
第29回　〃
第30回　〃

履修上の注意点

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)
著者：　American Nurses Association
出版社：
出版年：　2007　　ISBN：

h701510952

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅱ <Dc>**

クラス		配当回生	大学院2回生
講義期間	後期集中	定　　員	
履修条件	特別研究Ⅰを修得済であること	クラス指定	
担 当 者	松本　賢哉		

テーマ

授業の到達目標

特別研究Ⅰの研究計画を実施し、データ収集を経て分析し、新たな知の構築をめざして水準の高い研究論文を作成する。審査ならびに第2回公開発表会を経て、博士論文を完成する。これらの過程を経て、自立的に研究を実施、評価する能力を獲得する。

授業の概要

特別研究Ⅰで立案した研究計画をもとに、主指導教員および副指導教員の指導を受けながら研究活動を実施する。研究活動によって得られたデータを分析し、新たな知の構築をめざして研究論文としてまとめ、審査ならびに公開発表を経て博士論文を完成させる。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　データ収集と分析
第2回　〃
第3回　〃
第4回　〃
第5回　〃
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　〃
第10回　〃
第11回　結果の論述
第12回　〃
第13回　〃
第14回　〃
第15回　〃
第16回　〃
第17回　〃
第18回　〃
第19回　〃
第20回　〃
第21回　分析・考察して論文全体の作成
第22回　〃
第23回　〃
第24回　〃
第25回　〃
第26回　〃
第27回　〃
第28回　〃
第29回　〃
第30回　〃

履修上の注意点

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)
著者：　American Nurses Association
出版社：
出版年：　2007　　ISBN：

h701510953

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅰ（2回生枠）<Da>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小板橋　喜久代	

テーマ

各自の設定した研究課題を探求するために、研究計画を構築するとともに、具体的な研究実施に向けた方法論を追求する

授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

授業の概要

〇概要：1年次から2年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第1回公開発表会（中間発表会）をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　研究計画書の発表　合同セッション④
第2回　研究計画書　修正と完成
第3回　〃
第4回　〃
第5回　〃
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　〃
第10回　〃
第11回　研究計画書　公開発表会
第12回　〃
第13回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出
第14回　〃
第15回　〃
第16回　〃
第17回　〃
第18回　〃
第19回　〃
第20回　〃
第21回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整必要によってはプレテスト的なデータ収集開始
第22回　〃
第23回　〃
第24回　〃
第25回　〃
第26回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化
第27回　〃
第28回　〃
第29回　〃
第30回　〃

履修上の注意点

計画遂行のために、仕事と研究の時間を振り分けて、有効な取り組みを進める

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)
著者：

h701511010

出版社: American Nurses Association

出版年: 2007　　ISBN:

身体の中からストレスを見る

著者:　日本比較内分泌学会

出版社: 学会出版センター

出版年: 2000　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 50 ）

参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅰ（2回生枠）<Db>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　沼本　教子	

テーマ

授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

授業の概要

〇概要：1年次から2年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第１回公開発表会（中間発表会）をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　研究計画書の発表　合同セッション④
第2回　研究計画書　修正と完成
第3回　〃
第4回　〃
第5回　〃
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　〃
第10回　〃
第11回　研究計画書　公開発表会
第12回　〃
第13回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出
第14回　〃
第15回　〃
第16回　〃
第17回　〃
第18回　〃
第19回　〃
第20回　〃
第21回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整必要によってはプレテスト的なデータ収集開始
第22回　〃
第23回　〃
第24回　〃
第25回　〃
第26回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化
第27回　〃
第28回　〃
第29回　〃
第30回　〃

履修上の注意点

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)
著者：
出版社：American Nurses Association
出版年：2007　　ISBN：

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅰ（2回生枠）<Dc>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　賢哉	

テーマ

授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

授業の概要

〇概要：1年次から2年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第１回公開発表会（中間発表会）をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　研究計画書の発表　合同セッション④
第2回　研究計画書　修正と完成
第3回　〃
第4回　〃
第5回　〃
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　〃
第10回　〃
第11回　研究計画書　公開発表会
第12回　〃
第13回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出
第14回　〃
第15回　〃
第16回　〃
第17回　〃
第18回　〃
第19回　〃
第20回　〃
第21回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整必要によってはプレテスト的なデータ収集開始
第22回　〃
第23回　〃
第24回　〃
第25回　〃
第26回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化
第27回　〃
第28回　〃
第29回　〃
第30回　〃

履修上の注意点

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)
著者：
出版社：American Nurses Association
出版年：2007　　ISBN：

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅰ（2回生枠）<Dd>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　遠藤　俊子	

テーマ

授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

授業の概要

〇概要：1年次から2年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第１回公開発表会（中間発表会）をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　研究計画書の発表　合同セッション④
第2回　研究計画書　修正と完成
第3回　〃
第4回　〃
第5回　〃
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　〃
第10回　〃
第11回　研究計画書　公開発表会
第12回　〃
第13回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出
第14回　〃
第15回　〃
第16回　〃
第17回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整必要によってはプレテスト的なデータ収集開始
第18回　〃
第19回　〃
第20回　〃
第21回　〃
第22回　〃
第23回　〃
第24回　〃
第25回　データ収集開始の準備
第26回　〃
第27回　〃
第28回　〃
第29回　〃

履修上の注意点

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)
著者：
出版社：American Nurses Association
出版年：2007　　ISBN：

h701511014

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅰ（2回生枠）<De>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　新道　幸恵	

テーマ

博士論文のための研究計画書の作成

授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

授業の概要

〇概要：1年次から2年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第1回公開発表会（中間発表会）をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　研究計画書の発表　合同セッション④
第2回　研究計画書　修正と完成
第3回　〃
第4回　〃
第5回　〃
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　〃
第10回　〃
第11回　研究計画書　公開発表会
第12回　〃
第13回　最終研究計画書の作成と倫理委員会の準備・提出
第14回　〃
第15回　〃
第16回　〃
第17回　〃
第18回　〃
第19回　〃
第20回　〃
第21回　倫理審査ならびに倫理委員会結果に関する再調整必要によってはプレテスト的なデータ収集開始
第22回　〃
第23回　〃
第24回　〃
第25回　〃
第26回　研究計画書作成・倫理委員会を通しての研究計画の課題と、今後の研究実施に関する課題を明確化
第27回　〃
第28回　〃
第29回　〃
第30回　〃

履修上の注意点

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)
著者：
出版社：American Nurses Association

h701511015

出版年: 2007 ISBN:

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( )
授業中課題 ( ) 授業中発表等 (50)
参加度 (50)

2016 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅱ（3回生枠）<Da>**

クラス		配当回生	大学院3回生
講義期間	通年集中	定　　員	
履修条件	特別研究Ⅰを修得済であること	クラス指定	
担 当 者	沼本　教子		

テーマ

授業の到達目標

特別研究Ⅰの研究計画を実施し、データ収集を経て分析し、新たな知の構築をめざして水準の高い研究論文を作成する。審査ならびに第2回公開発表会を経て、博士論文を完成する。これらの過程を経て、自立的に研究を実施、評価する能力を獲得する。

授業の概要

〇概要：特別研究Ⅰで立案した研究計画をもとに、主指導教員および副指導教員の指導を受けながら研究活動を実施する。研究活動によって得られたデータを分析し、新たな知の構築をめざして研究論文としてまとめ、審査ならびに公開発表を経て博士論文を完成させる。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第29回　〃
第30回　〃
第1回　博士論文全体の要旨、骨子の整理したものを発表　合同セッション①
第2回　〃
第3回　博士論文の作成、予備審査準備
第4回　〃
第5回　〃
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　〃
第10回　〃
第11回　予備審査
第12回　〃
第13回　博士論文の修正・洗練
第14回　〃
第15回　〃
第16回　〃
第17回　〃
第18回　〃
第19回　〃
第20回　〃
第21回　博士論文の修正と最終提出
第22回　〃
第23回　〃
第24回　〃
第25回　〃
第26回　博士論文　公開発表会／最終審査
第27回　〃
第28回　論文作成過程　合同セッション②

履修上の注意点

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)
著者：
出版社：American Nurses Association
出版年：2007　　ISBN：

h701511150

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅱ（3回生枠）<Db>**

クラス		配当回生	大学院3回生
講義期間	通年集中	定　　員	
履修条件	特別研究Ⅰを修得済であること	クラス指定	
担 当 者	遠藤　俊子		

テーマ

授業の到達目標

特別研究Ⅰの研究計画を実施し、データ収集を経て分析し、新たな知の構築をめざして水準の高い研究論文を作成する。審査ならびに第2回公開発表会を経て、博士論文を完成する。これらの過程を経て、自立的に研究を実施、評価する能力を獲得する。

授業の概要

〇概要：特別研究Ⅰで立案した研究計画をもとに、主指導教員および副指導教員の指導を受けながら研究活動を実施する。研究活動によって得られたデータを分析し、新たな知の構築をめざして研究論文としてまとめ、審査ならびに公開発表を経て博士論文を完成させる。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　博士論文全体の要旨、骨子の整理したものを発表　合同セッション①
第2回　〃
第3回　博士論文の作成、予備審査準備
第4回　〃
第5回　〃
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　〃
第10回　〃
第11回　予備審査
第12回　〃
第13回　博士論文の修正・洗練
第14回　〃
第15回　〃
第16回　〃
第17回　〃
第18回　〃
第19回　〃
第20回　〃
第21回　博士論文の修正と最終提出
第22回　〃
第23回　〃
第24回　〃
第25回　〃
第26回　博士論文　公開発表会／最終審査
第27回　〃
第28回　論文作成過程　合同セッション②
第29回　〃
第30回　〃

履修上の注意点

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)
著者：
出版社：American Nurses Association
出版年：2007　　ISBN：

h701511152

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅱ（3回生枠）<Dc>**

クラス		配当回生	大学院3回生
講義期間	通年集中	定　　員	
履修条件	特別研究Ⅰを修得済であること	クラス指定	
担 当 者	新道　幸恵		

テーマ

授業の到達目標

特別研究Ⅰの研究計画を実施し、データ収集を経て分析し、新たな知の構築をめざして水準の高い研究論文を作成する。審査ならびに第2回公開発表会を経て、博士論文を完成する。これらの過程を経て、自立的に研究を実施、評価する能力を獲得する。

授業の概要

〇概要：特別研究Ⅰで立案した研究計画をもとに、主指導教員および副指導教員の指導を受けながら研究活動を実施する。研究活動によって得られたデータを分析し、新たな知の構築をめざして研究論文としてまとめ、審査ならびに公開発表を経て博士論文を完成させる。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　博士論文全体の要旨、骨子の整理したものを発表　合同セッション①
第2回　〃
第3回　博士論文の作成、予備審査準備
第4回　〃
第5回　〃
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　〃
第10回　〃
第11回　予備審査
第12回　〃
第13回　博士論文の修正・洗練
第14回　〃
第15回　〃
第16回　〃
第17回　〃
第18回　〃
第19回　〃
第20回　〃
第21回　博士論文の修正と最終提出
第22回　〃
第23回　〃
第24回　〃
第25回　〃
第26回　博士論文　公開発表会／最終審査
第27回　〃
第28回　論文作成過程　合同セッション②
第29回　〃
第30回　〃

履修上の注意点

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)
著者：
出版社：American Nurses Association
出版年：2007　　ISBN：

h701511153

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅱ（3回生枠）<Dd>**

クラス		配当回生	大学院3回生
講義期間	その他	定　員	
履修条件	特別研究Ⅰを修得済であること	クラス指定	
担 当 者	（休講）		

テーマ

博士論文のデータ収集、分析、考察などを経て論文を完成させる

授業の到達目標

特別研究Ⅰの研究計画を実施し、データ収集を経て分析し、新たな知の構築をめざして水準の高い研究論文を作成する。審査ならびに第2回公開発表会を経て、博士論文を完成する。これらの過程を経て、自立的に研究を実施、評価する能力を獲得する。

授業の概要

〇概要：特別研究Ⅰで立案した研究計画をもとに、主指導教員および副指導教員の指導を受けながら研究活動を実施する。研究活動によって得られたデータを分析し、新たな知の構築をめざして研究論文としてまとめ、審査ならびに公開発表を経て博士論文を完成させる。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　博士論文全体の要旨、骨子の整理したものを発表　合同セッション①
第2回　〃
第3回　博士論文の作成、予備審査準備
第4回　〃
第5回　〃
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　〃
第10回　〃
第11回　予備審査
第12回　〃
第13回　博士論文の修正・洗練
第14回　〃
第15回　〃
第16回　〃
第17回　〃
第18回　〃
第19回　〃
第20回　〃
第21回　博士論文の修正と最終提出
第22回　〃
第23回　〃
第24回　〃
第25回　〃
第26回　博士論文　公開発表会／最終審査
第27回　〃
第28回　論文作成過程　合同セッション②
第29回　〃
第30回　〃

履修上の注意点

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)
著者：
出版社：American Nurses Association
出版年：2007　　ISBN：

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**健康科学特論Ⅰ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　村田　伸.兒玉　隆之.坂本　敏郎.中村　和夫.日比野　英子.宮崎　純弥	

テーマ

授業の到達目標

健康科学研究の理論的基礎を理解し、今後の研究課題についての展望を得る。

授業の概要

心理学と理学療法学を統合する健康科学への理解を促すために、本科目では、健康科学の基礎分野と位置づける脳科学について「脳を介して出会う心理学と理学療法学」というテーマで、脳の構造と機能に関する講義を行った後、心理学と理学療法学それぞれの視点から講義内容と関連した問題提起を行い、両分野の教員と学生とで討論し、今後の健康科学研究の可能性を探る。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーションー脳を介して出会う心理学と理学療法学ー
第2回　講義①：男と女の脳科学（性分化の進化生物学）
第3回　講義②：記憶と学習の脳科学（神経可塑性のメカニズム
第4回　講義③：情動の脳科学（扁桃体と視床下部の相互作用）
第5回　講義④：社会性の発達と脳科学（絆の形成とオキシトシン）
第6回　問題提起①：生物行動安全制御システムとしての愛着 および討論
第7回　問題提起②：気分・感情評価の現状と課題 および討論
第8回　総合討論
第9回　講義①：脳機能状態としてのResting state networkからみた健康
第10回　講義②：ヒトの共感脳システムと行為の意図について
第11回　講義③：慢性的な痛みやストレスと、脳の関連について
第12回　講義④：脳の健康作りについて（ニューロフィードバックを用いて）
第13回　問題提起①：言語的思考の発達と実行機能との関連について および討論
第14回　問題提起②：運動器機能改善に必要な認知・注意 および討論
第15回　総合討論

履修上の注意点

教科書

参考書

脳とホルモンの行動学ー行動神経内分泌学への招待
著者：　近藤保彦他 編
出版社：西村書店
出版年：　　ISBN：

脳から見える心　臨床心理に生かす脳科学
著者：　岡野憲一郎
出版社：岩崎学術出版社
出版年：　　ISBN：

ミラーニューロンと〈心の理論〉
著者：　子安増生・大平英樹 編
出版社：新曜社
出版年：　　ISBN：

メタ認知ー学習力を支える高次認知機能ー
著者：　三宮真智子 編
出版社：北大路書房
出版年：　　ISBN：

h90101a110

運動機能障害症候群のマネジメントー理学療法評価・MSBアプローチ・ADL指導

著者:　Shirley A. Sahrmann

出版社: 医歯薬出版

出版年: 2005　　ISBN:

成績評価

試験 （ 50 ）　　小テスト （ 0 ）

授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 0 ）

参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅰ〈Ma〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎	

テーマ

修士論文作成のための健康科学研究に取り組む。

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。具体的には、記憶・学習、情動、社会行動を制御する脳内機構およ内分泌機構を明らかにする実証研究の指導を行う。研究計画を立案するために先行研究の動向と問題点を探る。研究の目的を明確にするとともに、その斬新性、独創性について議論する。実験を実施し、データを取得、分析しながら、仮説や目的の再検討を行う。副研究指導教員（理学療法学）によって、動物の基礎的研究をどのように人に応用できるかについての議論と補助的指導が行われる。

準備学習（予習・復習）

関連する先行研究の文献等を収集し、内容を理解する。

内　　容

第1回　ガイダンス （合同）
第2回　研究テーマについて発表、討論 （合同）
第3回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第4回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第5回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第6回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第7回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第8回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第9回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第10回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第11回　研究計画書の作成と動物実験委員会への申請指導
第12回　研究計画書の作成と動物実験委員会への申請指導
第13回　研究計画書の作成と動物実験委員会への申請指導
第14回　研究計画書の作成と動物実験委員会への申請指導
第15回　研究計画書の作成と動物実験委員会への申請指導
第16回　動物実験委員会の結果を踏まえての研究計画の修正
第17回　動物実験委員会の結果を踏まえての研究計画の修正
第18回　実験の実施およびデータの取得
第19回　実験の実施およびデータの取得
第20回　実験の実施およびデータの取得
第21回　実験の実施およびデータの取得
第22回　実験の実施およびデータの取得
第23回　実験の実施およびデータの取得
第24回　中間報告・研究計画の発表 （合同）
第25回　中間報告・研究計画の発表 （合同）
第26回　実験の実施およびデータの取得
第27回　実験の実施およびデータの取得
第28回　実験の実施およびデータの取得
第29回　実験データの分析と結果の考察
第30回　実験データの分析と結果の考察

履修上の注意点

教科書

参考書

院生の計画する個々の研究テーマに即して随時文献を紹介する。

著者:

h90101a250

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 （ ） 小テスト（ ）

授業中課題 （ 30 ） 授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅰ〈Mb〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学的研究の指導を行う。具体的には、個人の自己価値・自己肯定感と、心身の健康、活動性、対人関係、社会適応等との関連性を明らかにし、課題の改善策を見出す実証的研究の指導を行う。思春期・青年期を対象とする場合、研究フィールドとして様々な学校、適応指導教室、塾などが想定される。それらの現場での参加観察を基盤とする研究を重視する。副研究指導教員（理学療法学）は、身体の健康や活動性等について専門的知識による補助的指導を行う。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　ガイダンス （合同）
第2回　研究テーマについて発表、討論 （合同）
第3回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第4回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第5回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第6回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第7回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第8回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第9回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第10回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第11回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第12回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第13回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第14回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第15回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第16回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第17回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第18回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第19回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第20回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第21回　研究計画書の作成
第22回　研究計画書の作成
第23回　研究計画書の作成
第24回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第25回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第26回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第27回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第28回　予備調査・パイロット実験等
第29回　予備調査・パイロット実験等
第30回　予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

教科書

参考書

院生の計画する個々の研究テーマに即して随時文献を紹介する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）
授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅰ〈Mc〉**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

臨床心理学領域における、カウンセリング、イメージ療法や教育臨床動作法など、個人および集団に対する心理療法をテーマとした研究指導を行う。テーマの構想や内容をリスニング、ディスカッションや文献精読などを通して、専門領域での独自性・独創性のある研究として明確化・具体化できるよう指導する。

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。臨床心理学領域における、カウンセリング、イメージ療法や教育臨床動作法など、個人および集団に対する心理療法をテーマとした研究指導を行う。テーマの構想や内容をリスニング、ディスカッションや文献精読などを通して、専門領域での独自性・独創性のある研究として明確化・具体化できるよう指導する。副研究指導教員は以上の担当者の指導をサポートする。

準備学習（予習・復習）

各人のテーマに沿った論文、文献等の精読および論文作成。

内　　容

第1回　ガイダンス （合同）
第2回　研究テーマについて発表、討論 （合同）
第3回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第4回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第5回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第6回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第7回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第8回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第9回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第10回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第11回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第12回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第13回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第14回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第15回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第16回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第17回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第18回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第19回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第20回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第21回　研究計画書の作成
第22回　研究計画書の作成
第23回　研究計画書の作成
第24回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第25回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第26回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第27回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第28回　予備調査・パイロット実験等
第29回　予備調査・パイロット実験等
第30回　予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

教科書

参考書

対人援助職のためのリスニングーカウンセリングの基本となる聞き方

著者:　中島暢美

h90101a253

出版社: ナカニシヤ出版

出版年: ISBN:

デイブリーフィング・ワークの研究

著者: 中島暢美

出版社: 関西学院大学出版会

出版年: ISBN:

その他、院生の計画する個々の研究テーマに即して随時文献を紹介する。

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( )

授業中課題 (30) 授業中発表等 (30)

参加度 (40)

各人のテーマに沿った積極的な発表およびディスカッションへの参加度を総合評価する

2016 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅰ <Md>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

研究テーマの探求

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。心身一如、ホリスティックな立場をとる人間性心理学領域に関して、テーマを探索・選択し、研究計画の立案とパイロット研究を行うまでを指導する。副研究指導教員は、身体へのアプローチや生理的反応について助言・指導を行う。受講者は研究計画について発表し、研究倫理委員会の審査を受ける。主副研究指導教員の元、研究計画を完成させ、予備的調査・実験を行う。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス （合同）
第2回　研究テーマについて発表、討論 （合同）
第3回　研究テーマの動向と先行研究の文献レビュー
第4回　研究テーマの動向と先行研究の文献レビュー
第5回　研究テーマの動向と先行研究の文献レビュー
第6回　研究テーマの動向と先行研究の文献レビュー
第7回　研究テーマの動向と先行研究の文献レビュー
第8回　研究テーマの動向と先行研究の文献レビュー
第9回　研究テーマの動向と先行研究の文献レビュー
第10回　研究テーマの動向と先行研究の文献レビュー
第11回　研究テーマの文献レビューと目的・方法の確定
第12回　研究テーマの文献レビューと目的・方法の確定
第13回　研究テーマの文献レビューと目的・方法の確定
第14回　研究テーマの文献レビューと目的・方法の確定
第15回　研究テーマの文献レビューと目的・方法の確定
第16回　研究テーマの文献レビューと目的・方法の確定
第17回　研究テーマの文献レビューと目的・方法の確定
第18回　研究テーマの文献レビューと目的・方法の確定
第19回　研究テーマの文献レビューと目的・方法の確定
第20回　研究テーマの文献レビューと目的・方法の確定
第21回　研究計画の立案と研究計画書の作成
第22回　研究計画の立案と研究計画書の作成
第23回　研究計画の立案と研究計画書の作成
第24回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第25回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第26回　研究計画の再考と修正
第27回　研究計画の再考と修正
第28回　予備調査・パイロット実験等
第29回　予備調査・パイロット実験等
第30回　予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

教科書

参考書

院生の計画する個々の研究テーマに即して随時文献を紹介する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）
授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅰ〈Me〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　永野 光朗	

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。社会的関係の構築、維持や社会の中での個人の適切な位置づけは、心身の健康を維持するうえでたいへん重要である。この授業では衣服や消費といったテーマに関連づけながら、基礎分野の社会心理学を上記の問題に応用して問題解決を図るという視点での研究遂行を行うための文献講読と研究計画の立案および予備調査を行う。副研究指導教員より特に心身の相互作用という視点から文献の提供や研究法の提案を行う。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス （合同）
第2回　研究テーマについて発表、討論 （合同）
第3回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第4回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第5回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第6回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第7回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第8回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第9回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第10回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第11回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第12回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第13回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第14回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第15回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第16回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第17回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第18回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第19回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第20回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第21回　研究計画書の作成
第22回　研究計画書の作成
第23回　研究計画書の作成
第24回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第25回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第26回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第27回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第28回　予備調査・パイロット実験等
第29回　予備調査・パイロット実験等
第30回　予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

教科書

参考書

院生の計画する個々の研究テーマに即して随時文献を紹介する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）
授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅰ〈Mf〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　和夫	

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。「当事者の語る言葉の背後にある内面的意味を探る」というテーマの下に、様々なフィールドにおける当事者の抱える問題群の探究、関連する文献・先行研究の渉猟、用語や概念の理解などにわたる指導を経て、研究フィールドの決定、具体的テーマと研究目的・研究方法の決定など、研究計画を立案する。なお、問題が身体のハンディキャップとも関連する場合には、とりわけ副研究指導教員との緊密な連携指導を図る。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　ガイダンス （合同）
第2回　予備的な研究テーマについて発表、討論 （合同）
第3回　様々なフィールドに生起している問題群の探索と発見
第4回　様々なフィールドに生起している問題群の探索と発見
第5回　様々なフィールドに生起している問題群の探索と発見
第6回　様々なフィールドに生起している問題群の探索と発見
第7回　様々なフィールドに生起している問題群の探索と発見
第8回　様々なフィールドに生起している問題群の探索と発見
第9回　様々なフィールドに生起している問題群の探索と発見
第10回　様々なフィールドに生起している問題群の探索と発見
第11回　関連する先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第12回　関連する先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第13回　関連する先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第14回　関連する先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第15回　関連する先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第16回　関連する先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第17回　関連する先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第18回　関連する先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第19回　関連する先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第20回　関連する先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第21回　研究フィールド、具体的研究テーマ、研究目的・方法の確定と研究計画の立案
第22回　研究フィールド、具体的研究テーマ、研究目的・方法の確定と研究計画の立案
第23回　研究フィールド、具体的研究テーマ、研究目的・方法の確定と研究計画の立案
第24回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第25回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第26回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第27回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第28回　予備調査
第29回　予備調査
第30回　予備調査

履修上の注意点

教科書

参考書

院生の計画する個々の研究テーマに即して随時文献を紹介する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）
授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅰ〈Mh〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　日比野　英子	

テーマ

心身の健康と新しい生き方の創造

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。外見と心の関係、高齢者・障害者へのよそおいの支援、子育て支援・発達臨床・母子臨床といったテーマを扱う。テーマ探索、テーマ決定、研究計画の立案、パイロット研究等について指導する。また、副研究指導教員（理学療法学）によって、脳科学的知識、対象者の身体的特徴とその援助法、フィールド開拓等についての補助的指導が行われる。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第27回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第28回　予備調査・パイロット実験等
第29回　予備調査・パイロット実験等
第30回　予備調査・パイロット実験等
第1回　ガイダンス （合同）
第2回　研究テーマについて発表、討論 （合同）
第3回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第4回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第5回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第6回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第7回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第8回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第9回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第10回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第11回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第12回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第13回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第14回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第15回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第16回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第17回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第18回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第19回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第20回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第21回　研究計画書の作成
第22回　研究計画書の作成
第23回　研究計画書の作成
第24回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第25回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第26回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正

履修上の注意点

院生自身の研究を実践するのであるから、自主的自律的に計画を実行すること。

教科書

参考書

院生の計画する個々の研究テーマに即して随時文献を紹介する。

著者:

出版社:

h90101a258

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅰ〈Mi〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀江　淳	

テーマ

慢性閉塞性肺疾患患者の運動制限因子、早期発見遅延要因の解明

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目では、慢性閉塞性肺疾患患者の運動制限因子、早期発見遅延要因の解明をテーマに、呼吸機能、身体機能のみでなく、社会的、心理的側面から分析するための準備を行う。心理的側面については、副研究指導教員のアドバイスを受けながら研究準備を進める。研究指導教員、副研究指導教員で、研究課題の具体的な立案、それに関する文献レビュー、研究計画書の作成など一連の過程を指導する。

準備学習（予習・復習）

英語論文の読解に慣れておくこと。研究方法の基礎的な知識を習得しておくこと。

内　　容

第1回　ガイダンス （合同）
第2回　研究テーマについて発表、討論 （合同）
第3回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第4回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第5回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第6回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第7回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第8回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第9回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第10回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第11回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第12回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第13回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第14回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第15回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第16回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第17回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第18回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第19回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第20回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第21回　研究計画書の作成
第22回　研究計画書の作成
第23回　研究計画書の作成
第24回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第25回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第26回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第27回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第28回　予備調査・パイロット実験等
第29回　予備調査・パイロット実験等
第30回　予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

無断欠席厳禁

教科書

参考書

院生の計画する個々の研究テーマに即して随時文献を紹介する。

著者:

h90101a259

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 （ ） 小テスト（ ）

授業中課題 （ 30 ） 授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅰ〈Mj〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮﨑　純弥	

テーマ

運動器系障害、特に脊柱の障害に対する理学療法の効果について研究する

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立す

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目では、脊柱の形態学的変化が身体機能に及ぼす影響及びその予防を含めた理学療法について検討する。副研究指導教員から心理的側面・社会的側面に及ぼす影響について指導を仰ぎ、多次元的に検討することを研究課題として研究計画の作成・発表を行う。

準備学習（予習・復習）

必要となる文献を事前に読んでおくこと

内　　容

第1回　ガイダンス （合同）
第2回　研究テーマについて発表、討論 （合同）
第3回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第4回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第5回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第6回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第7回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第8回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第9回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第10回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第11回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第12回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第13回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第14回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第15回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第16回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第17回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第18回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第19回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第20回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第21回　研究計画書の作成
第22回　研究計画書の作成
第23回　研究計画書の作成
第24回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第25回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第26回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第27回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第28回　予備調査・パイロット実験等
第29回　予備調査・パイロット実験等
第30回　予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

欠席を1/3以下にしてください。

教科書

参考書

院生の計画する個々の研究テーマに即して随時文献を紹介する。

著者:

出版社:

h90101a260

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅰ <Mk>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　村田 伸	

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。とくに、高齢者における認知機能低下の予防や認知機能低下により生じる様々な問題への対応、例えば転倒予防や介護予防などに関連した研究計画の立案やパイロット研究を指導する。学生は研究計画について発表し、倫理審査などを経て研究計画の完成を目指す。なお研究計画は、心理学領域の副研究指導教員から心理的側面に関する指導を受け、高齢者の心理面にも配慮した計画の立案を目指す。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス （合同）
第2回　研究テーマについて発表、討論 （合同）
第3回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第4回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第5回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第6回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第7回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第8回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第9回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第10回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第11回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第12回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第13回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第14回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第15回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第16回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第17回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第18回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第19回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第20回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第21回　研究計画書の作成
第22回　研究計画書の作成
第23回　研究計画書の作成
第24回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第25回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第26回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第27回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第28回　予備調査・パイロット実験等
第29回　予備調査・パイロット実験等
第30回　予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

教科書

参考書

院生の計画する個々の研究テーマに即して随時文献を紹介する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）
授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅰ <MI>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　横山 茂樹	

テーマ

運動器疾患における発症機序とその障害予防

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目では、体幹および下肢関節を中心とした運動器系疾患の再発防止・障害予防に着目して、障害発生のメカニズム解明とその予防に向けたエクササイズ法の開発および効果検証に関する研究テーマを取り上げて指導する。文献収集・精読をした上で、仮説の設定、研究方法の決定を行う。副研究指導教員とも連携して心理的面や倫理面にも配慮した研究計画の立案を目指す。

準備学習（予習・復習）

文献等には事前に目を通して，議論する点を検討しておいてください.

内　容

第1回　ガイダンス （合同）
第2回　研究テーマについて発表、討論 （合同）
第3回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第4回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第5回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第6回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第7回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第8回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第9回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第10回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第11回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第12回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第13回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第14回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第15回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第16回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第17回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第18回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第19回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第20回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第21回　研究計画書の作成
第22回　研究計画書の作成
第23回　研究計画書の作成
第24回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第25回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第26回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第27回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第28回　予備調査・パイロット実験等
第29回　予備調査・パイロット実験等
第30回　予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

全体の3分の1以上の出席を求めます. さらに授業以外でも積極的な学習態度を求めます.

教科書

参考書

院生の計画する個々の研究テーマに即して随時文献を紹介する。

著者:

h90101a262

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 （ ） 小テスト（ ）

授業中課題 （ 30 ） 授業中発表等 （ 30 ）

参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅰ〈Mm〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　兒玉　隆之	

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題，臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目では，脳への感覚運動情報や情動的刺激が，認知機能や運動学習へどのような影響をおよぼすのかについて健康科学の視点からテーマを探索し，教員指導の下、具体的な研究計画を立案し完成させる。また、副研究指導教員との連携による研究指導体制の下、多角的な視点から指導を行い質の高い研究計画立案を目指す。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　ガイダンス （合同）
第2回　研究テーマについて発表、討論 （合同）
第3回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第4回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第5回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第6回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第7回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第8回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第9回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第10回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第11回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第12回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第13回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第14回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第15回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第16回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第17回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第18回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第19回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第20回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第21回　研究計画書の作成
第22回　研究計画書の作成
第23回　研究計画書の作成
第24回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第25回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第26回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第27回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第28回　予備調査・パイロット実験等
第29回　予備調査・パイロット実験等
第30回　予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

教科書

参考書

院生の計画する個々の研究テーマに即して随時文献を紹介する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

h90101a263

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）
授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅰ <Mn>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。本科目においては、身体的・心理的・社会的諸因子により生じる運動不足、生活習慣病および生活習慣病予備群の加齢に伴う骨格筋や神経の退行メカニズムやそれらの改善を目的とした介入効果に関連する基礎研究テーマに対して、主研究指導教員による指導のもとテーマの選定、研究計画の立案、研究計画作成についてディスカッション形式で実施する。また、副研究指導教員は中間報告・研究計画発表等を通じてテーマや方法の助言・指導を適宜行い、研究精度の向上を図る。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　ガイダンス （合同）
第2回　研究テーマについて発表、討論 （合同）
第3回　先行研究（原著論文や総説）文献の洗い出しと抄読による研究テーマの選定
第4回　先行研究（原著論文や総説）文献の洗い出しと抄読による研究テーマの選定
第5回　先行研究（原著論文や総説）文献の洗い出しと抄読による研究テーマの選定
第6回　先行研究（原著論文や総説）文献の洗い出しと抄読による研究テーマの選定
第7回　先行研究（原著論文や総説）文献の洗い出しと抄読による研究テーマの選定
第8回　先行研究（原著論文や総説）文献の洗い出しと抄読による研究テーマの選定
第9回　先行研究（原著論文や総説）文献の洗い出しと抄読による研究テーマの選定
第10回　先行研究（原著論文や総説）文献の洗い出しと抄読による研究テーマの選定
第11回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第12回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第13回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第14回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第15回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第16回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第17回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第18回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第19回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第20回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第21回　研究計画書の作成
第22回　研究計画書の作成
第23回　研究計画書の作成
第24回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第25回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第26回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第27回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第28回　予備調査・パイロット実験等
第29回　予備調査・パイロット実験等
第30回　予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

教科書

参考書

院生の計画する個々の研究テーマに即して随時文献を紹介する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 30 ）
授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**健康科学特論Ⅱ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　村田　伸.白岩　加代子.田中　芳幸.中西　龍一.日比野　英子.堀江　淳	

テーマ

授業の到達目標

健康科学研究の理論的基礎を理解し、今後の研究課題についての展望を得る。

授業の概要

心理学と理学療法学を統合する健康科学への理解を促すために、本科目では、専攻の研究目的に関連して「健康の向上と新しい生き方への支援」というテーマで、実践を踏まえた講義を行った後、心理学と理学療法学それぞれの視点から講義内容と関連した問題提起を行い、両分野の教員と受講生とで討論し、今後の健康科学研究の方向性を探る。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション－健康の向上と新しい生き方への支援－
第2回　講義①：心身のストレスとトータル・ヘルス
第3回　講義②：健康観の変遷とストレス研究の発展
第4回　講義③：健康行動と精神的な健康
第5回　講義④：身体的アプローチによるストレス・マネジメント
第6回　問題提起①：運動ストレスが及ぼす影響；性差についておよび討論
第7回　問題提起②：心理療法のボディーワークおよび討論
第8回　総合討論
第9回　講義①：高齢者・障害者の身体・認知・精神心理機能の特性
第10回　講義②：高齢者の介護予防対策の実際
第11回　講義③：高齢者の生きがい支援対策の実際
第12回　講義④：障害別健康支援対策の紹介
第13回　問題提起①：喫煙行動における行動変容および討論
第14回　問題提起②：高齢者・障害者のよそおいの支援および討論
第15回　総合討論

履修上の注意点

教科書

参考書

臨床ストレス心理学（叢書実証にもとづく臨床心理学）
著者：　津田彰ら 編
出版社：東京大学出版会
出版年：　　ISBN：

健康行動と健康教育―理論、研究、実践
著者：　曽根智史ら 編
出版社：医学書院
出版年：　　ISBN：

ゲシュタルト療法―その理論と心理臨床例
著者：　倉戸 ヨシヤ
出版社：駿河台出版
出版年：　　ISBN：

精神疾患と認知機能－最近の進歩－
著者：　山内俊雄
出版社：新興医学出版社
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験 （ 50 ）
小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）
授業中発表等（ 0 ）
参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**研究倫理学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　鶴田　尚美.山崎　先也	

テーマ

授業の到達目標

健康科学分野における倫理の諸問題について、生命倫理、および研究倫理の観点から理解を深め、高度専門職業人、研究者としての倫理的自覚を修得すること。

授業の概要

少子高齢化、核家族化、個人主義など多様な価値観によって、小児から成人、高齢者に至るまで、あらゆる世代の心身に関する健康的、社会的倫理問題が表在化している。高度専門職業人は、これら諸問題を理解した上で、新たな価値を創出するための行動が求められる。本講義では、生命倫理、研究倫理の両面からの視点で、倫理の基礎、社会的状況から研究に至るまでの幅広い倫理に関する知識を教授する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　生命倫理の成立と歴史、その概要
第2回　社会の中の生命倫理～知る権利（インフォームドコンセント）～
第3回　社会の中の生命倫理～生命の始まりと倫理（出生前診断、生殖補助医療）～
第4回　社会の中の生命倫理～生命の始まりと倫理（遺伝子診断、遺伝子治療）～
第5回　社会の中の生命倫理～死の概念（脳死と移植医療）～
第6回　社会の中の生命倫理～死の概念（尊厳死、安楽死）～
第7回　社会の中の生命倫理～死の概念（終末期医療）～
第8回　現代社会と研究倫理
第9回　研究計画における研究倫理
第10回　研究倫理とプライバシーの保護、および個人情報の保護
第11回　研究倫理委員会と利益相反委員会
第12回　研究成果の公表と研究倫
第13回　ヒトゲノム・遺伝子解析に関する研究における倫理
第14回　ヒトを対象とした疫学研究における研究倫理
第15回　動物実験における研究倫理

履修上の注意点

教科書

参考書

シリーズ生命倫理学 第4巻 終末期医療
著者:　安藤泰至・高橋都 編
出版社:　丸善出版
出版年:　　ISBN:

シリーズ生命倫理学 第5巻 安楽死・尊厳死
著者:　斐克則・谷田憲俊 編
出版社:　丸善出版
出版年:　　ISBN:

シリーズ生命倫理学 第15巻 医学研究
著者:　笹栗俊之・武藤香織 編
出版社:　丸善出版
出版年:　　ISBN:

h90101d210

生命倫理と医療倫理 改定3版

著者:　伏木信次他 編

出版社: 金芳堂

出版年: 2014　　ISBN:

成績評価

試験 （ 80 ）　　小テスト（ 0 ）

授業中課題（ 0 ）　　授業中発表等（ 0 ）

参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**健康科学研究法特論Ⅰ〈M〉**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　甲斐　義浩.堀江　淳	

テーマ

理学療法研究に必要な基礎的な知識および統計手法を理解し実践する。

授業の到達目標

研究テーマの立案、研究へ向けての準備について理解する。データの解析とその解釈の方法について理解する、データの公表方法、注意点を理解することとする。

授業の概要

本専攻で研究を進め、高度専門職業人、研究者として自立するために必要となる基本的な研究方法を学ぶ。具体的には、研究テーマの立案から研究準備、統計解析方法とその解釈、研究成果の公表までを実例を交えながら教授していく。特に、研究に欠かせない統計的解析法に重点を置いて授業を展開する。

準備学習（予習・復習）

基本的なエクセルの操作方法は習得しておくこと。

内　　容

第1回　健康科学研究の基本的要素について
第2回　研究倫理と研究倫理委員会、研究計画書の作成
第3回　情報収集の方法と整理
第4回　研究テーマの立案と研究デザインの構築
第5回　学会抄録、学会発表の技法、および論文の書き方
第6回　データ尺度の理解と活用
第7回　記述統計の理解と解釈、およびその活用
第8回　パラメトリック検定と種々の統計手法
第9回　ノンパラメトリック検定と種々の統計手法
第10回　クロス集計表とカイ二乗検定
第11回　平均の差の検定
第12回　相関と回帰分析
第13回　影響因子の抽出（重回帰分析、ロジスティック回帰分析）
第14回　分散分析とPost-hoc検定、共分散分析
第15回　健康科学における研究～臨床への展開～（まとめ）

履修上の注意点

無断欠席は厳禁！

教科書

参考書

医療系データのとり方・まとめ方
著者：　対馬栄輝、石田水里
出版社：東京図書
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 0 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**健康科学研究法特論Ⅱ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光.中村　和夫	

テーマ

授業の到達目標

修士論文をはじめとする学術論文に必要な量的・質的データの解析法を理解することができる。

授業の概要

前半では、量的研究において一般的に用いられる種々のデータ解析法について、統計ソフト（SPSSおよびAMOS）を使用し、各自の研究に応用できる実践的な力を養成していく。具体的には、因子分析、重回帰分析、クラスタ分析、パス解析、構造方程式モデリング等を取り上げる。後半では、当事者の語る言葉の背後にある内面的な意味の世界とその変容過程を把握する研究方法として、代表的な質的研究方法であるグラウンデッド・セオリー・アプローチ(GTA)について解説をする。

準備学習（予習・復習）

基礎的なSPSSの操作を習得しておくこと。

内　　容

第1回　多変量解析に関する説明
第2回　因子分析、クラスタ分析
第3回　重回帰分析、パス解析
第4回　構造方程式モデリング（理論の説明と適用例の紹介）
第5回　構造方程式モデリング（多母集団同時分析の適用）
第6回　構造方程式モデリング（パーセル化の適用）
第7回　総合演習：構造方程式モデリング
第8回　総合演習：プレゼンテーションとディスカッション
第9回　質的研究方法とは
第10回　グラウンデッド・セオリー・アプローチ(GTA)の概要
第11回　インタビューによるデータ収集
第12回　プロパティとディメンション
第13回　ラベルの抽出、カテゴリーの抽出
第14回　パラダイム、カテゴリー関連図
第15回　ストーリーラインによる内面的な「意味のシステム」の構造の理解

履修上の注意点

教科書

参考書

SPSSとAmosによる心理・調査データ解析第2版
著者：　小塩真司
出版社：　東京図書
出版年：　2011　　ISBN：

Q&Aで知る統計データ解析—DOs and DON'Ts
著者：　繁桝算男・森敏昭
出版社：　サイエンス社
出版年：　2008　　ISBN：

共分散構造分析 Amos編—構造方程式モデリング
著者：　豊田秀樹
出版社：　東京図書
出版年：　2007　　ISBN：

h90101d450

質的研究法ゼミナール―グラウンデッド・セオリー・アプローチを学ぶ―第2版

著者:　戈木クレイグヒル滋子

出版社: 医学書院

出版年: 2013　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**脳科学特論 <M>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　久保山 哲彦.坂本 敏郎.兒玉 隆之

テーマ

こころとからだの働きの基盤となる脳機能について概観する。

授業の到達目標

感覚、運動、情動、動機づけなどに関する脳機能を基盤にした、学習機構、社会的行動等について、神経生物学的および神経生理学的側面から理解する。

授業の概要

脳機能を解剖学的・生理学的・行動学的視点から理解することを基礎に、高次脳機能に関して脳機能の局在とその発現機構を学び最新の研究報告やレビュー等の分析を行い基礎知識を修得する。さらに感覚運動制御、動機づけなどの機能を神経生理学的・神経内分泌学的に解明するための方法論を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　中枢神経系、末梢神経系、神経内分泌系
第2回　ニューロン内の信号伝導（イオンの流出入と活動電位）
第3回　ニューロン間の情報伝達（神経伝達物質と受容体）
第4回　知覚の神経回路（視覚、聴覚、嗅覚、味覚、体性感覚）
第5回　動機づけに関わる神経回路とホルモン（飲水、摂食、生殖、睡眠）
第6回　脳機能の局在とその障害①　－前頭葉－
第7回　脳機能の局在とその障害②　－頭頂葉－
第8回　脳機能の局在とその障害③　－後頭葉および側頭葉－
第9回　脳機能の局在とその障害④　－小脳－
第10回　脳機能障害への治療アプローチ
第11回　脳機能を神経生理学的に捉える－ニューロンの電気的活動－
第12回　認知学習・運動学習と脳
第13回　運動実行時・運動イメージ時の脳機能状態
第14回　情動惹起時の脳機能状態
第15回　脳機能を捉えるための方法論およびまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

ギャノング生理学原著24版
著者:　岡田泰伸 監訳
出版社:　丸善出版
出版年:　2014年　　ISBN:

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**健康心理学特論 <M>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　前期集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　佐藤 豪

テーマ

授業の到達目標

健康心理学が、心理学と医学一般との応用的な領域にあたる学問分野であることから、心身の健康に関する多種多様な問題について、心理・社会・身体的な要因がどのような役割を持つのかを包括的に理解できるようになる。

授業の概要

健康を生物心理社会モデルでとらえる素養を養い、健康の維持増進や心身疾患の予防に対する健康心理学的支援についても学習を深める。生活習慣病やメンタルヘルスマネジメントなど現代社会で注目される諸問題を取り上げ、その健康心理学的な理解と研究および支援の方法について論考する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　健康心理学とは
第2回　健康心理学の基礎理論
第3回　健康維持の生理学的メカニズム
第4回　ストレスと健康
第5回　健康とパーソナリティ
第6回　健康行動と生活習慣の形成
第7回　健康行動と疾病予防
第8回　生活習慣病の予防と健康心理学
第9回　ソーシャルサポートとヘルスケアシステム
第10回　健康心理アセスメントの方法
第11回　健康教育の場と方法
第12回　健康心理カウンセリングの基本
第13回　健康心理学の将来展望
第14回　健康心理学と心身医学の視点
第15回　授業全体のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

健康心理学概
著者:　日本健康心理学会 編
出版社:　実務教育出版
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 70 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 15 ）
参加度　（ 15 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**精神医学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　杉本　二郎	

テーマ

授業の到達目標

主な精神疾患について、医療、看護、福祉と連携し、適切な理解と援助ができるよう、その症状・経過・診断・治療など基本的なことがらを理解する。

授業の概要

代表的な精神疾患について、実際の症例をあげて紹介し、診断のみならず、精神科治療の実際について基本的な流れを解説する。また、精神医学の最近のトピックについても紹介する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　精神医学とは何か
第2回　統合失調症（1）
第3回　統合失調症（2）
第4回　気分障害（1）
第5回　気分障害（2）
第6回　様々な不安障害（1）（パニック障害、強迫性障害、恐怖症など）
第7回　様々な不安障害（2）（身体表現性障害、適応障害、PTSDなど）
第8回　産褥期精神障害（マタニティーブルー、産後鬱病、産後精神病）
第9回　小児期の精神障害（発達障害など）
第10回　青年期の精神障害（パーソナリティ障害、摂食障害など）
第11回　壮年期の精神障害（アルコール依存、ストレス）
第12回　老年期の精神障害（認知症、鬱病など）
第13回　精神科診断の実際
第14回　精神科治療の実際
第15回　日本の精神科医療

履修上の注意点

教科書

精神医学ハンドブック　第7版―医学・保険・福祉の基礎知識
著者：　山下格
出版社：日本評論社
出版年：2010　　ISBN：　453598333X

参考書

成績評価

試験　（ 30 ）	小テスト（ 0 ）
授業中課題（ 0 ）	授業中発表等（ 0 ）
参加度　（ 70 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**精神薬理学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　竹内　孝治	

テーマ

基礎および中枢・精神薬理学

授業の到達目標

薬理学の基礎を学んだ後、様々な中枢・精神疾患（神経症、気分障害、統合失調症、不眠症、癲癇、パーキンソン病、アルツハイマー・認知症、偏頭痛など）の病態とこれら疾患に対する薬物療法を理解する。

授業の概要

薬物療法を理解するためには、疾患の病態、適切な治療薬、それらの治療薬がなぜ効果を示すかを学ぶことが必要である。本特論では、薬理学の基礎的知識を学んだ後、様々な中枢・精神疾患の病態とこれら疾患に対する薬物療法を概説する。具体的には、抗鬱薬、抗不安薬、精神安定薬、鎮静薬、睡眠薬、睡眠導入薬、定型・非定型抗精神病薬、抗パーキンソン病薬、抗アルツハイマー病薬および抗癲癇薬などの作用機序に加えて、これら薬剤の副作用や有害性も教授する。

準備学習（予習・復習）

授業内容を復習を通じて理解する。疑問があれば次回の講義日に質問する。

内　　容

第1回　薬理学の概論（薬理学とは？、薬物療法の目的、薬の効き方）
第2回　薬の作用と作用機序（薬物受容体、作動薬、拮抗薬、副作用）Ⅰ
第3回　薬の作用と作用機序（薬物受容体、作動薬、拮抗薬、副作用）Ⅱ
第4回　生理活性物質（生理活性アミン、神経性アミノ酸など）
第5回　中枢神経系の基礎的知識（構造と機能、神経伝達物質）
第6回　気分障害（鬱病、躁病）の病態と薬物療法（抗鬱薬）Ⅰ
第7回　気分障害（鬱病、躁病）の病態と薬物療法（抗鬱薬）Ⅱ
第8回　統合失調症の病態と薬物療法　Ⅰ
第9回　統合失調症の病態と薬物療法　Ⅱ
第10回　神経症、不眠症、心身症の病態と薬物療法
第11回　パーキンソン病の病態と薬物療法
第12回　癲癇（てんかん）の病態と薬物療法
第13回　アルツハイマー・認知症の病態と薬物療法
第14回　脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）の病態と薬物療法
第15回　偏頭痛の病態と薬物療法、全講義に対する質疑応答

履修上の注意点

教科書

参考書

医療薬学I 病態と薬物治療(1)－神経、内分泌・循環器－
著者:　井上圭三 監修
出版社:　東京化学同人
出版年:　　ISBN:

わかりやすい薬理学
著者:　安原一・小口勝司 編
出版社:　ヌーベルヒロカワ
出版年:　　ISBN:

最新(第3版)基礎薬理学
著者:　竹内孝治・岡淳一郎 編
出版社:　廣川書店
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（ 0 ）

h90101d810

授業中課題（0）　　授業中発表等（0）

参加度（50）

2016 Syllabus

科 目 名　**生活支援学特論 <M>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　村田 伸.白岩 加代子

テーマ

授業の到達目標

地域の概念を理解し、地域社会で自立した生活を営むために必要な支援法について理解し、自らの考えを主張できる。

授業の概要

地域社会生活に必要な支援法や障害予防への取り組みについて議論する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　授業のオリエンテーション、生活支援学とは
第2回　地域で生活することとは
第3回　地域における支援体制
第4回　障害予防の視点
第5回　安全で快適な暮らしについて考える
第6回　介護保険と生活支援
第7回　住環境整備1
第8回　住環境整備2
第9回　生活を支える福祉用具1
第10回　生活を支える福祉用具2
第11回　運動を習慣化させるためには
第12回　行動変容と多理論統合モデル
第13回　在宅におけるヘルスプロモーション
第14回　地域における障害予防への取り組み
第15回　学生によるプレゼンテーション、授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション
著者:　日本ヘルスプロモーション理学療法学会 編集
出版社: 南江堂
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**運動機能制御学特論 <M>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　横山　茂樹.崎田　正博

テーマ

運動機能制御のメカニズムとその機能・活動障害

授業の到達目標

運動機能制御に関わるメカニズムを理解するとともに、機能・活動障害との関連性を学修する。

授業の概要

運動感覚の特性について理解を深めるとともに、立位や歩行動作といった姿勢・基本動作に関わる制御機構について論考する。さらに転倒に起因する心理的・認知的・神経生理的側面の要因について、運動機能制御の視点から捉えて、そのメカニズムを検討する。

準備学習（予習・復習）

事前資料は熟読すること. 講義中の議論を踏まえて, 復習をしておくこと.

内　容

第1回　感覚器系と運動感覚（1）;関節感覚
第2回　感覚器系と運動感覚（2）;筋感覚
第3回　感覚器系と運動感覚（3）;皮膚感覚・他
第4回　運動感覚と中枢神経系機能
第5回　運動感覚と姿勢保持
第6回　運動感覚と身体運動
第7回　歩行メカニズムと運動感覚（1）;正常歩行
第8回　歩行メカニズムと運動感覚（2）;異常歩行
第9回　観察疫学研究の視点による転倒危険因子と運動制御の関連－身体機能的側面から－
第10回　観察疫学研究の視点による転倒危険因子と運動制御の関連－心理、認知的側面から－
第11回　観察疫学研究の視点による転倒危険因子と運動制御の関連－神経生理的側面から－
第12回　生活習慣病と転倒の関連性について
第13回　転倒危険因子改善プログラムのエビデンス①　運動プログラムを中心に
第14回　転倒危険因子改善プログラムのエビデンス②　心理・認知プログラムを中心に
第15回　転倒危険因子改善プログラムのエビデンス③　動物実験モデルを中心に

履修上の注意点

教科書

参考書

筋感覚研究の展開
著者:　伊藤文雄
出版社:　協同医書出版社
出版年:　2005　　ISBN:

健康と運動の疫学入門　エビデンスに基づくヘルスプロモーションの展開
著者:　熊谷秋三 編
出版社:　医学出版
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ ）　　授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 20 ）
日程の3分の2以上の出席を求めます.

2016 Syllabus

科 目 名　**発達障害特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　mitei.mitei1	

テーマ

近年、本邦において認知されてきた軽度発達障害、とりわけ、高機能広汎性発達障害(HFPDD)、注意欠陥・多動症候群（ADHD）や学習障害（LD）を中心に、臨床心理学、発達心理学および障害児教育学などの関連分野から学際的接近を図る。また、単に、理論を学ぶだけではなく、実際に何らかの障害を有し、生活や学習に困難を生じている障害児・者に対する臨床的実践力の形成を目指す。具体的には、アセスメント、教育的面接法など総合的・包括的な支援のあり方について文献購読の精読や議論により探求する。

授業の到達目標

発達障害について臨床心理学、発達心理学および障害児保育・教育学などの関連分野から学際的接近を図る。

授業の概要

乳幼児期から児童期、青年期における発達障害について学ぶ。その際、単に、理論を学ぶだけではなく、実際に何らかの障害を有し、生活や学習に困難を生じている障害児・者に対する臨床的実践力の形成をめざす。具体的には、アセスメント、教育的面接法など総合的・包括的な支援のあり方について、文献の精読や議論により探求する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　発達障害とは
第2回　発達障害児・者の理解と心理的援助(1)　－注意欠陥・多動性障害－
第3回　発達障害児・者の理解と心理的援助(2)　－広汎性発達障害－
第4回　発達障害児・者の理解と心理的援助(3)　－学習障害－
第5回　発達障害と他の障害　－精神障害との関連－
第6回　乳幼児期における発達障害の理解(1)－社会性の発達とその危機－
第7回　乳幼児期における発達障害の理解(2)－社会性発達のプロセススケール－
第8回　乳幼児期における発達障害の理解(3)－子どもの障害と発達援助の方法－
第9回　乳幼児期における発達障害の理解(4)－プロセススケールを用いた障害児保育－
第10回　乳幼児期における発達障害の理解(5)－発達障害の事例の検討－
第11回　特別支援教育とは－教育現場における発達障害－
第12回　青年期における発達障害の理解と心理的援助(1)－高機能広汎性発達障害の理解－
第13回　青年期における発達障害の理解と心理的援助(2)－高機能広汎性発達障害の支援－
第14回　家族の障害理解、受容および家族への心理的支援とは
第15回　援助者への心理的支援とは

履修上の注意点

教科書

参考書

高機能広汎性発達障害の大学生に対する学内支援
著者:　中島暢美
出版社:　関西学院大学出版会
出版年:　　ISBN:

特別支援保育に向けて－社会性を育む保育　その評価と支援の実際－
著者:　安藤忠・川原佐公 編
出版社:　健帛社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度　（ 20 ）
授業の積極的参加度、発表内容および試験の総合評価とする。

2016 Syllabus

科 目 名　**生活機能障害理学療法学特論Ⅰ <M>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　白岩 加代子.堀江 淳

テーマ

加齢に伴う身体・精神・認知機能の変化と特性を理解し、高齢者の障害予防につながる対策について内部障害を中心に考える

授業の到達目標

高齢者の生活機能障害予防につながる対策について考案できるようになる。また、内部障害に対するリハビリテーションにつながる対策ができるようになる

授業の概要

加齢に伴う身体機能、心理・精神機能の変化が生活機能へ及ぼす影響について検討し、障害予防につながる対処法を考察する。また、高齢者特有に見られる疾患、特に、呼吸器疾患、循環器疾患などによる内部障害に着目し、理解を深める。さらに、生活機能障害に対する評価とその分析、アプローチ方法について学習する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　加齢による身体機能の変化と特性
第2回　加齢による心理・精神機能の変化と特性
第3回　高齢者の身体機能評価および分析（演習）
第4回　高齢者の心理・精神機能およびQOLの評価と分析（演習）
第5回　老化による姿勢制御の変化から生活機能に及ぼす影響について考える
第6回　生活機能障害を有する高齢者に対する臨床的対処法
第7回　転倒予防の考え方と具体的な取り組み
第8回　呼吸器疾患とその障害の臨床的特徴
第9回　呼吸器疾患における生活機能障害の評価と分析（演習）
第10回　呼吸器疾患における生活機能障害の多次元的アプローチの展開
第11回　循環器疾患とその障害の臨床的特徴
第12回　循環器疾患における生活機能障害の評価と分析（演習）
第13回　循環器疾患における生活機能障害の多次元的アプローチの展開
第14回　代謝性疾患と生活機能障害の臨床的特徴とその評価と分析、多次元的アプローチの展開
第15回　加齢に伴う生活機能障害の捉え方と今後の展望（まとめ）

履修上の注意点

教科書

参考書

理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション
著者:　日本ヘルスプロモーション理学療法学会 編集
出版社:　南江堂
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 50 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ 20 ）
参加度 （ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**生活機能障害理学療法学特論Ⅱ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　白岩　加代子.崎田　正博.山野　薫	

テーマ

授業の到達目標

地域在住高齢者および障害者のADLとQOLの向上をはかる上で、理学療法を推進するためのリーダーとして活躍できるような実践的能力の基礎理論を習得し、それらの評価方法・解析方法アプローチ法を学修する。

授業の概要

地域在住高齢者の障害予防や健康維持・向上に対する取り組みや障害者の生活活動における動作の問題点抽出、身体的支援および環境支援における評価・解析・介入方法を学修する。また、障害者や高齢者に必要な福祉用具や自助具の理解と工夫を学修する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　高齢者や障害者を取り巻く社会状況について
第2回　住環境整備の役割と進め方
第3回　住環境整備の基本技術と手法
第4回　生活行為別にみた生活機能障害に対する環境支援や整備
第5回　障害別にみた生活機能障害に対する臨床的対処法
第6回　生活機能障害における生体力学（バイオメカニクス）の基礎理論
第7回　補装具を用いた座位姿勢・立位・歩行の生体力学的解析（演習）
第8回　補装具を用いた座位姿勢・立位・歩行の解析結果の解釈と問題点の抽出
第9回　日常生活用具やシーティングを用いた臥位・座位の生体力学的解析（演習）
第10回　日常生活用具やシーティングを用いた臥位・座位の解析結果と問題点の抽出
第11回　家屋内における生活機能障害の改善を目的とした福祉用具の活用
第12回　障害別にみた生活機能の改善に必要な介入手段の実践（演習）
第13回　屋外環境における問題点の捉え方および改善方法
第14回　生活機能改善を目的とした屋外における環境整備の実践（演習）
第15回　学生によるプレゼンテーション、授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

生活環境学テキスト
著者:　村田伸・岡本加奈子・北島栄二 編集
出版社:　南江堂
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 40 ）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**運動器障害理学療法学特論Ⅰ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　横山　茂樹.濱出　茂治	

テーマ

運動器疾患における機能障害に関する評価および治療

授業の到達目標

運動器は、身体活動を遂行する上で常に重力下の影響を受けている。このため筋や関節に機械的ストレスを受けて、さまざまな機能障害が引き起こされる。本科目では、運動器障害による姿勢や運動連鎖の視点から身体運動の特性を理解した上で、運動器障害に対する評価から解析方法および効果的な理学療法について学修する。

授業の概要

重力のよる影響を受ける姿勢や各関節や肢体間の運動連鎖が全身の身体運動に与える影響について理解する。さらには、運動器障害の評価手法や解析方法とその解釈，治療法と効果判定に関する研究方法論について指導する。

準備学習（予習・復習）

事前に配布する資料を熟読しておいてください.

内　容

第1回　オリエンテーション・運動の概念と原理
第2回　運動器障害の障害モデル
第3回　運動器障害と異常姿勢（アライメント計測）に関する評価（演習）
第4回　運動器障害と異常運動（関節角度・関節モーメント）に関する評価（演習）
第5回　運動器障害と異常関節運動（筋力）に関する評価（演習）
第6回　解析方法と結果の解釈
第7回　運動器障害と運動療法（1）；体幹
第8回　運動器障害と運動療法（2）；四肢
第9回　運動器障害に対する電気診断学的病態評価と解析（演習）
第10回　運動器障害に対する誘発筋電図による評価と解析（演習）
第11回　筋萎縮および関節拘縮に対する物理療法
第12回　筋・骨格系疼痛症状に対する物理療法
第13回　創傷に対する物理療法
第14回　運動機能再建を目的とした物理療法
第15回　討論；運動器障害における理学療法の課題

履修上の注意点

全体の3分の2以上の出席を求めます.

教科書

参考書

運動機能障害症候群のマネジメントー理学療法評価・MSBアプローチ・ADL指導
著者：　Shirley A. Sahrmann
出版社：医歯薬出版
出版年：2005　　ISBN：

続運動機能障害症候群のマネジメントー頸椎・胸椎・肘・手・膝・足
著者：　Shirley A. Sahrmann
出版社：医歯薬出版
出版年：2013　　ISBN：

物理療法臨床判断ガイドブック
著者：　木村貞治 編集
出版社：文光堂
出版年：2007　　ISBN：

成績評価

試験　（ 60 ）　　小テスト（　）

h90101e550

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 20 ）

参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**運動器障害理学療法学特論Ⅱ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　宮﨑　純弥.甲斐　義浩	

テーマ

運動器系障害理学療法の評価・分析と治療について検討する。

授業の到達目標

運動器障害、特に脊柱および四肢の関節障害に対する評価及び解析方法を学び、さらに効果的な理学療法について学修する。

授業の概要

運動器障害を解剖学的視点と運動学的視点から捉え、定量的評価を行い、その結果を解釈したうえで、原因を追究し運動器障害が身体機能に及ぼす影響について学修し、議論する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　講義のオリエンテーション・運動器障害の概念について
第2回　脊柱の運動器障害に対する評価（Spinal Mouseを使用した姿勢分析）（演習）
第3回　脊柱の運動器障害に対する評価（筋電図を使用した筋機能分析）（演習）
第4回　脊柱の運動器障害に対する評価（重心動揺計を使用したバランス能力分析）（演習）
第5回　解析方法と結果の解釈
第6回　腰椎すべり・分離症に対する理学療法
第7回　胸郭出口症候群に対する理学療法
第8回　上肢関節（肩・肘・手関節）のバイオメカニクス
第9回　上肢の3次元関節運動の測定（演習）
第10回　上肢の3次元関節運動の解析
第11回　上肢関節疾患に対する理学療法
第12回　下肢関節（股・膝・足関節）のバイオメカニクス
第13回　下肢の3次元関節運動の測定と解析（演習）
第14回　下肢関節疾患に対する理学療法
第15回　講義まとめ、学生によるプレゼンテーション

履修上の注意点

欠席は1/3以下にしてください。

教科書

参考書

理学療法のクリティカルパス 上巻
著者：　David C.Saidoff
出版社：エルゼビア・ジャパン
出版年：2008　　ISBN：

筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版
著者：　Donald A.Neumann
出版社：医歯薬出版
出版年：2012　　ISBN：

成績評価

試験　（ 70 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 10 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**脳機能障害理学療法学特論Ⅰ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　兒玉　隆之.村田　伸	

テーマ

授業の到達目標

我々は日常生活のあらゆる場面において認知機能を必要とする。しかし、加齢や脳卒中などの疾病によりその機能が低下した場合、さまざまな障害が引き起こされる。本科目では、それらの障害がもたらす身体的・心理的・社会的側面の変化を理解するための理論を習得し、それらの評価方法・解析方法・アプローチ法を学修する。

授業の概要

認知機能の仕組みを理解することを基本に、それらが障害されることで引き起こされる病態(認知症、高次脳機能障害など)や、日常生活上での問題(転倒など)について理解する。評価における研究手法の基礎を習得し、実験の計画・実施、データの解析・解釈、研究成果の発表方法に関する指導を行う。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　授業のオリエンテーション、認知機能と身体・心理機能との関連
第2回　事象関連電位の神経生理学的基盤
第3回　認知・行動機能・情報処理と事象関連電位
第4回　ヒトの認知機能の評価方法（事象関連電位から考える）
第5回　認知機能を事象関連電位を用いて計測する①（演習）
第6回　認知機能を事象関連電位を用いて計測する②（演習）
第7回　解析方法と結果の解釈
第8回　高次脳機能障害への介入方法
第9回　注意課題と脳血流動態の計測（演習）
第10回　注意課題と脳血流動態（要介護高齢者の特徴）
第11回　解析方法と結果の解釈
第12回　認知機能・注意機能評価方法の検証・開発
第13回　認知症予防の介入方法（運動療法）
第14回　認知症予防の介入方法（運動療法以外の取り組み）
第15回　脳機能障害の捉え方と今後の展望（まとめ）

履修上の注意点

教科書

参考書

事象関連電位—事象関連電位と神経情報科学の発展
著者:　丹羽真一・鶴紀子 編
出版社:　新興医学出版社
出版年:　　ISBN:

健康・運動の科学　介護と生活習慣病予防のための運動処方
著者:　田口貞善 監修
出版社:　講談社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 30 ）	小テスト（　）
授業中課題　（　）	授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**脳機能障害理学療法学特論Ⅱ <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　村田　伸.弓岡　光徳	

テーマ

授業の到達目標

脳機能障害、とくに脳血管障害やパーキンソン病による身体障害の特徴を理解し、身体障害の評価から解析方法、およびその効果的な理学療法について学修する。

授業の概要

脳機能障害から生じる身体障害の評価方法を整理し、効果的な評価の視点を理解する。また、脳機能障害から生じる身体障害に対する運動学的視点からの理学療法を考察し、ファシリテーションテクニックについても議論する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　授業のオリエンテーション、脳機能障害から生じる身体障害の特徴
第2回　脳機能障害から生じる身体障害の評価（視覚による歩行分析）（演習）
第3回　脳機能障害から生じる身体障害の評価（歩行分析装置を用いた評価）（演習）
第4回　脳機能障害から生じる身体障害の評価（生活機能の評価）（演習）
第5回　解析方法と結果の解釈
第6回　脳機能障害から生じる身体障害の簡易的評価の開発1
第7回　脳機能障害から生じる身体障害の簡易的評価の開発2
第8回　学生によるプレゼンテーション、障害評価のまとめ
第9回　脳機能障害から生じる身体障害の理学療法の考え方
第10回　運動学と神経筋促通手技（ファシリテーションテクニック）（演習）
第11回　脳機能障害から生じる歩行障害に対する理学療法テクニック1
第12回　脳機能障害から生じる歩行障害に対する理学療法テクニック2
第13回　脳機能障害から生じるADL障害に対する理学療法テクニック1
第14回　脳機能障害から生じるADL障害に対する理学療法テクニック2
第15回　学生によるプレゼンテーション、授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

ペリー歩行分析　正常歩行と異常歩行原著第2版
著者：　Jacquelin Perry 著／武田功 監訳
出版社：医歯薬出版
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 30 ）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等　（ 20 ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**パーソナリティ心理学特論 <M>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　ジェイムス　朋子

テーマ

授業の到達目標

心理学においてこれまでに検討されてきたさまざまなパーソナリティ理論について理解し、多様な人間理解の視点およびそれに基づく査定法の基本を身につける。また、臨床心理学的な立場からのパーソナリティ査定や、変化を援助するために必要な視点についても学び、パーソナリティ理解を深める。

授業の概要

さまざまなパーソナリティ理論の概観とパーソナリティの発達や病理などの諸側面の見立てについて学習し、プレゼンテーションやグループ討議、査定法の演習、事例を用いた面接技法演習などを交えて学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　イントロダクション：パーソナリティ理解の重要性
第2回　パーソナリティとは（概論）
第3回　パーソナリティ理論の基礎：類型論・特性論
第4回　パーソナリティ理論と臨床：力動的アプローチと人間性アプローチ
第5回　パーソナリティ理論と臨床：認知行動的アプローチ
第6回　パーソナリティ査定：質問紙法と投影法
第7回　パーソナリティと発達
第8回　パーソナリティと防衛
第9回　パーソナリティと感情
第10回　パーソナリティと同一化
第11回　パーソナリティと関係
第12回　パーソナリティとセルフエスティーム
第13回　パーソナリティと病因
第14回　パーソナリティ査定の実際
第15回　査定面接

履修上の注意点

教科書

参考書

パーソナリティとは何か―その概念と理論
著者：　若林明雄
出版社：　培風館
出版年：　　ISBN：

ケースの見方・考え方：精神分析的ケースフォーミュレーション
著者：　ナンシー・マックウィリアムズ
出版社：　創元社
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**発達心理学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中村　和夫	

テーマ

L.S.Vygotskyの「発達の文化-歴史的理論」について学ぶ。

授業の到達目標

L.S.Vygotskyによって提唱された「発達の文化-歴史的理論」について、その本質的な内容について理解を深める。

授業の概要

L.S.Vygotskyによって提唱された「発達の文化-歴史的理論」について講義をする。Vygotskyの「発達の文化-歴史的理論」は、「人間の高次心理機能は言葉によって媒介されている」という命題をその中心に置くものだが、講義では、人間の高次心理機能の発達を理解するにあたってこの命題がなぜ重要なのか、その方法論的な意義について明らかにする。とくに言語的思考を取り上げて、言語的思考とそれに支えられた心理諸機能のシステムの発達について、その具体的な様相と特徴を明らかにする。

準備学習（予習・復習）

特に、事前に当該文献の当該箇所を読んで授業に臨むこと。

内　　容

第1回　L.S.Vygotsky：その生涯と業績
第2回　高次心理機能の言葉による媒介
第3回　高次心理機能の社会的起源
第4回　発生的・発達的・歴史的アプローチ
第5回　初期ヴィゴーツキー理論における意識論の特徴
第6回　心理学の危機の歴史的意味
第7回　なぜ言葉なのか
第8回　なぜ概念的思考なのか
第9回　なぜ「最近接発達の領域」なのか
第10回　なぜ感情なのか
第11回　なぜ内言の意味なのか
第12回　なぜ想像なのか
第13回　なぜ文化-歴史的理論なのか
第14回　人間の具体的心理学
第15回　ヴィゴーツキー理論の現代的意味

履修上の注意点

基本的に欠席・遅刻は認めない。やむを得ぬ事情で欠席する（欠席した）場合には、事前に（事後に）理由を申し出ること。

教科書

参考書

ヴィゴーツキーの発達論―文化-歴史的理論の形成と展開―
著者：　中村和夫
出版社：　東京大学出版会
出版年：　1998　　ISBN：

ヴィゴーツキー心理学 完全読本―「最近接発達の領域」と「内言」の概念を読み解く―
著者：　中村和夫
出版社：　新読書社
出版年：　2004　　ISBN：

ヴィゴーツキーに学ぶ　子どもの想像と人格の発達
著者：　中村和夫
出版社：　福村出版
出版年：　2010　　ISBN：

h90101f110

ヴィゴーツキー理論の神髄

著者:　中村和夫

出版社: 福村出版

出版年: 2014　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40 ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30 ）

参加度 （ 30 ）

欠席が目立った場合には成績を評価しない(0点とする)。

2016 Syllabus

科 目 名　**認知心理学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　秋期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　川上 正浩	

テーマ

授業の到達目標

広く認知心理学の知識を獲得したうえで，特に単語認知や記憶の過程を中心に，実験の計画を通して認知心理学実験を主体的に体験することを授業の目的とする。

授業の概要

認知心理学では、人間をコンピュータのような情報処理システムであるとみなし、人間の知的行動の特徴を明らかにしようとしている。ここでいう知的行動とは、自分の周囲のさまざまな世界を知る、わかる、ことを指している。本授業では、特に単語認知や記憶の過程を中心に、こうしたトピックに関する講義や実験を通して、認知心理学を実践的に学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　イントロダクション：認知心理学とは
第2回　情報処理という考え方
第3回　知覚の成立過程
第4回　記憶のモデル（1）
第5回　記憶のモデル（2）
第6回　概念と知識（1）
第7回　概念と知識（2）
第8回　思考の過程（1）
第9回　思考の過程（2）
第10回　言語情報の処理（1）
第11回　言語情報の処理（2）
第12回　日本語情報処理の特殊性
第13回　実験の立案（1）
第14回　実験の立案（2）
第15回　総合討論

履修上の注意点

教科書

参考書

日常認知の心理学
著者：　井上毅・佐藤浩一 編
出版社：北大路書房
出版年：　　ISBN：

日本語表記の心理学
著者：　広瀬雄彦
出版社：北大路書房
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験 （ 25 ）	小テスト （ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ 25 ）
参加度 （ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**学習・行動分析学特論 <M>**

クラス　　配当回生

講義期間　その他　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　（休講）

テーマ

科学的な検証により明らかになった行動の原理が、心理的諸問題の解決にどのように応用されているかについて学ぶ

授業の到達目標

動物の行動や学習に関する理論を基盤に、家庭、教育、医療現場におけるさまざまな問題の解決に対する行動分析学の実例を学び、方法論を身につける。

授業の概要

動物の行動が経験によってどのように形成され、変容するかについての理論を取り扱う。「レスポンデント条件づけ」「オペラント条件づけ」「観察学習」等の諸理論を、具体的な実験を紹介しながら解説する。

準備学習（予習・復習）

各回の講義内容について教科書および参考書、事前配布プリントなどを予習しておくこと。

内　容

第3回　古典的条件づけの基本原理
第4回　古典的条件づけの理論と実験的研究
第5回　オペラント条件付けの基本原理
第6回　オペラント条件付けの理論と実験的研究
第7回　刺激性制御
第8回　刺激等価性
第9回　観察学習と模倣
第10回　行動分析と心理療法
第11回　言語行動
第12回　ルール支配行動
第13回　子どもの応用行動分析　家庭および教育現場における事例
第14回　成人の応用行動分析　医療および福祉における事例
第15回　応用行動分析学と倫理
第1回　学習理論と行動分析学の概要説明
第2回　生得的行動と馴化

履修上の注意点

受け身で受講するのではなく、内容について積極的なディスカッションを行うようにしてください。

教科書

メイザーの学習と行動
著者：　メイザー(著)(磯博行他 訳)
出版社：二瓶社
出版年：2008　　ISBN：

参考書

行動分析
著者：　大河内浩人・武藤崇
出版社：ミネルヴァ書房
出版年：2009年　　ISBN：

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度　（ 30 ）
授業中の積極的な発言や議論の内容についても評価の対象とします。

2016 Syllabus

科 目 名　**社会心理学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光	

テーマ

近年における社会心理学の諸研究から、自らの研究を発展させる。

授業の到達目標

社会心理学の新しい研究に対して理解を深め、自身の修士論文をはじめとする研究を発展させる視点を養う。

授業の概要

以下に示したテーマについて講義を行うとともに、講義内容に対して発言を求め、討論をおこないながら進めていく。事前学習として、各回の授業内容について国内外の論文等を提示する。それらを読んでおき、議論に耐えうる知識を身につけておくことが求められる。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　イントロダクション、現代における社会心理学の研究動向
第2回　社会的認知
第3回　社会的感情
第4回　自動性と無意識
第5回　身体化された認知
第6回　自己
第7回　二重過程理論
第8回　欺瞞的コミュニケーション
第9回　対人関係
第10回　社会的公正
第11回　信頼
第12回　ステレオタイプ・偏見・差別
第13回　集団討議
第14回　社会的ネットワーク
第15回　進化論的視点

履修上の注意点

基礎的な社会心理学の知識を有すること

教科書

参考書

社会心理学
著者:　池田謙一他
出版社:　有斐閣
出版年:　　ISBN:

グループダイナミックス−集団と群集の心理
著者:　釘原直樹
出版社:　有斐閣
出版年:　　ISBN:

進化と感情から解き明かす社会心理学
著者:　北村英哉・大坪庸介
出版社:　有斐閣
出版年:　　ISBN:

h90101f550

無意識と社会心理学　高次心理過程の自動性

著者:　ジョン・バージ 編

出版社:　ナカニシヤ出版

出版年:　　ISBN:

ournal of Personality and Social Psychology等の各論文

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 50 ）　　小テスト （ 0 ）

授業中課題 （ 0 ）　　授業中発表等 （ 0 ）

参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**応用社会心理学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　永野 光朗	

テーマ

「応用」という観点からの心理学研究の理解

授業の到達目標

社会心理学研究の成果を社会生活の向上のために利用するための応用的観点や方法論を習得する。

授業の概要

心理学は社会におけるさまざまな問題の解決に利用されている。企業組織、マーケティング、環境問題、交通問題など、その内容は多岐にわたり、それらの多くの研究の基礎を形成しているのが社会心理学であるが、この講義では社会心理学をベースにした応用研究を順次紹介しながら、心理学を現実的な問題解決に利用するための視点や実践力を身につける。

準備学習（予習・復習）

産業や社会生活に関して心理学研究を踏まえた問題解決の事例を出来る限り収集しておく。

内　容

第1回　社会心理学研究の応用とは？
第2回　社会心理学研究を応用するための方法
第3回　社会心理学研究の応用事例①（組織行動）
第4回　社会心理学研究の応用事例②（マーケティング）
第5回　社会心理学研究の応用事例③（消費者保護）
第6回　社会心理学研究の応用事例④（交通行動）
第7回　社会心理学研究の応用事例⑤（環境問題）
第8回　社会心理学研究の応用事例⑥（ボランティア行動）
第9回　社会心理学研究を応用するための方法応用するための研究計画立案①（組織行動）
第10回　社会心理学研究を応用するための方法応用するための研究計画立案②（マーケティング）
第11回　社会心理学研究を応用するための方法応用するための研究計画立案③（消費者保護）
第12回　社会心理学研究を応用するための方法応用するための研究計画立案④（交通行動）
第13回　社会心理学研究を応用するための方法応用するための研究計画立案⑤（環境問題）
第14回　社会心理学研究を応用するための方法応用するための研究計画立案⑥（ボランティア行動）
第15回　総合討論

履修上の注意点

教科書

参考書

新・消費者理解のための心理学
著者:　杉本徹雄 編
出版社:　福村出版
出版年:　2012　　ISBN:

成績評価

試験　（ 20 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 50 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**臨床心理学特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　菅　佐和子.ジェイムス　朋子.中西　龍一.松下　幸治	

テーマ

授業の到達目標

臨床心理学の主要理論および実践論・技法論を理解する

授業の概要

広く臨床心理学すなわち精神力動モデル、認知行動モデル、人間性心理学モデルを概観し、担当教員それぞれの理論的背景に基づいた心理臨床学的実践論・技法論を教授する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　心理療法の本質とは何か
第2回　精神力動モデル･認知行動モデル･人間性心理学モデルの起源と発展経過（1）
第3回　精神力動モデル･認知行動モデル･人間性心理学モデルの起源と発展経過（2）
第4回　学派の枠を越えて重視される基本的技法
第5回　「現場」のニーズに即した心理臨床の実践(1)医療･看護･保健･リハビリ領域
第6回　「現場」のニーズに即した心理臨床の実践(2)教育領域
第7回　「現場」のニーズに即した心理臨床の実践(3)司法・福祉領域
第8回　「現場」のニーズに即した心理臨床の実践(4)産業領域
第9回　分析心理学と元型（archetype）
第10回　治療的援助行為の「光」と「影」
第11回　無意識の神話産生機能
第12回　個人神話（personal myth）と神話付与者としての治療者
第13回　布置（constellation）を読む
第14回　治療者の姿勢としてのタブラ・ラサ（tabula rasa）
第15回　個性化の過程と全体性（wholeness）への道
第16回　人間性心理学とゲシュタルト療法
第17回　ゲシュタルト療法の基礎的理論
第18回　コンタクトが生じる境界
第19回　ゲシュタルト療法が指す神経症
第20回　「今・ここ（here and now）」中心のセラピー、ゲシュタルト療法の過程
第21回　ゲシュタルト療法による症例検討1（個人セラピー）
第22回　ゲシュタルト療法による症例検討2（グループセラピー）
第23回　ゲシュタルト療法を体験する（ミニワーク）
第24回　力動的心理療法の主要概念
第25回　力動的アセスメント
第26回　臨床的態度
第27回　治療構造論
第28回　自由連想
第29回　転移と抵抗
第30回　徹底操作

履修上の注意点

教科書

参考書

臨床心理学の世界
著者：　菅佐和子他
出版社：有斐閣
出版年：　　ISBN：

h90101f750

ユング心理学入門
著者:　河合隼雄
出版社:　培風館
出版年:　　ISBN:

嘘を生きる人妄想を生きる人—個人神話の創造と病
著者:　武野俊弥
出版社:　新曜社
出版年:　　ISBN:

ゲシュタルト療法—その理論と心理臨床例
著者:　中西龍一
出版社:　駿河台出版社
出版年:　　ISBN:

ゲシュタルト療法—その理論と実際
著者:　中西龍一
出版社:　ナカニシヤ出版
出版年:　　ISBN:

精神力動的精神療法
著者:　グレン・O・ギャバード
出版社:　岩崎学術出版社
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　(40)　　小テスト ( )
授業中課題 ( )　　授業中発表等 (30)
参加度 (30)

2016 Syllabus

科 目 名　**臨床心理学面接特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　菅　佐和子.松下　幸治	

テーマ

授業の到達目標

臨床心理学の理論に基づき、具体的な面接技法を習得する

授業の概要

臨床心理学的諸理論に基づき、より実践的な面接技法を教授する。ロールプレイを重視し、実際にカウンセラー体験およびクライエント体験を通して実践の場で治療的に活かせる面接技法を体得する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　自分がクライエントの立場にたって考える
第2回　望ましい応答/望ましくない応答
第3回　クライエントの年代ごとの特徴を理解する---さまざまな発達理論を踏まえて
第4回　幼児期・児童期を対象とする面接技法---遊戯療法
第5回　思春期（中学生）を対象とする面接技法---中学生の「むずかしさ」
第6回　事例論文を読み、ロールプレイを行う
第7回　思春期（高校生）を対象とする面接技法
第8回　事例論文を読み、ロールプレイを行う
第9回　中学生と高校生の違いを理解する---言葉の成熟度
第10回　青年期（大学生世代）を対象とする面接技法
第11回　事例論文を読み、ロールプレイを行う
第12回　高校生と大学生世代の違いを理解する---自己認識の深まり
第13回　中年期～高齢期を対象とする面接技法---自分より年長者と向き合うとき
第14回　事例論文を読み、ロールプレイを行う
第15回　ここまでの「まとめ」と「振り返り」
第16回　面接における基本的心得—その質の向上のために
第17回　治療理論モデルの簡単な整理と「よくなる」ことについて
第18回　援助目的論と専門家の役割
第19回　治療者の聞く「耳」と患者の「耳」—心の声が聞こえやすくなるために
第20回　生きた「人」として面接に臨む—心の生き場としての面接
第21回　治療学としての休養学—休み上手にさすエ夫
第22回　記述不能としての面接の本質—「心」の相互活性化に向けて
第23回　治療者の「心」の伝え方と相互人間化
第24回　「心の整理」としての面接—“ありのままの自分”とその治療的意義
第25回　体験過程と体験様式
第26回　体験様式と体験内容
第27回　「創造の病」と「創造による治癒」
第28回　イメージ面接と「自由にして保護された空間」
第29回　イメージ技法のさまざまな展開
第30回　「面接論」のまとめと振り返り

履修上の注意点

教科書

参考書

心理療法序説
著者:　河合隼雄
出版社:　岩波現代文庫
出版年:　　ISBN:

h90101f850

心理療法入門
著者:　河合隼雄
出版社: 岩波現代文庫
出版年:　　ISBN:

治療的面接への探求1
著者:　増井武士
出版社: 人文書院
出版年:　　ISBN:

心の営みとしての病むこと
著者:　田嶌誠一
出版社: 岩波書店
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**臨床心理査定演習 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　田中　芳幸.岩知道　志郎.日比野　英子	

テーマ

臨床心理査定に関する理論や査定者としての態度の検討、理解、および査定技法の演習

授業の到達目標

心理的援助の方針決定や援助過程およびその効果の評価に関する情報収集のために実施される臨床心理査定の、理論モデルおよび種々の査定技法について学び、実践的な活用力を身に着けることを目的とする。

授業の概要

臨床心理査定の理論モデルや倫理的留意事項の理解を深めて、つぎに面接・観察・調査・心理検査等の技法について、実際的に学ぶ。特に、検査法の質問紙法、知能検査・発達検査、投映法について詳しく学ぶ。

準備学習（予習・復習）

参考書としてあげたもの等の臨床心理査定に関する図書や各種心理検査マニュアルの熟読、および、演習した査定に関する自分なりの解釈や論考。

内　容

第1回　臨床心理査定概論
第2回　臨床心理行為全般における臨床心理査定
第3回　面接・観察・調査による臨床心理査定
第4回　臨床心理査定における心理検査の意義と限界
第5回　質問紙法に基づく心理検査の信頼性と妥当性
第6回　質問紙法に基づく心理検査の標準化
第7回　質問紙法に基づく心理検査の実際①　YG性格検査など
第8回　質問紙法に基づく心理検査の実際②　MMPIなど
第9回　臨床心理査定結果の報告
第10回　臨床心理査定における心理検査実施上の留意事項と倫理
第11回　知能検査と発達検査
第12回　WISC知能検査の知能観と特色、実施法
第13回　WISCの実施法の実際
第14回　WISCの集計と結果の解釈
第15回　新版K式発達検査2001の考え方と特色
第16回　新版K式発達検査2001の実施法
第17回　新版K式発達検査2001の集計法と結果の分析
第18回　新版K式発達検査2001の事例①
第19回　新版K式発達検査2001の事例②
第20回　知能検査・発達検査と発達相談
第21回　投映法の定義と分類・特徴
第22回　PFスタディ絵画欲求不満テストの基礎理論と実施法
第23回　PFスタディ絵画欲求不満テストの結果の処理と実施法
第24回　バウムテストの解釈と事例検討
第25回　ロールシャッハ・テストの実施法
第26回　ロールシャッハ・テストのさまざまな分析システム
第27回　ロールシャッハ・テストの片口法記号化
第28回　ロールシャッハ・テストの事例と記号化
第29回　ロールシャッハ・テストの解釈①カテゴリーとカテゴリー比率の解釈
第30回　ロールシャッハ・テストの解釈②継列分析

履修上の注意点

授業には真摯に取り組むこと。私語など他の受講者に迷惑となる行為を慎み、討議や演習に積極的に参加すること。

教科書

参考書

心理臨床アセスメント入門―心の治療のための臨床判断学
著者:　赤塚大樹他
出版社:　培風館

h90101f910

出版年: 1996 ISBN:

心理学の世界専門編13 アセスメントの心理学

著者: 橋本忠行他

出版社: 培風館

出版年: 2014 ISBN:

新版K式発達検査法2001年版ー標準化資料と実施法

著者: 新版K式発達検査研究会 編

出版社: ナカニシヤ出版

出版年: 2008 ISBN:

新版K式発達検査2001 実施手引書

著者: 生澤雅夫他 編

出版社: 京都国際社会福祉センター

出版年: 2002 ISBN:

新・心理診断法ーロールシャッハ・テストの解説と研究(改訂)

著者: 片口安史

出版社: 金子書房

出版年: 1987 ISBN:

成績評価

試験 (50) 小テスト ( )

授業中課題 ( ) 授業中発表等 (20)

参加度 (30)

2016 Syllabus

科 目 名　**ロールシャッハ事例研究 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

ロールシャッハ法による体験過程の分析

授業の到達目標

ロールシャッハ・テストのさまざまな事例において、被験者の体験過程・葛藤解決過程・表象形成過程を捉えることによって、動的なパーソナリティ理解を目指す。

授業の概要

第5回の授業までは、継列分析についての理解を深め、異なる病理水準の事例のロールシャッハ反応の記号化と量的分析・継列分析について学び、その後に受講生が授業外で施行した事例を基に、スコアリング・量的分析・継列分析の結果を発表し、指導者を中心に検討し、総合的解釈を行う。発表者は、分析と解釈をまとめて報告書として提出する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ロールシャッハ法継列分析
第2回　神経症水準の事例のスコアリングと量的分析
第3回　神経症水準の事例の継列分析
第4回　境界的人格構造の事例のスコアリングと量的分析
第5回　境界的人格構造の事例の継列分析
第6回　事例1の発表とスコアリングの検討
第7回　事例1の量的分析と継列分析
第8回　事例2の発表とスコアリングの検討
第9回　事例2の量的分析と継列分析
第10回　事例3の発表とスコアリングの検討
第11回　事例3の量的分析と継列分析
第12回　事例4の発表とスコアリング
第13回　事例4の量的分析と継列分析
第14回　事例5の発表とスコアリング
第15回　事例5の量的分析と継列分析

履修上の注意点

受講生は、授業の前に自身でロールシャッハテストを実施して、そのデータを記号化・解釈してから授業に臨むようにしてください。

教科書

改訂　新・心理診断法
著者:　片口安史
出版社:　金子書房
出版年:　1974年　　ISBN:　9784760825486

参考書

改訂 新・心理診断法
著者:　片口安史
出版社:　金子書房
出版年:　　ISBN:

ロールシャッハ法と精神分析ロールシャッハ法と精神分析
著者:　馬場禮子
出版社:　岩崎学術出版
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 40 ）
参加度　（ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**分析心理学特論 <M>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　松下　幸治

テーマ

分析心理学の理論および心理臨床実践を理解する。

授業の到達目標

C.G.Jungが提唱した分析心理学について概観し、その実践的有用性を理解する。

授業の概要

ともすれば治療者自身が「空想虚言症（pseudologia phantastica）」的になり、被援助者を自らの自己中心的な空想から意のままに操ってしまう危険性について考える。すなわち、治療者の歪んだ空想（fantasy）からではなく生きた想像（imagination）によってのみ被援助者の自己治癒力は活性化されるという臨床的事実を理解する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　C.G.Jungと分析心理
第2回　元型（archetype）について
第3回　布置（constellation）を読む
第4回　完全性（perfection）と全体性（wholeness,totality）
第5回　タイプ論―外向と内向、4つの心理機能
第6回　個人的無意識と普遍的無意識
第7回　夢分析の実際
第8回　「個性化の過程（purosess of individuation）」について
第9回　治療者の影（shadow）
第10回　空想（fantasy）と想像（imagination）
第11回　個人神話（personal myth）の創造と病
第12回　「記号的意味解釈」と「象徴的意味解釈」
第13回　神話付与としての解釈
第14回　「死と再生」のモチーフ
第15回　正しさのもつ破壊性、偽りにひそむ創造性

履修上の注意点

教科書

参考書

ユング心理学入門
著者：　河合隼雄
出版社：培風館
出版年：　　ISBN：

嘘を生きる人妄想を生きる人―個人神話の創造と病
著者：　武野俊弥
出版社：新曜社
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 30 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**思春期臨床心理学特論 <M>**

クラス　　配当回生　大学院1回生

講義期間　その他　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　（休講）

テーマ

授業の到達目標

思春期を対象とする心理療法の方法論を学ぶ。

授業の概要

思春期は、子供から大人への過渡期であり、心身の急激な発達・変化の時期である。そのためさまざまな不適応現象が生じやすい。しかし、子供を対象とする遊戯療法にも大人を対象とする言語交流にも適応しにくいという、きわめて対応のむつかしい時期である。この時期に適した心理療法の方法論を具体例を通して習得する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ライフサイクルにおける思春期の位置づけ
第2回　pubertyとしての思春期/adolescenceとしての思春期
第3回　遊戯療法か言語交流（カウンセリング）かという二分法を脱却する
第4回　非言語的アプローチ/非言語的アプローチの併用技法
第5回　思春期の若者を取り巻く家庭・学校の様相
第6回　家庭におけるストレスを理解する
第7回　第二反抗期をめぐって
第8回　学校におけるストレスを理解する
第9回　「いじめ」について考える
第10回　事例研究を通して学ぶ（「いじめ」の事例）
第11回　事例研究を通して学ぶ（不登校の事例）
第12回　事例研究を通して学ぶ（心身症の事例）
第13回　事例研究をとして学ぶ（対人恐怖の事例）
第14回　事例研究を通して学ぶ（摂食障害の事例）
第15回　「まとめ」と「振り返り」

履修上の注意点

教科書

参考書

思春期女性の心理療法
著者：　菅佐和子
出版社：創元社
出版年：　　ISBN：

思春期心理臨床のチェックポイント
著者：　菅佐和子
出版社：創元社
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 40 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ 30 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**グループアプローチ特論 <M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中西　龍一	

テーマ

グループアプローチ心理学

授業の到達目標

セラピーグループを形成し展開するための知識と技法の習得を目的とする。

授業の概要

一般的なグループの形成、成長といったグループプロセスの理論、およびさまざまなグループの展開技法を学んだ後、実際にグループを体験することで学びを確かなものとする。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　臨床心理学におけるグループとは
第2回　療法的因子と対人学習
第3回　グループの凝集性
第4回　グループセラピストの基本的課題
第5回　グループセラピストの役割
第6回　グループセラピストの技法
第7回　グループプロセスとは
第8回　グループ構築の実際1（グループ構成の諸原則）
第9回　グループ構築の実際2（グループの構造）
第10回　グループの形成的段階　初期
第11回　グループの形成的段階　中期
第12回　グループの形成的段階　後期　終結
第13回　グループ共通の問題を解決するには
第14回　様々なグループ
第15回　グループを体験する

履修上の注意点

教科書

参考書

グループサイコセラピー　ヤーロムの集団精神療法の手引き
著者：　アーヴィン・D. ヤーロム／ソフィア ヴィノグラードフ 著　川室優 訳
出版社：金剛出版
出版年：　　ISBN：

ヤーロム グループサイコセラピー―理論と実践
著者：　アーヴィン・D・ヤーロム 著　中久喜雅文・川室優 監訳
出版社：西村書店
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 30 ）	小テスト（　）
授業中課題（　）	授業中発表等　（ 50 ）
参加度　（ 20 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**ライフサイクル論実習**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀　妙子.深山　つかさ.望月　紀子	

テーマ

授業の到達目標

地域で生活するさまざまな発達段階の人と関わり、人の成長発達・健康・生活・環境の視点から対象を理解し、その健康課題を査定するために必要な基礎的能力を養う。

授業の概要

1.地域で暮らす乳幼児や高齢者の成長発達に応じた身体的変化、認知や感情、心理社会的変化を理解し、説明できる。2.地域で暮らす乳幼児や高齢者の日常生活の様子、環境について理解し説明できる。3.地域で暮らす乳幼児や高齢者の成長発達・生活・環境と健康課題の関係について説明できる。4.地域で暮らす乳幼児や高齢者との関わりにおいて、適切なコミュニケーションをとることができる。5.地域で暮らす乳幼児や高齢者との関わりにおいて、相手を尊重する行動をとり、また守秘義務を遵守できる。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　授業内容学内演習（高齢者疑似体験、子どもの日常生活の世話）老人クラブの活動に参加保育園での実習京あんしん子ども館見学実習ライフサイクル論実習のまとめ＊全て含め1週間の実習を行う＊詳細は実習要項参照

第2回　特になし

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護学実習Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　前期集中　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　深山　つかさ.伊藤　恵美子.植村　由美子.奥野　信行.梶谷　佳子.河原　宣子.神崎　光子.工藤　里香.常田　裕子.中島　登美子.中橋　苗代.西村　美八.野島　敬祐.堀　妙子.松本　賢哉.マルティネス　真喜子.望月　紀子

テーマ

授業の到達目標

実践看護学Ⅰ・実践看護学演習Ⅰでの学習を踏まえ、高齢者施設をフィールドとして、主として日常生活援助を実施し、発達段階や人間の基本的ニード、健康レベルに応じた看護技術を適用する方法の基礎を学ぶ。また、実習での体験を通して、自らの看護観を養う。

授業の概要

1.根拠に基づいた援助を提供するための情報を探索し、活用できる。2.対象の状態を配慮した日常生活援助を計画し、指導のもとで実施できる。3.実施した援助内容を評価し記録できる。4.対象と適切な援助的コミュニケーションをとることができる。5.対象の権利、プライバシーや情報の保護に配慮できる。6.ケアチームメンバーの一員として自覚と責任をもち、適切なコミュニケーションをとることができる。7.自己の看護の向上に向けて、実習での体験を振り返り、自己を洞察し、看護観を自らの言葉で説明できる。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　授業内容実習は、介護老人保健施設で2週間行う。一人の対象を受け持ち、対象に適した日常生活援助を計画し、指導者・教員と共に実施する。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**プライマリケア実習Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　通年集中　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　堀 妙子.阿部 祝子.伊藤 恵美子.植村 由美子.梶谷 佳子.河原 宣子.竹下 夏美.富永 真己.中橋 苗代.西村 美八.野島 敬祐.松本 賢哉.マルティネス 真喜子.深山 つかさ.望月 紀子

テーマ

授業の到達目標

看護の対象となる人々が生活している地域・産業・学校の場をとおし、それぞれがおかれている環境を理解したうえで、健康課題を査定し、根拠に基づいた看護援助を実践する基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.地域・産業・学校の場の特性を理解するための方法が説明できる2.地域・産業・学校の場で生活する人々の健康課題を査定する方法が説明できる3.地域・産業・学校の場で生活する人々の健康課題の特徴を説明できる4.保健医療福祉における看護の役割について説明できる5.保健医療福祉における様々な職種との協働と連携の必要性を説明できる6.様々な価値観・信条や生活背景をもつ人と接し、その人々を尊重する行動をとり、また守秘義務を遵守する事ができる7.自己の実践を振り返り、今後の課題を見出す事ができる

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　実習内容プライマリファミリー（山科区）1週間産業・学校　1週間学内演習も含めて2週間行う＊詳細は実習要項参照授業以外での学習方法事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う。なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。

第2回　特になし

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ ）

授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護学実習Ⅲ－3**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀　妙子	

テーマ

授業の到達目標

「実践看護学Ⅰ～Ⅲ-1・2、実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ、実践看護学実習Ⅰ～Ⅱを踏まえ、さまざまな健康課題をもつ対象とその家族への、人によりそう看護の理解を深める。チームの一員として看護実践活動を行い、看護の専門性を考察し、他職種との協働の重要性を学ぶ。」健康上の課題をもつ小児とその家族に対し、発達段階や健康課題が及ぼす影響を考えながら、個別性に応じた看護が実践できる能力を養う。

授業の概要

1.小児に特有な疾患の病態生理を説明できる2.小児の発達段階に応じた日常生活援助の方法を説明できる3.小児の発達段階に応じた処置やケアの方法を説明できる4.小児及び家族を理解するために必要な情報収集の方法を説明できる5.小児及び家族を理解するために必要な情報が収集できる6.収集した情報をもとに健康課題を査定する方法を説明できる7.収集した情報をもとに健康課題を査定できる8.査定した結果から個別性に応じた看護援助を考える方法を説明できる9.査定した結果から個別性に応じた看護援助を考えられる10.安全に配慮しながら個別性に応じた看護援助を実施する方法を説明できる11.安全に配慮しながら個別性に応じた看護援助を実施できる12.実施した自己の看護実践を評価する方法を説明できる13.実施した自己の看護実践を評価できる14.対象となる小児及びその家族を尊重した行動をとることができる

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　目的健康上の課題をもつ小児とその家族に対し、発達段階や健康課題が及ぼす影響を考えながら、個別性に応じた看護が実践できる能力を養う。実習概要1．医療施設で患児を1名（状況により複数）受け持ち、看護過程を展開する2．小児専門病院及び重症心身障がい児施設の見学実習

第2回　特になし

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護学実習Ⅲ－4**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　賢哉.伊藤　恵美子	

テーマ

授業の到達目標

「実践看護学Ⅰ～Ⅲ-1・2、実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ、実践看護学実習Ⅰ～Ⅱを踏まえ、さまざまな健康課題をもつ対象とその家族への、人によりそう看護の理解を深める。チームの一員として看護実践活動を行い、看護の専門性を考察し、他職種との協働の重要性を学ぶ。」精神に障害をもつ対象者とのかかわりを通して、個人及びその家族への理解を深める。さらに、生活や対人関係に困難を抱えていることを理解し、自らをケアの道具として最大限に活かし、対象者とかかわるための基礎的実践能力を養う。

授業の概要

精神に障害をもつ人及びその家族への理解を深め、対象者とかかわるための基礎的能力を養う。1. 対象者を身体的、心理的、社会的な存在として理解する。2. 援助的な対人関係の基本的技法を学ぶ。3. 対象者のセルフケアに焦点をあてて看護過程を展開する。4. 精神保健医療福祉における看護職の役割と地域生活支援のあり方を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　・主として医療施設で2週間行う。・患者を一人受け持ち、セルフケアへの援助を中心として看護過程を展開する。・受け持ち患者とのかかわりについてプロセスレコードを作成し、分析を行う。・リハビリテーションや地域生活支援を理解するために、デイケアなどにおいても実習を行う。・学びを共有するために、適宜カンファレンスを行う。※詳細については、実習要項を参照すること

履修上の注意点

教科書

参考書

50

著者:　目標の達成度、実習態度を含め総合的に評価する。詳細については実習要項を参照すること。

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護学実習Ⅲ－５**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　神﨑　光子.工藤　里香.常田　裕子	

テーマ

授業の到達目標

「実践看護学Ⅰ～Ⅲ-1・2、実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ、実践看護学実習Ⅰ～Ⅱを踏まえ、さまざまな健康課題をもつ対象とその家族への、人によりそう看護の理解を深める。チームの一員として看護実践活動を行い、看護の専門性を考察し、他職種との協働の重要性を学ぶ。」ライフサイクルにおける周産期（妊娠、分娩、産褥（新生児）各期）にある母児の看護実践を通じて、生涯発達の視点から周産期にある母児とその家族の健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助について学び、対象の個別的ニーズに応じた看護を実践する基礎的な能力を養う。

授業の概要

妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期にある母子とその家族を生理的、心理的、社会的な側面から総合的に理解し、母子や家族の状況に応じたセルフケア能力が獲得でき、育児の準備と実践ができるよう、チームの一員として支援する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　マタニティサイクルにある母子とその家族の看護を学ぶ1　実習場所　産科病棟（産褥室、新生児室、分娩室）および産科外来2　実習体制　1）病院実習では、産褥（新生児）期にある母子あるいは入院中の妊婦を1例　以上受け持ち、看護を実践する。　受け持ち事例の選定基準　①原則として正常経過をたどる母子と帝王切開の母子　②感染症事例は除く　③状態の安定している妊婦　※いずれも臨床指導者、教員の合議により選定し、　受け持ち妊産婦の承諾得られた事例とする2）産科外来　妊婦健診、保健指導や産褥1ヵ月健康診査の実際を学ぶ。 3）カンファレンス　日々の振り返りカンファレンス　事例検討カンファレンス　中間・実習終了カンファレンス　学内カンファレンス

履修上の注意点

教科書

参考書

80

著者：　全日程出席が原則。補習は実施しない。指定した記録物、レポートおよび学習態度を加味して、実習評価表により評価する。

出版社：

出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**プライマリケア実習Ⅱ**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　通年集中	定　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　西村　美八.阿部　祝子.植村　由美子.梶谷　佳子.竹下　夏美.富永　真己.中橋　苗代.深山　つかさ.望月　紀子	

テーマ

授業の到達目標

生活の営みの中で人々の健康生活を支えるための看護活動（プライマリーファミリーの訪問活動、保健所、保健センター、訪問看護ステーション、地域包括支援センターにおける看護活動）を体験することにより、地域の健康政策機関の機能・役割について理解するとともに、看護職の役割と関係職種の役割・連携について学ぶ。

授業の概要

1.プライマリーファミリーの訪問活動を通して、地域で暮らす人々の健康課題に対する援助方法と看護職の役割について理解する。 1) プライマリーファミリーの生活をより深く知り、健康の維持・増進のために必要な看護を考えることができる。 2) プライマリーファミリーとの援助的な対人関係を築くためのコミュニケーションについて考えることができる。2.地域の健康政策機関の保険福祉事業の成り立ちと、機能と役割を説明できる。3.個人および家族の生活を把握し、健康状態との関連を査定するとともに、対象の生活の営みに即した地域での看護活動の展開方法を説明できる。4.地域の健康政策機関における活動の現状、地域の特性や社会資源に関する資料・健康指標から健康課題を把握し、課題解決に必要な看護援助方法を説明できる。

5.地域の健康政策機関における看護職、関係機関および関係職種の機能・役割について説明できる。6.保健・医療・福祉など

準備学習（予習・復習）

プライマリーファミリー、保健所、保健センター、訪問看護ステーション、地域包括支援センターの概要と関連法規について事前に学習しておくこと。

内　容

第1回　授業内容実習期間および場所は、プライマリーファミリー(1週間)および、保健所・保健センター・訪問看護ステーション・地域包括支援センター（2週間)とする。＊詳細は、実習要項参照のこと授業以外での学習方法プライマリーファミリー、保健所、保健センター、訪問看護ステーション、地域包括支援センターの概要と関連法規について事前に学習しておくこと。
第2回　地域療養を支えるケア
第3回　臺有桂・石田千絵・山下留理子
第4回　メディカ出版
第5回　ヘルスケアシステムⅠ，Ⅱで用いたテキスト. その他，これまでの授業で用いたテキスト

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護学実習Ⅲ－1・2**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　奥野　信行.河原　宣子.野島　敬祐.マルティネス　真喜子	

テーマ

授業の到達目標

実践看護学Ⅰ～Ⅲ-1・2、実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ、実践看護学実習Ⅰ～Ⅱを踏まえ、さまざまな健康課題をもつ対象とその家族への、人によりそう看護の理解を深める。チームの一員として看護実践活動を行い、看護の専門性を考察し、他職種との協働の重要性を学ぶ。1.特定の健康課題を有する対象者とその家族への看護を実践するための基礎的能力を培う。2.特定の健康課題を有する対象者とその家族への看護実践を通して、看護の専門性を考察し、多職種との協働の重要性を学ぶ。

授業の概要

1.特定の健康課題を有する対象者とその家族の権利や尊厳、価値観、信条を尊重し、援助的関係を形成することができる。2.特定の健康課題を有する対象者とその家族を多面的・全体的に捉え、病気や治療によってどのような影響を受けているか査定できる。3.特定の健康課題を有する対象者とその家族に関心を向け、必要な看護が実践できる。4.特定の健康課題を有する対象者とその家族が活用できる社会資源について説明できる。5.入院から退院支援を含めたチーム医療における看護及び他職種の役割を理解し、対象者を中心とした連携と協働の在り方について説明できる。6.特定の健康課題を有する対象者とその家族に対して実践した看護を振り返り、専門職として専門性を発展させていくことの重要性やよりそう看護について自分なりの考えを説明できる。7.看護を学ぶ者として自らの課題を持ち、専門職者にふさわしい資質や態度を養うことができる。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　実習内容1.実習期間4週間2.実習時間原則として、8:30～16:00（9:00～16:30）。ただし、受け持ち対象等の状況により、更する場合もある。3.受け持ちの対象者特定の健康課題を有する対象者を1名から3名程度受け持つ。4.実習場所病棟および対象に対して看護実践活動が展開されている様々な場所で実習を行う。(例：手術室、集中治療室など外来、検査室、リハビリテーション室、栄養指導室、継続看護室、透析室など)5.行動目標1)特定の健康課題を有する対象者とその家族の権利や尊厳、価値観、信条を尊重し、援助的関係を形成することができる。(1)対象者とその家族の権利や尊厳、価値観、信条を理解した行動がとれる。(2)対象者とその家族の状況に合わせた適切なコミュニケーションができる。(3)対象者とその家族の反応の意味を適切に理解し、援助的関係の形成に必要な関わりが遂行できる。

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <a>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　梶谷　佳子	

テーマ

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する希望結果から、担当教員を決定する実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <b>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　植村　由美子	

テーマ

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する希望結果から、担当教員を決定する実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題 （ ）　授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <c>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中橋　苗代	

テーマ

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する希望結果から、担当教員を決定する実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <d>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　通年集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　河原　宣子

テーマ

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する希望結果から、担当教員を決定する実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <e>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　奥野 信行	

テーマ

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する希望結果から、担当教員を決定する実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <f>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　野島　敬祐	

テーマ

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する希望結果から、担当教員を決定する実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <g>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　マルティネス　真喜子	

テーマ

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する希望結果から、担当教員を決定する実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <h>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阿部　祝子	

テーマ

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する希望結果から、担当教員を決定する実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <i>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　望月　紀子	

テーマ

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する希望結果から、担当教員を決定する実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <j>**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　通年集中　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　深山　つかさ

テーマ

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する希望結果から、担当教員を決定する実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <k>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　伊藤　恵美子	

テーマ

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する希望結果から、担当教員を決定する実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題 （ ）　授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <I>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　賢哉	

テーマ

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する希望結果から、担当教員を決定する実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <m>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中島　登美子	

テーマ

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する希望結果から、担当教員を決定する実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <n>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　堀　妙子	

テーマ

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する希望結果から、担当教員を決定する実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <o>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　神﨑 光子	

テーマ

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する希望結果から、担当教員を決定する実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <p>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　工藤　里香	

テーマ

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する希望結果から、担当教員を決定する実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <q>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　常田　裕子	

テーマ

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する希望結果から、担当教員を決定する実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <r>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　富永　真己	

テーマ

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する希望結果から、担当教員を決定する実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**総合看護学実習 <s>**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　西村　美八	

テーマ

授業の到達目標

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門的能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

授業の概要

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにする。2.根拠に基づいた看護を実施できる。3.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。4.自己を評価し管理することの必要性が説明できる。5.看護の対象となる人々を尊重し、その人々への畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。

準備学習（予習・復習）

事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う

内　容

第1回　総合看護学実習の希望領域を学生が提出する希望結果から、担当教員を決定する実習方法は、担当教員の指示に従う

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**プライマリケア実習Ⅲ**

クラス　　配当回生　学部4回生

講義期間　通年集中　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　河原　宣子.阿部　祝子.伊藤　恵美子.植村　由美子.奥野　信行.梶谷　佳子.神﨑　光子.工藤　里香.竹下　夏美.常田　裕子.富永　真己.中島　登美子.中橋　苗代.西村　美八.野島　敬祐.堀　妙子.松本　賢哉.マルティネス　真喜子.深山　つかさ.望月　紀子

テーマ

授業の到達目標

人々を取り巻く環境とあらゆる健康や疾病に対して総合的・継続的・全人的に対応する地域の政策と機能について理解し、健康に関する社会問題を解決するための政策形成過程を学ぶ。

授業の概要

1.プライマリーファミリーの訪問活動を通して、地域で暮らす人々の健康課題に対する援助(実践)への評価を行い、地域に共通する健康課題を明らかにするとともに、解決するための方法を検討できる。2.地域に暮らす人々の尊厳ある生活を継続するために、その営みに即した必要な支援を構築する方法を説明できる。3.地域の保健・医療・福祉サービスや地域のインフォーマルサービスなど多様な社会資源を用いて、個人や地域の特性に対応した看護援助や健康環境づくりについて説明できる。4.地域に暮らす人々の健康に関する社会問題を明らかにするとともに、解決するために、既存サービスに加え新たなサービスが形成される過程を理解できる。

準備学習（予習・復習）

プライマリーファミリー、地域包括支援センター、地域介護予防推進センター、居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護支援事業所、ディケア、ディサービスの概要と関連法規について事前に学習しておくこと

内　容

第1回　授業内容実習期間および場所は、プライマリーファミリー(2日間)および、地域包括支援センター・地域介護予防推進センター・居宅介護支援事業所・小規模多機能型居宅介護支援事業所・ディケア・ディサービス（5日間)とする。＊詳細は、実習要項参照のこと

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**助産学実習**

クラス	配当回生　学部4回生
講義期間　通年集中	定　　員　10
履修条件	クラス指定
担 当 者　　工藤　里香.遠藤　俊子.神﨑　光子.常田　裕子	

テーマ

母子看護活動における助産師の役割ならびに社会的責任を理解し、周産期にある母児ならびにその家族の尊厳と権利を擁護しながら、ニードに応じた看護を実践できる能力を養う。

授業の到達目標

周産期看護を根拠に基づいて計画的に実践し、妊娠期・分娩期・産褥期の看護過程の展開を行う。

授業の概要

1　周産期にある母児とその家族について妊娠・分娩・産褥経過に沿ってアセスメントし、健康の増進、疾病予防に必要な看護を実践できる1)妊婦と胎児の妊娠経過をアセスメントし、看護が実践できる2)産婦と胎児の分娩経過をアセスメントし、看護が実践できる3)褥婦の産褥経過をアセスメントし、看護が実践できる4)新生児の子宮外生活の適応をアセスメントし、看護が実践できる5)母児とその家族の退院後の生活をアセスメントし、育児支援が実践できる6)一か月健診における母児とその家族をアセスメントし、看護が実践できる2　母子看護活動における医療・社会資源、チーム医療のあり方について理解し、　保健医療福祉サービスの継続性(連携)について考えることができる3　産科救急の特徴と救急処置ならびに産科手術の特徴と介助方法を理解できる4　周産期における助産管理の実際を理解できる5　助産師としての倫理観、看護観を述べることができる

準備学習(予習・復習)

実践看護学Ⅲ-5、助産診断学、助産技術学、看護管理学ⅡB等で指定したテキストや参考書の他、周産期関連の書籍を用いて知識をまとめた上で実習に臨むこと

内　　容

第1回　【実習期間】6月1日～7月29日(分娩介助が10例に達しない場合は、実習期間を延長する)【実習内容】1　10例の分娩介助、産褥期の看護過程の展開2　1例の妊娠期から1か月健診までの継続事例の受け持ち3　カンファレンス

1)実習病院において、適宜カンファレンスを実施する　2)学内カンファレンスは、実習期間中に2回実施する(実習

第2回　1　教員が必要と認めた場合は補習講義を行うことがある。2　再実習は行わない

第3回　使用しない

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　(　)	小テスト (　)
授業中課題 (　)	授業中発表等 (　)
参加度　(　)	

2016 Syllabus

科 目 名　**救急救命実習Ⅰ**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　通年	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　関根　和弘.北小屋　裕.深澤　雄二.福岡　範恭	

テーマ

救急活動の基礎を学ぶ

授業の到達目標

通年の講義及び実習の他、夏期および春期学休期等に学外実習を実施する。

授業の概要

尊い人命を救助するための知識や技術を日常生活において実践して、自他の生命を尊重し、安全で健康な生活を営めるようにする。また、事故を防止し、災害時などにお互い助け合えるようなボランティアの精神を育てるとともに、医療人である救急救命士としての自覚を養う。一次救急処置の理論と基本的実技および、観察用資機材を用いた救急救命処置等の理論・技術について具体的な実習を通じて習得する。また、救急医療を担う医療施設および消防施設等の実地見学により救急救命の最前線の活動をイメージする。

準備学習（予習・復習）

翌週に実施する項目の課題(300文字～500文字にまとめる)を与える。その項目のテキストを熟読及びまとめること。その日の項目の実技が習得できない場合は、翌週の授業までに各班で全員が個人練習を実施すること。

内　容

第1回　第1回～3回 オリエンテーション、各個訓練(訓練礼式)第4回～6回 一次救命処置(一般市民が行う心肺蘇生法、成人)、1人法、AED取扱い第7回～9回 一次救命処置(一般市民が行う心肺蘇生法、成人・小児・乳児)1人法・2人法、AED取り扱い、ポケットマスク使用法第10回～12回 一次救命処置(救急隊活動)、BVM(バックバルブマスク)の使用法第13回～15回 一次救命処置(救急隊活動)、気道閉塞の対応第16回～18回 器具を使用した人工呼吸(経鼻エアーウエイ、経口エアーウエイ)、酸素投与法第19回～21回 救急隊員が行う一次救命処置・救急隊活動第22回～24回 一次救命処置(一般市民が行う心肺蘇生法)の効果測定第25回～27回 三角巾法・止血法・副子固定、徒手搬送法第28回～30回 三角巾法・止血法・副子固定、徒手搬送法第31回～33回 傷病者観察資機材の取扱い方法(聴診器、検眼灯、血圧計等)第34回～36回 搬送資機材の取扱い(メインストレッチャー、スクープトレッチャー、エアーストレッチャー)第37回～39回 外傷処置の固定　基本手技(JPTEC準拠)第40回～42回 外傷活動の基本 （JPTEC準拠)第43回～45回 前期まとめ、水難実習におけるロープワーク第46回～49回 消防学校見学（学外）　＊授業期間外第50回～52回 傷病者観察の基本1 （外傷初療・JPTEC準拠の基本活動)基本手技の徹底(ログロール、BB固定、ストレッチャーへの積載方法)第53回～55回 傷病者観察の基本1 （外傷初療・JPTEC準拠の基本活動)①緊急処置 ②ヘルメット離脱方法　③立位BB、Fire-man Lift、Frat Lift　④KED第56回～58回 傷病者観察器具 （心電図の基本を学ぶ)心電図機器(除細動器)の使用方法、各人への取り付け方法、心肺停止傷病者の心電図波形第59回～61回 傷病者観察器具 （喉頭鏡、喉頭展開、異物除去）ダミーを用いた喉頭鏡の使用方法、基本的手技 第62回～64回 傷病者観察器具 （喉頭鏡、喉頭展開、異物除去）喉頭鏡使用による異物除去、吸引、BVM、酸素投与等の隊活動準拠第65回～67回 外傷活動の基本 （JPTEC準拠)状況評価と初期評価　通信指令室からの情報聴取と確認第68回～70回 外傷活動の基本 （JPTEC準拠)車内活動要領と病院報告　GUNBAやMISTの取得方法と報告要領第71回～73回 外傷活動の基本 （JPTEC準拠)シナリオにそった隊活動第74回～76回 外傷活動の基本 （JPTEC準拠)シナリオにそった隊活動第77回～79回 外傷活動の基本 （JPTEC準拠)まとめ第80回～82回 傷病者観察の基本2 （内因性疾患傷病者への対応)医療面接とコミニュケーション第83回～85回 傷病者観察の基本2 （内因性疾患傷病者への対応)状況評価から初期評価、重点観察第86回～88回 傷病者観察の基本2 （内因性疾患傷病者への対応)内因性疾患傷病者への隊活動 （CPAでない傷病者対応、急変あり)第89回～91回 傷病者観察の基本2 （内因性疾患傷病者への対応)内因性疾患傷病者への隊活動　シナリオ開示訓練(CPAでない傷病者対応、急変あり)第92回～110回 介護高齢者とコミュニケーション（学外）＊平常授業日外第111回～113回 後期まとめ・総括実技と講義の効果測定

第2回　履修態度・頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。

第3回　救急隊員標準テキス 改訂第3版

第4回　救急隊員用教本作成委員会

第5回　へるす出版

第6回　2007

第7回　9784892695902

第8回　JPTECガイドブック

第9回　一般社団法人JPTEC協議会

第10回　へるす出版

第11回　2010

第12回　救急救命士標準テキスト　改訂第9版　上巻

第13回　救急救命士標準テキスト編集委員会

第14回　へるす出版

第15回　2015

第16回　9784892698699

第17回　救急救命士標準テキスト　改訂第9版　下巻

第18回　救急救命士標準テキスト編集委員会

第19回　へるす出版

第20回　2015

第21回　9784892698705

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**養護実習（3回生枠）**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　集中　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　佐藤 浩子

テーマ

実りある養護実習（養護実習事前指導）

授業の到達目標

授業の概要

（獲得目標）学校保健活動における養護教諭の職務の実態、養護実習体験報告などから、養護実習についてのイメージを膨らませて実習に臨み、養護教諭への志を確たるものにする。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　教職課程ガイダンス・教員の適性・資質について・教育職員免許取得の心構えについて第１回　養護実習事前指導

・養護実習内諾依頼について・養護実習の意義と計画について・養護実習の準備と心構えについて第2回　養護実習反省会　実習体験報告から学ぶ。グループ討議・実践交流　（4－3回生合同開催）第3回　養護実習事前指導・養護実習の内容について（実習の流れ・プロセスと心得、実習記録など）・実習校への事前訪問、事前打ち合わせについて・養護実習の目標と計画について考え交流する。・養護実習受講資格につ

第2回　公開授業や現場教師の研究会、4回生や児童教育科の学生との情報交流、子ども対象の催しや学校ボランティア活動などに積極的に参加する。

第3回　授業内で配布する。

履修上の注意点

教科書

参考書

50

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度　（ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学実習（老年）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　通年集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　沼本　教子.望月　紀子	

テーマ

講義・演習で学んだ理論、知識、技術を実践に適用・統合し、専門看護師として活動できる看護実践能力の形成・向上を図る。そのために施設で暮らしている健康課題をもつ高齢者（認知症高齢者を含む）とその家族に対し、専門的老年看護の実践、スタッフや他職種への教育、相談、保健医療福祉に関わる人々の調整、倫理的調整などに研究的視点をもって臨み、また老年看護活動を創意工夫・変革するため実践的研究に取り組む。

授業の到達目標

授業の概要

1) 介護施設を利用し生活する高齢者の生活活動とその調整に関する実践・相談・教育に必要な高度な実践能力を身につける。2) 認知症高齢者の生活活動とその調整に関する実践・相談・教育に必要な高度な実践能力を身につける。3) 高齢者と家族の関係調整に関する実践・相談・教育、コーディネ-ションなどの能力を身につける。4) 高齢者ケアにおける看護活動・組織の検討と関係調整に必要なコーディネ-ション、リ-ダシップを発揮する能力を身につける。5) 高齢者ケアにおける看護スタッフへの教育・相談の企画・実践・評価およびコンサルテーション、リ-ダシップを発揮する能力を身につける。6) 高齢者ケアにおける倫理的課題について関係者間での倫理的調整に必要な能力を身につける。7) 高齢者ケアにおける看護の創意工夫、開発を図る実践的実態的研究課題を見出し研究的能力を育成する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　課　題 1) 施設における老年看護の事例，認知症高齢者の看護の事例について，看護実践を行いケースレポートを作成する。（目標1.2 .3）2) 病院・施設における実習において看護管理者と共に看護管理実践を行い、看護組織・機関における高齢者ケアに関する実践的・実態的課題についてレポートを1例作成する。（目標4）3) 病院・施設における実習において看護管理者と共に看護活動計画、スタッフ教育、相談、調整、コンサルテーションを行い論述するレポートを1例作成する。（目標5）4) 病院・施設における実習において倫理的な問題・葛藤について倫理的調整、ｺｰﾃﾞｨﾈｰｼｮﾝについて論述するレポートを1例作成する。（目標3、6）5)　1)～5)のレポートのうち一つについては、高齢者ケアにおける看護の創意工夫、開発を図る実践的・実態的研究としてまとめる。（目標7）

----------実習単位：10単位　　実習時期：1年次後期～2年次前期・後期実習施設・期間：各自の関心領域を中心に、高度な実践知識・スキルの修得、専門看護師の役割・機能などの内容を網羅した実習計画を作成し、実習する。実習期間は1施設最低4週間とし全体で10週間以上を目安とするが、各自の専門的看護実践のための技術や能力の修得度によって調整する。注：①実習期間は、専門看護師として院生の能力開発強化の必要性を考慮し決める。②認知症高齢者の看護実践を体験する場合は、必要に応じ医療施設・介護施設・在宅での実習を継続して行う。

----------実習の進め方：1) 実習目標にもとづき個別行動目標を明確にし、実習計画を立てる、さらに教員、指導者を交えて検討する。2) 日々の実習記録を記載する。また、複雑な事例に関する臨床判断、実践的知識、他者との関係性、自己の気持ちや感情などについて、丁寧に記述し、経験の意味を考察する。3) 高齢者や家族に対する倫理的配慮を行うと共に、予測される倫理的課題について指導者やスタッフと調整する。4) 週1回定期的なカンファアレンスにおいて、教員、実習指導者の助言をうけ、専門看護実践に関する自己評価を行うと共に、実習計画を修正する。スーパービジョン：1) 実習中は、担当教員より週1回のスーパービジョンを受ける。スーパービジョンは、実習施設におけるベットサイドおよび大学での両方を併用する。2) 実習施設では、適宜カンファアレンスを行い、実習指導者（専門看護師レベルに相当する看護職）や他の看護職などから、助言・フィードバックを受ける。学習方法：臨床実習、文献学習、学生プレゼンテーション

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**次世代育成看護学実習Ⅰ（周産期）<M>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

講義･演習で学んだ理論･知識･技術を実践に応用･統合し、母性看護専門看護師として活動するための能力形成を図る。専門看護師としての役割機能の視点を持ちながら、周産期ケアの質向上のための変革を担う力を育てる。

授業の到達目標

授業の概要

周産期の高度医療を提供する医療施設において、身体的かつ心理社会的に複雑な状況をもつ妊産婦と子どもとその家族の支援を計画、実践、評価し、高度看護実践能力を高める。また、あわせて事例のもつ倫理的課題について検討を行う。健康問題維持･増進にかかわる高度な看護実践(包括指示による一部の医行為を含む)、調整、倫理的調整、専門領域スタッフからの相談や調整機能を実践から学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　実習目標1　身体的かつ心理･社会的に複雑な状況をもつ妊産婦と子どもとその家族の支援を計画、実践、評価し、高度看護実践能力を高める。また、あわせて事例のもつ倫理的課題について検討を行う。　２　救急ならびに緊急対応時のケアやハイリスク妊産婦と家族へのケア事例から、チーム医療、他医療機関･地域との連携の調整ができる能力を高める。３　チーム医療の一員として、包括指示のもとに安全に一部の医行為が実施できる。４　専門領域スタッフからの相談、教育活動を実践する。５　周産期ケア改善のために組織における看護活動をアセスメントし、改善に資する企画立案、実施、評価やその調整プロセスなどを学ぶ。　実習時期　1年次実習施設　滋賀医科大学医学部附属病院（外来･病棟）　実習指導者　上記施設の母性看護CNSならびに卓越した能力をもつ助産師・医師滋賀医科大学医学部附属病院　中野育子　中井愛（CNS）滋賀医科大学医学部産科医師（包括指示による一部医行為）村上節、喜多伸幸医療安全管理体制　実習要項参照

履修上の注意点

教科書

参考書

50

著者：　実習状況、実践結果の自己評価、他者評価、課題レポートなどで総合的に評価

出版社：

出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**次世代育成看護学実習Ⅱ（周産期）<M>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

講義･演習で学んだ理論･知識･技術を実践に応用･統合し、母性看護専門看護師として活動するための能力形成を図る。専門看護師としての役割機能の視点を持ちながら、周産期ケアの質向上のための変革を担う力を育てる。

授業の到達目標

授業の概要

高度医療施設におけるプライマリケア提供部門における妊産婦と子どもとその家族の支援を妊娠中から一貫したケア提供システムにおける看護実践をアセスメントする。正常性の維持や予防的ケアが実践できる能力を高める。また、異常への移行事例等を中心に、専門領域スタッフからの相談、スタッフへの教育活動を実践する。多職種との調整や倫理調整の機能を学ぶ。周産期ケア改善のために組織における看護活動をアセスメントし、改善に資する企画立案、実施、評価やその調整プロセス等を学ぶ。さらに、施設の行っている事例検討会やデータの整理・分析を通して、周産期看護の質改善へのアプローチを学ぶ。加えて、政策参加のための取り組みに発展させることを学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　実習目標1　身体的あるいは心理社会的に複雑な状況をもつ妊産婦と子どもと、その家族のケアを事例中心に高度実践看護師としての実践を行う。事例のもつ状況により、調整、倫理調整の機能を果たす。2　正常性を維持する予防的ケアの重要性やスキルを獲得する。3　実習指導者である専門看護師とともにスタッフからの相談、教育や周産期医療チームへの調整の機能を果たす。4　実習施設の行っている研究的取り組みや事例検討、課題カンファレンスへの参加を通じて、周産期看護の質の確保への取り組みを学ぶ。5　母子救急、とりわけ新生児の救急搬送に関する実践とその後の母子へのケアについての在り方を学ぶ。6　実習施設の行っている実践評価に関する検討に参画し、アウトカム指標に関する学びを深め、同時に政策参加の取り組みにまで関与する機会をもつ。実習時期　2年次実習施設　プラマリーヘルスケアを担う周産期医療施設：昭和大学横浜市北部病院（マタニティハウス）と4A病棟、NICU総合周産期母子医療センターである昭和大学病院（NICU）実習指導者　上記施設の母性看護CNSならびに卓越した能力をもつ助産師・医師昭和大学横浜市北部病院　日下冨美代　常田裕子　佐藤陽子（CNS）医療安全管理体制　実習要項参照

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**実践看護応用学実習Ⅱ－1（精神）<M>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松本　賢哉.伊藤　恵美子	

テーマ

精神症状が悪化し入院となった救急・急性期にある精神病症状をもつ人とその家族に対し、講義・演習で学んだ理論、知識、技術を実践に適用・統合し、専門看護師として活動できる看護実践能力の形成・向上を図る。また、専門的な精神看護の実践、保健医療福祉に関わる人々の調整、倫理的調整など、精神看護活動を創意工夫・変革しながら取り組む。

授業の到達目標

授業の概要

1. 救急・急性期にある精神病症状をもつ人及び家族のおかれている状況を精神・身体・社会生活機能、QOLの観点から包括的にアセスメントし、セルフケア能力の回復に向けた個別的な援助が実施できる。2. 救急・急性期にある精神病症状をもつ人の精神科診断、臨床検査、精神科治療の実際を理解し、治療の効果及び影響をアセスメントできる。 3. 救急・急性期にある精神病症状をもつ人及び家族と信頼関係を発展させながら、適切な心理・社会的療法を実施し、評価できる。4. 救急・急性期にある精神病症状をもつ人とその家族に対して、早期退院及び安定した地域生活に向けた多職種との連携及び調整を行うことができる。5. 救急・急性期にある精神病症状をもつ人とその家族の尊厳を守り、倫理的問題に対して適切な臨床判断を行い、問題解決に向けて実践する。6. 看護、他職種スタッフ等に対する教育・相談の企画・実施・評価の一連のプロセスに参画及び実践を通して、自身の教育能力、リーダーシップ能力を育成する。7. 研究や諸理論を活用して発案・開発された、精神病症状をもつ人や家族への援助技術や援助プログラムを、実践に適用することができる。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　内容・授業の進め方1. 入院している急性期治療中の精神病症状をもつ人（患者）とその家族を2～3名受け持つ。（約1～2ヶ月）2. 演習Ⅰ-1で学んだ援助プログラムを対象に合わせて具体的に計画し実施する。3. 実施した援助の効果を文献等を活用しつつ、科学的視点から評価する。4. 病棟スタッフからの指導・助言を得るとともに、チームの連携・調整を行いながら、実習を進める。実習場所：精神科救急または急性期治療病棟

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**文化財特講Ⅰ（古代文化史）<Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

仁徳陵古墳と世界遺産の関係をみる

授業の到達目標

日本での世界遺産の登録とはいったい何か、文化財保護といかなる関係にあるのか。世界遺産の暫定リストにある「百舌鳥・古市古墳群 」のうち仁徳陵古墳の文化財的な普遍的価値を中心に見学・検討することで、日本社会における文化財の保存、公開、活用のあり方を具体的に考えてみる。

授業の概要

日本での世界遺産のあり方、「百舌鳥・古市古墳群 」のうち仁徳陵古墳の実態を知る講義が中心である。学外授業を一部含む。講師を招いて講演会を含む。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　世界遺産とは
第2回　世界遺産の登録とは
第3回　仁徳陵古墳の評価とは
第4回　古墳時代のシンボル
第5回　あばかれた内部
第6回　仁徳陵古墳の話題性
第7回　墳丘の復原
第8回　埴輪と須恵器
第9回　古墳時代のネットワーク
第10回　古墳時代の空間イメージ
第11回　仁徳陵古墳の見学（学外授業）
第12回　陵墓としての仁徳陵古墳
第13回　百舌鳥・古市古墳群の世界遺産の登録用件とは
第14回　百舌鳥・古市古墳群の顕著な普遍的価値とは
第15回　文化財保護と世界遺産登録の関係を展望する

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**考古学研究Ⅰ（古代Ⅰ）<Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

考古学コンテキストの過去を読み取り、活用する。

授業の到達目標

社会と考古学との関わりあいの中で根本的な考古学の方法論を探り、その一般法則性と概念的変化を理解する。そして、考古学を自己の創造へと応用するために備える。

授業の概要

考古学のもつ多様性をまず理解し、多角的な方法論と理論展開を知る。そして、具体例をゲストをまじえ検討しつつ、フィールドに出向き今後の考古学のあり方を考える。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　考古学の枠組み-過去に何がおこったか
第2回　考古学の枠組み-考古学の目的と方法
第3回　状況-発掘とは
第4回　状況-分布と予備調査
第5回　状況-発掘の手続き
第6回　状況-発掘（野外調査）
第7回　状況-保存措置と調査報告書作成
第8回　型式と層位、共存-層位と文化面
第9回　型式と層位、共存-異教時代の考古学
第10回　型式と層位、共存-型式学と編年研究
第11回　型式と層位、共存-相対年代と絶対年代の間
第12回　型式と層位、共存-共存資料と年代
第13回　層位学的研究と型式学的研究法のトレーニング
第14回　発掘現場の見学
第15回　遺跡発掘調査の現状と保存

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**考古学研究Ⅰ**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

考古学コンテキストの過去を読み取り、活用する。

授業の到達目標

社会と考古学との関わりあいの中で根本的な考古学の方法論を探り、その一般法則性と概念的変化を理解する。そして、考古学を自己の創造へと応用するために備える。

授業の概要

考古学のもつ多様性をまず理解し、多角的な方法論と理論展開を知る。そして、具体例をゲストをまじえ検討しつつ、フィールドに出向き今後の考古学のあり方を考える。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　考古学の枠組み-過去に何がおこったか
第2回　考古学の枠組み-考古学の目的と方法
第3回　状況-発掘とは
第4回　状況-分布と予備調査
第5回　状況-発掘の手続き
第6回　状況-発掘（野外調査）
第7回　状況-保存措置と調査報告書作成
第8回　型式と層位、共存-層位と文化面
第9回　型式と層位、共存-異教時代の考古学
第10回　型式と層位、共存-型式学と編年研究
第11回　型式と層位、共存-相対年代と絶対年代の間
第12回　型式と層位、共存-共存資料と年代
第13回　層位学的研究と型式学的研究法のトレーニング
第14回　発掘現場の見学
第15回　遺跡発掘調査の現状と保存

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（理科）<a>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　三上　周治	

テーマ

子どもがわかって楽しい理科の授業が出来る教師になるための力をつける

授業の到達目標

小学校の理科は3年、4年、5年、6年の4学年であるが、この4年で子どもたちの認識発達は大きく変化する。各学年の子どもたちの発達に応じて、またその内容と方法に即して、子どもたちが集団の力で課題に向き合い自然を認識して行けるように組織して行く力量をつける。

授業の概要

学習指導要領の理科の目標、内容及び指導法について述べる。理科の内容は、物質・エネルギー、生命・地球の2領域である。この内容を児童の発達段階に応じて、観察や実験を通して究明する。また、指導計画・学習指導案・観察実験中の事故防止等についても扱う。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　理科教育法と生活科教育法のねがい、学び方。学習指導要領と学年配列・年間計画「ふえ」づくり／厚紙のうぐいす笛／ストロー笛／「こま」づくり／紙テープのコマ
第2回　「音と光」音は振動。音の伝わり方。光の直進生。光の反射。
第3回　「くうき」（ものの場所性・不可入性）
第4回　熱と温度／熱の伝導と熱の移動（対流・輻射）熱によるものの変化（Ⅰ）：膨張
第5回　熱によるものの変化（Ⅱ）：三態変化／300度の水蒸気。食塩の溶融。鉛・鉄と銅の溶融
第6回　種の実りと種の拡散
第7回　気体と燃焼＝気体
第8回　気体と燃焼＝燃焼
第9回　豆電球のつなぎ方＝回路／金属の3つの性質／光電池
第10回　磁石の性質とはたらき（小3＆小6）／磁石ごまの製作
第11回　電磁石の性質とはたらき／電磁石づくり
第12回　「やじろべえ」を教材化する
第13回　「ものの溶け方」と「太陽・月の満ち欠け・星のうごき」
第14回　水溶液の性質とはたらき（1）＝酸性の水溶液
第15回　水溶液の性質とはたらき（2）＝アルカリ性の水溶液

履修上の注意点

（1）小学校現場での理科の授業を参観し授業の進め方について学ぶ。（2）学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。

教科書

参考書

その都度紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 20 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等　（　）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（理科）<b>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　三上　周治	

テーマ

子どもがわかって楽しい理科の授業が出来る教師になるための力をつける

授業の到達目標

小学校の理科は3年、4年、5年、6年の4学年であるが、この4年で子どもたちの認識発達は大きく変化する。各学年の子どもたちの発達に応じて、またその内容と方法に即して、子どもたちが集団の力で課題に向き合い自然を認識して行けるように組織して行く力量をつける。

授業の概要

学習指導要領の理科の目標、内容及び指導法について述べる。理科の内容は、物質・エネルギー、生命・地球の2領域である。この内容を児童の発達段階に応じて、観察や実験を通して究明する。また、指導計画・学習指導案・観察実験中の事故防止等についても扱う。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　理科教育法と生活科教育法のねがい、学び方。学習指導要領と学年配列・年間計画「ふえ」づくり／厚紙のうぐいす笛／ストロー笛／「こま」づくり／紙テープのコマ
第2回　「音と光」音は振動。音の伝わり方。光の直進生。光の反射。
第3回　「くうき」（ものの場所性・不可入性）
第4回　熱と温度／熱の伝導と熱の移動（対流・輻射）熱によるものの変化（Ⅰ）：膨張
第5回　熱によるものの変化（Ⅱ）：三態変化／300度の水蒸気。食塩の溶融。鉛・鉄と銅の溶融
第6回　種の実りと種の拡散
第7回　気体と燃焼＝気体
第8回　気体と燃焼＝燃焼
第9回　豆電球のつなぎ方＝回路／金属の3つの性質／光電池
第10回　磁石の性質とはたらき（小3＆小6）／磁石ごまの製作
第11回　電磁石の性質とはたらき／電磁石づくり
第12回　「やじろべえ」を教材化する
第13回　「ものの溶け方」と「太陽・月の満ち欠け・星のうごき」
第14回　水溶液の性質とはたらき（1）＝酸性の水溶液
第15回　水溶液の性質とはたらき（2）＝アルカリ性の水溶液

履修上の注意点

（1）小学校現場での理科の授業を参観し授業の進め方について学ぶ。（2）学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。

教科書

参考書

その都度紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 20 ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等　（　）
参加度　（ 40 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**教科教育法（理科）<c>**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　その他	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　（閉講：開⇒閉）	

テーマ

子どもがわかって楽しい理科の授業が出来る教師になるための力をつける

授業の到達目標

小学校の理科は3年、4年、5年、6年の4学年であるが、この4年で子どもたちの認識発達は大きく変化する。各学年の子どもたちの発達に応じて、またその内容と方法に即して、子どもたちが集団の力で課題に向き合い自然を認識して行けるように組織して行く力量をつける。

授業の概要

学習指導要領の理科の目標、内容及び指導法について述べる。理科の内容は、物質・エネルギー、生命・地球の2領域である。この内容を児童の発達段階に応じて、観察や実験を通して究明する。また、指導計画・学習指導案・観察実験中の事故防止等についても扱う。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　理科教育法と生活科教育法のねがい、学び方。学習指導要領と学年配列・年間計画「ふえ」づくり／厚紙のうぐいす笛／ストロー笛／「こま」づくり／紙テープのコマ
第2回　「音と光」音は振動。音の伝わり方。光の直進生。光の反射。
第3回　「くうき」（ものの場所性・不可入性）
第4回　熱と温度／熱の伝導と熱の移動（対流・輻射）熱によるものの変化（Ⅰ）：膨張
第5回　熱によるものの変化（Ⅱ）：三態変化／300度の水蒸気。食塩の溶融。鉛・鉄と銅の溶融
第6回　種の実りと種の拡散
第7回　気体と燃焼＝気体
第8回　気体と燃焼＝燃焼
第9回　豆電球のつなぎ方＝回路／金属の3つの性質／光電池
第10回　磁石の性質とはたらき（小３＆小6）／磁石ごまの製作
第11回　電磁石の性質とはたらき／電磁石づくり
第12回　「やじろべえ」を教材化する
第13回　「ものの溶け方」と「太陽・月の満ち欠け・星のうごき」
第14回　水溶液の性質とはたらき（1）＝酸性の水溶液
第15回　水溶液の性質とはたらき（2）＝アルカリ性の水溶液

履修上の注意点

（1）小学校現場での理科の授業を参観し授業の進め方について学ぶ。（2）学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。

教科書

小学校学習指導要領（理科編）
著者：
出版社：文一総合出版
出版年：　　ISBN：

新しい理科の教科書』小学3年
著者：
出版社：文一総合出版
出版年：　　ISBN：

新しい理科の教科書』小学4年
著者：
出版社：文一総合出版
出版年：　　ISBN：

新しい理科の教科書』小学5年
著者：
出版社：文一総合出版
出版年：　　ISBN：

a30102d753

新しい理科の教科書』小学6年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年: ISBN:

参考書

その都度紹介する。

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 （ 20 ） 小テスト（ ）

授業中課題 （ 40 ） 授業中発表等（ ）

参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（表現）Ⅱ〈幼b〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　久堀　久美子	

テーマ

授業の到達目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の概要

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。Ⅱでは主として、ペープサート（紙人形劇）を素材として、劇づくりによる表現指導法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ペープサートの意義と表現について
第2回　ペープサートの作成と演出について
第3回　ペープサートによる実践
第4回　劇づくりの意義と指導法
第5回　劇づくりの作成、準備
第6回　劇づくりの役割分担と演技
第7回　劇づくりによる表現、実践
第8回　表現の指導のまとめ

履修上の注意点

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

随時紹介する
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験　（　）
小テスト　（ 20 ）
授業中課題　（ 20 ）
授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**保育内容演習（表現）Ⅱ〈幼c〉**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期後半	定　　員　40
履修条件	クラス指定　大学指定
担 当 者　久堀　久美子	

テーマ

授業の到達目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の概要

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。Ⅱでは主として、ペープサート（紙人形劇）を素材として、劇づくりによる表現指導法を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ペープサートの意義と表現について
第2回　ペープサートの作成と演出について
第3回　ペープサートによる実践
第4回　劇づくりの意義と指導法
第5回　劇づくりの作成、準備
第6回　劇づくりの役割分担と演技
第7回　劇づくりによる表現、実践
第8回　表現の指導のまとめ

履修上の注意点

教科書

なし
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

随時紹介する
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験　（　）
小テスト　（ 20 ）
授業中課題　（ 20 ）
授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**社会調査方法論 <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

社会調査の設計と実施に必要な基礎的知識、技法、それから心構えを学ぶ。すなわち、自らが関心あるテーマを設定し、それに応じて、現実世界から第一次資料（直接自らが利用できる資料）を収集し、分析できる形にまで整理していく能力を養う。そういった意味で、本講義は理論と実践をつなぐ橋渡し的役割を担う。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション
第2回　調査の目的と方法
第3回　調査のプロセス
第4回　調査の企画設計
第5回　サンプリング（1）
第6回　サンプリング（2）
第7回　前半の統括と理解度チェック
第8回　調査票作成（1）
第9回　調査票作成（2）
第10回　インタビュー調査
第11回　調査の実施
第12回　コーディング・データのクリーニング、データの集計と分析
第13回　さまざまな社会調査
第14回　調査の倫理、社会への還元
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**データ分析基礎論 <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

社会調査の過程では、アンケート調査などを通じて様々な数値データを得ることができる。こうしたデータは一見しただけでは何の意味もない数字の集まりであるかのようにしか見えないかもしれない。しかし、統計的な手法を用いて分析すれば、こうしたデータの中に様々な意味を見いだすことができるようになる。 この授業の目的は、第一に、社会調査において必要となる統計学、とりわけ推測統計の基礎を理解することである。第2に、授業の中で得た統計学の知識を実際にデータ（現実のデータの場合もあれば、仮説的なデータの場合もある）に適用して、自分の力でデータの中に隠された意味を抽出することができるようになることである

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　イントロダクション：記述統計と推測統計、データの種類
第2回　記述統計の復習（1）：中心の特性値（なぜ平均値だけではいけないのか）
第3回　記述統計の復習（2）：バラツキの特性値（散らばっている異の表し方）
第4回　母集団と標本：母集団と標本の基本的な考え方、無作為抽出、記述統計と推測統計
第5回　確率論の基礎と離散確率分布：ベルヌーイ分布と二項分布を中心に
第6回　連続確率の考え方と連続確率分布：正規分布と中心極限定理を中心に
第7回　母集団の平均がありそうな範囲を求める（平均の推定）
第8回　平均についての仮説が正しいかを調べる（平均と平均差の検定）
第9回　統計を支持率調査やリスク評価に応用する：比率と分散の推定・検定
第10回　練習問題と解答・解説
第11回　2つのデータに関係はあるか？（オッズ比と相関係数）
第12回　2つのデータの関係にはどのような意味があるのか？（回帰分析）
第13回　見せかけの関係と真の関係（偏相関分析）
第14回　関係は本当にあるのか？（相関関係と回帰式の検定）
第15回　練習問題と解答・解説、まとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**建築・インテリア設計演習Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　40
履修条件　建築・インテリア設計演習 Ⅰを修得済み	クラス指定
担 当 者　伊藤　健一	

テーマ

授業の到達目標

建築・インテリアの基礎を習得するため、図面と模型の制作を行う。前半にインテリアの基礎として、一点透視図、二点透視図、アクソノメトリック図や家具図などの描き方を練習する。後半には一般的な戸建て住宅の設計を行い、講評を実施する。設計の途中段階で模型を制作し、空間と機能についてさまざまな角度から検討する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス（1）
第2回　ガイダンス（2）
第3回　インテリア・パースの練習1、一点透視図（1）
第4回　インテリア・パースの練習1、一点透視図（2）
第5回　インテリア・パースの練習2、二点透視図1（1）
第6回　インテリア・パースの練習2、二点透視図1（2）
第7回　インテリア・パースの練習3、二点透視図2（1）
第8回　インテリア・パースの練習3、二点透視図2（2）
第9回　アクソノメトリック図の作成1（1）
第10回　アクソノメトリック図の作成1（2）
第11回　アクソノメトリック図の作成2（1）
第12回　アクソノメトリック図の作成2（2）
第13回　講評（1）
第14回　講評（2）
第15回　戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース（1）
第16回　戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース（2）
第17回　戸建て住宅の設計2、エスキース（1）
第18回　戸建て住宅の設計2、エスキース（2）
第19回　戸建て住宅の設計3、平面図の作成（1）
第20回　戸建て住宅の設計3、平面図の作成（2）
第21回　戸建て住宅の設計4、立面図の作成（1）
第22回　戸建て住宅の設計4、立面図の作成（2）
第23回　戸建て住宅の設計5、断面図の作成（1）
第24回　戸建て住宅の設計5、断面図の作成（2）
第25回　戸建て住宅の設計6、模型（1）
第26回　戸建て住宅の設計6、模型（2）
第27回　戸建て住宅の設計7、模型（1）
第28回　戸建て住宅の設計7、模型（2）
第29回　講評とまとめ（1）
第30回　講評とまとめ（2）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）	小テスト（　）
授業中課題　（ 40 ）	授業中発表等　（ 30 ）
参加度　（ 30 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**建築・インテリア設計演習Ⅳ <b>**

クラス		配当回生	学部2回生
講義期間	後期	定　　員	40
履修条件	「建築・インテリア設計演習Ⅰ」および「建築・インテリア設計演習Ⅱ」を修得済みであること。	クラス指定	
担 当 者	今井　裕夫		

テーマ

授業の到達目標

店舗などの付属した鉄筋コンクリート造併用住宅の設計を行う。敷地は商業地域などの高密度な都市を設定する。建築基準法をみたし適切な構造計画を踏まえた上で、快適な居住空間を実現するよう検討を重ねる。店舗等の付属部分と居住部分の関係について、時間をかけて計画をすすめる。しかし、平面だけでなく、上下階の繋がりなど立体的な構成についても配慮しつつ検討を重ねる。最終講評に向けて自分の提案を整理し、図面と模型を制作する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　課題主旨説明、設計のポイント（1）
第2回　課題主旨説明、設計のポイント（2）
第3回　配置計画案の作成（1）
第4回　配置計画案の作成（2）
第5回　平面計画案の作成（1）
第6回　平面計画案の作成（2）
第7回　立面・断面計画案の作成（1）
第8回　立面・断面計画案の作成（2）
第9回　構造計画案の作成1（1）
第10回　構造計画案の作成1（2）
第11回　構造計画案の作成2（1）
第12回　構造計画案の作成2（2）
第13回　建築基準法の確認（1）
第14回　建築基準法の確認（2）
第15回　中間発表（1）
第16回　中間発表（2）
第17回　配置図・平面図の作成1（1）
第18回　配置図・平面図の作成1（2）
第19回　平面図の作成2（1）
第20回　平面図の作成2（2）
第21回　立面図の作成（1）
第22回　立面図の作成（2）
第23回　断面図の作成（1）
第24回　断面図の作成（2）
第25回　模型1（1）
第26回　模型1（2）
第27回　模型2（1）
第28回　模型2（2）
第29回　講評とまとめ（1）
第30回　講評とまとめ（2）

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

a50202d352

授業中課題（ 80 ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 20 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**人間工学 <Z>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

人間工学の成り立ち、基本的な考え方、人間中心のシステム設計の諸原則と実践など事例を交えて紹介していく。身近な素材を中心に、人間工学が生活や環境において果たしている役割を理解していく。前半では、人間工学の成り立ちと基本的考え方、人間中心のシステム設計の諸原則と実践を紹介する。後半では、情報・交通・都市などにおける人間工学の役割と事例についても考察する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　人間工学とは
第2回　人間工学の応用分野
第3回　人体寸法と姿勢
第4回　動作と行動特性
第5回　感覚、認知、知覚
第6回　生活と人間工学（道具）
第7回　生活と人間工学（家具1）
第8回　生活と人間工学（家具2）
第9回　生活と人間工学（インテリア空間）
第10回　情報と人間工学
第11回　交通と人間工学
第12回　都市と人間工学
第13回　ユニバーサルデザイン
第14回　バリアフリーデザイン
第15回　人間工学のまとめ

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度 （ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**建築と環境 <Z>**

クラス	配当回生　学部3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　今井　裕夫	

テーマ

授業の到達目標

身の回りの生活、民俗学や美術といった文化と建築を取り巻く環境との関係について考える。あるいは、環境のもつ文化的・空間的側面について生活、農業、民俗学、現代美術、茶室、旅などの事例を通して見つめ直し、それらと建築との関わりについて考える。このような視点を踏まえ、建築と環境に関わる小課題に取り組む。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　生活における建築と環境（1）里山－山辺の住環境
第2回　生活における建築と環境（2）里山－水辺の住環境
第3回　農業における建築と環境　哲学者／福岡正信の視角
第4回　民俗学における建築と環境　宮本常一の視点
第5回　現代美術における建築と環境　ランドスケープアート
第6回　記憶のデザイン　－地図の作成（空間の記憶／場所の記憶）
第7回　美にまつわる建築と環境　－美の背景としての環境
第8回　庭と建築と環境　桂離宮の構成と分析
第9回　環境建築　建築家・藤森照信の作品
第10回　茶室と環境　極小空間と茶庭
第11回　旅における建築と環境　原風景の求め方
第12回　美術と建築：イサムノグチ（1）（原爆ドーム/無言館など）
第13回　美術と建築：イサムノグチ（2）（モエレ沼公園など）
第14回　ポケットパークと付属施設の設計1
第15回　ポケットパークと付属施設の設計2

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 50 ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ 50 ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**都市建築文化史Ⅰ**

クラス　　配当回生　学部2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　河野　良平

テーマ

授業の到達目標

主に西洋の建築が都市や人々の生活の中でどのような役割を果たしてきたかについて事例を挙げながら詳しく検証していく。建築物だけでなく、小説、絵画などの芸術や映画の舞台など、それらにまつわる様々な事象から幅広く都市・建築と文化の関係を概観する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　ガイダンス
第2回　教会建築
第3回　「ローマの休日」とローマ
第4回　新古典主義と建築家
第5回　近代建築
第6回　摩天楼
第7回　パリと芸術
第8回　移動する建築
第9回　近代へのアンチテーゼ
第10回　村上春樹の小説空間
第11回　アートと都市・建築
第12回　都市と郊外
第13回　アメリカの西海岸
第14回　未来都市
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 30 ）　　授業中発表等　（ 30 ）

参加度　（ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**文化政策論 <Z>**

クラス　　配当回生　学部3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　金武 創

テーマ

文化政策の理論、歴史、実践の総合的理解

授業の到達目標

1）文化政策の先進事例から複眼的思考の重要性を学ぶ2）学生が自らの経験を基礎に考えることを促す3）自らの経済的自立のための基礎学力を育む（就職活動支援も含めて） 個人の自立を目指した文化政策を考える

授業の概要

生活の豊かさと個人の自立について考える。（「文化経済論」と連続講義）

準備学習（予習・復習）

新聞、経済誌などの継続的チェック

内　容

第1回　稀少性と選択の科学
第2回　価格メカニズム
第3回　文化生産
第4回　文化消費
第5回　文化資本
第6回　文化遺産観光
第7回　埋蔵文化財
第8回　JPOPと音楽消費
第9回　温泉文化
第10回　ギャンブルと文化支援
第11回　スポーツ振興（1）
第12回　スポーツ振興（2）
第13回　建築デザイン
第14回　パブリックアート
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

文化経済論
著者:　金武創/阪本崇
出版社: ミネルヴァ書房
出版年: 2005年　　ISBN:

参考書

必要に応じて紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40 ）　　小テスト （ 20 ）
授業中課題 （ 40 ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 0 ）
出席確認を含めた授業中課題を重視する。

2016 Syllabus

科 目 名　**政治学概論Ⅰ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　前期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　田代 和也	

テーマ

政治学に関する基礎知識の習得

授業の到達目標

本講義は、政治学への入門段階において習得しておく必要がある政治的現象や用語を、現代日本政治の具体的な事例の中から、受講生に理解してもらうことを目指す。

授業の概要

政治学を学ぶ入門段階において、理解する必要がある事柄を扱う。主に日本政治の展開の中から、政治アクターや政治学上の基本的概念を説明し、受講生に理解してもらう。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　イントロダクション・選挙について
第2回　投票行動・メディアと政治
第3回　政治家
第4回　日本政治史①　～戦後政治と55年体制～
第5回　日本政治史②　～疑似政権交代・55年体制の崩壊～
第6回　政党
第7回　官僚制
第8回　利益団体
第9回　国会（議会）
第10回　政策過程
第11回　首相～強い首相と弱い首相～
第12回　地方自治①～地方自治制度の変遷を中心に～
第13回　地方自治②～地方自治体の政策課題を中心に
第14回　国際政治
第15回　本講義のまとめ
第16回　定期試験

履修上の注意点

教科書

ポリティカルサイエンス事始め　第3版
著者：　伊藤光利編
出版社：有斐閣ブックス
出版年：2009　　ISBN：

参考書

図説世界を変えた50の政治
著者：　アン・パーキンズ著、小林朋則訳
出版社：原書房
出版年：2014　　ISBN：

政治学大図鑑
著者：　ポール・ケリー著、堀田義太郎監修、豊島実和訳
出版社：三省堂
出版年：2014　　ISBN：

戦後政治史
著者：　石川真澄
出版社：岩波書店
出版年：2001　　ISBN：

aky601f712

戦争の日本近現代史
著者:　加藤陽子
出版社:　講談社
出版年:　2002　　ISBN:

近代ヨーロッパ国際政治史
著者:　君塚直隆
出版社:　有斐閣
出版年:　2010　　ISBN:

大国の興亡
著者:　ポール・ケネディ著、鈴木主税訳
出版社:　草思社
出版年:　1988　　ISBN:

The Logic of Political Survival
著者:　Bruce Bueno de Mesquita, et al.
出版社:　MIT Press
出版年:　2004　　ISBN:

Politics(Palgrave Foundations)
著者:　Andrew Haywood
出版社:　Palgrave Macmillan
出版年:　2013　　ISBN:

はじめて学ぶ政治学　古典・名著への誘い
著者:　岡崎晴輝、木村俊道編
出版社:　ミネルヴァ書房
出版年:　2008　　ISBN:

Encyclopedia of Politics: The Left and the Right
著者:　Rodney P. Carlisle, ed.
出版社:　SAGE Publication
出版年:　2005　　ISBN:

成績評価

試験　(100)　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
詳細については第一回のイントロダクションで説明する。

2016 Syllabus

科 目 名　**政治学概論Ⅱ <b>**

クラス	配当回生　学部1回生
講義期間　後期	定　　員　200
履修条件	クラス指定
担 当 者　田代 和也	

テーマ

政治学体系の理解

授業の到達目標

本講義は、受講生に政治学を体系的に理解してもらい、政治学の概念や理論を自分の言葉で説明してもらうことを目指す。

授業の概要

本講義は、政治学を学ぶ上で、必要な概念や理論について扱う。特に、権力、民主主義、統治機構・地方自治に関する概念について詳しく説明する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　民主政治の起源
第3回　民主政治の変容
第4回　福祉と政治
第5回　議院内閣制
第6回　大統領制
第7回　選挙制度①（小選挙区制度と大選挙区制度）
第8回　選挙制度②（比例代表と各国の選挙制度）
第9回　選挙制度③（選挙制度と政策）
第10回　議会制度と政党
第11回　政策過程と官僚・利益集団
第12回　世論とマスメディア
第13回　地方自治①（制度と機能）
第14回　地方自治②（現代行政の課題）
第15回　民主政治のこれから
第16回　定期試験

履修上の注意点

教科書

独裁者のためのハンドブック
著者：　ブルース・ブエノ・デ・メスキータほか著、四本健二ほか訳
出版社：亜紀書房
出版年：2013　　ISBN：

参考書

図説世界を変えた50の政治
著者：　アン・パーキンズ著、小林朋則訳
出版社：原書房
出版年：2014　　ISBN：

政治学大図鑑
著者：　ポール・ケリー著、堀田義太郎監修、豊島実和訳
出版社：三省堂
出版年：2014　　ISBN：

戦後政治史
著者：　石川真澄
出版社：岩波書店
出版年：2001　　ISBN：

aky601f852

戦争の日本近現代史
著者： 加藤陽子
出版社： 講談社
出版年： 2002　　ISBN：

近代ヨーロッパ国際政治史
著者： 君塚直隆
出版社： 有斐閣
出版年： 2010　　ISBN：

大国の興亡
著者： ポール・ケネディ著、鈴木主税訳
出版社： 草思社
出版年： 1988　　ISBN：

The Logic of Political Survival
著者： Bruce Bueno de Mesquita, et al.
出版社： MIT Press
出版年： 2004　　ISBN：

Politics(Palgrave Foundations)
著者： Andrew Haywood
出版社： Palgrave Macmillan
出版年： 2013　　ISBN：

はじめて学ぶ政治学　古典・名著への誘い
著者： 岡崎晴輝、木村俊道編
出版社： ミネルヴァ書房
出版年： 2008　　ISBN：

Encyclopedia of Politics: The Left and the Right
著者： Rodney P. Carlisle, ed.
出版社： SAGE Publication
出版年： 2005　　ISBN：

成績評価

試験 （ 100 ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
詳細は第一回のイントロダクションで説明する。

2016 Syllabus

科 目 名　**教育課程論**

クラス	配当回生　学部2回生
講義期間　春期集中	定　員
履修条件　教職課程履修登録者のみ履修可	クラス指定
担 当 者　mitei	

テーマ

教育課程の構造と教育実践

授業の到達目標

教育課程の基礎的な用語の理解をふまえ、「なぜ学校における教育課程なのか」を考えながら問題の整理を行い教育課程づくりのイメージがつかめるようにする。

授業の概要

１つには、「なぜ学校なのか」という本質論議をふまえた学校を基礎とする教育課程づくりの意味、２つには、子どもの成長と発達にかかわる教育課程の内容構成におけるスコープとシークェンスの構造論議、３つには、目標・内容・方法・評価など、実践過程の事実によって検証され、再構成される教育課程づくりの意味などをとりあげる。具体的事例として、とくに書き言葉成立後の思春期にかかわる教育課程の実践をとりあげたい。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　教育課程の構造と意味
第2回　内申書、通知票について
第3回　観点別評価の意味
第4回　目標と評価のあり方
第5回　教育実践評価と授業公開（中等）
第6回　学習指導要領と内容の基準化原理（中等）
第7回　教科書の採択システム
第8回　教科書づくり
第9回　教科と教科外の教育方法（中等）
第10回　総合学習について（中等）
第11回　身体と教育課程（中等）
第12回　教育課程と授業づくり（中等）
第13回　思春期の教育階梯
第14回　SNE（特別なニーズ教育）について
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

講義で扱った内容をふまえてその後の講義を進めるため、復習をするとともに、不明な点があれば質問すること。

教科書

参考書

学習指導要領
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ 20 ）
授業中課題（ 60 ）	授業中発表等（ 20 ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**データ分析Ⅰ**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

本科目は、より高度な統計手法である「多変量解析法」のいくつかの手法について、その基本的な考え方と方法を身につけることを目的としている。授業では、「重回帰分析」のほか、「主成分分析」、「相関分析」、「分散分析」、「クラスター分析」、「判別分析」、「因子分析」などを取り上げ、その基本的な考え方、方法、利用事例などを学ぶ。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　授業ガイダンス：社会調査と多変量解析
第2回　相関分析の方法と利用
第3回　分散分析の考え方と方法
第4回　分散分析の利用
第5回　重回帰分析の理論（1）：最小二乗法と決定係数
第6回　重回帰分析の理論（2）：回帰モデルの仮説検定
第7回　重回帰分析の実際
第8回　相関分析・分散分析・重回帰分析のレビュー
第9回　主成分分析の方法と利用
第10回　クラスター分析の方法と利用
第11回　判別分析の方法と利用
第12回　因子分析の考え方と方法
第13回　因子分析の利用
第14回　その他のモデル(数量化理論など)
第15回　主成分分析・クラスター分析・判別分析・因子分析・その他のレビュー

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**データ分析Ⅱ**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

質的データの収集・分析、量的分析との関係、歴史的資料や民俗・伝承的資料や新聞・雑誌・図書・映像メディア関係資料の収集、フィールドワークの実際など、質的調査の基本事項についてわかりやすく解説する。

授業の概要

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　質的調査とはなにか
第2回　質的データの収集
第3回　聞き取り調査
第4回　参与観察
第5回　非参与観察
第6回　歴史・伝承・活字・音声・映像資料の収集
第7回　ラポール
第8回　解釈と説明
第9回　記号（シンボル）と意味とイメージ
第10回 ドキュメント分析
第11回 ライフヒストリー分析
第12回 質的内容分析
第13回 フィールドワークの企画
第14回 フィールドワークの実施
第15回 質的調査における主観性と客観性

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）

2016 Syllabus

科 目 名　**社会調査Ⅰ**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

本科目は、社会調査の課題の選択、企画・計画、調査の実施、結果の分析・考察から報告書の作成、プレゼンテーションにいたるプロセスの“すべて”を実習を通して体験的に身につけることを目的としている。授業では、「量的な調査」を中心に、課題の選択、調査の企画・計画（含、類似調査のサーベイ）、仮説の構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者の選定、サンプリング、調査の実施などのフィールドワーク、エディティング、調査結果の統計的な集計・分析、仮説の検証、考察、報告書の作成、プレゼンテーションを行う。

授業の概要

「実習」は、4～6名のグループ単位で進め、グループごとに調査する課題を検討・選択し、その課題に対して、情報収集・文献調査、仮説の設定、調査の立案、調査票の作成を行い、受講生が調査員として調査を実施する。収集されたデータをデータ分析し、最終的に、分析結果を報告書として取りまとめ、プレゼンテーションを実施する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　社会調査とは
第2回　調査する課題の検討（含、情報収集、文献調査）
第3回　仮説の検討・構成
第4回　調査計画の検討・立案
第5回　調査票の作成（含、予備調査）
第6回　標本抽出の方法
第7回　調査の実施
第8回　データの入力・クリーニング
第9回　データ分析（単純集計、クロス集計）
第10回　データ分析（相関分析、仮説検定）
第11回　データ分析（多変量解析による分析）
第12回　分析結果の考察
第13回　報告書の作成
第14回　グループ発表(1)
第15回　グループ発表(2)

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**社会調査Ⅱ**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員　50
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

社会調査の企画・設計から報告書作成まで、全過程を実習形式で学習する授業で、本授業では主に量的調査とデータの分析について学ぶ。

授業の概要

※1人1台ずつのPCを使って実習を行う。調査票の作成、実査、データ分析、結果報告書の作成とプレゼンテーションについは数名のグループ単位で行う予定である。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　イントロダクション、概説
第2回　量的社会調査の企画、設計
第3回　量的社会調査のテーマ設定、仮説構成
第4回　量的社会調査の質問項目設計
第5回　対象者・地域の選定、サンプリング
第6回　調査票作成、プリテスト、実査時の注意事項
第7回　調査データの入力、整理（エディティング、コーディング、データクリーニング）
第8回　SPSS(PASW Statistic)を用いた調査データの記述的分析
第9回　SPSS(PASW Statistic)を用いた調査データのサンプル選択、カテゴリの統合法
第10回　SPSS(PASW Statistic)を用いたクロス集計表の作成・分析
第11回　SPSS(PASW Statistic)を用いた相関係数の分析
第12回　SPSS(PASW Statistic)を用いた単回帰・重回帰分析
第13回　分析結果報告の記述方法
第14回　分析結果報告書の作成
第15回　研究成果の報告と討論

履修上の注意点

教科書

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

2016 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅰ <Dc>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　遠藤　俊子	

テーマ

博士論文研究計画書の作成

授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

授業の概要

１年次から２年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第１回公開発表会（中間発表会）をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　ガイダンス　合同
第2回　取り組みたい研究分野　研究疑問　合同セッション①
第3回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第4回　〃
第5回　〃
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　〃
第10回　研究背景の報告会　合同セッション②
第11回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第12回　〃
第13回　〃
第14回　〃
第15回　〃
第16回　〃
第17回　〃
第18回　〃
第19回　〃
第20回　研究計画(案)の報告会　合同セッション③
第21回　研究計画書　作成
第22回　〃
第23回　〃
第24回　〃
第25回　〃
第26回　〃
第27回　〃
第28回　〃
第29回　〃
第30回　研究計画書の発表　合同セッション④

履修上の注意点

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)

著者：　American Nurses Association

出版社：

h701510813

出版年: 2007 ISBN:

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( )
授業中課題 ( ) 授業中発表等 (50)
参加度 (50)

2016 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅰ <Dd>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

授業の概要

１年次から2年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第１回公開発表会（中間発表会）をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　ガイダンス　合同
第2回　取り組みたい研究分野　研究疑問　合同セッション①
第3回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第4回　〃
第5回　〃
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　〃
第10回　研究背景の報告会　合同セッション②
第11回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第12回　〃
第13回　〃
第14回　〃
第15回　〃
第16回　〃
第17回　〃
第18回　〃
第19回　〃
第20回　研究計画(案)の報告会　合同セッション③
第21回　研究計画書　作成
第22回　〃
第23回　〃
第24回　〃
第25回　〃
第26回　〃
第27回　〃
第28回　〃
第29回　〃
第30回　研究計画書の発表　合同セッション④

履修上の注意点

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)
著者：　American Nurses Association
出版社：
出版年：　2007　　ISBN：

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅰ <De>**

クラス	配当回生　大学院1回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

看護学に関する新たな知の構築に向けて、アウトカムリサーチを志向した研究デザインを検討し、評価指標と研究方法を決定し、博士論文に向けて自立的に研究計画を立案する能力を獲得する。

授業の概要

１年次から2年次にかけて主指導教員および副指導教員の指導を受けながら、研究課題を特定のテーマに絞り込み、博士論文として取り組む準備を整える。文献レビューは最新の知見が明確になるよう国内外の論文を十分に批評し、独創性の高い研究となるよう研究目的を明確にする。アウトカムリサーチを志向した研究デザインと研究方法を検討し、研究における倫理的な検討を十分に行う。研究計画をより洗練するために第１回公開発表会（中間発表会）をもち、合格することで特別研究Ⅱの過程に進む。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス　合同
第2回　取り組みたい研究分野　研究疑問　合同セッション①
第3回　文献の整理し、研究背景のまとめ
第4回　〃
第5回　〃
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　〃
第10回　研究背景の報告会　合同セッション②
第11回　研究課題の明確化、研究デザイン・方法の検討
第12回　〃
第13回　〃
第14回　〃
第15回　〃
第16回　〃
第17回　〃
第18回　〃
第19回　〃
第20回　研究計画(案)の報告会　合同セッション③
第21回　研究計画書　作成
第22回　〃
第23回　〃
第24回　〃
第25回　〃
第26回　〃
第27回　〃
第28回　〃
第29回　〃
第30回　研究計画書の発表　合同セッション④

履修上の注意点

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)
著者:　American Nurses Association
出版社:
出版年:　2007　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**特別研究Ⅱ <Dd>**

クラス	配当回生　大学院2回生
講義期間　後期集中	定　　員
履修条件　特別研究Ⅰを修得済であること	クラス指定
担 当 者　遠藤　俊子	

テーマ

博士論文の作成

授業の到達目標

特別研究Ⅰの研究計画を実施し、データ収集を経て分析し、新たな知の構築をめざして水準の高い研究論文を作成する。審査ならびに第2回公開発表会を経て、博士論文を完成する。これらの過程を経て、自立的に研究を実施、評価する能力を獲得する。

授業の概要

特別研究Ⅰで立案した研究計画をもとに、主指導教員および副指導教員の指導を受けながら研究活動を実施する。研究活動によって得られたデータを分析し、新たな知の構築をめざして研究論文としてまとめ、審査ならびに公開発表を経て博士論文を完成させる。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　データ収集と分析
第2回　〃
第3回　〃
第4回　〃
第5回　〃
第6回　〃
第7回　〃
第8回　〃
第9回　〃
第10回　〃
第11回　結果の論述
第12回　〃
第13回　〃
第14回　〃
第15回　〃
第16回　〃
第17回　〃
第18回　〃
第19回　〃
第20回　〃
第21回　分析・考察して論文全体の作成
第22回　〃
第23回　〃
第24回　〃
第25回　〃
第26回　〃
第27回　〃
第28回　〃
第29回　〃
第30回　〃

履修上の注意点

教科書

参考書

The National Database on Nursing Quality Indicators(NDNQI)

著者：　American Nurses Association

出版社：

出版年：　2007　　ISBN：

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題（ ）
授業中発表等（ 50 ）
参加度 （ 50 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**健康科学特別研究Ⅰ <Mg>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

心身の健康と新しい生き方を考究し、健康上の問題解決や障害予防あるいは社会適応の方略等の提案をするための健康科学研究の能力を確立する。

授業の概要

心身の健康とそれをめぐる課題、臨床的問題等を取り上げた健康科学研究の指導を行う。加齢に伴って生じる変形性関節疾患、ロコモーテーブシンドロームなどに対する人工的物理エネルギー（超音波、レーザー、電気刺激）の疼痛抑制効果機序について研究指導を行う。健康科学特別研究Ⅰでは、副研究指導教員と共に研究テーマについて討議を行い、先行研究論文の収集、研究動向の調査を実施する。さらに研究計画書を作成し、研究倫理委員会へ審査申請を行う。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　ガイダンス （合同）
第2回　研究テーマについて発表、討論 （合同）
第3回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第4回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第5回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第6回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第7回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第8回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第9回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第10回　先行研究の文献レビューと研究動向の把握
第11回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第12回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第13回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第14回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第15回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第16回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第17回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第18回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第19回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第20回　研究テーマと目的・方法の確定と研究計画の立案
第21回　研究計画書の作成
第22回　研究計画書の作成
第23回　研究計画書の作成
第24回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第25回　中間報告・研究計画の発表と研究倫理委員会への申請指導 （合同）
第26回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第27回　研究倫理審査の結果を踏まえての修正
第28回　予備調査・パイロット実験等
第29回　予備調査・パイロット実験等
第30回　予備調査・パイロット実験等

履修上の注意点

教科書

参考書

院生の計画する個々の研究テーマに即して随時文献を紹介する。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

h90101a257

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題（ 30 ）
授業中発表等（ 30 ）
参加度 （ 40 ）

2016 Syllabus

科 目 名　**組織心理学特論 <M>**

クラス	配当回生
講義期間　その他	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　（休講）	

テーマ

授業の到達目標

組織心理学およびその基礎となる社会心理学の諸概念・理論と新たな研究動向を学び、現在の組織を生きる人間の心理・行動上の問題への対処を考える理論的な視点を獲得する

授業の概要

組織心理学のオーソドックスなテーマがどのように発展してきているのか、新しい学術論文の記事をピックアップし、従来の諸理論と新たな展開を解説し、今後の展望を含めて理論的および実践的意義を議論する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　導入、組織心理学の新たな問題群の整理
第2回　性格と適性、心理テスト
第3回　ワークモチベーション1　内容理論の展開
第4回　ワークモチベーション2　内発的動機づけと自己決定理論
第5回　ワークモチベーション3　期待理論と目標設定理論
第6回　ワークモチベーション4　他者志向動機づけと動機づけの文化的考察
第7回　コミットメント1　ワークコミットメントの全体像
第8回　コミットメント2　組織コミットメントを中心としたコミットメント研究の動向
第9回　組織ストレス1　基本概念と新動向
第10回　組織ストレス2　ストレス・マネジメント
第11回　集団生産性1　集団パフォーマンス
第12回　集団生産性2　集団意思決定
第13回　リーダーシップ1　古典的理論の展開
第14回　リーダーシップ2　新動向
第15回　総括

履修上の注意点

教科書

参考書

産業・組織心理学エッセンシャルズ　改訂三版
著者:　田中堅一郎 編
出版社:　ナカニシヤ出版
出版年:　2011　　ISBN:

＊参考書は新たなものを随時紹介していく
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 30 ）	小テスト（ ）
授業中課題（ ）	授業中発表等（ 30 ）
参加度　（ 40 ）	

科目名	実践看護学Ⅱ
単位数	4
担当者	奥野　信行 伊藤　恵美子 植村　由美子 梶谷　佳子 河原　宣子 小淵　岳恒 中橋　苗代 野島　敬祐 堀　妙子 マルティネス　真喜子 深山　つかさ
配当回生	学部２回生
講義期間	後期集中
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	教① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教② 知的関心をもって学修していく態度や心構えの養成 教④ 異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の養成 教⑥ 物事を論理的に分析する能力の養成 看① 知的好奇心をもち、看護学を主体的に学ぶ基礎的能力 看④ 異文化を理解し、人によりそう看護を実践できる能力

テーマ	開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	1. 急性期･回復期･リハビリテーション期の健康レベルの考え方を理解する。 2. 健康レベルとライフサイクルを踏まえ、根拠に基づいた計画的な看護実践の基礎を理解する。 3. 特定の健康課題に対応する実践能力を養う。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	実践看護学Ｉを踏まえ、さまざまな看護（助産含む）の対象と家族、多様な看護の場における健康レベルに応じた看護過程を病態・治療の理解を含めて学ぶ。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事

第1回	科目ガイダンス，事例「橘薫の一生」の説明，健康レベルの概念，健康レベルと看護過程，急激な健康破綻と回復過程にある人々への援助①-急性期の看護の特徴
第2回	科目ガイダンス，事例「橘薫の一生」の説明，健康レベルの概念，健康レベルと看護過程，急激な健康破綻と回復過程にある人々への援助①-急性期の看護の特徴
第3回	急激な健康破綻と回復過程にある人々への援助②-看護の実際 救急時の看護①：救急看護（助産含む）の特徴
第4回	急激な健康破綻と回復過程にある人々への援助②-看護の実際 救急時の看護①：救急看護（助産含む）の特徴
第5回	救急時の看護②：救急看護の実際 救急時の看護③：受傷・発症から入院まで
第6回	救急時の看護②：救急看護の実際 救急時の看護③：受傷・発症から入院まで
第7回	入院時の看護①：病歴聴取・全身状態の観察* 入院時の看護②：実施する看護についての説明と同意
第8回	入院時の看護①：病歴聴取・全身状態の観察* 入院時の看護②：実施する看護についての説明と同意
第9回	疼痛ケアと精神的ケア，家族へのケア， 対人関係プロセス①：コミュニケーション
第10回	疼痛ケアと精神的ケア，家族へのケア， 対人関係プロセス①：コミュニケーション
第11回	対人関係プロセス②：精神状態のアセスメント 対人関係プロセス③：精神状態のアセスメント・介入
第12回	対人関係プロセス②：精神状態のアセスメント 対人関係プロセス③：精神状態のアセスメント・介入
第13回	罨法, 感染予防①②：無菌操作，ガウンテクニック，医療廃棄物の取り扱い，

授業の計画		スタンダードプリコーション，手指培養実験
	第14回	罨法, 感染予防①②：無菌操作，ガウンテクニック，医療廃棄物の取り扱い， スタンダードプリコーション，手指培養実験
	第15回	罨法, 感染予防①②：無菌操作，ガウンテクニック，医療廃棄物の取り扱い， スタンダードプリコーション，手指培養実験
	第16回	検査を受ける患者の看護①：生体検査 検査を受ける患者の看護②③④：画像診断，心電図等等
	第17回	検査を受ける患者の看護①：生体検査 検査を受ける患者の看護②③④：画像診断，心電図等等
	第18回	検査を受ける患者の看護①：生体検査 検査を受ける患者の看護②③④：画像診断，心電図等等
	第19回	検査を受ける患者の看護①：生体検査 検査を受ける患者の看護②③④：画像診断，心電図等等
	第20回	検査を受ける患者の看護⑤：放射線と放射線を使用する検査の理解 検査を受ける患者の看護⑥：放射線と放射線を使用する検査の理解－演習
	第21回	検査を受ける患者の看護⑤：放射線と放射線を使用する検査の理解 検査を受ける患者の看護⑥：放射線と放射線を使用する検査の理解－演習
	第22回	検査を受ける患者の看護⑦：検体検査(1), 検査を受ける患者の看護⑧：検体検査(2) 検査を受ける患者の看護⑨：採血ER入室時の看護過程　与薬
	第23回	検査を受ける患者の看護⑦：検体検査(1), 検査を受ける患者の看護⑧：検体検査(2) 検査を受ける患者の看護⑨：採血ER入室時の看護過程　与薬
	第24回	検査を受ける患者の看護⑦：検体検査(1), 検査を受ける患者の看護⑧：検体検査(2) 検査を受ける患者の看護⑨：採血ER入室時の看護過程　与薬
	第25回	与薬の看護①：与薬の基本，与薬の看護②：特に小児看護における与薬
	第26回	与薬の看護①：与薬の基本，与薬の看護②：特に小児看護における与薬
	第27回	与薬の看護③：注射，与薬の看護④：特に小児看護における注射 与薬の看護⑤：輸液療法，与薬の看護⑥：特に小児看護における輸液療法
	第28回	与薬の看護③：注射，与薬の看護④：特に小児看護における注射 与薬の看護⑤：輸液療法，与薬の看護⑥：特に小児看護における輸液療法
	第29回	与薬の看護③：注射，与薬の看護④：特に小児看護における注射 与薬の看護⑤：輸液療法，与薬の看護⑥：特に小児看護における輸液療法
	第30回	与薬の看護③：注射，与薬の看護④：特に小児看護における注射 与薬の看護⑤：輸液療法，与薬の看護⑥：特に小児看護における輸液療法
	第31回	与薬の看護③：注射，与薬の看護④：特に小児看護における注射 与薬の看護⑤：輸液療法，与薬の看護⑥：特に小児看護における輸液療法
	第32回	周手術期の看護の特徴：危機理論、ストレスコーピング等
	第33回	周手術期の看護の特徴：危機理論、ストレスコーピング等
	第34回	術前の看護過程　身体・精神面の評価と準備，観察・アセスメント
	第35回	術前の看護過程　身体・精神面の評価と準備，観察・アセスメント
	第36回	術中の看護①，術中の看護②
	第37回	術中の看護①，術中の看護②
	第38回	術中の看護①，術中の看護②
	第39回	導尿・浣腸
	第40回	導尿・浣腸
	第41回	術後の看護－術後合併症に対する看護、痛みのケア、早期離床等
	第42回	術後の看護－術後合併症に対する看護、痛みのケア、早期離床等
	第43回	術後の看護－術後合併症に対する看護、痛みのケア、早期離床等
	第44回	術後の看護－術後合併症に対する看護、痛みのケア、早期離床等
	第45回	術後の看護－術後合併症に対する看護、痛みのケア、早期離床等
	第46回	慢性期看護

第47回	慢性期看護
第48回	慢性期看護
第49回	回復期・リハビリテーション期～退院までの看護
第50回	回復期・リハビリテーション期～退院までの看護
第51回	周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画
第52回	周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画
第53回	周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画
第54回	周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画
第55回	周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画
第56回	周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画
第57回	周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画
第58回	周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画
第59回	周手術期の看護過程：情報収集・アセスメント・看護計画
第60回	まとめ

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.					
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.					
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
90		10		

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

	表示名	URL	説明
1.			

参考URL	2.			
	3.			
更新日付	2015/12/15 11:56:41			

科目名	実践看護学Ⅲ－２
単位数	4
担当者	松本　賢哉 伊藤　恵美子 奥野　信行 神﨑　光子 工藤　里香 常田　裕子 野島　敬祐 堀　妙子 マルティネス　真喜子 深山　つかさ 望月　紀子
配当回生	学部３回生
講義期間	前期集中
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	教① 市民や社会人として必要とされる知識や教養の獲得 教④ 異なる考え方や異なる文化を持つ人々を理解する能力の養成 教⑥ 物事を論理的に分析する能力の養成 看① 知的好奇心をもち、看護学を主体的に学ぶ基礎的能力 看④ 異文化を理解し、人によりそう看護を実践できる能力

テーマ	開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	1.ライフサイクルを踏まえ、さまざまな健康課題と健康レベルに応じた看護を理解する。 2.がん看護、精神看護、地域看護、老年看護、小児看護、母性看護、急激な健康破綻と回復過程にある人々への看護、慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々への看護、終末期にある人々への看護、感染症看護、家族支援看護等のさまざまな看護の場における看護活動と専門性を理解する。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	実践看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ-1を踏まえ、さまざまな健康課題をもつ対象とその家族、多様な看護の場における、人によりそう看護を理解する。同時に、看護活動の場の多様性を認識し、看護の専門性を考察する。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事

第1回	診断・治療期のがん看護①
第2回	診断・治療期のがん看護①
第3回	診断・治療期のがん看護②
第4回	診断・治療期のがん看護②
第5回	小児を対象とした看護の特徴
第6回	小児を対象とした看護の特徴
第7回	小児と家族が疾病から受ける影響
第8回	小児と家族が疾病から受ける影響
第9回	外来受診・入院する小児とその家族への看護
第10回	外来受診・入院する小児とその家族への看護
第11回	障がいのある小児とその家族への看護
第12回	障がいのある小児とその家族への看護
第13回	消化・吸収障害ももつ人への看護

授業の計画		
	第14回	消化・吸収障害ももつ人への看護
	第15回	消化器疾患をもつ小児の看護　鎖肛その他
	第16回	消化器疾患をもつ小児の看護　鎖肛その他
	第17回	糖代謝障害をもつ人への看護
	第18回	糖代謝障害をもつ人への看護
	第19回	排泄機能障害とは　腎疾患をもつ人の看護
	第20回	排泄機能障害とは　腎疾患をもつ人の看護
	第21回	循環機能障害をもつ人への看護
	第22回	循環機能障害をもつ人への看護
	第23回	呼吸機能障害をもつ人への看護
	第24回	呼吸機能障害をもつ人への看護
	第25回	小児によくみられる腎・呼吸器疾患の看護
	第26回	小児によくみられる腎・呼吸器疾患の看護
	第27回	運動機能障害をもつ人への看護
	第28回	運動機能障害をもつ人への看護
	第29回	小児によくみられる循環器・筋・骨疾患をもつ小児の看護
	第30回	小児によくみられる循環器・筋・骨疾患をもつ小児の看護
	第31回	筋・骨格系の障害をもつ高齢者の看護
	第32回	筋・骨格系の障害をもつ高齢者の看護
	第33回	摂食・嚥下障害をもつ高齢者の看護
	第34回	摂食・嚥下障害をもつ高齢者の看護
	第35回	認知症の人とその家族の看護
	第36回	認知症の人とその家族の看護
	第37回	高齢者の性とQOL
	第38回	高齢者の性とQOL
	第39回	看取りと看護
	第40回	看取りと看護
	第41回	小児の終末期の看護
	第42回	小児の終末期の看護
	第43回	高齢者の終末期ケア
	第44回	高齢者の終末期ケア
	第45回	神経症性障害患者の看護
	第46回	神経症性障害患者の看護
	第47回	統合失調症患者の看護

	第48回	統合失調症患者の看護
	第49回	精神障がい者の地域生活支援の実際①
	第50回	精神障がい者の地域生活支援の実際①
	第51回	精神障がい者の地域生活支援の実際②
	第52回	精神障がい者の地域生活支援の実際②
	第53回	地区活動の展開①
	第54回	地区活動の展開①
	第55回	地区活動の展開②
	第56回	地区活動の展開②
	第57回	地区看護活動の実際①
	第58回	地区看護活動の実際①
	第59回	地区看護活動の実際②
	第60回	地区看護活動の実際② ※なお、外部講師を招いて講演会を実施することがある。

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	親子健康手帳（母子健康手		東京法規出版		HE310940
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.					
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
70				30

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

参考URL

	表示名	URL	説明
1.			
2.			
3.			

更新日付	2015/12/15 15:36:13

科目名	卒業研究（理学）＜a＞
単位数	3
担当者	村田　伸
配当回生	学部４回生
講義期間	後期
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	卒業論文の作成・発表 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	①研究テーマの意義・位置づけを説明できる. ②研究成果を理解した上で，論考することができる. ③研究発表のプレゼンテーションを行うことができる. ④論文作成過程を理解し，実践できる. 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	ラーニングコースに沿った研究テーマについて，論文作成を目指します. 論文指導は，コース毎に複数教員による指導体制のもと，行います. 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	研究方法やプレゼンテーションの手法について学習する．さらに論文作成の過程を十分に習得してください, 授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事

第1回	オリエンテーション
第2回	卒業論文発表準備（1）
第3回	卒業論文発表準備（2）
第4回	卒業論文発表準備（3）
第5回	卒業論文発表準備（4）
第6回	卒業論文発表準備（5）
第7回	卒業論文発表準備（6）
第8回	卒業論文発表準備（7）
第9回	卒業論文発表準備（8）
第10回	卒業論文発表準備（9）
第11回	卒業論文発表準備（10）
第12回	卒業論文発表検討会
第13回	卒業論文発表準備（11）
第14回	卒業論文発表準備（12）
第15回	卒業論文発表準備（13）
第16回	卒業論文発表準備（14）
第17回	卒業論文発表準備（15）
第18回	卒業論文発表準備（16）
第19回	卒業論文発表会（1）

授業の計画		
	第20回	卒業論文発表会（2）
	第21回	卒業論文発表会（3）
	第22回	卒業論文発表会（4）
	第23回	卒業論文発表会（5）
	第24回	卒業論文発表会（6）
	第25回	卒業論文作成（1）
	第26回	卒業論文作成（2）
	第27回	卒業論文作成（3）
	第28回	卒業論文作成（4）
	第29回	卒業論文作成（5）
	第30回	卒業論文作成（6）
	第31回	卒業論文作成（7）
	第32回	卒業論文作成（8）
	第33回	卒業論文作成（9）
	第34回	卒業論文作成（10）
	第35回	卒業論文作成（11）
	第36回	卒業論文作成（12）
	第37回	卒業論文作成（13）
	第38回	卒業論文作成（14）
	第39回	卒業論文作成（15）
	第40回	卒業論文作成（16）
	第41回	卒業論文作成（17）
	第42回	卒業論文作成（18）
	第43回	卒業論文作成（19）
	第44回	卒業論文作成（20）
	第45回	総括
	第46回	
	第47回	
	第48回	
	第49回	
	第50回	
	第51回	
	第52回	
	第53回	

第54回	
第55回	
第56回	
第57回	
第58回	
第59回	
第60回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.					
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.					
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
50		10	20	20

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

卒業論文作成にあたって真摯に取り組む姿勢および卒業論文の完成度，また卒業論文検討会や卒業論文発表会時のプレゼンテーション内容や質疑応答への貢献度について採点します．
試験には卒業論文の完成度やプレゼンテ-ション能力，ディスカッション能力で構成します．

参考URL

	表示名	URL	説明
1.			
2.			
3.			

更新日付 2016/01/07 16:41:45

科目名	臨床心理基礎実習 <M>
単位数	
担当者	中西　龍一 松下　幸治
配当回生	大学院１回生
講義期間	通年
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	臨床心理学実践の基礎的スキルを学ぶ 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	面接実習、グループ体験、査定、学外研修と心理臨床家に求められる必要な基礎的スキル、体験、知見の獲得を目指す。また、臨床心理業務に携わるために必要な基本的感性を種々の感受性訓練を通して体験的に学ぶ。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	実習、体験、見学と内容は多義にわたるが、いずれも心理臨床家にとって不可欠なものである。心理療法の基礎となる傾聴技法をロールプレイによる実習形式で徹底的に体得するとともに、グループワークを通して学生個々が自己援助的内省を活性化でき、自己の気づきを高める。また以下の授業の他に受講生には、心理臨床センターのインテーク陪席、インテークカンファレンス、ケースカンファレンスへの参加が求められる。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	十分な復習が必要となります。 授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事

第1回	傾聴することの意味とは
第2回	傾聴することの意味とは
第3回	面接をリードする四つのポイント（視線、身体言語、声、言語的追跡）とは
第4回	面接をリードする四つのポイント（視線、身体言語、声、言語的追跡）とは
第5回	ロールプレイ（記録を映像に残す）とふり返り（映像記録を再生して）
第6回	ロールプレイ（記録を映像に残す）とふり返り（映像記録を再生して）
第7回	面接に構造を与えるための質問とは
第8回	面接に構造を与えるための質問とは
第9回	ロールプレイ（記録を映像に残す）とふり返り（映像記録を再生して）
第10回	ロールプレイ（記録を映像に残す）とふり返り（映像記録を再生して）
第11回	最小限の励まし、言い換えと確認とは
第12回	最小限の励まし、言い換えと確認とは
第13回	ロールプレイ（記録を映像に残す）とふり返り（映像記録を再生して）
第14回	ロールプレイ（記録を映像に残す）とふり返り（映像記録を再生して）
第15回	傾聴技法を用いた面接実習　インテーク面接のロールプレイ
第16回	傾聴技法を用いた面接実習　インテーク面接のロールプレイ
第17回	傾聴技法を用いた面接実習　コンサルテーションのロールプレイ
第18回	傾聴技法を用いた面接実習　コンサルテーションのロールプレイ

授業の計画		
	第19回	自己に気づく（構成的グループエンカウンター、及びSSTの体験）
	第20回	自己に気づく（構成的グループエンカウンター、及びSSTの体験）
	第21回	自己に気づく（ゲシュタルトグループの体験）
	第22回	自己に気づく（ゲシュタルトグループの体験）
	第23回	心理臨床の実際　学外見学（医療）
	第24回	心理臨床の実際　学外見学（医療）
	第25回	心理臨床の実際　学外見学（医療）のふり返り
	第26回	心理臨床の実際　学外見学（医療）のふり返り
	第27回	心理臨床の実際　学外見学（司法）
	第28回	心理臨床の実際　学外見学（司法）
	第29回	心理臨床の実際　学外見学（司法）のふり返り
	第30回	心理臨床の実際　学外見学（司法）のふり返り
	第31回	「臨床心理行為」の基本的姿勢
	第32回	「臨床心理行為」の基本的姿勢
	第33回	マイクロカウンセリングの実践
	第34回	マイクロカウンセリングの実践
	第35回	要約技法―要約と歪曲
	第36回	要約技法―要約と歪曲
	第37回	感情の反映―感情と情動への応答
	第38回	感情の反映―感情と情動への応答
	第39回	意味の反映と焦点のあてかた
	第40回	意味の反映と焦点のあてかた
	第41回	積極技法と対決技法
	第42回	積極技法と対決技法
	第43回	心理査定概説
	第44回	心理査定概説
	第45回	心理査定の実践
	第46回	心理査定の実践
	第47回	イメージグループと体験様式の理解
	第48回	イメージグループと体験様式の理解
	第49回	「注意固定的」「外界志向的」姿勢から「内界志向的構え」の形成へ
	第50回	「注意固定的」「外界志向的」姿勢から「内界志向的構え」の形成へ
	第51回	「イメージ直面段階」から「イメージ体験段階」への変容
	第52回	「イメージ直面段階」から「イメージ体験段階」への変容

第53回	「イメージ受容段階」とイメージの自己治癒力
第54回	「イメージ受容段階」とイメージの自己治癒力
第55回	「中核的イメージ体験」の創造性と危険性
第56回	「中核的イメージ体験」の創造性と危険性
第57回	「臨床心理行為」の有害性と副作用
第58回	「臨床心理行為」の有害性と副作用
第59回	関わり技法に関するまとめと振り返り
第60回	関わり技法に関するまとめと振り返り

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

基本的に全回出席が求められます。

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.					
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	マイクロカウンセリング技	福原眞知子 監修	風間書店		
2.	ゲシュタルト療法バーベイ	パールズ,F.S.　倉戸ヨシ	ナカニシヤ出版		
3.	マイクロカウンセリング	アレン・E・アイビィ	川島書店		
4.	心の営みとしての病むこと	田嶌誠一	岩波書店		
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
20	0	0	0	80

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

参考URL

	表示名	URL	説明
1.			
2.			
3.			

更新日付 2015/12/18 15:11:25

科目名	English Workshop Ⅰ<b>
単位数	
担当者	
配当回生	
講義期間	その他
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	TOEICで600点以上を目指す。 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	TOEIC対策をしながら、ビジネスの現場で使える、速読力、リスニング力を鍛える。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	テキストを中心に進めるが、問題を解くのに加え、スピーキングやライティングの課題も出される。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	授業中、または自宅での課題を確実にこなすこと。 授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事

授業の計画		
	第1回	オリエンテーション
	第2回	リスニング編：Unit1、Unit9
	第3回	リーディング編：Unit1,Unit8
	第4回	リスニング編：Unit2、Unit10
	第5回	リーディング編：Unit2,Unit8
	第6回	リスニング編：Unit3、Unit11
	第7回	リーディング編：Unit3,Unit8
	第8回	リスニング編：Part1 Challenge、Part3 Challenge
	第9回	リーディング編：Unit4,Unit9
	第10回	リスニング編：Unit4、Unit12
	第11回	リーディング編：Unit5,Unit9
	第12回	リスニング編：Unit5、Unit13
	第13回	リーディング編：Unit6,Unit9
	第14回	リスニング編：Unit6、Unit14
	第15回	復習
	第16回	
	第17回	
	第18回	
	第19回	

第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

３分の２以上の出席が必要。テキストは通年使用する。

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	TOEIC　テスト公式プラクティス　リスニング編		一般財団法人　国際ビジネスコミュニケーション		9784906033423
2.	TOEIC　テスト公式プラクティス リーディング編		一般財団法人　国際ビジネスコミュニケーション		9784906033454
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.					
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
30	30			20

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

期末に行われるTOEICのスコアが成績の２０%を占める。TOEICの受験が必要。

参考URL

	表示名	URL	説明
1.			
2.			
3.			

更新日付	2016/01/09 23:02:08

科目名	English Workshop Ⅰ<b>
単位数	
担当者	
配当回生	
講義期間	その他
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	TOEIC対策を通した英語運用能力の向上 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	TOEICテストのスコアアップ（7月のテストで550点以上）を目標に、様々な場面で用いられる実践的な英語を正確かつ迅速に理解できるようになるためのスキルを身につけること。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	TOEICテストの頻出事項をおさえながら、各セクションで正解率を上げるための基礎的な語彙・文法力を強化します。 ※注意事項１．英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC450点以上の学生が対象となります。450点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行ってください。2.　英語コミュニケーション学科新3回生は、受講登録時に指定されているクラスが変更になる可能性があります(aからb、bからa）ので注意してください。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	毎回の課題と小テストをしっかりこなしてください。 授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事

授業の計画	
第1回	授業概要の説明。TOEIC対策のための学習方法に関する説明
第2回	Unit 1 Shopping : Daily Life
第3回	Unit 2 Shopping : Big Purchase
第4回	Unit 3 Travel : Planes and Trains
第5回	Unit 4 Travel : Hotels
第6回	Unit 5 Entertainment : Restaurants
第7回	Unit 6 Entertainment : Movies
第8回	Unit 7 Entertainment : Cultural and Events
第9回	Unit 8 Health : Docters and Hospitals
第10回	Unit 9 Health : Exercise and Diet
第11回	Unit 10 Business : Group Projec
第12回	Unit 11 Business : Clerical Tasks
第13回	Unit 12 Business : Visitor
第14回	Unit 13 Business : Hiring
第15回	Review
第16回	
第17回	

第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	トピックでめざせ！TOEIC(R) Test550へ"ステップアップ"	David Farnell; Greg Bevan; 秋好礼子／稲冨百合子／高橋美知子／新田よしみ／光冨省吾	英宝社	2012	978426966027-4
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.					
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
20%	60%			20%

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

上記試験成績は、7月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験に基づくものです（前期中の公開テストでも可）。受講者は全員、IPもしくは公開テストを受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることになりますので注意してください。

	表示名	URL	説明
1.			

参考URL	2.			
	3.			
更新日付	2015/12/26 11:55:30			

科目名	English Workshop Ⅱ<b>
単位数	
担当者	
配当回生	
講義期間	その他
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	TOEICで600点以上を目指す。 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	TOEIC対策をしながら、ビジネスの現場で使える、速読力、リスニング力を鍛える。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	テキストを中心に進めるが、問題を解くのに加え、スピーキングやライティングの課題も出される。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	授業中、または自宅での課題を確実にこなすこと。 授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事

授業の計画		
	第1回	リスニング編：Unit7、challenge 4
	第2回	リーディング編：Unit7,Unit10
	第3回	リスニング編：Unit8、challenge 2
	第4回	リーディング編：Unit10
	第5回	リーディング編：Unit11
	第6回	リーディング編：Unit12
	第7回	リーディング編：本番形式テスト
	第8回	新公式問題集Vol.6
	第9回	新公式問題集Vol.6
	第10回	新公式問題集Vol.6
	第11回	新公式問題集Vol.6
	第12回	新公式問題集Vol.6
	第13回	新公式問題集Vol.6
	第14回	新公式問題集Vol.6
	第15回	復習
	第16回	
	第17回	
	第18回	
	第19回	

第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

前期で使用した2冊のテキストに加え、新公式問題集Vol.6を使用する。

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	TOEIC新公式問題集Vol.6		一般財団法人　国際ビジネスコミュニケーション		9784906033461
2.	TOEIC　テスト公式プラクティス　リスニング編		一般財団法人　国際ビジネスコミュニケーション		9784906033423
3.	TOEIC　テスト公式プラクティス リーディング編		一般財団法人　国際ビジネスコミュニケーション		9784906033454
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.					
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
30	30			20

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

期末に行われるTOEICのスコアが成績の２０％を占める。TOEICの受験が必要。

参考URL

	表示名	URL	説明
1.			
2.			
3.			

更新日付	2016/01/09 23:53:10

科目名	English Workshop Ⅱ＜b＞
単位数	
担当者	
配当回生	
講義期間	その他
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	TOEIC対策を通した英語運用能力の向上 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	TOEICテストのスコアアップ（12月のテストで600点以上）を目標に、様々な場面で用いられる実践的な英語を正確かつ迅速に理解できるようになるためのスキルを身につけること。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	前期に引き続き、スコアアップに必要な語彙・文法力を強化します。同時に、授業ではできるだけ多くの練習問題をこなすことにより、応用力を養成します。※注意事項１．英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC500点以上の学生が対象となります。500点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行ってください。2.　英語コミュニケーション学科新3回生は、受講登録時に指定されているクラスが変更になる可能性があります(aからb、bからa）ので注意してください。TOEICテストの頻出事項をおさえながら、各セクションで正解率を上げるための基礎的な語彙・文法力を強化します。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	毎回の課題と小テストをしっかりこなしてください。 授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事
授業の計画	第1回　Chapter 1 不動産 (Real Estate) 第2回　Chapter 2 環境 (Environment) 第3回　Chapter 3 ジャーナリズム (Journalism) 第4回　Chapter 4 食品 (Food Products) 第5回　Chapter 5 製造 (Manufacturing) 第6回　Chapter 6 金融 (Financing) 第7回　Chapter 7 スポーツ (Sports) 第8回　Chapter 8 教育 (Education) 第9回　Chapter 9 農水産 (Agricultural and Marine Products) 第10回　Chapter 10 娯楽 (Amusement) 第11回　Chapter 11 芸術 (Art) 第12回　Chapter 12 情報通信 (Information and Communication) 第13回　Chapter 13 公共サービス (Public Services) 第14回　Chapter 15 医療 (Medical Service) 第15回　Review 第16回 第17回

第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	未定				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.					
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
20%	60%			20%

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

参考URL

	表示名	URL	説明
1.			
2.			
3.			

更新日付	2015/12/26 12:14:28

科目名	日本語Ⅰ＜a＞
単位数	
担当者	
配当回生	
講義期間	その他
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	上級レベルの日本語聴解力の育成 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	日本の高等教育機関ならびに日本社会において必要な、ある程度のまとまりのある、 社会的・専門的・一般的な日本語が聞き取れるようになる。 その際必要となる語彙・文型・表現やストラテジーが、大学での授業や日常生活にも役立てられる。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	10回目までの授業では、ニュースやドラマ、大学の授業を聞き取り、 全体の内容あるいは必要な箇所を聞き取っていく。 また、3回の小テストを実施し、聴解の中で出てきた語彙・文型・表現の確認を行う。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	事前に配布したプリントは、翌週の授業の準備なのできちんと完成させること。 授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事

授業の計画		
	第1回	授業説明・評価説明／今のレベルの確認
	第2回	ニュース１
	第3回	大学の授業１
	第4回	ニュース２
	第5回	大学の授業２／小テスト１
	第6回	ニュース３
	第7回	大学の授業３
	第8回	ニュース４
	第9回	大学の授業４／小テスト２
	第10回	ニュース５
	第11回	ドラマ１
	第12回	ドラマ２
	第13回	ドラマ３／小テスト３
	第14回	まとめテスト
	第15回	フィードバック・総括
	第16回	
	第17回	
	第18回	
	第19回	

第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	授業時配布プリント				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	ニュースの日本語聴解40	瀬川由美他	スリーエーネットワーク	2010	9784-88319539-8
2.	留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解上級	東京外国語大学留学生日本語教育センター	スリーエーネットワーク	2015	978488319716-3
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
20	30	35	0	15

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。
また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。
なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。

参考URL

	表示名	URL	説明
1.			
2.			
3.			

更新日付	2016/01/14 00:42:53

科目名	日本語Ⅰ＜a＞
単位数	
担当者	
配当回生	
講義期間	その他
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	日本語運用能力の向上 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	大学での学習に必要な理解力、表現力を身につける。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	論文読解、レポート作成に必要な基礎知識を身につけ、形式を踏まえたレポートが書けるようになることを目指す。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	事前に教材を配布するので予習すること。授業終了後に練習問題を配布するので復習すること。課題(各自の興味に基づき内容をまとめる)に取り組むこと。予習・復習には1時間程度を要する。 授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事
授業の計画	第1回　話し言葉と書き言葉の使い分け 第2回　論文などで用いられる表現の特徴 第3回　段落構成練習ーアウトラインを組み立てる 第4回　序論(背景説明、問題提起、方向付け)/ 図形の表現 第5回　序論(背景説明、問題提起、方向付け)/ 文末表現 第6回　本論(論拠、結論提示、論の展開)/ 引用の方法 第7回　本論(論拠、結論提示、論の展開)/ 定義や分類の表現 第8回　本論(論拠、結論提示、論の展開)/ 要約練習 第9回　結論(全体のまとめ、評価、展望提示)/ 参考文献、資料など 第10回　論文読解練習①(全体構成、序論) 第11回　論文読解練習②(本論—実験調査型、理論型) 第12回　論文読解練習③(結論-まとめ、結論の要約、自己評価、今後の展望) 第13回　論文読解練習④(誤用訂正、よりよい表現への書き換え練習) 第14回　発表活動 第15回　まとめ 第16回 第17回 第18回

第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	使用しない				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	改訂版　大学・大学院　留学生の日本語③論文読解編	アカデミックジャパニーズ研究会編	アルク	2015	
2.	日本語の表現技術　読解と作文　上級	倉八順子	古今書院	2003	
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
		50	20	30

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は、評価の対象としない。また、遅刻は授業開始15分まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上経過した場合は欠席とする。なお正当な理由のない遅刻・早退・欠席をしたものは、別途ペナルティーを実施する（詳細は授業時に説明）。

	表示名	URL	説明
1.			

参考URL	2.			
	3.			
更新日付	2016/03/29 02:45:38			

科目名	日本語Ⅰ <b>
単位数	
担当者	
配当回生	
講義期間	その他
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	日本語運用能力の向上 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	生活全般および大学での学習活動に必要な理解力、表現力を身につける。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	ACTFL-OPI(全米外国語教育協会　口頭表現能力測定)　advance(上級)からSuperior(超級)の口頭表現能力をめざす。 スピーチ、ロールプレー、ディスカッション、朗読練習などの活動を通して、必要な表現方法を身につける。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	次回の授業内容のプリントを配布するので予習すること。学習内容の復習問題を配布するので取り組むこと。スピーチ課題の準備をすること。学期内で3回実施する朗読練習のための準備や練習をすること。 授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事

授業の計画		
	第1回	詳細な情景描写
	第2回	自分の国の行事紹介
	第3回	困った状況への対応と交渉
	第4回	構成を考えた簡潔で分かりやすい説明　(場所の紹介)
	第5回	複雑な内容をわかりやすく伝える　　朗読練習①
	第6回	場面、状況に適した説明
	第7回	異なる視点から意見を述べる　論理的な説明の方法
	第8回	抽象的で複雑な制度を説明する　段落ごとの話題を明示する
	第9回	討論(理由を述べて反論する　説得力のある話し方)
	第10回	相談と助言(因果関係の説明　社会的な話題の論理的説明)　朗読練習②
	第11回	他の人の話を引用して詳細に描写する
	第12回	複眼的視点で意見を述べる(異なる意見を尊重した話し方)
	第13回	朗読練習③
	第14回	発表活動
	第15回	まとめ
	第16回	
	第17回	
	第18回	
	第19回	

第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	使用しない				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	日本語上級話者への道-きちんと伝える技術と表現	荻原稚佳子他	スリーエーネットワーク	2005	
2.	日本語超級話者へのかけはし　きちんと伝える技術と表現	荻原稚佳子他	スリーエーネットワーク	2007	
3.	1日10分の発音練習	河野俊之他	くろしお出版	2004	
4.	中上級向け日本語教材　日本文化を読む	京都日本語教育センター	アルク	2012	
5.	上級者向け日本語教材　日本文化を読む	京都日本語教育センター	アルク	2008	
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
20%	20%	20%	30%	10%

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象としない。また、遅刻は授業開始15分まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティーを実施する(詳細は授業時に説明)。

		表示名	URL	説明
参考URL	1.			
	2.			
	3.			
更新日付	2015/12/28 22:57:33			

科目名	日本語Ⅰ <b>
単位数	
担当者	
配当回生	
講義期間	その他
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	日本語運用能力の向上 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	おもに生活全般、大学での学習活動に不可欠な表現能力を身につける。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	テーマに沿った、まとまりのある文章を書く。最終的には、自分で調査をし、レポートにまとめる。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	 授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事

授業の計画		
	第1回	オリエンテーション
	第2回	説明文を書く①
	第3回	説明文を書く②
	第4回	意見の述べ方①
	第5回	意見の述べ方②
	第6回	賛成意見・反対意見①
	第7回	賛成意見・反対意見②
	第8回	レポート：テーマ決定
	第9回	レポート：調査①
	第10回	レポート：調査②
	第11回	レポート：調査③
	第12回	レポート作成①
	第13回	レポート作成②
	第14回	レポート作成③
	第15回	まとめ/講評
	第16回	
	第17回	
	第18回	
	第19回	

第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	使用しない。				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	授業中に適宜紹介する。				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
		50%	20%	30%

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

出席回数が全授業の３分の２に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上経過した場合は欠席とする。

参考URL

	表示名	URL	説明
1.			
2.			
3.			

更新日付 2016/02/06 15:12:00

科目名	日本語Ⅰ <c>
単位数	
担当者	
配当回生	
講義期間	その他
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	日本語を聞く力を伸ばす 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	１．ニュースを聞き取り、語彙、表現を増やす。 ２．様々な種類のテレビ番組が聞き取れるようになる。 ３．聞き取った内容をまとめたり、内容について意見交換したりできるようになる。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	１．ニュースの聞き取りを行い、語彙、表現の理解を確認する。 ２．報道番組、ドキュメントなどのテレビ番組のＤＶＤを視聴し、タスクに答える。 その後、ディスカッションを行ったり、発表をしたりする。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	語彙の意味を調べ、覚える。 発表を完成し、練習する。 授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事

授業の計画		
	第1回	オリエンテーション ニュースの聴解①
	第2回	ニュースの聴解②
	第3回	ニュースの聴解③
	第4回	ニュースの聴解④
	第5回	ニュースの聴解⑤
	第6回	ドキュメンタリ―番組①
	第7回	ドキュメンタリー番組②
	第8回	ドキュメンタリー番組③
	第9回	U-29①
	第10回	U-29②
	第11回	U-29③
	第12回	発表準備
	第13回	発表①
	第14回	発表②
	第15回	期末試験
	第16回	
	第17回	
	第18回	
	第19回	

第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	使用しない				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	授業中適宜支持する				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
20	20	20	20	20

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

出席回数が全授業回数の3文の2に満たないものは評価の対象にしない。
また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。
なお、正当な理由がない遅刻、早退、欠席をした者は、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。

参考URL

	表示名	URL	説明
1.			
2.			
3.			

更新日付 2016/01/10 12:31:30

科目名	日本語Ⅰ <c>
単位数	
担当者	
配当回生	
講義期間	その他
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	上級レベルの日本語読解力の育成 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	論理性・抽象性・専門性の高い日本語の読解ができるようになる。そうした日本語に見られる語彙・機能語・表現がわかる。 さらに日本語で書かれたエッセイや小説を読み、内容を正しく理解し、楽しめるようになる。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	10回目までは、ある程度のまとまった分量のある説明文を読み、内容を正しく把握するとともに、論理的な文章に見られる構造や表現を学習する。 11～13回目はエッセイや小説を読み、登場人物の心情や行動、あるいは筆者の主張を読み、日本語で書かれた作品を楽しむ。 小テストを全3回実施する。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	事前に配布したプリントは、翌週の授業の準備なのできちんと完成させること。 授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事

授業の計画	
第1回	授業説明・評価説明
第2回	説明文１（段落内の構造／書きことばの特徴）
第3回	説明文２（話題とメインアイデア／助詞相当語）
第4回	説明文３（アウトライン／複文）
第5回	説明文４（文章構成／指示表現）／小テスト１
第6回	説明文５（論の展開①・事実と筆者の考察／文の構造分析）
第7回	説明文６（論の方向を示す表現・論の構造／文末表現①）
第8回	説明文７（論の展開②／文末表現②）
第9回	説明文８（引用／接続表現と予測）／小テスト２
第10回	説明文９（要約）
第11回	エッセイ（筆者の主張）
第12回	小説１（登場人物の心情）
第13回	小説２（場面と心情）／小テスト３
第14回	まとめテスト
第15回	フィードバック・総括
第16回	
第17回	
第18回	

第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	授業時配布プリント				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	改訂版　大学・大学院　留学生の日本語④	アカデミック・ジャパニーズ研究会	アルク	2015	9784757426337
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
30	30	25	0	15

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。
また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。
なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。

まとめテストの点数を「試験」20点分に当てる。

参考URL

	表示名	URL	説明
1.			
2.			

	3.			
更新日付	2016/01/14 00:42:53			

科目名	日本語Ⅱ＜a＞
単位数	
担当者	
配当回生	
講義期間	その他
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	日本語運用能力の向上 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	生活全般および大学での学習活動に必要な、理解力、表現力を身につける。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	ACTFL-OPI(全米外国語教育協会　口頭表現能力測定)　Advance(上級)以上の口頭表現能力をめざす。スピーチ、ディスカッション、ロールプレーなどの活動を通して、必要な表現を身につける。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	次回の授業内容のプリントを配布するので予習すること。学習内容の復習問題を配布するので取り組むこと。スピーチ課題などの準備をすること。 授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事

授業の計画		
	第1回	授業概要説明　　今の自分の力を確認する　　場面に応じた自己紹介の方法
	第2回	構成を考えた話し方（町の様子を話す)
	第3回	順序や手順の説明(動作の流れの説明、ゲームや料理などの手順の説明）
	第4回	比較して良さを伝える(商品説明)
	第5回	分かりやすい言葉への言い換え　　自動詞と他動詞の使い分け
	第6回	ストーリー説明(接続表現の効果的な使い方)
	第7回	出来事をわかりやすく伝える。感情を生き生き伝える。
	第8回	社会的な話題を論理的に話す
	第9回	理由や背景とともに自分の考えを説明する
	第10回	具体的な数値を示して社会の動きを説明する(グラフや表のわかりやすい説明)
	第11回	心情を表す表現を使いこなす　　感情的にならずに気持ちを客観的に示す
	第12回	相談と助言（不満に対して異なる視点を示す　相手に同調して話を聞く)
	第13回	朗読練習
	第14回	発表活動
	第15回	まとめ
	第16回	
	第17回	
	第18回	

第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	使用しない				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	日本語上級話者への道―きちんと伝える技術と表現	荻原稚佳子他	スリーエーネットワーク	2005	
2.	日本語超級話者へのかけはし―きちんと伝える技術技術と表現	荻原稚佳子他	スリーエーネットワーク	2008	
3.	1日10分の発音練習	河野俊之他	くろしお出版	2004	
4.	中上級向け日本語教材　日本文化を読む	京都日本語教育センター編	アルク	2012	
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
20%	20%	20%	30%	10%

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象としない。また、遅刻は授業開始15分まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティーを実施する(詳細は授業時に説明)。

参考URL	表示名 / URL / 説明 1. 2. 3.
更新日付	2015/12/28 23:03:20

科目名	日本語Ⅱ＜a＞
単位数	
担当者	
配当回生	
講義期間	その他
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	日本語運用能力の向上 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	事実と意見を明確に分け、あるテーマに関してまとまった文章が書けるようになる。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	事実を述べる文章と意見を述べる文章を書く練習をし、最終的に興味のある内容に関して自分で調査をしてレポートとしてまとめる。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	配布されたプリントの予習と宿題を必ずしてくる。 授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事

授業の計画		
	第1回	オリエンテーション
	第2回	情報文①
	第3回	情報文②
	第4回	状況説明①
	第5回	状況説明②
	第6回	意見文①
	第7回	意見文②
	第8回	図表①
	第9回	図表②
	第10回	レポート①
	第11回	レポート②
	第12回	レポート③
	第13回	レポート④
	第14回	要約
	第15回	まとめ
	第16回	
	第17回	
	第18回	
	第19回	

第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	使用しない				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	授業中に適宜紹介する				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
		50	30	20

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

出席回数が全授業の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、相対は授業終了15分前からとし、それ以上 経過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をしたものには、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。

参考URL

	表示名	URL	説明
1.			
2.			
3.			

更新日付 2016/06/06 19:20:01

科目名	日本語Ⅱ <b>
単位数	
担当者	
配当回生	
講義期間	その他
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	日本語を聞く力を伸ばす 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	1. 自然なスピードの会話を聞き取り、語彙、表現を増やす。 2. ニュースを聞き取る力をつける。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	会話とニュースのＣＤを聞き、さまざまなタスクに答える。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	語彙の意味を調べ、覚える。 授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事

授業の計画		
	第1回	オリエンテーション、自己紹介
	第2回	『聞いて覚える話し方　日本語生中継　中～上級編』２．勧誘
	第3回	『聞いて覚える話し方　日本語生中継　中～上級編』３．許可
	第4回	『聞いて覚える話し方　日本語生中継　中～上級編』４．確かな情報・不確かな情報
	第5回	『聞いて覚える話し方　日本語生中継　中～上級編』５．依頼・指示
	第6回	『聞いて覚える話し方　日本語生中継　中～上級編』６．文句
	第7回	『聞いて覚える話し方　日本語生中継　中～上級編』７．提案
	第8回	模擬授業
	第9回	『ニュースの日本語　聴解』①
	第10回	『ニュースの日本語　聴解』②
	第11回	『ニュースの日本語　聴解』③
	第12回	『ニュースの日本語　聴解』④
	第13回	『ニュースの日本語　聴解』⑤
	第14回	『ニュースの日本語　聴解』⑥
	第15回	期末試験
	第16回	
	第17回	
	第18回	
	第19回	

第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	使用しない				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	授業中適宜支持する				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
20	25	25	0	30

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

出席回数が全授業回数の3文の2に満たないものは評価の対象にしない。
また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。
なお、正当な理由がない遅刻、早退、欠席をした者は、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。

参考URL

	表示名	URL	説明
1.			
2.			
3.			

更新日付 2016/01/10 12:31:30

科目名	日本語Ⅱ <b>
単位数	
担当者	
配当回生	
講義期間	その他
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	日本語運用能力の向上 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	文章作成に必要な基本事項を確認・復習し、一つのテーマに関しての小論文が書けるようになる。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	テーマに合う文章を書く。最終的には自分で調査をし、レポートにまとめる。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	 授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事
授業の計画	第1回 オリエンテーション
	第2回 作文の基本①
	第3回 作文の基本②
	第4回 作文の基本③
	第5回 作文の基本④
	第6回 意見の述べ方①
	第7回 意見の述べ方②
	第8回 賛成意見・反対意見①
	第9回 賛成意見・反対意見②
	第10回 文の要約①
	第11回 文の要約②
	第12回 レポートを書く①
	第13回 レポートを書く②
	第14回 レポートを書く③
	第15回 まとめ
	第16回
	第17回
	第18回
	第19回

第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	使用しない。				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	授業中に適宜紹介する。				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
		50	20	30

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

出席回数が全授業回数の3文の2に満たないものは評価の対象にしない。
また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。

参考URL

	表示名	URL	説明
1.			
2.			
3.			

更新日付 2016/02/09 16:12:03

科目名	日本語Ⅲ＜a＞
単位数	
担当者	
配当回生	
講義期間	その他
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	上級レベルの日本語会話力の育成 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	日本語で抽象的・専門的な事柄について、文段レベルの構成を持った文章で発話できるようになる。 複雑な状況において、複雑な課題を遂行できるように、相手に配慮した日本語の会話能力を向上させる。 日本語でのディスカッションに慣れ、意見のやりとりができるようにする。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	配布プリントを使用して、目的に合った構成・表現を持った話し方ができるように学習を進める。 その際、2回小テストを実施し、授業で学んだ語彙・文型・表現が定着しているかを確認する。 また、授業のうち数回はディスカッションを行い、相手に配慮した意見のやりとりが行えるように学習する。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	事前に配布したプリントは、翌週の授業の準備なのできちんと完成させること。 授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事

授業の計画	
第1回	授業説明・評価説明
第2回	フィラーの使い方
第3回	健康について話す
第4回	ストーリーを話す１
第5回	ストーリーを話す２
第6回	アドバイスをする
第7回	不満・苦情を言う１
第8回	不満・苦情を言う２
第9回	ディスカッション１
第10回	ディスカッション２
第11回	ディスカッション３
第12回	グラフ・図表１
第13回	グラフ・図表２
第14回	まとめテスト
第15回	フィードバック・総括
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	

第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	授業時配布プリント				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	日本語超級話者へのかけは	荻原稚佳子他	スリーエーネットワーク	2005	9784883194490
2.	日本語上級話者への道	荻原稚佳子他	スリーエーネットワーク	2007	9784883193554
3.	会話の授業を楽しくするコ	石黒圭編	スリーエーネットワーク	2011	9784883195800
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
10	20	30	25	15

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。
また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。
なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。

学期末に提出してもらうミニレポートを「試験」10点分に、14回目のまとめテストで実施する会話実技の試験を「授業

参考URL

	表示名	URL	説明
1.			
2.			
3.			

更新日付	2016/01/14 00:42:53

科目名	日本語Ⅲ＜a＞
単位数	
担当者	
配当回生	
講義期間	
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	日本語運用能力の向上 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	生活および大学での学習活動に必要な読解力を身につける。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	随筆、評論、小説、新聞や雑誌の記事などを用い、さまざまな分野の内容を読んで理解できる、基礎的な力を養う。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	原則として事前に教材を配布するので、予習をすること。授業終了後に練習問題を配布するので復習すること。課題(各自の興味に基づき選択した内容をまとめる)に取り組むこと。予習・復習には1時間程度を要する。 授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事

授業の計画		
	第1回	授業概要説明　/ 今の自分の力を知る（上級用読解教材を読む）
	第2回	随筆①
	第3回	評論①
	第4回	小説①
	第5回	小説②
	第6回	詩・短歌・俳句
	第7回	新聞（時事問題①）
	第8回	新聞（時事問題②）
	第9回	随筆②
	第10回	評論②
	第11回	新聞・雑誌（文化・芸術）
	第12回	新聞・雑誌（科学）
	第13回	新聞・雑誌（流通・経済）
	第14回	発表活動
	第15回	まとめ
	第16回	
	第17回	
	第18回	

第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	使用しない				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	上級者向け日本語教材　日本文化を読む	京都日本語教育センター	アルク	2008	
2.	中上級向け日本語教材　日本文化を読む	京都日本語教育センター	アルク	2012	
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
	20%	30%	20%	30%

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は、評価の対象としない。また、遅刻は授業開始15分まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上経過した場合は欠席とする。なお、生徒な理由のない遅刻・早退・欠席をした者は、別途ペナルティーを実施する（詳細は授業時に説明）。

参考URL

	表示名	URL	説明
1.			
2.			
3.			

更新日付	2016/03/30 11:44:23

科目名	日本語Ⅲ <b>
単位数	
担当者	
配当回生	
講義期間	その他
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	日本語運用能力の向上 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	映像教材、聴解教材及びニュースを通して、社会一般で扱われる内容が理解できることをめざす。また、それに必要となる基本的文法を理解し、運用できることをめざす。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	講義、対談、日常会話、ニュースなどの聴解練習を通し、語彙、文法、表現の特徴などの基本を理解する。それらを踏まえて、日本語能力試験N1レベルで求められる、社会の幅広い場面での聴解能力を身につける。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	予習：　次回の授業内容のプリントを事前配布するので取り組んでおく。　復習：　授業で扱った語彙や文法、表現などの復習問題に取り組む。 授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事

授業の計画		
	第1回	授業概要説明、今の自分の力を知る(ニュースを聞く、まとまった話を聞く)
	第2回	映像教材(15分程度)の理解
	第3回	聴解教材(対談、会話など)の理解
	第4回	ニュースの内容の聞き取り
	第5回	聴解教材(講義内容)の理解
	第6回	映像教材(15分程度)の理解
	第7回	ニュースの内容の聞き取り
	第8回	聴解教材(対談、会話など)の理解
	第9回	映像教材(15分程度)の理解
	第10回	聴解教材(講義など)の理解
	第11回	ニュースの内容の聞き取り
	第12回	聴解教材(対談、会話など)の理解
	第13回	映像教材(15分程度)の理解
	第14回	ニュースの内容の聞き取り
	第15回	まとめ
	第16回	
	第17回	
	第18回	

第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	使用しない				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	留学生のためのアカデミックジャパニーズ　聴解　中級	東京外国語大学留学生日本語教育センター	ｽﾘｰｴｰﾈｯﾄﾜｰｸ	2013	
2.	留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ　聴解　中上級	東京外国語大学留学生日本語教育センター	ｽﾘｰｴｰﾈｯﾄﾜｰｸ	2014	
3.	ニュースの日本語聴解50	瀬川由美他	ｽﾘｰｴｰﾈｯﾄﾜｰｸ	2010	
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
30%	30%	20%	10%	10%

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象としない。また、遅刻は授業開始15分まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティーを実施する(詳細は授業時に説明)。

表示名	URL	説明

参考URL	1.			
	2.			
	3.			
更新日付	2016/01/09 10:01:26			

科目名	日本語Ⅲ <b>
単位数	
担当者	
配当回生	
講義期間	その他
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	日本語運用能力の向上 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	自分になじみの薄い内容の文章でも、ある程度の内容を理解することができるようになる。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	おもに日本・日本文化について書かれた文章を読んでいく。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事
授業の計画	第1回 オリエンテーション
	第2回 日本について①〈行動様式〉
	第3回 日本について②〈教育〉
	第4回 日本について③〈ポップカルチャー〉
	第5回 日本について④〈ポップカルチャー〉
	第6回 日本について⑤〈まとめ〉
	第7回 新聞記事から①
	第8回 新聞記事から②
	第9回 新聞記事から③
	第10回 日本の歌①
	第11回 日本の歌②
	第12回 小説①
	第13回 小説②
	第14回 期末試験
	第15回 期末試験・解説
	第16回
	第17回
	第18回
	第19回

第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	使用しない。				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	授業中に適宜紹介する。				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
30		50	20	

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

出席回数が全授業回数の3文の2に満たないものは評価の対象にしない。
また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。

参考URL

	表示名	URL	説明
1.			
2.			
3.			

更新日付 2016/02/07 21:16:50

科目名	日本語Ⅲ <c>
単位数	
担当者	
配当回生	
講義期間	その他
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	日本語を話す力を伸ばす 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	１．上級の会話能力をつける。 ２．ディスカッションに慣れる。 ３．様々な発表ができる。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	1対1の会話から多数を前にしての発表、またディスカッションなど、様々な口頭表現の練習を行う。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	発表原稿を作り、発表の準備をする。 授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事

授業の計画		
	第1回	オリエンテーション、
	第2回	好きなシーンを話す①
	第3回	好きなシーンを話す②
	第4回	好きなシーンを話す③
	第5回	ディスカッション①
	第6回	ディスカッション②
	第7回	ディスカッション③
	第8回	ディスカッション④
	第9回	悩み事相談①
	第10回	悩み事相談②
	第11回	敬語を使って話す①
	第12回	敬語を使って話す②
	第13回	敬語を使って話す③
	第14回	期末試験
	第15回	期末試験フィードバック、授業の振り返り
	第16回	
	第17回	
	第18回	
	第19回	

第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	使用しない				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	授業中適宜支持する				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
20	0	20	30	30

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

出席回数が全授業回数の3文の2に満たないものは評価の対象にしない。
また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。
なお、正当な理由がない遅刻、早退、欠席をした者は、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。

参考URL

	表示名	URL	説明
1.			
2.			
3.			

更新日付	2016/01/10 12:31:31

科目名	日本語Ⅲ <c>
単位数	
担当者	
配当回生	
講義期間	その他
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	上級レベルの日本語作文力の育成 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	論理性のあるまとまった分量の日本語が書けるようになる。 その種の日本語作文に必要な、接続詞・文末表現や引用表現が使えるようになる。 ロジカル・ライティングの基礎的な手法を用いることができるようになる。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	10回目までは日本語のレポート1400字を、段階を追って書いていく。 その際、接続詞、文末表現、引用表現を適切に用いることを学習する。 11～１４回目はロジカル・ライティングの基礎的な手法を用い、意見文や本の紹介文を書く。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	事前に配布したプリントは、翌週の授業の準備なのできちんと完成させること。 授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事

授業の計画	
第1回	授業説明・評価説明／現在のレベルの確認
第2回	書きことばの復習
第3回	レポート１（テーマ決定・文章読み）
第4回	レポート２（構成作成①）
第5回	レポート３（構成作成②）
第6回	レポート４（下書き作成①）
第7回	レポート５（下書き作成②）
第8回	レポート６（下書きフィードバック）
第9回	レポート７（清書①）
第10回	レポート８（清書②）
第11回	ロジカル・ライティング１（手法・例題）
第12回	ロジカル・ライティング２（意見文）
第13回	ロジカル・ライティング３（本の紹介文①）
第14回	ロジカル・ライティング４（本の紹介文②）
第15回	ロジカル・ライティング５（本の紹介文③）／総括
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	

第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	授業時配布プリント				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	大学生・留学生のための論文ワークブック	浜田麻里他	くろしお出版	1997	9784874241271
2.	考える・まとめる・表現する	大庭コテイさち子	ＮＴＴ出版	2009	9784757122314
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
30	0	35	20	15

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。
また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。
なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。

レポートの評価を「試験」30点分に、本の紹介文発表を「発表」20点分に当てる。

参考URL

	表示名	URL	説明
1.			
2.			

	3.			
更新日付	2016/01/14 00:32:29			

科目名	日本語Ⅳ < a >
単位数	
担当者	
配当回生	
講義期間	その他
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	日本語運用能力の向上 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	生活全般および大学での学習に必要な基礎的な理解力、表現力を身につける。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	大学での勉学や生活に必要な、基本的な聴解能力の向上に重点を置く。映像教材、聴解教材、ニュースなどを通して、基本的な語彙、表現、文法などを身につける。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	予習：　次回授業で扱う内容のプリントを配布するので、その問題に取り組む。　復習：　授業で扱った内容の復習問題を配布するのでそれに取り組む。 授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事

授業の計画		
	第1回	今の自分の力を確認する。　説明内容の聞き取り、会話内容の聞き取り練習。
	第2回	数量、形状の聞き取り。　カタカナ語の聞き取り。
	第3回	順序・手順に関する聞き取り。　まとまりのある内容の聞き取り。
	第4回	ニュース①(事件、事故、気象情報)
	第5回	ニュース②(経済)
	第6回	ニュース③(社会一般)
	第7回	ニュース④(政治)
	第8回	ニュース⑤(科学技術)
	第9回	ニュース⑥(医療、福祉)
	第10回	ニュース⑦(医療、福祉)
	第11回	ニュース⑧(教育)
	第12回	ニュース⑨(文化)
	第13回	ニュース⑩(身近な話題)
	第14回	発表活動
	第15回	まとめ
	第16回	
	第17回	
	第18回	

第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	使用しない				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	ニュースで学ぶ日本語パートⅡ	堀歌子他	凡人社	1998	
2.	ニュースの日本語聴解50	瀬川由美他	ｽﾘｰｴｰﾈｯﾄﾜｰｸ	2010	
3.	中級からはじめるニュースの日本語聴解40	瀬川由美他	ｽﾘｰｴｰﾈｯﾄﾜｰｸ	2013	
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
30%	10%	30%	20%	10%

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

出席回数が全授業回数の3分の2に満たない者は評価の対象としない。また、遅刻は授業開始15分まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をした者には、別途ペナルティーを実施する(詳細は授業時に説明)。

参考URL

	表示名	URL	説明
1.			
2.			

	3.			
更新日付	2016/01/09 10:06:50			

科目名	日本語Ⅳ < a >
単位数	
担当者	
配当回生	
講義期間	その他
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	日本語運用能力の向上 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	生活全般に関連する内容のある程度まとまった文章を読み解く力をつける。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	読む目的や文章の内容の種類に合わせて、読むスピードや読み方を変えながら、ある程度まとまった文章を読み、必要な情報を探し出したり、内容に関する自分の考えをまとめたりする。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	授業中に指示された宿題は必ずしてくる。 授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事

授業の計画		
	第1回	オリエンテーション
	第2回	説明文を読む①
	第3回	説明文を読む②
	第4回	ブログ・レビューを読む①
	第5回	ブログ・レビューを読む②
	第6回	ブログ・レビューを読む③
	第7回	エッセイ・評論文を読む①
	第8回	エッセイ・評論文を読む②
	第9回	エッセイ・評論文を読む③
	第10回	新聞を読む①
	第11回	新聞を読む②
	第12回	新聞を読む③
	第13回	新聞を読む④
	第14回	新聞を読む⑤
	第15回	まとめ
	第16回	
	第17回	
	第18回	
	第19回	

第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	使用しない				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	授業中に適宜紹介する				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
		50	30	20

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

出席回数が全授業の3分の2に満たない者は評価の対象にしない。また、遅刻は授業開始15分後まで、相対は授業終了15分前からとし、それ以上 経過した場合は欠席とする。なお、正当な理由のない遅刻・早退・欠席をしたものには、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。

参考URL

	表示名	URL	説明
1.			
2.			
3.			

更新日付 2016/06/06 19:20:01

科目名	日本語Ⅳ <b>
単位数	
担当者	
配当回生	
講義期間	その他
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	日本語を話す力を伸ばす 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	１．場面や意図に合わせた口頭表現能力を身につける。 ２．談話構成に注意した話し方ができるようになる。 ３．短い発表ができるようになる。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	場面や意図に合わせた語彙、表現を学習し、実際にどのような会話ができるか考え、練習する。 身近なトピックについて人前で発表する練習をする。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	語彙・表現を調べ、覚える。 発表原稿を完成し、発表の準備をする。 授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事

授業の計画		
	第1回	オリエンテーション　　よりよい自己紹介
	第2回	会話「誘う」
	第3回	会話「許可する」　　ミニスピーチ
	第4回	会話「情報、判断を伝える」　　ミニスピーチ
	第5回	会話「依頼する・受ける／断る」　　ミニスピーチ
	第6回	会話「文句を言う」　　ミニスピーチ
	第7回	会話「提案する」　　ミニスピーチ
	第8回	ビブリオバトル①
	第9回	インタビュー①
	第10回	インタビュー②
	第11回	インタビュー③
	第12回	インタビュー④
	第13回	ビブリオバトル②
	第14回	期末試験
	第15回	期末試験フィードバック　　授業ふりかえり
	第16回	
	第17回	
	第18回	
	第19回	

第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	使用しない				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	授業中適宜支持する				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
20	0	20	30	30

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

出席回数が全授業回数の3文の2に満たないものは評価の対象にしない。
また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。
なお、正当な理由がない遅刻、早退、欠席をした者は、別途ペナルティを実施する（詳細は授業時に説明）。

参考URL

	表示名	URL	説明
1.			
2.			
3.			

更新日付 2016/01/10 12:31:31

科目名	日本語Ⅳ <b>
単位数	
担当者	
配当回生	
講義期間	その他
履修条件	
定員	
クラス指定	
教育目標	

テーマ	日本語運用能力の向上 開講テーマ(主題・授業内容を端的に示すもの)をご記入ください。
授業の到達目標	ある程度まとまった文章を、辞書を使わずに内容を理解できるようになる。 当該科目における獲得目標(ねらい)を簡潔にご記入ください。
授業の概要	日本について書かれた、まとまった文章を読み解く。 授業の全体像や授業の進め方、授業方法等をご記入ください。
準備学習（予習・復習）	授業に臨む前にしておくべき事、授業後に行うべき事、またそれに必要な時間の目安、常日頃から心がけておくべき事

授業の計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	読解ー日常生活編①
第3回	読解ー日常生活編②
第4回	説明文を読む①
第5回	説明文を読む②
第6回	意見文を読む①
第7回	意見文を読む②
第8回	新聞を読む①
第9回	新聞を読む②
第10回	日本の歌①
第11回	日本の歌②
第12回	エッセイ①
第13回	エッセイ②
第14回	期末試験
第15回	期末試験・解説
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	

第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

授業回数に応じ、各回の授業内容(テーマ)をご記入ください。また、学外授業や講演会実施予定があればご記入くださ

履修上の注意点

「受講のマナー」「欠席について」「学習上の助言」などをご記入ください。

テキスト

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	使用しない。				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

記載された文献は生協で販売し、学生が事前に購入します。使用されない場合は「使用しない」、未定の場合であれば

参考書

	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
1.	授業中に適宜紹介する。				
2.					
3.					
4.					
5.					
6.					
7.					
8.					
9.					
10.					

ここに記載された文献は図書館に可能な限り設置します。

成績評価の方法

試験	小テスト	授業中課題	授業中発表等	参加度
30		50	20	

学生が授業評価の参考とするため、正確に%表示により、数値を記載してください。
（※参加度については、授業の到達目標・概要に貢献する姿勢等も含む）

成績評価方法の備考

出席回数が全授業回数の3文の2に満たないものは評価の対象にしない。
また、遅刻は授業開始15分後まで、早退は授業終了15分前からとし、それ以上超過した場合は欠席とする。

参考URL

	表示名	URL	説明
1.			
2.			
3.			

更新日付 2016/02/09 16:16:48

2016 Syllabus

科 目 名　**医学概論（通信）〈Z〉**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　宮本　尚

テーマ

医学概論：医学が辿ってきた歴史を振り返る事で、最新の医療の成り立ちを知る

授業の到達目標

古代から最新の医療までを系統的に知る事で、臨床現場での医療関係者との円滑な連携、及び患者と家族への対人援助職としての役割の再認識、さらには日本が直面している超高齢者社会及び少子化社会での医療の方向性を学ぶ

授業の概要

［テキスト授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　先史時代の医療～インドの医療（テキスト6～27ページ）
第2回　中国の医学～プレ・コロンビアの医学（テキスト27～46ページ）
第3回　エジプトの医学～ギリシャの医学（テキスト46～76ページ）
第4回　エルトリアの医療～ローマの医学（テキスト77～94ページ）
第5回　修道院とビザンチンの医学～アラビアの医学（テキスト95～110ページ）
第6回　大学の誕生～15世紀の医学（テキスト110～127ページ）
第7回　16世紀の医学（テキスト128～141ページ）
第8回　17世紀の医学～樽を叩く医者（テキスト142～159ページ）
第9回　巨人モルガーニ～動物の磁性（テキスト159～178ページ）
第10回　体の単位～パスツールの犬（テキスト178～201ページ）
第11回　無菌法～防衛の細胞（テキスト201～223ページ）
第12回　エンドウを研究する修道士～無意識の発見（テキスト223～241ページ）
第13回　アレルギー：ある不思議な物語～遺伝子の問題（テキスト241～269ページ）
第14回　臓器移植の時代～遠隔医療とバーチャル・リアリティー(テキスト269～296ページ）
第15回　アルツハイマー病～21世紀：未来が待つ（テキスト297～313ページ）

履修上の注意点

過去の医療や医学が果たしてきた役割を学ぶ

教科書

医学の歴史
著者：　ルチャーノ・ステルペローネ　著、小川熙　訳
出版社：（原書房）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 100% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
小テストは、4回・8回・12回・15回のそれぞれ授業後に課す

2016 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅰ（通信）〈Z〉

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　ﾌｫｽﾀｰ ﾍﾝﾘｰ

テーマ

Developing Listening, Speaking and Other Communicative Skills through DVD Materials

授業の到達目標

In this course we will cover some basic daily English communicative items. The aim is to provide practical and useful material that will enable students to become comfortable with listening to, understanding, and speaking in a limited number of frequently occurring English situations. It is also hoped that, as psychology majors, they will be able to pick up the feelings and thoughts of the various speakers in the DVD materials, and understand some basic differences between Japanese and English ways of expression.

授業の概要

［テキスト授業／14回＋メディア授業／1回］

準備学習（予習・復習）

KTU's 'Moodle' e-learning programs, NHK radio programs; TOEIC practice; Kilgarriff vocabulary list; graded readers

内　容

第1回　Introductory Video: introduction of the teachers and of the 15 session course and its aims; how to use the DVD text with an explanation of the text's format and types of practice, course requirements and evaluation; what students should do if they have questions; recommendations about other forms of study and other study materials relevant to this course.【メディア授業】
第2回　Textbook Unit 1: Here's Your Boarding Pass — understanding flight information and checking in【テキスト授業】
第3回　Textbook Unit 2: So, Where Are You From? — introducing yourself, talking about your interests【テキスト授業】
第4回　Textbook Unit 3: A Good Hotel at a Great Price — checking in at a hotel, making special requests【テキスト授業】
第5回　Textbook Unit 4: Planning a Day Trip — choosing a place and planning a day trip【テキスト授業】
第6回　Textbook Unit 5: Next Stop, Chicago! — arranging transportation and paying【テキスト授業】
第7回　Textbook Unit 6: A Buffalo Burger — choosing a restaurant and ordering a meal【テキスト授業】
第8回　Review of Units 1 ～ 6 and mid-semester evaluation【テキスト授業】
第9回　Textbook Unit 7: Walking Around Oxford —understanding locations and following directions【テキスト授業】
第10回　Textbook Unit 8: Shopping in London — shopping and understanding prices【テキスト授業】
第11回　Textbook Unit 9: Oh, no! Where's My Passport? — reporting found items and describing lost items【テキスト授業】
第12回　Textbook Unit 10: Ouch! That Hurts! — understanding health situations and talking with a doctor【テキスト授業】
第13回　Textbook Unit 11: Tell Me About Your Trip — talking about a trip and asking questions【テキスト授業】
第14回　Textbook Unit 12: Be a Street-Smart Traveler — asking for and giving advice and learning about travel safety【テキスト授業】
第15回　Review of Units 7 ～ 12 and evaluation【テキスト授業】

履修上の注意点

教科書

Adventures Abroad
著者：　Dale Fuller/Kevin Cleary
出版社：（MACMILLAN LANGUAGEHOUSE）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト（ 60% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
小テストは、第8回・第15回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅱ（通信）〈Z〉

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　ﾌｫｽﾀｰ ﾍﾝﾘｰ

テーマ

Developing Listening, Speaking and Other communicative Skills through DVD Materials

授業の到達目標

In this course, building on the English Communication I course, we will cover some more basic daily English communicative items. The aim is to provide practical and useful material that will enable students to become comfortable with listening to, understanding, and speaking in a broader number of frequently occurring English situations. It is also hoped that, as psychology majors, they will be able to pick up the feelings and thoughts of the various speakers in the DVD materials, and understand some basic differences between Japanese and English ways of expression.

授業の概要

［テキスト授業／14回＋メディア授業／1回］

準備学習（予習・復習）

KTU's 'Moodle' e-learning programs, NHK radio programs; TOEIC practice; Kilgarriff vocabulary list; graded readers

内　容

第1回　Introductory Video: introduction of the teachers and of the 15 session course and its aims; how to use the DVD text with an explanation of the text's format and types of practice required; course requirements and evaluation; what students should do if they have questions; recommendations about other forms of study and other study materials relevant to this course.【メディア授業】
第2回　Textbook Unit 1: What a Great Party! — introducing yourself, hometowns and occupations【テキスト授業】
第3回　Textbook Unit 2: A Lumni Island Barbeque — introducing someone else, food prices, socializing【テキスト授業】
第4回　Textbook Unit 3: Got any Advice? — asking and giving advice, talking about past events【テキスト授業】
第5回　Textbook Unit 4: Family Memories — describing family, past events, explaining how to do something【テキスト授業】
第6回　Textbook Unit 5: Making a Good Impression — personal questions, discussing character, talking about your countr【テキスト授業】
第7回　Textbook Unit 6: Looking for work — Jobs ads, calling for an interview, interviews and first day at work【テキスト授業】
第8回　Review of Units 1 ～ 6 and mid-semester evaluation【テキスト授業】
第9回　Textbook Unit 7: What's Spaghetti al Pomodoro Fresco? — Ordering and describing food, talking about your day【テキスト授業】
第10回　Textbook Unit 8: It's One of a Kind — shopping, discussiing prices and bargaining【テキスト授業】
第11回　Textbook Unit 9: An American-Style Festival — leisure suggestions, talking about fairs and festivals【テキスト授業】
第12回　Textbook Unit 10: Surprise! — discussing dates and times, planning a party, invitations, telling a story【テキスト授業】
第13回　Textbook Unit 11: The Right Place to Live — Understanding ads, calling about an apartment, describing a house【テキスト授業】
第14回　Textbook Unit 12: The Best of Seattle — Describing places, asking for directions, talking about a trip【テキスト授業】
第15回　Review of Units 7 ～ 12 and evaluation【テキスト授業】

履修上の注意点

教科書

America Live! — English and Culture in Action

著者：　Dale Fuller

出版社：（MACMILLAN LANGUAGEHOUSE）

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（ 50% ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度　（ ）

小テストは、第8回・第15回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅰ（通信）〈Z〉

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　弥永　啓子

テーマ

基本的なリーディング能力の育成、ライティングの基礎となる中・高文法の総復習

授業の到達目標

アカデミック・リーディング、ライティングの基礎としての、1) 基本的な文法・語彙知識2) 平易な文章を一定速度で読み内容を把握できる読解能力

授業の概要

[テキスト授業／14回＋メディア授業／1回]各回テキストにそって、語彙学習、リーディング、文法理解と演習、語彙学習（発展）、語彙復習の順に学習を進めます。又、余裕のある受講生がやや難しいリーディング素材にふれることができるように、各回に応用のリーディング演習も準備してあります。

準備学習（予習・復習）

「音声を聴きながら、繰り返し読む」、さらに「音読する」に勝る方法はありません。

内　容

第1回　授業オリエンテーション（コンテンツの構成と効果的な学習方法、成績評価、オンライン辞書の活用方法等）【メディア授業】
第2回　テキスト：Unit 1 (Getting into Hot Water, Be 動詞)【テキスト授業】
第3回　テキスト：Unit 2 (Tips for University Students, 命令文)【テキスト授業】
第4回　テキスト：Unit 3 (What Happens to Our Trash?, 一般動詞-現在形)【テキスト授業】
第5回　テキスト：Unit 4 (To Your Health, 現在進行形)【テキスト授業】
第6回　Unit 1～4復習【テキスト授業】
第7回　テキスト：Unit 5 (Hello Cutie, 過去形)【テキスト授業】
第8回　テキスト：Unit 6 (Thank You John and Christopher, 過去進行形)【テキスト授業】
第9回　テキスト：Unit 7 (Street Fashion & Fast Fashion, 現在完了)【テキスト授業】
第10回　Unit 5～7 復習【テキスト授業】
第11回　テキスト：Unit 8 (It's in the Bag, 受動態)【テキスト授業】
第12回　テキスト：Unit 9 (Cars of the Future, Will vs. be going to)【テキスト授業】
第13回　テキスト：Unit 10 (The Tsukiji Fish Market, 助動詞)【テキスト授業】
第14回　テキスト：Unit 11 (A Nice Hotel or an Ice Hotel? Wh-疑問文)【テキスト授業】
第15回　Unit 8～11 復習【テキスト授業】

履修上の注意点

教科書

Reading Sense
著者：　Robert Hickling & Yasuhiro Ichikawa
出版社：（Kinseido）
出版年：　　ISBN：

参考書

無料で使用できるオンライン辞書など、授業内で紹介する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 100% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
復習テスト1　33%復習テスト2　33%復習テスト3　34%

2016 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅱ（通信）〈Z〉

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　弥永 啓子

テーマ

基本的なリーディング能力の育成、ライティングの基礎となる中・高文法の総復習

授業の到達目標

Literacy Ⅰに引き続き、アカデミック・リーディング、ライティングの基礎としての、1) 基本的な文法・語彙知識2) 平易な文章を一定速度で読み内容を把握できる読解能力

授業の概要

[テキスト授業／14回＋メディア授業／1回]各回テキストにそって、語彙学習、リーディング、文法理解と演習、語彙学習（発展）、語彙復習の順に学習を進めます。又、余裕のある受講生がやや難しいリーディング素材にふれることができるように、各回に応用のリーディング演習も準備してあります。

準備学習（予習・復習）

「音声を聴きながら、繰り返し読む」、さらに「音読する」に勝る方法はありません。

内　容

第1回　授業オリエンテーション（コンテンツの構成と効果的な学習方法、成績評価、オンライン辞書の活用方法等）【メディア授業】
第2回　テキスト：Unit 12 (Who Needs Real Money? 可算名詞・不可算名詞)【テキスト授業】
第3回　テキスト：Unit 13 (Smart Houses, 代名詞)【テキスト授業】
第4回　テキスト：Unit 14 (For the Love of Sports, 形容詞)【テキスト授業】
第5回　テキスト：Unit 15 (Amusement Parks, 比較級・最上級)【テキスト授業】
第6回　Unit 12～15 復習【テキスト授業】
第7回　テキスト：Unit 16 (It's All About Location, 場所・移動の前置詞)【テキスト授業】
第8回　テキスト：Unit 17 (Barack Obama, 時の前置詞)【テキスト授業】
第9回　テキスト：Unit 18 (Motivation, 副詞)【テキスト授業】
第10回　テキスト：Unit 19 (Pets, 不定詞と動名詞)【テキスト授業】
第11回　Unit 16～19 復習【テキスト授業】
第12回　テキスト：Unit 20 (Teleworking, 等位接続詞)【テキスト授業】
第13回　テキスト：Unit 21 (Our Precious Earth, 従位接続詞)【テキスト授業】
第14回　テキスト：Unit 22 (Marriage, 関係節)【テキスト授業】
第15回　Unit 20～22 復習【テキスト授業】

履修上の注意点

教科書

Reading Sense
著者：　Robert Hickling & Yasuhiro Ichikawa
出版社：（Kinseido）
出版年：　　ISBN：

参考書

無料で使用できるオンライン辞書など、授業内で紹介する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 100% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
復習テスト1　33%復習テスト2　33%復習テスト3　34%

2016 Syllabus

科 目 名　**アカデミックスキルズ（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　梅本　裕	

テーマ

大学での勉強に必要な論理的な文章の書き方を身につける

授業の到達目標

アカデミックスキルズは、大学での勉強に必要な学習技法の総称である。この科目では、数多くあるアカデミックスキルズのうち、「論理的な文章」の書き方をとりたてて教える。論理的な文章、すなわち、論理性の高い文章が書けるようになると、大学での学習がはかどる。なぜなら、「論理的な文章」の書き方を身につけることは論理的思考を身につけることに他ならないからだ。大学での学習内容の多くは論理的に構築されており、論理的思考が深まると学習内容をより深く理解できる。

授業の概要

[メディア授業／全15回]この授業では、まず、比較的短い作文を、段落、語句、文体に意識をはらいながらきちんと書けるように指導する。論評文を中心として400-800字程度の文章を論理的に書けるようにする。授業終了時には大学の勉強には不可欠のレポートやブックレビュー、あるいは実験記録などの文章を、論理的に書けるようにする。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　400字で論評文を書く（その1）
第2回　400字で論評文を書く（その2）
第3回　思考単位としての文
第4回　文章書き換えの練習（その1）
第5回　文章書き換えの練習（その2）
第6回　段落のはたらき・つくり方
第7回　800字で論評文を書く（その1）
第8回　800字で論評文を書く（その2）
第9回　語句の選び方と使い方（その1）
第10回　語句の選び方と使い方（その2）
第11回　演習：ブックレビューを書く
第12回　演習：案内文を書く
第13回　ディベートの立論を書く（その1）
第14回　ディベートの立論を書く（その2）
第15回　アカデミックスキルとしての論理的文章

履修上の注意点

教科書

論理的思考 ― 論説文の読み書きにおいて（新版）
著者：　宇佐美寛
出版社：（メヂカルフレンド社）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 100% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は第9回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅰ（6月11日）（通信）〈Z〉[A]**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　中西　龍一.殿谷　仁志.日比野　英子.宮川　貴美子.山崎　貴子

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

テキスト学習によって、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、スクーリングでの演習により人間関係についても体験的に学ぶ。また、大学で求められる自主的･積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

[テキスト授業／11回＋スクーリング授業／４回]

準備学習（予習・復習）

各回で学んだテーマや専門用語について、図書館等を利用して、より詳しく書かれた心理学書を読むことに挑戦してみましょう。

内　容

第1回　〈概論〉パーソナリティの心理（テキスト8～11ページ）パーソナリティとは、どのような意味か、パーソナリティの類型論･特性論･構造論のそれぞれについてノートにまとめてみよう。　また、第Ⅲ部の学習の前提として5ページの「私の人生設計―その1」に記入をしておきましょう。【テキスト授業】

第2回　パーソナリティをみる―パーソナリティ検査法―（テキスト12～20ページ）まず、17ページのTSTを実施してみよう。つぎに、この章の前文と、質問紙法･投影法･作業検査法の3種の人格検査について理解し、TSTの結果を整理し、解説によって自己を分析して、Ⅲふりかえりの2問に答えなさい。【テキスト授業】

第3回　心の成り立ち―交流分析とエゴグラム―（テキスト21～28ページ）まず、24ページ（2）のエゴグラムに回答を記入しましょう。つぎに、この章の前文と、交流分析について概観し、その中で特に構造分析について理解を深める。エゴグラムの結果を整理し、解説を手がかりに自分の自我状態について考え、28ページのⅢふりかえりの問いに答えなさい。【テキスト授業】

第4回　無意識のはたらき―夢とコンプレックス―（テキスト29～34ページ）まず、32ページのTATをやってみよう。つぎに、この章の前文と、基礎知識として、無意識の発見、無意識を知る方法、コンプレックスについて理解し、TATの結果を整理し、解説をよんで、34ページのⅢふりかえりの問いに答えなさい。【テキスト授業】

第5回　自己をみつめる―自己評価―（テキスト35～43ページ）まず、38－41ページの自己評価チェックリストⅠ－Ⅲに答える。つぎに、この章の前文と、自己評価の意味、自己評価の高さと質についてよく理解し、自己評価チェックリストの結果を整理し、42－43ページの解説の設問に答え、ふりかえりをしてみましょう。【テキスト授業】

第6回　自己をつかむ―自我同一性―（テキスト45～55ページ）はじめに51ページの自我同一性測定尺度に答えてみる。つぎに、この章の前文と、自我同一性・自我同一性概念の変遷・同一性拡散・モラトリアム･職業的同一性・エリクソンの発達理論について理解し、自我同一性測定尺度の結果の整理を行い、解説のマーシャの自我同一性地位について理解を深めてから、55ページのふりかえりの設問に答えてみよう。【テキスト授業】

第7回　メンタルヘルスのページ「パーソナリティ障害」「同一性障害」（テキスト56－57ページ）パーソナリティ障害および同一性障害について、その概念・下位分類・事例から学びましょう。【テキスト授業】

第8回　トピックス1.「コンピュータ社会と精神病理」（テキスト44ページ）テクノストレスについて理解し、深刻な障害の予防のためには、どのようなことが有効か、考えてみましょう。トピックス2.「学校教育と家庭教育」（テキスト58ページ）エリクソンの理論を参考に、家庭での発達の道すじと学校での集団教育の課題など考えてみましょう。【テキスト授業】

第9回　〈概論〉対人関係の心理（テキスト60～63ページ）対人関係の心理とはどんなことか、対人認知、印象形成、対人魅力バランス理論、についてテキストを読み、ノートにまとめましょう。【テキスト授業】

第10回　私の子ども時代―乳幼児期と母子関係―（テキスト64～70ページ）はじめに68ページ内的作業モデル尺度に答えてみましょう。つぎに、この章の前文と基礎知識を読んで、ハーロウやスピッツによる知見、マーラーの分離-個体化理論、愛着理論について理解を深めた後、69ページからの手順に従って内的作業モデル尺度の結果を整理し、解説を参考にして、自己のデータを検討し、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第11回　対人関係をふりかえる―対人地図―（テキスト71～77ページ）はじめに74ページからの「やってみよう！」の手順に従って対人地図を描いてみましょう。つぎに、この章の前文と、基礎知識の現代の対人関係、対人間の距離、対人関係のレベルについて理解し、76ページからの手順に従って、対人地図の結果を整理し、解説を参考にして、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第12回　自己表現のワーク①【スクーリング授業】

第13回　自己表現のワーク②【スクーリング授業】

第14回　自己表現のワーク③【スクーリング授業】

第15回　自己表現のワーク④【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

これからを生きる心理学

著者：　川瀬正裕･松本真理子・丹治光浩　著

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年：　　ISBN：

e90201a611

参考書

心理学概論（第2版）
著者:　岡市廣成・鈴木直人　監修
出版社:（ナカニシヤ出版）
出版年:　　ISBN:

臨床心理学を基本から学ぶ
著者:　丸島令子・日比野英子　編著
出版社:（北大路書房）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 100% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
レポート60%（第5回・第11回授業後に課す）自己表現のワークへの参加と提出物40%

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅰ（6月12日）（通信）〈Z〉［B］**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　　松下　幸治.殿谷　仁志.宮川　貴美子.山崎　貴子

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

テキスト学習によって、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、スクーリングでの演習により人間関係についても体験的に学ぶ。また、大学で求められる自主的･積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

［テキスト授業／11回＋スクーリング授業／４回］

準備学習（予習・復習）

各回で学んだテーマや専門用語について、図書館等を利用して、より詳しく書かれた心理学書を読むことに挑戦してみましょう。

内　　容

第1回　〈概論〉パーソナリティの心理（テキスト8～11ページ）パーソナリティとは、どのような意味か、パーソナリティの類型論･特性論･構造論のそれぞれについてノートにまとめてみよう。　また、第Ⅲ部の学習の前提として5ページの「私の人生設計―その1」に記入をしておきましょう。【テキスト授業】

第2回　パーソナリティをみる―パーソナリティ検査法―（テキスト12～20ページ）まず、17ページのTSTを実施してみよう。つぎに、この章の前文と、質問紙法･投影法･作業検査法の3種の人格検査について理解し、TSTの結果を整理し、解説によって自己を分析して、Ⅲふりかえりの2問に答えなさい。【テキスト授業】

第3回　心の成り立ち―交流分析とエゴグラム―（テキスト21～28ページ）まず、24ページ（2）のエゴグラムに回答を記入しましょう。つぎに、この章の前文と、交流分析について概観し、その中で特に構造分析について理解を深める。エゴグラムの結果を整理し、解説を手がかりに自分の自我状態について考え、28ページのⅢふりかえりの問いに答えなさい。【テキスト授業】

第4回　無意識のはたらき―夢とコンプレックス―（テキスト29～34ページ）まず、32ページのTATをやってみよう。つぎに、この章の前文と、基礎知識として、無意識の発見、無意識を知る方法、コンプレックスについて理解し、TATの結果を整理し、解説をよんで、34ページのⅢふりかえりの問いに答えなさい。【テキスト授業】

第5回　自己をみつめる―自己評価―（テキスト35～43ページ）まず、38－41ページの自己評価チェックリストⅠ－Ⅲに答える。つぎに、この章の前文と、自己評価の意味、自己評価の高さと質についてよく理解し、自己評価チェックリストの結果を整理し、42－43ページの解説の設問に答え、ふりかえりをしてみましょう。【テキスト授業】

第6回　自己をつかむ―自我同一性―（テキスト45～55ページ）はじめに51ページの自我同一性測定尺度に答えてみる。つぎに、この章の前文と、自我同一性・自我同一性概念の変遷・同一性拡散・モラトリアム･職業的同一性・エリクソンの発達理論について理解し、自我同一性測定尺度の結果の整理を行い、解説のマーシャの自我同一性地位について理解を深めてから、55ページのふりかえりの設問に答えてみよう。【テキスト授業】

第7回　メンタルヘルスのページ「パーソナリティ障害」「同一性障害」（テキスト56－57ページ）パーソナリティ障害および同一性障害について、その概念・下位分類・事例から学びましょう。【テキスト授業】

第8回　トピックス1.「コンピュータ社会と精神病理」（テキスト44ページ）テクノストレスについて理解し、深刻な障害の予防のためには、どのようなことが有効か、考えてみましょう。トピックス2.「学校教育と家庭教育」（テキスト58ページ）エリクソンの理論を参考に、家庭での発達の道すじと学校での集団教育の課題など考えてみましょう。【テキスト授業】

第9回　〈概論〉対人関係の心理（テキスト60～63ページ）対人関係の心理とはどんなことか、対人認知、印象形成、対人魅力バランス理論、についてテキストを読み、ノートにまとめましょう。【テキスト授業】

第10回　私の子ども時代―乳幼児期と母子関係―（テキスト64～70ページ）はじめに68ページ内的作業モデル尺度に答えてみましょう。つぎに、この章の前文と基礎知識を読んで、ハーロウやスピッツによる知見、マーラーの分離-個体化理論、愛着理論について理解を深めた後、69ページからの手順に従って内的作業モデル尺度の結果を整理し、解説を参考にして、自己のデータを検討し、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第11回　対人関係をふりかえる―対人地図―（テキスト71～77ページ）はじめに74ページからの「やってみよう！」の手順に従って対人地図を描いてみましょう。つぎに、この章の前文と、基礎知識の現代の対人関係、対人間の距離、対人関係のレベルについて理解し、76ページからの手順に従って、対人地図の結果を整理し、解説を参考にして、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第12回　自己表現のワーク①【スクーリング授業】

第13回　自己表現のワーク②【スクーリング授業】

第14回　自己表現のワーク③【スクーリング授業】

第15回　自己表現のワーク④【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

これからを生きる心理学

著者：　川瀬正裕･松本真理子・丹治光浩　著

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年：　　ISBN：

e90201a612

参考書

心理学概論（第2版）
著者:　岡市廣成・鈴木直人　監修
出版社:（ナカニシヤ出版）
出版年:　　ISBN:

臨床心理学を基本から学ぶ
著者:　丸島令子・日比野英子　編著
出版社:（北大路書房）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 100% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
レポート60%（第5回・第11回授業後に課す）自己表現のワークへの参加と提出物40%

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅰ（7月2日）（通信）〈Z〉［C］**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　ジェイムス　朋子.殿谷　仁志.宮川　貴美子.山崎　貴子

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

テキスト学習によって、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、スクーリングでの演習により人間関係についても体験的に学ぶ。また、大学で求められる自主的・積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

［テキスト授業／11回＋スクーリング授業／4回］

準備学習（予習・復習）

各回で学んだテーマや専門用語について、図書館等を利用して、より詳しく書かれた心理学書を読むことに挑戦してみましょう。

内　　容

第9回　〈概論〉対人関係の心理（テキスト60～63ページ）対人関係の心理とはどんなことか、対人認知、印象形成、対人魅力バランス理論、についてテキストを読み、ノートにまとめましょう。【テキスト授業】

第10回　私の子ども時代―乳幼児期と母子関係―（テキスト64～70ページ）はじめに68ページ内的作業モデル尺度に答えてみましょう。つぎに、この章の前文と基礎知識を読んで、ハーロウやスピッツによる知見、マーラーの分離-個体化理論、愛着理論について理解を深めた後、69ページからの手順に従って内的作業モデル尺度の結果を整理し、解説を参考にして、自己のデータを検討し、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第11回　対人関係をふりかえる―対人地図―（テキスト71～77ページ）はじめに74ページからの「やってみよう！」の手順に従って対人地図を描いてみましょう。つぎに、この章の前文と、基礎知識の現代の対人関係、対人間の距離、対人関係のレベルについて理解し、76ページからの手順に従って、対人地図の結果を整理し、解説を参考にして、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第12回　自己表現のワーク①【スクーリング授業】

第13回　自己表現のワーク②【スクーリング授業】

第14回　自己表現のワーク③【スクーリング授業】

第15回　自己表現のワーク④【スクーリング授業】

第1回　〈概論〉パーソナリティの心理（テキスト8～11ページ）パーソナリティとは、どのような意味か、パーソナリティの類型論・特性論・構造論のそれぞれについてノートにまとめてみよう。　また、第Ⅲ部の学習の前提として5ページの「私の人生設計―その1」に記入をしておきましょう。【テキスト授業】

第2回　パーソナリティをみる―パーソナリティ検査法―（テキスト12～20ページ）まず、17ページのTSTを実施してみよう。つぎに、この章の前文と、質問紙法・投影法・作業検査法の3種の人格検査について理解し、TSTの結果を整理し、解説によって自己を分析して、Ⅲふりかえりの2問に答えなさい。【テキスト授業】

第3回　心の成り立ち―交流分析とエゴグラム―（テキスト21～28ページ）まず、24ページ（2）のエゴグラムに回答を記入しましょう。つぎに、この章の前文と、交流分析について概観し、その中で特に構造分析について理解を深める。エゴグラムの結果を整理し、解説を手がかりに自分の自我状態について考え、28ページのⅢふりかえりの問いに答えなさい。【テキスト授業】

第4回　無意識のはたらき―夢とコンプレックス―（テキスト29～34ページ）まず、32ページのTATをやってみよう。つぎに、この章の前文と、基礎知識として、無意識の発見、無意識を知る方法、コンプレックスについて理解し、TATの結果を整理し、解説をよんで、34ページのⅢふりかえりの問いに答えなさい。【テキスト授業】

第5回　自己をみつめる―自己評価―（テキスト35～43ページ）まず、38－41ページの自己評価チェックリストⅠ－Ⅲに答える。つぎに、この章の前文と、自己評価の意味、自己評価の高さと質についてよく理解し、自己評価チェックリストの結果を整理し、42－43ページの解説の設問に答え、ふりかえりをしてみましょう。【テキスト授業】

第6回　自己をつかむ―自我同一性―（テキスト45～55ページ）はじめに51ページの自我同一性測定尺度に答えてみる。つぎに、この章の前文と、自我同一性・自我同一性概念の変遷・同一性拡散・モラトリアム・職業的同一性・エリクソンの発達理論について理解し、自我同一性測定尺度の結果の整理を行い、解説のマーシャの自我同一性地位について理解を深めてから、55ページのふりかえりの設問に答えてみよう。【テキスト授業】

第7回　メンタルヘルスのページ「パーソナリティ障害」「同一性障害」（テキスト56－57ページ）パーソナリティ障害および同一性障害について、その概念・下位分類・事例から学びましょう。【テキスト授業】

第8回　トピックス1.「コンピュータ社会と精神病理」（テキスト44ページ）テクノストレスについて理解し、深刻な障害の予防のためには、どのようなことが有効か、考えてみましょう。トピックス2.「学校教育と家庭教育」（テキスト58ページ）エリクソンの理論を参考に、家庭での発達の道すじと学校での集団教育の課題など考えてみましょう。【テキスト授業】

履修上の注意点

教科書

これからを生きる心理学

著者：　川瀬正裕・松本真理子・丹治光浩　著

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年：　　ISBN：

e90201a613

参考書

心理学概論（第2版）
著者:　岡市廣成・鈴木直人　監修
出版社:（ナカニシヤ出版）
出版年:　　ISBN:

臨床心理学を基本から学ぶ
著者:　丸島令子・日比野英子　編著
出版社:（北大路書房）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 100% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
レポート60%（第5回・第11回授業後に課す）自己表現のワークへの参加と提出物40%

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅰ（7月3日）（通信）〈Z〉[D]**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　殿谷　仁志.山崎　貴子.濱田　智崇.宮川　貴美子	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

テキスト学習によって、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、スクーリングでの演習により人間関係についても体験的に学ぶ。また、大学で求められる自主的･積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

[テキスト授業／11回＋スクーリング授業／４回]

準備学習（予習・復習）

各回で学んだテーマや専門用語について、図書館等を利用して、より詳しく書かれた心理学書を読むことに挑戦してみましょう。

内　容

第1回　〈概論〉パーソナリティの心理（テキスト8～11ページ）パーソナリティとは、どのような意味か、パーソナリティの類型論･特性論･構造論のそれぞれについてノートにまとめてみよう。　また、第Ⅲ部の学習の前提として5ページの「私の人生設計―その1」に記入をしておきましょう。【テキスト授業】

第2回　パーソナリティをみる―パーソナリティ検査法―（テキスト12～20ページ）まず、17ページのTSTを実施してみよう。つぎに、この章の前文と、質問紙法･投影法･作業検査法の3種の人格検査について理解し、TSTの結果を整理し、解説によって自己を分析して、Ⅲふりかえりの2問に答えなさい。【テキスト授業】

第3回　心の成り立ち―交流分析とエゴグラム―（テキスト21～28ページ）まず、24ページ（2）のページのエゴグラムに回答を記入しましょう。つぎに、この章の前文と、交流分析について概観し、その中で特に構造分析について理解を深める。エゴグラムの結果を整理し、解説を手がかりに自分の自我状態について考え、28ページのⅢふりかえりの問いに答えなさい。【テキスト授業】

第4回　無意識のはたらき―夢とコンプレックス―（テキスト29～34ページ）まず、32ページのTATをやってみよう。つぎに、この章の前文と、基礎知識として、無意識の発見、無意識を知る方法、コンプレックスについて理解し、TATの結果を整理し、解説をよんで、34ページのⅢふりかえりの問いに答えなさい。【テキスト授業】

第5回　自己をみつめる―自己評価―（テキスト35～43ページ）まず、38－41ページの自己評価チェックリストⅠ－Ⅲに答える。つぎに、この章の前文と、自己評価の意味、自己評価の高さと質についてよく理解し、自己評価チェックリストの結果を整理し、42－43ページの解説の設問に答え、ふりかえりをしてみましょう。【テキスト授業】

第6回　自己をつかむ―自我同一性―（テキスト45～55ページ）はじめに51ページの自我同一性測定尺度に答えてみる。つぎに、この章の前文と、自我同一性・自我同一性概念の変遷・同一性拡散・モラトリアム･職業的同一性・エリクソンの発達理論について理解し、自我同一性測定尺度の結果の整理を行い、解説のマーシャの自我同一性地位について理解を深めてから、55ページのふりかえりの設問に答えてみよう。【テキスト授業】

第7回　メンタルヘルスのページ「パーソナリティ障害」「同一性障害」（テキスト56－57ページ）パーソナリティ障害および同一性障害について、その概念・下位分類・事例から学びましょう。【テキスト授業】

第8回　トピックス1.「コンピュータ社会と精神病理」（テキスト44ページ）テクノストレスについて理解し、深刻な障害の予防のためには、どのようなことが有効か、考えてみましょう。トピックス2.「学校教育と家庭教育」（テキスト58ページ）エリクソンの理論を参考に、家庭での発達の道すじと学校での集団教育の課題など考えてみましょう。【テキスト授業】

第9回　〈概論〉対人関係の心理（テキスト60～63ページ）対人関係の心理とはどんなことか、対人認知、印象形成、対人魅力バランス理論、についてテキストを読み、ノートにまとめましょう。【テキスト授業】

第10回　私の子ども時代―乳幼児期と母子関係―（テキスト64～70ページ）はじめに68ページ内的作業モデル尺度に答えてみましょう。つぎに、この章の前文と基礎知識を読んで、ハーロウやスピッツによる知見、マーラーの分離-個体化理論、愛着理論について理解を深めた後、69ページからの手順に従って内的作業モデル尺度の結果を整理し、解説を参考にして、自己のデータを検討し、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第11回　対人関係をふりかえる―対人地図―（テキスト71～77ページ）はじめに74ページからの「やってみよう！」の手順に従って対人地図を描いてみましょう。つぎに、この章の前文と、基礎知識の現代の対人関係、対人間の距離、対人関係のレベルについて理解し、76ページからの手順に従って、対人地図の結果を整理し、解説を参考にして、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第12回　自己表現のワーク①【スクーリング授業】

第13回　自己表現のワーク②【スクーリング授業】

第14回　自己表現のワーク③【スクーリング授業】

第15回　自己表現のワーク④【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

これからを生きる心理学

著者：　川瀬正裕･松本真理子・丹治光浩　著

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年：　　ISBN：

e90201a614

参考書

心理学概論（第2版）
著者:　岡市廣成・鈴木直人　監修
出版社:（ナカニシヤ出版）
出版年:　　ISBN:

臨床心理学を基本から学ぶ
著者:　丸島令子・日比野英子　編著
出版社:（北大路書房）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 100% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
レポート60%（第5回・第11回授業後に課す）自己表現のワークへの参加と提出物40%

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅱ（11月5日）（通信）〈Z〉[A]**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　日比野　英子.山崎　貴子.中西　龍一.殿谷　仁志.宮川　貴美子	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

テキスト学習によって、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、スクーリングでの演習により人間関係についても体験的に学ぶ。また、大学で求められる自主的･積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

[テキスト授業／11回＋スクーリング授業／4回]

準備学習（予習・復習）

各回で学んだテーマや専門用語について、図書館等を利用して、より詳しく書かれた心理学書を読むことに挑戦してみましょう。

内　容

第1回　対人態度を知る―基本的対人態度―（テキスト79～86ページ）まず、82ページの基本的対人態度測定インベントリーに答えてみましょう。次のこの章の前文（79ページ）と基礎知識（80－81ページ）を読んで基本的不安と神経症的欲求および神経症的欲求の分類について理解を深め、最後に84ページの結果の整理の手順に従って測定インベントリーの回答結果を採点し、解説を読んで解釈し、86ページのふりかえりの設問に答えましょう【テキスト授業】

第2回　人とのかかわり方―社会的スキル―（テキスト87～94ページ）まず、91ページの「やってみよう！―対人交渉方略―」に答えましょう。つぎに、この章の前文と、社会的スキル、社会的スキル訓練、自己主張のスキルについて理解し、92ページ方の手順に従って結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授

第3回　私の友人関係―異性とかかわる、同性とかかわる―（テキスト95～106ページ）はじめに99－101ページの友人関係尺度に答えましょう。つぎに、この章の前文と基礎知識を読んで、友人関係の特徴、携帯電話と友人関係の深さ、自己開示と友人関係の深さ、友人から親友（恋人）への進展について理解し、解説を参考にして、自分自身について考え、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第4回　〈概論〉現代における青年の課題（テキスト110～112ページ）「青年期」とはどのような時代であるのか、ライフイベントの視点からの課題はどのようなことがあるか、また、現代社会における青年についても価値観や対人関係という点から捉えて理解し、今後の課題についても考えてみましょう。

第5回　社会とのかかわりと帰属意識（テキスト113～120ページ）まず、116-117ページの集団マップを作成してみてください。つぎに、この章の前文と、基礎知識の現代青年の様相、フロムの主張、現代青年のかかわりと所属感について理解し、118ページのの手順に従って結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第6回　想像力と想像力（テキスト122～128ページ）はじめに125-126ページの「やってみよう！」の課題のお話を作ってみましょう。つぎに、この章の前文と、基礎知識を読んで、ヴィゴツキーの理論について理解し、さらに127ページにあるようにお話しづくりの結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第7回　職業選択（テキスト129～137ページ）まず、132-134ページの職業不決断尺度に答えましょう。つぎに、この章の前文と基礎知識を読んで理解を深め、135ページの手順で職業不決断プロフィールを作成してください。さらに解説を参考にして、137ページのふりかえりの設問に答えしょう。【テキスト授業】

第8回　自分の将来イメージ（テキスト138～146ページ）143-144ページの「やってみよう！」の「私の人生設計―その2」に記入してください。つぎにこの章の前文と基礎知識を読んで理解し、145-146ページのように結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。

第9回　メンタルヘルスのページ「虐待」（テキスト107ページ）「ニート(NEET)」（テキスト147ページ）現代社会で大きな問題となっているこれらの事象について、読んで理解を深めましょう。【テキスト授業】

第10回　トピックス3.「不登校の変遷」（テキスト78ページ）トピックス4.「少年非行」（テキスト95ページ）しばしば話題になるこれらの社会現象について、心理学の視点からの理解を深めましょう。

第11回　トピックス5.「介護と家族」（テキスト121ページ）トピックス6.「人生のパートナーと家族のシナリオ」（テキスト148ページ）しばしば話題になるこれらの社会現象について、心理学の視点からの理解を深めましょう。【テキスト授業】

第12回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑤【スクーリング授業】

第13回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑥【スクーリング授業】

第14回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑦【スクーリング授業】

第15回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑧【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

これからを生きる心理学

著者：　川瀬正裕･松本真理子・丹治光浩　著

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年：　　ISBN：

参考書

e90201a751

心理学概論（第２版）

著者：　岡市廣成・鈴木直人　監修

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年：　　ISBN：

臨床心理学を基本から学ぶ

著者：　丸島令子・日比野英子　編著

出版社：（北大路書房）

出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 100% ）　　授業中発表等（　）

参加度　（　）

レポート60%（第５回・第11回授業後に課す）・ワークへの参加(スクーリング）と提出物40%

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅱ（11月6日）（通信）〈Z〉［B］**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松下　幸治.殿谷　仁志.宮川　貴美子.山崎　貴子	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

テキスト学習によって、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、スクーリングでの演習により人間関係についても体験的に学ぶ。また、大学で求められる自主的･積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

［テキスト授業／11回＋スクーリング授業／4回］

準備学習（予習・復習）

各回で学んだテーマや専門用語について、図書館等を利用して、より詳しく書かれた心理学書を読むことに挑戦してみましょう。

内　　容

第1回　対人態度を知る―基本的対人態度―（テキスト79～86ページ）まず、82ページの基本的対人態度測定インベントリーに答えてみましょう。次のこの章の前文（79ページ）と基礎知識（80－81ページ）を読んで基本的不安と神経症的欲求および神経症的欲求の分類について理解を深め、最後に84ページの結果の整理の手順に従って測定インベントリーの回答結果を採点し、解説を読んで解釈し、86ページのふりかえりの設問に答えましょう【テキスト授業】

第2回　人とのかかわり方―社会的スキル―（テキスト87～94ページ）まず、91ページの「やってみよう！―対人交渉方略―」に答えましょう。つぎに、この章の前文と、社会的スキル、社会的スキル訓練、自己主張のスキルについて理解し、92ページ方の手順に従って結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授

第3回　私の友人関係―異性とかかわる、同性とかかわる―（テキスト95～106ページ）はじめに99－101ページの友人関係尺度に答えましょう。つぎに、この章の前文と基礎知識を読んで、友人関係の特徴、携帯電話と友人関係の深さ、自己開示と友人関係の深さ、友人から親友（恋人）への進展について理解し、解説を参考にして、自分自身について考え、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第4回　〈概論〉現代における青年の課題（テキスト110～112ページ）「青年期」とはどのような時代であるのか、ライフイベントの視点からの課題はどのようなことがあるか、また、現代社会における青年についても価値観や対人関係という点から捉えて理解し、今後の課題についても考えてみましょう。

第5回　社会とのかかわりと帰属意識（テキスト113～120ページ）まず、116-117ページの集団マップを作成してみてください。つぎに、この章の前文と、基礎知識の現代青年の様相、フロムの主張、現代青年のかかわりと所属感について理解し、118ページのの手順に従って結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第6回　想像力と想像力（テキスト122～128ページ）はじめに125-126ページの「やってみよう！」の課題のお話を作ってみましょう。つぎに、この章の前文と、基礎知識を読んで、ヴィゴツキーの理論について理解し、さらに127ページにあるようにお話しづくりの結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第7回　職業選択（テキスト129～137ページ）まず、132-134ページの職業不決断尺度に答えましょう。つぎに、この章の前文と基礎知識を読んで理解を深め、135ページの手順で職業不決断プロフィールを作成してください。さらに解説を参考にして、137ページのふりかえりの設問に答えしょう。【テキスト授業】

第8回　自分の将来イメージ（テキスト138～146ページ）143-144ページの「やってみよう！」の「私の人生設計―その2」に記入してください。つぎにこの章の前文と基礎知識を読んで理解し、145-146ページのように結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。

第9回　メンタルヘルスのページ「虐待」（テキスト107ページ）「ニート(NEET)」（テキスト147ページ）現代社会で大きな問題となっているこれらの事象について、読んで理解を深めましょう。【テキスト授業】

第10回　トピックス3.「不登校の変遷」（テキスト78ページ）トピックス4.「少年非行」（テキスト95ページ）しばしば話題になるこれらの社会現象について、心理学の視点からの理解を深めましょう。

第11回　トピックス5.「介護と家族」（テキスト121ページ）トピックス6.「人生のパートナーと家族のシナリオ」（テキスト148ページ）しばしば話題になるこれらの社会現象について、心理学の視点からの理解を深めましょう。【テキスト授業】

第12回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑤【スクーリング授業】

第13回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑥【スクーリング授業】

第14回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑦【スクーリング授業】

第15回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑧【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

これからを生きる心理学

著者：　川瀬正裕･松本真理子・丹治光浩　著

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年：　　ISBN：

参考書

e90201a752

心理学概論（第２版）

著者:　岡市廣成・鈴木直人　監修

出版社:（ナカニシヤ出版）

出版年:　　ISBN:

臨床心理学を基本から学ぶ

著者:　丸島令子・日比野英子　編著

出版社:（北大路書房）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 100% ）　　授業中発表等（ ）

参加度　（ ）

レポート60%（第５回・第11回授業後に課す）・ワークへの参加(スクーリング）と提出物40%

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅱ（12月3日）（通信）〈Z〉［C］**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　宮川　貴美子.山崎　貴子.ジェイムス　朋子.殿谷　仁志	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

テキスト学習によって、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、スクーリングでの演習により人間関係についても体験的に学ぶ。また、大学で求められる自主的･積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

［テキスト授業／11回＋スクーリング授業／4回］

準備学習（予習・復習）

各回で学んだテーマや専門用語について、図書館等を利用して、より詳しく書かれた心理学書を読むことに挑戦してみましょう。

内　容

第1回　対人態度を知る―基本的対人態度―（テキスト79～86ページ）まず、82ページの基本的対人態度測定インベントリーに答えてみましょう。次のこの章の前文（79ページ）と基礎知識（80－81ページ）を読んで基本的不安と神経症的欲求および神経症的欲求の分類について理解を深め、最後に84ページの結果の整理の手順に従って測定インベントリーの回答結果を採点し、解説を読んで解釈し、86ページのふりかえりの設問に答えましょう【テキスト授業】

第2回　人とのかかわり方―社会的スキル―（テキスト87～94ページ）まず、91ページの「やってみよう！―対人交渉方略―」に答えましょう。つぎに、この章の前文と、社会的スキル、社会的スキル訓練、自己主張のスキルについて理解し、92ページ方の手順に従って結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授

第3回　私の友人関係―異性とかかわる、同性とかかわる―（テキスト95～106ページ）はじめに99－101ページの友人関係尺度に答えましょう。つぎに、この章の前文と基礎知識を読んで、友人関係の特徴、携帯電話と友人関係の深さ、自己開示と友人関係の深さ、友人から親友（恋人）への進展について理解し、解説を参考にして、自分自身について考え、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第4回　〈概論〉現代における青年の課題（テキスト110～112ページ）「青年期」とはどのような時代であるのか、ライフイベントの視点からの課題はどのようなことがあるか、また、現代社会における青年についても価値観や対人関係という点から捉えて理解し、今後の課題についても考えてみましょう。

第5回　社会とのかかわりと帰属意識（テキスト113～120ページ）まず、116-117ページの集団マップを作成してみてください。つぎに、この章の前文と、基礎知識の現代青年の様相、フロムの主張、現代青年のかかわりと所属感について理解し、118ページのの手順に従って結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第6回　想像力と想像力（テキスト122～128ページ）はじめに125-126ページの「やってみよう！」の課題のお話を作ってみましょう。つぎに、この章の前文と、基礎知識を読んで、ヴィゴツキーの理論について理解し、さらに127ページにあるようにお話しづくりの結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第7回　職業選択（テキスト129～137ページ）まず、132-134ページの職業不決断尺度に答えましょう。つぎに、この章の前文と基礎知識を読んで理解を深め、135ページの手順で職業不決断プロフィールを作成してください。さらに解説を参考にして、137ページのふりかえりの設問に答えしょう。【テキスト授業】

第8回　自分の将来イメージ（テキスト138～146ページ）143-144ページの「やってみよう！」の「私の人生設計―その2」に記入してください。つぎにこの章の前文と基礎知識を読んで理解し、145-146ページのように結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。

第9回　メンタルヘルスのページ「虐待」（テキスト107ページ）「ニート(NEET)」（テキスト147ページ）現代社会で大きな問題となっているこれらの事象について、読んで理解を深めましょう。【テキスト授業】

第10回　トピックス3.「不登校の変遷」（テキスト78ページ）トピックス4.「少年非行」（テキスト95ページ）しばしば話題になるこれらの社会現象について、心理学の視点からの理解を深めましょう。

第11回　トピックス5.「介護と家族」（テキスト121ページ）トピックス6.「人生のパートナーと家族のシナリオ」（テキスト148ページ）しばしば話題になるこれらの社会現象について、心理学の視点からの理解を深めましょう。【テキスト授業】

第12回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑤【スクーリング授業】

第13回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑥【スクーリング授業】

第14回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑦【スクーリング授業】

第15回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑧【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

これからを生きる心理学

著者：　川瀬正裕･松本真理子・丹治光浩　著

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年：　　ISBN：

参考書

e90201a753

心理学概論（第２版）

著者:　岡市廣成・鈴木直人　監修

出版社:（ナカニシヤ出版）

出版年:　　ISBN:

臨床心理学を基本から学ぶ

著者:　丸島令子・日比野英子　編著

出版社:（北大路書房）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題（ 100% ）　　授業中発表等（　）

参加度　（　）

レポート60%（第５回・第11回授業後に課す）・ワークへの参加(スクーリング）と提出物40%

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅱ（12月4日）（通信）〈Z〉[D]**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　殿谷　仁志.濱田　智崇.宮川　貴美子.山崎　貴子	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

テキスト学習によって、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、スクーリングでの演習により人間関係についても体験的に学ぶ。また、大学で求められる自主的･積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

[テキスト授業／11回＋スクーリング授業／4回]

準備学習（予習・復習）

各回で学んだテーマや専門用語について、図書館等を利用して、より詳しく書かれた心理学書を読むことに挑戦してみましょう。

内　容

第1回　対人態度を知る―基本的対人態度―（テキスト79～86ページ）まず、82ページの基本的対人態度測定インベントリーに答えてみましょう。次のこの章の前文（79ページ）と基礎知識（80－81ページ）を読んで基本的不安と神経症的欲求および神経症的欲求の分類について理解を深め、最後に84ページの結果の整理の手順に従って測定インベントリーの回答結果を採点し、解説を読んで解釈し、86ページのふりかえりの設問に答えましょう【テキスト授業】

第2回　人とのかかわり方―社会的スキル―（テキスト87～94ページ）まず、91ページの「やってみよう！―対人交渉方略―」に答えましょう。つぎに、この章の前文と、社会的スキル、社会的スキル訓練、自己主張のスキルについて理解し、92ページ方の手順に従って結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授

第3回　私の友人関係―異性とかかわる、同性とかかわる―（テキスト95～106ページ）はじめに99－101ページの友人関係尺度に答えましょう。つぎに、この章の前文と基礎知識を読んで、友人関係の特徴、携帯電話と友人関係の深さ、自己開示と友人関係の深さ、友人から親友（恋人）への進展について理解し、解説を参考にして、自分自身について考え、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第4回　〈概論〉現代における青年の課題（テキスト110～112ページ）「青年期」とはどのような時代であるのか、ライフイベントの視点からの課題はどのようなことがあるか、また、現代社会における青年についても価値観や対人関係という点から捉えて理解し、今後の課題についても考えてみましょう。

第5回　社会とのかかわりと帰属意識（テキスト113～120ページ）まず、116-117ページの集団マップを作成してみてください。つぎに、この章の前文と、基礎知識の現代青年の様相、フロムの主張、現代青年のかかわりと所属感について理解し、118ページのの手順に従って結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第6回　想像力と想像力（テキスト122～128ページ）はじめに125-126ページの「やってみよう！」の課題のお話を作ってみましょう。つぎに、この章の前文と、基礎知識を読んで、ヴィゴツキーの理論について理解し、さらに127ページにあるようにお話しづくりの結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第7回　職業選択（テキスト129～137ページ）まず、132-134ページの職業不決断尺度に答えましょう。つぎに、この章の前文と基礎知識を読んで理解を深め、135ページの手順で職業不決断プロフィールを作成してください。さらに解説を参考にして、137ページのふりかえりの設問に答えしょう。【テキスト授業】

第8回　自分の将来イメージ（テキスト138～146ページ）143-144ページの「やってみよう！」の「私の人生設計―その2」に記入してください。つぎにこの章の前文と基礎知識を読んで理解し、145-146ページのように結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。

第9回　メンタルヘルスのページ「虐待」（テキスト107ページ）「ニート(NEET)」（テキスト147ページ）現代社会で大きな問題となっているこれらの事象について、読んで理解を深めましょう。【テキスト授業】

第10回　トピックス3.「不登校の変遷」（テキスト78ページ）トピックス4.「少年非行」（テキスト95ページ）しばしば話題になるこれらの社会現象について、心理学の視点からの理解を深めましょう。

第11回　トピックス5.「介護と家族」（テキスト121ページ）トピックス6.「人生のパートナーと家族のシナリオ」（テキスト148ページ）しばしば話題になるこれらの社会現象について、心理学の視点からの理解を深めましょう。【テキスト授業】

第12回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑤【スクーリング授業】

第13回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑥【スクーリング授業】

第14回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑦【スクーリング授業】

第15回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑧【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

これからを生きる心理学

著者：　川瀬正裕･松本真理子・丹治光浩　著

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年：　　ISBN：

参考書

e90201a754

心理学概論（第２版）
著者:　岡市廣成・鈴木直人　監修
出版社:（ナカニシヤ出版）
出版年:　　ISBN:

臨床心理学を基本から学ぶ
著者:　丸島令子・日比野英子　編著
出版社:（北大路書房）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 100% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
レポート60%（第５回・第11回授業後に課す）・ワークへの参加(スクーリング）と提出物40%

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学研究法Ⅰ（概論）（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　永野　光朗.田中　芳幸.中川　明仁	

テーマ

心理学研究の方法論の概要、および量的データの心理統計学的解析の理解

授業の到達目標

心理学研究における方法論の概要を学習し、特に実験法、調査法、観察法について学びながらこれらを用いた研究計画の基礎を身につける。また、それぞれの研究法において用いられることの多い心理統計学的解析方法（量的データへの解析方法の適用と解析結果の解釈）についても理解を深める。

授業の概要

[メディア授業／10回＋テキスト授業／5回]

準備学習（予習・復習）

教科書や参考文献に示すものなど心理学研究法関連図書による自学自習、および、心理学関連の研究論文で実際に用いられている研究方法や統計学的解析方法への考察

内　容

第1回　オリエンテーションと実験法の概略 ［田中］（テキスト1～20ページ）心理学的な研究とはどの様なものかを概観するとともに、特に実験法の概要を学ぶ。メディア授業であるが、事前にテキストの該当ページを一読しておくこと。【メディア授業】

第2回　実験計画と研究デザイン ［田中］（テキスト20～39ページ）心理学領域における実験はどの様なものか、また、要因の配置（デザイン）や剰余変数の統制（コントロール）にはどういった方法があるのかを学ぶ。【テキスト授業】

第3回　実験結果を歪める要因 ［田中］（テキスト39～48ページ）実験結果を歪めうる事象とともに、それに対する対応方法の一例を学ぶ。また、仮説生成や概念の定義に関する事項についても学習する。【テキスト授業】

第4回　実験法に基づく心理学に関連する精神生理学的研究 ［田中］（テキスト167～180ページ、191～193ページ）心と身体の相互作用（心身相関）の観点から心理学研究ではヒトの生理的変化に着眼することもある。この様な観点での研究はどういったものなのか、また、どの様な生理的変化や生理指標があるのかを概観する。研究の実際（テキスト180～191ページ）についても一読することが望ましい。【テキスト授業】

第5回　実験法のまとめ ［田中］第1回から第4回の授業内容について復習を行うとともに、特に要因配置や水準数の内容（第2回）に関連付けながら実験法に基づく心理学的研究で用いられることが多い心理統計学的解析にも触れる。【メディア授業】

第6回　調査法（質問紙を使用した社会調査）の概略［永野］【メディア授業】

第7回　標本抽出（サンプリング）の考え方と方法［永野］【メディア授業】

第8回　調査結果の整理方法①［永野］【メディア授業】

第9回　調査結果の整理方法②（統計分析とデータ表現の方法）［永野］【メディア授業】

第10回　調査法のまとめ［永野］【メディア授業】

第11回　観察法の概略［中川］心理学的な研究法の中でも特に観察法について、具体的なその研究の方法について概観する。【メディア授業】

第12回　観察法における量的研究［中川］観察法の中でも特に、行動の頻度やその持続時間など、数量的なデータを収集して研究を進める科学的な観察の方法について学ぶ。【メディア授業】

第13回　観察法における質的研究［中川］行動が生起したプロセスや行動の持つ意味など、観察法の中でも行動の質的な側面に焦点を当てた研究の方法について学ぶ。（テキスト86～90, 96～102, 109～111ページ）【テキスト授業】

第14回　研究レポートの書き方［中川］心理学的な研究の結果をレポートや論文にまとめる際のポイントについて学ぶ。（テキスト195～212）【テキスト授業】

第15回　心理学研究法Ⅰのまとめ［中川］これまでに学んできた実験法、調査法、観察法についてまとめを行う。特に各研究法を比較しながらそれぞれの長所と短所について学ぶ。また、第14回授業の補足として、具体的な心理学研究の進め方や研究レポートの執筆の要点について学ぶ。【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

Progress & Application　心理学研究法

著者：　村井 潤一郎　編著

出版社：（サイエンス社）

出版年：2012　　ISBN：

参考書

パソコンによるデータ分析

著者：　大西 正和　編著

出版社：（建帛社）

出版年：　　ISBN：

e90201a850

心理学マニュアル 要因計画法
著者:　後藤 宗理・中沢 潤・大野木 裕明　著
出版社:（北大路書房）
出版年:　　ISBN:

心理学マニュアル 質問紙法
著者:　鎌原 雅彦・大野木 裕明・宮下 一博・中沢 潤　著
出版社:（北大路書房）
出版年:　　ISBN:

心理学マニュアル 観察法
著者:　中沢 潤 ・南 博文・大野木 裕明　著
出版社:（北大路書房）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40% ）　　小テスト（ 60% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
小テストは第5回、第10回、第15回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅰ（11月12・13日）（通信）〈Z〉[A]**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　前田　洋光.中川　明仁.藤原　勇

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

［メディア授業／6回＋スクーリング授業／9回］ グループに分かれての演習授業である。実験の概要目的を理解し、実験を実施し、レポートを作成する。

準備学習（予習・復習）

心理学の実験に関する書物（参考文献）等を読む。

内　容

第1回　ガイダンス、成績　実験とは、レポート作成の概要【メディア授業】
第2回　分野別実験の紹介【メディア授業】
第3回　実験の応用：実験と健康心理学【メディア授業】
第4回　錯視の実験、レポート作成について（1）【メディア授業】
第5回　錯視の実験、レポート作成について（2）【メディア授業】
第6回　錯視の実験、レポート作成について（3）【メディア授業】
第7回　コミュニケーション実験の説明【スクーリング授業】
第8回　コミュニケーション実験の実施【スクーリング授業】
第9回　コミュニケーション実験のまとめとレポート作成の説明【スクーリング授業】
第10回　性格検査の説明【スクーリング授業】
第11回　性格検査の実施【スクーリング授業】
第12回　性格検査のまとめとレポート作成の説明【スクーリング授業】
第13回　ストループ実験の説明【スクーリング授業】
第14回　ストループ実験の実施【スクーリング授業】
第15回　ストループ実験のまとめとレポート作成の説明心理学実験演習Ⅰのまとめ【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

実験とテスト＝心理学の基礎：実習編
著者：　心理学実験指導研究　編
出版社：（培風館）
出版年：　　ISBN：

実験とテスト＝心理学の基礎：解説編
著者：　心理学実験指導研究　編
出版社：（培風館）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 60% ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 40% ）
授業中課題はレポートを課す出席40%

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅰ（11月26・27日）（通信）〈Z〉[B]**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　塩谷　尚正.藤原　勇.田中　芳幸

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

［メディア授業／6回＋スクーリング授業／9回］ グループに分かれての演習授業である。実験の概要目的を理解し、実験を実施し、レポートを作成する。

準備学習（予習・復習）

心理学の実験に関する書物（参考文献）等を読む。

内　容

第1回　ガイダンス、成績　実験とは、レポート作成の概要【メディア授業】
第2回　分野別実験の紹介【メディア授業】
第3回　実験の応用：実験と健康心理学【メディア授業】
第4回　錯視の実験、レポート作成について（1）【メディア授業】
第5回　錯視の実験、レポート作成について（2）【メディア授業】
第6回　錯視の実験、レポート作成について（3）【メディア授業】
第7回　コミュニケーション実験の説明【スクーリング授業】
第8回　コミュニケーション実験の実施【スクーリング授業】
第9回　コミュニケーション実験のまとめとレポート作成の説明【スクーリング授業】
第10回　性格検査の説明【スクーリング授業】
第11回　性格検査の実施【スクーリング授業】
第12回　性格検査のまとめとレポート作成の説明【スクーリング授業】
第13回　ストループ実験の説明【スクーリング授業】
第14回　ストループ実験の実施【スクーリング授業】
第15回　ストループ実験のまとめとレポート作成の説明心理学実験演習Ⅰのまとめ【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

実験とテスト＝心理学の基礎：実習編
著者：　心理学実験指導研究　編
出版社：（培風館）
出版年：　　ISBN：

実験とテスト＝心理学の基礎：解説編
著者：　心理学実験指導研究　編
出版社：（培風館）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 60% ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 40% ）
授業中課題はレポートを課す出席40%

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅰ（12月10･11日）（通信）〈Z〉[C]**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　田中 芳幸.塩谷 尚正.細谷 周史

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

［メディア授業／6回＋スクーリング授業／9回］ グループに分かれての演習授業である。実験の概要目的を理解し、実験を実施し、レポートを作成する。

準備学習（予習・復習）

心理学の実験に関する書物（参考文献）等を読む。

内　容

第1回　ガイダンス、成績　実験とは、レポート作成の概要【メディア授業】
第2回　分野別実験の紹介【メディア授業】
第3回　実験の応用：実験と健康心理学【メディア授業】
第4回　錯視の実験、レポート作成について（1）【メディア授業】
第5回　錯視の実験、レポート作成について（2）【メディア授業】
第6回　錯視の実験、レポート作成について（3）【メディア授業】
第7回　コミュニケーション実験の説明【スクーリング授業】
第8回　コミュニケーション実験の実施【スクーリング授業】
第9回　コミュニケーション実験のまとめとレポート作成の説明【スクーリング授業】
第10回　性格検査の説明【スクーリング授業】
第11回　性格検査の実施【スクーリング授業】
第12回　性格検査のまとめとレポート作成の説明【スクーリング授業】
第13回　ストループ実験の説明【スクーリング授業】
第14回　ストループ実験の実施【スクーリング授業】
第15回　ストループ実験のまとめとレポート作成の説明心理学実験演習Ⅰのまとめ【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

実験とテスト＝心理学の基礎：実習編
著者：　心理学実験指導研究　編
出版社：（培風館）
出版年：　　ISBN：

実験とテスト＝心理学の基礎：解説編
著者：　心理学実験指導研究　編
出版社：（培風館）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 60% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 40% ）
授業中課題はレポートを課す出席40%

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学Ⅰ（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎	

テーマ

心理学の基礎領域を全般的に概観することにより、心理学とはどういう学問なのかを探究する。

授業の到達目標

心理学の歴史、心理学の研究方法について概観し、心理学がどのような学問分野であるかを理解する。心理学の中でも、科学的に明らかにされてきた知覚、認知、学習、感情、動機づけなどの基礎心理学領域について理解を深める。

授業の概要

[メディア授業／全15回]こころのはたらきを客観的、科学的に観察、解析することの重要性が、心理学、とりわけ実験心理学、基礎心理学において指摘されてきた。本講義では、情動、動機づけ、知覚、認知、学習、記憶、発達といった実験や観察によって明らかにされてきた心理機能について、わかりやすく概説する。これらの基礎心理学全般の基本的な知見を概観することにより、心理学とはどういう学問なのかを探究する。

準備学習（予習・復習）

心理学関連図書による自学自習

内　　容

第1回　心理学とは
第2回　心理学の歴史
第3回　心理学の研究法
第4回　感覚と知覚
第5回　聴覚・注意・知覚と脳
第6回　行動の生理学的基礎
第7回　学習1：古典的条件づけ
第8回　学習2:オペラント条件づけ
第9回　学習3：運動学習・観察学習
第10回　動機づけ：生理的欲求
第11回　社会的動機づけ
第12回　認知1：記憶
第13回　認知2：言語・推論・意思決定
第14回　感情1：情動理論と情動の表出
第15回　感情2：社会的感情・神経系の発達と睡眠

履修上の注意点

教科書

心理学概論（第2版）
著者：　岡市廣成・鈴木直人　監修
出版社：（ナカニシヤ出版）
出版年：　　ISBN：

参考書

心理学・入門 心理学はこんなにおもしろい
著者：　サトウタツヤ・渡邊芳之　著
出版社：（有斐閣）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 60% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は第5回、第10回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学Ⅱ（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　永野 光朗	

テーマ

「社会的過程」や「社会への応用」をテーマとする心理学

授業の到達目標

心理学は実証的方法論に基づいて人間の心と行動の仕組みについて客観的・中立的に理解するための「科学」である。この授業では心理学の各分野のなかで、特に「社会的過程」に関するものや「社会への応用」に関連する内容を取り扱う。社会的場面や，産業場面に関連する具体的なテーマを取り上げながら，心理学と社会のつながりについて理解をしたい。また、心理学の各分野で使用される研究法（実験，調査，行動観察など）についても実例を通して理解を深めたい。

授業の概要

［メディア授業／全15回］過去の心理学研究における研究の流れを概観した上で、実証に基づき人間の心と行動の仕組みを理解するという心理学の学問的目標が、人間の社会生活や産業場面においてどのように役立つのかを理解する。また、以上を達成するための心理学的方法論の有用性についても理解をする。

準備学習（予習・復習）

社会や企業活動のなかで生じる問題を常に注視した上で、心理学の立場からその問題を解決する方策を立案してほしい。

内　容

第1回　心理学の目標
第2回　心理学と社会生活・職業とのつながり
第3回　人間を理解するための視点（1）発達という概念
第4回　人間を理解するための視点（2）パーソナリティという概念
第5回　人間を理解するための視点（3）パーソナリティの諸理論
第6回　人間を理解するための視点（4）知能とは何か？ジェンダーとは何か？
第7回　社会を理解するための心理学（1）個人と他者，社会的相互作用
第8回　社会を理解するための心理学（2）対人認知・対人魅力
第9回　社会を理解するための心理学（3）対人行動
第10回　社会を理解するための心理学（4）集合行動
第11回　社会を理解するための心理学（5）社会的認知の仕組み
第12回　心理学の応用（1）企業活動への応用（組織行動）
第13回　心理学の応用（2）企業活動への応用（消費者行動）
第14回　心理学の応用（3）環境配慮行動
第15回　心理学の応用（4）交通行動

履修上の注意点

教科書

心理学概論（第2版）
著者：　岡市廣成・鈴木直人　監修
出版社：（ナカニシヤ出版）
出版年：　　ISBN：

参考書

心理学・入門 心理学はこんなにおもしろい
著者：　サトウタツヤ・渡邊芳之　著
出版社：（有斐閣）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 60% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は第6回、第11回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**心理統計学Ⅰ（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光.中川　明仁	

テーマ

基礎的な統計学の理解

授業の到達目標

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。この授業では、統計の初歩を具体的な問題を解きながら概観し、理解を深めていく。授業全体を通して、基礎的な統計に関する概念を理解し、心理統計学Ⅱや心理学データ解析、心理統計学Ⅲで前提となる知識の基盤をつくる。また、統計の必要性について理解を深める。与えられたデータ分析し、結論を導くことができることを目標とする。

授業の概要

[メディア授業／全15回]講義によって、基礎的な統計に関する概念の理解を図る。また、電卓を用いて具体的なデータを分析する演習を通して、より一層の深い理解を図る。

準備学習（予習・復習）

下記参考書をはじめとする統計学関連の書籍の講読

内　　容

第1回　イントロダクション：統計学の必要性について[前田]
第2回　尺度水準（Stevensの4つの尺度水準）[前田]
第3回　度数分布[前田]
第4回　さまざまな代表値[前田]
第5回　散布度(1)[前田]
第6回　散布度(2)[前田]
第7回　変数変換（標準得点と偏差値）[前田]
第8回　共分散とピアソンの相関係数(1)[前田]
第9回　共分散とピアソンの相関係数(2)[前田]
第10回　順位相関係数[前田]
第11回　データ分析演習(1)[中川]
第12回　データ分析演習(2)[中川]
第13回　データ分析演習(3)[中川]
第14回　データ分析演習(4)[中川]
第15回　授業全体のまとめ[中川]

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本
著者：　吉田 寿夫　著
出版社：（北大路書房）
出版年：　　ISBN：

よくわかる心理統計
著者：　山田 剛史・村井 潤一郎　著
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（ 50% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

e90201b250

小テストは第6回、第10回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**臨床心理学Ⅰ（通信）〈a〉**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　日比野　英子.井上　裕樹

テーマ

臨床心理学の概論の理解

授業の到達目標

臨床心理学は、現代社会が抱えている心理的問題のみならず、教育の問題、高齢者・障害者のケアとリハビリテーション、犯罪被害者のケアなどのさまざまな問題の解決や改善を要請されている学問領域であるが、本科目ではその基礎理論と心理アセスメント・心理的援助を概観して、その理念・歴史・構造・実践活動を理解することをねらいとする。

授業の概要

［メディア授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

授業中に紹介する専門書を最低3冊読んでみよう。

内　容

第1回　臨床心理学とは［日比野］
第2回　臨床心理学の歴史［日比野］
第3回　臨床心理学の主な学問分野［日比野］
第4回　臨床心理学の基礎理論①　精神分析学［日比野］
第5回　臨床心理学の基礎理論②　人間性心理学［日比野］
第6回　臨床心理学の基礎理論③　認知・行動理論［日比野］
第7回　心の発達と心の病理①　乳幼児期の心と心のつまずき［日比野］
第8回　心の発達と心の病理②　児童期・思春期の心理的問題［日比野］
第9回　心の発達と心の病理③　青年期の心と心の迷い［日比野］
第10回　心の状態を測る―心理アセスメント―［日比野］
第11回　心理アセスメントの方法［日比野］
第12回　心の病の回復の援助①　カウンセリング［井上］
第13回　心の病の回復の援助②　子どもの心理療法［井上］
第14回　心の病の回復の援助③　問題行動の心理療法［井上］
第15回　まとめ［日比野］

履修上の注意点

教科書

臨床心理学を基本から学ぶ
著者：　丸島令子・日比野英子　編著
出版社：（北大路書房）
出版年：　　ISBN：

参考書

よくわかる臨床心理学
著者：　下山晴彦　編
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト（ 60% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
小テストは第6回、第11回、第15回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**臨床心理学Ⅱ（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　中西　龍一.濱田　智崇	

テーマ

S.Freud による心理性的理論（Psychosexual theory）及び E.H.Erikson による心理社会的理論（Psychosocial theory）について、その基礎を理解する。

授業の到達目標

臨床心理学の対象は、乳幼児から老人までその年齢を問わない。本講座では、臨床心理学の基礎的視座とも呼べるS.Freudによる心理性的理論（Psychosexual theory）及びE.H.Eriksonによる心理社会的理論（Psychosocial theory）について講義していく。

授業の概要

［メディア授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション/精神分析学［中西］
第2回　精神分析学　防衛機制［中西］
第3回　心理性的理論　口唇期　肛門期［中西］
第4回　心理性的理論　幼児性器期　潜在期［中西］
第5回　心理性的理論　成熟性器期／まとめ［中西］
第6回　ケースから学ぶ精神分析［濱田］
第7回　心理性的理論の視点からの自分史［濱田］
第8回　心理社会的理論　第一の危機［中西］
第9回　心理社会的理論　第二の危機　第三の危機［中西］
第10回　心理社会的理論　第四の危機　第五の危機［中西］
第11回　心理社会的理論　第六の危機　第七の危機［中西］
第12回　心理社会的理論　第八の危機／まとめ［中西］
第13回　ケースから学ぶ心理社会的理論［濱田］
第14回　心理社会的理論の視点からの自分史［濱田］
第15回　心理性的理論　心理社会的理論／まとめ［濱田］

履修上の注意点

教科書

受講に必要なテキストはPDFにて配布
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

自我同一性 ― アイデンティティとライフ・サイクル
著者：　エリク.H.エリクソン　著・小此木啓吾訳編
出版社：（誠信書房）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 100% ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）
小テストは第7回、第15回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　こころとからだの臨床学Ⅰ（通信）〈Z〉

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　日比野 英子.坂本 敏郎

テーマ

「こころ」と「からだ」について、心理学の視点に加えて、脳科学、認知科学の観点から概観する。

授業の到達目標

社会生活を営む人間は、環境を知り（知覚）、何かを感じ（感情）、考えながら（思考）、行動を変えていく(学習）。このようなこころのはたらきとはどのような仕組みを持つのか、また脳の中でどのように処理されているのかの全体像を把握する。

授業の概要

［メディア授業／5回＋テキスト授業／10回］

準備学習（予習・復習）

関連図書を読むことによる自学自習

内　容

第1回　ガイダンス・オリエンテーション［日比野］【メディア授業】
第2回　ホルモンと性分化（男と女の脳科学）［坂本］【メディア授業】
第3回　記憶と学習の脳科学　（神経可塑性のメカニズム）［坂本］【メディア授業】
第4回　絆を育む脳科学（社会的報酬とオキシトシン）［坂本］【メディア授業】
第5回　第1部 人間とは何か 第1章 5つの人間像／第2章 現象からみた心（P2-P36）［日比野］【テキスト授業】
第6回　第3章 こころ、脳、社会（P37-P66）［日比野］【テキスト授業】
第7回　第4章 探究の方法（P67-P90）［日比野］【テキスト授業】
第8回　第2部 認知科学のあゆみ 第5章 誕生（P91-P108）［坂本］【テキスト授業】
第9回　第6章 形成（P109-P132）［坂本］【テキスト授業】
第10回　第7章 発展（P133-P173）［坂本］【テキスト授業】
第11回　第8章 進化1（P174-P195）［坂本］【テキスト授業】
第12回　第8章 進化2（P196-P216）［坂本］【テキスト授業】
第13回　第3部 未来へ　第9章 こころと脳のつながり（P217-P249）［日比野］【テキスト授業】
第14回　第10章　未来へ（P250-P290）［日比野］【テキスト授業】
第15回　授業のまとめ［日比野］【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

心と脳（岩波新書）
著者:　安西祐一郎　著
出版社:（岩波書店）
出版年:　　ISBN:

参考書

心理学概論（第2版）
著者:　岡市廣成・鈴木直人　監修
出版社:（ナカニシヤ出版）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 60% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は第4回の後にレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　こころとからだの臨床学Ⅱ（通信）〈Z〉

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　中西　龍一.田中　芳幸

テーマ

ストレスを中心テーマに、こころとからだを「心身一如」、ホリスティック（Holistic)な視点から捉える。

授業の到達目標

心と身体、そしてその関係について、様々な視点・視座を学び、全体として分かち難く結びつく心と身体についての理解を深める。また、心から体へのアプローチ、身体から心へのアプローチを学び、効果的なストレスの捉え方や具体的な対処法についても学ぶ。

授業の概要

［メディア授業／5回＋テキスト授業／10回］

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　心身のストレスに関する基礎理論　［田中］心身のストレスについて学ぶ上で基本となる考え方や基礎理論について、ストレスチェックなども実施しながら概説する。第3回目からのテキスト授業に向けて、基礎的な学習を行うことも目的とする。【メディア授業】

第2回　ストレスへの対処　［田中］ストレス刺激からストレス反応へ至る過程について概観し、特に対処方略（コーピング）について学習する。自らが執りやすい対処のチェックも行う。第3回目からのテキスト授業に向けて、基礎的な学習を行うことも目的とする。【メディア授業】

第3回　ストレスとは何か ［田中］（テキスト『ストレスに負けない生活』13～49ページ）ストレスについて、こころとからだの両面から理解する。ストレスに関連する身体的な機構と心理的なメカニズムについて学習する。【テキスト授業】

第4回　ストレスと習慣 ［田中］（テキスト『ストレスに負けない生活』51～79ページ）ストレスに関連の深いパーソナリティや行動パターンについて学習する。ストレスによる心身の不調を予防するために、日々の生活習慣に目を向ける必要があることを理解する。※テキストの第4回目に該当する章以降になると、様々な理論について「行動医学」の知見として紹介されています。行動医学と「健康心理学」とが類似の学問領域であり、心理学の中でも扱われる内容ばかりですので、構えずに読み進めてください。【テキスト授業】

第5回　リラクセーション ［田中］（テキスト『ストレスに負けない生活』81～119ページ）ストレスを解消するためのリラクセーションとは、どのようなものなのか、脳や自律神経系の状態とあわせて学習する。さらに、リラクセーションの状態を作り出す方法についても学び、日々のストレスフルな生活において生かすきっかけをつかむ。【テキスト授業】

第6回　認知・行動面への働きかけ ［田中］（テキスト『ストレスに負けない生活』121～162ページ）心理療法の一つである認知行動療法の理論や技法を概観するとともに、その思考パターンや行動パターン修正への活用について学ぶ。これらが不安や緊張などといったストレス反応の改善にもつながることを把握する。【テキスト授業】

第7回　個人的バイアスからの脱却 ［田中］（テキスト『ストレスに負けない生活』163～201ページ）ストレスをため込んでしまう思考や感情（個人的バイアス）から脱却して現実をあるがままに知覚する状態（マインドフルネス）とはどのような状態なのか、また、その効用について学ぶ。【テキスト授業】

第8回　ストレスと身体（からだ）［中西］【メディア授業】

第9回　ゲシュタルト療法と身体［中西］【メディア授業】

第10回　こころとからだ［中西］【メディア授業】

第11回　第1章『心が生まれる前』、第2章『心の誕生』こころがどのようにしてうまれるか、学習理論の復習も兼ねて［中西］（テキスト『動きが心をつくる』13～40ページ）【テキスト授業】

第12回　第3章『動き、体、心』、第4章『心が先か、動きが先か』からだとこころについての様々な考え方［中西］（テキスト『動きが心をつくる』41～68ページ）【テキスト授業】

第13回　第5章『動きから心へ』、第6章『レスペラント反応と生理心理との関係（前半：～筋反応における生理と心理の関係）』レスペラント反応とは、生理と心理の関係とは［中西］（テキスト『動きが心をつくる』69～106ページ）【テキスト授業】

第14回　第6章『レスペラント反応と生理心理との関係（後半：表情について～）』、第7章『新しい人間の全体像』生理と心理の関係とは、人間の全体像を理解する［中西］（テキスト『動きが心をつくる』106～162ページ）【テキスト授業】

第15回　第8章『人間の根源の様相』、気感とは［中西］（テキスト『動きが心をつくる』163～176ページ）【テキスト授業】

履修上の注意点

［田中］ テキスト「ストレスに負けない生活」を難しいと感じる受講生も少なくないと思います。テキスト授業に入る前に、メディア授業にて概略をつかむための基礎を講義します。テキスト授業においては、最初に読むだけですべてを理解しようとせず、まずは心身のストレスに関連する理論や対処方法の概略をつかんでください。その上で、ストレスに関する学習を通して、こころとからだとが不可分であることを理解し、自らの日々のストレス対処、ひいては健康に役立つ知見を1つでも見つけようと心掛けながら受講してほしいと思います。［中西］テキスト課題は、第8章までですが、第9章の「からだ言葉」は、読んで面白く、11章の生活を豊かにする心身統一ワーク」は、実践的なボディーワークが紹介されています。是非実際に試してみて下さい。是非読まれることをお勧めします。

教科書

ストレスに負けない生活－心・身体・脳のセルフケア（ちくま新書）

著者：　熊野宏昭　著

e90201b650

出版社: 筑摩書房

出版年: ISBN:

動きが心をつくる(講談社現代新書)

著者: 春木豊

出版社: 講談社

出版年: ISBN:

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( )

授業中課題 (100%) 授業中発表等 ( )

参加度 ( )

「授業中課題」は、第15回の後にレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅰ（6月18･25･7月2･9日）（通信）〈Z〉**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　トウ カ

テーマ

日常生活でよく使う単語、表現の習得と理解

授業の到達目標

中国語の基本的な表現を習得して、簡単な会話ができるようになることを目指す。

授業の概要

［スクーリング授業／全15回］短時間で集中して、無理なく、楽しく勉強できるのがこの集中講義のポイントです。①文法のコツだけを覚える。②日常生活でよく使う文を繰り返し、練習して、話す。③より集中して覚えるために、一時間ごとに五分間、中国の文化や習慣などを紹介する時間を設ける。④最終テストではなく、当日習った内容を当日に小テストする。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　中国と中国語の概説
第2回　発音A
第3回　発音B
第4回　発音C
第5回　発音D
第6回　第一課　単語と文法
第7回　第一課の表現練習
第8回　第二課　単語と文法
第9回　第二課の表現練習
第10回　第三課　単語と文法
第11回　第三課の表現練習
第12回　第四課　単語と文法
第13回　第四課の表現練習
第14回　総復習
第15回　ミニ発表

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 100% ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）
最終の試験ではなく、毎回の小テスト

2016 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅱ（10月29・11月5・12・19日）（通信）〈Z〉**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　トウ カ

テーマ

日常生活でよく使う単語、表現の習得と理解

授業の到達目標

中国語の基本的な表現を習得して、簡単な会話ができるようになることを目指す。

授業の概要

［スクーリング授業／全15回］短時間で集中して、無理なく、楽しく勉強できるのがこの集中講義のポイントです。①文法のコツだけを覚える。②日常生活でよく使う文を繰り返し、練習して、話す。③より集中して覚えるために、一時間ごとに五分間、中国の文化や習慣などを紹介する時間を設ける。④最終テストではなく、当日習った内容を当日に小テストする。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　前期の総復習
第2回　第五課　単語と文法
第3回　第五課の表現練習
第4回　第六課　単語と文法
第5回　第六課の表現練習
第6回　第七課　単語と文法
第7回　第七課の表現練習
第8回　第八課　単語と文法
第9回　第八課の表現練習
第10回　第九課　単語と文法
第11回　第九課の表現練習
第12回　第十課　単語と文法
第13回　第十課の表現練習
第14回　総復習
第15回　ミニ発表

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 100% ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）
最終の試験ではなく、毎回の小テスト

2016 Syllabus

科 目 名　**女性とイメージ（通信）〈Z〉**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　志賀 亮一

テーマ

私たち自身のジェンダーへの気づき

授業の到達目標

ヨーロッパでは古来、家父長制社会が営まれてきた。絵画・彫刻など芸術をはじめとして、近現代のポスターやテレビCMまで、この社会の女性イメージは、上記家父長制の影響を色濃く示し、男性優位のジェンダー像を呈している。授業では、このイメージを母・妻・妖婦の3要素に集約したうえ、さまざまな視覚イメージをもとに個々の要素を詳説しつつ、各要素間の関係を明らかにし、その全体像を再構築する。あわせて、近現代の女性たちの業績をつうじて、このイメージに対する女性たちの反抗の足取りを跡づける。以上の学修を通じて、受講生は自らの課されているジェンダーの枠組みを自覚すること。

授業の概要

［メディア授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

身近なジェンダー像の表出に日常注意を払うこと

内　容

第1回　導入：視覚メディアにおける女性のイメージ
第2回　母親像1：子孫再生産の担い手
第3回　母親像2：究極の母親・聖母マリア――子孫再生産と男系血統の保障
第4回　母親像3：一家の母(マーテル・ファミリアス)と一家の父(パーテル・ファミリアス)――子孫再生産とジェンダー
第5回　妻像1：夫を補佐するもの
第6回　妻像2：男性を補佐するもの
第7回　妻像3：家内を管理するもの
第8回　妻像4：女・家内・私事 vs 男・社会・公事――社会的役割とジェンダー
第9回　妖婦像1：近代以前の妖婦像――伝説の妖婦たち
第10回　妖婦像2：近代の妖婦たち
第11回　妖婦像3：妖婦像の二重構造――魅惑するものと堕落させるもの
第12回　妖婦像4：ジェンダーの要としての妖婦像
第13回　女性たちの反抗1：男性に伍した女性たち
第14回　女性たちの反抗2：解放運動のイメージあれこれ
第15回　まとめ：解放の歴史

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

女のイマージュ
著者：　G・デュビィ　編
出版社：（藤原書店）
出版年：　　ISBN：

聖母マリアの美術
著者：　諸川春樹・利倉隆　著
出版社：（美術出版社）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（ 50% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

e90201d310

小テストは第４回、第８回、第12回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**ヨーロッパの歴史（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　南　直人	

テーマ

ヨーロッパの歴史の基礎的理解をはかる

授業の到達目標

１６世紀以降のヨーロッパの歴史についての基礎的理解をはかると同時に、新しい歴史学の視点を紹介し、西洋世界をより深く理解することにつなげる。

授業の概要

［メディア授業／全15回］近代世界システム論の視角から近現代のヨーロッパ史（西洋史）を考察する。最初に近代世界システム論を紹介し、その後１６世紀から２０世紀にいたるヨーロッパ史（西洋史）の流れをたどっていく。

準備学習（予習・復習）

近現代ヨーロッパ史のさまざまな文献を読むこと

内　　容

第1回　世界史の新しい見方－世界システム
第2回　近代世界システムの形成
第3回　ポルトガルのアジア進出
第4回　スペインの新大陸支配
第5回　ハプスブルク「世界帝国」の盛衰
第6回　１７世紀の危機とオランダのヘゲモニー（１）
第7回　１７世紀の危機とオランダのヘゲモニー（２）
第8回　イギリスの商業革命と大西洋貿易
第9回　英仏のヘゲモニー争いと植民地戦争
第10回　産業革命とフランス革命の新解釈
第11回　大英帝国のヘゲモニー
第12回　１９世紀ヨーロッパ社会
第13回　２０世紀のヨーロッパ（１）
第14回　２０世紀のヨーロッパ（２）
第15回　２０世紀のヨーロッパ（３）

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

ヨーロッパと近代世界
著者：　川北稔
出版社：（放送大学教育振興会）
出版年：　　ISBN：

大学で学ぶ西洋史　近現代
著者：　小山哲、他
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：　　ISBN：

インディアスの破壊についての簡潔な考察
著者：　ラス・カサス
出版社：（岩波書店）
出版年：　　ISBN：

成績評価

e90201d410

試験 （ 40% ）　　小テスト（ 60% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
小テストは第2回、第7回、第12回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**文学にみる京都（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　林 久美子

テーマ

京都の歴史・文学を学ぶ

授業の到達目標

千年の古都である京都は、日本文化の源と言ってよい。しかし、学生がその魅力の源泉にふれる機会は少なく、観光企画や宣伝によって脚光を浴びた表面的な知識しか得られないのが一般である。そこで、この科目では、京都をより深く知り、文化の伝統と現代のあり方について考える機会をもつために、京都を舞台にした文学やそれを成立させた歴史的背景を学ぶ。種々の文学作品を通して、例えば葵祭の特質や往古の人々の祭りに対する心情を想像し、六道の辻がなぜ魔界とされているのかを知ることができる。そこから、観光のあり方や伝統の継承といった、現代的な問題意識も育みたい。

授業の概要

［テキスト授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

テキストを読んだら、興味を持った場所を自分の足で歩いてみてください。また、気になる作品はネットからでも読んでみてください。さらに調べたくなったら、図書館へ足を運んでください。

内　容

第1回　桓武天皇と秦氏（テキスト10～25・7ページ）桓武天皇の平安京遷都と、新都造営に協力した秦氏について学ぶ。

第2回　小野篁の説話（テキスト26～47ページ）三大葬送地である鳥辺野、蓮台野、化野。その地に伝わる小野篁の伝説を学ぶ。

第3回　清少納言の随筆世界と生活空間（テキスト62～77ページ）『枕草子』の記述から、清少納言が身を置いた場所、所縁の場所を知る。自分で出かけて、現代の町並みに往時を偲ぶ文学散歩の手引きとする。

第4回　『源氏物語』ゆかりの地・洛中編（テキスト78～94ページ）光源氏が生活し、女性たちを住まわせた二条院、六条院、二条東院、さらに夕顔の宿や「なにがしの院」の場所やイメージをたどる。

第5回　紫式部と『源氏物語』に関する様々な知見を得る（テキスト95～103ページ）明石の君と大堰川、『源氏物語』の成立と受容、紫式部の住居と墓などについて学ぶ。

第6回　『源氏物語』宇治十帖を歩く（テキスト104～120ページ）『源氏物語』の最後を飾る十帖は、宇治を主な舞台とする。その必然性と、古蹟についての知識を得る。

第7回　『源氏物語』の楽しみ方（テキスト121～129・146～147ページ）『源氏物語』絵巻、源氏・ミュージアム、明石の君と嵯峨・桂、絵画や工芸品などについての案内を読み、『源氏物語』の文化的価値を知る。

第8回　王朝仮名日記の舞台案内（テキスト130～145ページ）『土佐日記』『蜻蛉日記』などの日記文学に登場する、内裏や貴族たちの邸宅があった場所、作者たちが詣でた寺社の位置を学ぶ。

第9回　五条（現・松原）という空間（テキスト148～163ページ）『源氏物語』「夕顔」の宿があった旧五条（現在の松原通あたり）とはどんな空間であったのかを、他の文芸のイメージも重ねながら想像する。

第10回　『方丈記』ゆかりの地－日野の里山（テキスト168～183ページ）／《あだしの》という風景－歌枕「化野」の生成と『徒然草』（テキスト188～206ページ）鴨長明が大原の後で庵を結んだ日野での暮らしぶりを知る。／吉田兼好が「あだし野」と記した空間はどのように生成された風景であったかを考える。

第11回　『平家物語』の京を歩く（テキスト212～228・186～187ページ）平家の本拠地六波羅・西八条と源氏の拠点六条堀川を中心に、史跡を巡る。

第12回　『太平記』ゆかりの寺（テキスト236～254・234～235ページ）南北朝動乱期に後醍醐天皇が移った笠置寺、その追善のために建てられた天龍寺の案内を読み、『太平記』について学ぶ。

第13回　「歌枕」という創造性（テキスト260～277ページ）「歌枕」という地名の持つ創造性を通して、百人一首という秀歌撰の魅力を再認識する。

第14回　伏見の歴史と地名（テキスト284～302ページ）別荘地であった平安時代から秀吉の築城、幕府の大名地への変遷と、観月の地としての「指月」について学ぶ。

第15回　京の天神巡り（テキスト48～60ページ）／京の名水・井戸紀行（テキスト164～165・184～185・210ページ）、京都と出版（テキスト166～167・211・280～281ページ）菅原道真の降誕地、各地にある天満宮などから、天神信仰の厚さを知り、菅原道真が天神として祀られた理由を考える。／京都を語る際に欠かせない、水と出版文化に関する知識を得る。

履修上の注意点

教科書

京の歴史・文学を歩く

著者：　知恵の会編

出版社：（勉誠出版）

出版年：　　ISBN：

参考書

e90201d550

新編日本古典文学全集
著者:
出版社:（小学館）
出版年:　　ISBN:

新日本古典文学大系
著者:
出版社:（岩波書店）
出版年:　　ISBN:

京都大事典
著者:　佐和隆研
出版社:（淡交社）
出版年:　　ISBN:

京都大事典〈府域編〉
著者:
出版社:（淡交社）
出版年:　　ISBN:

日本歴史地名大系〈第26巻〉京都府の地名
著者:
出版社:（平凡社）
出版年:　　ISBN:

日本歴史地名大系〈第27巻〉京都市の地名
著者:
出版社:（平凡社）
出版年:　　ISBN:

角川日本地名大辞典〈26〔1〕〉京都府 上巻　総説・地名編
著者:「角川日本地名大辞典」編纂委員会
出版社:（角川書店）
出版年:　　ISBN:

角川日本地名大辞典〈26〔2〕〉京都府 下巻　地誌編・資料編
著者:「角川日本地名大辞典」編纂委員会
出版社:（角川書店）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 60% ）　　小テスト（ 40% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
小テストは第7回、第12回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**京都の歴史・文化（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田端　泰子	

テーマ

京の都の盛衰とそれぞれの時代に生きた人々

授業の到達目標

”都”と呼ばれる政治・経済の中心の位置に京都がすわることによって、どのような歴史のうねりが生じたのか、またそこに住んだ人々の生活にどのような変化が生まれたのかを学びとってほしい。

授業の概要

［メディア授業／全15回］古代以来の都の変遷から説き起こし、京の都がどのような経緯を辿って成立し、発展し、その後の変化を迎えたのかを基軸に、そこに住む人々、京に入った人々に焦点を合わせて歴史の流れを解説する。

準備学習（予習・復習）

京都に関する書物を読み、また授業に登場した場所を実際に訪れてみると、理解が深まる。

内　　容

第1回　都城の変遷
第2回　平安京の成立
第3回　平安京に暮らす人々
第4回　院政期の京都
第5回　京－鎌倉をつなぐ人々
第6回　「このごろ都にはやるもの」－南北朝期の京都
第7回　室町幕府の成立と京の都
第8回　土一揆の時代
第9回　京の商工業者
第10回　『洛中洛外図』に描かれた京都
第11回　祇園祭と京の町
第12回　中世京都の芸能
第13回　織田信長と京都
第14回　豊臣政権と京の町
第15回　元禄時代の京都

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

足利義政と日野富子
著者：　田端泰子
出版社：（山川出版社）
出版年：　　ISBN：

物語　京都の歴史
著者：　脇田修・晴子
出版社：（中央公論新社）
出版年：　　ISBN：

女性芸能の源流
著者：　脇田晴子
出版社：（角川書店）
出版年：　　ISBN：

e90201d610

中世京都と祇園祭
著者:　脇田晴子
出版社:（中央公論新社）
出版年:　　ISBN:

秀吉の経済感覚
著者:　脇田修
出版社:（中央公論社）
出版年:　　ISBN:

北政所おね
著者:　田端泰子
出版社:（ミネルヴァ書房）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 100% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は第15回の後にレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**政治学概説（通信）〈Z〉**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　田代 和也

テーマ

本講義は、政治学を学ぶ入門段階において理解する必要がある事柄を扱う。主に日本政治の展開の中から政治アクターや政治学上の基本的概念を説明し、受講生に理解してもらう。

授業の到達目標

本講義は、政治学への入門段階において習得しておく必要がある政治的現象や用語を、現代日本政治の具体的な事例から受講生に理解してもらうことを目指す。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]指定教科書の各回の範囲を読んでもらい、3回に一度、小テストを受けてもらう。各回の小テストの結果は、成績評価の対象となる。各章の文章で太字で出てくる用語は、巻末にある用語解説を必ず読むこと。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　序　政治学を勉強してみませんか　政治学での視点（テキスト1～16ページ）
第2回　1　えっ!!　投票するの？　だれに投票するの？　選挙を科学する　投票行動の研究（テキスト17～34ページ）
第3回　2　テレビが政治をつくる？　マスメディアと政治意識（テキスト35～50ページ）
第4回　3　政治家ってどんな人？　野心と理念（テキスト51～72ページ）
第5回　4　思想と利権のからみあい　政党と政党政治の変動（テキスト73～96ページ）
第6回　5　官僚ってどんな人？　官僚制（テキスト97～114ページ）
第7回　6　変わる「コネ」社会　日本　ネットワーク社会の政治と利益団体（テキスト115～134ページ）
第8回　7　政策のつくられ方　政策過程（1）（テキスト137～150ページ）
第9回　7　政策のつくられ方　政策過程（2）（テキスト150～157ページ）
第10回　8　日本の最高権力者　強い首相、ひ弱な首相（テキスト159～176ページ）
第11回　9　自治の気概　日本に地方自治はあるの？（1）（テキスト177～186ページ）
第12回　9　自治の気概　日本に地方自治はあるの？（2）（テキスト187～196ページ）
第13回　10　世界はどこへ行く？　国際政治（テキスト197～213ページ）
第14回　11　グローバリゼーションと地域主義　仲間づくりの国際政治経済学（テキスト215～232ページ）
第15回　12　21世紀の試練　政治改革と構造改革（テキスト234～256ページ）

履修上の注意点

教科書

ポリティカルサイエンス事始め[第3版]
著者:　伊藤光利編
出版社:（有斐閣）
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 20% ）　　小テスト（ 80% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
小テストは第3回、第6回、第9回、第12回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**経済学概説（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

日本経済についての話題をきっかけに、社会認識の手段としての経済学の基礎を学ぶ

授業の到達目標

経済社会の中でおこる様々な現象について、報道をはじめとする世の中の言説を鵜呑みにするのではなく、経済学で用いられる概念や思考方法を駆使しながら自分自身で論理的に考える力を身につける。

授業の概要

[メディア授業／全15回]経済学は「金儲けのための学問」ではありません。20世紀初頭に活躍したイギリスの経済学者A.C.ピグーの言葉にもあるように、それは「人間生活の改良のための学問」です。人間生活の改良のために解決しなければならない経済問題は、その時代毎に変化します。経済学は250年の歴史の中で、さまざまな経済問題にとりくみながら発展してきました。この授業では、こうした経済学の発展過程で生まれてきた重要な概念や思考方法を学びながら、経済学が、現代の社会に生きる私たちが取り組まなければならない問題-地球環境の問題、国際金融の問題、格差の問題-にどのように取り組んでいるのかを学びます。

準備学習（予習・復習）

授業で教科書の内容すべてを説明することはできません。教科書の該当範囲を示した上で、要点のみを説明しますので、授業後に該当部分をしっかり読んでおくことが必要です。また、新聞を読んだりニュースを見たりして普段から日本経済の状況について知るように心がけてください。

内　　容

第1回　イントロダクション：経済学とは何か？
第2回　なぜ景気は変動するのか？
第3回　不況になったら政府は何をするべきか？
第4回　為替レートはどのように決まるのか？
第5回　輸出を増やせば景気は良くなるか？
第6回　バブル経済とは何だったのか？
第7回　インフレやデフレはどうして良くないのか？
第8回　今後の日本経済はどうなるのか？
第9回　所得や価格は消費にどのように影響を与えるか？
第10回　企業はどのように行動するのか？
第11回　企業が大きくなることはよいことか？
第12回　なぜ公園や道路は政府が作るのか？
第13回　消費者は商品の本当の価値を知っているか？
第14回　日本の経済システムは個性的か？
第15回　市場と政府だけが経済ではない

履修上の注意点

教科書

What's経済学：わかる楽しさ 使うよろこび（第3版）
著者：　辻　正次・八田 英二
出版社：　有斐閣（有斐閣アルマ）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト （ 60% ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度　（ ）
小テストは、第5回・第11回・第15回の後にそれぞれ行う

2016 Syllabus

科 目 名　**国際マーケティング論（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　文男	

テーマ

日本企業のグローバル・マーケティング戦略

授業の到達目標

国際マーケティング固有の概念であるグローバル・ブランド、移転価格、並行輸入、グローバル・サプライチェーン、輸出マーケティング、マルチドメスティク・マーケティング、グローバル・マーケティングなどについて理解し、説明できる能力を身につけると同時に、その戦略立案能力を養う。

授業の概要

[メディア授業／全15回]現代の企業経営は国際競争を抜きには考えることができない。生産が深層レベルの競争力であるとするならば、マーケティングは表層レベルの競争力である。本講義では表層レベルのマーケティング、国際マーケティングに焦点を当てて考える。国際市場は国内市場と異なり、国によって生活習慣や文化の違いが大きく、そのマーケティングは国内マーケティングとは異なった特異な形態をとる。講義では国際マーケティングの基本原理を踏まえ、日本の代表的な企業であるパナソニック、ソニーなどの電機企業を中心に、資生堂、ユニクロ、ファミリーマートなどの国際マーケティングの特徴を明らかにする。

準備学習（予習・復習）

新聞や雑誌に掲載されているマーケティングや国際マーケティングに関する記事に目を通し、国際マーケティングに関する知識をしっかり身につけていること。

内　　容

第1回　国際マーケティングとは何か。
第2回　国際マーケティングにおける製品戦略
第3回　グローバル・ブランドとグローバル広告戦略
第4回　国際価格戦略
第5回　国際チャネル戦略
第6回　三洋電機の輸出マーケティング戦略
第7回　パナソニック（旧松下電器）の輸出マーケティング戦略
第8回　ソニーの輸出マーケティング戦略
第9回　パナソニックの先進国市場におけるグローバル・マーケティング戦略
第10回　大戸屋と8番らーめんのグローバル・マーケティング戦略
第11回　ファミリーマートのグローバル・マーケティング・戦略略
第12回　資生堂のグローバル・マーケティング戦略
第13回　ユニクロのグローバル・マーケティング戦略
第14回　ソニーの新興国市場におけるグローバル・マーケティング戦略
第15回　パナソニックの新興国市場におけるグローバル・マーケティング戦略

履修上の注意点

教科書

日本企業のアジア・マーケティング戦略
著者:　マーケティング史研究会 編
出版社:（同文舘）
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

日本企業の国際マーケティング
著者:　近藤文男　著
出版社:（有斐閣）
出版年:　　ISBN:

日本企業のグローバル・マーケティング
著者:　大石芳裕　編著
出版社:（白桃書房）
出版年:　　ISBN:

成績評価

e90201d950

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 100% ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ ）

「授業中課題」は第8回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**看護情報論（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阿部　祝子	

テーマ

看護は情報や知識を駆使する高度な情報処理プロセスである。本講では情報学はコンピュータを学ぶという偏見や苦手意識を解き、日々の看護実践・管理における情報を改めて意識する。そして、情報技術、通信技術の進歩に伴い、看護の現場に導入された情報システムによる支援について学習する。さらに、質の高い看護の提供をめざす看護実践・管理における情報活用について、探求する。

授業の到達目標

・看護情報論を学ぶ意義を理解する。・日々の看護実践・管理において、活用している情報を意識する。・医療・看護を支援する情報及び情報システムの活用について理解する。・医療・看護における情報倫理について理解する。・医療・看護情報（学）の今後の方向性、課題を理解する。

授業の概要

［メディア授業／全15回］情報技術の発展に伴い、看護現場での情報活用の利便性が向上し、看護情報学が扱う領域が拡大した。本講では、病院情報システムのみならず、看護情報学の幅広い領域を網羅的に教授する。職場における情報の電子化の如何を問わず、質の高い看護の提供をめざした情報活用について各自が学びを深める。そのため、なるべく具体例を取り上げながら授業を進め、日々の看護実践・管理における自分の体験と重ね合わせて内容を理解できるように配慮する。

準備学習（予習・復習）

日々の看護実践・管理において、自分の思考プロセスを意識し、言葉で具体的に表現してみる。日々の看護実践・管理で、自分が体験している具体的な個々の状況をよく観察し振り返り、詳細にイメージできるようにする。

内　　容

第1回　看護情報論を学ぶ意義、情報（学）の基礎
第2回　医療・看護情報（学）の特徴と領域
第3回　情報技術・通信技術の発展と医療・看護への影響
第4回　医療・看護情報に関する標準化（用語の標準化、NANDA、NOC、NIC、看護必要度等）
第5回　情報倫理その１（情報倫理、インフォームド・コンセント、プライバシー権、守秘義務）
第6回　情報倫理その２（情報技術・通信技術の発展と個人情報の取扱、それに関する法律）
第7回　情報倫理その３（情報セキュリティ、情報倫理教育、情報開示、情報公開）
第8回　病院情報システム（病院における情報の特徴、電子カルテの定義、要件、安全管理）
第9回　看護職が関わる情報システム（看護を支援システム、電子化による看護への影響）
第10回　情報共有、チーム医療を支援するシステム（クリニカルパス、職種横断的マネジメント組織と情報活用）
第11回　医療安全を支援するシステム（患者認証システム、ヒヤリ・ハットレポーティングシステム等）
第12回　EBM、EBNのための情報活用（Evidenceの概念、EBM(EBN)のプロセス）
第13回　看護管理プロセスと情報活用（看護管理の目的と情報、情報システム構築導入と運営）
第14回　情報発信・収集（病院における情報発信・収集）、医療・看護情報（学）の今後の展望
第15回　まとめ（看護実践・管理における情報活用）

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

エッセンシャル看護情報学
著者：　太田勝正・前田樹海　編著
出版社：（医歯薬出版）
出版年：　　ISBN：

看護管理学習テキスト第5巻 看護情報管理論
著者：　上泉和子・太田勝正　編
出版社：（日本看護協会出版会）
出版年：　　ISBN：

e90201e010

系統看護学講座別巻 看護情報学

著者:　中山和宏・瀬戸山陽子ほか　著

出版社:（医学書院）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 60% ）　　小テスト （ 40% ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

小テストは第4回、第7回、第11回、第14回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**看護倫理（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　高田　早苗	

テーマ

看護倫理、看護実践、ケアリング、患者の権利

授業の到達目標

1．看護倫理の基盤となるケアリングの倫理について、概念的かつ実践的に理解する。2．医療現場で生じる倫理的な問題について、その背景的要因と関連付けて検討し、解決策を述べる。3．患者の権利擁護がなぜ必要か、看護師が権利擁護者として役割を担う意義、必要性について、自分の考えを述べる。4．自身の現場で倫理的問題に気付き、患者の権利や看護師・医療者の責務等の観点から分析し、解決策を提案する。

授業の概要

[テキスト授業／8回＋メディア授業／7回]看護実践には倫理的側面が不可欠である。本講義では、患者との関わりを重視するケアリングを中心とする看護倫理の基礎的知識を教授する。これを踏まえ、実践において看護師（学生）が遭遇する倫理的問題を含むできごとを教材として、倫理的問題解決の道筋を探るプロセスを学習する。ここで重視するのは、将来患者のアドボケイトを務めるための基礎的能力、すなわち、当事者として考え行動する責任感や主体性、現実のさまざまな制約のなかでもあきらめずに解決をめざす粘り強さや知恵を開発することである。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　患者の自律性を尊重する（テキスト第一章 18～38ページ）【テキスト授業】
第2回　自律性と危険回避のための干渉（テキスト第二章 39～63ページ）【テキスト授業】
第3回　真実を告げる（テキスト第三章 64～85ページ）【テキスト授業】
第4回　アドボカシーとインテグリティ（テキスト第四章 86～108ページ）【テキスト授業】
第5回　患者の秘密を守る（テキスト第五章 109～130ページ）【テキスト授業】
第6回　秘密保持のプロセス（テキスト第六章 131～143ページ）【テキスト授業】
第7回　看護と医療のインフォームド・コンセント（テキスト第七章 144～173ページ）【テキスト授業】
第8回　研究・調査におけるインフォームド・コンセント（テキスト第八章 174～193ページ）【テキスト授業】
第9回　看護倫理とは（1）【メディア授業】
第10回　看護倫理とは（2）【メディア授業】
第11回　看護倫理とは（3）【メディア授業】
第12回　看護倫理とは（4）【メディア授業】
第13回　看護倫理とは（5）【メディア授業】
第14回　看護倫理とは（6）【メディア授業】
第15回　看護倫理とは（7）【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

看護倫理 1
著者：　ドローレス・ドゥーリー、ジョーン・マッカーシー　著
出版社：（みすず書房）
出版年：　　ISBN：

参考書

看護倫理 2
著者：　ドローレス・ドゥーリー、ジョーン・マッカーシー　著
出版社：（みすず書房）
出版年：　　ISBN：

看護倫理 3
著者：　ドローレス・ドゥーリー、ジョーン・マッカーシー　著
出版社：（みすず書房）
出版年：　　ISBN：

e90201e150

ケアリング 看護婦・女性・倫理

著者:　ヘルガ・クーゼ　著

出版社:（メディカ出版）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 100% ）　　授業中発表等（ ）

参加度　（ ）

「授業中課題」は第15回の後にレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**国際看護学（通信）〈Z〉**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　戸塚 規子

テーマ

国際看護の基礎概念と多文化共生社会における看護の役割

授業の到達目標

1．国際看護学にかかわる諸概念について理解する2．保健医療における国際社会の現状と課題を理解する3．国際協力活動のしくみと看護活動の実際を理解する4．多文化共生社会における看護活動の考え方を理解する

授業の概要

［メディア授業／全15回］自立と共存の視点から多文化共生社会を目ざす時代になり、看護職者は文化背景の異なる人々への看護のアプローチが求められている。本講義では、国際看護･国際保健の主要概念や理論、国際協力の理念･目標について学び、国際的視野で保健医療にかかわる諸要因と人々の健康について概説する。また、看護職者による国際協力の実績と国内における看護の国際化の現状理解を踏まえ、異文化看護の視点から人々の生活へのより深い理解に立ち、看護の方法や看護師の役割、必要とされる看護実践能力について考察する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　国際看護概論
第2回　国際看護と異文化看護（文化の違いを考慮した看護）
第3回　国際社会の現状と課題
第4回　自立・共生に向けた国際協力
第5回　国際看護活動を必要とする世界の現状
第6回　国際協力活動を推進する機関
第7回　国際協力活動を推進する看護職
第8回　国際看護活動①　海外における看護活動（1）
第9回　国際看護活動②　海外における看護活動（2）
第10回　国際看護活動③　日本における外国人と看護活動
第11回　国際看護活動④　技術協力（1）
第12回　国際看護活動⑤　技術協力（2）
第13回　国際看護活動⑥　緊急援助
第14回　国際看護活動に必要とされる能力・手法
第15回　異文化理解と国際看護学

履修上の注意点

教科書

国際看護学入門
著者：　国際看護研究会　編
出版社：（医学書院）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト（ 40% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
小テストは第7回、第13回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**看護管理学（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　戸塚　規子	

テーマ

看護管理の基礎概念と患者中心志向の医療における看護サービスのマネジメント

授業の到達目標

1．マネジメントおよび看護におけるマネジメントの主要概念を理解する2．看護におけるマネジメントに必要な理論的知識体系を理解する3．医療施設の看護におけるマネジメントの実際を理解する4．患者中心志向の医療における看護職、看護管理者の役割を理解する

授業の概要

[メディア授業／全15回]本講は、看護管理の基礎的知識および21世紀に期待される患者中心志向の医療における看護サービスのマネジメントについて理解することを意図している。授業内容は、近代看護における看護管理の発想はF.ナイチンゲールの看護の概念･方法論にあることを認識した上で、「看護管理」についての基礎知識を概説する。これらを論拠として、医療施設におけるケアのマネジメントと看護サービスのマネジメントの実際、患者中心志向の医療サービス提供体制や運営にかかわる看護職・看護管理者のあり方を、学習する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　看護管理学とは何か、なぜ看護管理学を学ぶのか1．なぜ看護管理学を学ぶのか2．看護管理学とは何か3．看護に応用されるマネジメント（管理）の原理4．看護管理の2つ視点（医療現場の動向）
第2回　看護におけるマネジメント1（看護におけるマネジメントとその変遷）1．看護の分野に応用される管理の原理2．看護におけるマネジメントの変遷
第3回　看護におけるマネジメント2（マネジメントが行われる場）3．マネジメントの考え方の変遷と看護管理への導入4．看護のマネジメントが行われる場
第4回　看護ケアのマネジメント（看護職の機能、患者の権利）1．看護ケアのマネジメントと看護職の機能2．看護基準と看護手順3．患者の権利の尊重
第5回　看護サービスのマネジメント1（看護管理の定義と看護実践の組織化）1．近代看護管理の定義と目的2．組織目的達成のマネジメント　3．看護の組織化
第6回　看護サービスのマネジメント2（組織の有効な維持、運営、変革）4．サービス業としての医療5．サービスの評価
第7回　協働のためのマネジメント1（ヘルスケア専門職との協働）1．ヘルスケア専門職との協働2．ヘルスケア専門職との連携
第8回　協働のためのマネジメント2（人材の活用と看護職の協働）1．人材フローのマネジメント2．看護職の協働
第9回　看護サービスのマネジメント3（安全管理、リスクマネジメント、情報管理）1．安全管理2．医療におけるリスクマネジメント3．情報の管理と医療情報システムの活用
第10回　看護をとりまく諸制度1（看護職と法制度）1．看護と看護職の定義2．看護職と法制度3．看護職の法的責任と職業倫理
第11回　看護をとりまく諸制度2（看護実践の領域、医療制度　看護職の教育制度）1．看護実践の領域と場2．医療制度3．看護職の教育制度4．看護政策と制度
第12回　マネジメントに必要な知識と技術1（組織と個人、組織の調整　研究）　1．組織と個人2．組織におけるキャリア開発
3．組織の調整4．研究成果の活用
第13回　マネジメントに必要な知識と技術2（リーダーシップとマネジメント ）5．リーダーシップの概念6．リーダーシップ論の変遷7．看護管理・看護実践におけるリーダーシップの重要性
第14回　医療サービスと看護職の役割（医療施設における環境と建築設備）1．病院における施設・設備環境の管理2．病院における物流システム3．病院建築･設計と環境
第15回　医療における看護サービスマネジメントの展望1．看護職の役割拡大2．看護管理の意味するもの

履修上の注意点

教科書

系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践〔1〕看護管理

著者：　上泉和子 著

出版社：（医学書院）

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト（ 40% ）

e90201e350

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

小テストは第7回、第12回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**高齢者のヘルスプロモーション（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　奥野 茂代	

テーマ

高齢者のヘルスプロモーションを理解し看護のありかたを考える

授業の到達目標

1．高齢者の特性を理解する。2．高齢者のQ.O.L(quality of life)の維持向上を目指したヘルスプロモーションについて理解する。

授業の概要

［メディア授業／12回＋テキスト授業／3回］高齢者のQ.O.L.(quality of life)の維持・向上を目指した看護のあり方をヘルスプロモーションの視点から検討し、高齢者と関わる医療福祉施設をはじめとする多様な場面における看護支援について学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション、老年看護の理念とヘルスプロモーション【メディア授業】
第2回　高齢者の特性の理解【メディア授業】
第3回　高齢者の健康課題　主な症状と看護（テキスト226～289ページ）【テキスト授業】
第4回　高齢者の健康課題　特徴的な疾患と看護（テキスト311～382ページ）【テキスト授業】
第5回　高齢者のQ.O.L(quality of life)【メディア授業】
第6回　ヘルスプロモーションの活動プロセス：PP第１～８段階【メディア授業】
第7回　ヘルスプロモーションの活動プロセス：事例【メディア授業】
第8回　ヘルスプロモーションに活用される理論（1）【メディア授業】
第9回　ヘルスプロモーションに活用される理論（2）【メディア授業】
第10回　ヘルスプロモーションに活用される理論（3）（テキスト384～451ページ）【テキスト授業】
第11回　高齢者の行動変容と健康教育（1）【メディア授業】
第12回　高齢者の行動変容と健康教育（2）【メディア授業】
第13回　高齢者のヘルスプロモーションをはかる社会施策（1）【メディア授業】
第14回　高齢者のヘルスプロモーションをはかる社会施策（2）【メディア授業】
第15回　高齢者のヘルスプロモーション活動における看護の機能・役割【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

老年看護学　概論と看護の実践
著者：　奥野茂代・大西和子　編
出版社：（ヌーヴェルヒロカワ）
出版年：　　ISBN：

参考書

国民衛生の動向
著者：　厚生労働統計協会　編
出版社：（厚生労働統計協会）
出版年：　　ISBN：

国民の福祉の動向
著者：　厚生労働統計協会　編
出版社：（厚生労働統計協会）
出版年：　　ISBN：

ヘルスプロモーション
著者：　ローレンス・W. グリーン／マーシャル・W. クロイター　著
出版社：（医学書院）
出版年：　　ISBN：

e90201e410

実践ヘルスプロモーション

著者:　ローレンス・W. グリーン／マーシャル・W. クロイター　著

出版社:（医学書院）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　(70%)　　小テスト (30%)

授業中課題 (　)　　授業中発表等 (　)

参加度　(　)

小テストは第5回、第10回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**認知症看護学（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　奥野　茂代	

テーマ

認知症とともに生きる高齢者を理解し看護のありかたを考える

授業の到達目標

1.認知症とともに生きる高齢者を理解する2.認知症の病態・治療について理解する3.認知症になっても人として尊重され、安心して暮らしていける看護支援を考えることができる

授業の概要

［メディア授業／13回＋テキスト授業／２回］高齢者が認知症になっても人として尊重され、安心して暮らしていけるように、認知症高齢者の理解を深め多職種や家族と協働し看護支援を創意工夫する視点について学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション,認知症の定義、認知症の高齢者、統計的視点から認知症【メディア授業】
第2回　認知症の理解（診断）【メディア授業】
第3回　認知症の理解（診断つづき）、認知症の予防【メディア授業】
第4回　認知症の理解（治療）【メディア授業】
第5回　認知症を生きるということ①（テキスト『痴呆を生きるということ』1～150ページ）【テキスト授業】
第6回　認知症を生きるということ②（テキスト『痴呆を生きるということ』151～221ページ）【テキスト授業】
第7回　認知症高齢者の理解と看護(意識環境、エイジズム)【メディア授業】
第8回　認知症高齢者の理解と看護(生活環境の工夫)【メディア授業】
第9回　認知症高齢者の理解と看護(BPSDの予防・対応)【メディア授業】
第10回　高齢者虐待【メディア授業】
第11回　認知症高齢者の終末期ケア【メディア授業】
第12回　家族の負担と支援(1)【メディア授業】
第13回　家族の負担と支援(2)【メディア授業】
第14回　認知症高齢者にやさしい地域づくり・政策①2015年高齢者介護報告、介護保険法【メディア授業】
第15回　認知症高齢者にやさしい地域づくり・政策②虐待防止法、成年後見制度【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

新版　認知症の人々の看護
著者：　中島紀恵子　編
出版社：（医歯薬出版）
出版年：　　ISBN：

痴呆を生きるということ
著者：　小澤勲　著
出版社：（岩波書店）
出版年：　　ISBN：

参考書

鏡のなかの老人－痴呆の世界を生きる
著者：　竹中星郎　著
出版社：（ワールドプランニング）
出版年：　　ISBN：

私は誰になっていくの
著者：　クリスティーン・ブライデン　著
出版社：（クリエイツかもがわ）
出版年：　　ISBN：

e90201e510

私は私になっていく

著者:　クリスティーン・ブライデン　著

出版社:（クリエイツかもがわ）

出版年:　　ISBN:

老年看護学　概論と看護の実践

著者:　奥野茂代・大西和子　編

出版社:（ヌーヴェルヒロカワ）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　(70%)　　小テスト (30%)

授業中課題 (　)　　授業中発表等 (　)

参加度　(　)

小テストは第5回、第10回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**看護と死生観（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鈴木　要子	

テーマ

臨床死生学とはなにか

授業の到達目標

日本における「死」の実態をふまえ、自分が生きること、ひとの生を支えること、そしてひとの死や自分の死について考察する。文化、宗教、病体験、死別体験などが死生観に及ぼす影響について学び、ケアするうえで直面するであろう生と死にかかわる課題に向き合い考察する。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]「ケア従事者のための死生学」清水哲郎・島薗進（編）ヌーベルヒロカワ．の精読を通して、日本の「死」の実態を理解し、臨床死生学を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

必要に応じて、その都度お知らせ予定

内　　容

第1回　死生学とは何か（テキスト1～34ページ）死生学の歴史、ホスピス運動、キューブラ＝ロスの『死ぬ瞬間』、日本の武士道と死生観、「死」とはどういうことか、について
第2回　臨床死生学とは何か（テキスト35～63ページ）臨床倫理学と死生学、意思決定プロセスとは、ケアが目指す「生」と「死」、スピリチュアルケア、尊厳死について学ぶ
第3回　臨床死生学におけるケアするものとケアされるものの関係について（テキスト64～84ページ）医療者モデルとは、終末期ケアにおけるケアするものとケアされるものとの関係性
第4回　緩和ケアについて（テキスト85～106ページ）「がん」という病、緩和医療学のはじまり、緩和ケアとQOL
第5回　救急医療現場における「他者の死」について・子どもの生と死（テキスト107～133ページ）「他者の死」がもつ意味
第6回　生活習慣病を抱えて生きるということ（テキスト134～144ページ）透析医療現場の実情、透析患者が直面している生と死
第7回　出生前診断と生と死・在宅死と病院死（テキスト145～171ページ）
第8回　障害における生と死・ALS－生と死（テキスト173～202ページ）障害とともに生きるいうこと、障害とQOL、難病とは、難病とQOL
第9回　看取り（テキスト203～226ページ）緩和ケアと看取り、在宅緩和ケア
第10回　現代人の死生観と宗教（テキスト227～256ページ）仏教・キリスト教・イスラム教における死の意味、スピリチュアリティ
第11回　死の意味（テキスト257～283ページ）生と死の関係、現代における死の諸相、デスエデュケーション、「別れ」としての死、「死者」の存在
第12回　死を迎える心理（テキスト285～299、317～334ページ）死を受けとめる、キューブラー=ロス、成長の最終段階としての「死」
第13回　死を受け容れるとは（テキスト300～316、335～348ページ）死にゆく過程、キューブラー=ロスの考え方への指摘、悲嘆
第14回　スピリチュアルケアとは（テキスト349～376ページ）スピリチュアルケアと宗教的ケアの違い、日本的なスピリチュアルケア
第15回　生と死をめぐる倫理と法（テキスト377～413ページ）自律中心主義、自己決定と治療中止、臓器移植、脳死判定

履修上の注意点

教科書

ケア従事者のための死生学
著者：　清水哲郎・島薗進　編
出版社：（ヌーヴェルヒロカワ）
出版年：　　ISBN：

参考書

新版　死とどう向き合うか
著者：　A.Deeken
出版社：（NHK出版）
出版年：　　ISBN：

e90201e650

アイデンティティとライフサイクル
著者:　E.H.エリクソン(著)西平直他(訳)
出版社:（誠信書房）
出版年:　ISBN:

死ぬ瞬間ー死とその過程について
著者:　E.K.Ross(著)鈴木晶(訳)
出版社:（中央公論新社）
出版年:　ISBN:

死を前にした人間
著者:　P.Aries(著)成瀬駒男(訳)
出版社:（みすず書房）
出版年:　ISBN:

死生観ー史的諸相と武士道の立場
著者:　加藤咄堂
出版社:（書肆心水）
出版年:　ISBN:

成績評価

試験　(50%)　小テスト　(50%)
授業中課題　(　)　授業中発表等　(　)
参加度　(　)
小テストは第7回、第11回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**次世代育成看護学概論(通信)〈Z〉**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　堀　妙子.前原　澄子

テーマ

次世代を健康に育成するための看護の役割について

授業の到達目標

1　次世代を健康に育成するための看護について説明できる。2　出生までの次世代の健康を支える看護を説明できる。3　子どもの成長発達を支える看護を説明できる。4　健康課題を持つ子どもを支える看護を説明できる。

授業の概要

[メディア授業／全15回]次世代を育成するために必要な看護に関する講義

準備学習(予習・復習)

適宜紹介する参考文献により学習する

内　　容

第1回　次世代育成看護学とは[前原]
第2回　リプロダクテイヴヘルス[前原]
第3回　出生までの次世代の健康を支える看護(思春期)[前原]
第4回　出生までの次世代の健康を支える看護(妊娠期)[前原]
第5回　出生までの次世代の健康を支える看護(分娩期)[前原]
第6回　出生後の次世代の健康を支える看護(産褥期)[前原]
第7回　子どもの成長発達を支える看護(成長発達の特徴)[堀]
第8回　子どもの成長発達を支える看護(成長発達と社会の関係)[堀]
第9回　健康課題をもつ子どもを支える看護(先天性疾患)[堀]
第10回　健康課題をもつ子どもを支える看護(疾患の受容)[堀]
第11回　健康課題をもつ子どもを支える家族への看護(子どもの入院)[堀]
第12回　健康課題をもつ子どもを支える家族への看護(在宅ケア)[堀]
第13回　健康課題をもつ子どもを支える看護(End of Life Care)[堀]
第14回　諸統計から見た次世代育成看護の課題[前原・堀]
第15回　次世代育成に関わる政策[前原・堀]

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　(60%)　　小テスト　(40%)
授業中課題　(　)　　授業中発表等　(　)
参加度　(　)
小テストは第6回、第13回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**災害看護学(通信)〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　河原　宣子.奥野　信行.小野塚　元子.川口　淳.堀　妙子.松本　賢哉

テーマ

災害看護に関する基本的知識を学び、災害サイクル各期のさまざまな看護の場における看護活動について理解する。

授業の到達目標

1.災害看護に関する基本的知識と援助技術を理解する。2.ライフサイクル各期の災害看護活動を理解する。3.国内諸地域および国際協力における健康危機管理とその対策、災害看護活動を理解する。

授業の概要

[メディア授業／全15回]

準備学習(予習・復習)

内　容

第1回　災害とは[河原]
第2回　地域ケアの体制づくりー災害への備えと減災に向けた地域連携システム①[川口]
第3回　地域ケアの体制づくりー災害への備えと減災に向けた地域連携システム②[川口]
第4回　災害看護とは[河原]
第5回　災害サイクル各期における災害看護活動の実際①[奥野]
第6回　災害サイクル各期における災害看護活動の実際②[河原]
第7回　災害サイクル各期における災害看護活動の実際③[河原・ゲストスピーカー4名]
第8回　災害サイクル各期における災害看護活動の実際④[河原・ゲストスピーカー3名]
第9回　災害サイクル各期における災害看護活動の実際⑤[河原・ゲストスピーカー黒田　裕子氏]
第10回　ライフサイクル各期における災害看護活動の実際①[堀]
第11回　ライフサイクル各期における災害看護活動の実際②[小野塚]
第12回　災害看護とメンタルヘルス①[松本]
第13回　災害看護とメンタルヘルス②[松本]
第14回　災害看護活動における国際協力[河原・ゲストスピーカー中井　隆陽氏]
第15回　まとめ[河原]

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

災害看護学習テキストー概論編ー
著者:　南裕子・山本あい子　編
出版社:(日本看護協会出版会)
出版年:　ISBN:

災害看護学習テキストー実践編ー
著者:　南裕子・山本あい子　編
出版社:(日本看護協会出版会)
出版年:　ISBN:

いのちとこころを救う災害看護
著者:　小原真理子　監修
出版社:(学習研究社)
出版年:　ISBN:

e90201e850

演習で学ぶ災害看護
著者:　小原真理子　監修
出版社:（南山堂）
出版年:　　ISBN:

災害現場でのトリアージと応急処置
著者:　山崎達枝　著
出版社:（日本看護協会出版会）
出版年:　　ISBN:

新版　災害看護　第2版－人間の生命と生活を守る
著者:　黒田裕子・酒井明子　監修
出版社:（メディカ出版）
出版年:　　ISBN:

新体系看護学全書38　看護の統合と実践②　災害看護学
著者:　辺見弘　監修
出版社:（メヂカルフレンド社）
出版年:　　ISBN:

災害看護－看護の専門知識を統合して実践につなげる
著者:　酒井明子・菊池志津子　編
出版社:（南江堂）
出版年:　　ISBN:

実践！災害看護－看護者はどう対応するのか
著者:　野中廣志　著
出版社:（照林社）
出版年:　　ISBN:

ナーシング・グラフィカEX　災害看護
著者:　黒田裕子・酒井明子　編
出版社:（メディカ出版）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 100% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は第15回の後にレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**家族看護学(通信)〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鈴木　和子	

テーマ

豊かな看護を実現するために、現代社会における家族に対する看護は、どうあるべきかを理解し今後の実践に活かす

授業の到達目標

家族看護学における家族の捉え方や家族看護の背景となる理論を学修する。さらに、家族看護の目的と家族を単位とした家族看護過程の展開方法を学ぶ。また、育児期、教育期、成人期、老年期など、それぞれの家族の発達段階別の家族看護の課題と援助方法の特徴を学ぶ。

授業の概要

[テキスト授業／13回＋メディア授業／2回]次の点を目標として授業を展開する。1．家族の健康の概念と家族看護の定義を学ぶ2．家族看護アセスメントとそれに基づく家族援助方法を学ぶ3．家族の発達段階別の家族看護の特徴について学ぶ

準備学習(予習・復習)

教科書の各章に掲載されている文献リストと参考文献を読む

内　容

第1回　家族看護とは何か(テキスト4～25ページ)(家族看護学の発展過程、家族看護の定義、家族のセルフケア機能)【メディア授業】
第2回　家族と「家族の健康」の概念と定義、家族の形態と機能(テキスト28～42ページ)(家族と「家族の健康」について家族看護での概念の特徴を学ぶ)【テキスト授業】
第3回　わが国の家族(テキスト43～45ページ)(わが国の家族の特徴を学ぶ)【テキスト授業】
第4回　家族を理解する諸理論(テキスト46～60ページ)(家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス対処理論を理解する)【テキスト授業】
第5回　家族看護研究の展開(テキスト62～73ページ)(家族看護研究の特徴と展開方法を学ぶ)【テキスト授業】
第6回　家族看護アセスメントと診断(テキスト76～135ページ)(家族看護でのアセスメントの特徴を学ぶ)【テキスト授業】
第7回　家族援助方法(テキスト136～157ページ)(家族看護での家族援助方法の特徴を学ぶ)【テキスト授業】
第8回　家族看護における看護者の役割と援助姿勢(テキスト160～172ページ)(家族看護における看護者の役割と援助姿勢の特徴について学ぶ)【テキスト授業】
第9回　乳児を持つ家族への援助(テキスト176～190ページ)(子どもの誕生・育児が家族に及ぼす影響と育児期の家族への看護の特徴を学ぶ)【テキスト授業】
第10回　入院治療を受ける病児を持つ家族への看護(テキスト192～223ページ)(入院治療を受ける病児を持つ家族への看護の特徴を学ぶ)【テキスト授業】
第11回　救急医療・集中治療の場における家族看護(テキスト226～248ページ)(急性疾患における家族看護の特徴について学ぶ)【テキスト授業】
第12回　精神障害者を持つ家族への看護(テキスト250～280ページ)(精神障害者を持つ家族の抱える問題と家族援助の特徴を学ぶ)【テキスト授業】
第13回　高齢者介護に関する家族援助(テキスト282～293ページ)(高齢者介護に関する家族援助の特徴を学ぶ)【テキスト授業】
第14回　終末期患者の家族援助(テキスト296～319ページ)(終末期を迎える患者の家族に対する家族援助の特徴を学ぶ)【テキスト授業】
第15回　家族看護の専門性についてのまとめ(家族支援専門看護師の活動と家族看護の今後の発展)【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

家族看護学―理論と実践、第4版
著者:　鈴木和子、渡辺裕子
出版社:(日本看護協会出版会)
出版年:　　ISBN:

参考書

家族看護選書
著者:　野嶋佐由美、渡辺裕子編
出版社:(日本看護協会出版会)
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　(　)　　小テスト　(60%)

e90201e950

試験　　小テスト

授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ ）

小テストは第４回、第８回、第14回の授業後に行う「授業中課題」は第15回の後にレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**パーソナリティ心理学Ⅰ（通信）〈Z〉**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　大久保　千惠

テーマ

パーソナリティ心理学の基礎理論を学ぶ

授業の到達目標

パーソナリティ心理学の諸側面について基礎的知見を習得する。まず、パーソナリティの定義について関連する理論を検討する。次に、パーソナリティの形成要因について議論するためにパーソナリティの発達について詳解する。さらに、パーソナリティの測定方法や病理について概説する。

授業の概要

［テキスト授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション＆イントロダクション　～パーソナリティ心理学で何を学ぶのか～（テキスト1～7ページ）
第2回　パーソナリティの理論（1）はじめに（テキスト7～14ページ）
第3回　パーソナリティの理論（2）個人差をどう考えるか（テキスト15～31ページ）
第4回　パーソナリティの理論（3）見えないものをどう見るか（テキスト32～44ページ）
第5回　パーソナリティの理論（4）人をどのように分けるのか（テキスト68～81ページ）
第6回　パーソナリティの形成要因（1）どのような物差しを当てるか（テキスト82～102ページ）
第7回　パーソナリティの形成要因（2）知性を測ることはできるのか（テキスト114～140ページ）
第8回　パーソナリティの形成要因（3）遺伝と環境はパーソナリティにどのようにかかわるのか（テキスト190～214ページ）
第9回　パーソナリティの形成要因（4）赤ちゃんに個人差はあるのか（テキスト215～226ページ）
第10回　パーソナリティの形成要因（5）あとがき（テキスト227～232ページ）
第11回　パーソナリティの測定方法（1）パーソナリティをどうやって測るのか（テキスト45～56ページ）
第12回　パーソナリティの測定方法（2）測定できているかどうかをどう判断するのか（テキスト57～67ページ）
第13回　パーソナリティの測定方法（3）分けることと測ることは違うのか（テキスト103-113ページ）
第14回　パーソナリティの病理（1）あなたは人を分類しているのか（1）（テキスト141～158ページ）
第15回　パーソナリティの病理（2）あなたは人を分類しているのか（2）（テキスト159～189ページ）

履修上の注意点

教科書

はじめて学ぶパーソナリティ心理学
著者：　小塩真司　著
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト（ 40% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
小テストは第9回、第12回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**家族の心理・社会学（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　滝野　功久	

テーマ

家族に関わるさまざまな事象についての心理的でかつ社会的な探求

授業の到達目標

今日、家族のあり方が多様になってきていること、多くの家族が抱える問題・課題も複雑になってきていることをできるだけ具体的に理解し、それらについて言葉や図像で説明できるようになる。一方では、自分の家族の歴史を関心をもち、また他方では、自分の家族とは違った家族のあり様をできるだけ多く具体的に知ることで、家族を通して自らのなかに内化されている世界観・価値観を見直す糸口をつかむ。

授業の概要

[テキスト授業／14回＋メディア授業／1回]「授業」という名称にはなっていますが、これは、周りのさまざまな人々の暮らしや・家族の有り様に積極的に関心をもち、できるだけ具体的な問いをもって取り組むことで、初めて展開できる学びであり、その中身と成果が「内容」いうことになります。そうしたことを含めて、下に記載されるスケジュールは、きっちりその通りに順次行われるプログラムではありません。家族問題が実際に扱われる時は、必ず非直線的な展開になりますが、ここでもそれと同じ動きがでて来ると思います。それを、通信制のなかでは、どのように活かせるか、これが重要な課題と考えています。

準備学習（予習・復習）

自らの家族、特に親について、関心をもって、無理のない程度に調べてみるということは、学習にとっての大きな資源を見つけることになります。

内　　容

第1回　全体のオリエンテーション1　なぜ家族か？　家族とはなにか？　家・イエ・家庭・family（『家族を超える社会学』序ⅰ～ⅵページ、『家族心理学入門』序ⅰ～ⅱページ）【テキスト授業】
第2回　オリエンテーション2　家族を心理学するとは？社会学するとは？（『家族を超える社会学』第1章1～32ページ、『家族心理学入門』序ⅰ～ⅱページ）【テキスト授業】
第3回　家族をめぐる諸問題と家族のイメージ　「家族」の歴史と多様性（『家族を超える社会学』第2章33～66ページ、『家族心理学入門』序ⅰ～ⅱページ・第2章25～33ページ）【テキスト授業】
第4回　家族心理・社会学の課題と方法（『家族を超える社会学』第3章67～102ページ、『家族心理学入門』序論1～11ページ）【テキスト授業】
第5回　家族の心理的プロセスと家族内コミュニケーション（『家族心理学入門』第1章13～23ページ、第2章25～33ページ）【テキスト授業】
第6回　名前と呼び方　名称・氏名　家族の名前　夫婦別姓という問題（オリジナルテキスト）【テキスト授業】
第7回　男と女の関係1　近年の革命的変化と変わらぬこと（『家族心理学入門』第3章35～44ページ、『家族を超える社会学』第3章67～104ページ）【テキスト授業】
第8回　男と女の関係2　セクシュアリティとジェンダーに関わること（『家族心理学入門』第8章99～109ページ、『家族を超える社会学』第5章148～174ページ）【テキスト授業】
第9回　親子関係の心理と病理　母子密着と児童虐待（『家族心理学入門』第4章45～56ページ、第10章121～138ページ）【テキスト授業】
第10回　兄弟関係と一人っ子の課題（『家族心理学入門』第5章57～68ページ）【テキスト授業】
第11回　男と女の関係3　夫婦関係の変化と課題（『家族心理学入門』第16章201～214ページ）【テキスト授業】
第12回　老いと家族の課題（『家族心理学入門』第17章215～223ページ、『家族を超える社会学』コラム「高齢者虐待」27～32ページ）【テキスト授業】
第13回　家族のなかの喪失と死（『家族心理学入門』第17章223～226ページ）【テキスト授業】
第14回　家族と宗教（オリジナルテキスト）【テキスト授業】
第15回　全体の振り返り【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

家族心理学入門（補訂版）
著者：　岡堂哲雄　編
出版社：（培風館）
出版年：　　ISBN：

家族を超える社会学－新たな生の基盤を求めて
著者：　牟田和恵　編
出版社：（新曜社）
出版年：　　ISBN：

参考書

文献のみならず映像などを含めたものを、適宜お伝えしたいと考えています。

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( )

授業中課題 (100%) 授業中発表等 ( )

参加度 ( )

レポートは3回、中間の第1回、第10回(各25%)の後と最終1回(50%)で評価する

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅱ（6月25･26日）（通信）[A]**

クラス　　配当回生　通信2回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　上北　朋子.奈田　哲也.細谷　周史

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

[メディア授業／6回＋スクーリング授業／9回]グループに分かれての演習授業である。実験の概要目的を理解し、実験を実施し、レポートを作成する。

準備学習（予習・復習）

心理学の実験に関する書物（参考文献）等を読む。

内　容

第1回　ガイダンス、成績　実験とは、レポート作成の概要【メディア授業】
第2回　分野別実験の紹介【メディア授業】
第3回　実験の応用: 応用行動分析【メディア授業】
第4回　記憶の実験、レポート作成（1）【メディア授業】
第5回　記憶の実験、レポート作成（2）【メディア授業】
第6回　記憶の実験、レポート作成（3）【メディア授業】
第7回　鏡映描写実験の説明【スクーリング授業】
第8回　鏡映描写実験の実施【スクーリング授業】
第9回　データの処理・分析【スクーリング授業】
第10回　触2点閾実験の説明【スクーリング授業】
第11回　触2点閾実験の実施【スクーリング授業】
第12回　データの処理・分析【スクーリング授業】
第13回　動物実験の説明【スクーリング授業】
第14回　動物実験の実施 【スクーリング授業】
第15回　データの処理・分析【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 60% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 40% ）
実験の実施（出席）とレポート作成を重視します。

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅱ（7月16・17日）（通信）[B]**

クラス　　配当回生　通信2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　坂本　敏郎.奈田　哲也.細谷　周史

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

[メディア授業／6回＋スクーリング授業／9回]グループに分かれての演習授業である。実験の概要目的を理解し、実験を実施し、レポートを作成する。

準備学習（予習・復習）

心理学の実験に関する書物（参考文献）等を読む。

内　容

第1回　ガイダンス、成績　実験とは、レポート作成の概要【メディア授業】
第2回　分野別実験の紹介【メディア授業】
第3回　実験の応用: 応用行動分析【メディア授業】
第4回　記憶の実験、レポート作成（1）【メディア授業】
第5回　記憶の実験、レポート作成（2）【メディア授業】
第6回　記憶の実験、レポート作成（3）【メディア授業】
第7回　鏡映描写実験の説明【スクーリング授業】
第8回　鏡映描写実験の実施【スクーリング授業】
第9回　データの処理・分析【スクーリング授業】
第10回　触2点閾実験の説明【スクーリング授業】
第11回　触2点閾実験の実施【スクーリング授業】
第12回　データの処理・分析【スクーリング授業】
第13回　動物実験の説明【スクーリング授業】
第14回　動物実験の実施 【スクーリング授業】
第15回　データの処理・分析【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 60% ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ 40% ）
実験の実施（出席）とレポート作成を重視します。

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅱ（8月20・21日）（通信）[C]**

クラス	配当回生　通信2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　坂本　敏郎.中川　明仁.細谷　周史	

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

[メディア授業／6回＋スクーリング授業／9回]グループに分かれての演習授業である。実験の概要目的を理解し、実験を実施し、レポートを作成する。

準備学習（予習・復習）

心理学の実験に関する書物（参考文献）等を読む。

内　容

第1回　ガイダンス、成績　実験とは、レポート作成の概要【メディア授業】
第2回　分野別実験の紹介【メディア授業】
第3回　実験の応用: 応用行動分析【メディア授業】
第4回　記憶の実験、レポート作成（1）【メディア授業】
第5回　記憶の実験、レポート作成（2）【メディア授業】
第6回　記憶の実験、レポート作成（3）【メディア授業】
第7回　鏡映描写実験の説明【スクーリング授業】
第8回　鏡映描写実験の実施【スクーリング授業】
第9回　データの処理・分析【スクーリング授業】
第10回　触2点閾実験の説明【スクーリング授業】
第11回　触2点閾実験の実施【スクーリング授業】
第12回　データの処理・分析【スクーリング授業】
第13回　動物実験の説明【スクーリング授業】
第14回　動物実験の実施 【スクーリング授業】
第15回　データの処理・分析【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 60% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 40% ）
実験の実施（出席）とレポート作成を重視します。

2016 Syllabus

科 目 名　**心理検査法Ⅰ（通信）**

クラス	配当回生　通信2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　田中　芳幸.青木　剛	

テーマ

心理検査法に関する基礎理論の理解、および心理検査施行における基本姿勢の検討

授業の到達目標

心理検査（Psychological test）とは、心理査定（Psychological assessment）を行うための方法の一つであり、「ひと」（client）を「全人的に理解しようとする活動」の一部である。そこで本講義では、（1）各種心理検査の信頼性と妥当性を含めた特徴、（2）心理検査の選び方や検査施行時の環境の整え方、（3）心理検査結果の報告やフィードバックの仕方などを学ぶとともに、（4）心理検査施行時の検査者の姿勢・態度について考えることも目的とする。

授業の概要

[メディア授業／8回＋テキスト授業／7回]心理専門職が用いることの多い心理検査の基礎を学ぶ。各種心理検査の歴史や特徴に加えて、さまざまな現場での利用方法についても学習する。また、実際に心理検査を体験する。

準備学習（予習・復習）

・心理検査・心理査定・心理測定関連図書の講読

内　容

第1回　心理検査とは －心理検査と心理査定－[田中]【メディア授業】
第2回　心理検査開発の歴史的背景[青木]【メディア授業】
第3回　心理検査の信頼性と妥当性[青木]【メディア授業】
第4回　検査者の基本的姿勢・態度[青木]【メディア授業】
第5回　「性格」理解のための諸理論[田中]【メディア授業】
第6回　性格検査(1)質問紙法[田中]（テキスト8・109～117ページ／心理検査の体験として61～67ページ）性格検査を中心に質問紙法による代表的な検査の概要を知る。質問紙法による心理検査の一例を体験し、自己理解を促すとともに被検者の負担や検査者の姿勢について考える。【テキスト授業】
第7回　性格検査(2)投影法[田中]（テキスト8・109～117ページ／心理検査の体験として78～84ページ）性格検査を中心に投影法による代表的な検査の概要を知る。投影法による心理検査の一例を体験し、自己理解を促すとともに被検者の負担や検査者の姿勢について考える。【テキスト授業】
第8回　性格検査(3)作業検査法[田中]（テキスト8・109～117ページ）性格検査を中心に作業検査法による代表的な検査の概要を知る。質問紙法・投影法・作業検査法の違いについてあらためて考え整理する。【テキスト授業】
第9回　知能検査(1)知能とは[青木]【メディア授業】
第10回　知能検査(2)知能検査の種類[青木]【メディア授業】
第11回　発達に関する諸検査[田中]（テキスト21～30ページ／心理検査の体験として67～71ページ）乳幼児に適用される発達検査とともに、発達障害児や心身障害児に用いられることが多い代表的な検査を知る。付随して各種障害の特徴についても学ぶ。【テキスト授業】
第12回　行動・社会性に関する諸検査[田中]（テキスト31～44ページ／心理検査の体験として67～78・85～88ページ　検査の内容としては第12回に該当するが、分量が多いため第11回や14回にも分けて実施することを勧めます）児童期以降に用いられる行動や社会性に関する諸検査を中心に学ぶ。対人関係や学校・地域との関係性、行動や感情に関する検査を発達段階ごとに知る。【テキスト授業】
第13回　心理的な症状に関する諸検査[田中]（テキスト45～56ページ／心理検査の体験として88～95ページ）様々な心理的症状に関する検査について、医療現場で用いられることが多い検査と教育現場で用いられることが多い検査に整理して把握する。【テキスト授業】
第14回　その他の心理検査[田中]（テキスト56～59ページ／心理検査の体験として85～88ページ）・産業場面と矯正場面で用いられることが多い検査を整理して把握する。【テキスト授業】
第15回　授業のまとめ[田中]【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

図表で学ぶ心理テスト
著者：　長尾博 著
出版社：（ナカニシヤ出版）
出版年：　　ISBN：

参考書

心理臨床アセスメント入門－心の治療のための臨床判断学－
著者：　赤塚大樹・森谷寛之・豊田洋子・鈴木国文　共著
出版社：（培風館）
出版年：　　ISBN：

e90202a250

心理測定への招待－測定からみた心理学入門－

著者:　市川伸一　著

出版社:（サイエンス社）

出版年:　　ISBN:

各種心理検査の手引書

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

そのほか、授業中に適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト（ 60% ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度　（ ）

小テストは第４回、第10回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**社会心理学Ⅰ（通信）**

クラス　　配当回生　通信2回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　　前田　洋光

テーマ

社会的認知、社会的自己、態度、対人コミュニケーション

授業の到達目標

社会心理学者Aronsonは、人間を「社会的動物（The social animal)」と呼んだ。その言葉の通り、私たちは日常生活を営む上で、他者や社会から多大な影響を受けており、同時に他者や社会に多大な影響を及ぼしている。本講では、社会的認知や社会的影響の問題を中心に、様々な自己と他者のかかわりを、心理学的視点から論考していく。本講義においては、理論の習得はもちろんのことながら、受講者にとってきわめて身近なテーマであるため、日常生活と照らし合わせて考えることによって、「よりよい人間関係」「自分にとってより望ましいこれからの生き方」を考えることも目的とする。

授業の概要

［メディア授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　イントロダクション
第2回　原因帰属
第3回　対人認知
第4回　対人魅力
第5回　性役割
第6回　社会的欲求
第7回　自尊感情
第8回　自己
第9回　態度
第10回　説得的コミュニケーション1：受け手・送り手・メッセージ内容に着目した検討
第11回　説得的コミュニケーション2：説得への抵抗と説得技法
第12回　言語的コミュニケーション
第13回　非言語的コミュニケーション
第14回　マスメディアの影響
第15回　まとめと確認

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

新編社会心理学 改訂版
著者：　堀洋道　監修
出版社：（福村出版）
出版年：　　ISBN：

グラフィック 社会心理学
著者：　池上知子・遠藤由美　著
出版社：（サイエンス社）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（ 50% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
小テストは、第8回・第14回の授業の後に行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**発達心理学Ⅰ（通信）**

クラス　　配当回生　通信2回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　中村 和夫

テーマ

胎生期から成人期までの人間の発達の様相の理解

授業の到達目標

発達心理学についての基礎的知識と発達的な見方が理解できること、および人間の発達上の重要なトピックスについて、それぞれの発達段階におけるその意味を理解するとともに、具体的なイメージをもつことができるようになること。

授業の概要

［メディア授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

発達心理学関連図書による自学自習

内　容

第1回　出生前期の感覚の発達と胎児診断の問題
第2回　出生前期の感覚の発達と胎児診断の問題（続き）
第3回　ヒトの生理的早産と社会的存在としての人間
第4回　新生児期の共鳴動作と新生児反射の意味
第5回　乳児期の姿勢・運動、手指の操作性の発達
第6回　前言語的コミュニケーションと共同注意・三項関係の発達
第7回　前言語的コミュニケーションと共同注意・三項関係の発達（続き）愛着理論と愛着の発達
第8回　愛着理論と愛着の発達（続き）幼児期の発達の特徴と表象的思考
第9回　幼児期の発達の特徴と表象的思考（続き）
第10回　話し言葉の発達と自己中心的言語
第11回　こころの理論の発達と他者のこころの理解
第12回　児童期の具体的操作の発達、複合的思考から概念的思考へ
第13回　書き言葉の発達、9,10歳の節、自己意識的感情
第14回　思春期の第二次性徴、形式的操作の発達
第15回　青年期におけるアイデンティティの発達と拡散

履修上の注意点

教科書

よくわかる認知発達とその支援
著者：　子安増生　編
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：　　ISBN：

参考書

小学生の生活とこころの発達
著者：　心理科学研究会　編
出版社：（福村出版）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 100% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「出生前期～乳児期」の小テストは第８回の授業後に行う「幼児期」の小テストは第11回の授業後に行う「児童期・思春期～青年期」の小テストは第15回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅲ（通信）

クラス	配当回生　通信2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌｫｽﾀｰ ﾍﾝﾘｰ	

テーマ

Developing Listening, Speaking and Other Communicative Skills through DVD Materials

授業の到達目標

In this course we will cover some basic daily English communicative items. The aim is to provide practical and useful material that will enable students to become comfortable with listening to, understanding, and speaking in a limited number of frequently occurring English situations. It is also hoped that, as psychology majors, they will be able to pick up the feelings and thoughts of the various speakers in the DVD materials, and understand some basic differences between Japanese and English ways of expression.

授業の概要

[テキスト授業／14回＋メディア授業／1回]

準備学習（予習・復習）

Students should regularly review the textbook material.

内　容

第1回　Introduction of the teachers, the course and its aims; how to use the DVD and the text; course requirements and evaluation; recommendations about other study materials relevant to this course.＊メディア授業
第2回　Unit 1: I'm looking for Old Main Hall -- Asking for and giving directions＊テキスト授業
第3回　Unit 2: I have a 10:30 appointment -- Exchanging personal information; offering assistance＊テキスト授業
第4回　Unit 3: Are you looking for a place to stay? -- Making suggestions; inviting; showing interest＊テキスト授業
第5回　Unit 4: I'll be glad to room with you guys -- Introducing people; making and accepting offers＊テキスト授業
第6回　Unit 5: The experience is really important -- Talking about the future; explaining routines; getting details＊テキスト授業
第7回　Unit 6: I'll get right on it -- Giving compliments; giving instructions＊テキスト授業
第8回　Review of Units 1 ～ 6 and mid-semester evaluation＊テキスト授業
第9回　Unit 7: Just tell me -- Making suggestions; Confirming; Casual apologies＊テキスト授業
第10回　Unit 8: Don't worry about it -- Formal apologies; making a proposal＊テキスト授業
第11回　Unit 9: Come here and give me a hug -- Showing affection; asking a favor＊テキスト授業
第12回　Unit 10: I love you, Mom -- Taking one's leave; inviting; declining＊テキスト授業
第13回　Unit 11: I deserve a better grade -- Making an appointment; making an argument; compromising＊テキスト授業
第14回　Unit 12: Any other questions? -- Confirming; giving advice; making a request＊テキスト授業
第15回　Review of Units 7 ～ 12 and evaluation＊テキスト授業

履修上の注意点

教科書

Campus Encounters: Understanding American University Life
著者：　Hiroto Ohyagi & Masako Taura
出版社：Macmillan Language House
出版年：2006　　ISBN：　9784777360475

参考書

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト（ 60% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
小テストは、第8回、第15回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅲ（通信）

クラス　　配当回生　通信2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　久保田　美佳

テーマ

Academic Readingの実践

授業の到達目標

「ストレス」というテーマに特化したテキストを使って、正しく読み取る練習をします。特に、様々な構文を読み解くことで、将来に繋がる英語力の基礎を固めます。また、同テキスト付属の音源を聞き英語の音やリズムを体得して行きます。

授業の概要

[テキスト授業／14回＋メディア授業／1回]独自で学習できるよう、各ユニットに和訳や練習問題の答えを含んだプリント(コンテンツ)を用意しました。指示に従って効率よく読解とリスニングの練習をして下さい。皆さんの興味の持てる内容と思いますので、読み物としても楽しんで下さい。

準備学習（予習・復習）

ダウンロードしたプリントを参考に自力で読む練習を重ねて下さい。また、音源を聞くことを怠らないよう、毎日の生活リズムの中にリスニングの時間を組み込むよう努力して下さい。どうしても時間がないときは、掛け流しだけでも構いません。毎日、聞くことができれば、半年後には必ず違いが感じられるはずです。

内　容

第1回　オリエンテーション　Unit 1 What Is Stress? 【メディア授業】
第2回　Unit 2　What Causes Stress?【テキスト授業】
第3回　Unit 3　What Is the Stress Response?(Chapter 1～3　Review Test)【テキスト授業】
第4回　Unit 4　How Did We First Learn about the Bad Effects of Stress?【テキスト授業】
第5回　Unit 5　How Are Bodily Systems Affected by Stress?【テキスト授業】
第6回　Unit 6　Unhealthy Stress: How Can We Resist it?【テキスト授業】
第7回　Unit 7　Laugh(Chapter 4～7　Review Test)【テキスト授業】
第8回　Unit 8　Get Rid of Anger【テキスト授業】
第9回　Unit 9　Break the Stress-Sleeplessness Cycle and Live by Lists【テキスト授業】
第10回　Unit 10　Adapt Your Environment【テキスト授業】
第11回　Unit 11　Pen Pent-up Emotions and Frown on Perfection(Chapter 8～11　Review Test)【テキスト授業】
第12回　Unit 12　Take Time Out for Meals【テキスト授業】
第13回　Unit 13　Try Aerobic Exercise to Take a Walk【テキスト授業】
第14回　Unit 14　Learn Good Posture and Be Conscious of Your Jaw【テキスト授業】
第15回　Unit 15　Reaching the True Relaxation(Chapter 12～15　Review Test)【テキスト授業】

履修上の注意点

教科書

Beating Stress ストレスフリー・ライフを目指す

著者:　田部井世志子、井上径子

出版社:（朝日出版）

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 100% ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度　（ ）

小テストは第3回、第7回、第11回、第15回の授業後に行う。4回の小テストで評価を行います。プリントとテキストを通常どおり学習していれば、決して難しいテストではありませんので、積極的に受けるようにして下さい。

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理応用演習Ⅰ（6月18・25・7月2・9日）（通信）**

クラス	配当回生　通信2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小西　康子	

テーマ

Excelを使用し、業務データを目的に応じて活用・分析する方法を習得する。

授業の到達目標

Excelを使用し、効率の良い業務データの処理分析、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT利活用のための実践的な知識を習得し、『日商PC検定試験3級（データ活用）』資格の取得をめざす。

授業の概要

［スクーリング授業／全15回］］※通学制と共通開講現在、最もシェアの高い表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、データの集計処理やグラフ化、データベース分析などを行い、効率よく目的に応じた資料を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、取引の仕組みや業務データの流れなどもあわせて学習し、総合的なデータの処理分析能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT利活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級（データ活用）』受験レベルのスキルを身につける。授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。授業日程は、各日1～4講時とし、最終回のみ1～3講時とする。

準備学習（予習・復習）

パソコンの基本スキル（入力、保存など）がある、もしくは、パソコン基本スキル習得の授業をあわせて受講することが望ましい。授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内パソコン教室・自宅などで学習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション／日商PC検定とは知識科目対策・電子商取引、電子政府・電子自治体
第2回　知識科目対策・ハードウェア、ソフトウェア
第3回　Excelの基本操作・データ入力、修正、削除、コピー、オートフィル、書式設定　、グラフ作成
第4回　知識科目対策・ファイル、ネットワーク基礎
第5回　知識科目対策・業務会計
第6回　実務における表計算・相対参照、絶対参照、関数
第7回　知識科目問題演習
第8回　知識科目問題演習
第9回　実務における表計算・複合グラフ、並べ替え、フィルタ、ピボットテーブル
第10回　実技科目問題演習
第11回　実技科目問題演習
第12回　検定対策・模擬試験
第13回　実技科目問題演習
第14回　検定対策・模擬試験
第15回　試験（知識科目+実技科目）

履修上の注意点

教科書

日商PC検定試験 データ活用 3級 完全マスター　Excel2010対応
著者：　富士通エフ・オー・エム（株）
出版社：（FOM出版）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（ 10% ）
参加度　（　）
※授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下の学生は原則、単位認定は不可。

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理応用演習Ⅱ（10月29・11月5・12・19日）（通信）**

クラス	配当回生　通信2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小西　康子	

テーマ

Wordを使用し、質の高いビジネス文書を効率よく作成する方法を習得する。

授業の到達目標

Wordを使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書の作成、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT利活用のための実践的な知識を習得し、『日商PC検定試験3級（文書作成）』資格の取得をめざす。

授業の概要

［スクーリング授業／全15回］※通学制と共通開講現在、最もシェアの高いワープロソフト「Microsoft Word」を使用し、効率よく適切なビジネス文書を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、ビジネス文書の形式や、文書作成の上で必要となる文法や文章表現などもあわせて学習し、総合的な文書作成能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT利活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級（文書作成）』受験レベルのスキルを身につける。授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。授業日程は、各日1～4講時とし、最終日のみ1～3講時とする。

準備学習（予習・復習）

パソコンの基本スキル（入力、保存など）がある、もしくは、パソコン基本スキル習得の授業をあわせて受講することが望ましい。授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内パソコン教室・自宅などで学習しておくこと。

内　容

第1回　オリエンテーション／日商PC検定とは知識科目対策・電子商取引、電子政府・電子自治体、ハードウェア
第2回　知識科目対策・ソフトウェア、ファイル、ネットワーク基礎
第3回　Wordの基本操作・社外文書作成
第4回　Wordの基本操作・表作成
第5回　知識科目対策・ビジネス文書の基本、社内文書の書き方、社外文書の書き方
第6回　知識科目対策・ビジネス文書のライティング技術
第7回　実技問題演習
第8回　実技問題演習
第9回　知識科目対策・ビジネス文書のライティング技術・ビジネス図解の基本・ビジネス文書の管理
第10回　知識科目問題演習
第11回　実技問題演習
第12回　実技問題演習
第13回　実技科目問題演習
第14回　検定対策・模擬試験
第15回　試験（知識科目+実技科目）

履修上の注意点

教科書

日商PC検定試験 文書作成 3級 完全マスター　Word2010対応
著者：　富士通エフ・オー・エム（株）
出版社：（FOM出版）
出版年：　　ISBN：
日商PC検定試験 文書作成 3級 公式テキスト
著者：　富士通エフ・オー・エム（株）
出版社：（FOM出版）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 60% ）	小テスト（　）
授業中課題　（ 30% ）	授業中発表等　（ 10% ）

参加度 （ ）

※授業修了出席日数が授業日数の3分の2以下の学生は原則、単位認定は不可。

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学研究法Ⅱ（質的調査）（通信）**

クラス	配当回生　通信2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　「心理学研究法Ⅰ（概論）」を修得済みであること	クラス指定
担 当 者　中村　和夫	

テーマ

インタビューや観察を通して得られたデータに基づいて、ボトムアップ的に研究領域に密着した理論や概念モデルを構成していく質的研究方法を理解し、一連の手続きについて学ぶこと。

授業の到達目標

質的研究方法として、具体的には、グラウンデッド・セオリー・アプローチに基づいて、データの収集、データのコード化、カテゴリーの関係づけによる理論の生成について、それらの手続き・方法について学び、理解すること。

授業の概要

［テキスト授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　テキスト1のsession1 「島巡り」をはじめる前に【なぜ質的研究法を学ぶ必要があるのかを理解しよう。】
第2回　テキスト1のsession2 インタビュー法によるデータ収集【インタビュー法によるデータ収集の手順を学ぼう。】
第3回　テキスト1のsession3 観察法によるデータ収集【観察法によるデータ収集の手順を学ぼう。】
第4回　テキスト1のsession4 グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた分析の流れ【グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた分析の概要と流れを知ろう。】
第5回　テキスト1のsession5 プロパティとディメンション【プロパティとは何か、ディメンションとは何かを理解しよう。】
第6回　テキスト1のsession6 ラベルの抽出 【オープンコーディングの最初の作業を学ぼう。】
第7回　テキスト1のsession7 カテゴリーの抽出【ラベルをカテゴリーにまとめる手順を学ぼう。】
第8回　テキスト1のsession8 カテゴリー同士の関連づけ【パラダイムとカテゴリー関連図について理解しよう。】
第9回　テキスト1のsession9 比較と理論的サンプリング【比較と理論的サンプリングがなぜ必要か理解しよう。】
第10回　テキスト1のsession10 インタビュー法を用いて収集したデータの分析 【事例を通してこれまでの学びについて確認をしよう。】
第11回　テキスト1のsession11 観察法を用いて収集したデータの分析 【事例を通してこれまでの学びについて確認をしよう。】
第12回　テキスト2の第1章 概要、プロパティとディメンション、ラベル【授業中課題】自己学習用データを用いて練習問題1をおこなってみよう。結果を提出すること。
第13回　テキスト2の第2章 概念の把握自己学習用データを用いて練習問題2をおこなってみよう。
第14回　テキスト2の第3章 概念の関係をとらえる自己学習用データを用いて練習問題3をおこなってみよう。
第15回　授業中課題の振り返り【練習問題1～3について自分の分析結果と著者による分析例（テキスト2の巻末の資料編参照）とを全体としてあらためて比べてみて、そこから学んだことをまとめよう。】まとめた結果をレポートにして提出すること（400～600字）。

履修上の注意点

教科書

質的研究方法ゼミナール［第2版］
著者：　戈木クレイグヒル滋子　編
出版社：（医学書院）
出版年：　　ISBN：
グラウンデッド・セオリー・アプローチ 分析ワークブック［第2版］
著者：　戈木クレイグヒル滋子　編
出版社：（日本看護協会出版会）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ ）	小テスト（ ）
授業中課題 （ 100% ）	授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）	

e90202d510

授業中課題とは、①授業中に課された自己学習用の練習問題1ついて、自分で分析を試みた結果が記入されたものを提出することと、②練習問題1～3について自分の分析結果と著者による分析例（テキスト2の巻末の資料編参照）とを全体として比べてみて、そこから学んだことをまとめてレポートにして提出することである。

2016 Syllabus

科 目 名　**実験計画法（通信）**

クラス	配当回生　通信2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上北　朋子.奈田　哲也	

テーマ

実験計画の基礎と実践

授業の到達目標

この講義では、受講生が実験計画法の基礎を理解し、実際に遂行できるようになることを目標とする。統計検定の手法を学ぶことが第１の目的ではなく、実験計画の立案や実験結果の解釈に必要な心理統計を具体的に理解できるようになることを目指す。

授業の概要

［メディア授業／４回＋テキスト授業／11回］

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　オリエンテーション［上北］実験計画法でどのようなことを学ぶのかについてのオリエンテーションを行います。さらに、第2回から第4回のテキスト授業で理解すべき統計的知識について解説します。【メディア授業】

第2回　実験計画法の基礎［奈田］（テキスト8～17ページ）研究仮説とはどのようなものか、ノートにまとめよう。独立変数と従属変数、実験群と統制群について理解しよう。重要な用語なので、ノートにまとめて、いつでも振り返ることができるようにしよう。【テキスト授業】

第3回　実験計画法の実際（１）［上北］（テキスト18～21、142～143ページ）p.18~21を読み、剰余変数が何かについてノートにまとめよう。さらに、p.142～143の実験の具体例を「実験計画」まで読み、この実験の独立変数と従属変数、実験群と統制群はそれぞれ何かをノートにまとめよう。【テキスト授業】

第4回　実験計画法の実際（２）［上北］（テキスト21～23、142～143ページ）結果の統計的分析において最初に立てられる帰無仮説を理解しよう。p.22の帰無仮説の最初のセンテンスを何度も読み返そう。すっかり憶えてから、読み進めよう。p.142～143の実験の具体例において帰無仮説は何かをノートに書きだそう。【テキスト授業】

第5回　実験計画の立案：1要因（1元配置）［上北］心理統計の基本的な考え方について解説した上で、1要因の実験計画の具体的な手順を説明します。第6回から第9回のテキスト授業において理解が必要な「要因」と「水準」の概念について再確認し、どういった時に分散分析を行う必要があるのかについて理解すること。【メディア授業】

第6回　資料収集［奈田］（参考　テキスト30～38、142～143ページ）自分の興味のある事柄について、1要因の実験計画をたてよう。まず実験の目的を書き、p.143の実験計画の記述を参考に、自分の実験計画をノートに書こう。独立変数と従属変数は何か。どのような水準を設けるかなどを具体的に記すこと。【テキスト授業】

第7回　資料収集［奈田］（参考　テキスト30～38、142～143ページ）第６回で計画した実験のデータ集計表を作成し（表3－1(p.30)を参照）、各水準に10名分のデータを記入しよう。データは実際に収集が難しければ、仮想のものでよい。【テキスト授業】

第8回　解析［奈田］（テキスト33・34ページ）第７回で得られたデータに関するグラフを作成しよう。そして、統計検定量を算出しよう。p.33の計算過程をたどりながら、順番に計算をし、分散分析表(表3-3(p.33))を完成させよう。【テキスト授業】

第9回　ディスカッション［奈田］（テキスト32～34ページ）第８回で作成したグラフから読み取れることを記述しよう。第８回で求めたF値が有意水準より大きいか、巻末の付表2-B（５%水準）、付表2-C（１%水準）で調べよう。群間の自由度（横）と群内の自由度（縦）の交差した値が有意水準となります。グラフから読み取った結果は統計的に支持されたかどうか検討しよう。【テキスト授業】

第10回　実験計画の立案：２要因［上北］２要因の実験計画の具体的な手順を説明します。第11回から第14回のテキスト授業において理解が必要な「主効果」と「交互作用」の概念を中心に説明します。【メディア授業】

第11回　資料収集［上北］（参考　テキスト54・55、146・147ページ）自分の興味のある事柄について、２要因の実験計画をたてよう。まず実験の目的を書き、p.147の実験計画の記述を参考に、自分の実験計画をノートに書こう。独立変数と従属変数は何か。どのような水準を設けるかなどを具体的に記すこと。【テキスト授業】

第12回　資料収集［上北］（参考　テキスト54・55、146・147ページ）第11回で計画した実験のデータ集計表を作成し（表5－1(p.54)を参照）、各水準に３名分のデータを記入しよう。データは実際に収集が難しければ、仮想のものでよい。【テキスト授業】

第13回　解析［上北］（参考　テキスト55ページ）第12回で得られたデータに関するグラフを作成しよう。ここでは、実際の統計検定は省略する。図から読みとれることを記述しよう。【テキスト授業】

第14回　ディスカッション［上北］（テキスト61～70ページ）第13回で図から読みとった結果が、「もし統計的にも有意である」とみなされた場合、どのような解釈ができるのか、ノートにまとめよう。特に、p.61の交互作用を理解して、記述すること。【テキスト授業】

第15回　まとめ［上北］教科書にはたくさんの数式が出てきましたが、大切なことは計算をすることではありません。実験計画を立案するときに注意すべき点、なぜ、そのような統計的手法を用いるのか、結果の解釈の際に気を付けるべきことは何かについて理解することが大切です。これまでの授業のまとめとして、実験計画の立案からデータ収集、解析、考察までの具体例を紹介します。実験計画にどのようなパターンがあるかを知ることは、実際に実験を行う時にとても役立つはずです。【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

心理学マニュアル　要因計画法

著者：　後藤 宗理・中沢潤,・大野木裕明　著

e90202d650

出版社：（北大路書房）

出版年：　　ISBN：

参考書

よくわかる心理統計

著者：　山田剛史・村井潤一郎　著

出版社：（ミネルヴァ書房）

出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 100% ）　　授業中発表等（　）

参加度　（　）

「授業中課題」は第9回、第14回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**心理統計学Ⅱ（通信）**

クラス	配当回生　通信2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　「心理統計学Ⅰ」を修得済みであること	クラス指定
担 当 者　前田　洋光	

テーマ

推測統計学の理解

授業の到達目標

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。本講義では、実際の心理学研究において頻繁に用いられる種々の統計解析について、具体的な問題を解きながら理解を深めていく。それによって、各分析手法の概念について理解することを、第一の目的とする。加えて、与えられたデータを分析し、適切な結論を導くことができる実践力を獲得することを目標とする。

授業の概要

[メディア授業／全15回]心理統計学Ⅰで習得した内容を踏まえ、本講では、卒業研究において自らで心理学研究をまとめるにあたり最低限必要となる、より発展的・実践的な統計学の概念について学んでいく。また、種々の統計手法について、電卓を用いて手計算をおこなう演習を併用することによって、一層の理解を深めていく。

準備学習（予習・復習）

下記参考書をはじめとする統計学関連の書籍の講読

内　　容

第1回　イントロダクション：統計学の基礎の復習
第2回　標本と母集団、及び正規分布と中心極限定理(1)
第3回　標本と母集団、及び正規分布と中心極限定理(2)
第4回　統計的検定の基礎
第5回　t検定(1)：対応のない場合のt検定
第6回　t検定(2)：対応のある場合のt検定
第7回　一元配置分散分析(1)：一要因被験者間検定
第8回　一元配置分散分析(2)：多重比較
第9回　ノンパラメトリック検定(1)
第10回　ノンパラメトリック検定(2)
第11回　データ分析演習(1)
第12回　データ分析演習(2)
第13回　データ分析演習(3)
第14回　データ分析演習(4)
第15回　授業全体のまとめ

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本
著者：　吉田 寿夫　著
出版社：（北大路書房）
出版年：　　ISBN：

よくわかる心理統計
著者：　山田 剛史・村井 潤一郎　著
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（ 50% ）

e90202d710

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

小テストは第6回、第10回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学データ解析（1月7-9日）（通信）**

クラス　　配当回生　通信2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　中川 明仁

テーマ

SPSSを用いた統計解析の基礎

授業の到達目標

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。本講義では、主として解析ソフト「SPSS」を用いて、得られたデータを解析していく手順について学んでいく。加えて、得られた結果を適切に読み取り、論文やレポートにまとめる力を身につけていく。

授業の概要

[スクーリング授業／全15回]　本講では、心理統計学Ⅱまでで習得した分析手法（t検定、分散分析等）について、統計ソフト「SPSS」を用いたデータ解析手法を学んでいく。単なるソフトの使用方法のみならず、得られた結果から情報を適切に読み取る力、および、それらを論文やレポートにまとめる力を身につけることに力点を置き、次年度以降の専門科目につなげていく。
なお、受講者の進捗状況に応じて、内容を一部変更する場合がある。（注意事項）本科目の履修にあたり、受講者には統計学の基礎を理解していることが求められる。具体的には、最低限「心理統計学Ⅰ」を既に修得していることが望ましい。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　イントロダクション
第2回　記述統計：度数分布、平均、標準偏差
第3回　相関係数
第4回　t検定
第5回　一要因の分散分析
第6回　二要因被験者間の分散分析
第7回　交互作用と多重比較
第8回　二要因被験者内の分散分析と混合計画
第9回　χ2乗検定
第10回　データ分析演習(1)
第11回　データ分析演習(2)
第12回　データ分析演習(3)
第13回　データ分析演習(4)
第14回　データ分析演習(5)
第15回　授業全体のまとめ

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

SPSSのススメ〈1〉2要因の分散分析をすべてカバー
著者：　竹原 卓真
出版社：（北大路書房）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 80% ）　　授業中発表等　（ ）
参加度　（ 20% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**知覚・認知心理学（通信）**

クラス　　配当回生　通信2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　坂本　敏郎

テーマ

知覚、認知康心理学諸理論の理解

授業の到達目標

ヒトや動物が持つ感覚、知覚の特性を理解する。感覚、知覚情報を動物がどのように、認知するかという情報処理システムについて理解する。動物による道具の使用、ヒトの言語、推論や意志決定など高次の認知機能について考える。

授業の概要

[メディア授業／全15回]授業の目的を達成するよう、テキストに沿って講義を行う。

準備学習（予習・復習）

知覚心理学、認知心理学関連図書による自学自習

内　容

第1回　ガイダンス、恒常性
第2回　知覚の恒常性（補完と図地分離）
第3回　錯視
第4回　色覚
第5回　明るさの知覚
第6回　運動視
第7回　立体視、聴覚
第8回　嗅覚、時間と注意の知覚
第9回　顔の知覚
第10回　意識と記憶1　ワーキングメモリー
第11回　意識と記憶2　長期記憶
第12回　言語とコミニュケーション
第13回　思考と問題解決
第14回　美の知覚とデザイン
第15回　メタ認知（自己のこころの認知）

履修上の注意点

教科書

知覚心理学
著者:　北岡明佳　編
出版社:（ミネルヴァ書房）
出版年:　　ISBN:

参考書

認知心理学
著者:　仲真紀子　編
出版社:（ミネルヴァ書房）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 60% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は第5回、第10回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**感情心理学（通信）**

クラス　　配当回生　通信2回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　坂本　敏郎

テーマ

感情心理学における諸理論の理解

授業の到達目標

人や動物のこころのはたらきの重要な機能のひとつである感情・情動のメカニズムについて理解する。なぜ感情が生起するのか、感情と身体反応（脳の活動、生理反応、免疫反応）はどのような関係をもつのかについて理解を深める。進化の視点から、感情の生起について理解し、人がどのような動物か考察する。

授業の概要

［メディア授業／全15回］授業の目的を達成するよう、テキストに沿って講義を行う。

準備学習（予習・復習）

感情心理学関連図書による自学自習

内　容

第1回　情動の理論
第2回　感情の生物学的基盤
第3回　感情の機能
第4回　感情と進化
第5回　感情と認知
第6回　感情と発達
第7回　感情と言語
第8回　感情と病理
第9回　感情と健康
第10回　ストレスと感情
第11回　進化と性淘汰
第12回　こころの原型（恐怖、不安とこころの病）
第13回　脳の大きさと知能の進化
第14回　攻撃行動、養育行動
第15回　他個体の認知と絆の形成

履修上の注意点

教科書

感情心理学・入門
著者：　大平英樹　編
出版社：（有斐閣）
出版年：　　ISBN：

参考書

進化心理学入門
著者：　J.H. カートライト　著
出版社：（新曜社）
出版年：　　ISBN：

脳とホルモンの行動学
著者：　近藤保彦他　編
出版社：（西村書店）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 60% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は第5回、第10回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学史（通信）**

クラス	配当回生　通信2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　上村 晃弘	

テーマ

近代心理学の成立以前から現代まで、心理学の歩んできた歴史について理解を深める。

授業の到達目標

心理学の成立についての関連領域からの影響や各領域の歴史、社会との関わりについて理解する。心理学における研究がどのような背景で生まれ、また以降にどのような影響を及ぼしたのかという因果関係について把握する。

授業の概要

［テキスト授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　序章 心理学史の方法論　終章 心理学史の現状と展望（テキスト 1～8, 189～201ページ）
第2回　第1章 19世紀の心理学 1 心理学の前史（テキスト 10～20ページ）
第3回　第1章 19世紀の心理学 2 精神物理学とヴントの実験心理学 3 ドイツにおける学派（テキスト 20～34ページ）
第4回　第1章 19世紀の心理学 4 アメリカの心理学　第2章 20世紀の3大潮流とその批判 1 行動主義（テキスト 35～51ページ）
第5回　第2章 20世紀の3大潮流とその批判 2 ゲシュタルト心理学 3 精神分析 （テキスト 51～65ページ）
第6回　第2章 20世紀の3大潮流とその批判 4 認知心理学 5 ヒューマニスティック心理学（テキスト 65～74ページ）
第7回　第3章 心理学と社会 1 概説 2 初期における社会と心理学のコラボレーション 2-1 児童心理学 2-2 教育と心理学 2-3 法と心理学 （テキスト 75～91ページ）
第8回　第3章 心理学と社会 2-4 精神病と心理学 2-5 集団, 産業, 社会と心理学 3 心理学と社会とのさらなる関わり 3-1 社会心理学の二分化 3-2 個人差の理解の進展 （テキスト 91～107ページ）
第9回　第3章 心理学と社会 3-3 発達への視点・発達からの視点 3-4 個人差測定検査および臨床心理学の展開（テキスト107～117ページ）
第10回　第3章 心理学と社会 4 第二次世界大戦後の展開 （テキスト 117～129ページ）
第11回　第4章 日本の心理学史 1 前史 2 心理学という学範の成立（テキスト 131～145ページ）
第12回　第4章 日本の心理学史 3 心理学の展開 4 制度化と展開 5 復興期の心理学（テキスト 145～159ページ）
第13回　第5章 心理学史の見方 1 個人差への興味とその先駆者 2 実用的な知能検査の成立（テキスト 161～170ページ）
第14回　第5章 心理学史の見方 3 知能検査の普及と変質 4 知能研究の広がり（テキスト 170～178ページ）
第15回　第5章 心理学史の見方 5 争点としての知能 6 知能検査の歴史から学ぶこと（テキスト 178～187ページ）

履修上の注意点

教科書

流れを読む心理学史（有斐閣アルマ）
著者:　サトウタツヤ・高砂美樹 著
出版社:（有斐閣）
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 100% ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）
「授業中課題」は、第5回、第10回、第15回の後にそれぞれレポートを課す。

2016 Syllabus

科 目 名　**実験心理学（通信）**

クラス　　配当回生　通信2回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　上北 朋子

テーマ

こころを解明するための様々な研究法

授業の到達目標

こころを科学的に分析するための研究方法について学ぶ。それぞれの長所と短所を理解したうえで、各自が研究に取り組む際に適切な手法を選択・実施できるようになることを目標とする。

授業の概要

［メディア授業／5回＋テキスト授業／10回］

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　心理学実験の意義心理学においてなぜ実験が必要なのか、こころや行動を科学的に理解するというのはどういうことなのかについて解説します。【メディア授業】

第2回　実験法の基本（テキスト20～26ページ）バンデューラーの実験をノートに書き出してみよう。実験の対象者、方法、結果、考察の項目に分けて整理しよう。【テキスト授業】

第3回　様々な変数（1）独立変数と従属変数および剰余変数について解説します。【メディア授業】

第4回　様々な変数（2）　教科書による復習（テキスト27～29ページ, 38～39ページ）表2-1をノートに写そう。そして、日常生活で体験する事象の「原因と結果」の例を書き出してみよう。その事象の因果関係を実験的に推定できるのかを考えてみよう。実験的に推定する方法を記述し、独立変数と従属変数に色分けして下線をひこう。またその中で剰余変数になりそうな事象を書き出してみよう。分からない場合はColumn3を参考にしてください。【テキスト授業】

第5回　実験計画（1）（テキスト42～67ページ）テキストを読んで、面接におけるアイコンタクトの役割についての実験を計画しよう。その実験の独立変数をどのように操作するか、どのような点に気をつけるかを書きだそう。【テキスト授業】

第6回　実験計画（2）（テキスト68～78ページ）第5回で計画した実験の従属変数をいくつか書きだそう。それぞれの従属変数の補助仮説についても考えよう。【テキスト授業】

第7回　実験的研究（1）補助仮説、被験者内計画、被験者間計画、残留効果の対処について解説します。【メディア授業】

第8回　実験的研究（2）（テキスト105～112ページ）ミューラーリヤーの錯視の実験の例を使用しながら、カウンターバランスと無作為化についてノートにまとめよう。【テキスト授業】

第9回　観察的研究（1）（テキスト182～183、212～217、236～240、257～263ページ）観察的研究にはどのようなものがあるか、調査法、観察法、検査法、面接法の導入部分を読んで、ノートにまとめよう。【テキスト授業】

第10回　観察的研究（2）（テキスト182～283の当該個所）第9回で概観した観察的研究の中で興味をもった方法1つについて、具体的な方法や長所、短所、気をつけるべき点をまとめよう。【テキスト授業】

第11回　データの統計処理（1）記述統計と推測統計について解説します。【メディア授業】

第12回　データの統計処理（2）（テキスト314～327ページ）データの散らばりについて理解しよう。データの統計的処理において、なぜ散らばりを考慮する必要があるか、ノートにまとめよう。統計的検定の理論についてまとめよう。帰無仮説はどのようなものか、有意水準は何かということをおさえること。【テキスト授業】

第13回　実験結果の解釈（テキスト301～313ページ）実験的研究の限界についてふれたうえで、それでも実験を行う意義についてまとめよう。【テキスト授業】

第14回　研究倫理（テキスト175～179ページ）実験を行う際に、実験者が守るべき事柄、配慮すべき事柄についてノートにまとめよう。【テキスト授業】

第15回　授業のまとめ14回の学習の復習として、担当者が実施した実験的研究を紹介します。【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

心理学研究法－心を見つめる科学のまなざし－（有斐閣アルマ）

著者：　高野 陽太郎・岡 隆　編

出版社：（有斐閣）

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題　（ 100% ）　　授業中発表等　（ ）

参加度　（ ）

「授業中課題」は第6回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**行動分析学（通信）**

クラス	配当回生　通信2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　上北　朋子	

テーマ

こころを理解するための行動分析学：基礎から応用まで

授業の到達目標

こころを自然科学的にとらえる手法を提示した行動分析学の思想を理解する。そのうえで、この理論が教育、医療、福祉、および子育ての場面でいかに活用されうるかを学ぶ。

授業の概要

［メディア授業／6回＋テキスト授業／9回］

準備学習（予習・復習）

関連図書による自学自習

内　　容

第13回　応用行動分析(1)（テキスト202～222ページ）テキストのミルザとレナードの事例を読んで、ABCをノートに記述し、ミルザとレナードの反応の傾向がどのように違うかについて考えよう。【テキスト授業】

第14回　応用行動分析(2)（テキスト232～258ページ）行動を理解しようとする時、セラピストはどのような点に気をつけるのか、テキストを読んで理解したことをノートに書きだそう。【テキスト授業】

第15回　授業のまとめ前半のメディア授業で取り上げなかった後半のテーマについて重点的に復習をします。【メディア授業

第1回　行動分析学とは行動分析学で何を学ぶかについてオリエンテーションします。まず、行動分析学では、どのように心や行動をとらえているかについて解説します。【メディア授業】

第2回　学習理論：レスポンデント条件づけ(1)犬を被験体としたパブロフの実験は有名ですが、どのような実験か尋ねると「条件反射」という言葉は出てきても、それ以上の説明をするのは案外難しいものです。条件刺激、条件反応、無条件刺激、無条件反応、といった学習理論で必須の用語の解説をしたうえで、私たちの日常におけるレスポンデント条件づけについて例を挙げながら説明します。【メディア授業】

第3回　学習理論：レスポンデント条件づけ(2)レスポンデント条件付けにより獲得された情動反応やその消去について解説します。【メディア授業】

第4回　学習理論：オペラント条件づけ(1)行動分析学の核になる学習理論であるオペラント条件づけに付いて解説します。正の強化、負の強化、正の罰（弱化）、負の罰（弱化）について、日常例を取り上げて説明します。【メディア授業】

第5回　学習理論：オペラント条件づけ(2)オペラント条件づけにより学習された行動の般化、弁別、消去について解説します。【メディア授業】

第6回　行動分析学が生まれるまで 「こころ」と「行動」（テキスト25～33ページ）テキストを読んで、「行動」とは何を指しているか理解しよう。また、日常会話（家族や友人）の中の「行動」をノートに記述しよう。【テキスト授業】

第7回　学習理論：教科書による復習（テキスト97～104、124～129ページ）レスポンデント条件付けとオペラント条件付けの違いについて復習しよう。レスポンデント条件付けについて、p.103の具体例を図表(参照：p.98,図表4-1)を用いて記述しよう。もうひとつ日常生活における具体例を自分で考えて、同様に図表を用いて記述しよう。オペラント条件付けについては、p.126の行動に影響を与える4つのパターンについて、それぞれ日常生活の具体例を考えよう。【テキスト授業】

第8回　行動をつくる（テキスト129～137ページ）行動をつくる過程で、教えられる側と教える側でそれぞれどのような変化が起こっているだろうか。テキストの最もシンプルな例、犬にお座り（「すわるという行動」）の学習についてA（状況）B（行動）C（結果）の順にノートにまとめよう。さらに、1次強化子と条件性強化子についても理解しよう。【テキスト授

第9回　行動を操作する（テキスト70～75ページ）臨床的介入を行う時、どのような実施デザインがあるのか、ノートにまとめよう。またそのようなデザインを用いることの意義についても考えよう。【テキスト授業】

第10回　消去と回復（テキスト110～111、143～146ページ）レスポンデント条件付けとオペラント条件付けにおいて、消去とはどのような現象なのか、また行動を消しさることは可能か、についてノートにまとめよう。【テキスト授業】

第11回　般化、弁別、模倣（テキスト159～163ページ）般化と弁別の概念について理解し、日常生活の例をノートに書きだしてみよう。また、模倣による学習とルール支配行動どのようなものか、具体例を含めてノートにまとめよう。【テキスト授業】

第12回　言語行動（テキスト169～201ページ）言語のもつ力の新たな側面を発見しよう。p.174,p.175,p.179の太字の箇所は音読して、実際に試してみよう。【テキスト授業】

履修上の注意点

教科書

臨床行動分析のABC

著者：　ユーナス・ランメロ、ニコラス・トールネケ

出版社：（日本評論社）

出版年：　　ISBN：

参考書

e90202e350

行動の基礎

著者:　小野浩一　著

出版社:（培風館）

出版年:　　ISBN:

パフォーマンス・マネジメント—問題解決のための行動分析学

著者:　島宗理　著

出版社:（米田出版）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 50% ）　　小テスト （ 50% ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

小テストは第5回、第11回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**パーソナリティ心理学Ⅱ（通信）**

クラス	配当回生　通信2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ジェイムス　朋子.青木　剛	

テーマ

パーソナリティに関する精神分析の基礎理論と査定法の基礎

授業の到達目標

パーソナリティという構成概念、パーソナリティの発達、および、パーソナリティの査定理論について様々な理論背景を学んだ上で、本講義では、精神分析的なアプローチからのパーソナリティ理論を追求する。また、現代精神医学における臨床査定の基礎であるミロンによるパーソナリティ・スタイル理論とその査定の基礎を理解する。さらに、自身のパーソナリティを追求することを通じ、臨床的態度の一端を体験的に理解する。

授業の概要

[メディア授業／3回＋テキスト授業／12回]

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　精神分析的アプローチによるパーソナリティ理論―自我と自己－[ジェイムス]（テキスト86～92ページ12行目）【テキスト授業】
第2回　システム理論による人の理解[ジェイムス]（テキスト93ページ13行目～102ページ）【テキスト授業】
第3回　パーソナリティと発達[ジェイムス]（テキスト104～115ページ17行目）【テキスト授業】
第4回　パーソナリティと適応―ストレス／症候発達図式の考え方―[ジェイムス]（テキスト115ページ18行目～120ページ）【テキスト授業】
第5回　パーソナリティ査定理論の基礎[青木]【メディア授業】
第6回　質問紙法による特性論的パーソナリティ査定の体験と小レポート作成[青木]（PDFなどによる質問紙の提示　＊結果の算出と考察のポイントについて加える）【テキスト授業】
第7回　基礎理論のまとめ[ジェイムス]【メディア授業】
第8回　ミロンによるパーソナリティ・スタイル理論[ジェイムス]（テキスト122ページ10行目～130ページ7行目）【テキスト授業】
第9回　パーソナリティと病理[青木]（テキスト130ページ8行目～134ページ）【テキスト授業】
第10回　質問紙によるパーソナリティ・スタイル査定の体験と小レポート作成[ジェイムス]（PPTによる質問紙の提示　＊結果算出と考察のポイントについての配布資料）【テキスト授業】
第11回　パーソナリティと成熟－精神分析的アプローチから―[青木]（テキスト44～53ページ）【テキスト授業】
第12回　質問紙によるパーソナリティ・ファンクション査定の体験と小レポート作成[ジェイムス]（PDFによる質問紙の提示　＊結果算出と考察のポイントについての配布資料）【テキスト授業】
第13回　パーソナリティと変化―人間性心理学の立場から―[青木]（テキスト35～43ページ）【テキスト授業】
第14回　パーソナリティと変化の実際－カウンセリング事例から―[ジェイムス]（テキスト191～206ページ）【テキスト授業】
第15回　パーソナリティ理論と自分―まとめ―[ジェイムス]【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

ガイダンスとカウンセリング―指導から自己実現への共同作業
著者：　小谷英文　著
出版社：（北樹出版）
出版年：　　ISBN：

参考書

臨床心理学概説
著者：　田中富士夫　著
出版社：（北樹出版）
出版年：　　ISBN：

初めて学ぶパーソナリティ心理学
著者：　小塩真司　著
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：　　ISBN：

成績評価

e90202e410

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 100% ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ ）

「授業中課題」は、レポートを第6回・第10回・第12回の授業の後に課す。

2016 Syllabus

科 目 名　**対人援助論A（通信）**

クラス	配当回生　通信2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　中西　龍一.青木　剛	

テーマ

心理学的対人援助の基礎を学ぶ

授業の到達目標

心理学的対人援助の理論とスキルについて、C・ロジャーズの「来談者中心法（Client centered therapy）」に代表されるカウンセリングの理論、およびE・バーンによる「交流分析（Transactional Analysis）」の理論について理解する。また、ロジャーズがセラピストに求めた「受容」「共感」「自己一致」の態度や傾聴のスキル、バーンによる「交流」の視点を獲得する。

授業の概要

［メディア授業／3回＋テキスト授業／12回］

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　援助すること、されること［中西］【メディア授業】
第2回　受容・共感・自己一致［中西］【メディア授業】
第3回　カウンセリングの意味、カウンセリングとコンサルテーション、カウンセリングとケースワーク、カウンセリングとサイコセラピー、カウンセリングについて学んでください（カウンセリングとコンサルテーション、ケースワークとの違い）。［中西］（『カウンセリングの話』9～22ページ）【テキスト授業】
第4回　X理論とY理論、マズローの人間観、職業指導運動と人間観、精神衛生運動と人間観、ロジャーズの人間観、カウンセリングの人間観、歴史について学んでください。特にマズロー、ロジャーズの人間観は重要です。［中西］（『カウンセリングの話』25～51ページ）【テキスト授業】
第5回　人間行動と表現の枠組み、内容とプロセス、部分そして全体、理論の2つの柱「クライエントを理解するとは」について学んでください。［中西］（『カウンセリングの話』55～79ページ）【テキスト授業】
第6回　精神分析的カウンセリング、特性因子理論によるカウンセリング様々なカウンセリング理論（心理療法）に触れる。［中西］（『カウンセリングの話』83～95ページ）【テキスト授業】
第7回　来談者中心法、行動療法、論理療法、ゲシュタルト療法様々なカウンセリング理論（心理療法）に触れる。特に「来談者中心法」についてよく理解してください。（114～135ページの交流分析については、9回から14回［青木担当］で詳しく触れます）［中西］（『カウンセリングの話』96～114ページ）【テキスト授業】
第8回　家族カウンセリング、グループ・アプローチ、コミュニティ・アプローチ、新しいアプローチの展開対象を個人とするのではなく、家族、グループ、コミュニティーに拡げた対人援助論や、心理療法の統合、折衷について学んでください。［中西］（『カウンセリングの話』135～162ページ）【テキスト授業】
第9回　カウンセラー観、邪気のないこと＝本物であること、人間への畏敬の気持ちカウンセラーの人間観、特にロジャーズがカウンセラーに求めた3つの条件（態度）については、よく理解してください。［中西］（『カウンセリングの話』165～184ページ）【テキスト授業】
第10回　交流分析とは［青木］（『交流分析』1～35ページ11行目）交流分析の中心的な概念である主に3つの自我状態についてよく理解してください。【テキスト授業】
第11回　エゴグラム［青木］（『交流分析』35 12行目～51ページ）エゴグラムの読み方、それをどのように活用していくのかについてよく理解してください。【テキスト授業】
第12回　やりとり分析［青木］（『交流分析』52～95ページ）交流の種類や、その応用、また、やりとり（交流）の動機についても触れ、基本的構えについても理解してください。【テキスト授業】
第13回　ゲーム・人生脚本［青木］（『交流分析』96～155, 179～204ページ）「ゲーム」について理解し、その「ゲーム」へのアプローチを学びます。また、そこから展開されている人生脚本について理解してください。【テキスト授業】
第14回　再決断療法、フォーカシング［青木］（『交流分析』156～178ページおよび配付資料）「ゲーム」の原動力になっている「ラケット」の性質や成り立ちを理解し、そのアプローチとして、再決断療法とフォーカシングについて学びます。【テキスト授業】
第15回　対人援助論A, 来談者中心法と交流分析のまとめ［中西］【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

新版　カウンセリングの話
著者：　平木典子　著
出版社：（朝日新聞出版（朝日選書））
出版年：　　ISBN：
講座サイコセラピー第8巻　交流分析
著者：　杉田峰康　著
出版社：（日本文化科学社）
出版年：　　ISBN：

e90202e510

参考書

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 100% ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
「授業中課題」は第9回、第14回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**対人援助論B（通信）**

クラス　　配当回生　通信2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　松下　幸治

テーマ

心理・福祉・教育・医療等の種々の領域で展開されている「対人援助行為」について広く概観する。

授業の到達目標

「現場は学問のはるか先をいっている」という著者の実感を理解するとともに、「内面探求型アプローチ」「ネットワーク活用型アプローチ」「システム形成型アプローチ」の違いが理解できる。実際の心理臨床事例に触れることを通して「人のこころが楽になる」という臨床的事実が実感できる。ただし、具体事例の中には、俄かに信じがたく、かつ読む者の心すらしばしば辛くさせる可能性のある記述もみられるが、それもまた事実であることを理解する。

授業の概要

［テキスト授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　3種のアプローチについて考えてみよう（テキスト11～44ページ）
第2回　「節度ある押しつけがましさ」「健全なあきらめ」「体験様式、つきあい方、悩み方」といったキーワードを理解しよう（テキスト54～58ページ）
第3回　田嶌誠一という心理臨床家の人間性を味わってみよう（テキスト64～87ページ）
第4回　「密室カウンセリング」の効用と限界について考えてみよう（テキスト88～97ページ）
第5回　アセスメント（査定）を幅広く考えてみよう（テキスト98～121ページ）
第6回　ネットワークとコミュニティという視点から広く対人援助の在り方を考えよう（テキスト122～134ページ）
第7回　勉強すればするほどダメになる？（コラム①）、そこにいられるようになるだけで（コラム②）（テキスト135～141ページ）
第8回　田嶌誠一という心理臨床家の人間性を味わってみよう（その2）（テキスト144～156ページ）
第9回　強迫パーソナリティとの「つきあい方」の一例（テキスト157～177ページ）
第10回　青年期境界例との「つきあい方」（テキスト178～197ページ）
第11回　スクールカウンセラーの視点（テキスト198～210ページ）
第12回　ひきこもりへの援助の基本的視点（テキスト211～216ページ）
第13回　不登校の心理臨床の基本的視点（テキスト217～238ページ）
第14回　相談意欲のない不登校・ひきこもりとの「つきあい方」（テキスト239～257ページ）
第15回　不登校・ひきこもり生徒への家庭訪問の実際と留意点（テキスト258～279ページ）

履修上の注意点

教科書

現実に介入しつつ心に関わる
著者：　田嶌誠一　著
出版社：（金剛出版）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 100% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は第8回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**カウンセリング（通信）**

クラス	配当回生　通信2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　大久保　千恵	

テーマ

カウンセリングの理論についての基礎知識を習得し、カウンセリングの実践についての理解を深める

授業の到達目標

ストレス社会と言われる現代社会では、多くの人が様々な問題で悩んでいます。そうした悩み解決の一つの方法としして「カウンセリング」があります。本講義では、カウンセリングの基本的な知識を学び、実践現場の様子を知っていただきますが、カウンセリングの技法を用いた「話の聴き方」というのは、日常生活での人間関係を円滑にすることにも役立つものです。したがって、こころの問題やカウンセリングの技法について専門的な知識のを習得していただくとともに、自己理解を深め、日常場面でも役立つことを目指します。

授業の概要

［メディア授業／全15回］

授業内容の資料をダウンロードして授業に臨んでください

準備学習（予習・復習）

社会で起きいてる人のこころに関わる問題に目を向けてください。

授業後の復習をしっかり行い、疑問に思ったことやわからないことは自分で調べたり、積極的に質問をしたりするようにしてください。

ご紹介した参考書籍を読んでみてください。

内　容

第1回　オリエンテーションカウンセリングとはカウンセリングの定義と目的
第2回　カウンセリングの理論と技法Ⅰ　クライアント中心療法①カール・ロジャーズの生涯とクライエント中心療法
第3回　カウンセリングの理論と技法Ⅰ　クライアント中心療法②クライエント中心療法の基本的な考え方
第4回　カウンセリングの理論と技法Ⅰ　クライアント中心療法③クライエント中心療法の基本的な考え方
第5回　カウンセリングの理論と技法Ⅱ　精神分析的心理療法
第6回　カウンセリングの理論と技法Ⅲ　認知行動論的立場に立つカウンセリング・問題解決志向的立場に立つカウンセリング・折衷的立場に立つカウンセリング
第7回　カウンセリングの段階とプロセス①カウンセリングの初期
第8回　カウンセリングの段階とプロセス②カウンセリングの中期
第9回　カウンセリングの段階とプロセス①カウンセリングの後期
第10回　カウンセリングの実践①医療におけるカウンセリング
第11回　カウンセリングの実践②学校におけるカウンセリング
第12回　カウンセリングの実践③発達臨床におけるカウンセリング
第13回　カウンセリングの実践④産業領域におけるカウンセリング
第14回　日常に役立つカウンセリング①カウンセリングマインド・認知療法
第15回　日常に役立つカウンセリング②アサーショントレーニング

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

カウンセリングプロセスハンドブック
著者:　福島脩美・田上不二夫・沢崎達夫・諸富祥彦　編
出版社:（金子書房）
出版年:　　ISBN:

e90202e710

カウンセリング・心理療法の基礎（有斐閣アルマ）
著者:　金沢吉展　編
出版社:（有斐閣）
出版年:　　ISBN:

新版 カウンセリングの話（朝日選書）
著者:　平木典子　著
出版社:（朝日新聞社）
出版年:　　ISBN:

新しいカウンセリングの技法
著者:　諸富祥彦　著
出版社:（誠信書房）
出版年:　　ISBN:

カウンセリングを学ぶ　第2版　理論・体験・実習
著者:　佐治守夫・岡村達也・保坂了　編
出版社:（東京大学出版会）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は、第6回と第12回の後にレポートを課します。

2016 Syllabus

科 目 名　**グループワークⅠ（6月26日）（通信）**

クラス	配当回生　通信2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　滝野　功久.青木　剛.井上　裕樹.濱田　智崇.宮川　貴美子	

テーマ

人間はグループとの関わりなしでは育たないし生きられない。集団と一体になる高揚と魅力、同時に集団からの排除や差別を生み出す魔力、集団の中で学んで行く考え方や感受性、こうしたこと全てに関わる集団についての理解を深めるために、いくつかの体験学習とその振り返りを行う。コミュニケーションの失敗やすれ違いを個人や集団の成長に役立てることができるためには、どうしたらいいか？こういったことも一緒に考えて行きたい。

授業の到達目標

感性を養い豊かに感じることと、それをより適切に相手に伝えることができるようになる。コミュニケーション、特に人と人とのコミュニケーションのなかで育っていく個と集団の心の動きをさまざまな実験的あるいは創造的なグループ活動を通して学ぶ。個人と集団のなかで起きることのなかで、どのような課題と可能性が生まれてくるかについて、観点の違いによって大きく変わることを気づき、それをグループのなかで共有できるようになる。

授業の概要

［スクーリング授業／5回＋テキスト授業／10回］

準備学習（予習・復習）

【重要】体験学習が基本としてあるので、まずは体験学習であるスクーリングに参加して、その後の吟味検討を含む振り返りのために、テキスト学習を活かすと考えてください。但し、スケジュール11回～13回に記載されているメッセージ（テキスト指定部分ではなく）は、ぜひ読んでスルーリングに臨むのがいいでしょう。 スクーリングでの体験学習は、いくつかのグループに分かれてそれぞれ独自な展開をしますので、テキストに書かれていることとは、関連のことが前後したり、直接繋がっていなかったり、あるいは全く無関係のことがあったりと、さまざまです。しかし、スクーリングの後に、指定されているところ以外でも関連すると思われるところをあちこちとさがして、是非ゆっくり読んでみてください。グループでの体験の振り返り理解を深めるには大いに役に立つところがきっと見つかると思います。グループには様々な形態があります。テキスト学習では、基本的なグループの一つTグループを中心に学んで下さい。テキストから得られる知識や気づきは、様々なグループの中でも重要な要素となります。

内　　容

第1回　対人関係トレーニングと集団力動理解のためのグループワークA①【スクーリング授業】
第2回　対人関係トレーニングと集団力動理解のためのグループワークA②【スクーリング授業】
第3回　対人関係トレーニングと集団力動理解のためのグループワークA③【スクーリング授業】
第4回　対人関係トレーニングと集団力動理解のためのグループワークB①【スクーリング授業】
第5回　対人関係トレーニングと集団力動理解のためのグループワークB②【スクーリング授業】
第6回　以下、指定する箇所は、グループ体験を振り返るための特に意味のある最小限のものです。
体験学習がねらうこと、その循環過程・ステップについて理解します。（テキスト1～11ページ）【テキスト授業】
第7回　体験やそれによる気づきを記録せず、そのままにしておくことは、とても「もったいない」ことです。学びや気づきを深めるためにも、グループ体験の後はジャーナル（記録）をつけられることを強くおすすめします。（テキスト21～23ページ）人間関係トレーニングの視点から、家族をふり返ってみましょう。（テキスト32～35ページ）【テキスト授業】
第8回　プロセスとコンテントについて学んで下さい。（テキスト42～47ページ）フィードバックは、グループワークのふり返り、シェアリング（分かち合い）に欠かせないものです。上手なフィードバックの仕方を学んで下さい。（テキスト66～68ページ）【テキスト授業】
第9回　ロジャーズの「傾聴」に触れる―コミュニケーションの基本である傾聴について学び、それを身につけて下さい。（テキスト80～88ページ）【テキスト授業】
第10回　アイビーのマイクロカウンセリングに触れる―コミュニケーションの基本である傾聴について学び、それを身につけて下さい。（テキスト89～96ページ）【テキスト授業】
第11回　感情に「よい感情」、「悪い感情」といったものはなく、感情は生きていることの証です。感情について学んで下さい。（テキスト97～99ページ）日常の言葉によるコミュニケーションをもう一度ふり返ってみて下さい。（テキスト100～103ページ）時として態度や姿勢は、言葉より正直に、そして雄弁にその人の有り様を語ります。非言語コミュニケーションについて学んで下さい。（テキスト104～107ページ）【テキスト授業】
第12回　「からだをひらく」「ことばをひらく」について学んで下さい。（テキスト108～111ページ）自己概念と経験について学んで下さい。その際21、22, 23, 24をもう一度読み直して下さい。（テキスト112～115ページ）【テキスト授業】
第13回　暗黙のルール「規範（ノーム）」について学んで下さい。（テキスト48～51ページ）集団における様々な意思決定について学んで下さい。（テキスト52～53ページ）【テキスト授業】
第14回　集団におけるリーダーシップについて学んで下さい。（テキスト54～57ページ）―「変わる」ためには―　社会的相互作用の循環過程について学んで下さい。（テキスト58～61ページ）【テキスト授業】
第15回　ご自分の「ジョハリの窓」を作って下さい。身近な人に、その人から見たあなたの「ジョハリの窓」を作ってもらい、比較するのも面白いかもしれません。（テキスト62～65ページ）【テキスト授業】

履修上の注意点

教科書

人間関係トレーニング（第2版）

著者：　津村俊充・山口真人　編

e90202e811

出版社:（ナカニシヤ出版）

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 50% ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 50% ）

「授業中課題」はテキスト授業のレポート1回25%、スクーリング授業のグループワークのふりかえり25%で評価する

2016 Syllabus

科 目 名　**グループワークⅡ（7月10日）（通信）**

クラス	配当回生　通信2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　滝野　功久.宮川　貴美子.青木　剛.濱田　智崇.井上　裕樹	

テーマ

人間はグループとの関わりなしでは育たないし生きられない。集団と一体になる高揚と魅力、同時に集団からの排除や差別を生み出す魔力、集団の中で学んで行く考え方や感受性、こうしたこと全てに関わる集団についての理解を深めるために、いくつかの体験学習とその振り返りを行う。コミュニケーションの失敗やすれ違いを個人や集団の成長に役立てることができるためには、どうしたらいいか？こういったことも一緒に考えて行きたい。

授業の到達目標

感性を養い豊かに感じることと、それをより適切に相手に伝えることができるようになる。コミュニケーション、特に人と人とのコミュニケーションのなかで育っていく個と集団の心の動きをさまざまな実験的あるいは創造的なグループ活動を通して学ぶ。個人と集団のなかで起きることのなかで、どのような課題と可能性が生まれてくるかについて、観点の違いによって大きく変わることを気づき、それをグループのなかで共有できるようになる。

授業の概要

［スクーリング授業／5回＋テキスト授業／10回］

準備学習（予習・復習）

【重要】体験学習が基本としてあるので、まずは体験学習であるスクーリングに参加して、その後の吟味検討を含む振り返りのために、テキスト学習を活かすと考えてください。スクーリングでの体験学習は、いくつかのグループに分かれてそれぞれ独自な展開をしますので、テキストに書かれていることとは、関連のことが前後したり、直接繋がっていなかったり、あるいは全く無関係のことがあったりと、さまざまです。しかし、スクーリングの後に、指定されているところ以外でも関連すると思われるところをあちこちとさがして、是非ゆっくり読んでみてください。グループでの体験の振り返り理解を深めるには大いに役に立つところがきっと見つかると思います。グループには様々な形態があります。テキスト学習では、基本的なグループの一つTグループを中心に学んで下さい。テキストから得られる知識や気づきは、様々なグループの中でも重要な要素となります。

内　　容

第1回　対人関係トレーニングと集団力動理解のためのグループワークD①【スクーリング授業】
第2回　対人関係トレーニングと集団力動理解のためのグループワークD②【スクーリング授業】
第3回　対人関係トレーニングと集団力動理解のためのグループワークD③【スクーリング授業】
第4回　対人関係トレーニングと集団力動理解のためのグループワークE①【スクーリング授業】
第5回　対人関係トレーニングと集団力動理解のためのグループワークE②【スクーリング授業】
第6回　Tグループについて学んで下さい。（テキスト12～16ページ）「枠」について学んで下さい。（テキスト17～20ページ）【テキスト授業】
第7回　体験学習について学んで下さい。（テキスト24～27ページ）組織内研修について学んで下さい。（テキスト28～31ページ）【テキスト授業】
第8回　グループの発達について学んで下さい。（テキスト69～74ページ）グループ、組織について学んで下さい。（テキスト75～79ページ）【テキスト授業】
第9回　個と集団について考えてみましょう。（テキスト120～123ページ）言葉に少しこだわってみましょう。（テキスト124～130ページ）【テキスト授業】
第10回　体験を語ること（ナラティブ・アプローチ）の重要性について学んで下さい。（テキスト147～151ページ）自己に問う「自分とは、人間とは、誰か」（テキスト152～154ページ）【テキスト授業】
第11回　収容所での体験を綴った著書「夜と霧」で有名なフランクルの「態度価値」と「責任性存在」について学んで下さい。（テキスト155～158ページ）【テキスト授業】
第12回　地域社会における支援活動・ボランティアについて考えてみましょう。（テキスト131～135ページ）グループアプローチから、学校教育における予防的・開発的アプローチについて考えてみましょう。（テキスト136～139ページ）【テキスト授業】
第13回　やる気のない参加者につきあうことで、自分の中に見えてくること。（テキスト140～143ページ）「援助」することについて考えてみましょう。（テキスト144～146ページ）【テキスト授業】
第14回　外の世界をどの様に見ているか（観察、想像、解釈）について学んで下さい。（テキスト116～119ページ）

我と汝。対話の中にこそ、気づきが生まれ変化が生じます。（テキスト159～162ページ）
第15回　グループが生まれた土壌であるキリスト教的人間観と学びについて学んで下さい。（テキスト36～39ページ）グループが生まれた土壌であるキリスト教的人間観とTグループについて学んで下さい。（テキスト40～41ページ）

以降は、実際にグループを実施する際の心得や、覚え書きとなっています。興味のある方はお読み下さい。（テキスト162～189ページ）【テキスト授業】

履修上の注意点

教科書

人間関係トレーニング（第2版）
著者：　津村俊充・山口真人　編
出版社：（ナカニシヤ出版）

e90202e911

出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 50% ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 50% ）

「授業中課題」はテキスト授業のレポート1回25%、スクーリング授業のグループワークのふりかえり25%で評価する

2016 Syllabus

科 目 名　**グループワークⅢ（10月30日）（通信）**

クラス	配当回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者	

テーマ

人間はグループとの関わりなしでは育たないし生きられない。集団と一体になる高揚と魅力、同時に集団からの排除や差別を生み出す魔力、集団の中で学んで行く考え方や感受性、こうしたこと全てに関わる集団についての理解を深めるために、いくつかの体験学習とその振り返りを行う。コミュニケーションの失敗やすれ違いを個人や集団の成長に役立てることができるためには、どうしたらいいか？こういったことも一緒に考えて行きたい。

授業の到達目標

感性を養い豊かに感じることと、それをより適切に相手に伝えることができるようになる。コミュニケーション、特に人と人とのコミュニケーションのなかで育っていく個と集団の心の動きをさまざまな実験的あるいは創造的なグループ活動を通して学ぶ。個人と集団のなかで起きることのなかで、どのような課題と可能性が生まれてくるかについて、観点の違いによって大きく変わることを気づき、それをグループのなかで共有できるようになる。

授業の概要

［スクーリング授業／5回＋テキスト授業／10回］

準備学習（予習・復習）

【重要】体験学習が基本としてあるので、まずは体験学習であるスクーリングに参加して、その後の吟味検討を含む振り返りのために、テキスト学習を活かすと考えてください。スクーリングでの体験学習は、いくつかのグループに分かれてそれぞれ独自な展開をしますので、テキストに書かれていることとは、関連のことが前後したり、直接繋がっていなかったり、あるいは全く無関係のことがあったりと、さまざまです。しかし、スクーリングの後に、指定されているところ以外でも関連すると思われるところをあちこちとさがして、是非ゆっくり読んでみてください。グループでの体験の振り返り理解を深めるには大いに役に立つところがきっと見つかると思います。グループには様々な形態があります。テキスト学習では、基本的なグループの一つTグループを中心に学んで下さい。テキストから得られる知識や気づきは、様々なグループの中でも重要な要素となります。

内　　容

第1回　対人関係トレーニングのためのグループワークG①【スクーリング授業】
第2回　対人関係トレーニングのためのグループワークG②【スクーリング授業】
第3回　対人関係トレーニングのためのグループワークG③【スクーリング授業】
第4回　対人関係トレーニングのためのグループワークH①【スクーリング授業】
第5回　対人関係トレーニングのためのグループワークH②【スクーリング授業】
第6回　対人関係トレーニングのためのグループワーク（1）【テキスト授業】
第7回　対人関係トレーニングのためのグループワーク（2）【テキスト授業】
第8回　対人関係トレーニングのためのグループワーク（3）【テキスト授業】
第9回　対人関係トレーニングのためのグループワーク（4）【テキスト授業】
第10回　対人関係トレーニングのためのグループワーク（5）【テキスト授業】
第11回　対人関係トレーニングのためのグループワーク（6）【テキスト授業】
第12回　対人関係トレーニングのためのグループワーク（7）【テキスト授業】
第13回　対人関係トレーニングのためのグループワーク（8）【テキスト授業】
第14回　対人関係トレーニングのためのグループワーク（9）【テキスト授業】
第15回　対人関係トレーニングのためのグループワーク（10）【テキスト授業】

履修上の注意点

教科書

ナラティヴ・セラピーって何？
著者：　アリス・モーガン　著
出版社：（金剛出版）
出版年：　　ISBN：
ワークショップ－新しい学びと創造の場－（岩波新書）
著者：　中野民夫　著
出版社：（岩波書店）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

e90202f050

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 50% ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ 50% ）

「授業中課題」はテキスト授業のレポート1回25%、スクーリング授業のグループワークのふりかえり25%で評価する

2016 Syllabus

科 目 名　グループワークⅣ（11月19・20日）（通信）

クラス	配当回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者	

テーマ

人間はグループとの関わりなしでは育たないし生きられない。集団と一体になる高揚と魅力、同時に集団からの排除や差別を生み出す魔力、集団の中で学んで行く考え方や感受性、こうしたこと全てに関わる集団についての理解を深めるために、いくつかの体験学習とその振り返りを行う。コミュニケーションの失敗やすれ違いを個人や集団の成長に役立てることができるためには、どうしたらいいか？こういったことも一緒に考えて行きたい。

授業の到達目標

感性を養い豊かに感じることと、それをより適切に相手に伝えることができるようになる。コミュニケーション、特に人と人とのコミュニケーションのなかで育っていく個と集団の心の動きをさまざまな実験的あるいは創造的なグループ活動を通して学ぶ。個人と集団のなかで起きることのなかで、どのような課題と可能性が生まれてくるかについて、観点の違いによって大きく変わることを気づき、それをグループのなかで共有できるようになる。

授業の概要

［スクーリング授業／10回＋テキスト授業／5回］

準備学習（予習・復習）

【重要】体験学習が基本としてあるので、まずは体験学習であるスクーリングに参加して、その後の吟味検討を含む振り返りのために、テキスト学習を活かすと考えてください。スクーリングでの体験学習は、いくつかのグループに分かれてそれぞれ独自な展開をしますので、テキストに書かれていることとは、関連のことが前後したり、直接繋がっていなかったり、あるいは全く無関係のことがあったりと、さまざまです。しかし、スクーリングの後に、指定されているところ以外でも関連すると思われるところをあちこちとさがして、是非ゆっくり読んでみてください。グループでの体験の振り返り理解を深めるには大いに役に立つところがきっと見つかると思います。グループには様々な形態があります。テキスト学習では、基本的なグループの一つTグループを中心に学んで下さい。テキストから得られる知識や気づきは、様々なグループの中でも重要な要素となります。

内　　容

第1回　対人関係トレーニングのためのグループワークJ①【スクーリング授業】
第2回　対人関係トレーニングのためのグループワークJ②【スクーリング授業】
第3回　対人関係トレーニングのためのグループワークJ③【スクーリング授業】
第4回　対人関係トレーニングのためのグループワークK①【スクーリング授業】
第5回　対人関係トレーニングのためのグループワークK②【スクーリング授業】
第6回　対人関係トレーニングのためのグループワークK③【スクーリング授業】
第7回　対人関係トレーニングのためのグループワークL①【スクーリング授業】
第8回　対人関係トレーニングのためのグループワークL②【スクーリング授業】
第9回　対人関係トレーニングのためのグループワークL③【スクーリング授業】
第10回　対人関係トレーニングのためのグループワークまとめ【スクーリング授業】
第11回　対人関係トレーニングのためのグループワーク（1）【テキスト授業】
第12回　対人関係トレーニングのためのグループワーク（2）【テキスト授業】
第13回　対人関係トレーニングのためのグループワーク（3）【テキスト授業】
第14回　対人関係トレーニングのためのグループワーク（4）【テキスト授業】
第15回　対人関係トレーニングのためのグループワーク（5）【テキスト授業】

履修上の注意点

教科書

ナラティヴ・セラピーって何？
著者：　アリス・モーガン　著
出版社：（金剛出版）
出版年：　　ISBN：
ワークショップ－新しい学びと創造の場－（岩波新書）
著者：　中野民夫　著
出版社：（岩波書店）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

e90202f150

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 50% ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ 50% ）

「授業中課題」はテキスト授業のレポート1回25%、スクーリング授業のグループワークのふりかえり25%で評価する

2016 Syllabus

科 目 名　**コミュニケーションとアート（通信）**

クラス　　配当回生　通信2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　羽下　大信.松下　孝江

テーマ

アートとコミュニケーションの関係とその可能性について探求する

授業の到達目標

アートを使って、コミュニケーションの新たな可能性について学ぶ。

授業の概要

[メディア授業／2回＋テキスト授業／13回]何かを見た時に、「何でこれがアートなの？」という素朴な疑問がわいたところから、既に私たちと「アート作品」との豊かな交流が始まっている。その人の中に生じる連想・気分・身体の感覚そのものが「アート」になりうる。これはアメリア・アレナスの考えを基にしたものである。授業ではテキストを読み進めながら、アートとコミュニケーションの関係とその可能性について体験的に深めてゆく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　コミュニケーション・ツールとしてのアートコミュニケーションに正解はない。アートも。（テキスト「はじめに」5～7ページ、「本書に寄せて」194～195ページも合わせて読んでください）【メディア授業】
第2回　アートの神話（テキスト26～39ページ）【テキスト授業】
第3回　「開かれた作品」の出現（テキスト40～54ページ）【テキスト授業】
第4回　やんちゃな抽象（1）（テキスト55～62ページ）【テキスト授業】
第5回　やんちゃな抽象（2）（テキスト62～68ページ）【テキスト授業】
第6回　きまじめな抽象（1）（テキスト69～79ページ）【テキスト授業】
第7回　開かれた応答，閉じられた応答の練習をしよう。【メディア授業】きまじめな抽象（2）（テキスト79～88ページ）【テキスト授業】
第8回　そんなに新しくはない－モダンと伝統（1）（テキスト114～123ページ）【テキスト授業】
第9回　そんなに新しくはない－モダンと伝統（2）（テキスト124～134ページ）【テキスト授業】
第10回　マリリンからマドンナへ－メディアとアート（1）（テキスト135～142ページ）【テキスト授業】
第11回　マリリンからマドンナへ－メディアとアート（2）（テキスト142～149ページ）【テキスト授業】
第12回　「物は語る」（1）（テキスト150～161ページ）【テキスト授業】
第13回　「物は語る」（2）（テキスト161～170ページ）【テキスト授業】
第14回　内なる私／外なる私（テキスト171～188ページ）【テキスト授業】
第15回　コミュニケーション；あなたとあなた，あなたと他者レポートをまとめる際のヒントを提示します。【メディア授業】終章（テキスト189～193ページ）【テキスト授業】

履修上の注意点

教科書

なぜ、これがアートなの？
著者：　アメリア・アレナス著
出版社：（淡交社）
出版年：　　ISBN：

参考書

みる・かんがえる・はなす
著者：　アメリア・アレナス　著・木下哲夫　訳
出版社：（淡交社）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 100% ）　　授業中発表等　（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は第4回、第9回、第15回の後にレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**社会心理学Ⅱ（通信）**

クラス　　配当回生　通信2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　　前田　洋光

テーマ

対人関係、対人行動、集団行動

授業の到達目標

本講では、社会心理学Ⅰの内容を踏まえた上で、特に対人関係・集団行動を中心に論考していく。理論の習得はもちろんのことながら、受講者にとってきわめて身近なテーマであるため、日常生活と照らし合わせて考えることによって、「よりよい人間関係」「自分にとってより望ましいこれからの生き方」を考えることも目的とする。

授業の概要

［メディア授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　イントロダクション
第2回　援助行動
第3回　攻撃行動
第4回　対人関係の諸相
第5回　恋愛
第6回　対人葛藤、社会的ジレンマ
第7回　ソーシャルサポート
第8回　集団と個人
第9回　集団行動
第10回　集団間関係
第11回　リーダーシップ
第12回　群集行動
第13回　流言・デマ
第14回　流行
第15回　まとめと確認

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

新編社会心理学 改訂版
著者：　堀洋道　監修
出版社：（福村出版）
出版年：　　ISBN：

グラフィック 社会心理学
著者：　池上知子・遠藤由美　著
出版社：（サイエンス社）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（ 50% ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）
小テストは第7回、第14回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**産業心理学Ⅰ（組織行動論）（通信）**

クラス	配当回生　通信2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　石田　正浩	

テーマ

よりよい組織を作るために必要な心理学的な視点を獲得する。

授業の到達目標

組織において人を動かす上で生じる問題を、心理学的な観点から適切に理解し、効果的な対処が考えられるようになる。現在進行中の働きかたの変化に対しても、その心理学的な意味を理解・説明できるようになる。

授業の概要

[メディア授業／全15回]組織に生きる人々の心理・行動の問題として、ワークモチベーション・集団生産性・リーダーシップ・ストレスを取り上げ、心理学的な人間理解とはどのようなものかを学ぶ。自分が所属する集団での経験を参照できるように身近な事例を多く取り入れて講義する。

準備学習（予習・復習）

自分が所属している（した）集団での経験を振り返り、概念の意味を実感する。

内　　容

第1回　組織行動論・組織心理学とは
第2回　ワーク・モチベーション1　基本概念、欲求階層理論
第3回　ワーク・モチベーション2　２要因理論と達成動機づけ
第4回　ワーク・モチベーション3　内発的動機づけ
第5回　ワーク・モチベーション4　公平理論・期待理論・目標設定理論
第6回　応用行動分析
第7回　ワークモチベーション理論と実践　目標管理・成果主義・ジョブデザイン
第8回　集団生産性1　基本的な枠組み、社会的促進、規範の影響
第9回　集団生産性2　シュタイナーの課題分類と生産性
第10回　集団生産性3　集団意思決定
第11回　リーダーシップ1　リーダーシップとは、特性論、行動論
第12回　リーダーシップ2　条件即応理論
第13回　リーダーシップ3　変革型リーダーシップ理論、LMX
第14回　組織ストレス1　組織ストレス理解の基本的枠組み、ラザルスのストレス理論
第15回　組織ストレス2　バーンアウト、ストレスの管理

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

産業・組織心理学エッセンシャルズ　改訂三版
著者:　田中堅一郎編
出版社:（ナカニシヤ出版）
出版年:　2011　　ISBN:

新版　組織行動のマネジメント
著者:　スティーブン P. ロビンス著、高木春夫訳
出版社:（ダイヤモンド社）
出版年:　2009　　ISBN:

心理学の世界　基礎編10　組織心理学
著者:　古川久敬
出版社:（培風館）
出版年:　2011　　ISBN:

e90202f510

成績評価

試験 （ 40% ）　小テスト（ 60% ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
小テストは第5回、第10回、第15回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**産業心理学Ⅱ（消費者行動論）（通信）**

クラス	配当回生　通信2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　永野 光朗	

テーマ

消費と広告の心理学

授業の到達目標

心理学研究に基づいて消費者の心理・行動についての客観的理解を深める。このような理解は自身の消費生活の向上に寄与し、同時に企業人としての能力を高めるであろう。

授業の概要

[メディア授業／全15回]企業が実施している広告戦略や販売促進活動の実例をあげながら、企業が消費者の心理・行動をどのように理解しているのかを心理学理論をベースにしながら考察する。

準備学習（予習・復習）

消費者としての自分自身のあり方を振り返り、その心理や行動についての素朴な疑問（なぜ消費者はこんな商品に惹かれるのか？なぜ消費者はこんなときにこんな行動をとってしまうのか？）をつねに持ちながら授業に臨んで欲しい。このような疑問を思いつく限りメモ書きにしておくこと。

内　容

第1回　消費者行動研究の目的と意義
第2回　消費者の購買意思決定過程①（EBMモデルの紹介）
第3回　消費者の購買意思決定過程②（ブランド選択過程を中心にして）
第4回　消費者の購買意思決定過程③（購買意思決定の類型・購買後の心理的過程）
第5回　価格の心理学①（価格の心理的機能）
第6回　価格の心理学②（心理的財布理論）
第7回　価格の心理学③（行動経済学・プロスペクト理論）
第8回　広告の社会心理学①（広告の機能・広告効果モデル・タレント起用広告）
第9回　広告の社会心理学②（専門家起用広告・恐怖喚起広告）
第10回　広告の社会心理学③（弱点開示広告・比較広告）
第11回　販売場面における説得のテクニック①（foot in the door techniqueなど）
第12回　販売場面における説得のテクニック②（Cialdiniの影響力の武器）
第13回　店舗内の消費者行動①（店舗内行動の類型）
第14回　店舗内の消費者行動②（店舗内における販売促進の方法）
第15回　ブランドと消費者行動

履修上の注意点

教科書

新・消費者理解のための心理学
著者：　杉本徹雄　編著
出版社：（福村出版）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 40% ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 60% ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

「授業中課題」は第4回、第10回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**発達心理学Ⅱ（通信）**

クラス　　配当回生　通信2回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　「発達心理学Ⅰ」を修得済みであること　　クラス指定

担 当 者　中村 和夫

テーマ

L.S.Vygotskyの「高次心理機能の文化-歴史的理論」の理解

授業の到達目標

L.S.Vygotskyの「高次心理機能の文化-歴史的理論」を構成する2つの重要な概念である「最近接発達の領域」と「内言」の概念の理解を通して、Vygotskyの心理学理論の本質的内容について理解すること。

授業の概要

［メディア授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

Vygotskyの心理学理論の関連図書による自学自習

内　容

第1回　Vygotskyの略歴とその理論の概要
第2回　Vygotsky理論の三つの柱－その1－
第3回　Vygotsky理論の三つの柱－その2－
第4回　Vygotsky理論の三つの柱－その2つづき－
第5回　Vygotsky理論の三つの柱－その3－
第6回　最近接発達の領域とは何か
第7回　学校教育における教授の役割
第8回　科学的概念の発達と自覚性・随意性の発達
第9回　複合的思考と概念的思考
第10回　書き言葉の発達
第11回　言葉の様相的側面と意味的側面
第12回　言葉の意義（語義）と「意味」
第13回　内言の意味論の特質
第14回　内言の「意味」の実体としてのイメージ
第15回　イメージの運動と「意味」の作用

履修上の注意点

教科書

ヴィゴーツキー心理学　完全読本ー「最近接発達の領域」と「内言」の概念を読み解くー
著者：　中村和夫　著
出版社：（新読書社）
出版年：　　ISBN：

参考書

ヴィゴーツキーに学ぶ　子どもの想像と人格の発達
著者：　中村和夫　著
出版社：（福村出版）
出版年：　　ISBN：

ヴィゴーツキー理論の神髄－なぜ文化-歴史的理論なのかー
著者：　中村和夫　著
出版社：（福村出版）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 100% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「最近接発達の領域」をめぐる講義内容、「内言の意味論」をめぐる講義内容ごとに小テストを実施し、それらの成績を総合して評価をおこなう。

e90202f750

2016 Syllabus

科 目 名　**学習心理学（通信）**

クラス　　配当回生　通信2回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　坂本　敏郎

テーマ

学習と記憶の心理学に関わる諸理論の理解

授業の到達目標

古典的条件づけ、オペラント条件づけを中心に、様々な学習の種類（報酬学習、運動学習、逃避・回避学習、空間認知学習）とその理論を理解する。学習・記憶を担う神経回路を理解し、学習障害、記憶障害、認知障害のメカニズムについても考察する。

授業の概要

［メディア授業／全15回］授業の目的を達成するよう、テキストに沿って講義を行う。

準備学習（予習・復習）

学習心理学関連図書による自学自習

内　　容

第1回　学習研究の方法／馴化と鋭敏化
第2回　古典的条件づけ1：基本的特徴
第3回　古典的条件づけ2：信号機能
第4回　古典的条件づけ3：学習内容と発現システム
第5回　古典的条件づけの脳内機構（恐怖条件づけ、瞬目反射条件づけ）
第6回　オペラント条件づけ1：基本的特徴
第7回　オペラント条件づけ2：強化スケジュール
第8回　オペラント条件づけ3：刺激性制御
第9回　オペラント条件づけの脳内機構（空間学習）
第10回　選択行動、マッチング
第11回　観察学習、運動技能の学習
第12回　概念学習、問題解決行動
第13回　学習と記憶（学習障害、認知障害）
第14回　動物の認知学習
第15回　授業のまとめ

履修上の注意点

教科書

学習の心理
著者：　実森正子・中島定彦　著
出版社：（サイエンス社）
出版年：　　ISBN：

参考書

メイザーの学習と行動
著者：　ジェームズ・E. メイザー　著
出版社：（二瓶社）
出版年：　　ISBN：

動物の認知学習心理学
著者：　J.M.ピアース　著
出版社：（北大路書房）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 60% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は第5回、第10回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**教育心理学（通信）**

クラス　　配当回生　通信2回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　中村 和夫

テーマ

学校教育における子どもの発達と教育との関係の理解

授業の到達目標

教育心理学についての基礎的知識を理解すること。および子どもの発達にとって学校教育の持つ重要な意味を、学校での基本的教育活動との関係において理解できるようになること。

授業の概要

［メディア授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

教育心理学関連の参考書の自学自習。

内　容

第1回　教育心理学の基本領域－教育とは何か、発達とは何か－
第2回　発達の規定要因
第3回　発達における初期経験の重要性、発達の可塑性
第4回　発達と教育の関係、発達のプロセス－ピアジェの知能の発達段階論－
第5回　発達のプロセス－フロイトの心理・性的発達段階論、エリクソンの心理・社会的発達段階論－
第6回　学習の基礎過程－連合説－
第7回　学習の基礎過程－認知説－
第8回　教科学習の前提
第9回　学習の動機づけ
第10回　知識獲得及び問題解決のメカニズム
第11回　発見学習と有意味受容学習
第12回　集団準拠評価
第13回　目標準拠評価
第14回　指導要録の実際と問題
第15回　その他学力以外の評価

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

授業中に適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 100% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「発達」の領域、「学習」の領域、「教育評価」の領域ごとに小テストを実施し、それらの成績を総合して評価をおこなう。

2016 Syllabus

科 目 名　**死生学（通信）**

クラス	配当回生　通信2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　松下　幸治.上鹿渡　和宏.滝野　功久	

テーマ

「死」との向き合い方を通して今「生きていること」あるいは「生きること」に対する、より深くイメージできること、理解できることについて考える。

授業の到達目標

すべての人間が平等に経験する「死」を眺め、向き合い、そしてそれについてより豊かに思い巡らせることを通して、「生きる」ないし「生きている」という営みを考える。「生」と「死」という二項対立的発想を越えて、その二項が包含する領域にこそ真に生きた人間関係が存在し、真に生きた宗教性が存在することを共に考え、たましいのありように接近する。

授業の概要

［テキスト授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　「私の死」とは何か～「神話の知」について考えてみよう［松下幸］（『対話する生と死』21～24ページ）
第2回　死後の生命～「無」の中の「有」、自分の全存在をかけた知としての死［松下幸］（『対話する生と死』25～32ページ）
第3回　静寂と死～人が静寂を感じるとき［松下幸］（『対話する生と死』33～45ページ）
第4回　西洋的自我と東洋的自我～「いかに死ぬか」に答える文化［松下幸］（『対話する生と死』210～224ページ）
第5回　宗教を見直してみる～「死」に対する自然科学的知の限界［松下幸］（『対話する生と死』238～250ページ）
第6回　新しい死生観～「生」と「死」の接点を「生きる」［松下幸］（『対話する生と死』282～289ページ）
第7回　生死学とはなにか？　生死学と生命倫理［滝野］（『死生学1』1章2章）
第8回　死と直面すること（エリザベス・キューブラ=ロスの貢献と彼女自身の死の直面）［滝野］（『死生学1』8章）
第9回　死のイメージ　死とどうつきあうか（日本と西洋の比較1）［滝野］（『死生学1』4章9章10章）
第10回　自殺　個人的決断と社会的現象としての自殺　その実態と予防［滝野］（オリジナルテキスト）
第11回　生と死のなかの時間［滝野］（『死生学1』6章）
第12回　喪の営み　内観法　葬儀・法事　日本人と宗教（日本と西洋の比較2）［滝野］（オリジナルテキスト＋『死生学1』10章）
第13回　コルチャック先生にとっての死の意味について［上鹿渡］コルチャック先生自身が経験した様々な死、父親の死、母親の死、戦時下のたくさんの死、そして自分自身と孤児院の子どもたちに迫る死から、死についてどのような思いを持っていたか考えてください。以下の箇所に特に注意しながらテキストを読んでください。（テキスト22～23、88～90、111～114、134～178、180～193ページ参照）
第14回　「子どもが生きること、成長すること」に関するコルチャック先生の考えについて［上鹿渡］子どもが生きることについて、コルチャック先生はどのようなことが重要だと考えていたでしょうか。特に以下の箇所に注意してテキストを読んでください。（テキスト100～108、209～210ページ参照）
第15回　「子どもの死に対する権利」について［上鹿渡］テキスト104ページに「子どもの死への権利」について書かれてあります。これまでに考えてきたことと以下のページの内容も参考にして、これがどのようなことを意味するか考えてみましょう。（テキスト166～171ページ参照）

履修上の注意点

教科書

対話する生と死
著者：　河合隼雄　著
出版社：（大和書房（だいわ文庫））
出版年：　　ISBN：

死生学1　死生学とは何か
著者：　島薗進・竹内整一　著
出版社：（東京大学出版会）
出版年：　　ISBN：

コルチャック先生
著者：　近藤康子　著
出版社：（岩波書店（岩波ジュニア新書））
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 100% ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
「授業中課題」は、各教員ごとにレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**臨床心理学ワークショップ(事例研究と当事者研究)(通信)**

クラス	配当回生　通信2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　滝野　功久	

テーマ

「臨床の知」を、実践的学習にできる限り近い形で行おうとするものです。「臨床」とは今や医療に全く限りません。「臨床心理」とはそれ以上に、医療的援助活動に関わるだけのものではありません。教育、福祉、司法、さらには宗教(あるいはスピリチュアリティ)に関わるなど、さまざまな領域での観察や評価そして介入技法などの実践に、心理的なアプローチを生かそうとするものです。対象の大きさは、個人だけでなく、カップル・家族、そして集団や組織までひろげることができます。それらはほとんど人のこころに関わってきますので、「臨床心理」は、そこでの心理的支援と援助などの実践活動の全てをカバーできると言えるでしょう。 臨床心理に「学」がついていますが、学術的権威をつけるというより、自らの「学び」と「学び方」について、考え見直す新たに発見するということが、この科目のもう一つのテーマとしてあるからです。

授業の到達目標

集団研究と事例研究とを二つの大きな柱にしながら、実際に役に立つスキルを高める。1)集団の力動を見抜き、個人と集団の成長に生かすための促進と問題提起のスキルを磨く(対人援助という活動においては、たとえ個人が対象でも、個人を取りまく集団についての考察ができることが不可欠)。2)観察するだけでなく、場面に対して、できればなんらかの介入やイニシャティヴをとるための自分に合ったスキルを開発する。3)振り返りの技法と応用の可能性を考え、少なくとも一つの技法を身に着ける(レフレクティヴ・プロセスなどの技法の応用)

授業の概要

[スクーリング授業／全15回]1)さまざまな事例を通して問題のとらえ方、学び方を検討します。事例は部分的であれ、ロールプレイやドラマなども試み、感性と知性を十分生かしながら行いたいと思っています。2)自らを素材にして、事例を全員参加型のワークショップ方式のなかで行い、それを通して、当事者研究の意義とその限界についても考えたいと思っています。扱うことは、参加メンバーの構成と出されることよって大きく変わってきます。下にスケジュールとして挙げていることは、ワークショップのなかで扱うことも可能なものにすぎません。基本的な方法論やアプローチに関しては、詳しく丁寧に扱いますが、個別のテーマとしては扱わないものもあるでしょうし、扱えても順序はもちろん密度も、グループの展開によって大きく変わって行くことになります。

準備学習(予習・復習)

自分や家族が困ったこと、困っていることなどに関心をもって、メモで結構なので記録しておくといいでしょう。また、自分の感覚や知覚、思考や行動に関しても、物事に対するアプローチの特徴について、気付くことがあれば、それらもメモなどをして、自己観察をしておくのが、役に立ちます。

内　　容

第1回　全体のオリエンテーション1　臨床の知と学び方　自らの学び方について見直す　勉強と学びの違い、授業・講義とワークショップの違い
第2回　全体のオリエンテーション2　自分の学びの方の癖、特徴、条件づけられているもの
第3回　「臨床」とはなにか？　臨床の知と科学の知　その起源と歴史　日本での「臨床の知」という波の特別な意味と意義
第4回　事例研究という方法　当事者研究の威力
第5回　パフォーマンスと学び　道具としてのロールプレイ・演劇
第6回　臨床心理はいかに使われているか？　今後の可能性は？
第7回　集団力動と個人　集団のもつ魅力と魔力　個人はどのように集団と付き合えるか？
第8回　個人と集団:いじめという問題　差別と排除
第9回　破壊的カルト集団とマインドコントロール(これは宗教領域の問題だけではない)
第10回　児童虐待とネグレクトという問題(家族という矛盾した集団と場)
第11回　臨床の知と文化の多様性
第12回　文化の多様性が含む臨床的な力
第13回　文化の多様性と性愛問題、宗教問題
第14回　心理と政治の問題　Political Correctness　の効用と乱用
第15回　全体の振り返り　吟味検討、振り返りの仕方　現実が変わるためには？変えるためには？

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

感覚の博物誌
著者:　D.アッカーマン　著
出版社:(河出書房新社)

e90202g250

出版年: 1996年　　ISBN:

臨床の知とはなにか

著者:　中村雄一郎　著

出版社:（岩波書店(岩波新書)）

出版年: 1992年　　ISBN:

ワークショップ

著者:　中村民夫　著

出版社:（岩波書店(岩波新書)）

出版年: 2001年　　ISBN:

べてるの家の「当事者研究」

著者:　浦河べてるの家

出版社:（医学書院）

出版年: 2005年　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ 30% ）

参加度 （ 40% ）

評価の原則は減点法でなく、加点法で行います。

2016 Syllabus

科 目 名　**よそおいの心理学（通信）**

クラス	配当回生　通信2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　日比野　英子	

テーマ

外見と心の関係

授業の到達目標

本講義では、粧いと装いという外見のデザインや印象管理を行うことが、人の心の有り様や心の健康とどのような関係があるのか、人と人とのコミュニケーションにどのような影響をおよぼすのかという理解を促し、さらに福祉や医療の場でこれらを用いたサポートの実践例を紹介し、理解を深めてもらう。

授業の概要

[メディア授業／全15回]以下のように、よそおいについての心理学領域における基礎研究を紹介し、後にそれらを活用した実践例を紹介するとともに、臨床心理学的見地からのよそおいについての考察を展開する。

準備学習（予習・復習）

化粧や服装について、多岐にわたる視点からアプローチするため、特に1冊の教科書を用いないが、下記の参考書や授業中に紹介する書籍を精読して興味を深めてほしい。

内　　容

第1回　オリエンテーション外見をめぐる諸問題、よそおいとは、本授業のねらい・方針
第2回　装いの社会・心理的機能①
第3回　装いの社会・心理的機能②
第4回　顔について①顔とは（顔の意味、顔の認知等）
第5回　顔について②こども顔とおとな顔、女顔と男顔
第6回　顔について③顔認知のステレオタイプ
第7回　化粧とは化粧の文化誌、メーキャップの心理学
第8回　社会心理学における化粧研究
第9回　感情心理学・生理心理学における化粧研究①
第10回　感情心理学・生理心理学における化粧研究②
第11回　化粧とパーソナリティ
第12回　化粧の臨床心理学的応用①精神障害者を対象として
第13回　化粧の臨床心理学的応用②高齢者を対象として
第14回　化粧と装いの臨床心理学的応用身体障害者を対象として
第15回　まとめ　臨床心理学的視点からみたよそおいの意味

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

被服と化粧の社会心理学
著者:　高木修　監修　大坊郁夫・神山進他　著
出版社:（北大路書房）
出版年:　　ISBN:

化粧行動の社会心理学
著者:　大坊郁夫他　著
出版社:（北大路書房）
出版年:　　ISBN:

個と向き合う介護
著者:　西本典良・日比野英子他　著
出版社:（誠信書房）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト （ 50% ）
授業中課題 （ 50% ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）
小テストは第6回、第11回の授業後に行う「授業中課題」は第15回の後にレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**健康心理学（通信）**

クラス	配当回生　通信3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　田中　芳幸.中川　明仁	

テーマ

健康心理学に関わる諸理論の理解

授業の到達目標

健康心理学の基本的な知識を学び，心理・社会・身体的な要因が様々な心身の問題にどの様に関連しているのかを把握する。また，心身疾患やストレスへの予防および心身の健康の維持増進方法について，健康心理学的な視点に基づいて考察する。さらに，自分自身や他者の健康関連行動や生活習慣について考える機会とすることも目的とする。

授業の概要

［メディア授業／4回＋テキスト授業／11回］

準備学習（予習・復習）

健康心理学関連図書による自学自習

内　容

第1回　オリエンテーション　健康心理学とは＆「健康」のとらえ方［田中］（テキスト1章 1～11ページ）本講義全般に関わるオリエンテーションを実施しつつ，健康心理学とは何かおよび健康観について概観する。【メディア授業】

第2回　健康心理学の基盤となる心理学理論［田中］（テキスト2章 12～27ページ）様々にある心理学諸理論のうち，特に健康心理学に関連する理論を概観する。これにより，各理論で人間をどの様に捉えているのか，また，行動変容に用いられる心理学の理論はどの様なものであったのかを学ぶ（復習する）。【テキスト授業】

第3回　健康行動の諸理論と心身不調の予防［中川］（テキスト3章 28～39ページ）健康行動について学び，その予測因子についてや，健康行動の生成および不健康の予防に関する諸理論についても概観する。特に，食と健康についてメディア授業でも取り上げて考える。【メディア授業】

第4回　ストレスと健康［田中］（テキスト4章1～3 40～48ページ）ストレスとは何か，ストレスに関する諸理論を概観しながら学ぶ。こころとからだの臨床学Ⅱにおける関連講義「心身のストレスに関する基礎理論（メディア授業）」を参照することが望ましい。【テキスト授業】

第5回　ストレスへの対処とストレス関連身体疾患［田中］（テキスト4章4～5 48～59ページ）ストレスへの対処およびストレスと心身疾患との関連性について学ぶ。こころとからだの臨床学Ⅱにおける関連講義「ストレスへの対処（メディア授業）」を参照することが望ましい。【テキスト授業】

第6回　トランスセオレティカルモデルに基づくストレスマネジメント［田中］健康行動の説明およびその変容に関する理論モデルとして定評のあるトランスセオレティカルモデルについて概観しつつ，そのストレスマネジメント行動変容への応用例を紹介する。【メディア授業】

第7回　パーソナリティ・生活習慣と健康［中川］（テキスト5～6章 60～95ページ）健康に関連するパーソナリティや行動パターン，生活習慣について学習する。また，生活習慣病の危険因子および予防に関わる事柄についても学ぶ。【テキスト授業】

第8回　健康生成に役立つソーシャルサポートとヘルスケアシステム［中川］（テキスト7～8章 96～113ページ）健康生成に役立つソーシャルサポートして，対人間的なもの（狭義のソーシャルサポート）と対社会システム的なもの（ヘルスケアシステム）の両方を概観する。【テキスト授業】

第9回　発達段階に応じた健康教育［田中］（テキスト9章1 114～122ページ）各発達段階における健康教育にどの様なものがあるかを考える。【テキスト授業】

第10回　生活場面に応じた健康教育［田中］（テキスト9章2 122～134ページ）各生活の場（学校・職場・医療の場・コミュニティ）における健康教育にどの様なものがあるかを考える。【テキスト授業】

第11回　健康心理学に基づくアセスメント［田中］（テキスト10章 135～144ページ）健康心理学においても，他の心理臨床と同様のアセスメント（査定）法が用いられる。このため，テキストに基づきアセスメントに関する復習を行いながら，特に健康心理学分野に関連する測定法にどの様なものがあるかを概観する。【テキスト授業】

第12回　健康心理カウンセリングの理論［田中］（テキスト11章1～4 145～154ページ）健康心理学の実践分野に健康心理カウンセリングがあるが，その基礎は他学問領域における心理カウンセリングの諸理論である。第13回にかけて，この基礎となる理論の中でも特に健康心理カウンセリングに用いられることが多いものを概観する。【テキスト授業】

第13回　健康心理カウンセリングの実際［田中］（テキスト11章5～9 154～166ページ）認知行動・行動パターン・心理生理的な側面のそれぞれに働きかける技法を概観しつつ，健康心理カウンセリングの実際について考える。【テキスト授業】

第14回　健康的な生活習慣の形成［田中］（テキスト12章 167～176ページ）行動変容技法について概観しながら，健康的な行動や生活習慣の形成について考える。【テキスト授業】

第15回　授業のまとめ［田中］【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

新版　健康心理学

著者：　野口京子　著

出版社：（金子書房）

出版年：　　ISBN：

e90203d110

参考書

健康心理学・入門　健康なこころ・身体・社会づくり
著者:　島井哲史・長田久雄・小玉正博　編
出版社:（有斐閣）
出版年:　ISBN:

健康心理学概論（健康心理学基礎シリーズ1）
著者:　日本健康心理学会　編
出版社:（実務教育出版）
出版年:　ISBN:

健康心理アセスメント概論（健康心理学基礎シリーズ2）
著者:　日本健康心理学会　編
出版社:（実務教育出版）
出版年:　ISBN:

健康心理カウンセリング概論（健康心理学基礎シリーズ3）
著者:　日本健康心理学会　編
出版社:（実務教育出版）
出版年:　ISBN:

健康教育概論（健康心理学基礎シリーズ4」）
著者:　日本健康心理学会　編
出版社:（実務教育出版）
出版年:　ISBN:

成績評価

試験　（ 40% ）　小テスト（ 60% ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
小テストは、第7回・第14回の後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅰ（通信）**

クラス　　配当回生　通信3回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　青木 剛.井上 裕樹.塩谷 尚正.中川 明仁.奈田 哲也.菱田 一仁.藤原 勇

テーマ

・テーマ探索のための先行研究の精読・要約・発表・討論・研究計画の作成

授業の到達目標

各学生は、興味ある分野の先行研究論文を精読し、研究テーマを決定し、研究方法を立案して研究計画を立てる。

授業の概要

[スクーリング授業／全15回]（受講を検討する場合の注意事項）当科目は、前期に受講登録し、期日までに研究計画書Aを提出した学生のみを対象とする。後期の受講登録訂正期間での新たな登録は認めない。

準備学習（予習・復習）

興味ある分野のキーワードを手がかりに文献検索を行い、研究論文を入手して、精読･要約する。

内　容

第1回　オリエンテーション　各ゼミ生の自己紹介と関心のある分野についての発表・討論
第2回　文献検索指導（各種データベースの利用法・図書館の利用法）
第3回　学術論文の読み方
第4回　先行研究（学術論文）の要約の発表・討論（1）
第5回　先行研究（学術論文）の要約の発表・討論（2）
第6回　先行研究（学術論文）の要約の発表・討論（3）
第7回　先行研究（学術論文）の要約の発表・討論（4）
第8回　先行研究（学術論文）の要約の発表・討論（5）
第9回　先行研究（学術論文）の要約の発表・討論（6）
第10回　テーマ決定と研究計画の指導（1）
第11回　テーマ決定と研究計画の指導（2）
第12回　テーマ決定と研究計画の指導（3）
第13回　研究計画の指導（1）
第14回　研究計画の指導（2）
第15回　研究計画の指導（3）

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

心理学 実験・研究レポートの書き方
著者:　B.フィンドレイ　著
出版社:（北大路書房）
出版年:　　ISBN:

そのほか、各学生の研究テーマに沿って、適宜紹介する。
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ 60% ）
参加度 （ ）
原則として2日以上の欠席を認めない。

2016 Syllabus

科 目 名　**心理検査法Ⅱ（6月11・7月23日）（通信）**

クラス	配当回生　通信3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　「心理検査法Ⅰ」を修得済みであること	クラス指定
担 当 者　日比野　英子.中川　明仁.室　紀子	

テーマ

心理検査の実際について、検査用具を用いて施行法･結果の処理･結果の解釈を学習する。

授業の到達目標

心理検査の中から、特に投映法の代表的な検査であるロールシャッハ法と、児童心理臨床の現場で用いられることの多い新版K式発達検査2001を取り上げ、実際に検査用具を用いて、施行法・結果の整理法・結果の解釈について習得する。

授業の概要

[メディア授業／1回＋スクーリング授業／10回＋テキスト授業／4回]前半（後半）はロールシャッハ・テストについて、後半（前半）は新版K式発達検査2001について、その施行法・結果の整理・結果の解釈について学ぶ。テキストについては、授業中に参考資料を配付する。

準備学習（予習・復習）

この授業でとりあげる心理検査については、大変奥深いもので授業時間だけでは到底熟知するに足りません。それぞれ成書がいろいろな出版社から刊行されていますので、興味を深めたい受講生はそれらを精読して修得してください。なお、これらの検査を実際の心理臨床の場で用いるには、かなりの施行経験が必要と言われています。周到なトレーニングを要するものであることを理解してください。

内　　容

第1回　オリエンテーション[日比野]【メディア授業】
第2回　ロールシャッハ・テスト①[中川]ロールシャッハ･テストの被検体験【スクーリング授業】
第3回　ロールシャッハ・テスト②[中川]ロールシャッハ･テストの基礎技法【スクーリング授業】
第4回　ロールシャッハ･テスト③[中川]結果の整理：スコアリングの基礎知識【スクーリング授業】
第5回　ロールシャッハ･テスト④[中川]スコアリングの実際【スクーリング授業】
第6回　ロールシャッハ･テスト⑤[中川]結果の解釈【スクーリング授業】
第7回　ロールシャッハ･テスト⑥[中川]スコアリング練習【テキスト授業】
第8回　ロールシャッハ･テスト⑦[中川]ロールシャッハ事例研究【テキスト授業】
第9回　発達検査とは～子どもの姿をとらえる～[室]【スクーリング授業】
第10回　やってみよう!新版発達検査2001①[室]【スクーリング授業】
第11回　やってみよう！”新版発達検査2001②[室]【スクーリング授業】
第12回　その他の発達検査[室]【スクーリング授業】
第13回　発達検査の結果をどういかしていくか[室]【スクーリング授業】
第14回　発達検査の結果の整理[室]【テキスト授業】
第15回　発達検査のまとめ[室]【テキスト授業】

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

改訂新･心理検査法
著者：　片口安史
出版社：（金子書房）
出版年：1987年　ISBN：

発達相談と援助―K式発達検査2001を用いた心理臨床
著者：　川畑隆他
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：2005年　ISBN：

e90203d310

新版K式発達検査法（2001年版）の発達のアセスメントと支援

著者:　松下裕他

出版社:（ナカニシヤ出版）

出版年: 2012年　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 80% ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ 20% ）

「授業中課題」は、第8回と第15回の授業後にレポート提出。2回のレポートと参加度によって評価する。

2016 Syllabus

科 目 名　**心理統計学Ⅲ（多変量解析）（8月20・21日）（通信）**

クラス	配当回生　通信3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　「心理統計学Ⅱ」または 「心理学データ解析」を修 得済みであること	クラス指定

担 当 者　永野　光朗

テーマ

統計ソフトウエアSPSSを用いておこなう多変量解析の修得

授業の到達目標

心理学データ解析で修得した内容を踏まえ、心理学研究において多用されている因子分析・重回帰分析をはじめとする種々の多変量解析を理解し、取得されたデータを適切に分析する能力を身につける。

授業の概要

[メディア授業／1回＋テキスト授業／6回＋スクーリング授業／8回]各種の多変量解析の手法について適用事例を含めながら説明をし、模擬的なデータを使って各自でSPSSを用いて分析を行う。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　多変量解析法とは？　心理学研究における多変量解析法の必要性【メディア授業】
第2回　因子分析　心理学研究で最もよく使われる多変量解析の手法である因子分析について理解する。※難しい数式も出て来ますが、それにはあまりこだわらないようにして「何のためにこの分析を使って何が分かるのか？」を直観的に理解するようにして下さい。（テキスト7．因子分析のはなし 107～133ページ）【テキスト授業】
第3回　主成分分析　因子分析と類似した手法である主成分分析について理解する。※難しい数式も出て来ますが、それにはあまりこだわらないようにして「何のためにこの分析を使って何が分かるのか？」を直観的に理解するようにして下さい。（テキスト8．主成分分析 134～161ページ）【テキスト授業】
第4回　単回帰分析　独立変数と従属変数の間の関係を表す式を統計的手法によって推計するための手法である単回帰分析について理解をする。※難しい数式も出て来ますが、それにはあまりこだわらないようにして「何のためにこの分析を使って何が分かるのか？」を直観的に理解するようにして下さい。（テキスト5．直線で回帰する 73～87ページ）【テキスト授業】
第5回　重回帰分析　独立変数と従属変数の間の関係を表す式を統計的手法によって推計するための手法である重回帰分析について理解をする。※難しい数式も出て来ますが、それにはあまりこだわらないようにして「何のためにこの分析を使って何が分かるのか？」を直観的に理解するようにして下さい。（テキスト5．直線で回帰する　6．重回帰分析のはなし88～106ページ）【テキスト授業】
第6回　クラスター分析　人間や事象を類似度に基づいて類型化するための手法であるクラスター分析について理解する。※難しい数式も出て来ますが、それにはあまりこだわらないようにして「何のためにこの分析を使って何が分かるのか？」を直観的に理解するようにして下さい。（テキスト9．クラスター分析のはなし 162～185ページ）【テキスト授業】
第7回　判別分析　事前に与えられているデータが異なるグループに分かれることが明らかな場合に、新しいデータが得られた際に、どちらのグループに入るのかを判別するための基準（判別関数）を得るための手法である判別分析について理解する。※難しい数式も出て来ますが、それにはあまりこだわらないようにして「何のためにこの分析を使って何が分かるのか？」を直観的に理解するようにして下さい。（テキスト10．派別分析のはなし 186～206ページ）【テキスト授業】
第8回　SPSSを使ったデータ分析①（単回帰分析・重回帰分析）【スクーリング授業】
第9回　SPSSを使ったデータ分析②（因子分析）【スクーリング授業】
第10回　SPSSを使ったデータ分析③（主成分分析）【スクーリング授業】
第11回　SPSSを使ったデータ分析④（クラスター分析）【スクーリング授業】
第12回　SPSSを使ったデータ分析⑤（判別分析）【スクーリング授業】
第13回　SPSSを使ったデータ分析⑥（多次元尺度構成法（MDS））【スクーリング授業】
第14回　総合演習①（因子分析と重回帰分析を併用した分析方法を中心にして）【スクーリング授業】
第15回　総合演習②（因子分析とクラスター分析を併用した分析方法を中心にして）【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

改訂版　多変量解析のはなし　複雑さから本質を探る
著者：　大村平　著
出版社：（日科技連出版社）
出版年：2013年　　ISBN：

参考書

成績評価

e90203d410

試験 （ ）　小テスト（ ）
授業中課題 （ 50% ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ 50% ）

2016 Syllabus

科 目 名　**英書講読（通信）**

クラス	配当回生　通信3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　濱田　智崇	

テーマ

心理学の専門的な文章を英語で読み、考える力をつける

授業の到達目標

心理学に関する英語の専門的な文章を読んでその内容をつかみ、それについて考えることができるようになる。卒業論文の作成、大学院入試、さらには大学院での研究に必要な、英語論文を読んで理解する力をつける。

授業の概要

[メディア授業／6回＋テキスト授業／9回]大学院進学希望者が多いと思われる、臨床心理学分野の英文を取り上げる。テキストはThe Handbook of Child and Adolescent Psychotherapy: Psychoanalytic Approaches を使用する。子どもと青年期の精神分析的心理療法に関して、心理療法家だけでなく、周辺領域の専門職にも役立つよう編集されたものであるため、多くの方に興味深く読み進めていただけるものと思われる。（受講を検討するにあたっての注意事項）英書講読の授業では、専門分野に関する、まとまった量の英語の文献を読んでその内容を理解し、理解した内容をもとに、自分なりに考察が出来るようになることを目指します。受講にあたっては、以下の点について注意してください。1）テキスト（英語）の指定された箇所を各自で読み、わからないことは自分で調べる2）その内容を日本語で要約し、レポートとして提出する3）メディア授業でその部分の解説を聞き、理解を深める15回の授業内で、上記1）～3）を5回繰り返します。つまり、テキストの指定箇所が5ヵ所あるということです。テキストは、1ヵ所あたり十数ページと、量的に少なくありませんが、受講生に自分の力で、英書を読んでいただくことが前提です。仮に、先にメディア授業を受けて解説を聞いてしまうと、その意味がなくなってしまいます。そこで、各指定箇所について、レポートの提出をしなければ、メディア授業が受けられないようになっています。これらの点をよく理解してから受講登録してください。

準備学習（予習・復習）

メディア授業の回に、テキストの解説を行いますので、必ず指定範囲の英文をよく読んだ上で、メディア授業を受けてください。余力のある方は、指定範囲以外も読んでいただければ、さらに内容の理解が深まり、英文を読むトレーニングになります。大学院受験をお考えの方や、心理学のさまざまな分野の英文に触れたい方は、参考書として挙げている問題集も使って学習してください。

内　　容

第1回　オリエンテーション（英語論文を読むために）【メディア授業】
第2回　治療的なセッティングとプロセス（テキスト157～165ページ）【テキスト授業】
第3回　治療的なセッティングとプロセス（テキスト165～174ページ）【テキスト授業】
第4回　治療的なセッティングとプロセス【メディア授業】
第5回　保護者とのセラピストの仕事（テキスト206～213ページ）【テキスト授業】
第6回　保護者とのセラピストの仕事（テキスト213～219ページ）【テキスト授業】
第7回　保護者とのセラピストの仕事【メディア授業】
第8回　自閉症スペクトラムのセラピー（テキスト287～299ページ）【テキスト授業】
第9回　自閉症スペクトラムのセラピー【メディア授業】
第10回　トラウマのセラピー（テキスト300～307ページ）【テキスト授業】
第11回　トラウマのセラピー（テキスト307～315ページ）【テキスト授業】
第12回　トラウマのセラピー【メディア授業】
第13回　暴力の起源（テキスト361～368ページ）【テキスト授業】
第14回　暴力の起源（テキスト369～380ページ）【テキスト授業】
第15回　暴力の起源【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

The Handbook of Child and Adolescent Psychotherapy: PsychoanalyticApproaches

著者：　Monica Lanyado (編集), Ann Horne (編集)

出版社：（Routledge）

出版年：2009　　ISBN：

参考書

心理英語問題集

著者：　大学院入試問題分析チーム (編集)

出版社：（オクムラ書店）

出版年：2006　　ISBN：

成績評価

e90203d550

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 100% ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ ）

「授業中課題」は第3回、第6回、第8回、第11回、第14回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**生理心理学（通信）**

クラス	配当回生　通信3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎	

テーマ

こころや行動に関わる神経内分泌系（ホルモン）の働きを理解する。

授業の到達目標

中枢神経系である脳の作用だけでなく、末梢神経、性ホルモン、免疫系などのはたらきと、情動、ストレス、学習、認知などの心的機能との関係を理解する。さらに、生理心理学、行動神経科学に関わる、心理学的トピックを紹介する。

授業の概要

［メディア授業／全15回］　授業の目的を達成するよう参考図書に沿って講義を行う。

準備学習（予習・復習）

生理心理学、神経科学関連図書による自学自習

内　　容

第1回　ホルモンと行動研究　／　母親の養育行動と脳の変化
第2回　ホルモン分泌の神経調節　　／　母親の認知機能の変化
第3回　ホメオスタシスと行動　／　父親の養育行動と脳の変化
第4回　性の決定と哺乳類の性分化　／　脳の性差
第5回　行動の周期性　／　精神疾患の性差
第6回　種内のコミュニケーション ／　遊びの重要性
第7回　個体の絆の形成　／　恋愛の心理学
第8回　ストレス応答と行動 ／　女性がうつになりやすい理由
第9回　生育環境と行動
第10回　情動、学習、記憶とホルモン
第11回　自己と他者の脳科学
第12回　社会性と脳科学
第13回　強化と快感の進化
第14回　認知、判断の進化
第15回　脳と心の進化

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

脳とホルモンの行動学－行動神経内分泌学への招待－
著者:　近藤保彦他　編
出版社:（西村書店）
出版年:　2010年　　ISBN:

脳科学とこころの進化
著者:　小嶋祥三・渡辺茂　著
出版社:（岩波書店）
出版年:　2007年　　ISBN:

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 60% ）　　授業中発表等 （ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は、第5回、第10回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　こころの脳科学（通信）

クラス　　配当回生　通信3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　坂本 敏郎

テーマ

脳のはたらきとこころのはたらきの関係を理解する。

授業の到達目標

知覚、学習、記憶、情動などの心的機能が、どのような神経回路によって制御されているかについて理解する。主に中枢神経系の解剖学的、生理学的基礎を学ぶ。脳科学の関連分野である生理学、薬理学、分子生物学の領域から得られた知見についても考察する。

授業の概要

［メディア授業／全15回］ 授業の目的を達成するよう、テキストに沿って講義を行う。

準備学習（予習・復習）

生理心理学、神経科学関連図書による自学自習

内　容

第1回　脳科学と生理心理学の研究方法
第2回　脳の構造、発達
第3回　神経の伝導と伝達
第4回　脳と知覚1（視覚）
第5回　脳と知覚2（聴覚、嗅覚、味覚）
第6回　脳と学習
第7回　脳と学習障害
第8回　脳と情動
第9回　脳と情動障害
第10回　脳と動機づけ
第11回　脳と報酬系、薬物嗜好
第12回　脳の側性化
第13回　脳と睡眠
第14回　脳と意識
第15回　臨床心理学と脳科学

履修上の注意点

教科書

生理心理学
著者:　岡田隆・廣中直行・宮森孝史　著
出版社:（サイエンス社）
出版年:　2005年　　ISBN:

参考書

ピネル　バイオサイコロジー　脳－心と行動の神経科学
著者:　ピネル　著
出版社:（西村書店）
出版年:　2005年　　ISBN:

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 60% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は、第5回、第10回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**心理的援助論A（通信）**

クラス　　配当回生　通信3回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　菱田 一仁

テーマ

スクールカウンセリングを中心に、学校臨床についての知識を学ぶ。

授業の到達目標

スクールカウンセリングに関する知識のほか、学校現場での臨床活動の特徴、学校現場に関連する領域での臨床心理学的な働きについて学ぶ。

授業の概要

[メディア授業／3回＋テキスト授業／12回]この授業では、主にスクールカウンセリングについて学びます。学校現場での臨床心理士の働きは、子どもの面接の他、保護者面接、教員とのコンサルテーション、他機関との連携などがあります。それらを体系的に学び、教育現場での臨床心理士の働きと、その意義についてテキストと、メディアの授業を通して学びます。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション・スクールカウンセリングとは【メディア授業】
第2回　スクールカウンセリングの基礎知識①（PP19-38）【テキスト授業】
第3回　スクールカウンセリングの基礎知識②（PP39-52）【テキスト授業】
第4回　発達についての理解（PP53-64）【テキスト授業】
第5回　学校での問題行動（PP65-76）【テキスト授業】
第6回　心理検査について（PP77-86）【テキスト授業】
第7回　スクールカウンセリングの実際①（PP103-116）【メディア授業】
第8回　スクールカウンセリングの実際②（PP151-162）【テキスト授業】
第9回　保護者面接について①（PP175-187）【テキスト授業】
第10回　保護者面接について②（PP188-200）【テキスト授業】
第11回　教員とのコンサルテーション①（PP201-212）【テキスト授業】
第12回　教員とのコンサルテーション②（PP213-225）【テキスト授業】
第13回　他機関との連携（医療機関・児童相談所）（PP251-267）【テキスト授業】
第14回　他機関との連携（適応指導教室）（PP268-278）【テキスト授業】
第15回　まとめ【メディア授業】

履修上の注意点

授業内では、時間の関係上テキストのすべては扱いませんが、できたら他の部分も読んでください。

教科書

スクールカウンセリングの基礎と経験
著者:　馬場謙一・松本京介　著
出版社:（日本評論社）
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 40% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は第8回の後にレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**心理的援助論B（通信）**

クラス	配当回生　通信3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　濱田　智崇	

テーマ

心理的援助における「表現」との向き合い方について考える

授業の到達目標

心理的援助における「表現」について体験的に学ぶ。ここで言う「表現」には言語による表現も、描画や箱庭、遊戯療法の遊びといったものも含まれるが、そうした「表現」に援助者としてどう向きあうのかを考えていく。他者の内面を理解しようとすることは、自ずと自分自身の内面と向きあうことにもなる。そうした姿勢の中から体験的に学ぶことを目標とする。

授業の概要

[メディア授業／全15回]この授業では主に風景構成法と箱庭療法、遊戯療法に関して取り上げる。まずそれぞれの技法の成り立ちや特徴を解説し、その後、臨床事例に触れたり、実際に一部を体験したりする。実際に自分が表現してみること、そしてそれを自分で分析してみることで学びを深めていく。

準備学習（予習・復習）

さまざまな表現に触れ、あるいは、自分が表現してみて、感じたことをまとめてみてください。自分がどのような感じ方をするか、をつかんでおくことが自己理解を深めるのに役立ちます。

内　容

第1回　オリエンテーション（心理的援助における表現とは）
第2回　心理療法における表現と象徴的イメージ
第3回　箱庭療法とは
第4回　箱庭療法の事例から考える（1）
第5回　箱庭療法の事例から考える（2）
第6回　箱庭療法の事例から考える（3）
第7回　箱庭療法の表現に向きあうワーク
第8回　風景構成法を体験してみる
第9回　風景構成法と箱庭療法
第10回　風景構成法の事例から考える
第11回　風景構成法を味わう・読み取る
第12回　遊戯療法とは
第13回　遊戯療法の実際
第14回　遊戯療法の事例から考える
第15回　さまざまな表現について・まとめ

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

風景構成法―その基礎と実践
著者:　皆藤章
出版社:（誠信書房）
出版年:　1994　ISBN:

風景構成法のしくみ: 心理臨床の実践知をことばにする
著者:　佐々木玲仁
出版社:（創元社）
出版年:　2012　ISBN:

e90203d950

箱庭療法―基礎的研究と実践
著者:　木村晴子
出版社:（創元社）
出版年:　1985　　ISBN:

箱庭療法の事例と展開
著者:　岡田 康伸（編）
出版社:（創元社）
出版年:　2007　　ISBN:

遊戯療法の実際
著者:　河合 隼雄
出版社:（誠信書房）
出版年:　2005　　ISBN:

コラージュ療法実践の手引き―その起源からアセスメントまで
著者:　森谷 寛之
出版社:（金剛出版）
出版年:　2012　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 100% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は、第7回、第11回、第15回の後にそれぞれ課す

2016 Syllabus

科 目 名　**犯罪心理学（通信）**

クラス	配当回生　通信3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ジェイムス　朋子	

テーマ

犯罪者や非行少年の改善更生にむけて、その原因や矯正心理教育について理解を深める

授業の到達目標

本講義では、心理学をはじめ学融的な観点から、反社会的行動としての犯罪や非行について基本的な知識を理解し、犯罪防止及び再犯防止に対する臨床的な援助の方法を理解することを目的とする。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]本講義では、犯罪捜査といった領域ではなく、犯罪者や非行少年に対する矯正や保護に焦点を当てて、「犯罪・非行行動をどのように変化させるのか」ということを学ぶ。心理学だけではなく社会学や刑事政策学といった多元的な観点から、犯罪・非行原因や社会的環境を理解し、犯罪者や非行少年への治療教育について学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　犯罪・非行の定義と研究方法（テキスト3～17ページ）犯罪・非行の定義や研究方法について理解する
第2回　犯罪理論と刑事政策的理論（テキスト21～28ページ）犯罪理論の全体像と刑事政策的理論について理解する
第3回　社会学的犯罪理論と生物学的・心理学的理論（テキスト28～41ページ）社会学的犯罪理論と生物学的・心理学的理論について理解する
第4回　犯罪・非行とパーソナリティ障害（テキスト45～68ページ）犯罪・非行とパーソナリティ障害との関係について理解する
第5回　犯罪・非行と発達障害（テキスト71～86ページ）犯罪・非行と発達障害との関係について理解する
第6回　非行と家族関係（テキスト89～106ページ）非行少年とその家族との関係に注目して、どのような影響があるのかを理解する
第7回　犯罪・非行と社会的環境（テキスト109～118ページ）犯罪者や非行少年を取り巻く社会的環境について理解する
第8回　犯罪・非行とエビデンス（テキスト121～136ページ）犯罪や非行に対する実証的な研究に基づく科学的根拠によるリスク評価等について理解する
第9回　犯罪・非行の心理臨床の基礎（テキスト141～157ページ）犯罪者や非行少年に対する治療教育の基礎について理解する
第10回　犯罪者・非行少年の処遇システムの流れ（テキスト161～171ページ）犯罪者や非行少年の処遇システムの流れを理解する
第11回　司法機関等の役割と機能（テキスト171～190ページ）犯罪者や非行少年の処遇に関する司法機関等の役割と機能について理解する
第12回　犯罪者・非行少年のアセスメント（テキスト193～210ページ）犯罪者や非行少年へのアセスメントの概要を理解する
第13回　犯罪・非行の治療教育（テキスト213～225ページ）犯罪者や非行少年への施設内治療教育、社会内治療教育について理解する
第14回　犯罪被害者の精神的被害（テキスト229～238ページ）犯罪被害者の精神的被害とそのケアの概要について理解する
第15回　犯罪・非行の心理学の課題と展望（テキスト241～249ページ）まとめとして、犯罪や非行に対する心理学の課題と展望について概観する

履修上の注意点

教科書

犯罪・非行の心理学
著者：　藤岡淳子　著
出版社：（有斐閣）
出版年：　　ISBN：

参考書

犯罪心理学−行動科学のアプローチ
著者：　C. R. バートル他
出版社：（北大路書房）
出版年：　　ISBN：

e90203e010

コンパクト犯罪心理学ー初歩から卒論・修論作成のヒントまでー

著者:　河野荘子他

出版社:（北大路書房）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 40% ）

授業中課題（ 60% ）　　授業中発表等（　）

参加度　（　）

小テストは、第8回授業の後に行う「授業中課題」は、レポートを第15回授業の後に課す

2016 Syllabus

科 目 名　**集団力動学（通信）**

クラス	配当回生　通信3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ジェイムス　朋子	

テーマ

集団力動の理論とグループ・アプローチの基礎理解

授業の到達目標

集団はその構造によりさまざまな特徴をもち、個人力動と集団力動、そしてその交叉によって生じる力動は、多くの社会システムだけでなく、教育、医療、矯正、心理治療など、さまざまな領域で活用されている。本講座では、社会心理学的立場および臨床心理学的立場から集団力動の基本理論を理解した上で、援助処方としてのグループ・アプローチの基礎を理解することを目標とする。

授業の概要

[メディア授業／5回、テキスト授業／全10回]前半は、テキストの学習から社会心理学的立場からの集団力動に関する基礎理論を学びます。後半はメディア授業を通じ、臨床心理学的な立場から集団力学について学び、理解を深めます。

準備学習（予習・復習）

テキストの指定箇所以外の章や参考資料を活用し、理解を深める。

内　容

第1回　イントロダクション：集団とは何か。集団力学とは何か。集団力学を学ぶ上で前提となる基礎知識を学ぶとともに、本講義を概観します。【メディア授業】

第2回　人間理解とグループ・ダイナミックス（テキスト1～8ページ）人間の全ての営みには集団が深く関わっています。テキストを読んだ上でご自身と集団との関係についても検討してみましょう。【テキスト授業】

第3回　グループ・ダイナミックスの方法（テキスト9～31ページ）私たちが集団からどのような影響を受けているか、具体的・日常的に考えてみましょう。【テキスト授業】

第4回　集団の力（テキスト33～51ページ）私たちが集団からどのような影響を受けているかを、心理学の実験から捉えてみましょう。【テキスト授業】

第5回　集団規範（テキスト53～68ページ）集団からの影響を「集団規範」という概念から検討してみましょう。また、集団力動の理解がどのように私たちに役立つか、考えてみましょう。【テキスト授業】

第6回　集団と援助行動（テキスト69～81ページ）私たちの「援助行動」から、集団力動について検討してみましょう。【テキスト授業】

第7回　組織の活性化と小集団活動（テキスト83～91ページ）集団力動の理解を導入することで、私たちの活動がどのように生産的になり得るか、身近な集団体験から検討してみましょう。【テキスト授業】

第8回　組織の変革と集団決定（テキスト93～110ページ）集団力動理解は、集団変革においても大きな意味を持っています。テキストの実験や具体例を読み、集団の持つ可能性について考えてみましょう。【テキスト授業】

第9回　集団決定実施のポイント（テキスト110～120ページ）集団決定実施のポイントを具体的に想像しながら検討してみましょう。【テキスト授業】

第10回　組織の変革と目標設定（テキスト121～136ページ）集団を変革させるためには「目標設定」が欠かせません。テキストを読んだ上で、ご自身が所属する集団の中で、どのように目標設定ができるか具体的に検討してみましょう。【テキスト授業】

第11回　集団思考の落とし穴（テキスト136～148ページ）集団が十分に発達していない場合の落とし穴について考えてみましょう。【テキスト授業】

第12回　臨床心理学と集団力学臨床心理学的視点から、集団を改めて見つめなおします。前回までの基礎理論での集団の捉え方とどのように違うか考えてみましょう。【メディア授業】

第13回　集団力学と心の発達ライフサイクルにおける集団体験の蓄積がどのように心の発達に重要なものかを考えてみましょう。【メディア授業】

第14回　集団力学と心理教育集団力学を理解することで、心理教育においてどのように効果を発揮することができるのか、具体的な事例から理解を深めましょう。【メディア授業】

第15回　集団力学と心理治療集団精神療法は、個人の治療目標に向け、集団力動を治療的力動として最大限生かした心理処方です。具体的事例から理解を深めましょう。【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

人間理解のグループ・ダイナミックス

著者：　吉田道雄　著

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年：　　ISBN：

参考書

学校で役立つ社会心理学

著者：　吉田敏和他　著

出版社：（ナカニシヤ出版）

e90203e150

出版年:　　ISBN:

現代のエスプリ　グループセラピィの現在

著者:　小谷英文　編

出版社:（至文堂）

出版年:　　ISBN:

実践精神科看護テキスト 第2巻 対人関係/グループアプローチ

著者:　天賀谷隆　編

出版社:（精神看護出版）

出版年:　　ISBN:

ひとと集団・場 ［第2版］

著者:　鎌倉矩子・山根寛・二木淑子　編

出版社:（三輪書店）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 100% ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

「授業中課題」は第15回の後にレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**広告心理学（通信）**

クラス	配当回生　通信3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光	

テーマ

広告を科学的見地から理解する

授業の到達目標

広告の心理・社会的機能を、客観的な視点から論考することができる。

授業の概要

［メディア授業／8回＋テキスト授業／7回］ 私たちは日々、多くの広告に接触しながら生活している。本講では、心理学や行動科学の研究成果を中心に、これら広告の心理・社会的機能を学習し、広告の送り手・受け手の双方の視点から種々のトピックについて論考していく。加えて、広告を通して人間（消費者）理解を深めることによって、さまざまなマーケティング戦略について議論していく。 テキストはマーケティング志向であるが、メディアの中で心理学的見地から解説していく。

準備学習（予習・復習）

範囲外のテキストを熟読する。日常生活において、さまざまな広告に触れ、それを科学的見地から考察する。

内　　容

第1回　1. イントロダクション（テキスト第1章：広告とは何か　3～29ページ）広告の定義・種類・機能について理解する【テキスト授業】
第2回　2. マーケティングと広告（テキスト第2章：マーケティング計画と広告　31～60ページ）種々のプロモーション戦略の中で広告の位置づけについて理解する【テキスト授業】
第3回　3. 広告効果(1)（テキスト第7章：広告コミュニケーション過程と広告　157～186ページ）広告の効果とはどのようなものであるか概観する【テキスト授業】
第4回　4. 広告効果(2)【メディア授業】
第5回　5. ブランドと広告(1)（テキスト第10章：ブランド・コミュニケーション管理　245～261ページ）広告がブランド構築にどのように寄与しているのか理解する【テキスト授業】
第6回　6. ブランドと広告(2)【メディア授業】
第7回　7. 広告メディアの影響(1)（テキスト第9章：媒体計画　209～225ページ）「1. 広告媒体の種類と特徴」を熟読し、各メディアの特徴について理解する【テキスト授業】
第8回　8. 広告メディアの影響(2)（テキスト第14章：インターネットとクロスメディア　323～347ページ）近年、重要視されているインターネット広告の特徴について理解する【テキスト授業】
第9回　9. 広告メディアの影響(3)：広告メディアのまとめ【メディア授業】
第10回　10. 広告表現と戦略：タレント起用広告【メディア授業】
第11回　11. 広告表現と戦略：比較広告【メディア授業】
第12回　12. 広告表現と戦略：ユーモア広告【メディア授業】
第13回　13. POP広告【メディア授業】
第14回　14. 広告規制（テキスト第12章：広告関連の法規と規則　283～300ページ）広告の倫理について考える【テキスト授業】
第15回　15. まとめ【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

現代広告論　新版（有斐閣アルマ）
著者：　岸志津江・田中洋・嶋村和恵　著
出版社：（有斐閣）
出版年：　　ISBN：

参考書

新・消費者理解のための心理学
著者：　杉本徹雄　編
出版社：（福村出版）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 60% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は、第6回・第14回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**消費者コミュニケーション論（通信）**

クラス	配当回生　通信3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　前田　洋光	

テーマ

現代社会における消費者行動の理解

授業の到達目標

現代における消費者コミュニケーションの意義・機能について、客観的な視点から理解することができる

授業の概要

［メディア授業／11回＋テキスト授業／４回］ 消費者行動とは、消費者が購買し、使用・維持を経て廃棄に至るすべての行動プロセスを含んだものである。私たちは、このすべてのプロセスにおいて、他者とくちコミ情報を授受しあう、企業から情報を入手する、企業に苦情を伝える、Web上で情報交換をおこなう等、種々のコミュニケーション活動をおこなっている。本講では、これらの消費者をめぐるコミュニケーション活動に焦点をあて、そのプロセス・機能・役割について明らかにしていく。

準備学習（予習・復習）

範囲外のテキストを熟読する。日常生活において、さまざまな“消費者コミュニケーション”に関する問題に触れ、それを科学的見地から考察する。

内　　容

第1回　1. イントロダクション【メディア授業】
第2回　2. 消費者間の相互作用①：くちコミ研究の概略（テキスト第3章：消費者間の相互作用　57～74ページ）くちコミの影響過程について理解を深める【テキスト授業】
第3回　3. 消費者間の相互作用②：くちコミと普及（テキスト第3章：消費者間の相互作用　74～93ページ）特に新製品の普及過程について理解を深める【テキスト授業】
第4回　4. 消費者間の相互作用③：くちコミと他メディアとの効果差異を中心に【メディア授業】
第5回　5. 消費者間の相互作用④：くちコミの影響を左右する受け手・メッセージ内容の要因【メディア授業】
第6回　6. 消費者間の相互作用⑤：くちコミの送り手に関する検討【メディア授業】
第7回　7. ヴァーチャル・コミュニティ（テキスト第4章：インターネット時代のマーケティング・コミュニケーション　95～122ページ）特にヴァーチャル・コミュニティの特性について理解を深める【テキスト授業】
第8回　8. 消費者とモノとのコミュニケーション①：モノの意味【メディア授業】
第9回　9. 消費者とモノとのコミュニケーション②：被服心理学【メディア授業】
第10回　10. 企業と消費者間のコミュニケーション①：消費者満足（テキスト第9章：顧客満足とコミュニケーション　231～249ページ）顧客満足（消費者満足）の心理的プロセスや顧客満足がもたらす効果について理解を深める【テキスト授業】
第11回　11. 企業と消費者間のコミュニケーション②：不合理な消費者満足【メディア授業】
第12回　12. 企業と消費者間のコミュニケーション③：選択肢評価【メディア授業】
第13回　13. 現代社会における消費者コミュニケーション①：悪質商法【メディア授業】
第14回　14. 現代社会における消費者コミュニケーション②：環境配慮行動【メディア授業】
第15回　15. まとめと確認【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

消費者・コミュニケーション戦略（有斐閣アルマ）
著者：　田中洋・清水聰　著
出版社：（有斐閣）
出版年：　　ISBN：

参考書

新・消費者理解のための心理学
著者：　杉本徹雄　編
出版社：（福村出版）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（ 50% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
小テストは、第7回・第14回の後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**マーケティング調査演習（通信）**

クラス	配当回生　通信3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　「社会心理学実験演習」の履修条件に同じ	クラス指定
担 当 者　藤原　勇	

テーマ

マーケティング遂行に必要な情報収集手段としての消費者調査

授業の到達目標

マーケティング遂行の手段としての「来街者調査」や「来店者調査」の企画立案，実施，結果の分析，報告書の作成を自らが行うことで，社会調査についての「体験的理解」を深めると同時に実務的・実践的スキルを身につける.

授業の概要

[メディア授業／5回＋スクーリング授業／10回]商店街など地域社会の活性化を目指してプランを立案する場合にしばしば行われる来街者調査や来店者調査のプロセスを体験する.

準備学習（予習・復習）

商店街や店舗での販売促進の事例を収集し、その遂行のためにはどのような情報が必要になるのかを自分なりに考える。

内　容

第1回　マーケティング調査とは？その目的、意義、方法【メディア授業】
第2回　マーケティング調査の方法（具体的事例を中心にして）①【メディア授業】
第3回　マーケティング調査の方法（具体的事例を中心にして）②【メディア授業】
第4回　調査地域の課題について【メディア授業】
第5回　調査の実施計画、内容の説明【メディア授業】
第6回　マーケティング調査の実施①【スクーリング授業】
第7回　マーケティング調査の実施②【スクーリング授業】
第8回　マーケティング調査の実施③【スクーリング授業】
第9回　マーケティング調査の実施④【スクーリング授業】
第10回　マーケティング調査の実施⑤【スクーリング授業】
第11回　調査票の整理・調査データのコーディング（符号化）【スクーリング授業】
第12回　調査データの入力【スクーリング授業】
第13回　SPSSを使った統計分析①（記述統計を中心にして）【スクーリング授業】
第14回　SPSSを使った統計分析②（相関分析・統計的検定など）【スクーリング授業】
第15回　調査報告書（レポートの作成）【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 30% ）　　授業中発表等　（　）
参加度　（ 70% ）

・11月の土曜日及び日曜日（1日を予定）に近畿地区の商店街などにおいて調査を行う。また事前の現地への下見や事後の報告会なども実施することがある。・現地への交通費はすべて自己負担とする。・上記の詳細（調査実施場所など）については未定であるが決まり次第通知をする。

2016 Syllabus

科 目 名　**環境心理学（通信）**

クラス	配当回生　通信3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　太子　のぞみ	

テーマ

現実の環境における人間の心理・行動についての知識や考え方を習得

授業の到達目標

受講者が環境心理学の概念や理論を知識として得るた上で、人間を取り巻く環境を心理学の視点から把握できるように理解を深める。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]本講義では、環境心理学の考え方を踏まえた上で、多様なテーマに応じた特徴について論じる。第一に環境の認知や評価方法、第二に個人特性と環境の関係、第三に多様な環境における心理学的知見について解説する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　『環境心理学とは何か』（テキスト1～8ページ）環境心理学が成立した歴史を振り返りながら、環境心理学における人間と環境の関わりについての考え方を学習する。
第2回　『環境心理学のテーマの分類』（テキスト8～16ページ）環境心理学が実際に扱う主要なテーマ及び言葉を知り、環境心理学研究の基本的なアプローチを学習する。
第3回　『環境の認知（1）』（テキスト17～28ページ）特に認知距離について学習し、実際の距離である物理距離となぜ異なるのかについて考える。
第4回　『環境の認知（2）』（テキスト28～41ページ）頭の中にある環境の表象である認知地図について学習し、特に都市の認知地図研究の観点から理解を深める。
第5回　『環境の評価（1）』（テキスト43～52ページ）環境評価の方法論を知り、人がどういった次元に基づいて環境を評価するのかついて学習する。
第6回　『環境の評価（2）』（テキスト52～61ページ）環境評価に関する幾つかのモデルを学習し、理解を深める。
第7回　『環境デザイン』（テキスト63～79ページ）環境の性能評価である環境査定についての主要な知識の習得、また環境をアフォーダンスの視点から学習する。
第8回　『パーソナリティ・個人差と環境』（テキスト81～101ページ）環境とパーソナリティとの関わり、個人差の中でも高齢者といった特定のグループの環境への関わり方について理解する。
第9回　『対人・社会環境』（テキスト103～123ページ）プライバシーという概念について理解した後、環境心理学における対人社会環境の主要テーマを学習する。
第10回　『住環境』（テキスト125～134ページ）人間にとって重要な住環境と人間の心理の関係について概観する。
第11回　『都市環境』（テキスト134～143ページ）人間と都市生活の代わりの否定的な面、肯定的な面に焦点を当て、さらに居場所について学習する。
第12回　『教育環境と労働環境』（テキスト145～161ページ）学習環境では特に身近な教室環境、労働環境ではオフィスの様々な環境要因の影響について学習する。
第13回　『自然環境の心理学』（テキスト163～179ページ）人間と自然環境の関わりに関する理論の習得に加えて、環境災害のリスク認知について学習する。
第14回　『犯罪と環境（1）』（テキスト181～190ページ）環境心理学による犯罪へのアプローチを理解し、環境デザインの工夫による犯罪防止についての知識を得る。
第15回　『犯罪と環境（2）』（テキスト190～201ページ）環境心理学の視点から犯罪発生のメカニズム、犯罪者の認知地図について学習する。

履修上の注意点

教科書

環境心理学－人間と環境の調和のために－
著者：　羽生和紀　著
出版社：（サイエンス社）
出版年：2008年　　ISBN：

参考書

環境心理学（朝倉心理学講座12）
著者：　佐古順彦・小西啓史　編
出版社：（朝倉書店）
出版年：2007年　　ISBN：

成績評価

試験　（ 70% ）　　小テスト（　）

e90203e510

授業中課題 （ 30% ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ ）

「授業中課題」は、第4回・第9回・第13回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**社会心理学実験演習（6月4・18・7月10日）（通信）**

クラス		配当回生	通信3回生
講義期間	前期	定　員	
履修条件	下記①②をともに満たすこと①「社会心理学Ⅰ」「社会心理学Ⅱ」「産業心理学Ⅰ（組織行動論）」「産業社会学Ⅱ（消費者行動論）」のうちいずれか2科目を修得済みであること②「心理統計学Ⅰ」を修得し、かつ「心理統計学Ⅱ」または「心理学データ解析」のいずれかを修得済みである	クラス指定	

担 当 者　塩谷　尚正

テーマ

質問紙による実証研究

授業の到達目標

実証研究のプロセスについて理解する。

授業の概要

［スクーリング授業／全15回］ 受講生をいくつかのグループに分け、社会調査を用いたグループ研究を実施していく。具体的には、グループごとで研究テーマを決定し、文献を講読し、研究仮説を構築する。その後、質問紙調査を実施し、収集されたデータを分析し、レポートとしてまとめていく。スクーリング授業ではあるが、授業外にも他の受講者および教員とのコミュニケーションをとることが求められる。（注意事項）本科目では、データ分析に「SPSS」を用いる。そのため、統計学の基礎的な知識を有することはもちろんのことながら、本科目を履修する前に、SPSSの基礎的な操作方法を扱う「心理学データ解析」を既に修得していることが望ましい。

準備学習（予習・復習）

研究は一朝一夕にはできないため、スクーリング日程のみで完了することは不可能である。そのため、特に、文献講読・仮説構築・質問紙の設計に関しては、授業外で作業することが求められる。グループ間で（メールを中心に）コミュニケーションを密にとりながら、どのような研究を実施するのか検討していかなければならない。また、レポートはスクーリング終了後に提出してもらう。スクーリングの日程以外も授業の一環であることを意識してください。

内　容

第1回　オリエンテーション（1日目）
第2回　研究テーマの決定と文献検索の方法（1日目）
第3回　文献講読（1日目）
第4回　仮説の設定に関する講義（1日目）
第5回　質問項目の設計に関する講義（1日目）
第6回　仮説についての議論（2日目）
第7回　質問項目の設計（2日目）
第8回　質問紙の設計（2日目）
第9回　調査準備（2日目）
第10回　調査の実施（2日目）
第11回　データ分析（基礎集計）（3日目）
第12回　データ分析（仮説の検討）（3日目）
第13回　データ分析（発展的検討）（3日目）
第14回　レポートのまとめ方（3日目）
第15回　結果のまとめと考察（3日目）

履修上の注意点

教科書

特に指定しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方

著者：　浦上昌則・脇田貴文　著

出版社：（東京図書）

e90203e610

出版年:　　ISBN:

質問紙デザインの技法

著者:　鈴木淳子　著

出版社:（ナカニシヤ出版）

出版年:　　ISBN:

心理学論文の書き方

著者:　松井豊　著

出版社:（河出書房新社）

出版年:　　ISBN:

SPSSのススメ〈1〉2要因の分散分析をすべてカバー

著者:　竹原 卓真　著

出版社:（北大路書房）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 60% ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ 40% ）

最終評価は、レポートにておこなう。レポートは、スクーリング日程終了後、個別に提出してもらう。また、上記のように、本科目は授業外でもグループメンバーと議論を重ねることが求められる。そのため、成績評価に関しても、積極的に議論に参加しているかどうかを重視する。

2016 Syllabus

科 目 名　**コーチング心理学（通信）**

クラス	配当回生　通信3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　本山　雅英	

テーマ

卒業後に企業で働くことを前提としていた講座である。企業活動における生産性向上に、コーチング、ファシリテーションがどう役立っているかを学ぶ。

授業の到達目標

企業におけるヒューマンマネジメント(人的資源管理)は、心理学の諸理論の援用により構成、運用されている。静的アプローチとしての人事制度設計には、主として動機づけ理論。目標管理を中心とした、動的アプローチにはコーチング、ファシリテーションなどの行動科学の考え方が援用されている。本講座では、コーチング、ファシリテーションが企業内でどう活用され、どのような効果をあげているかを理解し、心理学を学んだものが企業内で、それをどう活用すべきかのポイントを習得する。

授業の概要

［テキスト授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

内　　容

第13回　ファシリテーションとチェンジ・エージェント企業から期待されているのは「行動変革」であり、その推進役のコンサルタントがチェンジエージェントと呼ばれることを理解する。（テキスト117～121ページ）

第14回　目標管理と動機づけの心理学企業に入ると必ず出会う目標管理とその基本的な考え方を理解する。企業社会に与えているドラッカー理論の影響と、その考え方のポイントを理解する。（テキスト123～133ページ）

第15回　リーダーシップの理論目標管理との関連により、企業ではリーダーシップを最重要視していることを理解する。（テキスト133～141ページ）

第1回　企業社会で期待される心理学とは? 大学で学ぶ心理学と、社会人が勉強したい心理学とのギャップ。企業が期待する「スキルとしての心理学」を理解する。（テキスト1～7ページ）

第2回　心理学を仕事に役立てるコーチングは仕事に役立つことを理解する。人の話をよく聴いて、売れる営業マンになるためのヒヤリングへの応用。良い人材の採用面接への活用法になどを理解する。（テキスト8～13ページ）

第3回　パーソナル・スキルとしてのコンパクト心理学「TA」企業でよく使われている代表的な諸理論のうち、TA理論についてエゴグラム分析を通じて自己理解する。（別途ワークシートを使用する）（テキスト15～23ページ）

第4回　自我状態とやりとり(交流)1.相補的交流、2.交叉交流、3.裏面的交流の3つのパターンがあり、裏面的交流が人間関係を阻害していることを理解する。（テキスト24～30ページ）

第5回　組織や職場の活性化とストローク人間関係を促進するのがストローク、阻害するのがディスカウントであることを理解する。（テキスト31～36ページ）

第6回　自分の行き方を予測し変革する「人生脚本」理論人生脚本の概念もを理解し、自分は「勝者」「敗者」「平凡な」のうちどの脚本に基づいて生きているかを考察する。（テキスト36～42ページ）

第7回　コーチングの可能性と重要性企業で活用されている人材教育としてのコーチングの位置づけを理解する。（テキスト43～52ページ）

第8回　コーチングの基本スキル1.聴く、2.質問する、3.伝えるが三大スキルであることを学ぶ。（テキスト53～67ページ）

第9回　カウンセリングとコーチングの共通点コーチングを企業で役立てるためには、カウンセリング諸派のいずれかのトレーニングを体験することが望ましいことを理解する。（67～71ページ）

第10回　ファシリテーションの概要ファシリテーションは、ラボラトリートレーニングやエンカウンター・グループから生まれたものであり、それが企業社会では「会議進行」に活用されていることを理解する。（テキスト73～82ページ）

第11回　組織に対するファシリテーションの鍵となる会議運営のスキル①グループワークに比べると、企業での会議ファシリテーションは構造化されていることを理解する。（テキスト82～89ページ）

第12回　組織に対するファシリテーションの鍵となる会議運営のスキル②企業における会議やミーティング時のファシリテーションの具体的な活用法を理解する。（テキスト89～116ページ）

履修上の注意点

教科書

大学生のためのコーチングとファシリテーションの心理学

著者：　本山雅英　著

出版社：（北大路書房）

出版年：2014年　　ISBN：

参考書

自分がわかる心理テスト2

著者：　芦原睦　著

出版社：（講談社）

出版年：1995年　　ISBN：

e90203e750

ファシリテーション入門（日経文庫）

著者:　堀公俊　著

出版社:（日本経済新聞出版社）

出版年:　2004年　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 100% ）　　授業中発表等（　）

参加度　（　）

「授業中課題」は、第８回、第15回の後にレポート課題を課す。

2016 Syllabus

科 目 名　**メンタルヘルス・マネジメント（通信）**

クラス	配当回生　通信3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　田中　芳幸.大久保　千惠	

テーマ

こころもからだもウエルビーイングな生活を維持増進するために重要な諸理論と技法について学ぶ

授業の到達目標

心身の健康の維持増進や疾病への対処について、心理・社会・身体的な要因がどのような役割をもつのかを心理学の側面から学ぶ。特に、メンタルヘルスを維持しながら生活していくための実学として、ストレス理論およびストレスマネジメント理論・技法を中心に学習する。また、職業場面におけるメンタルヘルスの重要性について、事例を参照しながら考える。さらに本講義を通して、受講者自身が自らのストレス状態やストレス対処能力に気づき、メンタルヘルス・マネジメントの力を高めることも目的とする。

授業の概要

［メディア授業／3回＋テキスト授業／12回］

準備学習（予習・復習）

ニュースや新聞記事などに目を向け，現代社会でおきているメンタルヘルス関連問題に関心をもっていただきたい。

内　容

第1回　オリエンテーション　メンタルヘルスと心身の健康［田中］（テキスト第1章 14～27ページ）メンタルヘルスに直結するストレスについて，特にストレッサー（ストレス刺激）について学びながら，自身の状態についてもチェックする。【メディア授業】

第2回　心身のストレス反応と健康［田中］（テキスト第2～3章 28～42ページ）精神的および心理的なストレス反応と心身の健康について概観するとともに，自身の状態についてチェックする。こころとからだの臨床学Ⅱにおける関連講義「心身のストレスに関する基礎理論（メディア授業）」を参照することが望ましい。【テキスト授業】

第3回　ストレス緩和要因としてのコーピングと行動パターン［田中］（テキスト第4～5章 44～60ページ）ストレス対処の中核概念であるコーピングについて，およびメンタルヘルスを阻害しやすい行動パターンについて学習するとともに，自らの対処行動や行動パターンを振り返る。こころとからだの臨床学Ⅱにおける関連講義「ストレスへの対処（メディア授業）」を参照することが望ましい。【テキスト授業】

第4回　ストレスに強いパーソナリティ［田中］（テキスト第6章 61～74ページ）メンタルヘルスを維持しやすい，つまりストレスに強い性格とはどの様なものかを概観するとともに，自身について振り返る。ただし，性格の善悪を述べるものではなく，自分自身のどの様な点に気を付けるべきかの参考であることに注意する。【テキスト授業】

第5回　社会への意識と心身の健康［田中］（テキスト第7章 75～83ページ）社会との関連性の中で自らのストレス状況やメンタルヘルス状態が構築されていることを理解し，自らの社会への意識等について振り返る。【テキスト授業】

第6回　楽観主義・完璧主義と心身の健康［田中］（テキスト第8章 84～96ページ）楽観主義と完璧主義（楽観主義との対比では悲観主義について示されることが多い）によるストレスの感じやすさや，メンタルヘルスおよび身体的健康への影響性について学ぶ。また，自身の楽観性と悲観性の程度や完璧主義の程度についてチェックする。【テキスト授業】

第7回　メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法　(1)リラクセーション［田中］（テキスト第9章 98～108ページ）メンタルヘルスの維持・増進に役立つリラクセーション技法の一例について学び，自らでも実践してみる。【テキスト授業】

第8回　メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法　(2)問題解決と時間の節約［田中］（テキスト第10章 109～124ページ）認知行動療法の一技法を取り上げ，生活習慣改善への一助とする。自らの問題解決力についても振り返る。【テキスト授業】

第9回　メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法　(3)認知への働きかけ［田中］（テキスト第11～12章 125～144ページ）メンタルヘルスの維持増進やストレスのコントロールに役立つ技法の中で，認知・思考面に働きかけるものについて学ぶとともに，テキストに基づき自身でも実践してみる。テキスト第14章に紹介されるオペラント技法についても含めて，メディア授業にても補足する。【メディア授業】

第10回　メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法　(4)自己主張（アサーション）と社会的スキル［田中］（テキスト第13章 145～158ページ）自己主張（アサーション）トレーニングを中心に社会的スキル向上のための方法を学び，メンタルヘルスを維持・増進するための対人関係について考える。自らの自己主張の在り方を振り返るとともに，社会的スキルトレーニングを実践してみる。【テキスト授業】

第11回　メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法　(5)セルフ・マネジメント法［田中］（テキスト第14章 159～172ページ）オペラント条件づけ理論について復習しつつ，そのセルフマネジメントへの応用について学習する。実験的行動分析から応用行動分析にかけてのオペラント条件づけ理論については，別回「メンタルヘルス・マネジメントに役立つ理論と方法　(3)」にてメディア授業での解説も行う。【テキスト授業】

第12回　勤労者におけるストレス関連問題　（1）社会における勤労者のメンタルヘルス問題の実態と対処［大久保］現代社会において、勤労者に生じているメンタルヘルスに関連する問題について学ぶ。過重労働などによる心身の健康への影響について解説する。また、深刻な社会問題である、自殺問題にも触れ、自殺予防のためのマネジメントを解説する。【テキスト（オリジナル）授業】

第13回　勤労者おけるストレス関連問題　（2）ハラスメント問題の実態と対処［大久保］職場におけるセクシャルハラスメント、モラルハラスメント、パワーハラスメントなどのハラスメント問題の実態について知り、それらへの対処について学ぶ。【テキスト（オリジナル）授業】

第14回　勤労者におけるストレス関連問題　（3）勤労者への支援［大久保］勤労者の就労上の問題を支援するEAPの仕組みについて学ぶ。また、就労上の問題でメンタルヘルス不全に陥り休職になった場合の職場復帰支援の実際について学ぶ。第１２回～１４回の内容についての小テスト【テキスト（オリジナル）授業】

第15回　授業のまとめ［田中］【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

ストレス・マネジメント入門　自己診断と対処法を学ぶ（第2版）
著者：　中野敬子　著
出版社：（金剛出版）
出版年：　ISBN：

参考書

ストレスマネジメントと職場カウンセリング　主要な方法論とアプロ−チ
著者：　内山喜久雄　監訳
出版社：（川島書店）
出版年：　ISBN：

健康の心理学　心と体の健康のために
著者：　春木豊ほか　著
出版社：（サイエンス社）
出版年：　ISBN：

成績評価

試験　（ 40% ）　小テスト（ 60% ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
小テストは、第6回・第11回・第14回の後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**発達臨床心理学（通信）**

クラス　　配当回生　通信3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　中村 和夫

テーマ

人としての発達を生きる上での障害の実際とソーシャルサポートについて理解する。

授業の到達目標

人としての発達を生きる上での様々な障害についてその実際の姿を理解するとともに、社会生活におけるソーシャルサポートのあり様と実践現場の活動について理解すること。

授業の概要

［テキスト授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

発達臨床心理学の関連図書による自学自習

内　容

第1回　発達臨床心理学（臨床発達心理学）とは何か（テキスト2～7、12～13、16～17ページ）
第2回　障害とは何か、発達の遅れとは何か（テキスト70～77ページ）
第3回　知的発達の障害ーダウン症ー（テキスト78～83ページ）
第4回　姿勢・運動の障害（テキスト84～89ページ）
第5回　言葉の障害（テキスト90～93、96～99ページ）
第6回　視覚の障害（テキスト100～107ページ）
第7回　聴覚の障害（テキスト108～113ページ）
第8回　自閉症（テキスト114～119ページ）
第9回　自閉症・アスペルガー症候群（テキスト120～125ページ）
第10回　注意欠陥多動性障害（ADHD）（テキスト128～131ページ）
第11回　学習障害（テキスト132～135ページ）
第12回　不登校・ひきこもり（テキスト142～149ページ）
第13回　発達臨床の現場とソーシャルサポート（テキスト176～183ページ）
第14回　発達臨床の現場とソーシャルサポート（テキスト184～191ページ）
第15回　発達臨床の現場とソーシャルサポート（テキスト194～199ページ）

履修上の注意点

教科書

よくわかる臨床発達心理学
著者：　麻生武・浜田寿美男　編
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：　　ISBN：

参考書

よくわかる発達障害
著者：　小野次朗・上野一彦・藤田継道　編
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 100% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
小テストは、第5回、第10回、第15回の後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**医療と生命の倫理（通信）**

クラス	配当回生　通信3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鶴田　尚美	

テーマ

生命倫理学の基礎的問題

授業の到達目標

（1）生命倫理学の問題を考えるために必要な基本的知識を身につけること。（2）その上で、生命に関わる倫理的問題について自分自身で考える態度を身につけること。（3）自分の考えを小論文形式で適切に表現できるようになること。

授業の概要

［テキスト授業／全15回］毎回授業レジュメを配付し、教科書と平行して使用する。

準備学習（予習・復習）

生命倫理学の情報はネット上でたくさん手に入るので、関心のあることは自分で調べてみて欲しい。

内　　容

第1回　生命倫理学とはなにか。（教科書第１章１～13ページ）生命倫理学の成立を概説する。
第2回　インフォームド・コンセント（１）（教科書第11章145～153ページ）インフォームド・コンセントの役割、歴史的背景などを学ぶ。
第3回　インフォームド・コンセント（２）（教科書第11章153～157ページ）インフォームド・コンセントにおいて生じる問題点を考える。
第4回　人工妊娠中絶（１）（教科書第６章75～87ページ）妊娠中絶の具体的方法を学び、日米の法的規制を学ぶ。
第5回　人工妊娠中絶（２）（教科書第６章75～87ページ）妊娠中絶に反対する哲学者の議論を学ぶ。
第6回　人工妊娠中絶（３）（教科書第６章75～87ページ）妊娠中絶を容認する哲学者の議論を学ぶ。
第7回　生殖補助医療（教科書第３章29～42ページ）不妊治療、代理母出産、代理母の事例を学ぶ。
第8回　出生前診断（教科書第10章137～139ページ）出生前診断の主な方法と倫理的な問題点を学ぶ。
第9回　終末期医療（教科書第９章117～129ページ）終末期医療において生じる心理的、社会的、倫理的問題を学ぶ。
第10回　安楽死・尊厳死（１）（教科書第７章89～102ページ）安楽死の分類、尊厳死の概念など、基本的な用語を学ぶ。
第11回　安楽死・尊厳死（２）（教科書第７章89～102ページ）安楽死の主な判例と歴史、倫理的議論などを学ぶ。
第12回　脳死と臓器移植（１）（教科書第4章43～58ページ）脳死概念と臓器移植の歴史を学ぶ。
第13回　脳死と臓器移植（２）（教科書第4章43～58ページ）脳死概念と臓器移植の歴史を学ぶ。
第14回　科学的医学の論理と倫理（教科書第5章59～74ページ）ヒトを対象をした医学実験について学ぶ。
第15回　人間の生命の価値（教科書第8章103～115ページ）人間の生命だけが持つといわれている特別な価値とはなにかを考える。

履修上の注意点

教科書

生命倫理学入門　第3版
著者：　今井道夫　著
出版社：（産業図書）
出版年：2013年　　ISBN：

参考書

はじめて学ぶ生命倫理:「いのち」は誰が決めるのか
著者：　小林亜津子　著
出版社：（筑摩書房）
出版年：2011年　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 100% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は、第７回・第13回・第15回の後にそれぞれレポートを課す。評価は第７回・第13回の後に課すものをそれぞれ10%、第15回の後に課すものを80%として行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**ライフサイクル論（通信）**

クラス　　配当回生　通信3回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　菱田　一仁

テーマ

カウンセリングなど、専門的なかかわりの中で必要となる、現代のライフサイクルについての基本的な知識を身につける。

授業の到達目標

カウンセリングなどの場面で、実際にクライエントなどと会い、専門的なかかわりを行う上で必要となるライフサイクルについての知識を身につける。

授業の概要

[メディア授業／3回＋テキスト授業／12回]カウンセリングの中では、様々な年代のクライエントと出会います。様々なクライエントの話を聞くために、各年代の生きるテーマを知る必要があり、そうした各年代におけるテーマを明らかにしているのがライフサイクルという考え方です。時代に応じて変化するライフサイクルを、テキストとメディアの授業で学んでいきます。

準備学習（予習・復習）

授業内で身につけた知識をもとに、日常的に触れるもの（ドラマや映画など）についても、心理学的な視点で考えてもらえると面白いと思います。

内　容

第1回　オリエンテーション・ライフサイクルとは【メディア授業】
第2回　ライフサイクルの概観（PP1-18）【テキスト授業】
第3回　乳児期①（PP23-29）【テキスト授業】
第4回　乳児期②（P.30-46）【テキスト授業】
第5回　幼児期①（PP47-59）【テキスト授業】
第6回　幼児期②（PP60-68）【テキスト授業】
第7回　児童期①（PP69-77）【テキスト授業】
第8回　児童期②（PP78-86）【テキスト授業】
第9回　思春期（PP87-112）【テキスト授業】
第10回　青年期（PP113-130）【メディア授業】
第11回　成人期①（PP131-143）【テキスト授業】
第12回　成人期②（PP144-152）【テキスト授業】
第13回　中年期（PP153-174）【テキスト授業】
第14回　老年期（PP175-204）【テキスト授業】
第15回　まとめ【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

エピソードでつかむ　生涯発達心理学
著者：　岡本祐子・深瀬裕子　著
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 40% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は第10回の後にレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**精神医学Ⅰ（通信）**

クラス	配当回生　通信3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　上鹿渡　和宏	

テーマ

様々な精神疾患について、また、我が国の精神医療の実際について幅広く理解する。

授業の到達目標

最初に精神医学の歴史と現状について概観する。生物学的基礎として脳および神経の生理・解剖とその機能について理解する。精神医学で扱う代表的な疾患の成因、症状、診断法、治療法、経過、また、本人や家族への支援についての理解を深める。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]精神医学の歴史、生物学的基礎、疾患の分類と具体的内容、また治療法や関わる際の注意事項について教科書をもとにして理解を深める。

準備学習（予習・復習）

予習としては教科書の相当箇所を読む。また、復習としては、回毎に出てくる精神医学に関する様々な用語（特に教科書太字部分）について理解を確実なものにする。

内　容

第1回　「精神医学、精神医療の歴史と現状」（テキスト2～6ページ）世界の精神医療、精神医学の歴史と日本の精神医療と精神医学の歴史そして現代の動向について概観する。

第2回　「精神現象の生物学的基礎」（テキスト7～16ページ）脳の構造や機能について概要を理解する

第3回　「こころの理解」（テキスト17～25ページ）様々なレベルでの精神医学的アプローチについて学ぶ。生物学的理解や精神分析からの理解についても学ぶ。

第4回　「精神障害の概念」（テキスト28～32ページ）精神障害について理解を深めるための様々な考え方について学ぶ。また国際生活機能分類（ICF）について理解する。

第5回　「精神疾患の成因と分類」（テキスト33～41ページ）精神障害診断分類の歴史について、ICD、DSMについて理解する。

第6回　「精神症状と状態像」（テキスト42～55ページ）様々な精神症状について精神医学特有の用語の意味を理解し慣れる。各疾患の学習の際に繰り返し出てくる用語でありその後の理解を深めるための準備とする。

第7回　「診断の手順と方法」（テキスト56～64ページ）受診から診断までの過程を理解する。また、実際の面接における手順や内容についても理解を深める。

第8回　「心理検査と身体的検査、その利用方法と注意点」（テキスト65～73ページ）精神医療に関係する様々な検査（心理身体）について学びその実際を理解する。

第9回　「代表的な疾患について1　～　症状性を含む器質性精神障害（1）」（テキスト74～87ページ）様々な認知症（特にアルツハイマー型、レビー小体型、前側頭型、血管性）、精神症状が生じる器質疾患（特に脳外傷、一酸化炭素中毒）について理解を深める。

第10回　「代表的な疾患について2　～　症状性を含む器質性精神障害（2）」（テキスト88～96ページ）症状性精神障害（特に膠原病、甲状腺機能低下症）、てんかんについて理解を深める。

第11回　「代表的な疾患について3　～　精神作用物質使用による精神および行動の障害」（テキスト97～112ページ）精神依存と身体依存について、特にアルコール依存症の理解と対応について学ぶ。依存が問題となる薬物について知る。

第12回　「代表的な疾患について4　～　統合失調症（1）」（テキスト113～120ページ）統合失調症の発症原因、主な症状（陽性症状・陰性症状）について概略を学ぶ。シュナイダーの一級症状、ブロイラーの基本症状についても理解する。

第13回　「代表的な疾患について5　～　統合失調症（2）」（テキスト120～131ページ）統合失調症の個々の症状について、分類、経過と予後、治療について、統合失調症の周辺疾患について学ぶ。

第14回　「代表的な疾患について6～　気分障害（1）　うつ病」（テキスト132～143ページ）うつ病について、病前性格、うつ病の症状について、診断と治療について理解する。

第15回　「代表的な疾患について7～　気分障害（2）　双極性感情障害他」（テキスト143～148ページ）躁病の症状、治療、対応について理解する。持続性気分障害、非定型うつ病について知る。

履修上の注意点

教科書

新・精神保健福祉士養成講座　精神疾患とその治療（第2版）

著者：　日本精神保健福祉士養成校協会　編

出版社：（中央法規）

出版年：2016年　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

e90203f310

授業中課題 （ 100% ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ ）

「授業中課題」は、第８回・第15回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**精神医学Ⅱ（通信）**

クラス	配当回生　通信3回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件　「精神医学Ⅰ」を修得済みであること	クラス指定
担 当 者　上鹿渡　和宏	

テーマ

様々な精神疾患について、また、我が国の精神医療の実際について幅広く理解する。

授業の到達目標

精神医学Ⅰに引き続き、精神医学で扱う代表的な疾患の成因、症状、診断法、治療法、経過、また、本人や家族への支援について理解を深める。さらに、精神医療における実際について（外来、入院治療、地域でのケアの内容や特性）、多職種の連携についても理解することが望まれる。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]精神医学Ⅰに引き続き、精神疾患疾患の具体的内容、また治療法や関わる際の注意事項について教科書をもとに理解する。その上で、現実の治療の枠組みについてや、患者の人権擁護についても学ぶ。さらに精神科治療における諸機関、専門職の連携と、それぞれの役割についても理解を深める。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　「代表的な疾患について8　～　神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害（1）」（テキスト149～154ページ）神経症について理解する。全般性不安障害の症状について、パニック障害の症状、治療について、恐怖症性不安障害について学ぶ。

第2回　「代表的な疾患について9　～　神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害（2）」（テキスト155～161ページ）強迫性障害の症状、原因、治療と予後について、PTSDの症状と治療について、適応障害について理解す

第3回　「代表的な疾患について10　～　神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害（3）」（テキスト161～169ページ）解離性障害と転換性障害の様々な症状と治療、対応について理解する。身体表現性障害と心身症の症状や治療について学ぶ。

第4回　「代表的な疾患について11　～　生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群」（テキスト170～179ページ）摂食障害について病前性格、発症原因、症状、治療について理解する。様々なタイプの睡眠障害について理解する。

第5回　「代表的な疾患について12　～　成人のパーソナリティおよび行動の障害」（テキスト180～190ページ）様々なタイプのパーソナリティー障害について理解する。性関連性障害（特に性同一性障害）について知る。

第6回　「代表的な疾患について13　～　精神遅滞」（テキスト191～195ページ）知的障害・精神遅滞の定義を理解する。程度による分類を理解し具体的イメージを持つ。原因となり得る代表的な疾患について知る。

第7回　「代表的な疾患について14　～　心理的発達の障害」（テキスト196～202ページ）発達障害について理解する。知的障害との違いを意識して学習障害について理解する。広汎性発達障害、自閉スペクトラム症（自閉症スペクトラム障害）について理解する。

第8回　「代表的な疾患について15　～　小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害」（テキスト203～212ページ）ADHD、素行障害、様々な情緒障害について知る。選択性緘黙、愛着障害、チック、遺尿症、吃音について理解を深める。

第9回　「治療について1～薬物療法」（テキスト214～224ページ）コンプライアンスとアドヒアランスの理解、抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬、抗てんかん薬等について薬理作用の概要と副作用について理解する。

第10回　「治療について2～電気けいれん療法（ECT）、精神療法」（テキスト225～236ページ）ECTの適応疾患、効果、注意事項を理解する。各種精神療法について理論と実際の概要を理解する。

第11回　「治療について3～　精神科リハビリテーション」（テキスト237～244ページ）精神科リハビリテーションの意義と定義について理解する。その実際（心理教育、社会生活技能訓練、精神科作業療法）についても理解を深める。

第12回　「治療について4～　環境・社会療法」（テキスト245～253ページ）精神科医療機関での入院について、精神科デイ・ナイ・トケア、訪問看護について理解する。

第13回　「精神医療の実際　～歴史と現状」（テキスト263～283ページ）外来診療、在宅医療、入院医療についてその実際を理解する。

第14回　「精神医療における人権擁護について」（テキスト290～313ページ）日本の精神医療特有の様々な入院形態について理解する。インフォームドコンセント、行動制限の実際について理解を深める。

第15回　「精神科医療と関連機関との連携」（テキスト328～352ページ）早期介入、再発予防、精神医療における入院中心から地域ケアへの動きについて理解を深める。

履修上の注意点

教科書

新・精神保健福祉士養成講座　精神疾患とその治療（第2版）

著者：　日本精神保健福祉士養成校協会　編

出版社：（中央法規）

出版年：2016年　　ISBN：

参考書

成績評価

試験 （ ）
小テスト（ ）
授業中課題 （ 100% ）
授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
「授業中課題」は、第８回・第15回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**障害児医学（通信）**

クラス	配当回生　通信3回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　安藤　忠	

テーマ

「障害臨床学」という学問の価値を、教科書を基にした授業から学び、学びの内容を、学生間のディスカッションやレポート作成の過程を通じて深化する。単なる”障害”の特性についての理解のみならず、環境を含めたその援助方法についてそれぞれに理解し、支援を実践するに当たっての当面のの手がかりを掴むことを本授業のテーマとする。

授業の到達目標

個々の学生が、さまざまな障害のある児童・生徒に備わった、機能・能力障害の特殊性ばかりに目を向けて、改善の対象として障害をとらえるのではなく、障害児・者とその家族の生活を主体とした、臨床支援、障害児・者とその家族の社会とのかかわりを視野に入れ、その生涯を通しての臨床支援の考え方を学び、実践に結び付けることができるよう知識を深める。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]ここで支援対象とする”障害”は、知的障害、自閉性障害、多動性障害、学習障害、運動障害、中途障害などで、支援の具体的内容は、”障害”の原因、概念・特徴、支援の考え方、医学的基礎知識、障害受容、早期療育、障害児教育など、多角的な理解を進める。

準備学習（予習・復習）

毎回の予習と復習、ミディアに報道される障害者問題についての関心を深めること。

内　容

第1回　”障害”とは何か、”障害”をどうとらえるか（テキスト1～8ページ）
第2回　脳・神経系の機能と障害（テキスト9～26ページ）
第3回　知的障害児の心理と支援（テキスト27～41ページ）
第4回　自閉性障害の心理と支援（1）（テキスト43～50ページ）
第5回　自閉性障害の心理と支援（2）（テキスト50～58ページ）
第6回　TEACCHプログラム（テキスト58～66ページ）
第7回　多動性障害と学習障害の心理と支援（テキスト71～80ページ）
第8回　感覚統合療法（テキスト80～87ページ）
第9回　運動障害の心理と支援　脳性まひ（1）（テキスト91～94ページ）
第10回　運動障害の心理と支援　脳性まひ（2）（テキスト94～97ページ）
第11回　運動障害の心理と支援　脳性まひ（3）（テキスト97～109ページ）
第12回　中途障害の心理と支援（テキスト111～126ページ）
第13回　障害児の親・家族の心理と支援（テキスト127～140ページ）
第14回　早期発見と早期療育（テキスト141～155ページ）
第15回　障害児教育とノーマライゼーション（テキスト157～177ページ）

履修上の注意点

教科書

障害臨床学
著者:　中村義行・大石史博　著
出版社:（ナカニシヤ出版）
出版年:　2005年　　ISBN:

参考書

ダウン症児の育ち方・育て方
著者:　安藤忠　著
出版社:（学研）
出版年:　2002年　　ISBN:

ダウン症療育のパイオニア
著者:　安藤忠・他　訳
出版社:（あいり出版）
出版年:　2006年　　ISBN:

e90203f510

ダウン症のぼくから

著者:　安藤忠・他　著

出版社:（あいり出版）

出版年:　2013年　　ISBN:

障害は個性か

著者:　茂木俊彦　著

出版社:（大月書店）

出版年:　2004年　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題（ 100% ）　　授業中発表等（　）

参加度　（　）

「授業中課題」は、第15回授業後にレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅱ（通信）**

クラス	配当回生　通信4回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件　「卒業研究Ⅰ」を修得済みであること	クラス指定
担 当 者　永野　光朗.上北　朋子.坂本　敏郎.ジェイムス　朋子.中西　龍一.中村　和夫.日比野　英子.松下　幸治	

テーマ

・卒業研究の実験・調査などの実施・データの処理

授業の到達目標

研究計画に沿って、データ収集のための、実験･調査・観察等を実施し、得られたデータの分析を行う。

授業の概要

［スクーリング／全15回］

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　実験・調査などの実施について具体的指導（1）
第2回　実験・調査などの実施について具体的指導（2）
第3回　実験・調査などの実施について具体的指導（3）
第4回　パイロット実験・予備調査などの報告と指導（1）
第5回　パイロット実験・予備調査などの報告と指導（2）
第6回　パイロット実験・予備調査などの報告と指導（3）
第7回　結果の処理：データの統計処理の指導（1）
第8回　結果の処理：データの統計処理の指導（2）
第9回　結果の処理：データの統計処理の指導（3）
第10回　統計処理の指導と演習（1）
第11回　統計処理の指導と演習（2）
第12回　統計処理の指導と演習（3）
第13回　研究結果の報告と指導（1）
第14回　研究結果の報告と指導（2）
第15回　研究結果の報告と指導（3）

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

心理学実験･研究レポートの書き方
著者：　B.フィンドレイ　著　細江達郎・細越久美子　訳
出版社：（北大路書房）
出版年：　　ISBN：

各学生の研究テーマやデータ分析の方法に沿った文献を適宜紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題（100%）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　**卒業研究Ⅲ（通信）**

クラス　　配当回生　通信4回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　「卒業研究Ⅱ」を修得済みであること　　クラス指定

担 当 者　永野　光朗.中西　龍一.中村　和夫.日比野　英子.坂本　敏郎.ジェイムス　朋子.上北　朋子.松下　幸治

テーマ

・卒業論文の完成・研究発表

授業の到達目標

卒業論文の執筆・研究発表

授業の概要

［スクーリング／全15回］

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　「問題と目的」「方法」の指導（1）
第2回　「問題と目的」「方法」の指導（2）
第3回　「問題と目的」「方法」の指導（3）
第4回　「結果」の指導（1）
第5回　「結果」の指導（2）
第6回　「結果」の指導（3）
第7回　「考察」の指導（1）
第8回　「考察」の指導（2）
第9回　「考察」の指導（3）
第10回　卒業論文全体の指導（1）
第11回　卒業論文全体の指導（2）
第12回　卒業研究発表会（1）
第13回　卒業研究発表会（2）
第14回　卒業研究発表会（3）
第15回　卒業研究発表会（4）

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

心理学実験・研究レポートの書き方
著者：　B.フィンドレイ　著　細江達郎・細越久美子　訳
出版社：（北大路書房）
出版年：　　ISBN：

各学生の研究テーマやデータ分析の方法に沿った文献を適宜紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 70% ）　　授業中発表等　（ 30% ）
参加度　（　）

2016 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅰ（通信）

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　ﾌｫｽﾀｰ ﾍﾝﾘｰ

テーマ

Developing Listening, Speaking and Other Communicative Skills through DVD Materials

授業の到達目標

In this course we will cover some basic daily English communicative items. The aim is to provide practical and useful material that will enable students to become comfortable with listening to, understanding, and speaking in a limited number of frequently occurring English situations. It is also hoped that, as psychology majors, they will be able to pick up the feelings and thoughts of the various speakers in the DVD materials, and understand some basic differences between Japanese and English ways of expression.

授業の概要

［テキスト授業／14回＋メディア授業／1回］

準備学習（予習・復習）

KTU's 'Moodle' e-learning programs, NHK radio programs; TOEIC practice; Kilgarriff vocabulary list; graded readers

内　容

第1回　Introductory Video: introduction of the teachers and of the 15 session course and its aims; how to use the DVD text with an explanation of the text's format and types of practice, course requirements and evaluation; what students should do if they have questions; recommendations about other forms of study and other study materials relevant to this course.【メディア授業】
第2回　Textbook Unit 1: Here's Your Boarding Pass — understanding flight information and checking in【テキスト授業】
第3回　Textbook Unit 2: So, Where Are You From? — introducing yourself, talking about your interests【テキスト授業】
第4回　Textbook Unit 3: A Good Hotel at a Great Price — checking in at a hotel, making special requests【テキスト授業】
第5回　Textbook Unit 4: Planning a Day Trip — choosing a place and planning a day trip【テキスト授業】
第6回　Textbook Unit 5: Next Stop, Chicago! — arranging transportation and paying【テキスト授業】
第7回　Textbook Unit 6: A Buffalo Burger — choosing a restaurant and ordering a meal【テキスト授業】
第8回　Review of Units 1 ～ 6 and mid-semester evaluation【テキスト授業】
第9回　Textbook Unit 7: Walking Around Oxford —understanding locations and following directions【テキスト授業】
第10回　Textbook Unit 8: Shopping in London — shopping and understanding prices【テキスト授業】
第11回　Textbook Unit 9: Oh, no! Where's My Passport? — reporting found items and describing lost items【テキスト授業】
第12回　Textbook Unit 10: Ouch! That Hurts! — understanding health situations and talking with a doctor【テキスト授業】
第13回　Textbook Unit 11: Tell Me About Your Trip — talking about a trip and asking questions【テキスト授業】
第14回　Textbook Unit 12: Be a Street-Smart Traveler — asking for and giving advice and learning about travel safety【テキスト授業】
第15回　Review of Units 7 ～ 12 and evaluation【テキスト授業】

履修上の注意点

教科書

Adventures Abroad
著者：　Dale Fuller/Kevin Cleary
出版社：（MACMILLAN LANGUAGEHOUSE）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト （ 60% ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）
小テストは、第8回・第15回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　English Communication Ⅱ（通信）

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ﾌｫｽﾀｰ ﾍﾝﾘｰ	

テーマ

Developing Listening, Speaking and Other communicative Skills through DVD Materials

授業の到達目標

In this course, building on the English Communication I course, we will cover some more basic daily English communicative items. The aim is to provide practical and useful material that will enable students to become comfortable with listening to, understanding, and speaking in a broader number of frequently occurring English situations. It is also hoped that, as psychology majors, they will be able to pick up the feelings and thoughts of the various speakers in the DVD materials, and understand some basic differences between Japanese and English ways of expression.

授業の概要

［テキスト授業／14回＋メディア授業／1回］

準備学習（予習・復習）

KTU's 'Moodle' e-learning programs, NHK radio programs; TOEIC practice; Kilgarriff vocabulary list; graded readers

内　容

第14回 Textbook Unit 12: The Best of Seattle — Describing places, asking for directions, talking about a trip【テキスト授業】
第15回 Review of Units 7 〜 12 and evaluation【テキスト授業】
第1回 Introductory Video: introduction of the teachers and of the 15 session course and its aims; how to use the DVD text with an explanation of the text's format and types of practice required; course requirements and evaluation; what students should do if they have questions; recommendations about other forms of study and other study materials relevant to this course.【メディア授業】
第2回 Textbook Unit 1: What a Great Party! — introducing yourself, hometowns and occupations【テキスト授業】
第3回 Textbook Unit 2: A Lumni Island Barbeque — introducing someone else, food prices, socializing【テキスト授業】
第4回 Textbook Unit 3: Got any Advice? — asking and giving advice, talking about past events【テキスト授業】
第5回 Textbook Unit 4: Family Memories — describing family, past events, explaining how to do something【テキスト授業】
第6回 Textbook Unit 5: Making a Good Impression — personal questions, discussing character, talking about your countr【テキスト授業】
第7回 Textbook Unit 6: Looking for work — Jobs ads, calling for an interview, interviews and first day at work【テキスト授業】
第8回 Review of Units 1 〜 6 and mid-semester evaluation【テキスト授業】
第9回 Textbook Unit 7: What's Spaghetti al Pomodoro Fresco? — Ordering and describing food, talking about your day【テキスト授業】
第10回 Textbook Unit 8: It's One of a Kind — shopping, discussiing prices and bargaining【テキスト授業】
第11回 Textbook Unit 9: An American-Style Festival — leisure suggestions, talking about fairs and festivals【テキスト授業】
第12回 Textbook Unit 10: Surprise! — discussing dates and times, planning a party, invitations, telling a story【テキスト授業】
第13回 Textbook Unit 11: The Right Place to Live — Understanding ads, calling about an apartment, describing a house【テキスト授業】

履修上の注意点

教科書

America Live! — English and Culture in Action
著者:　Dale Fuller
出版社:（MACMILLAN LANGUAGEHOUSE）
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験 （ 50% ）　　小テスト （ 50% ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）

小テストは、第8回・第15回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅰ（通信）

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　弥永 啓子

テーマ

基本的なリーディング能力の育成、ライティングの基礎となる中・高文法の総復習

授業の到達目標

アカデミック・リーディング、ライティングの基礎としての、1) 基本的な文法・語彙知識2) 平易な文章を一定速度で読み内容を把握できる読解能力

授業の概要

[テキスト授業／14回＋メディア授業／1回]各回テキストにそって、語彙学習、リーディング、文法理解と演習、語彙学習（発展）、語彙復習の順に学習を進めます。又、余裕のある受講生がやや難しいリーディング素材にふれることができるように、各回に応用のリーディング演習も準備してあります。

準備学習（予習・復習）

「音声を聴きながら、繰り返し読む」、さらに「音読する」に勝る方法はありません。

内　容

第1回　授業オリエンテーション（コンテンツの構成と効果的な学習方法、成績評価、オンライン辞書の活用方法等）【メディア授業】
第2回　テキスト：Unit 1 (Getting into Hot Water, Be 動詞)【テキスト授業】
第3回　テキスト：Unit 2 (Tips for University Students, 命令文)【テキスト授業】
第4回　テキスト：Unit 3 (What Happens to Our Trash?, 一般動詞-現在形)【テキスト授業】
第5回　テキスト：Unit 4 (To Your Health, 現在進行形)【テキスト授業】
第6回　Unit 1～4復習【テキスト授業】
第7回　テキスト：Unit 5 (Hello Cutie, 過去形)【テキスト授業】
第8回　テキスト：Unit 6 (Thank You John and Christopher, 過去進行形)【テキスト授業】
第9回　テキスト：Unit 7 (Street Fashion & Fast Fashion, 現在完了)【テキスト授業】
第10回　Unit 5～7 復習【テキスト授業】
第11回　テキスト：Unit 8 (It's in the Bag, 受動態)【テキスト授業】
第12回　テキスト：Unit 9 (Cars of the Future, Will vs. be going to)【テキスト授業】
第13回　テキスト：Unit 10 (The Tsukiji Fish Market, 助動詞)【テキスト授業】
第14回　テキスト：Unit 11 (A Nice Hotel or an Ice Hotel? Wh-疑問文)【テキスト授業】
第15回　Unit 8～11 復習【テキスト授業】

履修上の注意点

教科書

Reading Sense
著者：　Robert Hickling & Yasuhiro Ichikawa
出版社：（Kinseido）
出版年：　　ISBN：

参考書

無料で使用できるオンライン辞書など、授業内で紹介する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 100% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
復習テスト1　33%復習テスト2　33%復習テスト3　34%

2016 Syllabus

科 目 名　English Literacy Ⅱ（通信）

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　弥永 啓子

テーマ

基本的なリーディング能力の育成、ライティングの基礎となる中・高文法の総復習

授業の到達目標

Literacy Ⅰに引き続き、アカデミック・リーディング、ライティングの基礎としての、1) 基本的な文法・語彙知識2) 平易な文章を一定速度で読み内容を把握できる読解能力

授業の概要

[テキスト授業／14回＋メディア授業／1回]各回テキストにそって、語彙学習、リーディング、文法理解と演習、語彙学習（発展）、語彙復習の順に学習を進めます。又、余裕のある受講生がやや難しいリーディング素材にふれることができるように、各回に応用のリーディング演習も準備してあります。

準備学習（予習・復習）

「音声を聴きながら、繰り返し読む」、さらに「音読する」に勝る方法はありません。

内　容

第1回　授業オリエンテーション（コンテンツの構成と効果的な学習方法、成績評価、オンライン辞書の活用方法等）【メディア授業】
第2回　テキスト：Unit 12 (Who Needs Real Money? 可算名詞・不可算名詞)【テキスト授業】
第3回　テキスト：Unit 13 (Smart Houses, 代名詞)【テキスト授業】
第4回　テキスト：Unit 14 (For the Love of Sports, 形容詞)【テキスト授業】
第5回　テキスト：Unit 15 (Amusement Parks, 比較級・最上級)【テキスト授業】
第6回　Unit 12～15 復習【テキスト授業】
第7回　テキスト：Unit 16 (It's All About Location, 場所・移動の前置詞)【テキスト授業】
第8回　テキスト：Unit 17 (Barack Obama, 時の前置詞)【テキスト授業】
第9回　テキスト：Unit 18 (Motivation, 副詞)【テキスト授業】
第10回　テキスト：Unit 19 (Pets, 不定詞と動名詞)【テキスト授業】
第11回　Unit 16～19 復習【テキスト授業】
第12回　テキスト：Unit 20 (Teleworking, 等位接続詞)【テキスト授業】
第13回　テキスト：Unit 21 (Our Precious Earth, 従位接続詞)【テキスト授業】
第14回　テキスト：Unit 22 (Marriage, 関係節)【テキスト授業】
第15回　Unit 20～22 復習【テキスト授業】

履修上の注意点

教科書

Reading Sense
著者：　Robert Hickling & Yasuhiro Ichikawa
出版社：（Kinseido）
出版年：　　ISBN：

参考書

無料で使用できるオンライン辞書など、授業内で紹介する
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 100% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
復習テスト1　33%復習テスト2　33%復習テスト3　34%

2016 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅰ（6月18･25･7月2･9日）（通信）**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　トウ カ

テーマ

日常生活でよく使う単語、表現の習得と理解

授業の到達目標

中国語の基本的な表現を習得して、簡単な会話ができるようになることを目指す。

授業の概要

［スクーリング授業／全15回］短時間で集中して、無理なく、楽しく勉強できるのがこの集中講義のポイントです。①文法のコツだけを覚える。②日常生活でよく使う文を繰り返し、練習して、話す。③より集中して覚えるために、一時間ごとに五分間、中国の文化や習慣などを紹介する時間を設ける。④最終テストではなく、当日習った内容を当日に小テストする。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　中国と中国語の概説
第2回　発音A
第3回　発音B
第4回　発音C
第5回　発音D
第6回　第一課　単語と文法
第7回　第一課の表現練習
第8回　第二課　単語と文法
第9回　第二課の表現練習
第10回　第三課　単語と文法
第11回　第三課の表現練習
第12回　第四課　単語と文法
第13回　第四課の表現練習
第14回　総復習
第15回　ミニ発表

履修上の注意点

教科書

特に指定しない

著者：

出版社：

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 100% ）

授業中課題（　）　　授業中発表等（　）

参加度　（　）

最終の試験ではなく、毎回の小テスト

2016 Syllabus

科 目 名　**中国語Ⅱ（10月29・11月5・12・19日）（通信）**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　トウ カ

テーマ

日常生活でよく使う単語、表現の習得と理解

授業の到達目標

中国語の基本的な表現を習得して、簡単な会話ができるようになることを目指す。

授業の概要

［スクーリング授業／全15回］短時間で集中して、無理なく、楽しく勉強できるのがこの集中講義のポイントです。①文法のコツだけを覚える。②日常生活でよく使う文を繰り返し、練習して、話す。③より集中して覚えるために、一時間ごとに五分間、中国の文化や習慣などを紹介する時間を設ける。④最終テストではなく、当日習った内容を当日に小テストする。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　前期の総復習
第2回　第五課　単語と文法
第3回　第五課の表現練習
第4回　第六課　単語と文法
第5回　第六課の表現練習
第6回　第七課　単語と文法
第7回　第七課の表現練習
第8回　第八課　単語と文法
第9回　第八課の表現練習
第10回　第九課　単語と文法
第11回　第九課の表現練習
第12回　第十課　単語と文法
第13回　第十課の表現練習
第14回　総復習
第15回　ミニ発表

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 100% ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）
最終の試験ではなく、毎回の小テスト

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉野　衣美	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

[メディア授業／全15回]学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　授業概要とパソコンの基本操作Windows8.1（OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
第2回　Word2013（1）チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、インデント、タブ、表作成、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
第3回　Word2013（2）レポート作成《主な機能》ページ設定、表紙の作成、ページ番号、Excelの表とグラフの挿入、脚注、引用、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
第4回　Excel2013（1）集計表の作成　計算《主な機能》AVERAGE関数、IF関数、絶対参照、合計、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数小数点以下の表示桁数を減らす/増やす、桁区切りスタイル、フォントサイズ、セルを結合して中央揃え、罫線、ページ設定、印刷
第5回　Excel2013（2）グラフの作成　計算結果を視覚効果へ《主な機能》シートの操作、並べ替え、積み上げ横棒グラフの作成、グラフの編集、改ページ、印刷
第6回　PowerPoint（1）スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
第7回　Word2013（3） レポートの構成レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
第8回　Excel2013（3）アンケート結果の集計1《主な機能》リスト形式、アンケート結果の数値化、COUNTIF関数、SUMIF関数、積み上げ縦棒グラフの作成、グラフの編集
第9回　Excel2013（4）アンケート結果の集計2《主な機能》列単位で並べ替え、シートを分けてアンケート結果を検証文章とは、分かりやすい文（1文が短い、主語と述語の関係が分かりやすい、誤解されない、文に矛盾がない、品格がある）、良い文章のポイント（文体の統一、用語の統一と確認）
第10回　Word2013（4）アンケート結果のレポート化　～考察・文章化～《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注
第11回　Word2013（5）アンケート結果のレポート完成《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注
第12回　PowerPoint（2）アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
第13回　PowerPoint（3）アンケート結果スライドからプレゼン設計《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行、発表の準備
第14回　セキュリティ向上のために※あらゆるネットワークを使用して学習・情報交換する際におけるセキュリティについてコンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺などの犯罪についてと防御策
第15回　情報モラル※ネットワークを使用しての情報受発信時におけるマナーについて情報社会の問題点、SNSへの参加意識、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット

履修上の注意点

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2013＆情報モラル

著者：

出版社：（noa出版）

出版年：　　ISBN：

参考書

e9021kb110

成績評価

試験 （ ）　小テスト（ 100% ）
授業中課題（ ）　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
小テストは第3回、第6回、第11回、第15回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉野　衣美	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

[メディア授業／全15回]情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　情報活用力とは情報収集とは、様々な情報収集方法
第2回　情報検索：検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
第3回　情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第4回　数値分析Ⅰ：分析のポイント、数値データ、分析の基本テクニック「比べる」、表計算ソフト、数式・セル参照、関数、論理式と条件分岐
第5回　数値分析Ⅱ：数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第6回　データベースⅠ：データベースとは、データベースを体験
第7回　データベースⅡ：定型データと非定型データ、リスト形式、データの並べ替え/抽出、データベース作成実習
第8回　ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う（ファイル容量とメディア、ファイル形式）。
第9回　インターネットコミュニケーションⅠ：メールの活用（cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対処等）や掲示板の特性を理解する。
第10回　インターネットコミュニケーションⅡ：コミュニケーションツール（ブログやWebサイトなど）の特性を理解する。
第11回　文書表現Ⅰ：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第12回　文書表現Ⅱ：ひと目で「分かる」、ストレートに「分かる」、正確に「分かる」文書、見た目の大切さ、見やすい文書のポイント、レポート、ビジネス文書、その他の文書
第13回　ビジュアル表現：図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第14回　プレゼンテーションⅠ：プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第15回　プレゼンテーションⅡ：良いプレゼンテーション資料、プレゼンテーションソフトの活用、資料作成の流れ、分かりやすい話の流れ、アウトラインのテンプレートを使う、スライドのレイアウトを決める、スライドの内容を作成する、スライド全体の流れをチェックする、視覚に訴える、リハーサルを行う。

履修上の注意点

教科書

考える伝える分かちあう　情報活用力(Webツール「NEST」セット)
著者：
出版社：（noa出版）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 100% ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）
小テストは第3回、第7回、第10回、第15回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**アカデミックスキルズ（通信）**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　梅本 裕

テーマ

大学での勉強に必要な論理的な文章の書き方を身につける

授業の到達目標

アカデミックスキルズは、大学での勉強に必要な学習技法の総称である。この科目では、数多くあるアカデミックスキルズのうち、「論理的な文章」の書き方をとりたてて教える。論理的な文章、すなわち、論理性の高い文章が書けるようになると、大学での学習がはかどる。なぜなら、「論理的な文章」の書き方を身につけることは論理的思考を身につけることに他ならないからだ。大学での学習内容の多くは論理的に構築されており、論理的思考が深まると学習内容をより深く理解できる。

授業の概要

[メディア授業／全15回]この授業では、まず、比較的短い作文を、段落、語句、文体に意識をはらいながらきちんと書けるように指導する。論評文を中心として400-800字程度の文章を論理的に書けるようにする。授業終了時には大学の勉強には不可欠のレポートやブックレビュー、あるいは実験記録などの文章を、論理的に書けるようにする。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　400字で論評文を書く（その1）
第2回　400字で論評文を書く（その2）
第3回　思考単位としての文
第4回　文章書き換えの練習（その1）
第5回　文章書き換えの練習（その2）
第6回　段落のはたらき・つくり方
第7回　800字で論評文を書く（その1）
第8回　800字で論評文を書く（その2）
第9回　語句の選び方と使い方（その1）
第10回　語句の選び方と使い方（その2）
第11回　演習：ブックレビューを書く
第12回　演習：案内文を書く
第13回　ディベートの立論を書く（その1）
第14回　ディベートの立論を書く（その2）
第15回　アカデミックスキルとしての論理的文章

履修上の注意点

教科書

論理的思考 ― 論説文の読み書きにおいて（新版）
著者：　宇佐美寛
出版社：（メヂカルフレンド社）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 100% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は第9回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**地域課題研究（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　井上　裕樹	

テーマ

「地域」で学ぶ、「地域」から学ぶ－地域課題を知り、その解決法を考える－

授業の到達目標

地域の現実的な課題について主体的に捉えていき、地域課題について考えていく力を身につける。

授業の概要

［メディア授業／1回＋テキスト授業／7回］自身の在住しているもしくは、自身の関心のある地域に着目し、情報収集を行う。そして、文化・教育・産業などの面から地域を捉え、それらをもとに地域の課題について考えていく。

準備学習（予習・復習）

着目した地域の文化・教育・産業などに関心を持ち、地域の魅力と課題を実際にフィールドに出て探ってみる。

内　　容

第1回　イントロダクション【メディア授業】
第2回　地域課題へのアプローチの方法について考える(テキスト11－39ページ)【テキスト授業】
第3回　地域課題について考える－目標設定とその課題について－(テキスト40－54ページ)【テキスト授業】
第4回　地域課題への取り組むための視点(テキスト55－71ページ)【テキスト授業】
第5回　地域課題について、まちづくりの事例を通して考える①(テキスト72－127)【テキスト授業】
第6回　地域課題について、まちづくりの事例を通して考える②(テキスト127－156)【テキスト授業】
第7回　地域課題を考えるにあたっての集まりの持ち方(テキスト157－167)【テキスト授業】
第8回　地域課題に対して、うまくアプローチしていくために(テキスト214－233)【テキスト授業】

履修上の注意点

自分で考え、自分で行動することが求められます。課題であるレポート作成のため、この点をよく心得て授業に取り組んでください。

教科書

ワークショップ住民主体のまちづくりへの方法論
著者:　木下勇
出版社:　学芸出版社
出版年:　2007　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 100% ）	授業中発表等　（ ）
参加度　（ ）	

授業中課題、参加度の評価については、実際に地域に赴き、どの程度地域について考えようとしたか、どのようにフィールドワークに取り組んだかという主体性と行動力について、レポートにて評価します。（実際には、フィールドワークにて現場で交流を持ってインタビューなどができれば理想ですが、そのようなことが困難でできなければ、インターネットや書籍の情報収集を中心に課題に取り組むことも可とします。）

2016 Syllabus

科 目 名　**日本人と宗教（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　章彦	

テーマ

日本人の宗教観の原理的性格を考える

授業の到達目標

日本人は、無宗教だとよく言われる。確かに西欧のキリスト教的な意味での「宗教」は存在しなかったかもしれない。だが仏教は確かに日本に定着したし、また様々な事物に対する「信仰」というものがなかったわけではない。日本人もやはり信心深い性格を強烈に有していたのである。その意味では「宗教」は確かにあったと言えるだろう。だが、今日では科学的な合理性を重んじるが故に本来的に不合理な面を持つ「宗教」や「信仰」が社会全体で急激に希薄になっている。だが人間はすぐれて宗教的な性格を持った存在でもある。結局は日常において宗教もしくは宗教的なものに触れざるを得ないといっても過言ではない。一方で宗教を否定しつつも他方ではそれを無視し得ないのである。そうした矛盾が今日起きている問題の背景のひとつにあるといってよい。本講義では、日本人の宗教観を支える原理的な側面を探り出し、人は宗教とどのように関わるべきかについて考えてみたい。したがって諸君の到達目標は、一つには日本人の宗教観の原理的側面を知ることであり、二つには自分たちが宗教とどのように関係を取り結ぶべきかについて一定の考えを持つ、ということになる。

授業の概要

［メディア授業／全15回］生活の中にあるさまざまな宗教現象を材料として上記の目標に近づきたい。

準備学習（予習・復習）

宗教学の基礎的な知識を得てほしい。また日常のなかで折に触れて宗教と自身の関係について考えてほしい。

内　　容

第1回　宗教をどのように枠づけるか
第2回　神と仏のはざまで—仏教とであった日本人はどのように反応したか
第3回　盆行事について考える（1）—概念規定と行事内容
第4回　盆行事について考える（2）—起源と変遷そしてその意味
第5回　観音と地蔵（1）観音の誘惑—庶民にとっての観音信仰
第6回　観音と地蔵（2）野の石仏が「地蔵」と呼ばれる理由
第7回　ゴジラはなぜ神と呼ばれるのか
第8回　眼の霊力について考える—一つ目の鬼、節分・放相氏、そして写楽包介へ
第9回　鬼で鬼を払う—「払い」の民俗構造
第10回　水神の制御と仏教的神—寺院創建伝説に探る
第11回　仏教守護神から福の神へ—毘沙門天信仰の歴史（1）・中国
第12回　仏教守護神から福の神へ—毘沙門天信仰の歴史（2）・日本
第13回　盗む空海—神話的空海の仏教伝承
第14回　日本人のあの世—日本人の他界観はどのように変わったか
第15回　復習とまとめ

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

宗教学
著者：　岸本英夫
出版社：（大明堂）
出版年：　　ISBN：

宗教学入門
著者：　棚次正和・山中弘 編著
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：　　ISBN：

e9021kc310

日本人の一生〈上〉—初心者のための宗教民俗学入門

著者:　吉田清

出版社:（清文堂出版）

出版年:　　ISBN:

日本人の一生〈下〉—初心者のための宗教民俗学入門

著者:　吉田清

出版社:（清文堂出版）

出版年:　　ISBN:

その他は授業内で指示。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　(40%)　　小テスト (60%)

授業中課題 (　)　　授業中発表等 (　)

参加度　(　)

小テストは第7回、第14回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**哲学概論（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安部　彰	

テーマ

「「常識」を問いなおす」という哲学のエッセンスとその方法を学ぶ。

授業の到達目標

どのようなものが確実な知識で、いかなる条件を充たせば我々はそれを獲得したといえるのか。この問いをめぐる哲学の主要な諸見解について概ね理解し、他人に説明できるようになること。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]「哲学」とはなんだろう？――理性的な人なら誰もが疑えない確実な知識があるだろうか？B・ラッセルによれば、この問いはもっとも答えるのがむずかしい問いのひとつであり、「哲学」こそが取りくむべき問いにほかならない。本テキストの読解をつうじて、我々が「常識」として受けいれている知識も、よく吟味してみると、さまざまに矛盾していることがわかるはずだ。このように、我々が世界を理解する方法の問いなおしをつうじて世界それじたいのありようを追究するのが「哲学」だ。つまり、そうして、世界の驚異へと我々を誘うのが「哲学」なのだ。

準備学習（予習・復習）

可能なら参考文献にもあたって、さらに考察をふかめてほしい。

内　　容

第1回　第一章　現象と実在（テキスト9～21頁）「みえる」と「ある」の関係を問いなおす。
第2回　第二章　物質は存在するか（テキスト22～33頁）我々に「みえるもの」とは独立した「物質」があるといえる根拠を問いなおす。
第3回　第三章　物質の本性（テキスト34～44頁）物質をそれたらしめているものはなにかを問いなおす。
第4回　第四章　観念論（テキスト45～56頁）この世界には「観念」だけが存在するという考えかたを問いなおす。
第5回　第五章　面識による知識と記述による知識（テキスト57～73頁）知識のいくつかのタイプとその関係を問いなおす。
第6回　第六章　帰納について（テキスト74～86頁）「経験」にもとづく知識とはいかなる知識なのかを問いなおす。
第7回　第七章　一般的原理の知識について（テキスト87～100頁）「アプリオリな（経験にもとづかない）知識」とはいかなる知識なのかを問いなおす。
第8回　第八章　アプリオリな知識はいかにして可能か（テキスト101～112頁）「経験」と「アプリオリな知識」との関係を問いなおす。
第9回　第九章　普遍の世界（テキスト113～125頁）「普遍」とは「なにか」を問いなおす。
第10回　第十章　普遍に関する私たちの知識（テキスト126～136頁）「普遍」を「いかにして知るのか」を問いなおす。
第11回　第十一章　直観的知識について（テキスト137～145頁）「直観」の自明性を問いなおす。
第12回　第十二章　真と偽（テキスト146～159頁）「真偽」とは「なにか」を問いなおす。
第13回　第十三章　知識、誤謬、蓋然的な見解（テキスト160～171頁）「真偽」を「いかにして知るのか」を問いなおす。
第14回　第十四章　哲学的知識の限界／第十五章　哲学の価値（テキスト172～195頁）哲学的論証の限界と意義を問いなおす。
第15回　まとめ全体を再読し、興味や疑問をもった論点について、考察をふかめる。

履修上の注意点

教科書

哲学入門
著者：　バートランド・ラッセル　著
出版社：（筑摩書房（ちくま学芸文庫））
出版年：2005年　　ISBN：

参考書

教科書（ラッセル『哲学入門』）の200頁を参照のこと。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 100% ）　　授業中発表等　（　）
参加度　（　）
「授業中課題」は第7回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**倫理学概論（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安部　彰	

テーマ

倫理学的な考え方を身につけることを目標とする。

授業の到達目標

倫理学とは何か、倫理学にどのような意義があるのかを理解する。とくに現代社会が直面しているさまざまな問題について自ら考えるための基礎になる考え方を幅広く学ぶこと。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]近代以降の倫理学を中心として、倫理学的な考え方の基礎を歴史的背景を含めて理解し、とくに現代社会の諸問題について広い視野で考えるための基礎となるような考え方について学ぶ。

準備学習（予習・復習）

古典的な文献で入手しやすいものはできるだけ読んでいただきたい。参考文献は専門的だが、この主題に関心があれば役立つので図書館等で手に取ってみてほしい。

内　　容

第1回　第一章　正しいことをする（テキスト13～55ページ）「正しいことをする」とはどういうことなのかについて、「福祉・自由・美徳」という三つの価値に関する著者の議論を理解し、これらが対立するような状況が本書の主題であるということを確認する。

第2回　第二章　功利主義（1）（テキスト56～96ページ（とくに82ページまで））功利主義の始祖ベンサムの発想の意義と強さを踏まえつつ、功利主義に対する反論について自らの直観に照らし合わせつつ考える。

第3回　第二章　功利主義（2）（テキスト56～96ページ（とくに83ページから））ミルのなかにある自由擁護の立場と功利主義的な立場の間の矛盾について、ベンサムの功利主義論も念頭に置きながら学ぶ。

第4回　第三章　リバタリアニズム（テキスト97～123ページ）徹底した権利・自由尊重主義としてのリバタリアニズムの魅力（利点）と問題点について、自らの直観に照らして考える。

第5回　第四章　市場と倫理（1）（テキスト124～148ページ）市場で兵士を雇うことを擁護する立場について、その利点と問題点を考え、とくにそれに反対する議論の論拠に説得力があるかどうか、ある（ない）としてそれはなぜそう考えるのか。

第6回　第四章　市場と倫理（2）（テキスト148～166ページ）代理母の事例を通して市場における取引が「公正」と呼べる条件としての「自由」の範囲と幅について考える。完全に自由があるならば著者の言う「美徳」は売買を禁止する理由になるのかどうか。

第7回　第五章　イマヌエル・カント（1）（テキスト167～206ページ）カントの倫理学、とくに自由と義務についての彼独自の説明を理解し、それに対する反論を踏まえてその意義と問題点について考える。

第8回　第五章　イマヌエル・カント（2）（テキスト207～223ページ）具体的な事例に即して、カントの議論の意味を学び、自らの直観と照らし合わせて評価する。

第9回　第六章　ジョン・ロールズ（1）（テキスト224～263ページ（とくに246ページまで））理想的な契約という発想がなぜ重要なのか、ロールズはそこから二つの原理を導き出せると考えたが、その論証は本当にうまく行っているのかどうかを考える。

第10回　第六章　ジョン・ロールズ（2）（テキスト224～263ページ（とくに246ページから））ロールズの平等についての考え方に対する批判論を踏まえて、どちらの立場に説得力があるか、なぜそう思うのかを考える。

第11回　第七章　アファーマティブアクション（テキスト264～289ページ）差別是正のための優遇策について、擁護論と反論を通して考える。著者の「共通善」や「美徳」に基づく擁護論についても距離を取って考える。（とくにこの章以降、著者自身の主張が強く展開されていくことに留意されたい）

第12回　第八章　正義・アリストテレス（テキスト290～327ページ）ロールズやカントよりもアリストテレスの議論を著者は評価しているが、それはどういう理由からなのかについて、それに説得力があるか否かも念頭に置きつつ考える。

第13回　第九章　忠誠のジレンマ（テキスト328～381ページ（とくに346ページまで））共同体、国家、家族に対する「忠誠」について、リベラルな議論と著者の立場の違いに注目しつつ、自身の直観に照らし合わせて考える。

第14回　第九章　忠誠のジレンマ(2)（テキスト328～381ページ（とくに346ページから））リベラルな立場に対する批判点について学びつつ、その批判の論拠が妥当かどうかについて考える。

第15回　第十章　正義と共通善（テキスト382～419ページ）正義に関する三つのアプローチのなかで著者が支持する「共通善」アプローチに対して、もし、さらに反論があるとすれば、どういうものがありうるか。

履修上の注意点

教科書

これからの「正義」の話をしよう

著者：　マイケル・サンデル

出版社：（早川書房）

出版年：　　ISBN：

参考書

e9021kc510

正義

著者:　平井亮輔(編)

出版社:（嵯峨野書院）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 100% ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

「授業中の課題」は第8回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**言語コミュニケーション論（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　北林　利治	

テーマ

翻訳と通訳を通して学ぶ言語コミュニケーションの基礎

授業の到達目標

①日本語と英語の翻訳と通訳を通して、言語コミュニケーションのさまざまな側面の理解を深める。②日本語と英語の比較を通して、人間の言語の性質や機能、異言語間で意味がどのように伝達されるのかという問題についての理解を深める。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]ことばによるコミュニケーションを、翻訳と通訳に焦点をあわせて、さまざまな観点から検討してみる。翻訳や通訳は、異なる言語のあいだで意味がどのように伝達されるのかということにたいして、さまざまなおもしろい材料を提供してくれる。たとえば、日本語のスピーチで「ただいまご紹介にあずかりました〇〇です」と言ったとして、これを英語に通訳する場合、どのようにしたらよいのだろうか。日本語と英語の言語的な違いのみならず、異文化をどう訳すかという問題も扱いたいと思う。

準備学習（予習・復習）

各回のページの内容と関連する教科書の最後にある練習問題をすること。

内　容

第1回　コミュニケーションとは何か（テキスト2～14ページ）言語によるコミュニケーションの特徴、ことばの機能
第2回　ことばの意味とコミュニケーション①（テキスト15～27ページ）（単語の意味、日本語と英語の意味のずれ）
第3回　ことばの意味とコミュニケーション②（テキスト27～36ページ）意味の記述と辞書、比喩と言語表現
第4回　ことばの運用とコミュニケーション（テキスト37～50ページ）言語の変種、テクストの要素、発話行為
第5回　翻訳とは何か（テキスト52～71ページ）原文に忠実な翻訳とは、翻訳に必要なもの
第6回　英日翻訳英文法（テキスト72～88ページ）英日翻訳の難しさ、英日翻訳英文法10のルール
第7回　日本語の発想と英語の発想（テキスト89～105ページ）世界の中の日本語、日本語の特色
第8回　変幻自在の日本語（テキスト106～122ページ）日本語の文末表現と英訳、ことば遊びの翻訳
第9回　日英翻訳における諸問題①（テキスト123～143ページ）類義語の選択、日本文化に関する語、オノマトペ
第10回　日英翻訳における諸問題②（テキスト144～160ページ）日英語における主語・代名詞、日英語の敬語
第11回　通訳とは何か①（テキスト162～174ページ）通訳の歴史、通訳の種類
第12回　通訳とは何か②（テキスト174～187ページ）通訳の分野の分類、コミュニケーションのプロとしての通訳者
第13回　通訳のプロセス①（テキスト188～205ページ）通訳のプロセスの理解
第14回　通訳のプロセス②（テキスト205～210ページ）翻訳と通訳の比較
第15回　通訳トレーニング（テキスト211～220ページ）スラッシュ・リーディングの基本

履修上の注意点

教科書

初めて学ぶ翻訳と通訳―言語コミュニケーション入門
著者：　北林利治・杉山泰・ボナン，リチャード・西村　友美
出版社：（松柏社）
出版年：　　ISBN：

参考書

教科書の最後に記載がある参考文献の他、関連するウエブサイトは開講時に紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト （ 60% ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）
小テストは第４回、第８回、第12回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**現代のメディアと表現（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　禧美　智章	

テーマ

宮崎駿の思想の理解を通して、現代社会における課題を考えること

授業の到達目標

宮崎駿のアニメーションはきわめてメッセージ性が高い。それぞれの作品には現代文明に対する宮崎の批判的な視点がちりばめられ、現在を生きる私たちに対してさまざまな警鐘をうち鳴らしている。『風の谷のナウシカ』『もののけ姫』を中心に分析を進めながら、宮崎駿の思想や文明観を理解し、私たちがこれからの時代を生きていくための指針の獲得を目指していきたい。

授業の概要

［テキスト授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

受講を開始するに当たって、『風の谷のナウシカ』『天空の城ラピュタ』『となりのトトロ』『魔女の宅急便』『紅の豚』『もののけ姫』『千と千尋の神隠し』『ハウルの動く城』『崖の上のポニョ』を視聴しておくこと

内　　容

第1回　『風の谷のナウシカ』（1）　風の谷の「人民」（テキスト12～28ページ）
第2回　『風の谷のナウシカ』（2）〈共生〉の構造（テキスト28～56ページ）
第3回　『風の谷のナウシカ』（3）『風の谷のナウシカ』から『天空の城ラピュタ』へ（テキスト56～67ページ）
第4回　『風の谷のナウシカ』（4）マルキシズムへの懐疑（テキスト67～74ページ）
第5回　『風の谷のナウシカ』（5）「広場の孤独」という実存様式　堀田善衛との接点（テキスト74～93ページ）
第6回　国民国家へのまなざし—『紅の豚』と『ハウルの動く城』（テキスト93～114ページ）
第7回　『もののけ姫』（1）『もののけ姫』と照葉樹林文化論（テキスト116～135ページ）
第8回　『もののけ姫』（2）カインの末裔（テキスト136～146ページ）
第9回　『もののけ姫』（3）『もののけ姫』から『となりのトトロ』へ—柳田圀男との接点（テキスト146～155ページ）
第10回　『もののけ姫』（4）アニミズムの受容について（テキスト156～165ページ）
第11回　『もののけ姫』（5）タタリ神とデダラボッチ（テキスト165～179ページ）
第12回　『もののけ姫』（6）　自我の行方—司馬遼太郎・網野善彦との接点（テキスト179～200ページ）
第13回　キキの旅立ち—『魔女の宅急便』（テキスト202～209ページ）
第14回　『千と千尋の神隠し』のアニミズム（テキスト210～224ページ）
第15回　現代文明を超克する〈私〉—『崖の上のポニョ』（テキスト224～230ページ）

履修上の注意点

教科書

宮崎駿の地平—広場の孤独・照葉樹林・アニミズム
著者：　野村幸一郎
出版社：（白地社）
出版年：　　ISBN：

参考書

時代の足音
著者：　宮崎駿・堀田善衛・司馬遼太郎
出版社：（ユー・ビーユー）
出版年：　　ISBN：

出発点
著者：　宮崎駿
出版社：（徳間書店）
出版年：　　ISBN：

風の帰る場所
著者：　宮崎駿
出版社：（ロッキング・オン）
出版年：　　ISBN：

e9021kd110

折り返し点

著者:　宮崎駿

出版社:（岩波書店）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40% ）　　小テスト（ 60% ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

小テストは第6回、第12回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**異文化コミュニケーション論（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　安達　太郎	

テーマ

異なる文化背景を持つ「他者」とのコミュニケーションを模索する

授業の到達目標

1）コミュニケーションがどのようなしくみを持つものかを理解する。2）異なる文化背景を持つ「他者」の存在を認め、「他者」を理解するために何が必要かを理解する。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]異文化コミュニケーションとは、文化を異にする者の間に成り立つコミュニケーションを意味する。外国人との接触場面といったことをイメージしやすいが、ここではもっと広い意味での「他者」を積極的に理解しようとすることによって立ち上がる、関係性（つながり）を生みだす行為としてのコミュニケーションについて考えていく。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　導入：異文化コミュニケーションを学ぶことの意義（テキスト2～11ページ）グローバル化が進む現代社会において，文化的背景を異にする他者との接触が持つ意味について理解する。

第2回　文化（テキスト12～25ページ）異文化コミュニケーションを考える上での前提として「文化」という概念のさまざまな側面について理解を深める。

第3回　コミュニケーション（テキスト26～37ページ）異文化コミュニケーションを考える上での前提として「コミュニケーション」という概念のさまざまな側面について理解を深める。

第4回　言語（1）（テキスト38～45ページ）ことばが単なるコミュニケーションツールではないことを確認し，ことばが持つ社会性や階級性について考察する。

第5回　言語（2）（テキスト46～51ページ）日本語における「国語」という概念や英語帝国主義の考察を通じて，ことばが国家や文化との関係の中で持つ緊張性について理解する。

第6回　言語（3）（テキスト52～65ページ）ことばにおける標準性と非標準性を通して，グローバリゼーションの拡大が言語的規範の画一化につながることの危険性を理解する。

第7回　非言語（テキスト66～77ページ）身振りや沈黙など，ことば以外のものが伝える意味の持つ重要性や，体の動きといったものさえ文化的な側面を持つことを理解する。

第8回　時間（テキスト78～87ページ）時間認識が文化的背景に支配される側面があることを理解するとともに，制度としての時間について考察する。

第9回　空間（テキスト88～97ページ）地域区分やその境界で生じる摩擦など空間認識をめぐる話題を手がかりとして，空間もまた認識や文化の所産であることを理解する。

第10回　異文化との接触（1）（テキスト98～105ページ）異文化と接触したときに生じる衝撃（カルチャーショック）や陥りがちな陥穽としてのステレオタイプといったものについて理解を深める。

第11回　異文化との接触（2）（テキスト106～119ページ）異文化との接触によってもたらされる「対立」と向き合うには，他者の持つ異質性を認め，それを楽しむことが重要であることを理解する。

第12回　異空間としてのメディア（テキスト120～139ページ）インターネットや携帯電話といった新しいメディアがコミュニケーションに与えた影響について考え，現代社会におけるメディアの役割や意味について理解を深める。

第13回　メディアと文化（テキスト140～155ページ）メディアが，何かを伝える手段という道具としての側面と同時に，個人や集団の日常意識を作り出す主体としての側面を持っていることを理解する。

第14回　文化のポリティクス（テキスト156～175ページ）民族，ナショナリズム，ジェンダーなど，さまざまなレベルにおける他者との接触によって直面する現代的課題について理解を深める。

第15回　グローバリゼーションの行方（テキスト176～189ページ）グローバリゼーションの進行が，一方では地域のアイデンティティや画一化に対する逆向きのベクトルを生み出していることを理解し，異文化コミュニケーションの可能性を探る。

履修上の注意点

教科書

よくわかる異文化コミュニケーション

著者：　池田理知子編

出版社：（ミネルヴァ書房）

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

e9021kd210

授業中課題（ 100% ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

「授業中課題」は第7回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**女性とイメージ（通信）**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　志賀 亮一

テーマ

私たち自身のジェンダーへの気づき

授業の到達目標

ヨーロッパでは古来、家父長制社会が営まれてきた。絵画・彫刻など芸術をはじめとして、近現代のポスターやテレビCMまで、この社会の女性イメージは、上記家父長制の影響を色濃く示し、男性優位のジェンダー像を呈している。授業では、このイメージを母・妻・妖婦の3要素に集約したうえ、さまざまな視覚イメージをもとに個々の要素を詳説しつつ、各要素間の関係を明らかにし、その全体像を再構築する。あわせて、近現代の女性たちの業績をつうじて、このイメージに対する女性たちの反抗の足取りを跡づける。以上の学修を通じて、受講生は自らの課されているジェンダーの枠組みを自覚すること。

授業の概要

［メディア授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

身近なジェンダー像の表出に日常注意を払うこと

内　容

第1回　導入：視覚メディアにおける女性のイメージ
第2回　母親像1：子孫再生産の担い手
第3回　母親像2：究極の母親・聖母マリア――子孫再生産と男系血統の保障
第4回　母親像3：一家の母(マーテル・ファミリアス)と一家の父(パーテル・ファミリアス)――子孫再生産とジェンダー
第5回　妻像1：夫を補佐するもの
第6回　妻像2：男性を補佐するもの
第7回　妻像3：家内を管理するもの
第8回　妻像4：女・家内・私事 vs 男・社会・公事――社会的役割とジェンダー
第9回　妖婦像1：近代以前の妖婦像――伝説の妖婦たち
第10回　妖婦像2：近代の妖婦たち
第11回　妖婦像3：妖婦像の二重構造――魅惑するものと堕落させるもの
第12回　妖婦像4：ジェンダーの要としての妖婦像
第13回　女性たちの反抗1：男性に伍した女性たち
第14回　女性たちの反抗2：解放運動のイメージあれこれ
第15回　まとめ：解放の歴史

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

女のイマージュ
著者：　G・デュビィ　編
出版社：（藤原書店）
出版年：　　ISBN：

聖母マリアの美術
著者：　諸川春樹・利倉隆　著
出版社：（美術出版社）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（ 50% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

小テストは第４回、第８回、第12回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**文化人類学（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　本林　靖久	

テーマ

ブータンと幸福論―宗教文化と儀礼―

授業の到達目標

国民総幸福（GNH）を国是に掲げ、世界一幸福な国と脚光を浴びるブータン。伝統と近代化、難民問題など、苦悩するブータンの現実と、死をふくむ豊かな宗教文化に光をあて、日本人にとっての「幸福のカタチ」探る。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]ブータンの宗教文化と儀礼を中心に、文化人類学の視点から、ブータンという仏教王国に暮らすブータン人の生活様式を提示しつつ、国や国民の「幸福のカタチ」を描いていきたい。そのなかで、日本人との比較を通して、ブータンから学ぶことを考察する。

準備学習（予習・復習）

テレビ番組や雑誌などで、ブータンについての特集があれば、できるかぎり目を通しておいてください。

内　容

第1回　まえがき（テキスト7～10ページ）現時点で、あなたにとっての幸福とは何か。日本人にとっての幸福とは何かについて考えてみましょう。
第2回　序章　ブータンから学ぶ幸福論　1・2（テキスト11～20ページ）「全体理解と比較理解」、「異文化理解の心得」をしっかり読み込んで、文化人類学の視点を学びましょう。
第3回　序章　ブータンから学ぶ幸福論　3（テキスト20～27ページ）GNP（国民総生産）とは何かをしっかり理解しよう。そのうえで、ブータンのGNH（国民総幸福）の理念を確認しましょう。
第4回　第1章　私の幸福なる体験―仏教文化の出会い―　1・2・3（テキスト28～49ページ）経文旗・僧院・ゾン（城）・国立図書館・チョルテン（仏塔）などの施設の宗教的背景と特徴を理解しましょう。
第5回　第2章　育まれてきた幸福―民族と歴史―　1・2（テキスト50～63ページ）ブータンが日本と同じ照葉樹林文化であることと、なぜブータン人が英語を話せるようになったのかを理解しましょう。
第6回　第2章　育まれてきた幸福―民族と歴史―　3（テキスト64～68ページ）ブータンの歴史が仏教と深い関係があることを確認しましょう。また、近代の王政の成立過程を理解しましょう。
第7回　第3章　「国家の幸福」と「個人の幸福」―国の政策とGNH―　1・2（テキスト69～74ページ）「鶴と電気、どっちが大事？」と尋ねられたら、あなたはどちらを選びますか？まず、その答えと理由を考えたうえで、学習しましょう。
第8回　第3章　「国家の幸福」と「個人の幸福」―国の政策とGNH―　3（テキスト74～93ページ）ブータンの生活文化の基本となる衣食住と生業、人生儀礼（結婚）について学びましょう。
第9回　第4章　「踊る幸福」と「見る幸福」―宗教世界観と祭礼―　1・2（テキスト94～104ページ）宗教世界観とは何か。そして、六道輪廻や宇宙総覧図などが描かれる背景にどのような意味があるのかを理解しましょう。
第10回　第4章　「踊る幸福」と「見る幸福」―宗教世界観と祭礼―　3（テキスト104～133ページ）ツェチュ祭が仏教の儀礼であり、祭りの本質には、同時の世界観と円環の世界観があることを学びましょう。
第11回　第5章　死を含む幸福―日本との比較から―　1・2・3（テキスト134～142ページ）ブータン人は生まれ変わり（輪廻）を信じ、葬送儀礼においても墓を造らない仏教世界観を持っていることを理解しましょう。
第12回　第5章　死を含む幸福―日本との比較から―　4・5（テキスト146～154ページ）日本人の死生観（死に対するイメージ）とは、どのようなものかを、ブータン人と比較しつつ、読み込んでみましょう。
第13回　終章　ゆらぐ幸福と伝統の創造　1・2（テキスト155～162ページ）ブータンの豊かさの経済的基盤を理解しつつ、テレビの普及によるに影響を考えてみましょう。
第14回　終章　ゆらぐ幸福と伝統の創造　3・4（テキスト163～171ページ）ブータンの国内外に抱える諸問題を理解しつつ、実験国家としてのブータンの未来を考えてみましょう。
第15回　あとがき―ブータンから学ぶ「幸福のカタチ」―（テキスト185～190ページ）あなたの幸福のカタチとは何か。幸福の公式を考えたうえで、「あとがき」を読んでみましょう。

履修上の注意点

教科書

ブータンと幸福論―宗教文化と儀礼―
著者：　本林靖久　著
出版社：（法藏館）
出版年：　　ISBN：

参考書

ブータン　スタイル―仏教文化の国から―
著者：　本林靖久　著
出版社：（京都書院）
出版年：　　ISBN：

e9021kd410

現代ブータンを知るための60章

著者:　平山修一　著

出版社:（明石書店）

出版年:　　ISBN:

ブータンに魅せられて

著者:　今枝由郎　著

出版社:（岩波書店）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題　（ 100% ）　　授業中発表等　（　）

参加度　（　）

「授業中課題」は第8回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**ヨーロッパの歴史（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　南　直人	

テーマ

ヨーロッパの歴史の基礎的理解をはかる

授業の到達目標

１６世紀以降のヨーロッパの歴史についての基礎的理解をはかると同時に、新しい歴史学の視点を紹介し、西洋世界をより深く理解することにつなげる。

授業の概要

[メディア授業／全15回]近代世界システム論の視角から近現代のヨーロッパ史（西洋史）を考察する。最初に近代世界システム論を紹介し、その後１６世紀から２０世紀にいたるヨーロッパ史（西洋史）の流れをたどっていく。

準備学習（予習・復習）

近現代ヨーロッパ史のさまざまな文献を読むこと

内　　容

第1回　世界史の新しい見方－世界システム
第2回　近代世界システムの形成
第3回　ポルトガルのアジア進出
第4回　スペインの新大陸支配
第5回　ハプスブルク「世界帝国」の盛衰
第6回　１７世紀の危機とオランダのヘゲモニー（１）
第7回　１７世紀の危機とオランダのヘゲモニー（２）
第8回　イギリスの商業革命と大西洋貿易
第9回　英仏のヘゲモニー争いと植民地戦争
第10回　産業革命とフランス革命の新解釈
第11回　大英帝国のヘゲモニー
第12回　１９世紀ヨーロッパ社会
第13回　２０世紀のヨーロッパ（１）
第14回　２０世紀のヨーロッパ（２）
第15回　２０世紀のヨーロッパ（３）

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

ヨーロッパと近代世界
著者：　川北稔
出版社：（放送大学教育振興会）
出版年：　　ISBN：

大学で学ぶ西洋史　近現代
著者：　小山哲、他
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：　　ISBN：

インディアスの破壊についての簡潔な考察
著者：　ラス・カサス
出版社：（岩波書店）
出版年：　　ISBN：

成績評価

e9021kd510

試験 （ 40% ）　　小テスト（ 60% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
小テストは第2回、第7回、第12回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**文学にみる京都（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　林 久美子

テーマ

京都の歴史・文学を学ぶ

授業の到達目標

千年の古都である京都は、日本文化の源と言ってよい。しかし、学生がその魅力の源泉にふれる機会は少なく、観光企画や宣伝によって脚光を浴びた表面的な知識しか得られないのが一般である。そこで、この科目では、京都をより深く知り、文化の伝統と現代のあり方について考える機会をもつために、京都を舞台にした文学やそれを成立させた歴史的背景を学ぶ。種々の文学作品を通して、例えば葵祭の特質や往古の人々の祭りに対する心情を想像し、六道の辻がなぜ魔界とされているのかを知ることができる。そこから、観光のあり方や伝統の継承といった、現代的な問題意識も育みたい。

授業の概要

［テキスト授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

テキストを読んだら、興味を持った場所を自分の足で歩いてみてください。また、気になる作品はネットからでも読んでみてください。さらに調べたくなったら、図書館へ足を運んでください。

内　容

第1回　桓武天皇と秦氏（テキスト10～25・7ページ）桓武天皇の平安京遷都と、新都造営に協力した秦氏について学ぶ。

第2回　小野篁の説話（テキスト26～47ページ）三大葬送地である鳥辺野、蓮台野、化野。その地に伝わる小野篁の伝説を学ぶ。

第3回　清少納言の随筆世界と生活空間（テキスト62～77ページ）『枕草子』の記述から、清少納言が身を置いた場所、所縁の場所を知る。自分で出かけて、現代の町並みに往時を偲ぶ文学散歩の手引きとする。

第4回　『源氏物語』ゆかりの地・洛中編（テキスト78～94ページ）光源氏が生活し、女性たちを住まわせた二条院、六条院、二条東院、さらに夕顔の宿や「なにがしの院」の場所やイメージをたどる。

第5回　紫式部と『源氏物語』に関する様々な知見を得る（テキスト95～103ページ）明石の君と大堰川、『源氏物語』の成立と受容、紫式部の住居と墓などについて学ぶ。

第6回　『源氏物語』宇治十帖を歩く（テキスト104～120ページ）『源氏物語』の最後を飾る十帖は、宇治を主な舞台とする。その必然性と、古蹟についての知識を得る。

第7回　『源氏物語』の楽しみ方（テキスト121～129・146～147ページ）『源氏物語』絵巻、源氏・ミュージアム、明石の君と嵯峨・桂、絵画や工芸品などについての案内を読み、『源氏物語』の文化的価値を知る。

第8回　王朝仮名日記の舞台案内（テキスト130～145ページ）『土佐日記』『蜻蛉日記』などの日記文学に登場する、内裏や貴族たちの邸宅があった場所、作者たちが詣でた寺社の位置を学ぶ。

第9回　五条（現・松原）という空間（テキスト148～163ページ）『源氏物語』「夕顔」の宿があった旧五条（現在の松原通あたり）とはどんな空間であったのかを、他の文芸のイメージも重ねながら想像する。

第10回　『方丈記』ゆかりの地－日野の里山（テキスト168～183ページ）／《あだしの》という風景－歌枕「化野」の生成と『徒然草』（テキスト188～206ページ）鴨長明が大原の後で庵を結んだ日野での暮らしぶりを知る。／吉田兼好が「あだし野」と記した空間はどのように生成された風景であったかを考える。

第11回　『平家物語』の京を歩く（テキスト212～228・186～187ページ）平家の本拠地六波羅・西八条と源氏の拠点六条堀川を中心に、史跡を巡る。

第12回　『太平記』ゆかりの寺（テキスト236～254・234～235ページ）南北朝動乱期に後醍醐天皇が移った笠置寺、その追善のために建てられた天龍寺の案内を読み、『太平記』について学ぶ。

第13回　「歌枕」という創造性（テキスト260～277ページ）「歌枕」という地名の持つ創造性を通して、百人一首という秀歌撰の魅力を再認識する。

第14回　伏見の歴史と地名（テキスト284～302ページ）別荘地であった平安時代から秀吉の築城、幕府の大名地への変遷と、観月の地としての「指月」について学ぶ。

第15回　京の天神巡り（テキスト48～60ページ）／京の名水・井戸紀行（テキスト164～165・184～185・210ページ）、京都と出版（テキスト166～167・211・280～281ページ）菅原道真の降誕地、各地にある天満宮などから、天神信仰の厚さを知り、菅原道真が天神として祀られた理由を考える。／京都を語る際に欠かせない、水と出版文化に関する知識を得る。

履修上の注意点

教科書

京の歴史・文学を歩く

著者：　知恵の会編

出版社：（勉誠出版）

出版年：　　ISBN：

参考書

e9021kd610

新編日本古典文学全集
著者:
出版社:（小学館）
出版年: ISBN:

新日本古典文学大系
著者:
出版社:（岩波書店）
出版年: ISBN:

京都大事典
著者: 佐和隆研
出版社:（淡交社）
出版年: ISBN:

京都大事典〈府域編〉
著者:
出版社:（淡交社）
出版年: ISBN:

日本歴史地名大系〈第26巻〉京都府の地名
著者:
出版社:（平凡社）
出版年: ISBN:

日本歴史地名大系〈第27巻〉京都市の地名
著者:
出版社:（平凡社）
出版年: ISBN:

角川日本地名大辞典〈26〔1〕〉京都府 上巻 総説・地名編
著者: 「角川日本地名大辞典」編纂委員会
出版社:（角川書店）
出版年: ISBN:

角川日本地名大辞典〈26〔2〕〉京都府 下巻 地誌編・資料編
著者: 「角川日本地名大辞典」編纂委員会
出版社:（角川書店）
出版年: ISBN:

成績評価

試験 （ 60% ） 小テスト（ 40% ）
授業中課題（ ） 授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
小テストは第7回、第12回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**京都の歴史・文化（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　田端　泰子	

テーマ

京の都の盛衰とそれぞれの時代に生きた人々

授業の到達目標

”都”と呼ばれる政治・経済の中心の位置に京都がすわることによって、どのような歴史のうねりが生じたのか、またそこに住んだ人々の生活にどのような変化が生まれたのかを学びとってほしい。

授業の概要

[メディア授業／全15回]古代以来の都の変遷から説き起こし、京の都がどのような経緯を辿って成立し、発展し、その後の変化を迎えたのかを基軸に、そこに住む人々、京に入った人々に焦点を合わせて歴史の流れを解説する。

準備学習（予習・復習）

京都に関する書物を読み、また授業に登場した場所を実際に訪れてみると、理解が深まる。

内　　容

第1回　都城の変遷
第2回　平安京の成立
第3回　平安京に暮らす人々
第4回　院政期の京都
第5回　京－鎌倉をつなぐ人々
第6回　「このごろ都にはやるもの」－南北朝期の京都
第7回　室町幕府の成立と京の都
第8回　土一揆の時代
第9回　京の商工業者
第10回　『洛中洛外図』に描かれた京都
第11回　祇園祭と京の町
第12回　中世京都の芸能
第13回　織田信長と京都
第14回　豊臣政権と京の町
第15回　元禄時代の京都

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

物語　京都の歴史
著者:　脇田修・晴子
出版社:（中央公論新社）
出版年:　　ISBN:

女性芸能の源流
著者:　脇田晴子
出版社:（角川書店）
出版年:　　ISBN:

中世京都と祇園祭
著者:　脇田晴子
出版社:（中央公論新社）
出版年:　　ISBN:

e9021kd710

秀吉の経済感覚
著者:　脇田修
出版社:（中央公論社）
出版年:　　ISBN:

北政所おね
著者:　田端泰子
出版社:（ミネルヴァ書房）
出版年:　　ISBN:

足利義政と日野富子
著者:　田端泰子
出版社:（山川出版社）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 100% ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
「授業中課題」は第15回の後にレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**日本国憲法（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　上出 浩	

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

授業の到達目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の概要

［テキスト授業／全15回］日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をひとつずつ積み重ねていく。

準備学習（予習・復習）

憲法問題、特に人権問題は身近な所に多数存在しながら見逃してしまいがちである。それぞれのテーマを学習した後、新聞やニュースに現れる社会問題だけでなく、身近な所に隠れている人権問題を探し出し、憲法の諸原理・諸原則、思想を当てはめてみると、より理解が深まる。また、上記シラバスで取り上げられていない最新問題につき、第2部を参考にすると良い。

内　容

第1回　日本国憲法の位置づけ（テキスト1～14ページ）各テーマを学ぶ前に、日本国憲法が憲法史上どのような位置づけにあるかを確認する。
第2回　日本国憲法の3大原則と象徴天皇制（テキスト14～21ページ）日本国憲法が基礎とする三大原則を学ぶ。また、我が国に特有である象徴天皇制を学ぶ。
第3回　日本国憲法の平和主義（テキスト21～29ページ）日本国憲法の特徴である平和主義の内容及び現代的な意義を学ぶ。
第4回　日本国憲法の人権（人権総論：人権の分類、主体、制限、公共の福祉）（テキスト30～35ページ）人権を学ぶ上で必要な基礎知識をつけ、人権に共通する問題を学ぶ。
第5回　日本国憲法の人権（幸福追求権、新しい権利）（テキスト35～38ページ）プライバシーを始め、新しい人権と呼ばれるものがどのように保障され、どのような内容かを学ぶ。
第6回　日本国憲法の人権（精神的自由(1)：思想・良心の自由、信教の自由）（テキスト39～43ページ）精神的自由のうち、心の中の自由と宗教の自由、そして政教分離の意義を学ぶ。
第7回　日本国憲法の人権（精神的自由(2)：表現の自由）（テキスト43～48ページ）最も大切な自由であるとされる表現の自由の内容とその意義を学ぶ。
第8回　日本国憲法の人権（経済的自由）（テキスト48～50ページ）近代市民革命において中心的な役割を果たし、社会権により制限されることになる経済的自由を学ぶ。
第9回　日本国憲法の人権（社会権）（テキスト52～60ページ）現代憲法において大きな役割を果たす、社会権の意義を学ぶ。
第10回　日本国憲法の人権（人身の自由、手続き的保障、そのほかの権利）（テキスト50～51・60～71ページ）実体的権利を支える手続き的保障、参政権などのその他の権利の内容を学ぶ。
第11回　日本国憲法の統治（権力分立、国会）（テキスト72～77ページ）統治機構の基本である権力分立と国権の最高機関であるとされる国会及び主権を学ぶ。
第12回　日本国憲法の統治（内閣、財政）（テキスト77～82ページ）議院内閣制の下での内閣及び、内閣が大きな役割を果たす財政について学ぶ。
第13回　日本国憲法の統治（裁判所、地方自治）（テキスト82～86・94～99ページ）裁判所に関わる基本的な内容と、地方自治について学ぶ。
第14回　日本国憲法の統治（裁判所）（テキスト86～94ページ）人権保障でも最も大きな役割を果たす、違憲立法審査権の位置づけ、意義を学ぶ。
第15回　日本国憲法の憲法改正、裁判員制度（テキスト99～103・243～257ページ）平和主義と関わり論じられる憲法改正と、近年で最も大きな法制度改革である裁判員制度についてその意義を学ぶ。

履修上の注意点

教科書

いま日本国憲法は・・・原点からの検証　第5版
著者：　小林武ほか編
出版社：（法律文化社）
出版年：　　ISBN：

参考書

憲法　第5版
著者：　芦部信喜著・高橋和之補訂
出版社：（岩波書店）
出版年：　　ISBN：

e9021ke110

ポケット六法　平成２３年版

著者:　江頭憲治郎他編

出版社:（有斐閣）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40% ）　　小テスト（ 60% ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

小テストは第3回、第10回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**法学概論Ⅰ（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　近藤　実千代	

テーマ

公法に関する基礎知識の習得

授業の到達目標

公法の基本的な仕組み、重要な概念、重要判例等の基礎知識を習得するとともに、公法的な思考を身につける。公法の基本的なテーマについて検討し、各諸制度について考察する。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]テキスト学習を行い、適宜に六法で条文を参照していく。計4回の小テストを実施し、基本的な制度に関する理解度を確認する。

準備学習（予習・復習）

公法の法改正や判例に関するニュースについて、論理的に説明できるよう試みる。

内　容

第1回　イントロダクション／公法へのアプローチ（テキスト1～15ページ）公法は、私たちの生活にどのように関っているのかを知り、公法の位置づけや領域について学ぶ。
第2回　幸福追求権（テキスト16～28ページ）プライバシー権、名誉権、環境権、生命・身体に関する権利などは、判例によってどのように認められているのかを理解する。
第3回　人権の享有主体／外国人の人権（テキスト29～44ページ）未成年者、天皇、法人、外国人は、一般の国民と人権の保障のあり方がどう違うのかを学ぶ。
第4回　法の下の平等（テキスト45～59ページ）男女の平等について学ぶ。労働環境の改善やポジティブ･アクションへの取り組み状況、DV問題などを取り扱う。
第5回　思想･良心の自由（テキスト60～78ページ）思想・良心の自由として、保護される範囲を学ぶ。思想・良心の侵害と思想に反する行為の義務付けとの関係について知る。
第6回　表現の自由（テキスト79～98ページ）表現の自由は、なぜ優越的地位にあるのかを知る。表現の自由の内容とその制限について理解する。
第7回　国会と国会議員（テキスト99～118ページ）国会の機能や国会議員の特権について理解するとともに、選挙制度の実態や政治家と官僚の関係について学ぶ。
第8回　裁判所と司法権（テキスト119～137ページ）裁判所の権能と国民の司法参加について学ぶ。違憲審査制について理解する。
第9回　行政組織法（テキスト138～159ページ）公務員の勤務条件は、民間企業の従業員とどのように異なるのか、公務員に課せられる義務とは何かについて理解する。
第10回　行政基準／行政行為／行政指導（テキスト160～181ページ）行政基準、行政行為、行政指導とは何かを知る。行政行為の裁量や効力について理解する。
第11回　行政強制（テキスト182～198ページ）行政強制の種類と内容について理解する。その上で、即時強制と行政罰について概観する。
第12回　情報公開制度（テキスト199～223ページ）情報公開制度について学ぶ。情報公開法を中心として、行政に対する情報開示のしくみについて理解する。
第13回　個人情報保護制度（テキスト224～240ページ）個人情報保護の必要性と行政機関の個人情報の取扱いについて学ぶ。
第14回　行政救済法（テキスト241～260ページ）行政不服申立てと取消訴訟について、種類やしくみ、要件や効力について理解する。国家賠償と損失補償の違いを学ぶ。
第15回　地方自治（テキスト261～281ページ）自治体の運営について学ぶ。住民と自治体運営との関わりについて理解する。

履修上の注意点

教科書

新・なるほど公法入門
著者:　村上英明・小原清信（編）
出版社:（法律文化社）
出版年:　　ISBN:

参考書

はじめての憲法学 第2版
著者:　中村睦男（編）
出版社:（三省堂）
出版年:　　ISBN:

e9021ke210

はじめての行政法 第2版

著者:　石川敏行ほか

出版社:（有斐閣）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ 100% ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

小テストは第４回・第８回・第11回・第15回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**法学概論Ⅱ（通信）**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　近藤 実千代

テーマ

私法に関する基礎知識の習得

授業の到達目標

私法全体に共通する基本的な原理・原則、枠組み、法概念を理解する。私生活の様々な場面において、各制度の正確な位置づけを図り、初歩的な応用力を身につける。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]テキスト学習を行い、適宜に六法で条文を参照していく。計4回の小テストを実施し、基本的な制度に関する理解度を確認する。

準備学習（予習・復習）

私法の法改正や判例に関するニュースについて、論理的に説明できるよう試みる。

内　容

第1回　イントロダクション／私法へのアプローチ(テキスト2～32ページ)私法の基本原理とその修正について学び、私法の特色・概略をつかむ。
第2回　法律行為①（意思表示）(テキスト34～42ページ)公序良俗違反による無効について学ぶ。意思表示の瑕疵とは、どのような場合をいうのか、表意者と相手方の利益調整は、どのように図られているのかを理解する。
第3回　法律行為②（行為能力）(テキスト42～48ページ)制限行為能力者の種類と内容について整理する。
第4回　代理制度(テキスト52～60ページ)代理の要件と効果について理解する。無権代理と表見代理の関係について学ぶ。
第5回　時効制度(テキスト62～73ページ)時効制度の意義を知った上で、取得時効と消滅時効の要件を学ぶ。時効の援用や放棄について理解する。
第6回　契約①（総論）(テキスト76～87ページ)契約の成立時点がいつかを知った上で、双務契約における債務関係について理解する。
第7回　契約②（債務不履行）(テキスト87～95ページ)債務不履行の3つの類型について理解する。契約の解除によって生ずる効果を学ぶ。
第8回　所有権(テキスト98～108ページ)物権の種類について概観したのち、所有権移転における登記・引渡しの意味について理解する。
第9回　不法行為(テキスト110～123ページ)加害者と被害者の債権債務関係について学ぶ。不法行為の要件と効果について理解する。
第10回　事務管理・不当利得(テキスト126～136ページ)事務管理とは何か、不当利得とは何かを知る。不当利得の返還について理解する。
第11回　債務の弁済(テキスト138～149ページ)物的担保と人的担保の意味を知る。金銭債務の支払い手段として、手形、小切手、クレジットカードによる弁済方法を学ぶ。
第12回　家族法①（親族・夫婦）(テキスト152～168ページ)親族の範囲を知る。夫婦間の財産制度について理解する。近年の離婚請求の可否について概観する。
第13回　家族法②（親子・扶養）(テキスト172～183ページ)実子、養子、人工生殖子について、親子関係の成立を理解する。親権、扶養の意義を学ぶ。
第14回　相続と遺言(テキスト186～197ページ)法定相続のしくみを概観し、遺言の方式について学ぶ。
第15回　民事事件の紛争解決(テキスト214～223ページ)民事訴訟のしくみについて理解した上で、訴訟以外の手段を概観する。

履修上の注意点

教科書

民事法入門 第6版
著者:　野村豊弘　著
出版社:（有斐閣）
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 100% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
小テストは第5回、第8回、第11回、第15回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**政治学概説（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　田代 和也	

テーマ

本講義は、政治学を学ぶ入門段階において理解する必要がある事柄を扱う。主に日本政治の展開の中から政治アクターや政治学上の基本的概念を説明し、受講生に理解してもらう。

授業の到達目標

本講義は、政治学への入門段階において習得しておく必要がある政治的現象や用語を、現代日本政治の具体的な事例から受講生に理解してもらうことを目指す。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]指定教科書の各回の範囲を読んでもらい、3回に一度、小テストを受けてもらう。各回の小テストの結果は、成績評価の対象となる。各章の文章で太字で出てくる用語は、巻末にある用語解説を必ず読むこと。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　序　政治学を勉強してみませんか　政治学での視点（テキスト1～16ページ）
第2回　1　えっ!!　投票するの？　だれに投票するの？　選挙を科学する　投票行動の研究（テキスト17～34ページ）
第3回　2　テレビが政治をつくる？　マスメディアと政治意識（テキスト35～50ページ）
第4回　3　政治家ってどんな人？　野心と理念（テキスト51～72ページ）
第5回　4　思想と利権のからみあい　政党と政党政治の変動（テキスト73～96ページ）
第6回　5　官僚ってどんな人？　官僚制（テキスト97～114ページ）
第7回　6　変わる「コネ」社会　日本　ネットワーク社会の政治と利益団体（テキスト115～134ページ）
第8回　7　政策のつくられ方　政策過程（1）（テキスト137～150ページ）
第9回　7　政策のつくられ方　政策過程（2）（テキスト150～157ページ）
第10回　8　日本の最高権力者　強い首相、ひ弱な首相（テキスト159～176ページ）
第11回　9　自治の気概　日本に地方自治はあるの？（1）（テキスト177～186ページ）
第12回　9　自治の気概　日本に地方自治はあるの？（2）（テキスト187～196ページ）
第13回　10　世界はどこへ行く？　国際政治（テキスト197～213ページ）
第14回　11　グローバリゼーションと地域主義　仲間づくりの国際政治経済学（テキスト215～232ページ）
第15回　12　21世紀の試練　政治改革と構造改革（テキスト234～256ページ）

履修上の注意点

教科書

ポリティカルサイエンス事始め[第3版]
著者:　伊藤光利編
出版社:（有斐閣）
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 20% ）　　小テスト（ 80% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
小テストは第3回、第6回、第9回、第12回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**社会学概論Ⅰ（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松田　いりあ	

テーマ

現代社会の諸課題を社会学の考え方とデータを参照しながら理解する

授業の到達目標

現代社会の諸問題を受講生自身の日常生活の課題として把握することができるようになること

授業の概要

[テキスト授業／全15回]社会学概論Ⅰでは、社会学という学問分野の歴史や考え方からはじまり、19世紀から20世紀にかけての社会の変動（地域、家族、階級・階層など）に社会学がどのように向き合ってきたのか、さらに21世紀の社会にとっての課題にどう対応しようとしているかについて理解を深める

準備学習（予習・復習）

担当教員の指示する資料（ウェブ上で公開されている各種統計など）を参照してもらうことがある

内　　容

第1回　社会学とは（1）（テキスト2～3、194～197ページ）社会学とはどのような学問なのか。社会学の視点と代表的な社会学者を概観する
第2回　社会学とは（2）（テキスト4～9ページ）社会学の対象と方法（歴史的視点／構造的視点、客観主義／主観主義等）を理解する
第3回　地域をめぐる社会学（1）（テキスト58～61ページ）近代社会を特徴づける都市的生活様式と村落的生活様式の違いについて理解する
第4回　地域をめぐる社会学（2）（テキスト54～57、62～63ページ）シカゴ学派を中心とした都市社会学のうち、おもに人間生態学およびサブカルチャーについて理解する
第5回　家族をめぐる社会学（1）（テキスト38～39、48～49ページ）家族の定義の難しさ、および近代社会と核家族の関わりについて理解する
第6回　家族をめぐる社会学（2）（テキスト44～47ページ）夫婦関係および親子関係（前期／中期／後期）について理解する
第7回　家族をめぐる社会学（3）（テキスト40～43、50～51ページ）結婚、出産を中心に、近代家族から現代家族への変化について理解する
第8回　レポート1の作成に向けこれまでの内容（テキストの該当ページ）を復習する
第9回　階級・階層をめぐる社会学（1）（テキスト86～89ページ）近代社会における階級・階層をめぐる考え方を社会的資源の配分という点から理解する
第10回　階級・階層をめぐる社会学（2）（テキスト90～93ページ）現代日本社会の階層について社会移動の多少という点から理解する
第11回　階級・階層をめぐる社会学（3）（テキスト94～99ページ）階層構造の変化と現代における社会的不平等と再分配政策をめぐる問題について理解する
第12回　国際社会とエスニシティ（1）（テキスト134～137ページ）国民国家の成立とグローバル化を背景にした移民問題について理解する
第13回　国際社会とエスニシティ（2）（テキスト132～133、138～139ページ）エスニシティ、多文化社会、オリエンタリズムについて理解する
第14回　国際社会とエスニシティ（3）（テキスト66～69ページ）人種的マイノリティと貧困の関係および脱工業化について理解する
第15回　レポート2の作成に向けこれまでの内容（テキストの該当ページ）の復習をする

履修上の注意点

教科書

よくわかる社会学第2版
著者：　宇都宮京子編
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）	小テスト（ ）
授業中課題　（ 100% ）	授業中発表等（ ）
参加度　（ ）	

「授業中課題」は第8回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**社会学概論Ⅱ（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　松田 いりあ	

テーマ

現代社会の諸課題を社会学の考え方とデータを参照しながら理解する

授業の到達目標

現代社会の諸問題を受講生自身の日常生活の課題として把握することができるようになること

授業の概要

[テキスト授業／全15回]社会学概論Ⅱでは、社会学の考え方を用いながら現代社会の課題にアプローチする。具体的にはメディア、自己とコミュニケーション、ジェンダー、社会運動など。21世紀の社会を考える方法として社会学的視点の定着をはかる。

準備学習（予習・復習）

担当教員の指示する資料（ウェブ上で公開されている各種統計など）を参照してもらうことがある

内　容

第1回　インナートリップとしての社会学（1）（テキスト100～103ページ）他者との関係から社会的に定義される自己／自我について理解する
第2回　インナートリップとしての社会学（2）（テキスト104～107ページ）他者とのコミュニケーションから形成される自我について考察した社会学者の考えを理解する
第3回　メディアと情報化をめぐる社会学（1）（テキスト70～73ページ）メディアの歴史およびメディアが近代社会の形成に果たした役割を理解する
第4回　メディアと情報化をめぐる社会学（2）（テキスト76～79ページ）工業社会に続いてあらわれた情報社会の歴史と現在について理解する
第5回　メディアと情報化をめぐる社会学（3）（テキスト82～85ページ）情報技術のもつ可能性と問題についてインターネットを中心に理解する
第6回　ジェンダーとセクシュアリティ（1）（テキスト116～121ページ）ジェンダー概念、ジェンダーの社会化、性別役割分業について理解する
第7回　ジェンダーとセクシュアリティ（2）（テキスト124～129ページ）セクシュアリティの概念とその多様性について理解する
第8回　レポート1の作成に向けこれまでの内容（テキストの該当ページ）を復習する
第9回　社会運動・NPO・ボランティア（1）（テキスト144～149ページ）現代社会における社会運動の意義について理解する
第10回　社会運動・NPO・ボランティア（2）（テキスト150・151、154・155ページ）現代におけるボランティアやセルフヘルプ・グループの役割について理解する
第11回　いろいろな社会学（1）（テキスト162～165ページ）教育を社会学的な視点から理解する
第12回　いろいろな社会学（2）（テキスト170～173ページ）政治を社会学的な視点から理解する
第13回　いろいろな社会学（3）（テキスト186～189ページ）宗教を社会学的な視点から理解する
第14回　いろいろな社会学（4）（テキスト190・191ページ）医療を社会学的な視点から理解する
第15回　レポート2の作成に向けこれまでの内容（テキストの該当ページ）の復習をする

履修上の注意点

教科書

よくわかる社会学第2版
著者：　宇都宮京子　編
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 100% ）　　授業中発表等　（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は第8回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**経済学概説（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阪本　崇	

テーマ

日本経済についての話題をきっかけに、社会認識の手段としての経済学の基礎を学ぶ

授業の到達目標

経済社会の中でおこる様々な現象について、報道をはじめとする世の中の言説を鵜呑みにするのではなく、経済学で用いられる概念や思考方法を駆使しながら自分自身で論理的に考える力を身につける。

授業の概要

[メディア授業／全15回]経済学は「金儲けのための学問」ではありません。20世紀初頭に活躍したイギリスの経済学者A.C.ピグーの言葉にもあるように、それは「人間生活の改良のための学問」です。人間生活の改良のために解決しなければならない経済問題は、その時代毎に変化します。経済学は250年の歴史の中で、さまざまな経済問題にとりくみながら発展してきました。この授業では、こうした経済学の発展過程で生まれてきた重要な概念や思考方法を学びながら、経済学が、現代の社会に生きる私たちが取り組まなければならない問題-地球環境の問題、国際金融の問題、格差の問題-にどのように取り組んでいるのかを学びます。

準備学習（予習・復習）

授業で教科書の内容すべてを説明することはできません。教科書の該当範囲を示した上で、要点のみを説明しますので、授業後に該当部分をしっかり読んでおくことが必要です。また、新聞を読んだりニュースを見たりして普段から日本経済の状況について知るように心がけてください。

内　　容

第1回　イントロダクション：経済学とは何か？
第2回　なぜ景気は変動するのか？
第3回　不況になったら政府は何をするべきか？
第4回　為替レートはどのように決まるのか？
第5回　輸出を増やせば景気は良くなるか？
第6回　バブル経済とは何だったのか？
第7回　インフレやデフレはどうして良くないのか？
第8回　今後の日本経済はどうなるのか？
第9回　所得や価格は消費にどのように影響を与えるか？
第10回　企業はどのように行動するのか？
第11回　企業が大きくなることはよいことか？
第12回　なぜ公園や道路は政府が作るのか？
第13回　消費者は商品の本当の価値を知っているか？
第14回　日本の経済システムは個性的か？
第15回　市場と政府だけが経済ではない

履修上の注意点

教科書

What's経済学：わかる楽しさ 使うよろこび（第3版）
著者：　辻　正次・八田 英二
出版社：　有斐閣（有斐閣アルマ）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト （ 60% ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度　（ ）
小テストは、第5回・第11回・第15回の後にそれぞれ行う

2016 Syllabus

科 目 名　**国際マーケティング論（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　文男	

テーマ

日本企業のグローバル・マーケティング戦略

授業の到達目標

国際マーケティング固有の概念であるグローバル・ブランド、移転価格、並行輸入、グローバル・サプライチェーン、輸出マーケティング、マルチドメスティク・マーケティング、グローバル・マーケティングなどについて理解し、説明できる能力を身につけると同時に、その戦略立案能力を養う。

授業の概要

[メディア授業／全15回]現代の企業経営は国際競争を抜きには考えることができない。生産が深層レベルの競争力であるとするならば、マーケティングは表層レベルの競争力である。本講義では表層レベルのマーケティング、国際マーケティングに焦点を当てて考える。国際市場は国内市場と異なり、国によって生活習慣や文化の違いが大きく、そのマーケティングは国内マーケティングとは異なった特異な形態をとる。講義では国際マーケティングの基本原理を踏まえ、日本の代表的な企業であるパナソニック、ソニーなどの電機企業を中心に、資生堂、ユニクロ、ファミリーマートなどの国際マーケティングの特徴を明らかにする。

準備学習（予習・復習）

新聞や雑誌に掲載されているマーケティングや国際マーケティングに関する記事に目を通し、国際マーケティングに関する知識をしっかり身につけていること。

内　　容

第1回　国際マーケティングとは何か。
第2回　国際マーケティングにおける製品戦略
第3回　グローバル・ブランドとグローバル広告戦略
第4回　国際価格戦略
第5回　国際チャネル戦略
第6回　三洋電機の輸出マーケティング戦略
第7回　パナソニック（旧松下電器）の輸出マーケティング戦略
第8回　ソニーの輸出マーケティング戦略
第9回　パナソニックの先進国市場におけるグローバル・マーケティング戦略
第10回　大戸屋と8番らーめんのグローバル・マーケティング戦略
第11回　ファミリーマートのグローバル・マーケティング・戦略略
第12回　資生堂のグローバル・マーケティング戦略
第13回　ユニクロのグローバル・マーケティング戦略
第14回　ソニーの新興国市場におけるグローバル・マーケティング戦略
第15回　パナソニックの新興国市場におけるグローバル・マーケティング戦略

履修上の注意点

教科書

日本企業のアジア・マーケティング戦略
著者:　マーケティング史研究会 編
出版社:（同文舘）
出版年:　2014　　ISBN:

参考書

日本企業の国際マーケティング
著者:　近藤文男　著
出版社:（有斐閣）
出版年:　　ISBN:

日本企業のグローバル・マーケティング
著者:　大石芳裕　編著
出版社:（白桃書房）
出版年:　　ISBN:

成績評価

e9021kf110

試験 （ ）　　小テスト（ ）

授業中課題 （ 100% ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ ）

「授業中課題」は第8回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**経営学概論（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　仲田　正機	

テーマ

企業、経営、マネジメントの理論を学び、企業経営の実際を分析する手がかりにする。

授業の到達目標

「会社（企業）が事業を経営する」という基本命題を分析的に理解して、企業経営をめぐる社会の仕組み＝社会システムを理解することが、この科目の目標である。

授業の概要

［メディア授業／全15回］会社の仕組みを明らかにし、経営のノウハウやスキルについても講義します。

準備学習（予習・復習）

授業中に示されたキーワード、概念、理論、事例（ケース）について、講義の前後には参考文献やインターネット等で再確認しよう。

内　容

第1回　はじめに－企業とは何か、会社とは何か、「会社（企業）が事業を経営する」とは？その仕組みを理解する－
第2回　企業における様々な形態について－会社の基本を押さえる－
第3回　企業が営む事業の種類と業態に目を向けよう－自社の営む事業やその業態は、会社のどこで決めるのか－
第4回　企業における一般的な意思決定の仕組みについて
第5回　事業の経営に必要な具体的な仕事（1）―会社の側から見た仕事―
第6回　事業の経営に必要な具体的な仕事（2）―業種と業態、個人の入社から退職まで―
第7回　経営組織の基本を押さえる―職能部門組織と事業部制組織、ラインとスタッフ―
第8回　マネジメントの見方・考え方を知ろう―マネジメント論の源流と主流―
第9回　マネジメントへの工学的アプローチ（「科学的管理法」とその後の発展）
第10回　マネジメントへの心理・社会学的アプローチ（「人間関係論」とその後の発展）
第11回　現代マネジメントの基礎理論―C.I.バーナード『経営者の役割』で示されたこと―
第12回　経営における意思決定の理論―H.A.サイモン『経営行動』で示されたこと―
第13回　経営における個人と組織の関係―H.A.サイモン「貢献と誘因のシステム」が示すもの―
第14回　激変する環境へ適応する戦略的マネジメント、そして競争優位の経営戦略とは？―A.D.チャンドラー、H.I.アンゾフやM.ポーターが示したこと―
第15回　経営の国際化、グローバル化とは何か？―経営の今日的な課題とは？―

履修上の注意点

教科書

テキストは定めません。レジュメを配布して、授業を進めます。

著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

基礎コース　経営学
著者：　小松　章
出版社：（新世社）
出版年：　　ISBN：

イラスト図解　会社のしくみ
著者：　坂田岳史
出版社：（日本実業出版社）
出版年：　　ISBN：

現代アメリカ管理論史
著者：　仲田正機
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：　　ISBN：

e9021kf210

成績評価

試験 （ 50% ）　　小テスト（ 50% ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

小テストは第４回、第７回、第９回、第12回、第14回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**自然の探求（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　今村　彰生

テーマ

あいまいな「自然」というイメージに、学習を通して具体性を付与する

授業の到達目標

自然とは何か、が究極の問いです。我々の身近に自然はあるでしょうか。自分にとっての自然とはどのような存在でしょうか。人間も生き物であり、地球上には様々な生き物が棲んでいることは知っていても、一方で、自然界の生き物については無関心なのではないでしょうか。注意さえ向ければ、身の回りには生き物が生きている「自然」が存在します。自然界の生き物を丁寧に精密に観察し、それらを実体として具体的に認識することが到達点です。さらに、「自然とは何か」「自然にはどのような価値があるのか」、各自が論考することを目指します。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]通信教育課程では、指定した教科書を読み進めるものとします。指定した単元について、通読し、図表を理解し、それらの摘要（summary）を小レポートとして纏めていただきます。

準備学習（予習・復習）

テキスト以外の参考文献などを読み込む

内　容

第1回　はじめにおよび第1章1・1－1・2（テキスト1－7ページ）本書で扱う問題点の総括。概要を理解することで、以下の各論への理解を助ける。
第2回　第1章1・3－1・7（テキスト8－16ページ）総論なので長さの割に難解である。適宜その他の資料も参照しながら理解を進める。
第3回　第2章2・1—2・3（テキスト19－27ページ）撹乱レジームについて良く理解しないと後々の理解も進まない。
第4回　第2章2・4－2・6（テキスト28－62ページ）コラムも含めて読み進める。
第5回　第2章2・7－2・9（テキスト62－79ページ）撹乱レジームへの理解も踏まえ、時間スケールを伴った理解が求められる。
第6回　第3章3・1－3・2（テキスト83－94ページ）生活史という概念とトレードオフという概念を理解する。
第7回　第3章3・3－3・5（テキスト94－129ページ）種子散布の究極要因を理解する。簡単に見えて難しい仮説が多い。
第8回　第3章3・6－3・9（テキスト129－154ページ）戦略とは何か、誤解せずに読み進める。
第9回　前半の総括（テキスト1－154ページ）自身で作成した第一段のレポート原稿を元に、前半部分を振り返る(通読)。
第10回　第4章4・1－4・2（テキスト157－166ページ）ブナ林に対して具体的で正確なイメージを持つ。
第11回　第4章4・3－4・4（テキスト166－175ページ）ミズナラ林、ミズナラ二次林に対して具体的で正確なイメージを持つ。
第12回　第5章5・1－5・2（テキスト179－193ページ）現代の森林と変化について理解する。
第13回　第5章5・3－5・5、おわりに（テキスト194－222ページ）森林の将来的変化について考察を試みる。
第14回　後半の総括（テキスト157－222ページ）自身で作成した第二段のレポート原稿を元に、後半部分を振り返る(通読)。
第15回　全体の総括自身で作成した2本のレポートについて、提出前にテキスト全体を振り返り、その他の資料などを通じて深く理解を得る。レポートの推敲をする。

履修上の注意点

教科書

森のスケッチ
著者：　中静透　著
出版社：（東海大学出版会）
出版年：　　ISBN：

参考書

生物多様性とは何か
著者：　井田徹治　著
出版社：（岩波書店）
出版年：　　ISBN：

京都深泥池
著者：　藤田昇・遠藤彰　編
出版社：（京都新聞社）
出版年：　　ISBN：

e9021kg110

大文字山を歩こう
著者:　法然院森のセンター・久山喜久雄　編
出版社:（ナカニシヤ出版）
出版年:　　ISBN:

ドングリの謎―拾って、食べて、考えた
著者:　盛口満　著
出版社:
出版年:　　ISBN:

教えてゲッチョ先生！雑木林は不思議な世界
著者:　盛口満　著
出版社:（山と渓谷社）
出版年:　　ISBN:

生命の湖琵琶湖をさぐる
著者:　滋賀県立琵琶湖博物館　編
出版社:（文一総合出版）
出版年:　　ISBN:

ドングリの戦略
著者:　森廣信子　著
出版社:（八坂書房）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 100% ）　　授業中発表等　（　）
参加度　（　）
「授業中課題」は第8回、第13回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**生活の中の数学（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小寺　隆幸	

テーマ

実生活の様々な問題を数学的にとらえるとより深く理解できることを知り、数学への興味・関心を高め、市民としての数学的リテラシーを育む。

授業の到達目標

実生活の様々な問題には数量・図形・変化などが関わっている。この授業では、具体的な場面を取り上げ、数学的に物事を見ることでより適切な判断が出来ることを理解していく。それぞれの数学の内容を掘り下げ習熟することが目的ではなく、数理的に見るとはどういうことかを理解し、数学に対する関心を深め、将来必要になった時に数学を自分で学ぼうとする姿勢を育てることが目的である。

授業の概要

[メディア授業／全15回]算数から微積分まで、小中高の数学の内容を生活との関わりという視点で見直す。さらにカオスなどの新たな数学にもふれる。今まで数学が苦手な人もわかるようにすすめる。

準備学習（予習・復習）

授業で関連した本を紹介する。興味がある人は読んで深めよう。

内　容

第1回　携帯料金　どれがお得？　一次関数から線型計画法へ
第2回　スキー場の数学　斜面の運動から二次関数へ
第3回　落下運動　積分の考え
第4回　ドライバーの数学　制動距離
第5回　ハイキングの数学　三角比　三平方の定理
第6回　身近な形を数理的に見る　図形の性質・対称
第7回　オウムガイとアワビの数学　相似・指数関数
第8回　サラ金から身を守るために　指数・対数
第9回　指数から対数へ
第10回　放射能に向き合って生きる　対数
第11回　リスク社会をどう生きるか　確率・期待値
第12回　統計の利用と嘘　代表値・推測統計
第13回　成長を考える　ロジスティック関数からカオスへ
第14回　数理のメガネで見る　カオス、リスク確率
第15回　環境問題を数学で考える　差分でみる　フローとストック

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　ISBN:

参考書

数学の1，2，3
著者:　瀬山士郎　著
出版社:（講談社）
出版年:　ISBN:

検定外高校数学　上
著者:　何森仁・小嶋順　編
出版社:（日本評論社）
出版年:　ISBN:

e9021kg210

こんなに役立つ数学入門
著者:　広田照幸・川西琢也　編
出版社:（筑摩書房）
出版年:　　ISBN:

なるほどなっとく数学再挑戦
著者:　増島高敬・石井孝子　編著
出版社:（日本評論社）
出版年:　　ISBN:

数学は世界を解明できるか
著者:　丹羽敏雄　著
出版社:（中央公論新社）
出版年:　　ISBN:

微分積分の意味がわかる
著者:　野崎昭弘ほか　著
出版社:（ベレ出版）
出版年:　　ISBN:

統計・確率の意味がわかる
著者:　野崎昭弘ほか　著
出版社:（ベレ出版）
出版年:　　ISBN:

数学入門　上・下
著者:　遠山啓　著
出版社:（岩波書店）
出版年:　　ISBN:

地球を救え！数学探偵団
著者:　小寺隆幸　著
出版社:（国土社）
出版年:　　ISBN:

数学で考える環境問題
著者:　小寺隆幸　著
出版社:（明治図書）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 100% ）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）
「授業中課題」は第15回の後にレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**物理学基礎（通信）**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　古田　薫

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として物理学の基礎について学ぶ。

授業の到達目標

高等学校で学習した物理の内容を再確認するとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。物理学が日常生活や社会とどのように関連しているかを知り、科学技術への関心を高め、市民として必要な科学的な知識・能力・態度を身につける。

授業の概要

[メディア授業／全15回]運動とエネルギー、電気、波について、原理・法則を学び、日常的な現象や先端科学技術との関連を考える。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　物体の運動
第2回　力（1）
第3回　力（2）
第4回　運動の法則
第5回　エネルギー（1）
第6回　電気（1）
第7回　電気（2）
第8回　電気（3）
第9回　波
第10回　音
第11回　光
第12回　温度と熱
第13回　エネルギー（2）
第14回　エネルギー（3）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

Primary　大学テキスト　これだけはおさえたい物理
著者：　金原粲
出版社：（実教出版）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト（ 40% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
小テストは、第8回・第14回の授業の後に行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**化学基礎（通信）**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　　富岡　康

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として化学の基礎について学ぶ。

授業の到達目標

高等学校における化学の内容を再確認するとともに専門科目を学ぶために必要な化学の基礎知識を身につけることを目標とする。

授業の概要

[メディア授業／全15回]生活の中にある物質や現象を、化学的なものの見方や考え方で捉え理解できるように、一部演習形式を取り入れながら化学的な基礎概念を解説する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　物質は何からできているか。
第2回　分子について
第3回　原子の構造と原子同士の結合
第4回　分子の形はどのようにして決まるか
第5回　分子の形……異性体と立体化学
第6回　物質の三態……固体・液体・気体
第7回　溶液について（1）
第8回　溶液について（2）
第9回　化学反応はなぜ起こるか
第10回　触媒、反応速度
第11回　酸と塩基（1）
第12回　酸と塩基（2）
第13回　酸化と還元
第14回　有機化合物の構造とその書き表し方、命名法
第15回　日常の中の化合物

履修上の注意点

教科書

新化学「もの」を見る目
著者：　大野惇基地ほか　著
出版社：三共出版
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト（ 40% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
小テストは、第8回・第15回の授業の後に行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**生物学基礎（通信）**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　渡辺　多佳

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として生物学の基礎について学ぶ。

授業の到達目標

高等学校における生物の内容を再確認するとともに専門科目を学ぶために必要な生物学の基礎知識を身につけることを目標とする。

授業の概要

[メディア授業／全15回]生物学の中でも主にヒトに焦点を当てた生命化学について概説する。生命現象の科学的な解析、解明が急速に進展する現代において、できるだけ最新のトピックスをまじえて解説する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　細胞生物学（1）細胞の構造と役割
第2回　細胞生物学（2）細胞を構成する物質－1
第3回　細胞生物学（3）細胞を構成する物質－2
第4回　細胞生物学（4）エネルギー、酵素、代謝
第5回　細胞生物学（5）エネルギー獲得
第6回　遺伝の仕組みと遺伝病（1）
第7回　遺伝の仕組みと遺伝病（2）
第8回　光合成と窒素同化
第9回　細胞の分裂・情報伝達・がん化
第10回　生命体の受精と成長（1）
第11回　生命体の受精と成長（2）
第12回　多細胞生物の自己維持機構
第13回　生物と環境
第14回　生物の進化
第15回　生命科学技術と生命操作

履修上の注意点

教科書

やさしい基礎生物学[第2版]
著者:　南雲保　編著
出版社:（羊土社）
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト（ 40% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
小テストは、第8回・第15回の授業の後に行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**医学概論（通信）**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　宮本　尚

テーマ

医学概論：医学が辿ってきた歴史を振り返る事で、最新の医療の成り立ちを知る

授業の到達目標

古代から最新の医療までを系統的に知る事で、臨床現場での医療関係者との円滑な連携、及び患者と家族への対人援助職としての役割の再認識、さらには日本が直面している超高齢者社会及び少子化社会での医療の方向性を学ぶ

授業の概要

［テキスト授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　先史時代の医療～インドの医療（テキスト6～27ページ）
第2回　中国の医学～プレ・コロンビアの医学（テキスト27～46ページ）
第3回　エジプトの医学～ギリシャの医学（テキスト46～76ページ）
第4回　エルトリアの医療～ローマの医学（テキスト77～94ページ）
第5回　修道院とビザンチンの医学～アラビアの医学（テキスト95～110ページ）
第6回　大学の誕生～15世紀の医学（テキスト110～127ページ）
第7回　16世紀の医学（テキスト128～141ページ）
第8回　17世紀の医学～樽を叩く医者（テキスト142～159ページ）
第9回　巨人モルガーニ～動物の磁性（テキスト159～178ページ）
第10回　体の単位～パスツールの犬（テキスト178～201ページ）
第11回　無菌法～防衛の細胞（テキスト201～223ページ）
第12回　エンドウを研究する修道士～無意識の発見（テキスト223～241ページ）
第13回　アレルギー：ある不思議な物語～遺伝子の問題（テキスト241～269ページ）
第14回　臓器移植の時代～遠隔医療とバーチャル・リアリティー(テキスト269～296ページ）
第15回　アルツハイマー病～21世紀：未来が待つ（テキスト297～313ページ）

履修上の注意点

過去の医療や医学が果たしてきた役割を学ぶ

教科書

医学の歴史
著者：　ルチャーノ・ステルペローネ　著、小川熙　訳
出版社：（原書房）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 100% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
小テストは、4回・8回・12回・15回のそれぞれ授業後に課す

2016 Syllabus

科 目 名　**看護情報論（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　阿部　祝子	

テーマ

看護は情報や知識を駆使する高度な情報処理プロセスである。本講では情報学はコンピュータを学ぶという偏見や苦手意識を解き、日々の看護実践・管理における情報を改めて意識する。そして、情報技術、通信技術の進歩に伴い、看護の現場に導入された情報システムによる支援について学習する。さらに、質の高い看護の提供をめざす看護実践・管理における情報活用について、探求する。

授業の到達目標

・看護情報論を学ぶ意義を理解する。・日々の看護実践・管理において、活用している情報を意識する。・医療・看護を支援する情報及び情報システムの活用について理解する。・医療・看護における情報倫理について理解する。・医療・看護情報（学）の今後の方向性、課題を理解する。

授業の概要

［メディア授業／全15回］情報技術の発展に伴い、看護現場での情報活用の利便性が向上し、看護情報学が扱う領域が拡大した。本講では、病院情報システムのみならず、看護情報学の幅広い領域を網羅的に教授する。職場における情報の電子化の如何を問わず、質の高い看護の提供をめざした情報活用について各自が学びを深める。そのため、なるべく具体例を取り上げながら授業を進め、日々の看護実践・管理における自分の体験と重ね合わせて内容を理解できるように配慮する。

準備学習（予習・復習）

日々の看護実践・管理において、自分の思考プロセスを意識し、言葉で具体的に表現してみる。日々の看護実践・管理で、自分が体験している具体的な個々の状況をよく観察し振り返り、詳細にイメージできるようにする。

内　　容

第1回　看護情報論を学ぶ意義、情報（学）の基礎
第2回　医療・看護情報（学）の特徴と領域
第3回　情報技術・通信技術の発展と医療・看護への影響
第4回　医療・看護情報に関する標準化（用語の標準化、NANDA、NOC、NIC、看護必要度等）
第5回　情報倫理その１（情報倫理、インフォームド・コンセント、プライバシー権、守秘義務）
第6回　情報倫理その２（情報技術・通信技術の発展と個人情報の取扱、それに関する法律）
第7回　情報倫理その３（情報セキュリティ、情報倫理教育、情報開示、情報公開）
第8回　病院情報システム（病院における情報の特徴、電子カルテの定義、要件、安全管理）
第9回　看護職が関わる情報システム（看護を支援システム、電子化による看護への影響）
第10回　情報共有、チーム医療を支援するシステム（クリニカルパス、職種横断的マネジメント組織と情報活用）
第11回　医療安全を支援するシステム（患者認証システム、ヒヤリ・ハットレポーティングシステム等）
第12回　EBM、EBNのための情報活用（Evidenceの概念、EBM(EBN)のプロセス）
第13回　看護管理プロセスと情報活用（看護管理の目的と情報、情報システム構築導入と運営）
第14回　情報発信・収集（病院における情報発信・収集）、医療・看護情報（学）の今後の展望
第15回　まとめ（看護実践・管理における情報活用）

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

エッセンシャル看護情報学
著者：　太田勝正・前田樹海　編著
出版社：（医歯薬出版）
出版年：　　ISBN：

看護管理学習テキスト第5巻 看護情報管理論
著者：　上泉和子・太田勝正　編
出版社：（日本看護協会出版会）
出版年：　　ISBN：

e9021kh210

系統看護学講座別巻 看護情報学

著者:　中山和宏・瀬戸山陽子ほか　著

出版社:（医学書院）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 60% ）　　小テスト （ 40% ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

小テストは第4回、第7回、第11回、第14回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**看護倫理（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　高田　早苗	

テーマ

看護倫理、看護実践、ケアリング、患者の権利

授業の到達目標

1．看護倫理の基盤となるケアリングの倫理について、概念的かつ実践的に理解する。2．医療現場で生じる倫理的な問題について、その背景的要因と関連付けて検討し、解決策を述べる。3．患者の権利擁護がなぜ必要か、看護師が権利擁護者として役割を担う意義、必要性について、自分の考えを述べる。4．自身の現場で倫理的問題に気付き、患者の権利や看護師・医療者の責務等の観点から分析し、解決策を提案する。

授業の概要

[テキスト授業／8回＋メディア授業／7回]看護実践には倫理的側面が不可欠である。本講義では、患者との関わりを重視するケアリングを中心とする看護倫理の基礎的知識を教授する。これを踏まえ、実践において看護師（学生）が遭遇する倫理的問題を含むできごとを教材として、倫理的問題解決の道筋を探るプロセスを学習する。ここで重視するのは、将来患者のアドボケイトを務めるための基礎的能力、すなわち、当事者として考え行動する責任感や主体性、現実のさまざまな制約のなかでもあきらめずに解決をめざす粘り強さや知恵を開発することである。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　患者の自律性を尊重する（テキスト第一章 18～38ページ）【テキスト授業】
第2回　自律性と危険回避のための干渉（テキスト第二章 39～63ページ）【テキスト授業】
第3回　真実を告げる（テキスト第三章 64～85ページ）【テキスト授業】
第4回　アドボカシーとインテグリティ（テキスト第四章 86～108ページ）【テキスト授業】
第5回　患者の秘密を守る（テキスト第五章 109～130ページ）【テキスト授業】
第6回　秘密保持のプロセス（テキスト第六章 131～143ページ）【テキスト授業】
第7回　看護と医療のインフォームド・コンセント（テキスト第七章 144～173ページ）【テキスト授業】
第8回　研究・調査におけるインフォームド・コンセント（テキスト第八章 174～193ページ）【テキスト授業】
第9回　看護倫理とは（1）【メディア授業】
第10回　看護倫理とは（2）【メディア授業】
第11回　看護倫理とは（3）【メディア授業】
第12回　看護倫理とは（4）【メディア授業】
第13回　看護倫理とは（5）【メディア授業】
第14回　看護倫理とは（6）【メディア授業】
第15回　看護倫理とは（7）【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

看護倫理 1
著者：　ドローレス・ドゥーリー、ジョーン・マッカーシー　著
出版社：（みすず書房）
出版年：　　ISBN：

参考書

看護倫理 2
著者：　ドローレス・ドゥーリー、ジョーン・マッカーシー　著
出版社：（みすず書房）
出版年：　　ISBN：

看護倫理 3
著者：　ドローレス・ドゥーリー、ジョーン・マッカーシー　著
出版社：（みすず書房）
出版年：　　ISBN：

e9021kh310

ケアリング 看護婦・女性・倫理

著者:　ヘルガ・クーゼ　著

出版社:（メディカ出版）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 100% ）　　授業中発表等（ ）

参加度　（ ）

「授業中課題」は第15回の後にレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**国際看護学（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　戸塚　規子	

テーマ

国際看護の基礎概念と多文化共生社会における看護の役割

授業の到達目標

1．国際看護学にかかわる諸概念について理解する2．保健医療における国際社会の現状と課題を理解する3．国際協力活動のしくみと看護活動の実際を理解する4．多文化共生社会における看護活動の考え方を理解する

授業の概要

［メディア授業／全15回］自立と共存の視点から多文化共生社会を目ざす時代になり、看護職者は文化背景の異なる人々への看護のアプローチが求められている。本講義では、国際看護･国際保健の主要概念や理論、国際協力の理念･目標について学び、国際的視野で保健医療にかかわる諸要因と人々の健康について概説する。また、看護職者による国際協力の実績と国内における看護の国際化の現状理解を踏まえ、異文化看護の視点から人々の生活へのより深い理解に立ち、看護の方法や看護師の役割、必要とされる看護実践能力について考察する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　国際看護概論
第2回　国際看護と異文化看護（文化の違いを考慮した看護）
第3回　国際社会の現状と課題
第4回　自立・共生に向けた国際協力
第5回　国際看護活動を必要とする世界の現状
第6回　国際協力活動を推進する機関
第7回　国際協力活動を推進する看護職
第8回　国際看護活動①　海外における看護活動（1）
第9回　国際看護活動②　海外における看護活動（2）
第10回　国際看護活動③　日本における外国人と看護活動
第11回　国際看護活動④　技術協力（1）
第12回　国際看護活動⑤　技術協力（2）
第13回　国際看護活動⑥　緊急援助
第14回　国際看護活動に必要とされる能力・手法
第15回　異文化理解と国際看護学

履修上の注意点

教科書

国際看護学入門
著者:　国際看護研究会　編
出版社:（医学書院）
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ 60% ）	小テスト（ 40% ）
授業中課題（　）	授業中発表等（　）
参加度　（　）	

小テストは第7回、第13回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**看護管理学（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　戸塚　規子	

テーマ

看護管理の基礎概念と患者中心志向の医療における看護サービスのマネジメント

授業の到達目標

1．マネジメントおよび看護におけるマネジメントの主要概念を理解する2．看護におけるマネジメントに必要な理論的知識体系を理解する3．医療施設の看護におけるマネジメントの実際を理解する4．患者中心志向の医療における看護職、看護管理者の役割を理解する

授業の概要

[メディア授業／全15回]本講は、看護管理の基礎的知識および21世紀に期待される患者中心志向の医療における看護サービスのマネジメントについて理解することを意図している。授業内容は、近代看護における看護管理の発想はF.ナイチンゲールの看護の概念･方法論にあることを認識した上で、「看護管理」についての基礎知識を概説する。これらを論拠として、医療施設におけるケアのマネジメントと看護サービスのマネジメントの実際、患者中心志向の医療サービス提供体制や運営にかかわる看護職・看護管理者のあり方を、学習する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　看護管理学とは何か、なぜ看護管理学を学ぶのか1．なぜ看護管理学を学ぶのか2．看護管理学とは何か3．看護に応用されるマネジメント（管理）の原理4．看護管理の2つ視点（医療現場の動向）
第2回　看護におけるマネジメント1（看護におけるマネジメントとその変遷）1．看護の分野に応用される管理の原理2．看護におけるマネジメントの変遷
第3回　看護におけるマネジメント2（マネジメントが行われる場）3．マネジメントの考え方の変遷と看護管理への導入4．看護のマネジメントが行われる場
第4回　看護ケアのマネジメント（看護職の機能、患者の権利）1．看護ケアのマネジメントと看護職の機能2．看護基準と看護手順3．患者の権利の尊重
第5回　看護サービスのマネジメント1（看護管理の定義と看護実践の組織化）1．近代看護管理の定義と目的2．組織目的達成のマネジメント　3．看護の組織化
第6回　看護サービスのマネジメント2（組織の有効な維持、運営、変革）4．サービス業としての医療5．サービスの評価
第7回　協働のためのマネジメント1（ヘルスケア専門職との協働）1．ヘルスケア専門職との協働2．ヘルスケア専門職との連携
第8回　協働のためのマネジメント2（人材の活用と看護職の協働）1．人材フローのマネジメント2．看護職の協働
第9回　看護サービスのマネジメント3（安全管理、リスクマネジメント、情報管理）1．安全管理2．医療におけるリスクマネジメント3．情報の管理と医療情報システムの活用
第10回　看護をとりまく諸制度1（看護職と法制度）1．看護と看護職の定義2．看護職と法制度3．看護職の法的責任と職業倫理
第11回　看護をとりまく諸制度2（看護実践の領域、医療制度　看護職の教育制度）1．看護実践の領域と場2．医療制度3．看護職の教育制度4．看護政策と制度
第12回　マネジメントに必要な知識と技術1（組織と個人、組織の調整　研究）　1．組織と個人2．組織におけるキャリア開発　3．組織の調整4．研究成果の活用
第13回　マネジメントに必要な知識と技術2（リーダーシップとマネジメント ）5．リーダーシップの概念6．リーダーシップ論の変遷7．看護管理・看護実践におけるリーダーシップの重要性
第14回　医療サービスと看護職の役割（医療施設における環境と建築設備）1．病院における施設・設備環境の管理2．病院における物流システム3．病院建築･設計と環境
第15回　医療における看護サービスマネジメントの展望1．看護職の役割拡大2．看護管理の意味するもの

履修上の注意点

教科書

系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践〔1〕看護管理

著者：　上泉和子 著

出版社：（医学書院）

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト（ 40% ）

e9021kh510

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

小テストは第7回、第12回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**高齢者のヘルスプロモーション（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　奥野 茂代	

テーマ

高齢者のヘルスプロモーションを理解し看護のありかたを考える

授業の到達目標

1．高齢者の特性を理解する。2．高齢者のQ.O.L(quality of life)の維持向上を目指したヘルスプロモーションについて理解する。

授業の概要

[メディア授業／12回＋テキスト授業／3回]高齢者のQ.O.L.(quality of life)の維持・向上を目指した看護のあり方をヘルスプロモーションの視点から検討し、高齢者と関わる医療福祉施設をはじめとする多様な場面における看護支援について学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション、老年看護の理念とヘルスプロモーション【メディア授業】
第2回　高齢者の特性の理解【メディア授業】
第3回　高齢者の健康課題　主な症状と看護（テキスト226～289ページ）【テキスト授業】
第4回　高齢者の健康課題　特徴的な疾患と看護（テキスト311～382ページ）【テキスト授業】
第5回　高齢者のQ.O.L(quality of life)【メディア授業】
第6回　ヘルスプロモーションの活動プロセス：PP第１～８段階【メディア授業】
第7回　ヘルスプロモーションの活動プロセス：事例【メディア授業】
第8回　ヘルスプロモーションに活用される理論（1）【メディア授業】
第9回　ヘルスプロモーションに活用される理論（2）【メディア授業】
第10回　ヘルスプロモーションに活用される理論（3）（テキスト384～451ページ）【テキスト授業】
第11回　高齢者の行動変容と健康教育（1）【メディア授業】
第12回　高齢者の行動変容と健康教育（2）【メディア授業】
第13回　高齢者のヘルスプロモーションをはかる社会施策（1）【メディア授業】
第14回　高齢者のヘルスプロモーションをはかる社会施策（2）【メディア授業】
第15回　高齢者のヘルスプロモーション活動における看護の機能・役割【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

老年看護学　概論と看護の実践
著者：　奥野茂代・大西和子　編
出版社：（ヌーヴェルヒロカワ）
出版年：　　ISBN：

参考書

国民衛生の動向
著者：　厚生労働統計協会　編
出版社：（厚生労働統計協会）
出版年：　　ISBN：

国民の福祉の動向
著者：　厚生労働統計協会　編
出版社：（厚生労働統計協会）
出版年：　　ISBN：

ヘルスプロモーション
著者：　ローレンス・W. グリーン／マーシャル・W. クロイター　著
出版社：（医学書院）
出版年：　　ISBN：

e9021kh610

実践ヘルスプロモーション

著者:　ローレンス・W. グリーン／マーシャル・W. クロイター　著

出版社:（医学書院）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　(70%)　　小テスト (30%)

授業中課題 (　)　　授業中発表等 (　)

参加度　(　)

小テストは第5回、第10回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**認知症看護学（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　奥野　茂代	

テーマ

認知症とともに生きる高齢者を理解し看護のありかたを考える

授業の到達目標

1.認知症とともに生きる高齢者を理解する2.認知症の病態・治療について理解する3.認知症になっても人として尊重され、安心して暮らしていける看護支援を考えることができる

授業の概要

[メディア授業／13回＋テキスト授業／２回]高齢者が認知症になっても人として尊重され、安心して暮らしていけるように、認知症高齢者の理解を深め多職種や家族と協働し看護支援を創意工夫する視点について学ぶ。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション,認知症の定義、認知症の高齢者、統計的視点から認知症【メディア授業】
第2回　認知症の理解（診断）【メディア授業】
第3回　認知症の理解（診断つづき）、認知症の予防【メディア授業】
第4回　認知症の理解（治療）【メディア授業】
第5回　認知症を生きるということ①（テキスト『痴呆を生きるということ』1～150ページ）【テキスト授業】
第6回　認知症を生きるということ②（テキスト『痴呆を生きるということ』151～221ページ）【テキスト授業】
第7回　認知症高齢者の理解と看護(意識環境、エイジズム)【メディア授業】
第8回　認知症高齢者の理解と看護(生活環境の工夫)【メディア授業】
第9回　認知症高齢者の理解と看護(BPSDの予防・対応)【メディア授業】
第10回　高齢者虐待【メディア授業】
第11回　認知症高齢者の終末期ケア【メディア授業】
第12回　家族の負担と支援(1)【メディア授業】
第13回　家族の負担と支援(2)【メディア授業】
第14回　認知症高齢者にやさしい地域づくり・政策①2015年高齢者介護報告、介護保険法【メディア授業】
第15回　認知症高齢者にやさしい地域づくり・政策②虐待防止法、成年後見制度【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

新版　認知症の人々の看護
著者:　中島紀恵子　編
出版社:（医歯薬出版）
出版年:　　ISBN:

痴呆を生きるということ
著者:　小澤勲　著
出版社:（岩波書店）
出版年:　　ISBN:

参考書

鏡のなかの老人－痴呆の世界を生きる
著者:　竹中星郎　著
出版社:（ワールドプランニング）
出版年:　　ISBN:

私は誰になっていくの
著者:　クリスティーン・ブライデン　著
出版社:（クリエイツかもがわ）
出版年:　　ISBN:

e9021kh710

私は私になっていく

著者:　クリスティーン・ブライデン　著

出版社:（クリエイツかもがわ）

出版年:　　ISBN:

老年看護学　概論と看護の実践

著者:　奥野茂代・大西和子　編

出版社:（ヌーヴェルヒロカワ）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　(70%)　　小テスト (30%)

授業中課題 (　)　　授業中発表等 (　)

参加度　(　)

小テストは第5回、第10回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**看護と死生観（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鈴木　要子	

テーマ

臨床死生学とはなにか

授業の到達目標

日本における「死」の実態をふまえ、自分が生きること、ひとの生を支えること、そしてひとの死や自分の死について考察する。文化、宗教、病体験、死別体験などが死生観に及ぼす影響について学び、ケアするうえで直面するであろう生と死にかかわる課題に向き合い考察する。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]「ケア従事者のための死生学」清水哲郎・島薗進（編）ヌーベルヒロカワ. の精読を通して、日本の「死」の実態を理解し、臨床死生学を学ぶ。

準備学習（予習・復習）

必要に応じて、その都度お知らせ予定

内　　容

第1回　死生学とは何か（テキスト1～34ページ）死生学の歴史、ホスピス運動、キューブラ＝ロスの『死ぬ瞬間』、日本の武士道と死生観、「死」とはどういうことか、について
第2回　臨床死生学とは何か（テキスト35～63ページ）臨床倫理学と死生学、意思決定プロセスとは、ケアが目指す「生」と「死」、スピリチュアルケア、尊厳死について学ぶ
第3回　臨床死生学におけるケアするものとケアされるものの関係について（テキスト64～84ページ）医療者モデルとは、終末期ケアにおけるケアするものとケアされるものとの関係性
第4回　緩和ケアについて（テキスト85～106ページ）「がん」という病、緩和医療学のはじまり、緩和ケアとQOL
第5回　救急医療現場における「他者の死」について・子どもの生と死（テキスト107～133ページ）「他者の死」がもつ意味
第6回　生活習慣病を抱えて生きるということ（テキスト134～144ページ）透析医療現場の実情、透析患者が直面している生と死
第7回　出生前診断と生と死・在宅死と病院死（テキスト145～171ページ）
第8回　障害における生と死・ALS－生と死（テキスト173～202ページ）障害とともに生きるいうこと、障害とQOL、難病とは、難病とQOL
第9回　看取り（テキスト203～226ページ）緩和ケアと看取り、在宅緩和ケア
第10回　現代人の死生観と宗教（テキスト227～256ページ）仏教・キリスト教・イスラム教における死の意味、スピリチュアリティ
第11回　死の意味（テキスト257～283ページ）生と死の関係、現代における死の諸相、デスエデュケーション、「別れ」としての死、「死者」の存在
第12回　死を迎える心理（テキスト285～299、317～334ページ）死を受けとめる、キューブラー=ロス、成長の最終段階としての「死」
第13回　死を受け容れるとは（テキスト300～316、335～348ページ）死にゆく過程、キューブラー=ロスの考え方への指摘、悲嘆
第14回　スピリチュアルケアとは（テキスト349～376ページ）スピリチュアルケアと宗教的ケアの違い、日本的なスピリチュアルケア
第15回　生と死をめぐる倫理と法（テキスト377～413ページ）自律中心主義、自己決定と治療中止、臓器移植、脳死判定

履修上の注意点

教科書

ケア従事者のための死生学
著者：　清水哲郎・島薗進　編
出版社：（ヌーヴェルヒロカワ）
出版年：　　ISBN：

参考書

新版　死とどう向き合うか
著者：　A.Deeken
出版社：（NHK出版）
出版年：　　ISBN：

e9021kh810

アイデンティティとライフサイクル
著者:　E.H.エリクソン(著)西平直他(訳)
出版社:（誠信書房）
出版年:　ISBN:

死ぬ瞬間ー死とその過程について
著者:　E.K.Ross(著)鈴木晶(訳)
出版社:（中央公論新社）
出版年:　ISBN:

死を前にした人間
著者:　P.Aries(著)成瀬駒男(訳)
出版社:（みすず書房）
出版年:　ISBN:

死生観ー史的諸相と武士道の立場
著者:　加藤咄堂
出版社:（書肆心水）
出版年:　ISBN:

成績評価

試験　(50%)　小テスト　(50%)
授業中課題　(　)　授業中発表等　(　)
参加度　(　)
小テストは第7回、第11回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**次世代育成看護学概論（通信）**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　　堀　妙子.前原　澄子

テーマ

次世代を健康に育成するための看護の役割について

授業の到達目標

1　次世代を健康に育成するための看護について説明できる。2　出生までの次世代の健康を支える看護を説明できる。3　子どもの成長発達を支える看護を説明できる。4　健康課題を持つ子どもを支える看護を説明できる。

授業の概要

[メディア授業／全15回]次世代を育成するために必要な看護に関する講義

準備学習（予習・復習）

適宜紹介する参考文献により学習する

内　　容

第1回　次世代育成看護学とは[前原]
第2回　リプロダクテイヴヘルス[前原]
第3回　出生までの次世代の健康を支える看護（思春期）[前原]
第4回　出生までの次世代の健康を支える看護（妊娠期）[前原]
第5回　出生までの次世代の健康を支える看護（分娩期）[前原]
第6回　出生後の次世代の健康を支える看護（産褥期）[前原]
第7回　子どもの成長発達を支える看護（成長発達の特徴）[堀]
第8回　子どもの成長発達を支える看護（成長発達と社会の関係）[堀]
第9回　健康課題をもつ子どもを支える看護（先天性疾患）[堀]
第10回　健康課題をもつ子どもを支える看護（疾患の受容）[堀]
第11回　健康課題をもつ子どもを支える家族への看護（子どもの入院）[堀]
第12回　健康課題をもつ子どもを支える家族への看護（在宅ケア）[堀]
第13回　健康課題をもつ子どもを支える看護（End of Life Care）[堀]
第14回　諸統計から見た次世代育成看護の課題[前原・堀]
第15回　次世代育成に関わる政策[前原・堀]

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

参考書

適宜紹介する
著者:
出版社:
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト （ 40% ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）
小テストは第6回、第13回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**災害看護学（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　河原　宣子.奥野　信行.小野塚　元子.川口　淳.堀　妙子.松本　賢哉	

テーマ

災害看護に関する基本的知識を学び、災害サイクル各期のさまざまな看護の場における看護活動について理解する。

授業の到達目標

1.災害看護に関する基本的知識と援助技術を理解する。2.ライフサイクル各期の災害看護活動を理解する。3.国内諸地域および国際協力における健康危機管理とその対策、災害看護活動を理解する。

授業の概要

［メディア授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　災害とは［河原］
第2回　地域ケアの体制づくりー災害への備えと減災に向けた地域連携システム①［川口］
第3回　地域ケアの体制づくりー災害への備えと減災に向けた地域連携システム②［川口］
第4回　災害看護とは［河原］
第5回　災害サイクル各期における災害看護活動の実際①［奥野］
第6回　災害サイクル各期における災害看護活動の実際②［河原］
第7回　災害サイクル各期における災害看護活動の実際③［河原・ゲストスピーカー4名］
第8回　災害サイクル各期における災害看護活動の実際④［河原・ゲストスピーカー3名］
第9回　災害サイクル各期における災害看護活動の実際⑤［河原・ゲストスピーカー黒田　裕子氏］
第10回　ライフサイクル各期における災害看護活動の実際①［堀］
第11回　ライフサイクル各期における災害看護活動の実際②［小野塚］
第12回　災害看護とメンタルヘルス①［松本］
第13回　災害看護とメンタルヘルス②［松本］
第14回　災害看護活動における国際協力［河原・ゲストスピーカー中井　隆陽氏］
第15回　まとめ［河原］

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

災害看護学習テキストー概論編ー
著者：　南裕子・山本あい子　編
出版社：（日本看護協会出版会）
出版年：　ISBN：

災害看護学習テキストー実践編ー
著者：　南裕子・山本あい子　編
出版社：（日本看護協会出版会）
出版年：　ISBN：

いのちとこころを救う災害看護
著者：　小原真理子　監修
出版社：（学習研究社）
出版年：　ISBN：

e9021kk210

演習で学ぶ災害看護
著者:　小原真理子　監修
出版社:（南山堂）
出版年:　　ISBN:

災害現場でのトリアージと応急処置
著者:　山崎達枝　著
出版社:（日本看護協会出版会）
出版年:　　ISBN:

新版　災害看護　第2版－人間の生命と生活を守る
著者:　黒田裕子・酒井明子　監修
出版社:（メディカ出版）
出版年:　　ISBN:

新体系看護学全書38　看護の統合と実践②　災害看護学
著者:　辺見弘　監修
出版社:（メヂカルフレンド社）
出版年:　　ISBN:

災害看護－看護の専門知識を統合して実践につなげる
著者:　酒井明子・菊池志津子　編
出版社:（南江堂）
出版年:　　ISBN:

実践！災害看護－看護者はどう対応するのか
著者:　野中廣志　著
出版社:（照林社）
出版年:　　ISBN:

ナーシング・グラフィカEX　災害看護
著者:　黒田裕子・酒井明子　編
出版社:（メディカ出版）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 100% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は第15回の後にレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**家族看護学（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　鈴木　和子	

テーマ

豊かな看護を実現するために、現代社会における家族に対する看護は、どうあるべきかを理解し今後の実践に活かす

授業の到達目標

家族看護学における家族の捉え方や家族看護の背景となる理論を学修する。さらに、家族看護の目的と家族を単位とした家族看護過程の展開方法を学ぶ。また、育児期、教育期、成人期、老年期など、それぞれの家族の発達段階別の家族看護の課題と援助方法の特徴を学ぶ。

授業の概要

[テキスト授業／13回＋メディア授業／2回]次の点を目標として授業を展開する。1．家族の健康の概念と家族看護の定義を学ぶ2．家族看護アセスメントとそれに基づく家族援助方法を学ぶ3．家族の発達段階別の家族看護の特徴について学ぶ

準備学習（予習・復習）

教科書の各章に掲載されている文献リストと参考文献を読む

内　容

第1回　家族看護とは何か（テキスト4～25ページ）（家族看護学の発展過程、家族看護の定義、家族のセルフケア機能）【メディア授業】
第2回　家族と「家族の健康」の概念と定義、家族の形態と機能（テキスト28～42ページ）（家族と「家族の健康」について家族看護での概念の特徴を学ぶ）【テキスト授業】
第3回　わが国の家族（テキスト43～45ページ）（わが国の家族の特徴を学ぶ）【テキスト授業】
第4回　家族を理解する諸理論（テキスト46～60ページ）（家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス対処理論を理解する）【テキスト授業】
第5回　家族看護研究の展開（テキスト62～73ページ）（家族看護研究の特徴と展開方法を学ぶ）【テキスト授業】
第6回　家族看護アセスメントと診断（テキスト76～135ページ）（家族看護でのアセスメントの特徴を学ぶ）【テキスト授業】
第7回　家族援助方法（テキスト136～157ページ）（家族看護での家族援助方法の特徴を学ぶ）【テキスト授業】
第8回　家族看護における看護者の役割と援助姿勢（テキスト160～172ページ）（家族看護における看護者の役割と援助姿勢の特徴について学ぶ）【テキスト授業】
第9回　乳児を持つ家族への援助（テキスト176～190ページ）（子どもの誕生・育児が家族に及ぼす影響と育児期の家族への看護の特徴を学ぶ）【テキスト授業】
第10回　入院治療を受ける病児を持つ家族への看護（テキスト192～223ページ）（入院治療を受ける病児を持つ家族への看護の特徴を学ぶ）【テキスト授業】
第11回　救急医療・集中治療の場における家族看護（テキスト226～248ページ）（急性疾患における家族看護の特徴について学ぶ）【テキスト授業】
第12回　精神障害者を持つ家族への看護（テキスト250～280ページ）（精神障害者を持つ家族の抱える問題と家族援助の特徴を学ぶ）【テキスト授業】
第13回　高齢者介護に関する家族援助（テキスト282～293ページ）（高齢者介護に関する家族援助の特徴を学ぶ）【テキスト授業】
第14回　終末期患者の家族援助（テキスト296～319ページ）（終末期を迎える患者の家族に対する家族援助の特徴を学ぶ）【テキスト授業】
第15回　家族看護の専門性についてのまとめ（家族支援専門看護師の活動と家族看護の今後の発展）【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

家族看護学―理論と実践、第4版
著者：　鈴木和子、渡辺裕子
出版社：（日本看護協会出版会）
出版年：　　ISBN：

参考書

家族看護選書
著者：　野嶋佐由美、渡辺裕子編
出版社：（日本看護協会出版会）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 60% ）

e9021kk310

試験　　小テスト

授業中課題 （ 40% ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ ）

小テストは第４回、第８回、第14回の授業後に行う「授業中課題」は第15回の後にレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅰ（6月11日）（通信）[A]**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　宮川　貴美子.中西　龍一.殿谷　仁志.日比野　英子.山崎　貴子	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

テキスト学習によって、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、スクーリングでの演習により人間関係についても体験的に学ぶ。また、大学で求められる自主的･積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

[テキスト授業／11回＋スクーリング授業／４回]

準備学習（予習・復習）

各回で学んだテーマや専門用語について、図書館等を利用して、より詳しく書かれた心理学書を読むことに挑戦してみましょう。

内　容

第1回　〈概論〉パーソナリティの心理（テキスト8～11ページ）パーソナリティとは、どのような意味か、パーソナリティの類型論･特性論･構造論のそれぞれについてノートにまとめてみよう。　また、第Ⅲ部の学習の前提として5ページの「私の人生設計―その1」に記入をしておきましょう。【テキスト授業】

第2回　パーソナリティをみる―パーソナリティ検査法―（テキスト12～20ページ）まず、17ページのTSTを実施してみよう。つぎに、この章の前文と、質問紙法･投影法･作業検査法の3種の人格検査について理解し、TSTの結果を整理し、解説によって自己を分析して、Ⅲふりかえりの2問に答えなさい。【テキスト授業】

第3回　心の成り立ち―交流分析とエゴグラム―（テキスト21～28ページ）まず、24ページ（2）のエゴグラムに回答を記入しましょう。つぎに、この章の前文と、交流分析について概観し、その中で特に構造分析について理解を深める。エゴグラムの結果を整理し、解説を手がかりに自分の自我状態について考え、28ページのⅢふりかえりの問いに答えなさい。【テキスト授業】

第4回　無意識のはたらき―夢とコンプレックス―（テキスト29～34ページ）まず、32ページのTATをやってみよう。つぎに、この章の前文と、基礎知識として、無意識の発見、無意識を知る方法、コンプレックスについて理解し、TATの結果を整理し、解説をよんで、34ページのⅢふりかえりの問いに答えなさい。【テキスト授業】

第5回　自己をみつめる―自己評価―（テキスト35～43ページ）まず、38－41ページの自己評価チェックリストⅠ－Ⅲに答える。つぎに、この章の前文と、自己評価の意味、自己評価の高さと質についてよく理解し、自己評価チェックリストの結果を整理し、42－43ページの解説の設問に答え、ふりかえりをしてみましょう。【テキスト授業】

第6回　自己をつかむ―自我同一性―（テキスト45～55ページ）はじめに51ページの自我同一性測定尺度に答えてみる。つぎに、この章の前文と、自我同一性・自我同一性概念の変遷・同一性拡散・モラトリアム･職業的同一性・エリクソンの発達理論について理解し、自我同一性測定尺度の結果の整理を行い、解説のマーシャの自我同一性地位について理解を深めてから、55ページのふりかえりの設問に答えてみよう。【テキスト授業】

第7回　メンタルヘルスのページ「パーソナリティ障害」「同一性障害」（テキスト56－57ページ）パーソナリティ障害および同一性障害について、その概念・下位分類・事例から学びましょう。【テキスト授業】

第8回　トピックス1.「コンピュータ社会と精神病理」（テキスト44ページ）テクノストレスについて理解し、深刻な障害の予防のためには、どのようなことが有効か、考えてみましょう。トピックス2.「学校教育と家庭教育」（テキスト58ページ）エリクソンの理論を参考に、家庭での発達の道すじと学校での集団教育の課題など考えてみましょう。【テキスト授業】

第9回　〈概論〉対人関係の心理（テキスト60～63ページ）対人関係の心理とはどんなことか、対人認知、印象形成、対人魅力バランス理論、についてテキストを読み、ノートにまとめましょう。【テキスト授業】

第10回　私の子ども時代―乳幼児期と母子関係―（テキスト64～70ページ）はじめに68ページ内的作業モデル尺度に答えてみましょう。つぎに、この章の前文と基礎知識を読んで、ハーロウやスピッツによる知見、マーラーの分離-個体化理論、愛着理論について理解を深めた後、69ページからの手順に従って内的作業モデル尺度の結果を整理し、解説を参考にして、自己のデータを検討し、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第11回　対人関係をふりかえる―対人地図―（テキスト71～77ページ）はじめに74ページからの「やってみよう！」の手順に従って対人地図を描いてみましょう。つぎに、この章の前文と、基礎知識の現代の対人関係、対人間の距離、対人関係のレベルについて理解し、76ページからの手順に従って、対人地図の結果を整理し、解説を参考にして、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第12回　自己表現のワーク①【スクーリング授業】

第13回　自己表現のワーク②【スクーリング授業】

第14回　自己表現のワーク③【スクーリング授業】

第15回　自己表現のワーク④【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

これからを生きる心理学

著者：　川瀬正裕･松本真理子・丹治光浩　著

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年：　　ISBN：

e9021sa111

参考書

心理学概論（第2版）
著者:　岡市廣成・鈴木直人　監修
出版社:（ナカニシヤ出版）
出版年:　　ISBN:

臨床心理学を基本から学ぶ
著者:　丸島令子・日比野英子　編著
出版社:（北大路書房）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 100% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
レポート60%（第5回・第11回授業後に課す）自己表現のワークへの参加と提出物40%

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅰ（6月12日）（通信）[B]**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松下　幸治.殿谷　仁志.宮川　貴美子.山崎　貴子	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

テキスト学習によって、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、スクーリングでの演習により人間関係についても体験的に学ぶ。また、大学で求められる自主的･積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

[テキスト授業／11回＋スクーリング授業／４回]

準備学習（予習・復習）

各回で学んだテーマや専門用語について、図書館等を利用して、より詳しく書かれた心理学書を読むことに挑戦してみましょう。

内　　容

第1回　〈概論〉パーソナリティの心理（テキスト8～11ページ）パーソナリティとは、どのような意味か、パーソナリティの類型論･特性論･構造論のそれぞれについてノートにまとめてみよう。　また、第Ⅲ部の学習の前提として5ページの「私の人生設計―その1」に記入をしておきましょう。【テキスト授業】

第2回　パーソナリティをみる―パーソナリティ検査法―（テキスト12～20ページ）まず、17ページのTSTを実施してみよう。つぎに、この章の前文と、質問紙法･投影法･作業検査法の3種の人格検査について理解し、TSTの結果を整理し、解説によって自己を分析して、Ⅲふりかえりの2問に答えなさい。【テキスト授業】

第3回　心の成り立ち―交流分析とエゴグラム―（テキスト21～28ページ）まず、24ページ（2）のエゴグラムに回答を記入しましょう。つぎに、この章の前文と、交流分析について概観し、その中で特に構造分析について理解を深める。エゴグラムの結果を整理し、解説を手がかりに自分の自我状態について考え、28ページのⅢふりかえりの問いに答えなさい。【テキスト授業】

第4回　無意識のはたらき―夢とコンプレックス―（テキスト29～34ページ）まず、32ページのTATをやってみよう。つぎに、この章の前文と、基礎知識として、無意識の発見、無意識を知る方法、コンプレックスについて理解し、TATの結果を整理し、解説をよんで、34ページのⅢふりかえりの問いに答えなさい。【テキスト授業】

第5回　自己をみつめる―自己評価―（テキスト35～43ページ）まず、38－41ページの自己評価チェックリストⅠ－Ⅲに答える。つぎに、この章の前文と、自己評価の意味、自己評価の高さと質についてよく理解し、自己評価チェックリストの結果を整理し、42－43ページの解説の設問に答え、ふりかえりをしてみましょう。【テキスト授業】

第6回　自己をつかむ―自我同一性―（テキスト45～55ページ）はじめに51ページの自我同一性測定尺度に答えてみる。つぎに、この章の前文と、自我同一性・自我同一性概念の変遷・同一性拡散・モラトリアム･職業的同一性・エリクソンの発達理論について理解し、自我同一性測定尺度の結果の整理を行い、解説のマーシャの自我同一性地位について理解を深めてから、55ページのふりかえりの設問に答えてみよう。【テキスト授業】

第7回　メンタルヘルスのページ「パーソナリティ障害」「同一性障害」（テキスト56－57ページ）パーソナリティ障害および同一性障害について、その概念・下位分類・事例から学びましょう。【テキスト授業】

第8回　トピックス1.「コンピュータ社会と精神病理」（テキスト44ページ）テクノストレスについて理解し、深刻な障害の予防のためには、どのようなことが有効か、考えてみましょう。トピックス2.「学校教育と家庭教育」（テキスト58ページ）エリクソンの理論を参考に、家庭での発達の道すじと学校での集団教育の課題など考えてみましょう。【テキスト授業】

第9回　〈概論〉対人関係の心理（テキスト60～63ページ）対人関係の心理とはどんなことか、対人認知、印象形成、対人魅力バランス理論、についてテキストを読み、ノートにまとめましょう。【テキスト授業】

第10回　私の子ども時代―乳幼児期と母子関係―（テキスト64～70ページ）はじめに68ページ内的作業モデル尺度に答えてみましょう。つぎに、この章の前文と基礎知識を読んで、ハーロウやスピッツによる知見、マーラーの分離-個体化理論、愛着理論について理解を深めた後、69ページからの手順に従って内的作業モデル尺度の結果を整理し、解説を参考にして、自己のデータを検討し、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第11回　対人関係をふりかえる―対人地図―（テキスト71～77ページ）はじめに74ページからの「やってみよう！」の手順に従って対人地図を描いてみましょう。つぎに、この章の前文と、基礎知識の現代の対人関係、対人間の距離、対人関係のレベルについて理解し、76ページからの手順に従って、対人地図の結果を整理し、解説を参考にして、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第12回　自己表現のワーク①【スクーリング授業】

第13回　自己表現のワーク②【スクーリング授業】

第14回　自己表現のワーク③【スクーリング授業】

第15回　自己表現のワーク④【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

これからを生きる心理学

著者：　川瀬正裕･松本真理子・丹治光浩　著

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年：　　ISBN：

e9021sa112

参考書

心理学概論（第2版）
著者:　岡市廣成・鈴木直人　監修
出版社:（ナカニシヤ出版）
出版年:　　ISBN:

臨床心理学を基本から学ぶ
著者:　丸島令子・日比野英子　編著
出版社:（北大路書房）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 100% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
レポート60%（第5回・第11回授業後に課す）自己表現のワークへの参加と提出物40%

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅰ（7月2日）（通信）[C]**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　ジェイムス　朋子.殿谷　仁志.宮川　貴美子.山崎　貴子	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

テキスト学習によって、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、スクーリングでの演習により人間関係についても体験的に学ぶ。また、大学で求められる自主的･積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

[テキスト授業／11回＋スクーリング授業／４回]

準備学習（予習・復習）

各回で学んだテーマや専門用語について、図書館等を利用して、より詳しく書かれた心理学書を読むことに挑戦してみましょう。

内　容

第1回　〈概論〉パーソナリティの心理（テキスト8～11ページ）パーソナリティとは、どのような意味か、パーソナリティの類型論･特性論･構造論のそれぞれについてノートにまとめてみよう。　また、第Ⅲ部の学習の前提として5ページの「私の人生設計―その1」に記入をしておきましょう。【テキスト授業】

第2回　パーソナリティをみる―パーソナリティ検査法―（テキスト12～20ページ）まず、17ページのTSTを実施してみよう。つぎに、この章の前文と、質問紙法･投影法･作業検査法の3種の人格検査について理解し、TSTの結果を整理し、解説によって自己を分析して、Ⅲふりかえりの2問に答えなさい。【テキスト授業】

第3回　心の成り立ち―交流分析とエゴグラム―（テキスト21～28ページ）まず、24ページ（2）のエゴグラムに回答を記入しましょう。つぎに、この章の前文と、交流分析について概観し、その中で特に構造分析について理解を深める。エゴグラムの結果を整理し、解説を手がかりに自分の自我状態について考え、28ページのⅢふりかえりの問いに答えなさい。【テキスト授業】

第4回　無意識のはたらき―夢とコンプレックス―（テキスト29～34ページ）まず、32ページのTATをやってみよう。つぎに、この章の前文と、基礎知識として、無意識の発見、無意識を知る方法、コンプレックスについて理解し、TATの結果を整理し、解説をよんで、34ページのⅢふりかえりの問いに答えなさい。【テキスト授業】

第5回　自己をみつめる―自己評価―（テキスト35～43ページ）まず、38－41ページの自己評価チェックリストⅠ－Ⅲに答える。つぎに、この章の前文と、自己評価の意味、自己評価の高さと質についてよく理解し、自己評価チェックリストの結果を整理し、42－43ページの解説の設問に答え、ふりかえりをしてみましょう。【テキスト授業】

第6回　自己をつかむ―自我同一性―（テキスト45～55ページ）はじめに51ページの自我同一性測定尺度に答えてみる。つぎに、この章の前文と、自我同一性･自我同一性概念の変遷･同一性拡散･モラトリアム･職業的同一性･エリクソンの発達理論について理解し、自我同一性測定尺度の結果の整理を行い、解説のマーシャの自我同一性地位について理解を深めてから、55ページのふりかえりの設問に答えてみよう。【テキスト授業】

第7回　メンタルヘルスのページ「パーソナリティ障害」「同一性障害」（テキスト56－57ページ）パーソナリティ障害および同一性障害について、その概念･下位分類･事例から学びましょう。【テキスト授業】

第8回　トピックス1.「コンピュータ社会と精神病理」（テキスト44ページ）テクノストレスについて理解し、深刻な障害の予防のためには、どのようなことが有効か、考えてみましょう。トピックス2.「学校教育と家庭教育」（テキスト58ページ）エリクソンの理論を参考に、家庭での発達の道すじと学校での集団教育の課題など考えてみましょう。【テキスト授業】

第9回　〈概論〉対人関係の心理（テキスト60～63ページ）対人関係の心理とはどんなことか、対人認知、印象形成、対人魅力バランス理論、についてテキストを読み、ノートにまとめましょう。【テキスト授業】

第10回　私の子ども時代―乳幼児期と母子関係―（テキスト64～70ページ）はじめに68ページ内的作業モデル尺度に答えてみましょう。つぎに、この章の前文と基礎知識を読んで、ハーロウやスピッツによる知見、マーラーの分離-個体化理論、愛着理論について理解を深めた後、69ページからの手順に従って内的作業モデル尺度の結果を整理し、解説を参考にして、自己のデータを検討し、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第11回　対人関係をふりかえる―対人地図―（テキスト71～77ページ）はじめに74ページからの「やってみよう！」の手順に従って対人地図を描いてみましょう。つぎに、この章の前文と、基礎知識の現代の対人関係、対人間の距離、対人関係のレベルについて理解し、76ページからの手順に従って、対人地図の結果を整理し、解説を参考にして、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第12回　自己表現のワーク①【スクーリング授業】

第13回　自己表現のワーク②【スクーリング授業】

第14回　自己表現のワーク③【スクーリング授業】

第15回　自己表現のワーク④【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

これからを生きる心理学

著者：　川瀬正裕･松本真理子･丹治光浩　著

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年：　　ISBN：

e9021sa113

参考書

心理学概論（第2版）
著者:　岡市廣成・鈴木直人　監修
出版社:（ナカニシヤ出版）
出版年:　　ISBN:

臨床心理学を基本から学ぶ
著者:　丸島令子・日比野英子　編著
出版社:（北大路書房）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 100% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
レポート60%（第5回・第11回授業後に課す）自己表現のワークへの参加と提出物40%

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅰ（7月3日）（通信）[D]**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　宮川　貴美子.濱田　智崇.殿谷　仁志.山崎　貴子	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

テキスト学習によって、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、スクーリングでの演習により人間関係についても体験的に学ぶ。また、大学で求められる自主的･積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

[テキスト授業／11回＋スクーリング授業／４回]

準備学習（予習・復習）

各回で学んだテーマや専門用語について、図書館等を利用して、より詳しく書かれた心理学書を読むことに挑戦してみましょう。

内　容

第1回　〈概論〉パーソナリティの心理（テキスト8～11ページ）パーソナリティとは、どのような意味か、パーソナリティの類型論･特性論･構造論のそれぞれについてノートにまとめてみよう。　また、第Ⅲ部の学習の前提として5ページの「私の人生設計―その1」に記入をしておきましょう。【テキスト授業】

第2回　パーソナリティをみる―パーソナリティ検査法―（テキスト12～20ページ）まず、17ページのTSTを実施してみよう。つぎに、この章の前文と、質問紙法･投影法･作業検査法の3種の人格検査について理解し、TSTの結果を整理し、解説によって自己を分析して、Ⅲふりかえりの2問に答えなさい。【テキスト授業】

第3回　心の成り立ち―交流分析とエゴグラム―（テキスト21～28ページ）まず、24ページ（2）のエゴグラムに回答を記入しましょう。つぎに、この章の前文と、交流分析について概観し、その中で特に構造分析について理解を深める。エゴグラムの結果を整理し、解説を手がかりに自分の自我状態について考え、28ページのⅢふりかえりの問いに答えなさい。【テキスト授業】

第4回　無意識のはたらき―夢とコンプレックス―（テキスト29～34ページ）まず、32ページのTATをやってみよう。つぎに、この章の前文と、基礎知識として、無意識の発見、無意識を知る方法、コンプレックスについて理解し、TATの結果を整理し、解説をよんで、34ページのⅢふりかえりの問いに答えなさい。【テキスト授業】

第5回　自己をみつめる―自己評価―（テキスト35～43ページ）まず、38－41ページの自己評価チェックリストⅠ－Ⅲに答える。つぎに、この章の前文と、自己評価の意味、自己評価の高さと質についてよく理解し、自己評価チェックリストの結果を整理し、42－43ページの解説の設問に答え、ふりかえりをしてみましょう。【テキスト授業】

第6回　自己をつかむ―自我同一性―（テキスト45～55ページ）はじめに51ページの自我同一性測定尺度に答えてみる。つぎに、この章の前文と、自我同一性・自我同一性概念の変遷・同一性拡散・モラトリアム･職業的同一性・エリクソンの発達理論について理解し、自我同一性測定尺度の結果の整理を行い、解説のマーシャの自我同一性地位について理解を深めてから、55ページのふりかえりの設問に答えてみよう。【テキスト授業】

第7回　メンタルヘルスのページ「パーソナリティ障害」「同一性障害」（テキスト56－57ページ）パーソナリティ障害および同一性障害について、その概念・下位分類・事例から学びましょう。【テキスト授業】

第8回　トピックス1.「コンピュータ社会と精神病理」（テキスト44ページ）テクノストレスについて理解し、深刻な障害の予防のためには、どのようなことが有効か、考えてみましょう。トピックス2.「学校教育と家庭教育」（テキスト58ページ）エリクソンの理論を参考に、家庭での発達の道すじと学校での集団教育の課題など考えてみましょう。【テキスト授業】

第9回　〈概論〉対人関係の心理（テキスト60～63ページ）対人関係の心理とはどんなことか、対人認知、印象形成、対人魅力バランス理論、についてテキストを読み、ノートにまとめましょう。【テキスト授業】

第10回　私の子ども時代―乳幼児期と母子関係―（テキスト64～70ページ）はじめに68ページ内的作業モデル尺度に答えてみましょう。つぎに、この章の前文と基礎知識を読んで、ハーロウやスピッツによる知見、マーラーの分離-個体化理論、愛着理論について理解を深めた後、69ページからの手順に従って内的作業モデル尺度の結果を整理し、解説を参考にして、自己のデータを検討し、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第11回　対人関係をふりかえる―対人地図―（テキスト71～77ページ）はじめに74ページからの「やってみよう！」の手順に従って対人地図を描いてみましょう。つぎに、この章の前文と、基礎知識の現代の対人関係、対人間の距離、対人関係のレベルについて理解し、76ページからの手順に従って、対人地図の結果を整理し、解説を参考にして、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第12回　自己表現のワーク①【スクーリング授業】

第13回　自己表現のワーク②【スクーリング授業】

第14回　自己表現のワーク③【スクーリング授業】

第15回　自己表現のワーク④【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

これからを生きる心理学

著者：　川瀬正裕･松本真理子・丹治光浩　著

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年：　　ISBN：

e9021sa114

参考書

心理学概論（第2版）
著者:　岡市廣成・鈴木直人　監修
出版社:（ナカニシヤ出版）
出版年:　　ISBN:

臨床心理学を基本から学ぶ
著者:　丸島令子・日比野英子　編著
出版社:（北大路書房）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 100% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
レポート60%（第5回・第11回授業後に課す）自己表現のワークへの参加と提出物40%

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅱ（11月5日）（通信）[A]**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　殿谷　仁志.山崎　貴子.中西　龍一.日比野　英子.宮川　貴美子	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

テキスト学習によって、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、スクーリングでの演習により人間関係についても体験的に学ぶ。また、大学で求められる自主的･積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

[テキスト授業／11回＋スクーリング授業／4回]

準備学習（予習・復習）

各回で学んだテーマや専門用語について、図書館等を利用して、より詳しく書かれた心理学書を読むことに挑戦してみましょう。

内　容

第1回　対人態度を知る―基本的対人態度―（テキスト79～86ページ）まず、82ページの基本的対人態度測定インベントリーに答えてみましょう。次のこの章の前文（79ページ）と基礎知識（80－81ページ）を読んで基本的不安と神経症的欲求および神経症的欲求の分類について理解を深め、最後に84ページの結果の整理の手順に従って測定インベントリーの回答結果を採点し、解説を読んで解釈し、86ページのふりかえりの設問に答えましょう【テキスト授業】

第2回　人とのかかわり方―社会的スキル―（テキスト87～94ページ）まず、91ページの「やってみよう！―対人交渉方略―」に答えましょう。つぎに、この章の前文と、社会的スキル、社会的スキル訓練、自己主張のスキルについて理解し、92ページ方の手順に従って結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授

第3回　私の友人関係―異性とかかわる、同性とかかわる―（テキスト95～106ページ）はじめに99－101ページの友人関係尺度に答えましょう。つぎに、この章の前文と基礎知識を読んで、友人関係の特徴、携帯電話と友人関係の深さ、自己開示と友人関係の深さ、友人から親友（恋人）への進展について理解し、解説を参考にして、自分自身について考え、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第4回　〈概論〉現代における青年の課題（テキスト110～112ページ）「青年期」とはどのような時代であるのか、ライフイベントの視点からの課題はどのようなことがあるか、また、現代社会における青年についても価値観や対人関係という点から捉えて理解し、今後の課題についても考えてみましょう。

第5回　社会とのかかわりと帰属意識（テキスト113～120ページ）まず、116-117ページの集団マップを作成してみてください。つぎに、この章の前文と、基礎知識の現代青年の様相、フロムの主張、現代青年のかかわりと所属感について理解し、118ページのの手順に従って結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第6回　想像力と想像力（テキスト122～128ページ）はじめに125-126ページの「やってみよう！」の課題のお話を作ってみましょう。つぎに、この章の前文と、基礎知識を読んで、ヴィゴツキーの理論について理解し、さらに127ページにあるようにお話しづくりの結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第7回　職業選択（テキスト129～137ページ）まず、132-134ページの職業不決断尺度に答えましょう。つぎに、この章の前文と基礎知識を読んで理解を深め、135ページの手順で職業不決断プロフィールを作成してください。さらに解説を参考にして、137ページのふりかえりの設問に答えしょう。【テキスト授業】

第8回　自分の将来イメージ（テキスト138～146ページ）143-144ページの「やってみよう！」の「私の人生設計―その2」に記入してください。つぎにこの章の前文と基礎知識を読んで理解し、145-146ページのように結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。

第9回　メンタルヘルスのページ「虐待」（テキスト107ページ）「ニート(NEET)」（テキスト147ページ）現代社会で大きな問題となっているこれらの事象について、読んで理解を深めましょう。【テキスト授業】

第10回　トピックス3.「不登校の変遷」（テキスト78ページ）トピックス4.「少年非行」（テキスト95ページ）しばしば話題になるこれらの社会現象について、心理学の視点からの理解を深めましょう。

第11回　トピックス5.「介護と家族」（テキスト121ページ）トピックス6.「人生のパートナーと家族のシナリオ」（テキスト148ページ）しばしば話題になるこれらの社会現象について、心理学の視点からの理解を深めましょう。【テキスト授業】

第12回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑤【スクーリング授業】

第13回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑥【スクーリング授業】

第14回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑦【スクーリング授業】

第15回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑧【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

これからを生きる心理学

著者：　川瀬正裕･松本真理子・丹治光浩　著

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年：　　ISBN：

参考書

e9021sa211

心理学概論（第２版）

著者:　岡市廣成・鈴木直人　監修

出版社:（ナカニシヤ出版）

出版年:　　ISBN:

臨床心理学を基本から学ぶ

著者:　丸島令子・日比野英子　編著

出版社:（北大路書房）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題（ 100% ）　　授業中発表等（　）

参加度　（　）

レポート60%（第５回・第11回授業後に課す）・ワークへの参加(スクーリング）と提出物40%

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅱ（11月6日）（通信）[B]**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　松下　幸治.殿谷　仁志.宮川　貴美子.山崎　貴子	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

テキスト学習によって、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、スクーリングでの演習により人間関係についても体験的に学ぶ。また、大学で求められる自主的･積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

[テキスト授業／11回＋スクーリング授業／４回]

準備学習（予習・復習）

各回で学んだテーマや専門用語について、図書館等を利用して、より詳しく書かれた心理学書を読むことに挑戦してみましょう。

内　　容

第1回　対人態度を知る―基本的対人態度―（テキスト79～86ページ）まず、82ページの基本的対人態度測定インベントリーに答えてみましょう。次のこの章の前文（79ページ）と基礎知識（80－81ページ）を読んで基本的不安と神経症的欲求および神経症的欲求の分類について理解を深め、最後に84ページの結果の整理の手順に従って測定インベントリーの回答結果を採点し、解説を読んで解釈し、86ページのふりかえりの設問に答えましょう【テキスト授業】

第2回　人とのかかわり方―社会的スキル―（テキスト87～94ページ）まず、91ページの「やってみよう！―対人交渉方略―」に答えましょう。つぎに、この章の前文と、社会的スキル、社会的スキル訓練、自己主張のスキルについて理解し、92ページ方の手順に従って結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授

第3回　私の友人関係―異性とかかわる、同性とかかわる―（テキスト95～106ページ）はじめに99－101ページの友人関係尺度に答えましょう。つぎに、この章の前文と基礎知識を読んで、友人関係の特徴、携帯電話と友人関係の深さ、自己開示と友人関係の深さ、友人から親友（恋人）への進展について理解し、解説を参考にして、自分自身について考え、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第4回　〈概論〉現代における青年の課題（テキスト110～112ページ）「青年期」とはどのような時代であるのか、ライフイベントの視点からの課題はどのようなことがあるか、また、現代社会における青年についても価値観や対人関係という点から捉えて理解し、今後の課題についても考えてみましょう。

第5回　社会とのかかわりと帰属意識（テキスト113～120ページ）まず、116-117ページの集団マップを作成してみてください。つぎに、この章の前文と、基礎知識の現代青年の様相、フロムの主張、現代青年のかかわりと所属感について理解し、118ページのの手順に従って結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第6回　想像力と想像力（テキスト122～128ページ）はじめに125-126ページの「やってみよう！」の課題のお話を作ってみましょう。つぎに、この章の前文と、基礎知識を読んで、ヴィゴツキーの理論について理解し、さらに127ページにあるようにお話しづくりの結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第7回　職業選択（テキスト129～137ページ）まず、132-134ページの職業不決断尺度に答えましょう。つぎに、この章の前文と基礎知識を読んで理解を深め、135ページの手順で職業不決断プロフィールを作成してください。さらに解説を参考にして、137ページのふりかえりの設問に答えしょう。【テキスト授業】

第8回　自分の将来イメージ（テキスト138～146ページ）143-144ページの「やってみよう！」の「私の人生設計―その2」に記入してください。つぎにこの章の前文と基礎知識を読んで理解し、145-146ページのように結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。

第9回　メンタルヘルスのページ「虐待」（テキスト107ページ）「ニート(NEET)」（テキスト147ページ）現代社会で大きな問題となっているこれらの事象について、読んで理解を深めましょう。【テキスト授業】

第10回　トピックス3.「不登校の変遷」（テキスト78ページ）トピックス4.「少年非行」（テキスト95ページ）しばしば話題になるこれらの社会現象について、心理学の視点からの理解を深めましょう。

第11回　トピックス5.「介護と家族」（テキスト121ページ）トピックス6.「人生のパートナーと家族のシナリオ」（テキスト148ページ）しばしば話題になるこれらの社会現象について、心理学の視点からの理解を深めましょう。【テキスト授業】

第12回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑤【スクーリング授業】

第13回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑥【スクーリング授業】

第14回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑦【スクーリング授業】

第15回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑧【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

これからを生きる心理学

著者：　川瀬正裕･松本真理子・丹治光浩　著

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年：　　ISBN：

参考書

e9021sa212

心理学概論（第２版）

著者:　岡市廣成・鈴木直人　監修

出版社:（ナカニシヤ出版）

出版年:　　ISBN:

臨床心理学を基本から学ぶ

著者:　丸島令子・日比野英子　編著

出版社:（北大路書房）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 100% ）　　授業中発表等（ ）

参加度　（ ）

レポート60%（第５回・第11回授業後に課す）・ワークへの参加(スクーリング）と提出物40%

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅱ（12月3日）（通信）[C]**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　宮川　貴美子.ジェイムス　朋子.殿谷　仁志.山崎　貴子	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

テキスト学習によって、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、スクーリングでの演習により人間関係についても体験的に学ぶ。また、大学で求められる自主的･積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

[テキスト授業／11回＋スクーリング授業／4回]

準備学習（予習・復習）

各回で学んだテーマや専門用語について、図書館等を利用して、より詳しく書かれた心理学書を読むことに挑戦してみましょう。

内　容

第1回　対人態度を知る―基本的対人態度―（テキスト79～86ページ）まず、82ページの基本的対人態度測定インベントリーに答えてみましょう。次のこの章の前文（79ページ）と基礎知識（80－81ページ）を読んで基本的不安と神経症的欲求および神経症的欲求の分類について理解を深め、最後に84ページの結果の整理の手順に従って測定インベントリーの回答結果を採点し、解説を読んで解釈し、86ページのふりかえりの設問に答えましょう【テキスト授業】

第2回　人とのかかわり方―社会的スキル―（テキスト87～94ページ）まず、91ページの「やってみよう！―対人交渉方略―」に答えましょう。つぎに、この章の前文と、社会的スキル、社会的スキル訓練、自己主張のスキルについて理解し、92ページ方の手順に従って結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授

第3回　私の友人関係―異性とかかわる、同性とかかわる―（テキスト95～106ページ）はじめに99－101ページの友人関係尺度に答えましょう。つぎに、この章の前文と基礎知識を読んで、友人関係の特徴、携帯電話と友人関係の深さ、自己開示と友人関係の深さ、友人から親友（恋人）への進展について理解し、解説を参考にして、自分自身について考え、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第4回　〈概論〉現代における青年の課題（テキスト110～112ページ）「青年期」とはどのような時代であるのか、ライフイベントの視点からの課題はどのようなことがあるか、また、現代社会における青年についても価値観や対人関係という点から捉えて理解し、今後の課題についても考えてみましょう。

第5回　社会とのかかわりと帰属意識（テキスト113～120ページ）まず、116-117ページの集団マップを作成してみてください。つぎに、この章の前文と、基礎知識の現代青年の様相、フロムの主張、現代青年のかかわりと所属感について理解し、118ページのの手順に従って結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第6回　想像力と想像力（テキスト122～128ページ）はじめに125-126ページの「やってみよう！」の課題のお話を作ってみましょう。つぎに、この章の前文と、基礎知識を読んで、ヴィゴツキーの理論について理解し、さらに127ページにあるようにお話しづくりの結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第7回　職業選択（テキスト129～137ページ）まず、132-134ページの職業不決断尺度に答えましょう。つぎに、この章の前文と基礎知識を読んで理解を深め、135ページの手順で職業不決断プロフィールを作成してください。さらに解説を参考にして、137ページのふりかえりの設問に答えしょう。【テキスト授業】

第8回　自分の将来イメージ（テキスト138～146ページ）143-144ページの「やってみよう！」の「私の人生設計―その2」に記入してください。つぎにこの章の前文と基礎知識を読んで理解し、145-146ページのように結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。

第9回　メンタルヘルスのページ「虐待」（テキスト107ページ）「ニート(NEET)」（テキスト147ページ）現代社会で大きな問題となっているこれらの事象について、読んで理解を深めましょう。【テキスト授業】

第10回　トピックス3.「不登校の変遷」（テキスト78ページ）トピックス4.「少年非行」（テキスト95ページ）しばしば話題になるこれらの社会現象について、心理学の視点からの理解を深めましょう。

第11回　トピックス5.「介護と家族」（テキスト121ページ）トピックス6.「人生のパートナーと家族のシナリオ」（テキスト148ページ）しばしば話題になるこれらの社会現象について、心理学の視点からの理解を深めましょう。【テキスト授業】

第12回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑤【スクーリング授業】

第13回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑥【スクーリング授業】

第14回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑦【スクーリング授業】

第15回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑧【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

これからを生きる心理学

著者：　川瀬正裕･松本真理子・丹治光浩　著

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年：　　ISBN：

参考書

e9021sa213

心理学概論（第２版）

著者:　岡市廣成・鈴木直人　監修

出版社:（ナカニシヤ出版）

出版年:　　ISBN:

臨床心理学を基本から学ぶ

著者:　丸島令子・日比野英子　編著

出版社:（北大路書房）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 100% ）　　授業中発表等（ ）

参加度　（ ）

レポート60%（第５回・第11回授業後に課す）・ワークへの参加(スクーリング）と提出物40%

2016 Syllabus

科 目 名　**自己表現研究Ⅱ（12月4日）（通信）[D]**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　宮川　貴美子.濱田　智崇.殿谷　仁志.山崎　貴子	

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

授業の到達目標

テキスト学習によって、心理学の知識を修得すると同時に自己理解･他者理解を深め、スクーリングでの演習により人間関係についても体験的に学ぶ。また、大学で求められる自主的･積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の概要

[テキスト授業／11回＋スクーリング授業／4回]

準備学習（予習・復習）

各回で学んだテーマや専門用語について、図書館等を利用して、より詳しく書かれた心理学書を読むことに挑戦してみましょう。

内　　容

第1回　対人態度を知る―基本的対人態度―（テキスト79～86ページ）まず、82ページの基本的対人態度測定インベントリーに答えてみましょう。次のこの章の前文（79ページ）と基礎知識（80－81ページ）を読んで基本的不安と神経症的欲求および神経症的欲求の分類について理解を深め、最後に84ページの結果の整理の手順に従って測定インベントリーの回答結果を採点し、解説を読んで解釈し、86ページのふりかえりの設問に答えましょう【テキスト授業】

第2回　人とのかかわり方―社会的スキル―（テキスト87～94ページ）まず、91ページの「やってみよう！―対人交渉方略―」に答えましょう。つぎに、この章の前文と、社会的スキル、社会的スキル訓練、自己主張のスキルについて理解し、92ページ方の手順に従って結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授

第3回　私の友人関係―異性とかかわる、同性とかかわる―（テキスト95～106ページ）はじめに99－101ページの友人関係尺度に答えましょう。つぎに、この章の前文と基礎知識を読んで、友人関係の特徴、携帯電話と友人関係の深さ、自己開示と友人関係の深さ、友人から親友（恋人）への進展について理解し、解説を参考にして、自分自身について考え、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第4回　〈概論〉現代における青年の課題（テキスト110～112ページ）「青年期」とはどのような時代であるのか、ライフイベントの視点からの課題はどのようなことがあるか、また、現代社会における青年についても価値観や対人関係という点から捉えて理解し、今後の課題についても考えてみましょう。

第5回　社会とのかかわりと帰属意識（テキスト113～120ページ）まず、116-117ページの集団マップを作成してみてください。つぎに、この章の前文と、基礎知識の現代青年の様相、フロムの主張、現代青年のかかわりと所属感について理解し、118ページのの手順に従って結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第6回　想像力と想像力（テキスト122～128ページ）はじめに125-126ページの「やってみよう！」の課題のお話を作ってみましょう。つぎに、この章の前文と、基礎知識を読んで、ヴィゴツキーの理論について理解し、さらに127ページにあるようにお話しづくりの結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】

第7回　職業選択（テキスト129～137ページ）まず、132-134ページの職業不決断尺度に答えましょう。つぎに、この章の前文と基礎知識を読んで理解を深め、135ページの手順で職業不決断プロフィールを作成してください。さらに解説を参考にして、137ページのふりかえりの設問に答えしょう。【テキスト授業】

第8回　自分の将来イメージ（テキスト138～146ページ）143-144ページの「やってみよう！」の「私の人生設計―その2」に記入してください。つぎにこの章の前文と基礎知識を読んで理解し、145-146ページのように結果を整理し、解説を参考にしてふりかえりの設問に答えましょう。

第9回　メンタルヘルスのページ「虐待」（テキスト107ページ）「ニート(NEET)」（テキスト147ページ）現代社会で大きな問題となっているこれらの事象について、読んで理解を深めましょう。【テキスト授業】

第10回　トピックス3.「不登校の変遷」（テキスト78ページ）トピックス4.「少年非行」（テキスト95ページ）しばしば話題になるこれらの社会現象について、心理学の視点からの理解を深めましょう。

第11回　トピックス5.「介護と家族」（テキスト121ページ）トピックス6.「人生のパートナーと家族のシナリオ」（テキスト148ページ）しばしば話題になるこれらの社会現象について、心理学の視点からの理解を深めましょう。【テキスト授業】

第12回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑤【スクーリング授業】

第13回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑥【スクーリング授業】

第14回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑦【スクーリング授業】

第15回　「出会い」と「かかわり」のワーク⑧【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

これからを生きる心理学

著者：　川瀬正裕･松本真理子・丹治光浩　著

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年：　　ISBN：

参考書

e9021sa214

心理学概論（第２版）

著者:　岡市廣成・鈴木直人　監修

出版社:（ナカニシヤ出版）

出版年:　　ISBN:

臨床心理学を基本から学ぶ

著者:　丸島令子・日比野英子　編著

出版社:（北大路書房）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

授業中課題（ 100% ）　　授業中発表等（　）

参加度　（　）

レポート60%（第５回・第11回授業後に課す）・ワークへの参加(スクーリング）と提出物40%

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学Ⅰ（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　坂本　敏郎	

テーマ

心理学の基礎領域を全般的に概観することにより、心理学とはどういう学問なのかを探究する。

授業の到達目標

心理学の歴史、心理学の研究方法について概観し、心理学がどのような学問分野であるかを理解する。心理学の中でも、科学的に明らかにされてきた知覚、認知、学習、感情、動機づけなどの基礎心理学領域について理解を深める。

授業の概要

[メディア授業／全15回]こころのはたらきを客観的、科学的に観察、解析することの重要性が、心理学、とりわけ実験心理学、基礎心理学において指摘されてきた。本講義では、情動、動機づけ、知覚、認知、学習、記憶、発達といった実験や観察によって明らかにされてきた心理機能について、わかりやすく概説する。これらの基礎心理学全般の基本的な知見を概観することにより、心理学とはどういう学問なのかを探究する。

準備学習（予習・復習）

心理学関連図書による自学自習

内　　容

第1回　心理学とは
第2回　心理学の歴史
第3回　心理学の研究法
第4回　感覚と知覚
第5回　聴覚・注意・知覚と脳
第6回　行動の生理学的基礎
第7回　学習1：古典的条件づけ
第8回　学習2:オペラント条件づけ
第9回　学習3：運動学習・観察学習
第10回　動機づけ：生理的欲求
第11回　社会的動機づけ
第12回　認知1：記憶
第13回　認知2：言語・推論・意思決定
第14回　感情1：情動理論と情動の表出
第15回　感情2：社会的感情・神経系の発達と睡眠

履修上の注意点

教科書

心理学概論（第2版）
著者：　岡市廣成・鈴木直人　監修
出版社：（ナカニシヤ出版）
出版年：　　ISBN：

参考書

心理学・入門 心理学はこんなにおもしろい
著者：　サトウタツヤ・渡邊芳之　著
出版社：（有斐閣）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 60% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は第5回、第10回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学Ⅱ（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　永野　光朗	

テーマ

「社会的過程」や「社会への応用」をテーマとする心理学

授業の到達目標

心理学は実証的方法論に基づいて人間の心と行動の仕組みについて客観的・中立的に理解するための「科学」である。この授業では心理学の各分野のなかで、特に「社会的過程」に関するものや「社会への応用」に関連する内容を取り扱う。社会的場面や，産業場面に関連する具体的なテーマを取り上げながら，心理学と社会のつながりについて理解をしたい。また、心理学の各分野で使用される研究法（実験，調査，行動観察など）についても実例を通して理解を深めたい。

授業の概要

［メディア授業／全15回］過去の心理学研究における研究の流れを概観した上で、実証に基づき人間の心と行動の仕組みを理解するという心理学の学問的目標が、人間の社会生活や産業場面においてどのように役立つのかを理解する。また、以上を達成するための心理学的方法論の有用性についても理解をする。

準備学習（予習・復習）

社会や企業活動のなかで生じる問題を常に注視した上で、心理学の立場からその問題を解決する方策を立案してほしい。

内　容

第1回　心理学の目標
第2回　心理学と社会生活・職業とのつながり
第3回　人間を理解するための視点（1）発達という概念
第4回　人間を理解するための視点（2）パーソナリティという概念
第5回　人間を理解するための視点（3）パーソナリティの諸理論
第6回　人間を理解するための視点（4）知能とは何か？ジェンダーとは何か？
第7回　社会を理解するための心理学（1）個人と他者，社会的相互作用
第8回　社会を理解するための心理学（2）対人認知・対人魅力
第9回　社会を理解するための心理学（3）対人行動
第10回　社会を理解するための心理学（4）集合行動
第11回　社会を理解するための心理学（5）社会的認知の仕組み
第12回　心理学の応用（1）企業活動への応用（組織行動）
第13回　心理学の応用（2）企業活動への応用（消費者行動）
第14回　心理学の応用（3）環境配慮行動
第15回　心理学の応用（4）交通行動

履修上の注意点

教科書

心理学概論（第2版）
著者：　岡市廣成・鈴木直人　監修
出版社：（ナカニシヤ出版）
出版年：　　ISBN：

参考書

心理学・入門 心理学はこんなにおもしろい
著者：　サトウタツヤ・渡邊芳之　著
出版社：（有斐閣）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 60% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は第6回、第11回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学研究法Ⅰ（概論）（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　永野　光朗.田中　芳幸.中川　明仁	

テーマ

心理学研究の方法論の概要、および量的データの心理統計学的解析の理解

授業の到達目標

心理学研究における方法論の概要を学習し、特に実験法、調査法、観察法について学びながらこれらを用いた研究計画の基礎を身につける。また、それぞれの研究法において用いられることの多い心理統計学的解析方法（量的データへの解析方法の適用と解析結果の解釈）についても理解を深める。

授業の概要

[メディア授業／10回＋テキスト授業／5回]

準備学習（予習・復習）

教科書や参考文献に示すものなど心理学研究法関連図書による自学自習、および、心理学関連の研究論文で実際に用いられている研究方法や統計学的解析方法への考察

内　容

第1回　オリエンテーションと実験法の概略 ［田中］（テキスト1～20ページ）心理学的な研究とはどの様なものかを概観するとともに、特に実験法の概要を学ぶ。メディア授業であるが、事前にテキストの該当ページを一読しておくこと。【メディア授業】

第2回　実験計画と研究デザイン ［田中］（テキスト20～39ページ）心理学領域における実験はどの様なものか、また、要因の配置（デザイン）や剰余変数の統制（コントロール）にはどういった方法があるのかを学ぶ。【テキスト授業】

第3回　実験結果を歪める要因 ［田中］（テキスト39～48ページ）実験結果を歪めうる事象とともに、それに対する対応方法の一例を学ぶ。また、仮説生成や概念の定義に関する事項についても学習する。【テキスト授業】

第4回　実験法に基づく心理学に関連する精神生理学的研究 ［田中］（テキスト167～180ページ、191～193ページ）心と身体の相互作用（心身相関）の観点から心理学研究ではヒトの生理的変化に着眼することもある。この様な観点での研究はどういったものなのか、また、どの様な生理的変化や生理指標があるのかを概観する。研究の実際（テキスト180～191ページ）についても一読することが望ましい。【テキスト授業】

第5回　実験法のまとめ ［田中］第1回から第4回の授業内容について復習を行うとともに、特に要因配置や水準数の内容（第2回）に関連付けながら実験法に基づく心理学的研究で用いられることが多い心理統計学的解析にも触れる。【メディア授業】

第6回　調査法（質問紙を使用した社会調査）の概略［永野］【メディア授業】

第7回　標本抽出（サンプリング）の考え方と方法［永野］【メディア授業】

第8回　調査結果の整理方法①［永野］【メディア授業】

第9回　調査結果の整理方法②（統計分析とデータ表現の方法）［永野］【メディア授業】

第10回　調査法のまとめ［永野］【メディア授業】

第11回　観察法の概略［中川］心理学的な研究法の中でも特に観察法について、具体的なその研究の方法について概観する。【メディア授業】

第12回　観察法における量的研究［中川］観察法の中でも特に、行動の頻度やその持続時間など、数量的なデータを収集して研究を進める科学的な観察の方法について学ぶ。【メディア授業】

第13回　観察法における質的研究［中川］行動が生起したプロセスや行動の持つ意味など、観察法の中でも行動の質的な側面に焦点を当てた研究の方法について学ぶ。（テキスト86～90, 96～102, 109～111ページ）【テキスト授業】

第14回　研究レポートの書き方［中川］心理学的な研究の結果をレポートや論文にまとめる際のポイントについて学ぶ。（テキスト195～212）【テキスト授業】

第15回　心理学研究法Ⅰのまとめ［中川］これまでに学んできた実験法、調査法、観察法についてまとめを行う。特に各研究法を比較しながらそれぞれの長所と短所について学ぶ。また、第14回授業の補足として、具体的な心理学研究の進め方や研究レポートの執筆の要点について学ぶ。【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

Progress & Application　心理学研究法

著者：　村井 潤一郎　編著

出版社：（サイエンス社）

出版年：2012　　ISBN：

参考書

パソコンによるデータ分析

著者：　大西 正和　編著

出版社：（建帛社）

出版年：　　ISBN：

e9021sa710

心理学マニュアル 要因計画法
著者:　後藤 宗理・中沢 潤・大野木 裕明　著
出版社:（北大路書房）
出版年:　　ISBN:

心理学マニュアル 質問紙法
著者:　鎌原 雅彦・大野木 裕明・宮下 一博・中沢 潤　著
出版社:（北大路書房）
出版年:　　ISBN:

心理学マニュアル 観察法
著者:　中沢 潤 ・南 博文・大野木 裕明　著
出版社:（北大路書房）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40% ）　　小テスト（ 60% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度 （ ）
小テストは第5回、第10回、第15回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**心理統計学Ⅰ（通信）**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　　前田　洋光.中川　明仁

テーマ

基礎的な統計学の理解

授業の到達目標

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。この授業では、統計の初歩を具体的な問題を解きながら概観し、理解を深めていく。授業全体を通して、基礎的な統計に関する概念を理解し、心理統計学Ⅱや心理学データ解析、心理統計学Ⅲで前提となる知識の基盤をつくる。また、統計の必要性について理解を深める。与えられたデータ分析し、結論を導くことができることを目標とする。

授業の概要

[メディア授業／全15回]講義によって、基礎的な統計に関する概念の理解を図る。また、電卓を用いて具体的なデータを分析する演習を通して、より一層の深い理解を図る。

準備学習（予習・復習）

下記参考書をはじめとする統計学関連の書籍の講読

内　　容

第1回　イントロダクション：統計学の必要性について[前田]
第2回　尺度水準（Stevensの4つの尺度水準）[前田]
第3回　度数分布[前田]
第4回　さまざまな代表値[前田]
第5回　散布度(1)[前田]
第6回　散布度(2)[前田]
第7回　変数変換（標準得点と偏差値）[前田]
第8回　共分散とピアソンの相関係数(1)[前田]
第9回　共分散とピアソンの相関係数(2)[前田]
第10回　順位相関係数[前田]
第11回　データ分析演習(1)[中川]
第12回　データ分析演習(2)[中川]
第13回　データ分析演習(3)[中川]
第14回　データ分析演習(4)[中川]
第15回　授業全体のまとめ[中川]

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本
著者：　吉田 寿夫　著
出版社：（北大路書房）
出版年：　　ISBN：

よくわかる心理統計
著者：　山田 剛史・村井 潤一郎　著
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 50% ）　　小テスト（ 50% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）

小テストは第6回、第10回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅰ（11月12･13日）（通信）[A]**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　中川　明仁.前田　洋光.藤原　勇

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

[メディア授業／6回＋スクーリング授業／9回]　グループに分かれての演習授業である。実験の概要目的を理解し、実験を実施し、レポートを作成する。

準備学習（予習・復習）

心理学の実験に関する書物（参考文献）等を読む。

内　容

第1回　ガイダンス、成績　実験とは、レポート作成の概要【メディア授業】
第2回　分野別実験の紹介【メディア授業】
第3回　実験の応用：実験と健康心理学【メディア授業】
第4回　錯視の実験、レポート作成について（1）【メディア授業】
第5回　錯視の実験、レポート作成について（2）【メディア授業】
第6回　錯視の実験、レポート作成について（3）【メディア授業】
第7回　コミュニケーション実験の説明【スクーリング授業】
第8回　コミュニケーション実験の実施【スクーリング授業】
第9回　コミュニケーション実験のまとめとレポート作成の説明【スクーリング授業】
第10回　性格検査の説明【スクーリング授業】
第11回　性格検査の実施【スクーリング授業】
第12回　性格検査のまとめとレポート作成の説明【スクーリング授業】
第13回　ストループ実験の説明【スクーリング授業】
第14回　ストループ実験の実施【スクーリング授業】
第15回　ストループ実験のまとめとレポート作成の説明心理学実験演習Ⅰのまとめ【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

実験とテスト＝心理学の基礎：実習編
著者：　心理学実験指導研究　編
出版社：（培風館）
出版年：　　ISBN：

実験とテスト＝心理学の基礎：解説編
著者：　心理学実験指導研究　編
出版社：（培風館）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 60% ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 40% ）
授業中課題はレポートを課す出席40%

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅰ（11月26・27日）（通信）[B]**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　田中　芳幸.塩谷　尚正.藤原　勇

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

[メディア授業／6回＋スクーリング授業／9回]　グループに分かれての演習授業である。実験の概要目的を理解し、実験を実施し、レポートを作成する。

準備学習（予習・復習）

心理学の実験に関する書物（参考文献）等を読む。

内　　容

第1回　ガイダンス、成績　実験とは、レポート作成の概要【メディア授業】
第2回　分野別実験の紹介【メディア授業】
第3回　実験の応用：実験と健康心理学【メディア授業】
第4回　錯視の実験、レポート作成について（1）【メディア授業】
第5回　錯視の実験、レポート作成について（2）【メディア授業】
第6回　錯視の実験、レポート作成について（3）【メディア授業】
第7回　コミュニケーション実験の説明【スクーリング授業】
第8回　コミュニケーション実験の実施【スクーリング授業】
第9回　コミュニケーション実験のまとめとレポート作成の説明【スクーリング授業】
第10回　性格検査の説明【スクーリング授業】
第11回　性格検査の実施【スクーリング授業】
第12回　性格検査のまとめとレポート作成の説明【スクーリング授業】
第13回　ストループ実験の説明【スクーリング授業】
第14回　ストループ実験の実施【スクーリング授業】
第15回　ストループ実験のまとめとレポート作成の説明心理学実験演習Ⅰのまとめ【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

実験とテスト＝心理学の基礎：実習編
著者：　心理学実験指導研究　編
出版社：（培風館）
出版年：　　ISBN：

実験とテスト＝心理学の基礎：解説編
著者：　心理学実験指導研究　編
出版社：（培風館）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 60% ）　　授業中発表等（　）
参加度　（ 40% ）
授業中課題はレポートを課す出席40%

2016 Syllabus

科 目 名　**心理学実験演習Ⅰ（12月10･11日）（通信）[C]**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　塩谷　尚正.田中　芳幸.細谷　周史

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

授業の到達目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の概要

[メディア授業／6回＋スクーリング授業／9回]　グループに分かれての演習授業である。実験の概要目的を理解し、実験を実施し、レポートを作成する。

準備学習（予習・復習）

心理学の実験に関する書物（参考文献）等を読む。

内　　容

第1回　ガイダンス、成績　実験とは、レポート作成の概要【メディア授業】
第2回　分野別実験の紹介【メディア授業】
第3回　実験の応用：実験と健康心理学【メディア授業】
第4回　錯視の実験、レポート作成について（1）【メディア授業】
第5回　錯視の実験、レポート作成について（2）【メディア授業】
第6回　錯視の実験、レポート作成について（3）【メディア授業】
第7回　コミュニケーション実験の説明【スクーリング授業】
第8回　コミュニケーション実験の実施【スクーリング授業】
第9回　コミュニケーション実験のまとめとレポート作成の説明【スクーリング授業】
第10回　性格検査の説明【スクーリング授業】
第11回　性格検査の実施【スクーリング授業】
第12回　性格検査のまとめとレポート作成の説明【スクーリング授業】
第13回　ストループ実験の説明【スクーリング授業】
第14回　ストループ実験の実施【スクーリング授業】
第15回　ストループ実験のまとめとレポート作成の説明心理学実験演習Ⅰのまとめ【スクーリング授業】

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

実験とテスト＝心理学の基礎：実習編
著者：　心理学実験指導研究　編
出版社：（培風館）
出版年：　　ISBN：

実験とテスト＝心理学の基礎：解説編
著者：　心理学実験指導研究　編
出版社：（培風館）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 60% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ 40% ）
授業中課題はレポートを課す出席40%

2016 Syllabus

科 目 名　**臨床心理学Ⅰ（通信）〈b〉**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　後期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　日比野　英子.井上　裕樹

テーマ

臨床心理学の概論の理解

授業の到達目標

臨床心理学は、現代社会が抱えている心理的問題のみならず、教育の問題、高齢者・障害者のケアとリハビリテーション、犯罪被害者のケアなどのさまざまな問題の解決や改善を要請されている学問領域であるが、本科目ではその基礎理論と心理アセスメント・心理的援助を概観して、その理念・歴史・構造・実践活動を理解することをねらいとする。

授業の概要

［メディア授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

授業中に紹介する専門書を最低3冊読んでみよう。

内　容

第1回　臨床心理学とは［日比野］
第2回　臨床心理学の歴史［日比野］
第3回　臨床心理学の主な学問分野［日比野］
第4回　臨床心理学の基礎理論①　精神分析学［日比野］
第5回　臨床心理学の基礎理論②　人間性心理学［日比野］
第6回　臨床心理学の基礎理論③　認知・行動理論［日比野］
第7回　心の発達と心の病理①　乳幼児期の心と心のつまずき［日比野］
第8回　心の発達と心の病理②　児童期・思春期の心理的問題［日比野］
第9回　心の発達と心の病理③　青年期の心と心の迷い［日比野］
第10回　心の状態を測る―心理アセスメント―［日比野］
第11回　心理アセスメントの方法［日比野］
第12回　心の病の回復の援助①　カウンセリング［井上］
第13回　心の病の回復の援助②　子どもの心理療法［井上］
第14回　心の病の回復の援助③　問題行動の心理療法［井上］
第15回　まとめ［日比野］

履修上の注意点

教科書

臨床心理学を基本から学ぶ
著者：　丸島令子・日比野英子　編著
出版社：（北大路書房）
出版年：　　ISBN：

参考書

よくわかる臨床心理学
著者：　下山晴彦　編
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト（ 60% ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）
小テストは第6回、第11回、第15回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**パーソナリティ心理学Ⅰ（通信）**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　後期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　大久保　千惠

テーマ

パーソナリティ心理学の基礎理論を学ぶ

授業の到達目標

パーソナリティ心理学の諸側面について基礎的知見を習得する。まず、パーソナリティの定義について関連する理論を検討する。次に、パーソナリティの形成要因について議論するためにパーソナリティの発達について詳解する。さらに、パーソナリティの測定方法や病理について概説する。

授業の概要

［テキスト授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　オリエンテーション＆イントロダクション　～パーソナリティ心理学で何を学ぶのか～（テキスト1～7ページ）
第2回　パーソナリティの理論（1）はじめに（テキスト7～14ページ）
第3回　パーソナリティの理論（2）個人差をどう考えるか（テキスト15～31ページ）
第4回　パーソナリティの理論（3）見えないものをどう見るか（テキスト32～44ページ）
第5回　パーソナリティの理論（4）人をどのように分けるのか（テキスト68～81ページ）
第6回　パーソナリティの形成要因（1）どのような物差しを当てるか（テキスト82～102ページ）
第7回　パーソナリティの形成要因（2）知性を測ることはできるのか（テキスト114～140ページ）
第8回　パーソナリティの形成要因（3）遺伝と環境はパーソナリティにどのようにかかわるのか（テキスト190～214ページ）
第9回　パーソナリティの形成要因（4）赤ちゃんに個人差はあるのか（テキスト215～226ページ）
第10回　パーソナリティの形成要因（5）あとがき（テキスト227～232ページ）
第11回　パーソナリティの測定方法（1）パーソナリティをどうやって測るのか（テキスト45～56ページ）
第12回　パーソナリティの測定方法（2）測定できているかどうかをどう判断するのか（テキスト57～67ページ）
第13回　パーソナリティの測定方法（3）分けることと測ることは違うのか（テキスト103-113ページ）
第14回　パーソナリティの病理（1）あなたは人を分類しているのか（1）（テキスト141～158ページ）
第15回　パーソナリティの病理（2）あなたは人を分類しているのか（2）（テキスト159～189ページ）

履修上の注意点

教科書

はじめて学ぶパーソナリティ心理学
著者：　小塩真司　著
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト（ 40% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
小テストは第9回、第12回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　こころとからだの健康科学Ⅰ（通信）

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　日比野 英子.坂本 敏郎

テーマ

「こころ」と「からだ」について、心理学の視点に加えて、脳科学、認知科学の観点から概観する。

授業の到達目標

社会生活を営む人間は、環境を知り（知覚）、何かを感じ（感情）、考えながら（思考）、行動を変えていく(学習）。このようなこころのはたらきとはどのような仕組みを持つのか、また脳の中でどのように処理されているのかの全体像を把握する。

授業の概要

［メディア授業／5回＋テキスト授業／10回］

準備学習（予習・復習）

関連図書を読むことによる自学自習

内　容

第1回　ガイダンス・オリエンテーション［日比野］【メディア授業】
第2回　ホルモンと性分化（男と女の脳科学）［坂本］【メディア授業】
第3回　記憶と学習の脳科学　（神経可塑性のメカニズム）［坂本］【メディア授業】
第4回　絆を育む脳科学（社会的報酬とオキシトシン）［坂本］【メディア授業】
第5回　第1部 人間とは何か 第1章 5つの人間像／第2章 現象からみた心（P2-P36）［日比野］【テキスト授業】
第6回　第3章 こころ、脳、社会（P37-P66）［日比野］【テキスト授業】
第7回　第4章 探究の方法（P67-P90）［日比野］【テキスト授業】
第8回　第2部 認知科学のあゆみ 第5章 誕生（P91-P108）［坂本］【テキスト授業】
第9回　第6章 形成（P109-P132）［坂本］【テキスト授業】
第10回　第7章 発展（P133-P173）［坂本］【テキスト授業】
第11回　第8章 進化1（P174-P195）［坂本］【テキスト授業】
第12回　第8章 進化2（P196-P216）［坂本］【テキスト授業】
第13回　第3部 未来へ　第9章 こころと脳のつながり（P217-P249）［日比野］【テキスト授業】
第14回　第10章　未来へ（P250-P290）［日比野］【テキスト授業】
第15回　授業のまとめ［日比野］【メディア授業】

履修上の注意点

教科書

心と脳（岩波新書）
著者:　安西祐一郎　著
出版社:（岩波書店）
出版年:　　ISBN:

参考書

心理学概論（第2版）
著者:　岡市廣成・鈴木直人　監修
出版社:（ナカニシヤ出版）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 60% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は第4回の後にレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　こころとからだの健康科学Ⅱ（通信）

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　中西　龍一.田中　芳幸

テーマ

ストレスを中心テーマに、こころとからだを「心身一如」、ホリスティック（Holistic)な視点から捉える。

授業の到達目標

心と身体、そしてその関係について、様々な視点・視座を学び、全体として分かち難く結びつく心と身体についての理解を深める。また、心から体へのアプローチ、身体から心へのアプローチを学び、効果的なストレスの捉え方や具体的な対処法についても学ぶ。

授業の概要

［メディア授業／5回＋テキスト授業／10回］

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　心身のストレスに関する基礎理論　［田中］心身のストレスについて学ぶ上で基本となる考え方や基礎理論について、ストレスチェックなども実施しながら概説する。第3回目からのテキスト授業に向けて、基礎的な学習を行うことも目的とする。【メディア授業】

第2回　ストレスへの対処　［田中］ストレス刺激からストレス反応へ至る過程について概観し、特に対処方略（コーピング）について学習する。自らが執りやすい対処のチェックも行う。第3回目からのテキスト授業に向けて、基礎的な学習を行うことも目的とする。【メディア授業】

第3回　ストレスとは何か ［田中］（テキスト『ストレスに負けない生活』13～49ページ）ストレスについて、こころとからだの両面から理解する。ストレスに関連する身体的な機構と心理的なメカニズムについて学習する。【テキスト授業】

第4回　ストレスと習慣 ［田中］（テキスト『ストレスに負けない生活』51～79ページ）ストレスに関連の深いパーソナリティや行動パターンについて学習する。ストレスによる心身の不調を予防するために、日々の生活習慣に目を向ける必要があることを理解する。※テキストの第4回目に該当する章以降になると、様々な理論について「行動医学」の知見として紹介されています。行動医学と「健康心理学」とが類似の学問領域であり、心理学の中でも扱われる内容ばかりですので、構えずに読み進めてください。【テキスト授業】

第5回　リラクセーション ［田中］（テキスト『ストレスに負けない生活』81～119ページ）ストレスを解消するためのリラクセーションとは、どのようなものなのか、脳や自律神経系の状態とあわせて学習する。さらに、リラクセーションの状態を作り出す方法についても学び、日々のストレスフルな生活において生かすきっかけをつかむ。【テキスト授業】

第6回　認知・行動面への働きかけ ［田中］（テキスト『ストレスに負けない生活』121～162ページ）心理療法の一つである認知行動療法の理論や技法を概観するとともに、その思考パターンや行動パターン修正への活用について学ぶ。これらが不安や緊張などといったストレス反応の改善にもつながることを把握する。【テキスト授業】

第7回　個人的バイアスからの脱却 ［田中］（テキスト『ストレスに負けない生活』163～201ページ）ストレスをため込んでしまう思考や感情（個人的バイアス）から脱却して現実をあるがままに知覚する状態（マインドフルネス）とはどのような状態なのか、また、その効用について学ぶ。【テキスト授業】

第8回　ストレスと身体（からだ）［中西］【メディア授業】

第9回　ゲシュタルト療法と身体［中西］【メディア授業】

第10回　こころとからだ［中西］【メディア授業】

第11回　第1章『心が生まれる前』、第2章『心の誕生』こころがどのようにしてうまれるか、学習理論の復習も兼ねて［中西］（テキスト『動きが心をつくる』13～40ページ）【テキスト授業】

第12回　第3章『動き、体、心』、第4章『心が先か、動きが先か』からだとこころについての様々な考え方［中西］（テキスト『動きが心をつくる』41～68ページ）【テキスト授業】

第13回　第5章『動きから心へ』、第6章『レスペラント反応と生理心理との関係（前半：～筋反応における生理と心理の関係）』レスペラント反応とは、生理と心理の関係とは［中西］（テキスト『動きが心をつくる』69～106ページ）【テキスト授業】

第14回　第6章『レスペラント反応と生理心理との関係（後半：表情について～）』、第7章『新しい人間の全体像』生理と心理の関係とは、人間の全体像を理解する［中西］（テキスト『動きが心をつくる』106～162ページ）【テキスト授業】

第15回　第8章『人間の根源の様相』、気感とは［中西］（テキスト『動きが心をつくる』163～176ページ）【テキスト授業】

履修上の注意点

［田中］ テキスト「ストレスに負けない生活」を難しいと感じる受講生も少なくないと思います。テキスト授業に入る前に、メディア授業にて概略をつかむための基礎を講義します。テキスト授業においては、最初に読むだけですべてを理解しようとせず、まずは心身のストレスに関連する理論や対処方法の概略をつかんでください。その上で、ストレスに関する学習を通して、こころとからだとが不可分であることを理解し、自らの日々のストレス対処、ひいては健康に役立つ知見を1つでも見つけようと心掛けながら受講してほしいと思います。［中西］テキスト課題は、第8章までですが、第9章の「からだ言葉」は、読んで面白く、11章の生活を豊かにする心身統一ワーク」は、実践的なボディーワークが紹介されています。是非実際に試してみて下さい。是非読まれることをお勧めします。

教科書

ストレスに負けない生活－心・身体・脳のセルフケア（ちくま新書）

著者：　熊野宏昭　著

e9021sk210

出版社: 筑摩書房

出版年: ISBN:

動きが心をつくる(講談社現代新書)

著者: 春木豊

出版社: 講談社

出版年: ISBN:

参考書

成績評価

試験 ( ) 小テスト ( )

授業中課題 (100%) 授業中発表等 ( )

参加度 ( )

「授業中課題」は、第15回の後にレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅰ（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉野　衣美	

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

授業の到達目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の概要

[メディア授業／全15回]学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　授業概要とパソコンの基本操作Windows8.1（OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作

第2回　Word2013（1）チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、インデント、タブ、表作成、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷

第3回　Word2013（2）レポート作成《主な機能》ページ設定、表紙の作成、ページ番号、Excelの表とグラフの挿入、脚注、引用、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正

第4回　Excel2013（1）集計表の作成　計算《主な機能》AVERAGE関数、IF関数、絶対参照、合計、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数小数点以下の表示桁数を減らす/増やす、桁区切りスタイル、フォントサイズ、セルを結合して中央揃え、罫線、ページ設定、印刷

第5回　Excel2013（2）グラフの作成　計算結果を視覚効果へ《主な機能》シートの操作、並べ替え、積み上げ横棒グラフの作成、グラフの編集、改ページ、印刷

第6回　PowerPoint（1）スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行

第7回　Word2013（3） レポートの構成レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能

第8回　Excel2013（3）アンケート結果の集計1《主な機能》リスト形式、アンケート結果の数値化、COUNTIF関数、SUMIF関数、積み上げ縦棒グラフの作成、グラフの編集

第9回　Excel2013（4）アンケート結果の集計2《主な機能》列単位で並べ替え、シートを分けてアンケート結果を検証文章とは、分かりやすい文（1文が短い、主語と述語の関係が分かりやすい、誤解されない、文に矛盾がない、品格がある）、良い文章のポイント（文体の統一、用語の統一と確認）

第10回　Word2013（4）アンケート結果のレポート化　～考察・文章化～《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注

第11回　Word2013（5）アンケート結果のレポート完成《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注

第12回　PowerPoint（2）アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更

第13回　PowerPoint（3）アンケート結果スライドからプレゼン設計《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行、発表の準備

第14回　セキュリティ向上のために※あらゆるネットワークを使用して学習・情報交換する際におけるセキュリティについてコンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺などの犯罪についてと防御策

第15回　情報モラル※ネットワークを使用しての情報受発信時におけるマナーについて情報社会の問題点、SNSへの参加意識、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット

履修上の注意点

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2013＆情報モラル

著者：

出版社：（noa出版）

出版年：　　ISBN：

参考書

eks301a110

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ 100% ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

小テストは第3回、第6回、第11回、第15回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**情報処理演習Ⅱ（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　吉野　衣美	

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

授業の到達目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の概要

[メディア授業／全15回]情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得する。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　情報活用力とは情報収集とは、様々な情報収集方法
第2回　情報検索：検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
第3回　情報運用（法律・モラル・セキュリティ）：著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
第4回　数値分析Ⅰ：分析のポイント、数値データ、分析の基本テクニック「比べる」、表計算ソフト、数式・セル参照、関数、論理式と条件分岐
第5回　数値分析Ⅱ：数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
第6回　データベースⅠ：データベースとは、データベースを体験
第7回　データベースⅡ：定型データと非定型データ、リスト形式、データの並べ替え/抽出、データベース作成実習
第8回　ファイル・データ管理：汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う（ファイル容量とメディア、ファイル形式）。
第9回　インターネットコミュニケーションⅠ：メールの活用（cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対処等）や掲示板の特性を理解する。
第10回　インターネットコミュニケーションⅡ：コミュニケーションツール（ブログやWebサイトなど）の特性を理解する。
第11回　文書表現Ⅰ：ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
第12回　文書表現Ⅱ：ひと目で「分かる」、ストレートに「分かる」、正確に「分かる」文書、見た目の大切さ、見やすい文書のポイント、レポート、ビジネス文書、その他の文書
第13回　ビジュアル表現：図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
第14回　プレゼンテーションⅠ：プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
第15回　プレゼンテーションⅡ：良いプレゼンテーション資料、プレゼンテーションソフトの活用、資料作成の流れ、分かりやすい話の流れ、アウトラインのテンプレートを使う、スライドのレイアウトを決める、スライドの内容を作成する、スライド全体の流れをチェックする、視覚に訴える、リハーサルを行う。

履修上の注意点

教科書

考える伝える分かちあう　情報活用力(Webツール「NEST」セット)
著者：
出版社：（noa出版）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（ 100% ）
授業中課題（　）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）
小テストは第3回、第7回、第10回、第15回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**哲学概論（通信）〈Z〉**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　安部 彰

テーマ

「「常識」を問いなおす」という哲学のエッセンスとその方法を学ぶ。

授業の到達目標

どのようなものが確実な知識で、いかなる条件を充たせば我々はそれを獲得したといえるのか。この問いをめぐる哲学の主要な諸見解について概ね理解し、他人に説明できるようになること。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]「哲学」とはなんだろう？――理性的な人なら誰もが疑えない確実な知識があるだろうか？B・ラッセルによれば、この問いはもっとも答えるのがむずかしい問いのひとつであり、「哲学」こそが取りくむべき問いにほかならない。本テキストの読解をつうじて、我々が「常識」として受けいれている知識も、よく吟味してみると、さまざまに矛盾していることがわかるはずだ。このように、我々が世界を理解する方法の問いなおしをつうじて世界それじたいのありようを追究するのが「哲学」だ。つまり、そうして、世界の驚異へと我々を誘うのが「哲学」なのだ。

準備学習（予習・復習）

可能なら参考文献にもあたって、さらに考察をふかめてほしい。

内　容

第1回　第一章　現象と実在（テキスト9～21頁）「みえる」と「ある」の関係を問いなおす。
第2回　第二章　物質は存在するか（テキスト22～33頁）我々に「みえるもの」とは独立した「物質」があるといえる根拠を問いなおす。
第3回　第三章　物質の本性（テキスト34～44頁）物質をそれたらしめているものはなにかを問いなおす。
第4回　第四章　観念論（テキスト45～56頁）この世界には「観念」だけが存在するという考えかたを問いなおす。
第5回　第五章　面識による知識と記述による知識（テキスト57～73頁）知識のいくつかのタイプとその関係を問いなおす。
第6回　第六章　帰納について（テキスト74～86頁）「経験」にもとづく知識とはいかなる知識なのかを問いなおす。
第7回　第七章　一般的原理の知識について（テキスト87～100頁）「アプリオリな（経験にもとづかない）知識」とはいかなる知識なのかを問いなおす。
第8回　第八章　アプリオリな知識はいかにして可能か（テキスト101～112頁）「経験」と「アプリオリな知識」との関係を問いなおす。
第9回　第九章　普遍の世界（テキスト113～125頁）「普遍」とは「なにか」を問いなおす。
第10回　第十章　普遍に関する私たちの知識（テキスト126～136頁）「普遍」を「いかにして知るのか」を問いなおす。
第11回　第十一章　直観的知識について（テキスト137～145頁）「直観」の自明性を問いなおす。
第12回　第十二章　真と偽（テキスト146～159頁）「真偽」とは「なにか」を問いなおす。
第13回　第十三章　知識、誤謬、蓋然的な見解（テキスト160～171頁）「真偽」を「いかにして知るのか」を問いなおす。
第14回　第十四章　哲学的知識の限界／第十五章　哲学の価値（テキスト172～195頁）哲学的論証の限界と意義を問いなおす。
第15回　まとめ全体を再読し、興味や疑問をもった論点について、考察をふかめる。

履修上の注意点

教科書

哲学入門
著者：　バートランド・ラッセル　著
出版社：（筑摩書房（ちくま学芸文庫））
出版年：2005年　　ISBN：

参考書

教科書（ラッセル『哲学入門』）の200頁を参照のこと。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題（ 100% ）　　授業中発表等（ ）
参加度（ ）
「授業中課題」は第7回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**倫理学概論（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安部　彰	

テーマ

倫理学的な考え方を身につけることを目標とする。

授業の到達目標

倫理学とは何か、倫理学にどのような意義があるのかを理解する。とくに現代社会が直面しているさまざまな問題について自ら考えるための基礎になる考え方を幅広く学ぶこと。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]近代以降の倫理学を中心として、倫理学的な考え方の基礎を歴史的背景を含めて理解し、とくに現代社会の諸問題について広い視野で考えるための基礎となるような考え方について学ぶ。

準備学習（予習・復習）

古典的な文献で入手しやすいものはできるだけ読んでいただきたい。参考文献は専門的だが、この主題に関心があれば役立つので図書館等で手に取ってみてほしい。

内　　容

第1回　第一章　正しいことをする（テキスト13～55ページ）「正しいことをする」とはどういうことなのかについて、「福祉・自由・美徳」という三つの価値に関する著者の議論を理解し、これらが対立するような状況が本書の主題であるということを確認する。

第2回　第二章　功利主義（1）（テキスト56～96ページ（とくに82ページまで））功利主義の始祖ベンサムの発想の意義と強さを踏まえつつ、功利主義に対する反論について自らの直観に照らし合わせつつ考える。

第3回　第二章　功利主義（2）（テキスト56～96ページ（とくに83ページから））ミルのなかにある自由擁護の立場と功利主義的な立場の間の矛盾について、ベンサムの功利主義論も念頭に置きながら学ぶ。

第4回　第三章　リバタリアニズム（テキスト97～123ページ）徹底した権利・自由尊重主義としてのリバタリアニズムの魅力（利点）と問題点について、自らの直観に照らして考える。

第5回　第四章　市場と倫理（1）（テキスト124～148ページ）市場で兵士を雇うことを擁護する立場について、その利点と問題点を考え、とくにそれに反対する議論の論拠に説得力があるかどうか、ある（ない）としてそれはなぜそう考えるのか。

第6回　第四章　市場と倫理（2）（テキスト148～166ページ）代理母の事例を通して市場における取引が「公正」と呼べる条件としての「自由」の範囲と幅について考える。完全に自由があるならば著者の言う「美徳」は売買を禁止する理由になるのかどうか。

第7回　第五章　イマヌエル・カント（1）（テキスト167～206ページ）カントの倫理学、とくに自由と義務についての彼独自の説明を理解し、それに対する反論を踏まえてその意義と問題点について考える。

第8回　第五章　イマヌエル・カント（2）（テキスト207～223ページ）具体的な事例に即して、カントの議論の意味を学び、自らの直観と照らし合わせて評価する。

第9回　第六章　ジョン・ロールズ（1）（テキスト224～263ページ（とくに246ページまで））理想的な契約という発想がなぜ重要なのか、ロールズはそこから二つの原理を導き出せると考えたが、その論証は本当にうまく行っているのかどうかを考える。

第10回　第六章　ジョン・ロールズ（2）（テキスト224～263ページ（とくに246ページから））ロールズの平等についての考え方に対する批判論を踏まえて、どちらの立場に説得力があるか、なぜそう思うのかを考える。

第11回　第七章　アファーマティブアクション（テキスト264～289ページ）差別是正のための優遇策について、擁護論と反論を通して考える。著者の「共通善」や「美徳」に基づく擁護論についても距離を取って考える。（とくにこの章以降、著者自身の主張が強く展開されていくことに留意されたい）

第12回　第八章　正義・アリストテレス（テキスト290～327ページ）ロールズやカントよりもアリストテレスの議論を著者は評価しているが、それはどういう理由からなのかについて、それに説得力があるか否かも念頭に置きつつ考える。

第13回　第九章　忠誠のジレンマ（テキスト328～381ページ（とくに346ページまで））共同体、国家、家族に対する「忠誠」について、リベラルな議論と著者の立場の違いに注目しつつ、自身の直観に照らし合わせて考える。

第14回　第九章　忠誠のジレンマ(2)（テキスト328～381ページ（とくに346ページから））リベラルな立場に対する批判点について学びつつ、その批判の論拠が妥当かどうかについて考える。

第15回　第十章　正義と共通善（テキスト382～419ページ）正義に関する三つのアプローチのなかで著者が支持する「共通善」アプローチに対して、もし、さらに反論があるとすれば、どういうものがありうるか。

履修上の注意点

教科書

これからの「正義」の話をしよう

著者：　マイケル・サンデル

出版社：（早川書房）

出版年：　　ISBN：

参考書

eky201d350

正義

著者:　平井亮輔(編)

出版社:（嵯峨野書院）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）

授業中課題（ 100% ）　　授業中発表等（ ）

参加度　（ ）

「授業中の課題」は第8回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**日本人と宗教（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　章彦	

テーマ

日本人の宗教観の原理的性格を考える

授業の到達目標

日本人は、無宗教だとよく言われる。確かに西欧のキリスト教的な意味での「宗教」は存在しなかったかもしれない。だが仏教は確かに日本に定着したし、また様々な事物に対する「信仰」というものがなかったわけではない。日本人もやはり信心深い性格を強烈に有していたのである。その意味では「宗教」は確かにあったと言えるだろう。だが、今日では科学的な合理性を重んじるが故に本来的に不合理な面を持つ「宗教」や「信仰」が社会全体で急激に希薄になっている。だが人間はすぐれて宗教的な性格を持った存在でもある。結局は日常において宗教もしくは宗教的なものに触れざるを得ないといっても過言ではない。一方で宗教を否定しつつも他方ではそれを無視し得ないのである。そうした矛盾が今日起きている問題の背景のひとつにあるといってよい。本講義では、日本人の宗教観を支える原理的な側面を探り出し、人は宗教とどのように関わるべきかについて考えてみたい。したがって諸君の到達目標は、一つには日本人の宗教観の原理的側面を知ることであり、二つには自分たちが宗教とどのように関係を取り結ぶべきかについて一定の考えを持つ、ということになる。

授業の概要

［メディア授業／全15回］生活の中にあるさまざまな宗教現象を材料として上記の目標に近づきたい。

準備学習（予習・復習）

宗教学の基礎的な知識を得てほしい。また日常のなかで折に触れて宗教と自身の関係について考えてほしい。

内　　容

第1回　宗教をどのように枠づけるか
第2回　神と仏のはざまで—仏教とであった日本人はどのように反応したか
第3回　盆行事について考える（1）—概念規定と行事内容
第4回　盆行事について考える（2）—起源と変遷そしてその意味
第5回　観音と地蔵（1）観音の誘惑—庶民にとっての観音信仰
第6回　観音と地蔵（2）野の石仏が「地蔵」と呼ばれる理由
第7回　ゴジラはなぜ神と呼ばれるのか
第8回　眼の霊力について考える—一つ目の鬼、節分・放相氏、そして写楽包介へ
第9回　鬼で鬼を払う—「払い」の民俗構造
第10回　水神の制御と仏教的神—寺院創建伝説に探る
第11回　仏教守護神から福の神へ—毘沙門天信仰の歴史（1）・中国
第12回　仏教守護神から福の神へ—毘沙門天信仰の歴史（2）・日本
第13回　盗む空海—神話的空海の仏教伝承
第14回　日本人のあの世—日本人の他界観はどのように変わったか
第15回　復習とまとめ

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

宗教学
著者：　岸本英夫
出版社：（大明堂）
出版年：　　ISBN：

宗教学入門
著者：　棚次正和・山中弘 編著
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：　　ISBN：

eky201d410

日本人の一生〈上〉—初心者のための宗教民俗学入門

著者:　吉田清

出版社:（清文堂出版）

出版年:　　ISBN:

日本人の一生〈下〉—初心者のための宗教民俗学入門

著者:　吉田清

出版社:（清文堂出版）

出版年:　　ISBN:

その他は授業内で指示。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40% ）　　小テスト（ 60% ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

小テストは第7回、第14回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**宗教学概論（通信）**

クラス	配当回生　通信2回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　橋本　章彦	

テーマ

宗教学入門

授業の到達目標

宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるのか、といった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成してほしい。

授業の概要

［メディア授業／全15回］総論と各論に分けて論ずる。

準備学習（予習・復習）

「日本人と宗教」を同時に受講することが望ましい

内　　容

第1回　総論Ⅰ　宗教と宗教学―宗教にどのようにアプローチするか―
第2回　総論Ⅱ　宗教をどのように定義するか
第3回　総論Ⅲ　宗教の構造と機能
第4回　総論Ⅳ　個人において宗教はどのように顕れるか―信仰ということ―
第5回　総論Ⅴ　宗教現象の諸相―祈るということ―
第6回　総論Ⅵ　宗教の人間観と世界観
第7回　各論Ⅰ（1）　仏教―釈迦とその後の展開―
第8回　各論Ⅰ（2）　仏教―日本仏教―
第9回　各論Ⅰ（3）　仏教教義の基礎
第10回　各論Ⅱ　ユダヤ教とキリスト教
第11回　各論Ⅲ　イスラーム
第12回　各論Ⅳ　道教と儒教
第13回　各論Ⅴ　民族信仰―神道―
第14回　各論Ⅵ　新宗教―天理教と大本教など―
第15回　まとめ―宗教とどのように向き合うか

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

宗教学
著者：　岸本英夫　著
出版社：（大明堂）
出版年：　　ISBN：

宗教学入門
著者：　棚次正和・山中弘　編著
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：　　ISBN：

日本人の一生〈上〉―初心者のための宗教民俗学入門
著者：　吉田清　著
出版社：（清文堂出版）
出版年：　　ISBN：

ky202d150

日本人の一生〈下〉—初心者のための宗教民俗学入門

著者:　吉田清　著

出版社:（清文堂出版）

出版年:　　ISBN:

その他は授業内で指示。

著者:

出版社:

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 50% ）　　小テスト（ 50% ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

小テストは第6回、第14回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**言語コミュニケーション論（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　北林　利治	

テーマ

翻訳と通訳を通して学ぶ言語コミュニケーションの基礎

授業の到達目標

①日本語と英語の翻訳と通訳を通して、言語コミュニケーションのさまざまな側面の理解を深める。②日本語と英語の比較を通して、人間の言語の性質や機能、異言語間で意味がどのように伝達されるのかという問題についての理解を深める。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]ことばによるコミュニケーションを、翻訳と通訳に焦点をあわせて、さまざまな観点から検討してみる。翻訳や通訳は、異なる言語のあいだで意味がどのように伝達されるのかということにたいして、さまざまなおもしろい材料を提供してくれる。たとえば、日本語のスピーチで「ただいまご紹介にあずかりました〇〇です」と言ったとして、これを英語に通訳する場合、どのようにしたらよいのだろうか。日本語と英語の言語的な違いのみならず、異文化をどう訳すかという問題も扱いたいと思う。

準備学習（予習・復習）

各回のページの内容と関連する教科書の最後にある練習問題をすること。

内　容

第1回　コミュニケーションとは何か（テキスト2～14ページ）言語によるコミュニケーションの特徴、ことばの機能
第2回　ことばの意味とコミュニケーション①（テキスト15～27ページ）（単語の意味、日本語と英語の意味のずれ）
第3回　ことばの意味とコミュニケーション②（テキスト27～36ページ）意味の記述と辞書、比喩と言語表現
第4回　ことばの運用とコミュニケーション（テキスト37～50ページ）言語の変種、テクストの要素、発話行為
第5回　翻訳とは何か（テキスト52～71ページ）原文に忠実な翻訳とは、翻訳に必要なもの
第6回　英日翻訳英文法（テキスト72～88ページ）英日翻訳の難しさ、英日翻訳英文法10のルール
第7回　日本語の発想と英語の発想（テキスト89～105ページ）世界の中の日本語、日本語の特色
第8回　変幻自在の日本語（テキスト106～122ページ）日本語の文末表現と英訳、ことば遊びの翻訳
第9回　日英翻訳における諸問題①（テキスト123～143ページ）類義語の選択、日本文化に関する語、オノマトペ
第10回　日英翻訳における諸問題②（テキスト144～160ページ）日英語における主語・代名詞、日英語の敬語
第11回　通訳とは何か①（テキスト162～174ページ）通訳の歴史、通訳の種類
第12回　通訳とは何か②（テキスト174～187ページ）通訳の分野の分類、コミュニケーションのプロとしての通訳者
第13回　通訳のプロセス①（テキスト188～205ページ）通訳のプロセスの理解
第14回　通訳のプロセス②（テキスト205～210ページ）翻訳と通訳の比較
第15回　通訳トレーニング（テキスト211～220ページ）スラッシュ・リーディングの基本

履修上の注意点

教科書

初めて学ぶ翻訳と通訳―言語コミュニケーション入門
著者：　北林利治・杉山泰・ボナン，リチャード・西村　友美
出版社：（松柏社）
出版年：　　ISBN：

参考書

教科書の最後に記載がある参考文献の他、関連するウエブサイトは開講時に紹介する。
著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

成績評価

試験　（ 40% ）　　小テスト （ 60% ）
授業中課題 （ ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）
小テストは第４回、第８回、第12回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**現代のメディアと表現（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　禧美　智章	

テーマ

宮崎駿の思想の理解を通して、現代社会における課題を考えること

授業の到達目標

宮崎駿のアニメーションはきわめてメッセージ性が高い。それぞれの作品には現代文明に対する宮崎の批判的な視点がちりばめられ、現在を生きる私たちに対してさまざまな警鐘をうち鳴らしている。『風の谷のナウシカ』『もののけ姫』を中心に分析を進めながら、宮崎駿の思想や文明観を理解し、私たちがこれからの時代を生きていくための指針の獲得を目指していきたい。

授業の概要

［テキスト授業／全15回］

準備学習（予習・復習）

受講を開始するに当たって、『風の谷のナウシカ』『天空の城ラピュタ』『となりのトトロ』『魔女の宅急便』『紅の豚』『もののけ姫』『千と千尋の神隠し』『ハウルの動く城』『崖の上のポニョ』を視聴しておくこと

内　　容

第1回　『風の谷のナウシカ』（1）　風の谷の「人民」（テキスト12～28ページ）
第2回　『風の谷のナウシカ』（2）〈共生〉の構造（テキスト28～56ページ）
第3回　『風の谷のナウシカ』（3）『風の谷のナウシカ』から『天空の城ラピュタ』へ（テキスト56～67ページ）
第4回　『風の谷のナウシカ』（4）マルキシズムへの懐疑（テキスト67～74ページ）
第5回　『風の谷のナウシカ』（5）「広場の孤独」という実存様式　堀田善衛との接点（テキスト74～93ページ）
第6回　国民国家へのまなざし—『紅の豚』と『ハウルの動く城』（テキスト93～114ページ）
第7回　『もののけ姫』（1）『もののけ姫』と照葉樹林文化論（テキスト116～135ページ）
第8回　『もののけ姫』（2）　カインの末裔（テキスト136～146ページ）
第9回　『もののけ姫』（3）『もののけ姫』から『となりのトトロ』へ—柳田圀男との接点（テキスト146～155ページ）
第10回　『もののけ姫』（4）アニミズムの受容について（テキスト156～165ページ）
第11回　『もののけ姫』（5）タタリ神とデダラボッチ（テキスト165～179ページ）
第12回　『もののけ姫』（6）　自我の行方—司馬遼太郎・網野善彦との接点（テキスト179～200ページ）
第13回　キキの旅立ち—『魔女の宅急便』（テキスト202～209ページ）
第14回　『千と千尋の神隠し』のアニミズム（テキスト210～224ページ）
第15回　現代文明を超克する〈私〉—『崖の上のポニョ』（テキスト224～230ページ）

履修上の注意点

教科書

宮崎駿の地平—広場の孤独・照葉樹林・アニミズム
著者：　野村幸一郎
出版社：（白地社）
出版年：　　ISBN：

参考書

時代の足音
著者：　宮崎駿・堀田善衛・司馬遼太郎
出版社：（ユー・ビーユー）
出版年：　　ISBN：

出発点
著者：　宮崎駿
出版社：（徳間書店）
出版年：　　ISBN：

風の帰る場所
著者：　宮崎駿
出版社：（ロッキング・オン）
出版年：　　ISBN：

ky301d210

折り返し点

著者:　宮崎駿

出版社:（岩波書店）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40% ）　　小テスト（ 60% ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

小テストは第6回、第12回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**異文化コミュニケーション論（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　安達　太郎	

テーマ

異なる文化背景を持つ「他者」とのコミュニケーションを模索する

授業の到達目標

1）コミュニケーションがどのようなしくみを持つものかを理解する。2）異なる文化背景を持つ「他者」の存在を認め、「他者」を理解するために何が必要かを理解する。

授業の概要

［テキスト授業／全15回］異文化コミュニケーションとは、文化を異にする者の間に成り立つコミュニケーションを意味する。外国人との接触場面といったことをイメージしやすいが、ここではもっと広い意味での「他者」を積極的に理解しようとすることによって立ち上がる、関係性（つながり）を生みだす行為としてのコミュニケーションについて考えていく。

準備学習（予習・復習）

内　　容

第1回　導入：異文化コミュニケーションを学ぶことの意義（テキスト2～11ページ）グローバル化が進む現代社会において，文化的背景を異にする他者との接触が持つ意味について理解する。

第2回　文化（テキスト12～25ページ）異文化コミュニケーションを考える上での前提として「文化」という概念のさまざまな側面について理解を深める。

第3回　コミュニケーション（テキスト26～37ページ）異文化コミュニケーションを考える上での前提として「コミュニケーション」という概念のさまざまな側面について理解を深める。

第4回　言語（1）（テキスト38～45ページ）ことばが単なるコミュニケーションツールではないことを確認し，ことばが持つ社会性や階級性について考察する。

第5回　言語（2）（テキスト46～51ページ）日本語における「国語」という概念や英語帝国主義の考察を通じて，ことばが国家や文化との関係の中で持つ緊張性について理解する。

第6回　言語（3）（テキスト52～65ページ）ことばにおける標準性と非標準性を通して，グローバリゼーションの拡大が言語的規範の画一化につながることの危険性を理解する。

第7回　非言語（テキスト66～77ページ）身振りや沈黙など，ことば以外のものが伝える意味の持つ重要性や，体の動きといったものさえ文化的な側面を持つことを理解する。

第8回　時間（テキスト78～87ページ）時間認識が文化的背景に支配される側面があることを理解するとともに，制度としての時間について考察する。

第9回　空間（テキスト88～97ページ）地域区分やその境界で生じる摩擦など空間認識をめぐる話題を手がかりとして，空間もまた認識や文化の所産であることを理解する。

第10回　異文化との接触（1）（テキスト98～105ページ）異文化と接触したときに生じる衝撃（カルチャーショック）や陥りがちな陥穽としてのステレオタイプといったものについて理解を深める。

第11回　異文化との接触（2）（テキスト106～119ページ）異文化との接触によってもたらされる「対立」と向き合うには，他者の持つ異質性を認め，それを楽しむことが重要であることを理解する。

第12回　異空間としてのメディア（テキスト120～139ページ）インターネットや携帯電話といった新しいメディアがコミュニケーションに与えた影響について考え，現代社会におけるメディアの役割や意味について理解を深める。

第13回　メディアと文化（テキスト140～155ページ）メディアが，何かを伝える手段という道具としての側面と同時に，個人や集団の日常意識を作り出す主体としての側面を持っていることを理解する。

第14回　文化のポリティクス（テキスト156～175ページ）民族，ナショナリズム，ジェンダーなど，さまざまなレベルにおける他者との接触によって直面する現代的課題について理解を深める。

第15回　グローバリゼーションの行方（テキスト176～189ページ）グローバリゼーションの進行が，一方では地域のアイデンティティや画一化に対する逆向きのベクトルを生み出していることを理解し，異文化コミュニケーションの可能性を探る。

履修上の注意点

教科書

よくわかる異文化コミュニケーション

著者：　池田理知子編

出版社：（ミネルヴァ書房）

出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）

eky401d250

授業中課題 （ 100% ）　　授業中発表等 （ ）

参加度 （ ）

「授業中課題」は第7回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**文化人類学（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定

担 当 者　本林　靖久

テーマ

ブータンと幸福論―宗教文化と儀礼―

授業の到達目標

国民総幸福（GNH）を国是に掲げ、世界一幸福な国と脚光を浴びるブータン。伝統と近代化、難民問題など、苦悩するブータンの現実と、死をふくむ豊かな宗教文化に光をあて、日本人にとっての「幸福のカタチ」探る。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]ブータンの宗教文化と儀礼を中心に、文化人類学の視点から、ブータンという仏教王国に暮らすブータン人の生活様式を提示しつつ、国や国民の「幸福のカタチ」を描いていきたい。そのなかで、日本人との比較を通して、ブータンから学ぶことを考察する。

準備学習（予習・復習）

テレビ番組や雑誌などで、ブータンについての特集があれば、できるかぎり目を通しておいてください。

内　容

第1回　まえがき（テキスト7～10ページ）現時点で、あなたにとっての幸福とは何か。日本人にとっての幸福とは何かについて考えてみましょう。
第2回　序章　ブータンから学ぶ幸福論　1・2（テキスト11～20ページ）「全体理解と比較理解」、「異文化理解の心得」をしっかり読み込んで、文化人類学の視点を学びましょう。
第3回　序章　ブータンから学ぶ幸福論　3（テキスト20～27ページ）GNP（国民総生産）とは何かをしっかり理解しよう。そのうえで、ブータンのGNH（国民総幸福）の理念を確認しましょう。
第4回　第1章　私の幸福なる体験―仏教文化の出会い―　1・2・3（テキスト28～49ページ）経文旗・僧院・ゾン（城）・国立図書館・チョルテン（仏塔）などの施設の宗教的背景と特徴を理解しましょう。
第5回　第2章　育まれてきた幸福―民族と歴史―　1・2（テキスト50～63ページ）ブータンが日本と同じ照葉樹林文化であることと、なぜブータン人が英語を話せるようになったのかを理解しましょう。
第6回　第2章　育まれてきた幸福―民族と歴史―　3（テキスト64～68ページ）ブータンの歴史が仏教と深い関係があることを確認しましょう。また、近代の王政の成立過程を理解しましょう。
第7回　第3章　「国家の幸福」と「個人の幸福」―国の政策とGNH―　1・2（テキスト69～74ページ）「鶴と電気、どっちが大事？」と尋ねられたら、あなたはどちらを選びますか？まず、その答えと理由を考えたうえで、学習しましょう。
第8回　第3章　「国家の幸福」と「個人の幸福」―国の政策とGNH―　3（テキスト74～93ページ）ブータンの生活文化の基本となる衣食住と生業、人生儀礼（結婚）について学びましょう。
第9回　第4章　「踊る幸福」と「見る幸福」―宗教世界観と祭礼―　1・2（テキスト94～104ページ）宗教世界観とは何か。そして、六道輪廻や宇宙総覧図などが描かれる背景にどのような意味があるのかを理解しましょう。
第10回　第4章　「踊る幸福」と「見る幸福」―宗教世界観と祭礼―　3（テキスト104～133ページ）ツェチュ祭が仏教の儀礼であり、祭りの本質には、同時の世界観と円環の世界観があることを学びましょう。
第11回　第5章　死を含む幸福―日本との比較から―　1・2・3（テキスト134～142ページ）ブータン人は生まれ変わり（輪廻）を信じ、葬送儀礼においても墓を造らない仏教世界観を持っていることを理解しましょう。
第12回　第5章　死を含む幸福―日本との比較から―　4・5（テキスト146～154ページ）日本人の死生観（死に対するイメージ）とは、どのようなものかを、ブータン人と比較しつつ、読み込んでみましょう。
第13回　終章　ゆらぐ幸福と伝統の創造　1・2（テキスト155～162ページ）ブータンの豊かさの経済的基盤を理解しつつ、テレビの普及によるに影響を考えてみましょう。
第14回　終章　ゆらぐ幸福と伝統の創造　3・4（テキスト163～171ページ）ブータンの国内外に抱える諸問題を理解しつつ、実験国家としてのブータンの未来を考えてみましょう。
第15回　あとがき―ブータンから学ぶ「幸福のカタチ」―（テキスト185～190ページ）あなたの幸福のカタチとは何か。幸福の公式を考えたうえで、「あとがき」を読んでみましょう。

履修上の注意点

教科書

ブータンと幸福論―宗教文化と儀礼―

著者：　本林靖久　著

出版社：（法藏館）

出版年：　　ISBN：

参考書

ブータン　スタイル―仏教文化の国から―

著者：　本林靖久　著

出版社：（京都書院）

出版年：　　ISBN：

現代ブータンを知るための60章
著者:　平山修一　著
出版社:（明石書店）
出版年:　　ISBN:

ブータンに魅せられて
著者:　今枝由郎　著
出版社:（岩波書店）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ ）
授業中課題 （ 100% ）　　授業中発表等 （ ）
参加度 （ ）
「授業中課題」は第8回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**日本国憲法（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　上出 浩	

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

授業の到達目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の概要

［テキスト授業／全15回］日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をひとつずつ積み重ねていく。

準備学習（予習・復習）

憲法問題、特に人権問題は身近な所に多数存在しながら見逃してしまいがちである。それぞれのテーマを学習した後、新聞やニュースに現れる社会問題だけでなく、身近な所に隠れている人権問題を探し出し、憲法の諸原理・諸原則、思想を当てはめてみると、より理解が深まる。また、上記シラバスで取り上げられていない最新問題につき、第2部を参考にすると良い。

内　容

第1回　日本国憲法の位置づけ（テキスト1～14ページ）各テーマを学ぶ前に、日本国憲法が憲法史上どのような位置づけにあるかを確認する。
第2回　日本国憲法の3大原則と象徴天皇制（テキスト14～21ページ）日本国憲法が基礎とする三大原則を学ぶ。また、我が国に特有である象徴天皇制を学ぶ。
第3回　日本国憲法の平和主義（テキスト21～29ページ）日本国憲法の特徴である平和主義の内容及び現代的な意義を学ぶ。
第4回　日本国憲法の人権（人権総論：人権の分類、主体、制限、公共の福祉）（テキスト30～35ページ）人権を学ぶ上で必要な基礎知識をつけ、人権に共通する問題を学ぶ。
第5回　日本国憲法の人権（幸福追求権、新しい権利）（テキスト35～38ページ）プライバシーを始め、新しい人権と呼ばれるものがどのように保障され、どのような内容かを学ぶ。
第6回　日本国憲法の人権（精神的自由(1)：思想・良心の自由、信教の自由）（テキスト39～43ページ）精神的自由のうち、心の中の自由と宗教の自由、そして政教分離の意義を学ぶ。
第7回　日本国憲法の人権（精神的自由(2)：表現の自由）（テキスト43～48ページ）最も大切な自由であるとされる表現の自由の内容とその意義を学ぶ。
第8回　日本国憲法の人権（経済的自由）（テキスト48～50ページ）近代市民革命において中心的な役割を果たし、社会権により制限されることになる経済的自由を学ぶ。
第9回　日本国憲法の人権（社会権）（テキスト52～60ページ）現代憲法において大きな役割を果たす、社会権の意義を学ぶ。
第10回　日本国憲法の人権（人身の自由、手続き的保障、そのほかの権利）（テキスト50～51・60～71ページ）実体的権利を支える手続き的保障、参政権などのその他の権利の内容を学ぶ。
第11回　日本国憲法の統治（権力分立、国会）（テキスト72～77ページ）統治機構の基本である権力分立と国権の最高機関であるとされる国会及び主権を学ぶ。
第12回　日本国憲法の統治（内閣、財政）（テキスト77～82ページ）議院内閣制の下での内閣及び、内閣が大きな役割を果たす財政について学ぶ。
第13回　日本国憲法の統治（裁判所、地方自治）（テキスト82～86・94～99ページ）裁判所に関わる基本的な内容と、地方自治について学ぶ。
第14回　日本国憲法の統治（裁判所）（テキスト86～94ページ）人権保障でも最も大きな役割を果たす、違憲立法審査権の位置づけ、意義を学ぶ。
第15回　日本国憲法の憲法改正、裁判員制度（テキスト99～103・243～257ページ）平和主義と関わり論じられる憲法改正と、近年で最も大きな法制度改革である裁判員制度についてその意義を学ぶ。

履修上の注意点

教科書

いま日本国憲法は・・・原点からの検証　第5版
著者：　小林武ほか編
出版社：（法律文化社）
出版年：　　ISBN：

参考書

憲法　第5版
著者：　芦部信喜著・高橋和之補訂
出版社：（岩波書店）
出版年：　　ISBN：

ky601f410

ポケット六法　平成２３年版

著者:　江頭憲治郎他編

出版社:（有斐閣）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ 40% ）　　小テスト（ 60% ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

小テストは第3回、第10回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**法学概論Ⅰ（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　近藤　実千代	

テーマ

公法に関する基礎知識の習得

授業の到達目標

公法の基本的な仕組み、重要な概念、重要判例等の基礎知識を習得するとともに、公法的な思考を身につける。公法の基本的なテーマについて検討し、各諸制度について考察する。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]テキスト学習を行い、適宜に六法で条文を参照していく。計4回の小テストを実施し、基本的な制度に関する理解度を確認する。

準備学習（予習・復習）

公法の法改正や判例に関するニュースについて、論理的に説明できるよう試みる。

内　容

第1回　イントロダクション／公法へのアプローチ（テキスト1～15ページ）公法は、私たちの生活にどのように関っているのかを知り、公法の位置づけや領域について学ぶ。
第2回　幸福追求権（テキスト16～28ページ）プライバシー権、名誉権、環境権、生命・身体に関する権利などは、判例によってどのように認められているのかを理解する。
第3回　人権の享有主体／外国人の人権（テキスト29～44ページ）未成年者、天皇、法人、外国人は、一般の国民と人権の保障のあり方がどう違うのかを学ぶ。
第4回　法の下の平等（テキスト45～59ページ）男女の平等について学ぶ。労働環境の改善やポジティブ･アクションへの取り組み状況、DV問題などを取り扱う。
第5回　思想･良心の自由（テキスト60～78ページ）思想・良心の自由として、保護される範囲を学ぶ。思想・良心の侵害と思想に反する行為の義務付けとの関係について知る。
第6回　表現の自由（テキスト79～98ページ）表現の自由は、なぜ優越的地位にあるのかを知る。表現の自由の内容とその制限について理解する。
第7回　国会と国会議員（テキスト99～118ページ）国会の機能や国会議員の特権について理解するとともに、選挙制度の実態や政治家と官僚の関係について学ぶ。
第8回　裁判所と司法権（テキスト119～137ページ）裁判所の権能と国民の司法参加について学ぶ。違憲審査制について理解する。
第9回　行政組織法（テキスト138～159ページ）公務員の勤務条件は、民間企業の従業員とどのように異なるのか、公務員に課せられる義務とは何かについて理解する。
第10回　行政基準／行政行為／行政指導（テキスト160～181ページ）行政基準、行政行為、行政指導とは何かを知る。行政行為の裁量や効力について理解する。
第11回　行政強制（テキスト182～198ページ）行政強制の種類と内容について理解する。その上で、即時強制と行政罰について概観する。
第12回　情報公開制度（テキスト199～223ページ）情報公開制度について学ぶ。情報公開法を中心として、行政に対する情報開示のしくみについて理解する。
第13回　個人情報保護制度（テキスト224～240ページ）個人情報保護の必要性と行政機関の個人情報の取扱いについて学ぶ。
第14回　行政救済法（テキスト241～260ページ）行政不服申立てと取消訴訟について、種類やしくみ、要件や効力について理解する。国家賠償と損失補償の違いを学ぶ。
第15回　地方自治（テキスト261～281ページ）自治体の運営について学ぶ。住民と自治体運営との関わりについて理解する。

履修上の注意点

教科書

新・なるほど公法入門
著者:　村上英明・小原清信（編）
出版社:（法律文化社）
出版年:　　ISBN:

参考書

はじめての憲法学 第2版
著者:　中村睦男（編）
出版社:（三省堂）
出版年:　　ISBN:

ky601f510

はじめての行政法 第2版

著者:　石川敏行ほか

出版社:（有斐閣）

出版年:　　ISBN:

成績評価

試験 （ ）　　小テスト（ 100% ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

小テストは第４回・第８回・第11回・第15回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**法学概論Ⅱ（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　近藤　実千代	

テーマ

私法に関する基礎知識の習得

授業の到達目標

私法全体に共通する基本的な原理・原則、枠組み、法概念を理解する。私生活の様々な場面において、各制度の正確な位置づけを図り、初歩的な応用力を身につける。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]テキスト学習を行い、適宜に六法で条文を参照していく。計4回の小テストを実施し、基本的な制度に関する理解度を確認する。

準備学習（予習・復習）

私法の法改正や判例に関するニュースについて、論理的に説明できるよう試みる。

内　容

第1回　イントロダクション／私法へのアプローチ(テキスト2～32ページ)私法の基本原理とその修正について学び、私法の特色・概略をつかむ。
第2回　法律行為①（意思表示）(テキスト34～42ページ)公序良俗違反による無効について学ぶ。意思表示の瑕疵とは、どのような場合をいうのか、表意者と相手方の利益調整は、どのように図られているのかを理解する。
第3回　法律行為②（行為能力）(テキスト42～48ページ)制限行為能力者の種類と内容について整理する。
第4回　代理制度(テキスト52～60ページ)代理の要件と効果について理解する。無権代理と表見代理の関係について学ぶ。
第5回　時効制度(テキスト62～73ページ)時効制度の意義を知った上で、取得時効と消滅時効の要件を学ぶ。時効の援用や放棄について理解する。
第6回　契約①（総論）(テキスト76～87ページ)契約の成立時点がいつかを知った上で、双務契約における債務関係について理解する。
第7回　契約②（債務不履行）(テキスト87～95ページ)債務不履行の3つの類型について理解する。契約の解除によって生ずる効果を学ぶ。
第8回　所有権(テキスト98～108ページ)物権の種類について概観したのち、所有権移転における登記・引渡しの意味について理解する。
第9回　不法行為(テキスト110～123ページ)加害者と被害者の債権債務関係について学ぶ。不法行為の要件と効果について理解する。
第10回　事務管理・不当利得(テキスト126～136ページ)事務管理とは何か、不当利得とは何かを知る。不当利得の返還について理解する。
第11回　債務の弁済(テキスト138～149ページ)物的担保と人的担保の意味を知る。金銭債務の支払い手段として、手形、小切手、クレジットカードによる弁済方法を学ぶ。
第12回　家族法①（親族・夫婦）(テキスト152～168ページ)親族の範囲を知る。夫婦間の財産制度について理解する。近年の離婚請求の可否について概観する。
第13回　家族法②（親子・扶養）(テキスト172～183ページ)実子、養子、人工生殖子について、親子関係の成立を理解する。親権、扶養の意義を学ぶ。
第14回　相続と遺言(テキスト186～197ページ)法定相続のしくみを概観し、遺言の方式について学ぶ。
第15回　民事事件の紛争解決(テキスト214～223ページ)民事訴訟のしくみについて理解した上で、訴訟以外の手段を概観する。

履修上の注意点

教科書

民事法入門 第6版
著者:　野村豊弘　著
出版社:（有斐閣）
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ 100% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
小テストは第5回、第8回、第11回、第15回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**民法（通信）**

クラス	配当回生　通信2回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　　近藤　実千代	

テーマ

民法に関する基礎知識の習得

授業の到達目標

民法が日常生活にどのように関連しているのかを明らかにし、多面的なものの見方を養う。法的な思考回路を学び、初歩的な法的問題発見能力や問題処理能力を身につける。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]テキスト学習を行い、適宜に六法で条文を参照していく。計4回の小テストを実施し、基本的な制度に関する理解度を確認する。

準備学習（予習・復習）

新聞やテレビ等のニュースに注意を払い、法との関連事項について留意する。

内　　容

第1回　ガイダンス（テキスト2～17ページ）民法の対象範囲や特徴を概観し、民法の意義について学ぶ。
第2回　制限行為能力者の保護（テキスト20～33ページ）4類型の制限行為能力者の取消について、それぞれ整理する。また、制限能力者の相手方の保護として、どんな制度があるのかを学ぶ。
第3回　問題のある意思表示（テキスト33～39ページ）詐欺・強迫により取消可能な場合、錯誤・心裡留保・虚偽表示により無効となる場合を整理する。
第4回　代理・無権代理・表見代理／無効と取消し（テキスト39～43ページ）代理の要件を概観する。無権代理と表見代理の関係について学び、表見代理の3つの類型を整理する。無効と取消のそれぞれの効果について学ぶ。
第5回　条件・期限／時効（テキスト43～50ページ）条件・期限とは、何をさすのかを知る。消滅時効と取得時効について、それぞれの意義を理解する。
第6回　物権変動（テキスト60～78ページ）不動産物権変動と動産物権変動において、それぞれの対抗要件を理解する。
第7回　契約総論（テキスト92～108ページ）契約の分類について概観し、契約の効力には、どのようなものがあるのかを理解する。
第8回　契約各論（テキスト108～124ページ）重要な典型契約について、ひととおり概観する。各種の契約が、どのような内容のものであるかを理解した上で、要件と効果を整理する。
第9回　不法行為（テキスト126～139ページ）一般不法行為の要件と効果について学ぶ。特殊な不法行為には、どのようなものがあるのかを知る。
第10回　債権者代位権と詐害行為取消権（テキスト146～160ページ）債権者代位権と詐害行為取消権において、それぞれの意義・要件・効果を整理する。
第11回　多数当事者の債権関係（テキスト161～170ページ）連帯債務と保証債務において、それぞれの意義と効力について理解する。
第12回　約定担保物権と法定担保物権（テキスト186～196ページ）担保物権の意義と種類を学ぶ。特に、抵当権の効力について理解を深める。
第13回　婚姻と離婚（テキスト202～210ページ）婚姻の成立と効果について学ぶ。婚約や内縁は、どういった状態をいうのかを知る。離婚時の財産分与の考え方について学ぶ。
第14回　親子と養子／親権・後見・補佐・補助（テキスト210～216ページ）認知制度、養子縁組制度などを概観し、親子間の法的関係を理解する。
第15回　相続（テキスト218～231ページ）法定相続における相続人と相続分について理解する。遺言相続における遺留分について学ぶ。

履修上の注意点

教科書

民法への招待　第4版
著者：　池田真朗
出版社：（税務経理協会）
出版年：　　ISBN：

参考書

新・キーワード民法
著者：　中田邦博・高島英弘
出版社：（法律文化社）
出版年：　　ISBN：

成績評価

ky602d110

試験 （ ）　　小テスト（ 100% ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

小テストは第5回、第8回、第12回、第15回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**経営学概論（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　仲田　正機	

テーマ

企業、経営、マネジメントの理論を学び、企業経営の実際を分析する手がかりにする。

授業の到達目標

「会社（企業）が事業を経営する」という基本命題を分析的に理解して、企業経営をめぐる社会の仕組み＝社会システムを理解することが、この科目の目標である。

授業の概要

［メディア授業／全15回］会社の仕組みを明らかにし、経営のノウハウやスキルについても講義します。

準備学習（予習・復習）

授業中に示されたキーワード、概念、理論、事例（ケース）について、講義の前後には参考文献やインターネット等で再確認しよう。

内　　容

第1回　はじめに－企業とは何か、会社とは何か、「会社（企業）が事業を経営する」とは？その仕組みを理解する－
第2回　企業における様々な形態について－会社の基本を押さえる－
第3回　企業が営む事業の種類と業態に目を向けよう－自社の営む事業やその業態は、会社のどこで決めるのか－
第4回　企業における一般的な意思決定の仕組みについて
第5回　事業の経営に必要な具体的な仕事（1）―会社の側から見た仕事―
第6回　事業の経営に必要な具体的な仕事（2）―業種と業態、個人の入社から退職まで―
第7回　経営組織の基本を押さえる―職能部門組織と事業部制組織、ラインとスタッフ―
第8回　マネジメントの見方・考え方を知ろう―マネジメント論の源流と主流―
第9回　マネジメントへの工学的アプローチ（「科学的管理法」とその後の発展）
第10回　マネジメントへの心理・社会学的アプローチ（「人間関係論」とその後の発展）
第11回　現代マネジメントの基礎理論―C.I.バーナード『経営者の役割』で示されたこと―
第12回　経営における意思決定の理論―H.A.サイモン『経営行動』で示されたこと―
第13回　経営における個人と組織の関係―H.A.サイモン「貢献と誘因のシステム」が示すもの―
第14回　激変する環境へ適応する戦略的マネジメント、そして競争優位の経営戦略とは？―A.D.チャンドラー、H.I.アンゾフやM.ポーターが示したこと―
第15回　経営の国際化、グローバル化とは何か？―経営の今日的な課題とは？―

履修上の注意点

教科書

テキストは定めません。レジュメを配布して、授業を進めます。

著者：
出版社：
出版年：　　ISBN：

参考書

基礎コース　経営学
著者：　小松　章
出版社：（新世社）
出版年：　　ISBN：

イラスト図解　会社のしくみ
著者：　坂田岳史
出版社：（日本実業出版社）
出版年：　　ISBN：

現代アメリカ管理論史
著者：　仲田正機
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：　　ISBN：

eky701d210

成績評価

試験 （ 50% ）　　小テスト（ 50% ）

授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）

参加度 （ ）

小テストは第４回、第７回、第９回、第12回、第14回の授業後に行う

2016 Syllabus

科 目 名　**社会学概論Ⅰ（通信）〈Z〉**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　前期　　定　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　松田 いりあ

テーマ

現代社会の諸課題を社会学の考え方とデータを参照しながら理解する

授業の到達目標

現代社会の諸問題を受講生自身の日常生活の課題として把握することができるようになること

授業の概要

[テキスト授業／全15回]社会学概論Ⅰでは、社会学という学問分野の歴史や考え方からはじまり、19世紀から20世紀にかけての社会の変動（地域、家族、階級・階層など）に社会学がどのように向き合ってきたのか、さらに21世紀の社会にとっての課題にどう対応しようとしているかについて理解を深める

準備学習（予習・復習）

担当教員の指示する資料（ウェブ上で公開されている各種統計など）を参照してもらうことがある

内　容

第1回　社会学とは（1）（テキスト2～3、194～197ページ）社会学とはどのような学問なのか。社会学の視点と代表的な社会学者を概観する
第2回　社会学とは（2）（テキスト4～9ページ）社会学の対象と方法（歴史的視点／構造的視点、客観主義／主観主義等）を理解する
第3回　地域をめぐる社会学（1）（テキスト58～61ページ）近代社会を特徴づける都市的生活様式と村落的生活様式の違いについて理解する
第4回　地域をめぐる社会学（2）（テキスト54～57、62～63ページ）シカゴ学派を中心とした都市社会学のうち、おもに人間生態学およびサブカルチャーについて理解する
第5回　家族をめぐる社会学（1）（テキスト38～39、48～49ページ）家族の定義の難しさ、および近代社会と核家族の関わりについて理解する
第6回　家族をめぐる社会学（2）（テキスト44～47ページ）夫婦関係および親子関係（前期／中期／後期）について理解する
第7回　家族をめぐる社会学（3）（テキスト40～43、50～51ページ）結婚、出産を中心に、近代家族から現代家族への変化について理解する
第8回　レポート1の作成に向けこれまでの内容（テキストの該当ページ）を復習する
第9回　階級・階層をめぐる社会学（1）（テキスト86～89ページ）近代社会における階級・階層をめぐる考え方を社会的資源の配分という点から理解する
第10回　階級・階層をめぐる社会学（2）（テキスト90～93ページ）現代日本社会の階層について社会移動の多少という点から理解する
第11回　階級・階層をめぐる社会学（3）（テキスト94～99ページ）階層構造の変化と現代における社会的不平等と再分配政策をめぐる問題について理解する
第12回　国際社会とエスニシティ（1）（テキスト134～137ページ）国民国家の成立とグローバル化を背景にした移民問題について理解する
第13回　国際社会とエスニシティ（2）（テキスト132～133、138～139ページ）エスニシティ、多文化社会、オリエンタリズムについて理解する
第14回　国際社会とエスニシティ（3）（テキスト66～69ページ）人種的マイノリティと貧困の関係および脱工業化について理解する
第15回　レポート2の作成に向けこれまでの内容（テキストの該当ページ）の復習をする

履修上の注意点

教科書

よくわかる社会学第2版
著者：　宇都宮京子編
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ ）　　小テスト（ ）
授業中課題　（ 100% ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
「授業中課題」は第8回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**社会学概論Ⅱ（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　松田 いりあ	

テーマ

現代社会の諸課題を社会学の考え方とデータを参照しながら理解する

授業の到達目標

現代社会の諸問題を受講生自身の日常生活の課題として把握することができるようになること

授業の概要

[テキスト授業／全15回]社会学概論Ⅱでは、社会学の考え方を用いながら現代社会の課題にアプローチする。具体的にはメディア、自己とコミュニケーション、ジェンダー、社会運動など。21世紀の社会を考える方法として社会学的視点の定着をはかる。

準備学習（予習・復習）

担当教員の指示する資料（ウェブ上で公開されている各種統計など）を参照してもらうことがある

内　容

第1回　インナートリップとしての社会学（1）（テキスト100～103ページ）他者との関係から社会的に定義される自己／自我について理解する
第2回　インナートリップとしての社会学（2）（テキスト104～107ページ）他者とのコミュニケーションから形成される自我について考察した社会学者の考えを理解する
第3回　メディアと情報化をめぐる社会学（1）（テキスト70～73ページ）メディアの歴史およびメディアが近代社会の形成に果たした役割を理解する
第4回　メディアと情報化をめぐる社会学（2）（テキスト76～79ページ）工業社会に続いてあらわれた情報社会の歴史と現在について理解する
第5回　メディアと情報化をめぐる社会学（3）（テキスト82～85ページ）情報技術のもつ可能性と問題についてインターネットを中心に理解する
第6回　ジェンダーとセクシュアリティ（1）（テキスト116～121ページ）ジェンダー概念、ジェンダーの社会化、性別役割分業について理解する
第7回　ジェンダーとセクシュアリティ（2）（テキスト124～129ページ）セクシュアリティの概念とその多様性について理解する
第8回　レポート1の作成に向けこれまでの内容（テキストの該当ページ）を復習する
第9回　社会運動・NPO・ボランティア（1）（テキスト144～149ページ）現代社会における社会運動の意義について理解する
第10回　社会運動・NPO・ボランティア（2）（テキスト150・151、154・155ページ）現代におけるボランティアやセルフヘルプ・グループの役割について理解する
第11回　いろいろな社会学（1）（テキスト162～165ページ）教育を社会学的な視点から理解する
第12回　いろいろな社会学（2）（テキスト170～173ページ）政治を社会学的な視点から理解する
第13回　いろいろな社会学（3）（テキスト186～189ページ）宗教を社会学的な視点から理解する
第14回　いろいろな社会学（4）（テキスト190・191ページ）医療を社会学的な視点から理解する
第15回　レポート2の作成に向けこれまでの内容（テキストの該当ページ）の復習をする

履修上の注意点

教科書

よくわかる社会学第2版
著者：　宇都宮京子　編
出版社：（ミネルヴァ書房）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 100% ）　　授業中発表等　（　）
参加度　（　）
「授業中課題」は第8回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**自然の探求（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　前期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　今村　彰生	

テーマ

あいまいな「自然」というイメージに、学習を通して具体性を付与する

授業の到達目標

自然とは何か、が究極の問いです。我々の身近に自然はあるでしょうか。自分にとっての自然とはどのような存在でしょうか。人間も生き物であり、地球上には様々な生き物が棲んでいることは知っていても、一方で、自然界の生き物については無関心なのではないでしょうか。注意さえ向ければ、身の回りには生き物が生きている「自然」が存在します。自然界の生き物を丁寧に精密に観察し、それらを実体として具体的に認識することが到達点です。さらに、「自然とは何か」「自然にはどのような価値があるのか」、各自が論考することを目指します。

授業の概要

[テキスト授業／全15回]通信教育課程では、指定した教科書を読み進めるものとします。指定した単元について、通読し、図表を理解し、それらの摘要（summary）を小レポートとして纏めていただきます。

準備学習（予習・復習）

テキスト以外の参考文献などを読み込む

内　容

第1回　はじめにおよび第1章1・1－1・2（テキスト1－7ページ）本書で扱う問題点の総括。概要を理解することで、以下の各論への理解を助ける。
第2回　第1章1・3－1・7（テキスト8－16ページ）総論なので長さの割に難解である。適宜その他の資料も参照しながら理解を進める。
第3回　第2章2・1—2・3（テキスト19－27ページ）撹乱レジームについて良く理解しないと後々の理解も進まない。
第4回　第2章2・4－2・6（テキスト28－62ページ）コラムも含めて読み進める。
第5回　第2章2・7－2・9（テキスト62－79ページ）撹乱レジームへの理解も踏まえ、時間スケールを伴った理解が求められる。
第6回　第3章3・1－3・2（テキスト83－94ページ）生活史という概念とトレードオフという概念を理解する。
第7回　第3章3・3－3・5（テキスト94－129ページ）種子散布の究極要因を理解する。簡単に見えて難しい仮説が多い。
第8回　第3章3・6－3・9（テキスト129－154ページ）戦略とは何か、誤解せずに読み進める。
第9回　前半の総括（テキスト1－154ページ）自身で作成した第一段のレポート原稿を元に、前半部分を振り返る(通読)。
第10回　第4章4・1－4・2（テキスト157－166ページ）ブナ林に対して具体的で正確なイメージを持つ。
第11回　第4章4・3－4・4（テキスト166－175ページ）ミズナラ林、ミズナラ二次林に対して具体的で正確なイメージを持つ。
第12回　第5章5・1－5・2（テキスト179－193ページ）現代の森林と変化について理解する。
第13回　第5章5・3－5・5、おわりに（テキスト194－222ページ）森林の将来的変化について考察を試みる。
第14回　後半の総括（テキスト157－222ページ）自身で作成した第二段のレポート原稿を元に、後半部分を振り返る(通読)。
第15回　全体の総括自身で作成した2本のレポートについて、提出前にテキスト全体を振り返り、その他の資料などを通じて深く理解を得る。レポートの推敲をする。

履修上の注意点

教科書

森のスケッチ
著者：　中静透　著
出版社：（東海大学出版会）
出版年：　　ISBN：

参考書

生物多様性とは何か
著者：　井田徹治　著
出版社：（岩波書店）
出版年：　　ISBN：

京都深泥池
著者：　藤田昇・遠藤彰　編
出版社：（京都新聞社）
出版年：　　ISBN：

ky901e210

大文字山を歩こう
著者:　法然院森のセンター・久山喜久雄　編
出版社:（ナカニシヤ出版）
出版年:　　ISBN:

ドングリの謎―拾って、食べて、考えた
著者:　盛口満　著
出版社:
出版年:　　ISBN:

教えてゲッチョ先生！雑木林は不思議な世界
著者:　盛口満　著
出版社:（山と渓谷社）
出版年:　　ISBN:

生命の湖琵琶湖をさぐる
著者:　滋賀県立琵琶湖博物館　編
出版社:（文一総合出版）
出版年:　　ISBN:

ドングリの戦略
著者:　森廣信子　著
出版社:（八坂書房）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 100% ）　　授業中発表等　（　）
参加度　（　）
「授業中課題」は第8回、第13回の後にそれぞれレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**生活の中の数学（通信）〈Z〉**

クラス	配当回生　通信1回生
講義期間　後期	定　　員
履修条件	クラス指定
担 当 者　小寺　隆幸	

テーマ

実生活の様々な問題を数学的にとらえるとより深く理解できることを知り、数学への興味・関心を高め、市民としての数学的リテラシーを育む。

授業の到達目標

実生活の様々な問題には数量・図形・変化などが関わっている。この授業では、具体的な場面を取り上げ、数学的に物事を見ることでより適切な判断が出来ることを理解していく。それぞれの数学の内容を掘り下げ習熟することが目的ではなく、数理的に見るとはどういうことかを理解し、数学に対する関心を深め、将来必要になった時に数学を自分で学ぼうとする姿勢を育てることが目的である。

授業の概要

[メディア授業／全15回]算数から微積分まで、小中高の数学の内容を生活との関わりという視点で見直す。さらにカオスなどの新たな数学にもふれる。今まで数学が苦手な人もわかるようにすすめる。

準備学習（予習・復習）

授業で関連した本を紹介する。興味がある人は読んで深めよう。

内　容

第1回　携帯料金　どれがお得？　一次関数から線型計画法へ
第2回　スキー場の数学　斜面の運動から二次関数へ
第3回　落下運動　積分の考え
第4回　ドライバーの数学　制動距離
第5回　ハイキングの数学　三角比　三平方の定理
第6回　身近な形を数理的に見る　図形の性質・対称
第7回　オウムガイとアワビの数学　相似・指数関数
第8回　サラ金から身を守るために　指数・対数
第9回　指数から対数へ
第10回　放射能に向き合って生きる　対数
第11回　リスク社会をどう生きるか　確率・期待値
第12回　統計の利用と嘘　代表値・推測統計
第13回　成長を考える　ロジスティック関数からカオスへ
第14回　数理のメガネで見る　カオス、リスク確率
第15回　環境問題を数学で考える　差分でみる　フローとストック

履修上の注意点

教科書

特に指定しない
著者：
出版社：
出版年：　ISBN：

参考書

数学の1，2，3
著者：　瀬山士郎　著
出版社：（講談社）
出版年：　ISBN：

検定外高校数学　上
著者：　何森仁・小嶋順　編
出版社：（日本評論社）
出版年：　ISBN：

ky901e450

こんなに役立つ数学入門
著者:　広田照幸・川西琢也　編
出版社:（筑摩書房）
出版年:　　ISBN:

なるほどなっとく数学再挑戦
著者:　増島高敬・石井孝子　編著
出版社:（日本評論社）
出版年:　　ISBN:

数学は世界を解明できるか
著者:　丹羽敏雄　著
出版社:（中央公論新社）
出版年:　　ISBN:

微分積分の意味がわかる
著者:　野崎昭弘ほか　著
出版社:（ベレ出版）
出版年:　　ISBN:

統計・確率の意味がわかる
著者:　野崎昭弘ほか　著
出版社:（ベレ出版）
出版年:　　ISBN:

数学入門　上・下
著者:　遠山啓　著
出版社:（岩波書店）
出版年:　　ISBN:

地球を救え！数学探偵団
著者:　小寺隆幸　著
出版社:（国土社）
出版年:　　ISBN:

数学で考える環境問題
著者:　小寺隆幸　著
出版社:（明治図書）
出版年:　　ISBN:

成績評価

試験　（　）　　小テスト（　）
授業中課題　（ 100% ）　　授業中発表等（　）
参加度　（　）
「授業中課題」は第15回の後にレポートを課す

2016 Syllabus

科 目 名　**物理学基礎（通信）〈Z〉**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　古田　薫

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として物理学の基礎について学ぶ。

授業の到達目標

高等学校で学習した物理の内容を再確認するとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。物理学が日常生活や社会とどのように関連しているかを知り、科学技術への関心を高め、市民として必要な科学的な知識・能力・態度を身につける。

授業の概要

[メディア授業／全15回]運動とエネルギー、電気、波について、原理・法則を学び、日常的な現象や先端科学技術との関連を考える。

準備学習（予習・復習）

内　容

第1回　物体の運動
第2回　力（1）
第3回　力（2）
第4回　運動の法則
第5回　エネルギー（1）
第6回　電気（1）
第7回　電気（2）
第8回　電気（3）
第9回　波
第10回　音
第11回　光
第12回　温度と熱
第13回　エネルギー（2）
第14回　エネルギー（3）
第15回　まとめ

履修上の注意点

教科書

Primary　大学テキスト　これだけはおさえたい物理
著者：　金原粲
出版社：（実教出版）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト（ 40% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
小テストは、第8回・第14回の授業の後に行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**化学基礎(通信)〈Z〉**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　　富岡　康

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として化学の基礎について学ぶ。

授業の到達目標

高等学校における化学の内容を再確認するとともに専門科目を学ぶために必要な化学の基礎知識を身につけることを目標とする。

授業の概要

[メディア授業／全15回]生活の中にある物質や現象を、化学的なものの見方や考え方で捉え理解できるように、一部演習形式を取り入れながら化学的な基礎概念を解説する。

準備学習(予習・復習)

内　　容

第1回　物質は何からできているか。
第2回　分子について
第3回　原子の構造と原子同士の結合
第4回　分子の形はどのようにして決まるか
第5回　分子の形……異性体と立体化学
第6回　物質の三態……固体・液体・気体
第7回　溶液について(1)
第8回　溶液について(2)
第9回　化学反応はなぜ起こるか
第10回　触媒、反応速度
第11回　酸と塩基(1)
第12回　酸と塩基(2)
第13回　酸化と還元
第14回　有機化合物の構造とその書き表し方、命名法
第15回　日常の中の化合物

履修上の注意点

教科書

新化学「もの」を見る目
著者:　大野惇基地ほか　著
出版社:　三共出版
出版年:　　ISBN:

参考書

成績評価

試験　(60%)　　小テスト　(40%)
授業中課題　(　)　　授業中発表等　(　)
参加度　(　)
小テストは、第8回・第15回の授業の後に行う。

2016 Syllabus

科 目 名　**生物学基礎（通信）〈Z〉**

クラス　　配当回生　通信1回生

講義期間　前期　　定　　員

履修条件　　クラス指定

担 当 者　渡辺　多佳

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として生物学の基礎について学ぶ。

授業の到達目標

高等学校における生物の内容を再確認するとともに専門科目を学ぶために必要な生物学の基礎知識を身につけることを目標とする。

授業の概要

[メディア授業／全15回]生物学の中でも主にヒトに焦点を当てた生命化学について概説する。生命現象の科学的な解析、解明が急速に進展する現代において、できるだけ最新のトピックスをまじえて解説する。

準備学習（予習・復習）

内　容

第5回　細胞生物学（5）エネルギー獲得
第6回　遺伝の仕組みと遺伝病（1）
第7回　遺伝の仕組みと遺伝病（2）
第8回　光合成と窒素同化
第9回　細胞の分裂・情報伝達・がん化
第10回　生命体の受精と成長（1）
第11回　生命体の受精と成長（2）
第12回　多細胞生物の自己維持機構
第13回　生物と環境
第14回　生物の進化
第15回　生命科学技術と生命操作
第1回　細胞生物学（1）細胞の構造と役割
第2回　細胞生物学（2）細胞を構成する物質－1
第3回　細胞生物学（3）細胞を構成する物質－2
第4回　細胞生物学（4）エネルギー、酵素、代謝

履修上の注意点

教科書

やさしい基礎生物学
著者：　南雲保　著
出版社：（羊土社）
出版年：　　ISBN：

参考書

成績評価

試験　（ 60% ）　　小テスト（ 40% ）
授業中課題（ ）　　授業中発表等（ ）
参加度　（ ）
小テストは、第8回・第15回の授業の後に行う。